目次（ 2026年度シラバス）

＜岡山キャンパス＞

フレッシュマンセミナー …… 1
フレッシュマンセミナー …… 3
フレッシュマンセミナー …… 5
フレッシュマンセミナー …… 7
フレッシュマンセミナー …… 9
フレッシュマンセミナー …… 11
フレッシュマンセミナー …… 13
フレッシュマンセミナー …… 15
フレッシュマンセミナー …… 17
フレッシュマンセミナー …… 19
フレッシュマンセミナー …… 21
フレッシュマンセミナー …… 23
フレッシュマンセミナー …… 25
フレッシュマンセミナー …… 27
フレッシュマンセミナー …… 29
フレッシュマンセミナー …… 31
フレッシュマンセミナー …… 33
フレッシュマンセミナー …… 35
フレッシュマンセミナー …… 37
フレッシュマンセミナー …… 39
フレッシュマンセミナー …… 41
フレッシュマンセミナー …… 43
フレッシュマンセミナー …… 45
フレッシュマンセミナー …… 47
フレッシュマンセミナー …… 49
フレッシュマンセミナー …… 51
フレッシュマンセミナー [通年]PS用 …… 53
キャリアディベロップメント …… 55
キャリアディベロップメント …… 57
キャリアディベロップメント …… 59
キャリアディベロップメント …… 61
キャリアディベロップメント …… 63
キャリアディベロップメント …… 65
キャリアディベロップメント …… 67
キャリアディベロップメント …… 69
キャリアディベロップメント …… 71
キャリアディベロップメント …… 73
キャリアディベロップメント …… 75
キャリアディベロップメント …… 77
キャリアディベロップメント …… 79
キャリアディベロップメント …… 82
キャリアディベロップメント …… 85
キャリアディベロップメント …… 88
キャリアディベロップメント …… 91
キャリアディベロップメント …… 94
キャリアディベロップメント …… 97
キャリアディベロップメント …… 100
キャリアディベロップメント …… 103
キャリアディベロップメント …… 106
キャリアディベロップメント …… 108
キャリアディベロップメント …… 110

目次（ 2026年度シラバス）

＜岡山キャンパス＞

キャリアディベロップメント …… 112
キャリアディベロップメント …… 114
キャリアディベロップメント …… 116
キャリアディベロップメント …… 118
キャリアディベロップメント …… 120
キャリアディベロップメント …… 122
キャリアディベロップメント …… 124
キャリアディベロップメント …… 126
キャリアディベロップメント [PH再履修者用] …… 128
キャリアディベロップメント [再履修]PH用 …… 130
キャリアディベロップメント BC2026年度生 …… 132
基礎ゼミナールⅠ …… 135
基礎ゼミナールⅠ …… 137
基礎ゼミナールⅠ …… 139
基礎ゼミナールⅠ …… 141
基礎ゼミナールⅠ …… 143
基礎ゼミナールⅠ …… 145
基礎ゼミナールⅠ …… 147
基礎ゼミナールⅠ …… 149
基礎ゼミナールⅠ …… 151
基礎ゼミナールⅠ …… 153
基礎ゼミナールⅠ …… 155
基礎ゼミナールⅠ …… 157
基礎ゼミナールⅠ …… 159
基礎ゼミナールⅠ …… 161
基礎ゼミナールⅠ …… 163
基礎ゼミナールⅠ …… 165
基礎ゼミナールⅠ …… 167
基礎ゼミナールⅠ …… 169
基礎ゼミナールⅠ …… 171
基礎ゼミナールⅠ …… 173
基礎ゼミナールⅠ …… 175
基礎ゼミナールⅠ …… 177
基礎ゼミナールⅠ …… 179
基礎ゼミナールⅠ …… 181
基礎ゼミナールⅠ …… 183
基礎ゼミナールⅠ …… 185
基礎ゼミナールⅠ …… 187
基礎ゼミナールⅠ [再履修]PH用[不開講] …… 189
基礎ゼミナールⅠ [通年]PS用 …… 191
基礎ゼミナールⅡ …… 193
基礎ゼミナールⅡ …… 195
基礎ゼミナールⅡ …… 197
基礎ゼミナールⅡ …… 199
基礎ゼミナールⅡ …… 201
基礎ゼミナールⅡ …… 203
基礎ゼミナールⅡ …… 205
基礎ゼミナールⅡ …… 207
基礎ゼミナールⅡ …… 209
基礎ゼミナールⅡ …… 211
基礎ゼミナールⅡ …… 213

目次（ 2026年度シラバス）

＜岡山キャンパス＞

基礎ゼミナールII …… 215
基礎ゼミナールII …… 217
基礎ゼミナールII …… 219
基礎ゼミナールII …… 221
基礎ゼミナールII …… 223
基礎ゼミナールII …… 225
基礎ゼミナールII …… 227
基礎ゼミナールII …… 229
基礎ゼミナールII …… 231
基礎ゼミナールII …… 233
基礎ゼミナールII …… 235
基礎ゼミナールII …… 237
基礎ゼミナールII …… 239
基礎ゼミナールII …… 241
基礎ゼミナールII …… 243
基礎ゼミナールII …… 245
基礎ゼミナールII …… 247
基礎ゼミナールII …… 249
基礎ゼミナールII …… 251
基礎ゼミナールII …… 253
基礎ゼミナールII …… 255
基礎ゼミナールII …… 257
基礎ゼミナールII [再履修]PH用 …… 259
基礎ゼミナールII [再履修]PH用[不開講] …… 261
基礎ゼミナールII BC2026年度生 …… 263
基礎ゼミナールII BC2026年度生 …… 265
基礎ゼミナールII BC2026年度生 …… 267
基礎ゼミナールII BC2026年度生 …… 269
スポーツ栄養学実習 [不開講] …… 271
音楽表現指導理論・実習Ⅰ(基礎) …… 273
音楽表現指導理論・実習Ⅱ(応用) …… 275
音楽表現指導理論・実習Ⅲ(発展) …… 277
音楽表現指導理論・実習Ⅳ(実践) …… 279
体力学実習 …… 281
ハイパフォーマンススポーツ演習Ⅰ …… 283
ハイパフォーマンススポーツ演習Ⅱ …… 285
ハイパフォーマンススポーツ演習Ⅲ …… 287
競技スポーツパフォーマンス実習Ⅰ …… 289
競技スポーツパフォーマンス実習Ⅱ …… 291
競技スポーツパフォーマンス実習Ⅲ …… 293
整復学実技Ⅰ(包帯法Ⅰ)《連続》 …… 295
整復学実技Ⅱ(包帯法Ⅱ)《連続》 …… 297
整復学実技Ⅲ(上肢・固定法Ⅰ)《連続》 …… 299
整復学実技Ⅳ(上肢・固定法Ⅱ)《連続》 …… 301
整復学実技Ⅴ(下肢・固定法Ⅰ)《連続》 …… 303
整復学実技Ⅵ(下肢・固定法Ⅱ)《連続》 …… 305
アスレティックトレーナー実習Ⅴ …… 307
整復臨床実習Ⅰ 《通年》 …… 309
整復臨床実習Ⅱ 《通年》 …… 311
特別講義Ⅰ [留学生大学院向け] …… 313
特別演習Ⅱ 《通年》[インターンシップ事前事後] …… 315

目次（ 2026年度シラバス）

＜岡山キャンパス＞

特別演習III 《通年》[社会調査士系] …… 317
整復臨床実習III 《通年》 …… 319
整復臨床実習IV 《通年》 …… 321
歌唱・ダンス基礎 …… 323
卒業研究 [FC] …… 325
卒業研究 [FC] …… 327
卒業研究 [FC] …… 329
卒業研究 [FC] …… 331
卒業研究 [FC] …… 333
卒業研究 [FE] …… 334
卒業研究 [FE] …… 336
卒業研究 [FE] …… 338
卒業研究 [FE] …… 340
卒業研究 [FE] …… 342
卒業研究 [FE] …… 344
卒業研究 [FE] …… 346
卒業研究 [FE] …… 347
卒業研究 [FE] …… 349
卒業研究 [FE] …… 350
卒業研究 [FE] …… 351
卒業研究 [FE] …… 353
卒業研究 [FE] …… 355
卒業研究 [FE] …… 357
卒業研究 [FE] …… 359
卒業研究 [FE] …… 361
卒業研究 [PH] …… 362
卒業研究 [PH] …… 364
卒業研究 [PH] …… 366
卒業研究 [PH] …… 368
卒業研究 [PH] …… 370
卒業研究 [PP] …… 372
卒業研究 [PP] …… 374
卒業研究 [PP] …… 376
卒業研究 [PP] …… 378
卒業研究 [PP] …… 380
卒業研究 [PP] …… 382
卒業研究 [PP] …… 384
卒業研究 [PP] …… 386
卒業研究 [PP] …… 388
卒業研究 [PP] …… 390
卒業研究 [PP] …… 392
卒業研究 [PP] …… 394
卒業研究 [PP] …… 396
卒業研究 [PP] …… 398
卒業研究 [PP] …… 400
卒業研究 [PP] …… 402
卒業研究 [PP] …… 404
卒業研究 [PP] …… 406
卒業研究 [PP] …… 408
卒業研究 [PP] …… 410
卒業研究 [PP] …… 412

目次（ 2026年度シラバス）

＜岡山キャンパス＞

卒業研究 [PP] …… 414
卒業研究 [PP] …… 416
ゼミナールⅠ(基礎) …… 418
ゼミナールⅠ(基礎) …… 420
ゼミナールⅠ(基礎) …… 422
ゼミナールⅠ(基礎) …… 424
ゼミナールⅠ(基礎) …… 426
ゼミナールⅠ(基礎) …… 428
ゼミナールⅠ(基礎) …… 430
ゼミナールⅠ(基礎) …… 432
ゼミナールⅠ(基礎) …… 434
ゼミナールⅠ(基礎) …… 436
ゼミナールⅠ(基礎) …… 438
ゼミナールⅠ(基礎) …… 440
ゼミナールⅠ(基礎) …… 442
ゼミナールⅠ(基礎) …… 444
ゼミナールⅠ(基礎) …… 446
ゼミナールⅠ(基礎) …… 448
ゼミナールⅠ(基礎) …… 450
ゼミナールⅠ(基礎) …… 452
ゼミナールⅠ(基礎) …… 454
ゼミナールⅠ(基礎) …… 456
ゼミナールⅠ(基礎) …… 458
ゼミナールⅠ(基礎) …… 460
ゼミナールⅠ(基礎) …… 462
ゼミナールⅠ(基礎) …… 464
ゼミナールⅠ(基礎) …… 466
ゼミナールⅠ(基礎) …… 468
ゼミナールⅠ(基礎) …… 470
ゼミナールⅠ(基礎) …… 472
ゼミナールⅠ(基礎) …… 474
ゼミナールⅠ(基礎) …… 476
ゼミナールⅠ(基礎) …… 478
ゼミナールⅠ(基礎) …… 480
ゼミナールⅠ(基礎) …… 482
ゼミナールⅠ(基礎) …… 484
ゼミナールⅠ(基礎) …… 486
ゼミナールⅠ(基礎) …… 488
ゼミナールⅠ(基礎) …… 490
ゼミナールⅠ(基礎) …… 492
ゼミナールⅠ(基礎) …… 494
ゼミナールⅠ(基礎) …… 496
ゼミナールⅠ(基礎) …… 498
ゼミナールⅠ(基礎) …… 500
ゼミナールⅠ(基礎) …… 502
ゼミナールⅠ(基礎) …… 504
ゼミナールⅠ(基礎) …… 506

目次（ 2026年度シラバス）

＜岡山キャンパス＞

ゼミナールⅠ(基礎) …… 508
ゼミナールⅠ(基礎) …… 510
ゼミナールⅠ(基礎) …… 512
ゼミナールⅠ(基礎) …… 514
ゼミナールⅠ(基礎) …… 516
ゼミナールⅠ(基礎) …… 518
ゼミナールⅠ(基礎) …… 520
ゼミナールⅠ(基礎) …… 522
ゼミナールⅠ(基礎) …… 524
ゼミナールⅠ(基礎) …… 526
ゼミナールⅠ(基礎) …… 528
ゼミナールⅠ(基礎) …… 530
ゼミナールⅠ(基礎) …… 532
ゼミナールⅠ(基礎) …… 534
ゼミナールⅠ(基礎) …… 536
ゼミナールⅠ(基礎) …… 538
ゼミナールⅠ(基礎) …… 540
ゼミナールⅠ(基礎) …… 542
ゼミナールⅠ(基礎) …… 544
ゼミナールⅠ(基礎) …… 546
ゼミナールⅠ(基礎) …… 548
ゼミナールⅠ(基礎) …… 550
ゼミナールⅠ(基礎) …… 552
ゼミナールⅠ(基礎) …… 554
ゼミナールⅠ(基礎)（BC25秋編入学生用） …… 556
ゼミナールⅠ(基礎)（BC25秋編入学生用） …… 558
ゼミナールⅠ(基礎)（BC25秋編入学生用） …… 560
ゼミナールⅠ(基礎)（BC25秋編入学生用） …… 562
ゼミナールⅠ(基礎)[秋入学生用] …… 564
ゼミナールⅠ(基礎)[秋入学生用] …… 566
ゼミナールⅠ(基礎)[秋入学生用] …… 568
ゼミナールⅠ(基礎)[秋入学生用] …… 570
ゼミナールⅠ(基礎)[秋入学生用] …… 572
ゼミナールⅠ(基礎)[秋入学生用] …… 574
ゼミナールⅠ(基礎)[秋入学生用] …… 576
ゼミナールⅠ(基礎)[秋入学生用] …… 578
ゼミナールⅡ(応用) …… 580
ゼミナールⅡ(応用) …… 582
ゼミナールⅡ(応用) …… 584
ゼミナールⅡ(応用) …… 586
ゼミナールⅡ(応用) …… 588
ゼミナールⅡ(応用) …… 590
ゼミナールⅡ(応用) …… 592
ゼミナールⅡ(応用) …… 594
ゼミナールⅡ(応用) …… 596
ゼミナールⅡ(応用) …… 598
ゼミナールⅡ(応用) …… 600

目次（ 2026年度シラバス）

＜岡山キャンパス＞

ゼミナールⅡ(応用) …… 602
ゼミナールⅡ(応用) …… 604
ゼミナールⅡ(応用) …… 606
ゼミナールⅡ(応用) …… 608
ゼミナールⅡ(応用) …… 610
ゼミナールⅡ(応用) …… 612
ゼミナールⅡ(応用) …… 614
ゼミナールⅡ(応用) …… 616
ゼミナールⅡ(応用) …… 618
ゼミナールⅡ(応用) …… 620
ゼミナールⅡ(応用) …… 622
ゼミナールⅡ(応用) …… 624
ゼミナールⅡ(応用) …… 626
ゼミナールⅡ(応用) …… 628
ゼミナールⅡ(応用) …… 630
ゼミナールⅡ(応用) …… 632
ゼミナールⅡ(応用) …… 634
ゼミナールⅡ(応用) …… 636
ゼミナールⅡ(応用) …… 638
ゼミナールⅡ(応用) …… 640
ゼミナールⅡ(応用) …… 642
ゼミナールⅡ(応用) …… 644
ゼミナールⅡ(応用) …… 646
ゼミナールⅡ(応用) …… 648
ゼミナールⅡ(応用) …… 650
ゼミナールⅡ(応用) …… 652
ゼミナールⅡ(応用) …… 654
ゼミナールⅡ(応用) …… 656
ゼミナールⅡ(応用) …… 658
ゼミナールⅡ(応用) …… 660
ゼミナールⅡ(応用) …… 662
ゼミナールⅡ(応用) …… 664
ゼミナールⅡ(応用) …… 666
ゼミナールⅡ(応用) …… 668
ゼミナールⅡ(応用) …… 670
ゼミナールⅡ(応用) …… 672
ゼミナールⅡ(応用) …… 674
ゼミナールⅡ(応用) …… 676
ゼミナールⅡ(応用) …… 678
ゼミナールⅡ(応用) …… 680
ゼミナールⅡ(応用) …… 682
ゼミナールⅡ(応用) …… 684
ゼミナールⅡ(応用) …… 686
ゼミナールⅡ(応用) …… 688
ゼミナールⅡ(応用) …… 690
ゼミナールⅡ(応用) …… 692
ゼミナールⅡ(応用) …… 694
ゼミナールⅡ(応用) …… 696

目次（ 2026年度シラバス）

＜岡山キャンパス＞

ゼミナールII(応用) …… 698
ゼミナールII(応用) …… 700
ゼミナールII(応用) …… 702
ゼミナールII(応用) …… 704
ゼミナールII(応用) …… 706
ゼミナールII(応用) [秋入学生用] …… 708
ゼミナールII(応用) [秋入学生用] …… 710
ゼミナールII(応用) [秋入学生用] …… 712
ゼミナールII(応用) [秋入学生用] …… 714
ゼミナールII(応用) [秋入学生用] …… 716
ゼミナールII(応用) [秋入学生用] …… 718
ゼミナールII(応用) [秋入学生用] …… 720
課題研究Ⅰ 《通年》[週間オンデマンド] …… 722
課題研究Ⅰ 《通年》[週間オンデマンド] …… 724
課題研究Ⅰ 《通年》[週間オンデマンド] …… 726
課題研究Ⅰ 《通年》[週間オンデマンド] …… 728
課題研究Ⅰ 《通年》[週間オンデマンド] …… 730
課題研究II 《通年》[週間オンデマンド] …… 732
課題研究II 《通年》[週間オンデマンド] …… 734
課題研究II 《通年》[週間オンデマンド] …… 736
課題研究II 《通年》[週間オンデマンド] …… 738
ゼミナールⅠ(BC秋入学生用) (BC26秋編入学生用) …… 740
ゼミナールⅠ(BC秋入学生用) (BC26秋編入学生用) …… 742
ゼミナールⅠ(BC秋入学生用) (BC26秋編入学生用) …… 744
ゼミナールII(BC秋入学生用) (BC25秋編入学生用) …… 746
ゼミナールII(BC秋入学生用) (BC25秋編入学生用) …… 748
ゼミナールII(BC秋入学生用) (BC25秋編入学生用) …… 750
ゼミナールII(BC秋入学生用) (BC25秋編入学生用) …… 752
環トレ [FC・FE用] …… 754
環トレ [FC・FE用] …… 756
環トレ [FC・FE用] …… 758
環トレ [FC・FE用] …… 760
英会話 [BC日本人①] …… 762
英会話 [BC日本人②] …… 763
英会話 [BC日本人③]＋再履修者用 …… 765
英会話 [BC留学生①] …… 767
英会話 [BC留学生②] …… 769
英会話 [FC①] …… 771
英会話 [FC②]＋FC再履修者 …… 773
英会話 [FE①] …… 775
英会話 [FE②]＋FE再履修者 …… 777
英会話 [PH①] …… 779
英会話 [PH②]＋PH再履修者 …… 781
英会話 [PP①] …… 783
英会話 [PP②] …… 785
英会話 [PP③] …… 787
英会話 [PP④] …… 789

目次（ 2026年度シラバス）

＜岡山キャンパス＞

英会話 [PP⑤] + PP再履修者 …… 791
英会話 [PS①] …… 793
英会話 [PS②] …… 795
英会話 [PS③] + PS再履修者用 …… 797
体育理論 [週間オンデマンド] …… 799
体育実技 [BC①] …… 800
体育実技 [BC②] …… 801
体育実技 [FC用] …… 802
体育実技 [FE①] …… 803
体育実技 [FE②] …… 804
体育実技 [FE③(表現コース用)] …… 805
体育実技 [PH用] …… 806
日本語表現 I [2026年度秋入学BC留学生用] …… 808
日本語表現 I [2026年度入学BC留学生用] …… 809
日本語表現 I [秋留学生] …… 810
日本語表現 II [2026年度秋入学BC留学生用] …… 811
日本語表現 II [2026年度入学BC留学生用] …… 812
日本語表現 II [BC秋入学用] …… 813
英語 I [BC/PP用] …… 814
英語 I [FC/FE用] …… 816
英語 I [PH/PS用] …… 818
日本語表現III [2026年度入学BC留学生用] …… 820
日本語表現IV [2026年度入学BC留学生用] …… 821
英語 II [全学科（初級者対象）] …… 822
英語 II [全学科（中級・上級者対象）] …… 824
コンピュータリテラシー I …… 826
コンピュータリテラシー I [BC用] …… 828
コンピュータリテラシー I [BC留学生用] …… 830
コンピュータリテラシー I [FC用] …… 832
コンピュータリテラシー I [FE(表現コース)用] …… 834
コンピュータリテラシー I [FE用] …… 836
コンピュータリテラシー I [PH用] …… 838
コンピュータリテラシー I [PS用] …… 840
コンピュータリテラシー I [PS留学生用] …… 842
コンピュータリテラシー II [BC用] …… 843
コンピュータリテラシー II [FC用] …… 845
コンピュータリテラシー II [FE表現コース用] …… 847
コンピュータリテラシー II [FE用] …… 848
コンピュータリテラシー II [PH用] …… 849
コンピュータリテラシー II [PP用] …… 851
コンピュータリテラシー II [PS用] …… 852
コンピュータリテラシーIII …… 854
コンピュータリテラシーIV …… 855
統計学 …… 856
英語III …… 857
統計学基礎 [週2] …… 858
英語IV …… 860
TOEIC I …… 861

目次（ 2026年度シラバス）

＜岡山キャンパス＞

TOEIC II …… 862
TOEIC III …… 863
TOEIC IV …… 864
心理学 [A] …… 866
心理学 [B] …… 868
哲学 …… 870
コミュニケーションの心理学 …… 872
人権と教育 [A]定員100名 …… 874
人権と教育 [B]定員100名 …… 875
人権と教育 [C]定員100名 …… 876
人間と法 …… 877
ライフコーチング …… 879
コーチング基礎 Co-creative coaching Basic …… 881
ビジネスコーチング …… 882
倫理学（宗教を含む）［週間オンデマンド］ …… 883
表現活動による人間力養成 I …… 885
表現活動による人間力養成 II …… 886
表現活動による人間力養成III …… 887
表現活動による人間力養成IV [不開講] …… 888
食育論 …… 889
食育論 …… 890
生命科学基礎 …… 891
数学基礎 I [A] …… 892
数学基礎 I [B] …… 894
数学基礎 II …… 896
自然科学基礎 [週間オンデマンド] …… 898
フレッシュマンセミナー …… 900
フレッシュマンセミナー …… 901
フレッシュマンセミナー …… 903
フレッシュマンセミナー …… 905
フレッシュマンセミナー …… 907
フレッシュマンセミナー …… 909
フレッシュマンセミナー …… 911
フレッシュマンセミナー …… 913
フレッシュマンセミナー …… 915
フレッシュマンセミナー …… 917
フレッシュマンセミナー [再履修][週間オンデマンド] …… 919
フレッシュマンセミナー BC26秋入学生用 …… 921
日本国憲法 …… 923
日本国憲法 [教員免許希望者用週間オンデマンド] …… 924
日本の伝統文化 [A]定員40抽選あり …… 925
日本の伝統文化 [B]定員40抽選あり …… 926
近現代史 [週間オンデマンド] …… 927
キャリアディベロップメント [BC再履修者用] …… 928
キャリアディベロップメント [再履修][週間オンデマンド] …… 930
キャリアディベロップメント BC2026年度生 …… 932
キャリアディベロップメント BC2026年度生 …… 934
キャリアディベロップメント BC2026年度生 …… 936
キャリアディベロップメント BC2026年度生 …… 938

目次（ 2026年度シラバス）

＜岡山キャンパス＞

キャリアディベロップメント BC2026年度生 …… 940
キャリアディベロップメント BC2026年度生 …… 942
キャリアディベロップメント BC2026年度生 …… 944
キャリアディベロップメント BC2026年度生 …… 946
労働法規 …… 948
労働安全衛生法 …… 949
法学概論 [Q2対面＋オンデマンド] …… 950
地理・地政学 [週間オンデマンド] …… 951
キャリアサポート [BC留学生用] …… 952
キャリアサポート [企業] …… 953
キャリアサポート [教職] …… 954
キャリアサポート [健康科学科用] …… 956
キャリアサポート [公務員] …… 957
キャリアサポート [幼保] …… 958
キャリアデザインⅠ [BC留学生用] …… 959
キャリアデザインⅠ [企業] …… 960
キャリアデザインⅠ [教職] …… 962
キャリアデザインⅠ [健康科学科用] …… 964
キャリアデザインⅠ [公務員] …… 965
キャリアデザインⅠ [幼保] …… 966
キャリアデザインⅡ [BC留学生用] …… 967
キャリアデザインⅡ [企業] …… 968
キャリアデザインⅡ [教職] …… 969
キャリアデザインⅡ [健康科学科用] …… 971
キャリアデザインⅡ [公務員] …… 972
キャリアデザインⅡ [幼保] …… 973
基礎ゼミナールⅠ …… 974
基礎ゼミナールⅠ …… 976
基礎ゼミナールⅠ …… 978
基礎ゼミナールⅠ …… 980
基礎ゼミナールⅠ …… 982
基礎ゼミナールⅠ …… 984
基礎ゼミナールⅠ …… 986
基礎ゼミナールⅠ …… 988
基礎ゼミナールⅠ …… 990
基礎ゼミナールⅠ …… 992
基礎ゼミナールⅠ [再履修][週間オンデマンド]FE用 …… 993
基礎ゼミナールⅠ [再履修]BC用 …… 995
基礎ゼミナールⅠ [再履修]PP用 …… 997
基礎ゼミナールⅠ BC26秋入学生用 …… 998
基礎ゼミナールⅡ [再履修]BC用 …… 1000
基礎ゼミナールⅡ [再履修]PP用 …… 1002
基礎ゼミナールⅡ BC2026年度生 …… 1003
基礎ゼミナールⅡ BC2026年度生 …… 1005
基礎ゼミナールⅡ BC2026年度生 …… 1007
基礎ゼミナールⅡ BC2026年度生 …… 1009
基礎ゼミナールⅡ BC2026年度生 …… 1011

目次（ 2026年度シラバス）

＜岡山キャンパス＞

多文化共生のための異文化理解 …… 1013
IPUジェネリックスキルズⅡ(アカデミック) [FC再履修者用 …… 1015
非認知能力育成Ⅰ [BC用] …… 1016
非認知能力育成Ⅰ [BC留学生用] …… 1018
非認知能力育成Ⅰ [FC用] …… 1019
非認知能力育成Ⅰ [FE用] …… 1020
非認知能力育成Ⅰ [PH用] …… 1022
非認知能力育成Ⅰ [PP用] …… 1023
非認知能力育成Ⅰ [PS用] …… 1024
非認知能力育成Ⅱ …… 1026
非認知能力育成Ⅱ [BC秋入学用] …… 1028
ボランティア活動 …… 1029
ボランティア活動 [BC用] …… 1030
次世代教育学 [FC] …… 1031
次世代教育学 [FE＋他学科小学校免許希望者] …… 1032
教職入門 [FC、FE組用] …… 1034
教職入門 [PP2621組用＋PS] …… 1036
教職入門 [PP2622組＋PS] …… 1038
保育原理 …… 1040
保育者論 …… 1042
教育の思想と原理 [週間オンデマンド] …… 1044
英語科教育法Ⅰ(基礎) …… 1045
英語科教育法Ⅱ(応用) …… 1046
社会的養護Ⅰ …… 1047
社会的養護Ⅱ …… 1049
特別活動の指導法 [FC,PP,PS組用週間オンデマンド] …… 1050
特別活動の指導法 [FE用（特支免許を希望する学生のみ） …… 1051
特別活動の指導法 [FE用] …… 1052
生徒指導・進路指導論 [FC,FE用] …… 1053
生徒指導・進路指導論 [PP2521組用] …… 1055
生徒指導・進路指導論 [PP2522組用] …… 1057
英語科教育法Ⅲ(発展) …… 1059
英語科教育法Ⅳ(実践) …… 1060
教育課程論 [週間オンデマンド] …… 1061
道徳教育の理論及び指導法 [FE2421組用] …… 1062
道徳教育の理論及び指導法 [FE2422組用] …… 1064
道徳教育の理論及び指導法 [PP2431組用、PS2421組用] …… 1066
道徳教育の理論及び指導法 [PP2432組用、PS2422組用] …… 1068
道徳教育の理論及び指導法 [PP2433組用,FC用] …… 1070
総合的な学習の時間の指導法 [FC,PP,PS組用週間オンデマ …… 1072
総合的な学習の時間の指導法 [FE2521組用] …… 1074
総合的な学習の時間の指導法 [FE2522組用] …… 1075
教育の方法及び技術(情報通信技術の活用含む) [FC用] …… 1076
教育の方法及び技術(情報通信技術の活用含む) [FE用] …… 1078
教育の方法及び技術(情報通信技術の活用含む) [PP、PS用 …… 1080
器楽演習Ⅰ [A] …… 1082
器楽演習Ⅰ [B][不開講] …… 1083
器楽演習Ⅰ [C] …… 1084
器楽演習Ⅰ [C] …… 1085

目次（ 2026年度シラバス）

＜岡山キャンパス＞

器楽演習Ⅰ [不開講] …… 1086
器楽演習Ⅰ [不開講]希望者は月曜5限に移動 …… 1087
器楽演習Ⅱ …… 1088
器楽演習Ⅱ …… 1090
器楽演習Ⅱ [A] …… 1092
器楽演習Ⅱ [A][不開講] …… 1094
器楽演習Ⅱ [B] …… 1096
器楽演習Ⅱ [B][不開講] …… 1098
器楽演習Ⅱ [C] …… 1100
器楽演習Ⅱ [C][不開講] …… 1102
器楽演習Ⅱ [FC2521] …… 1104
器楽演習Ⅱ [FC2522] …… 1106
器楽演習Ⅲ [FC] …… 1108
器楽演習Ⅳ [FC] …… 1110
造形表現の基礎 [FC2621] …… 1112
造形表現の基礎 [FC2622] …… 1113
ピアノ弾き歌い演習Ⅰ [FC2621]（髙﨑クラス） …… 1114
ピアノ弾き歌い演習Ⅰ [FC2622]（髙﨑クラス） …… 1116
ピアノ実技Ⅰ …… 1118
ピアノ実技Ⅰ …… 1119
ピアノ実技Ⅰ …… 1120
ピアノ実技Ⅱ …… 1121
ピアノ実技Ⅱ …… 1122
ピアノ実技Ⅱ …… 1123
衣･食･住の理解 [集中講義] …… 1124
美術の理解 [FE2531組用] …… 1126
美術の理解 [FE2532組用] …… 1127
美術の理解 [FE2533組用] …… 1128
音楽の理解 [FE2521組用] …… 1129
音楽の理解 [FE2522組用] …… 1130
生活の理解 [週間オンデマンド] …… 1131
運動･健康の理解 [FE2521組用] …… 1133
運動･健康の理解 [FE2522組用] …… 1135
初等国語 [FE2621組用] …… 1137
初等国語 [FE2622組用] …… 1139
初等算数 …… 1141
初等英語 [FE2621組用] …… 1142
初等英語 [FE2622組用] …… 1143
初等理科 [FE2631組用] …… 1144
初等理科 [FE2632組用] …… 1146
初等理科 [FE2633組用] …… 1148
初等理科 [他学科] …… 1150
初等社会 [FE2631組用] …… 1152
初等社会 [FE2632組用] …… 1153
初等社会 [FE2633組用] …… 1154
発達心理学 …… 1155
発達心理学 [FC用] …… 1156
教育社会学 [週間オンデマンド] …… 1158
教育心理学 [週間オンデマンド] …… 1160

目次（ 2026年度シラバス）

＜岡山キャンパス＞

教育相談(初等) [週間オンデマンド] …… 1162
教育相談(中等) [週間オンデマンド] …… 1164
自立活動実践論 …… 1166
特別支援教育 …… 1168
特別支援教育総論 [週間オンデマンド] …… 1170
知的障害児の心理・生理・病理 …… 1171
肢体不自由児の心理・生理・病理 …… 1172
病弱児の心理・生理・病理 ≪連続≫ …… 1173
知的障害児教育 I …… 1175
知的障害児教育 II …… 1177
発達障害児教育総論 [FE用] …… 1179
発達障害児教育総論 [他学科] …… 1180
肢体不自由児教育 …… 1182
病弱児教育 …… 1184
重複障害児教育総論 …… 1186
障害児教育相談と心理アセスメント …… 1188
視覚障害児教育論 …… 1190
聴覚障害児教育論 [週間オンデマンド] …… 1192
教育の諸問題 …… 1193
地域の教育と文化 [週間オンデマンド] …… 1195
社会学概論 …… 1197
時事英語 …… 1199
異文化コミュニケーション論 …… 1200
異文化コミュニケーション …… 1202
英語文学 …… 1204
英語文学史 …… 1205
英語文法 [英語教員希望者限定] …… 1206
比較文化論 …… 1207
国際関係論 …… 1209
上級英語文法 [英語教員希望者限定週間オンデマンド] …… 1210
上級オーラルコミュニケーション …… 1212
体育原理 [PP用] …… 1213
体育原理 [週間オンデマンド] …… 1215
健康科学概論 [週間オンデマンド] …… 1217
発育と発達 …… 1218
体育行政学 …… 1219
体育社会学 …… 1221
スポーツバイオメカニクス …… 1223
スポーツバイオメカニクス [週間オンデマンド] …… 1225
スポーツバイオメカニクス [週間オンデマンド] …… 1227
スポーツ栄養学 …… 1229
スポーツ栄養学 [PH用] …… 1230
スポーツ栄養学 [PS用] …… 1231
体育史 …… 1232
運動生理学 [週間オンデマンド] …… 1234
スポーツ文化論 …… 1236
スポーツ史 …… 1237
スポーツ生理学 …… 1239
運動生理学演習 I …… 1240

目次（ 2026年度シラバス）

＜岡山キャンパス＞

運動生理学演習 II …… 1241
英語学概論 …… 1242
４技能統合型英語 I (基礎) …… 1243
４技能統合型英語 II (応用) …… 1244
解剖学 I [PH2024年度以前入学生][再履修用] …… 1245
解剖学 I [PH2025年度以降入学生] …… 1247
生理学 I [PH2024年度以前入学生][再履修用] …… 1249
生理学 I [PH2025年度以降入学生] …… 1250
公衆衛生学 I …… 1251
基礎柔道整復学 I (総論) …… 1252
基礎柔道整復学 II (骨折) …… 1253
病理学 I …… 1254
運動学特論 A …… 1255
基礎柔道整復学III(脱臼) …… 1256
基礎柔道整復学III(脱臼) …… 1257
基礎柔道整復学IV(捻挫) …… 1258
運動学特論 B …… 1259
柔道整復解剖生理演習 I …… 1260
柔道整復解剖生理演習 II …… 1261
柔道整復解剖生理演習III …… 1262
柔道整復解剖生理演習IV …… 1263
基礎柔道整復学 V (保存療法) …… 1264
経営学概論 [（編入生、再履修者用）週2オンデマンド] …… 1265
経営学概論 [1年生日本人用][週2] …… 1266
経営学概論 [留学生用][週2] …… 1267
経済学概論 [（編入生、再履修者用）週2オンデマンド] …… 1268
経済学概論 [1年生日本人用][週2] …… 1269
経済学概論 [留学生用][週2] …… 1270
マーケティング総論 [週2] …… 1271
世界経済論 [週2] …… 1272
ビジネスデータ分析 [Q2対面＋オンデマンド] …… 1274
プロジェクト研究 …… 1275
ビジネスマナー [週2] …… 1277
都市計画論 …… 1279
プロジェクト・ゼロ [週2] …… 1281
地域政策論 …… 1283
ビジネス心理学 [週2] …… 1285
データサイエンス入門 [BC用週間オンデマンド] …… 1287
スポーツデータサイエンス入門 [PP用] …… 1289
スポーツデータサイエンス入門 [PS用] …… 1290
ビジネスと数学 I [週間オンデマンド] …… 1291
簿記入門 I [Q1対面＋オンデマンド] …… 1293
簿記入門 II [Q2対面＋オンデマンド] …… 1294
地球の未来と人間の行動 [週2] …… 1295

目次（ 2026年度シラバス）

＜岡山キャンパス＞

簿記演習Ⅰ［Q3対面＋オンデマンド］ …… 1297
簿記演習Ⅱ［Q4対面＋オンデマンド］ …… 1298
映画とテレビの英語 …… 1299
英語のリズムとイントネーション …… 1301
特別支援教育論［週間オンデマンド］ …… 1303
英語教授法特論 …… 1304
教育評価 …… 1305
学校経営と学校図書館［週間オンデマンド］ …… 1306
学校図書館メディアの構成［週間オンデマンド］ …… 1308
学習指導と学校図書館 …… 1309
読書と豊かな人間性［週間オンデマンド］ …… 1311
情報メディアの活用［週間オンデマンド］ …… 1312
算数科教育法［FE2531組用］ …… 1313
算数科教育法［FE2532組用］ …… 1314
算数科教育法［FE2533組用］ …… 1315
算数科教育法［他学科A］ …… 1316
算数科教育法［他学科B］ …… 1317
社会科教育法［FE2531組用］ …… 1318
社会科教育法［FE2532組用］ …… 1319
社会科教育法［FE2533組用］ …… 1320
社会科教育法［他学科A］ …… 1321
社会科教育法［他学科B］ …… 1322
音楽科教育法［FE2431組用］ …… 1323
音楽科教育法［FE2432組用］ …… 1325
音楽科教育法［FE2433組用］ …… 1327
音楽科教育法［他学科用］ …… 1329
国語科教育法［FE2531組用］ …… 1331
国語科教育法［FE2532組用］ …… 1332
国語科教育法［FE2533組用］ …… 1333
国語科教育法［他学科A］ …… 1334
国語科教育法［他学科B］ …… 1335
理科教育法［FE2531組用］ …… 1336
理科教育法［FE2532組用］ …… 1338
理科教育法［FE2533組用］ …… 1340
理科教育法［他学科3年水3］ …… 1342
理科教育法［他学科3年水4］ …… 1344
家庭科教育法［週間オンデマンド＋対面］ …… 1346
生活科教育法［FE2431組用］ …… 1348
生活科教育法［FE2432組用］ …… 1350
生活科教育法［FE2433組用］ …… 1352
生活科教育法［他学科A］ …… 1354
生活科教育法［他学科B］ …… 1356
体育科教育法［FE2431組用］ …… 1358
体育科教育法［FE2432組用］ …… 1359
体育科教育法［FE2433組用］ …… 1360
体育科教育法［他学科］ …… 1361
図画工作科教育法［FE2431組用］ …… 1362
図画工作科教育法［FE2432組用］ …… 1363
図画工作科教育法［FE2433組用］ …… 1364

目次（ 2026年度シラバス）

＜岡山キャンパス＞

図画工作科教育法 [他学科A] …… 1365
図画工作科教育法 [他学科B] …… 1366
小学校英語科教育法 [FE2431組用] …… 1367
小学校英語科教育法 [FE2432組用] …… 1369
小学校英語科教育法 [FE2433組用] …… 1371
小学校英語科教育法 [他学科] …… 1373
体育実技の指導法 …… 1375
教育実践学Ⅰ（青年教師塾） …… 1377
教育実践学Ⅱ（基礎）（青年教師塾）［表現教育アウトリ- …… 1378
教育実践学Ⅱ（応用）（青年教師塾） …… 1379
理科実験の指導法Ⅰ（理科教師塾） …… 1380
理科実験の指導法Ⅱ（理科教師塾）［不開講］ …… 1382
子ども家庭支援の心理学 [不開講] …… 1384
幼児心理学Ⅰ …… 1386
幼児心理学Ⅱ …… 1387
幼児心理学Ⅲ [不開講] …… 1389
保育内容総論 …… 1390
子どもとマルチメディア …… 1392
社会福祉学 …… 1393
乳児保育Ⅰ …… 1394
乳児保育Ⅱ [A] …… 1395
乳児保育Ⅱ [B] …… 1396
子ども子育て教育相談 …… 1397
保育内容「健康」指導法 [FC2521組用] …… 1398
保育内容「健康」指導法 [FC2522組用] …… 1400
保育内容「言葉」指導法 …… 1402
保育内容「人間関係」指導法 [FC2521組用] …… 1404
保育内容「人間関係」指導法 [FC2522組用] …… 1406
保育内容「環境」指導法 [FC2521組用] …… 1408
保育内容「環境」指導法 [FC2522組用] …… 1410
保育内容「身体表現」指導法 [FC2521組用] …… 1412
保育内容「身体表現」指導法 [FC2522組用] …… 1413
保育内容「造形表現」指導法 [FC2521組用] …… 1414
保育内容「造形表現」指導法 [FC2522組用] …… 1415
保育内容「音楽表現」指導法 [FC2521組用] …… 1416
保育内容「音楽表現」指導法 [FC2522組用] …… 1417
幼児と健康 …… 1418
幼児と言葉 …… 1419
幼児と人間関係 …… 1421
幼児と環境 …… 1423
幼児と表現 …… 1425
子どもの理解と援助 …… 1427
子ども家庭福祉 …… 1428
障害児保育 …… 1429
子どもの食と栄養 [FC] …… 1430
子どもの保健 [週間オンデマンド] …… 1431
子ども家庭支援論 …… 1432
運動学 [週間オンデマンド] …… 1434

目次（ 2026年度シラバス）

＜岡山キャンパス＞

トレーニング論 I (基礎) [週間オンデマンド] …… 1435
トレーニング論 II (応用) …… 1437
スポーツ心理学 …… 1438
スポーツ心理学 …… 1440
スポーツ心理学 [PS用] …… 1442
スポーツアナリティクス I …… 1444
スポーツアナリティクス II …… 1445
スポーツバイオメカニクス実習 …… 1446
スポーツマネジメント演習 [eスポーツ][週2] …… 1447
スポーツマネジメント実践論 [週2] …… 1449
スポーツ科学入門 [PH用] …… 1450
スポーツ科学入門 [PP用] …… 1452
スポーツ科学入門 [PS用] …… 1454
スポーツ健康演習 …… 1456
スポーツ産業論 [週2] …… 1457
コーチング論 …… 1458
トレーナー論 …… 1460
健康管理概論 [抽選あり] …… 1461
公衆衛生学 [週間オンデマンド] …… 1462
生理学 [週間オンデマンド] …… 1464
労働衛生学 …… 1465
解剖生理学 …… 1466
病理学 …… 1467
解剖・生理学実習 I …… 1468
解剖・生理学実習 II …… 1469
スポーツ健康実習 [健康運動実習PH4年生用][不開講] …… 1470
トレーニング指導実習 [PP,PH用] …… 1472
トレーニング指導実習 [アスリート用] …… 1473
トレーニング指導実習 [サイエンティスト・CSCS用] …… 1474
サービスラーニング I …… 1475
サービスラーニング II …… 1476
サービスラーニング III …… 1477
サービスラーニング IV …… 1478
アスリートキャリアI(クロスオーバースキル) …… 1479
アスリートキャリア II (スポーツコンプライアンス) …… 1480
アスリートキャリア III (スポーツリスクマネジメント) …… 1482
体力科学実験演習I(基礎) …… 1484
体力科学実験演習 II (応用) …… 1485
競技スポーツアナリティクス演習A (レース分析) …… 1486
競技スポーツアナリティクス演習B (ゲーム分析) …… 1488
競技スポーツアナリティクス演習D (ゲームプラン) …… 1489
競技スポーツ栄養学演習A(体調管理) …… 1490
競技スポーツ栄養学演習B(競技力向上) …… 1491
競技スポーツ心理学演習A(競技能力心理検査) …… 1492
競技スポーツ心理学演習B (メンタルトレーニング) …… 1494
競技スポーツバイオメカニクス演習A (動作分析) …… 1496
競技スポーツバイオメカニクス演習B (スキル分析) …… 1498
障害者スポーツ論 …… 1500
スポーツイベント論 [週2] …… 1501

目次（ 2026年度シラバス）

＜岡山キャンパス＞

国際スポーツ論 …… 1503
スポーツ経営学 …… 1505
スポーツメディア論 [BC用][週2] …… 1506
レクリエーション論 …… 1507
スポーツマーケティング論 [週2] …… 1508
スポーツ施設論 [週2] …… 1509
保健体育科指導法 I (基礎) [PP,FE,FC] …… 1510
保健体育科指導法 I (基礎) [PP,FE,FC] …… 1512
保健体育科指導法 I (基礎) [PP,PS] …… 1514
保健体育科指導法 II (応用) [PP] …… 1516
保健体育科指導法 II (応用) [PP] …… 1517
保健体育科指導法 II (応用) [PP] …… 1518
保健体育科指導法 II (応用) [再履修者用+他学科] …… 1519
学校保健 [A] …… 1521
学校保健 [B] …… 1522
保健体育科指導法III(発展) [PP,他学科] …… 1523
保健体育科指導法III(発展) [PP,他学科] …… 1525
保健体育科指導法III(発展) [PP、他学科用] …… 1527
保健体育科指導法III(発展) [PP、他学科用] …… 1529
保健体育科指導法IV(実践) [PP+他学科] …… 1531
保健体育科指導法IV(実践) [PP+他学科] …… 1533
武道指導論 [剣道] …… 1535
体育授業のリスクマネージメント …… 1536
日本語教育概論 I …… 1537
日本語教育概論 II …… 1538
文章作成 …… 1540
総合日本語 I (基礎) [BC秋入学用] …… 1542
総合日本語 I (基礎) [BC留学生用] …… 1544
総合日本語 II (応用) [BC秋入学生用] …… 1546
総合日本語 II (応用) [BC留学生用] …… 1548
日本ビジネス事情 …… 1550
日本語演習 I [2026年度入学BC留学生用] …… 1551
日本語演習 II [2026年度入学BC留学生用] …… 1553
日本語演習IV [不開講][2026年度入学BC留学生用] …… 1555
言語学 …… 1556
日本語学 I …… 1557
日本語学 II …… 1558
社会言語学 …… 1559
日本語教授法 I …… 1560
日本語教授法 II …… 1561
日本語評価法 …… 1562
解剖学 II [PH2024年度以前入学生][再履修用] …… 1563
解剖学 II [PH2025年度以降入学生] …… 1564
生理学 II [PH2024年度以前入学生][再履修用] …… 1565
生理学 II [PH2025年度以降入学生] …… 1566
公衆衛生学 II …… 1567
臨床柔道整復学 I (骨折 I) …… 1568
外科学 I …… 1570
外科学 II …… 1571

目次（ 2026年度シラバス）

＜岡山キャンパス＞

内科学 I …… 1572
内科学 II …… 1573
臨床柔道整復学 II（骨折 II） …… 1574
臨床柔道整復学III(脱臼) …… 1575
病理学 II …… 1576
整形外科学 I …… 1577
整形外科学 II …… 1578
リハビリテーション医学 I …… 1579
リハビリテーション医学 II …… 1581
関係法規 …… 1583
臨床柔道整復学 V（軟部組織 I） …… 1584
臨床柔道整復学VI(軟部組織 II） …… 1585
臨床柔道整復学VII(臨床応用) …… 1586
臨床柔道整復学演習 I [3年生用] …… 1587
臨床柔道整復学演習 I [4年生用] …… 1589
臨床柔道整復学演習 II …… 1591
臨床柔道整復学演習 II …… 1593
臨床柔道整復学演習III …… 1595
柔道整復治療学 …… 1597
臨床柔道整復学IV（社会保障制度と職業倫理） …… 1598
解剖学III …… 1599
生理学III …… 1601
解剖学IV …… 1602
生理学IV …… 1604
現代経営論 [週2] …… 1605
中小企業論 [週2] …… 1606
国際経営論 [週2オンデマンド] …… 1607
イノベーション論 [週2] …… 1608
ベンチャー企業論 [週2オンデマンド] …… 1609
経営情報論 [週2] …… 1611
企業経営実践論 I …… 1613
企業経営実践論 II …… 1615
ビジネス特別講義 I …… 1617
ビジネス特別講義 II …… 1619
ミクロ経済学 [再履修者用][週2] …… 1620
マクロ経済学 [週2] …… 1621
国際経済学 [週2] …… 1623
財政学 …… 1625
公共経済学 …… 1627
経済政策論 [週2] …… 1628
応用ミクロ経済学 [週2] …… 1629
応用マクロ経済学 [週2] …… 1630
行政学 …… 1631
地方自治論 …… 1633
公共経営論 [Q3対面＋オンデマンド] …… 1635
行政法 I [Q4対面＋オンデマンド] …… 1636
行政法 II [Q1対面＋オンデマンド] …… 1637
労働経済学 [週2] …… 1638
経済数学入門 II …… 1640

目次（ 2026年度シラバス）

＜岡山キャンパス＞

原価計算 …… 1641
財務会計 …… 1642
金融論 [週2] …… 1643
環境経済学 …… 1644
簿記論Ⅰ [Q1対面＋オンデマンド] …… 1645
簿記論Ⅱ [Q2対面＋オンデマンド] …… 1646
財務諸表論Ⅰ [1年生用：Q4対面＋オンデマンド] …… 1647
財務諸表論Ⅰ [2年生～] …… 1648
会計演習Ⅱ …… 1649
簿記論Ⅲ [Q3対面＋オンデマンド] …… 1650
流通論 [週2] …… 1651
民法Ⅰ …… 1652
民法Ⅱ …… 1653
消費者行動論 [Q1対面＋オンデマンド] …… 1654
マーケティング特論 …… 1656
マーケティングリサーチ [週2オンデマンド] …… 1658
会社法 …… 1660
企業取引法 …… 1661
情報分析論 [週2] …… 1662
ブランド戦略論 …… 1664
税法 …… 1666
社会調査法 [FE、BC用][週間オンデマンド] …… 1668
フィールドワークA …… 1669
海外研修A [BC用] …… 1671
スポーツマネジメント論 [週2] …… 1673
キャリアマネジメント入門Ⅰ …… 1674
キャリアマネジメント入門Ⅱ …… 1675
海外社会実習Ⅰ …… 1676
ダンスⅠ(基礎) [PH・PP・PS女子用] …… 1678
ダンスⅠ(基礎) [PP・PS男子用] …… 1680
ダンスⅠ(基礎) [PP・PS男子用] …… 1682
ダンスⅠ(基礎) [PP・PS用] …… 1684
ダンスⅠ(基礎) [他学科用] …… 1686
バスケットボールⅠ(基礎) …… 1688
バスケットボールⅠ(基礎) …… 1689
バスケットボールⅠ(基礎) …… 1690
バスケットボールⅠ(基礎) …… 1691
バスケットボールⅠ(基礎) …… 1692
バレーボールⅠ(基礎) [PP・PS・他学科・PH用] …… 1693
バレーボールⅠ(基礎) [PP・PS・他学科・PH用] …… 1694
バレーボールⅠ(基礎) [他学科＋PP3年以上用] …… 1695
ハンドボールⅠ(基礎) …… 1696
ハンドボールⅠ(基礎) …… 1697
陸上Ⅰ(基礎) [PP女子用、他学科＋PP2年生以上] …… 1698
陸上Ⅰ(基礎) [PP男子用] …… 1700
陸上Ⅰ(基礎) [PP男子用] …… 1702
陸上Ⅰ(基礎) [PS用] …… 1704
陸上Ⅰ(基礎) [他学科＋PP2年生以上] …… 1706
柔道Ⅰ(基礎) [PH用] …… 1708

目次（ 2026年度シラバス）

＜岡山キャンパス＞

柔道Ⅰ(基礎) [PP・PS女子用] …… 1710
柔道Ⅰ(基礎) [PP・PS男子用] …… 1712
柔道Ⅰ(基礎) [PP・PS男子用] …… 1714
柔道Ⅰ(基礎) [PP・PS男子用] …… 1716
柔道Ⅰ(基礎) [次世代女子・PP女子・PS女子用] …… 1718
柔道Ⅰ(基礎) [次世代男子用] …… 1720
剣道Ⅰ(基礎) …… 1722
剣道Ⅰ(基礎) [2年生以上男子用] …… 1724
剣道Ⅰ(基礎) [PP1年生男子用] …… 1726
水泳Ⅰ(基礎) [PH用] …… 1728
水泳Ⅰ(基礎) [PP用] …… 1729
水泳Ⅰ(基礎) [他学科用] …… 1730
体つくり運動 [2年用以上]A …… 1731
体つくり運動 [2年用以上]B …… 1732
体つくり運動 [2年用以上]C …… 1733
ラグビー …… 1734
サッカー [PP・PS女子用] …… 1735
サッカー [PP・PS女子用] …… 1736
サッカー [PP・PS男子用] …… 1737
サッカー [PP・PS男子用] …… 1738
ソフトボール [PP・PS女子+他学科女子用] …… 1739
ソフトボール [PP・PS男子+他学科男子] …… 1741
ソフトボール [PP・PS男子+他学科男子] …… 1743
ソフトボール [PP・PS男子用] …… 1745
ソフトボール [PP・PS男子用] …… 1747
ソフトボール PP女子+他学科女子用 …… 1749
器械運動Ⅰ(基礎) …… 1751
器械運動Ⅰ(基礎) …… 1752
器械運動Ⅰ(基礎) …… 1753
器械運動Ⅰ(基礎) …… 1754
器械運動Ⅰ(基礎) …… 1755
器械運動Ⅰ(基礎) …… 1756
器械運動Ⅱ(応用) …… 1757
バドミントン …… 1758
バドミントン …… 1759
バドミントン …… 1760
ダンスⅡ(応用) …… 1761
バレーボールⅡ(応用) …… 1762
ハンドボールⅡ(応用) …… 1763
陸上Ⅱ(応用) …… 1764
柔道Ⅱ(応用) [PH用] …… 1766
柔道Ⅱ(応用) [PP・PS女子用] …… 1767
柔道Ⅱ(応用) [PP・PS男子用] …… 1768
柔道Ⅱ(応用) [PP・PS男子用] …… 1769
剣道Ⅱ(応用) …… 1770
整復学実技Ⅶ(総合) …… 1771
整復学実技Ⅶ(総合) …… 1773
剣道Ⅲ(発展) …… 1775
インクルーシブスポーツ [PS用] …… 1777

目次（ 2026年度シラバス）

＜岡山キャンパス＞

スタジオエクササイズ …… 1779
防災キャンプ …… 1780
教育実習Ⅰ(幼稚園) …… 1782
教育実習Ⅱ(幼稚園) …… 1783
教育実習Ⅰ(小学校)《通年》 …… 1784
教育実習Ⅰ(中学校･高等学校) [英語] …… 1785
教育実習Ⅰ(中学校･高等学校) [保健体育] …… 1786
教育実習Ⅱ(中学校) [英語] …… 1787
教育実習Ⅱ(中学校) [保健体育] …… 1788
教育実習Ⅱ(小学校)《通年》 …… 1789
介護等体験実習 《通年》 …… 1790
教育実習事前・事後指導(幼稚園) …… 1791
教育実習事前・事後指導(小学校)《通年》 …… 1792
教育実習事前・事後指導(英語)《通年》 …… 1793
教育実習事前・事後指導(保健体育) …… 1794
日本語教育実習Ⅰ …… 1796
日本語教育実習Ⅱ …… 1797
日本語教育演習Ⅰ …… 1798
日本語教育演習Ⅱ …… 1799
特別支援教育実習事前・事後指導 …… 1800
特別支援教育実習 …… 1802
表現教育アウトリーチ教育実習 …… 1803
フィールドワーク入門 [FE] …… 1804
保育実習Ⅱ(保育所) …… 1806
保育実習Ⅲ(施設) …… 1807
保育実習指導Ⅰ A(保育所) …… 1808
保育実習指導Ⅰ B(施設) …… 1809
保育実習Ⅰ A(保育所) …… 1810
保育実習Ⅰ B(施設) …… 1811
保育実習指導Ⅱ(保育所) …… 1812
保育実習指導Ⅲ(施設) …… 1813
海外研修 [PH用] …… 1814
スポーツイベント運営実習 …… 1816
国際交流実習Ⅰ(基礎) …… 1817
国際交流実習Ⅰ(基礎)《通年》[留学生用] …… 1819
学校支援ボランティア [小学校ボランティア] …… 1820
学校支援ボランティア [小学校ボランティア] …… 1822
インターンシップ [FC] …… 1824
インターンシップ [PS用] …… 1825
キャンプ実習 [PP1年生用] …… 1827
キャンプ実習 [PS用] …… 1828
健康運動実習 [PH用] …… 1830
健康運動実習 [健康運動指導士用] …… 1832
アスレティックトレーナー実習Ⅰ [PH用] …… 1833
アスレティックトレーナー実習Ⅰ [PP・PS用] …… 1835
アスレティックトレーナー実習Ⅱ …… 1837
アスレティックトレーナー実習Ⅱ …… 1839
アスレティックトレーナー実習Ⅲ …… 1841
アスレティックトレーナー実習Ⅳ …… 1842

目次（ 2026年度シラバス）

＜岡山キャンパス＞

特別講義 II …… 1844
特別演習 I 《通年》[留学生・大学院入試向け] …… 1846
フィールドワーク …… 1847
インターンシップ I [FE] …… 1849
インターンシップ II [FE] …… 1850
幼児英語指導法 I …… 1851
幼児英語指導法 II …… 1852
幼児英語指導法III [不開講] …… 1853
幼児体育指導法 I …… 1854
幼児体育指導法 II …… 1855
幼児体育指導法III [不開講] …… 1856
保育マネージメント演習 I …… 1858
保育マネージメント演習 II …… 1860
保育マネージメント演習III …… 1861
保育マネージメント演習IV [不開講] …… 1863
教職実践演習 [小学校] …… 1864
教職実践演習 [中高英語] …… 1865
教職実践演習 [中高保体] …… 1866
教職実践演習 [幼保] …… 1867
フィールドラーニング I …… 1868
フィールドラーニング II …… 1869
インターンシップ(企業) [BC] …… 1871
インターンシップ（公務員） [BC] …… 1873
インターンシップ（スポーツビジネス） [BC] …… 1875
経済学特講 I …… 1877
経済学特講 II …… 1879
NZ保育学 …… 1881
NZ保育実習 …… 1882
総合表現概論 …… 1884
演技基礎 …… 1885
資格検定対策 I (語学系) [BC留学生用] …… 1886
資格検定対策IV(ビジネス系) [週2] …… 1888
資格検定対策Ⅴ（ICTスキル系） [週2オンデマンド] …… 1889
現代経営実践演習基礎III …… 1890
卒業研究 [BC] …… 1891
卒業研究 [BC] …… 1893
卒業研究 [BC] …… 1895
卒業研究 [BC] …… 1897
卒業研究 [BC] …… 1899
卒業研究 [BC] …… 1901
卒業研究 [BC] …… 1903
卒業研究 [BC] …… 1905
卒業研究 [BC] …… 1907
卒業研究 [BC] …… 1909
卒業研究 [BC] …… 1911
卒業研究 [BC] …… 1913
卒業研究 [BC] …… 1915
卒業研究 [FE] …… 1917
卒業研究 [秋入学生用] …… 1918

目次（ 2026年度シラバス）

＜岡山キャンパス＞

卒業研究 [秋入学生用] …… 1919
卒業研究 [秋入学生用] …… 1921
卒業研究 [秋入学生用] …… 1923
卒業研究 [秋入学生用] …… 1925
卒業研究 [秋入学生用] …… 1927
卒業研究 [秋入学生用] …… 1929
課題研究Ⅰ 《通年》[週間オンデマンド] …… 1931
課題研究Ⅰ 《通年》[週間オンデマンド] …… 1932
課題研究Ⅱ 《通年》[週間オンデマンド] …… 1933
スポーツ健康論 …… 1934
運動障害と予防および救急処置 [資格取得希望者] …… 1935
トレーニング演習Ⅰ(基礎) [Ａ] …… 1936
トレーニング演習Ⅰ(基礎) [Ｂ] …… 1937
トレーニング演習Ⅰ(基礎) [PH用] …… 1938
トレーニング演習Ⅰ(基礎) [PP2621組用] …… 1939
トレーニング演習Ⅰ(基礎) [PP2622組用] …… 1940
トレーニング演習Ⅱ(応用) [PS用] …… 1941
トレーニング演習Ⅱ(応用) [トレーナー用] …… 1943
スポーツ・レクリエーション演習 …… 1945
トレーニング演習Ⅲ(発展) …… 1946
トレーニング科学Ⅰ(基礎) …… 1948
トレーニング科学Ⅱ(応用) …… 1949
体育方法学・実習 [PP2631組用] …… 1950
体育方法学・実習 [PP2632組用] …… 1952
体育方法学・実習 [PP2633組用] …… 1954
体育方法学・実習 [PS2年生用] …… 1956
アスレティックトレーナーの役割 …… 1958
健康管理とスポーツ医学 [資格希望者用] …… 1960
健康管理とスポーツ医学 [週間オンデマンド] …… 1962
検査･測定と評価 …… 1964
予防とコンディショニングⅡ …… 1966
救急処置 [AT資格希望者用] …… 1967
救急処置 [CSCS,衛生管理者：資格希望者用] …… 1968
救急処置 [PS2521組用] …… 1969
救急処置 [PS2522組用] …… 1970
リコンディショニングⅠ …… 1971
リコンディショニングⅡ …… 1973
リコンディショニングⅢ …… 1974
スポーツ外傷・障害の予防Ⅰ …… 1975
スポーツ外傷・障害の予防Ⅰ [週間オンデマンド] …… 1977
スポーツ外傷・障害の予防Ⅱ …… 1979
スポーツ医学Ⅰ …… 1980
スポーツ医学Ⅱ …… 1981
人体の解剖と機能 …… 1982
フィットネスプログラム論 …… 1983
スポーツ相談の実際 …… 1984
レクリエーション実習 …… 1986
レクリエーション演習 …… 1987
公務員と法 …… 1988

目次（ 2026年度シラバス）

＜岡山キャンパス＞

実践英文法（基礎） …… 1989
実践英文法（応用） …… 1990
リーディング・スキル（基礎）［英語教員希望者限定週間オ …… 1991
リーディング・スキル（応用）［英語教員希望者限定週間オ …… 1992
ライティング・スキル［英語教員希望者限定週間オンデマン …… 1993
スピーキング・スキル …… 1994
リーディング・スキル(実践)［英語教員希望者限定週間オン …… 1996
キャリアマネジメントⅠ［企業］ …… 1997
キャリアマネジメントⅠ［公務員］ …… 1998
キャリアマネジメントⅠ［中高保体教員］ …… 1999
キャリアマネジメントⅠ［中高保体教員］ …… 2000
キャリアマネジメントⅡ［公務員A］ …… 2001
キャリアマネジメントⅡ［公務員B］ …… 2002
キャリアマネジメントⅡ［中高保体教員］ …… 2003
キャリアマネジメントⅢ［公務員A］ …… 2005
キャリアマネジメントⅢ［公務員B］ …… 2006
キャリアマネジメントⅢ［中高保体教員］ …… 2007
キャリアマネジメントⅣ［公務員］ …… 2009
キャリアマネジメントⅣ［中高保体教員］ …… 2010
公務員と法Ⅱ …… 2012

科目コード	13100				区　分	教養科目		
授業科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	仙波　慎平		
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

＜授業の到達目標＞
本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、２年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台つくりが目的である。毎時の講話を通して①IPU生・社会人・体育人としての考え方、態度を身につけている。②五訓、特に「前進力」を高めることができるようになる。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につけている。

＜授業の方法＞
1．講義（メンターやゲストスピーカー等による講話）2．グループワーク3．省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有クラス・グループに分かれ、テーマごとにディスカッションおよび成果物を作成する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習　スピーチの準備等事前に告知された課題　1時間復習　テーマに即したレポートの作成1時間

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度(身だしなみ・ディスカッションや演習への取り組み態度等) 30%、小課題① 50%（レポート・基礎学力課題）、課題②（発表等）20%

＜教科書＞
吉原 惠子（著），間渕 泰尚（著），冨江 英俊（著），小針 誠（著）(2017/10/10)　スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル　実教出版

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	大学の方針・創志学園の歴史	大学の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	講話（ゲストスピーカー）	大学生のための非認知能力
3	ゲストスピーカー（講話）	非認知能力の伸ばし方
4	自己を振り返る	自分史を作成（オンデマンド）
5	体育とは何か	嘉納治五郎から、体育・体育人とは何かを学ぶ
6	ゲストスピーカー（聴講）	非認知能力の伸ばし方
7	スポーツイベント実践①	上級生とのコミュニティ形成
8	スポーツイベント実践②	上級生とのコミュニティ形成
9	スポーツイベント実践③	上級生とのコミュニティ形成
10	ビジネスマナー①	メールの方法、時間の使い方。
11	ビジネスマナー②	会話の受け答え、電話の取り方。
12	スポーツリンクプロジェクト計画①	スポーツリンクプロジェクト計画を行う（2年クラスと合同）。
13	スポーツリンクプロジェクト計画②	スポーツリンクプロジェクト計画を行う（2年クラスと合同）。
14	前期のまとめ	前期のまとめ
15	自己分析	マッチプラスを用いて、自己分析を行う。
16	スポーツリンクプロジェクト実践①	スポーツリンクプロジェクト実践を行う
17	ゲストスピーカー（聴講）	社会人になった自分を思い描く。
18	スポーツリンクプロジェクト実践②	スポーツリンクプロジェクト実践を行う。
19	スポレクフェス計画①	スポレクフェス計画を行う。

20	スポレクフェス計画②	スポレクフェスの計画を行う。
21	スポレクフェス実践①	スポレクフェスの実践を行う。
22	スポレクフェス実践②	スポレクフェス実践を行う。
23	スポレクフェス実践③	スポレクフェス実践を行う。
24	プレゼンテーション発表（聴講）	スポーツリンクプロジェクトの成果発表を聴講する。
25	スポレクフェスの振り返り	スポレクフェスの振り返りを行い、成果物を作成する。
26	進路に向けて	進路選択に向けて、調べ学習を行う。
27	進路にむけて②	自身の進路選択についての調べ学習を行う。
28	ゲストスピーカー（聴講）	1年生の自分と2年生の自分
29		
30		

科目コード	13100				区　分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	戸田　晃大			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

＜授業の到達目標＞
本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、２年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台つくりが目的である。毎時の講話を通して①IPU生・社会人・体育人としての考え方、態度を身につけている。②五訓、特に「前進力」を高めることができるようになる。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につけている。

＜授業の方法＞
1．講義（メンターやゲストスピーカー等による講話）2．グループワーク3．省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有クラス・グループに分かれ、テーマごとにディスカッションおよび成果物を作成する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習　スピーチの準備等事前に告知された課題　1時間復習　テーマに即したレポートの作成1時間

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度(身だしなみ・ディスカッションや演習への取り組み態度等) 30%、小課題① 50%（レポート・基礎学力課題）、課題②（発表等）20%

＜教科書＞
吉原 惠子（著），間渕 泰尚（著），冨江 英俊（著），小針 誠（著）(2017/10/10)　スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル　実教出版

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	大学の方針・創志学園の歴史	大学の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	講話（ゲストスピーカー）	大学生のための非認知能力
3	ゲストスピーカー（講話）	非認知能力の伸ばし方
4	自己を振り返る	自分史を作成（オンデマンド）
5	体育とは何か	嘉納治五郎から、体育・体育人とは何かを学ぶ
6	ゲストスピーカー（聴講）	非認知能力の伸ばし方
7	スポーツイベント実践①	上級生とのコミュニティ形成
8	スポーツイベント実践②	上級生とのコミュニティ形成
9	スポーツイベント実践③	上級生とのコミュニティ形成
10	ビジネスマナー①	メールの方法、時間の使い方。
11	ビジネスマナー②	会話の受け答え、電話の取り方。
12	スポーツリンクプロジェクト計画①	スポーツリンクプロジェクト計画を行う（2年クラスと合同）。
13	スポーツリンクプロジェクト計画②	スポーツリンクプロジェクト計画を行う（2年クラスと合同）。
14	前期のまとめ	前期のまとめ
15	自己分析	マッチプラスを用いて、自己分析を行う。
16	スポーツリンクプロジェクト実践①	スポーツリンクプロジェクト実践を行う
17	ゲストスピーカー（聴講）	社会人になった自分を思い描く。
18	スポーツリンクプロジェクト実践②	スポーツリンクプロジェクト実践を行う。
19	スポレクフェス計画①	スポレクフェス計画を行う。

20	スポレクフェス計画②	スポレクフェスの計画を行う。
21	スポレクフェス実践①	スポレクフェスの実践を行う。
22	スポレクフェス実践②	スポレクフェス実践を行う。
23	スポレクフェス実践③	スポレクフェス実践を行う。
24	プレゼンテーション発表（聴講）	スポーツリンクプロジェクトの成果発表を聴講する。
25	スポレクフェスの振り返り	スポレクフェスの振り返りを行い、成果物を作成する。
26	進路に向けて	進路選択に向けて、調べ学習を行う。
27	進路にむけて②	自身の進路選択についての調べ学習を行う。
28	ゲストスピーカー（聴講）	1年生の自分と2年生の自分
29		
30		

科目コード	13100				区　分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	岩田　知郎			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

＜授業の到達目標＞
本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、２年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台つくりが目的である。毎時の講話を通して①IPU生・社会人・体育人としての考え方、態度を身につけている。②五訓、特に「前進力」を高めることができるようになる。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につけている。

＜授業の方法＞
1．講義（メンターやゲストスピーカー等による講話）2．グループワーク3．省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有クラス・グループに分かれ、テーマごとにディスカッションおよび成果物を作成する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習　スピーチの準備等事前に告知された課題　1時間復習　テーマに即したレポートの作成1時間

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度(身だしなみ・ディスカッションや演習への取り組み態度等) 30%、小課題① 50%（レポート・基礎学力課題）、課題②（発表等）20%

＜教科書＞
吉原 惠子（著），間渕 泰尚（著），冨江 英俊（著），小針 誠（著）(2017/10/10)　スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル　実教出版

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	大学の方針・創志学園の歴史	大学の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	講話（ゲストスピーカー）	大学生のための非認知能力
3	ゲストスピーカー（講話）	非認知能力の伸ばし方
4	自己を振り返る	自分史を作成（オンデマンド）
5	体育とは何か	嘉納治五郎から、体育・体育人とは何かを学ぶ
6	ゲストスピーカー（聴講）	非認知能力の伸ばし方
7	スポーツイベント実践①	上級生とのコミュニティ形成
8	スポーツイベント実践②	上級生とのコミュニティ形成
9	スポーツイベント実践③	上級生とのコミュニティ形成
10	ビジネスマナー①	メールの方法、時間の使い方。
11	ビジネスマナー②	会話の受け答え、電話の取り方。
12	スポーツリンクプロジェクト計画①	スポーツリンクプロジェクト計画を行う（2年クラスと合同）。
13	スポーツリンクプロジェクト計画②	スポーツリンクプロジェクト計画を行う（2年クラスと合同）。
14	前期のまとめ	前期のまとめ
15	自己分析	マッチプラスを用いて、自己分析を行う。
16	スポーツリンクプロジェクト実践①	スポーツリンクプロジェクト実践を行う
17	ゲストスピーカー（聴講）	社会人になった自分を思い描く。
18	スポーツリンクプロジェクト実践②	スポーツリンクプロジェクト実践を行う。
19	スポレクフェス計画①	スポレクフェス計画を行う。

20	スポレクフェス計画②	スポレクフェスの計画を行う。
21	スポレクフェス実践①	スポレクフェスの実践を行う。
22	スポレクフェス実践②	スポレクフェス実践を行う。
23	スポレクフェス実践③	スポレクフェス実践を行う。
24	プレゼンテーション発表（聴講）	スポーツリンクプロジェクトの成果発表を聴講する。
25	スポレクフェスの振り返り	スポレクフェスの振り返りを行い、成果物を作成する。
26	進路に向けて	進路選択に向けて、調べ学習を行う。
27	進路にむけて②	自身の進路選択についての調べ学習を行う。
28	ゲストスピーカー（聴講）	1年生の自分と2年生の自分
29		
30		

科目コード	13100				区　分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	佐藤　伸之			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

＜授業の到達目標＞
本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、２年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台つくりが目的である。毎時の講話を通して、①IPU生・社会人・体育人としての考え方、態度を身につける。②五訓、特に「前進力」を高める。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける。

＜授業の方法＞
1．講義（メンターやゲストスピーカー等による講話）2．グループワーク3．省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有クラス・グループに分かれ、テーマごとにディスカッションおよび成果物を作成する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習　スピーチの準備等事前に告知された課題　1時間復習　テーマに即したレポートの作成1時間

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度(身だしなみ・ディスカッションや演習への取り組み態度等) 30%、小課題① 50%（レポート・基礎学力課題）、課題②（発表等）20%

＜教科書＞
吉原 惠子（著), 間渕 泰尚（著), 冨江 英俊（著), 小針 誠（著）(2017/10/10)　スタディスキルズ・トレーニング 改訂版: 大学で学ぶための25のスキル　実教出版

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	大学の方針・創志学園の歴史	大学の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	講話（ゲストスピーカー）	大学生のための非認知能力
3	ゲストスピーカー（講話）	非認知能力の伸ばし方
4	自己を振り返る	自分史を作成（オンデマンド）
5	体育とは何か	嘉納治五郎から、体育・体育人とは何かを学ぶ
6	ゲストスピーカー（聴講）	非認知能力の伸ばし方
7	スポーツイベント実践①	上級生とのコミュニティ形成
8	スポーツイベント実践②	上級生とのコミュニティ形成
9	スポーツイベント実践③	上級生とのコミュニティ形成
10	ビジネスマナー①	メールの方法、時間の使い方。
11	ビジネスマナー②	会話の受け答え、電話の取り方。
12	スポーツリンクプロジェクト計画①	スポーツリンクプロジェクト計画を行う（2年クラスと合同）。
13	スポーツリンクプロジェクト計画②	スポーツリンクプロジェクト計画を行う（2年クラスと合同）。
14	前期のまとめ	前期のまとめ
15	自己分析	マッチプラスを用いて、自己分析を行う。
16	スポーツリンクプロジェクト実践①	スポーツリンクプロジェクト実践を行う
17	ゲストスピーカー（聴講）	社会人になった自分を思い描く。
18	スポーツリンクプロジェクト実践②	スポーツリンクプロジェクト実践を行う。
19	スポレクフェス計画①	スポレクフェス計画を行う。
20	スポレクフェス計画②	スポレクフェスの計画を行う。

21	スポレクフェス実践①	スポレクフェスの実践を行う。
22	スポレクフェス実践②	スポレクフェス実践を行う。
23	スポレクフェス実践③	スポレクフェス実践を行う。
24	プレゼンテーション発表（聴講）	スポーツリンクプロジェクトの成果発表を聴講する。
25	スポレクフェスの振り返り	スポレクフェスの振り返りを行い、成果物を作成する。
26	進路に向けて	進路選択に向けて、調べ学習を行う。
27	進路にむけて②	自身の進路選択についての調べ学習を行う。
28	ゲストスピーカー（聴講）	1年生の自分と2年生の自分
29		
30		

科目コード	13100				区　分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	堀川　峻			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

＜授業の到達目標＞
本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、２年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台つくりが目的である。毎時の講話を通して、①IPU生・社会人・体育人としての考え方、態度を身につける。②五訓、特に「前進力」を高める。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける。

＜授業の方法＞
1．講義（メンターやゲストスピーカー等による講話）2．グループワーク3．省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有クラス・グループに分かれ、テーマごとにディスカッションおよび成果物を作成する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習　スピーチの準備等事前に告知された課題　1時間復習　テーマに即したレポートの作成1時間

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度(身だしなみ・ディスカッションや演習への取り組み態度等) 30%、小課題① 50%（レポート・基礎学力課題）、課題②（発表等）20%

＜教科書＞
吉原 惠子（著), 間渕 泰尚（著), 冨江 英俊（著), 小針 誠（著）(2017/10/10)　スタディスキルズ・トレーニング 改訂版: 大学で学ぶための25のスキル　実教出版

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	大学の方針・創志学園の歴史	大学の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	講話（ゲストスピーカー）	大学生のための非認知能力
3	ゲストスピーカー（講話）	非認知能力の伸ばし方
4	自己を振り返る	自分史を作成（オンデマンド）
5	体育とは何か	嘉納治五郎から、体育・体育人とは何かを学ぶ
6	ゲストスピーカー（聴講）	非認知能力の伸ばし方
7	スポーツイベント実践①	上級生とのコミュニティ形成
8	スポーツイベント実践②	上級生とのコミュニティ形成
9	スポーツイベント実践③	上級生とのコミュニティ形成
10	ビジネスマナー①	メールの方法、時間の使い方。
11	ビジネスマナー②	会話の受け答え、電話の取り方。
12	スポーツリンクプロジェクト計画①	スポーツリンクプロジェクト計画を行う（2年クラスと合同）。
13	スポーツリンクプロジェクト計画②	スポーツリンクプロジェクト計画を行う（2年クラスと合同）。
14	前期のまとめ	前期のまとめ
15	自己分析	マッチプラスを用いて、自己分析を行う。
16	スポーツリンクプロジェクト実践①	スポーツリンクプロジェクト実践を行う
17	ゲストスピーカー（聴講）	社会人になった自分を思い描く。
18	スポーツリンクプロジェクト実践②	スポーツリンクプロジェクト実践を行う。
19	スポレクフェス計画①	スポレクフェス計画を行う。
20	スポレクフェス計画②	スポレクフェスの計画を行う。

21	スポレクフェス実践①	スポレクフェスの実践を行う。
22	スポレクフェス実践②	スポレクフェス実践を行う。
23	スポレクフェス実践③	スポレクフェス実践を行う。
24	プレゼンテーション発表（聴講）	スポーツリンクプロジェクトの成果発表を聴講する。
25	スポレクフェスの振り返り	スポレクフェスの振り返りを行い、成果物を作成する。
26	進路に向けて	進路選択に向けて、調べ学習を行う。
27	進路にむけて②	自身の進路選択についての調べ学習を行う。
28	ゲストスピーカー（聴講）	1年生の自分と2年生の自分
29		
30		

科目コード	13100				区　分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	坂手　雅斗			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

＜授業の到達目標＞
本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、２年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台つくりが目的である。毎時の講話を通して①IPU生・社会人・体育人としての考え方、態度を身につけている。②五訓、特に「前進力」を高めることができるようになる。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につけている。

＜授業の方法＞
1．講義（メンターやゲストスピーカー等による講話）2．グループワーク3．省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有クラス・グループに分かれ、テーマごとにディスカッションおよび成果物を作成する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習　スピーチの準備等事前に告知された課題　1時間復習　テーマに即したレポートの作成1時間

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度(身だしなみ・ディスカッションや演習への取り組み態度等) 30%、小課題① 50%（レポート・基礎学力課題）、課題②（発表等）20%

＜教科書＞
吉原 惠子（著），間渕 泰尚（著），冨江 英俊（著），小針 誠（著）(2017/10/10)　スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル　実教出版

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	大学の方針・創志学園の歴史	大学の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	講話（ゲストスピーカー）	大学生のための非認知能力
3	ゲストスピーカー（講話）	非認知能力の伸ばし方
4	自己を振り返る	自分史を作成（オンデマンド）
5	体育とは何か	嘉納治五郎から、体育・体育人とは何かを学ぶ
6	ゲストスピーカー（聴講）	非認知能力の伸ばし方
7	スポーツイベント実践①	上級生とのコミュニティ形成
8	スポーツイベント実践②	上級生とのコミュニティ形成
9	スポーツイベント実践③	上級生とのコミュニティ形成
10	ビジネスマナー①	メールの方法、時間の使い方。
11	ビジネスマナー②	会話の受け答え、電話の取り方。
12	スポーツリンクプロジェクト計画①	スポーツリンクプロジェクト計画を行う（2年クラスと合同）。
13	スポーツリンクプロジェクト計画②	スポーツリンクプロジェクト計画を行う（2年クラスと合同）。
14	前期のまとめ	前期のまとめ
15	自己分析	マッチプラスを用いて、自己分析を行う。
16	スポーツリンクプロジェクト実践①	スポーツリンクプロジェクト実践を行う
17	ゲストスピーカー（聴講）	社会人になった自分を思い描く。
18	スポーツリンクプロジェクト実践②	スポーツリンクプロジェクト実践を行う。
19	スポレクフェス計画①	スポレクフェス計画を行う。

20	スポレクフェス計画②	スポレクフェスの計画を行う。
21	スポレクフェス実践①	スポレクフェスの実践を行う。
22	スポレクフェス実践②	スポレクフェス実践を行う。
23	スポレクフェス実践③	スポレクフェス実践を行う。
24	プレゼンテーション発表（聴講）	スポーツリンクプロジェクトの成果発表を聴講する。
25	スポレクフェスの振り返り	スポレクフェスの振り返りを行い、成果物を作成する。
26	進路に向けて	進路選択に向けて、調べ学習を行う。
27	進路にむけて②	自身の進路選択についての調べ学習を行う。
28	ゲストスピーカー（聴講）	1年生の自分と2年生の自分
29		
30		

科目コード	13100				区　分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	野上　里菜			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

＜授業の到達目標＞
本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、２年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台つくりが目的である。毎時の講話を通して、①IPU生・社会人・体育人としての考え方、態度を身につける。②五訓、特に「前進力」を高める。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける。

＜授業の方法＞
1．講義（メンターやゲストスピーカー等による講話）2．グループワーク3．省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有クラス・グループに分かれ、テーマごとにディスカッションおよび成果物を作成する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習　スピーチの準備等事前に告知された課題　1時間復習　テーマに即したレポートの作成1時間

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度(身だしなみ・ディスカッションや演習への取り組み態度等) 30%、小課題① 50%（レポート・基礎学力課題）、課題②（発表等）20%

＜教科書＞
吉原 惠子（著), 間渕 泰尚（著), 冨江 英俊（著), 小針 誠（著）(2017/10/10)　スタディスキルズ・トレーニング 改訂版: 大学で学ぶための25のスキル　実教出版

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	大学の方針・創志学園の歴史	大学の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	講話（ゲストスピーカー）	大学生のための非認知能力
3	ゲストスピーカー（講話）	非認知能力の伸ばし方
4	自己を振り返る	自分史を作成（オンデマンド）
5	体育とは何か	嘉納治五郎から、体育・体育人とは何かを学ぶ
6	ゲストスピーカー（聴講）	非認知能力の伸ばし方
7	スポーツイベント実践①	上級生とのコミュニティ形成
8	スポーツイベント実践②	上級生とのコミュニティ形成
9	スポーツイベント実践③	上級生とのコミュニティ形成
10	ビジネスマナー①	メールの方法、時間の使い方。
11	ビジネスマナー②	会話の受け答え、電話の取り方。
12	スポーツリンクプロジェクト計画①	スポーツリンクプロジェクト計画を行う（2年クラスと合同）。
13	スポーツリンクプロジェクト計画②	スポーツリンクプロジェクト計画を行う（2年クラスと合同）。
14	前期のまとめ	前期のまとめ
15	自己分析	マッチプラスを用いて、自己分析を行う。
16	スポーツリンクプロジェクト実践①	スポーツリンクプロジェクト実践を行う
17	ゲストスピーカー（聴講）	社会人になった自分を思い描く。
18	スポーツリンクプロジェクト実践②	スポーツリンクプロジェクト実践を行う。
19	スポレクフェス計画①	スポレクフェス計画を行う。
20	スポレクフェス計画②	スポレクフェスの計画を行う。

21	スポレクフェス実践①	スポレクフェスの実践を行う。
22	スポレクフェス実践②	スポレクフェス実践を行う。
23	スポレクフェス実践③	スポレクフェス実践を行う。
24	プレゼンテーション発表（聴講）	スポーツリンクプロジェクトの成果発表を聴講する。
25	スポレクフェスの振り返り	スポレクフェスの振り返りを行い、成果物を作成する。
26	進路に向けて	進路選択に向けて、調べ学習を行う。
27	進路にむけて②	自身の進路選択についての調べ学習を行う。
28	ゲストスピーカー（聴講）	1年生の自分と2年生の自分
29		
30		

科目コード	13100				区　分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	眞鍋　芳江			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

＜授業の到達目標＞
本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、２年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台つくりが目的である。毎時の講話を通して①IPU生・社会人・体育人としての考え方、態度を身につけている。②五訓、特に「前進力」を高めることができるようになる。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につけている。

＜授業の方法＞
1．講義（メンターやゲストスピーカー等による講話）2．グループワーク3．省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有クラス・グループに分かれ、テーマごとにディスカッションおよび成果物を作成する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習　スピーチの準備等事前に告知された課題　1時間復習　テーマに即したレポートの作成1時間

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度(身だしなみ・ディスカッションや演習への取り組み態度等) 30%、小課題① 50%（レポート・基礎学力課題）、課題②（発表等）20%

＜教科書＞
吉原 惠子（著），間渕 泰尚（著），冨江 英俊（著），小針 誠（著）(2017/10/10)　スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル　実教出版

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	大学の方針・創志学園の歴史	大学の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	講話（ゲストスピーカー）	大学生のための非認知能力
3	ゲストスピーカー（講話）	非認知能力の伸ばし方
4	自己を振り返る	自分史を作成（オンデマンド）
5	体育とは何か	嘉納治五郎から、体育・体育人とは何かを学ぶ
6	ゲストスピーカー（聴講）	非認知能力の伸ばし方
7	スポーツイベント実践①	上級生とのコミュニティ形成
8	スポーツイベント実践②	上級生とのコミュニティ形成
9	スポーツイベント実践③	上級生とのコミュニティ形成
10	ビジネスマナー①	メールの方法、時間の使い方。
11	ビジネスマナー②	会話の受け答え、電話の取り方。
12	スポーツリンクプロジェクト計画①	スポーツリンクプロジェクト計画を行う（2年クラスと合同）。
13	スポーツリンクプロジェクト計画②	スポーツリンクプロジェクト計画を行う（2年クラスと合同）。
14	前期のまとめ	前期のまとめ
15	自己分析	マッチプラスを用いて、自己分析を行う。
16	スポーツリンクプロジェクト実践①	スポーツリンクプロジェクト実践を行う
17	ゲストスピーカー（聴講）	社会人になった自分を思い描く。
18	スポーツリンクプロジェクト実践②	スポーツリンクプロジェクト実践を行う。
19	スポレクフェス計画①	スポレクフェス計画を行う。

20	スポレクフェス計画②	スポレクフェスの計画を行う。
21	スポレクフェス実践①	スポレクフェスの実践を行う。
22	スポレクフェス実践②	スポレクフェス実践を行う。
23	スポレクフェス実践③	スポレクフェス実践を行う。
24	プレゼンテーション発表（聴講）	スポーツリンクプロジェクトの成果発表を聴講する。
25	スポレクフェスの振り返り	スポレクフェスの振り返りを行い、成果物を作成する。
26	進路に向けて	進路選択に向けて、調べ学習を行う。
27	進路にむけて②	自身の進路選択についての調べ学習を行う。
28	ゲストスピーカー（聴講）	1年生の自分と2年生の自分
29		
30		

科目コード	13100				区　分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	江波戸　智希			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

＜授業の到達目標＞
下記三つの能力を身に付けることができる。①IPU生としての考え方・態度を身につける②前進力を身につける③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける

＜授業の方法＞
講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材を取り組んでいく

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素有講義だけでなく、グループワークやディスカッション、基礎学力の教え合い、プレゼンテーションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習　スピーチの準備等事前に告知された課題　1時間復習　テーマに即したレポートの作成1時間

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題）　60%，課題レポート　（課題，発表）40%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	役員講話（大学の方針・創志学園の歴史）	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	非認知能力①	中山芳一先生：第1回大学生のための非認知能力
3	非認知能力②	中山芳一先生：第2回非認知能力の伸ばし方
4	基礎学力	ことば入門；テーマ1
5	基礎学力	ことば入門；テーマ1を基にした発表
6	基礎学力	競技日誌の書き方
7	非認知能力③	中山芳一先生：第3回非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
8	クラス活動	集団行動を体験する
9	クラス活動	個人面談
10	クラス活動	個人面談
11	自身の目標設定アクションプラン	自身の目標設定アクションプランを作成
12	アクションプラン　プレゼン	アクションプランプレゼンテーションとディスカッション
13	基礎学力	ことば入門；テーマ4
14	読書感想文	読書感想文コンテストの準備
15	オリエンテーション	履修登録　クラス活動
16	体育祭決め	体育祭決め
17	非認知能力④	″中山芳一先生：第4回社会人になった自分を描く″
18	基礎学力	ことば入門；テーマ6
19	学生FD	学科改善案　クラスミーティング
20	学生FD②	学科改善案　クラスミーティング
21	クラス活動	個人面談
22	クラス活動	個人面談
23	基礎学力	ことば入門；テーマ7

24	基礎学力	ことば入門；テーマ8
25	後期　アクションプラン　プレゼン	後期のアクションプランプレゼンテーションとディスカッション
26	クラス活動	個人面談
27	基礎学力	ことば入門；テーマ９　10　11
28	環トレ 後期末テスト	環トレ 後期末テスト
29		
30		

科目コード	13100				区　分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	前田　誠一			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

＜授業の到達目標＞
①IPU生としての考え方・態度を身につける②前進力を身につける③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける

＜授業の方法＞
講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材を取り組んでいく

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素有講義だけでなく、グループワークやディスカッション、基礎学力の教え合い、プレゼンテーションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習　スピーチの準備等事前に告知された課題　1時間復習　テーマに即したレポートの作成1時間

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題）　60%，課題レポート　（課題，発表）40%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	役員講話（大学の方針・創志学園の歴史）	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	非認知能力①	中山芳一先生：第1回大学生のための非認知能力
3	非認知能力②	中山芳一先生：第2回非認知能力の伸ばし方
4	基礎学力	ことば入門；テーマ1
5	基礎学力	ことば入門；テーマ1を基にした発表
6	基礎学力	競技日誌の書き方
7	非認知能力③	中山芳一先生：第3回非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
8	クラス活動	集団行動を体験する
9	クラス活動	個人面談
10	クラス活動	個人面談
11	自身の目標設定アクションプラン	自身の目標設定アクションプランを作成
12	アクションプラン　プレゼン	アクションプランプレゼンテーションとディスカッション
13	基礎学力	ことば入門；テーマ4
14	読書感想文	読書感想文コンテストの準備
15	オリエンテーション	履修登録　クラス活動
16	体育祭決め	体育祭決め
17	非認知能力④	″中山芳一先生：第4回社会人になった自分を描く″
18	基礎学力	ことば入門；テーマ6
19	学生FD	学科改善案　クラスミーティング
20	学生FD②	学科改善案　クラスミーティング
21	クラス活動	個人面談
22	クラス活動	個人面談
23	基礎学力	ことば入門；テーマ7
24	基礎学力	ことば入門；テーマ8

25	後期　アクションプラン　プレゼン	後期のアクションプランプレゼンテーションとディスカッション
26	クラス活動	個人面談
27	基礎学力	ことば入門；テーマ９　10　11
28	環トレ 後期末テスト	環トレ 後期末テスト
29		
30		

科目コード	13100				区　分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	宮本　彩			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

＜授業の到達目標＞
①IPU生としての考え方・態度を身につける②前進力を身につける③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける

＜授業の方法＞
講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材を取り組んでいく

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素有講義だけでなく、グループワークやディスカッション、基礎学力の教え合い、プレゼンテーションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習　スピーチの準備等事前に告知された課題　1時間復習　テーマに即したレポートの作成1時間

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題）　60%，課題レポート　（課題，発表）40%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	役員講話（大学の方針・創志学園の歴史）	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	非認知能力①	中山芳一先生：第1回大学生のための非認知能力
3	非認知能力②	中山芳一先生：第2回非認知能力の伸ばし方
4	基礎学力	ことば入門；テーマ1
5	基礎学力	ことば入門；テーマ1を基にした発表
6	基礎学力	競技日誌の書き方
7	非認知能力③	中山芳一先生：第3回非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
8	クラス活動	集団行動を体験する
9	クラス活動	個人面談
10	クラス活動	個人面談
11	自身の目標設定アクションプラン	自身の目標設定アクションプランを作成
12	アクションプラン　プレゼン	アクションプランプレゼンテーションとディスカッション
13	基礎学力	ことば入門；テーマ4
14	読書感想文	読書感想文コンテストの準備
15	オリエンテーション	履修登録　クラス活動
16	体育祭決め	体育祭決め
17	非認知能力④	″中山芳一先生：第4回社会人になった自分を描く″
18	基礎学力	ことば入門；テーマ6
19	学生FD	学科改善案　クラスミーティング
20	学生FD②	学科改善案　クラスミーティング
21	クラス活動	個人面談
22	クラス活動	個人面談
23	基礎学力	ことば入門；テーマ7
24	基礎学力	ことば入門；テーマ8

25	後期　アクションプラン　プレゼン	後期のアクションプランプレゼンテーションとディスカッション
26	クラス活動	個人面談
27	基礎学力	ことば入門；テーマ９　10　11
28	環トレ 後期末テスト	環トレ 後期末テスト
29		
30		

科目コード	13100				区　分	教養科目			
授業 科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	伊藤　亮輔			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

＜授業の到達目標＞
①IPU生としての考え方・態度を身につける②前進力を身につける③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける

＜授業の方法＞
講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材を取り組んでいく

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素有講義だけでなく、グループワークやディスカッション、基礎学力の教え合い、プレゼンテーションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習　スピーチの準備等事前に告知された課題　1時間復習　テーマに即したレポートの作成1時間

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題）　60%，課題レポート　（課題，発表）40%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	役員講話（大学の方針・創志学園の歴史）	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	非認知能力①	中山芳一先生：第1回大学生のための非認知能力
3	非認知能力②	中山芳一先生：第2回非認知能力の伸ばし方
4	基礎学力	ことば入門；テーマ1
5	基礎学力	ことば入門；テーマ1を基にした発表
6	基礎学力	競技日誌の書き方
7	非認知能力③	中山芳一先生：第3回非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
8	クラス活動	集団行動を体験する
9	クラス活動	個人面談
10	クラス活動	個人面談
11	自身の目標設定アクションプラン	自身の目標設定アクションプランを作成
12	アクションプラン　プレゼン	アクションプランプレゼンテーションとディスカッション
13	基礎学力	ことば入門；テーマ4
14	読書感想文	読書感想文コンテストの準備
15	オリエンテーション	履修登録　クラス活動
16	体育祭決め	体育祭決め
17	非認知能力④	″中山芳一先生：第4回社会人になった自分を描く″
18	基礎学力	ことば入門；テーマ6
19	学生FD	学科改善案　クラスミーティング
20	学生FD②	学科改善案　クラスミーティング
21	クラス活動	個人面談
22	クラス活動	個人面談
23	基礎学力	ことば入門；テーマ7
24	基礎学力	ことば入門；テーマ8

25	後期　アクションプラン　プレゼン	後期のアクションプランプレゼンテーションとディスカッション
26	クラス活動	個人面談
27	基礎学力	ことば入門；テーマ９　10　11
28	環トレ 後期末テスト	環トレ 後期末テスト
29		
30		

科目コード	13100				区　分	教養科目			
授業 科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	品田　直宏			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

＜授業の到達目標＞
①IPU生としての考え方・態度を身につける②前進力を身につける③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける

＜授業の方法＞
講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材を取り組んでいく

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素有講義だけでなく、グループワークやディスカッション、基礎学力の教え合い、プレゼンテーションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習　スピーチの準備等事前に告知された課題　1時間復習　テーマに即したレポートの作成1時間

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題）　60%，課題レポート　（課題，発表）40%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	役員講話（大学の方針・創志学園の歴史）	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	非認知能力①	中山芳一先生：第1回大学生のための非認知能力
3	非認知能力②	中山芳一先生：第2回非認知能力の伸ばし方
4	基礎学力	ことば入門；テーマ1
5	基礎学力	ことば入門；テーマ1を基にした発表
6	基礎学力	競技日誌の書き方
7	非認知能力③	中山芳一先生：第3回非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
8	クラス活動	集団行動を体験する
9	クラス活動	個人面談
10	クラス活動	個人面談
11	自身の目標設定アクションプラン	自身の目標設定アクションプランを作成
12	アクションプラン　プレゼン	アクションプランプレゼンテーションとディスカッション
13	基礎学力	ことば入門；テーマ4
14	読書感想文	読書感想文コンテストの準備
15	オリエンテーション	履修登録　クラス活動
16	体育祭決め	体育祭決め
17	非認知能力④	″中山芳一先生：第4回社会人になった自分を描く″
18	基礎学力	ことば入門；テーマ6
19	学生FD	学科改善案　クラスミーティング
20	学生FD②	学科改善案　クラスミーティング
21	クラス活動	個人面談
22	クラス活動	個人面談
23	基礎学力	ことば入門；テーマ7
24	基礎学力	ことば入門；テーマ8

25	後期　アクションプラン　プレゼン	後期のアクションプランプレゼンテーションとディスカッション
26	クラス活動	個人面談
27	基礎学力	ことば入門；テーマ９　10　11
28	環トレ 後期末テスト	環トレ 後期末テスト
29		
30		

科目コード	13100				区　分	教養科目			
授業 科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	小村　淳			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

＜授業の到達目標＞
①IPU生としての考え方・態度を身につける②前進力を身につける③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける

＜授業の方法＞
講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材を取り組んでいく

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素有講義だけでなく、グループワークやディスカッション、基礎学力の教え合い、プレゼンテーションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習　スピーチの準備等事前に告知された課題　1時間復習　テーマに即したレポートの作成1時間

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題）　60%，課題レポート　（課題，発表）40%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	役員講話（大学の方針・創志学園の歴史）	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	非認知能力①	中山芳一先生：第1回大学生のための非認知能力
3	非認知能力②	中山芳一先生：第2回非認知能力の伸ばし方
4	基礎学力	ことば入門；テーマ1
5	基礎学力	ことば入門；テーマ1を基にした発表
6	基礎学力	競技日誌の書き方
7	非認知能力③	中山芳一先生：第3回非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
8	クラス活動	集団行動を体験する
9	クラス活動	個人面談
10	クラス活動	個人面談
11	自身の目標設定アクションプラン	自身の目標設定アクションプランを作成
12	アクションプラン　プレゼン	アクションプランプレゼンテーションとディスカッション
13	基礎学力	ことば入門；テーマ4
14	読書感想文	読書感想文コンテストの準備
15	オリエンテーション	履修登録　クラス活動
16	体育祭決め	体育祭決め
17	非認知能力④	″中山芳一先生：第4回社会人になった自分を描く″
18	基礎学力	ことば入門；テーマ6
19	学生FD	学科改善案　クラスミーティング
20	学生FD②	学科改善案　クラスミーティング
21	クラス活動	個人面談
22	クラス活動	個人面談
23	基礎学力	ことば入門；テーマ7
24	基礎学力	ことば入門；テーマ8

25	後期　アクションプラン　プレゼン	後期のアクションプランプレゼンテーションとディスカッション
26	クラス活動	個人面談
27	基礎学力	ことば入門；テーマ９　10　11
28	環トレ 後期末テスト	環トレ 後期末テスト
29		
30		

科目コード	13100				区　分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	鷹取　晃巨			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

＜授業の到達目標＞
①IPU生としての考え方・態度を身につける②前進力を身につける③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける

＜授業の方法＞
講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材を取り組んでいく

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素有講義だけでなく、グループワークやディスカッション、基礎学力の教え合い、プレゼンテーションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習　スピーチの準備等事前に告知された課題　1時間復習　テーマに即したレポートの作成1時間

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題）　60%，課題レポート　（課題，発表）40%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	役員講話（大学の方針・創志学園の歴史）	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	非認知能力①	中山芳一先生：第1回大学生のための非認知能力
3	非認知能力②	中山芳一先生：第2回非認知能力の伸ばし方
4	基礎学力	ことば入門；テーマ1
5	基礎学力	ことば入門；テーマ1を基にした発表
6	基礎学力	競技日誌の書き方
7	非認知能力③	中山芳一先生：第3回非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
8	クラス活動	集団行動を体験する
9	クラス活動	個人面談
10	クラス活動	個人面談
11	自身の目標設定アクションプラン	自身の目標設定アクションプランを作成
12	アクションプラン　プレゼン	アクションプランプレゼンテーションとディスカッション
13	基礎学力	ことば入門；テーマ4
14	読書感想文	読書感想文コンテストの準備
15	オリエンテーション	履修登録　クラス活動
16	体育祭決め	体育祭決め
17	非認知能力④	″中山芳一先生：第4回社会人になった自分を描く″
18	基礎学力	ことば入門；テーマ6
19	学生FD	学科改善案　クラスミーティング
20	学生FD②	学科改善案　クラスミーティング
21	クラス活動	個人面談
22	クラス活動	個人面談
23	基礎学力	ことば入門；テーマ7
24	基礎学力	ことば入門；テーマ8

25	後期　アクションプラン　プレゼン	後期のアクションプランプレゼンテーションとディスカッション
26	クラス活動	個人面談
27	基礎学力	ことば入門；テーマ９　10　11
28	環トレ 後期末テスト	環トレ 後期末テスト
29		
30		

科目コード	13100				区　分	教養科目		
授業科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	矢野　智彦		
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

＜授業の到達目標＞
①IPU生としての考え方・態度を身につける②前進力を身につける③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける

＜授業の方法＞
講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材を取り組んでいく

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素有講義だけでなく、グループワークやディスカッション、基礎学力の教え合い、プレゼンテーションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習　スピーチの準備等事前に告知された課題　1時間復習　テーマに即したレポートの作成1時間

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題）　60%，課題レポート　（課題，発表）40%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	役員講話（大学の方針・創志学園の歴史）	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	非認知能力①	中山芳一先生：第1回大学生のための非認知能力
3	非認知能力②	中山芳一先生：第2回非認知能力の伸ばし方
4	基礎学力	ことば入門；テーマ1
5	基礎学力	ことば入門；テーマ1を基にした発表
6	基礎学力	競技日誌の書き方
7	非認知能力③	中山芳一先生：第3回非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
8	クラス活動	集団行動を体験する
9	クラス活動	個人面談
10	クラス活動	個人面談
11	自身の目標設定アクションプラン	自身の目標設定アクションプランを作成
12	アクションプラン　プレゼン	アクションプランプレゼンテーションとディスカッション
13	基礎学力	ことば入門；テーマ4
14	読書感想文	読書感想文コンテストの準備
15	オリエンテーション	履修登録　クラス活動
16	体育祭決め	体育祭決め
17	非認知能力④	″中山芳一先生：第4回社会人になった自分を描く″
18	基礎学力	ことば入門；テーマ6
19	学生FD	学科改善案　クラスミーティング
20	学生FD②	学科改善案　クラスミーティング
21	クラス活動	個人面談
22	クラス活動	個人面談
23	基礎学力	ことば入門；テーマ7
24	基礎学力	ことば入門；テーマ8

25	後期　アクションプラン　プレゼン	後期のアクションプランプレゼンテーションとディスカッション
26	クラス活動	個人面談
27	基礎学力	ことば入門；テーマ９　10　11
28	環トレ 後期末テスト	環トレ 後期末テスト
29		
30		

科目コード	13100				区　分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	桂　秀樹			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

＜授業の到達目標＞
下記三つの能力を身に付けることができる。①IPU生としての考え方・態度を身につける②前進力を身につける③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける

＜授業の方法＞
講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材を取り組んでいく

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素有講義だけでなく、グループワークやディスカッション、基礎学力の教え合い、プレゼンテーションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習　スピーチの準備等事前に告知された課題　1時間復習　テーマに即したレポートの作成1時間

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題）　60%，課題レポート　（課題，発表）40%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	役員講話（大学の方針・創志学園の歴史）	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	非認知能力①	中山芳一先生：第1回大学生のための非認知能力
3	非認知能力②	中山芳一先生：第2回非認知能力の伸ばし方
4	基礎学力	ことば入門；テーマ1
5	基礎学力	ことば入門；テーマ1を基にした発表
6	基礎学力	競技日誌の書き方
7	非認知能力③	中山芳一先生：第3回非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
8	クラス活動	集団行動を体験する
9	クラス活動	個人面談
10	クラス活動	個人面談
11	自身の目標設定アクションプラン	自身の目標設定アクションプランを作成
12	アクションプラン　プレゼン	アクションプランプレゼンテーションとディスカッション
13	基礎学力	ことば入門；テーマ4
14	読書感想文	読書感想文コンテストの準備
15	オリエンテーション	履修登録　クラス活動
16	体育祭決め	体育祭決め
17	非認知能力④	″中山芳一先生：第4回社会人になった自分を描く″
18	基礎学力	ことば入門；テーマ6
19	学生FD	学科改善案　クラスミーティング
20	学生FD②	学科改善案　クラスミーティング
21	クラス活動	個人面談
22	クラス活動	個人面談
23	基礎学力	ことば入門；テーマ7

24	基礎学力	ことば入門；テーマ8
25	後期　アクションプラン　プレゼン	後期のアクションプランプレゼンテーションとディスカッション
26	クラス活動	個人面談
27	基礎学力	ことば入門；テーマ９　10　11
28	環トレ 後期末テスト	環トレ 後期末テスト
29		
30		

科目コード	13100				区　分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	宮原　舞			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、キャリア教育の基礎として、社会で求められる社会人基礎力を踏まえ、大学生としての基礎・基本を身につけることを目的とする。大学生活の意義や過ごし方について考えながら、学生一人ひとりが責任をもって社会人として成長していくための基盤を養う。授業では、ゲストスピーカーによる講話や実習報告会に加え、基礎ゼミナールと連動した体験活動（自然・文化体験、地域連携活動、国際交流等）を振り返り、自己の学びとして整理することを重視する。これらを通して、IPU生および社会人として求められる資質・態度を身につけ、自分に自信をもち、自身の将来像を描きながら主体的に進路を考え、適切な進路決定を行うための土台を築く。

＜授業の到達目標＞
①保育・教育・福祉およびキャリア形成に関する学びを通して、自身の将来像や進路について考えることができる。②体験活動に主体的に参加し、他者と協働する姿勢を身につけることができる。③各回の学びを振り返り、自身の考えや気づきを文章等で表現することができる。

＜授業の方法＞
講義、演習、グループワーク等を組み合わせて実施する。多様な学びや実践に触れることを通して視野を広げ、各回の学びをレポートや振り返りによって整理しながら、自身の将来像や進路、大学生活の在り方について主体的に考えることを重視する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有（ペアワークやグループワークによる意見交流）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：テーマに即したレポート作成・発表準備等（1時間程度）復習：学習内容の振り返り（1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）、ディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業に対する取り組み姿勢　40%目標設定・振り返り　10%課題（レポート等）50%

＜教科書＞
文部科学省　幼稚園教育要領解説（平成30年3月）　フレーベル館
厚生労働省　保育所保育指針解説（平成30年3月）　フレーベル館
内閣府・文部科学省・厚生労働省　幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月）　フレーベル館

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	学長講話	大学での学びと目標設定
2	教養教育センター長 講話	第1回　大学生のための非認知能力
3	教養教育センター長 講話	第2回　非認知能力の伸ばし方
4	キャリア教育①	自分史を振り返る
5	教養教育センター長 講話	第3回　非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
6	講話	嘉納治五郎記念スポーツイノベーションセンター
7	キャリア教育②	体験活動を通して自己理解を深める
8	キャリア教育③	体験活動による自己の成長を振り返る
9	保育実習報告会	先輩の体験談から保育実習について学ぶ
10	キャリア教育④	職業適性について考える
11	キャリア教育⑤	体験活動を通して自己理解を深める
12	キャリア教育⑥	体験活動による自己の成長を振り返る
13	キャリア教育⑦	個人面談による前期の振り返り
14	キャリア教育⑧	自己の成長と課題の整理
15	スポーツフェスタ	協働性・主体性を育む
16	ゲスト講話	様々なキャリアを知り、社会で求められる力について考える
17	教養教育センター長 講話	第4回　社会人になった自分を描く
18	ゲスト講話	様々なキャリアを知り、社会で求められる力について考える
19	幼稚園実習報告会	先輩の体験談から幼稚園実習を学ぶ
20	キャリア教育⑨	体験活動を通して自己理解を深める

21	キャリア教育⑩	体験活動による自己の成長を振り返る
22	卒業生講話	卒業生の体験談から進路選択や就職活動について学ぶ
23	キャリア教育⑪	体験活動を通して自己理解を深める
24	キャリア教育⑫	体験活動による自己の成長を振り返る
25	ゲスト講話	人権について考える
26	ゲスト講話	様々なキャリアを知り、社会で求められる力について考える
27	キャリア教育⑬	1年間の成長と課題の整理
28	教養教育センター長 講話	第5回　1年の自分と2年の自分
29		
30		

科目コード	13100				区　分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	髙﨑　展好			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、キャリア教育の基礎として、社会で求められる社会人基礎力を踏まえ、大学生としての基礎・基本を身につけることを目的とする。大学生活の意義や過ごし方について考えながら、学生一人ひとりが責任をもって社会人として成長していくための基盤を養う。授業では、ゲストスピーカーによる講話や実習報告会に加え、基礎ゼミナールと連動した体験活動（自然・文化体験、地域連携活動、国際交流等）を振り返り、自己の学びとして整理することを重視する。これらを通して、IPU生および社会人として求められる資質・態度を身につけ、自分に自信をもち、自身の将来像を描きながら主体的に進路を考え、適切な進路決定を行うための土台を築く。

＜授業の到達目標＞
①保育・教育・福祉およびキャリア形成に関する学びを通して、自身の将来像や進路について考えることができる。②体験活動に主体的に参加し、他者と協働する姿勢を身につけることができる。③各回の学びを振り返り、自身の考えや気づきを文章等で表現することができる。

＜授業の方法＞
講義、演習、グループワーク等を組み合わせて実施する。多様な学びや実践に触れることを通して視野を広げ、各回の学びをレポートや振り返りによって整理しながら、自身の将来像や進路、大学生活の在り方について主体的に考えることを重視する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有（ペアワークやグループワークによる意見交流）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：テーマに即したレポート作成・発表準備等（1時間程度）復習：学習内容の振り返り（1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）、ディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業に対する取り組み姿勢　40%目標設定・振り返り　10%課題（レポート等）50%

＜教科書＞
文部科学省　幼稚園教育要領解説（平成30年3月）　フレーベル館
厚生労働省　保育所保育指針解説（平成30年3月）　フレーベル館
内閣府・文部科学省・厚生労働省　幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月）　フレーベル館

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	学長講話	大学での学びと目標設定
2	教養教育センター長 講話	第1回　大学生のための非認知能力
3	教養教育センター長 講話	第2回　非認知能力の伸ばし方
4	キャリア教育①	自分史を振り返る
5	教養教育センター長 講話	第3回　非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
6	講話	嘉納治五郎記念スポーツイノベーションセンター
7	キャリア教育②	体験活動を通して自己理解を深める
8	キャリア教育③	体験活動による自己の成長を振り返る
9	保育実習報告会	先輩の体験談から保育実習について学ぶ
10	キャリア教育④	職業適性について考える
11	キャリア教育⑤	体験活動を通して自己理解を深める
12	キャリア教育⑥	体験活動による自己の成長を振り返る
13	キャリア教育⑦	個人面談による前期の振り返り
14	キャリア教育⑧	自己の成長と課題の整理
15	スポーツフェスタ	協働性・主体性を育む
16	ゲスト講話	様々なキャリアを知り、社会で求められる力について考える
17	教養教育センター長 講話	第4回　社会人になった自分を描く
18	ゲスト講話	様々なキャリアを知り、社会で求められる力について考える
19	幼稚園実習報告会	先輩の体験談から幼稚園実習を学ぶ
20	キャリア教育⑨	体験活動を通して自己理解を深める

21	キャリア教育⑩	体験活動による自己の成長を振り返る
22	卒業生講話	卒業生の体験談から進路選択や就職活動について学ぶ
23	キャリア教育⑪	体験活動を通して自己理解を深める
24	キャリア教育⑫	体験活動による自己の成長を振り返る
25	ゲスト講話	人権について考える
26	ゲスト講話	様々なキャリアを知り、社会で求められる力について考える
27	キャリア教育⑬	1年間の成長と課題の整理
28	教養教育センター長 講話	第5回　1年の自分と2年の自分
29		
30		

科目コード	13100				区　分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	橘髙　真紀子			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、キャリア教育の基礎として、社会で求められる社会人基礎力を踏まえ、大学生としての基礎・基本を身につけることを目的とする。大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与えることから、本授業では、大学生活の意義や過ごし方について考えながら、学生一人ひとりが責任をもって社会人として成長していくための基盤を養う。ゲストスピーカーによる講話や、基礎ゼミナールと連動した実践的な活動を通して、IPU生および社会人として求められる資質・態度を身につけ、自分に自信をもち、適切な進路決定を行うための土台を築く。

＜授業の到達目標＞
①保育・教育・福祉およびキャリア形成に関する学びを通して、自身の将来像や進路について考えることができる。②学内行事や体験活動に主体的に参加し、他者と協働する姿勢を身につけることができる。③各回の学びを振り返り、自身の考えや気づきを文章等で表現することができる。

＜授業の方法＞
講義、演習、グループワーク等を組み合わせて実施する。多様な学びや実践に触れることを通して視野を広げ、各回の学びをレポートや振り返りによって整理しながら、自身の将来像や進路、大学生活の在り方について主体的に考えることを重視する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有（ペアワークやグループワークによる意見交流）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：テーマに即したレポート作成・発表準備等（1時間程度）復習：学習内容の振り返り（1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）、ディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業に対する取り組み姿勢　40%課題（レポート等）60%

＜教科書＞
文部科学省　幼稚園教育要領解説（平成30年3月）　フレーベル館
厚生労働省　保育所保育指針解説（平成30年3月）　フレーベル館
内閣府・文部科学省・厚生労働省　幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月）　フレーベル館

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	学長講話	大学での学びと目標設定
2	教養教育センター長 講話	第1回　大学生のための非認知能力
3	教養教育センター長 講話	第2回　非認知能力の伸ばし方
4	キャリア教育①	自分史を振り返る
5	教養教育センター長 講話	第3回　非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
6	講話	嘉納治五郎記念スポーツイノベーションセンター
7	キャリア教育②	体験活動を通して自己理解を深める
8	キャリア教育③	体験活動による自己の成長を振り返る
9	保育実習報告会	先輩の体験談から保育実習について学ぶ
10	キャリア教育④	職業適性について考える
11	キャリア教育⑤	体験活動を通して自己理解を深める
12	キャリア教育⑥	体験活動による自己の成長を振り返る
13	キャリア教育⑦	個人面談による前期の振り返り
14	キャリア教育⑧	自己の成長と課題の整理
15	スポーツフェスタ	協働性・主体性を育む
16	ゲスト講話	様々なキャリアを知り、社会で求められる力について考える
17	教養教育センター長 講話	第4回　社会人になった自分を描く
18	ゲスト講話	様々なキャリアを知り、社会で求められる力について考える
19	幼稚園実習報告会	先輩の体験談から幼稚園実習を学ぶ
20	キャリア教育⑨	体験活動を通して自己理解を深める
21	キャリア教育⑩	体験活動による自己の成長を振り返る

22	卒業生講話	卒業生の体験談から進路選択や就職活動について学ぶ
23	キャリア教育⑬	体験活動を通して自己理解を深める
24	キャリア教育⑫	体験活動による自己の成長を振り返る
25	ゲスト講話	人権について考える
26	ゲスト講話	様々なキャリアを知り、社会で求められる力について考える
27	キャリア教育⑬	1年間の成長と課題の整理
28	教養教育センター長 講話	第5回　1年の自分と2年の自分
29		
30		

科目コード	13100				区　分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	畠中　要輔			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、大学4年間の学びと将来の進路を主体的に設計するための基礎力を養う初年次教育科目である。講話、グループワーク、校外活動等を通して、認知能力（読解力・記述力等）と非認知能力（主体性・協働性・自己管理力等）の双方を育成する。さらに、スクールフェスや教育現場での体験活動を通して、社会人として求められる資質・態度を理解し、自己の将来像を具体的に描くことを目指す。

＜授業の到達目標＞
①講話内容を整理し、自分の考えを文章で表現できる②他者の意見を傾聴し、適切に自分の意見を発言できる③学習習慣や時間管理を実践し、自己管理ができる④大学生として求められる基礎的な学力を活用できる⑤自己の特性や価値観を分析し、将来の進路を具体的に説明できる⑥社会で求められる資質・能力を理解し、自らの行動に反映できる

＜授業の方法＞
講義（学内外講師による講話）、グループワーク、ディスカッション、発表、校外活動（教育現場見学・体験活動）を組み合わせて実施する。各回では講話内容の要約および振り返りを行い、学びを言語化することで理解の定着を図る

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループディスカッション、ペアワーク、プレゼンテーション、振り返りレポート作成、校外体験活動を通して、主体的・対話的で深い学びを促進する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習（各回1～2時間）・次回講話テーマに関する基礎知識の調査・自己の経験や意見の整理事後学習（各回2時間）・講話内容の要約および振り返りレポート作成・学びを踏まえた自己の行動改善計画の作成

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業参加態度（講話への取り組み、ディスカッション参加、提出状況）40%振り返りレポート（内容の理解度・論理性・自己の考察）40%実践活動（校外活動・スクールフェス等への参加および振り返り）20%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	役員講話	大学の方針・創志学園の歴史
2	中山先生講話	大学生のための非認知能力
3	中山先生講話	非認知能力の伸ばし方
4	オンデマンド	
5	中山先生講話	非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
6	真田先生講話	嘉納治五郎記念スポーツイノベーションセンター
7	チームビルディング	学年レクリエーション
8	ディスカッション	映画を見て振り返り
9	スクールフェス	スクールフェスについて
10	現場見学	小学校授業見学
11	現場実習	児童ふれあいイベント参加
12	現場実習	児童ふれあいイベント参加
13	現場実習	児童ふれあいイベント参加
14	現場実習	児童ふれあいイベント参加
15	自分を知る	リクナビ　マッチプラス
16	模擬授業	振り返り
17	中山先生講義	社会人になった自分を描く
18	模擬授業	振り返り
19	スクールフェス	準備
20	スクールフェス	当日
21	スクールフェス	準備
22	外部講師講話	外部講師講話

23	現場見学	小学校授業見学
24	人権講話	人権講話
25	スクールフェス	当日
26	スクールフェス	準備
27	外部講師講話	命の授業
28	中山先生講義	1年の自分と2年の自分
29		
30		

科目コード	13100				区　分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	竹下　厚志			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
大学4年間をどう過ごすのか、また４年後にどうなりたいのかを考え、社会人になる為の助言指導を行う。大学の初年次教育として、社会で求められる基礎学力だけでなく、非認知能力の育成も目指した授業を展開する。講話形式で行う授業では、内容をまとめ、自分の考えも持ち、自分の言葉としてレポートにまとめられる基礎力を身につける他、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。また校外活動も行い、学生一人一人がIPU生としての自覚を持ち、求められる資質・態度を考え、実践することで、自己肯定感を高め、妥協しない進路選びの土台を作る。

＜授業の到達目標＞
本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、２年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台つくりが目的である。毎時の講話を通して①読解力や傾聴力、書く力を身につける。②学生生活や学習習慣などの自己管理･時間管理能力を身につける。③大学生として求められる基礎学力の獲得と定着。以上の点から主体的・能動的に学び続ける学生としての資質・能力を育成することを目標とする。

＜授業の方法＞
講義（メンターやゲストスピーカー等による講話）、グループワーク

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
非認知能力授業でのグループワーク、発表など

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習・小学校授業映像視察（1時間）復習・授業後の復習（毎回30分）・振り返りレポート（毎回２時間）・スクールフェスの準備（毎回1時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度（身だしなみ・課題への取り組み態度等）50%、小課題（レポート等）50%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	役員講話	大学の方針・創志学園の歴史
2	中山先生講話	大学生のための非認知能力
3	中山先生講話	非認知能力の伸ばし方
4	オンデマンド	
5	中山先生講話	非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
6	真田先生講話	嘉納治五郎記念スポーツイノベーションセンター
7	チームビルディング	学年レクリエーション
8	ディスカッション	映画を見て振り返り
9	スクールフェス	スクールフェスについて
10	現場見学	小学校授業見学
11	現場実習	児童ふれあいイベント参加
12	現場実習	児童ふれあいイベント参加
13	現場実習	児童ふれあいイベント参加
14	現場実習	児童ふれあいイベント参加
15	自分を知る	リクナビ　マッチプラス
16	模擬授業	振り返り
17	中山先生講義	社会人になった自分を描く
18	模擬授業	振り返り
19	スクールフェス	準備
20	スクールフェス	当日
21	スクールフェス	準備
22	外部講師講話	外部講師講話
23	現場見学	小学校授業見学

24	人権講話	人権講話
25	スクールフェス	当日
26	スクールフェス	準備
27	外部講師講話	命の授業
28	中山先生講義	1年の自分と2年の自分
29		
30		

科目コード	13100				区　分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	中安　翼			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
大学4年間をどう過ごすのか、また４年後にどうなりたいのかを考え、社会人になる為の助言指導を行う。大学の初年次教育として、社会で求められる基礎学力だけでなく、非認知能力の育成も目指した授業を展開する。講話形式で行う授業では、内容をまとめ、自分の考えも持ち、自分の言葉としてレポートにまとめられる基礎力を身につける他、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。また校外活動も行い、学生一人一人がIPU生としての自覚を持ち、求められる資質・態度を考え、実践することで、自己肯定感を高め、妥協しない進路選びの土台を作る。

＜授業の到達目標＞
本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、２年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台つくりが目的である。毎時の講話を通して①読解力や傾聴力、書く力を身につける。②学生生活や学習習慣などの自己管理･時間管理能力を身につける。③大学生として求められる基礎学力の獲得と定着。以上の点から主体的・能動的に学び続ける学生としての資質・能力を育成することを目標とする。

＜授業の方法＞
講義（メンターやゲストスピーカー等による講話）、グループワーク

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
非認知能力授業でのグループワーク、発表など

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業後の復習、振り返りレポート２時間

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度（身だしなみ・課題への取り組み態度等）50%、小課題（レポート等）50%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	役員講話	大学の方針・創志学園の歴史
2	中山先生講話	大学生のための非認知能力
3	中山先生講話	非認知能力の伸ばし方
4	オンデマンド	
5	中山先生講話	非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
6	真田先生講話	嘉納治五郎記念スポーツイノベーションセンター
7	チームビルディング	学年レクリエーション
8	ディスカッション	映画を見て振り返り
9	スクールフェス	スクールフェスについて
10	現場見学	小学校授業見学
11	現場実習	児童ふれあいイベント参加
12	現場実習	児童ふれあいイベント参加
13	現場実習	児童ふれあいイベント参加
14	現場実習	児童ふれあいイベント参加
15	自分を知る	リクナビ　マッチプラス
16	模擬授業	振り返り
17	中山先生講義	社会人になった自分を描く
18	模擬授業	振り返り
19	スクールフェス	準備
20	スクールフェス	当日
21	スクールフェス	準備
22	外部講師講話	外部講師講話
23	現場見学	小学校授業見学
24	人権講話	人権講話

25	スクールフェス	当日
26	スクールフェス	準備
27	外部講師講話	命の授業
28	中山先生講義	1年の自分と2年の自分
29		
30		

科目コード	13100				区　分	教養科目		
授業科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	羽田　あずさ		
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
大学4年間をどう過ごすのか、また４年後にどうなりたいのかを考え、社会人になる為の助言指導を行う。大学の初年次教育として、社会で求められる基礎学力だけでなく、非認知能力の育成も目指した授業を展開する。講話形式で行う授業では、内容をまとめ、自分の考えも持ち、自分の言葉としてレポートにまとめられる基礎力を身につける他、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。また校外活動も行い、学生一人一人がIPU生としての自覚を持ち、求められる資質・態度を考え、実践することで、自己肯定感を高め、妥協しない進路選びの土台を作る。

＜授業の到達目標＞
本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、２年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台つくりが目的である。以下の３点から主体的・能動的に学び続ける学生としての資質・能力を育成することを目標とする。毎時の講話を通して①読解力や傾聴力、書く力を身につけることができる。②学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力を身につけることができる。③大学生として求められる基礎学力の獲得と定着を図ることができる。

＜授業の方法＞
講義（メンターやゲストスピーカー等による講話）、グループワーク

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
非認知能力授業でのグループワーク、発表など

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業前：クラスルームで内容を確認（３０分）授業後：振り返りレポート（１時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度（身だしなみ・課題への取り組み態度等）50%、小課題（レポート等）50%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	役員講話	大学の方針・創志学園の歴史
2	中山先生講話	大学生のための非認知能力
3	中山先生講話	非認知能力の伸ばし方
4	オンデマンド	
5	中山先生講話	非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
6	真田先生講話	嘉納治五郎記念スポーツイノベーションセンター
7	チームビルディング	学年レクリエーション
8	ディスカッション	映画を見て振り返り
9	スクールフェス	スクールフェスについて
10	現場見学	小学校授業見学
11	現場実習	児童ふれあいイベント参加
12	現場実習	児童ふれあいイベント参加
13	現場実習	児童ふれあいイベント参加
14	現場実習	児童ふれあいイベント参加
15	自分を知る	リクナビ　マッチプラス
16	模擬授業	振り返り
17	中山先生講義	社会人になった自分を描く
18	模擬授業	振り返り
19	スクールフェス	準備
20	スクールフェス	当日
21	スクールフェス	準備
22	外部講師講話	外部講師講話
23	現場見学	小学校授業見学

24	人権講話	人権講話
25	スクールフェス	当日
26	スクールフェス	準備
27	外部講師講話	命の授業
28	中山先生講義	1年の自分と2年の自分
29		
30		

科目コード	13100				区　分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	渡邊　亮／四宮　貴久／小澤　尚子			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
大学4年間をどう過ごすのか、また４年後にどうなりたいのかを考え、社会人になる為の助言指導を行う。大学の初年次教育として、社会で求められる基礎学力だけでなく、非認知能力の育成も目指した授業を展開する。講話形式で行う授業では、内容をまとめ、自分の考えも持ち、自分の言葉としてレポートにまとめられる基礎力を身につける他、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。また校外活動も行い、学生一人一人がIPU生としての自覚を持ち、求められる資質・態度を考え、実践することで、自己肯定感を高め、妥協しない進路選びの土台を作る。

＜授業の到達目標＞
本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、２年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台つくりが目的である。毎時の講話を通して①読解力や傾聴力、書く力を身につける。②学生生活や学習習慣などの自己管理･時間管理能力を身につける。③大学生として求められる基礎学力の獲得と定着。以上の点から主体的・能動的に学び続ける学生としての資質・能力を育成することを目標とする。

＜授業の方法＞
講義（メンターやゲストスピーカー等による講話）、グループワーク

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
非認知能力授業でのグループワーク、発表など

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業後の復習、振り返りレポート２時間

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度（身だしなみ・課題への取り組み態度等）50%、小課題（レポート等）50%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	役員講話	大学の方針・創志学園の歴史
2	中山先生講話	大学生のための非認知能力
3	中山先生講話	非認知能力の伸ばし方
4	オンデマンド	
5	中山先生講話	非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
6	真田先生講話	嘉納治五郎記念スポーツイノベーションセンター
7	チームビルディング	学年レクリエーション
8	ディスカッション	映画を見て振り返り
9	スクールフェス	スクールフェスについて
10	現場見学	小学校授業見学
11	現場実習	児童ふれあいイベント参加
12	現場実習	児童ふれあいイベント参加
13	現場実習	児童ふれあいイベント参加
14	現場実習	児童ふれあいイベント参加
15	自分を知る	リクナビ　マッチプラス
16	模擬授業	振り返り
17	中山先生講義	社会人になった自分を描く
18	模擬授業	振り返り
19	スクールフェス	準備
20	スクールフェス	当日
21	スクールフェス	準備
22	外部講師講話	外部講師講話
23	現場見学	小学校授業見学
24	人権講話	人権講話

25	スクールフェス	当日
26	スクールフェス	準備
27	外部講師講話	命の授業
28	中山先生講義	1年の自分と2年の自分
29		
30		

科目コード	13100				区　分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	平林　大輔／簀戸　崇史／福井　悠紀子			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

＜授業の到達目標＞
本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、２年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台つくりが目的である。毎時の講話を通して、①読解力や傾聴力、書く力を身に付ける。②スピーチする力を身に付ける。③学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力を身につける。④大学生として求められる基礎学力の獲得と定着。以上の点から主体的・能動的に学び続ける学生としての資質・能力を育成することができるようになる。

＜授業の方法＞
1．講義（メンターやゲストスピーカー等による講話）2．グループワーク3．省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループディスカッション

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習　準備等事前に告知された課題1時間　復習　テーマに即したレポートの作成1時間

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は本学教養科目のディプロマポリシー（DP）のうち、DP１　体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。 DP２　体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。 に該当する科目であり、「豊かな人間性と個性」および「深い専門性と実践力」を養成することを目的としている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度(身だしなみ・ディスカッションや演習への取り組み態度等）30%、小課題① 50%（レポート・基礎学力課題）、課題②（発表等）20%

＜教科書＞
一般社団法人日本スポーツ医学検定機構（2022年3月1日）　スポーツ医学検定公式テキスト2級・3級改訂版　東洋館出版社
日本漢字能力検定協会（2016年4月4日）　文章検公式テキスト3級【公式】　公益財団法人 日本漢字能力検定協会

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	IPU生になる基礎基本①（挨拶・態度等） 学長講話	大学を知る、五訓・初期評価
2	第1回大学生のための非認知能力	大学生のための非認知能力
3	第2回非認知能力の伸ばし方	非認知能力の伸ばし方
4	文章力の必要性	文章力の必要性
5	第3回大学生のための非認知能力	非認知能力の伸ばし方
6	文章力検定	文章力検定3級
7	メンター講話１	メンター講話1
8	メンター講話2	メンター講話2
9	メンター講話3	メンター講話3
10	学科長講話	学科長講話
11	スポーツ医学検定1	スポーツ医学検定1
12	スポーツ医学検定2	スポーツ医学検定2
13	スポーツ医学検定3	スポーツ医学検定3
14	スポーツ医学検定4	スポーツ医学検定4
15	第4回非認知能力の伸ばし方	社会人になった自分を描く
16	野外活動	野外活動1
17	体育会	体育会メンバー決め

18	野外活動	野外活動2
19	野外活動	野外活動3
20	野外活動	野外活動4
21	野外活動	野外活動5
22	野外活動	野外活動6
23	野外活動	野外活動7
24	野外活動	野外活動8
25	野外活動	野外活動9
26	文章力検定	文章力検定試験
27	第5回非認知能力の伸ばし方	1年生の自分と2年生の自分
28	総括	学年末集会
29		
30		

科目コード	13100				区　分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー [通年]PS用				担当者名	山本　清人／田口　真奈			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

＜授業の到達目標＞
①IPU生としての考え方・態度を身につける②前進力を身につける③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける

＜授業の方法＞
講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材を取り組んでいく

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素有講義だけでなく、グループワークやディスカッション、基礎学力の教え合い、プレゼンテーションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習　スピーチの準備等事前に告知された課題　1時間復習　テーマに即したレポートの作成1時間

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題）　60%，課題レポート　（課題，発表）40%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	役員講話（大学の方針・創志学園の歴史）	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	非認知能力①	中山芳一先生：第1回大学生のための非認知能力
3	非認知能力②	中山芳一先生：第2回非認知能力の伸ばし方
4	基礎学力	ことば入門；テーマ1
5	基礎学力	ことば入門；テーマ1を基にした発表
6	基礎学力	競技日誌の書き方
7	非認知能力③	中山芳一先生：第3回非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
8	クラス活動	集団行動を体験する
9	クラス活動	個人面談
10	クラス活動	個人面談
11	自身の目標設定アクションプラン	自身の目標設定アクションプランを作成
12	アクションプラン　プレゼン	アクションプランプレゼンテーションとディスカッション
13	基礎学力	ことば入門；テーマ4
14	読書感想文	読書感想文コンテストの準備
15	オリエンテーション	履修登録　クラス活動
16	体育祭決め	体育祭決め
17	非認知能力④	″中山芳一先生：第4回社会人になった自分を描く″
18	基礎学力	ことば入門；テーマ6
19	学生FD	学科改善案　クラスミーティング
20	学生FD②	学科改善案　クラスミーティング
21	クラス活動	個人面談
22	クラス活動	個人面談
23	基礎学力	ことば入門；テーマ7
24	基礎学力	ことば入門；テーマ8

25	後期　アクションプラン　プレゼン	後期のアクションプランプレゼンテーションとディスカッション
26	クラス活動	個人面談
27	基礎学力	ことば入門；テーマ９　10　11
28	環トレ 後期末テスト	環トレ 後期末テスト
29		
30		

科目コード	13200				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	河野　儀久			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義をもつ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕事の適正、求められる能力などの講話を受けることによって、社会人として必要な実践力を向上させていく。

＜授業の到達目標＞

１．自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。２．毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。３．実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。　また、健康科学科では①スポーツに精通した柔道整復師としての基礎力を身につける．②前進力（積極性）を身につける．③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション

＜授業の方法＞

１．講義（ゲストスピーカー等による講話）２．グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション発表３．省察活動（質疑・まとめ・感想発表）３．課題（基礎学力教材に取り組む）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回１時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度､受講意欲 30％レポート課題　50％基礎学力課題　20%必ず､授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表・提出をすること。

＜教科書＞

＜参考書＞

吉原恵子他　スタディスキルズ・トレーニング　実務出版
編著者　一般社団法人日本スポーツ検定機構2020年7月14日　スポーツ医学検定　公式テキスト　2級・3級改訂版　出版社　東洋館出版社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	クラス紹介2年生前期時点でのキャリアについてキャリア形成に向けた自己分析①	・クラス内での自己紹介・前期授業内容の理解・自身のキャリアについて
2	IPU2年生としての心構え（柔道整復師を目指す学生の心構え）柔道整復師国家資格とスポーツ医学検定2級ガイダンス	・柔道整復師国家資格について・スポーツ医学検定2級について
3	柔道整復学の復習①	・柔道整復学（理論編）を参照して柔道整復学の全体像について調べる
4	柔道整復学の復習②	・柔道整復術および柔道整復師の沿革について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
5	大学役職者講話	・柔道整復師を目指す医療系学生のキャリアについて
6	柔道整復学の復習③	・人体に加わる力、損傷時に加わる力、痛みの基礎について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
7	柔道整復学の復習④	・各組織の損傷（骨の損傷）について学び調べた内容をグループディスカッションを

		通して発表する
8	大学役職者講和	・大学卒柔道整復師の役割について
9	柔道整復学の復習⑤	・各組織の損傷（関節の損傷）について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
10	柔道整復学の復習⑥	・各組織の損傷（筋の損傷）について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
11	柔道整復学の復習⑦	・各組織の損傷（腱の損傷）について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
12	柔道整復学の復習⑧	・診察の注意点などについて学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
13	読書感想文コンテスト対策①	・近年、本離れ（活字離れ）が進んでおり本や活字の面白さを知ってもらうため図書館を利用し本に触れると同時に自身の意見を文字に起こす作業（文章力）を行う
14	読書感想文コンテスト対策②	・近年、本離れ（活字離れ）が進んでおり本や活字の面白さを知ってもらう活動として読書感想文コンテストを実施している。読書感想文を作成し自分の意見を文字に起こす作業（文章力）を行う。
15	前期振り返り文章力検定模擬試験	・前期に実施した内容の確認・キャリア形成に向けた自己分析②
16	後期ガイダンス2年生後期時点でのキャリアについて学びデザインするキャリア形成に向けた自己分析③	・後期授業内容の理解・自身のキャリアについて考える
17	スポーツ医学検定2級対策①	・スポーツの知識について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
18	中山芳一先生講和①	・社会人になった自分を描く
19	スポーツ医学検定2級対策②	・身体の知識（運動器の基礎知識、全身の基礎知識、骨の基礎知識、筋肉の基礎知識）について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
20	スポーツ医学検定2級対策③	・スポーツのケガ・故障の知識について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する。
21	スポーツ医学検定2級対策④	・アスレティックリハビリテーションについて学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する。
22	スポーツ医学検定2級対策⑤	・スポーツ医学全般の知識について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する。
23	人権講和	・人権について講和を聞きグループディスカッションを通して発表する。
24	スポーツ医学検定2級検定試験	・スポーツ医学検定2級試験実施
25	文章力検定対策①	・実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける
26	文章力検定対策②	・実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける
27	文章力検定対策③	・実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける
28	文章力検定試験	・実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力が身についたか評価する
29		
30		

科目コード	13200				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	畑島　紀昭			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義をもつ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕事の適正、求められる能力などの講話を受けることによって、社会人として必要な実践力を向上させていく。

＜授業の到達目標＞

１．自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。２．毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。３．実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。　また、健康科学科では①スポーツに精通した柔道整復師としての基礎力を身につける．②前進力（積極性）を身につける．③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション

＜授業の方法＞

１．講義（ゲストスピーカー等による講話）２．グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション発表３．省察活動（質疑・まとめ・感想発表）３．課題（基礎学力教材に取り組む）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回１時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度､受講意欲 30％レポート課題　50％基礎学力課題　20%必ず､授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表・提出をすること。

＜教科書＞

＜参考書＞

吉原恵子他　スタディスキルズ・トレーニング　実務出版
編著者　一般社団法人日本スポーツ検定機構2020年7月14日　スポーツ医学検定　公式テキスト　2級・3級改訂版　出版社　東洋館出版社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	クラス紹介2年生前期時点でのキャリアについてキャリア形成に向けた自己分析①	・クラス内での自己紹介・前期授業内容の理解・自身のキャリアについて
2	IPU2年生としての心構え（柔道整復師を目指す学生の心構え）柔道整復師国家資格とスポーツ医学検定2級ガイダンス	・柔道整復師国家資格について・スポーツ医学検定2級について
3	柔道整復学の復習①	・柔道整復学（理論編）を参照して柔道整復学の全体像について調べる
4	柔道整復学の復習②	・柔道整復術および柔道整復師の沿革について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
5	大学役職者講話	・柔道整復師を目指す医療系学生のキャリアについて
6	柔道整復学の復習③	・人体に加わる力、損傷時に加わる力、痛みの基礎について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
7	柔道整復学の復習④	・各組織の損傷（骨の損傷）について学び調べた内容をグループディスカッションを

		通して発表する
8	大学役職者講和	・大学卒柔道整復師の役割について
9	柔道整復学の復習⑤	・各組織の損傷（関節の損傷）について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
10	柔道整復学の復習⑥	・各組織の損傷（筋の損傷）について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
11	柔道整復学の復習⑦	・各組織の損傷（腱の損傷）について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
12	柔道整復学の復習⑧	・診察の注意点などについて学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
13	読書感想文コンテスト対策①	・近年、本離れ（活字離れ）が進んでおり本や活字の面白さを知ってもらうため図書館を利用し本に触れると同時に自身の意見を文字に起こす作業（文章力）を行う
14	読書感想文コンテスト対策②	・近年、本離れ（活字離れ）が進んでおり本や活字の面白さを知ってもらう活動として読書感想文コンテストを実施している。読書感想文を作成し自分の意見を文字に起こす作業（文章力）を行う。
15	前期振り返り文章力検定模擬試験	・前期に実施した内容の確認・キャリア形成に向けた自己分析②
16	後期ガイダンス2年生後期時点でのキャリアについて学びデザインするキャリア形成に向けた自己分析③	・後期授業内容の理解・自身のキャリアについて考える
17	スポーツ医学検定2級対策①	・スポーツの知識について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
18	中山芳一先生講和①	・社会人になった自分を描く
19	スポーツ医学検定2級対策②	・身体の知識（運動器の基礎知識、全身の基礎知識、骨の基礎知識、筋肉の基礎知識）について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
20	スポーツ医学検定2級対策③	・スポーツのケガ・故障の知識について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する。
21	スポーツ医学検定2級対策④	・アスレティックリハビリテーションについて学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する。
22	スポーツ医学検定2級対策⑤	・スポーツ医学全般の知識について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する。
23	人権講和	・人権について講和を聞きグループディスカッションを通して発表する。
24	スポーツ医学検定2級検定試験	・スポーツ医学検定2級試験実施
25	文章力検定対策①	・実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける
26	文章力検定対策②	・実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける
27	文章力検定対策③	・実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける
28	文章力検定試験	・実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力が身についたか評価する
29		
30		

科目コード	13200				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	坂本　賢広			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義をもつ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕事の適正、求められる能力などの講話を受けることによって、社会人として必要な実践力を向上させていく。

＜授業の到達目標＞

１．自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。２．毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。３．実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。　また、健康科学科では①スポーツに精通した柔道整復師としての基礎力を身につける．②前進力（積極性）を身につける．③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション

＜授業の方法＞

１．講義（ゲストスピーカー等による講話）２．グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション発表３．省察活動（質疑・まとめ・感想発表）３．課題（基礎学力教材に取り組む）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回１時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度､受講意欲 30％レポート課題　50％基礎学力課題　20%必ず､授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表・提出をすること。

＜教科書＞

＜参考書＞

吉原恵子他　スタディスキルズ・トレーニング　実務出版
編著者　一般社団法人日本スポーツ検定機構2020年7月14日　スポーツ医学検定　公式テキスト　2級・3級改訂版　出版社　東洋館出版社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	クラス紹介2年生前期時点でのキャリアについてキャリア形成に向けた自己分析①	・クラス内での自己紹介・前期授業内容の理解・自身のキャリアについて
2	IPU2年生としての心構え（柔道整復師を目指す学生の心構え）柔道整復師国家資格とスポーツ医学検定2級ガイダンス	・柔道整復師国家資格について・スポーツ医学検定2級について
3	柔道整復学の復習①	・柔道整復学（理論編）を参照して柔道整復学の全体像について調べる
4	柔道整復学の復習②	・柔道整復術および柔道整復師の沿革について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
5	大学役職者講話	・柔道整復師を目指す医療系学生のキャリアについて
6	柔道整復学の復習③	・人体に加わる力、損傷時に加わる力、痛みの基礎について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
7	柔道整復学の復習④	・各組織の損傷（骨の損傷）について学び調べた内容をグループディスカッションを

		通して発表する
8	大学役職者講和	・大学卒柔道整復師の役割について
9	柔道整復学の復習⑤	・各組織の損傷（関節の損傷）について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
10	柔道整復学の復習⑥	・各組織の損傷（筋の損傷）について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
11	柔道整復学の復習⑦	・各組織の損傷（腱の損傷）について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
12	柔道整復学の復習⑧	・診察の注意点などについて学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
13	読書感想文コンテスト対策①	・近年、本離れ（活字離れ）が進んでおり本や活字の面白さを知ってもらうため図書館を利用し本に触れると同時に自身の意見を文字に起こす作業（文章力）を行う
14	読書感想文コンテスト対策②	・近年、本離れ（活字離れ）が進んでおり本や活字の面白さを知ってもらう活動として読書感想文コンテストを実施している。読書感想文を作成し自分の意見を文字に起こす作業（文章力）を行う。
15	前期振り返り文章力検定模擬試験	・前期に実施した内容の確認・キャリア形成に向けた自己分析②
16	後期ガイダンス2年生後期時点でのキャリアについて学びデザインするキャリア形成に向けた自己分析③	・後期授業内容の理解・自身のキャリアについて考える
17	スポーツ医学検定2級対策①	・スポーツの知識について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
18	中山芳一先生講和①	・社会人になった自分を描く
19	スポーツ医学検定2級対策②	・身体の知識（運動器の基礎知識、全身の基礎知識、骨の基礎知識、筋肉の基礎知識）について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
20	スポーツ医学検定2級対策③	・スポーツのケガ・故障の知識について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する。
21	スポーツ医学検定2級対策④	・アスレティックリハビリテーションについて学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する。
22	スポーツ医学検定2級対策⑤	・スポーツ医学全般の知識について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する。
23	人権講和	・人権について講和を聞きグループディスカッションを通して発表する。
24	スポーツ医学検定2級検定試験	・スポーツ医学検定2級試験実施
25	文章力検定対策①	・実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける
26	文章力検定対策②	・実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける
27	文章力検定対策③	・実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける
28	文章力検定試験	・実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力が身についたか評価する
29		
30		

科目コード	13200				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	梶谷　亮輔			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学におけるける学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

＜授業の到達目標＞
①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・ 責任感」のある人間の育成　②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成　③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成　④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

＜授業の方法＞
1.講義(メンターによる講話)　2.グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ)　3.省察活動(質疑・まとめ・感想発表)　4.基礎学力課題に取り組む

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
要素：有テーマに応じて、ディスカッションを行う

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。（毎回１時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ１～２回程度、３時間程度）復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等（60%）演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲（30%）最終レポート（10%）必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション（コミュニティの形成）	授業概要の理解、年間の学びの見通しを持つ
2	自己分析①	自己分析（強み・価値観）および3×3×3フォーマットを用いた言語化の基礎
3	自己分析②・関係形成	交流会に向けた準備と自己開示、関係構築の促進
4	クラス内交流	クラス内交流の実施
5	環トレと五訓について	環トレ課題および五訓評価への取り組み
6	project型学習①　企画	企画立案と役割分担の決定デーション作成
7	project型学習②　リハーサル	企画実施に向けた準備およびリハーサル
8	project型学習③　実践と振り返り	企画実施と振り返り、2年次イベントの方向性検討
9	project型学習④　実践と振り返り	振り返りの深化とアクションプランの具体化
10	project型学習⑤　実践と振り返り共有	振り返りの共有とアクションプランの完成
11	企画発表①	担当イベントのコンセプト発表および意思決定
12	企画発表②	クラス間でのコンセプト発表と相互評価
13	五訓評価	五訓評価の実施
14	前半振り返り	前半活動の総括と個人の成長の振り返り
15	後期オリエンテーション	後期目標設定および五訓評価の実施
16	イベント企画・振り返り①	イベント企画の準備・実践
17	イベント企画・振り返り②	イベント企画の準備・実践
18	イベント企画・振り返り③	イベント実施および振り返り

19	イベント企画・振り返り④	イベント実施および振り返り
20	イベント参加①	１年生主体イベントの参加
21	イベント参加②	１年生主体イベントの参加
22	イベント参加③	１年生主体イベントの参加
23	報告活動①	クラスイベント経験の言語化と発表準備
24	報告活動②	クラスイベント経験の言語化とクラス内発表
25	報告活動④	クラスイベント経験の言語化とクラス間発表
26	キャリア形成①	ゼミ選択に向けた情報収集（ゼミ訪問）
27	キャリア形成②	ゼミ選択に向けた情報収集
28	総括	五訓評価・次年度目標
29		
30		

科目コード	13200				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	坂本　康輔			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
「キャリアディベロップメント」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学におけるける学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

＜授業の到達目標＞
①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・ 責任感」のある人間性を有することができる　②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力を身に付けることができる　③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力を身に付けることができる　④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力を身に付けることができる

＜授業の方法＞
1.講義(メンターによる講話)　2.グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ)　3.省察活動(質疑・まとめ・感想発表)　4.基礎学力課題に取り組む

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有：テーマに応じて、ディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。（毎回１時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ１～２回程度、３時間程度）復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等 60%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 30%、最終レポート 10%必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	２年生における学びのデザイン	2年生における学びの全体設計の理解
2	学年方針の理解・チームビルディング	IPU2年生としての心構えの理解、担当イベント説明
3	クラス内交流	クラス内交流を通した関係構築およびチームビルディング
4	個別学習課題	環トレ及び五訓評価の実施
5	プロジェクト計画①	レクリエーション企画立案（2年生主体運営）、グループ編成および役割分担
6	プロジェクト計画②	レクリエーション実施に向けた準備およびリハーサル
7	プロジェクト実践①と講話	レクリエーション実施、進路実現活動
8	プロジェクト実践②と講話	レクリエーション実施、進路実現活動
9	プロジェクト実践③と講話	レクリエーション実施、進路実現活動
10	企画発表①	イベントコンセプト発表①
11	企画発表②	イベントコンセプト発表②
12	イベント企画①	イベントに向けた企画立案および準備
13	イベント企画②	イベントの具体的計画および役割分担
14	前期末集会・振り返り	前期活動の総括と成果の整理
15	後期目標設定	前期の振り返りから目標を設定する
16	イベント準備①	外部イベント活動に向けた準備
17	イベント準備②	外部イベント活動の企画精緻化および運営体制の構築。
18	イベント準備③	外部イベント活動の実施準備および最終確認

19	イベント準備④	外部イベント活動に向けた最終調整
20	実践活動①	スポレクフェスへの参加とイベント振り返り①
21	実践活動②	スポレクフェスへの参加とイベント振り返り②
22	実践活動③	スポレクフェスへの参加とイベント振り返り③
23	講話	人権・キャリア等に関する講話と省察
24	プレゼン準備	プレゼンコンテストに向けた発表準備
25	プレゼン実施①	クラス内発表の実施および代表者選出
26	プレゼン実施②	クラス間発表および相互評価
27	キャリア形成	ゼミ決定に向けた情報収集およびゼミ訪問
28	総括	年間振り返り
29		
30		

科目コード	13200				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	伊藤　三千雄			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
「キャリアディベロップメント」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学におけるける学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

＜授業の到達目標＞
1. 自己の価値観・強み・興味関心を整理し、言語化できる。2. 社会・職業に関する情報を収集し、自身の進路と関連付けて説明できる。3. 自分の考えや経験をプレゼンテーションや文章で表現できる。4. エントリーシート・履歴書作成や面接に向けた基礎的準備ができる。5. 将来のキャリア目標を設定し、具体的な行動計画を立てることができる。

＜授業の方法＞
1.講義(メンターによる講話)　2.グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ)　3.省察活動(質疑・まとめ・感想発表)　4.基礎学力課題に取り組む

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有：テーマに応じて、ディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。（毎回１時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ１～２回程度、３時間程度）復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２(専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等 60%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 30%、最終レポート 10%必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	２年生における学びのデザイン	2年生における学びの全体設計の理解
2	学年方針の理解・チームビルディング	IPU2年生としての心構えの理解、担当イベント説明
3	クラス内交流	クラス内交流を通した関係構築およびチームビルディング
4	個別学習課題	環トレ及び五訓評価の実施
5	プロジェクト計画①	レクリエーション企画立案（2年生主体運営）、グループ編成および役割分担
6	プロジェクト計画②	レクリエーション実施に向けた準備およびリハーサル
7	プロジェクト実践①と講話	レクリエーション実施、進路実現活動
8	プロジェクト実践②と講話	レクリエーション実施、進路実現活動
9	プロジェクト実践③と講話	レクリエーション実施、進路実現活動
10	企画発表①	イベントコンセプト発表①
11	企画発表②	イベントコンセプト発表②
12	イベント企画①	イベントに向けた企画立案および準備
13	イベント企画②	イベントの具体的計画および役割分担
14	前期末集会・振り返り	前期活動の総括と成果の整理
15	後期目標設定	前期の振り返りから目標を設定する
16	イベント準備①	外部イベント活動に向けた準備
17	イベント準備②	外部イベント活動の企画精緻化および運営体制の構築。
18	イベント準備③	外部イベント活動の実施準備および最終確認
19	イベント準備④	外部イベント活動に向けた最終調整
20	実践活動①	スポレクフェスへの参加とイベント振り返り①

21	実践活動②	スポレクフェスへの参加とイベント振り返り②
22	実践活動③	スポレクフェスへの参加とイベント振り返り③
23	講話	人権・キャリア等に関する講話と省察
24	プレゼン準備	プレゼンコンテストに向けた発表準備
25	プレゼン実施①	クラス内発表の実施および代表者選出
26	プレゼン実施②	クラス間発表および相互評価
27	キャリア形成	ゼミ決定に向けた情報収集およびゼミ訪問
28	総括	年間振り返り
29		
30		

科目コード	13200				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	藤谷　かおる			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
「キャリアディベロップメント」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学におけるける学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

＜授業の到達目標＞
1. 自己の価値観・強み・興味関心を整理し、言語化できる。2. 社会・職業に関する情報を収集し、自身の進路と関連付けて説明できる。3. 自分の考えや経験をプレゼンテーションや文章で表現できる。4. エントリーシート・履歴書作成や面接に向けた基礎的準備ができる。5. 将来のキャリア目標を設定し、具体的な行動計画を立てることができる。

＜授業の方法＞
1.講義(メンターによる講話)　2.グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ)　3.省察活動(質疑・まとめ・感想発表)　4.基礎学力課題に取り組む

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有：テーマに応じて、ディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。（毎回１時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ１～２回程度、３時間程度）復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２(専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等 60%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 30%、最終レポート 10%必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	２年生における学びのデザイン	2年生における学びの全体設計の理解
2	学年方針の理解・チームビルディング	IPU2年生としての心構えの理解、担当イベント説明
3	クラス内交流	クラス内交流を通した関係構築およびチームビルディング
4	個別学習課題	環トレ及び五訓評価の実施
5	プロジェクト計画①	レクリエーション企画立案（2年生主体運営）、グループ編成および役割分担
6	プロジェクト計画②	レクリエーション実施に向けた準備およびリハーサル
7	プロジェクト実践①と講話	レクリエーション実施、進路実現活動
8	プロジェクト実践②と講話	レクリエーション実施、進路実現活動
9	プロジェクト実践③と講話	レクリエーション実施、進路実現活動
10	企画発表①	イベントコンセプト発表①
11	企画発表②	イベントコンセプト発表②
12	イベント企画①	イベントに向けた企画立案及び順位
13	イベント企画②	前期活動の総括と成果の整理
14	前期末集会・振り返り	前期活動の総括と成果の整理
15	後期目標設定	前期の振り返りから目標を設定する
16	イベント準備①	外部イベント活動に向けた準備
17	イベント準備②	外部イベント活動の企画精緻化および運営体制の構築。
18	イベント準備③	外部イベント活動の実施準備および最終確認
19	イベント準備④	外部イベント活動に向けた最終調整
20	実践活動①	スポレクフェスへの参加とイベント振り返り①

21	実践活動②	スポレクフェスへの参加とイベント振り返り②
22	実践活動②	スポレクフェスへの参加とイベント振り返り③
23	講話	人権・キャリア等に関する講話と省察
24	プレゼン準備	内容 プレゼンコンテストに向けた発表準備
25	プレゼン実施①	クラス内発表の実施および代表者選出
26	プレゼン実施②	クラス間発表および相互評価
27	キャリア形成	ゼミ決定に向けた情報収集およびゼミ訪問
28	総括	年間振り返り
29		
30		

科目コード	13200				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	國友　亮佑			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
「キャリアディベロップメント」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学におけるける学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

＜授業の到達目標＞
①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・ 責任感」のある人間性を有することができる　②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力を身に付けることができる　③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力を身に付けることができる　④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力を身に付けることができる

＜授業の方法＞
1.講義(メンターによる講話)　2.グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ)　3.省察活動(質疑・まとめ・感想発表)　4.基礎学力課題に取り組む

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有：テーマに応じて、ディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。（毎回１時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ１～２回程度、３時間程度）復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等 60%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 30%、最終レポート 10%必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	２年生における学びのデザイン	2年生における学びの全体設計の理解
2	学年方針の理解・チームビルディング	IPU2年生としての心構えの理解、担当イベント説明
3	クラス内交流	クラス内交流を通した関係構築およびチームビルディング
4	個別学習課題	環トレ及び五訓評価の実施
5	プロジェクト計画①	レクリエーション企画立案（2年生主体運営）、グループ編成および役割分担
6	プロジェクト計画②	レクリエーション実施に向けた準備およびリハーサル
7	プロジェクト実践①と講話	レクリエーション実施、進路実現活動
8	プロジェクト実践②と講話	レクリエーション実施、進路実現活動
9	プロジェクト実践③と講話	レクリエーション実施、進路実現活動
10	企画発表①	イベントコンセプト発表①
11	企画発表②	イベントコンセプト発表②
12	イベント企画①	イベントに向けた企画立案および準備
13	イベント企画②	イベントの具体的計画および役割分担
14	前期末集会・振り返り	前期活動の総括と成果の整理
15	後期目標設定	前期の振り返りから目標を設定する
16	イベント準備①	外部イベント活動に向けた準備
17	イベント準備②	外部イベント活動の企画精緻化および運営体制の構築。
18	イベント準備③	外部イベント活動の実施準備および最終確認

19	イベント準備④	外部イベント活動に向けた最終調整
20	実践活動①	スポレクフェスへの参加とイベント振り返り①
21	実践活動②	スポレクフェスへの参加とイベント振り返り②
22	実践活動③	スポレクフェスへの参加とイベント振り返り③
23	講話	人権・キャリア等に関する講話と省察
24	プレゼン準備	プレゼンコンテストに向けた発表準備
25	プレゼン実施①	クラス内発表の実施および代表者選出
26	プレゼン実施②	クラス間発表および相互評価
27	キャリア形成	ゼミ決定に向けた情報収集およびゼミ訪問
28	総括	年間振り返り
29		
30		

科目コード	13200				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	片桐　夏海			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
「キャリアディベロップメント」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学におけるける学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

＜授業の到達目標＞
①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・ 責任感」のある人間の育成　②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成　③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成　④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

＜授業の方法＞
1.講義(メンターによる講話)　2.グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ)　3.省察活動(質疑・まとめ・感想発表)　4.基礎学力課題に取り組む

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有：テーマに応じて、ディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。（毎回１時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ１～２回程度、３時間程度）復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等 60%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 30%、最終レポート 10%必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	２年生における学びのデザイン	2年生における学びの全体設計の理解
2	学年方針の理解・チームビルディング	IPU2年生としての心構えの理解、担当イベント説明
3	クラス内交流	クラス内交流を通した関係構築およびチームビルディング
4	個別学習課題	環トレ及び五訓評価の実施
5	プロジェクト計画①	レクリエーション企画立案（2年生主体運営）、グループ編成および役割分担
6	プロジェクト計画②	レクリエーション実施に向けた準備およびリハーサル
7	プロジェクト実践①と講話	レクリエーション実施、進路実現活動
8	プロジェクト実践②と講話	レクリエーション実施、進路実現活動
9	プロジェクト実践③と講話	レクリエーション実施、進路実現活動
10	企画発表①	イベントコンセプト発表①
11	企画発表②	イベントコンセプト発表②
12	イベント企画①	イベントに向けた企画立案および準備
13	イベント企画②	イベントの具体的計画および役割分担
14	前期末集会・振り返り	前期活動の総括と成果の整理
15	後期目標設定	前期の振り返りから目標を設定する
16	イベント準備①	外部イベント活動に向けた準備
17	イベント準備②	外部イベント活動の企画精緻化および運営体制の構築。
18	イベント準備③	外部イベント活動の実施準備および最終確認
19	イベント準備④	外部イベント活動に向けた最終調整

20	実践活動①	スポレクフェスへの参加とイベント振り返り①
21	実践活動②	スポレクフェスへの参加とイベント振り返り②
22	実践活動③	スポレクフェスへの参加とイベント振り返り③
23	講話	人権・キャリア等に関する講話と省察
24	プレゼン準備	プレゼンコンテストに向けた発表準備
25	プレゼン実施①	クラス内発表の実施および代表者選出
26	プレゼン実施②	クラス間発表および相互評価
27	キャリア形成	ゼミ決定に向けた情報収集およびゼミ訪問
28	総括	年間振り返り
29		
30		

科目コード	13200				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	坂元　智子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
「キャリアディベロップメント」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学におけるける学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

＜授業の到達目標＞
①人間性:「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・ 責任感」のある人間の育成 ②社会人基礎力:「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成 ③大学における学び:学部・学科における学びの基礎力の育成 4キャリア形成:明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

＜授業の方法＞
1.講義(メンターによる講話) 2.グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ) 3.省察活動(質疑・まとめ・感想発表)4.基礎学力課題に取り組む

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有:テーマに応じて、ディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習:毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。(毎回1時間程度)テーマに応じたプレゼンテーションの作成(前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度)復習:演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。(毎回30分程度)

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー2(専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)およびディプロマポリシー1(他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等 60%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 30%、最終レポート 10%必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	2年生における学びのデザイン	2年生における学びの全体設計の理解
2	学年方針の理解・チームビルディング	IPU2年生としての心構えの理解、担当イベント説明
3	クラス内交流	クラス内交流を通した関係構築およびチームビルディング
4	個別学習課題	環トレ及び五訓評価の実施
5	プロジェクト計画①	レクリエーション企画立案（2年生主体運営）、グループ編成および役割分担
6	プロジェクト計画②	レクリエーション実施に向けた準備およびリハーサル
7	プロジェクト実践①と講話	レクリエーション実施、進路実現活動
8	プロジェクト実践②と講話	レクリエーション実施、進路実現活動
9	プロジェクト実践③と講話	レクリエーション実施、進路実現活動
10	企画発表①	イベントコンセプト発表①
11	企画発表②	イベントコンセプト発表②
12	イベント企画①	イベントに向けた企画立案および準備
13	イベント企画②	イベントの具体的計画および役割分担
14	前期末集会・振り返り	前期活動の総括と成果の整理
15	後期目標設定	前期の振り返りから目標を設定する
16	イベント準備①	外部イベント活動に向けた準備
17	イベント準備②	外部イベント活動の企画精緻化および運営体制の構築
18	イベント準備③	外部イベント活動の実施準備および最終確認
19	イベント準備④	外部イベント活動に向けた最終調整
20	実践活動①	スポレクフェスへの参加とイベント振り返り①

21	実践活動②	スポレクフェスへの参加とイベント振り返り②
22	実践活動③	スポレクフェスへの参加とイベント振り返り③
23	講話	人権・キャリア等に関する講話と省察
24	プレゼン準備	プレゼンコンテストに向けた発表準備
25	プレゼン実施①	クラス内発表の実施および代表者選出
26	プレゼン実施②	クラス間発表および相互評価
27	キャリア形成	ゼミ決定に向けた情報収集およびゼミ訪問
28	総括	年間振り返り
29		
30		

科目コード	13200				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	十河　直太			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
「キャリアディベロップメント」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学におけるける学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

＜授業の到達目標＞
①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・ 責任感」のある人間の育成　②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成　③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成　④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

＜授業の方法＞
1.講義(メンターによる講話)　2.グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ)　3.省察活動(質疑・まとめ・感想発表)　4.基礎学力課題に取り組む

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有：テーマに応じて、ディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。（毎回１時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ１～２回程度、３時間程度）復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等 60%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 30%、最終レポート 10%必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	２年生における学びのデザイン	2年生における学びの全体設計の理解
2	学年方針の理解・チームビルディング	IPU2年生としての心構えの理解、担当イベント説明
3	クラス内交流	クラス内交流を通した関係構築およびチームビルディング
4	個別学習課題	環トレ及び五訓評価の実施
5	プロジェクト計画①	レクリエーション企画立案（2年生主体運営）、グループ編成および役割分担
6	プロジェクト計画②	レクリエーション実施に向けた準備およびリハーサル
7	プロジェクト実践①と講話	レクリエーション実施、進路実現活動
8	プロジェクト実践②と講話	レクリエーション実施、進路実現活動
9	プロジェクト実践③と講話	レクリエーション実施、進路実現活動
10	企画発表①	イベントコンセプト発表①
11	企画発表②	イベントコンセプト発表②
12	イベント企画①	イベントに向けた企画立案および準備
13	イベント企画②	イベントの具体的計画および役割分担
14	前期末集会・振り返り	前期活動の総括と成果の整理
15	後期目標設定	前期の振り返りから目標を設定する
16	イベント準備①	外部イベント活動に向けた準備
17	イベント準備②	外部イベント活動の企画精緻化および運営体制の構築。
18	イベント準備③	外部イベント活動の実施準備および最終確認
19	イベント準備④	外部イベント活動に向けた最終調整

20	実践活動①	スポレクフェスへの参加とイベント振り返り①
21	実践活動②	スポレクフェスへの参加とイベント振り返り②
22	実践活動③	スポレクフェスへの参加とイベント振り返り③
23	講話	人権・キャリア等に関する講話と省察
24	プレゼン準備	プレゼンコンテストに向けた発表準備
25	プレゼン実施①	クラス内発表の実施および代表者選出
26	プレゼン実施②	クラス間発表および相互評価
27	キャリア形成	ゼミ決定に向けた情報収集およびゼミ訪問
28	総括	年間振り返り
29		
30		

科目コード	13200				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	早田　剛			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
「キャリアディベロップメント」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学におけるける学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

＜授業の到達目標＞
①人間性：自らの意志で考え行動する自立性と自己を律する自律性を備え、他者への思いやりと高い倫理観・責任感を持って社会に貢献できる人間性を養うことができる。②社会人基礎力：目標に向かって自ら踏み出すアクション力、他者と良好な関係を築くコミュニケーション力、そして組織に貢献するチームワーク力を実務レベルで発揮できる。③大学における学び：学部・学科における専門的な学びを社会での実践に結びつけ、学問を深めるために必要な基礎的な学習能力を自発的に向上させることができる。④キャリア形成：自己理解と社会情勢の把握を通じ

＜授業の方法＞
１.講義(メンターによる講話)　２.グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ)　３.省察活動(質疑・まとめ・感想発表)　4.基礎学力課題に取り組む

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有：テーマに応じて、ディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。（毎回１時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ１～２回程度、３時間程度）復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）とディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）に関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等 60%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 30%、最終レポート 10%必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	２年生における学びのデザイン	2年生における学びの全体設計の理解
2	学年方針の理解・チームビルディング	IPU2年生としての心構えの理解、担当イベント説明
3	クラス内交流	クラス内交流を通した関係構築およびチームビルディング
4	個別学習課題	環トレ及び五訓評価の実施
5	プロジェクト計画①	レクリエーション企画立案（2年生主体運営）、グループ編成および役割分担
6	プロジェクト計画②	レクリエーション実施に向けた準備およびリハーサル
7	プロジェクト実践①と講話	レクリエーション実施、進路実現活動
8	プロジェクト実践②と講話	レクリエーション実施、進路実現活動
9	プロジェクト実践③と講話	レクリエーション実施、進路実現活動
10	企画発表①	イベントコンセプト発表①
11	企画発表②	イベントコンセプト発表②
12	イベント企画①	イベントに向けた企画立案および準備
13	イベント企画②	イベントの具体的計画および役割分担
14	前期末集会・振り返り	前期活動の総括と成果の整理
15	後期目標設定	前期の振り返りから目標を設定する
16	イベント準備①	外部イベント活動に向けた準備
17	イベント準備②	外部イベント活動の企画精緻化および運営体制の構築。

18	イベント準備③	外部イベント活動の実施準備および最終確認
19	イベント準備④	外部イベント活動に向けた最終調整
20	実践活動①	スポレクフェスへの参加とイベント振り返り①
21	実践活動②	スポレクフェスへの参加とイベント振り返り②
22	実践活動③	スポレクフェスへの参加とイベント振り返り③
23	講話	人権・キャリア等に関する講話と省察
24	プレゼン準備	プレゼンコンテストに向けた発表準備
25	プレゼン実施①	クラス内発表の実施および代表者選出
26	プレゼン実施②	クラス間発表および相互評価
27	キャリア形成	ゼミ決定に向けた情報収集およびゼミ訪問
28	総括	年間振り返り
29		
30		

科目コード	13200				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	三垣　雅美			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

本授業では、「働くこと」の意義を個人の生活基盤および社会的役割の双方の観点から捉え、キャリア形成を生涯にわたる発達課題として位置づける。講話や演習、協働的活動を通して、現代社会において求められる汎用的能力（主体性・協働性・課題解決力等）を多面的に理解し、実践的に育成することを目的とする。また、各回の活動においては、経験→内省→概念化→応用のサイクルを意識し、自己の価値観・行動特性・職業観を継続的に見直すことで、将来の進路選択に資する基盤を形成する。

＜授業の到達目標＞

１．自己の資質・能力および価値観を言語化し、職業適性との関連を踏まえて将来の進路について具体的に説明できる。２．講話・演習・協働活動に主体的に参加し、自らの考えを論理的に整理したうえで、口頭およびデジタルツールを用いて他者に伝達・共有できる。３．グループ活動や実践的課題を通して、社会人として求められる基礎的能力（主体性・協働性・課題解決力等）を発揮し、その成果と課題を省察的に記述できる。

＜授業の方法＞

本授業は、講義・演習・省察を組み合わせたアクティブ・ラーニング型授業として実施する。特に、ゲストスピーカーによる講話を起点として、グループワークやディスカッションを通じた相互作用的学習を行い、学習内容の深化を図る。さらに、各回の終了時には省察活動を行い、学びを自己の経験や将来設計と関連づけて再構成することで、知識の定着と転移を促す。また、ICTを活用した学修を推進する。グーグルクラスルームを通じた課題の提出やAIの活用などを織り交ぜる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

本授業では、グループディスカッション、課題解決型ワーク、プレゼンテーション活動等を通して、学生同士の相互作用を重視した学習を行う。特に、チームでの課題遂行においては、役割分担・合意形成・成果発表までのプロセスを経験させることで、実社会における協働的問題解決能力の育成を図る。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各回のテーマに関連する自己の経験や社会的事象について事前に調べ、自身の意見や疑問点を整理したうえで授業に臨む（60分程度）。復習：授業で得た知見をもとに、自身の考えの変容や新たな気づきを省察し、レポートとして言語化する。また、必要に応じて関連資料の再確認や追加調査を行う（120分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本授業は、ディプロマポリシー１（対人関係能力および自己調整力）および２（専門的知識・技能の基盤形成）に資する科目である。特に、協働的学習や省察活動を通して、他者と協働しながら課題を達成する力を育成するとともに、将来の専門的学修およびキャリア形成に必要な基盤的能力の獲得を目指す。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組姿勢・受講態度（30%）：出席状況に加え、授業中の発言、グループ活動への貢献度、主体的な参加態度を総合的に評価する。レポート課題（50%）：各回の省察レポートおよび課題レポートについて、内容の深さ、論理性、自己の経験との関連づけ、表現の適切さを基準に評価する。基礎学力課題（20%）：指定された教材への取組状況および達成度に基づき評価する。また、提出課題に対してはコメント等によるフィードバックを行い、学習の改善につなげる。

＜教科書＞

特になし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション：年間のスケジュールと目標理解	年間の学習内容と到達目標を理解し、自身のキャリア形成における本授業の位置づけを説明できるようにする。また、1年間の学習計画を立案する。
2	学科長講話	学科長による講話を通して、大学2年次における学びの位置づけとキャリア形成のプロセスについて理解を深める。あわせて、自身のこれまでの学生生活を振り返り、今後の学修および行動の指針を言語化し、説明できるようにする。
3	アカデミックライティング① 卒業研究とは？	卒業論文およびゼミ論文の意義と基本的な構造について理解する。さらに、研究活動に必要な基礎的視点（問いの設定・情報収集・論理的記述）について学び、今後の学修に向けて必要な準備内容を具体的に説明できるようにする。
4	アカデミックライティング②（オンデマンド課題）	提示されたオンデマンド課題に取り組むことで、アカデミックライティングの基礎（構成・表現・引用の基本）を実践的に理解する。課題を通して、自身の文章表現の課題を把握し、改善点を具体的に言語化できるようにする。

5	学長講話	学長講話を通して、本学の理念や求められる学生像について理解を深める。これまでの1年半の成長を振り返りながら、自身の行動や態度を見直し、今後どのような学生として成長していくかを具体的に構想し、説明できるようにする。
6	アカデミックライティング③	卒業研究に向けた基礎的知識（テーマ設定、資料収集方法等）について理解を深める。さらに、自身の関心分野をもとに、今後探究していきたいテーマの方向性を検討し、その理由を含めて説明できるようにする。
7	アカデミックライティング④実践	実際に短い文章作成に取り組むことで、論理的な構成や根拠に基づく記述の方法を実践的に学ぶ。作成した文章を振り返り、論理性や説得力の観点から改善点を見出し、修正方針を示すことができるようにする。
8	キャリアセンター講話（就職活動とは）	就職活動の全体像やスケジュール、求められる準備について理解する。あわせて、自身の職業観や価値観を整理し、キャリア形成に向けて現時点で取り組むべき行動を具体的に挙げ、説明できるようにする。
9	ビジネス講話①	実社会で活躍するビジネスパーソンの講話を通して、仕事の実態や求められる能力について理解を深める。講話内容をもとに、自身のキャリア観との共通点や相違点を整理し、今後の行動にどのように活かすかを考察できるようにする。
10	スポーツ交流会・国際交流活動	スポーツや交流活動を通して、多様な背景をもつ他者との関係構築の重要性を体験的に理解する。活動を振り返り、チームビルディングのプロセスやコミュニケーションの工夫について整理し、より良い協働の在り方について説明できるようにする。
11	アカデミックライティング⑤	卒業研究に必要な知識（文献の扱い方、論拠の示し方等）について理解を深める。あわせて、他者の文章や資料を適切に活用する方法を学び、自身の文章にどのように反映させるかを説明できるようにする。
12	アカデミックライティング⑥実践	実践的なライティング課題に取り組み、情報を整理し論理的に記述する力を養う。作成した文章について自己評価および相互評価を行い、客観的視点から改善点を見出すことができるようにする。
13	My favorite book （私の好きな本）	自身が選んだ書籍について内容を整理し、感想や考察を文章としてまとめることで、読解力および表現力を高める。また、読書経験を通して得られた気づきを他者と共有し、多様な価値観や視点に触れることで理解を深める。
14	前期振り返りと夏季休暇の有意義な過ごし方	第1クオーターおよび第2クオーターの学びを振り返り、自身の成長や課題を省察する。あわせて、夏季休暇期間における目標と具体的な行動計画を立案し、今後の学修およびキャリア形成に向けた見通しを明確にする。
15	後期オリエンテーション	後期の授業内容および到達目標を理解し、前期の学びを踏まえて自己の課題を整理する。あわせて、後期における学修目標と具体的な行動計画を設定し、主体的な学びに向けた見通しを説明できるようにする。
16	ビジネス講話②	ビジネスパーソンの講話を通して、社会における課題や仕事の意義について多角的に理解する。講話内容を踏まえ、自身のキャリア観との関連を整理し、今後身につけるべき能力や行動について具体的に説明できるようにする。
17	スポーツフェスタ代替日	スポーツ活動を通して、健康の保持増進および集団における協働の意義を体験的に理解する。活動後には、チームでの役割やコミュニケーションの在り方を振り返り、より良い人間関係の構築に向けた課題と改善策を言語化できるようにする。
18	アカデミックライティング⑦	卒業研究に向けた知識の定着を図るとともに、論理的な文章構成や根拠の示し方について理解を深める。自身の関心テーマに基づき、簡易的な論述構成を作成し、その妥当性を説明できるようにする。
19	マイナビ マッチプラスプレゼンテーションコンテスト①準備	就職支援ツール等を活用しながら自己分析を行い、自身の強みや価値観を整理する。あわせて、プレゼンテーションコンテストの趣旨および評価観点を理解し、効果的なプレゼンテーションに必要な要素（構成・表現・資料作成等）を説明できるようにする。
20	プレゼンテーションコンテスト②準備	プレゼンテーションのテーマ設定および構成の検討を行い、伝えたい内容を論理的に整理する。グループ内での意見交換を通して内容をブラッシュアップし、より説得力のある構成へと改善できるようにする。
21	プレゼンテーションコンテスト③準備	発表資料の作成および発表練習を通して、視覚的に分かりやすい資料作成と効果的な伝達方法について実践的に学ぶ。相互評価を行い、改善点を明確にしたうえで発表内容を修正できるようにする
22	アカデミックライティング⑧	これまでのライティング学習を統合し、論理的かつ説得力のある文章作成の力を定着させる。自身の考えを根拠に基づいて記述し、その妥当性や課題について省察できるようにする。
23	プレゼンテーションコンテスト(学科決勝大会)	これまで準備してきた内容をもとにプレゼンテーションを実施し、自己の考えを他者に対して分かりやすく伝達する。発表後には他者の発表を踏まえて自己の成果と課題を省察し、今後の改善点を具体的に示すことができるようにする。
24	卒業生講話①	卒業生の経験談を通して、学生生活とキャリア選択の関連について具体的に理解する。講話内容をもとに、自身の将来像や今後の行動について再考し、必要な準備や取り組みを説明できるようにする。
25	ゼミ選択①準備	ゼミでの学びの意義や特徴について理解し、各ゼミの内容や専門分野について情報収集を行う。自身の関心や将来の進路を踏まえ、適切なゼミ選択の基準を整理し、

		説明できるようにする。
26	人権講話	人権に関する基本的な考え方や現代社会における課題について理解を深める。講話内容を踏まえ、他者の多様性を尊重する態度の重要性について考察し、自身の行動としてどのように実践するかを具体的に説明できるようにする。
27	卒業生講話②	異なる進路を歩んだ卒業生の講話を通して、多様なキャリア形成の在り方を理解する。複数の事例を比較しながら、自身の価値観や進路選択にどのような影響を与えたかを省察し、今後の行動指針として整理できるようにする。
28	後期振り返りと学年末の総括	1年間の学びを総合的に振り返り、自己の成長および課題を多面的に省察する。あわせて、次年度に向けた目標と具体的な行動計画を立案し、キャリア形成の観点から継続的な成長の見通しを説明できるようにする。
29		
30		

科目コード	13200				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	歌代　哲也			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業では、「働くこと」の意義を個人の生活基盤および社会的役割の双方の観点から捉え、キャリア形成を生涯にわたる発達課題として位置づける。講話や演習、協働的活動を通して、現代社会において求められる汎用的能力（主体性・協働性・課題解決力等）を多面的に理解し、実践的に育成することを目的とする。また、各回の活動においては、経験→内省→概念化→応用のサイクルを意識し、自己の価値観・行動特性・職業観を継続的に見直すことで、将来の進路選択に資する基盤を形成する。

＜授業の到達目標＞
１．自己の資質・能力および価値観を言語化し、職業適性との関連を踏まえて将来の進路について具体的に説明できる。２．講話・演習・協働活動に主体的に参加し、自らの考えを論理的に整理したうえで、口頭およびデジタルツールを用いて他者に伝達・共有できる。３．グループ活動や実践的課題を通して、社会人として求められる基礎的能力（主体性・協働性・課題解決力等）を発揮し、その成果と課題を省察的に記述できる。

＜授業の方法＞
本授業は、講義・演習・省察を組み合わせたアクティブ・ラーニング型授業として実施する。特に、ゲストスピーカーによる講話を起点として、グループワークやディスカッションを通じた相互作用的学習を行い、学習内容の深化を図る。さらに、各回の終了時には省察活動を行い、学びを自己の経験や将来設計と関連づけて再構成することで、知識の定着と転移を促す。また、ICTを活用した学修を推進する。グーグルクラスルームを通じた課題の提出やAIの活用などを織り交ぜる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
本授業では、グループディスカッション、課題解決型ワーク、プレゼンテーション活動等を通して、学生同士の相互作用を重視した学習を行う。特に、チームでの課題遂行においては、役割分担・合意形成・成果発表までのプロセスを経験させることで、実社会における協働的問題解決能力の育成を図る。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：各回のテーマに関連する自己の経験や社会的事象について事前に調べ、自身の意見や疑問点を整理したうえで授業に臨む（60分程度）。復習：授業で得た知見をもとに、自身の考えの変容や新たな気づきを省察し、レポートとして言語化する。また、必要に応じて関連資料の再確認や追加調査を行う（120分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本授業は、ディプロマポリシー１（対人関係能力および自己調整力）および２（専門的知識・技能の基盤形成）に資する科目である。特に、協働的学習や省察活動を通して、他者と協働しながら課題を達成する力を育成するとともに、将来の専門的学修およびキャリア形成に必要な基盤的能力の獲得を目指す。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
講義への取組姿勢・受講態度（30%）：出席状況に加え、授業中の発言、グループ活動への貢献度、主体的な参加態度を総合的に評価する。レポート課題（50%）：各回の省察レポートおよび課題レポートについて、内容の深さ、論理性、自己の経験との関連づけ、表現の適切さを基準に評価する。基礎学力課題（20%）：指定された教材への取組状況および達成度に基づき評価する。また、提出課題に対してはコメント等によるフィードバックを行い、学習の改善につなげる。

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション：年間のスケジュールと目標理解	年間の学習内容と到達目標を理解し、自身のキャリア形成における本授業の位置づけを説明できるようにする。また、1年間の学習計画を立案する。
2	学科長講話	学科長による講話を通して、大学2年次における学びの位置づけとキャリア形成のプロセスについて理解を深める。あわせて、自身のこれまでの学生生活を振り返り、今後の学修および行動の指針を言語化し、説明できるようにする。
3	アカデミックライティング① 卒業研究とは？	卒業論文およびゼミ論文の意義と基本的な構造について理解する。さらに、研究活動に必要な基礎的視点（問いの設定・情報収集・論理的記述）について学び、今後の学修に向けて必要な準備内容を具体的に説明できるようにする。
4	アカデミックライティング②（オンデマンド課題）	提示されたオンデマンド課題に取り組むことで、アカデミックライティングの基礎（構成・表現・引用の基本）を実践的に理解する。課題を通して、自身の文章表現の課題を把握し、改善点を具体的に言語化できるようにする。

5	学長講話	学長講話を通して、本学の理念や求められる学生像について理解を深める。これまでの1年半の成長を振り返りながら、自身の行動や態度を見直し、今後どのような学生として成長していくかを具体的に構想し、説明できるようにする。
6	アカデミックライティング③	卒業研究に向けた基礎的知識（テーマ設定、資料収集方法等）について理解を深める。さらに、自身の関心分野をもとに、今後探究していきたいテーマの方向性を検討し、その理由を含めて説明できるようにする。
7	アカデミックライティング④実践	実際に短い文章作成に取り組むことで、論理的な構成や根拠に基づく記述の方法を実践的に学ぶ。作成した文章を振り返り、論理性や説得力の観点から改善点を見出し、修正方針を示すことができるようにする。
8	キャリアセンター講話（就職活動とは）	就職活動の全体像やスケジュール、求められる準備について理解する。あわせて、自身の職業観や価値観を整理し、キャリア形成に向けて現時点で取り組むべき行動を具体的に挙げ、説明できるようにする。
9	ビジネス講話①	実社会で活躍するビジネスパーソンの講話を通して、仕事の実態や求められる能力について理解を深める。講話内容をもとに、自身のキャリア観との共通点や相違点を整理し、今後の行動にどのように活かすかを考察できるようにする。
10	スポーツ交流会・国際交流活動	スポーツや交流活動を通して、多様な背景をもつ他者との関係構築の重要性を体験的に理解する。活動を振り返り、チームビルディングのプロセスやコミュニケーションの工夫について整理し、より良い協働の在り方について説明できるようにする。
11	アカデミックライティング⑤	卒業研究に必要な知識（文献の扱い方、論拠の示し方等）について理解を深める。あわせて、他者の文章や資料を適切に活用する方法を学び、自身の文章にどのように反映させるかを説明できるようにする。
12	アカデミックライティング⑥実践	実践的なライティング課題に取り組み、情報を整理し論理的に記述する力を養う。作成した文章について自己評価および相互評価を行い、客観的視点から改善点を見出すことができるようにする。
13	My favorite book （私の好きな本）	自身が選んだ書籍について内容を整理し、感想や考察を文章としてまとめることで、読解力および表現力を高める。また、読書経験を通して得られた気づきを他者と共有し、多様な価値観や視点に触れることで理解を深める。
14	前期振り返りと夏季休暇の有意義な過ごし方	第1クオーターおよび第2クオーターの学びを振り返り、自身の成長や課題を省察する。あわせて、夏季休暇期間における目標と具体的な行動計画を立案し、今後の学修およびキャリア形成に向けた見通しを明確にする。
15	後期オリエンテーション	後期の授業内容および到達目標を理解し、前期の学びを踏まえて自己の課題を整理する。あわせて、後期における学修目標と具体的な行動計画を設定し、主体的な学びに向けた見通しを説明できるようにする。
16	ビジネス講話②	ビジネスパーソンの講話を通して、社会における課題や仕事の意義について多角的に理解する。講話内容を踏まえ、自身のキャリア観との関連を整理し、今後身につけるべき能力や行動について具体的に説明できるようにする。
17	スポーツフェスタ代替日	スポーツ活動を通して、健康の保持増進および集団における協働の意義を体験的に理解する。活動後には、チームでの役割やコミュニケーションの在り方を振り返り、より良い人間関係の構築に向けた課題と改善策を言語化できるようにする。
18	アカデミックライティング⑦	卒業研究に向けた知識の定着を図るとともに、論理的な文章構成や根拠の示し方について理解を深める。自身の関心テーマに基づき、簡易的な論述構成を作成し、その妥当性を説明できるようにする。
19	マイナビ マッチプラスプレゼンテーションコンテスト①準備	就職支援ツール等を活用しながら自己分析を行い、自身の強みや価値観を整理する。あわせて、プレゼンテーションコンテストの趣旨および評価観点を理解し、効果的なプレゼンテーションに必要な要素（構成・表現・資料作成等）を説明できるようにする。
20	プレゼンテーションコンテスト②準備	プレゼンテーションのテーマ設定および構成の検討を行い、伝えたい内容を論理的に整理する。グループ内での意見交換を通して内容をブラッシュアップし、より説得力のある構成へと改善できるようにする。
21	プレゼンテーションコンテスト③準備	発表資料の作成および発表練習を通して、視覚的に分かりやすい資料作成と効果的な伝達方法について実践的に学ぶ。相互評価を行い、改善点を明確にしたうえで発表内容を修正できるようにする
22	アカデミックライティング⑧	これまでのライティング学習を統合し、論理的かつ説得力のある文章作成の力を定着させる。自身の考えを根拠に基づいて記述し、その妥当性や課題について省察できるようにする。
23	プレゼンテーションコンテスト(学科決勝大会)	これまで準備してきた内容をもとにプレゼンテーションを実施し、自己の考えを他者に対して分かりやすく伝達する。発表後には他者の発表を踏まえて自己の成果と課題を省察し、今後の改善点を具体的に示すことができるようにする。
24	卒業生講話①	卒業生の経験談を通して、学生生活とキャリア選択の関連について具体的に理解する。講話内容をもとに、自身の将来像や今後の行動について再考し、必要な準備や取り組みを説明できるようにする。
25	ゼミ選択①準備	ゼミでの学びの意義や特徴について理解し、各ゼミの内容や専門分野について情報収集を行う。自身の関心や将来の進路を踏まえ、適切なゼミ選択の基準を整理し、

		説明できるようにする。
26	人権講話	人権に関する基本的な考え方や現代社会における課題について理解を深める。講話内容を踏まえ、他者の多様性を尊重する態度の重要性について考察し、自身の行動としてどのように実践するかを具体的に説明できるようにする。
27	卒業生講話②	異なる進路を歩んだ卒業生の講話を通して、多様なキャリア形成の在り方を理解する。複数の事例を比較しながら、自身の価値観や進路選択にどのような影響を与えたかを省察し、今後の行動指針として整理できるようにする。
28	後期振り返りと学年末の総括	1年間の学びを総合的に振り返り、自己の成長および課題を多面的に省察する。あわせて、次年度に向けた目標と具体的な行動計画を立案し、キャリア形成の観点から継続的な成長の見通しを説明できるようにする。
29		
30		

科目コード	13200				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	田口　雅弘			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業では、「働くこと」の意義を個人の生活基盤および社会的役割の双方の観点から捉え、キャリア形成を生涯にわたる発達課題として位置づける。講話や演習、協働的活動を通して、現代社会において求められる汎用的能力（主体性・協働性・課題解決力等）を多面的に理解し、実践的に育成することを目的とする。また、各回の活動においては、経験→内省→概念化→応用のサイクルを意識し、自己の価値観・行動特性・職業観を継続的に見直すことで、将来の進路選択に資する基盤を形成する。

＜授業の到達目標＞
１．自己の資質・能力および価値観を言語化し、職業適性との関連を踏まえて将来の進路について具体的に説明できる。２．講話・演習・協働活動に主体的に参加し、自らの考えを論理的に整理したうえで、口頭およびデジタルツールを用いて他者に伝達・共有できる。３．グループ活動や実践的課題を通して、社会人として求められる基礎的能力（主体性・協働性・課題解決力等）を発揮し、その成果と課題を省察的に記述できる。

＜授業の方法＞
本授業は、講義・演習・省察を組み合わせたアクティブ・ラーニング型授業として実施する。特に、ゲストスピーカーによる講話を起点として、グループワークやディスカッションを通じた相互作用的学習を行い、学習内容の深化を図る。さらに、各回の終了時には省察活動を行い、学びを自己の経験や将来設計と関連づけて再構成することで、知識の定着と転移を促す。また、ICTを活用した学修を推進する。グーグルクラスルームを通じた課題の提出やAIの活用などを織り交ぜる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
本授業では、グループディスカッション、課題解決型ワーク、プレゼンテーション活動等を通して、学生同士の相互作用を重視した学習を行う。特に、チームでの課題遂行においては、役割分担・合意形成・成果発表までのプロセスを経験させることで、実社会における協働的問題解決能力の育成を図る。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：各回のテーマに関連する自己の経験や社会的事象について事前に調べ、自身の意見や疑問点を整理したうえで授業に臨む（60分程度）。復習：授業で得た知見をもとに、自身の考えの変容や新たな気づきを省察し、レポートとして言語化する。また、必要に応じて関連資料の再確認や追加調査を行う（120分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本授業は、ディプロマポリシー１（対人関係能力および自己調整力）および２（専門的知識・技能の基盤形成）に資する科目である。特に、協働的学習や省察活動を通して、他者と協働しながら課題を達成する力を育成するとともに、将来の専門的学修およびキャリア形成に必要な基盤的能力の獲得を目指す。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
講義への取組姿勢・受講態度（30%）：出席状況に加え、授業中の発言、グループ活動への貢献度、主体的な参加態度を総合的に評価する。レポート課題（50%）：各回の省察レポートおよび課題レポートについて、内容の深さ、論理性、自己の経験との関連づけ、表現の適切さを基準に評価する。基礎学力課題（20%）：指定された教材への取組状況および達成度に基づき評価する。また、提出課題に対してはコメント等によるフィードバックを行い、学習の改善につなげる。

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション：年間のスケジュールと目標理解	年間の学習内容と到達目標を理解し、自身のキャリア形成における本授業の位置づけを説明できるようにする。また、1年間の学習計画を立案する。
2	学科長講話	学科長による講話を通して、大学2年次における学びの位置づけとキャリア形成のプロセスについて理解を深める。あわせて、自身のこれまでの学生生活を振り返り、今後の学修および行動の指針を言語化し、説明できるようにする。
3	アカデミックライティング① 卒業研究とは？	卒業論文およびゼミ論文の意義と基本的な構造について理解する。さらに、研究活動に必要な基礎的視点（問いの設定・情報収集・論理的記述）について学び、今後の学修に向けて必要な準備内容を具体的に説明できるようにする。
4	アカデミックライティング②（オンデマンド課題）	提示されたオンデマンド課題に取り組むことで、アカデミックライティングの基礎（構成・表現・引用の基本）を実践的に理解する。課題を通して、自身の文章表現の課題を把握し、改善点を具体的に言語化できるようにする。

5	学長講話	学長講話を通して、本学の理念や求められる学生像について理解を深める。これまでの1年半の成長を振り返りながら、自身の行動や態度を見直し、今後どのような学生として成長していくかを具体的に構想し、説明できるようにする。
6	アカデミックライティング③	卒業研究に向けた基礎的知識（テーマ設定、資料収集方法等）について理解を深める。さらに、自身の関心分野をもとに、今後探究していきたいテーマの方向性を検討し、その理由を含めて説明できるようにする。
7	アカデミックライティング④実践	実際に短い文章作成に取り組むことで、論理的な構成や根拠に基づく記述の方法を実践的に学ぶ。作成した文章を振り返り、論理性や説得力の観点から改善点を見出し、修正方針を示すことができるようにする。
8	キャリアセンター講話（就職活動とは）	就職活動の全体像やスケジュール、求められる準備について理解する。あわせて、自身の職業観や価値観を整理し、キャリア形成に向けて現時点で取り組むべき行動を具体的に挙げ、説明できるようにする。
9	ビジネス講話①	実社会で活躍するビジネスパーソンの講話を通して、仕事の実態や求められる能力について理解を深める。講話内容をもとに、自身のキャリア観との共通点や相違点を整理し、今後の行動にどのように活かすかを考察できるようにする。
10	スポーツ交流会・国際交流活動	スポーツや交流活動を通して、多様な背景をもつ他者との関係構築の重要性を体験的に理解する。活動を振り返り、チームビルディングのプロセスやコミュニケーションの工夫について整理し、より良い協働の在り方について説明できるようにする。
11	アカデミックライティング⑤	卒業研究に必要な知識（文献の扱い方、論拠の示し方等）について理解を深める。あわせて、他者の文章や資料を適切に活用する方法を学び、自身の文章にどのように反映させるかを説明できるようにする。
12	アカデミックライティング⑥実践	実践的なライティング課題に取り組み、情報を整理し論理的に記述する力を養う。作成した文章について自己評価および相互評価を行い、客観的視点から改善点を見出すことができるようにする。
13	My favorite book （私の好きな本）	自身が選んだ書籍について内容を整理し、感想や考察を文章としてまとめることで、読解力および表現力を高める。また、読書経験を通して得られた気づきを他者と共有し、多様な価値観や視点に触れることで理解を深める。
14	前期振り返りと夏季休暇の有意義な過ごし方	第1クオーターおよび第2クオーターの学びを振り返り、自身の成長や課題を省察する。あわせて、夏季休暇期間における目標と具体的な行動計画を立案し、今後の学修およびキャリア形成に向けた見通しを明確にする。
15	後期オリエンテーション	後期の授業内容および到達目標を理解し、前期の学びを踏まえて自己の課題を整理する。あわせて、後期における学修目標と具体的な行動計画を設定し、主体的な学びに向けた見通しを説明できるようにする。
16	ビジネス講話②	ビジネスパーソンの講話を通して、社会における課題や仕事の意義について多角的に理解する。講話内容を踏まえ、自身のキャリア観との関連を整理し、今後身につけるべき能力や行動について具体的に説明できるようにする。
17	スポーツフェスタ代替日	スポーツ活動を通して、健康の保持増進および集団における協働の意義を体験的に理解する。活動後には、チームでの役割やコミュニケーションの在り方を振り返り、より良い人間関係の構築に向けた課題と改善策を言語化できるようにする。
18	アカデミックライティング⑦	卒業研究に向けた知識の定着を図るとともに、論理的な文章構成や根拠の示し方について理解を深める。自身の関心テーマに基づき、簡易的な論述構成を作成し、その妥当性を説明できるようにする。
19	マイナビ マッチプラスプレゼンテーションコンテスト①準備	就職支援ツール等を活用しながら自己分析を行い、自身の強みや価値観を整理する。あわせて、プレゼンテーションコンテストの趣旨および評価観点を理解し、効果的なプレゼンテーションに必要な要素（構成・表現・資料作成等）を説明できるようにする。
20	プレゼンテーションコンテスト②準備	プレゼンテーションのテーマ設定および構成の検討を行い、伝えたい内容を論理的に整理する。グループ内での意見交換を通して内容をブラッシュアップし、より説得力のある構成へと改善できるようにする。
21	プレゼンテーションコンテスト③準備	発表資料の作成および発表練習を通して、視覚的に分かりやすい資料作成と効果的な伝達方法について実践的に学ぶ。相互評価を行い、改善点を明確にしたうえで発表内容を修正できるようにする
22	アカデミックライティング⑧	これまでのライティング学習を統合し、論理的かつ説得力のある文章作成の力を定着させる。自身の考えを根拠に基づいて記述し、その妥当性や課題について省察できるようにする。
23	プレゼンテーションコンテスト(学科決勝大会)	これまで準備してきた内容をもとにプレゼンテーションを実施し、自己の考えを他者に対して分かりやすく伝達する。発表後には他者の発表を踏まえて自己の成果と課題を省察し、今後の改善点を具体的に示すことができるようにする。
24	卒業生講話①	卒業生の経験談を通して、学生生活とキャリア選択の関連について具体的に理解する。講話内容をもとに、自身の将来像や今後の行動について再考し、必要な準備や取り組みを説明できるようにする。
25	ゼミ選択①準備	ゼミでの学びの意義や特徴について理解し、各ゼミの内容や専門分野について情報収集を行う。自身の関心や将来の進路を踏まえ、適切なゼミ選択の基準を整理し、

		説明できるようにする。
26	人権講話	人権に関する基本的な考え方や現代社会における課題について理解を深める。講話内容を踏まえ、他者の多様性を尊重する態度の重要性について考察し、自身の行動としてどのように実践するかを具体的に説明できるようにする。
27	卒業生講話②	異なる進路を歩んだ卒業生の講話を通して、多様なキャリア形成の在り方を理解する。複数の事例を比較しながら、自身の価値観や進路選択にどのような影響を与えたかを省察し、今後の行動指針として整理できるようにする。
28	後期振り返りと学年末の総括	1年間の学びを総合的に振り返り、自己の成長および課題を多面的に省察する。あわせて、次年度に向けた目標と具体的な行動計画を立案し、キャリア形成の観点から継続的な成長の見通しを説明できるようにする。
29		
30		

科目コード	13200				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	大池　淳一			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業では、「働くこと」の意義を個人の生活基盤および社会的役割の双方の観点から捉え、キャリア形成を生涯にわたる発達課題として位置づける。講話や演習、協働的活動を通して、現代社会において求められる汎用的能力（主体性・協働性・課題解決力等）を多面的に理解し、実践的に育成することを目的とする。また、各回の活動においては、経験→内省→概念化→応用のサイクルを意識し、自己の価値観・行動特性・職業観を継続的に見直すことで、将来の進路選択に資する基盤を形成する。

＜授業の到達目標＞
１．自己の資質・能力および価値観を言語化し、職業適性との関連を踏まえて将来の進路について具体的に説明できる。２．講話・演習・協働活動に主体的に参加し、自らの考えを論理的に整理したうえで、口頭およびデジタルツールを用いて他者に伝達・共有できる。３．グループ活動や実践的課題を通して、社会人として求められる基礎的能力（主体性・協働性・課題解決力等）を発揮し、その成果と課題を省察的に記述できる。

＜授業の方法＞
本授業は、講義・演習・省察を組み合わせたアクティブ・ラーニング型授業として実施する。特に、ゲストスピーカーによる講話を起点として、グループワークやディスカッションを通じた相互作用的学習を行い、学習内容の深化を図る。さらに、各回の終了時には省察活動を行い、学びを自己の経験や将来設計と関連づけて再構成することで、知識の定着と転移を促す。また、ICTを活用した学修を推進する。グーグルクラスルームを通じた課題の提出やAIの活用などを織り交ぜる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
本授業では、グループディスカッション、課題解決型ワーク、プレゼンテーション活動等を通して、学生同士の相互作用を重視した学習を行う。特に、チームでの課題遂行においては、役割分担・合意形成・成果発表までのプロセスを経験させることで、実社会における協働的問題解決能力の育成を図る。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：各回のテーマに関連する自己の経験や社会的事象について事前に調べ、自身の意見や疑問点を整理したうえで授業に臨む（60分程度）。復習：授業で得た知見をもとに、自身の考えの変容や新たな気づきを省察し、レポートとして言語化する。また、必要に応じて関連資料の再確認や追加調査を行う（120分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本授業は、ディプロマポリシー１（対人関係能力および自己調整力）および２（専門的知識・技能の基盤形成）に資する科目である。特に、協働的学習や省察活動を通して、他者と協働しながら課題を達成する力を育成するとともに、将来の専門的学修およびキャリア形成に必要な基盤的能力の獲得を目指す。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
講義への取組姿勢・受講態度（30%）：出席状況に加え、授業中の発言、グループ活動への貢献度、主体的な参加態度を総合的に評価する。レポート課題（50%）：各回の省察レポートおよび課題レポートについて、内容の深さ、論理性、自己の経験との関連づけ、表現の適切さを基準に評価する。基礎学力課題（20%）：指定された教材への取組状況および達成度に基づき評価する。また、提出課題に対してはコメント等によるフィードバックを行い、学習の改善につなげる。

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション：年間のスケジュールと目標理解	年間の学習内容と到達目標を理解し、自身のキャリア形成における本授業の位置づけを説明できるようにする。また、1年間の学習計画を立案する。
2	学科長講話	学科長による講話を通して、大学2年次における学びの位置づけとキャリア形成のプロセスについて理解を深める。あわせて、自身のこれまでの学生生活を振り返り、今後の学修および行動の指針を言語化し、説明できるようにする。
3	アカデミックライティング① 卒業研究とは？	卒業論文およびゼミ論文の意義と基本的な構造について理解する。さらに、研究活動に必要な基礎的視点（問いの設定・情報収集・論理的記述）について学び、今後の学修に向けて必要な準備内容を具体的に説明できるようにする。
4	アカデミックライティング②（オンデマンド課題）	提示されたオンデマンド課題に取り組むことで、アカデミックライティングの基礎（構成・表現・引用の基本）を実践的に理解する。課題を通して、自身の文章表現の課題を把握し、改善点を具体的に言語化できるようにする。

5	学長講話	学長講話を通して、本学の理念や求められる学生像について理解を深める。これまでの1年半の成長を振り返りながら、自身の行動や態度を見直し、今後どのような学生として成長していくかを具体的に構想し、説明できるようにする。
6	アカデミックライティング③	卒業研究に向けた基礎的知識（テーマ設定、資料収集方法等）について理解を深める。さらに、自身の関心分野をもとに、今後探究していきたいテーマの方向性を検討し、その理由を含めて説明できるようにする。
7	アカデミックライティング④実践	実際に短い文章作成に取り組むことで、論理的な構成や根拠に基づく記述の方法を実践的に学ぶ。作成した文章を振り返り、論理性や説得力の観点から改善点を見出し、修正方針を示すことができるようにする。
8	キャリアセンター講話（就職活動とは）	就職活動の全体像やスケジュール、求められる準備について理解する。あわせて、自身の職業観や価値観を整理し、キャリア形成に向けて現時点で取り組むべき行動を具体的に挙げ、説明できるようにする。
9	ビジネス講話①	実社会で活躍するビジネスパーソンの講話を通して、仕事の実態や求められる能力について理解を深める。講話内容をもとに、自身のキャリア観との共通点や相違点を整理し、今後の行動にどのように活かすかを考察できるようにする。
10	スポーツ交流会・国際交流活動	スポーツや交流活動を通して、多様な背景をもつ他者との関係構築の重要性を体験的に理解する。活動を振り返り、チームビルディングのプロセスやコミュニケーションの工夫について整理し、より良い協働の在り方について説明できるようにする。
11	アカデミックライティング⑤	卒業研究に必要な知識（文献の扱い方、論拠の示し方等）について理解を深める。あわせて、他者の文章や資料を適切に活用する方法を学び、自身の文章にどのように反映させるかを説明できるようにする。
12	アカデミックライティング⑥実践	実践的なライティング課題に取り組み、情報を整理し論理的に記述する力を養う。作成した文章について自己評価および相互評価を行い、客観的視点から改善点を見出すことができるようにする。
13	My favorite book （私の好きな本）	自身が選んだ書籍について内容を整理し、感想や考察を文章としてまとめることで、読解力および表現力を高める。また、読書経験を通して得られた気づきを他者と共有し、多様な価値観や視点に触れることで理解を深める。
14	前期振り返りと夏季休暇の有意義な過ごし方	第1クオーターおよび第2クオーターの学びを振り返り、自身の成長や課題を省察する。あわせて、夏季休暇期間における目標と具体的な行動計画を立案し、今後の学修およびキャリア形成に向けた見通しを明確にする。
15	後期オリエンテーション	後期の授業内容および到達目標を理解し、前期の学びを踏まえて自己の課題を整理する。あわせて、後期における学修目標と具体的な行動計画を設定し、主体的な学びに向けた見通しを説明できるようにする。
16	ビジネス講話②	ビジネスパーソンの講話を通して、社会における課題や仕事の意義について多角的に理解する。講話内容を踏まえ、自身のキャリア観との関連を整理し、今後身につけるべき能力や行動について具体的に説明できるようにする。
17	スポーツフェスタ代替日	スポーツ活動を通して、健康の保持増進および集団における協働の意義を体験的に理解する。活動後には、チームでの役割やコミュニケーションの在り方を振り返り、より良い人間関係の構築に向けた課題と改善策を言語化できるようにする。
18	アカデミックライティング⑦	卒業研究に向けた知識の定着を図るとともに、論理的な文章構成や根拠の示し方について理解を深める。自身の関心テーマに基づき、簡易的な論述構成を作成し、その妥当性を説明できるようにする。
19	マイナビ マッチプラスプレゼンテーションコンテスト①準備	就職支援ツール等を活用しながら自己分析を行い、自身の強みや価値観を整理する。あわせて、プレゼンテーションコンテストの趣旨および評価観点を理解し、効果的なプレゼンテーションに必要な要素（構成・表現・資料作成等）を説明できるようにする。
20	プレゼンテーションコンテスト②準備	プレゼンテーションのテーマ設定および構成の検討を行い、伝えたい内容を論理的に整理する。グループ内での意見交換を通して内容をブラッシュアップし、より説得力のある構成へと改善できるようにする。
21	プレゼンテーションコンテスト③準備	発表資料の作成および発表練習を通して、視覚的に分かりやすい資料作成と効果的な伝達方法について実践的に学ぶ。相互評価を行い、改善点を明確にしたうえで発表内容を修正できるようにする
22	アカデミックライティング⑧	これまでのライティング学習を統合し、論理的かつ説得力のある文章作成の力を定着させる。自身の考えを根拠に基づいて記述し、その妥当性や課題について省察できるようにする。
23	プレゼンテーションコンテスト(学科決勝大会)	これまで準備してきた内容をもとにプレゼンテーションを実施し、自己の考えを他者に対して分かりやすく伝達する。発表後には他者の発表を踏まえて自己の成果と課題を省察し、今後の改善点を具体的に示すことができるようにする。
24	卒業生講話①	卒業生の経験談を通して、学生生活とキャリア選択の関連について具体的に理解する。講話内容をもとに、自身の将来像や今後の行動について再考し、必要な準備や取り組みを説明できるようにする。
25	ゼミ選択①準備	ゼミでの学びの意義や特徴について理解し、各ゼミの内容や専門分野について情報収集を行う。自身の関心や将来の進路を踏まえ、適切なゼミ選択の基準を整理し、

		説明できるようにする。
26	人権講話	人権に関する基本的な考え方や現代社会における課題について理解を深める。講話内容を踏まえ、他者の多様性を尊重する態度の重要性について考察し、自身の行動としてどのように実践するかを具体的に説明できるようにする。
27	卒業生講話②	異なる進路を歩んだ卒業生の講話を通して、多様なキャリア形成の在り方を理解する。複数の事例を比較しながら、自身の価値観や進路選択にどのような影響を与えたかを省察し、今後の行動指針として整理できるようにする。
28	後期振り返りと学年末の総括	1年間の学びを総合的に振り返り、自己の成長および課題を多面的に省察する。あわせて、次年度に向けた目標と具体的な行動計画を立案し、キャリア形成の観点から継続的な成長の見通しを説明できるようにする。
29		
30		

科目コード	13200				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	見村　一朗			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業では、「働くこと」の意義を個人の生活基盤および社会的役割の双方の観点から捉え、キャリア形成を生涯にわたる発達課題として位置づける。講話や演習、協働的活動を通して、現代社会において求められる汎用的能力（主体性・協働性・課題解決力等）を多面的に理解し、実践的に育成することを目的とする。また、各回の活動においては、経験→内省→概念化→応用のサイクルを意識し、自己の価値観・行動特性・職業観を継続的に見直すことで、将来の進路選択に資する基盤を形成する。

＜授業の到達目標＞
１．自己の資質・能力および価値観を言語化し、職業適性との関連を踏まえて将来の進路について具体的に説明できる。２．講話・演習・協働活動に主体的に参加し、自らの考えを論理的に整理したうえで、口頭およびデジタルツールを用いて他者に伝達・共有できる。３．グループ活動や実践的課題を通して、社会人として求められる基礎的能力（主体性・協働性・課題解決力等）を発揮し、その成果と課題を省察的に記述できる。

＜授業の方法＞
本授業は、講義・演習・省察を組み合わせたアクティブ・ラーニング型授業として実施する。特に、ゲストスピーカーによる講話を起点として、グループワークやディスカッションを通じた相互作用的学習を行い、学習内容の深化を図る。さらに、各回の終了時には省察活動を行い、学びを自己の経験や将来設計と関連づけて再構成することで、知識の定着と転移を促す。また、ICTを活用した学修を推進する。グーグルクラスルームを通じた課題の提出やAIの活用などを織り交ぜる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
本授業では、グループディスカッション、課題解決型ワーク、プレゼンテーション活動等を通して、学生同士の相互作用を重視した学習を行う。特に、チームでの課題遂行においては、役割分担・合意形成・成果発表までのプロセスを経験させることで、実社会における協働的問題解決能力の育成を図る。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：各回のテーマに関連する自己の経験や社会的事象について事前に調べ、自身の意見や疑問点を整理したうえで授業に臨む（60分程度）。復習：授業で得た知見をもとに、自身の考えの変容や新たな気づきを省察し、レポートとして言語化する。また、必要に応じて関連資料の再確認や追加調査を行う（120分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本授業は、ディプロマポリシー１（対人関係能力および自己調整力）および２（専門的知識・技能の基盤形成）に資する科目である。特に、協働的学習や省察活動を通して、他者と協働しながら課題を達成する力を育成するとともに、将来の専門的学修およびキャリア形成に必要な基盤的能力の獲得を目指す。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
講義への取組姿勢・受講態度（30%）：出席状況に加え、授業中の発言、グループ活動への貢献度、主体的な参加態度を総合的に評価する。レポート課題（50%）：各回の省察レポートおよび課題レポートについて、内容の深さ、論理性、自己の経験との関連づけ、表現の適切さを基準に評価する。基礎学力課題（20%）：指定された教材への取組状況および達成度に基づき評価する。また、提出課題に対してはコメント等によるフィードバックを行い、学習の改善につなげる。

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション：年間のスケジュールと目標理解	年間の学習内容と到達目標を理解し、自身のキャリア形成における本授業の位置づけを説明できるようにする。また、1年間の学習計画を立案する。
2	学科長講話	学科長による講話を通して、大学2年次における学びの位置づけとキャリア形成のプロセスについて理解を深める。あわせて、自身のこれまでの学生生活を振り返り、今後の学修および行動の指針を言語化し、説明できるようにする。
3	アカデミックライティング① 卒業研究とは？	卒業論文およびゼミ論文の意義と基本的な構造について理解する。さらに、研究活動に必要な基礎的視点（問いの設定・情報収集・論理的記述）について学び、今後の学修に向けて必要な準備内容を具体的に説明できるようにする。
4	アカデミックライティング②（オンデマンド課題）	提示されたオンデマンド課題に取り組むことで、アカデミックライティングの基礎（構成・表現・引用の基本）を実践的に理解する。課題を通して、自身の文章表現の課題を把握し、改善点を具体的に言語化できるようにする。

5	学長講話	学長講話を通して、本学の理念や求められる学生像について理解を深める。これまでの1年半の成長を振り返りながら、自身の行動や態度を見直し、今後どのような学生として成長していくかを具体的に構想し、説明できるようにする。
6	アカデミックライティング③	卒業研究に向けた基礎的知識（テーマ設定、資料収集方法等）について理解を深める。さらに、自身の関心分野をもとに、今後探究していきたいテーマの方向性を検討し、その理由を含めて説明できるようにする。
7	アカデミックライティング④実践	実際に短い文章作成に取り組むことで、論理的な構成や根拠に基づく記述の方法を実践的に学ぶ。作成した文章を振り返り、論理性や説得力の観点から改善点を見出し、修正方針を示すことができるようにする。
8	キャリアセンター講話（就職活動とは）	就職活動の全体像やスケジュール、求められる準備について理解する。あわせて、自身の職業観や価値観を整理し、キャリア形成に向けて現時点で取り組むべき行動を具体的に挙げ、説明できるようにする。
9	ビジネス講話①	実社会で活躍するビジネスパーソンの講話を通して、仕事の実態や求められる能力について理解を深める。講話内容をもとに、自身のキャリア観との共通点や相違点を整理し、今後の行動にどのように活かすかを考察できるようにする。
10	スポーツ交流会・国際交流活動	スポーツや交流活動を通して、多様な背景をもつ他者との関係構築の重要性を体験的に理解する。活動を振り返り、チームビルディングのプロセスやコミュニケーションの工夫について整理し、より良い協働の在り方について説明できるようにする。
11	アカデミックライティング⑤	卒業研究に必要な知識（文献の扱い方、論拠の示し方等）について理解を深める。あわせて、他者の文章や資料を適切に活用する方法を学び、自身の文章にどのように反映させるかを説明できるようにする。
12	アカデミックライティング⑥実践	実践的なライティング課題に取り組み、情報を整理し論理的に記述する力を養う。作成した文章について自己評価および相互評価を行い、客観的視点から改善点を見出すことができるようにする。
13	My favorite book （私の好きな本）	自身が選んだ書籍について内容を整理し、感想や考察を文章としてまとめることで、読解力および表現力を高める。また、読書経験を通して得られた気づきを他者と共有し、多様な価値観や視点に触れることで理解を深める。
14	前期振り返りと夏季休暇の有意義な過ごし方	第1クオーターおよび第2クオーターの学びを振り返り、自身の成長や課題を省察する。あわせて、夏季休暇期間における目標と具体的な行動計画を立案し、今後の学修およびキャリア形成に向けた見通しを明確にする。
15	後期オリエンテーション	後期の授業内容および到達目標を理解し、前期の学びを踏まえて自己の課題を整理する。あわせて、後期における学修目標と具体的な行動計画を設定し、主体的な学びに向けた見通しを説明できるようにする。
16	ビジネス講話②	ビジネスパーソンの講話を通して、社会における課題や仕事の意義について多角的に理解する。講話内容を踏まえ、自身のキャリア観との関連を整理し、今後身につけるべき能力や行動について具体的に説明できるようにする。
17	スポーツフェスタ代替日	スポーツ活動を通して、健康の保持増進および集団における協働の意義を体験的に理解する。活動後には、チームでの役割やコミュニケーションの在り方を振り返り、より良い人間関係の構築に向けた課題と改善策を言語化できるようにする。
18	アカデミックライティング⑦	卒業研究に向けた知識の定着を図るとともに、論理的な文章構成や根拠の示し方について理解を深める。自身の関心テーマに基づき、簡易的な論述構成を作成し、その妥当性を説明できるようにする。
19	マイナビ マッチプラスプレゼンテーションコンテスト①準備	就職支援ツール等を活用しながら自己分析を行い、自身の強みや価値観を整理する。あわせて、プレゼンテーションコンテストの趣旨および評価観点を理解し、効果的なプレゼンテーションに必要な要素（構成・表現・資料作成等）を説明できるようにする。
20	プレゼンテーションコンテスト②準備	プレゼンテーションのテーマ設定および構成の検討を行い、伝えたい内容を論理的に整理する。グループ内での意見交換を通して内容をブラッシュアップし、より説得力のある構成へと改善できるようにする。
21	プレゼンテーションコンテスト③準備	発表資料の作成および発表練習を通して、視覚的に分かりやすい資料作成と効果的な伝達方法について実践的に学ぶ。相互評価を行い、改善点を明確にしたうえで発表内容を修正できるようにする
22	アカデミックライティング⑧	これまでのライティング学習を統合し、論理的かつ説得力のある文章作成の力を定着させる。自身の考えを根拠に基づいて記述し、その妥当性や課題について省察できるようにする。
23	プレゼンテーションコンテスト(学科決勝大会)	これまで準備してきた内容をもとにプレゼンテーションを実施し、自己の考えを他者に対して分かりやすく伝達する。発表後には他者の発表を踏まえて自己の成果と課題を省察し、今後の改善点を具体的に示すことができるようにする。
24	卒業生講話①	卒業生の経験談を通して、学生生活とキャリア選択の関連について具体的に理解する。講話内容をもとに、自身の将来像や今後の行動について再考し、必要な準備や取り組みを説明できるようにする。
25	ゼミ選択①準備	ゼミでの学びの意義や特徴について理解し、各ゼミの内容や専門分野について情報収集を行う。自身の関心や将来の進路を踏まえ、適切なゼミ選択の基準を整理し、

		説明できるようにする。
26	人権講話	人権に関する基本的な考え方や現代社会における課題について理解を深める。講話内容を踏まえ、他者の多様性を尊重する態度の重要性について考察し、自身の行動としてどのように実践するかを具体的に説明できるようにする。
27	卒業生講話②	異なる進路を歩んだ卒業生の講話を通して、多様なキャリア形成の在り方を理解する。複数の事例を比較しながら、自身の価値観や進路選択にどのような影響を与えたかを省察し、今後の行動指針として整理できるようにする。
28	後期振り返りと学年末の総括	1年間の学びを総合的に振り返り、自己の成長および課題を多面的に省察する。あわせて、次年度に向けた目標と具体的な行動計画を立案し、キャリア形成の観点から継続的な成長の見通しを説明できるようにする。
29		
30		

科目コード	13200				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	豊里　健			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業では、「働くこと」の意義を個人の生活基盤および社会的役割の双方の観点から捉え、キャリア形成を生涯にわたる発達課題として位置づける。講話や演習、協働的活動を通して、現代社会において求められる汎用的能力（主体性・協働性・課題解決力等）を多面的に理解し、実践的に育成することを目的とする。また、各回の活動においては、経験→内省→概念化→応用のサイクルを意識し、自己の価値観・行動特性・職業観を継続的に見直すことで、将来の進路選択に資する基盤を形成する。

＜授業の到達目標＞
１．自己の資質・能力および価値観を言語化し、職業適性との関連を踏まえて将来の進路について具体的に説明できる。２．講話・演習・協働活動に主体的に参加し、自らの考えを論理的に整理したうえで、口頭およびデジタルツールを用いて他者に伝達・共有できる。３．グループ活動や実践的課題を通して、社会人として求められる基礎的能力（主体性・協働性・課題解決力等）を発揮し、その成果と課題を省察的に記述できる。

＜授業の方法＞
本授業は、講義・演習・省察を組み合わせたアクティブ・ラーニング型授業として実施する。特に、ゲストスピーカーによる講話を起点として、グループワークやディスカッションを通じた相互作用的学習を行い、学習内容の深化を図る。さらに、各回の終了時には省察活動を行い、学びを自己の経験や将来設計と関連づけて再構成することで、知識の定着と転移を促す。また、ICTを活用した学修を推進する。グーグルクラスルームを通じた課題の提出やAIの活用などを織り交ぜる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
本授業では、グループディスカッション、課題解決型ワーク、プレゼンテーション活動等を通して、学生同士の相互作用を重視した学習を行う。特に、チームでの課題遂行においては、役割分担・合意形成・成果発表までのプロセスを経験させることで、実社会における協働的問題解決能力の育成を図る。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：各回のテーマに関連する自己の経験や社会的事象について事前に調べ、自身の意見や疑問点を整理したうえで授業に臨む（60分程度）。復習：授業で得た知見をもとに、自身の考えの変容や新たな気づきを省察し、レポートとして言語化する。また、必要に応じて関連資料の再確認や追加調査を行う（120分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本授業は、ディプロマポリシー１（対人関係能力および自己調整力）および２（専門的知識・技能の基盤形成）に資する科目である。特に、協働的学習や省察活動を通して、他者と協働しながら課題を達成する力を育成するとともに、将来の専門的学修およびキャリア形成に必要な基盤的能力の獲得を目指す。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
講義への取組姿勢・受講態度（30%）：出席状況に加え、授業中の発言、グループ活動への貢献度、主体的な参加態度を総合的に評価する。レポート課題（50%）：各回の省察レポートおよび課題レポートについて、内容の深さ、論理性、自己の経験との関連づけ、表現の適切さを基準に評価する。基礎学力課題（20%）：指定された教材への取組状況および達成度に基づき評価する。また、提出課題に対してはコメント等によるフィードバックを行い、学習の改善につなげる。

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション：年間のスケジュールと目標理解	年間の学習内容と到達目標を理解し、自身のキャリア形成における本授業の位置づけを説明できるようにする。また、1年間の学習計画を立案する。
2	学科長講話	学科長による講話を通して、大学2年次における学びの位置づけとキャリア形成のプロセスについて理解を深める。あわせて、自身のこれまでの学生生活を振り返り、今後の学修および行動の指針を言語化し、説明できるようにする。
3	アカデミックライティング① 卒業研究とは？	卒業論文およびゼミ論文の意義と基本的な構造について理解する。さらに、研究活動に必要な基礎的視点（問いの設定・情報収集・論理的記述）について学び、今後の学修に向けて必要な準備内容を具体的に説明できるようにする。
4	アカデミックライティング②（オンデマンド課題）	提示されたオンデマンド課題に取り組むことで、アカデミックライティングの基礎（構成・表現・引用の基本）を実践的に理解する。課題を通して、自身の文章表現の課題を把握し、改善点を具体的に言語化できるようにする。

5	学長講話	学長講話を通して、本学の理念や求められる学生像について理解を深める。これまでの1年半の成長を振り返りながら、自身の行動や態度を見直し、今後どのような学生として成長していくかを具体的に構想し、説明できるようにする。
6	アカデミックライティング③	卒業研究に向けた基礎的知識（テーマ設定、資料収集方法等）について理解を深める。さらに、自身の関心分野をもとに、今後探究していきたいテーマの方向性を検討し、その理由を含めて説明できるようにする。
7	アカデミックライティング④実践	実際に短い文章作成に取り組むことで、論理的な構成や根拠に基づく記述の方法を実践的に学ぶ。作成した文章を振り返り、論理性や説得力の観点から改善点を見出し、修正方針を示すことができるようにする。
8	キャリアセンター講話（就職活動とは）	就職活動の全体像やスケジュール、求められる準備について理解する。あわせて、自身の職業観や価値観を整理し、キャリア形成に向けて現時点で取り組むべき行動を具体的に挙げ、説明できるようにする。
9	ビジネス講話①	実社会で活躍するビジネスパーソンの講話を通して、仕事の実態や求められる能力について理解を深める。講話内容をもとに、自身のキャリア観との共通点や相違点を整理し、今後の行動にどのように活かすかを考察できるようにする。
10	スポーツ交流会・国際交流活動	スポーツや交流活動を通して、多様な背景をもつ他者との関係構築の重要性を体験的に理解する。活動を振り返り、チームビルディングのプロセスやコミュニケーションの工夫について整理し、より良い協働の在り方について説明できるようにする。
11	アカデミックライティング⑤	卒業研究に必要な知識（文献の扱い方、論拠の示し方等）について理解を深める。あわせて、他者の文章や資料を適切に活用する方法を学び、自身の文章にどのように反映させるかを説明できるようにする。
12	アカデミックライティング⑥実践	実践的なライティング課題に取り組み、情報を整理し論理的に記述する力を養う。作成した文章について自己評価および相互評価を行い、客観的視点から改善点を見出すことができるようにする。
13	My favorite book （私の好きな本）	自身が選んだ書籍について内容を整理し、感想や考察を文章としてまとめることで、読解力および表現力を高める。また、読書経験を通して得られた気づきを他者と共有し、多様な価値観や視点に触れることで理解を深める。
14	前期振り返りと夏季休暇の有意義な過ごし方	第1クオーターおよび第2クオーターの学びを振り返り、自身の成長や課題を省察する。あわせて、夏季休暇期間における目標と具体的な行動計画を立案し、今後の学修およびキャリア形成に向けた見通しを明確にする。
15	後期オリエンテーション	後期の授業内容および到達目標を理解し、前期の学びを踏まえて自己の課題を整理する。あわせて、後期における学修目標と具体的な行動計画を設定し、主体的な学びに向けた見通しを説明できるようにする。
16	ビジネス講話②	ビジネスパーソンの講話を通して、社会における課題や仕事の意義について多角的に理解する。講話内容を踏まえ、自身のキャリア観との関連を整理し、今後身につけるべき能力や行動について具体的に説明できるようにする。
17	スポーツフェスタ代替日	スポーツ活動を通して、健康の保持増進および集団における協働の意義を体験的に理解する。活動後には、チームでの役割やコミュニケーションの在り方を振り返り、より良い人間関係の構築に向けた課題と改善策を言語化できるようにする。
18	アカデミックライティング⑦	卒業研究に向けた知識の定着を図るとともに、論理的な文章構成や根拠の示し方について理解を深める。自身の関心テーマに基づき、簡易的な論述構成を作成し、その妥当性を説明できるようにする。
19	マイナビ マッチプラスプレゼンテーションコンテスト①準備	就職支援ツール等を活用しながら自己分析を行い、自身の強みや価値観を整理する。あわせて、プレゼンテーションコンテストの趣旨および評価観点を理解し、効果的なプレゼンテーションに必要な要素（構成・表現・資料作成等）を説明できるようにする。
20	プレゼンテーションコンテスト②準備	プレゼンテーションのテーマ設定および構成の検討を行い、伝えたい内容を論理的に整理する。グループ内での意見交換を通して内容をブラッシュアップし、より説得力のある構成へと改善できるようにする。
21	プレゼンテーションコンテスト③準備	発表資料の作成および発表練習を通して、視覚的に分かりやすい資料作成と効果的な伝達方法について実践的に学ぶ。相互評価を行い、改善点を明確にしたうえで発表内容を修正できるようにする
22	アカデミックライティング⑧	これまでのライティング学習を統合し、論理的かつ説得力のある文章作成の力を定着させる。自身の考えを根拠に基づいて記述し、その妥当性や課題について省察できるようにする。
23	プレゼンテーションコンテスト(学科決勝大会)	これまで準備してきた内容をもとにプレゼンテーションを実施し、自己の考えを他者に対して分かりやすく伝達する。発表後には他者の発表を踏まえて自己の成果と課題を省察し、今後の改善点を具体的に示すことができるようにする。
24	卒業生講話①	卒業生の経験談を通して、学生生活とキャリア選択の関連について具体的に理解する。講話内容をもとに、自身の将来像や今後の行動について再考し、必要な準備や取り組みを説明できるようにする。
25	ゼミ選択①準備	ゼミでの学びの意義や特徴について理解し、各ゼミの内容や専門分野について情報収集を行う。自身の関心や将来の進路を踏まえ、適切なゼミ選択の基準を整理し、

		説明できるようにする。
26	人権講話	人権に関する基本的な考え方や現代社会における課題について理解を深める。講話内容を踏まえ、他者の多様性を尊重する態度の重要性について考察し、自身の行動としてどのように実践するかを具体的に説明できるようにする。
27	卒業生講話②	異なる進路を歩んだ卒業生の講話を通して、多様なキャリア形成の在り方を理解する。複数の事例を比較しながら、自身の価値観や進路選択にどのような影響を与えたかを省察し、今後の行動指針として整理できるようにする。
28	後期振り返りと学年末の総括	1年間の学びを総合的に振り返り、自己の成長および課題を多面的に省察する。あわせて、次年度に向けた目標と具体的な行動計画を立案し、キャリア形成の観点から継続的な成長の見通しを説明できるようにする。
29		
30		

科目コード	13200				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	片上　摩紀			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業では、「働くこと」の意義を個人の生活基盤および社会的役割の双方の観点から捉え、キャリア形成を生涯にわたる発達課題として位置づける。講話や演習、協働的活動を通して、現代社会において求められる汎用的能力（主体性・協働性・課題解決力等）を多面的に理解し、実践的に育成することを目的とする。また、各回の活動においては、経験→内省→概念化→応用のサイクルを意識し、自己の価値観・行動特性・職業観を継続的に見直すことで、将来の進路選択に資する基盤を形成する。

＜授業の到達目標＞
１．自己の資質・能力および価値観を言語化し、職業適性との関連を踏まえて将来の進路について具体的に説明できる。２．講話・演習・協働活動に主体的に参加し、自らの考えを論理的に整理したうえで、口頭およびデジタルツールを用いて他者に伝達・共有できる。３．グループ活動や実践的課題を通して、社会人として求められる基礎的能力（主体性・協働性・課題解決力等）を発揮し、その成果と課題を省察的に記述できる。

＜授業の方法＞
本授業は、講義・演習・省察を組み合わせたアクティブ・ラーニング型授業として実施する。特に、ゲストスピーカーによる講話を起点として、グループワークやディスカッションを通じた相互作用的学習を行い、学習内容の深化を図る。さらに、各回の終了時には省察活動を行い、学びを自己の経験や将来設計と関連づけて再構成することで、知識の定着と転移を促す。また、ICTを活用した学修を推進する。グーグルクラスルームを通じた課題の提出やAIの活用などを織り交ぜる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
本授業では、グループディスカッション、課題解決型ワーク、プレゼンテーション活動等を通して、学生同士の相互作用を重視した学習を行う。特に、チームでの課題遂行においては、役割分担・合意形成・成果発表までのプロセスを経験させることで、実社会における協働的問題解決能力の育成を図る。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：各回のテーマに関連する自己の経験や社会的事象について事前に調べ、自身の意見や疑問点を整理したうえで授業に臨む（60分程度）。復習：授業で得た知見をもとに、自身の考えの変容や新たな気づきを省察し、レポートとして言語化する。また、必要に応じて関連資料の再確認や追加調査を行う（120分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本授業は、ディプロマポリシー１（対人関係能力および自己調整力）および２（専門的知識・技能の基盤形成）に資する科目である。特に、協働的学習や省察活動を通して、他者と協働しながら課題を達成する力を育成するとともに、将来の専門的学修およびキャリア形成に必要な基盤的能力の獲得を目指す。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
講義への取組姿勢・受講態度（30%）：出席状況に加え、授業中の発言、グループ活動への貢献度、主体的な参加態度を総合的に評価する。レポート課題（50%）：各回の省察レポートおよび課題レポートについて、内容の深さ、論理性、自己の経験との関連づけ、表現の適切さを基準に評価する。基礎学力課題（20%）：指定された教材への取組状況および達成度に基づき評価する。また、提出課題に対してはコメント等によるフィードバックを行い、学習の改善につなげる。

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション：年間のスケジュールと目標理解	年間の学習内容と到達目標を理解し、自身のキャリア形成における本授業の位置づけを説明できるようにする。また、1年間の学習計画を立案する。
2	学科長講話	学科長による講話を通して、大学2年次における学びの位置づけとキャリア形成のプロセスについて理解を深める。あわせて、自身のこれまでの学生生活を振り返り、今後の学修および行動の指針を言語化し、説明できるようにする。
3	アカデミックライティング① 卒業研究とは？	卒業論文およびゼミ論文の意義と基本的な構造について理解する。さらに、研究活動に必要な基礎的視点（問いの設定・情報収集・論理的記述）について学び、今後の学修に向けて必要な準備内容を具体的に説明できるようにする。
4	アカデミックライティング②（オンデマンド課題）	提示されたオンデマンド課題に取り組むことで、アカデミックライティングの基礎（構成・表現・引用の基本）を実践的に理解する。課題を通して、自身の文章表現の課題を把握し、改善点を具体的に言語化できるようにする。

5	学長講話	学長講話を通して、本学の理念や求められる学生像について理解を深める。これまでの1年半の成長を振り返りながら、自身の行動や態度を見直し、今後どのような学生として成長していくかを具体的に構想し、説明できるようにする。
6	アカデミックライティング③	卒業研究に向けた基礎的知識（テーマ設定、資料収集方法等）について理解を深める。さらに、自身の関心分野をもとに、今後探究していきたいテーマの方向性を検討し、その理由を含めて説明できるようにする。
7	アカデミックライティング④実践	実際に短い文章作成に取り組むことで、論理的な構成や根拠に基づく記述の方法を実践的に学ぶ。作成した文章を振り返り、論理性や説得力の観点から改善点を見出し、修正方針を示すことができるようにする。
8	キャリアセンター講話（就職活動とは）	就職活動の全体像やスケジュール、求められる準備について理解する。あわせて、自身の職業観や価値観を整理し、キャリア形成に向けて現時点で取り組むべき行動を具体的に挙げ、説明できるようにする。
9	ビジネス講話①	実社会で活躍するビジネスパーソンの講話を通して、仕事の実態や求められる能力について理解を深める。講話内容をもとに、自身のキャリア観との共通点や相違点を整理し、今後の行動にどのように活かすかを考察できるようにする。
10	スポーツ交流会・国際交流活動	スポーツや交流活動を通して、多様な背景をもつ他者との関係構築の重要性を体験的に理解する。活動を振り返り、チームビルディングのプロセスやコミュニケーションの工夫について整理し、より良い協働の在り方について説明できるようにする。
11	アカデミックライティング⑤	卒業研究に必要な知識（文献の扱い方、論拠の示し方等）について理解を深める。あわせて、他者の文章や資料を適切に活用する方法を学び、自身の文章にどのように反映させるかを説明できるようにする。
12	アカデミックライティング⑥実践	実践的なライティング課題に取り組み、情報を整理し論理的に記述する力を養う。作成した文章について自己評価および相互評価を行い、客観的視点から改善点を見出すことができるようにする。
13	My favorite book （私の好きな本）	自身が選んだ書籍について内容を整理し、感想や考察を文章としてまとめることで、読解力および表現力を高める。また、読書経験を通して得られた気づきを他者と共有し、多様な価値観や視点に触れることで理解を深める。
14	前期振り返りと夏季休暇の有意義な過ごし方	第1クオーターおよび第2クオーターの学びを振り返り、自身の成長や課題を省察する。あわせて、夏季休暇期間における目標と具体的な行動計画を立案し、今後の学修およびキャリア形成に向けた見通しを明確にする。
15	後期オリエンテーション	後期の授業内容および到達目標を理解し、前期の学びを踏まえて自己の課題を整理する。あわせて、後期における学修目標と具体的な行動計画を設定し、主体的な学びに向けた見通しを説明できるようにする。
16	ビジネス講話②	ビジネスパーソンの講話を通して、社会における課題や仕事の意義について多角的に理解する。講話内容を踏まえ、自身のキャリア観との関連を整理し、今後身につけるべき能力や行動について具体的に説明できるようにする。
17	スポーツフェスタ代替日	スポーツ活動を通して、健康の保持増進および集団における協働の意義を体験的に理解する。活動後には、チームでの役割やコミュニケーションの在り方を振り返り、より良い人間関係の構築に向けた課題と改善策を言語化できるようにする。
18	アカデミックライティング⑦	卒業研究に向けた知識の定着を図るとともに、論理的な文章構成や根拠の示し方について理解を深める。自身の関心テーマに基づき、簡易的な論述構成を作成し、その妥当性を説明できるようにする。
19	マイナビ マッチプラスプレゼンテーションコンテスト①準備	就職支援ツール等を活用しながら自己分析を行い、自身の強みや価値観を整理する。あわせて、プレゼンテーションコンテストの趣旨および評価観点を理解し、効果的なプレゼンテーションに必要な要素（構成・表現・資料作成等）を説明できるようにする。
20	プレゼンテーションコンテスト②準備	プレゼンテーションのテーマ設定および構成の検討を行い、伝えたい内容を論理的に整理する。グループ内での意見交換を通して内容をブラッシュアップし、より説得力のある構成へと改善できるようにする。
21	プレゼンテーションコンテスト③準備	発表資料の作成および発表練習を通して、視覚的に分かりやすい資料作成と効果的な伝達方法について実践的に学ぶ。相互評価を行い、改善点を明確にしたうえで発表内容を修正できるようにする
22	アカデミックライティング⑧	これまでのライティング学習を統合し、論理的かつ説得力のある文章作成の力を定着させる。自身の考えを根拠に基づいて記述し、その妥当性や課題について省察できるようにする。
23	プレゼンテーションコンテスト(学科決勝大会)	これまで準備してきた内容をもとにプレゼンテーションを実施し、自己の考えを他者に対して分かりやすく伝達する。発表後には他者の発表を踏まえて自己の成果と課題を省察し、今後の改善点を具体的に示すことができるようにする。
24	卒業生講話①	卒業生の経験談を通して、学生生活とキャリア選択の関連について具体的に理解する。講話内容をもとに、自身の将来像や今後の行動について再考し、必要な準備や取り組みを説明できるようにする。
25	ゼミ選択①準備	ゼミでの学びの意義や特徴について理解し、各ゼミの内容や専門分野について情報収集を行う。自身の関心や将来の進路を踏まえ、適切なゼミ選択の基準を整理し、

		説明できるようにする。
26	人権講話	人権に関する基本的な考え方や現代社会における課題について理解を深める。講話内容を踏まえ、他者の多様性を尊重する態度の重要性について考察し、自身の行動としてどのように実践するかを具体的に説明できるようにする。
27	卒業生講話②	異なる進路を歩んだ卒業生の講話を通して、多様なキャリア形成の在り方を理解する。複数の事例を比較しながら、自身の価値観や進路選択にどのような影響を与えたかを省察し、今後の行動指針として整理できるようにする。
28	後期振り返りと学年末の総括	1年間の学びを総合的に振り返り、自己の成長および課題を多面的に省察する。あわせて、次年度に向けた目標と具体的な行動計画を立案し、キャリア形成の観点から継続的な成長の見通しを説明できるようにする。
29		
30		

科目コード	13200				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	SACKO　Salif			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業では、「働くこと」の意義を個人の生活基盤および社会的役割の双方の観点から捉え、キャリア形成を生涯にわたる発達課題として位置づける。講話や演習、協働的活動を通して、現代社会において求められる汎用的能力（主体性・協働性・課題解決力等）を多面的に理解し、実践的に育成することを目的とする。また、各回の活動においては、経験→内省→概念化→応用のサイクルを意識し、自己の価値観・行動特性・職業観を継続的に見直すことで、将来の進路選択に資する基盤を形成する。

＜授業の到達目標＞
１．自己の資質・能力および価値観を言語化し、職業適性との関連を踏まえて将来の進路について具体的に説明できる。２．講話・演習・協働活動に主体的に参加し、自らの考えを論理的に整理したうえで、口頭およびデジタルツールを用いて他者に伝達・共有できる。３．グループ活動や実践的課題を通して、社会人として求められる基礎的能力（主体性・協働性・課題解決力等）を発揮し、その成果と課題を省察的に記述できる。

＜授業の方法＞
本授業は、講義・演習・省察を組み合わせたアクティブ・ラーニング型授業として実施する。特に、ゲストスピーカーによる講話を起点として、グループワークやディスカッションを通じた相互作用的学習を行い、学習内容の深化を図る。さらに、各回の終了時には省察活動を行い、学びを自己の経験や将来設計と関連づけて再構成することで、知識の定着と転移を促す。また、ICTを活用した学修を推進する。グーグルクラスルームを通じた課題の提出やAIの活用などを織り交ぜる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
本授業では、グループディスカッション、課題解決型ワーク、プレゼンテーション活動等を通して、学生同士の相互作用を重視した学習を行う。特に、チームでの課題遂行においては、役割分担・合意形成・成果発表までのプロセスを経験させることで、実社会における協働的問題解決能力の育成を図る。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：各回のテーマに関連する自己の経験や社会的事象について事前に調べ、自身の意見や疑問点を整理したうえで授業に臨む（60分程度）。復習：授業で得た知見をもとに、自身の考えの変容や新たな気づきを省察し、レポートとして言語化する。また、必要に応じて関連資料の再確認や追加調査を行う（120分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本授業は、ディプロマポリシー１（対人関係能力および自己調整力）および２（専門的知識・技能の基盤形成）に資する科目である。特に、協働的学習や省察活動を通して、他者と協働しながら課題を達成する力を育成するとともに、将来の専門的学修およびキャリア形成に必要な基盤的能力の獲得を目指す。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
講義への取組姿勢・受講態度（30%）：出席状況に加え、授業中の発言、グループ活動への貢献度、主体的な参加態度を総合的に評価する。レポート課題（50%）：各回の省察レポートおよび課題レポートについて、内容の深さ、論理性、自己の経験との関連づけ、表現の適切さを基準に評価する。基礎学力課題（20%）：指定された教材への取組状況および達成度に基づき評価する。また、提出課題に対してはコメント等によるフィードバックを行い、学習の改善につなげる。

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション：年間のスケジュールと目標理解	年間の学習内容と到達目標を理解し、自身のキャリア形成における本授業の位置づけを説明できるようにする。また、1年間の学習計画を立案する。
2	学科長講話	学科長による講話を通して、大学2年次における学びの位置づけとキャリア形成のプロセスについて理解を深める。あわせて、自身のこれまでの学生生活を振り返り、今後の学修および行動の指針を言語化し、説明できるようにする。
3	アカデミックライティング① 卒業研究とは？	卒業論文およびゼミ論文の意義と基本的な構造について理解する。さらに、研究活動に必要な基礎的視点（問いの設定・情報収集・論理的記述）について学び、今後の学修に向けて必要な準備内容を具体的に説明できるようにする。
4	アカデミックライティング②（オンデマンド課題）	提示されたオンデマンド課題に取り組むことで、アカデミックライティングの基礎（構成・表現・引用の基本）を実践的に理解する。課題を通して、自身の文章表現の課題を把握し、改善点を具体的に言語化できるようにする。

5	学長講話	学長講話を通して、本学の理念や求められる学生像について理解を深める。これまでの1年半の成長を振り返りながら、自身の行動や態度を見直し、今後どのような学生として成長していくかを具体的に構想し、説明できるようにする。
6	アカデミックライティング③	卒業研究に向けた基礎的知識（テーマ設定、資料収集方法等）について理解を深める。さらに、自身の関心分野をもとに、今後探究していきたいテーマの方向性を検討し、その理由を含めて説明できるようにする。
7	アカデミックライティング④実践	実際に短い文章作成に取り組むことで、論理的な構成や根拠に基づく記述の方法を実践的に学ぶ。作成した文章を振り返り、論理性や説得力の観点から改善点を見出し、修正方針を示すことができるようにする。
8	キャリアセンター講話（就職活動とは）	就職活動の全体像やスケジュール、求められる準備について理解する。あわせて、自身の職業観や価値観を整理し、キャリア形成に向けて現時点で取り組むべき行動を具体的に挙げ、説明できるようにする。
9	ビジネス講話①	実社会で活躍するビジネスパーソンの講話を通して、仕事の実態や求められる能力について理解を深める。講話内容をもとに、自身のキャリア観との共通点や相違点を整理し、今後の行動にどのように活かすかを考察できるようにする。
10	スポーツ交流会・国際交流活動	スポーツや交流活動を通して、多様な背景をもつ他者との関係構築の重要性を体験的に理解する。活動を振り返り、チームビルディングのプロセスやコミュニケーションの工夫について整理し、より良い協働の在り方について説明できるようにする。
11	アカデミックライティング⑤	卒業研究に必要な知識（文献の扱い方、論拠の示し方等）について理解を深める。あわせて、他者の文章や資料を適切に活用する方法を学び、自身の文章にどのように反映させるかを説明できるようにする。
12	アカデミックライティング⑥実践	実践的なライティング課題に取り組み、情報を整理し論理的に記述する力を養う。作成した文章について自己評価および相互評価を行い、客観的視点から改善点を見出すことができるようにする。
13	My favorite book （私の好きな本）	自身が選んだ書籍について内容を整理し、感想や考察を文章としてまとめることで、読解力および表現力を高める。また、読書経験を通して得られた気づきを他者と共有し、多様な価値観や視点に触れることで理解を深める。
14	前期振り返りと夏季休暇の有意義な過ごし方	第1クオーターおよび第2クオーターの学びを振り返り、自身の成長や課題を省察する。あわせて、夏季休暇期間における目標と具体的な行動計画を立案し、今後の学修およびキャリア形成に向けた見通しを明確にする。
15	後期オリエンテーション	後期の授業内容および到達目標を理解し、前期の学びを踏まえて自己の課題を整理する。あわせて、後期における学修目標と具体的な行動計画を設定し、主体的な学びに向けた見通しを説明できるようにする。
16	ビジネス講話②	ビジネスパーソンの講話を通して、社会における課題や仕事の意義について多角的に理解する。講話内容を踏まえ、自身のキャリア観との関連を整理し、今後身につけるべき能力や行動について具体的に説明できるようにする。
17	スポーツフェスタ代替日	スポーツ活動を通して、健康の保持増進および集団における協働の意義を体験的に理解する。活動後には、チームでの役割やコミュニケーションの在り方を振り返り、より良い人間関係の構築に向けた課題と改善策を言語化できるようにする。
18	アカデミックライティング⑦	卒業研究に向けた知識の定着を図るとともに、論理的な文章構成や根拠の示し方について理解を深める。自身の関心テーマに基づき、簡易的な論述構成を作成し、その妥当性を説明できるようにする。
19	マイナビ マッチプラスプレゼンテーションコンテスト①準備	就職支援ツール等を活用しながら自己分析を行い、自身の強みや価値観を整理する。あわせて、プレゼンテーションコンテストの趣旨および評価観点を理解し、効果的なプレゼンテーションに必要な要素（構成・表現・資料作成等）を説明できるようにする。
20	プレゼンテーションコンテスト②準備	プレゼンテーションのテーマ設定および構成の検討を行い、伝えたい内容を論理的に整理する。グループ内での意見交換を通して内容をブラッシュアップし、より説得力のある構成へと改善できるようにする。
21	プレゼンテーションコンテスト③準備	発表資料の作成および発表練習を通して、視覚的に分かりやすい資料作成と効果的な伝達方法について実践的に学ぶ。相互評価を行い、改善点を明確にしたうえで発表内容を修正できるようにする
22	アカデミックライティング⑧	これまでのライティング学習を統合し、論理的かつ説得力のある文章作成の力を定着させる。自身の考えを根拠に基づいて記述し、その妥当性や課題について省察できるようにする。
23	プレゼンテーションコンテスト(学科決勝大会)	これまで準備してきた内容をもとにプレゼンテーションを実施し、自己の考えを他者に対して分かりやすく伝達する。発表後には他者の発表を踏まえて自己の成果と課題を省察し、今後の改善点を具体的に示すことができるようにする。
24	卒業生講話①	卒業生の経験談を通して、学生生活とキャリア選択の関連について具体的に理解する。講話内容をもとに、自身の将来像や今後の行動について再考し、必要な準備や取り組みを説明できるようにする。
25	ゼミ選択①準備	ゼミでの学びの意義や特徴について理解し、各ゼミの内容や専門分野について情報収集を行う。自身の関心や将来の進路を踏まえ、適切なゼミ選択の基準を整理し、

		説明できるようにする。
26	人権講話	人権に関する基本的な考え方や現代社会における課題について理解を深める。講話内容を踏まえ、他者の多様性を尊重する態度の重要性について考察し、自身の行動としてどのように実践するかを具体的に説明できるようにする。
27	卒業生講話②	異なる進路を歩んだ卒業生の講話を通して、多様なキャリア形成の在り方を理解する。複数の事例を比較しながら、自身の価値観や進路選択にどのような影響を与えたかを省察し、今後の行動指針として整理できるようにする。
28	後期振り返りと学年末の総括	1年間の学びを総合的に振り返り、自己の成長および課題を多面的に省察する。あわせて、次年度に向けた目標と具体的な行動計画を立案し、キャリア形成の観点から継続的な成長の見通しを説明できるようにする。
29		
30		

科目コード	13200				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	清水　健太			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業では、「働くこと」の意義を個人の生活基盤および社会的役割の双方の観点から捉え、キャリア形成を生涯にわたる発達課題として位置づける。講話や演習、協働的活動を通して、現代社会において求められる汎用的能力（主体性・協働性・課題解決力等）を多面的に理解し、実践的に育成することを目的とする。また、各回の活動においては、経験→内省→概念化→応用のサイクルを意識し、自己の価値観・行動特性・職業観を継続的に見直すことで、将来の進路選択に資する基盤を形成する。

＜授業の到達目標＞
１．自己の資質・能力および価値観を言語化し、職業適性との関連を踏まえて将来の進路について具体的に説明できる。２．講話・演習・協働活動に主体的に参加し、自らの考えを論理的に整理したうえで、口頭およびデジタルツールを用いて他者に伝達・共有できる。３．グループ活動や実践的課題を通して、社会人として求められる基礎的能力（主体性・協働性・課題解決力等）を発揮し、その成果と課題を省察的に記述できる。

＜授業の方法＞
本授業は、講義・演習・省察を組み合わせたアクティブ・ラーニング型授業として実施する。特に、ゲストスピーカーによる講話を起点として、グループワークやディスカッションを通じた相互作用的学習を行い、学習内容の深化を図る。さらに、各回の終了時には省察活動を行い、学びを自己の経験や将来設計と関連づけて再構成することで、知識の定着と転移を促す。また、ICTを活用した学修を推進する。グーグルクラスルームを通じた課題の提出やAIの活用などを織り交ぜる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
本授業では、グループディスカッション、課題解決型ワーク、プレゼンテーション活動等を通して、学生同士の相互作用を重視した学習を行う。特に、チームでの課題遂行においては、役割分担・合意形成・成果発表までのプロセスを経験させることで、実社会における協働的問題解決能力の育成を図る。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：各回のテーマに関連する自己の経験や社会的事象について事前に調べ、自身の意見や疑問点を整理したうえで授業に臨む（60分程度）。復習：授業で得た知見をもとに、自身の考えの変容や新たな気づきを省察し、レポートとして言語化する。また、必要に応じて関連資料の再確認や追加調査を行う（120分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本授業は、ディプロマポリシー１（対人関係能力および自己調整力）および２（専門的知識・技能の基盤形成）に資する科目である。特に、協働的学習や省察活動を通して、他者と協働しながら課題を達成する力を育成するとともに、将来の専門的学修およびキャリア形成に必要な基盤的能力の獲得を目指す。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
講義への取組姿勢・受講態度（30%）：出席状況に加え、授業中の発言、グループ活動への貢献度、主体的な参加態度を総合的に評価する。レポート課題（50%）：各回の省察レポートおよび課題レポートについて、内容の深さ、論理性、自己の経験との関連づけ、表現の適切さを基準に評価する。基礎学力課題（20%）：指定された教材への取組状況および達成度に基づき評価する。また、提出課題に対してはコメント等によるフィードバックを行い、学習の改善につなげる。

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション：年間のスケジュールと目標理解	年間の学習内容と到達目標を理解し、自身のキャリア形成における本授業の位置づけを説明できるようにする。また、1年間の学習計画を立案する。
2	学科長講話	学科長による講話を通して、大学2年次における学びの位置づけとキャリア形成のプロセスについて理解を深める。あわせて、自身のこれまでの学生生活を振り返り、今後の学修および行動の指針を言語化し、説明できるようにする。
3	アカデミックライティング① 卒業研究とは？	卒業論文およびゼミ論文の意義と基本的な構造について理解する。さらに、研究活動に必要な基礎的視点（問いの設定・情報収集・論理的記述）について学び、今後の学修に向けて必要な準備内容を具体的に説明できるようにする。
4	アカデミックライティング②（オンデマンド課題）	提示されたオンデマンド課題に取り組むことで、アカデミックライティングの基礎（構成・表現・引用の基本）を実践的に理解する。課題を通して、自身の文章表現の課題を把握し、改善点を具体的に言語化できるようにする。

5	学長講話	学長講話を通して、本学の理念や求められる学生像について理解を深める。これまでの1年半の成長を振り返りながら、自身の行動や態度を見直し、今後どのような学生として成長していくかを具体的に構想し、説明できるようにする。
6	アカデミックライティング③	卒業研究に向けた基礎的知識（テーマ設定、資料収集方法等）について理解を深める。さらに、自身の関心分野をもとに、今後探究していきたいテーマの方向性を検討し、その理由を含めて説明できるようにする。
7	アカデミックライティング④実践	実際に短い文章作成に取り組むことで、論理的な構成や根拠に基づく記述の方法を実践的に学ぶ。作成した文章を振り返り、論理性や説得力の観点から改善点を見出し、修正方針を示すことができるようにする。
8	キャリアセンター講話（就職活動とは）	就職活動の全体像やスケジュール、求められる準備について理解する。あわせて、自身の職業観や価値観を整理し、キャリア形成に向けて現時点で取り組むべき行動を具体的に挙げ、説明できるようにする。
9	ビジネス講話①	実社会で活躍するビジネスパーソンの講話を通して、仕事の実態や求められる能力について理解を深める。講話内容をもとに、自身のキャリア観との共通点や相違点を整理し、今後の行動にどのように活かすかを考察できるようにする。
10	スポーツ交流会・国際交流活動	スポーツや交流活動を通して、多様な背景をもつ他者との関係構築の重要性を体験的に理解する。活動を振り返り、チームビルディングのプロセスやコミュニケーションの工夫について整理し、より良い協働の在り方について説明できるようにする。
11	アカデミックライティング⑤	卒業研究に必要な知識（文献の扱い方、論拠の示し方等）について理解を深める。あわせて、他者の文章や資料を適切に活用する方法を学び、自身の文章にどのように反映させるかを説明できるようにする。
12	アカデミックライティング⑥実践	実践的なライティング課題に取り組み、情報を整理し論理的に記述する力を養う。作成した文章について自己評価および相互評価を行い、客観的視点から改善点を見出すことができるようにする。
13	My favorite book （私の好きな本）	自身が選んだ書籍について内容を整理し、感想や考察を文章としてまとめることで、読解力および表現力を高める。また、読書経験を通して得られた気づきを他者と共有し、多様な価値観や視点に触れることで理解を深める。
14	前期振り返りと夏季休暇の有意義な過ごし方	第1クオーターおよび第2クオーターの学びを振り返り、自身の成長や課題を省察する。あわせて、夏季休暇期間における目標と具体的な行動計画を立案し、今後の学修およびキャリア形成に向けた見通しを明確にする。
15	後期オリエンテーション	後期の授業内容および到達目標を理解し、前期の学びを踏まえて自己の課題を整理する。あわせて、後期における学修目標と具体的な行動計画を設定し、主体的な学びに向けた見通しを説明できるようにする。
16	ビジネス講話②	ビジネスパーソンの講話を通して、社会における課題や仕事の意義について多角的に理解する。講話内容を踏まえ、自身のキャリア観との関連を整理し、今後身につけるべき能力や行動について具体的に説明できるようにする。
17	スポーツフェスタ代替日	スポーツ活動を通して、健康の保持増進および集団における協働の意義を体験的に理解する。活動後には、チームでの役割やコミュニケーションの在り方を振り返り、より良い人間関係の構築に向けた課題と改善策を言語化できるようにする。
18	アカデミックライティング⑦	卒業研究に向けた知識の定着を図るとともに、論理的な文章構成や根拠の示し方について理解を深める。自身の関心テーマに基づき、簡易的な論述構成を作成し、その妥当性を説明できるようにする。
19	マイナビ マッチプラスプレゼンテーションコンテスト①準備	就職支援ツール等を活用しながら自己分析を行い、自身の強みや価値観を整理する。あわせて、プレゼンテーションコンテストの趣旨および評価観点を理解し、効果的なプレゼンテーションに必要な要素（構成・表現・資料作成等）を説明できるようにする。
20	プレゼンテーションコンテスト②準備	プレゼンテーションのテーマ設定および構成の検討を行い、伝えたい内容を論理的に整理する。グループ内での意見交換を通して内容をブラッシュアップし、より説得力のある構成へと改善できるようにする。
21	プレゼンテーションコンテスト③準備	発表資料の作成および発表練習を通して、視覚的に分かりやすい資料作成と効果的な伝達方法について実践的に学ぶ。相互評価を行い、改善点を明確にしたうえで発表内容を修正できるようにする
22	アカデミックライティング⑧	これまでのライティング学習を統合し、論理的かつ説得力のある文章作成の力を定着させる。自身の考えを根拠に基づいて記述し、その妥当性や課題について省察できるようにする。
23	プレゼンテーションコンテスト(学科決勝大会)	これまで準備してきた内容をもとにプレゼンテーションを実施し、自己の考えを他者に対して分かりやすく伝達する。発表後には他者の発表を踏まえて自己の成果と課題を省察し、今後の改善点を具体的に示すことができるようにする。
24	卒業生講話①	卒業生の経験談を通して、学生生活とキャリア選択の関連について具体的に理解する。講話内容をもとに、自身の将来像や今後の行動について再考し、必要な準備や取り組みを説明できるようにする。
25	ゼミ選択①準備	ゼミでの学びの意義や特徴について理解し、各ゼミの内容や専門分野について情報収集を行う。自身の関心や将来の進路を踏まえ、適切なゼミ選択の基準を整理し、

		説明できるようにする。
26	人権講話	人権に関する基本的な考え方や現代社会における課題について理解を深める。講話内容を踏まえ、他者の多様性を尊重する態度の重要性について考察し、自身の行動としてどのように実践するかを具体的に説明できるようにする。
27	卒業生講話②	異なる進路を歩んだ卒業生の講話を通して、多様なキャリア形成の在り方を理解する。複数の事例を比較しながら、自身の価値観や進路選択にどのような影響を与えたかを省察し、今後の行動指針として整理できるようにする。
28	後期振り返りと学年末の総括	1年間の学びを総合的に振り返り、自己の成長および課題を多面的に省察する。あわせて、次年度に向けた目標と具体的な行動計画を立案し、キャリア形成の観点から継続的な成長の見通しを説明できるようにする。
29		
30		

科目コード	13200				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	高橋　章二／濱嶋　幸司			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義をもつ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕事の適正、求められる能力などの講話を受けることによって、社会人として必要な実践力を向上させていく。また、夢実現のために必要な基礎学力を確実に身に付けさせていく。

＜授業の到達目標＞

１．自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。２．毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。３．実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

＜授業の方法＞

１．講義（ゲストスピーカー等による講話）２．グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション発表３．省察活動（質疑・まとめ・感想発表）３．課題（基礎学力教材に取り組む）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

テーマに基づく授業回においては、少人数でのグループディスカッションをして発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回１時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%レポート課題　70%必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表・提出をすること。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	３年生受験に向けて	教員採用試験にチャレンジ
2	クラスづくり（基礎ゼミと関連）	・グループ内自己紹介及びグループ目標との発表
3	個別面談２	学生とのコミュニケーションを図り、新２年生に上がった段階での進路希望や生活・学習上の課題について聞き取りを行う。また、環トレ進捗状況についても確認を行う。
4	自分の将来について（オンデマンド）	自分の進めべき進路についておよびそれに必要な力の確認
5	自分の将来の夢	PowerPointにまとめた資料を使って自分の夢についてプレゼンを行う。
6	個別面談４	環トレ進捗状況の確認
7	＊教育課題探求　基礎ゼミと関連	長島愛生園オリエンテーション
8	＊教育課題探求　基礎ゼミと関連	長島愛生園グループ協議
9	＊教育課題探求　基礎ゼミと関連	長島愛生園研修
10	人権研修	沢知恵さんを招聘しての人権講話
11	教師の魅力を語る	教職支援室の先生方が語る教師の魅力
12	コースガイダンス	初等・中等・教育社会学コース、コース長からのコース説明と求める学生
13	MATCHplus（予定）	MATCHplusの実施
14	授業なし	
15	面談５	前期目標の総括と後期目標の修正・追加　　個別面談　夏季休業中の様子・後期に向けて・環トレ進捗状況

16	＊教育課題探求　基礎ゼミと関連	教育課題探求　長島愛生園の歴史を今に伝える　環太祭準備
17	人権研修（子ども発達学科合同）	人権研修　研修テーマ未定
18	３志会について（教員・公務員・企業）	夢実現のための場としての３志会について（教員・公務員・企業）について知る。
19	個別面談６	環トレ進捗状況の確認・助言
20	３年生受験について	岡山県教育委員会教職員課による講話
21	校現場体験①	基礎ゼミと関連させ、江西小学校での授業参観
22	学校現場体験②	基礎ゼミと関連させ、江西小学校での授業参観
23	３年生受験対策	３年生受験対策　教職支援室　教員採用試験３年生受験合格者からの合格体験談を聞く
24	４年生受験対策について	４年生受験対策　教職支援室　４年生受験合格者体験から受験対策の方法を学ぶ
25	個別面談７	環トレ進捗状況の確認・助言
26	文書力検定（未）	文書力検定受験
27	授業なし	
28	授業なし	
29		
30		

科目コード	13200				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	三堀　仁／中家　淳悟			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義をもつ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕事の適正、求められる能力などの講話を受けることによって、社会人として必要な実践力を向上させていく。また、夢実現のために必要な基礎学力を確実に身に付けさせていく。

＜授業の到達目標＞

１．自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。２．毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。３．実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

＜授業の方法＞

１．講義（ゲストスピーカー等による講話）２．グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション発表３．省察活動（質疑・まとめ・感想発表）３．課題（基礎学力教材に取り組む）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

テーマに基づく授業回においては、少人数でのグループディスカッションをして発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回１時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%レポート課題　70%必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表・提出をすること。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	３年生受験に向けて	教員採用試験にチャレンジ
2	クラスづくり（基礎ゼミと関連）	・グループ内自己紹介及びグループ目標との発表
3	個別面談２	学生とのコミュニケーションを図り、新２年生に上がった段階での進路希望や生活・学習上の課題について聞き取りを行う。また、環トレ進捗状況についても確認を行う。
4	自分の将来について（オンデマンド）	自分の進めべき進路についておよびそれに必要な力の確認
5	自分の将来の夢	PowerPointにまとめた資料を使って自分の夢についてプレゼンを行う。
6	個別面談４	環トレ進捗状況の確認
7	＊教育課題探求　基礎ゼミと関連	長島愛生園オリエンテーション
8	＊教育課題探求　基礎ゼミと関連	長島愛生園グループ協議
9	＊教育課題探求　基礎ゼミと関連	長島愛生園研修
10	人権研修	沢知恵さんを招聘しての人権講話
11	教師の魅力を語る	教職支援室の先生方が語る教師の魅力
12	コースガイダンス	初等・中等・教育社会学コース、コース長からのコース説明と求める学生
13	MATCHplus（予定）	MATCHplusの実施
14	授業なし	
15	面談５	前期目標の総括と後期目標の修正・追加　　個別面談　夏季休業中の様子・後期に向けて・環トレ進捗状況

16	＊教育課題探求　基礎ゼミと関連	教育課題探求　長島愛生園の歴史を今に伝える　環太祭準備
17	人権研修（子ども発達学科合同）	人権研修　研修テーマ未定
18	３志会について（教員・公務員・企業）	夢実現のための場としての３志会について（教員・公務員・企業）について知る。
19	個別面談６	環トレ進捗状況の確認・助言
20	３年生受験について	岡山県教育委員会教職員課による講話
21	校現場体験①	基礎ゼミと関連させ、江西小学校での授業参観
22	学校現場体験②	基礎ゼミと関連させ、江西小学校での授業参観
23	３年生受験対策	３年生受験対策　教職支援室　教員採用試験３年生受験合格者からの合格体験談を聞く
24	４年生受験対策について	４年生受験対策　教職支援室　４年生受験合格者体験から受験対策の方法を学ぶ
25	個別面談７	環トレ進捗状況の確認・助言
26	文書力検定（未）	文書力検定受験
27	授業なし	
28	授業なし	
29		
30		

科目コード	13200				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	伊藤　仁美／西田　修斗			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義をもつ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕事の適正、求められる能力などの講話を受けることによって、社会人として必要な実践力を向上させていく。また、夢実現のために必要な基礎学力を確実に身に付けさせていく。

＜授業の到達目標＞

１．自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。２．毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。３．実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

＜授業の方法＞

１．講義（ゲストスピーカー等による講話）２．グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション発表３．省察活動（質疑・まとめ・感想発表）３．課題（基礎学力教材に取り組む）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

テーマに基づく授業回においては、少人数でのグループディスカッションをして発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回１時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%レポート課題　70%必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表・提出をすること。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	３年生受験に向けて	教員採用試験にチャレンジ
2	クラスづくり（基礎ゼミと関連）	・グループ内自己紹介及びグループ目標との発表
3	個別面談２	学生とのコミュニケーションを図り、新２年生に上がった段階での進路希望や生活・学習上の課題について聞き取りを行う。また、環トレ進捗状況についても確認を行う。
4	自分の将来について（オンデマンド）	自分の進めべき進路についておよびそれに必要な力の確認
5	自分の将来の夢	PowerPointにまとめた資料を使って自分の夢についてプレゼンを行う。
6	個別面談４	環トレ進捗状況の確認
7	＊教育課題探求　基礎ゼミと関連	長島愛生園オリエンテーション
8	＊教育課題探求　基礎ゼミと関連	長島愛生園グループ協議
9	＊教育課題探求　基礎ゼミと関連	長島愛生園研修
10	人権研修	沢知恵さんを招聘しての人権講話
11	教師の魅力を語る	教職支援室の先生方が語る教師の魅力
12	コースガイダンス	初等・中等・教育社会学コース、コース長からのコース説明と求める学生
13	MATCHplus（予定）	MATCHplusの実施
14	授業なし	
15	面談５	前期目標の総括と後期目標の修正・追加　　個別面談　夏季休業中の様子・後期に向けて・環トレ進捗状況

16	＊教育課題探求　基礎ゼミと関連	教育課題探求　長島愛生園の歴史を今に伝える　環太祭準備
17	人権研修（子ども発達学科合同）	人権研修　研修テーマ未定
18	３志会について（教員・公務員・企業）	夢実現のための場としての３志会について（教員・公務員・企業）について知る。
19	個別面談６	環トレ進捗状況の確認・助言
20	３年生受験について	岡山県教育委員会教職員課による講話
21	校現場体験①	基礎ゼミと関連させ、江西小学校での授業参観
22	学校現場体験②	基礎ゼミと関連させ、江西小学校での授業参観
23	３年生受験対策	３年生受験対策　教職支援室　教員採用試験３年生受験合格者からの合格体験談を聞く
24	４年生受験対策について	４年生受験対策　教職支援室　４年生受験合格者体験から受験対策の方法を学ぶ
25	個別面談７	環トレ進捗状況の確認・助言
26	文書力検定（未）	文書力検定受験
27	授業なし	
28	授業なし	
29		
30		

科目コード	13200				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	大久保　諒／鈩　悠介			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義をもつ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕事の適正、求められる能力などの講話を受けることによって、社会人として必要な実践力を向上させていく。また、夢実現のために必要な基礎学力を確実に身に付けさせていく。

＜授業の到達目標＞

１．自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。２．毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。３．実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

＜授業の方法＞

１．講義（ゲストスピーカー等による講話）２．グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション発表３．省察活動（質疑・まとめ・感想発表）３．課題（基礎学力教材に取り組む）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

テーマに基づく授業回においては、少人数でのグループディスカッションをして発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回１時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%レポート課題　70%必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表・提出をすること。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	３年生受験に向けて	教員採用試験にチャレンジ
2	クラスづくり（基礎ゼミと関連）	・グループ内自己紹介及びグループ目標との発表
3	個別面談２	学生とのコミュニケーションを図り、新２年生に上がった段階での進路希望や生活・学習上の課題について聞き取りを行う。また、環トレ進捗状況についても確認を行う。
4	自分の将来について（オンデマンド）	自分の進めべき進路についておよびそれに必要な力の確認
5	自分の将来の夢	PowerPointにまとめた資料を使って自分の夢についてプレゼンを行う。
6	個別面談４	環トレ進捗状況の確認
7	＊教育課題探求　基礎ゼミと関連	長島愛生園オリエンテーション
8	＊教育課題探求　基礎ゼミと関連	長島愛生園グループ協議
9	＊教育課題探求　基礎ゼミと関連	長島愛生園研修
10	人権研修	沢知恵さんを招聘しての人権講話
11	教師の魅力を語る	教職支援室の先生方が語る教師の魅力
12	コースガイダンス	初等・中等・教育社会学コース、コース長からのコース説明と求める学生
13	MATCHplus（予定）	MATCHplusの実施
14	授業なし	
15	面談５	前期目標の総括と後期目標の修正・追加　　個別面談　夏季休業中の様子・後期に向けて・環トレ進捗状況

16	＊教育課題探求　基礎ゼミと関連	教育課題探求　長島愛生園の歴史を今に伝える　環太祭準備
17	人権研修（子ども発達学科合同）	人権研修　研修テーマ未定
18	３志会について（教員・公務員・企業）	夢実現のための場としての３志会について（教員・公務員・企業）について知る。
19	個別面談６	環トレ進捗状況の確認・助言
20	３年生受験について	岡山県教育委員会教職員課による講話
21	校現場体験①	基礎ゼミと関連させ、江西小学校での授業参観
22	学校現場体験②	基礎ゼミと関連させ、江西小学校での授業参観
23	３年生受験対策	３年生受験対策　教職支援室　教員採用試験３年生受験合格者からの合格体験談を聞く
24	４年生受験対策について	４年生受験対策　教職支援室　４年生受験合格者体験から受験対策の方法を学ぶ
25	個別面談７	環トレ進捗状況の確認・助言
26	文書力検定（未）	文書力検定受験
27	授業なし	
28	授業なし	
29		
30		

科目コード	13200				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	田中　耕作			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

大学生活の2年目は、1年次に身につけた基礎をさらに発展させ、より専門的な学びや社会との関わりを深める重要な時期である。本授業では、社会人基礎力をさらに高めることを目的とし、自己理解を深めながら主体的に行動できる力を養成する。大学生として求められる姿勢や態度を再確認し、専門的な学びや課外活動を通じて自己成長を促す。また、社会との接点を増やし、将来のキャリアや進路選択について具体的に考える機会を提供する。講話形式を基本としながら、グループワークやディスカッションを取り入れ、より実践的な学びを展開する。IPU生としての資質をさらに磨き、自信を持って社会へ踏み出せるよう、主体的な学びの姿勢を確立することを目指す。

＜授業の到達目標＞

本授業では、非認知能力および認知能力を高め、2年次のキャリアディベロップメントにおいて自身の進路を適切に判断できる力を身につける。1年次に培った基礎的な力を発展させ、実践的な学びを通じて主体的に行動し、応用できる力を身につけることを目標とする。毎時の講話や実践的な活動を通して、以下の力を身につけている。① 講義内容や資料を正確に読み取り、要点を整理して説明できる。② 他者の意見を傾聴し、自身の考えを論理的に文章として表現できる。③ 自己の経験や考えをもとに、説得力のあるスピーチやプレゼンテーションができる

＜授業の方法＞

1．講義（メンターやゲストスピーカー等による講話）2．グループワーク3．省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素有りグループディスカッション、プレゼンテーション、ディベート、リフレクション（振り返り）シートの活用などを実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習　スピーチの準備等事前に告知された課題　1時間復習　テーマに即したレポートの作成1時間

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲(出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題）60%,課題レポート（課題,発表)40%

＜教科書＞

運動部学生のためのスポーツ探究ことば入門　河合塾グループ株式会社KEIアドバンス

＜参考書＞

特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	IPU生になる基礎基本①（挨拶・態度等）	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	資格取得に向けた対策①	自身が取得できる資格について考える
3	資格取得に向けた対策②	自身が取得できる資格について調査し、他の学生とディスカッションを行う
4	環トレ_日本語の基本ルールを復習する①	運動部学生のためのスポーツ探究ことば入門を用いて日本語の基本的なルールを復習する
5	基礎学力	個人面談・ことば入門：1
6	日誌の書き方	日本語の基本的なルールを理解した上で日誌の書き方について学ぶ
7	コミニティーの形成	クラス間交流
8	基礎学力	個人面談・ことば入門：2
9	基礎学力	個人面談・ことば入門：3
10	クラス活動	個人面談
11	自己形成	自身の目標設定アクションプランをたてる
12	自己形成②	自身の目標設定アクションプランを発表する。
13	大学の方針・創志学園の歴史	大学の目的・意義・建学の理念を理解する
14	環トレ_前期末テスト	環トレで学んだことの前期末テストを実施する
15	オリエンテーション	履修登録　クラス活動

16	クラス活動	クラス内交流を実施する
17	基礎学力	ことば入門：4
18	選択学習①	基礎学力 or サイエンティスト or 資格に向けての学習
19	選択学習②	基礎学力 or サイエンティスト or 資格に向けての学習
20	選択学習③	基礎学力 or サイエンティスト or 資格に向けての学習
21	基礎学力	ことば入門：5
22	基礎学力	ことば入門：6
23	プレゼンコンテスト①	プレゼンコンテストのクラス内発表
24	プレゼンコンテスト②	プレゼンコンテストのクラス内発表
25	ゼミ決定に向けて	ゼミ決定に向けて考える
26	キャリア講話	公務員 or 教員
27	環トレ_後期末テスト	環トレで学んだことの後期末テストを実施する
28	振り返り	後期学期末集会
29		
30		

科目コード	13200				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	保科　圭汰			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

大学生活の2年目は、1年次に身につけた基礎をさらに発展させ、より専門的な学びや社会との関わりを深める重要な時期である。本授業では、社会人基礎力をさらに高めることを目的とし、自己理解を深めながら主体的に行動できる力を養成する。大学生として求められる姿勢や態度を再確認し、専門的な学びや課外活動を通じて自己成長を促す。また、社会との接点を増やし、将来のキャリアや進路選択について具体的に考える機会を提供する。講話形式を基本としながら、グループワークやディスカッションを取り入れ、より実践的な学びを展開する。IPU生としての資質をさらに磨き、自信を持って社会へ踏み出せるよう、主体的な学びの姿勢を確立することを目指す。

＜授業の到達目標＞

本授業では、非認知能力および認知能力を高め、2年次のキャリアディベロップメントにおいて自身の進路を適切に判断できる力を身につける。1年次に培った基礎的な力を発展させ、実践的な学びを通じて主体的に行動し、応用できる力を身につけることを目標とする。毎時の講話や実践的な活動を通して、以下の力を身につけている。① 講義内容や資料を正確に読み取り、要点を整理して説明できる。② 他者の意見を傾聴し、自身の考えを論理的に文章として表現できる。③ 自己の経験や考えをもとに、説得力のあるスピーチやプレゼンテーションができる

＜授業の方法＞

1．講義（メンターやゲストスピーカー等による講話）2．グループワーク3．省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素有りグループディスカッション、プレゼンテーション、ディベート、リフレクション（振り返り）シートの活用などを実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習　スピーチの準備等事前に告知された課題　1時間復習　テーマに即したレポートの作成1時間

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲(出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題）60%,課題レポート（課題,発表)40%

＜教科書＞

運動部学生のためのスポーツ探究ことば入門　河合塾グループ株式会社KEIアドバンス

＜参考書＞

特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	IPU生になる基礎基本①（挨拶・態度等）	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	資格取得に向けた対策①	自身が取得できる資格について考える
3	資格取得に向けた対策②	自身が取得できる資格について調査し、他の学生とディスカッションを行う
4	環トレ_日本語の基本ルールを復習する①	運動部学生のためのスポーツ探究ことば入門を用いて日本語の基本的なルールを復習する
5	基礎学力	個人面談・ことば入門：1
6	日誌の書き方	日本語の基本的なルールを理解した上で日誌の書き方について学ぶ
7	コミニティーの形成	クラス間交流
8	基礎学力	個人面談・ことば入門：2
9	基礎学力	個人面談・ことば入門：3
10	クラス活動	個人面談
11	自己形成	自身の目標設定アクションプランをたてる
12	自己形成②	自身の目標設定アクションプランを発表する。
13	大学の方針・創志学園の歴史	大学の目的・意義・建学の理念を理解する
14	環トレ_前期末テスト	環トレで学んだことの前期末テストを実施する
15	オリエンテーション	履修登録　クラス活動

16	クラス活動	クラス内交流を実施する
17	基礎学力	ことば入門：4
18	選択学習①	基礎学力 or サイエンティスト or 資格に向けての学習
19	選択学習②	基礎学力 or サイエンティスト or 資格に向けての学習
20	選択学習③	基礎学力 or サイエンティスト or 資格に向けての学習
21	基礎学力	ことば入門：5
22	基礎学力	ことば入門：6
23	プレゼンコンテスト①	プレゼンコンテストのクラス内発表
24	プレゼンコンテスト②	プレゼンコンテストのクラス内発表
25	ゼミ決定に向けて	ゼミ決定に向けて考える
26	キャリア講話	公務員 or 教員
27	環トレ_後期末テスト	環トレで学んだことの後期末テストを実施する
28	振り返り	後期学期末集会
29		
30		

科目コード	13200				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	秦　啓一郎			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

大学生活の2年目は、1年次に身につけた基礎をさらに発展させ、より専門的な学びや社会との関わりを深める重要な時期である。本授業では、社会人基礎力をさらに高めることを目的とし、自己理解を深めながら主体的に行動できる力を養成する。大学生として求められる姿勢や態度を再確認し、専門的な学びや課外活動を通じて自己成長を促す。また、社会との接点を増やし、将来のキャリアや進路選択について具体的に考える機会を提供する。講話形式を基本としながら、グループワークやディスカッションを取り入れ、より実践的な学びを展開する。IPU生としての資質をさらに磨き、自信を持って社会へ踏み出せるよう、主体的な学びの姿勢を確立することを目指す。

＜授業の到達目標＞

本授業では、非認知能力および認知能力のさらなる向上を目的とし、2年次のキャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定を支える力を養う。1年次に培った基礎的な力を発展させ、より実践的な学びを通じて主体性と応用力を高めることを目指す。毎時の講話や実践的な活動を通して、以下の力を身につける。① より高度な読解力や傾聴力、論理的思考を伴う書く力の向上。② 自己表現力を高め、説得力を持ったスピーチやプレゼンテーション能力の強化。③ 学生生活や学習習慣、キャリア設計を見据えた自己管理・時間管理能力の向上。④

＜授業の方法＞

1．講義（メンターやゲストスピーカー等による講話）2．グループワーク3．省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素有りグループディスカッション、プレゼンテーション、ディベート、リフレクション（振り返り）シートの活用などを実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習　スピーチの準備等事前に告知された課題　1時間復習　テーマに即したレポートの作成1時間

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲(出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題）60%,課題レポート（課題,発表)40%

＜教科書＞

運動部学生のためのスポーツ探究ことば入門　河合塾グループ株式会社KEIアドバンス

＜参考書＞

特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	IPU生になる基礎基本①（挨拶・態度等）	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	資格取得に向けた対策①	自身が取得できる資格について考える
3	資格取得に向けた対策②	自身が取得できる資格について調査し、他の学生とディスカッションを行う
4	環トレ_日本語の基本ルールを復習する①	運動部学生のためのスポーツ探究ことば入門を用いて日本語の基本的なルールを復習する
5	基礎学力	個人面談・ことば入門：1
6	日誌の書き方	日本語の基本的なルールを理解した上で日誌の書き方について学ぶ
7	コミニティーの形成	クラス間交流
8	基礎学力	個人面談・ことば入門：2
9	基礎学力	個人面談・ことば入門：3
10	クラス活動	個人面談
11	自己形成	自身の目標設定アクションプランをたてる
12	自己形成②	自身の目標設定アクションプランを発表する。
13	大学の方針・創志学園の歴史	大学の目的・意義・建学の理念を理解する
14	環トレ_前期末テスト	環トレで学んだことの前期末テストを実施する
15	オリエンテーション	履修登録　クラス活動

16	クラス活動	クラス内交流を実施する
17	基礎学力	ことば入門：4
18	選択学習①	基礎学力 or サイエンティスト or 資格に向けての学習
19	選択学習②	基礎学力 or サイエンティスト or 資格に向けての学習
20	選択学習③	基礎学力 or サイエンティスト or 資格に向けての学習
21	基礎学力	ことば入門：5
22	基礎学力	ことば入門：6
23	プレゼンコンテスト①	プレゼンコンテストのクラス内発表
24	プレゼンコンテスト②	プレゼンコンテストのクラス内発表
25	ゼミ決定に向けて	ゼミ決定に向けて考える
26	キャリア講話	公務員 or 教員
27	環トレ_後期末テスト	環トレで学んだことの後期末テストを実施する
28	振り返り	後期学期末集会
29		
30		

科目コード	13200				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	佐々木　史之			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

大学生活の2年目は、1年次に身につけた基礎をさらに発展させ、より専門的な学びや社会との関わりを深める重要な時期である。本授業では、社会人基礎力をさらに高めることを目的とし、自己理解を深めながら主体的に行動できる力を養成する。大学生として求められる姿勢や態度を再確認し、専門的な学びや課外活動を通じて自己成長を促す。また、社会との接点を増やし、将来のキャリアや進路選択について具体的に考える機会を提供する。講話形式を基本としながら、グループワークやディスカッションを取り入れ、より実践的な学びを展開する。IPU生としての資質をさらに磨き、自信を持って社会へ踏み出せるよう、主体的な学びの姿勢を確立することを目指す。

＜授業の到達目標＞

本授業では、非認知能力および認知能力を高め、2年次のキャリアディベロップメントにおいて自身の進路を適切に判断できる力を身につける。1年次に培った基礎的な力を発展させ、実践的な学びを通じて主体的に行動し、応用できる力を身につけることを目標とする。毎時の講話や実践的な活動を通して、以下の力を身につけている。① 講義内容や資料を正確に読み取り、要点を整理して説明できる。② 他者の意見を傾聴し、自身の考えを論理的に文章として表現できる。③ 自己の経験や考えをもとに、説得力のあるスピーチやプレゼンテーションができる

＜授業の方法＞

1．講義（メンターやゲストスピーカー等による講話）2．グループワーク3．省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素有りグループディスカッション、プレゼンテーション、ディベート、リフレクション（振り返り）シートの活用などを実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習　スピーチの準備等事前に告知された課題　1時間復習　テーマに即したレポートの作成1時間

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲(出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題）60%,課題レポート（課題,発表)40%

＜教科書＞

運動部学生のためのスポーツ探究ことば入門　河合塾グループ株式会社KEIアドバンス

＜参考書＞

特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	IPU生になる基礎基本①（挨拶・態度等）	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	資格取得に向けた対策①	自身が取得できる資格について考える
3	資格取得に向けた対策②	自身が取得できる資格について調査し、他の学生とディスカッションを行う
4	環トレ_日本語の基本ルールを復習する①	運動部学生のためのスポーツ探究ことば入門を用いて日本語の基本的なルールを復習する
5	基礎学力	個人面談・ことば入門：1
6	日誌の書き方	日本語の基本的なルールを理解した上で日誌の書き方について学ぶ
7	コミニティーの形成	クラス間交流
8	基礎学力	個人面談・ことば入門：2
9	基礎学力	個人面談・ことば入門：3
10	クラス活動	個人面談
11	自己形成	自身の目標設定アクションプランをたてる
12	自己形成②	自身の目標設定アクションプランを発表する。
13	大学の方針・創志学園の歴史	大学の目的・意義・建学の理念を理解する
14	環トレ_前期末テスト	環トレで学んだことの前期末テストを実施する
15	オリエンテーション	履修登録　クラス活動

16	クラス活動	クラス内交流を実施する
17	基礎学力	ことば入門：4
18	選択学習①	基礎学力 or サイエンティスト or 資格に向けての学習
19	選択学習②	基礎学力 or サイエンティスト or 資格に向けての学習
20	選択学習③	基礎学力 or サイエンティスト or 資格に向けての学習
21	基礎学力	ことば入門：5
22	基礎学力	ことば入門：6
23	プレゼンコンテスト①	プレゼンコンテストのクラス内発表
24	プレゼンコンテスト②	プレゼンコンテストのクラス内発表
25	ゼミ決定に向けて	ゼミ決定に向けて考える
26	キャリア講話	公務員 or 教員
27	環トレ_後期末テスト	環トレで学んだことの後期末テストを実施する
28	振り返り	後期学期末集会
29		
30		

科目コード	13200				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	吉岡　利貢			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

大学生活の2年目は、1年次に身につけた基礎をさらに発展させ、より専門的な学びや社会との関わりを深める重要な時期である。本授業では、社会人基礎力をさらに高めることを目的とし、自己理解を深めながら主体的に行動できる力を養成する。大学生として求められる姿勢や態度を再確認し、専門的な学びや課外活動を通じて自己成長を促す。また、社会との接点を増やし、将来のキャリアや進路選択について具体的に考える機会を提供する。講話形式を基本としながら、グループワークやディスカッションを取り入れ、より実践的な学びを展開する。IPU生としての資質をさらに磨き、自信を持って社会へ踏み出せるよう、主体的な学びの姿勢を確立することを目指す。

＜授業の到達目標＞

本授業では、非認知能力および認知能力を高め、2年次のキャリアディベロップメントにおいて自身の進路を適切に判断できる力を身につける。1年次に培った基礎的な力を発展させ、実践的な学びを通じて主体的に行動し、応用できる力を身につけることを目標とする。毎時の講話や実践的な活動を通して、以下の力を身につけている。① 講義内容や資料を正確に読み取り、要点を整理して説明できる。② 他者の意見を傾聴し、自身の考えを論理的に文章として表現できる。③ 自己の経験や考えをもとに、説得力のあるスピーチやプレゼンテーションができる

＜授業の方法＞

1．講義（メンターやゲストスピーカー等による講話）2．グループワーク3．省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素有りグループディスカッション、プレゼンテーション、ディベート、リフレクション（振り返り）シートの活用などを実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習　スピーチの準備等事前に告知された課題　1時間復習　テーマに即したレポートの作成1時間

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲(出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題）60%,課題レポート（課題,発表)40%

＜教科書＞

運動部学生のためのスポーツ探究ことば入門　河合塾グループ株式会社KEIアドバンス

＜参考書＞

特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	IPU生になる基礎基本①（挨拶・態度等）	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	資格取得に向けた対策①	自身が取得できる資格について考える
3	資格取得に向けた対策②	自身が取得できる資格について調査し、他の学生とディスカッションを行う
4	環トレ_日本語の基本ルールを復習する①	運動部学生のためのスポーツ探究ことば入門を用いて日本語の基本的なルールを復習する
5	基礎学力	個人面談・ことば入門：1
6	日誌の書き方	日本語の基本的なルールを理解した上で日誌の書き方について学ぶ
7	コミニティーの形成	クラス間交流
8	基礎学力	個人面談・ことば入門：2
9	基礎学力	個人面談・ことば入門：3
10	クラス活動	個人面談
11	自己形成	自身の目標設定アクションプランをたてる
12	自己形成②	自身の目標設定アクションプランを発表する。
13	大学の方針・創志学園の歴史	大学の目的・意義・建学の理念を理解する
14	環トレ_前期末テスト	環トレで学んだことの前期末テストを実施する
15	オリエンテーション	履修登録　クラス活動

16	クラス活動	クラス内交流を実施する
17	基礎学力	ことば入門：4
18	選択学習①	基礎学力 or サイエンティスト or 資格に向けての学習
19	選択学習②	基礎学力 or サイエンティスト or 資格に向けての学習
20	選択学習③	基礎学力 or サイエンティスト or 資格に向けての学習
21	基礎学力	ことば入門：5
22	基礎学力	ことば入門：6
23	プレゼンコンテスト①	プレゼンコンテストのクラス内発表
24	プレゼンコンテスト②	プレゼンコンテストのクラス内発表
25	ゼミ決定に向けて	ゼミ決定に向けて考える
26	キャリア講話	公務員 or 教員
27	環トレ_後期末テスト	環トレで学んだことの後期末テストを実施する
28	振り返り	後期学期末集会
29		
30		

科目コード	13200				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	金谷　和幸			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

大学生活の2年目は、1年次に身につけた基礎をさらに発展させ、より専門的な学びや社会との関わりを深める重要な時期である。本授業では、社会人基礎力をさらに高めることを目的とし、自己理解を深めながら主体的に行動できる力を養成する。大学生として求められる姿勢や態度を再確認し、専門的な学びや課外活動を通じて自己成長を促す。また、社会との接点を増やし、将来のキャリアや進路選択について具体的に考える機会を提供する。講話形式を基本としながら、グループワークやディスカッションを取り入れ、より実践的な学びを展開する。IPU生としての資質をさらに磨き、自信を持って社会へ踏み出せるよう、主体的な学びの姿勢を確立することを目指す。

＜授業の到達目標＞

本授業では、非認知能力および認知能力を高め、2年次のキャリアディベロップメントにおいて自身の進路を適切に判断できる力を身につける。1年次に培った基礎的な力を発展させ、実践的な学びを通じて主体的に行動し、応用できる力を身につけることを目標とする。毎時の講話や実践的な活動を通して、以下の力を身につけている。① 講義内容や資料を正確に読み取り、要点を整理して説明できる。② 他者の意見を傾聴し、自身の考えを論理的に文章として表現できる。③ 自己の経験や考えをもとに、説得力のあるスピーチやプレゼンテーションができる

＜授業の方法＞

1．講義（メンターやゲストスピーカー等による講話）2．グループワーク3．省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素有りグループディスカッション、プレゼンテーション、ディベート、リフレクション（振り返り）シートの活用などを実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習　スピーチの準備等事前に告知された課題　1時間復習　テーマに即したレポートの作成1時間

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲(出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題）60%,課題レポート（課題,発表)40%

＜教科書＞

運動部学生のためのスポーツ探究ことば入門　河合塾グループ株式会社KEIアドバンス

＜参考書＞

特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	IPU生になる基礎基本①（挨拶・態度等）	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	資格取得に向けた対策①	自身が取得できる資格について考える
3	資格取得に向けた対策②	自身が取得できる資格について調査し、他の学生とディスカッションを行う
4	環トレ_日本語の基本ルールを復習する①	運動部学生のためのスポーツ探究ことば入門を用いて日本語の基本的なルールを復習する
5	基礎学力	個人面談・ことば入門：1
6	日誌の書き方	日本語の基本的なルールを理解した上で日誌の書き方について学ぶ
7	コミニティーの形成	クラス間交流
8	基礎学力	個人面談・ことば入門：2
9	基礎学力	個人面談・ことば入門：3
10	クラス活動	個人面談
11	自己形成	自身の目標設定アクションプランをたてる
12	自己形成②	自身の目標設定アクションプランを発表する。
13	大学の方針・創志学園の歴史	大学の目的・意義・建学の理念を理解する
14	環トレ_前期末テスト	環トレで学んだことの前期末テストを実施する
15	オリエンテーション	履修登録　クラス活動

16	クラス活動	クラス内交流を実施する
17	基礎学力	ことば入門：4
18	選択学習①	基礎学力 or サイエンティスト or 資格に向けての学習
19	選択学習②	基礎学力 or サイエンティスト or 資格に向けての学習
20	選択学習③	基礎学力 or サイエンティスト or 資格に向けての学習
21	基礎学力	ことば入門：5
22	基礎学力	ことば入門：6
23	プレゼンコンテスト①	プレゼンコンテストのクラス内発表
24	プレゼンコンテスト②	プレゼンコンテストのクラス内発表
25	ゼミ決定に向けて	ゼミ決定に向けて考える
26	キャリア講話	公務員 or 教員
27	環トレ_後期末テスト	環トレで学んだことの後期末テストを実施する
28	振り返り	後期学期末集会
29		
30		

科目コード	13200				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	小﨑　遼介／虫明　淑子／塚本　千晴			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義をもつ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕事の適正、求められる能力などの講話を受けることによって、社会人として必要な実践力を向上させていく。

＜授業の到達目標＞

１．自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。２．毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。３．実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

＜授業の方法＞

１．講義（ゲストスピーカー等による講話）２．グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション発表３．省察活動（質疑・まとめ・感想発表）３．課題（基礎学力教材に取り組む）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

プレゼン、ディスカッション

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回１時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート課題　80%、授業への取り組み20%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	2年生におけるキャリアにおける学びのデザイン	・授業の内容の理解・自身のキャリアについて考える。
2	IPU2年生としての心構え	・2年生の行事、実習を確認し、3、4年生について考える
3	スケジュール管理	・ゲストを招いて「マイナビ：スケジュール管理」を実施する。
4	社会人基礎力	マイナビでの社会人基礎力を受講する。
5	社会人としての"当然"を学ぼう	社会人基礎力について考える
6	社会人（保育教諭）としての"当然"を探す	東岡山IPUこども園での観察を行う。
7	次回の観察のテーマを考える	東岡山IPUこども園での観察のテーマについて検討する。
8	社会人（保育教諭）としての"当然"を探す	東岡山IPUこども園での観察を行う。
9	社会人基礎力について説明する	社会人基礎力についてテーマを絞り学習する
10	社会人基礎力について説明する	社会人基礎力についてテーマを絞り学習する
11	社会人基礎力について説明する	社会人基礎力についてテーマを絞り学習する
12	社会人基礎力	秘書検定2級に取り組む
13	プレゼン準備	クラスで発表
14	前期のまとめ	前期の活動について振り返りを行う。
15	マイナビMATCHplus	・マイナビMATCHplusを行い3年生に向けての取り組みを考える
16	体育祭種目極め	体育祭に関する準備を行う。
17	進路決定	公務員・教員・企業３志会について
18	進路と東岡山IPUこども園	各進路ごとに分かれて東岡山IPUこども園での観察のポイントを検討する。

19	講話	学内の内定者による講話を行う。
20	東岡山IPUこども園観察1)	東岡山IPUこども園を個人で観察する
21	東岡山IPUこども園観察2)	東岡山IPUこども園にてグループで観察する
22	東岡山IPUこども園観察	東岡山IPUこども園にてそれぞれ観点をこれまでのものと関連させ観察する
23	ゲスト講話	池江先生による講話
24	ゲスト講話	辻井先生による講話
25	東岡山IPUこども園	講話の内容を踏まえて東岡山IPUこども園での観察を行う。
26	役員講話	役員講話により、自身の目標設定、夢、挑戦、達成について考える
27	年間の振り返り	年間の振り返りをクラスで行う。
28	まとめ	2年生のまとめと3年生への引き継ぎ
29		
30		

科目コード	13200				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント［PH再履修者用］				担当者名	古山　喜一			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義をもつ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕事の適正、求められる能力などの講話を受けることによって、社会人として必要な実践力を向上させていく。

＜授業の到達目標＞

１．自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。２．毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。３．実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。　また、健康科学科では①スポーツに精通した柔道整復師としての基礎力を身につける．②前進力（積極性）を身につける．③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション

＜授業の方法＞

１．講義（ゲストスピーカー等による講話）２．グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション発表３．省察活動（質疑・まとめ・感想発表）３．課題（基礎学力教材に取り組む）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回１時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度､受講意欲 30％レポート課題　50％基礎学力課題　20%必ず､授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表・提出をすること。

＜教科書＞

＜参考書＞

吉原恵子他　スタディスキルズ・トレーニング　実務出版
編著者　一般社団法人日本スポーツ検定機構2020年7月14日　スポーツ医学検定　公式テキスト　2級・3級改訂版　出版社　東洋館出版社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	クラス紹介2年生前期時点でのキャリアについてキャリア形成に向けた自己分析①	・クラス内での自己紹介・前期授業内容の理解・自身のキャリアについて
2	IPU2年生としての心構え（柔道整復師を目指す学生の心構え）柔道整復師国家資格とスポーツ医学検定2級ガイダンス	・柔道整復師国家資格について・スポーツ医学検定2級について
3	柔道整復学の復習①	・柔道整復学（理論編）を参照して柔道整復学の全体像について調べる
4	柔道整復学の復習②	・柔道整復術および柔道整復師の沿革について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
5	大学役職者講話	・柔道整復師を目指す医療系学生のキャリアについて
6	柔道整復学の復習③	・人体に加わる力、損傷時に加わる力、痛みの基礎について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
7	柔道整復学の復習④	・各組織の損傷（骨の損傷）について学び調べた内容をグループディスカッションを

		通して発表する
8	大学役職者講和	・大学卒柔道整復師の役割について
9	柔道整復学の復習⑤	・各組織の損傷（関節の損傷）について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
10	柔道整復学の復習⑥	・各組織の損傷（筋の損傷）について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
11	柔道整復学の復習⑦	・各組織の損傷（腱の損傷）について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
12	柔道整復学の復習⑧	・診察の注意点などについて学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
13	読書感想文コンテスト対策①	・近年、本離れ（活字離れ）が進んでおり本や活字の面白さを知ってもらうため図書館を利用し本に触れると同時に自身の意見を文字に起こす作業（文章力）を行う
14	読書感想文コンテスト対策②	・近年、本離れ（活字離れ）が進んでおり本や活字の面白さを知ってもらう活動として読書感想文コンテストを実施している。読書感想文を作成し自分の意見を文字に起こす作業（文章力）を行う。
15	前期振り返り文章力検定模擬試験	・前期に実施した内容の確認・キャリア形成に向けた自己分析②
16	後期ガイダンス2年生後期時点でのキャリアについて学びデザインするキャリア形成に向けた自己分析③	・後期授業内容の理解・自身のキャリアについて考える
17	スポーツ医学検定2級対策①	・スポーツの知識について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
18	中山芳一先生講和①	・社会人になった自分を描く
19	スポーツ医学検定2級対策②	・身体の知識（運動器の基礎知識、全身の基礎知識、骨の基礎知識、筋肉の基礎知識）について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
20	スポーツ医学検定2級対策③	・スポーツのケガ・故障の知識について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する。
21	スポーツ医学検定2級対策④	・アスレティックリハビリテーションについて学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する。
22	スポーツ医学検定2級対策⑤	・スポーツ医学全般の知識について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する。
23	人権講和	・人権について講和を聞きグループディスカッションを通して発表する。
24	スポーツ医学検定2級検定試験	・スポーツ医学検定2級試験実施
25	文章力検定対策①	・実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける
26	文章力検定対策②	・実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける
27	文章力検定対策③	・実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける
28	文章力検定試験	・実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力が身についたか評価する
29		
30		

科目コード	13200				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント［再履修]PH用				担当者名	古山　喜一			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義をもつ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕事の適正、求められる能力などの講話を受けることによって、社会人として必要な実践力を向上させていく。

＜授業の到達目標＞

１．自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。２．毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。３．実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。　また、健康科学科では①スポーツに精通した柔道整復師としての基礎力を身につける．②前進力（積極性）を身につける．③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション

＜授業の方法＞

１．講義（ゲストスピーカー等による講話）２．グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション発表３．省察活動（質疑・まとめ・感想発表）３．課題（基礎学力教材に取り組む）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回１時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度､受講意欲 30％レポート課題　50％基礎学力課題　20%必ず､授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表・提出をすること。

＜教科書＞

＜参考書＞

吉原恵子他　スタディスキルズ・トレーニング　実務出版
編著者　一般社団法人日本スポーツ検定機構2020年7月14日　スポーツ医学検定　公式テキスト　2級・3級改訂版　出版社　東洋館出版社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	クラス紹介2年生前期時点でのキャリアについてキャリア形成に向けた自己分析①	・クラス内での自己紹介・前期授業内容の理解・自身のキャリアについて
2	IPU2年生としての心構え（柔道整復師を目指す学生の心構え）柔道整復師国家資格とスポーツ医学検定2級ガイダンス	・柔道整復師国家資格について・スポーツ医学検定2級について
3	柔道整復学の復習①	・柔道整復学（理論編）を参照して柔道整復学の全体像について調べる
4	柔道整復学の復習②	・柔道整復術および柔道整復師の沿革について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
5	大学役職者講話	・柔道整復師を目指す医療系学生のキャリアについて
6	柔道整復学の復習③	・人体に加わる力、損傷時に加わる力、痛みの基礎について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
7	柔道整復学の復習④	・各組織の損傷（骨の損傷）について学び調べた内容をグループディスカッションを

		通して発表する
8	大学役職者講和	・大学卒柔道整復師の役割について
9	柔道整復学の復習⑤	・各組織の損傷（関節の損傷）について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
10	柔道整復学の復習⑥	・各組織の損傷（筋の損傷）について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
11	柔道整復学の復習⑦	・各組織の損傷（腱の損傷）について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
12	柔道整復学の復習⑧	・診察の注意点などについて学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
13	読書感想文コンテスト対策①	・近年、本離れ（活字離れ）が進んでおり本や活字の面白さを知ってもらうため図書館を利用し本に触れると同時に自身の意見を文字に起こす作業（文章力）を行う
14	読書感想文コンテスト対策②	・近年、本離れ（活字離れ）が進んでおり本や活字の面白さを知ってもらう活動として読書感想文コンテストを実施している。読書感想文を作成し自分の意見を文字に起こす作業（文章力）を行う。
15	前期振り返り文章力検定模擬試験	・前期に実施した内容の確認・キャリア形成に向けた自己分析②
16	後期ガイダンス2年生後期時点でのキャリアについて学びデザインするキャリア形成に向けた自己分析③	・後期授業内容の理解・自身のキャリアについて考える
17	スポーツ医学検定2級対策①	・スポーツの知識について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
18	中山芳一先生講和①	・社会人になった自分を描く
19	スポーツ医学検定2級対策②	・身体の知識（運動器の基礎知識、全身の基礎知識、骨の基礎知識、筋肉の基礎知識）について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
20	スポーツ医学検定2級対策③	・スポーツのケガ・故障の知識について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する。
21	スポーツ医学検定2級対策④	・アスレティックリハビリテーションについて学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する。
22	スポーツ医学検定2級対策⑤	・スポーツ医学全般の知識について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する。
23	人権講和	・人権について講和を聞きグループディスカッションを通して発表する。
24	スポーツ医学検定2級検定試験	・スポーツ医学検定2級試験実施
25	文章力検定対策①	・実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける
26	文章力検定対策②	・実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける
27	文章力検定対策③	・実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける
28	文章力検定試験	・実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力が身についたか評価する
29		
30		

科目コード	13200				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント BC2026年度生				担当者名	大平　真紀子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業では、「働くこと」の意義を個人の生活基盤および社会的役割の双方の観点から捉え、キャリア形成を生涯にわたる発達課題として位置づける。講話や演習、協働的活動を通して、現代社会において求められる汎用的能力（主体性・協働性・課題解決力等）を多面的に理解し、実践的に育成することを目的とする。また、各回の活動においては、経験→内省→概念化→応用のサイクルを意識し、自己の価値観・行動特性・職業観を継続的に見直すことで、将来の進路選択に資する基盤を形成する。

＜授業の到達目標＞
１．自己の資質・能力および価値観を言語化し、職業適性との関連を踏まえて将来の進路について具体的に説明できる。２．講話・演習・協働活動に主体的に参加し、自らの考えを論理的に整理したうえで、口頭およびデジタルツールを用いて他者に伝達・共有できる。３．グループ活動や実践的課題を通して、社会人として求められる基礎的能力（主体性・協働性・課題解決力等）を発揮し、その成果と課題を省察的に記述できる。

＜授業の方法＞
本授業は、講義・演習・省察を組み合わせたアクティブ・ラーニング型授業として実施する。特に、ゲストスピーカーによる講話を起点として、グループワークやディスカッションを通じた相互作用的学習を行い、学習内容の深化を図る。さらに、各回の終了時には省察活動を行い、学びを自己の経験や将来設計と関連づけて再構成することで、知識の定着と転移を促す。また、ICTを活用した学修を推進する。グーグルクラスルームを通じた課題の提出やAIの活用などを織り交ぜる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
本授業では、グループディスカッション、課題解決型ワーク、プレゼンテーション活動等を通して、学生同士の相互作用を重視した学習を行う。特に、チームでの課題遂行においては、役割分担・合意形成・成果発表までのプロセスを経験させることで、実社会における協働的問題解決能力の育成を図る。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：各回のテーマに関連する自己の経験や社会的事象について事前に調べ、自身の意見や疑問点を整理したうえで授業に臨む（60分程度）。復習：授業で得た知見をもとに、自身の考えの変容や新たな気づきを省察し、レポートとして言語化する。また、必要に応じて関連資料の再確認や追加調査を行う（120分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本授業は、ディプロマポリシー１（対人関係能力および自己調整力）および２（専門的知識・技能の基盤形成）に資する科目である。特に、協働的学習や省察活動を通して、他者と協働しながら課題を達成する力を育成するとともに、将来の専門的学修およびキャリア形成に必要な基盤的能力の獲得を目指す。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
講義への取組姿勢・受講態度（30%）：出席状況に加え、授業中の発言、グループ活動への貢献度、主体的な参加態度を総合的に評価する。レポート課題（50%）：各回の省察レポートおよび課題レポートについて、内容の深さ、論理性、自己の経験との関連づけ、表現の適切さを基準に評価する。基礎学力課題（20%）：指定された教材への取組状況および達成度に基づき評価する。また、提出課題に対してはコメント等によるフィードバックを行い、学習の改善につなげる。

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション：年間のスケジュールと目標理解	年間の学習内容と到達目標を理解し、自身のキャリア形成における本授業の位置づけを説明できるようにする。また、1年間の学習計画を立案する。
2	学科長講話	学科長による講話を通して、大学2年次における学びの位置づけとキャリア形成のプロセスについて理解を深める。あわせて、自身のこれまでの学生生活を振り返り、今後の学修および行動の指針を言語化し、説明できるようにする。
3	アカデミックライティング① 卒業研究とは？	卒業論文およびゼミ論文の意義と基本的な構造について理解する。さらに、研究活動に必要な基礎的視点（問いの設定・情報収集・論理的記述）について学び、今後の学修に向けて必要な準備内容を具体的に説明できるようにする。
4	アカデミックライティング②（オンデマンド課題）	提示されたオンデマンド課題に取り組むことで、アカデミックライティングの基礎（構成・表現・引用の基本）を実践的に理解する。課題を通して、自身の文章表現の課題を把握し、改善点を具体的に言語化できるようにする。

5	学長講話	学長講話を通して、本学の理念や求められる学生像について理解を深める。これまでの1年半の成長を振り返りながら、自身の行動や態度を見直し、今後どのような学生として成長していくかを具体的に構想し、説明できるようにする。
6	アカデミックライティング③	卒業研究に向けた基礎的知識（テーマ設定、資料収集方法等）について理解を深める。さらに、自身の関心分野をもとに、今後探究していきたいテーマの方向性を検討し、その理由を含めて説明できるようにする。
7	アカデミックライティング④実践	実際に短い文章作成に取り組むことで、論理的な構成や根拠に基づく記述の方法を実践的に学ぶ。作成した文章を振り返り、論理性や説得力の観点から改善点を見出し、修正方針を示すことができるようにする。
8	キャリアセンター講話（就職活動とは）	就職活動の全体像やスケジュール、求められる準備について理解する。あわせて、自身の職業観や価値観を整理し、キャリア形成に向けて現時点で取り組むべき行動を具体的に挙げ、説明できるようにする。
9	ビジネス講話①	実社会で活躍するビジネスパーソンの講話を通して、仕事の実態や求められる能力について理解を深める。講話内容をもとに、自身のキャリア観との共通点や相違点を整理し、今後の行動にどのように活かすかを考察できるようにする。
10	スポーツ交流会・国際交流活動	スポーツや交流活動を通して、多様な背景をもつ他者との関係構築の重要性を体験的に理解する。活動を振り返り、チームビルディングのプロセスやコミュニケーションの工夫について整理し、より良い協働の在り方について説明できるようにする。
11	アカデミックライティング⑤	卒業研究に必要な知識（文献の扱い方、論拠の示し方等）について理解を深める。あわせて、他者の文章や資料を適切に活用する方法を学び、自身の文章にどのように反映させるかを説明できるようにする。
12	アカデミックライティング⑥実践	実践的なライティング課題に取り組み、情報を整理し論理的に記述する力を養う。作成した文章について自己評価および相互評価を行い、客観的視点から改善点を見出すことができるようにする。
13	My favorite book （私の好きな本）	自身が選んだ書籍について内容を整理し、感想や考察を文章としてまとめることで、読解力および表現力を高める。また、読書経験を通して得られた気づきを他者と共有し、多様な価値観や視点に触れることで理解を深める。
14	前期振り返りと夏季休暇の有意義な過ごし方	第1クオーターおよび第2クオーターの学びを振り返り、自身の成長や課題を省察する。あわせて、夏季休暇期間における目標と具体的な行動計画を立案し、今後の学修およびキャリア形成に向けた見通しを明確にする。
15	後期オリエンテーション	後期の授業内容および到達目標を理解し、前期の学びを踏まえて自己の課題を整理する。あわせて、後期における学修目標と具体的な行動計画を設定し、主体的な学びに向けた見通しを説明できるようにする。
16	ビジネス講話②	ビジネスパーソンの講話を通して、社会における課題や仕事の意義について多角的に理解する。講話内容を踏まえ、自身のキャリア観との関連を整理し、今後身につけるべき能力や行動について具体的に説明できるようにする。
17	スポーツフェスタ代替日	スポーツ活動を通して、健康の保持増進および集団における協働の意義を体験的に理解する。活動後には、チームでの役割やコミュニケーションの在り方を振り返り、より良い人間関係の構築に向けた課題と改善策を言語化できるようにする。
18	アカデミックライティング⑦	卒業研究に向けた知識の定着を図るとともに、論理的な文章構成や根拠の示し方について理解を深める。自身の関心テーマに基づき、簡易的な論述構成を作成し、その妥当性を説明できるようにする。
19	マイナビ マッチプラスプレゼンテーションコンテスト①準備	就職支援ツール等を活用しながら自己分析を行い、自身の強みや価値観を整理する。あわせて、プレゼンテーションコンテストの趣旨および評価観点を理解し、効果的なプレゼンテーションに必要な要素（構成・表現・資料作成等）を説明できるようにする。
20	プレゼンテーションコンテスト②準備	プレゼンテーションのテーマ設定および構成の検討を行い、伝えたい内容を論理的に整理する。グループ内での意見交換を通して内容をブラッシュアップし、より説得力のある構成へと改善できるようにする。
21	プレゼンテーションコンテスト③準備	発表資料の作成および発表練習を通して、視覚的に分かりやすい資料作成と効果的な伝達方法について実践的に学ぶ。相互評価を行い、改善点を明確にしたうえで発表内容を修正できるようにする
22	アカデミックライティング⑧	これまでのライティング学習を統合し、論理的かつ説得力のある文章作成の力を定着させる。自身の考えを根拠に基づいて記述し、その妥当性や課題について省察できるようにする。
23	プレゼンテーションコンテスト(学科決勝大会)	これまで準備してきた内容をもとにプレゼンテーションを実施し、自己の考えを他者に対して分かりやすく伝達する。発表後には他者の発表を踏まえて自己の成果と課題を省察し、今後の改善点を具体的に示すことができるようにする。
24	卒業生講話①	卒業生の経験談を通して、学生生活とキャリア選択の関連について具体的に理解する。講話内容をもとに、自身の将来像や今後の行動について再考し、必要な準備や取り組みを説明できるようにする。
25	ゼミ選択①準備	ゼミでの学びの意義や特徴について理解し、各ゼミの内容や専門分野について情報収集を行う。自身の関心や将来の進路を踏まえ、適切なゼミ選択の基準を整理し、

		説明できるようにする。
26	人権講話	人権に関する基本的な考え方や現代社会における課題について理解を深める。講話内容を踏まえ、他者の多様性を尊重する態度の重要性について考察し、自身の行動としてどのように実践するかを具体的に説明できるようにする。
27	卒業生講話②	異なる進路を歩んだ卒業生の講話を通して、多様なキャリア形成の在り方を理解する。複数の事例を比較しながら、自身の価値観や進路選択にどのような影響を与えたかを省察し、今後の行動指針として整理できるようにする。
28	後期振り返りと学年末の総括	1年間の学びを総合的に振り返り、自己の成長および課題を多面的に省察する。あわせて、次年度に向けた目標と具体的な行動計画を立案し、キャリア形成の観点から継続的な成長の見通しを説明できるようにする。
29		
30		

科目コード	14100				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ				担当者名	羽田　あずさ			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力と大学生に求められる基礎学力を身につける事を目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力は非常に重要である。スクールフェスというプロジェクトを通して、グループで取り組み、非認知能力の向上を目指します。

＜授業の到達目標＞
①学生生活：よい生活習慣の確立②非認知能力：リーダーシップ、協調性、自分の意見を伝え、周囲の意見を聞く。内容をまとめることができる③認知能力:主に大学生として求められる基礎学力の獲得及び定着と主体的に学習に取り組む態度を身につけることができる④キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自分の将来について考え、話すことができる

＜授業の方法＞
原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。学年全体での授業や、学外に出ての授業見学等も行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループでの授業づくりや、ディスカッション、発表、模擬授業など行う

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：指導案作り課題　3時間　復習：指導案見直し等　3時間

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度（ディスカッションや発表、演習への取り組み等）３０％、小課題（学習指導案、読書感想文、発表スライド、レポート等）５０％、大課題（発表等）２０％

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	自己紹介、履修確認、キャンパスツアー
2	クラス運営	委員決め、学生便覧、教職の手引き等確認。メール・レポートの書き方
3	大学生活の充実	メンター講話、４年間の目標・やってみたいこと
4	1年次目標	オンデマンド
5	スクールフェス①	キックオフ、チームビルディング
6	図書館ラリー	好きなことで授業を考える、図書館の使い方を知る。
7	スクールフェス②	チーム分け、授業案５つ
8	スクールフェス③	映画「夢見る学校」
9	小学校授業見学①	小学校見学事前指導、学習指導案
10	小学校授業見学②	小学校授業見学実施
11	スクールフェス④	見学の振り返り
12	スクールフェス⑤	学習指導案と読書感想文の書き方
13	スクールフェス⑥	学習指導案、授業発表スライド制作
14	前期末集会	前期のまとめ、スライド案発表
15	スクールフェス⑦	授業に向けての確認
16	スクールフェス⑧	４年生に向けて模擬授業①
17	スクールフェス	前日準備のため振替
18	スクールフェス⑨	４年生に向けて模擬授業②
19	スクールフェス⑩	宿泊、事前連絡など
20	スクールフェス⑪	スクールフェス実施
21	スクールフェス⑫	振り返り
22	小学校見学①	小学校見学に向けて
23	小学校見学②	小学校見学実施（１，２，３限）
24	小学校授業見学③	小学校見学の振り返り
25	スクールフェス・セカンド	スクールフェス・セカンド実施
26	２年生に向けて	FE４年生との対話

27	１年のまとめ	クラスでの振り返り（入学して３００日）
28	学年末集会	１年次のまとめと２年次に向けて
29		
30		

科目コード	14100				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ				担当者名	平林　大輔／簀戸　崇史／福井　悠紀子			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。また、自身が目指す進路の社会的情勢を把握し、今求められる人材について把握する。そして社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも「自分の意見を伝える（スピーチ力）」力は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることができるようになるための基礎・基本を身につけます。さらにグループワークやディスカッションを通じて、相手に伝える能力の向上を目指す。

＜授業の到達目標＞
①学生生活：よい生活習慣の確立する②スピーチ力の向上：自分の意見を伝えることができるようになる③キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について話すことができるようになる

＜授業の方法＞
講義・演習・実技等の形態をとりグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループディスカッションプレゼンテーション

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：必要としない。復習：各種認定試験受験前には時間外復習を推奨する。試験1か月前、一日1時間程度が望ましい。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は本学教養科目のディプロマポリシー（DP）のうち、DP１　体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。 DP２　体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。 に該当する科目であり、「豊かな人間性と個性」および「深い専門性と実践力」を養成することを目的としている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業出席10％授業態度90％授業態度は積極的な取り組みや課題提出、規範遵守の観点から総合的に判断する。

＜教科書＞
特に指定なし

＜参考書＞
特に指定なし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	履修登録確認	履修登録確認
2	個人面談1	個人面談1
3	個人面談2	個人面談2
4	熱中症アンバサダー	熱中症アンバサダー
5	運動器（骨・筋）学習①	運動器（骨・筋）学習①
6	運動器（骨・筋）学習②	運動器（骨・筋）学習②
7	運動器（骨・筋）学習③	運動器（骨・筋）学習③
8	運動器（骨・筋）学習④	運動器（骨・筋）学習④
9	運動器（骨・筋）学習⑤	運動器（骨・筋）学習⑤
10	運動器（骨・筋）学習⑥	運動器（骨・筋）学習⑥
11	スピーチコンテスト①	スピーチコンテスト①
12	スピーチコンテスト②	スピーチコンテスト②
13	スピーチコンテスト③	スピーチコンテスト③
14	五訓評価・運動器評価試験	五訓評価・運動器評価試験
15	履修訂正・後期ガイダンス	履修訂正・後期ガイダンス
16	個人面談	個人面談
17	MATCH+	MATCH+を用いたキャリア教育、自分を知る時間とする。
18	スポーツ医学検定勉強①	スポーツ医学検定勉強①
19	スポーツ医学検定勉強②	スポーツ医学検定勉強②
20	スポーツ医学検定勉強③	スポーツ医学検定勉強③
21	スポーツ医学検定勉強④	スポーツ医学検定勉強④
22	スポーツ医学検定勉強⑤	スポーツ医学検定勉強⑤
23	スポーツ医学検定勉強⑥	スポーツ医学検定勉強⑥

24	文章力検定対策1	文章力検定対策1
25	文章力検定対策2	文章力検定対策2
26	定期試験対策	定期試験対策
27	定期試験対策	定期試験対策
28	定期試験対策	定期試験対策
29		
30		

科目コード	14100				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ				担当者名	小川　雄太			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。また、体育・スポーツを学ぶ学生として、体育・スポーツの知識・理論を身につけ、実践していくための手がかりとして、グループワークやチームビルディングを行い、非認知能力と認知能力の育成を目指す。

＜授業の到達目標＞
①IPU生・体育人・社会人としての基礎基本を身につけている。②五訓、特に前進力を向上させることができるようになる。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につけている。④上記の内容を他者に伝える力を身につけている。

＜授業の方法＞
原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材を取り組んでいく。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有クラス・グループにおいて、各テーマに関して、ディスカッション・成果物を作成する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
前回の授業内容のレポート作成（事後学習1時間程度）、次回の確認テストの準備（事前学習2時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度(ディスカッションや演習への取り組み等）30%、小課題（基礎学力課題を含む）50%、大課題（発表等）20％

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	コミュニケーション	チームビルディングを通して、積極的なコミュニケーションを身につける。
2	自己を知る	自己分析・個人面談
3	自己分析	個人面談・自己課題設定
4	大学を知る（オンデマンド）	メンター体験談
5	大学を知る	メンター体験談
6	スポレクフェスの趣旨説明	スポレクフェスの趣旨説明
7	コミュニティの形成	上級生とのスポレクの実践
8	コミュニティの形成	上級生とのスポレクの実践
9	コミュニティの形成	上級生とのスポレクの実践
10	グループ活動	他クラスとの交流
11	グループ活動	他クラスとの交流
12	プレゼンコンテスト	ビジネスマナーにおけるプレゼンコンテストを実践する。
13	クラス活動	個人の目標設定の見直し、アクションプランの作成
14	クラス活動	前期の振り返り
15	後期にむけて	前期の振り返りを行い、後期につなげる。
16	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践
17	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践
18	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践
19	スポレクフェスの計画	スポレクフェスの計画
20	スポレクフェスの計画	スポレクフェスの計画
21	スポレクフェス実践	スポレクフェス実践

22	スポレクフェス実践	スポレクフェス実践
23	スポレクフェス実践	スポレクフェス実践
24	プレゼンテーション発表の聴講	スポーツリンクプロジェクトの成果発表を聴講する。
25	スポレクフェスの発表	スポレクフェスの発表
26	進路に向けて	進路に向けての調べ学習
27	進路に向けてのプレゼン発表	進路に向けての成果発表会
28	まとめ	まとめ
29		
30		

科目コード	14100				区　分	教養科目		
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ				担当者名	佐藤　伸之		
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。また、体育・スポーツを学ぶ学生として、体育・スポーツの知識・理論を身につけ、実践していくための手がかりとして、グループワークやチームビルディングを行い、非認知能力と認知能力の育成を目指す。

＜授業の到達目標＞
①IPU生・体育人・社会人としての基礎基本を身につける。②五訓、特に前進力を向上させる。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける。④上記の内容を他者に伝える力を身につける。

＜授業の方法＞
原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材を取り組んでいく。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有クラス・グループにおいて、各テーマに関して、ディスカッション・成果物を作成する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度(ディスカッションや演習への取り組み等）30%、小課題（基礎学力課題を含む）50%、大課題（発表等）20％

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	コミュニケーション	チームビルディングを通して、積極的なコミュニケーションを身につける。
2	自己を知る①	自己分析・個人面談
3	自己分析	個人面談・自己課題設定
4	大学を知る（オンデマンド）	メンター体験談
5	大学を知る②	メンター体験談
6	スポレクフェスの趣旨説明	スポレクフェスの趣旨説明
7	コミュニティの形成①	上級生とのスポレクの実践
8	コミュニティの形成②	上級生とのスポレクの実践
9	コミュニティの形成③	上級生とのスポレクの実践
10	グループ活動①	他クラスとの交流
11	グループ活動②	他クラスとの交流
12	プレゼンコンテスト	ビジネスマナーにおけるプレゼンコンテストを実践する。
13	クラス活動	個人の目標設定の見直し、アクションプランの作成
14	クラス活動	前期の振り返り
15	後期に向けて	前期の振り返りを行い、後期につなげる。
16	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践①	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践を行う。
17	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践②	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践を行う。
18	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践③	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践を行う。
19	スポレクフェスの計画①	スポレクフェスの計画を行う。
20	スポレクフェスの計画②	スポレクフェスの計画を行う。
21	スポレクフェス実践①	スポレクフェス実践を行う。

22	スポレクフェス実践②	スポレクフェス実践を行う。
23	スポレクフェス実践③	スポレクフェスの実践を行う。
24	プレゼンテーション発表の聴講	スポーツリンクプロジェクトの成果発表を聴講する。
25	スポレクフェスの発表	スポレクフェスの振り返りを発表する。
26	進路に向けて	進路に向けて調べ学習を行う。
27	進路に向けてのプレゼン発表	進路に向けての成果発表会を行う。
28	1年のまとめ	1年のまとめ
29		
30		

科目コード	14100				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ				担当者名	堀川　峻			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。また、体育・スポーツを学ぶ学生として、体育・スポーツの知識・理論を身につけ、実践していくための手がかりとして、グループワークやチームビルディングを行い、非認知能力と認知能力の育成を目指す。

＜授業の到達目標＞
①IPU生・体育人・社会人としての基礎基本を身につける。②五訓、特に前進力を向上させる。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける。④上記の内容を他者に伝える力を身につける。

＜授業の方法＞
原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材を取り組んでいく。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有クラス・グループにおいて、各テーマに関して、ディスカッション・成果物を作成する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度(ディスカッションや演習への取り組み等）30%、小課題（基礎学力課題を含む）50%、大課題（発表等）20％

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	コミュニケーション	チームビルディングを通して、積極的なコミュニケーションを身につける。
2	自己を知る①	自己分析・個人面談
3	自己分析	個人面談・自己課題設定
4	大学を知る（オンデマンド）	メンター体験談
5	大学を知る②	メンター体験談
6	スポレクフェスの趣旨説明	スポレクフェスの趣旨説明
7	コミュニティの形成①	上級生とのスポレクの実践
8	コミュニティの形成②	上級生とのスポレクの実践
9	コミュニティの形成③	上級生とのスポレクの実践
10	グループ活動①	他クラスとの交流
11	グループ活動②	他クラスとの交流
12	プレゼンコンテスト	ビジネスマナーにおけるプレゼンコンテストを実践する。
13	クラス活動	個人の目標設定の見直し、アクションプランの作成
14	クラス活動	前期の振り返り
15	後期に向けて	前期の振り返りを行い、後期につなげる。
16	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践①	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践を行う。
17	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践②	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践を行う。
18	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践③	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践を行う。
19	スポレクフェスの計画①	スポレクフェスの計画を行う。
20	スポレクフェスの計画②	スポレクフェスの計画を行う。
21	スポレクフェス実践①	スポレクフェス実践を行う。

22	スポレクフェス実践②	スポレクフェス実践を行う。
23	スポレクフェス実践③	スポレクフェスの実践を行う。
24	プレゼンテーション発表の聴講	スポーツリンクプロジェクトの成果発表を聴講する。
25	スポレクフェスの発表	スポレクフェスの振り返りを発表する。
26	進路に向けて	進路に向けて調べ学習を行う。
27	進路に向けてのプレゼン発表	進路に向けての成果発表会を行う。
28	1年のまとめ	1年のまとめ
29		
30		

科目コード	14100				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ				担当者名	仙波　慎平			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。また、体育・スポーツを学ぶ学生として、体育・スポーツの知識・理論を身につけ、実践していくための手がかりとして、グループワークやチームビルディングを行い、非認知能力と認知能力の育成を目指す。

＜授業の到達目標＞
①IPU生・体育人・社会人としての基礎基本を身につけている。②五訓、特に前進力を向上させることができるようになる。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につけている。④上記の内容を他者に伝える力を身につけている。

＜授業の方法＞
原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材を取り組んでいく。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有クラス・グループにおいて、各テーマに関して、ディスカッション・成果物を作成する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
前回の授業内容のレポート作成（事後学習1時間程度）、次回の確認テストの準備（事前学習2時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度(ディスカッションや演習への取り組み等）30%、小課題（基礎学力課題を含む）50%、大課題（発表等）20％

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	コミュニケーション	チームビルディングを通して、積極的なコミュニケーションを身につける。
2	自己を知る①	自己分析・個人面談
3	自己分析	個人面談・自己課題設定
4	大学を知る（オンデマンド）	メンター体験談
5	大学を知る②	メンター体験談
6	スポレクフェスの趣旨説明	スポレクフェスの趣旨説明
7	コミュニティの形成①	上級生とのスポレクの実践
8	コミュニティの形成②	上級生とのスポレクの実践
9	コミュニティの形成③	上級生とのスポレクの実践
10	グループ活動①	他クラスとの交流
11	グループ活動②	他クラスとの交流
12	プレゼンコンテスト	ビジネスマナーにおけるプレゼンコンテストを実践する。
13	クラス活動	個人の目標設定の見直し、アクションプランの作成
14	クラス活動	前期の振り返り
15	後期に向けて	前期の振り返りを行い、後期につなげる。
16	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践①	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践を行う。
17	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践②	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践を行う。
18	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践③	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践を行う。
19	スポレクフェスの計画①	スポレクフェスの計画を行う。
20	スポレクフェスの計画②	スポレクフェスの計画を行う。
21	スポレクフェス実践①	スポレクフェス実践を行う。

22	スポレクフェス実践②	スポレクフェス実践を行う。
23	スポレクフェス実践③	スポレクフェスの実践を行う。
24	プレゼンテーション発表の聴講	スポーツリンクプロジェクトの成果発表を聴講する。
25	スポレクフェスの発表	スポレクフェスの振り返りを発表する。
26	進路に向けて	進路に向けて調べ学習を行う。
27	進路に向けてのプレゼン発表	進路に向けての成果発表会を行う。
28	1年のまとめ	1年のまとめ
29		
30		

科目コード	14100				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ				担当者名	戸田　晃大			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。また、体育・スポーツを学ぶ学生として、体育・スポーツの知識・理論を身につけ、実践していくための手がかりとして、グループワークやチームビルディングを行い、非認知能力と認知能力の育成を目指す。

＜授業の到達目標＞
①IPU生・体育人・社会人としての基礎基本を身につけている。②五訓、特に前進力を向上させることができるようになる。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につけている。④上記の内容を他者に伝える力を身につけている。

＜授業の方法＞
原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材を取り組んでいく。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有クラス・グループにおいて、各テーマに関して、ディスカッション・成果物を作成する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
前回の授業内容のレポート作成（事後学習1時間程度）、次回の確認テストの準備（事前学習2時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度(ディスカッションや演習への取り組み等）30%、小課題（基礎学力課題を含む）50%、大課題（発表等）20％

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	コミュニケーション	チームビルディングを通して、積極的なコミュニケーションを身につける。
2	自己を知る①	自己分析・個人面談
3	自己分析	個人面談・自己課題設定
4	大学を知る（オンデマンド）	メンター体験談
5	大学を知る②	メンター体験談
6	スポレクフェスの趣旨説明	スポレクフェスの趣旨説明
7	コミュニティの形成①	上級生とのスポレクの実践
8	コミュニティの形成②	上級生とのスポレクの実践
9	コミュニティの形成③	上級生とのスポレクの実践
10	グループ活動①	他クラスとの交流
11	グループ活動②	他クラスとの交流
12	プレゼンコンテスト	ビジネスマナーにおけるプレゼンコンテストを実践する。
13	クラス活動	個人の目標設定の見直し、アクションプランの作成
14	クラス活動	前期の振り返り
15	後期に向けて	前期の振り返りを行い、後期につなげる。
16	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践①	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践を行う。
17	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践②	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践を行う。
18	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践③	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践を行う。
19	スポレクフェスの計画①	スポレクフェスの計画を行う。
20	スポレクフェスの計画②	スポレクフェスの計画を行う。
21	スポレクフェス実践①	スポレクフェス実践を行う。

22	スポレクフェス実践②	スポレクフェス実践を行う。
23	スポレクフェス実践③	スポレクフェスの実践を行う。
24	プレゼンテーション発表の聴講	スポーツリンクプロジェクトの成果発表を聴講する。
25	スポレクフェスの発表	スポレクフェスの振り返りを発表する。
26	進路に向けて	進路に向けて調べ学習を行う。
27	進路に向けてのプレゼン発表	進路に向けての成果発表会を行う。
28	1年のまとめ	1年のまとめ
29		
30		

科目コード	14100				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ				担当者名	岩田　知郎			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。また、体育・スポーツを学ぶ学生として、体育・スポーツの知識・理論を身につけ、実践していくための手がかりとして、グループワークやチームビルディングを行い、非認知能力と認知能力の育成を目指す。

＜授業の到達目標＞
①IPU生・体育人・社会人としての基礎基本を身につけている。②五訓、特に前進力を向上させることができるようになる。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につけている。④上記の内容を他者に伝える力を身につけている。

＜授業の方法＞
原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材を取り組んでいく。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有クラス・グループにおいて、各テーマに関して、ディスカッション・成果物を作成する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
前回の授業内容のレポート作成（事後学習1時間程度）、次回の確認テストの準備（事前学習2時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度(ディスカッションや演習への取り組み等）30%、小課題（基礎学力課題を含む）50%、大課題（発表等）20％

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	コミュニケーション	チームビルディングを通して、積極的なコミュニケーションを身につける。
2	自己を知る①	自己分析・個人面談
3	自己分析	個人面談・自己課題設定
4	大学を知る（オンデマンド）	メンター体験談
5	大学を知る②	メンター体験談
6	スポレクフェスの趣旨説明	スポレクフェスの趣旨説明
7	コミュニティの形成①	上級生とのスポレクの実践
8	コミュニティの形成②	上級生とのスポレクの実践
9	コミュニティの形成③	上級生とのスポレクの実践
10	グループ活動①	他クラスとの交流
11	グループ活動②	他クラスとの交流
12	プレゼンコンテスト	ビジネスマナーにおけるプレゼンコンテストを実践する。
13	クラス活動	個人の目標設定の見直し、アクションプランの作成
14	クラス活動	前期の振り返り
15	後期に向けて	前期の振り返りを行い、後期につなげる。
16	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践①	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践を行う。
17	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践②	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践を行う。
18	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践③	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践を行う。
19	スポレクフェスの計画①	スポレクフェスの計画を行う。
20	スポレクフェスの計画②	スポレクフェスの計画を行う。
21	スポレクフェス実践①	スポレクフェス実践を行う。

22	スポレクフェス実践②	スポレクフェス実践を行う。
23	スポレクフェス実践③	スポレクフェスの実践を行う。
24	プレゼンテーション発表の聴講	スポーツリンクプロジェクトの成果発表を聴講する。
25	スポレクフェスの発表	スポレクフェスの振り返りを発表する。
26	進路に向けて	進路に向けて調べ学習を行う。
27	進路に向けてのプレゼン発表	進路に向けての成果発表会を行う。
28	1年のまとめ	1年のまとめ
29		
30		

科目コード	14100				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ				担当者名	坂手　雅斗			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。また、体育・スポーツを学ぶ学生として、体育・スポーツの知識・理論を身につけ、実践していくための手がかりとして、グループワークやチームビルディングを行い、非認知能力と認知能力の育成を目指す。

＜授業の到達目標＞
①IPU生・体育人・社会人としての基礎基本を身につけている。②五訓、特に前進力を向上させることができるようになる。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につけている。④上記の内容を他者に伝える力を身につけている。

＜授業の方法＞
原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材を取り組んでいく。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有クラス・グループにおいて、各テーマに関して、ディスカッション・成果物を作成する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
前回の授業内容のレポート作成（事後学習1時間程度）、次回の確認テストの準備（事前学習2時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度(ディスカッションや演習への取り組み等）30%、小課題（基礎学力課題を含む）50%、大課題（発表等）20％

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	コミュニケーション	チームビルディングを通して、積極的なコミュニケーションを身につける。
2	自己を知る①	自己分析・個人面談
3	自己分析	個人面談・自己課題設定
4	大学を知る（オンデマンド）	メンター体験談
5	大学を知る②	メンター体験談
6	スポレクフェスの趣旨説明	スポレクフェスの趣旨説明
7	コミュニティの形成①	上級生とのスポレクの実践
8	コミュニティの形成②	上級生とのスポレクの実践
9	コミュニティの形成③	上級生とのスポレクの実践
10	グループ活動①	他クラスとの交流
11	グループ活動②	他クラスとの交流
12	プレゼンコンテスト	ビジネスマナーにおけるプレゼンコンテストを実践する。
13	クラス活動	個人の目標設定の見直し、アクションプランの作成
14	クラス活動	前期の振り返り
15	後期に向けて	前期の振り返りを行い、後期につなげる。
16	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践①	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践を行う。
17	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践②	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践を行う。
18	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践③	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践を行う。
19	スポレクフェスの計画①	スポレクフェスの計画を行う。
20	スポレクフェスの計画②	スポレクフェスの計画を行う。
21	スポレクフェス実践①	スポレクフェス実践を行う。

22	スポレクフェス実践②	スポレクフェス実践を行う。
23	スポレクフェス実践③	スポレクフェスの実践を行う。
24	プレゼンテーション発表の聴講	スポーツリンクプロジェクトの成果発表を聴講する。
25	スポレクフェスの発表	スポレクフェスの振り返りを発表する。
26	進路に向けて	進路に向けて調べ学習を行う。
27	進路に向けてのプレゼン発表	進路に向けての成果発表会を行う。
28	1年のまとめ	1年のまとめ
29		
30		

科目コード	14100				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ				担当者名	野上　里菜			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。また、体育・スポーツを学ぶ学生として、体育・スポーツの知識・理論を身につけ、実践していくための手がかりとして、グループワークやチームビルディングを行い、非認知能力と認知能力の育成を目指す。

＜授業の到達目標＞
①IPU生・体育人・社会人としての基礎基本を身につける。②五訓、特に前進力を向上させる。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける。④上記の内容を他者に伝える力を身につける。

＜授業の方法＞
原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材を取り組んでいく。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有クラス・グループにおいて、各テーマに関して、ディスカッション・成果物を作成する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度(ディスカッションや演習への取り組み等）30%、小課題（基礎学力課題を含む）50%、大課題（発表等）20％

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	コミュニケーション	チームビルディングを通して、積極的なコミュニケーションを身につける。
2	自己を知る①	自己分析・個人面談
3	自己分析	個人面談・自己課題設定
4	大学を知る（オンデマンド）	メンター体験談
5	大学を知る②	メンター体験談
6	スポレクフェスの趣旨説明	スポレクフェスの趣旨説明
7	コミュニティの形成①	上級生とのスポレクの実践
8	コミュニティの形成②	上級生とのスポレクの実践
9	コミュニティの形成③	上級生とのスポレクの実践
10	グループ活動①	他クラスとの交流
11	グループ活動②	他クラスとの交流
12	プレゼンコンテスト	ビジネスマナーにおけるプレゼンコンテストを実践する。
13	クラス活動	個人の目標設定の見直し、アクションプランの作成
14	クラス活動	前期の振り返り
15	後期に向けて	前期の振り返りを行い、後期につなげる。
16	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践①	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践を行う。
17	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践②	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践を行う。
18	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践③	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践を行う。
19	スポレクフェスの計画①	スポレクフェスの計画を行う。
20	スポレクフェスの計画②	スポレクフェスの計画を行う。
21	スポレクフェス実践①	スポレクフェス実践を行う。

22	スポレクフェス実践②	スポレクフェス実践を行う。
23	スポレクフェス実践③	スポレクフェスの実践を行う。
24	プレゼンテーション発表の聴講	スポーツリンクプロジェクトの成果発表を聴講する。
25	スポレクフェスの発表	スポレクフェスの振り返りを発表する。
26	進路に向けて	進路に向けて調べ学習を行う。
27	進路に向けてのプレゼン発表	進路に向けての成果発表会を行う。
28	1年のまとめ	1年のまとめ
29		
30		

科目コード	14100				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ				担当者名	眞鍋　芳江			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。また、体育・スポーツを学ぶ学生として、体育・スポーツの知識・理論を身につけ、実践していくための手がかりとして、グループワークやチームビルディングを行い、非認知能力と認知能力の育成を目指す。

＜授業の到達目標＞
①IPU生・体育人・社会人としての基礎基本を身につけている。②五訓、特に前進力を向上させることができるようになる。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につけている。④上記の内容を他者に伝える力を身につけている。

＜授業の方法＞
原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材を取り組んでいく。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有クラス・グループにおいて、各テーマに関して、ディスカッション・成果物を作成する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
前回の授業内容のレポート作成（事後学習1時間程度）、次回の確認テストの準備（事前学習2時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度(ディスカッションや演習への取り組み等）30%、小課題（基礎学力課題を含む）50%、大課題（発表等）20％

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	コミュニケーション	チームビルディングを通して、積極的なコミュニケーションを身につける。
2	自己を知る①	自己分析・個人面談
3	自己分析	個人面談・自己課題設定
4	大学を知る（オンデマンド）	メンター体験談
5	大学を知る②	メンター体験談
6	スポレクフェスの趣旨説明	スポレクフェスの趣旨説明
7	コミュニティの形成①	上級生とのスポレクの実践
8	コミュニティの形成②	上級生とのスポレクの実践
9	コミュニティの形成③	上級生とのスポレクの実践
10	グループ活動①	他クラスとの交流
11	グループ活動②	他クラスとの交流
12	プレゼンコンテスト	ビジネスマナーにおけるプレゼンコンテストを実践する。
13	クラス活動	個人の目標設定の見直し、アクションプランの作成
14	クラス活動	前期の振り返り
15	後期に向けて	前期の振り返りを行い、後期につなげる。
16	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践①	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践を行う。
17	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践②	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践を行う。
18	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践③	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践を行う。
19	スポレクフェスの計画①	スポレクフェスの計画を行う。
20	スポレクフェスの計画②	スポレクフェスの計画を行う。
21	スポレクフェス実践①	スポレクフェス実践を行う。

22	スポレクフェス実践②	スポレクフェス実践を行う。
23	スポレクフェス実践③	スポレクフェスの実践を行う。
24	プレゼンテーション発表の聴講	スポーツリンクプロジェクトの成果発表を聴講する。
25	スポレクフェスの発表	スポレクフェスの振り返りを発表する。
26	進路に向けて	進路に向けて調べ学習を行う。
27	進路に向けてのプレゼン発表	進路に向けての成果発表会を行う。
28	1年のまとめ	1年のまとめ
29		
30		

科目コード	14100				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ				担当者名	宮原　舞			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけるとともに、自ら学ぶ力（自主性・能動性）および大学生として必要な基礎的な学力・技能を養うことを目的とする。授業では、フレッシュマンセミナーと連動しながら、自然・文化体験、地域連携活動、国際交流等の多様な体験活動に取り組む。これらの体験をもとに、グループワークやディスカッション、振り返り活動を通して、「自分の意見を伝えること」「相手の話を聞くこと」「内容を整理してまとめること」といった基礎的スキルを身につける。体験と振り返りを繰り返すことにより、認知能力と非認知能力の両面から、社会で生きていくために必要な能力の基盤を形成する。

＜授業の到達目標＞
①大学生活に必要な基本的生活態度、学習習慣、行動規範を身につける。②地域に存在する自然・文化・人との関わりを通して、地域社会や多様な環境に対する理解を深める。③自分の意見を伝える力、相手の話を聞く力、内容を整理してまとめる力を身につけるとともに、グループ活動に主体的に参加し他者と協働する力を身につける。

＜授業の方法＞
講義、演習、グループワーク、学内外におけるフィールドワーク、振り返り活動、プレゼンテーション等を組み合わせて実施する。学生が体験を通して学び、その内容を振り返り、自己の成長として整理するプロセスを重視する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有（ペアワークやグループワークによる意見交流）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：テーマに即したレポート作成・発表準備等（1時間程度）復習：学習内容の振り返り（1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）、ディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業に対する取り組み姿勢　40%小課題（レポート等）　30%大課題（発表・プレゼンテーション等）　30%

＜教科書＞

＜参考書＞
特に指定なし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	前期の授業計画、履修について
2	スタートアップセミナー①	初年次教育・東岡山IPUこども園について
3	スタートアップセミナー②	図書・文献の活用方法を知る
4	スタートアップセミナー③	大学での学び・生活について考え、目標を設定する
5	国際交流①	留学生との交流を通して異文化理解を深める
6	国際交流②	留学生との交流を通して異文化理解を深める
7	自然・文化に触れる①	事前学習
8	自然・文化に触れる①	フィールドワーク
9	自然・文化に触れる①	振り返り・発表
10	地域連携活動①	事前学習
11	地域連携活動①	フィールドワーク
12	地域連携活動①	振り返り・発表
13	前期振り返り	個人面談による目標の振り返り
14	前期末集会	
15	オリエンテーション	後期の授業計画、履修について
16	学内行事①	スポーツフェスタ：協働性・主体性を育む
17	学内行事②	環太祭：企画力・運営力・実践力を育む
18	学内行事③	環太祭：企画力・運営力・実践力を育む
19	自然・文化に触れる②	事前学習
20	自然・文化に触れる②	フィールドワーク
21	自然・文化に触れる②	振り返り・発表

22	地域連携活動②	事前学習
23	地域連携活動②	フィールドワーク
24	地域連携活動②	振り返り・発表
25	国際交流③	留学生との交流を通して異文化を探究する
26	国際交流④	留学生との交流を通して異文化を探究する
27	1年間の振り返り	個人面談による目標の振り返り
28	学年末集会	
29		
30		

科目コード	14100				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ				担当者名	髙﨑　展好			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけるとともに、自ら学ぶ力（自主性・能動性）および大学生として必要な基礎的な学力・技能を養うことを目的とする。授業では、フレッシュマンセミナーと連動しながら、自然・文化体験、地域連携活動、国際交流等の多様な体験活動に取り組む。これらの体験をもとに、グループワークやディスカッション、振り返り活動を通して、「自分の意見を伝えること」「相手の話を聞くこと」「内容を整理してまとめること」といった基礎的スキルを身につける。体験と振り返りを繰り返すことにより、認知能力と非認知能力の両面から、社会で生きていくために必要な能力の基盤を形成する。

＜授業の到達目標＞
①大学生活に必要な基本的生活態度、学習習慣、行動規範を身につける。②地域に存在する自然・文化・人との関わりを通して、地域社会や多様な環境に対する理解を深める。③自分の意見を伝える力、相手の話を聞く力、内容を整理してまとめる力を身につけるとともに、グループ活動に主体的に参加し他者と協働する力を身につける。

＜授業の方法＞
講義、演習、グループワーク、学内外におけるフィールドワーク、振り返り活動、プレゼンテーション等を組み合わせて実施する。学生が体験を通して学び、その内容を振り返り、自己の成長として整理するプロセスを重視する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有（ペアワークやグループワークによる意見交流）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：テーマに即したレポート作成・発表準備等（1時間程度）復習：学習内容の振り返り（1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）、ディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業に対する取り組み姿勢　40%目標設定･振り返り　10%小課題（レポート等）　30%大課題（発表･プレゼンテーション等）　20%

＜教科書＞

＜参考書＞
特に指定なし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	前期の授業計画、履修について
2	スタートアップセミナー①	初年次教育・東岡山IPUこども園について
3	スタートアップセミナー②	図書・文献の活用方法を知る
4	スタートアップセミナー③	大学での学び・生活について考え、目標を設定する
5	国際交流①	留学生との交流を通して異文化理解を深める
6	国際交流②	留学生との交流を通して異文化理解を深める
7	自然・文化に触れる①	事前学習
8	自然・文化に触れる①	フィールドワーク
9	自然・文化に触れる①	振り返り・発表
10	地域連携活動①	事前学習
11	地域連携活動①	フィールドワーク
12	地域連携活動①	振り返り・発表
13	前期振り返り	個人面談による目標の振り返り
14	前期末集会	
15	オリエンテーション	後期の授業計画、履修について
16	学内行事①	スポーツフェスタ：協働性・主体性を育む
17	学内行事②	環太祭：企画力・運営力・実践力を育む
18	学内行事③	環太祭：企画力・運営力・実践力を育む
19	自然・文化に触れる②	事前学習
20	自然・文化に触れる②	フィールドワーク
21	自然・文化に触れる②	振り返り・発表

22	地域連携活動②	事前学習
23	地域連携活動②	フィールドワーク
24	地域連携活動②	振り返り・発表
25	国際交流③	留学生との交流を通して異文化を探究する
26	国際交流④	留学生との交流を通して異文化を探究する
27	1年間の振り返り	個人面談による目標の振り返り
28	学年末集会	
29		
30		

科目コード	14100				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ				担当者名	橘髙　真紀子			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけるとともに、自ら学ぶ力(自主性・能動性)および大学生として必要な基礎的な学力・技能を養うことを目的とする。そのため、フレッシュマンセミナーでの学習と連動しながら、自然・文化・人との関わりの中で多様な実体験を積み、グループワークやディスカッションを通して、「自分の意見を伝えること」「相手の話を聞くこと」「内容を整理してまとめること」ができるようになるための基礎的スキルを身につける。これらの活動を通して、認知能力と非認知能力の両面から、社会で生きていくために必要な能力の向上を目指す。

＜授業の到達目標＞
①大学大学生活に必要な基本的生活態度、学習習慣、行動規範を身につける。②地域に存在する自然・文化・人との関わりを通して、地域社会や多様な環境に対する理解を深める。③自分の意見を伝える力、相手の話を聞く力、内容を整理してまとめる力を身につけるとともに、グループ活動に主体的に参加し他者と協働する力を身につける。

＜授業の方法＞
講義、演習、グループワーク、学内外におけるフィールドワーク、振り返り活動、プレゼンテーション等を組み合わせて実施する。学生が体験を通して学び、その内容を振り返り、自己の成長として整理するプロセスを重視する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有(ペアワークやグループワークによる意見交流)

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習:テーマに即したレポート作成・発表準備等(1時間程度)復習:学習内容の振り返り(1時間程度)

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー1(他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。)およびディプロマポリシー2(専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)、ディプロマポリシー4(地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革に参画することができる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業に対する取り組み姿勢 40%目標設定・振り返り 10%小課題(レポート等) 30%大課題(発表・プレゼンテーション等) 20%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	前期の授業計画、履修について
2	スタートアップセミナー①	大学での学び・生活について考える
3	スタートアップセミナー②	大学での学び・生活について考える
4	スタートアップセミナー③	大学での学び・生活について考える
5	国際交流①	留学生との交流を通して異文化理解を深める
6	国際交流②	留学生との交流を通して異文化理解を深める
7	自然・文化に触れる①	事前学習
8	自然文化に触れる①	フィールドワーク
9	自然・文化に触れる①	振り返り
10	地域連携活動①	事前学習
11	地域連携活動①	フィールドワーク
12	地域連携活動①	振り返り
13	前期振り返り	個人面談による目標の振り返り
14	前期末集会	
15	オリエンテーション	後期の授業計画、履修について
16	学校行事①	スポーツフェスタ:協働性・主体性を育む
17	学校行事②	環太祭:企画力・運営力・実践力を育む
18	学校行事③	環太祭:企画力・運営力・実践力を育む
19	自然・文化に触れる②	事前学習
20	自然・文化に触れる②	フィールドワーク
21	自然・文化に触れる②	振り返り
22	地域連携活動②	事前学習
23	地域連携活動②	フィールドワーク

24	地域連携活動②	振り返り
25	国際交流③	留学生との交流を通して異文化を探究する
26	国際交流④	留学生との交流を通して異文化を探究する
27	１年間の振り返り	個人面談による目標の振り返り
28	学年末集会	
29		
30		

科目コード	14100				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ				担当者名	江波戸　智希			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。競技スポーツ科学科では、世界で活躍し認められるアスリートになる・創るためにスポーツ科学リテラシー（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）を身に付けることを目的とする。また、各種測定と分析を行い、自身の目標達成に向けた改善プログラムを自ら作成し、自発的に行動できる力を養う。

＜授業の到達目標＞
アスリート / サイエンティストとしての成長の記録を可視化し、各種評価と分析、改善サイクルが計画できるようになる。

＜授業の方法＞
トップガン、インスパイア、教室のそれぞれで講義と実技の両方を組み合わせた演習形式にて実施する。また、各種測定の分析、評価の際にはグループワーク・ディスカッションを行う。課題管理はグーグルクラスルームやスプレッドシートにて行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素有基本的には、実技とグループワークを行う。また、プレゼンテーションも実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習　自身の専門競技における競技特性とスポーツ科学リテラシーとの関係性を調べておく。（毎回、1時間程度）復習　授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題）　60%，課題レポート　（課題，発表）40%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーションとスポーツ科学リテラシー	スポーツ科学リテラシーの意義と測定流れ、データ記入方法について
2	体力測定①	身体組成、スピード&アジリティ測定
3	体力測定②	パワー&持久力測定
4	心理測定①	心理調査と心理学講習会
5	栄養測定①	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
6	筋力測定①	懸垂測定と１RM測定練習
7	筋力測定②	スクワット、ベンチプレス１RM測定
8	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
9	コンディショニング概論①	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法　時差対策
10	バイオメカニクス講習	スポーツ現場で利用できる映像分析
11	生理学講習	持久力トレーニングの各種方法
12	アナリティクス講習	映像から試合分析する方法
13	目標に向けた自主的なトレーニング①	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
14	目標に向けた自主的なトレーニング②	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
15	オリエンテーションと前期振り返りと後期目標設定	前期振り返りと後期目標設定
16	コンディショニング概論②	コンディショニングについて
17	体力測定①ー２	身体組成、スピード&アジリティ測定
18	体力測定②ー２	パワー&持久力測定
19	心理測定②	心理調査と心理学講習会
20	栄養測定②	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
21	筋力測定①ー２	懸垂測定と１RM測定練習

22	筋力測定②ー２	スクワット、ベンチプレス１RM測定
23	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
24	コンディショニング概論③	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法　時差対策
25	目標に向けた自主的なトレーニング④	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
26	目標に向けた自主的なトレーニング⑤	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
27	目標に向けた自主的なトレーニング⑥	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
28	まとめ	1年のまとめとこれからについて
29		
30		

科目コード	14100				区　分	教養科目		
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ				担当者名	前田　誠一		
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。競技スポーツ科学科では、世界で活躍し認められるアスリートになる・創るためにスポーツ科学リテラシー（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）を身に付けることを目的とする。また、各種測定と分析を行い、自身の目標達成に向けた改善プログラムを自ら作成し、自発的に行動できる力を養う。

＜授業の到達目標＞
アスリート / サイエンティストとしての成長の記録を可視化し、各種評価と分析、改善サイクルが計画できるようになる。

＜授業の方法＞
トップガン、インスパイア、教室のそれぞれで講義と実技の両方を組み合わせた演習形式にて実施する。また、各種測定の分析、評価の際にはグループワーク・ディスカッションを行う。課題管理はグーグルクラスルームやスプレッドシートにて行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素有基本的には、実技とグループワークを行う。また、プレゼンテーションも実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習　自身の専門競技における競技特性とスポーツ科学リテラシーとの関係性を調べておく。（毎回、1時間程度）復習　授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題）　60%，課題レポート　（課題，発表）40%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーションとスポーツ科学リテラシー	スポーツ科学リテラシーの意義と測定流れ、データ記入方法について
2	体力測定①	身体組成、スピード&アジリティ測定
3	体力測定②	パワー&持久力測定
4	心理測定①	心理調査と心理学講習会
5	栄養測定①	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
6	筋力測定①	懸垂測定と１RM測定練習
7	筋力測定②	スクワット、ベンチプレス１RM測定
8	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
9	コンディショニング概論①	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法　時差対策
10	バイオメカニクス講習	スポーツ現場で利用できる映像分析
11	生理学講習	持久力トレーニングの各種方法
12	アナリティクス講習	映像から試合分析する方法
13	目標に向けた自主的なトレーニング①	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
14	目標に向けた自主的なトレーニング②	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
15	オリエンテーションと前期振り返りと後期目標設定	前期振り返りと後期目標設定
16	コンディショニング概論②	コンディショニングについて
17	体力測定①ー２	身体組成、スピード&アジリティ測定
18	体力測定②ー２	パワー&持久力測定
19	心理測定②	心理調査と心理学講習会
20	栄養測定②	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
21	筋力測定①ー２	懸垂測定と１RM測定練習

22	筋力測定②ー２	スクワット、ベンチプレス１RM測定
23	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
24	コンディショニング概論③	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法　時差対策
25	目標に向けた自主的なトレーニング④	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
26	目標に向けた自主的なトレーニング⑤	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
27	目標に向けた自主的なトレーニング⑥	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
28	まとめ	1年のまとめとこれからについて
29		
30		

科目コード	14100				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ				担当者名	宮本　彩			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。競技スポーツ科学科では、世界で活躍し認められるアスリートになる・創るためにスポーツ科学リテラシー（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）を身に付けることを目的とする。また、各種測定と分析を行い、自身の目標達成に向けた改善プログラムを自ら作成し、自発的に行動できる力を養う。

＜授業の到達目標＞
アスリート / サイエンティストとしての成長の記録を可視化し、各種評価と分析、改善サイクルが計画できるようになる。

＜授業の方法＞
トップガン、インスパイア、教室のそれぞれで講義と実技の両方を組み合わせた演習形式にて実施する。また、各種測定の分析、評価の際にはグループワーク・ディスカッションを行う。課題管理はグーグルクラスルームやスプレッドシートにて行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素有基本的には、実技とグループワークを行う。また、プレゼンテーションも実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習　自身の専門競技における競技特性とスポーツ科学リテラシーとの関係性を調べておく。（毎回、1時間程度）復習　授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題）　60%，課題レポート　（課題，発表）40%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーションとスポーツ科学リテラシー	スポーツ科学リテラシーの意義と測定流れ、データ記入方法について
2	体力測定①	身体組成、スピード&アジリティ測定
3	体力測定②	パワー&持久力測定
4	心理測定①	心理調査と心理学講習会
5	栄養測定①	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
6	筋力測定①	懸垂測定と１RM測定練習
7	筋力測定②	スクワット、ベンチプレス１RM測定
8	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
9	コンディショニング概論①	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法　時差対策
10	バイオメカニクス講習	スポーツ現場で利用できる映像分析
11	生理学講習	持久力トレーニングの各種方法
12	アナリティクス講習	映像から試合分析する方法
13	目標に向けた自主的なトレーニング①	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
14	目標に向けた自主的なトレーニング②	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
15	オリエンテーションと前期振り返りと後期目標設定	前期振り返りと後期目標設定
16	コンディショニング概論②	コンディショニングについて
17	体力測定①ー２	身体組成、スピード&アジリティ測定
18	体力測定②ー２	パワー&持久力測定
19	心理測定②	心理調査と心理学講習会
20	栄養測定②	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
21	筋力測定①ー２	懸垂測定と１RM測定練習

22	筋力測定②ー２	スクワット、ベンチプレス１RM測定
23	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
24	コンディショニング概論③	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法　時差対策
25	目標に向けた自主的なトレーニング④	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
26	目標に向けた自主的なトレーニング⑤	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
27	目標に向けた自主的なトレーニング⑥	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
28	まとめ	1年のまとめとこれからについて
29		
30		

科目コード	14100				区　分	教養科目		
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ				担当者名	伊藤　亮輔		
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。競技スポーツ科学科では、世界で活躍し認められるアスリートになる・創るためにスポーツ科学リテラシー（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）を身に付けることを目的とする。また、各種測定と分析を行い、自身の目標達成に向けた改善プログラムを自ら作成し、自発的に行動できる力を養う。

＜授業の到達目標＞
アスリート / サイエンティストとしての成長の記録を可視化し、各種評価と分析、改善サイクルが計画できるようになる。

＜授業の方法＞
トップガン、インスパイア、教室のそれぞれで講義と実技の両方を組み合わせた演習形式にて実施する。また、各種測定の分析、評価の際にはグループワーク・ディスカッションを行う。課題管理はグーグルクラスルームやスプレッドシートにて行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素有基本的には、実技とグループワークを行う。また、プレゼンテーションも実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習　自身の専門競技における競技特性とスポーツ科学リテラシーとの関係性を調べておく。（毎回、1時間程度）復習　授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題）　60%，課題レポート　（課題，発表）40%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーションとスポーツ科学リテラシー	スポーツ科学リテラシーの意義と測定流れ、データ記入方法について
2	体力測定①	身体組成、スピード&アジリティ測定
3	体力測定②	パワー&持久力測定
4	心理測定①	心理調査と心理学講習会
5	栄養測定①	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
6	筋力測定①	懸垂測定と１RM測定練習
7	筋力測定②	スクワット、ベンチプレス１RM測定
8	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
9	コンディショニング概論①	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法　時差対策
10	バイオメカニクス講習	スポーツ現場で利用できる映像分析
11	生理学講習	持久力トレーニングの各種方法
12	アナリティクス講習	映像から試合分析する方法
13	目標に向けた自主的なトレーニング①	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
14	目標に向けた自主的なトレーニング②	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
15	オリエンテーションと前期振り返りと後期目標設定	前期振り返りと後期目標設定
16	コンディショニング概論②	コンディショニングについて
17	体力測定①ー２	身体組成、スピード&アジリティ測定
18	体力測定②ー２	パワー&持久力測定
19	心理測定②	心理調査と心理学講習会
20	栄養測定②	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
21	筋力測定①ー２	懸垂測定と１RM測定練習

22	筋力測定②ー２	スクワット、ベンチプレス１RM測定
23	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
24	コンディショニング概論③	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法　時差対策
25	目標に向けた自主的なトレーニング④	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
26	目標に向けた自主的なトレーニング⑤	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
27	目標に向けた自主的なトレーニング⑥	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
28	まとめ	1年のまとめとこれからについて
29		
30		

科目コード	14100				区　分	教養科目		
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ				担当者名	品田　直宏		
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。競技スポーツ科学科では、世界で活躍し認められるアスリートになる・創るためにスポーツ科学リテラシー（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）を身に付けることを目的とする。また、各種測定と分析を行い、自身の目標達成に向けた改善プログラムを自ら作成し、自発的に行動できる力を養う。

＜授業の到達目標＞
アスリート / サイエンティストとしての成長の記録を可視化し、各種評価と分析、改善サイクルが計画できるようになる。

＜授業の方法＞
トップガン、インスパイア、教室のそれぞれで講義と実技の両方を組み合わせた演習形式にて実施する。また、各種測定の分析、評価の際にはグループワーク・ディスカッションを行う。課題管理はグーグルクラスルームやスプレッドシートにて行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素有基本的には、実技とグループワークを行う。また、プレゼンテーションも実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習　自身の専門競技における競技特性とスポーツ科学リテラシーとの関係性を調べておく。（毎回、1時間程度）復習　授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題）　60%，課題レポート　（課題，発表）40%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーションとスポーツ科学リテラシー	スポーツ科学リテラシーの意義と測定流れ、データ記入方法について
2	体力測定①	身体組成、スピード&アジリティ測定
3	体力測定②	パワー&持久力測定
4	心理測定①	心理調査と心理学講習会
5	栄養測定①	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
6	筋力測定①	懸垂測定と１RM測定練習
7	筋力測定②	スクワット、ベンチプレス１RM測定
8	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
9	コンディショニング概論①	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法　時差対策
10	バイオメカニクス講習	スポーツ現場で利用できる映像分析
11	生理学講習	持久力トレーニングの各種方法
12	アナリティクス講習	映像から試合分析する方法
13	目標に向けた自主的なトレーニング①	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
14	目標に向けた自主的なトレーニング②	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
15	オリエンテーションと前期振り返りと後期目標設定	前期振り返りと後期目標設定
16	コンディショニング概論②	コンディショニングについて
17	体力測定①ー２	身体組成、スピード&アジリティ測定
18	体力測定②ー２	パワー&持久力測定
19	心理測定②	心理調査と心理学講習会
20	栄養測定②	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
21	筋力測定①ー２	懸垂測定と１RM測定練習

22	筋力測定②ー２	スクワット、ベンチプレス１RM測定
23	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
24	コンディショニング概論③	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法　時差対策
25	目標に向けた自主的なトレーニング④	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
26	目標に向けた自主的なトレーニング⑤	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
27	目標に向けた自主的なトレーニング⑥	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
28	まとめ	1年のまとめとこれからについて
29		
30		

科目コード	14100				区　分	教養科目		
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ				担当者名	小村　淳		
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。競技スポーツ科学科では、世界で活躍し認められるアスリートになる・創るためにスポーツ科学リテラシー（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）を身に付けることを目的とする。また、各種測定と分析を行い、自身の目標達成に向けた改善プログラムを自ら作成し、自発的に行動できる力を養う。

＜授業の到達目標＞
アスリート / サイエンティストとしての成長の記録を可視化し、各種評価と分析、改善サイクルが計画できるようになる。

＜授業の方法＞
トップガン、インスパイア、教室のそれぞれで講義と実技の両方を組み合わせた演習形式にて実施する。また、各種測定の分析、評価の際にはグループワーク・ディスカッションを行う。課題管理はグーグルクラスルームやスプレッドシートにて行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素有基本的には、実技とグループワークを行う。また、プレゼンテーションも実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習　自身の専門競技における競技特性とスポーツ科学リテラシーとの関係性を調べておく。（毎回、1時間程度）復習　授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題）　60%，課題レポート　（課題，発表）40%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーションとスポーツ科学リテラシー	スポーツ科学リテラシーの意義と測定流れ、データ記入方法について
2	体力測定①	身体組成、スピード&アジリティ測定
3	体力測定②	パワー&持久力測定
4	心理測定①	心理調査と心理学講習会
5	栄養測定①	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
6	筋力測定①	懸垂測定と１RM測定練習
7	筋力測定②	スクワット、ベンチプレス１RM測定
8	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
9	コンディショニング概論①	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法　時差対策
10	バイオメカニクス講習	スポーツ現場で利用できる映像分析
11	生理学講習	持久力トレーニングの各種方法
12	アナリティクス講習	映像から試合分析する方法
13	目標に向けた自主的なトレーニング①	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
14	目標に向けた自主的なトレーニング②	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
15	オリエンテーションと前期振り返りと後期目標設定	前期振り返りと後期目標設定
16	コンディショニング概論②	コンディショニングについて
17	体力測定①ー２	身体組成、スピード&アジリティ測定
18	体力測定②ー２	パワー&持久力測定
19	心理測定②	心理調査と心理学講習会
20	栄養測定②	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
21	筋力測定①ー２	懸垂測定と１RM測定練習

22	筋力測定②ー２	スクワット、ベンチプレス１RM測定
23	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
24	コンディショニング概論③	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法　時差対策
25	目標に向けた自主的なトレーニング④	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
26	目標に向けた自主的なトレーニング⑤	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
27	目標に向けた自主的なトレーニング⑥	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
28	まとめ	1年のまとめとこれからについて
29		
30		

科目コード	14100				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ				担当者名	鷹取　晃巨			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。競技スポーツ科学科では、世界で活躍し認められるアスリートになる・創るためにスポーツ科学リテラシー（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）を身に付けることを目的とする。また、各種測定と分析を行い、自身の目標達成に向けた改善プログラムを自ら作成し、自発的に行動できる力を養う。

＜授業の到達目標＞
アスリート / サイエンティストとしての成長の記録を可視化し、各種評価と分析、改善サイクルが計画できるようになる。

＜授業の方法＞
トップガン、インスパイア、教室のそれぞれで講義と実技の両方を組み合わせた演習形式にて実施する。また、各種測定の分析、評価の際にはグループワーク・ディスカッションを行う。課題管理はグーグルクラスルームやスプレッドシートにて行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素有基本的には、実技とグループワークを行う。また、プレゼンテーションも実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習　自身の専門競技における競技特性とスポーツ科学リテラシーとの関係性を調べておく。（毎回、1時間程度）復習　授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題）　60%，課題レポート　（課題，発表）40%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーションとスポーツ科学リテラシー	スポーツ科学リテラシーの意義と測定流れ、データ記入方法について
2	体力測定①	身体組成、スピード&アジリティ測定
3	体力測定②	パワー&持久力測定
4	心理測定①	心理調査と心理学講習会
5	栄養測定①	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
6	筋力測定①	懸垂測定と１RM測定練習
7	筋力測定②	スクワット、ベンチプレス１RM測定
8	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
9	コンディショニング概論①	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法　時差対策
10	バイオメカニクス講習	スポーツ現場で利用できる映像分析
11	生理学講習	持久力トレーニングの各種方法
12	アナリティクス講習	映像から試合分析する方法
13	目標に向けた自主的なトレーニング①	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
14	目標に向けた自主的なトレーニング②	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
15	オリエンテーションと前期振り返りと後期目標設定	前期振り返りと後期目標設定
16	コンディショニング概論②	コンディショニングについて
17	体力測定①ー２	身体組成、スピード&アジリティ測定
18	体力測定②ー２	パワー&持久力測定
19	心理測定②	心理調査と心理学講習会
20	栄養測定②	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
21	筋力測定①ー２	懸垂測定と１RM測定練習

22	筋力測定②ー２	スクワット、ベンチプレス１RM測定
23	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
24	コンディショニング概論③	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法　時差対策
25	目標に向けた自主的なトレーニング④	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
26	目標に向けた自主的なトレーニング⑤	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
27	目標に向けた自主的なトレーニング⑥	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
28	まとめ	1年のまとめとこれからについて
29		
30		

科目コード	14100				区　分	教養科目		
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ				担当者名	矢野　智彦		
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。競技スポーツ科学科では、世界で活躍し認められるアスリートになる・創るためにスポーツ科学リテラシー（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）を身に付けることを目的とする。また、各種測定と分析を行い、自身の目標達成に向けた改善プログラムを自ら作成し、自発的に行動できる力を養う。

＜授業の到達目標＞
アスリート / サイエンティストとしての成長の記録を可視化し、各種評価と分析、改善サイクルが計画できるようになる。

＜授業の方法＞
トップガン、インスパイア、教室のそれぞれで講義と実技の両方を組み合わせた演習形式にて実施する。また、各種測定の分析、評価の際にはグループワーク・ディスカッションを行う。課題管理はグーグルクラスルームやスプレッドシートにて行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素有基本的には、実技とグループワークを行う。また、プレゼンテーションも実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習　自身の専門競技における競技特性とスポーツ科学リテラシーとの関係性を調べておく。（毎回、1時間程度）復習　授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題）　60%，課題レポート　（課題，発表）40%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーションとスポーツ科学リテラシー	スポーツ科学リテラシーの意義と測定流れ、データ記入方法について
2	体力測定①	身体組成、スピード&アジリティ測定
3	体力測定②	パワー&持久力測定
4	心理測定①	心理調査と心理学講習会
5	栄養測定①	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
6	筋力測定①	懸垂測定と１RM測定練習
7	筋力測定②	スクワット、ベンチプレス１RM測定
8	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
9	コンディショニング概論①	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法　時差対策
10	バイオメカニクス講習	スポーツ現場で利用できる映像分析
11	生理学講習	持久力トレーニングの各種方法
12	アナリティクス講習	映像から試合分析する方法
13	目標に向けた自主的なトレーニング①	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
14	目標に向けた自主的なトレーニング②	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
15	オリエンテーションと前期振り返りと後期目標設定	前期振り返りと後期目標設定
16	コンディショニング概論②	コンディショニングについて
17	体力測定①ー２	身体組成、スピード&アジリティ測定
18	体力測定②ー２	パワー&持久力測定
19	心理測定②	心理調査と心理学講習会
20	栄養測定②	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
21	筋力測定①ー２	懸垂測定と１RM測定練習

22	筋力測定②ー２	スクワット、ベンチプレス１RM測定
23	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
24	コンディショニング概論③	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法　時差対策
25	目標に向けた自主的なトレーニング④	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
26	目標に向けた自主的なトレーニング⑤	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
27	目標に向けた自主的なトレーニング⑥	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
28	まとめ	1年のまとめとこれからについて
29		
30		

科目コード	14100				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ				担当者名	桂　秀樹			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。競技スポーツ科学科では、世界で活躍し認められるアスリートになる・創るためにスポーツ科学リテラシー（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）を身に付けることを目的とする。また、各種測定と分析を行い、自身の目標達成に向けた改善プログラムを自ら作成し、自発的に行動できる力を養う。

＜授業の到達目標＞
アスリート / サイエンティストとしての成長の記録を可視化し、各種評価と分析、改善サイクルが計画できるようになる。

＜授業の方法＞
トップガン、インスパイア、教室のそれぞれで講義と実技の両方を組み合わせた演習形式にて実施する。また、各種測定の分析、評価の際にはグループワーク・ディスカッションを行う。課題管理はグーグルクラスルームやスプレッドシートにて行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素有基本的には、実技とグループワークを行う。また、プレゼンテーションも実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習　自身の専門競技における競技特性とスポーツ科学リテラシーとの関係性を調べておく。（毎回、1時間程度）復習　授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題）　60%，課題レポート　（課題，発表）40%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーションとスポーツ科学リテラシー	スポーツ科学リテラシーの意義と測定流れ、データ記入方法について
2	体力測定①	身体組成、スピード&アジリティ測定
3	体力測定②	パワー&持久力測定
4	心理測定①	心理調査と心理学講習会
5	栄養測定①	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
6	筋力測定①	懸垂測定と１RM測定練習
7	筋力測定②	スクワット、ベンチプレス１RM測定
8	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
9	コンディショニング概論①	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法　時差対策
10	バイオメカニクス講習	スポーツ現場で利用できる映像分析
11	生理学講習	持久力トレーニングの各種方法
12	アナリティクス講習	映像から試合分析する方法
13	目標に向けた自主的なトレーニング①	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
14	目標に向けた自主的なトレーニング②	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
15	オリエンテーションと前期振り返りと後期目標設定	前期振り返りと後期目標設定
16	コンディショニング概論②	コンディショニングについて
17	体力測定①ー２	身体組成、スピード&アジリティ測定
18	体力測定②ー２	パワー&持久力測定
19	心理測定②	心理調査と心理学講習会
20	栄養測定②	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
21	筋力測定①ー２	懸垂測定と１RM測定練習

22	筋力測定②ー２	スクワット、ベンチプレス１RM測定
23	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
24	コンディショニング概論③	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法　時差対策
25	目標に向けた自主的なトレーニング④	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
26	目標に向けた自主的なトレーニング⑤	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
27	目標に向けた自主的なトレーニング⑥	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
28	まとめ	1年のまとめとこれからについて
29		
30		

科目コード	14100				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ				担当者名	畠中　要輔			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、大学生活への適応を図るとともに、教職を志す学生として必要な基礎力（主体性・協働性・表現力・実践力）を養うことを目的とする。特に「スクールフェス」を軸として、授業設計、学習指導案の作成、模擬授業、小学校授業見学を段階的に行い、教育実践に必要な基礎的能力を体系的に修得する。

＜授業の到達目標＞
本授業を通して、以下の力を身につけることを目標とする。１、大学生活に必要な基本的知識・技能を理解し、適切に活用できる２、チームで協働しながら課題解決に主体的に取り組むことができる３、学習指導案を作成し、意図に基づいた授業設計ができる４、模擬授業を実施し、自らの教育実践を振り返り改善することができる５、自己の学習や経験を振り返り、将来の目標を具体的に設定・説明できる

＜授業の方法＞
本授業は、講義・演習・グループワーク・発表・模擬授業を組み合わせて実施する。特に、グループでの授業づくりやディスカッションを通して、協働的に課題解決に取り組む。また、小学校授業見学やスクールフェスでの実践活動を通して、理論と実践を往還しながら学びを深める。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、模擬授業、フィールドワーク（小学校授業見学）を取り入れ、学生の主体的・協働的な学習を促進する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習（各回2～3時間）・授業テーマに関連する資料の読解および要点整理・模擬授業・指導案作成に向けた教材研究・構想・教育実践事例や授業動画等の調査事後学習（各回2～3時間）・授業内容・ディスカッションの振り返り記録・指導案・発表資料の修正および改善・模擬授業や見学の振り返りと課題の明確化

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本授業は、以下のディプロマポリシーと関連する。DP1：他者と協働し、目標達成に向けて行動できる力DP2：専門分野における基礎的知識・技能を活用できる力

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度（ディスカッションや発表、演習への取り組み等）３０％、小課題（学習指導案、読書感想文、発表スライド、レポート等）５０％、大課題（発表等）２０％

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	学生生活	メンター、メンティー紹介、キャンパスツアー
2	学生生活	学生便覧、教職の手引き等確認。レポートの書き方
3	1年次目標	メンター講話
4	1年次目標	オンデマンド
5	スクールフェス	キックオフ、授業を思い出す、イメージする
6	スクールフェス	授業を考える
7	スクールフェス	チーム分け、やりたい授業
8	スクールフェス	先輩の経験を聞く
9	小学校授業見学	事前指導
10	小学校授業見学	本番
11	小学校授業見学	振り返り
12	スクールフェス	学習指導案
13	スクールフェス	学習指導案作成
14	スクールフェス	学習指導案提出、スライド発表、前期末集会
15	スクールフェス	確認、お知らせ
16	スクールフェス	模擬授業１
17	スクールフェス	模擬授業２
18	スクールフェス	模擬授業３
19	スクールフェス	事前指導
20	スクールフェス	当日

21	スクールフェス	振り返り
22	スクールフェス	小学校見学事前指導
23	スクールフェス	小学校見学
24	スクールフェス	小学校見学振り返り
25	スクールフェス２	当日
26	2年生に向けて	4年生の話を聞く
27	ゼミの振り返り	振り返り
28	学年の振り返り	学年末集会
29		
30		

科目コード	14100				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ				担当者名	竹下　厚志			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、大学生活への適応を図るとともに、教職を志す学生として必要な基礎力（主体性・協働性・表現力・実践力）を養うことを目的とする。特に「スクールフェス」を軸に、授業設計・模擬授業・学校現場理解を段階的に学ぶ。

＜授業の到達目標＞
本授業を通して、以下の力を身につけることを目標とする。１大学生活に必要な基本的知識・技能を理解し活用できる２チームで協働しながら課題解決に取り組むことができる３学習指導案の作成および授業設計ができる４模擬授業を通して教育実践力を高める５自己を振り返り、将来の目標を明確にできる

＜授業の方法＞
原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。学年全体での授業や、学外に出ての授業見学等も行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループでの授業づくりや、ディスカッション、発表、模擬授業など行う

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：指導案作り課題　3時間　復習：指導案見直し等　3時間

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度（ディスカッションや発表、演習への取り組み等）３０％、小課題（学習指導案、読書感想文、発表スライド、レポート等）５０％、大課題（発表等）２０％

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	学生生活	メンター、メンティー紹介、キャンパスツアー
2	学生生活	学生便覧、教職の手引き等確認。レポートの書き方
3	1年次目標	メンター講話
4	1年次目標	オンデマンド
5	スクールフェス	キックオフ、授業を思い出す、イメージする
6	スクールフェス	授業を考える
7	スクールフェス	チーム分け、やりたい授業
8	スクールフェス	先輩の経験を聞く
9	小学校授業見学	事前指導
10	小学校授業見学	本番
11	小学校授業見学	振り返り
12	スクールフェス	学習指導案
13	スクールフェス	学習指導案作成
14	スクールフェス	学習指導案提出、スライド発表、前期末集会
15	スクールフェス	確認、お知らせ
16	スクールフェス	模擬授業１
17	スクールフェス	模擬授業２
18	スクールフェス	模擬授業３
19	スクールフェス	事前指導
20	スクールフェス	当日
21	スクールフェス	振り返り
22	スクールフェス	小学校見学事前指導
23	スクールフェス	小学校見学
24	スクールフェス	小学校見学振り返り
25	スクールフェス２	当日
26	2年生に向けて	4年生の話を聞く
27	ゼミの振り返り	振り返り

28 29 30	学年の振り返り	学年末集会

科目コード	14100				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ				担当者名	中安　翼			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、大学生活への適応を図るとともに、教職を志す学生として必要な基礎力（主体性・協働性・表現力・実践力）を養うことを目的とする。特に「スクールフェス」を軸に、授業設計・模擬授業・学校現場理解を段階的に学ぶ。

＜授業の到達目標＞
本授業を通して、以下の力を身につけることを目標とする。１大学生活に必要な基本的知識・技能を理解し活用できる２チームで協働しながら課題解決に取り組むことができる３学習指導案の作成および授業設計ができる４模擬授業を通して教育実践力を高める５自己を振り返り、将来の目標を明確にできる

＜授業の方法＞
原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。学年全体での授業や、学外に出ての授業見学等も行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループでの授業づくりや、ディスカッション、発表、模擬授業など行う

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：指導案作り課題　3時間　復習：指導案見直し等　3時間

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度（ディスカッションや発表、演習への取り組み等）３０％、小課題（学習指導案、読書感想文、発表スライド、レポート等）５０％、大課題（発表等）２０％

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	学生生活	メンター、メンティー紹介、キャンパスツアー
2	学生生活	学生便覧、教職の手引き等確認。レポートの書き方
3	1年次目標	メンター講話
4	1年次目標	オンデマンド
5	スクールフェス	キックオフ、授業を思い出す、イメージする
6	スクールフェス	授業を考える
7	スクールフェス	チーム分け、やりたい授業
8	スクールフェス	先輩の経験を聞く
9	小学校授業見学	事前指導
10	小学校授業見学	本番
11	小学校授業見学	振り返り
12	スクールフェス	学習指導案
13	スクールフェス	学習指導案作成
14	スクールフェス	学習指導案提出、スライド発表、前期末集会
15	スクールフェス	確認、お知らせ
16	スクールフェス	模擬授業１
17	スクールフェス	模擬授業２
18	スクールフェス	模擬授業３
19	スクールフェス	事前指導
20	スクールフェス	当日
21	スクールフェス	振り返り
22	スクールフェス	小学校見学事前指導
23	スクールフェス	小学校見学
24	スクールフェス	小学校見学振り返り
25	スクールフェス２	当日
26	2年生に向けて	4年生の話を聞く
27	ゼミの振り返り	振り返り

28 29 30	学年の振り返り	学年末集会

科目コード	14100				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ				担当者名	渡邊　亮／四宮　貴久／小澤　尚子			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、大学生活への適応を図るとともに、教職を志す学生として必要な基礎力（主体性・協働性・表現力・実践力）を養うことを目的とする。特に「スクールフェス」を軸に、授業設計・模擬授業・学校現場理解を段階的に学ぶ。

＜授業の到達目標＞
本授業を通して、以下の力を身につけることを目標とする。１大学生活に必要な基本的知識・技能を理解し活用できる２チームで協働しながら課題解決に取り組むことができる３学習指導案の作成および授業設計ができる４模擬授業を通して教育実践力を高める５自己を振り返り、将来の目標を明確にできる

＜授業の方法＞
原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。学年全体での授業や、学外に出ての授業見学等も行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループでの授業づくりや、ディスカッション、発表、模擬授業など行う

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：指導案作り課題　3時間　復習：指導案見直し等　3時間

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度（ディスカッションや発表、演習への取り組み等）３０％、小課題（学習指導案、読書感想文、発表スライド、レポート等）５０％、大課題（発表等）２０％

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	学生生活	メンター、メンティー紹介、キャンパスツアー
2	学生生活	学生便覧、教職の手引き等確認。レポートの書き方
3	1年次目標	メンター講話
4	1年次目標	オンデマンド
5	スクールフェス	キックオフ、授業を思い出す、イメージする
6	スクールフェス	授業を考える
7	スクールフェス	チーム分け、やりたい授業
8	スクールフェス	先輩の経験を聞く
9	小学校授業見学	事前指導
10	小学校授業見学	本番
11	小学校授業見学	振り返り
12	スクールフェス	学習指導案
13	スクールフェス	学習指導案作成
14	スクールフェス	学習指導案提出、スライド発表、前期末集会
15	スクールフェス	確認、お知らせ
16	スクールフェス	模擬授業１
17	スクールフェス	模擬授業２
18	スクールフェス	模擬授業３
19	スクールフェス	事前指導
20	スクールフェス	当日
21	スクールフェス	振り返り
22	スクールフェス	小学校見学事前指導
23	スクールフェス	小学校見学
24	スクールフェス	小学校見学振り返り
25	スクールフェス２	当日
26	2年生に向けて	4年生の話を聞く
27	ゼミの振り返り	振り返り

28 29 30	学年の振り返り	学年末集会

科目コード	14100				区　分	教養科目		
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ [再履修]PH用[不開講]				担当者名	古山　喜一		
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。また、自身が目指す進路の社会的情勢を把握し、今求められる人材について把握する。そして社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも「自分の意見を伝える（スピーチ力）」力は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることができるようになるための基礎・基本を身につけます。さらにグループワークやディスカッションを通じて、相手に伝える能力の向上を目指す。

＜授業の到達目標＞
①学生生活：よい生活習慣の確立する②スピーチ力の向上：自分の意見を伝えることができるようになる③キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について話すことができるようになる

＜授業の方法＞
講義・演習・実技等の形態をとりグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループディスカッションプレゼンテーション

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：必要としない。復習：各種認定試験受験前には時間外復習を推奨する。試験1か月前、一日1時間程度が望ましい。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は本学教養科目のディプロマポリシー（DP）のうち、DP１　体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。 DP２　体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。 に該当する科目であり、「豊かな人間性と個性」および「深い専門性と実践力」を養成することを目的としている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業出席10%授業態度90%授業態度は積極的な取り組みや課題提出、規範遵守の観点から総合的に判断する。

＜教科書＞
特に指定なし

＜参考書＞
特に指定なし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	履修登録確認	履修登録確認
2	個人面談1	個人面談1
3	個人面談2	個人面談2
4	熱中症アンバサダー	熱中症アンバサダー
5	運動器（骨・筋）学習①	運動器（骨・筋）学習①
6	運動器（骨・筋）学習②	運動器（骨・筋）学習②
7	運動器（骨・筋）学習③	運動器（骨・筋）学習③
8	運動器（骨・筋）学習④	運動器（骨・筋）学習④
9	運動器（骨・筋）学習⑤	運動器（骨・筋）学習⑤
10	運動器（骨・筋）学習⑥	運動器（骨・筋）学習⑥
11	スピーチコンテスト①	スピーチコンテスト①
12	スピーチコンテスト②	スピーチコンテスト②
13	スピーチコンテスト③	スピーチコンテスト③
14	五訓評価・運動器評価試験	五訓評価・運動器評価試験
15	履修訂正・後期ガイダンス	履修訂正・後期ガイダンス
16	個人面談	個人面談
17	MATCH+	MATCH+を用いたキャリア教育、自分を知る時間とする。
18	スポーツ医学検定勉強①	スポーツ医学検定勉強①
19	スポーツ医学検定勉強②	スポーツ医学検定勉強②
20	スポーツ医学検定勉強③	スポーツ医学検定勉強③
21	スポーツ医学検定勉強④	スポーツ医学検定勉強④
22	スポーツ医学検定勉強⑤	スポーツ医学検定勉強⑤
23	スポーツ医学検定勉強⑥	スポーツ医学検定勉強⑥

24	文章力検定対策1	文章力検定対策1
25	文章力検定対策2	文章力検定対策2
26	定期試験対策	定期試験対策
27	定期試験対策	定期試験対策
28	定期試験対策	定期試験対策
29		
30		

科目コード	14100				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ [通年]PS用				担当者名	山本　清人／田口　真奈			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。競技スポーツ科学科では、世界で活躍し認められるアスリートになる・創るためにスポーツ科学リテラシー（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）を身に付けることを目的とする。また、各種測定と分析を行い、自身の目標達成に向けた改善プログラムを自ら作成し、自発的に行動できる力を養う。

＜授業の到達目標＞
アスリート / サイエンティストとしての成長の記録を可視化し、各種評価と分析、改善サイクルが計画できるようになる。

＜授業の方法＞
トップガン、インスパイア、教室のそれぞれで講義と実技の両方を組み合わせた演習形式にて実施する。また、各種測定の分析、評価の際にはグループワーク・ディスカッションを行う。課題管理はグーグルクラスルームやスプレッドシートにて行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素有基本的には、実技とグループワークを行う。また、プレゼンテーションも実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習　自身の専門競技における競技特性とスポーツ科学リテラシーとの関係性を調べておく。（毎回、1時間程度）復習　授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題）　60%，課題レポート　（課題，発表）40%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーションとスポーツ科学リテラシー	スポーツ科学リテラシーの意義と測定流れ、データ記入方法について
2	体力測定①	身体組成、スピード&アジリティ測定
3	体力測定②	パワー&持久力測定
4	心理測定①	心理調査と心理学講習会
5	栄養測定①	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
6	筋力測定①	懸垂測定と１RM測定練習
7	筋力測定②	スクワット、ベンチプレス１RM測定
8	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
9	コンディショニング概論①	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法　時差対策
10	バイオメカニクス講習	スポーツ現場で利用できる映像分析
11	生理学講習	持久力トレーニングの各種方法
12	アナリティクス講習	映像から試合分析する方法
13	目標に向けた自主的なトレーニング①	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
14	目標に向けた自主的なトレーニング②	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
15	オリエンテーションと前期振り返りと後期目標設定	前期振り返りと後期目標設定
16	コンディショニング概論②	コンディショニングについて
17	体力測定①ー２	身体組成、スピード&アジリティ測定
18	体力測定②ー２	パワー&持久力測定
19	心理測定②	心理調査と心理学講習会
20	栄養測定②	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
21	筋力測定①ー２	懸垂測定と１RM測定練習

22	筋力測定②ー２	スクワット、ベンチプレス１RM測定
23	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
24	コンディショニング概論③	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法　時差対策
25	目標に向けた自主的なトレーニング④	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
26	目標に向けた自主的なトレーニング⑤	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
27	目標に向けた自主的なトレーニング⑥	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
28	まとめ	1年のまとめとこれからについて
29		
30		

科目コード	14101				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	河野　儀久			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
多方面に活躍できる柔道整復師を知ってもらうために各教員が取り組んでいる内容を体験型授業で実施し、自身の将来の方向性を定めることを目的する。

＜授業の到達目標＞
①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・ 責任感」のある人間の育成②社会人基礎力：：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

＜授業の方法＞
１．講義（学科教員による講義，講話）２．グループワーク、ディスカッション３．省察（質疑・まとめ・感想発表）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：総合医学学習では指定学習範囲内容、プレゼミナールでは担当教員の研究領域内容について事前学習、調査（60分程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲30％・課題70％

＜教科書＞
特になし　　発行所：医歯薬出版株式会社
監修：公益社団法人全国柔道整復学校協会　2020年1月10日第2版第14刷発行　解剖学　改訂第2版

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	現状を考え、今年度の計画を立てる１年次の成績、今年度の履修登録確認資格取得予定確認（アンケート）
2	役職者講和	・大学2年生としての役割
3	個別面談	・1年間の経過とこれからの計画などについて
4	オンデマンド：運動器（骨・筋・関節）解剖の概要①	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
5	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要②	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
6	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要③	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
7	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要④	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
8	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要⑤	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
9	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要⑥	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
10	学科内プレゼンテーション発表の概要	・これまで学んだ中で興味ある分野を調べ、グループディスカッションを行いスライドを作成するまでの流れを説明する。
11	学科内プレゼンテーション発表①	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
12	学科内プレゼンテーション発表②	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
13	学科内プレゼンテーション発表③	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
14	学科内プレゼンテーション発表④	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
15	前期振り返り	・前期までの振り返りと自己分析
16	個別面談①と後期授業内容について	・保護者面談の内容を踏まえた学生との面談
17	個別面談②	・資格取得や就職について

18	学科内プレゼンテーション発表⑤	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
19	学科内プレゼンテーション発表⑥	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
20	学科内プレゼンテーション発表⑦	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
21	学科内プレゼンテーション発表⑧	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
22	学科内プレゼンテーション発表⑨	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
23	学科内プレゼンテーション発表⑩	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
24	大学教職員講和	・柔道整復師とは
25	大学教職員講和	・医療、スポーツと柔道整復師について
26	大学教職員講和	・柔道整復師の未来について
27	ゼミナール担当教員講和①	・ゼミナール決定に向けて担当となるゼミナール活動を知る
28	ゼミナール担当教員講和②	・ゼミナール決定に向けて担当となるゼミナール活動を知る
29		
30		

科目コード	14101				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	畑島　紀昭			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
多方面に活躍できる柔道整復師を知ってもらうために各教員が取り組んでいる内容を体験型授業で実施し、自身の将来の方向性を定めることを目的する。

＜授業の到達目標＞
①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・ 責任感」のある人間の育成②社会人基礎力：：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

＜授業の方法＞
１．講義（学科教員による講義，講話）２．グループワーク、ディスカッション３．省察（質疑・まとめ・感想発表）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：総合医学学習では指定学習範囲内容、プレゼミナールでは担当教員の研究領域内容について事前学習、調査（60分程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲30％・課題70％

＜教科書＞
特になし　　発行所：医歯薬出版株式会社
監修：公益社団法人全国柔道整復学校協会　2020年1月10日第2版第14刷発行　解剖学　改訂第2版

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	現状を考え、今年度の計画を立てる１年次の成績、今年度の履修登録確認資格取得予定確認（アンケート）
2	役職者講和	・大学2年生としての役割
3	個別面談	・1年間の経過とこれからの計画などについて
4	オンデマンド：運動器（骨・筋・関節）解剖の概要①	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
5	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要②	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
6	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要③	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
7	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要④	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
8	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要⑤	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
9	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要⑥	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
10	学科内プレゼンテーション発表の概要	・これまで学んだ中で興味ある分野を調べ、グループディスカッションを行いスライドを作成するまでの流れを説明する。
11	学科内プレゼンテーション発表①	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
12	学科内プレゼンテーション発表②	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
13	学科内プレゼンテーション発表③	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
14	学科内プレゼンテーション発表④	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
15	前期振り返り	・前期までの振り返りと自己分析
16	個別面談①と後期授業内容について	・保護者面談の内容を踏まえた学生との面談
17	個別面談②	・資格取得や就職について

18	学科内プレゼンテーション発表⑤	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
19	学科内プレゼンテーション発表⑥	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
20	学科内プレゼンテーション発表⑦	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
21	学科内プレゼンテーション発表⑧	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
22	学科内プレゼンテーション発表⑨	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
23	学科内プレゼンテーション発表⑩	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
24	大学教職員講和	・柔道整復師とは
25	大学教職員講和	・医療、スポーツと柔道整復師について
26	大学教職員講和	・柔道整復師の未来について
27	ゼミナール担当教員講和①	・ゼミナール決定に向けて担当となるゼミナール活動を知る
28	ゼミナール担当教員講和②	・ゼミナール決定に向けて担当となるゼミナール活動を知る
29		
30		

科目コード	14101				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	坂本　賢広			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
多方面に活躍できる柔道整復師を知ってもらうために各教員が取り組んでいる内容を体験型授業で実施し、自身の将来の方向性を定めることを目的する。

＜授業の到達目標＞
①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・ 責任感」のある人間の育成②社会人基礎力：：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

＜授業の方法＞
１．講義（学科教員による講義，講話）２．グループワーク、ディスカッション３．省察（質疑・まとめ・感想発表）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：総合医学学習では指定学習範囲内容、プレゼミナールでは担当教員の研究領域内容について事前学習、調査（60分程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲30％・課題70％

＜教科書＞
特になし　　発行所：医歯薬出版株式会社
監修：公益社団法人全国柔道整復学校協会　2020年1月10日第2版第14刷発行　解剖学　改訂第2版

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	現状を考え、今年度の計画を立てる１年次の成績、今年度の履修登録確認資格取得予定確認（アンケート）
2	役職者講和	・大学2年生としての役割
3	個別面談	・1年間の経過とこれからの計画などについて
4	オンデマンド：運動器（骨・筋・関節）解剖の概要①	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
5	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要②	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
6	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要③	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
7	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要④	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
8	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要⑤	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
9	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要⑥	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
10	学科内プレゼンテーション発表の概要	・これまで学んだ中で興味ある分野を調べ、グループディスカッションを行いスライドを作成するまでの流れを説明する。
11	学科内プレゼンテーション発表①	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
12	学科内プレゼンテーション発表②	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
13	学科内プレゼンテーション発表③	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
14	学科内プレゼンテーション発表④	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
15	前期振り返り	・前期までの振り返りと自己分析
16	個別面談①と後期授業内容について	・保護者面談の内容を踏まえた学生との面談
17	個別面談②	・資格取得や就職について

18	学科内プレゼンテーション発表⑤	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
19	学科内プレゼンテーション発表⑥	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
20	学科内プレゼンテーション発表⑦	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
21	学科内プレゼンテーション発表⑧	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
22	学科内プレゼンテーション発表⑨	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
23	学科内プレゼンテーション発表⑩	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
24	大学教職員講和	・柔道整復師とは
25	大学教職員講和	・医療、スポーツと柔道整復師について
26	大学教職員講和	・柔道整復師の未来について
27	ゼミナール担当教員講和①	・ゼミナール決定に向けて担当となるゼミナール活動を知る
28	ゼミナール担当教員講和②	・ゼミナール決定に向けて担当となるゼミナール活動を知る
29		
30		

科目コード	14101				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	坂本　康輔			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学におけるける学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

＜授業の到達目標＞
①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・ 責任感」のある人間性を有することができる　②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力を身に付けることができる　③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力を身に付けることができる　④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力を身に付けることができる

＜授業の方法＞
1.講義(メンターによる講話)　2.グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ)　3.省察活動(質疑・まとめ・感想発表)　4.基礎学力課題に取り組む

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
要素：有テーマに応じて、ディスカッションを行う

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。（毎回１時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ１～２回程度、３時間程度）復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等（60%）演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲（30%）最終レポート（10%）必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション（コミュニティの形成）	授業概要の理解、年間の学びの見通しを持つ
2	自己分析①	自己分析（強み・価値観）および3×3×3フォーマットを用いた言語化の基礎
3	自己分析②・関係形成	交流会に向けた準備と自己開示、関係構築の促進
4	クラス内交流	クラス内交流の実施
5	環トレと五訓について	環トレ課題および五訓評価への取り組み
6	project型学習①　企画	企画立案と役割分担の決定デーション作成
7	project型学習②　リハーサル	企画実施に向けた準備およびリハーサル
8	project型学習③　実践と振り返り	企画実施と振り返り、2年次イベントの方向性検討
9	project型学習④　実践と振り返り	振り返りの深化とアクションプランの具体化
10	project型学習⑤　実践と振り返り共有	振り返りの共有とアクションプランの完成
11	企画発表①	担当イベントのコンセプト発表および意思決定
12	企画発表②	クラス間でのコンセプト発表と相互評価
13	五訓評価	五訓評価の実施
14	前半振り返り	前半活動の総括と個人の成長の振り返り
15	後期オリエンテーション	後期目標設定および五訓評価の実施
16	イベント企画・振り返り①	イベント企画の準備・実践
17	イベント企画・振り返り②	イベント企画の準備・実践

18	イベント企画・振り返り③	イベント実施および振り返り
19	イベント企画・振り返り④	イベント実施および振り返り
20	イベント参加①	１年生主体イベントの参加
21	イベント参加②	１年生主体イベントの参加
22	イベント参加③	１年生主体イベントの参加
23	報告活動①	クラスイベント経験の言語化と発表準備
24	報告活動②	クラスイベント経験の言語化とクラス内発表
25	報告活動④	クラスイベント経験の言語化とクラス間発表
26	キャリア形成①	ゼミ選択に向けた情報収集（ゼミ訪問）
27	キャリア形成②	ゼミ選択に向けた情報収集
28	総括	五訓評価・次年度目標
29		
30		

科目コード	14101				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	伊藤　三千雄			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学におけるける学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

＜授業の到達目標＞
1. 大学での学修に必要なスタディスキル（情報収集・整理・発表）を実践できる。2. 自分の考えを整理し、他者に分かりやすく口頭および文章で表現できる。3. グループワークに主体的に参加し、協働して課題解決に取り組むことができる。4. 自己の興味・関心や強みを整理し、将来のキャリア目標を言語化できる。5. 授業活動を振り返り、今後の学習や行動計画を立てることができる。

＜授業の方法＞
1.講義(メンターによる講話)　2.グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ)　3.省察活動(質疑・まとめ・感想発表)　4.基礎学力課題に取り組む

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
要素：有テーマに応じて、ディスカッションを行う

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。（毎回１時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ１～２回程度、３時間程度）復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２(専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等（60%）演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲（30%）最終レポート（10%）必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション（コミュニティの形成）	授業概要の理解、年間の学びの見通しを持つ
2	自己分析①	自己分析（強み・価値観）および3×3×3フォーマットを用いた言語化の基礎
3	自己分析②・関係形成	交流会に向けた準備と自己開示、関係構築の促進
4	クラス内交流	クラス内交流の実施
5	環トレと五訓について	環トレ課題および五訓評価への取り組み
6	project型学習①　企画	企画立案と役割分担の決定デーション作成
7	project型学習②　リハーサル	企画実施に向けた準備およびリハーサル
8	project型学習③　実践と振り返り	企画実施と振り返り、2年次イベントの方向性検討
9	project型学習④　実践と振り返り	振り返りの深化とアクションプランの具体化
10	project型学習⑤　実践と振り返り共有	振り返りの共有とアクションプランの完成
11	企画発表①	担当イベントのコンセプト発表および意思決定
12	企画発表②	クラス間でのコンセプト発表と相互評価
13	五訓評価	五訓評価の実施
14	前半振り返り	前半活動の総括と個人の成長の振り返り
15	後期オリエンテーション	後期目標設定および五訓評価の実施
16	イベント企画・振り返り①	イベント企画の準備・実践
17	イベント企画・振り返り②	イベント企画の準備・実践
18	イベント企画・振り返り③	イベント実施および振り返り
19	イベント企画・振り返り④	イベント実施および振り返り

20	イベント参加①	１年生主体イベントの参加
21	イベント参加②	１年生主体イベントの参加
22	イベント参加③	１年生主体イベントの参加
23	報告活動①	クラスイベント経験の言語化と発表準備
24	報告活動②	クラスイベント経験の言語化とクラス内発表
25	報告活動④	クラスイベント経験の言語化とクラス間発表
26	キャリア形成①	ゼミ選択に向けた情報収集（ゼミ訪問）
27	キャリア形成②	ゼミ選択に向けた情報収集
28	総括	五訓評価・次年度目標
29		
30		

科目コード	14101				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	藤谷　かおる			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学におけるける学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

＜授業の到達目標＞
1.人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・ 責任感」のある人間の育成　2.社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成　3.大学での学修に必要なスタディスキル（情報収集・整理・発表）の実践　4.キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

＜授業の方法＞
1.講義(メンターによる講話)　2.グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ)　3.省察活動(質疑・まとめ・感想発表)　4.基礎学力課題に取り組む

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
要素：有テーマに応じて、ディスカッションを行う

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。（毎回１時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ１～２回程度、３時間程度）復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２(専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等（60%）演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲（30%）最終レポート（10%）必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

＜教科書＞
特になし　特になし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション（コミュニティの形成）	授業概要の理解、年間の学びの見通しを持つ
2	自己分析①	自己分析（強み・価値観）および3×3×3フォーマットを用いた言語化の基礎
3	自己分析②・関係形成	交流会に向けた準備と自己開示、関係構築の促進
4	クラス内交流	クラス内交流の実施
5	環トレと五訓について	環トレ課題および五訓評価への取り組み
6	project型学習①　企画	企画立案と役割分担の決定デーション作成
7	project型学習②　リハーサル	企画実施に向けた準備およびリハーサル
8	project型学習③　実践と振り返り	企画実施と振り返り、2年次イベントの方向性検討
9	project型学習④　実践と振り返り	振り返りの深化とアクションプランの具体化
10	project型学習⑤　実践と振り返り共有	振り返りの共有とアクションプランの完成
11	企画発表①	担当イベントのコンセプト発表および意思決定
12	企画発表②	クラス間でのコンセプト発表と相互評価
13	五訓評価	五訓評価の実施
14	前半振り返り	前半活動の総括と個人の成長の振り返り
15	後期オリエンテーション	後期目標設定および五訓評価の実施
16	イベント企画・振り返り①	イベント企画の準備・実践
17	イベント企画・振り返り②	イベント企画の準備・実践
18	イベント企画・振り返り③	イベント実施および振り返り
19	イベント企画・振り返り④	イベント実施および振り返り
20	イベント参加①	１年生主体イベントの参加

21	イベント参加②	１年生主体イベントの参加
22	イベント参加③	１年生主体イベントの参加
23	報告活動①	クラスイベント経験の言語化と発表準備
24	報告活動②	内容 クラスイベント経験の言語化とクラス内発表
25	報告活動④	クラスイベント経験の言語化とクラス間発表
26	キャリア形成①	ゼミ選択に向けた情報収集（ゼミ訪問）
27	キャリア形成②	ゼミ選択に向けた情報収集
28	総括	五訓評価・次年度目標訓評価の実施内容
29		
30		

科目コード	14101				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	梶谷　亮輔			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学におけるける学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

＜授業の到達目標＞
①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・ 責任感」のある人間の育成　②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成　③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成　④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

＜授業の方法＞
1.講義(メンターによる講話)　2.グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ)　3.省察活動(質疑・まとめ・感想発表)　4.基礎学力課題に取り組む

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
要素：有テーマに応じて、ディスカッションを行う

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。（毎回１時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ１～２回程度、３時間程度）復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等（60%）演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲（30%）最終レポート（10%）必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション（コミュニティの形成）	授業概要の理解、年間の学びの見通しを持つ
2	自己分析①	自己分析（強み・価値観）および3×3×3フォーマットを用いた言語化の基礎
3	自己分析②・関係形成	交流会に向けた準備と自己開示、関係構築の促進
4	クラス内交流	クラス内交流の実施
5	環トレと五訓について	環トレ課題および五訓評価への取り組み
6	project型学習①　企画	企画立案と役割分担の決定デーション作成
7	project型学習②　リハーサル	企画実施に向けた準備およびリハーサル
8	project型学習③　実践と振り返り	企画実施と振り返り、2年次イベントの方向性検討
9	project型学習④　実践と振り返り	振り返りの深化とアクションプランの具体化
10	project型学習⑤　実践と振り返り共有	振り返りの共有とアクションプランの完成
11	企画発表①	担当イベントのコンセプト発表および意思決定
12	企画発表②	クラス間でのコンセプト発表と相互評価
13	五訓評価	五訓評価の実施
14	前半振り返り	前半活動の総括と個人の成長の振り返り
15	後期オリエンテーション	後期目標設定および五訓評価の実施
16	イベント企画・振り返り①	イベント企画の準備・実践
17	イベント企画・振り返り②	イベント企画の準備・実践
18	イベント企画・振り返り③	イベント実施および振り返り

19	イベント企画・振り返り④	イベント実施および振り返り
20	イベント参加①	１年生主体イベントの参加
21	イベント参加②	１年生主体イベントの参加
22	イベント参加③	１年生主体イベントの参加
23	報告活動①	クラスイベント経験の言語化と発表準備
24	報告活動②	クラスイベント経験の言語化とクラス内発表
25	報告活動④	クラスイベント経験の言語化とクラス間発表
26	キャリア形成①	ゼミ選択に向けた情報収集（ゼミ訪問）
27	キャリア形成②	ゼミ選択に向けた情報収集
28	総括	五訓評価・次年度目標
29		
30		

科目コード	14101				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	國友　亮佑			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学におけるける学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

＜授業の到達目標＞
①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・ 責任感」のある人間性を有することができる　②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力を身に付けることができる　③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力を身に付けることができる　④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力を身に付けることができる

＜授業の方法＞
1.講義(メンターによる講話)　2.グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ)　3.省察活動(質疑・まとめ・感想発表)　4.基礎学力課題に取り組む

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
要素：有テーマに応じて、ディスカッションを行う

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。（毎回１時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ１～２回程度、３時間程度）復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等（60%）演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲（30%）最終レポート（10%）必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション（コミュニティの形成）	授業概要の理解、年間の学びの見通しを持つ
2	自己分析①	自己分析（強み・価値観）および3×3×3フォーマットを用いた言語化の基礎
3	自己分析②・関係形成	交流会に向けた準備と自己開示、関係構築の促進
4	クラス内交流	クラス内交流の実施
5	環トレと五訓について	環トレ課題および五訓評価への取り組み
6	project型学習①　企画	企画立案と役割分担の決定デーション作成
7	project型学習②　リハーサル	企画実施に向けた準備およびリハーサル
8	project型学習③　実践と振り返り	企画実施と振り返り、2年次イベントの方向性検討
9	project型学習④　実践と振り返り	振り返りの深化とアクションプランの具体化
10	project型学習⑤　実践と振り返り共有	振り返りの共有とアクションプランの完成
11	企画発表①	担当イベントのコンセプト発表および意思決定
12	企画発表②	クラス間でのコンセプト発表と相互評価
13	五訓評価	五訓評価の実施
14	前半振り返り	前半活動の総括と個人の成長の振り返り
15	後期オリエンテーション	後期目標設定および五訓評価の実施
16	イベント企画・振り返り①	イベント企画の準備・実践
17	イベント企画・振り返り②	イベント企画の準備・実践

18	イベント企画・振り返り③	イベント実施および振り返り
19	イベント企画・振り返り④	イベント実施および振り返り
20	イベント参加①	１年生主体イベントの参加
21	イベント参加②	１年生主体イベントの参加
22	イベント参加③	１年生主体イベントの参加
23	報告活動①	クラスイベント経験の言語化と発表準備
24	報告活動②	クラスイベント経験の言語化とクラス内発表
25	報告活動④	クラスイベント経験の言語化とクラス間発表
26	キャリア形成①	ゼミ選択に向けた情報収集（ゼミ訪問）
27	キャリア形成②	ゼミ選択に向けた情報収集
28	総括	五訓評価・次年度目標
29		
30		

科目コード	14101				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	片桐　夏海			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学におけるける学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

＜授業の到達目標＞
1. 大学での学修に必要なスタディスキル（情報収集・整理・発表）を実践できる。2. 自分の考えを整理し、他者に分かりやすく口頭および文章で表現できる。3. グループワークに主体的に参加し、協働して課題解決に取り組むことができる。4. 自己の興味・関心や強みを整理し、将来のキャリア目標を言語化できる。5. 授業活動を振り返り、今後の学習や行動計画を立てることができる。

＜授業の方法＞
1.講義(メンターによる講話)　2.グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ)　3.省察活動(質疑・まとめ・感想発表)　4.基礎学力課題に取り組む

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
要素：有テーマに応じて、ディスカッションを行う

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。（毎回１時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ１～２回程度、３時間程度）復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２(専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等（60%）演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲（30%）最終レポート（10%）必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション（コミュニティの形成）	授業概要の理解、年間の学びの見通しを持つ
2	自己分析①	自己分析（強み・価値観）および3×3×3フォーマットを用いた言語化の基礎
3	自己分析②・関係形成	交流会に向けた準備と自己開示、関係構築の促進
4	クラス内交流	クラス内交流の実施
5	環トレと五訓について	環トレ課題および五訓評価への取り組み
6	project型学習①　企画	企画立案と役割分担の決定デーション作成
7	project型学習②　リハーサル	企画実施に向けた準備およびリハーサル
8	project型学習③　実践と振り返り	企画実施と振り返り、2年次イベントの方向性検討
9	project型学習④　実践と振り返り	振り返りの深化とアクションプランの具体化
10	project型学習⑤　実践と振り返り共有	振り返りの共有とアクションプランの完成
11	企画発表①	担当イベントのコンセプト発表および意思決定
12	企画発表②	クラス間でのコンセプト発表と相互評価
13	五訓評価	五訓評価の実施
14	前半振り返り	前半活動の総括と個人の成長の振り返り
15	後期オリエンテーション	後期目標設定および五訓評価の実施
16	イベント企画・振り返り①	イベント企画の準備・実践
17	イベント企画・振り返り②	イベント企画の準備・実践
18	イベント企画・振り返り③	イベント実施および振り返り
19	イベント企画・振り返り④	イベント実施および振り返り

20	イベント参加①	１年生主体イベントの参加
21	イベント参加②	１年生主体イベントの参加
22	イベント参加③	１年生主体イベントの参加
23	報告活動①	クラスイベント経験の言語化と発表準備
24	報告活動②	クラスイベント経験の言語化とクラス内発表
25	報告活動④	クラスイベント経験の言語化とクラス間発表
26	キャリア形成①	ゼミ選択に向けた情報収集（ゼミ訪問）
27	キャリア形成②	ゼミ選択に向けた情報収集
28	総括	五訓評価・次年度目標
29		
30		

科目コード	14101				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	坂元　智子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学におけるける学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

＜授業の到達目標＞
①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・ 責任感」のある人間の育成 ②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成 ③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成 ④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

＜授業の方法＞
1.講義(メンターによる講話) 2.グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ) 3.省察活動(質疑・まとめ・感想発表)4.基礎学力課題に取り組む

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
要素：有テーマに応じて、ディスカッションを行う

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。（毎回１時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ１～２回程度、３時間程度）復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等（60%）演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲（30%）最終レポート（10%）必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション（コミュニティの形成）	授業概要の理解、年間の学びの見通しを持つ
2	自己分析①	自己分析（強み・価値観）および3×3×3フォーマットを用いた言語化の基礎
3	自己分析②・関係形成	交流会に向けた準備と自己開示、関係構築の促進
4	クラス内交流	クラス内交流の実施
5	環トレと五訓について	環トレ課題および五訓評価への取り組み
6	project型学習① 企画	企画立案と役割分担の決定デーション作成
7	project型学習② リハーサル	企画実施に向けた準備およびリハーサル
8	project型学習③ 実践と振り返り	企画実施と振り返り、2年次イベントの方向性検討
9	project型学習④ 実践と振り返り	振り返りの深化とアクションプランの具体化
10	project型学習④ 実践と振り返り共有	振り返りの共有とアクションプランの完成
11	企画発表①	担当イベントのコンセプト発表および意思決定
12	企画発表②	クラス間でのコンセプト発表と相互評価
13	五訓評価	五訓評価の実施
14	前半振り返り	前半活動の総括と個人の成長の振り返り
15	後期オリエンテーション	後期目標設定および五訓評価の実施
16	イベント企画・振り返り①	イベント企画の準備・実践
17	イベント企画・振り返り②	イベント企画の準備・実践
18	イベント企画・振り返り③	イベント実施および振り返り

19	イベント企画・振り返り④	イベント実施および振り返り
20	イベント参加①	１年生主体イベントの参加
21	イベント参加②	１年生主体イベントの参加
22	イベント参加③	１年生主体イベントの参加
23	報告活動①	クラスイベント経験の言語化と発表準備
24	報告活動②	クラスイベント経験の言語化とクラス内発表
25	報告活動④	クラスイベント経験の言語化とクラス間発表
26	キャリア形成①	ゼミ選択に向けた情報収集（ゼミ訪問）
27	キャリア形成②	ゼミ選択に向けた情報収集
28	総括	五訓評価・次年度目標
29		
30		

科目コード	14101				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	十河　直太			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学におけるける学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

＜授業の到達目標＞
①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・ 責任感」のある人間の育成　②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成　③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成　④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

＜授業の方法＞
1.講義(メンターによる講話)　2.グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ)　3.省察活動(質疑・まとめ・感想発表)　4.基礎学力課題に取り組む

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
要素：有テーマに応じて、ディスカッションを行う

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。（毎回１時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ１～２回程度、３時間程度）復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等（60%）演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲（30%）最終レポート（10%）必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション（コミュニティの形成）	授業概要の理解、年間の学びの見通しを持つ
2	自己分析①	自己分析（強み・価値観）および3×3×3フォーマットを用いた言語化の基礎
3	自己分析②・関係形成	交流会に向けた準備と自己開示、関係構築の促進
4	クラス内交流	クラス内交流の実施
5	環トレと五訓について	環トレ課題および五訓評価への取り組み
6	project型学習①　企画	企画立案と役割分担の決定デーション作成
7	project型学習②　リハーサル	企画実施に向けた準備およびリハーサル
8	project型学習③　実践と振り返り	企画実施と振り返り、2年次イベントの方向性検討
9	project型学習④　実践と振り返り	振り返りの深化とアクションプランの具体化
10	project型学習⑤　実践と振り返り共有	振り返りの共有とアクションプランの完成
11	企画発表①	担当イベントのコンセプト発表および意思決定
12	企画発表②	クラス間でのコンセプト発表と相互評価
13	五訓評価	五訓評価の実施
14	前半振り返り	前半活動の総括と個人の成長の振り返り
15	後期オリエンテーション	後期目標設定および五訓評価の実施
16	イベント企画・振り返り①	イベント企画の準備・実践
17	イベント企画・振り返り②	イベント企画の準備・実践
18	イベント企画・振り返り③	イベント実施および振り返り

19	イベント企画・振り返り④	イベント実施および振り返り
20	イベント参加①	１年生主体イベントの参加
21	イベント参加②	１年生主体イベントの参加
22	イベント参加③	１年生主体イベントの参加
23	報告活動①	クラスイベント経験の言語化と発表準備
24	報告活動②	クラスイベント経験の言語化とクラス内発表
25	報告活動④	クラスイベント経験の言語化とクラス間発表
26	キャリア形成①	ゼミ選択に向けた情報収集（ゼミ訪問）
27	キャリア形成②	ゼミ選択に向けた情報収集
28	総括	五訓評価・次年度目標
29		
30		

科目コード	14101				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	早田　剛			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学におけるける学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

＜授業の到達目標＞
①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・ 責任感」を持てるようになる。 ②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力を持てるようになる。③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力を持てるようになる。 ④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力を持てるようになる。

＜授業の方法＞
1.講義(メンターによる講話) 2.グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ) 3.省察活動(質疑・まとめ・感想発表) 4.基礎学力課題に取り組む

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
要素：有テーマに応じて、ディスカッションを行う

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。（毎回１時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ１～２回程度、３時間程度）復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２(専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等（60%）演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲（30%）最終レポート（10%）必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション（コミュニティの形成）	授業概要の理解、年間の学びの見通しを持つ
2	自己分析①	自己分析（強み・価値観）および3×3×3フォーマットを用いた言語化の基礎
3	自己分析②・関係形成	交流会に向けた準備と自己開示、関係構築の促進
4	クラス内交流	クラス内交流の実施
5	環トレと五訓について	環トレ課題および五訓評価への取り組み
6	project型学習①　企画	企画立案と役割分担の決定デーション作成
7	project型学習②　リハーサル	企画実施に向けた準備およびリハーサル
8	project型学習③　実践と振り返り	企画実施と振り返り、2年次イベントの方向性検討
9	project型学習④　実践と振り返り	振り返りの深化とアクションプランの具体化
10	project型学習⑤　実践と振り返り共有	振り返りの共有とアクションプランの完成
11	企画発表①	担当イベントのコンセプト発表および意思決定
12	企画発表②	クラス間でのコンセプト発表と相互評価
13	五訓評価	五訓評価の実施
14	前半振り返り	前半活動の総括と個人の成長の振り返り
15	後期オリエンテーション	後期目標設定および五訓評価の実施
16	イベント企画・振り返り①	イベント企画の準備・実践
17	イベント企画・振り返り②	イベント企画の準備・実践
18	イベント企画・振り返り③	イベント実施および振り返り
19	イベント企画・振り返り④	イベント実施および振り返り

20	イベント参加①	１年生主体イベントの参加
21	イベント参加②	１年生主体イベントの参加
22	イベント参加③	１年生主体イベントの参加
23	報告活動①	クラスイベント経験の言語化と発表準備
24	報告活動②	クラスイベント経験の言語化とクラス内発表
25	報告活動④	クラスイベント経験の言語化とクラス間発表
26	キャリア形成①	ゼミ選択に向けた情報収集（ゼミ訪問）
27	キャリア形成②	ゼミ選択に向けた情報収集
28	総括	五訓評価・次年度目標
29		
30		

科目コード	14101				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	三垣　雅美			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、キャリアディベロップメント科目と連動し、クラス単位での少人数教育を通して、大学における学びとキャリア形成の基盤を育成することを目的とする。メンターによる指導のもと、自己理解の深化、他者との関係構築、目標設定および行動の振り返りを段階的に行う。また、本授業では、経験→省察→言語化→行動改善のサイクルを重視し、学生一人ひとりの成長を可視化しながら、主体的に学び続ける力を養う。

＜授業の到達目標＞
１．自己の価値観・行動特性・課題を把握し、それを言語化して説明できる。２．クラス内での協働活動を通して、他者理解および適切なコミュニケーションを実践できる。３．目標設定および振り返りを繰り返すことで、自律的に行動を改善することができる。４．キャリア形成に向けた具体的な行動計画を立案し、継続的に実行できる。

＜授業の方法＞
メンターによる指導のもと、講話・グループワーク・個人面談・省察活動を組み合わせて実施する。特に、クラス活動では学生同士の対話や協働を通して学びを深めるとともに、個人面談により一人ひとりの状況に応じた支援を行う。また、ICTを活用した学修を推進する。グーグルクラスルームを通じた課題の提出やAIの活用などを織り交ぜる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループディスカッション、自己分析ワーク、プレゼンテーション、相互フィードバック等を通して、主体的・対話的で深い学びを実現する。特に、クラス内での継続的な関係性を活かし、安心して自己開示・意見交換ができる学習環境を構築する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：テーマに関連する自己の経験や考えを整理し、発言できる状態で授業に臨む（120分程度）。復習：授業での気づきや自己の変容を振り返り、今後の行動改善につなげる（60分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等（60%）演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲（30%）最終レポート（10%）必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	クラス開き、自己紹介、履修登録
2	クラス活動①（自己理解と目標設定）	大学で求められる学生像や価値観について理解を深めるとともに、自己の現状を振り返る。五訓アンケートやワークを通して自身の特性や課題を把握し、前期における具体的な目標を設定し、その理由を説明できるようにする。
3	個人面談①	メンターとの面談を通して、自己の目標や課題について整理する。他者との対話を通して自己理解を深めるとともに、今後の行動方針を具体化できるようにする。
4	個人面談②	学生の成長、変化に耳を傾ける。何か問題があれば、速やかに対処する。メンターと学生の関係構築に努める。
5	クラス活動②（関係構築）	クラス内でのコミュニケーション活動を通して、相互理解を深める。安心して意見交換ができる関係性の構築を目指し、他者の意見を尊重しながら自己の考えを表現できるようにする。
6	クラス活動③（価値観の共有）	価値観に関するワークを通して、自身の考え方や行動の基盤を理解する。他者との違いに気づき、多様な視点を受け入れながら、自身の価値観を再構成できるようにする。
7	クラス活動④（行動計画の具体化）	設定した目標に対して、具体的な行動計画を立案する。達成に向けたプロセスを明確にし、実行可能な計画として言語化できるようにする。
8	クラス活動⑤（振り返り①）	これまでの行動を振り返り、目標に対する達成度や課題を整理する。自己の行動を

		客観的に評価し、改善点を具体的に示すことができるようにする。
9	クラス活動⑥（経験の言語化）	これまでの経験を振り返り、それを言語化するトレーニングを行う。自身の強みや成長を具体的なエピソードとして説明できるようにする。
10	スポーツ交流・国際交流（キャリアディベロップメントと連動）	交流活動を通して、多様な他者との関わり方を体験的に学ぶ。活動後には振り返りを行い、協働やコミュニケーションの工夫について言語化できるようにする。
11	クラス活動⑦（発信力の基礎）	簡単なプレゼンテーション活動を通して、自身の考えを他者に伝える力を養う。構成や話し方を意識し、分かりやすく伝達することができるようにする。
12	クラス活動⑧（振り返り②）	前期の学びを総合的に振り返り、自己の成長および課題を整理する。今後に向けた改善点を明確にし、次の行動へとつなげることができるようにする。
13	クラス活動⑨（前期総括と成長の言語化）	前期の学びをもとに、自己の成長を多面的に振り返る。特に、自己理解・他者理解・行動の変容の観点から、自身の変化を整理し、具体的なエピソードを用いて言語化する。あわせて、その成長がどのような要因によって生じたのかを分析し、今後の学修や行動にどのように活かすかを説明できるようにする。
14	前期振り返り	前期全体の学修を振り返り、自己の変容を多面的に省察する。夏季休暇に向けた目標と行動計画を立案し、主体的な学びを継続する意識を高める。
15	後期オリエンテーション　五訓アンケート　スポーツフェスタ準備	前期の振り返りを踏まえ、後期の目標を再設定する。自己の課題を明確にし、より具体的な行動計画として説明できるようにする。クラス単位での活動を通して、役割分担や協働の重要性を理解する。目標達成に向けたチームとしての行動計画を立案し、自身の役割と責任を自覚して行動できるようにする。
16	個人面談③	メンターとの面談を通して、後期の目標や課題について整理する。個別の状況に応じた支援を受けながら、今後の行動方針を具体化する。
17	スポーツフェスタ代替日	実際の活動を通して、協働することの意義やチームワークの重要性を体験的に理解する。活動後には振り返りを行い、成功要因や課題を整理し、今後の行動改善につなげることができるようにする。
18	個人面談④	後期の進捗状況を踏まえ、目標達成に向けた行動を振り返る。メンターとの対話を通して課題を明確にし、具体的な改善行動を設定できるようにする。
19	アカデミックライティング（実践）	文章作成課題に取り組むことで、論理的思考力および表現力の向上を図る。自己の考えを根拠に基づいて記述し、その内容を客観的に見直し改善できるようにする。
20	クラス活動⑩（自己PRの基礎）	これまでの経験を整理し、自身の強みや特徴を言語化する。具体的なエピソードを用いて自己を表現する方法を学び、他者に伝わる形で説明できるようにする。
21	クラス活動⑪（発信力の向上）	自己PRや意見発表の練習を通して、伝達力の向上を図る。相互フィードバックを行いながら、より分かりやすく説得力のある伝え方へと改善できるようにする。
22	プレゼンテーションコンテスト（クラス予選）	これまでの準備をもとにプレゼンテーションを実施し、自身の考えを他者に伝達する。発表経験を通して自己の課題を把握し、今後の改善点を具体的に示すことができるようにする。
23	アカデミックライティング（ミニレポート作成）	ミニレポートの作成を通して、情報整理力および論理的記述力の定着を図る。自身の考えを明確な構成で記述し、その妥当性を説明できるようにする。
24	クラス活動⑫（自己分析の深化）	これまでの学びや経験を振り返り、自己理解をさらに深める。強み・弱み・価値観を整理し、今後の進路選択にどのように活かすかを具体的に説明できるようにする。
25	クラス活動⑬（進路意識の形成）	将来の進路について具体的に考え、必要な能力や経験を整理する。自身の目標と現状との差を把握し、今後の行動計画を立案できるようにする。
26	ゼミ体験①	各ゼミの内容や特徴について理解を深める。説明や体験を通して、自身の関心や将来の方向性との関連を考察し、適切な選択に向けた判断材料を整理できるようにする。
27	ゼミ体験②	複数のゼミを比較し、それぞれの特徴や学びの違いを理解する。自身に適したゼミを選択するための基準を明確にし、その理由を説明できるようにする。
28	後期振り返り	1年間の学びを整理し、自己の成長と課題を体系的にまとめる。これまでの経験を振り返り、次年度に向けた課題と目標を明確にする。1年間の学びを総括し、自己の成長を言語化する。3年次に向けた目標と行動計画を具体的に立案し、キャリア形成に向けた継続的な学びの方向性を明確にする。
29		
30		

科目コード	14101				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	歌代　哲也			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、キャリアディベロップメント科目と連動し、クラス単位での少人数教育を通して、大学における学びとキャリア形成の基盤を育成することを目的とする。メンターによる指導のもと、自己理解の深化、他者との関係構築、目標設定および行動の振り返りを段階的に行う。また、本授業では、経験→省察→言語化→行動改善のサイクルを重視し、学生一人ひとりの成長を可視化しながら、主体的に学び続ける力を養う。

＜授業の到達目標＞
１．自己の価値観・行動特性・課題を把握し、それを言語化して説明できる。２．クラス内での協働活動を通して、他者理解および適切なコミュニケーションを実践できる。３．目標設定および振り返りを繰り返すことで、自律的に行動を改善することができる。４．キャリア形成に向けた具体的な行動計画を立案し、継続的に実行できる。

＜授業の方法＞
メンターによる指導のもと、講話・グループワーク・個人面談・省察活動を組み合わせて実施する。特に、クラス活動では学生同士の対話や協働を通して学びを深めるとともに、個人面談により一人ひとりの状況に応じた支援を行う。また、ICTを活用した学修を推進する。グーグルクラスルームを通じた課題の提出やAIの活用などを織り交ぜる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループディスカッション、自己分析ワーク、プレゼンテーション、相互フィードバック等を通して、主体的・対話的で深い学びを実現する。特に、クラス内での継続的な関係性を活かし、安心して自己開示・意見交換ができる学習環境を構築する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：テーマに関連する自己の経験や考えを整理し、発言できる状態で授業に臨む（120分程度）。復習：授業での気づきや自己の変容を振り返り、今後の行動改善につなげる（60分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等（60%）演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲（30%）最終レポート（10%）必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	クラス開き、自己紹介、履修登録
2	クラス活動①（自己理解と目標設定）	大学で求められる学生像や価値観について理解を深めるとともに、自己の現状を振り返る。五訓アンケートやワークを通して自身の特性や課題を把握し、前期における具体的な目標を設定し、その理由を説明できるようにする。
3	個人面談①	メンターとの面談を通して、自己の目標や課題について整理する。他者との対話を通して自己理解を深めるとともに、今後の行動方針を具体化できるようにする。
4	個人面談②	学生の成長、変化に耳を傾ける。何か問題があれば、速やかに対処する。メンターと学生の関係構築に努める。
5	クラス活動②（関係構築）	クラス内でのコミュニケーション活動を通して、相互理解を深める。安心して意見交換ができる関係性の構築を目指し、他者の意見を尊重しながら自己の考えを表現できるようにする。
6	クラス活動③（価値観の共有）	価値観に関するワークを通して、自身の考え方や行動の基盤を理解する。他者との違いに気づき、多様な視点を受け入れながら、自身の価値観を再構成できるようにする。
7	クラス活動④（行動計画の具体化）	設定した目標に対して、具体的な行動計画を立案する。達成に向けたプロセスを明確にし、実行可能な計画として言語化できるようにする。
8	クラス活動⑤（振り返り①）	これまでの行動を振り返り、目標に対する達成度や課題を整理する。自己の行動を

		客観的に評価し、改善点を具体的に示すことができるようにする。
9	クラス活動⑥（経験の言語化）	これまでの経験を振り返り、それを言語化するトレーニングを行う。自身の強みや成長を具体的なエピソードとして説明できるようにする。
10	スポーツ交流・国際交流（キャリアディベロップメントと連動）	交流活動を通して、多様な他者との関わり方を体験的に学ぶ。活動後には振り返りを行い、協働やコミュニケーションの工夫について言語化できるようにする。
11	クラス活動⑦（発信力の基礎）	簡単なプレゼンテーション活動を通して、自身の考えを他者に伝える力を養う。構成や話し方を意識し、分かりやすく伝達することができるようにする。
12	クラス活動⑧（振り返り②）	前期の学びを総合的に振り返り、自己の成長および課題を整理する。今後に向けた改善点を明確にし、次の行動へとつなげることができるようにする。
13	クラス活動⑨（前期総括と成長の言語化）	前期の学びをもとに、自己の成長を多面的に振り返る。特に、自己理解・他者理解・行動の変容の観点から、自身の変化を整理し、具体的なエピソードを用いて言語化する。あわせて、その成長がどのような要因によって生じたのかを分析し、今後の学修や行動にどのように活かすかを説明できるようにする。
14	前期振り返り	前期全体の学修を振り返り、自己の変容を多面的に省察する。夏季休暇に向けた目標と行動計画を立案し、主体的な学びを継続する意識を高める。
15	後期オリエンテーション　五訓アンケート　スポーツフェスタ準備	前期の振り返りを踏まえ、後期の目標を再設定する。自己の課題を明確にし、より具体的な行動計画として説明できるようにする。クラス単位での活動を通して、役割分担や協働の重要性を理解する。目標達成に向けたチームとしての行動計画を立案し、自身の役割と責任を自覚して行動できるようにする。
16	個人面談③	メンターとの面談を通して、後期の目標や課題について整理する。個別の状況に応じた支援を受けながら、今後の行動方針を具体化する。
17	スポーツフェスタ代替日	実際の活動を通して、協働することの意義やチームワークの重要性を体験的に理解する。活動後には振り返りを行い、成功要因や課題を整理し、今後の行動改善につなげることができるようにする。
18	個人面談④	後期の進捗状況を踏まえ、目標達成に向けた行動を振り返る。メンターとの対話を通して課題を明確にし、具体的な改善行動を設定できるようにする。
19	アカデミックライティング（実践）	文章作成課題に取り組むことで、論理的思考力および表現力の向上を図る。自己の考えを根拠に基づいて記述し、その内容を客観的に見直し改善できるようにする。
20	クラス活動⑩（自己PRの基礎）	これまでの経験を整理し、自身の強みや特徴を言語化する。具体的なエピソードを用いて自己を表現する方法を学び、他者に伝わる形で説明できるようにする。
21	クラス活動⑪（発信力の向上）	自己PRや意見発表の練習を通して、伝達力の向上を図る。相互フィードバックを行いながら、より分かりやすく説得力のある伝え方へと改善できるようにする。
22	プレゼンテーションコンテスト（クラス予選）	これまでの準備をもとにプレゼンテーションを実施し、自身の考えを他者に伝達する。発表経験を通して自己の課題を把握し、今後の改善点を具体的に示すことができるようにする。
23	アカデミックライティング（ミニレポート作成）	ミニレポートの作成を通して、情報整理力および論理的記述力の定着を図る。自身の考えを明確な構成で記述し、その妥当性を説明できるようにする。
24	クラス活動⑫（自己分析の深化）	これまでの学びや経験を振り返り、自己理解をさらに深める。強み・弱み・価値観を整理し、今後の進路選択にどのように活かすかを具体的に説明できるようにする。
25	クラス活動⑬（進路意識の形成）	将来の進路について具体的に考え、必要な能力や経験を整理する。自身の目標と現状との差を把握し、今後の行動計画を立案できるようにする。
26	ゼミ体験①	各ゼミの内容や特徴について理解を深める。説明や体験を通して、自身の関心や将来の方向性との関連を考察し、適切な選択に向けた判断材料を整理できるようにする。
27	ゼミ体験②	複数のゼミを比較し、それぞれの特徴や学びの違いを理解する。自身に適したゼミを選択するための基準を明確にし、その理由を説明できるようにする。
28	後期振り返り	1年間の学びを整理し、自己の成長と課題を体系的にまとめる。これまでの経験を振り返り、次年度に向けた課題と目標を明確にする。1年間の学びを総括し、自己の成長を言語化する。3年次に向けた目標と行動計画を具体的に立案し、キャリア形成に向けた継続的な学びの方向性を明確にする。
29		
30		

科目コード	14101				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	田口　雅弘			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、キャリアディベロップメント科目と連動し、クラス単位での少人数教育を通して、大学における学びとキャリア形成の基盤を育成することを目的とする。メンターによる指導のもと、自己理解の深化、他者との関係構築、目標設定および行動の振り返りを段階的に行う。また、本授業では、経験→省察→言語化→行動改善のサイクルを重視し、学生一人ひとりの成長を可視化しながら、主体的に学び続ける力を養う。

＜授業の到達目標＞
１．自己の価値観・行動特性・課題を把握し、それを言語化して説明できる。２．クラス内での協働活動を通して、他者理解および適切なコミュニケーションを実践できる。３．目標設定および振り返りを繰り返すことで、自律的に行動を改善することができる。４．キャリア形成に向けた具体的な行動計画を立案し、継続的に実行できる。

＜授業の方法＞
メンターによる指導のもと、講話・グループワーク・個人面談・省察活動を組み合わせて実施する。特に、クラス活動では学生同士の対話や協働を通して学びを深めるとともに、個人面談により一人ひとりの状況に応じた支援を行う。また、ICTを活用した学修を推進する。グーグルクラスルームを通じた課題の提出やAIの活用などを織り交ぜる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループディスカッション、自己分析ワーク、プレゼンテーション、相互フィードバック等を通して、主体的・対話的で深い学びを実現する。特に、クラス内での継続的な関係性を活かし、安心して自己開示・意見交換ができる学習環境を構築する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：テーマに関連する自己の経験や考えを整理し、発言できる状態で授業に臨む（120分程度）。復習：授業での気づきや自己の変容を振り返り、今後の行動改善につなげる（60分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等（60%）演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲（30%）最終レポート（10%）必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	クラス開き、自己紹介、履修登録
2	クラス活動①（自己理解と目標設定）	大学で求められる学生像や価値観について理解を深めるとともに、自己の現状を振り返る。五訓アンケートやワークを通して自身の特性や課題を把握し、前期における具体的な目標を設定し、その理由を説明できるようにする。
3	個人面談①	メンターとの面談を通して、自己の目標や課題について整理する。他者との対話を通して自己理解を深めるとともに、今後の行動方針を具体化できるようにする。
4	個人面談②	学生の成長、変化に耳を傾ける。何か問題があれば、速やかに対処する。メンターと学生の関係構築に努める。
5	クラス活動②（関係構築）	クラス内でのコミュニケーション活動を通して、相互理解を深める。安心して意見交換ができる関係性の構築を目指し、他者の意見を尊重しながら自己の考えを表現できるようにする。
6	クラス活動③（価値観の共有）	価値観に関するワークを通して、自身の考え方や行動の基盤を理解する。他者との違いに気づき、多様な視点を受け入れながら、自身の価値観を再構成できるようにする。
7	クラス活動④（行動計画の具体化）	設定した目標に対して、具体的な行動計画を立案する。達成に向けたプロセスを明確にし、実行可能な計画として言語化できるようにする。
8	クラス活動⑤（振り返り①）	これまでの行動を振り返り、目標に対する達成度や課題を整理する。自己の行動を

		客観的に評価し、改善点を具体的に示すことができるようにする。
9	クラス活動⑥（経験の言語化）	これまでの経験を振り返り、それを言語化するトレーニングを行う。自身の強みや成長を具体的なエピソードとして説明できるようにする。
10	スポーツ交流・国際交流（キャリアディベロップメントと連動）	交流活動を通して、多様な他者との関わり方を体験的に学ぶ。活動後には振り返りを行い、協働やコミュニケーションの工夫について言語化できるようにする。
11	クラス活動⑦（発信力の基礎）	簡単なプレゼンテーション活動を通して、自身の考えを他者に伝える力を養う。構成や話し方を意識し、分かりやすく伝達することができるようにする。
12	クラス活動⑧（振り返り②）	前期の学びを総合的に振り返り、自己の成長および課題を整理する。今後に向けた改善点を明確にし、次の行動へとつなげることができるようにする。
13	クラス活動⑨（前期総括と成長の言語化）	前期の学びをもとに、自己の成長を多面的に振り返る。特に、自己理解・他者理解・行動の変容の観点から、自身の変化を整理し、具体的なエピソードを用いて言語化する。あわせて、その成長がどのような要因によって生じたのかを分析し、今後の学修や行動にどのように活かすかを説明できるようにする。
14	前期振り返り	前期全体の学修を振り返り、自己の変容を多面的に省察する。夏季休暇に向けた目標と行動計画を立案し、主体的な学びを継続する意識を高める。
15	後期オリエンテーション　五訓アンケート　スポーツフェスタ準備	前期の振り返りを踏まえ、後期の目標を再設定する。自己の課題を明確にし、より具体的な行動計画として説明できるようにする。クラス単位での活動を通して、役割分担や協働の重要性を理解する。目標達成に向けたチームとしての行動計画を立案し、自身の役割と責任を自覚して行動できるようにする。
16	個人面談③	メンターとの面談を通して、後期の目標や課題について整理する。個別の状況に応じた支援を受けながら、今後の行動方針を具体化する。
17	スポーツフェスタ代替日	実際の活動を通して、協働することの意義やチームワークの重要性を体験的に理解する。活動後には振り返りを行い、成功要因や課題を整理し、今後の行動改善につなげることができるようにする。
18	個人面談④	後期の進捗状況を踏まえ、目標達成に向けた行動を振り返る。メンターとの対話を通して課題を明確にし、具体的な改善行動を設定できるようにする。
19	アカデミックライティング（実践）	文章作成課題に取り組むことで、論理的思考力および表現力の向上を図る。自己の考えを根拠に基づいて記述し、その内容を客観的に見直し改善できるようにする。
20	クラス活動⑩（自己PRの基礎）	これまでの経験を整理し、自身の強みや特徴を言語化する。具体的なエピソードを用いて自己を表現する方法を学び、他者に伝わる形で説明できるようにする。
21	クラス活動⑪（発信力の向上）	自己PRや意見発表の練習を通して、伝達力の向上を図る。相互フィードバックを行いながら、より分かりやすく説得力のある伝え方へと改善できるようにする。
22	プレゼンテーションコンテスト（クラス予選）	これまでの準備をもとにプレゼンテーションを実施し、自身の考えを他者に伝達する。発表経験を通して自己の課題を把握し、今後の改善点を具体的に示すことができるようにする。
23	アカデミックライティング（ミニレポート作成）	ミニレポートの作成を通して、情報整理力および論理的記述力の定着を図る。自身の考えを明確な構成で記述し、その妥当性を説明できるようにする。
24	クラス活動⑫（自己分析の深化）	これまでの学びや経験を振り返り、自己理解をさらに深める。強み・弱み・価値観を整理し、今後の進路選択にどのように活かすかを具体的に説明できるようにする。
25	クラス活動⑬（進路意識の形成）	将来の進路について具体的に考え、必要な能力や経験を整理する。自身の目標と現状との差を把握し、今後の行動計画を立案できるようにする。
26	ゼミ体験①	各ゼミの内容や特徴について理解を深める。説明や体験を通して、自身の関心や将来の方向性との関連を考察し、適切な選択に向けた判断材料を整理できるようにする。
27	ゼミ体験②	複数のゼミを比較し、それぞれの特徴や学びの違いを理解する。自身に適したゼミを選択するための基準を明確にし、その理由を説明できるようにする。
28	後期振り返り	1年間の学びを整理し、自己の成長と課題を体系的にまとめる。これまでの経験を振り返り、次年度に向けた課題と目標を明確にする。1年間の学びを総括し、自己の成長を言語化する。3年次に向けた目標と行動計画を具体的に立案し、キャリア形成に向けた継続的な学びの方向性を明確にする。
29		
30		

科目コード	14101				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	大池　淳一			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、キャリアディベロップメント科目と連動し、クラス単位での少人数教育を通して、大学における学びとキャリア形成の基盤を育成することを目的とする。メンターによる指導のもと、自己理解の深化、他者との関係構築、目標設定および行動の振り返りを段階的に行う。また、本授業では、経験→省察→言語化→行動改善のサイクルを重視し、学生一人ひとりの成長を可視化しながら、主体的に学び続ける力を養う。

＜授業の到達目標＞
１．自己の価値観・行動特性・課題を把握し、それを言語化して説明できる。２．クラス内での協働活動を通して、他者理解および適切なコミュニケーションを実践できる。３．目標設定および振り返りを繰り返すことで、自律的に行動を改善することができる。４．キャリア形成に向けた具体的な行動計画を立案し、継続的に実行できる。

＜授業の方法＞
メンターによる指導のもと、講話・グループワーク・個人面談・省察活動を組み合わせて実施する。特に、クラス活動では学生同士の対話や協働を通して学びを深めるとともに、個人面談により一人ひとりの状況に応じた支援を行う。また、ICTを活用した学修を推進する。グーグルクラスルームを通じた課題の提出やAIの活用などを織り交ぜる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループディスカッション、自己分析ワーク、プレゼンテーション、相互フィードバック等を通して、主体的・対話的で深い学びを実現する。特に、クラス内での継続的な関係性を活かし、安心して自己開示・意見交換ができる学習環境を構築する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：テーマに関連する自己の経験や考えを整理し、発言できる状態で授業に臨む（120分程度）。復習：授業での気づきや自己の変容を振り返り、今後の行動改善につなげる（60分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等（60%）演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲（30%）最終レポート（10%）必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	クラス開き、自己紹介、履修登録
2	クラス活動①（自己理解と目標設定）	大学で求められる学生像や価値観について理解を深めるとともに、自己の現状を振り返る。五訓アンケートやワークを通して自身の特性や課題を把握し、前期における具体的な目標を設定し、その理由を説明できるようにする。
3	個人面談①	メンターとの面談を通して、自己の目標や課題について整理する。他者との対話を通して自己理解を深めるとともに、今後の行動方針を具体化できるようにする。
4	個人面談②	学生の成長、変化に耳を傾ける。何か問題があれば、速やかに対処する。メンターと学生の関係構築に努める。
5	クラス活動②（関係構築）	クラス内でのコミュニケーション活動を通して、相互理解を深める。安心して意見交換ができる関係性の構築を目指し、他者の意見を尊重しながら自己の考えを表現できるようにする。
6	クラス活動③（価値観の共有）	価値観に関するワークを通して、自身の考え方や行動の基盤を理解する。他者との違いに気づき、多様な視点を受け入れながら、自身の価値観を再構成できるようにする。
7	クラス活動④（行動計画の具体化）	設定した目標に対して、具体的な行動計画を立案する。達成に向けたプロセスを明確にし、実行可能な計画として言語化できるようにする。
8	クラス活動⑤（振り返り①）	これまでの行動を振り返り、目標に対する達成度や課題を整理する。自己の行動を

		客観的に評価し、改善点を具体的に示すことができるようにする。
9	クラス活動⑥（経験の言語化）	これまでの経験を振り返り、それを言語化するトレーニングを行う。自身の強みや成長を具体的なエピソードとして説明できるようにする。
10	スポーツ交流・国際交流（キャリアディベロップメントと連動）	交流活動を通して、多様な他者との関わり方を体験的に学ぶ。活動後には振り返りを行い、協働やコミュニケーションの工夫について言語化できるようにする。
11	クラス活動⑦（発信力の基礎）	簡単なプレゼンテーション活動を通して、自身の考えを他者に伝える力を養う。構成や話し方を意識し、分かりやすく伝達することができるようにする。
12	クラス活動⑧（振り返り②）	前期の学びを総合的に振り返り、自己の成長および課題を整理する。今後に向けた改善点を明確にし、次の行動へとつなげることができるようにする。
13	クラス活動⑨（前期総括と成長の言語化）	前期の学びをもとに、自己の成長を多面的に振り返る。特に、自己理解・他者理解・行動の変容の観点から、自身の変化を整理し、具体的なエピソードを用いて言語化する。あわせて、その成長がどのような要因によって生じたのかを分析し、今後の学修や行動にどのように活かすかを説明できるようにする。
14	前期振り返り	前期全体の学修を振り返り、自己の変容を多面的に省察する。夏季休暇に向けた目標と行動計画を立案し、主体的な学びを継続する意識を高める。
15	後期オリエンテーション　五訓アンケート　スポーツフェスタ準備	前期の振り返りを踏まえ、後期の目標を再設定する。自己の課題を明確にし、より具体的な行動計画として説明できるようにする。クラス単位での活動を通して、役割分担や協働の重要性を理解する。目標達成に向けたチームとしての行動計画を立案し、自身の役割と責任を自覚して行動できるようにする。
16	個人面談③	メンターとの面談を通して、後期の目標や課題について整理する。個別の状況に応じた支援を受けながら、今後の行動方針を具体化する。
17	スポーツフェスタ代替日	実際の活動を通して、協働することの意義やチームワークの重要性を体験的に理解する。活動後には振り返りを行い、成功要因や課題を整理し、今後の行動改善につなげることができるようにする。
18	個人面談④	後期の進捗状況を踏まえ、目標達成に向けた行動を振り返る。メンターとの対話を通して課題を明確にし、具体的な改善行動を設定できるようにする。
19	アカデミックライティング（実践）	文章作成課題に取り組むことで、論理的思考力および表現力の向上を図る。自己の考えを根拠に基づいて記述し、その内容を客観的に見直し改善できるようにする。
20	クラス活動⑩（自己PRの基礎）	これまでの経験を整理し、自身の強みや特徴を言語化する。具体的なエピソードを用いて自己を表現する方法を学び、他者に伝わる形で説明できるようにする。
21	クラス活動⑪（発信力の向上）	自己PRや意見発表の練習を通して、伝達力の向上を図る。相互フィードバックを行いながら、より分かりやすく説得力のある伝え方へと改善できるようにする。
22	プレゼンテーションコンテスト（クラス予選）	これまでの準備をもとにプレゼンテーションを実施し、自身の考えを他者に伝達する。発表経験を通して自己の課題を把握し、今後の改善点を具体的に示すことができるようにする。
23	アカデミックライティング（ミニレポート作成）	ミニレポートの作成を通して、情報整理力および論理的記述力の定着を図る。自身の考えを明確な構成で記述し、その妥当性を説明できるようにする。
24	クラス活動⑫（自己分析の深化）	これまでの学びや経験を振り返り、自己理解をさらに深める。強み・弱み・価値観を整理し、今後の進路選択にどのように活かすかを具体的に説明できるようにする。
25	クラス活動⑬（進路意識の形成）	将来の進路について具体的に考え、必要な能力や経験を整理する。自身の目標と現状との差を把握し、今後の行動計画を立案できるようにする。
26	ゼミ体験①	各ゼミの内容や特徴について理解を深める。説明や体験を通して、自身の関心や将来の方向性との関連を考察し、適切な選択に向けた判断材料を整理できるようにする。
27	ゼミ体験②	複数のゼミを比較し、それぞれの特徴や学びの違いを理解する。自身に適したゼミを選択するための基準を明確にし、その理由を説明できるようにする。
28	後期振り返り	1年間の学びを整理し、自己の成長と課題を体系的にまとめる。これまでの経験を振り返り、次年度に向けた課題と目標を明確にする。1年間の学びを総括し、自己の成長を言語化する。3年次に向けた目標と行動計画を具体的に立案し、キャリア形成に向けた継続的な学びの方向性を明確にする。
29		
30		

科目コード	14101				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	見村　一朗			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、キャリアディベロップメント科目と連動し、クラス単位での少人数教育を通して、大学における学びとキャリア形成の基盤を育成することを目的とする。メンターによる指導のもと、自己理解の深化、他者との関係構築、目標設定および行動の振り返りを段階的に行う。また、本授業では、経験→省察→言語化→行動改善のサイクルを重視し、学生一人ひとりの成長を可視化しながら、主体的に学び続ける力を養う。

＜授業の到達目標＞
１．自己の価値観・行動特性・課題を把握し、それを言語化して説明できる。２．クラス内での協働活動を通して、他者理解および適切なコミュニケーションを実践できる。３．目標設定および振り返りを繰り返すことで、自律的に行動を改善することができる。４．キャリア形成に向けた具体的な行動計画を立案し、継続的に実行できる。

＜授業の方法＞
メンターによる指導のもと、講話・グループワーク・個人面談・省察活動を組み合わせて実施する。特に、クラス活動では学生同士の対話や協働を通して学びを深めるとともに、個人面談により一人ひとりの状況に応じた支援を行う。また、ICTを活用した学修を推進する。グーグルクラスルームを通じた課題の提出やAIの活用などを織り交ぜる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループディスカッション、自己分析ワーク、プレゼンテーション、相互フィードバック等を通して、主体的・対話的で深い学びを実現する。特に、クラス内での継続的な関係性を活かし、安心して自己開示・意見交換ができる学習環境を構築する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：テーマに関連する自己の経験や考えを整理し、発言できる状態で授業に臨む（120分程度）。復習：授業での気づきや自己の変容を振り返り、今後の行動改善につなげる（60分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等（60%）演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲（30%）最終レポート（10%）必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	クラス開き、自己紹介、履修登録
2	クラス活動①（自己理解と目標設定）	大学で求められる学生像や価値観について理解を深めるとともに、自己の現状を振り返る。五訓アンケートやワークを通して自身の特性や課題を把握し、前期における具体的な目標を設定し、その理由を説明できるようにする。
3	個人面談①	メンターとの面談を通して、自己の目標や課題について整理する。他者との対話を通して自己理解を深めるとともに、今後の行動方針を具体化できるようにする。
4	個人面談②	学生の成長、変化に耳を傾ける。何か問題があれば、速やかに対処する。メンターと学生の関係構築に努める。
5	クラス活動②（関係構築）	クラス内でのコミュニケーション活動を通して、相互理解を深める。安心して意見交換ができる関係性の構築を目指し、他者の意見を尊重しながら自己の考えを表現できるようにする。
6	クラス活動③（価値観の共有）	価値観に関するワークを通して、自身の考え方や行動の基盤を理解する。他者との違いに気づき、多様な視点を受け入れながら、自身の価値観を再構成できるようにする。
7	クラス活動④（行動計画の具体化）	設定した目標に対して、具体的な行動計画を立案する。達成に向けたプロセスを明確にし、実行可能な計画として言語化できるようにする。
8	クラス活動⑤（振り返り①）	これまでの行動を振り返り、目標に対する達成度や課題を整理する。自己の行動を

		客観的に評価し、改善点を具体的に示すことができるようにする。
9	クラス活動⑥（経験の言語化）	これまでの経験を振り返り、それを言語化するトレーニングを行う。自身の強みや成長を具体的なエピソードとして説明できるようにする。
10	スポーツ交流・国際交流（キャリアディベロップメントと連動）	交流活動を通して、多様な他者との関わり方を体験的に学ぶ。活動後には振り返りを行い、協働やコミュニケーションの工夫について言語化できるようにする。
11	クラス活動⑦（発信力の基礎）	簡単なプレゼンテーション活動を通して、自身の考えを他者に伝える力を養う。構成や話し方を意識し、分かりやすく伝達することができるようにする。
12	クラス活動⑧（振り返り②）	前期の学びを総合的に振り返り、自己の成長および課題を整理する。今後に向けた改善点を明確にし、次の行動へとつなげることができるようにする。
13	クラス活動⑨（前期総括と成長の言語化）	前期の学びをもとに、自己の成長を多面的に振り返る。特に、自己理解・他者理解・行動の変容の観点から、自身の変化を整理し、具体的なエピソードを用いて言語化する。あわせて、その成長がどのような要因によって生じたのかを分析し、今後の学修や行動にどのように活かすかを説明できるようにする。
14	前期振り返り	前期全体の学修を振り返り、自己の変容を多面的に省察する。夏季休暇に向けた目標と行動計画を立案し、主体的な学びを継続する意識を高める。
15	後期オリエンテーション　五訓アンケート　スポーツフェスタ準備	前期の振り返りを踏まえ、後期の目標を再設定する。自己の課題を明確にし、より具体的な行動計画として説明できるようにする。クラス単位での活動を通して、役割分担や協働の重要性を理解する。目標達成に向けたチームとしての行動計画を立案し、自身の役割と責任を自覚して行動できるようにする。
16	個人面談③	メンターとの面談を通して、後期の目標や課題について整理する。個別の状況に応じた支援を受けながら、今後の行動方針を具体化する。
17	スポーツフェスタ代替日	実際の活動を通して、協働することの意義やチームワークの重要性を体験的に理解する。活動後には振り返りを行い、成功要因や課題を整理し、今後の行動改善につなげることができるようにする。
18	個人面談④	後期の進捗状況を踏まえ、目標達成に向けた行動を振り返る。メンターとの対話を通して課題を明確にし、具体的な改善行動を設定できるようにする。
19	アカデミックライティング（実践）	文章作成課題に取り組むことで、論理的思考力および表現力の向上を図る。自己の考えを根拠に基づいて記述し、その内容を客観的に見直し改善できるようにする。
20	クラス活動⑩（自己PRの基礎）	これまでの経験を整理し、自身の強みや特徴を言語化する。具体的なエピソードを用いて自己を表現する方法を学び、他者に伝わる形で説明できるようにする。
21	クラス活動⑪（発信力の向上）	自己PRや意見発表の練習を通して、伝達力の向上を図る。相互フィードバックを行いながら、より分かりやすく説得力のある伝え方へと改善できるようにする。
22	プレゼンテーションコンテスト（クラス予選）	これまでの準備をもとにプレゼンテーションを実施し、自身の考えを他者に伝達する。発表経験を通して自己の課題を把握し、今後の改善点を具体的に示すことができるようにする。
23	アカデミックライティング（ミニレポート作成）	ミニレポートの作成を通して、情報整理力および論理的記述力の定着を図る。自身の考えを明確な構成で記述し、その妥当性を説明できるようにする。
24	クラス活動⑫（自己分析の深化）	これまでの学びや経験を振り返り、自己理解をさらに深める。強み・弱み・価値観を整理し、今後の進路選択にどのように活かすかを具体的に説明できるようにする。
25	クラス活動⑬（進路意識の形成）	将来の進路について具体的に考え、必要な能力や経験を整理する。自身の目標と現状との差を把握し、今後の行動計画を立案できるようにする。
26	ゼミ体験①	各ゼミの内容や特徴について理解を深める。説明や体験を通して、自身の関心や将来の方向性との関連を考察し、適切な選択に向けた判断材料を整理できるようにする。
27	ゼミ体験②	複数のゼミを比較し、それぞれの特徴や学びの違いを理解する。自身に適したゼミを選択するための基準を明確にし、その理由を説明できるようにする。
28	後期振り返り	1年間の学びを整理し、自己の成長と課題を体系的にまとめる。これまでの経験を振り返り、次年度に向けた課題と目標を明確にする。1年間の学びを総括し、自己の成長を言語化する。3年次に向けた目標と行動計画を具体的に立案し、キャリア形成に向けた継続的な学びの方向性を明確にする。
29		
30		

科目コード	14101				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	豊里　健			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、キャリアディベロップメント科目と連動し、クラス単位での少人数教育を通して、大学における学びとキャリア形成の基盤を育成することを目的とする。メンターによる指導のもと、自己理解の深化、他者との関係構築、目標設定および行動の振り返りを段階的に行う。また、本授業では、経験→省察→言語化→行動改善のサイクルを重視し、学生一人ひとりの成長を可視化しながら、主体的に学び続ける力を養う。

＜授業の到達目標＞
１．自己の価値観・行動特性・課題を把握し、それを言語化して説明できる。２．クラス内での協働活動を通して、他者理解および適切なコミュニケーションを実践できる。３．目標設定および振り返りを繰り返すことで、自律的に行動を改善することができる。４．キャリア形成に向けた具体的な行動計画を立案し、継続的に実行できる。

＜授業の方法＞
メンターによる指導のもと、講話・グループワーク・個人面談・省察活動を組み合わせて実施する。特に、クラス活動では学生同士の対話や協働を通して学びを深めるとともに、個人面談により一人ひとりの状況に応じた支援を行う。また、ICTを活用した学修を推進する。グーグルクラスルームを通じた課題の提出やAIの活用などを織り交ぜる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループディスカッション、自己分析ワーク、プレゼンテーション、相互フィードバック等を通して、主体的・対話的で深い学びを実現する。特に、クラス内での継続的な関係性を活かし、安心して自己開示・意見交換ができる学習環境を構築する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：テーマに関連する自己の経験や考えを整理し、発言できる状態で授業に臨む（120分程度）。復習：授業での気づきや自己の変容を振り返り、今後の行動改善につなげる（60分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等（60%）演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲（30%）最終レポート（10%）必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	クラス開き、自己紹介、履修登録
2	クラス活動①（自己理解と目標設定）	大学で求められる学生像や価値観について理解を深めるとともに、自己の現状を振り返る。五訓アンケートやワークを通して自身の特性や課題を把握し、前期における具体的な目標を設定し、その理由を説明できるようにする。
3	個人面談①	メンターとの面談を通して、自己の目標や課題について整理する。他者との対話を通して自己理解を深めるとともに、今後の行動方針を具体化できるようにする。
4	個人面談②	学生の成長、変化に耳を傾ける。何か問題があれば、速やかに対処する。メンターと学生の関係構築に努める。
5	クラス活動②（関係構築）	クラス内でのコミュニケーション活動を通して、相互理解を深める。安心して意見交換ができる関係性の構築を目指し、他者の意見を尊重しながら自己の考えを表現できるようにする。
6	クラス活動③（価値観の共有）	価値観に関するワークを通して、自身の考え方や行動の基盤を理解する。他者との違いに気づき、多様な視点を受け入れながら、自身の価値観を再構成できるようにする。
7	クラス活動④（行動計画の具体化）	設定した目標に対して、具体的な行動計画を立案する。達成に向けたプロセスを明確にし、実行可能な計画として言語化できるようにする。
8	クラス活動⑤（振り返り①）	これまでの行動を振り返り、目標に対する達成度や課題を整理する。自己の行動を

		客観的に評価し、改善点を具体的に示すことができるようにする。
9	クラス活動⑥（経験の言語化）	これまでの経験を振り返り、それを言語化するトレーニングを行う。自身の強みや成長を具体的なエピソードとして説明できるようにする。
10	スポーツ交流・国際交流（キャリアディベロップメントと連動）	交流活動を通して、多様な他者との関わり方を体験的に学ぶ。活動後には振り返りを行い、協働やコミュニケーションの工夫について言語化できるようにする。
11	クラス活動⑦（発信力の基礎）	簡単なプレゼンテーション活動を通して、自身の考えを他者に伝える力を養う。構成や話し方を意識し、分かりやすく伝達することができるようにする。
12	クラス活動⑧（振り返り②）	前期の学びを総合的に振り返り、自己の成長および課題を整理する。今後に向けた改善点を明確にし、次の行動へとつなげることができるようにする。
13	クラス活動⑨（前期総括と成長の言語化）	前期の学びをもとに、自己の成長を多面的に振り返る。特に、自己理解・他者理解・行動の変容の観点から、自身の変化を整理し、具体的なエピソードを用いて言語化する。あわせて、その成長がどのような要因によって生じたのかを分析し、今後の学修や行動にどのように活かすかを説明できるようにする。
14	前期振り返り	前期全体の学修を振り返り、自己の変容を多面的に省察する。夏季休暇に向けた目標と行動計画を立案し、主体的な学びを継続する意識を高める。
15	後期オリエンテーション　五訓アンケート　スポーツフェスタ準備	前期の振り返りを踏まえ、後期の目標を再設定する。自己の課題を明確にし、より具体的な行動計画として説明できるようにする。クラス単位での活動を通して、役割分担や協働の重要性を理解する。目標達成に向けたチームとしての行動計画を立案し、自身の役割と責任を自覚して行動できるようにする。
16	個人面談③	メンターとの面談を通して、後期の目標や課題について整理する。個別の状況に応じた支援を受けながら、今後の行動方針を具体化する。
17	スポーツフェスタ代替日	実際の活動を通して、協働することの意義やチームワークの重要性を体験的に理解する。活動後には振り返りを行い、成功要因や課題を整理し、今後の行動改善につなげることができるようにする。
18	個人面談④	後期の進捗状況を踏まえ、目標達成に向けた行動を振り返る。メンターとの対話を通して課題を明確にし、具体的な改善行動を設定できるようにする。
19	アカデミックライティング（実践）	文章作成課題に取り組むことで、論理的思考力および表現力の向上を図る。自己の考えを根拠に基づいて記述し、その内容を客観的に見直し改善できるようにする。
20	クラス活動⑩（自己PRの基礎）	これまでの経験を整理し、自身の強みや特徴を言語化する。具体的なエピソードを用いて自己を表現する方法を学び、他者に伝わる形で説明できるようにする。
21	クラス活動⑪（発信力の向上）	自己PRや意見発表の練習を通して、伝達力の向上を図る。相互フィードバックを行いながら、より分かりやすく説得力のある伝え方へと改善できるようにする。
22	プレゼンテーションコンテスト（クラス予選）	これまでの準備をもとにプレゼンテーションを実施し、自身の考えを他者に伝達する。発表経験を通して自己の課題を把握し、今後の改善点を具体的に示すことができるようにする。
23	アカデミックライティング（ミニレポート作成）	ミニレポートの作成を通して、情報整理力および論理的記述力の定着を図る。自身の考えを明確な構成で記述し、その妥当性を説明できるようにする。
24	クラス活動⑫（自己分析の深化）	これまでの学びや経験を振り返り、自己理解をさらに深める。強み・弱み・価値観を整理し、今後の進路選択にどのように活かすかを具体的に説明できるようにする。
25	クラス活動⑬（進路意識の形成）	将来の進路について具体的に考え、必要な能力や経験を整理する。自身の目標と現状との差を把握し、今後の行動計画を立案できるようにする。
26	ゼミ体験①	各ゼミの内容や特徴について理解を深める。説明や体験を通して、自身の関心や将来の方向性との関連を考察し、適切な選択に向けた判断材料を整理できるようにする。
27	ゼミ体験②	複数のゼミを比較し、それぞれの特徴や学びの違いを理解する。自身に適したゼミを選択するための基準を明確にし、その理由を説明できるようにする。
28	後期振り返り	1年間の学びを整理し、自己の成長と課題を体系的にまとめる。これまでの経験を振り返り、次年度に向けた課題と目標を明確にする。1年間の学びを総括し、自己の成長を言語化する。3年次に向けた目標と行動計画を具体的に立案し、キャリア形成に向けた継続的な学びの方向性を明確にする。
29		
30		

科目コード	14101				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	片上　摩紀			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、キャリアディベロップメント科目と連動し、クラス単位での少人数教育を通して、大学における学びとキャリア形成の基盤を育成することを目的とする。メンターによる指導のもと、自己理解の深化、他者との関係構築、目標設定および行動の振り返りを段階的に行う。また、本授業では、経験→省察→言語化→行動改善のサイクルを重視し、学生一人ひとりの成長を可視化しながら、主体的に学び続ける力を養う。

＜授業の到達目標＞
１．自己の価値観・行動特性・課題を把握し、それを言語化して説明できる。２．クラス内での協働活動を通して、他者理解および適切なコミュニケーションを実践できる。３．目標設定および振り返りを繰り返すことで、自律的に行動を改善することができる。４．キャリア形成に向けた具体的な行動計画を立案し、継続的に実行できる。

＜授業の方法＞
メンターによる指導のもと、講話・グループワーク・個人面談・省察活動を組み合わせて実施する。特に、クラス活動では学生同士の対話や協働を通して学びを深めるとともに、個人面談により一人ひとりの状況に応じた支援を行う。また、ICTを活用した学修を推進する。グーグルクラスルームを通じた課題の提出やAIの活用などを織り交ぜる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループディスカッション、自己分析ワーク、プレゼンテーション、相互フィードバック等を通して、主体的・対話的で深い学びを実現する。特に、クラス内での継続的な関係性を活かし、安心して自己開示・意見交換ができる学習環境を構築する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：テーマに関連する自己の経験や考えを整理し、発言できる状態で授業に臨む（120分程度）。復習：授業での気づきや自己の変容を振り返り、今後の行動改善につなげる（60分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２(専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等（60%）演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲（30%）最終レポート（10%）必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	クラス開き、自己紹介、履修登録
2	クラス活動①（自己理解と目標設定）	大学で求められる学生像や価値観について理解を深めるとともに、自己の現状を振り返る。五訓アンケートやワークを通して自身の特性や課題を把握し、前期における具体的な目標を設定し、その理由を説明できるようにする。
3	個人面談①	メンターとの面談を通して、自己の目標や課題について整理する。他者との対話を通して自己理解を深めるとともに、今後の行動方針を具体化できるようにする。
4	個人面談②	学生の成長、変化に耳を傾ける。何か問題があれば、速やかに対処する。メンターと学生の関係構築に努める。
5	クラス活動②（関係構築）	クラス内でのコミュニケーション活動を通して、相互理解を深める。安心して意見交換ができる関係性の構築を目指し、他者の意見を尊重しながら自己の考えを表現できるようにする。
6	クラス活動③（価値観の共有）	価値観に関するワークを通して、自身の考え方や行動の基盤を理解する。他者との違いに気づき、多様な視点を受け入れながら、自身の価値観を再構成できるようにする。
7	クラス活動④（行動計画の具体化）	設定した目標に対して、具体的な行動計画を立案する。達成に向けたプロセスを明確にし、実行可能な計画として言語化できるようにする。
8	クラス活動⑤（振り返り①）	これまでの行動を振り返り、目標に対する達成度や課題を整理する。自己の行動を客観的に評価し、改善点を具体的に示すことができるようにする。

9	クラス活動⑥（経験の言語化）	これまでの経験を振り返り、それを言語化するトレーニングを行う。自身の強みや成長を具体的なエピソードとして説明できるようにする。
10	スポーツ交流・国際交流（キャリアディベロップメントと連動）	交流活動を通して、多様な他者との関わり方を体験的に学ぶ。活動後には振り返りを行い、協働やコミュニケーションの工夫について言語化できるようにする。
11	クラス活動⑦（発信力の基礎）	簡単なプレゼンテーション活動を通して、自身の考えを他者に伝える力を養う。構成や話し方を意識し、分かりやすく伝達することができるようにする。
12	クラス活動⑧（振り返り②）	前期の学びを総合的に振り返り、自己の成長および課題を整理する。今後に向けた改善点を明確にし、次の行動へとつなげることができるようにする。
13	クラス活動⑨（前期総括と成長の言語化）	前期の学びをもとに、自己の成長を多面的に振り返る。特に、自己理解・他者理解・行動の変容の観点から、自身の変化を整理し、具体的なエピソードを用いて言語化する。あわせて、その成長がどのような要因によって生じたのかを分析し、今後の学修や行動にどのように活かすかを説明できるようにする。
14	前期振り返り	前期全体の学修を振り返り、自己の変容を多面的に省察する。夏季休暇に向けた目標と行動計画を立案し、主体的な学びを継続する意識を高める。
15	後期オリエンテーション　五訓アンケート　スポーツフェスタ準備	前期の振り返りを踏まえ、後期の目標を再設定する。自己の課題を明確にし、より具体的な行動計画として説明できるようにする。クラス単位での活動を通して、役割分担や協働の重要性を理解する。目標達成に向けたチームとしての行動計画を立案し、自身の役割と責任を自覚して行動できるようにする。
16	個人面談③	メンターとの面談を通して、後期の目標や課題について整理する。個別の状況に応じた支援を受けながら、今後の行動方針を具体化する。
17	スポーツフェスタ代替日	実際の活動を通して、協働することの意義やチームワークの重要性を体験的に理解する。活動後には振り返りを行い、成功要因や課題を整理し、今後の行動改善につなげることができるようにする。
18	個人面談④	後期の進捗状況を踏まえ、目標達成に向けた行動を振り返る。メンターとの対話を通して課題を明確にし、具体的な改善行動を設定できるようにする。
19	アカデミックライティング（実践）	文章作成課題に取り組むことで、論理的思考力および表現力の向上を図る。自己の考えを根拠に基づいて記述し、その内容を客観的に見直し改善できるようにする。
20	クラス活動⑩（自己PRの基礎）	これまでの経験を整理し、自身の強みや特徴を言語化する。具体的なエピソードを用いて自己を表現する方法を学び、他者に伝わる形で説明できるようにする。
21	クラス活動⑪（発信力の向上）	自己PRや意見発表の練習を通して、伝達力の向上を図る。相互フィードバックを行いながら、より分かりやすく説得力のある伝え方へと改善できるようにする。
22	プレゼンテーションコンテスト（クラス予選）	これまでの準備をもとにプレゼンテーションを実施し、自身の考えを他者に伝達する。発表経験を通して自己の課題を把握し、今後の改善点を具体的に示すことができるようにする。
23	アカデミックライティング（ミニレポート作成）	ミニレポートの作成を通して、情報整理力および論理的記述力の定着を図る。自身の考えを明確な構成で記述し、その妥当性を説明できるようにする。
24	クラス活動⑫（自己分析の深化）	これまでの学びや経験を振り返り、自己理解をさらに深める。強み・弱み・価値観を整理し、今後の進路選択にどのように活かすかを具体的に説明できるようにする。
25	クラス活動⑬（進路意識の形成）	将来の進路について具体的に考え、必要な能力や経験を整理する。自身の目標と現状との差を把握し、今後の行動計画を立案できるようにする。
26	ゼミ体験①	各ゼミの内容や特徴について理解を深める。説明や体験を通して、自身の関心や将来の方向性との関連を考察し、適切な選択に向けた判断材料を整理できるようにする。
27	ゼミ体験②	複数のゼミを比較し、それぞれの特徴や学びの違いを理解する。自身に適したゼミを選択するための基準を明確にし、その理由を説明できるようにする。
28	後期振り返り	1年間の学びを整理し、自己の成長と課題を体系的にまとめる。これまでの経験を振り返り、次年度に向けた課題と目標を明確にする。1年間の学びを総括し、自己の成長を言語化する。3年次に向けた目標と行動計画を具体的に立案し、キャリア形成に向けた継続的な学びの方向性を明確にする。
29		
30		

科目コード	14101				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	SACKO　Salif			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、キャリアディベロップメント科目と連動し、クラス単位での少人数教育を通して、大学における学びとキャリア形成の基盤を育成することを目的とする。メンターによる指導のもと、自己理解の深化、他者との関係構築、目標設定および行動の振り返りを段階的に行う。また、本授業では、経験→省察→言語化→行動改善のサイクルを重視し、学生一人ひとりの成長を可視化しながら、主体的に学び続ける力を養う。

＜授業の到達目標＞
１．自己の価値観・行動特性・課題を把握し、それを言語化して説明できる。２．クラス内での協働活動を通して、他者理解および適切なコミュニケーションを実践できる。３．目標設定および振り返りを繰り返すことで、自律的に行動を改善することができる。４．キャリア形成に向けた具体的な行動計画を立案し、継続的に実行できる。

＜授業の方法＞
メンターによる指導のもと、講話・グループワーク・個人面談・省察活動を組み合わせて実施する。特に、クラス活動では学生同士の対話や協働を通して学びを深めるとともに、個人面談により一人ひとりの状況に応じた支援を行う。また、ICTを活用した学修を推進する。グーグルクラスルームを通じた課題の提出やAIの活用などを織り交ぜる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループディスカッション、自己分析ワーク、プレゼンテーション、相互フィードバック等を通して、主体的・対話的で深い学びを実現する。特に、クラス内での継続的な関係性を活かし、安心して自己開示・意見交換ができる学習環境を構築する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：テーマに関連する自己の経験や考えを整理し、発言できる状態で授業に臨む（120分程度）。復習：授業での気づきや自己の変容を振り返り、今後の行動改善につなげる（60分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等（60%）演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲（30%）最終レポート（10%）必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	クラス開き、自己紹介、履修登録
2	クラス活動①（自己理解と目標設定）	大学で求められる学生像や価値観について理解を深めるとともに、自己の現状を振り返る。五訓アンケートやワークを通して自身の特性や課題を把握し、前期における具体的な目標を設定し、その理由を説明できるようにする。
3	個人面談①	メンターとの面談を通して、自己の目標や課題について整理する。他者との対話を通して自己理解を深めるとともに、今後の行動方針を具体化できるようにする。
4	個人面談②	学生の成長、変化に耳を傾ける。何か問題があれば、速やかに対処する。メンターと学生の関係構築に努める。
5	クラス活動②（関係構築）	クラス内でのコミュニケーション活動を通して、相互理解を深める。安心して意見交換ができる関係性の構築を目指し、他者の意見を尊重しながら自己の考えを表現できるようにする。
6	クラス活動③（価値観の共有）	価値観に関するワークを通して、自身の考え方や行動の基盤を理解する。他者との違いに気づき、多様な視点を受け入れながら、自身の価値観を再構成できるようにする。
7	クラス活動④（行動計画の具体化）	設定した目標に対して、具体的な行動計画を立案する。達成に向けたプロセスを明確にし、実行可能な計画として言語化できるようにする。
8	クラス活動⑤（振り返り①）	これまでの行動を振り返り、目標に対する達成度や課題を整理する。自己の行動を

		客観的に評価し、改善点を具体的に示すことができるようにする。
9	クラス活動⑥（経験の言語化）	これまでの経験を振り返り、それを言語化するトレーニングを行う。自身の強みや成長を具体的なエピソードとして説明できるようにする。
10	スポーツ交流・国際交流（キャリアディベロップメントと連動）	交流活動を通して、多様な他者との関わり方を体験的に学ぶ。活動後には振り返りを行い、協働やコミュニケーションの工夫について言語化できるようにする。
11	クラス活動⑦（発信力の基礎）	簡単なプレゼンテーション活動を通して、自身の考えを他者に伝える力を養う。構成や話し方を意識し、分かりやすく伝達することができるようにする。
12	クラス活動⑧（振り返り②）	前期の学びを総合的に振り返り、自己の成長および課題を整理する。今後に向けた改善点を明確にし、次の行動へとつなげることができるようにする。
13	クラス活動⑨（前期総括と成長の言語化）	前期の学びをもとに、自己の成長を多面的に振り返る。特に、自己理解・他者理解・行動の変容の観点から、自身の変化を整理し、具体的なエピソードを用いて言語化する。あわせて、その成長がどのような要因によって生じたのかを分析し、今後の学修や行動にどのように活かすかを説明できるようにする。
14	前期振り返り	前期全体の学修を振り返り、自己の変容を多面的に省察する。夏季休暇に向けた目標と行動計画を立案し、主体的な学びを継続する意識を高める。
15	後期オリエンテーション　五訓アンケート　スポーツフェスタ準備	前期の振り返りを踏まえ、後期の目標を再設定する。自己の課題を明確にし、より具体的な行動計画として説明できるようにする。クラス単位での活動を通して、役割分担や協働の重要性を理解する。目標達成に向けたチームとしての行動計画を立案し、自身の役割と責任を自覚して行動できるようにする。
16	個人面談③	メンターとの面談を通して、後期の目標や課題について整理する。個別の状況に応じた支援を受けながら、今後の行動方針を具体化する。
17	スポーツフェスタ代替日	実際の活動を通して、協働することの意義やチームワークの重要性を体験的に理解する。活動後には振り返りを行い、成功要因や課題を整理し、今後の行動改善につなげることができるようにする。
18	個人面談④	後期の進捗状況を踏まえ、目標達成に向けた行動を振り返る。メンターとの対話を通して課題を明確にし、具体的な改善行動を設定できるようにする。
19	アカデミックライティング（実践）	文章作成課題に取り組むことで、論理的思考力および表現力の向上を図る。自己の考えを根拠に基づいて記述し、その内容を客観的に見直し改善できるようにする。
20	クラス活動⑩（自己PRの基礎）	これまでの経験を整理し、自身の強みや特徴を言語化する。具体的なエピソードを用いて自己を表現する方法を学び、他者に伝わる形で説明できるようにする。
21	クラス活動⑪（発信力の向上）	自己PRや意見発表の練習を通して、伝達力の向上を図る。相互フィードバックを行いながら、より分かりやすく説得力のある伝え方へと改善できるようにする。
22	プレゼンテーションコンテスト（クラス予選）	これまでの準備をもとにプレゼンテーションを実施し、自身の考えを他者に伝達する。発表経験を通して自己の課題を把握し、今後の改善点を具体的に示すことができるようにする。
23	アカデミックライティング（ミニレポート作成）	ミニレポートの作成を通して、情報整理力および論理的記述力の定着を図る。自身の考えを明確な構成で記述し、その妥当性を説明できるようにする。
24	クラス活動⑫（自己分析の深化）	これまでの学びや経験を振り返り、自己理解をさらに深める。強み・弱み・価値観を整理し、今後の進路選択にどのように活かすかを具体的に説明できるようにする。
25	クラス活動⑬（進路意識の形成）	将来の進路について具体的に考え、必要な能力や経験を整理する。自身の目標と現状との差を把握し、今後の行動計画を立案できるようにする。
26	ゼミ体験①	各ゼミの内容や特徴について理解を深める。説明や体験を通して、自身の関心や将来の方向性との関連を考察し、適切な選択に向けた判断材料を整理できるようにする。
27	ゼミ体験②	複数のゼミを比較し、それぞれの特徴や学びの違いを理解する。自身に適したゼミを選択するための基準を明確にし、その理由を説明できるようにする。
28	後期振り返り	1年間の学びを整理し、自己の成長と課題を体系的にまとめる。これまでの経験を振り返り、次年度に向けた課題と目標を明確にする。1年間の学びを総括し、自己の成長を言語化する。3年次に向けた目標と行動計画を具体的に立案し、キャリア形成に向けた継続的な学びの方向性を明確にする。
29		
30		

科目コード	14101				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	清水　健太			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、キャリアディベロップメント科目と連動し、クラス単位での少人数教育を通して、大学における学びとキャリア形成の基盤を育成することを目的とする。メンターによる指導のもと、自己理解の深化、他者との関係構築、目標設定および行動の振り返りを段階的に行う。また、本授業では、経験→省察→言語化→行動改善のサイクルを重視し、学生一人ひとりの成長を可視化しながら、主体的に学び続ける力を養う。

＜授業の到達目標＞
１．自己の価値観・行動特性・課題を把握し、それを言語化して説明できる。２．クラス内での協働活動を通して、他者理解および適切なコミュニケーションを実践できる。３．目標設定および振り返りを繰り返すことで、自律的に行動を改善することができる。４．キャリア形成に向けた具体的な行動計画を立案し、継続的に実行できる。

＜授業の方法＞
メンターによる指導のもと、講話・グループワーク・個人面談・省察活動を組み合わせて実施する。特に、クラス活動では学生同士の対話や協働を通して学びを深めるとともに、個人面談により一人ひとりの状況に応じた支援を行う。また、ICTを活用した学修を推進する。グーグルクラスルームを通じた課題の提出やAIの活用などを織り交ぜる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループディスカッション、自己分析ワーク、プレゼンテーション、相互フィードバック等を通して、主体的・対話的で深い学びを実現する。特に、クラス内での継続的な関係性を活かし、安心して自己開示・意見交換ができる学習環境を構築する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：テーマに関連する自己の経験や考えを整理し、発言できる状態で授業に臨む（120分程度）。復習：授業での気づきや自己の変容を振り返り、今後の行動改善につなげる（60分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等（60%）演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲（30%）最終レポート（10%）必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	クラス開き、自己紹介、履修登録
2	クラス活動①（自己理解と目標設定）	大学で求められる学生像や価値観について理解を深めるとともに、自己の現状を振り返る。五訓アンケートやワークを通して自身の特性や課題を把握し、前期における具体的な目標を設定し、その理由を説明できるようにする。
3	個人面談①	メンターとの面談を通して、自己の目標や課題について整理する。他者との対話を通して自己理解を深めるとともに、今後の行動方針を具体化できるようにする。
4	個人面談②	学生の成長、変化に耳を傾ける。何か問題があれば、速やかに対処する。メンターと学生の関係構築に努める。
5	クラス活動②（関係構築）	クラス内でのコミュニケーション活動を通して、相互理解を深める。安心して意見交換ができる関係性の構築を目指し、他者の意見を尊重しながら自己の考えを表現できるようにする。
6	クラス活動③（価値観の共有）	価値観に関するワークを通して、自身の考え方や行動の基盤を理解する。他者との違いに気づき、多様な視点を受け入れながら、自身の価値観を再構成できるようにする。
7	クラス活動④（行動計画の具体化）	設定した目標に対して、具体的な行動計画を立案する。達成に向けたプロセスを明確にし、実行可能な計画として言語化できるようにする。
8	クラス活動⑤（振り返り①）	これまでの行動を振り返り、目標に対する達成度や課題を整理する。自己の行動を

		客観的に評価し、改善点を具体的に示すことができるようにする。
9	クラス活動⑥（経験の言語化）	これまでの経験を振り返り、それを言語化するトレーニングを行う。自身の強みや成長を具体的なエピソードとして説明できるようにする。
10	スポーツ交流・国際交流（キャリアディベロップメントと連動）	交流活動を通して、多様な他者との関わり方を体験的に学ぶ。活動後には振り返りを行い、協働やコミュニケーションの工夫について言語化できるようにする。
11	クラス活動⑦（発信力の基礎）	簡単なプレゼンテーション活動を通して、自身の考えを他者に伝える力を養う。構成や話し方を意識し、分かりやすく伝達することができるようにする。
12	クラス活動⑧（振り返り②）	前期の学びを総合的に振り返り、自己の成長および課題を整理する。今後に向けた改善点を明確にし、次の行動へとつなげることができるようにする。
13	クラス活動⑨（前期総括と成長の言語化）	前期の学びをもとに、自己の成長を多面的に振り返る。特に、自己理解・他者理解・行動の変容の観点から、自身の変化を整理し、具体的なエピソードを用いて言語化する。あわせて、その成長がどのような要因によって生じたのかを分析し、今後の学修や行動にどのように活かすかを説明できるようにする。
14	前期振り返り	前期全体の学修を振り返り、自己の変容を多面的に省察する。夏季休暇に向けた目標と行動計画を立案し、主体的な学びを継続する意識を高める。
15	後期オリエンテーション　五訓アンケート　スポーツフェスタ準備	前期の振り返りを踏まえ、後期の目標を再設定する。自己の課題を明確にし、より具体的な行動計画として説明できるようにする。クラス単位での活動を通して、役割分担や協働の重要性を理解する。目標達成に向けたチームとしての行動計画を立案し、自身の役割と責任を自覚して行動できるようにする。
16	個人面談③	メンターとの面談を通して、後期の目標や課題について整理する。個別の状況に応じた支援を受けながら、今後の行動方針を具体化する。
17	スポーツフェスタ代替日	実際の活動を通して、協働することの意義やチームワークの重要性を体験的に理解する。活動後には振り返りを行い、成功要因や課題を整理し、今後の行動改善につなげることができるようにする。
18	個人面談④	後期の進捗状況を踏まえ、目標達成に向けた行動を振り返る。メンターとの対話を通して課題を明確にし、具体的な改善行動を設定できるようにする。
19	アカデミックライティング（実践）	文章作成課題に取り組むことで、論理的思考力および表現力の向上を図る。自己の考えを根拠に基づいて記述し、その内容を客観的に見直し改善できるようにする。
20	クラス活動⑩（自己PRの基礎）	これまでの経験を整理し、自身の強みや特徴を言語化する。具体的なエピソードを用いて自己を表現する方法を学び、他者に伝わる形で説明できるようにする。
21	クラス活動⑪（発信力の向上）	自己PRや意見発表の練習を通して、伝達力の向上を図る。相互フィードバックを行いながら、より分かりやすく説得力のある伝え方へと改善できるようにする。
22	プレゼンテーションコンテスト（クラス予選）	これまでの準備をもとにプレゼンテーションを実施し、自身の考えを他者に伝達する。発表経験を通して自己の課題を把握し、今後の改善点を具体的に示すことができるようにする。
23	アカデミックライティング（ミニレポート作成）	ミニレポートの作成を通して、情報整理力および論理的記述力の定着を図る。自身の考えを明確な構成で記述し、その妥当性を説明できるようにする。
24	クラス活動⑫（自己分析の深化）	これまでの学びや経験を振り返り、自己理解をさらに深める。強み・弱み・価値観を整理し、今後の進路選択にどのように活かすかを具体的に説明できるようにする。
25	クラス活動⑬（進路意識の形成）	将来の進路について具体的に考え、必要な能力や経験を整理する。自身の目標と現状との差を把握し、今後の行動計画を立案できるようにする。
26	ゼミ体験①	各ゼミの内容や特徴について理解を深める。説明や体験を通して、自身の関心や将来の方向性との関連を考察し、適切な選択に向けた判断材料を整理できるようにする。
27	ゼミ体験②	複数のゼミを比較し、それぞれの特徴や学びの違いを理解する。自身に適したゼミを選択するための基準を明確にし、その理由を説明できるようにする。
28	後期振り返り	1年間の学びを整理し、自己の成長と課題を体系的にまとめる。これまでの経験を振り返り、次年度に向けた課題と目標を明確にする。1年間の学びを総括し、自己の成長を言語化する。3年次に向けた目標と行動計画を具体的に立案し、キャリア形成に向けた継続的な学びの方向性を明確にする。
29		
30		

科目コード	14101				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	高橋　章二／濱嶋　幸司			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学におけるける学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

＜授業の到達目標＞

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・ 責任感」を身に付けることができる。 ②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人としての基礎的な力を身に付けることができる。③大学における学び：学部・学科における学びの基礎的な力を身に付けることができる。 ④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力な力を身に付けることができる。

＜授業の方法＞

1.講義(メンターによる講話)　2.グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ)　3.省察活動(質疑・まとめ・感想発表)　4.基礎学力課題に取り組む

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

年間を通して５人グループ単位でテーマに沿った協議、検討を行う。また、グループ内での協議内容についてはクラスで発表し、さらにクラス全体で協議をし内容を深めるようにしていく。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。（毎回１時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ１～２回程度、３時間程度）復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ふりかえり課題・プレゼンテーション・レポート等（70%）演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲（30%）必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	クラス分け及び本年度の基礎ゼミ、CD、環トレの方針、五訓アンケートについての確認
2	クラスづくり	全体自己紹介、グループ分け、グループ名決め等
3	個別面談１	学生とのコミュニケーションを図り、新２年生に上がった段階での進路希望や生活・学習上の課題について聞き取りを行う。
4	長島愛生園事前調べ学習（オンデマンド）	長島愛生園について調べることで、ハンセン病者への偏見や差別が長期にわたって行われていたということを知る。
5	自分の将来の夢をPowerPointにしよう	２年生の現時点での自分の将来の夢をPowerPointにしよう
6	自分の夢実現のための方策	夢実現のための具体的な方策として、マンダラシートを作成する。
7	教育課題探求　長島愛生園の歴史を今に伝える①	オリエンテーション　ハンセン病と差別・偏見について　長島愛生園の学芸員にきていただき出前授業していただく
8	教育課題探求　長島愛生園の歴史を今に伝える②	各クラス・各グループで長島愛生園の何を調べ、深めて、地域に発信していきたいのかを検討する。
9	教育課題探求　長島愛生園の歴史を今に伝える③	長島愛生園訪問　各グループ調査目的に基づいた調べ学習を行う。
10	教育課題探求　長島愛生園の歴史を今に伝える④	長島愛生園訪問のふりかえり及び学びの内容の整理とoutputの方法検討
11	教育課題探求　長島愛生園の歴史を今に伝える⑤	長島愛生園訪問の学びのoutput　実際の行動へ

12	教育課題探求　長島愛生園の歴史を今に伝える⑥	長島愛生園訪問の学びのoutput　実際の行動へ
13	教育課題探求　長島愛生園の歴史を今に伝える⑦	私たちの学びの報告会→環太祭ブースでも発表
14	前期末集会	前期のふりかえり
15	後期個別目標の設定/個別面談４	前期目標の総括と後期目標の修正・追加　　個別面談　夏季休業中の様子・後期に向けて・環トレ進捗状況
16	スポーツフェスタ	スポーツフェスタにおける参加種目についての検討
17	教育課題探求　長島愛生園の歴史を今に伝える	環太祭に向けての準備
18	授業参観から何を学ぶのかー授業参観の視点ー	学校現場体験を前に授業参観における視点・ポイントを学ぶ
19	学校現場体験ガイダンス	学校現場体験についての意義、ポイント、日程等の説明およびグループ内で現場体験における目標の設定
20	学校現場体験　事前目標決め	各グループで学校現場体験で何を学ぶのか参観の視点を決める
21	学校現場体験①	岡山市立江西小学校等での学校現場体験（授業参観）
22	学校現場体験②	岡山市立江西小学校等での学校現場体験（授業参観）
23	学校現場体験　ふりかえり	各グループで事前に立てていた学校現場体験参観の視点に基づいてふりかえりを行う。あわせてプレゼン作成を行う。
24	学校現場体験の学び	各グループで学校現場体験の学びをPowerPointにまとめ、報告会に向けて練習を行う。
25	学校現場体験　学びの報告会（クラス）	クラス内で学校現場体験の学びをプレゼンし、学びの共有化を図る。各クラス代表１グループを決める。
26	学校現場体験　学びの報告会（２年生全体）	クラス代表の学校現場体験の学びのプレゼンを聞き、自分たちがまとめた学びとの共通点、相違点を明確化する。
27	ゼミ選択について	３年生向けて、ゼミとは何か、ゼミ選択の方法についての話を聞く。
28	学年末集会	１年間の総括および３年生受験・進路の確認１年間の総括及び３年次に向けての確認（３志会、ゼミ選択、教育実習、３年生受験等）
29		
30		

科目コード	14101				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	三堀　仁／中家　淳悟			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学におけるける学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

＜授業の到達目標＞
①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・ 責任感」のある人間の育成　②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成　③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成　④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

＜授業の方法＞
1.講義(メンターによる講話)　2.グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ)　3.省察活動(質疑・まとめ・感想発表)　4.基礎学力課題に取り組む

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
年間を通して５人グループ単位でテーマに沿った協議、検討を行う。また、グループ内での協議内容についてはクラスで発表し、さらにクラス全体で協議をし内容を深めるようにしていく。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。（毎回１時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ１～２回程度、３時間程度）復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
ふりかえり課題・プレゼンテーション・レポート等（70%）演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲（30%）必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	クラス分け及び本年度の基礎ゼミ、CD、環トレの方針、五訓アンケートについての確認
2	クラスづくり	全体自己紹介、グループ分け、グループ名決め等
3	個別面談１	学生とのコミュニケーションを図り、新２年生に上がった段階での進路希望や生活・学習上の課題について聞き取りを行う。
4	長島愛生園事前調べ学習（オンデマンド）	長島愛生園について調べることで、ハンセン病者への偏見や差別が長期にわたって行われていたということを知る。
5	自分の将来の夢をPowerPointにしよう	２年生の現時点での自分の将来の夢をPowerPointにしよう
6	自分の夢実現のための方策	夢実現のための具体的な方策として、マンダラシートを作成する。
7	教育課題探求　長島愛生園の歴史を今に伝える①	オリエンテーション　ハンセン病と差別・偏見について　長島愛生園の学芸員にきていただき出前授業していただく
8	教育課題探求　長島愛生園の歴史を今に伝える②	各クラス・各グループで長島愛生園の何を調べ、深めて、地域に発信していきたいのかを検討する。
9	教育課題探求　長島愛生園の歴史を今に伝える③	長島愛生園訪問　各グループ調査目的に基づいた調べ学習を行う。
10	教育課題探求　長島愛生園の歴史を今に伝える④	長島愛生園訪問のふりかえり及び学びの内容の整理とoutputの方法検討
11	教育課題探求　長島愛生園の歴史を今に伝える⑤	長島愛生園訪問の学びのoutput　実際の行動へ
12	教育課題探求　長島愛生園の歴史を今に	長島愛生園訪問の学びのoutput　実際の行動へ

	伝える⑥	
13	教育課題探求　長島愛生園の歴史を今に伝える⑦	私たちの学びの報告会→環太祭ブースでも発表
14	前期末集会	前期のふりかえり
15	後期個別目標の設定/個別面談４	前期目標の総括と後期目標の修正・追加　　個別面談　夏季休業中の様子・後期に向けて・環トレ進捗状況
16	スポーツフェスタ	スポーツフェスタにおける参加種目についての検討
17	教育課題探求　長島愛生園の歴史を今に伝える	環太祭に向けての準備
18	授業参観から何を学ぶのか一授業参観の視点一	学校現場体験を前に授業参観における視点・ポイントを学ぶ
19	学校現場体験ガイダンス	学校現場体験についての意義、ポイント、日程等の説明およびグループ内で現場体験における目標の設定
20	学校現場体験　事前目標決め	各グループで学校現場体験で何を学ぶのか参観の視点を決める
21	学校現場体験①	岡山市立江西小学校等での学校現場体験（授業参観）
22	学校現場体験②	岡山市立江西小学校等での学校現場体験（授業参観）
23	学校現場体験　ふりかえり	各グループで事前に立てていた学校現場体験参観の視点に基づいてふりかえりを行う。あわせてプレゼン作成を行う。
24	学校現場体験の学び	各グループで学校現場体験の学びをPowerPointにまとめ、報告会に向けて練習を行う。
25	学校現場体験　学びの報告会（クラス）	クラス内で学校現場体験の学びをプレゼンし、学びの共有化を図る。各クラス代表１グループを決める。
26	学校現場体験　学びの報告会（２年生全体）	クラス代表の学校現場体験の学びのプレゼンを聞き、自分たちがまとめた学びとの共通点、相違点を明確化する。
27	ゼミ選択について	３年生向けて、ゼミとは何か、ゼミ選択の方法についての話を聞く。
28	学年末集会	１年間の総括および３年生受験・進路の確認１年間の総括及び３年次に向けての確認（３志会、ゼミ選択、教育実習、３年生受験等）
29		
30		

科目コード	14101				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	伊藤　仁美／西田　修斗			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学におけるける学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

＜授業の到達目標＞
①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・ 責任感」のある人間の育成　②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成　③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成　④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

＜授業の方法＞
1.講義(メンターによる講話)　2.グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ)　3.省察活動(質疑・まとめ・感想発表)　4.基礎学力課題に取り組む

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
年間を通して５人グループ単位でテーマに沿った協議、検討を行う。また、グループ内での協議内容についてはクラスで発表し、さらにクラス全体で協議をし内容を深めるようにしていく。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。（毎回１時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ１～２回程度、３時間程度）復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
ふりかえり課題・プレゼンテーション・レポート等（70%）演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲（30%）必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	クラス分け及び本年度の基礎ゼミ、CD、環トレの方針、五訓アンケートについての確認
2	クラスづくり	全体自己紹介、グループ分け、グループ名決め等
3	個別面談１	学生とのコミュニケーションを図り、新２年生に上がった段階での進路希望や生活・学習上の課題について聞き取りを行う。
4	長島愛生園事前調べ学習（オンデマンド）	長島愛生園について調べることで、ハンセン病者への偏見や差別が長期にわたって行われていたということを知る。
5	自分の将来の夢をPowerPointにしよう	２年生の現時点での自分の将来の夢をPowerPointにしよう
6	自分の夢実現のための方策	夢実現のための具体的な方策として、マンダラシートを作成する。
7	教育課題探求　長島愛生園の歴史を今に伝える①	オリエンテーション　ハンセン病と差別・偏見について　長島愛生園の学芸員にきていただき出前授業していただく
8	教育課題探求　長島愛生園の歴史を今に伝える②	各クラス・各グループで長島愛生園の何を調べ、深めて、地域に発信していきたいのかを検討する。
9	教育課題探求　長島愛生園の歴史を今に伝える③	長島愛生園訪問　各グループ調査目的に基づいた調べ学習を行う。
10	教育課題探求　長島愛生園の歴史を今に伝える④	長島愛生園訪問のふりかえり及び学びの内容の整理とoutputの方法検討
11	教育課題探求　長島愛生園の歴史を今に伝える⑤	長島愛生園訪問の学びのoutput　実際の行動へ
12	教育課題探求　長島愛生園の歴史を今に	長島愛生園訪問の学びのoutput　実際の行動へ

	伝える⑥	
13	教育課題探求　長島愛生園の歴史を今に伝える⑦	私たちの学びの報告会→環太祭ブースでも発表
14	前期末集会	前期のふりかえり
15	後期個別目標の設定/個別面談４	前期目標の総括と後期目標の修正・追加　　個別面談　夏季休業中の様子・後期に向けて・環トレ進捗状況
16	スポーツフェスタ	スポーツフェスタにおける参加種目についての検討
17	教育課題探求　長島愛生園の歴史を今に伝える	環太祭に向けての準備
18	授業参観から何を学ぶのか一授業参観の視点一	学校現場体験を前に授業参観における視点・ポイントを学ぶ
19	学校現場体験ガイダンス	学校現場体験についての意義、ポイント、日程等の説明およびグループ内で現場体験における目標の設定
20	学校現場体験　事前目標決め	各グループで学校現場体験で何を学ぶのか参観の視点を決める
21	学校現場体験①	岡山市立江西小学校等での学校現場体験（授業参観）
22	学校現場体験②	岡山市立江西小学校等での学校現場体験（授業参観）
23	学校現場体験　ふりかえり	各グループで事前に立てていた学校現場体験参観の視点に基づいてふりかえりを行う。あわせてプレゼン作成を行う。
24	学校現場体験の学び	各グループで学校現場体験の学びをPowerPointにまとめ、報告会に向けて練習を行う。
25	学校現場体験　学びの報告会（クラス）	クラス内で学校現場体験の学びをプレゼンし、学びの共有化を図る。各クラス代表１グループを決める。
26	学校現場体験　学びの報告会（２年生全体）	クラス代表の学校現場体験の学びのプレゼンを聞き、自分たちがまとめた学びとの共通点、相違点を明確化する。
27	ゼミ選択について	３年生向けて、ゼミとは何か、ゼミ選択の方法についての話を聞く。
28	学年末集会	１年間の総括および３年生受験・進路の確認１年間の総括及び３年次に向けての確認（３志会、ゼミ選択、教育実習、３年生受験等）
29		
30		

科目コード	14101				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	大久保　諒／鈩　悠介			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学におけるける学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

＜授業の到達目標＞
①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・ 責任感」のある人間の育成　②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成　③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成　④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

＜授業の方法＞
1.講義(メンターによる講話)　2.グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ)　3.省察活動(質疑・まとめ・感想発表)　4.基礎学力課題に取り組む

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
年間を通して５人グループ単位でテーマに沿った協議、検討を行う。また、グループ内での協議内容についてはクラスで発表し、さらにクラス全体で協議をし内容を深めるようにしていく。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。（毎回１時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ１～２回程度、３時間程度）復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
ふりかえり課題・プレゼンテーション・レポート等（70%）演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲（30%）必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	クラス分け及び本年度の基礎ゼミ、CD、環トレの方針、五訓アンケートについての確認
2	クラスづくり	全体自己紹介、グループ分け、グループ名決め等
3	個別面談１	学生とのコミュニケーションを図り、新２年生に上がった段階での進路希望や生活・学習上の課題について聞き取りを行う。
4	長島愛生園事前調べ学習（オンデマンド）	長島愛生園について調べることで、ハンセン病者への偏見や差別が長期にわたって行われていたということを知る。
5	自分の将来の夢をPowerPointにしよう	２年生の現時点での自分の将来の夢をPowerPointにしよう
6	自分の夢実現のための方策	夢実現のための具体的な方策として、マンダラシートを作成する。
7	教育課題探求　長島愛生園の歴史を今に伝える①	オリエンテーション　ハンセン病と差別・偏見について　長島愛生園の学芸員にきていただき出前授業していただく
8	教育課題探求　長島愛生園の歴史を今に伝える②	各クラス・各グループで長島愛生園の何を調べ、深めて、地域に発信していきたいのかを検討する。
9	教育課題探求　長島愛生園の歴史を今に伝える③	長島愛生園訪問　各グループ調査目的に基づいた調べ学習を行う。
10	教育課題探求　長島愛生園の歴史を今に伝える④	長島愛生園訪問のふりかえり及び学びの内容の整理とoutputの方法検討
11	教育課題探求　長島愛生園の歴史を今に伝える⑤	長島愛生園訪問の学びのoutput　実際の行動へ
12	教育課題探求　長島愛生園の歴史を今に	長島愛生園訪問の学びのoutput　実際の行動へ

	伝える⑥	
13	教育課題探求　長島愛生園の歴史を今に伝える⑦	私たちの学びの報告会→環太祭ブースでも発表
14	前期末集会	前期のふりかえり
15	後期個別目標の設定/個別面談４	前期目標の総括と後期目標の修正・追加　　個別面談　夏季休業中の様子・後期に向けて・環トレ進捗状況
16	スポーツフェスタ	スポーツフェスタにおける参加種目についての検討
17	教育課題探求　長島愛生園の歴史を今に伝える	環太祭に向けての準備
18	授業参観から何を学ぶのか一授業参観の視点ー	学校現場体験を前に授業参観における視点・ポイントを学ぶ
19	学校現場体験ガイダンス	学校現場体験についての意義、ポイント、日程等の説明およびグループ内で現場体験における目標の設定
20	学校現場体験　事前目標決め	各グループで学校現場体験で何を学ぶのか参観の視点を決める
21	学校現場体験①	岡山市立江西小学校等での学校現場体験（授業参観）
22	学校現場体験②	岡山市立江西小学校等での学校現場体験（授業参観）
23	学校現場体験　ふりかえり	各グループで事前に立てていた学校現場体験参観の視点に基づいてふりかえりを行う。あわせてプレゼン作成を行う。
24	学校現場体験の学び	各グループで学校現場体験の学びをPowerPointにまとめ、報告会に向けて練習を行う。
25	学校現場体験　学びの報告会（クラス）	クラス内で学校現場体験の学びをプレゼンし、学びの共有化を図る。各クラス代表１グループを決める。
26	学校現場体験　学びの報告会（２年生全体）	クラス代表の学校現場体験の学びのプレゼンを聞き、自分たちがまとめた学びとの共通点、相違点を明確化する。
27	ゼミ選択について	３年生向けて、ゼミとは何か、ゼミ選択の方法についての話を聞く。
28	学年末集会	１年間の総括および３年生受験・進路の確認１年間の総括及び３年次に向けての確認（３志会、ゼミ選択、教育実習、３年生受験等）
29		
30		

科目コード	14101				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	小﨑　遼介			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、大学生として必要な社会人基礎力、自己コントロールができる自主自律した学生の育成を目指し、努力することの必要性を説き、体験させることで自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

＜授業の到達目標＞
本授業では、人間力の育成のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養うことが目標である。こども発達学科の学生として学び続ける資質・能力を育む。こども発達学科の学生としての活動に参加し、大学、地域、社会に貢献できる。

＜授業の方法＞
基礎学力課題の実施

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
課外活動を必要に応じて行う。グループワークも日費用に応じて実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
指定された課題範囲の取り組み（1時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、DP１他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。と関連しております。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度30%、課題60%、最終課題10%.

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞
ラインズドリル

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	基礎学力課題1	指定された課題の取り組み
3	基礎学力課題2	指定された課題の取り組み
4	基礎学力課題3	指定された課題の取り組み
5	基礎学力課題4	指定された課題の取り組み
6	基礎学力課題5	指定された課題の取り組み
7	基礎学力課題6	指定された課題の取り組み
8	基礎学力課題7	指定された課題の取り組み
9	基礎学力課題8	指定された課題の取り組み
10	基礎学力課題9	指定された課題の取り組み
11	基礎学力課題10	指定された課題の取り組み
12	基礎学力課題11	指定された課題の取り組み
13	基礎学力課題12	指定された課題の取り組み
14	基礎学力課題13	指定された課題の取り組み
15	基礎学力課題14	指定された課題の取り組み
16	基礎学力課題15	指定された課題の取り組み
17	基礎学力課題16	指定された課題の取り組み
18	基礎学力課題17	指定された課題の取り組み
19	基礎学力課題18	指定された課題の取り組み
20	基礎学力課題19	指定された課題の取り組み
21	基礎学力課題20	指定された課題の取り組み
22	基礎学力課題21	指定された課題の取り組み
23	基礎学力課題22	指定された課題の取り組み

24	基礎学力課題23	指定された課題の取り組み
25	基礎学力課題24	指定された課題の取り組み
26	基礎学力課題25	指定された課題の取り組み
27	基礎学力課題26	指定された課題の取り組み
28	最終課題	１年間の振り返りを行い、課題を提出する
29		
30		

科目コード	14101				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	田中　耕作			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
世界で活躍し認められるアスリートになる・創るためにスポーツ科学リテラシー（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）を身に付けることを目的とする。また、各種測定と分析を行い、自身の目標達成に向けた改善プログラムを自ら作成し、自発的に行動できる力を養う。

＜授業の到達目標＞
アスリート / サイエンティストとしての成長の記録を可視化し、各種評価と分析、改善サイクルの実施ができる

＜授業の方法＞
トップガン、インスパイア、教室のそれぞれで講義と実技の両方を組み合わせた演習形式にて実施する。また、各種測定の分析、評価の際にはグループワーク・ディスカッションを行う。課題管理はグーグルクラスルームやスプレッドシートにて行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素有授業での学び活かして、課外での自身のアスリート / サイエンティストとしての活動を通して学習していく。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習　自身の専門競技における競技特性とスポーツ科学リテラシーとの関係性を調べておく。（毎回、1時間程度）復習　授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題）　60%，最終課題レポート　（最終課題，発表）40%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーションとスポーツ科学リテラシー	スポーツ科学リテラシーの意義と測定流れ、データ記入方法について
2	体力測定①	身体組成、スピード&アジリティ測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
3	体力測定②	パワー&持久力測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
4	心理測定①	心理調査と心理学講習会を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
5	栄養測定①	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテストを基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
6	筋力測定①	懸垂測定と１RM測定練習を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
7	筋力測定②	スクワット、ベンチプレス１RM測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
8	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
9	コンディショニング概論①	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法　時差対策を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
10	バイオメカニクス講習	スポーツ現場で利用できる映像分析を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
11	生理学講習	持久力トレーニングの各種方法を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
12	アナリティクス講習	映像から試合分析する方法を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び

13	目標に向けた自主的なトレーニング①	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
14	目標に向けた自主的なトレーニング②	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
15	オリエンテーションと前期振り返りと後期目標設定	前期振り返りと後期目標設定
16	後期目標設定とアクションプランの作成	後期目標設定とアクションプランの作成をおこなう
17	体力測定①ー２	身体組成、スピード&アジリティ測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
18	体力測定②ー２	パワー&持久力測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
19	心理測定②	心理調査と心理学講習会を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
20	栄養測定②	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテストを基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
21	筋力測定①ー２	懸垂測定と１RM測定練習を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
22	筋力測定②ー２	スクワット、ベンチプレス１RM測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
23	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
24	コンディショニング概論②	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法　時差対策を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
25	目標に向けた自主的なトレーニング④	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
26	目標に向けた自主的なトレーニング⑤	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
27	目標に向けた自主的なトレーニング⑥	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
28	まとめ	振り返り
29		
30		

科目コード	14101				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	保科　圭汰			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
世界で活躍し認められるアスリートになる・創るためにスポーツ科学リテラシー（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）を身に付けることを目的とする。また、各種測定と分析を行い、自身の目標達成に向けた改善プログラムを自ら作成し、自発的に行動できる力を養う。

＜授業の到達目標＞
アスリート / サイエンティストとしての成長の記録を可視化し、各種評価と分析、改善サイクルの実施ができる

＜授業の方法＞
トップガン、インスパイア、教室のそれぞれで講義と実技の両方を組み合わせた演習形式にて実施する。また、各種測定の分析、評価の際にはグループワーク・ディスカッションを行う。課題管理はグーグルクラスルームやスプレッドシートにて行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素有授業での学び活かして、課外での自身のアスリート / サイエンティストとしての活動を通して学習していく。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習　自身の専門競技における競技特性とスポーツ科学リテラシーとの関係性を調べておく。（毎回、1時間程度）復習　授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題）　60%，最終課題レポート　（最終課題，発表）40%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーションとスポーツ科学リテラシー	スポーツ科学リテラシーの意義と測定流れ、データ記入方法について
2	体力測定①	身体組成、スピード&アジリティ測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
3	体力測定②	パワー&持久力測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
4	心理測定①	心理調査と心理学講習会を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
5	栄養測定①	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテストを基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
6	筋力測定①	懸垂測定と１RM測定練習を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
7	筋力測定②	スクワット、ベンチプレス１RM測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
8	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
9	コンディショニング概論①	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法　時差対策を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
10	バイオメカニクス講習	スポーツ現場で利用できる映像分析を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
11	生理学講習	持久力トレーニングの各種方法を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
12	アナリティクス講習	映像から試合分析する方法を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び

13	目標に向けた自主的なトレーニング①	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
14	目標に向けた自主的なトレーニング②	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
15	オリエンテーションと前期振り返りと後期目標設定	前期振り返りと後期目標設定
16	後期目標設定とアクションプランの作成	後期目標設定とアクションプランの作成をおこなう
17	体力測定①ー２	身体組成、スピード&アジリティ測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
18	体力測定②ー２	パワー&持久力測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
19	心理測定②	心理調査と心理学講習会を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
20	栄養測定②	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテストを基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
21	筋力測定①ー２	懸垂測定と１RM測定練習を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
22	筋力測定②ー２	スクワット、ベンチプレス１RM測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
23	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
24	コンディショニング概論②	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法　時差対策を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
25	目標に向けた自主的なトレーニング④	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
26	目標に向けた自主的なトレーニング⑤	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
27	目標に向けた自主的なトレーニング⑥	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
28	まとめ	振り返り
29		
30		

科目コード	14101				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	秦　啓一郎			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
世界で活躍し認められるアスリートになる・創るためにスポーツ科学リテラシー（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）を身に付けることを目的とする。また、各種測定と分析を行い、自身の目標達成に向けた改善プログラムを自ら作成し、自発的に行動できる力を養う。

＜授業の到達目標＞
アスリート / サイエンティストとしての成長の記録を可視化し、各種評価と分析、改善サイクルの実施ができる

＜授業の方法＞
トップガン、インスパイア、教室のそれぞれで講義と実技の両方を組み合わせた演習形式にて実施する。また、各種測定の分析、評価の際にはグループワーク・ディスカッションを行う。課題管理はグーグルクラスルームやスプレッドシートにて行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素有授業での学び活かして、課外での自身のアスリート / サイエンティストとしての活動を通して学習していく。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習　自身の専門競技における競技特性とスポーツ科学リテラシーとの関係性を調べておく。（毎回、1時間程度）復習　授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題）　60%，最終課題レポート　（最終課題，発表）40%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーションとスポーツ科学リテラシー	スポーツ科学リテラシーの意義と測定流れ、データ記入方法について
2	体力測定①	身体組成、スピード&アジリティ測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
3	体力測定②	パワー&持久力測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
4	心理測定①	心理調査と心理学講習会を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
5	栄養測定①	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテストを基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
6	筋力測定①	懸垂測定と１RM測定練習を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
7	筋力測定②	スクワット、ベンチプレス１RM測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
8	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
9	コンディショニング概論①	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法　時差対策を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
10	バイオメカニクス講習	スポーツ現場で利用できる映像分析を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
11	生理学講習	持久力トレーニングの各種方法を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
12	アナリティクス講習	映像から試合分析する方法を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び

13	目標に向けた自主的なトレーニング①	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
14	目標に向けた自主的なトレーニング②	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
15	オリエンテーションと前期振り返りと後期目標設定	前期振り返りと後期目標設定
16	後期目標設定とアクションプランの作成	後期目標設定とアクションプランの作成をおこなう
17	体力測定①ー２	身体組成、スピード&アジリティ測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
18	体力測定②ー２	パワー&持久力測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
19	心理測定②	心理調査と心理学講習会を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
20	栄養測定②	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテストを基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
21	筋力測定①ー２	懸垂測定と１RM測定練習を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
22	筋力測定②ー２	スクワット、ベンチプレス１RM測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
23	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
24	コンディショニング概論②	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法　時差対策を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
25	目標に向けた自主的なトレーニング④	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
26	目標に向けた自主的なトレーニング⑤	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
27	目標に向けた自主的なトレーニング⑥	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
28	まとめ	振り返り
29		
30		

科目コード	14101				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	佐々木　史之			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
世界で活躍し認められるアスリートになる・創るためにスポーツ科学リテラシー（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）を身に付けることを目的とする。また、各種測定と分析を行い、自身の目標達成に向けた改善プログラムを自ら作成し、自発的に行動できる力を養う。

＜授業の到達目標＞
アスリート / サイエンティストとしての成長の記録を可視化し、各種評価と分析、改善サイクルの実施ができる

＜授業の方法＞
トップガン、インスパイア、教室のそれぞれで講義と実技の両方を組み合わせた演習形式にて実施する。また、各種測定の分析、評価の際にはグループワーク・ディスカッションを行う。課題管理はグーグルクラスルームやスプレッドシートにて行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素有授業での学び活かして、課外での自身のアスリート / サイエンティストとしての活動を通して学習していく。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習　自身の専門競技における競技特性とスポーツ科学リテラシーとの関係性を調べておく。（毎回、1時間程度）復習　授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題）　60%，最終課題レポート　（最終課題，発表）40%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーションとスポーツ科学リテラシー	スポーツ科学リテラシーの意義と測定流れ、データ記入方法について
2	体力測定①	身体組成、スピード&アジリティ測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
3	体力測定②	パワー&持久力測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
4	心理測定①	心理調査と心理学講習会を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
5	栄養測定①	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテストを基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
6	筋力測定①	懸垂測定と１RM測定練習を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
7	筋力測定②	スクワット、ベンチプレス１RM測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
8	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
9	コンディショニング概論①	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法　時差対策を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
10	バイオメカニクス講習	スポーツ現場で利用できる映像分析を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
11	生理学講習	持久力トレーニングの各種方法を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
12	アナリティクス講習	映像から試合分析する方法を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び

13	目標に向けた自主的なトレーニング①	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
14	目標に向けた自主的なトレーニング②	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
15	オリエンテーションと前期振り返りと後期目標設定	前期振り返りと後期目標設定
16	後期目標設定とアクションプランの作成	後期目標設定とアクションプランの作成をおこなう
17	体力測定①ー２	身体組成、スピード&アジリティ測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
18	体力測定②ー２	パワー&持久力測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
19	心理測定②	心理調査と心理学講習会を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
20	栄養測定②	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテストを基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
21	筋力測定①ー２	懸垂測定と１RM測定練習を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
22	筋力測定②ー２	スクワット、ベンチプレス１RM測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
23	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
24	コンディショニング概論②	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法　時差対策を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
25	目標に向けた自主的なトレーニング④	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
26	目標に向けた自主的なトレーニング⑤	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
27	目標に向けた自主的なトレーニング⑥	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
28	まとめ	振り返り
29		
30		

科目コード	14101				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	吉岡　利貢			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
世界で活躍し認められるアスリートになる・創るためにスポーツ科学リテラシー（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）を身に付けることを目的とする。また、各種測定と分析を行い、自身の目標達成に向けた改善プログラムを自ら作成し、自発的に行動できる力を養う。

＜授業の到達目標＞
アスリート / サイエンティストとしての成長の記録を可視化し、各種評価と分析、改善サイクルの実施ができる

＜授業の方法＞
トップガン、インスパイア、教室のそれぞれで講義と実技の両方を組み合わせた演習形式にて実施する。また、各種測定の分析、評価の際にはグループワーク・ディスカッションを行う。課題管理はグーグルクラスルームやスプレッドシートにて行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素有授業での学び活かして、課外での自身のアスリート / サイエンティストとしての活動を通して学習していく。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習　自身の専門競技における競技特性とスポーツ科学リテラシーとの関係性を調べておく。（毎回、1時間程度）復習　授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題）　60%，最終課題レポート　（最終課題，発表）40%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーションとスポーツ科学リテラシー	スポーツ科学リテラシーの意義と測定流れ、データ記入方法について
2	体力測定①	身体組成、スピード&アジリティ測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
3	体力測定②	パワー&持久力測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
4	心理測定①	心理調査と心理学講習会を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
5	栄養測定①	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテストを基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
6	筋力測定①	懸垂測定と１RM測定練習を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
7	筋力測定②	スクワット、ベンチプレス１RM測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
8	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
9	コンディショニング概論①	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法　時差対策を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
10	バイオメカニクス講習	スポーツ現場で利用できる映像分析を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
11	生理学講習	持久力トレーニングの各種方法を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
12	アナリティクス講習	映像から試合分析する方法を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び

13	目標に向けた自主的なトレーニング①	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
14	目標に向けた自主的なトレーニング②	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
15	オリエンテーションと前期振り返りと後期目標設定	前期振り返りと後期目標設定
16	後期目標設定とアクションプランの作成	後期目標設定とアクションプランの作成をおこなう
17	体力測定①ー２	身体組成、スピード&アジリティ測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
18	体力測定②ー２	パワー&持久力測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
19	心理測定②	心理調査と心理学講習会を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
20	栄養測定②	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテストを基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
21	筋力測定①ー２	懸垂測定と１RM測定練習を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
22	筋力測定②ー２	スクワット、ベンチプレス１RM測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
23	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
24	コンディショニング概論②	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法　時差対策を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
25	目標に向けた自主的なトレーニング④	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
26	目標に向けた自主的なトレーニング⑤	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
27	目標に向けた自主的なトレーニング⑥	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
28	まとめ	振り返り
29		
30		

科目コード	14101				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	金谷　和幸			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
世界で活躍し認められるアスリートになる・創るためにスポーツ科学リテラシー（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）を身に付けることを目的とする。また、各種測定と分析を行い、自身の目標達成に向けた改善プログラムを自ら作成し、自発的に行動できる力を養う。

＜授業の到達目標＞
アスリート / サイエンティストとしての成長の記録を可視化し、各種評価と分析、改善サイクルの実施ができる

＜授業の方法＞
トップガン、インスパイア、教室のそれぞれで講義と実技の両方を組み合わせた演習形式にて実施する。また、各種測定の分析、評価の際にはグループワーク・ディスカッションを行う。課題管理はグーグルクラスルームやスプレッドシートにて行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素有授業での学び活かして、課外での自身のアスリート / サイエンティストとしての活動を通して学習していく。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習　自身の専門競技における競技特性とスポーツ科学リテラシーとの関係性を調べておく。（毎回、1時間程度）復習　授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題）　60%，最終課題レポート　（最終課題，発表）40%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーションとスポーツ科学リテラシー	スポーツ科学リテラシーの意義と測定流れ、データ記入方法について
2	体力測定①	身体組成、スピード&アジリティ測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
3	体力測定②	パワー&持久力測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
4	心理測定①	心理調査と心理学講習会を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
5	栄養測定①	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテストを基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
6	筋力測定①	懸垂測定と１RM測定練習を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
7	筋力測定②	スクワット、ベンチプレス１RM測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
8	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
9	コンディショニング概論①	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法　時差対策を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
10	バイオメカニクス講習	スポーツ現場で利用できる映像分析を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
11	生理学講習	持久力トレーニングの各種方法を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
12	アナリティクス講習	映像から試合分析する方法を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び

13	目標に向けた自主的なトレーニング①	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
14	目標に向けた自主的なトレーニング②	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
15	オリエンテーションと前期振り返りと後期目標設定	前期振り返りと後期目標設定
16	後期目標設定とアクションプランの作成	後期目標設定とアクションプランの作成をおこなう
17	体力測定①ー２	身体組成、スピード&アジリティ測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
18	体力測定②ー２	パワー&持久力測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
19	心理測定②	心理調査と心理学講習会を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
20	栄養測定②	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテストを基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
21	筋力測定①ー２	懸垂測定と１RM測定練習を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
22	筋力測定②ー２	スクワット、ベンチプレス１RM測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
23	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
24	コンディショニング概論②	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法　時差対策を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
25	目標に向けた自主的なトレーニング④	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
26	目標に向けた自主的なトレーニング⑤	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
27	目標に向けた自主的なトレーニング⑥	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
28	まとめ	振り返り
29		
30		

科目コード	14101				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	小﨑　遼介／虫明　淑子／塚本　千晴			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学におけるける学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができるようになるための基礎・基本を身につける。さらにグループワークやディスカッションを通じて、非認知能力の向上を目指す。

＜授業の到達目標＞

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・ 責任感」について自分なりに考えを持ち、行動できる②社会人基礎力:「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力を身につける③大学における学び：学部・学科における学びの基礎的な力を身につける④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力を身につける

＜授業の方法＞

1.講義(メンターによる講話)　2.グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ)　3.省察活動(質疑・まとめ・感想発表)　4.基礎学力課題に取り組む

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

ディスカッション、パワーポイントでのプレゼン、東岡山IPUこども園での活動

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。（毎回１時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ１～２回程度、３時間程度）復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題（プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等を含む）（70%）、最終レポート（10%）、グループワーク等の活動における関心・意欲・態度（20%）必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

＜教科書＞

特になし

＜参考書＞

特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	1年間の学習に見通しを持つ	1年次の学びを振り返り、2年次の目標を設定する。
2	年間の学修計画	目標達成の手段と１年間の計画について見通しを持つ
3	こども発達学科での学びは何かを考える	目標達成の手段と１年間の計画：①保育者としての資質②進路の方向性を決める(キャリアデザイン・コース)
4	社会人基礎力	マイナビオンデマンド社会人基礎力に取り組む。
5	社会人としての"当然"を学ぼう①	秘書検定を通して、マナーや社会人の基礎を学ぶ。
6	東岡山IPUこども園連携：社会人（保育教諭）としての"当然"を探す	こども園連携（こども園での観察）にて、社会人の基礎となる部分を探す。
7	東岡山IPUこども園連携	東岡山IPUこども園での観察結果をグループで共有する。
8	東岡山IPUこども園連携	こども園連携（こども園での観察）にて、社会人の基礎となる部分をグループにて探す。
9	東岡山IPUこども園連携	東岡山IPUこども園での観察のまとめを行う。
10	社会人としての当然を学ぶ	保育ICT検定を行い、社会人の必要な資質を学ぶ。
11	社会人としての当然を学ぶ	各種検定を行うことで、社会人基礎力を身につける
12	社会人としての当然を学ぶ	各種検定を行うことで、社会人基礎力を身につける
13	前期目標の振り返り	前期のまとめのプレゼンテーションの準備

14	目標達成力の中間プレゼン	前期の取り組みと自身の目標達成度のプレゼンを行う。
15	後期のスケジュール	後期のスケジュール管理、履修確認を行う。
16	後期の目標設定	目標達成の手段と１年間の計画：①保育者としての資質②進路の方向性を決める（キャリアデザイン・コース）
17	働く	マイナビの働くことを考えるワークを通して、働くことについて考える。
18	保育の魅力	上級生・卒業生・東岡山IPUこども園職員による講話
19	進路の決定	進路ごとにグループに分かれて、保育観察の準備を行う。
20	東岡山IPUこども園での観察	東岡山IPUこども園での観察を行う。グループごとに観察をする。
21	東岡山IPUこども園での観察	東岡山IPUこども園での観察を行う。グループごとに観察をする。特に事前学習との関連について観察する。
22	東岡山IPUこども園での観察	東岡山IPUこども園での観察を行う。自分の進路との関連を強調して観察する。
23	進路とキャリア	キャリアデザイン受講学生との交流
24	3年生のコース選択	コース紹介３年生との交流
25	ゼミ選択	3・4年生のゼミ生との交流
26	個別面談①	キャリアデザイン・コースの決定
27	個別面談②	キャリアデザイン・コースの決定
28	目標達成力の最終プレゼン	１年間の目標設定の振り返り
29		
30		

科目コード	14101				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ［再履修]PH用				担当者名	古山　喜一			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
多方面に活躍できる柔道整復師を知ってもらうために各教員が取り組んでいる内容を体験型授業で実施し、自身の将来の方向性を定めることを目的する。

＜授業の到達目標＞
①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・ 責任感」のある人間の育成②社会人基礎力：：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

＜授業の方法＞
１．講義（学科教員による講義，講話）２．グループワーク、ディスカッション３．省察（質疑・まとめ・感想発表）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：総合医学学習では指定学習範囲内容、プレゼミナールでは担当教員の研究領域内容について事前学習、調査（60分程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲30％・課題70％

＜教科書＞
特になし　　発行所：医歯薬出版株式会社
監修：公益社団法人全国柔道整復学校協会　2020年1月10日第2版第14刷発行　解剖学　改訂第2版

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	現状を考え、今年度の計画を立てる１年次の成績、今年度の履修登録確認資格取得予定確認（アンケート）
2	役職者講和	・大学2年生としての役割
3	個別面談	・1年間の経過とこれからの計画などについて
4	オンデマンド：運動器（骨・筋・関節）解剖の概要①	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
5	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要②	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
6	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要③	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
7	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要④	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
8	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要⑤	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
9	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要⑥	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
10	学科内プレゼンテーション発表の概要	・これまで学んだ中で興味ある分野を調べ、グループディスカッションを行いスライドを作成するまでの流れを説明する。
11	学科内プレゼンテーション発表①	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
12	学科内プレゼンテーション発表②	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
13	学科内プレゼンテーション発表③	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
14	学科内プレゼンテーション発表④	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
15	前期振り返り	・前期までの振り返りと自己分析
16	個別面談①と後期授業内容について	・保護者面談の内容を踏まえた学生との面談
17	個別面談②	・資格取得や就職について

18	学科内プレゼンテーション発表⑤	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
19	学科内プレゼンテーション発表⑥	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
20	学科内プレゼンテーション発表⑦	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
21	学科内プレゼンテーション発表⑧	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
22	学科内プレゼンテーション発表⑨	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
23	学科内プレゼンテーション発表⑩	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
24	大学教職員講和	・柔道整復師とは
25	大学教職員講和	・医療、スポーツと柔道整復師について
26	大学教職員講和	・柔道整復師の未来について
27	ゼミナール担当教員講和①	・ゼミナール決定に向けて担当となるゼミナール活動を知る
28	ゼミナール担当教員講和②	・ゼミナール決定に向けて担当となるゼミナール活動を知る
29		
30		

科目コード	14101				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ［再履修]PH用[不開講]				担当者名	古山　喜一			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
多方面に活躍できる柔道整復師を知ってもらうために各教員が取り組んでいる内容を体験型授業で実施し、自身の将来の方向性を定めることを目的する。

＜授業の到達目標＞
①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・ 責任感」のある人間の育成②社会人基礎力：：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

＜授業の方法＞
１．講義（学科教員による講義，講話）２．グループワーク、ディスカッション３．省察（質疑・まとめ・感想発表）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：総合医学学習では指定学習範囲内容、プレゼミナールでは担当教員の研究領域内容について事前学習、調査（60分程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲30％・課題70％

＜教科書＞
特になし　　発行所：医歯薬出版株式会社
監修：公益社団法人全国柔道整復学校協会　2020年1月10日第2版第14刷発行　解剖学　改訂第2版

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	現状を考え、今年度の計画を立てる１年次の成績、今年度の履修登録確認資格取得予定確認（アンケート）
2	役職者講和	・大学2年生としての役割
3	個別面談	・1年間の経過とこれからの計画などについて
4	オンデマンド：運動器（骨・筋・関節）解剖の概要①	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
5	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要②	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
6	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要③	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
7	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要④	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
8	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要⑤	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
9	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要⑥	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
10	学科内プレゼンテーション発表の概要	・これまで学んだ中で興味ある分野を調べ、グループディスカッションを行いスライドを作成するまでの流れを説明する。
11	学科内プレゼンテーション発表①	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
12	学科内プレゼンテーション発表②	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
13	学科内プレゼンテーション発表③	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
14	学科内プレゼンテーション発表④	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
15	前期振り返り	・前期までの振り返りと自己分析
16	個別面談①と後期授業内容について	・保護者面談の内容を踏まえた学生との面談
17	個別面談②	・資格取得や就職について

18	学科内プレゼンテーション発表⑤	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
19	学科内プレゼンテーション発表⑥	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
20	学科内プレゼンテーション発表⑦	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
21	学科内プレゼンテーション発表⑧	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
22	学科内プレゼンテーション発表⑨	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
23	学科内プレゼンテーション発表⑩	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
24	大学教職員講和	・柔道整復師とは
25	大学教職員講和	・医療、スポーツと柔道整復師について
26	大学教職員講和	・柔道整復師の未来について
27	ゼミナール担当教員講和①	・ゼミナール決定に向けて担当となるゼミナール活動を知る
28	ゼミナール担当教員講和②	・ゼミナール決定に向けて担当となるゼミナール活動を知る
29		
30		

科目コード	14101				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ　BC2026年度生				担当者名	江口　尚文			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、キャリアディベロップメント科目と連動し、クラス単位での少人数教育を通して、大学における学びとキャリア形成の基盤を育成することを目的とする。メンターによる指導のもと、自己理解の深化、他者との関係構築、目標設定および行動の振り返りを段階的に行う。また、本授業では、経験→省察→言語化→行動改善のサイクルを重視し、学生一人ひとりの成長を可視化しながら、主体的に学び続ける力を養う。

＜授業の到達目標＞
１．自己の価値観・行動特性・課題を把握し、それを言語化して説明できる。２．クラス内での協働活動を通して、他者理解および適切なコミュニケーションを実践できる。３．目標設定および振り返りを繰り返すことで、自律的に行動を改善することができる。４．キャリア形成に向けた具体的な行動計画を立案し、継続的に実行できる。

＜授業の方法＞
メンターによる指導のもと、講話・グループワーク・個人面談・省察活動を組み合わせて実施する。特に、クラス活動では学生同士の対話や協働を通して学びを深めるとともに、個人面談により一人ひとりの状況に応じた支援を行う。また、ICTを活用した学修を推進する。グーグルクラスルームを通じた課題の提出やAIの活用などを織り交ぜる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループディスカッション、自己分析ワーク、プレゼンテーション、相互フィードバック等を通して、主体的・対話的で深い学びを実現する。特に、クラス内での継続的な関係性を活かし、安心して自己開示・意見交換ができる学習環境を構築する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：テーマに関連する自己の経験や考えを整理し、発言できる状態で授業に臨む（120分程度）。復習：授業での気づきや自己の変容を振り返り、今後の行動改善につなげる（60分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等（60%）演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲（30%）最終レポート（10%）必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	クラス開き、自己紹介、履修登録
2	クラス活動①（自己理解と目標設定）	大学で求められる学生像や価値観について理解を深めるとともに、自己の現状を振り返る。五訓アンケートやワークを通して自身の特性や課題を把握し、前期における具体的な目標を設定し、その理由を説明できるようにする。
3	個人面談①	メンターとの面談を通して、自己の目標や課題について整理する。他者との対話を通して自己理解を深めるとともに、今後の行動方針を具体化できるようにする。
4	個人面談②	学生の成長、変化に耳を傾ける。何か問題があれば、速やかに対処する。メンターと学生の関係構築に努める。
5	クラス活動②（関係構築）	クラス内でのコミュニケーション活動を通して、相互理解を深める。安心して意見交換ができる関係性の構築を目指し、他者の意見を尊重しながら自己の考えを表現できるようにする。
6	クラス活動③（価値観の共有）	価値観に関するワークを通して、自身の考え方や行動の基盤を理解する。他者との違いに気づき、多様な視点を受け入れながら、自身の価値観を再構成できるようにする。
7	クラス活動④（行動計画の具体化）	設定した目標に対して、具体的な行動計画を立案する。達成に向けたプロセスを明確にし、実行可能な計画として言語化できるようにする。
8	クラス活動⑤（振り返り①）	これまでの行動を振り返り、目標に対する達成度や課題を整理する。自己の行動を

		客観的に評価し、改善点を具体的に示すことができるようにする。
9	クラス活動⑥（経験の言語化）	これまでの経験を振り返り、それを言語化するトレーニングを行う。自身の強みや成長を具体的なエピソードとして説明できるようにする。
10	スポーツ交流・国際交流（キャリアディベロップメントと連動）	交流活動を通して、多様な他者との関わり方を体験的に学ぶ。活動後には振り返りを行い、協働やコミュニケーションの工夫について言語化できるようにする。
11	クラス活動⑦（発信力の基礎）	簡単なプレゼンテーション活動を通して、自身の考えを他者に伝える力を養う。構成や話し方を意識し、分かりやすく伝達することができるようにする。
12	クラス活動⑧（振り返り②）	前期の学びを総合的に振り返り、自己の成長および課題を整理する。今後に向けた改善点を明確にし、次の行動へとつなげることができるようにする。
13	クラス活動⑨（前期総括と成長の言語化）	前期の学びをもとに、自己の成長を多面的に振り返る。特に、自己理解・他者理解・行動の変容の観点から、自身の変化を整理し、具体的なエピソードを用いて言語化する。あわせて、その成長がどのような要因によって生じたのかを分析し、今後の学修や行動にどのように活かすかを説明できるようにする。
14	前期振り返り	前期全体の学修を振り返り、自己の変容を多面的に省察する。夏季休暇に向けた目標と行動計画を立案し、主体的な学びを継続する意識を高める。
15	後期オリエンテーション　五訓アンケート　スポーツフェスタ準備	前期の振り返りを踏まえ、後期の目標を再設定する。自己の課題を明確にし、より具体的な行動計画として説明できるようにする。クラス単位での活動を通して、役割分担や協働の重要性を理解する。目標達成に向けたチームとしての行動計画を立案し、自身の役割と責任を自覚して行動できるようにする。
16	個人面談③	メンターとの面談を通して、後期の目標や課題について整理する。個別の状況に応じた支援を受けながら、今後の行動方針を具体化する。
17	スポーツフェスタ代替日	実際の活動を通して、協働することの意義やチームワークの重要性を体験的に理解する。活動後には振り返りを行い、成功要因や課題を整理し、今後の行動改善につなげることができるようにする。
18	個人面談④	後期の進捗状況を踏まえ、目標達成に向けた行動を振り返る。メンターとの対話を通して課題を明確にし、具体的な改善行動を設定できるようにする。
19	アカデミックライティング（実践）	文章作成課題に取り組むことで、論理的思考力および表現力の向上を図る。自己の考えを根拠に基づいて記述し、その内容を客観的に見直し改善できるようにする。
20	クラス活動⑩（自己PRの基礎）	これまでの経験を整理し、自身の強みや特徴を言語化する。具体的なエピソードを用いて自己を表現する方法を学び、他者に伝わる形で説明できるようにする。
21	クラス活動⑪（発信力の向上）	自己PRや意見発表の練習を通して、伝達力の向上を図る。相互フィードバックを行いながら、より分かりやすく説得力のある伝え方へと改善できるようにする。
22	プレゼンテーションコンテスト（クラス予選）	これまでの準備をもとにプレゼンテーションを実施し、自身の考えを他者に伝達する。発表経験を通して自己の課題を把握し、今後の改善点を具体的に示すことができるようにする。
23	アカデミックライティング（ミニレポート作成）	ミニレポートの作成を通して、情報整理力および論理的記述力の定着を図る。自身の考えを明確な構成で記述し、その妥当性を説明できるようにする。
24	クラス活動⑫（自己分析の深化）	これまでの学びや経験を振り返り、自己理解をさらに深める。強み・弱み・価値観を整理し、今後の進路選択にどのように活かすかを具体的に説明できるようにする。
25	クラス活動⑬（進路意識の形成）	将来の進路について具体的に考え、必要な能力や経験を整理する。自身の目標と現状との差を把握し、今後の行動計画を立案できるようにする。
26	ゼミ体験①	各ゼミの内容や特徴について理解を深める。説明や体験を通して、自身の関心や将来の方向性との関連を考察し、適切な選択に向けた判断材料を整理できるようにする。
27	ゼミ体験②	複数のゼミを比較し、それぞれの特徴や学びの違いを理解する。自身に適したゼミを選択するための基準を明確にし、その理由を説明できるようにする。
28	後期振り返り	1年間の学びを整理し、自己の成長と課題を体系的にまとめる。これまでの経験を振り返り、次年度に向けた課題と目標を明確にする。1年間の学びを総括し、自己の成長を言語化する。3年次に向けた目標と行動計画を具体的に立案し、キャリア形成に向けた継続的な学びの方向性を明確にする。
29		
30		

科目コード	14101				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ　BC2026年度生				担当者名	古松　丈周			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、キャリアディベロップメント科目と連動し、クラス単位での少人数教育を通して、大学における学びとキャリア形成の基盤を育成することを目的とする。メンターによる指導のもと、自己理解の深化、他者との関係構築、目標設定および行動の振り返りを段階的に行う。また、本授業では、経験→省察→言語化→行動改善のサイクルを重視し、学生一人ひとりの成長を可視化しながら、主体的に学び続ける力を養う。

＜授業の到達目標＞
１．自己の価値観・行動特性・課題を把握し、それを言語化して説明できる。２．クラス内での協働活動を通して、他者理解および適切なコミュニケーションを実践できる。３．目標設定および振り返りを繰り返すことで、自律的に行動を改善することができる。４．キャリア形成に向けた具体的な行動計画を立案し、継続的に実行できる。

＜授業の方法＞
メンターによる指導のもと、講話・グループワーク・個人面談・省察活動を組み合わせて実施する。特に、クラス活動では学生同士の対話や協働を通して学びを深めるとともに、個人面談により一人ひとりの状況に応じた支援を行う。また、ICTを活用した学修を推進する。グーグルクラスルームを通じた課題の提出やAIの活用などを織り交ぜる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループディスカッション、自己分析ワーク、プレゼンテーション、相互フィードバック等を通して、主体的・対話的で深い学びを実現する。特に、クラス内での継続的な関係性を活かし、安心して自己開示・意見交換ができる学習環境を構築する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：テーマに関連する自己の経験や考えを整理し、発言できる状態で授業に臨む（120分程度）。復習：授業での気づきや自己の変容を振り返り、今後の行動改善につなげる（60分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等（60%）演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲（30%）最終レポート（10%）必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	クラス開き、自己紹介、履修登録
2	クラス活動①（自己理解と目標設定）	大学で求められる学生像や価値観について理解を深めるとともに、自己の現状を振り返る。五訓アンケートやワークを通して自身の特性や課題を把握し、前期における具体的な目標を設定し、その理由を説明できるようにする。
3	個人面談①	メンターとの面談を通して、自己の目標や課題について整理する。他者との対話を通して自己理解を深めるとともに、今後の行動方針を具体化できるようにする。
4	個人面談②	学生の成長、変化に耳を傾ける。何か問題があれば、速やかに対処する。メンターと学生の関係構築に努める。
5	クラス活動②（関係構築）	クラス内でのコミュニケーション活動を通して、相互理解を深める。安心して意見交換ができる関係性の構築を目指し、他者の意見を尊重しながら自己の考えを表現できるようにする。
6	クラス活動③（価値観の共有）	価値観に関するワークを通して、自身の考え方や行動の基盤を理解する。他者との違いに気づき、多様な視点を受け入れながら、自身の価値観を再構成できるようにする。
7	クラス活動④（行動計画の具体化）	設定した目標に対して、具体的な行動計画を立案する。達成に向けたプロセスを明確にし、実行可能な計画として言語化できるようにする。
8	クラス活動⑤（振り返り①）	これまでの行動を振り返り、目標に対する達成度や課題を整理する。自己の行動を

		客観的に評価し、改善点を具体的に示すことができるようにする。
9	クラス活動⑥（経験の言語化）	これまでの経験を振り返り、それを言語化するトレーニングを行う。自身の強みや成長を具体的なエピソードとして説明できるようにする。
10	スポーツ交流・国際交流（キャリアディベロップメントと連動）	交流活動を通して、多様な他者との関わり方を体験的に学ぶ。活動後には振り返りを行い、協働やコミュニケーションの工夫について言語化できるようにする。
11	クラス活動⑦（発信力の基礎）	簡単なプレゼンテーション活動を通して、自身の考えを他者に伝える力を養う。構成や話し方を意識し、分かりやすく伝達することができるようにする。
12	クラス活動⑧（振り返り②）	前期の学びを総合的に振り返り、自己の成長および課題を整理する。今後に向けた改善点を明確にし、次の行動へとつなげることができるようにする。
13	クラス活動⑨（前期総括と成長の言語化）	前期の学びをもとに、自己の成長を多面的に振り返る。特に、自己理解・他者理解・行動の変容の観点から、自身の変化を整理し、具体的なエピソードを用いて言語化する。あわせて、その成長がどのような要因によって生じたのかを分析し、今後の学修や行動にどのように活かすかを説明できるようにする。
14	前期振り返り	前期全体の学修を振り返り、自己の変容を多面的に省察する。夏季休暇に向けた目標と行動計画を立案し、主体的な学びを継続する意識を高める。
15	後期オリエンテーション　五訓アンケート　スポーツフェスタ準備	前期の振り返りを踏まえ、後期の目標を再設定する。自己の課題を明確にし、より具体的な行動計画として説明できるようにする。クラス単位での活動を通して、役割分担や協働の重要性を理解する。目標達成に向けたチームとしての行動計画を立案し、自身の役割と責任を自覚して行動できるようにする。
16	個人面談③	メンターとの面談を通して、後期の目標や課題について整理する。個別の状況に応じた支援を受けながら、今後の行動方針を具体化する。
17	スポーツフェスタ代替日	実際の活動を通して、協働することの意義やチームワークの重要性を体験的に理解する。活動後には振り返りを行い、成功要因や課題を整理し、今後の行動改善につなげることができるようにする。
18	個人面談④	後期の進捗状況を踏まえ、目標達成に向けた行動を振り返る。メンターとの対話を通して課題を明確にし、具体的な改善行動を設定できるようにする。
19	アカデミックライティング（実践）	文章作成課題に取り組むことで、論理的思考力および表現力の向上を図る。自己の考えを根拠に基づいて記述し、その内容を客観的に見直し改善できるようにする。
20	クラス活動⑩（自己PRの基礎）	これまでの経験を整理し、自身の強みや特徴を言語化する。具体的なエピソードを用いて自己を表現する方法を学び、他者に伝わる形で説明できるようにする。
21	クラス活動⑪（発信力の向上）	自己PRや意見発表の練習を通して、伝達力の向上を図る。相互フィードバックを行いながら、より分かりやすく説得力のある伝え方へと改善できるようにする。
22	プレゼンテーションコンテスト（クラス予選）	これまでの準備をもとにプレゼンテーションを実施し、自身の考えを他者に伝達する。発表経験を通して自己の課題を把握し、今後の改善点を具体的に示すことができるようにする。
23	アカデミックライティング（ミニレポート作成）	ミニレポートの作成を通して、情報整理力および論理的記述力の定着を図る。自身の考えを明確な構成で記述し、その妥当性を説明できるようにする。
24	クラス活動⑫（自己分析の深化）	これまでの学びや経験を振り返り、自己理解をさらに深める。強み・弱み・価値観を整理し、今後の進路選択にどのように活かすかを具体的に説明できるようにする。
25	クラス活動⑬（進路意識の形成）	将来の進路について具体的に考え、必要な能力や経験を整理する。自身の目標と現状との差を把握し、今後の行動計画を立案できるようにする。
26	ゼミ体験①	各ゼミの内容や特徴について理解を深める。説明や体験を通して、自身の関心や将来の方向性との関連を考察し、適切な選択に向けた判断材料を整理できるようにする。
27	ゼミ体験②	複数のゼミを比較し、それぞれの特徴や学びの違いを理解する。自身に適したゼミを選択するための基準を明確にし、その理由を説明できるようにする。
28	後期振り返り	1年間の学びを整理し、自己の成長と課題を体系的にまとめる。これまでの経験を振り返り、次年度に向けた課題と目標を明確にする。1年間の学びを総括し、自己の成長を言語化する。3年次に向けた目標と行動計画を具体的に立案し、キャリア形成に向けた継続的な学びの方向性を明確にする。
29		
30		

科目コード	14101				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ　BC2026年度生				担当者名	大平　真紀子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、キャリアディベロップメント科目と連動し、クラス単位での少人数教育を通して、大学における学びとキャリア形成の基盤を育成することを目的とする。メンターによる指導のもと、自己理解の深化、他者との関係構築、目標設定および行動の振り返りを段階的に行う。また、本授業では、経験→省察→言語化→行動改善のサイクルを重視し、学生一人ひとりの成長を可視化しながら、主体的に学び続ける力を養う。

＜授業の到達目標＞
１．自己の価値観・行動特性・課題を把握し、それを言語化して説明できる。２．クラス内での協働活動を通して、他者理解および適切なコミュニケーションを実践できる。３．目標設定および振り返りを繰り返すことで、自律的に行動を改善することができる。４．キャリア形成に向けた具体的な行動計画を立案し、継続的に実行できる。

＜授業の方法＞
メンターによる指導のもと、講話・グループワーク・個人面談・省察活動を組み合わせて実施する。特に、クラス活動では学生同士の対話や協働を通して学びを深めるとともに、個人面談により一人ひとりの状況に応じた支援を行う。また、ICTを活用した学修を推進する。グーグルクラスルームを通じた課題の提出やAIの活用などを織り交ぜる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループディスカッション、自己分析ワーク、プレゼンテーション、相互フィードバック等を通して、主体的・対話的で深い学びを実現する。特に、クラス内での継続的な関係性を活かし、安心して自己開示・意見交換ができる学習環境を構築する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：テーマに関連する自己の経験や考えを整理し、発言できる状態で授業に臨む（120分程度）。復習：授業での気づきや自己の変容を振り返り、今後の行動改善につなげる（60分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等（60%）演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲（30%）最終レポート（10%）必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	クラス開き、自己紹介、履修登録
2	クラス活動①（自己理解と目標設定）	大学で求められる学生像や価値観について理解を深めるとともに、自己の現状を振り返る。五訓アンケートやワークを通して自身の特性や課題を把握し、前期における具体的な目標を設定し、その理由を説明できるようにする。
3	個人面談①	メンターとの面談を通して、自己の目標や課題について整理する。他者との対話を通して自己理解を深めるとともに、今後の行動方針を具体化できるようにする。
4	個人面談②	学生の成長、変化に耳を傾ける。何か問題があれば、速やかに対処する。メンターと学生の関係構築に努める。
5	クラス活動②（関係構築）	クラス内でのコミュニケーション活動を通して、相互理解を深める。安心して意見交換ができる関係性の構築を目指し、他者の意見を尊重しながら自己の考えを表現できるようにする。
6	クラス活動③（価値観の共有）	価値観に関するワークを通して、自身の考え方や行動の基盤を理解する。他者との違いに気づき、多様な視点を受け入れながら、自身の価値観を再構成できるようにする。
7	クラス活動④（行動計画の具体化）	設定した目標に対して、具体的な行動計画を立案する。達成に向けたプロセスを明確にし、実行可能な計画として言語化できるようにする。
8	クラス活動⑤（振り返り①）	これまでの行動を振り返り、目標に対する達成度や課題を整理する。自己の行動を

		客観的に評価し、改善点を具体的に示すことができるようにする。
9	クラス活動⑥（経験の言語化）	これまでの経験を振り返り、それを言語化するトレーニングを行う。自身の強みや成長を具体的なエピソードとして説明できるようにする。
10	スポーツ交流・国際交流（キャリアディベロップメントと連動）	交流活動を通して、多様な他者との関わり方を体験的に学ぶ。活動後には振り返りを行い、協働やコミュニケーションの工夫について言語化できるようにする。
11	クラス活動⑦（発信力の基礎）	簡単なプレゼンテーション活動を通して、自身の考えを他者に伝える力を養う。構成や話し方を意識し、分かりやすく伝達することができるようにする。
12	クラス活動⑧（振り返り②）	前期の学びを総合的に振り返り、自己の成長および課題を整理する。今後に向けた改善点を明確にし、次の行動へとつなげることができるようにする。
13	クラス活動⑨（前期総括と成長の言語化）	前期の学びをもとに、自己の成長を多面的に振り返る。特に、自己理解・他者理解・行動の変容の観点から、自身の変化を整理し、具体的なエピソードを用いて言語化する。あわせて、その成長がどのような要因によって生じたのかを分析し、今後の学修や行動にどのように活かすかを説明できるようにする。
14	前期振り返り	前期全体の学修を振り返り、自己の変容を多面的に省察する。夏季休暇に向けた目標と行動計画を立案し、主体的な学びを継続する意識を高める。
15	後期オリエンテーション　五訓アンケート　スポーツフェスタ準備	前期の振り返りを踏まえ、後期の目標を再設定する。自己の課題を明確にし、より具体的な行動計画として説明できるようにする。クラス単位での活動を通して、役割分担や協働の重要性を理解する。目標達成に向けたチームとしての行動計画を立案し、自身の役割と責任を自覚して行動できるようにする。
16	個人面談③	メンターとの面談を通して、後期の目標や課題について整理する。個別の状況に応じた支援を受けながら、今後の行動方針を具体化する。
17	スポーツフェスタ代替日	実際の活動を通して、協働することの意義やチームワークの重要性を体験的に理解する。活動後には振り返りを行い、成功要因や課題を整理し、今後の行動改善につなげることができるようにする。
18	個人面談④	後期の進捗状況を踏まえ、目標達成に向けた行動を振り返る。メンターとの対話を通して課題を明確にし、具体的な改善行動を設定できるようにする。
19	アカデミックライティング（実践）	文章作成課題に取り組むことで、論理的思考力および表現力の向上を図る。自己の考えを根拠に基づいて記述し、その内容を客観的に見直し改善できるようにする。
20	クラス活動⑩（自己PRの基礎）	これまでの経験を整理し、自身の強みや特徴を言語化する。具体的なエピソードを用いて自己を表現する方法を学び、他者に伝わる形で説明できるようにする。
21	クラス活動⑪（発信力の向上）	自己PRや意見発表の練習を通して、伝達力の向上を図る。相互フィードバックを行いながら、より分かりやすく説得力のある伝え方へと改善できるようにする。
22	プレゼンテーションコンテスト（クラス予選）	これまでの準備をもとにプレゼンテーションを実施し、自身の考えを他者に伝達する。発表経験を通して自己の課題を把握し、今後の改善点を具体的に示すことができるようにする。
23	アカデミックライティング（ミニレポート作成）	ミニレポートの作成を通して、情報整理力および論理的記述力の定着を図る。自身の考えを明確な構成で記述し、その妥当性を説明できるようにする。
24	クラス活動⑫（自己分析の深化）	これまでの学びや経験を振り返り、自己理解をさらに深める。強み・弱み・価値観を整理し、今後の進路選択にどのように活かすかを具体的に説明できるようにする。
25	クラス活動⑬（進路意識の形成）	将来の進路について具体的に考え、必要な能力や経験を整理する。自身の目標と現状との差を把握し、今後の行動計画を立案できるようにする。
26	ゼミ体験①	各ゼミの内容や特徴について理解を深める。説明や体験を通して、自身の関心や将来の方向性との関連を考察し、適切な選択に向けた判断材料を整理できるようにする。
27	ゼミ体験②	複数のゼミを比較し、それぞれの特徴や学びの違いを理解する。自身に適したゼミを選択するための基準を明確にし、その理由を説明できるようにする。
28	後期振り返り	1年間の学びを整理し、自己の成長と課題を体系的にまとめる。これまでの経験を振り返り、次年度に向けた課題と目標を明確にする。1年間の学びを総括し、自己の成長を言語化する。3年次に向けた目標と行動計画を具体的に立案し、キャリア形成に向けた継続的な学びの方向性を明確にする。
29		
30		

科目コード	14101				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ　BC2026年度生				担当者名	赤木　邦江			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、キャリアディベロップメント科目と連動し、クラス単位での少人数教育を通して、大学における学びとキャリア形成の基盤を育成することを目的とする。メンターによる指導のもと、自己理解の深化、他者との関係構築、目標設定および行動の振り返りを段階的に行う。また、本授業では、経験→省察→言語化→行動改善のサイクルを重視し、学生一人ひとりの成長を可視化しながら、主体的に学び続ける力を養う。

＜授業の到達目標＞
１．自己の価値観・行動特性・課題を把握し、それを言語化して説明できる。２．クラス内での協働活動を通して、他者理解および適切なコミュニケーションを実践できる。３．目標設定および振り返りを繰り返すことで、自律的に行動を改善することができる。４．キャリア形成に向けた具体的な行動計画を立案し、継続的に実行できる。

＜授業の方法＞
メンターによる指導のもと、講話・グループワーク・個人面談・省察活動を組み合わせて実施する。特に、クラス活動では学生同士の対話や協働を通して学びを深めるとともに、個人面談により一人ひとりの状況に応じた支援を行う。また、ICTを活用した学修を推進する。グーグルクラスルームを通じた課題の提出やAIの活用などを織り交ぜる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループディスカッション、自己分析ワーク、プレゼンテーション、相互フィードバック等を通して、主体的・対話的で深い学びを実現する。特に、クラス内での継続的な関係性を活かし、安心して自己開示・意見交換ができる学習環境を構築する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：テーマに関連する自己の経験や考えを整理し、発言できる状態で授業に臨む（120分程度）。復習：授業での気づきや自己の変容を振り返り、今後の行動改善につなげる（60分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等（60%）演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲（30%）最終レポート（10%）必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	クラス開き、自己紹介、履修登録
2	クラス活動①（自己理解と目標設定）	大学で求められる学生像や価値観について理解を深めるとともに、自己の現状を振り返る。五訓アンケートやワークを通して自身の特性や課題を把握し、前期における具体的な目標を設定し、その理由を説明できるようにする。
3	個人面談①	メンターとの面談を通して、自己の目標や課題について整理する。他者との対話を通して自己理解を深めるとともに、今後の行動方針を具体化できるようにする。
4	個人面談②	学生の成長、変化に耳を傾ける。何か問題があれば、速やかに対処する。メンターと学生の関係構築に努める。
5	クラス活動②（関係構築）	クラス内でのコミュニケーション活動を通して、相互理解を深める。安心して意見交換ができる関係性の構築を目指し、他者の意見を尊重しながら自己の考えを表現できるようにする。
6	クラス活動③（価値観の共有）	価値観に関するワークを通して、自身の考え方や行動の基盤を理解する。他者との違いに気づき、多様な視点を受け入れながら、自身の価値観を再構成できるようにする。
7	クラス活動④（行動計画の具体化）	設定した目標に対して、具体的な行動計画を立案する。達成に向けたプロセスを明確にし、実行可能な計画として言語化できるようにする。
8	クラス活動⑤（振り返り①）	これまでの行動を振り返り、目標に対する達成度や課題を整理する。自己の行動を

		客観的に評価し、改善点を具体的に示すことができるようにする。
9	クラス活動⑥（経験の言語化）	これまでの経験を振り返り、それを言語化するトレーニングを行う。自身の強みや成長を具体的なエピソードとして説明できるようにする。
10	スポーツ交流・国際交流（キャリアディベロップメントと連動）	交流活動を通して、多様な他者との関わり方を体験的に学ぶ。活動後には振り返りを行い、協働やコミュニケーションの工夫について言語化できるようにする。
11	クラス活動⑦（発信力の基礎）	簡単なプレゼンテーション活動を通して、自身の考えを他者に伝える力を養う。構成や話し方を意識し、分かりやすく伝達することができるようにする。
12	クラス活動⑧（振り返り②）	前期の学びを総合的に振り返り、自己の成長および課題を整理する。今後に向けた改善点を明確にし、次の行動へとつなげることができるようにする。
13	クラス活動⑨（前期総括と成長の言語化）	前期の学びをもとに、自己の成長を多面的に振り返る。特に、自己理解・他者理解・行動の変容の観点から、自身の変化を整理し、具体的なエピソードを用いて言語化する。あわせて、その成長がどのような要因によって生じたのかを分析し、今後の学修や行動にどのように活かすかを説明できるようにする。
14	前期振り返り	前期全体の学修を振り返り、自己の変容を多面的に省察する。夏季休暇に向けた目標と行動計画を立案し、主体的な学びを継続する意識を高める。
15	後期オリエンテーション　五訓アンケート　スポーツフェスタ準備	前期の振り返りを踏まえ、後期の目標を再設定する。自己の課題を明確にし、より具体的な行動計画として説明できるようにする。クラス単位での活動を通して、役割分担や協働の重要性を理解する。目標達成に向けたチームとしての行動計画を立案し、自身の役割と責任を自覚して行動できるようにする。
16	個人面談③	メンターとの面談を通して、後期の目標や課題について整理する。個別の状況に応じた支援を受けながら、今後の行動方針を具体化する。
17	スポーツフェスタ代替日	実際の活動を通して、協働することの意義やチームワークの重要性を体験的に理解する。活動後には振り返りを行い、成功要因や課題を整理し、今後の行動改善につなげることができるようにする。
18	個人面談④	後期の進捗状況を踏まえ、目標達成に向けた行動を振り返る。メンターとの対話を通して課題を明確にし、具体的な改善行動を設定できるようにする。
19	アカデミックライティング（実践）	文章作成課題に取り組むことで、論理的思考力および表現力の向上を図る。自己の考えを根拠に基づいて記述し、その内容を客観的に見直し改善できるようにする。
20	クラス活動⑩（自己PRの基礎）	これまでの経験を整理し、自身の強みや特徴を言語化する。具体的なエピソードを用いて自己を表現する方法を学び、他者に伝わる形で説明できるようにする。
21	クラス活動⑪（発信力の向上）	自己PRや意見発表の練習を通して、伝達力の向上を図る。相互フィードバックを行いながら、より分かりやすく説得力のある伝え方へと改善できるようにする。
22	プレゼンテーションコンテスト（クラス予選）	これまでの準備をもとにプレゼンテーションを実施し、自身の考えを他者に伝達する。発表経験を通して自己の課題を把握し、今後の改善点を具体的に示すことができるようにする。
23	アカデミックライティング（ミニレポート作成）	ミニレポートの作成を通して、情報整理力および論理的記述力の定着を図る。自身の考えを明確な構成で記述し、その妥当性を説明できるようにする。
24	クラス活動⑫（自己分析の深化）	これまでの学びや経験を振り返り、自己理解をさらに深める。強み・弱み・価値観を整理し、今後の進路選択にどのように活かすかを具体的に説明できるようにする。
25	クラス活動⑬（進路意識の形成）	将来の進路について具体的に考え、必要な能力や経験を整理する。自身の目標と現状との差を把握し、今後の行動計画を立案できるようにする。
26	ゼミ体験①	各ゼミの内容や特徴について理解を深める。説明や体験を通して、自身の関心や将来の方向性との関連を考察し、適切な選択に向けた判断材料を整理できるようにする。
27	ゼミ体験②	複数のゼミを比較し、それぞれの特徴や学びの違いを理解する。自身に適したゼミを選択するための基準を明確にし、その理由を説明できるようにする。
28	後期振り返り	1年間の学びを整理し、自己の成長と課題を体系的にまとめる。これまでの経験を振り返り、次年度に向けた課題と目標を明確にする。1年間の学びを総括し、自己の成長を言語化する。3年次に向けた目標と行動計画を具体的に立案し、キャリア形成に向けた継続的な学びの方向性を明確にする。
29		
30		

科目コード	25206				区　分	コア科目			
授業科目名	スポーツ栄養学実習［不開講］				担当者名	眞鍋　芳江			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
スポーツ栄養学の知識を基に自身の食生活を適切に管理できるようになるための実践方法を学ぶ。また、脱水状態の把握や血糖値の変化など生理学的応答と栄養補給の関係を理解するとともに食事調査の手法を理解し栄養教育・栄養指導のスキルを習得する。

＜授業の到達目標＞
本実習では、スポーツ現場において用いられる食事調査やコンディション把握に関する測定を実践し、科学的根拠に基づいた栄養サポートについて、献立の立案や栄養指導について知識・スキルを身につけることができる。実習を通して、得られたデータを論理的に考察し、レポートにまとめることができる。

＜授業の方法＞
実習として授業テーマに基づいた測定やグループワーク等を行う。また、パソコンを用いて栄養指導媒体の作成やプレゼンテーションを実施する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素　有3、4人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめ、グループごとに発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：各テーマに関して、教科書および参考となるWebサイトなどに目を通し、予備知識を得ておく。（1時間程度）復習：講義ノート・実習データを基にレポート課題や復習を行う。不明な点があれば授業時間に提示する参考図書・参考資料を用いて調べる。（2時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度・学習意欲 30%、課題提出 30%、最終レポート 40%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	スポーツ栄養サポートの概念	スポーツ栄養学の概念、スポーツ栄養マネジメントとは
2	食事調査、食事記録の方法①	食事調査の意義、方法
3	食事調査、食事記録の方法②	食事調査の分析
4	エネルギー消費量の算定①	要因加算法を用いたエネルギー消費量の算定
5	エネルギー消費量の算定②	各種エネルギー消費量の算定方法の原理、加速度計法によるエネルギー消費量の算定
6	身体組成の計測と増量・減量①	身体組成の原理、インピーダンス法による測定
7	身体組成の計測と増量・減量②	皮下脂肪厚法による測定、増量・減量の計画
8	生化学データと食事①	尿検査データの解釈、脱水状態の把握
9	生化学データと食事②	貧血に関わる指標と食事
10	生化学データと食事③	血糖値の変化と補食の関係
11	献立の立案と栄養計算①	献立の計画方法
12	献立の立案と栄養計算②	競技別の献立作成
13	献立の立案と栄養計算③	生活環境別の献立作成
14	まとめ	これまでのまとめと実施計画
15	栄養教育の方法	栄養教育と行動科学
16	栄養指導の計画①	行動計画の考え方
17	栄養指導の計画②	集団教育と個人教育
18	ジュニアアスリートへの食育①	ジュニアアスリートに対する食育の計画立案
19	ジュニアアスリートへの食育②	栄養指導媒体の作成
20	ジュニアアスリートへの食育③	ジュニアアスリートを対象とした食育の実践
21	期分けに応じた栄養指導①	期分けに応じた栄養指導の計画立案
22	期分けに応じた栄養指導②	栄養指導媒体の作成

23	期分けに応じた栄養指導③	期分けに応じた栄養指導の実践
24	目的別の栄養指導①	目的別の栄養指導の計画立案
25	目的別の栄養指導②	栄養指導媒体の作成
26	目的別の栄養指導③	目的別の栄養指導の実践
27	補食の立案	運動後に適した補食の立案
28	まとめ	本授業のまとめ
29		
30		

科目コード	32420				区　分	コア科目			
授業科目名	音楽表現指導理論・実習Ⅰ(基礎)				担当者名	中家　淳悟			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業においては音楽表現、身体表現、集団表現など複合的な芸術表現要素を併せ持つマーチングを取り扱い、子どもの豊かな表現力の助けとなる音楽表現指導理論を身につける。総合芸術と位置付けられているマーチングの理解を深め、基本技術、基本動作、マーチングの起源や歴史、理論を学び、実習で実技技能を身につけ指導理論の基礎を学ぶ。

＜授業の到達目標＞
・マーチングの基本的な知識を理解する・マーチングの基本動作を習得する・各楽器の起源や歴史を身につける・各学期の基本的な取り扱い方を習得する。

＜授業の方法＞
・実技を中心に展開する・グループワーク（効果的な練習方法の提案）・フィールドワーク（練習方法の実践）・討論（練習効果の検証）・まとめ（練習方法を生かした作品作り）・Google　Classroomをプラットフォームとして活用する

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
マーチングの基本技術を用いた発表をすることによりアクティブラーニングの要素とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：次回授業のテーマについての事前学習（毎回３０分程度）復習：課題解決への取り組み（毎回３０分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度、貢献度 30%、実技技能達成度 70%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業の心構えと評価方法履修にあたっての諸注意
2	マーチングの歴史（1）	西洋音楽史
3	マーチングの歴史（2）	マーチングの起源と歴史
4	管楽器の基礎知識（1）	管楽器の起源と歴史
5	管楽器の基礎知識（2）	管楽器の構造、取り扱い方
6	打楽器の基礎知識（1）	打楽器の起源と歴史
7	打楽器の基礎知識（2）	打楽器の構造、取り扱い方
8	カラーガードの基礎知識（1）	カラーガードの起源と歴史
9	カラーガードの基礎知識（2）	カラーガードの手具の構造、取り扱い方
10	管楽器の基本技術（1）	トランペットの基本技術について学ぶ
11	管楽器の基本技術（2）	メロフォンについて学ぶ
12	管楽器の基本技術（3）	バリトンについて学ぶ
13	管楽器の基本技術（4）	ユーフォニアムについて学ぶ
14	管楽器の基本技術（5）	テューバについて学ぶ
15	打楽器の基本技術（1）	スネアードラムについて学ぶ
16	打楽器の基本技術（2）	テナードラムについて学ぶ
17	打楽器の基本技術（3）	バスドラムについて学ぶ
18	打楽器の基本技術（4）	シンバルについて学ぶ
19	打楽器の基本技術（5）	鍵盤楽器について学ぶ
20	カラーガードの基本技術（1）	フラッグについて学ぶ
21	カラーガードの基本技術（2）	セーバーについて学ぶ
22	カラーガードの基本技術（3）	ライフルについて学ぶ
23	マーチングの基本動作（1）	立位姿勢について学ぶ
24	マーチングの基本動作（2）	楽器の構え方について学ぶ
25	マーチングの基本動作（3）	バイシクルステップ
26	マーチングの基本動作（4）	ストレートレッグ
27	マーチングの基本動作（5）	フォワードマーチ

28 29 30	総括	学主内容について総括する。学んだ内容から実技発表に取り組む。

科目コード	32421				区　分	コア科目			
授業科目名	音楽表現指導理論・実習Ⅱ(応用)				担当者名	中家　淳悟			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業においては音楽表現、身体表現、集団表現など複合的な芸術表現要素を併せ持つマーチングを取り扱い、子どもの豊かな表現力の助けとなる音楽表現指導理論を身につける。音楽表現指導理論･実習Ⅰで学んだことから応用的な技術を身につけ､理論を学び、実習で実技技能を身につけ指導理論の応用形を身につけ様々な表現方法について学ぶ。

＜授業の到達目標＞
・マーチングの応用的な知識を習得する・マーチングの応用的な動作を習得する・各楽器の応用的な技術、指導力を身につける。

＜授業の方法＞
・実技を中心に展開する・グループワーク（効果的で応用的な練習方法の提案）・フィールドワーク（応用的な練習方法の実践）・討論（効果の検証）・まとめ（応用的な練習方法を生かした作品作り）・Google　Classroomをプラットフォームとして活用する

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
・マーチングの応用的な知識や動作を理解する。各楽器の応用的な技術を用いて発表することにより、自己分析と他者評価の比較検討する。これらをアクティブラーニングの要素とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：次回授業のテーマについての事前学習（毎回３０分程度）復習：課題解決への取り組み（毎回３０分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度、貢献度 30%、実技技能達成度 70%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業の心構えと評価方法履修にあたっての諸注意
2	管楽器の技術（1）	ブレスコントロール
3	管楽器の技術（2）	ロングトーン
4	管楽器の技術（3）	リップスラー
5	管楽器の技術（4）	タンギング（1）、シングルタンギング
6	管楽器の技術（5）	タンギング（2）、ダブルタンギング
7	管楽器の技術（6）	タンギング（3）、トリプルタンギング
8	打楽器の技術（1）	シングルストローク（トラディッショナルグリップ）
9	打楽器の技術（2）	ダブルストローク（トラディッショナルグリップ）
10	打楽器の技術（3）	トリプルストローク（トラディッショナルグリップ）
11	打楽器の技術（4）	シングルストローク（マッチドッグリップ）
12	打楽器の技術（5）	ダブルストローク（マッチドッグリップ）
13	打楽器の技術（6）	トリプルストローク（マッチドッグリップ）
14	カラーガードの技術（1）	スピン（フラッグ）
15	カラーガードの技術（2）	トス（フラッグ）
16	カラーガードの技術（3）	コンビネーション（フラッグ）
17	カラーガードの技術（4）	スピン（セーバー）
18	カラーガードの技術（5）	トス（セーバー）
19	カラーガードの技術（6）	コンビネーション（セーバー）
20	カラーガードの技術（7）	スピン（ライフル）
21	カラーガードの技術（8）	トス（ライフル）
22	カラーガードの技術（9）	コンビネーション（ライフル）
23	マーチングの動作（1）	ラインでの動作
24	マーチングの動作（2）	ボックスでの動作
25	マーチングの動作（3）	フォローザリーダーでの動作
26	マーチングの動作（4）	ローテーションでの動作
27	マーチングの動作（5）	ジャズウォーク

28 29 30	総括	学習内容を総括する。学習内容を応用して実技発表を行う。

科目コード	32422				区　分	コア科目		
授業科目名	音楽表現指導理論・実習Ⅲ(発展)				担当者名	中家　淳悟		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業においては音楽表現、身体表現、集団表現など複合的な芸術表現要素を併せ持つマーチングを取り扱い、子どもの豊かな表現力の助けとなる音楽表現指導理論を身につける。音楽表現指導理論・実習Ⅱで学んだことから発展させた技術を身につけ、理論を学び、実習で実技技能を身につけ指導理論の発展形を身につけ様々な表現方法について発展的なアプローチを学ぶ。

＜授業の到達目標＞
・マーチングの応用を発展させた知識を習得する・マーチングの応用を発展させた動作を習得する・各楽器の発展的な技術、指導力を身につける

＜授業の方法＞
・実技を中心に展開する・グループワーク（応用を発展させた効果的な練習方法の提案）・フィールドワーク（発展的な練習方法の実践）・討論（効果の検証）・まとめ（発展的な練習方法を生かした作品作り）・Google　Classroomをプラットフォームとして活用する

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
マーチングの発展的な知識や動作、各楽器の発展的な技術を発表することにより、自己分析と他者評価の比較検討これらを討論することで作品作りに生かし作品制作をする。これらをアクティブラーニングの要素とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：次回授業のテーマについての事前学習（毎回３０分程度）復習：課題解決への取り組み（毎回３０分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度、貢献度 30%、実技技能達成度 70%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業の心構えと評価方法履修にあたっての諸注意
2	管楽器の演奏表現技術（１）	楽曲を用いた演奏表現技術（スローテンポ）
3	管楽器の演奏表現技術（２）	楽曲を用いた演奏表現技術（ミドルテンポ）
4	管楽器の演奏表現技術（３）	楽曲を用いた演奏表現技術（ハイテンポ）
5	管楽器の演奏表現技術（４）	楽曲を用いた演奏表現技術（4分の４拍子）
6	管楽器の演奏表現技術（５）	楽曲を用いた演奏表現技術（4分の３拍子）
7	管楽器の演奏表現技術（６）	楽曲を用いた演奏表現技術（8分の６拍子）
8	打楽器の演奏表現技術（１）	楽曲を用いた演奏表現技術（スネアードラム）
9	打楽器の演奏表現技術（２）	楽曲を用いた演奏表現技術（テナードラム）
10	打楽器の演奏表現技術（３）	楽曲を用いた演奏表現技術（バスドラム）
11	打楽器の演奏表現技術（４）	楽曲を用いた演奏表現技術（マリンバ）
12	打楽器の演奏表現技術（５）	楽曲を用いた演奏表現技術（ビブラフォン）
13	打楽器の演奏表現技術（６）	楽曲を用いた演奏表現技術（ドラムセット）
14	カラーガードの演技表現技術（１）	フラッグを使った演技表現技術（スローテンポ）
15	カラーガードの演技表現技術（２）	フラッグを使った演技表現技術（ミドルテンポ）
16	カラーガードの演技表現技術（３）	フラッグを使った演技表現技術（ハイテンポ）
17	カラーガードの演技表現技術（４）	セーバーを使った演技表現技術（スローテンポ）
18	カラーガードの演技表現技術（５）	セーバーを使った演技表現技術（ミドルテンポ）
19	カラーガードの演技表現技術（６）	セーバーを使った演技表現技術（ハイテンポ）
20	カラーガードの演技表現技術（７）	ライフルを使った演技表現技術（スローテンポ）
21	カラーガードの演技表現技術（８）	ライフルを使った演技表現技術（ミドルテンポ）
22	カラーガードの演技表現技術（９）	ライフルを使った演技表現技術（ハイテンポ）
23	マーチングの動作表現技術（１）	ドリルの中での演技表現技術（スローテンポ）
24	マーチングの動作表現技術（２）	ドリルの中での演技表現技術（ミドルテンポ）
25	マーチングの動作表現技術（３）	ドリルの中での演技表現技術（ハイテンポ）

26	マーチングの動作表現技術（４）	ドリルの中での演技表現技術（ホーンムーブ）
27	マーチングの動作表現技術（５）	ドリルの中での演技表現技術（ボディーワーク）
28	総括	学習内容を総括する。学習内容を発展させて実技発表を行う。
29		
30		

科目コード	32423				区　分	コア科目			
授業科目名	音楽表現指導理論・実習Ⅳ(実践)				担当者名	中家　淳悟			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業においては音楽表現、身体表現、集団表現など複合的な芸術表現要素を併せ持つマーチングを取り扱い、子どもの豊かな表現力の助けとなる音楽表現指導理論を身につける。音楽表現指導理論・実習Ⅰ～Ⅲで学んだことを実践し、マーチングや様々な音楽表現において指導する際に教材として使用出来る楽曲や作品を制作する能力を身につける。

＜授業の到達目標＞
音楽表現指導の際、教材として実際に使用できる楽曲や作品制作ができる知識、技術、技能を身につける。

＜授業の方法＞
・実技を中心に展開する・グループワーク（発展で学んだことを実践させ楽曲や作品制作の構想）・フィールドワーク（楽曲や作品制作の実践）・討論（効果の検証）・まとめ（楽曲や作品制作の講評）・Google　Classroomをプラットフォームとして活用する

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
マーチングの実践的な知識や動作、各楽器の実践的な技術を発表することにより、大会に出場できるレベルの実践的な作品制作をする。これらをアクティブラーニングの要素とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：次回授業のテーマについての事前学習（毎回３０分程度）復習：課題解決への取り組み（毎回３０分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度、貢献度 30、%実技技能達成度 70%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業の心構えと評価方法履修にあたっての諸注意
2	管楽器の楽曲制作（１）	記譜法について
3	管楽器の楽曲制作（２）	調号について
4	管楽器の楽曲制作（３）	コードネームについて
5	管楽器の楽曲制作（４）	コード進行について
6	管楽器の楽曲制作（５）	楽曲アレンジ（基礎）
7	管楽器の楽曲制作（６）	楽曲アレンジ（応用）
8	打楽器の楽曲制作（１）	打楽器の記譜法（基礎）
9	打楽器の楽曲制作（２）	打楽器の記譜法（応用）
10	打楽器の楽曲制作（３）	打楽器の特性の理解（音域）
11	打楽器の楽曲制作（４）	打楽器の効果（音楽効果）
12	打楽器の楽曲制作（５）	楽曲アレンジ（打楽器基礎）
13	打楽器の楽曲制作（６）	楽曲アレンジ（打楽器応用）
14	カラーガードのコレオグラフ（１）	フラッグを使った振付（スローテンポ）
15	カラーガードのコレオグラフ（２）	フラッグを使った振付（ミドルテンポ）
16	カラーガードのコレオグラフ（３）	フラッグを使った振付（ハイテンポ）
17	カラーガードのコレオグラフ（４）	セーバーを使った振付（スローテンポ）
18	カラーガードのコレオグラフ（５）	セーバーを使った振付（ミドルテンポ）
19	カラーガードのコレオグラフ（６）	セーバーを使った振付（ハイテンポ）
20	カラーガードのコレオグラフ（７）	ライフルを使った振付（スローテンポ）
21	カラーガードのコレオグラフ（８）	ライフルを使った振付（ミドルテンポ）
22	カラーガードのコレオグラフ（９）	ライフルを使った振付（ハイテンポ）
23	マーチングの作品制作（１）	ドリルデザイン（パレーディング）
24	マーチングの作品制作（２）	ドリルデザイン（ボックスを使ったデザイン）
25	マーチングの作品制作（３）	ドリルデザイン（ラインコンビネーション）
26	マーチングの作品制作（４）	ドリルデザイン（フォローザリーダーパターン）
27	マーチングの作品制作（５）	ドリルデザイン（モーフィング）

28 29 30	総括	学習内容を総括する。学習内容を実践的に生かした実技発表を行う。

科目コード	36304				区　分	コア科目		
授業科目名	体力学実習				担当者名	田中　耕作		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本実習は、各種体力・形態の測定方法を実際に体験しながら学ぶ科目である。また、測定結果を分析・評価し、分かりやすくコーチ・選手に伝える方法、測定結果をトレーニングに活かす方法を学ぶことを目的とする。

＜授業の到達目標＞
1）各種体力・形態を測定することができる2）測定結果を分析・評価し、分かりやすくコーチ・選手に伝えることができる3）測定結果をトレーニングに活かすことができる

＜授業の方法＞
実習

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素：あり自身が測定したの体力データについてグループでディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習として、オンデマンド教材（動画・資料）を視聴し、実習内容に関する手順や理論を確認するとともに、重要事項の整理を行う（60～90分程度）。事後学習として、実習で得られた結果や気づきを整理し、考察を加えたレポートを作成・提出する（60～120分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業レポート70%、総合レポート30%

＜教科書＞

＜参考書＞
西薗 秀嗣（2004年4月）　スポーツ選手と指導者のための体力・運動能力測定法　大修館書店

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	体力学とは
2	体力測定の歴史（1）ラボテスト	実験室における各種体力測定の歴史を学ぶ
3	体力測定の歴史（2）フィールドテスト	フィールドにおける各種体力測定の歴史を学ぶ
4	形態の計測法	マルチン式人体計測法、ボディラインスキャナによる計測法
5	形態の評価	計測結果の理解と効果的なフィードバックの方法
6	体脂肪率・筋厚の測定法	皮脂厚法、空気置換法、超音波法による測定
7	体脂肪率・筋厚の評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
8	最大挙上重量の測定法	1RMの測定法
9	最大挙上重量の評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
10	等速性最大筋力の測定法	股関節、膝関節および足関節の測定
11	等速性最大筋力の評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
12	ペダリングパワーの測定法	ハイパワー自転車エルゴメータによる下肢パワーの測定
13	ペダリングパワーの評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
14	各種競技動作の分析法	3次元動作解析システムを用いた各種競技動作の分析
15	各種競技動作の評価	分析結果の理解と効果的なフィードバックの方法
16	最大酸素摂取量の測定法（1）	トレッドミルを用いた最大酸素摂取量の測定
17	最大酸素摂取量の測定法（2）	自転車エルゴメータを用いた最大酸素摂取量の測定
18	最大酸素摂取量の評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
19	ランニングエコノミーの測定法	最大下強度および超最大強度のランニングエコノミーの測定
20	ランニングエコノミーの評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
21	無酸素性作業閾値の測定法	呼気ガスおよび乳酸を用いた無酸素性作業閾値の測定
22	無酸素性作業閾値の評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
23	心拍数・心拍出量の測定法	心拍数およびインピーダンス法を用いた心拍出量の測定
24	心拍数・心拍出量の評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
25	跳躍能力の測定法	マットスイッチシステムを用いた各種跳躍能力の測定
26	跳躍能力の評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法

27	疾走速度の測定法	レーザードップラー方式距離計測装置を用いた疾走速度の測定
28	疾走速度の評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
29		
30		

科目コード	36610				区　分	コア科目		
授業科目名	ハイパフォーマンススポーツ演習Ⅰ				担当者名	江波戸　智希		
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
世界で活躍し認められるアスリートになる・創るためにスポーツ科学リテラシー（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）を身に付けることを目的とする。また、各種測定と分析を行い、自身の目標達成に向けた改善プログラムを自ら作成し、自発的に行動できる力を養う。

＜授業の到達目標＞
アスリート / サイエンティストとしての成長の記録を可視化し、各種評価と分析、改善サイクルの実施ができる

＜授業の方法＞
トップガン、インスパイア、教室のそれぞれで講義と実技の両方を組み合わせた演習形式にて実施する。また、各種測定の分析、評価の際にはグループワーク・ディスカッションを行う。課題管理はグーグルクラスルームやスプレッドシートにて行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素有授業での学び活かして、課外での自身のアスリート / サイエンティストとしての活動を通して学習していく。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習　自身の専門競技における競技特性とスポーツ科学リテラシーとの関係性を調べておく。（毎回、1時間程度）復習　授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題）　60%，最終課題レポート　（最終課題，発表）40%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーションとスポーツ科学リテラシー	スポーツ科学リテラシーの意義と測定流れ、データ記入方法について
2	体力測定①	身体組成、スピード&アジリティ測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
3	体力測定②	パワー&持久力測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
4	心理測定①	心理調査と心理学講習会を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
5	栄養測定①	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテストを基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
6	筋力測定①	懸垂測定と１RM測定練習を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
7	筋力測定②	スクワット、ベンチプレス１RM測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
8	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
9	コンディショニング概論①	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法　時差対策を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
10	バイオメカニクス講習	スポーツ現場で利用できる映像分析を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
11	生理学講習	持久力トレーニングの各種方法を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
12	アナリティクス講習	映像から試合分析する方法を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
13	目標に向けた自主的なトレーニング①	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。

14	目標に向けた自主的なトレーニング②	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
15	オリエンテーションと前期振り返りと後期目標設定	前期振り返りと後期目標設定
16	コンディショニング概論②	コンディショニングついて
17	体力測定①ー２	身体組成、スピード&アジリティ測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
18	体力測定②ー２	パワー&持久力測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
19	心理測定②	心理調査と心理学講習会を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
20	栄養測定②	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテストを基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
21	筋力測定①ー２	懸垂測定と１RM測定練習を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
22	筋力測定②ー２	スクワット、ベンチプレス１RM測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
23	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
24	コンディショニング概論③	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法　時差対策を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
25	目標に向けた自主的なトレーニング④	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
26	目標に向けた自主的なトレーニング⑤	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
27	目標に向けた自主的なトレーニング⑥	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
28	まとめ	統括
29		
30		

科目コード	36611				区　分	コア科目		
授業科目名	ハイパフォーマンススポーツ演習Ⅱ				担当者名	保科　圭汰		
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
世界で活躍し認められるアスリートになる・創るためにスポーツ科学リテラシー（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）を身に付けることを目的とする。また、各種測定と分析を行い、自身の目標達成に向けた改善プログラムを自ら作成し、自発的に行動できる力を養う。

＜授業の到達目標＞
アスリート / サイエンティストとしての成長の記録を可視化し、各種評価と分析、改善サイクルの実施ができる

＜授業の方法＞
トップガン、インスパイア、教室のそれぞれで講義と実技の両方を組み合わせた演習形式にて実施する。また、各種測定の分析、評価の際にはグループワーク・ディスカッションを行う。課題管理はグーグルクラスルームやスプレッドシートにて行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素有授業での学び活かして、課外での自身のアスリート / サイエンティストとしての活動を通して学習していく。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習　自身の専門競技における競技特性とスポーツ科学リテラシーとの関係性を調べておく。（毎回、1時間程度）復習　授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題）　60%，最終課題レポート　（最終課題，発表）40%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーションとスポーツ科学リテラシー	スポーツ科学リテラシーの意義と測定流れ、データ記入方法について
2	体力測定①	身体組成、スピード&アジリティ測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
3	体力測定②	パワー&持久力測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
4	心理測定①	心理調査と心理学講習会を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
5	栄養測定①	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテストを基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
6	筋力測定①	懸垂測定と１RM測定練習を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
7	筋力測定②	スクワット、ベンチプレス１RM測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
8	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
9	コンディショニング概論①	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法　時差対策を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
10	バイオメカニクス講習	スポーツ現場で利用できる映像分析を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
11	生理学講習	持久力トレーニングの各種方法を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
12	アナリティクス講習	映像から試合分析する方法を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
13	目標に向けた自主的なトレーニング①	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。

14	目標に向けた自主的なトレーニング②	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
15	オリエンテーションと前期振り返りと後期目標設定	前期振り返りと後期目標設定
16	コンディショニング概論②	コンディショニングついて
17	体力測定①ー２	身体組成、スピード&アジリティ測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
18	体力測定②ー２	パワー&持久力測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
19	心理測定②	心理調査と心理学講習会を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
20	栄養測定②	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテストを基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
21	筋力測定①ー２	懸垂測定と１RM測定練習を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
22	筋力測定②ー２	スクワット、ベンチプレス１RM測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
23	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
24	コンディショニング概論③	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法　時差対策を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
25	目標に向けた自主的なトレーニング④	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
26	目標に向けた自主的なトレーニング⑤	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
27	目標に向けた自主的なトレーニング⑥	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
28	まとめ	統括
29		
30		

科目コード	36612				区　分	コア科目			
授業科目名	ハイパフォーマンススポーツ演習Ⅲ				担当者名	保科　圭汰			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
世界で活躍し認められるアスリートになる・創るためにスポーツ科学リテラシー（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）を身に付けることを目的とする。また、各種測定と分析を行い、自身の目標達成に向けた改善プログラムを自ら作成し、自発的に行動できる力を養う。

＜授業の到達目標＞
アスリート / サイエンティストとしての成長の記録を可視化し、各種評価と分析、改善サイクルの実施ができる

＜授業の方法＞
トップガン、インスパイア、教室のそれぞれで講義と実技の両方を組み合わせた演習形式にて実施する。また、各種測定の分析、評価の際にはグループワーク・ディスカッションを行う。課題管理はグーグルクラスルームやスプレッドシートにて行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素有授業での学び活かして、課外での自身のアスリート / サイエンティストとしての活動を通して学習していく。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習　自身の専門競技における競技特性とスポーツ科学リテラシーとの関係性を調べておく。（毎回、1時間程度）復習　授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題）　60%，最終課題レポート　（最終課題，発表）40%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーションとスポーツ科学リテラシー	スポーツ科学リテラシーの意義と測定流れ、データ記入方法について
2	体力測定①	身体組成、スピード&アジリティ測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
3	体力測定②	パワー&持久力測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
4	心理測定①	心理調査と心理学講習会を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
5	栄養測定①	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテストを基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
6	筋力測定①	懸垂測定と１RM測定練習を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
7	筋力測定②	スクワット、ベンチプレス１RM測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
8	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
9	コンディショニング概論①	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法　時差対策を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
10	バイオメカニクス講習	スポーツ現場で利用できる映像分析を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
11	生理学講習	持久力トレーニングの各種方法を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
12	アナリティクス講習	映像から試合分析する方法を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
13	目標に向けた自主的なトレーニング①	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。

14	目標に向けた自主的なトレーニング②	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
15	オリエンテーションと前期振り返りと後期目標設定	前期振り返りと後期目標設定
16	コンディショニング概論②	コンディショニングついて
17	体力測定①ー２	身体組成、スピード&アジリティ測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
18	体力測定②ー２	パワー&持久力測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
19	心理測定②	心理調査と心理学講習会を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
20	栄養測定②	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテストを基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
21	筋力測定①ー２	懸垂測定と１RM測定練習を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
22	筋力測定②ー２	スクワット、ベンチプレス１RM測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
23	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
24	コンディショニング概論③	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法　時差対策を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
25	目標に向けた自主的なトレーニング④	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
26	目標に向けた自主的なトレーニング⑤	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
27	目標に向けた自主的なトレーニング⑥	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題(体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
28	まとめ	統括
29		
30		

科目コード	36614				区　分	コア科目			
授業科目名	競技スポーツパフォーマンス実習Ⅰ				担当者名	品田　直宏			
配当年次	1年	配当学期	集中	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
競技スポーツパフォーマンス実習Ⅰでは、各々が専門とする競技の基本的な運動技能を高めるとともに、その効果的なトレーニング手段の理解と実践、指導法・研究法を学ぶことを目的とする。また、自身のトレーニングのトレーニングスケジュールや身体組成の変化を適切に管理することで、競技力向上におけるセルフマネジメントの基礎を学ぶ。

＜授業の到達目標＞
自分の能力（基礎的体力、専門的体力、専門的スキル）や体調の変化を把握し、それに応じた目標や課題を設定し、目標達成に向けた適切なセルフマネジメントができるようになること。

＜授業の方法＞
実技実習を中心に展開し、Google Classroomを用いて課題管理を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
実践的に身体を動かすことがある。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各々が専門とする競技に関して、参考書や資料などに目を通し、予備知識を得ておくと理解し易い。また、アスリートダイアリーを用いて、毎日の練習日誌および身体組成の変化を記入すること。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３(体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
アスリートダイアリーの記述内容および記述量、それに基づくプレゼンテーションにより、評価を行う。また、適時アスリートダイアリーを確認し、フィードバックを行う。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	受講ガイダンス	受講上の注意、授業の進め方、評価について
2	コントロールテスト①	基礎的体力の評価（最大筋力、瞬発力、敏捷性など）
3	コントロールテスト②	専門的体力の評価（走能力、跳能力など）
4	各競技における基礎的体力	各々が専門とする競技における基礎的体力について理解を深める
5	各競技における基礎的体力の養成①	各々が専門とする競技における基礎的体力を高めるトレーニング方法について、主に走動作に焦点をあて解説する
6	基礎的体力の養成②	各々が専門とする競技における基礎的体力を高めるトレーニング方法について、主に跳動作に焦点をあて解説する
7	基礎的体力の養成③	各々が専門とする競技における基礎的体力を高めるトレーニング方法について、主に投動作に焦点をあて解説する
8	基礎的体力の養成④	各々が専門とする競技における基礎体力を高めるためのサーキットトレーニング①の考案・実施
9	基礎的体力の養成⑤	各々が専門とする競技における基礎体力を高めるためのサーキットトレーニング②の考案・実施
10	各競技における専門的体力	各々が専門とする競技に必要とされる専門的体力について理解を深める
11	専門的体力の養成	各々が専門とする競技に必要とされる専門的体力を高めるトレーニング方法について理解を深める
12	専門的技術の養成	各々が専門とする競技に必要とされる専門的技術を高めるトレーニング方法について理解を深める
13	トレーニングメニューの立案	各々が専門とする競技におけるトレーニングメニューを立案する
14	競技会の振り返り①	各々が出場した競技会を振り返り、次戦に向けた課題を抽出する
15	専門競技の解説（発表）	各々が専門とする競技について、必要とされる基礎体力・専門的体力・技術について、またそれらを高めるためのトレーニング方法についてをまとめ解説する（発表）
16	前期の復習	前期学習内容の確認と復習
17	目標設定・トレーニング計画	各々が専門とする競技について、後期における最大目標を設定し、それに沿ったトレーニング計画を立案する

18	コントロールテスト③	基礎的体力の評価（最大筋力、瞬発力、敏捷性など）
19	コントロールテスト④	専門的体力の評価（走能力、跳能力など）
20	コントロールテストの評価	各々のコントロールテスト結果を前期測定分・後期測定分間の比較を行う
21	専門的トレーニングの実施①	コントロールテストの結果・評価を元に、トレーニングを計画し実施する
22	専門的トレーニングの実施②	コントロールテストの結果・評価を元に、トレーニングを計画し実施する
23	専門的トレーニングの実施③	コントロールテストの結果・評価を元に、トレーニングを計画し実施する
24	専門的トレーニングの実施④	コントロールテストの結果・評価を元に、トレーニングを計画し実施する
25	鍛錬期のトレーニング計画の立案	各々が専門とする競技における鍛錬期（準備期）のトレーニング計画について立案する
26	レジスタンストレーニング①	各々が専門とする競技における筋力を高めることを目的としたレジスタンストレーニングを実施する
27	レジスタンストレーニング②	各々が専門とする競技におけるパワーを高めることを目的としたレジスタンストレーニングを実施する
28	1年間の競技の振り返り（発表）	1年間の各々の基礎体力・専門的体力・技術の変化について、コントロールテスト結果や試合結果から振り返り、それらをまとめて解説する（発表）
29		
30		

科目コード	36615				区　分	コア科目			
授業科目名	競技スポーツパフォーマンス実習Ⅱ				担当者名	品田　直宏			
配当年次	2年	配当学期	集中	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
競技スポーツパフォーマンス実習Ⅱでは､各々が専門とする競技の専門的な運動技能を高めるための効果的なトレーニング手段の理解と実践、指導法・研究法を学ぶことを目的とする。また、自身のトレーニングのトレーニングスケジュールや身体組成の変化を適切に管理し、パフォーマンスを最大限に発揮するための高度なセルフマネジメント手段を学ぶ。

＜授業の到達目標＞
自分の能力（基礎的体力、専門的体力、専門的スキル）や体調の変化を把握し、競技パフォーマンスを最大限発揮するための高度なセルフマネジメントができるようになること。

＜授業の方法＞
実技実習を中心に展開し、Google Classroomを用いて課題管理を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
実践的に身体を動かすことがある。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各々が専門とする競技に関して、参考書や資料などに目を通し、予備知識を得ておくと理解し易い。また、アスリートダイアリーを用いて、毎日の練習日誌および身体組成の変化、トレーニング強度を記入する。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３(体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
アスリートダイアリーの記述内容および記述量、それに基づくプレゼンテーションにより、評価を行う。また、適時アスリートダイアリーを確認し、フィードバックを行う。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	受講ガイダンス	受講上の注意、授業の進め方、評価について
2	コントロールテスト①	基礎的体力の評価（最大筋力、瞬発力、敏捷性など）
3	コントロールテスト②	専門的体力の評価（走能力、跳能力など）
4	各競技における基礎的体力	各々が専門とする競技における基礎的体力について理解を深める
5	各競技における基礎的体力の養成①	各々が専門とする競技における基礎的体力を高めるトレーニング方法について、主に走動作に焦点をあて解説する
6	基礎的体力の養成②	各々が専門とする競技における基礎的体力を高めるトレーニング方法について、主に跳動作に焦点をあて解説する
7	基礎的体力の養成③	各々が専門とする競技における基礎的体力を高めるトレーニング方法について、主に投動作に焦点をあて解説する
8	基礎的体力の養成④	各々が専門とする競技における基礎体力を高めるためのサーキットトレーニング①の考案・実施
9	基礎的体力の養成⑤	各々が専門とする競技における基礎体力を高めるためのサーキットトレーニング②の考案・実施
10	各競技における専門的体力	各々が専門とする競技に必要とされる専門的体力について理解を深める
11	専門的体力の養成	各々が専門とする競技に必要とされる専門的体力を高めるトレーニング方法について理解を深める
12	専門的技術の養成	各々が専門とする競技に必要とされる専門的技術を高めるトレーニング方法について理解を深める
13	トレーニングメニューの立案	各々が専門とする競技におけるトレーニングメニューを立案する
14	競技会の振り返り①	各々が出場した競技会を振り返り、次戦に向けた課題を抽出する
15	専門競技の解説（発表）	各々が専門とする競技について、必要とされる基礎体力・専門的体力・技術について、またそれらを高めるためのトレーニング方法についてをまとめ解説する（発表）
16	前期の復習	前期学習内容の確認と復習
17	目標設定・トレーニング計画	各々が専門とする競技について、後期における最大目標を設定し、それに沿ったトレーニング計画を立案する

18	コントロールテスト③	基礎的体力の評価（最大筋力、瞬発力、敏捷性など）
19	コントロールテスト④	専門的体力の評価（走能力、跳能力など）
20	コントロールテストの評価	各々のコントロールテスト結果を前期測定分・後期測定分間の比較を行う
21	専門的トレーニングの実施①	コントロールテストの結果・評価を元に、トレーニングを計画し実施する
22	専門的トレーニングの実施②	コントロールテストの結果・評価を元に、トレーニングを計画し実施する
23	専門的トレーニングの実施③	コントロールテストの結果・評価を元に、トレーニングを計画し実施する
24	専門的トレーニングの実施④	コントロールテストの結果・評価を元に、トレーニングを計画し実施する
25	鍛錬期のトレーニング計画の立案	各々が専門とする競技における鍛錬期（準備期）のトレーニング計画について立案する
26	レジスタンストレーニング①	各々が専門とする競技における筋力を高めることを目的としたレジスタンストレーニングを実施する
27	レジスタンストレーニング②	各々が専門とする競技におけるパワーを高めることを目的としたレジスタンストレーニングを実施する
28	1年間の競技の振り返り（発表）	1年間の各々の基礎体力・専門的体力・技術の変化について、コントロールテスト結果や試合結果から振り返り、それらをまとめて解説する（発表）
29		
30		

科目コード	36616				区　分	コア科目			
授業科目名	競技スポーツパフォーマンス実習Ⅲ				担当者名	矢野　智彦			
配当年次	3年	配当学期	集中	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
競技スポーツパフォーマンス実習Ⅰ・Ⅱで培った専門的技能、トレーニング理論、および自己管理の基礎を基盤とし、本実習では各自の専門競技活動の現場（所属チームや個人練習、大会等）を主戦場とした完全な自律的パフォーマンス向上を展開する。学生は「自らが被験者であり、研究者である」という高い当事者意識を持ち、日々の活動量、主観的疲労度（RPE）、睡眠、栄養、心理状態などを「アスリートダイアリー」へ精緻に記録・数値化する。測定データと実際のパフォーマンスの因果関係を科学的に内省し、シーズン中の課題に対して自らトレーニング変数を修正・調整する高度な実践プロセスの遂行、およびそのレポート集約を通じて、科学的視座を持ったトップアスリート・指導者候補としての資量を証明することを本実習の全容とする。

＜授業の到達目標＞
１．データ駆動型の高度な自己調整能力の確立各種コンディション指標（客観的数値・主観的感覚）を複合的に分析し、オーバートレーニングの回避や、試合期に向けた適切なテーパリング（調整法）を自律的に実践できる。２．根拠に基づくPDCAサイクルの定着アスリートダイアリーの記録から自身のパフォーマンスを左右する阻害要因・促進要因を科学的に特定し、論理的な解決策（トレーニングメニューや生活習慣の変更）を主体的に計画・実行・評価できる。

＜授業の方法＞
実技実習を中心に展開し、Google Classroomを用いて課題管理を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
実践的に身体を動かすことがある。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各々が専門とする競技に関して、参考書や資料などに目を通し、予備知識を得ておくと理解し易い。また、アスリートダイアリーを用いて、毎日の練習日誌および身体組成の変化、トレーニング強度を記入する。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３(体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
アスリートダイアリーの記述内容および記述量、それに基づくプレゼンテーションにより、評価を行う。また、適時アスリートダイアリーを確認し、フィードバックを行う。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	受講ガイダンス	本実習の進め方、アスリートダイアリーの記録方法および評価基準についての確認。
2	コントロールテスト	各自の競技現場における基礎的体力（最大筋力、瞬発力、敏捷性など）の測定とダイアリーへの記録。
3	コントロールテスト	各自の競技現場における専門的体力（走能力、跳能力など）の測定とダイアリーへの記録。
4	各競技における基礎的体力	測定結果を基に、各々が専門とする競技で求められる基礎的体力要素について内省し、課題を抽出する。
5	各競技における基礎的体力の養成	各専門競技における「走動作」の効率性と体力向上に向けたトレーニングの実践、およびダイアリーへの記録。
6	基礎的体力の養成	各専門競技における「跳動作」の出力向上に向けたトレーニングの実践、およびダイアリーへの記録。
7	基礎的体力の養成	各専門競技における「投動作・回旋動作」の連動性向上に向けたトレーニングの実践と記録。
8	基礎的体力の養成	各自の基礎体力を総合的に高めるサーキットトレーニングプログラムの考案と現場での実施。
9	基礎的体力の養成	負荷や種目を変えたサーキットトレーニングプログラムの考案、現場での実施とダイアリーへの記述。
10	各競技における専門的体力	自身の専門競技特有のエネルギー機構や必要とされる体力（専門的体力）について理解を深め記述する。
11	専門的体力の養成	専門的体力を高めるための高強度・特異的トレーニングを現場で実践し、その負荷

		を記録する。
12	専門的技術の養成	専門的技術（スキル）を高めるためのドリルを実践し、身体感覚とパフォーマンスの変化を内省する。
13	トレーニングメニューの立案	ここまでのダイアリーデータを基に、個人の課題に直結した短期トレーニングメニューを立案する。
14	競技会の振り返り	出場した競技会（試合や記録会）の結果をダイアリー上で振り返り、次戦に向けた具体的な課題を抽出する。
15	前期の復習とコンディション確認	前期のダイアリーを見返し、体調や身体組成の変化、トレーニングエラーがなかったかを確認する。
16	後期目標設定・トレーニング計画	後期（またはシーズン後半・冬季）における最大目標を設定し、それに沿った期分け（計画）を立案する。
17	コントロールテスト	後期のベースラインとなる基礎的体力（最大筋力、瞬発力、敏捷性など）の再測定と記録。
18	コントロールテスト	後期のベースラインとなる基礎的体力（最大筋力、瞬発力、敏捷性など）の再測定と記録。
19	コントロールテスト	後期のベースラインとなる基礎的体力（最大筋力、瞬発力、敏捷性など）の再測定と記録。
20	コントロールテストの評価	前期と後期の測定結果を比較分析し、これまでの成果と新たな弱点を明確にする。
21	専門的トレーニングの実施	テスト結果の評価を元に修正した個別計画に基づき、現場での専門トレーニングを開始・記録する。
22	専門的トレーニングの実施	個別専門トレーニングの継続と、疲労度に応じた負荷のセルフコントロール。
23	専門的トレーニングの実施	実戦期（または高負荷期）における栄養摂取や睡眠時間と、パフォーマンスの相関のモニタリング。
24	専門的トレーニングの実施	トレーニングの最終段階における技術的・体力的統合の実践と、ダイアリーへの詳細な記述。
25	鍛錬期（準備期）のトレーニング計画	次のシーズン（またはオフ期）を見据えた、本格的な鍛錬期の長期トレーニング計画の立案。
26	レジスタンストレーニング	専門競技に必要な最大筋力を高めるためのレジスタンストレーニングを現場で実践・管理する。
27	レジスタンストレーニング	筋力をスピードに変換する（パワーを高める）ためのレジスタンストレーニングの実践と記録。
28	1年間の競技の振り返り	1年間の変化をコントロールテスト結果や試合結果から総括した最終成果レポートを提出（または発表）する。
29		
30		

科目コード	40115				区　分	コア科目			
授業科目名	整復学実技Ⅰ(包帯法Ⅰ)《連続》				担当者名	畑島　紀昭／福井　悠紀子			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
柔道整復師の技術として必要な包帯法の基礎を学びます。受講態度は柔道整復師としてふさわしいものを求めます。特に時間を守ることと正しい服装については学習意欲の表れとして評価します。

＜授業の到達目標＞
柔道整復師に必要な冠名包帯および各種固定材料について理解し、適切に選択・使用することができる。また、各部位に応じた包帯法および固定法を安全に実施することができる。さらに、施術時の安全管理（皮膚損傷・循環障害の予防、患者への配慮）を理解し、事故を未然に防ぐ行動ができるとともに、万が一事故が発生した場合には適切に対応することができる。

＜授業の方法＞
実技の習得には反復することが求められ、授業内では実技の練習を繰り返し実施する。また、実技の習得確認のための試験を複数回実施する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
学生間で実技を実施・体験しながら双方の良い点・改善点を伝えながら実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：教科書で次回の講義で行う範囲を確認し各自で実際に行う。（毎回、1時間程度）復習：講義で行った実技を各自で復習し実施する。（毎回、2時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は健康科学科のディプロマポリシー2（柔道整復学及び健康科学、スポーツ医科学分野に必要な専門知識と技術を理解し、日々進歩する医療分野に対応できる能力を身に付ける。）と関連付けられています。　柔道整復師としての実技基礎を学び、臨床現場で必要な技術の習得を通じて今後の学習の基礎を涵養する。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲 10%、実技試験 90%

＜教科書＞
全国柔道整復学校協会　「包帯固定学」　南江堂
全国柔道整復学校協会　「柔道整復学・実技編」　南江堂
全国柔道整復学校協会　「柔道整復学・理論編」　南江堂

＜参考書＞
全国柔道整復学校協会　柔道整復師のための救急医学

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション−授業内容の説明−	授業内容を説明する。
2	オリエンテーション−成績評価の説明−	成績評価の方法を説明する。
3	基本包帯法練習①−包帯の種類−	包帯の種類を説明する。
4	基本包帯法練習①−包帯の扱い方−	包帯の扱い方を説明する。
5	基本包帯法練習②−環行帯−	環行帯の巻き方を説明する。
6	基本包帯法練習②−折転帯−	折転帯の巻き方を説明する。
7	基本包帯法練習③−前腕部環行帯−	前腕部における環行帯の巻き方を説明する。
8	基本包帯法練習③−前腕部折転帯−	前腕部における折転帯の巻き方を説明する。
9	基本包帯法練習④−亀甲帯−	亀甲帯の巻き方を説明する。
10	基本包帯法練習④−肘関節亀甲帯−	肘関節における亀甲帯の巻き方を説明する。
11	基本包帯法練習④−麦穂帯−	麦穂帯の巻き方を説明する。
12	基本包帯法練習④−手関節麦穂帯−	手関節における麦穂帯の巻き方を説明する。
13	基本包帯法練習⑤−前腕部下行−	前腕部環行帯と手関節麦穂帯の巻き方を説明する。
14	基本包帯法練習⑤−前腕部上行−	前腕部折転帯と肘関節亀甲帯の巻き方を説明する。
15	テーピング固定法（1）	足関節のテーピングについて説明する。
16	テーピング固定法（2）	足関節のテーピング固定法の基礎を学習する。
17	テーピング固定法（3）	足関節のテーピング固定法の応用を学習する。
18	部位別包帯法練習①−肩関節理論−	肩関節外傷の理論について説明する。
19	部位別包帯法練習①−肩関節実技−	肩関節外傷の包帯法について説明する。
20	部位別包帯法練習②−肘関節理論−	肘関節外傷の理論について説明する。
21	部位別包帯法練習②−肘関節実技−	肘関節外傷の包帯法について説明する。

22	部位別包帯法練習③−股関節・大腿部理論−	股関節・大腿部外傷の理論について説明する。
23	部位別包帯法練習③−股関節・大腿部実技−	股関節・大腿部外傷の包帯法について説明する。
24	部位別包帯法練習④−下腿部・足関節理論−	下腿部・足関節外傷の理論について説明する。
25	部位別包帯法練習④−下腿部・足関節実技−	下腿部・足関節外傷の包帯法について説明する。
26	救急処置　総論	救急処置について学習する。
27	救急処置　柔道整復師ができること①	救急処置法について学習する。
28	救急処置　柔道整復師ができること②	救急処置法について学習する。
29		
30		

科目コード	40116				区　分	コア科目			
授業科目名	整復学実技Ⅱ(包帯法Ⅱ)《連続》				担当者名	畑島　紀昭／福井　悠紀子			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
柔道整復師の技術として必要な包帯法の基礎を学びます。受講態度は柔道整復師としてふさわしいものを求めます。特に時間を守ることと正しい服装については学習意欲の表れとして評価します。

＜授業の到達目標＞
柔道整復師に必要な冠名包帯および各種固定材料について理解し、適切に選択・使用することができる。また、各部位に応じた包帯法および固定法を安全に実施することができる。さらに、施術時の安全管理（皮膚損傷・循環障害の予防、患者への配慮）を理解し、事故を未然に防ぐ行動ができるとともに、万が一事故が発生した場合には適切に対応することができる。

＜授業の方法＞
実技の習得には反復することが求められ、授業内では実技の練習を繰り返し実施する。また、実技の習得確認のための試験を複数回実施する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
学生間で実技を実施・体験しながら双方の良い点・改善点を伝えながら実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：教科書で次回の講義で行う範囲を確認し各自で実際に行う。（毎回、1時間程度）復習：講義で行った実技を各自で復習し実施する。（毎回、2時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は健康科学科のディプロマポリシー2（柔道整復学及び健康科学、スポーツ医科学分野に必要な専門知識と技術を理解し、日々進歩する医療分野に対応できる能力を身に付ける。）と関連付けられています。柔道整復師としての実技基礎を学び、臨床現場で必要な技術の習得を通じて今後の学習の基礎を涵養する。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲 30%、実技試験 70%

＜教科書＞
全国柔道整復学校協会　「包帯固定学」　南江堂
全国柔道整復学校協会　「柔道整復学・実技編」　南江堂
全国柔道整復学校協会　「柔道整復学・理論編」　南江堂

＜参考書＞
全国柔道整復学校協会　「柔道整復師のための救急医学」　南江堂

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション–授業内容の説明–	授業内容を説明する。
2	オリエンテーション–成績評価の説明–	成績評価の方法を説明する。
3	部位別包帯法練習①–上肢–	上肢の包帯法について説明する。
4	部位別包帯法練習①–下肢–	下肢の包帯法について説明する。
5	部位別包帯法練習②–手部・指部理論–	手部・指部外傷の理論について説明する。
6	部位別包帯法練習②–手部・指部実技–	手部・指部外傷の包帯法について説明する。
7	部位別包帯法練習③–足部・指部理論–	足部・指部外傷の理論について説明する。
8	部位別包帯法練習③–足部・指部実技–	足部・指部外傷の包帯法について説明する。
9	冠名包帯法練習①–ヴェルポー包帯法–	ヴェルポー包帯法の巻き方を説明する。
10	冠名包帯法練習①–ジュール包帯法–	ジュール包帯法の巻き方を説明する。
11	冠名包帯法練習②–デゾー包帯法–	デゾー包帯法の巻き方を説明する。
12	冠名包帯法練習②–ヴェルポー包帯法練習–	ヴェルポー包帯法の巻き方を練習する。
13	冠名包帯法練習③–ジュール包帯法練習–	ジュール包帯法の巻き方を練習する。
14	冠名包帯法練習③–デゾー包帯法練習–	デゾー包帯法の巻き方を練習する。
15	冠名包帯法まとめ（1）–ヴェルポー包帯法・ジュール包帯法–	ヴェルポー包帯法・ジュール包帯法の実技の総合学習をおこなう。
16	冠名包帯法まとめ（2）–デゾー包帯法–	デゾー包帯法の実技の総合学習を行う。
17	硬性材料を用いた固定法①–厚紙副子作成–	厚紙副子の作り方を説明する。
18	硬性材料を用いた固定法①–厚紙副子固定	厚紙副子を用いた固定法を説明する。

	–	
19	硬性材料を用いた固定法②–すだれ副子作成–	すだれ副子の作り方を説明する。
20	硬性材料を用いた固定法②–すだれ副子固定–	すだれ副子を用いた固定法を説明する。
21	硬性材料を用いた固定法③–金属副子作成–	金属（クラーメル）副子の作り方を説明する。
22	硬性材料を用いた固定法③–金属副子固定–	金属（クラーメル）副子を用いた固定法を説明する。
23	硬性材料を用いた固定法④–アルミ副子作成–	アルミ副子（アルフェンス）の作り方を説明する。
24	硬性材料を用いた固定法④–アルミ副子固定–	アルミ副子（アルフェンス）を用いた固定法を説明する。
25	ギプスを用いた固定法①–ギプスの巻き方–	ギプスの巻き方を説明する。
26	ギプスを用いた固定法①–ギプス固定–	ギプスを用いた固定法を説明する。
27	キャストを用いた固定法①–キャストの巻き方–	キャストの巻き方を説明する。
28	キャストを用いた固定法①–キャスト固定–	キャストを用いた固定法を説明する。
29		
30		

科目コード	40212				区　分	コア科目		
授業科目名	整復学実技Ⅲ(上肢・固定法Ⅰ)《連続》				担当者名	簀戸　崇史／古山　喜一		
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	実技	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
柔道整復師の技術として必要な上肢の外傷に対する整復・固定法を学びます。1年生で学んだ総論と理論の知識を活用し、臨床で通用する実技の技術を修得してもらいます。

＜授業の到達目標＞
柔道整復師の技術として必要な上肢の外傷に関する口頭説明ができる。柔道整復師の技術として必要な上肢の外傷に関する整復・固定法をすることができる。実技室は「臨床現場」であるという自覚を持ち、身だしなみを整え、模擬患者との相互確認（声かけ等）ができ、解剖学的限界を超えた操作や、愛護的な操作を身に着けることができる。

＜授業の方法＞
柔道整復学理論で学んだ知識をもとに整復・固定法の実技を学習します。実技の修得には反復することが求められますので、授業内では実技の練習を繰り返しおこないます。また、実技の修得確認のための試験を複数回実施します。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
実技であり、双方向授業の展開である。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習として、60分以上柔道整復学理論の学習することを望みます。加えて、授業内の実技試験の対策として６０分以上の復習をしっかり行ってください。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は健康科学科のディプロマポリシー５（科学的根拠や思考を持って医療現場やスポーツ現場の諸問題に対応できる能力を身に付けている）と関連付けられています。上肢骨折に対する整復・固定の知識と技術を学ぶことで、高齢者、スポーツ現場など様々な場面における傷害発生時に医療の専門的な処置を行う実践力を修得するための科目である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲30%・試験70%但し、定期試験において60%以上の評価点を取得した者に対し前記の成績評価を行う。

＜教科書＞
全国柔道整復学校協会（2012）　「柔道整復学・実技編　改訂第2版」　南江堂
全国柔道整復学校協会（2003）　「包帯固定学」　南江堂
全国柔道整復学校協会（2022）　「柔道整復学・理論編　改訂第7版」　南江堂

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション(1)	授業内容、実施方法と成績評価の方法を説明する。
2	復習	包帯固定の復習を行う。
3	上肢骨折整復固定法（1）−鎖骨骨折理論①−	鎖骨骨折に関する解剖学、理論について理解を深め、整復方法を理解する。
4	上肢骨折整復固定法（1）−鎖骨骨折実技−	鎖骨骨折に関する解剖学、理論について理解を深め、整復方法を理解する。
5	上肢骨折整復固定法（1）−鎖骨骨折実技①−	鎖骨骨折における固定法実技を習得する。
6	上肢骨折整復固定法（1）−鎖骨骨折実技②−	鎖骨骨折における固定法実技を習得する。
7	上肢骨折整復固定法（1）−鎖骨骨折実技③−	鎖骨骨折における問診・整復・固定を実施する。
8	上肢骨折整復固定法（1）−鎖骨骨折実技④−	鎖骨骨折における問診・整復・固定を実施する。
9	上肢骨折整復固定法（2）−上腕骨外科頸骨折理論①−	上腕骨外科頸骨折の理解を深め、整復実技を習得する。
10	上肢骨折整復固定法（2）−上腕骨外科頸骨折理論②−	上腕骨外科頸骨折の理解を深め、整復実技を習得する。
11	上肢骨折整復固定法（2）−上腕骨外科頸骨折実技①−	上腕骨外科頸骨折の固定法実技を習得する。
12	上肢骨折整復固定法（2）−上腕骨外科頸骨折実技②−	上腕骨外科頸骨折の固定法実技を習得する。
13	上肢骨折整復固定法（2）−上腕骨外科頸骨	上腕骨外科頸骨折の問診・整復・固定実技を総合的に習得する。

	折実技③−	
14	上肢骨折整復固定法（2）−上腕骨外科頸骨折実技④−	上腕骨外科頸骨折の問診・整復・固定実技を総合的に習得する。
15	上肢脱臼整復固定法（3）−肩鎖関節脱臼−	肩鎖関節脱臼の理解を深め、整復操作を学ぶ。
16	上肢脱臼整復固定法（3）−肩鎖関節脱臼−	肩鎖関節脱臼の理解を深め、整復操作を学ぶ。
17	上肢脱臼整復固定法（3）−肩鎖関節脱臼−	肩鎖関節脱臼の固定法を習得する。
18	上肢脱臼整復固定法（3）−肩鎖関節脱臼−	肩鎖関節脱臼の固定法を習得する。
19	上肢脱臼整復固定法（4）−肩関節脱臼−	肩関節脱臼の理論を深め、整復法を習得する。
20	上肢脱臼整復固定法（4）−肩関節脱臼−	肩関節脱臼の理論を深め、整復法を習得する。
21	上肢脱臼整復固定法（4）−肩関節脱臼−	肩関節脱臼の整復法を習得する。
22	上肢脱臼整復固定法（4）−肩関節脱臼−	肩関節脱臼の整復法を習得する。
23	上肢脱臼整復固定法（4）−肩関節脱臼−	肩関節脱臼の固定法を習得する。
24	上肢脱臼整復固定法（4）−肩関節脱臼−	肩関節脱臼の固定法を習得する。。
25	まとめ	鎖骨骨折、上腕骨外科頸骨折、肩鎖関節脱臼、肩関節脱臼を復習する。
26	まとめ	鎖骨骨折、上腕骨外科頸骨折、肩鎖関節脱臼、肩関節脱臼を復習する。
27	実技試験	実技試験
28	実技試験	実技試験
29		
30		

科目コード	40213				区　分	コア科目		
授業科目名	整復学実技Ⅳ(上肢・固定法Ⅱ)《連続》				担当者名	簀戸　崇史／古山　喜一		
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
柔道整復師の技術として必要な上肢、肋骨の外傷に対する評価スキル・整復・固定法を学ぶ。臨床で通用する実技技術を修得を目指す。特に時間を守ることと正しい服装については学習意欲の表れとして評価する。

＜授業の到達目標＞
柔道整復師の技術として必要な上肢、肋骨の外傷に関する口頭説明ができる。柔道整復師の技術として必要な上肢、肋骨の外傷に関する整復・固定法をすることができる。実技室は「臨床現場」であるという自覚を持ち、身だしなみを整え、模擬患者との相互確認（声かけ等）ができ、解剖学的限界を超えた操作や、愛護的な操作を身に着けることができる。

＜授業の方法＞
教科書を中心に授業を進め評価スキル・整復・固定法の実技を学習する。実技の修得には反復練習が求められ、授業内では繰り返し練習を実施する。実技の修得確認のため実技試験を複数回実施する。動画や資料については必要に応じてDropboxやGoogleクラスルームにて配信する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：教科書で次回の講義で行う範囲を確認し各自で実際に行う。また必要に応じて動画や資料を配信する。（毎回、1時間程度）
復習：講義で行った実技を各自で復習し実施する。（毎回、2時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲10%・実技試験90%但し、定期試験において60%以上の評価点を取得した者に対し前記の成績評価を行う。

＜教科書＞
全国柔道整復学校協会（2022）　柔道整復学・理論編 改訂第7版　南江堂
全国柔道整復学校協会（2016）　柔道整復学・実技編 改訂第2版　南江堂
全国柔道整復学校協会（2017）　包帯固定学 改訂第2版　南江堂

＜参考書＞
目崎 登　「運動器疾患ワークブック」　医歯薬出版

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	授業概要の説明上肢整復固定　ー肘内障の診察及び整復ー	肘内障の整復方法を習得できる。
2	上肢整復固定　ー肘内障の診察及び整復ー	肘内障の整復方法を習得できる。
3	上肢整復固定　ー肘関節後方脱臼ー	肘関節後方脱臼の整復方法を習得できる。
4	上肢整復固定　ー肘関節後方脱臼ー	肘関節後方脱臼の整復方法を習得できる。
5	上肢整復固定　ー肘関節後方脱臼ー	肘関節後方脱臼の固定方法を習得できる。
6	上肢整復固定　ー肘関節後方脱臼ー	肘関節後方脱臼の固定方法を習得できる。
7	上肢整復固定　ー橈骨遠位端骨折ー	橈骨遠位端骨折の整復法を習得する。
8	上肢整復固定　ー橈骨遠位端骨折ー	橈骨遠位端骨折の整復法を習得する。
9	上肢整復固定　ー橈骨遠位端骨折ー	橈骨遠位端骨折の整復・固定法を習得する。
10	上肢整復固定　ー橈骨遠位端骨折ー	橈骨遠位端骨折の整復・固定法を習得する。
11	上肢整復固定　ー橈骨遠位端骨折ー	橈骨遠位端骨折の整復・固定法を習得する。
12	上肢整復固定　ー橈骨遠位端骨折ー	橈骨遠位端骨折の整復・固定法を習得する。
13	上肢整復固定　ー第5中手骨骨折ー	第5中手骨骨折の整復・固定法を習得する。
14	上肢整復固定　ー第5中手骨骨折ー	第5中手骨骨折の整復・固定法を習得する。
15	上肢整復固定　ーPIP関節背側脱臼ー	PIP関節背側脱臼の整復・固定法を習得する。
16	上肢整復固定　ーPIP関節背側脱臼ー	PIP関節背側脱臼の整復・固定法を習得する。
17	上肢整復固定　ー顎関節脱臼ー	顎関節脱臼の整復・固定法を習得する。
18	上肢整復固定　ー顎関節脱臼ー	顎関節脱臼の整復・固定法を習得する。

19	肋骨骨折の固定	肋骨骨折の固定を習得する。
20	上肢MMTの測定①	上肢MMTの測定
21	上肢MMTの測定②	上肢MMTの測定
22	上肢MMTの測定③	上肢MMTの測定
23	上肢ROMの測定①	上肢ROMの測定
24	上肢ROMの測定②	上肢ROMの測定
25	上肢ROMの測定③	上肢ROMの測定
26	まとめ	まとめ
27	実技試験	実技試験
28	実技試験	実技試験
29		
30		

科目コード	40301				区　分	コア科目			
授業科目名	整復学実技Ⅴ(下肢・固定法Ⅰ)《連続》				担当者名	坂本　賢広／平林　大輔			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	実技	卒業要件	柔道整復師養成施設必修科目

＜授業の概要＞
固定とは一定期間患部をある肢位に保持し、運動を制限することにより、損傷組織を良好な治癒環境に導くものである。整復学実技Ⅵでは股関節、大腿骨、膝蓋骨の外傷（骨折、脱臼、軟部組織損傷）に対する病態把握の習熟、固定法や理学検査を中心に実技実習を行ない学修する。

＜授業の到達目標＞
１．下肢に生じる外傷の病態把握の習得ができる。２．症状に対する治療法の判断、処置方法、整復方法を理解し実施できる。

＜授業の方法＞
授業方法１．グループワーク（疾患に対する治療手法（整復動作、固定動作））２．講義（教員による疾患概要、治療手法指導）３．ディスカッション（臨床実践例を通じた病態把握、治療指針の判断）受講上の注意A. 安全配慮（事前予防）【安全管理と受講のルール】服装・装備など： 大学指定の白衣および靴を必ず着用すること。露出の多い服装やサンダル履き、装飾品（ネックレス・指輪等）の着用は、巻き込み事故防止のため禁止する。また、学生間で実技を実施するため、爪を切るなど学生同士の安全配慮に努めること。体調管理： 授業当日の体調

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有り各グループで患者役、術者役、助手役、タイムキーパー、レポーター、アクティビティリーダーを決めて、ある課題に対してHOPS（問診・視診・触診・理学検査（スペシャルテスト））を中心に実技対応を行いグループ内で議論し主体的な学習と実践を行う。役割を順番に担当していただき、積極的に参加して自分の考えを言葉にして学びほぐしを行う。医療関係者になることを想定した心構えを持ちながら主体的な学習活動を展開する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：実施する講義の事前課題（実施する疾患に対する下調べ（毎回、60分程度））復習：実施した疾患や治療方法に関する確認試験（毎回、20分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３(柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
実技試験90％、学習意欲10%

＜教科書＞
全国柔道整復学校協会　柔道整復学・理論編　南江堂
全国柔道整復学校協会　柔道整復学・実技編　南江堂

＜参考書＞
全国柔道整復学校協会　柔道整復学・包帯固定学　南江堂

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	講義の内容，評価方法，受講態度について
2	固定法	固定法に対する指導管理、固定の理解と指導について
3	下肢における評価（1）	関節可動域、下肢長について
4	下肢における評価（2）	MMT、代償運動について
5	下肢における評価（3）	ケーススタディによる評価方法（代償運動と動作分析）について
6	大腿骨頚部骨折（1）	大腿骨頚部骨折における概要および整復法について
7	大腿骨頚部骨折（2）	大腿骨頚部骨折における固定法（クラーメル固定）について
8	股関節脱臼（1）	股関節脱臼における概要と整復法について
9	股関節脱臼（2）	股関節脱臼における固定法（クラーメル固定）について
10	大腿骨骨幹部骨折（1）	大腿骨骨幹部骨折における概要と整復法について
11	大腿骨骨幹部骨折（2）	大腿骨骨幹部骨折における固定法について
12	膝蓋骨骨折	膝蓋骨骨折における概要と整復法について
13	膝蓋骨脱臼	膝蓋骨脱臼における概要と整復法について
14	膝蓋骨疾患の処置	膝蓋骨骨折および膝蓋骨脱臼における固定法について
15	下腿骨骨折（1）	下腿骨骨折における概要について
16	下腿骨骨折（2）	下腿骨骨折における整復法、固定法（クラーメル固定）について

17	下腿骨骨折（３）	下腿骨骨骨折における整復法、固定法（ギプス固定）について
18	下肢外傷の応急処置（１）ケーススタディ（股関節周囲の運動器疾患①）	下肢外傷の応急処置（救急搬送固定）　シミュレーション実習①
19	下肢外傷の応急処置（２）ケーススタディ（股関節周囲の運動器疾患②）	下肢外傷の応急処置（循環、神経学的所見の確認）シミュレーション実習②
20	下肢外傷における評価（１）　ケーススタディ（膝関節周囲の運動器疾患①）	関節可動域訓練と可動域についてシミュレーション実習③
21	下肢外傷における評価（２）　ケーススタディ（下腿骨の運動器疾患①）	アライメントとマルアライメントについてシミュレーション実習④
22	下肢外傷における評価（３）ケーススタディ（総合）画像評価	下肢画像評価について下肢外傷の応急処置（整復法・固定法まとめ）シミュレーション実習⑤
23	総復習（１）	大腿骨頚部骨折、股関節脱臼、股関節周囲の評価、整復法について
24	総復習（２）	大腿骨頚部骨折、股関節脱臼、股関節周囲の固定について
25	総復習（３）	膝関節周囲の評価、整復法について
26	総復習（４）	膝関節周囲の固定について
27	総復習（５）	下腿骨骨折の評価、整復法について
28	総復習（６）	下腿骨骨折の固定について
29		
30		

科目コード	40302				区　分	コア科目			
授業科目名	整復学実技Ⅵ(下肢・固定法Ⅱ)《連続》				担当者名	坂本　賢広／平林　大輔			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	実技	卒業要件	柔道整復師養成施設必修科目

＜授業の概要＞
固定とは一定期間患部をある肢位に保持し、運動を制限することにより、損傷組織を良好な治癒環境に導くものである。整復学実技Ⅵでは大腿部、膝関節部、下腿部の外傷（軟部組織損傷）に対する病態把握の習熟、固定法や理学検査を中心に実技実習を行ない学修する。

＜授業の到達目標＞
１．下肢に生じる外傷（軟部組織損傷）の病態把握の習得ができる。２．症状に対する治療法の判断、処置方法を理解し実施できる。

＜授業の方法＞
授業方法１．グループワーク（疾患に対する治療手法（整復動作、固定動作））２．講義（教員による疾患概要、治療手法指導）３．ディスカッション（臨床実践例を通じた病態把握、治療指針の判断）受講上の注意A. 安全配慮（事前予防）【安全管理と受講のルール】服装・装備など： 大学指定の白衣および靴を必ず着用すること。露出の多い服装やサンダル履き、装飾品（ネックレス・指輪等）の着用は、巻き込み事故防止のため禁止する。また、学生間で実技を実施するため、爪を切るなど学生同士の安全配慮に努めること。体調管理： 授業当日の体調

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング要素有り各グループで患者役、術者役、助手役、タイムキーパー、レポーター、アクティビティリーダーを決めて、ある課題に対してHOPS（問診・視診・触診・理学検査（スペシャルテスト））を中心に実技対応を行いグループ内で議論し主体的な学習と実践を行う。役割を順番に担当していただき、積極的に参加して自分の考えを言葉にして学びほぐしを行う。医療関係者になることを想定した心構えを持ちながら主体的な学習活動を展開する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：実施する疾患に対する下調べ（毎回、60分程度）復習：実施した疾患や治療方法に関する確認試験（毎回、20分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３(柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
実技試験90%　学習意欲10%

＜教科書＞
全国柔道整復学校協会監修　柔道整復学・理論編　南江堂
全国柔道整復学校協会監修　柔道整復学・実技編　南江堂
全国柔道整復学校協会監修　包帯固定学　南江堂

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	下肢機能の評価	下肢関節の可動域測定法
2	下肢機能の評価	下肢機能の筋力評価（MMT）
3	大腿部の評価固定実技	大腿四頭筋肉離れの理論実技
4	大腿部の評価固定実技	大腿四頭筋肉離れの理学検査
5	大腿部の評価固定実技	大腿四頭筋肉離れの固定法
6	大腿部の評価固定実技	ハムストリングス肉離れの理論実技
7	大腿部の評価固定実技	ハムストリングス肉離れの理学検査
8	大腿部の評価固定実技	ハムストリングス肉離れの固定法
9	膝部の評価固定実技	膝関節内側側副靭帯損傷の理論実技
10	膝部の評価固定実技	膝関節内側側副靭帯損傷の理学検査
11	膝部の評価固定実技	膝関節内側側副靭帯損傷の固定法
12	膝部の評価固定実技	膝関節外側側副靭帯損傷の理論実技
13	膝部の評価固定実技	膝関節外側側副靭帯損傷の理学検査
14	膝部の評価固定実技	膝関節外側側副靭帯損傷の固定法
15	膝部の評価固定実技	膝関節前十字靭帯損傷の理論実技
16	膝部の評価固定実技	膝関節前十字靭帯損傷の理学検査①
17	膝部の評価固定実技	膝関節前十字靭帯損傷の理学検査②

18	膝部の評価固定実技	膝関節前十字靭帯損傷の固定
19	膝部の評価固定実技	膝関節後十字靭帯損傷の理論実技
20	膝部の評価固定実技	膝関節後十字靭帯損傷の理学検査
21	膝部の評価固定実技	膝関節後十字靭帯損傷の固定法
22	膝部の評価固定実技	膝関節半月板損傷の理論実技
23	膝部の評価固定実技	膝関節半月板損傷の理学検査
24	膝部の評価固定実技	膝関節半月板損傷の固定法
25	下腿部の評価固定実技	アキレス腱損傷の理論実技と理学検査と固定法
26	足関節及び足部の評価固定実技	足関節・足部の靭帯損傷の理論実技と理学検査と固定法
27	まとめ1	総復習１シミュレーション実習①
28	まとめ2	総復習2シミュレーション実習②
29		
30		

科目コード	53029				区　分	コア科目			
授業科目名	アスレティックトレーナー実習Ⅴ				担当者名	江波戸　智希／河野　儀久			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
コンディショニングプログラムと救急対応を実践する。

＜授業の到達目標＞
評価からコンディショニングと救急対応を適切に実行できるようになることを目標とする。

＜授業の方法＞
スポーツ現場、コンディショニングルーム、トレーニングセンターにて実践形式の実習を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素有実際の選手の評価を行い、コンディショニングと救急対応を行う。その後、選手の状態をグループ間で発表し、ディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
アスレティックトレーナーとして総合的な能力が求められるため、授業前に各テキストを読むなど60～90分の準備を行う。また、授業後は復習およびレポート作成について60分以上行い、レポートを提出すること。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲（授業への取り組み，毎回の復習レポート）50%、実技試験50%

＜教科書＞
公益財団法人日本スポーツ協会　2022年11月30日（第1刷）　『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト　第6巻 検査・測定と評価』　（公財）日本スポーツ協会
公益財団法人日本スポーツ協会　2022年11月30日（第1刷）　『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト　第5巻 救急対応』　（公財）日本スポーツ協会
公益財団法人日本スポーツ協会　公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト『第3巻 コンディショニング』　（公財）日本スポーツ協会

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	コンディショニング実習	コンディショニングにむけた計画
2	コンディショニング実習	パフォーマンス向上に向けた各種測定と評価
3	コンディショニング実習１	ウォーミングアップとリカバリー、各種エクササイズ１
4	コンディショニング実習２	ウォーミングアップとリカバリー、各種エクササイズ２
5	コンディショニング実習３	ウォーミングアップとリカバリー、各種エクササイズ３
6	コンディショニング実習４	ウォーミングアップとリカバリー、各種エクササイズ４
7	コンディショニング実習５	ウォーミングアップとリカバリー、各種エクササイズ５
8	コンディショニング実習６	ウォーミングアップとリカバリー、各種エクササイズ６
9	コンディショニング実習７	ウォーミングアップとリカバリー、各種エクササイズ７
10	コンディショニング実習８	ウォーミングアップとリカバリー、各種エクササイズ８
11	コンディショニング実習９	ウォーミングアップとリカバリー、各種エクササイズ９
12	コンディショニング実習１０	ウォーミングアップとリカバリー、各種エクササイズ１１
13	コンディショニング実習１２	ウォーミングアップとリカバリー、各種エクササイズ１２
14	コンディショニング実習１３	ウォーミングアップとリカバリー、各種エクササイズ１３
15	救急対応実習について	救急対応実習　総論
16	救急対応実習１	EPA作り
17	救急対応実習２	救急対応評価
18	救急対応実習３	救急対応と運搬
19	救急対応実習４	BLS

20	救急対応実習５	シミュレーション
21	救急対応実習６	シミュレーション２
22	救急対応実習７	スポーツ現場での救急対応
23	救急対応実習８	スポーツ現場での救急対応２
24	救急対応実習９	スポーツ現場での救急対応３
25	救急対応実習１０	スポーツ現場での救急対応４
26	救急対応実習１１	トレーニング場やトレーナールームでの救急対応
27	救急対応実習１２	トレーニング場やトレーナールームでの救急対応２
28	救急対応実習１３	トレーニング場やトレーナールームでの救急対応３
29		
30		

科目コード	53030				区　分	コア科目			
授業科目名	整復臨床実習Ⅰ　《通年》				担当者名	簀戸　崇史			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
附属臨床実習施設および臨地実習施設において患者施術の補助をする。また、掃除、洗濯、湿布作りなどの業務に付帯する各種業務も行う。柔道整復師に必要な教養や判断力、技術などの修得を目標とし総合的な臨床能力を養う。必要に応じて、ケーススタディー実習・附属臨床実習施設の患者情報を元に傷病は何であるか、さらに今後の施術方針などを検討する。ロールプレー実習・附属臨床実習施設の患者情報を元に、患者様入室から施術開始までの流れを　柔道整復師役、患者役に分けてそれぞれ実施することも行う。

＜授業の到達目標＞
柔道整復師として必要条件となる接骨院での評価、評価に基づく患者様への説明、施術の組み立てが出来る。整復・固定・施療とともに後療法をプログラミングし、リスクマネージメントが実行できる。

＜授業の方法＞
基本的に接骨院でのフィールドワークとするが、導入講義等は講義室・実技室を使用する。・白衣の乱れ、服装、頭髪、装飾品など患者様から見て不適切な印象を与えると思われる場合には実習の参加を認めないことがある。・また、実習中の態度が悪く患者様に迷惑をかける恐れがある場合は実習を中止することがある。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
各施設で外部実習の取り組みとなる為、積極性、主体性が主になる科目である。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
症例（担当患者）・実習内容（実技・講義・討論）をふりかえり、「評価・後療法プログラム・ゴール設定。管理など」また、「何を学んだか、何を学べなかったのか」についてレポートOne Day Reprt、Weekly Report（A4-1枚程度）を作成し、期日までに実習レポートの提出を担当教員に提出する。（実施日×1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
実習レポート70%および実習現場での受講態度・学習意欲30%で評価する。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	臨床実習のガイダンス
2	接骨院実習・柔道整復師の施術	業務範囲について
3	接骨院実習・施術所について	関係法規に記載されている施術所を理解
4	接骨院実習	臨床実習施設で実施
5	接骨院実習	臨床実習施設で実施
6	接骨院実習	臨床実習施設で実施
7	接骨院実習	臨床実習施設で実施
8	接骨院実習	臨床実習施設で実施
9	接骨院実習	臨床実習施設で実施
10	接骨院実習	臨床実習施設で実施
11	接骨院実習	臨床実習施設で実施
12	接骨院実習	臨床実習施設で実施
13	接骨院実習	臨床実習施設で実施
14	接骨院実習	臨床実習施設で実施
15	接骨院実習	臨床実習施設で実施
16	接骨院実習	臨床実習施設で実施
17	接骨院実習	臨床実習施設で実施
18	接骨院実習	臨床実習施設で実施
19	接骨院実習	臨床実習施設で実施
20	接骨院実習	臨床実習施設で実施

21	接骨院実習	臨床実習施設で実施
22	接骨院実習	臨床実習施設で実施
23	接骨院実習	臨床実習施設で実施
24	接骨院実習	臨床実習施設で実施
25	接骨院実習	臨床実習施設で実施
26	接骨院実習	臨床実習施設で実施
27	接骨院実習	臨床実習施設で実施
28	接骨院実習	臨床実習施設で実施
29	接骨院実習	臨床実習施設で実施
30	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施・振り返り

科目コード	53031				区　分	コア科目			
授業科目名	整復臨床実習Ⅱ　《通年》				担当者名	福井　悠紀子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
附属臨床実習施設および臨地実習施設において患者施術の補助をする。また、掃除、洗濯、湿布作りなどの業務に付帯する各種業務も行う。柔道整復師に必要な教養や判断力、技術などの修得を目標とし総合的な臨床能力を養う。必要に応じて、ケーススタディー実習・附属臨床実習施設の患者情報を元に傷病は何であるか、さらに今後の施術方針などをアクティブラーニング形式で検討する。ロールプレー実習・附属臨床実習施設の患者情報を元に、患者様入室から施術開始までの流れを　柔道整復師役、患者役に分けてそれぞれ実施することも行う。

＜授業の到達目標＞
柔道整復師として必要条件となる接骨院での評価、評価に基づく患者様への説明、施術の組み立てが出来る。整復・固定・施療とともに後療法をプログラミングし、リスクマネージメントが実行できる。

＜授業の方法＞
基本的に接骨院でのフィールドワークとするが、導入講義等は講義室・実技室を使用する。・白衣の乱れ、服装、頭髪、装飾品など患者様から見て不適切な印象を与えると思われる場合には実習の参加を認めないことがある。・また、実習中の態度が悪く患者様に迷惑をかける恐れがある場合は実習を中止することがある。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング形式で実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習（予習）：担当患者の疾患や外傷に関する基礎知識（評価方法、後療法プログラム、ゴール設定、管理など）を教科書や資料で確認し、実習に必要な知識を整理する。また、実習内容（実技・講義・討論）に関連する事項について、着眼点や疑問点を準備する。（目安時間：約30分）事後学習（復習）：症例（担当患者）および実習内容（実技・講義・討論）をふりかえり、「評価・後療法プログラム・ゴール設定・管理」について整理する。さらに、「何を学んだか」「何を学べなかったのか」を明確にし、A4用紙1枚程度のレポートにまとめ、期日までに提出する。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
実習レポート70%および実習現場での受講態度・学習意欲30%で評価する。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	臨床実習のガイダンス
2	接骨院実習・柔道整復師の施術	業務範囲について
3	接骨院実習・施術所について	関係法規に記載されている施術所を理解
4	接骨院実習	臨床実習施設で実施
5	接骨院実習	臨床実習施設で実施
6	接骨院実習	臨床実習施設で実施
7	接骨院実習	臨床実習施設で実施
8	接骨院実習	臨床実習施設で実施
9	接骨院実習	臨床実習施設で実施
10	接骨院実習	臨床実習施設で実施
11	接骨院実習	臨床実習施設で実施
12	接骨院実習	臨床実習施設で実施
13	接骨院実習	臨床実習施設で実施
14	接骨院実習	臨床実習施設で実施
15	接骨院実習	臨床実習施設で実施
16	接骨院実習	臨床実習施設で実施
17	接骨院実習	臨床実習施設で実施

18	接骨院実習	臨床実習施設で実施
19	接骨院実習	臨床実習施設で実施
20	接骨院実習	臨床実習施設で実施
21	接骨院実習	臨床実習施設で実施
22	接骨院実習	臨床実習施設で実施
23	接骨院実習	臨床実習施設で実施
24	接骨院実習	臨床実習施設で実施
25	接骨院実習	臨床実習施設で実施
26	接骨院実習	臨床実習施設で実施
27	接骨院実習	臨床実習施設で実施
28	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施・振り返り
29		
30		

科目コード	53042				区　分	コア科目		
授業科目名	特別講義Ⅰ［留学生大学院向け］				担当者名	江口　尚文		
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

大学院受験を目指す留学生が対象である。日本に所在する大学の大学院を受験することを前提として授業を進める。 大学院の入試に合格するには、大きく分けると「筆記試験」と「面接試験」の双方に対応しなければならない。「研究計画書」の提出を求められる場合も多い。当授業では、日本語の文献（主に社会、経済、企業経営に関わる経済雑誌の記事）を用いて、「日本語を読む」「日本語で書く」「日本語で発表する」という３つの訓練を行う。その過程で専門的な知識と理論の習得を目指していく。

＜授業の到達目標＞

①学術的な日本語の資料を読んで理解できる力を身につける。②日本語で学術的な文章を書くことができる力を身につける。③自分の考えを学術的な日本語で発表できる力を身につける。

＜授業の方法＞

演習形式となる。経済経営に関連した資料を読み込み、それを手書きで整理してまとめる。その結果を日本語で発表する。資料の解説は随時行うが、基本は受講者の自己学習となる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

必要に応じてグループディスカッションを行う。プレゼンテーションは随時行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に提示した資料を読み込んでおく。授業での解説で理解を深めた後、手書きの日本語で資料の内容を縮約する。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

①課題に対するレポートの提出（25%）②提出したレポートの完成度（25%）③プレゼンテーションの出来映え（25%）④授業への貢献度（25%）

＜教科書＞

随時、資料を配布する。

＜参考書＞

随時、資料を配布する。

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業方法と評価方法の説明。
2	①学術的知識の習得	文献を読み、解説を受ける。
3	②論理的能力の構築	上記文献を日本語で縮約する作業を行う。
4	③発信力の修得	上記の縮約した内容を口頭で報告する。
5	①学術的知識の習得	文献を読み、解説を受ける。
6	②論理的能力の構築	上記文献を日本語で縮約する作業を行う。
7	③発信力の修得	上記の縮約した内容を口頭で報告する。
8	①学術的知識の習得	文献を読み、解説を受ける。
9	②論理的能力の構築	上記文献を日本語で縮約する作業を行う。
10	③発信力の修得	上記の縮約した内容を口頭で報告する。
11	①学術的知識の習得	文献を読み、解説を受ける。
12	②論理的能力の構築	上記文献を日本語で縮約する作業を行う。
13	③発信力の修得	上記の縮約した内容を口頭で報告する。
14	①学術的知識の習得	文献を読み、解説を受ける。
15	②論理的能力の構築	上記文献を日本語で縮約する作業を行う。
16	③発信力の修得	上記の縮約した内容を口頭で報告する。
17	①学術的知識の習得	文献を読み、解説を受ける。
18	②論理的能力の構築	上記文献を日本語で縮約する作業を行う。
19	③発信力の修得	上記の縮約した内容を口頭で報告する。
20	①学術的知識の習得	文献を読み、解説を受ける。
21	②論理的能力の構築	上記文献を日本語で縮約する作業を行う。
22	③発信力の修得	上記の縮約した内容を口頭で報告する。
23	①学術的知識の習得	文献を読み、解説を受ける。

24	②論理的能力の構築	上記文献を日本語で縮約する作業を行う。
25	③発信力の修得	上記の縮約した内容を口頭で報告する。
26	①学術的知識の習得	文献を読み、解説を受ける。
27	②論理的能力の構築	上記文献を日本語で縮約する作業を行う。
28	まとめ	授業で修得した内容についてディスカッションする。
29		
30		

科目コード	53045				区　分	コア科目			
授業科目名	特別演習Ⅱ　《通年》[インターンシップ事前事後]				担当者名	赤木　邦江／岡田　健志／溝越　隆興			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習（ロールプレイング等）	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本科目は、インターンシップ（就業体験）に臨む学生のための履修必須の事前･事後指導科目である。組織（企業、団体、官公庁等の行政職等）で働くうえで、獲得すべき職場文化や業務に求められる知識について理解するための企業研究や業界研究の仕方、エントリーシートの書き方、面談・面接の練習等、インターンシップ就業先の決定までの基本的な学習から始める。就業終了後には、振り返りや書類作成、成果報告の資料、プレゼン作成等の仕上げをすることを目的とする。併せて、事前･事後共に演習（ロールプレイング）を通じ、社会人に求められるビジネスマナー・ビジネスコミュニケーション（具体的には挨拶、電話対応、報告・連絡・相談、コンプライアンス：法令遵守等）を学ぶ。

＜授業の到達目標＞
「実際の職場や組織で働く」ために必要とされる知識と実践のための言動を身につける。「働く」こと、「仕事をする」こと、さらには大学を卒業して「社会人」に移行することの動機付け、意識付け、さらには希望する職業に従事するために、自身にとって求められるスキル･マナーなどを明確に認識できるようになる。

＜授業の方法＞
インターンシップ実習備え、事前・事後の学内講義(座学および演習：ロールプレイング)を行う。事前では、ビジネスマナー(挨拶、言葉遣い、電話応対、メールマナー等）、エントリーシートの書き方、面談･面接のロールプレイングなどを実施する。就業先決定後には、誓約書、覚書、体験日報、実施報告書などの書き方を学び、提出に備える。実習終了後には、成果報告レポート等の提出、成果報告会でのプレゼンテーションに向けて、資料、プレゼンスライドの作成等を実施する。個別での進行具合が異なり、実施内容も異なるため、随時、課題・出席・提出を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有り：演習（ロールプレイング、グループワーク）、プレゼンテーションなど

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
インターンシップの履修希望者は、本科目の履修は必須であるため、履修許可に際しては、インターンシップ同様に、前年度出席率８0%以上、GPA２．０以上を基本条件とする。また、グローバル（留学）生の場合は原則として、上記2点に加えて、日本語能力検定試験Ｎ2相当が望ましい。予習：実習先の企業等について包括的に調べ、理解を深めておく（１時間程度）。復習：実習での経験や成果を振り返り、今後の学生生活にどのように役立てるのかを考える（１時間提度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３(経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
「期限までの提出物･内容評価 30%」「授業への取り組み･態度 30%」「レポート課題･報告書及び報告（プレゼンテーション） 40%」

＜教科書＞
松高　政　インターンシップの教科書　ナカニシヤ出版

＜参考書＞
指定しない。授業で使用する資料等は必要に応じて配布、または紹介する。

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス「インターンシップ」とは	授業・実施の進め方、諸注意、各種手続き、履修条件について
2	インターンシップ事前準備①　参加申込書（エントリーシート）、誓約書、肖像権使用許諾書等必要書類組織(企業、団体、官公庁等の行政職等）の研究・検討	インターンシップの存在理由と意義
3	インターンシップ事前準備②	学生と社会人の違い、「働く」とはどういうことか？　組織（企業、団体、官公庁等の行政職等）の研究・検討
4	インターンシップ事前準備③	就職活動とインターンシップの関係
5	インターンシップに必要なマナー①	ビジネスマナーの理解と実践　面談・面接のマナー、ビジネスマナー(ロールプレイング)

6	インターンシップに必要なマナー②	エントリーシート、履歴書などの書類の書き方、機密保持について
7	決定就業体験先の組織（企業、団体、官公庁等の行政職等）研究	組織研究の基本的な考え方、就業体験先についての調査・分析
8	インターンシップ実習前準備①	個別面談、インターンシップ先面談、プログラム設計（内容・目標・課題等）
9	インターンシップ実習前準備②	個別面談、インターンシップ先面談、プログラム設計（内容・目標・課題等）
10	インターンシップ実習前準備③	個別面談、インターンシップ先面談、プログラム設計（内容・目標・課題等）
11	インターンシップ実習前準備④	個別面談、インターンシップ先面談、プログラム設計（内容・目標・課題等）
12	インターンシップ実習前準備⑤	個別面談、インターンシップ先面談、プログラム設計（内容・目標・課題等）
13	インターンシップ実習前準備⑥	個別面談、インターンシップ先面談、プログラム設計（内容・目標・課題等）
14	特別演習Ⅱ前半まとめインターンシップ直前注意	実習にあたっての準備物連絡先確認、交通確認事前就業連絡、就業初日挨拶等ビジネスマナーの再確認
15	インターンシップ実習体験の振り返り（プログラムの達成確認）①	プログラムの達成確認提出書類の作成
16	インターンシップ実習体験の振り返り（プログラムの達成確認）②	プログラムの達成確認提出書類の作成
17	インターンシップ実習体験の振り返り（プログラムの達成確認）③	プログラムの達成確認提出書類の作成
18	インターンシップ実習体験・情報共有①	履修クラス内報告
19	インターンシップ実習体験・情報共有②	履修クラス内報告
20	インターンシップ実習体験・情報共有③	履修クラス内報告
21	インターンシップ実習体験・情報共有④	履修クラス内報告
22	成果報告会準備①	レポート・プレゼン資料の作成
23	成果報告会準備②	レポート・プレゼン資料の作成
24	成果報告会準備③	レポート・プレゼン資料の作成
25	インターンシップ体験・成果報告①	就業体験・成果報告とフィードバック
26	インターンシップ体験・成果報告②	就業体験・成果報告とフィードバック
27	インターンシップ体験・成果報告③	就業体験・成果報告とフィードバック
28	インターンシップ体験・成果報告④	就業体験・成果報告とフィードバック
29		
30		

科目コード	53062				区　分	コア科目キャリア形成			
授業科目名	特別演習Ⅲ　《通年》[社会調査士系]				担当者名	古松　丈周			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
「経営・マネジメント」「商学・マーケティング」「会社に関する法的問題」「現代経済」等の各領域について，担当教員の専門領域や学生が関心のある現代社会のトピックについて取り扱う。調査の企画から報告書の作成まで、社会調査の全過程をひととおり実習を通じて体験的に学習することを目的とする。調査実施のすべての段階を経験し、社会調査を実践の場で実施できる人材を育成することを目標とする。現状の意識と行動と事実との関係性を調査ベースに追求していく。先行研究調査、文献調査を踏まえRQと仮説を明確にし、質問紙とインタビュー調査の併用による意識調査、実態調査の分析を行っていく。

＜授業の到達目標＞
「社会調査士」の資格を取得するための必須科目（G科目）である。「社会調査法」「プロジェクト研究（社会調査系）」「マーケティングリサーチ」の科目を単位取得済み、あるいは履修中であること。「情報分析論」「統計学」を履修すること。調査の企画から報告書の作成までにまたがる社会調査の全過程をひととおり実習を通じて体験的に学習する授業である。調査の企画、仮説構成、調査項目の設定、質問文・調査票の作成、対象者・地域の選定、サンプリング、調査の実施（調査票の配布・回収、面接）、インタビューなどのフィールドワーク、フィール

＜授業の方法＞
授業内の演習でMicrosoft Excelを適宜利用するため、パソコンを毎回持参すること。講義では講義の記録や自らが理解したことをメモする以外にも、クラス内での議論やインタビューメモのため必ず筆記用具を持参すること。授業ではペアワーク・ディスカッション・相互インタビュー・プレゼンテーションを重視する。特に発言・対話・議論に積極的に参加することが期待される。フィールドワーク実践として、学内外でインタビュー調査も実施する。これによって、調査企画・個?情報の管理・調査倫理・調査票の作成・集計・コーディング・エ

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングはほぼ毎回の授業で行う。具体的には、ペアワーク・ディスカッション・企画立案実践・プレゼンテーション・相互レビューである。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業内のディスカッションやグループワークなどで気づいたこと・学んだことを毎回レポートで提出する（想定学習時間:約60分）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度（発言・議論への積極的参加）40%、毎回の課題提出40%、最終課題20%を目安に評価する。各回の課題に対して担当者からフィードバックを行う。

＜教科書＞

＜参考書＞
金井雅之・渡邉大輔・小林盾(2012)　『社会調査の応用―量的調査編:社会調査士E・G科目対応』　弘文堂
大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋 編著(2023)　『最新・社会調査へのアプローチ----論理と方法----』　ミネルヴァ書房

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績基準、諸注意
2	社会調査とは	調査の倫理、種類、調査事例、質的調査とは何かを理解する。
3	調査事例、質的調査の紹介	フィールドノート、参与観察、インタビュー
4	方法論のエッセンス(フィールドワークについて)	現象学的観察、観察から概念化、理論・推論のパターン、論理的に考える方法論、仮説創造、アブダクションについて
5	〔グループ作業〕グループ討議およびテーマ設定	フィールドワークの各段階説明（初期・中期・後期）データ収集におけるフィールドノーツの書き方
6	〔グループ作業〕フィールドワーク演習	グループ作業を行う。町に出て、駅近辺あるいはショッピングモールで観察。
7	〔グループ作業〕フィールドワーク演習	フィールドノーツを作成（データ収集）、出来事が起こっている最中のメモを取る
8	〔グループ作業〕フィールドワーク	暗黙知獲得の方法論、創造のプロセス　第２ステップ（仮説の一般化）、コーディング作業
9	〔グループ作業〕フィールドワーク	コーディング作業、カテゴリー化、GTAの演習
10	〔グループ作業〕フィールドワークについて（1）	都市型創造クラスター研究
11	〔グループ作業〕フィールドワークについ	都市型創造クラスター研究、ディスカッション

	て（2）	
12	〔グループ作業〕シナリオシンキングについて（1）	グランデッド・セオリー・アプローチ方法論の演習を実施
13	〔グループ作業〕シナリオシンキングについて（2）	シナリオロジックの明示、メタファ、シナリオ作り（4つの世界の想定）
14	前期のまとめ	発表会
15	観察企業[組織]参加挨拶（目的理解期間）	会社［組織］紹介
16	ワークショップ（1）（目的理解期間）	イノベーションを起こそう！
17	テーマ紹介、調査テーマの決定、スケジュールの組み方	仮説構成について、量的調査の方法、理論仮説（概念化）と作業仮説
18	情報収集（グループワーク）	グループで調査テーマを決める、問題（群）を決める、テーマに沿って必要な情報収集
19	調査企画書の作成（1）（グループワーク）	調査テーマ・仮説構成について、量的調査の方法、理論仮説（概念化）と作業仮説
20	調査企画書の作成（2）（グループワーク）	情報収集結果に基づきワーディング、選択肢作成、ヒアリング項目の洗い出し
21	調査の実施（1）（グループワーク）	質問紙調査、ヒアリング調査、観察調査
22	調査の実施（2）（グループワーク）	質問紙調査、ヒアリング調査、観察調査
23	調査データの整理（グループワーク）	単純集計表・クロス集計確認、平均、分散、分位数、標準偏差、調査結果の大まかな傾向の把握
24	調査全体の分析（1）（グループワーク）	発表の方向性確認、不足情報の収集
25	調査全体の分析（2）（グループワーク）	中間発表資料の作成
26	中間発表（最終プレゼン準備）	全体討議、意見交換、不足情報の確認
27	最終資料完成作業（最終プレゼン準備）	プレゼン準備、リハ
28	最終発表会	グループ単位で発表・討議する。
29		
30		

科目コード	53063				区　分	コア科目			
授業科目名	整復臨床実習Ⅲ　《通年》				担当者名	簀戸　崇史			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
附属臨床実習施設および臨地実習施設において患者施術の補助をする。また、掃除、洗濯、湿布作りなどの業務に付帯する各種業務も行う。柔道整復師に必要な教養や判断力、技術などの修得を目標とし総合的な臨床能力を養う。必要に応じて、ケーススタディー実習・附属臨床実習施設の患者情報を元に傷病は何であるか、さらに今後の施術方針などを検討する。ロールプレー実習・附属臨床実習施設の患者情報を元に、患者様入室から施術開始までの流れを　柔道整復師役、患者役に分けてそれぞれ実施することも行う。

＜授業の到達目標＞
柔道整復師として必要条件となる接骨院での評価、評価に基づく患者様への説明、施術の組み立てが出来る。整復・固定・施療とともに後療法をプログラミングし、リスクマネージメントが実行できる。

＜授業の方法＞
基本的に接骨院でのフィールドワークとするが、導入講義等は講義室・実技室を使用する。・白衣の乱れ、服装、頭髪、装飾品など患者様から見て不適切な印象を与えると思われる場合には実習の参加を認めないことがある。・また、実習中の態度が悪く患者様に迷惑をかける恐れがある場合は実習を中止することがある。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
本科目は、積極性、主体性を持った学びが主になる科目である。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
症例（担当患者）・実習内容（実技・講義・討論）をふりかえり、「評価・後療法プログラム・ゴール設定。管理など」また、「何を学んだか、何を学べなかったのか」についてレポートOne Day Reprt、Weekly Report（A4-1枚程度）を作成し、期日までに実習レポートの提出を担当教員に提出する。（実施日×1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
実習レポート70%および実習現場での受講態度・学習意欲30%で評価する。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	臨床実習のガイダンス
2	接骨院実習・柔道整復師の施術	業務範囲について
3	接骨院実習・施術所について	関係法規に記載されている施術所を理解
4	接骨院実習	臨床実習施設で実施
5	接骨院実習	臨床実習施設で実施
6	接骨院実習	臨床実習施設で実施
7	接骨院実習	臨床実習施設で実施
8	接骨院実習	臨床実習施設で実施
9	接骨院実習	臨床実習施設で実施
10	接骨院実習	臨床実習施設で実施
11	接骨院実習	臨床実習施設で実施
12	接骨院実習	臨床実習施設で実施
13	接骨院実習	臨床実習施設で実施
14	接骨院実習	臨床実習施設で実施
15	接骨院実習	臨床実習施設で実施
16	接骨院実習	臨床実習施設で実施
17	接骨院実習	臨床実習施設で実施
18	接骨院実習	臨床実習施設で実施
19	接骨院実習	臨床実習施設で実施
20	接骨院実習	臨床実習施設で実施

21	接骨院実習	臨床実習施設で実施
22	接骨院実習	臨床実習施設で実施
23	接骨院実習	臨床実習施設で実施
24	接骨院実習	臨床実習施設で実施
25	接骨院実習	臨床実習施設で実施
26	接骨院実習	臨床実習施設で実施
27	接骨院実習	臨床実習施設で実施
28	接骨院実習	臨床実習施設で実施
29	接骨院実習	臨床実習施設で実施
30	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施・振り返り

科目コード	53064				区　分	コア科目			
授業科目名	整復臨床実習Ⅳ 《通年》				担当者名	福井　悠紀子			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
整復臨床実習Ⅲで得た実習経験をもとに、更なる柔道整復業務の研鑽に務める。臨床実習施設および臨地実習施設において患者施術の補助をする。実習指導者のもとで、将来柔道整復師を目指す学生として対象者の検査・測定評価を実施し、それにより障害構造の理解を深め、問題点の把握、目標の設定、治療計画の立案・実施、再評価ができるようにする。

＜授業の到達目標＞
整復臨床実習Ⅲで得られた到達目標を理解し、以下8つの到達目標の更なる研鑽に努める。①専門職としての適性を培いふさわしい態度をとることができる。②対象者のリスク管理に配慮できる。③柔道整復の施術を施行するための情報収集・検査測定ができる。④得られた情報を整理し、疾患と障害の構造を把握することができる。⑤目標を設定し、治療・援助計画を立案することができる。⑥対象者の再評価、治療計画の変更ができる。⑦患者との良好なコミュニケーションが取れる。⑧他の職種間との良好な連携が取れる。

＜授業の方法＞
整復臨床実習Ⅲを了した者が本実習を受講することが出来る。臨床実習施設において4月～9月の期間中に１週間の現場実習を行う。実習指導者に従い、初診患者に対する医療面接および検査・測定の一部を実施する。後療法においては、実習指導者に従い、手技療法、物理療法、運動療法の一部を実施する。担当患者について実習指導者とともに対応し、その疾患についてレポート作成およびプレゼンテーションを実施する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
本科目は、積極性、主体性が主となる科目である。(アクティブラーニング形式で実施する。)

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習（予習）：担当患者の疾患や外傷に関する基礎知識（評価方法、後療法、ゴール設定など）を教科書や資料で確認し、実習に必要な知識を整理しておく。あわせて、実習内容（実技・講義・討論）に関連する事項について疑問点や着眼点を準備する。（目安時間：約30分）事後学習（復習）：実習で経験した担当患者や実習内容（実技・講義・討論）をふりかえり、「評価・後療法プログラム・ゴール設定・管理」について整理する。また、「何を学んだか」「何を学べなかったか」を明確にし、A4用紙1枚程度のレポートにまとめ、期日までにデータで

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
実習レポート80%および実習現場での受講態度・学習意欲20%で評価する。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	臨床実習のガイダンス
2	接骨院実習・柔道整復師の施術	業務範囲について
3	接骨院実習・施術所について	関係法規に記載されている施術所を理解
4	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
5	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
6	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
7	接骨院実習・後療法について	本学臨床実習施設内で実施施術から課題抽出
8	接骨院実習・研究課題についてのロールプレー	施術者としてチェックポイントをクリアしているか
9	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
10	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
11	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
12	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
13	到達目標の確認	到達目標の確認を実施する。
14	接骨院実習・研究課題によるケーススタディー	本学臨床実習施設内で実施施術から課題抽出
15	接骨院実習	グループで研究課題を決めロールプレーを行う
16	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施

17	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
18	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
19	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
20	接骨院実習	到達目標の確認
21	接骨院実習・研究課題についてのロールプレー	グループで研究課題を決めロールプレーを行う
22	接骨院実習・研究課題についてのロールプレー	グループで研究課題を決めロールプレーを行う
23	接骨院実習	施術者としてチェックポイントをクリアしているか2
24	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
25	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
26	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
27	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
28	接骨院実習/総括	本学臨床実習施設内で実施・振り返り
29		
30		

科目コード	53097				区　分	コア科目			
授業科目名	歌唱・ダンス基礎				担当者名	小澤　尚子／四宮　貴久／渡邊　亮			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業では、「声と身体の表現力」の基礎技術を習得することを目的とし、歌唱（発声・歌唱表現・音感）とダンス（リズム・動作・空間把握）のトレーニングを隔週で行います。一年次における歌唱の授業では、「歌うための基礎トレーニング」（ウォーミングアップ、発声練習、音程・リズムトレーニング等）に取り組み、基礎力をアップしていきます。自分の身体を「歌うための楽器」と捉えて、歌うための身体づくりに取り組みます。今後、一人ひとりが喜びを持って生き生きと歌で表現出来るように、また、どんな場面においても自分の身体の状態を把握して身体をコントロールしながら歌えるようにするために、今の自分の身体の状態（呼吸、姿勢、骨格など）を知り、より良い状態になるようアプローチしていきます（①全身が緊張から解放されている状態を知る ②歌唱時の呼吸の構造と筋肉の動きを知る ③歌唱中の自分の身体の状態への認識力を深めるなど）。並行して、基本的な音楽の学び（音程・リズム・楽譜の読み方・楽曲の音楽的理解 など）に取り組み、様々なジャンルの楽曲に触れて、自分に合ったものやその人の魅力的な音域などを探求します。ダンスでは、モダンダンス・コンテンポラリー、ジャズダンス、バレエ、ストリートダンスを題材にリズムトレーニングや基礎動作を通して身体操作の基礎を習得するとともに、空間認知（察知）能力を養い、創作や発表活動を通じて自己表現力およびコミュニケーション能力の向上を図ります。歌唱、ダンスともに普段からのトレーニングが肝要となるため、主体的に課題と基礎的なトレーニングに取り組む習慣を身に付けていきます。シラバスの授業内容は、状況・状態に応じて変更することがあります。

＜授業の到達目標＞
・上達に必要なトレーニング方法を習得し、それらを日々実践していくことができる・音程・リズム感、コード感など、楽曲を表現する上で必要な音楽の基礎を学ぶ・様々なジャンルの楽曲に触れ、自分に合ったものを探求して、それぞれの歌の幅や可能性を広げる・成果発表などを通してソロを人前で、一曲以上表現できるようになる・自らの身体を的確にコントロールし、基本的な舞踊表現ができるようになる・ダンスにおいて、柔軟性・リズム感・空間把握を持った動作ができる

＜授業の方法＞
【歌唱】①ウォーミングアップ（ストレッチ・呼吸のトレーニング・筋力トレーニング）②発声練習③コンコーネ５０番の指定された楽曲④課題曲の音取り（予習してきたことの確認）、または課題曲のおさらい⑤振り返りと次回授業に向けてのアドバイス※基本的にピアノ伴奏で授業を進めます。ビートの効いた楽曲は音源を使用することもあります。【ダンス】実技指導と、演習、フィードバック、グループワークを組み合わせる録音・録画を通じた自己・相互評価

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループワーク、フィードバック

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
【歌唱】・呼吸のトレーニング（5分以上）・発声練習（10分以上）※音源渡します。・コンコーネ50番の指定された楽曲の音取りや練習（15分以上）・録音、録画した授業内容（新しいトレーニング方法や、復習するべき内容、自分の歌のレッスン等）を振り返り、より上達するにはどうしたらいいか、工夫しながら練習する。又、次回の授業に向けて、新曲の音取りや歌練習に励む。（30分以上）【ダンス】・授業の復習（30分）・基本動作・リズムトレーニングの自主練習（30分）・体を柔軟にするためのストレッチ（30分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本授業は、DP２「初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる」に関連しています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業への参加態度 50%、成果発表 20%、振り返り・レポート 20%、授業準備の状況 10%

＜教科書＞
畑中良輔 編（1955）　コンコーネ50番（OP.9）　中声用　全音楽譜出版社

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス・歌唱基礎①	自分を言葉で表現する。相手に伝える。卒業までの４年間、将来についてヒアリング。呼吸トレーニングと発声練習。
2	ダンス基礎①	基礎トレーニング、モダンダンス・コンテンポラリー
3	歌唱基礎②	歌うための身体づくり。歌唱に必要な身体や呼吸の仕組みを知る。日々行う発声練習や呼吸トレーニングの説明。コンコーネ５０番から１曲音取り。
4	オンデマンド	授業内で説明する
5	ダンス基礎②	基礎トレーニング、モダンダンス・コンテンポラリー
6	歌唱基礎③	発声を理解し、「音」にのせる。音感を理解する。　①音取り　コンコーネ50番（OP.9）　１・２/ 日本のスタンダードソングを歌う

7	ダンス基礎③	基礎トレーニング、モダンダンス・コンテンポラリー
8	歌唱基礎④	発声を理解し、「音」にのせる。音感を理解する。①仕上げ/ 日本のスタンダードソングを歌うコンコーネ50番（0P、９）　１・２
9	ダンス基礎④	基礎トレーニング、ジャズダンス
10	歌唱基礎⑤	発声を理解し、「音」にのせる。音感を理解する。　②音取り／取り組んだ曲の復習/ 日本のスタンダードソングを歌うコンコーネ50番（0P、９）　３・４
11	ダンス基礎⑤	基礎トレーニング、ジャズダンス
12	ダンス基礎⑥	基礎トレーニング、ジャズダンス
13	歌唱基礎⑥	発声を理解し、「音」にのせる。音感を理解する。②仕上げ／取り組んだ曲の復習/ 日本のスタンダードソングを歌うコンコーネ50番（0P、９）　３・４
14	歌唱基礎前期まとめ	１人ずつソロ曲を前に出て歌唱。歌った人の感想、聴いていた観客側から感じた意見をそれぞれ話し合う。
15	ダンス基礎⑦	基礎トレーニング、バレエ
16	歌唱基礎⑦	発声を理解し、「音」にのせる。音感を理解する。　③音取り／取り組んだ曲の復習/ 日本のスタンダードソングを歌うコンコーネ50番（0P、９）　５・６・７
17	ダンス基礎⑧	基礎トレーニング、バレエ
18	歌唱基礎⑧	発声を理解し、「音」にのせる。音感を理解する。③仕上げ／取り組んだ曲の復習/ 日本のスタンダードソングを歌うコンコーネ50番（0P、９）　５・６・７
19	ダンス基礎⑨	基礎トレーニング、ストリートダンス
20	歌唱基礎⑨	「歌うこと」を理解する。/ 日本のスタンダードソングを歌う楽曲①：音取り
21	ダンス基礎⑩	基礎トレーニング、ストリートダンス
22	歌唱基礎⑩	「歌うこと」を理解する。/ 日本のスタンダードソングを歌う楽曲①：レッスン
23	ダンス基礎⑪	基礎トレーニング、ストリートダンス
24	歌唱基礎⑪	「歌うこと」を理解する。/ 日本のスタンダードソングを歌う楽曲②：音取り
25	ダンス基礎⑫	成果発表の振付
26	歌唱基礎⑫	「歌うこと」を理解する。/ 日本のスタンダードソングを歌う楽曲②：レッスン
27	ダンス基礎⑬	成果発表の振付
28	歌唱・ダンス成果発表準備	試験期間に行われる歌唱・ダンスの成果発表のための準備
29		
30		

科目コード	55000				区　分	コア科目			
授業科目名	卒業研究［FC］				担当者名	大久保　諒			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
こども発達学科での学習の総まとめとして、卒業論文または卒業制作に取り組む。ゼミナール担当教員が指導教員となる。

＜授業の到達目標＞
こども発達学科での学習を踏まえて、各学生が探究したいテーマに基づく卒業論文または卒業制作を完成させる。卒業研究を完遂させる過程で、保育や幼児教育、延いては人間理解や種々の実践活動に対し、①それらに資する問題意識を持てるようになること、②見い出した問題意識へ、一定の回答を与え得る方法を思案できるようになること、③問題意識の内容と、探求の成果として得られた回答を説得的な文章として記述できるようなることを目指す。

＜授業の方法＞
授業は、各ゼミナール担当教員から演習指導を受ける。研究方法や制作方法などゼミ単位で共通なものはグループで指導行うが、基本的には個別指導を展開する。なお、Google Classroomを利用し、卒業論文の進捗状況を共有しながら研究指導を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：受講生自身の手で実際に卒業研究を進める。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各個人がゼミ教員の指導に基づき卒業研究または卒業制作を進め、進捗状況を毎回のゼミで確認する。それに基づき、次時の課題を提示する。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４(地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
卒業研究または卒業制作の成果物（100%）

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	卒業研究・制作の進め方、スケジュール、単位認定方法など
2	先輩の卒論研究・制作の概要	先行研究として過去の本学卒業生の代表的な卒業研究の概観
3	先輩の卒業研究・制作の分析	先輩の卒業研究・制作から各学生が興味のあるものを選択し、その内容を分析
4	先輩の卒業研究・制作の分析結果発表	先輩の卒業研究・制作から各学生が興味のあるものを選択し、その内容を分析した結果をゼミ内発表
5	卒業研究・制作のテーマ構想	自己の興味ある分野と担当教員の専門性を考慮し、卒業研究・制作の方向性を構想
6	先行研究の分析１	先行研究・制作の論文・作品集などを量的に取集
7	先行研究の分析２	先行研究・制作の論文・作品集などを質的に分析（目的・方法・内容・結果の吟味）
8	先行研究の分析３	各学生が構想するテーマに沿った先行研究・制作を一つ選び目的、方法、内容、結果を分析しゼミ内発表
9	テーマの決定	卒業研究・制作のテーマを決定
10	研究目的の明確化	研究目的と研究対象の吟味
11	研究計画の作成	研究活動スケジュールの確定
12	研究倫理の確認	該当する研究領域の研究倫理規程を確認
13	調査研究・文献研究・制作の開始	研究計画に沿った研究活動の展開
14	調査研究・文献研究・制作の吟味	指導教員との打ち合わせによる研究計画に沿った研究活動の吟味
15	調査研究・文献研究・制作の修正	指導教員との打ち合わせによる研究計画に沿った研究活動の修正(夏季休業中の研究計画の決定)
16	研究・制作の結果の考察	これまでの研究・制作活動の中間まとめ
17	研究テーマの最終決定	研究テーマと副題の決定（変更可能性あり）
18	序論の執筆（卒業研究の場合）	研究テーマ設定の動機、理由、意義
19	問題の所在	先行研究のレビューと研究目的の執筆
20	研究方法の執筆	研究の方法の振り返りと整理
21	研究過程の執筆	調査研究・文献研究のプロセスを確認
22	結果の概観	研究結果の全体像を概観
23	結果の吟味	研究結果を分析的に吟味

24	結果と考察の執筆	結果の事実から論証できる考察を執筆
25	結果と考察の確認	結果の事実から論証できる考察の確認
26	結果と考察の修正	指導教員を吟味し結果と考察の修正
27	結論の確認	論文全体の結論まとめ
28	提出書類の作成	卒業研究・卒業制作の提出書類の最終チェック、卒業発表会の準備
29		
30		

科目コード	55000				区　分	コア科目		
授業科目名	卒業研究［FC］				担当者名	小﨑　遼介		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
こども発達学科での学習の総まとめとして、卒業論文または卒業制作に取り組む。ゼミナール担当教員が指導教員となる。

＜授業の到達目標＞
こども発達学科での学習を踏まえて、各学生が探究したいテーマに基づく卒業論文を完成させる。特に次世代教育学の学士を取得するということを踏まえ、テーマの設定を行う。

＜授業の方法＞
授業は、各ゼミナール担当教員から演習指導を受ける。研究方法や制作方法などゼミ単位で共通なものはグループで指導行うが、基本的には個別指導を展開する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
文献の紹介や、中間報告などを用いる。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各個人がゼミ教員の指導に基づき卒業研究または卒業制作を進め、進捗状況を毎回のゼミで確認する。それに基づき、次時の課題を提示する。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
卒業研究への意欲(30%卒業研究（70%）

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	卒業研究・制作の進め方、スケジュール、単位認定方法など
2	先輩の卒論研究・制作の概要	先行研究として過去の本学卒業生の代表的な卒業研究の概観
3	先輩の卒業研究・制作の分析	先輩の卒業研究・制作から各学生が興味のあるものを選択し、その内容を分析
4	先輩の卒業研究・制作の分析結果発表	先輩の卒業研究・制作から各学生が興味のあるものを選択し、その内容を分析した結果をゼミ内発表
5	卒業研究・制作のテーマ構想	自己の興味ある分野と担当教員の専門性を考慮し、卒業研究・制作の方向性を構想
6	先行研究の分析１	先行研究・制作の論文・作品集などを量的に取集
7	先行研究の分析２	先行研究・制作の論文・作品集などを質的に分析（目的・方法・内容・結果の吟味）
8	先行研究の分析３	各学生が構想するテーマに沿った先行研究・制作を一つ選び目的、方法、内容、結果を分析しゼミ内発表
9	テーマの決定	卒業研究・制作のテーマを決定
10	研究目的の明確化	研究目的と研究対象の吟味
11	研究計画の作成	研究活動スケジュールの確定
12	研究倫理の確認	該当する研究領域の研究倫理規程を確認
13	調査研究・文献研究・制作の開始	研究計画に沿った研究活動の展開
14	調査研究・文献研究・制作の吟味	指導教員との打ち合わせによる研究計画に沿った研究活動の吟味
15	調査研究・文献研究・制作の修正	指導教員との打ち合わせによる研究計画に沿った研究活動の修正(夏季休業中の研究計画の決定)
16	研究・制作の結果の考察	これまでの研究・制作活動の中間まとめ
17	研究テーマの最終決定	研究テーマと副題の決定（変更可能性あり）
18	序論の執筆（卒業研究の場合）	研究テーマ設定の動機、理由、意義
19	問題の所在	先行研究のレビューと研究目的の執筆
20	研究方法の執筆	研究の方法の振り返りと整理
21	研究過程の執筆	調査研究・文献研究のプロセスを確認
22	結果の概観	研究結果の全体像を概観
23	結果の吟味	研究結果を分析的に吟味
24	結果と考察の執筆	結果の事実から論証できる考察を執筆
25	結果と考察の確認	結果の事実から論証できる考察の確認

26	結果と考察の修正	指導教員を吟味し結果と考察の修正
27	結論の確認	論文全体の結論まとめ
28	提出書類の作成	卒業研究・卒業制作の提出書類の最終チェック、卒業発表会の準備
29		
30		

科目コード	55000				区　分	コア科目		
授業科目名	卒業研究［FC］				担当者名	後藤　由佳		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
こども発達学科での学習の総まとめとして、卒業研究に取り組む。ゼミナール担当教員が指導教員となる。

＜授業の到達目標＞
こども発達学科での学習を踏まえて、各学生が探究したいテーマに基づく卒業論文あるいは卒業制作を完成できるようになる。

＜授業の方法＞
各ゼミナール担当教員から演習指導を受ける。準備学習(予習・復習)の確認においてはデジタル(Classroom)活用する。研究や制作方法などゼミ単位で共通なものはグループで指導行うが、基本的には個別指導を展開する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素(ディスカッション、グループワーク等)を取り入れ、研究や制作方法などゼミ単位で共通なものはグループ指導を展開する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各個人がゼミ教員の指導に基づき卒業論文あるいは卒業制作を進め、進捗状況を毎回のゼミで確認する。それに基づき次時への課題を提示し、授業時間外で必要な資料や教材、用具を準備する。次時までに論文や制作の課題に取り組む等、準備学習(2時間程度)を求める。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
卒業研究はこども発達学科での学習の総まとめの活動でありディプロマポリシーにおけるDP8（広く豊かな社会的常識、人間的に成熟した保育・教育観を持ち、地域社会の実情に応じ、学術性を備 えた保育・教育を推進する実践力・創造的思考力を身に付ける）に対応した教育活動を展開する。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
演習への取組み姿勢と受講態度、受講意欲 20%、卒業研究(論文・制作)の成果物 80%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	卒業研究の進め方、演習の流れ、到達目標と注意事項、成績評価と単位認定方法など
2	先輩の卒業研究・制作の概要	先行研究として過去の本学卒業生の代表的な卒業研究の概観
3	先輩の卒業研究・制作の分析	先輩の卒業論文・制作から各学生が興味のあるものを選択し、その内容を分析
4	卒業研究・制作のテーマ構想	自己の興味ある分野と担当教員の専門性を考慮し、卒業論文・制作の方向性を構想
5	先行研究の分析(1)	先行研究の論文・作品集などを量的に取集
6	先行研究の分析（2）	先行研究の論文・作品集などを質的に分析（目的・方法・内容・結果の吟味）
7	先行研究の分析（3）	各学生が構想するテーマに沿った先行研究・制作を一つ選び目的、方法、内容、結果を分析し発表
8	テーマの決定	卒業論文・制作のテーマを決定
9	研究目的の明確化と研究計画の作成	研究目的と研究対象の吟味、研究活動スケジュールの確定
10	研究倫理の確認	該当する研究領域の研究倫理規程を確認
11	調査研究・文献研究・制作の開始	研究計画に沿った研究活動の展開
12	調査研究・文献研究・制作の吟味	指導教員との打ち合わせによる研究計画に沿った研究活動の吟味
13	調査研究・文献研究・制作の修正	指導教員との打ち合わせによる研究計画に沿った研究活動の修正(夏季休業中の研究計画の決定)
14	研究・制作の結果の考察	前期の論文・制作活動の中間まとめ
15	研究テーマの最終決定	研究テーマと副題の決定（変更可能性あり）
16	序論の執筆	研究テーマ設定の動機、理由、意義
17	問題の所在	先行研究のレビューと研究目的の執筆
18	研究方法の執筆	研究の方法の振り返りと整理
19	研究過程の執筆	調査研究・文献研究のプロセスを確認
20	結果の概観	研究結果の全体像を概観
21	結果の吟味	研究結果を分析的に吟味
22	結果と考察の執筆	結果の事実から論証できる考察を執筆
23	結果と考察の確認	結果の事実から論証できる考察の確認

24	結果と考察の修正	指導教員を吟味し結果と考察の修正
25	結論の確認	論文全体の結論まとめ
26	序論・問題設定の再吟味	結論に基づく問題所在・仮説の再吟味
27	論文全体の推敲	論文全体の確認修正
28	提出書類の作成	卒業論文・卒業制作の提出書類の最終チェック、卒業発表会の準備
29		
30		

科目コード	55000				区　分	コア科目		
授業科目名	卒業研究［FC］				担当者名	髙﨑　展好		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
こども発達学科での学習の総まとめとして、卒業論文または卒業制作に取り組む。ゼミナール担当教員が指導教員となる。

＜授業の到達目標＞
・こども発達学科における学修内容を踏まえ、自らの関心に基づいた研究テーマを設定することができる。・先行研究や資料を収集・分析し、研究課題を明確にすることができる。・研究計画を立案し、調査・実践・制作等の研究活動を主体的に遂行することができる。・研究成果を卒業論文または卒業制作として体系的にまとめることができる。・研究成果を発表し、自らの研究内容について論理的に説明することができる。

＜授業の方法＞
授業は、各ゼミナール担当教員から演習指導を受ける。研究方法や制作方法などゼミ単位で共通なものはグループで指導行うが、基本的には個別指導を展開する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
ゼミナールⅡ（応用）演奏制作研究及び作品制作研究発表にに基づく

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各個人がゼミ教員の指導に基づき卒業研究または卒業制作を進め、進捗状況を毎回のゼミで確認する。それに基づき、次時の課題を提示する。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
卒業研究または卒業制作の成果物の提出および、研究発表（100%）

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	卒業研究・卒業制作の目的、進め方、年間スケジュール、評価方法の理解
2	先行事例の理解	過去の本学卒業研究・制作の代表例の概観
3	先行事例の分析①	興味のある研究・制作を選択し内容を分析
4	先行事例の分析②・発表	分析結果のゼミ内発表と討議
5	研究テーマ構想	自己の関心領域と指導教員の専門性を踏まえたテーマの構想
6	先行研究の収集	関連論文・資料・作品の収集方法の理解と実践
7	先行研究の分析	目的・方法・内容・成果の整理
8	先行研究レビュー発表	テーマに関連する先行研究の分析発表
9	研究テーマの決定	研究課題の明確化
10	研究目的の設定	研究対象・研究意義の整理
11	研究計画の作成	研究スケジュールの策定
12	研究倫理の理解	研究倫理・個人情報保護の確認
13	研究・制作の開始	調査・文献研究・制作活動の開始および進捗確認
14	研究活動の検討と計画修正（前期まとめ）	研究の進捗状況の共有、課題整理、研究計画の修正および夏季休業中の研究計画の確定
15	研究活動の再確認	夏季休業中の研究成果の共有、研究課題および今後の計画の再確認
16	研究結果の整理	収集データ・制作成果の整理と分析視点の明確化
17	研究テーマの最終確定	研究テーマおよび副題の最終決定
18	序論の執筆	研究の背景・動機・目的・意義の文章化
19	先行研究レビューの執筆	研究課題の位置づけの明確化
20	研究方法の執筆	研究方法・手続きの整理と記述
21	研究過程の整理	調査・制作プロセスの体系的整理
22	研究結果の提示	結果の構造化と図表等による可視化
23	研究結果の分析	結果の意味づけと論理的検討
24	考察の執筆	研究目的との関連づけによる考察
25	結論の作成	結果の事実から論証できる考察の確認研究成果の総括と今後の課題

26	論文全体の構成確認	章構成・論理展開・引用形式の確認
27	論文の推敲	文章表現・論理性・体裁の修正
28	最終提出および発表準備	提出書類の最終確認、卒業研究発表会の準備
29		
30		

科目コード	55000				区　分	コア科目			
授業科目名	卒業研究［FC］				担当者名	宮原　舞			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
こども発達学科での学習の総まとめとして、卒業論文の執筆に取り組む。ゼミナール担当教員が指導教員となる。

＜授業の到達目標＞
こども発達学科での学習を踏まえて、各学生が探究したいテーマに基づいた卒業論文を執筆する。

＜授業の方法＞
授業は、各ゼミナール担当教員から演習指導を受ける。研究方法や制作方法などゼミ単位で共通なものはグループで指導行うが、基本的には個別指導を展開する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各個人がゼミ教員の指導に基づき卒業研究を進め、進捗状況を毎回のゼミで確認する。それに基づき、次時の課題を提示する。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
卒業研究または卒業制作の成果物（100%）

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	卒業論文の進め方、年間スケジュール、単位認定方法などを確認する。
2	先輩の卒業論文の概要理解	先行研究として過去の本学卒業生の代表的な卒業論文の概要を学ぶ。
3	先輩の卒業論文の分析	先輩の卒業論文から各自が関心のあるものを選び、内容を分析する。
4	先輩の卒業論文の分析結果発表	各自が分析した卒業論文の内容や特徴をゼミ内で発表する。
5	卒業論文のテーマ構想	自己の関心分野と担当教員の専門性を踏まえ、卒業論文の方向性を構想する。
6	先行研究の収集	研究テーマに関連する先行研究を収集し、文献資料を整理する。
7	先行研究の分析	先行研究の目的、方法、内容、結果を読み取り、研究の特徴を分析する。
8	先行研究の発表	各自のテーマに関連する先行研究を取り上げ、その分析結果をゼミ内で発表する。
9	テーマの決定	卒業論文のテーマを明確にし、研究課題を定める。
10	研究目的の明確化	研究目的と研究対象を整理し、研究の意義を明確にする。
11	研究計画の作成	研究方法や今後の進行計画を具体化し、研究活動のスケジュールを立てる。
12	研究倫理の確認	研究に必要な倫理的配慮や関連規程を確認する。
13	研究の開始	研究計画に基づき、調査研究または文献研究を開始する。
14	研究経過の吟味と修正	指導教員との相談を通して研究の進捗を確認し、必要に応じて研究計画を見直す。
15	中間まとめ	これまでの研究内容を整理し、中間的な成果と課題を明確にする。
16	研究テーマの再確認	研究の進捗を踏まえて研究テーマや副題を再確認し、論文全体の方向性を定める。
17	序論の執筆	研究テーマ設定の動機、背景、研究の意義を整理し、序論を執筆する。
18	先行研究と研究課題の整理	先行研究のレビューをもとに問題の所在を明らかにし、研究課題を整理する。
19	研究方法の執筆	研究の方法、対象、手続きについて整理し、記述する。
20	研究過程の整理	調査研究または文献研究の過程を振り返り、論文に反映できるよう整理する。
21	結果の概観	研究結果の全体像を整理し、主要な結果を明らかにする。
22	結果の分析	研究結果を多面的に検討し、分析を深める。
23	結果と考察の執筆	研究結果をもとに考察を行い、論理的に記述する。
24	結果と考察の修正	指導教員の助言をもとに、結果と考察の内容を見直し修正する。
25	結論の執筆	研究全体を総括し、結論と今後の課題をまとめる。
26	論文全体の再吟味	序論から結論までの整合性を確認し、論文全体の構成を見直す。
27	論文全体の推敲	文章表現、引用、注記、参考文献表記等を含めて論文全体を推敲する。
28	提出書類の作成と発表準備	卒業論文の提出書類を最終確認し、卒業発表会に向けた準備を行う。
29		
30		

科目コード	55000				区　分	コア科目		
授業科目名	卒業研究［FE］				担当者名	竹下　厚志		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業では、学生がそれぞれ設定したテーマに沿って研究を進め、研究を深めることを目的とする。学生が興味と関心を持って研究に取り組むことができるように条件整備を行い、一人一人の研究を本授業の構成員全体で支援する。

＜授業の到達目標＞
①関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。②レポート発表及びディスカッションができる。・研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。③研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

＜授業の方法＞
各自の研究課題を明確化し、その課題について、実際に調査や実験等を行い、論文としてまとめていく。基本的に授業時間は学生による発表とそれについての討論とするが、個人の研究課題設定や発表資料の作成などにおいては、進捗状況 に応じて個別指導を行う。その際、先行研究の検索や分析、論文作成と発表において、ICT・デジタル機器を活用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
あり。各自のテーマに関するグループ内での意見交換、プレゼンテーション

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
1．予習（１時間程度）　・先行研究を熟読してまとめる。　・先行研究を参考にアンケートやインタビュー項目の内容を整理する。　・章立てをもとにキーワードを抽出する。２．復習（２時間程度）　・助言をもとに、先行研究から自分の論文に必要な情報を抽出する。　・章ごとに文書化し、次回のゼミで助言を求める。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）　と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度等（関心・意欲・態度）　30%、卒業論文・口頭発表70%

＜教科書＞
特に指定しない。

＜参考書＞
特に指定しない。

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	研究課題の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修

		正をする。
16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
20	中間発表①	それぞれの研究の合同ゼミ中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の合同ゼミ中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	口頭試問準備①	口頭試問を想定したQAの準備
26	口頭試問準備②	口頭試問を想定したQAの準備
27	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29		
30		

科目コード	55000				区　分	コア科目		
授業科目名	卒業研究［FE］				担当者名	木戸　和彦		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業では、学生がそれぞれ設定したテーマに沿って研究を進め、研究を深めることを目的とする。学生が興味と関心を持って研究に取り組むことができるように条件整備を行い、一人一人の研究を本授業の構成員全体で支援する。

＜授業の到達目標＞
1.関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。2.レポート発表及びディスカッションができる。3.研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。4.研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

＜授業の方法＞
各自の研究課題を明確化し、その課題について、実際に調査や実験等を行い、論文としてまとめていく。基本的に授業時間は学生による発表とそれについての討論とするが、個人の研究課題設定や発表資料の作成などにおいては、進捗状況 に応じて個別指導を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素有調査の課題、フィールドワーク、グループデスカッション等

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各個人が設定した課題に沿って研究を進め、その進捗状況の報告をレポートにまとめて、報告できるよう準備する。（２～３時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。） と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度等（関心・意欲・態度） 30%、論文または卒業制作 70%

＜教科書＞
特に指定しない。

＜参考書＞
特に指定しない。

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成?①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	研究課題の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。

16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29		
30		

科目コード	55000				区　分	コア科目			
授業科目名	卒業研究［FE］				担当者名	木野　正一郎			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	講義、演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅡ（応用）では、3年生の『ゼミナールⅠ（基礎）』で深めてきた探究成果（社会人に求められる基礎的知識）を活用して、研究をより高度なレベルに深め、研究目的・研究方法・研究報告・考察・成果と課題を実践研究論文として卒業論文にまとめる。さらに、教育学の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識をさらに深め、より高度な問題意識の醸成と実践的な課題解決力の錬磨を目指す。

＜授業の到達目標＞
3年生の『ゼミナールⅠ（基礎）』を発展的に継続して、教育職員に採用された後の皆さんの姿をイメージし、特にこのゼミナール出身者の中から各学校に設置されるミドルリーダー（「道徳教育推進教諭」）になれるような資質・能力を形成することを目標としたい。「考え、議論する道徳」のアクティブ・ラーニングについて授業設計や授業分析ができるようにテーマ探究をするのはもちろん、やがては道徳教育の全体計画や年間指導計画、シラバスの作成等もできるように成長してもらいたい。

＜授業の方法＞
ゼミ生が興味・関心を持ったテーマ（3年生：『ゼミナールⅠ（基礎）』の個人テーマ）について、レポート（課題）作成、および、ディスカッションをする。そして、その成果を蓄積することによって、研究成果（実践研究論文として卒業論文化）へと集約させる。
＜参考：3年生：『ゼミナールⅠ（基礎）』の内容＞・前期は、道徳的な観点から見た現代社会における教育的諸課題について、賛否両論を踏まえたディベートを行う。講義では2回を1セットにし、①情報収集（知識・技能の習得、ブレイン・ストーミング）→②ディベート（思考力・判断力・表現

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングあり・ディベート・ソクラテス的対話によるディスカッション・ブレイン・ストーミング（マトリックス法、SWOT分析、イメージマッピング等）・学習指導案制作・模擬授業と質的データの収集・成果の卒業論文化（問題意識・研究方法・先行研究概観・開発した実践内容・データ分析・考察）　　他

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進める。文献検索を行い（情報探索）、その結果を事前にレポートにまとめたり（論点整理）、制作に取り組んだりする。研究の計画および方法については、担当教員と相談のうえ決定する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度求める。（※連絡がとれる体制を教員と相談しておく。）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）　と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・授業態度等（関心・意欲・態度、課題意識と課題解決に向けた探究意識）：30%・研究成果（卒業論文）・レポート・課題の内容、到達度評価（知識・理解）：70%

＜教科書＞
柳沼良太（2018年9月20日）　『「現代的な課題」に取り組む道徳授業』　株式会社　図書文化社
柳沼良太編（2019年3月30日）　『プラグマティズム、公共、道徳』　株式会社　あいり出版
柳沼良太著（2016年2月）　『問題解決的な学習で創る　道徳授業　超入門』　明治図書出版株式会社

＜参考書＞
田沼茂紀（2022年4月10日）　『道徳教育学の構想とその展開』　株式会社　北樹出版
木野正一郎著（2025年3月31日）　『教材学研究第36巻』「問題解決的で探究的なワークショップ型道徳授業とその再検証」（注：講義にて配布します）　日本教材学会研究紀要委員会
木野正一郎著（2016年3月31日）　『早稲田大学大学院教職研究科紀要第8号』「『道徳科』における問題解決ワークショップを用いた小単元構成の授業開発－『核心的価値（コア・バリュー）』に基づく補充・深化・統合の取り組みを通して－」（注：講義にて配布します）　早稲田大学教職大学院紀要刊行委員会

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅡ（応用）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究指導Ⅰ－課題の探究活動①	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
3	研究指導Ⅰ－課題の探究活動②	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
4	研究指導Ⅰ－課題の探究活動③	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
5	研究指導Ⅰ－課題の探究活動④	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
6	研究指導Ⅰ－課題の探究活動⑤	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。

7	研究指導Ⅰ－課題の探究活動⑥	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
8	研究指導Ⅰ－課題の探究活動⑦	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
9	研究指導Ⅰ－課題の探究活動⑧	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
10	研究指導Ⅰ－課題の探究活動⑨	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
11	研究指導Ⅰ－課題の探究活動⑩	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
12	研究指導Ⅰ－課題の探究活動⑪	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
13	研究指導Ⅱ－課題の探究の成果発表（中間報告ないし学習指導案に基づく模擬授業）①	各自が探究している個人研究について、探究成果の発表（中間報告、30分/人程度、うち10分は仲間から相互評価を受ける）をする。
14	研究指導Ⅱ－課題の探究の成果発表（中間報告ないし学習指導案に基づく模擬授業）②	各自が探究している個人研究について、探究成果の発表（中間報告、30分/人程度、うち10分は仲間から相互評価を受ける）をする。
15	研究指導Ⅱ－課題の探究の成果発表（中間報告ないし学習指導案に基づく模擬授業）③	各自が探究している個人研究について、探究成果の発表（中間報告、30分/人程度、うち10分は仲間から相互評価を受ける）をする。
16	研究指導Ⅲ－新たな問い（課題）に関する探究①	各自が探究している個人研究について、前期の中間発表時に発見した新たな問い（課題）について情報探索、及び、論点整理を深める。
17	研究指導Ⅲ－新たな問い（課題）に関する探究②	各自が探究している個人研究について、前期の中間発表時に発見した新たな問い（課題）について情報探索、及び、論点整理を深める。
18	研究指導Ⅲ－新たな問い（課題）に関する探究③	各自が探究している個人研究について、前期の中間発表時に発見した新たな問い（課題）について情報探索、及び、論点整理を深める。
19	研究指導Ⅲ－新たな問い（課題）に関する探究④	各自が探究している個人研究について、前期の中間発表時に発見した新たな問い（課題）について情報探索、及び、論点整理を深める。
20	研究指導Ⅲ－新たな問い（課題）に関する探究⑤	各自が探究している個人研究について、前期の中間発表時に発見した新たな問い（課題）について情報探索、及び、論点整理を深める。
21	研究指導Ⅳ－実践研究論文（卒業論文）の書き方講座	実践研究論文（卒業論文）の書き方を学ぶ。・論文の構造づくり（章立てなどの「型」を教えます。）・文章の書き方（英語の五文型を意識した書き方。英語が苦手でも大丈夫です。文章の構造を教えます。）・接続詞の使い方（長文にならないように、上手に接続詞を使う方法を教えます。）・引用の方法（出典の明記と文中への投影方法を教えます。）
22	研究指導Ⅴ－探究した研究成果の卒業論文化①	実践研究論文(卒業論文)の書き方講座の知見を活用し、これまで集めてきた情報(論点整理などの資料）を根拠に論文をまとめていく（注：最終報告までの途中に必ず、指導教員の個別指導（査読）を受けること）。
23	研究指導Ⅴ－探究した研究成果の卒業論文化②	実践研究論文(卒業論文)の書き方講座の知見を活用し、これまで集めてきた情報(論点整理などの資料）を根拠に論文をまとめていく（注：最終報告までの途中に必ず、指導教員の個別指導（査読）を受けること）。
24	研究指導Ⅴ－探究した研究成果の卒業論文化③	実践研究論文(卒業論文)の書き方講座の知見を活用し、これまで集めてきた情報(論点整理などの資料）を根拠に論文をまとめていく（注：最終報告までの途中に必ず、指導教員の個別指導（査読）を受けること）。
25	研究指導Ⅴ－探究した研究成果の卒業論文化④	実践研究論文(卒業論文)の書き方講座の知見を活用し、これまで集めてきた情報(論点整理などの資料）を根拠に論文をまとめていく（注：最終報告までの途中に必ず、指導教員の個別指導（査読）を受けること）。
26	研究指導Ⅴ－探究した研究成果の卒業論文化⑤	実践研究論文(卒業論文)の書き方講座の知見を活用し、これまで集めてきた情報(論点整理などの資料）を根拠に論文をまとめていく（注：最終報告までの途中に必ず、指導教員の個別指導（査読）を受けること）。
27	研究指導Ⅵ－探究した研究成果の発表（最終報告）①	各人が探究してきた課題について、新たな問いも解明しつつ、論文化した成果と課題を含めて最終報告する（注：持ち時間は30分/人、うち10分は仲間からの相互評価を受ける）。
28	研究指導Ⅵ－探究した研究成果の発表（最終報告）②	各人が探究してきた課題について、新たな問いも解明しつつ、論文化した成果と課題を含めて最終報告する（注：持ち時間は30分/人、うち10分は仲間からの相互評価を受ける）。
29		
30		

科目コード	55000				区　分	コア科目		
授業科目名	卒業研究［FE］				担当者名	伊藤　仁美		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業では、学生がそれぞれ設定したテーマに沿って研究を進め、研究を深めることを目的とする。学生が興味と関心を持って研究に取り組むことができるように条件整備を行い、一人一人の研究を本授業の構成員全体で支援する。

＜授業の到達目標＞
(1) 関連資料の検索・収集・分析等のスキルと、研究方法等の基礎的事項を身につけている(2) 客観的な根拠に基づき論理的に研究を論文としてまとめ、他者に対してわかりやすく発表やディスカッションができる。

＜授業の方法＞
各自の研究課題を明確化し、その課題について、実際に調査や実験等を行い、論文としてまとめていく。基本的に授業時間は学生による発表とそれについての討論とするが、個人の研究課題設定や発表資料の作成などにおいては、進捗状況 に応じて個別指導を行う。その際、先行研究の検索や分析、論文作成と発表において、ICT・デジタル機器を活用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有　発表・討論

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
合計４時間＜予習＞各個人が設定した課題に沿って文献収集や研究を進め､授業での進捗報告に向けてレポートや発表資料を作成し、報告の準備を行う。（2時間）＜復習＞授業内での報告に対する教員や他学生からのフィードバックを踏まえ、自身の研究計画の見直しやレポートの加筆・修正を行う。（２時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲 30%、卒業論文70%

＜教科書＞

＜参考書＞
浦野研ほか（2016）　はじめての英語教育研究：押さえておきたいコツとポイント　研究社
APA（米国心理学会）（2022）　APA論文作成マニュアル第7版
竹内理・水本篤ほか（2023）　外国語教育研究ハンドブック【増補版】― 研究手法のより良い理解のために　松柏社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。

15	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	課題研究の遂行とその報告⑧各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
20	課題研究の遂行とその報告⑬	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
21	課題研究の遂行とその報告⑭	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
22	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
23	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
24	中間発表③	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
25	中間発表④	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
26	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
27	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
29		
30		

科目コード	55000				区　分	コア科目			
授業科目名	卒業研究［FE］				担当者名	濱嶋　幸司			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
卒業論文を作成し、発表するための論文指導及びプレゼンテーション指導を行う。

＜授業の到達目標＞
１．自ら設定した研究テーマに基づき、先行研究の収集・分析を行い、論理的な構成で卒業論文を執筆できる。２．研究の背景、目的、方法、結論について、中間発表会や口頭試問において他者に分かりやすく発表・説明できる。

＜授業の方法＞
個別指導卒業論文中間発表会卒業論文発表会（口頭試問）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有　各回毎のテーマについて参加者同士で話し合い、意見をまとめグループごとに発表を行う　仮説に基づいた実証をするために先行研究の収集、具体的な実査を行う　研究進捗報告を行い、聞き手は報告者にフィードバックを行う

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習： 各回の指導内容に合わせて、個人テーマに関連する文献の精読や実査データの整理を行い、研究の進捗状況をまとめて指導に臨む（3時間程度）。事後学習： 個別指導や中間発表で得られた助言を反映させ、論文の執筆・修正を継続的に進めるとともに、次回の調査・分析計画を策定する（3時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）　と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
研究計画の適切性 20%、先行研究のレビュー・独自性 30%、論証の論理性 30%、文章表現・形式の適切性 20%。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	卒業研究について	研究の内容と方法について
2	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
3	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
4	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
5	研究テーマの設定	個人研究テーマの決定
6	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
7	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
8	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
9	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
10	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
11	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
12	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
13	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
14	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
15	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
16	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
17	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
18	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
19	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
20	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
21	卒業論文の執筆	中間発表会に向けての概要レポート及びプレゼン資料の作成
22	卒業論文の執筆	中間発表会に向けての概要レポート及びプレゼン資料の作成
23	卒業論文中間発表会	概要レポート及びプレゼン資料を基にした研究概要の発表
24	卒業論文の執筆	中間発表会を受けての論文構成の修正及び必要な先行研究の収集
25	卒業論文の執筆	論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備
26	卒業論文の執筆	論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備
27	卒業論文発表会	口頭試問形式による卒業論文発表会での発表

28 29 30	卒業論文の修正・データ提出	卒業論文の完成、データの提出

科目コード	55000				区　分	コア科目		
授業科目名	卒業研究［FE］				担当者名	大野呂　浩志		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
卒業論文を作成し、発表するための論文指導及びプレゼンテーション指導を行う。

＜授業の到達目標＞
論旨が明確で，論理的な卒業論文を完成（本文12000字以上）することができる。

＜授業の方法＞
個別指導卒業論文中間発表会卒業論文発表会（口頭試問）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
・課題解決型授業／プレゼンテーション

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
研究テーマの設定（事前に10時間以上）研究テーマに係る情報収集（事後30時間以上）研究テーマに係る整理・分析（事後に10時間程度）研究テーマに係るまとめ方の検討（事後に20時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）　と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
以下の点を総合して評価する①研究計画の適切性（10%）②先行研究のレビュー・独自性（15%）③論証（70%）④文章表現・文字数・誤字脱字（5%）

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	卒業研究について	研究の内容と方法について
2	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
3	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
4	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
5	研究テーマの設定	個人研究テーマの決定
6	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
7	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
8	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
9	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
10	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
11	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
12	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
13	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
14	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
15	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
16	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
17	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
18	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
19	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
20	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
21	卒業論文の執筆	中間発表会に向けての概要レポート及びプレゼン資料の作成
22	卒業論文の執筆	中間発表会に向けての概要レポート及びプレゼン資料の作成
23	卒業論文中間発表会	概要レポート及びプレゼン資料を基にした研究概要の発表
24	卒業論文中間発表会	概要レポート及びプレゼン資料を基にした研究概要の発表
25	卒業論文の執筆	中間発表会を受けての論文構成の修正及び必要な先行研究の収集
26	卒業論文の執筆	論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備
27	卒業論文の執筆	論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備
28	卒業論文発表会	口頭試問形式による卒業論文発表会での発表
29		

30		

科目コード	55000				区　分	コア科目		
授業科目名	卒業研究［FE］				担当者名	小澤　尚子		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
卒業論文を作成し、発表するための論文指導及びプレゼンテーション指導を行う。

＜授業の到達目標＞
卒業論文の完成（本文12000字以上）

＜授業の方法＞
個別指導卒業論文中間発表会卒業論文発表会（口頭試問）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
・課題解決型授業／プレゼンテーション

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
研究テーマの設定研究テーマに係る情報収集研究テーマに係る整理・分析研究テーマに係るまとめ方の検討

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）　と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
以下の点を総合して評価する①研究計画の適切性②先行研究のレビュー・独自性③論証④文章表現・文字数・誤字脱字

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	卒業研究について	研究の内容と方法について
2	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
3	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
4	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
5	研究テーマの設定	個人研究テーマの決定
6	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
7	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
8	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
9	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
10	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
11	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
12	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
13	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
14	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
15	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
16	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
17	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
18	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
19	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
20	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
21	卒業論文の執筆	中間発表会に向けての概要レポート及びプレゼン資料の作成
22	卒業論文の執筆	中間発表会に向けての概要レポート及びプレゼン資料の作成
23	卒業論文中間発表会	概要レポート及びプレゼン資料を基にした研究概要の発表
24	卒業論文中間発表会	概要レポート及びプレゼン資料を基にした研究概要の発表
25	卒業論文の執筆	中間発表会を受けての論文構成の修正及び必要な先行研究の収集
26	卒業論文の執筆	論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備
27	卒業論文の執筆	論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備
28	卒業論文発表会	口頭試問形式による卒業論文発表会での発表
29		
30		

科目コード	55000				区　分	コア科目			
授業科目名	卒業研究［FE］				担当者名	前田　一誠			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
卒業論文を作成し、発表するための論文指導及びプレゼンテーション指導を行う。

＜授業の到達目標＞
１．自ら設定した研究テーマに基づき、先行研究の収集・分析を行い、論理的な構成で卒業論文を執筆できる。２．研究の背景、目的、方法、結論について、中間発表会や口頭試問において他者に分かりやすく発表・説明できる。

＜授業の方法＞
個別指導卒業論文中間発表会卒業論文発表会（口頭試問）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有　各回毎のテーマについて参加者同士で話し合い、意見をまとめグループごとに発表を行う　仮説に基づいた実証をするために先行研究の収集、具体的な実査を行う　研究進捗報告を行い、聞き手は報告者にフィードバックを行う

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習： 各回の指導内容に合わせて、個人テーマに関連する文献の精読や実査データの整理を行い、研究の進捗状況をまとめて指導に臨む（3時間程度）。事後学習： 個別指導や中間発表で得られた助言を反映させ、論文の執筆・修正を継続的に進めるとともに、次回の調査・分析計画を策定する（3時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）　と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
研究計画の適切性 20%、先行研究のレビュー・独自性 30%、論証の論理性 30%、文章表現・形式の適切性 20%。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	卒業研究について	研究の内容と方法について
2	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
3	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
4	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
5	研究テーマの設定	個人研究テーマの決定
6	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
7	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
8	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
9	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
10	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
11	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
12	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
13	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
14	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
15	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
16	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
17	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
18	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
19	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
20	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
21	卒業論文の執筆	中間発表会に向けての概要レポート及びプレゼン資料の作成
22	卒業論文の執筆	中間発表会に向けての概要レポート及びプレゼン資料の作成
23	卒業論文中間発表会	概要レポート及びプレゼン資料を基にした研究概要の発表
24	卒業論文の執筆	中間発表会を受けての論文構成の修正及び必要な先行研究の収集
25	卒業論文の執筆	論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備
26	卒業論文の執筆	論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備
27	卒業論文発表会	口頭試問形式による卒業論文発表会での発表

28 29 30	卒業論文の修正・データ提出	卒業論文の完成、データの提出

科目コード	55000				区　分	コア科目			
授業科目名	卒業研究［FE］				担当者名	三堀　仁			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
卒業論文を作成し、発表するための論文指導及びプレゼンテーション指導を行う。

＜授業の到達目標＞
教育界及び学校現場における現代的な課題を踏まえたテーマの卒業論文（本文12000字以上）を完成することができる。

＜授業の方法＞
個別指導卒業論文中間発表会に向けたプレゼン資料の作成卒業論文発表会（口頭試問）に向けたプレゼン資料の作成

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
卒業論文中間発表会などの場面で他者の発表や教員の指導・助言を聞き、質問をしたり自分の研究に取り入れたりする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
研究テーマの設定、研究テーマに係る情報収集、整理・分析、まとめ方等について、事前準備1時間程度、事後の検討2時間程度行う。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
以下の点を総合して評価する①研究計画の適切性25%②先行研究のレビュー・独自性25%③論証25%④文章表現・文字数・誤字脱字25%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	卒業研究について	研究の内容と方法について
2	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
3	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
4	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
5	研究テーマの設定	個人研究テーマの決定
6	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
7	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
8	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
9	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
10	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
11	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
12	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
13	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
14	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
15	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
16	中間発表会に向けて	中間発表会に向けての概要レポート及びプレゼン資料の作成
17	卒業論文中間発表会①	概要レポート及びプレゼン資料を基にした研究概要の発表
18	卒業論文中間発表会②	概要レポート及びプレゼン資料を基にした研究概要の発表
19	卒業論文の執筆	中間発表会を受けての論文構成の修正及び必要な先行研究の収集
20	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
21	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
22	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
23	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
24	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
25	卒業論文の執筆	論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備
26	卒業論文の執筆	論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備
27	卒業論文発表会	口頭試問形式による卒業論文発表会での発表
28	卒業論文発表会	口頭試問形式による卒業論文発表会での発表及び完成データの提出
29		
30		

科目コード	55000				区　分	コア科目		
授業科目名	卒業研究［FE］				担当者名	鈩　悠介		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
卒業論文を作成し、発表するための論文指導及びプレゼンテーション指導を行う。

＜授業の到達目標＞
卒業論文の完成（本文12000字以上）

＜授業の方法＞
個別指導卒業論文中間発表会卒業論文発表会（口頭試問）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有。進捗状況についてのプレゼン及び質疑応答。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
研究テーマの設定研究テーマに係る情報収集研究テーマに係る整理・分析研究テーマに係るまとめ方の検討（合わせて２時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。） と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
以下の点を総合して評価する①研究計画の適切性②先行研究のレビュー・独自性③論証④文章表現・文字数・誤字脱字

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	卒業研究について	研究の内容と方法について
2	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
3	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
4	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
5	研究テーマの設定	個人研究テーマの決定
6	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
7	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
8	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
9	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
10	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
11	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
12	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
13	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
14	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
15	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
16	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
17	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
18	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
19	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
20	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
21	卒業論文の執筆	中間発表会に向けての概要レポート及びプレゼン資料の作成
22	卒業論文の執筆	中間発表会に向けての概要レポート及びプレゼン資料の作成
23	卒業論文中間発表会	概要レポート及びプレゼン資料を基にした研究概要の発表
24	卒業論文中間発表会	概要レポート及びプレゼン資料を基にした研究概要の発表
25	卒業論文の執筆	中間発表会を受けての論文構成の修正及び必要な先行研究の収集
26	卒業論文の執筆	論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備
27	卒業論文の執筆	論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備
28	卒業論文発表会	口頭試問形式による卒業論文発表会での発表
29		
30		

科目コード	55000				区　分	コア科目		
授業科目名	卒業研究［FE］				担当者名	高橋　章二		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
卒業論文を作成し、発表するための論文指導及びプレゼンテーション指導を行う。

＜授業の到達目標＞
卒業論文の完成（本文12000字以上）

＜授業の方法＞
個別指導卒業論文中間発表会卒業論文発表会（口頭試問）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
・課題解決型授業／プレゼンテーション

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
研究テーマの設定、研究テーマにかかわる情報収集、研究テーマにかかわる整理・分析、研究テーマにかかわるまとめ方の検討を順次行っていく。予習時間は提案内容を明確に伝えることができるように、必ず４時間は行ってください。また、復習は助言をもとに必ず４時間は行い課題の整理を行ってください。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）　と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
以下の点を総合して評価する①論文の内容・今後への貢献度　７0%　・研究計画の適切性　・先行研究のレビュー・独自性　・論証　・文章表現・文字数・誤字脱字②授業態度（議論への参加）　20%　③出席　10%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	卒業研究について	研究の内容と方法について確認
2	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
3	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
4	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
5	研究テーマの設定	個人研究テーマの決定
6	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
7	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
8	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
9	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
10	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
11	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
12	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
13	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
14	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
15	研究論文の執筆	各章ごとの論文執筆
16	研究論文の執筆	各章ごとの論文執筆
17	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
18	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
19	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
20	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
21	卒業論文中間発表会	概要レポート及びプレゼン資料を基にした研究概要の発表
22	卒業論文中間発表会	概要レポート及びプレゼン資料を基にした研究概要の発表
23	卒業論文の執筆	中間発表会を受けての論文構成の修正及び必要な先行研究の収集
24	卒業論文の執筆	論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備
25	卒業論文の執筆	論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備
26	卒業論文発表会	口頭試問形式による卒業論文発表会での発表
27	卒業論文発表会	口頭試問形式による卒業論文発表会での発表
28	卒業論文の修正・提出	卒業論文発表会での指導を基に論文の修正・卒業論文の完成、データの提出

29 30		

科目コード	55000				区　分	コア科目			
授業科目名	卒業研究［FE］				担当者名	羽田　あずさ			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業は、研究に関わる過程を体験し、卒業論文を執筆することを目的とする。論文執筆のための指導及び発表のためのプレゼンテーション指導を行う。

＜授業の到達目標＞
卒業論文の完成（本文12000字以上）と発表をすることができる。

＜授業の方法＞
論文執筆に向けての個別指導卒業論文中間発表卒業論文発表会（口頭試問）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無し

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前：各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析をする（1時間程度）。事後：進捗状況の報告準備をする（30分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）　と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度等30%、中間発表20%、論文50%

＜教科書＞
特に指定しない

＜参考書＞
特に指定しない

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	卒業研究について	卒業研究の目的・内容・方法・評価等について理解する。
2	研究テーマの設定１	各自が設定した研究テーマについて検討する。
3	研究テーマの設定２	各自が設定した研究テーマについて検討する。
4	研究テーマの設定３	各自が設定した研究テーマについて検討する。
5	研究テーマの設定４	研究テーマを決定する。
6	研究計画書１	各自が設定した研究テーマと研究方法に沿って、研究計画書を作成する。
7	研究計画書２	各自が設定した研究テーマと研究方法に沿って、研究計画書を作成する。
8	研究計画書３	各自が設定した研究テーマと研究方法に沿って、研究計画書を作成する。
9	情報収集１	各自の研究テーマに沿った先行研究（書籍・論文等）の収集をする。
10	情報収集２	各自の研究テーマに沿った先行研究（書籍・論文等）の収集をする。
11	情報収集３	各自の研究テーマに沿った先行研究（書籍・論文等）の収集をする。
12	情報収集４	各自の研究テーマに沿った先行研究（書籍・論文等）の収集をする。
13	情報収集５	各自の研究テーマに沿った先行研究（書籍・論文等）の収集をする。
14	整理・分析１	先行研究の整理及び分析をする。
15	整理・分析２	先行研究の整理及び分析をする。
16	整理・分析３	先行研究の整理及び分析をする。
17	論文の章立て	論文の章立ての検討をする。
18	卒業論文の執筆１	各章ごと論文を執筆する。
19	卒業論文の執筆２	各章ごと論文を執筆する。
20	卒業論文の執筆３	各章ごと論文を執筆する。
21	卒業論文の執筆４	各章ごと論文を執筆する。
22	卒業論文の執筆５	各章ごと論文を執筆する。
23	卒業論文中間発表会１	卒業論文の概要について発表する。
24	卒業論文中間発表会２	卒業論文の概要について発表する。
25	卒業論文の執筆６	中間発表会での指導を受けて、論文構成の修正及び執筆をする。
26	卒業論文の執筆７	卒業論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備をする。
27	卒業論文の執筆８	卒業論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備をする。
28	卒業論文発表会	口頭試問形式による卒業論文発表会での発表をする。

29 30		

科目コード	55000				区　分	コア科目		
授業科目名	卒業研究［FE］				担当者名	西田　修斗		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
卒業研究として、各自のテーマに基づき研究を進め、論文の作成および発表を行う。教育や算数・数学に関するテーマを中心に、研究の進行に応じて指導を行い、論文の構成や内容の改善を図るとともに、発表を通して自らの研究内容を分かりやすく伝える力を養う。また、数学的な見方・考え方や授業づくりの視点を踏まえ、自らの研究を深めることを目指す。

＜授業の到達目標＞
① 自ら設定したテーマに基づき研究を進め、卒業論文（本文12000字以上）を完成させることができる。（DP2・DP3）② 研究内容を整理し、論理的に構成された論文としてまとめることができる。（DP2・DP3）③ 研究内容を分かりやすく説明し、発表および質疑応答を行うことができる。（DP1・DP3）

＜授業の方法＞
個別指導を中心に進める。研究の進行状況に応じて指導を行い、中間発表および最終発表を実施する。必要に応じて、研究の進め方や論文の構成、発表方法について助言を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有（発表、質疑応答、ディスカッション）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業外学習として、各自の研究テーマに基づき、文献の収集・整理・分析を行うとともに、研究内容の検討および論文の執筆・修正を進める（計3時間以上）。また、発表に向けて資料作成や内容の整理を行う。これらを通して研究の質を高めることを目的とする。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４(地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。　　)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度等30%、中間発表20%、論文50%

＜教科書＞
特に指定しない

＜参考書＞
特に指定しない

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	卒業研究について	卒業研究の目的・内容・方法・評価等について理解する。
2	研究テーマの設定１	各自が設定した研究テーマについて検討する。
3	研究テーマの設定２	各自が設定した研究テーマについて検討する。
4	研究テーマの設定３	各自が設定した研究テーマについて検討する。
5	研究テーマの設定４	研究テーマを決定する。
6	研究計画書１	各自が設定した研究テーマと研究方法に沿って、研究計画書を作成する。
7	研究計画書２	各自が設定した研究テーマと研究方法に沿って、研究計画書を作成する。
8	研究計画書３	各自が設定した研究テーマと研究方法に沿って、研究計画書を作成する。
9	情報収集１	各自の研究テーマに沿った先行研究（書籍・論文等）の収集をする。
10	情報収集２	各自の研究テーマに沿った先行研究（書籍・論文等）の収集をする。
11	情報収集３	各自の研究テーマに沿った先行研究（書籍・論文等）の収集をする。
12	情報収集４	各自の研究テーマに沿った先行研究（書籍・論文等）の収集をする。
13	情報収集５	各自の研究テーマに沿った先行研究（書籍・論文等）の収集をする。
14	整理・分析１	先行研究の整理及び分析をする。
15	整理・分析２	先行研究の整理及び分析をする。
16	整理・分析３	先行研究の整理及び分析をする。
17	論文の章立て	論文の章立ての検討をする。
18	卒業論文の執筆１	各章ごと論文を執筆する。
19	卒業論文の執筆２	各章ごと論文を執筆する。
20	卒業論文の執筆３	各章ごと論文を執筆する。
21	卒業論文の執筆４	各章ごと論文を執筆する。
22	卒業論文の執筆５	各章ごと論文を執筆する。
23	卒業論文中間発表会１	卒業論文の概要について発表する。

24	卒業論文中間発表会２	卒業論文の概要について発表する。
25	卒業論文の執筆６	中間発表会での指導を受けて、論文構成の修正及び執筆をする。
26	卒業論文の執筆７	卒業論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備をする。
27	卒業論文の執筆８	卒業論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備をする。
28	卒業論文発表会	口頭試問形式による卒業論文発表会での発表をする。
29	卒業論文の修正	卒業論文発表会での指導を受けて、論文を修正する。
30	卒業論文の完成・提出	卒業論文を見直し、最終的な修正をして論文を完成させる。期日までにデータを提出する。

科目コード	55000				区　分	コア科目			
授業科目名	卒業研究［FE］				担当者名	中安　翼			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業は、研究に関わる過程を体験し、卒業論文を執筆することを目的とする。論文執筆のための指導及び発表のためのプレゼンテーション指導を行う。

＜授業の到達目標＞
1.自ら設定した研究課題に対し、適切な方法で資料の収集・分析を行い、客観的な根拠に基づいた考察を記述できる。2.4年間の学修成果を体系的にまとめ､12,000字以上の卒業論文として完成させることができる｡3.発表会において､研究内容を論理的に説明し、質疑に的確に応答できる。本授業は、学科のDP2、DP3、DP4を総合的に評価する科目です。

＜授業の方法＞
論文執筆に向けての個別指導卒業論文中間発表卒業論文発表会（口頭試問）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無し

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習として、各自の研究計画に沿って先行研究（書籍・論文等）の収集・分析を進め、進捗状況の報告準備を行う（1.5時間程度）。事後学習として、指導教員からの指摘事項を論文構成に反映させ、章立ての検討や本文の執筆を継続的に行う（2時間程度）。4年間の学びの集大成として、計画的な研究活動の継続を求める。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４(地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。　　)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度等30%、中間発表20%、論文50%

＜教科書＞
特に指定しない

＜参考書＞
特に指定しない

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	卒業研究について	卒業研究の目的・内容・方法・評価等について理解する。
2	研究テーマの設定１	各自が設定した研究テーマについて検討する。
3	研究テーマの設定２	各自が設定した研究テーマについて検討する。
4	研究テーマの設定３	各自が設定した研究テーマについて検討する。
5	研究テーマの設定４	研究テーマを決定する。
6	研究計画書１	各自が設定した研究テーマと研究方法に沿って、研究計画書を作成する。
7	研究計画書２	各自が設定した研究テーマと研究方法に沿って、研究計画書を作成する。
8	研究計画書３	各自が設定した研究テーマと研究方法に沿って、研究計画書を作成する。
9	情報収集１	各自の研究テーマに沿った先行研究（書籍・論文等）の収集をする。
10	情報収集２	各自の研究テーマに沿った先行研究（書籍・論文等）の収集をする。
11	情報収集３	各自の研究テーマに沿った先行研究（書籍・論文等）の収集をする。
12	情報収集４	各自の研究テーマに沿った先行研究（書籍・論文等）の収集をする。
13	情報収集５	各自の研究テーマに沿った先行研究（書籍・論文等）の収集をする。
14	整理・分析１	先行研究の整理及び分析をする。
15	整理・分析２	先行研究の整理及び分析をする。
16	整理・分析３	先行研究の整理及び分析をする。
17	論文の章立て	論文の章立ての検討をする。
18	卒業論文の執筆１	各章ごと論文を執筆する。
19	卒業論文の執筆２	各章ごと論文を執筆する。
20	卒業論文の執筆３	各章ごと論文を執筆する。
21	卒業論文の執筆４	各章ごと論文を執筆する。
22	卒業論文中間発表会１	卒業論文の概要について発表する。
23	卒業論文中間発表会２	卒業論文の概要について発表する。
24	卒業論文の執筆６	中間発表会での指導を受けて、論文構成の修正及び執筆をする。

25	卒業論文の執筆７	中間発表会での指導を受けて、論文構成の修正及び執筆をする。
26	卒業論文発表会	口頭試問形式による卒業論文発表会での発表をする。
27	卒業論文の修正	卒業論文発表会での指導を受けて、論文を修正する。
28	卒業論文の完成・提出	卒業論文を見直し、最終的な修正をして論文を完成させる。期日までにデータを提出する。
29		
30		

科目コード	55000				区　分	コア科目			
授業科目名	卒業研究［FE］				担当者名	大久保　諒			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
教育学科での学習の総まとめとして、卒業論文または卒業制作に取り組む。ゼミナール担当教員が指導教員となる。

＜授業の到達目標＞
教育学科での学習を踏まえて、各学生が探究したいテーマに基づく卒業論文または卒業制作を完成させる。卒業研究を完遂させる過程で、保育や幼児教育、延いては人間理解や種々の実践活動に対し、①それらに資する問題意識を持てるようになること、②見い出した問題意識へ、一定の回答を与え得る方法を思案できるようになること、③問題意識の内容と、探求の成果として得られた回答を説得的な文章として記述できるようなることを目指す。

＜授業の方法＞
授業は、各ゼミナール担当教員から演習指導を受ける。研究方法や制作方法などゼミ単位で共通なものはグループで指導行うが、基本的には個別指導を展開する。なお、Google Calssroomを利用し、進捗状況を共有しながら、研究指導を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：受講生自身の手で実際に卒業研究を進める。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各個人がゼミ教員の指導に基づき卒業研究または卒業制作を進め、進捗状況を毎回のゼミで確認する。それに基づき、次時の課題を提示する。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４(地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。　　)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
卒業研究または卒業制作の成果物（100%）

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	卒業研究・制作の進め方、スケジュール、単位認定方法など
2	先輩の卒論研究・制作の概要	先行研究として過去の本学卒業生の代表的な卒業研究の概観
3	先輩の卒業研究・制作の分析	先輩の卒業研究・制作から各学生が興味のあるものを選択し、その内容を分析
4	先輩の卒業研究・制作の分析結果発表	先輩の卒業研究・制作から各学生が興味のあるものを選択し、その内容を分析した結果をゼミ内発表
5	卒業研究・制作のテーマ構想	自己の興味ある分野と担当教員の専門性を考慮し、卒業研究・制作の方向性を構想
6	先行研究の分析１	先行研究・制作の論文・作品集などを量的に取集
7	先行研究の分析２	先行研究・制作の論文・作品集などを質的に分析（目的・方法・内容・結果の吟味）
8	先行研究の分析３	各学生が構想するテーマに沿った先行研究・制作を一つ選び目的、方法、内容、結果を分析しゼミ内発表
9	テーマの決定	卒業研究・制作のテーマを決定
10	研究目的の明確化	研究目的と研究対象の吟味
11	研究計画の作成	研究活動スケジュールの確定
12	研究倫理の確認	該当する研究領域の研究倫理規程を確認
13	調査研究・文献研究・制作の開始	研究計画に沿った研究活動の展開
14	調査研究・文献研究・制作の吟味	指導教員との打ち合わせによる研究計画に沿った研究活動の吟味
15	調査研究・文献研究・制作の修正	指導教員との打ち合わせによる研究計画に沿った研究活動の修正(夏季休業中の研究計画の決定)
16	研究・制作の結果の考察	これまでの研究・制作活動の中間まとめ
17	研究テーマの最終決定	研究テーマと副題の決定（変更可能性あり）
18	序論の執筆（卒業研究の場合）	研究テーマ設定の動機、理由、意義
19	問題の所在	先行研究のレビューと研究目的の執筆
20	研究方法の執筆	研究の方法の振り返りと整理
21	研究過程の執筆	調査研究・文献研究のプロセスを確認
22	結果の概観	研究結果の全体像を概観
23	結果の吟味	研究結果を分析的に吟味

24	結果と考察の執筆	結果の事実から論証できる考察を執筆
25	結果と考察の確認	結果の事実から論証できる考察の確認
26	結果と考察の修正	指導教員を吟味し結果と考察の修正
27	結論の確認	論文全体の結論まとめ
28	提出書類の作成	卒業研究・卒業制作の提出書類の最終チェック、卒業発表会の準備
29		
30		

科目コード	55000				区　分	コア科目		
授業科目名	卒業研究［FE］				担当者名	小川　智勢子		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
卒業論文を作成し、発表するための論文指導及びプレゼンテーション指導を行う。

＜授業の到達目標＞
卒業論文を完成（本文12000字以上）することができる。

＜授業の方法＞
個別指導卒業論文中間発表会卒業論文発表会（口頭試問）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
卒業論文中間発表会などの場面で他者の発表や教員の指導・助言を聞き、質問をしたり自分の研究に取り入れたりする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
【事前学習】研究テーマの設定、研究テーマに係る情報収集（1時間）【事後学習】研究テーマに係る整理・分析、研究テーマに係るまとめ方の検討（1時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）　と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
以下の点を総合して評価する①研究計画の適切性②先行研究のレビュー・独自性③論証④文章表現・文字数・誤字脱字

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	卒業研究について	研究の内容と方法について
2	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
3	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
4	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
5	研究テーマの設定	個人研究テーマの決定
6	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
7	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
8	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
9	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
10	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
11	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
12	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
13	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
14	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
15	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
16	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
17	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
18	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
19	卒業論文の執筆	中間発表会に向けての概要レポート及びプレゼン資料の作成
20	卒業論文の執筆	中間発表会に向けての概要レポート及びプレゼン資料の作成
21	卒業論文中間発表会	概要レポート及びプレゼン資料を基にした研究概要の発表
22	卒業論文中間発表会	概要レポート及びプレゼン資料を基にした研究概要の発表
23	卒業論文の執筆	中間発表会を受けての論文構成の修正及び必要な先行研究の収集
24	卒業論文の執筆	論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備
25	卒業論文の修正	論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備
26	卒業論文発表会	口頭試問形式による卒業論文発表会での発表
27	卒業論文の修正・データ提出	卒業論文発表会での指導を基に論文の修正
28	卒業論文の修正・データ提出	卒業論文の完成、データの提出
29		
30		

科目コード	55000				区　分	コア科目		
授業科目名	卒業研究［PH］				担当者名	古山　喜一		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
テーマを決め研究を遂行し、研究計画、データ取得、論議の進め方など、一連の研究プロセスを学ぶ。後期末には卒業研究発表会を行い、研究内容をまとめ上げ発表するスキルを身につける。研究テーマは、柔道整復師として、社会人になったときに役立つテーマとし、実験もしくは調査による研究を原則とする。

＜授業の到達目標＞
卒業論文を執筆する過程を通じて、柔道整復師としての役割と責任を再確認し、専門家への資質を培うと共に、科学的研究思考を修得することを目標とする。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．柔道整復・健康・スポーツに関する調査・研究を通して、柔道整復・健康・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

＜授業の方法＞
課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無し

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
研究課題に関する分野の文献検索を適宜実施しながら、情報を収集し、研究仮説を立てること。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
課題達成度 70%、学習意欲30％で評価する。

＜教科書＞

＜参考書＞
鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方　東京図書
赤間高雄（2014年3月）　はじめて学ぶ 健康・スポーツ科学シリーズ8　スポーツ医学【内科】　化学同人
Scott K. Powers., Edward T. Howley（2020年8月）日本語版監修　内藤久士　柳谷登志雄　小林裕幸　高澤祐治　パワーズ運動生理学　メディカル・サイエンス・インターナショナル

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	受講上の注意，評価方法，講義の概要，卒業研究の進め方
2	導入	論文とは何か
3	研究テーマの設定（1）	研究テーマ発表と討議
4	研究テーマの設定(2)	研究テーマ発表と討議（2）
5	研究方法の決定(1)	心拍数・運動負荷試験・乳酸測定の方法
6	研究方法の決定(2)	研究方法の精査
7	研究方法の決定(3)	結果の検討
8	研究方法の決定(4)	統計処理の検討
9	卒業論文の模範（1）	良い例
10	卒業論文の模範（2）	悪い例
11	研究計画の立案(1)	実験被験者確保とﾍﾙｼﾝｷ宣言に関する理解
12	研究計画の立案(2)	実験スケジュールの立案
13	予備実験（1）	予備実験（1）
14	予備実験（2）	予備実験（2）
15	中間報告（1）	中間報告（1）
16	論文の組み立て（1）	章立て検討
17	論文の組み立て（2）	章立て発表
18	実験（1）	実験準備
19	実験（2）	実験実施（1）
20	実験（3）	実験実施（2）
21	実験（4）	実験データ解析

22	個別指導（1）	課題研究の遂行と個別指導（1）
23	個別指導（2）	課題研究の遂行と個別指導（2）
24	個別指導（3）	課題研究の遂行と個別指導（3）
25	個別指導（4）	課題研究の遂行と個別指導（4）プレゼン資料作成
26	個別指導（5）	課題研究の遂行と個別指導（5）プレゼン資料作成
27	個別指導（6）	プレゼン発表
28	論文提出・最終発表	プレゼン発表・論文修正
29		
30		

科目コード	55000				区　分	コア科目		
授業科目名	卒業研究［PH］				担当者名	河野　儀久		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
テーマを決め研究を遂行し、研究計画、データ取得、論議の進め方など、一連の研究プロセスを学ぶ。後期末には卒業研究発表会を行い、研究内容をまとめ上げ発表するスキルを身につける。研究テーマは、柔道整復師として、社会人になったときに役立つテーマとし、実験もしくは調査による研究を原則とする。

＜授業の到達目標＞
研究を通して柔道整復師としての役割と責任を再確認し、専門家への資質を培うと共に、科学的研究思考を修得することを目標とする。

＜授業の方法＞
ゼミナールⅡは健康科学科のディプロマポリシー７（日進月歩する医学に対し、医療人として学び続ける生涯学習力を身に付ける）および8（修得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自らが立案した新たな課題に主体的、創造的に取り組み、その課題を解決できる能力を身に付ける）と関連付けている。ゼミナールⅠにおいて明確化した各自の研究課題について、調査・実験しながら柔道整復師に必要な知識の確認を行う。基本的には学生自身の発表と共同討議による演習形式で進めていくが、進捗状況によっては個別指導を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
研究プレゼンテーション

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
研究課題に関する分野の文献検索を適宜実施しながら、情報を収集し、研究仮説を立てること。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
課題達成度 70%、学習意欲30％で評価する。

＜教科書＞

＜参考書＞
鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方　東京図書

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	受講上の注意，評価方法，講義の概要
2	導入	論文とは何か
3	研究テーマの設定（1）	研究テーマ発表と討議
4	研究テーマの設定(2)	研究テーマ発表と討議（2）
5	研究方法の決定(1)	シンスプリントの発生機序と予防方法
6	研究方法の決定(2)	研究方法の精査
7	研究方法の決定(3)	結果の検討
8	研究方法の決定(4)	統計処理の検討
9	卒業論文の模範（1）	良い例
10	卒業論文の模範（2）	悪い例
11	研究計画の立案(1)	実験被験者確保とﾍﾙｼﾝｷ宣言に関する理解
12	研究計画の立案(2)	実験スケジュールの立案
13	予備実験（1）	予備実験（1）
14	予備実験（2）	予備実験（2）
15	中間報告（1）	中間報告（1）
16	論文の組み立て（1）	章立て検討
17	論文の組み立て（2）	章立て発表
18	実験（1）	実験準備
19	実験（2）	実験実施（1）
20	実験（3）	実験実施（2）
21	実験（4）	実験データ解析
22	個別指導（1）	課題研究の遂行と個別指導（1）
23	個別指導（2）	課題研究の遂行と個別指導（2）

24	個別指導（3）	課題研究の遂行と個別指導（3）
25	個別指導（4）	課題研究の遂行と個別指導（4）
26	個別指導（5）	課題研究の遂行と個別指導（5）
27	個別指導（6）	プレゼンの理解
28	個別指導（7）	プレゼン資料の作成
29		
30		

科目コード	55000				区　分	コア科目		
授業科目名	卒業研究［PH］				担当者名	畑島　紀昭		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
テーマを決め研究を遂行し、研究計画、データ取得、論議の進め方など、一連の研究プロセスを学ぶ。後期末には卒業研究発表会を行い、研究内容をまとめ上げ発表するスキルを身につける。研究テーマは、柔道整復師として、社会人になったときに役立つテーマとし、実験もしくは調査による研究を原則とする。

＜授業の到達目標＞
研究活動を通して柔道整復師としての役割と責任を理解し、その内容を説明することができる。また、研究課題を設定し、先行研究の収集・整理を行い、研究計画を立案することができる。さらに、データの収集・分析を行い、その結果を科学的根拠に基づいて考察することができる。加えて、研究成果を論文としてまとめ、適切に発表することができる。

＜授業の方法＞
ゼミナールⅡは健康科学科のディプロマポリシー７（日進月歩する医学に対し、医療人として学び続ける生涯学習力を身に付ける）および8（修得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自らが立案した新たな課題に主体的、創造的に取り組み、その課題を解決できる能力を身に付ける）と関連付けている。ゼミナールⅠにおいて明確化した各自の研究課題について、調査・実験しながら柔道整復師に必要な知識の確認を行う。基本的には学生自身の発表と共同討議による演習形式で進めていくが、進捗状況によっては個別指導を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
出現した課題に対してグループワークを実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習（目安：各回 1時間）授業で扱う内容に関連する基礎事項の復習を行うとともに、研究課題に関する分野の文献検索を実施し、ニュースや学術論文を参照しながら必要な情報を収集する。また、収集した情報を基に研究仮説を立て、授業に臨む。事後学習（目安：各回 1時間）授業で指摘された課題や修正点に基づき、研究計画および内容の見直し・修正を行うとともに、追加の文献検索や情報整理を行う。また、データの確認や分析準備を進め、研究の質の向上に努める。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
課題達成度 70%、学習意欲30％で評価する。

＜教科書＞

＜参考書＞
鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方　東京図書

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	受講上の注意，評価方法，講義の概要
2	導入	論文とは何か
3	研究テーマの設定（1）	研究テーマ発表と討議
4	研究テーマの設定(2)	研究テーマ発表と討議（2）
5	研究方法の決定(1)	シンスプリントの発生機序と予防方法
6	研究方法の決定(2)	研究方法の精査
7	研究方法の決定(3)	結果の検討
8	研究方法の決定(4)	統計処理の検討
9	卒業論文の模範（1）	良い例
10	卒業論文の模範（2）	悪い例
11	研究計画の立案(1)	実験被験者確保とﾍﾙｼﾝｷ宣言に関する理解
12	研究計画の立案(2)	実験スケジュールの立案
13	予備実験（1）	予備実験（1）
14	予備実験（2）	予備実験（2）
15	中間報告（1）	中間報告（1）
16	論文の組み立て（1）	章立て検討
17	論文の組み立て（2）	章立て発表
18	実験（1）	実験準備
19	実験（2）	実験実施（1）

20	実験（3）	実験実施（2）
21	実験（4）	実験データ解析
22	個別指導（1）	課題研究の遂行と個別指導（1）
23	個別指導（2）	課題研究の遂行と個別指導（2）
24	個別指導（3）	課題研究の遂行と個別指導（3）
25	個別指導（4）	課題研究の遂行と個別指導（4）
26	個別指導（5）	課題研究の遂行と個別指導（5）
27	個別指導（6）	プレゼンの理解・資料作成
28	論文提出・最終発表	プレゼン発表・論文修正
29		
30		

科目コード	55000				区　分	コア科目		
授業科目名	卒業研究［PH］				担当者名	坂本　賢広		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
テーマを決め研究を遂行し、研究計画、データ取得、論議の進め方など、一連の研究プロセスを学ぶ。後期末には卒業研究発表会を行い、研究内容をまとめ上げ発表するスキルを身につける。研究テーマは、柔道整復師として、社会人になったときに役立つテーマとし、実験もしくは調査による研究を原則とする。

＜授業の到達目標＞
卒業論文を執筆する過程を通じて、柔道整復師としての役割と責任を再確認し、専門家への資質を培うと共に、科学的研究思考を修得することを目標とする。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．柔道整復・健康・スポーツに関する調査・研究を通して、柔道整復・健康・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

＜授業の方法＞
課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無し

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
研究課題に関する分野の文献検索を適宜実施しながら、情報を収集し、研究仮説を立てること。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
課題達成度 70%、学習意欲30％で評価する。

＜教科書＞

＜参考書＞
鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方　東京図書
赤間高雄（2014年3月）　はじめて学ぶ 健康・スポーツ科学シリーズ8　スポーツ医学【内科】　化学同人
Scott K. Powers., Edward T. Howley（2020年8月）日本語版監修　内藤久士　柳谷登志雄　小林裕幸　高澤祐治　パワーズ運動生理学　メディカル・サイエンス・インターナショナル

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	受講上の注意，評価方法，講義の概要，卒業研究の進め方
2	導入	論文とは何か
3	研究テーマの設定（1）	研究テーマ発表と討議
4	研究テーマの設定(2)	研究テーマ発表と討議（2）
5	研究方法の決定(1)	心拍数・運動負荷試験・乳酸測定の方法
6	研究方法の決定(2)	研究方法の精査
7	研究方法の決定(3)	結果の検討
8	研究方法の決定(4)	統計処理の検討
9	卒業論文の模範（1）	良い例
10	卒業論文の模範（2）	悪い例
11	研究計画の立案(1)	実験被験者確保とﾍﾙｼﾝｷ宣言に関する理解
12	研究計画の立案(2)	実験スケジュールの立案
13	予備実験（1）	予備実験（1）
14	予備実験（2）	予備実験（2）
15	中間報告（1）	中間報告（1）
16	論文の組み立て（1）	章立て検討
17	論文の組み立て（2）	章立て発表
18	実験（1）	実験準備
19	実験（2）	実験実施（1）
20	実験（3）	実験実施（2）
21	実験（4）	実験データ解析

22	個別指導（1）	課題研究の遂行と個別指導（1）
23	個別指導（2）	課題研究の遂行と個別指導（2）
24	個別指導（3）	課題研究の遂行と個別指導（3）
25	個別指導（4）	課題研究の遂行と個別指導（4）プレゼン資料作成
26	個別指導（5）	課題研究の遂行と個別指導（5）プレゼン資料作成
27	個別指導（6）	プレゼン発表
28	論文提出・最終発表	プレゼン発表・論文修正
29		
30		

科目コード	55000				区　分	コア科目			
授業科目名	卒業研究［PH］				担当者名	簀戸　崇史			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
テーマを決め研究を遂行し、研究計画、データ取得、論議の進め方など、一連の研究プロセスを学ぶ。後期末には卒業研究発表会を行い、研究内容をまとめ上げ発表するスキルを身につける。研究テーマは、柔道整復師として、社会人になったときに役立つテーマとし、実験もしくは調査による研究を原則とする。

＜授業の到達目標＞
研究を通して柔道整復師としての役割と責任を再確認し、専門家への資質を培うと共に、科学的研究思考を修得することを目標とする。　科学的研究思考を持つことができる。探求意欲を持ち課題に対して最後まで取り組むことができる。

＜授業の方法＞
ゼミナールⅡは日進月歩する医学に対し、医療人として学び続ける生涯学習力を身に付け、および修得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自らが立案した新たな課題に主体的、創造的に取り組み、その課題を解決できる能力を身に付ける。ゼミナールにおいて明確化した各自の研究課題について、調査・実験しながら柔道整復師に必要な知識の確認を行う。基本的には学生自身の発表と共同討議による演習形式で進めていくが、進捗状況によっては個別指導を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループ学習において双方向で理解度を確認する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
研究課題に関する分野の文献検索を適宜実施しながら、情報を収集し、研究仮説を立てること。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
DP４　柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
課題達成度 70%、学習意欲30％（事前課題、レポート等）で評価する。

＜教科書＞

＜参考書＞
鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方　東京図書

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	受講上の注意，評価方法，講義の概要
2	導入	論文とは何か
3	研究テーマの設定（1）	研究テーマ発表と討議
4	研究テーマの設定(2)	研究テーマ発表と討議（2）
5	研究方法の決定(1)	シンスプリントの発生機序と予防方法
6	研究方法の決定(2)	研究方法の精査
7	研究方法の決定(3)	結果の検討
8	研究方法の決定(4)	統計処理の検討
9	卒業論文の模範（1）	良い例
10	卒業論文の模範（2）	悪い例
11	研究計画の立案(1)	実験被験者確保とﾍﾙｼﾝｷ宣言に関する理解
12	研究計画の立案(2)	実験スケジュールの立案
13	予備実験（1）	予備実験（1）
14	予備実験（2）	予備実験（2）
15	中間報告（1）	中間報告（1）
16	論文の組み立て（1）	章立て検討
17	論文の組み立て（2）	章立て発表
18	実験（1）	実験準備
19	実験（2）	実験実施（1）
20	実験（3）	実験実施（2）
21	実験（4）	実験データ解析
22	個別指導（1）	課題研究の遂行と個別指導（1）
23	個別指導（2）	課題研究の遂行と個別指導（2）
24	個別指導（3）	課題研究の遂行と個別指導（3）

25	個別指導（4）	課題研究の遂行と個別指導（4）
26	個別指導（5）	課題研究の遂行と個別指導（5）
27	個別指導（6）	プレゼンの理解
28	個別指導（7）	プレゼン資料の作成・プレゼン発表
29		
30		

科目コード	55000				区　分	コア科目		
授業科目名	卒業研究［PP］				担当者名	坂本　康輔		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本科目では、卒業論文の執筆を通して、研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする。そのため、問いの立て方を指導の中心とし、履修者相互の議論によって理解を深める手立てとする。

＜授業の到達目標＞
関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。レポート発表及びディスカッションができる。研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

＜授業の方法＞
研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を引き出すため議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
要素：有卒業論文の執筆に向けた研究討議の実施にあたり、先行研究の発表及びディスカッション、中間報告に関する質疑応答や意見交換会を実施します。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習：各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析をする（1時間程度）。事後学習：進捗状況報告から新たに見つかった課題を行う（30分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
ポートフォリオおよび授業態度等 30%，中間発表 20%，論文 50%

＜教科書＞
特に指定しない。

＜参考書＞
特に指定しない。

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	研究課題の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
15	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究

		をよりよいものにする。
16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29		
30		

科目コード	55000				区　分	コア科目		
授業科目名	卒業研究［PP］				担当者名	十河　直太		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本科目では、卒業論文の執筆を通して、研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする。そのため、問いの立て方を指導の中心とし、履修者相互の議論によって理解を深める手立てとする。

＜授業の到達目標＞
関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。レポート発表及びディスカッションができる。研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

＜授業の方法＞
研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を引き出すため議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素：有卒業論文について担当教員や他の学生とディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析をする（1時間程度）。進捗状況の報告準備をする（30分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
ポートフォリオおよび授業態度等 30%，中間発表 20%，論文 50%

＜教科書＞
特に指定しない。

＜参考書＞
特に指定しない。

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成?①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	研究課題の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	今後の研究計画の確認	全員の進捗状況を確認し、後期の進め方について考える。
16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。

17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
26	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
27	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
28	卒業研究のまとめ	１年間の課題研究の総括を行う。
29		
30		

科目コード	55000				区　分	コア科目			
授業科目名	卒業研究［PP］				担当者名	保科　圭汰			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本科目では、卒業論文の執筆を通して、研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする。そのため、問いの立て方を指導の中心とし、履修者相互の議論によって理解を深める手立てとする。

＜授業の到達目標＞
関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。レポート発表及びディスカッションができる。研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

＜授業の方法＞
研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を引き出すため議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素　有3、4人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめ、グループごとに発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析をする（1時間程度）。進捗状況の報告準備をする（30分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度 30%，中間発表 20%，論文 50%

＜教科書＞
特に指定しない。

＜参考書＞
特に指定しない。

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	研究課題の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。

16	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
20	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
22	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
27	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
29		
30		

科目コード	55000				区　分	コア科目		
授業科目名	卒業研究［PP］				担当者名	眞鍋　芳江		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本科目では、卒業論文の執筆を通して、研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする。そのため、問いの立て方を指導の中心とし、履修者相互の議論によって理解を深める手立てとする。

＜授業の到達目標＞
関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。レポート発表及びディスカッションができる。研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

＜授業の方法＞
研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を引き出すため議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素　有2～3人のグループに分かれ、テーマについて意見をまとめ、グループごとに発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析をする（2時間程度）。進捗状況の報告準備をする（1時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
ポートフォリオおよび授業態度等 30%，中間発表 20%，論文 50%

＜教科書＞
特に指定しない。

＜参考書＞
特に指定しない。

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	研究課題の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
15	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究

		をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
26	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
27	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
28	１年間のまとめ	１年間の課題研究の総括を行う。
29		
30		

科目コード	55000				区　分	コア科目			
授業科目名	卒業研究［PP］				担当者名	堀川　峻			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本科目では、卒業論文の執筆を通して、研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする。そのため、問いの立て方を指導の中心とし、履修者相互の議論によって理解を深める手立てとする。

＜授業の到達目標＞
関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。レポート発表及びディスカッションができる。研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。研究を卒業論文、またはゼミ論文としてまとめ、その発表ができる。

＜授業の方法＞
研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を引き出すため議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニング有個人の研究課題の進捗に関して、グループ間で議論を行うことで、よりよい研究の実施に向けて話し合いを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習として、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べること（2時間）。また、調査・研究する課題の発表準備を行うこと（3時間）。事後学習としては、授業内容を改めて整理し、関心のある課題の発見を行うこと(1時間)。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
ポートフォリオおよび授業態度等 30%，中間発表 20%，論文 50%

＜教科書＞
特に指定しない。

＜参考書＞
特に指定しない。

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	研究課題の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究

		をよりよいものにする。
16	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑬	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
27	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
29		
30		

科目コード	55000				区　分	コア科目		
授業科目名	卒業研究［PP］				担当者名	國友　亮佑		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本科目では、卒業論文の執筆を通して、研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする。そのため、問いの立て方を指導の中心とし、履修者相互の議論によって理解を深める手立てとする。

＜授業の到達目標＞
関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。レポート発表及びディスカッションができる。研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

＜授業の方法＞
研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を引き出すため議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
プレゼンテーション、ディスカッション

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習：各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析し、進捗状況の報告準備をする（所要時間：1時間程度）事後学習：プレゼンテーションやディスカッションを通じて出た課題や発見をまとめておくこと。（所要時間：1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度 30%，中間発表 20%，論文 50%

＜教科書＞
特に指定しない。

＜参考書＞
特に指定しない。

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成?①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	研究課題の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。

16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	卒業論文最終確認	各自の研究成果の発表
28	１年間のまとめ	１年間の課題研究の総括を行う。
29		
30		

科目コード	55000				区　分	コア科目		
授業科目名	卒業研究［PP］				担当者名	佐藤　伸之		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本科目では、卒業論文の執筆を通して、研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする。そのため、問いの立て方を指導の中心とし、履修者相互の議論によって理解を深める手立てとする。

＜授業の到達目標＞
関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解できるようになる。レポート発表及びディスカッションができるようになる。研究レポート・論文作成の基本を身に付けている。研究を論文としてまとめ、その発表ができるようになる。

＜授業の方法＞
研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を引き出すため議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
要素：有卒業論文の執筆に向けた研究討議の実施にあたり、先行研究の発表及びディスカッション、中間報告に関する質疑応答や意見交換会を実施します。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習：進捗状況の報告準備をする（1.5時間程度）。事後学習：各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析をする（1.5時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
ポートフォリオおよび授業態度等 30%，中間発表 20%，論文 50%

＜教科書＞
特に指定しない。

＜参考書＞
特に指定しない。

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	研究課題の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
15	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究

		をよりよいものにする。
16	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
20	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
22	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
27	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
28	１年間のまとめ	１年間の課題研究の総括を行う。
29		
30		

科目コード	55000				区　分	コア科目		
授業科目名	卒業研究［PP］				担当者名	田中　耕作		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

＜授業の到達目標＞

卒業論文を執筆する過程を通じて、学習を通して社会人に求められる知識、技能を身につけることを目標とする。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3.自らの現状を評価し課題を発見し､その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

＜授業の方法＞

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブラーニングの要素：あり課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、ディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習として、体育・スポーツに関する課題について、新聞・雑誌・先行研究を用いて情報収集を行い、研究テーマに関連する基礎知識を整理する（2～3時間程度）。また、調査・研究内容の発表に向けた資料作成や構成の検討を行う（2～3時間程度）。事後学習として、授業内での指導やディスカッション内容を踏まえ、研究内容の修正・深化を図るとともに、データ整理や分析、レポートの加筆・修正を行う（4～7時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度50%、発表・課題50%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的と進め方
2	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
3	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
4	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
5	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
6	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
7	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
8	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
9	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
10	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
11	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
12	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
13	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
14	前期卒業論進捗発表会	課題研究用にスライドや資料を作成する。
15	前期卒業論進捗発表会	卒業論文に向けて取り組みたい内容を発表する。
16	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
17	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
18	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
19	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
20	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
21	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。

22	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
23	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
24	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
25	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
26	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
27	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
28	最終論文発表	最終論文発表会で発表する
29		
30		

科目コード	55000				区　分	コア科目		
授業科目名	卒業研究［PP］				担当者名	梶谷　亮輔		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

＜授業の到達目標＞

卒業論文を執筆する過程を通じて、学習を通して社会人に求められる知識、技能を身につけることを目標とする。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3.自らの現状を評価し課題を発見し､その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

＜授業の方法＞

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

あり必要に応じてディスカッションを行う

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。基礎的知識獲得に必要な自主学習（7時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度50%、発表・課題50%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的と進め方
2	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
3	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
4	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
5	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
6	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
7	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
8	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
9	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
10	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
11	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
12	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
13	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
14	前期卒業論進捗発表会	課題研究用にスライドや資料を作成する。
15	前期卒業論進捗発表会	卒業論文に向けて取り組みたい内容を発表する。
16	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
17	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
18	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
19	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
20	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
21	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
22	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
23	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
24	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。

25	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
26	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
27	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
28	後期ゼミ内発表	最終論文発表
29		
30		

科目コード	55000				区　分	コア科目		
授業科目名	卒業研究［PP］				担当者名	吉岡　利貢		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

＜授業の到達目標＞

卒業論文を執筆する過程を通じて、学習を通して社会人に求められる知識、技能を身につけることを目標とする。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3.自らの現状を評価し課題を発見し､その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

＜授業の方法＞

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブラーニングの要素：あり課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、ディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。基礎的知識獲得に必要な自主学習（7時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度50%、発表・課題50%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的と進め方
2	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
3	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
4	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
5	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
6	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
7	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
8	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
9	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
10	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
11	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
12	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
13	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
14	前期卒業論進捗発表会	課題研究用にスライドや資料を作成する。
15	前期卒業論進捗発表会	卒業論文に向けて取り組みたい内容を発表する。
16	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
17	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
18	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
19	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
20	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
21	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
22	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
23	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。

24	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
25	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
26	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
27	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
28	後期ゼミ内発表①	最終論文発表準備
29	後期ゼミ内発表②	最終論文発表準備
30	まとめ	ゼミナール2と総括と最終論文発表

科目コード	55000				区　分	コア科目		
授業科目名	卒業研究［PP］				担当者名	品田　直宏		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

＜授業の到達目標＞

ゼミ論文を執筆する過程を通じて、学習を通して社会人に求められる知識、技能を身につけることを目標とする。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3.自らの現状を評価し課題を発見し､その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

＜授業の方法＞

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

実践的に身体を動かすことがある

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。基礎的知識獲得に必要な自主学習（7時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー４(体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度50%、発表・課題50%

＜教科書＞

＜参考書＞

日本コーチング学会（2017/4/4）　コーチング学への招待　?大修館書店
福永 哲夫（著），山本 正嘉（著）(2018/10/1)　体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方（体育・スポーツ・健康科学テキストブックシリーズ）　市村出版
高松 薫（2021/3/22）　競技スポーツにおけるコーチング・トレーニングの将来展望: 実践と研究の場における知と技の好循環を求めて　? 筑波大学出版会

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
3	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
4	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
5	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
6	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
7	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
8	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
9	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
10	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
11	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
12	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
13	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
14	前期ゼミ論中間発表会	課題研究用にスライドや資料を作成する。
15	前期ゼミ論中間発表会	卒業論文に向けてのテーマ（仮）取り組みたい内容、方法を発表する。
16	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
17	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
18	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
19	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。

20	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
21	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
22	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
23	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
24	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
25	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
26	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
27	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
28	後期ゼミ内発表	最終論文発表
29		
30		

科目コード	55000				区　分	コア科目		
授業科目名	卒業研究［PP］				担当者名	藤谷　かおる		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本科目では、卒業論文の執筆を通して、研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする。そのため、問いの立て方を指導の中心とし、履修者相互の議論によって理解を深める。

＜授業の到達目標＞
関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。・レジュメ発表およびディスカッションができる。・研究レポート・論文作成の基本を身につける。・研究を卒業論文、またはゼミ論文としてまとめ、その発表ができる。

＜授業の方法＞
研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を導き出すよう、議論を多用する。その後の授業では、履修者の進歩状況を確認しながら、進める。最終的には卒業論文をまとめ、発表会で報告できるようにする。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニング有個人の研究課題の進捗状況に応じて、グループ間の議論を行うことで、研究の実施、改善を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習として、体育・スポーツの課題・問題について、先行研究を通して調べること(2時間)。また、調査・研究する課題の発表準備を行うこと(3時間)。事後学習として、授業内容やコメントを整理し、課題の理解を深めること(1時間)。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通じて課題の解決に参画することができる）及びディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と向き合い、感情を整理し、目標達成ができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
中間発表50点、論文50点

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	卒論研究の目的、内容、授業方法、評価等について理解する。
2	研究課題について(1)	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について(2)	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について(3)	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成(1)	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成(2)	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	研究計画書の作成(3)	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
8	研究課題の遂行とその報告(1)	自らの研究を深め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答によりさらに研究を深める。
9	研究課題の遂行とその報告(2)	自らの研究を深め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答によりさらに研究を深める。
10	研究課題の遂行とその報告(3)	自らの研究を深め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答によりさらに研究を深める。
11	研究課題の遂行とその報告(4)	自らの研究を深め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答によりさらに研究を深める。
12	研究課題の遂行とその報告(5)	自らの研究を深め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答によりさらに研究を深める。
13	研究課題の遂行とその報告(6)	自らの研究を深め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答によりさらに研究を深める。
14	研究課題の遂行とその報告(7)	自らの研究を深め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答によりさらに研究を深める。
15	研究課題の遂行とその報告(8)	自らの研究を深め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答によりさらに研究を深める。
16	研究課題の遂行とその報告(9)	自らの研究を深め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答によりさらに研究を深める。
17	研究課題の遂行とその報告(10)	自らの研究を深め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答によりさらに研究を

		深める。
18	中間発表(1)	各自、研究の中間発表を行い、お互い検討しあうことで、完成形に近づけていく。
19	中間発表(2)	各自、研究の中間発表を行い、お互い検討しあうことで、完成形に近づけていく。
20	研究課題の遂行とその報告(11)	自らの研究を深め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答によりさらに研究を深める。
21	研究課題の遂行とその報告(12)	自らの研究を深め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答によりさらに研究を深める。
22	研究課題の遂行とその報告(13)	自らの研究を深め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答によりさらに研究を深める。
23	研究課題の遂行とその報告(14)	自らの研究を深め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答によりさらに研究を深める。
24	研究課題の遂行とその報告(15)	自らの研究を深め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答によりさらに研究を深める。
25	研究課題の遂行とその報告(16)	自らの研究を深め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答によりさらに研究を深める。
26	卒業論文最終確認(1)	各自の研究成果の発表と他者への質問
27	卒業論文最終確認(2)	各自の研究成果の発表と他者への質問
28	卒業論文最終確認(3)	各自の研究成果の発表と他者への質問
29		
30		

科目コード	55000				区　分	コア科目			
授業科目名	卒業研究［PP］				担当者名	片桐　夏海			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
テーマを決め研究を遂行し、研究計画、データ取得、論議の進め方など、一連の研究プロセスを学ぶ。後期末には卒業研究発表会を行い、研究内容をまとめ上げ発表するスキルを身につける。

＜授業の到達目標＞
研究を通して体育人としての役割と責任を再確認し、専門家への資質を培うと共に、科学的研究思考を修得することを目標とする。

＜授業の方法＞
講義・演習・実技等の形態をとり、基本的には学生自身の発表と共同討議による演習形式で進めていくが、進捗状況によっては個別指導を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
本授業では、学生が自ら研究テーマを設定し、計画立案から発表までの過程を主体的に進める。演習形式による発表や討議、個別指導を通じて、課題発見力や論理的思考力を育む学習が展開され、アクティブラーニングの要素が含まれている。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
文献研究、プレゼンテーションの準備等

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度・意欲 30%、研究論文 50%、プレゼンテーション能力 20%

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	受講上の注意，評価方法，講義の概要
2	導入	論文とは何か
3	研究テーマの設定（1）	研究テーマ発表と討議
4	研究テーマの設定(2)	研究テーマ発表と討議（2）
5	研究方法の決定(1)	研究方法の精査
6	研究方法の決定(2)	研究方法の精査
7	研究方法の決定(3)	結果の検討
8	研究方法の決定(4)	統計処理の検討
9	卒業論文の模範（1）	良い例
10	卒業論文の模範（2）	悪い例
11	研究計画の立案(1)	実験被験者確保とﾍﾙｼﾝｷ宣言に関する理解
12	研究計画の立案(2)	実験スケジュールの立案
13	予備実験（1）	予備実験（1）
14	予備実験（2）	予備実験（2）
15	中間報告（1）	中間報告（1）
16	論文の組み立て（1）	章立て検討
17	論文の組み立て（2）	章立て発表
18	実験（1）	実験準備
19	実験（2）	実験実施（1）
20	実験（3）	実験実施（2）
21	実験（4）	実験データ解析
22	個別指導（1）	課題研究の遂行と個別指導（1）
23	個別指導（2）	課題研究の遂行と個別指導（2）
24	個別指導（3）	課題研究の遂行と個別指導（3）
25	個別指導（4）	課題研究の遂行と個別指導（4）
26	個別指導（5）	課題研究の遂行と個別指導（5）

27	個別指導（6）	プレゼン発表
28	論文提出・最終発表	プレゼン発表・論文修正
29		
30		

科目コード	55000				区　分	コア科目		
授業科目名	卒業研究［PP］				担当者名	早田　剛		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。

＜授業の到達目標＞
本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

＜授業の方法＞
課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィールドワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素：有実験計画立案や実験実施、考察検討には、共同作業及びディスカッションを行なっていく。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業への取組(グループへの貢献度含む)50%、課題 50%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方　目標設定
2	研究計画作成	仮説　背景
3	研究計画作成	目的　方法
4	進捗発表会①	研究テーマ発表　ディスカッション
5	進捗発表会②	研究テーマ発表　ディスカッション
6	進捗発表会③	研究テーマ発表　ディスカッション
7	予備実験①	データの採取、解析
8	予備実験②	データの採取、解析
9	予備実験③	データの採取、解析
10	予備実験　発表会①	予備実験データ発表　ディスカッション
11	予備実験　発表会②	予備実験データ発表　ディスカッション
12	予備実験　発表会③	予備実験データ発表　ディスカッション
13	予備実験　発表会④	予備実験データ発表　ディスカッション
14	後期研究に向けて計画	予備実験を参考に背景、目的、方法を再度作成
15	前期まとめ	前期まとめと後期向けての課題
16	卒業研究①	本実験
17	卒業研究②	本実験
18	卒業研究③	本実験
19	卒業研究④	本実験
20	卒業研究⑤	進捗発表　ディスカッション
21	卒業研究⑥	進捗発表　ディスカッション
22	卒業研究⑦	進捗発表　ディスカッション
23	卒業研究⑧	卒業論文の書き方
24	卒業研究⑨	抄録の書き方
25	卒業研究⑩	論文作成

26	卒業研究⑪	論文作成
27	卒業研究⑫	発表資料作成
28	卒業研究⑬	卒論発表
29		
30		

科目コード	55000				区　分	コア科目		
授業科目名	卒業研究［PP］				担当者名	伊藤　三千雄		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。

＜授業の到達目標＞

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

＜授業の方法＞

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素有：定期的な課題発表を行い、グループディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習：①研究テーマに関する文献・先行研究の収集と精読。②研究計画の作成・修正。③調査・実験・フィールドワークの準備。④課題発表・中間報告の資料作成。（毎回 約3時間）事後学習：①授業での指導・助言を踏まえた研究内容の修正。②データ整理・分析・考察の作成。③発表資料・卒業論文の執筆・推敲。（毎回 約3時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー４(体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への取組(グループへの貢献度含む) 50%、課題 50%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方　目標設定
2	研究計画作成	仮説　背景
3	研究計画作成	目的　方法
4	進捗発表会①	研究テーマ発表　ディスカッション
5	進捗発表会②	研究テーマ発表　ディスカッション
6	進捗発表会③	研究テーマ発表　ディスカッション
7	予備実験①	データの採取、解析
8	予備実験②	データの採取、解析
9	予備実験③	データの採取、解析
10	予備実験　発表会①	予備実験データ発表　ディスカッション
11	予備実験　発表会②	予備実験データ発表　ディスカッション
12	予備実験　発表会③	予備実験データ発表　ディスカッション
13	予備実験　発表会④	予備実験データ発表　ディスカッション
14	前期まとめ、後期研究に向けて計画	前期まとめと後期に向けての課題、予備実験を参考に背景、目的、方法を再度作成
15	卒業研究①	本実験
16	卒業研究②	本実験
17	卒業研究③	本実験
18	卒業研究④	本実験
19	卒業研究⑤	本実験
20	卒業研究⑥	進捗発表　ディスカッション
21	卒業研究⑦	進捗発表　ディスカッション
22	卒業研究⑧	進捗発表　ディスカッション
23	卒業研究⑨	卒業論文の書き方
24	卒業研究⑩	抄録の書き方

25	卒業研究⑪	論文作成、発表資料作成
26	卒業研究⑫	論文作成、発表資料作成
27	卒業研究⑬	論文作成、発表資料作成
28	ゼミ内研究発表会	統括
29		
30		

科目コード	55000				区　分	コア科目		
授業科目名	卒業研究［PP］				担当者名	戸田　晃大		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。

＜授業の到達目標＞
本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

＜授業の方法＞
課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有：定期的な課題発表を行い、グループディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習：①研究テーマに関する文献・先行研究の収集と精読。②研究計画の作成・修正。③調査・実験・フィールドワークの準備。④課題発表・中間報告の資料作成。（毎回 約3時間）事後学習：①授業での指導・助言を踏まえた研究内容の修正。②データ整理・分析・考察の作成。③発表資料・卒業論文の執筆・推敲。（毎回 約3時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４(体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業への取組(グループへの貢献度含む) 50%、課題 50%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方　目標設定
2	研究計画作成	仮説　背景
3	研究計画作成	目的　方法
4	進捗発表会①	研究テーマ発表　ディスカッション
5	進捗発表会②	研究テーマ発表　ディスカッション
6	進捗発表会③	研究テーマ発表　ディスカッション
7	予備実験①	データの採取、解析
8	予備実験②	データの採取、解析
9	予備実験③	データの採取、解析
10	予備実験　発表会①	予備実験データ発表　ディスカッション
11	予備実験　発表会②	予備実験データ発表　ディスカッション
12	予備実験　発表会③	予備実験データ発表　ディスカッション
13	予備実験　発表会④	予備実験データ発表　ディスカッション
14	前期まとめ、後期研究に向けて計画	前期まとめと後期に向けての課題、予備実験を参考に背景、目的、方法を再度作成
15	卒業研究①	本実験
16	卒業研究②	本実験
17	卒業研究③	本実験
18	卒業研究④	本実験
19	卒業研究⑤	本実験
20	卒業研究⑥	進捗発表　ディスカッション
21	卒業研究⑦	進捗発表　ディスカッション
22	卒業研究⑧	進捗発表　ディスカッション
23	卒業研究⑨	卒業論文の書き方
24	卒業研究⑩	抄録の書き方

25	卒業研究⑪	論文作成、発表資料作成
26	卒業研究⑫	論文作成、発表資料作成
27	卒業研究⑬	論文作成、発表資料作成
28	ゼミ内研究発表会	統括
29		
30		

科目コード	55000				区　分	コア科目		
授業科目名	卒業研究［PP］				担当者名	矢野　智彦		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。

＜授業の到達目標＞

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

＜授業の方法＞

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素有：定期的な課題発表を行い、グループディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習：①研究テーマに関する文献・先行研究の収集と精読。②研究計画の作成・修正。③調査・実験・フィールドワークの準備。④課題発表・中間報告の資料作成。（毎回 約3時間）事後学習：①授業での指導・助言を踏まえた研究内容の修正。②データ整理・分析・考察の作成。③発表資料・卒業論文の執筆・推敲。（毎回 約3時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー４(体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への取組(グループへの貢献度含む) 50%、課題 50%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方　目標設定
2	研究計画作成	仮説　背景
3	研究計画作成	目的　方法
4	進捗発表会①	研究テーマ発表　ディスカッション
5	進捗発表会②	研究テーマ発表　ディスカッション
6	進捗発表会③	研究テーマ発表　ディスカッション
7	予備実験①	データの採取、解析
8	予備実験②	データの採取、解析
9	予備実験③	データの採取、解析
10	予備実験　発表会①	予備実験データ発表　ディスカッション
11	予備実験　発表会②	予備実験データ発表　ディスカッション
12	予備実験　発表会③	予備実験データ発表　ディスカッション
13	予備実験　発表会④	予備実験データ発表　ディスカッション
14	前期まとめ、後期研究に向けて計画	前期まとめと後期に向けての課題、予備実験を参考に背景、目的、方法を再度作成
15	卒業研究①	本実験
16	卒業研究②	本実験
17	卒業研究③	本実験
18	卒業研究④	本実験
19	卒業研究⑤	本実験
20	卒業研究⑥	進捗発表　ディスカッション
21	卒業研究⑦	進捗発表　ディスカッション
22	卒業研究⑧	進捗発表　ディスカッション
23	卒業研究⑨	卒業論文の書き方
24	卒業研究⑩	抄録の書き方

25	卒業研究⑪	論文作成、発表資料作成
26	卒業研究⑫	論文作成、発表資料作成
27	卒業研究⑬	論文作成、発表資料作成
28	ゼミ内研究発表会	統括
29		
30		

科目コード	55000				区　分	コア科目		
授業科目名	卒業研究［PP］				担当者名	河端　隆志		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。

＜授業の到達目標＞

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

＜授業の方法＞

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素有：定期的な課題発表を行い、グループディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習：①研究テーマに関する文献・先行研究の収集と精読。②研究計画の作成・修正。③調査・実験・フィールドワークの準備。④課題発表・中間報告の資料作成。（毎回 約3時間）事後学習：①授業での指導・助言を踏まえた研究内容の修正。②データ整理・分析・考察の作成。③発表資料・卒業論文の執筆・推敲。（毎回 約3時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー４(体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への取組(グループへの貢献度含む) 50%、課題 50%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方　目標設定
2	研究計画作成	仮説　背景
3	研究計画作成	目的　方法
4	進捗発表会①	研究テーマ発表　ディスカッション
5	進捗発表会②	研究テーマ発表　ディスカッション
6	進捗発表会③	研究テーマ発表　ディスカッション
7	予備実験①	データの採取、解析
8	予備実験②	データの採取、解析
9	予備実験③	データの採取、解析
10	予備実験　発表会①	予備実験データ発表　ディスカッション
11	予備実験　発表会②	予備実験データ発表　ディスカッション
12	予備実験　発表会③	予備実験データ発表　ディスカッション
13	予備実験　発表会④	予備実験データ発表　ディスカッション
14	前期まとめ、後期研究に向けて計画	前期まとめと後期に向けての課題、予備実験を参考に背景、目的、方法を再度作成
15	卒業研究①	本実験
16	卒業研究②	本実験
17	卒業研究③	本実験
18	卒業研究④	本実験
19	卒業研究⑤	本実験
20	卒業研究⑥	進捗発表　ディスカッション
21	卒業研究⑦	進捗発表　ディスカッション
22	卒業研究⑧	進捗発表　ディスカッション
23	卒業研究⑨	卒業論文の書き方
24	卒業研究⑩	抄録の書き方

25	卒業研究⑪	論文作成、発表資料作成
26	卒業研究⑫	論文作成、発表資料作成
27	卒業研究⑬	論文作成、発表資料作成
28	ゼミ内研究発表会	統括
29		
30		

科目コード	55000				区　分	コア科目		
授業科目名	卒業研究［PP］				担当者名	小川　雄太		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。

＜授業の到達目標＞
本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

＜授業の方法＞
課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有：定期的な課題発表を行い、グループディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習：①研究テーマに関する文献・先行研究の収集と精読。②研究計画の作成・修正。③調査・実験・フィールドワークの準備。④課題発表・中間報告の資料作成。（毎回 約3時間）事後学習：①授業での指導・助言を踏まえた研究内容の修正。②データ整理・分析・考察の作成。③発表資料・卒業論文の執筆・推敲。（毎回 約3時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４(体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業への取組(グループへの貢献度含む) 50%、課題 50%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	研究計画	研究計画
3	研究計画	研究計画
4	進捗報告、ディスカッション	進捗報告、ディスカッション
5	進捗報告、ディスカッション	進捗報告、ディスカッション
6	進捗報告、ディスカッション	進捗報告、ディスカッション
7	予備実験	予備実験
8	予備実験	予備実験
9	予備実験	予備実験
10	予備実験発表	予備実験発表
11	予備実験発表	予備実験発表
12	予備実験発表	予備実験発表
13	予備実験発表	予備実験発表
14	前期まとめ	前期まとめ
15	本実験	本実験
16	本実験	本実験
17	本実験	本実験
18	本実験	本実験
19	本実験	本実験
20	進捗報告、ディスカッション	進捗報告、ディスカッション
21	進捗報告、ディスカッション	進捗報告、ディスカッション
22	進捗報告、ディスカッション	進捗報告、ディスカッション
23	執筆の具体	執筆の具体
24	執筆の具体	執筆の具体

25	論文作成	論文作成
26	論文作成	論文作成
27	論文作成	論文作成
28	ゼミ内発表会	ゼミ内発表会
29		
30		

科目コード	55000				区　分	コア科目		
授業科目名	卒業研究［PP］				担当者名	佐々木　史之		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本科目は、自ら設定したテーマについて学術的な調査・分析を行い、卒業論文として結実させることを目的とします。先行研究の精査を通じて、自身の問いが持つ学術的・社会的意義を明確にします。授業形態は、個別の研究進捗報告を主体とし、履修者相互によるクリティカル・ディスカッションを重視します。他者の視点を取り入れ、論理の飛躍や根拠の妥当性を検証するプロセスを通じて、客観的な分析力と論理的記述力を磨きます。一連のプロセス（問いの構築、データ収集、分析、考察、執筆、口頭発表）を自律的に完遂することで、スポーツ科学の専門的知見を深めるだけでなく、社会において複雑な課題を論理的に解決する能力の修得を目指します。

＜授業の到達目標＞

(1)問いの構造化： 自身の興味関心を、学術的な枠組みに基づいた明確な「問い」として定義し、適切な研究手法を選択できる。(2)実証的分析の遂行： 収集したデータ（質的・量的）を論理的に分析し、客観的な事実に基づいて自身の仮説や問いを検証できる。(3)学術的発信能力： 形式に則った論文執筆（構成、引用ルール、論理展開）を行い、口頭発表において専門的な議論に対応できる。

＜授業の方法＞

(1)授業の進め方　学生主体の課題解決学習とディスカッションを中心に展開します。各自の進捗に応じ、質問紙調査や文献調査を行い、その成果をプレゼンテーション資料（PPT等）にまとめて発表します。また、専門的知識や論文執筆スキルの補完を目的とした講義形式の講座を適宜織り交ぜます。学生同士の質疑応答や相互評価を通じて、論理的思考力と多角的な視点を養う実践的な構成とします。(2)ICTの活用　プレゼンテーション資料の作成や共有にはGoogle Slidesを活用します。また、共同編集機能（Google Docs/

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素：有（課題解決型学習、ディスカッション、プレゼンテーション）　自ら設定した研究テーマに基づき、先行研究の調査や統計解析を自律的に進める課題解決型学習（PBL）を実践します。授業内では、執筆プロセスの進捗報告を行うとともに、受講生同士によるピア・レビュー（相互添削）や質疑応答を実施します。他者からの客観的な示唆を反映させ、論理構成を再構築するプロセスを繰り返すことで、単なる知識習得に留まらない、高度な分析力と批判的思考力を主体的に養います。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

【予習：1～2時間】　自身の研究テーマに関わる体育・スポーツ界の諸課題について、新聞・雑誌・先行研究を幅広く資料を当たり情報を収集し、多角的な視点から現状を把握します。得られた知見に基づき、ゼミ内での議論を活性化させるための発表資料（PPT等）を、論理的な構成で作成・準備します。【復習：2時間】　ゼミでの質疑応答やフィードバックを真摯に受け止め、自身の思考の偏りや知識の不足を補完するための自主学習を行います。特に、統計手法や専門用語の内容を深く掘り下げて整理し、論理を明確にするなど、論文執筆に必要な基礎知

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 30%、中間発表 20%、論文 50%

＜教科書＞

特に指定しない。

＜参考書＞

福永哲夫，山本正嘉(2018/10/23)　体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方　市村出版
山下秋二，佐藤進，出村慎一(2014/2/10)　健康・スポーツ科学のための調査研究法　杏林書院

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	卒業論文提出までの年間スケジュールの確認と目標設定
2	研究構想の再構築	3年次の計画を最新の先行研究と照らし合わせ、問いを洗練させる
3	先行研究の精査(1)	関連文献の追加検索と、理論的枠組みの再検討
4	先行研究の精査(2)	文献レビューの執筆開始（「はじめに」の構成案作成）
5	調査・実験計画の確定	使用尺度、対象者、実施時期、倫理的配慮の最終確認
6	研究手法の検討(1)	定量的アプローチ（アンケート、実験）の基礎
7	研究手法の検討(2)	定性的アプローチ（インタビュー、観察）の基礎
8	予備調査・実験	少人数でのプレテスト実施
9	倫理教育と手続き	研究倫理の理解と、必要な調査依頼書作成
10	進捗報告会(1)	調査・実験準備状況のプレゼンと、ゼミ生間でのリスクチェック

11	データ収集の開始	実際のフィールド調査、実験、アンケート配布の開始
12	個別指導	収集過程でのトラブル対応や、手法の微調整
13	進捗報告会(2)	質疑応答を通じた論理の整合性確認（ピア・レビュー）
14	前期の振り返り	収集状況の点検と、夏休み中のデータ整理計画の策定
15	夏休み活動報告	収集データの共有と、分析方針の最終決定
16	データ分析の実践(1)	量的調査：統計解析（有意差の検定、相関分析等）の実装
17	データ分析の実践(2)	質的調査：コード化、カテゴリー化による構造分析
18	分析結果の可視化	図表の作成と、結果の客観的記述
19	中間発表(1)	中間発表会に向けたプレゼン資料作成
20	中間発表(2)	中間発表会を実施し、ディスカッションを行う
21	考察の執筆(1)	先行研究との比較による、自研究の意義の明確化
22	考察の執筆(2)	研究の限界と今後の課題、結論のまとめ方
23	執筆指導（全体推敲）	引用文献リストの不備チェック、表現の学術的適正化
24	ピア・レビュー	学生同士による原稿の相互添削と意見交換
25	論文提出準備	抄録（要旨）の作成と、形式・体裁の最終確認
26	プレゼン演習	卒業論文発表会に向けたスライド構成と発表原稿作成
27	ゼミ内卒論発表会	相互チェックと想定質問への対策
28	卒業論文提出	論文・提出手続きの最終確認と卒業研究のまとめ
29		
30		

科目コード	55000				区　分	コア科目			
授業科目名	卒業研究［PP］				担当者名	江波戸　智希			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。

＜授業の到達目標＞
本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

＜授業の方法＞
課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィールドワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有基本的に自身で調べてプレゼンテーションを用意し、ゼミ内で発表し、ディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備及び振り返りをする（3時間）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業への取組(グループへの貢献度含む)50%、課題 50%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方　目標設定
2	研究計画作成	仮説　背景
3	研究計画作成	目的　方法
4	進捗発表会①	研究テーマ発表　ディスカッション
5	進捗発表会②	研究テーマ発表　ディスカッション
6	進捗発表会③	研究テーマ発表　ディスカッション
7	予備実験①	データの採取、解析
8	予備実験②	データの採取、解析
9	予備実験③	データの採取、解析
10	予備実験　発表会①	予備実験データ発表　ディスカッション
11	予備実験　発表会②	予備実験データ発表　ディスカッション
12	予備実験　発表会③	予備実験データ発表　ディスカッション
13	予備実験　発表会④	予備実験データ発表　ディスカッション
14	後期研究に向けて計画	予備実験を参考に背景、目的、方法を再度作成
15	後期について	後期向けての課題
16	卒業研究①	本実験
17	卒業研究②	本実験
18	卒業研究③	本実験
19	卒業研究④	本実験
20	卒業研究⑤	本実験
21	卒業研究⑥	進捗発表　ディスカッション
22	卒業研究⑦	進捗発表　ディスカッション
23	卒業研究⑧	進捗発表　ディスカッション
24	卒業研究⑨	卒業論文の書き方

25	卒業研究⑩	抄録の書き方
26	卒業研究⑪	論文作成
27	卒業研究⑫	論文作成
28	ゼミ内研究発表会	統括
29		
30		

科目コード	55000				区　分	コア科目		
授業科目名	卒業研究［PP］				担当者名	秦　啓一郎		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、ゼミナールⅠに引き続き、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、ゼミナールⅠで発見した課題・問題の課題解決を図っていくことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心に展開する。2つ名は、社会人に求められる教養と実践力を養成し、現代の課題・問題を自ら解決する内容である。

＜授業の到達目標＞
本科目はゼミナールⅠに引き続き、社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な専門的知識を活用できるようになる。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題・問題を自ら解決できる力を身につける。

＜授業の方法＞
課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに実践力養成に向けた講座を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有り各回のグループでディスカッションを行い、共同で課題を作成する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
・各回の授業に関連する文献の渉猟（30分）・データの解析と解釈の理解（60分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
体育・スポーツ科学に関する調査・研究の課題発表 50%、実践力養成を目指したキャリア教育にかかわる課題 50%。ただし、ゼミナール課題の提出を単位認定の必須条件とする。

＜教科書＞
なし

＜参考書＞
なし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	卒業論文の作成手順とテーマの考案
2	研究課題の検討	これまでの自身の経験知より、疑問に感じていることを明確にし、研究課題に昇華できないか検討していく。
3	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(2)	実践力養成に向けた講座(2)
4	研究課題の決定	研究課題を決定する。
5	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(3)	実践力養成に向けた講座(3)
6	文献調査	自身の研究に関連する文献を収集し、精読する。
7	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(4)	実践力養成に向けた講座(4)
8	研究計画の立案	研究課題を解明するために適切な研究計画を立案する。
9	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(5)	実践力養成に向けた講座(5)
10	予備実験Ⅰ	研究計画に記載した方法が適切であるか、予備実験を実施する。
11	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(6)	実践力養成に向けた講座(6)
12	予備実験データの分析	算出予定のデータが正しく得られるか、予備実験で取得したデータを分析する。
13	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(7)	実践力養成に向けた講座(7)
14	本実験Ⅰ	本実験の実施。本実験がない受講生は、検者として参加する。

15	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(8)	実践力養成に向けた講座(8)
16	本実験Ⅱ	本実験の実施。本実験がない受講生は、検者として参加する。
17	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(9)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(1)
18	データ分析	本実験で取得したデータを分析する。
19	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(10)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(2)
20	データ分析結果の検討	本実験で取得したデータの分析結果をグループディスカッションする。
21	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(11)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(3)
22	統計分析	得られた結果を統計学的に分析する。
23	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(12)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(4)
24	結果の考察	得られたデータの意味するものをグループディスカッションによって考察していく。
25	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(13)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(5)
26	プレゼンテーション準備	研究成果報告会用にプレゼンテーション資料を作成する。
27	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(14)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(6)
28	研究成果報告会	研究成果をプレゼンテーションする。
29		
30		

科目コード	55000				区　分	コア科目		
授業科目名	卒業研究［PP］				担当者名	仙波　慎平		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
テーマを決め研究を遂行し、研究計画、データ取得、論議の進め方など、一連の研究プロセスを学ぶ。後期末には卒業研究発表会を行い、研究内容をまとめ上げ発表するスキルを身につける。研究テーマは、自身が関心を持っている分野・内容など、社会人になったときに役立つテーマとし、実験もしくは調査による研究を原則とする。

＜授業の到達目標＞
本科目における到達目標は、体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得するとともに、自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につけることとして、卒業論文を執筆することにある。

＜授業の方法＞
論文作成の方法を学びながら、課題発表やディスカッションを展開し、それぞれ研究や調査を行う。必要に応じて、フィールドワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。その成果として学年末において卒業研究発表にてプレゼンテーションする。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（事前学習2時間程度）。基礎的知識獲得に必要な事後学習（1時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
実践的な態度50%、体育・スポーツ科学に関する調査・研究の課題発表50%をもって評価する。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	研究課題の検討	これまでの自身の経験知より、疑問に感じていることを明確にし、研究課題に昇華できないか検討していく。
2	研究課題の決定	研究課題を決定する。
3	文献調査①	自身の研究に関連する文献を収集し、精読する。
4	文献調査②・ディスカッション	自身の研究に関連する文献を議題としてディスカッションを行う。
5	文献調査③・ディスカッション	自身の研究に関連する文献を議題としてディスカッションを行う。
6	予備実験調査・実験Ⅰ	研究計画に記載した方法が適切であるか、予備調査・実験を実施する。
7	予備調査・実験Ⅰのデータ分析	算出予定のデータが正しく得られるか、予備実験Ⅰで取得したデータを分析し、調査方法やプロトコルの見直しを検討する。
8	予備調査・実験Ⅱ	予備実験Ⅰの結果をもとに、修正された調査方法や研究計画に記載した方法が適切であるか、予備実験Ⅱを実施する。
9	予備調査・実験Ⅱデータの分析	算出予定のデータが正しく得られるか、予備調査・実験Ⅱで取得したデータを分析し、プロトコルの見直しを検討する。
10	本調査・実験①	本調査・実験の実施し、データを取集する。
11	本調査・実験②	本調査・実験の実施し、データを取集する。
12	本調査・実験③	本調査・実験の実施し、データを取集する。
13	本調査・実験④	本調査・実験の実施し、データを取集する。
14	本調査・実験⑤	本調査・実験の実施し、データを取集する。
15	本調査・実験⑥	本調査・実験の実施し、データを取集する。
16	データ分析①	本調査・実験で取得したデータを分析する。
17	データ分析②	本調査・実験で取得したデータを分析する。
18	データ分析③	本調査・実験で取得したデータを分析する。
19	データ分析結果の検討①	本調査・実験で取得したデータの分析結果をグループディスカッションする。
20	データ分析結果の検討②	本調査・実験で取得したデータの分析結果をグループディスカッションする。

21	データ分析結果の検討③	本調査・実験で取得したデータの分析結果をグループディスカッションする。
22	統計分析①	得られた結果を統計学的に分析する。
23	統計分析②	得られた結果を統計学的に分析する。
24	結果の考察①	得られたデータの意味するものをグループディスカッションによって考察する。
25	結果の考察②	得られたデータの意味するものをグループディスカッションによって考察する。
26	結果の考察③	得られたデータの意味するものをグループディスカッションによって考察する。
27	プレゼンテーション準備①	研究成果報告会用にプレゼンテーション資料を作成する。
28	全体のまとめ	卒業研究活動全体を通じた総括
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	虫明　淑子		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

本授業は、各自が関心をもつ幼児教育・保育のテーマをともに深く考察し、主体的に研究を進められることを目指します。具体的には、問いの立て方をともに考え、自ら立てた問いに基づき、文献の選択・購読、フィールドワーク、対話などを通して、卒業研究（論文執筆）を行います。その過程で、保育者として求められる姿勢や専門的知識を養います。

＜授業の到達目標＞

1．幼児教育・保育に関する自分の関心や課題を明確にし、研究テーマとして設定できる。2．文献や事例、フィールドワークを通して情報を整理し、考えを深めることができる。3．卒業研究を通して、保育者として求められる姿勢や専門的知識に気付いていく。

＜授業の方法＞

・演習：文献や資料を整理して、幼児教育・保育に関する基本的な知識や考え方を学ぶ。・ディスカッション：事例や自分の問いをもとにゼミ内で意見交換を行い、考えを広げる。・フィールドワーク：保育現場などを観察し、学びにつながる情報やデータを収集する。・研究：自分の研究テーマを設定し、そのテーマに沿って各自のペースで教員と相談しながら進める。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブラーニング：有方法：グループディスカッション、フィールドワーク・具体的な事例をもとにゼミ内で意見交換を行い、対話を通して理解を深める。・他者の視点に触れることで、自分の考えを広げ、多角的な思考を身につける。・保育現場を観察し、データを収集して実践的な学びを深める。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・自分の関心に沿った幼児教育・保育に関する文献や資料を収集し、読んでおく。・読んだ内容や気付きを簡単にメモしておく。・自分の問いや疑問を整理し、授業中に質問できるように準備する。・授業中で得た気づきを整理し、メモにとり、研究活動に活かす。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー３（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる）と関連付けられる。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度（50%）課題・レポート（50%）

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	・自己紹介を行う。・ゼミの目的と特徴、進め方などを話し合いながら確認する。
2	研究テーマを見つける	・自分の興味や気になることから、研究テーマを見つける。・ゼミ生や教員との対話を通して、アイデアを広げ、方向性をつかむ。
3	研究テーマを見つける	・自分の興味や気になることから、研究テーマを見つける。・ゼミ生や教員との対話を通して、アイデアを広げ、方向性をつかむ。
4	研究テーマを見つける	・自分の興味や気になることから、研究テーマを見つける。・ゼミ生や教員との対話を通して、アイデアを広げ、方向性をつかむ。
5	研究テーマを見つける	・自分の興味や気になることから、研究テーマを見つける。・ゼミ生や教員との対話を通して、アイデアを広げ、方向性をつかむ。
6	研究テーマを見つける	・自分の興味や気になることから、研究テーマを見つける。・ゼミ生や教員との対話を通して、アイデアを広げ、方向性をつかむ。
7	研究テーマを見つける	・自分の興味や気になることから、研究テーマを見つける。・ゼミ生や教員との対話を通して、アイデアを広げ、方向性をつかむ。・各自の進度に合わせて文献や資料を読み、情報を整理する。・研究テーマを発展させる。
8	研究テーマを見つける	・自分の興味や気になることから、研究テーマを見つける。・ゼミ生や教員との対話を通して、アイデアを広げ、方向性をつかむ。・各自の進度に合わせて文献や資料を読み、情報を整理する。・研究テーマを発展させる。
9	研究テーマを見つける	・自分の興味や気になることから、研究テーマを見つける。・ゼミ生や教員との対話を通して、アイデアを広げ、方向性をつかむ。・各自の進度に合わせて文献や資料を読み、情報を整理する。・研究テーマを発展させる。
10	研究テーマを見つける	・自分の興味や気になることから、研究テーマを見つける。・ゼミ生や教員との対話を通して、アイデアを広げ、方向性をつかむ。・各自の進度に合わせて文献や資料を読み、情報を整理する。・研究テーマを発展させる。

11	研究テーマを見つける	・自分の興味や気になることから、研究テーマを見つける。・ゼミ生や教員との対話を通して、アイデアを広げ、方向性をつかむ。・各自の進度に合わせて文献や資料を読み、情報を整理する。・研究テーマを発展させる。・問いを立ててみる。
12	問いを立てる	・自分の興味や気になることから、研究テーマを見つける。・ゼミ生や教員との対話を通して、アイデアを広げ、方向性をつかむ。・各自の進度に合わせて文献や資料を読み、情報を整理する。・研究テーマを発展させる。・問いを立てる。
13	問いを立てる	・自分の興味や気になることから、研究テーマを見つける。・ゼミ生や教員との対話を通して、アイデアを広げ、方向性をつかむ。・各自の進度に合わせて文献や資料を読み、情報を整理する。・研究テーマを発展させる。・問いを立てる。
14	論はどのようにすると組み立てられるかについて考える	・自分の問いに基づいて、整理して書く方法を考える。・研究の目的や方法の書き方を学ぶ。・研究計画を立てる。
15	研究計画書を作成する	・興味や関心を出発点に、自分だけの研究テーマに沿った問いを立て、研究計画を立てる。・その内容をレポートにまとめる。
16	研究計画書を作成する	・興味や関心を出発点に、自分だけの研究テーマに沿った問いを立て、研究計画を立てる。・その内容をレポートにまとめる。
17	研究に必要なデータ収集および文献整理	・目的と方法を意識する。・研究計画に沿ってデータを収集する(フィールドワークを含む)。・関連する文献を集めて整理する。・各自のペースに合わせて、教員からサポートやアドバイスを受ける。
18	研究に必要なデータ収集および文献整理	・目的と方法を意識する。・研究計画に沿ってデータを収集する(フィールドワークを含む)。・関連する文献を集めて整理する。・各自のペースに合わせて、教員からサポートやアドバイスを受ける。
19	研究の目的・方法を明確にする	・目的と方法を明確にする。・研究計画に沿ってデータを収集する(フィールドワークを含む)。・関連する文献を集めて整理する。・各自のペースに合わせて、教員からサポートやアドバイスを受ける。
20	研究の目的・方法を明確にする	・目的と方法を明確にする。・研究計画に沿ってデータを収集する(フィールドワークを含む)。・関連する文献を集めて整理する。・各自のペースに合わせて、教員からサポートやアドバイスを受ける。
21	卒業研究の執筆準備	・研究計画に沿ってデータを収集する（フィールドワークを含む）。・関連する文献を集めて整理する。・収集した情報をもとに論文執筆の準備をする。・各自のペースで研究を進め、随時教員からアドバイスを受ける。
22	卒業研究の執筆準備	・研究計画に沿ってデータを収集する（フィールドワークを含む）。・関連する文献を集めて整理する。・収集した情報をもとに論文執筆の準備をする。・各自のペースで研究を進め、随時教員からアドバイスを受ける。
23	卒業研究の執筆準備	・研究計画に沿ってデータを収集する（フィールドワークを含む）。・関連する文献を集めて整理する。・収集した情報をもとに論文執筆の準備をする。・各自のペースで研究を進め、随時教員からアドバイスを受ける。
24	卒業研究の執筆準備	・研究計画に沿ってデータを収集する（フィールドワークを含む）。・関連する文献を集めて整理する。・収集した情報をもとに論文執筆の準備をする。・各自のペースで研究を進め、随時教員からアドバイスを受ける。
25	卒業研究の中間発表	・研究テーマ、問い、目的、方法、進捗状況などをレジュメにし、発表する。・質疑応答を行い、他者の意見やアドバイスを受け取り、研究に活かす。・困っていることや悩み、課題を共有する。・教員からアドバイスを受ける。
26	卒業研究レポートの作成	・中間発表で得たフィードバックを参考にして研究を進める。・必要なデータを収集する（フィールドワークを含む）。・関連する文献を集めて整理する。・各自のペースで研究を進める。・必要に応じて、教員からサポートやアドバイスを受ける。
27	卒業研究レポートの提出	・テーマ、目的、方法までの進捗状況をレポートとして提出する。
28	卒業論文レポートの提出	・テーマ、目的、方法までの進捗状況をレポートとして提出する。
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	宮本　彩			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本科目の目的は競技スポーツ科学科で学ぶ者としての意識を高め、スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行う。また、各自が社会人としての適性や課題を見極め、キャリアの選択につなげていくものとする。そのため本科目は、①スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決などの探求学習を行う。②自己分析を行い、社会人に求められる必要最低限の教養の習得などを行う。

＜授業の到達目標＞
本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、①自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。②スポーツに関する調査・研究を通して、アスリートとして、また、スポーツ科学を専攻する学生として必要な基礎的知識を獲得する。③自らの現状を評価・分析し、課題解決の方法を自ら探求する力を身につける。これらを修得し、ゼミナールⅡでの論文作成に向けての基礎を身に付ける。

＜授業の方法＞
課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素：有グループに分かれ、単元で学んだ内容についてディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
当該科目の学習にあたり、概ね下記のような内容を予習として各回60～90分程度行う。①スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる。②課題発表などのプレゼンテーションの準備を行う。③基礎的知識獲得に必要な自主学習を行う。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー2（スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）および3（スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
スポーツ科学に関する調査・研究の課題発表 50%、キャリア教育にかかわる課題 50%

＜教科書＞
必要に応じて

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	スポーツ科学とは	スポーツ科学を勉強する意義を考える。
3	スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(1)	アスリートとして身につけるべきスポーツ科学リテラシーについて
4	スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(2)	アスリートを支える者として備えるべきスポーツ科学リテラシーについて
5	スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(3)	スポーツ科学の学びを踏まえた多種多様なキャリアについて調べる
6	スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(4)	社会人に向けてクロスオーバースキルについての復習
7	スポーツ科学センターの見学	スポーツ科学の研究施設を見学し、研究とは何かを学ぶ。
8	研究についてのディスカッション１	スポーツ科学について興味のあることを発表し、ディスカッションを行う。
9	研究についてのディスカッション２	スポーツ科学について興味のあることを発表し、ディスカッションを行う。
10	論文抄読１	興味を持った論文を読み、発表する。
11	論文抄読２	興味を持った論文を読み、発表する。
12	実験機器を用いた測定１	スポーツ科学センターの機器を用いて測定法を学ぶ。
13	実験機器を用いた測定２	スポーツ科学センターの機器を用いて測定法を学ぶ。
14	前期の振り返り	前期の学びの振り返りと夏季休暇中の自主学習の計画を立てる
15	自主学習の成果報告１	自らの取り組み内容を発表する
16	自主学習の成果報告２	自らの取り組み内容を発表する
17	自己評価・他者評価を通してキャリアについて考える	様々な経験を踏まえ、自己評価のみならず他者評価も受けながらキャリアについて再考する。

18	自己紹介プレゼン１	就職活動も見据え、改めて自己紹介プレゼンを作成する
19	自己紹介プレゼン２	自己紹介のプレゼンテーションを行う
20	データの扱い方・処理の手法について学ぶ	SSPなど過去に受けてきた測定データをまとめ、処理する方法を学ぶ。
21	研究テーマを探る１	これまでの授業の内容を踏まえ、今後の研究テーマを決める。
22	研究テーマを探る２	これまでの授業の内容を踏まえ、今後の研究テーマを決める。
23	研究計画を練る１	研究を実施するための計画を立てる。
24	研究計画を練る２	研究を実施するための計画を立てる。
25	実験・測定	実験または測定を行う。
26	測定結果のデータ処理・まとめ	研究成果をまとめる。
27	測定結果のデータ処理・まとめ２	パワーポイントで発表用のスライドを作成する。
28	全体のまとめ	ゼミナールⅠの総括を行う
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	伊藤　仁美		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

本授業では、英語教育学、第二言語習得（SLA）、教師の専門性開発（TPD）を軸に、教育現場の複雑な現象を解き明かす力を養う。単なる指導法の習得にとどまらず、学習者や教師が何を経験し、どう心を動かしているのかという「個人のナラティヴ」や、不安・自信・メタ認知といった「非認知能力」に焦点を当てるのが特徴である。前期は、ナラティヴ分析、PAC分析、パタン・ランゲージ等の質的研究法をワークショップ形式で体験し、目に見えない教育現象を可視化する技法を習得する。後期は、前期に学んだ手法を応用した自由研究報告から始め、さらにグループ活動や対話を通じて、実践の背後にあるSLAの知見も深めていく。こうしたリフレクション（省察）のプロセスを経て、自律的に「成長し続ける力（TPD）」の基盤を確立する。終盤では、先行研究からリサーチ・ギャップを見出すコツや、誠実な研究倫理を学び、自らの探究の意義を語る「緒言（はじめに）」を含む研究計画書を執筆する。3年次で手に入れるこの「人間を深く理解するための汎用的なレンズ」を武器に、4年次の卒業研究において現場の課題解決に直結する生きた知見を導き出すための、揺るぎない土台を構築する。

＜授業の到達目標＞

(1) 第二言語習得（SLA）および教師の専門性開発（TPD）の基礎理論をレンズとして、英語教育を「学習者と教師の心理・経験」という側面から多角的に分析できる。(2) ナラティヴ分析やPAC分析などの質的研究法を体験し、「形のない経験」を学術的な手続きに基づいて可視化・言語化する術を身につけている。(3) 先行研究の検討を通じてリサーチ・ギャップを特定し、自らの探究の意義を「緒言（はじめに）」として論理的をもって形にできる。(4) 自己の学習・指導経験を客観的に振り返り、理論と実践を架橋する「省察的実践

＜授業の方法＞

(1) ウォームアップや復習（10分）(2) ワークショップ（60分）(3) ミニ講義（20分）(4) 共有・ふりかえり（10分）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有　グループ・ディスカッション、ピア・ラーニングなど

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

合計３～４時間程度＜予習＞文献・資料の講読、データの収集・分析、ディスカッションの準備（２～３時間）＜復習＞リフレクション・ジャーナルの作成、分析のブラッシュアップ、ポートフォリオの整理（１時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

演習・リフレクション（30%）研究発表・対話への貢献（30%）探究の設計図・計画書（30%）自律的な探究姿勢（10%）

＜教科書＞

＜参考書＞

内藤哲雄（2002）　PAC分析実施法入門［改訂版］:「個」を科学する新技法への招待　ナカニシ出版
サイトウタツヤ 他（2002）　TEMではじめる質的研究：時間とプロセスを扱う研究をめざして　誠信書房
井庭崇 他（2013）　パターン・ランゲージ：創造的な未来をつくるための言語　松柏社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する
2	研究法講話	卒業論文作成の手引きを確認する
3	個別面談	学生とのコミュニケーションを図り、興味関心などを聞き取る
4	ナラティヴ分析（1）	ナラティヴ分析とは、ナラティヴ分析を用いた先輩の卒業論文等を講読、ディスカッション
5	ナラティヴ分析（2）	体験１
6	ナラティヴ分析（3）	体験２、ビジュアル・ナラティヴやオートエスノグラフィーなどの紹介
7	PAC分析（1）	PAC分析とは、体験（前半）
8	PAC分析（2）	体験（後半）
9	PAC分析（3）	PAC分析を用いた先輩の卒業論文等を講読、ディスカッション
10	パタン・ランゲージ(1)	パタン・ランゲージとは、体験（前半）
11	パタン・ランゲージ(2)	体験（後半）
12	パタン・ランゲージ(3)	パタン・ランゲージを用いた活動計画、ディスカッション
13	個別面談	学生とのコミュニケーションを図り、興味関心などを聞き取る
14	前期のまとめ	全体総括、ふりかえり

15	個別面談	学生とのコミュニケーションを図り、進捗状況や課題、興味関心などを聞き取る
16	研究発表会（1）	前期に学んだ手法を用いた自由研究報告１
17	研究発表会（2）	前期に学んだ手法を用いた自由研究報告２
18	パタン・ランゲージ(4)	グループ研究活動１
19	パタン・ランゲージ(5)	グループ研究活動２
20	パタン・ランゲージ(6)	グループ研究活動の成果発表、総括
21	研究基礎（1）	先行研究からリサーチギャップを見つけるコツ、緒言の書き方を理解する
22	研究基礎（2）	アンケートやインタビューガイドの作成ポイントを知る
23	研究基礎（3）	研究倫理について理解する、研究同意書の内容を知る
24	中間発表会（1）	研究計画書の作成、先行研究をわかりやすく説明する、研究ギャップとニッチがあるか確認する１
25	中間発表会（2）	研究計画書の作成、先行研究をわかりやすく説明する、研究ギャップとニッチがあるか確認する２
26	中間発表会（3）	研究計画書の作成、先行研究をわかりやすく説明する、研究ギャップとニッチがあるか確認する３
27	個別面談	学生とのコミュニケーションを図り、進捗状況や課題、興味関心などを聞き取る
28	後期のまとめ	全体総括、ふりかえり
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	坂本　賢広		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
柔道整復師として必要な基礎知識の修得状況を踏まえて確認し、各自の研究課題に取り組む。卒業研究へ結びつく研究課題を、学生が自主的に絞り込み、興味と関心をもって学問的に取り組むことが出来るような条件整備を行い、学生の研究を支援する。また、健康科学科の教育方針及びカリキュラムを理解し、医療従事者として相応しい人物になれるよう、また自立した一社会人となれるよう演習形式で実施する。

＜授業の到達目標＞
研究論文の構成を理解すること。論文検索ができるようになり、その内容を精査できるようになることを目標としている。更に理解した内容を人に分かりやすくプレゼンテーションができるようになることを目標としている。

＜授業の方法＞
ゼミナールⅠ（基礎）は、グループにて興味関心のある分野に関連する情報を収集し、分かりやすいプレゼンテーションを作成し発表する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有りグループで発表者、タイムキーパー、レポーター、アクティビティリーダーを決めて、ある研究課題に対して議論し批判的吟味を行いより良い研究に向けた主体的な学習と実践を行う。役割を順番に担当していただき、積極的に参加して自分の考えを言葉にして学びほぐしを行う。医療関係者になることを想定した心構えを持ちながら主体的な学習活動を展開する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習:授業で教わったことを復習し、設定したテーマについて、興味関心を高め、ニュースや論文を参照できるように準備する.なお、スポーツ医学（内科）に関する分野の中で興味のある内容について文献検索を適宜実施しながら、情報を収集する。（約100分）事後学習：授業中に指摘された課題について調べてまとめる.（約90分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲50%　課題レポート50%

＜教科書＞
公益社団法人全国柔道整復学校協会 監修　彼末一之　編集　生理学　改訂第4版　南江堂

＜参考書＞
編者　赤間高雄　発行者　曽根良介（2014年3月31日）　はじめて学ぶ　健康・スポーツ科学シリーズ8　スポーツ医学【内科】　（株）化学同人
編著者　藤本敏夫　大久保衛　発行者　前田茂（2020年9月30日）　やさしいスチューデントトレーナーシリーズ　新スポーツ医学【改訂新版】　嵯峨野書院
著　Scott K. Powers　Edward T. Howley（2020年8月25日発行　第1版第1刷）日本語版監修　内藤久士　柳谷登志雄　小林裕幸　髙澤祐治　パワーズ運動生理学　株式会社　メディカル・サイエンス・インターナショナル

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅠにおける年間の進行方法について
2	スポーツ医学とは	スポーツと医学について
3	スポーツ医学（内科）とは	内科系スポーツ障害について
4	メディカルチェック	メディカルチェックの内容について
5	アスリートの健康管理	アスリートの健康管理体制について
6	スポーツ医学（内科）（1）	循環器系および呼吸器系について
7	スポーツ医学（内科）（2）	消化器系と腎・泌尿器系について
8	スポーツ医学（内科）（3）	血液・免疫・アレルギーについて
9	スポーツ医学（内科）（4）	内分泌代謝系について
10	スポーツ医学（内科）（5）	熱中症について
11	測定と評価（1）	心拍数について
12	測定と評価（2）	乳酸について
13	測定と評価（3）	酸化ストレスについて
14	まとめ	前半まとめ（1）

15	まとめ	前半まとめ（2）
16	スポーツ医学（内科）（6）	スポーツ活動と疲労について
17	スポーツ医学（内科）（7）	女性スポーツ医学について
18	スポーツ医学（内科）（8）	スポーツ精神医学について
19	スポーツ医学（内科）（9）	アンチドーピングについて
20	スポーツ医学（内科）（10）	スポーツ活動による血液性状について
21	スポーツ医学（内科）（11）	運動強度について
22	測定と評価（4）	酸化ストレスおよび抗酸化力について
23	測定と評価（5）	心拍数からみた運動強度について
24	測定と評価（6）	運動負荷試験について
25	研究計画（1）	研究計画（1）
26	実験結果に対する考察	考察
27	プレゼンテーション①	プレゼンテーション①
28	プレゼンテーション②	プレゼンテーション②
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	竹下　厚志		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠ（基礎）では、教科書分析をもとにした英語学習教材について広く学び、自分の探究したいテーマと具体的な教材を試作する。

＜授業の到達目標＞
１.教科書で扱われている題材をテーマをもとに分析することができる。２.思考力の育成の観点から教材を分析することができる。３．国内外の現在の社会問題に関するボランティアプログラムに参加することができる。４．自分が経験したボランティア活動をもとに教材を開発することができる。

＜授業の方法＞
(1)講義（教員による解説と問いの提示）(2)グループワーク（教材分析に関する協働学習）(3)ディスカッション（教材の在り方に関する意見交換）(4)省察活動（まとめと発表）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
あり。各自のテーマに関するグループ内での意見交換、ボランティア活動参加、プレゼンテーション（進捗情報に関する発表）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習（１時間程度）・国内外の社会問題をネット情報を中心に検索し情報収集する（毎週30分程度）・教科書で扱われているトピックをリストアップする（毎週30分程度）復習・学習指導要領が求めている外国語教育に照らして、各教科書が選定したトピックの傾向をまとめる。・国内外の社会問題ボランティア活動参加を検索したうえで参加計画を立てる。・参加予定のボランティア活動参加に必要な知識・スキルの向上に努める。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４(地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。　　)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
ボランティア活動参加 30%　発表30%　教材開発 40%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅠ（基礎）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究の基礎１	論文の検索と内容理解１
3	研究の基礎２	論文の検索と内容理解２
4	教科書分析１	教科書のトピック・テーマごとの分類１
5	教科書分析２	教科書のトピック・テーマごとの分類２
6	教科書分析３	教科書のトピック・テーマごとの分類３
7	教科書分析４	教科書のトピック・テーマごとの分類４
8	社会問題１	国内外の社会問題の検索１
9	社会問題２	国内外の社会問題の検索２
10	社会問題３	国内外の社会問題の検索３
11	教材開発１	教科書に載せるべき社会問題の検討１
12	教材開発２	教科書に載せるべき社会問題の検討２
13	教材開発３	教科書に載せるべき社会問題の検討３
14	発表１	教科書に載せるべき教材の試作発表１
15	発表２	教科書に載せるべき教材の試作発表２
16	ボランティア活動参加１	ボランティア活動参加と報告１
17	ボランティア活動参加２	ボランティア活動参加と報告２
18	ボランティア活動参加３	ボランティア活動参加と報告３
19	ボランティア活動参加４	ボランティア活動参加と報告４
20	ボランティア活動参加５	ボランティア活動参加と報告５
21	教材開発１	トピック・テーマの選定と技能育成の問題作成１
22	教材開発２	トピック・テーマの選定と技能育成の問題作成２
23	教材開発３	トピック・テーマの選定と技能育成の問題作成３
24	教材開発４	トピック・テーマの選定と技能育成の問題作成４

25	教材開発５	トピック・テーマの選定と技能育成の問題作成５
26	発表１	開発した教材の紹介１
27	発表２	開発した教材の紹介２
28	発表３	開発した教材の紹介３
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	宮原　舞		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
乳幼児の生活や遊びと音・音楽とのかかわりをテーマに、体験・調査・考察を通して学ぶ演習形式の授業である。サウンドスケープの視点から身近な環境の音に目を向けるとともに、わらべうた、季節の音楽や手遊び、楽器づくりなどを通して、子どもの表現活動や遊びの文化について理解を深める。また、文献の探し方・読み方・引用の方法の基礎を学び、4年次の卒業研究を見据えて、自らの関心に基づく研究テーマの焦点化にも取り組む。

＜授業の到達目標＞
1. 乳幼児の生活や遊びにおける音・音楽の意味や役割について理解する。2. わらべうた、季節の音楽や手遊び、楽器づくり等の体験と考察を通して、保育・教育における音楽表現のあり方を多面的に捉えることができる。3. 文献の活用や引用の方法を身につけ、自分の関心に基づいて課題を設定し、考えを口頭および文章で表現することができる。

＜授業の方法＞
わらべうたや手遊びの体験、グループでの調査・発表などを取り入れた演習形式で行う。学生の興味に基づき、自ら調査し、教え合い、実践し、その成果や課題を振り返るという学習の過程を重視する。体験・考察・発表・対話を通して学びを深めるため、受講者の主体的かつ積極的な参加を求める。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有（調査活動、グループディスカッション）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習として、各回のテーマに応じて、関連する資料や文献に目を通し、疑問点や関心事項を整理しておく（1時間程度）。復習として、授業で扱った体験・議論・資料を振り返り、学んだことや自分の考えをノート等に整理する（1時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）、ディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業に対する取り組み・発表　50%レポート課題　50%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的、内容、進め方、評価方法について
2	私たちの生活と音・音楽①	サウンドスケープの考え方を学び、身近な環境にある音に目を向ける。
3	私たちの生活と音・音楽②	身近な音環境を観察・共有し、音の意味や感じ方について考察する。
4	季節の音楽と手遊び①	春から初夏の季節に親しまれる歌や手遊びを取り上げ、保育における活用や季節感との関わりについて考える。
5	乳幼児期の遊びにおける音・音楽①	わらべうたの特徴と意義について学ぶ。調べ学習を通して、文献の探し方、引用の仕方、参考文献の示し方の基礎を学ぶ。
6	乳幼児期の遊びにおける音・音楽②	わらべうたの考察（となえうた、絵かきうた）：ことばとリズム、唱えことばの面白さについて考える。
7	乳幼児期の遊びにおける音・音楽③	わらべうたの考察（じゃんけんうた、おはじきうた）：遊びのルールややりとりの中で育まれる音楽性について考える。
8	乳幼児期の遊びにおける音・音楽④	わらべうたの考察（おてだまうた、まりつきうた）：個の技能や反復の中で生まれるリズムや遊びの広がりについて考える。
9	乳幼児期の遊びにおける音・音楽⑤	わらべうたの考察（縄跳びうた・ゴム跳びうた、お手合わせうた）：協応や共同性の中で育まれる表現について考える。
10	乳幼児期の遊びにおける音・音楽⑥	わらべうたの考察（身体あそびうた、鬼あそびうた）：身体性や集団性の中で育まれる表現や遊びの意義について考える。
11	日本の音楽遊びを伝える①	日本の音楽遊びをテーマにしたワークショップを企画し、目的・内容・構成について整理する。
12	日本の音楽遊びを伝える②	わらべうたや手遊びの伝え方を工夫しながら模擬実践を行い、進行や役割分担について考える。
13	日本の音楽遊びを伝える③	日本の音楽遊びを紹介するワークショップを実施し、その成果と課題について振り

		返る。
14	季節の音楽と手遊び②	夏の季節に親しまれる歌や手遊びを取り上げ、子どもの生活や遊びとの関わりについて考える。
15	中間振り返り	前期の学習内容とワークショップ実践を振り返り、学びの成果と課題について考える。
16	季節の音楽と手遊び③	秋の季節に親しまれる歌や手遊びを取り上げ、季節に応じた表現活動のあり方について考える。
17	音や素材を生かした表現活動①	身近な素材を用いた楽器づくりを計画し、音の出る仕組みや素材の特性について考える。
18	音や素材を生かした表現活動②	素材や構造による音の違いを体験的に学びながら、楽器づくりに取り組む。
19	音や素材を生かした表現活動③	制作した楽器を用いて演奏や表現活動を試み、保育への展開可能性について考える。
20	乳幼児の音楽的行動の観察①	映像資料や事例をもとに、乳幼児の音楽的発達や音楽的行動について考える。
21	乳幼児の音楽的行動の観察②	子どもの身体表現や模倣、音への反応に着目し、観察の視点を深める。
22	音楽教育に関する研究動向の把握①	文献講読の基礎：音楽教育・表現活動に関する文献を読み、問いの立て方や研究の視点について考える。
23	季節の音楽と手遊び④	冬の季節に親しまれる歌や手遊びを取り上げ、生活や行事とのつながりについて考える。
24	音楽教育に関する研究動向の把握②	研究テーマの探索：関心のあるテーマについて文献を収集し、内容を整理しながら研究課題の候補について考える。
25	音楽教育に関する研究動向の把握③	文献比較と論点整理：複数の文献を比較し、各自の関心領域における論点や課題について考える。
26	研究計画①	研究の進め方の基本を学び、テーマ設定の視点について考える。
27	研究計画②	研究テーマを焦点化し、先行研究との関係を踏まえながら目的と方法について考える。
28	まとめ	1年間の学びを振り返り、4年次の卒業研究に向けた課題と展望について考える。
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	吉岡　利貢		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本ゼミナールは卒業研究へ結びつく研究課題を、学生が自主的に絞り込み、興味と関心をもって学問的に取り組むことが出来るような 条件整備を行い、学生の研究を支援する。

＜授業の到達目標＞
本ゼミナールは3年次段階で実施することから、日本語論文を読み、理解できること、その内容をプレゼンテーションできること、および、その問題点を明らかにしたり、その内容からの発展系としての研究をイメージできることを目標とする。

＜授業の方法＞
原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有（プレゼンテーション・ディスカッション）先行研究をまとめてプレゼンテーションを行い、その内容についてディスカッションする

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
テーマに即したレポート作成、プレゼンテーションの準備等

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度・意欲 50%、課題・レポート 30%、プレゼンテーション能力 20%

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	体力学とは	受講上の注意、評価方法、講義の概要を説明した上で、これから研究を進める体力学について講義する。
2	文献研究（1）	興味のある分野の日本語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
3	文献研究（2）	興味のある分野の日本語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
4	文献研究（3）	興味のある分野の日本語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
5	文献研究（4）	興味のある分野の日本語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
6	文献研究（5）	興味のある分野の日本語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
7	文献研究（6）	興味のある分野の日本語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
8	文献研究（7）	興味のある分野の日本語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
9	文献研究（8）	興味のある分野の日本語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
10	文献研究（9）	興味のある分野の日本語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
11	文献研究（10）	興味のある分野の日本語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
12	文献研究（11）	興味のある分野の日本語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
13	測定・分析実習（1）	最大酸素摂取量の測定方法を学ぶ。

14	測定・分析実習（2）	無酸素性作業閾値の測定方法を学ぶ。
15	測定・分析実習（3）	乳酸の測定・分析方法を学ぶ。
16	測定・分析実習（4）	等速性筋力測定器Cybexを用いた様々な筋力測定の方法を学ぶ。
17	測定・分析実習（5）	等速性筋力測定器Cybexを用いた様々な筋力測定の方法を学ぶ。
18	測定・分析実習（6）	各種ジャンプ能力の測定・分析方法を学ぶ。
19	測定・分析実習（7）	動作分析の方法を学ぶ。
20	課題研究の進捗状況報告（1）	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
21	課題研究の進捗状況報告（2）	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
22	課題研究の進捗状況報告（3）	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
23	課題研究の進捗状況報告（4）	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
24	課題研究の進捗状況報告（5）	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
25	課題研究の進捗状況報告（6）	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
26	課題研究の進捗状況報告（7）	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
27	課題研究の進捗状況報告（8）	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
28	課題研究のまとめ（1）	パワーポイントを用いて、課題研究を報告する。
29	課題研究のまとめ（2）	パワーポイントを用いて、課題研究を報告する。
30	課題研究のまとめ（3）	パワーポイントを用いて、課題研究を報告する。

科目コード	55007				区　分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	鈩　悠介			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	講義，演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

研究は手続きが重要である。本ゼミでは以下の３つの柱から学習を進める。(1)論文とは何か：論文が満たすべき要件、論文の機能、論文の形式などを学ぶ。(2)どんな論文が書かれてきたか：これまでの卒業論文・論文・紀要などの形で書かれたものを検討する。(3)自らの問題関心は何か：自分の問題関心について説明する。

＜授業の到達目標＞

(1)論文が満たすべき要件について説明することができる。(2)(1)を踏まえ、これまでの卒業論文等の論文を評価することができる。(3) 先行研究で示された事例や概念等を踏まえながら、次年度の卒業論文で扱うテーマについて説明することができる。

＜授業の方法＞

いくつかの論文を取り上げディスカッションを行う。取り上げる論文の領域や分量，ゼミの進度等は受講者のレディネスによって柔軟に変更を加える。課題はClassroom等で配信する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有。研究や論文に関するディスカッション、問題関心に沿った先行研究の収集および報告、模擬的なインタビュー調査の実施など。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習：前回のゼミの学習内容について振り返ること（30分）事後学習：自らの問題関心が何であるか毎回の授業の後に振り返ること。その際に、関連すると思われる文献を収集してレビューすること（90分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー４(地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。　　)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

最終課題(ゼミ論文のリサーチステートメント）30%，各回のゼミのリフレクション 60%，参加度 10%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	グラウンドルール作りとゼミの見通し	話し合いのルールを決める。ゼミの目標を共有する。
2	文献を探す	論文や書籍の検索方法，卒論やゼミ論，学術論文に触れる
3	良い論文の条件(1)	論文が満たすべき条件を学ぶ
4	良い論文の条件(2)	論文を評価してみる
5	論文を読む方法(1)	論文の構造を学ぶ(1)
6	論文を読む方法(2)	論文の構造を学ぶ(2)
7	論文を読む方法(3)	論文の構造を学ぶ(3)
8	本を読む方法(1)	論文以外の書籍の読解の基礎を学ぶ
9	本を読む方法(2)	論文以外の書籍の読解の基礎を学ぶ
10	アカデミックライティング(1)	論文の書き方の基礎を学ぶ(1)
11	アカデミックライティング(2)	論文の書き方の基礎を学ぶ(2)
12	問題の所在を特定する(1)	問題意識を話し合う，派生させる，絞り込む。
13	問題の所在を特定する(2)	先行研究を探し，分類する。
14	リサーチクエスチョン	研究上の問いを設定する
15	前期の振り返り	ゼミの振り返り，および後期のスケジュールと目標を共有する。
16	研究方法について(1)	いくつかの研究アプローチと導くことのできる結論の方向性を学ぶ
17	研究方法について(2)	研究倫理について学ぶ
18	研究結果について(1)	それぞれの研究アプローチにおいて記述されうる内容を学ぶ(1)
19	研究結果について(2)	研究の問いと研究結果の対応関係を考える
20	考察について(1)	結論と考察を区別する
21	考察について(2)	考察に加えうる記述の種類を学ぶ
22	結論(まとめ)について(1)	結論として記述されうるものの種類について学ぶ
23	結論(まとめ)について(2)	結論からさかのぼって考える
24	研究のサイズを考える(1)	実現可能な卒業論文・ゼミ論文の規模感を話し合う

25	研究のサイズを考える(2)	実現可能な卒業論文・ゼミ論文の規模感を話し合う
26	リサーチステートメントを作る(1)	自分の研究を説明する短かい文章を作る
27	リサーチステートメントを作る(2)	自分の研究を説明する短かい文章を作る
28	リサーチステートメントを作る(3)	自分の研究を説明する短かい文章を作る
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	簀戸　崇史			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

柔道整復師として必要な基礎知識の修得状況を踏まえて確認し、各自の研究課題に取り組む。卒業研究へ結びつく研究課題を学生が自主的に絞り込み、興味と関心をもって学問的に取り組むことが出来るような条件整備を行い学生の研究を支援する。したがって本ゼミナールは、学生の研究方向の拡散や広範囲な興味関心を肯定的に受け止め、なおかつ研究分野を一定程度に特定できるよう積極的な支援体制を取る。 具体的には文献研究を始め、受講者が研究課題を設定できるよう様々なアドバイスや共同討議を取り入れたゼミナール形式とする。ゼミナールⅠ（基礎）での学習は①学んだ情報整理、②疑問・問題点の抽出及び整理、③関連文献収集、④課題確認を発展させるに至る。テーマ領域　1）柔道整復師に必要な知識と技術の実践的な研究２）健康運動が身体に及ぼす実践的な研究

＜授業の到達目標＞

柔道整復師に必要な幅広い知識や技術に関して科学的思考を用いることによりアプローチが出来るように、各種の研究手法を学びながら研究テーマを設定し、研究を通して柔道整復師としての役割と責任を再確認し、専門家への資質を培うと共に、科学的研究思考を修得することを目標とする。

＜授業の方法＞

現段階において明確化した各自の研究課題について、調査・実験しながら柔道整復師に必要な知識の確認を行う。基本的には学生自身の発表と共同討議による演習形式で進めていくが、進捗状況によっては個別指導を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

無し

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

（予習・復習等）研究課題に関する分野の文献検索を適宜実施しながら、情報を収集し分析する。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

【対面授業】課題達成度（50%）、学習意欲（30%）、レポート（20%）で評価する。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概要
2	文献研究1	研究分野を決定するために各分野の論文抄読を行う1
3	文献研究2	研究分野を決定するために各分野の論文抄読を行う2
4	文献研究3	研究分野を決定するために各分野の論文抄読を行う3
5	文献研究4	研究分野を決定するために各分野の論文抄読を行う4
6	文献研究5	研究分野を決定するために各分野の論文抄読を行う5
7	研究テーマ発表1	各自が自分の研究テーマを発表し、全員から意見をもとに検討する１
8	研究テーマ発表2	各自が自分の研究テーマを発表し、全員から意見をもとに検討する2
9	研究テーマ発表3	各自が自分の研究テーマを発表し、全員から意見をもとに検討する3
10	研究テーマ発表4	各自が自分の研究テーマを発表し、全員から意見をもとに検討する4
11	研究計画の立案1	先行研究を踏まえ自分が立案した研究計画の新規性をを発表する１
12	研究計画の立案2	先行研究を踏まえ自分が立案した研究計画の新規性をを発表する2
13	研究計画の立案3	先行研究を踏まえ自分が立案した研究計画の新規性をを発表する3
14	研究計画の立案4	先行研究を踏まえ自分が立案した研究計画の新規性をを発表する4
15	研究計画の立案5	先行研究を踏まえ自分が立案した研究計画の新規性をを発表する5
16	研究テーマについて実験・調査の実施1	研究テーマについて小規模に実験・調査の実施を実施し、問題点や課題を検討する1
17	研究テーマについて実験・調査の実施2	研究テーマについて小規模に実験・調査の実施を実施し、問題点や課題を検討する2
18	研究テーマについて実験・調査の実施3	研究テーマについて小規模に実験・調査の実施を実施し、問題点や課題を検討する3
19	研究テーマについて実験・調査の実施4	研究テーマについて小規模に実験・調査の実施を実施し、問題点や課題を検討する4
20	研究テーマについて実験・調査の実施5	研究テーマについて小規模に実験・調査の実施を実施し、問題点や課題を検討する5
21	研究内容について共同討議1	各自の研究内容について発表し共同討議する1

22	研究内容について共同討議2	各自の研究内容について発表し共同討議する2
23	研究内容について共同討議3	各自の研究内容について発表し共同討議する3
24	研究内容について共同討議4	各自の研究内容について発表し共同討議する4
25	研究内容について共同討議5	各自の研究内容について発表し共同討議する5
26	総括1	研究進捗状況発表会1
27	総括2	研究進捗状況発表会2
28	総括3	研究進捗状況発表会3
29	総括4	研究進捗状況発表会4
30	総括5	研究進捗状況発表会5

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	古山　喜一		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

柔道整復師として必要な基礎知識の修得状況を踏まえて確認し、各自の研究課題に取り組む。卒業研究へ結びつく研究課題を学生が自主的に絞り込み、興味と関心をもって学問的に取り組むことが出来るような条件整備を行い学生の研究を支援する。したがって本ゼミナールは、学生の研究方向の拡散や広範囲な興味関心を肯定的に受け止め、なおかつ研究分野を一定程度に特定できるよう積極的な支援体制を取る。 具体的には文献研究を始め、受講者が研究課題を設定できるよう様々なアドバイスや共同討議を取り入れたゼミナール形式とする。ゼミナールⅠ（基礎）での学習は①学んだ情報整理、②疑問・問題点の抽出及び整理、③関連文献収集、④課題確認を発展させるに至る。テーマ領域　1）柔道整復師に必要な知識と技術の実践的な研究２）健康運動が身体に及ぼす実践的な研究　3）認知予防に関する挑戦的研究４）ウインタースポーツ（スキー、スノーボード）に関する傷害調査

＜授業の到達目標＞

柔道整復師に必要な幅広い知識や技術に関して科学的思考を用いることによりアプローチが出来るように､各種の研究手法を学びながら研究テーマを設定し、研究を通して柔道整復師としての役割と責任を再確認し、専門家への資質を培うと共に、科学的研究思考を活用し研究活動ができることを目標とする。

＜授業の方法＞

現段階において明確化した各自の研究課題について、調査・実験しながら柔道整復師に必要な知識の確認を行う。基本的には学生自身の発表と共同討議による演習形式で進めていくが、進捗状況によっては個別指導を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有り

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

(予習・復習等) 研究課題に関する分野の文献検索を適宜実施しながら、情報を収集し分析する。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は、DP４　（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる）に関係づけられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

【対面授業】課題達成度（50%）、学習意欲（30%）、レポート（20%）で評価する。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概要
2	文献研究1	研究分野を決定するために各分野の論文抄読を行う1
3	文献研究2	研究分野を決定するために各分野の論文抄読を行う2
4	文献研究3	研究分野を決定するために各分野の論文抄読を行う3
5	文献研究4	研究分野を決定するために各分野の論文抄読を行う4
6	文献研究5	研究分野を決定するために各分野の論文抄読を行う5
7	研究テーマ発表1	各自が自分の研究テーマを発表し、全員から意見をもとに検討する１
8	研究テーマ発表2	各自が自分の研究テーマを発表し、全員から意見をもとに検討する2
9	研究テーマ発表3	各自が自分の研究テーマを発表し、全員から意見をもとに検討する3
10	研究テーマ発表4	各自が自分の研究テーマを発表し、全員から意見をもとに検討する4
11	研究計画の立案1	先行研究を踏まえ自分が立案した研究計画の新規性をを発表する１
12	研究計画の立案2	先行研究を踏まえ自分が立案した研究計画の新規性をを発表する2
13	研究計画の立案3	先行研究を踏まえ自分が立案した研究計画の新規性をを発表する3
14	研究計画の立案4	先行研究を踏まえ自分が立案した研究計画の新規性をを発表する4
15	研究計画の立案5	先行研究を踏まえ自分が立案した研究計画の新規性をを発表する5
16	研究テーマについて実験・調査の実施1	研究テーマについて小規模に実験・調査の実施を実施し、問題点や課題を検討する1
17	研究テーマについて実験・調査の実施2	研究テーマについて小規模に実験・調査の実施を実施し、問題点や課題を検討する2
18	研究テーマについて実験・調査の実施3	研究テーマについて小規模に実験・調査の実施を実施し、問題点や課題を検討する3
19	研究テーマについて実験・調査の実施4	研究テーマについて小規模に実験・調査の実施を実施し、問題点や課題を検討する4
20	研究テーマについて実験・調査の実施5	研究テーマについて小規模に実験・調査の実施を実施し、問題点や課題を検討する5
21	研究内容について共同討議1	各自の研究内容について発表し共同討議する1
22	研究内容について共同討議2	各自の研究内容について発表し共同討議する2

23	研究内容について共同討議3	各自の研究内容について発表し共同討議する3
24	研究内容について共同討議4	各自の研究内容について発表し共同討議する4
25	研究内容について共同討議5	各自の研究内容について発表し共同討議する5
26	総括1	研究進捗状況発表会1
27	総括2	研究進捗状況発表会2
28	総括3	研究進捗状況発表会3
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	平林　大輔		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
柔道整復師として必要な基礎知識の修得状況を踏まえて確認し、各自の研究課題に取り組む。卒業研究へ結びつく研究課題を学生が自主的に絞り込み、興味と関心をもって学問的に取り組むことが出来るような条件整備を行い学生の研究を支援する。したがって本ゼミナールは、学生の研究方向の拡散や広範囲な興味関心を肯定的に受け止め、なおかつ研究分野を一定程度に特定できるよう積極的な支援体制を取る。 具体的には文献研究を始め、受講者が研究課題を設定できるよう様々なアドバイスや共同討議を取り入れたゼミナール形式とする。ゼミナールⅠ（基礎）での学習は①学んだ情報整理、②疑問・問題点の抽出及び整理、③関連文献収集、④課題確認を発展させるに至る。テーマ領域　1）柔道整復師に必要な知識と技術の実践的な研究２）健康運動が身体に及ぼす実践的な研究

＜授業の到達目標＞
柔道整復師に必要な幅広い知識や技術に関して科学的思考を用いることによりアプローチが出来るように、各種の研究手法を学びながら研究テーマを設定し、研究を通して柔道整復師としての役割と責任を再確認し、専門家への資質を培うと共に、科学的研究思考を修得することができるようになる。

＜授業の方法＞
現段階において明確化した各自の研究課題について、調査・実験しながら柔道整復師に必要な知識の確認を行う。基本的には学生自身の発表と共同討議による演習形式で進めていくが、進捗状況によっては個別指導を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無し

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
（予習・復習等）研究課題に関する分野の文献検索を適宜実施しながら、情報を収集し分析する。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
【対面授業】課題達成度（50%）、学習意欲（30%）、レポート（20%）で評価する。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概要
2	文献研究1	研究分野を決定するために各分野の論文抄読を行う1
3	文献研究2	研究分野を決定するために各分野の論文抄読を行う2
4	文献研究3	研究分野を決定するために各分野の論文抄読を行う3
5	文献研究4	研究分野を決定するために各分野の論文抄読を行う4
6	文献研究5	研究分野を決定するために各分野の論文抄読を行う5
7	研究テーマ発表1	各自が自分の研究テーマを発表し、全員から意見をもとに検討する１
8	研究テーマ発表2	各自が自分の研究テーマを発表し、全員から意見をもとに検討する2
9	研究テーマ発表3	各自が自分の研究テーマを発表し、全員から意見をもとに検討する3
10	研究テーマ発表4	各自が自分の研究テーマを発表し、全員から意見をもとに検討する4
11	研究計画の立案1	先行研究を踏まえ自分が立案した研究計画の新規性をを発表する１
12	研究計画の立案2	先行研究を踏まえ自分が立案した研究計画の新規性をを発表する2
13	研究計画の立案3	先行研究を踏まえ自分が立案した研究計画の新規性をを発表する3
14	研究計画の立案4	先行研究を踏まえ自分が立案した研究計画の新規性をを発表する4
15	研究計画の立案5	先行研究を踏まえ自分が立案した研究計画の新規性をを発表する5
16	研究テーマについて実験・調査の実施1	研究テーマについて小規模に実験・調査の実施を実施し、問題点や課題を検討する1
17	研究テーマについて実験・調査の実施2	研究テーマについて小規模に実験・調査の実施を実施し、問題点や課題を検討する2
18	研究テーマについて実験・調査の実施3	研究テーマについて小規模に実験・調査の実施を実施し、問題点や課題を検討する3
19	研究テーマについて実験・調査の実施4	研究テーマについて小規模に実験・調査の実施を実施し、問題点や課題を検討する4
20	研究テーマについて実験・調査の実施5	研究テーマについて小規模に実験・調査の実施を実施し、問題点や課題を検討する5
21	研究内容について共同討議1	各自の研究内容について発表し共同討議する1

22	研究内容について共同討議2	各自の研究内容について発表し共同討議する2
23	研究内容について共同討議3	各自の研究内容について発表し共同討議する3
24	研究内容について共同討議4	各自の研究内容について発表し共同討議する4
25	研究内容について共同討議5	各自の研究内容について発表し共同討議する5
26	総括1	研究進捗状況発表会1
27	総括2	研究進捗状況発表会2
28	総括3	研究進捗状況発表会3
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	木戸　和彦		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠ（基礎）では、社会人に求められる基礎的知識の習得を目指す。さらに、教育の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識の習得と、問題意識の形成および課題解決の糸口を見出すことを目指す。

＜授業の到達目標＞
１．社会人に求められる基礎的知識を習得する。さらに、教育の視点から職業人として求められる一般教養ならびにスキルを修得する。　２．リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を養う。

＜授業の方法＞
「AI（人工知能）」、「e-Learning」、「電子教科書」をキーワードとして、レポート（課題）作成及びディスカッションをする。そして、その成果を蓄積することによって、研究成果（レポートあるいは制作物）へと集約させる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素有調査の課題、フィールドワーク、グループデスカッション等

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進める。文献検索を行い、その結果を事前にレポートにまとめたり、制作に取り組んだりする。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求める。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度等（関心・意欲・態度）　30%、レポート・課題の内容と到達度（知識・理解）　70%

＜教科書＞
特に指定しない。

＜参考書＞
特に指定しない。

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅠ（基礎）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究の基礎 1	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。(論文の書き方や文献検索の方法など)
3	研究の基礎 2	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献の読み方など）
4	研究の基礎 3	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献のまとめ方など）
5	研究の基礎固め 1	先行研究のレビュー・発表（第１回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
6	研究の基礎固め 2	先行研究のレビュー・発表（第２回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
7	研究の基礎固め 3	先行研究のレビュー・発表（第３回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
8	研究の基礎固め 4	先行研究のレビュー・発表（第４回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
9	研究の基礎固め 5	先行研究のレビュー・発表（第５回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
10	研究の基礎固め 6	先行研究のレビュー・発表（第６回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
11	研究の基礎固め 7	先行研究のレビュー・発表（第7回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
12	研究の基礎固め 8	先行研究のレビュー・発表（第8回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
13	研究の基礎固め 9	先行研究のレビュー・発表（第9回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
14	研究の基礎固め 10	先行研究のレビュー・発表（第10回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
15	前期のまとめ	前期の授業内容をまとめ、理解を深める。
16	研究指導① 1	研究テーマ、課題を考える。
17	研究指導① 2	研究テーマ、課題をしぼる。
18	研究指導① 3	研究テーマ、課題を決める。
19	研究指導② 1	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
20	研究指導② 2	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 2
21	研究指導② 3	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 3

22	研究指導② 4	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 4
23	研究指導② 5	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 5
24	研究指導② 6	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 6
25	研究指導② 7	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 7
26	研究指導② 8	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 8
27	研究指導② 9	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 9
28	研究指導② 10	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 10
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	藤井　健太郎			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	講義、演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠ（基礎）では、社会人に求められる基礎的知識の習得を目指す。さらに、教育の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識の習得と、問題意識の形成および課題解決の糸口を見出すことを目指す。

＜授業の到達目標＞
１．職業人として求められる一般教養ならびにスキルを習得することができる。　２．リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を身に付けることができる。３．各自の課題を基にした探究活動を通して学校教育における実践計画を立案することができる。

＜授業の方法＞
ゼミ生が興味・関心を持ったテーマについて、レポート（課題）作成及びディスカッションをする。そして、その成果を蓄積することによって、研究成果（レポートあるいは制作物）へと集約させる。その際、先行研究の検索や分析、論文作成と発表において、ICT・デジタル機器を活用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）４、５人のグループに分かれ、テーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進める。文献検索を行い、その結果を事前にレポートにまとめたり、制作に取り組んだりする。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度求める。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４(地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。　　)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度等（関心・意欲・態度）30%、ゼミ論文・レポート・課題の内容、到達度評価（知識・理解）70%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅠ（基礎）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究の基礎	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。(論文の書き方や文献検索の方法など)
3	研究の基礎 2	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献の読み方など）
4	研究の基礎 3	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献のまとめ方など）
5	研究の基礎固め	先行研究のレビュー・発表（第１回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
6	研究の基礎固め 2	先行研究のレビュー・発表（第２回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
7	研究の基礎固め 3	先行研究のレビュー・発表（第３回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
8	研究の基礎固め 4	先行研究のレビュー・発表（第４回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
9	研究の基礎固め 5	先行研究のレビュー・発表（第５回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
10	研究の基礎固め 6	先行研究のレビュー・発表（第６回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
11	研究の基礎固め 7	先行研究のレビュー・発表（第7回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
12	研究の基礎固め 8	先行研究のレビュー・発表（第8回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
13	研究の基礎固め 9	先行研究のレビュー・発表（第9回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
14	研究の基礎固め 10	先行研究のレビュー・発表（第10回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
15	前期のまとめ	前期の授業内容をまとめ、理解を深める。
16	研究指導①	研究テーマ、課題を考える。
17	研究指導① 2	研究テーマ、課題をしぼる。
18	研究指導① 3	研究テーマ、課題を決める。
19	研究指導②	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
20	研究指導②　2	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 2
21	研究指導②　3	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 3

22	研究指導②　4	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 4
23	研究指導②　5	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 5
24	研究指導②　6	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 6
25	研究指導②　7	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 7
26	研究指導②　8	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 8
27	研究のまとめ①	研究成果の発表と総括
28	研究のまとめ②	研究成果の発表と総括
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	高橋　章二		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠ（基礎）では、社会人に求められる基礎的知識の習得を目指す。さらに、教育の視点(特別支援教育・インクルーシブ教育）から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識の習得と、問題意識の形成および課題解決の糸口を見出すことを目指す。

＜授業の到達目標＞
１．社会人に求められる基礎的知識を習得することができる。さらに、教育の視点(特別支援教育・インクルーシブ教育）から職業人として求められる一般教養ならびにスキルを修得することができる。　２．リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を身に付けることができる。

＜授業の方法＞
ゼミ生が興味・関心を持ったテーマについて、レポート（課題）作成及びディスカッションをする。そして、その成果を蓄積することによって、研究成果（レポートあるいは制作物）へと集約させる。その際、先行研究の検索や分析、論文作成と発表において、ICT・デジタル機器を活用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
毎時間テーマに沿ったディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進める。文献検索を行い、その結果を事前にレポートにまとめたり、制作に取り組んだりする。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求める。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度等（関心・意欲・態度）30%、ゼミレポート・最終レポート、到達度評価で（知識・理解）70%

＜教科書＞
特に指定しない。

＜参考書＞
特に指定しない。

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅠ（基礎）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究の基礎	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。(論文の書き方や文献検索の方法など)
3	研究の基礎 2	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献の読み方など）
4	研究の基礎 3	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献のまとめ方など）
5	研究の基礎固め	先行研究のレビュー・発表（第１回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
6	研究の基礎固め 2	先行研究のレビュー・発表（第２回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
7	研究の基礎固め 3	先行研究のレビュー・発表（第３回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
8	研究の基礎固め 4	先行研究のレビュー・発表（第４回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
9	研究の基礎固め 5	先行研究のレビュー・発表（第５回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
10	研究の基礎固め 6	先行研究のレビュー・発表（第６回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
11	研究の基礎固め 7	先行研究のレビュー・発表（第7回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
12	研究の基礎固め 8	先行研究のレビュー・発表（第8回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
13	研究の基礎固め 9	先行研究のレビュー・発表（第9回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
14	前期のまとめ	先行研究のレビュー・発表（第10回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
15	研究指導①	研究テーマ、課題を考える。
16	研究指導①―②	研究テーマ、課題をしぼる。
17	研究指導①　－③	研究テーマ、課題を決める
18	研究指導①　－④	研究テーマ、課題を決める。
19	研究指導②	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
20	研究指導②　2	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 2
21	研究指導②　3	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 3

22	研究指導②　4	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 4
23	研究指導②　5	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 5
24	研究指導②　6	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 6
25	研究指導②　7	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 7
26	研究指導②　8	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 8
27	研究指導②　9	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 9
28	研究のまとめ	研究成果の発表と総括
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	小川　智勢子		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠ（基礎）では、社会人に求められる基礎的知識の習得を目指す。さらに、教育の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識の習得と、問題意識の形成および課題解決の糸口を見出すことを目指す。

＜授業の到達目標＞
１．社会人に求められる基礎的知識を習得することができる。さらに、教育の視点から職業人として求められる一般教養ならびにスキルを修得することができる。　２．リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を養うことができる。

＜授業の方法＞
ゼミ生が興味・関心を持ったテーマについて、レポート（課題）作成及びディスカッションをする。そして、その成果を蓄積することによって、研究成果（レポートあるいは制作物）へと集約させる。その際、先行研究の検索や分析、論文作成と発表において、ICT・デジタル機器を活用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
パワーポイントなどの資料を作成しての発表テーマを設定しての話し合いの進行など

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進める。文献検索を行い、その結果を事前にレポートにまとめたり、制作に取り組んだりする。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求める。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度等（関心・意欲・態度）30%、ゼミ論文・レポート・課題の内容、到達度評価で（知識・理解）70%

＜教科書＞
特に指定しない。

＜参考書＞
特に指定しない。

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅠ（基礎）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究の基礎	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。(論文の書き方や文献検索の方法など)
3	研究の基礎 2	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献の読み方など）
4	研究の基礎 3	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献のまとめ方など）
5	研究の基礎固め	先行研究のレビュー・発表（第１回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
6	研究の基礎固め 2	先行研究のレビュー・発表（第２回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
7	研究の基礎固め 3	先行研究のレビュー・発表（第３回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
8	研究の基礎固め 4	先行研究のレビュー・発表（第４回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
9	研究の基礎固め 5	先行研究のレビュー・発表（第５回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
10	研究の基礎固め 6	先行研究のレビュー・発表（第６回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
11	研究の基礎固め 7	先行研究のレビュー・発表（第7回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
12	研究の基礎固め 8	先行研究のレビュー・発表（第8回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
13	研究の基礎固め 9	先行研究のレビュー・発表（第9回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
14	研究の基礎固め 10	先行研究のレビュー・発表（第10回目）／研究の前提となるスキルを身につける。 前期のまとめをする。
15	研究指導１ - ①	研究テーマ、課題を考える。
16	研究指導１ - ②	研究テーマ、課題をしぼる。
17	研究指導１- ③	研究テーマ、課題を決める。
18	研究指導２ - ①	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
19	研究指導２ - ②	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 2

20	研究指導２－③	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 3
21	研究指導２－　④	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 4
22	研究指導２－　⑤	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 5
23	研究指導２－　⑥	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 6
24	研究指導２－⑦	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 7
25	研究指導２－　⑧	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 8
26	研究指導２－⑨	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 9
27	研究指導２－⑩	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 10
28	研究のまとめ	研究成果の発表と総括
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	大久保　諒		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠ（基礎）では、社会人に求められる基礎的知識の習得を目指す。さらに、教育の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識の習得と、問題意識の形成および課題解決の糸口を見出すことを目指す。

＜授業の到達目標＞
１．社会人に求められる基礎的知識や、教育の視点から職業人として必要とされる一般教養・スキルを身に付け、実社会の具体的な場面で活用できる。２．自ら設定した研究テーマに沿って適切な文献検索・資料収集を行い、その内容を論理的に整理・分析してレポート（ゼミ論文）として執筆できる。３．研究成果や自分の意見について、ICT機器やデジタルツールを効果的に活用しながら、他者に対して論理的かつ分かりやすく発表・説明できる。

＜授業の方法＞
ゼミ生が興味・関心を持ったテーマについて、レポート（課題）作成及びディスカッションをする。そして、その成果を蓄積することによって、研究成果（レポートあるいは制作物）へと集約させる。その際、先行研究の検索や分析、論文作成と発表において、ICT・デジタル機器を活用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有　各回毎のテーマについて参加者同士で話し合い、意見をまとめグループごとに発表を行う

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進める。文献検索を行い、その結果を事前にレポートにまとめたり、制作に取り組んだりする。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求める。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度等（関心・意欲・態度）30%、ゼミ論文・レポート・課題の内容、到達度評価で（知識・理解）70%

＜教科書＞
特に指定しない。

＜参考書＞
高野良子・武内清編著　『教育の基礎と展開　豊かな教育・保育のつながりをめざして』［第3版］　学文社
2024年3月25日

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ゼミの進め方・目的・内容	ゼミナールⅠ（基礎）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究の基礎	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。(論文の書き方や文献検索の方法など)
3	研究の基礎 2	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献の読み方など）
4	研究の基礎 3	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献のまとめ方など）
5	研究の基礎固め	先行研究のレビュー・発表（第１回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
6	研究の基礎固め 2	先行研究のレビュー・発表（第２回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
7	研究の基礎固め 3	先行研究のレビュー・発表（第３回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
8	研究の基礎固め 4	先行研究のレビュー・発表（第４回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
9	研究の基礎固め 5	先行研究のレビュー・発表（第５回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
10	研究の基礎固め 6	先行研究のレビュー・発表（第６回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
11	研究の基礎固め 7	先行研究のレビュー・発表（第7回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
12	研究の基礎固め 8	先行研究のレビュー・発表（第8回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
13	研究の基礎固め 9	先行研究のレビュー・発表（第9回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
14	前期のまとめ	前期の授業内容をまとめ、理解を深める。
15	研究指導①	研究テーマ、課題を考える。
16	研究指導① 2	研究テーマ、課題をしぼる。
17	研究指導① 3	研究テーマ、課題を決める。
18	研究指導②	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション

19	研究指導②　2	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 2
20	研究指導②　3	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 3
21	研究指導②　4	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 4
22	研究指導②　5	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 5
23	研究指導②　6	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 6
24	研究指導②　7	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 7
25	研究指導②　8	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 8
26	研究指導②　9	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 9
27	研究指導②　10	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 10
28	研究のまとめ	研究成果の発表と総括
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	濱嶋　幸司		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠ（基礎）では、社会人に求められる基礎的知識の習得を目指す。さらに、教育の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識の習得と、問題意識の形成および課題解決の糸口を見出すことを目指す。

＜授業の到達目標＞
１．社会人に求められる基礎的知識や、教育の視点から職業人として必要とされる一般教養・スキルを身に付け、実社会の具体的な場面で活用できる。２．自ら設定した研究テーマに沿って適切な文献検索・資料収集を行い、その内容を論理的に整理・分析してレポート（ゼミ論文）として執筆できる。３．研究成果や自分の意見について、ICT機器やデジタルツールを効果的に活用しながら、他者に対して論理的かつ分かりやすく発表・説明できる。

＜授業の方法＞
ゼミ生が興味・関心を持ったテーマについて、レポート（課題）作成及びディスカッションをする。そして、その成果を蓄積することによって、研究成果（レポートあるいは制作物）へと集約させる。その際、先行研究の検索や分析、論文作成と発表において、ICT・デジタル機器を活用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有　各回毎のテーマについて参加者同士で話し合い、意見をまとめグループごとに発表を行う

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進める。文献検索を行い、その結果を事前にレポートにまとめたり、制作に取り組んだりする。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求める。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度等（関心・意欲・態度）30%、ゼミ論文・レポート・課題の内容、到達度評価で（知識・理解）70%

＜教科書＞
特に指定しない。

＜参考書＞
高野良子・武内清編著　『教育の基礎と展開　豊かな教育・保育のつながりをめざして』［第3版］　学文社
2024年3月25日

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ゼミの進め方・目的・内容	ゼミナールⅠ（基礎）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究の基礎	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。(論文の書き方や文献検索の方法など)
3	研究の基礎 2	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献の読み方など）
4	研究の基礎 3	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献のまとめ方など）
5	研究の基礎固め	先行研究のレビュー・発表（第１回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
6	研究の基礎固め 2	先行研究のレビュー・発表（第２回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
7	研究の基礎固め 3	先行研究のレビュー・発表（第３回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
8	研究の基礎固め 4	先行研究のレビュー・発表（第４回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
9	研究の基礎固め 5	先行研究のレビュー・発表（第５回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
10	研究の基礎固め 6	先行研究のレビュー・発表（第６回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
11	研究の基礎固め 7	先行研究のレビュー・発表（第7回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
12	研究の基礎固め 8	先行研究のレビュー・発表（第8回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
13	研究の基礎固め 9	先行研究のレビュー・発表（第9回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
14	前期のまとめ	前期の授業内容をまとめ、理解を深める。
15	研究指導①	研究テーマ、課題を考える。
16	研究指導① 2	研究テーマ、課題をしぼる。
17	研究指導① 3	研究テーマ、課題を決める。
18	研究指導②	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション

19	研究指導②　2	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 2
20	研究指導②　3	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 3
21	研究指導②　4	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 4
22	研究指導②　5	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 5
23	研究指導②　6	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 6
24	研究指導②　7	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 7
25	研究指導②　8	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 8
26	研究指導②　9	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 9
27	研究指導②　10	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 10
28	研究のまとめ	研究成果の発表と総括
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	前田　一誠		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠ（基礎）では、社会人に求められる基礎的知識の習得を目指す。さらに、教育の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識の習得と、問題意識の形成および課題解決の糸口を見出すことを目指す。

＜授業の到達目標＞
１．社会人に求められる基礎的知識や、教育の視点から職業人として必要とされる一般教養・スキルを身に付け、実社会の具体的な場面で活用できる。２．自ら設定した研究テーマに沿って適切な文献検索・資料収集を行い、その内容を論理的に整理・分析してレポート（ゼミ論文）として執筆できる。３．研究成果や自分の意見について、ICT機器やデジタルツールを効果的に活用しながら、他者に対して論理的かつ分かりやすく発表・説明できる。

＜授業の方法＞
ゼミ生が興味・関心を持ったテーマについて、レポート（課題）作成及びディスカッションをする。そして、その成果を蓄積することによって、研究成果（レポートあるいは制作物）へと集約させる。その際、先行研究の検索や分析、論文作成と発表において、ICT・デジタル機器を活用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有　各回毎のテーマについて参加者同士で話し合い、意見をまとめグループごとに発表を行う

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進める。文献検索を行い、その結果を事前にレポートにまとめたり、制作に取り組んだりする。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求める。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度等（関心・意欲・態度）30%、ゼミ論文・レポート・課題の内容、到達度評価で（知識・理解）70%

＜教科書＞
特に指定しない。

＜参考書＞
高野良子・武内清編著　『教育の基礎と展開　豊かな教育・保育のつながりをめざして』［第3版］　学文社
2024年3月25日

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ゼミの進め方・目的・内容	ゼミナールⅠ（基礎）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究の基礎	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。(論文の書き方や文献検索の方法など)
3	研究の基礎 2	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献の読み方など）
4	研究の基礎 3	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献のまとめ方など）
5	研究の基礎固め	先行研究のレビュー・発表（第１回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
6	研究の基礎固め 2	先行研究のレビュー・発表（第２回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
7	研究の基礎固め 3	先行研究のレビュー・発表（第３回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
8	研究の基礎固め 4	先行研究のレビュー・発表（第４回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
9	研究の基礎固め 5	先行研究のレビュー・発表（第５回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
10	研究の基礎固め 6	先行研究のレビュー・発表（第６回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
11	研究の基礎固め 7	先行研究のレビュー・発表（第7回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
12	研究の基礎固め 8	先行研究のレビュー・発表（第8回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
13	研究の基礎固め 9	先行研究のレビュー・発表（第9回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
14	前期のまとめ	前期の授業内容をまとめ、理解を深める。
15	研究指導①	研究テーマ、課題を考える。
16	研究指導① 2	研究テーマ、課題をしぼる。
17	研究指導① 3	研究テーマ、課題を決める。
18	研究指導②	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション

19	研究指導②　2	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 2
20	研究指導②　3	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 3
21	研究指導②　4	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 4
22	研究指導②　5	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 5
23	研究指導②　6	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 6
24	研究指導②　7	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 7
25	研究指導②　8	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 8
26	研究指導②　9	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 9
27	研究指導②　10	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 10
28	研究のまとめ	研究成果の発表と総括
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	村上　尚徳		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠ（基礎）では、社会人に求められる基礎的知識の習得を目指す。さらに、教育の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識の習得と、問題意識の形成および課題解決の糸口を見出すことを目指す。

＜授業の到達目標＞
１．社会人に求められる基礎的知識や、教育の視点から職業人として必要とされる一般教養・スキルを身に付け、実社会の具体的な場面で活用できる。２．自ら設定した研究テーマに沿って適切な文献検索・資料収集を行い、その内容を論理的に整理・分析してレポート（ゼミ論文）として執筆できる。３．研究成果や自分の意見について、ICT機器やデジタルツールを効果的に活用しながら、他者に対して論理的かつ分かりやすく発表・説明できる。

＜授業の方法＞
ゼミ生が興味・関心を持ったテーマについて、レポート（課題）作成及びディスカッションをする。そして、その成果を蓄積することによって、研究成果（レポートあるいは制作物）へと集約させる。その際、先行研究の検索や分析、論文作成と発表において、ICT・デジタル機器を活用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有　各回毎のテーマについて参加者同士で話し合い、意見をまとめグループごとに発表を行う

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進める。文献検索を行い、その結果を事前にレポートにまとめたり、制作に取り組んだりする。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求める。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度等（関心・意欲・態度）30%、ゼミ論文・レポート・課題の内容、到達度評価で（知識・理解）70%

＜教科書＞
特に指定しない。

＜参考書＞
高野良子・武内清編著　『教育の基礎と展開　豊かな教育・保育のつながりをめざして』［第3版］　学文社
2024年3月25日

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ゼミの進め方・目的・内容	ゼミナールⅠ（基礎）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究の基礎	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。(論文の書き方や文献検索の方法など)
3	研究の基礎 2	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献の読み方など）
4	研究の基礎 3	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献のまとめ方など）
5	研究の基礎固め	先行研究のレビュー・発表（第１回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
6	研究の基礎固め 2	先行研究のレビュー・発表（第２回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
7	研究の基礎固め 3	先行研究のレビュー・発表（第３回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
8	研究の基礎固め 4	先行研究のレビュー・発表（第４回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
9	研究の基礎固め 5	先行研究のレビュー・発表（第５回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
10	研究の基礎固め 6	先行研究のレビュー・発表（第６回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
11	研究の基礎固め 7	先行研究のレビュー・発表（第7回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
12	研究の基礎固め 8	先行研究のレビュー・発表（第8回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
13	研究の基礎固め 9	先行研究のレビュー・発表（第9回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
14	前期のまとめ	前期の授業内容をまとめ、理解を深める。
15	研究指導①	研究テーマ、課題を考える。
16	研究指導① 2	研究テーマ、課題をしぼる。
17	研究指導① 3	研究テーマ、課題を決める。
18	研究指導②	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション

19	研究指導②　2	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 2
20	研究指導②　3	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 3
21	研究指導②　4	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 4
22	研究指導②　5	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 5
23	研究指導②　6	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 6
24	研究指導②　7	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 7
25	研究指導②　8	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 8
26	研究指導②　9	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 9
27	研究指導②　10	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 10
28	研究のまとめ	研究成果の発表と総括
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	木野　正一郎			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	講義、演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠ（基礎）では、社会人に求められる基礎的知識の習得を目指す。さらに、道徳教育の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識の習得と、問題意識の形成および課題解決の糸口を見出すことを目指す。

＜授業の到達目標＞
教育職員に採用された後の皆さんの姿をイメージし、特にこのゼミナール出身者の中から各学校に設置されるミドルリーダー（「道徳教育推進教諭」）になれるような資質・能力を形成することができるようになる。尚、「考え、議論する道徳」のアクティブ・ラーニングについて授業設計や授業分析ができるようにテーマ探究をするのはもちろん、やがては道徳教育の全体計画や年間指導計画、シラバスの作成等もできるように成長してもらいたいと考える。

＜授業の方法＞
・前期は、道徳的な観点から見た現代社会における教育的諸課題について、賛否両論を踏まえたディベートを行う。講義では2回を1セットにし、①情報収集（知識・技能の習得、ブレイン・ストーミング）→②ディベート（思考力・判断力・表現力等、討議）→③まとめ（学びに向かう力、人間性等）の探究学習のサイクルを回す。・後期は、前期に課題検討し、皆さんが獲得・蓄積した様々な諸課題の中から、自分が深めたいと思った問い（課題）を集中的に探究し、研究成果（レポート、ポスター等）をまとめる。その際、ICT機器を活用して、先行実践研究

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
・ディベート・ソクラテス的対話によるディスカッション・ブレインストーミング(マトリックス法・SWOT分析・イメージマッピング等）・学習指導案の作成・模擬授業の実施と質的データの収集・可能であれば、フィールドワーク　　他

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
前期は、毎回の授業で行うディベートの準備として、授業内でも情報探索する時間を設けるが、各自で情報を集める努力をしてほしい。賛否の両面から教育課題を多面的・多角的に考察し、「何が課題となっているのか」をとことん探究するように準備に当たること（所用時間は１～２時間程度）。後期は、各自が興味・関心を抱いたテーマを個々に深めていくので、雑誌や学会誌などに掲載された先行実践研究論文を読むなどして、自分なりの独創的なアイディアを論文にまとめるように準備を深めてほしい。テーマの決定や、探究の進め方、論文のまとめ方（研究

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・授業態度等（関心・意欲・態度、課題意識と課題解決に向けた探究意識、研究計画の推進状況（レスポンス含む））：30%・論文・レポート・課題・制作物（学習指導案等）の内容、到達度評価（知識・理解）：70%

＜教科書＞
木野正一郎（2016年4月15日）　『新発想！道徳のアクティブ・ラーニング型授業はこれだ』　みくに出版株式会社
押谷由夫・柳沼良太編（2014年7月7日）　『道徳の時代をつくる！－道徳教科化への始動－』　教育出版株式会社
青木多寿子編（2011年9月30日）　『もう一つの教育ーよい行為の習慣をつくる品格教育の提案－』　ナカニシヤ出版

＜参考書＞
明治図書出版株式会社（月刊誌）　雑誌『道徳教育』（月刊誌）　明治図書出版株式会社
木野正一郎（2023年3月1日）　『早稲田大学教職大学院紀要第15号』「高等学校『地理探究』を想定した小単元プログラムの開発と評価－『探究的な学習のための活動系列モデル』を援用した取組を通してー」（注：講義にて配布します）　早稲田大学教職大学院紀要刊行委員会
木野正一郎（2024年3月1日）　『早稲田大学教職大学院紀要第16号』「『包括的セクシュアリティ教育』を援用した小単元プログラムの実践と評価－『課題予防的生徒指導』に向けた取組を通してー」（注：講義にて配布します）　早稲田大学教職大学院紀要刊行委員会

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	・オリエンテーション	ゼミナールⅠ（基礎）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	・研究の基礎　－解説編ー	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。(論文の書き方や文献検索の方法など)
3	・研究の基礎　－実践編Ⅰ－①＜ブレイン・ストーミングⅠ＞	現代的な教育課題Ⅰの論争点について情報探索し、多様な意見をまとめる。

4	・研究の基礎　－実践編Ⅰ－②＜ディベートⅠと総括Ⅰ＞	現代的な教育課題Ⅰの論争点について探索した情報に基づき、司会役・審判役・推進派役・慎重派役に分担して討論する。
5	・研究の基礎　－実践編Ⅱ－①＜ブレイン・ストーミングⅡ＞	現代的な教育課題Ⅱの論争点について情報探索し、多様な意見をまとめる。
6	・研究の基礎　－実践編Ⅱ－②＜ディベートⅡと総括Ⅱ＞	現代的な教育課題Ⅱの論争点について探索した情報に基づき、司会役・審判役・推進派役・慎重派役に分担して討論する。
7	・研究の基礎　－実践編Ⅲ－①＜ブレイン・ストーミングⅢ＞	現代的な教育課題Ⅲの論争点について情報探索し、多様な意見をまとめる。
8	・研究の基礎　－実践編Ⅲ－②＜ディベートⅢと総括Ⅲ＞	現代的な教育課題Ⅲの論争点について探索した情報に基づき、司会役・審判役・推進派役・慎重派役に分担して討論する。
9	・研究の基礎固めⅠ	先行研究のレビュー・発表（第1回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
10	・研究の基礎固めⅡ	先行研究のレビュー・発表（第2回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
11	・研究の基礎固めⅢ	先行研究のレビュー・発表（第3回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
12	・研究の基礎固めⅣ	先行研究のレビュー・発表（第4回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
13	・研究の基礎固めⅤ	先行研究のレビュー・発表（第5回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
14	・研究の基礎固め Ⅵ	先行研究のレビュー・発表（第6回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
15	・前期のまとめ	前期の授業内容をまとめ、理解を深める。新たな問い、探究してみたい問いを持ってみる。
16	・研究指導Ⅰ　－研究計画づくり①	研究テーマ、課題を考える。
17	・研究指導Ⅰ　－指導計画づくり②	研究テーマ、課題をしぼる。
18	・研究指導Ⅰ　－指導計画づくり③	研究テーマ、課題を決める。
19	・研究指導Ⅱ　－課題の探究活動①	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション①
20	・研究指導Ⅱ　－課題の探究活動②	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション②
21	・研究指導Ⅱ　－課題の探究活動③	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション③
22	・研究指導Ⅱ　－課題の探究活動④	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション④
23	・研究指導Ⅱ　－課題の探究活動⑤	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション⑤
24	・研究指導Ⅱ　－課題の探究活動⑥	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション⑥
25	・研究指導Ⅱ　－課題の探究活動⑦	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション⑦
26	・研究指導Ⅱ　－課題の探究活動⑧	・研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション⑧
27	・研究指導Ⅲ　－研究成果（論文ないし学習指導案）の発表①・②	探究した課題について、その研究発表（研究目的・研究方法・研究報告・考察・成果と課題）をする（注：発表は30分/人、うち10分は仲間との相互評価）。
28	・研究指導Ⅲ　－研究成果（論文ないし学習指導案）の発表③・④	探究した課題について、その研究発表（研究目的・研究方法・研究報告・考察・成果と課題）をする（注：発表は30分/人、うち10分は仲間との相互評価）。
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	羽田　あずさ		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業では、リサーチ・リテラシー（研究を遂行するための必要な基礎的能力）として、課題発見力・情報収集力・情報整理力・読解力データ分析力・文章力・プレゼンテーション能力の育成をめざす。さらに教育の観点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識・技能の発達と批判的思考態度の向上を目指す。

＜授業の到達目標＞
ディプロマポリシーDP１；他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる、DP２；保育士・幼稚園教諭養成の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる、DP３；教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる、に関連して次の２点を到達目標とする。１．社会人に求められる汎用スキルとしてのリサーチ・リテラシーを身につけることができる。２．英語教育において、自身の興味関心がある分野の専門的知識を身につけることができる。

＜授業の方法＞
（1）講義（教員による解説と問いの提示）（2）グループワーク（3）ディスカッション（4）省察活動

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループワーク・ディスカッション・プレゼンテーション

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進める。文献検索を行い、その結果を事前にレポートにまとめる。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定する。予習（発表準備等）を1時間復讐（内容の振り返り）を1時間

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４(地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。　　)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度等（関心・意欲・態度、思考判断表現）３０%、課題（知識・理解、思考判断表現）７０%

＜教科書＞

＜参考書＞
竹内理・水本篤ほか(2023)　外国語教育研究ハンドブック（増補版）―研究手法のより良い理解のために―　松柏社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する
2	研究法講話	卒業論文作成の手引きを確認する
3	研究の基礎（1）	論文の構成要素を知り、意識しながらAbstractを読む
4	研究の基礎（2）	剽窃を防ぐため、引用の種類と方法を知る
5	卒業研究手法（1）実践への理解・省察を促すアプローチ	アクションリサーチ；自己エスノグラフィー；フィールドワークなど
6	卒業研究手法（2）	PAC分析；研究倫理；研究同意書の構成要素
7	卒業研究手法（3）	ナラティヴ分析（テーマ分析・構造分析）；半構造化インタビュー
8	基礎的なデータの分析・提示・解釈	統計分析；図表の提示方法を知る
9	文献レビューの書き方（1）	先行研究を網羅し、関心のあるテーマの全体像をつかむ：専門用語やキーワードを理解する
10	文献レビューの書き方（2）	すでに明らかになっていることとまだ明らかになっていないことを知る；自分の研究の位置づけを明確にする（研究課題設定）
11	先行研究及び研究課題の発表（1）	発表に関する質疑応答・ディスカッション
12	先行研究及び研究課題の発表（2）	発表に関する質疑応答・ディスカッション
13	先行研究及び研究課題の発表（3）	発表に関する質疑応答・ディスカッション
14	先行研究及び研究課題の発表（4）	発表に関する質疑応答・ディスカッション１
15	前期まとめ	前期の授業内容をまとめ、理解を深める；後期授業への見通しを立てる
16	研究指導（1）	研究課題を再考する
17	研究指導（2）	研究課題を再考する
18	研究指導（3）	研究方法の計画、ディスカッション
19	研究指導（4）	研究方法の計画、ディスカッション
20	研究指導（5）	研究方法の計画、ディスカッション
21	研究指導（6）	研究方法の計画、ディスカッション

22	研究指導（7）	調査準備（アンケート・インタビュー・テストなどの作成）
23	研究指導（8）	調査準備（アンケート・インタビュー・テストなどの作成）
24	研究指導（9）	調査準備（アンケート・インタビュー・テストなどの作成）
25	研究指導（１０）	調査準備（アンケート・インタビュー・テストなどの作成）
26	研究指導（１１）	データの分析・提示・解釈、ディスカッション
27	研究指導（１２）	データの分析・提示・解釈、ディスカッション
28	研究指導（１３）	データの分析・提示・解釈、ディスカッション
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	小澤　尚子		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業では、リサーチ・リテラシー（研究を遂行するための必要な基礎的能力）として、課題発見力・情報収集力・情報整理力・読解力データ分析力・文章力・プレゼンテーション能力の育成をめざす。さらに教育の観点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識・技能の発達と批判的思考態度の向上を目指す。

＜授業の到達目標＞
１．社会人に求められる汎用スキルとしてのリサーチ・リテラシーを身につけている。２．表現教育および自身の興味関心がある分野の専門的知識を身につけようとしている。

＜授業の方法＞
（1）講義（教員による解説と問いの提示）（2）グループワーク（3）ディスカッション（4）省察活動

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループワーク・ディスカッション・プレゼンテーション

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進める。文献検索を行い、その結果を事前にレポートにまとめる。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定する。各界、予習（発表準備等）を1時間、復讐（内容の振り返り）を1時間程度する。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４(地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。　　)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度等（関心・意欲・態度、思考判断表現）30%、課題（知識・理解、思考判断表現）70%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する
2	研究法講話	卒業論文作成の手引きを確認する
3	研究の基礎（1）	論文の全体構造を見通しながら内容を理解する
4	研究の基礎（2）	剽窃を防ぐため、引用の種類と方法を知る
5	卒業研究手法（1）実践への理解・省察を促すアプローチ	ケーススタディ；グラウンデッド・セオリー；内容分析など研究目的に応じた方法の選択を考える
6	卒業研究手法（2）	データ管理；記録の保存；二次利用の可否研究データの適切な取り扱いを理解する
7	卒業研究手法（3）	ナラティヴ分析（テーマ分析・構造分析）；半構造化インタビュー
8	基礎的なデータの分析・提示・解釈	統計分析；図表の提示方法を知る
9	文献レビューの書き方（1）	先行研究を網羅し、関心のあるテーマの全体像をつかむ：専門用語やキーワードを理解する
10	文献レビューの書き方（2）	すでに明らかになっていることとまだ明らかになっていないことを知る；自分の研究の位置づけを明確にする（研究課題設定）
11	先行研究及び研究課題の発表（1）	発表に関する質疑応答・ディスカッション
12	先行研究及び研究課題の発表（2）	発表に関する質疑応答・ディスカッション
13	先行研究及び研究課題の発表（3）	発表に関する質疑応答・ディスカッション
14	先行研究及び研究課題の発表（4）	発表に関する質疑応答・ディスカッション1
15	前期まとめ	前期の授業内容をまとめ、理解を深める；後期授業への見通しを立てる
16	研究指導（1）	研究課題を再考する
17	研究指導（2）	研究課題を再考する
18	研究指導（3）	研究方法の計画、ディスカッション
19	研究指導（4）	研究方法の計画、ディスカッション
20	研究指導（5）	研究方法の計画、ディスカッション
21	研究指導（6）	研究方法の計画、ディスカッション
22	研究指導（7）	調査準備（アンケート・インタビュー・テストなどの作成）
23	研究指導（8）	調査準備（アンケート・インタビュー・テストなどの作成）
24	研究指導（9）	調査準備（アンケート・インタビュー・テストなどの作成）

25	研究指導（１０）	調査準備（アンケート・インタビュー・テストなどの作成）
26	研究指導（１１）	データの分析・提示・解釈、ディスカッション
27	研究指導（１２）	データの分析・提示・解釈、ディスカッション
28	研究指導（１３）	データの分析・提示・解釈、ディスカッション
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	内田　仁志			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	講義、演習、発表	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

本講座は学生の方が将来、社会に出ても通用する実践的な能力を育てることを目標にします。具体的には将来教員になっても本講座で学ぶ国語科の「話す・聞く」と「書くこと」の領域については自信をもって授業ができるような能力を育てることを最終的な目的とします。そのためにプレゼンテーションを取り上げ、説得力のある話し方、資料の選択の仕方、わかりやすい文章構造などを演習を通して実際に学んでいきます。さらに教育現場とも連携を図り、適宜実際の教育現場や学会等にも触れたいと思います。また卒論・ゼミ論の指導、公開研への参加など4年生を見据えた指導も充実します。

＜授業の到達目標＞

①実際の学校現場を理解し、教員という仕事を理解することができる②教育現場でのプレゼンテーションの重要性を理解し、研鑽する意欲を持つことができる③効果的なプレゼンテーションの仕方を理解し、実践することができる

＜授業の方法＞

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとります。ゼミという形式の特性を生かし、話し合いの機会を多くします。また適宜、実際の教育現場との連携を図ります。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

模擬授業等を通し・自分で考える→自主的な学習態度　・対話活動で池を練り上げる→協調性、自己表現力　　・自分の意見をまとめる→深い学び　この学習サイクルを確立させるようにします。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

自分のプレゼンテーション発表の前には資料の準備、発表原稿の整理などをする必要があります。発表当日は準備の時間を取らず、発表→話し合いの形式となるので準備はきちんとしておきましょう。（準備につきましては個別に対応します。またオンラインでの指導もあります）また話し合い後に後日、修正したプレゼンテーションを行うこともあります。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本授業の単位を取得するためには、以下の要件を満たす必要がある。授業への参加（全15回の授業のうち、3分の2以上の出席が必須）課題の提出（以下の課題を期限内に提出すること）教材分析レポート（読解指導・記述指導・議論指導のいずれか）指導案作成（模擬授業のための指導案を作成し提出）授業リフレクション（各回の学びを振り返り記述）模擬授業の実施（グループまたは個人で指導案を基に模擬授業を行う）期末レポートの提出（授業で学んだ指導法を踏まえ、国語科指導に関する考察を2000字以上で記述）上記の要件をすべて満たした場合

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 授業態度(ディスカッションや演習への取り組み等）30%、小課題（ミニテスト、ミニレポート等）20%、大課題（発表等）50％

＜教科書＞

内田仁志（2024年8月）　国語教師のための「反論の技術」入門　明治図書

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミの目的や進め方を確認する。評価基準や発表・課題のルールを説明する。今後の学びの目標を設定する。
2	「話す・聞く」スキルの基本	説得力のある話し方や声の出し方を学ぶ。聞き手を意識した話の組み立てを考える。実践を通して話し方の基礎を身につける。
3	教育現場で求められるプレゼンテーションとは	授業におけるプレゼンの役割を理解する。わかりやすく伝えるための工夫を考える。実際の授業動画などを見て分析する。
4	論理的な話し方①：主張と根拠を明確にする	自分の意見を論理的に伝える方法を学ぶ。主張と根拠の関係を整理する練習をする。簡単なスピーチで実践してみる。
5	論理的な話し方②：相手を納得させる展開の工夫	相手の立場を考えた話の組み立てを学ぶ。具体例やデータを使った説得方法を考える。実践的な発表演習を行う。
6	資料の選び方①：視覚的資料の効果的な活用	スライドや板書の役割と活用法を学ぶ。わかりやすい視覚資料のポイントを整理する。自分で資料を作成してみる。
7	資料の選び方②：データや事例の活用	教育現場で使えるデータの選び方を学ぶ。事例を効果的に使う方法を考える。自分のプレゼンに適した資料を作成する。
8	実践演習①：短時間プレゼン（3分間スピーチ）	3分間で要点をまとめる練習をする。聞き手に伝わる話し方を意識する。フィードバックを受けて改善する。

9	実践演習②：論理的な話し方を活かした5分間プレゼン	5分間で論理的に話す演習をする。資料を効果的に使うことを意識する。発表後に改善点を振り返る。
10	教育現場との連携①：実践報告の読み方	教育論文や実践報告の構成を学ぶ。重要なポイントを整理しながら読む。自分の考えをまとめ、意見交換を行う
11	教育現場との連携②：教育現場の課題を考える	教育現場の課題をテーマにグループ討議。フィールドワークの目的や進め方を考える。事前に調査する内容を整理する。
12	「書く」スキルの基本	教育における論述の重要性を理解する。正確で伝わりやすい文章を書く練習をする。自分の考えを論理的にまとめる方法を学ぶ。
13	論理的な文章構成①：序論・本論・結論の組み立て方	文章の基本的な構成を学ぶ。論理的な流れを意識して書く練習をする。短い文章で構成を意識した課題に取り組む。
14	論理的な文章構成②：わかりやすい文章を書くための工夫	文のつながりや表現の工夫を学ぶ。読み手に伝わりやすい文章を意識する。実際に文章を書いてフィードバックを受ける。
15	中間プレゼンテーション：前期の学びのまとめ	前期の学びを整理し、プレゼンで発表する。他者の発表を聞き、良い点・改善点を学ぶ。後期の課題と目標を設定する。
16	教育現場との連携③：授業研究の視点を考える	授業研究の目的や視点を学ぶ。実際の授業映像を見て分析する。自分の指導に活かせる点を整理する。
17	教育現場との連携④：授業記録を基にした分析演習	授業記録の活用方法を学ぶ。教師の指導や児童の反応を分析する。より良い指導方法を考察する。
18	実践演習③：模擬授業の準備	指導案の作成方法を学ぶ。発問の工夫や授業の流れを考える。実際の授業に近い形で準備を進める。
19	実践演習④：模擬授業の実施①（グループ発表）	グループで模擬授業を行う。役割分担をして授業を進める。互いにフィードバックを行い改善する。
20	実践演習⑤：模擬授業の実施②（個人発表）	個人で模擬授業を行う。教材・発問・授業の進め方を工夫する。発表後に振り返りと改善点を整理する。
21	教育現場との連携⑤：教員の実践研究と学会発表の流れ	教員の研究の進め方を学ぶ。学会発表の構成や準備を理解する。研究発表を想定した演習を行う。
22	学会発表の視点と方法	学会発表の要点を整理する。発表の構成や伝え方を学ぶ。研究内容を簡潔にまとめる練習をする。
23	教職実践演習（集中講義参加）	教職実践演習に参加する。授業実践や指導の場面を学ぶ。学びを振り返り、今後に活かす
24	公開研参加（集中講義参加）	公開研に参加する。授業実践や指導の場面を学ぶ。学びを振り返り、今後に活かす
25	公開研参加（集中講義参加）	公開研に参加する。授業実践や指導の場面を学ぶ。学びを振り返り、今後に活かす
26	卒論発表会参加	4年生の卒論発表を聴講する。研究テーマの設定方法を学ぶ。自分の研究課題を考える。
27	卒論発表会参加	4年生の卒論発表を聴講する。研究テーマの設定方法を学ぶ。自分の研究課題を考える。
28	まとめ・振り返り	1年間の学びを整理し、振り返る。今後の課題と目標を設定する。4年次に向けた計画を立てる。
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	河野　儀久		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
スポーツ現場におけるストレングス＆コンディショニングまたはアスレティックトレーニングの指導現場から見いだされた問題点や疑問点などについて、様々なエビデンスを根拠に答えを導き出す能力を身につける。また、自ら実験などの手法を用いて検証、考察し、見解を明らかにして行く能力を身につける。

＜授業の到達目標＞
スポーツ現場におけるストレングス＆コンディショニングまたはアスレティックトレーニングの指導現場から見いだされた問題点や疑問点などについて、様々なエビデンスを根拠に答えを導き出す能力を身につける。

＜授業の方法＞
１．講義および実技２．調査および発表

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
論文プレゼンテーション

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
自分自身の課題を解決するための根拠となる文献を検索し、ヒットした文献をわかりやすくまとめる。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
１．文献検索プレゼンテーションの内容２．小テスト（国家試験問題等）３．データの収集・処理・プレゼンまでの内容

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の方針および進め方の説明
2	文献検索	自分自身の課題に対する文献を検索し、わかりやすくまとめプレゼンする。
3	文献検索	自分自身の課題に対する文献を検索し、わかりやすくまとめプレゼンする。
4	文献検索	自分自身の課題に対する文献を検索し、わかりやすくまとめプレゼンする。
5	文献検索	自分自身の課題に対する文献を検索し、わかりやすくまとめプレゼンする。
6	文献検索	自分自身の課題に対する文献を検索し、わかりやすくまとめプレゼンする。
7	文献検索	自分自身の課題に対する文献を検索し、わかりやすくまとめプレゼンする。
8	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
9	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
10	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
11	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
12	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
13	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
14	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
15	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
16	オリエンテーション	後期の授業計画について説明する
17	解剖学	国家試験過去問演習
18	解剖学	国家試験過去問演習
19	解剖学	国家試験過去問演習
20	生理学	国家試験過去問演習
21	生理学	国家試験過去問演習
22	生理学	国家試験過去問演習
23	生理学	国家試験過去問演習
24	柔道整復学理論	国家試験過去問演習
25	柔道整復学理論	国家試験過去問演習
26	柔道整復学理論	国家試験過去問演習
27	柔道整復学理論	国家試験過去問演習

28 29 30	柔道整復学理論	国家試験過去問演習

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	高﨑　展好		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本ゼミナールでは，音楽表現および演奏制作の実践を通して，音楽表現の可能性や教育的有効性について探究する。合唱・合奏・創作活動などの演奏制作を基盤とした表現活動を学内外で実施し，専門性に裏付けられた創造性，音楽表現力，協働的なコミュニケーション能力の育成を目指す。また，演奏制作活動の企画・運営・発表までの一連のプロセスを経験することにより，表現活動を保育・教育現場に活用するための実践的指導力を養う。

＜授業の到達目標＞
・音楽表現活動および演奏制作に主体的に取り組むことができる。・合唱・合奏・創作活動を通して基礎的な音楽表現力を身につけることができる。・研究発表（コンサート）の企画・運営に協働的に参画できる。・表現活動の教育的意義について考察し説明できる。

＜授業の方法＞
学生主体の演習形式で授業を行う。演奏技能の向上，作品制作，グループ活動による研究発表準備などを段階的に進める。指導教員はファシリテーターとして助言・技術指導を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
・合唱・合奏・創作活動などの実技演習・研究発表（コンサート）の企画・運営活動・グループ協働による作品制作・発表後の振り返り・相互評価

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
毎回60分以上・配布楽譜の読譜練習・演奏技能向上のための個人練習・研究発表準備（資料作成・打合せ等）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本授業は、ディプロマポリシー①「他者と協働し目標達成に取り組む力」および④「地域社会における課題解決に参画する力」の育成と関連する。演奏制作研究や研究発表（アウトリーチ活動）を通して、他者と協働しながら目標達成に取り組む力を養うとともに、地域社会における実践的な表現活動を通して課題解決に参画する力の育成を目指す。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業への主体的参加　30%作品制作への取組み　30%研究発表（コンサート）成果　40%

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅠ（基礎）の目的、内容、年間計画、評価方法についての理解
2	研究指導１	研究テーマ検討・演奏制作の基礎理解
3	研究指導２	研究発表企画の基礎（コンサート構想）
4	研究指導３	音楽表現基礎技術（合唱・合奏基礎）
5	研究指導４	作品制作技術指導①
6	研究指導５	作品制作技術指導②
7	研究指導６	作品制作技術指導③
8	研究指導７	作品制作技術指導④
9	研究指導８	研究発表準備①（演奏計画）
10	研究指導９	研究発表準備②（役割分担・運営計画）
11	研究指導10	研究発表準備③（演奏完成度向上）
12	研究指導11	研究発表準備④（通し練習）
13	研究指導12	研究発表準備⑤（最終調整）
14	研究成果発表	前期研究発表（アウトリーチ・コンサート）
15	研究指導13	前期成果の振り返りと課題設定
16	研究指導14	研究発表企画応用（新規作品構想）
17	研究指導15	作品制作技術発展①
18	研究指導16	作品制作技術発展②
19	研究指導17	作品制作技術発展③
20	研究指導18	作品制作技術発展④
21	研究指導19	研究発表準備⑥（表現深化）

22	研究指導20	研究発表準備⑦（演奏構成改善）
23	研究指導21	研究発表準備⑧（教育的意義検討）
24	研究指導22	研究発表準備⑨（通し練習）
25	研究指導23	研究発表準備⑩（運営最終確認）
26	研究指導24	研究発表準備⑪（完成度向上）
27	研究成果発表	後期研究発表（アウトリーチ・コンサート）
28	まとめ	総括（成果整理・今後の課題）
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	後藤　由佳		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠでは、「子どもの造形表現」を全体テーマとし、保育内容の中心である「遊び」を豊かに展開するための造形表現について研究する。子どもの表現活動への理解を深めるとともに、多様な文化的背景をもつ子育て家庭への支援や保育について学ぶ。また、留学生との交流活動を通して、多文化共生の視点から、国籍や文化の違いを尊重する保育の在り方について考察する。

＜授業の到達目標＞
制作や鑑賞活動を軸として、造形表現に関する専門知識と技術を身に付けるとともに、 留学生との交流活動を通して国籍や文化の違いを認め、互いを尊重する心を身に付けようとしている。

＜授業の方法＞
準備学習(予習・復習)の確認においてはデジタル(Classroom)活用する。アクティブ・ラーニングの要素(ディスカッション、グループワーク等)を取り入れつつ、子どもの造形表現に係る制作や鑑賞、及び留学生との交流活動により授業を進める。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素(ディスカッション、グループワーク等)を取り入れ、制作や鑑賞、交流などはグループ指導を展開する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業時間外で、授業に必要な資料や教材、用具等を準備しておくこと。次時までに作品や課題に取り組む等、準備と予習(1時間程度)が必要となる。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
演習への取組み姿勢と受講態度、受講意欲 50%、課題や作品制作、その鑑賞 50%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミの目的・進め方、到達目標と注意事項、成績評価と単位認定方法について理解する。
2	ゼミ研究・制作の概要(1)	「子どもの造形表現」をテーマとした研究の意義と方法について学ぶ。
3	ゼミ研究・制作の概要(2)	先行研究として過去の本学卒業生の代表的な論文や作品事例を検討し、研究課題を探る。
4	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(1)	幼少期の遊びや造形体験を振り返り、表現活動の意義について考察する。
5	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(2)	子どもの発達と造形表現との関係について文献をもとに学ぶ。
6	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(3)	遊びの中に見られる造形表現の特徴と保育者の援助について考察する。
7	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(4)	地域の美術館等でのフィールドワークを通して、子どもの感性を育む造形表現について学ぶ。
8	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(5)	フィールドワークの振り返りと造形活動への活用について検討する。
9	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(6)	多様な文化的背景をもつ子どもと家庭への保育について学ぶ。
10	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(7)	留学生との交流活動を通して、多文化共生の視点から保育を考える。
11	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(8)	国籍や文化の違いを尊重する保育実践について討議する。
12	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(9)	研究成果をまとめ、造形表現・鑑賞活動に関するプレゼンテーションを行う。
13	前期まとめと作品鑑賞	発表内容や作品を鑑賞し、学びを共有するとともに振り返りを行う。
14	前期総括	作品鑑賞、作品・レポート提出の解説
15	オリエンテーション(後期)	ゼミの目的・進め方、到達目標と注意事項、成績評価と単位認定方法について再確認する。

16	ゼミ研究・制作の概要(３)	「子どもの造形表現」をテーマとした研究の意義と方法について学ぶ。 先行研究として過去の本学卒業生の代表的な論文や作品事例を検討し、研究課題を具体的に検討する。
17	ゼミ研究・制作の概要(４)	
18	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(１０)	研究テーマに基づき、文献調査や実践計画の立案を行う。
19	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(１１)	研究計画に沿って調査・観察を実施し、資料収集を進める。
20	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(１２)	子どもの造形活動に関する事例を分析し、研究課題を深める。
21	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(１３)	地域の美術館等でのフィールドワークを通して、子どもの感性を育む造形表現について学ぶ。
22	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(１４)	フィールドワークの成果を整理し、研究内容との関連を検討する。
23	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(１５)	研究成果をまとめるための分析・考察を行う。
24	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(１６)	研究報告書および作品制作を進め、中間発表を行う。
25	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(１７)	最終発表に向けて研究成果・作品を完成させる。
26	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(１８)	研究成果をまとめ、造形表現・鑑賞活動に関するプレゼンテーションを行う。
27	通年まとめと作品鑑賞	発表内容や作品を鑑賞し、学びを共有するとともに振り返りを行う。
28	全体総括	作品鑑賞、作品・レポート提出の解説
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	十河　直太		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ名は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

＜授業の到達目標＞
本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。これらを修得し、ゼミナールⅡでの論文作成に向けての基礎を身に付ける。

＜授業の方法＞
課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素：有グループに分かれ、単元で学んだ内容についてディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞やインターネット、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。基礎的知識獲得に必要な自主学習（7時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
体育・スポーツ科学に関する調査・研究の課題発表 50%、体育人の育成を目指したキャリア教育にかかわる課題 50%

＜教科書＞
必要に応じて

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(1)	次世代の体育人となるための実践的スキルを身に付けるため、グループワークやフィールドワークを行う（１）
3	スポーツ科学とは	スポーツ科学を勉強する意義を考える。
4	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(2)	次世代の体育人となるための実践的スキルを身に付けるため、グループワークやフィールドワークを行う(2)
5	スポーツ科学センターの見学	スポーツ科学の研究施設を見学し、研究とは何かを学ぶ。
6	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(3)	次世代の体育人となるための実践的スキルを身に付けるため、グループワークやフィールドワークを行う(3)
7	研究についてのディスカッション	スポーツ科学について興味のあることを発表し、ディスカッションを行う。
8	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(4)	次世代の体育人となるための実践的スキルを身に付けるため、グループワークやフィールドワークを行う(4)
9	論文抄読１	興味を持った論文を読み、発表する。
10	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(5)	次世代の体育人となるための実践的スキルを身に付けるため、グループワークやフィールドワークを行う(5)
11	論文抄読２	味を持った論文を読み、発表する。
12	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(6)	次世代の体育人となるための実践的スキルを身に付けるため、グループワークやフィールドワークを行う(6)
13	実験機器を用いた測定１	スポーツ科学センターの機器を用いて測定法を学ぶ。
14	体育・スポーツ科学をベースとしたキャ	次世代の体育人となるための実践的スキルを身に付けるため、グループワークやフ

	リア教育(7)	ィールドワークを行う(7)
15	実験機器を用いた測定２	スポーツ科学センターの実験機器を用いて測定法を学ぶ。
16	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(8)	次世代の体育人となるための実践的スキルを身に付けるため、グループワークやフィールドワークを行う(8)
17	データ処理	測定データの処理法を学ぶ。
18	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(9)	次世代の体育人となるための実践的スキルを身に付けるため、グループワークやフィールドワークを行う（9)
19	研究テーマを探る１	これまでの授業の内容を踏まえ、今後の研究テーマを決める。
20	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(10)	次世代の体育人となるための実践的スキルを身に付けるため、グループワークやフィールドワークを行う(10)
21	研究テーマを探る２	これまでの授業の内容を踏まえ、今後の研究テーマを決める。
22	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(11)	次世代の体育人となるための実践的スキルを身に付けるため、グループワークやフィールドワークを行う(11)
23	研究計画を寝る	研究を実施するための計画を立てる。
24	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(12)	次世代の体育人となるための実践的スキルを身に付けるため、グループワークやフィールドワークを行う(12)
25	実験・測定	実験または測定を行う。
26	測定結果のデータ処理・まとめ１	研究成果をまとめる。
27	測定結果のデータ処理・まとめ２	測定データをまとめ、発表スライドを作成する
28	ゼミナールⅠの総括と課題発表	全体のまとめをスライドを用いて発表する
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	畑島　紀昭		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
柔道整復師として必要な基礎知識の修得状況を踏まえて確認し，各自の研究課題に取り組む．卒業研究へ結びつく研究課題を，学生が自主的に絞り込み，興味と関心をもって学問的に取り組むことが出来るような条件整備を行い，学生の研究を支援する。また、健康科学科の教育方針及びカリキュラムを理解し、医療従事者として相応しい人物になれるよう、また自立した一社会人となれるよう演習形式で実施する

＜授業の到達目標＞
専門領域の現状を理解し、課題を見出すことができる。課題に沿った論文の検索、精査をすることができる。精査した内容を客観的に評価し内容をプレゼンテーションすることができる。

＜授業の方法＞
グループワーク（専門とする領域内での興味関心をもつ内容に対する討論、調査）省察活動（課題に対するまとめ、プレゼンスライド作成、実践活動）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
必要に応じてグループワークを実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：翌週の指導内容のキーワードの下調べ（毎回、１時間程度）復習：振り返りレポート（毎回、１時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
課題40%、プレゼンテーション・レポート 40%、取り組み姿勢と受講態度・意欲 20%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	柔道整復師の衛生管理について①	柔道整復師の衛生管理の現状把握1
2	柔道整復師の衛生管理について②	柔道整復師の衛生管理の現状把握2
3	柔道整復師の衛生管理について③	柔道整復師の衛生管理の現状把握3
4	柔道整復師の衛生管理について④	柔道整復師の衛生管理の問題点1
5	柔道整復師の衛生管理について⑤	柔道整復師の衛生管理の問題点2
6	医療現場の衛生管理について①	医療現場の衛生管理について1
7	医療現場の衛生管理について②	医療現場の衛生管理について2
8	医療現場の衛生管理について③	医療現場の衛生管理について3
9	医療現場の衛生管理について④	柔道整復師と他の医療資格との比較1
10	医療現場の衛生管理について⑤	柔道整復師と他の医療資格との比較2
11	情報整理①	衛生管理について1
12	情報整理②	衛生管理について2
13	情報整理③	衛生管理について3
14	まとめ	前半のまとめ1
15	まとめ	前半のまとめ2
16	疑問・問題点の抽出及び整理①	疑問・問題点の抽出及び整理1
17	疑問・問題点の抽出及び整理②	疑問・問題点の抽出及び整理2
18	疑問・問題点の抽出及び整理③	疑問・問題点の抽出及び整理3
19	実験計画①	実験計画1
20	実験計画②	実験計画2
21	実験の実施①	実験の実施1
22	実験の実施②	実験の実施2
23	実験の実施③	実験の実施3
24	実験結果に対する考察①	考察1
25	実験結果に対する考察②	考察2

26	実験結果に対する考察③	考察3
27	実験結果に対する考察④	考察とまとめ
28	プレゼンテーション	プレゼンテーション
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	福井　悠紀子		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
柔道整復師として必要な基礎知識の修得状況を踏まえて確認し，各自の研究課題に取り組む．卒業研究へ結びつく研究課題を，学生が自主的に絞り込み，興味と関心をもって学問的に取り組むことが出来るような条件整備を行い，学生の研究を支援する。また、健康科学科の教育方針及びカリキュラムを理解し、医療従事者として相応しい人物になれるよう、また自立した一社会人となれるよう演習形式で実施する

＜授業の到達目標＞
専門領域の現状を理解し、課題を見出すことができる。課題に沿った論文の検索、精査をすることができる。精査した内容を客観的に評価し内容をプレゼンテーションすることができる。

＜授業の方法＞
グループワーク（専門とする領域内での興味関心をもつ内容に対する討論、調査）省察活動（課題に対するまとめ、プレゼンスライド作成、実践活動）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
必要に応じてグループワークを実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：翌週の指導内容のキーワードの下調べ（毎回、１時間程度）復習：振り返りレポート（毎回、１時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
課題40%、プレゼンテーション・レポート 40%、取り組み姿勢と受講態度・意欲 20%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	柔道整復師について①	柔道整復師の現状把握1
2	柔道整復師ついて②	柔道整復師の現状把握2
3	柔道整復師ついて③	柔道整復師の現状把握3
4	柔道整復師ついて④	柔道整復師の問題点1
5	柔道整復師について⑤	柔道整復師の問題点2
6	医療現場について①	医療現場について1
7	医療現場について②	医療現場について2
8	医療現場について③	医療現場について3
9	医療現場について④	柔道整復師と他の医療資格との比較1
10	医療現場について⑤	柔道整復師と他の医療資格との比較2
11	情報整理①	タスクシフトシェアの概要1
12	情報整理②	タスクシフトシェアの概要2
13	情報整理③	タスクシフトシェアの概要3
14	まとめ	前半のまとめ1
15	まとめ	前半のまとめ2
16	疑問・問題点の抽出及び整理①	疑問・問題点の抽出及び整理1
17	疑問・問題点の抽出及び整理②	疑問・問題点の抽出及び整理2
18	疑問・問題点の抽出及び整理③	疑問・問題点の抽出及び整理3
19	実験計画①	実験計画1
20	実験計画②	実験計画2
21	実験の実施①	実験の実施1
22	実験の実施②	実験の実施2
23	実験の実施③	実験の実施3
24	実験結果に対する考察①	考察1
25	実験結果に対する考察②	考察2

26	実験結果に対する考察③	考察3
27	実験結果に対する考察④	考察とまとめ1
28	実験結果に対する考察⑤	考察とまとめ2プレゼンテーション
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	秦　啓一郎		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
"Citius, Altius, Fortius - Communiter"、オリンピックのモットーである「より速く、より高く、より強く– 共に」を体現するべく、ゼミナール一丸となって人間のダイナミックな身体運動をスポーツ科学、特にバイオメカニクスの知見に基づき体系的に探究する。そして、心・技・体に「知」を加えたリバランスを通じてアスリート、サイエンティスト、そしてひとりの人間としてのパフォーマンスの最大化を目指す。

＜授業の到達目標＞
・スポーツを科学的な知見から論理的に語ることができる。・スポーツ科学の研究を通して、社会的課題を解決するための技能および方法を身につける。

＜授業の方法＞
本ゼミナールは、演習形式で行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有　各回毎のテーマについて参加者同士で話し合い、意見をまとめグループごとに発表を行う

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
1）次週の授業テーマに関して、各自で予習を行い、各自が得意とする運動との関係を考えること（30分）。2）授業内容と関連する他基礎科目（生理学や解剖学など）の復習を行うこと（30分）。3）授業内容で学んだ内容を各自が得意とする運動に応用し、実践すること（30分）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技術を獲得できる。）、ディプロマポリシー３（スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技術を活用できる。）、ディプロマポリシー４（スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
平常点20%、課題80%とする。

＜教科書＞
必要に応じて紹介または配布する。

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	単位取得上の諸注意、授業展開の概要を述べるとともに、スポーツバイオメカニクスに関する知識を深めることがスポーツ科学の学習と実践においてどのような意義を有しているかを説明し、今後の学習に対する動機づけを行う。
2	ハイパフォーマンス演習Ⅰ	縦断的に測定している体力測定を実施する（基礎体力、アジリティ、筋力のいずれか）。
3	ハイパフォーマンス演習Ⅱ	縦断的に測定している体力測定を実施する（基礎体力、アジリティ、筋力のいずれか）。
4	ハイパフォーマンス演習Ⅲ	縦断的に測定している体力測定を実施する（基礎体力、アジリティ、筋力のいずれか）。
5	地面反力・三次元動作の測定方法論	床反力計および三次元動作解析装置を用いて特定の身体運動を評価する。
6	超音波画像診断装置・せん断波エラストグフィの測定方法論	超音波画像診断装置およびせん断波エラストグフィを用いて筋の形態的または力学的特性を評価する。
7	スポーツ科学の情報収集と精査	各自がバイオメカニクス分野において興味のあるテーマを調査する。学術論文の検索方法と質の高い情報の精査方法を学ぶ。
8	グラフを読み解く	学術的に適切なグラフの作成方法を学ぶ。エクセルを使用する。
9	スライド作成の方法論	プレゼンテーションにおけるスライドの作成方法を学ぶ。パワーポイントを使用する。
10	プロジェクト研究Ⅰ	主に動作解析・筋腱ダイナミクス・データサイエンスにグルーピングを行い、各グループで探求する研究テーマを設定する。
11	プロジェクト研究Ⅱ	各グループで測定、分析を進めるとともに進捗報告を行う。適宜、資料を提示する。
12	プロジェクト研究Ⅲ	各グループで測定、分析を進めるとともに進捗報告を行う。適宜、資料を提示する。

13	プロジェクト研究Ⅳ	各グループで測定、分析を進めるとともに進捗報告を行う。適宜、資料を提示する。
14	プロジェクト研究Ⅴ	各グループで測定、分析を進めるとともに進捗報告を行う。前期の統括としてプロジェクトの成果発表を行う。
15	プログラミングⅠ	プログラミング言語、PythonおよびRを用いてデータ解析または統計解析のためのプログラミングを行う。グラフの作成、4次スプライン補完、フィルタリング処理を学ぶ。
16	プログラミングⅡ	プログラミング言語、PythonおよびRを用いてデータ解析または統計解析のためのプログラミングを行う。スティックピクチャの作成と関節中心の軌跡のヒートマップ、GPSデータのヒートマップ解析を学ぶ。
17	プログラミングⅢ	プログラミング言語、PythonおよびRを用いてデータ解析または統計解析のためのプログラミングを行う。Rを用いた統計処理の実行を学ぶ。
18	統計Ⅰ	統計の基礎を学ぶ。
19	統計Ⅱ	測定データの統計処理と結果の意味を理解する。
20	プロジェクト研究Ⅰ	主に動作解析・筋腱ダイナミクス・データサイエンスにグルーピングを行い、各グループで探求する研究テーマを設定する。
21	プロジェクト研究Ⅱ	各グループで測定、分析を進めるとともに進捗報告を行う。適宜、資料を提示する。
22	プロジェクト研究Ⅲ	各グループで測定、分析を進めるとともに進捗報告を行う。適宜、資料を提示する。
23	プロジェクト研究Ⅳ	各グループで測定、分析を進めるとともに進捗報告を行う。適宜、資料を提示する。
24	プロジェクト研究Ⅴ	各グループで測定、分析を進めるとともに進捗報告を行う。適宜、資料を提示する。
25	プロジェクト研究Ⅵ	各グループで測定、分析を進めるとともに進捗報告を行う。適宜、資料を提示する。
26	プロジェクト研究Ⅶ	各グループで測定、分析を進めるとともに進捗報告を行う。適宜、資料を提示する。
27	プロジェクト研究Ⅷ	各グループで測定、分析を進めるとともに進捗報告を行う。適宜、資料を提示する。
28	プロジェクト研究Ⅸ	各グループで測定、分析を進めるとともに進捗報告を行う。次年度の卒業研究へ向けたテーマ、目標、計画を設定する。
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	早田　剛		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ名は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

＜授業の到達目標＞
本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、卒業研究に繋がる予備実験を行い、抄録にまとめることで、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

＜授業の方法＞
課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表・ディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間程度）。調査・研究する課題の発表準備（3時間程度）。基礎的知識獲得に必要な自主学習（7時間程度）とする。授業後については、様々な意見から、アクションプランを計画し、研究計画・論文作成を行っていく（2時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
①授業態度：20%②課題提出・意見交換：50%③主体性：30%

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーションと到達目標	ゼミナールの目的と進め方
2	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(1)	進路に繋がる研究を調べてみる
3	テーマ設定	現在の体育・スポーツに関する課題・問題を探る
4	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(2)	進路に繋がる研究を調べてみる(2)
5	課題発表(1)	1回目の課題・問題に関する発表．次回の発表に向けた問題を討議する
6	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(3)	進路に繋がる研究を調べてみる(3)
7	課題発表(2)	2回目の課題・問題に関する発表．次回の発表に向けた問題を討議する
8	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(4)	進路に繋がる研究を調べてみる(4)
9	課題発表(3)	3回目の課題・問題に関する発表．次回の発表に向けた問題を討議する
10	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(5)	進路に繋がる研究を調べてみる(5)
11	これまでのまとめ	3回の報告内容について総括し，現在の課題・問題について整理する．
12	体育・スポーツ科学をベースとした予備実験(1)	プレ実験から検者と被験者を体験する(1)

13	体育・スポーツ科学をベースとした予備実験(2)	プレ実験から検者と被験者を体験する(2)
14	体育・スポーツ科学をベースとした予備実験(3)	プレ実験から検者と被験者を体験する(3)
15	結果のまとめ方(1)	基本統計量を作成する
16	結果のまとめ方(2)	グラフ・表の作り方を学ぶ
17	抄録発表準備 (1)	抄録発表資料の準備を行う(1)
18	抄録発表準備 (2)	抄録発表資料の準備を行う (2)
19	抄録発表(1)	抄録発表会を実施し、発表と質問を考える(1)
20	抄録発表(2)	抄録発表会を実施し、発表と質問を考える(2)
21	抄録発表(3)	抄録発表会を実施し、発表と質問を考える(3)
22	抄録発表(4)	抄録発表会を実施し、発表と質問を考える(4)
23	進捗状況報告会(1)	実験・調査の進捗確認と、生データの整理方法の指導。
24	統計解析演習(1)	収集したデータの入力とクリーニング。
25	統計解析演習(2)	適切な統計手法（t検定、分散分析、相関分析等）の実行。
26	進捗状況報告会(2)	分析結果の解釈についてゼミ生同士でディスカッション。
27	卒業研究の準備(1)	卒業研究に向けた研究テーマの方向性について討議する(1)．
28	卒業研究の準備(2)	卒業研究に向けた研究テーマの方向性について討議する(2)．
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	矢野　智彦		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。競技スポーツ科学科では、世界で活躍し認められるアスリートになる・創るためにスポーツ科学リテラシー（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）を身に付けることを目的とする。また、各種測定と分析を行い、自身の目標達成に向けた改善プログラムを自ら作成し、自発的に行動できる力を養う。

＜授業の到達目標＞
アスリート / サイエンティストとしての成長の記録を可視化し、各種評価と分析、改善サイクルが計画できるようになる。

＜授業の方法＞
トップガン、インスパイア、教室のそれぞれで講義と実技の両方を組み合わせた演習形式にて実施する。また、各種測定の分析、評価の際にはグループワーク・ディスカッションを行う。課題管理はグーグルクラスルームやスプレッドシートにて行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素有基本的には、実技とグループワークを行う。また、プレゼンテーションも実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習　自身の専門競技における競技特性とスポーツ科学リテラシーとの関係性を調べておく。（毎回、1時間程度）復習　授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題）　60%，課題レポート　（課題，発表）40%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーションとスポーツ科学リテラシー	スポーツ科学リテラシーの意義と測定流れ、データ記入方法について
2	体力測定①	身体組成、スピード&アジリティ測定
3	体力測定②	パワー&持久力測定
4	心理測定①	心理調査と心理学講習会
5	栄養測定①	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
6	筋力測定①	懸垂測定と１RM測定練習
7	筋力測定②	スクワット、ベンチプレス１RM測定
8	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
9	コンディショニング概論①	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法　時差対策
10	バイオメカニクス講習	スポーツ現場で利用できる映像分析
11	生理学講習	持久力トレーニングの各種方法
12	アナリティクス講習	映像から試合分析する方法
13	目標に向けた自主的なトレーニング①	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
14	目標に向けた自主的なトレーニング②	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
15	オリエンテーションと前期振り返りと後期目標設定	前期振り返りと後期目標設定
16	コンディショニング概論②	コンディショニングについて
17	体力測定①ー２	身体組成、スピード&アジリティ測定
18	体力測定②ー２	パワー&持久力測定
19	心理測定②	心理調査と心理学講習会
20	栄養測定②	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
21	筋力測定①ー２	懸垂測定と１RM測定練習

22	筋力測定②ー２	スクワット、ベンチプレス１RM測定
23	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
24	コンディショニング概論③	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法　時差対策
25	目標に向けた自主的なトレーニング④	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
26	目標に向けた自主的なトレーニング⑤	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
27	目標に向けた自主的なトレーニング⑥	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
28	まとめ	1年のまとめとこれからについて
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	橘髙　真紀子			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
様々なフィールドに出向き、保育や子どもを取り巻く多様な環境について体験的に学ぶ。具体的には森のようちえんや医療的ケア児及びその保護者への支援の場に触れ、現場の実践や課題を理解する。また、質的研究の基礎としてインタビュー方法を学び、演習を通して対話的に他者の思いを聴き取る力を養う。これらの学びを通して、既存の枠組みや概念を批判的かつ寛容に捉え、多様な視点から考察する態度を育成する。

＜授業の到達目標＞
1.様々なフィールドでの経験を通して、保育や社会に関する多様な価値観や視点を理解することができる。2.世の中の枠組みや概念について、批判的かつ寛容な視点からとらえ、自らの考えを形成することができる。3.他者との対話や議論を通して、多様な意見を受け止めながら、自分の考えを深めることができる。4.自らの考えや学びを言語化し、根拠をもって表現することができる。

＜授業の方法＞
・実践的活動体験・ディスカッション

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループディスカッション

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：次回ゼミ準備（指定の文献を読む等しておく）（30分）　　各自の関心に基づき、関連する文献や資料を読み、要点を整理するとともに、自らの問いを明確にしておく（30分）復習：体験活動の振り返りをしておく。また、議論内容について自分なりに意見をまとめておく（30分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
フィールド活動への積極的参加やディスカッションへの貢献度:50%ゼミ活動における成果物(調査のまとめ、発表)　　:20%最終課題レポート　　:30%

＜教科書＞
随時資料配布

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	3年生合同ゼミ	・履修確認
2	オリエンテーション	年間計画について
3	自然との関わりを通した体験的な学びと探求	サツマイモ畑の土作り
4	多様な保育の在り方を理解する一認可外保育施設と森のようちえん	事前学習（オンデマンド）
5	多様な保育の在り方を理解する一認可外保育施設と森のようちえん	事前学習（オンデマンド）
6	自然との関わりを通した体験的な学びと探求	サツマイモの苗植え
7	多様な保育の在り方を理解する一認可外保育施設と森のようちえん	フィールドワーク
8	多様な保育の在り方を理解する一認可外保育施設と森のようちえん	フィールドワーク
9	多様な保育の在り方を理解する一認可外保育施設と森のようちえん	振り返り:これからの保育のありようについて考察する。世界の保育について考察する。
10	多様な保育の在り方を理解する一認可外保育施設と森のようちえん	フィールドワーク
11	多様な保育の在り方を理解する一認可外保育施設と森のようちえん	フィールドワーク
12	多様な保育の在り方を理解する一認可外	振り返り：まとめ

	保育施設と森のようちえん	
13	医療的ケア児とその家族の理解	医療的ケア児の定義、日常生活についての実態等、文献を読み進め理解する。
14	医療的ケア児とその家族の理解	医療的ケア児の定義、日常生活についての実態等、文献を読み進め理解する。
15	質的インタビューに基づくインタビューの基礎と実践	・半構造化インタビューの特徴や質問の立て方について学ぶ。・インタビューにおける倫理的配慮について学ぶ。
16	質的インタビューに基づくインタビューの基礎と実践	・インタビュー演習を行う・振り返り
17	先天性心疾患児の母親へのインタビュー実践	・リサーチクエスチョンをたてる・質問内容を検討する
18	自然との関わりを通した体験的な学びと探求	サツマイモ収穫
19	先天性心疾患児の母親へのインタビュー実践	ZOOMでインタビューを行う
20	先天性心疾患児の母親へのインタビュー実践	振り返り
21	自然との関わりを通した体験的な学びと探求	焼き芋等、収穫物を味わう体験をする
22	医療的ケア児とその家族への理解	具体的な子育て支援の内容について検討し、準備していく
23	医療的ケア児とその家族への理解	具体的な子育て支援の内容について検討し、準備していく
24	医療的ケア児とその家族への理解	フィールドで実践的関わりを行う
25	医療的ケア児とその家族への理解	フィールドで実践的関わりを行う
26	医療的ケア児とその家族への理解	フィールド活動の振り返りとまとめ
27	探求テーマの発表と共有	各自の問題意識や収集データについて発表を行っていく。
28	探求テーマの発表と共有	各自の問題意識や収集データについて発表を行っていく。
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	三堀　仁		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、社会人、とりわけ教職に就く人材を育成することを目的とする。学校現場では今即戦力が求められている。就職してすぐに指導者として活躍できるような実践力を学生の段階から身に付けることが必要である。高い倫理観と規範意識、自己コントロール力、教師としての職責を果たそうとする真摯な姿勢を身に付けることができるように、演習等を中心とした授業を行う。

＜授業の到達目標＞
①教職につくための規範意識を身に付けることができる。②他者と協働して課題解決する力を身に付けることができる。③教師として必要な基本的な指導力を身に付けることができる。

＜授業の方法＞
講義及び演習の形態をとる。資料を事前に配付し、自分なりの考えをもってグループ協議にのぞみ、他者の意見を取り入れながらよりよい答えを導き出すような場面を設定する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
毎回グループ協議を取り入れ、他者の考えを取り入れながら学びを深めていくようにする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前に与えられた課題に対する意見を持つ。また、自分なりに問題意識を持ち、質問や問題提起できるように準備しておく（1時間程度）。授業後は学んだことを模擬授業や日々の実践に生かすことができるようにする（2時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４およびディプロマポリシー１と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度（40%）、課題提案内容・意見交換（30%）、レポート・提出物（30%）

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	授業づくりとは	授業づくりの必要性とポイント
2	授業づくりと学級経営①	学級目標の設定、学級経営案
3	授業づくりと学級経営②	学級担任がつくる安心の場、学級の雰囲気づくり
4	授業づくりと学級経営③	ほめ方、しかり方、居心地のよい環境づくり
5	児童理解と学級づくり①	児童理解の大切さ、日記指導
6	児童理解と学級づくり②	学年会の持ち方、保護者との信頼関係の構築
7	学級のルールづくり①	聞く・話す、授業準備、心構え
8	学級のルールづくり②	安全な生活、自立した学級
9	教材研究①	資料を教材化する、児童の実態から教材をつくる
10	教材研究②	教材研究を楽しむ
11	授業構想①	学習指導要領を押さえる、教材の価値から構想する
12	授業構想②	児童の経験から構想する、児童の意識の流れをつかむ
13	授業展開①	1時間の見通しを持つ、単元の導入
14	授業展開②	発問の仕方、音読・動作化
15	授業改善①	児童を見とる、授業分析
16	授業改善②	評価を指導に生かす、週案の活用
17	指導技術①	板書の仕方
18	指導技術②	ノート指導
19	指導技術③	話し合いのさせ方
20	指導技術④	新聞づくり
21	指導技術⑤	机間指導
22	指導技術⑥	振り返りカードの活用
23	指導技術⑦	個人差に応じた指導
24	研究論文に向けて①	個人研究論文のテーマ構想
25	研究論文に向けて②	研究仮説の設定
26	研究論文に向けて③	研究論文の組み立て及び資料収集の仕方
27	研究論文概要の作成	研究論文の概要を作成する

28	授業のまとめ	1年間の反省と次年度へ向けての目標設定
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	品田　直宏		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、スポーツコーチング･トレーニングの方法および研究について学ぶことで、課題解決への糸口を見出すことである。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育･スポーツ科学をもとにした課題発見･問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養、非認知能力をグループワークを通じ高め、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求し、発表するといった内容である。

＜授業の到達目標＞
本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求し発表する、論理的思考能力を力を身につける。

＜授業の方法＞
課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィールドワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
実践的に動くような授業を行なうことがある

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。基礎的知識獲得に必要な自主学習（7時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４(体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
体育・スポーツ科学･コーチングに関する調査・研究の課題発表 50%、レポート課題50%で評価する.

＜教科書＞
必要に応じて

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	「スポーツコーチング」について	「コーチング」とは何かについて学ぶ
3	研究の種類、方法、事例研究について	研究の方法、実施手順説明、および論文の書き方
4	「スポーツパフォーマンス研究」について	スポーツパフォーマンス研究についての説明、および論文検索
5	「トレーニング」について	「トレーニング」について、原理原則に基づくトレーニング方法および文献紹介
6	「プライオメトリックトレーニング」について	「プライオメトリックトレーニング」の方法および文献紹介
7	文献研究①	文献の探し方
8	垂直跳躍能力の測定方法	マットスイッチを用いた垂直跳躍運動能力の測定方法および測定
9	文献研究②	論文抄読
10	「バネ」とはなにか	「バネ」とは何か、測定した垂直跳躍運動能力から討論および考察を行う
11	文献研究③	論文抄読
12	「コントロールテスト」について	「コントロールテスト」の意義および測定方法、論文紹介
13	文献研究④	論文抄読
14	討論	自身の興味のある研究テーマについて討論を行う
15	文献研究⑤、スライド作成	自身の興味のある研究テーマについて、文献研究を行いスライドを作成を進める。
16	文献研究⑥、スライド作成	自身の興味のある研究テーマについて、文献研究を行いスライドを作成を進める。
17	文献研究⑤	論文抄読
18	「チームマネジメント」について	「チームマネジメント」の方法および事例の紹介を行う
19	文献研究⑥	論文抄読

20	測定データの取り扱い方	測定したデータの取り扱い方について、エクセルを用いたグラフの作成方法や統計について学ぶ
21	文献研究⑦	論文抄読
22	卒論に向けたテーマについて考える	卒論に向けたテーマについての討論を行う
23	文献研究⑧	論文抄読
24	文献研究発表準備①	これまで読んできた論文の内容に関する発表準備①
25	文献研究⑨	論文抄読
26	文献研究発表準備②	これまで読んできた論文の内容に関する発表準備②
27	文献研究発表準備③	これまで読んできた論文の内容に関する発表準備③
28	文献研究発表	スライドを用い、文献研究を発表する。
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	金谷　和幸		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
スポーツや身体の動きについて「なぜそうなるのか」を科学的に考える力を育みます。学生それぞれの競技経験や興味を出発点に、文献を読み、実際に測定を行い、仲間と議論しながら、身体の仕組みやパフォーマンスの変化を理解していくことを目指します。また、基本的な体力測定に加え、担当教員の専門領域であるリカバリー（超低温冷却）や高齢者の体力測定や運動指導など、幅広い身体機能評価の考え方にも触れ、スポーツ科学の幅広い視点を学んでいく。最終的には、学生が自身の競技スポーツを通して得た経験を科学的知見と結びつけ、研究テーマとして言語化し、卒業研究へとつながる視点を育てることを目指す。

＜授業の到達目標＞
・自身の競技や興味分野を科学的に説明できるようになり、競技スポーツを通して得た経験を、科学的知見と結びつけながら、自分の言葉で語れるようになる・測定実習やディスカッションを通して、身体パフォーマンスに関する現象を多角的に捉える視点を身につける・研究計画の立案を通して、問題発見力・論理的思考力・説明力といった、社会で求められる基礎的能力を養う

＜授業の方法＞
学生それぞれがスポーツ現場で不思議に感じたことや、気になるトレーニング方法をテーマとして取り上げ、その背景にある仕組みや理由を探る手法について学ぶ。体力測定の体験、測定結果などをもとにしたディスカッションを中心に、学生自身の競技経験や興味を出発点に、身体の仕組みやパフォーマンスに関する疑問を共有し、科学的な視点から考える時間を大切にする。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
学生それぞれが競技や日常の中で感じた疑問を持ち寄り、文献や測定結果をもとに意見交換を行う。発表やディスカッションを通して、自分の考えを整理し、仲間の視点にも触れながら理解を広げていく。こうしたやり取りの中で、それぞれが興味のあるテーマを見つけ、科学的に考える姿勢を身につけていく。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習（60分）：自身の興味や競技経験に基づくテーマについて文献や資料を調べ、内容を整理しておく。また、必要に応じて測定データの取得方法や基本的な解析手法について確認し、ゼミ内で共有する準備を行う。事後学習（60分）：ゼミでの議論内容を踏まえて追加の文献調査やデータ整理を行い、研究テーマの方向性を深める。次回の議論につながるよう、自身の考えをまとめておく。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・平常点（発表・討論・参加態度）：30%・課題研究（文献研究・測定・研究計画）：70%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミの目的、進め方、評価方法
2	研究の基礎	研究デザイン・仮説設定の基礎
3	測定実習①	最大酸素摂取量の測定
4	測定実習②	跳躍能力（SJ/CMJ）
5	測定実習③	インターバル速歩（高齢者体力測定）
6	データの見方①	VO_2maxの基礎的な読み解き方
7	データの見方②	跳躍データの基礎的な解釈
8	データの見方③	インターバル速歩の評価法と測定値の解釈
9	討論①	測定結果の解釈と応用
10	文献研究①	主要ジャーナル紹介（運動生理学・リカバリー科学）、文献検索・読み方
11	文献研究②	論文抄読（運動生理学）
12	文献研究③	論文抄読（リカバリー）
13	討論②	文献内容の批判的検討
14	前期まとめ	研究テーマの方向性発表
15	トレーニング科学	生理学的原理（過負荷・可逆性・特異性）、持久・筋力・無酸素パワーの適応
16	リカバリー科学Ⅰ	冷却刺激の生理学的メカニズム
17	リカバリー科学Ⅱ	冷却・温熱・睡眠・栄養の統合的理解
18	高齢者の体力	加齢と体力・歩行能力・インターバル速の科学

19	研究発表Ⅰ	興味テーマの文献紹介
20	研究発表Ⅱ	測定データを用いた分析発表
21	研究発表Ⅲ	研究テーマの深化
22	研究発表Ⅳ	研究計画のブラッシュアップ
23	課題研究Ⅰ	研究計画（目的・仮説）
24	課題研究Ⅱ	研究方法（測定・分析手法）
25	課題研究Ⅲ	データ収集計画
26	課題研究Ⅳ	研究計画の統合
27	発表準備	スライド作成・発表練習
28	後期まとめ	研究計画の最終発表
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	三好　啓子		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

本ゼミでは、音楽や身体・言語・造形などの多様な表現活動が子どもの発達や情緒、社会性に与える影響について探究する。前期前半では、ウェルビーイング・ボディワークを通して呼吸や姿勢、身体感覚への気づきを深め、表現活動の基盤となる身体理解を養う。後期は、文献講読や事例分析、発表・ディスカッションを通して、子どもの成長を支える環境構成や関わり方について主体的に考察する。体験と理論を往還しながら、保育・教育の現場で活かせる視点を身につけることを目的とする。

＜授業の到達目標＞

1.音楽をはじめとする多様な表現活動が子どもの発達に与える影響について、理論と具体例を結びつけて説明できる。2.ウェルビーイング・ボディワークを通して、自身の呼吸や姿勢、身体感覚への気づきを深めることができる。3.身体感覚の理解をもとに、表現活動と心身の関係について考察できる。4.文献の読解・発表・ディスカッションを通して、自らの考えを論理的に表現できる。5.子どもの成長を支える環境構成や関わりについて、自分なりの視点を持ち、説明できる。6.学びを踏まえ、自らの保育・教育観を形成し言語化できる。

＜授業の方法＞

本授業はゼミ形式で行い、ウェルビーイング・ボディワークによるリラクゼーション体験、文献講読、発表、ディスカッションを組み合わせて進める。前期は身体感覚への理解と理論の基礎を学び、後期は各自のテーマに基づく調査・発表を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有1. 学生主体の活動2. 体験型・実践型活動3. フィードバックと振り返り4. 問いの設定・問題解決5. 理論と実践の往還

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業内容の理解を深めるための文献・資料の読解、授業内活動の振り返り、発表準備など。個人での読解・ノートまとめ・簡単なリフレクション（感想・疑問点の整理など）各回予習、復習各30分程度

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

アクティブラーニング・授業内での発表　50%レポート課題　50%

＜教科書＞

特定の教科書は使用せず、授業内に配布する資料を用いる。

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	ゼミの目的・進め方身体感覚の理解・基礎理論
2	基礎演習１	呼吸と身体への気づき①
3	基礎演習２	呼吸と身体への気づき②
4	基礎演習３	身体感覚の探究①
5	基礎演習４	身体感覚の探究②
6	基礎演習５	身体と表現の関係を考える
7	基礎演習６	ウェルビーイングと表現活動
8	基礎理論１	子どもと表現活動の関係
9	基礎理論２	音楽と子どもの発達①
10	基礎理論３	音楽と子どもの発達②
11	基礎理論４	多様な表現の比較理解
12	基礎理論５	文献講読①
13	基礎理論６	文献講読②
14	前期まとめ	前期まとめ・中間発表
15	後期ガイダンス	研究テーマの確認　（探究・考察・発表）
16	表現活動と環境構成１	多様な子どもへの関わり①
17	表現活動と環境構成２	多様な子どもへの関わり②
18	表現活動と環境構成３	多様な子どもへの関わり③
19	表現活動と環境構成４	多様な子どもへの関わり④
20	表現活動と環境構成５	多様な子どもへの関わり発表

21	基礎理論７	文献講読③
22	基礎理論８	文献講読④（学生主導）
23	発表準備１	テーマ別ディスカッション①
24	発表準備２	テーマ別ディスカッション②
25	発表準備３	資料作成
26	発表１	発表①
27	発表２	発表②
28	総合討議・総括	言語化・振り返り
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	中安　翼		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠ（基礎）では、社会人に求められる基礎的知識の習得を目指す。さらに、教育の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識の習得と、問題意識の形成および課題解決の糸口を見出すことを目指す。基本的には小学校の体育科における内容を重点的に行う。

＜授業の到達目標＞
1．社会人に求められる基礎的知識や一般教養を身につけ、自らの考えを論理的に発信できる。2．教育の視点から自らの興味関心に基づいた課題を見出し、適切な資料収集や分析を経て、解決の手がかりを提示できる。3．グループでの協議や体験的活動を通し、他者と協働して目標を達成するための実践的なコミュニケーションスキルを活用できる。

＜授業の方法＞
ゼミ生が興味・関心を持ったテーマについて、できるだけ実践を通して学べるようにする。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループでのディスカッション、教材研究、教育現場での実践

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習では、次回のテーマ（教育課題やキャリア形成等）に関連する資料の収集や文献の精読を行い、議論のための自分の考えをメモにまとめておく（1時間程度）。事後学習では、ゼミ内での協議内容や体験的活動での気づきを振り返り、自身の課題意識を整理したリフレクション・レポートを作成する（1.5時間程度）。学修習慣の形成を図るため、継続的に自身の研究テーマの深化に努めること。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４(地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。　　)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度等（関心・意欲・態度）50%、実践的スキル50%

＜教科書＞
特に指定しない。

＜参考書＞
特に指定しない。

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅠ（基礎）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	体験的活動・実践とその振り返り　１	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
3	体験的活動・実践とその振り返り　２	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
4	体験的活動・実践とその振り返り　３	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
5	体験的活動・実践とその振り返り　４	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
6	体験的活動・実践とその振り返り　５	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
7	体験的活動・実践とその振り返り　６	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
8	体験的活動・実践とその振り返り　７	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
9	体験的活動・実践とその振り返り　８	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
10	体験的活動・実践とその振り返り　９	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
11	体験的活動・実践とその振り返り　１０	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
12	体験的活動・実践とその振り返り　１１	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
13	体験的活動・実践とその振り返り　１２	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
14	体験的活動・実践とその振り返り　１３	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
15	体験的活動・実践とその振り返り　１４	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
16	体験的活動・実践とその振り返り　１５	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
17	体験的活動・実践とその振り返り　１６	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
18	体験的活動・実践とその振り返り　１７	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
19	体験的活動・実践とその振り返り　１８	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
20	体験的活動・実践とその振り返り　１９	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
21	体験的活動・実践とその振り返り　２０	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
22	体験的活動・実践とその振り返り　２１	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る

23	体験的活動・実践とその振り返り　２２	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
24	体験的活動・実践とその振り返り　２３	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
25	体験的活動・実践とその振り返り　２４	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
26	体験的活動・実践とその振り返り　２５	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
27	体験的活動・実践とその振り返り　２６	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
28	まとめ	本年度の授業の成果と課題をまとめていく
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	坂本　康輔		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的・専門的知識や技能の修得を行う。また、各自、ゼミ論文作成に必要な基礎的能力を身に付けるとともに社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すために、本科目は、３つの内容によって構成される。①体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心とした内容。②社会人に求められる必要最低限の教養や専門的知識を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容。③ゼミ論文作成に必要な基礎能力を身に付けるために様々な活動に参画する。

＜授業の到達目標＞

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、１．自身の適性を確認し、自己の進路を探究し、学び続けることができる。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得している。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身についている。

＜授業の方法＞

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

要素：有研究分野に応じた分析方法の検討や先行研究の発表及びディスカッションを行います。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習①当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌や先行研究を調査する（2時間）。事前学習②実技活動など実践においてはデモンストレーションを行う（1時間）。事前学習③調査・研究する課題の発表準備（3時間）。事後学習④基礎的知識獲得に必要な自主学習（2時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席・態度：20%調査・研究の課題発表： 50%体育人の育成を目指したキャリア教育にかかわる課題： 30%

＜教科書＞

＜参考書＞

特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の概要・研究や調査の仕方について
2	文献の収集方法	図書館とインターネットを利用した文献収集方法の知る
3	体育・運動学の研究（１）	体育・スポーツに関する文献の講読
4	体育・運動学の研究（2）	体育・スポーツに関する実技活動
5	体育・運動学の研究（3）	体育・スポーツに関する活動まとめ
6	研究テーマ（仮）の設定（1）	各自が関心を持った研究テーマの発表（１）
7	研究テーマ（仮）の設定（2）	各自が関心を持った研究テーマの発表（２）
8	研究テーマに沿った文献研究（1）	先行研究の要約と発表（１）
9	研究テーマに沿った文献研究（2）	先行研究の要約と発表（２）
10	研究テーマに沿った文献研究（3）	先行研究の要約と発表（３）
11	研究テーマに沿った文献研究（4）	先行研究の要約と発表（４）
12	研究テーマに沿った文献研究（5）	先行研究の要約と発表（５）
13	研究テーマに沿った文献研究（6）	先行研究の要約と発表（６）
14	研究テーマの決定	個人の研究テーマ策定
15	中間まとめ	前期の総括と後期の課題設定
16	研究の方法（1）	予備調査に向けた方法論の検討（１）
17	研究の方法（2）	予備調査に向けた方法論の検討（２）
18	研究の方法（3）	予備調査に向けた方法論の検討（３）
19	研究の方法（4）	予備調査に向けた方法論の検討（４）

20	予備調査（1）	調査・データ収集の実施（１）
21	予備調査（2）	調査・データ収集の実施（２）
22	予備調査（3）	結果の発表及び改善点についての討議（１）
23	予備調査（4）	結果の発表及び改善点についての討議（２）
24	研究課題の設定	具体的な研究課題を設定し、研究計画を作成する
25	研究計画の立案（1）	研究計画書の作成と発表（１）
26	研究計画の立案（２）	研究計画書の作成と発表（２）
27	研究計画の立案（３）	研究計画書の作成と発表（３）
28	まとめ	総括及び次年度に向けた課題整理
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	河端　隆志		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

＜授業の到達目標＞
本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。4．ゼミナールⅡでの論文作成に向けての基礎を身に付ける。

＜授業の方法＞
課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有：各自のテーマについて、定期的に発表を行いグループディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる　(1時間程度)　復習：授業初めの発表に向けて振り返り課題を行う　(1時間程度)

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４(体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
体育・スポーツに関する調査・研究の課題発表 50%、体育人の育成を目指したキャリア教育にかかわる課題 50%

＜教科書＞
必要に応じて

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方について
2	文献の収集方法	図書館とインターネットを利用した文献収集方法の知る
3	体育・運動学の研究（1）	体育・スポーツ心理学に関する文献の講読（１）
4	体育・運動学の研究（2）	体育・スポーツ心理学に関する文献の講読（２）
5	体育・運動学の研究（3）	体育・スポーツ心理学に関する文献の講読（３）
6	研究テーマ（仮）の設定（1）	各自が関心を持った研究テーマの発表（１）
7	研究テーマ（仮）の設定（2）	各自が関心を持った研究テーマの発表（２）
8	研究テーマに沿った文献研究（1）	先行研究の要約と発表（１）
9	研究テーマに沿った文献研究（2）	先行研究の要約と発表（２）
10	研究テーマに沿った文献研究（3）	先行研究の要約と発表（３）
11	研究テーマに沿った文献研究（4）	先行研究の要約と発表（４）
12	研究テーマに沿った文献研究（5）	先行研究の要約と発表（５）
13	研究テーマに沿った文献研究（6）	先行研究の要約と発表（６）
14	研究テーマの決定、中間まとめ	個人の研究テーマ策定、前期の総括と夏季休暇中の課題設定
15	研究の方法（1）	予備調査に向けた方法論の検討（１）
16	研究の方法（2）	予備調査に向けた方法論の検討（２）
17	研究の方法（3）	予備調査に向けた方法論の検討（３）
18	研究の方法（4）	予備調査に向けた方法論の検討（４）
19	予備調査（1）	調査・データ収集の実施（１）
20	予備調査（2）	調査・データ収集の実施（２）
21	予備調査（3）	調査・データ収集の実施（３）

22	予備調査（4）	結果の発表及び改善点についての討議（１）
23	予備調査（5）	結果の発表及び改善点についての討議（２）
24	予備調査（6）	結果の発表及び改善点についての討議（３）
25	研究課題の設定	具体的な研究課題を設定し、研究計画を作成する
26	研究計画の立案（1）	研究計画書の作成と発表（１）
27	研究計画の立案（2）	研究計画書の作成と発表（２）
28	まとめ	総括及び次年度に向けた課題整理
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	佐藤　伸之		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的・専門的知識や技能の修得を行う。また、各自、ゼミ論文作成に必要な基礎的能力を身に付けるとともに社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すために、本科目は、３つの内容によって構成される。①体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心とした内容。②社会人に求められる必要最低限の教養や専門的知識を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容。③ゼミ論文作成に必要な基礎能力を身に付けるために様々な活動に参画する。

＜授業の到達目標＞

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、１．自身の適性を確認し、自己の進路を探究し、学び続けることができるようになる。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を身につけている。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につけている。

＜授業の方法＞

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

要素：有研究分野に応じた分析方法の検討や先行研究の発表及びディスカッションを行います。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

【事前学習】当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌や先行研究を調査する。（2時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。【事後学習】基礎的知識獲得に必要な自主学習（2時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席・態度：20%調査・研究の課題発表： 50%体育人の育成を目指したキャリア教育にかかわる課題： 30%

＜教科書＞

必要に応じて用意する。

＜参考書＞

特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の概要・研究や調査の仕方について
2	文献の収集方法	図書館とインターネットを利用した文献収集方法の知る
3	体育・スポーツ科学の研究（1）	体育・スポーツ科学に関する文献の講読（１）
4	体育・スポーツ科学の研究（2）	体育・スポーツ科学に関する実技活動
5	体育・スポーツ科学の研究（3）	体育・スポーツに関する活動まとめ
6	研究テーマ（仮）の設定（1）	各自が関心を持った研究テーマの発表（１）
7	研究テーマ（仮）の設定（2）	各自が関心を持った研究テーマの発表（２）
8	研究テーマに沿った文献研究（1）	先行研究の要約と発表（１）
9	研究テーマに沿った文献研究（2）	先行研究の要約と発表（２）
10	研究テーマに沿った文献研究（3）	先行研究の要約と発表（３）
11	研究テーマに沿った文献研究（4）	先行研究の要約と発表（４）
12	研究テーマに沿った文献研究（5）	先行研究の要約と発表（５）
13	研究テーマの決定	個人の研究テーマ策定
14	中間まとめ	前期の総括と夏季休暇中の課題設定
15	研究の方法（1）	予備調査に向けた方法論の検討（１）
16	研究の方法（2）	予備調査に向けた方法論の検討（２）
17	研究の方法（3）	予備調査に向けた方法論の検討（３）
18	研究の方法（4）	予備調査に向けた方法論の検討（４）
19	予備調査（1）	調査・データ収集の実施（１）

20	予備調査（2）	調査・データ収集の実施（２）
21	予備調査（3）	調査・データ収集の実施（３）
22	予備調査（4）	結果の発表及び改善点についての討議（１）
23	予備調査（5）	結果の発表及び改善点についての討議（２）
24	研究課題の設定	具体的な研究課題を設定し、研究計画を作成する
25	研究計画の立案（1）	研究計画書の作成と発表（１）
26	研究計画の立案（2）	研究計画書の作成と発表（２）
27	研究計画の立案（3）	研究計画書の作成と発表（３）
28	まとめ	総括及び次年度に向けた課題整理
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	戸田　晃大		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

＜授業の到達目標＞
本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。4．ゼミナールⅡでの論文作成に向けての基礎を身に付ける。

＜授業の方法＞
課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有：各自のテーマについて、定期的に発表を行いグループディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる　(1時間程度)　復習：授業初めの発表に向けて振り返り課題を行う　(1時間程度)

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４(体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
体育・スポーツに関する調査・研究の課題発表 50%、体育人の育成を目指したキャリア教育にかかわる課題 50%

＜教科書＞
必要に応じて

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方について
2	文献の収集方法	図書館とインターネットを利用した文献収集方法の知る
3	体育・運動学の研究（1）	体育・スポーツ心理学に関する文献の講読（１）
4	体育・運動学の研究（2）	体育・スポーツ心理学に関する文献の講読（２）
5	体育・運動学の研究（3）	体育・スポーツ心理学に関する文献の講読（３）
6	研究テーマ（仮）の設定（1）	各自が関心を持った研究テーマの発表（１）
7	研究テーマ（仮）の設定（2）	各自が関心を持った研究テーマの発表（２）
8	研究テーマに沿った文献研究（1）	先行研究の要約と発表（１）
9	研究テーマに沿った文献研究（2）	先行研究の要約と発表（２）
10	研究テーマに沿った文献研究（3）	先行研究の要約と発表（３）
11	研究テーマに沿った文献研究（4）	先行研究の要約と発表（４）
12	研究テーマに沿った文献研究（5）	先行研究の要約と発表（５）
13	研究テーマに沿った文献研究（6）	先行研究の要約と発表（６）
14	研究テーマの決定、中間まとめ	個人の研究テーマ策定、前期の総括と夏季休暇中の課題設定
15	研究の方法（1）	予備調査に向けた方法論の検討（１）
16	研究の方法（2）	予備調査に向けた方法論の検討（２）
17	研究の方法（3）	予備調査に向けた方法論の検討（３）
18	研究の方法（4）	予備調査に向けた方法論の検討（４）
19	予備調査（1）	調査・データ収集の実施（１）
20	予備調査（2）	調査・データ収集の実施（２）
21	予備調査（3）	調査・データ収集の実施（３）

22	予備調査（4）	結果の発表及び改善点についての討議（１）
23	予備調査（5）	結果の発表及び改善点についての討議（２）
24	予備調査（6）	結果の発表及び改善点についての討議（３）
25	研究課題の設定	具体的な研究課題を設定し、研究計画を作成する
26	研究計画の立案（1）	研究計画書の作成と発表（１）
27	研究計画の立案（2）	研究計画書の作成と発表（２）
28	まとめ	総括及び次年度に向けた課題整理
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	伊藤　三千雄		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

＜授業の到達目標＞
本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。4．ゼミナールⅡでの論文作成に向けての基礎を身に付ける。

＜授業の方法＞
課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有：各自のテーマについて、定期的に発表を行いグループディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる　(1時間程度)　復習：授業初めの発表に向けて振り返り課題を行う　(1時間程度)

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４(体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
体育・スポーツに関する調査・研究の課題発表 50%、体育人の育成を目指したキャリア教育にかかわる課題 50%

＜教科書＞
必要に応じて

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方について
2	文献の収集方法	図書館とインターネットを利用した文献収集方法の知る
3	体育・運動学の研究（1）	体育・スポーツ心理学に関する文献の講読（１）
4	体育・運動学の研究（2）	体育・スポーツ心理学に関する文献の講読（２）
5	体育・運動学の研究（3）	体育・スポーツ心理学に関する文献の講読（３）
6	研究テーマ（仮）の設定（1）	各自が関心を持った研究テーマの発表（１）
7	研究テーマ（仮）の設定（2）	各自が関心を持った研究テーマの発表（２）
8	研究テーマに沿った文献研究（1）	先行研究の要約と発表（１）
9	研究テーマに沿った文献研究（2）	先行研究の要約と発表（２）
10	研究テーマに沿った文献研究（3）	先行研究の要約と発表（３）
11	研究テーマに沿った文献研究（4）	先行研究の要約と発表（４）
12	研究テーマに沿った文献研究（5）	先行研究の要約と発表（５）
13	研究テーマに沿った文献研究（6）	先行研究の要約と発表（６）
14	研究テーマの決定、中間まとめ	個人の研究テーマ策定、前期の総括と夏季休暇中の課題設定
15	研究の方法（1）	予備調査に向けた方法論の検討（１）
16	研究の方法（2）	予備調査に向けた方法論の検討（２）
17	研究の方法（3）	予備調査に向けた方法論の検討（３）
18	研究の方法（4）	予備調査に向けた方法論の検討（４）
19	予備調査（1）	調査・データ収集の実施（１）
20	予備調査（2）	調査・データ収集の実施（２）
21	予備調査（3）	調査・データ収集の実施（３）

22	予備調査（4）	結果の発表及び改善点についての討議（１）
23	予備調査（5）	結果の発表及び改善点についての討議（２）
24	予備調査（6）	結果の発表及び改善点についての討議（３）
25	研究課題の設定	具体的な研究課題を設定し、研究計画を作成する
26	研究計画の立案（1）	研究計画書の作成と発表（１）
27	研究計画の立案（2）	研究計画書の作成と発表（２）
28	まとめ	総括及び次年度に向けた課題整理
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	梶谷　亮輔		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本ゼミナールでは、トレーニングおよびコーチングに関する専門文献の抄読を通して、競技パフォーマンスの構造的理解を深めるとともに、その内容を整理・発表する力を養う。また、バイオメカニクス的分析手法を用いて動作の測定・分析を行い、競技動作を客観的に評価するための基礎的技術を習得する。さらに、得られたデータを科学的に読み解き、競技力向上や指導に活用するための思考力および分析力の育成を目指す。

＜授業の到達目標＞
スポーツパフォーマンス向上に関する科学的知見を理解するとともに、文献の抄読および発表を通してその内容を適切に説明することができる。さらに、バイオメカニクス的手法を用いて競技動作を測定・分析し、得られたデータを解釈した上で、自身の競技パフォーマンス向上に向けた課題設定および改善方策を提案することができる。

＜授業の方法＞
本ゼミナールは、文献抄読および発表、ディスカッションを中心とした演習形式で実施する。各回において担当者を設定し、トレーニングおよびコーチングに関する文献の要約と発表を行い、全体で議論を深める。また、バイオメカニクス的分析手法を用いた動作の測定・分析を実施し、取得したデータをもとに競技パフォーマンスの評価および改善策の検討を行う。必要に応じてICT機器や分析ツールを活用し、客観的データに基づく考察を行う。これらの活動を通して、主体的に課題を設定し、分析・考察・発表までの一連のプロセスを実践する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有本ゼミナールでは、アクティブ・ラーニングの要素を取り入れた授業を実施する。具体的には、文献抄読に基づく発表およびディスカッションを通して、学生同士の相互作用を促進し、主体的な学びを形成する。また、バイオメカニクス的分析においては、グループでの測定・分析活動を行い、得られたデータに基づく考察や意見交換を実施することで、協働的な学習（ピア・ラーニング）を促す。さらに、自身の競技パフォーマンスに関する課題設定および改善策の検討を行い、その成果を発表・共有することで、課題解決型学習（PBL：Problem-Ba

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
本ゼミナールでは、各回あたり予習・復習として合計120分程度の学習を行うことを想定する。予習としては、担当文献の精読および要約資料の作成、発表準備を行うとともに、関連する基礎知識や先行研究について事前に調査すること（約60〜90分）。復習としては、授業内でのディスカッションやフィードバックを踏まえ、自身の発表内容や分析結果を見直し、課題の整理および考察の深化を図る。また、必要に応じてデータの再分析や追加調査を行うこと（約30〜60分）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
成績評価は以下の割合で総合的に評価する。・受講態度・学習意欲：30%・課題研究：70%受講態度・学習意欲については、授業への主体的な参加状況、発表・ディスカッションへの関与、準備学習の取り組み等を総合的に評価する。課題研究については、文献抄読発表および課題研究発表の内容、論理性、分析の妥当性、発表の明確さ等を評価する。フィードバックについては、文献抄読発表および課題研究発表に対して、授業内での口頭指導や講評を通して適時行う。また、提出物に対してはコメント等により改善点を提示し、次の学習へとつなげる。なお、

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミの指導計画、ゼミの概要、評価方法
2	研究の手順	研究の実施手順の説明
3	文献研究①	コーチング・トレーニング領域の主なジャーナルの紹介
4	文献研究②	文献の探し方、読み方
5	文献研究③	論文抄読（コーチング）
6	文献研究④	論文抄読（コーチング）
7	討論	コーチングに関する討論
8	文献研究⑤	論文抄読（トレーニング）
9	文献研究⑥	論文抄読（トレーニング）
10	討論	トレーニングに関する討論

11	文献研究⑦	論文抄読（専門競技）
12	文献研究⑧	論文抄読（専門競技）
13	討論	専門競技に関する討論
14	文献研究発表①	興味関心のあるテーマについて文献研究、発表
15	文献研究発表②	興味関心のあるテーマについて文献研究、発表
16	測定実習①	走種目の動作測定
17	データ分析①	走種目の動作分析
18	討論①	測定結果に基づく討論
19	測定実習②	跳種目の動作測定
20	データ分析②	跳種目の動作分析
21	討論②	測定結果に基づく討論
22	測定実習③	投種目の動作測定
23	データ分析③	投種目の動作分析
24	討論③	測定結果に基づく討論
25	課題研究	研究計画の作成(1)
26	課題研究	研究計画の作成(2)
27	発表方法	プレゼンテーションの作成方法
28	課題研究	研究計画の作成(3)
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	田中　耕作		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本ゼミナールでは、運動生理学やトレーニングにおける文献の抄読会を中心に授業を展開し、スポーツパフォーマンス向上のための科学的知見について学ぶ。

＜授業の到達目標＞
本ゼミナールでは、スポーツパフォーマンス向上のための科学的知見について学ぶこと、そして実際に科学的なデータを取り扱い、自らの競技パフォーマンス向上のために科学的な視点を持つことを目指す。

＜授業の方法＞
文献研究、測定実習、データ分析、測定の結果を用いた討論を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素：あり自身が行っている競技のトレーニングやパフォーマンス構成についてグループでディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
自身の興味ある分野について、授業内で紹介する方法で文献研究を行なってください。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度・学習意欲 30%、課題研究 70%。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミの指導計画、ゼミの概要、評価方法
2	研究の手順	研究の実施手順の説明
3	文献研究①	トレーニング科学領域の主なジャーナルの紹介
4	文献研究②	文献の探し方、読み方
5	文献研究③	論文抄読
6	文献研究④	論文抄読
7	討論	トレーニング科学に関する討論
8	文献研究⑤	論文抄読（トレーニング）
9	文献研究⑥	論文抄読（トレーニング）
10	討論	トレーニングに関する討論
11	文献研究⑦	論文抄読（専門競技）
12	文献研究⑧	論文抄読（専門競技）
13	討論	専門競技に関する討論
14	文献研究発表①	興味関心のあるテーマについて文献研究、発表
15	文献研究発表②	興味関心のあるテーマについて文献研究、発表
16	測定実習①	最大酸素摂取量の測定
17	データ分析①	ランニングエコノミーおよび乳酸性作業閾値の測定
18	討論①	測定結果に基づく討論
19	測定実習②	跳躍能力の測定
20	データ分析②	跳躍能力における測定結果の分析
21	討論②	測定結果に基づく討論
22	測定実習③	無酸素性作業能力の測定
23	データ分析③	無酸素性作業能力における測定結果の分析
24	討論③	測定結果に基づく討論
25	課題研究	研究計画の作成(1)
26	課題研究	研究計画の作成(2)
27	発表方法	プレゼンテーションの作成方法

28 29 30	課題研究	研究計画の作成(3)

科目コード	55007				区　分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	大野呂　浩志			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
３年次には，特別支援教育やインクルーシブ教育の観点から，特別な教育的ニーズのある児童生徒への指導・支援や，特別な教育的ニーズのある児童生徒とない児童生徒の双方を含んだ学級全体の指導・支援について，先行研究や関連する文献を渉猟することを授業の基調にする。文献を渉猟した結果得られた知見について，自分なりの指針をもって整理する能力の養成とともに，整理した内容をわかりやすく説明する能力や説明を聞いたり，事前に読んだ資料から，指針やテーマに沿った質問や意見を発表する能力も養成する。

＜授業の到達目標＞
（1）文献の内容を精確に読解できる。（2）他者の意見を十分に理解することができる。（3）自身の理解したことを他者にわかりやすく伝えることができる。　（4）特別な教育的ニーズに関する広い知見を用いて現実的問題を整理し，次世代を展望しようとする態度を養うことができる。

＜授業の方法＞
自分の設定したテーマに関連する文献の講読を基調とする。講読した文献から得られた知見を資料としてまとめ，そのレジュメに基づいた自らの論文に関する議論を行うことで、論理的思考を鍛錬する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
・課題解決型授業／グループディスカッション／ピアサポートラーニング／グループワーク／プレゼンテーション

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習：毎回，自らの論文に関連するあらたな文献を講読し，得られた知見を論文に反映させ，全体としてどのような知見が得られたことになるか，今後の課題について，報告できるようにレジメに整理する（毎回事前に3-4 時間）事後学習：授業で深められた知見を整理し，卒業論文の構想や文章に反映する（毎回事後に1時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
議論への積極的な参加等の授業内評価 50%、レポート 50%。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダクション	特別支援教育の現状について整理し，その課題の具体について理解する。先行研究に関する調査の仕方や表記の基礎について理解する。
2	特別支援教育の現状と課題	特別支援教育の現状について，幼稚園・保育所，小学校，中学校，高等学校，大学における特別支援教育の現状と課題について報告し，内容について議論する。
3	研究の方向性の検討	特別支援教育の現状と課題及び自らの将来的な就労イメージを踏まえ，自らが2年間で深めようとする研究の方向を定める。
4	研究の方向性発表準備	自分の研究の方向性について，仮テーマと仮の問題提起をもって，発表し，発表内容について議論する。
5	文献抄読１	知的障害特別支援学校における特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
6	文献抄読２	肢体不自由特別支援学校における特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
7	文献抄読３	病弱教育に関する特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
8	文献抄読４	聾教育における特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
9	文献抄読５	盲教育における特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
10	文献抄読６	幼稚園・保育所における特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
11	文献抄読７	小学校における特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行

		う
12	文献抄読８	中学校・高等学校における特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
13	文献抄読９	大学における特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
14	論文の中間発表	各自の論文の中間発表を行う
15	イントロダクション②	研究法について理解する
16	文献抄読１０	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する①
17	文献抄読１１	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する②
18	文献抄読１２	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する③
19	文献講読１３	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する④
20	文献抄読１４	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑤
21	文献抄読１５	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑥
22	文献抄読１６	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑦
23	文献講読１７	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑧
24	文献抄読１８	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑨
25	文献抄読１９	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑩
26	文献抄読２０	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑪
27	論文（ゼミ内）検討会	作成した論文について，レジメにまとめ，設定された時間内に発表し，内容や発表の仕方について議論する。
28	論文発表会	論文発表を行う
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	小﨑　遼介		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本科目は保育内容健康分野についての探究を行う。社会人として求められる一般教養、知識、技能や態度を育成する。東岡山IPUこども園との連携を通して、子どもの理解、保育実際を扱う。

＜授業の到達目標＞
１．運動・健康・安全の視点から研究資料を収集し、要約やプレゼンテーションができる。２．研究テーマを決めその計画を立案し、運動・安全をはじめとした領域「健康」について考察できる。

＜授業の方法＞
身体活動や運動能力といった測定などの体験をし、その前後に講義をする。測定したデータの発表とテーマにそったディスカッションを実施し、理解度や授業態度の確認を行う。教育現場での安全について学ぶ。また教育現場での安全教育、防災教育、応急処置などについて調査・検討を行う。学生には自ら学ぶ主体性が必要である。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
東岡山IPUこども園との連携、ボランティア、各種遊びのワーク、運動

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
テーマにそって資料を集めて整理する。授業内で指示する課題についてレポートを作成する（予習１時間）。授業内のディスカッションの要点をまとめる（復習１時間）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業内での発表 50%、レポート 50%

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	身体計測①	様々な身体組成の測定方法について学ぶ。
3	身体計測②	身体組成の測定をし評価する。
4	体力測定①	身体組成に関連する体力を挙げ測定する。
5	身体組成と体力の関連①	平均値等を利用して身体組成データを分析する。
6	身体組成と体力の関連②	相関関係等を利用して身体組成と体力との関連を分析する。
7	防災教育1	大学の防災教育を考える。
8	防災教育2	実習先などの防災教育を考える。
9	安全教育	生活安全・交通安全・災害安全
10	応急処置	幼児教育現場での応急処置
11	心肺蘇生法	幼児教育現場での心肺蘇生法
12	身体活動量の評価①	身体活動量の測定方法を知り、安静時と運動時を実測する。
13	身体活動量の評価②	安静時及び運動時の身体活動量について考察する。
14	身体活動量の評価③	身体活動強度とエネルギー代謝との関連を理解する。
15	身体活動量の評価④	食事、身体組成、体力、身体活動との関連について理解する。
16	運動遊び	運動遊びの実態調査
17	幼児教育現場の健康	現代の健康課題について考える
18	保護者と健康	幼児教育現場での保護者と子どもを取り巻く健康について考える
19	特別な配慮	健康における特別な配慮が必要な場合について考える。
20	睡眠と健康	乳幼児の睡眠について考える
21	文献研究①	文献の探し方と読み方について学ぶ。
22	文献研究②	論文抄読をする。
23	文献研究④	論文抄読をする。
24	文献研究⑤	論文抄読をする。

25	文献研究⑥	論文抄読をする。
26	研究計画①	研究計画を作成について学ぶ。
27	研究計画②	研究計画を作成する。
28	研究計画③	研究計画を発表する。
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	保科　圭汰		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

＜授業の到達目標＞
本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

＜授業の方法＞
課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素　有3、4人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめ、グループごとに発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
取り組み姿勢と受講態度・意欲 30%、課題達成度 70%

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(1)	身体組成の測定
3	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(2)	身体組成の測定
4	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(3)	エネルギー消費量の測定
5	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(4)	エネルギー消費量の測定
6	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(5)	栄養調査の方法
7	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(6)	栄養調査の実践
8	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(7)	栄養調査の実践
9	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(8)	栄養調査の実践発表
10	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(9)	献立の作成
11	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(10)	献立の作成

12	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価（11）	調理実習
13	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価（12）	調理実習
14	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価（13）	献立作成・調理実習のまとめ
15	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(1)	文献の探し方・読み方
16	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(2)	論文抄読（1）
17	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(3)	論文抄読（2）
18	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(4)	論文抄読（3）
19	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(5)	論文抄読（4）
20	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(6)	文献研究のまとめ（1）
21	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(7)	文献研究のまとめ（2）
22	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査（１）	研究計画の作成（1）
23	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査（2）	研究計画の作成（2）
24	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査（3）	研究計画の発表
25	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査（4）	研究計画の考察
26	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査（5）	実験・測定・調査の実施
27	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査（6）	実験・測定・調査のデータ分析および発表
28	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査（7）	実験・測定・調査のデータ分析および発表
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	眞鍋　芳江		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

＜授業の到達目標＞
本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

＜授業の方法＞
課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素　有3、4人のグループに分かれ、テーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。基礎的知識獲得に必要な自主学習（7時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度・意欲 30%、課題達成度 70%

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(1)	身体組成の測定
3	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(2)	身体組成の測定
4	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(3)	エネルギー消費量の測定
5	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(4)	エネルギー消費量の測定
6	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(5)	栄養調査の方法
7	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(6)	栄養調査の実践
8	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(7)	栄養調査の実践
9	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(8)	栄養調査の実践
10	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(9)	栄養調査の実践発表
11	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(10)	献立作成の基本
12	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価	目的別の献立作成

	（11）	
13	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価（12）	状況別の献立作成
14	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(1)	文献の探し方・読み方
15	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(2)	論文抄読（1）
16	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(3)	論文抄読（2）
17	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(4)	論文抄読（3）
18	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(5)	論文抄読（4）
19	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(6)	文献研究のまとめ（1）
20	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(7)	文献研究のまとめ（2）
21	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査（1）	研究計画の作成（1）
22	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査（2）	研究計画の作成（2）
23	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査（3）	研究計画の発表
24	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査（4）	研究計画の考察
25	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査（5）	実験・測定・調査の実施
26	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査（6）	実験・測定・調査のデータ分析
27	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査（7）	実験・測定・調査のデータ発表
28	まとめ	総括と課題発表
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	藤谷　かおる		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本科目では、体育・スポーツを対象とする経営的な基礎的知識と専門的知識を修得するとともに、各自が関心のある体育・スポーツの現代的な課題を見つけ、その問題意識から研究課題を立案し、研究を計画・実行する。そのため、本科目は、人文科学的・経営学的な手法を用いて体育・スポーツの課題発見、問題解決を行い、また体育・スポーツにかかわる社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して、その課題解決の方法を自ら探求していく。

＜授業の到達目標＞
本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を形成していく。到達目標は、1.自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2.体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3.自らの現状を評価し、課題を発見する。そして、自らその課題解決の方法を探求できる力を身につける。

＜授業の方法＞
ゼミでの自らの課題発表を中心に展開する。必要に応じて、資料、PPTを作成し、課題発表を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニング有個人の研究課題に関してグループワークやディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習として、体育・スポーツの課題・問題について、先行研究を通して調べること（２時間）。また、調査・研究する課題の発表準備を行うこと（3時間）。事後学習としては、授業内容や指摘事項を整理し、関心のある課題発見を行うこと（1時間）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通じて課題の解決に参画することができる）及びディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と向き合い、感情を整理し、目標達成ができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
先行研究にかかわるレポート40%､ディスカッションにおける態度10%､タイ一句･スポーツ科学に関する調査･研究の課題発表50%。提出物や発表内容に関するフィードバックは、毎時間の授業内で行う。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	個人の関心のあるキーワードについて	個人の関心のあるキーワードを発表し、関連する事項について情報共有をはかる。
3	先行研究の検討	体育科教育、スポーツ経営学に関する先行研究を検討する
4	先行研究の検討	体育科教育、スポーツ経営学に関する先行研究を検討する
5	個人の研究的な関心に基づいて先行研究と向き合う	先行研究の要約と発表（1）
6	個人の研究的な関心に基づいて先行研究と向き合う	先行研究の要約と発表（2）
7	個人の研究的な関心に基づいて先行研究と向き合う	先行研究の要約と発表（3）
8	個人の研究的な関心に基づいて先行研究と向き合う	先行研究の要約と発表（4）
9	個人の研究的な関心に基づいて先行研究と向き合う	先行研究の要約と発表（5）
10	個人の研究的な関心に基づいて先行研究と向き合う	先行研究の要約と発表（6）
11	研究テーマの絞り込みと研究計画書の作成（1）	各自の発表内容に関する研究テーマ決めと研究計画書の作成（1）
12	研究テーマの絞り込みと研究計画書の作成（2）	各自の発表内容に関する研究テーマ決めと研究計画書の作成（2）
13	研究テーマの絞り込みと研究計画書の作成（3）	各自の発表内容に関する研究テーマ決めと研究計画書の作成（3）
14	研究テーマの仮決定	仮テーマに基づいて長期休暇中の研究計画の立案

15	研究テーマの仮決定	仮テーマに基づいて長期休暇中の研究計画の立案
16	研究方法の理解	先行研究より、研究方法の模索
17	研究方法の理解	先行研究より、研究方法の模索
18	研究方法の理解	先行研究より、研究方法の模索
19	文献資料の選定、研究調査の実施	文献研究の場合は、研究で使用する資料を選定する。調査研究の場合は、調査対象を検討し、調査を実施する。
20	文献資料の選定、研究調査の実施	文献研究の場合は、研究で使用する資料を選定する。調査研究の場合は、調査対象を検討し、調査を実施する。
21	文献資料の選定、研究調査の実施	文献研究の場合は、研究で使用する資料を選定する。調査研究の場合は、調査対象を検討し、調査を実施する。
22	文献資料の選定、研究調査の実施	文献研究の場合は、研究で使用する資料を選定する。調査研究の場合は、調査対象を検討し、調査を実施する。
23	文献資料の選定、研究調査の実施	文献研究の場合は、研究で使用する資料を選定する。調査研究の場合は、調査対象を検討し、調査を実施する。
24	卒業研究のまとめ方	文献研究、調査研究それぞれの考察、結果のまとめ方を学習する
25	卒業研究のまとめ方	文献研究、調査研究それぞれの考察、結果のまとめ方を学習する
26	卒業研究のまとめ方	文献研究、調査研究それぞれの考察、結果のまとめ方を学習する
27	まとめ	ゼミナールⅠのまとめをメンバーと共有する
28	まとめ	ゼミナールⅠのまとめをメンバーと共有する
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	堀川　峻		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本科目では、体育・スポーツを対象とする歴史的・文化的な基礎的知識と専門的知識を修得するとともに、各自が関心のある体育・スポーツの現代的な課題を見つけるとともに、その問題意識から研究課題を立案し、研究を計画・実行する。そのため本科目は、人文科学的な手法を主に用いながら体育・スポーツについての課題発見・問題解決を行い、また体育・スポーツにかかわる社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求していく。

＜授業の到達目標＞
本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

＜授業の方法＞
課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、PPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニング有適宜グループワークを行いながら、個人の研究課題に関するディスカッションを行っていく。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習として、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べること（2時間）。また、調査・研究する課題の発表準備を行うこと（3時間）。事後学習としては、授業内容を改めて整理し、関心のある課題の発見を行うこと(1時間)

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
ディスカッションへの参加態度 20%、先行研究に関わるレポート 30%、体育・スポーツ科学に関する調査・研究の課題発表 50%提出物や発表内容に関するフィードバックは毎時間の授業内で実施する。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	体育・スポーツにかかわる人文科学について	体育・スポーツにかかわる人文科学の現状を学ぶ
3	体育・スポーツにかかわる人文科学について	体育・スポーツにかかわる人文科学の現状を学ぶ
4	体育・スポーツにかかわる人文科学について	体育・スポーツにかかわる人文科学の現状を学ぶ
5	個人の研究的な関心に基づいて先行研究と向き合う	先行研究の要約と発表（1）
6	個人の研究的な関心に基づいて先行研究と向き合う	先行研究の要約と発表（2）
7	個人の研究的な関心に基づいて先行研究と向き合う	先行研究の要約と発表（3）
8	個人の研究的な関心に基づいて先行研究と向き合う	先行研究の要約と発表（4）
9	個人の研究的な関心に基づいて先行研究と向き合う	先行研究の要約と発表（5）
10	個人の研究的な関心に基づいて先行研究と向き合う	先行研究の要約と発表（6）
11	研究テーマの絞り込み	各自の発表内容に関するディスカッションと研究テーマ決め（1）
12	研究テーマの絞り込み	各自の発表内容に関するディスカッションと研究テーマ決め（2）
13	研究テーマの絞り込み	各自の発表内容に関するディスカッションと研究テーマ決め（3）

14	研究テーマの絞り込み	各自の発表内容に関するディスカッションと研究テーマ決め（4）
15	研究テーマの仮決定	仮テーマに基づいて長期休暇中の研究計画立案
16	研究方法の理解	研究を進めるにあたっての方法論の模索（1）
17	研究方法の理解	研究を進めるにあたっての方法論の模索（2）
18	研究方法の理解	研究を進めるにあたっての方法論の模索（3）
19	研究方法の理解	研究を進めるにあたっての方法論の模索（4）
20	文献資料の選定、予備調査の実施	文献研究の場合は、研究で使用する資料を選定する。調査研究の場合は、予備調査を進める。
21	文献資料の選定、予備調査の実施	文献研究の場合は、研究で使用する資料を選定する。調査研究の場合は、予備調査を進める。
22	文献資料の選定、予備調査の実施	文献研究の場合は、研究で使用する資料を選定する。調査研究の場合は、予備調査を進める。
23	文献資料の選定、予備調査の実施	文献研究の場合は、研究で使用する資料を選定する。調査研究の場合は、予備調査を進める。
24	文献資料の選定、予備調査の実施	文献研究の場合は、研究で使用する資料を選定する。調査研究の場合は、予備調査を進める。
25	研究計画の立案	研究計画書の作成（1）
26	研究計画の立案	研究計画書の作成（2）
27	研究計画の立案	研究計画書の作成（3）
28	まとめ	ゼミナールⅠの総括と次年度の見通しについて
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	佐々木　史之		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

本授業は、4年次のゼミ論文執筆に向け、自律的に研究を遂行するための「リサーチ・リテラシー」の修得を目的とします。既存の文献をただ読むのではなく、「問いを見つけ、検証可能な形に整理する」プロセスを重視します。具体的には、学術論文の構造分析、学術データベースを駆使した情報収集、および小規模なデータ収集・分析演習（ミニ・リサーチ）を段階的に実施します。受講生同士の活発なディスカッションを通じて、論理的思考力とプレゼンテーション能力を実戦的に養います。

＜授業の到達目標＞

(1)適切なキーワードを用いて、学術論文や資料を自力で検索・収集できる。(2)文献の内容を要約し、論理的な構成のレジュメを作成できる。(3)他者の発表に対し、建設的な質問や意見交換ができる。

＜授業の方法＞

(1)授業の進め方　本授業は、講義による知識修得と、個人・グループでの演習を組み合わせて展開します。前期は、自身の興味関心を「研究テーマ」へと昇華させるためのブレインストーミングや、学術データベースを用いた文献収集・整理術を実践形式で学びます。後期は、収集した資料を論理的に分析・要約し、他者に伝えるためのプレゼンテーション演習を軸とします。特に、一方向的な発表に留まらず、受講生同士が「建設的な批判（クリティカル・フィードバック）」を送り合うワークショップ形式を多用し、客観的な視点から問いを磨き上げるプロセ

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素：有（課題解決型学習、ディスカッション、プレゼンテーション）　文献検索やデータ分析等のリサーチ・スキルを実践的に習得する課題解決型学習（PBL）を導入します。授業内では、収集した資料の妥当性を検討するグループワークや、論理的構成を磨くピア・レビュー（相互添削）を行います。他者の発表に対し建設的な質問を投げかけ、議論を深めるプロセスを通じて、体育・スポーツ界の諸課題を多角的に捉える批判的思考力とコミュニケーション能力を主体的に養います。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

【予習：1～1.5時間】　次回のテーマに関連する専門用語の確認や、指定された先行論文の精読を行います。また、自身の研究テーマを深めるための文献収集を行い、ゼミ内での議論を活性化させるための進捗報告資料（レジュメやメモ）を準備して授業に臨んでください。【復習：1～1.5時間】　ゼミでの質疑応答や教員・学生からのフィードバックを振り返り、自身の思考の偏りや知識の不足を整理します。実習したリサーチ・スキル（文献検索、統計、文章作法など）を定着させるための課題に取り組み、次回のステップに向けた「問い」の再構築を行

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業に取り組む姿勢・態度 50%、発表・課題レポート 50%

＜教科書＞

＜参考書＞

福永哲夫・山本正嘉(2018/10/23)　体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方　市村出版
　大修館書店

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミの進め方、「問い」を持つことの重要性と研究の意義
2	情報検索実習	図書館・CiNii・Google Scholar等のデータベース使いこなし術
3	情報の吟味と整理	学術資料と一般情報の違い、文献管理（保存・分類）のルール
4	文献読解(1)	論文の構造を理解し、要点を見抜く「解体」作業
5	文献読解(2)	クリティカル・リーディング（批判的読解）と疑問の言語化
6	論理的思考(1)	マインドマップを用いた自身の興味関心の視覚化と整理
7	論理的思考(2)	漠然とした課題を、検証可能な「研究上の問い」に変換する訓練
8	文章作法(1)	パラグラフ・ライティング（1段落1メッセージ）の基礎と実践
9	文章作法(2)	引用・参考文献の正しい表記ルールと剽窃（ひょうせつ）の防止
10	先行研究レビュー(1)	自身のテーマに近い論文を3本選び、内容を比較・要約する
11	先行研究レビュー(2)	文献比較表を作成し、「何が分かっていないか」を特定する
12	構想発表会(1)	「今、自分が気になっていること」のショートプレゼン
13	構想発表会(2)	受講生同士での質疑応答を通じたアイデアのブラッシュアップ

14	前期のまとめ	前期の学びの振り返りと、夏休みの文献収集・現場調査計画
15	夏課題の共有	夏休みに収集した資料や、スポーツ現場での気づきを報告・共有
16	調査手法の理解(1)	アンケート調査の設計（質問項目の作り方とGoogleフォーム活用）
17	調査手法の理解(2)	インタビュー調査の技法（質問の投げ方と記録の取り方）
18	ミニ・リサーチ(1)	身近な対象（部活動や友人等）への簡易調査・データ収集の実践
19	ミニ・リサーチ(2)	データの整理とクリーニング（数値入力や発言のテキスト化）
20	データ分析の基礎	平均・相関などの基本的な読み解きと、エクセルでのグラフ作成
21	結果の解釈と記述	グラフから読み取れる「事実」を、客観的に文章化する練習
22	プレゼン技法(1)	視覚的に伝わるスライドデザインと、論理的な構成案の作成
23	プレゼン技法(2)	模擬プレゼン（リハーサル）と話し方・態度のフィードバック
24	プロポーザル作成(1)	4年次の研究論文に向けた「研究計画書（プロポーザル）」の起稿
25	プロポーザル作成(2)	ピア・レビュー（互いの計画書の読み合わせと建設的な助言）
26	最終報告会(1)	1年間の成果と、来年度の研究論文構想のプレゼンテーション
27	最終報告会(2)	活発な質疑応答を通じた、研究テーマの妥当性と論理の最終確認
28	年間の総括	ポートフォリオ（成果物）の整理と、4年次への課題整理
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	仙波　慎平		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。

＜授業の到達目標＞
本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

＜授業の方法＞
課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有グループワーク（3~4人に分かれて、各テーマに対して、成果物の作成、プレゼンを行う）。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（事前学習2時間程度）。調査・研究する課題の発表準備（事後学習1時間）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
課題40%、受講態度(グループワークへの貢献度含む)30%、プレゼン30%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方　目標設定
2	課題発見・問題解決実習①	目標共有とグループワーク
3	課題発見・問題解決実習②	フィジカルパフォーマンスの構成要素①（筋力･パワー）
4	課題発見・問題解決実習③	フィジカルパフォーマンスの構成要素②（スピード･アジリティ）
5	課題発見・問題解決実習④	フィジカルパフォーマンスの構成要素③（持久力）
6	課題発見・問題解決実習⑤	競技スキルとフィジカルパフォーマンス
7	課題発見・問題解決実習⑥	競技パフォーマンスの分解
8	課題発見・問題解決実習⑦	競技パフォーマンスを定量化する手法①
9	課題発見・問題解決実習⑧	競技パフォーマンスを定量化する手法②
10	分析・測定評価実習①	フィールドテスト①　パワー・スピード・アジリティ
11	分析・測定評価実習②	フィールドテスト②　持久力・スピード持久力
12	分析・測定評価実習③	ラボテスト①　動作分析
13	分析・測定評価実習④	ラボテスト②　筋電図
14	分析・測定評価実習⑤	ラボテスト③　代謝系
15	前期まとめ	前期まとめと後期向けての課題
16	グループ研究①	テーマ・仮説設定
17	グループ研究②	研究手法・文献考証
18	グループ研究③	仮説の設定
19	グループ研究④	予備実験
20	グループ研究⑤	本実験
21	グループ研究⑥	本実験②
22	グループ研究⑦	データの整理・解析
23	グループ研究⑧	データの整理・解析②
24	グループ研究⑨	考察

25	グループ研究⑩	発表資料作り
26	グループ研究発表	発表
27	個人研究演習①	ゼミ論のテーマ設定
28	個人研究演習②	進捗発表会
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	江波戸　智希		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。後期は主にゼミ論文作成に向けた準備を行っていく。

＜授業の到達目標＞
本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

＜授業の方法＞
課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有基本的に自身で調べてプレゼンテーションを用意し、ゼミ内で発表し、ディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業への取組(グループへの貢献度含む)50%、課題（ゼミ論文に向けた準備度合い）　50%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方　目標設定
2	課題発見・問題解決実習①	目標共有とグループワーク
3	スポーツ現場での課題発見・問題解決実習①	コンディショニングとは　要因　グループワーク
4	スポーツ現場での課題発見・問題解決実習②	運動能力・フィジカルパフォーマンスとは　フィジカル・体力とは　要因
5	スポーツ現場での課題発見・問題解決実習③	怪我とは　怪我予防のための要因
6	スポーツ現場での課題発見・問題解決実習④	フィジカルパフォーマンスの階層
7	スポーツ現場での課題発見・問題解決実習⑤	競技スポーツのパフォーマンスとは
8	スポーツ現場での課題発見・問題解決実習⑥	競技スポーツのフィジカルパフォーマンスとは
9	スポーツ現場での課題発見・問題解決実習⑦	リハビリ、リコンディショニングの階層
10	フィジカル測定評価実習①	フィールドテスト①　パワー・スピード・アジリティ
11	フィジカル測定評価実習②	フィールドテスト②　持久力・スピード持久力
12	フィジカル測定評価実習③	ラボテスト①　動作分析
13	フィジカル測定評価実習④	ラボテスト②　筋電図
14	フィジカル測定評価実習⑤	ラボテスト③　代謝系
15	後期	後期について
16	グループ研究①	テーマ・仮説設定

17	グループ研究②	文献考証
18	グループ研究③	仮説の設定
19	グループ研究④	予備実験
20	グループ研究⑤	本実験
21	グループ研究⑥	本実験②
22	グループ研究⑦	データの整理・解析
23	グループ研究⑧	データの整理・解析②
24	グループ研究⑨	考察
25	グループ研究⑩	発表資料作り
26	グループ研究発表	発表
27	個人研究演習①	ゼミ論のテーマ設定
28	個人研究演習②	進捗発表会
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	國友　亮佑		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。

＜授業の到達目標＞
本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

＜授業の方法＞
課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループワーク

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習：参考書や書籍、インターネットを通じてトレーニングならびにスポーツパフォーマンスに関する情報を学習・整理しておくこと。（所要時間：1時間程度）事後学習：グループワークを通じて共有した内容に関して、要点や課題点をまとめておくこと。（所要時間：1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
課題40%、受講態度(グループワークへの貢献度含む)30%、プレゼン30%

＜教科書＞

＜参考書＞
NSCAジャパン　NSCA決定版ストレングストレーニング＆コンディショニング　第4版　Book House HD

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方　目標設定
2	課題発見・問題解決実習①	目標共有とグループワーク
3	課題発見・問題解決実習②	フィジカルパフォーマンスの構成要素①（筋力･パワー）
4	課題発見・問題解決実習③	フィジカルパフォーマンスの構成要素②（スピード･アジリティ）
5	課題発見・問題解決実習④	フィジカルパフォーマンスの構成要素③（持久力）
6	課題発見・問題解決実習⑤	競技スキルとフィジカルパフォーマンス
7	課題発見・問題解決実習⑥	競技パフォーマンスの分解
8	課題発見・問題解決実習⑦	競技パフォーマンスを定量化する手法①
9	課題発見・問題解決実習⑧	競技パフォーマンスを定量化する手法②
10	分析・測定評価実習①	フィールドテスト①　パワー・スピード・アジリティ
11	分析・測定評価実習②	フィールドテスト②　持久力・スピード持久力
12	分析・測定評価実習③	ラボテスト①　動作分析
13	分析・測定評価実習④	ラボテスト②　筋電図
14	分析・測定評価実習⑤	ラボテスト③　代謝系
15	前期まとめ	前期まとめと後期向けての課題
16	グループ研究①	テーマ・仮説設定
17	グループ研究②	研究手法・文献考証
18	グループ研究③	仮説の設定
19	グループ研究④	予備実験
20	グループ研究⑤	本実験
21	グループ研究⑥	本実験②
22	グループ研究⑦	データの整理・解析

23	グループ研究⑧	データの整理・解析②
24	グループ研究⑨	考察
25	グループ研究⑩	発表資料作り
26	グループ研究発表	発表
27	個人研究演習	ゼミ論のテーマ設定
28	全体のまとめ	ゼミナールⅠの統括と課題
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	小川　雄太		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

＜授業の到達目標＞
本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。4．ゼミナールⅡでの論文作成に向けての基礎を身に付ける。

＜授業の方法＞
課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有：各自のテーマについて、定期的に発表を行いグループディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる　(1時間程度)　復習：授業初めの発表に向けて振り返り課題を行う　(1時間程度)

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４(体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
体育・スポーツに関する調査・研究の課題発表 50%、体育人の育成を目指したキャリア教育にかかわる課題 50%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方について
2	文献の収集方法	図書館とインターネットを利用した文献収集方法の知る
3	研究テーマの検討	各自の研究テーマについて検討する
4	研究テーマの検討	各自の研究テーマについて検討する
5	研究テーマの検討	各自の研究テーマについて検討する
6	研究テーマの設定	各自の関心に基づいて研究テーマを設定する
7	研究テーマの設定	各自の関心に基づいて研究テーマを設定する
8	研究テーマに基づく文献研究	研究テーマに基づく文献研究
9	研究テーマに基づく文献研究	研究テーマに基づく文献研究
10	研究テーマに基づく文献研究	研究テーマに基づく文献研究
11	研究テーマに基づく文献研究	研究テーマに基づく文献研究
12	研究テーマに基づく文献研究	研究テーマに基づく文献研究
13	研究テーマに基づく文献研究	研究テーマに基づく文献研究
14	研究テーマの決定、中間まとめ	個人の研究テーマ策定、前期の総括と夏季休暇中の課題設定
15	研究方法の検討	研究方法の検討
16	研究方法の検討	研究方法の検討
17	研究方法の検討	研究方法の検討
18	研究方法の検討	研究方法の検討
19	予備調査	予備調査
20	予備調査	予備調査
21	予備調査	予備調査
22	予備調査	予備調査
23	予備調査	予備調査

24	予備調査	予備調査
25	研究課題の設定	研究課題の設定
26	研究計画の立案	研究計画の立案
27	研究計画の立案	研究計画の立案
28	まとめ	まとめ
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	片桐　夏海		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、社会人としての適性や課題を見極め、課題解決への糸口を見出すことにある。本科目は、2つの内容によって構成される。①体育・スポーツ科学（特に担当教員嘉門の専門である体育・スポーツ社会学）をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした学習。②社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する学習。

＜授業の到達目標＞
本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。①自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。②体育・スポーツに関する専門的な研究領域に触れ、体育・スポーツに携わる専門家として必要な思考法や身体性を学び身に付ける。③自らの学習経験を自省的に考察し、課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

＜授業の方法＞
受講者の興味関心に基づいた研究発表のプレゼンテーションと、全体でのディスカッションを中心に行なう。その他、受講生の興味関心に沿って、学術論文や学術書の輪読を行う。必要に応じて、現場実習を交えフィードワークを行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
本ゼミナールでは、受講者が自身の関心に基づいて課題を設定し、発表やディスカッションを通じて主体的に学びを深める。知識の習得に加え、課題発見力や問題解決力の育成が図られている。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2〜3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。基礎的知識獲得に必要な自主学習（7時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
各自の研究関心に基づいた発表（40%）、ディスカッションへの参加と貢献（30%）、レポート課題（30%）

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞
ピエール・ブルデュー（石崎晴己訳）1991/12/30　構造と実践　藤原書店

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	自分史を書く	スポーツ歴を中心軸に、自分史を作成する。自らを題材に人生観を展望するきっかけにする。
3	自分史（発表）①	各自で発表し、他者と比較する。自己の経験を客観的かつ論理的に説明可能なものにする。
4	自分史（発表）②	各自で発表し、他者と比較する。自己の経験を客観的かつ論理的に説明可能なものにする。
5	P.ブルデュー「スポーツ社会学のための計画表」『構造と実践』pp280-287.を読む	「スポーツ社会学」という学問の性質をブルデューから学ぶ。
6	自分の関心に沿った論文・資料の探し方、テーマ設定の仕方	キーワードの設定、検索方法、概略の把握など、資料検索について学ぶ。
7	論文紹介（発表）①	論文一本を選定し、内容を要約しコメントを付けて発表、議論する。
8	論文紹介（発表）②	論文一本を選定し、内容を要約しコメントを付けて発表、議論する。
9	論文紹介（発表）③	論文一本を選定し、内容を要約しコメントを付けて発表、議論する。
10	論文紹介（発表）④	論文一本を選定し、内容を要約しコメントを付けて発表、議論する。
11	論文紹介（発表）⑤	論文一本を選定し、内容を要約しコメントを付けて発表、議論する。全体を通しての討論
12	ゼミとしてのテーマ設定	受講者の興味関心を総合し、共通するテーマや議論の土台を確認し、全体で読み進めるべき書籍を選定する。
13	輪読・発表①	報告担当者が内容を報告しコメントする。それを基に全体でディスカッションす

		る。
14	輪読・発表②	報告担当者が内容を報告しコメントする。それを基に全体でディスカッションする。
15	前期総括（ふりかえり）	前期の取り組みについてふりかえり、改善点や取り組むべき課題を再確認する。
16	輪読・発表③	報告担当者が内容を報告しコメントする。それを基に全体でディスカッションする。
17	輪読・発表④	報告担当者が内容を報告しコメントする。それを基に全体でディスカッションする。
18	輪読・発表⑤	報告担当者が内容を報告しコメントする。それを基に全体でディスカッションする。
19	総合討論	これまでの議論をふりかえり、いくつかのテーマに絞って討議を行い、より理解を深める。
20	論文の書き方①	論文の構成と種類について
21	論文の書き方②	問題関心の確認とテーマの設定、研究の意義について
22	論文の書き方③	先行研究の検討、研究方法、議論の土台の設定の仕方について
23	論文の書き方④	データの収集、調査の方法について
24	論文の書き方⑤	データの読み方、提示の仕方、データから導き出せる事実について
25	研究計画の立案、検討	各自の関心に沿って研究計画を立案してみる。
26	論文指導①	各自の関心に沿った先行研究を検討したミニ論文を作成する。
27	論文指導②	各自の関心に沿った先行研究を検討したミニ論文を作成する。
28	全体のふりかえり、まとめ	１年間を振り返り、軌跡を確認し、次年度へ向けた準備、課題を確認する。
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	佐藤　典子		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
経営学（マネジメント・マーケティング・会計）、経済学（マクロ・ミクロ）、グローバルビジネス（異文化コミュニケーション・国際経営）、スポーツビジネス（スポーツ経営・スポーツマネジメント）などの各分野からテーマを設定し、学生同士の議論や協働を通して、主体的に探究を深める。学生一人ひとりが関心を持って主体的に取り組めるよう、指導・支援を行う。

＜授業の到達目標＞
・自分の関心に基づいて「専門とするテーマ」を決め、その内容と取り組む意義を他者に説明できる。・卒業後の進路や将来のキャリアを見据え、自分の専門とどのようにつながるかを整理し、一貫した方向性を示すことができる。

＜授業の方法＞
本授業は100分×クオーター制（全28回）で実施する。ゼミナールでは、テーマの設定と活動計画の立案を行った後、年間を通して継続的に活動に取り組む。【第1クオーター（1～7回）】設計（決める）・自分が取り組みたいテーマを考え、関心のある分野や問題意識を整理して方向性を定める。・あわせて、ゼミとしての活動方針を話し合い、年間の進め方や活動計画を立てる。必要に応じて対外的な活動内容も検討する。【第2クオーター（8～14回）】試行（やってみる）・テーマに関する現状や課題を調査し、文献や資料を収集するとともに、輪読

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各回のテーマに応じて予習・復習を行う（各回1時間程度）。ゼミナールにおける準備学習は、あらかじめ内容が与えられるものではなく、自らのテーマやゼミ活動の進捗に応じて、何をどの程度準備する必要があるかを各自が判断し、主体的に取り組むことを基本とする。ゼミ活動においては、プロジェクトの進め方を学生間で討議・検討し、全体の方向性と役割分担を決定したうえで、それぞれが責任をもって必要な準備や調整を行い、授業に臨むことが求められる。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・演習への積極的な参加 … 30%・進捗報告 … 30%・発表会・報告書 … 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

＜教科書＞
初回授業で決定する

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		

18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	小川　正人			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
経営学（マネジメント・マーケティング・会計）、経済学（マクロ・ミクロ）、グローバルビジネス（異文化コミュニケーション・国際経営）、スポーツビジネス（スポーツ経営・スポーツマネジメント）などの各分野からテーマを設定し、学生同士の議論や協働を通して、主体的に探究を深める。学生一人ひとりが関心を持って主体的に取り組めるよう、指導・支援を行う。

＜授業の到達目標＞
・自分の関心に基づいて「専門とするテーマ」を決め、その内容と取り組む意義を他者に説明できる。・卒業後の進路や将来のキャリアを見据え、自分の専門とどのようにつながるかを整理し、一貫した方向性を示すことができる。

＜授業の方法＞
本授業は100分×クオーター制（全28回）で実施する。ゼミナールでは、テーマの設定と活動計画の立案を行った後、年間を通して継続的に活動に取り組む。【第1クオーター（1～7回）】設計（決める）・自分が取り組みたいテーマを考え、関心のある分野や問題意識を整理して方向性を定める。・あわせて、ゼミとしての活動方針を話し合い、年間の進め方や活動計画を立てる。必要に応じて対外的な活動内容も検討する。【第2クオーター（8～14回）】試行（やってみる）・テーマに関する現状や課題を調査し、文献や資料を収集するとともに、輪読

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各回のテーマに応じて予習・復習を行う（各回1時間程度）。ゼミナールにおける準備学習は、あらかじめ内容が与えられるものではなく、自らのテーマやゼミ活動の進捗に応じて、何をどの程度準備する必要があるかを各自が判断し、主体的に取り組むことを基本とする。ゼミ活動においては、プロジェクトの進め方を学生間で討議・検討し、全体の方向性と役割分担を決定したうえで、それぞれが責任をもって必要な準備や調整を行い、授業に臨むことが求められる。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・演習への積極的な参加 … 30%・進捗報告 … 30%・発表会・報告書 … 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

＜教科書＞
初回授業で決定する

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		

18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	鈴木　真理子		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
経営学（マネジメント・マーケティング・会計）、経済学（マクロ・ミクロ）、グローバルビジネス（異文化コミュニケーション・国際経営）、スポーツビジネス（スポーツ経営・スポーツマネジメント）などの各分野からテーマを設定し、学生同士の議論や協働を通して、主体的に探究を深める。学生一人ひとりが関心を持って主体的に取り組めるよう、指導・支援を行う。

＜授業の到達目標＞
・自分の関心に基づいて「専門とするテーマ」を決め、その内容と取り組む意義を他者に説明できる。・卒業後の進路や将来のキャリアを見据え、自分の専門とどのようにつながるかを整理し、一貫した方向性を示すことができる。

＜授業の方法＞
本授業は100分×クオーター制（全28回）で実施する。ゼミナールでは、テーマの設定と活動計画の立案を行った後、年間を通して継続的に活動に取り組む。【第1クオーター（1～7回）】設計（決める）・自分が取り組みたいテーマを考え、関心のある分野や問題意識を整理して方向性を定める。・あわせて、ゼミとしての活動方針を話し合い、年間の進め方や活動計画を立てる。必要に応じて対外的な活動内容も検討する。【第2クオーター（8～14回）】試行（やってみる）・テーマに関する現状や課題を調査し、文献や資料を収集するとともに、輪読

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各回のテーマに応じて予習・復習を行う（各回1時間程度）。ゼミナールにおける準備学習は、あらかじめ内容が与えられるものではなく、自らのテーマやゼミ活動の進捗に応じて、何をどの程度準備する必要があるかを各自が判断し、主体的に取り組むことを基本とする。ゼミ活動においては、プロジェクトの進め方を学生間で討議・検討し、全体の方向性と役割分担を決定したうえで、それぞれが責任をもって必要な準備や調整を行い、授業に臨むことが求められる。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・演習への積極的な参加 … 30%・進捗報告 … 30%・発表会・報告書 … 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

＜教科書＞
初回授業で決定する

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		

18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	岡田　健志		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
経営学（マネジメント・マーケティング・会計）、経済学（マクロ・ミクロ）、グローバルビジネス（異文化コミュニケーション・国際経営）、スポーツビジネス（スポーツ経営・スポーツマネジメント）などの各分野からテーマを設定し、学生同士の議論や協働を通して、主体的に探究を深める。学生一人ひとりが関心を持って主体的に取り組めるよう、指導・支援を行う。

＜授業の到達目標＞
・自分の関心に基づいて「専門とするテーマ」を決め、その内容と取り組む意義を他者に説明できる。・卒業後の進路や将来のキャリアを見据え、自分の専門とどのようにつながるかを整理し、一貫した方向性を示すことができる。

＜授業の方法＞
本授業は100分×クオーター制（全28回）で実施する。ゼミナールでは、テーマの設定と活動計画の立案を行った後、年間を通して継続的に活動に取り組む。【第1クオーター（1～7回）】設計（決める）・自分が取り組みたいテーマを考え、関心のある分野や問題意識を整理して方向性を定める。・あわせて、ゼミとしての活動方針を話し合い、年間の進め方や活動計画を立てる。必要に応じて対外的な活動内容も検討する。【第2クオーター（8～14回）】試行（やってみる）・テーマに関する現状や課題を調査し、文献や資料を収集するとともに、輪読

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各回のテーマに応じて予習・復習を行う（各回1時間程度）。ゼミナールにおける準備学習は、あらかじめ内容が与えられるものではなく、自らのテーマやゼミ活動の進捗に応じて、何をどの程度準備する必要があるかを各自が判断し、主体的に取り組むことを基本とする。ゼミ活動においては、プロジェクトの進め方を学生間で討議・検討し、全体の方向性と役割分担を決定したうえで、それぞれが責任をもって必要な準備や調整を行い、授業に臨むことが求められる。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・演習への積極的な参加 … 30%・進捗報告 … 30%・発表会・報告書 … 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

＜教科書＞
初回授業で決定する

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		

18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	三垣　雅美		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
経営学（マネジメント・マーケティング・会計）、経済学（マクロ・ミクロ）、グローバルビジネス（異文化コミュニケーション・国際経営）、スポーツビジネス（スポーツ経営・スポーツマネジメント）などの各分野からテーマを設定し、学生同士の議論や協働を通して、主体的に探究を深める。学生一人ひとりが関心を持って主体的に取り組めるよう、指導・支援を行う。

＜授業の到達目標＞
・自分の関心に基づいて「専門とするテーマ」を決め、その内容と取り組む意義を他者に説明できる。・卒業後の進路や将来のキャリアを見据え、自分の専門とどのようにつながるかを整理し、一貫した方向性を示すことができる。

＜授業の方法＞
本授業は100分×クオーター制（全28回）で実施する。ゼミナールでは、テーマの設定と活動計画の立案を行った後、年間を通して継続的に活動に取り組む。【第1クオーター（1～7回）】設計（決める）・自分が取り組みたいテーマを考え、関心のある分野や問題意識を整理して方向性を定める。・あわせて、ゼミとしての活動方針を話し合い、年間の進め方や活動計画を立てる。必要に応じて対外的な活動内容も検討する。【第2クオーター（8～14回）】試行（やってみる）・テーマに関する現状や課題を調査し、文献や資料を収集するとともに、輪読

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各回のテーマに応じて予習・復習を行う（各回1時間程度）。ゼミナールにおける準備学習は、あらかじめ内容が与えられるものではなく、自らのテーマやゼミ活動の進捗に応じて、何をどの程度準備する必要があるかを各自が判断し、主体的に取り組むことを基本とする。ゼミ活動においては、プロジェクトの進め方を学生間で討議・検討し、全体の方向性と役割分担を決定したうえで、それぞれが責任をもって必要な準備や調整を行い、授業に臨むことが求められる。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・演習への積極的な参加 … 30%・進捗報告 … 30%・発表会・報告書 … 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

＜教科書＞
初回授業で決定する

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		

18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	歌代　哲也			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
経営学（マネジメント・マーケティング・会計）、経済学（マクロ・ミクロ）、グローバルビジネス（異文化コミュニケーション・国際経営）、スポーツビジネス（スポーツ経営・スポーツマネジメント）などの各分野からテーマを設定し、学生同士の議論や協働を通して、主体的に探究を深める。学生一人ひとりが関心を持って主体的に取り組めるよう、指導・支援を行う。

＜授業の到達目標＞
・自分の関心に基づいて「専門とするテーマ」を決め、その内容と取り組む意義を他者に説明できる。・卒業後の進路や将来のキャリアを見据え、自分の専門とどのようにつながるかを整理し、一貫した方向性を示すことができる。

＜授業の方法＞
本授業は100分×クオーター制（全28回）で実施する。ゼミナールでは、テーマの設定と活動計画の立案を行った後、年間を通して継続的に活動に取り組む。【第1クオーター（1～7回）】設計（決める）・自分が取り組みたいテーマを考え、関心のある分野や問題意識を整理して方向性を定める。・あわせて、ゼミとしての活動方針を話し合い、年間の進め方や活動計画を立てる。必要に応じて対外的な活動内容も検討する。【第2クオーター（8～14回）】試行（やってみる）・テーマに関する現状や課題を調査し、文献や資料を収集するとともに、輪読

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各回のテーマに応じて、必要な調査や資料の整理等を行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと（事前学習：60分程度）。ゼミナールにおける準備学習は、あらかじめ内容が与えられるものではなく、自らのテーマやゼミ活動の進捗に応じて、何をどの程度準備する必要があるかを各自が判断し、主体的に取り組むことを基本とする。授業後は、議論内容や指摘を踏まえて追加の調査や資料の修正を行い、次回に向けた準備を進めること（事後学習：60分程度）。ゼミ活動においては、プロジェクトの進め方を学生間で討議・検討し、全体の方向性と役割分

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・演習への積極的な参加 … 30%・進捗報告 … 30%・発表会・報告書 … 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

＜教科書＞
初回授業で決定する

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	SACKO　Salif			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
経営学（マネジメント・マーケティング・会計）、経済学（マクロ・ミクロ）、グローバルビジネス（異文化コミュニケーション・国際経営）、スポーツビジネス（スポーツ経営・スポーツマネジメント）などの各分野からテーマを設定し、学生同士の議論や協働を通して、主体的に探究を深める。学生一人ひとりが関心を持って主体的に取り組めるよう、指導・支援を行う。

＜授業の到達目標＞
・自分の関心に基づいて「専門とするテーマ」を決め、その内容と取り組む意義を他者に説明できる。・卒業後の進路や将来のキャリアを見据え、自分の専門とどのようにつながるかを整理し、一貫した方向性を示すことができる。

＜授業の方法＞
本授業は100分×クオーター制（全28回）で実施する。ゼミナールでは、テーマの設定と活動計画の立案を行った後、年間を通して継続的に活動に取り組む。【第1クオーター（1～7回）】設計（決める）・自分が取り組みたいテーマを考え、関心のある分野や問題意識を整理して方向性を定める。・あわせて、ゼミとしての活動方針を話し合い、年間の進め方や活動計画を立てる。必要に応じて対外的な活動内容も検討する。【第2クオーター（8～14回）】試行（やってみる）・テーマに関する現状や課題を調査し、文献や資料を収集するとともに、輪読

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各回のテーマに応じて予習・復習を行う（各回1時間程度）。ゼミナールにおける準備学習は、あらかじめ内容が与えられるものではなく、自らのテーマやゼミ活動の進捗に応じて、何をどの程度準備する必要があるかを各自が判断し、主体的に取り組むことを基本とする。ゼミ活動においては、プロジェクトの進め方を学生間で討議・検討し、全体の方向性と役割分担を決定したうえで、それぞれが責任をもって必要な準備や調整を行い、授業に臨むことが求められる。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・演習への積極的な参加 … 30%・進捗報告 … 30%・発表会・報告書 … 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

＜教科書＞
初回授業で決定する

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		

18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	扇野　睦巳			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
経営学（マネジメント・マーケティング・会計）、経済学（マクロ・ミクロ）、グローバルビジネス（異文化コミュニケーション・国際経営）、スポーツビジネス（スポーツ経営・スポーツマネジメント）などの各分野からテーマを設定し、学生同士の議論や協働を通して、主体的に探究を深める。学生一人ひとりが関心を持って主体的に取り組めるよう、指導・支援を行う。

＜授業の到達目標＞
・自分の関心に基づいて「専門とするテーマ」を決め、その内容と取り組む意義を他者に説明できる。・卒業後の進路や将来のキャリアを見据え、自分の専門とどのようにつながるかを整理し、一貫した方向性を示すことができる。

＜授業の方法＞
本授業は100分×クオーター制（全28回）で実施する。ゼミナールでは、テーマの設定と活動計画の立案を行った後、年間を通して継続的に活動に取り組む。【第1クオーター（1～7回）】設計（決める）・自分が取り組みたいテーマを考え、関心のある分野や問題意識を整理して方向性を定める。・あわせて、ゼミとしての活動方針を話し合い、年間の進め方や活動計画を立てる。必要に応じて対外的な活動内容も検討する。【第2クオーター（8～14回）】試行（やってみる）・テーマに関する現状や課題を調査し、文献や資料を収集するとともに、輪読

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各回のテーマに応じて予習・復習を行う（各回1時間程度）。ゼミナールにおける準備学習は、あらかじめ内容が与えられるものではなく、自らのテーマやゼミ活動の進捗に応じて、何をどの程度準備する必要があるかを各自が判断し、主体的に取り組むことを基本とする。ゼミ活動においては、プロジェクトの進め方を学生間で討議・検討し、全体の方向性と役割分担を決定したうえで、それぞれが責任をもって必要な準備や調整を行い、授業に臨むことが求められる。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・演習への積極的な参加 … 30%・進捗報告 … 30%・発表会・報告書 … 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

＜教科書＞
初回授業で決定する

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		

18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	赤木　邦江			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
経営学（マネジメント・マーケティング・会計）、経済学（マクロ・ミクロ）、グローバルビジネス（異文化コミュニケーション・国際経営）、スポーツビジネス（スポーツ経営・スポーツマネジメント）などの各分野からテーマを設定し、学生同士の議論や協働を通して、主体的に探究を深める。学生一人ひとりが関心を持って主体的に取り組めるよう、指導・支援を行う。

＜授業の到達目標＞
・自分の関心に基づいて「専門とするテーマ」を決め、その内容と取り組む意義を他者に説明できる。・卒業後の進路や将来のキャリアを見据え、自分の専門とどのようにつながるかを整理し、一貫した方向性を示すことができる。

＜授業の方法＞
本授業は100分×クオーター制（全28回）で実施する。ゼミナールでは、テーマの設定と活動計画の立案を行った後、年間を通して継続的に活動に取り組む。【第1クオーター（1～7回）】設計（決める）・自分が取り組みたいテーマを考え、関心のある分野や問題意識を整理して方向性を定める。・あわせて、ゼミとしての活動方針を話し合い、年間の進め方や活動計画を立てる。必要に応じて対外的な活動内容も検討する。【第2クオーター（8～14回）】試行（やってみる）・テーマに関する現状や課題を調査し、文献や資料を収集するとともに、輪読

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各回のテーマに応じて予習・復習を行う（各回1時間程度）。ゼミナールにおける準備学習は、あらかじめ内容が与えられるものではなく、自らのテーマやゼミ活動の進捗に応じて、何をどの程度準備する必要があるかを各自が判断し、主体的に取り組むことを基本とする。ゼミ活動においては、プロジェクトの進め方を学生間で討議・検討し、全体の方向性と役割分担を決定したうえで、それぞれが責任をもって必要な準備や調整を行い、授業に臨むことが求められる。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・演習への積極的な参加 … 30%・進捗報告 … 30%・発表会・報告書 … 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

＜教科書＞
初回授業で決定する

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		

18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	山本　満理子		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
経営学（マネジメント・マーケティング・会計）、経済学（マクロ・ミクロ）、グローバルビジネス（異文化コミュニケーション・国際経営）、スポーツビジネス（スポーツ経営・スポーツマネジメント）などの各分野からテーマを設定し、学生同士の議論や協働を通して、主体的に探究を深める。学生一人ひとりが関心を持って主体的に取り組めるよう、指導・支援を行う。

＜授業の到達目標＞
・自分の関心に基づいて「専門とするテーマ」を決め、その内容と取り組む意義を他者に説明できる。・卒業後の進路や将来のキャリアを見据え、自分の専門とどのようにつながるかを整理し、一貫した方向性を示すことができる。

＜授業の方法＞
本授業は100分×クオーター制（全28回）で実施する。ゼミナールでは、テーマの設定と活動計画の立案を行った後、年間を通して継続的に活動に取り組む。【第1クオーター（1～7回）】設計（決める）・自分が取り組みたいテーマを考え、関心のある分野や問題意識を整理して方向性を定める。・あわせて、ゼミとしての活動方針を話し合い、年間の進め方や活動計画を立てる。必要に応じて対外的な活動内容も検討する。【第2クオーター（8～14回）】試行（やってみる）・テーマに関する現状や課題を調査し、文献や資料を収集するとともに、輪読

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各回のテーマに応じて予習・復習を行う（各回1時間程度）。ゼミナールにおける準備学習は、あらかじめ内容が与えられるものではなく、自らのテーマやゼミ活動の進捗に応じて、何をどの程度準備する必要があるかを各自が判断し、主体的に取り組むことを基本とする。ゼミ活動においては、プロジェクトの進め方を学生間で討議・検討し、全体の方向性と役割分担を決定したうえで、それぞれが責任をもって必要な準備や調整を行い、授業に臨むことが求められる。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・演習への積極的な参加 … 30%・進捗報告 … 30%・発表会・報告書 … 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

＜教科書＞
初回授業で決定する

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		

18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	小堀　浩志／平岡　師玄哉		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
経営学（マネジメント・マーケティング・会計）、経済学（マクロ・ミクロ）、グローバルビジネス（異文化コミュニケーション・国際経営）、スポーツビジネス（スポーツ経営・スポーツマネジメント）などの各分野からテーマを設定し、学生同士の議論や協働を通して、主体的に探究を深める。学生一人ひとりが関心を持って主体的に取り組めるよう、指導・支援を行う。

＜授業の到達目標＞
・自分の関心に基づいて「専門とするテーマ」を決め、その内容と取り組む意義を他者に説明できる。・卒業後の進路や将来のキャリアを見据え、自分の専門とどのようにつながるかを整理し、一貫した方向性を示すことができる。

＜授業の方法＞
本授業は100分×クオーター制（全28回）で実施する。ゼミナールでは、テーマの設定と活動計画の立案を行った後、年間を通して継続的に活動に取り組む。【第1クオーター（1～7回）】設計（決める）・自分が取り組みたいテーマを考え、関心のある分野や問題意識を整理して方向性を定める。・あわせて、ゼミとしての活動方針を話し合い、年間の進め方や活動計画を立てる。必要に応じて対外的な活動内容も検討する。【第2クオーター（8～14回）】試行（やってみる）・テーマに関する現状や課題を調査し、文献や資料を収集するとともに、輪読

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各回のテーマに応じて予習・復習を行う（各回1時間程度）。ゼミナールにおける準備学習は、あらかじめ内容が与えられるものではなく、自らのテーマやゼミ活動の進捗に応じて、何をどの程度準備する必要があるかを各自が判断し、主体的に取り組むことを基本とする。ゼミ活動においては、プロジェクトの進め方を学生間で討議・検討し、全体の方向性と役割分担を決定したうえで、それぞれが責任をもって必要な準備や調整を行い、授業に臨むことが求められる。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・演習への積極的な参加 … 30%・進捗報告 … 30%・発表会・報告書 … 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

＜教科書＞
初回授業で決定する

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		

18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	宇都宮　浩司			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
経営学（マネジメント・マーケティング・会計）、経済学（マクロ・ミクロ）、グローバルビジネス（異文化コミュニケーション・国際経営）、スポーツビジネス（スポーツ経営・スポーツマネジメント）などの各分野からテーマを設定し、学生同士の議論や協働を通して、主体的に探究を深める。学生一人ひとりが関心を持って主体的に取り組めるよう、指導・支援を行う。

＜授業の到達目標＞
・自分の関心に基づいて「専門とするテーマ」を決め、その内容と取り組む意義を他者に説明できる。・卒業後の進路や将来のキャリアを見据え、自分の専門とどのようにつながるかを整理し、一貫した方向性を示すことができる。

＜授業の方法＞
本授業は100分×クオーター制（全28回）で実施する。ゼミナールでは、テーマの設定と活動計画の立案を行った後、年間を通して継続的に活動に取り組む。【第1クオーター（1～7回）】設計（決める）・自分が取り組みたいテーマを考え、関心のある分野や問題意識を整理して方向性を定める。・あわせて、ゼミとしての活動方針を話し合い、年間の進め方や活動計画を立てる。必要に応じて対外的な活動内容も検討する。【第2クオーター（8～14回）】試行（やってみる）・テーマに関する現状や課題を調査し、文献や資料を収集するとともに、輪読

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各回のテーマに応じて予習・復習を行う（各回1時間程度）。ゼミナールにおける準備学習は、あらかじめ内容が与えられるものではなく、自らのテーマやゼミ活動の進捗に応じて、何をどの程度準備する必要があるかを各自が判断し、主体的に取り組むことを基本とする。ゼミ活動においては、プロジェクトの進め方を学生間で討議・検討し、全体の方向性と役割分担を決定したうえで、それぞれが責任をもって必要な準備や調整を行い、授業に臨むことが求められる。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・演習への積極的な参加 … 30%・進捗報告 … 30%・発表会・報告書 … 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

＜教科書＞
初回授業で決定する

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		

19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)（BC25秋編入学生用）				担当者名	小川　正人		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
経営学（マネジメント・マーケティング・会計）、経済学（マクロ・ミクロ）、グローバルビジネス（異文化コミュニケーション・国際経営）、スポーツビジネス（スポーツ経営・スポーツマネジメント）などの各分野からテーマを設定し、学生同士の議論や協働を通して、主体的に探究を深める。学生一人ひとりが関心を持って主体的に取り組めるよう、指導・支援を行う。

＜授業の到達目標＞
・自分の関心に基づいて「専門とするテーマ」を決め、その内容と取り組む意義を他者に説明できる。・卒業後の進路や将来のキャリアを見据え、自分の専門とどのようにつながるかを整理し、一貫した方向性を示すことができる。

＜授業の方法＞
本授業は100分×クオーター制（全28回）で実施する。ゼミナールでは、テーマの設定と活動計画の立案を行った後、年間を通して継続的に活動に取り組む。【第1クオーター（1～7回）】設計（決める）・自分が取り組みたいテーマを考え、関心のある分野や問題意識を整理して方向性を定める。・あわせて、ゼミとしての活動方針を話し合い、年間の進め方や活動計画を立てる。必要に応じて対外的な活動内容も検討する。【第2クオーター（8～14回）】試行（やってみる）・テーマに関する現状や課題を調査し、文献や資料を収集するとともに、輪読

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各回のテーマに応じて予習・復習を行う（各回1時間程度）。ゼミナールにおける準備学習は、あらかじめ内容が与えられるものではなく、自らのテーマやゼミ活動の進捗に応じて、何をどの程度準備する必要があるかを各自が判断し、主体的に取り組むことを基本とする。ゼミ活動においては、プロジェクトの進め方を学生間で討議・検討し、全体の方向性と役割分担を決定したうえで、それぞれが責任をもって必要な準備や調整を行い、授業に臨むことが求められる。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・演習への積極的な参加 … 30%・進捗報告 … 30%・発表会・報告書 … 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

＜教科書＞
初回授業で決定する

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		

18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)（BC25秋編入学生用）				担当者名	宇都宮　浩司		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
経営学（マネジメント・マーケティング・会計）、経済学（マクロ・ミクロ）、グローバルビジネス（異文化コミュニケーション・国際経営）、スポーツビジネス（スポーツ経営・スポーツマネジメント）などの各分野からテーマを設定し、学生同士の議論や協働を通して、主体的に探究を深める。学生一人ひとりが関心を持って主体的に取り組めるよう、指導・支援を行う。

＜授業の到達目標＞
・自分の関心に基づいて「専門とするテーマ」を決め、その内容と取り組む意義を他者に説明できる。・卒業後の進路や将来のキャリアを見据え、自分の専門とどのようにつながるかを整理し、一貫した方向性を示すことができる。

＜授業の方法＞
本授業は100分×クオーター制（全28回）で実施する。ゼミナールでは、テーマの設定と活動計画の立案を行った後、年間を通して継続的に活動に取り組む。【第1クオーター（1～7回）】設計（決める）・自分が取り組みたいテーマを考え、関心のある分野や問題意識を整理して方向性を定める。・あわせて、ゼミとしての活動方針を話し合い、年間の進め方や活動計画を立てる。必要に応じて対外的な活動内容も検討する。【第2クオーター（8～14回）】試行（やってみる）・テーマに関する現状や課題を調査し、文献や資料を収集するとともに、輪読

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各回のテーマに応じて予習・復習を行う（各回1時間程度）。ゼミナールにおける準備学習は、あらかじめ内容が与えられるものではなく、自らのテーマやゼミ活動の進捗に応じて、何をどの程度準備する必要があるかを各自が判断し、主体的に取り組むことを基本とする。ゼミ活動においては、プロジェクトの進め方を学生間で討議・検討し、全体の方向性と役割分担を決定したうえで、それぞれが責任をもって必要な準備や調整を行い、授業に臨むことが求められる。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・演習への積極的な参加 … 30%・進捗報告 … 30%・発表会・報告書 … 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

＜教科書＞
初回授業で決定する

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		

18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)（BC25秋編入学生用）				担当者名	岡田　健志			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
経営学（マネジメント・マーケティング・会計）、経済学（マクロ・ミクロ）、グローバルビジネス（異文化コミュニケーション・国際経営）、スポーツビジネス（スポーツ経営・スポーツマネジメント）などの各分野からテーマを設定し、学生同士の議論や協働を通して、主体的に探究を深める。学生一人ひとりが関心を持って主体的に取り組めるよう、指導・支援を行う。

＜授業の到達目標＞
・自分の関心に基づいて「専門とするテーマ」を決め、その内容と取り組む意義を他者に説明できる。・卒業後の進路や将来のキャリアを見据え、自分の専門とどのようにつながるかを整理し、一貫した方向性を示すことができる。

＜授業の方法＞
本授業は100分×クオーター制（全28回）で実施する。ゼミナールでは、テーマの設定と活動計画の立案を行った後、年間を通して継続的に活動に取り組む。【第1クオーター（1～7回）】設計（決める）・自分が取り組みたいテーマを考え、関心のある分野や問題意識を整理して方向性を定める。・あわせて、ゼミとしての活動方針を話し合い、年間の進め方や活動計画を立てる。必要に応じて対外的な活動内容も検討する。【第2クオーター（8～14回）】試行（やってみる）・テーマに関する現状や課題を調査し、文献や資料を収集するとともに、輪読

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各回のテーマに応じて予習・復習を行う（各回1時間程度）。ゼミナールにおける準備学習は、あらかじめ内容が与えられるものではなく、自らのテーマやゼミ活動の進捗に応じて、何をどの程度準備する必要があるかを各自が判断し、主体的に取り組むことを基本とする。ゼミ活動においては、プロジェクトの進め方を学生間で討議・検討し、全体の方向性と役割分担を決定したうえで、それぞれが責任をもって必要な準備や調整を行い、授業に臨むことが求められる。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・演習への積極的な参加 … 30%・進捗報告 … 30%・発表会・報告書 … 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

＜教科書＞
初回授業で決定する

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		

18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)（BC25秋編入学生用）				担当者名	溝越　隆興		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
経営学（マネジメント・マーケティング・会計）、経済学（マクロ・ミクロ）、グローバルビジネス（異文化コミュニケーション・国際経営）、スポーツビジネス（スポーツ経営・スポーツマネジメント）などの各分野からテーマを設定し、学生同士の議論や協働を通して、主体的に探究を深める。学生一人ひとりが関心を持って主体的に取り組めるよう、指導・支援を行う。

＜授業の到達目標＞
・自分の関心に基づいて「専門とするテーマ」を決め、その内容と取り組む意義を他者に説明できる。・卒業後の進路や将来のキャリアを見据え、自分の専門とどのようにつながるかを整理し、一貫した方向性を示すことができる。

＜授業の方法＞
本授業は100分×クオーター制（全28回）で実施する。ゼミナールでは、テーマの設定と活動計画の立案を行った後、年間を通して継続的に活動に取り組む。【第1クオーター（1～7回）】設計（決める）・自分が取り組みたいテーマを考え、関心のある分野や問題意識を整理して方向性を定める。・あわせて、ゼミとしての活動方針を話し合い、年間の進め方や活動計画を立てる。必要に応じて対外的な活動内容も検討する。【第2クオーター（8～14回）】試行（やってみる）・テーマに関する現状や課題を調査し、文献や資料を収集するとともに、輪読

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各回のテーマに応じて予習・復習を行う（各回1時間程度）。ゼミナールにおける準備学習は、あらかじめ内容が与えられるものではなく、自らのテーマやゼミ活動の進捗に応じて、何をどの程度準備する必要があるかを各自が判断し、主体的に取り組むことを基本とする。ゼミ活動においては、プロジェクトの進め方を学生間で討議・検討し、全体の方向性と役割分担を決定したうえで、それぞれが責任をもって必要な準備や調整を行い、授業に臨むことが求められる。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・演習への積極的な参加 … 30%・進捗報告 … 30%・発表会・報告書 … 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

＜教科書＞
初回授業で決定する

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		

18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)[秋入学生用]				担当者名	佐藤　典子			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
経営学（マネジメント・マーケティング・会計）、経済学（マクロ・ミクロ）、グローバルビジネス（異文化コミュニケーション・国際経営）、スポーツビジネス（スポーツ経営・スポーツマネジメント）などの各分野からテーマを設定し、学生同士の議論や協働を通して、主体的に探究を深める。学生一人ひとりが関心を持って主体的に取り組めるよう、指導・支援を行う。

＜授業の到達目標＞
・自分の関心に基づいて「専門とするテーマ」を決め、その内容と取り組む意義を他者に説明できる。・卒業後の進路や将来のキャリアを見据え、自分の専門とどのようにつながるかを整理し、一貫した方向性を示すことができる。

＜授業の方法＞
本授業は100分×クオーター制（全28回）で実施する。ゼミナールでは、テーマの設定と活動計画の立案を行った後、年間を通して継続的に活動に取り組む。【第1クオーター（1～7回）】設計（決める）・自分が取り組みたいテーマを考え、関心のある分野や問題意識を整理して方向性を定める。・あわせて、ゼミとしての活動方針を話し合い、年間の進め方や活動計画を立てる。必要に応じて対外的な活動内容も検討する。【第2クオーター（8～14回）】試行（やってみる）・テーマに関する現状や課題を調査し、文献や資料を収集するとともに、輪読

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各回のテーマに応じて、必要な調査や資料の整理等を行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと（事前学習：60分程度）。ゼミナールにおける準備学習は、あらかじめ内容が与えられるものではなく、自らのテーマやゼミ活動の進捗に応じて、何をどの程度準備する必要があるかを各自が判断し、主体的に取り組むことを基本とする。授業後は、議論内容や指摘を踏まえて追加の調査や資料の修正を行い、次回に向けた準備を進めること（事後学習：60分程度）。ゼミ活動においては、プロジェクトの進め方を学生間で討議・検討し、全体の方向性と役割分

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・演習への積極的な参加 … 30%・進捗報告 … 30%・発表会・報告書 … 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

＜教科書＞
初回授業で決定する

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)[秋入学生用]				担当者名	宇都宮　浩司			
配当年次	3年	配当学期	第１・第２クオーター	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
経営学（マネジメント・マーケティング・会計）、経済学（マクロ・ミクロ）、グローバルビジネス（異文化コミュニケーション・国際経営）、スポーツビジネス（スポーツ経営・スポーツマネジメント）などの各分野からテーマを設定し、学生同士の議論や協働を通して、主体的に探究を深める。学生一人ひとりが関心を持って主体的に取り組めるよう、指導・支援を行う。

＜授業の到達目標＞
・自分の関心に基づいて「専門とするテーマ」を決め、その内容と取り組む意義を他者に説明できる。・卒業後の進路や将来のキャリアを見据え、自分の専門とどのようにつながるかを整理し、一貫した方向性を示すことができる。

＜授業の方法＞
本授業は100分×クオーター制（全28回）で実施する。ゼミナールでは、テーマの設定と活動計画の立案を行った後、年間を通して継続的に活動に取り組む。【第1クオーター（1～7回）】設計（決める）・自分が取り組みたいテーマを考え、関心のある分野や問題意識を整理して方向性を定める。・あわせて、ゼミとしての活動方針を話し合い、年間の進め方や活動計画を立てる。必要に応じて対外的な活動内容も検討する。【第2クオーター（8～14回）】試行（やってみる）・テーマに関する現状や課題を調査し、文献や資料を収集するとともに、輪読

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各回のテーマに応じて、必要な調査や資料の整理等を行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと（事前学習：60分程度）。ゼミナールにおける準備学習は、あらかじめ内容が与えられるものではなく、自らのテーマやゼミ活動の進捗に応じて、何をどの程度準備する必要があるかを各自が判断し、主体的に取り組むことを基本とする。授業後は、議論内容や指摘を踏まえて追加の調査や資料の修正を行い、次回に向けた準備を進めること（事後学習：60分程度）。ゼミ活動においては、プロジェクトの進め方を学生間で討議・検討し、全体の方向性と役割分

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・演習への積極的な参加 … 30%・進捗報告 … 30%・発表会・報告書 … 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

＜教科書＞
初回授業で決定する

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		

15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)[秋入学生用]				担当者名	鈴木　真理子		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
経営学（マネジメント・マーケティング・会計）、経済学（マクロ・ミクロ）、グローバルビジネス（異文化コミュニケーション・国際経営）、スポーツビジネス（スポーツ経営・スポーツマネジメント）などの各分野からテーマを設定し、学生同士の議論や協働を通して、主体的に探究を深める。学生一人ひとりが関心を持って主体的に取り組めるよう、指導・支援を行う。

＜授業の到達目標＞
・自分の関心に基づいて「専門とするテーマ」を決め、その内容と取り組む意義を他者に説明できる。・卒業後の進路や将来のキャリアを見据え、自分の専門とどのようにつながるかを整理し、一貫した方向性を示すことができる。

＜授業の方法＞
本授業は100分×クオーター制（全28回）で実施する。ゼミナールでは、テーマの設定と活動計画の立案を行った後、年間を通して継続的に活動に取り組む。【第1クオーター（1～7回）】設計（決める）・自分が取り組みたいテーマを考え、関心のある分野や問題意識を整理して方向性を定める。・あわせて、ゼミとしての活動方針を話し合い、年間の進め方や活動計画を立てる。必要に応じて対外的な活動内容も検討する。【第2クオーター（8～14回）】試行（やってみる）・テーマに関する現状や課題を調査し、文献や資料を収集するとともに、輪読

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各回のテーマに応じて、必要な調査や資料の整理等を行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと（事前学習：60分程度）。ゼミナールにおける準備学習は、あらかじめ内容が与えられるものではなく、自らのテーマやゼミ活動の進捗に応じて、何をどの程度準備する必要があるかを各自が判断し、主体的に取り組むことを基本とする。授業後は、議論内容や指摘を踏まえて追加の調査や資料の修正を行い、次回に向けた準備を進めること（事後学習：60分程度）。ゼミ活動においては、プロジェクトの進め方を学生間で討議・検討し、全体の方向性と役割分

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・演習への積極的な参加 … 30%・進捗報告 … 30%・発表会・報告書 … 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

＜教科書＞
初回授業で決定する

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)[秋入学生用]				担当者名	小川　正人			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
経営学（マネジメント・マーケティング・会計）、経済学（マクロ・ミクロ）、グローバルビジネス（異文化コミュニケーション・国際経営）、スポーツビジネス（スポーツ経営・スポーツマネジメント）などの各分野からテーマを設定し、学生同士の議論や協働を通して、主体的に探究を深める。学生一人ひとりが関心を持って主体的に取り組めるよう、指導・支援を行う。

＜授業の到達目標＞
・自分の関心に基づいて「専門とするテーマ」を決め、その内容と取り組む意義を他者に説明できる。・卒業後の進路や将来のキャリアを見据え、自分の専門とどのようにつながるかを整理し、一貫した方向性を示すことができる。

＜授業の方法＞
本授業は100分×クオーター制（全28回）で実施する。ゼミナールでは、テーマの設定と活動計画の立案を行った後、年間を通して継続的に活動に取り組む。【第1クオーター（1～7回）】設計（決める）・自分が取り組みたいテーマを考え、関心のある分野や問題意識を整理して方向性を定める。・あわせて、ゼミとしての活動方針を話し合い、年間の進め方や活動計画を立てる。必要に応じて対外的な活動内容も検討する。【第2クオーター（8～14回）】試行（やってみる）・テーマに関する現状や課題を調査し、文献や資料を収集するとともに、輪読

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各回のテーマに応じて、必要な調査や資料の整理等を行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと（事前学習：60分程度）。ゼミナールにおける準備学習は、あらかじめ内容が与えられるものではなく、自らのテーマやゼミ活動の進捗に応じて、何をどの程度準備する必要があるかを各自が判断し、主体的に取り組むことを基本とする。授業後は、議論内容や指摘を踏まえて追加の調査や資料の修正を行い、次回に向けた準備を進めること（事後学習：60分程度）。ゼミ活動においては、プロジェクトの進め方を学生間で討議・検討し、全体の方向性と役割分

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・演習への積極的な参加 … 30%・進捗報告 … 30%・発表会・報告書 … 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

＜教科書＞
初回授業で決定する

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)[秋入学生用]				担当者名	SACKO　Salif			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
経営学（マネジメント・マーケティング・会計）、経済学（マクロ・ミクロ）、グローバルビジネス（異文化コミュニケーション・国際経営）、スポーツビジネス（スポーツ経営・スポーツマネジメント）などの各分野からテーマを設定し、学生同士の議論や協働を通して、主体的に探究を深める。学生一人ひとりが関心を持って主体的に取り組めるよう、指導・支援を行う。

＜授業の到達目標＞
・自分の関心に基づいて「専門とするテーマ」を決め、その内容と取り組む意義を他者に説明できる。・卒業後の進路や将来のキャリアを見据え、自分の専門とどのようにつながるかを整理し、一貫した方向性を示すことができる。

＜授業の方法＞
本授業は100分×クオーター制（全28回）で実施する。ゼミナールでは、テーマの設定と活動計画の立案を行った後、年間を通して継続的に活動に取り組む。【第1クオーター（1～7回）】設計（決める）・自分が取り組みたいテーマを考え、関心のある分野や問題意識を整理して方向性を定める。・あわせて、ゼミとしての活動方針を話し合い、年間の進め方や活動計画を立てる。必要に応じて対外的な活動内容も検討する。【第2クオーター（8～14回）】試行（やってみる）・テーマに関する現状や課題を調査し、文献や資料を収集するとともに、輪読

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各回のテーマに応じて、必要な調査や資料の整理等を行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと（事前学習：60分程度）。ゼミナールにおける準備学習は、あらかじめ内容が与えられるものではなく、自らのテーマやゼミ活動の進捗に応じて、何をどの程度準備する必要があるかを各自が判断し、主体的に取り組むことを基本とする。授業後は、議論内容や指摘を踏まえて追加の調査や資料の修正を行い、次回に向けた準備を進めること（事後学習：60分程度）。ゼミ活動においては、プロジェクトの進め方を学生間で討議・検討し、全体の方向性と役割分

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・演習への積極的な参加 … 30%・進捗報告 … 30%・発表会・報告書 … 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

＜教科書＞
初回授業で決定する

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)[秋入学生用]				担当者名	歌代　哲也		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
経営学（マネジメント・マーケティング・会計）、経済学（マクロ・ミクロ）、グローバルビジネス（異文化コミュニケーション・国際経営）、スポーツビジネス（スポーツ経営・スポーツマネジメント）などの各分野からテーマを設定し、学生同士の議論や協働を通して、主体的に探究を深める。学生一人ひとりが関心を持って主体的に取り組めるよう、指導・支援を行う。

＜授業の到達目標＞
・自分の関心に基づいて「専門とするテーマ」を決め、その内容と取り組む意義を他者に説明できる。・卒業後の進路や将来のキャリアを見据え、自分の専門とどのようにつながるかを整理し、一貫した方向性を示すことができる。

＜授業の方法＞
本授業は100分×クオーター制（全28回）で実施する。ゼミナールでは、テーマの設定と活動計画の立案を行った後、年間を通して継続的に活動に取り組む。【第1クオーター（1～7回）】設計（決める）・自分が取り組みたいテーマを考え、関心のある分野や問題意識を整理して方向性を定める。・あわせて、ゼミとしての活動方針を話し合い、年間の進め方や活動計画を立てる。必要に応じて対外的な活動内容も検討する。【第2クオーター（8～14回）】試行（やってみる）・テーマに関する現状や課題を調査し、文献や資料を収集するとともに、輪読

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各回のテーマに応じて、必要な調査や資料の整理等を行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと（事前学習：60分程度）。ゼミナールにおける準備学習は、あらかじめ内容が与えられるものではなく、自らのテーマやゼミ活動の進捗に応じて、何をどの程度準備する必要があるかを各自が判断し、主体的に取り組むことを基本とする。授業後は、議論内容や指摘を踏まえて追加の調査や資料の修正を行い、次回に向けた準備を進めること（事後学習：60分程度）。ゼミ活動においては、プロジェクトの進め方を学生間で討議・検討し、全体の方向性と役割分

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・演習への積極的な参加 … 30%・進捗報告 … 30%・発表会・報告書 … 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

＜教科書＞
初回授業で決定する

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)[秋入学生用]				担当者名	大池　淳一		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
経営学（マネジメント・マーケティング・会計）、経済学（マクロ・ミクロ）、グローバルビジネス（異文化コミュニケーション・国際経営）、スポーツビジネス（スポーツ経営・スポーツマネジメント）などの各分野からテーマを設定し、学生同士の議論や協働を通して、主体的に探究を深める。学生一人ひとりが関心を持って主体的に取り組めるよう、指導・支援を行う。

＜授業の到達目標＞
・自分の関心に基づいて「専門とするテーマ」を決め、その内容と取り組む意義を他者に説明できる。・卒業後の進路や将来のキャリアを見据え、自分の専門とどのようにつながるかを整理し、一貫した方向性を示すことができる。

＜授業の方法＞
本授業は100分×クオーター制（全28回）で実施する。ゼミナールでは、テーマの設定と活動計画の立案を行った後、年間を通して継続的に活動に取り組む。【第1クオーター（1～7回）】設計（決める）・自分が取り組みたいテーマを考え、関心のある分野や問題意識を整理して方向性を定める。・あわせて、ゼミとしての活動方針を話し合い、年間の進め方や活動計画を立てる。必要に応じて対外的な活動内容も検討する。【第2クオーター（8～14回）】試行（やってみる）・テーマに関する現状や課題を調査し、文献や資料を収集するとともに、輪読

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各回のテーマに応じて、必要な調査や資料の整理等を行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと（事前学習：60分程度）。ゼミナールにおける準備学習は、あらかじめ内容が与えられるものではなく、自らのテーマやゼミ活動の進捗に応じて、何をどの程度準備する必要があるかを各自が判断し、主体的に取り組むことを基本とする。授業後は、議論内容や指摘を踏まえて追加の調査や資料の修正を行い、次回に向けた準備を進めること（事後学習：60分程度）。ゼミ活動においては、プロジェクトの進め方を学生間で討議・検討し、全体の方向性と役割分

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・演習への積極的な参加 … 30%・進捗報告 … 30%・発表会・報告書 … 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

＜教科書＞
初回授業で決定する

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)[秋入学生用]				担当者名	田口　雅弘		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
経営学（マネジメント・マーケティング・会計）、経済学（マクロ・ミクロ）、グローバルビジネス（異文化コミュニケーション・国際経営）、スポーツビジネス（スポーツ経営・スポーツマネジメント）などの各分野からテーマを設定し、学生同士の議論や協働を通して、主体的に探究を深める。学生一人ひとりが関心を持って主体的に取り組めるよう、指導・支援を行う。

＜授業の到達目標＞
・自分の関心に基づいて「専門とするテーマ」を決め、その内容と取り組む意義を他者に説明できる。・卒業後の進路や将来のキャリアを見据え、自分の専門とどのようにつながるかを整理し、一貫した方向性を示すことができる。

＜授業の方法＞
本授業は100分×クオーター制（全28回）で実施する。ゼミナールでは、テーマの設定と活動計画の立案を行った後、年間を通して継続的に活動に取り組む。【第1クオーター（1～7回）】設計（決める）・自分が取り組みたいテーマを考え、関心のある分野や問題意識を整理して方向性を定める。・あわせて、ゼミとしての活動方針を話し合い、年間の進め方や活動計画を立てる。必要に応じて対外的な活動内容も検討する。【第2クオーター（8～14回）】試行（やってみる）・テーマに関する現状や課題を調査し、文献や資料を収集するとともに、輪読

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各回のテーマに応じて、必要な調査や資料の整理等を行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと（事前学習：60分程度）。ゼミナールにおける準備学習は、あらかじめ内容が与えられるものではなく、自らのテーマやゼミ活動の進捗に応じて、何をどの程度準備する必要があるかを各自が判断し、主体的に取り組むことを基本とする。授業後は、議論内容や指摘を踏まえて追加の調査や資料の修正を行い、次回に向けた準備を進めること（事後学習：60分程度）。ゼミ活動においては、プロジェクトの進め方を学生間で討議・検討し、全体の方向性と役割分

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・演習への積極的な参加 … 30%・進捗報告 … 30%・発表会・報告書 … 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

＜教科書＞
初回授業で決定する

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	大久保　諒		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

本ゼミナールでは、発達科学的な観点から、教育（学校教育だけでなく、幼児教育や保育も含む）の実践に役立つ文献研究・理論研究（研究資料の探索と活用）の基本を学習する。その上で、各自の興味・関心に基づき、1つの研究テーマを探求する課題の完遂するために、データの収集方法や統計学的基礎、科学的な論文調の文章構成方法など、必要なスキルの習得を目指す。

＜授業の到達目標＞

① 教育の実践と発達科学的な研究のつながりを説明できるようになる。② 教育の実践に活きる研究テーマを見つけ出せるようになる。③ 研究資料を調べて、レジュメへまとめ、発表できるようになる。④ 自らの関心に基づき、研究を進めるために必要な統計学等のスキルを身につける。⑤ 自らの作業の成果の有用性や改善点・修正点を教育の実践の場で検討できるようになる。

＜授業の方法＞

前半は、発達科学的な考え方に親しみながら、自分の関心のある研究分野の文献を探索・理解する方法と、その関心に基づいて、自分自身で研究を遂行するために必要となるデータの収集・分析の方法を学習する。前半のまとめとして、自分が探求しようとする問題を説得的に文書へ記し、問題を検討するために必要となるデータを収集する。後半は、前半の学習内容を活かし、自分自身で具体的に研究を遂行していく。文献研究を重ね、収集したデータを分析し、発達科学的、かつ論理的に妥当な結論を導くことを試みていく。後半のまとめとして、一連の研究手続

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有：授業全般がアクティブラーニングを基礎として進められる。受講生は、研究計画の立案、研究データの収集・分析、研究文書の執筆など、すべてのプロセスを自ら実際に行ってみることで学びを深めていく。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各自、授業前に、必要な文献・データ等を準備し、それらを授業内で説明できるよう理解しておく責任を負う。各回、これらの学習に60分以上の時間を要する。また、授業後に、自らの研究テーマについて、文献研究やデータに基づく検証、研究手続き・成果の文書化を継続的に進めなければならない。各回、これらの学習に60分以上の時間を要する。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー４(地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

議論への貢献度 / 研究への積極性：50%、成果物等の課題の出来栄え：50%を総合して最終的な成績を定める。

＜教科書＞

＜参考書＞

杉村伸一郎・坂田陽子（編）（2004/4）　実験で学ぶ発達心理学　ナカニシヤ出版
村上香奈・山崎浩一（編）（2018/3）　よくわかる心理学実験実習　ミネルヴァ書房
大出敦・直江 健介（著）（2020/8 ）　アカデミック・スキルズ プレゼンテーション入門:学生のためのプレゼン上達術　慶応義塾大学出版会

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	・ゼミナールの説明・自らの関心事の発表
2	発達科学的な研究の考え方①	・理論と経験（データ）・基礎（研究）と応用（実践）・複雑さと単純さ・自分の関心事の科学的親和性
3	発達科学的な研究の考え方②	・発達に関する基礎・至近的説明と究極的説明・構造と機能の理解
4	文献の探索・収集	・文献検索の方法・文献整理の方法
5	文献の精読・理解	・文献理解の方法・文献要約の方法
6	統計学的基礎①	・記述統計の考え方・記述統計の読み方
7	統計学的基礎②	・推測統計の考え方・推測統計の読み方
8	研究計画の立案①	・問題設定へ着手・問題設定の文書化（言語化）
9	研究計画の立案②	・問題設定に関する発表と議論・問題設定の見直し
10	研究計画の立案③	・問題設定の精緻化・問題設定の具体化
11	研究計画の立案④	・データ収集の方法（概念・理論）・研究倫理
12	研究計画の立案⑤	・データ収集の方法（技術・手続き）・測定ツールの選定
13	研究計画の立案⑥	・データ収集の方法（準備）・データ収集を支援するアプリケーション等への習熟化
14	研究計画の立案⑦	・データ収集の方法（確認）・研究協力者のリクルート方法
15	データの分析①	・データの管理方法・データのインポート・データ行列の整頓方法・データ行列の

		見方
16	データの分析②	・変数の操作
17	データの分析③	・記述統計の計算・記述統計の図表整理
18	データの分析④	・推測統計の実行・推測統計の報告方法
19	データの分析⑤	・分析結果の発表・分析結果の見直し
20	研究文書の執筆①	・科学的文書の構造・科学的文書のスタイル・科学的文書のマナー
21	研究文書の執筆②	・問題設定の科学的文書化
22	研究文書の執筆③	・問題設定の文書添削・問題設定の文書修正
23	研究文書の執筆④	・データ収集方法の報告・分析結果の報告
24	研究文書の執筆⑤	・データ収集方法の報告の添削・データ収集方法の報告の修正・分析結果の報告の添削・分析結果の報告の修正
25	研究文書の執筆⑥	・考察の検討・考察の執筆
26	研究文書の執筆⑦	・考察の発表・考察の見直し
27	研究発表の方法	・スライド資料の作成方法・ポスター資料の作成方法
28	研究発表の方法	・研究発表の練習・スライド資料（ポスター資料）の見直し
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	大久保　諒		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本ゼミナールでは、発達科学的な観点から、教育（学校教育だけでなく、幼児教育や保育も含む）の実践に役立つ文献研究・理論研究（研究資料の探索と活用）の基本を学習する。その上で、各自の興味・関心に基づき、1つの研究テーマを探求する課題の完遂するために、データの収集方法や統計学的基礎、科学的な論文調の文章構成方法など、必要なスキルの習得を目指す。

＜授業の到達目標＞
① 教育の実践と発達科学的な研究のつながりを説明できるようになる。② 教育の実践に活きる研究テーマを見つけ出せるようになる。③ 研究資料を調べて、レジュメへまとめ、発表できるようになる。④ 自らの関心に基づき、研究を進めるために必要な統計学等のスキルを身につける。⑤ 自らの作業の成果の有用性や改善点・修正点を教育の実践の場で検討できるようになる。

＜授業の方法＞
前半は、発達科学的な考え方に親しみながら、自分の関心のある研究分野の文献を探索・理解する方法と、その関心に基づいて、自分自身で研究を遂行するために必要となるデータの収集・分析の方法を学習する。前半のまとめとして、自分が探求しようとする問題を説得的に文書へ記し、問題を検討するために必要となるデータを収集する。後半は、前半の学習内容を活かし、自分自身で具体的に研究を遂行していく。文献研究を重ね、収集したデータを分析し、発達科学的、かつ論理的に妥当な結論を導くことを試みていく。後半のまとめとして、一連の研究手続

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：授業全般がアクティブラーニングを基礎として進められる。受講生は、研究計画の立案、研究データの収集・分析、研究文書の執筆など、すべてのプロセスを自ら実際に行ってみることで学びを深めていく。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各自、授業前に、必要な文献・データ等を準備し、それらを授業内で説明できるよう理解しておく責任を負う。各回、これらの学習に60分以上の時間を要する。また、授業後に、自らの研究テーマについて、文献研究やデータに基づく検証、研究手続き・成果の文書化を継続的に進めなければならない。各回、これらの学習に60分以上の時間を要する。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
議論への貢献度 / 研究への積極性：50%、成果物等の課題の出来栄え：50%を総合して最終的な成績を定める。

＜教科書＞

＜参考書＞
杉村伸一郎・坂田陽子（編）（2004/4）　実験で学ぶ発達心理学　ナカニシヤ出版
村上香奈・山崎浩一（編）（2018/3）　よくわかる心理学実験実習　ミネルヴァ書房
大出敦・直江 健介（著）（2020/8 ）　アカデミック・スキルズ プレゼンテーション入門:学生のためのプレゼン上達術　慶応義塾大学出版会

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	・ゼミナールの説明・自らの関心事の発表
2	発達科学的な研究の考え方①	・理論と経験（データ）・基礎（研究）と応用（実践）・複雑さと単純さ・自分の関心事の科学的親和性
3	発達科学的な研究の考え方②	・発達に関する基礎・至近的説明と究極的説明・構造と機能の理解
4	文献の探索・収集	・文献検索の方法・文献整理の方法
5	文献の精読・理解	・文献理解の方法・文献要約の方法
6	統計学的基礎①	・記述統計の考え方・記述統計の読み方
7	統計学的基礎②	・推測統計の考え方・推測統計の読み方
8	研究計画の立案①	・問題設定へ着手・問題設定の文書化（言語化）
9	研究計画の立案②	・問題設定に関する発表と議論・問題設定の見直し
10	研究計画の立案③	・問題設定の精緻化・問題設定の具体化
11	研究計画の立案④	・データ収集の方法（概念・理論）・研究倫理
12	研究計画の立案⑤	・データ収集の方法（技術・手続き）・測定ツールの選定
13	研究計画の立案⑥	・データ収集の方法（準備）・データ収集を支援するアプリケーション等への習熟化
14	研究計画の立案⑦	・データ収集の方法（確認）・研究協力者のリクルート方法
15	データの分析①	・データの管理方法・データのインポート・データ行列の整頓方法・データ行列の見方
16	データの分析②	・変数の操作

17	データの分析③	・記述統計の計算・記述統計の図表整理
18	データの分析④	・推測統計の実行・推測統計の報告方法
19	データの分析⑤	・分析結果の発表・分析結果の見直し
20	研究文書の執筆①	・科学的文書の構造・科学的文書のスタイル・科学的文書のマナー
21	研究文書の執筆②	・問題設定の科学的文書化
22	研究文書の執筆③	・問題設定の文書添削・問題設定の文書修正
23	研究文書の執筆④	・データ収集方法の報告・分析結果の報告
24	研究文書の執筆⑤	・データ収集方法の報告の添削・データ収集方法の報告の修正・分析結果の報告の添削・分析結果の報告の修正
25	研究文書の執筆⑥	・考察の検討・考察の執筆
26	研究文書の執筆⑦	・考察の発表・考察の見直し
27	研究発表の方法	・スライド資料の作成方法・ポスター資料の作成方法
28	研究発表の方法	・研究発表の練習・スライド資料（ポスター資料）の見直し
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	西田　修斗			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本ゼミでは、ゼミナールⅠで培った授業づくりの経験をもとに、「子どもが算数を好きになる授業とは何か」について、より深く探究する。教材作成や模擬授業を通して、自らの授業観を明確にする。また、数学的な見方・考え方を引き出す授業を設計・実践する力を高める。また、授業づくりに関する考えを言語化し、他者に説明・共有する活動を重視する。さらに、文献の読み取りや論理的な構成の整理を通して、自らの考えを深める力を養う。これらの活動を通して、授業を設計・実践し、改善し続けるとともに、自らの教育観を形成することを目的とする。

＜授業の到達目標＞
① 子どもの興味・関心を引き出す授業の工夫を考え、根拠をもとに説明することができる。（DP2・DP3）② 数学的な見方・考え方を引き出す授業を構想し、教材や指導案として具体化することができる。（DP2・DP3）③ 模擬授業を通して、自分の考えを分かりやすく伝え、他者と関わりながら実践することができる。（DP1・DP3）④ 自分や他者の授業について振り返り、対話を通して改善点を具体的に言語化することができる。（DP1・DP3）⑤ 教材作成や授業づくりにおいて、生成AI等を活用し、よりよい授業へと改善すること

＜授業の方法＞
本ゼミでは、教材作成や模擬授業を中心とした実践的な活動を行う。授業は主に以下の流れで進める。① 授業づくりに関する基礎的な知識や技術（スライド作成、教具作成、生成AIの活用等）を学ぶ。② 各自が授業案や教材を作成する。③ 作成した教材やスライドを用いて模擬授業を行う。④ 模擬授業に対して教員および学生同士でフィードバックを行う。⑤ フィードバックを踏まえて授業の改善を行う。これらの活動を繰り返すことで、授業を設計・実践し、改善する力を養うとともに、数学的な見方・考え方を引き出す授業づくりの力を育成する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有（グループワーク、ディスカッション、課題解決型学習、振り返り活動）本ゼミでは、教材作成や模擬授業を中心とした課題解決型学習を行う。各自が授業案や教材を作成し、模擬授業を実施した後、教員および学生同士でディスカッションを行い、数学的な見方・考え方を引き出す視点から改善点を検討する。また、振り返りを通して自らの授業を再構成する活動を取り入れることで、主体的・対話的で深い学びを促す。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業外学習として、授業で扱った内容の振り返りや整理を行うとともに、作成した教材や授業案の見直し・改善を行う（1時間程度）。また、次回の模擬授業や課題に向けて、スライドや教具の作成・修正など必要な準備を行う（2時間程度）。これらを通して授業づくりに関する理解を深めることを目的とする。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４(地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。　　)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業への取り組み（教材作成・模擬授業・ディスカッションへの参加状況）60%、提出課題（振り返り・授業案等）20%、最終成果（模擬授業およびその改善内容）20%とする。授業では、各活動への主体的な参加状況や、フィードバックを踏まえた改善の過程を重視して評価する。各活動に対するフィードバックは、授業内での講評やディスカッションを通して行う。

＜教科書＞
特に指定しない。

＜参考書＞
特に指定しない。

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	・ゼミの目的・進め方・評価方法
2	授業観の整理	自分の目指す授業像の言語化
3	文献の読み方	授業研究に関する文献の読み取り方
4	授業の構造分析	授業の構成（発問・展開・まとめ）の分析
5	教材研究①	教材の分析と意図の整理
6	教材研究②	教材の改善と再構成
7	生成AI活用①	生成AIを用いた授業案の分析・改善
8	生成AI活用②	生成AIを用いた教材の改善・再構成
9	模擬授業①（1）	・模擬授業の実施・フィードバック・改善点の整理
10	模擬授業①（2）	・模擬授業の実施・フィードバック・改善点の整理

11	模擬授業①（3）	・模擬授業の実施・フィードバック・改善点の整理
12	模擬授業①（4）	・模擬授業の実施・フィードバック・改善点の整理
13	発表（授業観の整理）	自分の授業観の共有と議論
14	前期のまとめ・振り返り	・前期の振り返り・課題と改善点の整理
15	前期の振り返りと改善点の整理	・前期の模擬授業の振り返り・課題と改善方針の整理
16	生成AI活用③	生成AIを用いた授業改善の検討
17	模擬授業②（1）	・模擬授業の実施・フィードバック（良い点・改善点）・改善方針の整理
18	模擬授業②（2）	・模擬授業の実施・フィードバック（良い点・改善点）・改善方針の整理
19	模擬授業②（3）	・模擬授業の実施・フィードバック（良い点・改善点）・改善方針の整理
20	模擬授業②（4）	・模擬授業の実施・フィードバック（良い点・改善点）・改善方針の整理
21	授業の再構成	教材・指導案の改善と再設計
22	発表（授業の意図・構成）	授業の意図や構成の説明と共有
23	模擬授業③（1）	・模擬授業の実施・フィードバック・改善点の整理
24	模擬授業③（2）	・模擬授業の実施・フィードバック・改善点の整理
25	模擬授業③（3）	・模擬授業の実施・フィードバック・改善点の整理
26	模擬授業③（4）	・模擬授業の実施・フィードバック・改善点の整理
27	成果の共有	・模擬授業または成果発表・全体での振り返り
28	総括・振り返り	・1年間の振り返り・今後の課題整理
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	河端　隆志		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本科目では､テーマに沿った研究あるいは論文の執筆を通して､研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする｡そのため､問いの立て方を指導の中心とし、履修者相互の議論によって理解を深める手立てとする。

＜授業の到達目標＞
関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。レポート発表及びディスカッションができる。研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

＜授業の方法＞
研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を引き出すため議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有：各自のテーマについて意見をまとめ、定期的に発表を行いグループディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：該科目の学習にあたり、各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析をする（1時間程度）。復習：次回授業に向けて、進捗状況の報告準備をする（1時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４(体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
ポートフォリオおよび授業態度等 30%、中間発表 20%、論文 50%卒業研究を履修しないものについては、ゼミ論文の提出を義務付ける。

＜教科書＞
特に指定しない。

＜参考書＞
特に指定しない。

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	研究課題の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	研究課題の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	研究課題の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	研究課題の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	研究課題の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	研究課題の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	研究課題の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
15	研究課題の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよ

		りよいものにする。
16	研究課題の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	研究課題の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	研究課題の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
20	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	研究課題の遂行とその報告⑫	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究論文最終確認①	各自の研究成果の発表
26	研究論文最終確認②	各自の研究成果の発表
27	研究論文最終確認③	各自の研究成果の発表
28	１年間のまとめ	１年間の研究課題の総括を行う。
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	坂本　康輔		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本科目では、卒業論文あるいはゼミ論文の執筆を通して、研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする。そのため、問いの立て方を指導の中心とし、履修者相互の議論によって理解を深める手立てとする。

＜授業の到達目標＞
関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。レポート発表及びディスカッションができる。研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

＜授業の方法＞
研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を引き出すため議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
要素：有研究分野に応じた分析方法の検討や先行研究の発表及びディスカッションを行います。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析をする（1時間）。進捗状況の報告準備をする（30分）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
ポートフォリオおよび授業態度等 30%，中間発表 20%，論文 50%

＜教科書＞
特に指定しない。

＜参考書＞
特に指定しない。

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成?①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	研究課題の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。

16	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
20	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
22	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
27	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	佐藤　伸之		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本科目では、卒業論文あるいはゼミ論文の執筆を通して、研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする。そのため、問いの立て方を指導の中心とし、履修者相互の議論によって理解を深める手立てとする。

＜授業の到達目標＞
関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解できるようになる。レポート発表及びディスカッションができるようになる。研究レポート・論文作成の基本を身に付けている。研究を論文としてまとめ、その発表ができるようになる。

＜授業の方法＞
研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を引き出すため議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
要素：有研究分野に応じた分析方法の検討や先行研究の発表及びディスカッションを行います。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習：進捗状況の報告準備をする（1.5時間程度）。事後学習：各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析をする（1.5時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
ポートフォリオおよび授業態度等 30%，中間発表 20%，論文 50%

＜教科書＞
特に指定しない。

＜参考書＞
特に指定しない。

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	研究課題の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
15	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究

		をよりよいものにする。
16	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
20	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
22	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	論文最終確認①	各自の研究成果の発表
27	論文最終確認②	各自の研究成果の発表
28	１年間のまとめ	１年間の課題研究の総括を行う。
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	堀川　峻		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本科目では、卒業論文の執筆を通して、問いの立て方や研究計画の検討、研究の実施、論文の執筆などを、履修者相互の議論を行いながら行っていく。

＜授業の到達目標＞
関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。レポート発表及びディスカッションができる。研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

＜授業の方法＞
研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を引き出すため議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニング有研究成果をグループラーニングを通して発表し、今後の進め方について議論する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習として、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べること（2時間）。また、調査・研究する課題の発表準備を行うこと（3時間）。事後学習としては、授業内容を改めて整理し、関心のある課題の発見を行うこと(1時間)

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
ポートフォリオおよび授業態度等 30%，中間発表 20%，論文 50%

＜教科書＞
特に指定しない。

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	研究課題の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。

16	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑬	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑱	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	濱嶋　幸司		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅡでは、学生が３年次にそれぞれ設定したテーマに沿って研究を進め、研究を深めることを目的とする（なお、テーマ設定を再考してもらってもかまわない）。

＜授業の到達目標＞
１．自らの研究テーマに関連する資料の検索・収集・分析を的確に行い、適切な研究手法を実証的なプロセスにおいて活用できる。
２．研究の各過程において、高度なリサーチ・リテラシー（課題発見力、データ分析力、論理的思考力等）を主体的に発揮できる。
３．２年間の研究成果を論理的な構成のゼミ論文（または制作物）としてまとめ、他者に対して分かりやすく発表・説明できる。

＜授業の方法＞
ゼミナールⅠにおいて明確化した各自の研究課題について、実際に調査・実験あるいは制作等を行い、論文あるいは制作物としてまとめていく。研究課題を変更する場合は、教員と相談しながら、ゼミナールⅠとの関連性を意識しながらおこなう。基本的に講義時間は学生による発表あるいはその準備とするが、進捗状況に応じて個別指導を行うこともある。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有　各回毎のテーマについて参加者同士で話し合い、意見をまとめグループごとに発表を行う　報告者の内容について、聞き手は質疑を行い、報告者は応答し、対話を通じて問いを深めていく

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習： 各自の研究テーマに即した文献購読や調査・実験の準備を継続的に行い、進捗報告やディスカッションのための発表資料を作成して授業に臨む（2時間程度）。事後学習： 授業での質疑応答や個別指導の内容を振り返り、指摘事項を研究計画や執筆中の論文・制作物に反映させ、次回の学修計画を策定する（2時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業への参加態度・意欲 30%、期末課題（ゼミ論文・制作物等） 70%

＜教科書＞
特に指定しない。

＜参考書＞
特に指定しない。

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ゼミの進め方・目的・内容	ゼミナールⅡ（応用）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究テーマについて	３年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究テーマについて 2	３年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を進める。
4	研究テーマについて 3	研究方法を定める。
5	研究計画書の作成	確認したテーマと研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成 2	研究計画書をチェックする。
7	課題研究の遂行とその報告	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告 2	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第2回目）
9	課題研究の遂行とその報告 3	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第3回目）
10	課題研究の遂行とその報告 4	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第4回目）
11	課題研究の遂行とその報告 5	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第5回目）
12	課題研究の遂行とその報告 6	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第6回目）
13	課題研究の遂行とその報告 7	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第7回目）

14	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
15	課題研究の遂行とその報告	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。
16	課題研究の遂行とその報告　2	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第2回目）
17	課題研究の遂行とその報告　3	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第3回目）
18	課題研究の遂行とその報告　4	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第4回目）
19	課題研究の遂行とその報告　5	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第5回目）
20	中間発表	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表 2	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。（第2回）
22	中間発表 3	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。（第3回）
23	研究課題の遂行とその報告	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告 2	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第2回目）
25	研究課題の遂行とその報告 3	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第3回目）
26	研究課題の遂行とその報告 4	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第4回目）
27	最終確認	仕上がりつつある研究成果の最終の点検を行う。
28	２年間のまとめ	ゼミナールⅠ、Ⅱにおける２年間の取り組みについてのまとめを行う。
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	前田　一誠		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅡでは、学生が３年次にそれぞれ設定したテーマに沿って研究を進め、研究を深めることを目的とする（なお、テーマ設定を再考してもらってもかまわない）。

＜授業の到達目標＞
１．自らの研究テーマに関連する資料の検索・収集・分析を的確に行い、適切な研究手法を実証的なプロセスにおいて活用できる。
２．研究の各過程において、高度なリサーチ・リテラシー（課題発見力、データ分析力、論理的思考力等）を主体的に発揮できる。
３．２年間の研究成果を論理的な構成のゼミ論文（または制作物）としてまとめ、他者に対して分かりやすく発表・説明できる。

＜授業の方法＞
ゼミナールⅠにおいて明確化した各自の研究課題について、実際に調査・実験あるいは制作等を行い、論文あるいは制作物としてまとめていく。研究課題を変更する場合は、教員と相談しながら、ゼミナールⅠとの関連性を意識しながらおこなう。基本的に講義時間は学生による発表あるいはその準備とするが、進捗状況に応じて個別指導を行うこともある。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有　各回毎のテーマについて参加者同士で話し合い、意見をまとめグループごとに発表を行う　報告者の内容について、聞き手は質疑を行い、報告者は応答し、対話を通じて問いを深めていく

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習： 各自の研究テーマに即した文献購読や調査・実験の準備を継続的に行い、進捗報告やディスカッションのための発表資料を作成して授業に臨む（2時間程度）。事後学習： 授業での質疑応答や個別指導の内容を振り返り、指摘事項を研究計画や執筆中の論文・制作物に反映させ、次回の学修計画を策定する（2時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業への参加態度・意欲 30%、期末課題（ゼミ論文・制作物等） 70%

＜教科書＞
特に指定しない。

＜参考書＞
特に指定しない。

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ゼミの進め方・目的・内容	ゼミナールⅡ（応用）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究テーマについて	３年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究テーマについて 2	３年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を進める。
4	研究テーマについて 3	研究方法を定める。
5	研究計画書の作成	確認したテーマと研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成 2	研究計画書をチェックする。
7	課題研究の遂行とその報告	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告 2	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第2回目）
9	課題研究の遂行とその報告 3	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第3回目）
10	課題研究の遂行とその報告 4	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第4回目）
11	課題研究の遂行とその報告 5	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第5回目）
12	課題研究の遂行とその報告 6	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第6回目）
13	課題研究の遂行とその報告 7	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第7回目）

14	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
15	課題研究の遂行とその報告	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。
16	課題研究の遂行とその報告　2	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第2回目）
17	課題研究の遂行とその報告　3	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第3回目）
18	課題研究の遂行とその報告　4	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第4回目）
19	課題研究の遂行とその報告　5	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第5回目）
20	中間発表	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表 2	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。（第2回）
22	中間発表 3	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。（第3回）
23	研究課題の遂行とその報告	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告 2	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第2回目）
25	研究課題の遂行とその報告 3	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第3回目）
26	研究課題の遂行とその報告 4	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第4回目）
27	最終確認	仕上がりつつある研究成果の最終の点検を行う。
28	２年間のまとめ	ゼミナールⅠ、Ⅱにおける２年間の取り組みについてのまとめを行う。
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	戸田　晃大		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本科目では､テーマに沿った研究あるいは論文の執筆を通して､研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする｡そのため､問いの立て方を指導の中心とし、履修者相互の議論によって理解を深める手立てとする。

＜授業の到達目標＞
関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。レポート発表及びディスカッションができる。研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

＜授業の方法＞
研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を引き出すため議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有：各自のテーマについて意見をまとめ、定期的に発表を行いグループディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：該科目の学習にあたり、各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析をする（1時間程度）。復習：次回授業に向けて、進捗状況の報告準備をする（1時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４(体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
ポートフォリオおよび授業態度等 30%、中間発表 20%、論文 50%卒業研究を履修しないものについては、ゼミ論文の提出を義務付ける。

＜教科書＞
特に指定しない。

＜参考書＞
特に指定しない。

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	研究課題の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	研究課題の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	研究課題の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	研究課題の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	研究課題の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	研究課題の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	研究課題の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
15	研究課題の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよ

		りよいものにする。
16	研究課題の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	研究課題の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	研究課題の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
20	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	研究課題の遂行とその報告⑫	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究論文最終確認①	各自の研究成果の発表
26	研究論文最終確認②	各自の研究成果の発表
27	研究論文最終確認③	各自の研究成果の発表
28	１年間のまとめ	１年間の研究課題の総括を行う。
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	眞鍋　芳江		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本科目では、卒業論文あるいはゼミ論文の執筆を通して、研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする。そのため、問いの立て方を指導の中心とし、履修者相互の議論によって理解を深める手立てとする。

＜授業の到達目標＞
関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。レポート発表及びディスカッションができる。研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

＜授業の方法＞
研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を引き出すため議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素　有3、4人のグループに分かれ、テーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。基礎的知識獲得に必要な自主学習（7時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
ポートフォリオおよび授業態度等 30%，中間発表 20%，論文 50%卒業研究を履修しないものについては、ゼミ論文の提出を義務付ける。

＜教科書＞
特に指定しない。

＜参考書＞
特に指定しない。

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	研究課題の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。

15	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
26	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
27	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
28	１年間のまとめ	１年間の課題研究の総括を行う。
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	伊藤　三千雄		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本科目では､テーマに沿った研究あるいは論文の執筆を通して､研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする｡そのため､問いの立て方を指導の中心とし、履修者相互の議論によって理解を深める手立てとする。

＜授業の到達目標＞
関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。レポート発表及びディスカッションができる。研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

＜授業の方法＞
研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を引き出すため議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有：各自のテーマについて意見をまとめ、定期的に発表を行いグループディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：該科目の学習にあたり、各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析をする（1時間程度）。復習：次回授業に向けて、進捗状況の報告準備をする（1時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４(体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
ポートフォリオおよび授業態度等 30%、中間発表 20%、論文 50%卒業研究を履修しないものについては、ゼミ論文の提出を義務付ける。

＜教科書＞
特に指定しない。

＜参考書＞
特に指定しない。

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	研究課題の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	研究課題の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	研究課題の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	研究課題の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	研究課題の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	研究課題の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	研究課題の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
15	研究課題の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよ

		りよいものにする。
16	研究課題の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	研究課題の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	研究課題の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
20	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	研究課題の遂行とその報告⑫	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究論文最終確認①	各自の研究成果の発表
26	研究論文最終確認②	各自の研究成果の発表
27	研究論文最終確認③	各自の研究成果の発表
28	１年間のまとめ	１年間の研究課題の総括を行う。
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	仙波　慎平		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

＜授業の到達目標＞

ゼミ論文を執筆する過程を通じて、学習を通して社会人に求められる知識、技能を身につけることを目標とする。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3.自らの現状を評価し課題を発見し､その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

＜授業の方法＞

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニング有グループワーク（3〜4人のグループに分かれ、テーマに対して成果物の作成・プレゼンを行う）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2〜3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。基礎的知識獲得に必要な自主学習（7時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度50%、発表・課題50%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	論文の読み方	研究論文の読み方を学ぶ。
3	論文の書き方	研究論文の書き方を学ぶ。
4	研究論文の調べ方	研究論文の調べ方を学ぶ。
5	先行研究の調査（1）	先行研究を調査する
6	先行研究の調査（2）	先行研究を調べる
7	先行研究の調査（3）	先行研究を調べる
8	論文構成の組み立て方	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
9	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
10	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
11	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
12	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
13	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
14	前期ゼミ論進捗発表会	課題研究用にスライドや資料を作成する。
15	前期ゼミ論進捗発表会	卒業論文に向けて取り組みたい内容を発表する。
16	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
17	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
18	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
19	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
20	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
21	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
22	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
23	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。

24	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
25	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
26	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
27	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
28	後期ゼミ内発表①	最終論文発表準備
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	國友　亮佑		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

＜授業の到達目標＞
ゼミ論文を執筆する過程を通じて、学習を通して社会人に求められる知識、技能を身につけることを目標とする。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3.自らの現状を評価し課題を発見し､その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

＜授業の方法＞
課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループワーク

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習：参考書や書籍、インターネットを通じてトレーニングならびにスポーツパフォーマンスに関する情報を学習・整理しておくこと。（所要時間：1時間程度）事後学習：グループワークを通じて共有した内容に関して、要点や課題点をまとめておくこと。（所要時間：1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
課題50%、プレゼン30%、受講態度20%、※ 卒業研究を履修しないものについては、ゼミ論文の提出を義務付ける。

＜教科書＞

＜参考書＞
NSCAジャパン　NSCA決定版ストレングストレーニング＆コンディショニング　第4版　Book House HD

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
3	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
4	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
5	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
6	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
7	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
8	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
9	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
10	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
11	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
12	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
13	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
14	前期ゼミ論進捗発表会	課題研究用にスライドや資料を作成する。
15	前期ゼミ論進捗発表会	卒業論文に向けて取り組みたい内容を発表する。
16	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
17	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
18	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
19	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
20	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
21	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。

22	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
23	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
24	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
25	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
26	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
27	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
28	まとめ	ゼミナール2と総括と最終論文発表
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	梶谷　亮輔		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

本ゼミナールでは、ゼミ論文の作成を通して、体育・スポーツ科学に関する専門的知識の深化と、研究遂行に必要な知識・技能の習得を目指す。学生は、自身の関心や課題に基づいて研究テーマを設定し、文献検討、データ収集・分析、考察、論文執筆までの一連の研究プロセスを実践する。また、これらの活動を通して、課題発見・課題解決能力、論理的思考力、表現力など、社会人として求められる汎用的能力の育成を図る。

＜授業の到達目標＞

1. 自身の適性や関心を踏まえ、主体的に学び続ける態度を身につけることができる。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、専門分野における基礎的知識および研究方法を理解し、適切に活用することができる。3. 自らの現状を分析して課題を設定し、その解決に向けて調査・分析を行い、論理的に考察した内容を論文としてまとめることができる。

＜授業の方法＞

本ゼミナールは、ゼミ論文の作成を中心とした演習形式で実施する。学生は各自の研究テーマに基づき、文献検討、研究計画の立案、データ収集・分析、考察、論文執筆までの一連の研究プロセスを段階的に進める。各段階において中間発表および最終発表を実施し、教員からの指導に加え、学生同士の意見交換を通して研究内容の深化を図る。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有り本ゼミナールでは、アクティブ・ラーニングの要素を取り入れた授業を実施する。具体的には、研究テーマの設定から論文作成に至るまでのプロセスにおいて、学生が主体的に課題を設定し、解決に取り組む課題解決型学習（PBL）を行う。また、中間発表および最終発表において、学生同士による質疑応答や相互評価（ピア・フィードバック）を行い、多角的な視点から研究内容を検討する。これにより、主体的・対話的で深い学びを促進する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

本ゼミナールでは、各回あたり予習・復習として合計180分以上の学習を行うことを想定する。予習としては、自身の研究テーマに関する文献の収集・精読、研究計画の検討、データ収集・分析の準備、発表資料の作成等を行うこと（約90～120分）。復習としては、授業内での指導やディスカッションを踏まえ、研究内容の見直しや修正を行うとともに、追加の文献調査やデータ分析を進め、論文の執筆を継続すること（約60～90分）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績評価は以下の割合で総合的に評価する。・受講態度：50％・発表・課題（ゼミ論文または卒業論文）：50％受講態度については、授業への主体的な参加状況、研究活動への取り組み、ディスカッションや発表への関与等を総合的に評価する。発表・課題については、プレゼンテーションおよびゼミ論文（卒業論文）を対象とし、文字数や構成の適切性、論理性、分析の妥当性、発表方法、発表時間の遵守等の観点から評価する。フィードバックについては、発表に対しては授業内での講評や質疑応答を通して行い、論文についてはコメント等により改善点を具

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
3	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
4	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
5	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
6	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
7	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
8	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
9	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
10	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
11	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
12	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
13	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。

14	前期ゼミ論進捗発表会	課題研究用にスライドや資料を作成する。
15	前期ゼミ論進捗発表会	卒業論文に向けて取り組みたい内容を発表する。
16	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
17	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
18	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
19	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
20	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
21	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
22	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
23	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
24	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
25	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
26	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
27	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
28	後期ゼミ内発表	最終論文発表準備
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	畑島　紀昭		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
柔道整復師として必要な基礎知識の修得状況を踏まえて確認し，各自の研究課題に取り組む．卒業研究へ結びつく研究課題を，学生が自主的に絞り込み，興味と関心をもって学問的に取り組むことが出来るような条件整備を行い，学生の研究を支援する。また、健康科学科の教育方針及びカリキュラムを理解し、医療従事者として相応しい人物になれるよう、また自立した一社会人となれるよう演習形式で実施する。

＜授業の到達目標＞
課題に対し研究計画を立てることができる。課題に対し客観的手法を用いて検討することができる。客観的手法を用いた内容をまとめ、論文作成することができる。

＜授業の方法＞
グループワーク（専門とする領域内での興味関心をもつ内容に対する討論、調査、研究計画立案、測定実施）省察活動（課題に対するまとめ、論文作成）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
必要に応じてグループワークを実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：翌週の指導内容のキーワードの下調べ（毎回、１時間程度）復習：振り返りレポート（毎回、１時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
課題 30%、研究実践レポート 40%、学習意欲 30%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	情報整理1	ゼミナールⅠのまとめ
3	情報整理2	ゼミナールⅠのまとめ
4	疑問・問題点の抽出及び整理1	疑問・問題点の抽出及び整理
5	疑問・問題点の抽出及び整理2	疑問・問題点の抽出及び整理
6	疑問・問題点の抽出及び整理3	疑問・問題点の抽出及び整理
7	疑問・問題点の抽出及び整理4	疑問・問題点の抽出及び整理
8	疑問・問題点の抽出及び整理5	疑問・問題点の抽出及び整理
9	関連文献収集1	文献収集
10	関連文献収集2	文献収集
11	関連文献収集3	文献収集
12	関連文献収集4	文献収集
13	関連文献収集5	文献収集
14	まとめ	まとめ
15	まとめ	まとめ
16	課題確認を発展1	課題確認を発展
17	課題確認を発展2	課題確認を発展
18	課題確認を発展3	課題確認を発展
19	課題確認を発展4	課題確認を発展
20	課題確認を発展5	課題確認を発展
21	課題確認を発展6	課題確認を発展
22	課題確認を発展7	課題確認を発展
23	課題確認を発展8	課題確認を発展
24	課題確認を発展9	課題確認を発展
25	課題確認を発展10	課題確認を発展

26	課題確認を発展11	課題確認を発展
27	課題確認を発展12	課題確認を発展
28	プレゼンテーション	プレゼンテーション
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	坂本　賢広			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
柔道整復師として必要な基礎知識の修得状況を踏まえて確認し，各自の研究課題に取り組む．卒業研究へ結びつく研究課題を，学生が自主的に絞り込み，興味と関心をもって学問的に取り組むことが出来るような条件整備を行い，学生の研究を支援する。また、健康科学科の教育方針及びカリキュラムを理解し、医療従事者として相応しい人物になれるよう、また自立した一社会人となれるよう演習形式で実施する。

＜授業の到達目標＞
課題に対し研究計画を立てることができる。課題に対し客観的手法を用いて検討することができる。客観的手法を用いた内容をまとめ、論文作成することができる。

＜授業の方法＞
ゼミナールⅡ（応用）は、グループワーク（専門とする領域内での興味関心をもつ内容に対する討論、調査、研究計画立案、測定実施）省察活動（課題に対するまとめ、論文作成）を行い能動的な課題解決を図る。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：翌週の指導内容のキーワードの下調べ（毎回、60分程度）復習：振り返りレポート（毎回、60分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
課題 30%　研究実践レポート 40%　学習意欲 30%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	情報整理1	ゼミナールⅠのまとめ
3	情報整理2	ゼミナールⅠのまとめ
4	疑問・問題点の抽出及び整理1	疑問・問題点の抽出及び整理
5	疑問・問題点の抽出及び整理2	疑問・問題点の抽出及び整理
6	疑問・問題点の抽出及び整理3	疑問・問題点の抽出及び整理
7	疑問・問題点の抽出及び整理4	疑問・問題点の抽出及び整理
8	疑問・問題点の抽出及び整理5	疑問・問題点の抽出及び整理
9	関連文献収集1	文献収集
10	関連文献収集2	文献収集
11	関連文献収集3	文献収集
12	関連文献収集4	文献収集
13	関連文献収集5	文献収集
14	まとめ	まとめ
15	まとめ	まとめ
16	課題確認を発展1	課題確認を発展
17	課題確認を発展2	課題確認を発展
18	課題確認を発展3	課題確認を発展
19	課題確認を発展4	課題確認を発展
20	課題確認を発展5	課題確認を発展
21	課題確認を発展6	課題確認を発展
22	課題確認を発展7	課題確認を発展
23	課題確認を発展8	課題確認を発展
24	課題確認を発展9	課題確認を発展
25	課題確認を発展10	課題確認を発展

26	課題確認を発展11	課題確認を発展
27	まとめ	まとめプレゼンテーション発表論文修正
28	まとめ	プレゼンテーション発表論文修正まとめ
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	平林　大輔		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
柔道整復師として必要な基礎知識の修得状況を踏まえて確認し，各自の研究課題に取り組む．卒業研究へ結びつく研究課題を，学生が自主的に絞り込み，興味と関心をもって学問的に取り組むことが出来るような条件整備を行い，学生の研究を支援する。また、健康科学科の教育方針及びカリキュラムを理解し、医療従事者として相応しい人物になれるよう、また自立した一社会人となれるよう演習形式で実施する。

＜授業の到達目標＞
課題に対し研究計画を立てることができる。課題に対し客観的手法を用いて検討することができる。客観的手法を用いた内容をまとめ、論文作成することができる。

＜授業の方法＞
グループワーク（専門とする領域内での興味関心をもつ内容に対する討論、調査、研究計画立案、測定実施）省察活動（課題に対するまとめ、論文作成）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
必要に応じてグループワークを実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：翌週の指導内容のキーワードの下調べ（毎回、１時間程度）復習：振り返りレポート（毎回、１時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
課題 30%、研究実践レポート 40%、学習意欲 30%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	情報整理1	ゼミナールⅠのまとめ
3	情報整理2	ゼミナールⅠのまとめ
4	疑問・問題点の抽出及び整理1	疑問・問題点の抽出及び整理
5	疑問・問題点の抽出及び整理2	疑問・問題点の抽出及び整理
6	疑問・問題点の抽出及び整理3	疑問・問題点の抽出及び整理
7	疑問・問題点の抽出及び整理4	疑問・問題点の抽出及び整理
8	疑問・問題点の抽出及び整理5	疑問・問題点の抽出及び整理
9	関連文献収集1	文献収集
10	関連文献収集2	文献収集
11	関連文献収集3	文献収集
12	関連文献収集4	文献収集
13	関連文献収集5	文献収集
14	まとめ	まとめ
15	まとめ	まとめ
16	課題確認を発展1	課題確認を発展
17	課題確認を発展2	課題確認を発展
18	課題確認を発展3	課題確認を発展
19	課題確認を発展4	課題確認を発展
20	課題確認を発展5	課題確認を発展
21	課題確認を発展6	課題確認を発展
22	課題確認を発展7	課題確認を発展
23	課題確認を発展8	課題確認を発展
24	課題確認を発展9	課題確認を発展
25	課題確認を発展10	課題確認を発展

26	課題確認を発展11	課題確認を発展
27	課題確認を発展12	課題確認を発展
28	プレゼンテーション1まとめ	プレゼンテーションまとめ
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	福井　悠紀子		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
柔道整復師として必要な基礎知識の修得状況を踏まえて確認し，各自の研究課題に取り組む．卒業研究へ結びつく研究課題を，学生が自主的に絞り込み，興味と関心をもって学問的に取り組むことが出来るような条件整備を行い，学生の研究を支援する。また、健康科学科の教育方針及びカリキュラムを理解し、医療従事者として相応しい人物になれるよう、また自立した一社会人となれるよう演習形式で実施する。

＜授業の到達目標＞
課題に対し研究計画を立てることができる。課題に対し客観的手法を用いて検討することができる。客観的手法を用いた内容をまとめ、論文作成することができる。

＜授業の方法＞
グループワーク（専門とする領域内での興味関心をもつ内容に対する討論、調査、研究計画立案、測定実施）省察活動（課題に対するまとめ、論文作成）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
必要に応じてグループワークを実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：翌週の指導内容のキーワードの下調べ（毎回、１時間程度）復習：振り返りレポート（毎回、１時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
課題 30%、研究実践レポート 40%、学習意欲 30%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	情報整理1	ゼミナールⅠのまとめ
3	情報整理2	ゼミナールⅠのまとめ
4	疑問・問題点の抽出及び整理1	疑問・問題点の抽出及び整理
5	疑問・問題点の抽出及び整理2	疑問・問題点の抽出及び整理
6	疑問・問題点の抽出及び整理3	疑問・問題点の抽出及び整理
7	疑問・問題点の抽出及び整理4	疑問・問題点の抽出及び整理
8	疑問・問題点の抽出及び整理5	疑問・問題点の抽出及び整理
9	関連文献収集1	文献収集
10	関連文献収集2	文献収集
11	関連文献収集3	文献収集
12	関連文献収集4	文献収集
13	関連文献収集5	文献収集
14	まとめ	まとめ
15	まとめ	まとめ
16	課題確認を発展1	課題確認を発展
17	課題確認を発展2	課題確認を発展
18	課題確認を発展3	課題確認を発展
19	課題確認を発展4	課題確認を発展
20	課題確認を発展5	課題確認を発展
21	課題確認を発展6	課題確認を発展
22	課題確認を発展7	課題確認を発展
23	課題確認を発展8	課題確認を発展
24	課題確認を発展9	課題確認を発展
25	課題確認を発展10	課題確認を発展

26	課題確認を発展11	課題確認を発展
27	課題確認を発展12	課題確認を発展
28	プレゼンテーション	プレゼンテーション
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	田中　耕作		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本ゼミナールは卒業研究へ結びつくテーマについて、体育学の知識を総合的に活用し、課題設定、解決、説明する能力を身につけることが出来るよう学生を支援する。

＜授業の到達目標＞
本ゼミナールではそれぞれの実験に関する専門的知識、測定技術、およびデータの評価法について理解できるようにする。実験結果を整理し、スポーツサイエンスの知見に基づいて、客観的、正確、かつ適切にデータを評価できるようにする。

＜授業の方法＞
原則として、講義・演習・実技等の形態をとる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素：あり自身が測定したの体力データについてグループでディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習として、各回のテーマに関連する文献や資料を読み、要点整理を行う（1～2時間程度）。事後学習として、授業内での議論内容を整理し、レポート作成やプレゼンテーションの準備・修正を行う（2～3時間程度）。加えて、他者の発表内容を踏まえ、自身の研究テーマの改善点を明確にする。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度・意欲 50%、課題・レポート 30%、プレゼンテーション能力 20%

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	体力学とは	受講上の注意、評価方法、講義の概要を説明した上で、これから研究を進める体力学について講義する。
2	文献研究（1）	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
3	文献研究（2）	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
4	文献研究（3）	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
5	文献研究（4）	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
6	文献研究（5）	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
7	文献研究（6）	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
8	文献研究（7）	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
9	文献研究（8）	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
10	文献研究（9）	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
11	文献研究（10）	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
12	文献研究（11）	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。

13	測定・分析実習（1）	最大酸素摂取量の測定方法を学ぶ。
14	測定・分析実習（2）	無酸素性作業閾値の測定方法を学ぶ。
15	測定・分析実習（3）	乳酸の測定・分析方法を学ぶ。
16	測定・分析実習（4）	等速性筋力測定器Cybexを用いた様々な筋力測定の方法を学ぶ。
17	測定・分析実習（5）	等速性筋力測定器Cybexを用いた様々な筋力測定の方法を学ぶ。
18	測定・分析実習（6）	各種ジャンプ能力の測定・分析方法を学ぶ。
19	測定・分析実習（7）	動作分析の方法を学ぶ。
20	課題研究の進捗状況報告（1）	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
21	課題研究の進捗状況報告（2）	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
22	課題研究の進捗状況報告（3）	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
23	課題研究の進捗状況報告（4）	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
24	課題研究の進捗状況報告（5）	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
25	課題研究の進捗状況報告（6）	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
26	課題研究の進捗状況報告（7）	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
27	課題研究の進捗状況報告（8）	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
28	課題研究のまとめ（1）	パワーポイントを用いて、課題研究を報告する。
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	吉岡　利貢		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本ゼミナールは卒業研究へ結びつく研究課題を、学生が自主的に絞り込み、興味と関心をもって学問的に取り組むことが出来るような 条件整備を行い、学生の研究を支援する。

＜授業の到達目標＞
本ゼミナールは4年次段階で実施することから、英語論文を読み、理解できること、その内容をプレゼンテーションできること、および、その問題点を明らかにしたり、その内容からの発展系としての研究をイメージできることを目標とする。

＜授業の方法＞
原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有（プレゼンテーション・ディスカッション）先行研究をまとめてプレゼンテーションを行い、その内容についてディスカッションする

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
テーマに即したレポート作成、プレゼンテーションの準備等

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度・意欲 50%、課題・レポート 30%、プレゼンテーション能力 20%

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	体力学とは	受講上の注意、評価方法、講義の概要を説明した上で、これから研究を進める体力学について講義する。
2	文献研究（1）	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
3	文献研究（2）	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
4	文献研究（3）	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
5	文献研究（4）	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
6	文献研究（5）	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
7	文献研究（6）	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
8	文献研究（7）	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
9	文献研究（8）	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
10	文献研究（9）	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
11	文献研究（10）	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
12	文献研究（11）	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
13	測定・分析実習（1）	最大酸素摂取量の測定方法を学ぶ。

14	測定・分析実習（2）	無酸素性作業閾値の測定方法を学ぶ。
15	測定・分析実習（3）	乳酸の測定・分析方法を学ぶ。
16	測定・分析実習（4）	等速性筋力測定器Cybexを用いた様々な筋力測定の方法を学ぶ。
17	測定・分析実習（5）	等速性筋力測定器Cybexを用いた様々な筋力測定の方法を学ぶ。
18	測定・分析実習（6）	各種ジャンプ能力の測定・分析方法を学ぶ。
19	測定・分析実習（7）	動作分析の方法を学ぶ。
20	課題研究の進捗状況報告（1）	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
21	課題研究の進捗状況報告（2）	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
22	課題研究の進捗状況報告（3）	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
23	課題研究の進捗状況報告（4）	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
24	課題研究の進捗状況報告（5）	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
25	課題研究の進捗状況報告（6）	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
26	課題研究の進捗状況報告（7）	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
27	課題研究の進捗状況報告（8）	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
28	課題研究のまとめ（1）	パワーポイントを用いて、課題研究を報告する。
29	課題研究のまとめ（2）	パワーポイントを用いて、課題研究を報告する。
30	課題研究のまとめ（3）	パワーポイントを用いて、課題研究を報告する。

科目コード	55008				区　分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	小澤　尚子			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	講義、演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅡ（応用）では、『ゼミナールⅠ（基礎）』で深めてきた探究成果（社会人に求められる基礎的知識）を活用して、研究をより高度なレベルに深め、研究目的・研究方法・研究報告・考察・成果と課題を実践研究論文としてまとめる。さらに、教育学の視点から､各学生のキャリアを見据えた専門的知識をさらに深め､より高度な問題意識の醸成と実践的な課題解決力の錬磨を目指す。

＜授業の到達目標＞
『ゼミナールⅠ（基礎）』での学びを基盤として、教育現場における実践を見据えた資質・能力の向上を図る。特に、「考え、議論する道徳」の理念に基づいた授業設計・授業分析の力を養うとともに、道徳教育の全体計画や年間指導計画の立案ができる力量の形成を目指す。

＜授業の方法＞
本授業では、ゼミ生の個人テーマに基づく探究活動を軸に、レポート作成とディスカッションを往還しながら研究を深化させる。前期はディベートを中心とした探究サイクルにより教育的諸課題への理解を深め、後期は各自の問いを設定して先行研究の分析を踏まえた研究成果の作成と発表を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングあり・ディベート・ディスカッション・ブレイン・ストーミング・学習指導案制作・模擬授業と質的データの収集　他

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進める。文献検索を行い（情報探索）、その結果を事前にレポートにまとめたり（論点整理）、制作に取り組んだりする。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度求める。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付ける。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・授業態度等（関心・意欲・態度、課題意識と課題解決に向けた探究意識）：30%・研究成果（論文・学習指導案）・レポート・課題の内容、到達度評価（知識・理解）：70%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅡ（応用）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する
2	研究指導Ⅰ－課題の探究活動①	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める
3	研究指導Ⅰ－課題の探究活動②	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める
4	研究指導Ⅰ－課題の探究活動③	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める
5	研究指導Ⅰ－課題の探究活動④	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める
6	研究指導Ⅰ－課題の探究活動⑤	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める
7	研究指導Ⅰ－課題の探究活動⑥	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める
8	研究指導Ⅰ－課題の探究活動⑦	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める
9	研究指導Ⅰ－課題の探究活動⑧	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める
10	研究指導Ⅰ－課題の探究活動⑨	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める
11	研究指導Ⅰ－課題の探究活動⑩	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める
12	研究指導Ⅰ－課題の探究活動⑪	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める
13	研究指導Ⅱ－課題の探究の成果発表（中間報告ないし学習指導案に基づく模擬授業）①	各自が探究している個人研究について、探究成果の発表（中間報告、30分/人程度、うち10分は仲間から相互評価を受ける）をする
14	研究指導Ⅱ－課題の探究の成果発表（中間報告ないし学習指導案に基づく模擬授業）②	各自が探究している個人研究について、探究成果の発表（中間報告、30分/人程度、うち10分は仲間から相互評価を受ける）をする
15	研究指導Ⅱ－課題の探究の成果発表（中間	各自が探究している個人研究について、探究成果の発表（中間報告、30分/人程度、

	報告ないし学習指導案に基づく模擬授業）③	うち10分は仲間から相互評価を受ける）をする
16	研究指導Ⅲ－新たな問い（課題）に関する探究①	各自が探究している個人研究について、前期の中間発表時に発見した新たな問い（課題）について情報探索、及び、論点整理を深める
17	研究指導Ⅲ－新たな問い（課題）に関する探究②	各自が探究している個人研究について、前期の中間発表時に発見した新たな問い（課題）について情報探索、及び、論点整理を深める
18	研究指導Ⅲ－新たな問い（課題）に関する探究③	各自が探究している個人研究について、前期の中間発表時に発見した新たな問い（課題）について情報探索、及び、論点整理を深める
19	研究指導Ⅲ－新たな問い（課題）に関する探究④	各自が探究している個人研究について、前期の中間発表時に発見した新たな問い（課題）について情報探索、及び、論点整理を深める
20	研究指導Ⅲ－新たな問い（課題）に関する探究⑤	各自が探究している個人研究について、前期の中間発表時に発見した新たな問い（課題）について情報探索、及び、論点整理を深める
21	研究指導Ⅳ－実践研究論文の書き方講座	実践研究論文の書き方を学ぶ・論文の構造づくり・文章の書き方・接続詞の使い方・引用の方法
22	研究指導Ⅴ－探究した研究成果の論文化①	実践研究論文の書き方講座の知見を活用し、これまで集めてきた情報（論点整理などの資料）を根拠に論文をまとめていく（注：最終報告までの途中に必ず、指導教員の個別指導（査読）を受けること）
23	研究指導Ⅴ－探究した研究成果の論文化②	実践研究論文の書き方講座の知見を活用し、これまで集めてきた情報（論点整理などの資料）を根拠に論文をまとめていく（注：最終報告までの途中に必ず、指導教員の個別指導（査読）を受けること）
24	研究指導Ⅴ－探究した研究成果の論文化③	実践研究論文の書き方講座の知見を活用し、これまで集めてきた情報（論点整理などの資料）を根拠に論文をまとめていく（注：最終報告までの途中に必ず、指導教員の個別指導（査読）を受けること）
25	研究指導Ⅴ－探究した研究成果の論文化④	実践研究論文の書き方講座の知見を活用し、これまで集めてきた情報（論点整理などの資料）を根拠に論文をまとめていく（注：最終報告までの途中に必ず、指導教員の個別指導（査読）を受けること）
26	研究指導Ⅴ－探究した研究成果の論文化⑤	実践研究論文の書き方講座の知見を活用し、これまで集めてきた情報（論点整理などの資料）を根拠に論文をまとめていく（注：最終報告までの途中に必ず、指導教員の個別指導（査読）を受けること）
27	研究指導Ⅵ－探究した研究成果の発表（最終報告）①	各人が探究してきた課題について、新たな問いも解明しつつ、論文化した成果と課題を含めて最終報告する（注：持ち時間は30分/人、うち10分は仲間からの相互評価を受ける）
28	研究指導Ⅵ－探究した研究成果の発表（最終報告）②	各人が探究してきた課題について、新たな問いも解明しつつ、論文化した成果と課題を含めて最終報告する（注：持ち時間は30分/人、うち10分は仲間からの相互評価を受ける）
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	木野　正一郎			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	講義、演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅡ（応用）では、3年生の『ゼミナールⅠ（基礎）』で深めてきた探究成果（社会人に求められる基礎的知識）を活用して、研究をより高度なレベルに深め、研究目的・研究方法・研究報告・考察・成果と課題を実践研究論文としてまとめる。さらに、教育学の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識をさらに深め、より高度な問題意識の醸成と実践的な課題解決力の錬磨を目指す。

＜授業の到達目標＞
3年生の『ゼミナールⅠ（基礎）』を発展的に継続して、教育職員に採用された後の皆さんの姿をイメージし、特にこのゼミナール出身者の中から各学校に設置されるミドルリーダー（「道徳教育推進教諭」）になれるような資質・能力を形成することを目標としたい。「考え、議論する道徳」のアクティブ・ラーニングについて授業設計や授業分析ができるようにテーマ探究をするのはもちろん、やがては道徳教育の全体計画や年間指導計画、シラバスの作成等もできるように成長してもらいたい。

＜授業の方法＞
ゼミ生が興味・関心を持ったテーマ（3年生：『ゼミナールⅠ（基礎）』の個人テーマ）について、レポート（課題）作成、および、ディスカッションをする。そして、その成果を蓄積することによって、研究成果(実践研究論文)へと集約させる。＜参考：3年生：『ゼミナールⅠ（基礎）』の内容＞・前期は、道徳的な観点から見た現代社会における教育的諸課題について、賛否両論を踏まえたディベートを行う。講義では2回を1セットにし、①情報収集（知識・技能の習得、ブレイン・ストーミング）→②ディベート（思考力・判断力・表現力等、討議）→③

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングあり・ディベート・ソクラテス的対話によるディスカッション・ブレイン・ストーミング(マトリックス法、SWOT分析、イメージマッピング等）・学習指導案制作・模擬授業と質的データの収集　　他

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進める。文献検索を行い（情報探索）、その結果を事前にレポートにまとめたり（論点整理）、制作に取り組んだりする。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度求める。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・授業態度等（関心・意欲・態度、課題意識と課題解決に向けた探究意識）：30%・研究成果（論文・学習指導案）・レポート・課題の内容、到達度評価（知識・理解）：70%

＜教科書＞
柳沼良太（2018年9月20日）　『「現代的な課題」に取り組む道徳授業』　株式会社　図書文化社
柳沼良太編（2019年3月30日）　『プラグマティズム、公共、道徳』　株式会社　あいり出版
柳沼良太著（2016年2月）　『問題解決的な学習で創る　道徳授業　超入門』　明治図書出版株式会社

＜参考書＞
田沼茂紀（2022年4月10日）　『道徳教育学の構想とその展開』　株式会社　北樹出版
木野正一郎著（2025年3月31日）　『教材学研究第36巻』「問題解決的で探究的なワークショップ型道徳授業とその再検証」（注：講義にて配布します）　日本教材学会研究紀要委員会
木野正一郎著（2016年3月31日）　『早稲田大学大学院教職研究科紀要第8号』「『道徳科』における問題解決ワークショップを用いた小単元構成の授業開発－『核心的価値（コア・バリュー）』に基づく補充・深化・統合の取り組みを通して－」（注：講義にて配布します）　早稲田大学教職大学院紀要刊行委員会

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅡ（応用）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究指導Ⅰ－課題の探究活動①	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
3	研究指導Ⅰ－課題の探究活動②	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
4	研究指導Ⅰ－課題の探究活動③	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
5	研究指導Ⅰ－課題の探究活動④	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
6	研究指導Ⅰ－課題の探究活動⑤	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。

7	研究指導Ⅰ－課題の探究活動⑥	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
8	研究指導Ⅰ－課題の探究活動⑦	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
9	研究指導Ⅰ－課題の探究活動⑧	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
10	研究指導Ⅰ－課題の探究活動⑨	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
11	研究指導Ⅰ－課題の探究活動⑩	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
12	研究指導Ⅰ－課題の探究活動⑪	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
13	研究指導Ⅱ－課題の探究の成果発表（中間報告ないし学習指導案に基づく模擬授業）①	各自が探究している個人研究について、探究成果の発表（中間報告、30分/人程度、うち10分は仲間から相互評価を受ける）をする。
14	研究指導Ⅱ－課題の探究の成果発表（中間報告ないし学習指導案に基づく模擬授業）②	各自が探究している個人研究について、探究成果の発表（中間報告、30分/人程度、うち10分は仲間から相互評価を受ける）をする。
15	研究指導Ⅱ－課題の探究の成果発表（中間報告ないし学習指導案に基づく模擬授業）③	各自が探究している個人研究について、探究成果の発表（中間報告、30分/人程度、うち10分は仲間から相互評価を受ける）をする。
16	研究指導Ⅲ－新たな問い（課題）に関する探究①	各自が探究している個人研究について、前期の中間発表時に発見した新たな問い（課題）について情報探索、及び、論点整理を深める。
17	研究指導Ⅲ－新たな問い（課題）に関する探究②	各自が探究している個人研究について、前期の中間発表時に発見した新たな問い（課題）について情報探索、及び、論点整理を深める。
18	研究指導Ⅲ－新たな問い（課題）に関する探究③	各自が探究している個人研究について、前期の中間発表時に発見した新たな問い（課題）について情報探索、及び、論点整理を深める。
19	研究指導Ⅲ－新たな問い（課題）に関する探究④	各自が探究している個人研究について、前期の中間発表時に発見した新たな問い（課題）について情報探索、及び、論点整理を深める。
20	研究指導Ⅲ－新たな問い（課題）に関する探究⑤	各自が探究している個人研究について、前期の中間発表時に発見した新たな問い（課題）について情報探索、及び、論点整理を深める。
21	研究指導Ⅳ－実践研究論文の書き方講座	実践研究論文の書き方を学ぶ。・論文の構造づくり（章立てなどの「型」を教えます。）・文章の書き方（英語の五文型を意識した書き方。英語が苦手でも大丈夫です。文章の構造を教えます。）・接続詞の使い方（長文にならないように、上手に接続詞を使う方法を教えます。）・引用の方法（出典の明記と文中への投影方法を教えます。）
22	研究指導Ⅴ－探究した研究成果の論文化①	実践研究論文の書き方講座の知見を活用し、これまで集めてきた情報（論点整理などの資料）を根拠に論文をまとめていく（注：最終報告までの途中に必ず、指導教員の個別指導（査読）を受けること）。
23	研究指導Ⅴ－探究した研究成果の論文化②	実践研究論文の書き方講座の知見を活用し、これまで集めてきた情報（論点整理などの資料）を根拠に論文をまとめていく（注：最終報告までの途中に必ず、指導教員の個別指導（査読）を受けること）。
24	研究指導Ⅴ－探究した研究成果の論文化③	実践研究論文の書き方講座の知見を活用し、これまで集めてきた情報（論点整理などの資料）を根拠に論文をまとめていく（注：最終報告までの途中に必ず、指導教員の個別指導（査読）を受けること）。
25	研究指導Ⅴ－探究した研究成果の論文化④	実践研究論文の書き方講座の知見を活用し、これまで集めてきた情報（論点整理などの資料）を根拠に論文をまとめていく（注：最終報告までの途中に必ず、指導教員の個別指導（査読）を受けること）。
26	研究指導Ⅴ－探究した研究成果の論文化⑤	実践研究論文の書き方講座の知見を活用し、これまで集めてきた情報（論点整理などの資料）を根拠に論文をまとめていく（注：最終報告までの途中に必ず、指導教員の個別指導（査読）を受けること）。
27	研究指導Ⅵ－探究した研究成果の発表（最終報告）①	各人が探究してきた課題について、新たな問いも解明しつつ、論文化した成果と課題を含めて最終報告する（注：持ち時間は30分/人、うち10分は仲間からの相互評価を受ける）。
28	研究指導Ⅵ－探究した研究成果の発表（最終報告）②	各人が探究してきた課題について、新たな問いも解明しつつ、論文化した成果と課題を含めて最終報告する（注：持ち時間は30分/人、うち10分は仲間からの相互評価を受ける）。
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	藤谷　かおる		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業では、卒業論文の執筆を通して、問いの立て方や研究計画の検討、研究の実施、論文の執筆などを、履修者相互の議論を行いながらすすめる。

＜授業の到達目標＞
関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。・レジュメ発表およびディスカッションができる。・研究レポート・論文作成の基本を身につける。・作成したレポート、卒業論文をプレゼンテーションすることができる。

＜授業の方法＞
研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を導き出すよう、議論を多用する。その後の授業では、履修者の進歩状況を確認しながら、進める。最終的には卒業論文をまとめ、発表会で報告できるようにする。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニング有研究成果の発表を共有し、今後の進め方についても議論する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習として、体育・スポーツの課題・問題にについては、先行研究を通して調べること（2時間）。また、調査・研究する課題の発表準備を行うこと（3時間）。事後学習として、学習内容、指摘事項を整理し、課題の発見を行うこと（1時間）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通じて課題の解決に参画することができる）及びディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と向き合い、感情を整理し、目標達成ができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
中間発表50%、論文50%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的、内容、方法、評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について(1)	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について(2)	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について(3)	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画の作成(1)	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画の作成(2)	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	研究計画の作成(3)	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
8	課題研究の遂行とその報告(1)	各自で自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により、研究を深める。
9	課題研究の遂行とその報告(2)	各自で自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により、研究を深める。
10	課題研究の遂行とその報告(3)	各自で自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により、研究を深める。
11	課題研究の遂行とその報告(4)	各自で自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により、研究を深める。
12	課題研究の遂行とその報告(5)	各自で自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により、研究を深める。
13	課題研究の遂行とその報告(6)	各自で自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により、研究を深める。
14	課題研究の遂行とその報告(7)	各自で自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により、研究を深める。
15	課題研究の遂行とその報告(8)	各自で自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により、研究を深める。
16	課題研究の遂行とその報告(9)	各自で自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により、研究を深める。
17	課題研究の遂行とその報告(10)	各自で自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により、研究

		を深める。
18	課題研究の遂行とその報告(11)	各自で自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により、研究を深める。
19	課題研究の遂行とその報告(12)	各自で自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により、研究を深める。
20	課題研究の遂行とその報告(13)	各自で自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により、研究を深める。
21	中間発表(1)	各自、研究の中間発表を行い、お互いに情報共有し、検討を重ねながら、課題を発見する。
22	中間発表(2)	各自、研究の中間発表を行い、お互いに情報共有し、検討を重ねながら、課題を発見する。
23	課題研究の遂行とその報告(14)	各自で自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により、研究を深める。
24	課題研究の遂行とその報告(15)	各自で自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により、研究を深める。
25	課題研究の遂行とその報告(16)	各自で自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により、研究を深める。
26	課題研究の遂行とその報告(17)	各自で自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により、研究を深める。
27	卒業論文最終確認(1)	各自研究成果の発表、他者との質疑応答
28	卒業論文最終確認(2)	各自研究成果の発表、他者との質疑応答
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	木戸　和彦		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅡでは、学生が３年次にそれぞれ設定したテーマに沿って研究を進め、研究を深めることを目的とする。

＜授業の到達目標＞
・関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。・リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を養う。・研究を論文および制作物としてまとめ、その発表ができること。

＜授業の方法＞
ゼミナールⅠにおいて明確化した各自の研究課題について、実際に調査・実験あるいは制作等を行い、論文あるいは制作物としてまとめていく。基本的に講義時間は学生による発表あるいはその準備とするが、進捗状況 に応じて個別指導を行うこともある。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素有調査の課題、フィールドワーク、グループデスカッション等

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
それぞれ３年次に設定したテーマに沿って研究を進め、その進ちょく状況の報告を授業の中で発表・討論する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求める。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度等（関心・意欲・態度） 30%、ゼミ論文の内容と到達度（知識・理解） 70%

＜教科書＞
特に指定しない。

＜参考書＞
特に指定しない。

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅡ（応用）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究テーマについて 1	３年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究テーマについて 2	３年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を進める。
4	研究テーマについて 3	研究方法を定める。
5	研究計画書の作成 1	確認したテーマと研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成 2	研究計画書をチェックする。
7	課題研究の遂行とその報告 1	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告 2	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第2回目）
9	課題研究の遂行とその報告 3	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第3回目）
10	課題研究の遂行とその報告 4	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第4回目）
11	課題研究の遂行とその報告 5	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第5回目）
12	課題研究の遂行とその報告 6	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第6回目）
13	課題研究の遂行とその報告 7	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第7回目）
14	課題研究の遂行とその報告 8	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第8回目）
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。

16	課題研究の遂行とその報告 1	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。
17	課題研究の遂行とその報告 2	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第2回目）
18	課題研究の遂行とその報告 3	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第3回目）
19	課題研究の遂行とその報告 4	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第4回目）
20	課題研究の遂行とその報告 5	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第5回目）
21	中間発表 1	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	中間発表 2	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。（第2回）
23	中間発表 3	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。（第3回）
24	研究課題の遂行とその報告 1	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、そぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告 2	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、そぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第2回目）
26	研究課題の遂行とその報告 3	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、そぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第3回目）
27	研究課題の遂行とその報告 4	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、そぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第4回目）
28	最終確認 1	仕上がりつつある論文の最終の点検を行う。
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	伊藤　仁美		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業では、学生が３年次にそれぞれ設定した研究課題について研究を進めていくことを目的とする。

＜授業の到達目標＞
１．社会人に求められる汎用スキルとして高度なリサーチ・リテラシーを身につけている２．英語教育において、自身の興味関心がある分野の専門的知識を身につけている３．自ら設定した研究課題に対する答えにたどりつき、研究成果を論文・制作物としてまとめ発表できる

＜授業の方法＞
(1) 発表（学生による説明と問いの提示）(2) ディスカッション（問いに対する回答）(3) 省察活動（まとめと発表）(4) 個別指導

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有　グループワーク（学習内容に関する教え合い）・ディスカッション（問いに対する考えの共有

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
それぞれ３年次に設定したテーマに沿って研究を進め、その進捗状況の報告を授業の中で発表・討論する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求める。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲 30%、論文への取り組み 70%

＜教科書＞

＜参考書＞
浦野研ほか（2016）　はじめての英語教育研究：押さえておきたいコツとポイント　研究社
APA（米国心理学会）（2022）　APA論文作成マニュアル第7版
竹内理・水本篤ほか（2023）　外国語教育研究ハンドブック【増補版】― 研究手法のより良い理解のために　松柏社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅡ（応用）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究テーマについて	３年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究テーマについて2	３年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を進める。
4	研究テーマについて3	研究方法を定める。
5	研究計画書の作成	確認したテーマと研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成2	研究計画書をチェックする。
7	課題研究の遂行とその報告	各自の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第2回目）
8	課題研究の遂行とその報告2	各自の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第2回目）
9	課題研究の遂行とその報告3	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第3回目）
10	課題研究の遂行とその報告4	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第4回目）
11	課題研究の遂行とその報告5	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第5回目）
12	課題研究の遂行とその報告6	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第6回目）
13	課題研究の遂行とその報告7	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第7回目）
14	課題研究の遂行とその報告8	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第8回目）
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。

16	課題研究の遂行とその報告	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。
17	課題研究の遂行とその報告2	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第2回目）
18	課題研究の遂行とその報告3	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第3回目）
19	課題研究の遂行とその報告4	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第4回目）
20	課題研究の遂行とその報告5	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第5回目）
21	中間発表	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	中間発表2	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。（第2回）
23	中間発表3	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。（第3回）
24	研究課題の遂行とその報告	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、そぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告2	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、そぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第2回目）
26	研究課題の遂行とその報告3	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、そぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第3回目）
27	研究課題の遂行とその報告4	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、そぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第4回目）
28	２年間のまとめ	ゼミナールⅠ、Ⅱにおける２年間の取り組みについてのまとめを行う。
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	羽田　あずさ		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業では、学生が３年次にそれぞれ設定した研究課題について研究を進めていくことを目的とする。

＜授業の到達目標＞
１．社会人に求められる汎用スキルとして高度なリサーチ・リテラシーを身につけていることができる２．英語教育において、自身の興味関心がある分野の専門的知識を身につけることができる３．自ら設定した研究課題に対する答えにたどりつき、研究成果を論文・制作物としてまとめ発表することができる

＜授業の方法＞
(1) 発表（学生による説明と問いの提示）(2) ディスカッション（問いに対する回答）(3) 省察活動（まとめと発表）(4) 個別指導

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有　グループワーク（学習内容に関する教え合い）・ディスカッション（問いに対する考えの共有

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
それぞれ３年次に設定したテーマに沿って研究を進め、その進捗状況の報告を授業の中で発表・討論する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求める。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲 30%、論文への取り組み 70%

＜教科書＞

＜参考書＞
浦野研ほか（2016）　はじめての英語教育研究：押さえておきたいコツとポイント　研究社
APA（米国心理学会）（2022）　APA論文作成マニュアル第7版
竹内理・水本篤ほか（2023）　外国語教育研究ハンドブック【増補版】― 研究手法のより良い理解のために　松柏社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅡ（応用）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究テーマについて	３年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究テーマについて2	３年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を進める。
4	研究テーマについて3	研究方法を定める。
5	研究計画書の作成	確認したテーマと研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成2	研究計画書をチェックする。
7	課題研究の遂行とその報告	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告2	各自の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第2回目）
9	課題研究の遂行とその報告3	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第3回目）
10	課題研究の遂行とその報告4	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第4回目）
11	課題研究の遂行とその報告5	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第5回目）
12	課題研究の遂行とその報告6	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第6回目）
13	課題研究の遂行とその報告7	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第7回目）
14	課題研究の遂行とその報告8	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第8回目）
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。

16	課題研究の遂行とその報告	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。
17	課題研究の遂行とその報告2	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第2回目）
18	課題研究の遂行とその報告3	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第3回目）
19	課題研究の遂行とその報告4	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第4回目）
20	課題研究の遂行とその報告5	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第5回目）
21	中間発表	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	中間発表2	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。（第2回）
23	中間発表3	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。（第3回）
24	研究課題の遂行とその報告	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、そぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告2	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、そぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第2回目）
26	研究課題の遂行とその報告3	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、そぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第3回目）
27	研究課題の遂行とその報告4	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、そぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第4回目）
28	最終確認	仕上がりつつある論文の最終の点検を行う。
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	鈩　悠介		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅡでは、学生が３年次にそれぞれ設定したテーマに沿って研究を進め、卒業論文を制作する。

＜授業の到達目標＞
１．関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。２．リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を養う。３．研究を論文および制作物としてまとめ、その発表ができる。

＜授業の方法＞
ゼミナールⅠにおいて明確化した各自の研究課題について、実際に調査・実験あるいは制作等を行い、論文としてまとめていく。基本的に講義時間は学生による発表あるいはその準備とするが、進捗状況に応じて個別指導を行うこともある。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有り。卒業論文の進捗状況報告などのレジュメ作成およびディスカッション。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各自が設定したテーマに沿って研究を進め、適宜（できるだけ短い間隔で）経過報告を授業の中で発表・討論する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求める。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
各回の小レポート（70%），ディスカッションへの参加の度合い（30%）

＜教科書＞
なし

＜参考書＞
なし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ゼミの進め方・目的・内容	ゼミナールⅡ（応用）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究テーマについて	３年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究テーマについて 2	３年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を進める。
4	研究テーマについて 3	研究方法を定める。
5	研究計画書の作成	確認したテーマと研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成 2	研究計画書をチェックする。
7	課題研究の遂行とその報告	各自の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告 2	各自の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第2回目）
9	課題研究の遂行とその報告 3	各自の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第3回目）
10	課題研究の遂行とその報告 4	各自の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第4回目）
11	課題研究の遂行とその報告 5	各自の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第5回目）
12	課題研究の遂行とその報告 6	各自の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第6回目）
13	課題研究の遂行とその報告 7	各自の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第7回目）
14	課題研究の遂行とその報告 8	各自の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第8回目）
15	前期の振り返りと今後の流れ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。

16	課題研究の遂行とその報告	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。
17	課題研究の遂行とその報告　2	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第2回目）
18	課題研究の遂行とその報告　3	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第3回目）
19	課題研究の遂行とその報告　4	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第4回目）
20	課題研究の遂行とその報告　5	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第5回目）
21	中間発表	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	中間発表 2	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。（第2回）
23	中間発表 3	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。（第3回）
24	研究課題の遂行とその報告	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告 2	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、そぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第2回目）
26	研究課題の遂行とその報告 3	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、そぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第3回目）
27	研究課題の遂行とその報告 4	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、そぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第4回目）
28	最終確認	仕上がりつつある論文の最終の点検を行う。
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	小川　智勢子		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、前年度のゼミナールⅠ（基礎）を踏まえ、社会人（教職、公務員ほか）となる学生に実践力を身につけさせることをねらいとしている。とりわけ教職に就くことを目指す学生は、教師としての使命感と責任感をもち、現代の教育課題について思考を深め、ゼミの中での議論を通して、課題に積極的に取り組み解決できる力を身につけることも目指している。前半は演習を中心に行い、後半は個人研究（ゼミ論）を完成させるための活動を行う。

＜授業の到達目標＞
１　社会人となるための規範意識、使命感、責任感をもつことができる。２　他者と協働して課題を解決する力を身につけることができる。３　教師として必要な指導力を身につけることができる。４　論文の作成方法を理解することができる。５　形式を整えて論文を仕上げることができる。

＜授業の方法＞
演習が中心となる。自分の考えをもち、グループで協議する。後半は個人研究について発表し合い、他者の意見を取り入れつつ、自分の研究をより深めていく。合同ゼミを設定し、個人研究について発表し合う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループ協議と発表、パワーポイントを使用しての発表など

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
【事前学習】ボランティアや実習、読書など様々な体験から自分なりに問題意識をもち、問題提起や質問ができるように準備する。（1時間）【事後学習】授業後は、学んだことを振り返り、模擬授業や日々の実践に生かすことができるようにする。個人研究については、随時取り組む。（1時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度（40%）、課題提案内容・意見交換（30%）、レポート・提出物（30%）

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ゼミ活動について	ゼミの活動について話し合う。
2	ゼミ論に向けて	個人研究に関しての日常の取り組みについて理解する。
3	教育課題をテーマにした場面指導	学級経営の「場面指導」について話し合い、考えを深め、自分の意見をまとめる。
4	教育課題をテーマにした場面指導	学級経営の「場面指導」について話し合い、考えを深め、自分の意見をまとめる。
5	教育課題をテーマにした場面指導	教科指導の「場面指導」について話し合い、考えを深め、自分の意見をまとめる。
6	教育課題をテーマにした場面指導	教科指導の「場面指導」について話し合い、考えを深め、自分の意見をまとめる。
7	教育課題をテーマにした場面指導	読書指導の「場面指導」について話し合い、考えを深め、自分の意見をまとめる。
8	教育課題をテーマにした場面指導	保護者対応の「場面指導」について話し合い、考えを深め、自分の意見をまとめる。
9	教育課題をテーマにした場面指導	積極的な生徒指導の「場面指導」について話し合い、考えを深め、自分の意見をまとめる。
10	教育課題をテーマにした場面指導	学校行事の「場面指導」について話し合い、考えを深め、自分の意見をまとめる。
11	教育課題をテーマにした場面指導	不登校児童に対する「場面指導」について話し合い、考えを深め、自分の意見をまとめる。
12	ゼミ論の構想	ゼミ論文に向けて、研究テーマ、テーマ設定の理由、取り組み方法を発表する。
13	ゼミ論の構想	ゼミ論文に向けて、個人研究の取り組みの経過を発表する。
14	ゼミ論の構想	ゼミ論文に向けて、個人研究の取り組みの計画をまとめる。
15	ゼミ論の概要	ゼミ論文の概要を考える。
16	ゼミ論文の章立て	ゼミ論文の章立てを考える。
17	プレゼンテーションの準備	ゼミ論中間発表会に向けてプレゼンテーションの準備をする。
18	プレゼンテーションの準備	ゼミ論中間発表会に向けてプレゼンテーションの準備をする。
19	ゼミ論中間発表会	共同ゼミ論中間発表会で、ゼミ論の概要を発表する。他の人の発表を聞き感想を述べる。

20	ゼミ論中間発表会	共同ゼミ論中間発表会で、ゼミ論の概要を発表する。他の人の発表を聞き感想を述べる。
21	ゼミ論文への取り組み	中間発表会で指導された点に留意してゼミ論文を執筆する。
22	ゼミ論文への取り組み	ゼミ論文を執筆する。
23	ゼミ論文への取り組み	ゼミ論文を執筆する。
24	ゼミ論文への取り組み	ゼミ論文を執筆する。
25	ゼミ論文への取り組み	ゼミ論文を執筆する。
26	ゼミ論文への取り組み	ゼミ論発表会に向けて準備する。
27	ゼミ論発表会	ゼミ論文を発表する。
28	ゼミ論発表会ゼミナールのまとめ	ゼミ論文を発表する。ゼミナールのまとめをするとともに、今後の社会人として生活に意欲をもつ。
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	中安　翼		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、前年度のゼミナールⅠ（基礎）を踏まえ、社会人となる学生に実践力を身につけさせることをねらいとしている。とりわけ教職に就くことを目指す学生は、教師としての使命感と責任感をもち、現代の教育課題について思考を深め、ゼミの中での議論を通して、課題に積極的に取り組み解決できる力を身につけることも目指している。前半は演習を中心に行い、後半は個人研究（ゼミ論）を完成させるための活動を行う。

＜授業の到達目標＞
1.社会人としての規範意識や使命感を持ち、現代の教育課題を多角的に分析し説明できる。2.他者との協働を通じ、集団の課題を積極的に解決できる。3.論文の作成方法を正しく理解し、適切な形式で個人研究（ゼミ論）を完成させ、発表できる。本授業は、学科のDP3（課題解決）およびDP4（地域課題への参画）に関連しています。

＜授業の方法＞
演習が中心となる。自分の考えをもち、グループで協議する。後半は個人研究について発表し合い、他者の意見を取り入れつつ、自分の研究をより深めていく。合同ゼミを設定し、個人研究について発表し合う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループ協議と発表、パワーポイントを使用しての発表など

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習として、ボランティアや実習等の体験から自身の問題意識を整理し、ゼミでの協議に向けた問題提起や質問を準備する（1時間程度）。事後学習として、授業での議論や指導内容を振り返り、模擬授業の改善や個人研究の執筆・修正に継続的に取り組む（2時間程度）。特に後半期は、計画的に論文作成を進める習慣を身につける。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４(地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。　　)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度（40%）、課題提案内容・意見交換（30%）、レポート・提出物（30%）

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ゼミ活動について	ゼミの活動について話し合う。
2	ゼミ論に向けて	個人研究に関しての日常の取り組みについて理解する。
3	体験的活動・調査活動	体験的活動・調査活動を遠して考えを深め、自分の意見をまとめる。
4	体験的活動・調査活動	体験的活動・調査活動を遠して考えを深め、自分の意見をまとめる。
5	体験的活動・調査活動	体験的活動・調査活動を遠して考えを深め、自分の意見をまとめる。
6	体験的活動・調査活動	体験的活動・調査活動を遠して考えを深め、自分の意見をまとめる。
7	体験的活動・調査活動	体験的活動・調査活動を遠して考えを深め、自分の意見をまとめる。
8	体験的活動・調査活動	体験的活動・調査活動を遠して考えを深め、自分の意見をまとめる。
9	体験的活動・調査活動	体験的活動・調査活動を遠して考えを深め、自分の意見をまとめる。
10	体験的活動・調査活動	体験的活動・調査活動を遠して考えを深め、自分の意見をまとめる。
11	体験的活動・調査活動	体験的活動・調査活動を遠して考えを深め、自分の意見をまとめる。
12	ゼミ論の構想	体験的活動を遠して考えを深め、自分の意見をまとめる。
13	ゼミ論の構想	ゼミ論文に向けて、個人研究の取り組みの経過を発表する。
14	ゼミ論の構想	ゼミ論文に向けて、個人研究の取り組みの計画をまとめる。
15	ゼミ論の概要	ゼミ論文の概要を考える。
16	ゼミ論文の章立て	ゼミ論文の章立てを考える。
17	プレゼンテーションの準備	ゼミ論中間発表会に向けてプレゼンテーションの準備をする。
18	プレゼンテーションの準備	ゼミ論中間発表会に向けてプレゼンテーションの準備をする。
19	ゼミ論中間発表会	共同ゼミ論中間発表会で、ゼミ論の概要を発表する。他の人の発表を聞き感想を述べる。
20	ゼミ論中間発表会	共同ゼミ論中間発表会で、ゼミ論の概要を発表する。他の人の発表を聞き感想を述べる。
21	ゼミ論文への取り組み	中間発表会で指導された点に留意してゼミ論文を執筆する。

22	ゼミ論文への取り組み	ゼミ論文を執筆する。
23	ゼミ論文への取り組み	ゼミ論文を執筆する。
24	ゼミ論文への取り組み	ゼミ論文を執筆する。
25	ゼミ論文への取り組み	ゼミ論文を執筆する。ゼミ論発表会に向けて準備する。
26	ゼミ論発表会	ゼミ論文を発表する。
27	ゼミ論発表会	ゼミ論文を発表する。
28	ゼミナールのまとめ	ゼミナールのまとめをするとともに、今後の社会人として生活に意欲をもつ。
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	十河　直太		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本科目の目的は、体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

＜授業の到達目標＞
ゼミ論文を執筆する過程を通じて、学習を通して社会人に求められる知識、技能を身につけることを目標とする。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3.自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

＜授業の方法＞
グループにて興味関心のある分野に関連する情報を収集し，仮説に対する研究を行い，ゼミ論文をまとめていく。その後、論文に対する分かりやすいプレゼンテーションを作成し準備していく.

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素：有単元で学んだ内容についてディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
研究課題に関する分野の文献検索を適宜実施しながら，各進捗を発表資料にまとめる（約２時間）。発表資料に対する今後の対策についてを自分の考えをまとめる（約30分）．最終的にはゼミ論文としてまとめる.

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
実践的な態度50%、自身の研究テーマに関する調査・研究の課題発表50%をもって評価する。

＜教科書＞
特に指定なし

＜参考書＞
特に指定なし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅠの振り返りとゼミナールⅡにおける年間の進行方法について
2	研究テーマの探求（1）	研究テーマの見つけ方を学ぶ。
3	研究テーマの探求（2）	研究テーマを模索し決定する。（インターネットでの文献検索）
4	研究テーマの探求（3）	研究テーマを模索し決定する。
5	研究テーマに関する先行研究（1）	先行研究を調べまとめる（文献を検索しドキュメントにまとめる）
6	研究テーマに関する先行研究（2）	先行研究を調べまとめる②（調べた先行研究を発表するためのスライド作成）
7	研究テーマに関する先行研究（3）	先行研究を調べまとめる③（調べた先行研究を発表するためのスライド作成）
8	研究テーマに関する先行研究（4）	先行研究を調べまとめる④（調べた先行研究を発表する）
9	研究テーマに関する先行研究（5）	先行研究を調べまとめる⑤（調べた先行研究を発表する）
10	実験・測定・調査（1）	研究テーマの実験および測定や調査を行う①　（研究計画書の作成）
11	実験・測定・調査（2）	研究テーマの実験および測定や調査を行う②（研究計画書の完成）
12	実験・測定・調査（3）	研究テーマの実験および測定や調査を行う③（実験・測定・調査の実施）
13	実験・測定・調査（4）	研究テーマの実験および測定や調査を行う④（実験・測定・調査の実施）
14	中間まとめ	これまでの進捗について中間発表をおこなう
15	研究データや資料のまとめ（1）	測定データや調査資料をまとめる①（表計算ソフトを用いてデータをまとめる）
16	研究データや資料のまとめ（2）	測定データや調査資料をまとめる②（表計算ソフトを用いてデータをまとめる）
17	研究データや資料のまとめ（3）	測定データや調査資料をまとめる③（統計処理）
18	研究データや資料のまとめ（4）	測定データや調査資料をまとめる④（図表の作成）
19	論文作成にむけて	論文作成に向けた流れの確認
20	論文の作成（1）	研究テーマに対する論文を作成する（緒言）
21	論文の作成（2）	研究テーマに対する論文を作成する（緒言のチェックと修正）

22	論文の作成（3）	研究テーマに対する論文を作成する（方法）
23	論文の作成（4）	研究テーマに対する論文を作成する（方法のチェックと修正）
24	論文の作成（5）	研究テーマに対する論文を作成する（結果）
25	論文の作成（6）	研究テーマに対する論文を作成する（結果のチェックと修正）
26	論文の作成（7）	研究テーマに対する論文を作成する（考察）
27	論文の作成（8）	研究テーマに対する論文を作成する（考察のチェックと修正）
28	まとめ	研究論文全体の仕上げを行い提出する
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	宮原　舞			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、「ゼミナールⅠ（基礎）」で身につけた学習・研究の基礎を踏まえて卒業論文を執筆するため、研究テーマの設定、文献研究、研究方法の検討、資料・データの収集と分析、論文執筆の基礎を段階的に学ぶ。各自の関心に基づいて研究課題を明確にし、先行研究の講読や意見交流を通して研究の視点を深めるとともに、論文としてまとめるための構成力・表現力を養う。個人での研究活動を基本としつつ、ゼミ内での報告や討議を通して、多面的に考察する態度を身につける。

＜授業の到達目標＞
①自身の関心に基づいて研究テーマを設定し、研究課題を明確に示すことができる。②先行研究を収集・講読し、その内容を整理・要約するとともに、自身の研究との関連を説明することができる。③研究方法の検討、資料・データの収集・分析、論文執筆を通して、卒業論文作成に必要な基礎的能力を身につけることができる。

＜授業の方法＞
各自が興味・関心をもつテーマについて文献研究や調査を行い、内容や進捗状況について受講生同士で意見交流・議論を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素有（グループディスカッション）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習として、各回の授業内容に応じて指定された文献や資料を読み、要点を整理したうえで、自身の考えや疑問点をまとめておくこと。復習として、授業での指導や討議内容を踏まえて研究計画やノートを見直し、文献整理、資料・データの分析、論文執筆等を継続的に進めること。とくに本授業では、授業時間外における文献収集、読解、記録、執筆の積み重ねが重要となる。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー３（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業・ゼミ活動への取り組み　30%文献講読、研究計画、執筆課題等の提出物　40%論文および研究発表　30%

＜教科書＞

＜参考書＞
日本音楽教育学会 編　音楽教育研究ハンドブック　音楽之友社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的、内容、進め方、評価方法について
2	論文理解①	卒業論文の構成や形式を学び、論文の全体像をつかむ。
3	論文理解②	論文の要約方法を学び、先行研究を簡潔にまとめる力を養う。
4	研究計画①	研究の進め方を学び、卒業論文作成までの見通しをもつ。
5	研究計画②	自身の関心に基づいて研究テーマを探る。
6	研究計画③	研究テーマを焦点化し、研究課題を明確にする。
7	執筆計画	論文執筆計画を立てる。
8	文献研究①	文献研究の方法を学び、資料収集の基礎を身につける。
9	文献研究②	関連文献・先行研究を検索し、研究課題との関連を整理する。
10	文献講読①	文献を読み取り、内容を整理して意見交流を行う。
11	文献講読②	文献講読を通して、先行研究の論点を整理する。
12	文献講読③	文献講読を通して、自身の研究の視点を明確にする。
13	研究方法の検討	研究方法を検討し、調査・実践・観察等の準備を進める。
14	資料・データ収集①	研究に必要な資料やデータの収集を進める。
15	資料・データ収集②	研究に必要な資料やデータの収集を継続し、整理する。
16	資料・データ整理①	収集した資料やデータを分類・整理する。
17	資料・データ整理②	収集した資料やデータを分類・整理する。
18	分析と考察①	資料やデータを分析し、研究結果の整理を始める。
19	分析と考察②	分析結果をもとに考察を深め、論点を整理する。
20	分析と考察③	研究課題に即して分析と考察をまとめる。
21	論文構成の検討	卒業論文の構成案を作成し、章立てを検討する。
22	論文執筆①	序論および先行研究の整理を中心に執筆を進める。
23	論文執筆②	研究方法・結果の記述を中心に執筆を進める。

24	論文執筆④	考察部分を中心に執筆を進める。
25	論文推敲①	論文全体を見直し、構成や論理展開を整える。
26	論文推敲②	引用方法、表現、書式を確認し、論文を仕上げる。
27	研究発表準備	研究発表に向けて、発表内容や資料を整理する。
28	論文提出・研究発表	論文提出・研究発表を行い、研究成果と今後の課題を確認する。
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	小﨑　遼介		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本ゼミナールでは、保育内容健康に関する分野の研究を行う。研究テーマについては、保育内容の中の、運動・睡眠・安全・ケガ・防災などを取り扱う。そのほかに関しては、教育学学士として相応しい研究テーマであれば認める。

＜授業の到達目標＞
幼児を取り巻く健康に関する課題に対して、科学的根拠等客観的な視点から調査検討を行い理解を深める。研究するための方法（資料の集め方やまとめ方、研究計画の立て方、調査や実験等の方法、分析、考察等）、論文の書き方の基本を学んだ後、テーマを決めて論文にまとめる。論文執筆における、計画の立案、データの収集方法、分析、作図、執筆の一連の流れに沿った論文の作成ができる。

＜授業の方法＞
学生が自分の関心にそって研究テーマを決め、資料を集めて整理し発表する。授業は発表とテーマにそったディスカッションが中心となり、学生には自ら学ぶ主体性が必要である。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
プレゼン発表、中間報告

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
テーマにそって資料を集めて整理する。授業内で指示する課題についてレポートを作成する。（予習１時間）　授業内のディスカッションの要点をまとめる。（復習１時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
課題の提出と内容　50%、研究論文(ゼミ論文)の内容および発表50%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業のすすめ方
2	研究指導1	研究テーマの検討・設定
3	研究指導2	研究テーマの検討・設定
4	研究指導3	研究テーマの検討・設定
5	研究指導4	研究テーマの検討・設定
6	研究指導5	研究のための資料整理
7	研究指導6	研究のための資料整理
8	研究指導7	研究のための資料整理
9	研究指導8	研究のための資料整理
10	研究指導9	研究発表に向けた研究指導
11	研究指導10	研究発表に向けた研究指導
12	研究指導11	研究発表に向けた研究指導
13	研究指導12	研究発表に向けた研究指導
14	研究指導13	研究発表準備
15	中間研究発表	研究のアウトライン、研究の中間発表。
16	研究指導14	研究方法について
17	研究指導15	研究方法について
18	研究指導16	研究方法について
19	研究指導17	研究発表に向けた研究指導
20	研究指導18	研究発表に向けた研究指導
21	研究指導19	研究発表に向けた研究指導
22	研究指導20	研究発表に向けた研究指導
23	研究指導21	研究発表に向けた研究指導
24	研究指導22	研究発表に向けた研究指導

25	研究指導23	研究発表に向けた研究指導
26	研究指導24	研究発表に向けた研究指導
27	研究指導25	研究発表準備
28	研究発表	研究結果を発表する
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	内田　仁志			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	講義、演習、発表	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

本講座は学生の方が将来、社会に出ても通用する実践的な能力を育てることを目標にします。具体的には将来教員になっても本講座で学ぶ国語科の「話す・聞く」と「書くこと」の領域については自信をもって授業ができるような能力を育てることを最終的な目的とします。そのためにプレゼンテーションを取り上げ、説得力のある話し方、資料の選択の仕方、わかりやすい文章構造などを演習を通して実際に学んでいきます。さらに教育現場とも連携を図り、適宜実際の教育現場や学会等にも触れたいと思います。また卒論・ゼミ論の指導、公開研への参加など卒業を見据えた指導も充実します。

＜授業の到達目標＞

①実際の学校現場を理解し、教員という仕事を理解することができる。②教育現場でのプレゼンテーションの重要性を理解し、研鑽する意欲を持つことができる。③効果的なプレゼンテーションの仕方を理解し、実践することができる。

＜授業の方法＞

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとります。ゼミという形式の特性を生かし、話し合いの機会を多くします。また適宜、実際の教育現場との連携を図ります。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

模擬授業等を通し・自分で考える→自主的な学習態度　・対話活動で池を練り上げる→協調性、自己表現力　　・自分の意見をまとめる→深い学び　この学習サイクルを確立させるようにします。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

自分のプレゼンテーション発表の前には資料の準備、発表原稿の整理などをする必要があります。発表当日は準備の時間を取らず、発表→話し合いの形式となるので準備はきちんとしておきましょう。(準備については個別で対応します。またネットで対応します)また話し合い後に後日、修正したプレゼンテーションを行うこともあります。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本授業の単位を取得するためには、以下の要件を満たす必要がある。授業への参加（全15回の授業のうち、3分の2以上の出席が必須）課題の提出（以下の課題を期限内に提出すること）教材分析レポート（読解指導・記述指導・議論指導のいずれか）指導案作成（模擬授業のための指導案を作成し提出）授業リフレクション（各回の学びを振り返り記述）模擬授業の実施（グループまたは個人で指導案を基に模擬授業を行う）期末レポートの提出（授業で学んだ指導法を踏まえ、国語科指導に関する考察を2000字以上で記述）上記の要件をすべて満たした場合

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度(ディスカッションや演習への取り組み等）30%、小課題（ミニテスト、ミニレポート等）20%、大課題（発表等）50%

＜教科書＞

内田仁志(2024年8月)　国語教師のための「反論の技術」入門　明治図書

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミの目的や進め方を確認する。評価基準や発表・課題のルールを説明する。今後の学びの目標を設定する。
2	「話す・聞く」スキルの基本	説得力のある話し方や声の出し方を学ぶ。聞き手を意識した話の組み立てを考える。実践を通して話し方の基礎を身につける。
3	教育現場で求められるプレゼンテーションとは	授業におけるプレゼンの役割を理解する。わかりやすく伝えるための工夫を考える。実際の授業動画などを見て分析する。
4	論理的な話し方①：主張と根拠を明確にする	自分の意見を論理的に伝える方法を学ぶ。主張と根拠の関係を整理する練習をする。簡単なスピーチで実践してみる。
5	論理的な話し方②：相手を納得させる展開の工夫	相手の立場を考えた話の組み立てを学ぶ。具体例やデータを使った説得方法を考える。実践的な発表演習を行う。
6	資料の選び方①：視覚的資料の効果的な活用	スライドや板書の役割と活用法を学ぶ。わかりやすい視覚資料のポイントを整理する。自分で資料を作成してみる。
7	資料の選び方②：データや事例の活用	教育現場で使えるデータの選び方を学ぶ。事例を効果的に使う方法を考える。自分のプレゼンに適した資料を作成する。
8	実践演習①：短時間プレゼン（3分間スピーチ）	3分間で要点をまとめる練習をする。聞き手に伝わる話し方を意識する。フィードバックを受けて改善する。
9	実践演習②：論理的な話し方を活かした5	5分間で論理的に話す演習をする。資料を効果的に使うことを意識する。発表後に改

	分間プレゼン	善点を振り返る。
10	教育現場との連携①：実践報告の読み方	教育論文や実践報告の構成を学ぶ。重要なポイントを整理しながら読む。自分の考えをまとめ、意見交換を行う
11	教育現場との連携②：教育現場の課題を考える	教育現場の課題をテーマにグループ討議。フィールドワークの目的や進め方を考える。事前に調査する内容を整理する。
12	「書く」スキルの基本	教育における論述の重要性を理解する。正確で伝わりやすい文章を書く練習をする。自分の考えを論理的にまとめる方法を学ぶ。
13	論理的な文章構成①：序論・本論・結論の組み立て方	文章の基本的な構成を学ぶ。論理的な流れを意識して書く練習をする。短い文章で構成を意識した課題に取り組む。
14	論理的な文章構成②：わかりやすい文章を書くための工夫	文のつながりや表現の工夫を学ぶ。読み手に伝わりやすい文章を意識する。実際に文章を書いてフィードバックを受ける。
15	中間プレゼンテーション：前期の学びのまとめ	前期の学びを整理し、プレゼンで発表する。他者の発表を聞き、良い点・改善点を学ぶ。後期の課題と目標を設定する。
16	教育現場との連携③：授業研究の視点を考える	授業研究の目的や視点を学ぶ。実際の授業映像を見て分析する。自分の指導に活かせる点を整理する。
17	教育現場との連携④：授業記録を基にした分析演習	授業記録の活用方法を学ぶ。教師の指導や児童の反応を分析する。より良い指導方法を考察する。
18	実践演習③：模擬授業の準備	指導案の作成方法を学ぶ。発問の工夫や授業の流れを考える。実際の授業に近い形で準備を進める。
19	実践演習④：模擬授業の実施①（グループ発表）	グループで模擬授業を行う。役割分担をして授業を進める。互いにフィードバックを行い改善する。
20	実践演習⑤：模擬授業の実施②（個人発表）	個人で模擬授業を行う。教材・発問・授業の進め方を工夫する。発表後に振り返りと改善点を整理する。
21	教育現場との連携⑤：教員の実践研究と学会発表の流れ	教員の研究の進め方を学ぶ。学会発表の構成や準備を理解する。研究発表を想定した演習を行う。
22	学会発表の視点と方法	学会発表の要点を整理する。発表の構成や伝え方を学ぶ。研究内容を簡潔にまとめる練習をする。
23	教職実践演習（集中講義参加）	教職実践演習に参加する。授業実践や指導の場面を学ぶ。学びを振り返り、今後に活かす
24	教職実践演習（集中講義参加）	教職実践演習に参加する。授業実践や指導の場面を学ぶ。学びを振り返り、今後に活かす
25	公開研究会参加	教育現場の最前線の実践を学ぶ。研究会での発表や討論を経験する。授業改善の視点を深める。
26	公開研究会参加	教育現場の最前線の実践を学ぶ。研究会での発表や討論を経験する。授業改善の視点を深める。
27	公開研究会参加	教育現場の最前線の実践を学ぶ。研究会での発表や討論を経験する。授業改善の視点を深める。
28	まとめ・振り返り	1年間の学びを整理し、振り返る。卒業後の目標の確認
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	竹下　厚志		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅡでは、学生が３年次にそれぞれ設定したテーマに沿って研究を進め、研究を深めることを目的とします。

＜授業の到達目標＞
(1) 関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解できる。(2) リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を身につけている。(3) 研究を論文としてまとめ、発表できる。

＜授業の方法＞
(1) 個別調査・研究（先行研究・アンケート調査・インタビュー調査）(2) 発表（学生による説明と問いの提示） (3) ディスカッション（問いに対する回答） (4) 省察活動（まとめと発表）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
あり。各自のテーマに関するグループ内での意見交換、プレゼンテーション（卒論に関する発表）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
それぞれ３年次に設定したテーマに沿って研究を進め、その進捗状況の報告を授業の中で発表、討論をします。各回、予習（発表準備等）を30分、復習（内容の振り返り）を30分程度を求めます。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４(地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。　　)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業参加度 30%、口頭発表 30%、論文 40%

＜教科書＞
特に指定しない。

＜参考書＞
特に指定しない。

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅡ（応用）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究テーマについて１	３年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究テーマについて 2	３年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を進める。
4	研究テーマについて 3	研究方法の決定。
5	研究計画書の作成１	確認したテーマと研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成 2	研究計画書をチェックする。
7	課題研究の遂行とその報告１	各自の研究を進め、授業で研究の進捗状況の報告と質疑応答１
8	課題研究の遂行とその報告 2	各自の研究を進め、授業で研究の進捗状況の報告と質疑応答２
9	課題研究の遂行とその報告 3	各自の研究を進め、授業で研究の進捗状況の報告と質疑応答３
10	課題研究の遂行とその報告 4	各自の研究を進め、授業で研究の進捗状況の報告と質疑応答４
11	課題研究の遂行とその報告 5	各自の研究を進め、授業で研究の進捗状況の報告と質疑応答５
12	課題研究の遂行とその報告 6	各自の研究を進め、授業で研究の進捗状況の報告と質疑応答６
13	中間発表１	今までの研究成果を発表１
14	中間発表２	今までの研究成果を発表２
15	論文作成１	論文作成１
16	論文作成２	論文作成２
17	論文作成３	論文作成３
18	論文作成４	論文作成４
19	論文中間発表１	合同ゼミで発表１
20	論文中間発表２	合同ゼミで発表２
21	論文中間発表３	合同ゼミで発表３
22	論文作成５	合同ゼミでの意見交換をもとに修正１
23	論文作成６	合同ゼミでの意見交換をもとに修正２
24	論文作成７	合同ゼミでの意見交換をもとに修正３
25	ゼミ内発表１	口頭試問を想定したQA練習１

26	ゼミ内発表２	口頭試問を想定したQA練習２
27	最終発表１	合同ゼミ最終発表１
28	最終発表２	合同ゼミ最終発表２
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	河野　儀久		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
スポーツ現場におけるストレングス＆コンディショニングまたはアスレティックトレーニングの指導現場から見いだされた問題点や疑問点などについて、様々なエビデンスを根拠に答えを導き出す能力を身につける。また、自ら実験などの手法を用いて検証、考察し、見解を明らかにして行く能力を身につける。

＜授業の到達目標＞
スポーツ現場におけるストレングス＆コンディショニングまたはアスレティックトレーニングの指導現場から見いだされた問題点や疑問点などについて、様々なエビデンスを根拠に答えを導き出す能力を身につける。

＜授業の方法＞
１．講義および実技２．調査および発表

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
研究プレゼンテーション

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
自分自身の課題を解決するための根拠となる文献を検索し、ヒットした文献をわかりやすくまとめる。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
１．文献検索プレゼンテーションの内容２．小テスト（国家試験問題等）３．データの収集・処理・プレゼンまでの内容

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の方針および進め方の説明
2	文献検索	自分自身の課題に対する文献を検索し、わかりやすくまとめプレゼンする。
3	文献検索	自分自身の課題に対する文献を検索し、わかりやすくまとめプレゼンする。
4	文献検索	自分自身の課題に対する文献を検索し、わかりやすくまとめプレゼンする。
5	文献検索	自分自身の課題に対する文献を検索し、わかりやすくまとめプレゼンする。
6	文献検索	自分自身の課題に対する文献を検索し、わかりやすくまとめプレゼンする。
7	文献検索	自分自身の課題に対する文献を検索し、わかりやすくまとめプレゼンする。
8	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
9	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
10	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
11	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
12	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
13	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
14	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
15	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
16	オリエンテーション	後期の授業計画について説明する
17	解剖学	国家試験過去問演習
18	解剖学	国家試験過去問演習
19	解剖学	国家試験過去問演習
20	生理学	国家試験過去問演習
21	生理学	国家試験過去問演習
22	生理学	国家試験過去問演習
23	生理学	国家試験過去問演習
24	柔道整復学理論	国家試験過去問演習
25	柔道整復学理論	国家試験過去問演習
26	柔道整復学理論	国家試験過去問演習
27	柔道整復学理論	国家試験過去問演習

28 29 30	柔道整復学理論	国家試験過去問演習

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	高﨑　展好		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本ゼミナールでは、音楽表現および演奏制作の実践を通して、音楽表現の可能性や教育的有効性について探究する。合唱・合奏・創作活動などの演奏制作を基盤とした表現活動を学内外で実施し、専門性に裏付けられた創造性、音楽表現力、協働的なコミュニケーション能力の育成を目指す。また、演奏制作活動の企画・運営・発表までの一連のプロセスを経験することにより、表現活動を保育・教育現場に活用するための実践的指導力を身につける。

＜授業の到達目標＞
本ゼミナールでは、学生全員で演奏制作研究および研究発表（アウトリーチ・コンサート）を実施する。これらの活動を通して，企画･計画･運営に関する実践力を身につけ､学内外における研究発表をもって研究成果としての作品を完成させることを目標とする。ゼミナールⅡ（応用）では、ゼミナールⅠで培った基礎を踏まえ、より専門性の高い合唱・器楽合奏・創作活動を通した演奏表現研究を行う。これにより、音楽に関する知識・技術・技能の深化を図ると共に音楽表現の可能性および教育的有効性について実践的に明らかにする。なお、ゼミ論文および演

＜授業の方法＞
学生主体の演習形式で授業を行う。演奏技能の向上，作品制作，グループ活動による研究発表準備などを段階的に進める。指導教員はファシリテーターとして助言・技術指導を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
・合唱・合奏・創作活動などの実技演習・研究発表（コンサート）の企画・運営活動・グループ協働による作品制作・発表後の振り返り・相互評価

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
毎回60分以上・配布楽譜の読譜練習・演奏技能向上のための個人練習・研究発表準備（資料作成・打合せ等）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本授業は、ディプロマポリシー①「他者と協働し目標達成に取り組む力」および④「地域社会における課題解決に参画する力」の育成と関連する。演奏制作研究や研究発表（アウトリーチ活動）を通して、他者と協働しながら目標達成に取り組む力を養うとともに、地域社会における実践的な表現活動を通して課題解決に参画する力の育成を目指す。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度等（関心・意欲・態度）　30%作品制作への取組み姿勢 30%ゼミ論文または芸術制作研究発表（ゼミ論発表含む）　40%

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅡ（応用）の目的、内容、授業方法、評価の仕方について理解する。
2	研究指導１	研究テーマの検討・設定研究作品制作指導
3	研究指導２	研究発表の企画、計画の立案研究作品制作指導
4	研究指導３	研究作品制作技術指導
5	研究指導４	研究作品制作技術指導
6	研究指導５	研究作品制作技術指導
7	研究指導６	研究作品制作技術指導
8	研究指導７	研究作品制作技術指導
9	研究指導８	研究発表に向けた研究指導
10	研究指導９	研究発表に向けた研究指導
11	研究指導１０	研究発表に向けた研究指導
12	研究指導１１	研究発表に向けた研究指導
13	研究指導１２	研究発表に向けた研究指導
14	研究成果発表	研究作品の学内外での発表（コンサート）
15	研究指導１３	前期成果の振り返りと課題設定
16	研究指導１４	研究発表企画応用（新規作品構想）
17	研究指導１５	作品制作技術発展①
18	研究指導１６	作品制作技術発展②
19	研究指導１７	作品制作技術発展③

20	研究指導１８	作品制作技術発展④
21	研究指導１９	研究発表準備⑥（演奏構成改善・教育的意義検討）
22	研究指導２０	研究発表準備⑦（通し練習）
23	研究指導２１	研究発表準備⑧（運営最終確認・調整）
24	研究指導２２	研究発表準備⑨（完成度向上）
25	研究成果発表	後期研究発表（アウトリーチ・コンサート）
26	研究指導２３	ゼミ論及びゼミ論（制作作品）発表に向けたスライド資料作成①
27	研究指導２４	ゼミ論及びゼミ論（制作作品）発表に向けたスライド資料作成②
28	まとめ	ゼミナール演奏制作研究発表に向けた最終仕上げ・総括
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	橘髙　真紀子		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業（ゼミナール）では、幼児教育保育現場での体験を基盤に、そこから生まれる問いを基に探求的な学びへと発展させる。実習や実践の振り返りを通して課題を設定し、文献検討や議論を通して理解を深め、最終的に自らの考えを研究的にまとめ発信する力を養う。

＜授業の到達目標＞
1.　子どもの姿を丁寧に観察し、その意味を自ら考えようとすることができる。2.　体験から生じた問意を明確化し、自ら探求過大を設定することができる。3.　文献検討や対話を通して考察を深め、実践と理論を関与づけて説明できる。4.　自らの探求の成果を論理的にまとめ、他者に発信することができる。

＜授業の方法＞
・保育現場参与観察等を行いデータを収集する。・文献検討やディスカッションを通して考察を深める。・発表および研究として成果をまとめる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：ディスカッションを行いながら、探求・執筆をすすめていく。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
（予習）文献渉猟、精読（復習）執筆

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
ゼミ論文（共同成果）　　：50%個人の貢献・探求過程　　：30%発表・ディスカッション：20%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミの年間計画について
2	研究の問いの確認と焦点化	何を明らかにするかを議論し、決定していく。
3	先行研究の探し方文献講読	文献検索の仕方を理解していく。
4	先行研究の探し方文献講読	文献検索の仕方を理解していく。
5	データの収集	参与観察
6	データ収集	参与観察
7	分析・探求の深化データの整理	エピソードの分析（文字おこし等）
8	分析・探求の深化データの整理	エピソードの分析（文字おこし等）
9	分析・探求の深化データの整理	エピソードの分析（文字おこし等）
10	分析・探求の深化データの整理	エピソードの分析（意味づけ）
11	分析・探求の深化	エピソードの分析（比較・対比）
12	分析・探求の深化	現時点の分析の共有等の発表
13	論文化	論文構成の確認（全体像）構成案作成（章立て）
14	論文化	執筆（役割分担）
15	論文化	執筆
16	論文化	執筆
17	論文化	執筆
18	論文化	執筆
19	論文化	執筆
20	論文化	執筆
21	論文化	執筆
22	論文化	執筆（統合、表現・整合性の確認等）
23	発表	発表準備（スライドの作成）
24	発表	発表準備（スライドの作成）
25	発表	発表準備（スライドの作成）

26	発表	発表の練習
27	発表	発表の練習
28	発表	ゼミ論文、発表を行う
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	矢野　智彦		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、ゼミナールⅠに引き続き、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、ゼミナールⅠで発見した課題・問題の課題解決を図っていくことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心に展開する。2つ目は、社会人に求められる教養と実践力を養成し、現代の課題・問題を自ら解決する内容である。

＜授業の到達目標＞
本科目はゼミナールⅠに引き続き、社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な専門的知識を活用できるようになる。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題・問題を自ら解決できる力を身につける。

＜授業の方法＞
課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに実践力養成に向けた講座を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
受講生同士で課題を分析・議論し、解決策を導く「グループディスカッション」や「ケーススタディ」を通じて主体的な思考力と実践力を養う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
当該科目の学習にあたり、体育・スポーツ科学の専門的知識を獲得及び活用に必要な調査・研究時間（4時間）。実践力養成に必要な自主学習（7時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
実践力養成を目指したキャリア教育にかかわる課題 50%。最終課題　50%。

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(1)	教師力養成に向けた講座(1) 学校教育の現状と展望
2	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(2)	教師力養成に向けた講座(2) 体育を専門とする教員に求められる専門性とその可能性
3	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(3)	教師力養成に向けた講座(3) 国内外の授業方法の発展と現在（生徒指導を中心に）
4	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(4)	教師力養成に向けた講座(4) 国内外の授業方法の発展と現在（生徒指導を中心に）
5	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(5)	教師力養成に向けた講座(5) 教職のキャリア開発（養成・採用・研修の実際と課題）
6	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(6)	公務員養成に向けた講座(1) 一般行政系公務員の職務と専門性
7	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(7)	公務員養成に向けた講座(2) 一般行政系公務員の職務と専門性
8	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(8)	公務員養成に向けた講座(3) 公安系公務員（消防）の職務と専門性
9	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(9)	公務員養成に向けた講座(4) 公安系公務員（警察）の職務と専門性
10	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(10)	公務員養成に向けた講座(5) 公安系公務員（自衛官）の職務と専門性
11	体育・スポーツ科学をベースとしたキャ	企業人養成に向けた講座(1) 業種・業界の研究

	リア教育(11)	
12	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(12)	企業人養成に向けた講座(2) 職種・職務の研究
13	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(13)	企業人養成に向けた講座(3) 外資系企業の研究
14	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(14)	企業人養成に向けた講座(4) 体育・スポーツ系の業種・業界の研究
15	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(15)	企業人養成に向けた講座(5) 体育・スポーツを学んだ者の強みと弱点
16	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(16)	実践力養成に向けた講座(1)
17	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(17)	実践力養成に向けた講座(2)
18	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(18)	実践力養成に向けた講座(3)
19	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(19)	実践力養成に向けた講座(4)
20	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(20)	実践力養成に向けた講座(5)
21	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(21)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(1) 一般企業での体験活動
22	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(22)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(2) 消防学校での体験活動
23	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(23)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(3) 中・高等学校教育の観察参与
24	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(24)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(4) スポーツ業界の学内インターンシップ
25	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(25)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(5) 体験活動の振り返りと総括
26	キャリア教育のまとめ(1)	2年間のキャリア教育を通じた総括(1) 2年間で実施した内容の振り返り
27	キャリア教育のまとめ(2)	2年間のキャリア教育を通じた総括(2) 卒業後の進路の現状と展望の確認
28	キャリア教育のまとめ(3)	2年間のキャリア教育を通じた総括(3) 体育・スポーツを学んだ意義と今後のキャリアの接点の確認
29	キャリア教育のまとめ(4)	2年間のキャリア教育を通じた総括(4) 将来のキャリアの展望と現在の課題の確認
30	全体のまとめ	2年間のゼミナールを通じた総括

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	早田　剛		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本科目の目的は、体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

＜授業の到達目標＞
ゼミ論文を執筆する過程を通じて、学習を通して社会人に求められる知識、技能を身につけることを目標とする。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3.自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

＜授業の方法＞
グループにて興味関心のある分野に関連する情報を収集し，仮説に対する研究を行い，卒業研究をまとめていく。その後、論文に対する分かりやすいプレゼンテーションを作成し準備していく.

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行い、ディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
研究課題に関する分野の文献検索を適宜実施しながら，各進捗を発表資料にまとめる（約２時間）。発表資料に対する今後の対策についてを自分の考えをまとめる（約30分）。授業後は指摘を受けた内容について課題解決を行う（約２時間）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
実践的な態度：50%、自身の研究テーマに関する調査・研究発表・論文提出：50%をもって評価する。なお、卒業研究を履修しないものについては、ゼミ論文の課題提出を義務付ける。

＜教科書＞
特に指定なし

＜参考書＞
特に指定なし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	スケジュールの確認とテーマの共有	スケジュールの確認とテーマの決定状況の共有
2	テーマ及び実施計画報告会	テーマ・実験・調査計画の確認
3	先行研究の再確認	自身のデータと対比させるための最新論文の読み込み
4	データ収集の最終化	追加調査や予備実験の補完、データの不備チェック。
5	統計解析演習①	収集したデータの入力とクリーニング。
6	統計解析演習②	適切な統計手法（t検定、分散分析、相関分析等）の実行。
7	図表の作成	解析結果を効果的に示すグラフ・表の作成（APAスタイル等に準拠）。
8	進捗状況報告会①	分析結果の解釈についてゼミ生同士でディスカッション。
9	進捗状況報告会②	分析結果の解釈についてゼミ生同士でディスカッション。
10	論文構成の再構築	分析結果に基づいた論理構成（章立て）の最終決定。
11	執筆指導①「緒言」	先行研究のまとめ、研究意義、研究の目的を明文化
12	執筆指導②「方法」	誰もが再現できる方法の記載方法を学ぶ
13	執筆指導③「結果」	客観的事実のみを記述するスキルの習得。
14	執筆指導④「考察・序論の修正」	先行研究との比較、研究の意義の明文化。
15	執筆指導③「結論・抄録」	研究全体を要約し、今後の課題を整理する。
16	学内中間発表の準備	スライド作成のポイントと発表構成。
17	ゼミ内リハーサル①	プレゼンテーションの実践と質疑応答の練習。
18	相互添削ワークショップ	ゼミ生同士で原稿を読み合い、論理の飛躍をチェック。
19	個別指導①	指導教員による原稿の詳細検閲と修正指示。

20	個別指導②	修正稿の確認と、最終仕上げに向けたアドバイス。
21	最終校正	図表番号、目次、謝辞などの形式確認。
22	最終発表準備①	卒論発表会用スライドのブラッシュアップ。
23	最終発表準備②	想定質問に対する回答準備と論理武装。
24	卒業論文発表会（模擬）	最終リハーサル。
25	論文提出	学科の規定に従った提出手続きの確認。
26	引用・参考文献精査	引用文献・参考文献を精査する
27	論文提出	学科の規定に従った提出手続きの確認。
28	全体の総括と振り返り	研究プロセスを通じて得た専門知と汎用的技能の確認。
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	品田　直宏		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本科目はスポーツにおけるコーチングを理解し、よりよいコーチになる為の基礎的知識と専門的知識の習得を行うと共に、自身が専門とする競技への理解を深めていく。また、得た知識を適切な方法で他者へと伝える方法を学んでいく。そのため、①『スポーツ科学をもとにした課題発見･知識の習得』②『それらを適切に伝え、実践力を養成する』内容とし、授業を展開する。

＜授業の到達目標＞
本科目はゼミナールⅠに引き続き、スポーツコーチングにおける理解を深め、専門種目におけるパフォーマンス構造を理解すると共に、それらを高める方法、およびコーチング能力を高め、自身が実践できるだけではなく、他者に対して適切なコーチングを実践できるようになることを目標としている。

＜授業の方法＞
専門誌や論文の抄読、グループワークを中心に展開する。専門的な機器を扱い、パフォーマンスの測定やデータの分析も行い、課題発表を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
実践的に身体を動かすこともある

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
自身の専門とする競技種目に関する専門的知識およびトレーニング方法やパフォーマンス構造を十分理解する為に､専門誌や論文を予習･復習として抄読すること。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４(体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲20%、中間課題 30%、ゼミ論文発表50%。

＜教科書＞
　特になし

＜参考書＞
日本コーチング学会（2017/4/4）　コーチング学への招待　大修館書店
福永 哲夫（著），山本 正嘉（著）(2018/10/1)　体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方（体育・スポーツ・健康科学テキストブックシリーズ）　市村出版
高松 薫（2021/3/22）　競技スポーツにおけるコーチング・トレーニングの将来展望: 実践と研究の場における知と技の好循環を求めて　筑波大学出版会

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	スポーツコーチングの理解	スポーツにおけるコーチング方法の理解と実例紹介
2	専門種目におけるパフォーマンス構造①	各々が専門とする競技におけるパフォーマンス構造の理解とそれらを高める為の方法を考える
3	専門種目におけるパフォーマンス構造②	各々が専門とする競技におけるパフォーマンス構造の理解とそれらを高める為の方法を考える
4	専門種目におけるパフォーマンス構造(発表)	各々が専門とする競技におけるパフォーマンス構造とそれらを高める方法を発表する
5	スポーツコーチングにおけるハラスメント	スポーツコーチングの現場における様々なハラスメントについて理解する
6	海外におけるスポーツコーチング	海外におけるスポーツコーチングの事例紹介
7	スポーツコーチングに関する先行研究	スポーツコーチングにおける事例研究のまとめ方
8	スポーツコーチングに関する先行研究	スポーツコーチングにおける横断的な研究のまとめ方
9	スポーツコーチングに関する先行研究	スポーツコーチングにおけるインタビュー形式の研究のまとめ方
10	ゼミ論（卒論）のテーマ決め･論文抄読	論文･専門誌の抄読、スライド作成
11	ゼミ論（卒論）のテーマ決め･論文抄読	論文･専門誌の抄読、スライド作成
12	ゼミ論（卒論）のテーマ決め･論文抄読	論文･専門誌の抄読、スライド作成
13	ゼミ論（卒論）のテーマ決め･論文抄読	論文･専門誌の抄読、スライド作成
14	ゼミ論（卒論）のテーマ決め･論文抄読	論文･専門誌の抄読、スライド作成
15	ゼミ論（卒論）中間発表	ゼミ論（卒論）のテーマの決定･発表

16	体組成の測定	BODPODを用いた体組成の測定方法の理解
17	動作分析①	ジャンプ運動における動作分析
18	動作分析②	疾走動作における動作分析
19	膝関節･股関節筋力の測定	バイオデックスを用いた膝関節･股関節筋力の測定
20	測定データの分析と処理	測定したデータの分析しおよび適切な方法で提示する方法の理解
21	ゼミ論（卒論）の執筆	緒言･方法の執筆
22	ゼミ論（卒論）の執筆	緒言･方法の執筆
23	ゼミ論（卒論）の執筆	緒言･方法の執筆
24	ゼミ論の進捗状況確認	進捗状況の発表および質疑応答
25	ゼミ論（卒論）の作成･発表準備	本文執筆･論文抄読･スライド作成
26	ゼミ論（卒論）の作成･発表準備	本文執筆･論文抄読･スライド作成
27	ゼミ論（卒論）の作成･発表準備	本文執筆･論文抄読･スライド作成
28	ゼミ論（卒論）の発表	スライドを用いたゼミ論の発表
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	三堀　仁		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、前年度のゼミナールⅠ（基礎）を踏まえ、社会人、とりわけ教職に就くことを目指す学生に実践力を身に付けさせることをねらいとしたものである。教師として、子どもの未来に対する強い使命感と責任感を持ち、教師としての成長を目指した生涯学習力を身に付けさせることを重視している。また、修得した知識・技能・態度を総合的に活用し、現代の教育課題に積極的に取り組み、解決できる力を身に付けることも目指している。授業は演習を中心に行う。

＜授業の到達目標＞
①教職につくための規範意識、使命感、責任感を持つことができる。②他者と協働して課題解決する力を身に付けることができる。③学校現場で即戦力として活躍できるような教師としての指導力を身に付けることができる。

＜授業の方法＞
基本的に演習の形態をとる。自分なりの考えをもってグループ協議にのぞみ、他者の意見を取り入れながらよりよい答えを導き出すような場面を設定する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
毎回の授業の中で、グループ協議を通して自分の考えを深めたり模擬授業を通して自ら課題を見つけ改善したりすることができるようにする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
自分なりに問題意識を持ち、質問や問題提起できるように準備しておく（1時間程度）。授業後は学んだことを模擬授業や日々の実践に生かすことができるように振り返りを行う（2時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４およびディプロマポリシー１と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度（40%）、課題提案内容・意見交換（30%）、レポート・提出物（30%）

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ゼミの活動について	ゼミの活動について話し合い共有する。
2	場面指導について	学校現場で見られる「場面指導」をテーマにした話し合いの方法を理解する。
3	模擬授業について	小学校の各教科の模擬授業の実施方法について話し合い共有する。
4	教育課題をテーマにした場面指導	学級経営の「場面指導」について話し合い、考えをまとめる。
5	模擬授業	算数（複合図形の授業を例に）
6	教育課題をテーマにした場面指導	学級経営の「場面指導」について話し合い、考えをまとめる。
7	模擬授業	国語（ポスターを読み取る授業を例に）
8	教育課題をテーマにした場面指導	保護者対応の「場面指導」について話し合い、考えをまとめる。
9	模擬授業	算数（わり算の授業を例に）
10	教育課題をテーマにした場面指導	保護者対応の「場面指導」について話し合い、考えをまとめる。
11	模擬授業	国語（漢字の成り立ちの授業を例に）
12	教育課題をテーマにした場面指導	緊急対応時の「場面指導」について話し合い、考えをまとめる。
13	模擬授業	算数（小数の授業を例に）
14	教育課題をテーマにした場面指導	緊急対応時の「場面指導」について話し合い、考えをまとめる。
15	模擬授業	国語（俳句の授業を例に）
16	教育課題をテーマにした場面指導	職場内での「場面指導」について話し合い、考えをまとめる。
17	模擬授業	社会（市の移り変わりの授業を例に）
18	教育課題をテーマにした場面指導	職場内での「場面指導」について話し合い、考えをまとめる。
19	模擬授業	理科（空気と水の授業を例に）
20	教育課題をテーマにした場面指導	地域連携の「場面指導」について話し合い、考えをまとめる。
21	模擬授業	生活（動くおもちゃを例に）
22	教育課題をテーマにした場面指導	地域連携の「場面指導」について話し合い、考えをまとめる。
23	模擬授業	学級活動の時間を例に
24	教育課題をテーマにした場面指導	支援が必要な児童への「場面指導」について話し合い、考えをまとめる。
25	模擬授業	道徳の時間を例に

26	教育課題をテーマにした場面指導	支援が必要な児童への「場面指導」について話し合い、考えをまとめる。
27	模擬授業	総合的な学習の時間を例に
28	ゼミナールのまとめ	ゼミナールのまとめをするとともに、今後の社会人としての生活に意欲を持つ。
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	小川　雄太		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本科目では､テーマに沿った研究あるいは論文の執筆を通して､研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする｡そのため､問いの立て方を指導の中心とし、履修者相互の議論によって理解を深める手立てとする。

＜授業の到達目標＞
関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。レポート発表及びディスカッションができる。研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

＜授業の方法＞
研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を引き出すため議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有：各自のテーマについて意見をまとめ、定期的に発表を行いグループディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：該科目の学習にあたり、各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析をする（1時間程度）。復習：次回授業に向けて、進捗状況の報告準備をする（1時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４(体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
ポートフォリオおよび授業態度等 30%、中間発表 20%、論文 50%卒業研究を履修しないものについては、ゼミ論文の提出を義務付ける。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	研究課題の確認、研究方法の検討	研究課題の確認、研究方法の検討
3	研究課題の確認、研究方法の検討	研究課題の確認、研究方法の検討
4	研究課題の確認、研究方法の検討	研究課題の確認、研究方法の検討
5	研究計画書の作成	研究計画書の作成
6	研究計画書の作成	研究計画書の作成
7	研究課題の遂行とその報告	研究課題の遂行とその報告
8	研究課題の遂行とその報告	研究課題の遂行とその報告
9	研究課題の遂行とその報告	研究課題の遂行とその報告
10	研究課題の遂行とその報告	研究課題の遂行とその報告
11	研究課題の遂行とその報告	研究課題の遂行とその報告
12	研究課題の遂行とその報告	研究課題の遂行とその報告
13	研究課題の遂行とその報告	研究課題の遂行とその報告
14	研究課題の遂行とその報告	研究課題の遂行とその報告
15	研究課題の遂行とその報告	研究課題の遂行とその報告
16	研究課題の遂行とその報告	研究課題の遂行とその報告
17	研究課題の遂行とその報告	研究課題の遂行とその報告
18	研究課題の遂行とその報告	研究課題の遂行とその報告
19	中間発表	中間発表
20	中間発表	中間発表
21	研究課題の遂行とその報告	研究課題の遂行とその報告
22	研究課題の遂行とその報告	研究課題の遂行とその報告
23	研究課題の遂行とその報告	研究課題の遂行とその報告
24	研究課題の遂行とその報告	研究課題の遂行とその報告
25	最終確認	最終確認

26	最終確認	最終確認
27	最終確認	最終確認
28	まとめ	まとめ
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	佐々木　史之		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

本授業では、体育・スポーツ科学の専門的知見を深めるとともに、社会人としての素養を磨き、主体的な問題解決能力を養います。具体的には、スポーツ科学の理論を用いた課題発見型学習（PBL）と、社会で求められる汎用的スキルの修得の二本柱で構成します。自らの適性や課題を客観的に評価し、専門知を社会の課題解決にどう活かすかを探求します。実社会での実践を見据え、自律した専門家・社会人としての基盤を築くことを目指します。

＜授業の到達目標＞

(1)ゼミ論文の執筆プロセスを通じ、自らの適性と専門性を客観的に把握し、主体的に学び続ける態度を身につけている。(2)体育・スポーツ科学に関する先行研究や調査データの分析を行い、専門家として必要な知識を体系的に統合・説明できる。(3)自身の現状と社会のニーズを照らし合わせ、発見した課題に対して論理的な解決策を自律的に探求・提示できる。(4)社会人に求められる論理的思考力、情報収集能力、および執筆スキルを総合的に習得している。

＜授業の方法＞

(1)授業の進め方　学生主体の課題解決学習とディスカッションを中心に展開します。各自の進捗に応じ、質問紙調査や文献調査を行い、その成果をプレゼンテーション資料（PPT等）にまとめて発表します。また、専門的知識や論文執筆スキルの補完を目的とした講義形式の講座を適宜織り交ぜます。学生同士の質疑応答や相互評価を通じて、論理的思考力と多角的な視点を養う実践的な構成とします。(2)ICTの活用　プレゼンテーション資料の作成や共有にはGoogle Slidesを活用します。また、共同編集機能（Google Docs/

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素：有（課題解決型学習、ディスカッション、プレゼンテーション）　自ら設定した研究テーマに基づき、先行研究の調査や統計解析を自律的に進める課題解決型学習（PBL）を実践します。授業内では、執筆プロセスの進捗報告を行うとともに、受講生同士によるピア・レビュー（相互添削）や質疑応答を実施します。他者からの客観的な示唆を反映させ、論理構成を再構築するプロセスを繰り返すことで、単なる知識習得に留まらない、高度な分析力と批判的思考力を主体的に養います。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

【予習：1～2時間】　自身の研究テーマに関わる体育・スポーツ界の諸課題について、新聞・雑誌・先行研究を幅広く資料を当たり情報を収集し、多角的な視点から現状を把握します。得られた知見に基づき、ゼミ内での議論を活性化させるための発表資料（PPT等）を、論理的な構成で作成・準備します。【復習：2時間】　ゼミでの質疑応答やフィードバックを真摯に受け止め、自身の思考の偏りや知識の不足を補完するための自主学習を行います。特に、統計手法や専門用語の内容を深く掘り下げて整理し、論理を明確にするなど、論文執筆に必要な基礎知

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度 50%、課題・発表 50%卒業研究を履修しない場合、ゼミ論文の提出が必須となります。

＜教科書＞

＜参考書＞

福永哲夫，山本正嘉(2018/10/23)　体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方　市村出版
山下秋二，佐藤進，出村慎一(2014/2/10)　健康・スポーツ科学のための調査研究法　杏林書院

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方、年間スケジュールの確認と目標設定
2	研究構想の再構築	3年次の計画を最新の先行研究と照らし合わせ、問いを洗練させる
3	先行研究の精査(1)	関連文献の追加検索と、理論的枠組みの再検討
4	先行研究の精査(2)	文献レビューの執筆開始（「はじめに」の構成案作成）
5	調査・実験計画の確定	使用尺度、対象者、実施時期、倫理的配慮の最終確認
6	研究手法の検討(1)	定量的アプローチ（アンケート、実験）の基礎
7	研究手法の検討(2)	定性的アプローチ（インタビュー、観察）の基礎
8	予備調査・実験	少人数でのプレテスト実施
9	倫理教育と手続き	研究倫理の理解と、必要な調査依頼書作成
10	進捗報告会(1)	調査・実験準備状況のプレゼンと、ゼミ生間でのリスクチェック
11	データ収集の開始	実際のフィールド調査、実験、アンケート配布の開始

12	個別指導	収集過程でのトラブル対応や、手法の微調整
13	進捗報告会(2)	質疑応答を通じた論理の整合性確認（ピア・レビュー）
14	前期の振り返り	収集状況の点検と、夏休み中のデータ整理計画の策定
15	夏休み活動報告	収集データの共有と、分析方針の最終決定
16	データ分析の実践(1)	量的調査：統計解析（有意差の検定、相関分析等）の実装
17	データ分析の実践(2)	質的調査：コード化、カテゴリー化による構造分析
18	分析結果の可視化	図表の作成と、結果の客観的記述
19	中間発表(1)	中間発表会に向けたプレゼン資料作成
20	中間発表(2)	中間発表会を実施し、ディスカッションを行う
21	考察の執筆(1)	先行研究との比較による、自研究の意義の明確化
22	考察の執筆(2)	研究の限界と今後の課題、結論のまとめ方
23	執筆指導（全体推敲）	引用文献リストの不備チェック、表現の学術的適正化
24	ピア・レビュー	学生同士による原稿の相互添削と意見交換
25	論文提出準備	抄録（要旨）の作成と、形式・体裁の最終確認
26	プレゼン演習	研究発表会に向けたスライド構成と発表原稿作成
27	ゼミ論文発表会	1年間の成果発表と全体討議
28	論文の最終提出	リフレクション（振り返り）と総括
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	後藤　由佳		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅡでは、「こどもと造形表現」を全体テーマとして設定し、保育内容の中心である「遊び」を豊かに展開するための造形表現について研究する。子どもの表現活動への理解を深めるとともに、多様な文化的背景をもつ子育て家庭への支援や保育について学ぶ。また、留学生との交流活動を通して、多文化共生の視点から、国籍や文化の違いを尊重する保育の在り方について考察する。全体テーマに関わる各自のテーマを決めて、ゼミ研究に取り組む。

＜授業の到達目標＞
準備学習(予習・復習)の確認においてはデジタル(Classroom)活用する。制作や鑑賞活動を軸として、造形表現に関する専門知識と技術を身に付けるとともに、　留学生との交流活動を通して国籍や文化の違いを認め、互いを尊重する心を身に付ける。これまでの保育・幼児教育に関する学びを踏まえ、各学生が探究したいテーマに基づくゼミ論文あるいは制作(要解説書)を完成できるようになる。

＜授業の方法＞
準備学習(予習・復習)の確認においてはデジタル(Classroom)活用する。アクティブ・ラーニングの要素(ディスカッション、グループワーク等)を取り入れ、共通の「こどもと造形表現」に関する文献研究を行い、個別テーマを探求し、その進捗状況を毎回のゼミで確認する。それに基づき、次時の課題を提示する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素(ディスカッション、グループワーク等)を取り入れ、研究や制作方法などゼミ単位で共通なものはグループ指導を展開する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業時間外で、授業に必要な資料や教材、用具を準備する。個別テーマの進捗状況は毎回確認するので、予習(進捗状況の発表準備1時間程度)と復習(実際の研究の進行２時間程度)が必要となる。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
演習への取組み姿勢と受講態度、受講意欲 50%、論文・制作物 50%、なおグループ内の相互評価を採りいれ、発表や評価、改善点も学生グループで探求する。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミの目的・進め方、到達目標と注意事項、成績評価と単位認定方法について理解する。
2	ゼミ研究・制作の概要(１)	テーマの確認とゼミナール研究の進め方、先行研究として過去の本学卒業生の代表的な研究の概観
3	ゼミ研究・制作の概要(２)	先行研究として過去の本学卒業生の代表的な論文や作品事例を検討し、ゼミ研究の課題を探る。
4	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(１)	自己の興味ある分野と担当教員の専門性を考慮し、ゼミ論文・制作の方向性を構想
5	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(２)	文献検索法、先行研究の論文・作品集などを量的に取集
6	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(３)	先行研究の論文・作品集などを質的に分析（目的・方法・内容・結果の吟味)
7	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(４)	各学生が構想するテーマに沿った先行研究・制作を一つ選び目的、方法、内容、結果を分析しゼミ内発表
8	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(５)	地域の美術館等でのフィールドワークを通して、子どもの感性を育む造形表現について学ぶ。
9	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(６)	ゼミ論文・制作のテーマを検討・決定、研究目的と研究対象の吟味
10	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(７)	研究活動スケジュールの確定、研究計画の作成、該当する研究領域の研究倫理規程を確認
11	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(８)	研究計画に沿った研究活動の展開

12	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(９)	指導教員との打ち合わせによる研究計画に沿った研究活動の吟味
13	前期まとめと作品鑑賞	指導教員との打ち合わせによる研究計画に沿った研究活動の修正(夏季休業中の研究計画の決定)
14	前期総括	前期の論文・制作活動の中間まとめ発表をする。ゼミ内でを共有するとともに振り返りを行う。
15	オリエンテーション(後期)	ゼミの目的・進め方、到達目標と注意事項、成績評価と単位認定方法について再確認する。
16	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(１０)	研究テーマと副題の決定（変更可能性あり）
17	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(１１)	研究テーマ設定の動機、理由、意義
18	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(１２)	先行研究のレビューとゼミ研究目的の執筆
19	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(１３)	ゼミ研究の方法の振り返りと整理
20	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(１４)	調査研究・文献研究のプロセスを確認
21	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(１５)	地域の美術館等でのフィールドワークを通して、子どもの感性を育む造形表現について学ぶ。
22	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(１６)	研究結果の全体像を概観、研究結果を分析的に吟味
23	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(１７)	結果の事実から論証できる考察を執筆
24	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(１８)	結果の事実から論証できる考察の確認
25	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(１９)	結果と考察の修正
26	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(２０)	論文全体の結論まとめ
27	一年間のまとめ	結論に基づく問題所在・仮説の再吟味、論文全体の確認修正
28	全体総括	ゼミ論文・ゼミ制作の提出書類の最終チェック、全体発表会の準備
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	大野呂　浩志		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
３年次には，特別支援教育やインクルーシブ教育の観点から，特別な教育的ニーズのある児童生徒への指導・支援や，特別な教育的ニーズのある児童生徒とない児童生徒の双方を含んだ学級全体の指導・支援について，先行研究や関連する文献を渉猟した。本ゼミナールでは、３年次に培われた基礎的知識を礎に、次世代の特別な教育的ニーズへの対応について，制度・施策や教育内容・方法等の観点から整理し，展望できる資料をまとめる。

＜授業の到達目標＞
（１）文献の内容を精確に読解できる。（２）他者の意見を十全に理解することができる。（３）自身の理解したことを他者にわかりやすく伝えることができる。　（４）特別な教育的ニーズに関する広い知見を用いて現実的問題を整理し，次世代を展望しようとする態度を養うことができる。

＜授業の方法＞
自分の設定したテーマに関連する文献の講読を基調とする。講読した文献から得られた知見を資料としてまとめ，そのレジュメに基づいた自らの論文に関する議論を行うことで、論理的思考の深化・統合を図る。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
・課題解決型授業／グループディスカッション／ピアサポートラーニング／グループワーク／プレゼンテーション

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習：毎回，自らの論文に関連するあらたな文献を講読し，得られた知見を論文に反映させ，全体としてどのような知見が得られたことになるか，今後の課題について，報告できるようにレジメに整理する（事前事後ともに２−３時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
議論への積極的な参加等の授業内評価 50%、レポート 50%。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダクション	３年次までの取り組みを振り返り，子どもの特別な教育的ニーズについて知見を整理する。さらに各自が整理した知見を元に，将来的に特別教育的ニーズに対応するために「何が必要か」「何ができるか」等の具体的な解決策を提案できる論文の構想を考える。
2	論文構成	将来，特別教育的ニーズに対応に関する各自の論文構成について発表し，論理性の観点から議論する。
3	文献抄読１	知的障害に関する特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
4	文献抄読２	小学生の知的障害に関する特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
5	文献抄読３	小学校における発達障害に関する特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
6	文献抄読４	中学校・高等学校における知的障害に関する特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
7	文献抄読５	中学校・高等学校における発達障害に関する特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
8	文献抄読６	保育園・幼稚園・小学校の肢体不自由に関する特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
9	文献抄読７	中学校・高等学校における肢体不自由に関する特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
10	文献抄読８	中学校・高等学校における肢体不自由に関する特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
11	文献抄読９	乳幼児の病弱に関する特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議

		論を行う
12	文献抄読10	小学校における病弱に関する特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
13	文献抄読１１	中学校・高等学校における病弱に関する特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
14	論文の中間発表	各自の論文の中間発表を行う
15	イントロダクション②	各自の論文中間発表における課題と今後の論文作成に関する展望の発表
16	文献抄読１２	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する①
17	文献抄読１３	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する②
18	文献抄読１４	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する③
19	文献抄読１５	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する④
20	文献抄読１６	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑤
21	文献抄読１７	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑥
22	文献抄読１８	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑦
23	文献抄読１９	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑧
24	文献抄読２０	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑨
25	文献抄読２１	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑩
26	文献抄読２２	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑪
27	論文（ゼミ内）検討会	作成した論文について，レジメにまとめ，設定された時間内に発表し，内容や発表の仕方について議論する。
28	論文発表会	論文発表を行う
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	保科　圭汰		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

＜授業の到達目標＞
本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

＜授業の方法＞
課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素　有3、4人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめ、グループごとに発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
取り組み姿勢と受講態度・意欲 30%、課題達成度 70%

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(1)	身体組成の測定
3	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(2)	身体組成の測定
4	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(3)	エネルギー消費量の測定
5	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(4)	エネルギー消費量の測定
6	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(5)	栄養調査の方法
7	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(6)	栄養調査の実践
8	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(7)	栄養調査の実践
9	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(8)	栄養調査の実践発表
10	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(9)	献立の作成
11	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(10)	献立の作成

12	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価（11）	調理実習
13	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価（12）	調理実習
14	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価（13）	献立作成・調理実習のまとめ
15	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(1)	文献の探し方・読み方
16	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(2)	論文抄読（1）
17	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(3)	論文抄読（2）
18	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(4)	論文抄読（3）
19	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(5)	論文抄読（4）
20	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(6)	文献研究のまとめ（1）
21	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(7)	文献研究のまとめ（2）
22	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査（１）	研究計画の作成（1）
23	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査（2）	研究計画の作成（2）
24	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査（3）	研究計画の発表
25	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査（4）	研究計画の考察
26	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査（5）	実験・測定・調査の実施
27	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査（6）	実験・測定・調査のデータ分析および発表
28	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査（7）	実験・測定・調査のデータ分析および発表
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	江波戸　智希		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。

＜授業の到達目標＞
本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

＜授業の方法＞
課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィールドワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有基本的に自身で調べてプレゼンテーションを用意し、ゼミ内で発表し、ディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備及び振り返りをする（3時間）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業への取組(グループへの貢献度含む)50%、課題 50%なお、ゼミ論文を提出することを必須とする。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方　目標設定
2	研究計画作成	仮説　背景
3	研究計画作成	目的　方法
4	進捗発表会①	研究テーマ発表　ディスカッション
5	進捗発表会②	研究テーマ発表　ディスカッション
6	進捗発表会③	研究テーマ発表　ディスカッション
7	予備実験①	データの採取、解析
8	予備実験②	データの採取、解析
9	予備実験③	データの採取、解析
10	予備実験　発表会①	予備実験データ発表　ディスカッション
11	予備実験　発表会②	予備実験データ発表　ディスカッション
12	予備実験　発表会③	予備実験データ発表　ディスカッション
13	予備実験　発表会④	予備実験データ発表　ディスカッション
14	後期研究に向けて計画	予備実験を参考に背景、目的、方法を再度作成
15	前期まとめ	前期まとめと後期向けての課題
16	卒業研究①　ゼミ論	本実験
17	卒業研究②　ゼミ論	本実験
18	卒業研究③　ゼミ論	本実験
19	卒業研究④　ゼミ論	本実験
20	卒業研究⑤　ゼミ論	本実験
21	卒業研究⑥　ゼミ論	進捗発表　ディスカッション
22	卒業研究⑦　ゼミ論	進捗発表　ディスカッション
23	卒業研究⑧　ゼミ論	進捗発表　ディスカッション

24	卒業研究⑨　ゼミ論	卒業論文の書き方
25	卒業研究⑩　ゼミ論	抄録の書き方
26	卒業研究⑪　ゼミ論	論文作成
27	卒業研究⑫　ゼミ論	論文作成
28	ゼミ内研究発表会　ゼミ論	統括
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	秦　啓一郎			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、ゼミナールⅠに引き続き、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、ゼミナールⅠで発見した課題・問題の課題解決を図っていくことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心に展開する。2つ名は、社会人に求められる教養と実践力を養成し、現代の課題・問題を自ら解決する内容である。

＜授業の到達目標＞
本科目はゼミナールⅠに引き続き、社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な専門的知識を活用できるようになる。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題・問題を自ら解決できる力を身につける。

＜授業の方法＞
課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに実践力養成に向けた講座を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有り各回のグループでディスカッションを行い、共同で課題を作成する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
・各回の授業との関連文献の渉猟（30分）・データの解析と意味の解釈（60分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる）およびディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる）と関連付けられる。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
体育・スポーツ科学に関する調査・研究の課題発表 50%、実践力養成を目指したキャリア教育にかかわる課題 50%。ただし、ゼミナール課題の提出を単位認定の必須条件とする。

＜教科書＞
なし

＜参考書＞
なし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(1)	実践力養成に向けた講座(1)
2	研究課題の検討	これまでの自身の経験知より、疑問に感じていることを明確にし、研究課題に昇華できないか検討していく。
3	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(2)	実践力養成に向けた講座(2)
4	研究課題の決定	研究課題を決定する。
5	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(3)	実践力養成に向けた講座(3)
6	文献調査	自身の研究に関連する文献を収集し、精読する。
7	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(4)	実践力養成に向けた講座(4)
8	研究計画の立案	研究課題を解明するために適切な研究計画を立案する。
9	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(5)	実践力養成に向けた講座(5)
10	予備実験Ⅰ	研究計画に記載した方法が適切であるか、予備実験を実施する。
11	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(6)	実践力養成に向けた講座(6)
12	予備実験データの分析	算出予定のデータが正しく得られるか、予備実験で取得したデータを分析する。
13	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(7)	実践力養成に向けた講座(7)

14	本実験Ⅰ	本実験の実施。本実験がない受講生は、検者として参加する。
15	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(8)	実践力養成に向けた講座(8)
16	本実験Ⅱ	本実験の実施。本実験がない受講生は、検者として参加する。
17	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(9)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(1)
18	データ分析	本実験で取得したデータを分析する。
19	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(10)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(2)
20	データ分析結果の検討	本実験で取得したデータの分析結果をグループディスカッションする。
21	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(11)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(3)
22	統計分析	得られた結果を統計学的に分析する。
23	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(12)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(4)
24	結果の考察	得られたデータの意味するものをグループディスカッションによって考察していく。
25	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(13)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(5)
26	プレゼンテーション準備	研究成果報告会用にプレゼンテーション資料を作成する。
27	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(14)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(6)
28	研究成果報告会・全体のまとめ	全体のまとめとして研究成果をプレゼンテーションする。
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	片桐　夏海		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、ゼミナールⅠに引き続き、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、ゼミナールⅠで発見した課題・問題の課題解決を図っていくことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心に展開する。2つ目は、社会人に求められる教養と実践力を養成し、現代の課題・問題を自ら解決する内容である。

＜授業の到達目標＞
本科目はゼミナールⅠに引き続き、社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な専門的知識を活用できるようになる。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題・問題を自ら解決できる力を身につける。

＜授業の方法＞
課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに実践力養成に向けた講座を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
本科目は、課題発見・問題解決学習を中心に、グループワークや課題発表を通じて学生が主体的に学ぶ構成となっている。資料作成や実践的な講座も取り入れられ、自ら考え、発信し、他者と協働する活動が促されており、アクティブラーニングの要素が明確に含まれている。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
当該科目の学習にあたり、体育・スポーツ科学の専門的知識を獲得及び活用に必要な調査・研究時間（4時間）。実践力養成に必要な自主学習（7時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
取り組みの姿勢と受講態度・意欲40%、最終課題60%

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	研究課題の設定①	研究課題の確認及び研究方法の検討
3	研究課題の設定②	研究課題の確認及び研究方法の検討
4	研究課題の設定③	研究課題の確認及び研究方法の検討
5	研究計画書の作成①	研究計画書のまとめと発表
6	研究計画書の作成②	研究計画書のまとめと発表
7	課題研究の遂行①	課題研究の遂行と進捗状況報告。全体討議と個別指導。
8	課題研究の遂行②	課題研究の遂行と進捗状況報告。全体討議と個別指導。
9	課題研究の遂行③	課題研究の遂行と進捗状況報告。全体討議と個別指導。
10	課題研究の遂行④	課題研究の遂行と進捗状況報告。全体討議と個別指導。
11	課題研究の遂行⑤	課題研究の遂行と進捗状況報告。全体討議と個別指導。
12	課題研究の遂行⑥	課題研究の遂行と進捗状況報告。全体討議と個別指導。
13	課題研究の遂行⑦	課題研究の遂行と進捗状況報告。全体討議と個別指導。
14	中間報告①	進捗状況の報告及び論文執筆に向けた課題整理
15	中間報告②	進捗状況の報告及び論文執筆に向けた課題整理
16	論文の作成①	研究背景・研究目的・研究方法の整理
17	論文の作成②	研究背景・研究目的・研究方法の整理
18	論文の作成③	論文の執筆と進捗状況の報告
19	論文の作成④	論文の執筆と進捗状況の報告
20	論文の作成⑤	論文の執筆と進捗状況の報告

21	論文作成の個別指導①	論文の構成・内容についての指導
22	論文作成の個別指導②	論文の構成・内容についての指導
23	論文作成の個別指導③	論文の構成・内容についての指導
24	論文作成の個別指導④	論文の構成・内容についての指導
25	研究成果の報告①	研究成果の発表と討議
26	研究成果の報告②	研究成果の発表と討議
27	全体のまとめ①	課題発表
28	全体のまとめ②	総括
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	高橋　章二		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本科目の目的は教育経営学科で学ぶ者の意識を啓発し、ゼミナールⅠに引き続き、初等教育及び特別支援教育の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、ゼミナールⅠで発見した課題・問題の課題解決を図っていくことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、現代の教育の現状をもとにした課題発見・問題解決学習を中心に展開する。2つ目は、社会人に求められる教養と実践力を養成し、現代の課題・問題を自ら解決する内容である。

＜授業の到達目標＞
本科目はゼミナールⅠに引き続き、社会人に求められる知識、技能、能力や態度を身に付けることができることを目指します。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を身に付けることができる。２．教育課題に関する調査・研究を通して、初等教育の専門家として必要な専門的知識を活用できるようになる。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題・問題を自ら解決できる力を身につけることができる。

＜授業の方法＞
課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに実践力養成に向けた講座を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
各卒論テーマに基づく研究の進捗状況を毎時間発表し、でてきた課題についてゼミ参加者全員で協議、議論を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
当該科目の学習にあたり、初等教育、特別支援教育に関する専門的知識を獲得及び活用に必要な調査・研究時間（4時間）。実践力養成に必要な自主学習（４時間）を必ず行ってください。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー３（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
取り組みの姿勢と受講態度・意欲40%、最終課題60%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ゼミ活動について	ゼミナールの目的と進め方
2	研究課題の設定①	研究課題の確認及び研究方法の検討
3	研究課題の設定②	研究課題の確認及び研究方法の検討
4	研究課題に関連する文献講読①	特別支援学校の授業づくりに関する文献を購読し、全体で協議をしながら授業づくりにおける課題等について議論を深める
5	研究課題に関連する文献講読②	特別支援学校の授業づくりに関する文献を購読し、全体で協議をしながら授業づくりにおける課題等について議論を深める
6	研究課題に関連する文献講読③	特別支援学校の授業づくりに関する文献を購読し、全体で協議をしながら授業づくりにおける課題等について議論を深める
7	研究課題に関連する文献講読④	特別支援学校の授業づくりに関する文献を購読し、全体で協議をしながら授業づくりにおける課題等について議論を深める
8	研究課題に関連する文献講読⑤	特別支援学校の授業づくりに関する文献を購読し、全体で協議をしながら授業づくりにおける課題等について議論を深める
9	課題研究の遂行①	課題研究の遂行と進捗状況報告。全体討議と個別指導。
10	課題研究の遂行②	課題研究の遂行と進捗状況報告。全体討議と個別指導。
11	課題研究の遂行③	課題研究の遂行と進捗状況報告。全体討議と個別指導。
12	課題研究の遂行④	課題研究の遂行と進捗状況報告。全体討議と個別指導。
13	課題研究の遂行⑤	課題研究の遂行と進捗状況報告。全体討議と個別指導。
14	課題研究の遂行⑥	課題研究の遂行と進捗状況報告。全体討議と個別指導。
15	課題研究の遂行と報告①	各自の研究課題解決の進捗状況について報告をし、他の学生からの意見をもらいながら内容の精査及び深化を図る。
16	課題研究の遂行と報告②	各自の研究課題解決の進捗状況について報告をし、他の学生からの意見をもらいながら内容の精査及び深化を図る。

17	課題研究の遂行と報告③	各自の研究課題解決の進捗状況について報告をし、他の学生からの意見をもらいながら内容の精査及び深化を図る。
18	課題研究の遂行と報告④	各自の研究課題解決の進捗状況について報告をし、他の学生からの意見をもらいながら内容の精査及び深化を図る。
19	課題研究の遂行と報告⑤	各自の研究課題解決の進捗状況について報告をし、他の学生からの意見をもらいながら内容の精査及び深化を図る。
20	課題研究のまとめ①	論文執筆の基礎　論文構成の仕方
21	課題研究のまとめ②	論文執筆の基礎　論文の書き方
22	課題研究のまとめ③	進めてきた課題研究を論文としてまとめていく。また、個々の進捗状況を報告するとともに、まとめていく上での困難さ等について適宜アドバイスを行っていく。
23	課題研究のまとめ④	進めてきた課題研究を論文としてまとめていく。また、個々の進捗状況を報告するとともに、まとめていく上での困難さ等について適宜アドバイスを行っていく。
24	課題研究のまとめ⑤	進めてきた課題研究を論文としてまとめていく。また、個々の進捗状況を報告するとともに、まとめていく上での困難さ等について適宜アドバイスを行っていく。
25	課題研究のまとめ⑥	進めてきた課題研究を論文としてまとめていく。また、個々の進捗状況を報告するとともに、まとめていく上での困難さ等について適宜アドバイスを行っていく。
26	研究課題の深化①	研究の結果の発表及び研究成果を今後どのように生かすのかの検討を行う。
27	研究課題の深化②	研究の結果の発表及び研究成果を今後どのように生かすのかの検討を行う。
28	２年間のまとめ	ゼミナールⅠ・Ⅱのまとめ・総括を行う。
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	佐藤　典子			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠで取り組んだテーマや活動を土台として、その内容をさらに発展させ、成果として形にしていく。また、発表や対外的な発信を通して、社会とのつながりを意識した活動を行う。学生が主体的に活動を継続し、自らの専門とキャリアとの関係を考えながら、より高い水準での成果を目指す。

＜授業の到達目標＞
・ゼミナールⅠで設定したテーマについて検討を深め、その成果を論文・報告書・成果物等としてまとめ、発表することができる。・中長期的な視点から自らの将来像を描きつつ、卒業後を見据えた方向を具体化し、その実現に向けた準備や行動を主体的に進めることができる。

＜授業の方法＞
本授業は100分×クオーター制（全28回）で実施する。ゼミナールⅠでの活動を踏まえ、テーマおよび活動を継続しながら、その成果を発展・深化させていく。【第1クオーター（1～7回）】再設計・実行（見直して動く）・これまでの取り組みを振り返り、テーマや活動の方向性を見直すとともに、必要な修正を行ったうえで、直ちに活動を再開する。・成果の水準を意識しながら、今後の進め方やスケジュールを整理し、より具体的な形で活動を進めていく。【第2クオーター(8～14回)】継続実行(進めながら整える)・テーマについての検討や作業

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各回の活動に向けて、必要な調査・整理・検討等を主体的に行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと。何をどの程度準備すべきかについても自ら判断し、活動の目的や進行に応じて適切に対応することが求められる。また、ゼミ活動においては、全体の方針や役割分担に基づき、各自が責任をもって必要な準備や調整を行うとともに、その成果を持ち寄って議論・検討を行うこと。継続的な実行と改善を通して、活動の完成度を高めていくことが求められる。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・演習への積極的な参加 … 30%・進捗報告 … 30%・発表会・報告書 … 40%課題提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

＜教科書＞
初回授業で決定する

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	小堀　浩志		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠで取り組んだテーマや活動を土台として、その内容をさらに発展させ、成果として形にしていく。また、発表や対外的な発信を通して、社会とのつながりを意識した活動を行う。学生が主体的に活動を継続し、自らの専門とキャリアとの関係を考えながら、より高い水準での成果を目指す。

＜授業の到達目標＞
・ゼミナールⅠで設定したテーマについて検討を深め、その成果を論文・報告書・成果物等としてまとめ、発表することができる。・中長期的な視点から自らの将来像を描きつつ、卒業後を見据えた方向を具体化し、その実現に向けた準備や行動を主体的に進めることができる。

＜授業の方法＞
本授業は100分×クオーター制（全28回）で実施する。ゼミナールⅠでの活動を踏まえ、テーマおよび活動を継続しながら、その成果を発展・深化させていく。【第1クオーター（1～7回）】再設計・実行（見直して動く）・これまでの取り組みを振り返り、テーマや活動の方向性を見直すとともに、必要な修正を行ったうえで、直ちに活動を再開する。・成果の水準を意識しながら、今後の進め方やスケジュールを整理し、より具体的な形で活動を進めていく。【第2クオーター(8～14回)】継続実行(進めながら整える)・テーマについての検討や作業

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各回の活動に向けて、必要な調査・整理・検討等を主体的に行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと。何をどの程度準備すべきかについても自ら判断し、活動の目的や進行に応じて適切に対応することが求められる。また、ゼミ活動においては、全体の方針や役割分担に基づき、各自が責任をもって必要な準備や調整を行うとともに、その成果を持ち寄って議論・検討を行うこと。継続的な実行と改善を通して、活動の完成度を高めていくことが求められる。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・演習への積極的な参加 … 30%・進捗報告 … 30%・発表会・報告書 … 40%課題提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

＜教科書＞
初回授業で決定する

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	山本　満理子		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠで取り組んだテーマや活動を土台として、その内容をさらに発展させ、成果として形にしていく。また、発表や対外的な発信を通して、社会とのつながりを意識した活動を行う。学生が主体的に活動を継続し、自らの専門とキャリアとの関係を考えながら、より高い水準での成果を目指す。

＜授業の到達目標＞
・ゼミナールⅠで設定したテーマについて検討を深め、その成果を論文・報告書・成果物等としてまとめ、発表することができる。・中長期的な視点から自らの将来像を描きつつ、卒業後を見据えた方向を具体化し、その実現に向けた準備や行動を主体的に進めることができる。

＜授業の方法＞
本授業は100分×クオーター制（全28回）で実施する。ゼミナールⅠでの活動を踏まえ、テーマおよび活動を継続しながら、その成果を発展・深化させていく。【第1クオーター（1～7回）】再設計・実行（見直して動く）・これまでの取り組みを振り返り、テーマや活動の方向性を見直すとともに、必要な修正を行ったうえで、直ちに活動を再開する。・成果の水準を意識しながら、今後の進め方やスケジュールを整理し、より具体的な形で活動を進めていく。【第2クオーター(8～14回)】継続実行(進めながら整える)・テーマについての検討や作業

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各回の活動に向けて、必要な調査・整理・検討等を主体的に行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと。何をどの程度準備すべきかについても自ら判断し、活動の目的や進行に応じて適切に対応することが求められる。また、ゼミ活動においては、全体の方針や役割分担に基づき、各自が責任をもって必要な準備や調整を行うとともに、その成果を持ち寄って議論・検討を行うこと。継続的な実行と改善を通して、活動の完成度を高めていくことが求められる。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・演習への積極的な参加 … 30%・進捗報告 … 30%・発表会・報告書 … 40%課題提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

＜教科書＞
初回授業で決定する

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	宇都宮　浩司		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠで取り組んだテーマや活動を土台として、その内容をさらに発展させ、成果として形にしていく。また、発表や対外的な発信を通して、社会とのつながりを意識した活動を行う。学生が主体的に活動を継続し、自らの専門とキャリアとの関係を考えながら、より高い水準での成果を目指す。

＜授業の到達目標＞
・ゼミナールⅠで設定したテーマについて検討を深め、その成果を論文・報告書・成果物等としてまとめ、発表することができる。・中長期的な視点から自らの将来像を描きつつ、卒業後を見据えた方向を具体化し、その実現に向けた準備や行動を主体的に進めることができる。

＜授業の方法＞
本授業は100分×クオーター制（全28回）で実施する。ゼミナールⅠでの活動を踏まえ、テーマおよび活動を継続しながら、その成果を発展・深化させていく。【第1クオーター（1～7回）】再設計・実行（見直して動く）・これまでの取り組みを振り返り、テーマや活動の方向性を見直すとともに、必要な修正を行ったうえで、直ちに活動を再開する。・成果の水準を意識しながら、今後の進め方やスケジュールを整理し、より具体的な形で活動を進めていく。【第2クオーター(8～14回)】継続実行(進めながら整える)・テーマについての検討や作業

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各回の活動に向けて、必要な調査・整理・検討等を主体的に行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと。何をどの程度準備すべきかについても自ら判断し、活動の目的や進行に応じて適切に対応することが求められる。また、ゼミ活動においては、全体の方針や役割分担に基づき、各自が責任をもって必要な準備や調整を行うとともに、その成果を持ち寄って議論・検討を行うこと。継続的な実行と改善を通して、活動の完成度を高めていくことが求められる。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・演習への積極的な参加 … 30%・進捗報告 … 30%・発表会・報告書 … 40%課題提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

＜教科書＞
初回授業で決定する

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	歌代　哲也			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠで取り組んだテーマや活動を土台として、その内容をさらに発展させ、成果として形にしていく。また、発表や対外的な発信を通して、社会とのつながりを意識した活動を行う。学生が主体的に活動を継続し、自らの専門とキャリアとの関係を考えながら、より高い水準での成果を目指す。

＜授業の到達目標＞
・ゼミナールⅠで設定したテーマについて検討を深め、その成果を論文・報告書・成果物等としてまとめ、発表することができる。・中長期的な視点から自らの将来像を描きつつ、卒業後を見据えた方向を具体化し、その実現に向けた準備や行動を主体的に進めることができる。

＜授業の方法＞
本授業は100分×クオーター制（全28回）で実施する。ゼミナールⅠでの活動を踏まえ、テーマおよび活動を継続しながら、その成果を発展・深化させていく。【第1クオーター（1～7回）】再設計・実行（見直して動く）・これまでの取り組みを振り返り、テーマや活動の方向性を見直すとともに、必要な修正を行ったうえで、直ちに活動を再開する。・成果の水準を意識しながら、今後の進め方やスケジュールを整理し、より具体的な形で活動を進めていく。【第2クオーター(8～14回)】継続実行(進めながら整える)・テーマについての検討や作業

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各回の活動に向けて、必要な調査・整理・検討等を主体的に行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと（事前学習：60分程度）。何をどの程度準備すべきかについても自ら判断し、活動の目的や進行に応じて適切に対応することが求められる。また、ゼミ活動においては、全体の方針や役割分担に基づき、各自が責任をもって必要な準備や調整を行うとともに、その成果を持ち寄って議論・検討を行うこと。授業後は、議論内容を踏まえて追加の調査や資料の修正を行い、活動内容の改善を図ること（事後学習：60分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・演習への積極的な参加 … 30%・進捗報告 … 30%・発表会・報告書 … 40%課題提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

＜教科書＞
初回授業で決定する

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	三垣　雅美			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠで取り組んだテーマや活動を土台として、その内容をさらに発展させ、成果として形にしていく。また、発表や対外的な発信を通して、社会とのつながりを意識した活動を行う。学生が主体的に活動を継続し、自らの専門とキャリアとの関係を考えながら、より高い水準での成果を目指す。

＜授業の到達目標＞
・ゼミナールⅠで設定したテーマについて検討を深め、その成果を論文・報告書・成果物等としてまとめ、発表することができる。・中長期的な視点から自らの将来像を描きつつ、卒業後を見据えた方向を具体化し、その実現に向けた準備や行動を主体的に進めることができる。

＜授業の方法＞
本授業は100分×クオーター制（全28回）で実施する。ゼミナールⅠでの活動を踏まえ、テーマおよび活動を継続しながら、その成果を発展・深化させていく。【第1クオーター（1～7回）】再設計・実行（見直して動く）・これまでの取り組みを振り返り、テーマや活動の方向性を見直すとともに、必要な修正を行ったうえで、直ちに活動を再開する。・成果の水準を意識しながら、今後の進め方やスケジュールを整理し、より具体的な形で活動を進めていく。【第2クオーター(8～14回)】継続実行(進めながら整える)・テーマについての検討や作業

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各回の活動に向けて、必要な調査・整理・検討等を主体的に行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと。何をどの程度準備すべきかについても自ら判断し、活動の目的や進行に応じて適切に対応することが求められる。また、ゼミ活動においては、全体の方針や役割分担に基づき、各自が責任をもって必要な準備や調整を行うとともに、その成果を持ち寄って議論・検討を行うこと。継続的な実行と改善を通して、活動の完成度を高めていくことが求められる。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・演習への積極的な参加 … 30%・進捗報告 … 30%・発表会・報告書 … 40%課題提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

＜教科書＞
初回授業で決定する

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	小川　正人		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠで取り組んだテーマや活動を土台として、その内容をさらに発展させ、成果として形にしていく。また、発表や対外的な発信を通して、社会とのつながりを意識した活動を行う。学生が主体的に活動を継続し、自らの専門とキャリアとの関係を考えながら、より高い水準での成果を目指す。

＜授業の到達目標＞
・ゼミナールⅠで設定したテーマについて検討を深め、その成果を論文・報告書・成果物等としてまとめ、発表することができる。・中長期的な視点から自らの将来像を描きつつ、卒業後を見据えた方向を具体化し、その実現に向けた準備や行動を主体的に進めることができる。

＜授業の方法＞
本授業は100分×クオーター制（全28回）で実施する。ゼミナールⅠでの活動を踏まえ、テーマおよび活動を継続しながら、その成果を発展・深化させていく。【第1クオーター（1～7回）】再設計・実行（見直して動く）・これまでの取り組みを振り返り、テーマや活動の方向性を見直すとともに、必要な修正を行ったうえで、直ちに活動を再開する。・成果の水準を意識しながら、今後の進め方やスケジュールを整理し、より具体的な形で活動を進めていく。【第2クオーター(8～14回)】継続実行(進めながら整える)・テーマについての検討や作業

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各回の活動に向けて、必要な調査・整理・検討等を主体的に行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと。何をどの程度準備すべきかについても自ら判断し、活動の目的や進行に応じて適切に対応することが求められる。また、ゼミ活動においては、全体の方針や役割分担に基づき、各自が責任をもって必要な準備や調整を行うとともに、その成果を持ち寄って議論・検討を行うこと。継続的な実行と改善を通して、活動の完成度を高めていくことが求められる。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・演習への積極的な参加 … 30%・進捗報告 … 30%・発表会・報告書 … 40%課題提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

＜教科書＞
初回授業で決定する

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	扇野　睦巳		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠで取り組んだテーマや活動を土台として、その内容をさらに発展させ、成果として形にしていく。また、発表や対外的な発信を通して、社会とのつながりを意識した活動を行う。学生が主体的に活動を継続し、自らの専門とキャリアとの関係を考えながら、より高い水準での成果を目指す。

＜授業の到達目標＞
・ゼミナールⅠで設定したテーマについて検討を深め、その成果を論文・報告書・成果物等としてまとめ、発表することができる。・中長期的な視点から自らの将来像を描きつつ、卒業後を見据えた方向を具体化し、その実現に向けた準備や行動を主体的に進めることができる。

＜授業の方法＞
本授業は100分×クオーター制（全28回）で実施する。ゼミナールⅠでの活動を踏まえ、テーマおよび活動を継続しながら、その成果を発展・深化させていく。【第1クオーター（1～7回）】再設計・実行（見直して動く）・これまでの取り組みを振り返り、テーマや活動の方向性を見直すとともに、必要な修正を行ったうえで、直ちに活動を再開する。・成果の水準を意識しながら、今後の進め方やスケジュールを整理し、より具体的な形で活動を進めていく。【第2クオーター(8～14回)】継続実行(進めながら整える)・テーマについての検討や作業

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各回の活動に向けて、必要な調査・整理・検討等を主体的に行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと。何をどの程度準備すべきかについても自ら判断し、活動の目的や進行に応じて適切に対応することが求められる。また、ゼミ活動においては、全体の方針や役割分担に基づき、各自が責任をもって必要な準備や調整を行うとともに、その成果を持ち寄って議論・検討を行うこと。継続的な実行と改善を通して、活動の完成度を高めていくことが求められる。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・演習への積極的な参加 … 30%・進捗報告 … 30%・発表会・報告書 … 40%課題提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

＜教科書＞
初回授業で決定する

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	田口　雅弘			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠで取り組んだテーマや活動を土台として、その内容をさらに発展させ、成果として形にしていく。また、発表や対外的な発信を通して、社会とのつながりを意識した活動を行う。学生が主体的に活動を継続し、自らの専門とキャリアとの関係を考えながら、より高い水準での成果を目指す。

＜授業の到達目標＞
・ゼミナールⅠで設定したテーマについて検討を深め、その成果を論文・報告書・成果物等としてまとめ、発表することができる。・中長期的な視点から自らの将来像を描きつつ、卒業後を見据えた方向を具体化し、その実現に向けた準備や行動を主体的に進めることができる。

＜授業の方法＞
本授業は100分×クオーター制（全28回）で実施する。ゼミナールⅠでの活動を踏まえ、テーマおよび活動を継続しながら、その成果を発展・深化させていく。【第1クオーター（1～7回）】再設計・実行（見直して動く）・これまでの取り組みを振り返り、テーマや活動の方向性を見直すとともに、必要な修正を行ったうえで、直ちに活動を再開する。・成果の水準を意識しながら、今後の進め方やスケジュールを整理し、より具体的な形で活動を進めていく。【第2クオーター(8～14回)】継続実行(進めながら整える)・テーマについての検討や作業

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各回の活動に向けて、必要な調査・整理・検討等を主体的に行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと。何をどの程度準備すべきかについても自ら判断し、活動の目的や進行に応じて適切に対応することが求められる。また、ゼミ活動においては、全体の方針や役割分担に基づき、各自が責任をもって必要な準備や調整を行うとともに、その成果を持ち寄って議論・検討を行うこと。継続的な実行と改善を通して、活動の完成度を高めていくことが求められる。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・演習への積極的な参加 … 30%・進捗報告 … 30%・発表会・報告書 … 40%課題提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

＜教科書＞
初回授業で決定する

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	鈴木　真理子		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠで取り組んだテーマや活動を土台として、その内容をさらに発展させ、成果として形にしていく。また、発表や対外的な発信を通して、社会とのつながりを意識した活動を行う。学生が主体的に活動を継続し、自らの専門とキャリアとの関係を考えながら、より高い水準での成果を目指す。

＜授業の到達目標＞
・ゼミナールⅠで設定したテーマについて検討を深め、その成果を論文・報告書・成果物等としてまとめ、発表することができる。・中長期的な視点から自らの将来像を描きつつ、卒業後を見据えた方向を具体化し、その実現に向けた準備や行動を主体的に進めることができる。

＜授業の方法＞
本授業は100分×クオーター制（全28回）で実施する。ゼミナールⅠでの活動を踏まえ、テーマおよび活動を継続しながら、その成果を発展・深化させていく。【第1クオーター（1～7回）】再設計・実行（見直して動く）・これまでの取り組みを振り返り、テーマや活動の方向性を見直すとともに、必要な修正を行ったうえで、直ちに活動を再開する。・成果の水準を意識しながら、今後の進め方やスケジュールを整理し、より具体的な形で活動を進めていく。【第2クオーター(8～14回)】継続実行(進めながら整える)・テーマについての検討や作業

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各回の活動に向けて、必要な調査・整理・検討等を主体的に行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと。何をどの程度準備すべきかについても自ら判断し、活動の目的や進行に応じて適切に対応することが求められる。また、ゼミ活動においては、全体の方針や役割分担に基づき、各自が責任をもって必要な準備や調整を行うとともに、その成果を持ち寄って議論・検討を行うこと。継続的な実行と改善を通して、活動の完成度を高めていくことが求められる。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・演習への積極的な参加 … 30%・進捗報告 … 30%・発表会・報告書 … 40%課題提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

＜教科書＞
初回授業で決定する

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	大池　淳一			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠで取り組んだテーマや活動を土台として、その内容をさらに発展させ、成果として形にしていく。また、発表や対外的な発信を通して、社会とのつながりを意識した活動を行う。学生が主体的に活動を継続し、自らの専門とキャリアとの関係を考えながら、より高い水準での成果を目指す。

＜授業の到達目標＞
・ゼミナールⅠで設定したテーマについて検討を深め、その成果を論文・報告書・成果物等としてまとめ、発表することができる。・中長期的な視点から自らの将来像を描きつつ、卒業後を見据えた方向を具体化し、その実現に向けた準備や行動を主体的に進めることができる。

＜授業の方法＞
本授業は100分×クオーター制（全28回）で実施する。ゼミナールⅠでの活動を踏まえ、テーマおよび活動を継続しながら、その成果を発展・深化させていく。【第1クオーター（1～7回）】再設計・実行（見直して動く）・これまでの取り組みを振り返り、テーマや活動の方向性を見直すとともに、必要な修正を行ったうえで、直ちに活動を再開する。・成果の水準を意識しながら、今後の進め方やスケジュールを整理し、より具体的な形で活動を進めていく。【第2クオーター(8～14回)】継続実行(進めながら整える)・テーマについての検討や作業

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各回の活動に向けて、必要な調査・整理・検討等を主体的に行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと。何をどの程度準備すべきかについても自ら判断し、活動の目的や進行に応じて適切に対応することが求められる。また、ゼミ活動においては、全体の方針や役割分担に基づき、各自が責任をもって必要な準備や調整を行うとともに、その成果を持ち寄って議論・検討を行うこと。継続的な実行と改善を通して、活動の完成度を高めていくことが求められる。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・演習への積極的な参加 … 30%・進捗報告 … 30%・発表会・報告書 … 40%課題提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

＜教科書＞
初回授業で決定する

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	SACKO　Salif			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠで取り組んだテーマや活動を土台として、その内容をさらに発展させ、成果として形にしていく。また、発表や対外的な発信を通して、社会とのつながりを意識した活動を行う。学生が主体的に活動を継続し、自らの専門とキャリアとの関係を考えながら、より高い水準での成果を目指す。

＜授業の到達目標＞
・ゼミナールⅠで設定したテーマについて検討を深め、その成果を論文・報告書・成果物等としてまとめ、発表することができる。・中長期的な視点から自らの将来像を描きつつ、卒業後を見据えた方向を具体化し、その実現に向けた準備や行動を主体的に進めることができる。

＜授業の方法＞
本授業は100分×クオーター制（全28回）で実施する。ゼミナールⅠでの活動を踏まえ、テーマおよび活動を継続しながら、その成果を発展・深化させていく。【第1クオーター（1～7回）】再設計・実行（見直して動く）・これまでの取り組みを振り返り、テーマや活動の方向性を見直すとともに、必要な修正を行ったうえで、直ちに活動を再開する。・成果の水準を意識しながら、今後の進め方やスケジュールを整理し、より具体的な形で活動を進めていく。【第2クオーター(8～14回)】継続実行(進めながら整える)・テーマについての検討や作業

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各回の活動に向けて、必要な調査・整理・検討等を主体的に行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと。何をどの程度準備すべきかについても自ら判断し、活動の目的や進行に応じて適切に対応することが求められる。また、ゼミ活動においては、全体の方針や役割分担に基づき、各自が責任をもって必要な準備や調整を行うとともに、その成果を持ち寄って議論・検討を行うこと。継続的な実行と改善を通して、活動の完成度を高めていくことが求められる。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・演習への積極的な参加 … 30%・進捗報告 … 30%・発表会・報告書 … 40%課題提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

＜教科書＞
初回授業で決定する

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	赤木　邦江		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠで取り組んだテーマや活動を土台として、その内容をさらに発展させ、成果として形にしていく。また、発表や対外的な発信を通して、社会とのつながりを意識した活動を行う。学生が主体的に活動を継続し、自らの専門とキャリアとの関係を考えながら、より高い水準での成果を目指す。

＜授業の到達目標＞
・ゼミナールⅠで設定したテーマについて検討を深め、その成果を論文・報告書・成果物等としてまとめ、発表することができる。・中長期的な視点から自らの将来像を描きつつ、卒業後を見据えた方向を具体化し、その実現に向けた準備や行動を主体的に進めることができる。

＜授業の方法＞
本授業は100分×クオーター制（全28回）で実施する。ゼミナールⅠでの活動を踏まえ、テーマおよび活動を継続しながら、その成果を発展・深化させていく。【第1クオーター（1～7回）】再設計・実行（見直して動く）・これまでの取り組みを振り返り、テーマや活動の方向性を見直すとともに、必要な修正を行ったうえで、直ちに活動を再開する。・成果の水準を意識しながら、今後の進め方やスケジュールを整理し、より具体的な形で活動を進めていく。【第2クオーター(8～14回)】継続実行(進めながら整える)・テーマについての検討や作業

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各回の活動に向けて、必要な調査・整理・検討等を主体的に行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと。何をどの程度準備すべきかについても自ら判断し、活動の目的や進行に応じて適切に対応することが求められる。また、ゼミ活動においては、全体の方針や役割分担に基づき、各自が責任をもって必要な準備や調整を行うとともに、その成果を持ち寄って議論・検討を行うこと。継続的な実行と改善を通して、活動の完成度を高めていくことが求められる。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・演習への積極的な参加 … 30%・進捗報告 … 30%・発表会・報告書 … 40%課題提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

＜教科書＞
初回授業で決定する

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)[秋入学生用]				担当者名	佐藤　典子		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

ゼミナールⅠで取り組んだテーマや活動を土台として、その内容をさらに発展させ、成果として形にしていく。また、発表や対外的な発信を通して、社会とのつながりを意識した活動を行う。学生が主体的に活動を継続し、自らの専門とキャリアとの関係を考えながら、より高い水準での成果を目指す。

＜授業の到達目標＞

・ゼミナールⅠで設定したテーマについて検討を深め、その成果を論文・報告書・成果物等としてまとめ、発表することができる。・中長期的な視点から自らの将来像を描きつつ、卒業後を見据えた方向を具体化し、その実現に向けた準備や行動を主体的に進めることができる。

＜授業の方法＞

本授業は100分×クオーター制（全28回）で実施する。ゼミナールⅠでの活動を踏まえ、テーマおよび活動を継続しながら、その成果を発展・深化させていく。【第1クオーター（1～7回）】再設計・実行（見直して動く）・これまでの取り組みを振り返り、テーマや活動の方向性を見直すとともに、必要な修正を行ったうえで、直ちに活動を再開する。・成果の水準を意識しながら、今後の進め方やスケジュールを整理し、より具体的な形で活動を進めていく。【第2クオーター(8～14回)】継続実行(進めながら整える)・テーマについての検討や作業

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回の活動に向けて、必要な調査・整理・検討等を主体的に行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと（事前学習：60分程度）。何をどの程度準備すべきかについても自ら判断し、活動の目的や進行に応じて適切に対応することが求められる。また、ゼミ活動においては、全体の方針や役割分担に基づき、各自が責任をもって必要な準備や調整を行うとともに、その成果を持ち寄って議論・検討を行うこと。授業後は、議論内容を踏まえて追加の調査や資料の修正を行い、活動内容の改善を図ること（事後学習：60分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 … 30%・進捗報告 … 30%・発表会・報告書 … 40%課題提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

＜教科書＞

初回授業で決定する

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)[秋入学生用]				担当者名	小堀　浩志		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

ゼミナールⅠで取り組んだテーマや活動を土台として、その内容をさらに発展させ、成果として形にしていく。また、発表や対外的な発信を通して、社会とのつながりを意識した活動を行う。学生が主体的に活動を継続し、自らの専門とキャリアとの関係を考えながら、より高い水準での成果を目指す。

＜授業の到達目標＞

・ゼミナールⅠで設定したテーマについて検討を深め、その成果を論文・報告書・成果物等としてまとめ、発表することができる。・中長期的な視点から自らの将来像を描きつつ、卒業後を見据えた方向を具体化し、その実現に向けた準備や行動を主体的に進めることができる。

＜授業の方法＞

本授業は100分×クオーター制（全28回）で実施する。ゼミナールⅠでの活動を踏まえ、テーマおよび活動を継続しながら、その成果を発展・深化させていく。【第1クオーター（1～7回）】再設計・実行（見直して動く）・これまでの取り組みを振り返り、テーマや活動の方向性を見直すとともに、必要な修正を行ったうえで、直ちに活動を再開する。・成果の水準を意識しながら、今後の進め方やスケジュールを整理し、より具体的な形で活動を進めていく。【第2クオーター(8～14回)】継続実行(進めながら整える)・テーマについての検討や作業

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回の活動に向けて、必要な調査・整理・検討等を主体的に行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと（事前学習：60分程度）。何をどの程度準備すべきかについても自ら判断し、活動の目的や進行に応じて適切に対応することが求められる。また、ゼミ活動においては、全体の方針や役割分担に基づき、各自が責任をもって必要な準備や調整を行うとともに、その成果を持ち寄って議論・検討を行うこと。授業後は、議論内容を踏まえて追加の調査や資料の修正を行い、活動内容の改善を図ること（事後学習：60分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 … 30%・進捗報告 … 30%・発表会・報告書 … 40%課題提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

＜教科書＞

初回授業で決定する

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)[秋入学生用]				担当者名	小川　正人		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠで取り組んだテーマや活動を土台として、その内容をさらに発展させ、成果として形にしていく。また、発表や対外的な発信を通して、社会とのつながりを意識した活動を行う。学生が主体的に活動を継続し、自らの専門とキャリアとの関係を考えながら、より高い水準での成果を目指す。

＜授業の到達目標＞
・ゼミナールⅠで設定したテーマについて検討を深め、その成果を論文・報告書・成果物等としてまとめ、発表することができる。・中長期的な視点から自らの将来像を描きつつ、卒業後を見据えた方向を具体化し、その実現に向けた準備や行動を主体的に進めることができる。

＜授業の方法＞
本授業は100分×クオーター制（全28回）で実施する。ゼミナールⅠでの活動を踏まえ、テーマおよび活動を継続しながら、その成果を発展・深化させていく。【第1クオーター（1～7回）】再設計・実行（見直して動く）・これまでの取り組みを振り返り、テーマや活動の方向性を見直すとともに、必要な修正を行ったうえで、直ちに活動を再開する。・成果の水準を意識しながら、今後の進め方やスケジュールを整理し、より具体的な形で活動を進めていく。【第2クオーター(8～14回)】継続実行(進めながら整える)・テーマについての検討や作業

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各回の活動に向けて、必要な調査・整理・検討等を主体的に行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと（事前学習：60分程度）。何をどの程度準備すべきかについても自ら判断し、活動の目的や進行に応じて適切に対応することが求められる。また、ゼミ活動においては、全体の方針や役割分担に基づき、各自が責任をもって必要な準備や調整を行うとともに、その成果を持ち寄って議論・検討を行うこと。授業後は、議論内容を踏まえて追加の調査や資料の修正を行い、活動内容の改善を図ること（事後学習：60分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・演習への積極的な参加 … 30%・進捗報告 … 30%・発表会・報告書 … 40%課題提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

＜教科書＞
初回授業で決定する

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)[秋入学生用]				担当者名	田口　雅弘			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠで取り組んだテーマや活動を土台として、その内容をさらに発展させ、成果として形にしていく。また、発表や対外的な発信を通して、社会とのつながりを意識した活動を行う。学生が主体的に活動を継続し、自らの専門とキャリアとの関係を考えながら、より高い水準での成果を目指す。

＜授業の到達目標＞
・ゼミナールⅠで設定したテーマについて検討を深め、その成果を論文・報告書・成果物等としてまとめ、発表することができる。・中長期的な視点から自らの将来像を描きつつ、卒業後を見据えた方向を具体化し、その実現に向けた準備や行動を主体的に進めることができる。

＜授業の方法＞
本授業は100分×クオーター制（全28回）で実施する。ゼミナールⅠでの活動を踏まえ、テーマおよび活動を継続しながら、その成果を発展・深化させていく。【第1クオーター（1～7回）】再設計・実行（見直して動く）・これまでの取り組みを振り返り、テーマや活動の方向性を見直すとともに、必要な修正を行ったうえで、直ちに活動を再開する。・成果の水準を意識しながら、今後の進め方やスケジュールを整理し、より具体的な形で活動を進めていく。【第2クオーター(8～14回)】継続実行(進めながら整える)・テーマについての検討や作業

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各回の活動に向けて、必要な調査・整理・検討等を主体的に行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと（事前学習：60分程度）。何をどの程度準備すべきかについても自ら判断し、活動の目的や進行に応じて適切に対応することが求められる。また、ゼミ活動においては、全体の方針や役割分担に基づき、各自が責任をもって必要な準備や調整を行うとともに、その成果を持ち寄って議論・検討を行うこと。授業後は、議論内容を踏まえて追加の調査や資料の修正を行い、活動内容の改善を図ること（事後学習：60分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・演習への積極的な参加 … 30%・進捗報告 … 30%・発表会・報告書 … 40%課題提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

＜教科書＞
初回授業で決定する

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)[秋入学生用]				担当者名	鈴木　真理子		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠで取り組んだテーマや活動を土台として、その内容をさらに発展させ、成果として形にしていく。また、発表や対外的な発信を通して、社会とのつながりを意識した活動を行う。学生が主体的に活動を継続し、自らの専門とキャリアとの関係を考えながら、より高い水準での成果を目指す。

＜授業の到達目標＞
・ゼミナールⅠで設定したテーマについて検討を深め、その成果を論文・報告書・成果物等としてまとめ、発表することができる。・中長期的な視点から自らの将来像を描きつつ、卒業後を見据えた方向を具体化し、その実現に向けた準備や行動を主体的に進めることができる。

＜授業の方法＞
本授業は100分×クオーター制（全28回）で実施する。ゼミナールⅠでの活動を踏まえ、テーマおよび活動を継続しながら、その成果を発展・深化させていく。【第1クオーター（1～7回）】再設計・実行（見直して動く）・これまでの取り組みを振り返り、テーマや活動の方向性を見直すとともに、必要な修正を行ったうえで、直ちに活動を再開する。・成果の水準を意識しながら、今後の進め方やスケジュールを整理し、より具体的な形で活動を進めていく。【第2クオーター(8～14回)】継続実行(進めながら整える)・テーマについての検討や作業

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各回の活動に向けて、必要な調査・整理・検討等を主体的に行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと（事前学習：60分程度）。何をどの程度準備すべきかについても自ら判断し、活動の目的や進行に応じて適切に対応することが求められる。また、ゼミ活動においては、全体の方針や役割分担に基づき、各自が責任をもって必要な準備や調整を行うとともに、その成果を持ち寄って議論・検討を行うこと。授業後は、議論内容を踏まえて追加の調査や資料の修正を行い、活動内容の改善を図ること（事後学習：60分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・演習への積極的な参加 … 30%・進捗報告 … 30%・発表会・報告書 … 40%課題提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

＜教科書＞
初回授業で決定する

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)[秋入学生用]				担当者名	SACKO　Salif			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠで取り組んだテーマや活動を土台として、その内容をさらに発展させ、成果として形にしていく。また、発表や対外的な発信を通して、社会とのつながりを意識した活動を行う。学生が主体的に活動を継続し、自らの専門とキャリアとの関係を考えながら、より高い水準での成果を目指す。

＜授業の到達目標＞
・ゼミナールⅠで設定したテーマについて検討を深め、その成果を論文・報告書・成果物等としてまとめ、発表することができる。・中長期的な視点から自らの将来像を描きつつ、卒業後を見据えた方向を具体化し、その実現に向けた準備や行動を主体的に進めることができる。

＜授業の方法＞
本授業は100分×クオーター制（全28回）で実施する。ゼミナールⅠでの活動を踏まえ、テーマおよび活動を継続しながら、その成果を発展・深化させていく。【第1クオーター（1～7回）】再設計・実行（見直して動く）・これまでの取り組みを振り返り、テーマや活動の方向性を見直すとともに、必要な修正を行ったうえで、直ちに活動を再開する。・成果の水準を意識しながら、今後の進め方やスケジュールを整理し、より具体的な形で活動を進めていく。【第2クオーター(8～14回)】継続実行(進めながら整える)・テーマについての検討や作業

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各回の活動に向けて、必要な調査・整理・検討等を主体的に行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと（事前学習：60分程度）。何をどの程度準備すべきかについても自ら判断し、活動の目的や進行に応じて適切に対応することが求められる。また、ゼミ活動においては、全体の方針や役割分担に基づき、各自が責任をもって必要な準備や調整を行うとともに、その成果を持ち寄って議論・検討を行うこと。授業後は、議論内容を踏まえて追加の調査や資料の修正を行い、活動内容の改善を図ること（事後学習：60分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・演習への積極的な参加 … 30%・進捗報告 … 30%・発表会・報告書 … 40%課題提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

＜教科書＞
初回授業で決定する

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	55008				区　分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)[秋入学生用]				担当者名	宇都宮　浩司			
配当年次	4年	配当学期	第１・第２クオーター	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠで取り組んだテーマや活動を土台として、その内容をさらに発展させ、成果として形にしていく。また、発表や対外的な発信を通して、社会とのつながりを意識した活動を行う。学生が主体的に活動を継続し、自らの専門とキャリアとの関係を考えながら、より高い水準での成果を目指す。

＜授業の到達目標＞
・ゼミナールⅠで設定したテーマについて検討を深め、その成果を論文・報告書・成果物等としてまとめ、発表することができる。・中長期的な視点から自らの将来像を描きつつ、卒業後を見据えた方向を具体化し、その実現に向けた準備や行動を主体的に進めることができる。

＜授業の方法＞
本授業は100分×クオーター制（全28回）で実施する。ゼミナールⅠでの活動を踏まえ、テーマおよび活動を継続しながら、その成果を発展・深化させていく。【第1クオーター（1～7回）】再設計・実行（見直して動く）・これまでの取り組みを振り返り、テーマや活動の方向性を見直すとともに、必要な修正を行ったうえで、直ちに活動を再開する。・成果の水準を意識しながら、今後の進め方やスケジュールを整理し、より具体的な形で活動を進めていく。【第2クオーター(8～14回)】継続実行(進めながら整える)・テーマについての検討や作業

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各回の活動に向けて、必要な調査・整理・検討等を主体的に行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと（事前学習：60分程度）。何をどの程度準備すべきかについても自ら判断し、活動の目的や進行に応じて適切に対応することが求められる。また、ゼミ活動においては、全体の方針や役割分担に基づき、各自が責任をもって必要な準備や調整を行うとともに、その成果を持ち寄って議論・検討を行うこと。授業後は、議論内容を踏まえて追加の調査や資料の修正を行い、活動内容の改善を図ること（事後学習：60分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・演習への積極的な参加 … 30%・進捗報告 … 30%・発表会・報告書 … 40%課題提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

＜教科書＞
初回授業で決定する

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		

15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	55009				区　分	コア科目		
授業科目名	課題研究Ⅰ　《通年》[週間オンデマンド]				担当者名	畑島　紀昭		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
医療人として社会に出るためには、これまでに学習してきた各専門基礎科目、専門科目を総合的に関連付け、体系的に健康科学関連の理解を深める必要がある．根拠に基づいた医療（EBM）を見極めるために、先行研究を読み取る力・人に説明できる力を養うことを目的とする．課題研究Ⅰでは、グループにおける興味のあるテーマを定め、1つの論文について抄読発表を行なう．そして、同テーマに関連する複数の論文から既知と未知の領域を明確にし、卒業研究を行なうための準備を行なう．

＜授業の到達目標＞
研究論文の構成を理解すること、論文検索ができるようになり，その内容を精査できるようになることを目標としている．更に理解した内容を人に分かりやすくプレゼンテーションができるようになることを目標としている．

＜授業の方法＞
グループにて興味関心のある分野に関連する情報を収集し、分かりやすいプレゼンテーションを検討する．毎回進捗を確認していきながら、論文作成の基本を学ぶ。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
必要に応じてグループワークを実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習（目安：各回 1時間）授業で扱う内容に関連する基礎事項の復習を行うとともに、設定した研究テーマに関するニュースや学術論文を検索・参照し、興味関心を高めた上で授業に臨む。事後学習（目安：各回 1時間）授業で指摘された課題や修正点に基づき、研究内容の見直し・修正を行うとともに、文献の整理やデータの確認を行い、研究の質の向上に努める。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲(レポート、事前課題等)　30%、発表内容 70%

＜教科書＞

＜参考書＞
鍵和田 京子（2001年11月）　よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方　東京図書

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス①	ガイダンス、テーマの設定
2	研究論文の構成	論文の構成，統計について学ぶ
3	研究論文の読み方①	研究論文の読み方について学ぶ
4	研究論文の読み方②	研究論文の読み方について学ぶ
5	文献検索①	論文検索方法，採択方法について学ぶ
6	文献検索②	論文検索方法，採択方法について学ぶ
7	文献検索③	論文検索方法，採択方法について学ぶ
8	課題研究−テーマに関する検討−①	グループ別抄読発表を聞き，質問を行なう
9	課題研究−テーマに関する検討−②	課題研究テーマについて，グループディスカッションを行なう
10	課題研究−テーマに関する検討−③	課題研究テーマについて，グループディスカッションを行なう
11	抄読発表①	グループ別抄読発表を行ない，質疑応答を行なう
12	抄読発表②	グループ別抄読発表を行ない，質疑応答を行なう
13	抄読発表③	グループ別抄読発表を行ない，質疑応答を行なう
14	抄読発表④	グループ別抄読発表を行ない，質疑応答を行なう
15	ガイダンス②	課題研究論文作成に関するガイダンス
16	研究テーマの再検討①	テーマについて再検討をグループディスカッションの実施
17	研究テーマの再検討②	テーマについて再検討をグループディスカッションの実施
18	研究テーマの再検討③	テーマについて再検討をグループディスカッションの実施
19	参考文献検索①	参考文献の検索方法を学ぶ
20	参考文献検索②	参考文献の検索方法を学ぶ
21	参考文献検索③	参考文献の検索方法を学ぶ
22	発表資料の作り方①	発表資料の作り方を学ぶ
23	発表資料の作り方②	発表資料の作り方を学ぶ

24	発表資料の作り方③	発表資料の作り方を学ぶ
25	課題研究を発表する①	背景・目的の書き方
26	課題研究を発表する②	背景・目的の書き方
27	課題研究を発表する③	方法，結果の書き方
28	課題研究を発表する④	考察，まとめ
29		
30		

科目コード	55009				区　分	コア科目		
授業科目名	課題研究Ⅰ　《通年》[週間オンデマンド]				担当者名	坂本　賢広		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

医療人として社会に出るためには、これまでに学習してきた各専門基礎科目、専門科目を総合的に関連付け、体系的に健康科学関連の理解を深める必要がある．根拠に基づいた医療（EBM）を見極めるために、先行研究を読み取る力・人に説明できる力を養うことを目的とする．課題研究Ⅰでは、グループにおける興味のあるテーマを定め、1つの論文について抄読発表を行なう．そして、同テーマに関連する複数の論文から既知と未知の領域を明確にし、卒業研究を行なうための準備を行なう．

＜授業の到達目標＞

研究論文の構成を理解すること、論文検索ができるようになり，その内容を精査できるようになることを目標としている．更に理解した内容を人に分かりやすくプレゼンテーションができるようになることを目標としている．

＜授業の方法＞

グループにて興味関心のある分野に関連する情報を収集し、分かりやすいプレゼンテーションを検討する．毎回進捗を確認していきながら、論文作成の基本を学ぶ。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

必要に応じてグループワークを実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習：授業で教わったことを復習し、設定したテーマについて、興味関心を高め、ニュースや論文を参照できるように準備する．（約90分）事後学習：授業中に指摘された課題について調べてまとめる．（約90分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。　　）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（レポート、事前課題等）　30%、発表内容 70%

＜教科書＞

＜参考書＞

鍵和田 京子（2001年11月）　よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方　東京図書

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス①	ガイダンス、テーマの設定
2	研究論文の構成	論文の構成，統計について学ぶ
3	研究論文の読み方①	研究論文の読み方について学ぶ
4	研究論文の読み方②	研究論文の読み方について学ぶ
5	文献検索①	論文検索方法，採択方法について学ぶ
6	文献検索②	論文検索方法，採択方法について学ぶ
7	文献検索③	論文検索方法，採択方法について学ぶ
8	課題研究−テーマに関する検討−①	グループ別抄読発表を聞き，質問を行なう
9	課題研究−テーマに関する検討−②	課題研究テーマについて，グループディスカッションを行なう
10	課題研究−テーマに関する検討−③	課題研究テーマについて，グループディスカッションを行なう
11	抄読発表①	グループ別抄読発表を行ない，質疑応答を行なう
12	抄読発表②	グループ別抄読発表を行ない，質疑応答を行なう
13	抄読発表③	グループ別抄読発表を行ない，質疑応答を行なう
14	抄読発表④	グループ別抄読発表を行ない，質疑応答を行なう
15	ガイダンス②	課題研究論文作成に関するガイダンス
16	研究テーマの再検討①	テーマについて再検討をグループディスカッションの実施
17	研究テーマの再検討②	テーマについて再検討をグループディスカッションの実施
18	研究テーマの再検討③	テーマについて再検討をグループディスカッションの実施
19	参考文献検索①	参考文献の検索方法を学ぶ
20	参考文献検索②	参考文献の検索方法を学ぶ
21	参考文献検索③	参考文献の検索方法を学ぶ
22	発表資料の作り方①	発表資料の作り方を学ぶ
23	発表資料の作り方②	発表資料の作り方を学ぶ
24	発表資料の作り方③	発表資料の作り方を学ぶ

25	課題研究を発表する①	背景・目的の書き方
26	課題研究を発表する②	背景・目的の書き方
27	課題研究を発表する③	方法，結果の書き方
28	課題研究を発表する④	考察，まとめ
29		
30		

科目コード	55009				区　分	コア科目		
授業科目名	課題研究Ⅰ　《通年》[週間オンデマンド]				担当者名	福井　悠紀子		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
医療人として社会に出るためには、これまでに学習してきた各専門基礎科目、専門科目を総合的に関連付け、体系的に健康科学関連の理解を深める必要がある．根拠に基づいた医療（EBM）を見極めるために、先行研究を読み取る力・人に説明できる力を養うことを目的とする．課題研究Ⅰでは、グループにおける興味のあるテーマを定め、1つの論文について抄読発表を行なう．そして、同テーマに関連する複数の論文から既知と未知の領域を明確にし、卒業研究を行なうための準備を行なう．

＜授業の到達目標＞
研究論文の構成を理解すること、論文検索ができるようになり，その内容を精査できるようになることを目標としている．更に理解した内容を人に分かりやすくプレゼンテーションができるようになることを目標としている．

＜授業の方法＞
グループにて興味関心のある分野に関連する情報を収集し、分かりやすいプレゼンテーションを検討する．毎回進捗を確認していきながら、論文作成の基本を学ぶ。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
必要に応じてグループワークを実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習（予習）：次回授業のテーマに関連する基礎事項（教科書該当範囲等）を確認し、専門用語や基本概念を理解しておく。また、関連するニュースや論文等に目を通し、関心や疑問点を整理する。（目安時間：約30分）事後学習（復習）：授業内容を復習し、配布資料やノートを整理するとともに、理解が不十分な点を再確認する。あわせて、授業で提示・指摘された課題に取り組み、内容の定着を図る。（目安時間：約30分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲(レポート、事前課題等)　30%、発表内容 70%

＜教科書＞

＜参考書＞
鍵和田 京子（2001年11月）　よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方　東京図書

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス①	ガイダンス、テーマの設定
2	研究論文の構成	論文の構成，統計について学ぶ
3	研究論文の読み方①	研究論文の読み方について学ぶ
4	研究論文の読み方②	研究論文の読み方について学ぶ
5	文献検索①	論文検索方法，採択方法について学ぶ
6	文献検索②	論文検索方法，採択方法について学ぶ
7	文献検索③	論文検索方法，採択方法について学ぶ
8	課題研究−テーマに関する検討−①	グループ別抄読発表を聞き，質問を行なう
9	課題研究−テーマに関する検討−②	課題研究テーマについて，グループディスカッションを行なう
10	課題研究−テーマに関する検討−③	課題研究テーマについて，グループディスカッションを行なう
11	抄読発表①	グループ別抄読発表を行ない，質疑応答を行なう
12	抄読発表②	グループ別抄読発表を行ない，質疑応答を行なう
13	抄読発表③	グループ別抄読発表を行ない，質疑応答を行なう
14	抄読発表④	グループ別抄読発表を行ない，質疑応答を行なう
15	ガイダンス②	課題研究論文作成に関するガイダンス
16	研究テーマの再検討①	テーマについて再検討をグループディスカッションの実施
17	研究テーマの再検討②	テーマについて再検討をグループディスカッションの実施
18	研究テーマの再検討③	テーマについて再検討をグループディスカッションの実施
19	参考文献検索①	参考文献の検索方法を学ぶ
20	参考文献検索②	参考文献の検索方法を学ぶ
21	参考文献検索③	参考文献の検索方法を学ぶ
22	発表資料の作り方①	発表資料の作り方を学ぶ

23	発表資料の作り方②	発表資料の作り方を学ぶ
24	発表資料の作り方③	発表資料の作り方を学ぶ
25	課題研究を発表する①	背景・目的の書き方
26	課題研究を発表する②	方法・結果の書き方
27	課題研究を発表する③	考察・結論の書き方
28	総括	まとめ授業
29		
30		

科目コード	55009				区　分	コア科目		
授業科目名	課題研究Ⅰ　《通年》[週間オンデマンド]				担当者名	平林　大輔		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
医療人として社会に出るためには、これまでに学習してきた各専門基礎科目、専門科目を総合的に関連付け、体系的に健康科学関連の理解を深める必要がある．根拠に基づいた医療（EBM）を見極めるために、先行研究を読み取る力・人に説明できる力を養うことを目的とする．課題研究Ⅰでは、グループにおける興味のあるテーマを定め、1つの論文について抄読発表を行なう．そして、同テーマに関連する複数の論文から既知と未知の領域を明確にし、卒業研究を行なうための準備を行なう．

＜授業の到達目標＞
研究論文の構成を理解すること、論文検索ができるようになり，その内容を精査できるようになることを目標としている．更に理解した内容を人に分かりやすくプレゼンテーションができるようになることを目標としている．

＜授業の方法＞
グループにて興味関心のある分野に関連する情報を収集し、分かりやすいプレゼンテーションを検討する．毎回進捗を確認していきながら、論文作成の基本を学ぶ。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
必要に応じてグループワークを実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
前回の授業内容の復習（20分程度）授業時間後の復習を行うための口頭試問、レポート作成等（30分程度）時間外学習は最低でも3時間は行っておく事。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲(レポート、事前課題等)　30%、発表内容 70%

＜教科書＞

＜参考書＞
鍵和田 京子（2001年11月）　よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方　東京図書

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス①	ガイダンス、テーマの設定
2	研究論文の構成	論文の構成，統計について学ぶ
3	研究論文の読み方①	研究論文の読み方について学ぶ
4	研究論文の読み方②	研究論文の読み方について学ぶ
5	文献検索①	論文検索方法，採択方法について学ぶ
6	文献検索②	論文検索方法，採択方法について学ぶ
7	文献検索③	論文検索方法，採択方法について学ぶ
8	課題研究−テーマに関する検討−①	グループ別抄読発表を聞き，質問を行なう
9	課題研究−テーマに関する検討−②	課題研究テーマについて，グループディスカッションを行なう
10	課題研究−テーマに関する検討−③	課題研究テーマについて，グループディスカッションを行なう
11	抄読発表①	グループ別抄読発表を行ない，質疑応答を行なう
12	抄読発表②	グループ別抄読発表を行ない，質疑応答を行なう
13	抄読発表③	グループ別抄読発表を行ない，質疑応答を行なう
14	抄読発表④	グループ別抄読発表を行ない，質疑応答を行なう
15	ガイダンス②	課題研究論文作成に関するガイダンス
16	研究テーマの再検討①	テーマについて再検討をグループディスカッションの実施
17	研究テーマの再検討②	テーマについて再検討をグループディスカッションの実施
18	研究テーマの再検討③	テーマについて再検討をグループディスカッションの実施
19	参考文献検索①	参考文献の検索方法を学ぶ
20	参考文献検索②	参考文献の検索方法を学ぶ
21	参考文献検索③	参考文献の検索方法を学ぶ
22	発表資料の作り方①	発表資料の作り方を学ぶ
23	発表資料の作り方②	発表資料の作り方を学ぶ
24	発表資料の作り方③	発表資料の作り方を学ぶ

25	課題研究を発表する①	背景・目的の書き方
26	課題研究を発表する②	背景・目的の書き方
27	課題研究を発表する③	方法，結果の書き方
28	課題研究を発表する④	方法，結果の書き方考察、まとめ
29		
30		

科目コード	55009				区　分	コア科目		
授業科目名	課題研究Ⅰ　《通年》[週間オンデマンド]				担当者名	古山　喜一		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
医療人として社会に出るためには、これまでに学習してきた各専門基礎科目、専門科目を総合的に関連付け、体系的に健康科学関連の理解を深める必要がある．根拠に基づいた医療（EBM）を見極めるために、先行研究を読み取る力・人に説明できる力を養うことを目的とする．課題研究Ⅰでは、グループにおける興味のあるテーマを定め、1つの論文について抄読発表を行なう．そして、同テーマに関連する複数の論文から既知と未知の領域を明確にし、卒業研究を行なうための準備を行なう．

＜授業の到達目標＞
研究論文の構成を理解すること、論文検索ができるようになり，その内容を精査できるようになることを目標としている．更に理解した内容を人に分かりやすくプレゼンテーションができるようになることを目標としている．

＜授業の方法＞
グループにて興味関心のある分野に関連する情報を収集し、分かりやすいプレゼンテーションを検討する．毎回進捗を確認していきながら、論文作成の基本を学ぶ。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有り

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業で教わったことを復習し、設定したテーマについて、興味関心を高め、ニュースや論文を参照できるように準備する（約1.5時間程度）。各授業で指摘された課題を実施する（約1.5時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、DP４　（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる）に関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲(レポート、事前課題等)　30%、発表内容 70%

＜教科書＞

＜参考書＞
鍵和田 京子（2001年11月）　よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方　東京図書

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス（1）	ガイダンス、テーマの設定
2	研究論文の構成	論文の構成，統計について学ぶ
3	研究論文の読み方	研究論文の読み方について学ぶ
4	文献検索	論文検索方法，採択方法について学ぶ
5	課題研究−テーマに関する検討−	課題研究テーマについて，グループディスカッションを行なう
6	抄読発表（1）	グループ別抄読発表を行ない，質疑応答を行なう
7	抄読発表（2）	グループ別抄読発表を聞き，質問を行なう
8	抄読発表（3）	グループ別抄読発表を聞き，質問を行なう
9	ガイダンス（2）	課題研究論文作成に関するガイダンス
10	研究テーマの再検討	テーマについて再検討をグループディスカッションを行なう
11	参考文献検索	参考文献の検索方法を学ぶ
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方を学ぶ、背景・目的・方法・結果・考察・まとめの書き方の書き方
13	課題研究の進捗報告（1）	総合討議１
14	課題研究の進捗報告（2）	総合討議2
15	課題研究の進捗報告（3）	総合討議3
16	課題研究の進捗報告（4）	総合討議4
17	課題研究の進捗報告（5）	総合討議5
18	課題研究の進捗報告（6）	総合討議6
19	課題研究の進捗報告（7）	総合討議7
20	課題研究の進捗報告（8）	総合討議8
21	課題研究の進捗報告（9）	総合討議9
22	課題研究の進捗報告（10）	総合討議10
23	課題研究の進捗報告（11）	総合討議11

24	課題研究の進捗報告（12）	総合討議12
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	55010				区　分	コア科目		
授業科目名	課題研究Ⅱ　《通年》[週間オンデマンド]				担当者名	畑島　紀昭		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
医療人として社会に出るためには，これまでに学習してきた各専門基礎科目，専門科目を総合的に関連付け，体系的に健康科学関連の理解を深める必要がある．根拠に基づいた医療（EBM）を見極めるために，仮説を立てる企画力を養い，科学的に検証することを目的とする．本講義では，グループにおいて，前半：調査・観測等の探索型研究を企画・立案・実施し，結果を科学的に解釈して評価する，後半：実験・試験等の検証型研究を企画・立案・実施し，結果を科学的に解釈し評価する．この過程を通じて，卒業研究を行なうための準備を行なう．

＜授業の到達目標＞
１．問題を提起して研究テーマを明確にすることができる。２．科学的な理論やモデルを組み立て、仮説を設定することができる。３．検証型研究で用いる評価項目や評価指標，そしてその要約値(代表値)を選択するために，なるべく多くの候補項目を観測できるようになる。４．データを要約するために，記述統計学的手法を用い，科学的に解釈し評価することができるようになる。

＜授業の方法＞
１．グループワーク（ディスカッション、計測）２．省察活動（計測結果についてのプレゼンテーション）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
必要に応じてグループワークを実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習（目安：各回 1時間）設定した研究テーマについて下調べを行い、関連分野の文献検索を実施する。ニュースや学術論文を参照しながら必要な情報を収集し、研究仮説を立てるとともに、探索型研究および検証型研究の企画立案に必要な準備を行った上で授業に臨む。事後学習（目安：各回 2時間）毎講義で与えられた課題について調査を行い、グループでの研究活動（調査・観測、実験・試験等）の結果を踏まえて、研究計画および内容の見直し・修正を行う。また、得られた結果を科学的に解釈・評価し、文献との関連付けを行いながら研究の質の向

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲 30%、発表内容 70%

＜教科書＞

＜参考書＞
鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方　東京図書
酒井 聡樹（2006/4）　これから論文を書く若者のために 大改訂増補版　共立出版

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス①	ガイダンス，グループ決め，テーマの設定
2	課題研究テーマ検討	定したテーマについて内容を発表、評価
3	検証方法の検討①	検証方法を検討する
4	検証方法の検討②	検証方法を検討する
5	検証方法の検討③	検討した検証方法を発表，評価
6	検証方法の検討④	検討した検証方法を発表，評価
7	実験検証①	実験を行なう(被験者になる)
8	実験検証②	実験を行なう(被験者になる)
9	実験検証③	実験を行なう(検者になる)
10	実験検証④	実験を行なう(検者になる)
11	結果のまとめ方①	統計学的手法を用いて，結果をまとめる
12	結果のまとめ方②	統計学的手法を用いて，結果をまとめる
13	課題研究発表	今までの課題研究をまとめ，発表する
14	課題研究発表	今までの課題研究をまとめ，発表する
15	ガイダンス②	ガイダンス，新グループ決め，新テーマの設定
16	研究テーマの再検討	設定したテーマについて内容を発表、評価
17	検証方法の検討①	検証方法を検討する
18	検証方法の検討②	検証方法を検討する
19	検証方法の検討③	検討した検証方法を発表，評価

20	検証方法の検討④	検討した検証方法を発表，評価
21	実験検証①	実験を行なう
22	実験検証②	実験を行なう
23	実験検証③	実験を行なう
24	実験検証④	実験を行なう
25	結果まとめ①	統計学的手法を用いて，結果をまとめる
26	結果まとめ②	統計学的手法を用いて，結果をまとめる
27	結果まとめ③	統計学的手法を用いて，結果をまとめる
28	課題研究発表	今までの課題研究をまとめ，発表する
29		
30		

科目コード	55010				区　分	コア科目		
授業科目名	課題研究Ⅱ　《通年》[週間オンデマンド]				担当者名	坂本　賢広		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

医療人として社会に出るためには，これまでに学習してきた各専門基礎科目，専門科目を総合的に関連付け，体系的に健康科学関連の理解を深める必要がある．根拠に基づいた医療（EBM）を見極めるために，仮説を立てる企画力を養い，科学的に検証することを目的とする．本講義では，グループにおいて，前半：調査・観測等の探索型研究を企画・立案・実施し，結果を科学的に解釈して評価する，後半：実験・試験等の検証型研究を企画・立案・実施し，結果を科学的に解釈し評価する．この過程を通じて，卒業研究を行なうための準備を行なう．

＜授業の到達目標＞

１．問題を提起して研究テーマを明確にすることができる。２．科学的な理論やモデルを組み立て、仮説を設定することができる。３．検証型研究で用いる評価項目や評価指標，そしてその要約値(代表値)を選択するために，なるべく多くの候補項目を観測できるようになる。４．データを要約するために，記述統計学的手法を用い，科学的に解釈し評価することができるようになる。

＜授業の方法＞

課題研究Ⅱは、ディプロマポリシー4 柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：設定したテーマについて下調べを行う（毎回、１時間程度）復習：毎講義で与えられた課題について調査し、実践できるように準備する（毎回、２時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー４（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%、発表内容 70%

＜教科書＞

＜参考書＞

鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方　東京図書
酒井 聡樹（2006/4）　これから論文を書く若者のために 大改訂増補版　共立出版

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス①	ガイダンス，グループ決め，テーマの設定
2	課題研究テーマ検討	定したテーマについて内容を発表、評価
3	検証方法の検討①	検証方法を検討する
4	検証方法の検討②	検証方法を検討する
5	検証方法の検討③	検討した検証方法を発表，評価
6	検証方法の検討④	検討した検証方法を発表，評価
7	実験検証①	実験を行なう(被験者になる)
8	実験検証②	実験を行なう(被験者になる)
9	実験検証③	実験を行なう(検者になる)
10	実験検証④	実験を行なう(検者になる)
11	結果のまとめ方①	統計学的手法を用いて，結果をまとめる
12	結果のまとめ方②	統計学的手法を用いて，結果をまとめる
13	課題研究発表	今までの課題研究をまとめ，発表する
14	課題研究発表	今までの課題研究をまとめ，発表する
15	ガイダンス②	ガイダンス，新グループ決め，新テーマの設定
16	研究テーマの再検討	設定したテーマについて内容を発表、評価
17	検証方法の検討①	検証方法を検討する
18	検証方法の検討②	検証方法を検討する
19	検証方法の検討③	検討した検証方法を発表，評価
20	検証方法の検討④	検討した検証方法を発表，評価

21	実験検証①	実験を行なう
22	実験検証②	実験を行なう
23	実験検証③	実験を行なう
24	実験検証④	実験を行なう
25	結果まとめ①	統計学的手法を用いて，結果をまとめる
26	結果まとめ②	統計学的手法を用いて，結果をまとめる
27	課題研究発表①	今までの課題研究をまとめ，発表する
28	課題研究発表②	今までの課題研究をまとめ，発表する
29		
30		

科目コード	55010				区　分	コア科目		
授業科目名	課題研究Ⅱ　《通年》[週間オンデマンド]				担当者名	福井　悠紀子		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
医療人として社会に出るためには，これまでに学習してきた各専門基礎科目，専門科目を総合的に関連付け，体系的に健康科学関連の理解を深める必要がある．根拠に基づいた医療（EBM）を見極めるために，仮説を立てる企画力を養い，科学的に検証することを目的とする．本講義では，グループにおいて，前半：調査・観測等の探索型研究を企画・立案・実施し，結果を科学的に解釈して評価する，後半：実験・試験等の検証型研究を企画・立案・実施し，結果を科学的に解釈し評価する．この過程を通じて，卒業研究を行なうための準備を行なう．

＜授業の到達目標＞
１．問題を提起して研究テーマを明確にすることができる。２．科学的な理論やモデルを組み立て、仮説を設定することができる。３．検証型研究で用いる評価項目や評価指標，そしてその要約値(代表値)を選択するために，なるべく多くの候補項目を観測できるようになる。４．データを要約するために，記述統計学的手法を用い，科学的に解釈し評価することができるようになる。

＜授業の方法＞
１．グループワーク（ディスカッション、計測）２．省察活動（計測結果についてのプレゼンテーション）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
必要に応じてグループワークを実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：設定したテーマについて下調べを行う（毎回、１時間程度）復習：毎講義で与えられた課題について調査し、実践できるように準備する（毎回、２時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲 30%、発表内容 70%

＜教科書＞

＜参考書＞
鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方　東京図書
酒井 聡樹（2006/4）　これから論文を書く若者のために 大改訂増補版　共立出版

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス①	ガイダンス，グループ決め，テーマの設定
2	課題研究テーマ検討	定したテーマについて内容を発表、評価
3	検証方法の検討①	検証方法を検討する
4	検証方法の検討②	検証方法を検討する
5	検証方法の検討③	検討した検証方法を発表，評価
6	検証方法の検討④	検討した検証方法を発表，評価
7	実験検証①	実験を行なう(被験者になる)
8	実験検証②	実験を行なう(被験者になる)
9	実験検証③	実験を行なう(検者になる)
10	実験検証④	実験を行なう(検者になる)
11	結果のまとめ方①	統計学的手法を用いて，結果をまとめる
12	結果のまとめ方②	統計学的手法を用いて，結果をまとめる
13	課題研究発表	今までの課題研究をまとめ，発表する
14	課題研究発表	今までの課題研究をまとめ，発表する
15	ガイダンス②	ガイダンス，新グループ決め，新テーマの設定
16	研究テーマの再検討	設定したテーマについて内容を発表、評価
17	検証方法の検討①	検証方法を検討する
18	検証方法の検討②	検証方法を検討する
19	検証方法の検討③	検討した検証方法を発表，評価
20	検証方法の検討④	検討した検証方法を発表，評価
21	実験検証①	実験を行なう
22	実験検証②	実験を行なう

23	実験検証③	実験を行なう
24	実験検証④	実験を行なう
25	結果まとめ①	統計学的手法を用いて，結果をまとめる
26	結果まとめ②	統計学的手法を用いて，結果をまとめる
27	結果まとめ③	統計学的手法を用いて，結果をまとめる
28	課題研究発表	今までの課題研究をまとめ，発表する
29		
30		

科目コード	55010				区　分	コア科目		
授業科目名	課題研究Ⅱ　《通年》[週間オンデマンド]				担当者名	平林　大輔		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
医療人として社会に出るためには，これまでに学習してきた各専門基礎科目，専門科目を総合的に関連付け，体系的に健康科学関連の理解を深める必要がある．根拠に基づいた医療（EBM）を見極めるために，仮説を立てる企画力を養い，科学的に検証することを目的とする．本講義では，グループにおいて，前半：調査・観測等の探索型研究を企画・立案・実施し，結果を科学的に解釈して評価する，後半：実験・試験等の検証型研究を企画・立案・実施し，結果を科学的に解釈し評価する．この過程を通じて，卒業研究を行なうための準備を行なう．

＜授業の到達目標＞
１．問題を提起して研究テーマを明確にすることができる。２．科学的な理論やモデルを組み立て、仮説を設定することができる。３．検証型研究で用いる評価項目や評価指標，そしてその要約値(代表値)を選択するために，なるべく多くの候補項目を観測できるようになる。４．データを要約するために，記述統計学的手法を用い，科学的に解釈し評価することができるようになる。

＜授業の方法＞
１．グループワーク（ディスカッション、計測）２．省察活動（計測結果についてのプレゼンテーション）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
必要に応じてグループワークを実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：設定したテーマについて下調べを行う（毎回、１時間程度）復習：毎講義で与えられた課題について調査し、実践できるように準備する（毎回、２時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲 30%、発表内容 70%

＜教科書＞

＜参考書＞
鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方　東京図書
酒井 聡樹（2006/4）　これから論文を書く若者のために 大改訂増補版　共立出版

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス①	ガイダンス，グループ決め，テーマの設定
2	課題研究テーマ検討	定したテーマについて内容を発表、評価
3	検証方法の検討①	検証方法を検討する
4	検証方法の検討②	検証方法を検討する
5	検証方法の検討③	検討した検証方法を発表，評価
6	検証方法の検討④	検討した検証方法を発表，評価
7	実験検証①	実験を行なう(被験者になる)
8	実験検証②	実験を行なう(被験者になる)
9	実験検証③	実験を行なう(検者になる)
10	実験検証④	実験を行なう(検者になる)
11	結果のまとめ方①	統計学的手法を用いて，結果をまとめる
12	結果のまとめ方②	統計学的手法を用いて，結果をまとめる
13	課題研究発表	今までの課題研究をまとめ，発表する
14	課題研究発表	今までの課題研究をまとめ，発表する
15	ガイダンス②	ガイダンス，新グループ決め，新テーマの設定
16	研究テーマの再検討	設定したテーマについて内容を発表、評価
17	検証方法の検討①	検証方法を検討する
18	検証方法の検討②	検証方法を検討する
19	検証方法の検討③	検討した検証方法を発表，評価
20	検証方法の検討④	検討した検証方法を発表，評価
21	実験検証①	実験を行なう
22	実験検証②	実験を行なう

23	実験検証③	実験を行なう
24	実験検証④	実験を行なう
25	結果まとめ①	統計学的手法を用いて，結果をまとめる
26	結果まとめ②	統計学的手法を用いて，結果をまとめる
27	結果まとめ③	統計学的手法を用いて，結果をまとめる
28	課題研究発表①	今までの課題研究をまとめ，発表する
29		
30		

科目コード	BCD01				区　分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(BC秋入学生用)（BC26秋編入学生用）				担当者名	江口　尚文			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	0.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

経営学（マネジメント・マーケティング・会計）、経済学（マクロ・ミクロ）、グローバルビジネス（異文化コミュニケーション・国際経営）、スポーツビジネス（スポーツ経営・スポーツマネジメント）などの各分野からテーマを設定し、学生同士の議論や協働を通して、主体的に探究を深める。学生一人ひとりが関心を持って主体的に取り組めるよう、指導・支援を行う。

＜授業の到達目標＞

・自分の関心に基づいて「専門とするテーマ」を決め、その内容と取り組む意義を他者に説明できる。・卒業後の進路や将来のキャリアを見据え、自分の専門とどのようにつながるかを整理し、一貫した方向性を示すことができる。

＜授業の方法＞

本授業は100分×クオーター制（全28回）で実施する。ゼミナールでは、テーマの設定と活動計画の立案を行った後、年間を通して継続的に活動に取り組む。【第1クオーター（1～7回）】設計（決める）・自分が取り組みたいテーマを考え、関心のある分野や問題意識を整理して方向性を定める。・あわせて、ゼミとしての活動方針を話し合い、年間の進め方や活動計画を立てる。必要に応じて対外的な活動内容も検討する。【第2クオーター（8～14回）】試行（やってみる）・テーマに関する現状や課題を調査し、文献や資料を収集するとともに、輪読

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回のテーマに応じて予習・復習を行う（各回1時間程度）。ゼミナールにおける準備学習は、あらかじめ内容が与えられるものではなく、自らのテーマやゼミ活動の進捗に応じて、何をどの程度準備する必要があるかを各自が判断し、主体的に取り組むことを基本とする。ゼミ活動においては、プロジェクトの進め方を学生間で討議・検討し、全体の方向性と役割分担を決定したうえで、それぞれが責任をもって必要な準備や調整を行い、授業に臨むことが求められる。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、ディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 … 30%・進捗報告 … 30%・発表会・報告書 … 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

＜教科書＞

初回授業で決定する

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	BCD01				区　分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(BC秋入学生用)（BC26秋編入学生用）				担当者名	古松　丈周			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	0.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
経営学（マネジメント・マーケティング・会計）、経済学（マクロ・ミクロ）、グローバルビジネス（異文化コミュニケーション・国際経営）、スポーツビジネス（スポーツ経営・スポーツマネジメント）などの各分野からテーマを設定し、学生同士の議論や協働を通して、主体的に探究を深める。学生一人ひとりが関心を持って主体的に取り組めるよう、指導・支援を行う。

＜授業の到達目標＞
・自分の関心に基づいて「専門とするテーマ」を決め、その内容と取り組む意義を他者に説明できる。・卒業後の進路や将来のキャリアを見据え、自分の専門とどのようにつながるかを整理し、一貫した方向性を示すことができる。

＜授業の方法＞
本授業は100分×クオーター制（全28回）で実施する。ゼミナールでは、テーマの設定と活動計画の立案を行った後、年間を通して継続的に活動に取り組む。【第1クオーター（1～7回）】設計（決める）・自分が取り組みたいテーマを考え、関心のある分野や問題意識を整理して方向性を定める。・あわせて、ゼミとしての活動方針を話し合い、年間の進め方や活動計画を立てる。必要に応じて対外的な活動内容も検討する。【第2クオーター（8～14回）】試行（やってみる）・テーマに関する現状や課題を調査し、文献や資料を収集するとともに、輪読

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各回のテーマに応じて予習・復習を行う（各回1時間程度）。ゼミナールにおける準備学習は、あらかじめ内容が与えられるものではなく、自らのテーマやゼミ活動の進捗に応じて、何をどの程度準備する必要があるかを各自が判断し、主体的に取り組むことを基本とする。ゼミ活動においては、プロジェクトの進め方を学生間で討議・検討し、全体の方向性と役割分担を決定したうえで、それぞれが責任をもって必要な準備や調整を行い、授業に臨むことが求められる。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・演習への積極的な参加 … 30%・進捗報告 … 30%・発表会・報告書 … 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

＜教科書＞
初回授業で決定する

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	BCD01				区　分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(BC秋入学生用)（BC26秋編入学生用）				担当者名	宇都宮　浩司			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	0.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

経営学（マネジメント・マーケティング・会計）、経済学（マクロ・ミクロ）、グローバルビジネス（異文化コミュニケーション・国際経営）、スポーツビジネス（スポーツ経営・スポーツマネジメント）などの各分野からテーマを設定し、学生同士の議論や協働を通して、主体的に探究を深める。学生一人ひとりが関心を持って主体的に取り組めるよう、指導・支援を行う。

＜授業の到達目標＞

・自分の関心に基づいて「専門とするテーマ」を決め、その内容と取り組む意義を他者に説明できる。・卒業後の進路や将来のキャリアを見据え、自分の専門とどのようにつながるかを整理し、一貫した方向性を示すことができる。

＜授業の方法＞

本授業は100分×クオーター制（全28回）で実施する。ゼミナールでは、テーマの設定と活動計画の立案を行った後、年間を通して継続的に活動に取り組む。【第1クオーター（1～7回）】設計（決める）・自分が取り組みたいテーマを考え、関心のある分野や問題意識を整理して方向性を定める。・あわせて、ゼミとしての活動方針を話し合い、年間の進め方や活動計画を立てる。必要に応じて対外的な活動内容も検討する。【第2クオーター（8～14回）】試行（やってみる）・テーマに関する現状や課題を調査し、文献や資料を収集するとともに、輪読

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回のテーマに応じて予習・復習を行う（各回1時間程度）。ゼミナールにおける準備学習は、あらかじめ内容が与えられるものではなく、自らのテーマやゼミ活動の進捗に応じて、何をどの程度準備する必要があるかを各自が判断し、主体的に取り組むことを基本とする。ゼミ活動においては、プロジェクトの進め方を学生間で討議・検討し、全体の方向性と役割分担を決定したうえで、それぞれが責任をもって必要な準備や調整を行い、授業に臨むことが求められる。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、ディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 … 30%・進捗報告 … 30%・発表会・報告書 … 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

＜教科書＞

初回授業で決定する

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	BCD02				区　分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(BC秋入学生用)（BC25秋編入学生用）				担当者名	小川　正人			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	0.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠで取り組んだテーマや活動を土台として、その内容をさらに発展させ、成果として形にしていく。また、発表や対外的な発信を通して、社会とのつながりを意識した活動を行う。学生が主体的に活動を継続し、自らの専門とキャリアとの関係を考えながら、より高い水準での成果を目指す。

＜授業の到達目標＞
・ゼミナールⅠで設定したテーマについて検討を深め、その成果を論文・報告書・成果物等としてまとめ、発表することができる。・中長期的な視点から自らの将来像を描きつつ、卒業後を見据えた方向を具体化し、その実現に向けた準備や行動を主体的に進めることができる。

＜授業の方法＞
本授業は100分×クオーター制（全28回）で実施する。ゼミナールⅠでの活動を踏まえ、テーマおよび活動を継続しながら、その成果を発展・深化させていく。【第1クオーター（1～7回）】再設計・実行（見直して動く）・これまでの取り組みを振り返り、テーマや活動の方向性を見直すとともに、必要な修正を行ったうえで、直ちに活動を再開する。・成果の水準を意識しながら、今後の進め方やスケジュールを整理し、より具体的な形で活動を進めていく。【第2クオーター(8～14回)】継続実行(進めながら整える)・テーマについての検討や作業

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各回の活動に向けて、必要な調査・整理・検討等を主体的に行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと。何をどの程度準備すべきかについても自ら判断し、活動の目的や進行に応じて適切に対応することが求められる。また、ゼミ活動においては、全体の方針や役割分担に基づき、各自が責任をもって必要な準備や調整を行うとともに、その成果を持ち寄って議論・検討を行うこと。継続的な実行と改善を通して、活動の完成度を高めていくことが求められる。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・演習への積極的な参加 … 30%・進捗報告 … 30%・発表会・報告書 … 40%課題提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

＜教科書＞
初回授業で決定する

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		

15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	BCD02				区　分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(BC秋入学生用)（BC25秋編入学生用）				担当者名	宇都宮　浩司			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	0.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠで取り組んだテーマや活動を土台として、その内容をさらに発展させ、成果として形にしていく。また、発表や対外的な発信を通して、社会とのつながりを意識した活動を行う。学生が主体的に活動を継続し、自らの専門とキャリアとの関係を考えながら、より高い水準での成果を目指す。

＜授業の到達目標＞
・ゼミナールⅠで設定したテーマについて検討を深め、その成果を論文・報告書・成果物等としてまとめ、発表することができる。・中長期的な視点から自らの将来像を描きつつ、卒業後を見据えた方向を具体化し、その実現に向けた準備や行動を主体的に進めることができる。

＜授業の方法＞
本授業は100分×クオーター制（全28回）で実施する。ゼミナールⅠでの活動を踏まえ、テーマおよび活動を継続しながら、その成果を発展・深化させていく。【第1クオーター（1～7回）】再設計・実行（見直して動く）・これまでの取り組みを振り返り、テーマや活動の方向性を見直すとともに、必要な修正を行ったうえで、直ちに活動を再開する。・成果の水準を意識しながら、今後の進め方やスケジュールを整理し、より具体的な形で活動を進めていく。【第2クオーター(8～14回)】継続実行(進めながら整える)・テーマについての検討や作業

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各回の活動に向けて、必要な調査・整理・検討等を主体的に行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと。何をどの程度準備すべきかについても自ら判断し、活動の目的や進行に応じて適切に対応することが求められる。また、ゼミ活動においては、全体の方針や役割分担に基づき、各自が責任をもって必要な準備や調整を行うとともに、その成果を持ち寄って議論・検討を行うこと。継続的な実行と改善を通して、活動の完成度を高めていくことが求められる。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・演習への積極的な参加 … 30%・進捗報告 … 30%・発表会・報告書 … 40%課題提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

＜教科書＞
初回授業で決定する

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		

15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	BCD02				区　分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(BC秋入学生用)（BC25秋編入学生用）				担当者名	溝越　隆興			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	0.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠで取り組んだテーマや活動を土台として、その内容をさらに発展させ、成果として形にしていく。また、発表や対外的な発信を通して、社会とのつながりを意識した活動を行う。学生が主体的に活動を継続し、自らの専門とキャリアとの関係を考えながら、より高い水準での成果を目指す。

＜授業の到達目標＞
・ゼミナールⅠで設定したテーマについて検討を深め、その成果を論文・報告書・成果物等としてまとめ、発表することができる。・中長期的な視点から自らの将来像を描きつつ、卒業後を見据えた方向を具体化し、その実現に向けた準備や行動を主体的に進めることができる。

＜授業の方法＞
本授業は100分×クオーター制（全28回）で実施する。ゼミナールⅠでの活動を踏まえ、テーマおよび活動を継続しながら、その成果を発展・深化させていく。【第1クオーター（1～7回）】再設計・実行（見直して動く）・これまでの取り組みを振り返り、テーマや活動の方向性を見直すとともに、必要な修正を行ったうえで、直ちに活動を再開する。・成果の水準を意識しながら、今後の進め方やスケジュールを整理し、より具体的な形で活動を進めていく。【第2クオーター(8～14回)】継続実行(進めながら整える)・テーマについての検討や作業

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各回の活動に向けて、必要な調査・整理・検討等を主体的に行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと。何をどの程度準備すべきかについても自ら判断し、活動の目的や進行に応じて適切に対応することが求められる。また、ゼミ活動においては、全体の方針や役割分担に基づき、各自が責任をもって必要な準備や調整を行うとともに、その成果を持ち寄って議論・検討を行うこと。継続的な実行と改善を通して、活動の完成度を高めていくことが求められる。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・演習への積極的な参加 … 30%・進捗報告 … 30%・発表会・報告書 … 40%課題提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

＜教科書＞
初回授業で決定する

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		

15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	BCD02				区　分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(BC秋入学生用)（BC25秋編入学生用）				担当者名	岡田　健志			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	0.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠで取り組んだテーマや活動を土台として、その内容をさらに発展させ、成果として形にしていく。また、発表や対外的な発信を通して、社会とのつながりを意識した活動を行う。学生が主体的に活動を継続し、自らの専門とキャリアとの関係を考えながら、より高い水準での成果を目指す。

＜授業の到達目標＞
・ゼミナールⅠで設定したテーマについて検討を深め、その成果を論文・報告書・成果物等としてまとめ、発表することができる。・中長期的な視点から自らの将来像を描きつつ、卒業後を見据えた方向を具体化し、その実現に向けた準備や行動を主体的に進めることができる。

＜授業の方法＞
本授業は100分×クオーター制（全28回）で実施する。ゼミナールⅠでの活動を踏まえ、テーマおよび活動を継続しながら、その成果を発展・深化させていく。【第1クオーター（1～7回）】再設計・実行（見直して動く）・これまでの取り組みを振り返り、テーマや活動の方向性を見直すとともに、必要な修正を行ったうえで、直ちに活動を再開する。・成果の水準を意識しながら、今後の進め方やスケジュールを整理し、より具体的な形で活動を進めていく。【第2クオーター(8～14回)】継続実行(進めながら整える)・テーマについての検討や作業

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各回の活動に向けて、必要な調査・整理・検討等を主体的に行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと。何をどの程度準備すべきかについても自ら判断し、活動の目的や進行に応じて適切に対応することが求められる。また、ゼミ活動においては、全体の方針や役割分担に基づき、各自が責任をもって必要な準備や調整を行うとともに、その成果を持ち寄って議論・検討を行うこと。継続的な実行と改善を通して、活動の完成度を高めていくことが求められる。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・演習への積極的な参加 … 30%・進捗報告 … 30%・発表会・報告書 … 40%課題提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

＜教科書＞
初回授業で決定する

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		

15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	S05				区　分	エクステンション科目			
授業科目名	環トレ［FC・FE用］				担当者名	濱嶋　幸司／後藤　由佳／内田　仁志			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	0.00単位	授業方法	講義・実技	卒業要件	本学学生の義務

＜授業の概要＞

本学部独自のプログラムである「環トレ」の目的は、教員採用試験や各種就職試験の突破に必要な基礎学力の底上げを目指すことにある。eラーニング教材「ラインズドリル」を活用し、国語・数学・英語の3教科を「自律学習型」で習得を目指す。前期・後期で全28回対面実施の場を用意する。ただし、月1回の到達度確認試験において、各教科80点以上を取得した者は、その学期内の対面勉強会への参加が免除される「対面参加免除制度」を用いる。これにより、自律的に高い目標へ挑戦する姿勢を促したい。各回は、事前テストによる弱点特定、ドリル演習、事後テストによる定着確認のサイクルで構成される。ノートへの記録と学習計画の自己管理を徹底し、教員に依存せず自ら課題を解決して「自走」できる学習習慣の確立を目指す。受講にはノートPCが必須であり、スマートフォンの利用は厳禁である。※対面実施回に欠席した場合は、ユニバーサルパスポートに✕がつくことになる。教育実習や他学科履修・奨学金の基準に大きく影響が出ることに注意してほしい。＋＋＋安全配慮: 長時間のPC操作に伴う目の疲れや姿勢の悪化に注意し、適宜休憩を促す指導を行います。また、充電ケーブル等の配線による転倒防止を徹底します。事故対応： 万が一、授業中に体調不良や怪我が発生した場合は、直ちに担当教員に報告してください。大学の規定に従い、保健室と連携して速やかに応急処置および保護者への連絡等の対応を行います。

＜授業の到達目標＞

①学力層別のスコア向上：就活学力試験に向けて1点でも高い得点を取る。②対面参加免除基準の達成：月1回の到達度確認試験において、国・数・英の各教科で80点以上（3教科合計240点相当）を取得し、自律学習の成果を証明する。③自律学習習慣の確立：実力診断テストを用いて自らの弱点を客観的に把握し、学習習慣を体得する。④基礎学力の定着：年間を通じて、所定の学習範囲を満足に解ける状態にし、各種採用試験に対応できる基礎学力を定着させる。⑤自己管理能力の向上：ノートPCやeラーニング、学習ノートを適切に活用し、自らの学修

＜授業の方法＞

①実施形態と頻度：週1回、100分間の対面方式で実施②使用ツールと規律：eラーニングシステム「ラインズドリル」を活用する③対面参加免除制度：月初に実施される「到達度確認試験」において、国語・数学・英語の3教科すべてで80点以上を取得した者は、当該学期内の対面勉強会への参加を免除されるが、免除後も時間外での自学自習を継続することが求められる。④指導・管理体制：出席管理は、呼名、座席チェック、およびノートの写真を添付した終了時フォームの提出によって厳格に行う。⑤個別支援の活用：自力での学習が困難であればASR

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

あり　積極的なノートPCを用いた自学自習

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習： 前回の確認テストで特定された自身の弱点分野を把握し、当日の学習計画（各教科の時間配分等）を策定して授業に臨む（1時間程度）。事後学習： eラーニング教材「ラインズドリル」を活用し、授業内で未達成だった課題の解き直しや復習を継続的に行う（1日30分、週換算で2時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。自らの学修状況を客観的に把握し、目標に向けて継続的に努力する態度を養います。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

到達度確認試験（ラインズドリル） 40%、就活学力試験 40%、学習プロセス評価（学習ノート・自己管理状況） 20% ※各試験のフィードバックは、受験後のスコアシートおよびeラーニングシステム上で行います。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	環トレの目的、自律学習の進め方、年間スケジュール、ノートPC必須・スマホ禁止等のルール、ASR（学習支援室）の活用方法等の周知
2	到達度確認テスト#1	初回の実力把握。各教科80点以上（合計240点以上）取得者は対面参加免除の対象となる
3	個人学習 / 学習計画の解説	テスト結果に基づく1ヶ月の学習計画の策定支援。
4	オンデマンド学習	自学自習
5	到達度確認テスト#2	月初の習得状況確認と、免除基準への再挑戦
6	個人学習	100分間の標準サイクルに基づく個別演習

7	個人学習	100分間の標準サイクルに基づく個別演習
8	到達度確認テスト#3	月次の習得度確認および免除判定
9	個人学習	100分間の標準サイクルに基づく個別演習
10	個人学習	100分間の標準サイクルに基づく個別演習
11	個人学習	100分間の標準サイクルに基づく個別演習
12	到達度確認テスト#3	前期中盤までの学習成果の評価
13	個人学習	各教科の基礎定着を目指した個別演習
14	個人学習	前期の学習の総括と定着確認
15	到達度確認テスト#4	後期のスタートに伴う免除判定
16	個人学習	後期学習計画の策定とドリル演習
17	個人学習	実力診断テストによる未修得範囲の特定と重点学習
18	個人学習	「自走」に向けた継続的な学習習慣の形成
19	到達度確認テスト#5	後期の中間評価と免除更新の判定
20	個人学習	就活学力試験180点突破に向けた追い込み学習
21	個人学習	苦手分野の徹底克服（数学の重点日設定等を含む）
22	個人学習	応用力養成に向けた反復演習
23	到達度確認テスト#6	直近の習得度の客観的評価
24	個人学習	学修進捗状況の確認と計画の最終調整
25	個人学習	各種試験に向けた総仕上げの学習
26	個人学習	自学自習による基礎学力の完全定着
27	到達度確認テスト#7	年間の最終的な学力到達度の確認
28	個人学習	1年間の総括と、次年度の学習継続に向けた課題整理
29		
30		

科目コード	S05				区　分	エクステンション科目			
授業科目名	環トレ［FC・FE用］				担当者名	濱嶋　幸司／後藤　由佳／内田　仁志			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	0.00単位	授業方法	講義・実技	卒業要件	本学学生の義務

＜授業の概要＞

本学部独自のプログラムである「環トレ」の目的は、教員採用試験や各種就職試験の突破に必要な基礎学力の底上げを目指すことにある。eラーニング教材「ラインズドリル」を活用し、国語・数学・英語の3教科を「自律学習型」で習得を目指す。前期・後期で全28回対面実施の場を用意する。ただし、月1回の到達度確認試験において、各教科80点以上を取得した者は、その学期内の対面勉強会への参加が免除される「対面参加免除制度」を用いる。これにより、自律的に高い目標へ挑戦する姿勢を促したい。各回は、事前テストによる弱点特定、ドリル演習、事後テストによる定着確認のサイクルで構成される。ノートへの記録と学習計画の自己管理を徹底し、教員に依存せず自ら課題を解決して「自走」できる学習習慣の確立を目指す。受講にはノートPCが必須であり、スマートフォンの利用は厳禁である。※対面実施回に欠席した場合は、ユニバーサルパスポートに✕がつくことになる。教育実習や他学科履修・奨学金の基準に大きく影響が出ることに注意してほしい。＋＋＋安全配慮: 長時間のPC操作に伴う目の疲れや姿勢の悪化に注意し、適宜休憩を促す指導を行います。また、充電ケーブル等の配線による転倒防止を徹底します。事故対応： 万が一、授業中に体調不良や怪我が発生した場合は、直ちに担当教員に報告してください。大学の規定に従い、保健室と連携して速やかに応急処置および保護者への連絡等の対応を行います。

＜授業の到達目標＞

①学力層別のスコア向上：就活学力試験に向けて1点でも高い得点を取る。②対面参加免除基準の達成：月1回の到達度確認試験において、国・数・英の各教科で80点以上（3教科合計240点相当）を取得し、自律学習の成果を証明する。③自律学習習慣の確立：実力診断テストを用いて自らの弱点を客観的に把握し、学習習慣を体得する。④基礎学力の定着：年間を通じて、所定の学習範囲を満足に解ける状態にし、各種採用試験に対応できる基礎学力を定着させる。⑤自己管理能力の向上：ノートPCやeラーニング、学習ノートを適切に活用し、自らの学修

＜授業の方法＞

①実施形態と頻度：週1回、100分間の対面方式で実施②使用ツールと規律：eラーニングシステム「ラインズドリル」を活用する③対面参加免除制度：月初に実施される「到達度確認試験」において、国語・数学・英語の3教科すべてで80点以上を取得した者は、当該学期内の対面勉強会への参加を免除されるが、免除後も時間外での自学自習を継続することが求められる。④指導・管理体制：出席管理は、呼名、座席チェック、およびノートの写真を添付した終了時フォームの提出によって厳格に行う。⑤個別支援の活用：自力での学習が困難であればASR

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

あり　積極的なノートPCを用いた自学自習

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習： 前回の確認テストで特定された自身の弱点分野を把握し、当日の学習計画（各教科の時間配分等）を策定して授業に臨む（1時間程度）。事後学習： eラーニング教材「ラインズドリル」を活用し、授業内で未達成だった課題の解き直しや復習を継続的に行う（1日30分、週換算で2時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。自らの学修状況を客観的に把握し、目標に向けて継続的に努力する態度を養います。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

到達度確認試験（ラインズドリル） 40%、就活学力試験 40%、学習プロセス評価（学習ノート・自己管理状況） 20% ※各試験のフィードバックは、受験後のスコアシートおよびeラーニングシステム上で行います。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	環トレの目的、自律学習の進め方、年間スケジュール、ノートPC必須・スマホ禁止等のルール、ASR（学習支援室）の活用方法等の周知
2	到達度確認テスト#1	初回の実力把握。各教科80点以上（合計240点以上）取得者は対面参加免除の対象となる
3	個人学習 / 学習計画の解説	テスト結果に基づく1ヶ月の学習計画の策定支援。
4	オンデマンド学習	自学自習
5	到達度確認テスト#2	月初の習得状況確認と、免除基準への再挑戦
6	個人学習	100分間の標準サイクルに基づく個別演習

7	個人学習	100分間の標準サイクルに基づく個別演習
8	到達度確認テスト#3	月次の習得度確認および免除判定
9	個人学習	100分間の標準サイクルに基づく個別演習
10	個人学習	100分間の標準サイクルに基づく個別演習
11	個人学習	100分間の標準サイクルに基づく個別演習
12	到達度確認テスト#3	前期中盤までの学習成果の評価
13	個人学習	各教科の基礎定着を目指した個別演習
14	個人学習	前期の学習の総括と定着確認
15	到達度確認テスト#4	後期のスタートに伴う免除判定
16	個人学習	後期学習計画の策定とドリル演習
17	個人学習	実力診断テストによる未修得範囲の特定と重点学習
18	個人学習	「自走」に向けた継続的な学習習慣の形成
19	到達度確認テスト#5	後期の中間評価と免除更新の判定
20	個人学習	就活学力試験180点突破に向けた追い込み学習
21	個人学習	苦手分野の徹底克服（数学の重点日設定等を含む）
22	個人学習	応用力養成に向けた反復演習
23	到達度確認テスト#6	直近の習得度の客観的評価
24	個人学習	学修進捗状況の確認と計画の最終調整
25	個人学習	各種試験に向けた総仕上げの学習
26	個人学習	自学自習による基礎学力の完全定着
27	到達度確認テスト#7	年間の最終的な学力到達度の確認
28	個人学習	1年間の総括と、次年度の学習継続に向けた課題整理
29		
30		

科目コード	S05				区　分	エクステンション科目			
授業科目名	環トレ［FC・FE用］				担当者名	西田　修斗／大久保　諒／三好　啓子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	0.00単位	授業方法	講義・実技	卒業要件	本学学生の義務

＜授業の概要＞

本学部独自のプログラムである「環トレ」の目的は、教員採用試験や各種就職試験の突破に必要な基礎学力の底上げを目指すことにある。eラーニング教材「ラインズドリル」を活用し、国語・数学・英語の3教科を「自律学習型」で習得を目指す。前期・後期で全28回対面実施の場を用意する。ただし、月1回の到達度確認試験において、各教科80点以上を取得した者は、その学期内の対面勉強会への参加が免除される「対面参加免除制度」を用いる。これにより、自律的に高い目標へ挑戦する姿勢を促したい。各回は、事前テストによる弱点特定、ドリル演習、事後テストによる定着確認のサイクルで構成される。ノートへの記録と学習計画の自己管理を徹底し、教員に依存せず自ら課題を解決して「自走」できる学習習慣の確立を目指す。受講にはノートPCが必須であり、スマートフォンの利用は厳禁である。※対面実施回に欠席した場合は、ユニバーサルパスポートに✕がつくことになる。教育実習や他学科履修・奨学金の基準に大きく影響が出ることに注意してほしい。＋＋＋安全配慮: 長時間のPC操作に伴う目の疲れや姿勢の悪化に注意し、適宜休憩を促す指導を行います。また、充電ケーブル等の配線による転倒防止を徹底します。事故対応： 万が一、授業中に体調不良や怪我が発生した場合は、直ちに担当教員に報告してください。大学の規定に従い、保健室と連携して速やかに応急処置および保護者への連絡等の対応を行います。

＜授業の到達目標＞

①学力層別のスコア向上：就活学力試験に向けて1点でも高い得点を取る。②対面参加免除基準の達成：月1回の到達度確認試験において、国・数・英の各教科で80点以上（3教科合計240点相当）を取得し、自律学習の成果を証明する。③自律学習習慣の確立：実力診断テストを用いて自らの弱点を客観的に把握し、学習習慣を体得する。④基礎学力の定着：年間を通じて、所定の学習範囲を満足に解ける状態にし、各種採用試験に対応できる基礎学力を定着させる。⑤自己管理能力の向上：ノートPCやeラーニング、学習ノートを適切に活用し、自らの学修

＜授業の方法＞

①実施形態と頻度：週1回、100分間の対面方式で実施②使用ツールと規律：eラーニングシステム「ラインズドリル」を活用する③対面参加免除制度：月初に実施される「到達度確認試験」において、国語・数学・英語の3教科すべてで80点以上を取得した者は、当該学期内の対面勉強会への参加を免除されるが、免除後も時間外での自学自習を継続することが求められる。④指導・管理体制：出席管理は、呼名、座席チェック、およびノートの写真を添付した終了時フォームの提出によって厳格に行う。⑤個別支援の活用：自力での学習が困難であればASR

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

あり　積極的なノートPCを用いた自学自習

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習： 前回の確認テストで特定された自身の弱点分野を把握し、当日の学習計画（各教科の時間配分等）を策定して授業に臨む（1時間程度）。事後学習： eラーニング教材「ラインズドリル」を活用し、授業内で未達成だった課題の解き直しや復習を継続的に行う（1日30分、週換算で2時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。自らの学修状況を客観的に把握し、目標に向けて継続的に努力する態度を養います。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

到達度確認試験（ラインズドリル） 40%、就活学力試験 40%、学習プロセス評価（学習ノート・自己管理状況） 20% ※各試験のフィードバックは、受験後のスコアシートおよびeラーニングシステム上で行います。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	環トレの目的、自律学習の進め方、年間スケジュール、ノートPC必須・スマホ禁止等のルール、ASR（学習支援室）の活用方法等の周知
2	到達度確認テスト#1	初回の実力把握。各教科80点以上（合計240点以上）取得者は対面参加免除の対象となる
3	個人学習 / 学習計画の解説	テスト結果に基づく1ヶ月の学習計画の策定支援。
4	オンデマンド学習	自学自習
5	到達度確認テスト#2	月初の習得状況確認と、免除基準への再挑戦
6	個人学習	100分間の標準サイクルに基づく個別演習

7	個人学習	100分間の標準サイクルに基づく個別演習
8	到達度確認テスト#3	月次の習得度確認および免除判定
9	個人学習	100分間の標準サイクルに基づく個別演習
10	個人学習	100分間の標準サイクルに基づく個別演習
11	個人学習	100分間の標準サイクルに基づく個別演習
12	到達度確認テスト#3	前期中盤までの学習成果の評価
13	個人学習	各教科の基礎定着を目指した個別演習
14	個人学習	前期の学習の総括と定着確認
15	到達度確認テスト#4	後期のスタートに伴う免除判定
16	個人学習	後期学習計画の策定とドリル演習
17	個人学習	実力診断テストによる未修得範囲の特定と重点学習
18	個人学習	「自走」に向けた継続的な学習習慣の形成
19	到達度確認テスト#5	後期の中間評価と免除更新の判定
20	個人学習	就活学力試験180点突破に向けた追い込み学習
21	個人学習	苦手分野の徹底克服（数学の重点日設定等を含む）
22	個人学習	応用力養成に向けた反復演習
23	到達度確認テスト#6	直近の習得度の客観的評価
24	個人学習	学修進捗状況の確認と計画の最終調整
25	個人学習	各種試験に向けた総仕上げの学習
26	個人学習	自学自習による基礎学力の完全定着
27	到達度確認テスト#7	年間の最終的な学力到達度の確認
28	個人学習	1年間の総括と、次年度の学習継続に向けた課題整理
29		
30		

科目コード	S05				区　分	エクステンション科目			
授業科目名	環トレ［FC・FE用］				担当者名	西田　修斗／大久保　諒／三好　啓子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	0.00単位	授業方法	講義・実技	卒業要件	本学学生の義務

＜授業の概要＞

本学部独自のプログラムである「環トレ」の目的は、教員採用試験や各種就職試験の突破に必要な基礎学力の底上げを目指すことにある。eラーニング教材「ラインズドリル」を活用し、国語・数学・英語の3教科を「自律学習型」で習得を目指す。前期・後期で全28回対面実施の場を用意する。ただし、月1回の到達度確認試験において、各教科80点以上を取得した者は、その学期内の対面勉強会への参加が免除される「対面参加免除制度」を用いる。これにより、自律的に高い目標へ挑戦する姿勢を促したい。各回は、事前テストによる弱点特定、ドリル演習、事後テストによる定着確認のサイクルで構成される。ノートへの記録と学習計画の自己管理を徹底し、教員に依存せず自ら課題を解決して「自走」できる学習習慣の確立を目指す。受講にはノートPCが必須であり、スマートフォンの利用は厳禁である。※対面実施回に欠席した場合は、ユニバーサルパスポートに✕がつくことになる。教育実習や他学科履修・奨学金の基準に大きく影響が出ることに注意してほしい。＋＋＋安全配慮: 長時間のPC操作に伴う目の疲れや姿勢の悪化に注意し、適宜休憩を促す指導を行います。また、充電ケーブル等の配線による転倒防止を徹底します。事故対応： 万が一、授業中に体調不良や怪我が発生した場合は、直ちに担当教員に報告してください。大学の規定に従い、保健室と連携して速やかに応急処置および保護者への連絡等の対応を行います。

＜授業の到達目標＞

①学力層別のスコア向上：就活学力試験に向けて1点でも高い得点を取る。②対面参加免除基準の達成：月1回の到達度確認試験において、国・数・英の各教科で80点以上（3教科合計240点相当）を取得し、自律学習の成果を証明する。③自律学習習慣の確立：実力診断テストを用いて自らの弱点を客観的に把握し、学習習慣を体得する。④基礎学力の定着：年間を通じて、所定の学習範囲を満足に解ける状態にし、各種採用試験に対応できる基礎学力を定着させる。⑤自己管理能力の向上：ノートPCやeラーニング、学習ノートを適切に活用し、自らの学修

＜授業の方法＞

①実施形態と頻度：週1回、100分間の対面方式で実施②使用ツールと規律：eラーニングシステム「ラインズドリル」を活用する③対面参加免除制度：月初に実施される「到達度確認試験」において、国語・数学・英語の3教科すべてで80点以上を取得した者は、当該学期内の対面勉強会への参加を免除されるが、免除後も時間外での自学自習を継続することが求められる。④指導・管理体制：出席管理は、呼名、座席チェック、およびノートの写真を添付した終了時フォームの提出によって厳格に行う。⑤個別支援の活用：自力での学習が困難であればASR

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

あり積極的なノートPCを用いた自学自習

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習： 前回の確認テストで特定された自身の弱点分野を把握し、当日の学習計画（各教科の時間配分等）を策定して授業に臨む（1時間程度）。事後学習： eラーニング教材「ラインズドリル」を活用し、授業内で未達成だった課題の解き直しや復習を継続的に行う（1日30分、週換算で2時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。自らの学修状況を客観的に把握し、目標に向けて継続的に努力する態度を養います。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

到達度確認試験（ラインズドリル） 40%、就活学力試験 40%、学習プロセス評価（学習ノート・自己管理状況） 20% ※各試験のフィードバックは、受験後のスコアシートおよびeラーニングシステム上で行います。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	環トレの目的、自律学習の進め方、年間スケジュール、ノートPC必須・スマホ禁止等のルール、ASR（学習支援室）の活用方法等の周知
2	到達度確認テスト#1	初回の実力把握。各教科80点以上（合計240点以上）取得者は対面参加免除の対象となる
3	個人学習 / 学習計画の解説	テスト結果に基づく1ヶ月の学習計画の策定支援。
4	オンデマンド学習	自学自習
5	到達度確認テスト#2	月初の習得状況確認と、免除基準への再挑戦
6	個人学習	100分間の標準サイクルに基づく個別演習

7	個人学習	100分間の標準サイクルに基づく個別演習
8	到達度確認テスト#3	月次の習得度確認および免除判定
9	個人学習	100分間の標準サイクルに基づく個別演習
10	個人学習	100分間の標準サイクルに基づく個別演習
11	個人学習	100分間の標準サイクルに基づく個別演習
12	到達度確認テスト#3	前期中盤までの学習成果の評価
13	個人学習	各教科の基礎定着を目指した個別演習
14	個人学習	前期の学習の総括と定着確認
15	到達度確認テスト#4	後期のスタートに伴う免除判定
16	個人学習	後期学習計画の策定とドリル演習
17	個人学習	実力診断テストによる未修得範囲の特定と重点学習
18	個人学習	「自走」に向けた継続的な学習習慣の形成
19	到達度確認テスト#5	後期の中間評価と免除更新の判定
20	個人学習	就活学力試験180点突破に向けた追い込み学習
21	個人学習	苦手分野の徹底克服（数学の重点日設定等を含む）
22	個人学習	応用力養成に向けた反復演習
23	到達度確認テスト#6	直近の習得度の客観的評価
24	個人学習	学修進捗状況の確認と計画の最終調整
25	個人学習	各種試験に向けた総仕上げの学習
26	個人学習	自学自習による基礎学力の完全定着
27	到達度確認テスト#7	年間の最終的な学力到達度の確認
28	個人学習	1年間の総括と、次年度の学習継続に向けた課題整理
29		
30		

科目コード	10101				区　分	教養科目			
授業科目名	英会話［BC日本人①］				担当者名	Anton Johannes Potgieter			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

＜授業の到達目標＞
英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人交換に応じることができる。

＜授業の方法＞
授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
なし

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー５（異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時間外課題 30%、授業への参加 30%、2つのプレゼンテーション 40%

＜教科書＞
Leo Jones(2007年9月1日)　Let’Talk 1Student’s Book withSelf-Study Audio CD　Cambridge University Press

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others;asking for personal information;giving personal information to others
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance;describing personality characteristics;discussing personal interests
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies;describing sports characteristics;discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families;discussing living arrangements;describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences;giving compliments; suggesting gifts;discussing spending habits and attitudes
7	Presentation (1)	Giving presentation in English
8	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey;discussing famous places;talking about things to take on a trip
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits;planning a meal; describing traditional mealsand unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows;taking a TV survey;planning a TV schedule
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles;taking health and sleep habit quizzes;discussing sleep and dreams
12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things;discussing problems andgiving good advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions;talking about cities; recommending places;planning a fun day out
14	Presentation (2)	Giving presentation in English
15		
16		

科目コード	10101				区　分	教養科目			
授業科目名	英会話［BC日本人②］				担当者名	Jason　Witthaus			
配当年次	1年	配当学期	第1・第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

＜授業の到達目標＞
英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

＜授業の方法＞
授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
学生は、このコース全体を通じて能動的な学習者として関わります。英語でのコミュニケーション能力を高めるために、スチューデント・チョイスが促進され、アクセスされます。学生は自分の考えを反映し、ペアやグループで問題を解決できるようになります。学生は情報を統合し、自分の学習を強化できるようになります。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前：英語のプレゼンテーションの準備(1時間程度)等事後：授業の後に目標の応用「例、友達とフリートーク、目標の単語・文法で自分のアイデアを構築する」(2時間程度)等

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー５(異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

＜教科書＞
Leo Jones(2007年9月1日)　Let’Talk 1Student’s Book withSelf-Study Audio CD　Cambridge University Press

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	Guidance / Unit 1: Communicating in English	Explanation of classroom learning, grading procedures, and other related topicsIntroducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
2	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics;discussing personal interests
3	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
4	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
5	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
6	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
7	Presentation (1)	Giving presentation in English
8	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
9	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; talking about

		YouTube/Streaming viewing
10	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
11	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good advice
12	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
13	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays;discussing and giving advice about manners; comparing customs
14	Presentation (2)	Giving presentation in English
15		
16		

科目コード	10101				区　分	教養科目			
授業科目名	英会話［BC日本人③］＋再履修者用				担当者名	三垣　雅美			
配当年次	1年	配当学期	第1・第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

＜授業の到達目標＞
英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

＜授業の方法＞
授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また，授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
学生は、このコース全体を通じて能動的な学習者として関わります。英語でのコミュニケーション能力を高めるために、スチューデント・チョイスが促進され、アクセスされます。学生は自分の考えを反映し、ペアやグループで問題を解決できるようになります。学生は情報を統合し、自分の学習を強化できるようになります。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前：英語のプレゼンテーションの準備(1時間程度)等事後：授業の後に目標の応用「例、友達とフリートーク、目標の単語・文法で自分のアイデアを構築する」(2時間程度)等

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー５（留学や国際交流などを通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として国際社会に貢献できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時間外課題 30%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 40%

＜教科書＞
Leo Jones(2007年9月1日)　Let’Talk 1Student’s Book withSelf-Study Audio CD　Cambridge University Press

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	Guidance / Unit 1: Communicating in English	Explanation of classroom learning, grading procedures, and other related topicsIntroducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
2	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics;discussing personal interests
3	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
4	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
5	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
6	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
7	Presentation (1)	Giving presentation in English
8	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods

9	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; talking about YouTube/Streaming viewing
10	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
11	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good advice
12	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
13	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays;discussing and giving advice about manners; comparing customs
14	Presentation (2)	Giving presentation in English
15		
16		

科目コード	10101				区　分	教養科目			
授業科目名	英会話［BC留学生①］				担当者名	SACKO　Salif			
配当年次	1年	配当学期	第1・第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

＜授業の到達目標＞
英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

＜授業の方法＞
授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
学生は、このコース全体を通じて能動的な学習者として関わります。英語でのコミュニケーション能力を高めるために、スチューデント・チョイスが促進され、アクセスされます。学生は自分の考えを反映し、ペアやグループで問題を解決できるようになります。学生は情報を統合し、自分の学習を強化できるようになります。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前：英語のプレゼンテーションの準備(1時間程度)等事後：授業の後に目標の応用「例、友達とフリートーク、目標の単語・文法で自分のアイデアを構築する」(2時間程度)等

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー５(異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時間外課題 30%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 40%

＜教科書＞
Leo Jones (2007年9月1日)　Let’Talk 1 Student’s Book with Self-Study Audio CD　Cambridge University Press

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	Guidance / Unit 1: Communicating in English	Explanation of classroom learning, grading procedures, and other related topics Introducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
2	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics; discussing personal interests
3	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
4	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
5	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
6	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
7	Presentation (1)	Giving presentation in English
8	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
9	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; talking about

		YouTube/Streaming viewing
10	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
11	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good advice
12	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
13	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
14	Presentation (2)	Giving presentation in English
15		
16		

科目コード	10101				区　分	教養科目			
授業科目名	英会話［BC留学生②］				担当者名	Jason　Witthaus			
配当年次	1年	配当学期	第1・第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

＜授業の到達目標＞
英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

＜授業の方法＞
授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
学生は、このコース全体を通じて能動的な学習者として関わります。英語でのコミュニケーション能力を高めるために、スチューデント・チョイスが促進され、アクセスされます。学生は自分の考えを反映し、ペアやグループで問題を解決できるようになります。学生は情報を統合し、自分の学習を強化できるようになります。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前：英語のプレゼンテーションの準備(1時間程度)等事後：授業の後に目標の応用「例、友達とフリートーク、目標の単語・文法で自分のアイデアを構築する」(2時間程度)等

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー５(異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

＜教科書＞
Leo Jones(2007年9月1日)　Let’Talk 1Student’s Book withSelf-Study Audio CD　Cambridge University Press

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	Guidance / Unit 1: Communicating in English	Explanation of classroom learning, grading procedures, and other related topicsIntroducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
2	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics;discussing personal interests
3	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
4	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
5	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
6	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
7	Presentation (1)	Giving presentation in English
8	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
9	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; talking about

		YouTube/Streaming viewing
10	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
11	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good advice
12	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
13	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays;discussing and giving advice about manners; comparing customs
14	Presentation (2)	Giving presentation in English
15		
16		

科目コード	10101				区　分	教養科目			
授業科目名	英会話［FC①］				担当者名	三垣　雅美			
配当年次	1年	配当学期	第1・第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

＜授業の到達目標＞
英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

＜授業の方法＞
授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また，授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
学生は、このコース全体を通じて能動的な学習者として関わります。英語でのコミュニケーション能力を高めるために、スチューデント・チョイスが促進され、アクセスされます。学生は自分の考えを反映し、ペアやグループで問題を解決できるようになります。学生は情報を統合し、自分の学習を強化できるようになります。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前：英語のプレゼンテーションの準備(1時間程度)等事後：授業の後に目標の応用「例、友達とフリートーク、目標の単語・文法で自分のアイデアを構築する」(2時間程度)等

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー５（留学や国際交流などを通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として国際社会に貢献できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時間外課題 30%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 40%

＜教科書＞
Leo Jones(2007年9月1日)　Let’Talk 1Student’s Book withSelf-Study Audio CD　Cambridge University Press

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	Guidance / Unit 1: Communicating in English	Explanation of classroom learning, grading procedures, and other related topicsIntroducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
2	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics;discussing personal interests
3	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
4	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
5	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
6	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
7	Presentation (1)	Giving presentation in English
8	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods

9	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; talking about YouTube/Streaming viewing
10	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
11	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good advice
12	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
13	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays;discussing and giving advice about manners; comparing customs
14	Presentation (2)	Giving presentation in English
15		
16		

科目コード	10101				区　分	教養科目			
授業科目名	英会話 [FC②]＋FC再履修者				担当者名	SACKO　Salif			
配当年次	1年	配当学期	第1・第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

＜授業の到達目標＞
英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

＜授業の方法＞
授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
学生は、このコース全体を通じて能動的な学習者として関わります。英語でのコミュニケーション能力を高めるために、スチューデント・チョイスが促進され、アクセスされます。学生は自分の考えを反映し、ペアやグループで問題を解決できるようになります。学生は情報を統合し、自分の学習を強化できるようになります。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前：英語のプレゼンテーションの準備(1時間程度)等事後：授業の後に目標の応用「例、友達とフリートーク、目標の単語・文法で自分のアイデアを構築する」(2時間程度)等

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー５(異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時間外課題 30%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 40%

＜教科書＞
Leo Jones (2007年9月1日)　Let’Talk 1 Student’s Book with Self-Study Audio CD　Cambridge University Press

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	Guidance / Unit 1: Communicating in English	Explanation of classroom learning, grading procedures, and other related topics Introducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
2	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics; discussing personal interests
3	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
4	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
5	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
6	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
7	Presentation (1)	Giving presentation in English
8	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
9	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; talking about

		YouTube/Streaming viewing
10	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
11	Unit 10: Self-improvement	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
12	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
13	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
14	Presentation (2)	Giving presentation in English
15		
16		

科目コード	10101				区　分	教養科目			
授業科目名	英会話［FE①］				担当者名	Jason　Witthaus			
配当年次	1年	配当学期	第1・第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

＜授業の到達目標＞
英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

＜授業の方法＞
授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また，授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
学生は、このコース全体を通じて能動的な学習者として関わります。英語でのコミュニケーション能力を高めるために、スチューデント・チョイスが促進され、アクセスされます。学生は自分の考えを反映し、ペアやグループで問題を解決できるようになります。学生は情報を統合し、自分の学習を強化できるようになります。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前：英語のプレゼンテーションの準備(1時間程度)等事後：授業の後に目標の応用「例、友達とフリートーク、目標の単語・文法で自分のアイデアを構築する」(2時間程度)等

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー５(異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

＜教科書＞
Leo Jones(2007年9月1日)　Let’Talk 1Student’s Book withSelf-Study Audio CD　Cambridge University Press

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	Guidance / Unit 1: Communicating in English	Explanation of classroom learning, grading procedures, and other related topicsIntroducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
2	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics;discussing personal interests
3	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
4	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
5	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
6	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
7	Presentation (1)	Giving presentation in English
8	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
9	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; talking about

		YouTube/Streaming viewing
10	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
11	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good advice
12	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
13	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays;discussing and giving advice about manners; comparing customs
14	Presentation (2)	Giving presentation in English
15		
16		

科目コード	10101				区　分	教養科目			
授業科目名	英会話［FE②］＋FE再履修者				担当者名	Jason　Witthaus			
配当年次	1年	配当学期	第1・第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

＜授業の到達目標＞
英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

＜授業の方法＞
授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
学生は、このコース全体を通じて能動的な学習者として関わります。英語でのコミュニケーション能力を高めるために、スチューデント・チョイスが促進され、アクセスされます。学生は自分の考えを反映し、ペアやグループで問題を解決できるようになります。学生は情報を統合し、自分の学習を強化できるようになります。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前：英語のプレゼンテーションの準備(1時間程度)等事後：授業の後に目標の応用「例、友達とフリートーク、目標の単語・文法で自分のアイデアを構築する」(2時間程度)等

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー５(異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

＜教科書＞
Leo Jones(2007年9月1日)　Let’Talk 1Student’s Book withSelf-Study Audio CD　Cambridge University Press

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	Guidance / Unit 1: Communicating in English	Explanation of classroom learning, grading procedures, and other related topicsIntroducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
2	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics;discussing personal interests
3	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
4	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
5	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
6	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
7	Presentation (1)	Giving presentation in English
8	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
9	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; talking about

		YouTube/Streaming viewing
10	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
11	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good advice
12	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
13	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays;discussing and giving advice about manners; comparing customs
14	Presentation (2)	Giving presentation in English
15		
16		

科目コード	10101				区　分	教養科目			
授業科目名	英会話［PH①］				担当者名	SACKO　Salif			
配当年次	1年	配当学期	第3・第4クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

＜授業の到達目標＞
英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

＜授業の方法＞
授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
学生は、このコース全体を通じて能動的な学習者として関わります。英語でのコミュニケーション能力を高めるために、スチューデント・チョイスが促進され、アクセスされます。学生は自分の考えを反映し、ペアやグループで問題を解決できるようになります。学生は情報を統合し、自分の学習を強化できるようになります。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前：英語のプレゼンテーションの準備(1時間程度)等事後：授業の後に目標の応用「例、友達とフリートーク、目標の単語・文法で自分のアイデアを構築する」(2時間程度)等

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー５(異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時間外課題 30%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 40%

＜教科書＞
Leo Jones (2007年9月1日)　Let’Talk 1 Student’s Book with Self-Study Audio CD　Cambridge University Press

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	Guidance / Unit 1: Communicating in English	Explanation of classroom learning, grading procedures, and other related topics Introducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
2	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics; discussing personal interests
3	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
4	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
5	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
6	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
7	Presentation (1)	Giving presentation in English
8	Unit 7: Food and drink	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; talking about YouTube/Streaming viewing
9	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; talking about

		YouTube/Streaming viewing
10	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
11	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good advice
12	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
13	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
14	Presentation (2)	Giving presentation in English
15		
16		

科目コード	10101				区　分	教養科目			
授業科目名	英会話［PH②］＋PH再履修者				担当者名	Jason　Witthaus			
配当年次	1年	配当学期	第3・第4クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

＜授業の到達目標＞
英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

＜授業の方法＞
授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
学生は、このコース全体を通じて能動的な学習者として関わります。英語でのコミュニケーション能力を高めるために、スチューデント・チョイスが促進され、アクセスされます。学生は自分の考えを反映し、ペアやグループで問題を解決できるようになります。学生は情報を統合し、自分の学習を強化できるようになります。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前：英語のプレゼンテーションの準備(1時間程度)等事後：授業の後に目標の応用「例、友達とフリートーク、目標の単語・文法で自分のアイデアを構築する」(2時間程度)等

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー５(異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

＜教科書＞
Leo Jones(2007年9月1日)　Let’Talk 1Student’s Book withSelf-Study Audio CD　Cambridge University Press

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	Guidance / Unit 1: Communicating in English	Explanation of classroom learning, grading procedures, and other related topicsIntroducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
2	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics;discussing personal interests
3	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
4	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
5	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
6	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
7	Presentation (1)	Giving presentation in English
8	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
9	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; talking about

		YouTube/Streaming viewing
10	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
11	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good advice
12	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
13	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays;discussing and giving advice about manners; comparing customs
14	Presentation (2)	Giving presentation in English
15		
16		

科目コード	10101				区　分	教養科目			
授業科目名	英会話［PP①］				担当者名	Jason　Witthaus			
配当年次	1年	配当学期	第3・第4クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

＜授業の到達目標＞
英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

＜授業の方法＞
授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
学生は、このコース全体を通じて能動的な学習者として関わります。英語でのコミュニケーション能力を高めるために、スチューデント・チョイスが促進され、アクセスされます。学生は自分の考えを反映し、ペアやグループで問題を解決できるようになります。学生は情報を統合し、自分の学習を強化できるようになります。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前：英語のプレゼンテーションの準備(1時間程度)等事後：授業の後に目標の応用「例、友達とフリートーク、目標の単語・文法で自分のアイデアを構築する」(2時間程度)等

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー５(異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

＜教科書＞
Leo Jones(2007年9月1日)　Let’Talk 1Student’s Book withSelf-Study Audio CD　Cambridge University Press

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	Guidance / Unit 1: Communicating in English	Explanation of classroom learning, grading procedures, and other related topicsIntroducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
2	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics;discussing personal interests
3	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
4	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
5	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
6	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
7	Presentation (1)	Giving presentation in English
8	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
9	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; talking about

		YouTube/Streaming viewing
10	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
11	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good advice
12	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
13	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays;discussing and giving advice about manners; comparing customs
14	Presentation (2)	Giving presentation in English
15		
16		

科目コード	10101				区　分	教養科目			
授業科目名	英会話［PP②］				担当者名	SACKO　Salif			
配当年次	1年	配当学期	第3・第4クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

＜授業の到達目標＞
英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

＜授業の方法＞
授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
学生は、このコース全体を通じて能動的な学習者として関わります。英語でのコミュニケーション能力を高めるために、スチューデント・チョイスが促進され、アクセスされます。学生は自分の考えを反映し、ペアやグループで問題を解決できるようになります。学生は情報を統合し、自分の学習を強化できるようになります。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前：英語のプレゼンテーションの準備(1時間程度)等事後：授業の後に目標の応用「例、友達とフリートーク、目標の単語・文法で自分のアイデアを構築する」(2時間程度)等

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー５(異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時間外課題 30%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 40%

＜教科書＞
Leo Jones (2007年9月1日)　Let’ Talk 1 Student’s Book with Self-Study Audio CD
特になし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	Guidance / Unit 1: Communicating in English	Explanation of classroom learning, grading procedures, and other related topics Introducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
2	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics; discussing personal interests
3	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
4	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
5	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
6	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
7	Presentation (1)	Giving presentation in English
8	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
9	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; talking about

		YouTube/Streaming viewing
10	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
11	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good advice
12	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
13	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
14	Presentation (2)	Giving presentation in English
15		
16		

科目コード	10101				区　分	教養科目			
授業科目名	英会話［PP③］				担当者名	三垣　雅美			
配当年次	1年	配当学期	第1・第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

＜授業の到達目標＞
英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

＜授業の方法＞
授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また，授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
学生は、このコース全体を通じて能動的な学習者として関わります。英語でのコミュニケーション能力を高めるために、スチューデント・チョイスが促進され、アクセスされます。学生は自分の考えを反映し、ペアやグループで問題を解決できるようになります。学生は情報を統合し、自分の学習を強化できるようになります。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前：英語のプレゼンテーションの準備(1時間程度)等事後：授業の後に目標の応用「例、友達とフリートーク、目標の単語・文法で自分のアイデアを構築する」(2時間程度)等

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー５（留学や国際交流などを通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として国際社会に貢献できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時間外課題 30%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 40%

＜教科書＞
Leo Jones(2007年9月1日)　Let’Talk 1Student’s Book withSelf-Study Audio CD　Cambridge University Press

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	Guidance / Unit 1: Communicating in English	Explanation of classroom learning, grading procedures, and other related topicsIntroducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
2	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics;discussing personal interests
3	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
4	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
5	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
6	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
7	Presentation (1)	Giving presentation in English
8	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods

9	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; talking about YouTube/Streaming viewing
10	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
11	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good advice
12	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
13	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays;discussing and giving advice about manners; comparing customs
14	Presentation (2)	Giving presentation in English
15		
16		

科目コード	10101				区　分	教養科目			
授業科目名	英会話［PP④］				担当者名	Jason　Witthaus			
配当年次	1年	配当学期	第3・第4クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

＜授業の到達目標＞
英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

＜授業の方法＞
授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
学生は、このコース全体を通じて能動的な学習者として関わります。英語でのコミュニケーション能力を高めるために、スチューデント・チョイスが促進され、アクセスされます。学生は自分の考えを反映し、ペアやグループで問題を解決できるようになります。学生は情報を統合し、自分の学習を強化できるようになります。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前：英語のプレゼンテーションの準備(1時間程度)等事後：授業の後に目標の応用「例、友達とフリートーク、目標の単語・文法で自分のアイデアを構築する」(2時間程度)等

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー５(異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

＜教科書＞
Leo Jones(2007年9月1日)　Let’Talk 1Student’s Book withSelf-Study Audio CD　Cambridge University Press

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	Guidance / Unit 1: Communicating in English	Explanation of classroom learning, grading procedures, and other related topicsIntroducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
2	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics;discussing personal interests
3	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
4	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
5	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
6	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
7	Presentation (1)	Giving presentation in English
8	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
9	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; talking about

		YouTube/Streaming viewing
10	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
11	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good advice
12	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
13	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays;discussing and giving advice about manners; comparing customs
14	Presentation (2)	Giving presentation in English
15		
16		

科目コード	10101				区　分	教養科目			
授業科目名	英会話 [PP⑤]＋PP再履修者				担当者名	三垣　雅美			
配当年次	1年	配当学期	第1・第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

＜授業の到達目標＞
英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

＜授業の方法＞
授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また，授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
学生は、このコース全体を通じて能動的な学習者として関わります。英語でのコミュニケーション能力を高めるために、スチューデント・チョイスが促進され、アクセスされます。学生は自分の考えを反映し、ペアやグループで問題を解決できるようになります。学生は情報を統合し、自分の学習を強化できるようになります。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前：英語のプレゼンテーションの準備(1時間程度)等事後：授業の後に目標の応用「例、友達とフリートーク、目標の単語・文法で自分のアイデアを構築する」(2時間程度)等

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー５（留学や国際交流などを通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として国際社会に貢献できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時間外課題 30%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 40%

＜教科書＞
Leo Jones(2007年9月1日)　Let’Talk 1Student’s Book withSelf-Study Audio CD　Cambridge University Press

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	Guidance / Unit 1: Communicating in English	Explanation of classroom learning, grading procedures, and other related topicsIntroducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
2	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics;discussing personal interests
3	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
4	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
5	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
6	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
7	Presentation (1)	Giving presentation in English
8	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods

9	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; talking about YouTube/Streaming viewing
10	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
11	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good advice
12	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
13	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays;discussing and giving advice about manners; comparing customs
14	Presentation (2)	Giving presentation in English
15		
16		

科目コード	10101				区　分	教養科目			
授業科目名	英会話［PS①］				担当者名	SACKO　Salif			
配当年次	1年	配当学期	第3・第4クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

＜授業の到達目標＞
英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

＜授業の方法＞
授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
学生は、このコース全体を通じて能動的な学習者として関わります。英語でのコミュニケーション能力を高めるために、スチューデント・チョイスが促進され、アクセスされます。学生は自分の考えを反映し、ペアやグループで問題を解決できるようになります。学生は情報を統合し、自分の学習を強化できるようになります。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前：英語のプレゼンテーションの準備(1時間程度)等事後：授業の後に目標の応用「例、友達とフリートーク、目標の単語・文法で自分のアイデアを構築する」(2時間程度)等

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー５(異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時間外課題 30%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 40%

＜教科書＞
Leo Jones (2007年9月1日)　Let’Talk 1 Student’s Book with Self-Study Audio CD　Cambridge University Press

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	Guidance / Unit 1: Communicating in English	Explanation of classroom learning, grading procedures, and other related topics Introducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
2	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics; discussing personal interests
3	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
4	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
5	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
6	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
7	Presentation (1)	Giving presentation in English
8	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
9	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; talking about

		YouTube/Streaming viewing
10	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
11	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good advice
12	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
13	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
14	Presentation (2)	Giving presentation in English
15		
16		

科目コード	10101				区　分	教養科目			
授業科目名	英会話［PS②］				担当者名	Jason　Witthaus			
配当年次	1年	配当学期	第3・第4クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

＜授業の到達目標＞
英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

＜授業の方法＞
授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
学生は、このコース全体を通じて能動的な学習者として関わります。英語でのコミュニケーション能力を高めるために、スチューデント・チョイスが促進され、アクセスされます。学生は自分の考えを反映し、ペアやグループで問題を解決できるようになります。学生は情報を統合し、自分の学習を強化できるようになります。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前：英語のプレゼンテーションの準備(1時間程度)等事後：授業の後に目標の応用「例、友達とフリートーク、目標の単語・文法で自分のアイデアを構築する」(2時間程度)等

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー５(異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

＜教科書＞
Leo Jones(2007年9月1日)　Let’Talk 1Student’s Book withSelf-Study Audio CD　Cambridge University Press

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	Guidance / Unit 1: Communicating in English	Explanation of classroom learning, grading procedures, and other related topicsIntroducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
2	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics;discussing personal interests
3	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
4	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
5	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
6	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
7	Presentation (1)	Giving presentation in English
8	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
9	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; talking about

		YouTube/Streaming viewing
10	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
11	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good advice
12	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
13	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays;discussing and giving advice about manners; comparing customs
14	Presentation (2)	Giving presentation in English
15		
16		

科目コード	10101				区　分	教養科目			
授業科目名	英会話［PS③］＋PS再履修者用				担当者名	三垣　雅美			
配当年次	1年	配当学期	第1・第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

＜授業の到達目標＞
英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

＜授業の方法＞
授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また，授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
学生は、このコース全体を通じて能動的な学習者として関わります。英語でのコミュニケーション能力を高めるために、スチューデント・チョイスが促進され、アクセスされます。学生は自分の考えを反映し、ペアやグループで問題を解決できるようになります。学生は情報を統合し、自分の学習を強化できるようになります。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前：英語のプレゼンテーションの準備(1時間程度)等事後：授業の後に目標の応用「例、友達とフリートーク、目標の単語・文法で自分のアイデアを構築する」(2時間程度)等

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー５（留学や国際交流などを通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として国際社会に貢献できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時間外課題 30%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 40%

＜教科書＞
Leo Jones(2007年9月1日)　Let’Talk 1Student’s Book withSelf-Study Audio CD　Cambridge University Press

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	Guidance / Unit 1: Communicating in English	Explanation of classroom learning, grading procedures, and other related topicsIntroducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
2	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics;discussing personal interests
3	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
4	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
5	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
6	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
7	Presentation (1)	Giving presentation in English
8	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods

9	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; talking about YouTube/Streaming viewing
10	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
11	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good advice
12	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
13	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays;discussing and giving advice about manners; comparing customs
14	Presentation (2)	Giving presentation in English
15		
16		

科目コード	10104				区　分	教養科目			
授業科目名	体育理論［週間オンデマンド］				担当者名	片桐　夏海／梶谷　亮輔			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本講義では、体育の理論を学ぶことにより、健康のために必要な体力づくりを理解し、生涯を通じて継続的 な運動実践が必要であることを明らかにする。理論では、メンタルヘルス及び生活習慣病予防や心身相関について理解をし運動や健康の維持、増進のために必要な体力などに関する講義を行う。

＜授業の到達目標＞
体育の理論を学ぶことにより、自分自身の健康のために必要な体力づくりを理解し、生涯を通じて継続的な運動実践ができるようになることを目標とする。

＜授業の方法＞
本講義は、オンデマンド方式でグーグルクラスルームを用いて、必要に応じて資料を提示し体育理論の解説・講義を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
本講義では、講義動画の視聴後に、自らの生活状況を踏まえた運動計画を立案・提出する課題を通じて、学んだ知識の応用と自己の行動への反映を促している。この活動は、知識の定着にとどまらず、分析や評価、計画立案といった高次の思考を伴い、学修者が主体的に学ぶアクティブラーニングの要素を備えている。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
適宜紹介及び配布したテキストの熟読並びに理解を促す。授業には、各先生の専門学問についての内容を理解してから、授業に参加すること（1時間程度の予習）が求められる。さらには、当該授業 から引き出された課題について、図書館およびインターネットなどから多くの専門的情報を収集する（2時間程度の復習）が求められる。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度（積極性・相互促進性等）を50%、レポート・小テストを50%で評価する。

＜教科書＞
特に指定なし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	考えてみよう私たちと運動	自己の健康のために必要な体力づくりを理解し、生涯を通じて継続的に運動を実践できることを学ぶ。
2	身につけよう運動	体育理論の実践と方法として様々な観点から身体に及ぼす効果について学習する。
3	学校における体育の役割	身体活動が児童の発達や望ましい社会生活に貢献しうる能力を持たせる重要な役割であることを学ぶ。
4	見つめよう心と体	学校教育における体育の実践と方法を学ぶ。心と体の相関関係、欲求やストレスの対処法を学び、体ほぐし運動を解明する。
5	運動と栄養	運動、栄養は栄養管理することを大前提として、パフォーマンスを上げる「運動と栄養の４つの基本」を学ぶ。
6	生活習慣病の種類とその予防	日本の三大死因である癌・脳卒中・心臓病の原因となる高血圧、高脂血症、糖尿病の要因について学び、食生活、運動不足、飲酒、喫煙の重要性および、その予防について学ぶ。
7	生涯スポーツの意義	今あらためてスポーツとは何なのか、なぜ人はスポーツを続けていくのか？私たちにとってスポーツとは？を学び、テストを実施する。
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	10105				区　分	教養科目			
授業科目名	体育実技［BC①］				担当者名	平岡　師玄哉			
配当年次	1年	配当学期	第３・第４クォーター	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

・本授業では、体づくり運動やトレーニング、球技およびレクリエーション活動を通して、体力向上と運動技能の習得を目指す。・前半では体ほぐし運動や身体操作、筋力・持久力トレーニングなどを行い、安全に運動を行うための基礎を身につける。・後半では球技やレクリエーションを中心とした実践を行い、運動を楽しむ方法を学ぶ。

＜授業の到達目標＞

１．自身の体力や運動能力を理解し、体調管理や体力向上に向けた取り組みができる２．球技やレクリエーション活動を楽しむ方法を理解し、主体的に参加できる３．他者と協力しながら活動し、コミュニケーションを円滑に行うことができる

＜授業の方法＞

【授業方法】・本授業は実技を中心とし、グループ活動を取り入れて実施する・前半は体づくり運動やトレーニングを通して基礎的な身体能力を高める・後半は球技およびレクリエーション活動を中心に行い、ゲーム形式での実践を通して運動の楽しさを体験する【安全管理】・実技科目であるため、安全管理を徹底して授業を実施する・授業前には準備運動および体調確認を行い、個々の体力に応じた無理のない活動を行う・授業中は教員が状況を確認しながら、運動強度の調整や危険行動の防止に努める・事故やけがが発生した場合は、速やかに応急処置を行うと

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

・グループでの活動を通して協力しながら課題に取り組む・ペアやグループでの声かけや振り返りを行う・レクリエーション活動において、役割分担や作戦を考える・一部の回では、学生が主体となって活動内容を考える機会を設ける

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：授業で扱う運動やスポーツに関する基本的なルールや動きについて確認する（30分）復習：授業で行った運動について、できた点や課題を振り返り、今後の改善点を整理する（30分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、ディプロマポリシー２(専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への参加態度 50%、授業課題 30%、レポート 20%

＜教科書＞

特になし

＜参考書＞

特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業説明、安全管理（受講上の注意）
2	体づくり運動①	体ほぐし、基本動作、ストレッチ
3	体づくり運動②	コーディネーション、バランス
4	体力トレーニング①	筋力トレーニング（自重）
5	体力トレーニング②	持久力トレーニング
6	実技：球技①（バスケットボールなど）	ルール・種目の解説、基本技術・ミニゲーム
7	実技：球技②（バスケットボールなど）	ゲーム形式
8	実技：球技③（バスケットボールなど）	ゲーム形式
9	実技：ラケットスポーツ①	ルール・種目の解説、基本技術・ミニゲーム
10	実技：ラケットスポーツ②	ゲーム形式
11	実技：ラケットスポーツ③	ゲーム形式
12	実技：レクリエーション①	チームゲーム
13	実技：レクリエーション②	チームゲーム
14	まとめ	実技内容を通した自身の体力や運動技能の変化について振り返る
15		
16		

科目コード	10105				区　分	教養科目			
授業科目名	体育実技［BC②］				担当者名	平岡　師玄哉			
配当年次	1年	配当学期	第３・第４クォーター	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

・本授業では、体づくり運動やトレーニング、球技およびレクリエーション活動を通して、体力向上と運動技能の習得を目指す。・前半では体ほぐし運動や身体操作、筋力・持久力トレーニングなどを行い、安全に運動を行うための基礎を身につける。・後半では球技やレクリエーションを中心とした実践を行い、運動を楽しむ方法を学ぶ。　また、グループ活動を通して、協調性やコミュニケーション能力の向上を図り、生涯にわたる健康的なライフスタイルの形成につなげる。

＜授業の到達目標＞

１．自身の体力や運動能力を理解し、体調管理や体力向上に向けた取り組みができる２．球技やレクリエーション活動を楽しむ方法を理解し、主体的に参加できる３．他者と協力しながら活動し、コミュニケーションを円滑に行うことができる

＜授業の方法＞

【授業方法】・本授業は実技を中心とし、グループ活動を取り入れて実施する・前半は体づくり運動やトレーニングを通して基礎的な身体能力を高める・後半は球技およびレクリエーション活動を中心に行い、ゲーム形式での実践を通して運動の楽しさを体験する【安全管理】・実技科目であるため、安全管理を徹底して授業を実施する・授業前には準備運動および体調確認を行い、個々の体力に応じた無理のない活動を行う・授業中は教員が状況を確認しながら、運動強度の調整や危険行動の防止に努める・事故やけがが発生した場合は、速やかに応急処置を行うと

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

・グループでの活動を通して協力しながら課題に取り組む・ペアやグループでの声かけや振り返りを行う・レクリエーション活動において、役割分担や作戦を考える・一部の回では、学生が主体となって活動内容を考える機会を設ける

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：授業で扱う運動やスポーツに関する基本的なルールや動きについて確認する（30分）復習：授業で行った運動について、できた点や課題を振り返り、今後の改善点を整理する（30分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、ディプロマポリシー２(専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への参加態度 50%、授業課題 30%、レポート 20%

＜教科書＞

特になし

＜参考書＞

特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業説明、安全管理（受講上の注意）
2	体づくり運動①	体ほぐし、基本動作、ストレッチ
3	体づくり運動②	コーディネーション、バランス
4	体力トレーニング①	筋力トレーニング（自重）
5	体力トレーニング②	持久力トレーニング
6	実技：球技①（バスケットボールなど）	ルール・種目の解説、基本技術・ミニゲーム
7	実技：球技②（バスケットボールなど）	ゲーム形式
8	実技：球技③（バスケットボールなど）	ゲーム形式
9	実技：ラケットスポーツ①	ルール・種目の解説、基本技術・ミニゲーム
10	実技：ラケットスポーツ②	ゲーム形式
11	実技：ラケットスポーツ③	ゲーム形式
12	実技：レクリエーション①	チームゲーム
13	実技：レクリエーション②	チームゲーム
14	まとめ	実技内容を通した自身の体力や運動技能の変化について振り返る
15		
16		

科目コード	10105				区　分	教養科目			
授業科目名	体育実技［FC用］				担当者名	中安　翼			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業では、小学校で扱う運動を実際に味わいながら、学習者の目線だけでなく指導者の目線で運動指導について思考を深める。特に運動の得意や苦手に関係なく誰もが楽しめる「共生」の視点を重視した運動の在り方について考え、実践できるようにする。※ただし、授業の様子に応じて下記の計画が変更になる場合もある。

＜授業の到達目標＞
本科目における学習では､扱う運動そのもののおもしろさを知り､他者とともに運動を楽しむことができる力を身につけるとともに、自分が指導者となった際にそのような指導を実現するためのポイントを見出せるようにする。特に「共生」の視点での思考が深められるようにする。

＜授業の方法＞
実技を中心に行う。安全配慮として、毎時間活動前に用具の点検と学生の健康確認を徹底し、運動に適した服装とシューズの着用を義務付ける。事故発生時には直ちに活動を中断し、教職員への緊急連絡および保健室連携、救急要請等、迅速かつ適切な対応を行う。クラスルームを活用して課題管理を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループでのディスカッション、グループでより楽しめる運動の方法を試行錯誤する

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：授業以外の時間にも運動に取り組んでおく。　復習：授業での学びをレポートにまとめる。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度50%、 レポート50%

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	受講上の注意、評価方法、授業の概要
2	玉よせゲーム	玉よせゲームを通して、誰もが楽しめる運動について考える
3	多様な動きをつくる運動	多様な動きをつくる運動を通して、誰もが楽しめる運動について考える
4	生活の中に運動を取り入れよう（オンデマンド）	自分の日常生活の中に運動を取り入れ、そのよさを考える
5	ドッジボール	ドッジボールを通して、誰もが楽しめる運動について考える
6	リレー	リレーを通して、誰もが楽しめる運動について考える
7	表現運動	表現運動を通して、誰もが楽しめる運動について考える
8	投運動	投運動を通して、誰もが楽しめる運動について考える
9	ポートボール	ポートボールを通して、誰もが楽しめる運動について考える
10	ポートボール	ポートボールを通して、誰もが楽しめる運動について考える
11	フラッグフットボール	フラッグフットボールを通して、誰もが楽しめる運動について考える
12	フラッグフットボール	フラッグフットボールを通して、誰もが楽しめる運動について考える
13	ニュースポーツ	ニュースポーツを通して、誰もが楽しめる運動について考える
14	まとめ	本授業を振り返って、得た学びをまとめる
15		
16		

科目コード	10105				区　分	教養科目			
授業科目名	体育実技［FE①］				担当者名	中安　翼			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業では、小学校で扱う運動を実際に味わいながら、学習者の目線だけでなく指導者の目線で運動指導について思考を深める。特に運動の得意や苦手に関係なく誰もが楽しめる「共生」の視点を重視した運動の在り方について考え、実践できるようにする。※ただし、授業の様子に応じて下記の計画が変更になる場合もある。

＜授業の到達目標＞
本科目における学習では､扱う運動そのもののおもしろさを知り､他者とともに運動を楽しむことができる力を身につけるとともに、自分が指導者となった際にそのような指導を実現するためのポイントを見出せるようにする。特に「共生」の視点での思考が深められるようにする。

＜授業の方法＞
実技を中心に行う。安全配慮として、毎時間活動前に用具の点検と学生の健康確認を徹底し、運動に適した服装とシューズの着用を義務付ける。事故発生時には直ちに活動を中断し、教職員への緊急連絡および保健室連携、救急要請等、迅速かつ適切な対応を行う。クラスルームを活用して課題管理を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループでのディスカッション、グループでより楽しめる運動の方法を試行錯誤する

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：授業以外の時間にも運動に取り組んでおく。　復習：授業での学びをレポートにまとめる。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度50%、 レポート50%

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	受講上の注意、評価方法、授業の概要
2	玉よせゲーム	玉よせゲームを通して、誰もが楽しめる運動について考える
3	多様な動きをつくる運動	多様な動きをつくる運動を通して、誰もが楽しめる運動について考える
4	生活の中に運動を取り入れよう（オンデマンド）	自分の日常生活の中に運動を取り入れ、そのよさを考える
5	ドッジボール	ドッジボールを通して、誰もが楽しめる運動について考える
6	リレー	リレーを通して、誰もが楽しめる運動について考える
7	表現運動	表現運動を通して、誰もが楽しめる運動について考える
8	投運動	投運動を通して、誰もが楽しめる運動について考える
9	ポートボール	ポートボールを通して、誰もが楽しめる運動について考える
10	ポートボール	ポートボールを通して、誰もが楽しめる運動について考える
11	フラッグフットボール	フラッグフットボールを通して、誰もが楽しめる運動について考える
12	フラッグフットボール	フラッグフットボールを通して、誰もが楽しめる運動について考える
13	ニュースポーツ	ニュースポーツを通して、誰もが楽しめる運動について考える
14	まとめ	本授業を振り返って、得た学びをまとめる
15		
16		

科目コード	10105				区　分	教養科目			
授業科目名	体育実技［FE②］				担当者名	中安　翼			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業では、小学校で扱う運動を実際に味わいながら、学習者の目線だけでなく指導者の目線で運動指導について思考を深める。特に運動の得意や苦手に関係なく誰もが楽しめる「共生」の視点を重視した運動の在り方について考え、実践できるようにする。※ただし、授業の様子に応じて下記の計画が変更になる場合もある。

＜授業の到達目標＞
本科目における学習では､扱う運動そのもののおもしろさを知り､他者とともに運動を楽しむことができる力を身につけるとともに、自分が指導者となった際にそのような指導を実現するためのポイントを見出せるようにする。特に「共生」の視点での思考が深められるようにする。

＜授業の方法＞
実技を中心に行う。安全配慮として、毎時間活動前に用具の点検と学生の健康確認を徹底し、運動に適した服装とシューズの着用を義務付ける。事故発生時には直ちに活動を中断し、教職員への緊急連絡および保健室連携、救急要請等、迅速かつ適切な対応を行う。クラスルームを活用して課題管理を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループでのディスカッション、グループでより楽しめる運動の方法を試行錯誤する

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：授業以外の時間にも運動に取り組んでおく。　復習：授業での学びをレポートにまとめる。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度50%、 レポート50%

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	受講上の注意、評価方法、授業の概要
2	玉よせゲーム	玉よせゲームを通して、誰もが楽しめる運動について考える
3	多様な動きをつくる運動	多様な動きをつくる運動を通して、誰もが楽しめる運動について考える
4	生活の中に運動を取り入れよう（オンデマンド）	自分の日常生活の中に運動を取り入れ、そのよさを考える
5	ドッジボール	ドッジボールを通して、誰もが楽しめる運動について考える
6	リレー	リレーを通して、誰もが楽しめる運動について考える
7	表現運動	表現運動を通して、誰もが楽しめる運動について考える
8	投運動	投運動を通して、誰もが楽しめる運動について考える
9	ポートボール	ポートボールを通して、誰もが楽しめる運動について考える
10	ポートボール	ポートボールを通して、誰もが楽しめる運動について考える
11	フラッグフットボール	フラッグフットボールを通して、誰もが楽しめる運動について考える
12	フラッグフットボール	フラッグフットボールを通して、誰もが楽しめる運動について考える
13	ニュースポーツ	ニュースポーツを通して、誰もが楽しめる運動について考える
14	まとめ	本授業を振り返って、得た学びをまとめる
15		
16		

科目コード	10105				区　分	教養科目			
授業科目名	体育実技［FE③(表現コース用)］				担当者名	小澤　尚子			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業では、限られた室内空間において実施可能な身体表現活動を通して、運動の新たな価値を探究する。小学校体育で扱う運動の要素を基盤としながら、「表現」の視点から再構成し、学習者としての体験と指導者としての省察を往還しながら理解を深める。特に、運動の得意・不得意に関わらず誰もが参加できる「共生」の視点を重視し、身体表現を通した関係性の構築とその指導の在り方について考察・実践する。なお、授業の進行状況に応じて内容を一部変更する場合がある。

＜授業の到達目標＞
本授業では、身体表現活動の特性を理解し、そのおもしろさや可能性を実感するとともに、他者と関わりながら表現を深める力を養う。加えて、指導者の視点から、誰もが参加しやすい運動・表現活動を構想するための観点を獲得する。特に、「共生」の視点に立ち、個々の差異を活かした表現活動の在り方について思考を深めることを目標とする。

＜授業の方法＞
実技（室内での身体表現活動を中心とする）。ICT（Google Classroom等）を活用し、課題の提示・提出および振り返りを行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループワークを中心に、即興的な身体表現や課題解決型の活動を行う。グループでのディスカッションや試行錯誤を通して、「誰もが参加できる表現活動」の方法を探究する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：日常生活の中で身体の動きや他者との関わりに目を向け、表現の素材となる経験を蓄積する。復習：授業での気づきや身体感覚の変化を整理し、レポートとして言語化する。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本授業は、ディプロマポリシー1（他者と関わりながら自己を調整し、課題解決を図る力）およびディプロマポリシー2（専門分野における知識・技能の獲得）と関連する。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度（主体的な参加、他者との関わり）50%レポート（思考の深まり、言語化）50%

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞
必要に応じて授業内で提示する

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の目的（受講上の注意、評価方法、授業の概要）・「共生」と表現の関係
2	からだほぐしと関係づくり	空間・他者との関係を感じる基礎的な身体表現
3	多様な動きをつくる運動	日常動作を素材にした表現の展開
4	生活と表現（オンデマンド）	日常にある動きを表現として捉える
5	ボールを用いた表現①	投げる・受けるを表現へと変換する
6	ボールを用いた表現②	関係性の中での動きの創出
7	リズムと身体	音やリズムと身体の関係
8	空間を使った表現	狭い空間での構成・動線の工夫
9	グループ表現①	テーマに基づく即興表現
10	グループ表現②	構成・展開の工夫
11	共生の視点①	多様な他者を想定した表現づくり
12	共生の視点②	鑑賞とフィードバックを通した深化
13	創作・発表	グループ作品の発表
14	まとめ	学びの振り返りと指導観の整理
15		
16		

科目コード	10105				区　分	教養科目			
授業科目名	体育実技［PH用］				担当者名	坂本　賢広／畑島　紀昭			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
数あるスポーツの中でも、プラスティック製の円盤形状をしたフリスビー™を使用して行われるフライングディスクスポーツ（FLYING DISC SPORTS）がある。「フリスビー™」は商品名であるため、フライングディスク（ディスク）という名称が使われている。一般社団法人日本フライングディスク協会（JFDA）によると国内での正式種目は12種目（アルティメット・ビーチアルティメット・ガッツ・ディスクゴルフ・フリースタイル・ダブルディスクコート・ディスカソン・ディスタンス・アキュラシー・マキシマムタイムアロフト・スロ

＜授業の到達目標＞
本授業を通して、新しいスポーツの文化に触れて不思議な魅力を感じて欲しい。本授業で紹介、実施する競技は、ディスタンス・ディスクゴルフ・ガッツ・ダブルディスクコート・アルティメットの5種目とする。特にアルティメット競技では、選手自身が選手と同時に審判（自己審判性：セルフジャッジ制）の役割も担う非常に珍しいスポーツであり、SOTG（Spirit Of The Game）という紳士的な基本理念に基づき競技が行われる。本学が育成する非認知能力を伸ばすために最も適したスポーツともいえる。本授業を通して、フェアプレー精

＜授業の方法＞
サッカーラグビー場または体育館にてディスクの投げ方とキャッチの技術練習を行う。必要に応じて資料を配付する。体育実技(PH用)は、ディプロマポリシー1 柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野を通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。また、ディプロマポリシー2 柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。技術習得には、一般社団法人日本フライングディスク協会の公認指導者資格制度にある公認指導者認定試験ディスクアドバイザー3級を参考に確認テストを実施す

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）3～9人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：次の範囲をシラバスから確認し、どの様な内容であるかまとめ授業最初に確認を行う。（毎回、1時間程度）復習：必要に応じて確認小テストを実施する。（毎回、2時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲40%（出席含め）小テスト10%（フライングディスクスポーツ・ボッチャ競技の理解：各競技について説明できる、ルールを理解するなどペーパーテストまたはGoogle formsを実施）実技試験50%（フライングディスク：①バックハンドスローとフォアハンドスローをそれぞれ16m以上超えられること（3回中1回でも成功すれば良い）、②各種目のルールが理解できている。ボッチャ：審判員として試合を適切に運営できること（投球順、ボールアウト時の取り扱い、ファイナルショットの運営）。②ルールが理解できている。）

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダクション基礎投法①	技術練習(フライングディスク：バックハンドスロー・キャッチの方法)(ボッチャ：投球方法の模索)
2	基礎投法②	技術練習（フライングディスク：バックハンドスロー･フォアハンドスロー・キャッチの方法など）（ボッチャ：アプローチの練習など）
3	基礎投法③	技術練習（フライングディスク：バックハンドスロー･フォアハンドスロー・アップサイドダウンスロー・カーブスロー・キャッチの方法など）（ボッチャ：プッシュ・ヒットの練習）
4	基礎的技術と知識の確認	フライングディスク：基礎的技術習得確認のための記録会（ディスタンス･アキュラシー競技（的通しゲーム）など）、知識の確認（確認小テスト：ペーパーテスト）ボッチャ：アプローチ・プッシュ・ヒットの技術確認
5	個人競技①	フライングディスク：ディスクゴルフを体験する。ボッチャ：個人戦体験（立位）
6	個人競技②	フライングディスク：ディスクゴルフを体験する（ラウンドほか）ボッチャ：個人戦体験（座位）

7	集団ゲーム①	フライングディスク：ガッツを体験する。ボッチャ：県大会チーム戦体験（立位）
8	集団ゲーム②	フライングディスク：ガッツを体験する（試合形式での実践）ボッチャ：県大会チーム戦体験（座位）
9	集団ゲーム③	フライングディスク：ダブルディスクコートを体験するボッチャ：ランプを使用した競技体験①
10	集団ゲーム④フライングディスク：知識の確認（確認小テスト：ペーパーテスト）	フライングディスク：ディスクの技術確認、これまで行ったフライングディスク競技の知識確認、アルティメット競技を体験する。ボッチャ：ランプを使用した競技体験②
11	集団ゲーム⑤	フライングディスク：ルールを取り入れながらアルティメット競技を試合形式で行う①ボッチャ：ボッチャのもとにゆるスポーツを考える①
12	集団ゲーム⑥	フライングディスク：ルールを取り入れながらアルティメット競技を試合形式で行う②ボッチャ：ボッチャのもとにゆるスポーツを考える②
13	集団ゲーム⑦	フライングディスク：ルールを取り入れながらアルティメット競技を試合形式で行う③ボッチャ：ゆるスポーツを実施する。
14	まとめ	総合：フライングディスク：ルールを取り入れながらアルティメット競技を試合形式で行う④。SOTG（Spirit Of The Game）を実践する。ボッチャ：試合の運営を実施する。
15		
16		

科目コード	10106				区　分	専門基礎科目		
授業科目名	日本語表現Ⅰ［2026年度秋入学BC留学生用］				担当者名	小宮　さおり		
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本科目では、学生に異なる文化的背景を持つ人々とコミュニケーションができ、世界の中で主体的に行動していくために必要な「語学力」を求めている。特に留学生にあっては、日本文化を理解した上で、日本語を使ったコミュニケーションを取れるようにすることを目標としている。本授業では、留学生を対象に、日本語の基礎を復習しつつ、日常生活や大学で留学生が直面する様々な場面において、学習した日本語を使って円滑なコミュニケーションを取れるようにするための練習を行う。

＜授業の到達目標＞

日本語の基礎科目で学んだことをさらに伸ばし、より高度な日本語表現や日本人とのコミュニケーションの中で必要になる日本文化や習慣について理解することを目標としている。さらに、テーマについて学生同士が意見を交換することでお互いを高めあい、多様な意見があることを理解する。

＜授業の方法＞

14回の授業で、4つのテーマを扱い、それぞれに関して、語彙・文法・表現・読解の学習を通じてそのテーマについて内容を深める。語彙や文法については自宅で予習しておき、授業では運用力や応用力を伸ばす。表現では、学習した内容を用いて他者に問いかけ、他者の発言を聞いてそれに適切に応えられるようにする。読解では日本の文化についても考える。本科目ではアウトプットすることを重視し、最終的にはそのテーマについて自分の意見が言えるようにする。毎回漢字の課題を課し、語彙力の向上を図る。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

本授業では、ディスカッション、グループワーク、発表 などのアクティブラーニングを取り入れ、学生が主体的に学べる環境を提供する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：予め指示された文法項目や単語の確認をしておく。（30分程度）復習：練習した文型や会話を覚え、実践できるように練習する。（30分程度）　　復習課題、漢字の練習課題。（30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー２（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー５（留学や国際交流などを通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として国際社会に貢献できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度：30%　提出課題：40%　小テスト：20%　復習テスト：10%課題のフィードバックは授業内で行う。

＜教科書＞

平井悦子・三輪さち子　中級を学ぼう　中級前期　スリーエーネットワーク

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業概要と評価方法に関する説明レベル判定試験
2	第1課　音と音楽の効果（1）	導入
3	第1課　音と音楽の効果（2）	内容理解と意見交換
4	作文・会話（1）	作文と会話
5	第2課　いい数字・悪い数字（1）	導入
6	第2課　いい数字・悪い数字（2）	内容理解と意見交換
7	作文・会話（2）	作文と会話
8	第3課　「面白い」日本（1）	導入
9	第3課　「面白い」日本（2）	内容理解と意見交換
10	作文・会話（3）	作文と会話
11	第4課　くしゃみ（1）	導入
12	第4課　くしゃみ（2）	内容理解と意見交換
13	作文・会話（4）	作文と会話
14	まとめテスト	テスト
15		
16		

科目コード	10106				区　分	専門基礎科目		
授業科目名	日本語表現Ⅰ［2026年度入学BC留学生用］				担当者名	小宮　さおり		
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本科目では、学生に異なる文化的背景を持つ人々とコミュニケーションができ、世界の中で主体的に行動していくために必要な「語学力」を求めている。特に留学生にあっては、日本文化を理解した上で、日本語を使ったコミュニケーションを取れるようにすることを目標としている。本授業では、留学生を対象に、日本語の基礎を復習しつつ、日常生活や大学で留学生が直面する様々な場面において、学習した日本語を使って円滑なコミュニケーションを取れるようにするための練習を行う。

＜授業の到達目標＞

日本語の基礎科目で学んだことをさらに伸ばし、より高度な日本語表現や日本人とのコミュニケーションの中で必要になる日本文化や習慣について理解することを目標としている。さらに、テーマについて学生同士が意見を交換することでお互いを高めあい、多様な意見があることを理解する。

＜授業の方法＞

14回の授業で、4つのテーマを扱い、それぞれに関して、語彙・文法・表現・読解の学習を通じてそのテーマについて内容を深める。語彙や文法については自宅で予習しておき、授業では運用力や応用力を伸ばす。表現では、学習した内容を用いて他者に問いかけ、他者の発言を聞いてそれに適切に応えられるようにする。読解では日本の文化についても考える。本科目ではアウトプットすることを重視し、最終的にはそのテーマについて自分の意見が言えるようにする。毎回漢字の課題を課し、語彙力の向上を図る。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

本授業では、ディスカッション、グループワーク、発表 などのアクティブラーニングを取り入れ、学生が主体的に学べる環境を提供する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：予め指示された文法項目や単語の確認をしておく。（30分程度）復習：練習した文型や会話を覚え、実践できるように練習する。（30分程度）　　復習課題、漢字の練習課題。（30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー２（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー５（留学や国際交流などを通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として国際社会に貢献できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度：30%　提出課題：40%　小テスト：20%　復習テスト：10%課題のフィードバックは授業内で行う。

＜教科書＞

平井悦子・三輪さち子　中級を学ぼう　中級前期　スリーエーネットワーク

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業概要と評価方法に関する説明レベル判定試験
2	第1課　音と音楽の効果（1）	導入
3	第1課　音と音楽の効果（2）	内容理解と意見交換
4	作文・会話（1）	作文と会話
5	第2課　いい数字・悪い数字（1）	導入
6	第2課　いい数字・悪い数字（2）	内容理解と意見交換
7	作文・会話（2）	作文と会話
8	第3課　「面白い」日本（1）	導入
9	第3課　「面白い」日本（2）	内容理解と意見交換
10	作文・会話（3）	作文と会話
11	第4課　くしゃみ（1）	導入
12	第4課　くしゃみ（2）	内容理解と意見交換
13	作文・会話（4）	作文と会話
14	まとめテスト	テスト
15		
16		

科目コード	10106				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	日本語表現Ⅰ［秋留学生］				担当者名	小宮　さおり			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本科目では、学生に異なる文化的背景を持つ人々とコミュニケーションができ、世界の中で主体的に行動していくために必要な「語学力」を求めている。特に留学生にあっては、日本文化を理解した上で、日本語を使ったコミュニケーションを取れるようにすることを目標としている。本授業では、留学生を対象に、日本語の基礎を復習しつつ、日常生活や大学で留学生が直面する様々な場面において、学習した日本語を使って円滑なコミュニケーションを取れるようにするための練習を行う。

＜授業の到達目標＞

日本語の基礎科目で学んだことをさらに伸ばし、より高度な日本語表現や日本人とのコミュニケーションの中で必要になる日本文化や習慣について理解することを目標としている。さらに、テーマについて学生同士が意見を交換することでお互いを高めあい、多様な意見があることを理解する。

＜授業の方法＞

14回の授業で、4つのテーマを扱い、それぞれに関して、語彙・文法・表現・読解の学習を通じてそのテーマについて内容を深める。語彙や文法については自宅で予習しておき、授業では運用力や応用力を伸ばす。表現では、学習した内容を用いて他者に問いかけ、他者の発言を聞いてそれに適切に応えられるようにする。読解では日本の文化についても考える。本科目ではアウトプットすることを重視し、最終的にはそのテーマについて自分の意見が言えるようにする。毎回漢字の課題を課し、語彙力の向上を図る。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

本授業では、ディスカッション、グループワーク、発表 などのアクティブラーニングを取り入れ、学生が主体的に学べる環境を提供する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：予め指示された文法項目や単語の確認をしておく。（30分程度）復習：練習した文型や会話を覚え、実践できるように練習する。（30分程度）　　復習課題、漢字の練習課題。（30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー２（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー５（留学や国際交流などを通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として国際社会に貢献できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度：30%　提出課題：40%　小テスト：20%　復習テスト：10%課題のフィードバックは授業内で行う。

＜教科書＞

平井悦子・三輪さち子　中級を学ぼう　中級前期　スリーエーネットワーク

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業概要と評価方法に関する説明レベル判定試験
2	第1課　音と音楽の効果（1）	導入
3	第1課　音と音楽の効果（2）	内容理解と意見交換
4	作文・会話（1）	作文と会話
5	第2課　いい数字・悪い数字（1）	導入
6	第2課　いい数字・悪い数字（2）	内容理解と意見交換
7	作文・会話（2）	作文と会話
8	第3課　「面白い」日本（1）	導入
9	第3課　「面白い」日本（2）	内容理解と意見交換
10	作文・会話（3）	作文と会話
11	第4課　くしゃみ（1）	導入
12	第4課　くしゃみ（2）	内容理解と意見交換
13	作文・会話（4）	作文と会話
14	まとめテスト	テスト
15		
16		

科目コード	10107				区　分	専門基礎科目		
授業科目名	日本語表現Ⅱ［2026年度秋入学BC留学生用］				担当者名	小宮　さおり		
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本科目では、学生に異なる文化的背景を持つ人々とコミュニケーションができ、世界の中で主体的に行動していくために必要な「語学力」を求めている。特に留学生にあっては、日本文化を理解した上で、日本語を使ったコミュニケーションを取れるようにすることを目標としている。本授業では、留学生を対象に、日本語の基礎を復習しつつ、日常生活や大学で留学生が直面する様々な場面において、学習した日本語を使って円滑なコミュニケーションを取れるようにするための練習を行う。

＜授業の到達目標＞

日本語の基礎科目で学んだことをさらに伸ばし、より高度な日本語表現や日本人とのコミュニケーションの中で必要になる日本文化や習慣について理解することを目標としている。さらに、テーマについて学生同士が意見を交換することでお互いを高めあい、多様な意見があることを理解する。

＜授業の方法＞

14回の授業で、4つのテーマを扱い、それぞれに関して、語彙・文法・表現・読解の学習を通じてそのテーマについて内容を深める。語彙や文法については自宅で予習しておき、授業では運用力や応用力を伸ばす。表現では、学習した内容を用いて他者に問いかけ、他者の発言を聞いてそれに適切に応えられるようにする。読解では日本の文化についても考える。本科目ではアウトプットすることを重視し、最終的にはそのテーマについて自分の意見が言えるようにする。毎回漢字の課題を課し、語彙力の向上を図る。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

本授業では、ディスカッション、グループワーク、発表 などのアクティブラーニングを取り入れ、学生が主体的に学べる環境を提供する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：予め指示された文法項目や単語の確認をしておく。（30分程度）復習：練習した文型や会話を覚え、実践できるように練習する。（30分程度）　　復習課題、漢字の練習課題。（30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー２（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー５（留学や国際交流などを通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として国際社会に貢献できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度：30%　提出課題：40%　小テスト：20%　復習テスト：10%課題のフィードバックは授業内で行う。

＜教科書＞

平井悦子・三輪さち子　中級を学ぼう　中級前期　スリーエーネットワーク

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業概要と評価方法に関する説明レベル判定試験
2	第1課　音と音楽の効果（1）	導入
3	第1課　音と音楽の効果（2）	内容理解と意見交換
4	作文・会話（1）	作文と会話
5	第2課　いい数字・悪い数字（1）	導入
6	第2課　いい数字・悪い数字（2）	内容理解と意見交換
7	作文・会話（2）	作文と会話
8	第3課　「面白い」日本（1）	導入
9	第3課　「面白い」日本（2）	内容理解と意見交換
10	作文・会話（3）	作文と会話
11	第4課　くしゃみ（1）	導入
12	第4課　くしゃみ（2）	内容理解と意見交換
13	作文・会話（4）	作文と会話
14	まとめテスト	テスト
15		
16		

科目コード	10107				区　分	専門基礎科目		
授業科目名	日本語表現Ⅱ［2026年度入学BC留学生用］				担当者名	小宮　さおり		
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本科目では、学生に異なる文化的背景を持つ人々とコミュニケーションができ、世界の中で主体的に行動していくために必要な「語学力」を求めている。特に留学生にあっては、日本文化を理解した上で、日本語を使ったコミュニケーションを取れるようにすることを目標としている。本授業では、留学生を対象に、日本語の基礎を復習しつつ、日常生活や大学で留学生が直面する様々な場面において、学習した日本語を使って円滑なコミュニケーションを取れるようにするための練習を行う。

＜授業の到達目標＞

日本語の基礎科目で学んだことをさらに伸ばし、より高度な日本語表現や日本人とのコミュニケーションの中で必要になる日本文化や習慣について理解することを目標としている。さらに、テーマについて学生同士が意見を交換することでお互いを高めあい、多様な意見があることを理解する。

＜授業の方法＞

14回の授業で、4つのテーマを扱い、それぞれに関して、語彙・文法・表現・読解の学習を通じてそのテーマについて内容を深める。語彙や文法については自宅で予習しておき、授業では運用力や応用力を伸ばす。表現では、学習した内容を用いて他者に問いかけ、他者の発言を聞いてそれに適切に応えられるようにする。読解では日本の文化についても考える。本科目ではアウトプットすることを重視し、最終的にはそのテーマについて自分の意見が言えるようにする。毎回漢字の課題を課し、語彙力の向上を図る。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

本授業では、ディスカッション、グループワーク、発表 などのアクティブラーニングを取り入れ、学生が主体的に学べる環境を提供する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：予め指示された文法項目や単語の確認をしておく。（30分程度）復習：練習した文型や会話を覚え、実践できるように練習する。（30分程度）　　復習課題、漢字の練習課題。（30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー２（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー５（留学や国際交流などを通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として国際社会に貢献できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度：30%　提出課題：40%　小テスト：20%　復習テスト：10%課題のフィードバックは授業内で行う。

＜教科書＞

平井悦子・三輪さち子　中級を学ぼう　中級前期　スリーエーネットワーク

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業概要と評価方法に関する説明レベル判定試験
2	第1課　音と音楽の効果（1）	導入
3	第1課　音と音楽の効果（2）	内容理解と意見交換
4	作文・会話（1）	作文と会話
5	第2課　いい数字・悪い数字（1）	導入
6	第2課　いい数字・悪い数字（2）	内容理解と意見交換
7	作文・会話（2）	作文と会話
8	第3課　「面白い」日本（1）	導入
9	第3課　「面白い」日本（2）	内容理解と意見交換
10	作文・会話（3）	作文と会話
11	第4課　くしゃみ（1）	導入
12	第4課　くしゃみ（2）	内容理解と意見交換
13	作文・会話（4）	作文と会話
14	まとめテスト	テスト
15		
16		

科目コード	10107				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	日本語表現Ⅱ［BC秋入学用］				担当者名	小宮　さおり			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本科目では、学生に異なる文化的背景を持つ人々とコミュニケーションができ、世界の中で主体的に行動していくために必要な「語学力」を求めている。特に留学生にあっては、日本文化を理解した上で、日本語を使ったコミュニケーションを取れるようにすることを目標としている。本授業では、留学生を対象に、日本語の基礎を復習しつつ、日常生活や大学で留学生が直面する様々な場面において、学習した日本語を使って円滑なコミュニケーションを取れるようにするための練習を行う。

＜授業の到達目標＞
日本語の基礎科目で学んだことをさらに伸ばし、より高度な日本語表現や日本人とのコミュニケーションの中で必要になる日本文化や習慣について理解することを目標としている。さらに、テーマについて学生同士が意見を交換することでお互いを高めあい、多様な意見があることを理解する。

＜授業の方法＞
15回の授業で、4つのテーマを扱い、それぞれに関して、語彙・文法・表現・読解の学習を通じてそのテーマについて内容を深める。語彙や文法については自宅で予習しておき、授業では運用力や応用力を伸ばす。表現では、学習した内容を用いて他者に問いかけ、他者の発言を聞いてそれに適切に応えられるようにする。読解では日本の文化についても考える。本科目ではアウトプットすることを重視し、最終的にはそのテーマについて自分の意見が言えるようにする。毎回漢字の課題を課し、語彙力の向上を図る。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
本授業では、ディスカッション、グループワーク、発表 などのアクティブラーニングを取り入れ、学生が主体的に学べる環境を提供する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：予め指示された文法項目や単語の確認をしておく。（30分程度）復習：練習した文型や会話を覚え、実践できるように練習する。（30分程度）　　復習課題、漢字の練習課題。（30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー５（留学や国際交流などを通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として国際社会に貢献できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業参加態度：30%　提出課題：40%　小テスト：20%　復習テスト：10%課題のフィードバックは授業内で行う。

＜教科書＞
平井悦子・三輪さち子　中級を学ぼう　中級前期　スリーエーネットワーク
佐藤尚子・佐々木仁子

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業概要と評価方法に関する説明レベル判定試験
2	第5課　私の町（1）	導入
3	第5課　私の町（2）	内容理解と意見交換
4	作文・会話（1）	作文と会話
5	第6課　この日に食べなきゃ！（1）	導入
6	第6課　この日に食べなきゃ！（2）	内容理解と意見交換
7	作文・会話（2）	作文と会話
8	第7課　お相撲さんの世界（1）	導入
9	第7課　お相撲さんの世界（2）	内容理解と意見交換
10	作文・会話（3）	作文と会話
11	第8課　第一印象（1）	導入
12	第8課　第一印象（2）	内容理解と意見交換
13	作文・会話（4）	作文と会話
14	まとめテスト	まとめテスト
15		フィードバックと総復習
16		

科目コード	10116				区　分	教養科目			
授業科目名	英語Ⅰ［BC/PP用］				担当者名	Jason　Witthaus			
配当年次	1年	配当学期	第3・第4クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
初級～中レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

＜授業の到達目標＞
英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。身近な話題について標準的な話し方であれば、その要点が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

＜授業の方法＞
授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また，授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
学生は、このコース全体を通じて能動的な学習者として関わります。英語でのコミュニケーション能力を高めるために、スチューデント・チョイスが促進され、アクセスされます。学生は自分の考えを反映し、ペアやグループで問題を解決できるようになります。学生は情報を統合し、自分の学習を強化できるようになります。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前：英語のプレゼンテーションの準備(1時間程度)等事後：授業の後に目標の応用「例、友達とフリートーク、目標の単語・文法で自分のアイデアを構築する」(2時間程度)等

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー５(異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

＜教科書＞
Leo Jones (2007年9月1日)　Let’ Talk Student’s Book 2 with Self-Study Audio CD　Cambridge University Press

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	Guidance / Unit 1: Getting to know you	Explanation of classroom learning, grading procedures, and other related topicsTalking about favorite places and colors; describing personalities; discussing and using icebreakers
2	Unit 2: Making a good impression	Talking about first impressions; role-playing meeting new people and phone conversations; giving and taking messages
3	Unit 3: Food and cooking	Discussing foods and cooking techniques; talking about restaurant meals; role-playing restaurant conversations
4	Unit 4: Weather	Talking about weather and seasons; describing extreme weather experiences; giving advice about extreme weather
5	Unit 5: Working for a living	Talking about job likes and dislikes; describing job experiences; talking about what’s important in a job
6	Unit 6: Leisure time	Describing hobbies and interests; discussing chores; talking about typical activities; making weekend plans
7	Presentation (1)	Giving presentation in English
8	Unit 7: Sports and games	Talking about participation in sports; conducting interviews about sports; discussing and playing games
9	Unit 8: Transportation and travel	Discussing traffic and transportation problems; talking about different ways

		to travel; planning a trip
10	Unit 9: Vacation time	Talking about past vacations; describing perfect vacations; discussing tourist attractions
11	Unit 10: Inventions and gadgets	Describing gadgets and their uses; discussing product features; explaining a new invention
12	Unit 11: The environment	Talking about animals and plants; discussing environmental problems and solutions
13	Unit 12: News and current events	Talking about news stories and sources; telling a story; discussing a current-events survey
14	Presentation (2)	Giving presentation in English
15		
16		

科目コード	10116				区　分	教養科目			
授業科目名	英語Ⅰ［FC/FE用］				担当者名	SACKO　Salif			
配当年次	1年	配当学期	第3・第4クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
初級～中レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

＜授業の到達目標＞
英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。身近な話題について標準的な話し方であれば、その要点が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

＜授業の方法＞
授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また，授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
学生は、このコース全体を通じて能動的な学習者として関わります。英語でのコミュニケーション能力を高めるために、スチューデント・チョイスが促進され、アクセスされます。学生は自分の考えを反映し、ペアやグループで問題を解決できるようになります。学生は情報を統合し、自分の学習を強化できるようになります。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前：英語のプレゼンテーションの準備(1時間程度)等事後：授業の後に目標の応用「例、友達とフリートーク、目標の単語・文法で自分のアイデアを構築する」(2時間程度)等

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー５(異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時間外課題 30%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 40%

＜教科書＞
Leo Jones (2007年9月1日)　Let’ Talk Student’s Book 2 with SelfStudy Audio CD　Cambridge University Press

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	Guidance / Unit 1: Getting to know you	Explanation of classroom learning, grading procedures, and other related topics Talking about favorite places and colors; describing personalities; discussing and using icebreakers
2	Unit 2: Making a good impression	Talking about first impressions; role-playing meeting new people and phone conversations; giving and taking messages
3	Unit 3: Food and cooking	Discussing foods and cooking techniques; talking about restaurant meals; role-playing restaurant conversations
4	Unit 4: Weather	Talking about weather and seasons; describing extreme weather experiences; giving advice about extreme weather
5	Unit 5: Working for a living	Talking about job likes and dislikes; describing job experiences; talking about what’s important in a job
6	Unit 6: Leisure time	Describing hobbies and interests; discussing chores; talking about typical activities; making weekend plans
7	Presentation (1)	Giving presentation in English
8	Unit 7: Sports and games	Talking about participation in sports; conducting interviews about sports; discussing and playing games
9	Unit 8: Transportation and travel	Discussing traffic and transportation problems; talking about different ways

		to travel; planning a trip
10	Unit 9: Vacation time	Talking about past vacations; describing perfect vacations; discussing tourist attractions
11	Unit 10: Inventions and gadgets	Describing gadgets and their uses; discussing product features; explaining a new invention
12	Unit 11: The environment	Talking about animals and plants; discussing environmental problems and solutions
13	Unit 12: News and current events	Talking about news stories and sources; telling a story; discussing a currentevents survey
14	Presentation (2)	Giving presentation in English
15		
16		

科目コード	10116				区　分	教養科目			
授業科目名	英語Ⅰ［PH/PS用］				担当者名	Anton Johannes Potgieter			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
初級～中レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので､英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

＜授業の到達目標＞
英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。身近な話題について標準的な話し方であれば、その要点が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

＜授業の方法＞
授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
なし

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー５（異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

＜教科書＞
Leo Jones（2007年9月1日）　Let’Talk Student’s Book 2 with Self-Study Audio CD　Cambridge University Press

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Getting to know you	Talking about favorite places and colors; describing personalities; discussing and using icebreakers
3	Unit 2: Making a good impression	Talking about first impressions; role-playing meeting new people and phone conversations; giving and taking messages
4	Unit 3: Food and cooking	Discussing foods and cooking techniques; talking about restaurant meals; role-playing restaurant conversations
5	Unit 4: Weather	Talking about weather and seasons; describing extreme weather experiences; giving advice about extreme weather
6	Unit 5: Working for a living	Talking about job likes and dislikes; describing job experiences; talking about what’s important in a job
7	Presentation (1)	Giving presentation in English
8	Unit 6: Leisure time	Describing hobbies and interests; discussing chores; talking about typical activities; making weekend plans
9	Unit 7: Sports and games	Talking about participation in sports; conducting interviews about sports; discussing and playing games
10	Unit 8: Transportation and travel	Discussing traffic and transportation problems; talking about different ways to travel; planning a trip
11	Unit 9: Vacation time	Talking about past vacations; describing perfect vacations; discussing tourist attractions
12	Unit 10: Inventions and gadgets	Describing gadgets and their uses; discussing product features; explaining a new invention
13	Unit 11: The environment	Talking about animals and plants; discussing environmental problems and

		solutions
14	Presentation (2)	Giving presentation in English
15	Presentation (2)	Giving presentation in English
16		

科目コード	10117				区　分	専門基礎科目		
授業科目名	日本語表現Ⅲ［2026年度入学BC留学生用］				担当者名	小宮　さおり		
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本科目では、学生に異なる文化的背景を持つ人々とコミュニケーションができ、世界の中で主体的に行動していくために必要な「語学力」を求めている。特に留学生にあっては、日本文化を理解した上で、日本語を使ったコミュニケーションを取れるようにすることを目標としている。本授業では、留学生を対象に、日本語の基礎を復習しつつ、日常生活や大学で留学生が直面する様々な場面において、学習した日本語を使って円滑なコミュニケーションを取れるようにするための練習を行う。

＜授業の到達目標＞

日本語の基礎科目で学んだことをさらに伸ばし、より高度な日本語表現や日本人とのコミュニケーションの中で必要になる日本文化や習慣について理解することを目標としている。さらに、テーマについて学生同士が意見を交換することでお互いを高めあい、多様な意見があることを理解する。

＜授業の方法＞

14回の授業で、4つのテーマを扱い、それぞれに関して、語彙・文法・表現・読解の学習を通じてそのテーマについて内容を深める。語彙や文法については自宅で予習しておき、授業では運用力や応用力を伸ばす。表現では、学習した内容を用いて他者に問いかけ、他者の発言を聞いてそれに適切に応えられるようにする。読解では日本の文化についても考える。本科目ではアウトプットすることを重視し、最終的にはそのテーマについて自分の意見が言えるようにする。毎回漢字の課題を課し、語彙力の向上を図る。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

本授業では、ディスカッション、グループワーク、発表 などのアクティブラーニングを取り入れ、学生が主体的に学べる環境を提供する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：予め指示された文法項目や単語の確認をしておく。（30分程度）復習：練習した文型や会話を覚え、実践できるように練習する。（30分程度）　　復習課題、漢字の練習課題。（30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー２（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー５（留学や国際交流などを通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として国際社会に貢献できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度：30%　提出課題：40%　小テスト：20%　復習テスト：10%課題のフィードバックは授業内で行う。

＜教科書＞

平井悦子・三輪さち子　中級を学ぼう　中級前期　スリーエーネットワーク
佐藤尚子・佐々木仁子

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業概要と評価方法に関する説明レベル判定試験
2	第5課　私の町（1）	導入
3	第5課　私の町（2）	内容理解と意見交換
4	作文・会話（1）	作文と会話
5	第6課　この日に食べなきゃ！（1）	導入
6	第6課　この日に食べなきゃ！（2）	内容理解と意見交換
7	作文・会話（2）	作文と会話
8	第7課　お相撲さんの世界（1）	導入
9	第7課　お相撲さんの世界（2）	内容理解と意見交換
10	作文・会話（3）	作文と会話
11	第8課　第一印象（1）	導入
12	第8課　第一印象（2）	内容理解と意見交換
13	作文・会話（4）	作文と会話
14	まとめテスト	まとめテスト
15		
16		

科目コード	10118				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	日本語表現Ⅳ［2026年度入学BC留学生用］				担当者名	小宮　さおり			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本科目では、学生に異なる文化的背景を持つ人々とコミュニケーションができ、世界の中で主体的に行動していくために必要な「語学力」を求めている。特に留学生にあっては、日本文化を理解した上で、日本語を使ったコミュニケーションを取れるようにすることを目標としている。本授業では、留学生を対象に、日本語の基礎を復習しつつ、日常生活や大学で留学生が直面する様々な場面において、学習した日本語を使って円滑なコミュニケーションを取れるようにするための練習を行う。

＜授業の到達目標＞

日本語の基礎科目で学んだことをさらに伸ばし、より高度な日本語表現や日本人とのコミュニケーションの中で必要になる日本文化や習慣について理解することを目標としている。さらに、テーマについて学生同士が意見を交換することでお互いを高めあい、多様な意見があることを理解する。

＜授業の方法＞

14回の授業で、4つのテーマを扱い、それぞれに関して、語彙・文法・表現・読解の学習を通じてそのテーマについて内容を深める。語彙や文法については自宅で予習しておき、授業では運用力や応用力を伸ばす。表現では、学習した内容を用いて他者に問いかけ、他者の発言を聞いてそれに適切に応えられるようにする。読解では日本の文化についても考える。本科目ではアウトプットすることを重視し、最終的にはそのテーマについて自分の意見が言えるようにする。毎回漢字の課題を課し、語彙力の向上を図る。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

本授業では、ディスカッション、グループワーク、発表 などのアクティブラーニングを取り入れ、学生が主体的に学べる環境を提供する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：予め指示された文法項目や単語の確認をしておく。（30分程度）復習：練習した文型や会話を覚え、実践できるように練習する。（30分程度）　　復習課題、漢字の練習課題。（30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー２（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー５（留学や国際交流などを通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として国際社会に貢献できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度：30%　提出課題：40%　小テスト：20%　復習テスト：10%課題のフィードバックは授業内で行う。

＜教科書＞

平井悦子・三輪さち子　中級を学ぼう　中級前期　スリーエーネットワーク
佐藤尚子・佐々木仁子

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業概要と評価方法に関する説明レベル判定試験
2	第5課　私の町（1）	導入
3	第5課　私の町（2）	内容理解と意見交換
4	作文・会話（1）	作文と会話
5	第6課　この日に食べなきゃ！（1）	導入
6	第6課　この日に食べなきゃ！（2）	内容理解と意見交換
7	作文・会話（2）	作文と会話
8	第7課　お相撲さんの世界（1）	導入
9	第7課　お相撲さんの世界（2）	内容理解と意見交換
10	作文・会話（3）	作文と会話
11	第8課　第一印象（1）	導入
12	第8課　第一印象（2）	内容理解と意見交換
13	作文・会話（4）	作文と会話
14	まとめテスト	まとめテスト
15		
16		

科目コード	10203				区　分	教養科目			
授業科目名	英語Ⅱ［全学科（初級者対象）］				担当者名	Anton Johannes Potgieter			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
中級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

＜授業の到達目標＞
英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。仕事、学校、娯楽などで出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば要点が理解できる。さまざまな事態に対処することができる。身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。

＜授業の方法＞
授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
なし

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー５（異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

＜教科書＞
Leo Jones（2007年9月1日）　Let’Talk Student’s Book 3 with Self-Study Audio CD　Cambridge University Press

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Getting acquainted	Greetings; describing successful conversations; solving problems; discussing attitudes toward problem solving
3	Unit 2: Expressing yourself	Role-playing giving advice; describing feelings; discussing meanings of gestures; reacting to and discussing accents
4	Unit 3: Crime and punishment	Discussing crimes; punishments, and attitudes toward crime; discussing crime movies; speculating about a possible crime
5	Unit 4: Surprises and superstitions	Discussing strange pictures; creating and telling stories; talking about superstitions
6	Unit 5: Education and leaning	Talking about kinds of classes; recalling the first day of school and more recent details; discussing study techniques
7	Presentation (1)	Giving presentation in English
8	Unit 6: Fame and fortune	Talking about successful and famous people; discussing sayings about money; discussing the importance of money
9	Unit 7: Around the world	Talking about languages and language problems; discussing behavior in various situations; discussing customs
10	Unit 8: Technology	Discussing everyday products; talking about inventions; explaining how to make things
11	Unit 9: Mind and body	Talking about healthy and unhealthy situations; giving advice; explaining exercises; discussing stress and how to reduce it.
12	Unit 10: Spending money	Describing impressions of ads; discussing company slogans and brands;talking about advertising and types of shoppers
13	Unit 11: The news	Telling stories; talking about news stories; reacting to headlines; role-playingan interview

14 15 16	Presentation (2)	Giving presentation in English

科目コード	10203				区　分	教養科目			
授業科目名	英語Ⅱ［全学科（中級・上級者対象）］				担当者名	Anton Johannes Potgieter			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
中級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

＜授業の到達目標＞
英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。仕事、学校、娯楽などで出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば要点が理解できる。さまざまな事態に対処することができる。身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。

＜授業の方法＞
授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
なし

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー５（異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

＜教科書＞
Leo Jones（2007年9月1日）　Let’Talk Student’s Book 3 with Self-Study Audio CD　Cambridge University Press
特になし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Getting acquainted	Greetings; describing successful conversations; solving problems; discussing attitudes toward problem solving
3	Unit 2: Expressing yourself	Role-playing giving advice; describing feelings; discussing meanings of gestures; reacting to and discussing accents
4	Unit 3: Crime and punishment	Discussing crimes; punishments, and attitudes toward crime; discussing crime movies; speculating about a possible crime
5	Unit 4: Surprises and superstitions	Discussing strange pictures; creating and telling stories; talking about superstitions
6	Unit 5: Education and leaning	Talking about kinds of classes; recalling the first day of school and more recent details; discussing study techniques
7	Presentation (1)	Giving presentation in English
8	Unit 6: Fame and fortune	Talking about successful and famous people; discussing sayings about money; discussing the importance of money
9	Unit 7: Around the world	Talking about languages and language problems; discussing behavior in various situations; discussing customs
10	Unit 8: Technology	Discussing everyday products; talking about inventions; explaining how to make things
11	Unit 9: Mind and body	Talking about healthy and unhealthy situations; giving advice; explaining exercises; discussing stress and how to reduce it.
12	Unit 10: Spending money	Describing impressions of ads; discussing company slogans and brands; talking about advertising and types of shoppers
13	Unit 11: The news	Telling stories; talking about news stories; reacting to headlines;

		role-playing an interview
14	Presentation (2)	Giving presentation in English
15	Presentation (2)	Giving presentation in English
16		

科目コード	10204				区　分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅠ				担当者名	本庄　慶樹			
配当年次	1年	配当学期	第1クォーター、第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必須

＜授業の概要＞

AI時代においてコンピュータの利活用は必須のスキルである。本科目では、コンピュータを利活用した情報活用能力の育成を目指し、コンピュータという機器操作だけではなく、情報の処理能力、情報の科学的理解、情報の社会的理解（情報社会の生活力）を学ぶものである。コンピュータ操作スキルを習熟は必要であり、Webアプリケーション（Google　Workspace）を駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグループワークを行うためのコミュニケーション能力も必要であ

＜授業の到達目標＞

1. デジタル社会（Society 5.0）の仕組みを理解し、主体的に参画できる 社会のあらゆる場面で活用されているデータの有用性を理解し、それが自身の生活や学習にどう結びついているかを説明できる 。2. クラウド環境でのPC操作と共同作業をスムーズに行える Google Workspaceを用いて、クラウド上での効率的なファイル管理や情報の共有・共同編集ができる 。3. 生成AIを「思考のパートナー」として適切に活用できる 生成AIとの対話（プロンプティング）を通じて、課題解決のヒントを得たり、自らのア

＜授業の方法＞

授業内でオンデマンド動画視聴し、その場で演習を行う。インターネットに接続され、Google Chromeがインストールされた WindowsまたはMacOSパソコンが必要となる。演習問題や課題の提出もオンラインで行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有り本授業では、生成AIとの対話型演習を導入する。学生はAIとの質疑応答を通じて仮説を構築し、その内容を検証・修正するプロセスを経る。AIの回答を比較・分析し、妥当性を評価する活動を行うことで、主体的学修態度および論理的思考力の向上を図る。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業内課題の復習を重視する。技能を習得するには、授業内で扱った課題だけではなく、それに類似する課題について復習してある程度手際良く作業することが求められる。動画の見直し、課題の復習を1時間程度行う必要がある。これは次回授業の予習の役目を果たす。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義ごとの演習課題60%、中間課題20%、期末課題20%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	デジタルコミュニケーション	大学アカウントでのログインとブラウザ同期による環境構築を行う 。Gmail、Chat、Meetの使い分けとマナー、共有カレンダーによる予定管理手法を習得する 。
2	PC操作の基本と情報の可視化	ウィンドウ・スナップによる情報の並列処理やスクリーンショット技術を習得する 。拡張子を表示させ、データの正体を見抜くことでサイバー攻撃への防御力を養う 。
3	ファイル管理の作法と共有ルール	フォルダ階層や命名規則を学び、ZIP圧縮・展開時の実務上の注意点を理解する 。クラウド上での適切な権限設定（閲覧・編集）の使い分けを習得する 。
4	Society 5.0：社会とデータの関わり	Society 5.0やデータ駆動型社会の概要を概観する 。デジタル技術が自身の生活や学習にどう結びついているかを学び、学習の動機付けを行う 。
5	クラウド型ツールによる文書作成	スタイル機能（見出し）を用いた文書の構造化や共同編集を体験する 。PDF形式が実務で「信頼される形式」として多用される意義を理解する 。
6	生成AI：思考のパートナーとの対話	生成AIを思考のパートナーとするためのプロンプト（指示文）技術を習得する 。回答の妥当性を検証する視点とハルシネーションの概念を理解する 。
7	【中間課題】AIとつくるロードマップ	生成AIとの対話を通じて大学生活計画を作成する統合演習を行う 。ドキュメントの構造化、PDF化、ZIP圧縮による提出スキルを実践する 。

8	マルチメディアの性質と扱い方	画像（JPEG/PNG/SVG）、音声（MP3）、動画（MP4/MOV）の特性と実務上の選択基準を学ぶ 。ファイルサイズを意識した「リンクによる共有」ルールを習得する 。
9	情報の収集とアンケートの設計	Google フォームを用いたデータ収集の基礎を学ぶ 。回答しやすさに配慮した項目設計（ユニバーサルデザイン）や論理的な設問構成を習得する 。
10	データの集計と可視化の基本	フォームデータの表計算ソフトへの連携と、目的に応じた適切なグラフの選択手法を学ぶ 。データから現状を読み取るための基礎的な分析視点を養う 。
11	プレゼンテーションの構成とデザイン	Google スライドを用い、論理的な構成（結論→根拠）の作り方を学ぶ 。視覚的に情報を整理し、聴衆に伝えるための「引き算のデザイン」を習得する 。
12	情報セキュリティと著作権・引用	個人情報保護やセキュリティ設定、正しい引用のルールを習得する 。他人の著作物やAI生成物を扱う際の法的・倫理的留意事項（ELSI）を理解する 。
13	情報の発信：ウェブサイトの制作	Google サイトを用いて学習成果を統合・発信する 。第三者に伝えるための情報の構造化と、適切な公開範囲の設定手法を習得する 。
14	【期末課題】身近な課題の解決提案	自ら設定した課題に対し、データとAIを活用して解決策を提案する 。ウェブサイト形式で成果を公開し、相互に閲覧・評価を行うプロセスを完遂する 。
15		
16		

科目コード	10204				区　分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅠ［BC用］				担当者名	岡田　健志			
配当年次	1年	配当学期	第1クォーター、第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必須

＜授業の概要＞

AI時代においてコンピュータの利活用は必須のスキルである。本科目では、コンピュータを利活用した情報活用能力の育成を目指し、コンピュータという機器操作だけではなく、情報の処理能力、情報の科学的理解、情報の社会的理解（情報社会の生活力）を学ぶものである。コンピュータ操作スキルを習熟は必要であり、Webアプリケーション（Google　Workspace）を駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグループワークを行うためのコミュニケーション能力も必要であ

＜授業の到達目標＞

1. デジタル社会（Society 5.0）の仕組みを理解し、主体的に参画できる 社会のあらゆる場面で活用されているデータの有用性を理解し、それが自身の生活や学習にどう結びついているかを説明できる 。2. クラウド環境でのPC操作と共同作業をスムーズに行える Google Workspaceを用いて、クラウド上での効率的なファイル管理や情報の共有・共同編集ができる 。3. 生成AIを「思考のパートナー」として適切に活用できる 生成AIとの対話（プロンプティング）を通じて、課題解決のヒントを得たり、自らのア

＜授業の方法＞

授業内でオンデマンド動画視聴し、その場で演習を行う。インターネットに接続され、Google Chromeがインストールされた WindowsまたはMacOSパソコンが必要となる。演習問題や課題の提出もオンラインで行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有り本授業では、生成AIとの対話型演習を導入する。学生はAIとの質疑応答を通じて仮説を構築し、その内容を検証・修正するプロセスを経る。AIの回答を比較・分析し、妥当性を評価する活動を行うことで、主体的学修態度および論理的思考力の向上を図る。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業内課題の復習を重視する。技能を習得するには、授業内で扱った課題だけではなく、それに類似する課題について復習してある程度手際良く作業することが求められる。動画の見直し、課題の復習を1時間程度行う必要がある。これは次回授業の予習の役目を果たす。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義ごとの演習課題60%、中間課題20%、期末課題20%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	デジタルコミュニケーション	大学アカウントでのログインとブラウザ同期による環境構築を行う 。Gmail、Chat、Meetの使い分けとマナー、共有カレンダーによる予定管理手法を習得する 。
2	PC操作の基本と情報の可視化	ウィンドウ・スナップによる情報の並列処理やスクリーンショット技術を習得する 。拡張子を表示させ、データの正体を見抜くことでサイバー攻撃への防御力を養う 。
3	ファイル管理の作法と共有ルール	フォルダ階層や命名規則を学び、ZIP圧縮・展開時の実務上の注意点を理解する 。クラウド上での適切な権限設定（閲覧・編集）の使い分けを習得する 。
4	Society 5.0：社会とデータの関わり	Society 5.0やデータ駆動型社会の概要を概観する 。デジタル技術が自身の生活や学習にどう結びついているかを学び、学習の動機付けを行う 。
5	クラウド型ツールによる文書作成	スタイル機能（見出し）を用いた文書の構造化や共同編集を体験する 。PDF形式が実務で「信頼される形式」として多用される意義を理解する 。
6	生成AI：思考のパートナーとの対話	生成AIを思考のパートナーとするためのプロンプト（指示文）技術を習得する 。回答の妥当性を検証する視点とハルシネーションの概念を理解する 。
7	【中間課題】AIとつくるロードマップ	生成AIとの対話を通じて大学生活計画を作成する統合演習を行う 。ドキュメントの構造化、PDF化、ZIP圧縮による提出スキルを実践する 。

8	マルチメディアの性質と扱い方	画像（JPEG/PNG/SVG）、音声（MP3）、動画（MP4/MOV）の特性と実務上の選択基準を学ぶ 。ファイルサイズを意識した「リンクによる共有」ルールを習得する 。
9	情報の収集とアンケートの設計	Google フォームを用いたデータ収集の基礎を学ぶ 。回答しやすさに配慮した項目設計（ユニバーサルデザイン）や論理的な設問構成を習得する 。
10	データの集計と可視化の基本	フォームデータの表計算ソフトへの連携と、目的に応じた適切なグラフの選択手法を学ぶ 。データから現状を読み取るための基礎的な分析視点を養う 。
11	プレゼンテーションの構成とデザイン	Google スライドを用い、論理的な構成（結論→根拠）の作り方を学ぶ 。視覚的に情報を整理し、聴衆に伝えるための「引き算のデザイン」を習得する 。
12	情報セキュリティと著作権・引用	個人情報保護やセキュリティ設定、正しい引用のルールを習得する 。他人の著作物やAI生成物を扱う際の法的・倫理的留意事項（ELSI）を理解する 。
13	情報の発信：ウェブサイトの制作	Google サイトを用いて学習成果を統合・発信する 。第三者に伝えるための情報の構造化と、適切な公開範囲の設定手法を習得する 。
14	【期末課題】身近な課題の解決提案	自ら設定した課題に対し、データとAIを活用して解決策を提案する 。ウェブサイト形式で成果を公開し、相互に閲覧・評価を行うプロセスを完遂する 。
15		
16		

科目コード	10204				区　分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅠ［BC留学生用］				担当者名	高鷲　翔			
配当年次	1年	配当学期	第1クォーター、第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必須

＜授業の概要＞

AI時代においてコンピュータの利活用は必須のスキルである。本科目では、コンピュータを利活用した情報活用能力の育成を目指し、コンピュータという機器操作だけではなく、情報の処理能力、情報の科学的理解、情報の社会的理解（情報社会の生活力）を学ぶものである。コンピュータ操作スキルを習熟は必要であり、Webアプリケーション（Google　Workspace）を駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグループワークを行うためのコミュニケーション能力も必要であ

＜授業の到達目標＞

1. デジタル社会（Society 5.0）の仕組みを理解し、主体的に参画できる 社会のあらゆる場面で活用されているデータの有用性を理解し、それが自身の生活や学習にどう結びついているかを説明できる 。2. クラウド環境でのPC操作と共同作業をスムーズに行える Google Workspaceを用いて、クラウド上での効率的なファイル管理や情報の共有・共同編集ができる 。3. 生成AIを「思考のパートナー」として適切に活用できる 生成AIとの対話（プロンプティング）を通じて、課題解決のヒントを得たり、自らのア

＜授業の方法＞

授業内でオンデマンド動画視聴し、その場で演習を行う。インターネットに接続され、Google Chromeがインストールされた WindowsまたはMacOSパソコンが必要となる。演習問題や課題の提出もオンラインで行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有り本授業では、生成AIとの対話型演習を導入する。学生はAIとの質疑応答を通じて仮説を構築し、その内容を検証・修正するプロセスを経る。AIの回答を比較・分析し、妥当性を評価する活動を行うことで、主体的学修態度および論理的思考力の向上を図る。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業内課題の復習を重視する。技能を習得するには、授業内で扱った課題だけではなく、それに類似する課題について復習してある程度手際良く作業することが求められる。動画の見直し、課題の復習を1時間程度行う必要がある。これは次回授業の予習の役目を果たす。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義ごとの演習課題60%、中間課題20%、期末課題20%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	デジタルコミュニケーション	大学アカウントでのログインとブラウザ同期による環境構築を行う 。Gmail、Chat、Meetの使い分けとマナー、共有カレンダーによる予定管理手法を習得する 。
2	PC操作の基本と情報の可視化	ウィンドウ・スナップによる情報の並列処理やスクリーンショット技術を習得する 。拡張子を表示させ、データの正体を見抜くことでサイバー攻撃への防御力を養う 。
3	ファイル管理の作法と共有ルール	フォルダ階層や命名規則を学び、ZIP圧縮・展開時の実務上の注意点を理解する 。クラウド上での適切な権限設定（閲覧・編集）の使い分けを習得する 。
4	Society 5.0：社会とデータの関わり	Society 5.0やデータ駆動型社会の概要を概観する 。デジタル技術が自身の生活や学習にどう結びついているかを学び、学習の動機付けを行う 。
5	クラウド型ツールによる文書作成	スタイル機能（見出し）を用いた文書の構造化や共同編集を体験する 。PDF形式が実務で「信頼される形式」として多用される意義を理解する 。
6	生成AI：思考のパートナーとの対話	生成AIを思考のパートナーとするためのプロンプト（指示文）技術を習得する 。回答の妥当性を検証する視点とハルシネーションの概念を理解する 。
7	【中間課題】AIとつくるロードマップ	生成AIとの対話を通じて大学生活計画を作成する統合演習を行う 。ドキュメントの構造化、PDF化、ZIP圧縮による提出スキルを実践する 。

8	マルチメディアの性質と扱い方	画像（JPEG/PNG/SVG）、音声（MP3）、動画（MP4/MOV）の特性と実務上の選択基準を学ぶ 。ファイルサイズを意識した「リンクによる共有」ルールを習得する 。
9	情報の収集とアンケートの設計	Google フォームを用いたデータ収集の基礎を学ぶ 。回答しやすさに配慮した項目設計（ユニバーサルデザイン）や論理的な設問構成を習得する 。
10	データの集計と可視化の基本	フォームデータの表計算ソフトへの連携と、目的に応じた適切なグラフの選択手法を学ぶ 。データから現状を読み取るための基礎的な分析視点を養う 。
11	プレゼンテーションの構成とデザイン	Google スライドを用い、論理的な構成（結論→根拠）の作り方を学ぶ 。視覚的に情報を整理し、聴衆に伝えるための「引き算のデザイン」を習得する 。
12	情報セキュリティと著作権・引用	個人情報保護やセキュリティ設定、正しい引用のルールを習得する 。他人の著作物やAI生成物を扱う際の法的・倫理的留意事項（ELSI）を理解する 。
13	情報の発信：ウェブサイトの制作	Google サイトを用いて学習成果を統合・発信する 。第三者に伝えるための情報の構造化と、適切な公開範囲の設定手法を習得する 。
14	【期末課題】身近な課題の解決提案	自ら設定した課題に対し、データとAIを活用して解決策を提案する 。ウェブサイト形式で成果を公開し、相互に閲覧・評価を行うプロセスを完遂する 。
15		
16		

科目コード	10204				区　分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅠ［FC用］				担当者名	本庄　慶樹			
配当年次	1年	配当学期	第1クォーター、第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必須

＜授業の概要＞

AI時代においてコンピュータの利活用は必須のスキルである。本科目では、コンピュータを利活用した情報活用能力の育成を目指し、コンピュータという機器操作だけではなく、情報の処理能力、情報の科学的理解、情報の社会的理解（情報社会の生活力）を学ぶものである。コンピュータ操作スキルを習熟は必要であり、Webアプリケーション（Google　Workspace）を駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグループワークを行うためのコミュニケーション能力も必要であ

＜授業の到達目標＞

1. デジタル社会（Society 5.0）の仕組みを理解し、主体的に参画できる 社会のあらゆる場面で活用されているデータの有用性を理解し、それが自身の生活や学習にどう結びついているかを説明できる 。2. クラウド環境でのPC操作と共同作業をスムーズに行える Google Workspaceを用いて、クラウド上での効率的なファイル管理や情報の共有・共同編集ができる 。3. 生成AIを「思考のパートナー」として適切に活用できる 生成AIとの対話（プロンプティング）を通じて、課題解決のヒントを得たり、自らのア

＜授業の方法＞

授業内でオンデマンド動画視聴し、その場で演習を行う。インターネットに接続され、Google Chromeがインストールされた WindowsまたはMacOSパソコンが必要となる。演習問題や課題の提出もオンラインで行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有り本授業では、生成AIとの対話型演習を導入する。学生はAIとの質疑応答を通じて仮説を構築し、その内容を検証・修正するプロセスを経る。AIの回答を比較・分析し、妥当性を評価する活動を行うことで、主体的学修態度および論理的思考力の向上を図る。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業内課題の復習を重視する。技能を習得するには、授業内で扱った課題だけではなく、それに類似する課題について復習してある程度手際良く作業することが求められる。動画の見直し、課題の復習を1時間程度行う必要がある。これは次回授業の予習の役目を果たす。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義ごとの演習課題60%、中間課題20%、期末課題20%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	デジタルコミュニケーション	大学アカウントでのログインとブラウザ同期による環境構築を行う 。Gmail、Chat、Meetの使い分けとマナー、共有カレンダーによる予定管理手法を習得する 。
2	PC操作の基本と情報の可視化	ウィンドウ・スナップによる情報の並列処理やスクリーンショット技術を習得する 。拡張子を表示させ、データの正体を見抜くことでサイバー攻撃への防御力を養う 。
3	ファイル管理の作法と共有ルール	フォルダ階層や命名規則を学び、ZIP圧縮・展開時の実務上の注意点を理解する 。クラウド上での適切な権限設定（閲覧・編集）の使い分けを習得する 。
4	Society 5.0：社会とデータの関わり	Society 5.0やデータ駆動型社会の概要を概観する 。デジタル技術が自身の生活や学習にどう結びついているかを学び、学習の動機付けを行う 。
5	クラウド型ツールによる文書作成	スタイル機能（見出し）を用いた文書の構造化や共同編集を体験する 。PDF形式が実務で「信頼される形式」として多用される意義を理解する 。
6	生成AI：思考のパートナーとの対話	生成AIを思考のパートナーとするためのプロンプト（指示文）技術を習得する 。回答の妥当性を検証する視点とハルシネーションの概念を理解する 。
7	【中間課題】AIとつくるロードマップ	生成AIとの対話を通じて大学生活計画を作成する統合演習を行う 。ドキュメントの構造化、PDF化、ZIP圧縮による提出スキルを実践する 。

8	マルチメディアの性質と扱い方	画像（JPEG/PNG/SVG）、音声（MP3）、動画（MP4/MOV）の特性と実務上の選択基準を学ぶ 。ファイルサイズを意識した「リンクによる共有」ルールを習得する 。
9	情報の収集とアンケートの設計	Google フォームを用いたデータ収集の基礎を学ぶ 。回答しやすさに配慮した項目設計（ユニバーサルデザイン）や論理的な設問構成を習得する 。
10	データの集計と可視化の基本	フォームデータの表計算ソフトへの連携と、目的に応じた適切なグラフの選択手法を学ぶ 。データから現状を読み取るための基礎的な分析視点を養う 。
11	プレゼンテーションの構成とデザイン	Google スライドを用い、論理的な構成（結論→根拠）の作り方を学ぶ 。視覚的に情報を整理し、聴衆に伝えるための「引き算のデザイン」を習得する 。
12	情報セキュリティと著作権・引用	個人情報保護やセキュリティ設定、正しい引用のルールを習得する 。他人の著作物やAI生成物を扱う際の法的・倫理的留意事項（ELSI）を理解する 。
13	情報の発信：ウェブサイトの制作	Google サイトを用いて学習成果を統合・発信する 。第三者に伝えるための情報の構造化と、適切な公開範囲の設定手法を習得する 。
14	【期末課題】身近な課題の解決提案	自ら設定した課題に対し、データとAIを活用して解決策を提案する 。ウェブサイト形式で成果を公開し、相互に閲覧・評価を行うプロセスを完遂する 。
15		
16		

科目コード	10204				区　分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅠ［FE(表現コース)用］				担当者名	木戸　和彦			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必須

＜授業の概要＞

AI時代においてコンピュータの利活用は必須のスキルである。本科目では、コンピュータを利活用した情報活用能力の育成を目指し、コンピュータという機器操作だけではなく、情報の処理能力、情報の科学的理解、情報の社会的理解（情報社会の生活力）を学ぶものである。コンピュータ操作スキルを習熟は必要であり、Webアプリケーション（Google　Workspace）を駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグループワークを行うためのコミュニケーション能力も必要であ

＜授業の到達目標＞

1. デジタル社会（Society 5.0）の仕組みを理解し、主体的に参画できる 社会のあらゆる場面で活用されているデータの有用性を理解し、それが自身の生活や学習にどう結びついているかを説明できる 。2. クラウド環境でのPC操作と共同作業をスムーズに行える Google Workspaceを用いて、クラウド上での効率的なファイル管理や情報の共有・共同編集ができる 。3. 生成AIを「思考のパートナー」として適切に活用できる 生成AIとの対話（プロンプティング）を通じて、課題解決のヒントを得たり、自らのア

＜授業の方法＞

授業内でオンデマンド動画視聴し、その場で演習を行う。インターネットに接続され、Google Chromeがインストールされた WindowsまたはMacOSパソコンが必要となる。演習問題や課題の提出もオンラインで行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有り本授業では、生成AIとの対話型演習を導入する。学生はAIとの質疑応答を通じて仮説を構築し、その内容を検証・修正するプロセスを経る。AIの回答を比較・分析し、妥当性を評価する活動を行うことで、主体的学修態度および論理的思考力の向上を図る。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業内課題の復習を重視する。技能を習得するには、授業内で扱った課題だけではなく、それに類似する課題について復習してある程度手際良く作業することが求められる。動画の見直し、課題の復習を1時間程度行う必要がある。これは次回授業の予習の役目を果たす。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義ごとの演習課題60%、中間課題20%、期末課題20%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	デジタルコミュニケーション	大学アカウントでのログインとブラウザ同期による環境構築を行う 。Gmail、Chat、Meetの使い分けとマナー、共有カレンダーによる予定管理手法を習得する 。
2	PC操作の基本と情報の可視化	ウィンドウ・スナップによる情報の並列処理やスクリーンショット技術を習得する 。拡張子を表示させ、データの正体を見抜くことでサイバー攻撃への防御力を養う 。
3	ファイル管理の作法と共有ルール	フォルダ階層や命名規則を学び、ZIP圧縮・展開時の実務上の注意点を理解する 。クラウド上での適切な権限設定（閲覧・編集）の使い分けを習得する 。
4	Society 5.0：社会とデータの関わり	Society 5.0やデータ駆動型社会の概要を概観する 。デジタル技術が自身の生活や学習にどう結びついているかを学び、学習の動機付けを行う 。
5	クラウド型ツールによる文書作成	スタイル機能（見出し）を用いた文書の構造化や共同編集を体験する 。PDF形式が実務で「信頼される形式」として多用される意義を理解する 。
6	生成AI：思考のパートナーとの対話	生成AIを思考のパートナーとするためのプロンプト（指示文）技術を習得する 。回答の妥当性を検証する視点とハルシネーションの概念を理解する 。
7	【中間課題】AIとつくるロードマップ	生成AIとの対話を通じて大学生活計画を作成する統合演習を行う 。ドキュメントの構造化、PDF化、ZIP圧縮による提出スキルを実践する 。
8	マルチメディアの性質と扱い方	画像（JPEG/PNG/SVG）、音声（MP3）、動画（MP4/MOV）の特性と実務上の選択基準を学ぶ 。ファイルサイズを意識した「リンクによる共有」ルールを習得する 。

9	情報の収集とアンケートの設計	Google フォームを用いたデータ収集の基礎を学ぶ 。回答しやすさに配慮した項目設計（ユニバーサルデザイン）や論理的な設問構成を習得する 。
10	データの集計と可視化の基本	フォームデータの表計算ソフトへの連携と、目的に応じた適切なグラフの選択手法を学ぶ 。データから現状を読み取るための基礎的な分析視点を養う 。
11	プレゼンテーションの構成とデザイン	Google スライドを用い、論理的な構成（結論→根拠）の作り方を学ぶ 。視覚的に情報を整理し、聴衆に伝えるための「引き算のデザイン」を習得する 。
12	情報セキュリティと著作権・引用	個人情報保護やセキュリティ設定、正しい引用のルールを習得する 。他人の著作物やAI生成物を扱う際の法的・倫理的留意事項（ELSI）を理解する 。
13	情報の発信：ウェブサイトの制作	Google サイトを用いて学習成果を統合・発信する 。第三者に伝えるための情報の構造化と、適切な公開範囲の設定手法を習得する 。
14	【期末課題】身近な課題の解決提案	自ら設定した課題に対し、データとAIを活用して解決策を提案する 。ウェブサイト形式で成果を公開し、相互に閲覧・評価を行うプロセスを完遂する 。
15		
16		

科目コード	10204				区　分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅠ［FE用］				担当者名	木戸　和彦			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必須

＜授業の概要＞

AI時代においてコンピュータの利活用は必須のスキルである。本科目では、コンピュータを利活用した情報活用能力の育成を目指し、コンピュータという機器操作だけではなく、情報の処理能力、情報の科学的理解、情報の社会的理解（情報社会の生活力）を学ぶものである。コンピュータ操作スキルを習熟は必要であり、Webアプリケーション（Google　Workspace）を駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグループワークを行うためのコミュニケーション能力も必要であ

＜授業の到達目標＞

1. デジタル社会（Society 5.0）の仕組みを理解し、主体的に参画できる 社会のあらゆる場面で活用されているデータの有用性を理解し、それが自身の生活や学習にどう結びついているかを説明できる 。2. クラウド環境でのPC操作と共同作業をスムーズに行える Google Workspaceを用いて、クラウド上での効率的なファイル管理や情報の共有・共同編集ができる 。3. 生成AIを「思考のパートナー」として適切に活用できる 生成AIとの対話（プロンプティング）を通じて、課題解決のヒントを得たり、自らのア

＜授業の方法＞

授業内でオンデマンド動画視聴し、その場で演習を行う。インターネットに接続され、Google Chromeがインストールされた WindowsまたはMacOSパソコンが必要となる。演習問題や課題の提出もオンラインで行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有り本授業では、生成AIとの対話型演習を導入する。学生はAIとの質疑応答を通じて仮説を構築し、その内容を検証・修正するプロセスを経る。AIの回答を比較・分析し、妥当性を評価する活動を行うことで、主体的学修態度および論理的思考力の向上を図る。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業内課題の復習を重視する。技能を習得するには、授業内で扱った課題だけではなく、それに類似する課題について復習してある程度手際良く作業することが求められる。動画の見直し、課題の復習を1時間程度行う必要がある。これは次回授業の予習の役目を果たす。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義ごとの演習課題60%、中間課題20%、期末課題20%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	デジタルコミュニケーション	大学アカウントでのログインとブラウザ同期による環境構築を行う 。Gmail、Chat、Meetの使い分けとマナー、共有カレンダーによる予定管理手法を習得する 。
2	PC操作の基本と情報の可視化	ウィンドウ・スナップによる情報の並列処理やスクリーンショット技術を習得する 。拡張子を表示させ、データの正体を見抜くことでサイバー攻撃への防御力を養う 。
3	ファイル管理の作法と共有ルール	フォルダ階層や命名規則を学び、ZIP圧縮・展開時の実務上の注意点を理解する 。クラウド上での適切な権限設定（閲覧・編集）の使い分けを習得する 。
4	Society 5.0：社会とデータの関わり	Society 5.0やデータ駆動型社会の概要を概観する 。デジタル技術が自身の生活や学習にどう結びついているかを学び、学習の動機付けを行う 。
5	クラウド型ツールによる文書作成	スタイル機能（見出し）を用いた文書の構造化や共同編集を体験する 。PDF形式が実務で「信頼される形式」として多用される意義を理解する 。
6	生成AI：思考のパートナーとの対話	生成AIを思考のパートナーとするためのプロンプト（指示文）技術を習得する 。回答の妥当性を検証する視点とハルシネーションの概念を理解する 。
7	【中間課題】AIとつくるロードマップ	生成AIとの対話を通じて大学生活計画を作成する統合演習を行う 。ドキュメントの構造化、PDF化、ZIP圧縮による提出スキルを実践する 。
8	マルチメディアの性質と扱い方	画像（JPEG/PNG/SVG）、音声（MP3）、動画（MP4/MOV）の特性と実務上の選択基準を学ぶ 。ファイルサイズを意識した「リンクによる共有」ルールを習得する 。
9	情報の収集とアンケートの設計	Google フォームを用いたデータ収集の基礎を学ぶ 。回答しやすさに配慮した項目設計（ユニバーサルデザイン）や論理的な設問構成を習得する 。

10	データの集計と可視化の基本	フォームデータの表計算ソフトへの連携と、目的に応じた適切なグラフの選択手法を学ぶ 。データから現状を読み取るための基礎的な分析視点を養う 。
11	プレゼンテーションの構成とデザイン	Google スライドを用い、論理的な構成（結論→根拠）の作り方を学ぶ 。視覚的に情報を整理し、聴衆に伝えるための「引き算のデザイン」を習得する 。
12	情報セキュリティと著作権・引用	個人情報保護やセキュリティ設定、正しい引用のルールを習得する 。他人の著作物やAI生成物を扱う際の法的・倫理的留意事項（ELSI）を理解する 。
13	情報の発信：ウェブサイトの制作	Google サイトを用いて学習成果を統合・発信する 。第三者に伝えるための情報の構造化と、適切な公開範囲の設定手法を習得する 。
14	【期末課題】身近な課題の解決提案	自ら設定した課題に対し、データとAIを活用して解決策を提案する 。ウェブサイト形式で成果を公開し、相互に閲覧・評価を行うプロセスを完遂する 。
15		
16		

科目コード	10204				区　分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅠ［PH用］				担当者名	本庄　慶樹			
配当年次	1年	配当学期	第1クォーター、第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必須

＜授業の概要＞

AI時代においてコンピュータの利活用は必須のスキルである。本科目では、コンピュータを利活用した情報活用能力の育成を目指し、コンピュータという機器操作だけではなく、情報の処理能力、情報の科学的理解、情報の社会的理解（情報社会の生活力）を学ぶものである。コンピュータ操作スキルを習熟は必要であり、Webアプリケーション（Google　Workspace）を駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグループワークを行うためのコミュニケーション能力も必要であ

＜授業の到達目標＞

1. デジタル社会（Society 5.0）の仕組みを理解し、主体的に参画できる 社会のあらゆる場面で活用されているデータの有用性を理解し、それが自身の生活や学習にどう結びついているかを説明できる 。2. クラウド環境でのPC操作と共同作業をスムーズに行える Google Workspaceを用いて、クラウド上での効率的なファイル管理や情報の共有・共同編集ができる 。3. 生成AIを「思考のパートナー」として適切に活用できる 生成AIとの対話（プロンプティング）を通じて、課題解決のヒントを得たり、自らのア

＜授業の方法＞

授業内でオンデマンド動画視聴し、その場で演習を行う。インターネットに接続され、Google Chromeがインストールされた WindowsまたはMacOSパソコンが必要となる。演習問題や課題の提出もオンラインで行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有り本授業では、生成AIとの対話型演習を導入する。学生はAIとの質疑応答を通じて仮説を構築し、その内容を検証・修正するプロセスを経る。AIの回答を比較・分析し、妥当性を評価する活動を行うことで、主体的学修態度および論理的思考力の向上を図る。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業内課題の復習を重視する。技能を習得するには、授業内で扱った課題だけではなく、それに類似する課題について復習してある程度手際良く作業することが求められる。動画の見直し、課題の復習を1時間程度行う必要がある。これは次回授業の予習の役目を果たす。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義ごとの演習課題60%、中間課題20%、期末課題20%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	デジタルコミュニケーション	大学アカウントでのログインとブラウザ同期による環境構築を行う 。Gmail、Chat、Meetの使い分けとマナー、共有カレンダーによる予定管理手法を習得する 。
2	PC操作の基本と情報の可視化	ウィンドウ・スナップによる情報の並列処理やスクリーンショット技術を習得する 。拡張子を表示させ、データの正体を見抜くことでサイバー攻撃への防御力を養う 。
3	ファイル管理の作法と共有ルール	フォルダ階層や命名規則を学び、ZIP圧縮・展開時の実務上の注意点を理解する 。クラウド上での適切な権限設定（閲覧・編集）の使い分けを習得する 。
4	Society 5.0：社会とデータの関わり	Society 5.0やデータ駆動型社会の概要を概観する 。デジタル技術が自身の生活や学習にどう結びついているかを学び、学習の動機付けを行う 。
5	クラウド型ツールによる文書作成	スタイル機能（見出し）を用いた文書の構造化や共同編集を体験する 。PDF形式が実務で「信頼される形式」として多用される意義を理解する 。
6	生成AI：思考のパートナーとの対話	生成AIを思考のパートナーとするためのプロンプト（指示文）技術を習得する 。回答の妥当性を検証する視点とハルシネーションの概念を理解する 。
7	【中間課題】AIとつくるロードマップ	生成AIとの対話を通じて大学生活計画を作成する統合演習を行う 。ドキュメントの構造化、PDF化、ZIP圧縮による提出スキルを実践する 。

8	マルチメディアの性質と扱い方	画像（JPEG/PNG/SVG）、音声（MP3）、動画（MP4/MOV）の特性と実務上の選択基準を学ぶ 。ファイルサイズを意識した「リンクによる共有」ルールを習得する 。
9	情報の収集とアンケートの設計	Google フォームを用いたデータ収集の基礎を学ぶ 。回答しやすさに配慮した項目設計（ユニバーサルデザイン）や論理的な設問構成を習得する 。
10	データの集計と可視化の基本	フォームデータの表計算ソフトへの連携と、目的に応じた適切なグラフの選択手法を学ぶ 。データから現状を読み取るための基礎的な分析視点を養う 。
11	プレゼンテーションの構成とデザイン	Google スライドを用い、論理的な構成（結論→根拠）の作り方を学ぶ 。視覚的に情報を整理し、聴衆に伝えるための「引き算のデザイン」を習得する 。
12	情報セキュリティと著作権・引用	個人情報保護やセキュリティ設定、正しい引用のルールを習得する 。他人の著作物やAI生成物を扱う際の法的・倫理的留意事項（ELSI）を理解する 。
13	情報の発信：ウェブサイトの制作	Google サイトを用いて学習成果を統合・発信する 。第三者に伝えるための情報の構造化と、適切な公開範囲の設定手法を習得する 。
14	【期末課題】身近な課題の解決提案	自ら設定した課題に対し、データとAIを活用して解決策を提案する 。ウェブサイト形式で成果を公開し、相互に閲覧・評価を行うプロセスを完遂する 。
15		
16		

科目コード	10204				区　分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅠ［PS用］				担当者名	本庄　慶樹			
配当年次	1年	配当学期	第1クォーター、第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必須

＜授業の概要＞

AI時代においてコンピュータの利活用は必須のスキルである。本科目では、コンピュータを利活用した情報活用能力の育成を目指し、コンピュータという機器操作だけではなく、情報の処理能力、情報の科学的理解、情報の社会的理解（情報社会の生活力）を学ぶものである。コンピュータ操作スキルを習熟は必要であり、Webアプリケーション（Google　Workspace）を駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグループワークを行うためのコミュニケーション能力も必要であ

＜授業の到達目標＞

1. デジタル社会（Society 5.0）の仕組みを理解し、主体的に参画できる 社会のあらゆる場面で活用されているデータの有用性を理解し、それが自身の生活や学習にどう結びついているかを説明できる 。2. クラウド環境でのPC操作と共同作業をスムーズに行える Google Workspaceを用いて、クラウド上での効率的なファイル管理や情報の共有・共同編集ができる 。3. 生成AIを「思考のパートナー」として適切に活用できる 生成AIとの対話（プロンプティング）を通じて、課題解決のヒントを得たり、自らのア

＜授業の方法＞

授業内でオンデマンド動画視聴し、その場で演習を行う。インターネットに接続され、Google Chromeがインストールされた WindowsまたはMacOSパソコンが必要となる。演習問題や課題の提出もオンラインで行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有り本授業では、生成AIとの対話型演習を導入する。学生はAIとの質疑応答を通じて仮説を構築し、その内容を検証・修正するプロセスを経る。AIの回答を比較・分析し、妥当性を評価する活動を行うことで、主体的学修態度および論理的思考力の向上を図る。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業内課題の復習を重視する。技能を習得するには、授業内で扱った課題だけではなく、それに類似する課題について復習してある程度手際良く作業することが求められる。動画の見直し、課題の復習を1時間程度行う必要がある。これは次回授業の予習の役目を果たす。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義ごとの演習課題60%、中間課題20%、期末課題20%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	デジタルコミュニケーション	大学アカウントでのログインとブラウザ同期による環境構築を行う 。Gmail、Chat、Meetの使い分けとマナー、共有カレンダーによる予定管理手法を習得する 。
2	PC操作の基本と情報の可視化	ウィンドウ・スナップによる情報の並列処理やスクリーンショット技術を習得する 。拡張子を表示させ、データの正体を見抜くことでサイバー攻撃への防御力を養う 。
3	ファイル管理の作法と共有ルール	フォルダ階層や命名規則を学び、ZIP圧縮・展開時の実務上の注意点を理解する 。クラウド上での適切な権限設定（閲覧・編集）の使い分けを習得する 。
4	Society 5.0：社会とデータの関わり	Society 5.0やデータ駆動型社会の概要を概観する 。デジタル技術が自身の生活や学習にどう結びついているかを学び、学習の動機付けを行う 。
5	クラウド型ツールによる文書作成	スタイル機能（見出し）を用いた文書の構造化や共同編集を体験する 。PDF形式が実務で「信頼される形式」として多用される意義を理解する 。
6	生成AI：思考のパートナーとの対話	生成AIを思考のパートナーとするためのプロンプト（指示文）技術を習得する 。回答の妥当性を検証する視点とハルシネーションの概念を理解する 。
7	【中間課題】AIとつくるロードマップ	生成AIとの対話を通じて大学生活計画を作成する統合演習を行う 。ドキュメントの構造化、PDF化、ZIP圧縮による提出スキルを実践する 。

8	マルチメディアの性質と扱い方	画像（JPEG/PNG/SVG）、音声（MP3）、動画（MP4/MOV）の特性と実務上の選択基準を学ぶ 。ファイルサイズを意識した「リンクによる共有」ルールを習得する 。
9	情報の収集とアンケートの設計	Google フォームを用いたデータ収集の基礎を学ぶ 。回答しやすさに配慮した項目設計（ユニバーサルデザイン）や論理的な設問構成を習得する 。
10	データの集計と可視化の基本	フォームデータの表計算ソフトへの連携と、目的に応じた適切なグラフの選択手法を学ぶ 。データから現状を読み取るための基礎的な分析視点を養う 。
11	プレゼンテーションの構成とデザイン	Google スライドを用い、論理的な構成（結論→根拠）の作り方を学ぶ 。視覚的に情報を整理し、聴衆に伝えるための「引き算のデザイン」を習得する 。
12	情報セキュリティと著作権・引用	個人情報保護やセキュリティ設定、正しい引用のルールを習得する 。他人の著作物やAI生成物を扱う際の法的・倫理的留意事項（ELSI）を理解する 。
13	情報の発信：ウェブサイトの制作	Google サイトを用いて学習成果を統合・発信する 。第三者に伝えるための情報の構造化と、適切な公開範囲の設定手法を習得する 。
14	【期末課題】身近な課題の解決提案	自ら設定した課題に対し、データとAIを活用して解決策を提案する 。ウェブサイト形式で成果を公開し、相互に閲覧・評価を行うプロセスを完遂する 。
15		
16		

科目コード	10204				区　分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅠ［PS留学生用］				担当者名	宮本　彩			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
文書作成ツールの実習を通して情報リテラシーの基礎を学ぶ。本講座では、社会人として適切な文書処理能力とビジネス文章を作成できるスキルを習得することを目指す。単なる操作技術の取得にとどまらず、ビジネスマナーに即した文章作成のルールや合わせてICT社会で求められる情報リテラシの基礎や一般事務業務に支障が出無いレベルのタイピングスキルも固めていく。

＜授業の到達目標＞
マイクロソフトワードやGoogleドキュメントなど文書作成ツールに実装される様々な機能を熟知し、ビジネス現場で求められる効率的な文書処理のスキルやハイクオリティのレポート作成技術の習得を目指す。具体的にはマイクロソフトオフィススペシャリスト検定合格レベルのワード操作技能の習得を目指す。

＜授業の方法＞
パソコンを用いた実習形態での授業を実施する。課題を通したコンピュータの活用用法の解説と、それを念頭に置いた具体的な課題作成を毎回実施する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
学生自身が直接パソコンを操作することで、実践的なスキルを身に付ける。なお実習をメインにした授業の為、4回を超える欠席者には単位を認めない。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業の学んだ練習課題に即した宿題を毎回課す。(90分程度）タイピング練習（30分程度）前回の授業ならびに関連するMOS検定出題問題の確認（60分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
あらゆるビジネスシーンで求められるICTスキルの習得を目標としており、ディプロマポリシーで求めるビジネス力向上に不可欠な科目である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業内で提出した課題40%、宿題等の提出物10%、確認テスト50%

＜教科書＞
土岐 順子　情報利活用 文書作成 Word 2024対応　日経BP社

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	情報リテラシー	授業の進め方、なびに授業で必要となるアプリやメールシステムなど基本システムの利用法の解説。
2	文書作成とビジネス文章の基本	簡単なビジネス文書の作成を通して、ワードを用いた文章作成の基本とビ ジネス文書の基本ルールを身に付ける。
3	レポート・報告書作成の基本	簡単なレポート・報告書の作成を通して、効率的で読みやす資料作成に有用な機能の使い方を習得する。
4	表の作成・図形の挿入（1）	表の成方法と図形の挿入について学ぶ。
5	表の作成・図形の挿入（2）	ワード内にある作図機能を用いた簡単なチラシ・フライヤーの作成を行 う。
6	グラフの利用	グラフ作成機能やスマートアートの使い方を学ぶ。
7	既存データの利用	エクセルデータの取り込みや、写真データの利用などワード以外のデータ をワードで利用する方法について解説する。
8	長文の作成（1）	スタイルや段組を用いて、長文を読みやすいレイアウトにする方法を学ぶ。
9	長文の作成（2）	アウトライン機能などを用いて文章構造を把握しながら長文を加工・作成する方法を学ぶ。
10	長文の作成（3）	目次、脚注、フッター、ヘッダー、コメントなど組版校閲機能を学ぶ。
11	差し込み印刷の使い方	宛名ラベル作成や手紙の宛名書き等、複数の宛名を印刷するときに有効な差し込み印刷の基本操作を学習する。「
12	総合問題[1]	これまでに習得した知識の再確認として、総合的な問題にチャレンジする。
13	総合問題[2]	これまでに習得した知識の再確認として、総合的な問題にチャレンジする。
14	まとめと確認	学習内容の達成度の確認を行う。
15		
16		

科目コード	10205				区　分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅡ［BC用］				担当者名	岡田　健志			
配当年次	1年	配当学期	第3クォーター・第4クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必須

＜授業の概要＞

「コンピュータリテラシーⅠ」での習得内容を発展させ、クラウド環境における高度なデータ処理および分析能力を育成する科目である 。表計算ツールを用いた実データ演習を通じ、データを「読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンスの基本スキルを習得する 。また、社会の多様な領域におけるデータ利活用の実例や、データ倫理（ELSI）等の留意事項を深く学び、現代社会において価値を創出するための基礎を養う 。

＜授業の到達目標＞

1. データの社会的な価値と利活用の理解　社会の多様な領域におけるデータ利活用の実例を学び、データが課題解決や価値創出のための有用なツールであることを理解する 。2. 数理・データサイエンスの基礎スキルの習得　実データを用いた演習を通じ、データを「読む・説明する・扱う」といった、データサイエンスおよびAIの基礎的な活用法を習得する 。3. クラウド環境での高度なデータ処理能力　クラウド上の表計算ツールを駆使し、複雑な関数やグラフを用いたデータ分析、および複数人での共同作業を円滑に実践できる 。

＜授業の方法＞

授業内でオンデマンド動画視聴し、その場で演習を行う。インターネットに接続され、Google Chromeがインストールされた WindowsまたはMacOSパソコンが必要となる。演習問題や課題の提出もオンラインで行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有り本授業では、生成AIとの対話型演習を導入する。学生はAIとの質疑応答を通じて仮説を構築し、その内容を検証・修正するプロセスを経る。AIの回答を比較・分析し、妥当性を評価する活動を行うことで、主体的学修態度および論理的思考力の向上を図る。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業内課題の復習を重視する。技能を習得するには、授業内で扱った課題だけではなく、それに類似する課題について復習してある程度手際良く作業することが求められる。動画の見直し、課題の復習を1時間程度行う必要がある。これは次回授業の予習の役目を果たす。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義ごとの演習課題：60%、中間課題20%、期末課題20%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	表計算ソフトの基本操作	本科目の目的と評価方法 。セルの操作やデータの入力規則 。
2	数理的処理：基本関数でスコア計算	合計・平均・最大・最小関数の活用 。
3	論理的思考：条件分岐でランク付け	条件付き処理（IF関数、COUNTIF等） 。
4	データの整理：大量の情報の仕分け	並べ替え、フィルタ、テーブル設定 。
5	データの可視化：ダッシュボード制作	目的に応じたグラフの選択と作成 。
6	生成AI：高度な関数の活用	生成AIを補助として活用した複雑な関数の作成 。
7	【中間課題】実データ分析の実践	実データを用いた現状把握と報告 。
8	GAS入門：コンピューターへの命令	Google Apps Scriptの基本概念。 生成AIに簡単なコードを書いてもらい、実行する体験。
9	GAS応用：作業の自動化（1）	自動返信メールの作成。 特定の条件で通知を飛ばす仕組みの構築。
10	GAS応用：作業の自動化（2）	データ一括処理。 複数の表を一括処理する自動化体験。
11	実データ演習：社会のデータの解読	社会の多様な領域でのデータ活用事例の学習 。
12	データ分析の実践：仮説と検証	実データを用いた演習。生成AIとの対話による考察 。
13	データ倫理：安全な活用のルール	ELSI、個人情報保護、データ倫理の実践的理解 。
14	【期末課題】自動化・分析プロジェクト	GASや関数を組み合わせた「便利なツール」の制作。

15 16		

科目コード	10205				区　分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅡ［FC用］				担当者名	本庄　慶樹			
配当年次	1年	配当学期	第3クォーター・第4クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必須

＜授業の概要＞
「コンピュータリテラシーⅠ」での習得内容を発展させ、クラウド環境における高度なデータ処理および分析能力を育成する科目である 。表計算ツールを用いた実データ演習を通じ、データを「読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンスの基本スキルを習得する 。また、社会の多様な領域におけるデータ利活用の実例や、データ倫理（ELSI）等の留意事項を深く学び、現代社会において価値を創出するための基礎を養う 。

＜授業の到達目標＞
1. データの社会的な価値と利活用の理解　社会の多様な領域におけるデータ利活用の実例を学び、データが課題解決や価値創出のための有用なツールであることを理解する 。2. 数理・データサイエンスの基礎スキルの習得　実データを用いた演習を通じ、データを「読む・説明する・扱う」といった、データサイエンスおよびAIの基礎的な活用法を習得する 。3. クラウド環境での高度なデータ処理能力　クラウド上の表計算ツールを駆使し、複雑な関数やグラフを用いたデータ分析、および複数人での共同作業を円滑に実践できる 。

＜授業の方法＞
授業内でオンデマンド動画視聴し、その場で演習を行う。インターネットに接続され、Google Chromeがインストールされた WindowsまたはMacOSパソコンが必要となる。演習問題や課題の提出もオンラインで行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有り本授業では、生成AIとの対話型演習を導入する。学生はAIとの質疑応答を通じて仮説を構築し、その内容を検証・修正するプロセスを経る。AIの回答を比較・分析し、妥当性を評価する活動を行うことで、主体的学修態度および論理的思考力の向上を図る。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業内課題の復習を重視する。技能を習得するには、授業内で扱った課題だけではなく、それに類似する課題について復習してある程度手際良く作業することが求められる。動画の見直し、課題の復習を1時間程度行う必要がある。これは次回授業の予習の役目を果たす。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
講義ごとの演習課題：60%、中間課題20%、期末課題20%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	表計算ソフトの基本操作	本科目の目的と評価方法 。セルの操作やデータの入力規則 。
2	数理的処理：基本関数でスコア計算	合計・平均・最大・最小関数の活用 。
3	論理的思考：条件分岐でランク付け	条件付き処理（IF関数、COUNTIF等） 。
4	データの整理：大量の情報の仕分け	並べ替え、フィルタ、テーブル設定 。
5	データの可視化：ダッシュボード制作	目的に応じたグラフの選択と作成 。
6	生成AI：高度な関数の活用	生成AIを補助として活用した複雑な関数の作成 。
7	【中間課題】実データ分析の実践	実データを用いた現状把握と報告 。
8	GAS入門：コンピューターへの命令	Google Apps Scriptの基本概念。 生成AIに簡単なコードを書いてもらい、実行する体験。
9	GAS応用：作業の自動化（1）	自動返信メールの作成。 特定の条件で通知を飛ばす仕組みの構築。
10	GAS応用：作業の自動化（2）	データ一括処理。 複数の表を一括処理する自動化体験。
11	実データ演習：社会のデータの解読	社会の多様な領域でのデータ活用事例の学習 。
12	データ分析の実践：仮説と検証	実データを用いた演習。生成AIとの対話による考察 。
13	データ倫理：安全な活用のルール	ELSI、個人情報保護、データ倫理の実践的理解 。
14	【期末課題】自動化・分析プロジェクト	GASや関数を組み合わせた「便利なツール」の制作。

15 16		

科目コード	10205				区　分	教養科目		
授業科目名	コンピュータリテラシーⅡ［FE表現コース用］				担当者名	木戸　和彦		
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必須

＜授業の概要＞

「コンピュータリテラシーⅠ」での習得内容を発展させ、クラウド環境における高度なデータ処理および分析能力を育成する科目である 。表計算ツールを用いた実データ演習を通じ、データを「読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンスの基本スキルを習得する 。また、社会の多様な領域におけるデータ利活用の実例や、データ倫理（ELSI）等の留意事項を深く学び、現代社会において価値を創出するための基礎を養う 。

＜授業の到達目標＞

1. データの社会的な価値と利活用の理解　社会の多様な領域におけるデータ利活用の実例を学び､データが課題解決や価値創出のための有用なツールであることを理解する 。2. 数理・データサイエンスの基礎スキルの習得　実データを用いた演習を通じ、データを「読む・説明する・扱う」といった、データサイエンスおよびAIの基礎的な活用法を習得する 。3. クラウド環境での高度なデータ処理能力　クラウド上の表計算ツールを駆使し、複雑な関数やグラフを用いたデータ分析、および複数人での共同作業を円滑に実践できる 。

＜授業の方法＞

授業内でオンデマンド動画視聴し、その場で演習を行う。インターネットに接続され、Google Chromeがインストールされた WindowsまたはMacOSパソコンが必要となる。演習問題や課題の提出もオンラインで行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有り本授業では、生成AIとの対話型演習を導入する。学生はAIとの質疑応答を通じて仮説を構築し、その内容を検証・修正するプロセスを経る。AIの回答を比較・分析し、妥当性を評価する活動を行うことで、主体的学修態度および論理的思考力の向上を図る。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業内課題の復習を重視する。技能を習得するには、授業内で扱った課題だけではなく、それに類似する課題について復習してある程度手際良く作業することが求められる。動画の見直し、課題の復習を1時間程度行う必要がある。これは次回授業の予習の役目を果たす。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義ごとの演習課題：60%、中間課題20%、期末課題20%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	表計算ソフトの基本操作	本科目の目的と評価方法 。セルの操作やデータの入力規則 。
2	数理的処理：基本関数でスコア計算	合計・平均・最大・最小関数の活用 。
3	論理的思考：条件分岐でランク付け	条件付き処理（IF関数、COUNTIF等） 。
4	データの整理：大量の情報の仕分け	並べ替え、フィルタ、テーブル設定 。
5	データの可視化：ダッシュボード制作	目的に応じたグラフの選択と作成 。
6	生成AI：高度な関数の活用	生成AIを補助として活用した複雑な関数の作成 。
7	【中間課題】実データ分析の実践	実データを用いた現状把握と報告 。
8	GAS入門：コンピューターへの命令	Google Apps Scriptの基本概念。 生成AIに簡単なコードを書いてもらい、実行する体験。
9	GAS応用：作業の自動化（1）	自動返信メールの作成。 特定の条件で通知を飛ばす仕組みの構築。
10	GAS応用：作業の自動化（2）	データ一括処理。 複数の表を一括処理する自動化体験。
11	実データ演習：社会のデータの解読	社会の多様な領域でのデータ活用事例の学習 。
12	データ分析の実践：仮説と検証	実データを用いた演習。生成AIとの対話による考察 。
13	データ倫理：安全な活用のルール	ELSI、個人情報保護、データ倫理の実践的理解 。
14	【期末課題】自動化・分析プロジェクト	GASや関数を組み合わせた「便利なツール」の制作。
15		
16		

科目コード	10205				区　分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅡ［FE用］				担当者名	木戸　和彦			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必須

＜授業の概要＞

「コンピュータリテラシーⅠ」での習得内容を発展させ、クラウド環境における高度なデータ処理および分析能力を育成する科目である 。表計算ツールを用いた実データ演習を通じ、データを「読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンスの基本スキルを習得する 。また、社会の多様な領域におけるデータ利活用の実例や、データ倫理（ELSI）等の留意事項を深く学び、現代社会において価値を創出するための基礎を養う 。

＜授業の到達目標＞

1. データの社会的な価値と利活用の理解　社会の多様な領域におけるデータ利活用の実例を学び､データが課題解決や価値創出のための有用なツールであることを理解する 。2. 数理・データサイエンスの基礎スキルの習得　実データを用いた演習を通じ、データを「読む・説明する・扱う」といった、データサイエンスおよびAIの基礎的な活用法を習得する 。3. クラウド環境での高度なデータ処理能力　クラウド上の表計算ツールを駆使し、複雑な関数やグラフを用いたデータ分析、および複数人での共同作業を円滑に実践できる 。

＜授業の方法＞

授業内でオンデマンド動画視聴し、その場で演習を行う。インターネットに接続され、Google Chromeがインストールされた WindowsまたはMacOSパソコンが必要となる。演習問題や課題の提出もオンラインで行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有り本授業では、生成AIとの対話型演習を導入する。学生はAIとの質疑応答を通じて仮説を構築し、その内容を検証・修正するプロセスを経る。AIの回答を比較・分析し、妥当性を評価する活動を行うことで、主体的学修態度および論理的思考力の向上を図る。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業内課題の復習を重視する。技能を習得するには、授業内で扱った課題だけではなく、それに類似する課題について復習してある程度手際良く作業することが求められる。動画の見直し、課題の復習を1時間程度行う必要がある。これは次回授業の予習の役目を果たす。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義ごとの演習課題：60%、中間課題20%、期末課題20%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	表計算ソフトの基本操作	本科目の目的と評価方法 。セルの操作やデータの入力規則 。
2	数理的処理：基本関数でスコア計算	合計・平均・最大・最小関数の活用 。
3	論理的思考：条件分岐でランク付け	条件付き処理（IF関数、COUNTIF等） 。
4	データの整理：大量の情報の仕分け	並べ替え、フィルタ、テーブル設定 。
5	データの可視化：ダッシュボード制作	目的に応じたグラフの選択と作成 。
6	生成AI：高度な関数の活用	生成AIを補助として活用した複雑な関数の作成 。
7	【中間課題】実データ分析の実践	実データを用いた現状把握と報告 。
8	GAS入門：コンピューターへの命令	Google Apps Scriptの基本概念。 生成AIに簡単なコードを書いてもらい、実行する体験。
9	GAS応用：作業の自動化（1）	自動返信メールの作成。 特定の条件で通知を飛ばす仕組みの構築。
10	GAS応用：作業の自動化（2）	データ一括処理。 複数の表を一括処理する自動化体験。
11	実データ演習：社会のデータの解読	社会の多様な領域でのデータ活用事例の学習 。
12	データ分析の実践：仮説と検証	実データを用いた演習。生成AIとの対話による考察 。
13	データ倫理：安全な活用のルール	ELSI、個人情報保護、データ倫理の実践的理解 。
14	【期末課題】自動化・分析プロジェクト	GASや関数を組み合わせた「便利なツール」の制作。
15		
16		

科目コード	10205				区　分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅡ［PH用］				担当者名	本庄　慶樹			
配当年次	1年	配当学期	第3クォーター・第4クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必須

＜授業の概要＞

「コンピュータリテラシーⅠ」での習得内容を発展させ、クラウド環境における高度なデータ処理および分析能力を育成する科目である 。表計算ツールを用いた実データ演習を通じ、データを「読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンスの基本スキルを習得する 。また、社会の多様な領域におけるデータ利活用の実例や、データ倫理（ELSI）等の留意事項を深く学び、現代社会において価値を創出するための基礎を養う 。

＜授業の到達目標＞

1. データの社会的な価値と利活用の理解　社会の多様な領域におけるデータ利活用の実例を学び、データが課題解決や価値創出のための有用なツールであることを理解する 。2. 数理・データサイエンスの基礎スキルの習得　実データを用いた演習を通じ、データを「読む・説明する・扱う」といった、データサイエンスおよびAIの基礎的な活用法を習得する 。3. クラウド環境での高度なデータ処理能力　クラウド上の表計算ツールを駆使し、複雑な関数やグラフを用いたデータ分析、および複数人での共同作業を円滑に実践できる 。

＜授業の方法＞

授業内でオンデマンド動画視聴し、その場で演習を行う。インターネットに接続され、Google ChromeがインストールされたWindowsまたはMacOSパソコンが必要となる。演習問題や課題の提出もオンラインで行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有り本授業では、生成AIとの対話型演習を導入する。学生はAIとの質疑応答を通じて仮説を構築し、その内容を検証・修正するプロセスを経る。AIの回答を比較・分析し、妥当性を評価する活動を行うことで、主体的学修態度および論理的思考力の向上を図る。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業内課題の復習を重視する。技能を習得するには、授業内で扱った課題だけではなく、それに類似する課題について復習してある程度手際良く作業することが求められる。動画の見直し、課題の復習を1時間程度行う必要がある。これは次回授業の予習の役目を果たす。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義ごとの演習課題：60%、中間課題20%、期末課題20%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	表計算ソフトの基本操作	本科目の目的と評価方法 。セルの操作やデータの入力規則 。
2	数理的処理：基本関数でスコア計算	合計・平均・最大・最小関数の活用 。
3	論理的思考：条件分岐でランク付け	条件付き処理（IF関数、COUNTIF等） 。
4	データの整理：大量の情報の仕分け	並べ替え、フィルタ、テーブル設定 。
5	データの可視化：ダッシュボード制作	目的に応じたグラフの選択と作成 。
6	生成AI：高度な関数の活用	生成AIを補助として活用した複雑な関数の作成 。
7	【中間課題】実データ分析の実践	実データを用いた現状把握と報告 。
8	GAS入門：コンピューターへの命令	Google Apps Scriptの基本概念。 生成AIに簡単なコードを書いてもらい、実行する体験。
9	GAS応用：作業の自動化（1）	自動返信メールの作成。 特定の条件で通知を飛ばす仕組みの構築。
10	GAS応用：作業の自動化（2）	データ一括処理。 複数の表を一括処理する自動化体験。
11	実データ演習：社会のデータの解読	社会の多様な領域でのデータ活用事例の学習 。
12	データ分析の実践：仮説と検証	実データを用いた演習。生成AIとの対話による考察 。
13	データ倫理：安全な活用のルール	ELSI、個人情報保護、データ倫理の実践的理解 。
14	【期末課題】自動化・分析プロジェクト	GASや関数を組み合わせた「便利なツール」の制作。

15 16		

科目コード	10205				区　分	教養科目		
授業科目名	コンピュータリテラシーⅡ［PP用］				担当者名	本庄　慶樹		
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必須

＜授業の概要＞

「コンピュータリテラシーⅠ」での習得内容を発展させ、クラウド環境における高度なデータ処理および分析能力を育成する科目である 。表計算ツールを用いた実データ演習を通じ、データを「読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンスの基本スキルを習得する 。また、社会の多様な領域におけるデータ利活用の実例や、データ倫理（ELSI）等の留意事項を深く学び、現代社会において価値を創出するための基礎を養う 。

＜授業の到達目標＞

1. データの社会的な価値と利活用の理解　社会の多様な領域におけるデータ利活用の実例を学び､データが課題解決や価値創出のための有用なツールであることを理解する 。2. 数理・データサイエンスの基礎スキルの習得　実データを用いた演習を通じ、データを「読む・説明する・扱う」といった、データサイエンスおよびAIの基礎的な活用法を習得する 。3. クラウド環境での高度なデータ処理能力　クラウド上の表計算ツールを駆使し、複雑な関数やグラフを用いたデータ分析、および複数人での共同作業を円滑に実践できる 。

＜授業の方法＞

授業内でオンデマンド動画視聴し、その場で演習を行う。インターネットに接続され、Google Chromeがインストールされた WindowsまたはMacOSパソコンが必要となる。演習問題や課題の提出もオンラインで行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有り本授業では、生成AIとの対話型演習を導入する。学生はAIとの質疑応答を通じて仮説を構築し、その内容を検証・修正するプロセスを経る。AIの回答を比較・分析し、妥当性を評価する活動を行うことで、主体的学修態度および論理的思考力の向上を図る。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業内課題の復習を重視する。技能を習得するには、授業内で扱った課題だけではなく、それに類似する課題について復習してある程度手際良く作業することが求められる。動画の見直し、課題の復習を1時間程度行う必要がある。これは次回授業の予習の役目を果たす。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義ごとの演習課題：60%、中間課題20%、期末課題20%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	表計算ソフトの基本操作	本科目の目的と評価方法 。セルの操作やデータの入力規則 。
2	数理的処理：基本関数でスコア計算	合計・平均・最大・最小関数の活用 。
3	論理的思考：条件分岐でランク付け	条件付き処理（IF関数、COUNTIF等） 。
4	データの整理：大量の情報の仕分け	並べ替え、フィルタ、テーブル設定 。
5	データの可視化：ダッシュボード制作	目的に応じたグラフの選択と作成 。
6	生成AI：高度な関数の活用	生成AIを補助として活用した複雑な関数の作成 。
7	【中間課題】実データ分析の実践	実データを用いた現状把握と報告 。
8	GAS入門：コンピューターへの命令	Google Apps Scriptの基本概念。 生成AIに簡単なコードを書いてもらい、実行する体験。
9	GAS応用：作業の自動化（1）	自動返信メールの作成。 特定の条件で通知を飛ばす仕組みの構築。
10	GAS応用：作業の自動化（2）	データ一括処理。 複数の表を一括処理する自動化体験。
11	実データ演習：社会のデータの解読	社会の多様な領域でのデータ活用事例の学習 。
12	データ分析の実践：仮説と検証	実データを用いた演習。生成AIとの対話による考察 。
13	データ倫理：安全な活用のルール	ELSI、個人情報保護、データ倫理の実践的理解 。
14	【期末課題】自動化・分析プロジェクト	GASや関数を組み合わせた「便利なツール」の制作。
15		
16		

科目コード	10205				区　分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅡ［PS用］				担当者名	本庄　慶樹			
配当年次	1年	配当学期	第3クォーター・第4クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必須

＜授業の概要＞
「コンピュータリテラシーⅠ」での習得内容を発展させ、クラウド環境における高度なデータ処理および分析能力を育成する科目である 。表計算ツールを用いた実データ演習を通じ、データを「読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンスの基本スキルを習得する 。また、社会の多様な領域におけるデータ利活用の実例や、データ倫理（ELSI）等の留意事項を深く学び、現代社会において価値を創出するための基礎を養う 。

＜授業の到達目標＞
1. データの社会的な価値と利活用の理解　社会の多様な領域におけるデータ利活用の実例を学び、データが課題解決や価値創出のための有用なツールであることを理解する 。2. 数理・データサイエンスの基礎スキルの習得　実データを用いた演習を通じ、データを「読む・説明する・扱う」といった、データサイエンスおよびAIの基礎的な活用法を習得する 。3. クラウド環境での高度なデータ処理能力　クラウド上の表計算ツールを駆使し、複雑な関数やグラフを用いたデータ分析、および複数人での共同作業を円滑に実践できる 。

＜授業の方法＞
授業内でオンデマンド動画視聴し、その場で演習を行う。インターネットに接続され、Google ChromeがインストールされたWindowsまたはMacOSパソコンが必要となる。演習問題や課題の提出もオンラインで行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有り本授業では、生成AIとの対話型演習を導入する。学生はAIとの質疑応答を通じて仮説を構築し、その内容を検証・修正するプロセスを経る。AIの回答を比較・分析し、妥当性を評価する活動を行うことで、主体的学修態度および論理的思考力の向上を図る。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業内課題の復習を重視する。技能を習得するには、授業内で扱った課題だけではなく、それに類似する課題について復習してある程度手際良く作業することが求められる。動画の見直し、課題の復習を1時間程度行う必要がある。これは次回授業の予習の役目を果たす。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
講義ごとの演習課題：60%、中間課題20%、期末課題20%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	表計算ソフトの基本操作	本科目の目的と評価方法 。セルの操作やデータの入力規則 。
2	数理的処理：基本関数でスコア計算	合計・平均・最大・最小関数の活用 。
3	論理的思考：条件分岐でランク付け	条件付き処理（IF関数、COUNTIF等） 。
4	データの整理：大量の情報の仕分け	並べ替え、フィルタ、テーブル設定 。
5	データの可視化：ダッシュボード制作	目的に応じたグラフの選択と作成 。
6	生成AI：高度な関数の活用	生成AIを補助として活用した複雑な関数の作成 。
7	【中間課題】実データ分析の実践	実データを用いた現状把握と報告 。
8	GAS入門：コンピューターへの命令	Google Apps Scriptの基本概念。 生成AIに簡単なコードを書いてもらい、実行する体験。
9	GAS応用：作業の自動化（1）	自動返信メールの作成。 特定の条件で通知を飛ばす仕組みの構築。
10	GAS応用：作業の自動化（2）	データ一括処理。 複数の表を一括処理する自動化体験。
11	実データ演習：社会のデータの解読	社会の多様な領域でのデータ活用事例の学習 。
12	データ分析の実践：仮説と検証	実データを用いた演習。生成AIとの対話による考察 。
13	データ倫理：安全な活用のルール	ELSI、個人情報保護、データ倫理の実践的理解 。
14	【期末課題】自動化・分析プロジェクト	GASや関数を組み合わせた「便利なツール」の制作。

15 16		

科目コード	10206				区　分	教養科目		
授業科目名	コンピュータリテラシーⅢ				担当者名	木戸　和彦		
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本科目は、新しい技術（AI、ビッグデータ、IoT など）や新しい手法（アジャイルなど）の概要に関する知識をはじめ、IT（セキュリティ、ネットワークなど）の知識など幅広い分野の総合的知識を問う科目である。講義は、よりITの高みを目指すため、ITパスポート試験単元の内「テクノロジ系」を中心に進める。履修条件として、「コンピュータリテラシーⅠ」「コンピュータリテラシーⅡ」を単位習得済みであること。

＜授業の到達目標＞
ITを正しく理解し、効果的にITを利活用することのできる「IT力」を身に付けるため、以下のことを理解し、正しくPCを利活用できることを目標とする。１．ハードウェアに関する知識　２．ソフトウェアに関する知識　３．コンピューターの動作原理　４．情報数学　５．表計算ソフトの仕組み　６．データベースの知識　７．ネットワークの仕組み

＜授業の方法＞
授業は各自が持参したPCを用いた実習と講義形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、事前課題に関する小テストを行った後、教員がいくつかのポイントの解説をし、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その日に学んだ内容を用いた練習問題を行い、少人数のグループワークで学生同志相談しながら作業を進める。完成させたレポートや成果物を授業内課題として毎回提出する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無し

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
講義に臨むにあたり、事前課題を予習することを必須とする。わからない箇所は、基本的には、自力で調べること。（どうしてもわからない場合、わかる人に聞いてでもできるようにしておくこと）PCで実際に操作を確認しながら予習を行うため、予習にはおよそ60分～90分程度の時間を要する。復習は必ず次回の授業までに行い、少なくとも授業時間と同等（90分）程度の時間を割くような学習姿勢が望ましい。また、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった課題、欠席してしまった日の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業に臨む

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２(専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
事前課題・受講態度 15%、毎回の講義内課題 45%、総合課題 40%で評価する。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	授業ガイダンス	ガイダンス、PC環境の確認、GIGAスクール構想についての確認、ITパスポート試験の概要説明
2	コンピューター概論	最も身近なコンピュータ、0と1の世界、最新技術
3	ハードウェアⅠ	コンピュータの種類、パソコンの種類、コンピュータの五大装置
4	ハードウェアⅡ	情報量を表す単位、進数
5	ハードウェアⅢ	入出力装置
6	ハードウェアⅣ	記憶素子、記憶装置、RAMとROM
7	ハードウェアⅤ	ハードディスクの記憶容量、ハードディスクのアクセス速度
8	ソフトウェアⅠ	OSとアプリケーションソフト
9	ソフトウェアⅡ	ジョブ管理、ファイル管理、タスク管理、記憶管理
10	総合課題	これまでのまとめ（中間試験）
11	コンピューターシステムⅠ	システム構成技術、コンピュータシステムの分類
12	コンピューターシステムⅡ	コンピュータシステムの性能を表す指標
13	コンピューターシステムⅢ	コンピュータシステムの信頼性、稼働率の計算
14	コンピューターシステムⅣ	コンピュータシステムの応用技術
15		
16		

科目コード	10207				区　分	教養科目		
授業科目名	コンピュータリテラシーⅣ				担当者名	木戸　和彦		
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本科目は、学校現場、公務員、企業等の職場で必要とされるIT利活用力に対応した内容である。コンピューターリテラシーの高度な技術の解説とコーディング実習を行い、社会人として必要となるICTスキルを身に付ける。具体的には、Excelの関数機能だけではなくマクロ（VBA）が使えること、データの種類や特性を知ることでデータを正しく収集・処理・分析をし、PowerPointやExcelのグラフ機能、また、Googleのスプレッドシート等のクラウドを使用して外部へ正しく発信する方法などを学習する。さらに、プログラミング

＜授業の到達目標＞

社会人として必要となる以下のICTスキルを身に付けることを目標とする。１．Excel VBAによるデータ処理技術、２．Scratchによるプログラミング授業の指導力、３．正しいデータの処理手法（収集・処理・分析・発信）、４．情報セキュリティの知識とその指導力

＜授業の方法＞

授業は各自が持参したPCを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、教員がいくつかのポイントの解説をし、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その日に学んだ内容を用いた練習問題を行い、5人程度のグループワークで学生同志相談しながら作業を進める。完成させた成果物を授業内課題として毎回提出する。テキストは、教員がデジタルにて配信するか、または、授業中に指示するWebサイトから入手する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有り・中庭に出て、リアルなデータ収集作業を行う・プレゼン・ディベートをする際のグループ学習

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前課題を予習することを必須とする。わからない箇所は、基本的には、自力で調べること。（どうしてもわからない場合、わかる人に聞いてでもできるようにしておくこと）PCで実際に操作を確認しながら予習を行うため、予習にはおよそ60分～90分程度の時間を要する。復習は必ず次回の授業までに行い、少なくとも授業時間と同等（90分）程度の時間を割くような学習姿勢が望ましい。また、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった課題、欠席してしまった日の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業に臨む

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、ディプロマポリシー２(専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題・受講態度 15%、毎回の講義内課題 45%、総合課題 40%で評価する。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	授業ガイダンス	ガイダンス、PC環境の確認、GIGAスクール構想についての確認、企業が求めるITスキルの確認
2	情報セキュリティ	SNS、メール、ネット利用における情報セキュリティに関する問題を考える
3	プログラミング（1）	プログラミングについての解説、デジタル教材やデジタル教科書の導入についての課題について考える
4	プログラミング（2）	AI（人工知能）についての解説、教育現場におけるAI導入の課題について考える
5	プログラミング演習（1）	Excelの関数機能の復習、VBAによるデータ処理についての解説と演習
6	プログラミング演習（2）	VBAによるデータ処理の演習
7	クラウド処理について（1）	Google Classroom、Google Formsを使用した授業の組み立てとアンケートの取り方
8	クラウド処理について（2）	Google Suiteの利用についての解説と演習
9	データサイエンス（1）	データ収集（データの質と種類）
10	データサイエンス（2）	データ分析とデータの読み方
11	データサイエンス（3）	PowerPointとExcel、Google スライドとスプレッドシートを使用したデータの発信方法について
12	プログラミング演習（3）	プログラミング体験（Scratch）①
13	プログラミング演習（4）	プログラミング体験（Scratch）②
14	総合課題	
15		グループ発表会②
16		

科目コード	10301				区　分	教養科目		
授業科目名	統計学				担当者名	木戸　和彦		
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
初めに、統計学の基礎となる平均・分散・標準偏差について学習する。これらの値は、与えられたデータの特徴を知る ための簡単な手法としてよく知られている。ここでは、計算はもとより意味や内容を十分に理解しておくことが重要で ある。次に、偏差値・度数分布表・ヒストグラムなどの基本事項を確認する。更に、２つのデータ間の関係を知るため に有効な、相関図・共分散・相関係数・回帰直線などを学習後、確率変数と分布について検討を行い、２項分布・ポア ソン分布及び正規分布とその応用について学習する。最後に母数の推定及び検定の考え

＜授業の到達目標＞
一般的によく利用される、平均値の算出から始まり、分散、標準偏差、共分散、相関係数、回帰直線、検定の内容を十分理解し、実際のデータに対して手計算で算出できることを目標とする。

＜授業の方法＞
教科書代わりのプリントを配付し、それに基づいて解説する（50分程度）。また講義の理解を助けるために、講義時間内に問題演習を行う（50分程度）。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
シラバスを参考に、当日の授業内容を確認し、テキスト用プリントを講義前までに熟読すること（予習60分）。また、毎回の講義時に、演習問題を出題するので、次回講義開始時 までに自力で解答できるようにしておくこと（復習60分）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習状況・受講態度　30%、講義内課題　30%、期末試験　40%

＜教科書＞

＜参考書＞
小林敬子 著（1996）　基礎統計学　学術図書出版

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	統計の基礎（統計的データ）	データの種類、∑（シグマ）の意味の説明と演習
2	統計の基礎（基本用語の解説）	平均、分散、標準偏差の説明と演習
3	データの処理（計算表の利用方法）	計算表の作成とその利用方法の説明と演習
4	データの処理（基本数値の算出手法）	仮平均を用いた、平均・分散・標準偏差の算出法の説明と演習
5	データの処理（他の基本数値の算出手法）	度数表を用いた、平均・分散・標準偏差の算出法の説明と演習
6	データの処理（応用）	仮平均と度数表の両方を用いた、平均・分散・標準偏差の算出法の説明と演習
7	確率変数と確率分布（統計用語）	度数分布表、ヒストグラムの解説と演習
8	確率変数と確率分布（基本的な分布）	正規分布の解説と演習
9	確率変数と確率分布(身近な統計的数値を算出するための準備)	標準化の解説と演習
10	確率変数と確率分布（偏差値の算出）	偏差値の解説と演習
11	回帰と相関（基本用語の解説と算出手法）	相関図、共分散、相関係数の解説と演習
12	回帰と相関（回帰直線の算出）	回帰直線の解説と演習
13	確率変数と確率分布（その他の分布）	確率、二項分布、ポアソン分布の解説と演習
14	検定（仮説検定の意味）	独立性の仮説検定、T検定、F検定の演習
15		
16		

科目コード	10302				区　分	教養科目			
授業科目名	英語Ⅲ				担当者名	Anton Johannes Potgieter			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

Students will engage in speaking and writing at a more advanced level to improve communication and understanding of English. Students will refine basic skills and learn advanced skills for speaking and writing in English to advance their communication abi

＜授業の到達目標＞

The overall goal of this class is to give students opportunity to express themselves in both speaking and writing and achieve their own voice in their English communication.

＜授業の方法＞

Students will work on assignments both individually and in pairs and groups with the goal of communicating their own ideas and thoughts, while also understanding others. Student will use Google Classroom to turn in their assignments and expected to have a

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

N/A

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

Students will need to prepare outside of class for 1 hour or more so as to be able to effectively communicate their own ideas and thoughts in class. Students will also have student-choice in many areas and are expected to research and bring their topics i

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、ディプロマポリシー５(異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

Assignment 30%Classwork 30%Presentation 40%

＜教科書＞

NONE

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	Course Introduction	International relations - 1
2	Discussion skills	International relations / Trade - 2
3	Expressing and supporting an opinion	Architecture / trends in architecture - 1
4	Presentation skills 1	Architecture / trends in architecture - 2
5	Presentation 1	Success - what does it take to be successful - 1
6	Reading & writing structure	Success - what does it take to be successful - 2
7	Writing skills	Writing - writing an argumentative essay - 1
8	Essay writing	Writing - writing an argumentative essay - 2
9	Understanding a lecture	The Titanic Disaster
10	Discussing delicate topics	Attitudes - non-traditional relationships
11	Conversation skills	Crime - white collar crime
12	Presentation skills 2	Presentation skills - Globalization 1
13	Final presentation preparation	Presentation skills - Globalization 2
14	Final presentation	Final presentation - discussion.
15	Reflection	Student reflect on areas their English has improved and give their thoughts on their overall learning in the class.
16		

科目コード	10303				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	統計学基礎［週2］				担当者名	古松　丈周			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
日常生活で「このデータ、信じていいのかな？」と思ったことはないだろうか？ニュースで「○○の満足度80％！」と聞いても、本当に正しいのか、どんな調査方法だったのか、疑問に思うこともあるはずだ。本授業では、統計を使って「データを正しく読み解く力」を身につける。データの整理や分析方法を学び、情報に対して批判的に吟味する練習をする。

＜授業の到達目標＞
本授業を通じて、受講者は以下のスキルやリテラシーを身につけることを目指す。（1）数値データやグラフの意味を正しく読み取ることができ、適切な判断ができる。（2）データを表やグラフに整理し、誤解を招かない正しい可視化手法を選択できる。（3）基本的な平均・中央値・標準偏差などの統計指標を計算し、意味を理解できる。

＜授業の方法＞
授業内の演習でMicrosoft Excelを適宜利用するため、パソコンを毎回持参すること。講義の記録や自らが理解したことをメモする以外にも、問題演習を行うため、必ず筆記用具を持参すること。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングはほぼ毎回の授業で行う。具体的には、ペアワーク・ディスカッションである。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習として次回授業で扱う基本事項を整理する（想定学習時間：約60分）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
課題提出 60%、最終課題 40%を目安に評価する。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス：統計学とは何か	授業の進め方、評価方法について説明する。統計はどんな場面で役立つのか？「データ」とは何か？身の回りにある統計データを考えながら、今後の授業内容について説明する。
2	統計学についての知識	これまでに学んできた統計学の知識について、確認する
3	データの視覚化	データを単に並べるだけでは、その特徴は見えてこない。表やグラフを使って「見える化」することで、データの傾向や違いを直感的に把握できるようになる。本回では、実際にデータを集め、さまざまなグラフを作成し、それぞれの特徴を比較しながら、効果的な可視化の方法を考える。
4	度数分布と代表値	データの中心を示す指標には、平均値、中央値、最頻値があるが、それぞれ異なる特徴を持つ。また、データのばらつきを考慮することで、より詳細な分析が可能となる。同じ「平均点」でも、成績が安定しているクラスとばらつきが大きいクラスがあるのはなぜかを考え、データの散布度の重要性を学ぶ。
5	四分位数、箱ひげ図	代表値では十分に特徴を見いだすことができないデータを、四分位数をつかって特徴をつかって特徴をつかみます。さらに視覚化すべく箱ひげ図について学びます。
6	ヒストグラムと箱ひげ図	どのような場合にヒストグラムを用いるべきか、箱ひげ図を用いるべきか、検討します。
7	分散と標準偏差（1）	データサイズが大きい場合、分散の程度を表わす指標として使用される標準偏差について検討します。
8	分散と標準偏差（2）	標準偏差について、さらに検討します。
9	データの変換	データの特徴をより明確にするために、データの変換について検討します。
10	偏差値	データ変換の例として、偏差値について検討します。
11	散布図と相関係数	２変量データを視覚化した散布図について検討します。
12	相関と因果関係の区別	「アイスクリームの売上が増えると、熱中症の人が増える」というデータがあった場

		合、それは単なる相関関係なのか、それとも因果関係があるのか。本回では、データの相関関係を分析し、相関と因果関係の違いを理解するとともに、「データの読み違い」に注意する方法を学ぶ。
13	総復習	統計学の基礎を振り返り、適切なデータ収集、分析について考えます。
14	総復習・まとめ	まとめの演習課題を行います。
15		
16		

科目コード	10401				区　分	教養科目			
授業科目名	英語Ⅳ				担当者名	Anton Johannes Potgieter			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

Students are expected to speak and write at advanced levels while employing effective communication and understanding of English. Students will refine basic skills and learn advanced skills for speaking and writing in English to advance their communicatio

＜授業の到達目標＞

The overall goal of this class is to give students opportunity to express themselves in both speaking and writing and achieve their own voice in their English communication.

＜授業の方法＞

Students will work on assignments both individually and in pairs and groups with the goal of communicating their own ideas and thoughts, while also understanding others.

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

Students will be engaged as active learners throughout this course. Student choice will be fostered and accessed to increase communication in English. Students will be able to reflect their own thoughts and solve problems in pairs and groups. Students wil

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

Students will need to prepare outside of class for 1 hour or more so as to be able to effectively communicate their own ideas and thoughts in class. Before some classes there are going to be reading homework activities.

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー５（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）およびディプロマポリシー３（初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

Classwork 30%Assignments 30%Presentations 40%

＜教科書＞

NONE

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	Course Introduction	hat makes a good leader? - 1
2	Listening/Speaking skills 1	What makes a good leader? - 2
3	Reading skills 1	Lessons we learn as children - 1
4	Writing skills 1	Lessons we learn as children - 2
5	Persuasive speaking skills	When does a child become an adult? - 1
6	Presentation skills 1	When does a child become an adult? - 2
7	Mid-term Presentation	Presentations
8	Discussion skill - casting doubt	Anthropology - Subcultures
9	Reading skills 2	Does school prepare you for work? - 1
10	Writing skills 2	Does school prepare you for work? - 2
11	Listening/Speaking skills 2	Different roads to success - 1
12	Listening/Speaking skills 3	Different roads to success - 2
13	Persuasive writing skills	Why is it important to play? - 1
14	Persuasive essay	Why is it important to play? - 2
15		
16		

科目コード	10501				区　分	教養科目			
授業科目名	TOEIC Ⅰ				担当者名	中川　定江			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義+演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
TOEIC対策を通じて、英語の基礎力を身につける。TOEIC L&Rは大きく分けて、リスニング・リーディングからなる。社会人の英語力の証明としてTOEICでの高得点が重視されてきている。このような現状を踏まえ、少しでもTOEICで高得点を取っておくことは有利となる。本講義では毎回の実践演習を通じてTOEICでの得点力の向上、ならびに英語の基礎力の拡充を目指す。※単位認定要件として、講義期間内に本学で実施するTOEIC IPテストの受験を課すので必ず申し込みをして受験すること。

＜授業の到達目標＞
TOEIC で400程度のスコアを取得できることを目標とする。

＜授業の方法＞
教室での演習と解説をします。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無し

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各授業の復習と英文スクリプトの音読をすること。毎日30分コツコツと学習することが語学上達のカギです。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー５（異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
出席と授業参加（28%）、授業期間内での小テスト＋学習到達度テスト（72%）　※IPテストを含む※単位認定要件として、講義期間内に本学で実施するTOEIC IPテストの受験を課すので必ず申し込みをして受験すること。未受験者は単位を認められません。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンスとオリエンテーション（TOEICとはどんな試験か）	・TOEICの構成・英語の学習法・これまでどのように英語に向き合ってきたか
2	Part 1 (1)　英語の基本になるパーツ	・名詞・代名詞
3	Part 1 (2)　英語の基本になるパーツ	・動詞・助動詞・形容詞・副詞
4	Part 2　パーツの並べ方	・単語の役割と文・文の種類・主述の一致
5	Part 3(1)　時間を表すルール	・現在形と現在進行形・過去形と現在完了形・過去進行形と過去完了形
6	Part 3(2)　時間を表すルール	・動詞の変化・未来を表す表現
7	Part 4　情報をプラスする表現	・分詞・関係代名詞・関係副詞
8	Part 5 (1)　語の幅を広げる表現	・原級・比較級・最上級
9	Part 5 (2)　語の幅を広げる表現	・接続詞・前置詞
10	Part 5 (3)　語の幅を広げる表現	・不定詞と動名詞
11	Part 5 (4)　語の幅を広げる表現	・受動態
12	Part 5 (5)　語の幅を広げる表現	・仮定法・疑問詞
13	Part 6　文をつなげる表現	・接続副詞・文挿入問題
14	文法問題ランダム演習	・学習到達度テスト
15		
16		

科目コード	10502				区　分	教養科目			
授業科目名	TOEICⅡ				担当者名	中川　定江			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
TOEIC対策を通じて、英語の基礎力を身につける。TOEIC L&Rは大きく分けて、リスニング・リーディングからなる。社会人の英語力の証明としてTOEICでの高得点が重視されてきている。このような現状を踏まえ、少しでもTOEICで高得点を取っておくことは有利となる。本講義では毎回の実践演習を通じてTOEICでの得点力の向上、ならびに英語の基礎力の拡充を目指す。※単位認定要件として、講義期間内に本学で実施するTOEIC IPテストの受験を課すので必ず申し込みをして受験すること。

＜授業の到達目標＞
TOEIC で500程度のスコアを取得できることを目標とする。

＜授業の方法＞
教室での演習と解説をします。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無し

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各授業の復習と英文スクリプトの音読をすること。毎日最低45分以上コツコツと学習することが語学上達のカギです。毎日15分間学習を3セットするイメージで学習に取り組みましょう。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー５（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）およびディプロマポリシー３（初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
出席と授業参加（28%）、授業期間内での小テスト＋学習到達度テスト（72%）※IPテストを含む※単位認定要件として、講義期間内に本学で実施するTOEIC IPテストもしくは通常のTOEICの受験を課すので必ず申し込みをして受験すること。　未受験者は単位を認められません。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	クラスガイダンスとオリエンテーション（TOEICの勉強法）	・TOEICの構成・英語の学習法
2	リスニングセクション（1）	・Part 1 （写真描写問題）・Part 2 （応答問題）
3	リスニングセクション（2）	・Part 1 （写真描写問題）・Part 2 （応答問題）
4	リスニングセクション（3）	・Part 3 （会話文）・Part 4 （説明文）
5	リーディングセクション	・会社・会議室 ①&②
6	リーディングセクション	・会社・取引先・病院
7	リーディングセクション	・商店街・海辺
8	リーディングセクション	・「感情」を表す重要表現・「動作」を表す重要表現
9	リーディングセクション	・「ビジネス」に関する重要表現①・「ビジネス」に関する重要表現②
10	リーディングセクション	・ビジネスに関する重要表現③
11	リーディングセクション	・「金銭」に関する重要表現①・「金銭」に関する重要表現②
12	リーディングセクション	・「数量」を表す重要表現・「位置・場所」を表す重要表現・「時間」を表す重要表現
13	実践演習	・学習到達度テスト
14		
15		
16		

科目コード	10503				区　分	教養科目			
授業科目名	TOEICⅢ				担当者名	中川　定江			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
TOEIC対策を通じて、英語の基礎力を身につける。TOEIC L&Rは大きく分けて、リスニング・リーディングからなる。社会人の英語力の証明としてTOEICでの高得点が重視されてきている。このような現状を踏まえ、少しでもTOEICで高得点を取っておくことは有利となる。本講義では毎回の実践演習を通じてTOEICでの得点力の向上、ならびに英語の基礎力の拡充を目指す。※単位認定要件として、講義期間内に本学で実施するTOEIC IPテストの受験を課すので必ず申し込みをして受験すること。

＜授業の到達目標＞
TOEIC で650程度のスコアを取得できることを目標とする。

＜授業の方法＞
教室での演習と解説をします。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無し

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各授業の復習と英文スクリプトの音読をすること。毎日少なくとも30分コツコツと学習することが語学上達のカギです。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー５（異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
出席と授業参加（28%）、授業期間内での小テスト＋学習到達度テスト（72%）※IPテストを含む※単位認定要件として、講義期間内に本学で実施するTOEIC IPテストの受験を課すので必ず申し込みをして受験すること。未受験者は単位を認められません。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンスとオリエンテーション	・TOEICの構成・英語の学習法・これまでどのように英語に向き合ってきたか
2	リーディングセクションの攻略！Part 5 短文穴埋め問題	・問題の種類を見分けよう！・「文法問題」では品詞と動詞の形に注目！・「語彙問題」攻略のカギは連語と文脈！
3	リーディングセクションの攻略！Part 6 長文穴埋め問題	・問題の種類を抑えよう！・文脈・時制が問われる問題に注意！
4	リーディングセクションの攻略！Part 7 (1)　読解問題	・問題の種類を押さえよう！・質問文の先読みでキーワードをつかむ！
5	リーディングセクションの攻略！Part 7 (2)　読解問題	・「読解問題」で頻出する言い換えに注意！・選択肢の消去法を活用しよう！
6	リーディングセクションの攻略！Part 7 (3)　読解問題	・文挿入問題を攻略しよう！・テキストメッセージ＆チャット問題を攻略しよう！・マルチプル・パッセージ問題の解き方！
7	リスニングセクションの攻略！	・Part 1 Photographs （写真描写問題）・Part 2 Question=Response （応答問題）・Part 3 Conversations （応答問題）・Part 4 Talks（説明文問題）
8	リーディングセクション演習	・Part 5・Part 6・Part 7
9	リーディングセクション演習	・Part 5・Part 6・Part 7
10	リーディングセクション演習	・Part 5・Part 6・Part 7
11	リーディングセクション演習	・Part 5・Part 6・Part 7
12	リーディングセクション演習	・Part 5・Part 6・Part 7
13	リスニングセクション＆リーディングセクション	・学習到達度テスト
14		
15		
16		

科目コード	10504				区　分	教養科目			
授業科目名	TOEICⅣ				担当者名	中川　定江			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
TOEIC対策を通じて、英語の基礎力を身につける。TOEIC L&Rは大きく分けて、リスニング・リーディングからなる。社会人の英語力の証明としてTOEICでの高得点が重視されてきている。このような現状を踏まえ、少しでもTOEICで高得点を取っておくことは有利となる。本講義では毎回の実践演習を通じてTOEICでの得点力の向上、ならびに英語力の拡充を目指す。※単位認定要件として、講義期間内に本学で実施するTOEIC IPテストもしくは通常のTOEICの受験を課すので必ず申し込みをして受験すること。

＜授業の到達目標＞
TOEIC で700以上のスコアを取得できることを目標とする。

＜授業の方法＞
教室での演習と解説をします。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無し

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各授業の復習と英文スクリプトの音読をすること。毎日少なくとも30分コツコツと学習することが語学上達のカギです。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー５（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）およびディプロマポリシー３（初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
出席と授業参加（28%）、授業期間内での小テスト＋学習到達度テスト（72%）IPテストを含む※単位認定要件として、講義期間内に本学で実施するTOEIC IPテストの受験を課すので必ず申し込みをして受験すること。未受験者は単位を認められません。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンスとオリエンテーション	・TOEICの構成および攻略法・英語の学習法
2	リスニングセクション&リーディングセクション	・Part 1～Part 4 演習問題・Part 5～Part 7 演習問題
3	リスニングセクション&リーディングセクション	・Part 1～Part 4 演習問題・Part 5～Part 7 演習問題
4	リスニングセクション&リーディングセクション	・Part 1～Part 4 演習問題・Part 5～Part 7 演習問題
5	リスニングセクション&リーディングセクション	・Part 1～Part 4 演習問題・Part 5～Part 7 演習問題
6	リスニングセクション&リーディングセクション	・Part 1～Part 4 演習問題・Part 5～Part 7 演習問題
7	リスニングセクション&リーディングセクション	・Part 1～Part 4 演習問題・Part 5～Part 7 演習問題
8	リスニングセクション&リーディングセクション	・Part 1～Part 4 演習問題・Part 5～Part 7 演習問題
9	リスニングセクション&リーディングセクション	・Part 1～Part 4 演習問題・Part 5～Part 7 演習問題
10	リスニングセクション&リーディングセクション	・Part 1～Part 4 演習問題・Part 5～Part 7 演習問題
11	リスニングセクション&リーディングセクション	・Part 1～Part 4 演習問題・Part 5～Part 7 演習問題
12	リスニングセクション&リーディングセクション	・Part 1～Part 4 演習問題・Part 5～Part 7 演習問題
13	リスニングセクション&リーディングセクション	・Part 1～Part 4 演習問題・Part 5～Part 7 演習問題
14	Listening & Reading Test	・学習到達度テスト

15 16		

科目コード	11101				区　分	教養科目			
授業科目名	心理学［A］				担当者名	戸田　晃大			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
「心理学的には…。」というフレーズを，多くの人は耳にしたことがあるはずです。ただ，それは本当に「心理学的」なんでしょうか。″心″は誰にとっても身近なものです。しかし，ほとんどの人にとって，″心″について科学的に考える機会は多くありません。本講義では，心理学の知識や方法について，体験を通して学んでいきます。時間の都合上，心理学という領域を網羅的に説明することはできません。しかし，皆さんが今後心理学について学びを広げ，深めていく上で，本講義での経験は貴重なものとなるはずです。

＜授業の到達目標＞
1. 学習した心理学の用語に関して，説明の正誤を判断できる（○×クイズに正解できる)2. 心理学を批判的に捉えるための視点を身につけ，自分が関心を持ったテーマについて，発表や質疑応答，相互評価をすることができる

＜授業の方法＞
多様な学習活動を通して，学習目標として設定された知識，視点の獲得を目指す。学習活動は対面で実施される。活動の詳細については下記，アクティブラーニングに記載されている。課題はGoogle Classroomから提出する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有り。学習活動として，主に下記が実施されます。1. 知識の修正・定着を目的とする○×クイズと，それに関する議論2. 小実験や調査への参加と，それに関する議論3. 学習した内容に関する批判的な議論

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
毎回の授業：簡単な感想をシートに記入する内容に応じて実施：予習動画の視聴，○×クイズ（復習用）への回答，問いについての検討など参考書（任意)：各授業で扱った内容と関連するものを提示します。本シラバスには心理学全体に関する参考書をいくつか提示します（新書で読みやすいものを選択しています)。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
毎週提出の学習活動への取り組み：50%（第1回~12回)最終課題①：関心テーマの発表と議論：30%（第13回，第14回)最終課題②：最終○×クイズの達成率:20%（期末試験期間)※②について:授業の進行に合わせて出題される○×クイズの類題で全問正解をめざす。なお，特定の試験日は設けず，一定の期間内で正解できた問題数が成績に反映される（詳細はオリエンテーションで説明します)。

＜教科書＞
　指定なし（スライドを配布します）

＜参考書＞
大芦 治（2023年4月7日） 心理学をつくった実験30　ちくま新書
サトウタツヤ（2015年10月5日） 心理学の名著30　ちくま新書
山田 祐樹（2026年2月9日） 変な心理学　―バズっているアレの正体　ちくま新書

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	本講義の決まりごと，課題の提出方法，連絡の取り方について確認し，疑問点は質問する。
2	心理学の眺め方：実証を重要視する心理学（記憶を具体例として)①	実証，二重貯蔵モデル，実験法などについての説明を聞き，関連する学習活動に参加する。その中で，心理学の知見が実証的な根拠に基づいて形成されていることを実感する。
3	心理学の眺め方：実証を重要視する心理学（記憶を具体例として）②	①の続きから
4	心理学を自分なりに眺めてみよう（ゴールデンウィーク期間のためオンデマンド）	第2，3回で学んだことを踏まえ，関心のある内容について学術書やネット記事（例えばコトバンク掲載の心理学事典）で確認し，その中で考えたことをまとめる。
5	モティベーションを質問紙法で測定する①	心理学の研究で頻繁に用いられる質問紙法を実際に体験し，自分の動機づけ測定する。その後，質問紙法や面接法といった心理学の研究方法，今回の測定対象である動機づけ，測定における信頼性，相関係数などについて学び，体験した質問紙調査を捉え直す。
6	モティベーションを質問紙法で測定する②	①の続きから
7	モティベーションを質問紙法で測定する③	②の続きから

8	知能検査と妥当性①	知能検査の発展について，心理学の測定において重要視される妥当性の観点から批判的に捉える。その中で，知能の理論や標準化など，関連知識についても学ぶ。
9	知能検査と妥当性②	①の続きから
10	指定トピック①	皆さんの関心，課題の実施状況に応じて，教員が柔軟にテーマを選択して授業を実施します。テーマ例：学習，知覚，認知，生理，発達，パーソナリティ，社会，臨床
11	指定トピック②	皆さんの関心，課題の実施状況に応じて，教員が柔軟にテーマを選択して授業を実施します。テーマ例：学習，知覚，認知，生理，発達，パーソナリティ，社会，臨床
12	指定トピック③	皆さんの関心，課題の実施状況に応じて，教員が柔軟にテーマを選択して授業を実施します。テーマ例：学習，知覚，認知，生理，発達，パーソナリティ，社会，臨床
13	最終課題①：関心テーマ発表会（準備）	自分が関心を持ったテーマについて，これまでに学習した「心理学の捉え方」を踏まえてまとめる。
14	最終課題①：関心テーマ発表会（発表と相互評価）	第13回でまとめたテーマについて，少人数グループで発表する。また，他の人の発表を聞き，質問・相互評価を行う。最後に，他の人のフィードバックなどを踏まえて，自分の発表の改善点を指摘する。
15		
16		

科目コード	11101				区　分	教養科目			
授業科目名	心理学［B］				担当者名	戸田　晃大			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
「心理学的には…。」というフレーズを，多くの人は耳にしたことがあるはずです。ただ，それは本当に「心理学的」なんでしょうか。″心″は誰にとっても身近なものです。しかし，ほとんどの人にとって，″心″について科学的に考える機会は多くありません。本講義では，心理学の知識や方法について，体験を通して学んでいきます。時間の都合上，心理学という領域を網羅的に説明することはできません。しかし，皆さんが今後心理学について学びを広げ，深めていく上で，本講義での経験は貴重なものとなるはずです。

＜授業の到達目標＞
1. 学習した心理学の用語に関して，説明の正誤を判断できる（○×クイズに正解できる)2. 心理学を批判的に捉えるための視点を身につけ，自分が関心を持ったテーマについて，発表や質疑応答，相互評価をすることができる

＜授業の方法＞
多様な学習活動を通して，学習目標として設定された知識，視点の獲得を目指す。学習活動は対面で実施される。活動の詳細については下記，アクティブラーニングに記載されている。課題はGoogle Classroomから提出する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有り。学習活動として，主に下記が実施されます。1. 知識の修正・定着を目的とする○×クイズと，それに関する議論2. 小実験や調査への参加と，それに関する議論3. 学習した内容に関する批判的な議論

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
毎回の授業：簡単な感想をシートに記入する内容に応じて実施：予習動画の視聴，○×クイズ（復習用）への回答，問いについての検討など参考書（任意)：各授業で扱った内容と関連するものを提示します。本シラバスには心理学全体に関する参考書をいくつか提示します（新書で読みやすいものを選択しています)。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
毎週提出の学習活動への取り組み：50%（第1回~12回)最終課題①：関心テーマの発表と議論：30%（第13回，第14回)最終課題②：最終○×クイズの達成率:20%（期末試験期間)※②について:授業の進行に合わせて出題される○×クイズの類題で全問正解をめざす。なお，特定の試験日は設けず，一定の期間内で正解できた問題数が成績に反映される（詳細はオリエンテーションで説明します)。

＜教科書＞
　指定なし（スライドを配布します）

＜参考書＞
大芦 治（2023年4月7日） 心理学をつくった実験30　ちくま新書
サトウタツヤ（2015年10月5日） 心理学の名著30　ちくま新書
山田 祐樹（2026年2月9日） 変な心理学　―バズっているアレの正体　ちくま新書

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	本講義の決まりごと，課題の提出方法，連絡の取り方について確認し，疑問点は質問する。
2	心理学の眺め方：実証を重要視する心理学（記憶を具体例として)①	実証，二重貯蔵モデル，実験法などについての説明を聞き，関連する学習活動に参加する。その中で，心理学の知見が実証的な根拠に基づいて形成されていることを実感する。
3	心理学の眺め方：実証を重要視する心理学（記憶を具体例として）②	①の続きから
4	心理学を自分なりに眺めてみよう（ゴールデンウィーク期間のためオンデマンド）	第2，3回で学んだことを踏まえ，関心のある内容について学術書やネット記事（例えばコトバンク掲載の心理学事典）で確認し，その中で考えたことをまとめる。
5	モティベーションを質問紙法で測定する①	心理学の研究で頻繁に用いられる質問紙法を実際に体験し，自分の動機づけ測定する。その後，質問紙法や面接法といった心理学の研究方法，今回の測定対象である動機づけ，測定における信頼性，相関係数などについて学び，体験した質問紙調査を捉え直す。
6	モティベーションを質問紙法で測定する②	①の続きから
7	モティベーションを質問紙法で測定する③	②の続きから

8	知能検査と妥当性①	知能検査の発展について，心理学の測定において重要視される妥当性の観点から批判的に捉える。その中で，知能の理論や標準化など，関連知識についても学ぶ。
9	知能検査と妥当性②	①の続きから
10	指定トピック①	皆さんの関心，課題の実施状況に応じて，教員が柔軟にテーマを選択して授業を実施します。テーマ例：学習，知覚，認知，生理，発達，パーソナリティ，社会，臨床
11	指定トピック②	皆さんの関心，課題の実施状況に応じて，教員が柔軟にテーマを選択して授業を実施します。テーマ例：学習，知覚，認知，生理，発達，パーソナリティ，社会，臨床
12	指定トピック③	皆さんの関心，課題の実施状況に応じて，教員が柔軟にテーマを選択して授業を実施します。テーマ例：学習，知覚，認知，生理，発達，パーソナリティ，社会，臨床
13	最終課題①：関心テーマ発表会（準備）	自分が関心を持ったテーマについて，これまでに学習した「心理学の捉え方」を踏まえてまとめる。
14	最終課題①：関心テーマ発表会（発表と相互評価）	第13回でまとめたテーマについて，少人数グループで発表する。また，他の人の発表を聞き，質問・相互評価を行う。最後に，他の人のフィードバックなどを踏まえて，自分の発表の改善点を指摘する。
15		
16		

科目コード	11102				区　分	教養科目			
授業科目名	哲学				担当者名	岡田　健志			
配当年次	1年	配当学期	第1クォーター・第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
哲学（Philosophy）は最古の学問である。あらゆる学問は哲学から展開し、細分化し、発展してきた。現代に至るまで哲学はあらゆる学問を支えてきた。哲学はその意味で世界に通用する教養でもある。本授業では初めて哲学に触れる人にもわかるように、新書『物語 哲学の歴史』（伊藤邦武）を独力で読めることを目標に哲学史を概観する。

＜授業の到達目標＞
1. 哲学の歴史について大きな流れを把握する2. 哲学とは何かについて自分なりに表現できるようになる3. 哲学的な問いの立て方や考え方に親しむ4. 独力で哲学の分野の新書を読むことができるようになる

＜授業の方法＞
講義を中心に行う。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有り。対話、ディスカッションを重視する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：その授業回で扱うトピックについて調べ自分なりの考えを持っておく。（1時間）復習：授業内で示された課題について、毎回ミニレポートを書く。（1時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２(専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
毎回の授業内での取り組み30%、課題提出50%、期末課題20%

＜教科書＞

＜参考書＞
伊藤邦武　（2012年10月）　『物語 哲学の歴史』　中央公論新社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	哲学（史）を現代で学ぶ意義	授業を始めるにあたり、なぜ大学で哲学を学ぶのか、現代で哲学を学ぶことがどのような意味を持つのかを解説する。実は誰もが哲学的な疑問や問題意識を持ったことがあることに気づくことが目的でもある。また世の中にはあらゆる疑問や問題があるが、「哲学的」と言えるものの基準や、科学的・非科学的と言えるものの基準についても触れる。また哲学史を学ぶことがどのように役立つのかを理解する。
2	魂の哲学（1）「魂」という原理	古代ギリシアにおいて「魂（プシュケー）」がどのように世界を説明する基本原理として構想されたのかを扱う。自然や生命の秩序を理解するために、人間の内面だけでなく宇宙や自然の働きまでを「魂」を軸に捉えようとした発想を確認し、哲学が神話的説明から理性的説明へ移行していく出発点を学ぶ。
3	魂の哲学（2）アテナイの哲学	アテナイにおけるソクラテス・プラトン・アリストテレスの思想を中心に、「善く生きる」とは何か、徳や正義は何かといった倫理的・政治的問いがどのように哲学化されたかを学ぶ。対話・論証・概念分析という哲学の基本技法を確認し、魂のあり方が知・徳・共同体と結びついて考えられたことを理解する。
4	【オンデマンド週】魂の哲学（3）地中海の哲学	アレクサンドロス以後のヘレニズム期からローマ、さらにキリスト教思想へと至る流れの中で、ストア派・エピクロス派・懐疑派、新プラトン主義などを取り上げる。哲学が「生の技法（生き方の訓練）」として広がっていく過程と、魂の救済・内面化という課題がどのように形成されたかを学ぶ。
5	意識の哲学（1）科学革命の時代	近代に入り、科学革命（自然科学の成立）が哲学の課題をどのように変えたかを扱う。自然を数学と実験で記述する世界観の登場により、「確実な知識はいかに可能か」「主体はどのように世界を知るのか」という認識論が前景化したことを理解する。
6	意識の哲学（2）心身問題	デカルト以降の近代哲学を軸に、心（意識）と身体（物質）の関係をめぐる心身問題を学ぶ。二元論・唯物論・観念論などの立場が何を説明しようとし、何に困難を抱えるのかを整理することで、現代の意識研究やAI理解にもつながる基本構図を身に

		つける。
7	意識の哲学（３）経験論と超越論的観念論の立場	経験論（ロック、バークリー、ヒューム）と、それに応答するカントの超越論的観念論を中心に扱う。経験にもとづく知識の強みと限界、因果・自己・自由といった概念がどのように問題化するかを確認し、「経験が可能である条件」を問うという哲学の転回を理解する。
8	言語の哲学（１）論理学の革命	19〜20世紀に起こった論理学の革新を背景に、哲学の方法が言語分析へと大きく移る過程を学ぶ。フレーゲやラッセルを手がかりに、概念の曖昧さを論理によって精密化する試みが、認識・真理・数学の基礎づけにどのように関わったかを理解する。
9	言語の哲学（２）ケンブリッジから	ケンブリッジを中心とする分析哲学の展開を扱い、初期ウィトゲンシュタインから後期ウィトゲンシュタインへの変化を軸に、言語・意味・理解の捉え方を学ぶ。「世界の写像としての言語」から「言語ゲーム／生活形式」へという転回が、哲学の問いの立て方そのものをどう変えたかを確認する。
10	言語の哲学（３）アメリカへ	分析哲学がアメリカに広がり、意味論・心の哲学・科学哲学へと展開していく流れを学ぶ。クワインやデイヴィドソンなどを手がかりに、翻訳・意味・信念・合理性といった問題がどのように結びつくかを整理し、哲学が諸科学と接続しながら変貌していく様子を理解する。
11	生命の哲学（１）生の哲学	「生」「生命」「歴史」「実存」をめぐる哲学的問題が前景化する過程を扱う。合理性や普遍性だけでは捉えきれない人間の生の具体性（不安・死・身体・時間）に注目し、近代的主体観への批判として生命の哲学がどのように立ち上がったかを学ぶ。
12	生命の哲学（２）ジェイムズとベルクソン	プラグマティズムのジェイムズと、創造的進化を唱えたベルクソンを取り上げ、経験・行為・時間(持続)をめぐる独自の視点を学ぶ。真理を固定的な対応ではなく「働き」や「生成」として捉える発想を理解し、生命の哲学が認識論・心理学・宗教観にも波及したことを確認する。
13	生命の哲学（３）エコロジカルな心の哲学	生命・環境・心の関係を再編する視点として、エコロジーと結びついた心の哲学を扱う。個体の内部に閉じた「心」ではなく、身体・環境・他者との相互作用の中で心を捉える発想を学び、現代社会（技術・情報・環境問題）に対して哲学が持ちうる射程を考える。
14	期末課題レポート	これまで学び、思索してきたことを、提示する課題に対して自らの問いを立て、哲学的に思考する。授業内で実施するレポートである。
15		
16		

科目コード	11300				区　分	教養科目			
授業科目名	コミュニケーションの心理学				担当者名	北村　勝朗			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本授業では、対人認知や集団心理、リーダーシップ等の心理学的理論を学び、日常生活、教育、職場、対人援助場面などにおける具体的なコミュニケーション実践へ応用する力を養う。講義に加え、模擬授業やロールプレイ、事例分析といった実践的演習を重視する。これらの活動を通じて、「伝える・聴く力」や「人間関係を築く力」、「人を動かす力」を体系的に学ぶ。理論と実践を往還し、教育現場で即戦力となるコミュニケーション能力の習得を目指す。

＜授業の到達目標＞

1. コミュニケーションおよび自己・他者理解に関する主要な心理学理論を理解し説明できる。 2. 傾聴、共感、自己表現、対立解決などの基本的技能を実践できる。3. 集団づくり・チームマネジメントの心理を理解できる。 4. 学んだ知識を学校、職場、家庭、地域社会などの実生活に応用できる。

＜授業の方法＞

集中講義形式で実施する。講義による理論理解に加え、グループワーク、ディスカッション、ペア演習、自己分析ワーク、ロールプレイ、ケーススタディ等を取り入れ、主体的・対話的に学ぶ。受講者相互の対話と実践を通して学びを深める。また，各回で振り返りシートを作成し、自身の気づきを整理しながら学習を深める。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

本授業では、講義による知識修得に加え、アクティブラーニングを実施する。具体的には、事例に対するグループディスカッション、心理測定尺度を用いた自己分析、およびロールプレイを取り入れる。これにより、理論を体験的に理解し、他者との対話を通じて多角的な視点を養う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・ 普段の自分自身のコミュニケーションの特徴を観察し、授業内容と結びつけて考えること。 ・ 授業で扱った心理学用語や理論について復習し、ノートを整理すること。 ・ 毎回の振り返り課題に取り組み、自分の考えを言語化すること。 ・ 新聞、ニュース、SNS、対人事例などをコミュニケーション心理学の視点で考察すること。 （目安：各回90分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、ディプロマポリシー２(専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加・討議・演習への積極性：30%、リアクションペーパー・省察課題：30%、最終課題（理論理解と実践的考察）：40%毎回のリアクションペーパーやレポートについては、翌日の授業冒頭で全体的な傾向を解説し、優れた視点や共通する課題についてフィードバックを行う。

＜教科書＞

＜参考書＞

菅野仁（2008年3月6日）　友だち幻想：人と人の＜つながり＞を考える　ちくまプリマー新書
平木典子（2012年2月17日）　アサーション入門：自分も相手も大切にする自己表現法　講談社現代新書
越智啓太（2026年2月10日）　「見た目」の心理学：顔と身体のコミュニケーション　講談社現代新書

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	コミュニケーション心理学とは何か？	コミュニケーションの定義、成立過程を理解し、本授業全体の見通しを持つ
2	自己理解と自己概念	自己概念、自己認知、自己開示を学び、自分自身の対人特性を理解する
3	他者理解と対人認知	第一印象、ステレオタイプ、認知バイアスを学び、人が他者をどのように理解するかを考える
4	感情とコミュニケーション	感情の役割、情動表出、感情伝染、共感の心理について理解する
5	非言語コミュニケーション	表情、視線、姿勢、身体距離、声のトーンなど、言葉以外の情報伝達の心理を学ぶ
6	聴く力の心理学	傾聴、受容、共感的理解、アクティブリスニングの理論と実践を学ぶ
7	伝える力の心理学	アサーション、自己表現、分かりやすい説明、相手に届く話し方を学ぶ
8	ほめ方・叱り方・フィードバックの心理学	強化理論、承認、形成的評価、自己肯定感を育てる声かけを学ぶ
9	動機づけを高めるコーチング心理学	内発的動機づけ、目標設定、自己決定理論を体育指導へ応用する
10	チームビルディングと集団のコミュニケーション	集団凝集性、規範形成、仲間づくり、集団心理，同調圧力を理解する
11	集団指導とリーダーシップ	リーダーシップ，フォロアーシップ，指導熟達、協働場面でのコミュニケーションを考える

12	異文化コミュニケーションの心理学	文化差、価値観の違い、異文化理解、多様性と包摂の心理を学ぶ
13	対人援助とコミュニケーション	教育、医療、福祉、葛藤場面，衝突場面における対応とコミュニケーションを学ぶ
14	コミュニケーション心理学の統合と実践	学修内容を総括し、自分自身のコミュニケーションの課題と今後の成長課題を整理する
15		
16		

科目コード	11301				区　分	教養科目			
授業科目名	人権と教育 [A]定員100名				担当者名	岩満　賢次			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
人間が幸せに生きていくためには､お互いの権利を尊重しあうことが大切です｡現に存在する様々な人権課題について具体的に学び、考えることができる力を身に付けいくにはどのようにしたら良いか考えていきます。

＜授業の到達目標＞
①人間が所有する権利の種類を説明することができる｡②自分と他者の権利を尊重するためにはどのようにしたら良いか考えることができる。③人権を侵害した時の対処方法を説明することができる。

＜授業の方法＞
講義方式で進行する。教科書を使用せず、必要に応じてレジュメを配布する。授業の最後に課題を提出する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
日々の生活の中で新聞やニュースを閲覧することにより、人間の困りごとを利用するように努めること。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
単元ごとに課題を提出する（4回×15点＝60点）、最終回の課題（40点）課題の提出については，単元ごとにフィートバックを行う

＜教科書＞
使用しない

＜参考書＞
神村早織、森実(2019)　人権教育への招待:ダイバーシティの未来をひらく　解放出版社
森実(2013)　知っていますか?人権教育一問一答第2版(知っていますか?一問一答シリーズ)　解放出版社
岩満賢次（2023）　社会連携要論　DTP出版

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	総論	人権を守る仕組みとしての社会保障の仕組み(世界人権宣言、日本国憲法)
2	障害者と人権①	障害者と権利保障
3	障害者と人権②	障害者の地域生活
4	障害者と人権③	特別支援教育とインクルーシブ教育
5	高齢者と人権①	高齢者への人権保障
6	高齢者と人権②	孤独にならないための保障
7	高齢者と人権③	要介護者のための支援保障
8	子どもと人権①	子どもへの権利保障
9	子どもと人権②	子育てとその支援の保障
10	子どもと人権③	子どもの取り巻く環境の変化とその生活保障
11	若者と人権①	ひきこもり状態のある人の生活保障
12	若者と人権②	労働中の事故の保障
13	若者と人権③	みんなが幸せに生きていくための福祉教育を考える
14	講義のまとめ	講義全体を通じて，人権保障のあり方と教育への導入を考える
15		
16		

科目コード	11301				区　分	教養科目			
授業科目名	人権と教育 [B]定員100名				担当者名	岩満　賢次			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
人間が幸せに生きていくためには､お互いの権利を尊重しあうことが大切です｡現に存在する様々な人権課題について具体的に学び、考えることができる力を身に付けいくにはどのようにしたら良いか考えていきます。

＜授業の到達目標＞
①人間が所有する権利の種類を説明することができる｡②自分と他者の権利を尊重するためにはどのようにしたら良いか考えることができる。③人権を侵害した時の対処方法を説明することができる。

＜授業の方法＞
講義方式で進行する。教科書を使用せず、必要に応じてレジュメを配布する。授業の最後に課題を提出する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
日々の生活の中で新聞やニュースを閲覧することにより、人間の困りごとを利用するように努めること。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
単元ごとに課題を提出する（4回×15点＝60点）、最終回の課題（40点）課題の提出については，単元ごとにフィートバックを行う

＜教科書＞
使用しない

＜参考書＞
神村早織、森実(2019)　人権教育への招待:ダイバーシティの未来をひらく　解放出版社
森実(2013)　知っていますか?人権教育一問一答第2版(知っていますか?一問一答シリーズ)　解放出版社
岩満賢次（2023）　社会連携要論　DTP出版

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	総論	人権を守る仕組みとしての社会保障の仕組み(世界人権宣言、日本国憲法)
2	障害者と人権①	障害者と権利保障
3	障害者と人権②	障害者の地域生活
4	障害者と人権③	特別支援教育とインクルーシブ教育
5	高齢者と人権①	高齢者への人権保障
6	高齢者と人権②	孤独にならないための保障
7	高齢者と人権③	要介護者のための支援保障
8	子どもと人権①	子どもへの権利保障
9	子どもと人権②	子育てとその支援の保障
10	子どもと人権③	子どもの取り巻く環境の変化とその生活保障
11	若者と人権①	ひきこもり状態のある人の生活保障
12	若者と人権②	労働中の事故の保障
13	若者と人権③	みんなが幸せに生きていくための福祉教育を考える
14	講義のまとめ	講義全体を通じて，人権保障のあり方と教育への導入を考える
15		
16		

科目コード	11301				区　分	教養科目			
授業科目名	人権と教育 [C]定員100名				担当者名	岩満　賢次			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
人間が幸せに生きていくためには､お互いの権利を尊重しあうことが大切です｡現に存在する様々な人権課題について具体的に学び、考えることができる力を身に付けいくにはどのようにしたら良いか考えていきます。

＜授業の到達目標＞
①人間が所有する権利の種類を説明することができる｡②自分と他者の権利を尊重するためにはどのようにしたら良いか考えることができる。③人権を侵害した時の対処方法を説明することができる。

＜授業の方法＞
講義方式で進行する。教科書を使用せず、必要に応じてレジュメを配布する。授業の最後に課題を提出する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
日々の生活の中で新聞やニュースを閲覧することにより、人間の困りごとを利用するように努めること。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
単元ごとに課題を提出する（4回×15点＝60点）、最終回の課題（40点）課題の提出については，単元ごとにフィートバックを行う

＜教科書＞
使用しない

＜参考書＞
神村早織、森実(2019)　人権教育への招待:ダイバーシティの未来をひらく　解放出版社
森実(2013)　知っていますか?人権教育一問一答第2版(知っていますか?一問一答シリーズ)　解放出版社
岩満賢次（2023）　社会連携要論　DTP出版

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	総論	人権を守る仕組みとしての社会保障の仕組み(世界人権宣言、日本国憲法)
2	障害者と人権①	障害者と権利保障
3	障害者と人権②	障害者の地域生活
4	障害者と人権③	特別支援教育とインクルーシブ教育
5	高齢者と人権①	高齢者への人権保障
6	高齢者と人権②	孤独にならないための保障
7	高齢者と人権③	要介護者のための支援保障
8	子どもと人権①	子どもへの権利保障
9	子どもと人権②	子育てとその支援の保障
10	子どもと人権③	子どもの取り巻く環境の変化とその生活保障
11	若者と人権①	ひきこもり状態のある人の生活保障
12	若者と人権②	労働中の事故の保障
13	若者と人権③	みんなが幸せに生きていくための福祉教育を考える
14	講義のまとめ	講義全体を通じて，人権保障のあり方と教育への導入を考える
15		
16		

科目コード	11302				区　分	教養科目			
授業科目名	人間と法				担当者名	山本　満理子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第３、４クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
法は、人々が安心して自由な生活を送るための「知恵」であり、人生を支える「お守り」です。本講義では、日常生活や将来のキャリアにおいて直面する具体的なテーマ（働く、家族を持つ、権利を守る等）を通じて、法的な思考力（リーガルマインド）を養います。単なる条文の暗記ではなく、法を用いて社会課題（体験格差等）をどう解決できるか、岡山市などの特定の自治体をモデルケースに受講生全員で「未来のルール」をデザインすることを目指します。

＜授業の到達目標＞
1. 法の基本概念と体系を理解し、日常生活における出来事を法的視点で説明できる。2. 自身の権利と責任を理解し、トラブルを未然に防ぎ、適切に対処する力を身につける。3. 多様な他者と共生するためのルール（法・条例）の意義を理解し、改善策を具体的に提言できる。

＜授業の方法＞
対面講義形式で行いますが、一方的な講義だけでなく、身近なニュースや事例を用いたグループワーク、スマホを活用したリアルタイムアンケートなどを取り入れ、受講生との対話を重視した「アクティブ・ラーニング」を展開します。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
【有】ワークシートを用いた予算配分シミュレーション、地方自治体の具体的課題に対するグループディスカッション、および最終回に向けた「政策提言書（市長への手紙）」の作成等を行う予定。デジタルの活用として、リアルタイム投票システム（スマホ活用）を用いた意思決定プロセスの疑似体験も実施予定。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
＊予習： 次回のテーマに関連するニュースや地方自治体の現状についてリサーチする（60分）。＊復習： 講義で扱った判例や理論を、自身の政策提言案にどう反映できるか考察し、ポートフォリオを更新する（60分）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、実社会における様々な問題を法的に思考するトレーニングを繰り返し行うことで、「統合的な学習経験と創造的思考力」（DP８）を育成することに力点をおきます。また、法学に関する「知識を広めるための幅広い知識・理解」（DP３）を深めることにも取り組みます。本科目の前提となる日本国憲法、人権と教育、民法などの科目で得た法的知識を統合し、現代社会を読み解き、その課題を解決する方法を考える創造的思考力を育成するとともに、幅広い専門的知識の習得も進めていくこととします。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・ 平常点（30%）： ワークショップへの参加態度、リアクションペーパーによる意見発信。・ 中間レポート（20%）： 講義前半で扱ったテーマ（人権、家族等）に関する事例分析。・ 最終課題（50%）

＜教科書＞
髙橋雅夫編（2020年3月）　Next教科書シリーズ　法学　弘文堂

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス、ワークシート作成	「法」は誰のものか？
2	憲法と現代社会	校則からSNSの誹謗中傷、表現の自由まで
3	民法①：契約の基本	内定、賃貸借、ローン。社会人の入り口でだまされないための「法」
4	民法②：家族と人生	結婚、離婚、育児、そして様々な子どもたちをめぐる「格差」を埋めるための私的扶助
5	労働法：自分を守る盾	残業、ハラスメント、副業。ブラック企業を論理的に撃退する。
6	刑法と社会秩序	裁判員制度、更生。過ちを犯した人とどう共生するか。
7	行政法①：行政を使いこなす	補助金や条例をどう活用するか。
8	行政法②：街をデザインする	社会課題解決のための条例制定のシミュレーション。
9	消費者法とデジタル	ECサイト、クーリングオフ、サブスクの罠。
10	知財とクリエイティブ	YouTube、著作権。自分のアイデアを守り、他者の権利を尊重する。
11	紛争解決：裁判だけが法じゃない	示談、調停、ADR（裁判外紛争解決）。社会での揉め事をおさめる知恵。
12	特別ワーク：各学部の専門×法	スポーツ×法、教育×法など、卒業後の進路と法の接点。
13	【実践】法をデザインする	これまで学んだ法（憲法・民法・行政法等）を使い、社会課題を解決するための具体的な法案を立案。

14 15 16	総括：街を優しくする新ルール	13回で立案した法のプレゼン。まとめ：法を武器に、よりよい人生と社会へ。

科目コード	11303				区　分	教養科目		
授業科目名	ライフコーチング				担当者名	関　京子		
配当年次	2年	配当学期	後期集中	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業の目的は、人の可能性を最大限に引き出す長期的かつ効果的な関係「ライフコーチング」を学び、他者が自分らしく生きることを支援する対話の手法を習得することにある。授業は体験学習を基本とし、コーチのあり方とスキルについて実践演習を重ねて体得する。また、コーチングを受ける体験を通じ、自然体の自分に自信を持ち、更に飛躍して生きるための思考を身に付ける。具体的には、自分がもつ静と動のエネルギーからなる「ツイン・エネルギー」を理解し、強みを更に発揮し、秘めた力を磨いて躍進する精神を高めることを目指す。激動の時代に悩

＜授業の到達目標＞
コーチのあり方とスキル、および「ツイン・エネルギー」を活用する考え方について、その理解度を測れるクライテリアを個別に設定し、一定の基準に到達することを目標とする。具体的には、次の事を目指す。・相手の可能性を信じ、相手の話に耳を傾ける傾聴姿勢を身につける・相手に質問を投げかけ、その人となりを認め、相手の答えを引き出すスキルを習得する・自分の静と動のエネルギーをうまく活用・発揮し、自信と飛躍の精神を高める思考を身につける

＜授業の方法＞
授業の進め方：講義、コーチング・デモンストレーションの観察、2人一組によるコーチング実践ワーク、3人一組でのオブザーバーを入れた実践ワーク、グループ演習などを実施する※授業に関する連絡事項は、すべてGoogle Classroomで行います。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：講義、コーチング・デモンストレーションの観察、2人一組によるコーチング実践ワーク、3人一組でのオブザーバーを入れた実践ワーク、グループ演習などを実施する

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
テキスト「ツイン・エネルギー™」の下記ページを事前に読み、授業での実践に向けて準備する。（2時間程度）・はじめに（P.2-5）・ツイン・エネルギーの成り立ち（P.12-31）・ツイン・エネルギー16～受け取る・与える（P.34-50）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー３（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲 53%、クイズ20%、記述式試験15%、チーム課題12%

＜教科書＞
関京子（2021年9月1日）　『ツイン・エネルギー™』静と動のバランスを整える16の考え方★学内書店では購入できませんので、各自Amazonで購入してください。リンク：https://amzn.to/3KHSmYM　幻冬舎

＜参考書＞
CTIジャパン（2014年3月30日）　マンガでやさしくわかるコーチング　日本能率協会マネジメントセンター

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業概要の紹介
2	「コーチのあり方と基礎スキル」スキル①オープン・クエスチョン、②認知	デモンストレーション観察・２人一組コーチング練習・講義
3	「ツイン・エネルギーで振り返る自分の強み」スキル③傾聴	講義・全体演習・デモンストレーション観察・２人一組コーチング練習
4	「ツイン・エネルギーで振り返る自分の秘めた力」スキル④確認	講義・デモンストレーション観察・３人一組コーチング練習
5	「学びの統合」	３人一組の対話と学びの振り返り
6	「１日目の復習と応用」	講義・全体演習・２人一組コーチング練習
7	「望んでいるのに、なかなかできないのはなぜ？」スキル⑤比喩	講義・デモンストレーション観察・２人一組コーチング練習
8	「ツイン・エネルギーで振り返る自分の可能性」スキル⑤比喩（つづき）	講義・全体演習・４人一組演習
9	「人生で実現したいことは？」	統合デモンストレーション観察・３人一組コーチング練習
10	「学びの統合」	３人一組の対話と学びの振り返り
11	「１日目・２日目の復習と応用」	講義・リレーコーチング・２人一組コーチング練習
12	「総合的な理解度の評価採点」	クイズおよび記述式試験の実施
13	「チーム課題」	準備・発表・フィードバック

14 15 16	「まとめ」	学びの発表と講評

科目コード	11304				区　分	教養科目		
授業科目名	コーチング基礎 Co-creative coaching Basic				担当者名	稲垣　友仁		
配当年次	1年	配当学期	前期集中	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業は、対人支援に役立つコーチングの基礎スキルを学ぶことを目的とする。特に、相手の自律性を基軸に置きながらコーチとクライアントとの共創的な対話を創り出す部分にフォーカスをしていく。具体的には、国際コーチング連盟(ICF)のコアコンピテンシーに定められた下記の3つの分野にフォーカスし、演習を通して体験的に学んでいく。・1日目テーマ：「効果的なコミュニケーション／Co-creative coaching Basic「Communication」」相手の自律性を大切にしながら、対話を行うコミュニケーション（聞

＜授業の到達目標＞
相手の目標達成を支援するために、共創的な対話が進められるよう以下のスキルについての知識を獲得すると同時に、体験を行うことで理解を深める。・傾聴、承認、質問などのコーチングスキルの必要性を理解できる。・相手と関係性を築くスキルの必要性を理解し、関係性をシステムとして捉える思考を身につける。・目標達成に向けての進め方を理解し、具体的なデザインを行うことができる。

＜授業の方法＞
この授業は実習、演習、講義形式で行われる。本授業はアクティブラーニング80%程度で進められる。※授業に関する連絡事項は、すべてGoogle Classroomで行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの方法は、グループワーク、グループディスカッション、簡単なプレゼンテーション、コーチングロールプレイを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
この科目は、ディプロマポリシー３（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は､学科のディプロマポリシー２(専門分野における最先端かつ高度な知識･技能を獲得できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
成績評価の配分は、実習・演習・講義への取り組み60%、レポート・課題40%とし、全体で60%以上を合格とする。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業概要、コーチングとは
2	聞く	講義・演習を通して傾聴スキルを学ぶ
3	質問	講義・演習を通して質問スキルを学ぶ
4	承認	講義・演習を通して承認スキルを学ぶ
5	フィードバック・提案　コーチングロールプレー	講義・演習を通してフィードバック・提案スキルを学び、これまで学んだすべてのスキルを使ってコーチングを体験する
6	関係づくり	人間関係における目には見えない力学的部分に意識を向け、相手と関係を作る方法を探る
7	相手に応じた関わり	相手の特徴に応じた関わり方を行う
8	関係性の力学を見抜く	人間関係に起こるシステムについて理解し、相手との関係に起こる力学的作用を感じる
9	関係性を活かしたコーチングスキル	関係性に必要なコーチングスキルを演習を通して学ぶ
10	コーチのポジショニング	コーチングを使って相手と関わる際のポジショニングを演習を通して体感する
11	コーチングフロー	目標達成に向けて相手の導き方を演習を通して学ぶ
12	目標設定	自律的に取り組むための目標設定の方法について学ぶ
13	行動計画	決めたことをやり抜くための行動計画の立て方について学ぶ
14	コーチングロールプレー	3人1組で観察者も入れながらコーチングロールプレーを行う
15		
16		

科目コード	11305				区　分	教養科目			
授業科目名	ビジネスコーチング				担当者名	佐藤　典子			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業は社会人基礎能力の中から対人スキルについて着目し、コミュニケーション能力を伸ばすためにコーチングのスキルを学ぶ。特に傾聴力や質問力を高める。コーチング心理学やポジティブ心理学に基づいた理論を理解するだけでなく、ビジネスで活かせるコーチングスキルを体得する。スポーツコーチングとは異なる。履修人数が多い場合は、審査を行う。

＜授業の到達目標＞
ピアコーチングをすることで自己分析や自己発見ができるようになり、他者理解もさらにできるようになる。傾聴力や質問力が身に付くことで人間関係を構築する能力が身に付き、ひいては非認知能力が高まる。

＜授業の方法＞
講義、ディスカッション、コーチング・デモンストレーションの観察、コーチング実践ワーク、グループ演習など。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
上記のディスカッション、コーチング・デモンストレーションの観察、コーチング実践ワーク、グループ演習など。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習としては該当テーマについて事前にテキストを読み、授業での実践に向けて準備する。事後学習には二人一組でコーチングを実施して、学んだスキルを更に深める。目安は１時間程度。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度と意欲　60%、課題の提出20%、最終的なスキルの習得度合い、もしくは最終レポート提出20%。課題については、グーグルクラスルーム上で各自へコメントを返し、スキルの習熟度については授業中に随時直接フィードバックをする。

＜教科書＞
CTIジャパン2016年6月10日　マンガでやさしくわかるコーチング　日本能率協会マネジメントセンター

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業概要、評価方法を伝える。この授業の特徴とコミュニケーションの基本について理解する。
2	コーチングとは	教育におけるコーチングの定義と特性を理解する。（心の在り方とスキル）
3	自己分析と自分の強み	他者を知る前に自分を知るために、パーソナリティ診断やストレングスカードを使ったワークをする。
4	コーチングの基礎スキル①	コーチングの効用についてテキストから理解を深める。連休中にあたり、オンデマンド授業とする。
5	コーチングの基礎スキル②	傾聴、反映、認知、励ましのスキルを理解し、体得する。
6	コーチングの基礎スキル③	比喩のスキル、俯瞰のスキルを学ぶ。
7	中間の振り返り	前半に習得したスキルをグループでさらに深める。
8	中間の振り返りのつづきと、コーチングモデルの紹介	効果的な質問とGROWモデルについて学ぶ。
9	コーチング基礎スキルの統合①	コーチングのアカデミックな側面や海外事情について知る。これまで学んだスキルを統合してコーチングの演習をする。
10	コーチング基礎スキルの統合②	傾聴、反映、認知、励まし、比喩、俯瞰のスキルやGROWモデルを実習する。
11	コーチング基礎スキルの統合③	傾聴、反映、認知、励まし、比喩、俯瞰のスキルやGROWモデルを実習する。
12	コーチングの基礎スキルをさらに深める①	外部講師による特別実践授業
13	コーチングの基礎スキルをさらに深める②	外部講師による特別実践授業
14	学びのまとめ	国際ポジティブ心理学会参加報告と存在論的コーチングについて学ぶ。また習得したスキルをピアで診断、フィードバックする。
15		
16		

科目コード	11402				区　分	教養科目		
授業科目名	倫理学（宗教を含む）［週間オンデマンド］				担当者名	岡田　健志		
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業では、「倫理とは何か」という古典的な問いを出発点に、現代社会における具体的な問題を通じて倫理的思考力を養うことを目的とする。特に、SNSにおける炎上、生成AIの利用、著作権やプライバシーの問題など、大学生にとって身近な事例を素材としながら、倫理的判断の基準について考察する。また、功利主義・義務論・徳倫理・ケア倫理といった主要な倫理理論を学び、それらを実際の問題に適用する力を養う。さらに、宗教と倫理の関係についても扱い、キリスト教・仏教・日本的倫理観を通じて、価値観の多様性とその背景を理解する。本授業

＜授業の到達目標＞
1.　倫理・道徳・宗教の違いを理解し、説明できる。2.　功利主義・義務論・徳倫理・ケア倫理の基本的枠組みを理解できる。3.　SNSや生成AIに関わる現代的な倫理問題を多角的に分析できる。4.　異なる価値観を踏まえて倫理的に思考し、自らの判断基準を説明できる。

＜授業の方法＞
講義形式を基本としつつ、各回で具体的事例（SNS投稿、AI利用、社会問題等）を提示し、それに対する問いを通じて思考を促す。受講者は適宜、自身の考えを整理・記述することで理解を深める。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有り。意見を言葉にすること、他者の意見に傾聴することを実践することを重視する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：その授業回で扱うトピックについて調べ自分なりの考えを持っておく。（1時間）復習：毎回、授業後にミニレポートの作成を課する。（1時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２(専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業内課題40%、ミニレポート40%、期末課題20%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	倫理とは何か：なぜ私たちは迷うのか	本回では、「倫理とは何か」という基本的な問いを出発点とし、倫理・道徳・価値といった概念の違いを整理する。日常生活における具体的な事例（SNS投稿、友人関係、嘘の是非など）を取り上げ、「正しいかどうか判断に迷う場面」がなぜ生じるのかを考察する。また、人によって判断が分かれる理由に着目し、倫理が単なるルールではなく「考える営み」であることを理解する。授業全体の導入として、本科目で扱う問いの全体像と学習の進め方についても提示する。
2	SNS時代の倫理：炎上はなぜ起きるのか	SNS上での炎上事例を取り上げ、その発生要因と拡散のメカニズムについて分析する。匿名性や拡散性といったメディア特性に加え、同調圧力や正義感の暴走といった心理的要因にも注目する。また、炎上における「加害者」と「被害者」の境界が曖昧であることを確認し、責任の所在がどのように認識されているかを検討する。受講者自身のSNS利用経験と結びつけながら、現代社会における倫理的判断の難しさを理解する。
3	生成AIと倫理①：創造と盗用の境界	生成AIによって作られた文章や画像を題材に、「創作とは何か」「著作権とは何を守るのか」といった問いを考察する。AIによる生成物が既存の作品に依拠していることを踏まえ、それが創造といえるのか、あるいは盗用にあたるのかを検討する。また、レポート作成におけるAI利用など、学生自身に関わる具体的な問題も取り上げ、倫理的な利用のあり方について多角的に考える。
4	生成AIと倫理②：責任は誰が負うのか	AIによる判断や行為が社会に影響を与える場面（自動運転、推薦アルゴリズムなど）を例に、責任の所在について検討する。AIが誤った判断をした場合、それは開発者、利用者、それともAI自身の責任なのかという問いを通じて、「責任」とは何かを再考する。また、人間の意思決定とAIの判断の違いに着目し、技術の進展が倫理にどのような新たな課題をもたらしているのかを理解する。
5	功利主義：結果がよければ正しいのか	功利主義の基本原理である「最大多数の最大幸福」を学び、その考え方を具体的な事例に適用する。トロッコ問題などの思考実験を通じて、結果を重視する倫理の特徴

		と限界を理解する。また、SNSにおける晒し行為や社会的制裁が「全体の利益」に資するかどうかという問題を取り上げ、功利主義的な判断の妥当性について検討する。
6	義務論：守るべきルールとは何か	カントの義務論を中心に、「結果に関わらず守るべき原則がある」という考え方を学ぶ。特に、「嘘は常に許されないのか」といった問いを通じて、行為そのものの正しさを判断する基準を理解する。また、SNS上の誹謗中傷や私刑的行為を例に、ルールに基づく倫理の重要性とその適用の難しさについて考察する。
7	徳倫理：どのような人であるべきか	アリストテレスの徳倫理をもとに、「何をするか」ではなく「どのような人であるか」という観点から倫理を捉える。日常的な行動や習慣が人格を形成することを確認し、SNS上でのふるまいや他者との関係において求められる徳について考える。また、「良い人生」とは何かという問いにも触れ、倫理が人生観と深く結びついていることを理解する。
8	ケア倫理：関係性の中での倫理	ケア倫理の視点から、他者との関係性や共感に基づく倫理的判断の重要性を学ぶ。炎上や誹謗中傷の事例を取り上げ、当事者や被害者の立場に立って考えることで、抽象的なルールでは捉えきれない倫理の側面を理解する。また、家族や友人といった身近な関係における倫理的配慮についても検討する。
9	宗教と倫理：価値観はどこから来るのか	宗教が倫理に与える影響について概観し、倫理的規範の背景にある信念や価値観の源泉を探る。宗教に対する一般的なイメージを整理したうえで、宗教が社会規範や行動規範の形成に果たしてきた役割を理解する。また、宗教と倫理の関係を通じて、価値観が歴史的・文化的に形成されるものであることを確認する
10	キリスト教倫理：愛と赦し	キリスト教における「隣人愛」や「赦し」の概念を取り上げ、それが倫理的判断にどのような影響を与えるかを考察する。特に、対立や過ちに対してどのように向き合うべきかという問題に焦点を当て、炎上や対人関係のトラブルと関連づけて検討する。罰することと赦すことのバランスについても議論する。
11	仏教倫理：苦しみと欲望	仏教の基本的な考え方（苦・無常・執着）をもとに、人間の欲望と倫理の関係を考察する。SNS依存や承認欲求といった現代的な問題を例に、欲望がどのように苦しみを生み出すのかを理解する。また、「手放すこと」や「中道」といった考え方を通じて、過度な欲望にとらわれない生き方の可能性を検討する。
12	日本的倫理観：空気と同調	日本社会に特有とされる「空気を読む」「和を重んじる」といった価値観を取り上げ、それが倫理的判断にどのように影響するかを考察する。同調圧力や集団意識の利点と問題点を整理し、個人の自由や責任との関係を検討する。また、これらの価値観がSNS上の行動や炎上にどのように関わっているかを分析する。
13	現代社会の倫理問題：権利と自由	プライバシー、表現の自由、著作権などの現代的な倫理問題を取り上げ、それぞれの権利が衝突する場面を検討する。具体的には、個人情報の公開、二次創作、ディープフェイクなどの事例を通じて、自由と規制のバランスについて考える。複数の価値が対立する状況において、どのように判断すべきかを多角的に分析する。
14	総括：自分の倫理を言語化する	これまでの授業内容を総括し、各自が自分なりの倫理的判断基準を整理する。初回で扱った問いに再び立ち返り、学習を通じてどのように考えが変化したかを確認する。また、今後の生活や社会において倫理的に判断する際の指針を言語化し、本授業の学びを自己の中に定着させる。
15		
16		

科目コード	11404				区　分	教養科目			
授業科目名	表現活動による人間力養成Ⅰ				担当者名	大橋　節子／渡邊　亮／塚本　千晴／四宮　貴久			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
歌・ダンス・インプロヴィゼーションなどの表現活動を活動の主軸とし、レジリエンスを培いながら自己表現方法を開発していく授業である。歌やダンスを通して、声の表現技法や異なる身体表現法・プレゼンテーションスタイルに挑戦していくことで、ユニークに自身を表現する方法を探求していく。

＜授業の到達目標＞
音楽・歌・ダンス・インプロヴィゼーションなど多様な表現技法に触れる中で、自己理解を深め自分らしく表現することが出来る基礎を築く。また、表現活動によって培うことのできる非認知能力についての知識を獲得する。

＜授業の方法＞
このクラスでは、授業に出席することを前提とし、授業内での活動が主となる。各回のテーマに沿って、理論と実技を並行して行う。また、アクティブラーニングの一環として、ディスカッション・グループワーク・プレゼンテーション（発表）の機会を数多く設け、学期末には期末レポートと併せて成果発表のショーを実施する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
小グループに分かれグループワークをしたり、成果発表に向けて活動を行っていく

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習・復習：授業での学びを振り返り、自身の学習過程を課題にまとめる。また、必要に応じて振り付けや歌詞の予習・復習を行う。
※1時間程度

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー２（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
グループワークへの貢献40%、クラスルーム課題30%、期末レポート 30%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	アイスブレイク	アイスブレイク、インプロビゼーション（即興演劇）の表現方法に関する考察、プレゼンテーション課題
3	身体表現、音楽表現（1）	アイスブレイク、ダンスを通した身体表現
4	身体表現、音楽表現（2）	ダンスを通した身体表現、プレゼンテーション発表
5	身体表現、音楽表現（3）	プレゼンテーションの準備
6	身体表現、音楽表現（4）	手話を通した身体表現、合唱を通した音楽表現
7	グループ創作（1）	グループ創作に向けてテーマ設定を行い、検討する
8	グループ創作（2）	グループ創作に取り組む
9	グループ創作（3）	グループ創作演目の修正、改善を行う
10	表現教育の効果や意義	レジリエンスや自尊感情といった非認知能力と、表現教育の関係について考察する
11	成果発表リハ、準備（1）	様々な身体・音楽表現活動を取り入れた成果発表の準備を行う
12	成果発表リハ、準備（2）	様々な身体・音楽表現活動を取り入れた成果発表の準備を行う
13	成果発表リハ、準備（3）	様々な身体・音楽表現活動を取り入れた成果発表の準備を行う
14	成果発表会、学習のまとめ	様々な身体・音楽表現活動を取り入れた成果発表を行うグループワークやレポート課題を通して、学習の成果を言語化する
15		
16		

科目コード	11405				区　分	教養科目			
授業科目名	表現活動による人間力養成Ⅱ				担当者名	大橋　節子／渡邊　亮／塚本　千晴／四宮　貴久			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
表現活動による人間力養成Ⅰで学習した歌・ダンス・インプロヴィゼーションなどの表現活動、及びレジリエンスの知識を応用し、岡山聾学校にて表現活動の実践指導を行う。指導に必要な手話や聴覚障害への指導上の配慮や工夫についても学習する。※履修資格として、「表現活動による人間力養成Ⅰ」を履修済み、もしくは「表現教育アウトリーチ教育実習」履修者済みか、履修登録をしていること。

＜授業の到達目標＞
歌・ダンス・インプロヴィゼーションなど多様な表現技法を応用し、指導上の配慮や工夫について考えながら実践指導をできるようになる。

＜授業の方法＞
このクラスでは、授業に出席することを前提とし、授業内／外での活動が主となる。小グループにて個々の意見について話し合い、学期末にはアウトリーチ実習として学外の実際の教育現場にて学習の成果を実践する。授業外の実技実習として岡山聾学校での保健体育におけるダンス指導を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの一環として、指導上の配慮や工夫に関するディスカッション・グループワーク・プレゼンテーション（発表）の機会を数多く設ける。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
復習、予習：授業での学びを振り返り、指導に必要な演目の振付、指導計画を立てる。※1時間程度

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー２（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
事前学習（手話、指導上の配慮や工夫）30%、指導計画、模擬指導20%、実践指導及びグループへの貢献20%、期末レポート 30%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	即興演劇と教授法	インプロビゼーション（即興演劇）を通して、日々の多様な状況に有益であることを様々な活動を通して学ぶ
3	身体表現、音楽表現（1）	身体の動きと音楽を通して身体表現を学ぶ
4	身体表現、音楽表現（2）	表現方法に関する考察、プレゼンテーションの準備
5	教授法と実践（1）	指導の評価を元に歌やダンスの指導内容の復習をする。また学生間で指導の効果、指導におけるコミュニケーション方法について協議をする
6	教授法と実践（2）	指導の評価を元に歌やダンスの指導内容の復習をする。また学生間で指導の効果、指導におけるコミュニケーション方法について協議をする
7	教授法と実践（3）	指導の評価を元に歌やダンスの指導内容の復習をする。また学生間で指導の効果、指導におけるコミュニケーション方法について協議をする
8	教授法と実践（4）	指導の評価を元に歌やダンスの指導内容の復習をする。また学生間で指導の効果、指導におけるコミュニケーション方法について協議をする
9	手話、聴覚障害について（1）	手話クラス、聴覚障害について学習する
10	手話、聴覚障害について（2）	指導上の配慮や工夫について学習する
11	指導計画	指導演目を習い、役割・指導計画を検討する
12	模擬指導（1）	模擬指導の準備を行う
13	模擬指導（2）	模擬指導、振り返り、改善
14	アウトリーチ実習（実践指導）	1年目クラスの学生と合同で成果発表を行う
15		
16		

科目コード	11408				区　分	教養科目			
授業科目名	表現活動による人間力養成Ⅲ				担当者名	大橋　節子／渡邊　亮／塚本　千晴／四宮　貴久			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

表現活動による人間力養成ⅠⅡで学習した表現活動やその知識、実践指導の経験を生かし、学外の学校現場にて発展的な実践指導を行う授業である。表現教育の実践者として、参加者の非認知能力獲得を促していく立場となる。※履修資格として、「表現活動による人間力養成　Ⅰ・Ⅱ」を履修済み、もしくは「表現教育アウトリーチ教育実習」履修者済みか、履修登録をしていること。

＜授業の到達目標＞

歌・ダンス・インプロヴィゼーションなど多様な表現技法を応用し、指導目的を達成するための指導計画や指導上の工夫を組み込んだ発展的な実践指導ができるようになる。また、参加者の非認知能力の獲得を促す指導計画について、活動内容・進行方法・声かけといった観点から具体的に考察し、企画から実施までを踏まえた指導ができるようになる。

＜授業の方法＞

このクラスでは、授業に出席することを前提とし、授業内／外での活動が主となる。学習の成果として、学外の学校現場において実践指導を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブラーニングの一環として、指導上の配慮や工夫に関するディスカッション・グループワーク・プレゼンテーション（発表）の機会を数多く設ける。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

復習、予習：授業での学びを振り返り、指導に必要な演目の振付、指導計画を立てる。※1時間程度

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー３（初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前学習30%、指導計画、模擬指導20%、実践指導及びグループへの貢献20%、期末レポート 30%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	事前学習(1)	実践指導先の学校や児童・生徒に関する事前学習
3	事前学習(2)	指導演目の学習
4	指導計画(1)	指導役割、指導計画を作成する
5	指導計画(2)	模擬指導の準備を行う
6	模擬指導	模擬指導を実施し、指導改善を図る
7	実践指導(1)	実践指導
8	実践指導(2)	実践指導
9	実践指導(3)	実践指導
10	実践指導(4)	実践指導
11	実践指導(5)	実践指導
12	実践指導(6)	実践指導
13	実践指導(7)	実践指導
14	学習のまとめ	実践指導の振り返り
15		
16		

科目コード	11409				区　分	教養科目			
授業科目名	表現活動による人間力養成Ⅳ［不開講］				担当者名	大橋　節子／渡邊　亮／塚本　千晴／四宮　貴久			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
表現活動による人間力養成ⅠⅡで学習した表現活動やその知識、実践指導の経験を生かし、学外の学校現場における実践指導を運営していく授業である。表現教育の実践者として、参加者の非認知能力獲得を促していく立場となる。　※履修資格として、「表現活動による人間力養成Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修済み、もしくは「表現教育アウトリーチ教育実習」を履修済みか、履修登録していること。

＜授業の到達目標＞
歌・ダンス・インプロヴィゼーションなど多様な表現技法を応用し、指導目的を達成するための指導計画や指導上の工夫を組み込んだ発展的な実践指導を運営できるようになる。また、参加者の非認知能力の獲得を促す指導計画について、参加者の実態把握や目標設定といった観点から具体的に考察し、企画から実施までを一貫して主体的に担い、より発展的な指導ができるようになる。

＜授業の方法＞
このクラスでは、授業に出席することを前提とし、授業内／外での活動が主となる。学習の成果として、学外の学校現場において実践指導を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの一環として、指導上の配慮や工夫に関するディスカッション・グループワーク・プレゼンテーション（発表）の機会を数多く設ける。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
復習、予習：授業での学びを振り返り、指導に必要な演目の振付、指導計画を立てる。※1時間程度

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー３（初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
事前学習30%、指導計画、模擬指導20%、実践指導及びグループへの貢献20%、期末レポート 30%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	事前学習(1)	実践指導先の学校や児童・生徒に関する事前学習
3	事前学習(2)	指導演目の学習
4	指導計画(1)	指導役割、指導計画を作成する
5	指導計画(2)	模擬指導の準備を行う
6	模擬指導	模擬指導を実施し、指導改善を図る
7	実践指導(1)	実践指導
8	実践指導(2)	実践指導
9	実践指導(3)	実践指導
10	実践指導(4)	実践指導
11	実践指導(5)	実践指導
12	実践指導(6)	実践指導
13	実践指導(7)	実践指導
14	学習のまとめ	実践指導の振り返り
15		
16		

科目コード	12103				区　分	教養科目			
授業科目名	食育論				担当者名	保科　圭汰			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
昨今、食環境の現状は、飽食の時代で豊かさが先行し、命を紡ぐ大切な食べ物を得ることへの感謝の気持ちを実感する機会が少なくなっている。人間が心身ともに豊かな暮らしを営むためには、食生活のあり方が大きな役割を果たし、「食」が人間の健康に必須である。本講義では、食育基本法をベースに現代の食の問題を踏まえ、食生活に関する基本的な理解を深め、高い見識をもって健全な食生活を実践および指導できる力を身につける。

＜授業の到達目標＞
本講義では、食を様々な視点から見る力を養い、健康増進・生活習慣病予防におけるQOL向上のための方策を栄養の観点から考察する。また、ライフステージ別の食育を学び、高い見識をもって健全な食生活を実践・指導できるようになる。

＜授業の方法＞
パワーポイントによる講義形式で進める。また、必要に応じて授業の内容に基づいたテーマについてディスカッション、グループワークを行う。Google　Classroomを活用し、授業資料や課題管理を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素　有3、4人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめ、グループごとに発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：各テーマに関して、教科書および参考となるWebサイトなどに目を通し、予備知識を得ておく。（1時間程度）復習：授業内で配布した資料は必ず目を通し、理解を深めること。不明な点があれば授業時間に提示する参考図書・参考資料を用いて調べる。（1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー３（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
毎回の課題点（レポート課題，意見交換、小テスト）　60%、最終課題　40%

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞
山本茂・奥田豊子・濱口郁枝（2011）　食育・食生活論　社会・環境と健康（栄養科学シリーズNEXT）　講談社
辻とみ子・堀田千津子（2017）　新版ヘルス21　栄養教育・栄養指導論　医歯薬出版

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	食育・食生活の概念、食育基本法の概要	食行動、食生活の機能および構成因子、法令制定の経緯・理念と内容
2	栄養素の機能および意義	五大栄養素の働き
3	栄養素の消化・吸収の機構	栄養素の消化・吸収
4	食事バランスガイドの概要と活用	食事バランスガイドを活用した振り返り
5	食生活と健康	朝食の欠食、ボディイメージとダイエット志向
6	食生活と生活習慣病①	肥満と糖代謝異常
7	食生活と生活習慣病②	高血圧と骨の健康
8	生体リズムと食事	時間栄養学とサーカディアンリズム
9	世界の食文化	世界の食習慣、食作法
10	日本の食文化	日本の食習慣、食作法
11	ライフステージ別の食育①	乳幼児期の栄養教育
12	ライフステージ別の食育②	学童・思春期の栄養教育、コショク
13	ライフステージ別の食育③	成人期の栄養教育
14	ライフステージ別の食育④	高齢期の栄養教育
15		
16		

科目コード	12103				区　分	教養科目			
授業科目名	食育論				担当者名	眞鍋　芳江			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
昨今、食環境の現状は、飽食の時代で豊かさが先行し、命を紡ぐ大切な食べ物を得ることへの感謝の気持ちを実感する機会が少なくなっている。人間が心身ともに豊かな暮らしを営むためには、食生活のあり方が大きな役割を果たし、「食」が人間の健康に必須である。本講義では、食育基本法をベースに現代の食の問題を踏まえ、食生活に関する基本的な理解を深め、高い見識をもって健全な食生活を実践および指導できる力を身につける。

＜授業の到達目標＞
本講義では、食を様々な視点から見る力を養い、健康増進・生活習慣病予防におけるQOL向上のための方策を栄養の観点から考察する。また、ライフステージ別の食育を学び、高い見識をもって健全な食生活を実践・指導できるようになる。

＜授業の方法＞
パワーポイントによる講義形式で進める。また、必要に応じて授業の内容に基づいたテーマについてディスカッション、グループワークを行う。Google　Classroomを活用し、授業資料や課題管理を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素　有3、4人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめ、グループごとに発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：各テーマに関して、教科書および参考となるWebサイトなどに目を通し、予備知識を得ておく。（1時間程度）復習：授業内で配布した資料は必ず目を通し、理解を深めること。不明な点があれば授業時間に提示する参考図書・参考資料を用いて調べる。（2時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー３（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
毎回の課題点（レポート課題，意見交換、小テスト）　60%、最終課題　40%

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞
山本茂・奥田豊子・濱口郁枝（2011）　食育・食生活論　社会・環境と健康（栄養科学シリーズNEXT）　講談社
辻とみ子・堀田千津子（2017）　新版ヘルス21　栄養教育・栄養指導論　医歯薬出版

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	食育・食生活の概念、食育基本法の概要	食行動、食生活の機能および構成因子、法令制定の経緯・理念と内容
2	栄養素の機能および意義	五大栄養素の働き
3	栄養素の消化・吸収の機構	栄養素の消化・吸収
4	食事バランスガイドの概要と活用	食事バランスガイドを活用した振り返り
5	食生活と健康	朝食の欠食、ボディイメージとダイエット志向
6	食生活と生活習慣病①	肥満と糖代謝異常
7	食生活と生活習慣病②	高血圧と骨の健康
8	生体リズムと食事	時間栄養学とサーカディアンリズム
9	世界の食文化	世界の食習慣、食作法
10	日本の食文化	日本の食習慣、食作法
11	ライフステージ別の食育①	乳幼児期の栄養教育
12	ライフステージ別の食育②	学童・思春期の栄養教育、コショク
13	ライフステージ別の食育③	成人期の栄養教育
14	ライフステージ別の食育④	高齢期の栄養教育
15		
16		

科目コード	12104				区　分	教養科目			
授業科目名	生命科学基礎				担当者名	大塚　愛二			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
ヒトをはじめとする生物の体は、最小単位としての細胞からなっている。この授業では、生命活動を細胞レベルで学修する。「細胞がどのような構造と機能をもっていて、どのような生命活動を行っているのか」、「多種多様な細胞がどのように働いているのか」について高校生物を履修していない学生も理解できるように初歩的な段階からの学修を行う。

＜授業の到達目標＞
日常的に知ることのできる生命科学に関する情報の中で細胞生物学に関する事項を正しく理解する。細胞の一般的な構造と機能を説明できる。細胞内小器官を説明できる。遺伝子の情報からタンパク質が作られる過程を説明できる。細胞分裂を説明できる。多種多様な細胞を例示しその概略を説明できる。

＜授業の方法＞
一般向けに編集された生命科学に関する書籍の内容を理解できるよう講義する。小テスト（ワークシート）を毎回実施し、各回の授業内容のポイントを整理し、知識の定着を図る。Google Classroomを用いて授業運営、資料提供、課題管理を行う。※本授業はデジタルオンデマンド教材等使用し行うため、ノートPCまたはタブレット端末等を準備の上、受講すること。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
質問と応答を繰り返しながら、授業を進める。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
【準備学習】Google Classroomに示された各授業のキーワードを事前に学ぶ（予習40分）。復習ワークシートを自ら解答する（復習40分）。【その他の授業時間外学習】課題提出（自己学習40分／週）。準備学習に必要な資料はClassroomに置く。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー３（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
各回のワークシート（35%）、期末試験（35%）、課題レポート（30%）により評価する。課題レポートのテーマ設定と提出方法については、授業の中で別途指示する。

＜教科書＞

＜参考書＞
中村真哉編（2024年10月）　ニュートン別刷　人体ではたらく細胞のすべて　ニュートンプレス
中村真哉編（2025年10月）　ニュートン別冊　新・生命論　ニュートンプレス
和田勝（2020年11月）　基礎から学ぶ生物学・細胞生物学　羊土社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダクション	授業の進め方と生命科学の序論
2	生命の基本単位：細胞	生命とは何か、その基本単位としての細胞について
3	細胞核	細胞核の構造と機能について
4	遺伝子の発現	DNA上の遺伝情報をもとにタンパク質を合成するしくみ
5	小胞体とゴルジ装置	作られたタンパク質のその後
6	ミトコンドリア	ミトコンドリアとエネルギー生成について
7	細胞膜	細胞膜の構造と機能について
8	細胞骨格	細胞骨格をつくる分子とモーター分子
9	細胞分裂	細胞分裂のしくみと分化・成長
10	減数分裂と生殖	減数分裂のしくみと生殖
11	細胞の分化と多様性	細胞の分化と体内の多種多様な細胞
12	体を守る細胞たち	免疫系の細胞と生体防御のしくみ
13	細胞の科学と医療	幹細胞、再生医療、細胞の寿命
14	総括	まとめと全体を対象とした試験
15		
16		

科目コード	12203				区　分	教養科目			
授業科目名	数学基礎Ⅰ［A］				担当者名	西田　修斗			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業では、数学的な見方・考え方を体験的に学び、身の回りの事象や社会の仕組みを数学の視点から捉える力を養う。多様な題材をもとに、活動や対話を通して数学的な視点を用いて捉える経験を重ねる。正解を求めることだけでなく、考え方を言語化し共有する過程を重視する。中学・高校で数学が苦手だった学生でも取り組める内容とし、数学の価値を再認識することを目指す。

＜授業の到達目標＞
① 身の回りの事象や社会の仕組みを、数量・関係・構造といった観点から数学的に捉えることができる。（DP2・DP3）② 具体的な事例や活動から共通する特徴を見出し、抽象化して自分の言葉で説明することができる。（DP2・DP3）③ 授業内の活動や課題において、自分の考えを発言または記述し、試行錯誤しながら取り組むことができる。（DP1）④ 他者との対話や活動を通して、自分の考えを見直し、より適切に表現することができる。（DP1）⑤ 数学的な見方・考え方を、日常生活や社会的な場面に関連づけて説明することができる

＜授業の方法＞
本授業では、体験活動を中心としたアクティブ・ラーニングを行う。授業は主に以下の流れで進める。①ゲームや教具を用いた体験活動にグループで取り組む。②発問に基づき、グループで対話しながら考察を行う。③教員の実演や解説により、活動内容を数学的に整理・一般化する。④ワークシートに要点や考え方を記述し、学びの振り返りを行う。授業ではGoogle Classroomを用いて資料配布や課題管理を行い、Googleフォームを活用して振り返りの提出を行う。これらの活動を通して、具体的な体験と抽象的な理解を往復しながら、数学

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有（グループワーク、ディスカッション、課題解決型学習）各回の授業では、ゲームや教具を用いた体験活動にグループで取り組み、発問に基づいて対話を行いながら解決方法を考察する。その後、教員の解説を踏まえて内容を整理し、ワークシートへの記述を通して自らの考えを言語化することで、主体的・協働的な学習を促す。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業外学習として、授業で扱った活動内容やワークシートをもとに、自分の考えや解法を整理・振り返る（1時間程度）。また、授業で扱った題材について別の方法で考えたり、関連する内容を調べたりする（1時間程度）。さらに、配布資料の見直しを通して学習内容の要点を確認する（1時間程度）。これらを通して理解を深めることを目的とする。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２(専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業内での確認テスト・振り返り70%、定期試験30%とする。授業内では、Googleフォームを用いた確認テストや振り返りを実施し、理解度および考え方の言語化を評価する。定期試験では、授業で扱った内容の理解および説明力を評価する。確認テストおよび振り返りについては、集計結果や代表的な記述を授業内で共有し、フィードバックを行う。

＜教科書＞
特に指定なし

＜参考書＞
特に指定なし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	戦略の数学	・石取りゲーム・花びら取りゲーム・すごろくドボン
2	最適化の考え方	・最短ネットワーク・最速降下曲線
3	図形の構成と操作	・一刀切り・折り紙
4	折り紙と数学の応用（オンデマンド）	・折り紙・宇宙工学
5	連続変形と図形の本質	・トポロジー入門・メビウスの輪
6	切断と構造の変化	・ひねり輪・結び目理論入門
7	つながりの構造	・グラフ理論入門・警官と泥棒のおにごっこ・ナイトツアー・四色定理
8	情報の整理と抽象化	・アキネータークイズ・文章作成
9	数の構造とアルゴリズム	・素数・エラトステネスのふるい
10	探索と意思決定	・数当てゲーム・最適停止問題・二分探索法
11	対応と関数の考え方	・集合・写像・鳩の巣原理・一対一対応
12	論理と証明	・命題と真偽・必要条件と十分条件・背理法
13	数の規則性	日歴算など
14	数学の広がり	・数学史・未解決問題

15 16		

科目コード	12203				区　分	教養科目			
授業科目名	数学基礎Ⅰ［B］				担当者名	西田　修斗			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業では、数学的な見方・考え方を体験的に学び、身の回りの事象や社会の仕組みを数学の視点から捉える力を養う。多様な題材をもとに、活動や対話を通して数学的な視点を用いて捉える経験を重ねる。正解を求めることだけでなく、考え方を言語化し共有する過程を重視する。中学・高校で数学が苦手だった学生でも取り組める内容とし、数学の価値を再認識することを目指す。

＜授業の到達目標＞
① 身の回りの事象や社会の仕組みを、数量・関係・構造といった観点から数学的に捉えることができる。（DP2・DP3）② 具体的な事例や活動から共通する特徴を見出し、抽象化して自分の言葉で説明することができる。（DP2・DP3）③ 授業内の活動や課題において、自分の考えを発言または記述し、試行錯誤しながら取り組むことができる。（DP1）④ 他者との対話や活動を通して、自分の考えを見直し、より適切に表現することができる。（DP1）⑤ 数学的な見方・考え方を、日常生活や社会的な場面に関連づけて説明することができる

＜授業の方法＞
本授業では、体験活動を中心としたアクティブ・ラーニングを行う。授業は主に以下の流れで進める。①ゲームや教具を用いた体験活動にグループで取り組む。②発問に基づき、グループで対話しながら考察を行う。③教員の実演や解説により、活動内容を数学的に整理・一般化する。④ワークシートに要点や考え方を記述し、学びの振り返りを行う。授業ではGoogle Classroomを用いて資料配布や課題管理を行い、Googleフォームを活用して振り返りの提出を行う。これらの活動を通して、具体的な体験と抽象的な理解を往復しながら、数学

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有（グループワーク、ディスカッション、課題解決型学習）各回の授業では、ゲームや教具を用いた体験活動にグループで取り組み、発問に基づいて対話を行いながら解決方法を考察する。その後、教員の解説を踏まえて内容を整理し、ワークシートへの記述を通して自らの考えを言語化することで、主体的・協働的な学習を促す。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業外学習として、授業で扱った活動内容やワークシートをもとに、自分の考えや解法を整理・振り返る（1時間程度）。また、授業で扱った題材について別の方法で考えたり、関連する内容を調べたりする（1時間程度）。さらに、配布資料の見直しを通して学習内容の要点を確認する（1時間程度）。これらを通して理解を深めることを目的とする。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２(専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業内での確認テスト・振り返り70%、定期試験30%とする。授業内では、Googleフォームを用いた確認テストや振り返りを実施し、理解度および考え方の言語化を評価する。定期試験では、授業で扱った内容の理解および説明力を評価する。確認テストおよび振り返りについては、集計結果や代表的な記述を授業内で共有し、フィードバックを行う。

＜教科書＞
特に指定なし

＜参考書＞
特に指定なし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	戦略の数学	・石取りゲーム・花びら取りゲーム・すごろくドボン
2	最適化の考え方	・最短ネットワーク・最速降下曲線
3	図形の構成と操作	・一刀切り・折り紙
4	折り紙と数学の応用（オンデマンド）	・折り紙・宇宙工学
5	連続変形と図形の本質	・トポロジー入門・メビウスの輪
6	切断と構造の変化	・ひねり輪・結び目理論入門
7	つながりの構造	・グラフ理論入門・警官と泥棒のおにごっこ・ナイトツアー・四色定理
8	情報の整理と抽象化	・アキネータークイズ・文章作成
9	数の構造とアルゴリズム	・素数・エラトステネスのふるい
10	探索と意思決定	・数当てゲーム・最適停止問題・二分探索法
11	対応と関数の考え方	・集合・写像・鳩の巣原理・一対一対応
12	論理と証明	・命題と真偽・必要条件と十分条件・背理法
13	数の規則性	日歴算など
14	数学の広がり	・数学史・未解決問題

15 16		

科目コード	12204				区　分	教養科目			
授業科目名	数学基礎Ⅱ				担当者名	西田　修斗			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業では、数学的な見方・考え方を体験的に学び、身の回りの事象や社会の仕組みを数学の視点から捉える力を養う。多様な題材をもとに、活動や対話を通して数学的な視点を用いて捉える経験を重ねる。正解を求めることだけでなく、考え方を言語化し共有する過程を重視する。中学・高校で数学が苦手だった学生でも取り組める内容とし、数学の価値を再認識することを目指す。本授業は数学基礎Ⅰの履修を前提とするものではなく、未履修者でも理解できるように構成している。また、より深い理解や考え方の言語化を重視した内容とする。

＜授業の到達目標＞
① 身の回りの事象や社会の仕組みを、数量・関係・構造といった観点から数学的に捉えることができる。（DP2・DP3）② 具体的な事例や活動から共通する特徴を見出し、抽象化して自分の言葉で説明することができる。（DP2・DP3）③ 授業内の活動や課題において、自分の考えを発言または記述し、試行錯誤しながら取り組むことができる。（DP1）④ 他者との対話や活動を通して、自分の考えを見直し、より適切に表現することができる。（DP1）⑤ 数学的な見方・考え方を、日常生活や社会的な場面に関連づけて説明することができる

＜授業の方法＞
本授業では、体験活動や問題解決を中心としたアクティブ・ラーニングを行う。授業は主に以下の流れで進める。①ゲーム、教具、問題等を用いた活動に個人またはグループで取り組む。②発問に基づき、必要に応じて他者と対話しながら考察を行う。③教員の実演や解説により、活動内容を数学的に整理・一般化する。④ワークシートに要点や考え方を記述し、学びの振り返りを行う。授業ではGoogle Classroom等を用いて、資料配布、課題管理および振り返りの提出を行う。これらの活動を通して、具体的な体験と抽象的な理解を往復しながら、

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有（グループワーク、ディスカッション、課題解決型学習）各回の授業では、題材に応じてゲーム、教具、問題、資料等を用いた活動に取り組み、発問に基づいて対話を行いながら考察する。その後、教員の解説を踏まえて内容を整理し、ワークシートへの記述を通して自らの考えを言語化することで、主体的・協働的な学習を促す。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業外学習として、授業で扱った活動内容やワークシートをもとに、自分の考えや解法を整理・振り返る（1時間程度）。また、授業で扱った題材について別の方法で考えたり、関連する内容を調べたりする（1時間程度）。さらに、配布資料の見直しを通して学習内容の要点を確認する（1時間程度）。これらを通して理解を深めることを目的とする。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２(専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業内での確認テスト・振り返り70%、定期試験30%とする。授業内では、確認テストや振り返りを実施し、学習内容の理解、考え方の言語化および学習活動への取り組みを評価する。定期試験では、授業で扱った内容の理解および説明力を評価する。確認テストおよび振り返りについては、集計結果や代表的な記述を授業内で共有し、フィードバックを行う。

＜教科書＞
特に指定なし

＜参考書＞
特に指定なし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	図形の分割と再構成①	・裁ち合わせ・ヒンジ付き変形
2	図形の分割と再構成②	・多角形から正方形への変形
3	敷き詰めと展開図	・平面や空間の敷き詰め・展開図・立体の構成
4	正多面体と対称性	・正多面体・対称性
5	数量化とデータの見方	・定性と定量・データの可視化・統計・ナイチンゲールと統計
6	規則性と計算の工夫	・数列の和・円周率・計算の工夫
7	素数と公約数・公倍数	・素数と素因数分解・エラトステネスのふるい・最大公約数と最小公倍数・連除法
8	探索と意思決定	・数当てゲーム・最適停止問題
9	命題と論理	・命題と真偽・必要条件と十分条件・証明
10	対応と関数	・対応・関数の意味や考え方
11	確率の考え方	・同様に確からしい・身近な確率
12	数の種類とその広がり	・自然数、整数、有理数・無理数、実数・平方根・数の拡張

13	暦と曜日の数学	・日暦算・曜日の計算・暦の規則性
14	数学の歴史と未解決問題	・数学史・未解決問題
15		
16		

科目コード	12303				区　分	教養科目			
授業科目名	自然科学基礎［週間オンデマンド］				担当者名	川村　康文／亀井　加恵子／貴島　祐治			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
教員2名による共担の講義である。前半７回（亀井加恵子担当）は生命科学の基礎、後半７回（貴島祐治担当）はゲノム科学の基礎をなす遺伝学を学ぶ。人間の身体のさまざまな仕組みを学ぶとともに、遺伝学の基礎を通じて親から子への形質の伝わり方を学ぶ。この講義をとおして、我々の生命を守り、つないでいくことを、生体分子から生態系、自然環境までの広い視野を持って理解する。

＜授業の到達目標＞
1.生命や遺伝について興味をもつことができる2.論理的思考について理解し､使用することができる3.疑問に思ったことをすぐに調べることができる

＜授業の方法＞
1. オンラインでの講義形式

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素無し。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：教科書をよく読んで、下調べをしておく(1時間程度) 復習：講義内容について理解できなかった部分を教科書で確認したり、調査する(1時間程度)

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
前半：レポート後半：

＜教科書＞
北口哲也、坪井貴司、前川文彦（前半7回のみ教科書を使用）　みんなの生命科学　第２版　（株）化学同人

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	講義の進め方生命の基礎的なしくみ生命の設計図「ゲノム」	講義の進め方を説明する。教科書 Part1　現代を生きる生命　第１章(生命の基礎的なしくみ)、第２章（生命の設計図「ゲノム」）を解説する。
2	生命を理解するための科学技術ヒトの誕生と成長	教科書Part1　現代を生きる生命　第３章（生命を理解するための科学技術）を解説する。教科書Part2　生まれ、成長し、死ぬためのしくみ　第４章（ヒトの誕生と成長）を解説する。
3	ヒトの寿命と死刺激を感じるしくみ	教科書Part2　生まれ、成長し、死ぬためのしくみ　第５章（ヒトの寿命と死）を解説する。教科書Part3　感じ、動くためのしくみ　第６章（刺激を感じるしくみ）を解説する。
4	情報を伝えるしくみ・動くしくみ神経系の構築	教科書Part3　感じ、動くためのしくみ　第７章（情報を伝えるしくみ・動くしくみ、第８章（神経系の構築）を解説する。
5	生きるためのしくみ① 栄養素の代謝生きるためのしくみ② 循環と維持	教科書Part4　生きるための仕組みと子孫を増やすしくみ　第９章（生きるためのしくみ① 栄養素の代謝）、第10章（生きるためのしくみ② 循環と維持）を解説する。
6	子孫を増やすしくみ外的環境に適応するしくみ	教科書Part4　生きるための仕組みと子孫を増やすしくみ　第11章（子孫を増やすしくみ）を解説する。教科書Part5　環境に適応するしくみ　第12章（外的環境に適応するしくみ）を解説する。
7	外的から身を守るしくみ社会性を生み出す脳	教科書Part5　環境に適応するしくみ　第13章（外的から身を守るしくみ）を解説する。教科書Part6　生命が社会を営むしくみ　第14章（社会性を生み出す脳）を解説する。
8	チャールズ・ダーウィンと進化論	1）突然変異2）自然選択説3）性選択4）進化
9	メンデルの遺伝の法則	1）優性の法則2）分離の法則3）独立の法則
10	ゲノムと遺伝子の概念	1）細胞について2）染色体について3）染色体を構成するDNA
11	最新ゲノム科学が明らかにした成果	1）遺伝子はタンパク質の設計図2）身近な遺伝子たち
12	生殖を利用した適応戦略	1）有性生殖2）無性生殖3）単為生殖4）性転換
13	生き物にオスとメスはなぜあるのか	1）性が必要な理由2）女性のX染色体は片方だけを使っている3）Y染色体は代々受け継がれる
14	動物の再生	1）再生能力2）ES細胞3）iPS細胞

15 16		

科目コード	13100				区　分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	小川　雄太			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの

＜授業の到達目標＞

本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、２年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台つくりが目的である。毎時の講話を通して①IPU生・社会人・体育人としての考え方、態度を身につけている。②五訓、特に「前進力」を高めることができるようになる。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につけている。

＜授業の方法＞

1．講義（メンターやゲストスピーカー等による講話）2．グループワーク3．省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニング有クラス・グループに分かれ、テーマごとにディスカッションおよび成果物を作成する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習　スピーチの準備等事前に告知された課題　1時間復習　テーマに即したレポートの作成1時間

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、ディプロマポリシー２(専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度(身だしなみ・ディスカッションや演習への取り組み態度等) 30%、小課題① 50%（レポート・基礎学力課題）、課題②（発表等）20%

＜教科書＞

吉原 惠子（著), 間渕 泰尚（著), 冨江 英俊（著), 小針 誠（著）(2017/10/10)　スタディスキルズ・トレーニング 改訂版: 大学で学ぶための25のスキル　実教出版

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	大学の方針・創志学園の歴史	大学の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	講話（ゲストスピーカー）	大学生のための非認知能力
3	ゲストスピーカー（講話）	非認知能力の伸ばし方
4	自己を振り返る	自分史を作成（オンデマンド）
5	体育とは何か	嘉納治五郎から、体育・体育人とは何かを学ぶ
6	ゲストスピーカー（聴講）	非認知能力の伸ばし方
7	スポーツイベント実践①	上級生とのコミュニティ形成
8	スポーツイベント実践②	上級生とのコミュニティ形成
9	スポーツイベント実践③	上級生とのコミュニティ形成
10	ビジネスマナー①	メールの方法、時間の使い方。
11	ビジネスマナー②	会話の受け答え、電話の取り方。
12	スポーツリンクプロジェクト計画①	スポーツリンクプロジェクト計画を行う（2年クラスと合同）。
13	スポーツリンクプロジェクト計画②	スポーツリンクプロジェクト計画を行う（2年クラスと合同）。
14	前期のまとめ	前期のまとめ
15		
16		

科目コード	13100				区　分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	宇都宮　浩司			
配当年次	1年	配当学期	第１・第２クオーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業では新入生を「社会人-4.0」と位置付け、4年後に即戦力で組織に貢献できる人材になるための基礎的なリテラシー形成を目指す。特に、本学が掲げる「IPU五訓（礼節・克己・信頼・前進・感謝）」を軸として、それぞれの意味を単なる理念としてではなく、社会における行動原理として捉え直すことを重視する。学生は、ルーブリックを用いた自己評価と振り返りを通じて、自らの行動を客観的に見つめ、改善していく姿勢を身につける。【PC・スマホ・筆記用具必須】なお、マナー研修の一環として、指定された日にはスーツ・革靴の着用を必須

＜授業の到達目標＞
1. 社会人として求められる基本的な行動基準を理解し、自らの言葉で説明できること。2. IPU五訓の内容を具体的な行動と結びつけて解釈できること。3. 自己の行動を振り返り、改善に向けた課題を自覚できること。4. 自身の価値観に基づいた行動指針（Myルール）を形成できること。

＜授業の方法＞
本授業は講義形式を基本としつつ、ペアワークやグループディスカッション、短時間のリフレクション活動を組み合わせて実施する。各回において具体的な事例や日常場面を取り上げ、学生が自ら考え、言語化する機会を重視する。また、ルーブリックを活用した自己評価を継続的に行い、学習内容の内在化を促す。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有りペアワークやグループディスカッション、短時間のリフレクション活動を組み合わせて実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業ごとにリフレクションペーパーが課せられる。（1時間程度を想定）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
各回の授業内課題・演習への取り組み・・・30%レポートなどの課題への取り組み・・・50％発表・演習時の独自の観点や貢献度・・・20%

＜教科書＞
なし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス：「社会人-4.0とは何か」	本授業の導入として、「社会人-4.0」という概念を提示し、大学生から社会人への移行において求められる行動基準について理解する。あわせて、社会人として期待される役割や責任の基本構造を整理し、本授業全体の位置づけを確認する。さらに、自己の現状を振り返り、理想とする社会人像を言語化することで、今後の学習の方向性を明確にする。
2	ルールとマナーの意味	社会におけるルールやマナーの役割について、歴史的および文化的背景を踏まえて理解する。マナーを単なる形式として捉えるのではなく、他者との摩擦を減らし円滑な関係を築くための機能として再解釈する。具体例をもとに、マナーの「意味」と「目的」を考察し、状況に応じた適切な行動選択の重要性を理解する。
3	講話①	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
4	【オンデマンド週】IPU五訓① 礼節	IPU五訓の一つである「礼節」について、その本質的な意味を理解する。礼節を上下関係の表現としてではなく、他者との関係性を尊重し信頼を築くための行動として捉える。非言語コミュニケーションや第一印象の形成との関連を踏まえ、具体的な場面における適切な振る舞いについて考察する。
5	IPU五訓② 克己	「克己」をテーマに、目標達成に向けた自己管理や習慣形成の重要性について理解する。自分に甘くなる心理的要因や行動の継続が難しい理由を整理し、それを乗り越えるための工夫について考察する。日常生活における具体的な行動改善の計画を立て、実践につなげる視点を養う。

6	IPU五訓③ 信頼	五訓における「信頼」を、個人の行動だけでなく他者との関係性の中で捉え直す。協働やチーム活動において信頼がどのように形成されるかを理解し、相互依存の重要性について考察する。具体的な協働場面を想定し、信頼を築くための行動や態度について検討する。
7	IPU五訓④ 前進	「前進」をテーマに、困難や失敗に直面した際の捉え方と行動について理解する。失敗を否定的に捉えるのではなく、学習や成長の機会として再解釈する視点を養う。挑戦を継続することの意義や、粘り強く取り組む姿勢について具体例を通じて考察する。
8	IPU五訓⑤ 感謝	「感謝」を中心に、自己が他者や社会の支えの中で成り立っていることを理解する。感謝の気持ちが人間関係や信頼の形成に与える影響について考察し、利他的な行動の意義を学ぶ。日常生活における感謝の表現とその効果について具体的に検討する。
9	講話②	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
10	社会人-4.0と五訓	これまでに扱った社会人-4.0の基準とIPU五訓の内容を統合的に整理する。それぞれの概念がどのように関連し合い、具体的な行動として表れるのかを構造的に理解する。自らの価値観と照らし合わせながら、行動指針としての整理を行う。
11	常識を相対化する	世の中には「常識」と思われること、自分にとっては「常識」と思われることがある。しかし、一方で、それは人によっては「常識」ではない場合がある。このように、世の中にある常識に目を向け、それがなぜ「常識」と言えるのか、他の人はどう感じているのかについて、グループで話し合う。
12	講話③	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
13	学科交流会①	日本人学生・留学生の枠を超えて、文化的な交流会を行う。「食」を題材に、それぞれの地域の食文化について学びあう。
14	学科交流会②	日本人学生・留学生の枠を超えて、文化的な交流会を行う。「マナー」を題材に、他文化の生活について学びあう。
15		
16		

科目コード	13100				区　分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	岡田　健志			
配当年次	1年	配当学期	第1クォーター・第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

本授業では新入生を「社会人-4.0」と位置付け、4年後に即戦力で組織に貢献できる人材になるための基礎的なリテラシー形成を目指す。特に、本学が掲げる「IPU五訓（礼節・克己・信頼・前進・感謝）」を軸として、それぞれの意味を単なる理念としてではなく、社会における行動原理として捉え直すことを重視する。学生は、ルーブリックを用いた自己評価と振り返りを通じて、自らの行動を客観的に見つめ、改善していく姿勢を身につける。【PC・スマホ・筆記用具必須】なお、マナー研修の一環として、指定された日にはスーツ・革靴の着用を必須

＜授業の到達目標＞

1. 社会人として求められる基本的な行動基準を理解し、自らの言葉で説明できること。2. IPU五訓の内容を具体的な行動と結びつけて解釈できること。3. 自己の行動を振り返り、改善に向けた課題を自覚できること。4. 自身の価値観に基づいた行動指針（Myルール）を形成できること。

＜授業の方法＞

本授業は講義形式を基本としつつ、ペアワークやグループディスカッション、短時間のリフレクション活動を組み合わせて実施する。各回において具体的な事例や日常場面を取り上げ、学生が自ら考え、言語化する機会を重視する。また、ルーブリックを活用した自己評価を継続的に行い、学習内容の内在化を促す。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有りペアワークやグループディスカッション、短時間のリフレクション活動を組み合わせて実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業ごとにリフレクションペーパーが課せられる。（1時間程度を想定）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、ディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各回の授業内課題・演習への取り組み・・・30%レポートなどの課題への取り組み・・・50％発表・演習時の独自の観点や貢献度・・・20%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス：「社会人-4.0とは何か」	本授業の導入として、「社会人-4.0」という概念を提示し、大学生から社会人への移行において求められる行動基準について理解する。あわせて、社会人として期待される役割や責任の基本構造を整理し、本授業全体の位置づけを確認する。さらに、自己の現状を振り返り、理想とする社会人像を言語化することで、今後の学習の方向性を明確にする。
2	ルールとマナーの意味	社会におけるルールやマナーの役割について、歴史的および文化的背景を踏まえて理解する。マナーを単なる形式として捉えるのではなく、他者との摩擦を減らし円滑な関係を築くための機能として再解釈する。具体例をもとに、マナーの「意味」と「目的」を考察し、状況に応じた適切な行動選択の重要性を理解する。
3	講話①	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
4	【オンデマンド週】IPU五訓① 礼節	IPU五訓の一つである「礼節」について、その本質的な意味を理解する。礼節を上下関係の表現としてではなく、他者との関係性を尊重し信頼を築くための行動として捉える。非言語コミュニケーションや第一印象の形成との関連を踏まえ、具体的な場面における適切な振る舞いについて考察する。
5	IPU五訓② 克己	「克己」をテーマに、目標達成に向けた自己管理や習慣形成の重要性について理解する。自分に甘くなる心理的要因や行動の継続が難しい理由を整理し、それを乗り越えるための工夫について考察する。日常生活における具体的な行動改善の計画を立て、実践につなげる視点を養う。

6	IPU五訓③ 信頼	五訓における「信頼」を、個人の行動だけでなく他者との関係性の中で捉え直す。協働やチーム活動において信頼がどのように形成されるかを理解し、相互依存の重要性について考察する。具体的な協働場面を想定し、信頼を築くための行動や態度について検討する。
7	IPU五訓④ 前進	「前進」をテーマに、困難や失敗に直面した際の捉え方と行動について理解する。失敗を否定的に捉えるのではなく、学習や成長の機会として再解釈する視点を養う。挑戦を継続することの意義や、粘り強く取り組む姿勢について具体例を通じて考察する。
8	IPU五訓⑤ 感謝	「感謝」を中心に、自己が他者や社会の支えの中で成り立っていることを理解する。感謝の気持ちが人間関係や信頼の形成に与える影響について考察し、利他的な行動の意義を学ぶ。日常生活における感謝の表現とその効果について具体的に検討する。
9	講話②	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
10	社会人-4.0と五訓	これまでに扱った社会人-4.0の基準とIPU五訓の内容を統合的に整理する。それぞれの概念がどのように関連し合い、具体的な行動として表れるのかを構造的に理解する。自らの価値観と照らし合わせながら、行動指針としての整理を行う。
11	常識を相対化する	世の中には「常識」と思われること、自分にとっては「常識」と思われることがある。しかし、一方で、それは人によっては「常識」ではない場合がある。このように、世の中にある常識に目を向け、それがなぜ「常識」と言えるのか、他の人はどう感じているのかについて、グループで話し合う。
12	講話③	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
13	学科交流会	日本人学生・留学生の枠を超えて、文化的な交流会を行う。「マナー」を題材に、他文化の生活について学びあう。
14	【学期末集会】	学期末集会を通じて、自らの現時点までの学びの振り返りと今後の学習生活プランを再設計する。
15		
16		

科目コード	13100				区　分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	江口　尚文			
配当年次	1年	配当学期	第１・第２クオーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業では新入生を「社会人-4.0」と位置付け、4年後に即戦力で組織に貢献できる人材になるための基礎的なリテラシー形成を目指す。特に、本学が掲げる「IPU五訓（礼節・克己・信頼・前進・感謝）」を軸として、それぞれの意味を単なる理念としてではなく、社会における行動原理として捉え直すことを重視する。学生は、ルーブリックを用いた自己評価と振り返りを通じて、自らの行動を客観的に見つめ、改善していく姿勢を身につける。【PC・スマホ・筆記用具必須】なお、マナー研修の一環として、指定された日にはスーツ・革靴の着用を必須

＜授業の到達目標＞
1. 社会人として求められる基本的な行動基準を理解し、自らの言葉で説明できること。2. IPU五訓の内容を具体的な行動と結びつけて解釈できること。3. 自己の行動を振り返り、改善に向けた課題を自覚できること。4. 自身の価値観に基づいた行動指針（Myルール）を形成できること。

＜授業の方法＞
本授業は講義形式を基本としつつ、ペアワークやグループディスカッション、短時間のリフレクション活動を組み合わせて実施する。各回において具体的な事例や日常場面を取り上げ、学生が自ら考え、言語化する機会を重視する。また、ルーブリックを活用した自己評価を継続的に行い、学習内容の内在化を促す。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有りペアワークやグループディスカッション、短時間のリフレクション活動を組み合わせて実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業ごとにリフレクションペーパーが課せられる。（1時間程度を想定）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
各回の授業内課題・演習への取り組み・・・30%レポートなどの課題への取り組み・・・50%発表・演習時の独自の観点や貢献度・・・20%

＜教科書＞
なし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス：「社会人-4.0とは何か」	本授業の導入として、「社会人-4.0」という概念を提示し、大学生から社会人への移行において求められる行動基準について理解する。あわせて、社会人として期待される役割や責任の基本構造を整理し、本授業全体の位置づけを確認する。さらに、自己の現状を振り返り、理想とする社会人像を言語化することで、今後の学習の方向性を明確にする。
2	ルールとマナーの意味	社会におけるルールやマナーの役割について、歴史的および文化的背景を踏まえて理解する。マナーを単なる形式として捉えるのではなく、他者との摩擦を減らし円滑な関係を築くための機能として再解釈する。具体例をもとに、マナーの「意味」と「目的」を考察し、状況に応じた適切な行動選択の重要性を理解する。
3	講話①	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
4	【オンデマンド週】IPU五訓① 礼節	IPU五訓の一つである「礼節」について、その本質的な意味を理解する。礼節を上下関係の表現としてではなく、他者との関係性を尊重し信頼を築くための行動として捉える。非言語コミュニケーションや第一印象の形成との関連を踏まえ、具体的な場面における適切な振る舞いについて考察する。
5	IPU五訓② 克己	「克己」をテーマに、目標達成に向けた自己管理や習慣形成の重要性について理解する。自分に甘くなる心理的要因や行動の継続が難しい理由を整理し、それを乗り越えるための工夫について考察する。日常生活における具体的な行動改善の計画を立て、実践につなげる視点を養う。

6	IPU五訓③ 信頼	五訓における「信頼」を、個人の行動だけでなく他者との関係性の中で捉え直す。協働やチーム活動において信頼がどのように形成されるかを理解し、相互依存の重要性について考察する。具体的な協働場面を想定し、信頼を築くための行動や態度について検討する。
7	IPU五訓④ 前進	「前進」をテーマに、困難や失敗に直面した際の捉え方と行動について理解する。失敗を否定的に捉えるのではなく、学習や成長の機会として再解釈する視点を養う。挑戦を継続することの意義や、粘り強く取り組む姿勢について具体例を通じて考察する。
8	IPU五訓⑤ 感謝	「感謝」を中心に、自己が他者や社会の支えの中で成り立っていることを理解する。感謝の気持ちが人間関係や信頼の形成に与える影響について考察し、利他的な行動の意義を学ぶ。日常生活における感謝の表現とその効果について具体的に検討する。
9	講話②	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
10	社会人-4.0と五訓	これまでに扱った社会人-4.0の基準とIPU五訓の内容を統合的に整理する。それぞれの概念がどのように関連し合い、具体的な行動として表れるのかを構造的に理解する。自らの価値観と照らし合わせながら、行動指針としての整理を行う。
11	常識を相対化する	世の中には「常識」と思われること、自分にとっては「常識」と思われることがある。しかし、一方で、それは人によっては「常識」ではない場合がある。このように、世の中にある常識に目を向け、それがなぜ「常識」と言えるのか、他の人はどう感じているのかについて、グループで話し合う。
12	講話③	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
13	学科交流会①	日本人学生・留学生の枠を超えて、文化的な交流会を行う。「食」を題材に、それぞれの地域の食文化について学びあう。
14	学科交流会②	日本人学生・留学生の枠を超えて、文化的な交流会を行う。「マナー」を題材に、他文化の生活について学びあう。
15		
16		

科目コード	13100				区　分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	古松　丈周			
配当年次	1年	配当学期	第１・第２クオーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業では新入生を「社会人-4.0」と位置付け、4年後に即戦力で組織に貢献できる人材になるための基礎的なリテラシー形成を目指す。特に、本学が掲げる「IPU五訓（礼節・克己・信頼・前進・感謝）」を軸として、それぞれの意味を単なる理念としてではなく、社会における行動原理として捉え直すことを重視する。学生は、ルーブリックを用いた自己評価と振り返りを通じて、自らの行動を客観的に見つめ、改善していく姿勢を身につける。【PC・スマホ・筆記用具必須】なお、マナー研修の一環として、指定された日にはスーツ・革靴の着用を必須

＜授業の到達目標＞
1. 社会人として求められる基本的な行動基準を理解し、自らの言葉で説明できること。2. IPU五訓の内容を具体的な行動と結びつけて解釈できること。3. 自己の行動を振り返り、改善に向けた課題を自覚できること。4. 自身の価値観に基づいた行動指針（Myルール）を形成できること。

＜授業の方法＞
本授業は講義形式を基本としつつ、ペアワークやグループディスカッション、短時間のリフレクション活動を組み合わせて実施する。各回において具体的な事例や日常場面を取り上げ、学生が自ら考え、言語化する機会を重視する。また、ルーブリックを活用した自己評価を継続的に行い、学習内容の内在化を促す。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有りペアワークやグループディスカッション、短時間のリフレクション活動を組み合わせて実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業ごとにリフレクションペーパーが課せられる。（1時間程度を想定）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
各回の授業内課題・演習への取り組み・・・30%レポートなどの課題への取り組み・・・50％発表・演習時の独自の観点や貢献度・・・20%

＜教科書＞
なし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス：「社会人-4.0とは何か」	本授業の導入として、「社会人-4.0」という概念を提示し、大学生から社会人への移行において求められる行動基準について理解する。あわせて、社会人として期待される役割や責任の基本構造を整理し、本授業全体の位置づけを確認する。さらに、自己の現状を振り返り、理想とする社会人像を言語化することで、今後の学習の方向性を明確にする。
2	ルールとマナーの意味	社会におけるルールやマナーの役割について、歴史的および文化的背景を踏まえて理解する。マナーを単なる形式として捉えるのではなく、他者との摩擦を減らし円滑な関係を築くための機能として再解釈する。具体例をもとに、マナーの「意味」と「目的」を考察し、状況に応じた適切な行動選択の重要性を理解する。
3	講話①	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
4	【オンデマンド週】IPU五訓① 礼節	IPU五訓の一つである「礼節」について、その本質的な意味を理解する。礼節を上下関係の表現としてではなく、他者との関係性を尊重し信頼を築くための行動として捉える。非言語コミュニケーションや第一印象の形成との関連を踏まえ、具体的な場面における適切な振る舞いについて考察する。
5	IPU五訓② 克己	「克己」をテーマに、目標達成に向けた自己管理や習慣形成の重要性について理解する。自分に甘くなる心理的要因や行動の継続が難しい理由を整理し、それを乗り越えるための工夫について考察する。日常生活における具体的な行動改善の計画を立て、実践につなげる視点を養う。

6	IPU五訓③ 信頼	五訓における「信頼」を、個人の行動だけでなく他者との関係性の中で捉え直す。協働やチーム活動において信頼がどのように形成されるかを理解し、相互依存の重要性について考察する。具体的な協働場面を想定し、信頼を築くための行動や態度について検討する。
7	IPU五訓④ 前進	「前進」をテーマに、困難や失敗に直面した際の捉え方と行動について理解する。失敗を否定的に捉えるのではなく、学習や成長の機会として再解釈する視点を養う。挑戦を継続することの意義や、粘り強く取り組む姿勢について具体例を通じて考察する。
8	IPU五訓⑤ 感謝	「感謝」を中心に、自己が他者や社会の支えの中で成り立っていることを理解する。感謝の気持ちが人間関係や信頼の形成に与える影響について考察し、利他的な行動の意義を学ぶ。日常生活における感謝の表現とその効果について具体的に検討する。
9	講話②	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
10	社会人-4.0と五訓	これまでに扱った社会人-4.0の基準とIPU五訓の内容を統合的に整理する。それぞれの概念がどのように関連し合い、具体的な行動として表れるのかを構造的に理解する。自らの価値観と照らし合わせながら、行動指針としての整理を行う。
11	常識を相対化する	世の中には「常識」と思われること、自分にとっては「常識」と思われることがある。しかし、一方で、それは人によっては「常識」ではない場合がある。このように、世の中にある常識に目を向け、それがなぜ「常識」と言えるのか、他の人はどう感じているのかについて、グループで話し合う。
12	講話③	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
13	学科交流会①	日本人学生・留学生の枠を超えて、文化的な交流会を行う。「食」を題材に、それぞれの地域の食文化について学びあう。
14	学科交流会②	日本人学生・留学生の枠を超えて、文化的な交流会を行う。「マナー」を題材に、他文化の生活について学びあう。
15		
16		

科目コード	13100				区　分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	大平　真紀子			
配当年次	1年	配当学期	第１・第２クオーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業では新入生を「社会人-4.0」と位置付け、4年後に即戦力で組織に貢献できる人材になるための基礎的なリテラシー形成を目指す。特に、本学が掲げる「IPU五訓（礼節・克己・信頼・前進・感謝）」を軸として、それぞれの意味を単なる理念としてではなく、社会における行動原理として捉え直すことを重視する。学生は、ルーブリックを用いた自己評価と振り返りを通じて、自らの行動を客観的に見つめ、改善していく姿勢を身につける。【PC・スマホ・筆記用具必須】なお、マナー研修の一環として、指定された日にはスーツ・革靴の着用を必須

＜授業の到達目標＞
1. 社会人として求められる基本的な行動基準を理解し、自らの言葉で説明できること。2. IPU五訓の内容を具体的な行動と結びつけて解釈できること。3. 自己の行動を振り返り、改善に向けた課題を自覚できること。4. 自身の価値観に基づいた行動指針（Myルール）を形成できること。

＜授業の方法＞
本授業は講義形式を基本としつつ、ペアワークやグループディスカッション、短時間のリフレクション活動を組み合わせて実施する。各回において具体的な事例や日常場面を取り上げ、学生が自ら考え、言語化する機会を重視する。また、ルーブリックを活用した自己評価を継続的に行い、学習内容の内在化を促す。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有りペアワークやグループディスカッション、短時間のリフレクション活動を組み合わせて実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業ごとにリフレクションペーパーが課せられる。（1時間程度を想定）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
各回の授業内課題・演習への取り組み・・・30%レポートなどの課題への取り組み・・・50％発表・演習時の独自の観点や貢献度・・・20%

＜教科書＞
なし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス：「社会人-4.0とは何か」	本授業の導入として、「社会人-4.0」という概念を提示し、大学生から社会人への移行において求められる行動基準について理解する。あわせて、社会人として期待される役割や責任の基本構造を整理し、本授業全体の位置づけを確認する。さらに、自己の現状を振り返り、理想とする社会人像を言語化することで、今後の学習の方向性を明確にする。
2	ルールとマナーの意味	社会におけるルールやマナーの役割について、歴史的および文化的背景を踏まえて理解する。マナーを単なる形式として捉えるのではなく、他者との摩擦を減らし円滑な関係を築くための機能として再解釈する。具体例をもとに、マナーの「意味」と「目的」を考察し、状況に応じた適切な行動選択の重要性を理解する。
3	講話①	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
4	【オンデマンド週】IPU五訓① 礼節	IPU五訓の一つである「礼節」について、その本質的な意味を理解する。礼節を上下関係の表現としてではなく、他者との関係性を尊重し信頼を築くための行動として捉える。非言語コミュニケーションや第一印象の形成との関連を踏まえ、具体的な場面における適切な振る舞いについて考察する。
5	IPU五訓② 克己	「克己」をテーマに、目標達成に向けた自己管理や習慣形成の重要性について理解する。自分に甘くなる心理的要因や行動の継続が難しい理由を整理し、それを乗り越えるための工夫について考察する。日常生活における具体的な行動改善の計画を立て、実践につなげる視点を養う。

6	IPU五訓③ 信頼	五訓における「信頼」を、個人の行動だけでなく他者との関係性の中で捉え直す。協働やチーム活動において信頼がどのように形成されるかを理解し、相互依存の重要性について考察する。具体的な協働場面を想定し、信頼を築くための行動や態度について検討する。
7	IPU五訓④ 前進	「前進」をテーマに、困難や失敗に直面した際の捉え方と行動について理解する。失敗を否定的に捉えるのではなく、学習や成長の機会として再解釈する視点を養う。挑戦を継続することの意義や、粘り強く取り組む姿勢について具体例を通じて考察する。
8	IPU五訓⑤ 感謝	「感謝」を中心に、自己が他者や社会の支えの中で成り立っていることを理解する。感謝の気持ちが人間関係や信頼の形成に与える影響について考察し、利他的な行動の意義を学ぶ。日常生活における感謝の表現とその効果について具体的に検討する。
9	講話②	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
10	社会人-4.0と五訓	これまでに扱った社会人-4.0の基準とIPU五訓の内容を統合的に整理する。それぞれの概念がどのように関連し合い、具体的な行動として表れるのかを構造的に理解する。自らの価値観と照らし合わせながら、行動指針としての整理を行う。
11	常識を相対化する	世の中には「常識」と思われること、自分にとっては「常識」と思われることがある。しかし、一方で、それは人によっては「常識」ではない場合がある。このように、世の中にある常識に目を向け、それがなぜ「常識」と言えるのか、他の人はどう感じているのかについて、グループで話し合う。
12	講話③	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
13	学科交流会①	日本人学生・留学生の枠を超えて、文化的な交流会を行う。「食」を題材に、それぞれの地域の食文化について学びあう。
14	学科交流会②	日本人学生・留学生の枠を超えて、文化的な交流会を行う。「マナー」を題材に、他文化の生活について学びあう。
15		
16		

科目コード	13100				区　分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	赤木　邦江			
配当年次	1年	配当学期	第１・第２クオーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業では新入生を「社会人-4.0」と位置付け、4年後に即戦力で組織に貢献できる人材になるための基礎的なリテラシー形成を目指す。特に、本学が掲げる「IPU五訓（礼節・克己・信頼・前進・感謝）」を軸として、それぞれの意味を単なる理念としてではなく、社会における行動原理として捉え直すことを重視する。学生は、ルーブリックを用いた自己評価と振り返りを通じて、自らの行動を客観的に見つめ、改善していく姿勢を身につける。【PC・スマホ・筆記用具必須】なお、マナー研修の一環として、指定された日にはスーツ・革靴の着用を必須

＜授業の到達目標＞
1. 社会人として求められる基本的な行動基準を理解し、自らの言葉で説明できること。2. IPU五訓の内容を具体的な行動と結びつけて解釈できること。3. 自己の行動を振り返り、改善に向けた課題を自覚できること。4. 自身の価値観に基づいた行動指針（Myルール）を形成できること。

＜授業の方法＞
本授業は講義形式を基本としつつ、ペアワークやグループディスカッション、短時間のリフレクション活動を組み合わせて実施する。各回において具体的な事例や日常場面を取り上げ、学生が自ら考え、言語化する機会を重視する。また、ルーブリックを活用した自己評価を継続的に行い、学習内容の内在化を促す。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有りペアワークやグループディスカッション、短時間のリフレクション活動を組み合わせて実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業ごとにリフレクションペーパーが課せられる。（1時間程度を想定）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
各回の授業内課題・演習への取り組み・・・30%レポートなどの課題への取り組み・・・50%発表・演習時の独自の観点や貢献度・・・20%

＜教科書＞
なし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス：「社会人-4.0とは何か」	本授業の導入として、「社会人-4.0」という概念を提示し、大学生から社会人への移行において求められる行動基準について理解する。あわせて、社会人として期待される役割や責任の基本構造を整理し、本授業全体の位置づけを確認する。さらに、自己の現状を振り返り、理想とする社会人像を言語化することで、今後の学習の方向性を明確にする。
2	ルールとマナーの意味	社会におけるルールやマナーの役割について、歴史的および文化的背景を踏まえて理解する。マナーを単なる形式として捉えるのではなく、他者との摩擦を減らし円滑な関係を築くための機能として再解釈する。具体例をもとに、マナーの「意味」と「目的」を考察し、状況に応じた適切な行動選択の重要性を理解する。
3	講話①	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
4	【オンデマンド週】IPU五訓① 礼節	IPU五訓の一つである「礼節」について、その本質的な意味を理解する。礼節を上下関係の表現としてではなく、他者との関係性を尊重し信頼を築くための行動として捉える。非言語コミュニケーションや第一印象の形成との関連を踏まえ、具体的な場面における適切な振る舞いについて考察する。
5	IPU五訓② 克己	「克己」をテーマに、目標達成に向けた自己管理や習慣形成の重要性について理解する。自分に甘くなる心理的要因や行動の継続が難しい理由を整理し、それを乗り越えるための工夫について考察する。日常生活における具体的な行動改善の計画を立て、実践につなげる視点を養う。

6	IPU五訓③ 信頼	五訓における「信頼」を、個人の行動だけでなく他者との関係性の中で捉え直す。協働やチーム活動において信頼がどのように形成されるかを理解し、相互依存の重要性について考察する。具体的な協働場面を想定し、信頼を築くための行動や態度について検討する。
7	IPU五訓④ 前進	「前進」をテーマに、困難や失敗に直面した際の捉え方と行動について理解する。失敗を否定的に捉えるのではなく、学習や成長の機会として再解釈する視点を養う。挑戦を継続することの意義や、粘り強く取り組む姿勢について具体例を通じて考察する。
8	IPU五訓⑤ 感謝	「感謝」を中心に、自己が他者や社会の支えの中で成り立っていることを理解する。感謝の気持ちが人間関係や信頼の形成に与える影響について考察し、利他的な行動の意義を学ぶ。日常生活における感謝の表現とその効果について具体的に検討する。
9	講話②	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
10	社会人-4.0と五訓	これまでに扱った社会人-4.0の基準とIPU五訓の内容を統合的に整理する。それぞれの概念がどのように関連し合い、具体的な行動として表れるのかを構造的に理解する。自らの価値観と照らし合わせながら、行動指針としての整理を行う。
11	常識を相対化する	世の中には「常識」と思われること、自分にとっては「常識」と思われることがある。しかし、一方で、それは人によっては「常識」ではない場合がある。このように、世の中にある常識に目を向け、それがなぜ「常識」と言えるのか、他の人はどう感じているのかについて、グループで話し合う。
12	講話③	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
13	学科交流会①	日本人学生・留学生の枠を超えて、文化的な交流会を行う。「食」を題材に、それぞれの地域の食文化について学びあう。
14	学科交流会②	日本人学生・留学生の枠を超えて、文化的な交流会を行う。「マナー」を題材に、他文化の生活について学びあう。
15		
16		

科目コード	13100				区　分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	北村　和久			
配当年次	1年	配当学期	第１・第２クオーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業では新入生を「社会人-4.0」と位置付け、4年後に即戦力で組織に貢献できる人材になるための基礎的なリテラシー形成を目指す。特に、本学が掲げる「IPU五訓（礼節・克己・信頼・前進・感謝）」を軸として、それぞれの意味を単なる理念としてではなく、社会における行動原理として捉え直すことを重視する。学生は、ルーブリックを用いた自己評価と振り返りを通じて、自らの行動を客観的に見つめ、改善していく姿勢を身につける。【PC・スマホ・筆記用具必須】なお、マナー研修の一環として、指定された日にはスーツ・革靴の着用を必須

＜授業の到達目標＞
1. 社会人として求められる基本的な行動基準を理解し、自らの言葉で説明できること。2. IPU五訓の内容を具体的な行動と結びつけて解釈できること。3. 自己の行動を振り返り、改善に向けた課題を自覚できること。4. 自身の価値観に基づいた行動指針（Myルール）を形成できること。

＜授業の方法＞
本授業は講義形式を基本としつつ、ペアワークやグループディスカッション、短時間のリフレクション活動を組み合わせて実施する。各回において具体的な事例や日常場面を取り上げ、学生が自ら考え、言語化する機会を重視する。また、ルーブリックを活用した自己評価を継続的に行い、学習内容の内在化を促す。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有りペアワークやグループディスカッション、短時間のリフレクション活動を組み合わせて実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業ごとにリフレクションペーパーが課せられる。（1時間程度を想定）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
各回の授業内課題・演習への取り組み・・・30%レポートなどの課題への取り組み・・・50%発表・演習時の独自の観点や貢献度・・・20%

＜教科書＞
なし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス：「社会人-4.0とは何か」	本授業の導入として、「社会人-4.0」という概念を提示し、大学生から社会人への移行において求められる行動基準について理解する。あわせて、社会人として期待される役割や責任の基本構造を整理し、本授業全体の位置づけを確認する。さらに、自己の現状を振り返り、理想とする社会人像を言語化することで、今後の学習の方向性を明確にする。
2	ルールとマナーの意味	社会におけるルールやマナーの役割について、歴史的および文化的背景を踏まえて理解する。マナーを単なる形式として捉えるのではなく、他者との摩擦を減らし円滑な関係を築くための機能として再解釈する。具体例をもとに、マナーの「意味」と「目的」を考察し、状況に応じた適切な行動選択の重要性を理解する。
3	講話①	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
4	【オンデマンド週】IPU五訓① 礼節	IPU五訓の一つである「礼節」について、その本質的な意味を理解する。礼節を上下関係の表現としてではなく、他者との関係性を尊重し信頼を築くための行動として捉える。非言語コミュニケーションや第一印象の形成との関連を踏まえ、具体的な場面における適切な振る舞いについて考察する。
5	IPU五訓② 克己	「克己」をテーマに、目標達成に向けた自己管理や習慣形成の重要性について理解する。自分に甘くなる心理的要因や行動の継続が難しい理由を整理し、それを乗り越えるための工夫について考察する。日常生活における具体的な行動改善の計画を立て、実践につなげる視点を養う。

6	IPU五訓③ 信頼	五訓における「信頼」を、個人の行動だけでなく他者との関係性の中で捉え直す。協働やチーム活動において信頼がどのように形成されるかを理解し、相互依存の重要性について考察する。具体的な協働場面を想定し、信頼を築くための行動や態度について検討する。
7	IPU五訓④ 前進	「前進」をテーマに、困難や失敗に直面した際の捉え方と行動について理解する。失敗を否定的に捉えるのではなく、学習や成長の機会として再解釈する視点を養う。挑戦を継続することの意義や、粘り強く取り組む姿勢について具体例を通じて考察する。
8	IPU五訓⑤ 感謝	「感謝」を中心に、自己が他者や社会の支えの中で成り立っていることを理解する。感謝の気持ちが人間関係や信頼の形成に与える影響について考察し、利他的な行動の意義を学ぶ。日常生活における感謝の表現とその効果について具体的に検討する。
9	講話②	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
10	社会人-4.0と五訓	これまでに扱った社会人-4.0の基準とIPU五訓の内容を統合的に整理する。それぞれの概念がどのように関連し合い、具体的な行動として表れるのかを構造的に理解する。自らの価値観と照らし合わせながら、行動指針としての整理を行う。
11	常識を相対化する	世の中には「常識」と思われること、自分にとっては「常識」と思われることがある。しかし、一方で、それは人によっては「常識」ではない場合がある。このように、世の中にある常識に目を向け、それがなぜ「常識」と言えるのか、他の人はどう感じているのかについて、グループで話し合う。
12	講話③	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
13	学科交流会①	日本人学生・留学生の枠を超えて、文化的な交流会を行う。「食」を題材に、それぞれの地域の食文化について学びあう。
14	学科交流会②	日本人学生・留学生の枠を超えて、文化的な交流会を行う。「マナー」を題材に、他文化の生活について学びあう。
15		
16		

科目コード	13100				区　分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	平岡　師玄哉			
配当年次	1年	配当学期	第１・第２クオーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業では新入生を「社会人-4.0」と位置付け、4年後に即戦力で組織に貢献できる人材になるための基礎的なリテラシー形成を目指す。特に、本学が掲げる「IPU五訓（礼節・克己・信頼・前進・感謝）」を軸として、それぞれの意味を単なる理念としてではなく、社会における行動原理として捉え直すことを重視する。学生は、ルーブリックを用いた自己評価と振り返りを通じて、自らの行動を客観的に見つめ、改善していく姿勢を身につける。【PC・スマホ・筆記用具必須】なお、マナー研修の一環として、指定された日にはスーツ・革靴の着用を必須

＜授業の到達目標＞
1. 社会人として求められる基本的な行動基準を理解し、自らの言葉で説明できること。2. IPU五訓の内容を具体的な行動と結びつけて解釈できること。3. 自己の行動を振り返り、改善に向けた課題を自覚できること。4. 自身の価値観に基づいた行動指針（Myルール）を形成できること。

＜授業の方法＞
本授業は講義形式を基本としつつ、ペアワークやグループディスカッション、短時間のリフレクション活動を組み合わせて実施する。各回において具体的な事例や日常場面を取り上げ、学生が自ら考え、言語化する機会を重視する。また、ルーブリックを活用した自己評価を継続的に行い、学習内容の内在化を促す。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有りペアワークやグループディスカッション、短時間のリフレクション活動を組み合わせて実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業ごとにリフレクションペーパーが課せられる。（1時間程度を想定）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
各回の授業内課題・演習への取り組み・・・30%レポートなどの課題への取り組み・・・50％発表・演習時の独自の観点や貢献度・・・20%

＜教科書＞
なし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス：「社会人-4.0とは何か」	本授業の導入として、「社会人-4.0」という概念を提示し、大学生から社会人への移行において求められる行動基準について理解する。あわせて、社会人として期待される役割や責任の基本構造を整理し、本授業全体の位置づけを確認する。さらに、自己の現状を振り返り、理想とする社会人像を言語化することで、今後の学習の方向性を明確にする。
2	ルールとマナーの意味	社会におけるルールやマナーの役割について、歴史的および文化的背景を踏まえて理解する。マナーを単なる形式として捉えるのではなく、他者との摩擦を減らし円滑な関係を築くための機能として再解釈する。具体例をもとに、マナーの「意味」と「目的」を考察し、状況に応じた適切な行動選択の重要性を理解する。
3	講話①	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
4	【オンデマンド週】IPU五訓① 礼節	IPU五訓の一つである「礼節」について、その本質的な意味を理解する。礼節を上下関係の表現としてではなく、他者との関係性を尊重し信頼を築くための行動として捉える。非言語コミュニケーションや第一印象の形成との関連を踏まえ、具体的な場面における適切な振る舞いについて考察する。
5	IPU五訓② 克己	「克己」をテーマに、目標達成に向けた自己管理や習慣形成の重要性について理解する。自分に甘くなる心理的要因や行動の継続が難しい理由を整理し、それを乗り越えるための工夫について考察する。日常生活における具体的な行動改善の計画を立て、実践につなげる視点を養う。

6	IPU五訓③ 信頼	五訓における「信頼」を、個人の行動だけでなく他者との関係性の中で捉え直す。協働やチーム活動において信頼がどのように形成されるかを理解し、相互依存の重要性について考察する。具体的な協働場面を想定し、信頼を築くための行動や態度について検討する。
7	IPU五訓④ 前進	「前進」をテーマに、困難や失敗に直面した際の捉え方と行動について理解する。失敗を否定的に捉えるのではなく、学習や成長の機会として再解釈する視点を養う。挑戦を継続することの意義や、粘り強く取り組む姿勢について具体例を通じて考察する。
8	IPU五訓⑤ 感謝	「感謝」を中心に、自己が他者や社会の支えの中で成り立っていることを理解する。感謝の気持ちが人間関係や信頼の形成に与える影響について考察し、利他的な行動の意義を学ぶ。日常生活における感謝の表現とその効果について具体的に検討する。
9	講話②	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
10	社会人-4.0と五訓	これまでに扱った社会人-4.0の基準とIPU五訓の内容を統合的に整理する。それぞれの概念がどのように関連し合い、具体的な行動として表れるのかを構造的に理解する。自らの価値観と照らし合わせながら、行動指針としての整理を行う。
11	常識を相対化する	世の中には「常識」と思われること、自分にとっては「常識」と思われることがある。しかし、一方で、それは人によっては「常識」ではない場合がある。このように、世の中にある常識に目を向け、それがなぜ「常識」と言えるのか、他の人はどう感じているのかについて、グループで話し合う。
12	講話③	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
13	学科交流会①	日本人学生・留学生の枠を超えて、文化的な交流会を行う。「食」を題材に、それぞれの地域の食文化について学びあう。
14	学科交流会②	日本人学生・留学生の枠を超えて、文化的な交流会を行う。「マナー」を題材に、他文化の生活について学びあう。
15		
16		

科目コード	13100				区　分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	溝越　隆興			
配当年次	1年	配当学期	第１・第２クオーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業では新入生を「社会人-4.0」と位置付け、4年後に即戦力で組織に貢献できる人材になるための基礎的なリテラシー形成を目指す。特に、本学が掲げる「IPU五訓（礼節・克己・信頼・前進・感謝）」を軸として、それぞれの意味を単なる理念としてではなく、社会における行動原理として捉え直すことを重視する。学生は、ルーブリックを用いた自己評価と振り返りを通じて、自らの行動を客観的に見つめ、改善していく姿勢を身につける。【PC・スマホ・筆記用具必須】なお、マナー研修の一環として、指定された日にはスーツ・革靴の着用を必須

＜授業の到達目標＞
1. 社会人として求められる基本的な行動基準を理解し、自らの言葉で説明できること。2. IPU五訓の内容を具体的な行動と結びつけて解釈できること。3. 自己の行動を振り返り、改善に向けた課題を自覚できること。4. 自身の価値観に基づいた行動指針（Myルール）を形成できること。

＜授業の方法＞
本授業は講義形式を基本としつつ、ペアワークやグループディスカッション、短時間のリフレクション活動を組み合わせて実施する。各回において具体的な事例や日常場面を取り上げ、学生が自ら考え、言語化する機会を重視する。また、ルーブリックを活用した自己評価を継続的に行い、学習内容の内在化を促す。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有りペアワークやグループディスカッション、短時間のリフレクション活動を組み合わせて実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業ごとにリフレクションペーパーが課せられる。（1時間程度を想定）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
各回の授業内課題・演習への取り組み・・・30%レポートなどの課題への取り組み・・・50％発表・演習時の独自の観点や貢献度・・・20%

＜教科書＞
なし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス：「社会人-4.0とは何か」	本授業の導入として、「社会人-4.0」という概念を提示し、大学生から社会人への移行において求められる行動基準について理解する。あわせて、社会人として期待される役割や責任の基本構造を整理し、本授業全体の位置づけを確認する。さらに、自己の現状を振り返り、理想とする社会人像を言語化することで、今後の学習の方向性を明確にする。
2	ルールとマナーの意味	社会におけるルールやマナーの役割について、歴史的および文化的背景を踏まえて理解する。マナーを単なる形式として捉えるのではなく、他者との摩擦を減らし円滑な関係を築くための機能として再解釈する。具体例をもとに、マナーの「意味」と「目的」を考察し、状況に応じた適切な行動選択の重要性を理解する。
3	講話①	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
4	【オンデマンド週】IPU五訓① 礼節	IPU五訓の一つである「礼節」について、その本質的な意味を理解する。礼節を上下関係の表現としてではなく、他者との関係性を尊重し信頼を築くための行動として捉える。非言語コミュニケーションや第一印象の形成との関連を踏まえ、具体的な場面における適切な振る舞いについて考察する。
5	IPU五訓② 克己	「克己」をテーマに、目標達成に向けた自己管理や習慣形成の重要性について理解する。自分に甘くなる心理的要因や行動の継続が難しい理由を整理し、それを乗り越えるための工夫について考察する。日常生活における具体的な行動改善の計画を立て、実践につなげる視点を養う。

6	IPU五訓③ 信頼	五訓における「信頼」を、個人の行動だけでなく他者との関係性の中で捉え直す。協働やチーム活動において信頼がどのように形成されるかを理解し、相互依存の重要性について考察する。具体的な協働場面を想定し、信頼を築くための行動や態度について検討する。
7	IPU五訓④ 前進	「前進」をテーマに、困難や失敗に直面した際の捉え方と行動について理解する。失敗を否定的に捉えるのではなく、学習や成長の機会として再解釈する視点を養う。挑戦を継続することの意義や、粘り強く取り組む姿勢について具体例を通じて考察する。
8	IPU五訓⑤ 感謝	「感謝」を中心に、自己が他者や社会の支えの中で成り立っていることを理解する。感謝の気持ちが人間関係や信頼の形成に与える影響について考察し、利他的な行動の意義を学ぶ。日常生活における感謝の表現とその効果について具体的に検討する。
9	講話②	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
10	社会人-4.0と五訓	これまでに扱った社会人-4.0の基準とIPU五訓の内容を統合的に整理する。それぞれの概念がどのように関連し合い、具体的な行動として表れるのかを構造的に理解する。自らの価値観と照らし合わせながら、行動指針としての整理を行う。
11	常識を相対化する	世の中には「常識」と思われること、自分にとっては「常識」と思われることがある。しかし、一方で、それは人によっては「常識」ではない場合がある。このように、世の中にある常識に目を向け、それがなぜ「常識」と言えるのか、他の人はどう感じているのかについて、グループで話し合う。
12	講話③	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
13	学科交流会①	日本人学生・留学生の枠を超えて、文化的な交流会を行う。「食」を題材に、それぞれの地域の食文化について学びあう。
14	学科交流会②	日本人学生・留学生の枠を超えて、文化的な交流会を行う。「マナー」を題材に、他文化の生活について学びあう。
15		
16		

科目コード	13100				区　分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー [再履修][週間オンデマンド]				担当者名	早田　剛			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの

＜授業の到達目標＞

本授業は、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、２年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台つくりを目的とする。毎時の講話を通して、以下をこの授業の到達目標とする。①IPU生・社会人・体育人としての考え方、態度を身につけることができる。②五訓、特に「前進力」を高めることができる。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につけること

＜授業の方法＞

1．講義（メンターやゲストスピーカー等による講話）2．グループワーク3．省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニング無し

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前課題（1時間）　復習：テーマに即したレポートの作成（1時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度(身だしなみ・ディスカッションや演習への取り組み態度等) 30%、小課題① 50%（レポート・基礎学力課題）、課題②（発表等）20%

＜教科書＞

吉原 惠子（著），間渕 泰尚（著），冨江 英俊（著），小針 誠（著）(2017/10/10)　スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル　実教出版

＜参考書＞

特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス・大学の方針・創志学園の歴史	大学の目的・意義・建学の理念を理解する。再履修にあたっての意識改革と、本授業のゴール（社会人基礎力の獲得）の共有。
2	IPU生としてのアイデンティティ	「五訓」を再定義し、現在の自分に不足している要素を客観的に分析する。
3	社会人基礎力とは	経済産業省が定義する「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を学ぶ。
4	「前進力」の養成	過去の停滞をどのように打破し、残り半分の大学生活をどうデザインするか。
5	文章読解の基礎	論理的な文章の構造（序論・本論・結論）を理解し、要旨を正確に捉える。
6	クリティカル・リーディング	提示された資料から事実と意見を区別し、多角的な視点で情報を読み解く。
7	文章作成のルール	報告書やメールなど、社会人として恥ずかしくない正しい日本語表記と敬語。
8	論理的プレゼンテーション	自分の考えを「PREP法（結論・理由・具体例・結論）」を用いて構成する。
9	進路選びの土台作り	2年次のキャリアディベロップメントを見据えた、自己分析と業界研究の端緒。
10	妥協しない進路選択	「自分に自信を持つ」とはどういうことか。成功体験の言語化ワーク。
11	知的言語活動の実践	社会的なニュースを題材に、自分の意見を400字～600字で論理的に記述する。
12	体育人としての態度と礼節	スポーツを通じて培った力を、いかにビジネスや教育の現場で言語化して伝えるか。
13	文章作成力の最終確認	1年間の振り返りと今後の決意を、説得力のある小論文としてまとめる。
14	最終総括	講話全体の振り返り。社会人へのステップアップに向けた個人目標の発表。
15		

16		

科目コード	13100				区　分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー BC26秋入学生用				担当者名	溝越　隆興／李　辰鰲／宇都宮　浩司			
配当年次	1年	配当学期	第３・第４クオーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業では新入生を「社会人-4.0」と位置付け、4年後に即戦力で組織に貢献できる人材になるための基礎的なリテラシー形成を目指す。特に、本学が掲げる「IPU五訓（礼節・克己・信頼・前進・感謝）」を軸として、それぞれの意味を単なる理念としてではなく、社会における行動原理として捉え直すことを重視する。学生は、ルーブリックを用いた自己評価と振り返りを通じて、自らの行動を客観的に見つめ、改善していく姿勢を身につける。【PC・スマホ・筆記用具必須】なお、マナー研修の一環として、指定された日にはスーツ・革靴の着用を必須

＜授業の到達目標＞
1. 社会人として求められる基本的な行動基準を理解し、自らの言葉で説明できること。2. IPU五訓の内容を具体的な行動と結びつけて解釈できること。3. 自己の行動を振り返り、改善に向けた課題を自覚できること。4. 自身の価値観に基づいた行動指針（Myルール）を形成できること。

＜授業の方法＞
本授業は講義形式を基本としつつ、ペアワークやグループディスカッション、短時間のリフレクション活動を組み合わせて実施する。各回において具体的な事例や日常場面を取り上げ、学生が自ら考え、言語化する機会を重視する。また、ルーブリックを活用した自己評価を継続的に行い、学習内容の内在化を促す。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有りペアワークやグループディスカッション、短時間のリフレクション活動を組み合わせて実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業ごとにリフレクションペーパーが課せられる。（1時間程度を想定）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
各回の授業内課題・演習への取り組み・・・30%レポートなどの課題への取り組み・・・50%発表・演習時の独自の観点や貢献度・・・20%

＜教科書＞
なし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス：「社会人-4.0とは何か」	本授業の導入として、「社会人-4.0」という概念を提示し、大学生から社会人への移行において求められる行動基準について理解する。あわせて、社会人として期待される役割や責任の基本構造を整理し、本授業全体の位置づけを確認する。さらに、自己の現状を振り返り、理想とする社会人像を言語化することで、今後の学習の方向性を明確にする。
2	ルールとマナーの意味	社会におけるルールやマナーの役割について、歴史的および文化的背景を踏まえて理解する。マナーを単なる形式として捉えるのではなく、他者との摩擦を減らし円滑な関係を築くための機能として再解釈する。具体例をもとに、マナーの「意味」と「目的」を考察し、状況に応じた適切な行動選択の重要性を理解する。
3	講話①	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
4	【オンデマンド週】IPU五訓① 礼節	IPU五訓の一つである「礼節」について、その本質的な意味を理解する。礼節を上下関係の表現としてではなく、他者との関係性を尊重し信頼を築くための行動として捉える。非言語コミュニケーションや第一印象の形成との関連を踏まえ、具体的な場面における適切な振る舞いについて考察する。
5	IPU五訓② 克己	「克己」をテーマに、目標達成に向けた自己管理や習慣形成の重要性について理解する。自分に甘くなる心理的要因や行動の継続が難しい理由を整理し、それを乗り越えるための工夫について考察する。日常生活における具体的な行動改善の計画を立て、実践につなげる視点を養う。

6	IPU五訓③ 信頼	五訓における「信頼」を、個人の行動だけでなく他者との関係性の中で捉え直す。協働やチーム活動において信頼がどのように形成されるかを理解し、相互依存の重要性について考察する。具体的な協働場面を想定し、信頼を築くための行動や態度について検討する。
7	IPU五訓④ 前進	「前進」をテーマに、困難や失敗に直面した際の捉え方と行動について理解する。失敗を否定的に捉えるのではなく、学習や成長の機会として再解釈する視点を養う。挑戦を継続することの意義や、粘り強く取り組む姿勢について具体例を通じて考察する。
8	IPU五訓⑤ 感謝	「感謝」を中心に、自己が他者や社会の支えの中で成り立っていることを理解する。感謝の気持ちが人間関係や信頼の形成に与える影響について考察し、利他的な行動の意義を学ぶ。日常生活における感謝の表現とその効果について具体的に検討する。
9	講話②	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
10	社会人-4.0と五訓	これまでに扱った社会人-4.0の基準とIPU五訓の内容を統合的に整理する。それぞれの概念がどのように関連し合い、具体的な行動として表れるのかを構造的に理解する。自らの価値観と照らし合わせながら、行動指針としての整理を行う。
11	常識を相対化する	世の中には「常識」と思われること、自分にとっては「常識」と思われることがある。しかし、一方で、それは人によっては「常識」ではない場合がある。このように、世の中にある常識に目を向け、それがなぜ「常識」と言えるのか、他の人はどう感じているのかについて、グループで話し合う。
12	講話③	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
13	学科交流会①	日本人学生・留学生の枠を超えて、文化的な交流会を行う。「食」を題材に、それぞれの地域の食文化について学びあう。
14	学科交流会②	日本人学生・留学生の枠を超えて、文化的な交流会を行う。「マナー」を題材に、他文化の生活について学びあう。
15		
16		

科目コード	13101				区　分	コア科目		
授業 科目名	日本国憲法				担当者名	松井　春樹		
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
「憲法と法律の違いは何か分かりますか。憲法は何のためにありますか。」この問いに答えるある方の授業を聞いて、私は弁護士を目指すことを決めました。本講義は、日本国憲法の解釈論の基本を学ぶとともに、先ほどの問いが示すような立憲的なものの見方を習得することを目標とします。憲法の講義は法律科目の中では扱うテーマが抽象的になりがちなのですが、なるべく具体的なケースに引き寄せて分かりやすく理解していただけるように心がけます。また、筆者は現役の弁護士で司法試験始め試験勉強にはかなり向き合ってきたので、その経験も活かして各

＜授業の到達目標＞
①憲法の基本的な考え方を踏まえて、立憲的な観点で社会を見れるようになることと、②各種公務員試験等の勉強を進める上での基本的な素養を獲得していることを目標とします。

＜授業の方法＞
授業は、演習と授業を組み合わせた形式で行います。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
講師の用意した具体的なケースを授業時間内に検討してもらった上で、そのケースを素材に参加者の発言も求めながら、話を進めていく予定です。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
集中講義ですので、予習復習は不要です。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
定期試験（70%）、出欠及び授業態度（30%）により成績評価を行います。

＜教科書＞
芦部信喜編・ 高橋和之補訂（2023年9月）　『憲法 第八版』　岩波書店

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	講義概要および教材説明
2	日本国憲法の成立と基本原理	憲法とはなにか、立憲的なものの考え方について学びます。
3	天皇と国民主権	天皇制と国民主権について学びます。
4	平和主義	我が国の平和主義の歴史的沿革や意義について学びます。
5	基本的人権	基本的人権とは意義および内容について学びます。
6	個人の尊重と幸福追求権	個人の尊重と幸福追求権の内容について学びます。
7	法の下の平等	近代憲法の基本原則である法の下の平等とはなにかついて学びます。
8	自由権①表現の自由	各種自由権の内容・制限について学びます。
9	自由権②経済的自由	各種自由権の内容・制限について学びます。
10	社会権	社会権の内容、制限について学びます。
11	参政権・国務請求権	国民が国の政治に直接・間接に参与できる権利について学びます。
12	国会・内閣・裁判所	統治機構の全体像について学びます。
13	地方自治	地方公共団体の政治が国の関与によらず住民の意思に基づいて行われることを学びます。
14	全体総括	これまでの授業内容の要点およびまとめ
15		
16		

科目コード	13101				区　分	教養科目			
授業科目名	日本国憲法［教員免許希望者用週間オンデマンド］				担当者名	沖野　大輔			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
人間が幸せに生きていくためには､お互いの権利を尊重しあうことが大切です｡現に存在する様々な人権課題について具体的に学び、考えることができる力を身に付けいくにはどのようにしたら良いか考えていきます。

＜授業の到達目標＞
①人間が所有する権利の種類を説明することができる｡②自分と他者の権利を尊重するためにはどのようにしたら良いか考えることができる。③人権を侵害した時の対処方法を説明することができる。

＜授業の方法＞
講義方式で進行する。教科書を使用せず、必要に応じてレジュメを配布する。授業の最後に課題を提出する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
日々の生活の中で新聞やニュースを閲覧することにより、人間の困りごとを利用するように努めること。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
単元ごとに課題を提出する（4回×15点＝60点）、最終回の課題（40点）課題の提出については，単元ごとにフィートバックを行う

＜教科書＞
使用しない

＜参考書＞
神村早織、森実(2019)　人権教育への招待:ダイバーシティの未来をひらく　解放出版社
森実(2013)　知っていますか?人権教育一問一答第2版(知っていますか?一問一答シリーズ)　解放出版社
岩満賢次（2023）　社会連携要論　DTP出版

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	総論	人権を守る仕組みとしての社会保障の仕組み(世界人権宣言、日本国憲法)
2	障害者と人権①	障害者と権利保障
3	障害者と人権②	障害者の地域生活
4	障害者と人権③	特別支援教育とインクルーシブ教育
5	高齢者と人権①	高齢者への人権保障
6	高齢者と人権②	要介護者への支援の保障
7	高齢者と人権③	要介護者のための支援保障
8	子どもと人権①	子どもへの権利保障
9	子どもと人権②	子育てとその支援の保障
10	子どもと人権③	子どもの取り巻く環境の変化とその生活保障
11	若者と人権①	ひきこもり状態のある人の生活保障
12	若者と人権②	労働中の事故の保障
13	若者と人権③	みんなが幸せに生きていくための福祉教育を考える
14	講義のまとめ	講義全体を通じて，人権保障のあり方と教育への導入を考える
15		
16		

科目コード	13103				区　分	教養科目			
授業科目名	日本の伝統文化［A]定員40抽選あり				担当者名	藤原　章楷			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
日本の伝統文化は幅広く、伝統行事や伝統芸能の分野も包含される中で、その歴史、現状と課題、将来展望等について、体験を交えながら精神構造も含めて考察し、理解を深める。

＜授業の到達目標＞
SDGｓに無いものが「文化」であり、特に日本の伝統文化の幅広さや奥深さを理解し、その一端を具体的に話すことができる。

＜授業の方法＞
日本の伝統文化を深く理解するためにア　「書道」の用具の重要性を学び、毛筆を用いて「半紙」に表現するイ　「備前焼」や「後楽園」など、岡山の伝統文化についても学ぶ＜ICT活用した双方向授業や自主学習支援の有無、活用する場合はその方法＞必要に応じて、パワーポイントで資料提供

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習：各テーマの理解を深めるために、書籍、あるいはインターネットなどを活用して、事前学習をしておくことが望ましい。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー５（異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
講義後の課題提出（講義１～４、８～13回で各５％）、（講義５～７書道作品提出で２０％）、講義最終14回目の試験３０％

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	日本の伝統文化概論(1)	芸道、芸能、衣食住、伝統行事等の「日本の伝統文化」の概括説明
2	日本の伝統文化概論(2)	伝統文化とスポーツ。剣道、弓道、相撲、水泳と素材（木・竹など）
3	陶芸(陶器・磁器)	岡山の備前焼など
4	書道(1)	書道概論、文房四宝などの用具・用材の説明、毛筆による体験(半紙にひらかな、カタカナを書く)
5	書道(2)	毛筆による体験（半紙に漢字を書く、楷書・行書）
6	書道(3)	毛筆による体験（半紙に創作表現）
7	後楽園	回遊式庭園美、構造物（延養亭、茶室、能舞台）、茶園、鶴、馬場。盆栽
8	伝統工芸	染織・人形・陶芸・工芸（金工、木竹工）など。民芸
9	祭り(1)	ひな祭り、花見、夏祭り（花火）と盆踊り、山車。民謡、下津井節
10	祭り(2)	出初め・消火、朝鮮通信使、神楽、西大寺会陽、ソーラン節・エイサー。
11	食	稲作。日本酒、発酵、伝統的な行事と食。和食。箸（マイ箸）
12	正月関連の伝統行事	餅つき、年越しそばと雑煮。門松、年賀状、コマ回し、書初め
13	伝統文学	俳句、川柳。芭蕉・蕪村・一茶、良寛
14	伝統文化の将来展望	後継者、素材。日本の理解を深めるツールとしての伝統文化、試験
15		
16		

科目コード	13103				区　分	教養科目			
授業科目名	日本の伝統文化 [B]定員40抽選あり				担当者名	藤原　章楷			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
日本の伝統文化は幅広く、伝統行事や伝統芸能の分野も包含される中で、その歴史、現状と課題、将来展望等について、体験を交えながら精神構造も含めて考察し、理解を深める。

＜授業の到達目標＞
SDGｓに無いものが「文化」であり、特に日本の伝統文化の幅広さや奥深さを理解し、その一端を具体的に話すことができる。

＜授業の方法＞
日本の伝統文化を深く理解するためにア　「書道」の用具の重要性を学び、毛筆を用いて「半紙」に表現するイ　「備前焼」や「後楽園」など、岡山の伝統文化についても学ぶ＜ICT活用した双方向授業や自主学習支援の有無、活用する場合はその方法＞必要に応じて、パワーポイントで資料提供

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習：各テーマの理解を深めるために、書籍、あるいはインターネットなどを活用して、事前学習をしておくことが望ましい。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー５（異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
講義後の課題提出（講義１～４、８～13回で各５％）、（講義５～７書道作品提出で２０％）、講義最終14回目の試験３０％

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	日本の伝統文化概論(1)	芸道、芸能、衣食住、伝統行事等の「日本の伝統文化」の概括説明
2	日本の伝統文化概論(2)	伝統文化とスポーツ。剣道、弓道、相撲、水泳と素材（木・竹など）
3	陶芸(陶器・磁器)	岡山の備前焼など
4	書道(1)	書道概論、文房四宝などの用具・用材の説明、毛筆による体験(半紙にひらかな、カタカナを書く)
5	書道(2)	毛筆による体験（半紙に漢字を書く、楷書・行書）
6	書道(3)	毛筆による体験（半紙に創作表現）
7	後楽園	回遊式庭園美、構造物（延養亭、茶室、能舞台）、茶園、鶴、馬場。盆栽
8	伝統工芸	染織・人形・陶芸・工芸（金工、木竹工）など。民芸
9	祭り(1)	ひな祭り、花見、夏祭り（花火）と盆踊り、山車。民謡、下津井節
10	祭り(2)	出初め・消火、朝鮮通信使、神楽、西大寺会陽、ソーラン節・エイサー。
11	食	稲作。日本酒、発酵、伝統的な行事と食。和食。箸（マイ箸）
12	正月関連の伝統行事	餅つき、年越しそばと雑煮。門松、年賀状、コマ回し、書初め
13	伝統文学	俳句、川柳。芭蕉・蕪村・一茶、良寛
14	伝統文化の将来展望	後継者、素材。日本の理解を深めるツールとしての伝統文化、試験
15		
16		

科目コード	13107				区　分	教養科目			
授業科目名	近現代史［週間オンデマンド］				担当者名	小川　正人			
配当年次	3年	配当学期	第3・第4クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

昭和期の日本は、戦争とその後の復興を経て、世界でも有数の経済大国へと成長しました。本授業では、この激動の時代を振り返りながら、「世界の中の日本」「アジアの中の日本」という視点から考えていきます。とくに、戦後復興の象徴の一つである1970年の大阪万国博覧会に注目し、戦後から昭和期、そして1970年代から1980年代にかけての歴史について理解を深めていく力を養っていきます。

＜授業の到達目標＞

1970年に開催された大阪万国博覧会が、現代の社会や私たちの生活にどのような影響を与えてきたのかを考えます。また、2025年に開催された大阪・関西万博と比較することで、時代の変化や社会課題の移り変わりについて、さまざまな視点から考えることができることを目標としています。

＜授業の方法＞

本授業はオンデマンド形式で行います。各回のテーマに沿った課題は、Google Classroomを通して期限までに提出してください。質問がある場合は、担当教員のメール、またはGoogle Classroomのコメント機能を利用して、気軽に連絡してください。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

本授業はオンデマンド形式のため、対面でのアクティブラーニングは行いませんが、各回の課題や学習を通して主体的に考える機会を大切にしていきます。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業の内容をよりよく理解するために、指定された課題について事前に調べて準備しておきましょう。予習・復習には、それぞれ1時間程度を目安に取り組むことをおすすめします。また、授業の内容に関連して、歴史だけでなく国内外のニュースにも目を向け、継続して関心を持つようにしていきましょう。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は全学共通教養科目であり、大学のディプロマ・ポリシーのうち（3）課題解決のために最先端かつ高度な知識・技能を活用できること（4）地域社会や産業界の課題を発見し協働を通して社会変革に参画できることに関連づけられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績は、授業への参加や態度（40%）と、授業課題（60%）をもとに評価します。課題にはおおよそ1週間の提出期間を設けますので、計画的に取り組んでください。なお、提出期限を過ぎた課題は評価の対象となりませんので、締切には十分注意しましょう。また、課題の提出をもって出席とします。未提出や期限後の提出は欠席扱いとなるため、忘れずに提出するようにしてください。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業・シラバス説明
2	歴史とは？歴史を学ぶ意味とは？	歴史を学ぶ意味とは？
3	1970年代～1980年代を振り返る（1）	1970年大阪万博
4	1970年代～1980年代を振り返る（2）	1970年大阪万博で生まれたもの：携帯電話
5	1970年代～1980年代を振り返る（3）	万博から生まれたもの：明治ブルガリアヨーグルト・UCC缶コーヒー・ファストフード
6	1970年代～1980年代を振り返る（4）	学生運動・学生闘争
7	1970年代～1980年代を振り返る（5）	流通業界の変遷
8	1970年代～1980年代を振り返る（6）	流行の変遷
9	1970年代～1980年代を振り返る（7）	韓流ブームの変遷
10	1970年代～1980年代を振り返る（8）	音楽の変遷
11	1970年代～1980年代を振り返る（9）	三島由紀夫の人生
12	1970年代～1980年代を振り返る（10）	時代と宗教（1）
13	1970年代～1980年代を振り返る（11）	時代と宗教（2）
14	1970年代～1980年代を振り返る（12）	自然災害の歴史
15		
16		

科目コード	13200				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント［BC再履修者用］				担当者名	宇都宮　浩司			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第３・第４クオーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業では4年後に即戦力で組織に貢献できる人材になるための基礎的なリテラシー形成を目指す。社会人としての基礎的リテラシーおよび価値観を踏まえ、学生一人ひとりが自らのキャリアを主体的に構想し、意思決定できる力を養うことを目的とする。現代社会においては､職業選択が一度きりのものではなく､変化する環境の中で継続的に見直されるプロセスであることが求められている。そのため、本授業では特定の職業選択に直結する知識の習得ではなく、自己理解、社会理解、意思決定のプロセスを重視する。具体的には、自己の価値観、興味、強みとい

＜授業の到達目標＞
1. 自身の価値観や興味、強みを整理し、言語化できる。2. 社会や職業に関する基本的な情報を収集・整理し、比較検討できる。3. 複数の選択肢の中から自らの判断基準に基づいて意思決定できる。4. キャリア形成を継続的なプロセスとして捉え、行動計画を立案できる。

＜授業の方法＞
本講義では、基本的に講義形式とする。各回において具体的な事例や日常場面を取り上げ、学生が自ら考え、言語化する機会を重視する。また、ルーブリックを活用した自己評価を継続的に行い、学習内容の内在化を促す。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有りフィールドリサーチや短時間のリフレクション活動を組み合わせて実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業ごとにリフレクションペーパーが課せられる。（1時間程度を想定）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
各回の授業内課題・演習への取り組み・・・30%レポートなどの課題への取り組み・・・50%発表・演習時の独自の観点や貢献度・・・20%

＜教科書＞
使用しない。

＜参考書＞
適宜紹介する。

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス：「社会人-4.0とは何か」	本授業の導入として、「社会人-4.0」という概念を提示し、大学生から社会人への移行において求められる行動基準について理解する。あわせて、社会人として期待される役割や責任の基本構造を整理し、本授業全体の位置づけを確認する。さらに、自己の現状を振り返り、理想とする社会人像を言語化することで、今後の学習の方向性を明確にする。
2	ルールとマナーの意味	社会におけるルールやマナーの役割について、歴史的および文化的背景を踏まえて理解する。マナーを単なる形式として捉えるのではなく、他者との摩擦を減らし円滑な関係を築くための機能として再解釈する。具体例をもとに、マナーの「意味」と「目的」を考察し、状況に応じた適切な行動選択の重要性を理解する。
3	課題図書レポート①	キャリア形成を考える上で重要な文献を紹介。指定個所を熟読し、自分の考えをまとめる。
4	常識を相対化する	世の中には「常識」と思われること、自分にとっては「常識」と思われることがある。しかし、一方で、それは人によっては「常識」ではない場合がある。このように、世の中にある常識に目を向け、それがなぜ「常識」と言えるのか、他の人はどう感じているのかについて考える。
5	キャリアとは何か	キャリアを単なる職業選択ではなく、人生全体に関わる意思決定の連続として捉え直す。現代社会におけるキャリアの多様性や不確実性を踏まえ、主体的に選択することの重要性を理解する。

6	自己理解① 価値観の構造	意思決定の基準となる価値観について整理し、自身が何を重視するのかを明確にする。具体的な場面を想定しながら、価値観が選択に与える影響を考察する。
7	自己理解② 強みと経験の分析	過去の経験を振り返りながら、自身の強みや特性を抽出する。それらがどのような場面で発揮されるかを分析し、自己理解を深化させる。
8	課題図書レポート②	キャリア形成を考える上で重要な文献を紹介。指定個所を熟読し、自分の考えをまとめる。
9	社会理解① 業界・職種の構造	社会における業界および職種の基本構造を理解し、それぞれの役割や特徴を整理する。自らの関心との接点を見出すことを目指す。
10	社会理解② 働き方とキャリアの多様性	多様な働き方について理解し、それぞれの特徴や利点・課題を比較検討する。働き方と価値観の関係について考察する。
11	意思決定の方法	キャリア選択における意思決定の基本的な方法を学ぶ。複数の選択肢を比較し、自らの判断基準に基づいて選択するプロセスを理解する。
12	情報収集と比較検討	キャリアに関する情報の収集方法とその評価の仕方を学ぶ。信頼性のある情報を見極め、適切に活用する力を養う。
13	キャリア仮説の構築	自己理解と社会理解を統合し、自分なりのキャリアの方向性を仮説として設定する。複数の可能性を視野に入れながら整理する。
14	行動計画と今後の学修設計	キャリア仮説に基づき、今後の具体的な行動計画を立案する。短期的な目標と長期的な展望を結びつけ、継続的な成長に向けた学修の方向性を明確にする。
15		
16		

科目コード	13200				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント［再履修][週間オンデマンド]				担当者名	早田　剛			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
「キャリアディベロップメント」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学におけるける学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

＜授業の到達目標＞
①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・ 責任感」を持てるようになる。 ②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力を持てるようになる。③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力を持てるようになる。 ④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力を持てるようになる。

＜授業の方法＞
１.講義　２.省察活動(質疑・まとめ・発表)

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。（毎回１時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ１～２回程度、３時間程度）復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等 60%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 30%、最終レポート 10%必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	キャリアデザインの意義と、再履修を「逆転の機会」にするための意識改革を行う。
2	自立と自律	責任ある大学生としての行動とは？ 倫理観と責任感を再確認する。
3	自己理解の深化	自分の強み・弱みの棚卸し（SWOT分析）と、他者への「やさしさ・思いやり」が仕事にどう活きるかを考える。
4	価値観の明確化	自分が人生において大切にしたい「軸」を見つけるワーク。
5	アクション力（前進力）	目標達成のために自ら動き出す力。現在の学習課題に対する「具体案」の策定。
6	コミュニケーション力の再考	単なる会話ではない、意図を伝え、相手を理解するための論理的対話術を考える。
7	チームワーク力とリーダーシップ	組織の中で自分が果たせる役割。自分の学科の経験をどう社会で再現するかを考える。
8	ストレスコントロールと柔軟性	困難に直面した際のレジリエンス（復元力）と、状況に応じた柔軟な対応を検討する。
9	スタディスキルの再習得	情報収集能力、分析力、批判的思考力。専門科目の学びをどうキャリアに繋げるかを検討する。
10	専門性と職業の関連性	自分の学科での学びが社会のどの領域で求められているかの調査する。
11	課題解決力の養成	社会や現場のニーズを捉え、自ら解決策を提示するプロセスを学ぶ。
12	業界・企業・職業研究	「なんとなく」の進路選びからの脱却。具体的かつ多角的な情報収集。
13	職業人としての基礎力（実践）	自己PR・志望動機の作成。自分の言葉で「将来のビジョン」を言語化する。
14	総括：キャリアアクションプランの策定	卒業、そして社会人1年目までの具体的なロードマップの作成と決意表明。

15 16		

科目コード	13200				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント BC2026年度生				担当者名	宇都宮　浩司			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第３・第４クオーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、前半のフレッシュマンセミナーで学んだ社会人としての基礎的リテラシーおよび価値観を踏まえ、学生一人ひとりが自らのキャリアを主体的に構想し、意思決定できる力を養うことを目的とする。現代社会においては、職業選択が一度きりのものではなく、変化する環境の中で継続的に見直されるプロセスであることが求められている。そのため、本授業では特定の職業選択に直結する知識の習得ではなく、自己理解、社会理解、意思決定のプロセスを重視する。具体的には、自己の価値観、興味、強みといった内的要因を明確にするとともに、業界・職種

＜授業の到達目標＞
1. 自身の価値観や興味、強みを整理し、言語化できる。2. 社会や職業に関する基本的な情報を収集・整理し、比較検討できる。3. 複数の選択肢の中から自らの判断基準に基づいて意思決定できる。4. キャリア形成を継続的なプロセスとして捉え、行動計画を立案できる。

＜授業の方法＞
本授業は講義形式を基本としつつ、ペアワークやグループディスカッション、短時間のリフレクション活動を組み合わせて実施する。各回において具体的な事例や日常場面を取り上げ、学生が自ら考え、言語化する機会を重視する。また、ルーブリックを活用した自己評価を継続的に行い、学習内容の内在化を促す。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有りペアワークやグループディスカッション、短時間のリフレクション活動を組み合わせて実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業ごとにリフレクションペーパーが課せられる。（1時間程度を想定）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
各回の授業内課題・演習への取り組み・・・30%レポートなどの課題への取り組み・・・50％発表・演習時の独自の観点や貢献度・・・20%

＜教科書＞
使用しない。

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	社会人-3.5と現在地の確認	社会人の準備段階として0.5年が経過した今、何が身につき、何が課題として残っているかを整理する。また夏季休暇での日常生活の中の学びを言語化する。
2	キャリアとは何か	キャリアを単なる職業選択ではなく、人生全体に関わる意思決定の連続として捉え直す。現代社会におけるキャリアの多様性や不確実性を踏まえ、主体的に選択することの重要性を理解する。
3	講話①	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
4	自己理解① 価値観の構造	意思決定の基準となる価値観について整理し、自身が何を重視するのかを明確にする。具体的な場面を想定しながら、価値観が選択に与える影響を考察する。
5	自己理解② 強みと経験の分析	過去の経験を振り返りながら、自身の強みや特性を抽出する。それらがどのような場面で発揮されるかを分析し、自己理解を深化させる。
6	自己理解と五訓（スピーチ）	自身の価値観や強みをIPU五訓と関連づけて整理し、スピーチ原稿を下書き・清書の段階を追って作成する。
7	社会理解① 業界・職種の構造	社会における業界および職種の基本構造を理解し、それぞれの役割や特徴を整理する。自らの関心との接点を見出すことを目指す。
8	社会理解② 働き方とキャリアの多様性	多様な働き方について理解し、それぞれの特徴や利点・課題を比較検討する。働き方と価値観の関係について考察する。
9	スピーチ大会	各クラスでの予選を勝ち抜いたクラス代表によるスピーチ大会を行う。発表者以外は、どのような点を評価すべきかについて自ら考え、レポートする。

10	意思決定の方法	キャリア選択における意思決定の基本的な方法を学ぶ。複数の選択肢を比較し、自らの判断基準に基づいて選択するプロセスを理解する。
11	情報収集と比較検討	キャリアに関する情報の収集方法とその評価の仕方を学ぶ。信頼性のある情報を見極め、適切に活用する力を養う。
12	講話②	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
13	キャリア仮説の構築	自己理解と社会理解を統合し、自分なりのキャリアの方向性を仮説として設定する。複数の可能性を視野に入れながら整理する。
14	行動計画と今後の学修設計	キャリア仮説に基づき、今後の具体的な行動計画を立案する。短期的な目標と長期的な展望を結びつけ、継続的な成長に向けた学修の方向性を明確にする。
15		
16		

科目コード	13200				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント BC2026年度生				担当者名	岡田　健志			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第3クォーター・第4クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、前半のフレッシュマンセミナーで学んだ社会人としての基礎的リテラシーおよび価値観を踏まえ、学生一人ひとりが自らのキャリアを主体的に構想し、意思決定できる力を養うことを目的とする。現代社会においては、職業選択が一度きりのものではなく、変化する環境の中で継続的に見直されるプロセスであることが求められている。そのため、本授業では特定の職業選択に直結する知識の習得ではなく、自己理解、社会理解、意思決定のプロセスを重視する。具体的には、自己の価値観、興味、強みといった内的要因を明確にするとともに、業界・職種

＜授業の到達目標＞
1. 自身の価値観や興味、強みを整理し、言語化できること。2. 社会や職業に関する基本的な情報を収集・整理し、比較検討できること。3. 複数の選択肢の中から自らの判断基準に基づいて意思決定できること。4. キャリア形成を継続的なプロセスとして捉え、行動計画を立案できること。

＜授業の方法＞
本授業は講義形式を基本としつつ、ペアワークやグループディスカッション、短時間のリフレクション活動を組み合わせて実施する。各回において具体的な事例や日常場面を取り上げ、学生が自ら考え、言語化する機会を重視する。また、ルーブリックを活用した自己評価を継続的に行い、学習内容の内在化を促す。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有りペアワークやグループディスカッション、短時間のリフレクション活動を組み合わせて実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前課題：次回テーマに即したミニレポート作成およびキーワードの調査を実施する。（1時間程度）事後課題：毎回の授業で何を学び、何に気付いたかを整理するためにレポートを課す。（1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
各回の授業内課題・演習への取り組み・・・30%レポートなどの課題への取り組み・・・50％発表・演習時の独自の観点や貢献度・・・20%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	社会人-3.5と現在地の確認／キャリアとは何か	社会人の準備段階として0.5年が経過した今、何が身につき、何が課題として残っているかを整理する。また夏季休暇での日常生活の中の学びを言語化する。キャリアを単なる職業選択ではなく、人生全体に関わる意思決定の連続として捉え直す。現代社会におけるキャリアの多様性や不確実性を踏まえ、主体的に選択することの重要性を理解する。
2	主催者と参加者の視点の違いを考える	スポーツイベントに関して、主催者と参加者の視点の違いをシミュレーションする。その中で、なぜ催しを行うのかという、イベントなどの価値づけを自らの視点で行うことを目指す。関わる限り、どのようん主体的に貢献できるかを考える。
3	講話①	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
4	自己理解① 価値観の構造	意思決定の基準となる価値観について整理し、自身が何を重視するのかを明確にする。具体的な場面を想定しながら、価値観が選択に与える影響を考察する。
5	自己理解② 強みと経験の分析	過去の経験を振り返りながら、自身の強みや特性を抽出する。それらがどのような場面で発揮されるかを分析し、自己理解を深化させる。
6	自己理解と五訓（スピーチ）	自身の価値観や強みをIPU五訓と関連づけて整理し、スピーチ原稿を下書き・清書の段階を追って作成する。
7	社会理解① 業界・職種の構造	社会における業界および職種の基本構造を理解し、それぞれの役割や特徴を整理する。自らの関心との接点を見出すことを目指す。

8	社会理解② 働き方とキャリアの多様性	多様な働き方について理解し、それぞれの特徴や利点・課題を比較検討する。働き方と価値観の関係について考察する。
9	スピーチ大会	各クラスでの予選を勝ち抜いたクラス代表によるスピーチ大会を行う。発表者以外は、どのような点を評価すべきかについて自ら考え、レポートする。
10	意思決定の方法	キャリア選択における意思決定の基本的な方法を学ぶ。複数の選択肢を比較し、自らの判断基準に基づいて選択するプロセスを理解する。
11	情報収集と比較検討	キャリアに関する情報の収集方法とその評価の仕方を学ぶ。信頼性のある情報を見極め、適切に活用する力を養う。
12	講話②	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
13	キャリア仮説の構築	自己理解と社会理解を統合し、自分なりのキャリアの方向性を仮説として設定する。複数の可能性を視野に入れながら整理する。
14	【学年末集会】行動計画と今後の学修設計	学年末集会を通じて、自らのキャリア仮説に基づき、今後の具体的な行動計画を立案する。短期的な目標と長期的な展望を結びつけ、継続的な成長に向けた学修の方向性を明確にする。
15		
16		

科目コード	13200				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント BC2026年度生				担当者名	江口　尚文			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第３・第４クオーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、前半のフレッシュマンセミナーで学んだ社会人としての基礎的リテラシーおよび価値観を踏まえ、学生一人ひとりが自らのキャリアを主体的に構想し、意思決定できる力を養うことを目的とする。現代社会においては、職業選択が一度きりのものではなく、変化する環境の中で継続的に見直されるプロセスであることが求められている。そのため、本授業では特定の職業選択に直結する知識の習得ではなく、自己理解、社会理解、意思決定のプロセスを重視する。具体的には、自己の価値観、興味、強みといった内的要因を明確にするとともに、業界・職種

＜授業の到達目標＞
1. 自身の価値観や興味、強みを整理し、言語化できる。2. 社会や職業に関する基本的な情報を収集・整理し、比較検討できる。3. 複数の選択肢の中から自らの判断基準に基づいて意思決定できる。4. キャリア形成を継続的なプロセスとして捉え、行動計画を立案できる。

＜授業の方法＞
本授業は講義形式を基本としつつ、ペアワークやグループディスカッション、短時間のリフレクション活動を組み合わせて実施する。各回において具体的な事例や日常場面を取り上げ、学生が自ら考え、言語化する機会を重視する。また、ルーブリックを活用した自己評価を継続的に行い、学習内容の内在化を促す。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有りペアワークやグループディスカッション、短時間のリフレクション活動を組み合わせて実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業ごとにリフレクションペーパーが課せられる。（1時間程度を想定）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
各回の授業内課題・演習への取り組み・・・30%レポートなどの課題への取り組み・・・50％発表・演習時の独自の観点や貢献度・・・20%

＜教科書＞
使用しない。

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	社会人-3.5と現在地の確認	社会人の準備段階として0.5年が経過した今、何が身につき、何が課題として残っているかを整理する。また夏季休暇での日常生活の中の学びを言語化する。
2	キャリアとは何か	キャリアを単なる職業選択ではなく、人生全体に関わる意思決定の連続として捉え直す。現代社会におけるキャリアの多様性や不確実性を踏まえ、主体的に選択することの重要性を理解する。
3	講話①	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
4	自己理解① 価値観の構造	意思決定の基準となる価値観について整理し、自身が何を重視するのかを明確にする。具体的な場面を想定しながら、価値観が選択に与える影響を考察する。
5	自己理解② 強みと経験の分析	過去の経験を振り返りながら、自身の強みや特性を抽出する。それらがどのような場面で発揮されるかを分析し、自己理解を深化させる。
6	自己理解と五訓（スピーチ）	自身の価値観や強みをIPU五訓と関連づけて整理し、スピーチ原稿を下書き・清書の段階を追って作成する。
7	社会理解① 業界・職種の構造	社会における業界および職種の基本構造を理解し、それぞれの役割や特徴を整理する。自らの関心との接点を見出すことを目指す。
8	社会理解② 働き方とキャリアの多様性	多様な働き方について理解し、それぞれの特徴や利点・課題を比較検討する。働き方と価値観の関係について考察する。
9	スピーチ大会	各クラスでの予選を勝ち抜いたクラス代表によるスピーチ大会を行う。発表者以外は、どのような点を評価すべきかについて自ら考え、レポートする。

10	意思決定の方法	キャリア選択における意思決定の基本的な方法を学ぶ。複数の選択肢を比較し、自らの判断基準に基づいて選択するプロセスを理解する。
11	情報収集と比較検討	キャリアに関する情報の収集方法とその評価の仕方を学ぶ。信頼性のある情報を見極め、適切に活用する力を養う。
12	講話②	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
13	キャリア仮説の構築	自己理解と社会理解を統合し、自分なりのキャリアの方向性を仮説として設定する。複数の可能性を視野に入れながら整理する。
14	行動計画と今後の学修設計	キャリア仮説に基づき、今後の具体的な行動計画を立案する。短期的な目標と長期的な展望を結びつけ、継続的な成長に向けた学修の方向性を明確にする。
15		
16		

科目コード	13200				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント BC2026年度生				担当者名	古松　丈周			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第３・第４クオーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、前半のフレッシュマンセミナーで学んだ社会人としての基礎的リテラシーおよび価値観を踏まえ、学生一人ひとりが自らのキャリアを主体的に構想し、意思決定できる力を養うことを目的とする。現代社会においては、職業選択が一度きりのものではなく、変化する環境の中で継続的に見直されるプロセスであることが求められている。そのため、本授業では特定の職業選択に直結する知識の習得ではなく、自己理解、社会理解、意思決定のプロセスを重視する。具体的には、自己の価値観、興味、強みといった内的要因を明確にするとともに、業界・職種

＜授業の到達目標＞
1. 自身の価値観や興味、強みを整理し、言語化できる。2. 社会や職業に関する基本的な情報を収集・整理し、比較検討できる。3. 複数の選択肢の中から自らの判断基準に基づいて意思決定できる。4. キャリア形成を継続的なプロセスとして捉え、行動計画を立案できる。

＜授業の方法＞
本授業は講義形式を基本としつつ、ペアワークやグループディスカッション、短時間のリフレクション活動を組み合わせて実施する。各回において具体的な事例や日常場面を取り上げ、学生が自ら考え、言語化する機会を重視する。また、ルーブリックを活用した自己評価を継続的に行い、学習内容の内在化を促す。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有りペアワークやグループディスカッション、短時間のリフレクション活動を組み合わせて実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業ごとにリフレクションペーパーが課せられる。（1時間程度を想定）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
各回の授業内課題・演習への取り組み・・・30%レポートなどの課題への取り組み・・・50％発表・演習時の独自の観点や貢献度・・・20%

＜教科書＞
使用しない。

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	社会人-3.5と現在地の確認	社会人の準備段階として0.5年が経過した今、何が身につき、何が課題として残っているかを整理する。また夏季休暇での日常生活の中の学びを言語化する。
2	キャリアとは何か	キャリアを単なる職業選択ではなく、人生全体に関わる意思決定の連続として捉え直す。現代社会におけるキャリアの多様性や不確実性を踏まえ、主体的に選択することの重要性を理解する。
3	講話①	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
4	自己理解① 価値観の構造	意思決定の基準となる価値観について整理し、自身が何を重視するのかを明確にする。具体的な場面を想定しながら、価値観が選択に与える影響を考察する。
5	自己理解② 強みと経験の分析	過去の経験を振り返りながら、自身の強みや特性を抽出する。それらがどのような場面で発揮されるかを分析し、自己理解を深化させる。
6	自己理解と五訓（スピーチ）	自身の価値観や強みをIPU五訓と関連づけて整理し、スピーチ原稿を下書き・清書の段階を追って作成する。
7	社会理解① 業界・職種の構造	社会における業界および職種の基本構造を理解し、それぞれの役割や特徴を整理する。自らの関心との接点を見出すことを目指す。
8	社会理解② 働き方とキャリアの多様性	多様な働き方について理解し、それぞれの特徴や利点・課題を比較検討する。働き方と価値観の関係について考察する。
9	スピーチ大会	各クラスでの予選を勝ち抜いたクラス代表によるスピーチ大会を行う。発表者以外は、どのような点を評価すべきかについて自ら考え、レポートする。

10	意思決定の方法	キャリア選択における意思決定の基本的な方法を学ぶ。複数の選択肢を比較し、自らの判断基準に基づいて選択するプロセスを理解する。
11	情報収集と比較検討	キャリアに関する情報の収集方法とその評価の仕方を学ぶ。信頼性のある情報を見極め、適切に活用する力を養う。
12	講話②	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
13	キャリア仮説の構築	自己理解と社会理解を統合し、自分なりのキャリアの方向性を仮説として設定する。複数の可能性を視野に入れながら整理する。
14	行動計画と今後の学修設計	キャリア仮説に基づき、今後の具体的な行動計画を立案する。短期的な目標と長期的な展望を結びつけ、継続的な成長に向けた学修の方向性を明確にする。
15		
16		

科目コード	13200				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント BC2026年度生				担当者名	赤木　邦江			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第３・第４クオーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、前半のフレッシュマンセミナーで学んだ社会人としての基礎的リテラシーおよび価値観を踏まえ、学生一人ひとりが自らのキャリアを主体的に構想し、意思決定できる力を養うことを目的とする。現代社会においては、職業選択が一度きりのものではなく、変化する環境の中で継続的に見直されるプロセスであることが求められている。そのため、本授業では特定の職業選択に直結する知識の習得ではなく、自己理解、社会理解、意思決定のプロセスを重視する。具体的には、自己の価値観、興味、強みといった内的要因を明確にするとともに、業界・職種

＜授業の到達目標＞
1. 自身の価値観や興味、強みを整理し、言語化できる。2. 社会や職業に関する基本的な情報を収集・整理し、比較検討できる。3. 複数の選択肢の中から自らの判断基準に基づいて意思決定できる。4. キャリア形成を継続的なプロセスとして捉え、行動計画を立案できる。

＜授業の方法＞
本授業は講義形式を基本としつつ、ペアワークやグループディスカッション、短時間のリフレクション活動を組み合わせて実施する。各回において具体的な事例や日常場面を取り上げ、学生が自ら考え、言語化する機会を重視する。また、ルーブリックを活用した自己評価を継続的に行い、学習内容の内在化を促す。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有りペアワークやグループディスカッション、短時間のリフレクション活動を組み合わせて実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業ごとにリフレクションペーパーが課せられる。（1時間程度を想定）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
各回の授業内課題・演習への取り組み・・・30%レポートなどの課題への取り組み・・・50％発表・演習時の独自の観点や貢献度・・・20%

＜教科書＞
使用しない。

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	社会人-3.5と現在地の確認	社会人の準備段階として0.5年が経過した今、何が身につき、何が課題として残っているかを整理する。また夏季休暇での日常生活の中の学びを言語化する。
2	キャリアとは何か	キャリアを単なる職業選択ではなく、人生全体に関わる意思決定の連続として捉え直す。現代社会におけるキャリアの多様性や不確実性を踏まえ、主体的に選択することの重要性を理解する。
3	講話①	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
4	自己理解① 価値観の構造	意思決定の基準となる価値観について整理し、自身が何を重視するのかを明確にする。具体的な場面を想定しながら、価値観が選択に与える影響を考察する。
5	自己理解② 強みと経験の分析	過去の経験を振り返りながら、自身の強みや特性を抽出する。それらがどのような場面で発揮されるかを分析し、自己理解を深化させる。
6	自己理解と五訓（スピーチ）	自身の価値観や強みをIPU五訓と関連づけて整理し、スピーチ原稿を下書き・清書の段階を追って作成する。
7	社会理解① 業界・職種の構造	社会における業界および職種の基本構造を理解し、それぞれの役割や特徴を整理する。自らの関心との接点を見出すことを目指す。
8	社会理解② 働き方とキャリアの多様性	多様な働き方について理解し、それぞれの特徴や利点・課題を比較検討する。働き方と価値観の関係について考察する。
9	スピーチ大会	各クラスでの予選を勝ち抜いたクラス代表によるスピーチ大会を行う。発表者以外は、どのような点を評価すべきかについて自ら考え、レポートする。

10	意思決定の方法	キャリア選択における意思決定の基本的な方法を学ぶ。複数の選択肢を比較し、自らの判断基準に基づいて選択するプロセスを理解する。
11	情報収集と比較検討	キャリアに関する情報の収集方法とその評価の仕方を学ぶ。信頼性のある情報を見極め、適切に活用する力を養う。
12	講話②	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
13	キャリア仮説の構築	自己理解と社会理解を統合し、自分なりのキャリアの方向性を仮説として設定する。複数の可能性を視野に入れながら整理する。
14	行動計画と今後の学修設計	キャリア仮説に基づき、今後の具体的な行動計画を立案する。短期的な目標と長期的な展望を結びつけ、継続的な成長に向けた学修の方向性を明確にする。
15		
16		

科目コード	13200				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント BC2026年度生				担当者名	平岡　師玄哉			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第３・第４クオーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、前半のフレッシュマンセミナーで学んだ社会人としての基礎的リテラシーおよび価値観を踏まえ、学生一人ひとりが自らのキャリアを主体的に構想し、意思決定できる力を養うことを目的とする。現代社会においては、職業選択が一度きりのものではなく、変化する環境の中で継続的に見直されるプロセスであることが求められている。そのため、本授業では特定の職業選択に直結する知識の習得ではなく、自己理解、社会理解、意思決定のプロセスを重視する。具体的には、自己の価値観、興味、強みといった内的要因を明確にするとともに、業界・職種

＜授業の到達目標＞
1. 自身の価値観や興味、強みを整理し、言語化できる。2. 社会や職業に関する基本的な情報を収集・整理し、比較検討できる。3. 複数の選択肢の中から自らの判断基準に基づいて意思決定できる。4. キャリア形成を継続的なプロセスとして捉え、行動計画を立案できる。

＜授業の方法＞
本授業は講義形式を基本としつつ、ペアワークやグループディスカッション、短時間のリフレクション活動を組み合わせて実施する。各回において具体的な事例や日常場面を取り上げ、学生が自ら考え、言語化する機会を重視する。また、ルーブリックを活用した自己評価を継続的に行い、学習内容の内在化を促す。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有りペアワークやグループディスカッション、短時間のリフレクション活動を組み合わせて実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業ごとにリフレクションペーパーが課せられる。（1時間程度を想定）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
各回の授業内課題・演習への取り組み・・・30%レポートなどの課題への取り組み・・・50％発表・演習時の独自の観点や貢献度・・・20%

＜教科書＞
使用しない。

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	社会人-3.5と現在地の確認	社会人の準備段階として0.5年が経過した今、何が身につき、何が課題として残っているかを整理する。また夏季休暇での日常生活の中の学びを言語化する。
2	キャリアとは何か	キャリアを単なる職業選択ではなく、人生全体に関わる意思決定の連続として捉え直す。現代社会におけるキャリアの多様性や不確実性を踏まえ、主体的に選択することの重要性を理解する。
3	講話①	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
4	自己理解① 価値観の構造	意思決定の基準となる価値観について整理し、自身が何を重視するのかを明確にする。具体的な場面を想定しながら、価値観が選択に与える影響を考察する。
5	自己理解② 強みと経験の分析	過去の経験を振り返りながら、自身の強みや特性を抽出する。それらがどのような場面で発揮されるかを分析し、自己理解を深化させる。
6	自己理解と五訓（スピーチ）	自身の価値観や強みをIPU五訓と関連づけて整理し、スピーチ原稿を下書き・清書の段階を追って作成する。
7	社会理解① 業界・職種の構造	社会における業界および職種の基本構造を理解し、それぞれの役割や特徴を整理する。自らの関心との接点を見出すことを目指す。
8	社会理解② 働き方とキャリアの多様性	多様な働き方について理解し、それぞれの特徴や利点・課題を比較検討する。働き方と価値観の関係について考察する。
9	スピーチ大会	各クラスでの予選を勝ち抜いたクラス代表によるスピーチ大会を行う。発表者以外は、どのような点を評価すべきかについて自ら考え、レポートする。

10	意思決定の方法	キャリア選択における意思決定の基本的な方法を学ぶ。複数の選択肢を比較し、自らの判断基準に基づいて選択するプロセスを理解する。
11	情報収集と比較検討	キャリアに関する情報の収集方法とその評価の仕方を学ぶ。信頼性のある情報を見極め、適切に活用する力を養う。
12	講話②	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
13	キャリア仮説の構築	自己理解と社会理解を統合し、自分なりのキャリアの方向性を仮説として設定する。複数の可能性を視野に入れながら整理する。
14	行動計画と今後の学修設計	キャリア仮説に基づき、今後の具体的な行動計画を立案する。短期的な目標と長期的な展望を結びつけ、継続的な成長に向けた学修の方向性を明確にする。
15		
16		

科目コード	13200				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント BC2026年度生				担当者名	北村　和久			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第３・第４クオーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、前半のフレッシュマンセミナーで学んだ社会人としての基礎的リテラシーおよび価値観を踏まえ、学生一人ひとりが自らのキャリアを主体的に構想し、意思決定できる力を養うことを目的とする。現代社会においては、職業選択が一度きりのものではなく、変化する環境の中で継続的に見直されるプロセスであることが求められている。そのため、本授業では特定の職業選択に直結する知識の習得ではなく、自己理解、社会理解、意思決定のプロセスを重視する。具体的には、自己の価値観、興味、強みといった内的要因を明確にするとともに、業界・職種

＜授業の到達目標＞
1. 自身の価値観や興味、強みを整理し、言語化できる。2. 社会や職業に関する基本的な情報を収集・整理し、比較検討できる。3. 複数の選択肢の中から自らの判断基準に基づいて意思決定できる。4. キャリア形成を継続的なプロセスとして捉え、行動計画を立案できる。

＜授業の方法＞
本授業は講義形式を基本としつつ、ペアワークやグループディスカッション、短時間のリフレクション活動を組み合わせて実施する。各回において具体的な事例や日常場面を取り上げ、学生が自ら考え、言語化する機会を重視する。また、ルーブリックを活用した自己評価を継続的に行い、学習内容の内在化を促す。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有りペアワークやグループディスカッション、短時間のリフレクション活動を組み合わせて実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業ごとにリフレクションペーパーが課せられる。（1時間程度を想定）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
各回の授業内課題・演習への取り組み・・・30%レポートなどの課題への取り組み・・・50％発表・演習時の独自の観点や貢献度・・・20%

＜教科書＞
使用しない。

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	社会人-3.5と現在地の確認	社会人の準備段階として0.5年が経過した今、何が身につき、何が課題として残っているかを整理する。また夏季休暇での日常生活の中の学びを言語化する。
2	キャリアとは何か	キャリアを単なる職業選択ではなく、人生全体に関わる意思決定の連続として捉え直す。現代社会におけるキャリアの多様性や不確実性を踏まえ、主体的に選択することの重要性を理解する。
3	講話①	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
4	自己理解① 価値観の構造	意思決定の基準となる価値観について整理し、自身が何を重視するのかを明確にする。具体的な場面を想定しながら、価値観が選択に与える影響を考察する。
5	自己理解② 強みと経験の分析	過去の経験を振り返りながら、自身の強みや特性を抽出する。それらがどのような場面で発揮されるかを分析し、自己理解を深化させる。
6	自己理解と五訓（スピーチ）	自身の価値観や強みをIPU五訓と関連づけて整理し、スピーチ原稿を下書き・清書の段階を追って作成する。
7	社会理解① 業界・職種の構造	社会における業界および職種の基本構造を理解し、それぞれの役割や特徴を整理する。自らの関心との接点を見出すことを目指す。
8	社会理解② 働き方とキャリアの多様性	多様な働き方について理解し、それぞれの特徴や利点・課題を比較検討する。働き方と価値観の関係について考察する。
9	スピーチ大会	各クラスでの予選を勝ち抜いたクラス代表によるスピーチ大会を行う。発表者以外は、どのような点を評価すべきかについて自ら考え、レポートする。

10	意思決定の方法	キャリア選択における意思決定の基本的な方法を学ぶ。複数の選択肢を比較し、自らの判断基準に基づいて選択するプロセスを理解する。
11	情報収集と比較検討	キャリアに関する情報の収集方法とその評価の仕方を学ぶ。信頼性のある情報を見極め、適切に活用する力を養う。
12	講話②	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
13	キャリア仮説の構築	自己理解と社会理解を統合し、自分なりのキャリアの方向性を仮説として設定する。複数の可能性を視野に入れながら整理する。
14	行動計画と今後の学修設計	キャリア仮説に基づき、今後の具体的な行動計画を立案する。短期的な目標と長期的な展望を結びつけ、継続的な成長に向けた学修の方向性を明確にする。
15		
16		

科目コード	13200				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント BC2026年度生				担当者名	溝越　隆興			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第３・第４クオーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、前半のフレッシュマンセミナーで学んだ社会人としての基礎的リテラシーおよび価値観を踏まえ、学生一人ひとりが自らのキャリアを主体的に構想し、意思決定できる力を養うことを目的とする。現代社会においては、職業選択が一度きりのものではなく、変化する環境の中で継続的に見直されるプロセスであることが求められている。そのため、本授業では特定の職業選択に直結する知識の習得ではなく、自己理解、社会理解、意思決定のプロセスを重視する。具体的には、自己の価値観、興味、強みといった内的要因を明確にするとともに、業界・職種

＜授業の到達目標＞
1. 自身の価値観や興味、強みを整理し、言語化できる。2. 社会や職業に関する基本的な情報を収集・整理し、比較検討できる。3. 複数の選択肢の中から自らの判断基準に基づいて意思決定できる。4. キャリア形成を継続的なプロセスとして捉え、行動計画を立案できる。

＜授業の方法＞
本授業は講義形式を基本としつつ、ペアワークやグループディスカッション、短時間のリフレクション活動を組み合わせて実施する。各回において具体的な事例や日常場面を取り上げ、学生が自ら考え、言語化する機会を重視する。また、ルーブリックを活用した自己評価を継続的に行い、学習内容の内在化を促す。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有りペアワークやグループディスカッション、短時間のリフレクション活動を組み合わせて実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業ごとにリフレクションペーパーが課せられる。（1時間程度を想定）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
各回の授業内課題・演習への取り組み・・・30%レポートなどの課題への取り組み・・・50％発表・演習時の独自の観点や貢献度・・・20%

＜教科書＞
使用しない。

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	社会人-3.5と現在地の確認	社会人の準備段階として0.5年が経過した今、何が身につき、何が課題として残っているかを整理する。また夏季休暇での日常生活の中の学びを言語化する。
2	キャリアとは何か	キャリアを単なる職業選択ではなく、人生全体に関わる意思決定の連続として捉え直す。現代社会におけるキャリアの多様性や不確実性を踏まえ、主体的に選択することの重要性を理解する。
3	講話①	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
4	自己理解① 価値観の構造	意思決定の基準となる価値観について整理し、自身が何を重視するのかを明確にする。具体的な場面を想定しながら、価値観が選択に与える影響を考察する。
5	自己理解② 強みと経験の分析	過去の経験を振り返りながら、自身の強みや特性を抽出する。それらがどのような場面で発揮されるかを分析し、自己理解を深化させる。
6	自己理解と五訓（スピーチ）	自身の価値観や強みをIPU五訓と関連づけて整理し、スピーチ原稿を下書き・清書の段階を追って作成する。
7	社会理解① 業界・職種の構造	社会における業界および職種の基本構造を理解し、それぞれの役割や特徴を整理する。自らの関心との接点を見出すことを目指す。
8	社会理解② 働き方とキャリアの多様性	多様な働き方について理解し、それぞれの特徴や利点・課題を比較検討する。働き方と価値観の関係について考察する。
9	スピーチ大会	各クラスでの予選を勝ち抜いたクラス代表によるスピーチ大会を行う。発表者以外は、どのような点を評価すべきかについて自ら考え、レポートする。

10	意思決定の方法	キャリア選択における意思決定の基本的な方法を学ぶ。複数の選択肢を比較し、自らの判断基準に基づいて選択するプロセスを理解する。
11	情報収集と比較検討	キャリアに関する情報の収集方法とその評価の仕方を学ぶ。信頼性のある情報を見極め、適切に活用する力を養う。
12	講話②	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
13	キャリア仮説の構築	自己理解と社会理解を統合し、自分なりのキャリアの方向性を仮説として設定する。複数の可能性を視野に入れながら整理する。
14	行動計画と今後の学修設計	キャリア仮説に基づき、今後の具体的な行動計画を立案する。短期的な目標と長期的な展望を結びつけ、継続的な成長に向けた学修の方向性を明確にする。
15		
16		

科目コード	13206				区　分	教養科目		
授業科目名	労働法規				担当者名	笹井　健司		
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
職業生活において生じる労働法規に関する問題を、就職から退職までの時間の流れに沿って概説する。

＜授業の到達目標＞
労働者と使用者による対等の立場で労働条件の形成、および最低労働基準法定の意義について理解するとともに、事業場において労働者または使用者として職業生活を送っていくうえで必要となる労働法規の知識を修得する。あわせて、第１種衛生管理者の資格取得のために必要な知識を修得する。

＜授業の方法＞
対面講義により行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：60分（労働法規に関する情報を新聞やインターネットなどで予習すること）復習：90分（レジュメを中心に講義内容の復習をすること）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー３（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度・学習意欲 20%、期末テスト　80%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	労働法とは	労働法の基本構造を解説する。
2	労働法の当事者ー「使用者」「労働者」	労働法の当事者について解説する。
3	労働契約の成立	企業の採用の方法、採用や試用の法的位置づけを解説する。
4	労働契約の終了	解雇規制、雇い止め等について解説する。
5	労働条件の決定と変更	労働条件を決定・変更の場面で重要な就業規則について解説する。
6	人事異動・懲戒	配転、出向、転籍等の法的根拠と問題について解説する。
7	応用問題の検討①	第1回～第6回の講義内容についてさらに詳しい内容を検討する。
8	賃金①	わが国における賃金制度について解説する。
9	賃金②	賃金の支払いに関する規制について解説する。
10	労働紛争解決制度	労働紛争の際に利用できる労働紛争解決制度を解説する。
11	社会保険概論	労働者が加入する社会保険について解説する。
12	雇用保険	雇用保険について解説する。
13	応用問題の検討②	第8回～第12回の講義内容についてさらに詳しい内容を検討する。
14	まとめ	試験
15		
16		

科目コード	13207				区　分	教養科目			
授業科目名	労働安全衛生法				担当者名	笹井　健司			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
労働衛生関係の中心法令である労働安全衛生法の規制内容について解説する。労働基準監督官として実務経験のある担当教員が実例をまじえながら講義を行う。

＜授業の到達目標＞
労働安全衛生規制の基本的事項について理解する。あわせて、第１種衛生管理者の資格取得のために必要な知識を修得する。

＜授業の方法＞
対面講義により行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：60分（労働法規に関する情報を新聞やインターネットなどで予習すること）復習：90分（レジュメを中心に講義内容の復習をすること）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー３（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度・学習意欲 20%、期末テスト　80%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	労働安全衛生法とは	労働安全衛生法の基本構造を解説する。
2	過重労働の防止と労働時間規制①	労働時間、休憩、休日に関する規制ついて解説する。
3	過重労働の防止と労働時間規制②	年次有給休暇、弾力的労働時間制度について解説する。
4	両立支援と法	両立支援と法について解説する。
5	労働災害と補償	労災補償制度について解説する。
6	メンタルヘルスと法	メンタルヘルスに関する法的問題について解説する。
7	応用問題の検討①	第1回～第6回の講義内容についてさらに詳しい内容を検討する。
8	総則・安全衛生管理体制	労働安全衛生法の基本概念、安全衛生管理体制について解説する。
9	危害防止基準・製造流通規制①	危害防止基準・製造流通規制について解説する。
10	危害防止基準・製造流通規制②	危害防止基準・製造流通規制について解説する。
11	健康診断・ストレスチェック	健康診断、ストレスチェック制度について解説する。
12	労働安全衛生法の履行確保	労働基準監督制度について解説する。
13	応用問題の検討②	第8回～第12回の講義内容についてさらに詳しい内容を検討する。
14	まとめ	試験
15		
16		

科目コード	13300				区　分	コア科目			
授業科目名	法学概論［Q2対面＋オンデマンド］				担当者名	山本　満理子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第２クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
法の基礎を学びつつ、「法は社会を幸せにするための道具である」という視点を持つ。憲法・民法・刑法の基礎を、ひとり親家庭の支援や子どもの体験格差といった身近な社会問題と結びつけて議論し、自分たちの手でルールを書き換える「リーガルマインド」を育てる。※いずれかの回において、岡山地裁の現役裁判官による模擬裁判を実施予定

＜授業の到達目標＞
＊法の体系と基本概念を理解し、日常の出来事を法的視点で捉え直すことができる。＊現代社会の矛盾を法的正義の観点から批判的に分析し、改善案を構想できる。

＜授業の方法＞
対面回とオンデマンド回を連動させたハイブリッド形式で行う。＊対面回： ワークショップ、ディスカッション、政策シミュレーションを中心に実施。＊オンデマンド回： 基本知識の講義ビデオ視聴、事例研究、および個人ワーク（リサーチ）を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
【有】ワークシートを用いた予算配分シミュレーション、地方自治体の具体的課題に対するグループディスカッション、および最終回に向けた「政策提言書（市長への手紙）」の作成等を行う予定。デジタルの活用として、リアルタイム投票システム（スマホ活用）を用いた意思決定プロセスの疑似体験も実施予定。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
＊予習： 次回のテーマに関連するニュースや地方自治体の現状についてリサーチする（60分）。＊復習： 講義で扱った判例や理論を、自身の政策提言案にどう反映できるか考察し、ポートフォリオを更新する（60分）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
＊平常点（30%）： ワークショップへの貢献度、およびオンデマンド回の小レポート。＊中間課題（20%）： 特定の判例・事例に対する法的・経営的分析。＊最終課題（50%）： 行政をアップデートするための「政策提言書」。論理性、法的根拠、実現可能性の3点で評価する。

＜教科書＞
高橋 雅夫（2020年3月）　Next教科書シリーズ　法学　弘文堂

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	法とは何か	ワークシート実施。法の目的は「秩序」か「正義」か？
2	法の分類と体系	成文法と慣習法
3	憲法と基本的人権	日本国憲法における人権規定
4	民法の基礎	契約の重要性他
5	刑法の基礎	罪と罰。なぜ人はルールを守るのか（信頼の法学）。
6	法の解釈と適用	文言解釈を超えて、「行間」に希望を見出す技術。
7	現代社会と法	改正家族法を中心に
8	実例ワーク⑴	「もしドラえもんの道具が法規制されたら？」などの思考実験から、仮の条例案の起案に取り組む
9	実例ワーク⑵	仮の条例案の起案
10	実例ワーク⑶	仮の条例案の起案
11	実例ワーク⑷	仮の条例案の起案
12	実例ワーク⑸	仮の条例案の起案
13	実例ワーク⑹	仮の条例案の起案
14	実例ワーク⑺	仮の条例案の起案
15		
16		

科目コード	13303				区　分	教養科目			
授業科目名	地理・地政学［週間オンデマンド］				担当者名	小川　正人			
配当年次	3年	配当学期	第1・第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
世界は理想だけで動いているわけではありません。表では理想やきれいな言葉が語られますが、その裏では政治や外交の駆け引きが行われています。本授業では、最近注目されている地政学について、その基本を学びながら、国と国の関係をより現実的に考える力を身につけます。また、世界地図を使って、国どうしがどのようにつながっているのかを視覚的に理解し、国際社会の仕組みを学んでいきます。

＜授業の到達目標＞
冷戦が終わってから、グローバル化が進み、人や物、お金、サービスが国境を越えて自由に動くようになりました。インターネットによって世界中の人々がつながる今、国と国がどのように結びついているのかという「つながり（接続性）」が改めて注目されています。たとえば、日本が掲げる「自由で開かれたインド・太平洋」とはどのような考え方なのでしょうか。また、中国の「一帯一路」とは対立するものなのでしょうか、それとも協力できるものなのでしょうか。本授業では、世界地図を見ながら、こうした問いについて考えていきます。

＜授業の方法＞
受講者が多くなることが予想されるため、本授業はオンデマンド形式で行います。各回のテーマに沿った課題は、Google Classroomを通じて期限までに提出してください。質問がある場合は、担当教員のメール、またはGoogle Classroomのコメント機能を利用してください。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
本授業はオンデマンド形式で実施するため、アクティブラーニングの手法は取り入れません。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業内容をしっかり理解するために、指定された課題について事前に調べておいてください。予習と復習には、それぞれ最低1時間は取り組むようにしましょう。また、授業外ではニュースにも関心を持ち、特に国際問題について意識して見るようにしてください。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は全学共通教養科目であり、大学のディプロマ・ポリシーのうち（3）課題解決のために最先端かつ高度な知識・技能を活用できること（4）地域社会や産業界の課題を発見し協働を通して社会変革に参画できることに、関連づけられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
成績は、授業への参加・態度（40%）と授業課題（60%）で評価します。課題にはおおよそ1週間の提出期間を設けます。提出期限を過ぎた場合は、採点の対象とならないため、十分に注意してください。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	授業ガイダンス・オリエンテーション	地政学とは何か
2	大国による世界覇権の争い（1）	アメリカ（1）
3	大国による世界覇権の争い（2）	アメリカ（2）
4	大国による世界覇権の争い（3）	アメリカと沖縄
5	大国による世界覇権の争い（4）	ヨーロッパ（1）
6	大国による世界覇権の争い（5）	ヨーロッパ（2）
7	世界覇権を狙う2つの大国（1）	中国
8	世界覇権を狙う2つの大国（2）	ロシア
9	欧米による世界覇権を揺るがす国々（1）	インド・パキスタン・バングラデシュ・アフガニスタン
10	欧米による世界覇権を揺るがす国々（2）	トルコ・中東・イスラエル
11	欧米支配からの脱却を図る地域・国々（1）	アジア諸国
12	欧米支配からの脱却を図る国々（2）	中南米諸国
13	欧米支配からの脱却を図る国々（3）	アフリカ諸国
14	世界情勢の展望	戦争・紛争はなぜなくならないのか
15		
16		

科目コード	14001				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアサポート［BC留学生用］				担当者名	大平　真紀子／片上　摩紀			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本科目では、キャリアデザインで取り組んだ内容をもとに、日本の会社で働くために必要な資質、知識やマナーをさらに向上させることを目指す。日本で就労するためには日本人の考え方、国との働き方の違い、法規に関する問題などを知り、日本社会の中で共生していく必要がある。そのための知識の養成や心構えについて学ぶ。

＜授業の到達目標＞
卒業後の進路を選択し、選択した進路に進むために必要な資質や考え方、能力を獲得する。 ※留学生が卒業後に「特定活動」の在留資格を得るためには、本科目の単位を修得する必要があるので留意すること。

＜授業の方法＞
講義と演習を組み合わせて実施する。 面接対策に関連する授業回で、プレゼンテーションに類するものを行う。提出物はGoogle Classroomを用いて提出することもある。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
適宜グループやクラスでのディスカッション、発表を実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
前回講義で学習した内容を見直して復習し、授業終了時に示す内容等を予習する。（予習・復習とも30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー３（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
参加態度・学習意欲30%、講義内での課題 60%、最終レポート10%。課題に対するフィードバックは講義内で、最終レポートについてはGoogle Classroomで行う。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業概要と評価方法に関する説明
2	就職活動の中間報告	各自の就職活動の「これまで」と「これから」
3	キャリアについて考える	内的キャリアと外的キャリア、キャリア・アンカー
4	自己分析（1）	人生曲線、自分史
5	自己分析（2）	自己PRのための日本語表現
6	業界・企業研究（1）	業界・企業を捉える多様な視点、情報収集の方法
7	業界・企業研究（2）	選択肢を広げるための業界・企業研究
8	自己分析（3）	業界・企業選択に向けた価値観の模索
9	業界・企業研究（3）	価値観にもとづく業界・企業選択
10	書類の作成	読み手に伝わる日本語表現とは
11	就職活動におけるマナー	身だしなみ、電話・メール・対面での日本語表現
12	面接対策（1）	基本的な手順、聞かれる質問
13	面接対策（2）	面接のロールプレイング
14	まとめ	就職活動の総括とこれからの学びに向けて
15		
16		

科目コード	14001				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアサポート［企業］				担当者名	佐藤　典子／濱嶋　幸司／戸田　晃大／橘髙　真紀子			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
このキャリアサポート（企業）は体育学科、教育学科、こども発達学科、現代経営学科に在籍している企業就職を希望する学生対象の講義である。企業人事や卒業生から業界・職種説明を聞き、自分の就職先企業の選択肢を増やす。また、就職活動だけではなく、社会に出てすぐに役立つスキルやコミュニケーション方法を習得することも目標とする。基本的に対面の授業となり、参加することで就職活動を進めていくことに直結する内容となる。

＜授業の到達目標＞
1）企業就職を希望する学生が就職活動を進め、納得した進路決定をする。2）ビジネスマナーの知識を身に着け、実践できるようになる。

＜授業の方法＞
グループワーク・ロールプレイ・学内企業説明会への出席。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有テーマについて参加者同士で話し合い、意見をまとめグループごとに発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前・事後学習は企業研究や課題レポートの作成などで、１時間程度である。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー３（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講意欲・態度 60%、内容理解を診断するための提出物や課題レポートなど 40%

＜教科書＞
随時配布物を配る。

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	キャリアプランを見据えた企業選びをするための方法を学ぶ
2	企業・働き方研究	企業による業界・職種・働き方の説明会
3	企業・働き方研究	企業による業界・職種・働き方の説明会
4	面接対策	面接のポイントを学び、頻出質問に対する回答を作成する（オンデマンド回）
5	企業・働き方研究	企業による業界・職種・働き方の説明会
6	企業・働き方研究	企業による業界・職種・働き方の説明会
7	企業・働き方研究	企業による業界・職種・働き方の説明会
8	就活・ビジネスマナー	就職活動のマナー全般の知識習得・実践
9	企業・働き方研究	企業による業界・職種・働き方の説明会
10	将来のマネープラン設計	生命保険会社勤務の卒業生から将来のマネープラン設計について学ぶ
11	企業・働き方研究	企業による業界・職種・働き方の説明会
12	企業・働き方研究	企業による業界・職種・働き方の説明会
13	卒業生座談会	卒業生から現在の仕事について働き方や遣り甲斐などを聞き、自分のキャリア設計に役立てる
14	社会人の人間関係	人間関係構築に役立つアサーティブ・コミュニケーションについて学ぶ
15		
16		

科目コード	14001				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアサポート［教職］				担当者名	本藤　展康／目木　美奈子／岸本　勝義／千葉照久／奥山　優／安井　正郎／練苧　千之／岩田清隆			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

この授業の目的は、キャリアデザイン等で学んだ教師としての基礎知識をもとに、教員採用試験合格に向け、より実践的な資質・能力を身につけることである。その目的を達成するために、教員採用試験に向けた心構えや具体的な攻略法についての講義・演習を中心に、より実践に即した形で指導する。学習成果については、論理的思考力、表現力、協働性、教職への熱意などについて評価する。

＜授業の到達目標＞

・教師としての基礎知識や学校現場の課題を理解することができるようになる。・教員採用試験の傾向と対策を理解し、志望する自治体に応じた面接、論作文、模擬授業等の実践力を高めることができるようになる。・教師のやりがい、心構え等を理解し、自らの理想とする教師像を明確にすることができるようになる。

＜授業の方法＞

・講話を通して，課題の提示や説明　・課題についてのグループ協議・課題についての演習　・Googleクラスルームによる課題管理

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素有・５，６人のグループに分かれてテーマに沿ってディスカッションし、意見をまとめてグループごとに発表する。・個人面接や集団面接など、実践に即した演習を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・学習予定表に沿った内容に対して、課題意識をもたせる。（予習）・各回の講座の内容について、個人またはグループでの話し合いの中で、自分の考えを深めることができるようにする。・学んだ事を通し自分の考えをレポートとしてまとめることができる。（復習：３０分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、ディプロマポリシー３（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲　20%、受講態度　20%、講義内での課題等　20%、最終レポート　40%

＜教科書＞

特に指定しない

＜参考書＞

特に指定しない

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	教員採用試験合格に向けて教員採用試験の事務手続きキャリアサポートの概要社会人のマナー	採用試験合格に向けた取り組みについて提出願書の記入方法や注意事項調査票の記入・提出　等立ち振る舞い、服装とあいさつ
2	自己アピールの仕方自己PR作成について	自己アピールの仕方　自己PR作成のこつ・自己PR作成グループで自己アピール演習
3	第４期教育振興基本計画について学習進行表	第４期教育振興基本計画の概要グループに分かれて集団討論　学習進行表を基にした情報交換
4	教育現場の課題　1「いじめ・不登校への対応」　＜オンデマンド授業＞	いじめ・不登校への対応についての講義自分が取り組むことについてのレポート
5	個人・集団面接の攻略法	個人・集団面接の回答の仕方自分の考えをわかりやすく伝える手立て
6	学長講話	進路に向けてのメッセージ
7	受験に際しての心構え個人面接の攻略法	一次試験（二次試験）に臨む心構え聞き手を意識した回答の仕方ＩＰＵに関する質問への回答の仕方
8	実践に即した場面指導演習	場面指導の実際現場で起こりうる場面での対処法
9	教育現場の課題　２「インクルーシブ教育」	グループに分かれて集団討論
10	集団討論等の攻略法	集団討論・グループ活動の実施形態複数の受験者との討論の進め方課されるテーマの過去問の分析
11	模擬授業の攻略法	模擬授業の概要先輩の模擬授業（VTR視聴）学習指導案の書き方と模擬授業の実際

12	教育現場の課題　3「現行学習指導要領から次期学習指導要領への動き」	主体的・対話的で深い学び令和の日本型学校教育次期学習指導要領のめざすもの
13	実践に即した面接演習	授業に関する面接対策評価の観点を意識した面接の仕方・展開面接講座の仕上げ
14	まとめ最終レポート	本講座のまとめをする。最終レポートの作成　課題「学んだことをどのように教職に役立てるか」（９００字　６０分）
15		
16		

科目コード	14001				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアサポート［健康科学科用］				担当者名	古山　喜一			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
このクラスは健康科学科に在籍する学生が対象である。接骨院、整形外科クリニックをはじめとした医療機関、フィットネスクラブ、介護事業所などへの就職を目指す学生の就職活動における指導を実施する。

＜授業の到達目標＞
日本で就職を希望する留学生にエントリーシート記入の方法、面接対策、採用試験対策についてのサポートと指導をおこない、学生の希望に応じた企業・団体への内定を獲得できることを目標とする。また出身国に戻り就職を希望する留学生に対しては、より多くの情報を集め学生と個別に相談しながら、希望に沿った企業や団体への就職獲得を目指す。

＜授業の方法＞
講義、グループワーク、演習、面談の形で実施する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
面接練習

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
前回講義で学習した内容を見直して復習し、授業終了時に示す内容等を予習する。予習復習にはHPで集めた情報の中より有用なものを抽出し、レポートはword、excel、powerpointを用いDropboxを用いて提出する。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー３（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
講義内の討論参加度合　３０％、　講義内での課題遂行度合　３０％、　最終レポート　４０％

＜教科書＞
特に指定しない

＜参考書＞
特に指定しない

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の目的とその概要について
2	自己分析	就職先となる医療・福祉業界の特徴を知る
3	就職するには(1)	自分のアピール方法を知る
4	就職するには(2)	就職活動の流れと準備
5	就職するには(3)	企業・業界を知る
6	就職するには(4)	情報収集の方法
7	就職するには(5)	希望企業・業界の決定
8	就職活動サポート(1)	エントリーシートの書き方・履歴書の書き方(1)
9	就職活動サポート(2)	エントリーシートの書き方・履歴書の書き方(2)
10	就職活動サポート(3)	筆記試験・適性検査対策(1)
11	就職活動サポート(4)	筆記試験・適性検査対策(2)
12	就職活動サポート(5)	個人面接・集団面接対策
13	就職活動サポート(6)	個人面接・集団面接練習(1)
14	就職活動サポート(7)	個人面接・集団面接練習(2)
15		
16		

科目コード	14001				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアサポート［公務員］				担当者名	横内　浩平			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

公務員を目指す学生がキャリア（職業人生）を考えていくには、さまざまな出題科目について十分理解しておく必要がある。この講義では、今年度の公務員試験に必要な知識のうち、次の内容を身に付けることを目的とする。１．直前期に必要な「問題演習」２．二次試験対策のうち主に「集団討論」「集団面接」

＜授業の到達目標＞

１．公務員への理解を深め、公務員として働くことの意義を認識することができるようになる。２．採用試験における「頻出分野」の理解ができるようになる。3.今年度の公務員試験に必要な知識を養成し､採用に向けての準備を怠らない習慣を身に付けている。

＜授業の方法＞

１．講義（配布プリントを使用し授業、問題演習を進める）２．振り返り（授業の内容に関するまとめ）※授業の一部についてはインターネット上のサイトを活用して解説します。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有り　集団討論や集団面接の練習はグループを作って行う

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の授業内容に関するキーワードの下調べ（30分程度）復習：次回講義までに、該当する問題を解けるようにしておく（90分以上）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、ディプロマポリシー３（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験の結果 50% 、確認テスト35%、受業態度 15%

＜教科書＞

特に指定なし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	履修ガイダンス	講義の進め方について説明する。
2	問題演習（1）	政治
3	問題演習（2）	経済
4	問題演習（3）	日本史
5	問題演習（4）	世界史
6	問題演習（5）	地理
7	問題演習（6）	生物・地学
8	二次試験対策(1)	集団討論・集団面接等(1)
9	二次試験対策(2)	集団討論・集団面接等(2)
10	二次試験対策(3)	集団討論・集団面接等(3)
11	二次試験対策(4)	集団討論・集団面接等(4)
12	二次試験対策(5)	集団討論・集団面接等(5)
13	二次試験対策(6)	集団討論・集団面接等(6)
14	二次試験対策(7)	集団討論・集団面接等(7)
15		
16		

科目コード	14001				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアサポート［幼保］				担当者名	楢嵜　日佳／髙﨑　展好／三好　啓子／宮原　舞			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
幼稚園・保育所・認定こども園・福祉施設等において保育職を志望する学生を対象とした選択科目である。保育者としての基礎知識と採用試験合格に向けた具体的な指導をする。

＜授業の到達目標＞
① 保育者として求められる資質や能力について理解し、自らの進路目標を明確に説明することができる。② 保育職に進むために必要な論作文、面接、保育実技の基礎的技能を身につけ、実践することができる。③ 志望する自治体や法人の採用試験に向けて、必要な準備を行い、自身の考えや強みを適切に表現することができる。

＜授業の方法＞
講義、演習、グループワーク、個別指導

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
・アクティブ・ラーニングの要素有・5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。・互いの演奏や弾き歌いについての振り返りをする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
・予習：学習予定表に沿って、次回の内容に関する関連資料や課題を読み、授業の準備をする。（30分）・復習：各回の講義の内容について、個人またはグループで復習をし、ワークシートの追加記入や復習をする。自己課題に応じたピアノ及び弾き歌い練習をする。（60分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー３（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習態度20%、課題50%、小テスト30%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	職業選択と就職活動の意思確認	授業の目的と概要児童生徒性暴力等に関する理解
2	ピアノ実技（1）	ピアノ演習・弾き歌い（1）
3	合格までの計画	先輩の講話将来を見通した長期計画と短期計画
4	ピアノ実技（2）	ピアノ演習・弾き歌い（2）
5	願書の作成	願書記入のマナー、自分の強みを生かした願書作成
6	ピアノ実技（3）	ピアノ演習・弾き歌い（3）
7	願書の送付	封筒の書き方、郵送の方法メール提出のマナー
8	ピアノ実技（4）	ピアノ演習・弾き歌い（4）
9	面接（1）	集団面接と個人面接
10	ピアノ実技（5）	ピアノ演習・弾き歌い（5）
11	面接（2）	集団討論の方法と演習
12	ピアノ実技（6）	ピアノ実技・弾き歌い（6）
13	学びのまとめ	合格までの就職活動保育職のキャリア形成
14	ピアノ実技（6）	ピアノ演習・弾き歌いまとめ
15		
16		

科目コード	14002				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアデザインⅠ［BC留学生用］				担当者名	大平　真紀子			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
卒業後の人生を実りあるものにするためには、きちんとしたキャリアプランを立て、早期から準備に取り組む必要があ る。本科目では、前期は進路別の就職活動の基本的スケジュールを理解するとともに、自己理解、職業・仕事の理解を 通じ自身の目指すべき方向性を明確にする。後期は、就職活動で必要なビジネスマナー、自己分析、業界研究、面接対 策等について実践的に学習していく。

＜授業の到達目標＞
卒業後の進路を選択し、選択した進路に進むために必要な資質や考え方、能力を獲得する。

＜授業の方法＞
講義と演習を組み合わせて実施する。 業界・企業研究に関連する授業回で、グループワークを行う。 面接対策に関連する授業回で、口頭発表を行う。 提出物はGoogle Classroomを用いて提出する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
適宜グループやペア，クラスでのディスカッションを実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習（各回60分程度）：課題の指定された部分を通読したうえで、分からない言葉を調べる。復習（各回80分程度）：授業で学んだことを踏まえて、自身のキャリアについて考えたり、進路決定に向けた準備を進め たりする。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー３（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
参加態度・学習意欲30%、講義内での課題 60%、最終レポート10%。 課題に対するフィードバックは講義内で、最終レポートについてはGoogle Classroomで行う。

＜教科書＞

＜参考書＞
久保田学（2018）　「留学生のための就職内定ワークブック」　日本能率協会マネジメントセンター
グエン・テュアン・ズオン（2018）　「ベトナム人が日本企業に就職するための心得」　日本ベンチャー大學パブリッシング

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	多様な選択肢を知る	日本就職、母国就職、進学などの選択肢の概観
2	日本で就職するということ（1）	日本の採用文化、就活スケジュール
3	日本で就職するということ（2）	留学生に対する企業側の期待と不安
4	キャリアを考える	内的キャリアと外的キャリア、キャリア・アンカー
5	自分がどういう人かを考える（1）	人生曲線、自分史
6	自分がどういう人かを考える（2）	コンピテンシー
7	自分がどうしたいかを考える（1）	未来史
8	自分がどうしたいかを考える（2）	日本との関係（つながり）
9	インターンシップ	日本のインターンシップの特徴、参加する意義、参加方法
10	業界を知る（1）	業界研究の視点、基本的な方法
11	業界を知る（2）	業界研究の実践
12	企業を知る（1）	企業研究の視点、基本的な方法
13	企業を知る（2）	企業研究の実践
14	筆記試験の重要性	適性検査、一般常識試験、論作文
15		
16		

科目コード	14002				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアデザインⅠ［企業］				担当者名	佐藤　典子／眞鍋　芳江／鈴木　真理子／濱嶋　幸司／橘髙　真紀子／伊藤　亮輔			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
「折れない、やめないIPU生」の育成をしつつ就職支援も強力に推し進めるために、キャリアデザインIは具体的な就活能力の向上につながる授業とする。

＜授業の到達目標＞
自己分析や学生時代の経験の棚卸ができるようになり、将来のキャリアをデザインをする力が付く。

＜授業の方法＞
アカデミックな内容に加え、実用的なノウハウも学ぶ。外部講師を招へいしての講義や、クイズや動画も使う。履修者は300名を超えることが想定されるが、毎回前半Aと後半Bに分けて、50分授業を２回実施したり、オンデマンドを活用したりすることで、小規模な討論ができるように工夫する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
クイズ、ペア・ワーク、グループ・ワーク、ディスカッションなど。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
毎回授業終了時には、振り返りの代わりに授業の内容を踏まえた上での行動目標を書く。予習・復習を兼ねた課題提出（必須）が4回あり、それぞれの学習時間は１時間程度である。外部講師を招へいする際には、感想文の提出を課す。所属学科によりスケジュールが異なる日もあるので、クラスルームの情報に注意すること。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー３（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
参加意欲・態度　60%、提出物　40%。フィードバックとして、行動目標の中から代表的なものを全体で共有することがある。

＜教科書＞
適宜配布物を提供する。

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス　①　シラバス説明、キャリアセンター担当者紹介	前期の授業内容の紹介ならびにキャリア支援や就活基礎知識、翔志会についてキャリアセンターから伝える。また現在の就職活動を取り巻く環境についても情報を提供して理解を促す。
2	A. キャリアとは　B. 就職活動の支援環境を把握する	外的・内的キャリアについて理論的に学ぶ。就職情報サイト登録やインターンシップについての説明など。
3	教員パネルディスカッション	本授業の各学科担当教員が各自のキャリアデザインについて振り返り、講話をする。
4	自己理解	キャリアアンカーを理論的に理解して、自分の就職活動における軸を探す。
5	A. 自己理解B. 業界研究セミナー	ジョハリの窓のワークやIPUの先輩たちの就活体験から学ぶ。
6	A.業界研究・企業研究B.ライフ・プランニング（オンデマンドFE/FC/BC）	業界や職種について演習から学ぶ。また人生を必要経費の視点から計画していくスキルを身につける。全体を２つに分けて、対面とオンデマンドになり、翌週とたすき掛けの内容となる。
7	A.ライフ・プランニング（オンデマンドPP）B.業界研究・企業研究	先週の逆のグループ構成で対面とオンデマンドになる。業界や職種について演習から学ぶ。また人生を必要経費の視点から計画していくスキルを身につける。全体を２つに分けて、対面とオンデマンドになり、翌週とたすき掛けの内容となる。
8	A. 大手を目指そう！①B. 就職支援会社の活用について	金融業界（銀行・証券会社）を目指す業界特化セミナーで外部講師を招聘する。
9	A.大手を目指そう！②B.ビジネスマナー	外資・空港・ホテルを目指す学生に特化する。就職活動におけるビジネスマナーについて学ぶ。
10	A.人生をデザインするB.ガクチカ、自己PR作成	ライフライン・チャートを作成し、未来の自分にインタビューする。ガクチカのない学生は夏休みの過ごし方を考える。
11	A. 就職活動ワークB. 自己分析(オンデマンドFE/FC/BC)	企業もしくは４年生にインタビューをして新しい知見を得る。オンデマンドは自己分析の演習をする。
12	A. 自己分析（オンデマンドPP)B. 就職活動ワーク	企業もしくは４年生にインタビューをして新しい知見を得る。オンデマンドは自己分析の演習をする。

13	A.就職活動最前線！B.SPI対策	４年生によるパネルディスカッションの後、適正検査について知る。夏休みに対策することを決める。
14	A. SMART目標B.前期キャリアデザイン総括	目標設定力の強化。前期の振り返りで提出物やインターンシップ申し込みの確認ならびに授業評価をする。
15		
16		

科目コード	14002				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアデザインⅠ［教職］				担当者名	岸本　勝義／練苧　千之／奥山　優／安井　正郎／千葉　照久／林　栄昭／目木　美奈子／本藤　展康			
配当年次	3年	配当学期	第１クォーター、第２クォーター	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

キャリアデザインⅠは子ども発達学科、教育経営学科、体育学科に在籍している教員を志望する学生が対象である。教員としての働くことの意義や自己理解を深める中で、必要な資質や能力を養い、将来の生き方について考えさせるとともに、教員採用試験合格を目指して、必要な取組について指導を行う。学習成果については、論理的思考力、表現力、協働性、教職への熱意などについて評価する。

＜授業の到達目標＞

１　教員を選択した意思を明確にし、その職に進むために必要な資質や能力を高めることができるようになる。　２　自己理解を深め、将来の生き方について考えることができるようになる。　３　教員採用試験合格を目指して、必要な取組を理解し、日常の実践に生かすことができるようになる。

＜授業の方法＞

・講話を通して、課題の提示や説明を行う。　・課題についてグループディスカッションを行う。　・課題についての演習を行う。　・レポートの提出。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

・テーマについて5、６人のグループに分かれてデスカッションを行いグループごとに発表したり、近くの学生同士で意見交流を行ったりする場を設ける。・事後課題として授業での学びを振り返り、気付きや今後に生かしていきたいことなどをレポートにまとめる。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・学習予定表に沿った内容に対して、課題意識をもたせる。（予習）・各回の講座の内容について、個人またはグループでの話合いの中で、自分の考えを深めることができるようにする。・学んだことを通し自分の考えをレポートとしてまとめることができる。（復習：３０分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、ディプロマポリシー３（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 20%、受講態度 20%、講義内での課題等 20%、最終レポート 40%

＜教科書＞

特に指定しない。

＜参考書＞

特に指定しない。

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	キャリアデザインとは①・学習のルール・一年間の予定・学校支援ボランティア・「教師を志望する理由」レポート作成	・本講座の目的・意義・概要　・教員を志望する理由　・学校支援ボランティアの意義・社会人としての五つの基本
2	自らの社会人基礎力進路調査	・ ＭＡＴＣＨ plus 受験（マイナビ）・ 進路調査
3	キャリアデザインとは②・立ち居振る舞い　・授業の基礎・基本	・ 授業の意義と概要・ 教員になるための心構え・ 授業と板書　・ 板書の文字（チョークを持って書くということ）
4	教育現場の課題①　「学力の向上」	・ 学力向上への方策　＊講話・レポート
5	学長講話	・ 教師としてのやりがい
6	講話「生徒指導提要の理解」	・ 現場の実態を踏まえた、児童生徒への接し方
7	教育現場の課題②　「いじめ問題の解決」	・ いじめ問題の現状と課題　＊講話・グループディスカッション
8	教育現場の課題③　「不登校の解消」	・ 不登校の現状と解消への方策　＊講話・グループディスカッション
9	教育現場の課題④　「特別支援教育の充実」	・ 特別支援教育の現状と課題　＊講話・グループディスカッション
10	教育現場の課題⑤　「家庭・地域との連携」	・ 家庭・地域との連携と必要性　＊講話・グループディスカッション

11	講話　「現場が求める人材」	・学校現場の現状と期待される人材
12	キャリア演習　「荘内中学校生徒との交流」	・玉野市立荘内中学校生徒との交流　　＊進路選択についての経験談　　＊どんな先生を求めているか
13	教員に求められる資質や能力①「信頼される教員」	・信頼される教員としての資質　　＊講話・グループディスカッション
14	教員になるための取組の成果と課題	・ 教員になるために努力していること　　・ 第３クォーター、第４クォーターに向けての課題　　・ 夏季休業中の過ごし方　　・ レポート試験
15		
16		

科目コード	14002				区　分	教養科目		
授業科目名	キャリアデザインⅠ［健康科学科用］				担当者名	畑島　紀昭		
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
卒業後の進路を実りあるものにするためには、計画的にキャリアプランを立て、早期から準備に取り組む必要がある。進路別就職活動のスケジュールを理解するとともに、実際の現場で求められている柔道整復師のスキルやモラルを理解し、身に付けることを学修成果として求めます。

＜授業の到達目標＞
柔道整復師に求められる職業倫理および社会保障制度について理解し、その内容を具体的に説明することができる。また、柔道整復師の役割を踏まえた自己分析を行い、自身の適性や課題を明確にした上でキャリアプランを立案することができる。さらに、基本的なビジネスマナー（挨拶、言葉遣い、態度等）を実践することができ、業界動向や職務内容に関する知識をもとに適切な進路選択を行うことができる。

＜授業の方法＞
必要に応じて、ゲストスピーカーをお招きして講義を進める（オンライン形式も含む）。資料の配布等はGoogle Classroomを活用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
課題に対してグループワークを実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：事前に連絡した内容を予習して授業に臨む（毎回1時間程度）復習：講話後はレポートを提出し、柔道整復師の理解を深める。（毎回1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー３（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業意欲・態度：50%、授業課題・レポート提出： 50%

＜教科書＞
なし

＜参考書＞
なし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業の目的、進め方についての説明就職先に関するアンケート
2	職業倫理①	業界調査（地域医療に貢献する柔道整復師の実態）
3	職業倫理②	業界調査②（効果のある施術を探る）
4	職業倫理③	OB･OG講話　柔道整復師の業務とその実際
5	職業倫理④	企業講話　柔道整復師が果たすべき役割
6	自己分析①	自己PRの仕方①　自分の強みを考える
7	自己分析②	自己PRの仕方②　自分の強みを伝える
8	自己分析③	自己PRの仕方③　名刺の役割および作成
9	自己分析④	志望動機を考える
10	就職活動の実践①	履歴書・エントリーシートの書き方
11	就職活動の実践②	履歴書・エントリーシートの相互指導（添削）
12	就職活動の実践③	面接（オンライン及び対面）の対応
13	就職セミナー	企業数社が集まる就職セミナーに参加し、複数の企業の説明を聞く。
14	前期まとめ	柔道整復術の短期的視点・長期的視点夏季休暇中の企業見学について
15		
16		

科目コード	14002				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアデザインⅠ［公務員］				担当者名	森　利治			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
このキャリアデザインⅠ（公務員）は体育学科、教育学科、こども発達学科、現代経営学科に在籍している公務員就職を希望する学生対象の講義である。このクラスでは公務員就職を希望し、公僕として働くことの意義を実際に各種公務員として働くためにどんな職種の公務員があるのか、それはどのような業務をするのかを知ることでなりたい職種を絞っていきます。そのためには公務員試験とはどのようなものか、どんな試験内容で構成されているのか、教養試験、適性試験、論文試験、面接試験などについて解説していく。以上のことを学んでいく中で本当に公

＜授業の到達目標＞
１．公務員就職について職種や試験の知識を学び、将来目指すべき職種を見つける。２．自己理解を深め、将来の自分の方向性について考える。

＜授業の方法＞
講義、講演会、グループワーク（模擬面接、集団討論）等の形式で実施する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有り　問題の一部についてはグループ内で相談し答えを見つける

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：グループワークをする際に、事前に課題を与え個別に調べさせ配布用紙に記入する（１時間程度）。復習：グループワークや講演会の場合は振り返りレポートを提出させる（30分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー３（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
単元別レポート70%、授業に取り組む姿勢30%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	本科目の目的・意義・概要、スーツ着用にあたっての再確認事項、公務員を志望する理由、立志会の説明
2	公務員試験の概要（1）	公務員試験の種類
3	公務員試験の概要（2）	公務員の職種について①（公安職）
4	公務員試験の概要（3）	公務員試験の職種について②（公安職）
5	公務員試験の概要（4）	公務員試験の職種③（行政職）
6	公務員試験の概要（5）	公務員試験の募集要項の見方と、願書の作成体験
7	公務員試験の概要（6）	各種公務員試験の出題内容と実際の問題を見てみよう
8	講話「現場が求める人材」	大都市圏の警察官の仕事について
9	公務員試験の概要（7）	体力検査、各種適性検査について
10	公務員試験の概要（8）	各種試験の論文課題について
11	公務員試験の概要（9）	論文を実際に書いてみる
12	立志会の入会説明	全体のカリキュラムの概要、活動内容の説明、費用についての説明、４年生の先輩からの話
13	公務員試験の概要（１０）	面接試験について（自分についての棚卸）
14	公務員試験の概要（１１）	面接試験について（自己分析と自己ＰＲ）
15		
16		

科目コード	14002				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアデザインⅠ［幼保］				担当者名	楢﨑　日佳／髙﨑　展好／三好　啓子／宮原　舞			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
キャリアデザインⅠ〔幼保〕は、こども発達学科に在籍している幼稚園・保育所・こども園・福祉施設等への就職を希望する学生対象の科目である。保育職を選択し働くことの意思や自己理解を深める中で、保育職に就くために必要な資質や能力を養い、将来の生き方について考える機会とする。また、保育職採用試験合格を目指して、論作文、面接、実技試験などの実際について指導をする。

＜授業の到達目標＞
① 保育職を志望する理由を整理し、自らの言葉で具体的に説明することができる。② 保育職に必要とされる資質や能力を理解し、自身の強みや課題として整理することができる。③ 自己分析を通して自己理解を深め、将来の進路や生き方について具体的に表現することができる。

＜授業の方法＞
・講話を通して、課題の提示や説明及び課題についてのグループワーク・自己課題に応じたピアノ実技・課題についての演習

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
・アクティブ・ラーニングの要素有・5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。・互いの演奏や弾き歌いについての振り返りをする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
・予習：学習予定表に沿って、次回の内容に関する関連資料や課題を読み、授業の準備をする。（30分）・復習：各回の講義の内容について、個人またはグループで復習をし、ワークシートの追加記入や復習をする。自己課題に応じたピアノ及び弾き歌い練習をする（60分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー３（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習態度20%、課題50%、試験30%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	職業選択と就職活動の意思確認と見通し	授業の目的・意義・概要児童生徒性暴力等に関する理解
2	ピアノ実技（1）	ピアノ演習・弾き歌い（1）
3	進路の選択	公立園と私立園の違い、先輩の講話
4	ピアノ実技（2）	ピアノ演習・弾き歌い（2）
5	採用試験の流れと概要	採用試験までの流れ、自治体・法人の探し方
6	ピアノ実技（3）	ピアノ演習・弾き歌い（3）
7	社会人のマナー	社会人の身だしなみ、挨拶、立居振舞、言葉遣い
8	ピアノ実技（4）	ピアノ演習・弾き歌い（4）
9	論作文（1）	構成メモと文章の作成（1）
10	ピアノ実技（5）	ピアノ演習・弾き歌い（5）
11	論作文（2）	構成メモと文章の作成（2）
12	ピアノ実技（6）	ピアノ演習・弾き歌い（6）
13	前期のまとめ	前期学びの振り返り長期休業期間の就職活動について
14	ピアノ実技（7）	ピアノ演習・弾き歌いまとめ
15		
16		

科目コード	14003				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアデザインⅡ［BC留学生用］				担当者名	大平　真紀子			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
卒業後の人生を実りあるものにするためには、きちんとしたキャリアプランを立て、早期から準備に取り組む必要があ る。本科目では、前期は進路別の就職活動の基本的スケジュールを理解するとともに、自己理解、職業・仕事の理解を 通じ自身の目指すべき方向性を明確にする。後期は、就職活動で必要なビジネスマナー、自己分析、業界研究、面接対 策等について実践的に学習していく。

＜授業の到達目標＞
卒業後の進路を選択し、選択した進路に進むために必要な資質や考え方、能力を獲得する。

＜授業の方法＞
講義と演習を組み合わせて実施する。 業界・企業研究に関連する授業回で、グループワークを行う。 面接対策に関連する授業回で、プレゼンテーションに類するものを行う。提出物はGoogle Classroomを用いて提出する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
適宜グループ、ペア、クラスでのディスカッションを実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習（各回60分程度）：課題の指定された部分を通読したうえで、分からない言葉を調べる。復習（各回80分程度）：授業で学んだことを踏まえて、自身のキャリアについて考えたり、進路決定に向けた準備を進め たりする。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー３（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
参加態度・学習意欲30%、講義内での課題 60%、最終レポート10%。課題に対するフィードバックは講義内で、最終レポートについてはGoogle Classroomで行う。

＜教科書＞

＜参考書＞
久保田学（2018）　「留学生のための就職内定ワークブック」　日本能率協会マネジメントセンター
グエン・テュアン・ズオン（2018）　「ベトナム人が日本企業に就職するための心得」　日本ベンチャー大學パブリッシング

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	前期振り返り	前期の振り返りと後期の授業概要インターンシップや業界・企業研究などの成果の共有
2	就職活動におけるマナー（1）	基本的な身だしなみ
3	就職活動におけるマナー（2）	敬語、電話・メールの日本語表現
4	インターネットを活用した就職活動の展開	就活サイトの活用法、各種データベースの利用方法
5	企業を知る（3）	個別企業の事例に基づく企業理解（外部講師予定）
6	業界・企業を選ぶ	業界・企業選びの方向性
7	履歴書とエントリーシート	書類提出の意味、基本的な書き方・注意点
8	日本の税制と福利厚生	給与と福利厚生、所得税
9	自己分析	自分の「これまで」と「これから」を改めて見つめ直す
10	自分のことを他人に伝える	自己PRのための日本語表現
11	面接対策（1）	基本的な手順、よく聞かれる質問
12	面接対策（2）	面接のロールプレイング
13	在留資格について	卒業後の在留資格の説明
14	まとめ	全体の総括と補足説明
15		
16		

科目コード	14003				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアデザインⅡ［企業］				担当者名	佐藤　典子／眞鍋　芳江／鈴木　真理子／濱嶋　幸司／橘髙　真紀子／伊藤　亮輔			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必須

＜授業の概要＞
「折れない、やめないIPU生」の育成をしつつ、就職支援も強力に推し進めるために、キャリアデザインIIでは働くことの意義や大学での学びが社会にどう関連するか考える。

＜授業の到達目標＞
業界分析や職種研究によって、将来の自分のキャリアを強くイメージできるようになる。また大学での学びが社会でどのように役に立つか自分の言葉で話せるようになる。

＜授業の方法＞
講義やグループディスカッションなど。毎回１つもしくは２つのテーマを設ける。（２つの場合は、AとBの50分程度の授業を続けて実施することもある）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有各回でアイスブレークの演習をペアで実施したり、リアルタイムでアンケートに参加・回答したりする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習・復習を兼ねた企業研究や課題レポートの作成などで、事前・事後学習は1時間程度である。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー３（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
参加意欲・態度６０％　提出物４０％　　提出物へのフィードバックについてはグーグルクラスルームを活用する。優秀な提出物については、授業中に共有（匿名で）することもある。

＜教科書＞
随時印刷物を配布する。

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	A.初回ガイダンス　B.３年生秋からの就職活動	キャリアデザインIIとなるので、改めて初回ガイダンスで授業のルールや心構えについてキャリアセンター職員からアドバイスを提供する。秋冬の就活スケジュールについて確認する。
2	履歴書作成	自分で履歴書作成ができるように書き方を指導する。
3	自己PRとガクチカ	自己PRとガクチカの違いについて知り、実際に書いてみる。
4	A.翔志会の話を聴いてみよう　B.志望動機について	翔志会のメンバーに登壇してもらい、経験談から学ぶ。外部講師から志望動機の書き方を学ぶ。
5	理想の生活について	自らキャリアをデザインしていくために、まず理想の将来について言語化できるようになる。
6	自己PRに生成AIを駆使する	これまでイメージできている自己イメージに基づいて、自分の魅せ方を言語化できるようになる。AIをどのように有効活用するかも学ぶ。
7	企業のためのオープンキャンパス準備①	企業のためのオープンキャンパスにご来学される企業群から自分に合いそうな企業をピックアップする。
8	企業のためのオープンキャンパス準備②	ワールドカフェでのディスカッションを体験する。名刺の受け渡しや、ビジネスマナーについても知見を深める。
9	ビジネスメール	社会人になってビジネスメールが書けるように練習をする。
10	卒業生とのディスカッションによる仕事研究	３～４か所の教室に分かれて、各企業で活躍する卒業生から小さなグループで学ぶ。
11	社会で役立つホスピタリティ	ホスピタリティ業界に特化し、外部講師の講演を聴く。
12	選考突破研究	選考のポイントについて現役の人事担当者から聞いて、今後の戦略を立てる。
13	グローバルな視点を持つ	外資系企業の現状や、青年海外協力隊の体験を聞き、グローバルな視野を持つ。
14	学長講話	大橋学長より社会に出るにあたっての心構えや、人生において大切なことを学ぶ。
15		
16		

科目コード	14003				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアデザインⅡ［教職］				担当者名	岸本　勝義／練苧　千之／坂根　清貴／奥山　優／安井　正郎／千葉　照久／延原　まどか／目木　美奈子／岩田　清隆／本藤　展康／林　栄昭			
配当年次	3年	配当学期	第３クォーター、第４クォーター	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

このキャリアデザインⅡは、子ども発達学科、教育経営学科、体育学科に在籍している教員を希望する学生対象である。このクラスでは、教員を選択し、働くことの意義や自己理解を深める中で、教員になるために必要な資質や能力を養い、将来の生き方について考えさせるとともに、教員採用試験合格を目指して、より実践的な取組について指導を行う。学習成果については、論理的思考力、表現力、協働性、教職への熱意などについて評価する。

＜授業の到達目標＞

１　教員を選択した意思を明確にし、その職に進むために必要な資質や能力を高めることができるようになる。２　自己理解を深め、将来の生き方について考えることができるようになる。３　教員採用試験合格を目指して、必要な取組を理解し、日常の実践に生かすことができるようになる。

＜授業の方法＞

・講話を通して、課題の提示や説明を行う。　・課題についてグループディスカッションを行う。・課題についての演習を行う。・レポートの提出。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

・テーマについて5、６人のグループに分かれてデスカッションを行いグループごとに発表したり、近くの学生同士で意見交流を行ったりする場を設ける。・事後課題として授業での学びを振り返り、気付きや今後に生かしていきたいことなどをレポートにまとめる。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・学習予定表に沿った内容に対して、課題意識をもたせる。（予習）・各回の講座の内容について、個人またはグループでの話合いの中で、自分の考えを深めることができるようにする。・学んだことを通し自分の考えをレポートとしてまとめることができる。（復習：３０分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、ディプロマポリシー３(課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・学習意欲 20%、受講態度 20%、講義内での課題等 20%、最終レポート 40%

＜教科書＞

特に指定しない。

＜参考書＞

特に指定しない。

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	教員採用試験合格への取組　キャリアデザインの後期の予定　個別面談・学習進行表	合格に向けての心構え～これからの努力　＊対策講座について　＊個別面談・学習進行表について
2	教師に求められる資質や能力②　「保護者対応」	・保護者に対応するために必要な心構えと力・チーム学校体制の中での役割　＊講話・グループディスカッション
3	教育課題への対応①　「時事問題への対応」～情報モラル教育～	情報モラル教育の理解とその対応　＊講話・グループディスカッション
4	出前講座　「学校現場が必要としている教員像　～授業づくり～　」	主体的・対話的で深い学びの実現　・広島県教委「ワークショップ」
5	教育課題への対応②　「人権尊重の教育」～いじめ・児童虐待・LGBT～	人権尊重の教育の基本的な考え方と取組　＊講話
6	合格の秘訣を探る①　「教採合格者の体験」	教員採用試験合格者の体験発表　＊「私はこうして合格した」
7	合格の秘訣を探る②　「個人面接・場面指導」	教採における個人・集団面接の概要と留意点　＊先輩の個人面接・場面指導

8	合格の秘訣を探る③　「模擬授業」	教採における模擬授業の概要と留意点　＊先輩の模擬授業
9	合格の秘訣を探る④　「集団面接・集団討論」	教採における集団討論等の概要と留意点　＊先輩の集団面接・集団討論
10	講話①「生徒指導への対応」	生徒指導についての基本的な考え方と実践事例　＊中学校長の講話
11	講話②「学級集団の育て方」	学級集団づくりについての基本的な考え方と実践事例　＊小学校長の講話
12	教育課題への対応③　「第４期教育振興基本計画について」	第４期教育振興基本計画の概要
13	教育課題への対応④　「学校安全」	学校安全の取組の必要性　＊講話・グループディスカッション
14	教採に向けた取組の成果と課題	教員採用試験に向けた取組の振り返り来年度に向けての方策春季休業期間の学習レポート試験
15		
16		

科目コード	14003				区　分	教養科目		
授業科目名	キャリアデザインⅡ［健康科学科用］				担当者名	畑島　紀昭		
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
卒業後の進路を実りあるものにするためには、計画的にキャリアプランを立て、早期から準備に取り組む必要がある。進路別就職活動のスケジュールを理解するとともに、実際の現場で求められている柔道整復師のスキルやモラルを理解し、身に付けることを学修成果として求めます。

＜授業の到達目標＞
柔道整復師に求められる職業倫理および社会保障制度について理解し、その内容を臨床現場や実務に関連付けて説明することができる。また、進路別の就職活動スケジュールを理解し、自身のキャリアプランを具体化するとともに、進路選択に向けた行動計画を立案・実行することができる。さらに、実際の現場で求められる柔道整復師の知識・技能・モラルについて理解し、基本的なビジネスマナーを実践するとともに、主体的に進路選択を行うことができる。

＜授業の方法＞
必要に応じて、ゲストスピーカーをお招きして講義を進める（オンライン形式も含む）。資料の配布等はGoogle Classroomを活用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
必要に応じてグループワークを実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：事前に連絡した内容を予習して授業に臨む（毎回1時間程度）復習：講話後はレポートを提出し、柔道整復師の理解を深める。（毎回1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー３（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業意欲・態度：50%、授業課題・レポート提出： 50%

＜教科書＞
なし

＜参考書＞
なし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	キャリアプランの設計①	前期授業および夏季休暇の省察就職活動に向けたキャリアプランの設計
2	職業倫理及び関係法規①	健康保険制度の概要および不正請求について
3	職業倫理及び関係法規②	業務におけるリスクマネジメント
4	社会保障制度①	関連企業講話「社会保障費から読み解く本邦の社会保障制度」
5	社会保険制度②	関連企業講話「少子高齢化が進む日本で接骨院が果たすべき役割」
6	社会保障制度③	関連企業講話「老齢年金を始めとした各種年金制度の概要」
7	社会保障制度④	関連企業講話「障がい者への福祉サービスを始めとした社会福祉」
8	社会保障制度⑤	企業関連講話⑤「公的扶助（生活保護）制度」
9	グループ討議①	競技スポーツ分野で柔道整復師が活躍する方策を考える
10	グループ討議②	医療分野で柔道整復師が活躍する方策を考える
11	グループ討議③	介護・福祉分野で柔道整復師が活躍する方策を考える
12	就職セミナー①	企業数社が集まる就職セミナーに参加し、興味のある企業の説明を聞く。
13	就職セミナー②	企業数社が集まる就職セミナーに参加し、興味のある企業の方と面談する。
14	キャリアプランの設計②	自分自身のキャリアプランを他者と共有する
15		
16		

科目コード	14003				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアデザインⅡ［公務員］				担当者名	森　利治			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
このキャリアデザインⅡ（公務員）は体育学科、教育学科、こども発達学科、現代経営学科に在籍している公務員就職を希望する学生対象の講義である。このクラスでは公務員就職を希望し、公僕として働くことの意義を実際に各種公務員として働くためにどんな職種の公務員があるのか、それはどのような業務をするのかを知ることでなりたい職種を前期で絞ったうえで、警察官、消防士、自衛官、市役所、県庁職員など実際現場で活躍されている方などをお招きして実際の業務を生講義していただき、学生が調べてきたことと実際との相違を学び、４年生から始ま

＜授業の到達目標＞
１．公務員採用試験に合格するために、キャリアデザインⅠで取り組んだ自己分析をもとに集団面接形式での実践演習を行い、実際の面接試験に向けての動機付けになるようにする。２．各職種で活躍されている外部講師の方からの講話、合格を勝ち取った先輩方の体験談を聴いて、自分の進みたい道に対しての覚悟を決め受験に対するモチベーションを高める。

＜授業の方法＞
講義、講演会、論文対策、模擬面接などの形式で実施する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有り　問題の一部についてはグループ内で相談し答えを見つける。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：模擬面接や論文課題をする際に、事前に課題を与え個別に調べさせ所定用紙に準備させる（１時間程度）。復習：講演会の場合は振り返りレポートを提出させる（30分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー３（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
期末試験70%、単元別レポート15%、授業に取り組む姿勢15%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	後期の目標を設定する	志望先を考える。勉強と部活動、アルバイトなどとのバランスについてスケジュールを立てる。
2	実践演習（1）	面接試験について（集団面接①）
3	講話「現場が求める人材」（1）	消防士の仕事内容（1）
4	実践演習（2）	面接試験について（集団面接②）
5	講話「現場が求める人材」（2）	地方の警察官の仕事内容について
6	合格の秘訣を探る（1）	公務員試験合格者の体験談（1）
7	実践演習（3）	面接試験について（集団面接③）
8	講話「現場が求める人材」（3）	刑務官の仕事内容について
9	合格の秘訣を探る（2）	公務員試験合格者の体験談（2）
10	講話「現場が求める人材」（4）	県職員の仕事内容について
11	合格の秘訣を探る（3）	公務員試験合格者の体験談（3）
12	講話「現場が求める人材」（5）	自衛官の仕事内容について
13	講話「現場が求める人材」（6）	消防士の仕事内容について
14	講話「現場が求める人材」（7）	市職員の仕事内容について
15		
16		

科目コード	14003				区　分	教養科目			
授業科目名	キャリアデザインⅡ［幼保］				担当者名	楢嵜　日佳／髙﨑　展好／三好　啓子／宮原　舞			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
キャリアデザインⅡ〔幼保〕は、こども発達学科に在籍している幼稚園・保育所・こども園・福祉施設等への就職を希望する学生対象の科目である。保育職を選択し働くことの意思や自己理解を深める中で、保育職に就くために必要な資質や能力を養い、将来の生き方について考える機会とする。また、保育職採用試験合格を目指して、論作文、面接、実技試験などの実際について指導をする。

＜授業の到達目標＞
① 保育職を志望する理由を整理し、自らの言葉で具体的に説明することができる。② 保育職に必要とされる資質や能力を理解し、自身の強みや課題として整理することができる。③ 自己分析を通して自己理解を深め、将来の進路や生き方について具体的に表現することができる。

＜授業の方法＞
・講話を通して、課題の提示や説明及び課題についてのグループワーク・自己課題に応じたピアノ実技・課題についての演習

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
・アクティブ・ラーニングの要素有・5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。・互いの演奏や弾き歌いについての振り返りをする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
・予習：学習予定表に沿って、次回の内容に関する資料関連や課題を読み、授業の準備をする。（30分）・復習：各回の講義の内容について、個人またはグループで復習をし、ワークシートの追加記入や復習をする。自己課題に応じたピアノ及び弾き歌い練習をする。（60分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー３（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習態度20%、課題50%、小テスト30%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	職業選択と就職活動の意思確認と合格までの見通し	授業の目的・意義・概要児童生徒性暴力等に関する理解
2	ピアノ実技（1）	ピアノ演習・弾き歌い（1）
3	自己分析	自己分析シートを活用した自分の強みと課題
4	ピアノ実技（2）	ピアノ演習・弾き歌い（2）
5	進路の選択	先輩の講話
6	ピアノ実技（3）	ピアノ演習・弾き歌い（4）
7	就職説明会、インターンシップへの参加準備	就職説明会・インターンシップの申込、参加準備、マナー、情報の整理
8	ピアノ実技（4）	ピアノ演習・弾き歌い（4）
9	合同就職説明会への参加	保育職合同説明会及び保育ICT見本市への参加
10	ピアノ実技（5）	ピアノ演習・弾き歌い（5）
11	面接	面接のマナーと演習
12	ピアノ実技（6）	ピアノ演習・弾き歌い（6）
13	後期のまとめと採用試験の準備	後期まとめと受験計画の作成長期休業期間の就職活動について
14	ピアノ実技（7）	ピアノ演習・弾き歌いのまとめ
15		
16		

科目コード	14100				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ				担当者名	宇都宮　浩司			
配当年次	1年	配当学期	第１・第２クオーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、大学における「学び方を学ぶ」ことを目的とする。高校までの学習・生活とは、大学でのそれとは大きく異なる。大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも、学び方、自らの成長のさせ方は特に重要である。【PC・スマホ・筆記用具必須】

＜授業の到達目標＞
1. 学習生活：無理なく効率的な学習習慣を確立する2. 非認知能力：自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができる3. 認知能力：主に大学生として求められる基礎学力（聞く・読む・書く・話す）の獲得と定着と主体的に学習に取り組む態度を身に着ける4. 自己認識：自身の強み・弱みを理解し、自身の思考・感情・状況について考え、話すことができる

＜授業の方法＞
講義・演習・実技などの形態をとる。授業内で反転学習を行うこともある。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有り。グループワークやディスカッションを入れる。プレゼンテーションを行うこともある。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
テーマに即したレポート作成、課題の準備などを各授業で指示する。（事前・事後ともに1時間程度の課題となる）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
各回の授業内課題・演習への取り組み・・・30%レポートなどの課題への取り組み・・・50％発表・演習時の独自の観点や貢献度・・・20%

＜教科書＞
なし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	授業ガイダンス	クラスごとの運営方針を担当から伝え、これからのIPUでの学びについて心構えをもつ。特に、「個人での学び」と「チームでの学び」について意識をもち、クラスのチームビルディングを行う。
2	高校の勉強から大学の学び・研究へのシフト	日本の高校における「勉強」と大学で求められる「学び・研究・調査」の違いを整理し、学習目的・評価基準・正解概念の相違を明確にする。あわせて、大学で必要となる主体的なマインドセットや学習技能、問いの立て方・根拠に基づく思考の重要性を理解し、自身の学び方を再設計することを目的とする。
3	時間管理・課題管理・評価の受け止め方	大学生に求められる時間管理や課題管理の方法を中心に学ぶ。社会人になる前の段階で、自らの学びや課題を管理して無理のない学生生活を送る練習をする。また課題提出後の教員からの評価やフィードバックをどのように受け止めるかも重要だ。その評価から、自らの提出物に対してさらに問題点を発見して今後の学びに活かす方法について学ぶ。※個人面談①
4	【オンデマンド週】学習スタイルとメタ認知	学習スタイルの多様性を理解し、自身の特性に応じて学習方法を使い分ける姿勢を養う。あわせて、自己調整学習の基盤となるメタ認知の重要性を学び、学習過程を振り返るためのジャーナリングの実践を通して、自律的に学び続ける力の育成を目指す。
5	分野・領域の違いに注目した調査方法	学問分野や研究領域の違いを意識した調査方法を学ぶ。人文科学・社会科学・自然科学それぞれの特性を踏まえ、用語の調べ方と論説・研究の探し方の違いを整理し、図書館およびウェブを適切に使い分ける基本的な方法を身につけることを目的とする。実際に図書館で書籍・資料を探す経験をする。※個人面談②
6	文献・資料の調査方法と検索リテラシー	大学における文献・資料調査の意義を理解し、信頼性のある情報を収集するための

		基本的な検索方法を学ぶ。あわせて、検索エンジンやデータベースによる調査と生成AIの活用の違いを整理し、それぞれの特性や信頼性を踏まえた適切な使い分けについて考察する。実際に図書館で書籍・資料を探す経験をする。※個人面談③
7	生成AIを学習・研究に活用する	生成AIを学習・研究に活用する際の基本的な考え方を学ぶ。ハルシネーションが起こる仕組みや生成AIが実際に存在しない文献などをさがしてくる現状を知る。そのような生成AIの特性と限界を理解した上で、人間が目的設定・判断・責任を担うHumanin-the-Loopの重要性を確認し、効果的なプロンプト設計の基礎を扱う。あわせて、個人的利用と公的なアウトプットにおける責任の違いについて考察する。※個人面談④
8	人の記憶の特徴を知る	本講義では、人の記憶の仕組みを理解し、学習に活かす方法を学ぶ。短期記憶・長期記憶、エピソード記憶などの特徴を整理し、記憶のメカニズムに即した覚え方や思い出し方を考察する。あわせて、五感を活用した記憶方法を取り上げ、効果的な学び方を工夫する姿勢の形成を目指す。
9	ノートの取り方と情報整理	本講義では、大学での学びを深めるためのノートテイキングと情報整理の方法を学ぶ。学習用ノートと取材・調査用ノートの目的や役割の違いを理解し、記録した内容を後から修正・編集することで理解を深める手法を扱う。あわせて、紙のノートとデジタルツールの特性を踏まえた効果的な使い分けについて考察する。
10	公的データの利用方法	本講義では、公的機関が公開しているデータや資料をいくつか紹介する。データを活用する際には、調査対象となる項目とその項目がどのような内容であるかを知る必要がある。e-StatやRESASを通じて、独力で調査できるようになることを目的とする。
11	人に質問・取材する発問設計技術	本講義では、教員や友人、インタビュイーに対して適切に質問・取材を行うための基礎的な技術を学ぶ。質問の目的設定や発問の整理方法を理解するとともに、相手への配慮やマナー、倫理的留意点を踏まえ、独りよがりにならない相互に有意義な対話を実現する力の育成を目指す。
12	読む力を養う（1）	本講義では、文章を読む際に重要となる「事実」と「解釈」の区別を学ぶ。同じ文章でも、学問領域や立場、背景知識の違いによって解釈が分かれ得ることに注目し、その違いに気づくための視点や確認方法を身につける。また、不明な用語について分野や文脈を意識して調べる姿勢を養う。
13	読む力を養う（2）	本講義では、資料の要旨や全体構造を的確に読み取る力を養う。文章中の主張と根拠の関係を意識しながら読み進め、重要なキーワードの関連性を整理する方法を学ぶ。あわせて、内容理解を深めるための可視化ツールを紹介し、実践的な読解力の向上を目指す。
14	読む力を養う（3）	本講義では、資料を読む際に不可欠な信頼性と妥当性の判断基準を学ぶ。著者のプロフィールや執筆目的や主張の方向性を意識しながら資料を評価する視点を身につけ、ファクトチェックやセカンドオピニオンの確認方法を扱う。資料選択の段階から批判的に読む力の育成を目指す。
15		
16		

科目コード	14100				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ				担当者名	岡田　健志			
配当年次	1年	配当学期	第１・第２クオーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、大学における「学び方を学ぶ」ことを目的とする。高校までの学習・生活とは、大学でのそれとは大きく異なる。大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも、学び方、自らの成長のさせ方は特に重要である。【PC・スマホ・筆記用具必須】

＜授業の到達目標＞
1. 学習生活：無理なく効率的な学習習慣を確立する2. 非認知能力：自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができる3. 認知能力：主に大学生として求められる基礎学力（聞く・読む・書く・話す）の獲得と定着と主体的に学習に取り組む態度を身に着ける4. 自己認識：自身の強み・弱みを理解し、自身の思考・感情・状況について考え、話すことができる

＜授業の方法＞
講義・演習・実技などの形態をとる。授業内で反転学習を行うこともある。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有り。グループワークやディスカッションを入れる。プレゼンテーションを行うこともある。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
テーマに即したレポート作成、課題の準備などを各授業で指示する。（事前・事後ともに1時間程度の課題となる）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
各回の授業内課題・演習への取り組み・・・30%レポートなどの課題への取り組み・・・50％発表・演習時の独自の観点や貢献度・・・20%

＜教科書＞
なし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	授業ガイダンス	クラスごとの運営方針を担当から伝え、これからのIPUでの学びについて心構えをもつ。特に、「個人での学び」と「チームでの学び」について意識をもち、クラスのチームビルディングを行う。
2	高校の勉強から大学の学び・研究へのシフト	日本の高校における「勉強」と大学で求められる「学び・研究・調査」の違いを整理し、学習目的・評価基準・正解概念の相違を明確にする。あわせて、大学で必要となる主体的なマインドセットや学習技能、問いの立て方・根拠に基づく思考の重要性を理解し、自身の学び方を再設計することを目的とする。
3	時間管理・課題管理・評価の受け止め方	大学生に求められる時間管理や課題管理の方法を中心に学ぶ。社会人になる前の段階で、自らの学びや課題を管理して無理のない学生生活を送る練習をする。また課題提出後の教員からの評価やフィードバックをどのように受け止めるかも重要だ。その評価から、自らの提出物に対してさらに問題点を発見して今後の学びに活かす方法について学ぶ。※個人面談①
4	【オンデマンド週】学習スタイルとメタ認知	学習スタイルの多様性を理解し、自身の特性に応じて学習方法を使い分ける姿勢を養う。あわせて、自己調整学習の基盤となるメタ認知の重要性を学び、学習過程を振り返るためのジャーナリングの実践を通して、自律的に学び続ける力の育成を目指す。
5	分野・領域の違いに注目した調査方法	学問分野や研究領域の違いを意識した調査方法を学ぶ。人文科学・社会科学・自然科学それぞれの特性を踏まえ、用語の調べ方と論説・研究の探し方の違いを整理し、図書館およびウェブを適切に使い分ける基本的な方法を身につけることを目的とする。実際に図書館で書籍・資料を探す経験をする。※個人面談②
6	文献・資料の調査方法と検索リテラシー	大学における文献・資料調査の意義を理解し、信頼性のある情報を収集するための

		基本的な検索方法を学ぶ。あわせて、検索エンジンやデータベースによる調査と生成AIの活用の違いを整理し、それぞれの特性や信頼性を踏まえた適切な使い分けについて考察する。実際に図書館で書籍・資料を探す経験をする。※個人面談③
7	生成AIを学習・研究に活用する	生成AIを学習・研究に活用する際の基本的な考え方を学ぶ。ハルシネーションが起こる仕組みや生成AIが実際に存在しない文献などをさがしてくる現状を知る。そのような生成AIの特性と限界を理解した上で、人間が目的設定・判断・責任を担うHumanin-the-Loopの重要性を確認し、効果的なプロンプト設計の基礎を扱う。あわせて、個人的利用と公的なアウトプットにおける責任の違いについて考察する。※個人面談④
8	人の記憶の特徴を知る	本講義では、人の記憶の仕組みを理解し、学習に活かす方法を学ぶ。短期記憶・長期記憶、エピソード記憶などの特徴を整理し、記憶のメカニズムに即した覚え方や思い出し方を考察する。あわせて、五感を活用した記憶方法を取り上げ、効果的な学び方を工夫する姿勢の形成を目指す。
9	ノートの取り方と情報整理	本講義では、大学での学びを深めるためのノートテイキングと情報整理の方法を学ぶ。学習用ノートと取材・調査用ノートの目的や役割の違いを理解し、記録した内容を後から修正・編集することで理解を深める手法を扱う。あわせて、紙のノートとデジタルツールの特性を踏まえた効果的な使い分けについて考察する。
10	公的データの利用方法	本講義では、公的機関が公開しているデータや資料をいくつか紹介する。データを活用する際には、調査対象となる項目とその項目がどのような内容であるかを知る必要がある。e-StatやRESASを通じて、独力で調査できるようになることを目的とする。
11	人に質問・取材する発問設計技術	本講義では、教員や友人、インタビュイーに対して適切に質問・取材を行うための基礎的な技術を学ぶ。質問の目的設定や発問の整理方法を理解するとともに、相手への配慮やマナー、倫理的留意点を踏まえ、独りよがりにならない相互に有意義な対話を実現する力の育成を目指す。
12	読む力を養う（1）	本講義では、文章を読む際に重要となる「事実」と「解釈」の区別を学ぶ。同じ文章でも、学問領域や立場、背景知識の違いによって解釈が分かれ得ることに注目し、その違いに気づくための視点や確認方法を身につける。また、不明な用語について分野や文脈を意識して調べる姿勢を養う。
13	読む力を養う（2）	本講義では、資料の要旨や全体構造を的確に読み取る力を養う。文章中の主張と根拠の関係を意識しながら読み進め、重要なキーワードの関連性を整理する方法を学ぶ。あわせて、内容理解を深めるための可視化ツールを紹介し、実践的な読解力の向上を目指す。
14	読む力を養う（3）	本講義では、資料を読む際に不可欠な信頼性と妥当性の判断基準を学ぶ。著者のプロフィールや執筆目的や主張の方向性を意識しながら資料を評価する視点を身につけ、ファクトチェックやセカンドオピニオンの確認方法を扱う。資料選択の段階から批判的に読む力の育成を目指す。
15		
16		

科目コード	14100				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ				担当者名	江口　尚文			
配当年次	1年	配当学期	第１・第２クオーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、大学における「学び方を学ぶ」ことを目的とする。高校までの学習・生活とは、大学でのそれとは大きく異なる。大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも、学び方、自らの成長のさせ方は特に重要である。【PC・スマホ・筆記用具必須】

＜授業の到達目標＞
1. 学習生活：無理なく効率的な学習習慣を確立する2. 非認知能力：自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができる3. 認知能力：主に大学生として求められる基礎学力（聞く・読む・書く・話す）の獲得と定着と主体的に学習に取り組む態度を身に着ける4. 自己認識：自身の強み・弱みを理解し、自身の思考・感情・状況について考え、話すことができる

＜授業の方法＞
講義・演習・実技などの形態をとる。授業内で反転学習を行うこともある。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有り。グループワークやディスカッションを入れる。プレゼンテーションを行うこともある。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
テーマに即したレポート作成、課題の準備などを各授業で指示する。（事前・事後ともに1時間程度の課題となる）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
各回の授業内課題・演習への取り組み・・・30%レポートなどの課題への取り組み・・・50％発表・演習時の独自の観点や貢献度・・・20%

＜教科書＞
なし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	授業ガイダンス	クラスごとの運営方針を担当から伝え、これからのIPUでの学びについて心構えをもつ。特に、「個人での学び」と「チームでの学び」について意識をもち、クラスのチームビルディングを行う。
2	高校の勉強から大学の学び・研究へのシフト	日本の高校における「勉強」と大学で求められる「学び・研究・調査」の違いを整理し、学習目的・評価基準・正解概念の相違を明確にする。あわせて、大学で必要となる主体的なマインドセットや学習技能、問いの立て方・根拠に基づく思考の重要性を理解し、自身の学び方を再設計することを目的とする。
3	時間管理・課題管理・評価の受け止め方	大学生に求められる時間管理や課題管理の方法を中心に学ぶ。社会人になる前の段階で、自らの学びや課題を管理して無理のない学生生活を送る練習をする。また課題提出後の教員からの評価やフィードバックをどのように受け止めるかも重要だ。その評価から、自らの提出物に対してさらに問題点を発見して今後の学びに活かす方法について学ぶ。※個人面談①
4	【オンデマンド週】学習スタイルとメタ認知	学習スタイルの多様性を理解し、自身の特性に応じて学習方法を使い分ける姿勢を養う。あわせて、自己調整学習の基盤となるメタ認知の重要性を学び、学習過程を振り返るためのジャーナリングの実践を通して、自律的に学び続ける力の育成を目指す。
5	分野・領域の違いに注目した調査方法	学問分野や研究領域の違いを意識した調査方法を学ぶ。人文科学・社会科学・自然科学それぞれの特性を踏まえ、用語の調べ方と論説・研究の探し方の違いを整理し、図書館およびウェブを適切に使い分ける基本的な方法を身につけることを目的とする。実際に図書館で書籍・資料を探す経験をする。※個人面談②
6	文献・資料の調査方法と検索リテラシー	大学における文献・資料調査の意義を理解し、信頼性のある情報を収集するための

		基本的な検索方法を学ぶ。あわせて、検索エンジンやデータベースによる調査と生成AIの活用の違いを整理し、それぞれの特性や信頼性を踏まえた適切な使い分けについて考察する。実際に図書館で書籍・資料を探す経験をする。※個人面談③
7	生成AIを学習・研究に活用する	生成AIを学習・研究に活用する際の基本的な考え方を学ぶ。ハルシネーションが起こる仕組みや生成AIが実際に存在しない文献などをさがしてくる現状を知る。そのような生成AIの特性と限界を理解した上で、人間が目的設定・判断・責任を担うHumanin-the-Loopの重要性を確認し、効果的なプロンプト設計の基礎を扱う。あわせて、個人的利用と公的なアウトプットにおける責任の違いについて考察する。※個人面談④
8	人の記憶の特徴を知る	本講義では、人の記憶の仕組みを理解し、学習に活かす方法を学ぶ。短期記憶・長期記憶、エピソード記憶などの特徴を整理し、記憶のメカニズムに即した覚え方や思い出し方を考察する。あわせて、五感を活用した記憶方法を取り上げ、効果的な学び方を工夫する姿勢の形成を目指す。
9	ノートの取り方と情報整理	本講義では、大学での学びを深めるためのノートテイキングと情報整理の方法を学ぶ。学習用ノートと取材・調査用ノートの目的や役割の違いを理解し、記録した内容を後から修正・編集することで理解を深める手法を扱う。あわせて、紙のノートとデジタルツールの特性を踏まえた効果的な使い分けについて考察する。
10	公的データの利用方法	本講義では、公的機関が公開しているデータや資料をいくつか紹介する。データを活用する際には、調査対象となる項目とその項目がどのような内容であるかを知る必要がある。e-StatやRESASを通じて、独力で調査できるようになることを目的とする。
11	人に質問・取材する発問設計技術	本講義では、教員や友人、インタビュイーに対して適切に質問・取材を行うための基礎的な技術を学ぶ。質問の目的設定や発問の整理方法を理解するとともに、相手への配慮やマナー、倫理的留意点を踏まえ、独りよがりにならない相互に有意義な対話を実現する力の育成を目指す。
12	読む力を養う（1）	本講義では、文章を読む際に重要となる「事実」と「解釈」の区別を学ぶ。同じ文章でも、学問領域や立場、背景知識の違いによって解釈が分かれ得ることに注目し、その違いに気づくための視点や確認方法を身につける。また、不明な用語について分野や文脈を意識して調べる姿勢を養う。
13	読む力を養う（2）	本講義では、資料の要旨や全体構造を的確に読み取る力を養う。文章中の主張と根拠の関係を意識しながら読み進め、重要なキーワードの関連性を整理する方法を学ぶ。あわせて、内容理解を深めるための可視化ツールを紹介し、実践的な読解力の向上を目指す。
14	読む力を養う（3）	本講義では、資料を読む際に不可欠な信頼性と妥当性の判断基準を学ぶ。著者のプロフィールや執筆目的や主張の方向性を意識しながら資料を評価する視点を身につけ、ファクトチェックやセカンドオピニオンの確認方法を扱う。資料選択の段階から批判的に読む力の育成を目指す。
15		
16		

科目コード	14100				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ				担当者名	古松　丈周			
配当年次	1年	配当学期	第１・第２クオーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、大学における「学び方を学ぶ」ことを目的とする。高校までの学習・生活とは、大学でのそれとは大きく異なる。大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも、学び方、自らの成長のさせ方は特に重要である。【PC・スマホ・筆記用具必須】

＜授業の到達目標＞
1. 学習生活：無理なく効率的な学習習慣を確立する2. 非認知能力：自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができる3. 認知能力：主に大学生として求められる基礎学力（聞く・読む・書く・話す）の獲得と定着と主体的に学習に取り組む態度を身に着ける4. 自己認識：自身の強み・弱みを理解し、自身の思考・感情・状況について考え、話すことができる

＜授業の方法＞
講義・演習・実技などの形態をとる。授業内で反転学習を行うこともある。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有り。グループワークやディスカッションを入れる。プレゼンテーションを行うこともある。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
テーマに即したレポート作成、課題の準備などを各授業で指示する。（事前・事後ともに1時間程度の課題となる）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
各回の授業内課題・演習への取り組み・・・30%レポートなどの課題への取り組み・・・50％発表・演習時の独自の観点や貢献度・・・20%

＜教科書＞
なし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	授業ガイダンス	クラスごとの運営方針を担当から伝え、これからのIPUでの学びについて心構えをもつ。特に、「個人での学び」と「チームでの学び」について意識をもち、クラスのチームビルディングを行う。
2	高校の勉強から大学の学び・研究へのシフト	日本の高校における「勉強」と大学で求められる「学び・研究・調査」の違いを整理し、学習目的・評価基準・正解概念の相違を明確にする。あわせて、大学で必要となる主体的なマインドセットや学習技能、問いの立て方・根拠に基づく思考の重要性を理解し、自身の学び方を再設計することを目的とする。
3	時間管理・課題管理・評価の受け止め方	大学生に求められる時間管理や課題管理の方法を中心に学ぶ。社会人になる前の段階で、自らの学びや課題を管理して無理のない学生生活を送る練習をする。また課題提出後の教員からの評価やフィードバックをどのように受け止めるかも重要だ。その評価から、自らの提出物に対してさらに問題点を発見して今後の学びに活かす方法について学ぶ。※個人面談①
4	【オンデマンド週】学習スタイルとメタ認知	学習スタイルの多様性を理解し、自身の特性に応じて学習方法を使い分ける姿勢を養う。あわせて、自己調整学習の基盤となるメタ認知の重要性を学び、学習過程を振り返るためのジャーナリングの実践を通して、自律的に学び続ける力の育成を目指す。
5	分野・領域の違いに注目した調査方法	学問分野や研究領域の違いを意識した調査方法を学ぶ。人文科学・社会科学・自然科学それぞれの特性を踏まえ、用語の調べ方と論説・研究の探し方の違いを整理し、図書館およびウェブを適切に使い分ける基本的な方法を身につけることを目的とする。実際に図書館で書籍・資料を探す経験をする。※個人面談②
6	文献・資料の調査方法と検索リテラシー	大学における文献・資料調査の意義を理解し、信頼性のある情報を収集するための

		基本的な検索方法を学ぶ。あわせて、検索エンジンやデータベースによる調査と生成AIの活用の違いを整理し、それぞれの特性や信頼性を踏まえた適切な使い分けについて考察する。実際に図書館で書籍・資料を探す経験をする。※個人面談③
7	生成AIを学習・研究に活用する	生成AIを学習・研究に活用する際の基本的な考え方を学ぶ。ハルシネーションが起こる仕組みや生成AIが実際に存在しない文献などをさがしてくる現状を知る。そのような生成AIの特性と限界を理解した上で、人間が目的設定・判断・責任を担うHumanin-the-Loopの重要性を確認し、効果的なプロンプト設計の基礎を扱う。あわせて、個人的利用と公的なアウトプットにおける責任の違いについて考察する。※個人面談④
8	人の記憶の特徴を知る	本講義では、人の記憶の仕組みを理解し、学習に活かす方法を学ぶ。短期記憶・長期記憶、エピソード記憶などの特徴を整理し、記憶のメカニズムに即した覚え方や思い出し方を考察する。あわせて、五感を活用した記憶方法を取り上げ、効果的な学び方を工夫する姿勢の形成を目指す。
9	ノートの取り方と情報整理	本講義では、大学での学びを深めるためのノートテイキングと情報整理の方法を学ぶ。学習用ノートと取材・調査用ノートの目的や役割の違いを理解し、記録した内容を後から修正・編集することで理解を深める手法を扱う。あわせて、紙のノートとデジタルツールの特性を踏まえた効果的な使い分けについて考察する。
10	公的データの利用方法	本講義では、公的機関が公開しているデータや資料をいくつか紹介する。データを活用する際には、調査対象となる項目とその項目がどのような内容であるかを知る必要がある。e-StatやRESASを通じて、独力で調査できるようになることを目的とする。
11	人に質問・取材する発問設計技術	本講義では、教員や友人、インタビュイーに対して適切に質問・取材を行うための基礎的な技術を学ぶ。質問の目的設定や発問の整理方法を理解するとともに、相手への配慮やマナー、倫理的留意点を踏まえ、独りよがりにならない相互に有意義な対話を実現する力の育成を目指す。
12	読む力を養う（1）	本講義では、文章を読む際に重要となる「事実」と「解釈」の区別を学ぶ。同じ文章でも、学問領域や立場、背景知識の違いによって解釈が分かれ得ることに注目し、その違いに気づくための視点や確認方法を身につける。また、不明な用語について分野や文脈を意識して調べる姿勢を養う。
13	読む力を養う（2）	本講義では、資料の要旨や全体構造を的確に読み取る力を養う。文章中の主張と根拠の関係を意識しながら読み進め、重要なキーワードの関連性を整理する方法を学ぶ。あわせて、内容理解を深めるための可視化ツールを紹介し、実践的な読解力の向上を目指す。
14	読む力を養う（3）	本講義では、資料を読む際に不可欠な信頼性と妥当性の判断基準を学ぶ。著者のプロフィールや執筆目的や主張の方向性を意識しながら資料を評価する視点を身につけ、ファクトチェックやセカンドオピニオンの確認方法を扱う。資料選択の段階から批判的に読む力の育成を目指す。
15		
16		

科目コード	14100				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ				担当者名	大平　真紀子			
配当年次	1年	配当学期	第１・第２クオーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、大学における「学び方を学ぶ」ことを目的とする。高校までの学習・生活とは、大学でのそれとは大きく異なる。大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも、学び方、自らの成長のさせ方は特に重要である。【PC・スマホ・筆記用具必須】

＜授業の到達目標＞
1. 学習生活：無理なく効率的な学習習慣を確立する2. 非認知能力：自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができる3. 認知能力：主に大学生として求められる基礎学力（聞く・読む・書く・話す）の獲得と定着と主体的に学習に取り組む態度を身に着ける4. 自己認識：自身の強み・弱みを理解し、自身の思考・感情・状況について考え、話すことができる

＜授業の方法＞
講義・演習・実技などの形態をとる。授業内で反転学習を行うこともある。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有り。グループワークやディスカッションを入れる。プレゼンテーションを行うこともある。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
テーマに即したレポート作成、課題の準備などを各授業で指示する。（事前・事後ともに1時間程度の課題となる）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
各回の授業内課題・演習への取り組み・・・30%レポートなどの課題への取り組み・・・50％発表・演習時の独自の観点や貢献度・・・20%

＜教科書＞
なし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	授業ガイダンス	クラスごとの運営方針を担当から伝え、これからのIPUでの学びについて心構えをもつ。特に、「個人での学び」と「チームでの学び」について意識をもち、クラスのチームビルディングを行う。
2	高校の勉強から大学の学び・研究へのシフト	日本の高校における「勉強」と大学で求められる「学び・研究・調査」の違いを整理し、学習目的・評価基準・正解概念の相違を明確にする。あわせて、大学で必要となる主体的なマインドセットや学習技能、問いの立て方・根拠に基づく思考の重要性を理解し、自身の学び方を再設計することを目的とする。
3	時間管理・課題管理・評価の受け止め方	大学生に求められる時間管理や課題管理の方法を中心に学ぶ。社会人になる前の段階で、自らの学びや課題を管理して無理のない学生生活を送る練習をする。また課題提出後の教員からの評価やフィードバックをどのように受け止めるかも重要だ。その評価から、自らの提出物に対してさらに問題点を発見して今後の学びに活かす方法について学ぶ。※個人面談①
4	【オンデマンド週】学習スタイルとメタ認知	学習スタイルの多様性を理解し、自身の特性に応じて学習方法を使い分ける姿勢を養う。あわせて、自己調整学習の基盤となるメタ認知の重要性を学び、学習過程を振り返るためのジャーナリングの実践を通して、自律的に学び続ける力の育成を目指す。
5	分野・領域の違いに注目した調査方法	学問分野や研究領域の違いを意識した調査方法を学ぶ。人文科学・社会科学・自然科学それぞれの特性を踏まえ、用語の調べ方と論説・研究の探し方の違いを整理し、図書館およびウェブを適切に使い分ける基本的な方法を身につけることを目的とする。実際に図書館で書籍・資料を探す経験をする。※個人面談②
6	文献・資料の調査方法と検索リテラシー	大学における文献・資料調査の意義を理解し、信頼性のある情報を収集するための

		基本的な検索方法を学ぶ。あわせて、検索エンジンやデータベースによる調査と生成AIの活用の違いを整理し、それぞれの特性や信頼性を踏まえた適切な使い分けについて考察する。実際に図書館で書籍・資料を探す経験をする。※個人面談③
7	生成AIを学習・研究に活用する	生成AIを学習・研究に活用する際の基本的な考え方を学ぶ。ハルシネーションが起こる仕組みや生成AIが実際に存在しない文献などをさがしてくる現状を知る。そのような生成AIの特性と限界を理解した上で、人間が目的設定・判断・責任を担うHumanin-the-Loopの重要性を確認し、効果的なプロンプト設計の基礎を扱う。あわせて、個人的利用と公的なアウトプットにおける責任の違いについて考察する。※個人面談④
8	人の記憶の特徴を知る	本講義では、人の記憶の仕組みを理解し、学習に活かす方法を学ぶ。短期記憶・長期記憶、エピソード記憶などの特徴を整理し、記憶のメカニズムに即した覚え方や思い出し方を考察する。あわせて、五感を活用した記憶方法を取り上げ、効果的な学び方を工夫する姿勢の形成を目指す。
9	ノートの取り方と情報整理	本講義では、大学での学びを深めるためのノートテイキングと情報整理の方法を学ぶ。学習用ノートと取材・調査用ノートの目的や役割の違いを理解し、記録した内容を後から修正・編集することで理解を深める手法を扱う。あわせて、紙のノートとデジタルツールの特性を踏まえた効果的な使い分けについて考察する。
10	公的データの利用方法	本講義では、公的機関が公開しているデータや資料をいくつか紹介する。データを活用する際には、調査対象となる項目とその項目がどのような内容であるかを知る必要がある。e-StatやRESASを通じて、独力で調査できるようになることを目的とする。
11	人に質問・取材する発問設計技術	本講義では、教員や友人、インタビュイーに対して適切に質問・取材を行うための基礎的な技術を学ぶ。質問の目的設定や発問の整理方法を理解するとともに、相手への配慮やマナー、倫理的留意点を踏まえ、独りよがりにならない相互に有意義な対話を実現する力の育成を目指す。
12	読む力を養う（1）	本講義では、文章を読む際に重要となる「事実」と「解釈」の区別を学ぶ。同じ文章でも、学問領域や立場、背景知識の違いによって解釈が分かれ得ることに注目し、その違いに気づくための視点や確認方法を身につける。また、不明な用語について分野や文脈を意識して調べる姿勢を養う。
13	読む力を養う（2）	本講義では、資料の要旨や全体構造を的確に読み取る力を養う。文章中の主張と根拠の関係を意識しながら読み進め、重要なキーワードの関連性を整理する方法を学ぶ。あわせて、内容理解を深めるための可視化ツールを紹介し、実践的な読解力の向上を目指す。
14	読む力を養う（3）	本講義では、資料を読む際に不可欠な信頼性と妥当性の判断基準を学ぶ。著者のプロフィールや執筆目的や主張の方向性を意識しながら資料を評価する視点を身につけ、ファクトチェックやセカンドオピニオンの確認方法を扱う。資料選択の段階から批判的に読む力の育成を目指す。
15		
16		

科目コード	14100				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ				担当者名	赤木　邦江			
配当年次	1年	配当学期	第１・第２クオーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、大学における「学び方を学ぶ」ことを目的とする。高校までの学習・生活とは、大学でのそれとは大きく異なる。大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも、学び方、自らの成長のさせ方は特に重要である。【PC・スマホ・筆記用具必須】

＜授業の到達目標＞
1. 学習生活：無理なく効率的な学習習慣を確立する2. 非認知能力：自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができる3. 認知能力：主に大学生として求められる基礎学力（聞く・読む・書く・話す）の獲得と定着と主体的に学習に取り組む態度を身に着ける4. 自己認識：自身の強み・弱みを理解し、自身の思考・感情・状況について考え、話すことができる

＜授業の方法＞
講義・演習・実技などの形態をとる。授業内で反転学習を行うこともある。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有り。グループワークやディスカッションを入れる。プレゼンテーションを行うこともある。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
テーマに即したレポート作成、課題の準備などを各授業で指示する。（事前・事後ともに1時間程度の課題となる）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
各回の授業内課題・演習への取り組み・・・30%レポートなどの課題への取り組み・・・50％発表・演習時の独自の観点や貢献度・・・20%

＜教科書＞
なし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	授業ガイダンス	クラスごとの運営方針を担当から伝え、これからのIPUでの学びについて心構えをもつ。特に、「個人での学び」と「チームでの学び」について意識をもち、クラスのチームビルディングを行う。
2	高校の勉強から大学の学び・研究へのシフト	日本の高校における「勉強」と大学で求められる「学び・研究・調査」の違いを整理し、学習目的・評価基準・正解概念の相違を明確にする。あわせて、大学で必要となる主体的なマインドセットや学習技能、問いの立て方・根拠に基づく思考の重要性を理解し、自身の学び方を再設計することを目的とする。
3	時間管理・課題管理・評価の受け止め方	大学生に求められる時間管理や課題管理の方法を中心に学ぶ。社会人になる前の段階で、自らの学びや課題を管理して無理のない学生生活を送る練習をする。また課題提出後の教員からの評価やフィードバックをどのように受け止めるかも重要だ。その評価から、自らの提出物に対してさらに問題点を発見して今後の学びに活かす方法について学ぶ。※個人面談①
4	【オンデマンド週】学習スタイルとメタ認知	学習スタイルの多様性を理解し、自身の特性に応じて学習方法を使い分ける姿勢を養う。あわせて、自己調整学習の基盤となるメタ認知の重要性を学び、学習過程を振り返るためのジャーナリングの実践を通して、自律的に学び続ける力の育成を目指す。
5	分野・領域の違いに注目した調査方法	学問分野や研究領域の違いを意識した調査方法を学ぶ。人文科学・社会科学・自然科学それぞれの特性を踏まえ、用語の調べ方と論説・研究の探し方の違いを整理し、図書館およびウェブを適切に使い分ける基本的な方法を身につけることを目的とする。実際に図書館で書籍・資料を探す経験をする。※個人面談②
6	文献・資料の調査方法と検索リテラシー	大学における文献・資料調査の意義を理解し、信頼性のある情報を収集するための

		基本的な検索方法を学ぶ。あわせて、検索エンジンやデータベースによる調査と生成AIの活用の違いを整理し、それぞれの特性や信頼性を踏まえた適切な使い分けについて考察する。実際に図書館で書籍・資料を探す経験をする。※個人面談③
7	生成AIを学習・研究に活用する	生成AIを学習・研究に活用する際の基本的な考え方を学ぶ。ハルシネーションが起こる仕組みや生成AIが実際に存在しない文献などをさがしてくる現状を知る。そのような生成AIの特性と限界を理解した上で、人間が目的設定・判断・責任を担うHumanin-the-Loopの重要性を確認し、効果的なプロンプト設計の基礎を扱う。あわせて、個人的利用と公的なアウトプットにおける責任の違いについて考察する。※個人面談④
8	人の記憶の特徴を知る	本講義では、人の記憶の仕組みを理解し、学習に活かす方法を学ぶ。短期記憶・長期記憶、エピソード記憶などの特徴を整理し、記憶のメカニズムに即した覚え方や思い出し方を考察する。あわせて、五感を活用した記憶方法を取り上げ、効果的な学び方を工夫する姿勢の形成を目指す。
9	ノートの取り方と情報整理	本講義では、大学での学びを深めるためのノートテイキングと情報整理の方法を学ぶ。学習用ノートと取材・調査用ノートの目的や役割の違いを理解し、記録した内容を後から修正・編集することで理解を深める手法を扱う。あわせて、紙のノートとデジタルツールの特性を踏まえた効果的な使い分けについて考察する。
10	公的データの利用方法	本講義では、公的機関が公開しているデータや資料をいくつか紹介する。データを活用する際には、調査対象となる項目とその項目がどのような内容であるかを知る必要がある。e-StatやRESASを通じて、独力で調査できるようになることを目的とする。
11	人に質問・取材する発問設計技術	本講義では、教員や友人、インタビュイーに対して適切に質問・取材を行うための基礎的な技術を学ぶ。質問の目的設定や発問の整理方法を理解するとともに、相手への配慮やマナー、倫理的留意点を踏まえ、独りよがりにならない相互に有意義な対話を実現する力の育成を目指す。
12	読む力を養う（1）	本講義では、文章を読む際に重要となる「事実」と「解釈」の区別を学ぶ。同じ文章でも、学問領域や立場、背景知識の違いによって解釈が分かれ得ることに注目し、その違いに気づくための視点や確認方法を身につける。また、不明な用語について分野や文脈を意識して調べる姿勢を養う。
13	読む力を養う（2）	本講義では、資料の要旨や全体構造を的確に読み取る力を養う。文章中の主張と根拠の関係を意識しながら読み進め、重要なキーワードの関連性を整理する方法を学ぶ。あわせて、内容理解を深めるための可視化ツールを紹介し、実践的な読解力の向上を目指す。
14	読む力を養う（3）	本講義では、資料を読む際に不可欠な信頼性と妥当性の判断基準を学ぶ。著者のプロフィールや執筆目的や主張の方向性を意識しながら資料を評価する視点を身につけ、ファクトチェックやセカンドオピニオンの確認方法を扱う。資料選択の段階から批判的に読む力の育成を目指す。
15		
16		

科目コード	14100				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ				担当者名	北村　和久			
配当年次	1年	配当学期	第１・第２クオーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、大学における「学び方を学ぶ」ことを目的とする。高校までの学習・生活とは、大学でのそれとは大きく異なる。大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも、学び方、自らの成長のさせ方は特に重要である。【PC・スマホ・筆記用具必須】

＜授業の到達目標＞
1. 学習生活：無理なく効率的な学習習慣を確立する2. 非認知能力：自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができる3. 認知能力：主に大学生として求められる基礎学力（聞く・読む・書く・話す）の獲得と定着と主体的に学習に取り組む態度を身に着ける4. 自己認識：自身の強み・弱みを理解し、自身の思考・感情・状況について考え、話すことができる

＜授業の方法＞
講義・演習・実技などの形態をとる。授業内で反転学習を行うこともある。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有り。グループワークやディスカッションを入れる。プレゼンテーションを行うこともある。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
テーマに即したレポート作成、課題の準備などを各授業で指示する。（事前・事後ともに1時間程度の課題となる）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
各回の授業内課題・演習への取り組み・・・30%レポートなどの課題への取り組み・・・50％発表・演習時の独自の観点や貢献度・・・20%

＜教科書＞
なし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	授業ガイダンス	クラスごとの運営方針を担当から伝え、これからのIPUでの学びについて心構えをもつ。特に、「個人での学び」と「チームでの学び」について意識をもち、クラスのチームビルディングを行う。
2	高校の勉強から大学の学び・研究へのシフト	日本の高校における「勉強」と大学で求められる「学び・研究・調査」の違いを整理し、学習目的・評価基準・正解概念の相違を明確にする。あわせて、大学で必要となる主体的なマインドセットや学習技能、問いの立て方・根拠に基づく思考の重要性を理解し、自身の学び方を再設計することを目的とする。
3	時間管理・課題管理・評価の受け止め方	大学生に求められる時間管理や課題管理の方法を中心に学ぶ。社会人になる前の段階で、自らの学びや課題を管理して無理のない学生生活を送る練習をする。また課題提出後の教員からの評価やフィードバックをどのように受け止めるかも重要だ。その評価から、自らの提出物に対してさらに問題点を発見して今後の学びに活かす方法について学ぶ。※個人面談①
4	【オンデマンド週】学習スタイルとメタ認知	学習スタイルの多様性を理解し、自身の特性に応じて学習方法を使い分ける姿勢を養う。あわせて、自己調整学習の基盤となるメタ認知の重要性を学び、学習過程を振り返るためのジャーナリングの実践を通して、自律的に学び続ける力の育成を目指す。
5	分野・領域の違いに注目した調査方法	学問分野や研究領域の違いを意識した調査方法を学ぶ。人文科学・社会科学・自然科学それぞれの特性を踏まえ、用語の調べ方と論説・研究の探し方の違いを整理し、図書館およびウェブを適切に使い分ける基本的な方法を身につけることを目的とする。実際に図書館で書籍・資料を探す経験をする。※個人面談②
6	文献・資料の調査方法と検索リテラシー	大学における文献・資料調査の意義を理解し、信頼性のある情報を収集するための

		基本的な検索方法を学ぶ。あわせて、検索エンジンやデータベースによる調査と生成AIの活用の違いを整理し、それぞれの特性や信頼性を踏まえた適切な使い分けについて考察する。実際に図書館で書籍・資料を探す経験をする。※個人面談③
7	生成AIを学習・研究に活用する	生成AIを学習・研究に活用する際の基本的な考え方を学ぶ。ハルシネーションが起こる仕組みや生成AIが実際に存在しない文献などをさがしてくる現状を知る。そのような生成AIの特性と限界を理解した上で、人間が目的設定・判断・責任を担うHumanin-the-Loopの重要性を確認し、効果的なプロンプト設計の基礎を扱う。あわせて、個人的利用と公的なアウトプットにおける責任の違いについて考察する。※個人面談④
8	人の記憶の特徴を知る	本講義では、人の記憶の仕組みを理解し、学習に活かす方法を学ぶ。短期記憶・長期記憶、エピソード記憶などの特徴を整理し、記憶のメカニズムに即した覚え方や思い出し方を考察する。あわせて、五感を活用した記憶方法を取り上げ、効果的な学び方を工夫する姿勢の形成を目指す。
9	ノートの取り方と情報整理	本講義では、大学での学びを深めるためのノートテイキングと情報整理の方法を学ぶ。学習用ノートと取材・調査用ノートの目的や役割の違いを理解し、記録した内容を後から修正・編集することで理解を深める手法を扱う。あわせて、紙のノートとデジタルツールの特性を踏まえた効果的な使い分けについて考察する。
10	公的データの利用方法	本講義では、公的機関が公開しているデータや資料をいくつか紹介する。データを活用する際には、調査対象となる項目とその項目がどのような内容であるかを知る必要がある。e-StatやRESASを通じて、独力で調査できるようになることを目的とする。
11	人に質問・取材する発問設計技術	本講義では、教員や友人、インタビュイーに対して適切に質問・取材を行うための基礎的な技術を学ぶ。質問の目的設定や発問の整理方法を理解するとともに、相手への配慮やマナー、倫理的留意点を踏まえ、独りよがりにならない相互に有意義な対話を実現する力の育成を目指す。
12	読む力を養う（1）	本講義では、文章を読む際に重要となる「事実」と「解釈」の区別を学ぶ。同じ文章でも、学問領域や立場、背景知識の違いによって解釈が分かれ得ることに注目し、その違いに気づくための視点や確認方法を身につける。また、不明な用語について分野や文脈を意識して調べる姿勢を養う。
13	読む力を養う（2）	本講義では、資料の要旨や全体構造を的確に読み取る力を養う。文章中の主張と根拠の関係を意識しながら読み進め、重要なキーワードの関連性を整理する方法を学ぶ。あわせて、内容理解を深めるための可視化ツールを紹介し、実践的な読解力の向上を目指す。
14	読む力を養う（3）	本講義では、資料を読む際に不可欠な信頼性と妥当性の判断基準を学ぶ。著者のプロフィールや執筆目的や主張の方向性を意識しながら資料を評価する視点を身につけ、ファクトチェックやセカンドオピニオンの確認方法を扱う。資料選択の段階から批判的に読む力の育成を目指す。
15		
16		

科目コード	14100				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ				担当者名	平岡　師玄哉			
配当年次	1年	配当学期	第１・第２クオーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、大学における「学び方を学ぶ」ことを目的とする。高校までの学習・生活とは、大学でのそれとは大きく異なる。大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも、学び方、自らの成長のさせ方は特に重要である。【PC・スマホ・筆記用具必須】

＜授業の到達目標＞
1. 学習生活：無理なく効率的な学習習慣を確立する2. 非認知能力：自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができる3. 認知能力：主に大学生として求められる基礎学力（聞く・読む・書く・話す）の獲得と定着と主体的に学習に取り組む態度を身に着ける4. 自己認識：自身の強み・弱みを理解し、自身の思考・感情・状況について考え、話すことができる

＜授業の方法＞
講義・演習・実技などの形態をとる。授業内で反転学習を行うこともある。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有り。グループワークやディスカッションを入れる。プレゼンテーションを行うこともある。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
テーマに即したレポート作成、課題の準備などを各授業で指示する。（事前・事後ともに1時間程度の課題となる）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
各回の授業内課題・演習への取り組み・・・30%レポートなどの課題への取り組み・・・50％発表・演習時の独自の観点や貢献度・・・20%

＜教科書＞
なし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	授業ガイダンス	クラスごとの運営方針を担当から伝え、これからのIPUでの学びについて心構えをもつ。特に、「個人での学び」と「チームでの学び」について意識をもち、クラスのチームビルディングを行う。
2	高校の勉強から大学の学び・研究へのシフト	日本の高校における「勉強」と大学で求められる「学び・研究・調査」の違いを整理し、学習目的・評価基準・正解概念の相違を明確にする。あわせて、大学で必要となる主体的なマインドセットや学習技能、問いの立て方・根拠に基づく思考の重要性を理解し、自身の学び方を再設計することを目的とする。
3	時間管理・課題管理・評価の受け止め方	大学生に求められる時間管理や課題管理の方法を中心に学ぶ。社会人になる前の段階で、自らの学びや課題を管理して無理のない学生生活を送る練習をする。また課題提出後の教員からの評価やフィードバックをどのように受け止めるかも重要だ。その評価から、自らの提出物に対してさらに問題点を発見して今後の学びに活かす方法について学ぶ。※個人面談①
4	【オンデマンド週】学習スタイルとメタ認知	学習スタイルの多様性を理解し、自身の特性に応じて学習方法を使い分ける姿勢を養う。あわせて、自己調整学習の基盤となるメタ認知の重要性を学び、学習過程を振り返るためのジャーナリングの実践を通して、自律的に学び続ける力の育成を目指す。
5	分野・領域の違いに注目した調査方法	学問分野や研究領域の違いを意識した調査方法を学ぶ。人文科学・社会科学・自然科学それぞれの特性を踏まえ、用語の調べ方と論説・研究の探し方の違いを整理し、図書館およびウェブを適切に使い分ける基本的な方法を身につけることを目的とする。実際に図書館で書籍・資料を探す経験をする。※個人面談②
6	文献・資料の調査方法と検索リテラシー	大学における文献・資料調査の意義を理解し、信頼性のある情報を収集するための

		基本的な検索方法を学ぶ。あわせて、検索エンジンやデータベースによる調査と生成AIの活用の違いを整理し、それぞれの特性や信頼性を踏まえた適切な使い分けについて考察する。実際に図書館で書籍・資料を探す経験をする。※個人面談③
7	生成AIを学習・研究に活用する	生成AIを学習・研究に活用する際の基本的な考え方を学ぶ。ハルシネーションが起こる仕組みや生成AIが実際に存在しない文献などをさがしてくる現状を知る。そのような生成AIの特性と限界を理解した上で、人間が目的設定・判断・責任を担うHumanin-the-Loopの重要性を確認し、効果的なプロンプト設計の基礎を扱う。あわせて、個人的利用と公的なアウトプットにおける責任の違いについて考察する。※個人面談④
8	人の記憶の特徴を知る	本講義では、人の記憶の仕組みを理解し、学習に活かす方法を学ぶ。短期記憶・長期記憶、エピソード記憶などの特徴を整理し、記憶のメカニズムに即した覚え方や思い出し方を考察する。あわせて、五感を活用した記憶方法を取り上げ、効果的な学び方を工夫する姿勢の形成を目指す。
9	ノートの取り方と情報整理	本講義では、大学での学びを深めるためのノートテイキングと情報整理の方法を学ぶ。学習用ノートと取材・調査用ノートの目的や役割の違いを理解し、記録した内容を後から修正・編集することで理解を深める手法を扱う。あわせて、紙のノートとデジタルツールの特性を踏まえた効果的な使い分けについて考察する。
10	公的データの利用方法	本講義では、公的機関が公開しているデータや資料をいくつか紹介する。データを活用する際には、調査対象となる項目とその項目がどのような内容であるかを知る必要がある。e-StatやRESASを通じて、独力で調査できるようになることを目的とする。
11	人に質問・取材する発問設計技術	本講義では、教員や友人、インタビュイーに対して適切に質問・取材を行うための基礎的な技術を学ぶ。質問の目的設定や発問の整理方法を理解するとともに、相手への配慮やマナー、倫理的留意点を踏まえ、独りよがりにならない相互に有意義な対話を実現する力の育成を目指す。
12	読む力を養う（1）	本講義では、文章を読む際に重要となる「事実」と「解釈」の区別を学ぶ。同じ文章でも、学問領域や立場、背景知識の違いによって解釈が分かれ得ることに注目し、その違いに気づくための視点や確認方法を身につける。また、不明な用語について分野や文脈を意識して調べる姿勢を養う。
13	読む力を養う（2）	本講義では、資料の要旨や全体構造を的確に読み取る力を養う。文章中の主張と根拠の関係を意識しながら読み進め、重要なキーワードの関連性を整理する方法を学ぶ。あわせて、内容理解を深めるための可視化ツールを紹介し、実践的な読解力の向上を目指す。
14	読む力を養う（3）	本講義では、資料を読む際に不可欠な信頼性と妥当性の判断基準を学ぶ。著者のプロフィールや執筆目的や主張の方向性を意識しながら資料を評価する視点を身につけ、ファクトチェックやセカンドオピニオンの確認方法を扱う。資料選択の段階から批判的に読む力の育成を目指す。
15		
16		

科目コード	14100				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ				担当者名	溝越　隆興			
配当年次	1年	配当学期	第１・第２クオーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、大学における「学び方を学ぶ」ことを目的とする。高校までの学習・生活とは、大学でのそれとは大きく異なる。大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも、学び方、自らの成長のさせ方は特に重要である。【PC・スマホ・筆記用具必須】

＜授業の到達目標＞
1. 学習生活：無理なく効率的な学習習慣を確立する2. 非認知能力：自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができる3. 認知能力：主に大学生として求められる基礎学力（聞く・読む・書く・話す）の獲得と定着と主体的に学習に取り組む態度を身に着ける4. 自己認識：自身の強み・弱みを理解し、自身の思考・感情・状況について考え、話すことができる

＜授業の方法＞
講義・演習・実技などの形態をとる。授業内で反転学習を行うこともある。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有り。グループワークやディスカッションを入れる。プレゼンテーションを行うこともある。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
テーマに即したレポート作成、課題の準備などを各授業で指示する。（事前・事後ともに1時間程度の課題となる）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
各回の授業内課題・演習への取り組み・・・30%レポートなどの課題への取り組み・・・50％発表・演習時の独自の観点や貢献度・・・20%

＜教科書＞
なし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	授業ガイダンス	クラスごとの運営方針を担当から伝え、これからのIPUでの学びについて心構えをもつ。特に、「個人での学び」と「チームでの学び」について意識をもち、クラスのチームビルディングを行う。
2	高校の勉強から大学の学び・研究へのシフト	日本の高校における「勉強」と大学で求められる「学び・研究・調査」の違いを整理し、学習目的・評価基準・正解概念の相違を明確にする。あわせて、大学で必要となる主体的なマインドセットや学習技能、問いの立て方・根拠に基づく思考の重要性を理解し、自身の学び方を再設計することを目的とする。
3	時間管理・課題管理・評価の受け止め方	大学生に求められる時間管理や課題管理の方法を中心に学ぶ。社会人になる前の段階で、自らの学びや課題を管理して無理のない学生生活を送る練習をする。また課題提出後の教員からの評価やフィードバックをどのように受け止めるかも重要だ。その評価から、自らの提出物に対してさらに問題点を発見して今後の学びに活かす方法について学ぶ。※個人面談①
4	【オンデマンド週】学習スタイルとメタ認知	学習スタイルの多様性を理解し、自身の特性に応じて学習方法を使い分ける姿勢を養う。あわせて、自己調整学習の基盤となるメタ認知の重要性を学び、学習過程を振り返るためのジャーナリングの実践を通して、自律的に学び続ける力の育成を目指す。
5	分野・領域の違いに注目した調査方法	学問分野や研究領域の違いを意識した調査方法を学ぶ。人文科学・社会科学・自然科学それぞれの特性を踏まえ、用語の調べ方と論説・研究の探し方の違いを整理し、図書館およびウェブを適切に使い分ける基本的な方法を身につけることを目的とする。実際に図書館で書籍・資料を探す経験をする。※個人面談②
6	文献・資料の調査方法と検索リテラシー	大学における文献・資料調査の意義を理解し、信頼性のある情報を収集するための

		基本的な検索方法を学ぶ。あわせて、検索エンジンやデータベースによる調査と生成AIの活用の違いを整理し、それぞれの特性や信頼性を踏まえた適切な使い分けについて考察する。実際に図書館で書籍・資料を探す経験をする。※個人面談③
7	生成AIを学習・研究に活用する	生成AIを学習・研究に活用する際の基本的な考え方を学ぶ。ハルシネーションが起こる仕組みや生成AIが実際に存在しない文献などをさがしてくる現状を知る。そのような生成AIの特性と限界を理解した上で、人間が目的設定・判断・責任を担うHumanin-the-Loopの重要性を確認し、効果的なプロンプト設計の基礎を扱う。あわせて、個人的利用と公的なアウトプットにおける責任の違いについて考察する。※個人面談④
8	人の記憶の特徴を知る	本講義では、人の記憶の仕組みを理解し、学習に活かす方法を学ぶ。短期記憶・長期記憶、エピソード記憶などの特徴を整理し、記憶のメカニズムに即した覚え方や思い出し方を考察する。あわせて、五感を活用した記憶方法を取り上げ、効果的な学び方を工夫する姿勢の形成を目指す。
9	ノートの取り方と情報整理	本講義では、大学での学びを深めるためのノートテイキングと情報整理の方法を学ぶ。学習用ノートと取材・調査用ノートの目的や役割の違いを理解し、記録した内容を後から修正・編集することで理解を深める手法を扱う。あわせて、紙のノートとデジタルツールの特性を踏まえた効果的な使い分けについて考察する。
10	公的データの利用方法	本講義では、公的機関が公開しているデータや資料をいくつか紹介する。データを活用する際には、調査対象となる項目とその項目がどのような内容であるかを知る必要がある。e-StatやRESASを通じて、独力で調査できるようになることを目的とする。
11	人に質問・取材する発問設計技術	本講義では、教員や友人、インタビュイーに対して適切に質問・取材を行うための基礎的な技術を学ぶ。質問の目的設定や発問の整理方法を理解するとともに、相手への配慮やマナー、倫理的留意点を踏まえ、独りよがりにならない相互に有意義な対話を実現する力の育成を目指す。
12	読む力を養う（1）	本講義では、文章を読む際に重要となる「事実」と「解釈」の区別を学ぶ。同じ文章でも、学問領域や立場、背景知識の違いによって解釈が分かれ得ることに注目し、その違いに気づくための視点や確認方法を身につける。また、不明な用語について分野や文脈を意識して調べる姿勢を養う。
13	読む力を養う（2）	本講義では、資料の要旨や全体構造を的確に読み取る力を養う。文章中の主張と根拠の関係を意識しながら読み進め、重要なキーワードの関連性を整理する方法を学ぶ。あわせて、内容理解を深めるための可視化ツールを紹介し、実践的な読解力の向上を目指す。
14	読む力を養う（3）	本講義では、資料を読む際に不可欠な信頼性と妥当性の判断基準を学ぶ。著者のプロフィールや執筆目的や主張の方向性を意識しながら資料を評価する視点を身につけ、ファクトチェックやセカンドオピニオンの確認方法を扱う。資料選択の段階から批判的に読む力の育成を目指す。
15		
16		

科目コード	14100				区　分	教養科目		
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ				担当者名	宮原　舞		
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけるとともに、自ら学ぶ力(自主性・能動性)および大学生として必要な基礎的な学力・技能を養うことを目的とする。社会で生きていくためには、認知能力と非認知能力の双方が重要である。本授業では、「読む」「聞く」「書く」「伝える」といった大学での学びに必要な基本的スキルを身につけるとともに、グループワークやディスカッションを通して主体性や協働性を育む。

＜授業の到達目標＞
①大学生活における自らの目標や課題を整理し、主体的に学ぶ姿勢を身につける。②読む・聞く・書く・伝えるという大学での学びに必要な基礎的スキルを身につける。③図書館やインターネットを活用して必要な情報を収集・整理し、自分の考えをまとめて表現することができる。

＜授業の方法＞
講義・演習（個人ワーク、ペア・グループ活動）を組み合わせながら実施する。知識の理解にとどまらず、書く・読む・聞く・話す活動を通して、大学での学びに必要な基本的スキルを実践的に身につける。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有（ペア・グループ活動）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習として、各回で指示された資料や文章を読み、授業テーマに関する自分の考えを整理しておくこと。復習として、授業で扱った内容を振り返り、課題に取り組むこと。各回の学習には、おおむね2時間程度の予習・復習を要する。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業への参加度・取り組み姿勢（40%）、小課題（40%）、最終課題（20%）

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の概要、大学の学びについて
2	大学生活の目標設定	自分の現状を振り返り、今後の目標を考える。
3	読む力の基礎①	文章の要点をつかむ
4	読む力の基礎②	要約の基本を学び、内容を簡潔にまとめる。
5	聞く力の基礎①	他者の話を正確に聞き取る姿勢を学ぶ。
6	聞く力の基礎②	話の要点を整理し、適切に応答する方法を学ぶ。
7	書く力の基礎①	大学で求められる文章の基本を学ぶ。
8	書く力の基礎②	構成を意識した文章の書き方を学ぶ。
9	情報収集の基礎①	図書館資料の活用方法を学ぶ。
10	情報収集の基礎②	インターネットでの情報収集を学ぶ。
11	レポート作成の基礎	情報を整理し、レポートとしてまとめる方法を学ぶ。
12	プレゼンテーションの基礎①	わかりやすく伝える話し方を学ぶ。
13	プレゼンテーションの基礎②	構成を工夫し、発表する。
14	まとめ	学習内容の振り返り
15		
16		

科目コード	14100				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ［再履修][週間オンデマンド]FE用				担当者名	高橋　章二			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力と大学生に求められる基礎学力を身につける事を目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力は非常に重要である。様々な教育課題に気づき、その課題を解決の方法を検討するなかで、非認知能力の向上を目指します。

＜授業の到達目標＞

①学生生活：よい生活習慣を確立することができる。②非認知能力：リーダーシップ、協調性、自分の意見を伝え、周囲の意見を聞いたり、内容をまとめることができる。③認知能力：主に大学生として求められる基礎学力の獲得及び定着と主体的に学習に取り組む態度を身につけることができる。④キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自分の将来について考え、話すことができる。

＜授業の方法＞

原則としてオンデマンド講義とし、講義後、課題について自分の考えをまとめさせるようにする。また、課題終了後に、課題について共有化し考えの深化を図るようにする。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

課題作成後は必ず発表をさせ、教師と話し合いをしていくことにより、違う観点からの考え方にも触れ、多面的に思考をしていくことができるようにしていく。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：教育課題の発見（新聞等から）１時間　復習：講義の中での発見や気づきをノートにまとめる。１時間

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席・授業態度20%、教育課題発見及び追及・発表50%、ふりかえり課題30%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	本授業の形態、内容、方法についての理解
2	2026年目標設定	１年生のふりかえりと本年度の目標設定
3	教育課題発見①	教育の現状と課題について、思いついた課題について協議をする。
4	教育課題発見②	新聞やインターネットより関心のある教育課題について選択し、自分の考えをまとめ、その後協議をする。
5	教育課題発見③	新聞やインターネットより関心のある教育課題について選択し、自分の考えをまとめ、その後協議をする。
6	教育課題発見④	新聞やインターネットより関心のある教育課題について選択し、自分の考えをまとめ、その後協議をする。
7	教育課題発見⑤	新聞やインターネットより関心のある教育課題について選択し、自分の考えをまとめ、その後協議をする。
8	教育課題発見⑥	新聞やインターネットより関心のある教育課題について選択し、自分の考えをまとめ、その後協議をする。
9	教育課題解決の方法①	いままでの教育課題発見①～⑤の中で特に関心があったものについて、自分の考えを整理するとともに、課題解決の方法を考えまとめる。
10	教育課題解決の方法②	教育課題発見①～⑤の中で特に関心があったものについて、自分の考えを整理するとともに、課題解決の方法を考え、考えたものについてpowerpointにまとめる。
11	教育課題解決の方法③	教育課題発見①～⑤の中で特に関心があったものについて、自分の考えを整理するとともに、課題解決の方法を考え、考えたものについてpowerpointにまとめる。
12	教育課題解決の方法についての報告会	教育課題解決の方法をまとめたPowerPoint資料を使って報告をする。
13	自分の進路と課題解決力	進路について考えるとともに、その中で今回の授業での学びをどのように生かすのかを考える。
14	まとめ	学んだことの報告及び後期に向けての目標修正

15 16		

科目コード	14100				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ［再履修]BC用				担当者名	岡田　健志			
配当年次	1年	配当学期	第1クォーター・第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、大学における「学び方を学ぶ」ことを目的とする。高校までの学習・生活とは、大学でのそれとは大きく異なる。大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも、学び方、自らの成長のさせ方は特に重要である。【PC・スマホ・筆記用具必須】

＜授業の到達目標＞
1. 学習生活：無理なく効率的な学習習慣を確立する2. 非認知能力：自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができる3. 認知能力：主に大学生として求められる基礎学力（聞く・読む・書く・話す）の獲得と定着と主体的に学習に取り組む態度を身に着ける4. 自己認識：自身の強み・弱みを理解し、自身の思考・感情・状況について考え、話すことができる

＜授業の方法＞
オンデマンドでの受講となる。毎回、Googleクラスルームもしくは他システムでの課題提出となる。ただし、第1回目は対面にて受講ガイダンスを行うため、必ず出席すること。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
授業内でのアクティブ・ラーニングは無いが、必ず毎回の授業でレポート提出を行う。そこで観察や身近な人へのヒアリングなどの活動を必須とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前課題：次回テーマに即したミニレポート作成およびキーワードの調査を実施する。（1時間程度）事後課題：毎回の授業で何を学び、何に気付いたかを整理するためにレポートを課す。（1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
各回の授業内課題・演習への取り組み・・・30%レポートなどの課題への取り組み・・・50％発表・演習時の独自の観点や貢献度・・・20%

＜教科書＞
なし

＜参考書＞
なし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	授業ガイダンス	クラスごとの運営方針を担当から伝え、これからのIPUでの学びについて心構えをもつ。
2	高校の勉強から大学の学び・研究へのシフト	日本の高校における「勉強」と大学で求められる「学び・研究・調査」の違いを整理し、学習目的・評価基準・正解概念の相違を明確にする。あわせて、大学で必要となる主体的なマインドセットや学習技能、問いの立て方・根拠に基づく思考の重要性を理解し、自身の学び方を再設計することを目的とする。
3	時間管理・課題管理・評価の受け止め方※個人面談①	大学生に求められる時間管理や課題管理の方法を中心に学ぶ。社会人になる前の段階で、自らの学びや課題を管理して無理のない学生生活を送る練習をする。また課題提出後の教員からの評価やフィードバックをどのように受け止めるかも重要だ。その評価から、自らの提出物に対してさらに問題点を発見して今後の学びに活かす方法について学ぶ。
4	【オンデマンド週】学習スタイルとメタ認知	学習スタイルの多様性を理解し、自身の特性に応じて学習方法を使い分ける姿勢を養う。あわせて、自己調整学習の基盤となるメタ認知の重要性を学び、学習過程を振り返るためのジャーナリングの実践を通して、自律的に学び続ける力の育成を目指す。
5	分野・領域の違いに注目した調査方法	学問分野や研究領域の違いを意識した調査方法を学ぶ。人文科学・社会科学・自然

	※個人面談②	科学それぞれの特性を踏まえ、用語の調べ方と論説・研究の探し方の違いを整理し、図書館およびウェブを適切に使い分ける基本的な方法を身につけることを目的とする。実際に図書館で書籍・資料を探す経験をする。
6	文献・資料の調査方法と検索リテラシー ※個人面談③	大学における文献・資料調査の意義を理解し、信頼性のある情報を収集するための基本的な検索方法を学ぶ。あわせて、検索エンジンやデータベースによる調査と生成AIの活用の違いを整理し、それぞれの特性や信頼性を踏まえた適切な使い分けについて考察する。実際に図書館で書籍・資料を探す経験をする。
7	生成AIを学習・研究に活用する　※個人面談③	生成AIを学習・研究に活用する際の基本的な考え方を学ぶ。ハルシネーションが起こる仕組みや生成AIが実際に存在しない文献などをさがしてくる現状を知る。そのような生成AIの特性と限界を理解した上で、人間が目的設定・判断・責任を担うHuman-in-the-Loopの重要性を確認し、効果的なプロンプト設計の基礎を扱う。あわせて、個人的利用と公的なアウトプットにおける責任の違いについて考察する。
8	人の記憶の特徴を知る	本講義では、人の記憶の仕組みを理解し、学習に活かす方法を学ぶ。短期記憶・長期記憶、エピソード記憶などの特徴を整理し、記憶のメカニズムに即した覚え方や思い出し方を考察する。あわせて、五感を活用した記憶方法を取り上げ、効果的な学び方を工夫する姿勢の形成を目指す。
9	ノートの取り方と情報整理	本講義では、大学での学びを深めるためのノートテイキングと情報整理の方法を学ぶ。学習用ノートと取材・調査用ノートの目的や役割の違いを理解し、記録した内容を後から修正・編集することで理解を深める手法を扱う。あわせて、紙のノートとデジタルツールの特性を踏まえた効果的な使い分けについて考察する。
10	公的データの利用方法	本講義では、公的機関が公開しているデータや資料をいくつか紹介する。データを活用する際には、調査対象となる項目とその項目がどのような内容であるかを知る必要がある。e-StatやRESASを通じて、独力で調査できるようになることを目的とする。
11	人に質問・取材する発問設計技術	本講義では、教員や友人、インタビュイーに対して適切に質問・取材を行うための基礎的な技術を学ぶ。質問の目的設定や発問の整理方法を理解するとともに、相手への配慮やマナー、倫理的留意点を踏まえ、独りよがりにならない相互に有意義な対話を実現する力の育成を目指す。
12	読む力を養う（1）	本講義では、文章を読む際に重要となる「事実」と「解釈」の区別を学ぶ。同じ文章でも、学問領域や立場、背景知識の違いによって解釈が分かれ得ることに注目し、その違いに気づくための視点や確認方法を身につける。また、不明な用語について分野や文脈を意識して調べる姿勢を養う。
13	読む力を養う（2）	本講義では、資料の要旨や全体構造を的確に読み取る力を養う。文章中の主張と根拠の関係を意識しながら読み進め、重要なキーワードの関連性を整理する方法を学ぶ。あわせて、内容理解を深めるための可視化ツールを紹介し、実践的な読解力の向上を目指す。
14	読む力を養う（3）	本講義では、資料を読む際に不可欠な信頼性と妥当性の判断基準を学ぶ。著者のプロフィールや執筆目的や主張の方向性を意識しながら資料を評価する視点を身につけ、ファクトチェックやセカンドオピニオンの確認方法を扱う。資料選択の段階から批判的に読む力の育成を目指す。
15		
16		

科目コード	14100				区　分	教養科目		
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ [再履修]PP用				担当者名	十河　直太		
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。また、体育・スポーツを学ぶ学生として、体育・スポーツの知識・理論を身につけ、実践していくための手がかりとして、グループワークやチームビルディングを行い、非認知能力と認知能力の育成を目指す。

＜授業の到達目標＞

①学生生活：よい生活習慣の確立する②非認知能力：自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができる③認知能力：主に大学生として求められる基礎学力の獲得と定着と主体的に学習に取り組む態度を身に着ける④キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について考え、話すことができる

＜授業の方法＞

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材を取り組んでいく。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素：ありグループに分かれ、テーマに応じたディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度(ディスカッションや演習への取り組み等）30%、小課題（基礎学力課題を含む）50%、大課題（発表等）20％

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	コミュニケーション	チームビルディングを通して、積極的なコミュニケーションを身につける。
2	自己を知る①	ニュースポーツ体験
3	自己を知る②	ニュースポーツ体験②
4	自己を知る③	メンター体験談
5	プレゼン①	ビブリオバトルの原稿作り
6	プレゼン①	ビブリオバトル発表
7	コミュニティの形成	他クラスとの交流
8	大学を知る②	後期の目標設定および履修登録の確認
9	プレゼン②	スピーチコンテストの原稿作り
10	プレゼン②	スピーチコンテストクラス予選
11	非認知能力の育成①	非認知能力について調べ、自身の能力を伸ばすための方法を知る。
12	非認知能力の育成②	コミュニケーションスキルを伸ばすための方法を知り、グループワークを通じて実践する。
13	進路について	進路について実情を調べる
14	進路について	調べた内容をプレゼン発表する
15		
16		

科目コード	14100				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ　BC26秋入学生用				担当者名	溝越　隆興／李　辰鰲／宇都宮　浩司			
配当年次	1年	配当学期	第３・第４クオーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、大学における「学び方を学ぶ」ことを目的とする。高校までの学習・生活とは、大学でのそれとは大きく異なる。大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも、学び方、自らの成長のさせ方は特に重要である。【PC・スマホ・筆記用具必須】

＜授業の到達目標＞
1. 学習生活：無理なく効率的な学習習慣を確立する2. 非認知能力：自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができる3. 認知能力：主に大学生として求められる基礎学力（聞く・読む・書く・話す）の獲得と定着と主体的に学習に取り組む態度を身に着ける4. 自己認識：自身の強み・弱みを理解し、自身の思考・感情・状況について考え、話すことができる

＜授業の方法＞
講義・演習・実技などの形態をとる。授業内で反転学習を行うこともある。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有り。グループワークやディスカッションを入れる。プレゼンテーションを行うこともある。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
テーマに即したレポート作成、課題の準備などを各授業で指示する。（事前・事後ともに1時間程度の課題となる）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
各回の授業内課題・演習への取り組み・・・30%レポートなどの課題への取り組み・・・50％発表・演習時の独自の観点や貢献度・・・20%

＜教科書＞
なし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	授業ガイダンス	クラスごとの運営方針を担当から伝え、これからのIPUでの学びについて心構えをもつ。特に、「個人での学び」と「チームでの学び」について意識をもち、クラスのチームビルディングを行う。
2	高校の勉強から大学の学び・研究へのシフト	日本の高校における「勉強」と大学で求められる「学び・研究・調査」の違いを整理し、学習目的・評価基準・正解概念の相違を明確にする。あわせて、大学で必要となる主体的なマインドセットや学習技能、問いの立て方・根拠に基づく思考の重要性を理解し、自身の学び方を再設計することを目的とする。
3	時間管理・課題管理・評価の受け止め方	大学生に求められる時間管理や課題管理の方法を中心に学ぶ。社会人になる前の段階で、自らの学びや課題を管理して無理のない学生生活を送る練習をする。また課題提出後の教員からの評価やフィードバックをどのように受け止めるかも重要だ。その評価から、自らの提出物に対してさらに問題点を発見して今後の学びに活かす方法について学ぶ。※個人面談①
4	【オンデマンド週】学習スタイルとメタ認知	学習スタイルの多様性を理解し、自身の特性に応じて学習方法を使い分ける姿勢を養う。あわせて、自己調整学習の基盤となるメタ認知の重要性を学び、学習過程を振り返るためのジャーナリングの実践を通して、自律的に学び続ける力の育成を目指す。
5	分野・領域の違いに注目した調査方法	学問分野や研究領域の違いを意識した調査方法を学ぶ。人文科学・社会科学・自然科学それぞれの特性を踏まえ、用語の調べ方と論説・研究の探し方の違いを整理し、図書館およびウェブを適切に使い分ける基本的な方法を身につけることを目的とする。実際に図書館で書籍・資料を探す経験をする。※個人面談②
6	文献・資料の調査方法と検索リテラシー	大学における文献・資料調査の意義を理解し、信頼性のある情報を収集するための

		基本的な検索方法を学ぶ。あわせて、検索エンジンやデータベースによる調査と生成AIの活用の違いを整理し、それぞれの特性や信頼性を踏まえた適切な使い分けについて考察する。実際に図書館で書籍・資料を探す経験をする。※個人面談③
7	生成AIを学習・研究に活用する	生成AIを学習・研究に活用する際の基本的な考え方を学ぶ。ハルシネーションが起こる仕組みや生成AIが実際に存在しない文献などをさがしてくる現状を知る。そのような生成AIの特性と限界を理解した上で、人間が目的設定・判断・責任を担うHumanin-the-Loopの重要性を確認し、効果的なプロンプト設計の基礎を扱う。あわせて、個人的利用と公的なアウトプットにおける責任の違いについて考察する。※個人面談④
8	人の記憶の特徴を知る	本講義では、人の記憶の仕組みを理解し、学習に活かす方法を学ぶ。短期記憶・長期記憶、エピソード記憶などの特徴を整理し、記憶のメカニズムに即した覚え方や思い出し方を考察する。あわせて、五感を活用した記憶方法を取り上げ、効果的な学び方を工夫する姿勢の形成を目指す。
9	ノートの取り方と情報整理	本講義では、大学での学びを深めるためのノートテイキングと情報整理の方法を学ぶ。学習用ノートと取材・調査用ノートの目的や役割の違いを理解し、記録した内容を後から修正・編集することで理解を深める手法を扱う。あわせて、紙のノートとデジタルツールの特性を踏まえた効果的な使い分けについて考察する。
10	公的データの利用方法	本講義では、公的機関が公開しているデータや資料をいくつか紹介する。データを活用する際には、調査対象となる項目とその項目がどのような内容であるかを知る必要がある。e-StatやRESASを通じて、独力で調査できるようになることを目的とする。
11	人に質問・取材する発問設計技術	本講義では、教員や友人、インタビュイーに対して適切に質問・取材を行うための基礎的な技術を学ぶ。質問の目的設定や発問の整理方法を理解するとともに、相手への配慮やマナー、倫理的留意点を踏まえ、独りよがりにならない相互に有意義な対話を実現する力の育成を目指す。
12	読む力を養う（1）	本講義では、文章を読む際に重要となる「事実」と「解釈」の区別を学ぶ。同じ文章でも、学問領域や立場、背景知識の違いによって解釈が分かれ得ることに注目し、その違いに気づくための視点や確認方法を身につける。また、不明な用語について分野や文脈を意識して調べる姿勢を養う。
13	読む力を養う（2）	本講義では、資料の要旨や全体構造を的確に読み取る力を養う。文章中の主張と根拠の関係を意識しながら読み進め、重要なキーワードの関連性を整理する方法を学ぶ。あわせて、内容理解を深めるための可視化ツールを紹介し、実践的な読解力の向上を目指す。
14	読む力を養う（3）	本講義では、資料を読む際に不可欠な信頼性と妥当性の判断基準を学ぶ。著者のプロフィールや執筆目的や主張の方向性を意識しながら資料を評価する視点を身につけ、ファクトチェックやセカンドオピニオンの確認方法を扱う。資料選択の段階から批判的に読む力の育成を目指す。
15		
16		

科目コード	14101				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ［再履修]BC用				担当者名	岡田　健志			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第3クォーター・第4クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、大学における「学び方を学ぶ」ことを目的とする。高校までの学習・生活とは、大学でのそれとは大きく異なる。大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも、学び方、自らの成長のさせ方は特に重要である。【PC・スマホ・筆記用具必須】

＜授業の到達目標＞
1. 学習生活：無理なく効率的な学習習慣を確立する2. 非認知能力：自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができる3. 認知能力：主に大学生として求められる基礎学力（聞く・読む・書く・話す）の獲得と定着と主体的に学習に取り組む態度を身に着ける4. 自己認識：自身の強み・弱みを理解し、自身の思考・感情・状況について考え、話すことができる

＜授業の方法＞
オンデマンドでの受講となる。毎回、Googleクラスルームもしくは他システムでの課題提出となる。ただし、第1回目は対面にて受講ガイダンスを行うため、必ず出席すること。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
授業内でのアクティブ・ラーニングは無いが、必ず毎回の授業でレポート提出を行う。そこで観察や身近な人へのヒアリングなどの活動を必須とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前課題：次回テーマに即したミニレポート作成およびキーワードの調査を実施する。（1時間程度）事後課題：毎回の授業で何を学び、何に気付いたかを整理するためにレポートを課す。（1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
各回の授業内課題・演習への取り組み・・・30%レポートなどの課題への取り組み・・・50％発表・演習時の独自の観点や貢献度・・・20%

＜教科書＞
なし

＜参考書＞
なし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	思考力・発想力を養う（1）	本講義では、具体と抽象の区別を基礎に、視点・視野・視座の違いによるものの見方を学ぶ。一つの考え方にとらわれず、多角的に物事を捉えるための思考の枠組みを理解し、問題や事象を複数の角度から考察する力の育成を目指す。
2	思考力・発想力を養う（2）	本講義では、発想を広げる拡散思考と、考えを整理し選択する収束思考の違いを学ぶ。ブレインストーミングや消去法を例に、思考法を意識的に使い分ける重要性を理解し、課題解決やアイデア創出に活用できる思考力の育成を目指す。
3	思考力・発想力を養う（3）	本講義では、人が陥りやすい認知バイアスを理解し、自身の考えや他者の意見を柔軟に見直すための批判的思考を学ぶ。あわせて、不確実さや曖昧さを受け入れるネガティブ・ケイパビリティの考え方を通して、固定観念にとらわれない思考態度の形成を目指す。
4	書く力を養う（1）	本講義では、文章を書く際に不可欠な「事実」と「主観的判断・主張」の区別を学ぶ。両者が混在しやすい表現を見極め、書き分けるための着眼点と工夫を理解するとともに、根拠に基づいて主張を展開する基本的な論証の方法を身につける。
5	書く力を養う（2）	本講義では、文章を書く前に内容の構造を明確にする重要性を学ぶ。マインドマップやツリー構造を用いてキーワードや要旨を整理し、下書きを経て文章として成立させる手順を理解する。思いつくままに書くのではなく、構造を設計してから書く

		姿勢を身につける。
6	書く力を養う（3）	本講義では、自身の体験や思考を内省し、他者に伝わる形で文章化する力を養う。抽象的な表現に陥りやすい点に注意しながら、体験者にしか書けない具体的な描写や整理の工夫を学び、経験を意味ある文章として表現する力の向上を目指す。
7	書く力を養う（4）	本講義では、文章作成に伴う著作権の基本的な考え方を学び、適切な引用や要約の方法を理解する。引用と盗用の違いや、勝手な要約・不適切な言い換えの問題点を確認しながら、他者の表現を尊重しつつ自らの文章を構成するための責任ある書き方を身につける。
8	リサーチ・クエスチョンの立て方	本講義では、これまで学んできた「読む・書く・調べる・考える」力を振り返りながら、それらを統合する概念として「リサーチクエスチョン（研究課題）」の立て方を学ぶ。PDCAサイクルやOODAサイクル、反証可能性など、耳にする機会が多い概念を使いながら、大学での学びを「問いを立て、検証する営み」として再整理することを目的とする。
9	科学発見の論理 ― 問いはどのように生まれるのか	本講義では、科学史上の事例（ニュートン、パスツール、フレミングなど）を通して、発見が偶然ではなく、観察・違和感・仮説形成・検証という思考の過程から生まれることを学ぶ。演繹・帰納・仮説推論（アブダクション）の違いや、検証可能性・反証可能性の意義を整理するとともに、研究初期に有効なOODAサイクルと、検証段階で機能するPDCAサイクルの使い分けを理解する。これにより、自らリサーチクエスチョンを立てるための視点を身につけることを目的とする。
10	論証の論理 ― 合意はどのように形成されるのか	本講義では、裁判やディベートを例に、主張と根拠の関係、証拠の扱い方、反論と再反論の構造を学ぶ。事実・解釈・意見の区別を再確認しながら、演繹・帰納の推論構造や論理的誤謬の典型例を整理し、どのようにして人は論理を通して他者を説得し、合意を形成していくのかを理解する。あわせて、主張・根拠・保証の関係(トゥールミン・モデル)を簡潔に紹介し、自らのリサーチクエスチョンを論証可能な形に組み立てる視点を養うことを目的とする。
11	科学と合意形成 ― パラダイムはどのように転換するのか　※個人面談⑤	本講義では、科学社会学の視点から、科学的主張がどのように専門家集団の中で受け入れられ、普及し、時に覆されるのかを学ぶ。トマス・クーンの「パラダイム」概念を手がかりに、通常科学・異常事態・科学革命という構造を整理し、科学が直線的に進歩するのではなく、一定の枠組みのもとで営まれていることを理解する。あわせて、新しい理論や研究課題が受容される条件、抵抗が生じる理由、専門家コミュニティの合意形成の仕組みを概観し、初学者がリサーチクエスチョンを立てる際にも、既存の枠組み（パラダイム）を意識することの重要性を確認する
12	SNSと炎上	本回では、SNS上で発生する炎上の典型パターンと拡散構造を理解し、炎上を引き起こす心理（正義感・同調・切り取り・匿名性など）を学ぶ。具体的な事例（擬似ケース）を分析し、投稿前のリスク評価（主語・文脈・影響のチェック）と、炎上が生じた場合の初動対応の原則を理解することで、情報発信における倫理観と自己防衛力の向上を目指す。
13	自己理解とキャリア形成	本講義では、キャリア形成において重要となる自己理解の考え方を扱う。性格診断や職業適性検査、心理テストなどがどのような前提や仕組みに基づいて作られているかを理解し、その限界や問題点を確認する。特に、近年流行しているMBTI診断を題材に、学術的な心理尺度とインターネット上で流布している簡易診断(いわゆるエセMBTI)との違いを整理する。診断結果を鵜呑みにするのではなく、仮説として批判的に解釈し、自身の強み・弱み・関心事項を多面的に捉える姿勢を養うことを目的とする。
14	総合課題	本講義では、これまで学んできたことから、いくつかの与えられた課題について調査し、その結果をまとめる。
15		
16		

科目コード	14101				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ［再履修]PP用				担当者名	早田　剛			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学におけるける学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

＜授業の到達目標＞
①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・ 責任感」を持てるようになる。 ②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力を持てるようになる。③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力を持てるようになる。 ④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力を持てるようになる。

＜授業の方法＞
1.講義(メンターによる講話) 2.グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ) 3.省察活動(質疑・まとめ・感想発表) 4.基礎学力課題に取り組む

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
要素：有テーマに応じて、ディスカッションを行う

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。対面授業：（毎回１時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ１～２回程度、３時間程度）復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２(専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
予習課題（10%）プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等（50%）演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲（30%）最終レポート（10%）必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション（コミュニティの形成）	授業概要の理解、年間の学びの見通しを持つ
2	自己分析①	自己分析（強み・価値観）および3×3×3フォーマットを用いた言語化の基礎
3	自己分析②・関係形成	交流会に向けた準備と自己開示、関係構築の促進
4	クラス内交流	クラス内交流の実施
5	環トレと五訓について	環トレ課題および五訓評価への取り組み
6	project型学習①　企画	企画立案と役割分担の決定デーション作成
7	project型学習②　リハーサル	企画実施に向けた準備およびリハーサル
8	project型学習③　実践と振り返り	企画実施と振り返り、2年次イベントの方向性検討
9	project型学習④　実践と振り返り	振り返りの深化とアクションプランの具体化
10	project型学習⑤　実践と振り返り共有	振り返りの共有とアクションプランの完成
11	企画発表①	担当イベントのコンセプト発表および意思決定
12	五訓評価	五訓自己評価の実施と振り返り
13	2年後期からのアクションプランの作成	前期活動の総括と個人の成長の振り返りとアクションプランの精査
14	2年後期からのアクションプラン発表	自分のアクションプランと他の人のアクションプランを振り返り、ブラッシュアップを行う。
15		
16		

科目コード	14101				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ　BC2026年度生				担当者名	宇都宮　浩司			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第３・第４クオーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、大学における「学び方を学ぶ」ことを目的とする。高校までの学習・生活とは、大学でのそれとは大きく異なる。大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも、学び方、自らの成長のさせ方は特に重要である。【PC・スマホ・筆記用具必須】

＜授業の到達目標＞
1. 学習生活：無理なく効率的な学習習慣を確立する2. 非認知能力：自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができる3. 認知能力：主に大学生として求められる基礎学力（聞く・読む・書く・話す）の獲得と定着と主体的に学習に取り組む態度を身に着ける4. 自己認識：自身の強み・弱みを理解し、自身の思考・感情・状況について考え、話すことができる

＜授業の方法＞
講義・演習・実技などの形態をとる。授業内で反転学習を行うこともある。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有り。グループワークやディスカッションを入れる。プレゼンテーションを行うこともある。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
テーマに即したレポート作成、課題の準備などを各授業で指示する。（1時間程度の課題となる）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
各回の授業内課題・演習への取り組み・・・30%レポートなどの課題への取り組み・・・50％発表・演習時の独自の観点や貢献度・・・20%

＜教科書＞
なし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	思考力・発想力を養う（1）	本講義では、具体と抽象の区別を基礎に、視点・視野・視座の違いによるものの見方を学ぶ。一つの考え方にとらわれず、多角的に物事を捉えるための思考の枠組みを理解し、問題や事象を複数の角度から考察する力の育成を目指す。※個人面談①
2	思考力・発想力を養う（2）	本講義では、発想を広げる拡散思考と、考えを整理し選択する収束思考の違いを学ぶ。ブレインストーミングや消去法を例に、思考法を意識的に使い分ける重要性を理解し、課題解決やアイデア創出に活用できる思考力の育成を目指す。※個人面談②
3	思考力・発想力を養う（3）	本講義では、人が陥りやすい認知バイアスを理解し、自身の考えや他者の意見を柔軟に見直すための批判的思考を学ぶ。あわせて、不確実さや曖昧さを受け入れるネガティブ・ケイパビリティの考え方を通して、固定観念にとらわれない思考態度の形成を目指す。※個人面談③
4	書く力を養う（1）	本講義では、文章を書く際に不可欠な「事実」と「主観的判断・主張」の区別を学ぶ。両者が混在しやすい表現を見極め、書き分けるための着眼点と工夫を理解するとともに、根拠に基づいて主張を展開する基本的な論証の方法を身につける。※個人面談④
5	書く力を養う（2）	本講義では、文章を書く前に内容の構造を明確にする重要性を学ぶ。マインドマップやツリー構造を用いてキーワードや要旨を整理し、下書きを経て文章として成立させる手順を理解する。思いつくままに書くのではなく、構造を設計してから書く姿勢を身につける。
6	書く力を養う（3）	本講義では、自身の体験や思考を内省し、他者に伝わる形で文章化する力を養う。抽象的な表現に陥りやすい点に注意しながら、体験者にしか書けない具体的な描写

7	書く力を養う（4）	や整理の工夫を学び、経験を意味ある文章として表現する力の向上を目指す。 本講義では、文章作成に伴う著作権の基本的な考え方を学び、適切な引用や要約の方法を理解する。引用と盗用の違いや、勝手な要約・不適切な言い換えの問題点を確認しながら、他者の表現を尊重しつつ自らの文章を構成するための責任ある書き方を身につける。
8	リサーチ・クエスチョンの立て方	本講義では、これまで学んできた「読む・書く・調べる・考える」力を振り返りながら、それらを統合する概念として「リサーチクエスチョン（研究課題）」の立て方を学ぶ。PDCAサイクルやOODAサイクル、反証可能性など、耳にする機会が多い概念を使いながら、大学での学びを「問いを立て、検証する営み」として再整理することを目的とする。
9	科学発見の論理 ― 問いはどのように生まれるのか	本講義では、科学史上の事例（ニュートン、パスツール、フレミングなど）を通して、発見が偶然ではなく、観察・違和感・仮説形成・検証という思考の過程から生まれることを学ぶ。演繹・帰納・仮説推論（アブダクション）の違いや、検証可能性・反証可能性の意義を整理するとともに、研究初期に有効なOODAサイクルと、検証段階で機能するPDCAサイクルの使い分けを理解する。これにより、自らリサーチクエスチョンを立てるための視点を身につけることを目的とする。
10	論証の論理 ― 合意はどのように形成されるのか	本講義では、裁判やディベートを例に、主張と根拠の関係、証拠の扱い方、反論と再反論の構造を学ぶ。事実・解釈・意見の区別を再確認しながら、演繹・帰納の推論構造や論理的誤謬の典型例を整理し、どのようにして人は論理を通して他者を説得し、合意を形成していくのかを理解する。あわせて、主張・根拠・保証の関係(トゥールミン・モデル)を簡潔に紹介し、自らのリサーチクエスチョンを論証可能な形に組み立てる視点を養うことを目的とする。
11	科学と合意形成 ― パラダイムはどのように転換するのか	本講義では、科学社会学の視点から、科学的主張がどのように専門家集団の中で受け入れられ、普及し、時に覆されるのかを学ぶ。トマス・クーンの「パラダイム」概念を手がかりに、通常科学・異常事態・科学革命という構造を整理し、科学が直線的に進歩するのではなく、一定の枠組みのもとで営まれていることを理解する。あわせて、新しい理論や研究課題が受容される条件、抵抗が生じる理由、専門家コミュニティの合意形成の仕組みを概観し、初学者がリサーチクエスチョンを立てる際にも、既存の枠組み（パラダイム）を意識することの重要性を確認する
12	SNSと炎上	本回では、SNS上で発生する炎上の典型パターンと拡散構造を理解し、炎上を引き起こす心理（正義感・同調・切り取り・匿名性など）を学ぶ。具体的な事例（擬似ケース）を分析し、投稿前のリスク評価（主語・文脈・影響のチェック）と、炎上が生じた場合の初動対応の原則を理解することで、情報発信における倫理観と自己防衛力の向上を目指す。※個人面談⑥
13	自己理解とキャリア形成	本講義では、キャリア形成において重要となる自己理解の考え方を扱う。性格診断や職業適性検査、心理テストなどがどのような前提や仕組みに基づいて作られているかを理解し、その限界や問題点を確認する。特に、近年流行しているMBTI診断を題材に、学術的な心理尺度とインターネット上で流布している簡易診断(いわゆるエセMBTI)との違いを整理する。診断結果を鵜呑みにするのではなく、仮説として批判的に解釈し、自身の強み・弱み・関心事項を多面的に捉える姿勢を養うことを目的とする。※個人面談⑦
14	総合課題	本講義では、これまで学んできたことから、いくつかの与えられた課題について調査し、その結果をまとめる。※個人面談⑧
15		
16		

科目コード	14101				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ　BC2026年度生				担当者名	岡田　健志			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第３・第４クオーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、大学における「学び方を学ぶ」ことを目的とする。高校までの学習・生活とは、大学でのそれとは大きく異なる。大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも、学び方、自らの成長のさせ方は特に重要である。【PC・スマホ・筆記用具必須】

＜授業の到達目標＞
1. 学習生活：無理なく効率的な学習習慣を確立する2. 非認知能力：自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができる3. 認知能力：主に大学生として求められる基礎学力（聞く・読む・書く・話す）の獲得と定着と主体的に学習に取り組む態度を身に着ける4. 自己認識：自身の強み・弱みを理解し、自身の思考・感情・状況について考え、話すことができる

＜授業の方法＞
講義・演習・実技などの形態をとる。授業内で反転学習を行うこともある。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有り。グループワークやディスカッションを入れる。プレゼンテーションを行うこともある。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
テーマに即したレポート作成、課題の準備などを各授業で指示する。（1時間程度の課題となる）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
各回の授業内課題・演習への取り組み・・・30%レポートなどの課題への取り組み・・・50％発表・演習時の独自の観点や貢献度・・・20%

＜教科書＞
なし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	思考力・発想力を養う（1）	本講義では、具体と抽象の区別を基礎に、視点・視野・視座の違いによるものの見方を学ぶ。一つの考え方にとらわれず、多角的に物事を捉えるための思考の枠組みを理解し、問題や事象を複数の角度から考察する力の育成を目指す。※個人面談①
2	思考力・発想力を養う（2）	本講義では、発想を広げる拡散思考と、考えを整理し選択する収束思考の違いを学ぶ。ブレインストーミングや消去法を例に、思考法を意識的に使い分ける重要性を理解し、課題解決やアイデア創出に活用できる思考力の育成を目指す。※個人面談②
3	思考力・発想力を養う（3）	本講義では、人が陥りやすい認知バイアスを理解し、自身の考えや他者の意見を柔軟に見直すための批判的思考を学ぶ。あわせて、不確実さや曖昧さを受け入れるネガティブ・ケイパビリティの考え方を通して、固定観念にとらわれない思考態度の形成を目指す。※個人面談③
4	書く力を養う（1）	本講義では、文章を書く際に不可欠な「事実」と「主観的判断・主張」の区別を学ぶ。両者が混在しやすい表現を見極め、書き分けるための着眼点と工夫を理解するとともに、根拠に基づいて主張を展開する基本的な論証の方法を身につける。※個人面談④
5	書く力を養う（2）	本講義では、文章を書く前に内容の構造を明確にする重要性を学ぶ。マインドマップやツリー構造を用いてキーワードや要旨を整理し、下書きを経て文章として成立させる手順を理解する。思いつくままに書くのではなく、構造を設計してから書く姿勢を身につける。
6	書く力を養う（3）	本講義では、自身の体験や思考を内省し、他者に伝わる形で文章化する力を養う。抽象的な表現に陥りやすい点に注意しながら、体験者にしか書けない具体的な描写

7	書く力を養う（4）	や整理の工夫を学び、経験を意味ある文章として表現する力の向上を目指す。 本講義では、文章作成に伴う著作権の基本的な考え方を学び、適切な引用や要約の方法を理解する。引用と盗用の違いや、勝手な要約・不適切な言い換えの問題点を確認しながら、他者の表現を尊重しつつ自らの文章を構成するための責任ある書き方を身につける。
8	リサーチ・クエスチョンの立て方	本講義では、これまで学んできた「読む・書く・調べる・考える」力を振り返りながら、それらを統合する概念として「リサーチクエスチョン（研究課題）」の立て方を学ぶ。PDCAサイクルやOODAサイクル、反証可能性など、耳にする機会が多い概念を使いながら、大学での学びを「問いを立て、検証する営み」として再整理することを目的とする。
9	科学発見の論理 ― 問いはどのように生まれるのか	本講義では、科学史上の事例（ニュートン、パスツール、フレミングなど）を通して、発見が偶然ではなく、観察・違和感・仮説形成・検証という思考の過程から生まれることを学ぶ。演繹・帰納・仮説推論（アブダクション）の違いや、検証可能性・反証可能性の意義を整理するとともに、研究初期に有効なOODAサイクルと、検証段階で機能するPDCAサイクルの使い分けを理解する。これにより、自らリサーチクエスチョンを立てるための視点を身につけることを目的とする。
10	論証の論理 ― 合意はどのように形成されるのか	本講義では、裁判やディベートを例に、主張と根拠の関係、証拠の扱い方、反論と再反論の構造を学ぶ。事実・解釈・意見の区別を再確認しながら、演繹・帰納の推論構造や論理的誤謬の典型例を整理し、どのようにして人は論理を通して他者を説得し、合意を形成していくのかを理解する。あわせて、主張・根拠・保証の関係(トゥールミン・モデル)を簡潔に紹介し、自らのリサーチクエスチョンを論証可能な形に組み立てる視点を養うことを目的とする。
11	科学と合意形成 ― パラダイムはどのように転換するのか	本講義では、科学社会学の視点から、科学的主張がどのように専門家集団の中で受け入れられ、普及し、時に覆されるのかを学ぶ。トマス・クーンの「パラダイム」概念を手がかりに、通常科学・異常事態・科学革命という構造を整理し、科学が直線的に進歩するのではなく、一定の枠組みのもとで営まれていることを理解する。あわせて、新しい理論や研究課題が受容される条件、抵抗が生じる理由、専門家コミュニティの合意形成の仕組みを概観し、初学者がリサーチクエスチョンを立てる際にも、既存の枠組み（パラダイム）を意識することの重要性を確認する
12	SNSと炎上	本回では、SNS上で発生する炎上の典型パターンと拡散構造を理解し、炎上を引き起こす心理（正義感・同調・切り取り・匿名性など）を学ぶ。具体的な事例（擬似ケース）を分析し、投稿前のリスク評価（主語・文脈・影響のチェック）と、炎上が生じた場合の初動対応の原則を理解することで、情報発信における倫理観と自己防衛力の向上を目指す。※個人面談⑥
13	自己理解とキャリア形成	本講義では、キャリア形成において重要となる自己理解の考え方を扱う。性格診断や職業適性検査、心理テストなどがどのような前提や仕組みに基づいて作られているかを理解し、その限界や問題点を確認する。特に、近年流行しているMBTI診断を題材に、学術的な心理尺度とインターネット上で流布している簡易診断(いわゆるエセMBTI)との違いを整理する。診断結果を鵜呑みにするのではなく、仮説として批判的に解釈し、自身の強み・弱み・関心事項を多面的に捉える姿勢を養うことを目的とする。※個人面談⑦
14	総合課題	本講義では、これまで学んできたことから、いくつかの与えられた課題について調査し、その結果をまとめる。※個人面談⑧
15		
16		

科目コード	14101				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ　BC2026年度生				担当者名	平岡　師玄哉			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第３・第４クオーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、大学における「学び方を学ぶ」ことを目的とする。高校までの学習・生活とは、大学でのそれとは大きく異なる。大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも、学び方、自らの成長のさせ方は特に重要である。【PC・スマホ・筆記用具必須】

＜授業の到達目標＞
1. 学習生活：無理なく効率的な学習習慣を確立する2. 非認知能力：自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができる3. 認知能力：主に大学生として求められる基礎学力（聞く・読む・書く・話す）の獲得と定着と主体的に学習に取り組む態度を身に着ける4. 自己認識：自身の強み・弱みを理解し、自身の思考・感情・状況について考え、話すことができる

＜授業の方法＞
講義・演習・実技などの形態をとる。授業内で反転学習を行うこともある。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有り。グループワークやディスカッションを入れる。プレゼンテーションを行うこともある。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
テーマに即したレポート作成、課題の準備などを各授業で指示する。（1時間程度の課題となる）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
各回の授業内課題・演習への取り組み・・・30%レポートなどの課題への取り組み・・・50％発表・演習時の独自の観点や貢献度・・・20%

＜教科書＞
なし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	思考力・発想力を養う（1）	本講義では、具体と抽象の区別を基礎に、視点・視野・視座の違いによるものの見方を学ぶ。一つの考え方にとらわれず、多角的に物事を捉えるための思考の枠組みを理解し、問題や事象を複数の角度から考察する力の育成を目指す。※個人面談①
2	思考力・発想力を養う（2）	本講義では、発想を広げる拡散思考と、考えを整理し選択する収束思考の違いを学ぶ。ブレインストーミングや消去法を例に、思考法を意識的に使い分ける重要性を理解し、課題解決やアイデア創出に活用できる思考力の育成を目指す。※個人面談②
3	思考力・発想力を養う（3）	本講義では、人が陥りやすい認知バイアスを理解し、自身の考えや他者の意見を柔軟に見直すための批判的思考を学ぶ。あわせて、不確実さや曖昧さを受け入れるネガティブ・ケイパビリティの考え方を通して、固定観念にとらわれない思考態度の形成を目指す。※個人面談③
4	書く力を養う（1）	本講義では、文章を書く際に不可欠な「事実」と「主観的判断・主張」の区別を学ぶ。両者が混在しやすい表現を見極め、書き分けるための着眼点と工夫を理解するとともに、根拠に基づいて主張を展開する基本的な論証の方法を身につける。※個人面談④
5	書く力を養う（2）	本講義では、文章を書く前に内容の構造を明確にする重要性を学ぶ。マインドマップやツリー構造を用いてキーワードや要旨を整理し、下書きを経て文章として成立させる手順を理解する。思いつくままに書くのではなく、構造を設計してから書く姿勢を身につける。
6	書く力を養う（3）	本講義では、自身の体験や思考を内省し、他者に伝わる形で文章化する力を養う。抽象的な表現に陥りやすい点に注意しながら、体験者にしか書けない具体的な描写

7	書く力を養う（4）	や整理の工夫を学び、経験を意味ある文章として表現する力の向上を目指す。 本講義では、文章作成に伴う著作権の基本的な考え方を学び、適切な引用や要約の方法を理解する。引用と盗用の違いや、勝手な要約・不適切な言い換えの問題点を確認しながら、他者の表現を尊重しつつ自らの文章を構成するための責任ある書き方を身につける。
8	リサーチ・クエスチョンの立て方	本講義では、これまで学んできた「読む・書く・調べる・考える」力を振り返りながら、それらを統合する概念として「リサーチクエスチョン（研究課題）」の立て方を学ぶ。PDCAサイクルやOODAサイクル、反証可能性など、耳にする機会が多い概念を使いながら、大学での学びを「問いを立て、検証する営み」として再整理することを目的とする。
9	科学発見の論理 ― 問いはどのように生まれるのか	本講義では、科学史上の事例（ニュートン、パスツール、フレミングなど）を通して、発見が偶然ではなく、観察・違和感・仮説形成・検証という思考の過程から生まれることを学ぶ。演繹・帰納・仮説推論（アブダクション）の違いや、検証可能性・反証可能性の意義を整理するとともに、研究初期に有効なOODAサイクルと、検証段階で機能するPDCAサイクルの使い分けを理解する。これにより、自らリサーチクエスチョンを立てるための視点を身につけることを目的とする。
10	論証の論理 ― 合意はどのように形成されるのか	本講義では、裁判やディベートを例に、主張と根拠の関係、証拠の扱い方、反論と再反論の構造を学ぶ。事実・解釈・意見の区別を再確認しながら、演繹・帰納の推論構造や論理的誤謬の典型例を整理し、どのようにして人は論理を通して他者を説得し、合意を形成していくのかを理解する。あわせて、主張・根拠・保証の関係(トゥールミン・モデル)を簡潔に紹介し、自らのリサーチクエスチョンを論証可能な形に組み立てる視点を養うことを目的とする。
11	科学と合意形成 ― パラダイムはどのように転換するのか	本講義では、科学社会学の視点から、科学的主張がどのように専門家集団の中で受け入れられ、普及し、時に覆されるのかを学ぶ。トマス・クーンの「パラダイム」概念を手がかりに、通常科学・異常事態・科学革命という構造を整理し、科学が直線的に進歩するのではなく、一定の枠組みのもとで営まれていることを理解する。あわせて、新しい理論や研究課題が受容される条件、抵抗が生じる理由、専門家コミュニティの合意形成の仕組みを概観し、初学者がリサーチクエスチョンを立てる際にも、既存の枠組み（パラダイム）を意識することの重要性を確認する
12	SNSと炎上	本回では、SNS上で発生する炎上の典型パターンと拡散構造を理解し、炎上を引き起こす心理（正義感・同調・切り取り・匿名性など）を学ぶ。具体的な事例（擬似ケース）を分析し、投稿前のリスク評価（主語・文脈・影響のチェック）と、炎上が生じた場合の初動対応の原則を理解することで、情報発信における倫理観と自己防衛力の向上を目指す。※個人面談⑥
13	自己理解とキャリア形成	本講義では、キャリア形成において重要となる自己理解の考え方を扱う。性格診断や職業適性検査、心理テストなどがどのような前提や仕組みに基づいて作られているかを理解し、その限界や問題点を確認する。特に、近年流行しているMBTI診断を題材に、学術的な心理尺度とインターネット上で流布している簡易診断(いわゆるエセMBTI)との違いを整理する。診断結果を鵜呑みにするのではなく、仮説として批判的に解釈し、自身の強み・弱み・関心事項を多面的に捉える姿勢を養うことを目的とする。※個人面談⑦
14	総合課題	本講義では、これまで学んできたことから、いくつかの与えられた課題について調査し、その結果をまとめる。※個人面談⑧
15		
16		

科目コード	14101				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ　BC2026年度生				担当者名	北村　和久			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第３・第４クオーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、大学における「学び方を学ぶ」ことを目的とする。高校までの学習・生活とは、大学でのそれとは大きく異なる。大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも、学び方、自らの成長のさせ方は特に重要である。【PC・スマホ・筆記用具必須】

＜授業の到達目標＞
1. 学習生活：無理なく効率的な学習習慣を確立する2. 非認知能力：自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができる3. 認知能力：主に大学生として求められる基礎学力（聞く・読む・書く・話す）の獲得と定着と主体的に学習に取り組む態度を身に着ける4. 自己認識：自身の強み・弱みを理解し、自身の思考・感情・状況について考え、話すことができる

＜授業の方法＞
講義・演習・実技などの形態をとる。授業内で反転学習を行うこともある。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有り。グループワークやディスカッションを入れる。プレゼンテーションを行うこともある。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
テーマに即したレポート作成、課題の準備などを各授業で指示する。（1時間程度の課題となる）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
各回の授業内課題・演習への取り組み・・・30%レポートなどの課題への取り組み・・・50％発表・演習時の独自の観点や貢献度・・・20%

＜教科書＞
なし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	思考力・発想力を養う（1）	本講義では、具体と抽象の区別を基礎に、視点・視野・視座の違いによるものの見方を学ぶ。一つの考え方にとらわれず、多角的に物事を捉えるための思考の枠組みを理解し、問題や事象を複数の角度から考察する力の育成を目指す。※個人面談①
2	思考力・発想力を養う（2）	本講義では、発想を広げる拡散思考と、考えを整理し選択する収束思考の違いを学ぶ。ブレインストーミングや消去法を例に、思考法を意識的に使い分ける重要性を理解し、課題解決やアイデア創出に活用できる思考力の育成を目指す。※個人面談②
3	思考力・発想力を養う（3）	本講義では、人が陥りやすい認知バイアスを理解し、自身の考えや他者の意見を柔軟に見直すための批判的思考を学ぶ。あわせて、不確実さや曖昧さを受け入れるネガティブ・ケイパビリティの考え方を通して、固定観念にとらわれない思考態度の形成を目指す。※個人面談③
4	書く力を養う（1）	本講義では、文章を書く際に不可欠な「事実」と「主観的判断・主張」の区別を学ぶ。両者が混在しやすい表現を見極め、書き分けるための着眼点と工夫を理解するとともに、根拠に基づいて主張を展開する基本的な論証の方法を身につける。※個人面談④
5	書く力を養う（2）	本講義では、文章を書く前に内容の構造を明確にする重要性を学ぶ。マインドマップやツリー構造を用いてキーワードや要旨を整理し、下書きを経て文章として成立させる手順を理解する。思いつくままに書くのではなく、構造を設計してから書く姿勢を身につける。
6	書く力を養う（3）	本講義では、自身の体験や思考を内省し、他者に伝わる形で文章化する力を養う。抽象的な表現に陥りやすい点に注意しながら、体験者にしか書けない具体的な描写

7	書く力を養う（4）	や整理の工夫を学び、経験を意味ある文章として表現する力の向上を目指す。 本講義では、文章作成に伴う著作権の基本的な考え方を学び、適切な引用や要約の方法を理解する。引用と盗用の違いや、勝手な要約・不適切な言い換えの問題点を確認しながら、他者の表現を尊重しつつ自らの文章を構成するための責任ある書き方を身につける。
8	リサーチ・クエスチョンの立て方	本講義では、これまで学んできた「読む・書く・調べる・考える」力を振り返りながら、それらを統合する概念として「リサーチクエスチョン（研究課題）」の立て方を学ぶ。PDCAサイクルやOODAサイクル、反証可能性など、耳にする機会が多い概念を使いながら、大学での学びを「問いを立て、検証する営み」として再整理することを目的とする。
9	科学発見の論理 ― 問いはどのように生まれるのか	本講義では、科学史上の事例（ニュートン、パスツール、フレミングなど）を通して、発見が偶然ではなく、観察・違和感・仮説形成・検証という思考の過程から生まれることを学ぶ。演繹・帰納・仮説推論（アブダクション）の違いや、検証可能性・反証可能性の意義を整理するとともに、研究初期に有効なOODAサイクルと、検証段階で機能するPDCAサイクルの使い分けを理解する。これにより、自らリサーチクエスチョンを立てるための視点を身につけることを目的とする。
10	論証の論理 ― 合意はどのように形成されるのか	本講義では、裁判やディベートを例に、主張と根拠の関係、証拠の扱い方、反論と再反論の構造を学ぶ。事実・解釈・意見の区別を再確認しながら、演繹・帰納の推論構造や論理的誤謬の典型例を整理し、どのようにして人は論理を通して他者を説得し、合意を形成していくのかを理解する。あわせて、主張・根拠・保証の関係(トゥールミン・モデル)を簡潔に紹介し、自らのリサーチクエスチョンを論証可能な形に組み立てる視点を養うことを目的とする。
11	科学と合意形成 ― パラダイムはどのように転換するのか	本講義では、科学社会学の視点から、科学的主張がどのように専門家集団の中で受け入れられ、普及し、時に覆されるのかを学ぶ。トマス・クーンの「パラダイム」概念を手がかりに、通常科学・異常事態・科学革命という構造を整理し、科学が直線的に進歩するのではなく、一定の枠組みのもとで営まれていることを理解する。あわせて、新しい理論や研究課題が受容される条件、抵抗が生じる理由、専門家コミュニティの合意形成の仕組みを概観し、初学者がリサーチクエスチョンを立てる際にも、既存の枠組み（パラダイム）を意識することの重要性を確認する
12	SNSと炎上	本回では、SNS上で発生する炎上の典型パターンと拡散構造を理解し、炎上を引き起こす心理（正義感・同調・切り取り・匿名性など）を学ぶ。具体的な事例（擬似ケース）を分析し、投稿前のリスク評価（主語・文脈・影響のチェック）と、炎上が生じた場合の初動対応の原則を理解することで、情報発信における倫理観と自己防衛力の向上を目指す。※個人面談⑥
13	自己理解とキャリア形成	本講義では、キャリア形成において重要となる自己理解の考え方を扱う。性格診断や職業適性検査、心理テストなどがどのような前提や仕組みに基づいて作られているかを理解し、その限界や問題点を確認する。特に、近年流行しているMBTI診断を題材に、学術的な心理尺度とインターネット上で流布している簡易診断(いわゆるエセMBTI)との違いを整理する。診断結果を鵜呑みにするのではなく、仮説として批判的に解釈し、自身の強み・弱み・関心事項を多面的に捉える姿勢を養うことを目的とする。※個人面談⑦
14	総合課題	本講義では、これまで学んできたことから、いくつかの与えられた課題について調査し、その結果をまとめる。※個人面談⑧
15		
16		

科目コード	14101				区　分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ　BC2026年度生				担当者名	溝越　隆興			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第３・第４クオーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、大学における「学び方を学ぶ」ことを目的とする。高校までの学習・生活とは、大学でのそれとは大きく異なる。大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも、学び方、自らの成長のさせ方は特に重要である。【PC・スマホ・筆記用具必須】

＜授業の到達目標＞
1. 学習生活：無理なく効率的な学習習慣を確立する2. 非認知能力：自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができる3. 認知能力：主に大学生として求められる基礎学力（聞く・読む・書く・話す）の獲得と定着と主体的に学習に取り組む態度を身に着ける4. 自己認識：自身の強み・弱みを理解し、自身の思考・感情・状況について考え、話すことができる

＜授業の方法＞
講義・演習・実技などの形態をとる。授業内で反転学習を行うこともある。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有り。グループワークやディスカッションを入れる。プレゼンテーションを行うこともある。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
テーマに即したレポート作成、課題の準備などを各授業で指示する。（1時間程度の課題となる）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
各回の授業内課題・演習への取り組み・・・30%レポートなどの課題への取り組み・・・50％発表・演習時の独自の観点や貢献度・・・20%

＜教科書＞
なし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	思考力・発想力を養う（1）	本講義では、具体と抽象の区別を基礎に、視点・視野・視座の違いによるものの見方を学ぶ。一つの考え方にとらわれず、多角的に物事を捉えるための思考の枠組みを理解し、問題や事象を複数の角度から考察する力の育成を目指す。※個人面談①
2	思考力・発想力を養う（2）	本講義では、発想を広げる拡散思考と、考えを整理し選択する収束思考の違いを学ぶ。ブレインストーミングや消去法を例に、思考法を意識的に使い分ける重要性を理解し、課題解決やアイデア創出に活用できる思考力の育成を目指す。※個人面談②
3	思考力・発想力を養う（3）	本講義では、人が陥りやすい認知バイアスを理解し、自身の考えや他者の意見を柔軟に見直すための批判的思考を学ぶ。あわせて、不確実さや曖昧さを受け入れるネガティブ・ケイパビリティの考え方を通して、固定観念にとらわれない思考態度の形成を目指す。※個人面談③
4	書く力を養う（1）	本講義では、文章を書く際に不可欠な「事実」と「主観的判断・主張」の区別を学ぶ。両者が混在しやすい表現を見極め、書き分けるための着眼点と工夫を理解するとともに、根拠に基づいて主張を展開する基本的な論証の方法を身につける。※個人面談④
5	書く力を養う（2）	本講義では、文章を書く前に内容の構造を明確にする重要性を学ぶ。マインドマップやツリー構造を用いてキーワードや要旨を整理し、下書きを経て文章として成立させる手順を理解する。思いつくままに書くのではなく、構造を設計してから書く姿勢を身につける。
6	書く力を養う（3）	本講義では、自身の体験や思考を内省し、他者に伝わる形で文章化する力を養う。抽象的な表現に陥りやすい点に注意しながら、体験者にしか書けない具体的な描写

7	書く力を養う（4）	や整理の工夫を学び、経験を意味ある文章として表現する力の向上を目指す。 本講義では、文章作成に伴う著作権の基本的な考え方を学び、適切な引用や要約の方法を理解する。引用と盗用の違いや、勝手な要約・不適切な言い換えの問題点を確認しながら、他者の表現を尊重しつつ自らの文章を構成するための責任ある書き方を身につける。
8	リサーチ・クエスチョンの立て方	本講義では、これまで学んできた「読む・書く・調べる・考える」力を振り返りながら、それらを統合する概念として「リサーチクエスチョン（研究課題）」の立て方を学ぶ。PDCAサイクルやOODAサイクル、反証可能性など、耳にする機会が多い概念を使いながら、大学での学びを「問いを立て、検証する営み」として再整理することを目的とする。
9	科学発見の論理 ― 問いはどのように生まれるのか	本講義では、科学史上の事例（ニュートン、パスツール、フレミングなど）を通して、発見が偶然ではなく、観察・違和感・仮説形成・検証という思考の過程から生まれることを学ぶ。演繹・帰納・仮説推論（アブダクション）の違いや、検証可能性・反証可能性の意義を整理するとともに、研究初期に有効なOODAサイクルと、検証段階で機能するPDCAサイクルの使い分けを理解する。これにより、自らリサーチクエスチョンを立てるための視点を身につけることを目的とする。
10	論証の論理 ― 合意はどのように形成されるのか	本講義では、裁判やディベートを例に、主張と根拠の関係、証拠の扱い方、反論と再反論の構造を学ぶ。事実・解釈・意見の区別を再確認しながら、演繹・帰納の推論構造や論理的誤謬の典型例を整理し、どのようにして人は論理を通して他者を説得し、合意を形成していくのかを理解する。あわせて、主張・根拠・保証の関係(トゥールミン・モデル)を簡潔に紹介し、自らのリサーチクエスチョンを論証可能な形に組み立てる視点を養うことを目的とする。
11	科学と合意形成 ― パラダイムはどのように転換するのか	本講義では、科学社会学の視点から、科学的主張がどのように専門家集団の中で受け入れられ、普及し、時に覆されるのかを学ぶ。トマス・クーンの「パラダイム」概念を手がかりに、通常科学・異常事態・科学革命という構造を整理し、科学が直線的に進歩するのではなく、一定の枠組みのもとで営まれていることを理解する。あわせて、新しい理論や研究課題が受容される条件、抵抗が生じる理由、専門家コミュニティの合意形成の仕組みを概観し、初学者がリサーチクエスチョンを立てる際にも、既存の枠組み（パラダイム）を意識することの重要性を確認する
12	SNSと炎上	本回では、SNS上で発生する炎上の典型パターンと拡散構造を理解し、炎上を引き起こす心理（正義感・同調・切り取り・匿名性など）を学ぶ。具体的な事例（擬似ケース）を分析し、投稿前のリスク評価（主語・文脈・影響のチェック）と、炎上が生じた場合の初動対応の原則を理解することで、情報発信における倫理観と自己防衛力の向上を目指す。※個人面談⑥
13	自己理解とキャリア形成	本講義では、キャリア形成において重要となる自己理解の考え方を扱う。性格診断や職業適性検査、心理テストなどがどのような前提や仕組みに基づいて作られているかを理解し、その限界や問題点を確認する。特に、近年流行しているMBTI診断を題材に、学術的な心理尺度とインターネット上で流布している簡易診断(いわゆるエセMBTI)との違いを整理する。診断結果を鵜呑みにするのではなく、仮説として批判的に解釈し、自身の強み・弱み・関心事項を多面的に捉える姿勢を養うことを目的とする。※個人面談⑦
14	総合課題	本講義では、これまで学んできたことから、いくつかの与えられた課題について調査し、その結果をまとめる。※個人面談⑧
15		
16		

科目コード	14109				区　分	教養科目			
授業科目名	多文化共生のための異文化理解				担当者名	小川　正人／SACKO　Salif			
配当年次	2年	配当学期	第3・第4クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

「多文化共生」という言葉は、最近よく耳にするようになりましたが、その考え方にはさまざまな意見があります。では、「多文化共生」とはどのような意味を持ち、どのような社会を目指しているのでしょうか。移民や難民の問題が注目され、「分断」の時代ともいわれる今だからこそ、このテーマについて考えることが大切です。また、人との関わり方やこれからの働き方など、私たちの身近な問題とも深く関わっています。この授業では、異なる背景を持つ人々と「共に生きる」とはどういうことか、そして「理想の社会」とはどのようなものかを、みなさんと

＜授業の到達目標＞

本授業では、「多文化共生」をキーワードに、国内外で起きているさまざまな課題について学びながら、将来の「理想の社会」について考えていきます。具体的な事例を通して、多文化共生に関する基本的な考え方を理解するとともに、「多文化社会」となっている日本が直面している問題について、個人やグループで考え、発表する機会を設けます。そうした活動を通して、対立や違いをどのように調整し、共に生きていくことができる考える力を身につけていきます。さらに、ゲストスピーカーの講演やディスカッション、プレゼンテーションなどを通して、批判

＜授業の方法＞

各回のテーマに沿った課題は、Google Classroomを通して期限までに提出してください。質問がある場合は、担当教員のメール、またはGoogle Classroomのコメント機能を利用して気軽に相談してください。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

履修者数に応じて、講義だけでなく、意見交換や活動を取り入れたアクティブラーニング形式の授業も行っていきます。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業での討論や活動にしっかり取り組めるよう、事前に課題について調べて準備しておきましょう。予習・復習には、それぞれ少なくとも1時間程度を目安に取り組んでください。また、授業外でも国内外のニュースに目を向け、社会の動きに関心を持つようにしていきましょう。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本科目は全学共通教養科目であり、大学のディプロマ・ポリシーのうち、（５）異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる、に関連づけられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績は、授業への参加や態度（40%）と、授業課題（60%）をもとに評価します。課題にはおおよそ1週間の提出期間を設けますので、計画的に取り組んでください。なお、未提出や提出期限を過ぎた場合は評価の対象とならないため、締切には十分注意しましょう。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス・イントロダクション	「多文化共生」とは何か
2	グローバル化	グローバル化とは何か
3	多文化共生と宗教	宗教は対立の要因か？
4	多文化共生と言語	言語間の平等とは？
5	アンコンシャスバイアス	「差別「偏見」とは？
6	多文化共生と人種差別	マジョリティー？マイノリティー？
7	多文化共生と性・ジェンダー（1）	メディアが伝える性・ジェンダー
8	多文化共生と性・ジェンダー（2）	LBBTQについて考える
9	「多文化社会」日本（1）	外国人問題とは？
10	「多文化社会」日本（2）	外国人労働者・技能実習生が直面している問題とは？
11	「多文化社会」日本（3）	外国人「移民」受け入れについて考える
12	「多文化社会」日本（4）	国際結婚・育児について考える
13	国際的に見た「成人」	成人になるとは
14	多文化共生社会について	多文化共生社会のために自分たちが出来ることは何か
15		

16		

科目コード	14206				区　分	教養科目			
授業科目名	IPUジェネリックスキルズⅡ(アカデミック) [FC再履修者用]				担当者名	髙﨑　展好			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

本授業は、IPUジェネリックスキルズⅡの再履修者を対象としたクラスである。教育分野および経済・経営分野などにおいて求められるアカデミックスキルを取り上げ、その基礎的な知識と技能の修得を目的とする。具体的には、文献・資料の読解方法、レポート作成の基礎、グループワークの進め方、プレゼンテーションの方法などについて理解を深める。これらの学習活動を通して、専門的な学修や研究に必要となる基礎力の定着を図るとともに、大学での学びに主体的に取り組む姿勢を身につける。授業では、教員のファシリテーションのもと、文章作成演習

＜授業の到達目標＞

・グループ活動における役割を理解し、協働的に課題解決に取り組むことができる。・文献・資料の内容を要約し、論理的な文章として表現することができる。・要約内容に対し、自身の考えを根拠とともに述べ、簡潔に論述することができる。・グループ討議において意見を発信し、他者の意見を踏まえて合意形成に関わることができる。

＜授業の方法＞

教員のファシリテーションにより、アクティブラーニングの要素を加えた授業(グループワーク・ディスカッション・プレゼン)授業を展開する。一方的に教員の話を聞くのではなく、積極的な発言や報告が求められ、また課題の提出も求められる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

本授業ではアクティブ・ラーニングの要素を取り入れて実施する。【方法】・グループワークを通して、課題に対する意見交換や合意形成を行う協働学習・文献・資料の読解結果を共有し、相互にコメントし合うピアレビュー活動・要約文やレポート作成に関する演習活動・ICTツール（NotebookLM等）を活用した発表資料の作成およびプレゼンテーション・発表後の質疑応答や振り返りを通した自己評価・相互評価これらの学習活動を通して、主体的な学修態度の形成とアカデミックスキルの定着を図る。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習（1時間程度）事後学習（1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本授業は、ディプロマポリシー①「他者と協働し目標達成に取り組む力」および④「地域社会における課題解決に参画する力」の育成と関連する。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度　 20%、グループワークへの貢献・発表 40%、レポート 40%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	講義全体の説明・自己紹介・班分け等
2	ライティングの手法①	論文・レポート作成のルール
3	ライティングの手法①	論文・レポートの構成
4	コミュニケーションの手法①	対話型のコミュニケーション
5	コミュニケーションの手法②	討論型のコミュニケーション
6	コミュニケーションの手法③	ＩＴツールを利用したコミュニケーション（１）
7	プレゼンテーションの手法①	ＰＰＴを利用したプレゼンテーション
8	プレゼンテーションの手法②	ＰＰＴを利用したプレゼンテーション（２）
9	レポート作成①	レポート内容の構想（１）
10	レポートの作成②	レポート内容の構想（２）
11	レポートの作成③	中間発表
12	レポートの作成④	レポートの最終とりまとめ
13	レポートの作成⑤	レポートのプレゼンテーション発表
14	まとめ	授業の振り返り・まとめ。
15		
16		

科目コード	14208				区　分	教養科目			
授業科目名	非認知能力育成Ⅰ［BC用］				担当者名	岡田　健志			
配当年次	1年	配当学期	第1クォーター・第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習（グループワーク・グループディスカッション・ロールプレイング等）	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

本授業では、一言でいうと「謝罪」について考えていく。私たちは社会を円滑に動かすために、いわゆる認知能力だけではなく、非認知能力を必要としている。その中でも、人との関係を築くためにはどのように信頼を獲得するかが重要である。そこで、信頼・尊敬・協働・責任といった人間関係の基礎を題材として、観察・違和感・多視点理解などを通じて人間理解を深める。一方、その信頼や期待を破ることもありうる。その際に必要なのは、新たな関係性構築のための「謝罪」である。本授業では、行動や表情、環境やデザインに込められた意図を読み取る力を

＜授業の到達目標＞

1. 人間関係において信頼・尊敬・責任がどのように形成されるかを理解できる2. 観察や違和感を出発点として人の行動や意図を考えることができる3. 同じ出来事に複数の解釈があることを理解できる4. 失敗・謝罪・許しなどの状況を通して信頼回復のプロセスを考えられる5. これらを支える能力としての非認知能力を理解し、自分の行動を振り返ることができる

＜授業の方法＞

講義を中心にテーマに応じたワークを行う

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有り。特にロールプレイングやディスカッションなど、授業内ワークに積極的に関われているかを重視する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・事前課題：各回の授業後に次回の内容について事前に調査し考察したレポートを課す。（1時間程度）・事後課題：授業後に提出するリフレクションシート作成（1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、ディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

•授業内ワークへの取り組み：40%•リフレクション課題：40%•最終レポートまたは最終発表：20%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オオカミ少年はなぜ信頼されないのか―嘘・誠実さ・信頼の出発点―	本授業の導入として、誰もが知る「オオカミ少年」の寓話を手がかりに、信頼がどのように形成され、どのように失われるのかを考察する。嘘や誇張（話を盛ること）が人間関係に与える影響を検討し、信頼が単なる一回の行為ではなく、継続的な誠実さの積み重ねによって成立することを理解する。あわせて、嘘を見抜くことの難しさや、私たちの判断に含まれる思い込みを体験的に確認し、本授業の中心テーマである「信頼」「誠実さ」「非認知能力」への関心を喚起する。
2	人は見ているようで見ていない　―観察と認知の限界―	人間の観察能力の限界と、注意の偏りによって見落としが生じることを扱う。私たちは客観的に世界を見ていると思いがちであるが、実際には選択的に情報を取り込み、解釈しているに過ぎない。本回では、認知バイアスの存在を体験的に理解し、他者理解や信頼判断の前提がいかに不確かなものであるかを明らかにする。
3	違和感から始まる理解　―感性とMy Question―	観察の中で生じる違和感に着目し、それが問いの出発点となる過程を考察する。違和感は単なる感情ではなく、既存の理解とのズレを示す重要な手がかりである。本

		回では、違和感から問いを生成するプロセスを学び、主体的に世界を理解する姿勢を養う。
4	人の心はどこまで読めるのか　―表情・非言語・誤解―	人は表情や態度から他者の意図を読み取ろうとするが、その解釈は必ずしも正確ではない。本回では、非言語コミュニケーションの限界と誤解のメカニズムを検討し、「分かったつもり」になることの危険性を理解する。
5	行動はどこまで操作されているのか　―デザイン・ナッジ・仕掛け―	人の行動が環境や設計によってどのように影響を受けるのかを扱う。デザイン思考やナッジの概念を通じて、私たちの選択がどの程度自由であるのかを再考し、意思決定と責任の関係を検討する。
6	信頼とは何か　―予測可能性としての信頼―	信頼を「相手の行動が予測できる状態」として捉え、その成立条件を分析する。信頼はどのように形成され、どのように維持されるのかを考察し、人間関係における基盤的概念として理解する。
7	尊敬・リスペクトとは何か　―信頼との違い―	信頼と類似しながらも異なる概念である「尊敬」に焦点を当てる。尊敬は能力や成果だけでなく、人格や態度に対して向けられる評価であり、人間関係の質を大きく左右する。本回では、尊敬される人物の特徴や行動を検討しながら、信頼との違いを明確にし、他者との関係性における倫理的側面について考察する。
8	期待とは何か　―人はなぜ期待するのか―	人間関係において不可避である「期待」に着目し、その心理的構造を明らかにする。期待は信頼と密接に関係しつつも、しばしば裏切りや失望の原因となる。本回では、期待がどのように形成され、どのようにズレが生じるのかを検討し、期待と現実のギャップが人間関係に与える影響について考える。
9	なぜ人は裏切るのか　―ホッブズ問題と人間の本性―	人はなぜ他者を裏切るのかという根本的な問いを、哲学的視点から考察する。本回では、Thomas Hobbes の議論を手がかりに、人間の利己性と協力の問題、いわゆる「ホッブズ問題」を扱う。信頼が成立するための前提条件を検討し、人間社会における規範や制度の役割について理解を深める。
10	謝罪とは何か①　―謝罪が求められる場面―	信頼が損なわれたときに生じる「謝罪」という行為に着目し、その発生条件を整理する。本回では、故意・過失・不可抗力といった違いに基づいて責任の所在を検討し、どのような状況で謝罪が求められるのかを分析する。また、謝罪が社会的にどのような機能を持つのかについて考察する。
11	謝罪とは何か②　―良い謝罪・悪い謝罪―	謝罪の質に焦点を当て、形式的な謝罪と本質的な謝罪の違いを検討する。本回では、責任の認識、説明、共感、再発防止といった要素を手がかりに、適切な謝罪とは何かを考える。具体的な事例分析を通じて、謝罪が信頼回復にどのように寄与するのかを理解する。
12	赦しとは何か　―赦しの心理と倫理―	謝罪と対になる概念である「赦し」に焦点を当て、その心理的および倫理的側面を考察する。赦しは単なる感情の問題ではなく、正義や責任とも関わる複雑な行為である。本回では、赦すとは何を意味するのか、また赦しが可能となる条件について多角的に検討する。
13	信頼回復は可能か　―関係修復の条件―	一度損なわれた信頼がどのようにして回復され得るのかを検討する。信頼回復には時間、行動、再発防止といった要素が関与するが、すべての関係が修復可能とは限らない。本回では、関係修復のプロセスとその限界について具体的事例を通じて考察する。
14	非認知能力とは何か　―人間関係の中での能力として再定義―	これまでの授業内容を踏まえ、非認知能力を改めて定義する。本回では、観察力、解釈力、共感、メタ認知といった要素が、信頼・期待・謝罪・赦しといった人間関係の中でどのように機能するのかを統合的に整理する。最終的に、本授業で扱った内容を通じて、自身の人間関係の在り方を再考する。s
15		
16		

科目コード	14208				区　分	教養科目			
授業科目名	非認知能力育成Ⅰ［BC留学生用］				担当者名	片上　摩紀			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	卒業必修

＜授業の概要＞

非認知能力とは、正解ありきのテストでははかることができない力で、「これからの社会で活躍するための土台となる力」と位置付けています。主体性や挑戦心、協働性などを身に着けるためには、講義だけではなく、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションといった参加型で学んでいきます。本授業は、非認知能力の向上のために、グループワークを展開し、日本の文化、自国の文化に関する議論、発信ができるようにします。

＜授業の到達目標＞

①自分の国や自分の国の文化について、自分自身の言葉で説明することができる。②日本の文化、母国の文化について、議論することができる。③グループワークにおいて、周囲と協力し、自分の役割を果たすことができる。④現代の諸課題に必要な知識を身につけられる。

＜授業の方法＞

本授業は、グループディスカッション、プレゼンテーションを目標に授業を進めます。Google Classroomを活用して学習を管理し、Google ドキュメント、Google スプレッドシート、Google スライドを使った協働学習を進めます。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有り。グループでのディスカッション及び、プレゼンテーションを実施します。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・事前課題：その回のテーマに必要な語彙の意味を調べ、言語知識の予習を行う。（1時間程度）・事後課題：授業に出てきた言語知識の演習問題及び授業のリフレクションシートを書く。（1時間程度）　また、ディスカッションやプレゼンテーションのための準備も適宜授業外で行う。（1時間～2時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、ディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・授業参加度　20%・提出物　20%・言語知識テスト　20%・パフォーマンス（プレゼンテーション・ディスカッション等）　40%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	・授業についての説明・「非認知能力」とは何か
2	観光①	・テーマについての言語知識の学習・内容理解のための読解
3	観光②	・プレゼンテーションとは・プレゼンテーションの準備
4	観光③	・プレゼンテーションの実施・ピア評価
5	買い物①	・テーマについての言語知識・内容理解のための読解
6	買い物②	・ディスカッションのための表現学習・グループディスカッション
7	買い物③	・グループプレゼンテーションの計画・役割分担
8	買い物④	・グループプレゼンテーション準備
9	買い物⑤	・プレゼンテーションの原稿作成及び練習
10	買い物⑥	・グループプレゼンテーション・ピア評価・報告レポートの書き方の説明
11	伝統文化①	・テーマについての言語知識の学習・内容理解のための読解
12	伝統文化②	・グループディスカッションに向けた調べもの、資料準備
13	伝統文化③	・グループディスカッション
14	まとめ	まとめ
15		
16		

科目コード	14208				区　分	教養科目			
授業科目名	非認知能力育成Ⅰ［FC用］				担当者名	宮原　舞／後藤　由佳			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	卒業必修

＜授業の概要＞

本授業は、大学生活および将来の社会生活において重要となる非認知能力の育成を目的とし、自己理解・他者理解、想像力、コミュニケーション力の向上をめざす。授業では、童話や映画作品を題材として物語を多面的に捉える視点を学び、登場人物の立場や背景、表面には現れにくい感情に着目することで他者理解を深める。さらに、各自で作品の調査・分析・発表を行うとともに、ストーリーを創作する活動にも取り組む。これらの学習を通して、多様な視点から物事を捉え、自分の考えを表現し、他者と共有する力を養う。

＜授業の到達目標＞

① 他者の立場や背景を踏まえ、多様な視点から物事を捉えることができる。② 自己理解および他者理解を深め、相手の立場や気持ちを想像して考えることができる。③ 自分の考えを整理し、文章や発表、創作を通して表現することができる。

＜授業の方法＞

講義、個人ワーク、グループワーク、発表等を組み合わせて実施する。作品分析・対話・創作を通して、主体的・対話的に学ぶ授業を展開する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブラーニングの要素有（グループワーク）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、授業で扱う作品やテーマについて事前に確認し、自分なりの視点や疑問を整理しておくこと。復習として、授業で扱った内容や他者の意見を踏まえ、自分の考えの変化や気づきを整理すること。また、調査・創作・発表に向けて必要な準備を行うこと。各回、予習・復習をあわせておおむね2時間を目安とする。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、ディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への参加度・取り組み姿勢　30%提出課題　40%プレゼンテーション・最終レポート　30%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション／非認知能力とは何か	授業の目的・進め方を理解し、非認知能力の意義について学ぶ。
2	物語を多面的に捉える①	スピンオフ作品の特徴を理解し、物語を多面的に捉える視点を学ぶ。
3	物語を多面的に捉える②	原作とスピンオフを比較し、視点の違いによる物語の変化を考える。
4	物語を多面的に捉える③	作品理解を踏まえ、自分の考えをレポートとして整理する。
5	物語を多面的に捉える④	グループ交流によって、登場人物の見えない感情や背景について多様な解釈を共有し、他者理解を深める。
6	スピンオフ作品の考察①	個人でスピンオフ作品を調査し、多様な視点の描かれ方を整理する。
7	スピンオフ作品の考察②	調査内容を共有し、グループで発表に向けた題材を選定する。
8	スピンオフ作品の考察③	選定した作品を視聴・分析し、理解を深める。
9	スピンオフ作品の考察④	分析内容を整理し、発表を行う。
10	スピンオフストーリーの創作①	創作の題材を検討し、物語の構想を立てる。
11	スピンオフストーリーの創作②	作品の視点、人物像、主題を整理し、物語の創作を行う。
12	スピンオフストーリーの創作③	物語の創作・推敲を行う。
13	スピンオフストーリーの創作④	創作した物語を発表し、意見交換を通して理解を深める。
14	振り返り・まとめ	授業全体を振り返り、学びと今後の課題を整理する。
15		
16		

科目コード	14208				区　分	教養科目			
授業科目名	非認知能力育成Ⅰ［FE用］				担当者名	鈩　悠介／西田　修斗／大久保　諒			
配当年次	1年	配当学期	後期（第３・４クオーター）	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	卒業必修

＜授業の概要＞
本授業は、礼節・克己・信頼・前進・感謝の「五訓」を背景理念として、大学生活や卒業後の社会生活に必要な非認知能力を実践的に身につけることを目的とする。「問う力」、メール・スケジュール管理、レポート作成、生成AIの活用、グループワーク、スピーチ等を題材に、自ら考え、他者と関わり、行動を振り返って改善する力を養う。

＜授業の到達目標＞
本授業では、学生が以下の能力を身につけることを到達目標とする。① 主体的に考え、行動する力：問いを立て、必要な情報や方法を選びながら行動できる。② 自己管理と協働の力：予定や行動を管理し、相手や状況を意識して他者と協働できる。③ 考えを整理し、伝える力：自分の考えや経験を整理し、文章や口頭で分かりやすく伝えることができる。④ 振り返りと改善の力：自らの取り組みを振り返り、達成点と課題を捉え、次の行動に生かすことができる。

＜授業の方法＞
講義、個人ワーク、グループワーク、ディスカッション、実践演習、発表等を組み合わせて授業を行う。また、授業や課題においてICTを活用し、Google Classroomを用いて課題の配布・提出等を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有り。グループワーク、ディスカッション、相互フィードバック、実践演習、発表など。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：各回の授業テーマに関連する資料の確認や事前課題に取り組む（1時間）復習：授業内容を振り返り、課題・成果物の作成や改善に取り組む（2時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
課題・成果物 60%、スピーチ発表 30%、授業内活動への取り組み 10%。課題の内容に応じて、授業内での解説、教員からのコメント、学生同士の相互フィードバック等を行い、自らの取り組みを振り返り、改善につなげる機会を設ける。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダクション	・授業の進め方・「問い」に関する序論
2	問いをつくる	・問いを立てる体験・環太祭で実施するクイズ大会の問題を検討
3	問いを磨く	・クイズ大会用の問題を解く・問題をブラッシュアップする
4	問いを見直す	・クイズ大会の振り返り・達成点と改善点を捉える
5	メール・スケジュール管理	・相手を意識した適切な連絡の仕方を考える・大学メール（Gmail）の基本的な使い方とメールの書き方・Googleカレンダー等を活用し、予定や提出期限を適切に管理し、見通しをもって行動する
6	レポート作成	・自分の考えを整理し、根拠をもって表現する・大学におけるレポート作成の基本を学ぶ・論理的な文章作成の基礎を身につける
7	生成AI	・生成AIの特徴と大学での学習における活用方法を学ぶ・生成AIの出力を批判的に検討し、自分で考え、判断する・生成AIを適切に活用するための留意点を考える
8	グループワーク	・他者の意見を聞き、自分の考えを伝える・互いの意見をもとに考えを深める・グループとして意見を整理し、まとめる
9	スピーチコンテスト：話し方・伝え方	・自分の経験や考えを整理し、言葉にする・相手を意識して分かりやすく伝える・スピーチの基本を学ぶ
10	スピーチコンテスト：原稿作成	・スピーチで伝えたい内容を考える・自分の経験や考えを整理する・スピーチ原稿を作成する
11	スピーチコンテスト：相互フィードバック	・作成したスピーチを共有する・互いにフィードバックを行う・フィードバックをもとに内容や伝え方を改善する

12	スピーチコンテスト：予選①	・スピーチコンテストの予選を実施する・他者のスピーチを聞く・自身の発表を振り返る
13	スピーチコンテスト：予選②	・スピーチコンテストの予選を実施する・他者のスピーチを聞く・自身の発表を振り返る
14	スピーチコンテスト：本選	・代表者によるスピーチを聞く・多様な表現や伝え方について考える・スピーチコンテストを振り返る
15		
16		

科目コード	14208				区　分	教養科目			
授業科目名	非認知能力育成Ⅰ［PH用］				担当者名	簀戸　崇史			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	卒業必修

＜授業の概要＞
本授業は、自分と向き合う力、自分を高める力、他者とつながる力である非認知能力の教育を本学の五訓に基づき学びを深める。その方法は、グループ学習やスポーツなどのツールを利用し、チームビルディング、コミュニケーション能力向上を図り、柔道整復師として必要な能力向上を実践的に学ぶ事とする。

＜授業の到達目標＞
自分の感情や価値観を言語化し、客観的に把握できる（自己認識）。困難に直面した際のレジリエンス（回復力）を高め、主体的に目標を設定できる（自己管理）。他者の視点を理解し、建設的なコミュニケーションを通じて信頼関係を築ける（対人関係）。5訓と向き合った取り組みが出来ている。

＜授業の方法＞
本授業は何度も人前で発表する機会を設け、失敗を恐れず、自己表現を続ける。クラス全体での発表もあるが、グループでの発表を繰り返すことで、自信をつけ、前進する力を身につける。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループでの発表、クラス全体での発表

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：スピーチ、プレゼンテーションの準備　３時間、復習：振り返り　１時間

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度（グループワーク、授業への取り組み態度等）３０％、小課題（原稿、プレゼン資料等）５０％、最終レポート２０％

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	非認知能力について	授業オリエンテーション、チームビルディング①
2	非認知能力について２	自己紹介、他己紹介、チームビルディング②
3	グループワーク	各グループ　探求課題と役割の決定
4	グループワーク	スライド作成
5	グループワーク	スライド作成
6	グループワーク	発表
7	グループワーク	発表
8	グループワーク②	課題の決定、役割の決定
9	グループワーク②	スライド作成
10	グループワーク②	スライド作成
11	グループワーク②	発表
12	グループワーク②	発表
13	チームビルディング	チームビルディング
14	振り返り	振り返り
15		
16		

科目コード	14208				区　分	教養科目			
授業科目名	非認知能力育成Ⅰ［PP用］				担当者名	仙波　慎平／小川　雄太／戸田　晃大／岩田　知郎／佐藤　伸之／堀川　峻／坂手　雅斗／野上　里菜／眞鍋　芳江			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	卒業必修

＜授業の概要＞
本授業は、非認知能力（五訓）の向上のためにチーム学習を展開しIPUの特徴を理解するとともに、地域社会を変革する実際的な提案(プレゼンテーション）を行うことができるようになる。

＜授業の到達目標＞
①学生は非認知能力（五訓）の到達度を自己評価できる。②学生はIPUの特徴と魅力を自分自身の言葉で説明できる。③学生はチーム活動における自分の役割を果たすことができる。

＜授業の方法＞
本授業をICT（Googleアプリケーション）を用いて、自己を理解する、他者と共感することを目的とし、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワークを行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有りグループでの活動を中心とし、意見の提案・交換・まとめ・プレゼンテーションまで行う。そのための個々の役割を果たす。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
前回の授業内容の振り返りレポートの作成（事後学習2時間程度）、次回の授業の事前学習（1時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー１(他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
googleクラスルームを使用し課題配付・フィードバックを行う。・事前アセスメント：非認知能力（五訓）に関する事前調査（４件法＋理由記述）・中間アセスメント：非認知能力（五訓）に関する事前調査（４件法＋理由記述）・事後アセスメント：非認知能力（五訓）に関する事前調査（４件法＋理由記述）・振り返り①：チーム作りと環太平洋大学を知るの振り返りレポート（20%）・振り返り②：環太平洋大学PRプレゼンまでのレポート（20%）・振り返り③：チーム作りとプロジェクトの振り返りレポート（20%）・振り返り④：プレゼンの

＜教科書＞
教科書は使用せず適宜資料を配付する。

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	概要と本授業の目的	・本授業の目的と内容・IPU環太平洋大学の歴史・学科構成・理念（五訓）・各組に分かれたオリエンテーション（自己紹介等）
2	チームビルディング	・１クラス10チーム（8名程度）のチーム作り・チーム内での自己紹介、チーム名・チーム目標の設定・チームビルディングゲーム
3	チームビルディング②	・「環太平洋大学の特徴」の発見・教育理念・学部学科の特徴・初年次教育、キャリア教育、部活動
4	規範・規律・道徳に関して	日本人らしさとは
5	フィールドワーク計画①	・「環太平洋大学を地域住民・高校生にPRしよう」の企画・PRポイント、特徴の探究・プレゼンテーションのイメージ作り
6	フィールドワーク計画②	・「環太平洋大学を地域住民・高校生にPRしよう」プレゼン作成・プレゼンテーションスライド作成・プレゼンテーションの役割分担・リハーサル
7	フィールドワーク実行①	フィールドワーク
8	フィールドワーク実行②	フィールドワーク
9	フィールドワーク③	フィールドワーク
10	フィールドワーク分析・振り返り①	プレゼンに向けた振り返りと資料づくり
11	フィールドワーク分析・振り返り②	プレゼンに向けた振り返りと資料づくり
12	プレゼン①	フィールドワークの結果プレゼン報告
13	プレゼン②	フィールドワークの結果プレゼン報告②
14	プレゼン③	フィールドワークの結果プレゼン報告
15		
16		

科目コード	14208				区　分	教養科目			
授業科目名	非認知能力育成Ⅰ［PS用］				担当者名	宮本　彩／金谷　和幸			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	卒業必修

＜授業の概要＞
本授業は、非認知能力（五訓）の向上のためにチーム学習を展開し①IPUの特徴を発信するとともに、②現代の諸課題に関する議論学習を展開する。

＜授業の到達目標＞
①学生はIPUの魅力を自分自身の言葉で説明できる。②学生は現代の諸課題に関する議論ができる。③学生はチーム活動における自分の役割を果たすことができる。

＜授業の方法＞
本授業は非認知能力育成専用学舎ディスカバリーを全面的に活用し、「チームビルディング→発見→探究→提案」の４つのプロセスを１つのプロジェクト学習として授業を展開する。本授業では「環太平洋大学を地域住民・高校生にPRしよう」と「現代の諸課題に関する議論」の２つのプロジェクト学習を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有無；有りグループワークを基にしたプレゼンテーションを実施する

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習；グループワークに向けて①非認知能力の基礎事項を学んでおく。②環太平洋大学の基礎事項を学んでおく。③現代の諸課題に関する基礎事項を学んでおく。（30分）復習；前時の取り組み内容を踏まえて、プレゼンテーションの作成や振り返りレポートの作成を行う。（60分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
googleクラスルームを使用し課題配付・フィードバックを行う。出席およびグループでの活動状況など 20%、取り組みごとの振り返りレポート4回 80%（各回20%）

＜教科書＞
教科書は使用せず適宜資料を配付する。

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	・本授業の目的と内容に関するオリエンテーション・IPU環太平洋大学の歴史・非認知能力について
2	IPUの魅力を考える①	IPUの魅力についてグループで討議する
3	IPUの魅力を考える②	前回の授業内で話し合った内容をまとめ、他のグループに発表する
4	競技スポーツ科学以外の学科について学ぶ	競技スポーツ科学以外の学科の学びの特徴を調べるとともに、他学科学生にインタビューする。
5	キャンパスツアー	グループごとにキャンパスを周りながら課せられたミッション・課題をクリアする。
6	IPUの魅力紹介①	・「環太平洋大学を地域住民・高校生にPRしよう」プレゼン作成・プレゼンテーションスライド作成（1名１枚必ず作成）・プレゼンテーションの役割分担（1名１枚必ずプレゼン）・リハーサル
7	IPUの魅力プレゼン①	・「環太平洋大学を地域住民・高校生にPRしよう」プレゼン大会前半・プレゼン大会の概要とプレゼンのポイント・プレゼンテーション発表会（前半11グループ）
8	IPUの魅力プレゼン②	・「環太平洋大学を地域住民・高校生にPRしよう」プレゼン大会後半・プレゼンテーション発表会（後半11グループ）・プレゼン大会の振り返りと講評
9	出身地・地元の紹介	出身地・地元の紹介を通じて、現代の諸問題のトピックスを探そう
10	地域の課題発見	グループワークを通じて、現代の諸問題のトピックスを探ろう
11	地域の課題探究①	・現代の諸問題を深く議論しよう（個人・大学・地域レベル）
12	地域の課題探究②	・現代の諸問題を深く議論しよう（日本・国際社会レベル）
13	地域の課題解決の提案①	「現代の諸課題を解決するための提案をしよう」プレゼン大会前半・プレゼン大会の概要とプレゼンのポイント・プレゼンテーション発表会（前半11グループ）
14	地域の課題解決の提案②	「現代の諸課題を解決するための提案をしよう」プレゼン大会後半・プレゼンテーション発表会（後半11グループ）・プレゼン大会の振り返りと講評

15 16		

科目コード	14209				区　分	教養科目			
授業科目名	非認知能力育成Ⅱ				担当者名	小川　正人			
配当年次	1年	配当学期	第3・第4クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本授業は、経済経営学部現代経営学科の学生を主な対象とし、さまざまなビジネスの場面を想定した実践的な演習に取り組みます。具体的には、スライドや資料の作成、発表の練習を通して、プレゼンテーション能力を高めるとともに、実際に使えるスキルを繰り返し身につけていきます。

＜授業の到達目標＞

1．ビジネスプレゼンテーションの基本的な考え方を理解し、相手に伝わる提案力を身につけます。2．多くの場面で使われるパワーポイントの作り方を学び、論理的で分かりやすく、見やすい資料を作成する力を養います。3．さまざまなプレゼンテーションの方法を学び、パワーポイントに頼らない柔軟な伝え方ができる力を身につけます。

＜授業の方法＞

1．授業は、教員と受講生によるディスカッションやプレゼンテーションを中心に進めます。2．課題は、複数回のプレゼンテーションや最終プレゼンテーションに加え、各回の内容に応じて提出してもらいます。3．授業は、前週までに講義内やユニバーサルパスポート、Google Classroomで提示されるテーマに基づいて行います。4．Microsoft PowerPointまたはGoogle Slidesが使えるノートパソコンを必ず持参してください。5．提出物やグループワーク、プレゼンテーションはICTを活用して行い、教

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

本授業では、プレゼンテーションを中心としたアクティブラーニングを行います。また、その準備の過程では、ディスカッションやグループワークなどを取り入れ、協力しながら学んでいきます。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業でのディスカッションや活動に備えて、指定された課題について事前に調べておいてください。予習と復習には、それぞれ最低1時間は取り組むようにしましょう。また、授業外ではTEDなどの講演を見て、「人を引きつける」プレゼンテーションに触れる機会を積極的に持つようにしてください。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本授業は全学共通教養科目であるため、大学のディプロマポリシー（１）他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる、（５）異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる、に関連づけられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績は、授業への参加・態度（30%）、授業課題（50%）、最終課題（20%）で評価します。課題の提出期間は原則として約1週間です。提出期限を過ぎた場合は、採点や成績評価の対象にならないため注意してください。また、課題の提出をもって出席とみなします。未提出や期限後の提出は欠席扱いとなるため、十分に気をつけてください。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダクション	コース概要・目的・評価方法の説明
2	プレゼンテーションとは	コミュニケーション
3	コミュニケーション・コミュニケーション力とは	プレゼンテーション（1）
4	プレゼンテーション実践（1）	プレゼンテーション力
5	プレゼンテーション・プレゼンテーション力とは何か	プレゼンテーション説明・準備
6	プレゼンテーション（2）	プレゼンテーション実践（2）
7	プレゼンテーション（3）	プレゼンテーション実践（3）
8	自己分析	自分を改めて見つめなおす
9	非認知能力とプレゼンテーション	非認知能力とは何か、改めて考える
10	プレゼンテーションの実例（1）	TEDからプレゼンテーションを学ぶ（1）
11	プレゼンテーションの実例（2）	TEDからプレゼンテーションを学ぶ（2）
12	プレゼンテーション（4）	プレゼンテーション実践（4）
13	ファイナルプレゼンテーション	ファイナルプレゼンテーション実践
14	プレゼンテーションを考える	自分を成長・変化させるための手段
15		

16		

科目コード	14209				区　分	教養科目		
授業科目名	非認知能力育成Ⅱ［BC秋入学用］				担当者名	片上　摩紀		
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	卒業必修

＜授業の概要＞

非認知能力とは、正解ありきのテストでははかることができない力で、「これからの社会で活躍するための土台となる力」と位置付けています。主体性や挑戦心、協働性などを身に着けるためには、講義だけではなく、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションといった参加型で学んでいきます。本授業は、非認知能力の向上のために、グループワークを展開し、現代の諸課題や文化に関する議論、発信ができるようにします。

＜授業の到達目標＞

①現代の諸課題や文化について、自分自身の言葉で意見を述べることができる。②現代の諸課題や文化について、議論することができる。③グループワークにおいて、周囲と協力し、自分の役割を果たすことができる。④現代の諸課題に必要な知識を身につけられる。

＜授業の方法＞

本授業は、グループディスカッション、プレゼンテーションを目標に授業を進めます。Google Classroomを活用して学習を管理し、Google ドキュメント、Google スプレッドシート、Google スライドを使った協働学習を進めます。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有り。グループでのディスカッション及び、プレゼンテーションを実施します。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・事前課題：その回のテーマに必要な語彙の意味を調べ、言語知識の予習を行う。（1時間程度）・事後課題：授業に出てきた言語知識の演習問題及び授業のリフレクションシートを書く。（1時間程度）　また、ディスカッションやプレゼンテーションのための準備も適宜授業外で行う。（1時間～2時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、ディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・授業参加度　20%・提出物　20%・言語知識テスト　20%・パフォーマンス（プレゼンテーション・ディスカッション等）　40%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	・授業についての説明・大学の学びに必要な「非認知能力」とは何か
2	教育①	・テーマについての言語知識の学習・内容理解のための読解
3	教育②	・グループプレゼンテーション（アンケート調査）の計画・役割分担
4	教育③	・アンケート分析の方法・グラフの説明のしかた
5	教育④	・プレゼンテーション準備、練習
6	教育⑤	・グループプレゼンテーション
7	教育⑥	・報告レポートの書き方の説明・実践
8	コミュニケーション①	・テーマについての言語知識の学習・内容理解のための読解
9	コミュニケーション②	・グループディスカッション準備
10	コミュニケーション③	・グループディスカッション
11	昔話①	・テーマについての言語知識の学習・内容理解のための読解
12	昔話②	・自分の国の昔話についての調査
13	昔話③	・自分の国の昔話絵本の作成
14	昔話④・まとめ	・グループで絵本のプレゼンテーション・まとめ
15		
16		

科目コード	14210				区　分	教養科目		
授業科目名	ボランティア活動				担当者名	早田　剛		
配当年次	1年	配当学期	集中	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
近年、ボランティア活動に対する関心が高まっており、その分野は福祉、教育、まちづくり、文化・芸術、スポーツ、環境、災害、国際協力など多岐に渡っている。これからの社会を考えるとき、一人ひとりが地域における課題を察知・認識し、課題解決に向け主体的に行動・活動することが求められる。本授業では実際のボランティア活動を通して、社会が直面する問題を理解していく。

＜授業の到達目標＞
ボランティア活動をおこなう地域、施設、団体などの沿革・事業を理解するとともに、社会貢献としてのボランティア活動の意義を体得することにより､活動現場のニーズを的確に把握し､他者と協調しながら適切な支援や配慮を実践することができるようになる。

＜授業の方法＞
自分が選んだ地域・施設・団体において最低20時間のボランティア活動をおこなう。事前指導、事後指導（レポート作成等）、レポートによる報告をおこなう。ボランティアのプログラムの詳細はClassroomにて別途指示する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
ボランティア活動はアクティブラーニングと位置付けられている。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学修：事前指導などにともなう諸活動に参加する事（2時間程度）。事後学修：事後指導（レポート作成）、報告会などの諸活動に参加する事（2時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
ボランティア活動オリエンテーション（20%）、ボランティア活動に関する事前調査（10%）、ボランティア活動事後レポート（70%）

＜教科書＞
特に指定しない

＜参考書＞
特に指定しない

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ボランティアとは何か
2	ボランティアマナーについて	ボランティアだけでなく就職活動にも使えるマナー学習
3	ボランティア事前指導（1）	どのようなボランティア活動をしたいか考える
4	ボランティア事前指導（2）	ボランティア活動先を探す（1）
5	ボランティア事前指導（3）	ボランティア活動先を探す（2）
6	ボランティア活動（1）	地域・施設・団体でのボランティア活動（1）
7	ボランティア活動（2）	地域・施設・団体でのボランティア活動（2）
8	ボランティア活動（3）	地域・施設・団体でのボランティア活動（3）
9	ボランティア活動（4）	地域・施設・団体でのボランティア活動（4）
10	ボランティア活動（5）	地域・施設・団体でのボランティア活動（5）
11	ボランティア活動（6）	地域・施設・団体でのボランティア活動（6）
12	ボランティア事後指導（1）	レポート作成指導
13	ボランティア活動事後指導（2）	発表指導
14	私が変わる、社会は変わる～21 世紀の市民社会とボランティア活動	ボランティア活動とは何かを発表する
15		
16		

科目コード	14210				区　分	教養科目			
授業科目名	ボランティア活動［BC用］				担当者名	宇都宮　浩司／古松　丈周／江口　尚文／岡田　健志			
配当年次	1年	配当学期	集中	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
現代社会において、ボランティアの役割が大きくなってきている。しかし、実際にボランティア活動を行うには、敷居が高く感じたり、何をすればよいのかわからないということが少なくない。そこで、本科目では、実際にボランティア活動に参加することを通じて、ボランティアの役割、その種類などを体験的に学びます。実際に自分たちの周りにあるボランティア活動を探し、自分たちにできることを考えることで、ボランティア活動の社会的役割を理解することを目的とします。

＜授業の到達目標＞
① 自ら考えて行動し、何らかのボランティアに参加できる。② ボランティア経験を将来の職業・社会人としての成長に役立てられる能力を身につける。③ 活動を通じて現代社会特有の社会課題について自らの言葉で他者に説明できるようになる。

＜授業の方法＞
受講生自らが選んだ地域・施設・団体において最低20時間のボランティア活動をおこなう。事前指導、事後指導（レポート作成等）、レポートによる報告をおこなう。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの有無：有ディスカッション、フィールドリサーチ、プレゼンテーション

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
・実習前に参加する活動に関する情報を収集し、実際に現地を調べておく。・実習前後に自ら作成したフィールドノートや収集した資料を整理し、簡潔にまとめておく。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
①ボランティア活動オリエンテーション・・・20%②ボランティア活動に関する事前調査・・・10%③ボランティア活動事後レポート・・・70%上記より総合的に評価する。

＜教科書＞
使用しない。

＜参考書＞
適宜紹介する。

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ボランティアとは何か
2	ボランティアマナーについて	ボランティアだけでなく就職活動にも使えるマナー学習
3	ボランティア事前指導（1）	どのようなボランティア活動をしたいか考える
4	ボランティア事前指導（2）	ボランティア活動先を探す（1）
5	ボランティア事前指導（3）	ボランティア活動先を探す（2）
6	ボランティア活動（1）	地域・施設・団体でのボランティア活動（1）
7	ボランティア活動（2）	地域・施設・団体でのボランティア活動（2）
8	ボランティア活動（3）	地域・施設・団体でのボランティア活動（3）
9	ボランティア活動（4）	地域・施設・団体でのボランティア活動（4）
10	ボランティア活動（5）	地域・施設・団体でのボランティア活動（5）
11	ボランティア活動（6）	地域・施設・団体でのボランティア活動（6）
12	ボランティア事後指導（1）	レポート作成指導
13	ボランティア活動事後指導（2）	発表指導
14	ボランティアに学生はどう関わるべきか	学生のボランティア参加の現状と課題について発表する
15		
16		

科目コード	20305				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	次世代教育学［FC］				担当者名	後藤　由佳／宮原　舞			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

「次世代教育学」は、国家資格である保育士資格および幼稚園教諭一種免許状の取得における必修科目であり、あわせてこども発達学科の卒業必修科目である。本授業では、大学生として必要な基礎的スキル（ビジネスメール、電話応対、文章作成、プレゼンテーション）を身につけるとともに、保育教材や児童書を題材として、内容の要約や考察を行い、自らの考えを論理的に表現する力を養う。さらに、教材の教育的意義や保育現場での活用可能性について検討し、発表や交流を通して多様な視点を理解する。最終的には、自ら選んだ図書について総合的にまとめ

＜授業の到達目標＞

① 大学生・社会人として必要な基本的マナーやコミュニケーション能力を身につけ、適切に実践することができる。② レポート作成の基礎を理解し、論理的な文章を作成することができる。③ 保育教材や児童書の内容を的確に読み取り、その教育的意義や保育現場での活用可能性について考察し、自らの考えを発表・文章として表現することができる。

＜授業の方法＞

講義、個人ワーク、ペア・グループでの交流、発表、レポート作成等を組み合わせて行う。必要に応じて各種資料や図書館資料を活用し、図書の探し方や情報収集の基礎について学ぶ。各回では、読む・書く・話す活動を通して、内容理解と表現力の向上を図る。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素有（グループワーク、ロールプレイ、発表）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、指定された教材や図書を読み、授業内容に関わる基礎的な理解を深めておくこと。復習として、授業で扱った内容を振り返り、課題の修正や加筆、発表準備等を行うこと。特に実践的内容については、繰り返し練習することが望ましい。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー２（保育士・幼稚園教諭養成の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

① 授業に対する取り組み姿勢　40%② 小課題（レポート等）40%③ 大課題（発表・プレゼンテーション）20%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業のねらい、進め方、到達目標、評価方法を理解する。
2	ビジネスメール・電話応対	欠席連絡や見学依頼を想定したメール作成、電話のかけ方・受け方を学ぶ。
3	お礼状・感謝の伝え方	実習後のお礼状など、適切な感謝の表現方法を学ぶ。
4	プレゼンテーションの基礎	発表の構成や伝え方の基本を理解する。
5	レポート基礎①	レポートと感想文の違い、構成、論理的な文章の組み立て方を学ぶ。
6	レポート基礎②	文章の要点を捉え、簡潔かつ正確に要約する方法を学ぶ。
7	保育教材の探究①	保育教材の内容を要約し、感想を整理する。
8	保育教材の探究②	要約・感想について発表・交流を行い、多様な視点に触れる。
9	保育教材の探究③	教材の教育的意義や保育現場での活用について考察する。
10	保育教材の探究④	教材の教育的意義や保育現場での活用について、発表・交流を行う。
11	My favorite book①	図書を選定し、内容を要約する。
12	My favorite book②	選んだ図書に込められた教育的意義やメッセージについて考察する。
13	My favorite book③	図書の内容や考察について発表・交流を行う。
14	総まとめ	授業全体を振り返り、最終レポートの作成を通して学習成果をまとめる。
15		
16		

科目コード	20305				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	次世代教育学［FE＋他学科小学校免許希望者］				担当者名	大野呂　浩志／中安　翼			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、時代が求める、次世代の教育を担う「教師」育成のために、学校教育の現代的課題にも焦点を当て学校教育の目的、内容、方法及び教師に関わる基本的問題について考察し、授業を実践します。

＜授業の到達目標＞
次世代の教育を担う「教師」に必要な要素を身につける中で、次世代の児童に必要な要素は何なのかを意識し、現代的教育課題等に対する探究心や学び続ける意識も常に持ち、主体的に考え、解決しようとする態度を身につけることができる。

＜授業の方法＞
講義内においてレポートを作成し提出する事。授業形態は、講義形式だけでなく適宜グループワークやICT機器を活用したプレゼンテーション等の様々な形式を取り入れた授業を行います。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
講義に対して、グループで自分たちの考えをまとめ、発表します。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
・特別講師についての事前資料の熟読し自分の考えをまとめておく（毎回事前に1～1.5時間程度）・授業後のレポート（事後に1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
講義・演習に臨む意欲・姿勢・態度30%、発表資料・課題50%、最終レポート20%により判断※意欲・姿勢・態度については教員、社会人にとって求められる決定的な資質・能力ですので、各自の意欲・姿勢・態度を出欠と講義と演習中における姿勢を重視して評価します。遅刻、居眠り、私語、講義の学習に不必要な行動や注意を受けた後の態度、行動は評価に大きな影響を及ぼします。出席の管理は担当教員が行います。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	次世代教育学で学ぶ事	授業の概要について
2	次世代の教育を考える（特別講師による講義）	特別講師の講義を受け次世代の教育に必要な教師としての資質・能力について考える
3	次世代の教育を考える（特別講師による講義）	特別講師の講義を受け次世代の教育に必要な教師としての資質・能力について考える
4	次世代の教育を考える（特別講師による講義）	特別講師の講義を受け次世代の教育に必要な教師としての資質・能力について考える
5	次世代の教育を考える（特別講師による講義）	特別講師の講義を受け次世代の教育に必要な教師としての資質・能力について考える
6	次世代の教育を考える（特別講師による講義）	特別講師の講義を受け次世代の教育に必要な教師としての資質・能力について考える
7	前半のまとめ	前半の講義を振り返り、次世代の教育に必要な資質・能力について自分の考えをまとめ、発表する
8	次世代の教育を考える（特別講師による講義）	特別講師の講義を受け次世代の教育に必要な教師としての資質・能力について考え、今後自分が身につけていきたい力を明確にしていく
9	次世代の教育を考える（特別講師による講義）	特別講師の講義を受け次世代の教育に必要な教師としての資質・能力について考え、今後自分が身につけていきたい力を明確にしていく
10	次世代の教育を考える（特別講師による講義）	特別講師の講義を受け次世代の教育に必要な教師としての資質・能力について考え、今後自分が身につけていきたい力を明確にしていく
11	次世代の教育を考える（特別講師による講義）	特別講師の講義を受け次世代の教育に必要な教師としての資質・能力について考え、今後自分が身につけていきたい力を明確にしていく
12	次世代の教育を考える（特別講師による講義）	特別講師の講義を受け次世代の教育に必要な教師としての資質・能力について考え、今後自分が身につけていきたい力を明確にしていく
13	次世代教育について	次世代の教育について必要な資質能力をもとに、今後自分が身につけていきたい力

		についてまとめる
14	まとめ	本授業で学んだことを振り返り、将来どのような教員になりたいかついて発表する
15		
16		

科目コード	21100				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	教職入門［FC、FE組用］				担当者名	久田　孝			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
教師という仕事は、成長途上にある無限の可能性を秘めた子どもたちを、教え、育み、そして自分自身も子どもとともに学んでいく、非常にやりがいのある職業である。しかしながら誰もがすぐにできる仕事ではない。「教職入門」では、教師を目指す入り口となる科目であることから、本授業は、漠然と教師になりたいと考えている学生に、専門職としての教職の内容、その難しさと厳しさ、そして、よろこびややりがいを、実際の学校現場での実践、実例を通して学んでいく。これまでの学ぶ（学習者）側から、教える（教授者）側へと視点を変えて学んでいく。

＜授業の到達目標＞
１．将来教師となった時、即戦力として通用するための基本的な資質・能力を身につけることができる。２．自身が本当に教師に向いているのかなどの適性についても、自らを振り返りながら、明らかにし、教師への意欲を言語化することができる。３．学び続ける教師としての学び方を身につけることができる。

＜授業の方法＞
各章のテーマに沿って、必要に応じて，それぞれの学校現場で教職経験をもった教員が指導補助に入りながら講義を行っていく。必要に応じて参考書を提示したり、プリントを配布したりして補完していく。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有学生が“主体的に考え・対話し・実践する”ことを通して、教師としての基礎的資質を育てることが目的である。1. 模擬授業（マイクロティーチング）授業設計力・指導力の基礎2. ロールプレイ生徒指導　教師役／保護者役／観察者に分かれる対人スキル・対応力3. 教育制度・法規の協働学習ジグソー法（分担→教え合い）知識の定着＋説明力向上4. リフレクション（振り返り）学び・気づき・課題による深い学びの定着「教師になるために“考える・対話する・やってみる・振り返る”」というサイクル

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：教科書や配付資料等を事前に熟読し、次週の指導内容のキーワードの下調べ、講義で扱うテーマについて自己の考えをまとめた上で講義に臨む。前回の内容、もしくは事前学習の内容についての毎時間小テストを行う。（ノートへのまとめ記載・毎回１時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてレポートにまとめ提出。（毎回１時間程度）※レポートはWordで作成し、翌日の17:00までに所定のDropboxに投函すること。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３(体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
講義に臨む意欲・姿勢・態度 30%、レポート20%、試験 50%を総合的に判断※意欲・姿勢・態度については教員、社会人にとって求められる決定的な資質・能力である。「教職入門」、においては各自の意欲・姿勢・態度を出欠と講義中における姿勢を重視して評価する。遅刻、居眠り、私語、講義の学習に不必要な行動や注意を受けた後の態度、行動は評価に大きな影響を及ぼす。

＜教科書＞
中田正浩・中田浩司編著2026.04.20　『未来をつなぐ教職入門』NEXT TEACHERS　教職をめざすあなたへ』　大学教育出版
渡邉 正樹　2024.10.08　「学校安全と危機管理」　「大修館書店」
春日井敏之 監修・編著2024.08.30　生徒指導・進路指導［第２版］　ミネルヴァ書房

＜参考書＞
梶田叡一　2010.8　改訂　実践教育評価辞典　文溪堂
梶田叡一　2012，8　教育フォーラム50＜やる気＞を育てる　金子書房

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	本授業の目的、目標、計画、講義の概要、指導方法、授業におけるルール、評価方法についての説明
2	教職への道	①教育とは何か、先生とは何かを考える。②教職へ向けてこれからどのようなことを学び、準備していくのか、日本の教員養成制度を理解する。
3	教師の仕事（1）～小学校～	小学校教諭の１日（業務内容）を理解する。
4	教師の仕事（2）～幼稚園～	幼稚園教諭の１日（業務内容）を理解する。
5	教師の仕事（3）～中学校・特別支援学校～	中学校・高等学校・特別支援学校教諭の１日（業務内容）を理解する。
6	資質能力の向上をめざした研修	教員研修の目的、目標、内容、方法について知る。

7	教員の身分と服務	服務の根本基準、特徴、監督、職務上の義務、身分上の義務、身分保障について理解する。
8	学級経営	学級づくりの原理と方法について実践事例をもとに理解する。
9	生徒指導	生徒指導上の諸問題と指導のあり方（予防と対処）を理解する。
10	学校教育と社会教育	①学校教育と学校外で行われる教育とのちがいについて考え、学校とは何かを理解する。②校務分掌、職員会議など、学校の組織について理解する。
11	教員採用試験	①教員採用試験とは何か、求められる人物、試験の特徴を知る。②採用試験合格のために準備することを知る。
12	教育実習	教育実習をはじめとするインターンシップの目的、内容、方法、そして実習生として必要とされるルールとマナーについて理解する。
13	教員の問題行動とメンタルヘルス	①教職員の不祥事、教師の精神疾患の事例から、メンタルヘルスのあり方を考える。②不適格教員の事例をもとに、教師としての適性を見つめ直す。
14	まとめ	①これまでの学びをふり返り、内容を整理する。②教員免許取得と教員採用試験合格に向けて、見通しをもつ。
15		
16		

科目コード	21100				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	教職入門［PP2621組用＋PS］				担当者名	久田　孝			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

教師という仕事は、成長途上にある無限の可能性を秘めた子どもたちを、教え、育み、そして自分自身も子どもとともに学んでいく、非常にやりがいのある職業である。しかしながら誰もがすぐにできる仕事ではない。「教職入門」では、教師を目指す入り口となる科目であることから、本授業は、漠然と教師になりたいと考えている学生に、専門職としての教職の内容、その難しさと厳しさ、そして、よろこびややりがいを、実際の学校現場での実践、実例を通して学んでいく。これまでの学ぶ（学習者）側から、教える（教授者）側へと視点を変えて学んでいく。

＜授業の到達目標＞

１．将来教師となった時、即戦力として通用するための基本的な資質・能力を身につけることができる。２．自身が本当に教師に向いているのかなどの適性についても、自らを振り返りながら、明らかにし、教師への意欲を言語化することができる。３．学び続ける教師としての学び方を身につけることができる。

＜授業の方法＞

各章のテーマに沿って、必要に応じて，それぞれの学校現場で教職経験をもった教員が指導補助に入りながら講義を行っていく。必要に応じて参考書を提示したり、プリントを配布したりして補完していく。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素有学生が“主体的に考え・対話し・実践する”ことを通して、教師としての基礎的資質を育てることが目的である。1. 模擬授業（マイクロティーチング）授業設計力・指導力の基礎2. ロールプレイ生徒指導　教師役／保護者役／観察者に分かれる対人スキル・対応力3. 教育制度・法規の協働学習ジグソー法（分担→教え合い）知識の定着＋説明力向上4. リフレクション（振り返り）学び・気づき・課題による深い学びの定着「教師になるために“考える・対話する・やってみる・振り返る”」というサイクル

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：教科書や配付資料等を事前に熟読し、次週の指導内容のキーワードの下調べ、講義で扱うテーマについて自己の考えをまとめた上で講義に臨む。前回の内容、もしくは事前学習の内容についての毎時間小テストを行う。（ノートへのまとめ記載・毎回１時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてレポートにまとめ提出。（毎回１時間程度）※レポートはWordで作成し、翌日の17:00までに所定のDropboxに投函すること。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー３(体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義に臨む意欲・姿勢・態度 30%、レポート20%、試験 50%を総合的に判断※意欲・姿勢・態度については教員、社会人にとって求められる決定的な資質・能力である。「教職入門」、においては各自の意欲・姿勢・態度を出欠と講義中における姿勢を重視して評価する。遅刻、居眠り、私語、講義の学習に不必要な行動や注意を受けた後の態度、行動は評価に大きな影響を及ぼす。

＜教科書＞

中田正浩・中田浩司編著2026.04.20　『未来をつなぐ教職入門』NEXT TEACHERS　教職をめざすあなたへ』　大学教育出版
渡邉 正樹　2024.10.08　「学校安全と危機管理」　「大修館書店」
春日井敏之 監修・編著2024.08.30　生徒指導・進路指導［第２版］　ミネルヴァ書房

＜参考書＞

梶田叡一　2010.8　改訂　実践教育評価辞典　文溪堂
梶田叡一　2012，8　教育フォーラム50＜やる気＞を育てる　金子書房

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	本授業の目的、目標、計画、講義の概要、指導方法、授業におけるルール、評価方法についての説明
2	教職への道	①教育とは何か、先生とは何かを考える。②教職へ向けてこれからどのようなことを学び、準備していくのか、日本の教員養成制度を理解する。
3	教師の仕事（1）～小学校～	小学校教諭の１日（業務内容）を理解する。
4	教師の仕事（2）～幼稚園～	幼稚園教諭の１日（業務内容）を理解する。
5	教師の仕事（3）～中学校・特別支援学校～	中学校・高等学校・特別支援学校教諭の１日（業務内容）を理解する。
6	資質能力の向上をめざした研修	教員研修の目的、目標、内容、方法について知る。

7	教員の身分と服務	服務の根本基準、特徴、監督、職務上の義務、身分上の義務、身分保障について理解する。
8	学級経営	学級づくりの原理と方法について実践事例をもとに理解する。
9	生徒指導	生徒指導上の諸問題と指導のあり方（予防と対処）を理解する。
10	学校教育と社会教育	①学校教育と学校外で行われる教育とのちがいについて考え、学校とは何かを理解する。②校務分掌、職員会議など、学校の組織について理解する。
11	教員採用試験	①教員採用試験とは何か、求められる人物、試験の特徴を知る。②採用試験合格のために準備することを知る。
12	教育実習	教育実習をはじめとするインターンシップの目的、内容、方法、そして実習生として必要とされるルールとマナーについて理解する。
13	教員の問題行動とメンタルヘルス	①教職員の不祥事、教師の精神疾患の事例から、メンタルヘルスのあり方を考える。②不適格教員の事例をもとに、教師としての適性を見つめ直す。
14	まとめ	①これまでの学びをふり返り、内容を整理する。②教員免許取得と教員採用試験合格に向けて、見通しをもつ。
15		
16		

科目コード	21100				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	教職入門［PP2622組＋PS］				担当者名	久田　孝			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

教師という仕事は、成長途上にある無限の可能性を秘めた子どもたちを、教え、育み、そして自分自身も子どもとともに学んでいく、非常にやりがいのある職業である。しかしながら誰もがすぐにできる仕事ではない。「教職入門」では、教師を目指す入り口となる科目であることから、本授業は、漠然と教師になりたいと考えている学生に、専門職としての教職の内容、その難しさと厳しさ、そして、よろこびややりがいを、実際の学校現場での実践、実例を通して学んでいく。これまでの学ぶ（学習者）側から、教える（教授者）側へと視点を変えて学んでいく。

＜授業の到達目標＞

１．将来教師となった時、即戦力として通用するための基本的な資質・能力を身につけることができる。２．自身が本当に教師に向いているのかなどの適性についても、自らを振り返りながら、明らかにし、教師への意欲を言語化することができる。３．学び続ける教師としての学び方を身につけることができる。

＜授業の方法＞

各章のテーマに沿って、必要に応じて，それぞれの学校現場で教職経験をもった教員が指導補助に入りながら講義を行っていく。必要に応じて参考書を提示したり、プリントを配布したりして補完していく。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素有学生が“主体的に考え・対話し・実践する”ことを通して、教師としての基礎的資質を育てることが目的である。1. 模擬授業（マイクロティーチング）授業設計力・指導力の基礎2. ロールプレイ生徒指導　教師役／保護者役／観察者に分かれる対人スキル・対応力3. 教育制度・法規の協働学習ジグソー法（分担→教え合い）知識の定着＋説明力向上4. リフレクション（振り返り）学び・気づき・課題による深い学びの定着「教師になるために“考える・対話する・やってみる・振り返る”」というサイクル

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：教科書や配付資料等を事前に熟読し、次週の指導内容のキーワードの下調べ、講義で扱うテーマについて自己の考えをまとめた上で講義に臨む。前回の内容、もしくは事前学習の内容についての毎時間小テストを行う。（ノートへのまとめ記載・毎回１時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてレポートにまとめ提出。（毎回１時間程度）※レポートはWordで作成し、翌日の17:00までに所定のDropboxに投函すること。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー３(体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義に臨む意欲・姿勢・態度 30%、レポート20%、試験 50%を総合的に判断※意欲・姿勢・態度については教員、社会人にとって求められる決定的な資質・能力である。「教職入門」、においては各自の意欲・姿勢・態度を出欠と講義中における姿勢を重視して評価する。遅刻、居眠り、私語、講義の学習に不必要な行動や注意を受けた後の態度、行動は評価に大きな影響を及ぼす。

＜教科書＞

中田正浩・中田浩司編著2026.04.20　『未来をつなぐ教職入門』NEXT TEACHERS　教職をめざすあなたへ』　大学教育出版
渡邉 正樹　2024.10.08　「学校安全と危機管理」　「大修館書店」
春日井敏之 監修・編著2024.08.30　生徒指導・進路指導［第２版］　ミネルヴァ書房

＜参考書＞

梶田叡一　2010.8　改訂　実践教育評価辞典　文溪堂
梶田叡一　2012，8　教育フォーラム50＜やる気＞を育てる　金子書房

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	本授業の目的、目標、計画、講義の概要、指導方法、授業におけるルール、評価方法についての説明
2	教職への道	①教育とは何か、先生とは何かを考える。②教職へ向けてこれからどのようなことを学び、準備していくのか、日本の教員養成制度を理解する。
3	教師の仕事（1）～小学校～	小学校教諭の１日（業務内容）を理解する。
4	教師の仕事（2）～幼稚園～	幼稚園教諭の１日（業務内容）を理解する。
5	教師の仕事（3）～中学校・特別支援学校～	中学校・高等学校・特別支援学校教諭の１日（業務内容）を理解する。
6	資質能力の向上をめざした研修	教員研修の目的、目標、内容、方法について知る。

7	教員の身分と服務	服務の根本基準、特徴、監督、職務上の義務、身分上の義務、身分保障について理解する。
8	学級経営	学級づくりの原理と方法について実践事例をもとに理解する。
9	生徒指導	生徒指導上の諸問題と指導のあり方（予防と対処）を理解する。
10	学校教育と社会教育	①学校教育と学校外で行われる教育とのちがいについて考え、学校とは何かを理解する。②校務分掌、職員会議など、学校の組織について理解する。
11	教員採用試験	①教員採用試験とは何か、求められる人物、試験の特徴を知る。②採用試験合格のために準備することを知る。
12	教育実習	教育実習をはじめとするインターンシップの目的、内容、方法、そして実習生として必要とされるルールとマナーについて理解する。
13	教員の問題行動とメンタルヘルス	①教職員の不祥事、教師の精神疾患の事例から、メンタルヘルスのあり方を考える。②不適格教員の事例をもとに、教師としての適性を見つめ直す。
14	まとめ	①これまでの学びをふり返り、内容を整理する。②教員免許取得と教員採用試験合格に向けて、見通しをもつ。
15		
16		

科目コード	21106				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	保育原理				担当者名	虫明　淑子			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業では、幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園すべてに求められる、幼児教育・保育の基盤となる理念や概念を学ぶとともに、子ども主体の保育とは何かという問いを、歴史的背景を踏まえて考え、今後のよりよい教育・保育の実践のあり方や課題を自分なりに理解することを目指す。具体的には、子ども理解、保育の内容・方法、保育の計画と評価、子育て支援、健康・安全、多様な子どもの理解と保育、法律・制度などの観点から考察する。さらに、事例検討やグループディスカッションを通して、保育者の専門性について理解を深める。

＜授業の到達目標＞
１．幼児教育・保育の基本原則を理解し、子ども主体の保育の考え方を歴史的背景を踏まえて考察できる。２．子ども理解、保育の内容・方法、保育計画と評価、子育て支援、健康・安全、多様な子どもの理解と保育、法律・制度などの観点から、教育・保育の課題や実践のあり方について自分なりに整理できる。３．事例検討やグループディスカッションを通して、保育者としての専門性についての理解を深め、これからの保育のあり方や課題について自分なりに考えることができる。

＜授業の方法＞
・講義：教科書の内容を整理・抽出し、それに沿って行う。・事例検討：実際の事例をもとに意見交換を行い、学んだことを具体的に考察する。・リアクションペーパー・課題：授業で学んだ内容を自分の言葉で記述し、考えを整理する。・授業内試験：授業で学んだ内容を整理し、試験後のフィードバックを通して理解を定着させる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニング：有方法：グループディスカッション、グループワーク・具体的な事例をもとに学生同士で意見交換を行い、対話を通して理解を深める。・他者の視点に触れることで、自分の考えを広げ、多角的な考え方があることを認識する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
・教科書を事前に読み、授業での理解の準備を行う。・授業で学んだ内容を整理し、学んだことや感想を自分の言葉で説明で表すことができるようにする。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー２（保育士・幼稚園教諭養成の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる）に関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・授業参加態度（40%）：出席・姿勢・グループディスカッションでの態度や取り組み方を評価・リアクションペーパーと課題（30%）：提出状況や、授業の要点・学んだこと・感想を自分の言葉で表せているかを評価・試験（30%）：授業内容の理解度と考えのまとめを評価　※学生からの質問には随時対応する。　※リアクションペーパーへのフィードバックは次回以降の授業内容に反映する。※授業計画は学生の理解度に応じて変更することがある。　※試験は授業内に実施し、実施後のフィードバックにより理解を補充する。

＜教科書＞
汐見稔幸・無藤隆・大豆生田啓友【編著】（2019年4月30日）　『アクティベート保育学①　保育原理』　ミネルヴァ書房

＜参考書＞
文部科学省（2018年3月）　『幼稚園教育要領解説』　フレーベル館
厚生労働省（2018年3月）　『保育所保育指針解説』　フレーベル館
内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018年3月）　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』　フレーベル館

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	・授業計画、到達目標、成績評価方法等について、シラバスを通して理解する。・授業計画について再確認する。
2	保育とは何か⑴	・「保育」という言葉が生まれた歴史的背景を理解する。
3	保育とは何か⑵	・「子ども主体の保育・教育」への移行の背景や意義を理解する。
4	保育と子ども理解⑴	・子ども理解とは何かを考え、子どもの行為の「意味」を探ることの重要性について理解する。
5	保育と子ども理解⑵	・子ども理解とは何か、その本質や意味について多角的に考察する。・「省察」の意義を理解し、実践における重要性を捉える。
6	保育の内容	・保育内容の意味と変遷（5領域まで）を理解し、意義と役割を捉える。・３要領・指針に示された「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を理解し、幼児教育・保育が小学校以降の学びの土台となることを考える。
7	保育の方法とは何か	・幼児教育・保育における望ましい方法を踏まえ、保育の「質」とは何かについて多

		角的に考察する。
8	保育の計画と評価	・保育における計画と評価の意義を理解する。・PDCAサイクルおよびカリキュラム・マネジメントの仕組みを理解し、保育実践にどのように活かされるか、その有効性について考察する。
9	保育と子育て支援	・子育て支援が必要とされる背景について理解する。・保育の場で行われている子育ての支援の内容や意義について考える。
10	健康・安全と保育⑴	・子どもの命を守ることが保育の大前提であることを理解する。・０～２歳と３歳以上の子どもの健康と安全について考える（「食・睡眠・水遊び」を含む）。
11	保育者の専門性と資質向上	・保育所保育指針に示される保育者の専門性について理解する。・「省察的実践者」と何か、保育者の資質向上の意義について考える。
12	保育の歴史に学ぶ	・遊びを中心とする日本の保育の成立について考える・倉橋惣三の「育ての心」について理解する。
13	多様な子どもの理解	・外国籍の子どもについて理解する。・貧困家庭の子どもについて理解する。・障害のある子どもの理解について理解し、子どもの思いを読み取ることの重要性を考える。
14	授業内試験と学びのまとめ	・これまでの授業内容を振り返り、学びを整理する。・答え合わせを通じて、自分の理解や学びの改善を図る。
15		
16		

科目コード	21107				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	保育者論				担当者名	虫明　淑子			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
子どもを取り巻く環境や社会の多様なニーズに対応できる保育者になるため、本授業では、保育者として求められる役割や資質、幼稚園教諭や保育士の具体的な仕事、子どもの発達理解、遊び援助、多様な子どもの理解と支援、家庭や地域との連携、教材研究などの視点から、保育の基本的実践を幅広く学ぶ。これらを通して、質の高い教育・保育を支える保育者の専門性を自分のものとして考える力を養うことを目的とする。

＜授業の到達目標＞
１．保育者の役割や責任を理解し、説明できる。２．保育者としての適切な判断や行動について理解し、具体的な場面での対応を想定できる。３．自分の考えや他者の意見を照らし合わせながら対話的に検討し、保育者としての基本的な姿勢や専門性について意識できる。

＜授業の方法＞
・講義：保育者の役割や資質、保育の基本的実践についての基礎的知識を理解する。・事例検討：実際の事例をもとに意見交換を行い、対話を通して得られた考えを整理して発表し、理解を深める。・演習：こども園を訪問し、実際の保育者の姿を観察して学ぶ。・リアクションペーパー・課題：授業で学んだ内容を自分の言葉で整理し、理解の定着を図る。・授業内試験：授業で学んだ内容や自分の考えを整理し、保育者としての姿勢や専門性について意識を深める。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニング：有方法：グループディスカッション、グループワーク、フィールドワーク・具体的な事例をもとに学生同士で意見交換を行い、対話を通して理解を深める。・他者の視点に触れることで、自分の考えを広げ、多角的な考え方があることを認識する。・こども園訪問を通して、実際の保育者の姿を観察して学ぶ。・疑問を出し合い、実践的理解を深める。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
・「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」を読んでおく。・授業で学んだことや印象に残った点を振り返りながら記述することで、理解の定着を図る。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー２（保育士・幼稚園教諭養成の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・授業参加態度（40%）：出席・姿勢・グループディスカッションでの態度や取り組み方を評価・リアクションペーパーと課題（30%）：提出状況や、授業の要点・学んだこと・感想を自分の言葉で表せているかを評価・試験（30%）：授業内容の理解度と考えのまとめを評価※学生からの質問には随時対応する。※リアクションペーパーへのフィードバックは次回以降の授業内容に反映する。※授業計画は学生の理解度に応じて変更することがある。※試験は授業内に実施し、実施後のフィードバックにより理解を補充する。

＜教科書＞
大豆生田啓友・秋田喜代美・汐見俊幸【編著】（2019年4月30日）　『アクティベート保育学②　保育者論』　ミネルヴァ書房

＜参考書＞
文部科学省（2018年3月）　『幼稚園要領解説』　フレーベル館
厚生労働省（2018年3月）　『保育所保育指針解説』　フレーベル館
内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018年3月）　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』　フレーベル館

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	・授業計画、到達目標、成績評価方法等について、シラバスを通して理解する。・授業計画について再確認する。
2	保育者とは①	・保育という仕事の本質や特質について考える。・「自ら育てようとする子ども」を支えることの意味を理解する。
3	保育者とは②	・関係的な行為の中で子どもを育むということについて理解する。
4	保育者になるために（免許・資格）	・幼稚園教諭免許、保育士資格のについて理解する。・保育者に求められる心構えや服務、研修について理解する。・採用試験の内容は仕組みについて理解する。
5	幼稚園教諭の仕事とその一日の流れ	・幼稚園教諭の仕事を事例から考える。・保育者にとって研修の重要性について考える。
6	保育士の仕事とその一日の流れ（３歳未満児）	・園の具体的な事例から学ぶ。・保護者連携の重要性や方法について考える。
7	こども園訪問：子どもの内面や発達を理	・こども園での保育者の姿を観察し、子どもの内面や発達を理解する保育者の姿勢

	解する保育者（予定・変更の場合あり）	について考える。
8	こども園訪問：遊びを援助する保育者（変更の場合あり）	・こども園での保育者の姿を観察し、遊びを援助する保育者の姿について考える。
9	ゲストスピーカー（変更の場合あり）	・ゲストスピーカーから保育の現場や実践について話を聞く。・話を聞いた後、質疑応答を行い理解を深める。
10	家庭や地域と連携・支援する保育者	・家庭や地域との連携・支援の必要性を理解する。・園として、家庭や地域と連携・支援する具体的な方法について考える。
11	多様な子どもの理解と支援する保育者	・多様性の背景要因について理解する。・多様性をもつ子どもの理解と支援のあり方について考える。
12	「環境を通して行う教育」の実現に向けて①	・「環境を通して行う教育」の意味や意義について理解する。・環境を再構成することへの意義や専門性について考える。・子ども主体の活動と環境構成・教材研究のよりよいあり方について考える。
13	「環境を通して行う教育」の実現に向けて②	・子ども主体の活動と環境構成・教材研究のよりよいあり方について考える。
14	授業内試験と学びのまとめ	・これまでの授業内容を振り返り、学びを整理する。・保育者の専門性に関する学びをまとめる。
15		
16		

科目コード	21116				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	教育の思想と原理［週間オンデマンド］				担当者名	小川　雄太			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
教育の「思想」と「原理」は教育に携わる者にとって、あらゆる教育活動を行う上で必須の基礎的な教養である。本科目は中学校、高等学校、特別支援学校の教諭及び教育委員会事務局の指導主事としての経験のある担当者によって学校現場の課題を踏まえた内容を展開する。その上で、教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想について理解し、教師に求められるさまざまな観点や基本的な態度を身につけることができる。

＜授業の到達目標＞
教育に関する基本的な知識と理解を発展させ、さまざまな学問的観点、特に歴史的・哲学的な観点から、教育の諸問題を分析し考察できるようになること。

＜授業の方法＞
講義においては、パワーポイント資料、ワークシート等を使用する。講義の時間とグループ討議や発表の時間を半々程度にする予定。なお、Googleクラスルームを活用して、課題の管理、資料等の配布を行うため受講に際してはパソコンを必携とする。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
学習内容を踏まえた各自のリフレクション（振り返り）の要旨を全体で共有する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
受講前後において、各自で予習及び復習を行う必要がある。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度・小課題・レポート課題等によって評価する。講義で詳細を説明する。

＜教科書＞
酒井健太朗（2024年4月20日）　教育の思想と原理―古典といっしょに現代の問題を考える　晃洋書房

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	本科目の概要説明、教育とはなにか（教科書序章）
2	子ども１	子どもと家族（教科書第1章）
3	子ども２	遊び（教科書第2章）
4	子ども３	保育（教科書第3章）
5	教員１	教育の方法（教科書第4章）
6	教員２	教養（教科書第5章）
7	教員３	教えないことによる教育と学習（教科書第6章）
8	学校１	教育カリキュラム（教科書第7章）
9	学校２	道徳的発達（教科書第8章）
10	学校３	場としての学校（教科書第9章）
11	社会１	国と教育（教科書第10章）
12	社会２	宗教と教育（教科書第11章）
13	社会３	メリトクラシー（教科書第12章）
14	まとめ	総復習
15		
16		

科目コード	21204				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	英語科教育法Ⅰ(基礎)				担当者名	井上　聡			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業の目的は、英語科教育の過去と現在について理解を深め、これからの英語教育の方向性について自身の教育観を醸成することです。そのような資質を高めるため、本授業では、グループワークを軸として、英語教育理論、言語活動、教育実践に関する討論・発表が中心となります。事前課題の「問い」を通して問題を発見し、他者との意見交換を通して問題を解決し、プレゼンテーションや相互評価を通して、英語教師としての資質・能力を高めます。学修成果としては、協働性、批判的思考力、省察力、デジタル活用力を求めます。なお、この授業はブレンド

＜授業の到達目標＞
１．英語科教育の専門用語を深く理解し、体系化できる。２．協同学習に主体的に参加し、多様な役割を担いつつ、グループ・ワークに貢献できる。３．未来の英語教師として、自身の意見を適切かつ的確に発信できる。

＜授業の方法＞
グループ討論（30分）解説（30分）プレゼンテーション（30分）※授業はすべてGoogle Classroom上で行います。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループワーク（事前課題の教えあい、模擬授業）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：問いに対する回答（ノートのスクリーンショットを提出）（90分程度）復習：理解度確認テスト（30分程度）＋意見交換（10分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー５（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
事前課題 30%, 理解度確認テスト 30%, プレゼンテーション 20%, 意見交換 20%

＜教科書＞
JACET教育問題研究会（2017年11月30日）　英語科教育の基礎と実践－リフレクティブな教師を目指して－　三修社

＜参考書＞
特に指定なし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	シラバスの説明、シミュレーション（事前課題、グループワーク）
2	第１章　外国語教育の目的と意義	日本の外国語教育の方向性、CEFRの言語教育観
3	第２章　英語教育課程と学習指導要領	教育課程と学習指導要領、日本の英語教育課程の今後の方向性
4	第４章　第二言語習得と教授法	SLA研究からの知見、教授法
5	第４章　学習者論	言語習得とは、自律と自立、学習者要因、英語学習に成功する学習者
6	第５章　英語教師論	教員として求められる資質・能力、言語教師の役割、英語教師の成長
7	まとめ	復習テスト
8	第６章　音と文字の指導第７章　リスニング指導	基本概念とリスニング指導、基本概念とリーディング指導
9	第８章　スピーキング指導第９章　リーディング指導	基本概念とスピーキング指導、基本概念とリーディング指導
10	第１０章　ライティング指導第１１章　文法指導	基本概念、協同学習
11	第１２章　語彙指導第１３章　異文化指導	基本概念と語彙指導、基本概念と異文化指導
12	第１４章　評価とフィードバック第１５章　教材・ICTの活用	協働学習
13	第１６章　授業計画第１７章　指導案の作成	指導案の作成（概案）
14	第１８章　授業実践	指導案の作成（概案）
15		
16		

科目コード	21205				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	英語科教育法Ⅱ(応用)				担当者名	伊藤　仁美／竹下　厚志			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業は、英語の授業づくりに必要な基礎的な技能を育成することを主な目的とします。具体的には小学校英語および中学校1年生に絞って、どのような英語が学ばれているのかについて教科書分析を行い、文法導入、内容理解や文字指導の方法について学びます。また、英語トレーニングによって英語コミュニケーション力の育成を図ります。さらに海外交流に必要な英語表現を身につけます。

＜授業の到達目標＞
１．中学校レベルの英語を流暢に活用することができる。２．中学校1年生を対象にした模擬授業をスムーズにすることができる。
３．海外交流に必要な基本的な話題をもとに英語によるやりとりをすることができる。

＜授業の方法＞
英語トレーニング、ペア・グループワーク、プレゼンテーション、音読・リテリング等に関する指導

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
あり。ペア・グループワーク、プレゼンテーション

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：音読・暗唱（毎日1時間）、復習：導入や模擬授業に関する練習（毎日30分程度）、英語トレーニング（毎日2時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー５（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業参加度（発言、活動に対する意欲）　30%、模擬授業・プレゼンテーション　40%　　英語力　30%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業概要と進め方、英語トレーニング、テスト
2	小学校英語１	小学校5年生の教科書を使った言語活動
3	小学校英語２	小学校6年生の教科書を使った言語活動
4	中学校1年生導入１	中学校1年生の教科書を使った導入の仕方（文字・文法）１
5	中学校1年生導入２	中学校1年生の教科書を使った導入の仕方（文字・文法）２
6	本文の扱い方１	中学校1年生の教科書を使った本文の扱い方（導入、発問、理解、定着）１
7	本文の扱い方２	中学校1年生の教科書を使った本文の扱い方（導入、発問、理解、定着）２
8	海外交流１	海外交流に必要な英語の準備１
9	海外交流２	海外交流に必要な英語の準備２
10	海外交流３	海外交流に必要な英語の準備３
11	模擬授業１	学んだことを活用した模擬授業１
12	模擬授業２	学んだことを活用した模擬授業２
13	模擬授業３	学んだことを活用した模擬授業３
14	まとめ	振り返り
15		
16		

科目コード	21212				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	社会的養護Ⅰ				担当者名	小倉　毅			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
この授業は、保育士資格取得者のための授業となっている。本講義では、社会的養護の基本原理を習得することを目的としている。社会的養護の歴史的変遷をふまえながら、制度体系、児童福祉施設の役割、機能、現状といった基礎学習を通して、その意義を明らかにする。また、今日の児童を取りまく社会の変動や家族機能の変化を把握し、養護問題の現状や背景について理解を深める。さらに、施設養護の実際と今後の課題について検討し、児童福祉援助者としての保育者の役割や援助のあり方を考える。この講義は保育実習ⅠB(施設)に向けての知識を学ぶ重

＜授業の到達目標＞
現代社会における社会的養護の意義と歴史変遷を踏まえた上で、社会的養護の制度や実施体系について理解する。また、 社会的養護における児童の権利について「学び、権利擁護や自立支援の在り方について理解することを目標とする。

＜授業の方法＞
レジメを中心に講義を行います。適宜講義課題について小レポート作成及び小テストを行います。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニング有（事例をもとにグループワークを実施し理解を深める）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
受講前には予習として必ず指定テキストを熟読（45分以上）、受講後は指定テキストとレジメをつかって、講義内容を整理すること（45分以上）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は､学科のディプロマポリシー２（保育士･幼稚園教諭養成の専門分野における最先端かつ高度な知識･技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
評価は、定期試験60%、レポート20%、授業態度 20%で行う。

＜教科書＞
松中 典子　潮谷 光人　今井 慶宗編著　社会的養護Ⅰ・Ⅱ　改訂版　翔雲社

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	社会的養護の理念と概念	社会的養護とは何かを基本的理念、原理、基盤づくりについて
2	社会的養護の歴史的変遷	現在の社会的養護の理解を深めるために、社会がどのような児童を養護してきたのかを理解する。
3	子どもの人権擁護と社会的養護	子どもの人権を社会権、生存権を柱とした受動的権利の保障と、自由権を中心とした能動的権利の保障について理解する
4	社会的養護の基本原則	家庭養育優先原則の根拠となる法律や条約等の理解と、アイデンティティ形成の観点から養育環境を理解する
5	社会的養護における保育士等の理論と責務	社会的養護にかかわる専門職の倫理と責務について理解する
6	社会的養護の制度と法体系	措置制度とその背景原理、児童福祉法の概要、関連法規について学び、日本の社会的養護の制度と法体系について理解する
7	社会的養護のしくみと実施体系	児童相談所から社会的養護の各施設や里親家庭に至るソーシャルワーク過程、各施設の目的と概要と課題について理解する
8	社会的養護とファミリーソーシャルワーク	ファミリーソーシャルワークについての基本的な視点を理解し、社会的養護におけるソーシャルワークの展開方法を理解、児童福祉施設の機能を理解する。
9	社会的養護の対象と支援のあり方	社会的養護の対象となる子どもや家庭について理解を深めるとともに、予防的支援、在宅措置、代替養育を必要とする子どもたちや家族がどのようなニーズを抱えているかを理解する
10	家庭養護と施設養護	社会的養護の動向や里親、ファミリーホームといった家庭養護と施設養護の現状と課題、共通点と相違点を理解する
11	社会的養護にかかわる専門職	現場で働く専門職や実施者の業務内容、求められる専門性について理解する
12	社会的養護に関する社会的状況	社会的養護で暮らす子どもたちの背景・社会的養護の位置づけを学び、養子縁組を含む社会的養護のあり方、存在意義について理解する。
13	施設等の運営管理の現状と課題	子どもの最善の利益、すべての子どもを社会全体で育むという基本的理念に基づ

14 15 16	被措置児童等の虐待防止の現状と課題	き、社会的養護施設等がどのように運営されていくのかを理解する 被措置児童等の虐待とは何かを理解した後、被措置児童等の虐待防止の経緯を概観し発生要因と課題、児童福祉施設の機能としての地域支援を理解する。

科目コード	21213				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	社会的養護Ⅱ				担当者名	小倉　毅			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

2016年に児童福祉法の理念が改正され、子どもは「児童の権利に関する条約」の精神にもとづく権利を有すると明記された。これにより、子どもは、今まで以上に安定した環境で養育を受けること、健全な成長と発達のために自立に向けての支援を受けることが明確になった。そこで本科目は、保育士等の倫理・責務の基本理念を理解するとともに、親がいても養育に欠ける児童、あるいは知的障害、重複障害、情緒障害、非行などのために親や家庭では養育でいない子どもの援助・支援を行うために必要な専門的知識・技術を理解し、家庭機能の代替としての役

＜授業の到達目標＞

児童とその権利擁護を支援するために、援助者としての倫理とその基本的理念を理解する。また、それにふさわしい専門知識と技術を身に付ける。

＜授業の方法＞

教科書に基づいて、社会的養護内容に関する専門知識を理解し、その内容について事例研究、グループ討議、ロールプレイ、ディベートを使って体得することを目的としている。またそれぞれのレポートを作成する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブラーニング有（グループ討議、ロールプレイ、ディベート）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

①予習：次回のテーマに関する記事を検索、子どもが生活する施設概要を理解しておく。（90分）②復習：グループで討議した事例を俯瞰的視点で捉えることができるよう整理し理解する。（90分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は､学科のディプロマポリシー２（保育士･幼稚園教諭養成の専門分野における最先端かつ高度な知識･技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験 60%、レポー ト20%、講義受講態度等 20%

＜教科書＞

小宅理沙　監修中 典子　潮谷光人 今井慶宗　編著　社会的養護Ⅰ・Ⅱ　翔雲社（2020年度改訂版）

＜参考書＞

2014.4　「施設実習の手引き」　岡山県保育士養成協議会

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	児童福祉施設の援助者と子どもの生きる力とは	援助者の種類と役割、援助者に求められる基本・援助者の倫理と責務・専門性の考察
2	児童養護の体系と児童福祉施設の概要	児衝福祉施設入所の意義、児童福祉施設における社会的養護
3	家庭養護の実際①	里親による養育について
4	家庭養護の実際②	ファミリーホームによる養育について
5	施設養護の実際③	乳児院での乳児の支援について
6	児童養護施設の暮らし①	児童養護施設での子どもの支援について
7	児童養護施設の暮らし②	児童心理治療施設の子どもの支援について
8	児童養護施設の暮らし③	児童自立支援施設の子どもの支援について
9	児童養護施設の暮らし④	母子生活支援施設の子どもと親の支援について
10	障害のある子どもの養育方法①	肢体不自由のある子どもの療育と支援について
11	障害のある子どもの養育方法②	障害児通所支援事業所での療育と支援について
12	障害者への支援方法について①	障害者支援での利用者支援について
13	障害者への支援方法について②	障害福祉サービス事業所での支援について
14	児童福祉施設における社会的養護の課題	虐待を受けた子どもへの援助
15		
16		

科目コード	21214				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	特別活動の指導法［FC,PP,PS組用週間オンデマンド］				担当者名	藤井　健太郎			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
教育課程の一つとして、学校教育の中に「特別活動」が存在する意義・目標・内容構成等を概説する。また、道徳科、総合的な学習の時間、学級経営、生徒指導との関連を考えるとともに、特別活動の歴史、および特別活動を支える学習集団の理論等について考察する。そして、特別活動の現代的な意義について理解を深めていく。

＜授業の到達目標＞
教育課程における特別活動の位置付けと、特別活動の目標・内容構成を説明することができる。そして、その教育機能を理論的に説明できることを目標とする。また、学級活動の指導計画を立てるという実践力の育成も目指す。

＜授業の方法＞
「学習指導要領解説　特別活動編」の内容についてポイントを確認し、具体的な実践例の紹介や各回のテーマに関する重要事項について説明を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）４、５人のグループに分かれ、テーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習として、次時の授業に関連する「学習指導要領解説　特別活動編」に目を通しておく。　復習として、本時の授業内容について整理し、理解を深めるよう努める。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業への参加態度14%、レポート（学習指導案等）30%、試験56%

＜教科書＞
藤井健太郎　教職科目　特別活動の指導法　三恵社

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	特別活動とは（オリエンテーション）	特別活動について想起し、授業の概要を把握する。
2	特別活動の歴史的変遷	特別活動の教育課程上の位置づけとその歴史的変遷を理解する。
3	特別活動の基礎理論	特別活動の背景にある理論と方法原理を理解する。
4	特別活動の内容構成	特別活動を構成する学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事の概要を理解する。
5	学級活動の目標と内容	学級活動の目標と内容構成を理解する。
6	児童会活動、クラブ活動と学校行事の目標と内容	児童会活動、クラブ活動と学校行事の目標と内容構成を理解する。
7	特別活動と教科指導の関係	特別活動と教科指導の関係を理解する。
8	特別活動と道徳教育	特別活動と道徳教育の関係を理解する。
9	特別活動と総合的な学習の時間	特別活動と総合的な学習の時間の関係を理解する。
10	特別活動と学級経営・生徒指導	特別活動と学級経営および生徒指導の関係を理解する。
11	特別活動の指導計画と評価	特別活動の指導計画と評価のあり方を理解する。
12	学級活動の事例検討（１）	具体的な実践事例をもとに、学級集団づくりの考え方を理解する。
13	学級活動の事例検討（２）	具体的な実践事例をもとに、学級における話合い活動をより良く進める考え方を理解する。
14	学級活動の学習指導案作成	学習指導案作成の基本的な考え方と方法を理解し、学級活動の指導計画を構想するための考え方を理解する。
15		
16		

科目コード	21214				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	特別活動の指導法［FE用（特支免許を希望する学生のみ）］				担当者名	藤井　健太郎			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
教育課程の一つとして、学校教育の中に「特別活動」が存在する意義・目標・内容構成等を概説する。また、道徳科、総合的な学習の時間、学級経営、生徒指導との関連を考えるとともに、特別活動の歴史、および特別活動を支える学習集団の理論等について考察する。そして、特別活動の現代的な意義について理解を深めていく。

＜授業の到達目標＞
教育課程における特別活動の位置付けと、特別活動の目標・内容構成を説明することができる。そして、その教育機能を理論的に説明できることを目標とする。また、学級活動の指導計画を立てるという実践力の育成も目指す。

＜授業の方法＞
「学習指導要領解説　特別活動編」の内容についてポイントを確認し、具体的な実践例の紹介や各回のテーマに関する重要事項について説明を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）４、５人のグループに分かれ、テーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習として、次時の授業に関連する「学習指導要領解説　特別活動編」に目を通しておく。　復習として、本時の授業内容について整理し、理解を深めるよう努める。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業への参加態度14%、レポート（学習指導案等）30%、試験56%

＜教科書＞
藤井健太郎　教職科目　特別活動の指導法　三恵社

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	特別活動とは（オリエンテーション）	特別活動について想起し、授業の概要を把握する。
2	特別活動の歴史的変遷	特別活動の教育課程上の位置づけとその歴史的変遷を理解する。
3	特別活動の基礎理論	特別活動の背景にある理論と方法原理を理解する。
4	特別活動の内容構成	特別活動を構成する学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事の概要を理解する。
5	学級活動の目標と内容	学級活動の目標と内容構成を理解する。
6	児童会活動、クラブ活動と学校行事の目標と内容	児童会活動、クラブ活動と学校行事の目標と内容構成を理解する。
7	特別活動と教科指導の関係	特別活動と教科指導の関係を理解する。
8	特別活動と道徳教育	特別活動と道徳教育の関係を理解する。
9	特別活動と総合的な学習の時間	特別活動と総合的な学習の時間の関係を理解する。
10	特別活動と学級経営・生徒指導	特別活動と学級経営および生徒指導の関係を理解する。
11	特別活動の指導計画と評価	特別活動の指導計画と評価のあり方を理解する。
12	学級活動の事例検討（１）	具体的な実践事例をもとに、学級集団づくりの考え方を理解する。
13	学級活動の事例検討（２）	具体的な実践事例をもとに、学級における話合い活動をより良く進める考え方を理解する。
14	学級活動の学習指導案作成	学習指導案作成の基本的な考え方と方法を理解し、学級活動の指導計画を構想するための考え方を理解する。
15		
16		

科目コード	21214				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	特別活動の指導法［FE用］				担当者名	藤井　健太郎			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
教育課程の一つとして、学校教育の中に「特別活動」が存在する意義・目標・内容構成等を概説する。また、道徳科、総合的な学習の時間、学級経営、生徒指導との関連を考えるとともに、特別活動の歴史、および特別活動を支える学習集団の理論等について考察する。そして、特別活動の現代的な意義について理解を深めていく。

＜授業の到達目標＞
教育課程における特別活動の位置付けと、特別活動の目標・内容構成を説明することができる。そして、その教育機能を理論的に説明できることを目標とする。また、学級活動の指導計画を立てるという実践力の育成も目指す。

＜授業の方法＞
「学習指導要領解説　特別活動編」の内容についてポイントを確認し、具体的な実践例の紹介や各回のテーマに関する重要事項について説明を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）４、５人のグループに分かれ、テーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習として、次時の授業に関連する「学習指導要領解説　特別活動編」に目を通しておく。　復習として、本時の授業内容について整理し、理解を深めるよう努める。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業への参加態度14%、レポート（学習指導案等）30%、試験56%

＜教科書＞
藤井健太郎　教職科目　特別活動の指導法　三恵社

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	特別活動とは（オリエンテーション）	特別活動について想起し、授業の概要を把握する。
2	特別活動の歴史的変遷	特別活動の教育課程上の位置づけとその歴史的変遷を理解する。
3	特別活動の基礎理論	特別活動の背景にある理論と方法原理を理解する。
4	特別活動の内容構成	特別活動を構成する学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事の概要を理解する。
5	学級活動の目標と内容	学級活動の目標と内容構成を理解する。
6	児童会活動、クラブ活動と学校行事の目標と内容	児童会活動、クラブ活動と学校行事の目標と内容構成を理解する。
7	特別活動と教科指導の関係	特別活動と教科指導の関係を理解する。
8	特別活動と道徳教育	特別活動と道徳教育の関係を理解する。
9	特別活動と総合的な学習の時間	特別活動と総合的な学習の時間の関係を理解する。
10	特別活動と学級経営・生徒指導	特別活動と学級経営および生徒指導の関係を理解する。
11	特別活動の指導計画と評価	特別活動の指導計画と評価のあり方を理解する。
12	学級活動の事例検討（１）	具体的な実践事例をもとに、学級集団づくりの考え方を理解する。
13	学級活動の事例検討（２）	具体的な実践事例をもとに、学級における話合い活動をより良く進める考え方を理解する。
14	学級活動の学習指導案作成	学習指導案作成の基本的な考え方と方法を理解し、学級活動の指導計画を構想するための考え方を理解する。
15		
16		

科目コード	21215				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	生徒指導・進路指導論［FC,FE用］				担当者名	久田　孝			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
「生徒指導・進路指導論」は、主に教職課程で履修される重要科目で、学校現場における生徒支援の理論と実践を体系的に学びます。内容は大きく「生徒指導」と「進路指導・キャリア教育」の2本柱で構成され、単なる問題対応ではなく、生徒一人ひとりの人生を支える教育の中核的分野で、教師に求められる「人間理解力」と「支援力」を理論と実践の両面から養う科目である。① 生徒指導の基礎理論生徒指導の定義と目的、学校教育における役割、発達段階に応じた指導（小・中・高の違い）② 生徒理解と支援発達心理（思春期の特徴など）、個別支援の方

＜授業の到達目標＞
「生徒指導・進路指導論」における到達目標は、単なる知識理解にとどまらず、「現場で実際に使える力」を身につけること。児童・生徒の成長を多面的に支え、適切な指導・支援ができる教師になる基礎力を身につけることが目標である。

＜授業の方法＞
単なる講義だけでなく、実際の教育現場を想定した“体験的・実践的な学び”が重視されるのが特徴です。本授業では、理論（知識）＋実践（体験）＋振り返りを組み合わせて学ぶ。① 講義（理論の理解）生徒指導・進路指導の基本概念、児童生徒の発達段階や心理的特徴それに合わせて教育制度や指導の枠組みを知り現場での判断の「根拠」となる理論を理解する② 事例研究（ケーススタディ）実際の教育現場で起こるようなケースを扱ういじめ問題、不登校、進路選択に悩む生徒などの事例の問題点を整理、原因を分析、対応策を考える③ グループワーク・

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有主体的・対話的で深い学びを基盤とし、事例研究やグループワーク、ロールプレイ、振り返りなどを通して実践的指導力を育成するものである。授業は、導入・講義・演習・発表・振り返りという流れで構成され、理論と実践を往還しながら学習を深めていく問題提起教員が事例やテーマを提示、学習課題を明確にする①理論の説明（講義）生徒指導・進路指導の基本理論、心理・発達・制度の理解②展開（アクティブラーニング）事例研究にてケースを分析、原因・問題点を整理③グループワーク対応策を議論、意見を共有④ロール

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
教科書や資料の事前読解を行い、重要なキーワードや概念を整理するとともに、事例に対する自分なりの考えを持つことが重要である。また、自身の経験と関連づけて振り返り、疑問点を明確にして授業に臨むこと。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２(初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度30%、ワーク内での取り組み方とその姿勢20%、試験50%

＜教科書＞
文部科学省　2022.12　生徒指導提要　東洋出版
2024.06.20　原田 恵理子／森山 賢一 編著　最新生徒指導論（改訂版）最新進路指導論（改訂版）　大学教育出版

＜参考書＞
文部科学省

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション・ガイダンス・科目の全体像	授業の目的・評価方法の説明生徒指導と進路指導の関係性、現代の学校教育における位置づけなどについて
2	生徒指導の意義と原理	生徒指導の定義と目的並びに全人的発達の支援教育課程との関連
3	発達理解と生徒理解	発達段階（児童期・思春期）の特徴個人差の理解とアセスメントの基礎
4	生徒指導の方法と技法	個別指導と集団指導、予防的・開発的指導とカウンセリング技法について
5	学級経営と生徒指導	学級づくりの基本、ルール形成と規律、教師と生徒の信頼関係、生徒指導としてのサポート
6	問題行動への対応①（いじめ）	いじめの構造と要因の早期発見・早期対応、初動の大切さ、学校組織としての対応
7	問題行動への対応②（不登校・非行）	不登校の要因と支援、非行・逸脱行動への理解、外部機関との連携
8	問題行動への対応③（重大事件への対応）	生徒指導と学校危機管理との関係　発生初動から解決までのプロセスを学校経営の観点から考える
9	教育相談とカウンセリング	教育相談の基本　面談技法（傾聴・共感）カウンセラーとの連携
10	進路指導の意義と理論	進路指導の歴史と役割、キャリア教育の考え方と自己理解・職業理解

11	キャリア教育の実践	キャリア教育の目標と内容における学校段階別の指導文部科学省の施策との関係
12	進路選択と意思決定支援	進路選択のプロセス、意思決定理論に対する進路相談の進め方
13	進路指導の方法と実践	面接指導・進路面談の進学・就職指導とインターンシップ・職場体験
14	現代的課題と多様な支援	多様な生徒への対応(特別支援教育など)とグローバル化・ICT社会など新たな進路・家庭・地域との連携について
15		
16		

科目コード	21215				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	生徒指導・進路指導論［PP2521組用］				担当者名	久田　孝			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
「生徒指導・進路指導論」は、主に教職課程で履修される重要科目で、学校現場における生徒支援の理論と実践を体系的に学びます。内容は大きく「生徒指導」と「進路指導・キャリア教育」の2本柱で構成され、単なる問題対応ではなく、生徒一人ひとりの人生を支える教育の中核的分野で、教師に求められる「人間理解力」と「支援力」を理論と実践の両面から養う科目である。① 生徒指導の基礎理論生徒指導の定義と目的、学校教育における役割、発達段階に応じた指導（小・中・高の違い）② 生徒理解と支援発達心理（思春期の特徴など）、個別支援の方

＜授業の到達目標＞
「生徒指導・進路指導論」における到達目標は、単なる知識理解にとどまらず、「現場で実際に使える力」を身につけること。児童・生徒の成長を多面的に支え、適切な指導・支援ができる教師になる基礎力を身につけることが目標である。

＜授業の方法＞
単なる講義だけでなく、実際の教育現場を想定した“体験的・実践的な学び”が重視されるのが特徴です。本授業では、理論（知識）＋実践（体験）＋振り返りを組み合わせて学ぶ。① 講義（理論の理解）生徒指導・進路指導の基本概念、児童生徒の発達段階や心理的特徴それに合わせて教育制度や指導の枠組みを知り現場での判断の「根拠」となる理論を理解する② 事例研究（ケーススタディ）実際の教育現場で起こるようなケースを扱ういじめ問題、不登校、進路選択に悩む生徒などの事例の問題点を整理、原因を分析、対応策を考える③ グループワーク・

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有主体的・対話的で深い学びを基盤とし、事例研究やグループワーク、ロールプレイ、振り返りなどを通して実践的指導力を育成するものである。授業は、導入・講義・演習・発表・振り返りという流れで構成され、理論と実践を往還しながら学習を深めていく問題提起教員が事例やテーマを提示、学習課題を明確にする①理論の説明（講義）生徒指導・進路指導の基本理論、心理・発達・制度の理解②展開（アクティブラーニング）事例研究にてケースを分析、原因・問題点を整理③グループワーク対応策を議論、意見を共有④ロール

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
教科書や資料の事前読解を行い、重要なキーワードや概念を整理するとともに、事例に対する自分なりの考えを持つことが重要である。また、自身の経験と関連づけて振り返り、疑問点を明確にして授業に臨むこと。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３(体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度30%、ワーク内での取り組み方とその姿勢20%、試験50%

＜教科書＞
文部科学省　2022.12　生徒指導提要　東洋出版
2024.06.20　原田 恵理子／森山 賢一 編著　最新生徒指導論（改訂版）最新進路指導論（改訂版）　大学教育出版

＜参考書＞
文部科学省

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション・ガイダンス・科目の全体像	授業の目的・評価方法の説明生徒指導と進路指導の関係性、現代の学校教育における位置づけなどについて
2	生徒指導の意義と原理	生徒指導の定義と目的並びに全人的発達の支援教育課程との関連
3	発達理解と生徒理解	発達段階（児童期・思春期）の特徴個人差の理解とアセスメントの基礎
4	生徒指導の方法と技法	個別指導と集団指導、予防的・開発的指導とカウンセリング技法について
5	学級経営と生徒指導	学級づくりの基本、ルール形成と規律、教師と生徒の信頼関係、生徒指導としてのサポート
6	問題行動への対応①（いじめ）	いじめの構造と要因の早期発見・早期対応、初動の大切さ、学校組織としての対応
7	問題行動への対応②（不登校・非行）	不登校の要因と支援、非行・逸脱行動への理解、外部機関との連携
8	問題行動への対応③（重大事件への対応）	生徒指導と学校危機管理との関係　発生初動から解決までのプロセスを学校経営の観点から考える
9	教育相談とカウンセリング	教育相談の基本　面談技法（傾聴・共感）カウンセラーとの連携
10	進路指導の意義と理論	進路指導の歴史と役割、キャリア教育の考え方と自己理解・職業理解

11	キャリア教育の実践	キャリア教育の目標と内容における学校段階別の指導文部科学省の施策との関係
12	進路選択と意思決定支援	進路選択のプロセス、意思決定理論に対する進路相談の進め方
13	進路指導の方法と実践	面接指導・進路面談の進学・就職指導とインターンシップ・職場体験
14	現代的課題と多様な支援	多様な生徒への対応(特別支援教育など)とグローバル化・ICT社会など新たな進路・家庭・地域との連携について
15		
16		

科目コード	21215				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	生徒指導・進路指導論［PP2522組用］				担当者名	久田　孝			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
「生徒指導・進路指導論」は、主に教職課程で履修される重要科目で、学校現場における生徒支援の理論と実践を体系的に学びます。内容は大きく「生徒指導」と「進路指導・キャリア教育」の2本柱で構成され、単なる問題対応ではなく、生徒一人ひとりの人生を支える教育の中核的分野で、教師に求められる「人間理解力」と「支援力」を理論と実践の両面から養う科目である。① 生徒指導の基礎理論生徒指導の定義と目的、学校教育における役割、発達段階に応じた指導（小・中・高の違い）② 生徒理解と支援発達心理（思春期の特徴など）、個別支援の方

＜授業の到達目標＞
「生徒指導・進路指導論」における到達目標は、単なる知識理解にとどまらず、「現場で実際に使える力」を身につけること。児童・生徒の成長を多面的に支え、適切な指導・支援ができる教師になる基礎力を身につけることが目標である。

＜授業の方法＞
単なる講義だけでなく、実際の教育現場を想定した“体験的・実践的な学び”が重視されるのが特徴です。本授業では、理論（知識）＋実践（体験）＋振り返りを組み合わせて学ぶ。① 講義（理論の理解）生徒指導・進路指導の基本概念、児童生徒の発達段階や心理的特徴それに合わせて教育制度や指導の枠組みを知り現場での判断の「根拠」となる理論を理解する② 事例研究（ケーススタディ）実際の教育現場で起こるようなケースを扱ういじめ問題、不登校、進路選択に悩む生徒などの事例の問題点を整理、原因を分析、対応策を考える③ グループワーク・

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有主体的・対話的で深い学びを基盤とし、事例研究やグループワーク、ロールプレイ、振り返りなどを通して実践的指導力を育成するものである。授業は、導入・講義・演習・発表・振り返りという流れで構成され、理論と実践を往還しながら学習を深めていく問題提起教員が事例やテーマを提示、学習課題を明確にする①理論の説明（講義）生徒指導・進路指導の基本理論、心理・発達・制度の理解②展開（アクティブラーニング）事例研究にてケースを分析、原因・問題点を整理③グループワーク対応策を議論、意見を共有④ロール

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
教科書や資料の事前読解を行い、重要なキーワードや概念を整理するとともに、事例に対する自分なりの考えを持つことが重要である。また、自身の経験と関連づけて振り返り、疑問点を明確にして授業に臨むこと。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３(体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度30%、ワーク内での取り組み方とその姿勢20%、試験50%

＜教科書＞
文部科学省　2022.12　生徒指導提要　東洋出版
2024.06.20　原田 恵理子／森山 賢一 編著　最新生徒指導論（改訂版）最新進路指導論（改訂版）　大学教育出版

＜参考書＞
文部科学省

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション・ガイダンス・科目の全体像	授業の目的・評価方法の説明生徒指導と進路指導の関係性、現代の学校教育における位置づけなどについて
2	生徒指導の意義と原理	生徒指導の定義と目的並びに全人的発達の支援教育課程との関連
3	発達理解と生徒理解	発達段階（児童期・思春期）の特徴個人差の理解とアセスメントの基礎
4	生徒指導の方法と技法	個別指導と集団指導、予防的・開発的指導とカウンセリング技法について
5	学級経営と生徒指導	学級づくりの基本、ルール形成と規律、教師と生徒の信頼関係、生徒指導としてのサポート
6	問題行動への対応①（いじめ）	いじめの構造と要因の早期発見・早期対応、初動の大切さ、学校組織としての対応
7	問題行動への対応②（不登校・非行）	不登校の要因と支援、非行・逸脱行動への理解、外部機関との連携
8	問題行動への対応③（重大事件への対応）	生徒指導と学校危機管理との関係　発生初動から解決までのプロセスを学校経営の観点から考える
9	教育相談とカウンセリング	教育相談の基本　面談技法（傾聴・共感）カウンセラーとの連携
10	進路指導の意義と理論	進路指導の歴史と役割、キャリア教育の考え方と自己理解・職業理解

11	キャリア教育の実践	キャリア教育の目標と内容における学校段階別の指導文部科学省の施策との関係
12	進路選択と意思決定支援	進路選択のプロセス、意思決定理論に対する進路相談の進め方
13	進路指導の方法と実践	面接指導・進路面談の進学・就職指導とインターンシップ・職場体験
14	現代的課題と多様な支援	多様な生徒への対応(特別支援教育など)とグローバル化・ICT社会など新たな進路・家庭・地域との連携について
15		
16		

科目コード	21306				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	英語科教育法Ⅲ(発展)				担当者名	竹下　厚志／伊藤　仁美			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本授業は、教育実習を翌年に控えた学生を対象に、PPP（Presentation, Practice, Production）の枠組みを用いた模擬授業と、ALACTモデルや８つの問いに基づく深い省察を通じて「実践的指導力」の基礎を確立することをねらいとする。 受講者は3人1組のTT（チームティーチング）体制を組み、学期を通じて2回の模擬授業を行う。授業内では、模擬授業の実施と、観察事実や感情の波に基づくリフレクション・セッションを集中して行う。授業外では、録画された自身の授業映像を確認しながら、「指導案をど

＜授業の到達目標＞

(1) PPPの枠組みを理解し、TT（チームティーチング）で各フェーズのつながりのある10分間の模擬授業を遂行できる。(2)「ALACTモデル」、「8つの問い」、および「感情の波」や「事実」の分析を用い、指導上の本質的な原因を特定した上で、自らの指導案を具体的に修正・アップデートできる。(3) 他者の実践に対し、評価ではなく「事実」に基づいた建設的なフィードバックを行い、学び合う姿勢が身についている。

＜授業の方法＞

合計100分(1) 模擬授業(A)・(B)：各15分×2組（計30分）(2) 振り返りセッション(A)・(B)：各30分×2組（計60分）(3) 各自の模擬授業動画を視聴し、指導案の赤字修正とポートフォリオを記入する（10分）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

あり。模擬授業　ディスカッション　グループワーク

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の指導内容の事前学習（１時間程度）、模擬授業の準備（２時間程度）復習：英語トレーニング（毎日２時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー３（初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー５（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

模擬授業の実践と指導案の改善（50%）、ポートフォリオ（30%）、授業への貢献度（20%）

＜教科書＞

＜参考書＞

特に指定なし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の進め方、模擬授業の運営方法、リフレクションとポートフォリオについて
2	PPPとTTの設計	PPPの構成、ティームティーチングについて
3	模擬授業の準備（1）	マイクロ・ティームティーチングに向けて指導案（本時）作成と準備練習１
4	模擬授業の準備（2）	マイクロ・ティームティーチングに向けて指導案（本時）作成と準備練習２
5	模擬授業（1-1）	マイクロ・ティームティーチング１
6	模擬授業（1-2）	マイクロ・ティームティーチング２
7	模擬授業（1-3）	マイクロ・ティームティーチング３
8	模擬授業（1-4）	マイクロ・ティームティーチング４
9	予備枠・中間リフレクション	共通の課題の提示、２回目の模擬授業に向けた目標設定
10	模擬授業（2-1）	マイクロ・ティームティーチング５
11	模擬授業（2-2）	マイクロ・ティームティーチング６
12	模擬授業（2-3）	マイクロ・ティームティーチング７
13	模擬授業（2-4）	マイクロ・ティームティーチング８
14	まとめ	全体総括、ポートフォリオの完成
15		
16		

科目コード	21307				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	英語科教育法Ⅳ(実践)				担当者名	竹下　厚志／伊藤　仁美			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業は、教科書の題材について、学習者とやり取りしながら授業を実践する力を養う科目である。文部科学省の学習指導要領における「読むこと」の目標を基盤に、教科書の題材を深く分析し、生徒が題材に強い興味を持ち、主体的に読み進めるための「Pre-reading での発問」と、英語による「オーラル・イントロダクション）」を指導の柱とする。また、授業の全体像を把握できる学習指導案を作成することも本授業のねらいとする。さらには、指導案の作成・模擬授業の実施、省察を通じて、自律的に授業改善を継続できる「省察的実践家」として

＜授業の到達目標＞
・導入授業を実践できるようになる。・学習指導案を作成できるようになる。・自らの授業を客観的に分析し、的確に改善できるようになる。・ 役割（運営・観察・生徒役）を全うし、建設的なフィードバックができるようになる。

＜授業の方法＞
模擬授業の実践40%、指導案の作成30%、ポートフォリオと省察（20%）、授業への貢献度（10%）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有り。模擬授業の実施、省察、ディスカッションなど

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：翌週の指導内容の事前学習（１時間程度）、模擬授業の準備（２時間程度）復習：英語トレーニング（毎日２時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー５（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
模擬授業の実践40%、指導案の作成30%、ポートフォリオと省察（20%）、授業への貢献度（10%）

＜教科書＞

＜参考書＞
特に指定なし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授授業の進め方、模擬授業の運営方法、リフレクションとポートフォリオについて
2	リーディング指導の理論	学習指導要領「読むこと」の目標確認、リーディング指導の理論
3	発問づくり（1）	発問で展開される授業の動画視聴、発問の種類を確認
4	発問づくり（2）	教科書の分析、発問作成
5	オーラルイントロダクション（1）	教科書の題材を活用したオーラルイントロダクションの中間評価１
6	オーラルイントロダクション（2）	教科書の題材を活用したオーラルイントロダクションの中間評価２
7	学習指導案の作成（1）	指導案の構成を確認、指導案の作成方法１：単元の目標と評価規準、単元構想
8	学習指導案の作成（2）	指導案の作成方法２：単元観、生徒観、指導観
9	学習指導案の作成（3）	指導案の作成方法３：本時の展開、想定される生徒の反応、本時の評価（見取り）の計画
10	模擬授業（1）	模擬授業の実施・省察１
11	模擬授業（2）	模擬授業の実施・省察２
12	模擬授業（3）	模擬授業の実施・省察３
13	模擬授業（4）	模擬授業の実施・省察４
14	まとめ	全体総括、ポートフォリオの完成
15		
16		

科目コード	21328				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	教育課程論［週間オンデマンド］				担当者名	小川　雄太			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
教育課程は児童・生徒に何を教えていくかを決定づけるもので、各学校は児童・生徒の実情を踏まえて教育課程を編成することが求められている。本科目においては中学校、高等学校、特別支援学校の教諭及び教育委員会事務局の指導主事としての経験のある担当者による学校現場に即した具体的な講義内容によって、教育課程についての力量を身につけることができる。教育課程を体系的に理解した後、防災教育をはじめとする今日的な教育課題を中心とする教育課程の編成等についての理解を深めていく。

＜授業の到達目標＞
・日本における教育課程の歴史的な変遷を説明できる。・教育課程の意義や編成の方法を学び、カリキュラム・マネジメントを説明できる。・学校現場における教育課程の編成や改善の実際について説明できる。

＜授業の方法＞
講義においては、パワーポイント資料、ワークシート等を使用する。講義の時間とグループ討議や発表の時間を半々程度にする予定。なお、Googleクラスルームを活用して、課題の管理、資料等の配布を行うため受講に際してはパソコンを必携とする。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
学習内容を踏まえた各自のリフレクション（振り返り）の要旨を全体で共有する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
受講前後において、各自で予習及び復習を行う必要がある。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
〞この科目は、学科のディプロマポリシー３(体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。〞

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度・小課題・レポート課題等によって評価する。レポート課題（教育課程の作成）については講義で詳細を説明する。

＜教科書＞
中原朋生・池田隆英・楠本恭之　『なぜからはじめるカリキュラム論』　建帛社
2024年4月

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	本科目の概要説明、学習指導要領、カリキュラム基礎理論
2	日本における教育課程の歴史と理論１	日本における教育課程の歴史と理論、社会的背景等
3	日本における教育課程の歴史と理論２	日本における教育課程の歴史と理論、社会的背景等
4	日本における教育課程の歴史と理論３	日本における教育課程の歴史と理論、社会的背景等
5	欧米における教育課程の形成１	欧米における教育課程の歴史等
6	欧米における教育課程の形成２	欧米における教育課程の歴史等
7	学習指導指導要領の変遷１	学習指導要領の変遷、社会的背景等
8	学習指導指導要領の変遷２	学習指導要領の変遷、社会的背景等
9	学習指導要領の変遷３	学習指導要領の変遷、社会的背景等
10	教科カリキュラム１	教育の目的・目標、各教科の目標、指導計画等
11	教科カリキュラム２	教育の目的・目標、各教科の目標、指導計画等
12	教科カリキュラム３	教育の目的・目標、各教科の目標、指導計画等
13	さまざまな教育課題を中心とする教育課程（カリキュラム・マネジメント）１	現在の教育課題、教育課程編成の実際等
14	さまざまな教育課題を中心とする教育課程（カリキュラム・マネジメント）２	現在の教育課題、教育課程編成の実際等
15		
16		

科目コード	21329				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	道徳教育の理論及び指導法［FE2421組用］				担当者名	木野　正一郎			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業では、初等・中等学校における道徳教育の内容や指導法について理論的に理解し、初等・中等学校の教員として確実に道徳教育の実践を行うために必要な資質・能力（コンピテンシー）を育成することをめざす。現代社会は価値の多様化社会とも呼ばれ、自分の生き方や他者との関係の在り方等がきわめて不明確となりやすい傾向にある。それだけに、初等・中等学校における道徳教育はきわめて重要な課題であり、豊かな人間性を育成するための指導力の向上は不可欠なものであると考える。（注）「学校の教育活動全体で行う道徳教育」ならびに「特別の教

＜授業の到達目標＞
「特別の教科　道徳」を要として、「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育（学習指導要領「第１章総則」の２）」の意義と目標を踏まえ、道徳教育や道徳科の内容と方法について基礎的な知識を学ぶだけでなく、学習指導案の作成や模擬授業の実施等に取り組むことによって、実践的指導力を培うことができるようにする。めざす姿は、子ども自らが主体的・対話的に仲間と共に「考え議論する」ような道徳科の探究的な学習を授業設計し、その評価を効果測定によって自己分析できるようにすることである。本講義では、従来型の「徳目主義」・「読み物道徳

＜授業の方法＞
課題や資料は、授業時に配布する(欠席者・実習参加者にも課題を課すため、Googleクラスルームでも配信する。著作権法・肖像権法の関係で他に流出しないように注意すること)。授業では、「学校の教育活動全体で行う道徳教育」の概要や「特別の教科　道徳」の指導方法について理解したことを、ミニレポートにまとめたり、グループワークで伝えあったりしながら理解を深める(両者ともに課題として評価する)。また、実践的指導力の向上を図るために「特別の教科　道徳」の学習指導案（オリジナルの問題解決型学習）を授業設計する。さらに、自

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素あり＜内容＞・理論編では、随時、ペアワーク、グループワークを行う。・実践編では、担当教員の実践事例を学生が行う際に、心情分析、SWOT分析、マトリックス分析、イメージマップ分析等のワークショップを行う。・授業設計編では、学習指導案（すべての講義内容を反映させたオリジナルの問題解決型学習を設計）の制作を演習的に行う。・授業分析編では、自ら作成したオリジナル指導案を仲間に紹介し、相互評価を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
＜事前＞講義内容の概要を自分なりに把握する努力を行うと同時に、疑問点などを探っておく（所用時間は30分～１時間程度）。＜事後＞講義内容についての課題を出すので、自分の経験と結びつけて回答する（所用時間は１時間程度／400字～600字／＊評価の観点・基準は下記参照）。＜事中＞　①授業中は、集中力を高めるためメモを取ることを勧める（ノートやメモ点はハイクオリティなものは加点する）。②実践編で行う各種ワークショップに参加する（＊評価の観点・基準は下記参照）。③授業設計編では学習指導案制作を行い、授業紹介時には授

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
＜評価対象＞①毎回の課題（必須）…　毎回10点で評価する（最終的に評点70点分の算定基礎とする）。②毎回のノート、メモ（任意）…　クオリティの高いものは、加点する。③アクティブラーニングの参加状況（必須）…　実践編のアクティブラーニングでの参加意欲、発言内容等を、毎回10点で評価（最終的に評点70点分の算定基礎とする）。④オリジナルの問題解決型学習指導案のクオリティ（必須）…　すべての講義で学んだ理論・社会背景などを加味した内容になっているかを30点分で評価する（最終的に評点30点分の算定基礎とする）。＜

＜教科書＞
木野正一郎著（2016年）　『新発想！道徳のアクティブ・ラーニング型授業はこれだ』　みくに出版株式会社
文部科学省（平成29年7月）　『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科道徳編：平成29年7月』　あかつき教育図書
文部科学省（2018年3月）　『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科道徳編：平成29年7月』　教育出版

＜参考書＞
押谷由夫（2011年）　『道徳性形成・徳育論』　NHK出版（一般財団法人　放送大学教育振興会）
栁沼良太著（2019年）　『プラグマティズム、公共、道徳』　株式会社　あいり出版
栁沼良太・梅澤真一・山田誠著（2018年）　『「現代的な課題」に取り組む道徳授業』　株式会社　図書文化社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	・ガイダンス・道徳教育とは何か　ー道徳教育の理論と実践を学ぶにあたってー	アリストテレスの「人間はポリス的動物である」という問いから、社会になぜ道徳教育が必要なのか、その理由を考える。(キーワード：アリストテレスの中庸論、道と

		徳、仏教の八正道、カントの実践理性と自由意志論（第2回に回る可能性あり）） なぜ「特別の教科　道徳」が設置されたのかを、いのちの尊厳を守るという視点との
2	・道徳教育の現状と課題　－いのちの尊厳を守る道徳教育－	関連で考える。（キーワード：大津いじめ事件、いじめ防止対策推進法、情報モラル教育、「学校の教育活動全体で行う道徳教育」と「特別の教科　道徳」）
3	・学習指導要領の理解Ⅰ　－「学校の教育活動全体で行う道徳教育」「特別の教科道徳」の目標・内容・指導上の留意点－	学習指導要領「特別の教科　道徳」が設置された意味の面からその理念を理解し、道徳教育のカリキュラム的な構造を理解する。各教科・各領域の中で行う道徳教育を構想する。（キーワード：「要」規定、価値の葛藤（モラル・ジレンマ）、考え議論する道徳、道徳性の三側面形成理論）
4	・学習指導要領の理解Ⅱ－道徳的価値の内容項目・全体計画・指導計画－	道徳的価値の内容項目（最大で22項目）を、項目ごとに「考え議論する道徳」を構想する。学習指導要領の解説を見て、道徳的価値の内容項目から単元や授業の目標を作る。（キーワード：道徳的価値の内容項目（低学年19項目、中学年20項目、高学年22項目、中学生22項目）、道徳教育推進教諭、全体計画、指導計画、評価の在り方）
5	・道徳教育の歴史と課題Ⅰ　－古代思想から近世まで－	日本における道徳教育の変遷史を儒教や商人倫理との関係でおさえ、時代ごとに要請された道徳教育観（道徳的価値の生成過程）を学ぶ。（キーワード：諸子百家の思想（儒家・墨家・道家・法家）、商人倫理、朱子学）
6	・道徳教育の歴史と課題Ⅱ　－近世から現代まで－	日本における道徳教育の変遷史を、日本の近代化から現代の道徳教育の範囲で学ぶ。（キーワード：翻訳道徳、教学聖旨、元田永孚、教育勅語、修身科、戦後の教育改革・民主化、社会科道徳、「学校の教育活動全体で行う道徳教育」、道徳の時間、「特別の教科　道徳」）
7	・道徳性の発達理論を踏まえた道徳教育の編成原理Ⅰ　－発達心理学編－	発達心理学の理論を学び、発達段階に応じた道徳教育の在り方を考える。（キーワード：発達心理学、ピアジェ、認知発達理論、エリクソン、アイデンティティの確立、アイデンティティの危機）
8	・道徳性の発達理論を踏まえた道徳教育の編成原理Ⅱ　－道徳性の発達心理学・社会心理学編－	発達心理学の理論を学び、道徳性の発達を加味した道徳教育の在り方を考える。（キーワード：コールバーグ、6段階道徳性発達理論、デゥルケーム、社会心理学、アノミー）
9	・道徳教育の理論と方法Ⅰ＜実践の体験＞　－「小単元ユニット型・問題解決型ワークショップ道徳」を体験する－	教科で行う道徳教育を受けて、「特別の教科　道徳」が道徳教育の要として、補い，深め，．相互の関連を考えて発展・統合させるための授業の在り方を担当教員の実践事例から体験的に学ぶ。（キーワード：道徳性の三側面形成理論、問題解決型道徳、教科で行う道徳教育、心情理解ワークショップ、長短分析ワークショップ(マトリックス法・イメージマッピング)、実生活ブレイクダウン・ワークショップ、道徳はがき新聞）
10	・道徳教育の理論と方法Ⅰ＜実践の体験＞　－「小単元ユニット型・問題解決型ワークショップ道徳」を体験する－（つづき）・道徳教育の理論と方法Ⅱ＜実践の体験＞　－SDGsや国際理解教育に関連する「小単元ユニット型・問題解決型ワークショップ道徳」を体験する－	・教科で行う道徳教育を受けて、「特別の教科　道徳」が道徳教育の要として、補い，深め，．相互の関連を考えて発展・統合させるための授業の在り方を担当教員の実践事例から体験的に学ぶ。（キーワード：道徳性の三側面形成理論、問題解決型道徳、教科で行う道徳教育、心情理解ワークショップ、長短分析ワークショップ(マトリックス法・イメージマッピング)、実生活ブレイクダウン・ワークショップ、道徳はがき新聞）・教科で行う道徳教育を受けて、「特別の教科　道徳」が道徳教育の要として、補い，深め，．相互の関連を考えて発展・統合さ
11	・道徳教育の理論と方法Ⅱ＜実践の体験＞　－SDGsや国際理解教育に関連する「小単元ユニット型・問題解決型ワークショップ道徳」を体験する－（つづき）	・教科で行う道徳教育を受けて、「特別の教科　道徳」が道徳教育の「要」として、補い、深め、相互の関連を考えて発展・統合させるための授業の在り方を担当教員の実践事例から体験的に学ぶ。（注）ここでは、「国際理解・国際親善」という道徳的価値を教えるための素地を学修する。（キーワード：問題解決型道徳、総合探究型道徳、ソクラテス的対話、SWOT分析ワークショップ、ミニ国連ワークショップ(マトリックス法・イメージマッピング）、SDGs、「SDGs探究」道徳はがき新聞）
12	・問題解決型道徳、総合探究型道徳の構想Ⅰ＜指導案制作の体験＞　－小学校高学年のある教材を研究する－	小学校高学年のある教材をもとに、従来型の道徳教育（徳目主義・読み物道徳）を理解した上で、「特別の教科　道徳」が求めている「考え議論する道徳」（問題解決型道徳、総合探究型道徳)を作る。この際、これまでの授業で学んだ知識・スキルをフル活用する。（作業行程：教材の把握⇒従来型の方法論理解⇒「考え議論する道徳」のアイディアづくり⇒単元目標づくり⇒三観点・評価軸づくり（つづく））
13	・問題解決型道徳、総合探究型道徳の構想Ⅱ＜指導案制作の体験＞　－小学校高学年のある教材をもとに指導案に落とし込む－	小学校高学年のある教材をもとに、従来型の道徳教育（徳目主義・読み物道徳）を理解した上で、「特別の教科　道徳」が求めている「考え議論する道徳」（問題解決型道徳、総合探究型道徳)を作る。この際、これまでの授業で学んだ知識・スキルをフル活用する。（作業行程：⇒教材観づくり（小単元ユニットに挑戦する人は単元観づくり）⇒指導上の留意点づくり⇒授業目標づくり⇒「考え議論する道徳」のオリジナル授業の展開づくり（つづく））
14	・問題解決型道徳、総合探究型道徳の構想Ⅲ＜指導案制作の体験＞　－小学校高学年のある教材をもとに指導案を完成させる－	小学校高学年のある教材をもとに、従来型の道徳教育（徳目主義・読み物道徳）を理解した上で、「特別の教科　道徳」が求めている「考え議論する道徳」（問題解決型道徳、総合探究型道徳)を完成させる。この際、これまでの授業で学んだ知識・スキルをフル活用する。（作業行程：⇒教材観づくり（小単元ユニットに挑戦する人は単元観づくり）⇒指導上の留意点づくり⇒授業目標づくり⇒「考え議論する道徳」のオリジナル授業の展開づくり（完成））
15		
16		

科目コード	21329				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	道徳教育の理論及び指導法［FE2422組用］				担当者名	木野　正一郎			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業では、初等・中等学校における道徳教育の内容や指導法について理論的に理解し、初等・中等学校の教員として確実に道徳教育の実践を行うために必要な資質・能力（コンピテンシー）を育成することをめざす。現代社会は価値の多様化社会とも呼ばれ、自分の生き方や他者との関係の在り方等がきわめて不明確となりやすい傾向にある。それだけに、初等・中等学校における道徳教育はきわめて重要な課題であり、豊かな人間性を育成するための指導力の向上は不可欠なものであると考える。（注）「学校の教育活動全体で行う道徳教育」ならびに「特別の教

＜授業の到達目標＞
「特別の教科　道徳」を要として、「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育（学習指導要領「第１章総則」の２）」の意義と目標を踏まえ、道徳教育や道徳科の内容と方法について基礎的な知識を学ぶだけでなく、学習指導案の作成や模擬授業の実施等に取り組むことによって、実践的指導力を培うことができるようにする。めざす姿は、子ども自らが主体的・対話的に仲間と共に「考え議論する」ような道徳科の探究的な学習を授業設計し、その評価を効果測定によって自己分析できるようにすることである。本講義では、従来型の「徳目主義」・「読み物道徳

＜授業の方法＞
課題や資料は、授業時に配布する(欠席者・実習参加者にも課題を課すため、Googleクラスルームでも配信する。著作権法・肖像権法の関係で他に流出しないように注意すること)。授業では、「学校の教育活動全体で行う道徳教育」の概要や「特別の教科　道徳」の指導方法について理解したことを、ミニレポートにまとめたり、グループワークで伝えあったりしながら理解を深める(両者ともに課題として評価する)。また、実践的指導力の向上を図るために「特別の教科　道徳」の学習指導案（オリジナルの問題解決型学習）を授業設計する。さらに、自

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素あり＜内容＞・理論編では、随時、ペアワーク、グループワークを行う。・実践編では、担当教員の実践事例を学生が行う際に、心情分析、SWOT分析、マトリックス分析、イメージマップ分析等のワークショップを行う。・授業設計編では、学習指導案（すべての講義内容を反映させたオリジナルの問題解決型学習を設計）の制作を演習的に行う。・授業分析編では、自ら作成したオリジナル指導案を仲間に紹介し、相互評価を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
＜事前＞講義内容の概要を自分なりに把握する努力を行うと同時に、疑問点などを探っておく（所用時間は30分～１時間程度）。＜事後＞講義内容についての課題を出すので、自分の経験と結びつけて回答する（所用時間は１時間程度／400字～600字／＊評価の観点・基準は下記参照）。＜事中＞　①授業中は、集中力を高めるためメモを取ることを勧める（ノートやメモ点はハイクオリティなものは加点する）。②実践編で行う各種ワークショップに参加する（＊評価の観点・基準は下記参照）。③授業設計編では学習指導案制作を行い、授業紹介時には授

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
＜評価対象＞①毎回の課題（必須）…　毎回10点で評価する（最終的に評点70点分の算定基礎とする）。②毎回のノート、メモ（任意）…　クオリティの高いものは、加点する。③アクティブラーニングの参加状況（必須）…　実践編のアクティブラーニングでの参加意欲、発言内容等を、毎回10点で評価（最終的に評点70点分の算定基礎とする）。④オリジナルの問題解決型学習指導案のクオリティ（必須）…　すべての講義で学んだ理論・社会背景などを加味した内容になっているかを30点分で評価する（最終的に評点30点分の算定基礎とする）。＜

＜教科書＞
木野正一郎著（2016年）　『新発想！道徳のアクティブ・ラーニング型授業はこれだ』　みくに出版株式会社
文部科学省（平成29年7月）　『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科道徳編：平成29年7月』　あかつき教育図書
文部科学省（2018年3月）　『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科道徳編：平成29年7月』　教育出版

＜参考書＞
押谷由夫（2011年）　『道徳性形成・徳育論』　NHK出版（一般財団法人　放送大学教育振興会）
栁沼良太著（2019年）　『プラグマティズム、公共、道徳』　株式会社　あいり出版
栁沼良太・梅澤真一・山田誠著（2018年）　『「現代的な課題」に取り組む道徳授業』　株式会社　図書文化社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	・ガイダンス・道徳教育とは何か　ー道徳教育の理論と実践を学ぶにあたってー	アリストテレスの「人間はポリス的動物である」という問いから、社会になぜ道徳教育が必要なのか、その理由を考える。(キーワード：アリストテレスの中庸論、道と

		徳、仏教の八正道、カントの実践理性と自由意志論（第2回に回る可能性あり）） なぜ「特別の教科　道徳」が設置されたのかを、いのちの尊厳を守るという視点との
2	・道徳教育の現状と課題　－いのちの尊厳を守る道徳教育－	関連で考える。（キーワード：大津いじめ事件、いじめ防止対策推進法、情報モラル教育、「学校の教育活動全体で行う道徳教育」と「特別の教科　道徳」）
3	・学習指導要領の理解Ⅰ　－「学校の教育活動全体で行う道徳教育」「特別の教科道徳」の目標・内容・指導上の留意点－	学習指導要領「特別の教科　道徳」が設置された意味の面からその理念を理解し、道徳教育のカリキュラム的な構造を理解する。各教科・各領域の中で行う道徳教育を構想する。（キーワード：「要」規定、価値の葛藤（モラル・ジレンマ）、考え議論する道徳、道徳性の三側面形成理論）
4	・学習指導要領の理解Ⅱ－道徳的価値の内容項目・全体計画・指導計画－	道徳的価値の内容項目（最大で22項目）を、項目ごとに「考え議論する道徳」を構想する。学習指導要領の解説を見て、道徳的価値の内容項目から単元や授業の目標を作る。（キーワード：道徳的価値の内容項目（低学年19項目、中学年20項目、高学年22項目、中学生22項目）、道徳教育推進教諭、全体計画、指導計画、評価の在り方）
5	・道徳教育の歴史と課題Ⅰ　－古代思想から近世まで－	日本における道徳教育の変遷史を儒教や商人倫理との関係でおさえ、時代ごとに要請された道徳教育観（道徳的価値の生成過程）を学ぶ。（キーワード：諸子百家の思想（儒家・墨家・道家・法家）、商人倫理、朱子学）
6	・道徳教育の歴史と課題Ⅱ　－近世から現代まで－	日本における道徳教育の変遷史を、日本の近代化から現代の道徳教育の範囲で学ぶ。（キーワード：翻訳道徳、教学聖旨、元田永孚、教育勅語、修身科、戦後の教育改革・民主化、社会科道徳、「学校の教育活動全体で行う道徳教育」、道徳の時間、「特別の教科　道徳」）
7	・道徳性の発達理論を踏まえた道徳教育の編成原理Ⅰ　－発達心理学編－	発達心理学の理論を学び、発達段階に応じた道徳教育の在り方を考える。（キーワード：発達心理学、ピアジェ、認知発達理論、エリクソン、アイデンティティの確立、アイデンティティの危機）
8	・道徳性の発達理論を踏まえた道徳教育の編成原理Ⅱ　－道徳性の発達心理学・社会心理学編－	発達心理学の理論を学び、道徳性の発達を加味した道徳教育の在り方を考える。（キーワード：コールバーグ、6段階道徳性発達理論、デゥルケーム、社会心理学、アノミー）
9	・道徳教育の理論と方法Ⅰ＜実践の体験＞　－「小単元ユニット型・問題解決型ワークショップ道徳」を体験する－	教科で行う道徳教育を受けて、「特別の教科　道徳」が道徳教育の要として、補い，深め，．相互の関連を考えて発展・統合させるための授業の在り方を担当教員の実践事例から体験的に学ぶ。（キーワード：道徳性の三側面形成理論、問題解決型道徳、教科で行う道徳教育、心情理解ワークショップ、長短分析ワークショップ(マトリックス法・イメージマッピング)、実生活ブレイクダウン・ワークショップ、道徳はがき新聞）
10	・道徳教育の理論と方法Ⅰ＜実践の体験＞　－「小単元ユニット型・問題解決型ワークショップ道徳」を体験する－（つづき）・道徳教育の理論と方法Ⅱ＜実践の体験＞　－SDGsや国際理解教育に関連する「小単元ユニット型・問題解決型ワークショップ道徳」を体験する－	・教科で行う道徳教育を受けて、「特別の教科　道徳」が道徳教育の要として、補い，深め，．相互の関連を考えて発展・統合させるための授業の在り方を担当教員の実践事例から体験的に学ぶ。（キーワード：道徳性の三側面形成理論、問題解決型道徳、教科で行う道徳教育、心情理解ワークショップ、長短分析ワークショップ(マトリックス法・イメージマッピング)、実生活ブレイクダウン・ワークショップ、道徳はがき新聞）・教科で行う道徳教育を受けて、「特別の教科　道徳」が道徳教育の要として、補い，深め，．相互の関連を考えて発展・統合さ
11	・道徳教育の理論と方法Ⅱ＜実践の体験＞　－SDGsや国際理解教育に関連する「小単元ユニット型・問題解決型ワークショップ道徳」を体験する－（つづき）	・教科で行う道徳教育を受けて、「特別の教科　道徳」が道徳教育の「要」として、補い、深め、相互の関連を考えて発展・統合させるための授業の在り方を担当教員の実践事例から体験的に学ぶ。（注）ここでは、「国際理解・国際親善」という道徳的価値を教えるための素地を学修する。（キーワード：問題解決型道徳、総合探究型道徳、ソクラテス的対話、SWOT分析ワークショップ、ミニ国連ワークショップ(マトリックス法・イメージマッピング）、SDGs、「SDGs探究」道徳はがき新聞）
12	・問題解決型道徳、総合探究型道徳の構想Ⅰ＜指導案制作の体験＞　－小学校高学年のある教材を研究する－	小学校高学年のある教材をもとに、従来型の道徳教育（徳目主義・読み物道徳）を理解した上で、「特別の教科　道徳」が求めている「考え議論する道徳」（問題解決型道徳、総合探究型道徳)を作る。この際、これまでの授業で学んだ知識・スキルをフル活用する。（作業行程：教材の把握⇒従来型の方法論理解⇒「考え議論する道徳」のアイディアづくり⇒単元目標づくり⇒三観点・評価軸づくり（つづく））
13	・問題解決型道徳、総合探究型道徳の構想Ⅱ＜指導案制作の体験＞　－小学校高学年のある教材をもとに指導案に落とし込む－	小学校高学年のある教材をもとに、従来型の道徳教育（徳目主義・読み物道徳）を理解した上で、「特別の教科　道徳」が求めている「考え議論する道徳」（問題解決型道徳、総合探究型道徳)を作る。この際、これまでの授業で学んだ知識・スキルをフル活用する。（作業行程：⇒教材観づくり（小単元ユニットに挑戦する人は単元観づくり）⇒指導上の留意点づくり⇒授業目標づくり⇒「考え議論する道徳」のオリジナル授業の展開づくり（つづく））
14	・問題解決型道徳、総合探究型道徳の構想Ⅲ＜指導案制作の体験＞　－小学校高学年のある教材をもとに指導案を完成させる－	小学校高学年のある教材をもとに、従来型の道徳教育（徳目主義・読み物道徳）を理解した上で、「特別の教科　道徳」が求めている「考え議論する道徳」（問題解決型道徳、総合探究型道徳)を完成させる。この際、これまでの授業で学んだ知識・スキルをフル活用する。（作業行程：⇒教材観づくり（小単元ユニットに挑戦する人は単元観づくり）⇒指導上の留意点づくり⇒授業目標づくり⇒「考え議論する道徳」のオリジナル授業の展開づくり（完成））
15		
16		

科目コード	21329				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	道徳教育の理論及び指導法［PP2431組用、PS2421組用］				担当者名	木野　正一郎			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本授業では、初等・中等学校における道徳教育の内容や指導法について理論的に理解し、初等・中等学校の教員として確実に道徳教育の実践を行うために必要な資質・能力（コンピテンシー）を育成することをめざす。現代社会は価値の多様化社会とも呼ばれ、自分の生き方や他者との関係の在り方等がきわめて不明確となりやすい傾向にある。それだけに、初等・中等学校における道徳教育はきわめて重要な課題であり、豊かな人間性を育成するための指導力の向上は不可欠なものであると考える。（注）「学校の教育活動全体で行う道徳教育」ならびに「特別の教

＜授業の到達目標＞

「特別の教科　道徳」を要として、「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育（学習指導要領「第１章総則」の２）」の意義と目標を踏まえ、道徳教育や道徳科の内容と方法について基礎的な知識を学ぶだけでなく、学習指導案の作成や模擬授業の実施等に取り組むことによって、実践的指導力を培うことができるようにする。めざす姿は、子ども自らが主体的・対話的に仲間と共に「考え議論する」ような道徳科の探究的な学習を授業設計し、その評価を効果測定によって自己分析できるようにすることである。本講義では、従来型の「徳目主義」・「読み物道徳

＜授業の方法＞

課題や資料は、授業時に配布する(欠席者・実習参加者にも課題を課すため、Googleクラスルームでも配信する。著作権法・肖像権法の関係で他に流出しないように注意すること)。授業では、「学校の教育活動全体で行う道徳教育」の概要や「特別の教科　道徳」の指導方法について理解したことを、ミニレポートにまとめたり、グループワークで伝えあったりしながら理解を深める(両者ともに課題として評価する)。また、実践的指導力の向上を図るために「特別の教科　道徳」の学習指導案（オリジナルの問題解決型学習）を授業設計する。さらに、自

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブラーニングの要素あり＜内容＞・理論編では、随時、ペアワーク、グループワークを行う。・実践編では、担当教員の実践事例を学生が行う際に、心情分析、SWOT分析、マトリックス分析、イメージマップ分析等のワークショップを行う。・授業設計編では、学習指導案（すべての講義内容を反映させたオリジナルの問題解決型学習を設計）の制作を演習的に行う。・授業分析編では、自ら作成したオリジナル指導案を仲間に紹介し、相互評価を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

＜事前＞講義内容の概要を自分なりに把握する努力を行うと同時に、疑問点などを探っておく（所用時間は30分～１時間程度）。＜事後＞講義内容についての課題を出すので、自分の経験と結びつけて回答する（所用時間は１時間程度／400字～600字／＊評価の観点・基準は下記参照）。＜事中＞　①授業中は、集中力を高めるためメモを取ることを勧める（ノートやメモ点はハイクオリティなものは加点する）。②実践編で行う各種ワークショップに参加する（＊評価の観点・基準は下記参照）。③授業設計編では学習指導案制作を行い、授業紹介時には授

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー２（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

＜評価対象＞①毎回の課題（必須）…　毎回10点で評価する（最終的に評点70点分の算定基礎とする）。②毎回のノート、メモ（任意）…　クオリティの高いものは、加点する。③アクティブラーニングの参加状況（必須）…　実践編のアクティブラーニングでの参加意欲、発言内容等を、毎回10点で評価（最終的に評点70点分の算定基礎とする）。④オリジナルの問題解決型学習指導案のクオリティ（必須）…　すべての講義で学んだ理論・社会背景などを加味した内容になっているかを30点分で評価する（最終的に評点30点分の算定基礎とする）。＜

＜教科書＞

木野正一郎著（2016年）　『新発想！道徳のアクティブ・ラーニング型授業はこれだ』　みくに出版株式会社
文部科学省（平成29年7月）　『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科道徳編：平成29年7月』　あかつき教育図書
文部科学省（2018年3月）　『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科道徳編：平成29年7月』　教育出版

＜参考書＞

押谷由夫（2011年）　『道徳性形成・徳育論』　NHK出版（一般財団法人　放送大学教育振興会）
栁沼良太著（2019年）　『プラグマティズム、公共、道徳』　株式会社　あいり出版
栁沼良太・梅澤真一・山田誠著（2018年）　『「現代的な課題」に取り組む道徳授業』　株式会社　図書文化社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	・ガイダンス・道徳教育とは何か　ー道	アリストテレスの「人間はポリス的動物である」という問いから、社会になぜ道徳教

	徳教育の理論と実践を学ぶにあたって－	育が必要なのか、その理由を考える。（キーワード：アリストテレスの中庸論、道と徳、仏教の八正道、カントの実践理性と自由意志論（第2回に回る可能性あり）） なぜ「特別の教科　道徳」が設置されたのかを、いのちの尊厳を守るという視点との関連で考える。（キーワード：大津いじめ事件、いじめ防止対策推進法、情報モラル教育、「学校の教育活動全体で行う道徳教育」と「特別の教科　道徳」）
2	・道徳教育の現状と課題　－いのちの尊厳を守る道徳教育－	
3	・学習指導要領の理解Ⅰ　－「学校の教育活動全体で行う道徳教育」「特別の教科道徳」の目標・内容・指導上の留意点－	学習指導要領「特別の教科　道徳」が設置された意味の面からその理念を理解し、道徳教育のカリキュラム的な構造を理解する。各教科・各領域の中で行う道徳教育を構想する。（キーワード：「要」規定、価値の葛藤（モラル・ジレンマ）、考え議論する道徳、道徳性の三側面形成理論）
4	・学習指導要領の理解Ⅱ－道徳的価値の内容項目・全体計画・指導計画－	道徳的価値の内容項目（最大で22項目）を、項目ごとに「考え議論する道徳」を構想する。学習指導要領の解説を見て、道徳的価値の内容項目から単元や授業の目標を作る。（キーワード：道徳的価値の内容項目（低学年19項目、中学年20項目、高学年22項目、中学生22項目）、道徳教育推進教諭、全体計画、指導計画、評価の在り方）
5	・道徳教育の歴史と課題Ⅰ　－古代思想から近世まで－	日本における道徳教育の変遷史を儒教や商人倫理との関係でおさえ、時代ごとに要請された道徳教育観（道徳的価値の生成過程）を学ぶ。（キーワード：諸子百家の思想（儒家・墨家・道家・法家）、商人倫理、朱子学）
6	・道徳教育の歴史と課題Ⅱ　－近世から現代まで－	日本における道徳教育の変遷史を、日本の近代化から現代の道徳教育の範囲で学ぶ。（キーワード：翻訳道徳、教学聖旨、元田永孚、教育勅語、修身科、戦後の教育改革・民主化、社会科道徳、「学校の教育活動全体で行う道徳教育」、道徳の時間、「特別の教科　道徳」）
7	・道徳性の発達理論を踏まえた道徳教育の編成原理Ⅰ　－発達心理学編－	発達心理学の理論を学び、発達段階に応じた道徳教育の在り方を考える。（キーワード：発達心理学、ピアジェ、認知発達理論、エリクソン、アイデンティティの確立、アイデンティティの危機）
8	・道徳性の発達理論を踏まえた道徳教育の編成原理Ⅱ　－道徳性の発達心理学・社会心理学編－	発達心理学の理論を学び、道徳性の発達を加味した道徳教育の在り方を考える。（キーワード：コールバーグ、6段階道徳性発達理論、デゥルケーム、社会心理学、アノミー）
9	・道徳教育の理論と方法Ⅰ＜実践の体験＞　－「小単元ユニット型・問題解決型ワークショップ道徳」を体験する－	教科で行う道徳教育を受けて、「特別の教科　道徳」が道徳教育の要として、補い，深め，．相互の関連を考えて発展・統合させるための授業の在り方を担当教員の実践事例から体験的に学ぶ。（キーワード：道徳性の三側面形成理論、問題解決型道徳、教科で行う道徳教育、心情理解ワークショップ、長短分析ワークショップ(マトリックス法・イメージマッピング)、実生活ブレイクダウン・ワークショップ、道徳はがき新聞）
10	・道徳教育の理論と方法Ⅰ＜実践の体験＞　－「小単元ユニット型・問題解決型ワークショップ道徳」を体験する－（つづき）・道徳教育の理論と方法Ⅱ＜実践の体験＞　－SDGsや国際理解教育に関連する「小単元ユニット型・問題解決型ワークショップ道徳」を体験する－	・教科で行う道徳教育を受けて、「特別の教科　道徳」が道徳教育の要として、補い，深め，．相互の関連を考えて発展・統合させるための授業の在り方を担当教員の実践事例から体験的に学ぶ。（キーワード：道徳性の三側面形成理論、問題解決型道徳、教科で行う道徳教育、心情理解ワークショップ、長短分析ワークショップ(マトリックス法・イメージマッピング)、実生活ブレイクダウン・ワークショップ、道徳はがき新聞）・教科で行う道徳教育を受けて、「特別の教科　道徳」が道徳教育の要として、補い，深め，．相互の関連を考えて発展・統合さ
11	・道徳教育の理論と方法Ⅱ＜実践の体験＞　－SDGsや国際理解教育に関連する「小単元ユニット型・問題解決型ワークショップ道徳」を体験する－（つづき）	・教科で行う道徳教育を受けて、「特別の教科　道徳」が道徳教育の「要」として、補い、深め、相互の関連を考えて発展・統合させるための授業の在り方を担当教員の実践事例から体験的に学ぶ。（注）ここでは、「国際理解・国際親善」という道徳的価値を教えるための素地を学修する。（キーワード：問題解決型道徳、総合探究型道徳、ソクラテス的対話、SWOT分析ワークショップ、ミニ国連ワークショップ(マトリックス法・イメージマッピング）、SDGs、「SDGs探究」道徳はがき新聞）
12	・問題解決型道徳、総合探究型道徳の構想Ⅰ＜指導案制作の体験＞　－小学校高学年のある教材を研究する－	小学校高学年のある教材をもとに、従来型の道徳教育（徳目主義・読み物道徳）を理解した上で、「特別の教科　道徳」が求めている「考え議論する道徳」（問題解決型道徳、総合探究型道徳)を作る。この際、これまでの授業で学んだ知識・スキルをフル活用する。（作業行程：教材の把握⇒従来型の方法論理解⇒「考え議論する道徳」のアイディアづくり⇒単元目標づくり⇒三観点・評価軸づくり（つづく））
13	・問題解決型道徳、総合探究型道徳の構想Ⅱ＜指導案制作の体験＞　－小学校高学年のある教材をもとに指導案に落とし込む－	小学校高学年のある教材をもとに、従来型の道徳教育（徳目主義・読み物道徳）を理解した上で、「特別の教科　道徳」が求めている「考え議論する道徳」（問題解決型道徳、総合探究型道徳)を作る。この際、これまでの授業で学んだ知識・スキルをフル活用する。（作業行程：⇒教材観づくり（小単元ユニットに挑戦する人は単元観づくり）⇒指導上の留意点づくり⇒授業目標づくり⇒「考え議論する道徳」のオリジナル授業の展開づくり（つづく））
14	・問題解決型道徳、総合探究型道徳の構想Ⅲ＜指導案制作の体験＞　－小学校高学年のある教材をもとに指導案を完成させる－	小学校高学年のある教材をもとに、従来型の道徳教育（徳目主義・読み物道徳）を理解した上で、「特別の教科　道徳」が求めている「考え議論する道徳」（問題解決型道徳、総合探究型道徳)を完成させる。この際、これまでの授業で学んだ知識・スキルをフル活用する。（作業行程：⇒教材観づくり（小単元ユニットに挑戦する人は単元観づくり）⇒指導上の留意点づくり⇒授業目標づくり⇒「考え議論する道徳」のオリジナル授業の展開づくり（完成））
15		
16		

科目コード	21329				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	道徳教育の理論及び指導法［PP2432組用、PS2422組用］				担当者名	木野　正一郎			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本授業では、初等・中等学校における道徳教育の内容や指導法について理論的に理解し、初等・中等学校の教員として確実に道徳教育の実践を行うために必要な資質・能力（コンピテンシー）を育成することをめざす。現代社会は価値の多様化社会とも呼ばれ、自分の生き方や他者との関係の在り方等がきわめて不明確となりやすい傾向にある。それだけに、初等・中等学校における道徳教育はきわめて重要な課題であり、豊かな人間性を育成するための指導力の向上は不可欠なものであると考える。（注）「学校の教育活動全体で行う道徳教育」ならびに「特別の教

＜授業の到達目標＞

「特別の教科　道徳」を要として、「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育（学習指導要領「第１章総則」の２）」の意義と目標を踏まえ、道徳教育や道徳科の内容と方法について基礎的な知識を学ぶだけでなく、学習指導案の作成や模擬授業の実施等に取り組むことによって、実践的指導力を培うことができるようにする。めざす姿は、子ども自らが主体的・対話的に仲間と共に「考え議論する」ような道徳科の探究的な学習を授業設計し、その評価を効果測定によって自己分析できるようにすることである。本講義では、従来型の「徳目主義」・「読み物道徳

＜授業の方法＞

課題や資料は、授業時に配布する(欠席者・実習参加者にも課題を課すため、Googleクラスルームでも配信する。著作権法・肖像権法の関係で他に流出しないように注意すること)。授業では、「学校の教育活動全体で行う道徳教育」の概要や「特別の教科　道徳」の指導方法について理解したことを、ミニレポートにまとめたり、グループワークで伝えあったりしながら理解を深める(両者ともに課題として評価する)。また、実践的指導力の向上を図るために「特別の教科　道徳」の学習指導案（オリジナルの問題解決型学習）を授業設計する。さらに、自

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブラーニングの要素あり＜内容＞・理論編では、随時、ペアワーク、グループワークを行う。・実践編では、担当教員の実践事例を学生が行う際に、心情分析、SWOT分析、マトリックス分析、イメージマップ分析等のワークショップを行う。・授業設計編では、学習指導案（すべての講義内容を反映させたオリジナルの問題解決型学習を設計）の制作を演習的に行う。・授業分析編では、自ら作成したオリジナル指導案を仲間に紹介し、相互評価を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

＜事前＞講義内容の概要を自分なりに把握する努力を行うと同時に、疑問点などを探っておく（所用時間は30分～１時間程度）。＜事後＞講義内容についての課題を出すので、自分の経験と結びつけて回答する（所用時間は１時間程度／400字～600字／＊評価の観点・基準は下記参照）。＜事中＞　①授業中は、集中力を高めるためメモを取ることを勧める（ノートやメモ点はハイクオリティなものは加点する）。②実践編で行う各種ワークショップに参加する（＊評価の観点・基準は下記参照）。③授業設計編では学習指導案制作を行い、授業紹介時には授

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー２（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

＜評価対象＞①毎回の課題（必須）…　毎回10点で評価する（最終的に評点70点分の算定基礎とする）。②毎回のノート、メモ（任意）…　クオリティの高いものは、加点する。③アクティブラーニングの参加状況（必須）…　実践編のアクティブラーニングでの参加意欲、発言内容等を、毎回10点で評価（最終的に評点70点分の算定基礎とする）。④オリジナルの問題解決型学習指導案のクオリティ（必須）…　すべての講義で学んだ理論・社会背景などを加味した内容になっているかを30点分で評価する（最終的に評点30点分の算定基礎とする）。＜

＜教科書＞

木野正一郎著（2016年）　『新発想！道徳のアクティブ・ラーニング型授業はこれだ』　みくに出版株式会社
文部科学省（平成29年7月）　『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科道徳編：平成29年7月』　あかつき教育図書
文部科学省（2018年3月）　『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科道徳編：平成29年7月』　教育出版

＜参考書＞

押谷由夫（2011年）　『道徳性形成・徳育論』　NHK出版（一般財団法人　放送大学教育振興会）
栁沼良太著（2019年）　『プラグマティズム、公共、道徳』　株式会社　あいり出版
栁沼良太・梅澤真一・山田誠著（2018年）　『「現代的な課題」に取り組む道徳授業』　株式会社　図書文化社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	・ガイダンス・道徳教育とは何か　ー道	アリストテレスの「人間はポリス的動物である」という問いから、社会になぜ道徳教

	徳教育の理論と実践を学ぶにあたって－	育が必要なのか、その理由を考える。（キーワード：アリストテレスの中庸論、道と徳、仏教の八正道、カントの実践理性と自由意志論（第2回に回る可能性あり））
2	・道徳教育の現状と課題　－いのちの尊厳を守る道徳教育－	なぜ「特別の教科　道徳」が設置されたのかを、いのちの尊厳を守るという視点との関連で考える。（キーワード：大津いじめ事件、いじめ防止対策推進法、情報モラル教育、「学校の教育活動全体で行う道徳教育」と「特別の教科　道徳」）
3	・学習指導要領の理解Ⅰ　－「学校の教育活動全体で行う道徳教育」「特別の教科道徳」の目標・内容・指導上の留意点－	学習指導要領「特別の教科　道徳」が設置された意味の面からその理念を理解し、道徳教育のカリキュラム的な構造を理解する。各教科・各領域の中で行う道徳教育を構想する。（キーワード：「要」規定、価値の葛藤（モラル・ジレンマ）、考え議論する道徳、道徳性の三側面形成理論）
4	・学習指導要領の理解Ⅱ－道徳的価値の内容項目・全体計画・指導計画－	道徳的価値の内容項目（最大で22項目）を、項目ごとに「考え議論する道徳」を構想する。学習指導要領の解説を見て、道徳的価値の内容項目から単元や授業の目標を作る。（キーワード：道徳的価値の内容項目（低学年19項目、中学年20項目、高学年22項目、中学生22項目）、道徳教育推進教諭、全体計画、指導計画、評価の在り方）
5	・道徳教育の歴史と課題Ⅰ　－古代思想から近世まで－	日本における道徳教育の変遷史を儒教や商人倫理との関係でおさえ、時代ごとに要請された道徳教育観（道徳的価値の生成過程）を学ぶ。（キーワード：諸子百家の思想（儒家・墨家・道家・法家）、商人倫理、朱子学）
6	・道徳教育の歴史と課題Ⅱ　－近世から現代まで－	日本における道徳教育の変遷史を、日本の近代化から現代の道徳教育の範囲で学ぶ。（キーワード：翻訳道徳、教学聖旨、元田永孚、教育勅語、修身科、戦後の教育改革・民主化、社会科道徳、「学校の教育活動全体で行う道徳教育」、道徳の時間、「特別の教科　道徳」）
7	・道徳性の発達理論を踏まえた道徳教育の編成原理Ⅰ　－発達心理学編－	発達心理学の理論を学び、発達段階に応じた道徳教育の在り方を考える。（キーワード：発達心理学、ピアジェ、認知発達理論、エリクソン、アイデンティティの確立、アイデンティティの危機）
8	・道徳性の発達理論を踏まえた道徳教育の編成原理Ⅱ　－道徳性の発達心理学・社会心理学編－	発達心理学の理論を学び、道徳性の発達を加味した道徳教育の在り方を考える。（キーワード：コールバーグ、6段階道徳性発達理論、デゥルケーム、社会心理学、アノミー）
9	・道徳教育の理論と方法Ⅰ＜実践の体験＞　－「小単元ユニット型・問題解決型ワークショップ道徳」を体験する－	教科で行う道徳教育を受けて、「特別の教科　道徳」が道徳教育の要として、補い，深め，．相互の関連を考えて発展・統合させるための授業の在り方を担当教員の実践事例から体験的に学ぶ。（キーワード：道徳性の三側面形成理論、問題解決型道徳、教科で行う道徳教育、心情理解ワークショップ、長短分析ワークショップ(マトリックス法・イメージマッピング)、実生活ブレイクダウン・ワークショップ、道徳はがき新聞）
10	・道徳教育の理論と方法Ⅰ＜実践の体験＞　－「小単元ユニット型・問題解決型ワークショップ道徳」を体験する－（つづき）・道徳教育の理論と方法Ⅱ＜実践の体験＞　－SDGsや国際理解教育に関連する「小単元ユニット型・問題解決型ワークショップ道徳」を体験する－	・教科で行う道徳教育を受けて、「特別の教科　道徳」が道徳教育の要として、補い，深め，．相互の関連を考えて発展・統合させるための授業の在り方を担当教員の実践事例から体験的に学ぶ。（キーワード：道徳性の三側面形成理論、問題解決型道徳、教科で行う道徳教育、心情理解ワークショップ、長短分析ワークショップ(マトリックス法・イメージマッピング)、実生活ブレイクダウン・ワークショップ、道徳はがき新聞）・教科で行う道徳教育を受けて、「特別の教科　道徳」が道徳教育の要として、補い，深め，．相互の関連を考えて発展・統合さ
11	・道徳教育の理論と方法Ⅱ＜実践の体験＞　－SDGsや国際理解教育に関連する「小単元ユニット型・問題解決型ワークショップ道徳」を体験する－（つづき）	・教科で行う道徳教育を受けて、「特別の教科　道徳」が道徳教育の「要」として、補い、深め、相互の関連を考えて発展・統合させるための授業の在り方を担当教員の実践事例から体験的に学ぶ。（注）ここでは、「国際理解・国際親善」という道徳的価値を教えるための素地を学修する。（キーワード：問題解決型道徳、総合探究型道徳、ソクラテス的対話、SWOT分析ワークショップ、ミニ国連ワークショップ(マトリックス法・イメージマッピング）、SDGs、「SDGs探究」道徳はがき新聞）
12	・問題解決型道徳、総合探究型道徳の構想Ⅰ＜指導案制作の体験＞　－小学校高学年のある教材を研究する－	小学校高学年のある教材をもとに、従来型の道徳教育（徳目主義・読み物道徳）を理解した上で、「特別の教科　道徳」が求めている「考え議論する道徳」（問題解決型道徳、総合探究型道徳)を作る。この際、これまでの授業で学んだ知識・スキルをフル活用する。（作業行程：教材の把握⇒従来型の方法論理解⇒「考え議論する道徳」のアイディアづくり⇒単元目標づくり⇒三観点・評価軸づくり（つづく））
13	・問題解決型道徳、総合探究型道徳の構想Ⅱ＜指導案制作の体験＞　－小学校高学年のある教材をもとに指導案に落とし込む－	小学校高学年のある教材をもとに、従来型の道徳教育（徳目主義・読み物道徳）を理解した上で、「特別の教科　道徳」が求めている「考え議論する道徳」（問題解決型道徳、総合探究型道徳)を作る。この際、これまでの授業で学んだ知識・スキルをフル活用する。（作業行程：⇒教材観づくり（小単元ユニットに挑戦する人は単元観づくり）⇒指導上の留意点づくり⇒授業目標づくり⇒「考え議論する道徳」のオリジナル授業の展開づくり（つづく））
14	・問題解決型道徳、総合探究型道徳の構想Ⅲ＜指導案制作の体験＞　－小学校高学年のある教材をもとに指導案を完成させる－	小学校高学年のある教材をもとに、従来型の道徳教育（徳目主義・読み物道徳）を理解した上で、「特別の教科　道徳」が求めている「考え議論する道徳」（問題解決型道徳、総合探究型道徳)を完成させる。この際、これまでの授業で学んだ知識・スキルをフル活用する。（作業行程：⇒教材観づくり（小単元ユニットに挑戦する人は単元観づくり）⇒指導上の留意点づくり⇒授業目標づくり⇒「考え議論する道徳」のオリジナル授業の展開づくり（完成））
15		
16		

科目コード	21329				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	道徳教育の理論及び指導法［PP2433組用,FC用］				担当者名	木野　正一郎			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本授業では、初等・中等学校における道徳教育の内容や指導法について理論的に理解し、初等・中等学校の教員として確実に道徳教育の実践を行うために必要な資質・能力（コンピテンシー）を育成することをめざす。現代社会は価値の多様化社会とも呼ばれ、自分の生き方や他者との関係の在り方等がきわめて不明確となりやすい傾向にある。それだけに、初等・中等学校における道徳教育はきわめて重要な課題であり、豊かな人間性を育成するための指導力の向上は不可欠なものであると考える。（注）「学校の教育活動全体で行う道徳教育」ならびに「特別の教

＜授業の到達目標＞

「特別の教科　道徳」を要として、「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育（学習指導要領「第１章総則」の２）」の意義と目標を踏まえ、道徳教育や道徳科の内容と方法について基礎的な知識を学ぶだけでなく、学習指導案の作成や模擬授業の実施等に取り組むことによって、実践的指導力を培うことができるようにする。めざす姿は、子ども自らが主体的・対話的に仲間と共に「考え議論する」ような道徳科の探究的な学習を授業設計し、その評価を効果測定によって自己分析できるようにすることである。本講義では、従来型の「徳目主義」・「読み物道徳

＜授業の方法＞

課題や資料は、授業時に配布する(欠席者・実習参加者にも課題を課すため、Googleクラスルームでも配信する。著作権法・肖像権法の関係で他に流出しないように注意すること)。授業では、「学校の教育活動全体で行う道徳教育」の概要や「特別の教科　道徳」の指導方法について理解したことを、ミニレポートにまとめたり、グループワークで伝えあったりしながら理解を深める(両者ともに課題として評価する)。また、実践的指導力の向上を図るために「特別の教科　道徳」の学習指導案（オリジナルの問題解決型学習）を授業設計する。さらに、自

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブラーニングの要素あり＜内容＞・理論編では、随時、ペアワーク、グループワークを行う。・実践編では、担当教員の実践事例を学生が行う際に、心情分析、SWOT分析、マトリックス分析、イメージマップ分析等のワークショップを行う。・授業設計編では、学習指導案（すべての講義内容を反映させたオリジナルの問題解決型学習を設計）の制作を演習的に行う。・授業分析編では、自ら作成したオリジナル指導案を仲間に紹介し、相互評価を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

＜事前＞講義内容の概要を自分なりに把握する努力を行うと同時に、疑問点などを探っておく（所用時間は30分～１時間程度）。＜事後＞講義内容についての課題を出すので、自分の経験と結びつけて回答する（所用時間は１時間程度／400字～600字／＊評価の観点・基準は下記参照）。＜事中＞　①授業中は、集中力を高めるためメモを取ることを勧める（ノートやメモ点はハイクオリティなものは加点する）。②実践編で行う各種ワークショップに参加する（＊評価の観点・基準は下記参照）。③授業設計編では学習指導案制作を行い、授業紹介時には授

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー２（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

＜評価対象＞①毎回の課題（必須）…　毎回10点で評価する（最終的に評点70点分の算定基礎とする）。②毎回のノート、メモ（任意）…　クオリティの高いものは、加点する。③アクティブラーニングの参加状況（必須）…　実践編のアクティブラーニングでの参加意欲、発言内容等を、毎回10点で評価（最終的に評点70点分の算定基礎とする）。④オリジナルの問題解決型学習指導案のクオリティ（必須）…　すべての講義で学んだ理論・社会背景などを加味した内容になっているかを30点分で評価する（最終的に評点30点分の算定基礎とする）。＜

＜教科書＞

木野正一郎著（2016年）　『新発想！道徳のアクティブ・ラーニング型授業はこれだ』　みくに出版株式会社
文部科学省（平成29年7月）　『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科道徳編：平成29年7月』　あかつき教育図書
文部科学省（2018年3月）　『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科道徳編：平成29年7月』　教育出版

＜参考書＞

押谷由夫（2011年）　『道徳性形成・徳育論』　NHK出版（一般財団法人　放送大学教育振興会）
栁沼良太著（2019年）　『プラグマティズム、公共、道徳』　株式会社　あいり出版
栁沼良太・梅澤真一・山田誠著（2018年）　『「現代的な課題」に取り組む道徳授業』　株式会社　図書文化社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	・ガイダンス・道徳教育とは何か　ー道	アリストテレスの「人間はポリス的動物である」という問いから、社会になぜ道徳教

	徳教育の理論と実践を学ぶにあたって－	育が必要なのか、その理由を考える。（キーワード：アリストテレスの中庸論、道と徳、仏教の八正道、カントの実践理性と自由意志論（第2回に回る可能性あり）） なぜ「特別の教科　道徳」が設置されたのかを、いのちの尊厳を守るという視点との関連で考える。（キーワード：大津いじめ事件、いじめ防止対策推進法、情報モラル教育、「学校の教育活動全体で行う道徳教育」と「特別の教科　道徳」）
2	・道徳教育の現状と課題　－いのちの尊厳を守る道徳教育－	
3	・学習指導要領の理解Ⅰ　－「学校の教育活動全体で行う道徳教育」「特別の教科道徳」の目標・内容・指導上の留意点－	学習指導要領「特別の教科　道徳」が設置された意味の面からその理念を理解し、道徳教育のカリキュラム的な構造を理解する。各教科・各領域の中で行う道徳教育を構想する。（キーワード：「要」規定、価値の葛藤（モラル・ジレンマ）、考え議論する道徳、道徳性の三側面形成理論）
4	・学習指導要領の理解Ⅱ－道徳的価値の内容項目・全体計画・指導計画－	道徳的価値の内容項目（最大で22項目）を、項目ごとに「考え議論する道徳」を構想する。学習指導要領の解説を見て、道徳的価値の内容項目から単元や授業の目標を作る。（キーワード：道徳的価値の内容項目（低学年19項目、中学年20項目、高学年22項目、中学生22項目）、道徳教育推進教諭、全体計画、指導計画、評価の在り方）
5	・道徳教育の歴史と課題Ⅰ　－古代思想から近世まで－	日本における道徳教育の変遷史を儒教や商人倫理との関係でおさえ、時代ごとに要請された道徳教育観（道徳的価値の生成過程）を学ぶ。（キーワード：諸子百家の思想（儒家・墨家・道家・法家）、商人倫理、朱子学）
6	・道徳教育の歴史と課題Ⅱ　－近世から現代まで－	日本における道徳教育の変遷史を、日本の近代化から現代の道徳教育の範囲で学ぶ。（キーワード：翻訳道徳、教学聖旨、元田永孚、教育勅語、修身科、戦後の教育改革・民主化、社会科道徳、「学校の教育活動全体で行う道徳教育」、道徳の時間、「特別の教科　道徳」）
7	・道徳性の発達理論を踏まえた道徳教育の編成原理Ⅰ　－発達心理学編－	発達心理学の理論を学び、発達段階に応じた道徳教育の在り方を考える。（キーワード：発達心理学、ピアジェ、認知発達理論、エリクソン、アイデンティティの確立、アイデンティティの危機）
8	・道徳性の発達理論を踏まえた道徳教育の編成原理Ⅱ　－道徳性の発達心理学・社会心理学編－	発達心理学の理論を学び、道徳性の発達を加味した道徳教育の在り方を考える。（キーワード：コールバーグ、6段階道徳性発達理論、デゥルケーム、社会心理学、アノミー）
9	・道徳教育の理論と方法Ⅰ＜実践の体験＞　－「小単元ユニット型・問題解決型ワークショップ道徳」を体験する－	教科で行う道徳教育を受けて、「特別の教科　道徳」が道徳教育の要として、補い，深め，．相互の関連を考えて発展・統合させるための授業の在り方を担当教員の実践事例から体験的に学ぶ。（キーワード：道徳性の三側面形成理論、問題解決型道徳、教科で行う道徳教育、心情理解ワークショップ、長短分析ワークショップ(マトリックス法・イメージマッピング)、実生活ブレイクダウン・ワークショップ、道徳はがき新聞）
10	・道徳教育の理論と方法Ⅰ＜実践の体験＞　－「小単元ユニット型・問題解決型ワークショップ道徳」を体験する－（つづき）・道徳教育の理論と方法Ⅱ＜実践の体験＞　－SDGsや国際理解教育に関連する「小単元ユニット型・問題解決型ワークショップ道徳」を体験する－	・教科で行う道徳教育を受けて、「特別の教科　道徳」が道徳教育の要として、補い，深め，．相互の関連を考えて発展・統合させるための授業の在り方を担当教員の実践事例から体験的に学ぶ。（キーワード：道徳性の三側面形成理論、問題解決型道徳、教科で行う道徳教育、心情理解ワークショップ、長短分析ワークショップ(マトリックス法・イメージマッピング)、実生活ブレイクダウン・ワークショップ、道徳はがき新聞）・教科で行う道徳教育を受けて、「特別の教科　道徳」が道徳教育の要として、補い，深め，．相互の関連を考えて発展・統合さ
11	・道徳教育の理論と方法Ⅱ＜実践の体験＞　－SDGsや国際理解教育に関連する「小単元ユニット型・問題解決型ワークショップ道徳」を体験する－（つづき）	・教科で行う道徳教育を受けて、「特別の教科　道徳」が道徳教育の「要」として、補い、深め、相互の関連を考えて発展・統合させるための授業の在り方を担当教員の実践事例から体験的に学ぶ。（注）ここでは、「国際理解・国際親善」という道徳的価値を教えるための素地を学修する。（キーワード：問題解決型道徳、総合探究型道徳、ソクラテス的対話、SWOT分析ワークショップ、ミニ国連ワークショップ(マトリックス法・イメージマッピング）、SDGs、「SDGs探究」道徳はがき新聞）
12	・問題解決型道徳、総合探究型道徳の構想Ⅰ＜指導案制作の体験＞　－小学校高学年のある教材を研究する－	小学校高学年のある教材をもとに、従来型の道徳教育（徳目主義・読み物道徳）を理解した上で、「特別の教科　道徳」が求めている「考え議論する道徳」（問題解決型道徳、総合探究型道徳)を作る。この際、これまでの授業で学んだ知識・スキルをフル活用する。（作業行程：教材の把握⇒従来型の方法論理解⇒「考え議論する道徳」のアイディアづくり⇒単元目標づくり⇒三観点・評価軸づくり（つづく））
13	・問題解決型道徳、総合探究型道徳の構想Ⅱ＜指導案制作の体験＞　－小学校高学年のある教材をもとに指導案に落とし込む－	小学校高学年のある教材をもとに、従来型の道徳教育（徳目主義・読み物道徳）を理解した上で、「特別の教科　道徳」が求めている「考え議論する道徳」（問題解決型道徳、総合探究型道徳)を作る。この際、これまでの授業で学んだ知識・スキルをフル活用する。（作業行程：⇒教材観づくり（小単元ユニットに挑戦する人は単元観づくり）⇒指導上の留意点づくり⇒授業目標づくり⇒「考え議論する道徳」のオリジナル授業の展開づくり（つづく））
14	・問題解決型道徳、総合探究型道徳の構想Ⅲ＜指導案制作の体験＞　－小学校高学年のある教材をもとに指導案を完成させる－	小学校高学年のある教材をもとに、従来型の道徳教育（徳目主義・読み物道徳）を理解した上で、「特別の教科　道徳」が求めている「考え議論する道徳」（問題解決型道徳、総合探究型道徳)を完成させる。この際、これまでの授業で学んだ知識・スキルをフル活用する。（作業行程：⇒教材観づくり（小単元ユニットに挑戦する人は単元観づくり）⇒指導上の留意点づくり⇒授業目標づくり⇒「考え議論する道徳」のオリジナル授業の展開づくり（完成））
15		
16		

科目コード	21330				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	総合的な学習の時間の指導法［FC,PP,PS組用 週間オンデマンド］				担当者名	藤井　健太郎			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
総合的な学習の時間の特徴は、各学校において目標・内容を定める。このことは、教師一人一人がカリキュラムを開発する力が求められていることでもある。本科目では「学習指導要領解説　総合的な学習の時間編」をもとに、総合的な学習の時間の特徴や目標及び内容などについて具体的な実践例も紹介しながら、全体計画や単元指導計画を作成する手順や単元を展開するにあたっての指導方法のポイントを理解できるようにする。また、受講者が新たな単元を開発し、カリキュラムデザイナーとしての力をつけられるようにする。

＜授業の到達目標＞
総合的な学習の時間においては、教師にカリキュラム開発する力と探究的な学習を行う指導力が求められる。そこで、次の点を修得することを目指す。①総合的な学習の時間のカリキュラムを理解し、単元を開発することができる。②探究的な学習過程を理解し、指導計画を立てることができる。③授業における情報通信機器の活用法を身に付けることができる。

＜授業の方法＞
「学習指導要領解説　総合的な学習の時間編」の内容についてポイントを確認し、課題をもとにした活動等を行う。そして、具体的な実践例の紹介や各回のテーマに関する重要事項の説明をする。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）４、５人のグループに分かれ、テーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習として、次時の授業に関連する「学習指導要領解説　総合的な学習の時間編」の内容に目を通しておく。復習として、本時の授業内容について整理し、理解を深めるよう努める。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業への参加度14%、レポート（学習指導案等）30%、試験56%

＜教科書＞
藤井健太郎　教職科目　総合的な学習の時間の指導法　三恵社

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	総合的な学習の時間とは(オリエンテーション)	総合的な学習の時間の系譜や特徴について理解し、授業の概要を把握する。
2	総合的な学習の時間の目標・内容	総合的な学習の時間における目標及び内容について理解する。
3	総合的な学習の時間の指導計画	総合的な学習の時間の指導計画の特徴について理解する。
4	総合的な学習の時間の全体計画・年間指導計画の作成	総合的な学習の時間の全体計画及び年間指導計画について理解し、作成にあたってのポイントをつかむ。
5	総合的な学習の時間の単元計画	総合的な学習の時間の単元計画について理解する。
6	総合的な学習の時間の学習指導	総合的な学習の時間の学習指導について理解する。
7	総合的な学習の時間の評価	総合的な学習の時間の評価と評価方法について理解する。
8	総合的な学習の時間の体制づくり	総合的な学習の時間の体制づくりについて理解する。
9	総合的な学習の時間と学級づくり	実践事例をもとに総合的な学習の時間と学級づくりとの関連について理解する。
10	総合的な学習の時間と教育課題	実践事例をもとに総合的な学習の時間による教育課題への対応について理解する。
11	総合的な学習の時間と校種間交流	実践事例をもとに総合的な学習の時間による校種間の関わりについて理解する。
12	総合的な学習の時間のカリキュラム開発	総合的な学習の時間のカリキュラム開発を理解するとともに、指導案の作成方法を理解する。
13	総合的な学習の時間の教材研究	デジカメやプレゼンテーションソフトの操作を理解し、授業での活用方法を考える。
14	総合的な学習の時間の指導案の作成	単元計画を踏まえて総合的な学習の時間の指導案を作成する。
15		

16		

科目コード	21330				区　分	専門基礎科目		
授業科目名	総合的な学習の時間の指導法［FE2521組用］				担当者名	藤井　健太郎		
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
総合的な学習の時間の特徴は、各学校において目標・内容を定める。このことは、教師一人一人がカリキュラムを開発する力が求められていることでもある。本科目では「学習指導要領解説　総合的な学習の時間編」をもとに、総合的な学習の時間の特徴や目標及び内容などについて具体的な実践例も紹介しながら、全体計画や単元指導計画を作成する手順や単元を展開するにあたっての指導方法のポイントを理解できるようにする。また、受講者が新たな単元を開発し、カリキュラムデザイナーとしての力をつけられるようにする。

＜授業の到達目標＞
総合的な学習の時間においては、教師にカリキュラム開発する力と探究的な学習を行う指導力が求められる。そこで、次の点を修得することを目指す。①総合的な学習の時間のカリキュラムを理解し、単元を開発することができる。②探究的な学習過程を理解し、指導計画を立てることができる。③授業における情報通信機器の活用法を身に付けることができる。

＜授業の方法＞
「学習指導要領解説　総合的な学習の時間編」の内容についてポイントを確認し、課題をもとにした活動等を行う。そして、具体的な実践例の紹介や各回のテーマに関する重要事項の説明をする。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）４、５人のグループに分かれ、テーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習として、次時の授業に関連する「学習指導要領解説　総合的な学習の時間編」の内容に目を通しておく。復習として、本時の授業内容について整理し、理解を深めるよう努める。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業への参加度14%、レポート（学習指導案等）30%、試験56%

＜教科書＞
藤井健太郎　教職科目　総合的な学習の時間の指導法　三恵社

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	総合的な学習の時間とは(オリエンテーション)	総合的な学習の時間の系譜や特徴について理解し、授業の概要を把握する。
2	総合的な学習の時間の目標・内容	総合的な学習の時間における目標及び内容について理解する。
3	総合的な学習の時間の指導計画	総合的な学習の時間の指導計画の特徴について理解する。
4	総合的な学習の時間の全体計画・年間指導計画の作成	総合的な学習の時間の全体計画及び年間指導計画について理解し、作成にあたってのポイントをつかむ。
5	総合的な学習の時間の単元計画	総合的な学習の時間の単元計画について理解する。
6	総合的な学習の時間の学習指導	総合的な学習の時間の学習指導について理解する。
7	総合的な学習の時間の評価	総合的な学習の時間の評価と評価方法について理解する。
8	総合的な学習の時間の体制づくり	総合的な学習の時間の体制づくりについて理解する。
9	総合的な学習の時間と学級づくり	実践事例をもとに総合的な学習の時間と学級づくりとの関連について理解する。
10	総合的な学習の時間と教育課題	実践事例をもとに総合的な学習の時間による教育課題への対応について理解する。
11	総合的な学習の時間と校種間交流	実践事例をもとに総合的な学習の時間による校種間の関わりについて理解する。
12	総合的な学習の時間のカリキュラム開発	総合的な学習の時間のカリキュラム開発を理解するとともに、指導案の作成方法を理解する。
13	総合的な学習の時間の教材研究	デジカメやプレゼンテーションソフトの操作を理解し、授業での活用方法を考える。
14	総合的な学習の時間の指導案の作成	単元計画を踏まえて総合的な学習の時間の指導案を作成する。
15		
16		

科目コード	21330				区　分	専門基礎科目		
授業科目名	総合的な学習の時間の指導法［FE2522組用］				担当者名	藤井　健太郎		
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
総合的な学習の時間の特徴は、各学校において目標・内容を定める。このことは、教師一人一人がカリキュラムを開発する力が求められていることでもある。本科目では「学習指導要領解説　総合的な学習の時間編」をもとに、総合的な学習の時間の特徴や目標及び内容などについて具体的な実践例も紹介しながら、全体計画や単元指導計画を作成する手順や単元を展開するにあたっての指導方法のポイントを理解できるようにする。また、受講者が新たな単元を開発し、カリキュラムデザイナーとしての力をつけられるようにする。

＜授業の到達目標＞
総合的な学習の時間においては、教師にカリキュラム開発する力と探究的な学習を行う指導力が求められる。そこで、次の点を修得することを目指す。①総合的な学習の時間のカリキュラムを理解し、単元を開発することができる。②探究的な学習過程を理解し、指導計画を立てることができる。③授業における情報通信機器の活用法を身に付けることができる。

＜授業の方法＞
「学習指導要領解説　総合的な学習の時間編」の内容についてポイントを確認し、課題をもとにした活動等を行う。そして、具体的な実践例の紹介や各回のテーマに関する重要事項の説明をする。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）４、５人のグループに分かれ、テーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習として、次時の授業に関連する「学習指導要領解説　総合的な学習の時間編」の内容に目を通しておく。復習として、本時の授業内容について整理し、理解を深めるよう努める。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業への参加度14%、レポート（学習指導案等）30%、試験56%

＜教科書＞
藤井健太郎　教職科目　総合的な学習の時間の指導法　三恵社

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	総合的な学習の時間とは(オリエンテーション)	総合的な学習の時間の系譜や特徴について理解し、授業の概要を把握する。
2	総合的な学習の時間の目標・内容	総合的な学習の時間における目標及び内容について理解する。
3	総合的な学習の時間の指導計画	総合的な学習の時間の指導計画の特徴について理解する。
4	総合的な学習の時間の全体計画・年間指導計画の作成	総合的な学習の時間の全体計画及び年間指導計画について理解し、作成にあたってのポイントをつかむ。
5	総合的な学習の時間の単元計画	総合的な学習の時間の単元計画について理解する。
6	総合的な学習の時間の学習指導	総合的な学習の時間の学習指導について理解する。
7	総合的な学習の時間の評価	総合的な学習の時間の評価と評価方法について理解する。
8	総合的な学習の時間の体制づくり	総合的な学習の時間の体制づくりについて理解する。
9	総合的な学習の時間と学級づくり	実践事例をもとに総合的な学習の時間と学級づくりとの関連について理解する。
10	総合的な学習の時間と教育課題	実践事例をもとに総合的な学習の時間による教育課題への対応について理解する。
11	総合的な学習の時間と校種間交流	実践事例をもとに総合的な学習の時間による校種間の関わりについて理解する。
12	総合的な学習の時間のカリキュラム開発	総合的な学習の時間のカリキュラム開発を理解するとともに、指導案の作成方法を理解する。
13	総合的な学習の時間の教材研究	デジカメやプレゼンテーションソフトの操作を理解し、授業での活用方法を考える。
14	総合的な学習の時間の指導案の作成	単元計画を踏まえて総合的な学習の時間の指導案を作成する。
15		
16		

科目コード	21331				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	教育の方法及び技術(情報通信技術の活用含む) [FC用]				担当者名	内田　仁志			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

本授業では、小学校教員として授業を行う際に必要となる「教育の方法及び技術」について、具体的な授業場面を想定しながら学ぶ。学習指導要領に基づく授業設計、板書・発問などの基本的指導技術、言語活動を中心とした授業づくり、議論活動やICT活用など、現代の学校現場で求められる授業技術を体系的に理解することを目的とする。講義とグループワークを組み合わせながら、授業設計から実践までの一連の過程を理解し、教員として必要な実践的授業力の基礎を養う。

＜授業の到達目標＞

学習指導要領に基づいた授業設計の基本を理解し、ねらいに応じた指導計画を立案することができる。板書や発問などの基本的な指導技術について理解し、授業場面を想定して活用する力を身に付ける。さらに、言語活動や議論活動、ICT活用を取り入れた授業づくりの意義を理解し、児童の学びを深める授業の在り方について説明できる。これらを通して、教員として必要な実践的授業力の基礎を身に付ける。

＜授業の方法＞

授業は講義と演習を組み合わせて実施する。授業の前半三分の二では、教育方法や指導技術について講義を行い、具体的な授業事例をもとにグループワークや意見交換を行う。後半三分の一ではGoogleフォームを活用した振り返りを行い、授業内容の整理と理解の深化を図る。学生は授業の中で自分の考えを言語化し共有することで、理論と実践を結びつけながら授業づくりの基本を段階的に理解する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

本授業では主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、講義だけでなくグループワークや討議活動を取り入れる。学生は具体的な授業場面を想定して意見交換を行い、他者の視点を通して授業づくりの考え方を深める。またGoogleフォームによる振り返りを通して、自らの理解や気づきを整理する機会を設ける。こうした活動を通して、学生が主体的に学びに参加し、教育方法を自分の言葉で説明できる力を育成する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習として、各回のテーマに関連する資料や教科書該当箇所を確認し（1時間程度）、自身の授業経験や学習経験を振り返り、課題意識をもって授業に臨むこと。事後学習として、授業で扱った授業設計やICT活用の方法について整理し、課題レポートの作成や模擬授業の準備を行う（１時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー２(保育士・幼稚園教諭養成の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回の課題提出を重視し、継続的な学習状況を評価する。・毎回レポート提出　30%・レポート内容　40%・最終まとめ　30%

＜教科書＞

内田仁志（2026年4月）　小学校教師のための「使える」授業技術― 国語科を核にした授業設計と指導の実践 ―　福村出版

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	教育方法とは何か	本授業の目的、授業方法、評価方法について説明する。あわせて教師に求められる授業力とは何かを考え、教育方法の基本概念を理解する。学習指導要領に示される資質・能力の三つの柱や主体的・対話的で深い学びの考え方を概観し、これからの授業づくりの基本的枠組みを確認する。最後にGoogleフォームによる振り返りを行う。テキスト使用なし
2	教師の接遇と学校組織	ゲスト講師による講義を通して、学校現場における接遇の基本を学ぶ。保護者対応や電話応対など教師として必要な社会的マナーを理解する。学校が多様な関係者によって成り立つ組織であることを踏まえ、教師の基本姿勢について考える。テキスト使用なし
3	学習指導要領と授業設計	学習指導要領の役割と授業づくりの関係を理解する。資質・能力の三つの柱を踏まえ、授業設計の基本原理について学ぶ。単元構成や授業の基本構造を具体例をもと

		に分析する。テキスト第1章　国語科の授業設計と学習指導案の作成
4	学習指導案の構成	学習指導案の構造と作成方法を学ぶ。目標設定、学習活動、評価の観点など授業設計の具体的手順を理解する。簡単な授業構成をグループで検討する。第4回　テキスト第1章　国語科の授業設計と学習指導案の作成
5	板書技術	授業における板書の役割と基本技術を学ぶ。板書が児童の思考を可視化し学習の焦点を明確にする役割を持つことを理解する。板書例を分析し効果的な構成を検討する。テキスト第2章　板書とノート指導
6	発問技術	発問の役割と設計方法について学ぶ。思考を促す発問と確認質問の違いを理解し、児童の考えを引き出す問いの作り方を検討する。テキスト第3章　発問の工夫と読解指導
7	音読と読解指導	音読と黙読の役割を理解し、読解指導における音読活動の活用方法を学ぶ。音読活動が理解力や表現力の育成に果たす役割を考える。テキスト第4章　音読指導と表現指導
8	作文指導	作文指導の意義と基本的な指導方法を理解する。書くことの指導が論理的思考力や構成力の育成にどのようにつながるかを学ぶ。テキスト第5章　作文指導技術
9	言語活動	言語活動の意義と授業設計への位置づけを理解する。読む・書く・話す・聞くを統合した学習活動が思考力や表現力を育てることを学ぶ。テキスト第6章　言語活動と言語技術の育成
10	議論活動	議論活動の教育的意義と授業での活用方法を理解する。議論が思考力・判断力・表現力の育成につながることを確認する。テキスト第7章　議論指導の基礎と実践
11	ICT活用	ICTを活用した授業の方法と意義を理解する。電子黒板やタブレットの活用事例をもとに授業設計を検討する。テキスト第8章　ICT活用と情報活用能力の育成
12	言語活動とICTの統合	ICTを活用した言語活動の授業設計を考える。デジタル教材や共同編集ツールを活用した授業の可能性を検討する。テキスト第6章・第8章
13	模擬授業	これまで学んだ授業技術をもとに簡単な模擬授業を行う。授業の良かった点や改善点について分析し授業づくりの視点を整理する。テキスト第1章(授業設計の再確認)
14	授業づくりのまとめ	授業設計、指導技術、言語活動、ICT活用など本授業で学んだ内容を総合的に振り返る。教員として必要な授業力について整理し今後の学びにつなげる。第テキスト総括
15		
16		

科目コード	21331				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	教育の方法及び技術(情報通信技術の活用含む)[FE用]				担当者名	内田　仁志			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業では、小学校教員として授業を行う際に必要となる「教育の方法及び技術」について、具体的な授業場面を想定しながら学ぶ。学習指導要領に基づく授業設計、板書・発問などの基本的指導技術、言語活動を中心とした授業づくり、議論活動やICT活用など、現代の学校現場で求められる授業技術を体系的に理解することを目的とする。講義とグループワークを組み合わせながら、授業設計から実践までの一連の過程を理解し、教員として必要な実践的授業力の基礎を養う。

＜授業の到達目標＞
学習指導要領に基づいた授業設計の基本を理解し、ねらいに応じた指導計画を立案することができる。板書や発問などの基本的な指導技術について理解し、授業場面を想定して活用する力を身に付ける。さらに、言語活動や議論活動、ICT活用を取り入れた授業づくりの意義を理解し、児童の学びを深める授業の在り方について説明できる。これらを通して、教員として必要な実践的授業力の基礎を身に付ける。

＜授業の方法＞
授業は講義と演習を組み合わせて実施する。授業の前半三分の二では、教育方法や指導技術について講義を行い、具体的な授業事例をもとにグループワークや意見交換を行う。後半三分の一ではGoogleフォームを活用した振り返りを行い、授業内容の整理と理解の深化を図る。学生は授業の中で自分の考えを言語化し共有することで、理論と実践を結びつけながら授業づくりの基本を段階的に理解する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
本授業では主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、講義だけでなくグループワークや討議活動を取り入れる。学生は具体的な授業場面を想定して意見交換を行い、他者の視点を通して授業づくりの考え方を深める。またGoogleフォームによる振り返りを通して、自らの理解や気づきを整理する機会を設ける。こうした活動を通して、学生が主体的に学びに参加し、教育方法を自分の言葉で説明できる力を育成する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各回の授業内容に関連する教科書や資料を事前に確認し、授業場面を想定しながら指導方法について自分の考えを整理しておくこと。（1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２(初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
毎回の課題提出を重視し、継続的な学習状況を評価する。・毎回レポート提出　30%・レポート内容　40%・最終まとめ　30%

＜教科書＞
内田仁志（2026年4月）　小学校教師のための「使える」授業技術― 国語科を核にした授業設計と指導の実践 ―　福村出版

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	教育方法とは何か	本授業の目的、授業方法、評価方法について説明する。あわせて教師に求められる授業力とは何かを考え、教育方法の基本概念を理解する。学習指導要領に示される資質・能力の三つの柱や主体的・対話的で深い学びの考え方を概観し、これからの授業づくりの基本的枠組みを確認する。最後にGoogleフォームによる振り返りを行う。テキスト使用なし
2	教師の接遇と学校組織	ゲスト講師による講義を通して、学校現場における接遇の基本を学ぶ。保護者対応や電話応対など教師として必要な社会的マナーを理解する。学校が多様な関係者によって成り立つ組織であることを踏まえ、教師の基本姿勢について考える。テキスト使用なし
3	学習指導要領と授業設計	学習指導要領の役割と授業づくりの関係を理解する。資質・能力の三つの柱を踏まえ、授業設計の基本原理について学ぶ。単元構成や授業の基本構造を具体例をもとに分析する。テキスト第1章　国語科の授業設計と学習指導案の作成

4	学習指導案の構成	学習指導案の構造と作成方法を学ぶ。目標設定、学習活動、評価の観点など授業設計の具体的手順を理解する。簡単な授業構成をグループで検討する。第4回　テキスト第1章　国語科の授業設計と学習指導案の作成
5	板書技術	授業における板書の役割と基本技術を学ぶ。板書が児童の思考を可視化し学習の焦点を明確にする役割を持つことを理解する。板書例を分析し効果的な構成を検討する。テキスト第2章　板書とノート指導
6	発問技術	発問の役割と設計方法について学ぶ。思考を促す発問と確認質問の違いを理解し、児童の考えを引き出す問いの作り方を検討する。テキスト第3章　発問の工夫と読解指導
7	音読と読解指導	音読と黙読の役割を理解し、読解指導における音読活動の活用方法を学ぶ。音読活動が理解力や表現力の育成に果たす役割を考える。テキスト第4章　音読指導と表現指導
8	作文指導	作文指導の意義と基本的な指導方法を理解する。書くことの指導が論理的思考力や構成力の育成にどのようにつながるかを学ぶ。テキスト第5章　作文指導技術
9	言語活動	言語活動の意義と授業設計への位置づけを理解する。読む・書く・話す・聞くを統合した学習活動が思考力や表現力を育てることを学ぶ。テキスト第6章　言語活動と言語技術の育成
10	議論活動	議論活動の教育的意義と授業での活用方法を理解する。議論が思考力・判断力・表現力の育成につながることを確認する。テキスト第7章　議論指導の基礎と実践
11	ICT活用	ICTを活用した授業の方法と意義を理解する。電子黒板やタブレットの活用事例をもとに授業設計を検討する。テキスト第8章　ICT活用と情報活用能力の育成
12	言語活動とICTの統合	ICTを活用した言語活動の授業設計を考える。デジタル教材や共同編集ツールを活用した授業の可能性を検討する。テキスト第6章・第8章
13	模擬授業	これまで学んだ授業技術をもとに簡単な模擬授業を行う。授業の良かった点や改善点について分析し授業づくりの視点を整理する。テキスト第1章(授業設計の再確認)
14	授業づくりのまとめ	授業設計、指導技術、言語活動、ICT活用など本授業で学んだ内容を総合的に振り返る。教員として必要な授業力について整理し今後の学びにつなげる。第テキスト総括
15		
16		

科目コード	21331				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	教育の方法及び技術(情報通信技術の活用含む) [PP、PS用週間オンデマンド]				担当者名	内田　仁志			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期オンデマンド	単位数	2.00単位	授業方法	オンデマンド	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業はオンデマンド形式で実施し、教育の方法及び技術の基本を学ぶ科目である。小学校・中学校・高等学校の授業づくりに必要な授業設計、板書、発問、言語活動、議論活動、ICT活用などの指導技術を、動画教材とテキストを用いて体系的に理解することを目的とする。受講者には体育免許取得希望者も多いことを踏まえ、教科を問わず活用できる授業技術を中心に扱う。各回の学習後にはGoogleフォームによる振り返りを行い、理解の整理と定着を図る。

＜授業の到達目標＞
本授業の到達目標は、教育の方法及び技術に関する基本的な考え方を理解し、授業づくりの基礎を説明できるようになることである。具体的には、学習指導要領に基づく授業設計、板書や発問などの基本的指導技術、言語活動や議論活動を取り入れた授業の考え方、ICTを活用した学習活動の意義について理解することを目標とする。オンデマンド授業を通して、教科に共通する授業技術を理解し、将来の教育実践に活用できる基礎的能力を身につける。

＜授業の方法＞
本授業はオンデマンド形式で実施する。各回では動画教材とテキストを用いて教育方法や指導技術について学習する。受講者は動画視聴とテキスト読解を通して内容を理解し、その後Googleフォームによる確認課題や振り返りに回答する。授業内容は授業設計、板書、発問、言語活動、議論活動、ICT活用など段階的に構成されている。オンデマンド学習であっても、授業ごとに自分の考えを言語化することで理解を深める学習を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
本授業はオンデマンド形式であるが、受動的な視聴にとどまらない学習を目指す。各回の動画視聴後にGoogleフォームを用いた振り返り課題を実施し、学習内容を自分の言葉で整理する。また、授業事例をもとに「どのような授業技術が使われているか」「どのように改善できるか」を考察する課題を設定することで、主体的な思考を促す。こうした活動を通して、教育方法を理解するだけでなく、将来の授業づくりにつながる実践的視点を養う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各回の授業に関連する資料や動画を事前に確認し、自身の読書経験や図書館利用経験を振り返っておくこと。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３(体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
毎回の課題提出を重視し、継続的な学習状況を評価する。・毎回レポート提出　30%・レポート内容　40%・最終まとめ　30%

＜教科書＞
内田仁志（2026年4月）　小学校教師のための「使える」授業技術― 国語科を核にした授業設計と指導の実践 ―　福村出版

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	授業の概要と教育方法の基礎	本授業の目的、オンデマンド授業の進め方、評価方法について説明する。教育の方法及び技術という教職科目の意義を確認し、教師に求められる授業力とは何かを考える。学習指導要領に示される資質・能力の三つの柱と授業づくりの基本的視点を概観する。テキスト使用なし
2	教師の接遇と学校の基本姿勢	外部講師による接遇に関する講義動画（YouTube）を視聴する。学校現場における保護者対応や電話応対など教師として必要な社会的マナーを理解する。学校が多様な関係者によって成り立つ組織であることを踏まえ、教師の基本姿勢について学ぶ。
3	学習指導要領と授業設計	学習指導要領の役割と授業設計の関係について学ぶ。資質・能力の三つの柱を踏まえ、授業づくりの基本的な考え方を理解する。単元構成や授業の基本構造を確認し、教師がどのように授業を計画するのかを理解する。テキスト第1章　授業設計
4	学習指導案の基本	学習指導案の構成と役割について学ぶ。授業の目標設定、学習活動の計画、評価の観点など授業設計の基本を理解する。授業の流れ（導入・展開・まとめ）を確認し、授業計画の考え方を理解する。テキスト第1章　授業設計

5	板書とノート指導	板書の役割と基本技術について学ぶ。板書は学習内容の提示だけでなく児童生徒の思考を可視化する重要な手段であることを理解する。板書とノート指導の関係を確認し、授業の中でどのように活用されるかを理解する。テキスト第2章　板書とノート指導
6	発問の技術	授業における発問の役割と設計方法について学ぶ。単なる確認質問と、思考を促す発問の違いを理解する。児童生徒の考えを引き出す問いの工夫について理解する。テキスト第3章　発問
7	音読指導	音読と黙読の役割について理解し、読解指導における音読活動の意義を学ぶ。音読活動が理解力や表現力の育成にどのようにつながるかを理解する。テキスト第4章　音読指導
8	作文指導	作文指導の意義と基本的な指導方法について学ぶ。書くことの指導が論理的思考力や構成力の育成につながることを理解する。テキスト第5章　作文指導
9	言語活動	言語活動の意義と授業設計への位置づけを理解する。読む・書く・話す・聞くを統合した学習活動が思考力や表現力を育てることを学ぶ。テキスト第6章　言語活動
10	議論活動	議論活動の教育的意義について学ぶ。議論は話す・聞く・読む・書くの四技能を統合する学習活動であり、思考力や表現力の育成につながることを理解する。テキスト第7章　議論
11	ICT活用	ICTを活用した授業の方法と意義について学ぶ。電子黒板やタブレットを用いた授業事例を通して、ICTが学習活動をどのように支援するかを理解する。テキスト第8章　ICT
12	言語活動とICT	ICTを活用した言語活動の授業について考える。デジタル教材やオンラインツールを活用した学習活動の可能性を理解する。テキスト第6章・第8章
13	授業設計の総合	これまで学んだ授業設計、指導技術、言語活動、ICT活用を総合的に振り返る。教師が授業を構成する際にどのような視点が必要かを整理する。テキスト第1章
14	授業のまとめと確認テスト	本授業で学んだ教育方法・技術について総合的に振り返る。授業設計や指導技術の基本を整理し、Googleフォームによるまとめと確認テストを実施する。テキスト総括
15		
16		

科目コード	21400				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	器楽演習Ⅰ［A］				担当者名	中家　淳悟			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第１，２クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
この授業ではピアノ演奏とピアノを用いた弾き歌いを中心に授業を展開する。この授業は小学校教諭に必要なピアノ・歌唱・読譜能力を中心とした器楽演奏の基礎技術を身につける。音楽、ピアノの初心者に向けて楽譜の読み方、ピアノの弾き方から丁寧に指導し音楽の授業をするにあたって困らないよう必要な基礎能力を養うことを目的とする。

＜授業の到達目標＞
１．バイエル30番程度のピアノ演奏をできる技術を身につける。２．小学校共通教材の低学年曲（１年生）を弾き歌いができるピアノ演奏能力を身につける。３．上記程度の読譜能力を身につける。

＜授業の方法＞
１．ピアノを用いてグループレッスン形式で行う。２．プレゼンテーション（課題を演奏し発表する）３．教材を読譜する。４．教材を視唱する。５．グループレッスンにより演奏する。6.Google　Classroomをプラットフォームとして活用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
毎回の授業で課すピアノ演奏や弾き語りの課題を授業の冒頭で発表することをアクティブラーニングの要素とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：次回課題曲の読譜をしておく。（毎回３０分程度）復習：授業で取り扱った曲を発表できるように練習しておくこと（毎回30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業中の態度・意欲 30%、実技試験 70%

＜教科書＞
　標準バイエルピアノ教則本　全音楽譜出版社
坂井康子・岡林典子南夏世・佐野仁美（2008年9月20日）　教育・保育現場で毎日使えるコードでかんたん！こどものうたマイ・レパートリー　ヤマハミュージックメディア

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の概要と課題の説明
2	ピアノの弾き方	ピアノの弾き方、指の形、姿勢、指の動かし方
3	バイエル12～14番を使ったレッスン	バイエルを使ったピアノ基礎練習
4	バイエル15番を使ったレッスン	バイエルを使った左右の手の動きが違う曲での基礎
5	バイエル17番（前半）	左右の手の動きが違う曲のレッスン
6	バイエル17番（後半）	左右の手の動きが違う曲のレッスン
7	バイエル19番（前半）、弾き歌い、カタツムリ（1）	バイエル19番（前半）を使ったレッスン、カタツムリを使った弾き歌いの練習（左手）
8	バイエル19番（後半）、弾き歌い、カタツムリ（2）	バイエル19番(後半)を使ったレッスン、カタツムリを使った弾き歌いの練習(右手、両手)
9	バイエル20番（前半）、弾き歌い、海	バイエル20番（前半）を使ったレッスン、海を使った弾き歌いの練習（左手）
10	バイエル20番（後半）、弾き歌い、海(2)	バイエル20番（後半）を使ったレッスン、海を使った弾き歌いの練習（右手、両手）
11	バイエル21番（前半）、弾き歌い、日の丸（１）	バイエル21番（前半）を使ったレッスン、日の丸を使った弾き歌いの練習（左手）
12	バイエル21番（後半）、弾き歌い、日の丸(2)	バイエル21番（後半）を使ったレッスン、日の丸を使った弾き歌いの練習（右手、両手）
13	発表	バイエル、弾き歌いの発表、これまで授業内で練習した曲から任意で発表をする。
14	総括	これまでの授業内容を総括する。
15		
16		

科目コード	21400				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	器楽演習Ⅰ [B][不開講]				担当者名	中家　淳悟			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第１，２クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
この授業ではピアノ演奏とピアノを用いた弾き歌いを中心に授業を展開する。この授業は小学校教諭に必要なピアノ・歌唱・読譜能力を中心とした器楽演奏の基礎技術を身につける。音楽、ピアノの初心者に向けて楽譜の読み方、ピアノの弾き方から丁寧に指導し音楽の授業をするにあたって困らないよう必要な基礎能力を養うことを目的とする。

＜授業の到達目標＞
１．バイエル30番程度のピアノ演奏をできる技術を身につける。２．小学校共通教材の低学年曲（１年生）を弾き歌いができるピアノ演奏能力を身につける。３．上記程度の読譜能力を身につける。

＜授業の方法＞
１．ピアノを用いてグループレッスン形式で行う。２．プレゼンテーション（課題を演奏し発表する）３．教材を読譜する。４．教材を視唱する。５．グループレッスンにより演奏する。6.Google　Classroomをプラットフォームとして活用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
毎回の授業で課すピアノ演奏や弾き語りの課題を授業の冒頭で発表することをアクティブラーニングの要素とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：次回課題曲の読譜をしておく。（毎回３０分程度）復習：授業で取り扱った曲を発表できるように練習しておくこと（毎回30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業中の態度・意欲 30%、実技試験 70%

＜教科書＞
　標準バイエルピアノ教則本　全音楽譜出版社
坂井康子・岡林典子南夏世・佐野仁美（2008年9月20日）　教育・保育現場で毎日使えるコードでかんたん！こどものうたマイ・レパートリー　ヤマハミュージックメディア

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の概要と課題の説明
2	ピアノの弾き方	ピアノの弾き方、指の形、姿勢、指の動かし方
3	バイエル12～14番を使ったレッスン	バイエルを使ったピアノ基礎練習
4	バイエル15番を使ったレッスン	バイエルを使った左右の手の動きが違う曲での基礎
5	バイエル17番（前半）	左右の手の動きが違う曲のレッスン
6	バイエル17番（後半）	左右の手の動きが違う曲のレッスン
7	バイエル19番（前半）、弾き歌い、カタツムリ（1）	バイエル19番（前半）を使ったレッスン、カタツムリを使った弾き歌いの練習（左手）
8	バイエル19番（後半）、弾き歌い、カタツムリ（2）	バイエル19番(後半)を使ったレッスン、カタツムリを使った弾き歌いの練習(右手、両手)
9	バイエル20番（前半）、弾き歌い、海	バイエル20番（前半）を使ったレッスン、海を使った弾き歌いの練習（左手）
10	バイエル20番（後半）、弾き歌い、海(2)	バイエル20番（後半）を使ったレッスン、海を使った弾き歌いの練習（右手、両手）
11	バイエル21番（前半）、弾き歌い、日の丸（１）	バイエル21番（前半）を使ったレッスン、日の丸を使った弾き歌いの練習（左手）
12	バイエル21番（後半）、弾き歌い、日の丸(2)	バイエル21番（後半）を使ったレッスン、日の丸を使った弾き歌いの練習（右手、両手）
13	発表	バイエル、弾き歌いの発表、これまで授業内で練習した曲から任意で発表をする。
14	総括	これまでの授業内容を総括する。
15		
16		

科目コード	21400				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	器楽演習Ⅰ［C］				担当者名	中家　淳悟			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第１，２クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
この授業ではピアノ演奏とピアノを用いた弾き歌いを中心に授業を展開する。この授業は小学校教諭に必要なピアノ・歌唱・読譜能力を中心とした器楽演奏の基礎技術を身につける。音楽、ピアノの初心者に向けて楽譜の読み方、ピアノの弾き方から丁寧に指導し音楽の授業をするにあたって困らないよう必要な基礎能力を養うことを目的とする。

＜授業の到達目標＞
１．バイエル30番程度のピアノ演奏をできる技術を身につける。２．小学校共通教材の低学年曲（１年生）を弾き歌いができるピアノ演奏能力を身につける。３．上記程度の読譜能力を身につける。

＜授業の方法＞
１．ピアノを用いてグループレッスン形式で行う。２．プレゼンテーション（課題を演奏し発表する）３．教材を読譜する。４．教材を視唱する。５．グループレッスンにより演奏する。6.Google　Classroomをプラットフォームとして活用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
毎回の授業で課すピアノ演奏や弾き語りの課題を授業の冒頭で発表することをアクティブラーニングの要素とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：次回課題曲の読譜をしておく。（毎回３０分程度）復習：授業で取り扱った曲を発表できるように練習しておくこと（毎回30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業中の態度・意欲 30%、実技試験 70%

＜教科書＞
　標準バイエルピアノ教則本　全音楽譜出版社
坂井康子・岡林典子南夏世・佐野仁美（2008年9月20日）　教育・保育現場で毎日使えるコードでかんたん！こどものうたマイ・レパートリー　ヤマハミュージックメディア

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の概要と課題の説明
2	ピアノの弾き方	ピアノの弾き方、指の形、姿勢、指の動かし方
3	バイエル12～14番を使ったレッスン	バイエルを使ったピアノ基礎練習
4	バイエル15番を使ったレッスン	バイエルを使った左右の手の動きが違う曲での基礎
5	バイエル17番（前半）	左右の手の動きが違う曲のレッスン
6	バイエル17番（後半）	左右の手の動きが違う曲のレッスン
7	バイエル19番（前半）、弾き歌い、カタツムリ（1）	バイエル19番（前半）を使ったレッスン、カタツムリを使った弾き歌いの練習（左手）
8	バイエル19番（後半）、弾き歌い、カタツムリ（2）	バイエル19番(後半)を使ったレッスン、カタツムリを使った弾き歌いの練習(右手、両手)
9	バイエル20番（前半）、弾き歌い、海	バイエル20番（前半）を使ったレッスン、海を使った弾き歌いの練習（左手）
10	バイエル20番（後半）、弾き歌い、海(2)	バイエル20番（後半）を使ったレッスン、海を使った弾き歌いの練習（右手、両手）
11	バイエル21番（前半）、弾き歌い、日の丸（１）	バイエル21番（前半）を使ったレッスン、日の丸を使った弾き歌いの練習（左手）
12	バイエル21番（後半）、弾き歌い、日の丸(2)	バイエル21番（後半）を使ったレッスン、日の丸を使った弾き歌いの練習（右手、両手）
13	発表	バイエル、弾き歌いの発表、これまで授業内で練習した曲から任意で発表をする。
14	総括	これまでの授業内容を総括する。
15		
16		

科目コード	21400				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	器楽演習Ⅰ［C］				担当者名	中家　淳悟			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第3、4クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
この授業ではピアノ演奏とピアノを用いた弾き歌いを中心に授業を展開する。この授業は小学校教諭に必要なピアノ・歌唱・読譜能力を中心とした器楽演奏の基礎技術を身につける。音楽、ピアノの初心者に向けて楽譜の読み方、ピアノの弾き方から丁寧に指導し音楽の授業をするにあたって困らないよう必要な基礎能力を養うことを目的とする。

＜授業の到達目標＞
１．バイエル30番程度のピアノ演奏をできる技術を身につける。２．小学校共通教材の低学年曲（１年生）を弾き歌いができるピアノ演奏能力を身につける。３．上記程度の読譜能力を身につける。

＜授業の方法＞
１．ピアノを用いてグループレッスン形式で行う。２．プレゼンテーション（課題を演奏し発表する）３．教材を読譜する。４．教材を視唱する。５．グループレッスンにより演奏する。6.Google　Classroomをプラットフォームとして活用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
毎回の授業で課すピアノ演奏や弾き語りの課題を授業の冒頭で発表することをアクティブラーニングの要素とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：次回課題曲の読譜をしておく。（毎回３０分程度）復習：授業で取り扱った曲を発表できるように練習しておくこと（毎回30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業中の態度・意欲 30%、実技試験 70%

＜教科書＞
　標準バイエルピアノ教則本　全音楽譜出版社
坂井康子・岡林典子南夏世・佐野仁美（2008年9月20日）　教育・保育現場で毎日使えるコードでかんたん！こどものうたマイ・レパートリー　ヤマハミュージックメディア

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の概要と課題の説明
2	ピアノの弾き方	ピアノの弾き方、指の形、姿勢、指の動かし方
3	バイエル12～14番を使ったレッスン	バイエルを使ったピアノ基礎練習
4	バイエル15番を使ったレッスン	バイエルを使った左右の手の動きが違う曲での基礎
5	バイエル17番（前半）	左右の手の動きが違う曲のレッスン
6	バイエル17番（後半）	左右の手の動きが違う曲のレッスン
7	バイエル19番（前半）、弾き歌い、カタツムリ（1）	バイエル19番（前半）を使ったレッスン、カタツムリを使った弾き歌いの練習（左手）
8	バイエル19番（後半）、弾き歌い、カタツムリ（2）	バイエル19番(後半)を使ったレッスン、カタツムリを使った弾き歌いの練習(右手、両手)
9	バイエル20番（前半）、弾き歌い、海	バイエル20番（前半）を使ったレッスン、海を使った弾き歌いの練習（左手）
10	バイエル20番（後半）、弾き歌い、海(2)	バイエル20番（後半）を使ったレッスン、海を使った弾き歌いの練習（右手、両手）
11	バイエル21番（前半）、弾き歌い、日の丸（１）	バイエル21番（前半）を使ったレッスン、日の丸を使った弾き歌いの練習（左手）
12	バイエル21番（後半）、弾き歌い、日の丸(2)	バイエル21番（後半）を使ったレッスン、日の丸を使った弾き歌いの練習（右手、両手）
13	発表	バイエル、弾き歌いの発表、これまで授業内で練習した曲から任意で発表をする。
14	総括	これまでの授業内容を総括する。
15		
16		

科目コード	21400				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	器楽演習Ⅰ［不開講］				担当者名	中家　淳悟			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第3、4クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
この授業ではピアノ演奏とピアノを用いた弾き歌いを中心に授業を展開する。この授業は小学校教諭に必要なピアノ・歌唱・読譜能力を中心とした器楽演奏の基礎技術を身につける。音楽、ピアノの初心者に向けて楽譜の読み方、ピアノの弾き方から丁寧に指導し音楽の授業をするにあたって困らないよう必要な基礎能力を養うことを目的とする。

＜授業の到達目標＞
１．バイエル30番程度のピアノ演奏をできる技術を身につける。２．小学校共通教材の低学年曲（１年生）を弾き歌いができるピアノ演奏能力を身につける。３．上記程度の読譜能力を身につける。

＜授業の方法＞
１．ピアノを用いてグループレッスン形式で行う。２．プレゼンテーション（課題を演奏し発表する）３．教材を読譜する。４．教材を視唱する。５．グループレッスンにより演奏する。6.Google　Classroomをプラットフォームとして活用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
毎回の授業で課すピアノ演奏や弾き語りの課題を授業の冒頭で発表することをアクティブラーニングの要素とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：次回課題曲の読譜をしておく。（毎回３０分程度）復習：授業で取り扱った曲を発表できるように練習しておくこと（毎回30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業中の態度・意欲 30%、実技試験 70%

＜教科書＞
　標準バイエルピアノ教則本　全音楽譜出版社
坂井康子・岡林典子南夏世・佐野仁美（2008年9月20日）　教育・保育現場で毎日使えるコードでかんたん！こどものうたマイ・レパートリー　ヤマハミュージックメディア

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の概要と課題の説明
2	ピアノの弾き方	ピアノの弾き方、指の形、姿勢、指の動かし方
3	バイエル12～14番を使ったレッスン	バイエルを使ったピアノ基礎練習
4	バイエル15番を使ったレッスン	バイエルを使った左右の手の動きが違う曲での基礎
5	バイエル17番（前半）	左右の手の動きが違う曲のレッスン
6	バイエル17番（後半）	左右の手の動きが違う曲のレッスン
7	バイエル19番（前半）、弾き歌い、カタツムリ（1）	バイエル19番（前半）を使ったレッスン、カタツムリを使った弾き歌いの練習（左手）
8	バイエル19番（後半）、弾き歌い、カタツムリ（2）	バイエル19番(後半)を使ったレッスン、カタツムリを使った弾き歌いの練習(右手、両手)
9	バイエル20番（前半）、弾き歌い、海	バイエル20番（前半）を使ったレッスン、海を使った弾き歌いの練習（左手）
10	バイエル20番（後半）、弾き歌い、海(2)	バイエル20番（後半）を使ったレッスン、海を使った弾き歌いの練習（右手、両手）
11	バイエル21番（前半）、弾き歌い、日の丸（１）	バイエル21番（前半）を使ったレッスン、日の丸を使った弾き歌いの練習（左手）
12	バイエル21番（後半）、弾き歌い、日の丸(2)	バイエル21番（後半）を使ったレッスン、日の丸を使った弾き歌いの練習（右手、両手）
13	発表	バイエル、弾き歌いの発表、これまで授業内で練習した曲から任意で発表をする。
14	総括	これまでの授業内容を総括する。
15		
16		

科目コード	21400				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	器楽演習Ⅰ [不開講]希望者は月曜5限に移動				担当者名	中家　淳悟			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第3、4クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
この授業ではピアノ演奏とピアノを用いた弾き歌いを中心に授業を展開する。この授業は小学校教諭に必要なピアノ・歌唱・読譜能力を中心とした器楽演奏の基礎技術を身につける。音楽、ピアノの初心者に向けて楽譜の読み方、ピアノの弾き方から丁寧に指導し音楽の授業をするにあたって困らないよう必要な基礎能力を養うことを目的とする。

＜授業の到達目標＞
１．バイエル30番程度のピアノ演奏をできる技術を身につける。２．小学校共通教材の低学年曲（１年生）を弾き歌いができるピアノ演奏能力を身につける。３．上記程度の読譜能力を身につける。

＜授業の方法＞
１．ピアノを用いてグループレッスン形式で行う。２．プレゼンテーション（課題を演奏し発表する）３．教材を読譜する。４．教材を視唱する。５．グループレッスンにより演奏する。6.Google　Classroomをプラットフォームとして活用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
毎回の授業で課すピアノ演奏や弾き語りの課題を授業の冒頭で発表することをアクティブラーニングの要素とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：次回課題曲の読譜をしておく。（毎回３０分程度）復習：授業で取り扱った曲を発表できるように練習しておくこと（毎回30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業中の態度・意欲 30%、実技試験 70%

＜教科書＞
　標準バイエルピアノ教則本　全音楽譜出版社
坂井康子・岡林典子南夏世・佐野仁美（2008年9月20日）　教育・保育現場で毎日使えるコードでかんたん！こどものうたマイ・レパートリー　ヤマハミュージックメディア

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の概要と課題の説明
2	ピアノの弾き方	ピアノの弾き方、指の形、姿勢、指の動かし方
3	バイエル12～14番を使ったレッスン	バイエルを使ったピアノ基礎練習
4	バイエル15番を使ったレッスン	バイエルを使った左右の手の動きが違う曲での基礎
5	バイエル17番（前半）	左右の手の動きが違う曲のレッスン
6	バイエル17番（後半）	左右の手の動きが違う曲のレッスン
7	バイエル19番（前半）、弾き歌い、カタツムリ（1）	バイエル19番（前半）を使ったレッスン、カタツムリを使った弾き歌いの練習（左手）
8	バイエル19番（後半）、弾き歌い、カタツムリ（2）	バイエル19番(後半)を使ったレッスン、カタツムリを使った弾き歌いの練習(右手、両手)
9	バイエル20番（前半）、弾き歌い、海	バイエル20番（前半）を使ったレッスン、海を使った弾き歌いの練習（左手）
10	バイエル20番（後半）、弾き歌い、海(2)	バイエル20番（後半）を使ったレッスン、海を使った弾き歌いの練習（右手、両手）
11	バイエル21番（前半）、弾き歌い、日の丸（１）	バイエル21番（前半）を使ったレッスン、日の丸を使った弾き歌いの練習（左手）
12	バイエル21番（後半）、弾き歌い、日の丸(2)	バイエル21番（後半）を使ったレッスン、日の丸を使った弾き歌いの練習（右手、両手）
13	発表	バイエル、弾き歌いの発表、これまで授業内で練習した曲から任意で発表をする。
14	総括	これまでの授業内容を総括する。
15		
16		

科目コード	21401				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	器楽演習Ⅱ				担当者名	三好　啓子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業では、「器楽演習Ⅰ」で習得した音楽の基礎知識およびピアノ弾き歌いの技術を基盤とし、保育・教育実習に必要とされるピアノ弾き歌いの技能向上を目指します。音楽の基礎理論や楽譜に記された記号・用語の理解を深めながら、読譜力、視唱力、コード（和音）による伴奏法の習得を目的としたグループレッスンを行います。また、基本的な発声やソルフェージュ、歌唱作品を通じて、音楽の三要素であるメロディー・ハーモニー・リズムを体感し、楽譜を理解することによって、音楽を楽しむ力を育みます。すべての課題提出にはGoogle Clas

＜授業の到達目標＞
①楽譜の読み書きを含む、ピアノ演奏に必要な音楽基礎力を身につける。②ピアノによる旋律演奏に必要な読譜力および演奏技術を習得する。③歌唱に必要な基本的な発声法、柔軟体操、表現力を身につける。④ピアノによるコード伴奏に必要な和音（コード）の知識を学び、簡単な伴奏法を習得する。また、リズム練習やソルフェージュを通して読譜力を高め、視唱力・初見力を養う。⑤コードネームを用いて、「こどもの歌」に相応しい伴奏を自らつけられるようになることを目標とする。⑥人前で演奏することに慣れることを目的に、定期試験期間にピアノ弾き

＜授業の方法＞
音楽理論に関する講義を中心に、読譜力を養うためのリズム・ソルフェージュ、歌唱指導、ピアノ技術指導などの演習を組み合わせて授業を行う。講義では教科書や教材を用いて学習を進めるが、練習問題や楽譜などの補助資料を配布することが多いため、各自でファイルを準備してください。また、各テーマ（単元）ごとに小テストや実技テストを実施し、習熟度を確認する。本授業はグループレッスンを中心に、必要に応じて個人レッスンを併用して行う。各授業時間内に模擬保育形式での発表を行い、実践力を養うことを目指す。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
ピアノ弾き歌い演奏技能習得のためのピアノ実技、歌唱等の演習を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
ピアノは毎日の積み重ねが重要です。必ず予習、復習を行いレッスンに臨むこと。次週課題（事前予告）予習 50分以上、これまで学習した課題の復習50分以上※芸術センター・ピアノ独習室を活用し研鑽を積むこと。※自宅にピアノが無い場合は、貸し出し用キーボートもありますので活用してください。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
こども発達学科のディプロマ・ポリシー「豊かな人間性を備え、コミュニケーション能力、多面的な子ども理解とその支援ができる専門性を身に付け、次世代の発展と構築に貢献する、国際的でグローバルな保育者・教育者・指導者の養成」のための基礎科目である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度、参加意欲 20%ピアノ弾き歌いレパートリー及びバイエル40%実技テスト 40%※定期試験期間中にピアノ弾き歌い実技試験を実施。事前に発表された課題曲5曲より当日抽選で2曲演奏する。

＜教科書＞
髙﨑展好　編著(発行2018年3月)　わかりやすい！学びやすい！コードでかんたん！保育のうた　環太平洋大学 次世代教育学部 こども発達学科
坪野 春枝　著　最もわかりやすい楽典入門　ケイ・エム・ピー

＜参考書＞
環太平洋大学

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション発声法・ピアノ弾き歌い演習	授業概要と課題の説明、発声指導、ソルフェージュ、リズムの学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノ弾き歌い課題
2	楽典と演習1	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題
3	楽典と演習2	復習、確認テスト確認テストは模擬保育形式で実施
4	楽典と演習3	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題音楽理論
5	楽典と演習4	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題音楽理論

6	楽典と演習5	復習、確認テスト確認テストは模擬保育形式で実施
7	楽典と演習6	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題音楽理論
8	楽典と演習7	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題音楽理論
9	楽典と演習8	復習、確認テスト確認テストは模擬保育形式で実施
10	楽典と演習9	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題音楽理論
11	楽典と演習10	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題音楽理論
12	楽典と演習11	復習、確認テスト確認テストは模擬保育形式で実施
13	楽典と演習12	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題音楽理論
14	楽典と演習13	音楽理論確認テスト、振り返り、まとめ※ピアノ弾き歌い実技試験の連絡
15	定期試験	ピアノ弾き歌い実技試験実施事前に発表された課題曲５曲より当日抽選で2曲演奏
16		

科目コード	21401				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	器楽演習Ⅱ				担当者名	三好　啓子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本授業では、「器楽演習Ⅰ」で習得した音楽の基礎知識およびピアノ弾き歌いの技術を基盤とし、保育・教育実習に必要とされるピアノ弾き歌いの技能向上を目指します。音楽の基礎理論や楽譜に記された記号・用語の理解を深めながら、読譜力、視唱力、コード（和音）による伴奏法の習得を目的としたグループレッスンを行います。また、基本的な発声やソルフェージュ、歌唱作品を通じて、音楽の三要素であるメロディー・ハーモニー・リズムを体感し、楽譜を理解することによって、音楽を楽しむ力を育みます。すべての課題提出にはGoogle Clas

＜授業の到達目標＞

①楽譜の読み書きを含む、ピアノ演奏に必要な音楽基礎力を身につける。②ピアノによる旋律演奏に必要な読譜力および演奏技術を習得する。③歌唱に必要な基本的な発声法、柔軟体操、表現力を身につける。④ピアノによるコード伴奏に必要な和音（コード）の知識を学び、簡単な伴奏法を習得する。また、リズム練習やソルフェージュを通して読譜力を高め、視唱力・初見力を養う。⑤コードネームを用いて、「こどもの歌」に相応しい伴奏を自らつけられるようになることを目標とする。⑥人前で演奏することに慣れることを目的に、定期試験期間にピアノ弾き

＜授業の方法＞

音楽理論に関する講義を中心に、読譜力を養うためのリズム・ソルフェージュ、歌唱指導、ピアノ技術指導などの演習を組み合わせて授業を行う。講義では教科書や教材を用いて学習を進めるが、練習問題や楽譜などの補助資料を配布することが多いため、各自でファイルを準備してください。また、各テーマ（単元）ごとに小テストや実技テストを実施し、習熟度を確認する。本授業はグループレッスンを中心に、必要に応じて個人レッスンを併用して行う。各授業時間内に模擬保育形式での発表を行い、実践力を養うことを目指す。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

ピアノ弾き歌い演奏技能習得のためのピアノ実技、歌唱等の演習を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

ピアノは毎日の積み重ねが重要です。必ず予習、復習を行いレッスンに臨むこと。次週課題（事前予告）予習 50分以上、これまで学習した課題の復習50分以上※芸術センター・ピアノ独習室を活用し研鑽を積むこと。※自宅にピアノが無い場合は、貸し出し用キーボートもありますので活用してください。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

こども発達学科のディプロマ・ポリシー「豊かな人間性を備え、コミュニケーション能力、多面的な子ども理解とその支援ができる専門性を身に付け、次世代の発展と構築に貢献する、国際的でグローバルな保育者・教育者・指導者の養成」のための基礎科目である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度、参加意欲 20%ピアノ弾き歌いレパートリー及びバイエル40%実技テスト 40%※定期試験期間中にピアノ弾き歌い実技試験を実施。事前に発表された課題曲5曲より当日抽選で2曲演奏する。

＜教科書＞

髙﨑展好　編著(発行2018年3月)　わかりやすい！学びやすい！コードでかんたん！保育のうた　環太平洋大学 次世代教育学部 こども発達学科
坪野 春枝　著　最もわかりやすい楽典入門　ケイ・エム・ピー

＜参考書＞

環太平洋大学

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション発声法・ピアノ弾き歌い演習	授業概要と課題の説明、発声指導、ソルフェージュ、リズムの学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノ弾き歌い課題
2	楽典と演習1	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題
3	楽典と演習2	復習、確認テスト確認テストは模擬保育形式で実施
4	楽典と演習3	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題音楽理論
5	楽典と演習4	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題音楽理論

6	楽典と演習5	復習、確認テスト確認テストは模擬保育形式で実施
7	楽典と演習6	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題音楽理論
8	楽典と演習7	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題音楽理論
9	楽典と演習8	復習、確認テスト確認テストは模擬保育形式で実施
10	楽典と演習9	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題音楽理論
11	楽典と演習10	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題音楽理論
12	楽典と演習11	復習、確認テスト確認テストは模擬保育形式で実施
13	楽典と演習12	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題音楽理論
14	楽典と演習13	音楽理論確認テスト、振り返り、まとめ※ピアノ弾き歌い実技試験の連絡
15	定期試験	ピアノ弾き歌い実技試験実施事前に発表された課題曲５曲より当日抽選で2曲演奏
16		

科目コード	21401				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	器楽演習Ⅱ［A］				担当者名	中家　淳悟／三好　啓子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第３クォーター第４クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業では、小学校2年生から6年生の音楽共通教材を課題曲とし、ピアノ演奏およびピアノを用いた弾き歌いを中心に学習を行う。小学校教諭に必要とされる、ピアノ・歌唱を中心とした基礎的な演奏技術の習得を目的とする演習科目である。また、「器楽演習Ⅰ」の内容を発展させ、ピアノ演奏技能および歌唱指導法の向上を図る。

＜授業の到達目標＞
1.　読譜能力を身につける。2.　小学校共通教材の６年生までの弾き歌いの基礎を体験する3.　正しい発声で歌うことができる・斉唱の基本（音程・リズム・呼吸）を理解する

＜授業の方法＞
１．ピアノを用いてグループレッスン形式で行う。２．プレゼンテーション（課題を演奏し発表する）３．教材を読譜する。４．教材を視唱する。５．グループレッスンにより、歌唱、ピアノ演奏する。6.Google　Classroomをプラットフォームとして活用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
毎回の授業で課すピアノ演奏や弾き歌い、歌唱を授業の冒頭で発表することをアクティブラーニングの要素とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：次回課題曲の読譜をしておく。（毎回30分程度）復習：授業で取り扱った曲を発表できるように練習しておくこと（毎回30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業中の態度・意欲 30%、実技試験 70%

＜教科書＞
坂井康子・岡林典子南夏世・佐野仁美（2008年9月20日）　教育・保育現場で毎日使えるコードでかんたん！こどものうたマイ・レパートリー　ヤマハミュージックメディア

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の概要と課題の説明。　「かくれんぼ」読譜。
2	「かくれんぼ」	発声・斉唱。「かくれんぼ」を使った弾き歌い。読譜「春がきた」。
3	「春がきた」	発声・斉唱「春がきた」を使った弾き歌い。読譜「夕やけこやけ」
4	「夕やけこやけ」	発声・斉唱「夕やけこやけ」を使った弾き歌い。読譜「虫のこえ」
5	「虫のこえ」「うさぎ」	発声・斉唱・「うさぎ」歌唱「虫のこえ」を使った弾き歌い。読譜「茶つみ」
6	「茶つみ」	発声・斉唱「茶つみ」を使った弾き歌い。読譜「ふじ山」「春の小川」
7	グループワークによる協働的な歌唱学習（１）　「ふじ山」「春の小川」	グループワークによる協働的な学習「さくら」「ふじ山」「春の小川」を使った弾き歌い。読譜「春の小川」「とんび」
8	グループワークによる協働的な歌唱学習（２）「春の小川」「とんび」	グループワークによる協働的な学習「小学校２声合唱指導」「春の小川」「とんび」を使った弾き歌い。読譜「まきばの朝」
9	グループワークによる協働的な歌唱学習（３）「まきばの朝」	グループワークによる協働的な学習「小学校２声合唱指導」「まきばの朝」を使った弾き歌い。読譜「もみじ」。
10	合唱発表「もみじ」	発声・合唱振り返り　「もみじ」を使った弾き歌い。読譜「こいのぼり」
11	グループワークによる協働的な歌唱学習（４）「こいのぼり」	グループワークによる協働的な学習「子守歌」「越天楽今様」「こいのぼり」　を使った弾き歌い。読譜「スキーの歌」「冬げしき」
12	グループワークによる協働的な歌唱学習（５）「スキーの歌」「冬げしき」	グループワークによる協働的な学習「発声指導・声の特性」「スキーの歌」「冬げしき」を使った弾き歌い。読譜「おぼろ月夜」「ふるさと」
13	グループワークによる協働的な歌唱学習（６）「おぼろ月夜」「ふるさと」	グループワークによる協働的な学習「発声指導・範唱練習」「おぼろ月夜」「ふるさと」を使った弾き歌い。読譜「われは海の子」
14	「われは海の子」総括	試験曲の確認　「われは海の子」を使った弾き歌い

15 16		

科目コード	21401				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	器楽演習Ⅱ [A][不開講]				担当者名	中家　淳悟／三好　啓子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第１クォーター第２クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業では、小学校2年生から6年生の音楽共通教材を課題曲とし、ピアノ演奏およびピアノを用いた弾き歌いを中心に学習を行う。小学校教諭に必要とされる、ピアノ・歌唱を中心とした基礎的な演奏技術の習得を目的とする演習科目である。また、「器楽演習Ⅰ」の内容を発展させ、ピアノ演奏技能および歌唱指導法の向上を図る。

＜授業の到達目標＞
1.　読譜能力を身につける。2.　小学校共通教材の６年生までの弾き歌いの基礎を体験する3.　正しい発声で歌うことができる・斉唱の基本（音程・リズム・呼吸）を理解する

＜授業の方法＞
１．ピアノを用いてグループレッスン形式で行う。２．プレゼンテーション（課題を演奏し発表する）３．教材を読譜する。４．教材を視唱する。５．グループレッスンにより、歌唱、ピアノ演奏する。6.Google　Classroomをプラットフォームとして活用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
毎回の授業で課すピアノ演奏や弾き歌い、歌唱を授業の冒頭で発表することをアクティブラーニングの要素とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：次回課題曲の読譜をしておく。（毎回30分程度）復習：授業で取り扱った曲を発表できるように練習しておくこと（毎回30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業中の態度・意欲 30%、実技試験 70%

＜教科書＞
坂井康子・岡林典子南夏世・佐野仁美（2008年9月20日）　教育・保育現場で毎日使えるコードでかんたん！こどものうたマイ・レパートリー　ヤマハミュージックメディア

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の概要と課題の説明。　「かくれんぼ」読譜。
2	「かくれんぼ」	発声・斉唱。「かくれんぼ」を使った弾き歌い。読譜「春がきた」。
3	「春がきた」	発声・斉唱「春がきた」を使った弾き歌い。読譜「夕やけこやけ」
4	「夕やけこやけ」	発声・斉唱「夕やけこやけ」を使った弾き歌い。読譜「虫のこえ」
5	「虫のこえ」「うさぎ」	発声・斉唱・「うさぎ」歌唱「虫のこえ」を使った弾き歌い。読譜「茶つみ」
6	「茶つみ」	発声・斉唱「茶つみ」を使った弾き歌い。読譜「ふじ山」「春の小川」
7	グループワークによる協働的な歌唱学習（１）　「ふじ山」「春の小川」	グループワークによる協働的な学習「さくら」「ふじ山」「春の小川」を使った弾き歌い。読譜「春の小川」「とんび」
8	グループワークによる協働的な歌唱学習（２）「春の小川」「とんび」	グループワークによる協働的な学習「小学校２声合唱指導」「春の小川」「とんび」を使った弾き歌い。読譜「まきばの朝」
9	グループワークによる協働的な歌唱学習（３）「まきばの朝」	グループワークによる協働的な学習「小学校２声合唱指導」「まきばの朝」を使った弾き歌い。読譜「もみじ」。
10	合唱発表「もみじ」	発声・合唱振り返り　「もみじ」を使った弾き歌い。読譜「こいのぼり」
11	グループワークによる協働的な歌唱学習（４）「こいのぼり」	グループワークによる協働的な学習「子守歌」「越天楽今様」「こいのぼり」　を使った弾き歌い。読譜「スキーの歌」「冬げしき」
12	グループワークによる協働的な歌唱学習（５）「スキーの歌」「冬げしき」	グループワークによる協働的な学習「発声指導・声の特性」「スキーの歌」「冬げしき」を使った弾き歌い。読譜「おぼろ月夜」「ふるさと」
13	グループワークによる協働的な歌唱学習（６）「おぼろ月夜」「ふるさと」	グループワークによる協働的な学習「発声指導・範唱練習」「おぼろ月夜」「ふるさと」を使った弾き歌い。読譜「われは海の子」
14	「われは海の子」総括	試験曲の確認　「われは海の子」を使った弾き歌い

15 16		

科目コード	21401				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	器楽演習Ⅱ［B］				担当者名	中家　淳悟／三好　啓子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第３クォーター第４クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業では、小学校2年生から6年生の音楽共通教材を課題曲とし、ピアノ演奏およびピアノを用いた弾き歌いを中心に学習を行う。小学校教諭に必要とされる、ピアノ・歌唱を中心とした基礎的な演奏技術の習得を目的とする演習科目である。また、「器楽演習Ⅰ」の内容を発展させ、ピアノ演奏技能および歌唱指導法の向上を図る。

＜授業の到達目標＞
1.　読譜能力を身につける。2.　小学校共通教材の６年生までの弾き歌いの基礎を体験する3.　正しい発声で歌うことができる・斉唱の基本（音程・リズム・呼吸）を理解する

＜授業の方法＞
１．ピアノを用いてグループレッスン形式で行う。２．プレゼンテーション（課題を演奏し発表する）３．教材を読譜する。４．教材を視唱する。５．グループレッスンにより、歌唱、ピアノ演奏する。6.Google　Classroomをプラットフォームとして活用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
毎回の授業で課すピアノ演奏や弾き歌い、歌唱を授業の冒頭で発表することをアクティブラーニングの要素とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：次回課題曲の読譜をしておく。（毎回30分程度）復習：授業で取り扱った曲を発表できるように練習しておくこと（毎回30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業中の態度・意欲 30%、実技試験 70%

＜教科書＞
坂井康子・岡林典子南夏世・佐野仁美（2008年9月20日）　教育・保育現場で毎日使えるコードでかんたん！こどものうたマイ・レパートリー　ヤマハミュージックメディア

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の概要と課題の説明。　「かくれんぼ」読譜。
2	「かくれんぼ」	発声・斉唱。「かくれんぼ」を使った弾き歌い。読譜「春がきた」。
3	「春がきた」	発声・斉唱「春がきた」を使った弾き歌い。読譜「夕やけこやけ」
4	「夕やけこやけ」	発声・斉唱「夕やけこやけ」を使った弾き歌い。読譜「虫のこえ」
5	「虫のこえ」「うさぎ」	発声・斉唱・「うさぎ」歌唱「虫のこえ」を使った弾き歌い。読譜「茶つみ」
6	「茶つみ」	発声・斉唱「茶つみ」を使った弾き歌い。読譜「ふじ山」「春の小川」
7	グループワークによる協働的な歌唱学習（１）　「ふじ山」「春の小川」	グループワークによる協働的な学習「さくら」「ふじ山」「春の小川」を使った弾き歌い。読譜「春の小川」「とんび」
8	グループワークによる協働的な歌唱学習（２）「春の小川」「とんび」	グループワークによる協働的な学習「小学校２声合唱指導」「春の小川」「とんび」を使った弾き歌い。読譜「まきばの朝」
9	グループワークによる協働的な歌唱学習（３）「まきばの朝」	グループワークによる協働的な学習「小学校２声合唱指導」「まきばの朝」を使った弾き歌い。読譜「もみじ」。
10	合唱発表「もみじ」	発声・合唱振り返り　「もみじ」を使った弾き歌い。読譜「こいのぼり」
11	グループワークによる協働的な歌唱学習（４）「こいのぼり」	グループワークによる協働的な学習「子守歌」「越天楽今様」「こいのぼり」　を使った弾き歌い。読譜「スキーの歌」「冬げしき」
12	グループワークによる協働的な歌唱学習（５）「スキーの歌」「冬げしき」	グループワークによる協働的な学習「発声指導・声の特性」「スキーの歌」「冬げしき」を使った弾き歌い。読譜「おぼろ月夜」「ふるさと」
13	グループワークによる協働的な歌唱学習（６）「おぼろ月夜」「ふるさと」	グループワークによる協働的な学習「発声指導・範唱練習」「おぼろ月夜」「ふるさと」を使った弾き歌い。読譜「われは海の子」
14	「われは海の子」総括	試験曲の確認　「われは海の子」を使った弾き歌い

15 16		

科目コード	21401				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	器楽演習Ⅱ [B][不開講]				担当者名	中家　淳悟／三好　啓子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第１クォーター第２クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業では、小学校2年生から6年生の音楽共通教材を課題曲とし、ピアノ演奏およびピアノを用いた弾き歌いを中心に学習を行う。小学校教諭に必要とされる、ピアノ・歌唱を中心とした基礎的な演奏技術の習得を目的とする演習科目である。また、「器楽演習Ⅰ」の内容を発展させ、ピアノ演奏技能および歌唱指導法の向上を図る。

＜授業の到達目標＞
1.　読譜能力を身につける。2.　小学校共通教材の６年生までの弾き歌いの基礎を体験する3.　正しい発声で歌うことができる・斉唱の基本（音程・リズム・呼吸）を理解する

＜授業の方法＞
１．ピアノを用いてグループレッスン形式で行う。２．プレゼンテーション（課題を演奏し発表する）３．教材を読譜する。４．教材を視唱する。５．グループレッスンにより、歌唱、ピアノ演奏する。6.Google　Classroomをプラットフォームとして活用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
毎回の授業で課すピアノ演奏や弾き歌い、歌唱を授業の冒頭で発表することをアクティブラーニングの要素とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：次回課題曲の読譜をしておく。（毎回30分程度）復習：授業で取り扱った曲を発表できるように練習しておくこと（毎回30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業中の態度・意欲 30%、実技試験 70%

＜教科書＞
坂井康子・岡林典子南夏世・佐野仁美（2008年9月20日）　教育・保育現場で毎日使えるコードでかんたん！こどものうたマイ・レパートリー　ヤマハミュージックメディア

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の概要と課題の説明。　「かくれんぼ」読譜。
2	「かくれんぼ」	発声・斉唱。「かくれんぼ」を使った弾き歌い。読譜「春がきた」。
3	「春がきた」	発声・斉唱「春がきた」を使った弾き歌い。読譜「夕やけこやけ」
4	「夕やけこやけ」	発声・斉唱「夕やけこやけ」を使った弾き歌い。読譜「虫のこえ」
5	「虫のこえ」「うさぎ」	発声・斉唱・「うさぎ」歌唱「虫のこえ」を使った弾き歌い。読譜「茶つみ」
6	「茶つみ」	発声・斉唱「茶つみ」を使った弾き歌い。読譜「ふじ山」「春の小川」
7	グループワークによる協働的な歌唱学習（１）　「ふじ山」「春の小川」	グループワークによる協働的な学習「さくら」「ふじ山」「春の小川」を使った弾き歌い。読譜「春の小川」「とんび」
8	グループワークによる協働的な歌唱学習（２）「春の小川」「とんび」	グループワークによる協働的な学習「小学校２声合唱指導」「春の小川」「とんび」を使った弾き歌い。読譜「まきばの朝」
9	グループワークによる協働的な歌唱学習（３）「まきばの朝」	グループワークによる協働的な学習「小学校２声合唱指導」「まきばの朝」を使った弾き歌い。読譜「もみじ」。
10	合唱発表「もみじ」	発声・合唱振り返り　「もみじ」を使った弾き歌い。読譜「こいのぼり」
11	グループワークによる協働的な歌唱学習（４）「こいのぼり」	グループワークによる協働的な学習「子守歌」「越天楽今様」「こいのぼり」　を使った弾き歌い。読譜「スキーの歌」「冬げしき」
12	グループワークによる協働的な歌唱学習（５）「スキーの歌」「冬げしき」	グループワークによる協働的な学習「発声指導・声の特性」「スキーの歌」「冬げしき」を使った弾き歌い。読譜「おぼろ月夜」「ふるさと」
13	グループワークによる協働的な歌唱学習（６）「おぼろ月夜」「ふるさと」	グループワークによる協働的な学習「発声指導・範唱練習」「おぼろ月夜」「ふるさと」を使った弾き歌い。読譜「われは海の子」
14	「われは海の子」総括	試験曲の確認　「われは海の子」を使った弾き歌い

15 16		

科目コード	21401				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	器楽演習Ⅱ［C］				担当者名	中家　淳悟／三好　啓子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第３クォーター第４クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業では、小学校2年生から6年生の音楽共通教材を課題曲とし、ピアノ演奏およびピアノを用いた弾き歌いを中心に学習を行う。小学校教諭に必要とされる、ピアノ・歌唱を中心とした基礎的な演奏技術の習得を目的とする演習科目である。また、「器楽演習Ⅰ」の内容を発展させ、ピアノ演奏技能および歌唱指導法の向上を図る。

＜授業の到達目標＞
1.　読譜能力を身につける。2.　小学校共通教材の６年生までの弾き歌いの基礎を体験する3.　正しい発声で歌うことができる・斉唱の基本（音程・リズム・呼吸）を理解する

＜授業の方法＞
１．ピアノを用いてグループレッスン形式で行う。２．プレゼンテーション（課題を演奏し発表する）３．教材を読譜する。４．教材を視唱する。５．グループレッスンにより、歌唱、ピアノ演奏する。6.Google　Classroomをプラットフォームとして活用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
毎回の授業で課すピアノ演奏や弾き歌い、歌唱を授業の冒頭で発表することをアクティブラーニングの要素とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：次回課題曲の読譜をしておく。（毎回30分程度）復習：授業で取り扱った曲を発表できるように練習しておくこと（毎回30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業中の態度・意欲 30%、実技試験 70%

＜教科書＞
坂井康子・岡林典子南夏世・佐野仁美（2008年9月20日）　教育・保育現場で毎日使えるコードでかんたん！こどものうたマイ・レパートリー　ヤマハミュージックメディア

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の概要と課題の説明。　「かくれんぼ」読譜。
2	「かくれんぼ」	発声・斉唱。「かくれんぼ」を使った弾き歌い。読譜「春がきた」。
3	「春がきた」	発声・斉唱「春がきた」を使った弾き歌い。読譜「夕やけこやけ」
4	「夕やけこやけ」	発声・斉唱「夕やけこやけ」を使った弾き歌い。読譜「虫のこえ」
5	「虫のこえ」「うさぎ」	発声・斉唱・「うさぎ」歌唱「虫のこえ」を使った弾き歌い。読譜「茶つみ」
6	「茶つみ」	発声・斉唱「茶つみ」を使った弾き歌い。読譜「ふじ山」「春の小川」
7	グループワークによる協働的な歌唱学習（１）　「ふじ山」「春の小川」	グループワークによる協働的な学習「さくら」「ふじ山」「春の小川」を使った弾き歌い。読譜「春の小川」「とんび」
8	グループワークによる協働的な歌唱学習（２）「春の小川」「とんび」	グループワークによる協働的な学習「小学校２声合唱指導」「春の小川」「とんび」を使った弾き歌い。読譜「まきばの朝」
9	グループワークによる協働的な歌唱学習（３）「まきばの朝」	グループワークによる協働的な学習「小学校２声合唱指導」「まきばの朝」を使った弾き歌い。読譜「もみじ」。
10	合唱発表「もみじ」	発声・合唱振り返り　「もみじ」を使った弾き歌い。読譜「こいのぼり」
11	グループワークによる協働的な歌唱学習（４）「こいのぼり」	グループワークによる協働的な学習「子守歌」「越天楽今様」「こいのぼり」　を使った弾き歌い。読譜「スキーの歌」「冬げしき」
12	グループワークによる協働的な歌唱学習（５）「スキーの歌」「冬げしき」	グループワークによる協働的な学習「発声指導・声の特性」「スキーの歌」「冬げしき」を使った弾き歌い。読譜「おぼろ月夜」「ふるさと」
13	グループワークによる協働的な歌唱学習（６）「おぼろ月夜」「ふるさと」	グループワークによる協働的な学習「発声指導・範唱練習」「おぼろ月夜」「ふるさと」を使った弾き歌い。読譜「われは海の子」
14	「われは海の子」総括	試験曲の確認　「われは海の子」を使った弾き歌い

15 16		

科目コード	21401				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	器楽演習Ⅱ［C][不開講]				担当者名	中家　淳悟／三好　啓子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第１クォーター第２クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業では、小学校2年生から6年生の音楽共通教材を課題曲とし、ピアノ演奏およびピアノを用いた弾き歌いを中心に学習を行う。小学校教諭に必要とされる、ピアノ・歌唱を中心とした基礎的な演奏技術の習得を目的とする演習科目である。また、「器楽演習Ⅰ」の内容を発展させ、ピアノ演奏技能および歌唱指導法の向上を図る。

＜授業の到達目標＞
1.　読譜能力を身につける。2.　小学校共通教材の６年生までの弾き歌いの基礎を体験する3.　正しい発声で歌うことができる・斉唱の基本（音程・リズム・呼吸）を理解する

＜授業の方法＞
１．ピアノを用いてグループレッスン形式で行う。２．プレゼンテーション（課題を演奏し発表する）３．教材を読譜する。４．教材を視唱する。５．グループレッスンにより、歌唱、ピアノ演奏する。6.Google　Classroomをプラットフォームとして活用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
毎回の授業で課すピアノ演奏や弾き歌い、歌唱を授業の冒頭で発表することをアクティブラーニングの要素とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：次回課題曲の読譜をしておく。（毎回30分程度）復習：授業で取り扱った曲を発表できるように練習しておくこと（毎回30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業中の態度・意欲 30%、実技試験 70%

＜教科書＞
坂井康子・岡林典子南夏世・佐野仁美（2008年9月20日）　教育・保育現場で毎日使えるコードでかんたん！こどものうたマイ・レパートリー　ヤマハミュージックメディア

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の概要と課題の説明。　「かくれんぼ」読譜。
2	「かくれんぼ」	発声・斉唱。「かくれんぼ」を使った弾き歌い。読譜「春がきた」。
3	「春がきた」	発声・斉唱「春がきた」を使った弾き歌い。読譜「夕やけこやけ」
4	「夕やけこやけ」	発声・斉唱「夕やけこやけ」を使った弾き歌い。読譜「虫のこえ」
5	「虫のこえ」「うさぎ」	発声・斉唱・「うさぎ」歌唱「虫のこえ」を使った弾き歌い。読譜「茶つみ」
6	「茶つみ」	発声・斉唱「茶つみ」を使った弾き歌い。読譜「ふじ山」「春の小川」
7	グループワークによる協働的な歌唱学習（１）　「ふじ山」「春の小川」	グループワークによる協働的な学習「さくら」「ふじ山」「春の小川」を使った弾き歌い。読譜「春の小川」「とんび」
8	グループワークによる協働的な歌唱学習（２）「春の小川」「とんび」	グループワークによる協働的な学習「小学校２声合唱指導」「春の小川」「とんび」を使った弾き歌い。読譜「まきばの朝」
9	グループワークによる協働的な歌唱学習（３）「まきばの朝」	グループワークによる協働的な学習「小学校２声合唱指導」「まきばの朝」を使った弾き歌い。読譜「もみじ」。
10	合唱発表「もみじ」	発声・合唱振り返り　「もみじ」を使った弾き歌い。読譜「こいのぼり」
11	グループワークによる協働的な歌唱学習（４）「こいのぼり」	グループワークによる協働的な学習「子守歌」「越天楽今様」「こいのぼり」　を使った弾き歌い。読譜「スキーの歌」「冬げしき」
12	グループワークによる協働的な歌唱学習（５）「スキーの歌」「冬げしき」	グループワークによる協働的な学習「発声指導・声の特性」「スキーの歌」「冬げしき」を使った弾き歌い。読譜「おぼろ月夜」「ふるさと」
13	グループワークによる協働的な歌唱学習（６）「おぼろ月夜」「ふるさと」	グループワークによる協働的な学習「発声指導・範唱練習」「おぼろ月夜」「ふるさと」を使った弾き歌い。読譜「われは海の子」
14	「われは海の子」総括	試験曲の確認　「われは海の子」を使った弾き歌い

15 16		

科目コード	21401				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	器楽演習Ⅱ［FC2521］				担当者名	髙﨑　展好			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業では、「器楽演習Ⅰ」で習得した音楽の基礎知識およびピアノ弾き歌いの技術を基盤とし、保育・教育実習に必要とされるピアノ弾き歌いの技能向上を目指します。音楽の基礎理論や楽譜に記された記号・用語の理解を深めながら、読譜力、視唱力、コード（和音）による伴奏法の習得を目的としたグループレッスンを行います。また、基本的な発声やソルフェージュ、歌唱作品を通じて、音楽の三要素であるメロディー・ハーモニー・リズムを体感し、楽譜を理解することによって、音楽を楽しむ力を育みます。すべての課題提出にはGoogle Clas

＜授業の到達目標＞
① 楽譜の読み書きを含む音楽基礎力を身につけ、ピアノ演奏に必要な基礎的知識を理解し活用することができる。② 楽譜を正確に読み取り、ピアノによる旋律演奏を適切に行うことができる。③ 歌唱に必要な基本的な発声法や身体の使い方を理解し、表現豊かに歌うことができる。④ 和音（コード）の基礎的知識を理解し、簡単なコード伴奏を行うことができる。⑤ リズム練習やソルフェージュを通して読譜力を高め、視唱および初見演奏を行うことができる。⑥ コードネームを活用し、「こどもの歌」にふさわしい伴奏を自ら工夫して付けることができ

＜授業の方法＞
音楽理論に関する講義を中心に、読譜力を養うためのリズム・ソルフェージュ、歌唱指導、ピアノ技術指導などの演習を組み合わせて授業を行う。講義では教科書や教材を用いて学習を進めるが、練習問題や楽譜などの補助資料を配布することが多いため、各自でファイルを準備してください。また、各テーマ（単元）ごとに小テストや実技テストを実施し、習熟度を確認する。本授業はグループレッスンを中心に、必要に応じて個人レッスンを併用して行う。各授業時間内に模擬保育形式での発表を行い、実践力を養うことを目指す。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
ピアノ弾き歌い演奏技能習得のためのピアノ実技、歌唱等の演習を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
ピアノは毎日の積み重ねが重要です。必ず予習、復習を行いレッスンに臨むこと。次週課題（事前予告）予習 50分以上、これまで学習した課題の復習50分以上※芸術センター・ピアノ独習室を活用し研鑽を積むこと。※自宅にピアノが無い場合は、貸し出し用キーボートもありますので活用してください。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
こども発達学科のディプロマ・ポリシー「豊かな人間性を備え、コミュニケーション能力、多面的な子ども理解とその支援ができる専門性を身に付け、次世代の発展と構築に貢献する、国際的でグローバルな保育者・教育者・指導者の養成」のための基礎科目である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度、参加意欲 20％ピアノ弾き歌いレパートリー及びバイエル40％実技テスト 40％※定期試験期間中にピアノ弾き歌い実技試験を実施。事前に発表された課題曲5曲より当日抽選で2曲演奏する。

＜教科書＞
髙﨑展好　編著(発行2018年3月)　わかりやすい！学びやすい！コードでかんたん！保育のうた　環太平洋大学 次世代教育学部 こども発達学科
坪野 春枝　著　最もわかりやすい楽典入門　ケイ・エム・ピー

＜参考書＞
環太平洋大学

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション発声法・ピアノ弾き歌い演習	授業概要と課題の説明、発声指導、ソルフェージュ、リズムの学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノ弾き歌い課題
2	楽典と演習1	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題
3	楽典と演習2	復習、確認テスト確認テストは模擬保育形式で実施
4	楽典と演習3	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題音楽理論
5	楽典と演習4	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題音楽理論

6	楽典と演習5	復習、確認テスト確認テストは模擬保育形式で実施
7	楽典と演習6	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題音楽理論
8	楽典と演習7	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題音楽理論
9	楽典と演習8	復習、確認テスト確認テストは模擬保育形式で実施
10	楽典と演習9	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題音楽理論
11	楽典と演習10	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題音楽理論
12	楽典と演習11	復習、確認テスト確認テストは模擬保育形式で実施
13	楽典と演習12	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題音楽理論
14	楽典と演習13	音楽理論確認テスト、振り返り、まとめ※ピアノ弾き歌い実技試験の連絡
15	定期試験	ピアノ弾き歌い実技試験実施事前に発表された課題曲５曲より当日抽選で2曲演奏
16		

科目コード	21401				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	器楽演習Ⅱ［FC2522］				担当者名	髙﨑　展好			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業では、「器楽演習Ⅰ」で習得した音楽の基礎知識およびピアノ弾き歌いの技術を基盤とし、保育・教育実習に必要とされるピアノ弾き歌いの技能向上を目指します。音楽の基礎理論や楽譜に記された記号・用語の理解を深めながら、読譜力、視唱力、コード（和音）による伴奏法の習得を目的としたグループレッスンを行います。また、基本的な発声やソルフェージュ、歌唱作品を通じて、音楽の三要素であるメロディー・ハーモニー・リズムを体感し、楽譜を理解することによって、音楽を楽しむ力を育みます。すべての課題提出にはGoogle Clas

＜授業の到達目標＞
① 楽譜の読み書きを含む音楽基礎力を身につけ、ピアノ演奏に必要な基礎的知識を理解し活用することができる。② 楽譜を正確に読み取り、ピアノによる旋律演奏を適切に行うことができる。③ 歌唱に必要な基本的な発声法や身体の使い方を理解し、表現豊かに歌うことができる。④ 和音（コード）の基礎的知識を理解し、簡単なコード伴奏を行うことができる。⑤ リズム練習やソルフェージュを通して読譜力を高め、視唱および初見演奏を行うことができる。⑥ コードネームを活用し、「こどもの歌」にふさわしい伴奏を自ら工夫して付けることができ

＜授業の方法＞
音楽理論に関する講義を中心に、読譜力を養うためのリズム・ソルフェージュ、歌唱指導、ピアノ技術指導などの演習を組み合わせて授業を行う。講義では教科書や教材を用いて学習を進めるが、練習問題や楽譜などの補助資料を配布することが多いため、各自でファイルを準備してください。また、各テーマ（単元）ごとに小テストや実技テストを実施し、習熟度を確認する。本授業はグループレッスンを中心に、必要に応じて個人レッスンを併用して行う。各授業時間内に模擬保育形式での発表を行い、実践力を養うことを目指す。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
ピアノ弾き歌い演奏技能習得のためのピアノ実技、歌唱等の演習を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
ピアノは毎日の積み重ねが重要です。必ず予習、復習を行いレッスンに臨むこと。次週課題（事前予告）予習 50分以上、これまで学習した課題の復習50分以上※芸術センター・ピアノ独習室を活用し研鑽を積むこと。※自宅にピアノが無い場合は、貸し出し用キーボートもありますので活用してください。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
こども発達学科のディプロマ・ポリシー「豊かな人間性を備え、コミュニケーション能力、多面的な子ども理解とその支援ができる専門性を身に付け、次世代の発展と構築に貢献する、国際的でグローバルな保育者・教育者・指導者の養成」のための基礎科目である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度、参加意欲 20%ピアノ弾き歌いレパートリー及びバイエル40%実技テスト 40%※定期試験期間中にピアノ弾き歌い実技試験を実施。事前に発表された課題曲5曲より当日抽選で2曲演奏する。

＜教科書＞
髙﨑展好　編著(発行2018年3月)　わかりやすい！学びやすい！コードでかんたん！保育のうた　環太平洋大学 次世代教育学部 こども発達学科
坪野 春枝　著　最もわかりやすい楽典入門　ケイ・エム・ピー

＜参考書＞
環太平洋大学

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション発声法・ピアノ弾き歌い演習	授業概要と課題の説明、発声指導、ソルフェージュ、リズムの学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノ弾き歌い課題
2	楽典と演習1	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題
3	楽典と演習2	復習、確認テスト確認テストは模擬保育形式で実施
4	楽典と演習3	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題音楽理論
5	楽典と演習4	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題音楽理論

6	楽典と演習5	復習、確認テスト確認テストは模擬保育形式で実施
7	楽典と演習6	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題音楽理論
8	楽典と演習7	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題音楽理論
9	楽典と演習8	復習、確認テスト確認テストは模擬保育形式で実施
10	楽典と演習9	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題音楽理論
11	楽典と演習10	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題音楽理論
12	楽典と演習11	復習、確認テスト確認テストは模擬保育形式で実施
13	楽典と演習12	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題音楽理論
14	楽典と演習13	音楽理論確認テスト、振り返り、まとめ※ピアノ弾き歌い実技試験の連絡
15	定期試験	ピアノ弾き歌い実技試験実施事前に発表された課題曲５曲より当日抽選で2曲演奏
16		

科目コード	21402				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	器楽演習Ⅲ［FC］				担当者名	髙﨑　展好／三好　啓子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
器楽演習Ⅰ・Ⅱで習得した音楽基礎知識、ピアノ基礎技術と弾き歌いの内容を発展・強化することを目的とする。保育教育者に必要とされるピアノ演奏技術（弾き歌いを含む）と表現力を養うため、発声指導、ソルフェージュ、合唱を取り入れたレッスンをおこなう。保育士、幼稚園教諭、小学校教諭の採用試験に向け、必要なピアノ基礎技術と演奏表現力を身につけることを目指す。子どもたちや、人前で演奏することに慣れるため授業終了後に発表会を実施する。※保育実習、幼稚園教育実習履修者は、履修していることが望ましい。

＜授業の到達目標＞
・ピアノ奏法および弾き歌いに関する基礎的・発展的な知識と技術を身につけ、楽曲を適切に演奏することができる。・弾き歌いを通して、音楽的表現を工夫し、自己の意図をもって表現することができる。・保育・教育現場を想定し、子どもに対して分かりやすく音楽指導を行うことができる。・採用試験を見据えた演奏レパートリーを習得し、複数の楽曲を安定して演奏することができる。・公開試験（発表会）において、人前で自信をもって演奏することができる。

＜授業の方法＞
グループレッスンと個人レッスンの併用で行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
主にピアノ技能習得、歌唱指導による演習

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
ピアノ演奏技術を身に付けるためには、毎日の積み重ねが重要です。必ず予習、復習を行いレッスンに臨むこと。授業は予習を前提として行うものとする。次週課題（事前予告）の予習 50分以上、これまでに学習した課題の復習 50分以上※芸術センター・ピアノ独習室を活用し研鑽を積むこと。※自宅にピアノがない場合は、貸出用キーボードもあるので活用してください。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（保育士・幼稚園教諭養成の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業中の意欲・態度 20%、ピアノ弾き歌い課題（10曲）20%、バイエル教則本課題（5曲）10%、実技試験 50%（中間20%、期末30%）※15回授業終了後にピアノ演奏発表会を実施。発表会参加を以って単位認定とする。

＜教科書＞
髙﨑展好編著（2025年10月発行）　わかりやすい！学びやすい！コードでかんたん！保育のうた　環太平洋大学

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーションレッスン１	授業概要と課題の説明発声指導、歌唱指導ピアノ弾き歌い課題曲「とけいのうた」「おはよう」バイエルNo.44
2	レッスン２	発声指導、歌唱指導前時弾き歌い課題発表ピアノ弾き歌い課題曲「お花がわらった」「おべんとう」ピアノ課題曲「バイエルNo.52」
3	レッスン３	発声指導、歌唱指導、読譜法※前時弾き歌い課題発表ピアノ弾き歌い課題曲「たなばたさま」ピアノ課題曲「バイエルNo.55」
4	レッスン４	発声指導、歌唱指導、読譜法前時弾き歌い課題発表ピアノ弾き歌い課題曲「めだかのがっこう」「おかたづけ」ピアノ課題曲「バイエルNo.59」
5	レッスン５	発声指導、歌唱指導、読譜法※前時弾き歌い課題発表ピアノ弾き歌い課題曲「おつかいありさん」ピアノ課題曲「バイエルNo.78（前半）」
6	レッスン６	発声指導、歌唱指導、読譜法※前時弾き歌い課題発表ピアノ弾き歌い課題曲「あわてんぼうのサンタクロース」ピアノ課題曲「バイエルNo.78（後半）」
7	実技確認テスト（中間）	レッスン1～6までのピアノ弾き歌い課題2曲（自由選択）による確認（中間）テスト（模擬保育形式）
8	レッスン８	発声指導、歌唱指導、読譜法ピアノ弾き歌い課題曲「ハッピー・バースデイ・トゥ・ユー」ピアノ課題曲「バイエルNo.86（連弾）」
9	レッスン９	発声指導、歌唱指導※前時弾き歌い課題発表ピアノ弾き歌い課題曲「ふしぎなポケッ

		ト」ピアノ課題曲「バイエルNo.86（連弾）テンポアップ」
10	レッスン１０	発声指導、歌唱指導(合唱)、読譜法前時弾き歌い課題発表ピアノ弾き歌い課題曲「ミッキーマウス・マーチ」ピアノ課題曲「バイエルNo.88」
11	レッスン１１	発声指導、歌唱指導(合唱)、読譜法前時弾き歌い課題発表ピアノ弾き歌い課題曲「さんぽ」ピアノ課題曲「バイエルNo.90」
12	レッスン１２	発声指導、歌唱指導（合唱）、読譜法前時弾き歌い課題発表発表会、試験に向けた個人指導①
13	レッスン１３	発表会、試験に向けた個人指導②
14	まとめ、実技確認テスト（期末）	レッスン8～11までのピアノ弾き歌い課題3曲（自由選択）による確認（期末）テスト（模擬保育形式）
15	発表会への参加※実施日程については別途連絡	ピアノ学習の集大成としてピアノ発表会へ参加する。履修者及び、その他聴衆の前でピアノ作品の演奏を行う。
16		

科目コード	21403				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	器楽演習Ⅳ［FC］				担当者名	髙﨑　展好／三好　啓子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
器楽演習Ⅲで修得したピアノ基礎技術と弾き歌いの集大成となるよう演奏表現における応用能力の強化を図ることを目的とする。保育士、幼稚園教諭、小学校教諭に必要とされる即応性のある演奏能力と、音楽指導に必要な表現能力を身につけるために、個人レッスンを中心とした授業を実施する。これまで習得した器楽演習Ⅰ・Ⅱ弾き歌い復習課題の確認も行う。※保育士資格、幼稚園教諭免許取得希望者、保育・教育実習参加希望者は、履修していることが望ましい。

＜授業の到達目標＞
・ピアノ奏法および弾き歌いに関する基礎的・発展的な知識と技術を身につけ、楽曲を適切に演奏することができる。・弾き歌いを通して、音楽的表現を工夫し、自己の意図をもって表現することができる。・保育・教育現場を想定し、子どもに対して分かりやすく音楽指導を行うことができる。・採用試験を見据えた演奏レパートリーを習得し、複数の楽曲を安定して演奏することができる。・公開試験（発表会）において、人前で自信をもって演奏することができる。

＜授業の方法＞
グループレッスンと個人レッスンを併用する。※個人レッスンについては、個人の実技レベルに合わせ、バイエル、または、ブルグミュラー25の練習曲、ソナチネアルバム（1）より任意の課題に取り組む。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
主にピアノ技能習得、歌唱指導による演習

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
ピアノ演奏技術を身に付けるためには、毎日の積み重ねが重要です。必ず予習、復習を行いレッスンに臨むこと。授業は予習を前提として行うものとする。※芸術センター・ピアノ独習室を活用し研鑽を積むこと。次週課題（事前予告）の予習50分、これまで学習した全課題曲の復習50分

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（保育士・幼稚園教諭養成の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業中の意欲・態度 20%弾き歌い課題曲（10曲）20%弾き歌い復習課題（10曲）10%実技試験25%（中間10%、期末15%）発表会用作品25%※14回授業終了後にピアノ演奏発表会を実施。発表会参加を以って単位認定とする。

＜教科書＞
星山麻木　編著、板野和彦　著（発行2015年8月10日　初版第1刷）　一人一人を大切にするユニバーサルデザインの音楽表現付録「親子あそびや音楽ワークショップで使える！子どものうた100」※保育内容「音楽表現」指導法の授業使用テキストです。　チャイルド本社
坂井康子・岡林典子・南夏世・佐野仁美編著（発行2008年9月20日　初版）　教育・保育現場で毎日使えるコードでかんたん！こどものうたマイ・レパートリー　ヤマハミュージックメディア
ブルグミュラー25の練習曲　全音楽譜出版社

＜参考書＞
ソナチネ アルバム（1）〔標準版〕　全音楽譜出版社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーションレッスン１	授業概要と課題の説明ピアノ曲・ピアノ弾き歌い課題指導課題「ドレミのうた」※ブルグミュラー練習曲課題個人指導
2	レッスン２	ピアノ曲・ピアノ弾き歌い課題指導課題、※ブルグミュラー練習曲課題個人指導
3	レッスン３	ピアノ曲・ピアノ弾き歌い課題指導課題※ブルグミュラー練習曲課題個人指導
4	レッスン４	ピアノ曲・ピアノ弾き歌い課題指導課題※ブルグミュラー練習曲課題個人指導
5	レッスン５	ピアノ曲・ピアノ弾き歌い課題指導課題※ブルグミュラー練習曲課題個人指導
6	レッスン６	ピアノ曲・ピアノ弾き歌い課題指導課題※ブルグミュラー練習曲課題個人指導
7	レッスン７、確認（中間）テスト	レッスン1～6までのピアノ弾き歌い課題2曲（自由選択）による確認（中間）テスト（模擬保育形式）
8	レッスン８	ピアノ曲・ピアノ弾き歌い課題指導課題※ブルグミュラー練習曲課題個人指導
9	レッスン９	ピアノ曲・ピアノ弾き歌い課題指導課題※ブルグミュラー練習曲課題個人指導

10	レッスン１０	ピアノ曲・ピアノ弾き歌い課題指導課題※ブルグミュラー練習曲課題個人指導
11	レッスン１１	ピアノ曲・ピアノ弾き歌い課題指導課題「にじ」※ブルグミュラー練習曲課題個人指導
12	レッスン１２	発表会、試験に向けた個人指導①
13	レッスン１３	発表会、試験に向けた個人指導②
14	レッスン１４、確認（期末）テスト	ピアノ弾き歌い課題3曲（自由選択）による確認（中間）テスト（模擬保育形式）
15	発表会※実施日程については別途連絡	ピアノ学習の集大成としてピアノ発表会へ参加する。履修者及び、その他聴衆の前でピアノ作品の演奏を行う。
16		

科目コード	21409				区　分	専門基礎科目		
授業科目名	造形表現の基礎［FC2621］				担当者名	後藤　由佳		
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
「造形表現の基礎 」は，国家資格である保育士資格取得における選択科目である。本演習では，製作・鑑賞活動を軸として，子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術，造形表現の表現活動に関する基礎的専門知識と技術を習得することを目的とする。

＜授業の到達目標＞
実社会で通用する保育士・幼稚園教諭を養成するため、保育実習や教育実習をはじめ、保育現場で求められる子どもの造形表現に関する基礎的専門知識と技術を身に付けようとしている。

＜授業の方法＞
準備学習(予習・復習)の確認においてはデジタル(Classroom)活用する。アクティブ・ラーニングの要素(ディスカッション，グループワーク，プレゼンテーション等)を取り入れつつ，子どもの造形表現に係る教材の製作，及び鑑賞により授業を進める。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有(ディスカッション，グループワーク，プレゼンテーションの方法)

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業時間外で，授業に必要な資料や教材，用具を準備しておくこと。また授業内に作品が完成しない場合は，次回の授業までに作品や課題のポートフォリオの製作に取り組む等，準備学習(45分程度)を求めます。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２(保育士・幼稚園教諭養成の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
演習への取組み姿勢と受講態度，受講意欲(教材，用具等事前準備) 30%，作品のまとめ(ポートフォリオ) 50%，作品鑑賞とレポート提出 20%，授業課題やポートフォリオ等，作品の未完成は認められません。必ず，授業時間と準備学習で作品を完成させてください。

＜教科書＞

＜参考書＞
村田夕紀、内本久美　楽しい”造形”がいっぱい2・3・4・5歳児の技法あそび実践ライブ　ひかりのくに
村田夕紀　低年齢児が夢中になる遊びがいっぱい！0・1・2歳児の造形あそび実践ライブ　ひかりのくに
村田夕紀　まずは絵あそびから始めよう！ 3・4・5歳児の楽しく絵を描く実践ライブ　ひかりのくに

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	演習の流れ、授業の到達目標と注意事項、成績評価法の説明
2	造形表現の教材研究(1)	絵①鉛筆での描画、折紙
3	造形表現の教材研究(2)	絵②水彩絵の具での色の塗り方
4	造形表現の教材研究(3)	絵③水彩絵の具での着彩 背景
5	造形表現の教材研究(4)	絵④水彩絵の具での着彩 細部
6	造形表現の教材研究(5)	壁面製作①構図を決める
7	造形表現の教材研究(6)	壁面製作②土台パーツを切る
8	造形表現の教材研究(7)	壁面製作③パーツを貼る
9	造形表現の教材研究(8)	ポートフォリオの表紙に水彩画と壁面造形を貼り，接着剤付き透明フィルムで補強
10	造形表現の教材研究(9)	造形遊び①スクラッチ(引っかき絵)
11	造形表現の教材研究(10)	造形遊び②パスのカーボン紙絵
12	造形表現の教材研究(11)	造形遊び③コラージュ(貼り絵)
13	まとめ	演習のふり返り、ポートフォリオ提出
14	全体総括	ポートフォリオの作品発表とその鑑賞、レポート作成
15		
16		

科目コード	21409				区　分	専門基礎科目		
授業科目名	造形表現の基礎［FC2622］				担当者名	後藤　由佳		
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
「造形表現の基礎 」は，国家資格である保育士資格取得における選択科目である。本演習では，製作・鑑賞活動を軸として，子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術，造形表現の表現活動に関する基礎的専門知識と技術を習得することを目的とする。

＜授業の到達目標＞
実社会で通用する保育士・幼稚園教諭を養成するため、保育実習や教育実習をはじめ、保育現場で求められる子どもの造形表現に関する基礎的専門知識と技術を身に付けようとしている。

＜授業の方法＞
準備学習(予習・復習)の確認においてはデジタル(Classroom)活用する。アクティブ・ラーニングの要素(ディスカッション，グループワーク，プレゼンテーション等)を取り入れつつ，子どもの造形表現に係る教材の製作，及び鑑賞により授業を進める。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有(ディスカッション，グループワーク，プレゼンテーションの方法)

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業時間外で，授業に必要な資料や教材，用具を準備しておくこと。また授業内に作品が完成しない場合は，次回の授業までに作品や課題のポートフォリオの製作に取り組む等，準備学習(45分程度)を求めます。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２(保育士・幼稚園教諭養成の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
演習への取組み姿勢と受講態度，受講意欲(教材，用具等事前準備) 30%，作品のまとめ(ポートフォリオ) 50%，作品鑑賞とレポート提出 20%，授業課題やポートフォリオ等，作品の未完成は認められません。必ず，授業時間と準備学習で作品を完成させてください。

＜教科書＞

＜参考書＞
村田夕紀、内本久美　楽しい”造形”がいっぱい2・3・4・5歳児の技法あそび実践ライブ　ひかりのくに
村田夕紀　低年齢児が夢中になる遊びがいっぱい！0・1・2歳児の造形あそび実践ライブ　ひかりのくに
村田夕紀　まずは絵あそびから始めよう！ 3・4・5歳児の楽しく絵を描く実践ライブ　ひかりのくに

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	演習の流れ、授業の到達目標と注意事項、成績評価法の説明
2	造形表現の教材研究(1)	絵①鉛筆での描画、折紙
3	造形表現の教材研究(2)	絵②水彩絵の具での色の塗り方
4	造形表現の教材研究(3)	絵③水彩絵の具での着彩 背景
5	造形表現の教材研究(4)	絵④水彩絵の具での着彩 細部
6	造形表現の教材研究(5)	壁面製作①構図を決める
7	造形表現の教材研究(6)	壁面製作②土台パーツを切る
8	造形表現の教材研究(7)	壁面製作③パーツを貼る
9	造形表現の教材研究(8)	ポートフォリオの表紙に水彩画と壁面造形を貼り，接着剤付き透明フィルムで補強
10	造形表現の教材研究(9)	造形遊び①スクラッチ(引っかき絵)
11	造形表現の教材研究(10)	造形遊び②パスのカーボン紙絵
12	造形表現の教材研究(11)	造形遊び③コラージュ(貼り絵)
13	まとめ	演習のふり返り、ポートフォリオ提出
14	全体総括	ポートフォリオの作品発表とその鑑賞、レポート作成
15		
16		

科目コード	21410				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	ピアノ弾き歌い演習Ⅰ［FC2621］(髙﨑クラス)				担当者名	髙﨑　展好			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本授業では、保育・教育現場において必要とされるピアノ弾き歌いの基礎的技能の習得を目的とする。音楽の基礎知識や楽譜に記された記号・用語を理解し、読譜力、視唱力、コード（和音）伴奏の基礎を身につける。さらに、発声法、ソルフェージュ、歌唱活動を通して、音楽の三要素（メロディー・ハーモニー・リズム）を総合的に理解し、音楽表現の基礎を養う。課題提出等にはGoogle Classroomを使用するため、ノートパソコンを準備を持参してください。※幼稚園教諭Ⅰ種免許状取得希望者及び、幼稚園教育実習に参加する場合、ピアノ弾

＜授業の到達目標＞

① 楽譜の読み書きを含む基礎的な音楽知識を理解し，読譜に活用することができる。② 楽譜を正確に読み取り，ピアノによる旋律演奏を行うことができる。③ 基本的な発声法および身体の使い方を理解し，歌唱表現として実践することができる。④ 和音（コード）の基礎を理解し，簡単な伴奏付けを行うことができる。⑤ リズム練習やソルフェージュを通して，視唱および初見演奏を行うことができる。⑥ コードネームを用いて「子どもの歌」に適した伴奏を自ら工夫して付けることができる。⑦ 弾き歌いの基礎として，歌唱と伴奏を同時に行うことが

＜授業の方法＞

講義と演習を組み合わせて授業を行う。音楽理論の理解を基盤とし、リズム・ソルフェージュ，歌唱指導、ピアノ演奏の実技指導を段階的に行う。各単元において小テストおよび実技試験を実施し、習熟度の確認とフィードバックを行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

あり・ピアノ演奏および弾き歌いの実技演習・ソルフェージュおよび歌唱活動・個別およびグループによる実技練習・実技試験および振り返り活動

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

毎回100分程度（予習50分・復習50分）授業内容に応じた予習・復習を行うこと。特に読譜練習およびピアノ演習は継続的な反復が必要である。自宅練習環境が整っていない場合は、学内施設（ピアノ独習室等）を活用すること。※必要に応じて、自宅練習用に電子キーボートを貸し出しています。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本授業は、ディプロマポリシー②「保育士・幼稚園教諭養成に必要な専門的知識・技能を身につける力」と関連する。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・意欲 20%、小テスト 30%、実技テスト30%、提出物 20%

＜教科書＞

髙﨑展好　編著（発行2025年10月）　わかりやすい！学びやすい！コードでかんたん！保育のうた　環太平洋大学 次世代教育学部こども発達学科

坪野春枝　著（発行2021年3月15日）　最もわかりやすい楽典の入門【改訂版】＊応用問題＊解答付　有限会社ケイ・エム・ピーkmp

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の進め方の確認歌唱指導ピアノ課題曲「基礎練習課題Ⅰ（初級）」
2	楽譜の仕組み1	発声、リズム学習、歌唱指導譜表ピアノ弾き歌い課題曲「ちょうちょう」
3	楽譜の仕組み2	発声、リズム学習、歌唱指導音符と休符ピアノ弾き歌い課題曲「ちょうちょう」発表ピアノ弾き歌い課題曲「チューリップ」予習
4	楽譜の仕組み3	発声、リズム学習、歌唱指導階名と音名ピアノ弾き歌い課題曲「チューリップ」発表ピアノ弾き歌い課題曲「ぶんぶんぶん」予習
5	楽譜の仕組み4	発声、リズム学習、歌唱指導拍子、調号と臨時記号ピアノ弾き歌い課題曲「ぶんぶんぶん」発表ピアノ課題曲「基礎練習課題Ⅱ（初級）」
6	楽譜の仕組み5	発声、リズム学習、歌唱指導様々な記号:発想記号、速度記号、省略記号ピアノ課題曲「基礎練習課題Ⅱ（初級）」発表ピアノ弾き歌い課題曲「ぴょんぴょんかえる」予習
7	楽譜の仕組み6	発声、リズム学習、歌唱指導、ピアノ弾き歌い課題曲「ぴょんぴょんかえる」発表ピアノ弾き歌い課題曲「こいのぼり」予習
8	楽典と演習1	発声、リズム学習、歌唱指導、コード（和音）ピアノ弾き歌い課題曲「こいのぼり」発表ピアノ課題曲「基礎練習課題Ⅲ（中級）」予習
9	楽典と演習2	発声、リズム学習、歌唱指導、コード(和音)ピアノ課題曲「基礎練習課題Ⅲ(中級)」

10	楽典と演習3	発表ピアノ弾き歌い課題曲「あくしゅでこんにちは」予習 発声、リズム学習、歌唱指導、コード（和音）ピアノ弾き歌い課題曲「あくしゅでこんにちは」予習ピアノ弾き歌い課題曲「こぎつね」予習
11	楽典と演習4	発声、リズム学習、歌唱指導、コード（和音）ピアノ弾き歌い課題曲「こぎつね」発表ピアノ課題曲「基礎練習課題曲Ⅳ（上級）」予習ピアノ弾き歌い課題曲「おべんとう」予習
12	楽典と演習5	発声、リズム学習、歌唱指導、コード（和音）ピアノ弾き歌い課題曲「おべんとう」発表ピアノ弾き歌い課題曲「かたつむり」予習
13	楽典確認試験と演習6	音楽理論の復習及び、確認テストピアノ弾き歌い課題曲「かたつむり」発表
14	総括・ピアノ弾き歌い実技試験	模擬保育形式によるピアノ弾き歌い確認テスト（課題曲2曲より選択）振り返り、まとめ
15		
16		

科目コード	21410				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	ピアノ弾き歌い演習Ⅰ［FC2622］(髙﨑クラス)				担当者名	髙﨑　展好			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本授業では、保育・教育現場において必要とされるピアノ弾き歌いの基礎的技能の習得を目的とする。音楽の基礎知識や楽譜に記された記号・用語を理解し、読譜力、視唱力、コード（和音）伴奏の基礎を身につける。さらに、発声法、ソルフェージュ、歌唱活動を通して、音楽の三要素（メロディー・ハーモニー・リズム）を総合的に理解し、音楽表現の基礎を養う。課題提出等にはGoogle Classroomを使用するため、ノートパソコンを準備を持参してください。※幼稚園教諭Ⅰ種免許状取得希望者及び、幼稚園教育実習に参加する場合、ピアノ弾

＜授業の到達目標＞

① 楽譜の読み書きを含む基礎的な音楽知識を理解し，読譜に活用することができる。② 楽譜を正確に読み取り，ピアノによる旋律演奏を行うことができる。③ 基本的な発声法および身体の使い方を理解し，歌唱表現として実践することができる。④ 和音（コード）の基礎を理解し，簡単な伴奏付けを行うことができる。⑤ リズム練習やソルフェージュを通して，視唱および初見演奏を行うことができる。⑥ コードネームを用いて「子どもの歌」に適した伴奏を自ら工夫して付けることができる。⑦ 弾き歌いの基礎として，歌唱と伴奏を同時に行うことが

＜授業の方法＞

講義と演習を組み合わせて授業を行う。音楽理論の理解を基盤とし、リズム・ソルフェージュ，歌唱指導、ピアノ演奏の実技指導を段階的に行う。各単元において小テストおよび実技試験を実施し、習熟度の確認とフィードバックを行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

あり・ピアノ演奏および弾き歌いの実技演習・ソルフェージュおよび歌唱活動・個別およびグループによる実技練習・実技試験および振り返り活動

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

毎回100分程度（予習50分・復習50分）授業内容に応じた予習・復習を行うこと。特に読譜練習およびピアノ演習は継続的な反復が必要である。自宅練習環境が整っていない場合は、学内施設（ピアノ独習室等）を活用すること。※必要に応じて、自宅練習用に電子キーボートを貸し出しています。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本授業は、ディプロマポリシー②「保育士・幼稚園教諭養成に必要な専門的知識・技能を身につける力」と関連する。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・意欲 20%、小テスト 30%、実技テスト30%、提出物 20%

＜教科書＞

髙﨑展好　編著（発行2025年10月）　わかりやすい！学びやすい！コードでかんたん！保育のうた　環太平洋大学 次世代教育学部こども発達学科

坪野春枝　著（発行2021年3月15日）　最もわかりやすい楽典の入門【改訂版】＊応用問題＊解答付　有限会社ケイ・エム・ピーkmp

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の進め方の確認歌唱指導ピアノ課題曲「基礎練習課題Ⅰ（初級）」
2	楽譜の仕組み1	発声、リズム学習、歌唱指導譜表ピアノ弾き歌い課題曲「ちょうちょう」
3	楽譜の仕組み2	発声、リズム学習、歌唱指導音符と休符ピアノ弾き歌い課題曲「ちょうちょう」発表ピアノ弾き歌い課題曲「チューリップ」予習
4	楽譜の仕組み3	発声、リズム学習、歌唱指導階名と音名ピアノ弾き歌い課題曲「チューリップ」発表ピアノ弾き歌い課題曲「ぶんぶんぶん」予習
5	楽譜の仕組み4	発声、リズム学習、歌唱指導拍子、調号と臨時記号ピアノ弾き歌い課題曲「ぶんぶんぶん」発表ピアノ課題曲「基礎練習課題Ⅱ（初級）」
6	楽譜の仕組み5	発声、リズム学習、歌唱指導様々な記号:発想記号、速度記号、省略記号ピアノ課題曲「基礎練習課題Ⅱ（初級）」発表ピアノ弾き歌い課題曲「ぴょんぴょんかえる」予習
7	楽譜の仕組み6	発声、リズム学習、歌唱指導、ピアノ弾き歌い課題曲「ぴょんぴょんかえる」発表ピアノ弾き歌い課題曲「こいのぼり」予習
8	楽典と演習1	発声、リズム学習、歌唱指導、コード（和音）ピアノ弾き歌い課題曲「こいのぼり」発表ピアノ課題曲「基礎練習課題Ⅲ（中級）」予習
9	楽典と演習2	発声、リズム学習、歌唱指導、コード(和音)ピアノ課題曲「基礎練習課題Ⅲ(中級)」

10	楽典と演習3	発表ピアノ弾き歌い課題曲「あくしゅでこんにちは」予習 発声、リズム学習、歌唱指導、コード（和音）ピアノ弾き歌い課題曲「あくしゅでこんにちは」予習ピアノ弾き歌い課題曲「こぎつね」予習
11	楽典と演習4	発声、リズム学習、歌唱指導、コード（和音）ピアノ弾き歌い課題曲「こぎつね」発表ピアノ課題曲「基礎練習課題曲Ⅳ（上級）」予習ピアノ弾き歌い課題曲「おべんとう」予習
12	楽典と演習5	発声、リズム学習、歌唱指導、コード（和音）ピアノ弾き歌い課題曲「おべんとう」発表ピアノ弾き歌い課題曲「かたつむり」予習
13	楽典確認試験と演習6	音楽理論の復習及び、確認テストピアノ弾き歌い課題曲「かたつむり」発表
14	総括・ピアノ弾き歌い実技試験	模擬保育形式によるピアノ弾き歌い確認テスト（課題曲2曲より選択）振り返り、まとめ
15		
16		

科目コード	21412				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	ピアノ実技Ⅰ				担当者名	三好　啓子			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業は、ピアノ演奏技術の基礎的・応用的な力を高めたい学生を対象とした選択科目である。保育職の採用試験対策としてこどものうたの伴奏や弾き歌いに取り組むほか、クラシック作品や練習曲に取り組み、各自の目標や習熟度に応じて演奏技術の向上を目指す。また、「ピアノ弾き歌い演習Ⅰ・Ⅱ」での学びをさらに深めたい学生にとっても、継続的な学習の機会となる。授業は、受講生のニーズに応じてグループレッスンまたは個人レッスンの形態を取り入れながら行い、それぞれの課題に応じた指導を通して、実践的な演奏力と表現力を養う。

＜授業の到達目標＞
①自身の習熟度や目標に応じた楽曲に取り組み、計画的に練習を進めることができる。②こどものうたや基礎的なピアノ作品を、正しいリズム・音程・運指で演奏することができる。③個々の進路や関心に応じて、実践に必要な基礎的演奏力と表現力を身につけることができる。

＜授業の方法＞
受講生の進路希望、習熟度、学習課題に応じて、グループレッスンと個人レッスンを組み合わせて実施する。授業では、こどものうたの伴奏・弾き歌い、採用試験対策、クラシック作品の演奏など、各自の目標に応じた課題に取り組む。必要に応じて模擬試験形式や発表活動を取り入れ、実践的な演奏力と表現力を養う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素有（グループレッスン）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習として、次回の授業で扱う楽曲の譜読みや運指の確認を行うこと。復習として、授業内で指摘された課題や改善点を整理し、反復練習を通して演奏内容の定着を図ること。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（保育士・幼稚園教諭養成の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業への参加度・受講態度　20%個別課題への取り組み・練習成果　50%学期末実技試験または演奏発表　30%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の進め方を確認し、各自の課題と学習目標を設定する。
2	基礎技能の確認①	読譜、リズム、運指などの基礎を確認する。
3	基礎技能の確認②	姿勢、手の形、タッチ、音の出し方を確認する。
4	個別課題による実技演習①	各自の目標に応じた楽曲に取り組む。
5	個別課題による実技演習②	正確な音、リズム、運指での演奏を目指す。
6	個別課題による実技演習③	フレーズや音楽の流れを意識して演奏する。
7	中間発表と振り返り	演奏発表を通して課題を整理する。
8	応用的な演奏表現①	強弱、テンポ、フレージングを工夫する。
9	個別課題による実技演習④	技術面と表現面の両方から演奏を深める。
10	個別課題による実技演習⑤	継続的な練習により演奏の安定を図る。
11	楽曲に応じた表現の工夫	楽曲の特徴に応じた表現を学ぶ。
12	実践的演奏への応用①	保育実践や採用試験を想定して演奏する。
13	実践的演奏への応用②	場面に応じた対応力を養う。
14	学習成果の発表	学期中の成果を発表する。
15		
16		

科目コード	21412				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	ピアノ実技Ⅰ				担当者名	髙﨑　展好			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業は、ピアノ演奏技術の基礎的・応用的な力を高めたい学生を対象とした選択科目である。保育職の採用試験対策としてこどものうたの伴奏や弾き歌いに取り組むほか、クラシック作品や練習曲に取り組み、各自の目標や習熟度に応じて演奏技術の向上を目指す。また、「ピアノ弾き歌い演習Ⅰ・Ⅱ」での学びをさらに深めたい学生にとっても、継続的な学習の機会となる。授業は、受講生のニーズに応じてグループレッスンまたは個人レッスンの形態を取り入れながら行い、それぞれの課題に応じた指導を通して、実践的な演奏力と表現力を養う。

＜授業の到達目標＞
①自身の習熟度や目標に応じた楽曲に取り組み、計画的に練習を進めることができる。②こどものうたや基礎的なピアノ作品を、正しいリズム・音程・運指で演奏することができる。③個々の進路や関心に応じて、実践に必要な基礎的演奏力と表現力を身につけることができる。

＜授業の方法＞
受講生の進路希望、習熟度、学習課題に応じて、グループレッスンと個人レッスンを組み合わせて実施する。授業では、こどものうたの伴奏・弾き歌い、採用試験対策、クラシック作品の演奏など、各自の目標に応じた課題に取り組む。必要に応じて模擬試験形式や発表活動を取り入れ、実践的な演奏力と表現力を養う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素有（グループレッスン）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習として、次回の授業で扱う楽曲の譜読みや運指の確認を行うこと。復習として、授業内で指摘された課題や改善点を整理し、反復練習を通して演奏内容の定着を図ること。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本授業は、ディプロマポリシー②「保育士・幼稚園教諭養成に必要な専門的知識・技能を身につける力」と関連する。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業への参加度・受講態度　20%個別課題への取り組み・練習成果　50%学期末実技試験または演奏発表　30%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の進め方を確認し、各自の課題と学習目標を設定する。
2	基礎技能の確認①	読譜、リズム、運指などの基礎を確認する。
3	基礎技能の確認②	姿勢、手の形、タッチ、音の出し方を確認する。
4	個別課題による実技演習①	各自の目標に応じた楽曲に取り組む。
5	個別課題による実技演習②	正確な音、リズム、運指での演奏を目指す。
6	個別課題による実技演習③	フレーズや音楽の流れを意識して演奏する。
7	中間発表と振り返り	演奏発表を通して課題を整理する。
8	応用的な演奏表現①	強弱、テンポ、フレージングを工夫する。
9	個別課題による実技演習④	技術面と表現面の両方から演奏を深める。
10	個別課題による実技演習⑤	継続的な練習により演奏の安定を図る。
11	楽曲に応じた表現の工夫	楽曲の特徴に応じた表現を学ぶ。
12	実践的演奏への応用①	保育実践や採用試験を想定して演奏する。
13	実践的演奏への応用②	場面に応じた対応力を養う。
14	学習成果の発表	学期中の成果を発表する。
15		
16		

科目コード	21412				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	ピアノ実技Ⅰ				担当者名	宮原　舞			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業は、ピアノ演奏技術の基礎的・応用的な力を高めたい学生を対象とした選択科目である。保育職の採用試験対策としてこどものうたの伴奏や弾き歌いに取り組むほか、クラシック作品や練習曲に取り組み、各自の目標や習熟度に応じて演奏技術の向上を目指す。また、「ピアノ弾き歌い演習Ⅰ・Ⅱ」での学びをさらに深めたい学生にとっても、継続的な学習の機会となる。授業は、受講生のニーズに応じてグループレッスンまたは個人レッスンの形態を取り入れながら行い、それぞれの課題に応じた指導を通して、実践的な演奏力と表現力を養う。

＜授業の到達目標＞
①自身の習熟度や目標に応じた楽曲に取り組み、計画的に練習を進めることができる。②こどものうたや基礎的なピアノ作品を、正しいリズム・音程・運指で演奏することができる。③個々の進路や関心に応じて、実践に必要な基礎的演奏力と表現力を身につけることができる。

＜授業の方法＞
受講生の進路希望、習熟度、学習課題に応じて、グループレッスンと個人レッスンを組み合わせて実施する。授業では、こどものうたの伴奏・弾き歌い、採用試験対策、クラシック作品の演奏など、各自の目標に応じた課題に取り組む。必要に応じて模擬試験形式や発表活動を取り入れ、実践的な演奏力と表現力を養う。本授業は実技科目のため、安全に十分配慮して実施する。初回授業で、無理のない姿勢や演奏方法について説明し、手指や身体への過度な負担を防止する。体調不良や痛みを感じた場合は、速やかに演奏を中止し、担当教員に申し出ること。授業中

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素有（グループレッスン）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習として、次回の授業で扱う楽曲の譜読みや運指の確認を行うこと。復習として、授業内で指摘された課題や改善点を整理し、反復練習を通して演奏内容の定着を図ること。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業への参加度・受講態度　20%個別課題への取り組み・練習成果　50%学期末実技試験または演奏発表　30%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の進め方を確認し、各自の課題と学習目標を設定する。
2	基礎技能の確認①	読譜、リズム、運指などの基礎を確認する。
3	基礎技能の確認②	姿勢、手の形、タッチ、音の出し方を確認する。
4	個別課題による実技演習①	各自の目標に応じた楽曲に取り組む。
5	個別課題による実技演習②	正確な音、リズム、運指での演奏を目指す。
6	個別課題による実技演習③	フレーズや音楽の流れを意識して演奏する。
7	中間発表と振り返り	演奏発表を通して課題を整理する。
8	応用的な演奏表現①	強弱、テンポ、フレージングを工夫する。
9	個別課題による実技演習④	技術面と表現面の両方から演奏を深める。
10	個別課題による実技演習⑤	継続的な練習により演奏の安定を図る。
11	楽曲に応じた表現の工夫	楽曲の特徴に応じた表現を学ぶ。
12	実践的演奏への応用①	保育実践や採用試験を想定して演奏する。
13	実践的演奏への応用②	場面に応じた対応力を養う。
14	学習成果の発表	学期中の成果を発表する。
15		
16		

科目コード	21413				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	ピアノ実技Ⅱ				担当者名	髙﨑　展好			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業は、ピアノ演奏技術の基礎的・応用的な力を高めたい学生を対象とした選択科目である。保育職の採用試験対策としてこどものうたの伴奏や弾き歌いに取り組むほか、クラシック作品や練習曲に取り組み、各自の目標や習熟度に応じて演奏技術の向上を目指す。また、「ピアノ弾き歌い演習Ⅰ・Ⅱ」での学びをさらに深めたい学生にとっても、継続的な学習の機会となる。授業は、受講生のニーズに応じてグループレッスンまたは個人レッスンの形態を取り入れながら行い、それぞれの課題に応じた指導を通して、実践的な演奏力と表現力を養う。

＜授業の到達目標＞
①自身の習熟度や目標に応じた楽曲に取り組み、計画的に練習を進めることができる。②こどものうたや基礎的なピアノ作品を、正しいリズム・音程・運指で演奏することができる。③個々の進路や関心に応じて、実践に必要な基礎的演奏力と表現力を身につけることができる。

＜授業の方法＞
受講生の進路希望、習熟度、学習課題に応じて、グループレッスンと個人レッスンを組み合わせて実施する。授業では、こどものうたの伴奏・弾き歌い、採用試験対策、クラシック作品の演奏など、各自の目標に応じた課題に取り組む。必要に応じて模擬試験形式や発表活動を取り入れ、実践的な演奏力と表現力を養う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素有（グループレッスン）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習として、次回の授業で扱う楽曲の譜読みや運指の確認を行うこと。復習として、授業内で指摘された課題や改善点を整理し、反復練習を通して演奏内容の定着を図ること。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本授業は、ディプロマポリシー②「保育士・幼稚園教諭養成に必要な専門的知識・技能を身につける力」と関連する。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業への参加度・受講態度　20%個別課題への取り組み・練習成果　50%学期末実技試験または演奏発表　30%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の進め方を確認し、各自の課題と学習目標を設定する。
2	基礎技能の確認①	読譜、リズム、運指などの基礎を確認する。
3	基礎技能の確認②	姿勢、手の形、タッチ、音の出し方を確認する。
4	個別課題による実技演習①	各自の目標に応じた楽曲に取り組む。
5	個別課題による実技演習②	正確な音、リズム、運指での演奏を目指す。
6	個別課題による実技演習③	フレーズや音楽の流れを意識して演奏する。
7	中間発表と振り返り	演奏発表を通して課題を整理する。
8	応用的な演奏表現①	強弱、テンポ、フレージングを工夫する。
9	個別課題による実技演習④	技術面と表現面の両方から演奏を深める。
10	個別課題による実技演習⑤	継続的な練習により演奏の安定を図る。
11	楽曲に応じた表現の工夫	楽曲の特徴に応じた表現を学ぶ。
12	実践的演奏への応用①	保育実践や採用試験を想定して演奏する。
13	実践的演奏への応用②	場面に応じた対応力を養う。
14	学習成果の発表	学期中の成果を発表する。
15		
16		

科目コード	21413				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	ピアノ実技Ⅱ				担当者名	三好　啓子			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業は、ピアノ演奏技術の基礎的・応用的な力を高めたい学生を対象とした選択科目である。保育職の採用試験対策としてこどものうたの伴奏や弾き歌いに取り組むほか、クラシック作品や練習曲に取り組み、各自の目標や習熟度に応じて演奏技術の向上を目指す。また、「ピアノ弾き歌い演習Ⅰ・Ⅱ」での学びをさらに深めたい学生にとっても、継続的な学習の機会となる。授業は、受講生のニーズに応じてグループレッスンまたは個人レッスンの形態を取り入れながら行い、それぞれの課題に応じた指導を通して、実践的な演奏力と表現力を養う。

＜授業の到達目標＞
①自身の習熟度や目標に応じた楽曲に取り組み、計画的に練習を進めることができる。②こどものうたや基礎的なピアノ作品を、正しいリズム・音程・運指で演奏することができる。③個々の進路や関心に応じて、実践に必要な基礎的演奏力と表現力を身につけることができる。

＜授業の方法＞
受講生の進路希望、習熟度、学習課題に応じて、グループレッスンと個人レッスンを組み合わせて実施する。授業では、こどものうたの伴奏・弾き歌い、採用試験対策、クラシック作品の演奏など、各自の目標に応じた課題に取り組む。必要に応じて模擬試験形式や発表活動を取り入れ、実践的な演奏力と表現力を養う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素有（グループレッスン）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習として、次回の授業で扱う楽曲の譜読みや運指の確認を行うこと。復習として、授業内で指摘された課題や改善点を整理し、反復練習を通して演奏内容の定着を図ること。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（保育士・幼稚園教諭養成の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業への参加度・受講態度　20%個別課題への取り組み・練習成果　50%学期末実技試験または演奏発表　30%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の進め方を確認し、各自の課題と学習目標を設定する。
2	基礎技能の確認①	読譜、リズム、運指などの基礎を確認する。
3	基礎技能の確認②	姿勢、手の形、タッチ、音の出し方を確認する。
4	個別課題による実技演習①	各自の目標に応じた楽曲に取り組む。
5	個別課題による実技演習②	正確な音、リズム、運指での演奏を目指す。
6	個別課題による実技演習③	フレーズや音楽の流れを意識して演奏する。
7	中間発表と振り返り	演奏発表を通して課題を整理する。
8	応用的な演奏表現①	強弱、テンポ、フレージングを工夫する。
9	個別課題による実技演習④	技術面と表現面の両方から演奏を深める。
10	個別課題による実技演習⑤	継続的な練習により演奏の安定を図る。
11	楽曲に応じた表現の工夫	楽曲の特徴に応じた表現を学ぶ。
12	実践的演奏への応用①	保育実践や採用試験を想定して演奏する。
13	実践的演奏への応用②	場面に応じた対応力を養う。
14	学習成果の発表	学期中の成果を発表する。
15		
16		

科目コード	21413				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	ピアノ実技Ⅱ				担当者名	宮原　舞			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業は、「ピアノ実技Ⅰ」で身につけた力をもとに、より発展的な演奏技術と表現力の習得を目指す選択科目である。保育実践や採用試験を想定した楽曲演奏に加え、クラシック作品や各種教材を通して、読譜力、演奏の安定性、音楽表現の充実を図る。また、「ピアノ弾き歌い演習Ⅰ・Ⅱ」での学びをさらに深めたい学生にとっても、継続的な学習の機会となる。授業は、受講生の目標や到達度に応じて、グループレッスンまたは個人レッスンを組み合わせながら展開し、自ら課題を見つけ、主体的に練習し、演奏を改善していく力を育成する。

＜授業の到達目標＞
①自身の課題や目標に応じて、より発展的な楽曲に継続的に取り組むことができる。②楽曲の特徴に応じて、強弱・フレージング・テンポなどを工夫し、表現豊かに演奏することができる。③保育実践や採用試験等の場面にも対応できる、安定した演奏力と応用力を身につけることができる。

＜授業の方法＞
受講生の進路希望、習熟度、学習課題に応じて、グループレッスンと個人レッスンを組み合わせて実施する。授業では、こどものうたの伴奏・弾き歌い、採用試験対策、クラシック作品の演奏など、各自の目標に応じた課題に取り組む。必要に応じて模擬試験形式や発表活動を取り入れ、実践的な演奏力と表現力を養う。本授業は実技科目のため、安全に十分配慮して実施する。初回授業で、無理のない姿勢や演奏方法について説明し、手指や身体への過度な負担を防止する。体調不良や痛みを感じた場合は、速やかに演奏を中止し、担当教員に申し出ること。授業中

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素有（グループレッスン）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習として、次回の授業で扱う楽曲の譜読みや運指の確認を行うこと。復習として、授業内で指摘された課題や改善点を整理し、反復練習を通して演奏内容の定着を図ること。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業への参加度・受講態度　20%個別課題への取り組み・練習成果　50%学期末実技試験または演奏発表　30%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の進め方を確認し、各自の課題と目標を設定する。
2	発展的な基礎技能の確認	音階、和音、表現技法などを確認する。
3	個別課題による発展的実技演習①	各自の目標に応じた楽曲に取り組む。
4	個別課題による発展的実技演習②	読譜の正確さと演奏の安定性を高める。
5	個別課題による発展的実技演習③	楽曲の特徴を踏まえて演奏する。
6	表現力の向上①	強弱やテンポ変化を工夫して演奏する。
7	中間発表と課題整理	演奏発表を通して改善点を整理する。
8	実践的演奏力の向上	暗譜や安定した演奏力を高める。
9	個別課題による発展的実技演習④	技術面と表現面の向上を目指す。
10	個別課題による発展的実技演習⑤	演奏全体のまとまりを高める。
11	表現力の向上②	曲想に応じた音色や表現を工夫する。
12	総合的な実技演習①	保育実践や採用試験を想定して演奏する。
13	総合的な実技演習②	実践場面での対応力を養う。
14	学習成果の発表	学期中の成果を発表する。
15		
16		

科目コード	22102				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	衣･食･住の理解［集中講義］				担当者名	未定			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
アクティブ・ラーニングの深い学びの鍵である「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくか」という視点や考え方で、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を身に付ける。また、小学校家庭科を指導するに当たって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族に関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付ける。

＜授業の到達目標＞
小学校家庭科は、家庭生活の基礎となる能力と実践的な態度を育成する視点から、中学校技術・家庭科との体系化が図られ、「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」の３つの内容で構成されている。それぞれの内容が、中学校へどう接続されているか。自分だったらどのような題材を使って、どのような授業を展開したいかなどを考えながら、小学校で取り扱う内容の実践を通して、子供と教師の両方の思いや立場で創意工夫した授業構想が立てられることを目標としている.

＜授業の方法＞
小学校で指導する衣食住や家族・家庭生活に関する基礎的・基本的事項をしっかり身に付けるために、オンデマンド配信で基礎縫いの仕方、ご飯とみそ汁の作り方等の師範した後、フェルトの小物や、ごはん、みそ汁、それに合うおかずを自宅で演習する。インターネットを活用しての食事バランスガイドのチェックや五大栄養素の学習等、教師として必要な知識・技能について学修する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無家庭科における主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善 〇主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けた題材や授業の構想・題材など内容や時間のまとまりを見直して、その中 で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、生活の営みに係る見 方・考え方を働かせ、知識を生活経験等と関連付けてより深く理解するとともに、日常生活の中から問題を見いだして様々な解決方法 を考え、実践を評価・改善して、新たな課題を見いだす過程を重視した学習の充実を図る。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
小学校で指導すべき具体的事項を確実に習得するために、事前に配布する講義予定表に、毎回の授業内容と該当する小学校の教科書のページを記載している。授業前に毎時間予習（90分程度）をし、授業後に毎時間復習（90分程度）として必ず目を通して授業に臨む。フェルトの小物づくりでは、Webサイトを利用して、事前に作りたい物を調べておく。また、五大栄養素については、インターネットの中にある食事バランスガイドを活用して、自分の食事がバランスの良い物であるかどうかをチェックし、日々の食生活の改善に努める。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けら れています

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
実技製作物(基礎縫い・フェルトの小物・調理)30%、期末試験(レポートを含む)70%実技については、オンデマンド配信後に質問を受付け、返答を受けた後、自宅で実践ができるようにする。自宅演習した製作物については、写真を添付しレポートを提出し、評価する。

＜教科書＞
鳴海多恵子他(2024年)　「わたしたちの家庭科5・6」　開隆堂

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	家庭科教育の目標と内容	・家庭科学習と学習指導要領の趣旨及び各領域の目標・内容について
2	「A 家族・家庭生活」領域の内容理解①	・生活時間とマネジメント・自分の時間の使い方の課題を見つける
3	「A 家族・家庭生活」領域の内容理解②	・生活時間とマネジメント・有意義な毎日を過ごすために工夫するポイントを見つける
4	「A 家族・家庭生活」領域の内容理解③	・家族や親しい人との団らんを計画する。地域のおやつを調べ、団らんの実践計画をたてる。
5	「B 衣食住の生活」領域の内容理解①	・ご飯と味噌汁の作り方の師範と自宅での演習
6	「B 衣食住の生活」領域の内容理解②	・ごはんとみそ汁に合わせる一品の師範と自宅での演習
7	「B 衣食住の生活」領域の内容理解③	・ソーイングはじめの一歩(基礎縫いとボタン付け）師範と自宅での演習
8	「B 衣食住の生活」領域の内容理解④	・生活に役立つ物の製作①手縫い(フェルトの小物づくり）師範と自宅での演習

9	「B 衣食住の生活」領域の内容理解⑤	・生活に役立つ物の製作②手縫い(フェルトの小物づくり）師範と自宅での演習
10	「B 衣食住の生活」領域の内容理解⑥	・衣服の手入れで快適に（洗剤の種類や汚れの落ち具合）
11	「B 衣食住の生活」領域の内容理解⑦	・衣服の手入れで快適に（取り扱い表示）
12	「C 消費生活・環境」領域の内容理解②	・買い物の仕方を考えよう（買い物をするときに必要な情報収集）
13	「C 消費生活・環境」領域の内容理解③	・持続可能な社会のために（自分ができることを考える）
14	小学校家庭科の総括	小学校家庭科のまとめ
15		
16		

科目コード	22103				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	美術の理解［FE2531組用］				担当者名	村上　尚徳			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業では、美術に関する基礎的な知識や技法などについての理解を深めるとともに、造形指導能力の育成を目的とします。授業においては、色彩や構成、美術文化などに関する基礎的な知識と、絵の具などの技法や技能を身に付けるとともに、美術教育の意義や役割などについて学習をします。美術や美術教育に関する知識と、児童に指導できる基礎的な技能を身に付けることを、学習成果とします。

＜授業の到達目標＞
１．色彩や構成などに関する知識、絵の具の技法、絵を描く技術などを身に付けることができる。２．生活の中の美術や美術文化、美術や美術教育に関する考え方について理解を深めることができる。

＜授業の方法＞
１．資料の読解や作品鑑賞、美的体験を基にした、グループワーク。２．美術や美術教育に関する基礎的知識を理解するための講義。３．実技による技法や技能の習得、作品の制作及び発表。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループによる鑑賞活動等

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
１．授業前は、事前の資料読解と指示された準備物（資料、材料、用具等）の用意を行う。（１時間程度）２．授業後は、授業内に課題が完成しなかった場合は、次回までに完成させること。また、授業内容に応じて、classroomなどでふり返りのレポートを提出すること。（１時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
作品及びレポート 80%、授業への積極的参加態度 20%

＜教科書＞
配布資料により授業を進める。

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	美術とは何か①	美術作品の価値について
2	美術とは何か②	ピカソの表現と子供の美術
3	美術とは何か③	絵画の役割
4	形と色彩による表現(1)	造形要素・造形原理の理解（色彩、構成美の要素）
5	形と色彩による表現(2)	絵の具の扱い（絵の具の水加減、色相環の作成）
6	形と色彩による表現(3)	モダンテクニックの技法の理解
7	形と色彩による表現(4)	モダンテクニックを用いた感情表現（作品の制作）
8	鉛筆による描画の基礎	鉛筆で人物や手を描く
9	水彩絵の具の使い方(1)	水彩絵の具の着彩の基礎
10	水彩絵の具の使い方(2)	水彩絵の具による作品制作
11	美術の幅広い理解（1）	プロダクトデザイン、ことのデザインの理解（グループワーク）
12	美術の幅広い理解（2）	日本の美術の理解（屏風絵、浮世絵）（グループワーク）
13	工作の基礎(1)	飛び出すカードの仕組みの理解
14	工作の基礎（2）	飛び出すカードの制作
15		
16		

科目コード	22103				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	美術の理解［FE2532組用］				担当者名	村上　尚徳			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業では、美術に関する基礎的な知識や技法などについての理解を深めるとともに、造形指導能力の育成を目的とします。授業においては、色彩や構成、美術文化などに関する基礎的な知識と、絵の具などの技法や技能を身に付けるとともに、美術教育の意義や役割などについて学習をします。美術や美術教育に関する知識と、児童に指導できる基礎的な技能を身に付けることを、学習成果とします。

＜授業の到達目標＞
１．色彩や構成などに関する知識、絵の具の技法、絵を描く技術などを身に付けることができる。２．生活の中の美術や美術文化、美術や美術教育に関する考え方について理解を深めることができる。

＜授業の方法＞
１．資料の読解や作品鑑賞、美的体験を基にした、グループワーク。２．美術や美術教育に関する基礎的知識を理解するための講義。３．実技による技法や技能の習得、作品の制作及び発表。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループによる鑑賞活動等

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
１．授業前は、事前の資料読解と指示された準備物（資料、材料、用具等）の用意を行う。（１時間程度）２．授業後は、授業内に課題が完成しなかった場合は、次回までに完成させること。また、授業内容に応じて、classroomなどでふり返りのレポートを提出すること。（１時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
作品及びレポート 80%、授業への積極的参加態度 20%

＜教科書＞
配布資料により授業を進める。

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	美術とは何か①	美術作品の価値について
2	美術とは何か②	ピカソの表現と子供の美術
3	美術とは何か③	絵画の役割
4	形と色彩による表現(1)	造形要素・造形原理の理解（色彩、構成美の要素）
5	形と色彩による表現(2)	絵の具の扱い（絵の具の水加減、色相環の作成）
6	形と色彩による表現(3)	モダンテクニックの技法の理解
7	形と色彩による表現(4)	モダンテクニックを用いた感情表現（作品の制作）
8	鉛筆による描画の基礎	鉛筆で人物や手を描く
9	水彩絵の具の使い方(1)	水彩絵の具の着彩の基礎
10	水彩絵の具の使い方(2)	水彩絵の具による作品制作
11	美術の幅広い理解（1）	プロダクトデザイン、ことのデザインの理解（グループワーク）
12	美術の幅広い理解（2）	日本の美術の理解（屏風絵、浮世絵）（グループワーク）
13	工作の基礎(1)	飛び出すカードの仕組みの理解
14	工作の基礎（2）	飛び出すカードの制作
15		
16		

科目コード	22103				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	美術の理解［FE2533組用］				担当者名	村上　尚徳			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業では、美術に関する基礎的な知識や技法などについての理解を深めるとともに、造形指導能力の育成を目的とします。授業においては、色彩や構成、美術文化などに関する基礎的な知識と、絵の具などの技法や技能を身に付けるとともに、美術教育の意義や役割などについて学習をします。美術や美術教育に関する知識と、児童に指導できる基礎的な技能を身に付けることを、学習成果とします。

＜授業の到達目標＞
１．色彩や構成などに関する知識、絵の具の技法、絵を描く技術などを身に付けることができる。２．生活の中の美術や美術文化、美術や美術教育に関する考え方について理解を深めることができる。

＜授業の方法＞
１．資料の読解や作品鑑賞、美的体験を基にした、グループワーク。２．美術や美術教育に関する基礎的知識を理解するための講義。３．実技による技法や技能の習得、作品の制作及び発表。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループによる鑑賞活動等

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
１．授業前は、事前の資料読解と指示された準備物（資料、材料、用具等）の用意を行う。（１時間程度）２．授業後は、授業内に課題が完成しなかった場合は、次回までに完成させること。また、授業内容に応じて、classroomなどでふり返りのレポートを提出すること。（１時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
作品及びレポート 80%、授業への積極的参加態度 20%

＜教科書＞
配布資料により授業を進める。

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	美術とは何か①	美術作品の価値について
2	美術とは何か②	ピカソの表現と子供の美術
3	美術とは何か③	絵画の役割
4	形と色彩による表現(1)	造形要素・造形原理の理解（色彩、構成美の要素）
5	形と色彩による表現(2)	絵の具の扱い（絵の具の水加減、色相環の作成）
6	形と色彩による表現(3)	モダンテクニックの技法の理解
7	形と色彩による表現(4)	モダンテクニックを用いた感情表現（作品の制作）
8	鉛筆による描画の基礎	鉛筆で人物や手を描く
9	水彩絵の具の使い方(1)	水彩絵の具の着彩の基礎
10	水彩絵の具の使い方(2)	水彩絵の具による作品制作
11	美術の幅広い理解（1）	プロダクトデザイン、ことのデザインの理解（グループワーク）
12	美術の幅広い理解（2）	日本の美術の理解（屏風絵、浮世絵）（グループワーク）
13	工作の基礎(1)	飛び出すカードの仕組みの理解
14	工作の基礎（2）	飛び出すカードの制作
15		
16		

科目コード	22104				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	音楽の理解［FE2521組用］				担当者名	中家　淳悟			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第１，２クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
この授業の目的は以下の３点である。小学校の音楽の授業を実施するにあたり必要な音楽知識を学ぶ。記譜法、長音階と短音階、音程、和音、コードネームなど、実際に教壇に立った際に必要不可欠な音楽に関する理解を深める。教員になった際に実際に使用することができる具体例などを紹介し、基本的な音楽知識を授業で使用できる能力を身につける。

＜授業の到達目標＞
１．音符、リズムを理解でき楽譜を読めるようにする。２．楽典の基礎を理解する。３．コードネームを理解する。　４．様々な楽曲について理解を深める。

＜授業の方法＞
１．グループワーク（予習した取り扱い曲に関する教えあい）２．討論（曲についての感想、作曲家の意図等、各自の感じたことを発表する）３．講義（教員による解説）４．楽典（音楽の基礎知識を学ぶ）＊受講には五線紙ノートが必要。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
講義の中で扱った曲の中から授業内で学んだ内容に該当する場所をグループワークにて討論し発表する。これをアクティブラーニングの要素とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：翌週の内容のテーマ・キーワードの下調べ、取り扱う曲について事前学習。（毎回３０分程度）復習：講義の内容をノートにまとめる。（毎回３０分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
課題提出、意見交換、試験 70%、授業態度（授業態度、授業貢献度） 30%とする。

＜教科書＞
小谷野謙一(2014年2月10日)　よくわかる楽典の教科書　株式会社ヤマハミュージックメディア

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の進め方の確認、音楽の理解について
2	音の長さ	音符、休符
3	音の高さ	五線、加線、音部記号、譜表
4	拍子、連符	いろいろな拍子、いろいろな連符
5	音名	音名、変化記号
6	楽譜の書き方	記譜法について
7	記号	強弱記号、速度記号、奏法に関する用語と記号
8	音程①	２、３、６、７度の音程
9	音程②	１、４、５、８度の音程
10	音階	長音階と短音階
11	和音	和音の種類、三和音、七の和音
12	コードネーム	コードネームについて理解する
13	コードネーム演習	コードネームを使用した伴奏法
14	総括	学習内容の総括を行う。
15		
16		

科目コード	22104				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	音楽の理解［FE2522組用］				担当者名	中家　淳悟			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第１，２クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
この授業の目的は以下の３点である。小学校の音楽の授業を実施するにあたり必要な音楽知識を学ぶ。記譜法、長音階と短音階、音程、和音、コードネームなど、実際に教壇に立った際に必要不可欠な音楽に関する理解を深める。教員になった際に実際に使用することができる具体例などを紹介し、基本的な音楽知識を授業で使用できる能力を身につける。

＜授業の到達目標＞
１．音符、リズムを理解でき楽譜を読めるようにする。２．楽典の基礎を理解する。３．コードネームを理解する。　４．様々な楽曲について理解を深める。

＜授業の方法＞
１．グループワーク（予習した取り扱い曲に関する教えあい）２．討論（曲についての感想、作曲家の意図等、各自の感じたことを発表する）３．講義（教員による解説）４．楽典（音楽の基礎知識を学ぶ）＊受講には五線紙ノートが必要。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
講義の中で扱った曲の中から授業内で学んだ内容に該当する場所をグループワークにて討論し発表する。これをアクティブラーニングの要素とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：翌週の内容のテーマ・キーワードの下調べ、取り扱う曲について事前学習。（毎回３０分程度）復習：講義の内容をノートにまとめる。（毎回３０分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
課題提出、意見交換、試験 70%、授業態度（授業態度、授業貢献度） 30%とする。

＜教科書＞
小谷野謙一(2014年2月10日)　よくわかる楽典の教科書　株式会社ヤマハミュージックメディア

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の進め方の確認、音楽の理解について
2	音の長さ	音符、休符
3	音の高さ	五線、加線、音部記号、譜表
4	拍子、連符	いろいろな拍子、いろいろな連符
5	音名	音名、変化記号
6	楽譜の書き方	記譜法について
7	記号	強弱記号、速度記号、奏法に関する用語と記号
8	音程①	２、３、６、７度の音程
9	音程②	１、４、５、８度の音程
10	音階	長音階と短音階
11	和音	和音の種類、三和音、七の和音
12	コードネーム	コードネームについて理解する
13	コードネーム演習	コードネームを使用した伴奏法
14	総括	学習内容の総括を行う。
15		
16		

科目コード	22203				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	生活の理解［週間オンデマンド］				担当者名	三堀　仁			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
生活科は「具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成することを目指す」教科である。ここでは生活科誕生の経緯を押さえつつ、生活科の教科特性を理解するとともに、学習指導要領に示されている内容（1）から内容（9）について、実際使われている教科書を参考にしながら各内容を正しく理解し、授業で扱うポイントをつかむことを目指す。この科目は教員免許取得を目的とする学生には適しているが、教職を目指さない学生には適さない。したがって現代経営学科等の学生

＜授業の到達目標＞
生活科は低学年児童の発達の段階や特性を踏まえた上で見通しをもって学習指導を行わなければならない教科である。したがって以下の点を修得することを目指す。1．生活科の教科特性を理解し、説明できる。2．生活科の９つの内容を理解し、説明できる。3．生活科の内容を踏まえた授業場面での指導すべき内容を理解し、説明できる。

＜授業の方法＞
学習指導要領の文面の解説や実践事例の事例紹介を基本として進める。受講者が自らが実感をもって気付き、理解するようにする。また、児童が実際に使用している教科書のページを見ながら、具体的なさし絵や言葉などから、授業のねらいや展開について、解説したり意見を求めたりして思考を深める。その際、教科書のデジタルコンテンツを実際に体験し、ICTの活用方法についても考える。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
授業の途中にワークを取り入れ自分なりの考えを持って後半の学習につなげるようにする。授業の終わりに学習の振り返りを行い学びを確かなものにできるようにする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：課題として指示されたテキストのページに目を通し、疑問点は整理しておく（１時間程度）。　復習：本時の授業内容について、整理したり理解を深めたりする（１時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習態度（課題提出）25%、学習状況（課題の理解度等）45%、レポート30%

＜教科書＞
田村学ほか　２０２４年　あたらしいせいかつ　上　東京書籍
田村学ほか　２０２４年　新しい生活下　東京書籍
文部科学省　２０１８年　小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　生活編　東洋館出版

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	生活科とは	生活科の教科特性を理解する。
2	生活科の目標・内容	生活科の目標と内容について理解する。
3	生活科とスタートカリキュラム	幼児教育との接続、スタートカリキュラムについて理解する。
4	生活科の内容１・２・３について（解説）	学習指導要領解説をもとに内容１・２・３を理解する。
5	生活科の内容１・２・３について(教科書より)	生活科の内容１・２・３について教科書を参考に理解を深める。
6	生活科の内容４・５について（解説）	学習指導要領解説をもとに内容４・５を理解する。
7	生活科の内容４・５（教科書より）	生活科の内容４・５について教科書を参考に理解を深める。
8	生活科の内容６について（解説）	学習指導要領解説をもとに内容６を理解する。
9	生活科の内容６（教科書より）	生活科の内容６について教科書を参考に理解を深める。
10	生活科の内容７について（解説）	学習指導要領解説をもとに内容７を理解する。
11	生活科の内容７（教科書より）	生活科の内容７について教科書を参考に理解を深める。
12	生活科の内容８・９について（解説）	学習指導要領解説をもとに内容８・９を理解する。
13	生活科の内容８・９（教科書より）	生活科の内容８・９について教科書を参考に理解を深める。
14	指導計画の作成と内容の取扱い及び学習指導について　授業のまとめ	学習指導要領解説をもとに指導計画の作成と内容の取り扱い、学習指導について理解する。授業のまとめをする。
15		

16		

科目コード	22204				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	運動･健康の理解［FE2521組用］				担当者名	中安　翼			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業の概要は、生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現するための基本的な考え方を小学校学習指導要領解説体育編に基づいて実技と講義を通して学んでいく。運動が得意・不得意は関係なく、誰もが学びに向き合える授業づくりについて考えていく。題材は小学校の体育で指導するすべての領域を扱う。※ただし、受講者の様子等によって下記の授業計画については随時変更することがある。

＜授業の到達目標＞
1. 小学校学習指導要領体育編に示された目標や内容、各領域の指導上の留意点を正しく理解し、具体的に説明できる。2. 運動の得意・不得意にかかわらず、全児童が主体的に学びに向かえる「共生」の視点を持った授業構成の考え方を習得し、立案できる。3. 生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現するための理論と実践を関連付け、自らの言葉で言語化できる。

＜授業の方法＞
授業では、テーマに沿って理論と実践を並行して行い、レポートにまとめていく。実技に関しては、必ず運動に適した服装（シューズを含む）で受講。安全面からアクセサリーなどの装着は厳禁とする。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループでのディスカッション、グループで運動の行い方を試行錯誤

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：次時に講義される事柄について教科書を読み、下調べをし自ら積極的に理解を深めておく。復習：本時の授業内容を自分の意見も含め、レポートにまとめて提出する。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
自ら学び修得しようとする意欲、態度、姿勢 50%、レポート50%

＜教科書＞
文部科学省　平成30年2月　「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　体育編」　東洋館出版社

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション（講義）	本授業のオリエンテーションとし、目標、計画、内容、指導方法、到達目標等の理解を深める。
2	小学校体育における基本的な考え方（実技）	小学校体育における基本的な考え方を実技を通して体験する。
3	小学校体育科の目標と内容、体つくり運動領域の考え方（講義）	小学校体育科の目標と内容について理解を深める。体つくり運動領域の指導内容について理解を深める。
4	体つくり運動領域（実技）	体つくり動領域の基本的な考え方を実技を通して体験する。
5	器械運動領域（実技）	器械運動領域の指導内容について理解を深め、基本的な考え方を実技を通して体験する。
6	陸上運動領域（実技）	陸上運動領域の指導内容について理解を深め、基本的な考え方を実技を通して体験する。
7	水泳運動領域（講義）	水泳運動領域の指導内容について理解を深める。
8	表現運動領域（実技）	表現運動領域の指導内容について理解を深め、基本的な考え方を実技を通して体験する。
9	ゲーム・ボール運動領域（講義）	ゲーム・ボール運動領域の指導内容について理解を深める。
10	ゲーム・ボール運動領域（実技）①	ゲーム・ボール運動領域（鬼遊び・ゴール型）の基本的な考え方を実技を通して体験する。
11	ゲーム・ボール運動領域（実技）②	ゲーム・ボール運動領域（ベースボール型）の基本的な考え方を実技を通して体験する。
12	ゲーム・ボール運動領域（実技）③	ゲーム・ボール運動領域（ネット型）の基本的な考え方を実技を通して体験する。

13	保健領域（講義）	保健領域の指導内容について理解を深める。 最終回は本授業を振り返り成果と課題について反省、実践と理論の両面から各自が得た「学び」を確認し、その学びを言語化していく。
14	まとめ（講義）	
15		
16		

科目コード	22204				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	運動･健康の理解［FE2522組用］				担当者名	中安　翼			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業の概要は、生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現するための基本的な考え方を小学校学習指導要領解説体育編に基づいて実技と講義を通して学んでいく。運動が得意・不得意は関係なく、誰もが学びに向き合える授業づくりについて考えていく。題材は小学校の体育で指導するすべての領域を扱う。※ただし、受講者の様子等によって下記の授業計画については随時変更することがある。

＜授業の到達目標＞
1. 小学校学習指導要領体育編に示された目標や内容、各領域の指導上の留意点を正しく理解し、具体的に説明できる。2. 運動の得意・不得意にかかわらず、全児童が主体的に学びに向かえる「共生」の視点を持った授業構成の考え方を習得し、立案できる。3. 生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現するための理論と実践を関連付け、自らの言葉で言語化できる。

＜授業の方法＞
授業では、テーマに沿って理論と実践を並行して行い、レポートにまとめていく。実技に関しては、必ず運動に適した服装（シューズを含む）で受講。安全面からアクセサリーなどの装着は厳禁とする。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループでのディスカッション、グループで運動の行い方を試行錯誤

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：次時に講義される事柄について教科書を読み、下調べをし自ら積極的に理解を深めておく。復習：本時の授業内容を自分の意見も含め、レポートにまとめて提出する。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
自ら学び修得しようとする意欲、態度、姿勢 50%、レポート50%

＜教科書＞
文部科学省　平成30年2月　「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　体育編」　東洋館出版社

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション（講義）	本授業のオリエンテーションとし、目標、計画、内容、指導方法、到達目標等の理解を深める。
2	小学校体育における基本的な考え方（実技）	小学校体育における基本的な考え方を実技を通して体験する。
3	小学校体育科の目標と内容、体つくり運動領域の考え方（講義）	小学校体育科の目標と内容について理解を深める。体つくり運動領域の指導内容について理解を深める。
4	体つくり運動領域（実技）	体つくり動領域の基本的な考え方を実技を通して体験する。
5	器械運動領域（実技）	器械運動領域の指導内容について理解を深め、基本的な考え方を実技を通して体験する。
6	陸上運動領域（実技）	陸上運動領域の指導内容について理解を深め、基本的な考え方を実技を通して体験する。
7	水泳運動領域（講義）	水泳運動領域の指導内容について理解を深める。
8	表現運動領域（実技）	表現運動領域の指導内容について理解を深め、基本的な考え方を実技を通して体験する。
9	ゲーム・ボール運動領域（講義）	ゲーム・ボール運動領域の指導内容について理解を深める。
10	ゲーム・ボール運動領域（実技）①	ゲーム・ボール運動領域（鬼遊び・ゴール型）の基本的な考え方を実技を通して体験する。
11	ゲーム・ボール運動領域（実技）②	ゲーム・ボール運動領域（ベースボール型）の基本的な考え方を実技を通して体験する。
12	ゲーム・ボール運動領域（実技）③	ゲーム・ボール運動領域（ネット型）の基本的な考え方を実技を通して体験する。

13	保健領域（講義）	保健領域の指導内容について理解を深める。 最終回は本授業を振り返り成果と課題について反省、実践と理論の両面から各自が得た「学び」を確認し、その学びを言語化していく。
14	まとめ（講義）	
15		
16		

科目コード	22206				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	初等国語［FE2621組用］				担当者名	小川　智勢子			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義　グループワーク　演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業では、小学校国語科の基礎となる「言語の理解」「子どもの言語発達」「教材理解」を中心に学ぶ。言語活動の本質や教材の読み方を体験的に理解することを重視する。授業はアクティブラーニングを取り入れ、グループワーク・ペアワーク・教材分析などの協働的学習を通して、国語科の学びの本質を理解する。2年次の「国語科指導法」で授業づくりを行うための基礎を形成する。

＜授業の到達目標＞
①言語の役割と学習指導要領の言語観を説明できる。②子どもの言語発達を理解し、国語科の学習内容と関連づけられる。③教材を多面的に読み取り、他者と協働して読みを深められる。④読む・書く・話す・聞くの学習内容を基礎的に理解できる。⑤2年次「国語科指導法」で必要となる教材理解の基礎を身につける。

＜授業の方法＞
① 100分授業の中で、講義と演習（グループワーク・ペアワーク・対話活動・教材分析など）を組み合わせ、理解と実践を往還させる。② 毎回の授業の最後に、原稿用紙に手書きで振り返りを書くことで、学びを言語化し定着を図る。③ 毎回数名ずつ、口頭で感想や学びを発表する時間を設け、表現力・傾聴力・対話力を育成する。④ 漢字やひらがなの正しい筆順を確認し、実際に書く活動を通して書写の基礎技能を身につける。⑤ 授業外での読書課題を課し、読書経験を広げるとともに、授業内容との関連を考察する力を養う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループワーク、ペアワーク、対話的活動、教材分析、ロールプレイなどを取り入れ、学生同士の協働を通して学びを深める。学生が主体的に考え、表現し、共有する学習過程を重視する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
【事前学習（予習）】（１時間）　①各回のテーマに関連する教材や資料を事前に読み、授業で扱う内容の基礎的理解を準備する。②読書課題に取り組み、感じたことや疑問点を簡単にメモしておく。　③必要に応じて、小学校国語科の教科書や学習指導要領を確認し、授業で扱う内容の背景知識を整える。【事後学習（復習）】（１時間）　①授業内で扱った教材や活動内容を再度読み返し、グループワークや口頭発表で得た他者の視点を踏まえて考察を深める。　②筆順の練習や書写の復習を行い、書く技能を定着させる。③次回の授業に向けて、読書課題や

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
① 授業への取り組み姿勢（授業態度）　20%・グループワークやペアワークへの参加　・口頭発表への積極性　・協働的な学びに向かう姿勢② 毎回の手書き振り返り　20%・学びの整理や気づきの深さ　・継続的な取り組み③ 読書課題レポート　20%・課題図書の理解　・授業内容との関連づけ④ 教材分析レポート　30%・説明文・文学的文章の分析　・視点の多様性　・授業で扱った理論の活用⑤ ノート（授業記録）の整理状況　10%・授業内容の要点整理　・板書や活動内容の記録　・自分なりの学びのまとめ方

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	初等国語とは何か	国語科教育の目的と内容、1年次の学び、2年次との接続。これまで学んできた国語科教育の共有。
2	言語とは何か（一般意味論）	言語が記号であることを理解し、同じ言葉でも受け取り方が異なる理由を考える。子どもの読みの違いや意味づけの多様性を国語科の学習と関連づけて捉える。
3	学習指導要領における言語能力	学習指導要領の国語科目標を読み取り、言語能力（話す・聞く・読む・書く）の構成を理解する。言語活動の種類と役割を確認し、初等国語で求められる学びの姿を具体的に捉える。小学校の国語科教科書の例を参照しながら、言語能力がどのように育成されるかを考える。
4	話すこと・聞くことの学習	学習指導要領に示される「話すこと・聞くこと」の目標と内容を理解する。説明・報告・話し合いなどの言語活動の特徴を整理し、小学校国語科で求められる指導のポイントを学ぶ。短い話し合い活動を体験し、児童のつまずきや支援の視点を考え

		る。
5	読書指導	読書の意義と読書活動の種類を理解する。読み聞かせの役割と効果を学び、児童が本に親しみやすくなる指導の工夫を考える。国語教科書の本の紹介や読書記録の活用など、児童の読書を支える方法を整理する。
6	「読むこと」（文学的文章）の学習指導	登場人物・情景・心情の読み取り。物語の構造。読みの交流ワーク。
7	「読むこと」文学的文章（詩）の学習指導	詩の言葉と論理の言葉のちがい。音・リズム・イメージ。表現の効果。詩の授業について考えます。
8	「読むこと」説明的文章の学習指導	要点把握、段落構成。説明文教材の構造化。グループ分析。
9	「書くこと」の学習指導１	書く目的、論理的に書く指導について。
10	「書くこと」の指導２	論理的に書く指導の評価について
11	教材研究の重要性と実践的な進め方	・教材研究の方法（教科書の活用・副教材の選定）・単元構成と発問の工夫・教材研究の事例分析
12	伝統的な言語文化に関する学習指導	・伝統的な言語文化とは　伝統的な言語文化の指導の工夫
13	読み聞かせと多様な読書活動の推進	・読み聞かせの効果と技術
14	情報の扱い方に関する学習指導	各学年の「情報の扱い方」に関する事項の指導
15		
16		

科目コード	22206				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	初等国語［FE2622組用］				担当者名	小川　智勢子			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義　グループワーク　演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業では、小学校国語科の基礎となる「言語の理解」「子どもの言語発達」「教材理解」を中心に学ぶ。言語活動の本質や教材の読み方を体験的に理解することを重視する。授業はアクティブラーニングを取り入れ、グループワーク・ペアワーク・教材分析などの協働的学習を通して、国語科の学びの本質を理解する。2年次の「国語科指導法」で授業づくりを行うための基礎を形成する。

＜授業の到達目標＞
①言語の役割と学習指導要領の言語観を説明できる。②子どもの言語発達を理解し、国語科の学習内容と関連づけられる。③教材を多面的に読み取り、他者と協働して読みを深められる。④読む・書く・話す・聞くの学習内容を基礎的に理解できる。⑤2年次「国語科指導法」で必要となる教材理解の基礎を身につける。

＜授業の方法＞
① 100分授業の中で、講義と演習（グループワーク・ペアワーク・対話活動・教材分析など）を組み合わせ、理解と実践を往還させる。② 毎回の授業の最後に、原稿用紙に手書きで振り返りを書くことで、学びを言語化し定着を図る。③ 毎回数名ずつ、口頭で感想や学びを発表する時間を設け、表現力・傾聴力・対話力を育成する。④ 漢字やひらがなの正しい筆順を確認し、実際に書く活動を通して書写の基礎技能を身につける。⑤ 授業外での読書課題を課し、読書経験を広げるとともに、授業内容との関連を考察する力を養う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループワーク、ペアワーク、対話的活動、教材分析、ロールプレイなどを取り入れ、学生同士の協働を通して学びを深める。学生が主体的に考え、表現し、共有する学習過程を重視する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
【事前学習（予習）】（１時間）　①各回のテーマに関連する教材や資料を事前に読み、授業で扱う内容の基礎的理解を準備する。②読書課題に取り組み、感じたことや疑問点を簡単にメモしておく。　③必要に応じて、小学校国語科の教科書や学習指導要領を確認し、授業で扱う内容の背景知識を整える。【事後学習（復習）】（１時間）　①授業内で扱った教材や活動内容を再度読み返し、グループワークや口頭発表で得た他者の視点を踏まえて考察を深める。 ②筆順の練習や書写の復習を行い、書く技能を定着させる。③次回の授業に向けて、読書課題や

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
① 授業への取り組み姿勢（授業態度）　20%・グループワークやペアワークへの参加　・口頭発表への積極性　・協働的な学びに向かう姿勢② 毎回の手書き振り返り　20%・学びの整理や気づきの深さ　・継続的な取り組み③ 読書課題レポート　20%・課題図書の理解　・授業内容との関連づけ④ 教材分析レポート　30%・説明文・文学的文章の分析　・視点の多様性　・授業で扱った理論の活用⑤ ノート（授業記録）の整理状況　10%・授業内容の要点整理　・板書や活動内容の記録　・自分なりの学びのまとめ方

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	初等国語とは何か	国語科教育の目的と内容、1年次の学び、2年次との接続。これまで学んできた国語科教育の共有。
2	言語とは何か（一般意味論）	言語が記号であることを理解し、同じ言葉でも受け取り方が異なる理由を考える。子どもの読みの違いや意味づけの多様性を国語科の学習と関連づけて捉える。
3	学習指導要領における言語能力	学習指導要領の国語科目標を読み取り、言語能力（話す・聞く・読む・書く）の構成を理解する。言語活動の種類と役割を確認し、初等国語で求められる学びの姿を具体的に捉える。小学校の国語科教科書の例を参照しながら、言語能力がどのように育成されるかを考える。
4	話すこと・聞くことの学習	学習指導要領に示される「話すこと・聞くこと」の目標と内容を理解する。説明・報告・話し合いなどの言語活動の特徴を整理し、小学校国語科で求められる指導のポイントを学ぶ。短い話し合い活動を体験し、児童のつまずきや支援の視点を考え

		る。
5	読書指導	読書の意義と読書活動の種類を理解する。読み聞かせの役割と効果を学び、児童が本に親しみやすくなる指導の工夫を考える。国語教科書の本の紹介や読書記録の活用など、児童の読書を支える方法を整理する。
6	「読むこと」（文学的文章）の学習指導	登場人物・情景・心情の読み取り。物語の構造。読みの交流ワーク。
7	「読むこと」文学的文章（詩）の学習指導	詩の言葉と論理の言葉のちがい。音・リズム・イメージ。表現の効果。詩の授業について考えます。
8	「読むこと」説明的文章の学習指導	要点把握、段落構成。説明文教材の構造化。グループ分析。
9	「書くこと」の学習指導１	書く目的、論理的に書く指導について。
10	「書くこと」の指導２	論理的に書く指導の評価について
11	教材研究の重要性と実践的な進め方	・教材研究の方法（教科書の活用・副教材の選定）・単元構成と発問の工夫・教材研究の事例分析
12	伝統的な言語文化に関する学習指導	・伝統的な言語文化とは　伝統的な言語文化の指導の工夫
13	読み聞かせと多様な読書活動の推進	・読み聞かせの効果と技術
14	情報の扱い方に関する学習指導	各学年の「情報の扱い方」に関する事項の指導
15		
16		

科目コード	22207				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	初等算数				担当者名	上ヶ谷　友佑			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
＊小学校算数科の各領域構成の詳細を提示し，小学校算数科の内容の数学的背景とそれに関わる数学の基礎知識について述べる。＊各講義の中で具体的な算数科教材を提示し，その算数教育的価値を考察する場を提供する。

＜授業の到達目標＞
＊小学校算数科 の内容の数学的背景とそれに関わる数学の基礎知識を理解し，小学校算数科の各領域構成を体系的に説明することができる。＊次の２つを副次的な目標として講義を行う。・子どもたちの数学的思考を涵養する力の育成（指導力・授業力）・算数科の教材を開発する力の育成（教材開発力）

＜授業の方法＞
講義形式（アクティブ・ラーニング）授業内小テストを実施する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素有り。授業中の発問や演習内容について周囲と意見交換したり，調べたりする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
返却された小テストを復習する。（1.5時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
3日間毎日，最後に1日の総まとめテストを設ける。また，3日目は全体を通じた総まとめテストも設ける。テストの得点比率は1日目30%，2日目30%，最終日40%とする。各テストでは，授業中のアクティブラーニングでの学びの成果を問う。

＜教科書＞
文部科学省［編］(2018)　小学校学習指導要領（平成２９年告示）解説　算数編（備考：以下のURLから電子ファイルをダウンロードすることが可能です。https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1387014.htm ★）　日本文教出版

＜参考書＞
鈴木将史［編著］(2018)　小学校算数科教育法　建帛社（備考：算数科の指導内容が体系的にまとめられているので，日々の学習の際に参考書として用いることを推奨する。★講義に持参する必要はありません。）

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーションおよび数の概念（整数，小数，分数）	オリエンテーションおよび数の概念（整数，小数，分数）を数学的活動を通して学習する。
2	計算の意味（加法，減法）	計算の意味（加法，減法）を数学的活動を通して学習する。
3	計算の意味（乗法，除法），概数と見積り	計算の意味（乗法，除法），概数と見積りを数学的活動を通して学習する。
4	式の表現と読み，四則に関して成り立つ性質	式の表現と読み，四則に関して成り立つ性質を数学的活動を通して学習する。
5	1日目の総まとめテスト	第1回～第4回の内容についてテストを実施する。
6	図形の概念（平面図形，立体図形）	図形の概念（平面図形，立体図形）を数学的活動を通して学習する。
7	図形の構成・分解	図形の構成・分解を数学的活動を通して学習する。
8	図形の性質および角	図形の性質や角について数学的活動を通して学習する。
9	図形の計量（面積・体積）	図形の計量（面積・体積）を数学的活動を通して学習する。
10	2日目の総まとめテスト	第6回～第9回の内容についてテストを実施する。
11	量の概念（長さ，重さなど），量の大きさの比較，量の単位，量の測定	量の概念（長さ，重さなど），量の大きさの比較，量の単位，量の測定を数学的活動を通して学習する。
12	単位量当たりの大きさ，比例・反比例	単位量当たりの大きさおよび比例・反比例を数学的活動を通して学習する。
13	測定値の平均と表・グラフ	測定値の平均および表・グラフを数学的活動を通して学習する。
14	3日目の総まとめテストおよび3日間の総まとめテスト	第11回～第14回の内容についてテストを実施する。また，3日間すべての内容を総合して解答するテストを実施する。
15		
16		

科目コード	22208				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	初等英語［FE2621組用］				担当者名	羽田　あずさ			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
英語を聞く、話す、読む、書く活動を通して、英語運用能力を高める。特に、外国語活動・外国語科の授業を進める上で必要な言語材料や表現を適切に運用できるようにする。授業実践に必要な英語運用能力と英語に関する専門的な知識（音声・語彙・文法・正書法など）や第二言語習得・児童文学（絵本・子ども向けの歌や詩など）・異文化理解に関する基礎的な知識を、授業場面を意識しながら体験的に学習する。

＜授業の到達目標＞
１．小学校における外国語活動・外国語科の授業実践に必要な英語運用能力を身につけることができる。２．英語に関する専門的な知識（音声・語彙・文法・正書法など）や第二言語習得・児童文学（絵本・子ども向けの歌や詩など）・異文化理解に関する基礎的な知識を身につけることができる。

＜授業の方法＞
・オーラルアクティビティ（聞く・話す）・ライティングアクティビティ（読む・書く）・講義（教員による解説と問いの提示）・ディスカッション

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング（グループディスカッション、ピア・フィードバック、ジグソーなど）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：教科書のWarm-up Activities（1時間程度）復習：振り返りレポート（30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・授業への参加度（アクティビティ・ディスカッション）　３０％・課題（振り返りレポート）３０％・最終発表及びレポート40％

＜教科書＞
金森強（2024年）　CLILで習得する小学校英語指導の基礎　ミネルヴァ書房

＜参考書＞
小川隆夫・東仁美（2021）　小学校英語はじめる教科書（改訂版）　mpi

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダクション	国際共通語としての英語（Unit1）
2	第二言語習得に関する基本的な知識（１）	第二言語習得と外国語学習（Unit2）
3	英語に関する基礎的な知識（１）	語彙（Unit3）
4	小学校外国語教育に関する基礎的な知識	アクティブラーニング（Unit10）、協働学習（Unit11）ICT教育（Unit13）
5	英語に関する基礎的な知識（２）	音声（Unit4）
6	異文化理解に関する基礎的な知識（１）	異文化間コミュニケーション能力（Unit5）
7	児童文学に関する基礎的な知識（１）	歌・詩（Unit8）
8	異文化理解に関する基礎的な知識（２）	交流活動（フラットスタンレープロジェクト）
9	児童文学に関する基礎的な知識（２）	絵本（Unit9）
10	英語に関する基礎的な知識（３）	発音と文字の綴り、正書法（Unit6）
11	英語に関する基礎的な知識（４）	文法・文構造（Unit7）
12	第二言語習得に関する基本的な知識（２）	第二言語習得理論の実践への応用（Unit12）、CLIL（Unit14）
13	4技能統合型活動（１）	活動の計画と準備、クラスルームイングリッシュ、Small Talk
14	4技能統合型活動（２）	発表評価、ディスカッション
15		
16		

科目コード	22208				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	初等英語［FE2622組用］				担当者名	羽田　あずさ			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
英語を聞く、話す、読む、書く活動を通して、英語運用能力を高める。特に、外国語活動・外国語科の授業を進める上で必要な言語材料や表現を適切に運用できるようにする。授業実践に必要な英語運用能力と英語に関する専門的な知識（音声・語彙・文法・正書法など）や第二言語習得・児童文学（絵本・子ども向けの歌や詩など）・異文化理解に関する基礎的な知識を、授業場面を意識しながら体験的に学習する。

＜授業の到達目標＞
１．小学校における外国語活動・外国語科の授業実践に必要な英語運用能力を身につけることができる。２．英語に関する専門的な知識（音声・語彙・文法・正書法など）や第二言語習得・児童文学（絵本・子ども向けの歌や詩など）・異文化理解に関する基礎的な知識を身につけることができる。

＜授業の方法＞
・オーラルアクティビティ（聞く・話す）・ライティングアクティビティ（読む・書く）・講義（教員による解説と問いの提示）・ディスカッション

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング（グループディスカッション、ピア・フィードバック、ジグソーなど）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：教科書のWarm-up Activities（1時間程度）復習：振り返りレポート（30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・授業への参加度（アクティビティ・ディスカッション）　３０％・課題（振り返りレポート）３０％・最終発表及びレポート40％

＜教科書＞
金森強（2024年）　CLILで習得する小学校英語指導の基礎　ミネルヴァ書房

＜参考書＞
小川隆夫・東仁美（2021）　小学校英語はじめる教科書（改訂版）　mpi

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダクション	国際共通語としての英語（Unit1）
2	第二言語習得に関する基本的な知識（１）	第二言語習得と外国語学習（Unit2）
3	英語に関する基礎的な知識（１）	語彙（Unit3）
4	小学校外国語教育に関する基礎的な知識	アクティブラーニング（Unit10）、協働学習（Unit11）ICT教育（Unit13）
5	英語に関する基礎的な知識（２）	音声（Unit4）
6	異文化理解に関する基礎的な知識（１）	異文化間コミュニケーション能力（Unit5）
7	児童文学に関する基礎的な知識（１）	歌・詩（Unit8）
8	異文化理解に関する基礎的な知識（２）	交流活動（フラットスタンレープロジェクト）
9	児童文学に関する基礎的な知識（２）	絵本（Unit9）
10	英語に関する基礎的な知識（３）	発音と文字の綴り、正書法（Unit6）
11	英語に関する基礎的な知識（４）	文法・文構造（Unit7）
12	第二言語習得に関する基本的な知識（２）	第二言語習得理論の実践への応用（Unit12）、CLIL（Unit14）
13	4技能統合型活動（１）	活動の計画と準備、クラスルームイングリッシュ、Small Talk
14	4技能統合型活動（２）	発表評価、ディスカッション
15		
16		

科目コード	22209				区　分	コア科目			
授業科目名	初等理科［FE2631組用］				担当者名	川村　康文			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義と実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
小学校理科の授業を楽しく，興味深く展開するために必要な指導技術や観察・実験の方法を習得する。観察・実験を伴う理科の活動を，児童の気持ちになって体験したり，教師役を経験したりする。1班約４人でグループを組んでもらいます。授業では，先生役の班と，先生役ではない班は，児童役と評価者を兼ねて受講してもらいます。オンラインの授業の日と対面の授業の日があります。この授業では，楽しく理科実験指導ができる実験名人になれるよう，持ち時間15分程度の実験指導だけの模擬授業をしてもらいます。実験をみなさんで楽しく共有できること

＜授業の到達目標＞
１．実験をみなさんで楽しく共有できる。２．ＩＣＴ活用：電子黒板，教材提示装置，デジタル教科書などを効果的に活用できる。３．毎模擬授業の振り返りを行うことで，授業力の向上をめざす。

＜授業の方法＞
１．自分たちで話し合って，自立的に，学びを進めて下さい。それを支援する授業を行います。２．探究する心を，仲間と育てて下さい。それを支援する授業を行います。３．スマホ，タブレット，ＰＣなどICTも活用しましょう。４．模擬授業を行う先生役と，模擬授業を受ける児童役あわせて評価者役を行って頂きます

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニング：受け身の授業ではなく，先生役として模擬授業を担当したり，評価者役を担当します。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習各時間とも，模擬授業の担当になる班があります。対面の授業の中から担当班を決めます。その班は，必ず，教科書を良く読み，事前にリハーサルを60分程度繰り返すことにより，当日の授業で規定の時間内に実施できるよう準備してください。児童役を担当する受講生のみなさんは，模擬授業を行う班のパフォーマンスを評価する評価者の立場になって模擬授業のアドバイスができるように教科書を60分程度時間をかけて読み込んで来て，授業に参加してください。オンデマンドの授業の場合は，教科書の内容を60分程度時間をかけて読み込んでから，オ

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
参加意欲　（平常点・課題提出・模擬授業を含む）60%、 振り返り（レフレクション）40% 等で評価する。

＜教科書＞
川村　康文（2014）　理科教育法 独創力を伸ばす理科授業　講談社
川村康文，前田譲治，小林尚美（2021）　はじめてみようＳＴＥＡＭ教育ー小学生からの実験とプログラミング　オーム社

＜参考書＞
文部科学省(2018.2.10)　小学校学習指導要領　https://www.mext.go.jp/content/20211020-mxt_kyoiku02-100002607_05.pdf

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	対面4月9日14日オリエンテーション座席決定・班分けこれからの理科授業を考えるためにーＳＴＥＡＭ教育って何？(教科書)	対面4月9日14日4人程度でひとつの班をくみます。各班で，どのような理科授業をしたいか話し合って，まとめたものを発表してもらいます。ルールとして，ひとりだけで模擬授業はしない！班員全員が必ず模擬授業を分担して実施する。このルールを守って下さい。板書は，振り返りが終わるまで消さない。担当が終わったあとは，板書を消したり，実験機の跡片付けまできちんと行う（平常点のなかです）。
2	オンデマンド4月16日21日2030年のSDｇ2050年のカーボンニュートラル　理科教師や理科の授業は，次世代の子どもたちに何をつたえるのか？ー幼小の授業の連携を考えながらー	オンデマンド4月16日21日幼小の授業の連携を考えるうえで，教科書「はじめてみようＳＴＥＡＭ教育」の幼児教育についてまとめ，小学校の理数の授業にどのようにつないでいくかを，あなたなら，これからの理科授業をどのようにしていきたいか？A4用紙1枚程度にまとめて，写メかスキャナーで撮影したものを提出して下さい。
3	対面4月23日28日4人程度でひとつの班をくみます。各班で，どのような理科授業をしたいか話し合って，まとめたものを発表してもらいます。各班で，どの実験をするかを話し合って，このクラス全体のスケジュール表を作成します。これを	対面4月23日28日各班で，どの実験をするかを話し合って，このクラス全体のスケジュール表を作成し，この静止画を各自アップしてください。

	各自，アップしてもらいます。模擬授業のルールとして，ひとりだけで模擬授業はしない！班員全員が必ず模擬授業を分担して実施する。このルールを守って下さい。	
4	オンデマンド4月30日5月5日教科書の実験「４．水がこぼれないコップの実験（pp.44－45）」	オンデマンド4月30日5月5日教科書の実験「４．水がこぼれないコップの実験（pp.44－45）」を行って，下敷きの静止画とガーゼの静止画2枚を，各自，アップして下さい。締め切り後は０点となりますので注意して下さい。
5	対面　5月7日12日教科書の実験「41．分光つつの実験（pp.112－113）」	対面　5月7日12日教科書の実験「41．分光つつの実験（pp.112－113）」を行って，分光つつで撮影したスペクトルの静止画を，各自，アップして下さい。締め切り後は０点となりますので注意して下さい。
6	オンデマンド　5月14日19日教科書の実験「15．風船ロケットの実験（pp.66－67）＋飛行リング」	オンデマンド　5月14日19日　教科書の実験「15．風船ロケットの実験（pp.66－67）＋飛行リング」を行って，自分が作成した風船ロケットの静止画を，各自，アップして下さい。締め切り後は０点となりますので注意して下さい。
7	対面5月21日26日教科書の実験　「31．弦楽器をつくろう（pp.92-93)」	対面5月21日26日教科書の実験　「31．弦楽器をつくろう（pp.92-93)」を行って，自分が作成した弦楽器の動画（４秒以内程度）を，各自，アップして下さい。締め切り後は０点となりますので注意して下さい。
8	対面　6月2日4日教科書の実験　「78．スライム（pp.188-189)」	対面　6月2日4日教科書の実験　「78．スライム（pp.188-189)」を行って，自分が作成したスライムの静止画を，各自，アップして下さい。締め切り後は０点となりますので注意して下さい。
9	オンデマンド　6月9日11日教科書の実験「43．ペーパークロマトグラフィー」（p.116）	オンデマンド　6月9日11日教科書の実験「43．ペーパークロマトグラフィー」(p.116)を行って，自分が行ったペーパークロマトグラフィーの結果の静止画を，各自，アップして下さい。締め切り後は０点となりますので注意して下さい。
10	対面　6月16日18日教科書の実験「47．紫イモで酸性・アルカリ性」（pp.122-123）（ただし，内容は46の実験を行う）	対面　6月16日18日教科書の実験「47．紫イモで酸性・アルカリ性」（pp.122-123）（ただし，内容は46の実験を行う）を行って，自分が行った酸性・アルカリ性の実験結果の静止画を，各自，アップして下さい。締め切り後は０点となりますので注意して下さい。
11	オンデマンド　6月23日25日教科書の実験「30．共振・長周期の実験」（pp.90-91）	オンデマンド　6月23日25日教科書の実験「30．共振・長周期の実験」（pp.90-91）を行って，自分が作成した共振・長周期振動の実験の動画（４秒以内程度）を，各自，アップして下さい。締め切り後は０点となりますので注意して下さい。
12	対面6月30日7月2日教科書の実験「35．ペットボトル顕微鏡をつくろう」(pp.100-101)	対面6月30日7月2日教科書の実験「35．ペットボトル顕微鏡をつくろう」(pp.100-101)を行って，自分で撮影した顕微鏡写真を，各自，アップして下さい。締め切り後は０点となりますので注意して下さい。
13	オンデマンド　7月7日9日Ｓｃｒａｔｃｈで，プログラミングをしてみよう！自分たちで自立的に学びを進めて下さい。簡単なプログラムでいいので，班や友人とチームを組み，何ができたかを，動画で撮影し，数十秒の短い動画を，各個人が一人ずつ提出して下さい。	オンデマンド　7月7日9日ＳＴＥＡＭ教育の教科書をみて，Ｓｃｒａｔｃｈ　で，プログラミングをしてみましょう。自分たちで自立的に学びを進めて下さい。簡単なプログラムでいいので，班や友人とチームを組み，何ができたかを，動画で撮影し，数十秒の短い動画を，各個人が一人ずつ提出して下さい。
14	対面　　7月14日16日　リフレクション・まとめ	対面　7月14日16日全体のふりかえりを行います。
15		
16		

科目コード	22209				区　分	コア科目			
授業科目名	初等理科［FE2632組用］				担当者名	川村　康文			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義と実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
小学校理科の授業を楽しく，興味深く展開するために必要な指導技術や観察・実験の方法を習得する。観察・実験を伴う理科の活動を，児童の気持ちになって体験したり，教師役を経験したりする。1班約４人でグループを組んでもらいます。授業では，先生役の班と，先生役ではない班は，児童役と評価者を兼ねて受講してもらいます。オンラインの授業の日と対面の授業の日があります。この授業では，楽しく理科実験指導ができる実験名人になれるよう，持ち時間15分程度の実験指導だけの模擬授業をしてもらいます。実験をみなさんで楽しく共有できること

＜授業の到達目標＞
１．実験をみなさんで楽しく共有できる。２．ＩＣＴ活用：電子黒板，教材提示装置，デジタル教科書などを効果的に活用できる。３．毎模擬授業の振り返りを行うことで，授業力の向上をめざす。

＜授業の方法＞
１．自分たちで話し合って，自立的に，学びを進めて下さい。それを支援する授業を行います。２．探究する心を，仲間と育てて下さい。それを支援する授業を行います。３．スマホ，タブレット，ＰＣなどICTも活用しましょう。４．模擬授業を行う先生役と，模擬授業を受ける児童役あわせて評価者役を行って頂きます

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニング：受け身の授業ではなく，先生役として模擬授業を担当したり，評価者役を担当します。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習各時間とも，模擬授業の担当になる班があります。対面の授業の中から担当班を決めます。その班は，必ず，教科書を良く読み，事前にリハーサルを60分程度繰り返すことにより，当日の授業で規定の時間内に実施できるよう準備してください。児童役を担当する受講生のみなさんは，模擬授業を行う班のパフォーマンスを評価する評価者の立場になって模擬授業のアドバイスができるように教科書を60分程度時間をかけて読み込んで来て，授業に参加してください。オンデマンドの授業の場合は，教科書の内容を60分程度時間をかけて読み込んでから，オ

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
参加意欲　（平常点・課題提出・模擬授業を含む）60%、 振り返り（レフレクション）40% 等で評価する。

＜教科書＞
川村　康文（2014）　理科教育法 独創力を伸ばす理科授業　講談社
川村康文，前田譲治，小林尚美（2021）　はじめてみようＳＴＥＡＭ教育ー小学生からの実験とプログラミング　オーム社

＜参考書＞
文部科学省(2018.2.10)　小学校学習指導要領　https://www.mext.go.jp/content/20211020-mxt_kyoiku02-100002607_05.pdf

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	対面4月9日14日オリエンテーション座席決定・班分けこれからの理科授業を考えるためにーＳＴＥＡＭ教育って何？(教科書)	対面4月9日14日4人程度でひとつの班をくみます。各班で，どのような理科授業をしたいか話し合って，まとめたものを発表してもらいます。ルールとして，ひとりだけで模擬授業はしない！班員全員が必ず模擬授業を分担して実施する。このルールを守って下さい。板書は，振り返りが終わるまで消さない。担当が終わったあとは，板書を消したり，実験機の跡片付けまできちんと行う（平常点のなかです）。
2	オンデマンド4月16日21日2030年のSDｇs 2050年のカーボンニュートラル　理科教師や理科の授業は，次世代の子どもたちに何をつたえるのか？ー幼小の授業の連携を考えながらー	オンデマンド4月16日21日幼小の授業の連携を考えるうえで，教科書「はじめてみようＳＴＥＡＭ教育」の幼児教育についてまとめ，小学校の理数の授業にどのようにつないでいくかを，あなたなら，これからの理科授業をどのようにしていきたいか？A4用紙1枚程度にまとめて，写メかスキャナーで撮影したものを提出して下さい。
3	対面4月23日28日4人程度でひとつの班をくみます。各班で，どのような理科授業をしたいか話し合って，まとめたものを発表してもらいます。各班で，どの実験をするかを話し合って，このクラス全体のスケジュール表を作成します。これを	対面4月23日28日各班で，どの実験をするかを話し合って，このクラス全体のスケジュール表を作成し，この静止画を各自アップしてください。

	各自，アップしてもらいます。模擬授業のルールとして，ひとりだけで模擬授業はしない！班員全員が必ず模擬授業を分担して実施する。このルールを守って下さい。	
4	オンデマンド4月30日5月5日教科書の実験「４．水がこぼれないコップの実験（pp.44－45）」	オンデマンド4月30日5月5日教科書の実験「４．水がこぼれないコップの実験（pp.44－45）」を行って，下敷きの静止画とガーゼの静止画2枚を，各自，アップして下さい。締め切り後は０点となりますので注意して下さい。
5	対面　5月7日12日教科書の実験「41．分光つつの実験（pp.112－113）」	対面　5月7日12日教科書の実験「41．分光つつの実験（pp.112－113）」を行って，分光つつで撮影したスペクトルの静止画を，各自，アップして下さい。締め切り後は０点となりますので注意して下さい。
6	オンデマンド　5月14日19日教科書の実験「15．風船ロケットの実験（pp.66－67）＋飛行リング」	オンデマンド　5月14日19日　教科書の実験「15．風船ロケットの実験（pp.66－67）＋飛行リング」を行って，自分が作成した風船ロケットの静止画を，各自，アップして下さい。締め切り後は０点となりますので注意して下さい。
7	対面5月21日26日教科書の実験　「31．弦楽器をつくろう（pp.92-93)」	対面5月21日26日教科書の実験　「31．弦楽器をつくろう（pp.92-93)」を行って，自分が作成した弦楽器の動画（４秒以内程度）を，各自，アップして下さい。締め切り後は０点となりますので注意して下さい。
8	対面　6月2日4日教科書の実験　「78．スライム（pp.188-189)」	対面　6月2日4日教科書の実験　「78．スライム（pp.188-189)」を行って，自分が作成したスライムの静止画を，各自，アップして下さい。締め切り後は０点となりますので注意して下さい。
9	オンデマンド　6月9日11日教科書の実験「43．ペーパークロマトグラフィー」（p.116）	オンデマンド　6月9日11日教科書の実験「43．ペーパークロマトグラフィー」(p.116)を行って，自分が行ったペーパークロマトグラフィーの結果の静止画を，各自，アップして下さい。締め切り後は０点となりますので注意して下さい。
10	対面　6月16日18日教科書の実験「47．紫イモで酸性・アルカリ性」（pp.122-123）（ただし，内容は46の実験を行う）	対面　6月16日18日教科書の実験「47．紫イモで酸性・アルカリ性」（pp.122-123）（ただし，内容は46の実験を行う）を行って，自分が行った酸性・アルカリ性の実験結果の静止画を，各自，アップして下さい。締め切り後は０点となりますので注意して下さい。
11	オンデマンド　6月23日25日教科書の実験「30．共振・長周期の実験」（pp.90-91）	オンデマンド　6月23日25日教科書の実験「30．共振・長周期の実験」（pp.90-91）を行って，自分が作成した共振・長周期振動の実験の動画（４秒以内程度）を，各自，アップして下さい。締め切り後は０点となりますので注意して下さい。
12	対面6月30日7月2日教科書の実験「35．ペットボトル顕微鏡をつくろう」(pp.100-101)	対面6月30日7月2日教科書の実験「35．ペットボトル顕微鏡をつくろう」(pp.100-101)を行って，自分で撮影した顕微鏡写真を，各自，アップして下さい。締め切り後は０点となりますので注意して下さい。
13	オンデマンド　7月7日9日Ｓｃｒａｔｃｈで，プログラミングをしてみよう！自分たちで自立的に学びを進めて下さい。簡単なプログラムでいいので，班や友人とチームを組み，何ができたかを，動画で撮影し，数十秒の短い動画を，各個人が一人ずつ提出して下さい。	オンデマンド　7月7日9日ＳＴＥＡＭ教育の教科書をみて，Ｓｃｒａｔｃｈ　で，プログラミングをしてみましょう。自分たちで自立的に学びを進めて下さい。簡単なプログラムでいいので，班や友人とチームを組み，何ができたかを，動画で撮影し，数十秒の短い動画を，各個人が一人ずつ提出して下さい。
14	対面　　7月14日16日　リフレクション・まとめ	対面　7月14日16日全体のふりかえりを行います。
15		
16		

科目コード	22209				区　分	コア科目			
授業科目名	初等理科［FE2633組用］				担当者名	川村　康文			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義と実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
小学校理科の授業を楽しく，興味深く展開するために必要な指導技術や観察・実験の方法を習得する。観察・実験を伴う理科の活動を，児童の気持ちになって体験したり，教師役を経験したりする。1班約４人でグループを組んでもらいます。授業では，先生役の班と，先生役ではない班は，児童役と評価者を兼ねて受講してもらいます。オンラインの授業の日と対面の授業の日があります。この授業では，楽しく理科実験指導ができる実験名人になれるよう，持ち時間15分程度の実験指導だけの模擬授業をしてもらいます。実験をみなさんで楽しく共有できること

＜授業の到達目標＞
１．実験をみなさんで楽しく共有できる。２．ＩＣＴ活用：電子黒板，教材提示装置，デジタル教科書などを効果的に活用できる。３．毎模擬授業の振り返りを行うことで，授業力の向上をめざす。

＜授業の方法＞
１．自分たちで話し合って，自立的に，学びを進めて下さい。それを支援する授業を行います。２．探究する心を，仲間と育てて下さい。それを支援する授業を行います。３．スマホ，タブレット，ＰＣなどICTも活用しましょう。４．模擬授業を行う先生役と，模擬授業を受ける児童役あわせて評価者役を行って頂きます

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニング：受け身の授業ではなく，先生役として模擬授業を担当したり，評価者役を担当します。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習各時間とも，模擬授業の担当になる班があります。対面の授業の中から担当班を決めます。その班は，必ず，教科書を良く読み，事前にリハーサルを60分程度繰り返すことにより，当日の授業で規定の時間内に実施できるよう準備してください。児童役を担当する受講生のみなさんは，模擬授業を行う班のパフォーマンスを評価する評価者の立場になって模擬授業のアドバイスができるように教科書を60分程度時間をかけて読み込んで来て，授業に参加してください。オンデマンドの授業の場合は，教科書の内容を60分程度時間をかけて読み込んでから，オ

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
参加意欲　（平常点・課題提出・模擬授業を含む）60%、 振り返り（レフレクション）40% 等で評価する。

＜教科書＞
川村　康文（2014）　理科教育法 独創力を伸ばす理科授業　講談社
川村康文，前田譲治，小林尚美（2021）　はじめてみようＳＴＥＡＭ教育ー小学生からの実験とプログラミング　オーム社

＜参考書＞
文部科学省(2018.2.10)　小学校学習指導要領　https://www.mext.go.jp/content/20211020-mxt_kyoiku02-100002607_05.pdf

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	対面4月9日14日オリエンテーション座席決定・班分けこれからの理科授業を考えるためにーＳＴＥＡＭ教育って何？(教科書)	対面4月9日14日4人程度でひとつの班をくみます。各班で，どのような理科授業をしたいか話し合って，まとめたものを発表してもらいます。ルールとして，ひとりだけで模擬授業はしない！班員全員が必ず模擬授業を分担して実施する。このルールを守って下さい。板書は，振り返りが終わるまで消さない。担当が終わったあとは，板書を消したり，実験機の跡片付けまできちんと行う（平常点のなかです）。
2	オンデマンド4月16日21日2030年のSDｇs 2050年のカーボンニュートラル　理科教師や理科の授業は，次世代の子どもたちに何をつたえるのか？ー幼小の授業の連携を考えながらー	オンデマンド4月16日21日幼小の授業の連携を考えるうえで，教科書「はじめてみようＳＴＥＡＭ教育」の幼児教育についてまとめ，小学校の理数の授業にどのようにつないでいくかを，あなたなら，これからの理科授業をどのようにしていきたいか？A4用紙1枚程度にまとめて，写メかスキャナーで撮影したものを提出して下さい。
3	対面4月23日28日4人程度でひとつの班をくみます。各班で，どのような理科授業をしたいか話し合って，まとめたものを発表してもらいます。各班で，どの実験をするかを話し合って，このクラス全体のスケジュール表を作成します。これを	対面4月23日28日各班で，どの実験をするかを話し合って，このクラス全体のスケジュール表を作成し，この静止画を各自アップしてください。

	各自，アップしてもらいます。模擬授業のルールとして，ひとりだけで模擬授業はしない！班員全員が必ず模擬授業を分担して実施する。このルールを守って下さい。	
4	オンデマンド4月30日5月5日教科書の実験「４．水がこぼれないコップの実験（pp.44－45）」	オンデマンド4月30日5月5日教科書の実験「４．水がこぼれないコップの実験（pp.44－45）」を行って，下敷きの静止画とガーゼの静止画2枚を，各自，アップして下さい。締め切り後は０点となりますので注意して下さい。
5	対面　5月7日12日教科書の実験「41．分光つつの実験（pp.112－113）」	対面　5月7日12日教科書の実験「41．分光つつの実験（pp.112－113）」を行って，分光つつで撮影したスペクトルの静止画を，各自，アップして下さい。締め切り後は０点となりますので注意して下さい。
6	オンデマンド　5月14日19日教科書の実験「15．風船ロケットの実験（pp.66－67）＋飛行リング」	オンデマンド　5月14日19日　教科書の実験「15．風船ロケットの実験（pp.66－67）＋飛行リング」を行って，自分が作成した風船ロケットの静止画を，各自，アップして下さい。締め切り後は０点となりますので注意して下さい。
7	対面5月21日26日教科書の実験　「31．弦楽器をつくろう（pp.92-93)」	対面5月21日26日教科書の実験　「31．弦楽器をつくろう（pp.92-93)」を行って，自分が作成した弦楽器の動画（４秒以内程度）を，各自，アップして下さい。締め切り後は０点となりますので注意して下さい。
8	対面　6月2日4日教科書の実験　「78．スライム（pp.188-189)」	対面　6月2日4日教科書の実験　「78．スライム（pp.188-189)」を行って，自分が作成したスライムの静止画を，各自，アップして下さい。締め切り後は０点となりますので注意して下さい。
9	オンデマンド　6月9日11日教科書の実験「43．ペーパークロマトグラフィー」（p.116）	オンデマンド　6月9日11日教科書の実験「43．ペーパークロマトグラフィー」(p.116)を行って，自分が行ったペーパークロマトグラフィーの結果の静止画を，各自，アップして下さい。締め切り後は０点となりますので注意して下さい。
10	対面　6月16日18日教科書の実験「47．紫イモで酸性・アルカリ性」（pp.122-123）（ただし，内容は46の実験を行う）	対面　6月16日18日教科書の実験「47．紫イモで酸性・アルカリ性」（pp.122-123）（ただし，内容は46の実験を行う）を行って，自分が行った酸性・アルカリ性の実験結果の静止画を，各自，アップして下さい。締め切り後は０点となりますので注意して下さい。
11	オンデマンド　6月23日25日教科書の実験「30．共振・長周期の実験」（pp.90-91）	オンデマンド　6月23日25日教科書の実験「30．共振・長周期の実験」（pp.90-91）を行って，自分が作成した共振・長周期振動の実験の動画（４秒以内程度）を，各自，アップして下さい。締め切り後は０点となりますので注意して下さい。
12	対面6月30日7月2日教科書の実験「35．ペットボトル顕微鏡をつくろう」(pp.100-101)	対面6月30日7月2日教科書の実験「35．ペットボトル顕微鏡をつくろう」(pp.100-101)を行って，自分で撮影した顕微鏡写真を，各自，アップして下さい。締め切り後は０点となりますので注意して下さい。
13	オンデマンド　7月7日9日Ｓｃｒａｔｃｈで，プログラミングをしてみよう！自分たちで自立的に学びを進めて下さい。簡単なプログラムでいいので，班や友人とチームを組み，何ができたかを，動画で撮影し，数十秒の短い動画を，各個人が一人ずつ提出して下さい。	オンデマンド　7月7日9日ＳＴＥＡＭ教育の教科書をみて，Ｓｃｒａｔｃｈ　で，プログラミングをしてみましょう。自分たちで自立的に学びを進めて下さい。簡単なプログラムでいいので，班や友人とチームを組み，何ができたかを，動画で撮影し，数十秒の短い動画を，各個人が一人ずつ提出して下さい。
14	対面　　7月14日16日　リフレクション・まとめ	対面　7月14日16日全体のふりかえりを行います。
15		
16		

科目コード	22209				区　分	コア科目			
授業科目名	初等理科［他学科］				担当者名	川村　康文			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義と実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
小学校理科の授業を楽しく，興味深く展開するために必要な指導技術や観察・実験の方法を習得する。観察・実験を伴う理科の活動を，児童の気持ちになって体験したり，教師役を経験したりする。1班約４人でグループを組んでもらいます。授業では，先生役の班と，先生役ではない班は，児童役と評価者を兼ねて受講してもらいます。オンラインの授業の日と対面の授業の日があります。この授業では，楽しく理科実験指導ができる実験名人になれるよう，持ち時間15分程度の実験指導だけの模擬授業をしてもらいます。実験をみなさんで楽しく共有できること

＜授業の到達目標＞
１．実験をみなさんで楽しく共有できる。２．ＩＣＴ活用：電子黒板，教材提示装置，デジタル教科書などを効果的に活用できる。３．毎模擬授業の振り返りを行うことで，授業力の向上をめざす。

＜授業の方法＞
１．自分たちで話し合って，自立的に，学びを進めて下さい。それを支援する授業を行います。２．探究する心を，仲間と育てて下さい。それを支援する授業を行います。３．スマホ，タブレット，ＰＣなどICTも活用しましょう。４．模擬授業を行う先生役と，模擬授業を受ける児童役あわせて評価者役を行って頂きます

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニング：受け身の授業ではなく，先生役として模擬授業を担当したり，評価者役を担当します。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習各時間とも，模擬授業の担当になる班があります。対面の授業の中から担当班を決めます。その班は，必ず，教科書を良く読み，事前にリハーサルを60分程度繰り返すことにより，当日の授業で規定の時間内に実施できるよう準備してください。児童役を担当する受講生のみなさんは，模擬授業を行う班のパフォーマンスを評価する評価者の立場になって模擬授業のアドバイスができるように教科書を60分程度時間をかけて読み込んで来て，授業に参加してください。オンデマンドの授業の場合は，教科書の内容を60分程度時間をかけて読み込んでから，オ

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
参加意欲　（平常点・課題提出・模擬授業を含む）60%、 振り返り（レフレクション）40% 等で評価する。

＜教科書＞
川村　康文（2014）　理科教育法 独創力を伸ばす理科授業　講談社
川村康文，前田譲治，小林尚美（2021）　はじめてみようＳＴＥＡＭ教育ー小学生からの実験とプログラミング　オーム社

＜参考書＞
文部科学省(2018.2.10)　小学校学習指導要領　https://www.mext.go.jp/content/20211020-mxt_kyoiku02-100002607_05.pdf

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	対面4月9日14日オリエンテーション座席決定・班分けこれからの理科授業を考えるためにーＳＴＥＡＭ教育って何？(教科書)	対面4月9日14日4人程度でひとつの班をくみます。各班で，どのような理科授業をしたいか話し合って，まとめたものを発表してもらいます。ルールとして，ひとりだけで模擬授業はしない！班員全員が必ず模擬授業を分担して実施する。このルールを守って下さい。板書は，振り返りが終わるまで消さない。担当が終わったあとは，板書を消したり，実験機の跡片付けまできちんと行う（平常点のなかです）。
2	オンデマンド4月16日21日2030年のSDｇs 2050年のカーボンニュートラル　理科教師や理科の授業は，次世代の子どもたちに何をつたえるのか？ー幼小の授業の連携を考えながらー	オンデマンド4月16日21日幼小の授業の連携を考えるうえで，教科書「はじめてみようＳＴＥＡＭ教育」の幼児教育についてまとめ，小学校の理数の授業にどのようにつないでいくかを，あなたなら，これからの理科授業をどのようにしていきたいか？A4用紙1枚程度にまとめて，写メかスキャナーで撮影したものを提出して下さい。
3	対面4月23日28日4人程度でひとつの班をくみます。各班で，どのような理科授業をしたいか話し合って，まとめたものを発表してもらいます。各班で，どの実験をするかを話し合って，このクラス全体のスケジュール表を作成します。これを	対面4月23日28日各班で，どの実験をするかを話し合って，このクラス全体のスケジュール表を作成し，この静止画を各自アップしてください。

	各自，アップしてもらいます。模擬授業のルールとして，ひとりだけで模擬授業はしない！班員全員が必ず模擬授業を分担して実施する。このルールを守って下さい。	
4	オンデマンド4月30日5月5日教科書の実験「４．水がこぼれないコップの実験（pp.44－45）」	オンデマンド4月30日5月5日教科書の実験「４．水がこぼれないコップの実験（pp.44－45）」を行って，下敷きの静止画とガーゼの静止画2枚を，各自，アップして下さい。締め切り後は０点となりますので注意して下さい。
5	対面　5月7日12日教科書の実験「41．分光つつの実験（pp.112－113）」	対面　5月7日12日教科書の実験「41．分光つつの実験（pp.112－113）」を行って，分光つつで撮影したスペクトルの静止画を，各自，アップして下さい。締め切り後は０点となりますので注意して下さい。
6	オンデマンド　5月14日19日教科書の実験「15．風船ロケットの実験（pp.66－67）＋飛行リング」	オンデマンド　5月14日19日　教科書の実験「15．風船ロケットの実験（pp.66－67）＋飛行リング」を行って，自分が作成した風船ロケットの静止画を，各自，アップして下さい。締め切り後は０点となりますので注意して下さい。
7	対面5月21日16日教科書の実験　「31．弦楽器をつくろう（pp.92-93)」	対面5月21日16日教科書の実験　「31．弦楽器をつくろう（pp.92-93)」を行って，自分が作成した弦楽器の動画（４秒以内程度）を，各自，アップして下さい。締め切り後は０点となりますので注意して下さい。
8	対面　6月2日4日教科書の実験　「78．スライム（pp.188-189)」	対面　6月2日4日教科書の実験　「78．スライム（pp.188-189)」を行って，自分が作成したスライムの静止画を，各自，アップして下さい。締め切り後は０点となりますので注意して下さい。
9	オンデマンド　6月9日11日教科書の実験「43．ペーパークロマトグラフィー」（p.116）	オンデマンド　6月9日11日教科書の実験「43．ペーパークロマトグラフィー」(p.116)を行って，自分が行ったペーパークロマトグラフィーの結果の静止画を，各自，アップして下さい。締め切り後は０点となりますので注意して下さい。
10	対面　6月16日18日教科書の実験「47．紫イモで酸性・アルカリ性」（pp.122-123）（ただし，内容は46の実験を行う）	対面　6月16日18日教科書の実験「47．紫イモで酸性・アルカリ性」（pp.122-123）（ただし，内容は46の実験を行う）を行って，自分が行った酸性・アルカリ性の実験結果の静止画を，各自，アップして下さい。締め切り後は０点となりますので注意して下さい。
11	オンデマンド　6月23日25日教科書の実験「30．共振・長周期の実験」（pp.90-91）	オンデマンド　6月23日25日教科書の実験「30．共振・長周期の実験」（pp.90-91）を行って，自分が作成した共振・長周期振動の実験の動画（４秒以内程度）を，各自，アップして下さい。締め切り後は０点となりますので注意して下さい。
12	対面6月30日7月2日教科書の実験「35．ペットボトル顕微鏡をつくろう」(pp.100-101)	対面6月30日7月2日教科書の実験「35．ペットボトル顕微鏡をつくろう」(pp.100-101)を行って，自分で撮影した顕微鏡写真を，各自，アップして下さい。締め切り後は０点となりますので注意して下さい。
13	オンデマンド　7月7日9日Ｓｃｒａｔｃｈで，プログラミングをしてみよう！自分たちで自立的に学びを進めて下さい。簡単なプログラムでいいので，班や友人とチームを組み，何ができたかを，動画で撮影し，数十秒の短い動画を，各個人が一人ずつ提出して下さい。	オンデマンド　7月7日9日ＳＴＥＡＭ教育の教科書をみて，Ｓｃｒａｔｃｈ　で，プログラミングをしてみましょう。自分たちで自立的に学びを進めて下さい。簡単なプログラムでいいので，班や友人とチームを組み，何ができたかを，動画で撮影し，数十秒の短い動画を，各個人が一人ずつ提出して下さい。
14	対面　　7月14日16日　リフレクション・まとめ	対面　7月14日16日全体のふりかえりを行います。
15		
16		

科目コード	22210				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	初等社会［FE2631組用］				担当者名	鈩　悠介			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
小学校社会科の学習指導要領変遷と目的・内容、それを踏まえた教科の特質の概要、社会科授業者として授業実践するための基本的素養を身に付ける。そのために教材内容や社会的な見方・考え方について、学習指導要領や教科書の具体的記述や実践事例等から学びを深める。また、現代的な課題として社会科教育に求められる内容を取り扱う。学習成果については、授業への参加意欲、社会的な見方・考え方を用いた論理的思考力や表現力、協働性、教職への熱意などについて評価する。

＜授業の到達目標＞
小学校社会科の学習指導要領変遷と目的・内容、それを踏まえた学習内容と教科としての特質の理解、社会科の授業者として教材研究を深めるための基本的素養を身に付け、社会科の学習指導に主体的に取り組むことができるようになる。

＜授業の方法＞
教科書や学習指導要領解説社会編、提示する資料を活用して、社会科教育についての幅広い考えをもてる授業を目指す。また、学生の着想を生かした教材開発等をまとめることを通して、社会科教育への関心・意欲を醸成するとともに、社会科授業実践の基礎となる知識・技能の獲得を目指す。尚、ICT活用の観点から、個人パソコンの持参を必須とする。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有り。グループディスカッション，スライド作成，Take a Standなど。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業計画の説明や毎時間の課題提示を踏まえて、資料収集等を行い、目的意識、課題意識をもって授業に臨むようにすること。また講義後に自己の学びを振り返り、振り返りフォームの記入等、自己の学びを整理するため30分程度取り組むようにする。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業内に設定する毎回のレポート(80%)，及び中間レポートと最終レポート(20%)

＜教科書＞
文部科学省　小学校学習指導要領解説社会編

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーションとチーム分け	授業の概要（目的や内容、成績評価等）の説明，グループ作り
2	目標・内容・方法	目標・内容・方法を区別すること，つなげて考えること
3	目標の多様性	社会科の目標の多様性を知ること
4	問い（１）	問いを中心に授業を構成すること，問いの価値を判断すること
5	問い（２）	問いを構造化すること
6	指導案作成(１回目)	第5回までの学習内容に基づき指導案を作成する
7	資料(１)	人文・社会諸科学と社会科の関連性
8	資料(２)	アクセスしうる資料の場所について
9	資料(３)	資料の加工の方法と重要性について
10	評価(１)	目標に準拠した評価について
11	評価(２)	多様な背景を持つ子どもとの関連の観点から評価を考える
12	指導案作成(２回目)	第11回目までの学習内容をもとに指導案をブラッシュアップする
13	社会科のはじまりと今後	社会科の成立経緯や今後の諸論点について
14	最終レポート作成	授業の総括と最終レポート作成に向けた準備
15		
16		

科目コード	22210				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	初等社会［FE2632組用］				担当者名	鈩　悠介			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
小学校社会科の学習指導要領変遷と目的・内容、それを踏まえた教科の特質の概要、社会科授業者として授業実践するための基本的素養を身に付ける。そのために教材内容や社会的な見方・考え方について、学習指導要領や教科書の具体的記述や実践事例等から学びを深める。また、現代的な課題として社会科教育に求められる内容を取り扱う。学習成果については、授業への参加意欲、社会的な見方・考え方を用いた論理的思考力や表現力、協働性、教職への熱意などについて評価する。

＜授業の到達目標＞
小学校社会科の学習指導要領変遷と目的・内容、それを踏まえた学習内容と教科としての特質の理解、社会科の授業者として教材研究を深めるための基本的素養を身に付け、社会科の学習指導に主体的に取り組むことができるようになる。

＜授業の方法＞
教科書や学習指導要領解説社会編、提示する資料を活用して、社会科教育についての幅広い考えをもてる授業を目指す。また、学生の着想を生かした教材開発等をまとめることを通して、社会科教育への関心・意欲を醸成するとともに、社会科授業実践の基礎となる知識・技能の獲得を目指す。尚、ICT活用の観点から、個人パソコンの持参を必須とする。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有り。グループディスカッション，スライド作成，Take a Standなど。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業計画の説明や毎時間の課題提示を踏まえて、資料収集等を行い、目的意識、課題意識をもって授業に臨むようにすること。また講義後に自己の学びを振り返り、振り返りフォームの記入等、自己の学びを整理するため30分程度取り組むようにする。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業内に設定する毎回のレポート(80%)，及び中間レポートと最終レポート(20%)

＜教科書＞
文部科学省　小学校学習指導要領解説社会編

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーションとチーム分け	授業の概要（目的や内容、成績評価等）の説明，グループ作り
2	目標・内容・方法	目標・内容・方法を区別すること，つなげて考えること
3	目標の多様性	社会科の目標の多様性を知ること
4	問い（１）	問いを中心に授業を構成すること，問いの価値を判断すること
5	問い（２）	問いを構造化すること
6	指導案作成(１回目)	第5回までの学習内容に基づき指導案を作成する
7	資料(１)	人文・社会諸科学と社会科の関連性
8	資料(２)	アクセスしうる資料の場所について
9	資料(３)	資料の加工の方法と重要性について
10	評価(１)	目標に準拠した評価について
11	評価(２)	多様な背景を持つ子どもとの関連の観点から評価を考える
12	指導案作成(２回目)	第11回目までの学習内容をもとに指導案をブラッシュアップする
13	社会科のはじまりと今後	社会科の成立経緯や今後の諸論点について
14	最終レポート作成	授業の総括と最終レポート作成に向けた準備
15		
16		

科目コード	22210				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	初等社会［FE2633組用］				担当者名	鈩　悠介			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
小学校社会科の学習指導要領変遷と目的・内容、それを踏まえた教科の特質の概要、社会科授業者として授業実践するための基本的素養を身に付ける。そのために教材内容や社会的な見方・考え方について、学習指導要領や教科書の具体的記述や実践事例等から学びを深める。また、現代的な課題として社会科教育に求められる内容を取り扱う。学習成果については、授業への参加意欲、社会的な見方・考え方を用いた論理的思考力や表現力、協働性、教職への熱意などについて評価する。

＜授業の到達目標＞
小学校社会科の学習指導要領変遷と目的・内容、それを踏まえた学習内容と教科としての特質の理解、社会科の授業者として教材研究を深めるための基本的素養を身に付け、社会科の学習指導に主体的に取り組むことができるようになる。

＜授業の方法＞
教科書や学習指導要領解説社会編、提示する資料を活用して、社会科教育についての幅広い考えをもてる授業を目指す。また、学生の着想を生かした教材開発等をまとめることを通して、社会科教育への関心・意欲を醸成するとともに、社会科授業実践の基礎となる知識・技能の獲得を目指す。尚、ICT活用の観点から、個人パソコンの持参を必須とする。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有り。グループディスカッション，スライド作成，Take a Standなど。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業計画の説明や毎時間の課題提示を踏まえて、資料収集等を行い、目的意識、課題意識をもって授業に臨むようにすること。また講義後に自己の学びを振り返り、振り返りフォームの記入等、自己の学びを整理するため30分程度取り組むようにする。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業内に設定する毎回のレポート(80%)，及び中間レポートと最終レポート(20%)

＜教科書＞
文部科学省　小学校学習指導要領解説社会編

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーションとチーム分け	授業の概要（目的や内容、成績評価等）の説明，グループ作り
2	目標・内容・方法	目標・内容・方法を区別すること，つなげて考えること
3	目標の多様性	社会科の目標の多様性を知ること
4	問い（１）	問いを中心に授業を構成すること，問いの価値を判断すること
5	問い（２）	問いを構造化すること
6	指導案作成(１回目)	第5回までの学習内容に基づき指導案を作成する
7	資料(１)	人文・社会諸科学と社会科の関連性
8	資料(２)	アクセスしうる資料の場所について
9	資料(３)	資料の加工の方法と重要性について
10	評価(１)	目標に準拠した評価について
11	評価(２)	多様な背景を持つ子どもとの関連の観点から評価を考える
12	指導案作成(２回目)	第11回目までの学習内容をもとに指導案をブラッシュアップする
13	社会科のはじまりと今後	社会科の成立経緯や今後の諸論点について
14	最終レポート作成	授業の総括と最終レポート作成に向けた準備
15		
16		

科目コード	23100				区　分	コア科目			
授業科目名	発達心理学				担当者名	大久保　諒			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期（第1・2クォーター）	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本科目のキー・ワードは、「生涯発達」である。人は、誕生する前から生を終える直前まで、発達（変化）し続ける可能性にひらかれている。このことについて、様々な側面から多角的に学習を深めていく。

＜授業の到達目標＞
教育は、発達に支えられてこそ成り立ち、さらなる発達を促すように展開されることが望ましい。本科目の履修を通して、発達に関する多様な基礎的知見を教育実践へ活かせるよう、これらのことが腑に落ちて理解できるだけの教養や専門性を身につけることが期待される。

＜授業の方法＞
毎回、講義内容に関するスライドを提示し、詳しく解説を行う。講義内容について、理解度を確認する小課題への回答を定期的に求め、理解の定着を図る。また、講義時間内では、履修生同士の間、あるいは履修生と教員の間のディスカッションを通して、学習内容の理解を深める課題を求める場合がある。以上を通して深まった講義内容を理解度について、履修生は、専用のノートに見解を記すことで、客観的に示すことが求められる。原則、このノートは、毎回の講義終了後に提出を求める。なお、講義内ではGoogle Classroomを利用し、授業資

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
一方的に、講義内容の解説を聴くだけでなく、ディスカッション形式で投げかけれた問いについて、自らの見解を表明する学習機会が設けられている。インプットだけでなく、アウトプットによる知識（記憶）の定着や、他者との協働を通じた理解の深化の促進を積極的に試みる。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各回の講義内容は関連しており、次回の講義内容を理解するためには、前回の講義内容を理解しておくことが必要となる。講義内容は多岐にまたがるため、その広さに圧倒されることなく理解を定着させながら、講義全体を完走するには毎回の復習が特に重要となる。毎週、次回の講義時までに、配布資料や提示された関連文献の精読、講義内で求められた小課題への回答など、計2時間程度の準備学習が必要となる。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３(教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業への参加態度：20%、複数回の小課題：30%、学期末試験：50%の結果を総合して最終的な成績を定める。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	・講義の説明・発達と保育・教育の関係・子どもと大人のちがい
2	心と発達のモデル①	・認知・感情・動機づけ・認知、感情、動機づけの相互作用
3	心と発達のモデル②	・進化的な適応・発達的な適応・社会脳仮説・生態学的システム理論
4	心と発達のモデル③	・精神分析・意識と非意識・自動的過程と自動化
5	乳幼児期の発達①	・愛着・安心感の輪・比較行動学
6	乳幼児期の発達②	・愛着の個人差・愛着の病理・感情的利用可能性
7	乳幼児期の発達③	・実行機能の発達・就学前教育（幼児教育）・発達格差
8	乳幼児期の発達④	・気質・適合の良さ・行動抑制の気質・AD / HD
9	就学後子ども期の発達①	・遺伝と環境・教育格差・知能観の変遷史
10	就学後子ども期の発達②	・社会防御システム・発達カスケード
11	青年期の発達①	・脳の可塑性・仲間関係と社会的地位・非行と抑うつ症状
12	青年期の発達②	・仲間関係と集団的分断・いじめ・孤立・不登校
13	成人期の発達	・親になるプロセス・繁殖協力・胎生期・周産期の発達に対する影響・自閉症状の発達
14	中年期・高齢期の発達	・アンチ・エイジング・サクセスフル・エイジング・補償的発達
15		
16		

科目コード	23100				区　分	コア科目			
授業科目名	発達心理学［FC用］				担当者名	内田　伸子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ことばは考える手段であり、人との絆を切り結ぶ手段である。ことばは人との社会的やり取りを通して獲得される。①ことばの獲得に臨界期はあるか？②第二言語の習得は早いほど有利か？③親に虐待されて言語遅滞や知能遅滞を引き起こした子どもの補償教育④リテラシー（読み書き能力）の習得に社会文化経済的要因はどのように影響しているか？⑤書くことと考えることはどのように関連するか？以上のテーマをめぐって授業者が行った研究成果を中心に国内外の知見を踏まえて講義する。人間の発達過程について深く理解し、子育てや保育、教育の場でも活か

＜授業の到達目標＞
1.ことばの獲得による認識過程の変化を理解する。2.リテラシーの獲得と教育や発達支援のあり方について理解する。3.養育放棄児の言語遅滞からの回復事例から補償教育や発達支援について理解する。4.子どもの論理的思考を育む授業デザインを構想し、メタ認知を活用する方法について理解する。5.ことばと認識の諸問題をめぐる観察や実験、調査などの研究方法論を理解し各自の卒業研究に応用できるようにする。

＜授業の方法＞
1.講義形式だが対話型授業をめざす。授業中質疑応答しながら授業を進める。2.DVDの映写；授業内容の理解のために、話題に関連したビデオ（DVD）を流し、小グループで討論する。3.授業省察のワークショップ；各自でテスト課題について回答＆グループ討論し、討論の結果をまとめて発表する。受講者全体で共有する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
小グループで意見交換し、各グループの考えを発表することにより理解を深める。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
【予習：事前学習】教科書；内田伸子（2025年）『想像力～生きる力の源をさぐる～』（春秋社）について目次や要約などをざっと読み、授業についての「マインドセット（受講の構え）」をつくっておく。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、こども発達学科のDP3「子どもを取り巻く環境、様々な問題や文化状況に対して、子ども学の知見と教養に基づく知識と、理解する能力を身に付けている。」およびDP6「保育者としての自己管理力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観等を身に付けている。」に関連している。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲 10%、小テスト 20%、グループワークへの貢献度 30%、テストレポート課題40%

＜教科書＞
内田伸子（2023年1月23日第1刷/2025年第2刷）　『想像力～生きる力の源をさぐる～』　春秋社

＜参考書＞
内田伸子（2017年5月25日　第１刷/2026年第11刷）　書名：『子どもの見ている世界～0歳から6歳までの「子育て・親育ち」～』　春秋社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション；言語の期限	「ことば」の不思議の探究の旅への誘い；言語と意識の発生起源を探る
2	発達観の変遷：遺伝か環境か	教科書第２章前半「遺伝か環境かをめぐる心理学論争」
3	第一次認知革命：イメージの誕生	胎児期から乳児期にかけての発達：図鑑型・物語型；個性の芽生え」
4	母子相互交渉の日米比較	母子のコミュニケーションについて日米文化比較研究から考察する。
5	象徴機能の発生	ことばの意味の広がりについて類推の働きから考察する。
6	助数詞の獲得過程	助数詞の獲得過程をめぐって言語と認識の関連について考える。
7	会話行動の文化差	会話行動の性差や文化差がなぜ生ずるか考察する。
8	母語の獲得過程	母語の獲得と方言の獲得過程の差異と共通性について考察する。
9	外国語の学習と敏感期	母語力（読解力）が外国語習得の基盤となることを考察する。
10	青年期は第ニの誕生期	児童虐待からの再生は養育者との「愛着」の作り直しが鍵となる
11	想像力の発達	子どものウソは悪意の「嘘」か？子語り・想起・会話行動から探る。
12	学力格差・非認知能力の格差	学力格差は幼児期から始まるのか―学力格差と経済格差の関係
13	論理的思考力を育てる授業	社会構成主義に基づく授業デザイン「論理科」開発と社会実装を解説
14	書くこと・考えること・生きること	書くことによる認識の発達過程と推敲の意味、チャットGPTの「有能さ」

15 16		

科目コード	23202				区　分	コア科目			
授業科目名	教育社会学［週間オンデマンド］				担当者名	濱嶋　幸司			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択（教育社会学コース生必修）

＜授業の概要＞
本科目では教育社会学の立場から「教育に対する社会的事項」「教育に関する制度的事項」「教育に関する経営的事項」「学校と地域との連携」「学校安全への対応」を含み、教育の諸現象を社会学的に考察し、その問題解決の方策を探る。また、教師が主体的に関与する方策も考える。教育社会学のこれまでの研究成果を紹介し、履修者に多様な価値観、思考枠組を提供することを目的とする。具体的には、教育現象に関わる個人の心理や社会の仕組みを社会学的視点に基づいて紹介し、履修者が現在および将来、直面することになる諸課題を自分で考え、解決策を

＜授業の到達目標＞
①教育に関する社会的事項（社会や子どもの変化）の学校教育への影響、それに対する教育改革、教育政策、現場の対応を理解できる。学校をめぐる社会的事項を理解できる。子どもの生活の変化と実態や指導上の課題を理解できる。近年の教育政策、教育改革を理解できる。諸外国の教育事情・教育改革の動向を理解し、日本へ改革への示唆を得ることができる。②現代の公教育制度の意義・原理・法的・制度的仕組みや課題に関して理解できる。教育関係法規、教育行政の理念と仕組みを理解できる。教育制度の諸課題の例示ができる。③学校経営の観点からの学

＜授業の方法＞
オンデマンド形式でおこなう。履修者へは各回資料を配布する。各回の理解および振り返りを求める。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有　第2回から第13回にかけて、リアクションテーマを出すので、各自提出する　そのリアクションは履修者全員が読むことができ、さらにはコメントを付すことができる

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習： 次回の講義テーマに関連する参考書（岩永 2019等）の該当箇所を精読し、教育社会学的な分析視点や重要用語について事前に整理しておく（1時間程度）。事後学習： 講義資料を基に内容を復習し、設定されたリアクションテーマに対する自身の考察をまとめて提出する。また、公開された他者のリアクションに目を通し、自身の視野を広げる振り返りを行う（2時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
各回の視聴課題（14%）、リアクション（26%）、最終課題[選択式テストと記述式小レポート]（60%）

＜教科書＞
特に指定しない（参考書を参照しながら講師が独自に説明する）

＜参考書＞
岩永雅也（2019年）　『教育社会学概論』　放送大学出版会
中村高康・松岡亮二（2021年）　『現場で使える教育社会学：教職のための「教育格差」入門』　ミネルヴァ書房
高野良子・武内清編著（2024）　『教育の基礎と展開　豊かな教育・保育のつながりをめざして』［第3版］　学文社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス：教育社会学とは？	科目のねらい、到達目標、授業の進め方、成績評価基準などの説明
2	教育社会学とは？①教育社会学の目的・対象・手法	教育社会学の特色、他の学問領域との違いを説明する。社会科学としての研究スタイルを説明し、教育社会学が対象としてきた事例、その目的、手法についても概説する。
3	教育社会学とは？②教育社会学の歴史と現在	教育社会学の研究がどのように現在に至るのか、これまでの著名な研究を時代背景とともに説明する。日本の研究を中心とするが、海外の研究に大きな影響を受けているため、その研究についても触れる。
4	ライフコースと教育社会学①家族と子ども	身近な社会集団といえる家族そして乳幼児期からの子ども社会について説明する。
5	ライフコースと教育社会学②小学生・中学生	義務教育段階の子どもと彼らを取り巻く社会・学校・教育現象について説明する。
6	ライフコースと教育社会学③高校生	高校生の意識および彼らを取り巻く社会、学校、教育現象について説明する。
7	ライフコースと教育社会学④大学生	大学生文化とは何か？大学文化とは？高等教育機関を取り巻く社会、大学、教育現

		象を説明する。
8	ライフコースと教育社会学⑤職業（初期キャリア）	学校から職業への移行は教育社会学においても重要なテーマである。仕事を探す、キャリアを形成することを教育社会学ではどのように読み解けるのか説明する。
9	ライフコースと教育社会学⑥職業（中期～キャリア）・居住	キャリアと年齢を積み重ね、初職の勤め先を続けることもあれば、離転職を繰り返すこともある。仕事と生活の両立、結婚・子育てといったライフコースについても教育社会学から読み取れることを説明する。人生の中盤、後半に差し掛かった場面もまた教育社会学の対象となる。成人になってからも学習することは多く、キャリアを積み重ねることの重要性を説明する。
10	教育社会学の観点①グローバリズムとナショナリズム	これからの国際社会を生きることと、自分はどこかの土地で生きること、どちらも将来の生活において不可欠なテーマである。テーマのキーワードを中心に説明しながら、教育社会学を用いてどのような理解ができるか各自に考えてもらう。
11	教育社会学の観点②教育格差とは何か	経済的な格差、暮らし向きの格差、待遇の格差、機会の格差、さまざまな格差が拡大しているといわれている。教育もまたこのような格差との関わりをもっている。テーマのキーワードを中心に説明しながら、教育社会学を用いてどのような理解ができるか各自に考えてもらう。
12	教育社会学の観点③社会「問題」と向き合う	社会の「問題」はどこにあるのか？何が「問題」なのか？逸脱現象などとも大きく重なる。ここでは社会「問題」の社会学（クレイム申し立て活動）、構築主義的な考え方を概説する。テーマのキーワードを中心に説明しながら、教育社会学を用いてどのような理解ができるか各自に考えてもらう。
13	教育社会学の観点④教師への期待と役割	教師および教師を取り巻く社会もまた教育社会学の重要なテーマのひとつである。教師という専門職（仕事）、教師の実践（意識）など概説する。テーマのキーワードを中心に説明しながら、教育社会学を用いてどのような理解ができるか各自に考えてもらう。
14	展望：これからの教育社会学をどのように活用できるか	13回にわたる説明をもとに、教育社会学とはどういう学問なのか、現時点での到達状況を説明する。また、履修者自身、教育社会学を用いることでどのような発見、関心を持ったのか、これから何ができそうか考えてもらう時間とする。
15		
16		

科目コード	23211				区　分	コア科目			
授業科目名	教育心理学［週間オンデマンド］				担当者名	戸田　晃大			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
「教育」という営みは，教師だけのものではありません。親や指導者として子どもと接する場面や，就職先で後輩を指導する場面など，全ての人が経験するものです。本講義では，教育について″心″という観点から一緒に考えます。教育や心は誰にとっても身近なものです。しかし，ほとんどの人にとって，それらについて科学的に考える機会は多くありません。この講義では教育心理学に関する説明や学習活動を通して，教育について科学的に考えるため視点の獲得を目指します。

＜授業の到達目標＞
1. 学習した教育心理学の用語に関して，説明の正誤を判断できる（○×クイズに正解できる)2. 自分の考える授業に教育心理学の視点を取り入れることができる

＜授業の方法＞
本講義はオンデマンド形式で行われる。具体的には，下記の流れで学習を進める。1. 講義動画，スライド，資料を確認する2. 知識の定着と活用を目的とする課題に取り組む3. 提出した課題について，他の学生と相互評価をする（一部の課題で実施)課題はGoogle Classroomから提出する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
毎回の授業：上記，授業の方法に記載された活動に取り組む，簡単な感想をシートに記入する参考書（任意)：各授業で扱った内容と関連するものを提示します。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
毎週提出の学習活動への取り組み:60%（第1回~12回)最終課題①:授業計画の作成と相互評価:20%（第13回，第14回)最終課題②:最終○×クイズの達成率:20%（期末試験期間)※②について:授業の進行に合わせて出題される○×クイズの類題で全問正解をめざす。なお，特定の試験日は設けず，一定の期間内で正解できた問題数が成績に反映される（詳細はオリエンテーションで説明します)。

＜教科書＞
指定なし（スライドを配布します）

＜参考書＞
編者：生田 淳一・松尾 剛（2024年4月30日） 教育と学習の心理学　サイエンス社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	本講義の決まりごと，課題の提出方法，連絡の取り方について確認し，疑問点は質問する
2	心理学の眺め方：実証を重要視する心理学（記憶を具体例として）	実証，二重貯蔵モデル，ワーキングメモリ，処理水準などについての講義資料を確認し，心理学の知見が実証的な根拠に基づいて形成されていることを実感する。
3	教育心理学の研究方法	実験法，質問紙法，面接法，観察法，検査法などについての講義資料を確認し，研究方法の違いによって，知識の持つ意味に違いが生じることを知る。
4	心理学を自分なりに眺めてみよう（ゴールデンウィーク期間)	第2，3回で学んだことを踏まえ，関心のある内容について学術書やネット記事（例えばコトバンク掲載の心理学事典）で確認し，その中で考えたことをまとめる。
5	発達	ピアジェの発達理論についての講義資料を確認し，子どもの認知の変化や，大人の認知との違いについて考える。
6	学習	学習とはどのようなものであるかについて考える。具体的には，古典的な学習の捉え方についての講義資料を確認し，その後の変化と比較する。
7	動機づけ	内発的・外発的動機づけ，達成目標理論などについて説明を聞き，記憶の定着を目的とする学習活動に取り組む。また，質問紙法の具体例として，実際に動機づけに関する質問紙調査へ回答する。
8	メタ認知的活動	メタ認知，メタ認知的モニタリング，メタ認知的コントロールについての説明を聞き，これまでの自分の学びについて振り返る。
9	メタ認知的知識（特に，学習方略について)	学習方略についての説明を聞き，学習者が効果的な学び方を実践できない理由について考える。
10	自己調整学習	授業の初めに，最終課題について一度簡単に考えてみる。その後，自己調整学習に

		ついての説明を聞き，能動的な学習者を想定しながら再度考える。
11	授業の過程	最終課題を考えるために，様々な授業の形について学習する。具体的には，発見学習，有意味受容学習，協同学習などについて説明を聞き，最終課題にその考え方を反映する。
12	指導と評価	「なぜ評価をするのか？」について考える。具体的には，診断的・形成的・総括的評価についての説明を聞き，その後，評価と指導の一体化について，適性処遇交互作用，完全習得学習の観点から学ぶ。
13	最終課題①：授業計画（作成と提出）	教育心理学の視点を踏まえて，授業計画を立てる。
14	最終課題①：授業計画（相互評価）	第13回で他の人が提出した授業計画について，ルーブリックを使って評価する（相互評価）。その後，他の人のフィードバックを踏まえて，自分の計画の改善点を指摘する。
15		
16		

科目コード	23303				区　分	コア科目			
授業科目名	教育相談(初等)[週間オンデマンド]				担当者名	石山　貴章			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
学校教員に必要とされている「児童生徒理解」「アセスメント」「相談援助技術」「カウンセリングマインド」「キャリア支援」などの理論に依拠しながら、相談ケースを想定しつつ、どのようなアプローチが有効的・効果的なかを検討しながら、教育相談を実践的に学ぶことを目的とする。

＜授業の到達目標＞
① 学校教育現場で必要とされている教育相談の基本的理解を深める。② 教育相談に関する基本的理論を踏まえながら、教育相談の実際を理解していく。③ 教育相談に関心をもち、教育活動に活かしていく姿勢を身につける。

＜授業の方法＞
講義

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
毎回の講義で提示される講義資料は、各自、必ずファイリングして復習をしておくこと。第１回～第14回までの講義テーマについての予習を参考図書等を基にして実施しておくこと。必要に応じて、参考書等で確認を行い、配布資料に転記またはノートに記録をしておくこと。最終的に、配布資料がテキスト化されるように各自でデータを蓄積しておくこと。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
毎回のMinute Paper（小レポート課題〈400-500字程度〉100点満点　14回分の成績の平均値で最終評価を行う。評価規準（ルーブリック評価　目標①,②,③）は第１回目の講義資料に掲載する。

＜教科書＞

＜参考書＞
森田健宏・田爪宏二・吉田佐治子（2024年3月26日）　教育相談［第２版］（よくわかる！ 教職エクササイズ）　ミネルヴァ書房

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション～カウンセリングマインド～	１．自己開示２．カウンセリング・マインド３．ラポール４．守秘義務５．カタルシス
2	教育相談の基本的理解～カウンセリングの基本～	１．聴く力と伝える力２．スクールカウンセラー（SC）３．スクールソーシャルワーカー(SSW)４．コンサルテーション５．カウンセリングアプローチ
3	構成的グループエンカウンター（Structured Group Encounter：SGE）	１．勇気づけ（アドラー）２．ロジャーズ（非指示的カウンセリング）３．無条件の肯定的受容４．グループエンカウンター５．アウェアネス６．エクササイズ７．ダイバーシティ８．シェアリング
4	アンガーマネジメント	１．怒りのメカニズム２．“キレる”心理３．ビリーフ（信念）４．怒りの対処５．リフレーミング６．ストレス・コーピング７．自尊心（プライド）
5	いじめに関する相談支援①	１．相談と対応２．同調圧力３．発達障害４．第三者委員会５．重大事態６．ネットいじめ
6	いじめに関する相談支援②	１．「いじめ」の構造２．「いじめ」の態様３．「いじめ」の定義４．「いじめ防止対策推進法」５．「いじめ予防プログラム」
7	不登校に関する相談支援	１．不登校の現状２．適応障害３．隠れ不登校４．不登校へのアプローチ５．不登校特例校６．教育機会確保法７．フリースクール８．適応指導教室９．夜間中学校
8	児童虐待に関する相談支援①	１．被虐待児症候群２．児童虐待の現状３．早期発見・初期対応４．SNS/DV５．相談対応６．児童虐待防７．虐待対応の手引き
9	児童虐待に関する相談支援②	１．しつけ（懲戒権）２．児童相談所３．教職員の心構え４．子ども・子育て応援プラン５．貧困対策６．子どもの最善の利益
10	教育相談の進め方～保護者対応と支援～	１．モンスターペアレント２．初期対応３．向き合うべき課題４．保護者対応力５．ロールプレイ６．モンスター・ティーチャー
11	LGBTQ+に関する相談支援	１．LGBTQ＋２．「性自認」「性的指向」「性表現」３．トランスジェンダー４．アンコンシャスバイアス５．学校における相談支援体制６．ジェンダーレス７．アウティング

12	アサーション	１．行動療法２．自己表現３．主張訓練４．ストローク５．ディスカウント６．DESC法
13	①ブレーン・ストーミング(BS)　②ジョハリの窓	１．ブレーン・ストーミング(BS法) ２．親和図法（インサイト） ３．マンダラート ４．ジョハリの窓
14	ヤングケアラー	１．ヤングケアラーとは２．ヤングケアラーの実態３．ヤングケアラーの相談支援
15		
16		

科目コード	23304				区　分	コア科目			
授業科目名	教育相談(中等)[週間オンデマンド]				担当者名	石山　貴章			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
学校教員に必要とされている「児童生徒理解」「アセスメント」「相談援助技術」「カウンセリングマインド」などの理論に依拠しながら、相談ケースを想定しつつ、どのようなアプローチが有効的・効果的なかを検討しながら、教育相談を実践的に学ぶことを目的とする。

＜授業の到達目標＞
① 学校教育現場で必要とされている教育相談の基本的理解を深める。② 教育相談に関する基本的理論を踏まえながら、教育相談の実際を理解していく。③ 教育相談に関心をもち、教育活動に活かしていく姿勢を身につける。

＜授業の方法＞
講義

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
毎回の講義で提示される講義資料は、各自、必ずファイリングして復習をしておくこと。第１回～第15回までの講義テーマについての予習を参考図書等を基にして実施しておくこと。必要に応じて、参考書等で確認を行い配布資料に転記、またはノートに記録をしておくこと。最終的に、配布資料がテキスト化されるように各自でデータを蓄積しておくこと。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
毎回のMinute Paper（小レポート課題〈400-500字程度〉100点満点　14回分の成績の平均値で最終評価を行う。評価規準（ルーブリック評価　目標①,②,③）は第１回目の講義資料に掲載する。

＜教科書＞

＜参考書＞
森田健宏・田爪宏二・吉田佐治子（2024年3月26日）　教育相談［第２版］（よくわかる！ 教職エクササイズ）　ミネルヴァ書房

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション～カウンセリングマインド～	１．自己開示２．カウンセリング・マインド３．ラポール４．守秘義務５．カタルシス
2	教育相談の基本的理解～カウンセリングの基本～	１．聴く力と伝える力２．スクールカウンセラー（SC）３．スクールソーシャルワーカー(SSW)４．コンサルテーション５．カウンセリングアプローチ
3	構成的グループエンカウンター（Structured Group Encounter：SGE）	１．勇気づけ（アドラー）２．ロジャーズ（非指示的カウンセリング）３．無条件の肯定的受容４．グループエンカウンター５．アウェアネス６．エクササイズ７．ダイバーシティ８．シェアリング
4	問題行動に対する相談支援	①「自己指導能力」②「反社会的行動」と「非社会的行動」③「暴力行為」④「青少年補導」⑤「少年非行」「改正少年法」⑥「万引き」「金銭問題」⑦「断る勇気」
5	いじめに関する相談支援①	１．相談と対応２．同調圧力３．発達障害４．第三者委員会５．重大事態６．ネットいじめ
6	いじめに関する相談支援②	１．「いじめ」の構造２．「いじめ」の態様３．「いじめ」の定義４．「いじめ防止対策推進法」５．「いじめ予防プログラム」
7	不登校に関する相談支援	１．不登校の現状２．適応障害３．隠れ不登校４．不登校へのアプローチ５．不登校特例校６．教育機会確保法７．フリースクール８．適応指導教室９．夜間中学校
8	児童虐待に関する相談支援①	１．被虐待児症候群２．児童虐待の現状３．早期発見・初期対応４．SNS/DV５．相談対応６．児童虐待防７．虐待対応の手引き
9	児童虐待に関する相談支援②	１．しつけ（懲戒権）２．児童相談所３．教職員の心構え４．子ども・子育て応援プラン５．貧困対策６．子どもの最善の利益
10	教育相談の進め方～保護者対応と支援～	１．モンスターペアレント２．初期対応３．向き合うべき課題４．保護者対応力５．ロールプレイ６．モンスター・ティーチャー
11	飲酒・喫煙に対する相談支援	①「喫煙」②「飲酒」③「薬物」④「行動嗜癖」⑤「予防教育」
12	薬物・行動嗜癖に対する相談支援	①「薬物」②「OD」（overdose：過剰摂取）③「行動嗜癖」④「予防教育」
13	部活動に関する相談支援	①生徒にとっての部活動問題②教師にとっての部活動問題③運動部活動の在り方に

14 15 16	ロールレタリング（役割交換書簡法）を活用した相談支援	関する総合的なガイドライン④文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン⑤部活動指導員⑥部活動地域移行⑦部活動と体罰 １．ロールレタリング２．カタルシス３．相談プロセス４．自己対話５．エゴグラムとのコラボ６．学級経営

科目コード	23401				区　分	コア科目			
授業科目名	自立活動実践論				担当者名	大野呂　浩志／林　栄昭			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
特別支援教育における自立活動を理解するために、まず、自立活動の前身である養護・訓練の設置に至る内外の障害観やそれまでの障害児教育に関する歴史的経緯について概説する。続いて、特別支援学校学習指導要領解説自立活動編の内容を詳細に分析し、その概要と自立活動の指導内容の教育課程上の位置づけや実際の指導の在り方、さらに近年の自立活動の実践上の課題について取り上げる。（教育経営学科ディプロマポリシー（２）（３）に関連）

＜授業の到達目標＞
特別支援教育における自立活動の指導に関する歴史的経緯について理解することができる。さらに，特別支援学校学習指導要領解説自立活動編の内容を詳細に分析し、その概要を理解するとともに、自立活動の指導内容の教育課程上の位置づけや実際の指導の在り方、さらに近年の自立活動の実践上の課題について、その概要も理解することができる。

＜授業の方法＞
学生自身による事前事後学修でのコメントを補充・確認・整理・発展することを意図した講義と、グループワークやグループディスカッション等を通じた授業内容の深化・統合を図る演習の二つの要素を基調とした授業を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
・課題解決型学習／グループディスカッション／ピアサポートラーニング／プレゼンテーション

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
毎回の授業で先回までの内容について確認テストを課すため，毎回事前に1~1.5時間程度の予習と，授業で学んだことを日常生活や将来の子供との接し方や対応に活かす具体策を整理するため毎回事後に30分～1時間程度の復習をすることが望ましい。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２(初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
レポート 40%，定期試験 40%，授業態度 20%

＜教科書＞
適宜資料を配布する。　適宜資料を配布する。　適宜資料を配布する。

＜参考書＞
適宜資料を配布する。　適宜資料を配布する。　適宜資料を配布する。

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	自立活動の概要及び歴史	学習指導要領における養護・訓練設置以前の障害児への教育や養護・訓練から自立活動に渡る指導内容や方法の経緯について理解する。
2	自立活動の教育課程における位置づけ	特別支援教育における自立活動の指導目標や指導領域の特徴，教育課程上の位置づけについて理解する。
3	自立活動の内容（健康の保持）	自立活動の指導区分「健康の保持」について，各指導項目の内容を具体的に理解する。
4	自立活動の内容（心理的安定）	自立活動の指導区分「心理的安定」について，各指導項目の内容を具体的に理解する。
5	自立活動の内容（人間関係の形成）	自立活動の指導区分「人間関係の形成」について，各指導項目の内容を具体的に理解する。
6	自立活動の内容（環境の把握）	自立活動の指導区分「環境の把握」について，各指導項目の内容を具体的に理解する。
7	自立活動の内容（身体の動き）	自立活動の指導区分「身体の動き」について，各指導項目の内容を具体的に理解する。
8	自立活動の内容（コミュニケーション）	自立活動の指導区分「コミュニケーション」について，各指導項目の内容を具体的に理解する。
9	自立活動の個別の指導計画の意義と内容	自立活動に関する個別の指導計画の意義やその内容及び活用上の留意点について理解する。
10	自立活動の指導（１）時間における指導の理解	自立活動の時間における指導形態のうち、時間における指導について取り上げ，その目標や他の指導場面との関連性について理解する。
11	自立活動の指導（２）実際の時間における	自立活動の時間における指導の実際の映像を題材にして，映像から抽出できる指導

	指導の分析	目標や活動設定について理解する。
12	自立活動の指導（３）場面における指導の理解	自立活動の時間における指導形態のうち，場面における指導について取り上げ，その目標や他の領域教科との関連性について理解する。
13	自立活動の指導（４）実際の場面における指導の分析	自立活動の時間における指導の実際の映像を題材にして，映像から抽出できる自立活動の指導内容の場面における指導の在り方について理解する。
14	自立活動の指導（５）実際の指導に関するまとめ	個々に定めた自立活動の指導内容が，教育課程上の様々な場面でどのように配置され，機能しているかについて理解する。
15		
16		

科目コード	23402				区　分	コア科目			
授業科目名	特別支援教育				担当者名	高橋　章二／林　栄昭			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
特別支援学校に在籍する視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱虚弱の幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難さを理解し、対応するために必要な知識や支援方法を理解する。

＜授業の到達目標＞
特別支援教育の成立展開過程を制度及び指導法の変遷から理解し､特殊教育から特別支援教育へと転換した背景を適切に捉えることができるようにする。また、特別支援学校の社会的役割を理解するとともに、特別支援学校を支える仕組みや各障害種に対応した教育課程、指導法について具体的に説明することができる。

＜授業の方法＞
授業はテキストやPowerPoint資料等を使って講義形式で行う。課題検討のためグループワーク等を取り入れる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
授業内に毎回グループで検討していく課題を設定してグループワークを行い、話し合われたことを全体に発表して全体での共有を図る。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
講義に関連する事項について１時間程度予習を行う。また、講義終了後には、講義の中で説明した内容を適切に理解するために、必ず１時間程度復習を行う。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
出席及び授業態度20%、ふりかえり課題30%、試験50%

＜教科書＞
H30・３　文部科学省特別支援学校学習指導要領解説総則等編（幼・小・中）　開隆堂出版株式会社
H30・３　文部科学省特別支援学校学習指導要領解説総自立活動編　開隆堂出版株式会社

＜参考書＞
適宜PowerPoint資料を配布する

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	特別支援教育の歴史的変遷と教育的意義	我国の明治期からの特別支援教育の歴史について理解する。
2	特別支援教育の制度改革と特別支援学校の役割	特殊教育から特別支援教育へどのように制度改革が行われていったのか。また、その中で特別支援学校の役割がどのように位置づけられたのかを理解する。
3	特別支援学校における教育課程編成についての基本的な考え方	特別支援学校の教育課程がどのように規定されているのか、小、中学校の教育課程と比較しながら理解する。
4	特別支援学校における教育課程の特色について	特別支援学校の教科等を合わせた指導、自立活動についての理解を深める。
5	個別の指導計画や個別の教育支援計画の意義とその作成	個別の指導計画や個別の教育支援計画意義について学び、実際に作成をする。
6	視覚特別支援学校における教育の実際	視覚障害の起因疾患について理解するとともに、視覚障害の障害特性に応じてどのような指導が行われているのかを理解する。
7	聴覚特別支援学校における教育の実際	聴覚障害の起因疾患について理解するとともに、聴覚障害の障害特性に応じてどのような指導が行われているのかを理解する。
8	肢体不自由特別支援学校の教育の実際	児童生徒への肢体不自由の起因疾患について理解するとともに、脳性まひ児の運動特性、認知特性について理解する。あわせて車いす体験を行う。
9	病弱特別支援学校の教育の実際	社会状況の変化による病類の変化を理解するとともに、病弱教育が直面する小児がんの子どもへの教育的支援を考える。
10	知的特別支援学校の教育の実際①	知的障害の起因疾患についての理解をするとともに、知的障害の認知、コミュニケーションなどの障害特性について理解をする。
11	知的特別支援学校の教育の実際②	岡山東支援学校教諭をゲストティーチャーとして招聘し、知的特別支援学校における授業の実際について話をしてもらう。
12	特別支援学校と地域及び関係機関との連	特別支援学校の教育活動をより効果的に行うために、どのような関係機関と連携

	携	し、協力しているのかを理解する。また、各関係機関の役割につて理解を深める。
13	特別支援教育と教師教育	特別支援教育を推進していくための専門性について理解するとともに、専門性を担保するために方法について考える。
14	特別支援学校における今後の課題と展望	医療的ケアなど今後特別支援教育が解決していくことが必要とされる諸課題について考える。
15		
16		

科目コード	23403				区　分	コア科目			
授業科目名	特別支援教育総論［週間オンデマンド］				担当者名	伊藤　駿			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
この授業は、特別の支援を必要とする生徒の理解と特別な支援を必要とする生徒の教育課程及び支援方法、及び障害はないが特別の教育的ニーズのある生徒の把握や支援の方法について取り扱う。

＜授業の到達目標＞
特別支援教育について広汎な知識を渉猟し、障害をはじめとする特別な教育的ニーズを抱えた幼児・児童・生徒の教育について説明できるようになる。

＜授業の方法＞
オンデマンド

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前に課された課題内容を理解し，自分なりの感想・意見を整理し，発表できるようにしておく。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４(地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。　　)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
定期試験（筆記）：80%、授業への参加（コメントカードをもとに評価）：20%

＜教科書＞
原田琢也・伊藤駿　インクルーシブな教育と社会　ミネルヴァ書房

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダクション―特別支援教育の理念と制度（1）	授業の進め方や成績評価方法について説明する。近年の特別支援教育に関わる諸動向から、教育制度一般における特別支援の必要性を理解する。
2	特別支援教育の理念と制度（2）	近年の特別支援教育・インクルーシブ教育に関わる諸動向から現代的な教育課題を導き，次世代の特別支援教育のあり方について考える。
3	インクルーシブな学校と特別な支援が必要な障害のない児童生徒	特別な教育的ニーズのある児童生徒と特別な教育的ニーズのない児童生徒のそれぞれの学びの成立について認知的側面から理解し，双方が同時に同じ教室で学習することが可能な授業のあり方について考える。
4	特別支援教育の歴史	障害のある子供の理解や障害への対応の歴史的変遷の概要を理解し，次世代の特別な教育的ニーズへの対応について考える。
5	特別支援教育の教育課程	特別支援学校，特別支援学級，通級指導教室の教育課程を取り上げ，自立活動の指導に着目しながら，それぞれの教育課程を理解する。
6	自立活動の理解と教育	特別な教育的ニーズへの対応の基軸に位置付けられる自立活動の意義・概要・内容及びそれらの通常教育場面での汎用性について理解する。
7	視覚障害・聴覚障害の理解と教育	視覚障害・聴覚障害およびそれぞれの障害に対応した教育の概要について理解する。
8	知的障害の理解と教育	知的障害および知的障害に対応した教育の概要について理解する。
9	肢体不自由の理解と教育	肢体不自由および肢体不自由の状態に対応した教育の概要について理解する。
10	病弱・身体虚弱の理解と教育	病弱・身体虚弱および病弱・身体虚弱の状態に対応した教育の概要について理解する。
11	自閉症・情緒障害の理解と教育	自閉症・情緒障害およびその障害特性に対応した教育の概要について理解する。
12	言語障害の理解と教育	言語障害およびその障害特性に対応した教育の概要について理解する。
13	学習障害の理解と教育	学習障害およびその障害特性に対応した教育の概要について理解する。
14	注意欠陥・多動性障害の理解と教育	注意欠陥・多動性障害およびその障害特性に対応した教育の概要について理解する。
15		
16		

科目コード	23404				区　分	コア科目			
授業科目名	知的障害児の心理・生理・病理				担当者名	大野呂　浩志／西山　逸子			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	月４・５限	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
この授業では、知的障害の心理・生理・病理の特性を脳の構造・機能に関連づけながら概説し，必要とされる基本的な支援方法について論じる。また、各種障害の特性とその特性に応じた基本的な支援方法にも言及し，知的障害の理解をより深める。特別支援教育の実践を経験した教員と知的障害の診療に携わっている小児神経専門医師である教員が授業を行う。

＜授業の到達目標＞
特別支援教育領域の教員として必要な知的障害に関する基礎知識を習得し,障害に伴う発達と生活上の問題に対する支援方法の基礎的内容を説明することができる。

＜授業の方法＞
学生自身による事前事後学修でのコメントを補充・確認・整理・発展することを意図した講義と、グループワークやグループディスカッション等を通じた授業内容の深化・統合を図る演習の二つの要素を基調とした授業を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
・課題解決型授業／グループディスカッション／ピアサポートラーニング／グループワーク／プレゼンテーション

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
1~1.5時間程度の予復習をもとに，授業での積極的な質問や授業後の課題理解の深化を測ることが望ましい。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２(初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度 20%、レポート提出 30%、定期試験 50%

＜教科書＞
適宜資料を配布する。

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	知的障害概説	知的障害の本質を理解する。
2	知的障害の生理特性:（知能機構）	知的障害につながる神経心理学的特性について理解する。
3	知的障害の生理特性:（注意機構と覚醒）	知的障害につながる脳の注意機構と覚醒について理解する。
4	知的障害の生理特性:（記憶と学習）	知的障害が呈する記憶不全と学習の不全状態について神経心理学的視点から理解する。
5	知的障害の心理特性:（認知機構）	知的障害の認知について，神経心理学的な観点から理解を深める。
6	知的障害の心理特性:（知覚機構）	知的障害児者の認知につながる知覚について，神経心理学的観点から理解する。
7	知的障害の心理特性:（問題解決メカニズム）	学校での学習場面を取り上げ，ここまでの認知的特徴の理解をもとに，知的障害児の問題解決方略の特徴について理解する。
8	知的障害の心理特性:（コミュニケーション）	知的障害の認知的特徴をもとに，具体的な場面を題材に取り，コミュニケーション上の特徴や適切な学習につながるやり取りの特徴について理解する。
9	知的障害の心理特性:（対人行動・社会性）	学校での具体的な場面を取り上げ，対人行動の特性や社会性の獲得について，知的障害の認知的特徴に紐付けながら理解する。
10	知的障害の病理特性:（知的障害の診断基準と鑑別，発生要因など）	知的障害をきたしうる要因や危険因子，発生過程，および知的障害児に併存しやすい特性や症状について理解する。
11	知的障害の病理特性:（染色体異常・遺伝子異常症）	知的障害をきたす染色体異常・遺伝子異常の発生のメカニズムや特徴的な症状，学校生活で必要な支援や配慮などを理解する。
12	知的障害の病理特性:（代謝異常症）	知的障害をきたす代表的な代謝異常症の病態生理，学校生活での留意事項などについて理解する。
13	知的障害の病理特性:（頭蓋内感染症）	知的障害をきたしうる髄膜炎や脳炎・脳症等の病態生理，学校で必要な感染症の基礎知識や予防対策などについて理解する。
14	知的障害の病理特性:（脳血管障害）	知的障害をきたしうる頭部外傷を含む脳血管障害の病態，緊急時の対処法や医療機関との連携について理解する。
15		
16		

科目コード	23405				区　分	コア科目			
授業科目名	肢体不自由児の心理・生理・病理				担当者名	松本　好生			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	あり

＜授業の概要＞
この授業は、肢体不自由の「生理・心理・病理」に関する内容について、身体障害がある人について、特別に配慮しなければならない支援のありかた、および我が国の身体障害がある人への現状の取り組みについて理解を深めることにある。特に、この授業では、特別支援教育や民間支援機関で特別な配慮を必要とする人の支援を経験した教員が担当することに意味がある。教科書やテキストにはない３０数年の臨床現場での実践を踏まえた授業を行うので、障害のもつ意味など、幅広く、知的障害や発達障害なども含めて、身体障害の中の脳性マヒなどの肢体不自由

＜授業の到達目標＞
特別支援教育領域の教員として必要な肢体不自由に関する基礎知識を習得し，発達と生活上の問題に対する支援方法の基礎を学ぶ。

＜授業の方法＞
パワポを中心に視覚的に概説していく。また資料の配布やテキストは、授業への理解度を鑑み、適宜紹介する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
提示された参考書に目を通しておくこと。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２(初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
レポートと小テスト90%、授業態度10%で評価する。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	肢体不自由の心理・生理・病理と肢体不自由児教育	
2	肢体不自由児の障害特性	
3	肢体不自由と学習の困難	
4	肢体不自由と障害受容	
5	学齢期における中途障害と心理	
6	肢体不自由とは（障害の特性と、知的障害・その他身体障害との合併）	
7	肢体不自由者の生理反応の特性①(呼吸・循環機能)	
8	肢体不自由者の生理反応の特性②(脳・神経機能)	
9	肢体不自由者の生理反応の特性③（筋機能）	
10	脳性麻痺の病態病理①	
11	脳性麻痺の病態病理②	
12	肢体不自由と神経筋疾患	
13	肢体不自由と脳性麻痺①(全般)	【第13回】　心理・生理・病理の特徴から垣間見ることができる肢体不自由児への医療的ケアの課題
14	肢体不自由と脳性麻痺②(リハビリテーション)肢体不自由の心理・生理・病理に関する今後の課題と展望	
15		
16		

科目コード	23406				区　分	コア科目			
授業科目名	病弱児の心理・生理・病理 ≪連続≫				担当者名	西山　逸子			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
小児の主要な疾患についての病態生理、身体および心身の不調の変化などについて詳細に解説するとともに，学校教育で必要とされる留意事項や配慮，適切な支援，家庭や関連機関との連携などについて，小児科専門医である教員が実践的な授業を行う。

＜授業の到達目標＞
病弱（身体や心身の虚弱を含む）の児童の病気（身体や心身の疾患）に関する病態生理や特徴を理解し，児童一人ひとりの心身の状態や発達過程をふまえて学校教育で必要な対応や支援，家庭や関連機関との連携について修得する。

＜授業の方法＞
小児の主要疾患の病態生理について解説し，学校生活において病弱児に生じうる心身の症状や変化などに対して教育現場で教員が行うべき対応や支援などについて，学生自身が主体的な立場で考え実践する授業を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：学校生活で起こりうる病弱児の心身の症状や変化などに対して，教員が行うべき対応や支援などについて，学生自身が主体的な立場で考え実践する授業を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
高校での人体に関する生物学の基礎的知識を理解していることを前提に授業を行います。充分な予習のもとに授業に臨み，講義で修得したことが将来の教育等社会活動に役立つように復習を繰り返し，さらに学びを発展させてください。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２(初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
本試験60%、小テスト20%、授業態度(レポート) 20%

＜教科書＞
適宜資料を配布する

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	健康の概念，小児の疾病の変遷に伴う病弱児教育の進展について	健康の概念，医療の進歩に伴う小児の疾患の変遷，病弱児の教育に必要な支援や配慮などについて理解する。
2	小児の身体の構造と機能，身体と心の発達過程，および病弱児の心理特性について	小児の身体の構造と機能，小児の心身の発達過程，病弱児における心理特性について理解する。
3	主な疾患（１）血液疾患	血液の成熟過程と機能，貧血や血友病等の病態生理や症状，学校生活での留意事項や医療との連携などについて理解する。
4	主な疾患（２）悪性疾患（小児がん）	白血病や脳腫瘍等についての病態や治療による後遺症，学校での支援のあり方や家庭・医療との連携などについて理解する。
5	主な疾患（３）感染症および学校で必要とされる感染予防策	小児期に流行しやすい感染症に関する基礎的事項や留意点，学校で必要とされる感染予防対策などについて理解する。
6	主な疾患（４）小児の痙攣性疾患	脳の構造と機能，小児のてんかんの病態生理，学校生活での留意事項や教員が知っておくべき緊急時の対応について理解する。
7	主な疾患（５）アレルギー性疾患Ⅰ　＜小テスト＞	食物アレルギーの病態，特に急変について理解する。アナフィラキシー時の対処法（エピペンキットによる演習実施）を修得する。
8	主な疾患（６）アレルギー性疾患Ⅱ	免疫・アレルギーの基礎知識，アトピー性皮膚炎・小児喘息・膠原病の病態生理，学校での留意点や配慮などについて理解する。
9	主な疾患（７）腎・泌尿器疾患	腎・泌尿器の構造と機能，腎炎やネフローゼ症候群・腎不全の病態，学校生活での留意点などについて理解する。
10	主な疾患（８）小児循環器疾患	心臓の構造と機能，先天性心疾患や川崎病など小児心疾患の病態，学校生活での留意点などについて理解する。
11	主な疾患（９）小児内分泌疾患・肥満	肥満や主な内分泌疾患の病態，特に糖尿病について学校生活で必要とされる留意点や緊急時の対応などについて理解する。
12	主な疾患（１０）小児の心身症・精神疾患関連	小児の心身症・精神疾患の特徴や最近の動向，学校生活での留意点や支援，家庭や関連機関との連携などについて理解する。

13	病弱児や神経発達症児の抱える諸問題と二次障害，および不登校について	病弱児や神経発達症児の心理特性，生じうる二次障害，学校生活で行うべき支援や配慮などについて理解する。
14	病弱児教育と家庭や医療、福祉行政との連携，および現在の課題と今後の展望 ＜本試験＞	個々の児童の病態や心理を熟慮したうえで，教育と家庭・医療・福祉機関等との連携について理解を深める。
15		
16		

科目コード	23407				区　分	コア科目			
授業科目名	知的障害児教育Ⅰ				担当者名	林　栄昭／大野呂　浩志／石山　貴章			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義、演習、観察実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

【 履修上の注意 】※ この科目は「特別支援教育」または「特別支援教育総論」のいずれかの単位を習得中，もしくは習得済みであることを履修条件とする。【 授業の概要 】　この授業は、特別支援学校学習指導要領を分析し、知的障害特別支援学校の教育実践並びに実際に編成されている教育課程を提示し、その内容を理解するとともに、各教科等の指導における配慮事項について理解する。特別支援学校での勤務経験のある教員が実践的な授業を行う。（教育経営学科ディプロマ・ポリシーのDP２に関連）

＜授業の到達目標＞

特別支援学校学習指導要領を基準として知的障害特別支援学校の教育において編成される教育課程が有する意義を理解できるようになる。児童又は生徒の知的障害の状態や特性及び心身の発達の段階等、特別支援学校（知的障害）の教育実践並びに各学部や各段階のつながりを踏まえた教育課程の編成方法とカリキュラムマネージメントの考え方を理解できるとともに、各教科等の指導における配慮事項について理解できるようになる。

＜授業の方法＞

学生自身による事前事後学修でのコメントを補充・確認・整理・発展することを意図した講義及びグループワークやグループディスカッション、動画配信等を通じた授業内容の深化・統合を図る演習、特別支援学校における教育の実際の観察実習の三つの要素を基調とした授業を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

・課題解決型授業／グループディスカッション／ピアサポートラーニング／グループワーク／プレゼンテーション／特別支援学校教育の観察実習

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

毎回の授業内容に関連する事項について、事前に配布する授業資料をもとに1時間程度の予習をする。毎回の授業後には振り返り課題を課すため、その回の授業で学んだ内容について1時間程度の復習やまとめをする。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー２(初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 20%、レポート提出 30%、定期試験 50%

＜教科書＞

適宜資料を配布する。

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	知的障害のある児童生徒の障害の状態や特性	知的障害の定義とその状態や学習上の特性を理解し，指導・支援の指針を描く。
2	特別支援学校学習指導要領の構成と特徴	特別支援学校学習指導要領の構成と内容に関する概要を知る。
3	特別支援学校（知的障害）における教育課程の意義と特徴	特別支援学校（知的障害）において独自の教育課程が編成されることの意義やその特徴について，知的障害の特性を踏まえながら理解する。
4	特別支援学校（知的障害）における教育課程編成の方法	特別支援学校（知的障害）における教育課程の特色のもととなる「各教科」や指導形態を踏まえて、教育課程を編成する際の具体的な方法や留意事項について理解する。
5	特別支援学校（知的障害）における教育課程の実際①	特別支援学校（知的障害）の小～高等部における教育課程の特徴について、観察実習を通して理解する。
6	特別支援学校（知的障害）における教育課程の実際②	特別支援学校（知的障害）の小～高等部における教育課程の特徴について、観察実習を通して理解する。
7	特別支援学校（知的障害）における教育課程の実際③	特別支援学校（知的障害）の小～高等部における教育課程の特徴について、観察実習を通して理解する。
8	特別支援学校（知的障害）における各教科の目標、内容及び構造	特別支援学校（知的障害）における各教科等の概念や具体的な目標、内容及び構造について理解する。
9	特別支援学校（知的障害）における指導の	知的障害特別支援学校における各教科等の指導のうち、自立活動の指導の重要性を

	形態（教科別、領域別の指導）	踏まえて、教科別、領域別の指導の意義と実態に応じた課題設定について理解する。
10	特別支援学校（知的障害）における指導の形態（各教科等を合わせた指導）	特別支援学校（知的障害）における特有の各教科等を合わせた指導について、生活年齢に応じた具体的な内容を題材に、その意義と指導の特徴を理解する。
11	特別支援学校（知的障害）における自立活動の指導	特別支援学校（知的障害）における個々の児童生徒の実態や障害特性等に応じた自立活動の指導について，指導の目標と内容項目を合わせて理解する。
12	自立活動の指導における「個別の指導計画」の作成・活用	障害のある児童生徒の自立活動に特化した個別の指導計画の作成の意義や，その活用について，具体的な事例をもとに理解する。
13	特別支援学校（知的障害）における授業づくりと「個別の指導計画」の作成・活用	特別支援学校（知的障害）における授業づくりと関連して，個別の指導計画の作成及び活用について理解する。また学校外との連携や将来の一貫した指導・支援につながる個別の教育支援計画の概要についても理解する。
14	特別支援学校（知的障害）における教育課程の評価と改善(カリキュラムマネージメントの考え方)	ここまで学修してきた特別支援学校（知的障害）の教育課程を踏まえ，その評価と改善のサイクルの重要性の理解をはじめ，評価と改善のあり方についてその概要を理解する。
15		
16		

科目コード	23408				区　分	コア科目			
授業科目名	知的障害児教育Ⅱ				担当者名	林　栄昭／大野呂　浩志／石山　貴章			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

【 履修上の注意 】※ この科目は「特別支援教育」または「特別支援教育総論」のいずれかの単位を習得中，もしくは習得済みであることを履修条件とする。【 授業の概要 】　この授業は、「知的障害児教育における指導法」をテーマに、知的障害の認知特性を授業に関連する様々な要素との関連で理解し、認知特性に沿った授業づくりについて学ぶ。特別支援学校での勤務経験のある教員が実践的な授業を行う。（教育経営学科ディプロマ・ポリシーのDP2に関連）

＜授業の到達目標＞

知的障害のある児童生徒の認知特性に応じた分かりやすく身につきやすい指導について理解し、実態に応じた指導を想起するとともに、特別支援学校(知的障害)における授業づくりの視点や方法を身に付ける。

＜授業の方法＞

学生自身による事前事後学修でのコメントを補充・確認・整理・発展することを意図した講義と、グループワークや模擬授業、動画配信等を通じた授業内容の深化・統合を図る演習の二つの要素を基調とした授業を行う。模擬授業の実施に当たっては、二つの教室を使用し、効率的・効果的に行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

・課題解決型授業／グループディスカッション／ピアサポートラーニング／グループワーク／プレゼンテーション

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

毎回の授業の内容に関連する事項や模擬授業実施に当たっての指導案の作成・確認について1～1.5時間程度予習する。毎回の授業後には、振り返り課題を課すため、その回の授業内容や模擬授業実施後の反省・まとめについて1時間程度復習する。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー３(初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 20%、模擬授業 50%，課題提出 30%

＜教科書＞

適宜資料を配布する。

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	知的障害の認知特性(実行機能とワーキングメモリ)	認知そのものの理解を前提とした知的障害児の認知特性について，高次脳機能の観点から理解を深める。
2	知的障害の認知特性と指導I(注意の持続)	知的障害の認知特性である注意持続の困難を取り上げ，注意持続の困難に対する具体的な対応について学ぶ。
3	知的障害の認知特性と指導II（記憶の保持)	知的障害の認知特性である記憶保持の困難を取り上げ，記憶保持の困難に対する具体的な対応について学ぶ。
4	知的障害の認知特性と指導III（実行機能への配慮)	知的障害の認知特性を代表する実行機能不全を取り上げ，実行機能不全に対する具体的な対応について学ぶ。
5	知的障害の認知と各教科等の指導、教材・教具	知的障害の認知的特性を踏まえ，各教科等の指導における題材設定，活動設定等とともに、個々の特性を踏まえた教材・教具のあり方や教材提示の仕方について、具体的事例をもとに理解する。
6	知的障害の認知と教科等合わせた指導	知的障害の認知的特性の理解をもとに，合わせた指導の効果的な設計の仕方について理解する。
7	知的障害の認知と自立活動の指導	知的障害の認知特性の理解をもとに，指導・支援の全てに関わる自立活動の指導が各教科等の指導において，いかに展開されるかについて理解する。
8	特別支援学校（知的障害）における授業の実際Ⅰ（各教科）	特別支援学校（知的障害）における各教科別の授業について，その題材設定，目標設定，活動設定について，具体的事例を通じて理解する。
9	特別支援学校(知的障害)における授業の実際II（各教科等を合わせた指導）	特別支援学校（知的障害）における各教科等を合わせた指導の授業について，題材設定，目標設定，活動設定等について，具体的事例を通じて理解する。
10	特別支援学校（知的障害）における授業づくりの基礎（学習指導案の作成）	通常教育における学習指導案と比較して，その共通点と相違点を意識しながら，特別支援学校（知的障害）特有の学習指導案の意義と作成の仕方を理解する。
11	模擬授業Ⅰ	特別支援学校（知的障害）における教科等の学習指導案を作成し，模擬授業を行うと

		ともに，授業後に行う批評会で，事後の指導指針や改善点を話し合い，学修内容の統合，具現化の能力を養う。
12	模擬授業Ⅱ	模擬授業Ⅰの評価・反省を踏まえて学習指導案を修正し，再度模擬授業を行うとともに，授業後に行う批評会で，事後の指導指針や改善点を話し合い，学修内容の統合，具現化の能力を養う。
13	模擬授業Ⅲ	模擬授業Ⅰ・Ⅱとは別の教科等の学習指導案を作成して模擬授業を行うとともに，授業後に行う批評会で，事後の指導指針や改善点を話し合い，学修内容の統合，具現化の能力を養う。
14	模擬授業Ⅳ、授業づくりのまとめ	模擬授業Ⅲで実施した教科等の学習指導案を修正し，再度模擬授業を行うとともに，これまでに実施した模擬授業を振り返り、特別支援学校（知的障害）における授業づくりに必要な視点と方法についてまとめをする。
15		
16		

科目コード	23409				区　分	コア科目			
授業科目名	発達障害児教育総論［FE用］				担当者名	松本　好生			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	あり

＜授業の概要＞
現在は、発達障害を知らずして、特別支援教育はあり得ないとまで言われる時代に突入している。そうしたなかで、特別な支援を必要とする児童・生徒がもつ感覚器官の特殊性などに起因する障害特性を理解することまでが教育現場で求められている。障害がある児童・生徒が、学習活動に参加していることへの実感や到達度課題への達成感が的確に獲得できるように、幼児期、学童期、思春期、青年期のライフステージごとの発達課題を踏まえて、我々の文化のなかでの生きにくさを軽減するための工夫や特別支援教育に必要な基礎知識、および教育現場での具体的

＜授業の到達目標＞
１．特別な支援を必要とする児童・生徒の障害の概念の歴史を理解する。２．特別な支援を必要とする児童・生徒の障害特性を理解する。３．特別な支援を必要とする児童・生徒への具体的な支援技法を理解する。４．知的な遅れはないが、特別な教育的ニーズのある児童・生徒への合理的配慮など、その対応法について理解する。

＜授業の方法＞
・パワポによる視覚化を活かして講義する。・必要に応じて、その都度、資料を配布することもある。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
・授業で出てくる専門用語を理解しておくこと。・授業後は、配信された資料と授業の内容を理解しておくこと。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度　10%、定期試験　90%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	・オリエンテーション・特別支援教育とは	授業の進め方についてのガイダンス
2	共生社会とインクルージョン	・共に生きる社会とインクルージョンは異なることの理解・「インクルージョン」「インクルーシブ教育」とは
3	障害がある子どもの教育とその歴史	特殊教育から特別支援教育への変遷を理解する。
4	肢体不自由者の心理・生理・病理	障害の特性の理解と、指導・支援について考える。
5	病弱者の心理・生理・病理	障害の特性の理解と、指導・支援について考える。
6	重度重複障害者の心理・生理・病理	障害の特性の理解と、指導・支援について考える。
7	知的障害者の心理・生理・病理	障害の特性の理解と、指導・支援について考える。
8	発達障害の歴史と概念の変遷	・「発達障害」という概念の混乱（欧米の障害体系とわが国の違い）・カナー,Lから、ラター,Mの発達障害は「脳の機能障害説」へ
9	発達障害はPDDからASDの時代へ	カテゴリー的アプローチからディメンジョン的アプローチへ
10	発達障害の障害特性（ASD）	「心の理論障害」を踏まえたASDの障害特性を理解する。
11	発達障害の障害特性（ADHD）	ADHD（注意欠如多動症）の障害特性を理解する。
12	発達障害の障害特性（ADHD）	ADHD（注意欠如多動症）の支援技法を理解する。
13	発達障害の障害特性（LD）	LD（限局性学習症）の障害特性と支援技法を理解する。
14	不適応を示す行動の分析法	応用行動分析とTEACCHプログラムから対応法を理解する。
15		
16		

科目コード	23409				区　分	コア科目			
授業科目名	発達障害児教育総論［他学科］				担当者名	大野呂　浩志			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
学習障害，注意欠陥多動性障害，自閉症，言語障害，情緒障害の要因となる脳機能及びそれらに起因する行動の特性を把握することの意義と方略を理解するとともに，障害に伴う行動上の問題に対する指導・支援方法の基礎を学ぶ。（教育経営学科ディプロマポリシー（２）（３）（４）に関連）

＜授業の到達目標＞
この授業は、教育場面や実生活で出会う発達障害を理解し，必要な指導・支援ができることを目指して幅広く知識を獲得する。発達障害の要因となる脳機能及びそれらに起因する行動上の問題に対する指導・支援方法の基礎を学ぶ。特別な指導や支援の経験のある教員が実践的指導を行う。

＜授業の方法＞
学生自身による事前事後学修でのコメントを補充・確認・整理・発展することを意図した講義と、グループワークやグループディスカッション等を通じた授業内容の深化・統合を図る演習の二つの要素を基調とした授業を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
・課題解決型授業／グループディスカッション／ピアサポートラーニング／グループワーク／プレゼンテーション

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
毎回の授業で先回までの内容について確認テストを課すため，毎回事前に1~1.5時間程度の予習と，授業で学んだことを日常生活や将来の子供との接し方や対応に活かす具体策を整理するため毎回事後に30分～1時間程度の復習をすることが望ましい。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３(初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
定期試験 40%、小レポート・小テスト 50%、授業態度 10%

＜教科書＞
適宜資料を配布する。

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	発達障害と社会	発達障害にみられる症状の連続性とそれらの社会的認識について理解する。
2	学習障害(LD)の理解と指導・支援	学習障害の定義やその症状の理解をするとともに，具体的な指導・支援について理解する。
3	注意欠如・多動性障害(ADHD) の理解と指導・支援	ADHDの定義やその症状の理解をするとともに，具体的な指導・支援について理解する。
4	自閉症スペクトラム障害の理解	自閉症スペクトラム障害の定義やその症状，それらの症状に関連する脳基盤について理解する。
5	自閉症スペクトラム障害の指導・支援	自閉症スペクトラム障害の神経心理学的理解をもとに，その障害特性に応じた指導・支援について理解する。
6	発達性協調運動障害の理解と指導・支援	発達性協調運動障害に関する神経心理学的理解をもとに，具体的な支援について理解する。
7	言語障害・情緒障害の理解と指導・支援	言語障害・情緒障害の具体的事例を通じて，その概要の理解と支援について理解する。
8	トゥレット障害、強迫性障害の理解と指導・支援	トゥレット障害、強迫性障害の具体的症例を取り上げ，それらの障害特性と適切な支援について理解する。
9	二次障害の理解と指導・支援	環境要因による二次的な困難発生の機序と適切な指導・支援のあり方について理解する。
10	観察や諸検査にみる発達障害の特性と指導・支援	自閉スペクトラム症やLD，ADHDにみられる諸検査成績の特徴と成績に応じた支援の考案の方法について理解する。
11	通級による指導や特別支援学級における自立活動の指導	発達障害に対する自立活動の指導を中心とした通級指導教室や特別支援学級における指導について理解する。
12	通常学級における発達障害のある子どもの指導と支援	インクルーシブな教育環境における発達障害への対応について，具体的な活動設定や教材使用のあり方を理解する。

13 14 15 16	通常学級の指導における自立活動の指導 発達障害のある子どもの自立活動の指導における個別の指導計画	通常学級における実現可能な自立活動の指導のあり方について理解する。 自立活動の指導の基本的な考え方を念頭にしつつ，通常教育における発達障害のある児童の重点課題の設定の仕方について理解する。

科目コード	23410				区　分	コア			
授業科目名	肢体不自由児教育				担当者名	高橋　章二			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
肢体不自由児教育の対象となる子どもの疾患、教育の場の特徴、教育課程、歴史的経緯などを概観し、一人ひとりの子どもの教育的ニーズを基本的な視点として、教育課程、自立活動、教科指導などについて、実践事例をもとにして具体的に授業を行う。

＜授業の到達目標＞
肢体不自由児の教育課程、自立活動の視点に基づいた個別支援と学習指導について理解し、実践しようとする。①肢体不自由教育の学校・学級等の制度を理解する。②肢体不自由教育における教育課程の編成について理解する。③肢体不自由教育における自立活動の指導について理解する。④肢体不自由者に対する個別の指導計画に応じた学習指導案を立案できる。

＜授業の方法＞
授業はテキストやPowerPoint資料等を使って講義形式で行う。課題検討のためグループワーク等を取り入れる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
授業内に毎回グループで検討していく課題を設定してグループワークを行い、話し合われたことを全体に発表して全体での共有を図る。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：事前にクラスルームに提示された講義資料に目を通してポイントをチエックする。３時間は必ず行うこと。復習：講義終了後は、授業の中で重要と述べられた事項についてさらにインターネット教科書等を使い深める。２時間は必ず行うこと。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（特別支援教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
出席・授業態度20%、ふりかえり課題30%、試験50%

＜教科書＞
文部科学省（H30・３）　特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）　開隆堂出版株式会社

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	肢体不自由教育の学校・学級等の制度及び指導法の変遷	明治期からの肢体不自由教育の変遷とそれに伴う指導法の変遷についての検討
2	肢体不自由特別支援学校における教育課程の編成、自立活動の意義	肢体不自由特別支援学校の３類型の教育課程の理解と自立活動の重要さについて
3	肢体不自由特別支援学校における教科等の指導	肢体不自由特別支援学校　準ずる教育課程の教科指導の実際
4	肢体不自由特別支援学級と肢体不自由通級による指導における教育課程の編成と指導の実際	肢体不自由特別支援学級と肢体不自由通級の現状と教育課程の編成の工夫と実際
5	肢体不自由教育における自立活動の指導①	肢体不自由教育における自立活動の指導の指導の在り方３類型に対応した自立活動の実際
6	肢体不自由教育における自立活動の指導②	自立活動を主とする教育課程の児童をに対する架空事例を用いた個別の指導計画作成の作成（実態把握から目標，内容，指導場面設定の手順）
7	肢体不自由教育における自立活動の指導③	肢体不自由教育における自立活動の指導：身体の動きに関する指導の実際
8	肢体不自由教育における自立活動の指導④	肢体不自由教育における自立活動の指導：健康の保持に関する指導の実際
9	肢体不自由教育における自立活動の指導⑤	肢体不自由教育における自立活動の指導：人間関係の形成の指導の実際
10	肢体不自由教育における自立活動の指導⑥	肢体不自由教育における自立活動の指導：コミュニケーションに関する指導の実際
11	肢体不自由教育における自立活動の指導⑦	肢体不自由教育における自立活動の指導：心理的な安定に関する指導の実際
12	肢体不自由教育における自立活動の指導⑧	体不自由教育における自立活動の指導：環境の把握に関する指導の実際

13	肢体不自由教育における自立活動の指導⑨	仮想例に基づく個別の計画作成演習
14	肢体不自由教育における自立活動の指導⑩	肢体不自由特別支援学校における自立活動の指導案の基本的な考え方
15		
16		

科目コード	23411				区　分	コア科目		
授業科目名	病弱児教育				担当者名	高橋　章二		
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
・病弱教育の意義、対象、システム、個別の教育支援計画、個別の指導計画、教育課程の類型等、病弱教育の基本について理解する。・児童生徒等が抱えている病気を理解し、個々のニーズに対応した教育課程や指導法(教科指導・自立活動など)について基礎的な知識を修得する。また、特別支援学校、特別支援学級、病院内学級での教育支援などの実際に触れながら、実践に生きる知識の修得を目指す。

＜授業の到達目標＞
〇病弱・病弱教育に関する基礎的な事項や教育内容・方法の基礎について説明することができる。〇病気の子どもの心理を理解し、社会的教育的 支援について説明することができる。

＜授業の方法＞
授業はテキストやPowerPoint資料等を使って講義形式で行う。課題検討のためグループワーク等を取り入れる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
授業内に毎回グループで検討していく課題を設定してグループワークを行い、話し合われたことを全体に発表して全体での共有を図る。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：事前にクラスルームに提示された講義資料に目を通してポイントをチエックする。3時間ｈ必ず行うこと。復習：講義終了後は、授業の中で重要と述べられた事項についてさらにインターネット教科書等を使い深める。2時間は必ず行うこと。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（特別支援教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
出席・授業態度20%、課題レポート30%、試験50%

＜教科書＞
一般社団法人日本育療学会　山本昌邦、島治伸、滝川国芳(2022年)　標準「病弱児の教育」テキスト 改訂版　ジアース教育新社

＜参考書＞
文部科学省（H30・３）　特別支援学校学習指導要領解説総則等編（幼・小・中）　開隆堂出版株式会社
文部科学省（H30・３）　特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編　開隆堂出版株式会社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	病弱・病弱教育の捉え方と病弱教育の意義・対象	病弱・病弱教育についての捉え方および病弱教育の教育的意義や病弱教育が対象とする疾病について
2	病弱教育のシステム	病弱教育の場としての病弱特別支援学校や特別支援学級（院内学級）の理解
3	病弱教育における教育課程の４類型	病弱教育における準ずる教育課程、下学年対応における教育課程、知的代替の教育課程、自立活動を主とする教育課程の特徴
4	病弱教育における個別の教育支援計画と個別の指導計画	病弱教育における個別の教育支援計画及び個別の指導計画の役割と実際
5	病弱教育の授業づくりの特色―教科指導の基礎	病弱特別支援学級、院内学級における小人数教科指導の基本的な考え方
6	病弱教育の授業づくりの特色―教科指導の応用	病弱特別支援学級、院内学級における小人数教科指導の具体的な指導方法と事例検討
7	病弱教育とICT活用　遠隔授業のあり方	病弱教育におけるICT活用の現状と課題オリヒメ等を活用した遠隔授業の実際
8	病弱教育にける自立活動	病弱教育における自立活動の基本的な考え方と具体的な指導
9	病弱児教育の歴史的変遷	明治時期における栄養不良児救済事業から昭和初期におけるハンセン病、結核患者に対する病弱教育の変遷と課題
10	病弱児の教育を保障するトータルケアとコーディネーション	院内学級における医師や看護師、院内学級担当者等の連携と、医療的側面・心理的ケア、教育的ケア等の総合的な支援体制
11	慢性疾患の理解と学校生活（１）	慢性疾患の子どもたちの病気理解と学校生活を送る上での配慮
12	慢性疾患の理解と学校生活（２）	慢性疾患の子どもたちの心理的負担と自己管理
13	慢性疾患の理解と学校生活（３）	院内学級入級から復学支援
14	病弱教育の課題と今後の展望	病弱虚弱児の豊かな学びを保障するための課題整理と今後解決を図るべき事項の検討。

15 16		

科目コード	23412				区　分	コア科目			
授業科目名	重複障害児教育総論				担当者名	高橋　章二／松本　好生			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
この授業では、重複障害を巡る医療と教育の現状について理解を深め、対応の概要に関する基本的な知識を身につける。また、重複障害児に対する教育にかかわり､学習指導要領に規定されている重複障害者等に関する教育課程の取り扱いについて適切に理解することができるようにする。さらに、学校や地域生活などの様々な場面における医療と教育、福祉との連携による効果的な支援について、基本的な情報をもとに、実際的な指導及び支援内容を考える。

＜授業の到達目標＞
重複障害の概念や重複障害児の特徴を理解し,それらの特徴を把握するためのアセスメントや特徴に応じた学校場面における指導や支援の実際について，その基本的な知識を習得することができる。

＜授業の方法＞
授業はテキストやPowerPoint資料等を使って講義形式で行う。課題検討のためグループワーク等を取り入れる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
業内に毎回グループで検討していく課題を設定してグループワークを行い、話し合われたことを全体に発表して全体での共有を図る

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：事前にクラスルームに提示された講義資料に目を通してポイントをチエックする。３時間は必ず行ってください。復習：講義終了後は、授業の中で重要と述べられた事項についてさらにインターネット教科書等を使い深める。２時間は必ず行ってください。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（特別支援教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
出席・授業態度20%、ふりかえり課題30%、試験50%

＜教科書＞
文部科学省（H30・３）　特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（幼・小・中）　開隆堂出版株式会社
文部科学省（H30・３）　特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編　開隆堂出版株式会社

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	重複障害の定義（定義と歴史）	重複障害、重度重複障害、重症心身障害児の名称と対象（大島の分類）
2	重複障害児の理解（くらしの実際）	重複障害児の学校生活、家庭生活場面の実際
3	重複障害児のコミュニケーションと支援	重複障害児のコミュニケーションの課題と具体的な支援方法
4	重複障害児の特性と指導法	重複障害児の特性に応じた指導方法の実際
5	重複障害の健康支援と支援機器	重複障害の健康支援と支援機器の活用の実際
6	問題行動への心理的介入法	心理アセスメント、知能検査、発達検査等の方法と活用について
7	学習指導要領における重複障害者等に関する教育課程の取り扱い①	学習指導要領上で示されている教育課程の特例について
8	学習指導要領における重複障害者等に関する教育課程の取り扱い②	自立活動の取り扱いについて
9	学校場面における重複障害の支援の実際①	感覚･運動機能トレーニングの方法
10	学校場面における重複障害の支援の実際②	言語･コミュニケーショントレーニングの方法
11	学校場面における重複障害の支援の実際③	心理療法について
12	学校場面における重複障害の指導の実際①	盲重複障害者･ろう重複障害者への支援技法
13	学校場面における重複障害の指導の実際②	行動障害がある人への支援技法
14	重複障害児を取り巻く関係機関・地域・家庭との連携	重複障害児を取り巻く地域連携の具体的な事例について
15		

16		

科目コード	23413				区　分	コア科目			
授業科目名	障害児教育相談と心理アセスメント				担当者名	大野呂　浩志／大本　市郎			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習・実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

特別支援教育における教育相談は，障害によって生じる様々な困難さを理解し，適切な支援を施すことによって，子どもの育ちを支援し，保護者や児童生徒に関わる教育職員等を支援することである。問題の所在に気づき，その意味を考え，具体的支援を考えるため，この講義では，知的障害，病弱，肢体不自由及び発達障害に関する基本的知識や障害のアセスメントに関する基礎知識，困難さが生じるメカニズム，またカウンセリングそのものの基本的な知識について理解することができる。（教育経営学科ディプロマ（２）（３）に関連）

＜授業の到達目標＞

障害による困難を客観的に評価するアセスメントの種類やそれぞれのアセスメントの目的や適切な活用について，概要を理解することができる。また実際の障害児の教育相談事例を取り上げ，その内容に応じたアセスメントの適用や本人や家族への指導や支援の方針を具体的に想起することができる。

＜授業の方法＞

・講義／演習／課題解決型学習／ディスカッション／グループワーク／ピアサポートラーニング／プレゼンテーション等の様々な形態において，取り扱う事象を等身大の理解に基づき，学ぶことができるように展開する。・検査者と被験者に分かれて心理検査を行う演習については，机上での活動のみで，移動や動的活動のないものであることから，危険が生じることはない。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

・課題解決型学習／ディスカッション／グループワーク／ピアサポートラーニング／プレゼンテーション

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・毎回の授業終わりに告知される次時の授業内容について，毎回１時間程度の事前学習と，授業内容に関する事後１時間程度の復習が望ましい。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー２(初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート 40%，定期試験 40%，授業態度 20%

＜教科書＞

適宜資料を配布する。　適宜資料を配布する。　適宜資料を配布する。

＜参考書＞

適宜資料を配布する。　適宜資料を配布する。　適宜資料を配布する。

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション：アセスメントの意義と教育相談への活用	心理・神経心理アセスメントの種類と有用性について概略及び，その教育領域における活用法について，講義やピアサポートラーニングを通じて理解する。
2	小児の発達と発達検査(遠城寺・デンバー発達検査)	乳児期・幼児期の神経発達と運動・知能・言語発達を中心に遠城寺およびデンバー発達検査について，講義やピアサポートラーニングを通じて理解する。
3	個別式知能検査（田中ビネー・WISC）にもとづく脳機能評価（Ⅰ）	小児期期認知・言語発達を中心に田中ビネーおよびWISCの意義や適用目的，講義とピアサポートラーニングによって理解する。
4	個別式知能検査（田中ビネー・WISC）にもとづく脳機能評価（Ⅱ）	小児期期認知・言語発達を中心に田中ビネーおよびWISCの実際の検査具を使いながら，講義とピアサポートラーニングを通じて，アセスメントの概要を理解する。
5	神経心理学的検査による脳機能評価	各種神経心理学的検査の特性を概説し前頭前野の機能的関連について理解する。
6	Rey-Osstierethの複雑図形にもとづく視覚認知機能評価	Rey-Osstierethの複雑図形の検査法と特性について概説し臨床応用について理解する。
7	障害による困難の理解と教育相談（１）	高次脳機能不全と発達障害児の学習上・生活上の困難の関連について理解する。
8	障害による困難の理解と教育相談（２）	発達障害児の示す実際の学習上・生活上の困難への対応について，その手続きや対応における留意点について理解する。
9	教育現場における知的障害及び発達障害の就学及び生活現状	知的障害や発達障害のある幼児児童生徒の就学の現状をや生活状況を知り，教育や生活における障害のある子どもの困難さを理解する。
10	知的障害及び発達障害の特性に応じた具体的指導・支援	知的障害や発達障害の障害特性を知り，特性に応じた生活場面や教育場面における具体的な支援について理解する。
11	学校の教育課程の内容別にみる支援体制	各学校園における特別なニーズのある子どもへの支援について，それぞれの教育課

		程の特徴と関連付けながら理解する。
12	知的障害及び発達障害のある児童生徒にかかわる学校と地域の連携	障害のある幼児児童生徒を巡る教育現場と家庭や地域とのつながりについて，各学校園の規模や特徴と関連させて理解する。
13	知的障害及び発達障害の臨床事例（保護者の視点から）	知的障害と発達障害のある子どもをもつ保護者のニーズについて，それぞれの子どもの実態と合わせて理解する。
14	知的障害及び発達障害の臨床事例（児童生徒の視点からの指導・支援分析）	知的障害と発達障害のある子どもに対する実際の指導事例を基にした指導・支援内容や方法について理解する。
15		
16		

科目コード	23414				区　分	コア科目			
授業科目名	視覚障害児教育論				担当者名	牟田口　辰己			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
この授業は、視覚障害の心理・生理・病理に関する内容として、視機能の発達と評価、視覚障害の原因や状態の把握について解説する。障害のある子どもに関わる教師として必要な知識に視覚障害教育がある。特別支援学校（盲学校）勤務の実務経験を踏まえ、その教育課程と学習指導要領を解説するとともに、障害に応じた授業の特色を理解し、授業を構成するために必要な知識や技能、授業研究のための基礎的な事項について理解を深めることねらいとしている。

＜授業の到達目標＞
①障害のある児童生徒には多様な教育の場があり、②障害のある児童生徒にも見え方に不自由さを抱えていることを理解し、③視覚障害のある人々に積極的に関わることができるようになる。

＜授業の方法＞
講義

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：グループワーク

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：授業に関する配布資料を講義までに読んでおく。各回90分程度復習：授業に関する配布資料を次回までに復習しておく。各回90分程度

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２(初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
試験(80%)と毎回講義後に提出するコメントシートの内容(20%)で評価する。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	視覚障害者と点字（日本点字の概要）	ルイ・ブライユによる点字の発明から石川倉次による日本点字への翻案までの歴史を解説し，視覚障害にある人にとっての点字の意義を考える。
2	視機能の発達と評価(目の機能と主要な眼疾患および心理学的知見)	眼球の構造と機能を解説する。
3	視覚障害の原因や状態の把握	教育的支援の必要な眼疾患の特色とその配慮事項を考える。
4	視覚障害教育の発展とあゆみ	明治11年の京都盲唖院，そして明治13年，東京の楽善会訓盲院から始まったわが国の盲教育の歴史を解説する。
5	視覚障害児童生徒の教育と就学支援	わが国の視覚特別支援学校，弱視特別支援学級，弱視通級指導教室の概要を解説する。
6	学習指導要領と各教科の指導	学習指導要領に示されている各教科に共通した五つの配慮事項をもとに，視覚障害教育の本質を解説する。
7	盲児に対する指導の配慮と工夫①：点字教科書の編集	検定教科書を原典にした文部科学省著作教科書としての点字教科書の編集方法について解説する。
8	盲児に対する指導の配慮と工夫②：漢字・漢語の指導	カナ表記である点字を常用文字とする盲児童に対する漢字・漢語の具体的な指導法を解説する。
9	弱視児に対する指導の配慮と工夫：見えにくさを補う光学補助具	見えにくさを補う方法は，光学補助具の使用と読書材を拡大する方法がある。本講義では光学補助具の種類とその活用法を解説する。
10	弱視児に対する指導の配慮と工夫：拡大教科書の編集	拡大教科書は一般の教科書を拡大しただけではない。本時では，書体や文字サイズを考慮した拡大教科書の編集について解説する。
11	教科指導の実際(国語における点字の読みの指導)	点字を両手の指先で効率的に読むことができるようになる点字読み指導法を解説する。
12	教科指導の実際(国語における漢字・漢語の指導)	表音文字である点字を常用文字とする盲児童に，表意文字である漢字・漢語を指導する意義とその方法を解説する。
13	教科指導の実際（算数と理科の指導）	盲人用そろばんを使用した計算や図形の学習と，触覚，聴覚，味覚を活用した理科の実験の指導法を解説する。
14	視覚特別支援学校における「自立活動」	特別支援学校の教育課程の特色である自立活動について，視覚障害児童生徒に対す

		る具体的な指導内容を解説する。
15		
16		

科目コード	23415				区　分	コア科目			
授業科目名	聴覚障害児教育論［週間オンデマンド］				担当者名	福島　邦博			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
この授業は、聴覚障害の心理・生理・病理に関する内容として、聴覚の解剖学的構造と機能、聴覚機能の発達と評価、聴覚障害の原因やきこえの特徴について解説する。また、教育課程と指導法に関する内容として、特別支援学校・学級（聴覚障害）等における教育課程の編成、ならびに環境把握やコミュニケーション、言語発達、教科学習、肯定的な障害認識、社会性の育成に関する指導の実際について解説する。

＜授業の到達目標＞
聴覚障害の心理・生理・病理、ならびに教育課程と指導法に関する事項を学習し、聴覚障害幼児・児童・生徒にむけた教育を展開するための基礎的知識を習得する。

＜授業の方法＞
対面およびオンデマンド

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業前に、次回扱うテーマに関する基礎的な内容を各自で調べ、概要を把握しておくこと（予習：1時間程度）。授業後は、授業で扱った内容をノート等で整理し、理解が不十分な点を再確認すること（復習：2時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２(初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
毎回の小テスト（70%）、レポート課題（30%）をもとに評価する。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	きこえにくさの理解	
2	きこえの仕組み	
3	聴覚の発達	
4	聴覚障害の原因と特徴	
5	きこえにくさの程度とその分類	
6	きこえの評価	
7	補聴器の構造と機能	
8	人工内耳の構造と機能	
9	聴覚障害と親子関係	
10	聴覚障害とコミュニケーション	
11	聴覚障害と書記言語発達	
12	聴覚障害児の教育課程及び自立活動等における言語指導	
13	発音発語指導	
14	聴覚障害と自己肯定感・社会性の発達	
15		
16		

科目コード	23501				区　分	コア科目			
授業科目名	教育の諸問題				担当者名	濱嶋　幸司			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択（教育社会学コース必修）

＜授業の概要＞
教育現象に対して「問題」という側面からアプローチをおこない、履修者に教育への多面的な見方、選択・評価の在り方を養うことを目的とする。当たり前のように用いている「問題」の前提を問い直し、なぜ「問題」となるのか。「問題」とすることで誰に、どのような利害関係が生じているのか、俯瞰的な立場から、あえて正解／不正解、善／悪の判断を保留させ、教育にかかわる諸問題の多さ、複雑さを理解していくことがねらいである。最終的には価値を相対化させ、多様な価値観を尊重し、その中で自分自身にとって最適な選択とはどういうものか、より望

＜授業の到達目標＞
①教育には様々な課題（＝問題）があることを理解する②問題とは自然発生的ではなく、人間によって構築されたものであるという立場を習得する③問題の背景､利害関係を理解する④問題解決の糸口を見つけることができる⑤教育によって解決できる問題と解決できない問題があることを論理的に説明することができる

＜授業の方法＞
前半30分は講師による説明および課題説明をこなう。中盤40分は個人およびグループで課題について考察、話し合いをおこなう。後半30分は課題について全体で共有し、個人で振り返りをおこなう。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有　各回毎のテーマについてリアクションペーパーを提出し、次回以降で成果を共有する

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各回終了後には内容を再確認しておくこと。また、次回に備えて関連資料に目を通すなど予習をしておくこと。単位習得に必要な学修時間を費やすこと（予習100分・復習100分）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）および、ディプロマポリシー3（初等・中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度 15%、授業内課題 30%、中間報告 25%、最終レポート 30%。授業内課題は授業中に評価をおこない、提出物は次回までに採点して返却する。クラスルームを活用する。中間報告および最終レポートについては事前に概要を伝える。本科目は暗記や既有知識での評価をせず、「問題」に対して自分がどのように向き合ったのか、その過程や思考の在り方が具体的にかつ論理的に説明されているかを評価基準として据える。多様な価値を認め、自分の知識として吸収し、最終的に自身の考えを的確の述べることが求められる。

＜教科書＞
特に指定しない

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダクション：教育の諸問題	科目のねらい、到達目標、授業の進め方、成績評価基準などの説明
2	問題とは何か？	問題そのものを問題として考えてみる
3	問題の背後を探る	構築主義的アプローチの紹介
4	教育が問題①	近代教育の歴史・制度
5	教育が問題②	カリキュラム（顕在・潜在）
6	教育が問題③	権力の存在（服従と自由の間）
7	教育が問題④	学歴の獲得と再生産
8	中間報告	これまでの授業での気づき、成果、不明点などを報告、共有。
9	教育に問題①	「こども」を考える
10	教育に問題②	「親」を考える
11	教育に問題③	「教師」を考える
12	教育の問題①	逸脱・非行との向き合い方
13	教育の問題②	グローバル（ローカル）との向き合い方
14	まとめ	教育の諸問題からわかったこと

15 16		

科目コード	23502				区　分	コア科目			
授業科目名	地域の教育と文化［週間オンデマンド］				担当者名	濱嶋　幸司			
配当年次	4年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択（教育社会学コース必修科目）

＜授業の概要＞
本科目は、地域社会における教育の営みと文化の形成・継承の関係を、教育社会学・地域社会学・社会教育・文化人類学の視点から総合的に扱う。学校教育に加え、家庭・地域活動・伝統行事など多様な学びの場に着目し、理論と具体事例を関連づけて理解を深める。複数地域の事例を通して多角的・相対的な視点を養い、地域における教育と文化の利点や課題を説明できる力を育成する。

＜授業の到達目標＞
①地域社会における教育と文化の関係を、複数の学問的視点から説明できる②学校・家庭・地域活動など多様な学びの場の特徴と役割を理解できる③複数の地域事例を比較し、共通点と相違点を整理できる④地域における教育と文化の利点および課題を論理的に説明できる

＜授業の方法＞
オンデマンド形式。クラスルームを活用。資料提示をするので、確認後に課題提出すること。質問等も受け付ける。締切厳守。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有　課題に能動的に取り組む（メモを残す・Webで調べた内容を保存する）　学生間で提出課題を共有し、意見交換できる

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
気になる地域の教育政策と文化活動を調べてまとめておくこと（予習（100分）、復習（100分））。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）および、ディプロマポリシー5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
各回の内容確認（14%）、第2回から第13回までの配信後課題（36%[3×12]）、最終課題［プレゼンスライド］（50%）。

＜教科書＞
なし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	科目のねらい・目的・到達目標・各回概要ほか
2	地域社会と教育・文化の基礎概念	地域社会・教育・文化の基本概念を整理し、生活文化や価値観が教育内容や方法にどのように反映されるかを具体例から理解する。
3	教育社会学からみる地域と文化	教育格差や文化的再生産の理論をもとに、家庭の文化資本や地域差が学力や進路に与える影響を具体的事例で検討する。
4	地域社会学の視点と文化	コミュニティの構造や社会関係資本に加え、地域固有の慣習や文化的ネットワークが教育機会に与える影響を分析する。
5	社会教育・生涯学習と文化	公民館や図書館などの社会教育施設の役割や、講座・ワークショップを通じた地域文化の継承・創造の実践を具体的に検討する。
6	文化人類学と地域文化	フィールドワークの事例を取り上げ、祭礼・儀礼・日常実践などの文化がどのように学びとして機能しているかを読み解く。
7	学校と地域文化の連携	コミュニティ・スクールや総合的な学習の時間の実践を通して、地域文化（伝統芸能・産業など）を教育に取り入れる方法を考える。
8	家庭と教育文化	家庭内の言語使用、しつけ、学習習慣などの文化的実践が子どもの学びや価値観形成に与える影響を具体的に検討する。
9	地域行事と文化的学び	祭りや年中行事、地域活動への参加を通して、規範・役割・技能がどのように学ばれるかを事例に基づいて分析する。
10	地域文化の比較方法	比較の視点（歴史・産業・人口構成・文化資源など）を整理し、地域文化と教育の関係を分析するための具体的手法を学ぶ。
11	地域文化と教育課題	過疎化や都市化、グローバル化に伴う文化の変容が、教育機会や学びの内容に与える影響と課題を検討する。
12	地域文化資源と教育実践	伝統文化、自然環境、地場産業などの文化資源を活用した教育実践(郷土学習・体験

		学習等）の具体事例を分析する。
13	文化を踏まえた比較・考察の整理	各自が調査している（予定）地域について、文化と教育の観点から比較の枠組みを整理し、論点の明確化とプレゼンテーション構成の説明。
14	展望：地域の教育力と文化のゆくえ	振り返りと成果の確認・最終課題（50%）の評価ポイントについて
15		
16		

科目コード	23503				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	社会学概論				担当者名	濱嶋　幸司			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択（教育社会学コース必修）

＜授業の概要＞
社会学概論では、社会学の基礎的な考え方、理論、用語を学ぶ。社会学という学問に触れるのではなく、現代社会をフィールドに、人々の生活（ライフ）と人生（キャリア）の送り方を社会学の視点を使って読みとく。社会学には独特の思考、手法があり、当たり前の日常に対して距離を取ることで、これまでの見え方とは異なる（複眼的、鳥瞰的）姿を確認することができる。履修者とは社会学の面白さと人生の多様さ、多彩さ、自ら築き上げることのできる楽しさを共有する。各回の進め方は、前半50分に社会学の概念や理論を時事問題に絡めて諸学説の説明・

＜授業の到達目標＞
①社会学の基礎的な考え方、用語を理解できる。②現代日本社会の多様なライフコースとキャリア形成を理解する。③自分の人生を切り開くために有効となる社会学の視点がどういうものなのか説明することができる。

＜授業の方法＞
前半に基礎的な社会学用語を説明する。中盤で具体的事例を交えた説明をする。後半は小課題もしくはリアクションペーパーを完成させて、履修者間で成果を共有する。なお履修者へは各回資料を配布する。各回の理解および振り返りを求める。クラスルームを活用し、事情によってはオンデマンド講義もありうる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有　各回毎のテーマについてリアクションペーパーを提出し、次回以降で成果を共有する

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各回終了後には内容を再確認しておくこと。また、次回に備えて関連資料に目を通すなど予習をしておくこと。単位習得に必要な学修時間を費やすこと（予習100分・復習100分）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）および、ディプロマポリシー3（初等・中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
各回で実施する小課題①と②（40%）、中間試験（30%）、最終試験（30%）

＜教科書＞
特に指定しない（参考書を参照しながら講師が独自に説明する）

＜参考書＞
西村純子・池田心豪（2023）　『社会学で考えるライフ&キャリア』　中央経済社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダクション：今という時代をどう生きるか?	・科目のねらい、到達目標、授業の進め方、成績評価基準を説明・社会学とは？
2	社会学のキーワード紹介現代社会での人生①：働く	・主要概念説明（行為・権力・文化・機能的統合・社会構造）・日本の資本主義社会で働くということ、雇用慣行、雇用システム
3	社会学の理論紹介現代社会での人生①：福祉社会で生きる	・主要理論説明（機能理論・闘争理論・象徴的相互作用理論）・誰と助け合うか、日本の社会保障・社会福祉の形成
4	時事ニュースから現代社会での人生①：階層社会	・直近のニュースを社会学的に分析し、説明（ウェーバー学説）・格差社会とライフコース、社会階層論の基本的な考え方
5	時事ニュースから就職して「社会人」になる②：就活	・直近のニュースを社会学的に分析し、説明（デュルケーム学説）・新卒一括定期採用、日本型雇用システムと大衆教育社会
6	時事ニュースから就職して「社会人」になる②：異動と昇進	・直近のニュースを社会学的に分析し、説明（マルクス学説）・昇進・異動をめぐる企業と人、長期雇用、キャリア選択
7	前半の振り返り中間試験（60分）	・第1回～第6回までの復習・テスト実施
8	時事ニュースから就職して「社会人」になる②：アルバイト	・直近のニュースを社会学的に分析し、説明（ミード学説）・雇用形態、正規雇用、非正規雇用、キャリアの違い
9	時事ニュースから就職して「社会人」になる②：貧困	・直近のニュースを社会学的に分析し、説明（マートン学説）・日本の貧困、戦後→バブル→失われた30年、立ち向かい方

10	時事ニュースから就職して「社会人」になる②：地域密着	・直近のニュースを社会学的に分析し、説明（シカゴ都市社会学）・地方移住、コミュニティ、都市化、郊外化、過疎化、限界集落
11	時事ニュースから「普通の人生」はあるのか③：未婚・結婚	・直近のニュースを社会学的に分析し、説明（ギデンズ学説）・親子のライフコース、近代家族と婚姻制度、これからの結婚
12	時事ニュースから「普通の人生」はあるのか③：親になる	・直近のニュースを社会学的に分析し、説明（ゴフマン学説）・「母親らしさ」「父親らしさ」、出産育児、ジェンダー、多様な性
13	時事ニュースから「普通の人生」はあるのか③：介護	・直近のニュースを社会学的に分析し、説明（ガーフィンケル学説）親の介護は誰が担う、多様化する介護問題、仕事との両立
14	人生100年時代をどう生きるか最終試験（60分）	・少子高齢社会のライフ&キャリア、年、社会を生き抜く技法・主に第7～13回でテスト実施
15		
16		

科目コード	24102				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	時事英語				担当者名	竹下　厚志			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義、演習	卒業要件	なし

＜授業の概要＞

地球市民として、世界の人たちと様々な分野で交流を持つための基本的な英語コミュニケーション能力を育成することを目的とします。主なテーマをSDGsとして、私たちが直面しているグローバルイシューの解決について一緒に考えていきながら、同時に英語コミュニケーション能力を伸ばしていくことを目指します。【重要】基本的には英語で授業を行います。そのため、英語の教員免許希望者は履修を勧めます。

＜授業の到達目標＞

・SDGsについて基本的な知識を身に付けている。・英語コミュニケーション能力の5技能がバランスよく習得されている。・グローバルイシューについて論理的、批判的、多面的に思考しながら理解している。・SDGsの解決に向けた自分なりの解決策を提案することができる。

＜授業の方法＞

1）授業の進め方　　主に２つのパートから授業は構成されます。一つは英語コミュニケーションの技能習得を目的としたトレーニングです。５技能統合型の手法でCEFR B２レベル以上を目指します。もう一つは　　SDGsを中心としたグローバルイシューに関するディスカッションを通して思考力の向上を目指します。２）ICT活用　　単に英文を理解するという表面的な学習ではなく、ネット上の情報や動画配信を参考に世界課題に対して意識を高めていきます。３）学習管理の方法　　集めた情報や自分の考えをGoogleクラスルームで蓄積・

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

あり。ディスカッション（テーマごとにまとめと意見交換）、プレゼンテーション（各テーマに関する概要、問題提起、解決策、意見）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習・扱っているテーマについての社会情勢（世界情勢）の情報収集（毎日10分以上）・話題提供のための原稿準備（毎回１時間以上）復習・学習した内容を自分の言葉で口頭説明できる準備（毎回30分）・プレゼンテーションの準備（毎回2時間以上）・学習したキーワードの確認・暗唱（毎回30分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー２(初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業内テスト（口頭および筆記） 30%、英語発表 30%、授業参加度 30%、提出物提出 10%

＜教科書＞

＜参考書＞

竹下　厚志（2021年2月25日）　SDGs 英語長文 Core　三省堂
竹下　厚志(2019年4月12日)　SDGs 英語長文　三省堂

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	グローバルイシューとは
2	テーマ学習①ー１	日常的な社会問題
3	テーマ学習①ー２	日常的な社会問題に関する意見交換
4	テーマ学習①ー３	プレゼンテーション
5	テスト①	日常的な社会問題に関する口頭および筆記テスト
6	テーマ学習②ー１	日本と関係するグローバルイシュー情報①
7	テーマ学習②ー２	日本と関係するグローバルイシューに関す関する意見交換
8	テーマ学習②ー３	日本と関係するグローバルイシューに関するプレゼンテーション
9	テスト②	日本と関係するグローバルイシューに関する口頭および筆記テスト
10	テーマ学習③ー１	諸外国のグローバルイシュー情報①
11	テーマ学習③ー２	諸外国のグローバルイシューに関する意見交換
12	テーマ学習③ー３	諸外国のグローバルイシューに関するプレゼンテーション
13	テスト③	諸外国のグローバルイシューに関する口頭および筆記テスト
14	まとめ	TED Talk ：　最も関心のあるテーマ
15		
16		

科目コード	24104				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	異文化コミュニケーション論				担当者名	羽田　あずさ			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
グローバル化が進む現在、異文化を背景として持つ相手と接触する機会も増えています。この授業は、まず自分を知り、次に相手の文化を理解し尊重する態度を身につけることを目的とします。そして様々な事例を読んだり、活動や実践に取り組んだりすることから、異文化理解および異文化コミュニケーションの意義や方法を学びます。なお、この授業はブレンド型（対面とオンラインの組み合わせ）で行いますので、PCを持参の上、臨んでください。受講者多数の場合は英語教員免許または日本語教員資格の取得予定者、および受講意欲の高い学生を優先します

＜授業の到達目標＞
①異なる文化背景を持つ人々と協力できる関係をどのようにすれば築けるかが理解できる。②相手の文化を知り、それを尊重する態度を身に付けることができりう。　③自分の持つ価値、支える背景文化に気づき、世界の価値観や、その背景となる社会・文化が理解できる。

＜授業の方法＞
(1)　講義（教員による解説と問いの提示）(2)　グループワーク（学習内容に関する教え合い）(3)　ディスカッション（問いに対する回答）(4)　省察活動（まとめと発表）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニング（グループディスカッション、ピア・フィードバック、ジグソーなど）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前：テキスト購読や各授業テーマにおける自身の体験・経験の掘り起こしを予習とします（1時間程度）。事後：学んだ内容をどのように生かし、実践していきたいかをレポートにまとめます（1時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー５（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業課題への取り組み・意欲30%、レポート課題 50%、 まとめテスト 20%

＜教科書＞
原沢伊都夫（2024年9月19日）　異文化理解入門（改訂版）　研究社

＜参考書＞
山本志都・石黒武人・Milton Bennett・岡部大祐（2022/11/30）　異文化コミュニケーション・トレーニングー「異」と共に成長する　三修社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダクション（第1章）	授業の進め方と異文化理解の意義について考える。
2	文化とは（第２章・第３章）	文化の定義について学び、自分の文化を振り返る。異文化とは何か考える。
3	異文化適応①（第４章）	私たちが異文化の中におかれた時、どのように適応していくのか、異文化適応の理論を学ぶ。
4	異文化適応②（第４章）	これまでに経験した「異文化適応」の経験を授業で扱った文化や異文化適応の概念を使って説明する。
5	違いに気づく（第６章）	活動を通して異文化への感受性を高める。
6	異文化への認識（第７章）	異文化に対する認識のメカニズムについて考える。
7	差別と異文化理解（第８章）	映像資料を視聴して、差別が起こる原因について考える。
8	世界の価値観（第９章）	様々な価値観について知り、それについて考える。自分の価値観と他者の価値観を比較する。
9	異文化トレーニング（第１０章）	異文化を理解するトレーニングを体験し、異文化理解の方法を知る。
10	異文化受容（第１１章）	異文化を受け入れるプロセスを学び、自分の異文化受容度を内省する。
11	自分を知る（第１２章）	自分を知るための簡単なテストや活動を行う。授業の最後に今日知った自分について発表する。
12	非言語コミュニケーション（第１３章）	非言語コミュニケーションにはどのようなものがあるか学び、自分はどのような非

13	コミュニケーションスタイル（第１４章）	言語コミュニケーションをしているか内省する。 自分のコミュニケーションスタイルを知る。また、相手を尊重するコミュニケーションの方法を考える。
14	多文化共生社会の実現（第１５章）	多文化共生社会の実現に向けて、どのように異文化理解・異文化コミュニケーションを役立てるか考える。
15		
16		

科目コード	24107				区　分	コア科目			
授業科目名	異文化コミュニケーション				担当者名	片上　摩紀			
配当年次	1年	配当学期	第３・第４クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択（日本語教師養成必修）

＜授業の概要＞
この授業は、日本語教師資格取得を目指す学生のための科目です。現代社会はグローバル化・多様化が進んだことにより、様々な考えや価値観を受け入れ、取り入れる国際的人材の育成が急務となりました。この授業では、「異文化」をキーワードとし、世界にある様々な価値観、考え方を学びながら、同時に自分の価値観、考え方といった自文化を振り返ります。その上で、異なる文化背景を持つ者とどのようにコミュニケーションをとっていったらよいか学びます。なお、この授業は、60名を超える場合、抽選にします。

＜授業の到達目標＞
①周りには異文化があふれ、人が違えばその人の価値観、ものの見方も違うということが理解できる。②自分の持つ考え方・価値観など、「自文化」について客観的に見ることができるようになる。③意見が対立しても、相手の文化を尊重しながら、自分の考えを伝えることで、相手と自分を尊重した話し合いができるようになる。

＜授業の方法＞
基本的にはテキストに従って進めていく。知識を解説後、グループワークやディスカッションを中心に活動を行う。適宜、Googleアプリ、動画教材を用いる。そして、活動でわかったこと、感じたこと、疑問に思ったことについて、グループで話し合い、グループまたは個人で発表し、意見交換を行う。大きなテーマについては、話し合ったことや調べたことについてレポートを提出してもらう。課題管理については、Google Classroomで行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有り日本人学生・留学生混合の3-4人のグループに分かれ、各回のテーマについてディスカッションを行う。意見をまとめ、グループごとに発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
（予習）授業では、活動中心のため、教科書の事前学習が必要である。（約1時間）（復習）授業内容をまとめ、教科書の知識をどう使うかといった取り組みについての課題レポートを求める。（約2時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー５(留学や国際交流などを通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として国際社会に貢献できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
話し合いへの参加10%、授業課題・毎回の小テスト20%、事後課題30%、レポート40%

＜教科書＞
原沢　伊都夫　異文化理解入門　株式会社　研究社

＜参考書＞
ヒューマンアカデミー（2021年9月5日）　日本語教育教科書　日本語教育能力検定試験完全攻略ガイド第5版　翔泳社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業内容・評価方法の説明。異文化間教育とは
2	文化とは何か（1）	文化のモデル　常識・非常識について考える。
3	文化とは何か（2）	自分の文化について考える。　文化の特徴
4	異文化適応	異文化適応について理解する。自分の異文化適応を考える。
5	違いに気づく	文化の違いとは何か考える。
6	異文化の認識	固定観念・ファイリング・ステレオタイプとは何か学ぶ。
7	差別について考える①	差別の種類・差別が生まれる背景について学ぶ。　宿題(日常生活で差別につながりそうな問題を探す・発表準備・レジメ提出)
8	差別について考える②	宿題の発表　話し合い　ニュースとなった出来事について確認し、意見交換をする。
9	世界の価値観	世界にある代表的な価値観について学ぶ。
10	異文化トレーニング	様々な異文化トレーニングの方法を学び、実践する。
11	異文化受容	異文化受容のプロセスについて学ぶ。
12	自分を知る	ジョハリの窓による分析
13	コミュニケーション	言語・非言語コミュニケーション、アサーティブコミュニケーションとは何か学び、その重要性を理解する。
14	まとめ	多文化共生社会の実現に向けて必要なことを考える

15 16		

科目コード	24108				区　分	専門基礎科目		
授業科目名	英語文学				担当者名	和栗　了		
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
この授業は、イギリスの文学を代表するウィリアム・シェイクスピア（William Shakespeare, 1564-1616）の作品について講義する。イギリスとは何か、文学とは何かを、シェイクスピアの作品研究を通じて明らかにする。シェイクスピアと言えば、『ロミオとジュリエット』を思い浮かべる人も多いだろうが、シェイクスピアはもっと多様な人間観を示し、もっと深遠な世界観を提示している。人間存在の根底にあるものへの彼のまなざしを議論しながら、シェイクスピアのそれぞれの作品が意味するものを講義する。扱う作品とテ

＜授業の到達目標＞
それぞれの受講生が、受講生はマーク・トウェインの短編作品をひとつの手がかりにしてアメリカ合衆国を、自分なりに理解してください。それが目的です。

＜授業の方法＞
講義形式による。毎回授業開始時に小テスト、講義終了時に小レポートを行う。さらに、毎回宿題を課す。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：講義中に受講生と議論する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
毎回の宿題を完成することと毎回小テストのための勉強をすること。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー５（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
毎回小テスト（50%）＋毎回宿題（30%）＋毎回レポート（20%）全体の最後に成績確認とフィードバックを行う。

＜教科書＞
自作プリントを使用する。

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	感情とカタルシス	『アテネのタイモン』を論ずる。
2	男ってだめね	『シンベリン』を論ずる。
3	男ってほんとにだめね	『ヴェローナの二紳士』を論ずる。
4	ひとまちがい（mistaken identity）	『十二夜』を論ずる。
5	ソネットは愛の歌	Sonnet 18 と Sonnet 25 を論ずる。
6	六月の花嫁	『夏の世の夢』を論ずる。
7	演劇ではなく、本を読め！	『ロミオとジュリエット』を論ずる。
8	歴史は歴史か？	『ジョン王』を論ずる。
9	『ジョン王』を論ずる。	『オイディプス王』を論ずる。
10	悪口は感染する	『オセロー』を論ずる。
11	復讐は狂気	『ハムレット』を論ずる。
12	正義の言葉は無力	『リア王』を論ずる。
13	運命と自由意志	『マクベス』を論ずる。
14	完全な人間、とは？	『テンペスト』を論ずる。成績確認もします。
15		
16		

科目コード	24109				区　分	専門基礎科目		
授業科目名	英語文学史				担当者名	和栗　了		
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
この授業は、英語で書かれた文学、主にイギリスとアメリカ合衆国の文学のエッセンスを、通時的に講義する。それぞれの国を代表する文学者の作品を取り上げながら、その、ひとつの読み方を提示する。文学の歴史とは何か、イギリスとは何か、アメリカ合衆国とは何か、を議論する。なお、講義内容の一部が変更になることがある。

＜授業の到達目標＞
それぞれの受講生が、文学とは何か、イギリスとは何か、アメリカ合衆国とは何か、という課題について、通時的知識を獲得することと同時に、自分なりに解答できるようになることである。

＜授業の方法＞
講義形式による。毎回授業開始時に小テスト、講義終了時に小レポートを行う。さらに、毎回宿題を課す。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：文学の歴史とは何か、イギリスとは何か、アメリカ合衆国とは何かをグループワーク等により議論する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
毎回の宿題を完成することと毎回小テストのための勉強をすること。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー５（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
毎回小テスト（50%）＋毎回宿題（30%）＋毎回レポート（20%）全体の最後に成績確認とフィードバックを行う。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	神話は大切です。	Beowulfを論ずる。
2	中世の華Geoffrey Chaucer。	The Canterbury Talesを論ずる。
3	William Shakespeareの悲劇。	Romeo and Julietを論ずる。
4	William Shakespeareは詩人。	Sonnetを論ずる。
5	清教徒詩人John Milton。	Paradise Lostを論ずる。
6	18世紀イギリスは小説の時代。	Sentimental Journeyを論ずる。
7	Jonathan SwiftとDaniel Defoe。	Gulliver's Travelsを論ずる。
8	18世紀アメリカは出会いの時代。	"Rip Van Winkle"を論ずる。
9	Jane Austenの家庭小説。	Pride and Prejudiceを論ずる。
10	Charles Dickensの冒険小説。	Christmas Carolを論ずる。
11	Nathaniel Hawthorneのキリスト教。	The Scarlet Letterを論ずる。
12	Herman Melvilleの神議論。	Moby-Dickを論ずる。
13	Mark Twainの霊的冒険小説。	Huckleberry Finnを論ずる。
14	Vladimir Nabokovの苦悩。	Lolitaを論ずる。
15		
16		

科目コード	24200				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	英語文法［英語教員希望者限定］				担当者名	井上　聡			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業の目的は、英文法について高校入試や大学入試レベルでの理解を深め、中高英語教員として教壇に立つための素地を構築することです。指導範囲・内容・レベルが広範かつ高度であるため、オリジナル教材とデジタル解説教材を用い、ハイブリッド形式で実施します。課題提出、採点・返却、協同学習、解説、理解度確認テスト、意見交換の順に進めますので、しっかり時間管理を行い、個人差を解消しましょう。学修成果としては、事前課題の精度、小テストのスコア、意見交換の質を求めます。この授業は中高英語教員免許取得のための必修科目ですが、特

＜授業の到達目標＞
１．長時間の事前学習に粘り強く取り組むことができる。２．理解度確認テストで高得点を残すことができる。３．授業後の意見交換において「学びの振り返り」ができる。

＜授業の方法＞
１．例題・類題演習の提出(90分程度) ２．採点・返却３．理解度確認テスト(30分程度) ４．意見交換(10分)※授業はすべてGoogle Classroom上で行われます。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
協同学習（演習問題の教えあい）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：デジタル教材による予習（2時間程度）復習：理解度確認テストの準備（1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー５（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
事前学習 30%, 理解度確認テスト 30%, 意見交換 10%, 期末試験 30％

＜教科書＞
井上聡（2022年4月3日）　これからの英語教師のための深くて苦い英語文法　※授業中に配本　一粒社

＜参考書＞
特に指定しない

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	第１章　英文の構造	自動詞と他動詞，修飾語と付加詞，補語と目的語，OOとOC，文型の判別
2	第２章　語順と意味	授与動詞、創造動詞、前置詞の使い方、文末焦点など
3	第３章　基本時制	時制の一致，未来を表す表現，いろいろな未来，名詞節と副詞節
4	第４章　完了時制	ニュアンス、用法の判別、完了を表すキーワード、複合問題
5	第５章　法助動詞	ニュアンス、種類、 丁寧な用言、書き換え、be to、慣用表現
6	第６章　仮定法	仮定法時制、反実仮想、倒置、様々な構文
7	第７章　文末焦点と態	文体の自然性、態の変換、特殊な変換、前置詞の使い方
8	第８章　不定詞	用法、時制、不定詞と動名詞、原形不定詞、特殊な構文
9	第９章　動名詞	動名詞の時制、形態、語順、慣用表現
10	第１０章　分詞	前置修飾と後置修飾、形態、感情動詞、付帯状況、補語、分詞構文
11	第１１章　比較	比較の強調、様々な構文、書き換え
12	第１２章　関係代名詞	情報量、格、制限用法と非制限用法、特殊な用法
13	第１３章　関係副詞	関係代名詞との違い、関係副詞の成り立ち、特殊な用法、複合関係詞
14	第１４章　接続詞と前置詞など	等位接続詞と接続副詞、従位接続詞、前置詞のニュアンス、無生物主語など
15		
16		

科目コード	24201				区　分	専門基礎			
授業科目名	比較文化論				担当者名	羽田　あずさ			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	なし

＜授業の概要＞
現在世界では様々な文化が存在しており、異文化理解、多文化共生のような言葉をメディアでよく耳にすることが増えてきた。しかし、歴史的にみるとこれらを経験した国がこれまでにも多く存在した。そしてお互いの違いや共通点を分析することによって、お互いの多様性、共生への発展につながってきた。こうした様々な文化を比較研究するのが比較文化である。違いを学び未来への道を探る。

＜授業の到達目標＞
・自国文化と異文化を比較することによって、自国中心のものの見方や価値観ではなく、異文化と共生し、優れたものを吸収し、物事を多元的、複眼的にとらえて、国際的な見方や考え方を養うことができる。・グローバル化の進む日本社会や国際社会を多角的な視点で捉える知識を身につけることができる。

＜授業の方法＞
一部講義も行いますが、多くは皆さんが与えられたタスクに対して、一人で考えたり、ペア・グループで意見交換したりしながら授業を進めていきます。また、発表場面を随時設定します。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニング（グループディスカッション、ピア・フィードバック、ジグソーなど）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前：発表のための準備（２時間程度）事後：振り返りレポート（１時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー５（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業参加度３０％　振り返りレポート３０％　発表４０％

＜教科書＞

＜参考書＞
G・ホフステッド（２０１３年）　多文化世界−違いを学び未来への道を探る−　有斐閣

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション・他文化と日本文化の比較分析①	自分と他国・他文化との関わりを考える。衣食住を中心に他国と日本の類似点・相違点に気づく。
2	他文化と日本文化の比較分析②	衣食住を中心に他国と日本の類似点・相違点を調べて整理し発表する。
3	文化とは何か・文化研究の方法論	文化とは何かを知り、文化を学ぶ意義を考える。
4	文化次元テスト	自分の文化的傾向を知る。
5	権力格差・個人主義／集団主義①	権力格差、個人主義と集団主義について知り、様々な場面における違いについて考える。
6	権力格差・個人主義／集団主義②	権力格差、個人主義と集団主義について知り、様々な場面における違いについて考える。
7	権力格差・個人主義／集団主義③	権力格差、個人主義と集団主義について知り、様々な場面における違いについて発表する。
8	男性性／女性性・不確実性回避①	男性性と女性性、不確実性回避について知り、様々な場面における違いについて考える。
9	男性性／女性性・不確実性回避②	男性性と女性性、不確実性回避について知り、様々な場面における違いについて考える。
10	男性性／女性性・不確実性回避③	男性性と女性性、不確実性回避について知り、様々な場面における違いについて発表する。
11	長期志向と快楽主義①	長期志向と短期主義、放縦と抑制について知り、様々な場面における違いについて考える。
12	長期志向と快楽主義②	長期志向と短期主義、放縦と抑制について知り、様々な場面における違いについて

		考える。
13	長期志向と快楽主義③	長期志向と短期主義、放縦と抑制について知り、様々な場面における違いについて発表する。
14	異文化適応と共生・文化の変化	留学生や海外赴任者の経験を分析し、文化次元との関連を考える。
15		
16		

科目コード	24202				区　分	コア科目			
授業科目名	国際関係論				担当者名	SACKO　Salif			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	集中	単位数	2.00単位	授業方法	集中	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本科目でははは、世界で起きている出来事を理解し、その背景や仕組みを考える学問です。戦争や紛争、貧困、環境問題など、ニュースで見聞きするさまざまな問題を「なぜ起きるのか」「どうすれば解決できるのか」という視点から考えます。これまでの国際社会の歴史や考え方（理論）を学びながら、現在の世界で起きている問題についても自分の頭で考える力を身につけます。また、日本の立場だけでなく、世界全体の視点から物事を見る力（グローバルな視野）を養うことも大切な目的です。●授業のポイント・国際ニュースが「わかる」ようになる・世界の出

＜授業の到達目標＞
この授業を通して、次の力を身につけます。・国際関係の基本的な理論（リアリズムなど）を理解し、説明できる・現代の国際問題をさまざまな視点から分析できる・日本の外交や国際社会での役割を理解できる・国際社会の一員として、自分の意見を持てるようになる

＜授業の方法＞
講義だけでなく、以下のような参加型の活動も行います。グループディスカッションケーススタディ（実際の国際問題の分析）プレゼンテーションまた、最新の国際ニュースを取り上げながら、現実の世界と結びつけて学びます。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
あり・グループディスカッション・ケース分析・プレゼンテーション

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習（約30分）・ニュース（新聞・ネット）をチェックする・次回テーマについて簡単に調べる復習（約30分）・授業内容を整理する・レポートや課題に取り組む

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本授業は以下の能力の育成に寄与する：異文化理解と国際社会への貢献力国際的視野に基づく問題分析能力

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業参加・出席：30%課題（小レポート・発表）：30%期末レポート：40%※授業中やコメントでフィードバックを行います。

＜教科書＞
教科書：指定なし参考書：国際関係論や国際政治・経済の入門書

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	国際関係論	ガイダンス
2	国際関係論の基礎	国際関係の歴史
3	国際関係論の基礎	リアリズム
4	国際関係論の基礎	リベラリズム
5	国際関係論の基礎	コンストラクティビズム（価値観や文化が国際関係に与える影響）
6	国際関係論の基礎	国際機構と世界のルール（国連などの役割）
7	国際関係論の基礎	安全保障と紛争
8	国際関係論の基礎	核問題と軍縮
9	国際関係論の基礎	国際政治経済
10	国際関係論の基礎	地域統合（EUやアジアの地域協力）
11	国際関係論の基礎	人権と移民
12	国際関係論の基礎	現代の国際課題
13	国際関係論の基礎	まとめ・発表
14	国際関係論の基礎	期末レポート
15		
16		

科目コード	24303				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	上級英語文法［英語教員希望者限定週間オンデマンド］				担当者名	井上　聡			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本授業の目的は、難度の高い英文法の知識を網羅型で学習し、英検準1級以上、TOEICスコア785点以上の英語力を身に着けることです。デジタル解説教材とオリジナル教材を活用して事前に問題点を明らかにし、文法問題演習を繰り返し、オンライン試験を通して理解度を高めましょう。学習成果にとしては、デジタル教材の活用力、理解度確認テストのスコア、意見交換の質を求めます。なお、この授業はオンデマンド型で行いますので、課題提出やテスト受験等の期限を必ず守ってください。※原則、英語教職課程履修者のみ受講を受理します。他の要因

＜授業の到達目標＞

１．事前学習（ノートテイキング）に粘り強く取り組み、「分かること」と「分からないこと」を区別できる。２．理解度確認テストで高い正答率を残すことができる。３．意見交換の場で、学びの内容を適切に言語化できる。

＜授業の方法＞

１．事前課題（テキスト８ページの予習）（2時間程度）２．採点・返却３．理解度家訓テスト（30分程度）４．意見交換（5分）※授業はすべてGoogle Classroom上で行われます。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

事前課題の優秀作品やテスト優秀者の氏名については随時、Classroomのストリームで公開します。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：デジタル教材を活用した事前課題（8ページ）の提出　（３時間程度）復習：理解度確認テストの受験＋意見交換　（１時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー２（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー５（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題 30%、理解度確認テスト 30%、意見交換 10%、期末試験 30%

＜教科書＞

井上聡（2022年4月）　上級英語文法：攻略ポイント210※継続履修できる学生にのみ、直接配布します。　一粒書房

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	シラバス説明、シミュレーション（教科書・デジタル教材の使い方）
2	第１章　動詞の語法①第２章　動詞の語法②	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
3	第３章　動詞の時制第４章　法助動詞	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
4	第５章　態の変換第６章　不定詞①	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
5	第７章　不定詞②第８章　分詞	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
6	第９章　動名詞第１０章　関係詞①	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
7	第１１章　関係詞②第１２章　仮定法	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
8	第１３章　比較表現①第１４章　比較表現②	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
9	第１５章　名詞の語法第１６章　代名詞の語法	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
10	第１７章　形容詞の語法第１８章　副詞の語法	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
11	第１９章　接続詞①第２０章　接続詞②	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
12	第２１章　前置詞①第２２章　前置詞②	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
13	第２３章　疑問・否定・倒置・強調・一致第２４章　まとめ	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
14	総復習	例題、類題、テスト
15		

16		

科目コード	24407				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	上級オーラルコミュニケーション				担当者名	竹下　厚志			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	なし

＜授業の概要＞

地球市民として、世界の人たちと様々な分野で交流を持つための基本的な英語コミュニケーション能力を育成することを目的とします。主なテーマをSDGsとして、私たちが直面しているグローバルイシューの解決について一緒に考えていきながら、同時に英語コミュニケーション能力を伸ばしていくことを目指します。【重要】基本的に英語で授業を行います。

＜授業の到達目標＞

・SDGsについて基本的な知識を身に付けている。・英語コミュニケーション能力の5技能がバランスよく習得されている。・グローバルイシューについて論理的、批判的、多面的に思考しながら理解している。・SDGsの解決に向けた自分なりの解決策を提案することができる。

＜授業の方法＞

主に２つのパートから授業は構成されます。一つは英語コミュニケーションの技能習得を目的としたトレーニングです。５技能統合型の手法でCEFR B２レベル以上を目指します。もう一つはSDGsを中心としたグローバルイシューを通して思考力の向上を目指します。単に英文を理解するという表面的な学習ではなく、皆さんがその世界課題に対してどのように考え、解決のための行動を起こせるかについて一緒に考え、行動計画を立てたいと思います。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

あり。ディスカッション（日常的な話題から社会問題までペア・グループによる意見交換）、プレゼンテーション（特定の話題について事実・問題提起・意見）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習・英文日記（毎日15分）・社会情勢（世界情勢）の情報収集（毎回1時間程度）。復習・学習した英文の暗唱・サマリー（毎日30分）・プレゼンテーションの準備（毎回2時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー２（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー５（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加度40%、提出物提出20%、発表40%（原則、英語による発表）

＜教科書＞

＜参考書＞

竹下　厚志（2021年2月25日）　SDGs 英語長文 Core　三省堂
竹下　厚志(2019年4月12日)　SDGs 英語長文　三省堂

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	今後の学習の方向性の相談
2	テーマ学習①	身近なテーマについて意見交換
3	テーマ学習②	身近なテーマについて意見交換
4	テーマ学習③	身近なテーマについて意見交換
5	テーマ学習発表①	身近なテーマに関する意見発表
6	テーマ学習④	グローバルイシューに関する英文理解とトレーニング
7	テーマ学習⑤	グローバルイシューに関する英文理解とトレーニング
8	テーマ学習⑥	グローバルイシューに関する英文理解とトレーニング
9	テーマ学習発表②	グローバルイシューに関する意見発表
10	テーマ学習⑦	日本と直接関係する社会問題に関する英文理解とトレーニング
11	テーマ学習⑧	日本と直接関係する社会問題に関する英文理解とトレーニング
12	テーマ学習⑨	日本と直接関係する社会問題に関する英文理解とトレーニング
13	テーマ学習発表③	最も関心のある社会問題に対する発表①
14	ディスカッションと意見表明（テスト）	複数のグローバルイシューに関する意見交換と自己表現
15		
16		

科目コード	25100				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	体育原理［PP用］				担当者名	早田　剛			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
体育原理とは、体育の本質的追求である。また、よい体育とは何かを明らかにし、それを発展させるには何が問題であるかを科学的法則に基づいて、その原理を示す役割を持っている。本講義では、体育・スポーツの発生の契機、社会におけるその定着の歴史的な過程、その展開を平和的に管理するルールの特質、さらには現代社会におけるスポーツのあり方等を検討することにより、体育を重要な教材として取り入れる体育教育の今日的意味を再確認する。

＜授業の到達目標＞
体育・スポーツの基礎概念について考えていくことにより、体育学・スポーツ科学を専門的に学ぶための基礎的知識を身につけるとともに、体育・スポーツを批判的に検討できる能力・思考の育成を目指す。

＜授業の方法＞
授業の流れ１.予習課題の確認（約10分）２.テーマに沿った解説と問いの提示①（約10分）３.意見交換：上記テーマに即した意見提出とディスカッション（約30分）４.テーマに沿った解説と問いの提示②（約10分）５.グループ発表および聴講（約30分）：６.課題レポート作成（約10分）次週課題の確認　（➡自宅学習：約30~60分）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）3から４人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習課題：授業テーマについて事前調査を行い、自分の意見をまとめる（1時間）授業後課題：授業でディスカッションした内容を自分で省察し、自分の言葉としてまとめる（２時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
予習課題：10%、意見交換：20%、発表：30%、授業後レポート：20%、※最終レポート：20%として、総合的に評価する。

＜教科書＞
B5判／218ページ（令和4年度発行版）https://www.taishukan.co.jp/hotai/high/product/?type=textbook&id=59　現代高等保健体育　保体「701」（ISBN:9784469663198）　大修館書店

＜参考書＞
友添秀則、岡出美則 編（2016年）　教養としての体育原理　大修館書店
髙橋 徹　編（2021年）　はじめて学ぶ体育・スポーツ哲学　サンメッセ株式会社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	体育原理とは	１）ガイダンスとして、授業概要を確認する２）体育とは何か、体育の理念はどう変わってきたかを学び、自分の意見を検討する。体育学科を卒業する意味を検討する
2	体育とスポーツは何が違うのか	体育とスポーツの混同と混用について学び、自分の意見を検討する
3	身体からみた体育の可能性	学校教育と身体教育について育てるべき「身体」を考え、〈できる〉とはどういうことかを検討する
4	体育で競争をどう位置付けるか	体育における競争とはどういう位置付けるかを学び、自分の意見を検討する
5	体育における人間形成	体育における人間形成とはどういう意味かを学び、自分の意見を検討する
6	体育と指導者	体育教師とコーチは何が違うのかを学び、自分の意見を検討する
7	スポーツと科学	スポーツ科学は、様々な情報（データ）に基づいて、スポーツ活動を充実させるためのアイデアを提供する学問分野を理解し、活用方法についての自分の意見を検討する
8	運動部活動の意義と課題	運動部活動の意義と課題を学び、自分の意見を検討する
9	プレイが生み出す体育の可能性	スポーツとプレイ（遊び）について学び、自分の意見を検討する
10	スポーツとルール	ルールの正しい「解釈」が必要であることを理解し、自分の意見を検討する
11	スポーツと文化	身体に文化を伝承するプロセスについて、教育的な行為との関係から学び、自分の意見を検討する
12	スポーツとビジネス	スポーツにおけるビジネス化の構造やそれを牽引する仕組みについて理解を深めるとともに、課題について検討する
13	スポーツと社会	スポーツ需要の質的変化に対して、その課題を解決を促す新たな体育・スポーツ需

14 15 16	スポーツとコミュニティまとめ	要を検討する 1)スポーツとコミュニティを取り巻く現状と課題について理解を深め、地域づくりなどについて検討する2)体育原理を総括する

科目コード	25100				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	体育原理［週間オンデマンド］				担当者名	早田　剛			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
体育原理とは、体育の本質的追求である。また、よい体育とは何かを明らかにし、それを発展させるには何が問題であるかを科学的法則に基づいて、その原理を示す役割を持っている。本講義では、体育・スポーツの発生の契機、社会におけるその定着の歴史的な過程、その展開を平和的に管理するルールの特質、さらには現代社会におけるスポーツのあり方等を検討することにより、体育を重要な教材として取り入れる体育教育の今日的意味を再確認する。

＜授業の到達目標＞
体育・スポーツの基礎概念について考えていくことにより、体育学・スポーツ科学を専門的に学ぶための基礎的知識を身につけるとともに、体育・スポーツを批判的に検討できる能力・思考の育成を目指す。

＜授業の方法＞
授業の流れ１.予習課題の確認（約10分）２.テーマに沿った解説と問いの提示①（約10分）３.意見交換：上記テーマに即した意見提出とディスカッション（約30分）４.テーマに沿った解説と問いの提示②（約10分）５.グループ発表および聴講（約30分）：６.課題レポート作成（約10分）次週課題の確認　（➡自宅学習：約30~60分）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
次回の授業で取り上げる問題について思考し、予習課題：授業テーマについて事前調査を行い、自分の意見をまとめる（1時間）授業後課題：授業で学んだ内容を自分で省察し、自分の言葉としてまとめる（２時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
予習課題：10%、意見交換：20%、発表：30%、授業後レポート：20%、※最終レポート：20%として、総合的に評価する。

＜教科書＞
B5判／218ページ（令和4年度発行版）https://www.taishukan.co.jp/hotai/high/product/?type=textbook&id=59　現代高等保健体育　保体「701」（ISBN:9784469663198）　大修館書店

＜参考書＞
友添秀則、岡出美則 編（2016年）　教養としての体育原理　大修館書店
髙橋 徹　編（2021年）　はじめて学ぶ体育・スポーツ哲学　サンメッセ株式会社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	体育原理とは	１）ガイダンスとして、授業概要を確認する２）体育とは何か、体育の理念はどう変わってきたかを学び、自分の意見を検討する。体育学科を卒業する意味を検討する
2	体育とスポーツは何が違うのか	体育とスポーツの混同と混用について学び、自分の意見を検討する
3	身体からみた体育の可能性	学校教育と身体教育について育てるべき「身体」を考え、〈できる〉とはどういうことかを検討する
4	体育で競争をどう位置付けるか	体育における競争とはどういう位置付けるかを学び、自分の意見を検討する
5	体育における人間形成	体育における人間形成とはどういう意味かを学び、自分の意見を検討する
6	体育と指導者	体育教師とコーチは何が違うのかを学び、自分の意見を検討する
7	スポーツと科学	スポーツ科学は、様々な情報（データ）に基づいて、スポーツ活動を充実させるためのアイデアを提供する学問分野を理解し、活用方法についての自分の意見を検討する
8	運動部活動の意義と課題	運動部活動の意義と課題を学び、自分の意見を検討する
9	プレイが生み出す体育の可能性	スポーツとプレイ（遊び）について学び、自分の意見を検討する
10	スポーツとルール	ルールの正しい「解釈」が必要であることを理解し、自分の意見を検討する
11	スポーツと文化	身体に文化を伝承するプロセスについて、教育的な行為との関係から学び、自分の意見を検討する
12	スポーツとビジネス	スポーツにおけるビジネス化の構造やそれを牽引する仕組みについて理解を深めるとともに、課題について検討する
13	スポーツと社会	スポーツ需要の質的変化に対して、その課題を解決を促す新たな体育・スポーツ需要を検討する

14 15 16	スポーツとコミュニティまとめ	1)スポーツとコミュニティを取り巻く現状と課題について理解を深め、地域づくりなどについて検討する2)体育原理を総括する

科目コード	25101				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	健康科学概論［週間オンデマンド］				担当者名	十河　直太			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
人が健康的に生きていくためには,複合的な要素を多く必要とする.本科目では,運動習慣の少ない者から多い者まで多岐にわたり,運動と健康に関連する要素を様々な面からアプローチする．また，実際の現場で行われている手法や現状，最新の研究結果も併せて紹介する.

＜授業の到達目標＞
健康の維持・増進の立場から運動やスポーツの目的や役割，意義を理解し、今後の協議や日常生活に役立てることができる.

＜授業の方法＞
授業では事前課題と事後課題，意見交換をGoogle classroomを用いて行うため、，PC機器をインターネットに接続できる環境が必要である。オンデマンド形式で実施する際は，課題の視聴，回答あるいは意見交換を全てオンラインで行う。対面形式ではパワーポイントなどのスライドを提示する。授業内での課題提出をオンラインで行うこともあるため，対面形式で授業を実施する際もPCを必ず持参すること。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素：無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各講義内容に対して関連する参考書や論文に目を通し，予備知識を得ておくと理解しやすい（各授業の単元につき1時間を目安とする）.

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講意欲・態度 30%，小テスト30%，期末試験 40%

＜教科書＞

＜参考書＞
ビクター カッチ,ウィリアム マッカードル,フランク カッチ(著)　2017/9/15　カラー運動生理学大事典：健康・スポーツ現場で役立つ理論と応用　西村書店
日本体育協会(監修),田中 喜代次(編集)　2013/5/30　健幸華齢(Successful Aging)のためのエクササイズ　サンライフ企画
安倍孝，琉子 友男（編集）　2015/3/21　これからの健康とスポーツの科学　KSスポーツ医科学書

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	運動・競技スポーツと健康の関係
2	運動とエネルギー供給機構	糖・脂質・タンパクの代謝経路と運動との関係
3	身体発達と加齢	幼児～青年～成人～高齢者にかけての変化と健康科学との関連
4	生活習慣病関連疾患（概要）	近年の生活習慣病の現状
5	生活習慣病関連疾患①	心血管疾患
6	生活習慣病関連疾患②	肝機能関連疾患
7	運動処方と食事療法	健康を維持するための運動・食事プログラムと実践例
8	アスリートの健康科学①	内科的・外科的アプローチ（概要）
9	アスリートの健康科学②	オーバートレーニング，摂食障害，過換気症候群
10	スポーツ傷害	外傷・障害に対する予防・対処法
11	ドーピング	フェアプレーとアンチドーピング
12	アダプテッドスポーツ	障がい者スポーツの現状と課題
13	性差	性差が健康・運動に及ぼす影響
14	女性の健康科学	月経周期や女性ホルモンの役割、Female Athlete Triadと今後の課題
15		
16		

科目コード	25103				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	発育と発達				担当者名	田中　耕作			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本講義では、幼少年期における身体の形態や機能が変容していく発育と発達と老化についての基礎的知識を習得することを目的とする。

＜授業の到達目標＞
発育・発達および老化に関する基礎理論を理解し、説明できる。各発達段階における体力・運動能力の特徴を整理し、具体的に示すことができる。運動発達の知見をもとに、対象に応じた運動指導の考え方を提案できる。スポーツ指導者資格に必要な基礎知識を体系的に身につけている。

＜授業の方法＞
各テーマに沿った内容を資料やパワーポイントを用いて解説する。また、毎時間において、前時の講義内容について小テストを実施する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素：あり運動能力の変化等のデータについてグループでディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習として、参考図書・配布資料に目を通し、各回のテーマに関連する発育・発達の基礎概念や用語を整理する(30～60分程度)。
事後学習として、授業内容を振り返り、各発達段階の特徴や運動発達のポイントをまとめるとともに、毎時の課題レポートを作成する（60～90分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
日常の授業における実践的な態度および小テストを含む課題提出（70%）。また、最終講義を終えた上でのまとめのテスト(30%)を実施し、以上を総合的に評価する。

＜教科書＞
教科書は使用しないが、各単元ごとに資料を配布する。

＜参考書＞
（公財）日本スポーツ協会(2019)　公認ジュニアスポーツ指導員テキスト専門科目テキスト　（公財）日本スポーツ協会
杉原隆・河邉貴子(2014)　幼児期における運動発達と運動遊びの指導-遊びの中で子どもは育つ-　ミネルヴァ書房
（財）健康・体力づくり事業財団（2008）　健康運動指導士養成講習会テキスト　（財）健康・体力づくり事業財団

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概要
2	体力とは	体力と運動能力について
3	健康とは	健康に関する概念について
4	からだ（形態）の発育発達	発育発達期の身体の発達について
5	発育発達期におけるケガの実態	発育発達期に多いケガや病気について
6	発育発達期の運動プログラム	コーディネーションとは
7	動作の発達と体力測定①	幼児体力指針と新体力テスト
8	動作の発達と体力測定②	歩く・走る・跳ぶ
9	動作の発達と体力測定③	投げる・捕る・体を支える
10	運動発達の捉え方①	体力・運動能力の発達と遊びの効用
11	運動発達の捉え方②	運動発達における年齢と性差
12	運動発達の捉え方③	運動コントロール能力における年齢と性差
13	老化と生活習慣①	フレイルとは？
14	まとめ	全時限の講義内容のまとめ
15		
16		

科目コード	25200				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	体育行政学				担当者名	藤谷　かおる			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
現代日本における体育・スポーツに関する行政及びその政策について、体系的に理解し、他者に説明できることを目的としている。そのため、体育・スポーツに関する行政及びその政策について、基本的な事項を解説するともに近年の体育・スポーツ政策の動向を解説する。また、それらの知識に基づいて、多様な立場・価値観を理解し、尊重しながら、グループワークに取り組み、授業の理解度及びグループワークへの貢献度をレポート・グループワーク課題に基づいて評価する。

＜授業の到達目標＞
①　現代社会における体育･スポーツに関する行政及びその政策について､体系的に理解し､他者にも説明できるようになる｡②　グループワークに主体的に参加し、多様な立場及び価値観を理解し、尊重し、グループワークに貢献できるようになる。

＜授業の方法＞
参考資料やプレゼンテーションを使用する一斉授業及びグループワークにおいて展開する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有（グループワーク）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
①　予習：毎時間課される次週課題について(５分程度)②　復習：毎時間課される授業課題について(５分程度)③　数回にわたり授業テーマに関連するレポート課題を指示する。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
①　振り返りテスト　５０%②　レポート課題　　３０%③　プレゼン　　２０%　　(グループワーク貢献度)

＜教科書＞

＜参考書＞
菊　幸一、齋藤　健司、真山　達志、横山　勝彦ら（発行2011.11.20）　スポーツ政策論　成文堂
時本識資・田畑亮・内藤正和（発行2019.9.25）　はじめて学ぶスポーツ政策　アイオーエム
阿部　篤志、久保田　潤、中村　宏美、本間　恵子(発行2020.3)　スポーツ担当者になったら読む本　独立行政法人　日本スポーツ振興センター

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション、我が国のスポーツ推進策の変遷について	オリエンテーションとして授業内容、成績評価等の説明を行い、戦後から現在までの体育・スポーツ推進策の変遷について学ぶ。
2	体育・スポーツの定義・概念と歴史について	スポーツの意味と語源、その歴史について理解し、変化する現代スポーツのとらえ方、考え方についても学ぶ。
3	体育・スポーツ行政の「背景・根拠となる法令等」と「しくみ、役割・責務」について	(1)我が国のスポーツ推進の基本方策を定める「旧法：スポーツ振興法」「現行法：スポーツ基本法」及びその他のスポーツ関連法令も含めて学ぶ。（2）体育・スポーツ行政の主な所管「文部科学省の外局であるスポーツ庁」と関係省庁、関連スポーツ組織及び自治体組織について学ぶ。
4	スポーツ基本法と「スポーツ基本計画」	「第３期スポーツ基本計画」を中心に学ぶ。
5	スポーツ基本法第１０条に基づく「地方スポーツ推進計画」について	最近策定された地方スポーツ推進計画(都道府県や市区町村計画)について学ぶ。
6	公共スポーツ施設の管理運営(指定管理者制度を含む)とその変遷について後半：グループワークつくり	○前半は施設の管理運営に係る指定管理者制度について(講義)○後半：グループワーク(７，８人のグループをつくる).テーマとして、望ましい公共スポーツ施設もしくは地域スポーツ推進策について、各々皆さんがアイデアを考え、授業の最後にグループ内で発表し合う。
7	テーマ：望ましい公共スポーツ施設を設計グループ代表者による発表会(プレゼンテーション)	発表テーマは、望ましい公共スポーツ施設及び地域スポーツ推進策について、グループで発表する。
8	主に前半授業で学んだ内容の「ふり返りのテスト(60分程度)」	前半第１回～第８回授業で学んだ「ふり返りのテスト(授業時配布資料持ち込み可)」を実施する。
9	学校体育行政と運動部活動改革(地域移行、地域展開)について	特に「運動部活動改革」については、行政や学校、教師だけでは解決することができない課題(教員の負担増と少子化で維持困難)が増えており、従前と同様の運営体制

		ではその維持が難しくなってきている。スポーツ庁では令和５年４月から中学校部活の休日を地域移行(展開)をすすめているが、各自治体でも取り組みを始めている。将来的には運動部活動の存続の危機となることからこの現状を学ぶ必要がある。
10	地域スポーツクラブの育成(スポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブ等)について	地域で活動する「スポーツ少年団」や「総合型地域スポーツクラブ」の育成について学ぶ。
11	地域スポーツ組織とそのマネジメントについて	地域スポーツ組織の主なタイプとその役割、さらにスポーツと景観・環境・文化などの地域資源を掛け合わせ、戦略的に活用することでまちづくりや地域活性化につなげる「地域スポーツコミッション」の取組について学ぶ。
12	スポーツ団体のマネジメントとスポーツ指導者の資格と制度	スポーツに関わる指導者養成機関は、次のような団体、機関があり、各認定資格を紹介する。※但し、医療系スポーツ団体は挙げていない。具体的には、(公財)日本スポーツ協会、(公財)健康・体力づくり事業財団、(公財)日本レクリエーション協会、(公財)日本スポーツクラブ協会、(公財)日本スポーツ施設協会、(公財)笹川スポーツ財団などがある。
13	その他主なスポーツ推進施策(高齢者、女性、障がい者)について	国民のスポーツ定期的実施率を向上させ、日々の生活の中で一人一人がスポーツの価値を享受できる社会を構築するため、各種のスポーツ施策(sport in life、運動スポーツ習慣化促進事業など国民スポーツ全般、女性スポーツの参加、障がい者スポーツなど)について学ぶ。
14	本授業の総括、後半授業で学んだ内容の「ふり返りのテスト」	本授業の総括、後半授業(第10回～第14回)で学んだ「ふり返りのテスト(60分程度、授業時配布資料持ち込み可)」を実施する。
15		
16		

科目コード	25201				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	体育社会学				担当者名	片桐　夏海			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
現代において、スポーツは私たちの生活に深く根ざしている。日常生活の至る所でスポーツに関連する情報に触れることができる一方で、スポーツの大衆化と機能の拡大は多様な社会問題を引き起こしている。近年の例を挙げれば、暴力に関する問題や、オリンピックと政治の問題、運動部活動の運営問題など、スポーツの抱える問題も膨大となっている。スポーツに関わる中では、そうした社会事象とも無関係でいることはできず、無視することもできない。スポーツを考える際の基礎的な知識を身に付け、考察する方法を学ぶ必要がある。本授業では、スポーツ社

＜授業の到達目標＞
スポーツへの関わり方は十人十色であり、一つの事象に対する見解や意見も多種多様である。そうした状況の中で互いに理解を深めるには、自らの意見や感覚を論理的に説明し、他者との意見交流によって相対化することで認識を深める過程が重要である。加えて、特定の社会集団で共通してみられる傾向や偏りを見抜き、因果を理解することも重要である。本授業では以下の2点を目標に設定する。①体育・スポーツに関わる事象を社会学の知見を踏まえて説明することができる。②体育・スポーツ社会学の視点を理解した上で、論理的かつ建設的に他者と意見の交

＜授業の方法＞
本授業は、主に参考資料やパワーポイントを用いた講義形式で進めるが、授業内容を深化させるため、ディベートやグループワークを適宜取り入れる。各授業回の終わりには、その日の学びを確認するための簡易テストや、テーマに基づいた意見を述べるオンラインテストを実施する。なお、一部は次回の授業において受講者全体に紹介しつつフィードバックコメント（基本的にGoogle Formを活用）を行う。また、課題の作成や資料、授業内容の共有については、主にGoogleクラスルームを通じて行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
本授業では、講義形式に加え、ディベートやグループワークを取り入れることで、学習者が能動的に社会問題とスポーツの関係について考察する機会を設けている。また、授業後のオンラインテストや意見提出、全体共有によるフィードバックなどを通じて、知識の内省と他者との比較・対話が促進される。これらの活動は、学習者の主体性を高め、深い理解を目指すアクティブラーニングの要素を備えている。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
＜準備学習＞スポーツや社会問題を扱った新聞等に注意を払い興味があれば詳細を調べておくこと。（1時間）事前課題が課される回は授業前に提出すること。＜事後学習＞授業で学んだ観点から新聞等を再度見てみること。授業後に調べたことなどがあれば積極的にコメントシートに記述すること。コメントの内容はスプレッドシートで全体に公開するため、他の受講者のコメントを読み、適宜再コメントを行うこと。授業で得た知見を積極的に日常での実践に活用すること。（1時間）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
成績は、【各回での確認シートおよび授業態度 60%、試験（論述レポート型） 40%】の配分で評価する。授業内での発言やコメントシートでの意見、考察が論理的であるかを重視する。試験では、知識量よりも論理的思考能力や、自分なりの（個別具体的な）考察が行えているかを重視する。

＜教科書＞
特になし（参考書を参照のこと）

＜参考書＞
多木浩二(1995)　スポーツを考える―身体・資本・ナショナリズム　筑摩書房
山田明編（2020）　未来を拓くスポーツ社会学　みらい

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	体育・スポーツ社会学とは	社会学の対象としての体育およびスポーツ「体育・スポーツの社会学」における視角
2	体育・スポーツの世界の生きづらさ	学校体育、運動部活動、運動会の現代的課題体育・スポーツの社会システム
3	メディアとスポーツ	物語（言説）の生産と消費情報社会化するスポーツ
4	ジェンダー・人種・身体とスポーツ	社会的マイノリティの葛藤とスポーツ実践スポーツのカテゴライズ機能、言説の生産と消費
5	逸脱行為（ドーピング）とスポーツ	競技生活者の葛藤とスポーツ実践スポーツにおける不正行為と正当性、妥当性
6	相互行為としてのスポーツ	トップ指導者の葛藤と実践柔道指導者の事例からみる感情労働と社会的行為
7	スポーツの表象と「まなざし」	スポーツ界からの発信と社会通念の介入社会から「監視」されるスポーツ
8	身体感覚と身体知・身体技法	技の習得とその視点東洋的身体技法、ボディワークの社会実践柔術から柔道、そし

		てJUDOへ
9	障がい者とスポーツ・パラリンピック	社会モデルと医学モデルマイノリティのスポーツから見えるスポーツの性質、排除と包摂
10	政治とスポーツ（ナショナリズム）	スポーツの政治利用スポーツと平和・戦争
11	商業主義とスポーツ	資本主義とスポーツの関係金儲けの対象としてのスポーツ
12	開発主義とスポーツ	スポーツを通した開発、スポーツによる開発メガスポーツイベントと社会的なインパクト
13	環境問題とスポーツ	スポーツによる環境問題・環境問題によるスポーツへの影響自然環境とスポーツ
14	授業のまとめと振り返り・到達度確認テスト	授業のまとめ、ふりかえり、到達度の測定
15		
16		

科目コード	25202				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	スポーツバイオメカニクス				担当者名	秦　啓一郎			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
身体運動の成り立ちを理解することは、なぜその動作になるのか、どう改善すれば良いのかを理解することができるため、理想とする身体運動を真に再現可能となる。本授業では、身体と運動の力学をキーワードに、特に競技スポーツの身体動作について、バイオメカニクスの基礎と自然科学的な研究成果から体系的に講義する。

＜授業の到達目標＞
競技スポーツにおける巧みな身体動作の成り立ちをバイオメカニクスの観点から理解することができる。

＜授業の方法＞
対面での講義の授業形態で行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有り各テーマでグループを作り、ディスカッションと発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
【予習】 ① 次週の授業テーマに関して、経験のある運動とバイオメカニクス的な関わりを考えること（10分）。② 授業内容と関連する他基礎科目（生理学や解剖学など）の予習を行うこと（20分）。【復習】① 授業内容で学んだ内容を各自が得意とする運動に応用し、実践すること（30分）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。 ）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
出席点 30%課題提出点 30%課題点 40%

＜教科書＞

＜参考書＞
深代千之ほか　スポーツ動作の科学 −バイオメカニクスで読み解く−　東京大学出版会
福永哲夫ほか　筋の科学辞典　朝倉書店
Peter M. McGinnis（監訳 柳谷登志雄ほか）　スポーツと運動のバイオメカニクス　メディカル・サイエンス・インターナショナル

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	単位取得上の諸注意、授業展開の概要を述べるとともに、スポーツバイオメカニクスに関する知識を深めることがスポーツ科学の学習と実践においてどのような意義を有しているかを説明し、今後の講義に対する動機づけを行う。
2	バイオメカニクスの基礎	スポーツバイオメカニクスの基礎的な内容を主に以下の観点から説明する。1）バイオメカニクスのニュートンの運動3法則から力の性質について概説するとともに、運動との関係について説明する。2）人間身体のモデル化と身体重心について説明する。
3	並進および回転運動の力学	並進運動のキネマティクス（運動学）では、距離と変位の違い、速度と速さ（スピード）の違い、投射運動などを中心に説明する。回転運動のキネマティクス（運動学）では、慣性モーメントや角速度などを中心に説明する。また、回転運動のキネティクス（運動力学）について、トルクなどを中心に説明する。
4	力学的仕事・エネルギー・パワー	運動における位置エネルギーや運動エネルギーなどを中心に説明する。
5	筋・腱のバイオメカニクスⅠ	骨格筋に関する内容を主に以下の観点から説明する。1）骨格筋の種類について、2）骨格筋が有する力学的特性に関して、長さ－力関係、力－速度関係について、3）弾性体としての力学的特性、硬さの定義について説明する。
6	筋・腱のバイオメカニクスⅡ	腱組織に関する内容を主に以下の観点から説明する。1）腱組織の力学的特徴について、2）運動中の「バネ」的な作用について説明する。また、筋の活動を制御する活動電位、筋電図とスポーツにおける応用について説明する。
7	流動力学とスポーツ	空気や水による流体力とスポーツにおける応用について説明する。
8	跳躍のバイオメカニクス	高く、遠く跳ぶためのメカニクスをバイオメカニクス的に学ぶ。
9	投・打のバイオメカニクス	野球を例に、速い球を投げる、打球を遠くに飛ばすメカニクスをバイオメカニクス的に学ぶ。
10	蹴球のバイオメカニクス	サッカーのキックを例に、速い球を蹴る、回転をかけるメカニクスについてバイオメカニクス的に学ぶ。

11	歩行・走行のバイオメカニクス	歩く、走るに関する力学的な効率と速く走るためのメカニクスをバイオメカニクス的に学ぶ。
12	身体パフォーマンスの評価とスポーツバイオメカニクス	スポーツバイオメカニクスを用いてアスリートの身体運動を評価した例に関する映像を視聴し、スポーツ場面での活用方法を考える。
13	スポーツ用具のバイオメカニクス	ランニングシューズを中心とした用具について、バイオメカニクス的な開発背景や身体運動への効果について学ぶ。
14	まとめ	バイオメカニクスの競技スポーツへの応用を中心にまとめと振り返りを行う。
15		
16		

科目コード	25202				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	スポーツバイオメカニクス［週間オンデマンド］				担当者名	佐藤　伸之			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
身体の動く仕組みを物理学的にアプローチする学問をバイオメカニクスという。本授業では、スポーツ現場でのバイオメカニクスについて学び、スポーツバイオメカニクスの基礎を理解し、身体運動の背景を力学的に捉えることができるようにする。さらに自身が指導者になるうえでのコーチング現場でのバイオメカニクスの応用について学び、自身の考えをまとめる。また、健康運動指導士・健康運動実践指導者・CSCSなどを取得するためには必修となる科目である。

＜授業の到達目標＞
①スポーツバイオメカニクスの授業内容に含まれているスポーツ動作の特徴を専門用語を用いて理解できるようになる。②スポーツバイオメカニクス的視点で、スポーツや運動の観察・指導または改善方法を考案できるようになる。

＜授業の方法＞
毎授業，動画視聴し、確認テストおよび授業振り返りシートの記入を行う（オンデマンド形式）。必要に応じて、確認テストの代わりとして小レポートの課題を提示する。classroomに補足資料などを掲載する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
次週のキーワードを提示するので、各自でWeb、図書などを活用し予習してくること（1～2時間）。関連科目（運動学、生理学、解剖学、数学など）の復習を必要に応じて行うこと（1～2時間）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
毎回の課題60%、期末試験（最終課題レポート）40%

＜教科書＞
なし

＜参考書＞
深代千之ほか編著　スポーツバイオメカニクス　朝倉書店
深代千之ほか　スポーツ動作の科学-バイオメカニクスで読み解く-　東京大学出版会
宮西智久 ほか　はじめて学ぶ 健康・スポーツ科学シリーズ4　スポーツバイオメカニクス　(株)化学同人

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス、スポーツバイオメカニクスについて	授業の流れの説明、バイオメカニクスの基礎、スポーツバイオメカニクスの視点について
2	人体の動く仕組み	ヒトの骨格系、関節、関節運動の可動域について
3	運動と力	運動の法則、力の性質について
4	並進運動	身体運動の運動学的記述、変位・速度・加速度について
5	回転運動	角変位・角速度・角加速度について、並進運動と回転運動の関係について
6	流体力学	流体の抗力と揚力について、浮力、マグヌス効果について
7	スポーツバイオメカニクスのコーチングへの応用①	さまざまなコーチング現場への応用について①
8	走る動作のバイオメカニクス①	歩行と走行の違いについて、ストライド・ピッチの関係、その他歩行・走行動作について
9	走る動作のバイオメカニクス②	歩行と走行の違いについて、ストライド・ピッチの関係、その他歩行・走行動作について
10	跳ぶ動作のバイオメカニクス①	跳躍の基礎、垂直跳について、走り幅跳び・走り高跳びのバイオメカニクス
11	投げる動作のバイオメカニクス	投動作のバイオメカニクス、野球の投動作ややり投げの投動作について
12	打つ動作のバイオメカニクス	野球の打撃動作やテニスの打撃動作について
13	スポーツバイオメカニクスのコーチングへの応用②	さまざまなコーチング現場への応用について②

14 15 16	まとめ、振り返り、課題レポート提示	これまでの授業の振り返りやまとめ、最終課題レポート提示および作成

科目コード	25202				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	スポーツバイオメカニクス［週間オンデマンド］				担当者名	佐藤　伸之			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
身体の動く仕組みを物理学的にアプローチする学問をバイオメカニクスという。本授業では、スポーツ現場でのバイオメカニクスについて学び、スポーツバイオメカニクスの基礎を理解し、身体運動の背景を力学的に捉えることができるようにする。さらに自身が指導者になるうえでのコーチング現場でのバイオメカニクスの応用について学び、自身の考えをまとめる。また、健康運動指導士・健康運動実践指導者・CSCSなどを取得するためには必修となる科目である。

＜授業の到達目標＞
①スポーツバイオメカニクスの授業内容に含まれているスポーツ動作の特徴を専門用語を用いて理解できるようになる。②スポーツバイオメカニクス的視点で、スポーツや運動の観察・指導または改善方法を考案できるようになる。

＜授業の方法＞
毎授業，動画視聴し、確認テストおよび授業振り返りシートの記入を行う（オンデマンド形式）。必要に応じて、確認テストの代わりとして小レポートの課題を提示する。classroomに補足資料などを掲載する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
次週のキーワードを提示するので、各自でWeb、図書などを活用し予習してくること（1～2時間）。関連科目（運動学、生理学、解剖学、数学など）の復習を必要に応じて行うこと（1～2時間）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
毎回の課題60%、期末試験（最終課題レポート）40%

＜教科書＞
なし

＜参考書＞
深代千之ほか編著　スポーツバイオメカニクス　朝倉書店
深代千之ほか　スポーツ動作の科学-バイオメカニクスで読み解く-　東京大学出版会
宮西智久 ほか　はじめて学ぶ 健康・スポーツ科学シリーズ4　スポーツバイオメカニクス　(株)化学同人

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス、スポーツバイオメカニクスについて	授業の流れの説明、バイオメカニクスの基礎、スポーツバイオメカニクスの視点について
2	人体の動く仕組み	ヒトの骨格系、関節、関節運動の可動域について
3	運動と力	運動の法則、力の性質について
4	並進運動	身体運動の運動学的記述、変位・速度・加速度について
5	回転運動	角変位・角速度・角加速度について、並進運動と回転運動の関係について
6	流体力学	流体の抗力と揚力について、浮力、マグヌス効果について
7	スポーツバイオメカニクスのコーチングへの応用①	さまざまなコーチング現場への応用について①
8	走る動作のバイオメカニクス①	歩行と走行の違いについて、ストライド・ピッチの関係、その他歩行・走行動作について
9	走る動作のバイオメカニクス②	歩行と走行の違いについて、ストライド・ピッチの関係、その他歩行・走行動作について
10	跳ぶ動作のバイオメカニクス①	跳躍の基礎、垂直跳について、走り幅跳び・走り高跳びのバイオメカニクス
11	投げる動作のバイオメカニクス	投動作のバイオメカニクス、野球の投動作ややり投げの投動作について
12	打つ動作のバイオメカニクス	野球の打撃動作やテニスの打撃動作について
13	スポーツバイオメカニクスのコーチングへの応用②	さまざまなコーチング現場への応用について②

14 15 16	まとめ、振り返り、課題レポート提示	これまでの授業の振り返りやまとめ、最終課題レポート提示および作成

科目コード	25203				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	スポーツ栄養学				担当者名	眞鍋　芳江			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
競技者にとって良好なコンディションを維持し、競技力を向上させるためには栄養、運動ならびに休養のバランスが保たれていなければならない。このうち栄養はトレーニングの効果や競技成績に影響を及ぼす大変重要なものである。からだ作り・コンディション維持にかかわる栄養補給方法を科学的根拠に基づいた理論から学ぶ。

＜授業の到達目標＞
本講義では、からだ作り・コンディション維持に関連する栄養補給のために必要な栄養素の種類、量、摂取タイミングを学ぶ。また、競技特性や期分け、環境、ライフステージに合わせた適切な食事摂取を理解し、実践できる能力を身につける。

＜授業の方法＞
パワーポイントによる講義形式で進める。また、必要に応じて資料を配布し授業内容に基づいたテーマについてディスカッション、グループワークを行う。　Google　Classroomを活用し、授業資料や課題管理を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素　有3、4人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめ、グループごとに発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：各テーマに関して、教科書および参考となるWebサイトなどに目を通し、予備知識を得ておく。（1時間程度）復習：授業内で配布した資料は必ず目を通し、理解を深めること。不明な点があれば授業時間に提示する参考図書・参考資料を用いて調べる。（2時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度・学習意欲・課題　30%、定期試験　70%

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞
清野隼・虎石真弥・山口太一（2022）　ケースで学ぶスポーツ栄養学　株式会社みらい
高田和子・海老久美子・木村典代（2020）　エッセンシャルスポーツ栄養学　市村出版
鈴木志保子（2018）　理論と実践　スポーツ栄養学　日本文芸社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	スポーツ栄養学の概念・食事摂取の基本	スポーツ栄養学の概念、栄養学の基礎、競技者における食事の基本形
2	期分けによる栄養補給方法①（準備期）	外食の活用、生活環境と食事
3	期分けによる栄養補給方法②（試合期）	体調への配慮、補食の摂取
4	トレーニングとエネルギー消費量	身体活動や競技特性の違いによるエネルギー消費量
5	スポーツ競技者の身体組成と貯蔵エネルギー	身体組成の測定方法、競技別の身体特性
6	糖質補給	グリコーゲンの貯蔵および回復のための糖質摂取
7	たんぱく質摂取	からだ作りのためのたんぱく質摂取
8	減量・増量と食事管理	減量および増量の考え方、相対的エネルギー不足
9	カルシウム摂取	骨づくりのための食事管理
10	鉄摂取	貧血予防と食事管理
11	ビタミン摂取	コンディション維持のためのビタミン摂取
12	水分補給	熱中症予防と運動時に必要な水分補給
13	サプリメント	正しいサプリメントの使用法およびドーピング
14	食生活のチェック	自身の食生活の記録および分析
15		
16		

科目コード	25203				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	スポーツ栄養学［PH用］				担当者名	保科　圭汰			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
競技者にとって良好なコンディションを維持し、競技力を向上させるためには栄養、運動ならびに休養のバランスが保たれていなければならない。このうち栄養はトレーニングの効果や競技成績に影響を及ぼす大変重要なものである。からだ作り・コンディション維持にかかわる栄養補給方法を科学的根拠に基づいた理論から学ぶ。

＜授業の到達目標＞
本授業では、からだ作り・コンディション維持に関連する栄養補給のために必要な栄養素の種類、量、摂取タイミングを学ぶ。また、競技特性や期分け、環境、ライフステージに合わせた適切な食事摂取を理解し、指導・実践できる能力を身につける。

＜授業の方法＞
パワーポイントによる講義形式で進めるとともに、授業内容に基づいたテーマについてディスカッション、グループワークを行う。Google　Classroomを活用し、授業資料や課題管理を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素　有3、4人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめ、グループごとに発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：各テーマに関して、教科書および参考となるWebサイトなどに目を通し、予備知識を得ておく。（1時間程度）復習：授業内で配布した資料は必ず目を通し、理解を深めること。不明な点があれば授業時間に提示する参考図書・参考資料を用いて調べる。（1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度・学習意欲・課題　30%、定期試験　70%

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞
清野隼・虎石真弥・山口太一（2022）　ケースで学ぶスポーツ栄養学　株式会社みらい
高田和子・海老久美子・木村典代（2020）　エッセンシャルスポーツ栄養学　市村出版
鈴木志保子（2018）　理論と実践　スポーツ栄養学　日本文芸社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	スポーツ栄養学の概念	スポーツ栄養学の概念、栄養学の基礎
2	食事摂取の基本	競技者における食事の基本形
3	期分けによる栄養補給方法①（準備期）	外食の活用、生活環境と食事
4	期分けによる栄養補給方法②（試合期）	体調への配慮、補食の摂取
5	トレーニングとエネルギー消費量	身体活動や競技特性の違いによるエネルギー消費量
6	スポーツ競技者の身体組成と貯蔵エネルギー	身体組成の測定方法、競技別の身体特性
7	糖質補給	グリコーゲンの貯蔵および回復のための糖質摂取
8	たんぱく質摂取	からだ作りのためのたんぱく質摂取
9	減量・増量と食事管理	減量および増量の考え方、相対的エネルギー不足
10	カルシウム摂取	骨づくりのための食事管理
11	鉄摂取	貧血予防と食事管理
12	ビタミン摂取	コンディション維持のためのビタミン摂取
13	水分補給	熱中症予防と運動時に必要な水分補給
14	サプリメント	正しいサプリメントの使用法およびドーピング
15		
16		

科目コード	25203				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	スポーツ栄養学［PS用］				担当者名	保科　圭汰			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
競技者にとって良好なコンディションを維持し、競技力を向上させるためには栄養、運動ならびに休養のバランスが保たれていなければならない。このうち栄養はトレーニングの効果や競技成績に影響を及ぼす大変重要なものである。からだ作り・コンディション維持にかかわる栄養補給方法を科学的根拠に基づいた理論から学ぶ。

＜授業の到達目標＞
本授業では、からだ作り・コンディション維持に関連する栄養補給のために必要な栄養素の種類、量、摂取タイミングを学ぶ。また、競技特性や期分け、環境、ライフステージに合わせた適切な食事摂取を理解し、実践できる能力を身につける。

＜授業の方法＞
パワーポイントによる講義形式で進めるとともに、授業内容に基づいたテーマについてディスカッション、グループワークを行う。Google　Classroomを活用し、授業資料や課題管理を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素　有3、4人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめ、グループごとに発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：各テーマに関して、教科書および参考となるWebサイトなどに目を通し、予備知識を得ておく。（1時間程度）復習：授業内で配布した資料は必ず目を通し、理解を深めること。不明な点があれば授業時間に提示する参考図書・参考資料を用いて調べる。（1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
毎回の課題点（レポート課題，意見交換、小テスト）　60%、最終課題　40%

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞
清野隼・虎石真弥・山口太一（2022）　ケースで学ぶスポーツ栄養学　株式会社みらい
高田和子・海老久美子・木村典代（2020）　エッセンシャルスポーツ栄養学　市村出版
鈴木志保子（2018）　理論と実践　スポーツ栄養学　日本文芸社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	スポーツ栄養学の概念	スポーツ栄養学の概念、栄養学の基礎
2	食事摂取の基本	競技者における食事の基本形
3	期分けによる栄養補給方法①（準備期）	外食の活用、生活環境と食事
4	期分けによる栄養補給方法②（試合期）	体調への配慮、補食の摂取
5	トレーニングとエネルギー消費量	身体活動や競技特性の違いによるエネルギー消費量
6	スポーツ競技者の身体組成と貯蔵エネルギー	身体組成の測定方法、競技別の身体特性
7	糖質補給	グリコーゲンの貯蔵および回復のための糖質摂取
8	たんぱく質摂取	からだ作りのためのたんぱく質摂取
9	減量・増量と食事管理	減量および増量の考え方、相対的エネルギー不足
10	カルシウム摂取	骨づくりのための食事管理
11	鉄摂取	貧血予防と食事管理
12	ビタミン摂取	コンディション維持のためのビタミン摂取
13	水分補給	熱中症予防と運動時に必要な水分補給
14	サプリメント	正しいサプリメントの使用法およびドーピング
15		
16		

科目コード	25205				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	体育史				担当者名	真田　久			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	3期・4期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
古代から今日に至る体育・スポーツの歩みについて、体育やスポーツが、時代ごとにどのような役割や価値を人々に与えたのか、という視点で分析しながら学修する。

＜授業の到達目標＞
① それぞれの時代において、体育やスポーツが人々にどのような価値や役割を与えてきたのかについて説明できるようになる。②体育やスポーツの歴史的変遷を踏まえて、現代における体育やスポーツの課題を分析し、今後の体育やスポーツのあり方を構想できる。

＜授業の方法＞
それぞれの時代や地域におけるスポーツについてイメージできるよう写真を用いたスライドや動画などの教材を中心に解説する。また、当時の体育やスポーツの価値や役割についてディスカッションする時間も設ける。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
自身が深く関わっているスポーツ種目などについてその歴史を探究する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
関心を持った様々なスポーツの歴史についてより詳しく調べてみる。動画教材やTV教材を探して視聴する。予習・復習合わせて２～３時間程度。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）に関連付けられる。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
各回でのリフレクションシート（課題）20%、授業の参加度20%、個人発表内容20%、最終課題40%の配分で評価する。

＜教科書＞

＜参考書＞
來田享子・田原淳子 編著　スポーツの歴史から考えるSDGs　八千代出版
真田　久　嘉納治五郎：日本にオリンピックを呼んだ国際人　潮出版社
日本オリンピック・アカデミ ー編　2020＋1　東京大会を考える　メディアパル

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーションなぜ体育・スポーツ史を学ぶのか	授業概要、運営、成績のつけ方等に関して説明を行う。体育・スポーツ史を学ぶ意義と意味について、そして体育・スポーツの歴史はいつまで遡れるか、について解説し、スポーツの奥深さを理解する。
2	古代ギリシャのオリンピックとスポーツ	ギリシャの競技精神や古代オリンピックの始まり・発展、特徴について学び、今日のオリンピックと比較する視点を持つ。
3	ローマ時代のスポーツ	ローマ時代における戦車競走、剣闘士競技や公衆浴場（テルマエ）などの施設整備を通して、市民レベルでのスポーツの展開について理解する。特に競技施設と公衆浴場との密接な関係について学修する。
4	近代ギリシャとイギリスのオリンピック復興	19世紀のギリシャにおいて開催された古代オリンピックの復興にあたるオリンピック競技会および、イギリスでのウェンロック・オリンピックについて学ぶ。それらと今日のオリンピックとのつながりについて考える。
5	嘉納治五郎による柔道創設	嘉納治五郎はどのようにして柔道を創設したのか、それをどのように教育に展開したのか、などについて動画教材を通して学ぶとともに、今後のスポーツや勉学にどのように活かすかを考える。
6	近代オリンピックの創設	フランスのピエール・ド・クーベルタンにより古代オリンピックが近代に復興されたが、その経緯と理念について学び、今日のオリンピックとのつながりを考える。特に、古代オリンピックの復興から近代オリンピックの創設へとクーベルタンが方向性を変更したことに注目する。
7	嘉納治五郎による体育科創設と留学生教育	嘉納治五郎は1915年に東京高等師範学校に「体育科」を創設したが、その経緯と理念を探る。また留学生を多く受け入れたが、どのような教育をおこなったのか学修す

		る。
8	金栗四三：初のオリンピック選手	1912年の第5回オリンピックに出場した金栗四三について、オリンピックに参加する経緯とオリンピック以降のスポーツ界への貢献について学修する。特に箱根駅伝の創設等により、長距離走の普及に貢献した経緯について理解する。
9	近代オリンピックの初期の歩み	第１回オリンピック（アテネ）から第11回オリンピック（ベルリン）までの歩みについて、動画教材を通して社会的な動向とともに学修する。様々な紆余曲折を経て、困難な課題を懸命に乗り越えて今日に至っていることを理解する。
10	関東大震災とスポーツによる復興	1923年9月1日に起きた関東大震災に対して、嘉納治五郎を中心とする大日本体育協会はスポーツによる復興を企図した。その内容と社会への影響について学修する。オリンピックへの参加の継続や三大公園におけるスポーツ施設の設置などについて注目する。
11	オリンピック（1940年）の東京招致	嘉納治五郎中心に第12回オリンピックの東京への招致活動が始められた。その内容と理念について学修する。
12	第18回オリンピック東京大会	1964年10月、アジア初のオリンピックが東京で開催された。大会の内容と社会的インパクトについて動画教材を通して学修する。都市の改造とその後の発展につながったことを理解する。
13	東京2020大会	東京2020大会はコロナ禍によりそれまでにない大会となったが、様々なムーブメントが行われた。その内容とレガシーについて学修する。特にオリンピック・パラリンピック教育の展開、スポーツ・フォー・トゥモローやホストタウンプロジェクト等について理解する。
14	体育・スポーツ史のまとめと振り返り	授業のまとめ、振り返りを行うとともに、到達度を測る。
15		
16		

科目コード	25301				区　分	コア科目			
授業科目名	運動生理学［週間オンデマンド］				担当者名	河端　隆志			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

人類が進化の過程において高次元の統合性と適応性を身に付けたことは、優れた協調適応の能力を有する高度の有機體であることの証と云えよう。　運動生理学というのは、生理学の一分野として、人體が運動しているときの状態を系統的に研究分析してその法則性を明らかにし、叙述するものである。ヒトのからだ（生體）は常に統合（integrity）された一つの有機的體系として組み立てられており、内部環境における動的安定のもとに恒常性維持がなされている（Homeostasis）。運動・スポーツ・シーンにおいてパフォーマンスが維持さ

＜授業の到達目標＞

・運動生理学は講義で学んだ知識をさらに実習で知恵として実践できる応用力を體得することをゴールとするものである。・運動・スポーツ現場にある疑問をテーマとして捉え、その解決方法を自ら見つけ出せる実践力を身に付ける。・それぞれに行っている競技種目の特性を捉えたトレーニングへの応用ができる能力を身に付ける。・指導的立場（教員・スポーツ指導者・健康指導者など）に立った時の応用力・実践力を身に付ける。

＜授業の方法＞

講義

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

・アクティブ・ラーニングの要素有無；有り・課題ごとにペアあるいはグループでの討議を通して、自らの考えを伝えるとともに他者の意見を聞き、考える機会を設ける。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各テーマに関して自身の競技特性や将来の目標と照らし合わせながら；予習：翌週のテーマ内容に準じた参考書や資料およびネット検索などにより、課題に対する予備知識を得ておくこと。（所要時間：６０分程度）復習：講義前に実施する振り返り（毎回、15分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

オンデマンド授業です1）平常点：50点（14回の講義出席および課題提出とその内容）2）最終課題レポート評価：50点（最終講義時に課題を出します）毎回の課題およびレポート提出の期限を厳守してください。課題およびレポート提出の期限・課題　次の週の前日まで・最終レポートについては、最終講義時に提示します

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	運動生理学概論　－生理学から運動生理学へ－	体育学系学生としての運動生理学の捉え方・スポーツにおける身體動作を観る眼差し生理学から運動生理学へ・生理学（安静時の生体機能）・運動生理学（運動時の生体機能）
2	スポーツにおける身體動作を観る眼差し	・体力を考える・スポーツシーンで要求される生理的体力要素は
3	ヒトの特性を探る	人類の進化的変化と適応的利益を考える
4	歩くを考える	歩く・走る・跳ぶ・投げるなどの動作はヒトの基本的な身體動作である。スポーツ動作と結びつけるには、こうした基本的動作が正しくできることが重要である
5	運動と筋・骨格系	骨格筋の収縮・代謝特性、エネルギ供給機構
6	運動と神経系	神経系の構造と運動発現、身體動作の運動制御、運動が学習や記憶に及ぼす影響
7	運動と代謝系	運動の継続時間とエネルギ発生機構、運動と酸化ストレス、筋運動のためのエネルギ供給機構
8	運動と呼吸器系	肺における換気、血液によるガス輸送、酸素摂取量、無酸素性作業閾値
9	運動と心・循環系	中心循環と末梢循環、運動時の循環調節と統合
10	運動と体温調節	体温調節のメカニズム、運動時の体温調節反応とその影響因子
11	運動と体液バランス	運動が体液量および組成に及ぼす影響、多量発汗・脱水とその回復
12	運動とホルモン	運動によるホルモン分泌とトレーニングによる適応変化

13	フィジカル・パフォーマンス	運動時の強度により要求される代謝プロセス(有酸素性・無酸素性；非乳酸性・乳酸性）、無酸素性作業閾値（AT）、最大酸素摂取量、加齢・性差の比較
14	身體動作の主観と客観	身體動作における主観と客観のズレについて考える
15		
16		

科目コード	25303				区　分	コア科目			
授業科目名	スポーツ文化論				担当者名	堀川　峻			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
スポーツは、各地域・各民族の生活・行動の中から生み出された文化の一形態であり、スポーツを文化として捉えることで、歴史性、地域や民族とのかかわり、国際化の問題、教育との結びつき、身体性、ジェンダーにかかわる課題など、様々な事象がみえてくる。そのため、本授業では特定のテーマに絞って事例的に提示、解説しつつ、スポーツ文化の多面的な理解を目指していく。

＜授業の到達目標＞
本授業では以下の2点を目標に設定する。①体育・スポーツに関わる文化事象をスポーツ文化論の知見を踏まえて説明することができる。②体育・スポーツ界における慣習の文化的な背景を理解した上で、他者と意見交流ができる。

＜授業の方法＞
配布資料やパワーポイントを用いた講義形式、ディベートやグループワークも実施する。各回の授業の最後には、リフレクションシート（課題）を配布・回収する。授業中のデータ共有はGoogle Classroomを活用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニング有り各授業のテーマにそって、適宜グループワークによって、意見交換を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習：スポーツ文化を対象にしたニュースやコラム等に目を通し、取り上げられた背景や経過を調べておくこと（1時間）。上記について簡単に発表できるようにしておくこと（１時間）。　事後学習：取り組んだ事前課題と講義内容を踏まえ、振り返り課題に取り組むこと（1時間）。自らのスポーツ生活の中における文化事象を何点か取り上げ、考察すること。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
成績は、各回でのリフレクションシート（課題）30%、授業の参加度20%、個人発表内容20%、最終課題30%の配分で評価する。

＜教科書＞

＜参考書＞
井上俊・菊幸一編　よくわかるスポーツ文化論［改訂版］　ミネルヴァ書房
井上俊・亀山佳明編（1999）　スポーツ文化を学ぶ人のために　世界思想社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーションスポーツ文化論とは	授業概要、運営、成績のつけ方等の説明、スポーツ文化論を学ぶ意義と意味
2	スポーツと教育について	スポーツと教育が結びついてきた歴史、その意味や意義について、文化的な視点から考察する。
3	学校体育について	日本における学校体育のスポーツ文化を振り返り、文化的な視点から考察する。
4	地域スポーツについて	日本や海外の地域におけるスポーツ文化について考察する。
5	日本の伝統的な身体文化について①	日本の伝統的な身体文化について、特に武道を中心に文化的に考察する。
6	日本の伝統的な身体文化について②	日本の伝統的な身体文化について、特に武道を中心に文化的に考察する。
7	陸上競技の歴史と文化について	陸上競技というスポーツについて、歴史的、文化的に考察する。
8	eスポーツについて	eスポーツについて、文化的に考察する。
9	アダプテッドスポーツについて	アダプテッドスポーツについて、文化的な視点から考察する。
10	スポーツと政治について	スポーツを取り巻く政治の問題について、文化的な視点から考察する。
11	スポーツとファンについて	スポーツを支えるファンの文化について、文化的に考察する。
12	オリンピック、パラリンピックについて	オリンピック、パラリンピックについて文化的に考察する。
13	スポーツとジェンダーについて	スポーツとジェンダーについて、文化的に考察する。
14	授業のまとめと振り返り	授業のまとめ、ふりかえりをするとともに、到達度を測る。
15		
16		

科目コード	25306				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	スポーツ史				担当者名	真田　久			
配当年次	3年	配当学期	3期、4期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択必修

＜授業の概要＞
古代から今日に至る体育・スポーツの歩みについて、体育やスポーツが、時代ごとにどのような役割や価値を人々に与えたのか、という視点で分析しながら学修する。

＜授業の到達目標＞
① それぞれの時代において、体育やスポーツが人々にどのような価値や役割を与えてきたのかについて説明できるようになる。②体育やスポーツの歴史的変遷を踏まえて、現代における体育やスポーツの課題を分析し、今後の体育やスポーツのあり方を構想できる。

＜授業の方法＞
それぞれの時代や地域におけるスポーツについてイメージできるよう写真を用いたスライドや動画などの教材を中心に解説する。また、当時の体育やスポーツの価値や役割についてディスカッションする時間も設ける。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
自身が深く関わっているスポーツ種目などについてその歴史を探究する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
関心を持った様々なスポーツの歴史についてより詳しく調べてみる。動画教材やTV教材を探して視聴する。予習・復習合わせて２～３時間程度。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）に関連付けられる。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
各回でのリフレクションシート（課題）20%、授業の参加度20%、個人発表内容20%、最終課題40%の配分で評価する。

＜教科書＞

＜参考書＞
來田享子・田原淳子 編著（2026）　スポーツの歴史から考えるSDGs　八千代出版
真田　久（2018年12月）　嘉納治五郎：日本にオリンピックを呼んだ国際人　潮出版社
日本オリンピック・アカデミ 一編　2020＋1　東京大会を考える　メディアパル

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーションなぜ体育・スポーツ史を学ぶのか	授業概要、運営、成績のつけ方等に関して説明を行う。体育・スポーツ史を学ぶ意義と意味について、そして体育・スポーツの歴史はいつまで遡れるか、について解説し、スポーツの奥深さを理解する。
2	古代ギリシャのオリンピックとスポーツ	ギリシャの競技精神や古代オリンピックの始まり・発展、特徴について学び、今日のオリンピックと比較する視点を持つ。
3	ローマ時代のスポーツ	ローマ時代における戦車競走、剣闘士競技や公衆浴場（テルマエ）などの施設整備を通して、市民レベルでのスポーツの展開について理解する。特に競技施設と公衆浴場との密接な関係について学修する。
4	近代ギリシャとイギリスのオリンピック復興	19世紀のギリシャにおいて開催された古代オリンピックの復興にあたるオリンピック競技会および、イギリスでのウェンロック・オリンピックについて学ぶ。それらと今日のオリンピックとのつながりについて考える。
5	嘉納治五郎による柔道創設	嘉納治五郎はどのようにして柔道を創設したのか、それをどのように教育に展開したのか、などについて動画教材を通して学ぶとともに、今後のスポーツや勉学にどのように活かすかを考える。
6	近代オリンピックの創設	フランスのピエール・ド・クーベルタンにより古代オリンピックが近代に復興されたが、その経緯と理念について学び、今日のオリンピックとのつながりを考える。特に、古代オリンピックの復興から近代オリンピックの創設へとクーベルタンが方向性を変更したことに注目する。
7	嘉納治五郎による体育科創設と留学生教育	嘉納治五郎は1915年に東京高等師範学校に「体育科」を創設したが、その経緯と理念を探る。また留学生を多く受け入れたが、どのような教育をおこなったのか学修する。
8	金栗四三：初のオリンピック選手	1912年の第5回オリンピックに出場した金栗四三について、オリンピックに参加する

		経緯とオリンピック以降のスポーツ界への貢献について学修する。特に箱根駅伝の創設等により、長距離走の普及に貢献した経緯について理解する。
9	近代オリンピックの初期の歩み	第１回オリンピック（アテネ）から第11回オリンピック（ベルリン）までの歩みについて、動画教材を通して社会的な動向とともに学修する。様々な紆余曲折を経て、困難な課題を懸命に乗り越えて今日に至っていることを理解する。
10	関東大震災とスポーツによる復興	1923年9月1日に起きた関東大震災に対して、嘉納治五郎を中心とする大日本体育協会はスポーツによる復興を企図した。その内容と社会への影響について学修する。オリンピックへの参加の継続や三大公園におけるスポーツ施設の設置などについて注目する。
11	オリンピック（1940年）の東京招致	嘉納治五郎中心に第12回オリンピックの東京への招致活動が始められた。その内容と理念について学修する。
12	第18回オリンピック東京大会	1964年10月、アジア初のオリンピックが東京で開催された。大会の内容と社会的インパクトについて動画教材を通して学修する。都市の改造とその後の発展につながったことを理解する。
13	東京2020大会	東京2020大会はコロナ禍によりそれまでにない大会となったが、様々なムーブメントが行われた。その内容とレガシーについて学修する。特にオリンピック・パラリンピック教育の展開、スポーツ・フォー・トゥモローやホストタウンプロジェクト等について理解する。
14	体育・スポーツ史のまとめと振り返り	授業のまとめ、振り返りを行うとともに、到達度を測る。
15		
16		

科目コード	25307				区　分	コア科目		
授業科目名	スポーツ生理学				担当者名	吉岡　利貢		
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本講義では、筋の形態的・機能的な特徴の把握、運動時の呼吸循環反応、運動時の代謝とホルモン調節など、様々な観点から運動の生理的機序を習得させ、さらにそれらの各種トレーニングによる効果などについて理解を深めることを目的とする。

＜授業の到達目標＞
運動生理学の基礎的な理論についての理解はもとより、最新の研究成果についての情報も収集しながら、実践的・実際的な知識を習得できる。また、これらを理解した上で、健康増進および競技パフォーマンスの向上のための方法について考えることができる。

＜授業の方法＞
講義

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション）5、6人のグループに分かれ、授業テーマに対する意見をグループで共有する

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各テーマに関して、参考書や資料などに目を通し、予備知識を得ておくこと。（所要時間：2時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
1）毎回の評価：5点×15回（確認テスト＋レポート提出）2）期末レポート評価：25点期末レポートは、毎回の授業で課すレポートをまとめたものに総合考察を付けて提出してもらいます。毎回のレポート評価は提出点のみとし、期末レポートで内容まで評価します。

＜教科書＞
勝田茂（2015年3月）　入門運動生理学　杏林書院

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	運動生理学とは	運動生理学の研究史
2	骨格筋の構造と機能	骨格筋の構造の理解、筋線維タイプと競技種目特性
3	筋力・筋パワー	筋収縮の様式、筋力に影響する要因とトレーニング効果
4	運動とエネルギー供給系	TCAサイクル、ATP-PC系・解糖系・酸化系
5	筋エネルギー代謝とトレーニング	各種トレーニングとエネルギー代謝
6	運動時の糖質・脂質・蛋白代謝	代謝とは、糖質・脂質・蛋白代謝の概要
7	運動とホルモン	筋肥大のメカニズム、筋肥大に影響する要因
8	運動と神経	ニューロンと興奮の伝導、運動単位の動員様式
9	運動と酸素摂取	呼吸の基礎概念、最大酸素摂取量、酸素借
10	無酸素性作業閾値（AT）	ATとは、ATを規定する因子、トレーニングとAT
11	体温と運動パフォーマンス	体温に影響する要因、運動と体温変化
12	スポーツと遺伝子	持久系能力に関連する遺伝子、スプリント･パワー系能力に関連する遺伝子
13	筋疲労の要因	筋機能の特性、遺伝の影響
14	トップアスリートの特性	呼吸循環機能、筋腱の構造と機能
15	まとめ	本講義のまとめ
16		

科目コード	25308				区　分	コア科目			
授業科目名	運動生理学演習Ⅰ				担当者名	眞鍋　芳江／十河　直太／伊藤　三千雄／田中　耕作			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業では、主に健康増進、生活習慣病の予防のために、運動を実際の生活に取り入れる場合に必要な基礎知識、測定や評価を理解し修得することを目的とする。これまでに「生理学」「運動生理学（基礎）」「トレーニング演習」「栄養学」「運動学」等にて学習した内容をもとに、身体運動に伴って生じる各器官（運動器系、神経-筋骨格系、呼吸器系、循環器系）の生理反応や身体機能について測定・評価を行う。実習を通じて、身近な生理現象から運動生理学について理解を深める。なお、競技力向上のための運動生理学については、「体力学実習」の授業に

＜授業の到達目標＞
各種測定機器を用いて、身体運動に伴って生じる各器官の生理反応や身体機能を測定・評価することができる。得られたデータについて論理的に考察し、レポートにまとめることができる。実習を通じ、身体運動に伴って生じる各器官の生理反応や身体機能について理論を理解し、実践に繋げることができる。

＜授業の方法＞
本授業は、複数の教員が担当するオムニバス授業である。テーマに沿った内容を電子資料やパワーポイント等を用いて解説するとともに、テーマについてディスカッション、グループワークを行う。小テストやレポート課題はGoogle classroomを用いて実施する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素：あり測定で得られたデータについてグループでディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：各テーマに関して、教科書および参考となるWebサイトなどに目を通し、予備知識を得ておく。（1時間程度）復習：講義ノート・実験データを基にレポート課題や復習を行う。不明な点があれば授業時間に提示する参考図書・参考資料を用いて調べる。（2時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度・学習意欲 40%、測定結果の考察やレポート課題 60%

＜教科書＞
特に指定なし

＜参考書＞
特に指定なし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	講義概要の解説　各種測定と評価（1）	オリエンテーション、身体組成と必要栄養素量（概要）
2	各種測定と評価（2）	身体組成と必要栄養素量（エネルギー量）
3	各種測定と評価（3）	身体組成と必要栄養素量（たんぱく質）
4	各種測定と評価（4）	骨粗鬆症と運動の効果
5	各種測定と評価（5）	骨の測定評価
6	各種測定と評価（6）	データ分析と考察、まとめ
7	各種測定と評価（7）	身体組成と運動による変化
8	各種測定と評価（8）	運動と血圧応答
9	各種測定と評価（9）	運動と血液の役割
10	各種測定と評価（１０）	運動時の呼吸循環系応答：最大酸素摂取量の測定実習
11	各種測定と評価（１１）	最大酸素摂取量の評価
12	各種測定と評価（１２）	呼吸循環応答の測定データの分析と考察
13	各種測定と評価（１３）	熱中症とその対策：運動と体温調節
14	各種測定と評価（１４）	熱中症とその対策：運動と体液バランス
15		
16		

科目コード	25309				区　分	コア科目			
授業科目名	運動生理学演習Ⅱ				担当者名	眞鍋　芳江／十河　直太／伊藤　三千雄／田中　耕作			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業では、主に健康増進、生活習慣病の予防のために、運動を実際の生活に取り入れる場合に必要な基礎知識、測定や評価を理解し修得することを目的とする。これまでに「生理学」「運動生理学（基礎）」「トレーニング演習」「栄養学」「運動学」等にて学習した内容をもとに、身体運動に伴って生じる各器官（運動器系、神経-筋骨格系、呼吸器系、循環器系）の生理反応や身体機能について測定・評価を行う。実習を通じて、身近な生理現象から運動生理学について理解を深める。なお、競技力向上のための運動生理学については、「体力学実習」の授業に

＜授業の到達目標＞
各種測定機器を用いて、身体運動に伴って生じる各器官の生理反応や身体機能を測定・評価することができる。得られたデータについて論理的に考察し、レポートにまとめることができる。実習を通じ、身体運動に伴って生じる各器官の生理反応や身体機能について理論を理解し、実践に繋げることができる。

＜授業の方法＞
本授業は、複数の教員が担当するオムニバス授業である。テーマに沿った内容を電子資料やパワーポイント等を用いて解説するとともに、テーマについてディスカッション、グループワークを行う。小テストやレポート課題はGoogle classroomを用いて実施する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素：あり測定で得られたデータについてグループでディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：各テーマに関して、教科書および参考となるWebサイトなどに目を通し、予備知識を得ておく。（1時間程度）復習：講義ノート・実験データを基にレポート課題や復習を行う。不明な点があれば授業時間に提示する参考図書・参考資料を用いて調べる。（2時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度・学習意欲 40%、測定結果の考察やレポート課題 60%

＜教科書＞
特に指定なし

＜参考書＞
特に指定なし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	講義概要の解説　各種測定と評価（１）	オリエンテーション、身体組成と必要栄養素量（概要）
2	各種測定と評価（２）	身体組成と必要栄養素量（ビタミン、ミネラル）
3	各種測定と評価（３）	身体組成と必要栄養素量（食物繊維、水分）
4	各種測定と評価（４）	乳酸測定1（LT測定）
5	各種測定と評価（５）	乳酸測定2（クーリングダウンの効果）
6	各種測定と評価（６）	乳酸測定データの分析と考察、まとめ
7	各種測定と評価（７）	心電図について
8	各種測定と評価（８）	運動と加齢
9	各種測定と評価（９）	運動と脳機能の関係、まとめ
10	各種測定と評価（１０）	運動時の呼吸循環系応答①：最大下運動時の酸素摂取量、心拍数、RPEの測定実習
11	各種測定と評価（１１）	運動時の呼吸循環系応答②：暑熱環境下における最大下運動時の酸素摂取量、心拍数、RPEの測定実習
12	各種測定と評価（１２）	運動時の呼吸循環系応答の測定データ分析と評価
13	各種測定と評価（１３）	最大下運動運動時の心拍応答：cardiovascular driftを考える
14	各種測定と評価（１４）	運動型健康支援：インターバル速歩トレーニング
15		
16		

科目コード	26202				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	英語学概論				担当者名	伊藤　仁美			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本授業の全体目標は、中学校および高等学校における外国語科の授業に質する英語学的知見を身につけることである。魅力的な英語授業を展開するには、英語力・教授力のほかに、英語とはどのような言語なのかを深く多面的に知っておく必要がある。本授業では、英語のしくみ・特徴について、日本語と比較しながら考察し理解を深めていく。

＜授業の到達目標＞

（1）英語の音声の仕組みに関する基礎知識を身につけている【音声学・音韻論】（2）英語の単語・文法に関する体系的な知識を身につけている【形態論・統語論】（3）相手との関係性や文脈に応じて、適切に言外の意味を解釈し説明できる【語用論】（4）英語の歴史的変遷および国際共通語としての英語の実態について概説できる

＜授業の方法＞

（1）前時の復習（10分）（2）講義・説明（20分）（3）個人・ペア演習（40分）（4）小テスト（10分）（5）小テストの解説（10分）（6）まとめ（10分）※課題の受け渡し・学習管理には、Googleクラスルームを活用する

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有　※個人・ペア演習では、問題集に取り組んだり、教え合ったりする。また、関連する情報や用例を付け加えながら要点を整理したり、学習内容に関連する記事を読んだりする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

合計2時間程度＜復習＞・小テストを中心とした前時の学習内容を復習する（30分）・学習内容に関連する記事を読み、レポートを書く（60分）＜予習＞・学習内容に基づき、インターネットで用例を探したり、例文を考えたりする（30分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー２（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー５（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加度・レポート課題などの取り組み状況 30%、小テスト 20%、中間試験および期末試験 50%

＜教科書＞

＜参考書＞

三原健一・高見健一（2013年11月11日）　日英対照英語学の基礎　くろしお出版

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション、言語学という学問	言語学の分野の紹介、英語の歴史的変遷、国際共通語としての英語の実態
2	音声学①	音素、母音体系、子音体系
3	音声学②	IPA国際音声、発音記号
4	音韻論①	音節とモーラ、高低アクセントと強弱アクセント、アクセント規則(複合語、文アクセント)
5	音韻論②	超文節音（アクセント・リズム・イントネーション）
6	形態論①	品詞、語幹と屈折接辞、語基と派生接辞、単語の構造（樹形図の作成）、形態素（拘束形態素、自由形態素）
7	形態論②	複合語と句の違い、品詞転換、語形短縮、混成、頭文字語、逆形成など
8	中間試験	試験と解説
9	統語論①	品詞、語順、語・句・文、統語構造
10	統語論②	樹形図の作成、主要部、補文標識、テンス（時制）、決定詞など
11	統語論③	機能的構文論、文の情報構造（新情報・旧情報）
12	語用論①	発話行為、直示、含意・推移など
13	語用論②	中間言語語用論・ポライトネスの発達に関する英文記事を読む
14	期末試験	試験と解説
15		
16		

科目コード	26204				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	4技能統合型英語Ⅰ(基礎)				担当者名	竹下　厚志			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	なし

＜授業の概要＞
「聞く・読む・話す・書く・やり取りする」ことを統合的にトレーニングしていきます。特に初期段階ではスピーキング力の向上を中心に授業は行われます。最終的には英検準2級の上位レベルを目指す授業です。*【重要】英語の教員免許希望者および留学希望者は必ず受講してください。

＜授業の到達目標＞
１）身近な話題についてかなり自由に話すことことができる。２）教員や友人の英語をほぼ正確に聞き取ることができる。３）身近な話題についてほぼ正しい語順で５０語程度のまとまった英語を書くことができる。

＜授業の方法＞
当初は、学習した英文を自分の言葉(My English)として取り込む活動を中心に行います。その後、いくつかの英文に触れながらペア活動、グループ活動を通して、全員の英語コミュニケーション力の向上を目指します。個人個人の伸びを見ていきますのでかなりの忍耐力と集中力が要求されます。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
あり。スピーチ、プレゼンテーション、ペア・グループ活動。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習・英文日記（毎日30分）復習・学習した英文の音読練習、暗唱、サマリー（毎日20分）・プレゼンテーションの準備（毎回2時間）・テストのための単語練習

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２(中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業参加 30%　技能テスト 30%　プレゼンテーション　30%　提出物 10%

＜教科書＞

＜参考書＞
竹下 厚志（2021年2月25日）　SDGs英語長文Core　三省堂

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	①オリエンテーション,②テーマ１	①自己紹介、授業の進め方②身近なテーマ１
2	テーマ１	身近なテーマ１
3	①テスト②テーマ２	①学習した内容に基づく口頭・筆記テスト②身近なテーマ２
4	テーマ２	身近なテーマ２
5	①テスト２②テーマ３	①学習した内容に基づく口頭・筆記テスト②身近なテーマ３
6	テーマ３	身近なテーマ３
7	①プレゼンテーション②テーマ４	①テーマ1,2,３に基づくプレゼンテーション②身近なテーマ４
8	テーマ４	身近なテーマ４
9	①テスト②身近なテーマ５	①学習した内容に基づく口頭・筆記テスト②身近なテーマ５
10	テーマ５	身近なテーマ５
11	①テスト②テーマ６	①学習した内容に基づく口頭・筆記テスト②身近なテーマ６
12	テーマ６	身近なテーマ６
13	①テスト②まとめ	①学習した内容に基づく口頭・筆記テスト②プレゼンテーションに向けた復習・準備
14	プレゼンテーション	学習した内容から選んだテーマに基づくプレゼンテーション
15		
16		

科目コード	26205				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	4技能統合型英語Ⅱ(応用)				担当者名	竹下　厚志			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	なし

＜授業の概要＞
「聞く・読む・話す・書く・やり取りする」ことを統合的にトレーニングしていきます。特に初期段階ではスピーキング力の向上を中心に授業は行われます。最終的には英検準2級の上位レベルを目指す授業です。*【重要】英語の教員免許希望者および留学希望者は必ず受講してください。

＜授業の到達目標＞
１）身近な話題についてかなり自由に話すことことができる。２）教員や友人の英語をほぼ正確に聞き取ることができる。３）日本における社会問題について書かれた内容を時間をかければ理解することができる。４）身近な話題についてほぼ正しい語順で５０語程度のまとまった英語を書くことができる。

＜授業の方法＞
当初は、学習した英文を自分の言葉(My English)として取り込む活動を中心に行います。その後、いくつかの英文に触れながらペア活動、グループ活動を通して、全員の英語コミュニケーション力の向上を目指します。個人個人の伸びを見ていきますのでかなりの忍耐力と集中力が要求されます。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
あり。スピーチ、プレゼンテーション、ペア・グループ活動。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習（毎日１時間程度）・日常的に国内外のニュースに触れ、その内容を英文でまとめる。・英語日記を書く。復習（毎回２時間）・学習した英文の音読練習、暗唱、サマリー・国内外のニュースを自分の言葉で表現できる準備・プレゼンテーションの準備

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２(中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業参加 30%　テスト 30%　プレゼンテーション 30%　提出物 10%

＜教科書＞

＜参考書＞
竹下 厚志 (2021年2月25日)　SDGs英語長文Core　三省堂

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	自己紹介、授業の進め方、課題への取り組み方
2	テーマ学習１－１	英文の理解・音読
3	テーマ学習１－２	英文の取り込み・再生
4	①テスト②テーマ学習２－１	①口頭テスト②英文の理解・音読
5	テーマ学習２－２	英文の取り込み・再生
6	プレゼンテーション１	学習した内容＋αで "My English" による自己表現
7	テーマ学習３－１	英文の理解・音読
8	テーマ学習３－２	英文の取り込み・再生
9	①テスト②テーマ学習４－１	①口頭・筆記テスト②英文の理解・音読
10	テーマ学習４－２	英文の取り込み・再生
11	①テスト②クイックレスポンス・パラフレーズトレーニング１	①口頭・筆記テスト②学習済みの英文を使ったQAおよび言い換え表現訓練１
12	クイックレスポンス・パラフレーズトレーニング２	学習済みの英文を使ったQAおよび言い換え表現訓練２
13	クイックレスポンス・パラフレーズトレーニング３	学習済みの英文を使ったQAおよび言い換え表現訓練３
14	プレゼンテーション２	学習したテーマをもとにしたプレゼンテーション
15		
16		

科目コード	27100				区　分	基礎専門科目			
授業科目名	解剖学Ⅰ [PH2024年度以前入学生][再履修用]				担当者名	古山　喜一			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
スポーツ医科学、柔道整復学習得のためには解剖学の知識が必須である。解剖学では人体を構成する骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、感覚器系、神経系、脈管系の各器官の正常構造について系統的に学習する。また人体が、この10種類の器官系が立体的に配置することによって形成されていることを学習する。

＜授業の到達目標＞
1）脈管系：体循環と肺循環の構造を説明できるようになる。2）血管の組織学的構造、心臓の位置・形態・壁・弁・刺激伝導系・心臓の脈管について説明できるようになる。3）動脈・静脈の名称と位置について説明できるようになる。4）胎児循環について説明できるようになる。5）リンパ系の組織・器官の構造と役割について説明できるようになる。6）消化器系：消化器の種類・構造・位置・機能、消化・吸収・排泄の過程について説明できるようになる。7）呼吸器系：呼吸器の種類・構造・機能について説明できるようになる。

＜授業の方法＞
教科書に沿いパワーポイントを使用して講義する。（教科書の各項目については、講義の進行上部分的に入れ替えることがある。）適時プリントを配布して教科書を補完する。重要な学習項目については随時学生を指名し発表討論形式で説明させる。講義終了時にその日の授業内容全般を整理するために全員に試験形式で問題を解答させる。Google Suites, Kahootなどのシステムを用いて反転授業、クイズ、課題の提出を行うので、各自インターネット接続可能な端末を用意すること。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有り

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業計画に示す教科書の講義予定範囲を必ず音読のうえ、予習してくること。（1時間）講義で習った事項をその日のうちに、教科書､クイズ課題で復習する｡クイズ課題提出は期限厳守すること｡またすでに学習した知識と有機的に関連付けて整理しておくこと。（1時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲30％（小テスト）・評価試験70％

＜教科書＞
岸 清・石塚 寛 編　解剖学　医歯薬出版
坂井建夫・橋本尚詞　ぜんぶわかる人体解剖図　成美堂出版
医療情報科学研究所　からだがみえる　人体の構造と機能　メディックメディア

＜参考書＞
松村 譲兒　イラスト解剖学　中外医学社
自習用に以下のアプリを推薦します。Human Anatomy Atlas 202? Complete 3D Human Body <ahref="https://apps.apple.com/app/id1117998129"target="_blank">https://apps.apple.com/app/id1117998129解剖学的構造と生理学Anatomy & Physiology<a href="https://apps.apple.com/app/id920133658"targe

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	脈管系・総論	体循環・肺循環、血管の構造
2	心臓	心臓の位置と構造、弁、刺激伝導系、心臓の脈管、心膜
3	動脈系	大動脈、体幹・上肢・下肢の動脈
4	静脈系	上大静脈、下大静脈、奇静脈、門脈、胎児循環
5	リンパ系	リンパ、リンパ管、リンパ節、脾臓、胸腺
6	脈管系まとめ	脈管系の復習と応用
7	消化器系	口腔、舌、咽頭、食道、胃、小腸
8	消化器系	胃、小腸の構造と機能
9	消化器系	大腸、直腸
10	消化器系	肝臓、膵臓
11	消化器系まとめ	消化器系の復習と応用
12	呼吸器系	鼻腔、喉頭
13	呼吸器系	気管、気管支、肺

14 15 16	呼吸器系まとめ	胸膜、縦郭　呼吸器系の復習と応用

科目コード	27100				区　分	基礎専門科目			
授業科目名	解剖学Ⅰ［PH2025年度以降入学生］				担当者名	百田　龍輔			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
スポーツ医科学、柔道整復学習得のためには解剖学の知識が必須である。解剖学では人体を構成する骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、感覚器系、神経系、脈管系の各器官の正常構造について系統的に学習する。また人体が、この10種類の器官系が立体的に配置することによって形成されていることを学習する。

＜授業の到達目標＞
1）器官の位置関係を方向用語（上下、前後、内・外側、浅深、頭・尾側、背・腹側）で説明できる。2）骨・軟骨・関節・靭帯の構造と機能を説明できる。3）四肢の骨・関節を列挙し、主な骨の配置を図示できる。4）椎骨の構造と脊柱の構成を説明できる。5）四肢の主要筋群の運動を説明できる。6）骨盤の構成と性差を説明できる。7）心臓の構造と分布する血管・神経を説明できる。8）体循環、肺循環と胎児循環を説明できる。9）大動脈の枝を図示し、分布域を概説できる。

＜授業の方法＞
教科書、解剖図、参考書を使用して講義する。適宜画像を用いて講義を行う。教科書の各項目については、講義の進行上部分的に入れ替えることがある。重要な学習項目については随時学生を指名し発表討論形式で説明させる。講義終了時にその日の授業内容全般を整理するために全員に試験形式で問題を解答させる。Google Suites, Kahootなどのシステムを用いて反転授業、クイズ、課題の提出を行うので、各自インターネット接続可能な端末を用意すること。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業計画に示す教科書の講義予定範囲を必ず音読のうえ、予習してくること。（1時間）講義で習った事項をその日のうちに、教科書､クイズ課題で復習する｡クイズ課題提出は期限厳守すること｡またすでに学習した知識と有機的に関連付けて整理しておくこと。（1時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲30％・評価試験70％

＜教科書＞
岸 清・石塚 寛 編　解剖学　医歯薬出版
坂井建夫・橋本尚詞　ぜんぶわかる人体解剖図　成美堂出版
医療情報科学研究所　からだがみえる　人体の構造と機能　メディックメディア

＜参考書＞
松村 譲兒　イラスト解剖学　中外医学社
自習用に以下のアプリを推薦します。Human Anatomy Atlas 202? Complete 3D Human Body <ahref="https://apps.apple.com/app/id1117998129"target="_blank">https://apps.apple.com/app/id1117998129解剖学的構造と生理学Anatomy & Physiology<a href="https://apps.apple.com/app/id920133658"targe

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	イントロ解剖学概説・用語・数値細胞・遺伝子	解剖学を学ぶ意義解剖学概説、用語、数値細胞・遺伝子
2	組織（筋・上皮・結合・神経）受精・発生器官系統人体区分	組織（筋・上皮・結合・神経）受精・発生
3	運動系骨格系　総論	運動系骨格系　総論組織・骨の発生と成長・関節
4	骨格系　各論脊柱胸郭	椎骨（頸椎・胸椎・腰椎・仙骨・尾骨）椎骨の連結胸郭（胸骨・肋骨・肋軟骨）
5	骨格系　各論上肢骨	鎖骨肩甲骨上腕骨橈骨尺骨手の骨
6	骨格系　各論下肢骨頭蓋骨・下顎骨	寛骨大腿骨腓骨脛骨足の骨頭蓋骨・下顎骨
7	筋系　骨格筋	骨格筋の形態起始・停止筋の作用筋の補助装置
8	頭・頚部の筋体幹の筋	表情筋咀嚼筋頚部・胸部・腹部・背部の筋
9	上肢の筋	三角筋回旋筋腱板上腕二頭筋・三頭筋前腕・手の筋
10	下肢の筋	内・外寛骨筋大腿・下腿・足の筋
11	脈管系総論心臓	体循環・肺循環血管の構造心臓の位置・構造
12	心脈管系動脈系	大動脈大動脈弓頭部・頚部の動脈体幹・骨盤部の動脈上肢・下肢の動脈

13	静脈系	静脈上下大静脈皮静脈・硬膜静脈洞胎児循環
14	リンパ系	リンパ本幹リンパ性器官（リンパ節・脾臓・胸腺）
15		
16		

科目コード	27101				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	生理学Ⅰ［PH2024年度以前入学生][再履修用]				担当者名	古山　喜一			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

生理学では人体の役割と機能について学ぶ。人体の正常な構造と機能を知っていることは、将来人体に関わる仕事に就く者にとって大切なことである。生理学Ⅰでは、まず生命の基本単位である細胞について学ぶ。つぎに生命を活用する動物的機能−外界の刺激に対応する神経、筋肉、感覚などについて学ぶ。日頃意識することなく行っている、見て、聞いて、考えて、行動することについてのメカニズムを理解する。その後、生命を維持する植物的機能のうちの体温調節について学ぶ。

＜授業の到達目標＞

人体のすべての組織は細胞からできており、その普遍性について理解する。神経や筋肉など、個々の組織のはたらきを知ると同時に、組織は違えど共通するはたらきが多くあることを理解する。柔道整復師国家試験問題についてただ正しいものを選択できるようになるのではなく、「なぜ正しいか／どこが誤っているか、誤っているなら正しい答えはなにか」について理解して答えられるようになるのが目標である。

＜授業の方法＞

教科書の章の順とは前後させている部分があるが、内容は教科書に沿って講義する。高校で生物学を学んでいない学生でも理解できるよう、教科書外の基本的な内容も一部入れている。理解を深めるためのプリントを配布する。当日の講義の内容に関連する柔道整復師国家試験の生理学分野の過去問題についても解説する。講義の終わりに、その日の講義内容の確認の小テストを行う（プリント等を見てよい）。小テストの誤りが多い部分に関しては次回講義時に解説する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

グループ学習により双方向で理解度を確認する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習としては教科書の次回授業範囲を一通り読んでおくとよい（約15分）。復習は毎回行う小テストおよび国家試験問題を中心に行うとよい（約30分）。人体の機能には、拮抗するもの（逆のはたらきをするもの）が多くあるため、小テストの設問と逆の機能についても考えるようにすると、1つの問題から多くのことを学ぶことができる。また、国家試験問題は正しい答えを求めるだけでなく、残りの選択肢が示すものはなにであるかについて考えるとよい。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

DP２　柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

確認小テスト 15%、定期試験 80%、授業態度 5%。小テストの答えは次回授業開始時に解説するほか、まとめの回で再度確認する。

＜教科書＞

社団法人全国柔道整復学校協会 監修、根来英雄・貴邑冨久子 著　「生理学 改定第4版」　南江堂

＜参考書＞

特になし（プリントを配布する）。

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	1 生理学とは（1）	細胞、細胞を構成する物質（13 栄養と代謝の内容を一部含む）、核と細胞小器官
2	1 生理学とは（2）	細胞膜、体液
3	13 栄養と代謝	栄養素、ATP、酵素（範囲外）、栄養素の代謝
4	3 神経の生理（1）	静止電位と活動電位、興奮の伝導と伝達
5	2 筋の生理（1）	筋の種類、骨格筋の構造と筋収縮
6	2 筋の生理（2）	筋収縮の特徴、平滑筋、心筋
7	3 神経の生理（2）、4 運動の生理（1）	神経系の概略、筋紡錘、伸張反射
8	4 運動の生理（2）、2 神経の生理（3）	屈曲反射、誘発筋電図、脊髄上行路下行路、自律神経系
9	4 運動の生理（3）、2 神経の生理（4）	脳幹による運動調節、間脳と大脳
10	4 運動の生理（4）	大脳と小脳による運動調節
11	3 神経の生理（5）、5 感覚の生理（1）	意識と睡眠、感覚の種類、皮膚感覚
12	5 感覚の生理（2）	痛覚、視覚
13	5 感覚の生理（3）	聴覚、前庭感覚、味覚、嗅覚
14	15 体温とその調節まとめ	体温と体温調節、発熱
15		
16		

科目コード	27101				区　分	専門基礎科目		
授業科目名	生理学Ⅰ［PH2025年度以降入学生］				担当者名	佐藤　良子		
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

生理学では人体の役割と機能について学ぶ。人体の正常な構造と機能を知っていることは、将来人体に関わる仕事に就く者にとって大切なことである。生理学Ⅰでは、生理学Ⅰでは、まず生命の基本単位である細胞とその細胞を構成する物質について学ぶ。つぎに生体のエネルギーとなるATPについて学ぶ。その後生命を活用する動物的機能－外界の刺激に対応する神経、筋肉、運動について学ぶ。

＜授業の到達目標＞

人体のすべての組織は細胞からできており、その普遍性について理解する。神経や筋肉など、個々の組織のはたらきを知ると同時に、組織は違えど共通するはたらきが多くあることを理解する。柔道整復師国家試験問題についてただ正しいものを選択できるようになるのではなく、「なぜ正しいか／どこが誤っているか、誤っているなら正しい答えはなにか」について理解して答えられるようになるのが目標である。

＜授業の方法＞

教科書に沿って講義を行うが、理解しやすいように順番は若干前後することがある。また、理解を深めるために、図を多く入れたプリントを配布する。教科書の記載では説明が省略されている項目があるが、生理学の理解のために必要な項目については補足講義する。当日の講義の内容に関連する柔道整復師国家試験の生理学分野の過去問題についての解説も入れる。講義の終わりに、その日の講義内容の確認の課題を解答し、提出する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習としては教科書の次回授業範囲を一通り読んでおくとよい（約15分）。復習は毎回行う課題および国家試験問題を中心に行うとよい（約30分）。人体の機能には、拮抗するもの（逆のはたらきをするもの）が多くあるため、小テストの設問と逆の機能についても考えるようにすると、1つの問題から多くのことを学ぶことができる。また、国家試験問題は正しい答えを求めるだけでなく、残りの選択肢が示すものはなにであるかについて考えるとよい。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー２(柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題提出 15%、定期試験 80%、授業態度 5%。課題の解答は講義の次々回に行うほか、まとめの回で再度確認する。

＜教科書＞

公益社団法人全国柔道整復学校協会監修　彼末一之編集　生理学 改定第4版　南江堂

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	生理学とは(1)，栄養と代謝(1)	細胞を構成する物質
2	生理学とは(2)	細胞の基本構造－細胞内小器官とDNA－
3	生理学とは(3)	細胞の基本構造－転写と翻訳，細胞膜－
4	生理学とは(4)，栄養と代謝(2)	体液，生体に必要な栄養素，エネルギー代謝
5	栄養と代謝(3)	細胞呼吸，酵素
6	栄養と代謝(4)	栄養素の代謝，食物と栄養
7	神経の生理(1)	静止電位と活動電位
8	神経の生理(2)，筋の生理(1)	シナプス，骨格筋の構造
9	筋の生理(2)	筋収縮，筋収縮とATP
10	筋の生理(3)，神経の生理(3)	心筋，平滑筋，脳神経と脊髄神経
11	神経の生理(4)，運動の生理(1)	中枢の概略，運動に関する中枢
12	運動の生理(2)	筋紡錘，脊髄反射
13	運動の生理(3)	筋電図，脊髄路
14	まとめ	生理学Iの講義内容について確認する
15		
16		

科目コード	27102				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	公衆衛生学Ⅰ				担当者名	畑島　紀昭			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
公衆衛生とは「地域社会の組織的な努力によって疾病を予防し、寿命の延長を図り、身体的ならびに精神的能力を増進 するための科学である」と定義される。健康に関わるいろいろな現象を疫学的に把握し、人間を取り巻く環境、社会的 要因（制度、組織など）などと人の健康増進、疾患予防などとの関係を理解し、医療にどの様に関連するのか考えられる力を習得する。

＜授業の到達目標＞
衛生学・公衆衛生学を学ぶ意義について理解し、その内容を説明することができる。また、健康の概念および健康管理の方法について理解し、具体例を用いて説明することができる。さらに、自然環境および生活環境と感染症との関連について理解し、その予防方法を説明することができる。加えて、母子保健の意義および支援体制について理解し、関連する制度や支援内容を説明することができる。

＜授業の方法＞
教科書を中心に講義し必要に応じてDropboxにて資料を配付する。授業中に確認小テストを実施し、予習、復習状況を確認する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
課題に応じてグループワークを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：次の範囲をシラバスから確認させ、どの様な内容であるかまとめ授業で発表する。（毎回、1時間程度）復習：小テストを次の授業で実施する。（毎回、2時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲 30%、小テスト 30%、定期試験 40%

＜教科書＞
全国柔道整復学校協会　「衛生学・公衆衛生学」　南光堂
医療情報科学研究所：編集　公衆衛生がみえる　株式会社 メディックメディア

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	衛生学・公衆衛生学について	公衆衛生学の意義と目的、歴史的変遷、現代社会における役割を理解する。
2	健康の概念	健康の定義（WHOなど）、健康阻害因子、健康水準の指標について学ぶ。
3	疾病予防と健康管理	疾病の自然史、一次・二次・三次予防、生活習慣と健康管理の関係を理解する。
4	感染症の予防１	感染症の定義、感染経路、ウイルス性・細菌性感染症の特徴を理解する。
5	確認テスト①	第1回～第4回の学習内容についての理解度を評価する。
6	感染症の予防２・消毒１	感染症の発生動向と予防対策、消毒の基本概念および主な消毒方法について学ぶ。
7	消毒２	消毒法の応用、各種消毒薬の特徴、院内感染対策における消毒の重要性を理解する。
8	環境衛生（環境保健）１	環境の概念、非生物学的環境と生物学的環境の基本について学ぶ。
9	環境衛生（環境保健）２	環境問題、物理的・化学的・生物学的環境要因と健康への影響を理解する。
10	確認テスト②	第6回～第9回の学習内容についての理解度を評価する。
11	環境衛生（環境保健）3	公害の種類と健康影響、空気の衛生および大気汚染の現状と対策について学ぶ。
12	生活環境・食品衛生活動	水の衛生、衣服・住居と健康、食品衛生、廃棄物処理と環境保全について理解する。
13	母子保健	ライフサイクルにおける母子保健の意義、母子保健施策、母子保健指標について学ぶ。
14	確認テスト③・まとめ	全体の学習内容の理解度を評価するとともに、重要事項の総括を行う。
15		
16		

科目コード	27103				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	基礎柔道整復学Ⅰ(総論)				担当者名	平林　大輔			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
柔道整復師は、業務として柔道整復を行うことができる国家資格、あるいはその国家資格を持つ者で、柔道整復師法に おいては「厚生労働大臣の免許を受けて、柔道整復を業とする者」と定義される。柔道整復師の社会への役割を理解し、業務範囲について理解する。

＜授業の到達目標＞
柔道整復術は日本古来固有の伝統医療、 代替医療であり、柔道整復師は日本国でのみ認められている日本固有の国家資格である。その成り立ちを理解し、各組 織の損傷や評価、整復法・治療法を理解する事ができるようになる。

＜授業の方法＞
教科書に沿って講義を行い、解説を行う。教科書の内容を細かく丁寧に指導する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無し

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
前回の復習として小テスト・定期テストに備え、授業内容を必ず見直しておく事。最低でも週3時間の学習を推奨する。授業後復習は記憶に定着させるために当日2時間程度の復習を推奨する。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
定期試験100％で評価する。

＜教科書＞
全国柔道整復学校協会（2011.12.20）　「柔道整復学・理論編」南江堂　南江堂

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	概説	柔道整復師の沿革と業務範囲、倫理綱領
2	総論	人体に加わる力・損傷に関する身体の基礎的条件、損傷時に加わる力
3	各組織の損傷−骨−	骨の損傷
4	各組織の損傷−筋・腱−	筋・健の損傷
5	各組織の損傷−靭帯−	靭帯の損傷
6	各組織の損傷−神経−	神経の損傷
7	各組織の損傷−皮膚−	皮膚の損傷
8	各組織の損傷−血管−	血管の損傷
9	評価	末梢神経、血管系、リンパ系、皮膚の損傷
10	治療法−整復−	評価の信頼性、妥当性、確実性
11	治療法−固定−	整復法
12	治療法−後療−	固定法
13	治療法−指導−	後療法
14	まとめ	指導管理
15		
16		

科目コード	27104				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	基礎柔道整復学Ⅱ(骨折)				担当者名	坂本　賢広			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
臨床で必要な骨折について発生機序、症状、整復法、固定法、合併症等について学ぶと共に保存療法の限界に関する知識を修得する。各骨折の発生メカニズムを詳細に理解する事が症状、整復法、固定法、合併症等を合理的に理解することになる。この講義では頭部顔面骨折・胸骨骨折・肋骨骨折・脊椎骨折・前腕遠位端部骨折・手根骨骨折・中手骨骨折・指骨骨折について学習する。

＜授業の到達目標＞
各骨折の種類と特有の症状について説明できる。各骨折の発生機序、症状、整復法、固定法、合併症等について理解する。各骨折における保存療法の限界について理解する。

＜授業の方法＞
教科書を中心に講義し、必要に応じて資料を配付する。確認小テストを実施し、予習、復習状況を確認する。動画や資料については必要に応じてDropboxやGoogle classroomにて配信する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：次の範囲をシラバスから確認して、どの様な内容であるかまとめ授業で確認する。（毎回、60分程度）復習：各回の授業で実施した内容を確認するため小テストを次の授業で実施する。（毎回、60分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲30％　小テスト20%　評価試験50%

＜教科書＞
全国柔道整復学校協会監修　柔道整復学・理論編　改訂第7版　南江堂
全国柔道整復学校協会監修　柔道整復学・実技編　改訂第2版　南江堂
目崎　登監修　運動器疾患ワークブック　医歯薬出版

＜参考書＞
標準整形外科学　医学書院

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	頭部・顔面骨折①	頭蓋骨骨折と眼窩底破裂骨折の症状と合併症など
2	頭部・顔面骨折②	上顎骨骨折と頬骨および頬骨弓骨折の症状と合併症など
3	頭部・顔面骨折	鼻骨骨折・鼻軟骨骨折及び下顎骨骨折の症状と合併症など
4	胸骨骨折	胸骨骨折（胸骨柄部・体部・剣状突起部）の種類と症状および合併症など
5	肋骨骨折	肋骨骨折及び肋軟骨骨折の症状と合併症など
6	脊椎骨折	頸椎・胸椎・腰椎骨折の症状と合併症など
7	前腕遠位端部骨折①	コーレス骨折の症状と合併症など
8	前腕遠位端部骨折②	スミス骨折・バートン骨折・ショーファー骨折の症状と合併症など
9	手根骨骨折①	舟状骨骨折の症状と合併症など
10	手根骨骨折②	その他の手根骨骨折の症状と合併症など
11	中手骨骨折①	第4，5中手骨骨折の症状と合併症など
12	中手骨骨折②	その他中手骨骨折の症状と合併症など
13	指骨骨折	基節骨・中節骨骨折・末節骨骨折・マレットフィンガーの症状と合併症など
14	まとめ	まとめ
15		
16		

科目コード	27200				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	病理学Ⅰ				担当者名	高畠　清文			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
正常人体構造をベースに疾病の原因、経過、本態など病的状態における細胞・組織・臓器などの変化を形態学的・病態生理学的に探求する学問である。肉眼的・顕微鏡的形態変化を基盤に疾病の本態、発症メカニズム、経過などについて理解し、内的・外的因子の影響などについて学習する。

＜授業の到達目標＞
１　病理学の役目を理解する。１　臓器・組織・細胞の退行性・進行性病病変を習得する。１　充血、うっ血、梗塞などの循環障害が理解できる。１　炎症・免疫の本態と疾患が理解できる。

＜授業の方法＞
パワーポイント、配布資料を中心に使用して、板書、質問等を取り入れ視覚聴覚的に講義をすすめる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
シラバスに沿って、講義当日の項目内容を教科書を一読し予習しておくこと。本科目を学習する上で、解剖学、組織学、生理学、生化学等の基礎学問の知識は不可欠であるので、これらの学問を整理しておく必要がある。講義の単元終了時に小テストを実施するので、復習を中心に学習する。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
定期試験 100％

＜教科書＞
社団法人全国柔道整復学協会 監修・関根一郎 著　「病理学概論　改訂第３版」　医歯薬出版株式会社

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	病理学とは・疾病の一般	病理学とは何か、病理学における観察方法、疾病・症候の意義と分類、疾病の経過
2	細胞障害（退行性病変） Ⅰ	萎縮と変性
3	細胞障害（退行性病変） Ⅱ	代謝障害と疾病
4	代謝障害と疾病	壊死、死
5	循環障害 Ⅰ	血液の循環障害
6	循環障害 Ⅱ	血栓症・塞栓症
7	循環障害 Ⅲ	リンパ液の循環障害、高血圧症
8	進行性病変 Ⅰ	肥大、過形成、化生
9	進行性病変 Ⅱ	創傷治癒、移植
10	炎症 Ⅰ	炎症の一般
11	炎症 Ⅱ	炎症の分類
12	免疫、アレルギー Ⅰ	免疫の仕組み
13	免疫、アレルギー Ⅱ	免疫不全・自己免疫疾患
14	免疫、アレルギー Ⅲ	アレルギーの分類
15		
16		

科目コード	27201				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	運動学特論Ａ				担当者名	福井　悠紀子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
運動器外傷に対する治療および障害発生予防には身体機能の理解は必須である。運動学は、人間の身体運動の構造や性質を諸原理から選択し、系統的に応用する科学的研究領域である。つまり、解剖学、生理学、生化学で学んだ人体の構造と機能、働きを理解した上で、身体運動の発現が効率良く連携する仕組みを学習するものである。

＜授業の到達目標＞
１．運動学の領域と目的を理解し説明ができる。２．身体（骨・関節・筋・神経）の構造や機能について説明ができる。

＜授業の方法＞
１．講義（教員による疾患に対する説明）教科書を基にデジタル資料を配布し、講義を進めていく。時にグループディスカッションや発表を用いながら理解を深めていく。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングを実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：実施する講義内容に準じた事前課題（解剖学（特に運動器系）の下調べ（毎回、1時間程度））復習：振り返り確認試験（毎回、15分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
定期試験90%，小テスト10%

＜教科書＞
公益財団法人全国柔道整復学校協会 監修（2024年1月10日）　運動学　第3版　医歯薬出版株式会社

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業導入、授業内容の概説
2	運動の目的	運動学とは/運動学の領域と目的/運動の捉え方
3	運動の表し方	運動の表示/関節運動の表示/姿勢
4	身体運動と力学	身体運動に関する力/人体における単一機械構造小テストを実施する
5	運動器の構造と機能①	骨の構造と機能
6	神経の構造と機能	神経細胞/運動単位/中枢・末梢神経
7	運動感覚	運動感覚
8	反射と随意運動	反射と随意運動小テストを実施する
9	四肢と体幹の運動①	四肢と体幹の骨格筋
10	運動器の構造と機能②	骨・関節の構造と機能
11	骨・関節の構造と機能	骨格筋の構造と機能
12	四肢と体幹の運動②	四肢と体幹の運動②/上肢帯
13	四肢と体幹の運動③	四肢と体幹の運動③/肩関節
14	総括	まとめ授業
15		
16		

科目コード	27202				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	基礎柔道整復学Ⅲ(脱臼)				担当者名	福井　悠紀子			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
臨床で必要な脱臼について発生機序、症状、整復法、固定法、合併症等について学ぶと共に保存療法の限界に関する知識を修得する。各脱臼の発生メカニズムを詳細に理解する事が症状、整復法、固定法、合併症等を合理的に理解することになる。この講義では顎関節、脊椎、肩鎖関節、肩関節、肘関節、手関節、手指関節について学習する。

＜授業の到達目標＞
各脱臼の発生機序、症状、整復法、固定法および合併症について説明できる。さらに、各脱臼における保存療法の適応と限界について具体的に説明できる。

＜授業の方法＞
教科書を中心に講義し必要に応じてDropboxにて資料を配付する。授業中に確認小テストを実施し、予習、復習状況を確認する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングを実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：次の範囲をシラバスから確認させ、どの様な内容であるかまとめ授業で発表する。（毎回、1時間程度）復習：小テストを次の授業で実施する。（毎回、2時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
小テスト 10%、定期試験 90%

＜教科書＞
全国柔道整復学校協会　「柔道整復学・理論編」第7版　南江堂
全国柔道整復学校協会　「柔道整復学・実技編」　南江堂

＜参考書＞
目崎 登　「運動器疾患ワークブック」　医歯薬出版

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の心構え
2	脱臼の総論	脱臼の定義/分類
3	顎関節脱臼	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
4	頸椎脱臼、胸椎脱臼、腰椎脱臼	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
5	第1回目小テスト	顎関節から頸椎、胸椎、腰椎の復習
6	上肢脱臼/鎖骨脱臼	胸鎖関節脱臼/肩鎖関節脱臼/発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
7	肩関節脱臼①	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
8	肩関節脱臼②	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
9	肘関節脱臼	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
10	第2回目小テスト	鎖骨脱臼～肘関節脱臼までの復習
11	肘内障/手関節部の脱臼	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
12	手指脱臼-CM関節-	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
13	手指脱臼-MP-,手指脱臼-DIP・PIP-	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
14	まとめ	総括
15		
16		

科目コード	27202				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	基礎柔道整復学Ⅲ(脱臼)				担当者名	福井　悠紀子			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
臨床で必要な脱臼について発生機序、症状、整復法、固定法、合併症等について学ぶと共に保存療法の限界に関する知識を修得する。各脱臼の発生メカニズムを詳細に理解する事が症状、整復法、固定法、合併症等を合理的に理解することになる。この講義では顎関節、脊椎、肩鎖関節、肩関節、肘関節、手関節、手指関節について学習する。

＜授業の到達目標＞
各脱臼の発生機序、症状、整復法、固定法および合併症について説明できる。さらに、各脱臼における保存療法の適応と限界について具体的に説明できる。

＜授業の方法＞
教科書を中心に講義し必要に応じてDropboxにて資料を配付する。授業中に確認小テストを実施し、予習、復習状況を確認する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングを実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：次の範囲をシラバスから確認させ、どの様な内容であるかまとめ授業で発表する。（毎回、1時間程度）復習：小テストを次の授業で実施する。（毎回、2時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
小テスト 10%、定期試験 90%

＜教科書＞
全国柔道整復学校協会　「柔道整復学・理論編」第7版　南江堂
全国柔道整復学校協会　「柔道整復学・実技編」　南江堂

＜参考書＞
目崎 登　「運動器疾患ワークブック」　医歯薬出版

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の心構え
2	脱臼の総論	脱臼の定義/分類
3	顎関節脱臼	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
4	頸椎脱臼、胸椎脱臼、腰椎脱臼	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
5	第1回目小テスト	顎関節から頸椎、胸椎、腰椎の復習
6	上肢脱臼/鎖骨脱臼	胸鎖関節脱臼/肩鎖関節脱臼/発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
7	肩関節脱臼①	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
8	肩関節脱臼②	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
9	肘関節脱臼	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
10	第2回目小テスト	鎖骨脱臼～肘関節脱臼までの復習
11	肘内障/手関節部の脱臼	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
12	手指脱臼-CM関節-	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
13	手指脱臼-MP-,手指脱臼-DIP・PIP-	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
14	まとめ	総括
15		
16		

科目コード	27203				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	基礎柔道整復学Ⅳ(捻挫)				担当者名	平林　大輔			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	柔道整復師養成施設必修科目

＜授業の概要＞
捻挫における発生機序、症状、治癒形態といった概要について機能解剖学、生理学、運動学的視点より学習する。各論においては顎関節、頚部（胸部も含む）、腰部で生じる捻挫について学習する。

＜授業の到達目標＞
捻挫は臨床現場で関わることが多い運動器疾患の一つである。捻挫を生じる組織の種類、症状、治癒機序等について機能解剖学、生理学、運動学的視点より理解し、論理的思考を習熟させることを目標とする。また、競技者の外傷予防の概論について理解し、アスレティックトレーナー実習等における理論的背景について理解することができるようになる。

＜授業の方法＞
冒頭に前回の授業範囲から小テストを実施する。動画や資料については必要に応じてGoogle classroomなどで配信する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無し

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
本講義受講前には必ず解剖学、生理学（骨、筋肉、神経）に関する予習を実施すること。前回の授業範囲から確認テストを実施するので、復習をしておく。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
定期試験100％で評価する。

＜教科書＞
全国柔道整復学校協会（2022）　柔道整復学・理論編　改訂第7版　南江堂
全国柔道整復学校協会（2016）　柔道整復学・実技編　改訂第2版　南江堂
全国柔道整復学校協会（2020）　競技者の外傷予防　医歯薬出版株式会社

＜参考書＞
全国柔道整復学校協会（2020）　整形外科学　改訂第4版　南江堂

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	運動生理学の概要（１）	運動が生体に与える影響運動とエネルギー代謝
2	運動生理学の概要（２）	運動と骨・筋肉運動と呼吸・循環
3	運動生理学の概要（３）	運動とホルモン競技者の運動生理学的特徴
4	競技者の外傷予防（概論）（１）	競技者の外傷予防の概要外傷の発生要因
5	競技者の外傷予防（概論）（２）	外傷の予防対策
6	頚部捻挫（１）	頚部周囲組織（神経）の確認
7	頚部捻挫（２）	寝違え、むちうち損傷
8	頸椎部の神経損傷（１）	外傷性腕神経叢麻痺、副神経麻痺
9	頸椎部の神経損傷（２）	長胸神経、分娩麻痺、頸髄損傷（総論）
10	頚部の疾患（１）	頸椎症、頸椎椎間板ヘルニア
11	頚部の疾患（２）	胸郭出口症候群
12	腰部捻挫（１）	腰部周囲組織の確認、腰痛症
13	腰部捻挫（２）	腰椎椎間板ヘルニア、脊椎分離すべり症
14	腰部捻挫（３）まとめ	変形性脊椎症（腰部脊柱管狭窄症）、梨状筋症候群
15		
16		

科目コード	27300				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	運動学特論Ｂ				担当者名	福井　悠紀子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
運動学は、人間の身体運動の構造や性質を諸原理から選択し、 系統的に応用する科学的研究領域である。つまり、解剖学、生理学、生化学で学んだ人体の構造と機能、働きを理解した上で、身体運動の発現が効率良く連携する仕組みを学習するものである。また、身体の成長・発達および加齢に伴い変化する運動の様相を観察し、正常な動きを理解した上で異常運動を学習する。

＜授業の到達目標＞
運動学の領域と目的を説明できる。さらに、身体（骨・関節・筋・神経）の構造と機能について基礎的知識を説明できる。それらの知識を基に、基本的な身体運動の分析ができるとともに、運動発達および運動学習の過程について具体例を挙げて説明できる。

＜授業の方法＞
１．講義（教員による疾患に対する説明）教科書を基にデジタル資料を配布し、講義を進めていく。また、時にグループディスカッションや発表を用いながら理解を深めていく。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングを実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：実施する講義内容に準じた事前課題（疾患に関係する解剖学（特に運動器系）、疾患の概要の下調べ（毎回、1時間程度））
復習：振り返り確認試験（毎回、15分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
定期試験90%，小テスト10%

＜教科書＞
全国柔道整復学校協会 監修(2024年1月10日)　運動学　第3版　医歯薬出版株式会社

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	四肢と体幹の運動①	四肢と体幹の運動①/肘関節、手関節
2	四肢体幹の運動②	四肢体幹の運動②（手指の筋）
3	四肢体幹の運動③	四肢体幹の運動③（股関節）小テストを実施する
4	四肢体幹の運動④	四肢体幹の運動④（膝関節）
5	足関節と足部の運動	足関節と足部の運動を理解する
6	体幹と脊柱の運動	体幹と脊柱の運動を理解する
7	頚椎の運動	頚椎の運動を理解する小テストを実施する
8	胸椎の運動	胸椎の運動を理解する
9	腰椎、仙椎、骨盤、顔面の運動	腰椎、仙椎、骨盤、顔面の運動を理解する
10	姿勢	姿勢の分類／重心／立位姿勢
11	歩行	歩行周期／歩行の運動学的分析/歩行周期／歩行の運動学的分析
12	運動発達	運動発達について理解する
13	運動学習	運動学習について理解する
14	総括	総復習
15		
16		

科目コード	27302				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	柔道整復解剖生理演習Ⅰ				担当者名	平林　大輔			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
解剖学、生理学では人体の正常構造として骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、感覚器系、神経系、脈管系の各器官について系統的に学習し、これらの器官系が立体的に配置することによって人体が形成されていることを理解し、各器官内あるいは各器官系がどのように連鎖して働くことにより、生命徴候が営まれているのかを修得した。本演習ではこれらの解剖学、生理学分野の中でも、特に柔道整復師業務に重要である、神経系について特化して修得する。

＜授業の到達目標＞
柔道整復解剖生理演習Ⅰでは、神経系を中心に解剖学、生理学の観点より、各諸器官の構造と機能について理解できるようになる。

＜授業の方法＞
教科書及び配布資料による講義、問題演習をおこなう。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無し

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：不要　　復習：前回の範囲を口頭試問か小テストを適時行う。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学期末テスト　100％

＜教科書＞
全国柔道整復学校協会監修　解剖学　医歯薬出版
全国柔道整復学校協会監修　生理学　南江堂

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	神経	神経概要
2	神経	神経概要
3	神経	中枢神経
4	神経	中枢神経
5	神経	脳神経
6	神経	脳神経
7	神経	脊髄神経
8	神経	脊髄神経
9	神経	自律神経
10	神経　（生理学）	静止膜電位と活動電位
11	神経（生理学）	伝導と伝達
12	神経（生理学）	睡眠と学習
13	神経（生理学）	自律神経
14	振り返り	解剖生理学のまとめ
15		
16		

科目コード	27303				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	柔道整復解剖生理演習Ⅱ				担当者名	平林　大輔			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
解剖学、生理学では人体の正常構造として骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、感覚器系、神経系、脈管系の各器官について系統的に学習し、これらの器官系が立体的に配置することによって人体が形成されていることを理解し、各器官内あるいは各器官系がどのように連鎖して働くことにより、生命徴候が営まれているのかを修得した。本演習ではこれらの解剖学、生理学分野の中でも、特に柔道整復師業務に重要である脈管系・内分泌系について特化して修得する。

＜授業の到達目標＞
柔道整復解剖生理演習Ⅱでは脈管系および内分泌系について理解出来るようになる。特に脈管と内分泌に関して特化し、解剖学・生理学分野からそれらを説明ができるようになり、患者さんからの質問や血管の配置、内分泌の役割等を端的に説明できるようになることを目指す。

＜授業の方法＞
教科書及び配布資料による講義を行う

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無し

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：必要としない復習：この授業は復習が全てである。次の授業に進む前に必ず前の時間に修得した事を復習する事を推奨する。毎日最低でも1時間以上の学習時間確保を強く推奨する。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
後期末試験100％

＜教科書＞
全国柔道整復学校協会監修　解剖学　医歯薬出版
全国柔道整復学校協会監修　生理学　南江堂

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	内分泌（解剖学）	内分泌概説・下垂体
2	内分泌（解剖学）	松果体・甲状腺
3	内分泌（解剖学）	副腎・精巣・卵巣
4	内分泌（生理学）	ホルモン調節
5	内分泌（生理学）	視床下部ホルモンと下垂体ホルモン
6	内分泌（生理学）	甲状腺ホルモンと副腎ホルモン
7	内分泌（生理学）	腎臓のホルモンと膵臓ホルモン
8	内分泌（生理学）	性腺ホルモンとホルモンまとめ
9	循環器	脈管概説と心臓
10	循環器	動脈
11	循環器	動脈
12	循環器	静脈
13	循環器	リンパ系
14	まとめ	循環まとめとテスト対策
15		
16		

科目コード	27304				区　分	専門基礎科目		
授業科目名	柔道整復解剖生理演習Ⅲ				担当者名	平林　大輔		
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
解剖学、生理学では人体の正常構造として骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、感覚器系、神経系、脈管系の各器官について系統的に学習し、これらの器官系が立体的に配置することによって人体が形成されていることを理解し、各器官内あるいは各器官系がどのように連鎖して働くことにより、生命徴候が営まれているのかを修得した。本演習ではこれらの解剖学、生理学分野の中でも、柔道整復師業務に重要である消化器、呼吸器系について特化して修得する。

＜授業の到達目標＞
柔道整復解剖生理演習Ⅲでは、消化器・呼吸器系を中心に臨床現場で遭遇する種々の外傷および合併症などを適切に評価することができるようになるために、解剖学、生理学の観点より、各諸器官の構造と機能について学習する。

＜授業の方法＞
教科書及び配布資料による講義及びグループ学習を用いた討論形式、演習問題で進める。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無し

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：不要　　復習：前回の範囲を口頭試問か小テストを行う。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学期末テスト　100%

＜教科書＞
全国柔道整復学校協会監修　解剖学　医歯薬出版
全国柔道整復学校協会監修　生理学　南江堂

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	消化器	消化器概説
2	消化器	口腔・咽頭・食道
3	消化器	胃・小腸
4	消化器	大腸・肝臓
5	消化器	膵臓・腹膜
6	呼吸器	鼻腔と副鼻腔
7	呼吸器	喉頭と気管支
8	呼吸器	肺と縦隔
9	消化と吸収	機械的消化と化学的消化
10	消化と吸収	消化管壁と運動
11	消化と吸収	消化と吸収
12	消化と吸収	口腔と胃
13	消化と吸収	小腸と大腸
14	消化と吸収	肝臓と消化酵素
15		
16		

科目コード	27305				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	柔道整復解剖生理演習Ⅳ				担当者名	平林　大輔			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
解剖学、生理学では人体の正常構造として骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、感覚器系、神経系、脈管系の各器官について系統的に学習し、これらの器官系が立体的に配置することによって人体が形成されていることを理解し、各器官内あるいは各器官系がどのように連鎖して働くことにより、生命徴候が営まれているのかを修得した。本演習ではこれらの解剖学、生理学分野の中でも、柔道整復師業務に重要である呼吸器系泌尿器系について特化して修得する。

＜授業の到達目標＞
柔道整復解剖生理演習Ⅳでは呼吸器・泌尿器について、臨床現場で遭遇する種々の外傷および合併症などを適切に評価することができるように、特に呼吸器・泌尿器の構造と機能について説明ができるようになる。　また、臨床現場で遭遇する症例について、解剖学・生理学分野から説明ができるようになる。

＜授業の方法＞
教科書及び配布資料による講義を行う

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無し

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：次の範囲をシラバスから確認させ、どの様な内容であるかまとめ授業で発表する。（毎回、1時間程度）復習：小テストは適宜行う。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
後期末試験100％

＜教科書＞
全国柔道整復学校協会監修　解剖学　医歯薬出版
全国柔道整復学校協会監修　生理学　南江堂

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	呼吸器	呼吸筋と換気のしくみ
2	呼吸器	肺胞換気量と死腔量
3	呼吸器	コンプライアンスとガス交換
4	呼吸器	酸素乖離曲線と化学受容器
5	泌尿器	腎臓の構造
6	泌尿器	ネフロン
7	泌尿器	腎動脈と尿管
8	泌尿器	膀胱と尿道
9	泌尿器	糸球体濾過量と透過性
10	泌尿器	分泌と再吸収
11	泌尿器	腎血流量とクリアランス
12	泌尿器	排尿と蓄尿
13	泌尿器	ホルモンによる調節
14	まとめ	テスト対策
15		
16		

科目コード	27306				区　分	コア科目			
授業科目名	基礎柔道整復学Ⅴ(保存療法)				担当者名	簀戸　崇史			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
軟部組織損傷は、柔道整復の臨床においてもっとも多い損傷といえる。近年、画像診断機器の発達により、軟部組織の病的状態を可視化することが可能になってきている。解像度や分解能が高まったことから、これまで触診・視診に頼っていたが、客観的定量的に示せるようになってきている。このような医療の現状に追従した軟部組織治療学を組織学的視点から学ぶ。

＜授業の到達目標＞
柔道整復学の軟部組織損傷に関する基礎の理解および運動時における損傷の発生機序を理解し、超音波画像の特性、取り扱い方を学び、描写される画像を説明できるようになることを目標とする。物理療法に関する基礎の理解と損傷部の治癒機序に対する原理・原則を理解し、説明できる様になることを目標とする。

＜授業の方法＞
講義形式を基本とし、グループワーク、ディスカッション形態で実施する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
本講義では、事前課題として各部位の解剖学、運動学、運動器疾患の各論に対して学びを深め、講義中は、その具体的な構造について、エコー画像診断装置を用いた画像確認を各グループに分かれて実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
この科目は健康科学科のディプロマポリシー5（科学的根拠や思考を持って医療現場やスポーツ現場の諸問題に対応できる能力を身に付ける。）と関連付けられています。柔道整復師として必要な知識を身に付け、最新医療の状況を把握し広い視野で物事を考えられる知識の習得を目指す。 特に予習が重要である。超音波画像実習で観察する身体の部位別に長軸像、短軸像でみられる画像を３次元に置き換えて理解できるように、事前に学習項目の身体部位の形態について予習が必要である。（1時間程度）　また、実習後には、プリントに記された実習内容に関す

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
定期試験40%、中間試験20%、事前学習40%

＜教科書＞
全国柔道整復学校協会 監修　「柔道整復学・理論編」　南江堂
公益社団法人　全国柔道整復学校協会　監修　施術の適応と医用画像の理解　南江堂

＜参考書＞
臨床スポーツ医学編集委員会　予防としてのスポーツ医学　文光堂

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業概要、成績評価の説明
2	超音波画像の理解①	エコーの仕組みとアーチファクトを理解できる。
3	超音波画像の理解②	ランドマークと画像の調整法を理解できる。
4	超音波画像の理解③	手部の体表解剖とエコー画像の理解が出来る。
5	超音波画像の理解④	肘部の体表解剖とエコー画像の理解が出来る。
6	超音波画像の理解⑤	肩部の体表解剖とエコー画像の理解が出来る。
7	超音波画像の理解⑥	足部の体表解剖とエコー画像の理解が出来る。
8	超音波画像の理解⑦	膝部の体表解剖とエコー画像の理解が出来る。
9	超音波画像の理解⑧	大腿部の体表解剖とエコー画像の理解が出来る。
10	確認テスト	エコー画像の座学による確認テスト
11	物理療法の理解①	電気療法について理解できる。
12	物理療法の理解②	温熱療法に対して理解できる。
13	物理療法の理解③	温熱療法②について理解できる。
14	物理療法の実際④	最新の物療機器の考え方。寒冷療法について理解できる。
15		
16		

科目コード	28101				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	経営学概論［（編入生、再履修者用）週2オンデマンド］				担当者名	宇都宮　浩司			
配当年次	1年	配当学期	第４クオーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
この授業は、経営学という学問領域全般を扱います。理論を中心に経営学を学ぶことを目的とします。

＜授業の到達目標＞
①経営学に関するさまざな基本概念を自分の言葉で説明できる。②経営学の理論・概念を用いて経営現象を分析できる。

＜授業の方法＞
オンデマンドで行います。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
なし

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習：提示されたテーマについて調べておく（60分程度）事後学習：授業内で扱ったテーマに沿った課題に取り組む（90分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、現代経営学科のDP２「経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。」およびDP３「経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。」に関連している。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
①授業における課題提出：30％②授業内レポート×2回：40％③授業内確認テスト：30％上記の総合点で評価する。

＜教科書＞
特に使用しない。

＜参考書＞
適宜紹介します。

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	経営学とはどのような学問かを解説し、講義の進め方、成績方法について説明する。
2	企業と経営	企業と経営の概念および経営者・管理者の役割について学ぶ。
3	所有・経営・支配	株式会社の発展と経営機能の分化について学ぶ。
4	コーポレート・ガバナンス	株式会社の機関とコーポレート・ガバナンスについて学ぶ。
5	日本型企業システム	日本型企業システムの特質と課題について学ぶ。
6	経営戦略の体系と理論	経営戦略論の系譜について学ぶ。
7	全社戦略	全社戦略の特徴について学ぶ。
8	事業戦略	事業戦略とさまざまなアプローチについて学ぶ。
9	組織に関する基礎理論（１）	伝統的組織論について学ぶ。
10	組織に関する基礎理論（２）	近代組織論について学ぶ。
11	経営組織の基本形態	分業と協業の体系としての組織について学ぶ。
12	組織の制度・管理・文化	企業における人事管理、組織文化について学ぶ。
13	経営管理の基礎理論	経営管理の基本となる諸理論についてまなぶ。
14	経営課題	M＆A、グローバリゼーションなど、さまざまな経営課題について学ぶ。
15		
16		

科目コード	28101				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	経営学概論 [1年生日本人用][週2]				担当者名	江口　尚文			
配当年次	1年	配当学期	Q3	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

経済経営学部の柱の１つである、企業の経営について学ぶ。経済は生産と消費から成り立っており、その中心に位置するのが企業である。企業は最終消費者と並ぶ経済のメインプレイヤーであり、そこで繰り広げられる行為が経営である。　トヨタ自動車(株)の従業者はグループ全体でで約39万人、売上高は50兆円を越える（ともに2026年３月期）。従業者数は日本の中堅都市の人口を上回り、売上高は世界の中堅先進国のＧＤＰに匹敵する。企業経営を理解することは、経済の深い理解にもつながる。　本講義は、企業経営に関わる知識の「習得」、お

＜授業の到達目標＞

①企業経営を知ることで、社会を見る力を身につける。②単に知識を得るのでなく、それに基づく考える力を身につける。③さらに経営学の専門的な領域の学習に動機づけられる。

＜授業の方法＞

ホワイトボードを用いて、話す速度に合わせタイムリーに板書しながら進める。ただし板書は理論のモデル（図解）や要点にとどめるため、口頭の論説をノートに書き留めることが必須となる。パワーポイントは使わない。グループワークは行わない。毎回のレポートは課さないが、非定期的にレポート提出を求めたいと考えている。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

グループワーク等は実施しないが、頻繁な問いかけを行いつつ授業を進める。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

何らかの媒体を使い、意識して経済あるいは企業に関わる情報に毎日30分程度は触れる。授業の後はノートを見直し、その日の内容を頭の中で反芻する。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー２（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー３（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業の最終日に実施する課題レポートの作成（70%）非定期的に課すレポートの提出（10%）受講態度等（20%）

＜教科書＞

＜参考書＞

塩次喜代明ほか　経営管理　有斐閣アルマ
加護野忠男・伊丹敬之　ゼミナール　経営学入門　日本経済新聞社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	講義概要説明と社会科学における本講義の位置づけを説明する。
2	企業論（１）：企業と経営	企業の発展に伴い経営理論が必要になったことを説明する。
3	企業論（２）：近代企業の誕生	なぜオーナー経営者（株主）でない専門経営者が出現したのかを考える。
4	企業論（３）：所有と支配の分離	専門経営者は、なぜ株式を持たずに（金を出さずに）会社を支配できるのかを考える。
5	企業論（４）：横の企業集団の形成	日本では株式の相互持ち合いが経営者の支配を強固にしたことを説明する。
6	経営組織論（１）：機能別組織	組織構造の基本の１つである機能別組織について説明する。
7	経営組織論（２）：機能別組織の限界	なぜ大規模化すれば、コミュニケーションロスが発生するのか考える。
8	経営組織論（３）：事業部制組織の登場	大規模化した多角化企業では権限委譲が必要になることを説明する。
9	経営組織論（４）：部門間の連携	タスクフォースやプロジェクトチームの活用について考える。
10	経営戦略論（１）：ファイブ・フォース・モデル	競争構造を分析方法と、その後の戦略策定プロセスを考える。
11	経営戦略論（２）：競争に勝つ３つの基本戦略	戦略には、コストダウンか差別化、あるいは集中の３つがあることを説明する。
12	経営戦略論（３）：成長と企業ドメイン	どの領域で生きていくのか考える。
13	経営戦略論（４）：ＰＰＭ（Product Portfolio Management）	企業の資源配分のパターンを説明する。
14	まとめ	授業で学んだ、企業・組織・戦略について振り返り、整理する。
15		
16		

科目コード	28101				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	経営学概論 [留学生用][週2]				担当者名	江口　尚文			
配当年次	1年	配当学期	Q3	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

経済経営学部の柱の１つである、企業の経営について学ぶ。経済は生産と消費から成り立っており、その中心に位置するのが企業である。企業は最終消費者と並ぶ経済のメインプレイヤーであり、そこで繰り広げられる行為が経営である。　トヨタ自動車(株)の従業者はグループ全体でで約39万人、売上高は50兆円を越える（ともに2026年３月期）。従業者数は日本の中堅都市の人口を上回り、売上高は世界の中堅先進国のＧＤＰに匹敵する。企業経営を理解することは、経済の深い理解にもつながる。　本講義は、企業経営に関わる知識の「習得」、お

＜授業の到達目標＞

①企業経営を知ることで、社会を見る力を身につける。②単に知識を得るのでなく、それに基づく考える力を身につける。③さらに経営学の専門的な領域の学習に動機づけられる。

＜授業の方法＞

ホワイトボードを用いて、話す速度に合わせタイムリーに板書しながら進める。ただし板書は理論のモデル（図解）や要点にとどめるため、口頭の論説をノートに書き留めることが必須となる。パワーポイントは使わない。グループワークは行わない。毎回のレポートは課さないが、非定期的にレポート提出を求めたいと考えている。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

グループワーク等は実施しないが、頻繁な問いかけを行いつつ授業を進める。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

何らかの媒体を使い、意識して経済あるいは企業に関わる情報に毎日30分程度は触れる。授業の後はノートを見直し、その日の内容を頭の中で反芻する。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー２（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー３（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業の最終日に実施する課題レポートの作成（70%）非定期的に課すレポートの提出（10%）受講態度等（20%）

＜教科書＞

＜参考書＞

塩次喜代明ほか　経営管理　有斐閣アルマ
加護野忠男・伊丹敬之　ゼミナール　経営学入門　日本経済新聞社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	講義概要説明と社会科学における本講義の位置づけを説明する。
2	企業論（１）：企業と経営	企業の発展に伴い経営理論が必要になったことを説明する。
3	企業論（２）：近代企業の誕生	なぜオーナー経営者（株主）でない専門経営者が出現したのかを考える。
4	企業論（３）：所有と支配の分離	専門経営者は、なぜ株式を持たずに（金を出さずに）会社を支配できるのかを考える。
5	企業論（４）：横の企業集団の形成	日本では株式の相互持ち合いが経営者の支配を強固にしたことを説明する。
6	経営組織論（１）：機能別組織	組織構造の基本の１つである機能別組織について説明する。
7	経営組織論（２）：機能別組織の限界	なぜ大規模化すれば、コミュニケーションロスが発生するのか考える。
8	経営組織論（３）：事業部制組織の登場	大規模化した多角化企業では権限委譲が必要になることを説明する。
9	経営組織論（４）：部門間の連携	タスクフォースやプロジェクトチームの活用について考える。
10	経営戦略論（１）：ファイブ・フォース・モデル	競争構造を分析方法と、その後の戦略策定プロセスを考える。
11	経営戦略論（２）：競争に勝つ３つの基本戦略	戦略には、コストダウンか差別化、あるいは集中の３つがあることを説明する。
12	経営戦略論（３）：成長と企業ドメイン	どの領域で生きていくのか考える。
13	経営戦略論（４）：ＰＰＭ（Product Portfolio Management）	企業の資源配分のパターンを説明する。
14	まとめ	授業で学んだ、企業・組織・戦略について振り返り、整理する。
15		
16		

科目コード	28102				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	経済学概論［（編入生、再履修者用）週2オンデマンド］				担当者名	宇都宮　浩司			
配当年次	1年	配当学期	第２クウォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
経済学の基礎を学ぶ。具体的には、経済学の体系、経済学的ものの見方、経済学を学ぶ上での基礎知識、キーワードとなる経済用語、経済社会の構造などを学ぶ。

＜授業の到達目標＞
マクロ経済学、ミクロ経済学、その他の経済系専門科目を学ぶための基礎知識が身に付く。

＜授業の方法＞
講義形式で行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
講義に際しては、時々、理解度確認の演習を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
経済学の基礎となる授業なので、わからないところを残さないよう、毎回予習・復習を30分程度行うこと。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー３（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
時々実施する確認テスト（40%）と最後のまとめテスト(60%)で評価する。

＜教科書＞

＜参考書＞
飯田幸裕・岩田幸訓（2022）　入門経済学［第四版］　創成社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	経済学とは何か	経済学とはどういう学問かについて解説をおこなう。
2	グラフの見方・書き方	マクロ経済学、ミクロ経済学で使う基本的なグラフの見方・書き方を練習する。
3	国内総生産（GDP）	マクロ経済学の基礎となる国内総生産（GDP)の概念、その規模や世界各国GDPの比較をおこなう。
4	生産・所得・消費の決定	生産・所得・消費がどのようにして決まるかを考える。
5	貨幣	貨幣の成り立ち、貨幣の役割、さらには新しい貨幣（デジタル通貨、仮想通貨）について考える。
6	マクロ経済政策	経済をどのようにコントロールするか、財政政策、金融政策を中心に考える。
7	インフレ、デフレ、失業	インフレ、デフレの要因とその経済への影響、失業との関係などを考える。
8	ミクロ経済学の基礎	ミクロ経済学とは何かを解説する。
9	需要と供給	需要と供給の関係をさまざまな例をもとに考える。
10	需要と効用	消費者剰余、効用について考える。
11	供給と利潤	供給の決定、費用、利潤最大化について考える。
12	競争と独占	自由競争状態、独占状態について解説し、その問題点を考える。
13	市場の失敗、ゲームの理論	市場はなぜ失敗するのかを理論的に考える。また、ゲームの理論の基礎を学ぶ。
14	小テスト	講義内容確認のテストを行う。
15		
16		

科目コード	28102				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	経済学概論［1年生日本人用][週2]				担当者名	田口　雅弘			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
経済学の基礎を学ぶ。具体的には、経済学の体系、経済学的ものの見方、経済学を学ぶ上での基礎知識、キーワードとなる経済用語、経済社会の構造などを学ぶ。

＜授業の到達目標＞
マクロ経済学、ミクロ経済学、その他の経済系専門科目を学ぶための基礎知識が身に付く。

＜授業の方法＞
講義形式で行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
講義に際しては、時々、理解度確認の演習を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
経済学の基礎となる授業なので、わからないところを残さないよう、毎回予習・復習を30分程度行うこと。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー３（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
時々実施する確認テスト（40%）と最後のまとめテスト(60%)で評価する。

＜教科書＞

＜参考書＞
飯田幸裕・岩田幸訓（2022）　入門経済学［第四版］　創成社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	経済学とは何か	経済学とはどういう学問かについて解説をおこなう。
2	グラフの見方・書き方	マクロ経済学、ミクロ経済学で使う基本的なグラフの見方・書き方を練習する。
3	国内総生産（GDP）	マクロ経済学の基礎となる国内総生産（GDP)の概念、その規模や世界各国GDPの比較をおこなう。
4	生産・所得・消費の決定	生産・所得・消費がどのようにして決まるかを考える。
5	貨幣	貨幣の成り立ち、貨幣の役割、さらには新しい貨幣（デジタル通貨、仮想通貨）について考える。
6	マクロ経済政策	経済をどのようにコントロールするか、財政政策、金融政策を中心に考える。
7	インフレ、デフレ、失業	インフレ、デフレの要因とその経済への影響、失業との関係などを考える。
8	ミクロ経済学の基礎	ミクロ経済学とは何かを解説する。
9	需要と供給	需要と供給の関係をさまざまな例をもとに考える。
10	需要と効用	消費者剰余、効用について考える。
11	供給と利潤	供給の決定、費用、利潤最大化について考える。
12	競争と独占	自由競争状態、独占状態について解説し、その問題点を考える。
13	市場の失敗、ゲームの理論	市場はなぜ失敗するのかを理論的に考える。また、ゲームの理論の基礎を学ぶ。
14	まとめ	講義全体のまとめを行う。
15	小テスト	講義内容確認のテストを行う。
16		

科目コード	28102				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	経済学概論 [留学生用][週2]				担当者名	古松　丈周			
配当年次	1年	配当学期	第３クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
経済学の基礎を学ぶ。具体的には、経済学の体系、経済学的ものの見方、経済学を学ぶ上での基礎知識、キーワードとなる経済用語、経済社会の構造などを学ぶ。

＜授業の到達目標＞
マクロ経済学、ミクロ経済学、その他の経済系専門科目を学ぶための基礎知識を身につける。

＜授業の方法＞
講義形式で行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
講義に際しては、時々、理解度確認の演習を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
経済学の基礎となる授業なので、わからないところを残さないよう、毎回予習・復習を30分程度行うこと。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー３（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
時々実施する確認テスト（40%）と最後のまとめテスト(60%)で評価する。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	経済学とは何か	経済学とはどういう学問かについて解説をおこなう。
2	グラフの見方・書き方	マクロ経済学、ミクロ経済学で使う基本的なグラフの見方・書き方を練習する。
3	国内総生産（GDP）	マクロ経済学の基礎となる国内総生産（GDP)の概念、その規模や世界各国GDPの比較をおこなう。
4	生産・所得・消費の決定	生産・所得・消費がどのようにして決まるかを考える。
5	貨幣	貨幣の成り立ち、貨幣の役割、さらには新しい貨幣（デジタル通貨、仮想通貨）について考える。
6	マクロ経済政策	経済をどのようにコントロールするか、財政政策、金融政策を中心に考える。
7	インフレ、デフレ、失業	インフレ、デフレの要因とその経済への影響、失業との関係などを考える。
8	ミクロ経済学の基礎	ミクロ経済学とは何かを解説する。
9	需要と供給	需要と供給の関係をさまざまな例をもとに考える。
10	需要と効用	消費者剰余、効用について考える。
11	供給と利潤	供給の決定、費用、利潤最大化について考える。
12	競争と独占	自由競争状態、独占状態について解説し、その問題点を考える。
13	市場の失敗、ゲームの理論	市場はなぜ失敗するのかを理論的に考える。また、ゲームの理論の基礎を学ぶ。
14	まとめ	講義全体のまとめを行う。
15		
16		

科目コード	28104				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	マーケティング総論［週2］				担当者名	平岡　師玄哉			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第１クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本講義では、マーケティングの基本的な考え方や手法を学び、実社会におけるマーケティング活動の仕組みを理解することを目的とする。マーケティングを単なる販売技術としてではなく、顧客のニーズを捉え、価値を提供するための一連の活動として捉え、身近な商品やサービスの事例を通して学習を進める。授業では、基礎理論の理解に加え、実際の店舗やサービスを観察・分析する課題を取り入れ、理論と実践を結びつけながら理解を深める。これにより、日常生活や将来のビジネスにおいてマーケティングの視点を活用できる力を養う。

＜授業の到達目標＞
１．マーケティングの基礎概念（STP、4Pなど）を理解し、説明できる２．身近な商品やサービスについて、マーケティングの視点から分析できる３．顧客や市場の視点を踏まえ、簡単なマーケティング施策を考えることができる

＜授業の方法＞
本講義は、講義と個人ワークを組み合わせて進行する。前半ではマーケティングの基礎概念や理論について講義形式で学び、後半では身近な商品やサービスを題材とした観察・分析課題を通して理解を深める。特に、実際の店舗やサービスを対象とした調査活動を取り入れ、理論を現実の事例に当てはめて考える機会を設ける。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
・身近な商品やサービスを対象とした観察・分析課題（オンデマンド課題）・授業内での個人ワーク（購買行動の振り返りや事例分析）・最終回におけるマーケティング提案の作成

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：次回のテーマに関する課題や問いについて、自身の考えを整理しておく（30分）復習：授業で扱った内容や事例をもとに、店舗や商品を観察し理解を深める（30分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２(経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業参加態度 30%、授業課題 30%、レポート・まとめテスト 40%

＜教科書＞

＜参考書＞
今さらだけど、ちゃんと知っておきたい「マーケティング」　佐藤耕紀　同文館出版

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の目的、評価、マーケティングとは
2	マーケティングとは	マーケティングの全体像と顧客理解
3	STP①(セグメンテーション・ターゲット)	・セグメンテーションの考え方・ターゲット設定・身近な店の「誰向けか」を考える
4	STP②（ポジショニング)	・ポジショニング・競合との違い・「なぜその店を選ぶのか」を言語化
5	マーケティング・ミックス①	・4Pの枠組み・STPとの関係
6	マーケティング・ミックス②	・４Pの具体例・身近な事例分析・課題調査の説明
7	オンデマンド：調査①	店舗観察（STP・4P視点で整理）
8	オンデマンド：調査②	店舗観察（STP・4P視点で整理）
9	調査の振り返りと顧客視点	・調査結果の振り返り・4Pと4Cによる整理
10	マーケティング戦略の基本①	STPと4Pの関係、マーケティング戦略の基本的な考え方
11	マーケティング戦略の基本②	マーケティング視点による事例調査
12	マーケティング戦略の展開	多様な事例を通じたマーケティング戦略の理解
13	マーケティングの応用（企画）	マーケティング戦略の整理と提案の作成
14	まとめ	学びの振り返り
15		
16		

科目コード	28111				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	世界経済論［週2］				担当者名	田口　雅弘			
配当年次	2年	配当学期	第3クウォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
世界経済の発展、現在の世界経済秩序、各地域の経済問題の基礎を学ぶ。具体的には、世界経済の発展の道筋、現在の世界経済の仕組み、世界のメガ地域の特徴と諸問題を学び、世界で起こっている経済的な動きや問題点が把握できるようにする。

＜授業の到達目標＞
現代世界経済をとらえる視座を持ち、世界各地の政治・経済事情への理解を深めることができるようになる。

＜授業の方法＞
テキスト『世界経済図説（第四版）』を手がかりに、世界経済の全体像、主要な特徴を学ぶ。このテキストでは、世界経済全体の輪郭を学んだ後、国際貿易、国際金融、地域統合、経済制度、デジタル経済、人口、食糧、エネルギー・資源、地球環境、経済危機、世界経済の構造変化を学んでいくが、国際貿易、国際金融などは国際経済学の講義と重複するので、この講義では主に世界のメガ地域の特徴と諸問題に焦点を当てて講義を進める。同時に、『日本経済新聞』を素材に、世界経済のタイムリーなトピックの解説を行い、理解を深める。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
講義をベースとするが、講義で出てきた時事問題をオンラインニュースなどで確認すること。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
講義に臨むにあたり、必ずテキストの該当箇所を事前に予習することを必要とする。予習にはおよそ30分程度の時間を要する。復習は必ず次回の授業までに行い、30分程度の時間を割くような学習姿勢が求められる。その他、日経オンラインをはじめネットニュースなどに普段の生活の中で積極的に接しておくよう心掛けると良い。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
小テスト（100%）で評価する。授業に関する質問は授業の前後及び教員のオフィスアワーで対応する。

＜教科書＞
宮崎勇・田谷禎三（2020）　世界経済図説　岩波書店(岩波新書)

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	長期的視点で見た世界経済発展の諸段階	世界経済はどのように発展してきたかをデータを元にマクロの視点で捉える。
2	産業革命とパックス・ブリタニカ	資本主義が生まれた産業革命を振り返り、その中でどのようにしてイギリスが台頭してきたかをグローバルな視点から捉える。
3	20世紀初頭における世界経済の再編	20世紀に入り、世界経済はどのように変化したかを解説する。
4	第二次世界大戦後の世界経済の枠組み	二つの大戦を経て、世界経済はどのような世界システムで秩序を維持しようとしたかを振り返る。
5	パックス・アメリカーナ	第２次世界大戦後、どのようにして米国が台頭したのかを探る。
6	アメリカ経済の衰退	世界に君臨した米国がどのような理由で衰退し始めたのかを解説する。また、現在の米国の世界経済戦略について考える。
7	ヨーロッパ経済の発展	ヨーロッパがどのようにして成長し、どのように経済統合を果たしたのかを概説する。
8	20世紀社会主義経済の実験と崩壊	社会主義とはどのような体制だったのか、そしてなぜ崩壊したのかを解説する。
9	中華人民共和国の成立と発展	中華人民共和国の成立過程、台湾問題、体制内改革の現状などを考える。
10	韓国経済の発展	第２次世界大戦後、韓国がどのように発展してきたかを振り返り、韓国経済の構造的問題を考える。
11	世界経済の変貌	米国、中国、欧州、日本の外交戦略、対外経済戦略とグローバルサウスの台頭、ロシアのウクライナ侵攻の世界経済への影響などを考える。
12	世界経済の成長	ローマクラブ報告書「成長の限界」から、最新の分析までを含め、世界経済の成長を全般的に捉え直す。
13	グローバルリゼーション再考	グローバリゼーションを経済学の視点から再検討する。
14	小テスト	小テスト
15		

16		

科目コード	28112				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	ビジネスデータ分析［Q2対面＋オンデマンド］				担当者名	宇都宮　浩司			
配当年次	2年	配当学期	第２クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
現代のビジネスで扱われるデータは多種多様である。ビジネスではそのようなデータを自在に分析し結果を正確に読み取る能力が求められている。また、ビジネスにおける顧客情報等は、重要な経営資源であり、経営方針を決める根拠となりうるものである。したがって、それらの取り扱いはきわめて重要である。本講義では、情報倫理、基本的な分析方法、個票の集計方法等を解説し、それらを扱えるスキルを身につける、ビジネスで応用できるようすることを目的とする。

＜授業の到達目標＞
①ビジネスに関する基本的なデータの集計・可視化ができる②分析結果から関連するビジネスの社会的背景を読み解くことができる③分析結果から対象とする課題に対して批判的に検討することができる④データの限界や倫理的課題について論理的に説明できるようになる

＜授業の方法＞
講義＋オンデマンド

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有無：有グループディスカッション、プレゼンテーション

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習：提示されたデータの内容を確認する（60分）事後学習：授業内で行った演習を再実行する（60分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は､学科のディプロマポリシー２(専門分野における最先端かつ高度な知識･技能を獲得できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
①毎回の小テスト（30%）②授業内レポート（25%）③最終課題（45%）上記内容で総合的に評価する予定。

＜教科書＞
使用しません。

＜参考書＞
適宜紹介します。　　適宜紹介します。

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダクション	講義の進め方、成績評価の方法、「ビジネスデータ分析」とはどのような学びなのか等について、説明する
2	数値から把握する①	データから物事の状況や特徴をつかむ方法について学ぶ
3	数値から把握する②	データから物事の状況や特徴をつかむ方法について学ぶ
4	数値を分析する①	データから規則性や変化、相関などを見抜く方法について学ぶ
5	数値を分析する②	データから規則性や変化、相関などを見抜く方法について学ぶ
6	数値に基づき選択する①	いくつかの選択肢から最適なものを選ぶ方法について学ぶ
7	数値に基づき選択する②	いくつかの選択肢から最適なものを選ぶ方法について学ぶ
8	数値から予測する①	さまざまなデータをもとに未来を予測する方法について学ぶ
9	数値から予測する②	さまざまなデータをもとに未来を予測する方法について学ぶ
10	数値を他者に分かり易く説明する①	情報をわかりやすく正確に伝える方法について学ぶ
11	数値を他者に分かり易く説明する②	情報をわかりやすく正確に伝える方法について学ぶ
12	数値を加工する①	集めたデータを正しく使用するための加工方法について学ぶ
13	数値を加工する②	集めたデータを正しく使用するための加工方法について学ぶ
14	全体の総復習	総復習を通じて受講生の理解度を確認する
15		
16		

科目コード	28113				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	プロジェクト研究				担当者名	宇都宮　浩司			
配当年次	2年	配当学期	第３・第４クオーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本科目では、「社会調査」や「マーケティング」に関するプロジェクトテーマに沿った研究活動について、教員による指導を行う。学生は、ディスカッション・ディベート・プレゼンテーション・フィールドワーク・プロジェクト等の体験的学習を通じて、現代社会における問題の発見やその解決方策を探るための基礎力を養い、教員からのフィードバックを最終結果に反映させながら、問題設定の考え方、問題の解決方策、結果発表等のスキルを身につける。

＜授業の到達目標＞
「社会調査士」の資格を取得するための必須科目（F科目）である。受講生は、以下の到達目標を達成できることを目指す。（1）フィールドワークの事前準備として調査目的や仮説を明確にし、適切なフィールドを選定できるようになる。（2）フィールドでの観察方法やインタビュー技術を身につけ、対象者とのコミュニケーションを通じて有益な情報を収集できるようになる。（3）観察記録やインタビュー記録などの質的データを整理し、仮説に基づいて多角的に考察する力を身につける。（4）アンケートなど量的データを扱う際に基本的な統計処理を行う

＜授業の方法＞
授業内の演習でMicrosoft Excelを適宜利用するため、パソコンを毎回持参すること。講義では講義の記録や自らが理解したことをメモする以外にも、クラス内での議論やインタビューメモのため必ず筆記用具を持参すること。授業ではペアワーク・ディスカッション・相互インタビュー・プレゼンテーションを重視する。特に発言・対話・議論に積極的に参加することが期待される。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングはほぼ毎回の授業で行う。具体的には、ペアワーク・ディスカッション・企画立案実践・プレゼンテーション・相互レビューである。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業内のディスカッションやグループワークなどで気づいたこと・学んだことを毎回レポートで提出する（想定学習時間：約60分）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度（発言・議論への積極的参加）40%、毎回の課題提出 40%、最終課題 20%を目安に評価する。

＜教科書＞
使用せず。

＜参考書＞
佐藤郁哉（2020）　『フィールドワークの技法』　新曜社
大谷信介他（2023）　『最新・社会調査へのアプローチー論理と方法ー』　ミネルヴァ書房

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の全体像を共有し、評価の進め方や最終成果物について説明する。受講生 同士の自己紹介を通じて互いの興味関心を共有する。今後のフィールドワークやディスカッションを円滑に進められるよう準備する。
2	フィールドワークとは何か	フィールドワークの定義と目的を確認し、そこに関わる人たちへ安全面と倫理的配慮について学ぶ。現地調査をどのように計画し、どのような視点で課題を捉えるかを考える機会とする。
3	フィールドワーク事例紹介	国内外のフィールドワーク事例を取り上げ、成功例・失敗例から得られる学びを整理する。グループでディスカッションしながら、事例を掘り下げることで自分たちの調査に生かせるポイントを見つけ出し、今後の研究の方向性を広げる。
4	フィールドワークの技術	観察やインタビューの基本的な方法を具体例とともに学び、音声や動画、写真などの記録手法を知ることで、より精度の高いデータ収集ができるよう準備する。実際の録音機材やクラウドサービスの利用方法も紹介し、各グループで活用計画を検討する。
5	フィールドの観察と記録(フィールドノート、ビジュアル記録)	フィールドノートを効果的に取るためのポイントを学んだり、観察対象を写真や動画で記録するときの倫理面・法的配慮を確認する。さらに、学内での簡単な観察実

		習を通じて、実際に記録を取る感覚を身につける。
6	フィールドの観察と記録の報告（ビジュアルデータ分析）	前回に実施した観察をもとに、写真や動画を振り返って分析し、短い発表を行 う。グループ内で共有しながら、自分たちが撮影したビジュアル資料からどのような情報が得られるかを検討し、フィールドノートの改善点も洗い出す。
7	インタビュー演習1	インタビューの設計と進め方を学ぶために、質問項目の作り方や事前準備の重要性を確認する。ロールプレイ形式でインタビューを体験することで、相手に合わせた質問や話の引き出し方を試行し、相互にアドバイスを行う。
8	メートインタビュー演習2	実践的にインタビューを行い、その録音やメモを活用して、グループでデータを整理・分析する。うまく情報を引き出せなかった場合の対処方法や、インタビュー時の態度についてフィードバックし合い、今後の調査に役立てる。
9	問題意識と調査の企画	ここまでの演習を踏まえ、グループでの調査テーマと問題意識を具体化する。興味を深堀りするためのブレーンストーミングを行い、仮説の立案や調査方法の選択など企画全体を固める段階に入る。
10	調査票の作成	アンケート調査を行う場合を想定し、量的調査における質問設計やサンプルサイズの考え方を学ぶ。実際に調査票を作成し、他グループとの意見交換を通じて修正を加えることで、より適切な質問項目や回答形式を整える。
11	調査地での調査	実際の現地に出向いて観察・インタビュー・アンケートなどのデータ収集を行 う。想定外の状況やトラブルが発生した場合にどう対応するかも含めて学び、フィールドワークの醍醐味と難しさを体感しながら調査を進める。
12	データ分析、調査報告作成1	質的データをコード化して分類し、量的データを集計・統計処理する演習を通じて、仮説の検証や結果の可視化を学ぶ。グループ内で意見を出し合いながら分析を進め、論理的な考察に基づいた調査報告書の素案を作成する。
13	データ分析、調査報告作成2	さらに分析を深め、課題や仮説の再検討を行いながら最終的な報告書やプレゼン資料を仕上げる。リハーサルを通してプレゼンの流れや発表内容を確認し、質疑応答の練習やタイムマネジメントを意識して発表に備える。
14	調査報告発表	完成したプレゼン資料を用いて、グループごとに成果発表を行う。他グループの発表に対して質問や意見交換をし、学内外から得られた視点を総括することで、フィールドワークを中心としたプロジェクト研究を振り返り、次の学びへとつなげる。
15		
16		

科目コード	28114				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	ビジネスマナー［週2］				担当者名	赤木　邦江			
配当年次	2年	配当学期	第3クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習（ロールプレイング）・グループワーク・ペアワーク	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
現代社会、特にビジネス社会の中に身を置くには、基本的な秩序やある一定の規範があることを認識しておく必要がある。前半授業では「ビジネス実務マナー検定（3級レベル）」、「サービス接遇検定(2級レベル）」のビジネス（実務）社会での行動においての身の処し方（マナー：行動力・判断力・表現力などの必要とされる資質や言葉遣い、交際、事務技能など）の基本を学ぶ。後半授業では「ビジネス実務マナー（2級レベル）」の前半に学修した事をベースに、実社会において活用するスキルとしての応用力を身に付けていく。ビジネス実務マナー検定・

＜授業の到達目標＞
講義及び準備学修により、ビジネス実務の基本の習得確認をするために、「ビジネス実務マナー検定3級」の受験（11月21日・学内準会場）、合格を目標とする（※全員受験）。検定合格に向けての理論的なマナー修得のみならず、実践が出来るようになる。※公認欠席等により受験出来ない場合には、まとめテストで成績評価。「サービス接遇検定(3級・2級）（11月7日・学内準会場）」及び、「ビジネス実務マナー検定2級（11月21日・学内準会場）」の受験は希望者。

＜授業の方法＞
対面授業において、「ビジネス実務マナー検定3級・2級受験ガイド(テキスト）」を中心に進めていく。また「ビジネス実務マナー検定」「サービス接遇検定」の問題集とは別に過去問題を多く解いていき、予想問題にも取り組む。必要に応じレジュメを準備するので、その際にはクラスルームにアップするので、それぞれプリントアウトかダウンロードすること。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの実施：学修の基本となる「教科書ガイド」の輪読及び試験前のグループでの輪読。過去問の解答はグループごとに取り組み発表する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
履修者全員、「ビジネス実務マナー検定3級を原則受験。グローバル（留学）生は、検定合格のためには3級にはN3レベル相当、2級にはN2相当が必要。事前学習：指定する範囲の「受験ガイド」を読んで」理解すること（1時間程度）。事後学習：授業後には、その範囲の理解の確認のため、及び検定受験に備え、「ビジネス実務マナー検定問題集3級」「ビジネス実務マナー検定問題集2級」に取り組む事（1時間程度）。またほぼ毎回、自宅学習用の過去問題プリントを配布するので、次回講義までに必ず解答しておく事（1時間程度）。※個別またはグル

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２(経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
検定受験結果 2級合格 60%（3級は40%が最高評価基準）、学習意欲 20%、先回課題への取り組み20%※公認欠席等により受験出来ない場合には、まとめテスト（ 40%が最高評価基準・検定未受験者）

＜教科書＞
公益財団法人実務技能検定協会　ビジネス実務マナー検定受験ガイド3級〈増補版〉　早稲田教育出版
公益財団法人実務技能検定協会　ビジネス実務マナー検定実問題集3級　早稲田教育出版
公益財団法人実務技能検定協会　ビジネス実務マナー検定受験ガイド2級〈増補版〉　早稲田教育出版

＜参考書＞
公益財団法人実務技能検定協会　ビジネス実務マナー検定実問題集1・2級　早稲田教育出版

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス（講義の概要）授業の進め方、成績評価の基準「ビジネス実務マナー技能検定3級・2級」について	「ビジネス実務マナー技能検定3級・2級」の審査基準及び5領域とその内容、過去問題例授業の進め方及び検定までの受験勉強方法、成績評価の方法、「サービス接遇検定3級」について

2	ガイダンス（講義の概要）：再確認授業の進め方、成績評価の基準Ⅰ・必要とされる資質⑴	「ビジネス実務マナー技能検定3級」の審査基準及び5領域とその内容、過去問題例授業の進め方及び検定までの受験勉強方法、成績評価の方法、「サービス接遇検定3級」についてビジネスパーソンとしての資質（行動力・判断力・表現力、明るさ・誠実さ、身だしなみ、自己管理等）グループワーク（課題の過去問題の解答確認と発表）
3	Ⅰ・必要とされる資質⑵	執務要件（実行する能力、良識・素直さ、適切な動作と協調性、積極性・合理性等）グループワーク（課題の過去問題の解答確認と発表）
4	Ⅱ・企業実務	組織の機能（業務分掌、職位・職制、会社の社会的責任等）グループワーク（課題の過去問題の解答確認と発表）
5	Ⅲ・対人関係⑴	人間関係（対処）マナー（ビジネス実務マナーの心得、ビジネスでの服装などの知識）演習（挨拶等のロールプレイング）
6	Ⅲ・対人関係⑵	話し方（ビジネスでの話の仕方と人間関係、基礎的な敬語、目的に応じた話し方等）交際（慶事・弔事の作法と服装の一般的知識、初歩的な交際業務等）グループワーク（課題の過去問題の解答確認と発表）
7	Ⅳ・電話実務⑴	会話力応対力グループワーク（課題の過去問題の解答確認と発表）
8	Ⅳ・電話実務⑵	会話力応対力グループワーク（課題の過去問題の解答確認と発表）
9	Ⅴ・技能	情報（一般的な情報知識、情報整理、情報伝達等）文書（初歩的文書の作成、文書の取り扱い等）会議（会議の知識等）、事務機器（事務機器の機能等）事務用品（事務用品の種類と機能等）の十分な理解と活用グループワーク（課題の過去問題の解答確認と発表）
10	11/7「サービス接遇検定3.2級」受験学習・演習①	課題の過去問題の解答確認と発表
11	「サービス接遇検定3.2級」受験直前学習・演習②	課題の過去問題の解答確認と発表予想模擬問題
12	11/7「サービス接遇検定3.2級」試験・解答確認と自己採点11/21「ビジネス実務マナー検定3級・２級」受験前学習・演習①	課題の過去問題の解答確認と発表予想模擬問題
13	11/21「ビジネス実務マナー検定3級・２級」受験前学習・演習②	課題の過去問題の解答確認と発表予想模擬問題
14	11/21「ビジネス実務マナー検定3級・２級」受験前学習・演習③	課題の過去問題の解答確認と発表予想模擬問題
15		
16		

科目コード	28118				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	都市計画論				担当者名	阿部　宏史			
配当年次	1年	配当学期	第１・第２クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
都市は成長、発展、衰退を繰り返しながら継続的に変化しており、国や自治体による公共経営では、都市の持続的発展を維持していくために、人口、産業、市街地などの変化を計画的、戦略的にコントロールしていくことが求められている。本講座では、身近な対象都市として岡山市と周辺地域を取り上げ、最近の都市づくりや都市計画の仕組みを分かりやすく解説する。また、最近の都市政策についてグループワークを行い、持続可能な都市づくりに向けた各自の提言をまとめる。講義全体を通して、自治体の都市づくりに従事する人材として、基礎的素養を身につ

＜授業の到達目標＞
以下の3項目を到達目標とする。１．都市の社会経済的変化と都市問題の発生原因について概要を説明できる。２．自治体の都市づくりにおいて適用される政策や計画の概要を説明できる。３．具体都市を対象として、都市づくりの課題と方策について提言を述べる。

＜授業の方法＞
第1～７回の授業では、講義や演習を通じて、最近の都市問題に対する理解を深める。第８回の授業では、都市問題に関する理解と考察に基づいて、グループ単位での自由闊達な意見交換を行う。第９～11回の授業では、最近の都市計画について概要と先進事例を解説する。第12～14回の授業では、岡山市や各自が比較対象として選択した自治体における都市づくりの概要と提言をまとめ、グループ討論を行う。①ディスカッション、②グループワーク、③プレゼンテーション、場合によりオンライン授業を併用していく。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
到達目標の区切りごとに、グループワーク、プレゼンテーションなどによるアクティブ・ラーニングを用いる。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業テーマに沿って、国や自治体のホームページに掲載されている都市計画や都市づくりの事業に関する資料を紹介し、調査や振り返りを行う。予習・復習を合わせて毎週4時間程度の学習時間とし、成績評価に反映する。都市づくりの課題や都市計画を体系的に学習したい人のために、専門的な参考図書を紹介する。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革に参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
成績評価は、授業参加態度　５０％、授業経過レポート３０％、最終報告評価　２０％程度とする

＜教科書＞

＜参考書＞
国土交通省都市局都市計画課　政府の所管省庁である国土交通省が都市計画解説サイト https://www.mlit.go.jp/toshi/city_plan/toshi_city_plan_tk_000043.htmlに都市計画の諸制度を説明するパワーポイント資料を掲載している。
岡山県土木部都市計画課　岡山県・土木部都市計画課が、都市計画制度の解説書として「岡山県の都市計画」をPDFで掲載している。 https://www.pref.okayama.jp/page/672085.html
岡山市都市整備局都市計画課　岡山市・都市計画課が、岡山市で策定・実施している都市づくりや都市計画の制度を次に解説している。　https://www.city.okayama.jp/0000031574.html

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の概要、進め方、評価方法などを説明する。
2	都市と都市圏	具体例として、岡山市、倉敷市などの都市と都市圏の形成について考察する。
3	都市の成長・衰退と都市問題①人口	人口に着目して、少子化・高齢化、都市の成長・衰退と持続可能な発展における人口の課題を考察する。
4	都市の成長・衰退と都市問題②産業経済	都市の産業経済に着目して、都市の成長・衰退との関係を考察する。
5	都市の成長・衰退と都市問題③土地利用・住宅	都市における市街地形成と土地利用・住宅問題の発生について考察する。
6	都市の成長・衰退と都市問題④交通	自家用交通手段と公共交通手段を中心に都市交通の課題について考察する。
7	都市の成長・衰退と都市問題⑤都市環境	都市で発生している環境問題と地球環境への影響について考察する。
8	都市問題の発生原因と解決可能性	解説した都市問題への対策について各自の意見をまとめ、グループワークによる意

		見交換を行う。
9	都市計画の必要性と概要①市街地整備とまちづくり	都市計画のうち、市街地整備の概要を解説するとともに、国内外の先進事例を紹介する
10	都市計画の必要性と概要②都市施設整備とまちづくり	都市計画のうち、都市施設整備の概要を解説するとともに、国内外の先進事例を紹介する。
11	都市計画の必要性と概要③景観・環境の保全とまちづくり	都市計画のうち、景観・環境保全の概要を解説するとともに、国内外の先進事例を紹介する。
12	岡山市都市計画マスタープランの比較・考察	岡山市で策定されてきた都市計画マスタープランの概要版を比較・検討し、都市づくりの特徴と課題を考察する。
13	岡山市の都市づくりに関する提言のまとめ	各自の考察結果に基づいてグループワークを行い、グループで提言のとりまとめを行う。
14	まとめと成果発表	グループ単位で、岡山市の都市づくりに対する提言を行い、クループ間での意見交換、全体総括を行う。
15		
16		

科目コード	28119				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	プロジェクト・ゼロ [週2]				担当者名	鈴木　真理子			
配当年次	1年	配当学期	第２クォーター（週２、火２限＆金４限）	単位数	2.00単位	授業方法	講義、演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本講義の目的は、プロジェクト活動を通して、課題発見力、企画力、実践力および協働力を身につけることである。今年度は、IPUの「Global Hub」を拠点に、ベトナムで活動する国際NGO FIDR（https://www.fidr.or.jp/）と連携し、ベトナム少数民族の手工芸品やベトナム産コーヒーの魅力を発信するプロジェクトに取り組む。受講生は、多様な文化的背景を持つ学生同士でチームを組み、商品の背景にある文化や社会課題について学びながら、販売企画、広報活動、SNS発信、イベント運営等を実践する。また、

＜授業の到達目標＞

本講義では、次の点を到達目標とする。１）社会課題について多面的に理解し、自ら課題を発見することができる。２）多様な文化的背景を持つメンバーと協働しながら、プロジェクトを企画・運営することができる。３）商品やイベントを通じて社会的価値を発信し、その成果を振り返ることができる。４）地域や世界の課題を自分自身の問題として捉え、自ら行動する意欲を持つことができる。

＜授業の方法＞

少人数によるグループワークを中心としたPBL（Project Based Learning）形式で実施する。Global Hubを活用し、国籍や学年、バックグラウンドなどが異なる多様な学生との協働や実践的活動を行う。授業は週2回実施する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

あり（グループディスカッション、プロジェクト活動、プレゼンテーション、外部連携等）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業外に週2～3時間程度、資料調査、チーム活動、成果物作成等を行う。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー２（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

１．チーム評価　30%　　・グループワークに全員が参画しているか?　　・学習内容を積極的に活用しているか?　　・目的に対し、有効な議論を行っているか?　　・活動、プレゼンテーションの内容　等２．個人(チーム活動）評価　40%　　・時間を守り、授業に出席しているか？　　・チームに貢献しているか？　等３．個人（レポート）評価　30%　　・期限内に提出しているか？　　・指定された内容、分量を記述しているか？　　・深く検討しているか？

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション／プロジェクトとは何か（6/2火）	授業の目的、進め方、評価方法について理解する。また、「プロジェクト・マネジメント」の考え方やPBL（Project Based Learning）の意義について学ぶ。今年度のパートナーである国際NGO FIDRの活動や、おかやまSDGsフェア出展までの流れを理解する。
2	自己紹介・チームビルディング（6/5金）	自己紹介やグループワークを通して相互理解を深め、多様な背景を持つメンバーと協働するための関係づくりを行う。また、ベトナムや国際協力に関する基礎知識を学び、今後のプロジェクト活動への準備を進める。
3	FIDRオンライン講演（6/9火）	ベトナムで活動する国際NGO FIDRの担当者から、現地の社会課題や活動内容について話を聞く。教育、地域開発、少数民族支援等の事例を通して、国際協力の現場への理解を深める。
4	ベトナム留学生による講演（6/12金）	ベトナム出身留学生から、自身の経験をもとにベトナムの文化や社会、地域課題について話を聞く。生活者の視点からベトナム社会への理解を深めるとともに、多様な価値観について考察する。
5	商品研究ワークショップ（6/16火）	FIDRから提供された少数民族の手工芸品やベトナム産コーヒーについて調査する。商品の背景にある文化や社会課題、作り手の想いを理解し、商品の価値をどのように伝えるかについて考える。

6	市場調査・ターゲット分析（6/19金）	商品や活動の魅力を誰にどのように伝えるべきかを検討する。アンケート調査やグループディスカッションを通して、ターゲットやニーズを分析し、販売・広報戦略の方向性を考える。
7	企画立案①（6/23火）	おかやまSDGsフェアに向けて、販売企画、広報企画、イベント企画等のアイデアを創出する。社会課題の理解促進と商品の魅力発信を両立する企画について検討する。
8	企画立案②（6/26金）	各チームで企画内容を具体化し、実施計画を作成する。ターゲット、目的、役割分担、スケジュール等を整理し、中間発表に向けた準備を進める。
9	FIDR企画提案会（6/30火）	各チームが企画内容をプレゼンテーションし、FIDR担当者から評価および助言を受ける。実際のパートナーへの提案を通して、企画の実現可能性や社会的意義について検討を深める。
10	企画改善・ブラッシュアップ	FIDRからのフィードバックをもとに企画内容を改善する。商品の魅力や社会課題の伝え方、販売方法等について再検討し、より効果的な企画へと発展させる。
11	SDGsフェア出展準備①	おかやまSDGsフェアへの出展に向けて、ポスター、POP、SNSコンテンツ等の制作を行う。来場者に活動の意義や商品の魅力を伝えるための広報物を作成する。
12	SDGsフェア出展準備②	展示方法や販売オペレーションを確認し、出展準備を完成させる。役割分担や当日の運営方法について確認するとともに、プレゼンテーションや接客の練習を行う。
13	おかやまSDGsフェア出展①（８/５水）	おかやまSDGsフェアに出展し(10:00～17:00)、少数民族の手工芸品やベトナム産コーヒーの販売、活動紹介を行う。来場者との対話を通じて、社会課題への理解促進を図る。他の出展者・学生らとの交流会(無料、17:10 - 19:00）は、自由参加。
14	おかやまSDGsフェア出展②・振り返り（８/6木 10:00～17:00)	出展活動を継続するとともに、活動成果を振り返る。販売結果や来場者の反応を分析し、プロジェクトを通して得た学びや今後の課題について整理する。
15		
16		

科目コード	28120				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	地域政策論				担当者名	阿部　宏史			
配当年次	1年	配当学期	第３・第４クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
私たちが活動する地域は、成長、発展、衰退を繰り返しながら継続的に変化している。地方圏、都道府県、都市圏などの地域では、人口の少子化・高齢化、経済社会機能の東京一極集中、地域間格差拡大、グローバル化進展などによる課題が発生しており、国や地方自治体による公共政策では、地域の持続可能な発展を維持していくために、戦略的、計画的な政策運営が必要となっている。本講義では、日本における地域課題の変化や国・地方自治体による地域政策について理解を深め、自治体による地域づくりに参加する人材としての基礎的素養を身につけることを

＜授業の到達目標＞
以下の３項目に対応できることを目標とする。１．地域における人口・産業経済などの動きと地域課題の発生について概要を説明できる。２．SDGｓなどに基づいて、グローバル社会と地域政策の関係について概要を説明できる。３．具体的な地域を取り上げ、持続可能な地域づくりのための方策について提言を述べる。

＜授業の方法＞
第１～７回の授業では、講義や演習を通して、最近の地域政策課題について理解を深める。第８回授業では、最近の地域課題への対応について、グループ単位で意見交換を行う。第９～11回の授業では、最近の地域政策について、課題別に概要と取組事例を解説する。第12～14回の授業では、SDGｓなどのグローバルな視点を加えながら、今後の地域づくりに関する各自の意見や提言を示す。また、グループワークを通じて意見を深化させた後に最終提言をまとめる。考書書として、行政機関が定期的に改定している地域総合計画を利用する。講義全体を通

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
到達目標の区切りごとに、グループワーク、プレゼンテーションなどによるアクティブ・ラーニングを用いる。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業テーマに沿って、国や自治体のホームページに掲載されている地域政策や計画などを参考資料として紹介し、各自による調査、振り返りなどを行う。予習・復習を合わせて毎週４時間程度の学習時間とし、成績評価に反映する。参考書として、行政機関が定期的に改定している地域総合計画を利用する。最近の地域課題や政策をより深く学習したい人のために、必要に応じて参考図書を紹介していく。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革に参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業参加態度50%、授業成果レポート30%、最終プレゼンテーション評価20%

＜教科書＞

＜参考書＞
内閣府　日本政府・内閣府による地域政策として、「地方創生（内閣官房・内閣府　総合サイト）」https://www.cao.go.jp/seisaku/seisaku.html
岡山県庁　岡山県による地域総合計画として、「第４次晴れの国おかやま生き活きプラン」https://www.pref.okayama.jp/page/958214.html
岡山市役所　岡山市による広域都市圏総合計画として、「岡山連携中枢都市圏ビジョン」https://www.city.okayama.jp/shisei/0000020931.html岡山市による岡山市総合計画として、「岡山市第七次総合計画」https://www.city.okayama.jp/shisei/category/4-12-50-0-0-0-0-0-0-0.html

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	地域の成長・衰退と地域課題①人口	地域の人口に着目して、少子化・高齢化、人口減少、人口の大都市集中が地域の成長・衰退に及ぼしてきた影響を解説する。
2	地域の成長・衰退と地域課題②産業集積	地域の産業に着目して、生産や雇用の集積と地域の成長・衰退の関係を解説する。
3	地域の成長・衰退と地域課題③地域間交流と交通	地域の人口、経済活動の変化と地域間交流、広域交通の関係を解説する。
4	地域の成長・衰退と地域課題④地域間格差	大都市圏と地方圏の間で発生している経済社会的格差の課題について解説する
5	地域の成長・衰退と地域課題③地域間交流と交通	地域の人口、経済活動の変化と地域間交流、広域交通の関係を解説する

6	地域の成長・衰退と地域課題④地域間格差	大都市圏と地方圏の間で発生している経済社会的格差の課題について解説する。
7	地域の成長・衰退と地域課題⑤地域環境	地域で発生している環境問題と地球環境問題との関係について解説する
8	地域問題の発生原因と対応可能性	解説した地域課題への対応について、各自の振り返りとグループワークを行う。
9	地域政策の概要①人口・産業経済と地域づくり	人口、産業経済を対象とする地域政策の概要を解説するとともに、最近の事例を紹介する。
10	地域政策の概要②社会基盤整備と地域づくり	産業、都市、交通などの基盤整備の概要を解説するとともに、最近の事例を紹介する。
11	地域政策の概要③環境保全と地域づくり	地域における環境政策の概要を解説するとともに、最近の事例を紹介する。
12	SDGｓに基づくグローバルな課題と地域政策の関連	国、自治体、企業のSDGｓへの取り組みについて説明し、地域づくりの課題を検討する。
13	今後の地域政策に関する提案のまとめ	これまでの講義内容を踏まえならが、今後の地域政策について、各自の意見や提言の取りまとめを行う。
14	グループワークと最終成果報告	最近の地域政策に対する各自の意見や提言に基づいて、グループ単位で意見交換を行い、成果報告をまとめる。
15		
16		

科目コード	28122				区　分	コア科目			
授業科目名	ビジネス心理学［週2］				担当者名	赤木　邦江			
配当年次	2年	配当学期	第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習（グループワーク・ペアワーク）	卒業要件	選択・２単位

＜授業の概要＞
「ビジネス心理学」は、産業活動に従事（労働）する人や組織に関する心理学の分野であり、多様な研究領域によって構成されている。主に「組織に所属する人々の行動の特性や心理を研究する“組織行動”」「組織経営の礎となる人事評価や処遇、人材育成について研究する“人的資源管理”」「働く人々の安全と心身両面の健康保持・促進の方策について研究する“安全衛生”」「成果の高いマーケティング戦略に生かすための消費者心理や宣伝・広告の効果を研究する“消費者行動”」の4つの領域である。学生のほとんどは、卒業後に就職し、組織（企業・団

＜授業の到達目標＞
「ビジネス心理学」における代表的な4つの研究領域について、基本的な理論や概念を理解し、自身の言葉で説明できるようになること、及び将来の働き方や労働環境を考え、「経営とワークライフ」についての知識を深めることを目標とする。

＜授業の方法＞
講義は対面授業およびグループディスカッション等によるアクティブ・ラーニングを実施する。ノートPC必携：GoogleClassroom、GoogleFormを活用したレジュメや課題の配布、資料の共有などICT活用に努める。(GoogleClassroomにアップしたレジュメを適宜、印刷またはダウンロードすること)出席確認は、毎授業時の中間確認：前半のポイント確認・GoogleForm入力、及び毎授業時の終了時：リフレクション（振り返り）シートの提出、ユニバーサルパスポート・スマホ(コード）出席登録。授業内ス

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有り：グループディスカッション、ペアワーク、グループワーク、発表など

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：自身の将来の働き方や労働環境をイメージし、それらに関する興味・関心のある業界、職業、企業、組織等に　　ついて、日頃から積極的にメディアなどでの情報を収集しておくこと（１時間程度必要）。復習：講義で学習したことの振り返り、レジュメ整理、事後課題など（１時間程度必要）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３(経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
「毎授業時の中間確認：前半のポイント確認・GoogleForm入力 13%」「毎授業時の終了時：リフレクション（振り返り）シート 26%」※提出をもって出席とする「授業への取り組み状況 13%」期末試験：配布レジュメ・資料、自筆ノート（コピー、写真コピーは不可）持ち込み可 48%※講義に関する質問は講義終了後、および教員のオフィスアワーで対応する。

＜教科書＞
指定しない。講義で使用する資料等は必要に応じて配布、または紹介する。

＜参考書＞
指定しない。講義で使用する資料等は必要に応じて配布、または紹介する。

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス：講義の内容、進め方、成績評価の基準	イントロダクション　「ビジネス心理学」の４つの領域とは　「組織行動」「人的資源管理」「安全衛生」「消費者行動」
2	経営とワークライフ「HRM：人的資源管理」①	採用と面接～就職活動では何を問われているのか
3	「OB:組織行動」①	ワーク・モチベーション～やる気いっぱいで働くには
4	「OB:組織行動」②	組織の情報処理とコミュニケーション～正確な情報共有と組織の的確な判断のために
5	「SH:安全衛生」①	仕事の能率と安全～生産性と安全性は両立するのか
6	「SH:安全衛生」②	職場の快適性・疲労・ストレス～毎日健康に働くために
7	「HRM：人的資源管理」②	キャリアの展開と生涯発達～人生をどう歩むか
8	「OB:組織行動」③	組織の変革と管理者のリーダーシップ～組織やチームを健全な成長へと導くには
9	HRM：人的資源管理」③	人事評価～公平な評価のために考えるべきこと

10	「CB:消費者行動」①	消費者行動～消費者心理がわかったら何の役に立つのか
11	「CB:消費者行動」②	消費者の価格判断と心的会計～「安い」「高い」とどうして思うのか
12	「CB:消費者行動」③	消費者の意思決定過程～消費者はどのような決め方をしているのか
13	日本企業の様々な変化	ビジネス心理学の理解と活用
14	期末試験：「ビジネス心理学」まとめテスト総括：全体の振り返り	まとめテストの解答・解説全体の振り返り、これからの「ビジネス心理学」受講自己評価
15		
16		

科目コード	28123				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	データサイエンス入門［BC用週間オンデマンド］				担当者名	栗谷　真亮			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本講義では、データサイエンスとは何かを、身近な事例やビジネスでの活用例を通して基礎から学ぶ。データの集め方、見方、まとめ方、グラフによる可視化、AIとの関係、情報倫理など、現代社会で必要となる基本的な考え方を理解することを目的とする。単に知識を学ぶだけでなく、表計算ソフトや簡単なプログラムの実行を通して、データを扱う面白さを体験できるように構成する。また、教科書による基礎学習に加え、Googleスプレッドシート等を用いた簡単な集計やグラフ作成、必要に応じてPythonの初歩的な実行例にも触れ、データを扱う

＜授業の到達目標＞
1.データサイエンスとは何かを説明し、社会やビジネスにおける活用例を挙げることができる。2.表やグラフ、平均値、相関などの基本的な見方を理解し、簡単なデータの特徴を読み取ることができる。3.Googleスプレッドシート等を用いて、簡単なデータの整理、集計、グラフ作成を行うことができる。4.AIとデータサイエンスの関係を理解し、個人情報保護や情報倫理の基本的な注意点を説明できる。

＜授業の方法＞
本授業はオンデマンド方式で実施する。受講者は各回ごとに指定された教科書範囲を読み、学習システム上で確認問題に取り組む。また、一部の回では、Googleスプレッドシート等を用いて、データの入力、整理、集計、グラフ作成などの基礎的な演習を行う。必要に応じて、Pythonの簡単な実行例にも触れ、プログラミング的な処理の初歩を体験する。授業はクラウド上のサービスを利用して実施するため、インターネットに接続されたパソコンを用意すること。推奨環境はGoogle Chromeが利用可能なWindowsまたはmacOS搭

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
あり。各回の学習内容に応じて、Googleスプレッドシート等を用いたデータの整理、集計、グラフ作成などの基礎的な演習を行う。また、一部ではPythonの実行例を参照しながら、データ処理の基本的な流れを体験的に学ぶ。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各回の授業内容について、事前に教科書の該当箇所を30分から1時間程度読んで予習すること。授業後は、学習システム上の確認問題や演習課題に取り組み、誤った箇所や理解が不十分であった箇所について教科書や配布資料を用いて復習すること。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２(経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
各回の確認問題・課題 70%、中間確認テスト 15%、期末確認テスト 15%で評価する。

＜教科書＞
川村　康文　(2025.08.19)　今と未来がわかる データサイエンス　ナツメ社

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	データサイエンスとは何か	データサイエンスで学ぶこと、扱うデータとは何かを理解する。入門科目として「まず全体像をつかむ」ことを目的とする。
2	データサイエンティストの役割	データサイエンティストの役割や仕事を学ぶ。経済・経営分野でどう役立つかを具体例と結びつける。
3	ビッグデータとデータ活用の考え方	ビッグデータの考え方と、データサイエンスに必要な数学の全体像の基本を理解する。数学は「必要な背景がある」程度でよい。
4	データのセキュリティ	情報システムを安全に使うための考え方、機密性・完全性・可用性の基礎を学ぶ。
5	データサイエンティストに必要なこと／AIとの接点	広範な知識が必要な理由、AIとデータサイエンスの関係、微分・積分が背景にあることを概観する。数式の理解より、「AIにもデータと数理が必要」という認識を持つ。
6	データサイエンスに必要なPCスキル	コンピュータの進歩、データ分析の変化、必要なPCスキルの全体像を学ぶ。
7	アルゴリズムとプログラミングの初歩	アルゴリズム、順次・分岐・反復、プログラミング言語の基本構造を学ぶ。専門的に書けるようにするのではなく、処理の流れを理解する。

8	線形代数の入口と表計算の基礎	ベクトルや行列が多変量データの背景にあることを知る。厳密な数学というより、表をまとめて扱う考え方の入口として扱う。
9	データの収集と前処理	これまでのデータ収集、AIを用いた収集、データの値の穴、母集団と標本抽出を学ぶ。
10	データの分類と見える化	ータを集計して可視化する準備、2つの量的データをみる考え方を学ぶ。
11	統計と予測	時系列分析、機械学習を前提とした予測の考え方、検定の位置づけを学ぶ。検定は「厳密計算」より「予測の妥当性を確かめる考え方」に絞る。
12	データ分析の応用手法を知る	データ分析の種類、クラスター分析、主成分分析、因子分析、数量化III類、テキストマイニングの存在と使いどころの概要レベルを学ぶ。
13	AI・ニューラルネットワーク・ディープラーニング	統計・確率の背景を軽く確認したうえで、ニューラルネットワーク、ディープラーニング、時系列分析、画像分析を学ぶ。数式理解ではなく、「大量データから特徴をつかむ技術」として理解する。
14	AIとデータサイエンスの活用・総まとめ	AIとデータサイエンスの関係、データサイエンティストとのつながり、今後の社会での活用を総括する。
15		
16		

科目コード	28124				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	スポーツデータサイエンス入門［PP用］				担当者名	仙波　慎平			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
データサイエンスとは，「データを用いて新たな科学的および社会に有益な知見を引き出そうとするアプローチのこと」であり，統計学や情報科学・情報工学の知識を扱い，データを価値のあるものへと導いていく．本授業では，その入門として，スポーツデータの種類に応じて適切なデータの扱い方や，視覚化の方法を学ぶ．そして，身近なデータやグラフからその成り立ちや仕組みについて理解できるようになることを目指す科目である．

＜授業の到達目標＞
データの種類に応じて適切な扱い方を選択できるようになる．データの種類に応じて適切なグラフを作成できるようになる．日常生活，スポーツ活動中に目にするデータやグラフの意味を理解できるようになる．また，その仕組みが理解できるようになる．

＜授業の方法＞
講義の際は，ビデオやスライドを用いて解説を行う．Classroomを通じて資料配布や課題管理を行う．自分でまたはグループでPC作業を行うため，毎授業必ずPCを持参すること。またデータを可視化し、プレゼン発表も行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有グループワーク（3〜4人のグループに分かれ、各テーマに対して共同作業を行い成果物を作成）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
前回の授業内容の確認テストの準備（1時間程度）、振り返りレポートおよび事後課題の提出（2時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
期末課題40%，中間課題20%，毎授業後の課題30%，意欲態度10%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	授業ガイダンスおよびデータサイエンスの必要性について	授業の概要，到達目標，授業の進め方，成績評価について説明する．
2	データの種類について	データの種類について学ぶ
3	データの入力方法	データの入力方法や規則について学ぶ．
4	データの取り扱いについて	データの取り扱い方について学ぶ（欠損値や平滑化）
5	データビジュアライゼーション①	データを視覚化する方法を学ぶ（グラフの種類など）
6	データビジュアライゼーション②	サンプルデータを視覚化してみる
7	中間課題	中間課題に取り組む
8	身近なデータサイエンス①	普段何気なく見ているデータやグラフのバックグラウンドについて理解する①
9	身近なデータサイエンス②	普段何気なく見ているデータやグラフのバックグラウンドについて理解する②
10	スポーツにおけるデータサイエンス①	スポーツの世界で見られるデータやグラフのバックグラウンドについて理解する①
11	スポーツにおけるデータサイエンス②	スポーツの世界で見られるデータやグラフのバックグラウンドについて理解する②
12	スポーツにおけるデータサイエンス③	スポーツの世界で見られるデータやグラフのバックグラウンドについて理解する③
13	スポーツにおけるデータサイエンス④	スポーツの世界で見られるデータやグラフのバックグラウンドについて理解する④
14	最終課題	最終課題とまとめ
15		
16		

科目コード	28124				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	スポーツデータサイエンス入門［PS用］				担当者名	金谷　和幸			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
データサイエンスとは、「データを用いて新たな科学的および社会に有益な知見を引き出そうとするアプローチのこと」で統計学や情報科学・情報工学の知識を扱い、データを価値のあるものへと導いていく。本授業では、その入門として、スポーツデータの種類に応じて適切なデータの扱い方や、視覚化の方法を学ぶ。そして、身近なデータやグラフからその成り立ちや仕組みについて理解できるようになることを目指す。

＜授業の到達目標＞
データの種類に応じて適切な扱い方を選択できるようになる。データの種類に応じて適切なグラフを作成できるようになる。日常生活、スポーツ活動中に目にするデータやグラフの意味を理解できるようになる。自分自身が興味のあるデータを取得し、データを扱えるようになる。

＜授業の方法＞
講義の際は、ビデオやスライドを用いて解説を行う。Classroomを通じて資料配布や課題管理を行う。自分でまたはグループでPC作業を行うため、毎授業必ずPCを持参すること。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング無し

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習（目安：1時間）：各回で指定された教材・資料（教科書、配布資料、動画等）を読み、授業で扱うテーマの概要を把握する。また、前回の授業内容（データ処理、統計手法、可視化など）を復習し、必要に応じてPC環境の準備を行う。事後学習（目安：2時間）：授業内で扱ったデータセットや課題に取り組み、分析結果の整理やレポート作成を行う。授業で紹介した手法を自分で再現し、理解を深めるための復習を行う。補足：授業内で完了しなかった課題については、次回授業までに提出を完了すること。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
出席および授業態度40%。、毎授業の課題15%、中間課題15%、期末課題30%。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	授業ガイダンス	授業の概要，到達目標，授業の進め方，成績評価について説明する.
2	データの種類について	データの種類について学ぶ
3	スポーツデータの歴史	スポーツデータの歴史について学ぶ
4	データの活用と取り扱いについて	データの活用の仕方、取り扱い方について学ぶ
5	データビジュアライゼーション	データを視覚化する方法を学ぶ（グラフの種類など）、サンプルデータを視覚化してみる
6	中間課題	中間課題に取り組む
7	データの読み解き方や伝え方	普段何気なく見ているデータやグラフのバックグラウンドについて理解するし、何を見て何を伝えるのかを考える.
8	日常生活でのデータ活用	普段何気なく見ているデータについて理解する
9	データ収集計画①	スポーツ現場でのデータ収集計画を練ってみる。
10	データ収集計画②	スポーツ現場でのデータ収集計画を練ってみる。
11	データの取得①	実際にデータをとってみる。
12	データの取得②とデータの見方	データを取り、扱い方をどうして、どう見せるかを考える。
13	期末課題（データ収集とデータの発表）①	取得したデータについて発表する。
14	期末課題（データ収集とデータの発表）②	取得したデータについて発表する。
15		
16		

科目コード	28126				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	ビジネスと数学Ⅰ［週間オンデマンド］				担当者名	栗谷　真亮			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
経済学や経営学を学ぶうえで必要となる基礎的な数理リテラシーを身につけることを目的とする。家計の損益、価格の変化、市場のしくみなど身近な経済現象を題材に、割合・比率・増減率といった基本的な計算から、一次関数、連立方程式、二次関数の基礎までを段階的に学ぶ。単に公式を覚えて計算するのではなく、数式・表・グラフを用いて現象を読み取り、「なぜその数学的道具が必要なのか」を理解することを重視する。数学の基礎を確認しながら、専門科目の学習に必要な定量的思考の土台を形成する。

＜授業の到達目標＞
日常の経済現象を、数式・表・グラフを用いて基礎的に読み取り、説明できるようになることを目標とする。具体的には、割合・比率・増減率などの基本的な計算を正確に行い、家計や企業の活動に関する数値を適切に解釈できる力を身につける。さらに、一次関数、直線の傾き、連立方程式、二次関数の基礎を用いて、市場の均衡や費用・利益の関係を読み取ることができるようになることで、経済学・経営学の専門科目を学ぶための定量的思考の土台を形成する。

＜授業の方法＞
本授業は、クラウド上のサービスを利用したオンデマンド方式で行う。講義動画、例題、演習問題、課題を通して、割合・比率・一次関数・連立方程式などの基礎を段階的に学ぶ。数式・表・グラフを用いて経済現象を読み取る力を養い、課題提出もオンラインで行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
毎回の授業後に60分程度の復習を行い、授業で扱った計算方法や用語の意味を確認すること。特に、割合・比率・増減率、一次関数、連立方程式については、例題や演習問題を解き直し、自力で計算できるようにしておくこと。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２(経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
講義ごとの演習課題で評価をする。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	なぜビジネスに「数学」が必要なのか？	変数（独立・従属変数）と定数
2	なぜ売上額より「シェア」が重要なのか？	割合（比率）とデータの正規化
3	なぜ「前年比101%」の継続が恐ろしいのか？	変化量と変化率・指数
4	なぜ人間の行動を「一本の線」で表せるのか？	一次関数の性質と定式化
5	なぜ人気が出ると「価格」が上がるのか？	逆関数とグラフの反転
6	なぜ「客数」の変化に一喜一憂すべきなのか？	直線の傾きと感度分析
7	なぜ数学で「ケンカの仲裁」ができるのか？	二元一次連立方程式の解法
8	なぜ「増税」すると市場のバランスが崩れるのか？	パラメータの変化と均衡の移動
9	なぜ「誰かの支出」が「誰かの所得」になるのか？	方程式と恒等式の区別
10	なぜ「頑張って売りすぎる」と赤字になるのか？	二次関数のグラフと凸性
11	なぜ「倒産」の危機は2回やってくるのか？	二次方程式の解と判別式
12	なぜ一流の経営者は「頂点」だけを見ているのか？	二次関数の平方完成と極値
13	なぜ「数式」があれば店長は迷わないのか？	数理モデルの構築とシミュレーション

14 15 16	なぜあなたの世界の見え方は変わったのか？	総括：数理的思考の再定義

科目コード	28127				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	簿記入門Ⅰ［Q1対面＋オンデマンド］				担当者名	大池　淳一／北村　和久			
配当年次	1年	配当学期	第１クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本科目は、日商簿記検定3級の合格を目指す基礎科目です。簿記の基本原理である取引の8要素（費用・収益・資産・負債・純資産）の認識と会計処理を学びます 。14回の授業のうち、奇数回は対面での解説とグループワーク、偶数回はオンデマンドでの復習演習というサイクルで、知識の定着を図ります 。簿記の基本的な技術を習得するだけでなく、履修者全員で日商簿記検定3級合格という１つの目標に向かって頑張り、非認知能力の構成要素である「自分を高める力」「他者と協働する力」の育成を目指す。なお商業高校等で既に簿記を学習済みであって

＜授業の到達目標＞

①簿記の意義と役割を知り、複式簿記の基本原理を理解すること 。②基礎的な取引（商品売買、現金預金、固定資産など）の仕訳ができるようになること 。③取引の仕訳から各帳簿への転記、試算表作成、決算までの一巡の流れを理解すること 。④日商簿記検定3級に合格するための基礎的な知識・技術を身につけること 。

＜授業の方法＞

① 授業の方法は、主に解説の後、問題演習を中心とする。奇数回は「対面」偶数階は「オンデマンド」を基本とする。② 電卓演習・集計作業などの計算を行うので、各自電卓（関数電卓、スマートフォン不可）を持参すること。③ 本科目では、問題演習の性質をもつため、個人学修によるところが大きい。④本科目では、第２クォーター開講の「簿記入門Ⅱ」第３クォーター開講「簿記演習Ⅰ」第４クォーター開講「簿記演習Ⅱ」と併せて履修することで、日商簿記検定３級合格を目指す。本科目では記帳に関する技術を確実に身につけるため手書きを主体とす

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素有5、6人のグループに分かれ協働学習を行うことがある。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

① 予習としてテキストを読む・例題を解くこと。② 復習として、授業で行った練習問題を必ず自宅で解くようにすること。③ 本科目に関して、週に予習（テキストを読む、例題を解く）３時間と復習（練習問題を解く、わからないところをなくす）３時間を費やす必要がある。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー２（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

① 受講態度･学習意欲･授業への参加度 30%② 小テスト 70%フィードバック:締切後,次の授業において解答を発表し解説する。

＜教科書＞

瀧澤ななみ（2026年２月13日）　スッキリわかる 日商簿記3級 2026年度版［ネット試験・統一試験 完全対応］ TAC出版

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス・簿記の基本	授業の進め方、成績評価方法、授業方針、簿記の5要素、貸借対照表・損益計算書
2	復習演習①	第1章の例題・問題演習、簿記の用語・5要素の分類確認
3	仕訳①：商品売買(1)	3分法（仕入・売上）、勘定科目のルール、数字の書き方
4	復習演習②	第2章・第5章の仕訳トレーニング、商品売買の基本演習
5	仕訳②：商品売買(2)	返品・諸掛りの処理、クレジット売上、電子記録債権・債務
6	復習演習③	第6章の演習、商品売買の応用問題（諸掛り等）の解法確認
7	仕訳③：現金・預金	現金（現金過不足含む）、普通預金、定期預金、当座預金
8	復習演習④	第3章・第4章の演習、現金・預金取引の仕訳精査
9	帳簿への記入(1)	主要簿（仕訳帳・総勘定元帳）への転記、略式勘定への記入方法
10	復習演習⑤	第7章の演習、転記作業と帳簿のつながりの確認
11	試算表の作成	合計試算表・残高試算表の作成演習と自己チェック
12	復習演習⑥	第8章の演習、試算表作成のスピードアップトレーニング
13	【総括】まとめテスト	簿記入門Ⅰの範囲（第1章～第8章）に関する理解度確認テスト
14	テストの復習・解説	まとめテストの解答解説、間違えやすいポイントの再確認
15		
16		

科目コード	28128				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	簿記入門Ⅱ［Q2対面＋オンデマンド］				担当者名	大池　淳一／北村　和久			
配当年次	1年	配当学期	第２クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

「簿記入門Ⅰ」の学習を踏まえ、より複雑な個別取引と決算手続きを習得します 。日商簿記検定3級合格に必要な全ての知識を完遂し、実務や検定試験に対応できる技術を身につけます 。第13回の対面テストにより到達度を確認し、第14回で最終的なフォローアップを行います。簿記の基本的な技術を習得するだけでなく、履修者全員で日商簿記検定3級合格という１つの目標に向かって頑張り、非認知能力の構成要素である「自分を高める力」「他者と協働する力」の育成を目指す。なお商業高校等で既に簿記を学習済みであっても是非とも履修してもらい

＜授業の到達目標＞

①手形、固定資産、債権債務などの多様な取引の仕訳ができるようになる 。②補助簿の役割を理解し、適切な帳簿選択ができるようになる 。③決算整理仕訳から財務諸表（B/S，P/L）作成までの一巡を完遂できる 。

＜授業の方法＞

① 授業の方法は、主に解説の後、問題演習を中心とする。奇数回は「対面」偶数階は「オンデマンド」を基本とする。② 電卓演習・集計作業などの計算を行うので、各自電卓（関数電卓、スマートフォン不可）を持参すること。③ 本科目では、問題演習の性質をもつため、個人学修によるところが大きい。④本科目では、第１クォーター開講の「簿記入門Ⅰ」第３クォーター開講「簿記演習Ⅰ」第４クォーター開講「簿記演習Ⅱ」と併せて履修することで、日商簿記検定３級合格を目指す。本科目では記帳に関する技術を確実に身につけるため手書きを主体とす

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素有5、6人のグループに分かれ協働学習を行うことがある。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

① 予習としてテキストを読む・例題を解くこと。② 復習として、授業で行った練習問題を必ず自宅で解くようにすること。③ 本科目に関して、週に予習（テキストを読む、例題を解く）３時間と復習（練習問題を解く、わからないところをなくす）３時間を費やす必要がある。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー２（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

① 受講態度･学習意欲･授業への参加度 30%② 小テスト 70%フィードバック：締切後，次の授業において解答を発表し解説する。

＜教科書＞

瀧澤ななみ（2026年２月13日）　スッキリわかる 日商簿記3級 2026年度版［ネット試験・統一試験 完全対応］ TAC出版

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	手形・貸付金・借入金	受取手形・支払手形、貸付金・借入金、利息の計算
2	復習演習⑦	第9章の演習、手形・資金貸借の仕訳定着
3	固定資産・その他債権債務	有形固定資産の取得、その他費用（給料等）、仮払・仮受金
4	復習演習⑧	第10章・第11章の演習、固定資産と諸費用の仕訳確認
5	補助簿と伝票	補助簿の種類（売掛金元帳等）、伝票の起票、仕訳日計表
6	復習演習⑨	第11章の演習、伝票会計と補助簿の選択問題
7	決算整理仕訳①	経過勘定（費用・収益の繰延・見越）の理解と仕訳
8	復習演習⑩	第12章の演習、経過勘定の再振替仕訳を含む反復演習
9	決算整理仕訳②	貸倒引当金、減価償却（定額法）、売上原価の算定
10	復習演習⑪	第12章の演習、決算整理事項の総合仕訳トレーニング
11	精算表と財務諸表	8欄精算表の作成、貸借対照表・損益計算書の作成方法
12	復習演習⑫	第13章・第14章の演習、財務諸表作成の最終確認
13	【総括】まとめテスト	簿記入門Ⅱの範囲（全範囲）に関する理解度確認テスト
14	テストの復習・解説	まとめテストの解答解説、日商簿記検定3級合格に向けた総仕上げ
15		
16		

科目コード	28131				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	地球の未来と人間の行動［週2］				担当者名	鈴木　真理子			
配当年次	1年	配当学期	第４Ｑ	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
この講義は、１年生向けには「地球の未来と人間の行動」として、２～４年生向けには「SDGs入門」として開講する。「持続可能な開発目標（SDGs）」について、国連が掲げる国際目標としての側面から、私たちの日常生活やビジネスにどのように関わっているのかまで､幅広く学びます 。SDGsの17のゴールと169のターゲットを理解し､それが企業経営や社会に与える影響について考察します 。特に、学内外の有識者やSDGsに取り組むゲストスピーカーを多数お招きし、彼らとの対話や質疑応答を通じて、生きた知見と実践的な考え方を養

＜授業の到達目標＞
１．SDGsの成り立ちや主旨、17の目標について深く理解する 。２．世界的な課題と自分自身の生活が密接に関わっていることを認識し、SDGs達成に向けて自分に何ができるかを考える力を養う 。３．異なるSDGsの目標間で生じうるトレードオフ（両立しない関係性）を解決するアイデアを思考できるようになる 。４．多様なゲストスピーカーとの対話を通じて、SDGsの実践例から学び、自らの考えを表現し、他者と協力して課題を解決する力を身につける 。

＜授業の方法＞
本講義は、外部ゲストスピーカーによる講義が授業全体の約50%を占め、残りは担当教員による講義とグループディスカッションで構成されます 。「生の声」を聞くことを重視し、各界の専門家や実践家から直接学び、自由闊達な意見交換を行います 。但し、本講座の講義内容は、効果的な学習方法への改善を目指し、随時変更・調整されるため、当初授業計画から内容等が大幅に変更される場合があります。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有（グループディスカッション）5,6人のグループに分かれ、各階ごとのテーマについて意見をまとめグループごろに発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業のテーマに合わせて、毎週1時間程度の予習・復習（参考図書、雑誌、動画視聴など）が必要です 。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業参加態度: 50% ゲストへの積極的な質問､グループディスカッションでの発言など､授業への貢献度を評価します｡レポート: 50% 授業で学んだ内容を踏まえ、SDGsのテーマについて深く考察するレポートを課します。

＜教科書＞

＜参考書＞
編著:一般社団法人　Think the Earth､監修:蟹江憲史(2018/4/30)　未来を変える目標　SDGsアイデアブック　一般社団法人　Think the Earth
高橋真樹(2021/3/15)　日本のSDGs　大月書店
バウンド(2019/11/29)　60 分 で わかる！ SDGs 超 入門　株式会社技術評論社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	【11/20金】オリエンテーション	授業の概要、進め方、評価方法を理解する。SDGsの5つのポイント（誰ひとり取り残さない、経済・社会・環境の調和、見える化、連鎖、バックキャスティング)についてグループディスカッションを通じて理解を深める。
2	【11/27金】国際協力とSDGs	JICA岡山デスクの橋本様と、海外協力隊としてコスタリカで活動してきた卒業生の佐合様をお招きし、「国際協力」について、身近な貢献方法や将来の働き方について対話する 。ゲストスピーカー：①岡山県JICAデスク　橋本千明　様 https://www.jica.go.jp/domestic/chugoku/pref/okayama/index.html②元・海外協力隊（コスタリカ派遣、野球）　佐合桃果さん https://world-diary.jica.go.jp/costaricasana
3	【12/1火】SDGs（持続可能な開発目標）とは？	SDGsを理解するための5つのキーワード（「誰ひとり取り残さない」「経済、社会、環境の調和」「見える化」「連鎖」「バックキャスティング」）について理解を深める 。
4	【12/4金】ESG経営とは	企業がなぜ「ESG経営」に取り組むのかを知り、現代経営学科でSDGsを学ぶ意義を考える 。

5	【12/8】「境界線を溶かすチョコレート」	この回は、「チョコレートが好き」という思いに向き合い、大学1年生の時にガーナのカカオ農家の支援を開始した田口様（現Mpraeso合同会社代表）が、現地の人と共にチョコレート工場を設立し、生産者にお金が落ち、雇用が増える仕組みを創っていく挑戦の物語について講演を聴いた後、ディスカッションする。ゲストスピーカー：Mpraeso合同会社代表　田口愛　様 https://ipu-japan.ac.jp/news/21446/https://www.jpower.co.jp/ge/71/opinion/index_
6	【12/11】世界の平和について考える	「消極的平和」と「積極的平和」の概念を理解し、IPU留学生の出身国で起きたベトナム戦争やミャンマー内戦といった具体的な事例を通して平和を考える 。
7	【12/15】AMDAの支援活動	平和を阻害する戦争・災害・貧困に苦しむ世界の人々に対して、保健・医療を中心とした人道支援活動を行っているNPO法人AMDAからゲストをお迎えし、現在実施しているウクライナ、ミャンマー、東日本大震災など、紛争・災害・貧困に対する人道支援活動について学ぶ 。ゲストスピーカー：NPO法人AMDA 副理事長 難波妙様 https://ipu-japan.ac.jp/news/22069/https://amda.or.jp/
8	【12/18】東日本大震災の復興支援	復興庁の都築様から、東日本大震災の復興支援事業について、具体的な取り組みや課題についてお話しいただく 。
9	【12/22】世界の水問題×SDGs	世界や日本の水問題に目を向け、すべての人々が安全な水を得るためにどうすべきかを考える 。
10	【12/25】海に「浮遊」していた海洋プラスチックを、空に「浮遊」するフライングディスクに	Dolphin Papa合同会社代表の 森脇 崇 様をお招きし、海洋プラスチックごみをフライングディスクに再生するビジネスについてご講演いただく 。ゲストスピーカー：Dolphin Papa 合同会社 代表 森脇 崇 様コーディネーター：IPU 体育学部 健康科学科 講師 坂本 賢広
11	【1/12】アフリカでの理数科教育	JICA専門家の中井様より、アフリカでの教育支援についてお話しいただく 。
12	【1/15】アフリカでの気候変動の実態	JICA専門家の中井様より、アフリカでの気候変動の実態についてお話しいただく 。
13	【1/19】ジェンダーの平等と暴力のない社会の実現に向けて	DVサバイバーの神坂様をお迎えし、DV被害者支援の活動や、暴力のない社会の実現に向けた課題についてワークショップ形式でディスカッションする 。ゲストスピーカー：DVサバイバー　神坂　様 https://ipu-japan.ac.jp/news/22281/https://www.gov-online.go.jp/useful/article/201411/1.html#fifthSection
14	【1/22】知ることは障がいを無くす	(株)ありがとうファームの馬場様をお招きし、アートとサービスを軸にした多機能型事業所での取り組みから、「障がい者と健常者の間にある障がい（壁）」を無くすための方法をディスカッションする 。ゲストスピーカー：(株)ありがとうファーム　取締役　副社長　馬場　拓郎　様 https://ipu-japan.ac.jp/news/22196/https://www.arigatou-farm.com/
15		
16		

科目コード	28135				区　分	コア科目			
授業科目名	簿記演習Ⅰ［Q3対面＋オンデマンド］				担当者名	大池　淳一／北村　和久			
配当年次	1年	配当学期	第３クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本科目は、前期「簿記入門Ⅰ・Ⅱ」で習得した基礎知識をベースに、日商簿記検定3級の合格に必要な実践力を養う科目です 。14回の授業のうち、奇数回は対面での解法テクニック解説とグループ演習、偶数回はオンデマンドでの反復演習を行います。主に検定試験の第1問（仕訳問題）および第2問（帳簿・勘定記入等）を確実に得点できる能力を育成します。簿記の基本的な技術を習得するだけでなく、履修者全員で日商簿記検定3級合格という１つの目標に向かって頑張り、非認知能力の構成要素である「自分を高める力」「他者と協働する力」の育成を目

＜授業の到達目標＞

①日商簿記3級の頻出仕訳を、正確かつ迅速に行うことができる 。②各種帳簿（補助簿）の記入方法を理解し、適切な帳簿の選択ができる 。③伝票会計や勘定記入の仕組みを理解し、個別問題に対応できる 。④5～6人のグループワークを通じ、他者と解法を共有し協働する力を養う 。

＜授業の方法＞

① 授業の方法は、主に解説の後、問題演習を中心とする。奇数回は「対面」偶数階は「オンデマンド」を基本とする。② 電卓演習・集計作業などの計算を行うので、各自電卓（関数電卓、スマートフォン不可）を持参すること。③ 本科目では、問題演習の性質をもつため、個人学修によるところが大きい。④本科目では、第１クォーター開講の「簿記入門Ⅰ」第２クォーター開講「簿記入門Ⅱ」第４クォーター開講「簿記演習Ⅱ」と併せて履修することで、日商簿記検定３級合格を目指す。本科目では記帳に関する技術を確実に身につけるため手書きを主体とす

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素有5、6人のグループに分かれ協働学習を行うことがある。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

① 予習としてテキストを読む・例題を解くこと。② 復習として、授業で行った練習問題を必ず自宅で解くようにすること。③ 本科目に関して、週に予習（テキストを読む、例題を解く）３時間と復習（練習問題を解く、わからないところをなくす）３時間を費やす必要がある。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー２（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

① 受講態度･学習意欲･授業への参加度 30%② 小テスト 70%フィードバック:締切後,次の授業において解答を発表し解説する。

＜教科書＞

瀧澤ななみ（2026年3月24日）　スッキリうかる 日商簿記3級 2026年度版［ネット試験・統一試験 完全対応］ TAC出版

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス・仕訳徹底攻略(1)	3級試験の全体像、第1問（仕訳問題）の頻出論点とミス対策
2	反復演習①	商品売買、現金預金に関する重要仕訳トレーニング
3	仕訳徹底攻略(2)	固定資産、貸倒引当金、経過勘定など「差がつく」仕訳の解法
4	反復演習②	重要仕訳20選のタイムトライアル演習
5	第2問対策(1)：勘定記入	勘定口座への記入ルール、英米式決算法の再確認
6	反復演習③	T字勘定の作成と締切りに関する個別問題演習
7	第2問対策(2)：補助簿・伝票	補助簿の選択、伝票の起票と仕訳日計表の集計
8	反復演習④	伝票会計と帳簿組織の複合問題演習
9	決算整理仕訳②	勘定科目の分類、理論的な語句補充問題への対応
10	反復演習⑤	過去問・予想問題を用いた第2問対策の総仕上げ
11	実戦形式演習（第1問・第2問）	制限時間を設けた部分模試の実施とグループでの解説
12	反復演習⑥	模試の類題演習と、間違えた論点の徹底復習
13	【総括】まとめテスト	第1問・第2問を中心とした範囲での対面実戦テスト
14	テストの復習・解説	テストの解答解説と、第3問（決算）に向けた弱点補強
15		
16		

科目コード	28136				区　分	コア科目			
授業科目名	簿記演習Ⅱ［Q4対面＋オンデマンド］				担当者名	大池　淳一／北村　和久			
配当年次	1年	配当学期	第４クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

日商簿記検定3級の最重要課題である第3問（決算・財務諸表）を攻略し、ネット試験・統一試験に対応した本試験形式の演習を繰り返す科目です 。合格ラインである70点を安定して超えるための時間配分と、部分点の取り方をマスターします。第13回の最終テストを経て、履修者全員の合格を目指します 。簿記の基本的な技術を習得するだけでなく、履修者全員で日商簿記検定3級合格という１つの目標に向かって頑張り、非認知能力の構成要素である「自分を高める力」「他者と協働する力」の育成を目指す。なお商業高校等で既に簿記を学習済みであっ

＜授業の到達目標＞

①決算整理事項を正しく理解し、精算表および財務諸表（B/S、P/L）を完遂できる 。②本試験（60分）の時間配分を身につけ、合格点を獲得する戦略を立てられる 。③ネット試験の形式に慣れ、パソコン上での正確な数値入力を習得する 。④難しい問題に直面しても、粘り強く正解を導き出す「自分を高める力」を養う 。

＜授業の方法＞

① 授業の方法は、主に解説の後、問題演習を中心とする。奇数回は「対面」偶数階は「オンデマンド」を基本とする。② 電卓演習・集計作業などの計算を行うので、各自電卓（関数電卓、スマートフォン不可）を持参すること。③ 本科目では、問題演習の性質をもつため、個人学修によるところが大きい。④本科目では、第１クォーター開講の「簿記入門Ⅰ」第２クォーター開講「簿記入門Ⅱ」第４クォーター開講「簿記演習Ⅱ」と併せて履修することで、日商簿記検定３級合格を目指す。本科目では記帳に関する技術を確実に身につけるため手書きを主体とす

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素有5、6人のグループに分かれ協働学習を行うことがある。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

① 予習としてテキストを読む・例題を解くこと。② 復習として、授業で行った練習問題を必ず自宅で解くようにすること。③ 本科目に関して、週に予習（テキストを読む、例題を解く）３時間と復習（練習問題を解く、わからないところをなくす）３時間を費やす必要がある。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー２（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

① 受講態度･学習意欲･授業への参加度 30%② 小テスト 70%フィードバック：締切後，次の授業において解答を発表し解説する。

＜教科書＞

瀧澤ななみ（2026年3月24日）　スッキリうかる 日商簿記3級 2026年度版［ネット試験・統一試験 完全対応］ TAC出版

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	第3問対策(1)：精算表	精算表の作成手順、集計ミスを防ぐワークシートの書き方
2	反復演習⑦	精算表の総合問題演習（30分以内での作成訓練）
3	第3問対策(2)：財務諸表	貸借対照表（B/S）と損益計算書（P/L）の作成テクニック
4	反復演習⑧	重要仕訳20選のタイムトライアル演習
5	第3問対策(3)：決算整理後試算表	決算整理後残高試算表の作成と、ケアレスミスの発見方法
6	反復演習⑨	さまざまな形式の決算問題への対応訓練
7	本試験形式演習(1)	ネット試験・統一試験の傾向分析と、時間配分戦略
8	反復演習⑩	本試験レベルの予想問題演習（第1回目）
9	本試験形式演習(2)	模擬試験の実施、採点ポイントと弱点補強の解説
10	反復演習⑪	本試験レベルの予想問題演習（第2回目）
11	直前対策	頻出論点の最終チェック、ネット試験の操作上の注意点
12	反復演習⑫	模擬試験の解き直しと苦手項目の最終追い込み
13	【総括】最終実戦テスト	本試験形式（第1～3問）による対面での総仕上げテスト
14	最終解説・合格への指針	最終テストの解説、検定本番に向けた心構えのアドバイス
15		
16		

科目コード	31208				区　分	コア科目			
授業科目名	映画とテレビの英語				担当者名	伊藤　仁美			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本授業では、映画やテレビなどの映像教材を活用し、リスニングとスピーキングを主軸とした音声コミュニケーション能力を養成する。生の英語に触れることで実践的な聴解力を養うとともに、映像から得た情報や自身の経験に基づき、批判的思考（クリティカル・シンキング）を伴う意見交換や発信を行う力を総合的に育成する。

＜授業の到達目標＞

(1) 背景知識や関連表現を整理した上で、映像教材から必要な情報を聞き取り、物語の概要や要点を的確に把握できるようになる。
(2) 視聴内容や自身の経験に基づき、作品のテーマについて多角的に考察し、他者との対話を通じて自分の考えを論理的に発信できるようになる。

＜授業の方法＞

合計100分(1) ウォームアップ：海外のテレビCMや短編ニュースを視聴し、特定の情報（ターゲットや意図など）を素早く正確に聞き取る。(15分)(2)プレ活動：映画のテーマに関する問いに対し、自身の経験や考えをペアで共有する。キーワードや口語表現を学び、視聴に向けた準備を行う。(15分)(3) 映画視聴と課題：映像を視聴しながら、ノートテイキングやタスクシート作成を行う。(30分)(4) ポスト活動：視聴内容や自身の経験に基づき、作品のテーマについて対話する。グループでの協働を通じ、議論から導き出した結論

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有　視聴内容や自身の経験に基づき、作品のテーマについてペアやグループで対話を行う。グループでの対話や課題解決型のワークを通じて、自分たちの考えをもち、クラスに向けて発信する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

合計２時間程度＜予習＞次回扱うテーマや映像教材の背景について、配布資料や指定されたキーワードをもとにリサーチを行う。クラスでの対話やワークに備え、トピックに対する自身の考えを整理し、関連する語彙を確認しておく。(60分)＜復習＞リスニング・クイズに向けて、授業で活用した映像を繰り返し視聴し、聞き取れなかった箇所を中心に内容を確認する。スクリプト等を用いて、音読、シャドーイング、オーバーラッピング等のトレーニングを行い、映像内で使用された口頭表現を定着させる。(60分)

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のおよびディプロマポリシー５（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

(1) 課題・活動への取り組み　30%(2) リスニングを含む筆記テスト20%(3) パフォーマンステスト50%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション、英語音声とグループワークに慣れるためのアイスブレイク	授業の進め方、サイレント・アフレコ(セリフを考えて演じる)、ストーリー予測(断片的な情報から展開を予測する)
2	推し作品の共有とターゲットの設定	自分の人生に影響を与えた「推し作品」を1つ選び、それを誰に届けたいか(外国人・過去の自分・次世代の子ども達）を決めてグループ内で紹介し合う。
3	作品の魅力と見どころの整理	対象者がその作品を鑑賞することで得られる変化や価値を整理する。魅力を伝えるためのキーワードや短い英語フレーズを準備する。
4	相手に届けるメッセージの整理	ターゲットに合わせた「一番見せたいシーン」を選び、なぜそこがおすすめなのか、理由を英語でまとめる。
5	リハーサルと相互フィードバック	3人1組でのリハーサルを行う。プレゼンとジャッジを交互に繰り返し、内容・表現の改善を図る。
6	中間試験（1）	パフォーマンス・テスト（1）
7	中間試験（2）	パフォーマンス・テスト（2）
8	映画視聴（1）	背景知識の整理と導入を行う（登場人物の関係性など）。
9	映画視聴（2）	情報の聞き取りと要点把握を行う(ジグソー方式による物語の展開や重要なセリフの聞き取り）。
10	映画視聴（3）	視聴内容と自身の経験を照らし合わせ、作品のテーマについてグループで議論する。
11	映画視聴（4）	グループプロジェクトの準備を行う。
12	期末試験（1）	パフォーマンス・テスト(3)

13	期末試験（2）	筆記テスト（リスニングあり）
14	まとめ	全体総括、ふりかえり
15		
16		

科目コード	31209				区　分	コア科目			
授業科目名	英語のリズムとイントネーション				担当者名	伊藤　仁美			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
文法に体系的な規則があるように、英語の発音にも明確なルールが存在する。本授業では、英語の母語話者が無意識に習得している発音規則やプロソディ（アクセント・リズム・イントネーション）を、知識・理解にとどまらず、反復的な練習と実践を通じて、身体的かつ意識的・体系的に習得していく。単なるネイティブの模倣を目指すのではなく、多様な話者間での相互理解を支えるGlobal Intelligibility（国際的明瞭姓）、すなわち聞き手に過度な負担を強いない明瞭な発音の習得を目指す。

＜授業の到達目標＞
（1）英語の発音規則やプロソディ（アクセント・リズム・イントネーション）を理論的に理解し、説明できる。（2）Global Intelligibility（国際的明瞭性）の観点から、聞き手に過度な負担を強いない明瞭な英語を実践できる。

＜授業の方法＞
本授業は、4As(Activity, Analysis, Abstraction, Application)モデルに基づき展開する。（1）復習・ウォームアップ【Activity】（10分）（2）ターゲットの音声を聞き、気づき（文字と音声の違いなど）を共有する【Analysis】（10分）（3）教科書を用いた講義（ルールの解説）、スクリプトに連結やストレスの記号・しるしなどを書き込み音声特徴を可視化する【Abstraction】（30分）（4）個人練習とペアによる相互フィードバック【Application】

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有　個人練習とペアによる相互フィードバック

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
合計２時間程度＜予習＞・指定された教科書のページを読み、次回のターゲットとなる音声ルールや専門用語を把握しておく・教科書の付属CDを聴き、文字を見ずに、どこが繋がって聞こえるか、どこが消えているかを自分なりにメモしておく・例文に出てくる未知語の意味と発音記号を確認しておく＜復習＞・授業中に書き込んだスクリプトを読み返し、ルールの根拠を復習する（※一度に長時間の学習を行うより、分散学習の継続を推奨する）・授業内容に基づく英文を音読し録音したものをClassroomに提出する・授業後のAssessmentの結

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のおよびディプロマポリシー５（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業参加度 20%、小テスト（筆記・録音・分析のいずれか、あるいはハイブリッド） 30%、レシテーション 50%

＜教科書＞
靜哲人（2019年1月19日）　日本語ネイティブが苦手な英語の音とリズムの作り方がいちばんよくわかる発音の教科書　テイエス企画

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション、Global Intelligibility（国際的明瞭姓）、母音空間、IPA（国際音声記号）、調音	多様な英語を聴き比べ、「何が共通して通じているか」をディスカッションする。Global Intelligibilityの基準を探索し、その重要性を体感する。
2	子音(1)：破裂音・鼻音	破裂音の呼気の確認など、調音について
3	子音(2)：摩擦音	ロングトーンの練習、洋楽の歌詞から摩擦音が際立つフレーズの練習など
4	子音(3)：破擦音・流音	/l/と/r/などのminimal pair（最小対語)を聞き分けるクイズ、Tongue Twister（早口言葉）など
5	母音	/æ/, /ʌ/, /ɑ/の識別、緊張・弛緩 /i/, /ɪ/, /u/, /ʊ/の区別など
6	曖昧母音、語のアクセント	短い英文を読み、アクセントのない曖昧な音「シュワ（/ə/）」をマークし、脱力して発音する練習を行う。単語のストレスに合わせて手を叩き、身体を使って強弱を身につける。
7	文のリズム	文の中で内容語（強調すべき意味を持つ語）に「○」をつける。リズムの波を視覚化する。
8	イントネーション（全落ち・半落ち）	短いスキットを用いて、同じセリフ（"Really?"など）を、感情や確信の度合いなどによって、イントネーションを使い分け、演じてみる。

9	プロソディの統合練習（1）：音の連結(Linking)・同化（Assimilation）	洋楽の歌詞を使い、音が繋がる箇所に「⁀」を書き込み分析し、実際に歌ってみる。また、コンテストに向けて、レシテーションのスクリプトにこれまでに学習したルール（しるし）を書き込み練習する。
10	プロソディの統合練習（2）：音の脱落・脱化（Elision）と 弾き音化（Flapping）	洋楽の歌詞を使い、音が消える箇所を「( )」で括り、/t/ がラ行化する箇所に「△」を書き込み分析し、実際に歌ってみる。発話スピードの変化を体感する。また、コンテストに向けて、レシテーションのスクリプトにこれまでに学習したルール(しるし）を書き込み練習する。
11	プロソディの統合練習（3）：弱化(Reduction)	洋楽の歌詞を使い、重要度の低い語（and, for, to等）を「・」で小さく書き込み分析し、強弱のメリハリを意識して歌ってみる。また、コンテストに向けて、レシテーションのスクリプトにこれまでに学習したルール（しるし）を書き込み練習する。
12	リハーサルとフィードバック	ペアになり、相互に発音を確認する。良かった点と改善点を振り返る。
13	レシテーション・コンテスト(1)	練習の成果を披露し、Global Intelligibilityの達成度について振り返りを行う。
14	レシテーション・コンテスト(2)。	練習の成果を披露し、Global Intelligibilityの達成度について振り返りを行う。
15		
16		

科目コード	31216				区　分	カリキュラムにより異なる			
授業科目名	特別支援教育論［週間オンデマンド］				担当者名	内田　直美			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解するとともに、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育や支援の方法を理解する。また、障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の保育上又は生活上の困難とその対応を理解する。

＜授業の到達目標＞
発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児､児童及び生徒が生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の保育上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。

＜授業の方法＞
オンデマンド

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業資料や必要に応じて提供する参考資料にて振り返りを行うこと

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業の最後に実施する確認テストや小レポート課題（60%）定期試験に代わるレポート（40%）

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	特別支援教育とは何か	特別支援教育とは何かについて学ぶ。
2	特別支援教育の歴史と制度	特別支援教育の歴史的変遷について学ぶ。
3	インクルーシブ教育システムの構築	学校・園における合理的な配慮について学ぶ。
4	障害のある子どもの特性と特別支援教育	視覚障害・聴覚障害の特性の理解と指導・支援について学ぶ。
5	障害のある子どもの特性と特別支援教育	肢体不自由の特性の理解と指導・支援について学ぶ。
6	障害のある子どもの特性と特別支援教育	知的障害・肢体不自由の特性の理解と指導・支援について学ぶ。
7	自閉スペクトラム症（ASD）の特性と教育的支援	ASDの特性の理解と具体的な指導・支援について学ぶ。
8	注意欠如多動症（ADHD）の特性と教育的支援	ADHDの特性の理解と具体的な指導・支援について学ぶ。
9	限局性学習症（SLD）の特性と教育的支援	SLDの特性の理解と具体的な指導・支援について学ぶ。
10	個別の教育支援計画と個別の指導計画	個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成方法について学ぶ。
11	校内支援体制(校内委員会・特別支援教育コーディネーター)と保護者・他機関との連携	特別支援教育において必要な連携について学ぶ。
12	自立活動	特別支援教育において重要な自立活動について学ぶ。
13	通級指導	通級指導教室における指導について学ぶ。
14	発達障害への支援	様々な指導・支援の方法について学ぶ。
15		
16		

科目コード	31217				区　分	コア科目			
授業科目名	英語教授法特論				担当者名	竹下　厚志			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
第二言語習得研究（SLA）のメカニズムと諸理論についての理解をもとに、実際の学校現場（小学校、中学校、高等学校）において、どのように英語指導を行えば､児童･生徒の英語コミュニケーション能力の向上につながるかについて一緒に考えていきます｡将来、学校現場に立つことを念頭に理論と実践の一体化を目指した講義と演習を実施します。

＜授業の到達目標＞
・グローバルシチズンシップの観点から英語教育をとらえ、児童生徒を地球市民の一員として育成できる見方・考え方を身につけている。・自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できるメタ認知力を身につけている。・英語教師として、授業を円滑に運営でき，英語学習者（L2 Learner)のモデルとなる英語力を身につけている。・SLAの理論の基本的な知識および英語指導に必要な技能を身につけている。

＜授業の方法＞
①講義およびペア・グループワーク②映像による授業分析③指導案作成および模擬授業④まとめレポート（クラスルーム提出）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
あり。ペア・グループワーク（各テーマに関しての意見交換）、プレゼンテーション（SLA研究をもとにした模擬授業）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習・SLAに関する論文熟読（毎回1時間程度）復習・学習済みの専門用語の暗記（毎回1時間程度）・指導案作成（毎回2時間程度）・映像分析（毎回1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のおよびディプロマポリシー５（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
積極的な授業参加度30%、テスト・レポート 30%　模擬授業・指導案作成40%

＜教科書＞

＜参考書＞
鈴木　渉（2020年9月1日）　実践例に学ぶ第二言語習得研究に基づく英語指導　大修館書店
白井 恭弘（2012年9月1日）　英語教師のための第二言語習得論入門　大修館書店
村野井 仁（2007年4月10日　第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法　大修館書店

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	自分が目指す英語教育について考える。
2	SLA研究変遷の概観	今まで受けてきた英語授業の背景にある考え方の考察
3	Input/Output/Interaction Hypothesis	SLAモデルをもとにした指導案例の分析
4	①テスト②動機づけ	①確認テスト②言語レベル、学習者レベル、学習環境レベルから先行研究概観
5	SLA関連の重要項目概観	自動化、ワーキングメモリ、スキーマを考慮した実際の授業と関連付けたタスクの設定
6	Focus on Form	文法指導の在り方について考える。
7	①テスト②CLIL　(TBLT)	①確認テスト②CLIL　(TBLT)をもとにした英語授業におけるタスクの設定
8	実践演習①	具体的な指導技術について考察
9	実践演習②	具体的な指導技術について考察
10	映像・教科書分析①（小学校）	実践映像および教科書記載のタスクをSLAの観点から分析
11	映像・教科書分析②（中学校・高等学校）	実践映像および教科書記載のタスクをSLAの観点から分析
12	模擬授業①	指導案の作成および実演
13	模擬授業②	指導案の作成および実演
14	まとめ	学習した内容のまとめと意見交換とレポート作成
15		
16		

科目コード	31302				区　分	コア科目			
授業科目名	教育評価				担当者名	鈩　悠介			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
この授業は、教育評価の役割や考え方を理解し、教育評価を適切に実践していくために必要な実践力を養うことを目指して行う。評価は教育において欠かせない営みである一方で、その実践にはいくつもの原理的・実践的な難しさを伴う。本講義では、その困難な問題について、いくつかの具体的な課題や作業を通して学びを深めてもらう。

＜授業の到達目標＞
教師をめざそうとする学生や教育に興味・関心を持つ学生が、評価の理論と実際を学ぶことを目指す。次の３点を目標とする。(1)評価することの意義・手続き・困難さについて理解し、説明することができる。(2)評価の事前の準備や事後の反省のプロセスを通し，具体的な授業・評価の設計の判断を下す力をつける(3)評価を常に改善される余地のあるものと捉える姿勢を持つことができる

＜授業の方法＞
講義形式の中にいくつかの課題を設ける。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有り。グループディスカッションや相互評価など。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習：前回の講義についてClassroomにアップロードされた内容を復習する（30分）。事後学習：講義スライドや講義中に回答したFormsとそのフィードバックをもとに，講義内容と自らの学びを3分程度で話せる内容にまとめる（90分）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
毎回の授業課題 80%、学期末課題 20%

＜教科書＞
なし

＜参考書＞
田中耕治（編）2021年4月30日　よくわかる教育評価 第３版　ミネルヴァ書房

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	本講義の目標と内容	本講義の目標と内容について
2	評価の機能	診断的評価・形成的評価・総括的評価とその役割
3	カリキュラム	意図カリキュラム・実施カリキュラム・達成カリキュラム
4	ルーブリック（１）	ルーブリックの意義と構成要素
5	ルーブリック（２）	ルーブリックの修正
6	教育評価の具体事例(１)	各教科における評価事例(１)
7	教育評価の具体事例(２)	各教科における評価事例(２)
8	教育評価の歴史と動向(１)	目標に準拠した評価など
9	教育評価の歴史と動向(２)	学習のための評価など
10	教育評価の歴史と動向(３)	工学的アプローチ・羅生門アプローチなど
11	教育評価の歴史と動向(４)	目標の分類学
12	パフォーマンス評価のためのワークシート（１）	ワークシート作成：単元の構造と目標を理解する
13	パフォーマンス評価のためのワークシート（２）	ワークシート作成：ルーブリックを作成し、子どもにルーブリックを使ってもらうための足場掛けを設定する。
14	パフォーマンス評価のためのワークシート（３）	ワークシート作成：ワークシートのデザインを修正し完成させる
15		
16		

科目コード	31400				区　分	コア科目			
授業科目名	学校経営と学校図書館［週間オンデマンド］				担当者名	内田　仁志			
配当年次	4年	配当学期	後期週間オンデマンド	単位数	2.00単位	授業方法	オンデマンド	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

学校教育における学校図書館の役割について、社会・教育制度・学校経営の視点から理解する。学校図書館法や教育行政との関係、学校図書館の経営や運営、司書教諭の役割と職務について学ぶ。また学校図書館は読書活動の場であるだけでなく、資料を活用した学習活動や情報活用能力の育成を支える学習の拠点でもある。本授業では参考書を用い、資料を根拠として考えを形成する思考活動や議論活動の方法についても理解を深める。オンデマンド形式で講義を行い、各回の振り返り課題により学習内容の整理を行う。

＜授業の到達目標＞

① 学校図書館の理念と役割について説明できる。② 学校図書館法や教育行政との関係について理解する。③ 学校図書館の経営・運営および司書教諭の職務について説明できる。④ 学校図書館資料を活用した学習活動や情報活用能力の育成について理解する。

＜授業の方法＞

本授業はオンデマンド形式で実施する。各回では講義動画と配布資料を用いて学校図書館の理念、制度、経営、司書教諭の役割について解説する。受講者は動画視聴後にGoogleフォームによる振り返り課題に取り組み、学習内容を整理する。授業後半では参考書を用い、資料を根拠として意見を形成する学習活動や議論活動の教育的意義について考察する。学校図書館を活用した学習活動の可能性について理解を深める。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

オンデマンド授業であるが、受講者が主体的に学習内容を整理できるよう各回の講義後に振り返り課題を実施する。課題では授業内容の要点をまとめるとともに、学校図書館の役割や司書教諭の職務について自分の考えを記述する。また参考書を扱う回では、資料を読み取り主張と根拠を整理する思考活動について考察し、学校図書館を活用した学習活動の意義について理解を深める。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習として、各回のテーマに関連する資料や動画を確認し（1時間程度）、自身の読書経験や図書館利用経験を振り返っておくこと。事後学習として、授業内容を整理し、学習した内容をもとにレポートの作成や振り返りを行う（１時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー３(初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回の課題提出を重視し、継続的な学習状況を評価する。・毎回レポート提出　30%・レポート内容　40%・最終まとめ　30%

＜教科書＞

内田仁志（2024年8月）　国語教師のための「反論の技術」入門　明治図書

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	授業の概要と学校図書館の役割	本授業の目的、授業方法、評価方法について説明する。学校教育における学校図書館の役割を概観し、読書センター・学習センター・情報センターとしての三つの機能について理解する。学校図書館が学校教育において果たす基本的役割を整理する。
2	学校教育と学校図書館	学校教育における学校図書館の教育的意義について学ぶ。読書活動の推進や学習活動の支援など、教育活動の中で学校図書館がどのように活用されているかを理解する。学校図書館が児童生徒の学習環境を支える教育施設であることを確認する。
3	学校図書館制度と法制度	学校図書館法を中心に学校図書館の制度について理解する。学校図書館の設置目的や教育行政との関係について学び、学校図書館が教育制度の中でどのように位置づけられているかを確認する。
4	司書教諭の役割と職務	司書教諭の役割と職務について理解する。学校図書館の運営や読書活動の推進、授業支援など司書教諭が学校教育の中で担う役割について学ぶ。学校図書館が教育活動を支える場として機能するための条件について考える。
5	学校図書館の経営と運営	学校図書館の経営や運営について学ぶ。図書資料の整備や利用促進、学校全体での図書館活用など学校図書館を効果的に運営するための基本的視点を理解する。学校図書館経営の基本的考え方を整理する。
6	学校図書館メディアの整備	学校図書館における資料の収集・整理・提供について学ぶ。児童生徒の学習活動を

		支える資料整備の重要性を理解し、学校図書館資料が学習活動にどのように活用されるかを確認する。
7	読書活動と学校図書館	学校図書館を中心とした読書活動の意義について理解する。読書活動が児童生徒の言語能力や思考力の育成にどのように関わるかを考える。学校図書館を活用した読書活動の実践について整理する。
8	学校図書館と論理的思考	学校図書館資料を活用し、資料を読み取り主張と根拠を整理する思考活動について学ぶ。資料を根拠として意見を形成する学習活動の意義を理解し、情報活用能力の育成という観点から学校図書館の役割を考える。教科書第１章
9	教材研究と資料の選択	学習活動においてどのような資料を教材として選ぶかについて学ぶ。児童生徒の生活と関連した教材の重要性を理解し、学校図書館資料を活用した教材研究の視点について考える。教科書 第2章
10	話し合い活動と論理構成	主張と理由の関係を整理しながら考えをまとめる方法について学ぶ。学校図書館資料を根拠として意見を形成する学習活動を通して、論理的思考を育てる授業の可能性について考える。教科書 第3章
11	議論活動の教育的意義	資料を根拠として意見を述べ、他者の意見と比較する議論活動について学ぶ。学校図書館を活用した議論活動が思考力や表現力の育成にどのように関わるかを理解する。　教科書第４章
12	批判的思考の育成	資料を読み取り主張と根拠を吟味しながら考える批判的思考について学ぶ。学校図書館資料を活用して多様な意見を比較する学習活動の意義を理解する。教科書 第5章
13	学校図書館を活用した授業設計	学校図書館資料を活用した授業の設計について考える。資料を用いて意見を形成し交流する学習活動の方法を理解し、学校図書館が学習活動の拠点となる授業づくりの視点を整理する。教科書 第6章
14	授業のまとめと確認テスト	授業全体を振り返り、学校教育における学校図書館の役割について整理する。学校図書館の理念、制度、運営、学習活動への活用について確認し、Googleフォームによる確認テストを実施する。教科書総括
15		
16		

科目コード	31401				区　分	コア科目		
授業科目名	学校図書館メディアの構成［週間オンデマンド］				担当者名	木戸　和彦／内田　仁志		
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
学校図書館は、読書センター・学習センター及び情報センターとしての機能を有している。学校図書館がその機能を十分発揮するためには、学校図書館メディアの構成に関して、収集、組織化、保存、提供などについて司書教諭が理解することが必要である。この授業は学校図書館メディアの構成に関する理解及び実務能力の育成を図ることを目的とする。また、この科目は「学習指導と学校図書館」「学校図書館メディアの構成」「読書と豊かな人間性」「情報メディアの活用」と合わせて、5教科10単位を履修することにより学校図書館司書教諭の資格を得る資

＜授業の到達目標＞
①学校図書館メディアの種類と特性を理解することができる。②学校図書館メディアの選択と収集・構築について理解することができる。③学校図書館メディアの組織化を理解することができる。

＜授業の方法＞
基本的には講義形式であるが、「日本十進分類法」「日本目録規則」などは演習形式にて授業を行う。毎回の授業でレポート・課題を出題する。演習ではパソコンを使って資料を作成するので、個人パソコンの持参が必須である。第15回の講義の中で確認テストを実施する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
シラバスを参考に当日の授業内容を確認し、参考書またはWeb等で予備知識を学習しておくこと（予習30分程度）。毎回の講義時に、レポート課題を出題するので、次回の講義までに自力で解答しておくこと（復習60分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習状況・受講態度 15%、中間試験 40%、期末レポート試験 45%に基づき評価する。

＜教科書＞

＜参考書＞
全国学校図書館協議会監修（2017.9.1）　学校図書館必携　悠光堂

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	学校図書館メディアの意義	講義ガイダンスを含む
2	学校図書館メディアについて	学校図書館メディアの種類と特性
3	学校図書館メディアについて	学校図書館メディアの選択と情報源（資料の選択、資料収集の方針）
4	学校図書館メディアについて	学校図書館メディアの選択と情報源（収集のための情報源）
5	メディアコレクションの形成	蔵書構築、蔵書評価について
6	学校図書館の責務について	学校図書館の役割について
7	学校図書館メディアの組織化	分類の意義と機能
8	学校図書館メディアの組織化	日本十進分類法について
9	学校図書館メディアの組織化	件名標目表について
10	学校図書館メディアの組織化	日本目録規則について
11	学校図書館メディアの組織化	目録の機械化について
12	学校図書館メディアの組織化	分類と件名作業の実際
13	多様な学習環境とメディアの配置	学校図書館メディアの配置の意義
14	多様な学習環境とメディアの配置	学校図書館メディアの配置の演習
15		
16		

科目コード	31402				区　分	コア科目			
授業科目名	学習指導と学校図書館				担当者名	内田　仁志			
配当年次	4年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習・発表	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
児童生徒の学習活動と学校図書館メディアとの関係について理解し、学校図書館を活用した学習指導の方法を学ぶ。レファレンスブックの特性と活用方法、情報活用能力の育成、パスファインダーの作成など、学習活動を支援する具体的な方法について扱う。また教科書を用い、資料を根拠として考えを形成し、対話や議論を通して学びを深める授業の在り方について理解する。

＜授業の到達目標＞
① レファレンスブックを適切に活用できる② 学校図書館メディアを用いた指導を説明できる③ パスファインダーを作成できる④ 情報活用能力の育成について理解する

＜授業の方法＞
本授業は対面形式で実施し、講義とグループワークを組み合わせて進める。前半では学校図書館メディアの特性やレファレンス、情報活用能力について講義を通して理解する。後半では教科書を用い、資料を活用した思考活動や議論活動を体験しながら、学校図書館を活用した授業づくりについて学ぶ。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループワークを通して資料の活用方法や学習活動の構成について考える。レファレンスブックの活用やパスファインダーの作成など実践的な活動を取り入れるとともに、教科書を用いた思考活動や議論活動を通して理解を深める。対話を通した学びを重視する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習として、各回のテーマに関連する資料や動画を確認し（30分程度程度）、自身の読書経験や図書館利用経験を振り返る。事後学習として、授業内容を整理し、課題レポートの作成や振り返りを行う（１時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３(初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
毎回の課題提出を重視し、継続的な学習状況を評価する。・毎回レポート提出　30%・レポート内容　40%・最終まとめ　30%

＜教科書＞
内田仁志（2024年8月）　国語教師のための「反論の技術」入門　明治図書

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	授業の概要と学校図書館活用の意義	本授業の目的、進め方、評価方法について説明する。学校図書館を活用した学習の意義について概観し、学校教育における学校図書館の役割を理解する。読書活動だけでなく、調べ学習や探究学習の場としての機能に着目し、学校図書館が学習活動の基盤となる理由について考える。
2	学習活動と学校図書館	児童生徒の学習活動と学校図書館の関係について学ぶ。各教科の学習において資料活用がどのように行われるかを理解し、学校図書館が学習を支える役割を確認する。調べ学習や探究学習における図書館活用の具体的な場面を想定しながら、その教育的意義について考える。
3	レファレンスブックの基礎	辞書、事典、年鑑などのレファレンスブックの種類と特性について学ぶ。各資料の特徴や用途を理解し、どのような場面で活用するかを具体的に考える。児童生徒が必要な情報に適切にアクセスするための基礎的な知識として、レファレンス資料の役割を理解する。
4	レファレンスサービスの実際	学校図書館におけるレファレンスサービスの実際について学ぶ。児童生徒の問いに応じて資料を紹介し、学習を支援する方法について理解する。調べ学習における支援の在り方や、教師と司書教諭の連携の重要性について具体的な事例をもとに考える。
5	情報活用能力の基礎	情報活用能力の基本的な構成について学ぶ。情報の収集、整理、活用の一連の過程を理解し、学校教育におけるその育成の重要性について考える。資料をもとに考えを形成する学習活動の基礎として、情報活用能力がどのように位置づけられるかを整理する。教科書 第1章（導入）

6	資料を活用した思考活動	学校図書館資料を活用し、主張と根拠を整理する思考活動について学ぶ。文章や資料を読み取り、情報を比較・整理しながら自分の考えを形成する過程を理解する。情報活用能力の育成という観点から、資料を根拠とする思考活動の意義について考える。教科書 第1章
7	教材としての資料の選択	学習活動に適した資料の選び方について学ぶ。児童生徒の発達段階や学習課題に応じた資料選択の視点を理解し、教材としての資料の条件について考える。学校図書館資料を活用した授業づくりにおいて、どのような資料が有効かを具体的に検討する。
8	情報活用と意見形成	資料をもとに自分の意見を形成する学習について学ぶ。情報を読み取り整理し、主張と理由を明確にする過程を理解する。学校図書館資料を活用した学習活動において、思考力や表現力を育てる指導の在り方について考える。教科書 第3章
9	対話と議論の指導①	資料をもとにした対話や話し合い活動について学ぶ。自分の考えを表現し、他者の意見と比較することで理解を深める学習の意義を理解する。学校図書館資料を活用した対話的な学びの具体的な進め方について考える。教科書 第4章
10	対話と議論の指導②（発展）	議論活動を通して思考を深める学習について学ぶ。複数の資料を比較しながら意見を構築する過程を理解し、議論によって学びを深化させる指導の在り方について考える。学校図書館資料を活用した議論活動の展開方法を検討する。教科書 第4章(応用)
11	批判的思考の育成	資料を批判的に読み取る力について学ぶ。主張と根拠の妥当性を検討し、多様な視点から情報を捉える思考の重要性を理解する。学校図書館資料を活用して情報を吟味する学習活動の意義について考える。教科書 第5章
12	パスファインダーの作成	学習活動を支援するパスファインダーの作成について学ぶ。調べ学習において必要な資料を整理し、学習の見通しを持たせるための工夫について理解する。学校図書館資料を活用した学習支援の方法として、パスファインダーの役割を考える。教科書 第2章・第5章（応用）
13	図書館を活用した授業設計	学校図書館を活用した授業設計について学ぶ。資料を活用して課題を解決する学習活動の構成を理解し、児童生徒の思考を深める授業づくりの視点を整理する。図書館と教科指導を結び付けた授業の在り方について考える。教科書 第6章
14	まとめと確認テスト	授業全体を振り返り、学校図書館を活用した学習指導の意義と方法について整理する。レファレンス、情報活用能力、授業設計などの内容を総合的に確認し、理解の定着を図る。確認テストを通して学習内容の到達度を把握する。教科書総括
15		
16		

科目コード	31403				区　分	コア科目			
授業科目名	読書と豊かな人間性［週間オンデマンド］				担当者名	内田　仁志			
配当年次	4年	配当学期	後期オンデマンド	単位数	2.00単位	授業方法	オンデマンド	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
発達段階に応じた読書のあり方について理解し、読書教育の意義と方法について学ぶ。児童生徒が読書の楽しさを知り、読書習慣を形成し、生涯にわたる学びへとつなげるための指導について考える。また学校図書館を活用した読書活動や読書環境の整備についても扱う。さらに読書を通した思考力・表現力の育成にも着目し、教科書を用いて文章理解や意見形成の方法について理解を深める。オンデマンド形式で実施する。

＜授業の到達目標＞
① 発達段階に応じた読書指導について説明できる② 読書教育の意義と方法について理解する③ 司書教諭の役割と読書活動の関係を説明できる④ 読書を通した思考力・表現力の育成について理解する

＜授業の方法＞
本授業はオンデマンド形式で実施する。各回では講義動画と資料を用いて読書教育の理論や実践について解説する。受講者は動画視聴後にGoogleフォームによる振り返り課題に取り組み、学習内容を整理する。授業後半では教科書を用い、文章を読み取り主張と根拠を整理する活動や意見形成の方法について学ぶ。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
各回の講義後に振り返り課題を実施し、読書の意義や指導方法について自分の考えを記述する。読書体験と授業内容を関連付けながら理解を深める。また教科書を扱う回では、文章をもとに主張と根拠を整理し、自分の考えを形成する思考活動について考察する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各回の授業に関連する資料や動画を事前に確認し（30分程度）、自身の読書経験や図書館利用経験を振り返っておくこと（1時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３(初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
毎回の課題提出を重視し、継続的な学習状況を評価する。・毎回レポート提出　30%・レポート内容　40%・最終まとめ　30%

＜教科書＞
内田仁志（2024年8月）　国語教師のための「反論の技術」入門　明治図書

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	授業の概要と読書教育の意義	読書教育の目的と意義を概観し、読書が児童生徒の成長に果たす役割を理解する。
2	読書と人間形成	読書が情緒や価値観の形成に与える影響について理解し、読書の教育的意義を考える。
3	発達段階と読書①（低学年）	低学年における読書の特徴と指導方法を理解し、読書習慣形成の基礎を学ぶ。
4	発達段階と読書②（中学年）	中学年における読書の発達と指導の工夫について理解する。
5	発達段階と読書③（高学年・中高）	高学年以降の読書の発達と読解の深化について理解する。
6	読書環境の整備	学校図書館を中心とした読書環境づくりについて理解する。
7	司書教諭と読書活動	司書教諭の役割と読書活動の推進について理解する。
8	読書と論理的思考	文章を読み取り主張と根拠を整理する活動について学び、読書と思考力の関係を理解する。教科書 第1章
9	教材としての文章理解	主張と根拠が明確な文章の特徴を理解し、教材としての文章の扱い方を学ぶ。教科書 第2章
10	読書と意見形成	文章内容を踏まえて自分の考えを形成する方法について理解する。教科書 第3章
11	読書と対話・議論	読書内容をもとに意見を交流する学習活動について理解する。教科書 第4章
12	批判的読解	主張と根拠を吟味しながら読む批判的読解の方法について学ぶ。教科書 第5章
13	読書を生かした授業設計	読書活動を生かした授業づくりの視点について理解する。教科書 第6章
14	まとめと確認テスト	読書教育の意義と方法について整理し、確認テストを実施する。教科書総括
15		
16		

科目コード	31404				区　分	コア科目		
授業科目名	情報メディアの活用［週間オンデマンド］				担当者名	木戸　和彦		
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
現在の学校教育は、旧来の受動的な学習から、教科を超えた「総合的学習」や児童・生徒自身が情報資料やコンピュータを用いて、あるテーマについて調べて発表する「調べ学習」などの能動的な学習へと移行してきている。そのような現場において、学校図書館は、図書や逐次刊行物を収集、整理し、提供するという従来の機能だけではなく、CDやDVDなどの視聴覚メディア、インターネットやコンピュータなどの情報機器を利用した授業・自習を進めるための総合的なメディアセンターとしての機能も果たすこととなる。それに伴い司書教諭自身も、単なる読

＜授業の到達目標＞
本講義では、情報メディアを用いた学校教育支援のために、情報機器や情報メディアについての基礎的な知識と技能を身につけることを目的とし、インターネット等の利用を通して情報メディアとは何かを考えていく。また、学校における情報メディアセンターとしての図書館の機能及び司書教諭に求められる能力・役割について理解することを目標とする。

＜授業の方法＞
印刷教材等で単に知識を得るだけではなく、PCを利用して基礎知識を確認しながら進める。また、講義時に、課題の作成を求めるので、限られた時間内に課題を作成する技術も身に付ける。更に、PCの周辺装置、情報機器、携帯・スマートフォンとの連携等の関連知識とその具体的方法についても合わせて学習していく。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
テキスト用プリントを講義前までに熟読すること（60分程度）。また、毎回の講義時に、演習問題を出題するので、次回講義開始時までに自力で解答できるようにしておくこと（60分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習状況・受講態度 30%、中間試験 30%、期末レポート試験 40%

＜教科書＞

＜参考書＞
「シリーズ学校図書館学」編集委員会（2010）　シリーズ学校図書館学　第5巻　情報メディアの活用　全国学校図書館協議会

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	情報メディアとは何か	PC動作確認，PC環境設定，USBメモリー確認
2	情報メディアの教育的利用Ⅰ	PCの内部構造
3	情報メディアの教育的利用Ⅱ	ハードウェア
4	情報メディアの教育的利用Ⅲ	ソフトウェア
5	情報メディアの教育的利用Ⅳ	図書館での周辺装置
6	情報メディアと児童生徒の保護・支援Ⅰ	個人情報保護法，知的財産権，著作権法，マナー（ネチケット），情報モラル
7	情報メディアと児童生徒の保護・支援Ⅱ	学校図書館における法律（学校図書館法第2条），学校における例外規定，具体的な事例
8	前半のまとめ（PCに関する事項）	コンピュータ概要について
9	WEBページ作成の準備Ⅰ	情報検索，学校図書館のHP閲覧，全国学校図書館協議会HP評価規準，イメージ作成
10	WEBページ作成の準備Ⅱ	HP作成手順説明
11	WEBページ作成の準備Ⅲ	HP作成準備
12	WEBページ作成Ⅰ	オリジナル学校図書館HPの資料収集
13	WEBページ作成Ⅱ	オリジナル学校図書館HPの構成
14	WEBページ作成Ⅲ	学校図書館HPの作成
15		
16		

科目コード	32300				区　分	コア科目			
授業科目名	算数科教育法［FE2531組用］				担当者名	前田　一誠			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業は、小学校算数科の指導をする際に求められる様々な能力のなかで、算数科の授業づくりや評価及びそれらの実践に関わる基礎的・基本的な力を身につけることを到達目標とする。そのために、算数教育の目的・目標、算数教育の方法，「A数と計算」「B図形」「C測定・変化と関係」「Dデータの活用」という４つの領域ごとの内容とその指導法、算数教育の評価について講義をする。併せて適宜、算数授業のビデオを用いて授業実践力の理解と育成を目指す。

＜授業の到達目標＞
①教科書をはじめとする既存教材の意図や展開を把握することができる。②子どもの発達に応じて教材を工夫し、子どもがどのような反応を示すかを具体的に想定した授業を構想し、それらが見えるような指導案を作成することができる。③作成した指導案に基づいて授業を実践する力（評価も含む）基礎的な力を身に付ける。

＜授業の方法＞
授業の具体を示す資料等(プロジェクター，授業ＶＴＲ)に基づいて講義を進める。適宜，演習的な課題を課す。課題・レポート(指導案作成など）も課す。タブレットやプログラミング的思考を育む教材等を用いたアクティブ・ラーニングも取り入れる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有タブレットやプログラミング的思考を育む教材等を用いたアクティブ・ラーニングも取り入れる。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
教材分析，指導案作成，模擬授業などの演習的な課題を課す。予習：算数科の目標，領域・内容構成，教材探索とその分析，発表準備復習：小テスト，まとめのノート，振り返りレポート

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
応答などの意欲的な受講 20%、レポート・小テスト 30%、定期試験 50%

＜教科書＞
編者代表・齋藤昇　『子どもの学びを深める新しい算数科教育法』　東洋館出版社

＜参考書＞
文部科学省　『小学校学習指導要領解説　算数編』　東洋館出版社
田中博史他　『ほめて育てる算数言葉　～算数授業の言語活動を本当の思考力育成につなぐために～』　文溪堂

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	算数教育の今日的課題	学力問題、興味・関心・意欲の向上等
2	算数教育の目的・目標	算数教育の目的・目標の視点と今日の目標
3	算数科の授業づくり（1）	問題解決的な授業づくりの基本と学習指導案
4	算数科の授業づくり（2）	数学的活動のある授業づくり
5	「A数と計算」領域の指導（1）	整数・小数・分数の指導
6	「A数と計算」領域の指導（2）	加法・減法の指導
7	「A数と計算」領域の指導（3）	乗法・除法，概算と見積もりの指導
8	「A数と計算」領域の指導（4）	ICT機器を活用した，プログラミング的思考を育むための教材とその活用法
9	「B図形」領域の指導（1）	平面図形、立体図形の指導
10	「B図形」領域の指導（2）	角，図形の軽量（面積，体積）の指導
11	「C測定」領域の指導（1）	長さ、重さ･･･等，量の大きさの比較，量の単位，量の測定の指導
12	「C変化と関係」領域の指導（2）	変化と関係（速さ，割合，比，比例，反比例･･･）の指導
13	「Dデータの活用」領域の指導	表、グラフ，測定値の平均等の指導
14	算数教育の評価	算数科における評価の目的と方法
15		
16		

科目コード	32300				区　分	コア科目			
授業科目名	算数科教育法［FE2532組用］				担当者名	前田　一誠			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業は、小学校算数科の指導をする際に求められる様々な能力のなかで、算数科の授業づくりや評価及びそれらの実践に関わる基礎的・基本的な力を身につけることを到達目標とする。そのために、算数教育の目的・目標、算数教育の方法，「A数と計算」「B図形」「C測定・変化と関係」「Dデータの活用」という４つの領域ごとの内容とその指導法、算数教育の評価について講義をする。併せて適宜、算数授業のビデオを用いて授業実践力の理解と育成を目指す。

＜授業の到達目標＞
①教科書をはじめとする既存教材の意図や展開を把握することができる。②子どもの発達に応じて教材を工夫し、子どもがどのような反応を示すかを具体的に想定した授業を構想し、それらが見えるような指導案を作成することができる。③作成した指導案に基づいて授業を実践する力（評価も含む）基礎的な力を身に付ける。

＜授業の方法＞
授業の具体を示す資料等(プロジェクター，授業ＶＴＲ)に基づいて講義を進める。適宜，演習的な課題を課す。課題・レポート(指導案作成など）も課す。タブレットやプログラミング的思考を育む教材等を用いたアクティブ・ラーニングも取り入れる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有タブレットやプログラミング的思考を育む教材等を用いたアクティブ・ラーニングも取り入れる。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
教材分析，指導案作成，模擬授業などの演習的な課題を課す。予習：算数科の目標，領域・内容構成，教材探索とその分析，発表準備復習：小テスト，まとめのノート，振り返りレポート

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
応答などの意欲的な受講 20%、レポート・小テスト 30%、定期試験 50%

＜教科書＞
編者代表・齋藤昇　『子どもの学びを深める新しい算数科教育法』　東洋館出版社

＜参考書＞
文部科学省　『小学校学習指導要領解説　算数編』　東洋館出版社
田中博史他　『ほめて育てる算数言葉　～算数授業の言語活動を本当の思考力育成につなぐために～』　文溪堂

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	算数教育の今日的課題	学力問題、興味・関心・意欲の向上等
2	算数教育の目的・目標	算数教育の目的・目標の視点と今日の目標
3	算数科の授業づくり（1）	問題解決的な授業づくりの基本と学習指導案
4	算数科の授業づくり（2）	数学的活動のある授業づくり
5	「A数と計算」領域の指導（1）	整数・小数・分数の指導
6	「A数と計算」領域の指導（2）	加法・減法の指導
7	「A数と計算」領域の指導（3）	乗法・除法，概算と見積もりの指導
8	「A数と計算」領域の指導（4）	ICT機器を活用した，プログラミング的思考を育むための教材とその活用法
9	「B図形」領域の指導（1）	平面図形、立体図形の指導
10	「B図形」領域の指導（2）	角，図形の軽量（面積，体積）の指導
11	「C測定」領域の指導（1）	長さ、重さ･･･等，量の大きさの比較，量の単位，量の測定の指導
12	「C変化と関係」領域の指導（2）	変化と関係（速さ，割合，比，比例，反比例･･･）の指導
13	「Dデータの活用」領域の指導	表、グラフ，測定値の平均等の指導
14	算数教育の評価	算数科における評価の目的と方法
15		
16		

科目コード	32300				区　分	コア科目			
授業科目名	算数科教育法［FE2533組用］				担当者名	前田　一誠			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業は、小学校算数科の指導をする際に求められる様々な能力のなかで、算数科の授業づくりや評価及びそれらの実践に関わる基礎的・基本的な力を身につけることを到達目標とする。そのために、算数教育の目的・目標、算数教育の方法，「A数と計算」「B図形」「C測定・変化と関係」「Dデータの活用」という４つの領域ごとの内容とその指導法、算数教育の評価について講義をする。併せて適宜、算数授業のビデオを用いて授業実践力の理解と育成を目指す。

＜授業の到達目標＞
①教科書をはじめとする既存教材の意図や展開を把握することができる。②子どもの発達に応じて教材を工夫し、子どもがどのような反応を示すかを具体的に想定した授業を構想し、それらが見えるような指導案を作成することができる。③作成した指導案に基づいて授業を実践する力（評価も含む）基礎的な力を身に付ける。

＜授業の方法＞
授業の具体を示す資料等(プロジェクター，授業ＶＴＲ)に基づいて講義を進める。適宜，演習的な課題を課す。課題・レポート(指導案作成など）も課す。タブレットやプログラミング的思考を育む教材等を用いたアクティブ・ラーニングも取り入れる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有タブレットやプログラミング的思考を育む教材等を用いたアクティブ・ラーニングも取り入れる。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
教材分析，指導案作成，模擬授業などの演習的な課題を課す。予習：算数科の目標，領域・内容構成，教材探索とその分析，発表準備復習：小テスト，まとめのノート，振り返りレポート

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
応答などの意欲的な受講 20%、レポート・小テスト 30%、定期試験 50%

＜教科書＞
編者代表・齋藤昇　『子どもの学びを深める新しい算数科教育法』　東洋館出版社

＜参考書＞
文部科学省　『小学校学習指導要領解説　算数編』　東洋館出版社
田中博史他　『ほめて育てる算数言葉　～算数授業の言語活動を本当の思考力育成につなぐために～』　文溪堂

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	算数教育の今日的課題	学力問題、興味・関心・意欲の向上等
2	算数教育の目的・目標	算数教育の目的・目標の視点と今日の目標
3	算数科の授業づくり（1）	問題解決的な授業づくりの基本と学習指導案
4	算数科の授業づくり（2）	数学的活動のある授業づくり
5	「A数と計算」領域の指導（1）	整数・小数・分数の指導
6	「A数と計算」領域の指導（2）	加法・減法の指導
7	「A数と計算」領域の指導（3）	乗法・除法，概算と見積もりの指導
8	「A数と計算」領域の指導（4）	ICT機器を活用した，プログラミング的思考を育むための教材とその活用法
9	「B図形」領域の指導（1）	平面図形、立体図形の指導
10	「B図形」領域の指導（2）	角，図形の軽量（面積，体積）の指導
11	「C測定」領域の指導（1）	長さ、重さ･･･等，量の大きさの比較，量の単位，量の測定の指導
12	「C変化と関係」領域の指導（2）	変化と関係（速さ，割合，比，比例，反比例･･･）の指導
13	「Dデータの活用」領域の指導	表、グラフ，測定値の平均等の指導
14	算数教育の評価	算数科における評価の目的と方法
15		
16		

科目コード	32300				区　分	コア科目			
授業科目名	算数科教育法［他学科A］				担当者名	前田　一誠			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業は、小学校算数科の指導をする際に求められる様々な能力のなかで、算数科の授業づくりや評価及びそれらの実践に関わる基礎的・基本的な力を身につけることを到達目標とする。そのために、算数教育の目的・目標、算数教育の方法，「A数と計算」「B図形」「C測定・変化と関係」「Dデータの活用」という４つの領域ごとの内容とその指導法、算数教育の評価について講義をする。併せて適宜、算数授業のビデオを用いて授業実践力の理解と育成を目指す。

＜授業の到達目標＞
①教科書をはじめとする既存教材の意図や展開を把握することができる。②子どもの発達に応じて教材を工夫し、子どもがどのような反応を示すかを具体的に想定した授業を構想し、それらが見えるような指導案を作成することができる。③作成した指導案に基づいて授業を実践する力（評価も含む）基礎的な力を身に付ける。

＜授業の方法＞
授業の具体を示す資料等(プロジェクター，授業ＶＴＲ)に基づいて講義を進める。適宜，演習的な課題を課す。課題・レポート(指導案作成など）も課す。タブレットやプログラミング的思考を育む教材等を用いたアクティブ・ラーニングも取り入れる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有タブレットやプログラミング的思考を育む教材等を用いたアクティブ・ラーニングも取り入れる。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
教材分析，指導案作成，模擬授業などの演習的な課題を課す。予習：算数科の目標，領域・内容構成，教材探索とその分析，発表準備復習：小テスト，まとめのノート，振り返りレポート

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
応答などの意欲的な受講 20%、レポート・小テスト 30%、定期試験 50%

＜教科書＞
編者代表・齋藤昇　『子どもの学びを深める新しい算数科教育法』　東洋館出版社

＜参考書＞
文部科学省　『小学校学習指導要領解説　算数編』　東洋館出版社
田中博史他　『ほめて育てる算数言葉　～算数授業の言語活動を本当の思考力育成につなぐために～』　文溪堂

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	算数教育の今日的課題	学力問題、興味・関心・意欲の向上等
2	算数教育の目的・目標	算数教育の目的・目標の視点と今日の目標
3	算数科の授業づくり（1）	問題解決的な授業づくりの基本と学習指導案
4	算数科の授業づくり（2）	数学的活動のある授業づくり
5	「A数と計算」領域の指導（1）	整数・小数・分数の指導
6	「A数と計算」領域の指導（2）	加法・減法の指導
7	「A数と計算」領域の指導（3）	乗法・除法，概算と見積もりの指導
8	「A数と計算」領域の指導（4）	ICT機器を活用した，プログラミング的思考を育むための教材とその活用法
9	「B図形」領域の指導（1）	平面図形、立体図形の指導
10	「B図形」領域の指導（2）	角，図形の軽量（面積，体積）の指導
11	「C測定」領域の指導（1）	長さ、重さ･･･等，量の大きさの比較，量の単位，量の測定の指導
12	「C変化と関係」領域の指導（2）	変化と関係（速さ，割合，比，比例，反比例･･･）の指導
13	「Dデータの活用」領域の指導	表、グラフ，測定値の平均等の指導
14	算数教育の評価	算数科における評価の目的と方法
15		
16		

科目コード	32300				区　分	コア科目			
授業科目名	算数科教育法［他学科B］				担当者名	前田　一誠			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業は、小学校算数科の指導をする際に求められる様々な能力のなかで、算数科の授業づくりや評価及びそれらの実践に関わる基礎的・基本的な力を身につけることを到達目標とする。そのために、算数教育の目的・目標、算数教育の方法，「A数と計算」「B図形」「C測定・変化と関係」「Dデータの活用」という４つの領域ごとの内容とその指導法、算数教育の評価について講義をする。併せて適宜、算数授業のビデオを用いて授業実践力の理解と育成を目指す。

＜授業の到達目標＞
①教科書をはじめとする既存教材の意図や展開を把握することができる。②子どもの発達に応じて教材を工夫し、子どもがどのような反応を示すかを具体的に想定した授業を構想し、それらが見えるような指導案を作成することができる。③作成した指導案に基づいて授業を実践する力（評価も含む）基礎的な力を身に付ける。

＜授業の方法＞
授業の具体を示す資料等(プロジェクター，授業ＶＴＲ)に基づいて講義を進める。適宜，演習的な課題を課す。課題・レポート(指導案作成など）も課す。タブレットやプログラミング的思考を育む教材等を用いたアクティブ・ラーニングも取り入れる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有タブレットやプログラミング的思考を育む教材等を用いたアクティブ・ラーニングも取り入れる。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
教材分析，指導案作成，模擬授業などの演習的な課題を課す。予習：算数科の目標，領域・内容構成，教材探索とその分析，発表準備復習：小テスト，まとめのノート，振り返りレポート

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
応答などの意欲的な受講 20%、レポート・小テスト 30%、定期試験 50%

＜教科書＞
編者代表・齋藤昇　『子どもの学びを深める新しい算数科教育法』　東洋館出版社

＜参考書＞
文部科学省　『小学校学習指導要領解説　算数編』　東洋館出版社
田中博史他　『ほめて育てる算数言葉　～算数授業の言語活動を本当の思考力育成につなぐために～』　文溪堂

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	算数教育の今日的課題	学力問題、興味・関心・意欲の向上等
2	算数教育の目的・目標	算数教育の目的・目標の視点と今日の目標
3	算数科の授業づくり（1）	問題解決的な授業づくりの基本と学習指導案
4	算数科の授業づくり（2）	数学的活動のある授業づくり
5	「A数と計算」領域の指導（1）	整数・小数・分数の指導
6	「A数と計算」領域の指導（2）	加法・減法の指導
7	「A数と計算」領域の指導（3）	乗法・除法，概算と見積もりの指導
8	「A数と計算」領域の指導（4）	ICT機器を活用した，プログラミング的思考を育むための教材とその活用法
9	「B図形」領域の指導（1）	平面図形、立体図形の指導
10	「B図形」領域の指導（2）	角，図形の軽量（面積，体積）の指導
11	「C測定」領域の指導（1）	長さ、重さ･･･等，量の大きさの比較，量の単位，量の測定の指導
12	「C変化と関係」領域の指導（2）	変化と関係（速さ，割合，比，比例，反比例･･･）の指導
13	「Dデータの活用」領域の指導	表、グラフ，測定値の平均等の指導
14	算数教育の評価	算数科における評価の目的と方法
15		
16		

科目コード	32301				区　分	コア科目			
授業科目名	社会科教育法［FE2531組用］				担当者名	鈩　悠介			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
選択必修「社会の理解/初等社会」では，授業作成までのプロセスという大枠を通し，社会科の目標やカリキュラム構成などを含めた大まかな方針を示した。本講義でもこれまでと同様に，社会科授業構成の経験と能力の育成を目的とするが，こちらはより多様な社会科の実践のあり方について焦点を当てる。受講者に心掛けてほしいこととしては，講義で扱った概念を自分なりに解釈して授業内外で用いていくことである。学術上の厳密な言葉遣いとは異なるとしても，自分の言葉に落とし込んでほしい。

＜授業の到達目標＞
本講義では，社会科授業の多様性や普遍性を前提とし，自らの社会科授業について他者と建設的な議論ができるような資質の育成を狙っている。具体的には以下の３点を到達目標とする。１）社会科授業の類型について見識を深め、それに基づいて自らが作成した指導案を位置付けることができるようになる。２）社会科授業のそれぞれの型が持つ長所と短所を推測・判断し、よりよい授業のあり方について議論できるようになる。３）自らの学習経験を交えながら、授業づくりについて議論する姿勢をとることができるようになる。

＜授業の方法＞
グループワークを主体とし，そのための学習内容を講義で補足する。その際にはClassroom，Forms，mentimeter等のICTを用いる。また，学習管理としてはClassroomを用いる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングあり。グループ内の話し合い，Take a Stand等の自身の見解表明，教材の収集と取捨選択等，学習内容に応じた活動を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習：Classroomに配信した前回の授業スライドを見て講義内容を復習する。次の講義で扱う社会科授業の違いを適切に比較できるように準備すること(1時間程度)事後学習：授業中に回答したFormsや教員からのフィードバックを読み返し，授業で扱った社会科に対する自らの見解をまとめる(1時間程度)

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
毎回のレポート 80%、最終レポート 20%

＜教科書＞
なし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	本講義の目標	本講義の目標・内容を共有する。
2	社会科の目標	社会科の目標について共有する。グループ分けを行う。
3	社会科と「共感」（1）	社会科における「共感」とその授業理論を学ぶ。
4	社会科と「共感」（2）	「共感」させることの可能性と限界について学ぶ。
5	社会科と「暗記」	いわゆる「暗記型」社会科授業と呼ばれる授業について捉え直す。
6	社会科と「調べ学習」	いわゆる「調べ学習」と呼ばれる授業について捉え直す。
7	社会科と「問題解決」（1）	社会科における「問題解決学習」とその授業理論を学ぶ。
8	社会科と「問題解決」（2）	「問題解決学習」の可能性と限界，またこれまでの学習の振り返り。
9	社会科と「参加」	「社会参加」とその授業理論を学ぶ。
10	社会科と「説明」	社会科における「説明」とその授業理論を学ぶ。
11	社会科と「意思決定」	社会科における「意思決定」とその授業理論を学ぶ。
12	模擬授業準備	模擬授業を準備する。
13	模擬授業準備	模擬授業を準備する。
14	模擬授業実践	模擬授業を実践し，その振り返りを行う。
15		
16		

科目コード	32301				区　分	コア科目			
授業科目名	社会科教育法［FE2532組用］				担当者名	鈩　悠介			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
選択必修「社会の理解/初等社会」では，授業作成までのプロセスという大枠を通し，社会科の目標やカリキュラム構成などを含めた大まかな方針を示した。本講義でもこれまでと同様に，社会科授業構成の経験と能力の育成を目的とするが，こちらはより多様な社会科の実践のあり方について焦点を当てる。受講者に心掛けてほしいこととしては，講義で扱った概念を自分なりに解釈して授業内外で用いていくことである。学術上の厳密な言葉遣いとは異なるとしても，自分の言葉に落とし込んでほしい。

＜授業の到達目標＞
本講義では，社会科授業の多様性や普遍性を前提とし，自らの社会科授業について他者と建設的な議論ができるような資質の育成を狙っている。具体的には以下の３点を到達目標とする。１）社会科授業の類型について見識を深め、それに基づいて自らが作成した指導案を位置付けることができるようになる。２）社会科授業のそれぞれの型が持つ長所と短所を推測・判断し、よりよい授業のあり方について議論できるようになる。３）自らの学習経験を交えながら、授業づくりについて議論する姿勢をとることができるようになる。

＜授業の方法＞
グループワークを主体とし，そのための学習内容を講義で補足する。その際にはClassroom，Forms，mentimeter等のICTを用いる。また，学習管理としてはClassroomを用いる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングあり。グループ内の話し合い，Take a Stand等の自身の見解表明，教材の収集と取捨選択等，学習内容に応じた活動を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習：Classroomに配信した前回の授業スライドを見て講義内容を復習する。次の講義で扱う社会科授業の違いを適切に比較できるように準備すること(1時間程度)事後学習：授業中に回答したFormsや教員からのフィードバックを読み返し，授業で扱った社会科に対する自らの見解をまとめる(1時間程度)

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
毎回のレポート 80%、最終レポート 20%

＜教科書＞
なし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	本講義の目標	本講義の目標・内容を共有する。
2	社会科の目標	社会科の目標について共有する。グループ分けを行う。
3	社会科と「共感」（1）	社会科における「共感」とその授業理論を学ぶ。
4	社会科と「共感」（2）	「共感」させることの可能性と限界について学ぶ。
5	社会科と「暗記」	いわゆる「暗記型」社会科授業と呼ばれる授業について捉え直す。
6	社会科と「調べ学習」	いわゆる「調べ学習」と呼ばれる授業について捉え直す。
7	社会科と「問題解決」（1）	社会科における「問題解決学習」とその授業理論を学ぶ。
8	社会科と「問題解決」（2）	「問題解決学習」の可能性と限界，またこれまでの学習の振り返り。
9	社会科と「参加」	「社会参加」とその授業理論を学ぶ。
10	社会科と「説明」	社会科における「説明」とその授業理論を学ぶ。
11	社会科と「意思決定」	社会科における「意思決定」とその授業理論を学ぶ。
12	模擬授業準備	模擬授業を準備する。
13	模擬授業準備	模擬授業を準備する。
14	模擬授業実践	模擬授業を実践し，その振り返りを行う。
15		
16		

科目コード	32301				区　分	コア科目			
授業科目名	社会科教育法［FE2533組用］				担当者名	鈩　悠介			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
選択必修「社会の理解/初等社会」では，授業作成までのプロセスという大枠を通し，社会科の目標やカリキュラム構成などを含めた大まかな方針を示した。本講義でもこれまでと同様に，社会科授業構成の経験と能力の育成を目的とするが，こちらはより多様な社会科の実践のあり方について焦点を当てる。受講者に心掛けてほしいこととしては，講義で扱った概念を自分なりに解釈して授業内外で用いていくことである。学術上の厳密な言葉遣いとは異なるとしても，自分の言葉に落とし込んでほしい。

＜授業の到達目標＞
本講義では，社会科授業の多様性や普遍性を前提とし，自らの社会科授業について他者と建設的な議論ができるような資質の育成を狙っている。具体的には以下の３点を到達目標とする。１）社会科授業の類型について見識を深め、それに基づいて自らが作成した指導案を位置付けることができるようになる。２）社会科授業のそれぞれの型が持つ長所と短所を推測・判断し、よりよい授業のあり方について議論できるようになる。３）自らの学習経験を交えながら、授業づくりについて議論する姿勢をとることができるようになる。

＜授業の方法＞
グループワークを主体とし，そのための学習内容を講義で補足する。その際にはClassroom，Forms，mentimeter等のICTを用いる。また，学習管理としてはClassroomを用いる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングあり。グループ内の話し合い，Take a Stand等の自身の見解表明，教材の収集と取捨選択等，学習内容に応じた活動を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習：Classroomに配信した前回の授業スライドを見て講義内容を復習する。次の講義で扱う社会科授業の違いを適切に比較できるように準備すること(1時間程度)事後学習：授業中に回答したFormsや教員からのフィードバックを読み返し，授業で扱った社会科に対する自らの見解をまとめる(1時間程度)

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
毎回のレポート 80%、最終レポート 20%

＜教科書＞
なし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	本講義の目標	本講義の目標・内容を共有する。
2	社会科の目標	社会科の目標について共有する。グループ分けを行う。
3	社会科と「共感」（1）	社会科における「共感」とその授業理論を学ぶ。
4	社会科と「共感」（2）	「共感」させることの可能性と限界について学ぶ。
5	社会科と「暗記」	いわゆる「暗記型」社会科授業と呼ばれる授業について捉え直す。
6	社会科と「調べ学習」	いわゆる「調べ学習」と呼ばれる授業について捉え直す。
7	社会科と「問題解決」（1）	社会科における「問題解決学習」とその授業理論を学ぶ。
8	社会科と「問題解決」（2）	「問題解決学習」の可能性と限界，またこれまでの学習の振り返り。
9	社会科と「参加」	「社会参加」とその授業理論を学ぶ。
10	社会科と「説明」	社会科における「説明」とその授業理論を学ぶ。
11	社会科と「意思決定」	社会科における「意思決定」とその授業理論を学ぶ。
12	模擬授業準備	模擬授業を準備する。
13	模擬授業準備	模擬授業を準備する。
14	模擬授業実践	模擬授業を実践し，その振り返りを行う。
15		
16		

科目コード	32301				区　分	コア科目			
授業科目名	社会科教育法［他学科A］				担当者名	鈩　悠介			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
選択必修「社会の理解/初等社会」では，授業作成までのプロセスという大枠を通し，社会科の目標やカリキュラム構成などを含めた大まかな方針を示した。本講義でもこれまでと同様に，社会科授業構成の経験と能力の育成を目的とするが，こちらはより多様な社会科の実践のあり方について焦点を当てる。受講者に心掛けてほしいこととしては，講義で扱った概念を自分なりに解釈して授業内外で用いていくことである。学術上の厳密な言葉遣いとは異なるとしても，自分の言葉に落とし込んでほしい。

＜授業の到達目標＞
本講義では，社会科授業の多様性や普遍性を前提とし，自らの社会科授業について他者と建設的な議論ができるような資質の育成を狙っている。具体的には以下の３点を到達目標とする。１）社会科授業の類型について見識を深め、それに基づいて自らが作成した指導案を位置付けることができるようになる。２）社会科授業のそれぞれの型が持つ長所と短所を推測・判断し、よりよい授業のあり方について議論できるようになる。３）自らの学習経験を交えながら、授業づくりについて議論する姿勢をとることができるようになる。

＜授業の方法＞
グループワークを主体とし，そのための学習内容を講義で補足する。その際にはClassroom，Forms，mentimeter等のICTを用いる。また，学習管理としてはClassroomを用いる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングあり。グループ内の話し合い，Take a Stand等の自身の見解表明，教材の収集と取捨選択等，学習内容に応じた活動を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習：Classroomに配信した前回の授業スライドを見て講義内容を復習する。次の講義で扱う社会科授業の違いを適切に比較できるように準備すること(1時間程度)事後学習：授業中に回答したFormsや教員からのフィードバックを読み返し，授業で扱った社会科に対する自らの見解をまとめる(1時間程度)

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
毎回のレポート 80%、最終レポート 20%

＜教科書＞
なし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	本講義の目標	本講義の目標・内容を共有する。
2	社会科の目標	社会科の目標について共有する。グループ分けを行う。
3	社会科と「共感」（1）	社会科における「共感」とその授業理論を学ぶ。
4	社会科と「共感」（2）	「共感」させることの可能性と限界について学ぶ。
5	社会科と「暗記」	いわゆる「暗記型」社会科授業と呼ばれる授業について捉え直す。
6	社会科と「調べ学習」	いわゆる「調べ学習」と呼ばれる授業について捉え直す。
7	社会科と「問題解決」（1）	社会科における「問題解決学習」とその授業理論を学ぶ。
8	社会科と「問題解決」（2）	「問題解決学習」の可能性と限界，またこれまでの学習の振り返り。
9	社会科と「参加」	「社会参加」とその授業理論を学ぶ。
10	社会科と「説明」	社会科における「説明」とその授業理論を学ぶ。
11	社会科と「意思決定」	社会科における「意思決定」とその授業理論を学ぶ。
12	模擬授業準備	模擬授業を準備する。
13	模擬授業準備	模擬授業を準備する。
14	模擬授業実践	模擬授業を実践し，その振り返りを行う。
15		
16		

科目コード	32301				区　分	コア科目			
授業科目名	社会科教育法［他学科B］				担当者名	鈩　悠介			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
選択必修「社会の理解/初等社会」では，授業作成までのプロセスという大枠を通し，社会科の目標やカリキュラム構成などを含めた大まかな方針を示した。本講義でもこれまでと同様に，社会科授業構成の経験と能力の育成を目的とするが，こちらはより多様な社会科の実践のあり方について焦点を当てる。受講者に心掛けてほしいこととしては，講義で扱った概念を自分なりに解釈して授業内外で用いていくことである。学術上の厳密な言葉遣いとは異なるとしても，自分の言葉に落とし込んでほしい。

＜授業の到達目標＞
本講義では，社会科授業の多様性や普遍性を前提とし，自らの社会科授業について他者と建設的な議論ができるような資質の育成を狙っている。具体的には以下の３点を到達目標とする。１）社会科授業の類型について見識を深め、それに基づいて自らが作成した指導案を位置付けることができるようになる。２）社会科授業のそれぞれの型が持つ長所と短所を推測・判断し、よりよい授業のあり方について議論できるようになる。３）自らの学習経験を交えながら、授業づくりについて議論する姿勢をとることができるようになる。

＜授業の方法＞
グループワークを主体とし，そのための学習内容を講義で補足する。その際にはClassroom，Forms，mentimeter等のICTを用いる。また，学習管理としてはClassroomを用いる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングあり。グループ内の話し合い，Take a Stand等の自身の見解表明，教材の収集と取捨選択等，学習内容に応じた活動を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習：Classroomに配信した前回の授業スライドを見て講義内容を復習する。次の講義で扱う社会科授業の違いを適切に比較できるように準備すること(1時間程度)事後学習：授業中に回答したFormsや教員からのフィードバックを読み返し，授業で扱った社会科に対する自らの見解をまとめる(1時間程度)

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
毎回のレポート 80%、最終レポート 20%

＜教科書＞
なし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	本講義の目標	本講義の目標・内容を共有する。
2	社会科の目標	社会科の目標について共有する。グループ分けを行う。
3	社会科と「共感」（1）	社会科における「共感」とその授業理論を学ぶ。
4	社会科と「共感」（2）	「共感」させることの可能性と限界について学ぶ。
5	社会科と「暗記」	いわゆる「暗記型」社会科授業と呼ばれる授業について捉え直す。
6	社会科と「調べ学習」	いわゆる「調べ学習」と呼ばれる授業について捉え直す。
7	社会科と「問題解決」（1）	社会科における「問題解決学習」とその授業理論を学ぶ。
8	社会科と「問題解決」（2）	「問題解決学習」の可能性と限界，またこれまでの学習の振り返り。
9	社会科と「参加」	「社会参加」とその授業理論を学ぶ。
10	社会科と「説明」	社会科における「説明」とその授業理論を学ぶ。
11	社会科と「意思決定」	社会科における「意思決定」とその授業理論を学ぶ。
12	模擬授業準備	模擬授業を準備する。
13	模擬授業準備	模擬授業を準備する。
14	模擬授業実践	模擬授業を実践し，その振り返りを行う。
15		
16		

科目コード	32303				区　分	コア科目			
授業科目名	音楽科教育法［FE2431組用］				担当者名	安久津　太一			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
学習指導要領に示された音楽科の学習内容について、背景となる学問領域や国内外の動向と関連させて理解を深めるとともに、さまざまな学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を会得する。毎回の授業では、探求的、協同的な音楽活動や演習を取り入れるが、個人の音楽経験や音楽の得意不得意は一切問わない。音楽を通した、主体的、対話的で深い学びの関わり合いを共創する。

＜授業の到達目標＞
・学習指導要領に示された音楽科の目標及び内容を理解することができる。・音楽授業を行う上で必要となる、基礎的な知識、技能を身につけることができる。・音楽科の基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うことができる。

＜授業の方法＞
・グループワークを中心とする協同的な学びを日常的に取り入れる。・問題開発及び解決型の探求的な学びを随時取り入れる。・座学や机上の理論に依存せず、主体的、協同的に誰もが参加可能な音楽活動を積極的に取り入れる。・音楽を含むプレゼンテーション及びディスカッションを日常的に取り入れる。・情報通信技術を用いた参加協同型音楽活動を導入する。・動画等を用いた音楽の知識、技能面の学習支援を適宜実施する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
本授業では以下のアクティブ・ラーニングを導入している。・グループワークを中心とする協同的な学びを日常的に取り入れる。・問題開発及び解決型の探求的な学びを随時取り入れる。・座学や机上の理論に依存せず、主体的、協同的に誰もが参加可能な音楽活動を積極的に取り入れる。・音楽を含むプレゼンテーション及びディスカッションを日常的に取り入れる。・情報通信技術を用いた参加協同型音楽活動を導入する。・動画等を用いた音楽の知識、技能面の学習支援を適宜実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
・第２回、第３回：本授業の教科書及び音楽科教科書等の講読を通し、小学校音楽科の全体像を理解する。・第４回～７回：教科書及び映像資料等を通して、領域別に音楽科の学習内容と指導方法を理解する。・第８回、11回：関連論文等の講読を通して、研究的、発展的、横断的に学習指導の方法について理解を深める。・第９回～13回：実際の授業を想定した授業の立案、構想、準備を行う。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・学習指導案と模擬授業の振り返りを含むレポート課題(40%)（課題にはコメントを付してフィードバックを行う。）・教材研究を中心としたレポート課題(20%)（課題にはコメントを付してフィードバックを行う。）・リコーダーを含む器楽の実技課題(20%)（実施後口頭でのアドバイスによりフィードバックを行う。）・プレゼンテーション及びディスカッション(20%)（実施後口頭でのアドバイスによりフィードバックを行う。）

＜教科書＞
文部科学省　小学校学習指導要領解説音楽編　東洋館出版

＜参考書＞
初等科音楽教育研究会編（2019年）　小学校教員養成課程最新初等科音楽教育法　音楽之友社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業概要及びシラバス内容の説明に続き、小学校音楽科の意義を活動を通して体験的に理解する。
2	小学校音楽科の教育課程と学習指導要領	小学校音楽科の教育課程に関して学習指導要領に示された目標、内容及び全体構造を理解する。
3	音楽科の目標と音楽学習の評価の関連	学習指導要領に示された音楽科の目標と、学習評価のつながりについて理解する。
4	鑑賞の学習内容と指導上の留意点	我が国の音楽を含む世界の音楽に照準をあてた鑑賞の学習内容と指導上の留意点について、活動を通して学ぶ。
5	音楽づくりの学習内容と指導上の留意点	様々な音階と即興、電子テクノロジーを含む音楽づくりの学習内容と指導上の留意点について、活動を通して学ぶ。
6	歌唱の学習内容と指導上の留意点	わらべ歌や歌唱共通教材、独唱や合唱を含む歌唱の学習内容と指導上の留意点について、活動を通して学ぶ。
7	器楽の学習内容と指導上の留意点	リコーダーに加え伝統楽器や電子テクノロジーを含む器楽の学習内容と指導上の留

		意点について、活動を通して学ぶ。
8	音楽科の今日的課題	児童の発達、個別のニーズ、文化、生活や地域社会の変化をふまえた音楽科の学習との連関について検討する。
9	音楽科の学習指導計画	音楽科の題材の構成や学習指導案の作成を通して、具体的な授業を想定した授業設計を行う。
10	教材研究と教材づくり	情報通信技術や我が国を含む世界の伝統音楽等多様な教材の活用を含む教材研究と教材づくりを行う。
11	低学年の模擬授業と振り返り	グループによる模擬授業と振り返りを行う。
12	中学年の模擬授業と振り返り	グループによる模擬授業と振り返りを行う。
13	高学年の模擬授業と振り返り	グループによる模擬授業と振り返りを行う。
14	全体のまとめ	授業全体を通して身に着けた内容を省察する。
15		
16		

科目コード	32303				区　分	コア科目			
授業科目名	音楽科教育法［FE2432組用］				担当者名	安久津　太一			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
学習指導要領に示された音楽科の学習内容について、背景となる学問領域や国内外の動向と関連させて理解を深めるとともに、さまざまな学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を会得する。毎回の授業では、探求的、協同的な音楽活動や演習を取り入れるが、個人の音楽経験や音楽の得意不得意は一切問わない。音楽を通した、主体的、対話的で深い学びの関わり合いを共創する。

＜授業の到達目標＞
・学習指導要領に示された音楽科の目標及び内容を理解することができる。・音楽授業を行う上で必要となる、基礎的な知識、技能を身につけることができる。・音楽科の基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うことができる。

＜授業の方法＞
・グループワークを中心とする協同的な学びを日常的に取り入れる。・問題開発及び解決型の探求的な学びを随時取り入れる。・座学や机上の理論に依存せず、主体的、協同的に誰もが参加可能な音楽活動を積極的に取り入れる。・音楽を含むプレゼンテーション及びディスカッションを日常的に取り入れる。・情報通信技術を用いた参加協同型音楽活動を導入する。・動画等を用いた音楽の知識、技能面の学習支援を適宜実施する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
本授業では以下のアクティブ・ラーニングを導入している。・グループワークを中心とする協同的な学びを日常的に取り入れる。・問題開発及び解決型の探求的な学びを随時取り入れる。・座学や机上の理論に依存せず、主体的、協同的に誰もが参加可能な音楽活動を積極的に取り入れる。・音楽を含むプレゼンテーション及びディスカッションを日常的に取り入れる。・情報通信技術を用いた参加協同型音楽活動を導入する。・動画等を用いた音楽の知識、技能面の学習支援を適宜実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
・第２回、第３回：本授業の教科書及び音楽科教科書等の講読を通し、小学校音楽科の全体像を理解する。・第４回～７回：教科書及び映像資料等を通して、領域別に音楽科の学習内容と指導方法を理解する。・第８回、11回：関連論文等の講読を通して、研究的、発展的、横断的に学習指導の方法について理解を深める。・第９回～13回：実際の授業を想定した授業の立案、構想、準備を行う。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・学習指導案と模擬授業の振り返りを含むレポート課題(40%)（課題にはコメントを付してフィードバックを行う。）・教材研究を中心としたレポート課題(20%)（課題にはコメントを付してフィードバックを行う。）・リコーダーを含む器楽の実技課題(20%)（実施後口頭でのアドバイスによりフィードバックを行う。）・プレゼンテーション及びディスカッション(20%)（実施後口頭でのアドバイスによりフィードバックを行う。）

＜教科書＞
文部科学省　小学校学習指導要領解説音楽編　東洋館出版

＜参考書＞
初等科音楽教育研究会編（2019年）　小学校教員養成課程最新初等科音楽教育法　音楽之友社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業概要及びシラバス内容の説明に続き、小学校音楽科の意義を活動を通して体験的に理解する。
2	小学校音楽科の教育課程と学習指導要領	小学校音楽科の教育課程に関して学習指導要領に示された目標、内容及び全体構造を理解する。
3	音楽科の目標と音楽学習の評価の関連	学習指導要領に示された音楽科の目標と、学習評価のつながりについて理解する。
4	鑑賞の学習内容と指導上の留意点	我が国の音楽を含む世界の音楽に照準をあてた鑑賞の学習内容と指導上の留意点について、活動を通して学ぶ。
5	音楽づくりの学習内容と指導上の留意点	様々な音階と即興、電子テクノロジーを含む音楽づくりの学習内容と指導上の留意点について、活動を通して学ぶ。
6	歌唱の学習内容と指導上の留意点	わらべ歌や歌唱共通教材、独唱や合唱を含む歌唱の学習内容と指導上の留意点について、活動を通して学ぶ。
7	器楽の学習内容と指導上の留意点	リコーダーに加え伝統楽器や電子テクノロジーを含む器楽の学習内容と指導上の留

		意点について、活動を通して学ぶ。
8	音楽科の今日的課題	児童の発達、個別のニーズ、文化、生活や地域社会の変化をふまえた音楽科の学習との連関について検討する。
9	音楽科の学習指導計画	音楽科の題材の構成や学習指導案の作成を通して、具体的な授業を想定した授業設計を行う。
10	教材研究と教材づくり	情報通信技術や我が国を含む世界の伝統音楽等多様な教材の活用を含む教材研究と教材づくりを行う。
11	低学年の模擬授業と振り返り	グループによる模擬授業と振り返りを行う。
12	中学年の模擬授業と振り返り	グループによる模擬授業と振り返りを行う。
13	高学年の模擬授業と振り返り	グループによる模擬授業と振り返りを行う。
14	全体のまとめ	授業全体を通して身に着けた内容を省察する。
15		
16		

科目コード	32303				区　分	コア科目			
授業科目名	音楽科教育法［FE2433組用］				担当者名	安久津　太一			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
学習指導要領に示された音楽科の学習内容について、背景となる学問領域や国内外の動向と関連させて理解を深めるとともに、さまざまな学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を会得する。毎回の授業では、探求的、協同的な音楽活動や演習を取り入れるが、個人の音楽経験や音楽の得意不得意は一切問わない。音楽を通した、主体的、対話的で深い学びの関わり合いを共創する。

＜授業の到達目標＞
・学習指導要領に示された音楽科の目標及び内容を理解することができる。・音楽授業を行う上で必要となる、基礎的な知識、技能を身につけることができる。・音楽科の基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うことができる。

＜授業の方法＞
・グループワークを中心とする協同的な学びを日常的に取り入れる。・問題開発及び解決型の探求的な学びを随時取り入れる。・座学や机上の理論に依存せず、主体的、協同的に誰もが参加可能な音楽活動を積極的に取り入れる。・音楽を含むプレゼンテーション及びディスカッションを日常的に取り入れる。・情報通信技術を用いた参加協同型音楽活動を導入する。・動画等を用いた音楽の知識、技能面の学習支援を適宜実施する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
本授業では以下のアクティブ・ラーニングを導入している。・グループワークを中心とする協同的な学びを日常的に取り入れる。・問題開発及び解決型の探求的な学びを随時取り入れる。・座学や机上の理論に依存せず、主体的、協同的に誰もが参加可能な音楽活動を積極的に取り入れる。・音楽を含むプレゼンテーション及びディスカッションを日常的に取り入れる。・情報通信技術を用いた参加協同型音楽活動を導入する。・動画等を用いた音楽の知識、技能面の学習支援を適宜実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
・第２回、第３回：本授業の教科書及び音楽科教科書等の講読を通し、小学校音楽科の全体像を理解する。・第４回～７回：教科書及び映像資料等を通して、領域別に音楽科の学習内容と指導方法を理解する。・第８回、11回：関連論文等の講読を通して、研究的、発展的、横断的に学習指導の方法について理解を深める。・第９回～13回：実際の授業を想定した授業の立案、構想、準備を行う。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・学習指導案と模擬授業の振り返りを含むレポート課題(40%)（課題にはコメントを付してフィードバックを行う。）・教材研究を中心としたレポート課題(20%)（課題にはコメントを付してフィードバックを行う。）・リコーダーを含む器楽の実技課題(20%)（実施後口頭でのアドバイスによりフィードバックを行う。）・プレゼンテーション及びディスカッション(20%)（実施後口頭でのアドバイスによりフィードバックを行う。）

＜教科書＞
文部科学省　小学校学習指導要領解説音楽編　東洋館出版

＜参考書＞
初等科音楽教育研究会編（2019年）　小学校教員養成課程最新初等科音楽教育法　音楽之友社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業概要及びシラバス内容の説明に続き、小学校音楽科の意義を活動を通して体験的に理解する。
2	小学校音楽科の教育課程と学習指導要領	小学校音楽科の教育課程に関して学習指導要領に示された目標、内容及び全体構造を理解する。
3	音楽科の目標と音楽学習の評価の関連	学習指導要領に示された音楽科の目標と、学習評価のつながりについて理解する。
4	鑑賞の学習内容と指導上の留意点	我が国の音楽を含む世界の音楽に照準をあてた鑑賞の学習内容と指導上の留意点について、活動を通して学ぶ。
5	音楽づくりの学習内容と指導上の留意点	様々な音階と即興、電子テクノロジーを含む音楽づくりの学習内容と指導上の留意点について、活動を通して学ぶ。
6	歌唱の学習内容と指導上の留意点	わらべ歌や歌唱共通教材、独唱や合唱を含む歌唱の学習内容と指導上の留意点について、活動を通して学ぶ。
7	器楽の学習内容と指導上の留意点	リコーダーに加え伝統楽器や電子テクノロジーを含む器楽の学習内容と指導上の留

		意点について、活動を通して学ぶ。
8	音楽科の今日的課題	児童の発達、個別のニーズ、文化、生活や地域社会の変化をふまえた音楽科の学習との連関について検討する。
9	音楽科の学習指導計画	音楽科の題材の構成や学習指導案の作成を通して、具体的な授業を想定した授業設計を行う。
10	教材研究と教材づくり	情報通信技術や我が国を含む世界の伝統音楽等多様な教材の活用を含む教材研究と教材づくりを行う。
11	低学年の模擬授業と振り返り	グループによる模擬授業と振り返りを行う。
12	中学年の模擬授業と振り返り	グループによる模擬授業と振り返りを行う。
13	高学年の模擬授業と振り返り	グループによる模擬授業と振り返りを行う。
14	全体のまとめ	授業全体を通して身に着けた内容を省察する。
15		
16		

科目コード	32303				区　分	コア科目			
授業科目名	音楽科教育法［他学科用］				担当者名	安久津　太一			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
学習指導要領に示された音楽科の学習内容について、背景となる学問領域や国内外の動向と関連させて理解を深めるとともに、さまざまな学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を会得する。毎回の授業では、探求的、協同的な音楽活動や演習を取り入れるが、個人の音楽経験や音楽の得意不得意は一切問わない。音楽を通した、主体的、対話的で深い学びの関わり合いを共創する。

＜授業の到達目標＞
・学習指導要領に示された音楽科の目標及び内容を理解することができる。・音楽授業を行う上で必要となる、基礎的な知識、技能を身につけることができる。・音楽科の基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うことができる。

＜授業の方法＞
・グループワークを中心とする協同的な学びを日常的に取り入れる。・問題開発及び解決型の探求的な学びを随時取り入れる。・座学や机上の理論に依存せず、主体的、協同的に誰もが参加可能な音楽活動を積極的に取り入れる。・音楽を含むプレゼンテーション及びディスカッションを日常的に取り入れる。・情報通信技術を用いた参加協同型音楽活動を導入する。・動画等を用いた音楽の知識、技能面の学習支援を適宜実施する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
本授業では以下のアクティブ・ラーニングを導入している。・グループワークを中心とする協同的な学びを日常的に取り入れる。・問題開発及び解決型の探求的な学びを随時取り入れる。・座学や机上の理論に依存せず、主体的、協同的に誰もが参加可能な音楽活動を積極的に取り入れる。・音楽を含むプレゼンテーション及びディスカッションを日常的に取り入れる。・情報通信技術を用いた参加協同型音楽活動を導入する。・動画等を用いた音楽の知識、技能面の学習支援を適宜実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
・第２回、第３回：本授業の教科書及び音楽科教科書等の講読を通し、小学校音楽科の全体像を理解する。・第４回～７回：教科書及び映像資料等を通して、領域別に音楽科の学習内容と指導方法を理解する。・第８回、11回：関連論文等の講読を通して、研究的、発展的、横断的に学習指導の方法について理解を深める。・第９回～13回：実際の授業を想定した授業の立案、構想、準備を行う。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・学習指導案と模擬授業の振り返りを含むレポート課題(40%)（課題にはコメントを付してフィードバックを行う。）・教材研究を中心としたレポート課題(20%)（課題にはコメントを付してフィードバックを行う。）・リコーダーを含む器楽の実技課題(20%)（実施後口頭でのアドバイスによりフィードバックを行う。）・プレゼンテーション及びディスカッション(20%)（実施後口頭でのアドバイスによりフィードバックを行う。）

＜教科書＞
文部科学省　小学校学習指導要領解説音楽編　東洋館出版

＜参考書＞
初等科音楽教育研究会編（2019年）　小学校教員養成課程最新初等科音楽教育法　音楽之友社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業概要及びシラバス内容の説明に続き、小学校音楽科の意義を活動を通して体験的に理解する。
2	小学校音楽科の教育課程と学習指導要領	小学校音楽科の教育課程に関して学習指導要領に示された目標、内容及び全体構造を理解する。
3	音楽科の目標と音楽学習の評価の関連	学習指導要領に示された音楽科の目標と、学習評価のつながりについて理解する。
4	鑑賞の学習内容と指導上の留意点	我が国の音楽を含む世界の音楽に照準をあてた鑑賞の学習内容と指導上の留意点について、活動を通して学ぶ。
5	音楽づくりの学習内容と指導上の留意点	様々な音階と即興、電子テクノロジーを含む音楽づくりの学習内容と指導上の留意点について、活動を通して学ぶ。
6	歌唱の学習内容と指導上の留意点	わらべ歌や歌唱共通教材、独唱や合唱を含む歌唱の学習内容と指導上の留意点について、活動を通して学ぶ。
7	器楽の学習内容と指導上の留意点	リコーダーに加え伝統楽器や電子テクノロジーを含む器楽の学習内容と指導上の留

		意点について、活動を通して学ぶ。
8	音楽科の今日的課題	児童の発達、個別のニーズ、文化、生活や地域社会の変化をふまえた音楽科の学習との連関について検討する。
9	音楽科の学習指導計画	音楽科の題材の構成や学習指導案の作成を通して、具体的な授業を想定した授業設計を行う。
10	教材研究と教材づくり	情報通信技術や我が国を含む世界の伝統音楽等多様な教材の活用を含む教材研究と教材づくりを行う。
11	低学年の模擬授業と振り返り	グループによる模擬授業と振り返りを行う。
12	中学年の模擬授業と振り返り	グループによる模擬授業と振り返りを行う。
13	高学年の模擬授業と振り返り	グループによる模擬授業と振り返りを行う。
14	全体のまとめ	授業全体を通して身に着けた内容を省察する。
15		
16		

科目コード	32304				区　分	コア科目			
授業科目名	国語科教育法［FE2531組用］				担当者名	小川　智勢子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

１　小学校国語科における「知識及び技能」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の主な学習内容を講義する。２　国語科教材等に基づき、児童の発達段階に即した授業を構想する。３　履修する場合、講義に次の物を用意してください。　①横書きA4判ノート（1行６㎜幅）　②濃い文字の書ける鉛筆かシャープペン　③A4サイズ400字詰ヨコ原稿用紙）④のり

＜授業の到達目標＞

１　小学校国語科の主な学習内容と指導上の留意点を理解できる。２　領域別の主な国語科の指導方法と授業構想の実際を理解できる。３　授業構想等に関し、自分の考えを表現することができる。

＜授業の方法＞

１　教科書や配布資料を使用し、講義を実施する。２　音読・視写・筆順など、国語科の基礎となる学習を実際に課題として行う。
３　教科書や資料等の要約、教材等への自分の考えを報告する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

１　課題によって、4～５人のグループに分かれて話し合い、意見をまとめて発表する。２　毎回、順番で感想を発表する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

【事前学習】　予習　事前課題への取り組み（１時間）【事後学習】　復習　授業後における学びの振り返り及び発展学習（1時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー３（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席・参加態度40％ 、レポート・課題60％により総合的に評価する。

＜教科書＞

＜参考書＞

文部科学省（2018/2/28）　小学校学習指導要領解説　国語編　東洋館出版社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	国語科教育の全体像	講義の概要や成績評価方法等を知る。国語教育と国語科教育の違いを理解する。
2	国語科教育と言葉の働き	『小学校学習指導要領解説　国語編』の目標と領域、詩の言葉と論理の言葉
3	論理的文章を「読むこと」の指導　1	小学校低・中学年の論理的文章を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し、自分の考えをまとめる。
4	論理的文章を「読むこと」の指導　2	小学校高学年の論理的文章を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し、自分の考えをまとめる。
5	「書くこと」（基礎・基本）の指導	「書くこと」（基礎・基本）の教材等を理解し、授業実践に向けて、自分の考えをもつ。
6	「書くこと」（発展）の指導	「書くこと」（発展）の教材等を理解し、授業実践に向けて、自分の考えをもつ。
7	「話すこと・聞くこと」の指導	「話すこと・聞くこと」の指導内容・ポイントを理解する。
8	文学的文章（物語）を「読むこと」の指導	文学的文章（物語）を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し自分の考えをまとめる。
9	文学的文章（詩）を「読むこと」の指導	文学的文章（詩）を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し自分の考えをまとめる。
10	「知識及び技能」	「知識及び技能」について、教材等を理解し、授業構想に対し自分の考えをまとめる。
11	指導案の書き方と模擬授業	教材研究の方法、指導案の書き方を知る。
12	模擬授業・授業記録１	模擬授業を実施し、授業記録を取る。
13	模擬授業・授業記録２	模擬授業を実施し、授業記録を取る。
14	国語科学習指導における評価と指導の一体化と総括（まとめ）	国語科教育法のまとめ（学習評価を視点として）及び小学校国語教師としての心構えをもつ。
15		
16		

科目コード	32304				区　分	コア科目			
授業科目名	国語科教育法［FE2532組用］				担当者名	小川　智勢子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

１　小学校国語科における「知識及び技能」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の主な学習内容を講義する。２　国語科教材等に基づき、児童の発達段階に即した授業を構想する。３　履修する場合、講義に次の物を用意してください。　①横書きA4判ノート（1行６㎜幅）　②濃い文字の書ける鉛筆かシャープペン　③A4サイズ400字詰ヨコ原稿用紙）④のり

＜授業の到達目標＞

１　小学校国語科の主な学習内容と指導上の留意点を理解できる。２　領域別の主な国語科の指導方法と授業構想の実際を理解できる。３　授業構想等に関し、自分の考えを表現することができる。

＜授業の方法＞

１　教科書や配布資料を使用し、講義を実施する。２　音読・視写・筆順など、国語科の基礎となる学習を実際に課題として行う。
３　教科書や資料等の要約、教材等への自分の考えを報告する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

１　課題によって、4～５人のグループに分かれて話し合い、意見をまとめて発表する。２　毎回、順番で感想を発表する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

【事前学習】　予習　事前課題への取り組み（１時間）【事後学習】　復習　授業後における学びの振り返り及び発展学習（1時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー３（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席・参加態度40％ 、レポート・課題60％により総合的に評価する。

＜教科書＞

＜参考書＞

文部科学省（2018/2/28）　小学校学習指導要領解説　国語編　東洋館出版社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	国語科教育の全体像	講義の概要や成績評価方法等を知る。国語教育と国語科教育の違いを理解する。
2	国語科教育と言葉の働き	『小学校学習指導要領解説　国語編』の目標と領域、詩の言葉と論理の言葉
3	論理的文章を「読むこと」の指導　1	小学校低・中学年の論理的文章を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し、自分の考えをまとめる。
4	論理的文章を「読むこと」の指導　2	小学校高学年の論理的文章を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し、自分の考えをまとめる。
5	「書くこと」（基礎・基本）の指導	「書くこと」（基礎・基本）の教材等を理解し、授業実践に向けて、自分の考えをもつ。
6	「書くこと」（発展）の指導	「書くこと」（発展）の教材等を理解し、授業実践に向けて、自分の考えをもつ。
7	「話すこと・聞くこと」の指導	「話すこと・聞くこと」の指導内容・ポイントを理解する。
8	文学的文章（物語）を「読むこと」の指導	文学的文章（物語）を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し自分の考えをまとめる。
9	文学的文章（詩）を「読むこと」の指導	文学的文章（詩）を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し自分の考えをまとめる。
10	「知識及び技能」	「知識及び技能」について、教材等を理解し、授業構想に対し自分の考えをまとめる。
11	指導案の書き方と模擬授業	教材研究の方法、指導案の書き方を知る。
12	模擬授業・授業記録１	模擬授業を実施し、授業記録を取る。
13	模擬授業・授業記録２	模擬授業を実施し、授業記録を取る。
14	国語科学習指導における評価と指導の一体化と総括（まとめ）	国語科教育法のまとめ（学習評価を視点として）及び小学校国語教師としての心構えをもつ。
15		
16		

科目コード	32304				区　分	コア科目			
授業科目名	国語科教育法［FE2533組用］				担当者名	小川　智勢子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

１　小学校国語科における「知識及び技能」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の主な学習内容を講義する。２　国語科教材等に基づき、児童の発達段階に即した授業を構想する。３　履修する場合、講義に次の物を用意してください。　①横書きA4判ノート（1行６㎜幅）　②濃い文字の書ける鉛筆かシャープペン　③A4サイズ400字詰ヨコ原稿用紙）④のり

＜授業の到達目標＞

１　小学校国語科の主な学習内容と指導上の留意点を理解できる。２　領域別の主な国語科の指導方法と授業構想の実際を理解できる。３　授業構想等に関し、自分の考えを表現することができる。

＜授業の方法＞

１　教科書や配布資料を使用し、講義を実施する。２　音読・視写・筆順など、国語科の基礎となる学習を実際に課題として行う。
３　教科書や資料等の要約、教材等への自分の考えを報告する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

１　課題によって、4～５人のグループに分かれて話し合い、意見をまとめて発表する。２　毎回、順番で感想を発表する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

【事前学習】　予習　事前課題への取り組み（１時間）【事後学習】　復習　授業後における学びの振り返り及び発展学習（1時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー３（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席・参加態度40％ 、レポート・課題60％により総合的に評価する。

＜教科書＞

＜参考書＞

文部科学省（2018/2/28）　小学校学習指導要領解説　国語編　東洋館出版社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	国語科教育の全体像	講義の概要や成績評価方法等を知る。国語教育と国語科教育の違いを理解する。
2	国語科教育と言葉の働き	『小学校学習指導要領解説　国語編』の目標と領域、詩の言葉と論理の言葉
3	論理的文章を「読むこと」の指導　1	小学校低・中学年の論理的文章を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し、自分の考えをまとめる。
4	論理的文章を「読むこと」の指導　2	小学校高学年の論理的文章を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し、自分の考えをまとめる。
5	「書くこと」（基礎・基本）の指導	「書くこと」（基礎・基本）の教材等を理解し、授業実践に向けて、自分の考えをもつ。
6	「書くこと」（発展）の指導	「書くこと」（発展）の教材等を理解し、授業実践に向けて、自分の考えをもつ。
7	「話すこと・聞くこと」の指導	「話すこと・聞くこと」の指導内容・ポイントを理解する。
8	文学的文章（物語）を「読むこと」の指導	文学的文章（物語）を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し自分の考えをまとめる。
9	文学的文章（詩）を「読むこと」の指導	文学的文章（詩）を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し自分の考えをまとめる。
10	「知識及び技能」	「知識及び技能」について、教材等を理解し、授業構想に対し自分の考えをまとめる。
11	指導案の書き方と模擬授業	教材研究の方法、指導案の書き方を知る。
12	模擬授業・授業記録１	模擬授業を実施し、授業記録を取る。
13	模擬授業・授業記録２	模擬授業を実施し、授業記録を取る。
14	国語科学習指導における評価と指導の一体化と総括（まとめ）	国語科教育法のまとめ（学習評価を視点として）及び小学校国語教師としての心構えをもつ。
15		
16		

科目コード	32304				区　分	コア科目			
授業科目名	国語科教育法［他学科A］				担当者名	小川　智勢子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

１　小学校国語科における「知識及び技能」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の主な学習内容を講義する。２　国語科教材等に基づき、児童の発達段階に即した授業を構想する。３　履修する場合、講義に次の物を用意してください。　①横書きA4判ノート（1行６㎜幅）　②濃い文字の書ける鉛筆かシャープペン　③A4サイズ400字詰ヨコ原稿用紙）④のり

＜授業の到達目標＞

１　小学校国語科の主な学習内容と指導上の留意点を理解できる。２　領域別の主な国語科の指導方法と授業構想の実際を理解できる。３　授業構想等に関し、自分の考えを表現することができる。

＜授業の方法＞

１　教科書や配布資料を使用し、講義を実施する。２　音読・視写・筆順など、国語科の基礎となる学習を実際に課題として行う。
３　教科書や資料等の要約、教材等への自分の考えを報告する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

１　課題によって、4～５人のグループに分かれて話し合い、意見をまとめて発表する。２　毎回、順番で感想を発表する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

【事前学習】　予習　事前課題への取り組み（１時間）【事後学習】　復習　授業後における学びの振り返り及び発展学習（1時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー３（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席・参加態度40％ 、レポート・課題60％により総合的に評価する。

＜教科書＞

＜参考書＞

文部科学省（2018/2/28）　小学校学習指導要領解説　国語編　東洋館出版社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	国語科教育の全体像	講義の概要や成績評価方法等を知る。国語教育と国語科教育の違いを理解する。
2	国語科教育と言葉の働き	『小学校学習指導要領解説　国語編』の目標と領域、詩の言葉と論理の言葉
3	論理的文章を「読むこと」の指導　1	小学校低・中学年の論理的文章を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し、自分の考えをまとめる。
4	論理的文章を「読むこと」の指導　2	小学校高学年の論理的文章を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し、自分の考えをまとめる。
5	「書くこと」（基礎・基本）の指導	「書くこと」（基礎・基本）の教材等を理解し、授業実践に向けて、自分の考えをもつ。
6	「書くこと」（発展）の指導	「書くこと」（発展）の教材等を理解し、授業実践に向けて、自分の考えをもつ。
7	「話すこと・聞くこと」の指導	「話すこと・聞くこと」の指導内容・ポイントを理解する。
8	文学的文章（物語）を「読むこと」の指導	文学的文章（物語）を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し自分の考えをまとめる。
9	文学的文章（詩）を「読むこと」の指導	文学的文章（詩）を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し自分の考えをまとめる。
10	「知識及び技能」	「知識及び技能」について、教材等を理解し、授業構想に対し自分の考えをまとめる。
11	指導案の書き方と模擬授業	教材研究の方法、指導案の書き方を知る。
12	模擬授業・授業記録１	模擬授業を実施し、授業記録を取る。
13	模擬授業・授業記録２	模擬授業を実施し、授業記録を取る。
14	国語科学習指導における評価と指導の一体化と総括（まとめ）	国語科教育法のまとめ（学習評価を視点として）及び小学校国語教師としての心構えをもつ。
15		
16		

科目コード	32304				区　分	コア科目			
授業科目名	国語科教育法［他学科B］				担当者名	小川　智勢子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

１　小学校国語科における「知識及び技能」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の主な学習内容を講義する。２　国語科教材等に基づき、児童の発達段階に即した授業を構想する。３　履修する場合、講義に次の物を用意してください。　①横書きA4判ノート（1行６㎜幅）　②濃い文字の書ける鉛筆かシャープペン　③A4サイズ400字詰ヨコ原稿用紙）④のり

＜授業の到達目標＞

１　小学校国語科の主な学習内容と指導上の留意点を理解できる。２　領域別の主な国語科の指導方法と授業構想の実際を理解できる。３　授業構想等に関し、自分の考えを表現することができる。

＜授業の方法＞

１　教科書や配布資料を使用し、講義を実施する。２　音読・視写・筆順など、国語科の基礎となる学習を実際に課題として行う。
３　教科書や資料等の要約、教材等への自分の考えを報告する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

１　課題によって、4～５人のグループに分かれて話し合い、意見をまとめて発表する。２　毎回、順番で感想を発表する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

【事前学習】　予習　事前課題への取り組み（１時間）【事後学習】　復習　授業後における学びの振り返り及び発展学習（1時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー３（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席・参加態度40％ 、レポート・課題60％により総合的に評価する。

＜教科書＞

＜参考書＞

文部科学省（2018/2/28）　小学校学習指導要領解説　国語編　東洋館出版社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	国語科教育の全体像	講義の概要や成績評価方法等を知る。国語教育と国語科教育の違いを理解する。
2	国語科教育と言葉の働き	『小学校学習指導要領解説　国語編』の目標と領域、詩の言葉と論理の言葉
3	論理的文章を「読むこと」の指導　1	小学校低・中学年の論理的文章を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し、自分の考えをまとめる。
4	論理的文章を「読むこと」の指導　2	小学校高学年の論理的文章を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し、自分の考えをまとめる。
5	「書くこと」（基礎・基本）の指導	「書くこと」（基礎・基本）の教材等を理解し、授業実践に向けて、自分の考えをもつ。
6	「書くこと」（発展）の指導	「書くこと」（発展）の教材等を理解し、授業実践に向けて、自分の考えをもつ。
7	「話すこと・聞くこと」の指導	「話すこと・聞くこと」の指導内容・ポイントを理解する。
8	文学的文章（物語）を「読むこと」の指導	文学的文章（物語）を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し自分の考えをまとめる。
9	文学的文章（詩）を「読むこと」の指導	文学的文章（詩）を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し自分の考えをまとめる。
10	「知識及び技能」	「知識及び技能」について、教材等を理解し、授業構想に対し自分の考えをまとめる。
11	指導案の書き方と模擬授業	教材研究の方法、指導案の書き方を知る。
12	模擬授業・授業記録１	模擬授業を実施し、授業記録を取る。
13	模擬授業・授業記録２	模擬授業を実施し、授業記録を取る。
14	国語科学習指導における評価と指導の一体化と総括（まとめ）	国語科教育法のまとめ（学習評価を視点として）及び小学校国語教師としての心構えをもつ。
15		
16		

科目コード	32305				区　分	コア科目			
授業科目名	理科教育法［FE2531組用］				担当者名	川村　康文			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義と実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

小学校理科の授業を楽しく，興味深く展開するために必要な指導技術や観察・実験の方法を習得する。観察・実験を伴う理科の活動を，児童の気持ちになって体験したり，教師役を経験したりする。約４人のグループで先生役となり学習指導案を立てて模擬授業を担当し，授業で先生役があたっていないみなさんは，児童役と評価者を兼ねて受講してもらいます。特に実験を含んだ40分の模擬授業を行って頂きます。教材研究，指導案作成，授業実践，授業評価などを実践的に学びながら，ＩＣＴの活用法も習得する。模擬授業の後は，全員で，模擬授業のふりかえ

＜授業の到達目標＞

１．教材研究：教科書や学習指導要領解説を参照して，教師と児童の視点で観察・実験できる。２．指導案作成：取り上げる教材や授業のねらいを分析して，教師と児童の視点から指導案を作成できる。３．指導と評価：指導案に沿って授業を実践し，その授業展開を評価できる。４．ＩＣＴ活用：電子黒板，教材提示装置，デジタル教科書などを効果的に活用できる。

＜授業の方法＞

１．自分たちで話し合って，自立的に，学びを進めて下さい。それを支援する授業を行います。２．探究する心を，仲間と育てて下さい。それを支援する授業を行います。３．スマホ，タブレット，ＰＣなどICTも活用しましょう。４．模擬授業を行う先生役と，模擬授業を受ける児童役かつ評価者役を行って頂きます

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブラーニング：受け身の授業ではなく，先生役として模擬授業を担当したり，評価者役担当します。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習各時間とも，模擬授業の担当になる班があります。対面の授業の中から担当班を決めます。その班は，必ず，教科書を良く読み，事前にリハーサルを60分程度繰り返すことにより，当日の授業で規定の時間内に実施できるよう準備してください。学習指導案をともなった模擬授業を行いますので，授業の事前に，学習指導案をアップしてください。児童役を担当する受講生のみなさんは，模擬授業を行う班のパフォーマンスを評価する評価者の立場になって模擬授業のアドバイスができるように教科書および学習指導案を60分程度時間をかけて読み込んで来て

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー３（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加意欲　（模擬授業や課題提出等の平常点を含む）60%、振り返り（レフレクション課題を含む）40%　等で評価する。

＜教科書＞

川村　康文（2014）　理科教育法 独創力を伸ばす理科授業　講談社

＜参考書＞

文部科学省(2018.2.10)　小学校学習指導要領　https://www.mext.go.jp/content/20211020-mxt_kyoiku02-100002607_05.pdf

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	対面9月24日30日2030年のSDGｓ　2050年のカーボンニュートラル　理科教師や理科の授業は，次世代の子どもたちに何をつたえるのか？	対面9月24日30日４人で１班をつくる１回から１３回までは課題点満点５点，提出遅れは減点　　軽い遅れは最高で４点　大きな遅れは状況に応じて，最高３点，最高２点，最高１点，最高でも０点となります。１４回目は，リフレクション課題オンデマンドの日は，各自で実験をして画像を各自で提出してもらいます。この日の課題①すべての班のメンバー表の静止画の提出②全１４回の授業内容が書かれた予定表の提出
2	対面10月1日7日教科書の実験「84．高分子吸収剤」（pp198-199）	対面10月1日7日教科書の実験「84．高分子吸収剤」（pp198-199)を各自行って，コップをひっくり返しても水ができてこない実験動画（4秒以内程度）を各自アップして下さい。
3	オンデマンド　10月8日14教科書の実験「8．ホバークラフト」(pp.52-53)	オンデマンド　10月8日14教科書の実験「8．ホバークラフト」(pp.52-53)を各自作って，実験動画（4秒以内程度）を各自アップして下さい。CDやペットボトルキャップなどは，できるだけリサイクルして下さい。。
4	対面　10月21日22日教科書の実験「27．ストローウエーブマシンを作ろう」	対面　10月21日22日教科書の実験「27．ストローウエーブマシンを作ろう」（pp.84-85)を班で1つ作って，実験動画（4秒以内程度）を各自アップして下さい。

	（pp. 84-85）	共同で実験してもいいですが，動画は必ず，一人ひとりあげて下さい。
5	オンデマンド　10月28日29日教科書の実験「108．耐震・免振・制振」(pp. 232-233)の実験	オンデマンド　10月28日29日教科書の実験「108．耐震・免振・制振」(pp. 232-233)の実験を各自行って，耐震が有用とわかる実験動画（4秒以内程度）を各自アップして下さい。
6	対面　11月4日5日教科書の実験「5．浮沈子」（pp. 47－47）	対面　11月4日5日教科書の実験「5．浮沈子」（pp. 47－47)を各自作って，実験動画（4秒以内程度）を各自アップして下さい。
7	対面　11月11日12日教科書の実験「88．イワシの解剖」（pp. 204）	対面　11月11日12日教科書の実験「88．イワシの解剖」（pp. 204）を各自行って，整理した写真（教科書を参考）を各自アップして下さい。
8	対面　11月25日26日模擬授業１	対面　11月25日26日実験指導を交えた模擬授業を，45分授業で行います。その後，反省会を行います。実験に入る前に，小学校何年生のどの単元と既習事項を説明し，その流れの中で，実験指導の模擬授業を行ってもらいます。模擬授業の班は，指導案を提出それ以外の班は，授業で受けた実験の画像とおたよりカードをミックスしてレポートにして提出
9	対面　12月2日3日模擬授業２	対面　12月2日3日実験指導を交えた模擬授業を，45分授業で行います。その後，反省会を行います。実験に入る前に，小学校何年生のどの単元と既習事項を説明し，その流れの中で，実験指導の模擬授業を行ってもらいます。模擬授業の班は，指導案を提出それ以外の班は，授業で受けた実験の画像とおたよりカードをミックスしてレポートにして提出
10	対面　12月9日10日模擬授業３	対面　12月9日10日実験指導を交えた模擬授業を，45分授業で行います。その後，反省会を行います。実験に入る前に，小学校何年生のどの単元と既習事項を説明し，その流れの中で，実験指導の模擬授業を行ってもらいます。模擬授業の班は，指導案を提出それ以外の班は，授業で受けた実験の画像とおたよりカードをミックスしてレポートにして提出
11	対面　12月16日17日模擬授業４	対面　12月16日17日実験指導を交えた模擬授業を，45分授業で行います。その後，反省会を行います。実験に入る前に，小学校何年生のどの単元と既習事項を説明し，その流れの中で，実験指導の模擬授業を行ってもらいます。模擬授業の班は，指導案を提出それ以外の班は，授業で受けた実験の画像とおたよりカードをミックスしてレポートにして提出
12	対面　12月23日24日模擬授業５	対面　12月23日24日実験指導を交えた模擬授業を，45分授業で行います。その後，反省会を行います。実験に入る前に，小学校何年生のどの単元と既習事項を説明し，その流れの中で，実験指導の模擬授業を行ってもらいます。模擬授業の班は，指導案を提出それ以外の班は，授業で受けた実験の画像とおたよりカードをミックスしてレポートにして提出
13	対面　1月13日14日模擬授業６	対面　1月13日14日実験指導を交えた模擬授業を，45分授業で行います。その後，反省会を行います。実験に入る前に，小学校何年生のどの単元と既習事項を説明し，その流れの中で，実験指導の模擬授業を行ってもらいます。模擬授業の班は，指導案を提出それ以外の班は，授業で受けた実験の画像とおたよりカードをミックスしてレポートにして提出
14	オンデマンド　1月20日21日リフレクション・まとめ	対面　1月20日21日全体の振り返りを行います。オンデマンドとします。この授業で，①どのような力がついたか？それに満足できるか？②後輩が，この授業を受ける場合，どのような点に注意して受講するべきか？
15		
16		

科目コード	32305				区　分	コア科目			
授業科目名	理科教育法［FE2532組用］				担当者名	川村　康文			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義と実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
小学校理科の授業を楽しく，興味深く展開するために必要な指導技術や観察・実験の方法を習得する。観察・実験を伴う理科の活動を，児童の気持ちになって体験したり，教師役を経験したりする。約４人のグループで先生役となり学習指導案を立てて模擬授業を担当し，授業で先生役があたっていないみなさんは，児童役と評価者を兼ねて受講してもらいます。特に実験を含んだ40分の模擬授業を行って頂きます。教材研究，指導案作成，授業実践，授業評価などを実践的に学びながら，ＩＣＴの活用法も習得する。模擬授業の後は，全員で，模擬授業のふりかえ

＜授業の到達目標＞
１．教材研究：教科書や学習指導要領解説を参照して，教師と児童の視点で観察・実験できる。２．指導案作成：取り上げる教材や授業のねらいを分析して，教師と児童の視点から指導案を作成できる。３．指導と評価：指導案に沿って授業を実践し，その授業展開を評価できる。４．ＩＣＴ活用：電子黒板，教材提示装置，デジタル教科書などを効果的に活用できる。

＜授業の方法＞
１．自分たちで話し合って，自立的に，学びを進めて下さい。それを支援する授業を行います。２．探究する心を，仲間と育てて下さい。それを支援する授業を行います。３．スマホ，タブレット，ＰＣなどICTも活用しましょう。４．模擬授業を行う先生役と，模擬授業を受ける児童役かつ評価者役を行って頂きます

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニング：受け身の授業ではなく，先生役として模擬授業を担当したり，評価者役担当します。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習各時間とも，模擬授業の担当になる班があります。対面の授業の中から担当班を決めます。その班は，必ず，教科書を良く読み，事前にリハーサルを60分程度繰り返すことにより，当日の授業で規定の時間内に実施できるよう準備してください。学習指導案をともなった模擬授業を行いますので，授業の事前に，学習指導案をアップしてください。児童役を担当する受講生のみなさんは，模擬授業を行う班のパフォーマンスを評価する評価者の立場になって模擬授業のアドバイスができるように教科書および学習指導案を60分程度時間をかけて読み込んで来て

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
参加意欲　（模擬授業や課題提出等の平常点を含む）60%、振り返り（レフレクション課題を含む）40%　等で評価する。

＜教科書＞
川村　康文（2014）　理科教育法 独創力を伸ばす理科授業　講談社

＜参考書＞
文部科学省(2018.2.10)　小学校学習指導要領　https://www.mext.go.jp/content/20211020-mxt_kyoiku02-100002607_05.pdf

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	対面9月24日30日2030年のSDGｓ　2050年のカーボンニュートラル　理科教師や理科の授業は，次世代の子どもたちに何をつたえるのか？	対面9月24日30日４人で１班をつくる１回から１３回までは課題点満点５点，提出遅れは減点　　軽い遅れは最高で４点　大きな遅れは状況に応じて，最高３点，最高２点，最高１点，最高でも０点となります。１４回目は，リフレクション課題オンデマンドの日は，各自で実験をして画像を各自で提出してもらいます。この日の課題①すべての班のメンバー表の静止画の提出②全１４回の授業内容が書かれた予定表の提出
2	対面10月1日7日教科書の実験「84．高分子吸収剤」（pp198-199）	対面10月1日7日教科書の実験「84．高分子吸収剤」（pp198-199)を各自行って，コップをひっくり返しても水ができてこない実験動画（4秒以内程度）を各自アップして下さい。
3	オンデマンド　10月8日14教科書の実験「8．ホバークラフト」(pp.52-53)	オンデマンド　10月8日14教科書の実験「8．ホバークラフト」(pp.52-53)を各自作って，実験動画（4秒以内程度）を各自アップして下さい。CDやペットボトルキャップなどは，できるだけリサイクルして下さい。。
4	対面　10月21日22日教科書の実験「27．ストローウエーブマシンを作ろう」	対面　10月21日22日教科書の実験「27．ストローウエーブマシンを作ろう」（pp.84-85)を班で1つ作って，実験動画（4秒以内程度）を各自アップして下さい。

	（pp.84-85）	共同で実験してもいいですが，動画は必ず，一人ひとりあげて下さい。
5	オンデマンド　10月28日29日教科書の実験「108．耐震・免振・制振」(pp.232-233)の実験	オンデマンド　10月28日29日教科書の実験「108．耐震・免振・制振」(pp.232-233)の実験を各自行って，耐震が有用とわかる実験動画（4秒以内程度）を各自アップして下さい。
6	対面　11月4日5日教科書の実験「5．浮沈子」（pp.47－47）	対面　11月4日5日教科書の実験「5．浮沈子」（pp.47－47)を各自作って，実験動画（4秒以内程度）を各自アップして下さい。
7	対面　11月11日12日教科書の実験「88．イワシの解剖」（pp.204）	対面　11月11日12日教科書の実験「88．イワシの解剖」（pp.204）を各自行って，整理した写真（教科書を参考）を各自アップして下さい。
8	対面　11月25日26日模擬授業１	対面　11月25日26日実験指導を交えた模擬授業を，45分授業で行います。その後，反省会を行います。実験に入る前に，小学校何年生のどの単元と既習事項を説明し，その流れの中で，実験指導の模擬授業を行ってもらいます。模擬授業の班は，指導案を提出それ以外の班は，授業で受けた実験の画像とおたよりカードをミックスしてレポートにして提出
9	対面　12月2日3日模擬授業２	対面　12月2日3日実験指導を交えた模擬授業を，45分授業で行います。その後，反省会を行います。実験に入る前に，小学校何年生のどの単元と既習事項を説明し，その流れの中で，実験指導の模擬授業を行ってもらいます。模擬授業の班は，指導案を提出それ以外の班は，授業で受けた実験の画像とおたよりカードをミックスしてレポートにして提出
10	対面　12月9日10日模擬授業３	対面　12月9日10日実験指導を交えた模擬授業を，45分授業で行います。その後，反省会を行います。実験に入る前に，小学校何年生のどの単元と既習事項を説明し，その流れの中で，実験指導の模擬授業を行ってもらいます。模擬授業の班は，指導案を提出それ以外の班は，授業で受けた実験の画像とおたよりカードをミックスしてレポートにして提出
11	対面　12月16日17日模擬授業４	対面　12月16日17日実験指導を交えた模擬授業を，45分授業で行います。その後，反省会を行います。実験に入る前に，小学校何年生のどの単元と既習事項を説明し，その流れの中で，実験指導の模擬授業を行ってもらいます。模擬授業の班は，指導案を提出それ以外の班は，授業で受けた実験の画像とおたよりカードをミックスしてレポートにして提出
12	対面　12月23日24日模擬授業５	対面　12月23日24日実験指導を交えた模擬授業を，45分授業で行います。その後，反省会を行います。実験に入る前に，小学校何年生のどの単元と既習事項を説明し，その流れの中で，実験指導の模擬授業を行ってもらいます。模擬授業の班は，指導案を提出それ以外の班は，授業で受けた実験の画像とおたよりカードをミックスしてレポートにして提出
13	対面　1月13日14日模擬授業６	対面　1月13日14日実験指導を交えた模擬授業を，45分授業で行います。その後，反省会を行います。実験に入る前に，小学校何年生のどの単元と既習事項を説明し，その流れの中で，実験指導の模擬授業を行ってもらいます。模擬授業の班は，指導案を提出それ以外の班は，授業で受けた実験の画像とおたよりカードをミックスしてレポートにして提出
14	オンデマンド　1月20日21日リフレクション・まとめ	対面　1月20日21日全体の振り返りを行います。オンデマンドとします。この授業で，①どのような力がついたか？それに満足できるか？②後輩が，この授業を受ける場合，どのような点に注意して受講するべきか？
15		
16		

科目コード	32305				区　分	コア科目			
授業科目名	理科教育法［FE2533組用］				担当者名	川村　康文			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義と実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

小学校理科の授業を楽しく，興味深く展開するために必要な指導技術や観察・実験の方法を習得する。観察・実験を伴う理科の活動を，児童の気持ちになって体験したり，教師役を経験したりする。約４人のグループで先生役となり学習指導案を立てて模擬授業を担当し，授業で先生役があたっていないみなさんは，児童役と評価者を兼ねて受講してもらいます。特に実験を含んだ40分の模擬授業を行って頂きます。教材研究，指導案作成，授業実践，授業評価などを実践的に学びながら，ＩＣＴの活用法も習得する。模擬授業の後は，全員で，模擬授業のふりかえ

＜授業の到達目標＞

１．教材研究：教科書や学習指導要領解説を参照して，教師と児童の視点で観察・実験できる。２．指導案作成：取り上げる教材や授業のねらいを分析して，教師と児童の視点から指導案を作成できる。３．指導と評価：指導案に沿って授業を実践し，その授業展開を評価できる。４．ＩＣＴ活用：電子黒板，教材提示装置，デジタル教科書などを効果的に活用できる。

＜授業の方法＞

１．自分たちで話し合って，自立的に，学びを進めて下さい。それを支援する授業を行います。２．探究する心を，仲間と育てて下さい。それを支援する授業を行います。３．スマホ，タブレット，ＰＣなどICTも活用しましょう。４．模擬授業を行う先生役と，模擬授業を受ける児童役かつ評価者役を行って頂きます

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブラーニング：受け身の授業ではなく，先生役として模擬授業を担当したり，評価者役担当します。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習各時間とも，模擬授業の担当になる班があります。対面の授業の中から担当班を決めます。その班は，必ず，教科書を良く読み，事前にリハーサルを60分程度繰り返すことにより，当日の授業で規定の時間内に実施できるよう準備してください。学習指導案をともなった模擬授業を行いますので，授業の事前に，学習指導案をアップしてください。児童役を担当する受講生のみなさんは，模擬授業を行う班のパフォーマンスを評価する評価者の立場になって模擬授業のアドバイスができるように教科書および学習指導案を60分程度時間をかけて読み込んで来て

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー３（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加意欲　（模擬授業や課題提出等の平常点を含む）60%、振り返り（レフレクション課題を含む）40%　等で評価する。

＜教科書＞

川村　康文（2014）　理科教育法 独創力を伸ばす理科授業　講談社

＜参考書＞

文部科学省(2018.2.10)　小学校学習指導要領　https://www.mext.go.jp/content/20211020-mxt_kyoiku02-100002607_05.pdf

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	対面9月24日30日2030年のSDGｓ　2050年のカーボンニュートラル　理科教師や理科の授業は，次世代の子どもたちに何をつたえるのか？	対面9月24日30日４人で１班をつくる１回から１３回までは課題点満点５点，提出遅れは減点　　軽い遅れは最高で４点　大きな遅れは状況に応じて，最高３点，最高２点，最高１点，最高でも０点となります。１４回目は，リフレクション課題オンデマンドの日は，各自で実験をして画像を各自で提出してもらいます。この日の課題①すべての班のメンバー表の静止画の提出②全１４回の授業内容が書かれた予定表の提出
2	対面10月1日7日教科書の実験「84．高分子吸収剤」（pp198-199）	対面10月1日7日教科書の実験「84．高分子吸収剤」（pp198-199)を各自行って，コップをひっくり返しても水ができてこない実験動画（4秒以内程度）を各自アップして下さい。
3	オンデマンド　10月8日14教科書の実験「8．ホバークラフト」(pp.52-53)	オンデマンド　10月8日14教科書の実験「8．ホバークラフト」(pp.52-53)を各自作って，実験動画（4秒以内程度）を各自アップして下さい。CDやペットボトルキャップなどは，できるだけリサイクルして下さい。。
4	対面　10月21日22日教科書の実験「27．ストローウエーブマシンを作ろう」	対面　10月21日22日教科書の実験「27．ストローウエーブマシンを作ろう」（pp.84-85)を班で1つ作って，実験動画（4秒以内程度）を各自アップして下さい。

	（pp. 84-85）	共同で実験してもいいですが，動画は必ず，一人ひとりあげて下さい。
5	オンデマンド　10月28日29日教科書の実験「108．耐震・免振・制振」(pp. 232-233)の実験	オンデマンド　10月28日29日教科書の実験「108．耐震・免振・制振」(pp. 232-233)の実験を各自行って，耐震が有用とわかる実験動画（4秒以内程度）を各自アップして下さい。
6	対面　11月4日5日教科書の実験「5．浮沈子」（pp. 47－47）	対面　11月4日5日教科書の実験「5．浮沈子」（pp. 47－47)を各自作って，実験動画（4秒以内程度）を各自アップして下さい。
7	対面　11月11日12日教科書の実験「88．イワシの解剖」（pp. 204）	対面　11月11日12日教科書の実験「88．イワシの解剖」（pp. 204）を各自行って，整理した写真（教科書を参考）を各自アップして下さい。
8	対面　11月25日26日模擬授業１	対面　11月25日26日実験指導を交えた模擬授業を，45分授業で行います。その後，反省会を行います。実験に入る前に，小学校何年生のどの単元と既習事項を説明し，その流れの中で，実験指導の模擬授業を行ってもらいます。模擬授業の班は，指導案を提出それ以外の班は，授業で受けた実験の画像とおたよりカードをミックスしてレポートにして提出
9	対面　12月2日3日模擬授業２	対面　12月2日3日実験指導を交えた模擬授業を，45分授業で行います。その後，反省会を行います。実験に入る前に，小学校何年生のどの単元と既習事項を説明し，その流れの中で，実験指導の模擬授業を行ってもらいます。模擬授業の班は，指導案を提出それ以外の班は，授業で受けた実験の画像とおたよりカードをミックスしてレポートにして提出
10	対面　12月9日10日模擬授業３	対面　12月9日10日実験指導を交えた模擬授業を，45分授業で行います。その後，反省会を行います。実験に入る前に，小学校何年生のどの単元と既習事項を説明し，その流れの中で，実験指導の模擬授業を行ってもらいます。模擬授業の班は，指導案を提出それ以外の班は，授業で受けた実験の画像とおたよりカードをミックスしてレポートにして提出
11	対面　12月16日17日模擬授業４	対面　12月16日17日実験指導を交えた模擬授業を，45分授業で行います。その後，反省会を行います。実験に入る前に，小学校何年生のどの単元と既習事項を説明し，その流れの中で，実験指導の模擬授業を行ってもらいます。模擬授業の班は，指導案を提出それ以外の班は，授業で受けた実験の画像とおたよりカードをミックスしてレポートにして提出
12	対面　12月23日24日模擬授業５	対面　12月23日24日実験指導を交えた模擬授業を，45分授業で行います。その後，反省会を行います。実験に入る前に，小学校何年生のどの単元と既習事項を説明し，その流れの中で，実験指導の模擬授業を行ってもらいます。模擬授業の班は，指導案を提出それ以外の班は，授業で受けた実験の画像とおたよりカードをミックスしてレポートにして提出
13	対面　1月13日14日模擬授業６	対面　1月13日14日実験指導を交えた模擬授業を，45分授業で行います。その後，反省会を行います。実験に入る前に，小学校何年生のどの単元と既習事項を説明し，その流れの中で，実験指導の模擬授業を行ってもらいます。模擬授業の班は，指導案を提出それ以外の班は，授業で受けた実験の画像とおたよりカードをミックスしてレポートにして提出
14	対面　1月20日21日リフレクション・まとめ	対面　1月20日21日全体の振り返りを行います。オンデマンドとします。この授業で，①どのような力がついたか？それに満足できるか？②後輩が，この授業を受ける場合，どのような点に注意して受講するべきか？
15		
16		

科目コード	32305				区　分	コア科目			
授業科目名	理科教育法［他学科3年水3］				担当者名	川村　康文			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義と実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
小学校理科の授業を楽しく，興味深く展開するために必要な指導技術や観察・実験の方法を習得する。観察・実験を伴う理科の活動を，児童の気持ちになって体験したり，教師役を経験したりする。約４人のグループで先生役となり学習指導案を立てて模擬授業を担当し，授業で先生役があたっていないみなさんは，児童役と評価者を兼ねて受講してもらいます。特に実験を含んだ40分の模擬授業を行って頂きます。教材研究，指導案作成，授業実践，授業評価などを実践的に学びながら，ＩＣＴの活用法も習得する。模擬授業の後は，全員で，模擬授業のふりかえ

＜授業の到達目標＞
１．教材研究：教科書や学習指導要領解説を参照して，教師と児童の視点で観察・実験できる。２．指導案作成：取り上げる教材や授業のねらいを分析して，教師と児童の視点から指導案を作成できる。３．指導と評価：指導案に沿って授業を実践し，その授業展開を評価できる。４．ＩＣＴ活用：電子黒板，教材提示装置，デジタル教科書などを効果的に活用できる。

＜授業の方法＞
１．自分たちで話し合って，自立的に，学びを進めて下さい。それを支援する授業を行います。２．探究する心を，仲間と育てて下さい。それを支援する授業を行います。３．スマホ，タブレット，ＰＣなどICTも活用しましょう。４．模擬授業を行う先生役と，模擬授業を受ける児童役かつ評価者役を行って頂きます

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニング：受け身の授業ではなく，先生役として模擬授業を担当したり，評価者役担当します。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習各時間とも，模擬授業の担当になる班があります。対面の授業の中から担当班を決めます。その班は，必ず，教科書を良く読み，事前にリハーサルを60分程度繰り返すことにより，当日の授業で規定の時間内に実施できるよう準備してください。学習指導案をともなった模擬授業を行いますので，授業の事前に，学習指導案をアップしてください。児童役を担当する受講生のみなさんは，模擬授業を行う班のパフォーマンスを評価する評価者の立場になって模擬授業のアドバイスができるように教科書および学習指導案を60分程度時間をかけて読み込んで来て

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
参加意欲　（模擬授業や課題提出等の平常点を含む）60%、振り返り（レフレクション課題を含む）40%　等で評価する。

＜教科書＞
川村　康文（2014）　理科教育法 独創力を伸ばす理科授業　講談社

＜参考書＞
文部科学省(2018.2.10)　小学校学習指導要領　https://www.mext.go.jp/content/20211020-mxt_kyoiku02-100002607_05.pdf

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	対面4月8日2030年のSDGｓ　2050年のカーボンニュートラル　理科教師や理科の授業は，次世代の子どもたちに何をつたえるのか？	対面4月8日初等理科（昨年度は自然の理解という名称）の授業を踏まえて，理科教育法では，模擬授業を中心に授業を進めます。どんなテーマで模擬授業をするのかを決めてもらいます。4人程度でひとつの班をくみます。対面の授業では，40分程度の模擬授業を行ってもらいます。（といっても，最初は40分のつもりが60分ぐらに伸びてしまうこともあります）。学習指導案をきちんと作って模擬授業をします。なお，ルールとして，ひとりだけで模擬授業はしない！班員全員が必ず模擬授業を分担して実施する。このルールを守って下さい。オンデマンド
2	対面4月15日模擬授業１模擬授業２	対面4月15日実験指導を交えた模擬授業を，実験を15分程度，相互反省を25分程度の40分程度の持ち時間で行います。実験に入る前に，小学校何年生のどの単元と既習事項を説明し，その流れの中で，実験指導の模擬授業を行ってもらいます。２つの班が、順番に行います。班の入れ替えは5分で行って下さい。
3	オンデマンド　4月22日教科書の実験「27．ストローウエーブマシンを作ろう」（pp.84-85）	オンデマンド　4月22日教科書の実験「27．ストローウエーブマシンを作ろう」（pp.84-85）を作って，実験動画（4秒以内程度）を各自アップして下さい。共同で実験してもいいですが，動画は必ず，一人ひとりあげて下さい。締め切り後は0点とな

		りますので注意して下さい。
4	オンデマンド4月29日教科書の実験「8．ホバークラフト」(pp.52-53)	オンデマンド4月29日教科書の実験「8．ホバークラフト」(pp.52-53)を各自作って，実験動画（4秒以内程度）を各自アップして下さい。CDやペットボトルキャップなどは，できるだけリサイクルして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
5	対面　5月13日模擬授業３模擬授業４	対面　5月13日実験指導を交えた模擬授業を，実験を15分程度，相互反省を25分程度の40分程度の持ち時間で行います。実験に入る前に，小学校何年生のどの単元と既習事項を説明し，その流れの中で，実験指導の模擬授業を行ってもらいます。２つの班が、順番に行います。班の入れ替えは5分で行って下さい。
6	オンデマンド5月20日教科書の実験「5．浮沈子」（pp.47－47）	オンデマンド5月20日教科書の実験「5．浮沈子」（pp.47－47)を各自作って，実験動画（4秒以内程度）を各自アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
7	対面　5月27日模擬授業５模擬授業６	対面　5月27日実験指導を交えた模擬授業を，実験を15分程度，相互反省を25分程度の40分程度の持ち時間で行います。実験に入る前に，小学校何年生のどの単元と既習事項を説明し，その流れの中で，実験指導の模擬授業を行ってもらいます。２つの班が、順番に行います。班の入れ替えは5分で行って下さい。
8	対面　6月3日模擬授業１模擬授業２	対面6月3日　実験指導を交えた模擬授業を，実験を15分程度，相互反省を25分程度の40分程度の持ち時間で行います。実験に入る前に，小学校何年生のどの単元と既習事項を説明し，その流れの中で，実験指導の模擬授業を行ってもらいます。２つの班が、順番に行います。班の入れ替えは5分で行って下さい。
9	オンデマンド　6月10日教科書の実験「88．イワシの解剖」（pp.204）	オンデマンド　6月10日教科書の実験「88．イワシの解剖」(pp.204）を各自行って，整理した写真（教科書を参考）を各自アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
10	対面6月17日模擬授業３模擬授業４	対面　6月17日実験指導を交えた模擬授業を，実験を15分程度，相互反省を25分程度の40分程度の持ち時間で行います。実験に入る前に，小学校何年生のどの単元と既習事項を説明し，その流れの中で，実験指導の模擬授業を行ってもらいます。２つの班が、順番に行います。班の入れ替えは5分で行って下さい。
11	オンデマンド6月24日教科書の実験「84．高分子吸収剤」（pp198-199）	オンデマンド6月24日教科書の実験「84．高分子吸収剤」(pp198-199)を各自行って，コップをひっくり返しても水ができてこない実験動画（4秒以内程度）を各自アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
12	対面7月1日模擬授業5模擬授業6	対面7月1日実験指導を交えた模擬授業を，実験を15分程度，相互反省を25分程度の40分程度の持ち時間で行います。実験に入る前に，小学校何年生のどの単元と既習事項を説明し，その流れの中で，実験指導の模擬授業を行ってもらいます。２つの班が、順番に行います。班の入れ替えは5分で行って下さい。
13	オンデマンド7月8日教科書の実験「108．耐震・免振・制振」(pp.232-233)の実験	オンデマンド7月8日教科書の実験「108．耐震・免振・制振」(pp.232-233)の実験を各自行って，耐震が有用とわかる実験動画(4秒以内程度)を各自アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
14	対面　7月15日　　リフレクション・まとめ	対面全体のふりかえりを行います。
15		
16		

科目コード	32305				区　分	コア科目			
授業科目名	理科教育法［他学科3年水4］				担当者名	川村　康文			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義と実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
小学校理科の授業を楽しく，興味深く展開するために必要な指導技術や観察・実験の方法を習得する。観察・実験を伴う理科の活動を，児童の気持ちになって体験したり，教師役を経験したりする。約４人のグループで先生役となり学習指導案を立てて模擬授業を担当し，授業で先生役があたっていないみなさんは，児童役と評価者を兼ねて受講してもらいます。特に実験を含んだ40分の模擬授業を行って頂きます。教材研究，指導案作成，授業実践，授業評価などを実践的に学びながら，ＩＣＴの活用法も習得する。模擬授業の後は，全員で，模擬授業のふりかえ

＜授業の到達目標＞
１．教材研究：教科書や学習指導要領解説を参照して，教師と児童の視点で観察・実験できる。２．指導案作成：取り上げる教材や授業のねらいを分析して，教師と児童の視点から指導案を作成できる。３．指導と評価：指導案に沿って授業を実践し，その授業展開を評価できる。４．ＩＣＴ活用：電子黒板，教材提示装置，デジタル教科書などを効果的に活用できる。

＜授業の方法＞
１．自分たちで話し合って，自立的に，学びを進めて下さい。それを支援する授業を行います。２．探究する心を，仲間と育てて下さい。それを支援する授業を行います。３．スマホ，タブレット，ＰＣなどICTも活用しましょう。４．模擬授業を行う先生役と，模擬授業を受ける児童役かつ評価者役を行って頂きます

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニング：受け身の授業ではなく，先生役として模擬授業を担当したり，評価者役担当します。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習各時間とも，模擬授業の担当になる班があります。対面の授業の中から担当班を決めます。その班は，必ず，教科書を良く読み，事前にリハーサルを60分程度繰り返すことにより，当日の授業で規定の時間内に実施できるよう準備してください。学習指導案をともなった模擬授業を行いますので，授業の事前に，学習指導案をアップしてください。児童役を担当する受講生のみなさんは，模擬授業を行う班のパフォーマンスを評価する評価者の立場になって模擬授業のアドバイスができるように教科書および学習指導案を60分程度時間をかけて読み込んで来て

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
参加意欲　（模擬授業や課題提出等の平常点を含む）60%、振り返り（レフレクション課題を含む）40%　等で評価する。

＜教科書＞
川村　康文（2014）　理科教育法 独創力を伸ばす理科授業　講談社

＜参考書＞
文部科学省(2018.2.10)　小学校学習指導要領　https://www.mext.go.jp/content/20211020-mxt_kyoiku02-100002607_05.pdf

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	対面4月8日2030年のSDGｓ　2050年のカーボンニュートラル　理科教師や理科の授業は，次世代の子どもたちに何をつたえるのか？	対面4月8日初等理科（昨年度は自然の理解という名称）の授業を踏まえて，理科教育法では，模擬授業を中心に授業を進めます。どんなテーマで模擬授業をするのかを決めてもらいます。4人程度でひとつの班をくみます。対面の授業では，40分程度の模擬授業を行ってもらいます。（といっても，最初は40分のつもりが60分ぐらに伸びてしまうこともあります）。学習指導案をきちんと作って模擬授業をします。なお，ルールとして，ひとりだけで模擬授業はしない！班員全員が必ず模擬授業を分担して実施する。このルールを守って下さい。オンデマンド
2	対面4月15日模擬授業１模擬授業２	対面4月15日実験指導を交えた模擬授業を，実験を15分程度，相互反省を25分程度の40分程度の持ち時間で行います。実験に入る前に，小学校何年生のどの単元と既習事項を説明し，その流れの中で，実験指導の模擬授業を行ってもらいます。２つの班が、順番に行います。班の入れ替えは5分で行って下さい。
3	オンデマンド　4月22日教科書の実験「27．ストローウエーブマシンを作ろう」（pp.84-85）	オンデマンド　4月22日教科書の実験「27．ストローウエーブマシンを作ろう」（pp.84-85）を作って，実験動画（4秒以内程度）を各自アップして下さい。共同で実験してもいいですが，動画は必ず，一人ひとりあげて下さい。締め切り後は0点とな

		りますので注意して下さい。
4	オンデマンド4月29日教科書の実験「8．ホバークラフト」(pp.52-53)	オンデマンド4月29日教科書の実験「8．ホバークラフト」(pp.52-53)を各自作って，実験動画（4秒以内程度）を各自アップして下さい。CDやペットボトルキャップなどは，できるだけリサイクルして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
5	対面　5月13日模擬授業３模擬授業４	対面　5月13日実験指導を交えた模擬授業を，実験を15分程度，相互反省を25分程度の40分程度の持ち時間で行います。実験に入る前に，小学校何年生のどの単元と既習事項を説明し，その流れの中で，実験指導の模擬授業を行ってもらいます。２つの班が、順番に行います。班の入れ替えは5分で行って下さい。
6	オンデマンド5月20日教科書の実験「5．浮沈子」（pp.47－47）	オンデマンド5月20日教科書の実験「5．浮沈子」（pp.47－47)を各自作って，実験動画（4秒以内程度）を各自アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
7	対面　5月27日模擬授業５模擬授業６	対面　5月27日実験指導を交えた模擬授業を，実験を15分程度，相互反省を25分程度の40分程度の持ち時間で行います。実験に入る前に，小学校何年生のどの単元と既習事項を説明し，その流れの中で，実験指導の模擬授業を行ってもらいます。２つの班が、順番に行います。班の入れ替えは5分で行って下さい。
8	対面　6月3日模擬授業１模擬授業２	対面6月3日　実験指導を交えた模擬授業を，実験を15分程度，相互反省を25分程度の40分程度の持ち時間で行います。実験に入る前に，小学校何年生のどの単元と既習事項を説明し，その流れの中で，実験指導の模擬授業を行ってもらいます。２つの班が、順番に行います。班の入れ替えは5分で行って下さい。
9	オンデマンド　6月10日教科書の実験「88．イワシの解剖」（pp.204）	オンデマンド　6月10日教科書の実験「88．イワシの解剖」(pp.204）を各自行って，整理した写真（教科書を参考）を各自アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
10	対面6月17日模擬授業３模擬授業４	対面　6月17日実験指導を交えた模擬授業を，実験を15分程度，相互反省を25分程度の40分程度の持ち時間で行います。実験に入る前に，小学校何年生のどの単元と既習事項を説明し，その流れの中で，実験指導の模擬授業を行ってもらいます。２つの班が、順番に行います。班の入れ替えは5分で行って下さい。
11	オンデマンド6月24日教科書の実験「84．高分子吸収剤」（pp198-199）	オンデマンド6月24日教科書の実験「84．高分子吸収剤」(pp198-199)を各自行って，コップをひっくり返しても水ができてこない実験動画（4秒以内程度）を各自アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
12	対面7月1日模擬授業5模擬授業6	対面7月1日実験指導を交えた模擬授業を，実験を15分程度，相互反省を25分程度の40分程度の持ち時間で行います。実験に入る前に，小学校何年生のどの単元と既習事項を説明し，その流れの中で，実験指導の模擬授業を行ってもらいます。２つの班が、順番に行います。班の入れ替えは5分で行って下さい。
13	オンデマンド7月8日教科書の実験「108．耐震・免振・制振」(pp.232-233)の実験	オンデマンド7月8日教科書の実験「108．耐震・免振・制振」(pp.232-233)の実験を各自行って，耐震が有用とわかる実験動画(4秒以内程度)を各自アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
14	対面　7月15日　　リフレクション・まとめ	対面全体のふりかえりを行います。
15		
16		

科目コード	32306				区　分	コア科目			
授業科目名	家庭科教育法［週間オンデマンド＋対面］				担当者名	宮﨑　友美			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

家庭科における主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けた題材や授業構想について理解するとともに、指導案の作成と模擬授業の実施を通して、家庭科の指導を行うための知識、技能、態度などを身に付ける。具体的には教材観、児童観、教材の系統観、指導観について理解し、学習指導要領で求められている適切な題材の設定ができる力を養い、児童の学習活動や教師の支援 について具体的な計画を立て、教師としての資質を高め、自らの立てた指導案がより適切であったかについて探求し、模擬授業におけるＰＤＣＡを実施する。

＜授業の到達目標＞

母校の小学校の教育目標や目指す子供像を参考に、仮想の教育目標や目指す子供像を設定して3つの題材目標「知識・技能」「思考 力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」を定め、題材全体の指導を通してどのような子供を育成したいのか、子供た ちにどんな力を付けてやりたいかを考えて指導案を書くことができる。そして、その指導案で模擬授業を行い、模擬授業についてフ ィードバックし、考察と改善が図れる。

＜授業の方法＞

オンデマンド配信においては、パワーポイントを使って年間指導計画や題材指導計画、家庭科学習指導案の書き方、「A 家族・家庭生活」「B 衣食 住の生活」「C 消費生活・環境」などの内容について教授する。その後、夏季集中講義において、模擬授業を実施する。ディ スカッションやグループワーク等、アクティブ・ラーニングの要素を取り入れた授業を実施する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有　グループワーク、ディスカッション〇主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けて１単位時間の授業で大切にしたいこと ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善には，「題材など内容や時間のまとまりを見直す」ことが大切である。また，「主 体的・対話的で深い学びは，必ずしも１単位時間の授業の中で全て実現されるものではない」とあるように，１単位時間ごとの授業 実践を積み重ね，子供の学びの姿を丁寧に捉えていくことで，子供が自分の成長を自覚し，実践する喜びへとつながっていくようにする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

個人で作成した家庭科学習指導案をグループで共有し、グループでよりよい指導案を１つ考える。指導案が完成したら、それを基にグル ープでしっかり話し合い、必要な教材・教具を作って模擬授業の練習を行ったり、使用するワークシートや振り返りカードを作った りする。（必要な時間は、グループにより異なる。）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー３（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連 付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

模擬授業２０％、定期試験（レポートを含む）８０％とし、模擬授業ごとに、授業後すぐに指導案や授業態度、板書の仕方、発問等 について振り返りコメントを行う。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	現行の学習指導要領の具体的な内容について	・学習指導要領における家庭科の目標・内容
2	家庭科教育の歴史と現在	・家庭科教育の歴史的変遷・現代の家庭科教育の在り方
3	「A 家族・家庭生活」領域の内容理解	・家庭生活と仕事について教材研究
4	「B 衣食住の生活」領域の内容理解	・食生活分野について教材研究
5	「B 衣食住の生活」領域の内容理解	・衣生活・住生活分野の教材研究
6	「C 消費生活・環境」領域の内容理解	・環境に配慮した生活について教材研究
7	家庭科の授業設計について	・家庭科の年間指導計画・授業単元構想
8	家庭科の学習指導案の書き方と評価について	・学習指導案の構成と指導上の留意点・学習評価の目的と方法
9	学習指導案の作成の仕方（導入～展開）	・学習指導案の作成方法・学習指導案の作成
10	学習指導案の作成の仕方（展開～まとめ）	・学習指導案の作成方法・学習指導案の作成
11	模擬授業について話し合い	・グループに分かれて模擬授業について話し合い
12	模擬授業と授業観察・討議	・グループに分かれて模擬授業を実施
13	模擬授業と授業観察・討議	・グループに分かれて模擬授業を実施

14 15 16	模擬授業を通してのまとめ	・作成した指導案の見直し及び加筆・修正・振り返り

科目コード	32307				区　分	コア科目		
授業科目名	生活科教育法［FE2431組用］				担当者名	三堀　仁		
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
生活科は低学年児童の発達特性を踏まえた教科である。その指導にあたっては、児童の意識の流れを大切にしたり気付きの質を高めたりすることが求められる。「活動あって学びなし」の生活科に陥らないように、指導のポイントを把握することが重要である。本科目では、学習指導要領及び解説に示された事項を確認するとともに、具体的な授業場面を想定し、生活科の教育法を身に付けることを目指す。

＜授業の到達目標＞
生活科は低学年児童の発達の段階や特性を踏まえた上で見通しをもって学習指導を行わなければならない教科である。したがって以下の点を修得することを目指す。１．各内容やそれを扱う単元における授業のポイントを理解することができる。２．ICT機器を活用するなどして指導技術を身に付けることができる。３．模擬授業や研究協議を通して授業改善の方法を身に付けることができる。

＜授業の方法＞
教材研究の段階では、教員による内容の解説、授業づくりのポイントの指導を行う。その際、教科書のデジタルコンテンツを開き、実際に体験するとともに、児童に端末の使い方を教えられるようにする。また、デジタル生活科マップなどを紹介し、ICTの活用方法を考えることができるようにする。模擬授業の段階では、グループによる発表と、それを受けての研究協議、リフレクション(自己評価)を行う。発表グループ以外は授業評価を行うとともに、反省点を自分たちのグループに反映するようカリキュラム改善を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
毎回の授業の中で、グループ協議を行うようにする。またグループで指導案を作成し、役割分担しながら模擬授業を行うようにする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：課題として指示されたテキストのページに目を通し、疑問点は整理しておく（１時間程度）。復習：本時の授業内容について、整理したり理解を深めたりする（１時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習態度40%、学習状況30%、レポート等30%

＜教科書＞
田村学ほか　２０２４年　あたらしいせいかつ　上　東京書籍

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	生活科の指導のポイント	授業場面を例に教師の関わり方を考える。
2	生活科の学習指導①	指導と評価の一体化について理解する。
3	生活科の学習指導②	児童のカードをもとに「学ばせどころ」を考える。
4	ICTの活用	デジタル生活科マップの活用を考える。
5	生活科の授業の実際	生活科の授業場面を通して「気付き」について理解する。
6	学習指導案の書き方	生活科の学習指導案の書き方を理解する。
7	学習指導案の作成①	模擬授業に向けて生活科の学習指導案を作成する。
8	学習指導案の作成②	模擬授業に向けて生活科の学習指導案を作成する（本時案を中心に）。
9	模擬授業の準備	グループで模擬授業の準備をする。
10	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
11	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
12	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
13	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
14	生活科の授業記録　授業のまとめ	生活科の授業記録から授業の流れのポイントをつかむ。授業のまとめをする。
15		

16		

科目コード	32307				区　分	コア科目			
授業科目名	生活科教育法［FE2432組用］				担当者名	三堀　仁			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
生活科は低学年児童の発達特性を踏まえた教科である。その指導にあたっては、児童の意識の流れを大切にしたり気付きの質を高めたりすることが求められる。「活動あって学びなし」の生活科に陥らないように、指導のポイントを把握することが重要である。本科目では、学習指導要領及び解説に示された事項を確認するとともに、具体的な授業場面を想定し、生活科の教育法を身に付けることを目指す。

＜授業の到達目標＞
生活科は低学年児童の発達の段階や特性を踏まえた上で見通しをもって学習指導を行わなければならない教科である。したがって以下の点を修得することを目指す。１．各内容やそれを扱う単元における授業のポイントを理解することができる。２．ICT機器を活用するなどして指導技術を身に付けることができる。３．模擬授業や研究協議を通して授業改善の方法を身に付けることができる。

＜授業の方法＞
教材研究の段階では、教員による内容の解説、授業づくりのポイントの指導を行う。その際、教科書のデジタルコンテンツを開き、実際に体験するとともに、児童に端末の使い方を教えられるようにする。また、デジタル生活科マップなどを紹介し、ICTの活用方法を考えることができるようにする。模擬授業の段階では、グループによる発表と、それを受けての研究協議、リフレクション(自己評価)を行う。発表グループ以外は授業評価を行うとともに、反省点を自分たちのグループに反映するようカリキュラム改善を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
毎回の授業の中で、グループ協議を行うようにする。またグループで指導案を作成し、役割分担しながら模擬授業を行うようにする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：課題として指示されたテキストのページに目を通し、疑問点は整理しておく（１時間程度）。復習：本時の授業内容について、整理したり理解を深めたりする（１時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習態度40%、学習状況30%、レポート等30%

＜教科書＞
田村学ほか　２０２４年　あたらしいせいかつ　上　東京書籍

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	生活科の指導のポイント	授業場面を例に教師の関わり方を考える。
2	生活科の学習指導①	指導と評価の一体化について理解する。
3	生活科の学習指導②	児童のカードをもとに「学ばせどころ」を考える。
4	ICTの活用	デジタル生活科マップの活用方法を考える。
5	生活科の授業の実際	生活科の授業場面を通して「気付き」について理解する。
6	学習指導案の書き方	生活科の学習指導案の書き方を理解する。
7	学習指導案の作成①	模擬授業に向けて生活科の学習指導案を作成する。
8	学習指導案の作成②	模擬授業に向けて生活科の学習指導案を作成する（本時案を中心に）。
9	模擬授業の準備	グループで模擬授業の準備をする。
10	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
11	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
12	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
13	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
14	生活科の授業記録　授業のまとめ	生活科の授業記録から授業の流れのポイントをつかむ。授業のまとめをする。
15		

16		

科目コード	32307				区　分	コア科目		
授業科目名	生活科教育法［FE2433組用］				担当者名	三堀　仁		
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
生活科は低学年児童の発達特性を踏まえた教科である。その指導にあたっては、児童の意識の流れを大切にしたり気付きの質を高めたりすることが求められる。「活動あって学びなし」の生活科に陥らないように、指導のポイントを把握することが重要である。本科目では、学習指導要領及び解説に示された事項を確認するとともに、具体的な授業場面を想定し、生活科の教育法を身に付けることを目指す。

＜授業の到達目標＞
生活科は低学年児童の発達の段階や特性を踏まえた上で見通しをもって学習指導を行わなければならない教科である。したがって以下の点を修得することを目指す。１．各内容やそれを扱う単元における授業のポイントを理解することができる。２．ICT機器を活用するなどして指導技術を身に付けることができる。３．模擬授業や研究協議を通して授業改善の方法を身に付けることができる。

＜授業の方法＞
教材研究の段階では、教員による内容の解説、授業づくりのポイントの指導を行う。その際、教科書のデジタルコンテンツを開き、実際に体験するとともに、児童に端末の使い方を教えられるようにする。また、デジタル生活科マップなどを紹介し、ICTの活用方法を考えることができるようにする。模擬授業の段階では、グループによる発表と、それを受けての研究協議、リフレクション(自己評価)を行う。発表グループ以外は授業評価を行うとともに、反省点を自分たちのグループに反映するようカリキュラム改善を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
毎回の授業の中で、グループ協議を行うようにする。またグループで指導案を作成し、役割分担しながら模擬授業を行うようにする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：課題として指示されたテキストのページに目を通し、疑問点は整理しておく（１時間程度）。復習：本時の授業内容について、整理したり理解を深めたりする（１時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習態度40%、学習状況30%、レポート等30%

＜教科書＞
田村学ほか　２０２４年　あたらしいせいかつ　上　東京書籍

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	生活科の指導のポイント	授業場面を例に教師の関わり方を考える。
2	生活科の学習指導①	指導と評価の一体化について理解する。
3	生活科の学習指導②	児童のカードをもとに「学ばせどころ」を考える。
4	ICTの活用	デジタル生活科マップの活用方法を考える。
5	生活科の授業の実際	生活科の授業場面を通して「気付き」について理解する。
6	学習指導案の書き方	生活科の学習指導案の書き方を理解する。
7	学習指導案の作成①	模擬授業に向けて生活科の学習指導案を作成する。
8	学習指導案の作成②	模擬授業に向けて生活科の学習指導案を作成する（本時案を中心に）。
9	模擬授業の準備	グループで模擬授業の準備をする。
10	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
11	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
12	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
13	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
14	生活科の授業記録　授業のまとめ	生活科の授業記録から授業の流れのポイントをつかむ。授業のまとめをする。
15		

16		

科目コード	32307				区　分	コア科目			
授業科目名	生活科教育法［他学科A］				担当者名	三堀　仁			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
生活科は低学年児童の発達特性を踏まえた教科である。その指導にあたっては、児童の意識の流れを大切にしたり気付きの質を高めたりすることが求められる。「活動あって学びなし」の生活科に陥らないように、指導のポイントを把握することが重要である。本科目では、学習指導要領及び解説に示された事項を確認するとともに、具体的な授業場面を想定し、生活科の教育法を身に付けることを目指す。

＜授業の到達目標＞
生活科は低学年児童の発達の段階や特性を踏まえた上で見通しをもって学習指導を行わなければならない教科である。したがって以下の点を修得することを目指す。１．各内容やそれを扱う単元における授業のポイントを理解することができる。２．ICT機器を活用するなどして指導技術を身に付けることができる。３．模擬授業や研究協議を通して授業改善の方法を身に付けることができる。

＜授業の方法＞
教材研究の段階では、教員による内容の解説、授業づくりのポイントの指導を行う。その際、教科書のデジタルコンテンツを開き、実際に体験するとともに、児童に端末の使い方を教えられるようにする。また、デジタル生活科マップなどを紹介し、ICTの活用方法を考えることができるようにする。模擬授業の段階では、グループによる発表と、それを受けての研究協議、リフレクション(自己評価)を行う。発表グループ以外は授業評価を行うとともに、反省点を自分たちのグループに反映するようカリキュラム改善を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
毎回の授業の中で、グループ協議を行うようにする。またグループで指導案を作成し、役割分担しながら模擬授業を行うようにする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：課題として指示されたテキストのページに目を通し、疑問点は整理しておく（１時間程度）。復習：本時の授業内容について、整理したり理解を深めたりする（１時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習態度40%、学習状況30%、レポート等30%

＜教科書＞
田村学ほか　２０２４年　あたらしいせいかつ　上　東京書籍

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	生活科の指導のポイント	授業場面を例に教師の関わり方を考える。
2	生活科の学習指導①	指導と評価の一体化について理解する。
3	生活科の学習指導②	児童のカードをもとに「学ばせどころ」を考える。
4	ICTの活用	デジタル生活科マップの活用方法を考える。
5	生活科の授業の実際	生活科の授業場面を通して「気付き」について理解する。
6	学習指導案の書き方	生活科の学習指導案の書き方を理解する。
7	学習指導案の作成①	模擬授業に向けて生活科の学習指導案を作成する。
8	学習指導案の作成②	模擬授業に向けて生活科の学習指導案を作成する（本時案を中心に）。
9	模擬授業の準備	グループで模擬授業の準備をする。
10	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
11	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
12	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
13	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
14	生活科の授業記録　授業のまとめ	生活科の授業記録から授業の流れのポイントをつかむ。授業のまとめをする。
15		

16		

科目コード	32307				区　分	コア科目			
授業科目名	生活科教育法［他学科B］				担当者名	三堀　仁			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
生活科は低学年児童の発達特性を踏まえた教科である。その指導にあたっては、児童の意識の流れを大切にしたり気付きの質を高めたりすることが求められる。「活動あって学びなし」の生活科に陥らないように、指導のポイントを把握することが重要である。本科目では、学習指導要領及び解説に示された事項を確認するとともに、具体的な授業場面を想定し、生活科の教育法を身に付けることを目指す。

＜授業の到達目標＞
生活科は低学年児童の発達の段階や特性を踏まえた上で見通しをもって学習指導を行わなければならない教科である。したがって以下の点を修得することを目指す。１．各内容やそれを扱う単元における授業のポイントを理解することができる。２．ICT機器を活用するなどして指導技術を身に付けることができる。３．模擬授業や研究協議を通して授業改善の方法を身に付けることができる。

＜授業の方法＞
教材研究の段階では、教員による内容の解説、授業づくりのポイントの指導を行う。その際、教科書のデジタルコンテンツを開き、実際に体験するとともに、児童に端末の使い方を教えられるようにする。また、デジタル生活科マップなどを紹介し、ICTの活用方法を考えることができるようにする。模擬授業の段階では、グループによる発表と、それを受けての研究協議、リフレクション(自己評価)を行う。発表グループ以外は授業評価を行うとともに、反省点を自分たちのグループに反映するようカリキュラム改善を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
毎回の授業の中で、グループ協議を行うようにする。またグループで指導案を作成し、役割分担しながら模擬授業を行うようにする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：課題として指示されたテキストのページに目を通し、疑問点は整理しておく（１時間程度）。復習：本時の授業内容について、整理したり理解を深めたりする（１時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習態度40%、学習状況30%、レポート等30%

＜教科書＞
田村学ほか　２０２４年　あたらしいせいかつ　上　東京書籍

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	生活科の指導のポイント	授業場面を例に教師の関わり方を考える。
2	生活科の学習指導①	指導と評価の一体化について理解する。
3	生活科の学習指導②	児童のカードをもとに「学ばせどころ」を考える。
4	ICTの活用	デジタル生活科マップの活用方法を考える。
5	生活科の授業の実際	生活科の授業場面を通して「気付き」について理解する。
6	学習指導案の書き方	生活科の学習指導案の書き方を理解する。
7	学習指導案の作成①	模擬授業に向けて生活科の学習指導案を作成する。
8	学習指導案の作成②	模擬授業に向けて生活科の学習指導案を作成する（本時案を中心に）。
9	模擬授業の準備	グループで模擬授業の準備をする。
10	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
11	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
12	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
13	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
14	生活科の授業記録　授業のまとめ	生活科の授業記録から授業の流れのポイントをつかむ。授業のまとめをする。
15		

16		

科目コード	32308				区　分	コア科目			
授業科目名	体育科教育法［FE2431組用］				担当者名	中安　翼			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
これから求められる小学校の体育について考えを深めるとともに、授業を行う上での基本的な指導方法を学ぶ。教室でディスカッションをしたり、実際に体育館で体を動かしたり、模擬授業を行ったりしながら進めていく。※ただし、受講者の様子等によって下記の授業計画については随時変更することがある。

＜授業の到達目標＞
1.「体育科」の意義や目標を正しく理解し、小学校の体育授業を思考する基礎的知識を説明できる。2. 学習指導要領に基づき、児童の実態に即した安全で効果的な体育授業をデザインし、指導案を作成できる。3. 模擬授業とその後の協議を通し、授業の成果と課題を客観的に分析した上で、具体的な授業改善案を提示・実践できる。

＜授業の方法＞
教室でのディスカッションや体育館での実践、模擬授業を通して学びを深める。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループでのディスカッション、指導案作成、模擬授業

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：（適宜）教科書や配付資料等を事前に熟読し、講義で扱うテーマについて自己の考えをまとめた上で講義に臨む。
復習：（適宜）講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートを作成し提出する。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
講義・ディスカッション・実技等に対する関心・意欲・態度　５０％レポート・模擬授業等　５０％

＜教科書＞
文部科学省（平成29年７月）　小学校学習指導要領〈平成29年度告示〉解説 体育編　東洋館出版社

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション（講義）	授業の概要授業の進め方自らが受けてきた小学校体育
2	小学校体育って何を学ぶ教科？（講義）	小学校で体育を学ぶ意味や目的について考える
3	小学校体育の授業構成（講義）	体育授業の基本的な構成を考える
4	学習指導要領を理解しよう（オンデマンド）	小学校学習指導要領体育編の内容を理解する
5	体育授業を味わおう	子供の視点と共に、指導者側の視点を意識しながら体育の授業を体験する
6	体育授業における「導入」と「めあて」（実技）	導入やめあての立て方を実際にやってみながら考える
7	体育授業における「活動設定」と「活動の説明」（実技）	活動の設定や活動の説明を実際にやってみながら考える
8	体育授業における「活動中の声かけ」と「共有」（実技）	体育授業における活動中の声かけや共有の仕方について実際にやってみながら考える
9	体育授業の教材研究をしよう（講義）	資料をもとに体育授業の教材研究の仕方を考える
10	体育授業の教材研究をしよう（実技）	実際に体を動かしながら体育授業の内容を考える
11	模擬授業をやってみよう①	模擬授業を行い、授業の成果と課題について考える
12	模擬授業をやってみよう②	模擬授業を行い、授業の成果と課題について考える
13	模擬授業をやってみよう③	模擬授業を行い、授業の成果と課題について考える
14	まとめ（講義）	これまでの授業で学んだことを振り返り、小学校体育の授業づくりについて自分の考えをまとめる
15		
16		

科目コード	32308				区　分	コア科目			
授業科目名	体育科教育法［FE2432組用］				担当者名	中安　翼			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
これから求められる小学校の体育について考えを深めるとともに、授業を行う上での基本的な指導方法を学ぶ。教室でディスカッションをしたり、実際に体育館で体を動かしたり、模擬授業を行ったりしながら進めていく。※ただし、受講者の様子等によって下記の授業計画については随時変更することがある。

＜授業の到達目標＞
1.「体育科」の意義や目標を正しく理解し、小学校の体育授業を思考する基礎的知識を説明できる。2. 学習指導要領に基づき、児童の実態に即した安全で効果的な体育授業をデザインし、指導案を作成できる。3. 模擬授業とその後の協議を通し、授業の成果と課題を客観的に分析した上で、具体的な授業改善案を提示・実践できる。

＜授業の方法＞
教室でのディスカッションや体育館での実践、模擬授業を通して学びを深める。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループでのディスカッション、指導案作成、模擬授業

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：（適宜）教科書や配付資料等を事前に熟読し、講義で扱うテーマについて自己の考えをまとめた上で講義に臨む。
復習：（適宜）講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートを作成し提出する。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
講義・ディスカッション・実技等に対する関心・意欲・態度　５０％レポート・模擬授業等　５０％

＜教科書＞
文部科学省（平成29年７月）　小学校学習指導要領〈平成29年度告示〉解説 体育編　東洋館出版社

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション（講義）	授業の概要授業の進め方自らが受けてきた小学校体育
2	小学校体育って何を学ぶ教科？（講義）	小学校で体育を学ぶ意味や目的について考える
3	小学校体育の授業構成（講義）	体育授業の基本的な構成を考える
4	学習指導要領を理解しよう（オンデマンド）	小学校学習指導要領体育編の内容を理解する
5	体育授業を味わおう	子供の視点と共に、指導者側の視点を意識しながら体育の授業を体験する
6	体育授業における「導入」と「めあて」（実技）	導入やめあての立て方を実際にやってみながら考える
7	体育授業における「活動設定」と「活動の説明」（実技）	活動の設定や活動の説明を実際にやってみながら考える
8	体育授業における「活動中の声かけ」と「共有」（実技）	体育授業における活動中の声かけや共有の仕方について実際にやってみながら考える
9	体育授業の教材研究をしよう（講義）	資料をもとに体育授業の教材研究の仕方を考える
10	体育授業の教材研究をしよう（実技）	実際に体を動かしながら体育授業の内容を考える
11	模擬授業をやってみよう①	模擬授業を行い、授業の成果と課題について考える
12	模擬授業をやってみよう②	模擬授業を行い、授業の成果と課題について考える
13	模擬授業をやってみよう③	模擬授業を行い、授業の成果と課題について考える
14	まとめ（講義）	これまでの授業で学んだことを振り返り、小学校体育の授業づくりについて自分の考えをまとめる
15		
16		

科目コード	32308				区　分	コア科目			
授業科目名	体育科教育法［FE2433組用］				担当者名	中安　翼			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
これから求められる小学校の体育について考えを深めるとともに、授業を行う上での基本的な指導方法を学ぶ。教室でディスカッションをしたり、実際に体育館で体を動かしたり、模擬授業を行ったりしながら進めていく。※ただし、受講者の様子等によって下記の授業計画については随時変更することがある。

＜授業の到達目標＞
1.「体育科」の意義や目標を正しく理解し、小学校の体育授業を思考する基礎的知識を説明できる。2. 学習指導要領に基づき、児童の実態に即した安全で効果的な体育授業をデザインし、指導案を作成できる。3. 模擬授業とその後の協議を通し、授業の成果と課題を客観的に分析した上で、具体的な授業改善案を提示・実践できる。

＜授業の方法＞
教室でのディスカッションや体育館での実践、模擬授業を通して学びを深める。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループでのディスカッション、指導案作成、模擬授業

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：（適宜）教科書や配付資料等を事前に熟読し、講義で扱うテーマについて自己の考えをまとめた上で講義に臨む。
復習：（適宜）講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートを作成し提出する。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
講義・ディスカッション・実技等に対する関心・意欲・態度　５０％レポート・模擬授業等　５０％

＜教科書＞
文部科学省（平成29年７月）　小学校学習指導要領〈平成29年度告示〉解説 体育編　東洋館出版社

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション（講義）	授業の概要授業の進め方自らが受けてきた小学校体育
2	小学校体育って何を学ぶ教科？（講義）	小学校で体育を学ぶ意味や目的について考える
3	小学校体育の授業構成（講義）	体育授業の基本的な構成を考える
4	学習指導要領を理解しよう（オンデマンド）	小学校学習指導要領体育編の内容を理解する
5	体育授業を味わおう	子供の視点と共に、指導者側の視点を意識しながら体育の授業を体験する
6	体育授業における「導入」と「めあて」（実技）	導入やめあての立て方を実際にやってみながら考える
7	体育授業における「活動設定」と「活動の説明」（実技）	活動の設定や活動の説明を実際にやってみながら考える
8	体育授業における「活動中の声かけ」と「共有」（実技）	体育授業における活動中の声かけや共有の仕方について実際にやってみながら考える
9	体育授業の教材研究をしよう（講義）	資料をもとに体育授業の教材研究の仕方を考える
10	体育授業の教材研究をしよう（実技）	実際に体を動かしながら体育授業の内容を考える
11	模擬授業をやってみよう①	模擬授業を行い、授業の成果と課題について考える
12	模擬授業をやってみよう②	模擬授業を行い、授業の成果と課題について考える
13	模擬授業をやってみよう③	模擬授業を行い、授業の成果と課題について考える
14	まとめ（講義）	これまでの授業で学んだことを振り返り、小学校体育の授業づくりについて自分の考えをまとめる
15		
16		

科目コード	32308				区　分	コア科目			
授業科目名	体育科教育法［他学科］				担当者名	中安　翼			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
これから求められる小学校の体育について考えを深めるとともに、授業を行う上での基本的な指導方法を学ぶ。教室でディスカッションをしたり、実際に体育館で体を動かしたり、模擬授業を行ったりしながら進めていく。※ただし、受講者の様子等によって下記の授業計画については随時変更することがある。

＜授業の到達目標＞
1.「体育科」の意義や目標を正しく理解し、小学校の体育授業を思考する基礎的知識を説明できる。2. 学習指導要領に基づき、児童の実態に即した安全で効果的な体育授業をデザインし、指導案を作成できる。3. 模擬授業とその後の協議を通し、授業の成果と課題を客観的に分析した上で、具体的な授業改善案を提示・実践できる。

＜授業の方法＞
教室でのディスカッションや体育館での実践、模擬授業を通して学びを深める。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループでのディスカッション、指導案作成、模擬授業

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：（適宜）教科書や配付資料等を事前に熟読し、講義で扱うテーマについて自己の考えをまとめた上で講義に臨む。
復習：（適宜）講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートを作成し提出する。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
講義・ディスカッション・実技等に対する関心・意欲・態度　５０％レポート・模擬授業等　５０％

＜教科書＞
文部科学省（平成29年７月）　小学校学習指導要領〈平成29年度告示〉解説 体育編　東洋館出版社

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション（講義）	授業の概要授業の進め方自らが受けてきた小学校体育
2	小学校体育って何を学ぶ教科？（講義）	小学校で体育を学ぶ意味や目的について考える
3	小学校体育の授業構成（講義）	体育授業の基本的な構成を考える
4	小学校の体育をやってみよう（実技）	子供の視点と共に、指導者側の視点を意識しながら体育の授業を体験する
5	体育授業における「導入」と「めあて」（実技）	導入やめあての立て方を実際にやってみながら考える
6	体育授業における「活動設定」と「活動の説明」（実技）	活動の設定や活動の説明を実際にやってみながら考える
7	体育授業における「活動中の声かけ」と「共有」（実技）	体育授業における活動中の声かけや共有の仕方について実際にやってみながら考える
8	体育授業の教材研究をしよう（講義）	資料をもとに体育授業の教材研究の仕方を考える
9	体育授業の教材研究をしよう（実技）	実際に体を動かしながら体育授業の内容を考える
10	模擬授業をやってみよう①	模擬授業を行い、授業の成果と課題について考える
11	模擬授業をやってみよう②	模擬授業を行い、授業の成果と課題について考える
12	模擬授業をやってみよう③	模擬授業を行い、授業の成果と課題について考える
13	体育授業における「まとめ」（講義）　※ただし、模擬授業が終わっていない場合は模擬授業	体育授業におけるまとめの仕方について実際にやってみながら考える
14	まとめ（講義）	これまでの授業で学んだことを振り返り、小学校体育の授業づくりについて自分の考えをまとめる
15		
16		

科目コード	32312				区　分	コア科目		
授業科目名	図画工作科教育法［FE2431組用］				担当者名	村上　尚徳		
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業では、図画工作科の目標、内容、指導法及び評価について理解するとともに、子どもの視点に立った教材開発・カリキュラム編成の理論と方法を習得する。また、グループによる主体的で対話的な深い学びにつながる活動やICTの活用など、指導法の工夫等も取り入れ、最終的には模擬授業の計画、実施を通して、授業を構築し実践する力の育成を目指す。

＜授業の到達目標＞
１．図画工作科における教育目標、育成する資質・能力等を理解し、学習指導要領に示された学習内容について、美術や美術文化などの関連も含めて理解を深めることができる。２．学習指導理論や実践例等を踏まえて、子どもの視点に立った教材開発、カリキュラム編成、授業計画の作成、教材機器の活用等と実践方法を習得することができる。

＜授業の方法＞
１．資料や事例、製作体験に基づく講義と協議。２．表現や鑑賞の体験を基にした学習指導要領における位置付け等の理解。３．グループによる模擬授業の検討、教材作成、授業の実施（PowerPoint等の活用）、及び全体協議。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループでの制作活動、鑑賞活動

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業前は、指示された資料を事前に予習したり、準備物（材料、用具等）を準備したりすること（１時間程度）。授業後は、配布された資料を復習したり、授業内に課題が完成しなかった場合は、次回までに完成させること。また、授業内容に応じて、classroomなどでふり返りのレポートを提出すること（１時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
作品及びレポート・小テスト等 80%、授業への積極的参加態度 20%

＜教科書＞
文部科学省（2018）　「小学校学習指導要領解説図画工作編」　日本文教出版

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	図画工作科の意義	図画工作科の意義と課題
2	教科の目標と内容の概要	学習指導要領の構成と内容の理解
3	材料をもとにした造形遊び(1)	共同製作（グループ活動）
4	材料をもとにした造形遊び(2)	「材料を基にした造形遊び」の理解
5	絵や立体、工作に表す(1)	子どもの発達と絵・「絵や立体、工作に表す」の理解
6	絵や立体、工作に表す(2)	絵に関する作品製作1
7	絵や立体、工作に表す(3)	絵に関する作品製作2
8	鑑賞	「鑑賞」の理解と対話による学び（グループ活動）
9	カリキュラムと授業の構想、評価	学習指導と評価
10	学習指導案の理解	学習指導案の書き方
11	教材研究	題材開発、機器の利用、学習指導案の作成（グループ活動）
12	模擬授業(1)	模擬授業の実施と協議(グループ１)※学生のICT活用
13	模擬授業(2)	模擬授業の実施と協議(グループ2)　※学生のICT活用
14	模擬授業(3)	模擬授業の実施と協議(グループ3)　※学生のICT活用
15		
16		

科目コード	32312				区　分	コア科目		
授業科目名	図画工作科教育法［FE2432組用］				担当者名	村上　尚徳		
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業では、図画工作科の目標、内容、指導法及び評価について理解するとともに、子どもの視点に立った教材開発・カリキュラム編成の理論と方法を習得する。また、グループによる主体的で対話的な深い学びにつながる活動やICTの活用など、指導法の工夫等も取り入れ、最終的には模擬授業の計画、実施を通して、授業を構築し実践する力の育成を目指す。

＜授業の到達目標＞
１．図画工作科における教育目標、育成する資質・能力等を理解し、学習指導要領に示された学習内容について、美術や美術文化などの関連も含めて理解を深めることができる。２．学習指導理論や実践例等を踏まえて、子どもの視点に立った教材開発、カリキュラム編成、授業計画の作成、教材機器の活用等と実践方法を習得することができる。

＜授業の方法＞
１．資料や事例、製作体験に基づく講義と協議。２．表現や鑑賞の体験を基にした学習指導要領における位置付け等の理解。３．グループによる模擬授業の検討、教材作成、授業の実施（PowerPoint等の活用）、及び全体協議。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループでの制作活動、鑑賞活動

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業前は、指示された資料を事前に予習したり、準備物（材料、用具等）を準備したりすること（１時間程度）。授業後は、配布された資料を復習したり、授業内に課題が完成しなかった場合は、次回までに完成させること。また、授業内容に応じて、classroomなどでふり返りのレポートを提出すること（１時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
作品及びレポート・小テスト等 80%、授業への積極的参加態度 20%

＜教科書＞
文部科学省（2018）　「小学校学習指導要領解説図画工作編」　日本文教出版

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	図画工作科の意義	図画工作科の意義と課題
2	教科の目標と内容の概要	学習指導要領の構成と内容の理解
3	材料をもとにした造形遊び(1)	共同製作（グループ活動）
4	材料をもとにした造形遊び(2)	「材料を基にした造形遊び」の理解
5	絵や立体、工作に表す(1)	子どもの発達と絵・「絵や立体、工作に表す」の理解
6	絵や立体、工作に表す(2)	絵に関する作品製作1
7	絵や立体、工作に表す(3)	絵に関する作品製作2
8	鑑賞	「鑑賞」の理解と対話による学び（グループ活動）
9	カリキュラムと授業の構想、評価	学習指導と評価
10	学習指導案の理解	学習指導案の書き方
11	教材研究	題材開発、機器の利用、学習指導案の作成（グループ活動）
12	模擬授業(1)	模擬授業の実施と協議(グループ１)※学生のICT活用
13	模擬授業(2)	模擬授業の実施と協議(グループ2)　※学生のICT活用
14	模擬授業(3)	模擬授業の実施と協議(グループ3)　※学生のICT活用
15		
16		

科目コード	32312				区　分	コア科目		
授業科目名	図画工作科教育法［FE2433組用］				担当者名	村上　尚徳		
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業では、図画工作科の目標、内容、指導法及び評価について理解するとともに、子どもの視点に立った教材開発・カリキュラム編成の理論と方法を習得する。また、グループによる主体的で対話的な深い学びにつながる活動やICTの活用など、指導法の工夫等も取り入れ、最終的には模擬授業の計画、実施を通して、授業を構築し実践する力の育成を目指す。

＜授業の到達目標＞
１．図画工作科における教育目標、育成する資質・能力等を理解し、学習指導要領に示された学習内容について、美術や美術文化などの関連も含めて理解を深めることができる。２．学習指導理論や実践例等を踏まえて、子どもの視点に立った教材開発、カリキュラム編成、授業計画の作成、教材機器の活用等と実践方法を習得することができる。

＜授業の方法＞
１．資料や事例、製作体験に基づく講義と協議。２．表現や鑑賞の体験を基にした学習指導要領における位置付け等の理解。３．グループによる模擬授業の検討、教材作成、授業の実施（PowerPoint等の活用）、及び全体協議。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループでの制作活動、鑑賞活動

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業前は、指示された資料を事前に予習したり、準備物（材料、用具等）を準備したりすること（１時間程度）。授業後は、配布された資料を復習したり、授業内に課題が完成しなかった場合は、次回までに完成させること。また、授業内容に応じて、classroomなどでふり返りのレポートを提出すること（１時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
作品及びレポート・小テスト等 80%、授業への積極的参加態度 20%

＜教科書＞
文部科学省（2018）　「小学校学習指導要領解説図画工作編」　日本文教出版

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	図画工作科の意義	図画工作科の意義と課題
2	教科の目標と内容の概要	学習指導要領の構成と内容の理解
3	材料をもとにした造形遊び(1)	共同製作（グループ活動）
4	材料をもとにした造形遊び(2)	「材料を基にした造形遊び」の理解
5	絵や立体、工作に表す(1)	子どもの発達と絵・「絵や立体、工作に表す」の理解
6	絵や立体、工作に表す(2)	絵に関する作品製作1
7	絵や立体、工作に表す(3)	絵に関する作品製作2
8	鑑賞	「鑑賞」の理解と対話による学び（グループ活動）
9	カリキュラムと授業の構想、評価	学習指導と評価
10	学習指導案の理解	学習指導案の書き方
11	教材研究	題材開発、機器の利用、学習指導案の作成（グループ活動）
12	模擬授業(1)	模擬授業の実施と協議(グループ１)※学生のICT活用
13	模擬授業(2)	模擬授業の実施と協議(グループ2)　※学生のICT活用
14	模擬授業(3)	模擬授業の実施と協議(グループ3)　※学生のICT活用
15		
16		

科目コード	32312				区　分	コア科目		
授業科目名	図画工作科教育法［他学科A］				担当者名	村上　尚徳		
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業では、図画工作科の目標、内容、指導法及び評価について理解するとともに、子どもの視点に立った教材開発・カリキュラム編成の理論と方法を習得する。また、グループによる主体的で対話的な深い学びにつながる活動やICTの活用など、指導法の工夫等も取り入れ、最終的には模擬授業の計画、実施を通して、授業を構築し実践する力の育成を目指す。

＜授業の到達目標＞
１．図画工作科における教育目標、育成する資質・能力等を理解し、学習指導要領に示された学習内容について、美術や美術文化などの関連も含めて理解を深めることができる。２．学習指導理論や実践例等を踏まえて、子どもの視点に立った教材開発、カリキュラム編成、授業計画の作成、教材機器の活用等と実践方法を習得することができる。

＜授業の方法＞
１．資料や事例、製作体験に基づく講義と協議。２．表現や鑑賞の体験を基にした学習指導要領における位置付け等の理解。３．グループによる模擬授業の検討、教材作成、授業の実施（PowerPoint等の活用）、及び全体協議。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループでの制作活動、鑑賞活動

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業前は、指示された資料を事前に予習したり、準備物（材料、用具等）を準備したりすること（１時間程度）。授業後は、配布された資料を復習したり、授業内に課題が完成しなかった場合は、次回までに完成させること。また、授業内容に応じて、classroomなどでふり返りのレポートを提出すること（１時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
作品及びレポート・小テスト等 80%、授業への積極的参加態度 20%

＜教科書＞
文部科学省（2018）　「小学校学習指導要領解説図画工作編」　日本文教出版

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	図画工作科の意義	図画工作科の意義と課題
2	教科の目標と内容の概要	学習指導要領の構成と内容の理解
3	材料をもとにした造形遊び(1)	共同製作（グループ活動）
4	材料をもとにした造形遊び(2)	「材料を基にした造形遊び」の理解
5	絵や立体、工作に表す(1)	子どもの発達と絵・「絵や立体、工作に表す」の理解
6	絵や立体、工作に表す(2)	絵に関する作品製作1
7	絵や立体、工作に表す(3)	絵に関する作品製作2
8	鑑賞	「鑑賞」の理解と対話による学び（グループ活動）
9	カリキュラムと授業の構想、評価	学習指導と評価
10	学習指導案の理解	学習指導案の書き方
11	教材研究	題材開発、機器の利用、学習指導案の作成（グループ活動）
12	模擬授業(1)	模擬授業の実施と協議(グループ１)※学生のICT活用
13	模擬授業(2)	模擬授業の実施と協議(グループ2)　※学生のICT活用
14	模擬授業(3)	模擬授業の実施と協議(グループ3)　※学生のICT活用
15		
16		

科目コード	32312				区　分	コア科目		
授業科目名	図画工作科教育法［他学科B］				担当者名	村上　尚徳		
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業では、図画工作科の目標、内容、指導法及び評価について理解するとともに、子どもの視点に立った教材開発・カリキュラム編成の理論と方法を習得する。また、グループによる主体的で対話的な深い学びにつながる活動やICTの活用など、指導法の工夫等も取り入れ、最終的には模擬授業の計画、実施を通して、授業を構築し実践する力の育成を目指す。

＜授業の到達目標＞
１．図画工作科における教育目標、育成する資質・能力等を理解し、学習指導要領に示された学習内容について、美術や美術文化などの関連も含めて理解を深めることができる。２．学習指導理論や実践例等を踏まえて、子どもの視点に立った教材開発、カリキュラム編成、授業計画の作成、教材機器の活用等と実践方法を習得することができる。

＜授業の方法＞
１．資料や事例、製作体験に基づく講義と協議。２．表現や鑑賞の体験を基にした学習指導要領における位置付け等の理解。３．グループによる模擬授業の検討、教材作成、授業の実施（PowerPoint等の活用）、及び全体協議。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループでの制作活動、鑑賞活動

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業前は、指示された資料を事前に予習したり、準備物（材料、用具等）を準備したりすること（１時間程度）。授業後は、配布された資料を復習したり、授業内に課題が完成しなかった場合は、次回までに完成させること。また、授業内容に応じて、classroomなどでふり返りのレポートを提出すること（１時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
作品及びレポート・小テスト等 80%、授業への積極的参加態度 20%

＜教科書＞
文部科学省（2018）　「小学校学習指導要領解説図画工作編」　日本文教出版

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	図画工作科の意義	図画工作科の意義と課題
2	教科の目標と内容の概要	学習指導要領の構成と内容の理解
3	材料をもとにした造形遊び(1)	共同製作（グループ活動）
4	材料をもとにした造形遊び(2)	「材料を基にした造形遊び」の理解
5	絵や立体、工作に表す(1)	子どもの発達と絵・「絵や立体、工作に表す」の理解
6	絵や立体、工作に表す(2)	絵に関する作品製作1
7	絵や立体、工作に表す(3)	絵に関する作品製作2
8	鑑賞	「鑑賞」の理解と対話による学び（グループ活動）
9	カリキュラムと授業の構想、評価	学習指導と評価
10	学習指導案の理解	学習指導案の書き方
11	教材研究	題材開発、機器の利用、学習指導案の作成（グループ活動）
12	模擬授業(1)	模擬授業の実施と協議(グループ１)※学生のICT活用
13	模擬授業(2)	模擬授業の実施と協議(グループ2)　※学生のICT活用
14	模擬授業(3)	模擬授業の実施と協議(グループ3)　※学生のICT活用
15		
16		

科目コード	32313				区　分	コア科目			
授業科目名	小学校英語科教育法［FE2431組用］				担当者名	羽田　あずさ			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
小学校外国語活動・外国語科の授業映像の視聴、学生が児童の立場での授業体験、学習指導要領などを通して、小学校における外国語教育の意義や学習指導要領に謳われている理念及び学習評価について学ぶ。また、児童期の第二言語習得の特徴についての理解を深め、聞く・話す・読む・書くの4技能における教材・教具について知り、指導技術を身に付ける。グループや全体での多様な形式の模擬授業を行い、基本的な指導技術を身に付けるとともに、ピアフィードバックやディスカッションを通して授業改善する態度を身に付ける。

＜授業の到達目標＞
外国語活動・外国語科の授業を行うための資質・能力及び基本的な指導力を次の通り育成することを目指す。１．　小学校課程における外国語教育の意義について、全人教育、国際教育の視点も含めて理解することができる。２．　学習指導要領に謳われている理念（目標や育成を目指す資質・能力）及び学習評価の在り方について理解することができる。３．　児童期の第二言語習得の特徴について理解するとともに、他教科連携や児童の実態に応じた指導計画を立案及び教材開発し、授業実践を行う技能を身に付けることができる。４．　ICTを効果的に活用し

＜授業の方法＞
・授業体験、授業映像視聴・講義（教員による解説と問いの提示）・ピアフィードバック、ディスカッション・マイクロティーチング、模擬授業

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング（グループディスカッション、ピア・フィードバック、ジグソーなど）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：マイクロティーチングまたは模擬授業準備（２時間程度）復習：振り返りレポート（毎回、1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・授業への参加度（ディスカッション、マイクロティーチング）　３０％・課題（授業内容振り返り、模擬授業後のレポート）３０％・模擬授業及び指導案　40％

＜教科書＞
加賀田哲也　Here We Go! 5　光村図書
加賀田哲也　Here We Go! 6　光村図書
文部科学省　Let's Try! 1・Let's Try! 2　東京書籍

＜参考書＞
文部科学省（2017年）　小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　外国語編・外国語活動編　開隆堂
小川隆夫・東仁美（2021）　小学校英語はじめる教科書（改訂版）　mpi
池田勝久（2020年）　小学校英語「5領域」評価事例集　教育開発研究所

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	外国語教育導入の経緯、学習指導要領、小中高連携
2	外国語活動（中学年）の授業（１）What do you like?　I like blue.等	子どもの第二言語習得の特徴
3	外国語活動の授業（２）What's this? 等	Small Talk, Classroom English、Teacher Talk、言語活動
4	外国語活動の授業（３）アルファベットの指導	中学年と高学年の特徴を踏まえた支援の仕方、文字との出合わせ方
5	外国語科(高学年)の授業を体験（１）When is your birthday?等	わかりやすく発表しあうための支援の仕方、多様な子どもへの対応
6	外国語科の授業（２）My town is beautiful.等	題材の選定・教材（ICTなどの活用を含む）
7	外国語科の授業（3）Where do you want to go？等	目的・場面・状況を設定した言語活動　相手意識をもたせる発表の支援の仕方
8	外国語科の授業（4）We live together.等	CLIL：他教科との関連付け 国際教育と英語教育

9	外国語科の授業（5）I can run fast.等	国語教育との関連、ALT等とのティームティーチング
10	外国語科の授業（６）What do you want to be?等	学習評価、ルーブリック、パフォーマンス評価・ポートフォリオ
11	模擬授業に向けて学習指導案・教材の作成	単元構成、1時間の授業・指導案の書き方
12	模擬授業（１）	授業評価、ディスカッション
13	模擬授業（２）	授業評価、ディスカッション
14	模擬授業（３）	授業評価、ディスカッション
15		
16		

科目コード	32313				区　分	コア科目			
授業科目名	小学校英語科教育法［FE2432組用］				担当者名	羽田　あずさ			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
小学校外国語活動・外国語科の授業映像の視聴、学生が児童の立場での授業体験、学習指導要領などを通して、小学校における外国語教育の意義や学習指導要領に謳われている理念及び学習評価について学ぶ。また、児童期の第二言語習得の特徴についての理解を深め、聞く・話す・読む・書くの4技能における教材・教具について知り、指導技術を身に付ける。グループや全体での多様な形式の模擬授業を行い、基本的な指導技術を身に付けるとともに、ピアフィードバックやディスカッションを通して授業改善する態度を身に付ける。

＜授業の到達目標＞
外国語活動・外国語科の授業を行うための資質・能力及び基本的な指導力を次の通り育成することを目指す。１．　小学校課程における外国語教育の意義について、全人教育、国際教育の視点も含めて理解することができる。２．　学習指導要領に謳われている理念（目標や育成を目指す資質・能力）及び学習評価の在り方について理解することができる。３．　児童期の第二言語習得の特徴について理解するとともに、他教科連携や児童の実態に応じた指導計画を立案及び教材開発し、授業実践を行う技能を身に付けることができる。４．　ICTを効果的に活用し

＜授業の方法＞
・授業体験、授業映像視聴・講義（教員による解説と問いの提示）・ピアフィードバック、ディスカッション・マイクロティーチング、模擬授業

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング（グループディスカッション、ピア・フィードバック、ジグソーなど）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：マイクロティーチングまたは模擬授業準備（２時間程度）復習：振り返りレポート（毎回、1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・授業への参加度（ディスカッション、マイクロティーチング）　３０％・課題（授業内容振り返り、模擬授業後のレポート）３０％・模擬授業及び指導案　40％

＜教科書＞
加賀田哲也　Here We Go! 5　光村図書
加賀田哲也　Here We Go! 6　光村図書
文部科学省　Let's Try! 1・Let's Try! 2　東京書籍

＜参考書＞
文部科学省（2017年）　小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　外国語編・外国語活動編　開隆堂
小川隆夫・東仁美（2021）　小学校英語はじめる教科書（改訂版）　mpi
池田勝久（2020年）　小学校英語「5領域」評価事例集　教育開発研究所

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	外国語教育導入の経緯、学習指導要領、小中高連携
2	外国語活動（中学年）の授業（１）What do you like?　I like blue.等	子どもの第二言語習得の特徴
3	外国語活動の授業（２）What's this? 等	Small Talk, Classroom English、Teacher Talk、言語活動
4	外国語活動の授業（３）アルファベットの指導	中学年と高学年の特徴を踏まえた支援の仕方、文字との出合わせ方
5	外国語科(高学年)の授業を体験（１）When is your birthday?等	わかりやすく発表しあうための支援の仕方、多様な子どもへの対応
6	外国語科の授業（２）My town is beautiful.等	題材の選定・教材（ICTなどの活用を含む）
7	外国語科の授業（3）Where do you want to go？等	目的・場面・状況を設定した言語活動　相手意識をもたせる発表の支援の仕方
8	外国語科の授業（4）We live together.等	CLIL：他教科との関連付け 国際教育と英語教育

9	外国語科の授業（5）I can run fast.等	国語教育との関連、ALT等とのティームティーチング
10	外国語科の授業（６）What do you want to be?等	学習評価、ルーブリック、パフォーマンス評価・ポートフォリオ
11	模擬授業に向けて学習指導案・教材の作成	単元構成、1時間の授業・指導案の書き方
12	模擬授業（１）	授業評価、ディスカッション
13	模擬授業（２）	授業評価、ディスカッション
14	模擬授業（３）	授業評価、ディスカッション
15		
16		

科目コード	32313				区　分	コア科目			
授業科目名	小学校英語科教育法［FE2433組用］				担当者名	羽田　あずさ			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
小学校外国語活動・外国語科の授業映像の視聴、学生が児童の立場での授業体験、学習指導要領などを通して、小学校における外国語教育の意義や学習指導要領に謳われている理念及び学習評価について学ぶ。また、児童期の第二言語習得の特徴についての理解を深め、聞く・話す・読む・書くの4技能における教材・教具について知り、指導技術を身に付ける。グループや全体での多様な形式の模擬授業を行い、基本的な指導技術を身に付けるとともに、ピアフィードバックやディスカッションを通して授業改善する態度を身に付ける。

＜授業の到達目標＞
外国語活動・外国語科の授業を行うための資質・能力及び基本的な指導力を次の通り育成することを目指す。１．　小学校課程における外国語教育の意義について、全人教育、国際教育の視点も含めて理解することができる。２．　学習指導要領に謳われている理念（目標や育成を目指す資質・能力）及び学習評価の在り方について理解することができる。３．　児童期の第二言語習得の特徴について理解するとともに、他教科連携や児童の実態に応じた指導計画を立案及び教材開発し、授業実践を行う技能を身に付けることができる。４．　ICTを効果的に活用し

＜授業の方法＞
・授業体験、授業映像視聴・講義（教員による解説と問いの提示）・ピアフィードバック、ディスカッション・マイクロティーチング、模擬授業

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング（グループディスカッション、ピア・フィードバック、ジグソーなど）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：マイクロティーチングまたは模擬授業準備（２時間程度）復習：振り返りレポート（毎回、1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・授業への参加度（ディスカッション、マイクロティーチング）　３０％・課題（授業内容振り返り、模擬授業後のレポート）３０％・模擬授業及び指導案　40％

＜教科書＞
加賀田哲也　Here We Go! 5　光村図書
加賀田哲也　Here We Go! 6　光村図書
文部科学省　Let's Try! 1・Let's Try! 2　東京書籍

＜参考書＞
文部科学省（2017年）　小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　外国語編・外国語活動編　開隆堂
小川隆夫・東仁美（2021）　小学校英語はじめる教科書（改訂版）　mpi
池田勝久（2020年）　小学校英語「5領域」評価事例集　教育開発研究所

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	外国語教育導入の経緯、学習指導要領、小中高連携
2	外国語活動（中学年）の授業（１）What do you like?　I like blue.等	子どもの第二言語習得の特徴
3	外国語活動の授業（２）What's this? 等	Small Talk, Classroom English、Teacher Talk、言語活動
4	外国語活動の授業（３）アルファベットの指導	中学年と高学年の特徴を踏まえた支援の仕方、文字との出合わせ方
5	外国語科(高学年)の授業を体験（１）When is your birthday?等	わかりやすく発表しあうための支援の仕方、多様な子どもへの対応
6	外国語科の授業（２）My town is beautiful.等	題材の選定・教材（ICTなどの活用を含む）
7	外国語科の授業（3）Where do you want to go？等	目的・場面・状況を設定した言語活動　相手意識をもたせる発表の支援の仕方
8	外国語科の授業（4）We live together.等	CLIL：他教科との関連付け 国際教育と英語教育

9	外国語科の授業（5）I can run fast.等	国語教育との関連、ALT等とのティームティーチング
10	外国語科の授業（６）What do you want to be?等	学習評価、ルーブリック、パフォーマンス評価・ポートフォリオ
11	模擬授業に向けて学習指導案・教材の作成	単元構成、1時間の授業・指導案の書き方
12	模擬授業（１）	授業評価、ディスカッション
13	模擬授業（２）	授業評価、ディスカッション
14	模擬授業（３）	授業評価、ディスカッション
15		
16		

科目コード	32313				区　分	コア科目			
授業科目名	小学校英語科教育法［他学科］				担当者名	羽田　あずさ			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
小学校外国語活動・外国語科の授業映像の視聴、学生が児童の立場での授業体験、学習指導要領などを通して、小学校における外国語教育の意義や学習指導要領に謳われている理念及び学習評価について学ぶ。また、児童期の第二言語習得の特徴についての理解を深め、聞く・話す・読む・書くの4技能における教材・教具について知り、指導技術を身に付ける。グループや全体での多様な形式の模擬授業を行い、基本的な指導技術を身に付けるとともに、ピアフィードバックやディスカッションを通して授業改善する態度を身に付ける。

＜授業の到達目標＞
外国語活動・外国語科の授業を行うための資質・能力及び基本的な指導力を次の通り育成することを目指す。１．　小学校課程における外国語教育の意義について、全人教育、国際教育の視点も含めて理解することができる。２．　学習指導要領に謳われている理念（目標や育成を目指す資質・能力）及び学習評価の在り方について理解することができる。３．　児童期の第二言語習得の特徴について理解するとともに、他教科連携や児童の実態に応じた指導計画を立案及び教材開発し、授業実践を行う技能を身に付けることができる。４．　ICTを効果的に活用し

＜授業の方法＞
・授業体験、授業映像視聴・講義（教員による解説と問いの提示）・ピアフィードバック、ディスカッション・マイクロティーチング、模擬授業

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング（グループディスカッション、ピア・フィードバック、ジグソーなど）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：マイクロティーチングまたは模擬授業準備（２時間程度）復習：振り返りレポート（毎回、1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・授業への参加度（ディスカッション、マイクロティーチング）　３０％・課題（授業内容振り返り、模擬授業後のレポート）３０％・模擬授業及び指導案　40％

＜教科書＞
加賀田哲也　Here We Go! 5　光村図書
加賀田哲也　Here We Go! 6　光村図書
文部科学省　Let's Try! 1・Let's Try! 2　東京書籍

＜参考書＞
文部科学省（2017年）　小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　外国語編・外国語活動編　開隆堂
小川隆夫・東仁美（2021）　小学校英語はじめる教科書（改訂版）　mpi
池田勝久（2020年）　小学校英語「5領域」評価事例集　教育開発研究所

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	外国語教育導入の経緯、学習指導要領、小中高連携
2	外国語活動（中学年）の授業（１）What do you like?　I like blue.等	子どもの第二言語習得の特徴
3	外国語活動の授業（２）What's this? 等	Small Talk, Classroom English、Teacher Talk、言語活動
4	外国語活動の授業（３）アルファベットの指導	中学年と高学年の特徴を踏まえた支援の仕方、文字との出合わせ方
5	外国語科(高学年)の授業を体験（１）When is your birthday?等	わかりやすく発表しあうための支援の仕方、多様な子どもへの対応
6	外国語科の授業（２）My town is beautiful.等	題材の選定・教材（ICTなどの活用を含む）
7	外国語科の授業（3）Where do you want to go？等	目的・場面・状況を設定した言語活動　相手意識をもたせる発表の支援の仕方
8	外国語科の授業（4）We live together.等	CLIL：他教科との関連付け 国際教育と英語教育

9	外国語科の授業（5）I can run fast.等	国語教育との関連、ALT等とのティームティーチング
10	外国語科の授業（６）What do you want to be?等	学習評価、ルーブリック、パフォーマンス評価・ポートフォリオ
11	模擬授業に向けて学習指導案・教材の作成	単元構成、1時間の授業・指導案の書き方
12	模擬授業（１）	授業評価、ディスカッション
13	模擬授業（２）	授業評価、ディスカッション
14	模擬授業（３）	授業評価、ディスカッション
15		
16		

科目コード	32402				区　分	コア科目			
授業科目名	体育実技の指導法				担当者名	中安　翼			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
小学校における体育の授業において、必要となってくる考え方や指導法について、小学校現場での活動を中心に体験し、適切な体育指導の方法について学習する。ただし、訪問先の小学校の事情等により予定が変更になる場合がある。受講に際しては岡山市の学校支援ボランティアへの登録が必要。まだ登録していない人は、４月に学内で行われるの説明会に参加して登録しておくこと。

＜授業の到達目標＞
1.小学校の現場体験を通し、教材や児童の実態に応じた適切な補助や言葉かけなどの関わりを実践できる。2.体育指導における教師の役割と安全管理の要点を理解し、適切に対応できる。3.指導体験を客観的に振り返り、自己の教育観の変容を言語化できる。本授業は、地域社会への貢献を目的とするため、学科のDP4に関連しています。

＜授業の方法＞
小学校現場における体育指導の補助に入り、体験を通して学びを深めていく

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
小学校体育授業で実際に子どもに関わる

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習として、訪問先の授業の単元計画（目標、流れ、評価等）を事前に熟読し、当日の役割や指導上の留意点をシミュレーションしておく（1時間程度）。事後学習として、授業内での児童との関わりや気づきを整理し、振り返りレポートを作成して、次回の指導改善に向けた課題を明確にする（1.5時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３(初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業に臨む姿勢（子どもへのかかわり方を含む）50%、レポート 50%にて総合的に評価する。

＜教科書＞
文部科学省（2018年2月28日）　小学校学習指導要領解説　体育編　東洋館出版社

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の概要、目標、計画、内容、評価方法について
2	体育授業における教師の役割	実際の小学校現場で体育指導に入りながら、教師として適切な子どもへのかかわり方について学ぶ
3	体育授業における教師の役割	実際の小学校現場で体育指導に入りながら、教師として適切な子どもへのかかわり方について学ぶ
4	体育授業における教師の役割	実際の小学校現場で体育指導に入りながら、教師として適切な子どもへのかかわり方について学ぶ
5	体育授業における教師の役割	実際の小学校現場で体育指導に入りながら、教師として適切な子どもへのかかわり方について学ぶ
6	体育授業における教師の役割	実際の小学校現場で体育指導に入りながら、教師として適切な子どもへのかかわり方について学ぶ
7	体育授業における教師の役割	実際の小学校現場で体育指導に入りながら、教師として適切な子どもへのかかわり方について学ぶ
8	体育授業における教師の役割	実際の小学校現場で体育指導に入りながら、教師として適切な子どもへのかかわり方について学ぶ
9	体育授業における教師の役割	実際の小学校現場で体育指導に入りながら、教師として適切な子どもへのかかわり方について学ぶ
10	体育授業における教師の役割	実際の小学校現場で体育指導に入りながら、教師として適切な子どもへのかかわり方について学ぶ
11	体育授業における教師の役割	実際の小学校現場で体育指導に入りながら、教師として適切な子どもへのかかわり方について学ぶ

12	体育授業における教師の役割	実際の小学校現場で体育指導に入りながら、教師として適切な子どもへのかかわり方について学ぶ
13	体育授業における教師の役割	実際の小学校現場で体育指導に入りながら、教師として適切な子どもへのかかわり方について学ぶ
14	まとめ	本授業での学びを振り返り、自分の考えを言語化する
15		
16		

科目コード	32413				区　分	コア科目			
授業科目名	教育実践学Ⅰ（青年教師塾）				担当者名	中安　翼／内田　仁志			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本講座では、教員として必要な実践力を体系的に学ぶ。教育現場で求められる授業設計、学級経営、課題対応の技術を理論と実践を交えて習得する。ただし、特別講師との調整等により予定が変更になる場合もある。

＜授業の到達目標＞
小学校現場で活用できる実践力（授業力、学級経営能力等）を身につける。本授業は、教育専門職としての実践力を備えるため、学科のDP3（教育課題解決のための知識・技能の活用）に関連しています。

＜授業の方法＞
現職小学校教員の特別講義、グループワーク、模擬授業等。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
授業設計ワークショップ、グループディスカッション

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習： 次回のテーマ（授業づくりや学級経営）に関連するこれまでの学修内容を復習し、模擬授業の準備を行う（1時間程度）
事後学習： 授業や協議会での学びを振り返り、実践に活かすためのレポートを作成する（1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３(初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業への意欲・態度50%　課題提出50%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の目的、概要、評価等
2	授業づくりのポイント１	特別講師による授業を体験し、授業づくりのポイントを学ぶ
3	授業の協議	模擬授業を行い、その授業について協議する
4	授業づくりのポイント２	特別講師による授業を体験し、授業づくりのポイントを学ぶ
5	授業の協議	模擬授業を行い、その授業について協議する
6	授業づくりのポイント３	特別講師による授業を体験し、授業づくりのポイントを学ぶ
7	授業の協議	模擬授業を行い、その授業について協議する
8	授業づくりのポイント４	特別講師による授業を体験し、授業づくりのポイントを学ぶ
9	授業の協議	模擬授業を行い、その授業について協議する
10	授業づくりのポイント５	特別講師による授業を体験し、授業づくりのポイントを学ぶ
11	授業の協議	模擬授業を行い、その授業について協議する
12	学級経営のポイント１	特別講師による学級経営の講義を受け、学級経営のポイントを学ぶ
13	学級経営のポイント２	特別講師による学級経営の講義を受け、学級経営のポイントを学ぶ
14	まとめ	本授業を振り返り、4月から実践できることをまとめる
15		
16		

科目コード	32414				区　分	コア科目			
授業科目名	教育実践学Ⅱ（基礎）（青年教師塾）［表現教育アウトリーチ教育実習］				担当者名	羽田　あずさ／小川　智勢子／四宮　貴久／渡邊　亮／塚本　千晴			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
表現教育アウトリーチ教育実習は、小学校教育現場を訪問し、学校現場で起こっている現実を「みて学び」，実際に児童に指導しながら実践的に「やって学び」、表現教育を通して、実践的に学ぶ教育実習である。

＜授業の到達目標＞
表現教育を通して、児童とともにレジリエンス（困難にあっても乗り越え回復する精神力）の向上を図ることができる。現場の先生方の仕事の実際を実践的に学ぶことができる。

＜授業の方法＞
実習に行く前の事前学習、リハーサルを経て、小学校で３日間の教育実習を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループワーク、模擬指導、チームによる表現指導

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前：ダンスの曲の確認、振り付けの確認等　2時間事前：模擬指導準備　2時間事後：振り返りレポート　１時間

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
DP１；他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。DP４；地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。DP５；教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
事前練習・リハーサルへの出席　20%表現の実践指導　50%観察録の記述　20%最終レポート　10%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	表現教育アウトリーチ教育実習の目的、内容、日程について
2	身体表現、音楽表現	身体の動きと音楽を通して表現方法を学び、表現活動およびアウトリーチ実習の指導方法を学ぶ
3	教授法と実践	指導の評価を元に指導内容の復習をする。また学生間で指導の効果、指導におけるコミュニケーション方法について協議をする
4	模擬指導①	模擬指導の準備を行う
5	模擬指導②	模擬指導、振り返り、改善
6	実践指導	小学校での実践指導
7	実践指導	小学校での実践指導
8	実践指導	小学校での実践指導
9	実践指導	小学校での実践指導
10	実践指導	小学校での実践指導
11	実践指導	小学校での実践指導
12	実践指導	小学校での実践指導
13	リハーサル	成果発表の準備を小学生とともに行う
14	成果発表	小学生と合同で成果発表を行う
15		
16		

科目コード	32415				区　分	コア科目			
授業科目名	教育実践学Ⅱ（応用）（青年教師塾）				担当者名	中安　翼／内田　仁志			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本講座では、教員として必要な実践力を体系的に学ぶ。教育現場で求められる授業設計、学級経営、課題対応の技術を理論と実践を交えて習得する。ただし、特別講師との調整等により予定が変更になる場合もある。

＜授業の到達目標＞
小学校現場で活用できる実践力（授業力、学級経営能力等）を身につける。本授業は、教育専門職としての実践力を備えるため、学科のDP3（教育課題解決のための知識・技能の活用）に関連しています。

＜授業の方法＞
現職小学校教員の特別講義、グループワーク、模擬授業等。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
授業設計ワークショップ、グループディスカッション

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習： 次回のテーマ（授業づくりや学級経営）に関連するこれまでの学修内容を復習し、模擬授業の準備を行う（1時間程度）
事後学習： 授業や協議会での学びを振り返り、実践に活かすためのレポートを作成する（1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３(初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業への意欲・態度50%　課題提出50%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の目的、概要、評価等
2	授業づくりのポイント１	特別講師による授業を体験し、授業づくりのポイントを学ぶ
3	授業の協議	模擬授業を行い、その授業について協議する
4	授業づくりのポイント２	特別講師による授業を体験し、授業づくりのポイントを学ぶ
5	授業の協議	模擬授業を行い、その授業について協議する
6	授業づくりのポイント３	特別講師による授業を体験し、授業づくりのポイントを学ぶ
7	授業の協議	模擬授業を行い、その授業について協議する
8	授業づくりのポイント４	特別講師による授業を体験し、授業づくりのポイントを学ぶ
9	授業の協議	模擬授業を行い、その授業について協議する
10	授業づくりのポイント５	特別講師による授業を体験し、授業づくりのポイントを学ぶ
11	授業の協議	模擬授業を行い、その授業について協議する
12	学級経営のポイント１	特別講師による学級経営の講義を受け、学級経営のポイントを学ぶ
13	学級経営のポイント２	特別講師による学級経営の講義を受け、学級経営のポイントを学ぶ
14	まとめ	本授業を振り返り、4月から実践できることをまとめる
15		
16		

科目コード	32418				区　分	コア科目			
授業科目名	理科実験の指導法Ⅰ（理科教師塾）				担当者名	川村　康文			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

ＩＰＵ理科マイスターへの道を歩もうとするみなさんのための授業です。といっても，理科が得意な方だけに向けた授業ではなく，理科に苦手意識があっても，まずは，自分が理科が好きになってもらうための入り口だと思って受講して下さい。そしてその先，時には出前授業に一緒に行ったり，オープンキャンパスでお手伝いをしてもらったり，もっと先には，みなさんに先生役になって子供たちに楽しい理科実験を指導してもらったりなどを考えています。　これまで，探究的な理科授業を求められてきましたが，教育現場では必ずしもうまく導入されてきたとは

＜授業の到達目標＞

１．実験器具や薬品等を準備して，小学校理科の観察・実験が実施できる知識や技能を身に付ける。２．安全な観察・実験を進めるための知識や薬品，実験器具の取り扱い方を身に付ける。３．学習指導要領解説理科編や教科書の記述に基づいて，観察・実験を伴う授業設計ができる。４．ＩＣＴ機器，デジタル教科書，プログラミング用ツールの活用法を身に付ける。

＜授業の方法＞

１．取り扱う教材に従って観察・実験の準備をする。２．観察・実験を実施し，実験結果を記録，考察する。３．観察・実験の留意点，実験手順を振り返り，安全に実験するための配慮事項を整理する。４．観察・実験のねらいや指導のポイントなどをまとめる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニング：個人，グループで，自主的に実験材料を揃えるところから能動的・主体的に教材開発を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習理科実験が得意な理科マイスターになってもらうのにふさわしい事前準備をお願いします。具体的には，教科書を良く読み込み，さらにインターネットを利用して，そのテーマにふさわしい教材を60分程度の時間をかけて調べてきましょう。自主的に100円ショップなどを見学に行き，自分の授業で使えそうな材料を調べておきましょう。復習授業で教科書にある実験を試したり，自力で開発した理科実験教材について60分程度時間をかけて整理をし，課題を提出して下さい。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー３（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加意欲 60%、 観察・実験の知識・技能 40%、 等で評価する。

＜教科書＞

川村康文（2014）　理科教育法　独創力を伸ばす理科授業　講談社

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オンデマンド　9月29日ＳＴＥＡＭ教育の可能性とそれを踏まえてしたい実験	オンデマンド　9月29日ＳＴＥＡＭ教育について調べて，どのような可能性を感じたか書いて下さい。それを踏まえて，どんな実験がしたいかレポートにいくつか書いて，個人でアップして下さい。
2	対面　10月6日教科書の実験「70. 72. サボニウス型風車風力発電機」を作ろう（１）	対面　10月6日教科書の実験「70. 72. サボニウス型風車風力発電機」を作ろう（１）
3	オンデマンド　10月13日教科書の実験「70. 72. サボニウス型風車風力発電機」を作ろう（２）教科書の実験「71. 風速計を作ろう」(pp. 170-171)	オンデマンド　10月13日教科書の実験「70. 72. サボニウス型風車風力発電機」を作ろう（２）教科書の実験「71. 風向・風速計を作ろう」(pp. 170-171)
4	対面　10月27日自転車発電をやってみよう	対面　10月27日自転車発電でテレビを着けてみよう。
5	対面　11月3日教科書の実験「58. 圧電発電」(pp. 146-147)	対面　11月3日教科書の実験「58. 圧電発電」(pp. 146-147)
6	対面　11月10日教科書の実験「18. かっちんこっちん衝突球」(pp. 72-73)	対面　11月10日教科書の実験「18. かっちんこっちん衝突球」(pp. 72-73)いわゆるニュートンのゆりかごを作ってみよう。
7	対面　11月17日教科書の実験「68. しゃかしゃか振るフルライト」(pp. 164-165)	対面　11月17日教科書の実験「68. しゃかしゃか振るフルライト」(pp. 164-165)
8	対面　11月20日（金）教科書の実験「63. 鉛筆で電池」(p. 154)	対面　11月20日（金）教科書の実験「63. 鉛筆で電池」(p. 154)

9	対面　12月1日教科書の実験「49．方位磁石」（pp.126-127）	対面　12月1日教科書の実験「49．方位磁石」（pp.126-127）
10	対面　12月8日教科書の実験「25．雲をつくろう」（pp.81）	対面　12月8日教科書の実験「25．雲をつくろう」（pp.81）
11	対面　12月15日教科書の実験「12．ものさしで刺激反応実験」（pp.61-62）	対面　12月15日教科書の実験「12．ものさしで刺激反応実験」（pp.61-62）
12	対面　12月22日教科書の実験「32．笛をつくろう」(pp.94-95)	対面　12月22日教科書の実験「32．笛をつくろう」(pp.94-95)クリスマスソングができるとよいです
13	対面　1月12日教科書の実験「104．液状化の実験」(p.227)	対面　1月12日教科書の実験「104．液状化の実験」(p.227)
14	オンデマンド　1月19日　リフレクション　・振り返り	オンデマンド　1月19日リフレクション　・振り返り印象に残ったいくつかの実験についてレポートとしてまとめて下さい。
15		
16		

科目コード	32419				区　分	コア科目			
授業科目名	理科実験の指導法Ⅱ（理科教師塾）［不開講］				担当者名	川村　康文			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

ＩＰＵ理科マイスターへの道を歩もうとするみなさんのための授業です。理科実験の指導法Ｉを履修していなくても受講可能です。この授業は，理科が得意な方だけに向けた授業ではなく，理科に苦手意識があっても，まずは，自分が理科が好きになってもらうための入り口だと思って受講して下さい。そしてその先，時には出前授業に一緒に行ったり，オープンキャンパスでお手伝いをしてもらったり，もっと先には，みなさんに先生役になって子供たちに楽しい理科実験を指導してもらったりなどを考えています。　これまで，探究的な理科授業を求められてきま

＜授業の到達目標＞

１．実験器具や薬品等を準備して，小学校理科の観察・実験が実施できる知識や技能を身に付ける。２．安全な観察・実験を進めるための知識や薬品，実験器具の取り扱い方を身に付ける。３．学習指導要領解説理科編や教科書の記述に基づいて，観察・実験を伴う授業設計ができる。４．ＩＣＴ機器，デジタル教科書，プログラミング用ツールの活用法を身に付ける。

＜授業の方法＞

１．取り扱う教材に従って観察・実験の準備をする。２．観察・実験を実施し，実験結果を記録，考察する。３．観察・実験の留意点，実験手順を振り返り，安全に実験するための配慮事項を整理する。４．観察・実験のねらいや指導のポイントなどをまとめる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニング：個人，グループで，自主的に実験材料を揃えるところから能動的・主体的に教材開発を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習理科実験が得意な理科マイスターになってもらうのにふさわしい事前準備をお願いします。具体的には，教科書を良く読み込み，さらにインターネットを利用して，そのテーマにふさわしい教材を60分程度の時間をかけて調べてきましょう。100円ショップやホームセンターなどに行き，どんな材料が理科授業に使えそうか，日ごろから常に意識的に観察しておく。復習授業で教科書にある実験を試したり，自力で開発した理科実験教材について60分程度時間をかけて整理をし，課題を提出して下さい。さらに，開発した理科実験教材やＳＴＥＡＭ教育教材

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー３（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加意欲 60%、 観察・実験の知識・技能 40%、 等で評価する。

＜教科書＞

川村康文（2014）　理科教育法　独創力を伸ばす理科授業　講談社

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	対面　4月14日　教科書の実験「69．かわむらのコマ」(pp. 166-167)（１）	対面　4月14日　教科書の実験「69．かわむらのコマ」(pp. 166-167)の実験をしてみよう！
2	オンデマンド　4月21日教科書の実験「69．かわむらのコマ」(pp. 166-167)（２）	オンデマンド　4月21日教科書の実験「69．かわむらのコマ」(pp. 166-167)において，①加色混合を極める②３Ｄ回転を極める③ゾートロープを極める
3	対面　４月２８日教科書の実験「45．光るＬＥＤプレート」(pp. 114-115)（１）	対面　４月２８日教科書の実験「45．光るＬＥＤプレート」(pp. 114-115)をつくってみよう。
4	オンデマンド　5月5日教科書の実験「45．光るＬＥＤプレート」(pp. 114-115)（２）	オンデマンド　5月5日教科書の実験「45．光るＬＥＤプレート」(pp. 114-115)から，光ファイバーの原理を考察しよう。また，異なるサイズの光るＬＥＤプレートを作ってみよう（探究の要素）
5	対面　5月12日教科書の実験「54. 手回し発電機をつくってみよう」(pp. 136-137)（１）	対面　5月12日教科書の実験「54. 手回し発電機をつくってみよう」(pp. 136-137)
6	オンデマンド　5月19日教科書の実験「54. 手回し発電機をつくってみよう」(pp. 136-137)（２）	オンデマンド　5月19日教科書の実験「54. 手回し発電機をつくってみよう」(pp. 136-137)の進化型や簡易型を探究的につくってみよう
7	対面　5月26日教科書の実験「67. リニアモーターカーをつくってみよう」(pp. 162-163)（１）	対面　5月26日教科書の実験「67. リニアモーターカーをつくってみよう」(pp. 162-163)（２）
8	対面　6月2日教科書の実験「101．ＤＮＡ	対面　6月2日教科書の実験「101．ＤＮＡの実験」(pp. 222-223)

	の実験」（pp. 222-223）	
9	オンデマンド　6月9日教科書の実験「67. リニアモーターカーをつくってみよう」（pp. 162-163）（２）	オンデマンド　6月9日教科書の実験「67. リニアモーターカーをつくってみよう」（pp. 162-163）を，いろいろ作り変えてみよう。
10	対面　6月16日教科書の実験「59. 雷実験」（pp. 148-149）	対面　6月16日教科書の実験「59. 雷実験」（pp. 148-149）
11	オンデマンド　6月23日教科書の実験「95. 酵素の実験」（pp. 214）	オンデマンド　6月23日教科書の実験「95. 酵素の実験」（pp. 214）いろいろでんぷん材料でヨウ素でんぷん反応の色の違いをみる
12	対面　6月30日教科書の実験「47. 62. 紫イモホットケーキ」（pp. 122-123；pp. 152-153）	対面　6月30日教科書の実験「47. 62. 紫イモホットケーキ」（pp. 122-123；pp. 152-153）
13	オンデマンド　7月7日教科書の実験「28. デジタルオッシロスコープ」（pp. 86-87）	オンデマンド　7月7日教科書の実験「28. デジタルオッシロスコープ」（pp. 86-87）で，母音をみたり，高音と低音の比較をみたり，いろいろな音の波形をみてみてください。
14	対面　7月14日教科書の実験「偏光板」（pp. 124-125）	対面　7月14日教科書の実験「偏光板」（pp. 124-125）偏光板の首飾りを作ろう。
15		
16		

科目コード	33402				区　分	コア科目			
授業科目名	子ども家庭支援の心理学［不開講］				担当者名	衛藤　真規			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業では、子どもの発達を外観した上で、家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係について発達的観点から理解し、子どもとその家庭を包括的にとらえる視点を習得する。さらに、子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解し、子どもの精神保健とその課題についてもアプローチする。

＜授業の到達目標＞
1. 人間の生涯にわたる発達過程を理解する。2. 家族・家庭の意義や機能を理解したうえで、親子関係・家族関係について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的にとらえる見方を習得する。3. 現代の子育て家庭の状況と家族をとりまく社会の状況について理解する。4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。

＜授業の方法＞
教科書を基に講義形式で行い必要な資料を配布する。適宜グループワークやディスカッションを行う

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：適宜グループワークやディスカッションを行う

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習（60分）：教科書の該当章、事前に配布される資料を読み、自分なりに問題意識を持っておく　　復習（60分）：授業で学んだことを振り返り理解を深める

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業への参加度：10%リアクションペーパー（授業の振り返りシート）：30%　期末レポート：60%※リアクションペーパーへのコメントは授業内で適宜行う

＜教科書＞
公益財団法人児童育成協会監修・白川桂子・福丸由佳（編集）（2019）　新基本保育シリーズ⑨ 子ども家庭支援の心理学　中央法規

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション・乳児期の発達	生まれてから2歳頃までの初期発達の特徴、この時期に必要な保育者の関わり
2	幼児期の発達	幼児期の発達段階における基本的な発達の特徴（認知、言語、社会性、自我の発達）
3	学童規の発達	小学校入学以降の学童期の発達の特徴（認知、社会性、自己の発達）
4	青年期の発達	中学生以降の青年期における発達の特徴(身体的変化、認知発達、自己の発達、対人関係の変化)
5	成人期・中年期・高齢期の発達	成人期・中年期・高齢期の特徴、高齢者を取り巻く社会状況、高齢者福祉・支援
6	家族・家庭の意義と機能	家族・家庭の概念、意義と機能
7	家族関係・親子関係の理解	家族のライフサイクル、家族システム論、家族関係・親子関係を支援するための理論と技法
8	子育ての経験と親としての育ち	子どもをもつことの意義、子育てと就労の両立、地域における子育て支援
9	子育てを取り巻く社会的状況	晩婚化・非婚化をめぐる状況、出産・子育てをめぐる社会的状況、子育て家庭を支える制度と支援
10	ライフコースと仕事・子育て	ライフコースの概念と歴史的変遷、ライフコースの視点を生かした親理解と支援の可能性
11	多様な家庭とその理解	多様化する家庭のありよう、子どもと社会を取り巻くさまざまな課題と具体的支援
12	特別な配慮を要する家庭	養育者のメンタルヘルス、不適切な養育と家族の機能不全、逆境的小児期体験の影響、保育者のセルフケア
13	子どもの生活・生育環境とその影響	子どもの年齢に応じて必要とされる環境、現代社会の子育て環境の変化、子どもの精神状態に与える影響
14	子どものこころの健康に関わる問題	子どものこころにかかわる諸課題、求められる他機関との連携

15 16		

科目コード	33403				区　分	コア科目			
授業科目名	幼児心理学Ⅰ				担当者名	大久保　諒／虫明　淑子			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本授業では、生涯発達の観点から、心理的発達について、幼児期と人生全体の関係を体験的に学ぶ。特に、知覚・認知的な発達へ中心的な焦点を当てて学習を進める。具体的には、幼児期と他の発達時期で、ものごとの見え方はどのように異なるのか、そして、ものごとの見え方が異なるようにできている理由はなぜかを学ぶ。さらに、幼児期の知覚・認知発達における個人差が、生涯発達的に見て、それ以降の時期へどのような影響を及ぼすかについて学ぶ。

＜授業の到達目標＞

①幼児期が人生全体にどのような意味や影響を持つか理解する。②幼児の発達過程や特徴を具体的に理解をする。②理論と具体的な事例を関連付け、理解を深める。

＜授業の方法＞

・各テーマについて、教員から理論的な解説を受け、内容を理解する。・学習した理論をもとに、予測・説明できる具体的な事例をグループで共有し、対話を通して解決策を考える。・グループでの検討結果をレポートやレジュメとしてまとめることで、各テーマの理解を深める。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有：一方的に解説を受けるだけでなく、学習内容の妥当性について、自分たちで事例共有や検討行うことで確認する。これらの手続きにより、「理屈として」理解できることと、「体感的に（腑に落ちて）」理解できることの両立を目指す。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

専門的な知見に踏み込んだ学習内容について、「わかる」ようになることと「できる」ようになることの両方を目指す科目である。そのため、各回の授業の前後で予習と復習が必要になる。毎回、事前に提示された学習内容について、予め調べたり，小課題に取り組んだりするなど、1時間程度の予習を要する。同様に、毎回、配布資料や授業内で取り組んだ演習課題を振り返ったり、理解度の確認の小課題へ取り組んだりするなど、60分程度の復習を要する。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー３（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられる。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・授業参加態度：40%・各テーマの演習成果物の出来栄え：30%・学期末レポート：30%・上記を総合して、最終的な成績を決定する。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の進め方、および生涯発達や知覚・認知発達に関する概論
2	幼児の発達理解①	・幼児の発達について理解する。
3	幼児の発達理解②	・幼児の発達について理解する。
4	幼児の発達理解③	・幼児の発達について理解する。
5	幼児の発達理解④	・幼児の発達について理解する。
6	事例検討①	・具体的な事例を通じて幼児の発達を理解する。
7	事例検討②	・具体的な事例を通して幼児の発達を理解する。
8	事例検討③	・具体的な事例を通して幼児の発達を理解する。
9	事例検討④	・具体的な事例を通して幼児の発達を理解する。
10	幼児の発達を支える①	・理論や事例をもとに、よりよい援助のあり方を検討する。
11	幼児の発達を支える②	・理論や事例をもとに、よりよい援助のあり方を検討する。
12	幼児の発達を支える③	・理論や事例をもとに、よりよい援助のあり方を検討する。
13	幼児の発達を支える④	・理論や事例をもとに、よりよい援助のあり方を検討する。
14	授業のまとめ	・授業内でレポートに取り組む。・レポートを活用し、授業内容を振り返り理解を深める。
15		
16		

科目コード	33404				区　分	コア科目			
授業科目名	幼児心理学Ⅱ				担当者名	大久保　諒／虫明　淑子			
配当年次	3年	配当学期	後期（第3・4クウォーター）	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本科目では、発達科学の基本的な考え方を理解し、発達科学の基礎的な知見が、どのように保育や幼児教育の実践を支える役割を果たすか体験的に学習する。本科目の学習を通じて、履修生には、卒業研究として、発達科学的な研究を遂行するための基礎力や、保育や幼児教育の実践者として、その実践を効果的に行うための問題を自ら発見し、そして自ら問題解決の糸口を発達科学の基礎的な知見に見い出そうとする姿勢を養うことを期待される。

＜授業の到達目標＞

① 科学的研究の基本的な考え方について、その要点を説明することができるようになる② 発達科学的な考え方について、基礎的な水準で身に着けられるようになる③ 発達科学の基礎的な知見を自分で調べられるようになる④ 発達科学的な研究の遂行に必要な研究デザイン、統計学、レポート（論文）の執筆方法について、第一歩目にあたる水準で身につける⑤ 発達科学の基礎的な知見と保育や幼児教育の実践のつながりを説明できるようになる

＜授業の方法＞

授業は、教員のインストラクションに基づき、グループで発達科学的な研究を遂行し、得られた知見から実践へのアプリケーションを思案する段階と、個人で発達科学的な研究を立案・遂行し、同様に、得られた知見から実践へのアプリケーションを思案する段階に分かれて進行する。Google Classroomを利用して、授業資料や課題の管理を行い、授業時間内に留まらず、授業時間外にオンライン上で課題へ積極的に取り組むことも必要となる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有：授業全体が、実体験的に学びを深める手続きにより設計されている。第一段階としては、教員に提示された研究題材について、グループ活動を通して完遂を目指す。第二段階では、第一段階で習得したスキルを支えに、個人で研究題材を見い出し、その完遂を目指す。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

短期間で広範囲のスキルの習得が求められる科目である。履修生は、教員から事前に指定された文献を読み込み、学習内容に対して、自らの力で一定の準備を整えて、授業に臨まなければならない。予習として、この学習のために、毎回、2時間以上を費やす必要があると見込まれれる。また、授業では、次回までに取り組むべき課題が必ず求められる。復習として、この課題をこなす学習のためにも、毎回、2時間以上を費やす必要があると見込まれる。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー３(教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

以下の点を総合して、最終的な成績を定める。・授業の取り組み：40%・課題の進捗・提出状況：30%・課題の出来栄え：30%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	・研究の必要性・科学の考え方・発達科学の考え方
2	実践を支える研究	・介入研究・実装研究・基礎研究・複雑さと単純さ
3	グループ研究①	・文献の検索方法・文献の読み方・文献のまとめ方
4	グループ研究②	・研究計画の立案方法・研究計画の発表方法・研究計画に批判を仰ぐ方法・研究計画を批判する方法
5	グループ研究③	・研究倫理の考え方・データの収集方法・データの保管方法
6	グループ研究④	・データの整理方法・データの分析方法（記述統計）
7	グループ研究⑤	・データの分析方法（推測統計）・データの考察方法
8	グループ研究⑥	・研究レポートの執筆方法・研究成果の発表方法
9	個人研究①	・文献精査・理論研究・実証研究
10	個人研究②	・研究課題の策定・研究課題の発表・研究課題に対する批判的討論
11	個人研究③	・研究計画の策定・研究倫理の検討
12	個人研究④	・データの収集・データの分析

13	個人研究⑤	・データの考察・実践への応用
14	個人研究⑥	・研究レポートの執筆・研究成果の発表
15		
16		

科目コード	33405				区　分	コア科目			
授業科目名	幼児心理学Ⅲ［不開講］				担当者名	大久保　諒／虫明　淑子			
配当年次	4年	配当学期	前期（第1・2クォーター）	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本授業では、生涯発達の観点から、レジリエンスを学ぶ。レジリエンスとは、発達上の問題を引き起し得る様々な背景があるにも関わらず、実際に問題を示さずに済んだり、実際に問題を示した後に回復したりする発達システムの性質を指す。①幼児期までに、発達上の問題を示している場合、それは幼児以降のどのような経験により、緩和することができるか、②幼児期までに発達の問題を示していない場合、その後の時期に困難に見舞われたとしても切り抜けられるよう、どのような準備を行い得るかについて中心的に学習していく。

＜授業の到達目標＞

①生涯発達の観点と、発達に伴うレジリエンスの理論について説明できるようになる。②幼児期の発達上の問題を緩和する方法について、実践的な検討力を身につける。③幼児期以降に発達上の問題を引き起こしかねない困難に見舞われたとしても、それを切り抜けるために、幼児期にどのような備えを行い得るか、実践的な検討力を身につける。

＜授業の方法＞

授業では、各テーマについて、教員から理論的な解説を受け、それを理解することが求められる。その後、①学習した理論により予測・説明し得る具体的な事例をグループで共有し合ったり、②調査（質問紙・面接）的な手法によってデータを収集して分析したりすることが求められる。さらには、それら検討結果をレポートやレジュメとしてまとめることで、各テーマの理解を深めることが求められる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有：一方的に解説を受けるだけでなく、学習内容の妥当性について、自分たちで事例共有や実験・調査を行うことで確認する。これらの手続きにより、「理屈として」理解できることと、「体感的に（腑に落ちて）」理解できることの両立を目指す。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

専門的な知見に踏み込んだ学習内容について、「わかる」ようになることと、保育などの実践へ「活かせる」ようになることの両方を目指す科目である。そのため、各回の授業の前後で予習と復習が必要になる。毎回、事前に提示された学習内容について、予め調べたり，小課題に取り組んだりするなど、1時間程度の予習を要する。同様に、毎回、配布資料や授業内で取り組んだ演習課題を振り返ったり、理解度の確認の小課題へ取り組んだりするなど、60分程度の復習を要する。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー３(教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

演習の参加態度：20%、各テーマの演習成果物の出来栄え：40%、学期末レポートの成績：40%を総合して最終的な成績を定める。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の進め方、および生涯発達・レジリエンスに関する解説
2	発達とレジリエンス	カウアイ研究とE. Wernerのレジリエンス理論
3	気質とレジリエンス①	Easyな気質に関する発達理論
4	気質とレジリエンス②	Easyな気質に対する発達支援
5	気質とレジリエンス③	行動抑制の気質に関する発達理論
6	気質とレジリエンス④	行動抑制の気質に対する発達支援
7	社会経済的不遇さとレジリエンス①	社会階層と発達格差の理論
8	社会経済的不遇さとレジリエンス②	速い発達と遅い発達の理論
9	社会経済的不遇さとレジリエンス③	世代間伝達の理論
10	社会経済的不遇さとレジリエンス④	社会経済的不遇さに対する支援
11	仲間関係の問題とレジリエンス①	発達的な仲間関係と問題行動の理論
12	仲間関係の問題とレジリエンス②	仲間関係の問題に対する発達支援
13	奇妙な（WEIRD）子ども達の発達	発達観の相対化とレジリエンス
14	発達カスケード	発達におけるプラスの連鎖とマイナスの連鎖
15		
16		

科目コード	34101				区　分	コア科目			
授業科目名	保育内容総論				担当者名	橘髙　真紀子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
保育内容の全体像を理解し、乳幼児の発達や生活に応じた保育のあり方を学ぶ。また、保育計画の立案や実践的な指導法を身につけ保育者としての基礎的な力を養う。

＜授業の到達目標＞
1.　保育の基本的な理念と内容を理解し、5領域の視点を踏まえながら、子どもの発達や実態に応じた保育の在り方を考え、具体的に説明することができる。2.　乳幼児の発達特性に応じた保育内容について理解し、子どもの実態に即した保育を構想することができる。3.　適切な保育環境の構成や援助の方法を実践できる。

＜授業の方法＞
・授業テーマに即したワークやグループディスカッションを行う（全てにおいてワークシートを配布する）。・各自、またグループで発表を行いそれぞれの考えを共有し、学びを深める。・まとめの講義を行う。・ワークは授業ごとに提出する

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：保育実践に即したワークショップを通して得られた体験を基に考察を行い、理論と往還させながら思考の深化を深める。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：保育所保育指針解説、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説を読んでおく（30分）復習：ワークシートをしあげ、次回授業で提出する（60分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・受講態度、グループディスカッション（発表）の参加態度（15%）・リアクションペーパー　（15%）・オンデマンド課題　（30%）・最終レポート　（40%）

＜教科書＞

＜参考書＞
幼稚園教育要領解説　フレーベル館
保育所保育指針解説　フレーベル館
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説　フレーベル館

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	・オリエンテーション・保育内容とは	・授業計画説明・ワーク：5領域で見とる活動
2	・「３匹のやぎのがらがらどん」より保育活動の発展や子どもの育ちについて考える	・各活動が５領域のいずれに該当するか、保育者が行う環境構成（環境による保育）や特別な配慮、子どもの主体性、個の育ち、集団の育ちという視点よりグループで考察を深める。
3	・「３匹のやぎのがらがらどん」より保育活動の発展や子どもの育ちについて考える	・各活動が５領域のいずれに該当するか、保育者が行う環境構成（環境による保育）や特別な配慮、子どもの主体性、個の育ち、集団の育ちという視点よりグループで考察を深める。
4	・オンデマンド：名札制作	・実習で使用する自身の名札を制作する。
5	・パラバルーンの活動を通して	・各活動が５領域のいずれに該当するか、保育者が行う環境構成（環境による保育）や特別な配慮、子どもの主体性、個の育ち、集団の育ちという視点よりグループで考察を深める。
6	・パラバルーンの活動を通して	・各活動が５領域のいずれに該当するか、保育者が行う環境構成（環境による保育）や特別な配慮、子どもの主体性、個の育ち、集団の育ちという視点よりグループで考察を深める。
7	・新聞遊びを通して	・各活動が５領域のいずれに該当するか、保育者が行う環境構成（環境による保育）や特別な配慮、子どもの主体性、個の育ち、集団の育ちという視点よりグループで考察を深める。
8	・新聞遊びを通して	・各活動が５領域のいずれに該当するか、保育者が行う環境構成（環境による保育）や特別な配慮、子どもの主体性、個の育ち、集団の育ちという視点よりグループで

		考察を深める。
9	・制作「スマートフォン」作りを通して	・各活動が５領域のいずれに該当するか、保育者が行う環境構成（環境による保育）や特別な配慮、子どもの主体性、個の育ち、集団の育ちという視点よりグループで考察を深める。
10	・制作「スマートフォン」作りを通して	・各活動が５領域のいずれに該当するか、保育者が行う環境構成（環境による保育）や特別な配慮、子どもの主体性、個の育ち、集団の育ちという視点よりグループで考察を深める。
11	・こども園観察・記録をとる	・子どもの活動を５領域の視点を踏まえて観察し、理解する。
12	・指導案の作成	・指導案の作成の手順を理解し、作成する。
13	・指導案の作成	・指導案の作成の手順を理解し、作成する。
14	・まとめ	・まとめの講義・レポートについて
15		
16		

科目コード	34105				区　分	コア科目			
授業科目名	子どもとマルチメディア				担当者名	本庄　慶樹			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
情報通信。情報機器を利活用して、子どもの発育、教育教材を制作する。乳幼児期から児童期・青年期に至るまでの子どもの発達的観点、教育的観点等を多面的に理解した上で、情報リテラシー・情報機器操作スキルを利活用した、子どもの教育を工夫する。iCT環境の変化、法令等を学ぶ。

＜授業の到達目標＞
実践的な課題に取り組み教育の場で活用できる技術と問題解決能力、論理的思考力を育む。また、 課題の創作活動を通して、情報機器を活用したメディアでの芸術的な技術力、表現力を身につける。時代の変化を体感しそれに対応できるICTの利活用能力を身に付けることを目指す。

＜授業の方法＞
授業は各自が持参したPCを用いた演習形式で行うため、PCは必携である。教育現場で即戦力となるコンテンツ、文書や資料の作成、発表を授業内課題 とし、その課題提出、発表をもって成績評価とする。与えられた課題に対する評価はもとより自他の作品について考察し、自己能力の向上に努める学習状況を評価の対象とする。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有り本授業では、発想の確認か進捗状況まで学生間で発表しあい、よりよい作品になるよう意見の交換をして理解を深めていく。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業で必要となるコンピューターとソフトウエアの操作を予習しておくことは必須である。授業時間は、課題制作の方法を学び試作を行う時間、または発表及び他者の発表から学ぶ時間である。別に期限までに課題を制作する時間が各90分から120分程度必要である。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
提出課題の完成度 30%、提出課題の取り組み 30%、講義内学習発表状況 40%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ベクター画像練習	ポスター制作を通してコンピュータグラフィックの優位性、特色を考える。
2	ベクター画像・ビデオ制作（喜怒哀楽）	ベクター画像の可能性、画像での表現を考える。
3	動くガジェット制作（いないいないばあ）	子ども動きの楽しさの伝え方を考える。
4	動く絵本制作	パワーポイントでの動画作成の基本操作を学びアニメーション作成する。
5	読み聞かせツール制作	既存の絵本を作画することで、場面設定を学ぶ。また、電子絵本での可能性を考察する。
6	制作発表	発表、演じることを考える。電子絵本を読み聞かせしてみることで、可能性と課題を探る。
7	子どもとプログラミング教育	プログラミング言語Scratchを学ぶことで、子どもへのプログラミング学習の必要性、効果を考える。
8	Scratchでのお話作成（RPG）	ロールプレイングを考え、プログラミング的思考を学び。子どもへの教育への応用を考える。
9	ゲーム制作	ゲームの面白さ、楽しさは何かを考える。
10	電子人形劇制作（キャラクター準備）	作品を造るのに必要な構成を企画する。
11	ドキュメンテーション・記録	様々のコンピュータスキルを駆使し、記録できることを考える。
12	Google Site	情報発信を考える。
13	Webサイト	HTML、CSSを用いた、制作技術を学ぶ。
14	Webサイト作成	園、学校等のWebサイトの現状について考える。
15		
16		

科目コード	34107				区　分	コア科目		
授業科目名	社会福祉学				担当者名	小倉　毅		
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
核家族化や、急速な少子・高齢化の進展、さらには人権意識の向上などを背景に、生活困窮者や児童、病弱者、障害者、高齢者などの尊厳と自立、社会参加を支援する活動の重要性が高まっている。本講義では、社会福祉の意義・理念を理解したうえで、法体系や制度、福祉サービス体系における公私の役割活動について学習する。

＜授業の到達目標＞
社会福祉が、私達の身近な生活のなかに深く関わり、生活を支えているものであるということを理解する。また、それらの問題・ニーズに気づくための視点を養い、問題・ニーズに対応し、これを軽減し解消するための制度、機関、専門職などの資源について知り、これらに適切につなぐための方法を身につける。

＜授業の方法＞
教科書に基づいて専門知識の理解し、講義ノートの作成を課す。適宜講義課題について小レポート作成をする。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニング有（事例をもとにグループワークを実施し理解を深める）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
1)予習の方法 （45分）下記の授業計画はテキストに準拠している。該当する箇所 を前もって読んでおくようにして下さい。2)復習の方法（45分）授業中に整理するプリントを中心に復習して下さい。また、理解が十分でない場合には、積極的に質問して下さい。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
評価は、授業態度 20%、定期試験 60%、レポート 20%の総合評価。

＜教科書＞
松井圭三・今井慶宗　「現代社会福祉要説」　ふくろう出版（2022年4月改訂）

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	社会福祉を学ぶ視点	社会福祉の概念、少子高齢化と社会福祉
2	社会福祉の歴史	戦後を中心とした社会福祉の歴史
3	社会福祉の範囲と法体系	社会福祉の存在意義、社会福祉法、福祉６法
4	社会福祉の実施体制	社会福祉における国と地方公共団体の役割
5	社会福祉サービスの種類と財源	社会保険の種類と内容
6	社会保障制度（1）	社会的養護の仕組みと実施体系
7	社会保障制度（2）	生活保護制度の意味と内容
8	子どもと家族の福祉	児童福祉の概要、少子化と次世代育成支援
9	障害をもつ人の福祉	障害の捉え方と定義、障害者福祉サービスと施策
10	高齢者の福祉	高齢者の生活課題と福祉ニーズ、高齢者の福祉・保健サービス
11	地域福祉	地域福祉とは、福祉のまちづくり
12	社会福祉専門職と倫理	社会福祉の職種と職場、求められる倫理
13	ソーシャルワークの原理と機能	ソーシャルワークとは、ソーシャルワークの種類
14	権利擁護とサービスの質	権利擁護とは、サービスの指導監査と第３者評価
15		
16		

科目コード	34110				区　分	コア科目		
授業科目名	乳児保育Ⅰ				担当者名	深井　弘子／服部　由美子		
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
保育所保育指針（平成29年告示）をもとに、乳児保育の基本を理解する。また、乳児の発達と保育について学び、養育者の援助の在り方について考える。演習（保育所での参与観察：生活と遊び）を通して実践的に学ぶ。

＜授業の到達目標＞
１．乳児保育の理念と歴史的変遷及び役割について学ぶ。２．保育所・乳児院等における乳児保育の現状と課題について理解する。３．３歳未満児の発育・発達について学び、健やかな成長を支える３歳未満児の生活と遊びについて理解する。４．乳児保育の計画を作成し、保育の内容や方法、環境構成や観察・記録等について学ぶ。５．乳児保育における保護者や関係機関との連携について学ぶ。

＜授業の方法＞
講義では「乳児保育」に関するワークシートを使用する。加えて、自分の考えや他者の考えを交流し合うグループワークを行う機会や、模擬乳児モデル（リアルケアベビー）を用いた演習、保育所での観察・演習を適宜取り入れる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：自分の考えや他者の考えを交流し合うグループワークを行う機会や、模擬乳児モデル（リアルケアベビー）を用いた演習、保育所での観察・演習を適宜取り入れる。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
・配布資料や日常生活の中で乳児について興味をもち、関連するニュースや雑誌、書籍に目を通す具体的な内容と方法を示し、まとめること。（1時間程度）・保育所で観察、演習した内容はレポートにまとめ、指定された期日に提出すること。（1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業（予習・復習）で作成するワークシート（30%）グループワークの取り組み状況（20%）小テスト（20%）、定期試験（30%）ワークシート・小テスト・定期試験に関しては①キーワード（授業内の内容）、②文章の構成、③自身の考えより評価し、その後、学生にフォードバックする。

＜教科書＞
大豆生田啓友・おおえだけいこ　日本が誇るていねいな保育　株式会社小学館

＜参考書＞
厚生労働省　保育所保育指針解説　フレーベル館
文部科学省　幼稚園教育要領解説　フレーベル館
内閣府文部科学省厚生労働省　幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説　フレーベル館

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	授業の進め方と乳児保育の基本	授業の概要説明と乳児保育の基本
2	乳児保育の役割と機能①	乳児保育の現状について考える
3	乳児保育の役割と機能②	乳児保育の役割について考える
4	乳児の生活と保育者の関わり①	保育所・こども園における乳児の生活（登園場面）
5	乳児の生活と保育者の関わり②	保育所・こども園における乳児の生活（手洗い・排泄場面）
6	乳児の生活と保育者の関わり③	保育所・こども園における乳児の生活（衣服等の着脱場面）
7	乳児の生活と保育者の関わり④	保育所・こども園における乳児の生活（食事・おやつ場面）
8	乳児の生活と保育者の関わり⑤	保育所・こども園における乳児の生活（午睡場面）
9	乳児の生活と保育者の関わり⑥	乳児の生活自立に向けて保育者のかかわり
10	乳児の遊びと保育者の関わり①	模擬保育：遊びと保育者の関わり（乳児の遊び①）
11	乳児の遊びと保育者の関わり②	模擬保育：遊びと保育者の関わり（乳児の遊び②）
12	乳児の遊び（保育内容）について考える	模擬保育の振り返り・意見交換
13	保護者との連携	乳児保育における保護者との連携
14	総括（まとめ）	全体の振り返りとまとめ（小テスト）
15		
16		

科目コード	34111				区　分	コア科目		
授業科目名	乳児保育Ⅱ［A］				担当者名	深井　弘子／服部　由美子		
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
乳児保育の実際について理解を深めると共に、乳幼児の発達に応じた保育環境の構成や保育計画・保育記録について学び、保育実践力の基礎を習得する。多様化する乳児保育の現場に求められる保育者の専門的職能について理解を深め、保護者や関係機関との連携についても学ぶ。模擬乳児モデル（リアルケアベビー）を用いて具体的な援助の仕方を学んだり、実践につながる保育技術の習得を目指す。

＜授業の到達目標＞
１．乳児保育と保育者の職能について理解する。２．3歳未満児の保育内容や方法について学び、援助の基本技術を習得する。３．指導計画作成に必要な基礎知識を習得する。４．模擬保育を通して実践的な感覚を養うと共にグループワークを通して課題を発見、共有する。

＜授業の方法＞
・今日のテーマの確認を行い、事前学習の成果を発表し合う。・講義を聞いたり、グループ演習を行ったりし、その後、分かったことや考えたこと、難しかったことについてグループワークを行う。・小グループで発表された意見の共有をする。・演習、講義内で不明な部分の解説と質疑を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：発表やグループワークを実施する

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：事前に提示されたテーマに沿って自主学習を行い、Googleクラスルームにて提示された課題に取り組む。（90分程度）復習：授業の振り返りとグループワークで示される次の課題に取り組む（30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業（予習・復習）で作成するワークシートや事前課題（30%）、グループワークや演習の取り組み（30%）、指導計画作成（20%）や小テスト（20%）・ワークシートや小テストで①キーワード（授業内の内容）②文章の構成③自身の考えより評価し、学生へフィードバックをする。

＜教科書＞
厚生労働省（2017）　保育所保育指針解説　フレーベル館
内閣府・文部科学省・厚生労働省（2017）　幼保連携型認定こども園教育・保育要領　フレーベル館

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	本授業の目標を理解する。乳児保育Ⅰの学びを振り返る
2	乳児保育の基本について考える	乳児保育Ⅰの学びの中で乳児保育の基本を考える。グループワーク実施
3	乳児保育で求められる保育者	保育実践における保育者の在り方についてグループワーク
4	乳児保育の指導計画①	デイリープログラムの作成
5	乳児保育の指導計画②	0歳児の指導計画
6	乳児保育の指導計画③	1歳児の指導計画
7	乳児保育の指導計画④	2歳児の指導計画
8	乳児保育の実際①	0歳児の生活について考えよう
9	乳児保育の実際②	子どもの目線になって考えよう
10	乳児保育の実際③	2歳児の事例から保育者の関わりを考える
11	保育所以外の施設における乳児保育	保育所以外の施設の乳児保育の実際について考える
12	保護者との連携や社会資源	乳児保育における社会的資源について考える
13	乳児保育から幼児期の保育への繋がり	0、1、2歳児以降の保育との関連について考える
14	まとめ	乳児保育に求められることについてグループワーク・まとめのレポート
15		
16		

科目コード	34111				区　分	コア科目		
授業科目名	乳児保育Ⅱ［B］				担当者名	深井　弘子／服部　由美子		
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
乳児保育の実際について理解を深めると共に、乳幼児の発達に応じた保育環境の構成や保育計画・保育記録について学び、保育実践力の基礎を習得する。多様化する乳児保育の現場に求められる保育者の専門的職能について理解を深め、保護者や関係機関との連携についても学ぶ。模擬乳児モデル（リアルケアベビー）を用いて具体的な援助の仕方を学んだり、実践につながる保育技術の習得を目指す。

＜授業の到達目標＞
１．乳児保育と保育者の職能について理解する。２．3歳未満児の保育内容や方法について学び、援助の基本技術を習得する。３．指導計画作成に必要な基礎知識を習得する。４．模擬保育を通して実践的な感覚を養うと共にグループワークを通して課題を発見、共有する。

＜授業の方法＞
・今日のテーマの確認を行い、事前学習の成果を発表し合う。・講義を聞いたり、グループ演習を行ったりし、その後、分かったことや考えたこと、難しかったことについてグループワークを行う。・小グループで発表された意見の共有をする。・演習、講義内で不明な部分の解説と質疑を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：発表やグループワークを実施する

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：事前に提示されたテーマに沿って自主学習を行い、Googleクラスルームにて提示された課題に取り組む。（90分程度）復習：授業の振り返りとグループワークで示される次の課題に取り組む（30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業（予習・復習）で作成するワークシートや事前課題（30%）、グループワークや演習の取り組み（30%）、指導計画作成（20%）や小テスト（20%）・ワークシートや小テストで①キーワード（授業内の内容）②文章の構成③自身の考えより評価し、学生へフィードバックをする。

＜教科書＞
厚生労働省（2017）　保育所保育指針解説　フレーベル館
内閣府・文部科学省・厚生労働省（2017）　幼保連携型認定こども園教育・保育要領　フレーベル館

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	本授業の目標を理解する。乳児保育Ⅰの学びを振り返る
2	乳児保育の基本について考える	乳児保育Ⅰの学びの中で乳児保育の基本を考える。グループワーク実施
3	乳児保育で求められる保育者	保育実践における保育者の在り方についてグループワーク
4	乳児保育の指導計画①	デイリープログラムの作成
5	乳児保育の指導計画②	0歳児の指導計画
6	乳児保育の指導計画③	1歳児の指導計画
7	乳児保育の指導計画④	2歳児の指導計画
8	乳児保育の実際①	0歳児の生活について考えよう
9	乳児保育の実際②	子どもの目線になって考えよう
10	乳児保育の実際③	2歳児の事例から保育者の関わりを考える
11	保育所以外の施設における乳児保育	保育所以外の施設の乳児保育の実際について考える
12	保護者との連携や社会資源	乳児保育における社会的資源について考える
13	乳児保育から幼児期の保育への繋がり	0、1、2歳児以降の保育との関連について考える
14	まとめ	乳児保育に求められることについてグループワーク・まとめのレポート
15		
16		

科目コード	34112				区　分	コア科目			
授業科目名	子ども子育て教育相談				担当者名	衛藤　真規			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	あり

＜授業の概要＞
本授業は教職課程コアカリキュラムである「幼児理解の理論及び方法」と「教育相談（カウンセリングを含む」に基づいて行われる。幼児理解の意義と重要性を理解し、保育実践と結びつけて考察する力を身につける。また、学校における教育相談の意義と理論、方法（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む）、展開について学ぶ。

＜授業の到達目標＞
①幼稚園における幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまづき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えることができる。②幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。

＜授業の方法＞
教科書を基に講義形式で行い、必要な資料を配布する。適宜グループワークやディスカッション、ロールプレイングを行う。
1.講義2.グループワーク等3.振り返り（講義で理解したこと、感想をリアクションペーパーに記述）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：グループワークやディスカッション、ロールプレイングを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習（60分）：教科書の該当章、事前に配布される資料を読み、自分なりに問題意識を持っておく復習（60分）：授業で学んだことを振り返り理解を深める

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業への参加度：10%リアクションペーパー（授業の振り返りシート）：30%期末レポート：60%※リアクションペーパーへのコメントは授業内で適宜行う

＜教科書＞
鳥海順子・義永睦子（編著）　子ども理解と教育相談　東洋館出版社(2021)

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション、教育相談の意義	子どもの問題をどうとらえるか、子ども理解の視点とプロセス
2	学校における教育相談の意義	教師に教育相談が求められる理由、学校における教育相談の進め方
3	アセスメントに関する基礎的理解	アセスメントの目的、方法、進め方
4	カウンセリングの基礎理論①	カウンセリングとは何か、カウンセリングの技法
5	幼保小連携の接続期支援と子どもの理解	幼保小連携とは何か、幼保小連携の実際
6	小・中・高の接続期支援と子どもの理解	小・中・高、各々の時期の教育相談の特色、接続期に必要な支援
7	カウンセリングの基礎理論②	カウンセリングの進め方
8	相談のプロセス	教育相談の機能とプロセス、実際の相談の進め方
9	コンサルテーションやコーディネーションの理解と方法	コンサルテーションの基礎・基本、コーディネーションの基礎・基本
10	開発的・予防的カウンセリングの理解と方法	開発的・予防的カウンセリングとは何か、アサーション、コーチング
11	保育の場で行う教育相談と園内体制	保育の場で行う教育相談の意義と進め方
12	学校で行う教育相談と校内体制	学校で行う教育相談を取り巻く環境、学校で行う教育相談の進め方
13	多様なニーズのある子どもの教育相談と支援体制	学校教育における「多様なニーズのある子ども」とは何か、「多様なニーズのある子ども」の教育相談の進め方
14	家族への支援と地域における専門家との連携	多機関連携に必要な視点、制度の活用
15		
16		

科目コード	34113				区　分	コア科目			
授業科目名	保育内容「健康」指導法［FC2521組用］				担当者名	小﨑　遼介			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択／幼稚園教諭免許・保育士国家資格取得のための必修

＜授業の概要＞
本科目は、東岡山IPUこども園との連携授業科目である。東岡山IPUこども園の５歳児約70名を対象に、健康に関する子どもとの関わり方や、保育者の関わり方を実際に学ぶ。領域「健康」のねらいおよび内容を理解し、子どもの心身の健康な発育発達、基本的生活習慣の獲得、体力・運動能力の獲得、安全な生活環境の設定を目的とした保育内容の提案のための知識・技能を学ぶ。また、ICTを活用した教材の作成方法、小学校とのつながりについて取り扱う。幼児教育施設における具体的な指導場面を想定した指導計画の立案、模擬保育と振り返りを通じ

＜授業の到達目標＞
領域「健康」のねらいおよび内容を理解し、説明することができる。子どもの健康の保持・増進のための発育発達、基本的生活習慣、体力・運動能力、安全、ICTの活用についての知識を理解し、適切な保育ができる。

＜授業の方法＞
東岡山IPUこども園での実践を通して、領域「健康」に関する子どもとの関わりや、教材づくり、指導法や、保育者と子どもとの関わりについて学ぶ。場合によっては子供への直接的な指導を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
東岡山IPUこども園での遊びの実践

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前に示した参考書および資料を読み提示した課題を課す。また、事前課題として指導案の立案、模擬授業の準備を課す場合がある。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
事前・事後課題60%、模擬授業40%

＜教科書＞
なし

＜参考書＞
無藤隆、倉持清美（2020年8月25日）　新訂　事例で学ぶ保育内容　領域健康　㈱萌文書林
酒井幸子、松山洋平（2020年12月10日）　保育内容　健康　あなたならどうしますか？　㈱萌文書林
松田博雄、金森三枝（2019年）　子どもの健康と安全　中央法規

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	幼児と健康と保育内容健康指導法	授業概要の解説と領域健康についての解説・東岡山IPUこども園での授業運営ルール
2	幼児の動きのポイント	ワクワクタイムの概要を掴む。東岡山IPUこども園での生活を知る。
3	幼児の動きの観察	幼児の動きに関して、観察を通して学ぶ。
4	幼児期運動指針(基礎的な動作)	幼児期運動指針の中でも基礎的な動作について、子どもとの関わりを通して学ぶ。
5	指導案の作成	子どもの運動遊びにおける指導案を作成する。
6	模擬保育	指導案に基づき模擬保育を行う。
7	遊びの指導１	東岡山IPUこども園にて簡単な遊びの指導を行う
8	遊びの指導２	東岡山IPUこども園にて簡単な遊びの指導を行う
9	保育準備	東岡山IPUこども園にて、実際に行う保育準備を行う
10	保育準備	東岡山IPUこども園にて、実際に行う保育準備を行う
11	遊びの指導３	東岡山IPUこども園にて遊びの指導を行う
12	遊びの指導４	東岡山IPUこども園にて遊びの指導を行う
13	振り返り	東岡山IPUこども園での遊びの振り返りを行う
14	まとめ	レポート作成
15		

16		

科目コード	34113				区　分	コア科目			
授業科目名	保育内容「健康」指導法［FC2522組用］				担当者名	小﨑　遼介			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択／幼稚園教諭免許・保育士国家資格取得のための必修

＜授業の概要＞
本科目は、東岡山IPUこども園との連携授業科目である。東岡山IPUこども園の５歳児約70名を対象に、健康に関する子どもとの関わり方や、保育者の関わり方を実際に学ぶ。領域「健康」のねらいおよび内容を理解し、子どもの心身の健康な発育発達、基本的生活習慣の獲得、体力・運動能力の獲得、安全な生活環境の設定を目的とした保育内容の提案のための知識・技能を学ぶ。また、ICTを活用した教材の作成方法、小学校とのつながりについて取り扱う。幼児教育施設における具体的な指導場面を想定した指導計画の立案、模擬保育と振り返りを通じ

＜授業の到達目標＞
領域「健康」のねらいおよび内容を理解し、説明することができる。子どもの健康の保持・増進のための発育発達、基本的生活習慣、体力・運動能力、安全、ICTの活用についての知識を理解し、適切な保育ができる。

＜授業の方法＞
東岡山IPUこども園での実践を通して、領域「健康」に関する子どもとの関わりや、教材づくり、指導法や、保育者と子どもとの関わりについて学ぶ。場合によっては子供への直接的な指導を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
東岡山IPUこども園での遊びの実践

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前に示した参考書および資料を読み提示した課題を課す（60分）。また、事前課題として指導案の立案、模擬授業の準備を課す場合がある（120分）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
事前・事後課題60%、模擬授業40%

＜教科書＞
なし

＜参考書＞
無藤隆、倉持清美（2020年8月25日）　新訂　事例で学ぶ保育内容　領域健康　㈱萌文書林
酒井幸子、松山洋平（2020年12月10日）　保育内容　健康　あなたならどうしますか？　㈱萌文書林
松田博雄、金森三枝（2019年）　子どもの健康と安全　中央法規

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	幼児と健康と保育内容健康指導法	授業概要の解説と領域健康についての解説・東岡山IPUこども園での授業運営ルール
2	健康のねらいおよび内容	ワクワクタイムの概要を掴む。東岡山IPUこども園での生活を知る。
3	幼児の動き	幼児の動きに関して、子どもとの関わりを通して学ぶ。
4	幼児期運動指針(基礎的な動作)	幼児期運動指針の中でも基礎的な動作について、子どもとの関わりを通して学ぶ。
5	幼児期運動指針(多様な動作)	幼児期運動指針の中でも多様な動作について、子どもとの関わりを通して学ぶ。
6	幼児期運動指針(動きの連続性)	幼児期運動指針の中でも動きの連続性について、子どもとの関わりを通して学ぶ。
7	幼児と安全	幼児教育施設での安全管理の仕方について、保育者の話・子どもとの関わりを通して学ぶ。
8	子どもの安全教育事故予防	安全教育、防災教育、リスクマネジメント、施設設備管理
9	ICTを活用した保育	保育現場でICTを用いた保育方法の理解、幼少接続
10	感染症対策	東岡山IPUこども園での感染症対策について学ぶ。
11	指導案作成①	作成した指導案の安全およびねらいについて検討する
12	模擬保育①	園庭での運動遊びについて指導案を作成し、実際に模擬保育を行う。
13	模擬保育②	室内での運動遊びについて指導案を作成し、実際に模擬保育を行う。

14	指導案を作成し、ねらいを達成するための子供との関わりを実践する。	模擬保育：安全教育、防災教育
15	幼児教育の現代的課題と領域「健康」	授業内容全体の振り返りを通して、健康の指導全体について考える
16		

科目コード	34114				区　分	コア科目			
授業科目名	保育内容「言葉」指導法				担当者名	山本　房子			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
乳幼児の言葉の発達および領域「言葉」のねらい・内容について理解するとともに、絵本の読み聞かせや児童文化財（スケッチブックシアターやペープサート等）の活用方法について学ぶ。個人およびグループでの演習を通して、教材のつながりや広がりを意識した保育活動を構想し、模擬保育の実施と振り返りを通して、乳幼児期の言葉の発達を支える保育者に必要な実践的指導力を身に付ける。

＜授業の到達目標＞
① 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容・留意事項を理解している。② 乳幼児の言葉の発達過程および言葉の育ちを支える保育者の関わりについて理解し、適切な言葉かけや援助の方法を説明できる。③ 絵本の読み聞かせおよび児童文化財の特性を理解し、それらを関連づけた保育活動を構想・実践できる。④ 模擬保育の計画・実践・振り返りを通して、乳幼児の言葉を育てる保育について省察し、改善の視点を身に付ける。

＜授業の方法＞
絵本の読み聞かせやスケッチブックシアターの作成・実演など、体験的な活動を中心に授業を行う。個人およびグループでの演習を通して教材を関連づけた保育活動を構想し、模擬保育の実践と振り返りを行う。また、他の受講者の実践への参加や観察を通して、主体的に学ぶことを重視する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：絵本の読み聞かせやスケッチブックシアターの作成・実演、グループでの指導案作成および模擬保育の実施など、体験的・協働的な学習活動を取り入れる。また、他の受講者の実践に子ども役や観察者として参加し、相互評価や振り返りを行うことを通して、多面的に学ぶ機会を設ける。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：指定された事柄や課題について、自分なりの考えをもって調べたり準備をしたりする。（1.5時間）復習：各回での学びや取り組みの改善点を活かして復習する。（1.5時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業内評価50%レポート評価50%（授業振り返りシートの作成を課す。教員はコメントを記入し返却する。）

＜教科書＞
浅井拓久也　編著（2025年1月）　指導法もいっしょに学ぶ　保育内容「言葉」（第２版）　教育情報出版

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	保育内容領域「言葉」	領域「言葉」のねらい・内容を理解する
2	子どもと言葉①	言葉の意義や機能、言葉の獲得に必要な基礎を理解する
3	子どもと言葉②	前言語期、乳児期の言葉の発達や特徴について理解する
4	子どもと言葉③	幼児期の言葉の発達や特徴について理解する
5	保育者の言葉かけと言語環境	子どもの言葉の育ちを支える保育者の関わりや言葉かけ、環境構成について理解する
6	児童文化財の活用①絵本	絵本の特性や構造を理解したうえで、保育における活用方法や読み聞かせの仕方を知る
7	読み聞かせ演習（グループ内発表）	読み聞かせを行い、相互評価を通して技術を高める
8	児童文化財の活用②ペープサート、パネルシアター、スケッチブックシアター等	それぞれの特性や構造を理解したうえで、保育における活用方法について考える
9	教材作成	スケッチブックシアターを作成する
10	スケッチブックシアターの実演（グループ内発表）	作成したスケッチブックシアターを発表し、相互評価を行うとともに、模擬保育で活用する教材を検討する
11	模擬保育の指導案作成	絵本とスケッチブックシアターを関連づけた保育活動をグループで構想し、指導案を作成する
12	模擬保育①	グループで模擬保育を実施し、乳幼児役・観察者として参加する
13	模擬保育②	グループで模擬保育を実施し、乳幼児役・観察者として参加する
14	言葉の発達に関する様々な課題とその支	言葉の発達に関する課題とその支援について考えるとともに、本授業の学びを総括

	援のあり方・まとめ	する
15	まとめ	乳幼児の言葉の発達を支える保育者の役割や指導法について考える
16		

科目コード	34115				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	保育内容「人間関係」指導法［FC2521組用］				担当者名	虫明　淑子			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習・講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

本授業は、幼児期における人間関係の発達について、幼稚園教育要領、保育所保育指針および幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示される領域「人間関係」のねらい及び内容（特に幼稚園教育要領）に基づき、具体的な事例を通して理解を深めることを目的とする。さらに、幼児の発達を踏まえ、保育者による援助および環境構成のあり方とその評価について具体的に考察する。

＜授業の到達目標＞

・幼稚園教育要領における領域「人間関係」のねらい及び内容、内容の取扱いについて理解できる。・具体的な事例に基づき、幼児の発達を踏まえた適切な援助および環境構成を構想できる。・保育実践を評価し、改善点について考察できる。

＜授業の方法＞

・講義：教科書、資料に沿って、領域「人間関係」のねらい・内容を解説する。・演習：①保育現場の具体的事例をグループで議論し、援助や環境構成の方法を検討する。　②実際の保育場面を想定し、保育の計画（援助や環境構成）を構想して実践する。③実践を振り返り、改善点を考察して再構成する。　④保育現場を観察し、視点をもつ。・課題（リアクションペーパーを含む）：授業で学んだ内容を自分の言葉で整理し、理解を深める。・発表：授業で学んだ内容を整理して発表し、改善を図る。　※受講者の理解度や進行状況に応じて

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブラーニング：有方法：グループディスカッション、グループワーク、フィールドワーク・具体的な事例をもとに学生同士で意見交換を行い、対話を通して理解を深める。・他者の視点に触れることで、自分の考えを広げ、多角的な考え方があることを認識する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・教科書を事前に読み、授業に主体的に参加できるよう準備する。・授業で学んだ内容を整理し、学んだことや感想を自分の言葉で説明できるようにする。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー３（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる）と関連付けられる。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・授業参加態度（50%）：出席・演習の取り組み方や姿勢を評価・リアクションペーパーと課題（20%）：提出状況や、授業の要点・学んだこと・感想を自分の言葉で表せているかを評価・試験（30%）：授業内容の理解度と考えのまとめを評価　※学生からの質問には随時対応する。　※リアクションペーパーへのフィードバックは次回以降の授業内容に反映する。　※試験は授業内に実施し、実施後のフィードバックにより理解を補充する。

＜教科書＞

文部科学省（2018年3月）　『幼稚園教育要領解説』　フレーベル館
厚生労働省（2018年3月）　『保育所保育指針解説』　フレーベル館
内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018年3月）　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』　フレーベル館

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション：人間関係は教えて育つものなのか	・授業計画、到達目標、成績評価方法等について、シラバスを通して理解する。・授業計画について再確認する。・「人間関係は教えて育つものなのか」について考える。
2	現代社会における幼児の人間関係の育ちの実態	・幼児を取り巻く環境の変化について考える。・保護者の心理的課題を考える。
3	・幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育内容・領域「人間関係」のねらい・内容	・3要領・指針に示される領域「人間関係」に示されるねらい・内容を概観し、その特徴について理解する。
4	乳児期における領域「人間関係」	・０～３歳未満児の領域「人間関係」について、乳児期の発達の特徴を踏まえて考察する。
5	幼児期における領域「人間関係」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」	・３～５歳児の領域「人間関係」を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と関連付けながら整理し、考察する。
6	自立心①	・自立心について、具体的な事例を通して理解を深め、考察する。

7	自立心②	・自立心について、幼児期の発達を見通しながら、保育者による援助および環境構成のあり方とついて考察する。
8	道徳性・規範意識の芽生え①	・道徳性・規範意識の芽生えについて、具体的な事例を通して理解を深め、考察する。
9	道徳性・規範意識の芽生え②	・道徳性・規範意識の芽生えについて、幼児期の発達を見通しながら、保育者による援助および環境構成のあり方とついて考察する。
10	協同性①	・協同性について、具体的な事例を通して理解を深め、考察する。
11	協同性②	・道徳性・規範意識の芽生えについて、幼児期の発達を見通しながら、保育者による援助および環境構成のあり方とついて考察する。
12	フィールドワーク（もしくは模擬授業）	・保育現場での観察、もしくは模擬授業を実施する。・実施後、観察内容や模擬授業の振り返りを行い、今後の改善に活かす。
13	フィールドワーク（もしくは模擬授業）	・保育現場での観察、もしくは模擬授業を実施する。・実施後、観察内容や模擬授業の振り返りを行い、今後の改善に活かす。
14	フィールドワーク（もしくは模擬授業）の評価とまとめ	・フィールドワークや模擬授業を通して学んだことを整理し、まとめる。・振り返りを踏まえ、今後の保育実践に活かせること具体的な方法を明らかにする。・まとめた内容を発表し、共有する。
15		
16		

科目コード	34115				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	保育内容「人間関係」指導法［FC2522組用］				担当者名	虫明　淑子			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習・講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

本授業は、幼児期における人間関係の発達について、幼稚園教育要領、保育所保育指針および幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示される領域「人間関係」のねらい及び内容（特に幼稚園教育要領）に基づき、具体的な事例を通して理解を深めることを目的とする。さらに、幼児の発達を踏まえ、保育者による援助および環境構成のあり方とその評価について具体的に考察する。

＜授業の到達目標＞

・幼稚園教育要領における領域「人間関係」のねらい及び内容、内容の取扱いについて理解できる。・具体的な事例に基づき、幼児の発達を踏まえた適切な援助および環境構成を構想できる。・保育実践を評価し、改善点について考察できる。

＜授業の方法＞

・講義：教科書、資料に沿って、領域「人間関係」のねらい・内容を解説する。・演習：①保育現場の具体的事例をグループで議論し、援助や環境構成の方法を検討する。　②実際の保育場面を想定し、保育の計画（援助や環境構成）を構想して実践する。③実践を振り返り、改善点を考察して再構成する。　④保育現場を観察し、視点をもつ。・課題（リアクションペーパーを含む）：授業で学んだ内容を自分の言葉で整理し、理解を深める。・発表：授業で学んだ内容を整理して発表し、改善を図る。　※受講者の理解度や進行状況に応じて

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブラーニング：有方法：グループディスカッション、グループワーク、フィールドワーク・具体的な事例をもとに学生同士で意見交換を行い、対話を通して理解を深める。・他者の視点に触れることで、自分の考えを広げ、多角的な考え方があることを認識する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・教科書を事前に読み、授業に主体的に参加できるよう準備する。・授業で学んだ内容を整理し、学んだことや感想を自分の言葉で説明できるようにする。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー３（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる）と関連付けられる。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・授業参加態度（50%）：出席・演習の取り組み方や姿勢を評価・リアクションペーパーと課題（20%）：提出状況や、授業の要点・学んだこと・感想を自分の言葉で表せているかを評価・試験（30%）：授業内容の理解度と考えのまとめを評価　※学生からの質問には随時対応する。　※リアクションペーパーへのフィードバックは次回以降の授業内容に反映する。　※試験は授業内に実施し、実施後のフィードバックにより理解を補充する。

＜教科書＞

文部科学省（2018年3月）　『幼稚園教育要領解説』　フレーベル館
厚生労働省（2018年3月）　『保育所保育指針解説』　フレーベル館
内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018年3月）　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』　フレーベル館

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション：人間関係は教えて育つものなのか	・授業計画、到達目標、成績評価方法等について、シラバスを通して理解する。・授業計画について再確認する。・「人間関係は教えて育つものなのか」について考える。
2	現代社会における幼児の人間関係の育ちの実態	・幼児を取り巻く環境の変化について考える。・保護者の心理的課題を考える。
3	・幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育内容・領域「人間関係」のねらい・内容	・3要領・指針に示される領域「人間関係」に示されるねらい・内容を概観し、その特徴について理解する。
4	乳児期における領域「人間関係」	・０～３歳未満児の領域「人間関係」について、乳児期の発達の特徴を踏まえて考察する。
5	幼児期における領域「人間関係」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」	・３～５歳児の領域「人間関係」を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と関連付けながら整理し、考察する。
6	自立心①	・自立心について、具体的な事例を通して理解を深め、考察する。

7	自立心②	・自立心について、幼児期の発達を見通しながら、保育者による援助および環境構成のあり方とついて考察する。
8	道徳性・規範意識の芽生え①	・道徳性・規範意識の芽生えについて、具体的な事例を通して理解を深め、考察する。
9	道徳性・規範意識の芽生え②	・道徳性・規範意識の芽生えについて、幼児期の発達を見通しながら、保育者による援助および環境構成のあり方とついて考察する。
10	協同性①	・協同性について、具体的な事例を通して理解を深め、考察する。
11	協同性②	・道徳性・規範意識の芽生えについて、幼児期の発達を見通しながら、保育者による援助および環境構成のあり方とついて考察する。
12	フィールドワーク（もしくは模擬授業）	・保育現場での観察、もしくは模擬授業を実施する。・実施後、観察内容や模擬授業の振り返りを行い、今後の改善に活かす。
13	フィールドワーク（もしくは模擬授業）	・保育現場での観察、もしくは模擬授業を実施する。・実施後、観察内容や模擬授業の振り返りを行い、今後の改善に活かす。
14	フィールドワーク（もしくは模擬授業）の評価とまとめ	・フィールドワークや模擬授業を通して学んだことを整理し、まとめる。・振り返りを踏まえ、今後の保育実践に活かせること具体的な方法を明らかにする。・まとめた内容を発表し、共有する。
15		
16		

科目コード	34116				区　分	コア科目			
授業科目名	保育内容「環境」指導法［FC2521組用］				担当者名	橘髙　真紀子			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
領域「環境」という視点で、子どもがどのように環境に関わって主体的に活動を生み出し、その活動の中でどのような学びがあるのかについて実践的に学ぶ。また、領域「環境」における、保育者の援助方法や役割、環境の整え方について具体的に理解する。

＜授業の到達目標＞
1.　領域「環境」について保育実践に結び付けて理解する。2.　保育における「環境」という視点を通して、子どもと環境との関わりや、その関わりの中で、どのような心情、意欲、態度が育っていくのかが理解できる。3.　領域「環境」という視点から、保育者の柔軟で適切な援助のあり方を考えることができる。4.　領域「環境」という視点から、指導計画を作成することができる。

＜授業の方法＞
・授業テーマに即したグループワーク、ディスカッションを行う（全てにおいてワークシートを配布する）。・その後、各グループより議論した内容について発表を行う。・授業のまとめとして、テーマに即した保育内容「環境」のねらい、内容、内容の取扱いについて講義を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：グループディスカッション等を行う

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
・子どもを観察し、子どもの心の内や何に興味関心を持っているのかなど考察する機会をもっておく。・教育保育を想定しながら、廃材や物、自然等、様々な環境に関心を持つようにしておく。・予習：次回授業に関わる保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「環境」のねらいや内容について読んでおく（30分）・復習：リアクションペーパーの作成時において、授業内容を振り返り、理解を深めるようにする（30分）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・受講態度、グループワークの参加態度（10％）・オンデマンド課題　（25％）・指導案作成（25%）・最終レポート　（40%）

＜教科書＞
随時資料配布

＜参考書＞
幼稚園教育要領解説　フレーベル館
保育所保育指針解説　フレーベル館
幼保連携型認定こども園教育・保育要領　フレーベル館

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション子どもにとっての環境とその意義	授業計画説明
2	ワークショップ	子どもが好奇心、探求心をもって活動する遊びについて、具体的実践を行いながら考える。
3	ワークショップ	子どもが好奇心、探求心をもって活動する遊びについて、具体的実践を行いながら考える。
4	手作りおもちゃ作り（オンデマンド）	子どもの探求心を引き出すことを念頭におきながら、手作りおもちゃを各自で製作する。
5	5歳児：子どもの姿の観察	・子どもの客観的観察と記録について学ぶ・子どもと触れ合う中で、関わり方や支援、配慮について考える。
6	5歳児：子どもの姿の観察	・子どもの客観的観察と記録について学ぶ・子どもと触れ合う中で、関わり方や支援、配慮について考える。
7	５歳児：子どもの姿の観察についてまとめ発表	グループごとに観察した内容について共有しまとめ、発表する。
8	５歳児：指導計画作成	・グループでWEB図の作成を行い、活動の発展のさせ方の思考について学ぶ。・指導案の作成方法について学ぶ。
9	５歳児：指導計画作成	指導案の作成方法について学ぶ。
10	５歳児：保育準備	グループで保育準備をすすめていく。

11	5歳児：保育準備	グループで保育準備をすすめていく。
12	5歳児：模擬保育	模擬保育を行い、意見交流を通して多様な視点に触れ、他者の優れた点を参照しながら、自己の課題を明確にし、改善を試みる。
13	5歳児：こども園にて保育	こども園にて保育の実施と振り返りを行い、さらなる自己の課題を明確にしていく。
14	5歳児：こども園にて保育	こども園にて保育の実施と振り返りを行い、さらなる自己の課題を明確にしていく。
15		
16		

科目コード	34116				区　分	コア科目			
授業科目名	保育内容「環境」指導法［FC2522組用］				担当者名	橘髙　真紀子			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
領域「環境」という視点で、子どもがどのように環境に関わって主体的に活動を生み出し、その活動の中でどのような学びがあるのかについて実践的に学ぶ。また、領域「環境」における、保育者の援助方法や役割、環境の整え方について具体的に理解する。

＜授業の到達目標＞
1.　領域「環境」について保育実践に結び付けて理解する。2.　保育における「環境」という視点を通して、子どもと環境との関わりや、その関わりの中で、どのような心情、意欲、態度が育っていくのかが理解できる。3.　領域「環境」という視点から、保育者の柔軟で適切な援助のあり方を考えることができる。4.　領域「環境」という視点から、指導計画を作成することができる。

＜授業の方法＞
・授業テーマに即したグループワーク、ディスカッションを行う（全てにおいてワークシートを配布する）。・その後、各グループより議論した内容について発表を行う。・授業のまとめとして、テーマに即した保育内容「環境」のねらい、内容、内容の取扱いについて講義を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：グループディスカッション等を行う

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
・子どもを観察し、子どもの心の内や何に興味関心を持っているのかなど考察する機会をもっておく。・教育保育を想定しながら、廃材や物、自然等、様々な環境に関心を持つようにしておく。・予習：次回授業に関わる保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「環境」のねらいや内容について読んでおく（30分）・復習：リアクションペーパーの作成時において、授業内容を振り返り、理解を深めるようにする（30分）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３(教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・受講態度、グループワークの参加態度（10％）・オンデマンド課題　（25％）・指導案作成（25%）・最終レポート　（40%）

＜教科書＞
随時資料配布

＜参考書＞
幼稚園教育要領解説　フレーベル館
保育所保育指針解説　フレーベル館
幼保連携型認定こども園教育・保育要領　フレーベル館

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション子どもにとっての環境とその意義	授業計画説明
2	ワークショップ	子どもが好奇心、探求心をもって活動する遊びについて、具体的実践を行いながら考える。
3	ワークショップ	子どもが好奇心、探求心をもって活動する遊びについて、具体的実践を行いながら考える。
4	手作りおもちゃ作り（オンデマンド）	子どもの探求心を引き出すことを念頭におきながら、手作りおもちゃを各自で製作する。
5	5歳児：子どもの姿の観察	・子どもの客観的観察と記録について学ぶ・子どもと触れ合う中で、関わり方や支援、配慮について考える。
6	5歳児：子どもの姿の観察	・子どもの客観的観察と記録について学ぶ・子どもと触れ合う中で、関わり方や支援、配慮について考える。
7	５歳児：子どもの姿の観察についてまとめ発表	グループごとに観察した内容について共有しまとめ、発表する。
8	５歳児：指導計画作成	・グループでWEB図の作成を行い、活動の発展のさせ方の思考について学ぶ。・指導案の作成方法について学ぶ。
9	５歳児：指導計画作成	指導案の作成方法について学ぶ。
10	５歳児：保育準備	グループで保育準備をすすめていく。

11	5歳児：保育準備	グループで保育準備をすすめていく。
12	5歳児：模擬保育	模擬保育を行い、意見交流を通して多様な視点に触れ、他者の優れた点を参照しながら、自己の課題を明確にし、改善を試みる。
13	5歳児：こども園にて保育	こども園にて保育の実施と振り返りを行い、さらなる自己の課題を明確にしていく。
14	5歳児：こども園にて保育	こども園にて保育の実施と振り返りを行い、さらなる自己の課題を明確にしていく。
15		
16		

科目コード	34117				区　分	コア科目			
授業科目名	保育内容「身体表現」指導法［FC2521組用］				担当者名	小﨑　遼介／塚本　千晴／渡邊　亮／四宮　貴久／宮原　舞			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
保育現場における身体表現活動について、その教育的意義を実践を通して理解する。また、「幼稚園教育要領」における領域「表現」のねらいと内容について、具体的な活動を通して理解を深める。授業前半では、リズム遊びや表現運動などの身体表現を実際に体験し、表現する楽しさや多様な表現方法を学ぶ。後半では、実際の保育場面を想定した指導法の習得および模擬授業を行い、実践的な指導力の向上を目指す。

＜授業の到達目標＞
・領域「表現」のねらいおよび内容を理解する。・保育現場における身体表現活動の指導方法を習得する。・他者と協働しながら表現活動に取り組む力を身につける。・幼児の発達に応じた身体表現活動の指導案を立案できるようになる。

＜授業の方法＞
実技を中心とし、ペアワークおよびグループワークを取り入れて授業を行う。身体表現の体験、創作活動、指導実践を通して理解を深める。課題はGoogle Classroomを用いて提示・提出する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング：有ペアワークおよびグループワークを通して、協働的に表現活動に取り組む。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各回の学習テーマに関する事前課題（約20分）に取り組み、授業内容への理解を深める。授業後は、実技や模擬授業を通して得た学びや気づきを整理するレポート課題（約20分）に取り組むこと。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に基づき、総合的に評価する。評価の内訳は以下の通りとする。・中間発表および模擬授業　30%・レポートおよび課題　　30%・授業への取り組み態度　　40%

＜教科書＞

＜参考書＞
文部科学省(2017)　幼稚園教育要領
文部科学省(2018)　幼稚園教育要領解説

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション・踊る体験①：リズム遊び	授業内容、授業の進め方、評価などの説明・「表現」領域の説明・幼児向けのリズム遊びの体験
2	踊る体験②：フォークダンス	幼児向けのフォークダンスを体験する。
3	踊る体験③：表現運動	テーマを基にイメージを体で表す表現運動を体験する。
4	創る体験①：テーマ・構成・音楽を考える	グループで身体表現作品を創作する。（テーマ・構成・音楽の検討）
5	創る体験②：動きを考える	グループで身体表現作品を創作する。（動きの検討）
6	中間発表会	創作した作品を発表し、互いに鑑賞する。
7	教える体験①体ほぐし	幼児を対象とした体ほぐし活動の指導を実践する。
8	教える体験②：物を使った身体表現	新聞紙やボールなどの物を使った身体表現の指導を実践する。
9	教える体験③：イメージ遊び	イメージを基にした表現遊びの指導を実践する。
10	指導案の作成①	幼児の発達や表現領域のねらいを踏まえて、グループで指導案を作成する
11	指導案の作成②	作成した指導案を検討・改善し、より実践的な内容へと発展させる。模擬授業の準備を行う。
12	模擬実践①	作成した指導案に基づき模擬授業を実施する。
13	模擬実践②	作成した指導案に基づき模擬授業を実施する。
14	まとめ	「踊る・創る・教える」体験および模擬授業を振り返り、保育における身体表現の意義を整理する。
15		
16		

科目コード	34117				区　分	コア科目			
授業科目名	保育内容「身体表現」指導法［FC2522組用］				担当者名	小﨑　遼介／渡邊　亮／四宮　貴久／塚本　千晴／宮原　舞			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
保育現場における身体表現活動について、その教育的意義を実践を通して理解する。また、「幼稚園教育要領」における領域「表現」のねらいと内容について、具体的な活動を通して理解を深める。授業前半では、リズム遊びや表現運動などの身体表現を実際に体験し、表現する楽しさや多様な表現方法を学ぶ。後半では、実際の保育場面を想定した指導法の習得および模擬授業を行い、実践的な指導力の向上を目指す。

＜授業の到達目標＞
・領域「表現」のねらいおよび内容を理解する。・保育現場における身体表現活動の指導方法を習得する。・他者と協働しながら表現活動に取り組む力を身につける。・幼児の発達に応じた身体表現活動の指導案を立案できるようになる。

＜授業の方法＞
実技を中心とし、ペアワークおよびグループワークを取り入れて授業を行う。身体表現の体験、創作活動、指導実践を通して理解を深める。課題はGoogle Classroomを用いて提示・提出する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング：有ペアワークおよびグループワークを通して、協働的に表現活動に取り組む。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各回の学習テーマに関する事前課題（約20分）に取り組み、授業内容への理解を深める。授業後は、実技や模擬授業を通して得た学びや気づきを整理するレポート課題（約20分）に取り組むこと。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に基づき、総合的に評価する。評価の内訳は以下の通りとする。・中間発表および模擬授業　30%・レポートおよび課題　　30%・授業への取り組み態度　　40%

＜教科書＞

＜参考書＞
文部科学省(2017)　幼稚園教育要領
文部科学省(2018)　幼稚園教育要領解説

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション・踊る体験①：リズム遊び	授業内容、授業の進め方、評価などの説明・「表現」領域の説明・幼児向けのリズム遊びの体験
2	踊る体験②：フォークダンス	幼児向けのフォークダンスを体験する。
3	踊る体験③：表現運動	テーマを基にイメージを体で表す表現運動を体験する。
4	創る体験①：テーマ・構成・音楽を考える	グループで身体表現作品を創作する。（テーマ・構成・音楽の検討）
5	創る体験②：動きを考える	グループで身体表現作品を創作する。（動きの検討）
6	中間発表会	創作した作品を発表し、互いに鑑賞する。
7	教える体験①体ほぐし	幼児を対象とした体ほぐし活動の指導を実践する。
8	教える体験②：物を使った身体表現	新聞紙やボールなどの物を使った身体表現の指導を実践する。
9	教える体験③：イメージ遊び	イメージを基にした表現遊びの指導を実践する。
10	指導案の作成①	幼児の発達や表現領域のねらいを踏まえて、グループで指導案を作成する
11	指導案の作成②	作成した指導案を検討・改善し、より実践的な内容へと発展させる。模擬授業の準備を行う。
12	模擬実践①	作成した指導案に基づき模擬授業を実施する。
13	模擬実践②	作成した指導案に基づき模擬授業を実施する。
14	まとめ	「踊る・創る・教える」体験および模擬授業を振り返り、保育における身体表現の意義を整理する。
15		
16		

科目コード	34118				区　分	コア科目		
授業科目名	保育内容「造形表現」指導法［FC2521組用］				担当者名	後藤　由佳		
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
保育内容「造形表現」指導法は、保育士資格取得における選択科目ではあるが、幼稚園教諭一種免許状取得において必修科目かつこども発達学科の卒業必修科目である。本演習では、製作・鑑賞活動を軸として、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術、造形表現の表現活動に関する専門知識と技術を習得することを目的とする。

＜授業の到達目標＞
実社会で通用する保育士・幼稚園教諭を養成するため、保育実習や教育実習をはじめ、保育現場で求められる子どもの造形表現に関する専門知識と技術を身に付けている。

＜授業の方法＞
準備学習(予習・復習)の確認においてはデジタルツール(Classroom)を活用する。アクティブ・ラーニングの要素(ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等)を取り入れつつ、子どもの造形表現に係る教材の製作、及び鑑賞により授業を進める。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有(ディスカッション，グループワーク，プレゼンテーションの方法)4～5人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業時間外で、授業に必要な資料や教材、用具を準備してください。また授業内に作品が完成しない場合は、次回の授業までに作品や課題のポートフォリオの製作に取り組む等，準備学習(45分程度)を求めます。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
演習への取組み姿勢と受講態度、受講意欲(教材、用具等事前準備) 30%、作品のまとめ(ポートフォリオ2種類) 50%、作品鑑賞と定期試験 20%、授業課題や折紙ポートフォリオ等、作品の未完成は認められません。必ず、授業時間と準備学習で作品を完成させてください。

＜教科書＞
村田夕紀　楽しい"造形"がいっぱい　2・3・4・5歳児の技法あそび実践ライブ　ひかりのくに
　幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領

＜参考書＞
村田夕紀　まずは絵あそびから始めよう！3・4・5歳児の楽しく絵を描く実践ライブ　ひかりのくに
村田夕紀　低年齢児が夢中になる遊びがいっぱい！0・1・2歳児の造形あそび実践ライブ　ひかりのくに

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	演習の流れ、授業の到達目標と注意事項、成績評価法の説明
2	造形表現の教材研究(1)	デカルコマニー(合わせ絵)
3	造形表現の教材研究(2)	スタンピング(型押し)
4	造形表現の教材研究(3)	染め紙
5	造形表現の教材研究(4)	にじみ絵
6	造形表現の教材研究(5)	ビー玉ころがし
7	造形表現の教材研究(6)	バチック(はじき絵)
8	造形表現の教材研究(7)	スクラッチ(引っかき絵)
9	造形表現の教材研究(8)	パスのカーボン紙絵
10	造形表現の教材研究(9)	パスのステンシル・指ぼかし
11	造形表現の教材研究(10)	フロッタージュ(こすり出し)
12	造形表現の教材研究(11)	ペーパークラフト
13	まとめ	演習のふり返り、ポートフォリオ提出
14	全体総括	ポートフォリオの作品発表とその鑑賞、定期試験の解説
15		
16		

科目コード	34118				区　分	コア科目		
授業科目名	保育内容「造形表現」指導法［FC2522組用］				担当者名	後藤　由佳		
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
保育内容「造形表現」指導法は、保育士資格取得における選択科目ではあるが、幼稚園教諭一種免許状取得において必修科目かつこども発達学科の卒業必修科目である。本演習では、製作・鑑賞活動を軸として、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術、造形表現の表現活動に関する専門知識と技術を習得することを目的とする。

＜授業の到達目標＞
実社会で通用する保育士・幼稚園教諭を養成するため、保育実習や教育実習をはじめ、保育現場で求められる子どもの造形表現に関する専門知識と技術を身に付けている。

＜授業の方法＞
準備学習(予習・復習)の確認においてはデジタルツール(Classroom)を活用する。アクティブ・ラーニングの要素(ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等)を取り入れつつ、子どもの造形表現に係る教材の製作、及び鑑賞により授業を進める。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有(ディスカッション，グループワーク，プレゼンテーションの方法)4～5人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業時間外で、授業に必要な資料や教材、用具を準備してください。また授業内に作品が完成しない場合は、次回の授業までに作品や課題のポートフォリオの製作に取り組む等，準備学習(45分程度)を求めます。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
演習への取組み姿勢と受講態度、受講意欲(教材、用具等事前準備) 30%、作品のまとめ(ポートフォリオ2種類) 50%、作品鑑賞と定期試験 20%、授業課題や折紙ポートフォリオ等、作品の未完成は認められません。必ず、授業時間と準備学習で作品を完成させてください。

＜教科書＞
村田夕紀　楽しい"造形"がいっぱい　2・3・4・5歳児の技法あそび実践ライブ　ひかりのくに
　幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領

＜参考書＞
村田夕紀　まずは絵あそびから始めよう！3・4・5歳児の楽しく絵を描く実践ライブ　ひかりのくに
村田夕紀　低年齢児が夢中になる遊びがいっぱい！0・1・2歳児の造形あそび実践ライブ　ひかりのくに

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	演習の流れ、授業の到達目標と注意事項、成績評価法の説明
2	造形表現の教材研究(1)	デカルコマニー(合わせ絵)
3	造形表現の教材研究(2)	スタンピング(型押し)
4	造形表現の教材研究(3)	染め紙
5	造形表現の教材研究(4)	にじみ絵
6	造形表現の教材研究(5)	ビー玉ころがし
7	造形表現の教材研究(6)	バチック(はじき絵)
8	造形表現の教材研究(7)	スクラッチ(引っかき絵)
9	造形表現の教材研究(8)	パスのカーボン紙絵
10	造形表現の教材研究(9)	パスのステンシル・指ぼかし
11	造形表現の教材研究(10)	フロッタージュ(こすり出し)
12	造形表現の教材研究(11)	ペーパークラフト
13	まとめ	演習のふり返り、ポートフォリオ提出
14	全体総括	ポートフォリオの作品発表とその鑑賞、定期試験の解説
15		
16		

科目コード	34119				区　分	コア科目		
授業科目名	保育内容「音楽表現」指導法［FC2521組用］				担当者名	髙﨑　展好		
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
幼児期における音楽教育の意義を考え、多様な音楽表現と音楽的要素を含んだ遊びの活動を通して、その指導法を学ぶ。様々な特性を持った子どものニーズに応えられるよう、どんな子どもの心にも届く音楽表現を目指し、様々な方法論を学ぶ。また、子どもを理解し、人間性豊かな指導者になるための基本の考え方を身に付ける。音楽表現のレパートリーを数多く会得し、保育の場で活用、実践できることを目指す。すべての課題レポートについては、GoogleClassを使用するため、PCを準備の上、望んでください。

＜授業の到達目標＞
・幼稚園教育要領および保育所保育指針における領域「表現」のねらいと内容を理解し、音楽表現の教育的意義について説明することができる。・幼児教育における音楽表現の役割や効果について理解し、具体的な保育場面を想定して説明することができる。・歌唱活動を通して、正しい発声や基本的な音楽技能を身につけ、子どもに分かりやすく指導することができる。・子どもが表現することの楽しさを感じられるような音楽活動を構想し、実践することができる。・音楽表現活動を通して得られた経験をもとに、保育における実践的な活用方法について考察し、

＜授業の方法＞
講義と演習を繰り返し行いながら、保育教育に必要な様々な音楽表現の習得を目指す。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
保育内容に関わる、歌唱、手遊び歌、手話等の音楽表現指導法の演習

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
本講義では楽譜などのを配布。配布資料を整理できるファイルを各自準備すること。各回講義内容はテキスト「一人一人を大切にするユニバーサルデザインの音楽表現」に沿っています。必ず予習を行うこと。また、演習で行った音楽表現内容は必ず復習をすること。会得できているか定期的に確認テストを行う。次週課題（事前予告）の予習60分・これまでに学習した課題の復習60分。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度・意欲 30%、講義内での課題、レポート提出 20%、実技発表（模擬保育形式） 20%、実技テスト 30%

＜教科書＞
星山麻木　編著、板野和彦　著（発行2015年8月10日　初版第1刷）　一人一人を大切にするユニバーサルデザインの音楽表現　萌文書林
阿部直美／編著　（初版年月：2021年2月）　0～5歳児保育の手あそび 季節・行事・生活・あやし歌／阿部直美　ひかりのくに

＜参考書＞
発行2017年6月1日　平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育･保育要領 原本　チャイルド本社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	本講義の概要、進め方について、音楽表現とは何かを学ぶ
2	基礎的な音楽表現①	ストレッチ、基本的な発声、歌唱を通した音楽表現①
3	基礎的な音楽表現②	ストレッチ、基本的な発声、歌唱を通した音楽表現②
4	基礎的な音楽表現③	ストレッチ、基本的な発声、歌唱を通した音楽表現③
5	子どもの発達と音楽表現①	幼稚園教育要領より領域「表現」と音楽表現
6	子どもの発達と音楽表現②	「表現」とは
7	子どもの発達と音楽表現③	音楽の力
8	子どもの発達と音楽表現④	ユニバーサルデザインの音楽表現
9	子どもの発達と音楽表現⑤	音楽表現とコミュニケーション
10	子どもの発達と音楽表現⑥	リズムの力手話を活用した音楽表現①
11	子どもの発達と音楽表現⑦	豊かな心の発達を促す音楽表現手話を活用した音楽表現②
12	子どもの発達と音楽表現⑧	ことばとコミュニケーションの発達を促す音楽表現手話を活用した音楽表現③
13	保育実践演習	保育、幼児教育における音楽表現の実践
14	保育実践演習と総括	保育教育実習で活用できる音楽表現（手遊び歌）による実技試験と本講義のまとめ
15		
16		

科目コード	34119				区　分	コア科目		
授業科目名	保育内容「音楽表現」指導法［FC2522組用］				担当者名	髙﨑　展好		
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
幼児期における音楽教育の意義を考え、多様な音楽表現と音楽的要素を含んだ遊びの活動を通して、その指導法を学ぶ。様々な特性を持った子どものニーズに応えられるよう、どんな子どもの心にも届く音楽表現を目指し、様々な方法論を学ぶ。また、子どもを理解し、人間性豊かな指導者になるための基本の考え方を身に付ける。音楽表現のレパートリーを数多く会得し、保育の場で活用、実践できることを目指す。すべての課題レポートについては、GoogleClassを使用するため、PCを準備の上、望んでください。

＜授業の到達目標＞
・幼稚園教育要領および保育所保育指針における領域「表現」のねらいと内容を理解し、音楽表現の教育的意義について説明することができる。・幼児教育における音楽表現の役割や効果について理解し、具体的な保育場面を想定して説明することができる。・歌唱活動を通して、正しい発声や基本的な音楽技能を身につけ、子どもに分かりやすく指導することができる。・子どもが表現することの楽しさを感じられるような音楽活動を構想し、実践することができる。・音楽表現活動を通して得られた経験をもとに、保育における実践的な活用方法について考察し、

＜授業の方法＞
講義と演習を繰り返し行いながら、保育教育に必要な様々な音楽表現の習得を目指す。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
保育内容に関わる、歌唱、手遊び歌、手話等の音楽表現指導法の演習

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
本講義では楽譜などのを配布。配布資料を整理できるファイルを各自準備すること。各回講義内容はテキスト「一人一人を大切にするユニバーサルデザインの音楽表現」に沿っています。必ず予習を行うこと。また、演習で行った音楽表現内容は必ず復習をすること。会得できているか定期的に確認テストを行う。次週課題（事前予告）の予習60分・これまでに学習した課題の復習60分。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度・意欲 30%、講義内での課題、レポート提出 20%、実技発表（模擬保育形式） 20%、実技テスト 30%

＜教科書＞
星山麻木　編著、板野和彦　著（発行2015年8月10日　初版第1刷）　一人一人を大切にするユニバーサルデザインの音楽表現　萌文書林
阿部直美／編著　（初版年月：2021年2月）　0～5歳児保育の手あそび 季節・行事・生活・あやし歌　ひかりのくに

＜参考書＞
発行2017年6月1日　平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育･保育要領 原本　チャイルド本社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	本講義の概要、進め方について、音楽表現とは何かを学ぶ
2	基礎的な音楽表現①	ストレッチ、基本的な発声、歌唱を通した音楽表現①
3	基礎的な音楽表現②	ストレッチ、基本的な発声、歌唱を通した音楽表現②
4	基礎的な音楽表現③	ストレッチ、基本的な発声、歌唱を通した音楽表現③
5	子どもの発達と音楽表現①	幼稚園教育要領より領域「表現」と音楽表現
6	子どもの発達と音楽表現②	「表現」とは
7	子どもの発達と音楽表現③	音楽の力
8	子どもの発達と音楽表現④	ユニバーサルデザインの音楽表現
9	子どもの発達と音楽表現⑤	音楽表現とコミュニケーション
10	子どもの発達と音楽表現⑥	リズムの力手話を活用した音楽表現①
11	子どもの発達と音楽表現⑦	豊かな心の発達を促す音楽表現手話を活用した音楽表現②
12	子どもの発達と音楽表現⑧	ことばとコミュニケーションの発達を促す音楽表現手話を活用した音楽表現③
13	保育実践演習	保育、幼児教育における音楽表現の実践
14	保育実践演習と総括	保育教育実習で活用できる音楽表現（手遊び歌）による実技試験と本講義のまとめ
15		
16		

科目コード	34120				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	幼児と健康				担当者名	小﨑　遼介			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択必修／教員免許状取得のための選択科目

＜授業の概要＞
領域「健康」のねらいおよび内容を理解し、子どもの心身の健康な発育発達、基本的生活習慣の獲得、体力・運動能力の獲得、安全な環境設定を目的とした保育内容の提案のための知識・技能を理解する。この科目は保育士資格取得の必須科目である。

＜授業の到達目標＞
現代の子どもの健康を取り巻く環境の変化や諸問題を把握した上で、子どもの心身の発達、基本的生活習慣、安全な生活、運動発達について理解する。また、各指針・要領の健康領域「健康」のねらいおよび内容を理解し、説明することができる。

＜授業の方法＞
・講義形式ではパワーポイントを活用し、必要に応じて資料の配布を行う。・適宜ディスカッション、グループワークを用いて、交流を図る。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
ディスカッション、簡単に身体を動かす。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前に示した参考書および資料を読み提示した課題を課す（30分）。また、授業内容のレポート課題を課すことがある（30分）。課題の提出はクラスルームから行う。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は､学科のディプロマポリシー２（保育士･幼稚園教諭養成の専門分野における最先端かつ高度な知識･技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
事前課題40%、期末試験60%

＜教科書＞
なし

＜参考書＞
無藤隆、倉持清美（2020年8月25日）　新訂　事例で学ぶ保育内容　領域健康　㈱萌文書林
酒井幸子、松山洋平（2020年12月10日）　保育内容　健康　あなたならどうしますか？　㈱萌文書林
松田博雄、金森三枝（2019年）　子どもの健康と安全　中央法規

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	領域「健康」のねらい	授業概要の解説と領域健康についての解説
2	健康について	健康とは何かを考え、グループワークを行う
3	幼児の身体の発達	形態、骨、歯、脳の発達
4	幼児の心の発達	精神的発達、知的発達、社会性の発達
5	幼児の生活習慣	幼児教育施設における生活習慣
6	生活習慣の形成（睡眠・食事・排泄）	睡眠、食事、排泄、衣服の着脱の自立について
7	幼児の体力・運動能力について	幼児期運動指針、運動能力、身体活動について
8	幼児の運動遊びについて①	幼児の遊びの意義、多様な動きについて
9	幼児の運動遊びについて②	用具を用いた運動遊び
10	子どもの健康をめぐる現状と課題	子どもの健康に関する近年のトピックを扱う
11	子どものケガと病気	幼児に起こりやすい怪我と疾病
12	安全教育	子どもへの安全教育、保育者への研修
13	事故予防	防災教育、リスクマネジメント、施設設備管理
14	幼児教育の現代的課題と領域「健康」	授業内容全般における振り返りと生涯発達のなかで「健康」に関する学びを捉える
15		
16		

科目コード	34121				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	幼児と言葉				担当者名	内田　伸子			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本科目では，領域「言葉」の指導の基礎となる，幼児が豊かな言葉や表現を身に付け，想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を身につける。そのため授業では，乳幼児期の言葉やその発達の特性をふまえ，幼児の言葉を育て，言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識を身に付ける。

＜授業の到達目標＞
(1)人間にとっての言葉の意義や機能を理解する。(2)言葉に対する感覚を豊かにする実践について理解する。(3)幼児にとっての児童文化財の意義を理解する。

＜授業の方法＞
①集中講義②受講中疑問点があれば挙手して発言すること。③指名したら立ち上がり自分の考えを述べること。（問やコメントを書き入れるか、マイクオンして挙手マークをチェックし氏名を言って質問すること。）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有；ワークショップを行う⇔授業のしめくくりに授業者が提案したテーマや問をめぐって4人一組で討論、ワークし、各グループの代表が討論結果を発表してクラス全体で共有する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
【予習】①専用のノートを用意する。②テキストの該当章と配布資料（講義レジュメ）をよく読み授業の概要について予測しておく。③「理解したい」「深く知りたい」点は何かを書き出しておく。【復習】受講前に抱いた疑問は解決したか？受講によって初めて知ったことは何か？さらに調べてみたい点は何か？を書き出しておく。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は､学科のディプロマポリシー２（保育士･幼稚園教諭養成の専門分野における最先端かつ高度な知識･技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講意欲，授業への貢献度（10%），授業しめくくりのワークショップ(30%)，テストレポート(60%)

＜教科書＞
内田伸子(編)　(2008年1月初版その後増刷中)⇔＜テキストに準拠して講義する＞　『よくわかる乳幼児心理学』　ミネルヴァ書房

＜参考書＞
内田伸子（著）2026年10刷　『まごころの保育～堀合文子の言葉と実践に学ぶ』　小学館

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション〔予習；講義レジュメ、2017年新規保育指針の整理表〕	領域「言葉」のねらいと内容，『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』；０歳からの教育～10の姿の育ちDVD『さとしの自分探し～今日きてよかったね』視聴により何に気づいたかをめぐる討論を行う。
2	人間にとっての言葉の意義と機能；音声言語の発生因〔講義レジュメテキストⅠ章〕	ことば（音声言語・speech；外言と内言）の獲得は人間に何をもたらしたか？人間に特有な「生理的早産」のしくみはことばの発生にどう寄与したかを理解する。
3	人間のとっての言葉の意義と機能；遺伝と環境　〔講義レジュメ、テキストⅤ章〕	子どものことばの獲得に及ぼす遺伝と環境の相互作用について解説する。第一次認知革命と第二次認知革命を経てことばが人とつながり、自分の行動を制御するようになり、内省の手段になる過程を理解する。
4	子どもの言葉の発達過程；乳児期～幼児初期　〔講義レジュメ、テキストⅥの１・３・６〕	「象徴機能」とは何か？言葉の意味がひろがる過程で「類推」や「般用」はどのようにはたらくか？英単語に一対一で日本語があてはまるかをサザエさんの漫画を題材にして考える。
5	子どもの言葉の発達過程；子育ての文化差　〔講義レジュメ、テキストⅢの１・２・６・８〕	子ども観の文化差は子育てスタイルにどう影響するか？育児語の文化差は言葉の発達にどのように影響するか？保育者と子どもの人数比の違いは言葉やジェスチャーの獲得にどんな影響を及ぼしているか？
6	子どもの言葉の発達過程；「唱える」～「数える」へ　〔講義レジュメ　テキストⅫの１・２・３〕	子どもの計数活動は、まず歌のように「唱える」ことから始まり、幼児期の終わりには対象物に適合的な助数詞をつけて数えるようになる。実証を踏まえて数の概念の発達と計数行動が絡み合いながら発達することを理解する。
7	言葉の美しさ，楽しさ；子どもの語りの発達　〔講義レジュメ、テキストⅪの１・３〕	２～３歳ごろに母語の文法が獲得されると筋の通ったお話を語るようになる。５～６歳ごろには談話文法やカットバック（可逆的操作）を獲得するとファンタジーも語れるようになる。「お話遊び」を保育にとりいれるよう提案。
8	言葉の美しさ，楽しさ；子どものウソ・	子どものウソは人をあざむくような嘘か？子どもの目撃証言や裁判の供述の発話資

	大人の嘘 〔講義レジュメ、テキストXIの２・４〕	料、うわさばなしの伝播の過程ごっこ遊びでの子どもの会話などから、ウソが発生するメカニズムを探る。
9	言葉に対する感覚を豊かにする実践の実際；ネグレクトからの言語回復　講義レジュメ、テキストⅡ全体〕	ネグレクト児の社会復帰のための補償教育に取り組み、完全に言語回復、社会性、思考の自律性を獲得させることができた。20年間のFとMの成長の物語を通して人間発達の可塑性の素晴らしさを実感していただきたい。
10	言葉に対する感覚を豊かにする実践の実際；親子の会話 〔講義レジュメ、テキストVIの６・７・８〕	母語の獲得に文法の訓練は効果がない。親子の会話を通して言葉に対する感覚が豊かになる。北村の方言獲得の調査研究から見えてきた教師や保育者の語りかけが言葉に対する感覚を豊かにすることを解説する。
11	言葉を育て創造する楽しさを広げる「児童文化財」の意義；絵本 〔講義レジュメ、テキストⅩⅢの２・３〕	バトラー著『クシュラの奇跡』（のら書房）やベッテルハイム著『昔話の魔力』（大修館書店）、内田・浜野編著『貧困は超えられるか』（金子書房）などから絵本の読み聞かせが届ける「心の栄養」について理解する。
12	言葉を育て，想像する楽しさを広げる児童文化財を用いた実践；テレビ〔講義ﾚｼﾞｭﾒ、テキストⅩⅢの４・５〕	テレビなど映像メディアは幼児に何ができるか？NHKの『お母さんといっしょ』の番組開発のための「形成評価研究」の方法論を解説する。実際の番組の開発と評価を経た「こんなこいるかな」の映像をみて論評する。
13	読み書き能力の獲得；「楽習」が不可欠〔講義レジュメ、　テキストⅩⅢの１・12〕	文字学習の特質は何か、幼児期は遊びの中で文字に関心をもち、自分でも読んだりｔ書いたりするようになるなる。小学校入学までに育てたい力は絵や文字で表現したくなるような非認知能力（創造的想像力）である
14	教育者・保育者の「言葉」の重要性；ZPDへの「足場かけ」 〔講義レジュメ　テキスト14章と15章〕	子ども主体の保育」とは子どもが主人公で大人(保育者も親も)は賢いわき役である。子ども一人一人の活動をドキュメンテーションにして保育を可視化し保育カンファレンスで評価し明日の保育・教育の質を高め、教育尾PDCAサイクルの好循環を達成することが求められる。子どものウウェルビーングを実現するための方策を探る。
15		
16		

科目コード	34122				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	幼児と人間関係				担当者名	虫明　淑子			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
現代社会や家庭環境の変化に伴い、幼児を取り巻く環境は大きく変化しており、幼児期における人間関係の育ちにも多様な影響が生じている。本授業では、こうした現代的課題を背景に、幼児が他者とどのように関わり合い、人と関わる力をどのように育んでいくかを探求する。特に、幼児教育における「環境を通して行う教育」や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」といった基本的概念を踏まえ、体験的な学びを通して領域「人間関係」の意義や内容を体系的に理解し、実践力向上につながる理論的基盤の構築を目指す。

＜授業の到達目標＞
１．幼児を取り巻く社会や環境の変化に伴う現代的課題について理解する。２．幼児期における人間関係の育成の重要性を理解し、その教育的意義を説明できる。３．人間関係の育成には一定の発達の道筋や個人差があることを理解し、発達段階に応じた見通しのある適切な指導の重要性を認識する。４．「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に示される「自立心」「協同性」「道徳性と規範意識の芽生え」について、具体的な事例を用いて自分の言葉で説明できる。

＜授業の方法＞
・講義：教材や資料を活用して基礎的知識や視点を学ぶ。・事例検討：実際の事例をもとに意見交換を行い、学んだことを自分のものとして具体的に考える。・リアクションペーパー・課題：授業で学んだ内容を自分の言葉で記述し、考えを整理する。・授業内試験：授業で学んだ内容を整理し、試験後のフィードバックを通して理解を定着させる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニング：有方法：グループディスカッション、グループワーク・具体的な事例をもとに学生同士で意見交換を行い、対話を通して理解を深める。・他者の視点に触れることで、自分の考えを広げ、多角的な考え方があることを認識する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
・参考書を読み、前回授業を振り返ることで、授業に主体的に参加できるよう準備する。・授業で学んだ内容を整理し、学んだことや感想を自分の言葉で説明できるようにする。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる）と関連付けられる。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・授業参加態度（40%）：出席・姿勢・グループディスカッションでの態度や取り組み方を評価・リアクションペーパーと課題（30%）：提出状況や、授業の要点・学んだこと・感想を自分の言葉で表せているかを評価・試験（30%）：授業内容の理解度と考えのまとめを評価※学生からの質問には随時対応する。※リアクションペーパーへのフィードバックは次回以降の授業内容に反映する。※授業計画は学生の理解度に応じて変更することがある。※試験は授業内に実施し、実施後のフィードバックにより理解を補充する。

＜教科書＞
文部科学省（2018年3月）　『幼稚園教育要領解説』　フレーベル館
内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018年3月）　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』　フレーベル館
厚生労働省（2018年3月）　『保育所保育指針解説』　フレーベル館

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	人間関係は教えて育つものなのかー幼児期における人間関係を育む意義について考える。
2	現代社会における子どもを取り巻く人間関係	現代社会における子どもを取り巻く環境の変化－保護者の心理的課題を含めて考察する
3	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」	・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とは何かについて理解する。・この時期に育まれる育ちが、その後の学びや人生の基礎となることについて理解する。
4	領域「人間関係」のねらいと内容	・「環境を通して行う教育」の意義について理解する。・領域「人間関係」のねらいと内容を理解する。
5	フィールドワーク①	・子どもの立場になって遊ぶ体験を通して考える。・自然物およびリサイクル素材を活用した遊びから「人と関わる力」について考察する。
6	フィールドワーク②	・子どもの立場になって遊ぶ体験を通して考える。・自然物やリサイクル素材を活用した遊びを考え、「人と関わる力」を育成するための環境構成や援助のあり方を体感的に理解する。

7	フィールドワーク③	・体験の振り返りを通じて、気づきや学びを言語化し、学生間で共有する。
8	具体的な事例から考える①	・「自立心」を育む援助の具体的な方法や実践について学ぶ。
9	具体的な事例から考える②	・「道徳性・規範意識の芽生え」を育む援助の具体的な方法や実践について学ぶ。
10	具体的な事例から考える③	・「協同性」を育む援助の具体的な方法や実践について学ぶ。
11	３歳児・４歳児・５歳児における「人との関わり」の発達	・環境構成および援助のあり方を考察し、子どもの発達との関係について理解する。
12	０～２歳児における「人との関わり」の発達	・環境構成および援助のあり方を考察し、子どもの発達との関係について理解する。
13	領域「人間関係」の整理	・これまでの学習内容を振り返り、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示される領域「人間関係」を整理する。
14	授業内試験と学びのまとめ	・これまでの授業内容を振り返り、学びを整理する。・領域「人間関係」のねらい・内容についての理解を深める。
15		
16		

科目コード	34123				区　分	コア科目			
授業科目名	幼児と環境				担当者名	橘髙　真紀子			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
三法令における領域「環境」のねらい・内容の理解をはかるために、各回のテーマに即したグループワークを行い、また体験型の活動を行う。

＜授業の到達目標＞
（1）幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にとっての意義を理解し、子どもの主体的な活動を支える環境構成について説明できる。（2）幼児の身近な環境との関わりにおける思考・科学的概念の発達を理解し、その発達を支える環境や援助の在り方について説明できる。（3）幼児期の標識・文字等、情報・施設等、社会や文化との関わりの中で発達していくことを理解できる。

＜授業の方法＞
・授業テーマに即したグループワーク、ディスカッション、発表資料作成を行う。・その後、各グループより議論した内容について発表を行う。・授業のまとめとして、講義を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：領域「環境」に関わる体験活動を行う。活動を通して、理論を具体的に捉え、気づきや学びを言語化することで理解を深める。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
・子どもを観察し、子どもの心の内や何に興味関心を持っているのかなど考察する機会をもっておく。・予習：幼保連携型認定こども園教育・保育要領、領域「環境」の項を読んでおく。（30分）・復習：リアクションペーパーの作成時において、授業内容を振り返り、理解を深めるようにする。（30分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は､学科のディプロマポリシー２(保育士･幼稚園教諭養成の専門分野における最先端かつ高度な知識･技能を獲得できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・受講態度、グループワークの参加態度（15％）・リアクションペーパー（15％）・オンデマンド課題（30％）・定期テスト（40％）

＜教科書＞
随時資料配布

＜参考書＞
幼稚園教育要領解説　フレーベル館
保育所保育指針解説　フレーベル館
幼保連携型認定こども園教育・保育要領　フレーベル

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	・オリエンテーション・領域「環境」のねらいと内容について	・授業計画説明
2	・探求心、好奇心を育む自然環境	・畑の土づくりを行う。
3	・探求心、好奇心を育む自然環境	・グループワーク：周辺散策と遊びのヒント
4	・探求心、好奇心を育む自然環境(オンデマンド)	課題の提出
5	・探求心、好奇心を育む自然環境	・グループワーク：夏野菜の栽培(各グループで責任をもって栽培活動、また観察を行う)
6	・探求心、好奇心を育む人的環境	・グループワーク：保育者としてのふるまいや言葉がけについて考える
7	・探求心、好奇心を育む物的環境	・認定こども園見学：0歳児、1歳児、2歳児、3歳児、4歳児、5歳児、それぞれの物環境、遊具を考える。
8	・数量・図形に関心をもつ保育	・グループワーク：数量、図形に関する遊びのワークショップ
9	・標識や文字に関心を持つ保育	・グループワーク：標識や文字に関する遊びのワークショップ
10	・生活に関係の深い情報や施設とは	・グループワーク：近隣の施設についてリサーチする
11	・伝統的行事や様々な文化	・グループワーク：教育保育の中で行う行事についてリサーチし、教育的意義について考察し発表する。
12	・探求心、好奇心を育む自然環境	・グループワーク：栽培活動の経過報告、栽培活動を通して子どもの学びについて発表
13	・探求心、好奇心を育む自然環境	・グループワーク：収穫物を味わう
14	・まとめ	・まとめの講義：領域「環境」の内容の取扱いについて・領域「環境」と幼児期の終

15		わりまでに育ってほしい「10の姿」との関連について・現代の課題「好奇心」が満たされず「探求心」が持てない環境とは
16		

科目コード	34124				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	幼児と表現				担当者名	宮原　舞／後藤　由佳			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択必修

＜授業の概要＞
本科目では，領域「表現」に関して，幼児の表現の姿やその発達，それを促す要因，幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などについて学ぶ。授業では，幼児期の表現の特質を踏まえ，身体・造形・音楽表現などの多様な表現との豊かな関わりを育むための基礎的な知識・技能を，体験を通して理解する。

＜授業の到達目標＞
(1) 幼児の表現の姿やその発達の特質について理解する。(2) 身体・造形・音楽表現などに関する基礎的な知識・技能を学び，幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。(3) 領域「表現」のねらい，内容，内容の取扱いについて理解し，幼児教育・保育における意義を説明できる。

＜授業の方法＞
講義・演習を組み合わせながら，保育・幼児教育に必要な様々な表現を体験的に学ぶ。音楽・造形・身体表現等の活動を通して，幼児の表現の特質や，それを支えるための視点について理解を深める。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有：各回のテーマに基づいてグループごとに意見交流や発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習として，授業で扱うテーマに関する配付資料や参考資料に目を通し，授業内容の見通しをもっておくこと。復習として，授業で扱った内容や活動を振り返り，配付資料やノートをもとに理解を深めること。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業に対する取組み　30%、レポート・課題作品　50%、定期試験　20%

＜教科書＞
文部科学省　幼稚園教育要領解説（平成30年3月）　フレーベル館
厚生労働省　保育所保育指針解説（平成30年3月）　フレーベル館
内閣府・文部科学省・厚生労働省　幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月）　フレーベル館

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の流れ・到達目標・成績評価
2	領域「表現」とは	領域「表現」のねらい，内容，内容の取扱いについて
3	音楽表現①	音・声・楽器による音楽遊びを通して，幼児の音楽表現の基礎を理解する。
4	音楽表現②	音遊びや歌遊びを，音楽的な「学び」の視点から捉え，その教育的意義について考える。
5	音楽表現③	アンサンブルを通して，音や声が重なり合うおもしろさや美しさを体験し，共に表現することの意味を学ぶ。
6	造形表現①	線や色との出会いを通して，描くことの楽しさや表現の広がりについて理解する。
7	造形表現②	絵の具を用いた表現活動を通して，感触や色彩の変化を味わいながら造形表現の特性を学ぶ。
8	造形表現③	紙素材を用いた造形遊びを通して，素材の性質を生かした表現の可能性について考える。
9	身体表現①	身近な自然や素材の特性に触れ，感じる，見る，聴く，楽しむことを通してイメージを豊かにする。
10	身体表現②	身近な遊びや生活の中で心が動いたことをもとに，身体を用いて表現することの意義を学ぶ。
11	STEAM保育を意識した表現活動の探究①	自然物や身近な素材を用いた表現活動について，その意義や可能性を考える。
12	STEAM保育を意識した表現活動の探究②	自然物や身近な素材を用いた表現活動を実践的に体験し，表現の多様性について理解を深める。
13	STEAM保育を意識した表現活動の探究③	表現活動を，科学・技術・工学・芸術・数学の視点と関連づけながら振り返り，保育における新たな可能性を考察する。
14	総括	音楽・造形・身体および新たな表現活動の関連を整理しながら，保育における領域

15 16		「表現」の意義を総合的に理解する。

科目コード	34210				区　分	コア科目			
授業科目名	子どもの理解と援助				担当者名	橘髙　真紀子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

子どもの発達および内面的理解に関する理論を踏まえ、多角的な子ども理解の視点を修得するとともに、その理解に基づく援助の在り方を理論的・実践的に学ぶ。具体的には、教科書に基づく講義とエピソードを用いた演習を組み合わせ、実践的理解を深める。

＜授業の到達目標＞

（1）子どもの発達や学びの過程を理解し、実態に即して把握できる。（2）子どもの活動を5領域の視点から捉え、子ども理解の基本を説明できる。（3）観察・記録を通して子どもを適切に見取り、その意味を考察できる。（4）子どもの理解に基づき、適切な援助や関わりを考えることができる。

＜授業の方法＞

・教科書に基づく講義を行う。・エピソードを用いた演習を取り入れ、個別での思考を行った後、グループでのディスカッションを実施する。・グループ発表を行い、教員による講義を通して学びの整理・深化を図る。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有：エピソード検討演習、グループディスカッション、およびディスカッション内容の発表

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・子どもを観察し、子どもの心の内や何に興味関心を持っているのかなど考察する機会をもっておく。また、子どもや子育て、幼児教育・保育についてのニュースに関心を持ち情報を収集しておく。（30分）・リアクションペーパーの作成時において、授業内容を振り返り、理解を深めるようにする。（30分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー３(教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・受講態度、グループワークの参加態度（15％）・演習課題　（30％）・リアクションペーパー（15％）・最終レポート　（40％）

＜教科書＞

松本峰雄監修　子ども理解と援助　演習ブック　ミネルヴァ書房

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション保育における子ども理解の定義	・授業計画説明・講義および演習課題
2	子どもの理解に基づく養護と教育の一体的展開	・講義および演習課題
3	子どもに対する共感的理解と保育	・講義および演習課題
4	子どもの生活と遊び	・講義および演習課題
5	保育の人的環境としての保育者と子どもの発達	・講義および演習課題
6	子どもの集団での育ち	・講義および演習課題
7	葛藤やつまずき	・講義および演習課題
8	保育の環境の理解と構成	・講義および演習課題
9	環境の変化や移行	・講義および演習課題
10	職員間の対話	・講義および演習課題
11	保護者との情報共有	・講義および演習課題
12	発達の課題に応じた援助と関わり	・講義および演習課題
13	特別な配慮を要する子どもの理解と援助	・講義および演習課題
14	発達の連続性と就学への支援	・講義および演習課題
15		
16		

科目コード	34211				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	子ども家庭福祉				担当者名	田中　恵子			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
この授業は、保育士資格取得者のための授業となっている。児童福祉法第18条に規定する保育士は、「倫理観」「専門的知識」「技術及び判断」を持つことによって保育を行なうことができるのである。子ども家庭福祉は「児童の最善の利益」「健全な育成」を目的とし、専門職者が家庭や地域社会でそれを具現化するための基礎的学びである。さらに共働き家庭やひとり親家庭の援助・支援はもとより、専業主婦の子育て支援、児童虐待の顕在化とその動向等、児童を取り巻く様々な課題について理解を深め、福祉の専門職としての責務を学び考える。

＜授業の到達目標＞
児童福祉法の学びと理解、子どもと社会地域についての現状を把握しその問題点について省察することができる能力・資質を身に付ける。

＜授業の方法＞
資料の理解（専門用語はもちろんそれらに示されるキーワードの解釈をする）中心に講義内容の記述を課す。また児童に関する社会的問題を検証する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有家庭福祉の基本を講義形式で学んだのち、具体的知識や技術を活用してグループワーク、ディスカッション等を行い体験的に学ぶ

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
次回講義内容にあたるスライド資料の理解として専門用語はもちろんそれらに示されるキーワードの解釈をする（予習30分）、学習内容のまとめ・振り返りノートまとめをする。（復習30分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
最終レポート60%、リアクションペーパー30%、講義受講態度10%を総合的に評価する。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の進め方と単位認定の要件について、授業内容の概要について
2	子ども家庭福祉の概要(1)	子どもと家庭を取り巻く現状について
3	子ども家庭福祉の概要(2)	子どもの権利について
4	子ども家庭福祉の歴史	日本の子ども家庭福祉について
5	子ども家庭福祉の制度と法体系(1)	児童福祉法について
6	子ども家庭福祉の制度と法体系(2)	児童福祉法及び子ども家庭福祉に関係する法律について
7	子ども家庭福祉行財政と実施機関	子ども家庭福祉の行政・財政と支える機関について
8	子ども支援サービスと子どもの健全育成(1)	少子化対策と働き方改革関連法について
9	子育て支援サービスと子どもの健全育成(2)	子ども・子育て支援新制度と健全育成施策について
10	学齢期の子どもの教育と福祉	児童健全育成事業について
11	母子保健サービス	母子保健の理念と取り組みについて
12	保育サービス	待機児童と保育サービスについて
13	子ども虐待とDV(ドメスティック・バイオレンス)	子ども虐待の現状とDVへの対応について
14	社会的養護子ども家庭福祉の専門職と連携・ネットワーク	社会的養護と代替的養護について子ども家庭福祉に携わる専門職と専門性について
15		
16		

科目コード	34301				区　分	コア科目		
授業科目名	障害児保育				担当者名	松本　好生		
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	あり

＜授業の概要＞
障害児保育の理念と専門的知識を習得するため、主に下記の点について学習する。　○障害児保育の対象と特徴　○障害種別の障害特性の理解の理解（実践事例を通して）〇発達障害の障害特性と保育のしかたの違い（「構造化」された環境での実践事例を通して）○子ども理解の基づく計画の作成と記録・評価（保育士の求められる記録法としての「接面パラダイム」）

＜授業の到達目標＞
○子どもの定型発達を確認したうえで、障害種別の定義と障害特性を理解する。〇障害児保育・統合保育・インクルーシブ教育・保育の実際などについて知識を習得する。○障害の理解と発達支援、支援方法、構造化された環境のあり方の重要性、保育計画・記録法などを学ぶ。〇障害種別の障害特性について理解を深める。○保護者支援、幼児期を含めたライフステージごとの専門機関との連携について知識を深める。

＜授業の方法＞
○実践事例を交えながら障害児保育の理解を深める（主にパワーポイントを使用）。○障害特性を説明するうえで数量化された図表などを必要に応じてプリントにて配布する。○障害の理解を深めることを目的に、パワポによる写真やDVD等の視覚化した教材を取り入れる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業に関連する教科書の章や提示された参考書に目を通しておくこと。配布した資料などはファイルし、いつでも参照できるようにしておくこと。専門用語も多いので、必ず復習を重ね、用語を正確に理解しておくこと。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度・意欲 10%、定期試験 90%

＜教科書＞
渡部信一・北郷一夫・無藤隆（編著）：障害児保育【新版】、北大路書房、2014年3月20日発刊

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	障害児保育とは	保育場面で、障害がある子どもが、もしも困難さや生きにくさがあるとすれば、それをカバーすることが障害児保育のもつ大きな役割であることの理解
2	障害児保育の歴史と理念	統合保育からインクルーシブ教育・保育への理解
3	障害児保育の対象とその特徴	福祉型児童発達支援センターと医療型児童発達支援センターの違いの理解
4	障害児の生活に関する保育方法	障害がある子どもが日常生活を送るなかでの障害児保育の現状と課題
5	知的障害がある子どもの保育	知的障害の理解と保育
6	言葉の遅れがある子どもの保育	吃音も含めた言葉の発達と言語障害の理解と保育
7	障害の理解と保育(1)（実践事例）	肢体不自由・視覚障害・聴覚障害の理解と保育
8	障害の理解と保育(2)（実践事例）	重症心身障害の理解と保育
9	発達障害児と保育(1)	発達障害の診断の変遷（PDDからASDへ）と障害特性の理解と保育
10	発達障害児と保育(2)　（実践事例）	自閉スペクトラム障害 ASD の理解と保育（「構造化」手法も含めて）
11	発達障害児と保育(3)　（実践事例）	注意欠如多動症 ADHDの理解と保育
12	発達障害児と保育(4)　（実践事例）	注意欠如多動症 ADHD と限局性学習症 LD の関係性の理解と保育
13	子ども理解に基づく計画の作成と記録・評価	保育計画と接面パラダイムを踏まえた記録方法
14	障害児保育に関する関連機関との連携・協働、障害がある子どもの保護者支援	医療・保健の現状と課題、専門機関との連携による福祉・教育支援、ペアレント・トレーニングとライフステージごとの関係機関への相談の仕方
15		
16		

科目コード	34310				区　分	コア科目			
授業科目名	子どもの食と栄養［FC］				担当者名	眞鍋　芳江			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択／保育士国家資格取得のための必修

＜授業の概要＞
幼少期からの食生活習慣の形成は、その後に続く成人期、高齢期の生活と健康に重要な意味を持ち、食は心身の健康や社会生活にも大きな影響を及ぼす。幼児教育施設での食は、保育士だけで行わず、専門職と連携した関わりが重要である。本授業では、現代の子どもの食生活の現状や課題について理解し、望ましい食生活、食の支援のあり方や食育の重要性を考え、子どもの成長段階に対応した食生活の支援について学ぶ。

＜授業の到達目標＞
保育士にとって子どもの健康の保持・増進は重要な栄養に関する基礎知識を学ぶとともに、幼児期の発達段階を理解し、各段階における栄養・食生活の役割を保育の立場からの関わり合い方を身に付ける。また、生活習慣病や食物アレルギーなど食に関する問題への対応を習得し、個々の発達段階にあった食品の選択や調理法、食事の与え方など判断できる能力を養う。

＜授業の方法＞
パワーポイントを使用した講義形式とし、口頭で詳細を説明する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素　有３、４人のグループに分かれ、授業内容に関するテーマでグループワークを行いグループごとに発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：各テーマに関して、教科書および参考となるWebサイトなどに目を通し、予備知識を得ておく。（1時間程度）復習：授業内で配布した資料は必ず目を通し、理解を深めること。不明な点があれば授業時間に提示する参考図書・参考資料を用いて調べる。（2時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業内評価（授業態度、学習意欲、課題）40%、定期試験60%

＜教科書＞
児玉浩子（編著）太田百合子・風見公子・小林陽子・藤澤由美子（ 執筆）(2026)　子どもの食と栄養　改訂第4版　中山書店

＜参考書＞
水野清子・南里清一郎・長谷川智子・當仲香・藤澤良知・上石晶子　（編者）(2021)　子どもの食と栄養健康なからだとこころを育む小児栄養学　診断と治療社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	子どもの健康と食生活①	子どもの心身の健康と食生活
2	子どもの健康と食生活②	子どもの食生活の現状と課題
3	栄養・食に関する基本的知識①	消化吸収の仕組みと栄養の基礎知識
4	栄養・食に関する基本的知識②	各栄養素の栄養学的意義
5	栄養・食に関する基本的知識③	食事摂取基準と献立作成・調理の基本
6	子どもの発育・発達と栄養・食生活①	授乳・離乳の支援ガイドと乳児期栄養（乳汁栄養）
7	子どもの発育・発達と栄養・食生活②	授乳・離乳の支援ガイドと乳児期栄養（離乳食期栄養）
8	子どもの発育・発達と栄養・食生活③	授乳・離乳の支援ガイドと幼児期栄養
9	食育の基本と実践①	食育基本法と第4次食育推進基本計画の概要
10	食育の基本と実践②	保育所における食育推進の計画・実施・評価
11	児童福祉施設や家庭における食と栄養	児童福祉施設と給食の役割
12	食の安全	食中毒の予防策
13	特別な配慮を要する子どもの食と栄養①	食物アレルギー・障がいのある子どもへの対応
14	特別な配慮を要する子どもの食と栄養②	疾病・体調不良時の対応
15		
16		

科目コード	34312				区　分	コア科目			
授業科目名	子どもの保健［週間オンデマンド］				担当者名	小﨑　遼介			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本授業では、保育者が身につけなければならない、子どもの「身体的発育・発達」や「保育現場における衛生管理（手洗いや排世、衣服の着脱、清潔活動など）」、「安全教育・安全管理」等の保健課題を学習する。子ども（乳幼児期）の心身の発達段階を理解し、その発達には生活環境が大きく影響を与え、その関連性を学ぶ。　専門職、保育士・幼稚園教諭として子どもの心身の保健の保持が図れる能力の基礎を培う。そのため、小児各期の身体発育、生理機能・精神運動機能の発達について基礎知識を習得する。

＜授業の到達目標＞

この授業の到達目標は、保育士や幼稚園教諭といった保育者だけでなく、大人は、子どもの保護者として「子どもの命を守る」責任ある事を自覚し、具体的な保健行動ができる態度を身につける事としている。具体的には、責任ある適切な保健行動ができるよう専門知識と技能を身に付ける。手洗いや清潔、衣服の着脱などの衛生管理や安全教育・安全管理により事故を未然に防ぐ技術や万が一の場合の適切な処置がきるようになる。

＜授業の方法＞

オンデマンドによる講義形式で授業する。動画の視聴を取り入れる。毎授業ごとに課題を実施し、理解度を確認する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

ノートに動画で得た学びをまとめる。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

動画の視聴後、ノートへの学習内容のまとめを記入する（30分）。まtあ、クラスルームから配信される課題への回答を行う（15分）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー３（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

最終試験60%、課題・レポート40%。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	授業概要	オリエンテーション、生命の保持増進と情緒の安定に係る保健活動の意義と子どもの保健を学ぶ目的
2	保育と保健、生と死	保育者の特性として毎日関わること、子どもの命を預かる。
3	幼保連携型認定こども園教育・保育要領	幼保連携型認定こども園教育・保育要領での保健について学ぶ
4	アレルギーの対応、理論	アレルギー対応について学ぶ
5	事故	事故予防の現状、対応について学ぶ
6	事故予防２	事故予防の現状、対応について学ぶ
7	身体的な発達、熱中症	身体発達の原理原則、熱中症の原理原則について学ぶ
8	感染症	感染症の原理原則、対応について学ぶ
9	骨格筋、生命循環	歯、骨、循環、呼吸について学ぶ
10	痙攣	痙攣の対応、原理原則について学ぶ
11	母子保健	日本の保健の水準、母子保健について学ぶ
12	心肺蘇生法	心肺蘇生法の理論、実際について学ぶ
13	学校保健法	学校保健法について学ぶ
14	まとめ	子どもの保健におけるまとめを行う
15		
16		

科目コード	34313				区　分	コア科目			
授業科目名	子ども家庭支援論				担当者名	田中　恵子			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
この授業は、保育士資格取得者のための授業となっている。○保育と家庭支援の必要性やかかわり、支援者として必要な基礎・基本を学び理解する。○対象である子ども本人についてのみならず、その両親、家庭、地域、学校、医療機関、社会福祉施設等の子ども本人を取り巻く環境とのかかわりにも目を向け、さまざまな福祉の角度から考察し実態を把握する。○保育所や児童福祉施設等の現場の実践に必要な知識、技術までを段階的に学び実践力を養成する

＜授業の到達目標＞
保育のさまざまな実践場面において、家庭支援は深くかかわっている。家庭支援は発達援助や環境構成といった専門性に加えて、ソーシャルワークの技術や視点の活用が求められる。本科目では、家庭支援の理論・知識・技術を学習し、家庭支援の事例分析を通して支援の技術習得を身に付けていけるようになる。また家庭支援の事例検討を行うとともに支援者として理解しておかなければならない心がまえや態度を理解できるようになる。

＜授業の方法＞
テキストにそって全体を「理論」「演習」「事例」の３編に分け、家庭支援の基本を講義形式で理解し、それをもとにグループトークで具体的知識や技術を活用してグループワーク、ディスカッション等を行い体験的に学ぶ。さらに保育所や児童福祉施設　幼稚園　認定こども園等の現場を意識した事例を通して実践力を養う

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有家庭支援の基本を講義形式で学んだのち、具体的知識や技術を活用してグループワーク、ディスカッション等を行い体験的に学ぶ。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
○（予習）30分　テキストにそって各章の学びのねらいを読み取り記述し、レポートを提出し授業中に遂次発表する。○（復習）30分　子どもや保護者に生じる生活課題にはどのようなものがあるかを考察し、グループで話し合いまとめのレポートを作成する。またテキストワークに取り組む。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
期末試験60％、毎時間の課題30%、授業態度10%で評価します。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の進め方と単位認定の要件について
2	子どもと家庭を取り巻く環境	家族・家庭とは？家族・家庭を取り巻く環境
3	保育者が実践する子ども家庭支援とは	子どもをもつ家庭を取り巻く環境子ども家庭支援の基本的な考え方
4	子育て家庭を支える法・制度および社会資源	子育て家庭を支えるこれまでの取り組み障害のある子どもと家族に対しての支援
5	保育者に求められる基本的態度および基本技術	相談を受ける者の基本的態度相談場面で必要な技術保育現場での相談スキルの活用場面
6	保育現場での相談スキルの活用場面	地域の社会資源と連携保育士の倫理
7	保育者が行う子ども家庭支援の実際	保育所等の特性を活かす保育場面における具体的な子育て支援の方法
8	子ども家庭支援のための制度	子ども家庭支援のための法律や制度の理解支援の実際の事例について
9	地域の子育て家庭への支援	保育所等が行う地域子育て支援地域子育て支援専門職としての支援と実際の取り組み
10	さまざまな子ども家庭の理解と支援	子ども家庭のさまざまな形ひとり親家庭における支援の展開外国とつながりのある子どもの保育と支援
11	不適切な養育環境の子どもやその過程への支援	不適切な養育環境とは子ども虐待について代替養育の理解と家庭への支援
12	発達障害児等の理解と家庭への支援	日本における障害児に関する現状障害のある子どもや家庭への支援の展開
13	子どもの貧困の理解と家庭への支援	子どもの貧困とは何か子どもの貧困問題における支援の展開
14	保育が子ども家庭支援に果たす役割全体の振り返り	子育て実践力の基盤をつくる働き子ども家庭支援におけるソーシャルワーク幼児教育と子どもの育ち子ども家庭支援のまとめ

15 16		

科目コード	35100				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	運動学［週間オンデマンド］				担当者名	早田　剛			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
体育授業で生徒がもっともうれしそうな表情を見せるのは、運動が「できる」ようになったときである。運動学は、人体の構造と機能、働きを理解した上で、身体運動の発現が効率良く連携する仕組みを学習するものである。動きに関わる動作や意識に現れる「動感」をその研究対象，分析対象にするという方法論をもち，そうした視点から現場の運動実践の問題解決に寄与しようとする理論を学ぶ。

＜授業の到達目標＞
1）人体の構造と機能、働きを理解した上で、身体運動の発現が効率良く連携する仕組みを理解することができる。2）現象学的・人間学的研究を基盤にした発生運動学の運動理論を理解することができる。3）身体知をめぐる問題やその研究方法である現象学的ーモルフォロギー的研究法について理解することができる。

＜授業の方法＞
1.予習課題の提出：テーマに即した意見の提出と他学生の意見を確認する（約30分）2.オンデマンド資料視聴①　解説と問いの提示（約10分）3.確認小テスト　（約30分）4.オンデマンド資料視聴②　解説と問いの提示（約10分）5.授業後レポートの提出（約40分）：字数制限有　次週課題の確認　（➡自宅学習：約30~60分）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング：無オンデマンド授業のため、予習課題の見える化や意見交換でのアクティブラーニングを実施していく

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：翌週の指導内容のキーワードについて、インターネットや本で調べ、事前課題を実施する（約2時間）。意見交換：予習課題を踏まえ、オンデマンド授業を視聴し、自分の意見を述べ、他学生の意見を確認する。復習：振り返りレポート（約１時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
予習課題：30%授業課題・意見交換：40%確認小テスト・省察レポート　：30%

＜教科書＞

＜参考書＞
佐野淳 著　基礎から学ぶスポーツ運動学　株式会社大修館書店

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション：運動学とは	これからの学校体育に求められるもの運動学とは何か？
2	運動学習（1）	運動学習の意味について考える運動学習と授業研究を考える
3	運動学習（2）	運動学習の創造性を考える
4	運動学習（3）	運動学習に取り組む意欲を考える
5	運動の表し方	運動の表示・関節運動の表示
6	身体運動と力学	身体運動に関する力
7	運動器の構造と機能	骨・関節・骨格筋を学ぶ
8	動きに構造を見つける（1）	動きに構造を見つける動きの先取りを見つける
9	動きに構造を見つける（2）	動きのリズムを見つける動きに系統性を見つける
10	動きを覚えることと動きのアナロゴン	体育で動きを教えるということ指導することがらを探す
11	新しい運動理論を生かした運動指導（1）	「体つくり運動」を考える
12	新しい運動理論を生かした運動指導（2）	器械運動をどう考え、どう教えるのか
13	新しい運動理論を生かした運動指導（3）	投運動をどう考え、どう教えるのか
14	新しい運動理論を生かした運動指導（4）	ボール運動のゲーム学習の進め方ボール運動が上手になるための学習
15		
16		

科目コード	35204				区　分	専門基礎科目		
授業科目名	トレーニング論Ⅰ(基礎)[週間オンデマンド]				担当者名	梶谷　亮輔		
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本講義では、トレーニングの原理原則から各種スポーツ種目の競技力向上を目的としたトレーニング方法論を概説する。また、体力および技術を高めるためのトレーニング法について学ぶ。

＜授業の到達目標＞
本授業では、競技力向上を目的としたトレーニングの原理・原則および各種トレーニング方法について理解を深めるとともに、それらを適切に説明できる力を養う。また、個々の課題や目的に応じてトレーニング内容を分析し、計画的にプログラムを立案する能力の習得を目指す。さらに、トレーニング効果の評価やコンディショニング、安全管理の視点についても学び、実践的なトレーニング指導につなげることを目的とする。

＜授業の方法＞
本授業は、パワーポイント資料を用いたオンデマンド形式で実施する。各回の講義動画を視聴し、トレーニングの原理・原則および各種トレーニング方法について理解を深める。各回の学習内容に応じて、確認テストやレポート課題に取り組み、知識の定着および理解の深化を図る。また、必要に応じて資料の見直しや復習を行い、主体的な学習を促す。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有り本授業では、アクティブ・ラーニングの要素を取り入れる。具体的には、各回の学習内容に基づき、トレーニング方法や理論について調査を行い、主体的に知識を深める活動を行う。また、提示された課題に対して、自身の競技や目的に応じたトレーニング方法を検討・整理し、レポートとしてまとめることで、課題解決型の学習を実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
本授業では、各回あたり予習・復習として合計60分程度の学習を行うことを想定する。復習としては、講義内容を踏まえたコメントを翌日までに提出し、学習内容の整理および理解の定着を図る。予習としては、次回の授業内容に関する確認テストに備え、講義資料の見直しや要点の整理を行う。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
成績評価は、以下の内容を総合して行う。1）毎回の評価：5点×14回（計70点）確認テスト、意見交換、レポート提出等への取り組み状況を評価する。なお、期日までに提出されたもののみを評価対象とする。2）期末レポート評価：30点期末レポートは、各回の授業で課したレポートを基に、それらを整理・統合した上で総合的な考察を加えて作成するものとする。各回のレポートについては提出状況を評価し、内容については期末レポートにおいて総合的に評価する。フィードバックについては、確認テストやレポートに対して適宜講評を行うとともに、

＜教科書＞

＜参考書＞
宮下充正　トレーニングの科学的基礎　ブックハウスHD

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概要
2	トレーニングの基礎的概念①	トレーニングの基礎
3	トレーニングの基礎的概念②	トレーニングの種類と原理・原則
4	ピリオダイゼーションとトレーニング計画	トレーニングの期分けと計画の立て方
5	トレーニングの実践①	力を高めるためのトレーニング
6	トレーニングの実践②	持久力を高めるためのトレーニング
7	トレーニングの実践③	技術を高めるためのトレーニング
8	トレーニングの実践④	プライオメトリックトレーニング
9	トレーニングと栄養補給	スポーツライフマネジメント、三大栄養素
10	コンディショニングの理論と方法	疲労と体力の関係性、オーバートレーニング症候群
11	トレーニング効果の評価方法（1）ラボテスト	最大酸素摂取量、最大筋力、各種跳躍能力の測定と評価
12	トレーニング効果の評価方法（2）フィールドテスト	筋力、パワーおよび跳躍能力の測定と評価
13	トレーニング計画の作成	課題設定と達成のための計画づくり

14	まとめ	トレーニング計画の発表
15		
16		

科目コード	35205				区　分	コア科目		
授業科目名	トレーニング論Ⅱ(応用)				担当者名	國友　亮佑		
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本講義では、トレーニングの基礎的概念をベースに、各種体力（筋力、パワー、持久力など）を効果的に高めるためのトレー ニング計画を立てる能力を養う。また、トレーニングの成否を判断するための体力の評価法についても学習する。

＜授業の到達目標＞
各々の課題に応じたトレーニングを計画し、トレーニングの成否を評価することができる。

＜授業の方法＞
講義と受講者による発表・討論を行います。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッション

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習：参考図書（トレーニングの科学的基礎）を熟読の上、授業に参加すること。（所要時間1時間程度）事後学習：各プレゼンテーションに対して、要点と改善点ををまとめること。（所要時間1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度（提出物を含む）60%、発表40%

＜教科書＞

＜参考書＞
野坂和則　ハイパフォーマンスの科学 -トップアスリートをめざすトレーニングガイド -　有限会社　ナップ

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概要
2	トレーニングの基礎的概念①	トレーニングの原理・原則、量・強度・質のとらえ方
3	トレーニングの基礎的概念②	トレーニングの分類、負荷特性
4	トレーニングに関する最近の研究①	日本語論文の探し方と読み方
5	トレーニングに関する最近の研究②	英語論文の探し方と読み方
6	トレーニングに関する発表および討論①	発表、質疑応答、レポート作成
7	トレーニングに関する発表および討論②	発表、質疑応答、レポート作成
8	トレーニングに関する発表および討論③	発表、質疑応答、レポート作成
9	トレーニングに関する発表および討論④	発表、質疑応答、レポート作成
10	トレーニングに関する発表および討論⑤	発表、質疑応答、レポート作成
11	トレーニングに関する発表および討論⑥	発表、質疑応答、レポート作成
12	トレーニングに関する発表および討論⑦	発表、質疑応答、レポート作成
13	トレーニングに関する発表および討論⑧	発表、質疑応答、レポート作成
14	トレーニングに関する発表および討論⑨	発表、質疑応答、レポート作成
15		
16		

科目コード	35207				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	スポーツ心理学				担当者名	佐々木　史之			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

スポーツ活動における諸現象を対象に、心理学的側面からそのメカニズムを解明する「スポーツ心理学」の基礎理論を概観します。競技力の向上や健康増進、運動学習など広範な研究領域を網羅し、行動変容を促すための心理的アプローチの理論と実践手法を修得します。スポーツ現場での事例検討を通じ、科学的根拠に基づいた知見を深め、将来の競技活動や指導・教育現場において具体的に活用できる能力を養うことをねらいとします。

＜授業の到達目標＞

(1)スポーツ心理学の主要な理論（動機づけ、ストレス、運動学習等）を体系的に理解し、そのメカニズムを専門用語を用いて説明できる。(2)スポーツ場面で生じる心理的な諸課題に対し、科学的根拠に基づいた適切なアセスメントや行動変容の技法を選択・提案できる。(3)理論と実践を融合させ、競技力の向上やメンタルヘルス維持に向けた具体的な心理的アプローチの方法を立案・実行できる素養を身につけている。

＜授業の方法＞

(1)授業の進め方　指定テキストに基づき、事前に課される課題（プレ課題）に取り組んだ上で出席することを前提とします。授業は講義を通じて理論的枠組みを解説した後、提示されたテーマについて受講生同士でディスカッションを行い、多様な視点から理解を深めます。毎回の終盤には、リフレクション(省察)として学習内容のまとめ(振り返り)を実施します。全14回の総括として、理論を実際のスポーツ現場に応用する力を問う最終レポート課題に取り組みます。(2)ICTの活用　授業スライドや資料をデジタル化したものを配布し、視覚的な理

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素：有（ディスカッション、グループワーク、課題解決型学習）　自らの競技経験や指導経験を振り返り、体育・スポーツ現場における心理的な課題を抽出します。その上で、授業で学んだ理論を応用し、具体的な克服策や対処法を立案する課題解決型学習を実施します。個人ワークだけでなく、グループでのディスカッションを通じて他者の事例や多角的な視点を取り入れ、解決策をブラッシュアップするプロセスを設けることで、理論の実践的応用力を養います。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

【予習：1時間】　指定テキストの該当範囲を精読し、基礎用語や理論の概要を把握した上で、Google Classroom経由で示される事前課題（プレ課題）を期限までに提出します。自身の競技経験や指導場面に照らし合わせ、関連する疑問点や課題意識を整理して授業に臨むことが求められます。【復習：1時間】　授業内容を振り返り、学習した理論やディスカッションでの気づきを整理してリフレクションレポートを作成します。理論を実際のスポーツ現場の課題解決にどう応用できるかを考察し、知識の定着を図ります。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題 30%、授業参加態度 30%、振り返り課題 20%、最終レポート 20%

＜教科書＞

佐々木史之編著（2026年3月30日予定）　「選手と指導者のためのスポーツ心理学」　大学教育出版

＜参考書＞

楠本恭久編著（2015年1月20日）　「はじめて学ぶスポーツ心理学12講」　福村出版
石井源信編（2012年8月1日）　「現場で活きるスポーツ心理学」　杏林書院

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	スポーツ心理学について	スポーツ心理学の歴史と内容
2	運動スキルの習得	運動学習の内容、運動スキルの分類、フィードバックの役割等
3	動機づけ理論と実践	内発的動機づけ、外発的動機づけ、自己決定理論、目標設定等
4	情動のコントロールと調整	感情と情動の理解、情動のコントロール法、サポート方法等
5	競技パフォーマンスを支える知覚・認知スキル	運動制御を支える情報処理、予測スキルと熟練アスリートの認知構造等
6	チームダイナミクスと集団心理	集団凝集性、 チームコミュニケーション、 リーダーシップ等
7	パーソナリティとパフォーマンス	パーソナリティの特徴と競技成績、パフォーマンスと自信等
8	目標設定の応用と指導	目標設定理論、効果的な目標設定の方法等

9	効果的なコミュニケーションと関係構築	傾聴、共感、明確な伝達、信頼関係の構築等
10	リーダーシップとチームマネジメント	指導者としてのリーダーシップ、. 意思決定とチームマネジメント等
11	メンタルヘルスの理解とサポート	アスリートのメンタルヘルス、メンタルヘルスの不調と対応等
12	倫理的配慮とフェアプレーの精神	スポーツにおける倫理的課題、フェアプレーの重要性と育成等
13	スポーツにおける発達心理学	ジュニア期の心理的課題と支援、キャリアトランジション等
14	傷害と心理	リハビリテーション過程における心理支援とコーピング、競技復帰に向けた心理的準備性等
15		
16		

科目コード	35207				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	スポーツ心理学				担当者名	佐々木　史之			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

スポーツ活動における諸現象を対象に、心理学的側面からそのメカニズムを解明する「スポーツ心理学」の基礎理論を概観します。競技力の向上や健康増進、運動学習など広範な研究領域を網羅し、行動変容を促すための心理的アプローチの理論と実践手法を修得します。スポーツ現場での事例検討を通じ、科学的根拠に基づいた知見を深め、将来の競技活動や指導・教育現場において具体的に活用できる能力を養うことをねらいとします。

＜授業の到達目標＞

(1)スポーツ心理学の主要な理論（動機づけ、ストレス、運動学習等）を体系的に理解し、そのメカニズムを専門用語を用いて説明できる。(2)スポーツ場面で生じる心理的な諸課題に対し、科学的根拠に基づいた適切なアセスメントや行動変容の技法を選択・提案できる。(3)理論と実践を融合させ、競技力の向上やメンタルヘルス維持に向けた具体的な心理的アプローチの方法を立案・実行できる素養を身につけている。

＜授業の方法＞

(1)授業の進め方　指定テキストに基づき、事前に課される課題（プレ課題）に取り組んだ上で出席することを前提とします。授業は講義を通じて理論的枠組みを解説した後、提示されたテーマについて受講生同士でディスカッションを行い、多様な視点から理解を深めます。毎回の終盤には、リフレクション(省察)として学習内容のまとめ(振り返り)を実施します。全14回の総括として、理論を実際のスポーツ現場に応用する力を問う最終レポート課題に取り組みます。(2)ICTの活用　授業スライドや資料をデジタル化したものを配布し、視覚的な理

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素：有（ディスカッション、グループワーク、課題解決型学習）　自らの競技経験や指導経験を振り返り、体育・スポーツ現場における心理的な課題を抽出します。その上で、授業で学んだ理論を応用し、具体的な克服策や対処法を立案する課題解決型学習を実施します。個人ワークだけでなく、グループでのディスカッションを通じて他者の事例や多角的な視点を取り入れ、解決策をブラッシュアップするプロセスを設けることで、理論の実践的応用力を養います。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

【予習：1時間】　指定テキストの該当範囲を精読し、基礎用語や理論の概要を把握した上で、Google Classroom経由で示される事前課題（プレ課題）を期限までに提出します。自身の競技経験や指導場面に照らし合わせ、関連する疑問点や課題意識を整理して授業に臨むことが求められます。【復習：1時間】　授業内容を振り返り、学習した理論やディスカッションでの気づきを整理してリフレクションレポートを作成します。理論を実際のスポーツ現場の課題解決にどう応用できるかを考察し、知識の定着を図ります。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題 30%、授業参加態度 30%、振り返り課題 20%、最終レポート 20%

＜教科書＞

佐々木史之編著（2026年3月30日予定）　「選手と指導者のためのスポーツ心理学」　大学教育出版

＜参考書＞

楠本恭久編著（2015年1月20日）　「はじめて学ぶスポーツ心理学12講」　福村出版
石井源信編（2012年8月1日）　「現場で活きるスポーツ心理学」　杏林書院

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	スポーツ心理学について	スポーツ心理学の歴史と内容
2	運動スキルの習得	運動学習の内容、運動スキルの分類、フィードバックの役割等
3	動機づけ理論と実践	内発的動機づけ、外発的動機づけ、自己決定理論、目標設定等
4	情動のコントロールと調整	感情と情動の理解、情動のコントロール法、サポート方法等
5	競技パフォーマンスを支える知覚・認知スキル	運動制御を支える情報処理、予測スキルと熟練アスリートの認知構造等
6	チームダイナミクスと集団心理	集団凝集性、 チームコミュニケーション、 リーダーシップ等
7	パーソナリティとパフォーマンス	パーソナリティの特徴と競技成績、パフォーマンスと自信等
8	目標設定の応用と指導	目標設定理論、効果的な目標設定の方法等

9	効果的なコミュニケーションと関係構築	傾聴、共感、明確な伝達、信頼関係の構築等
10	リーダーシップとチームマネジメント	指導者としてのリーダーシップ、. 意思決定とチームマネジメント等
11	メンタルヘルスの理解とサポート	アスリートのメンタルヘルス、メンタルヘルスの不調と対応等
12	倫理的配慮とフェアプレーの精神	スポーツにおける倫理的課題、フェアプレーの重要性と育成等
13	スポーツにおける発達心理学	ジュニア期の心理的課題と支援、キャリアトランジション等
14	傷害と心理	リハビリテーション過程における心理支援とコーピング、競技復帰に向けた心理的準備性等
15		
16		

科目コード	35207				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	スポーツ心理学［PS用］				担当者名	佐々木　史之			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

スポーツ活動における諸現象を対象に、心理学的側面からそのメカニズムを解明する「スポーツ心理学」の基礎理論を概観します。競技力の向上や健康増進、運動学習など広範な研究領域を網羅し、行動変容を促すための心理的アプローチの理論と実践手法を修得します。スポーツ現場での事例検討を通じ、科学的根拠に基づいた知見を深め、将来の競技活動や指導・教育現場において具体的に活用できる能力を養うことをねらいとします。

＜授業の到達目標＞

(1)スポーツ心理学の主要な理論（動機づけ、ストレス、運動学習等）を体系的に理解し、そのメカニズムを専門用語を用いて説明できる。(2)スポーツ場面で生じる心理的な諸課題に対し、科学的根拠に基づいた適切なアセスメントや行動変容の技法を選択・提案できる。(3)理論と実践を融合させ、競技力の向上やメンタルヘルス維持に向けた具体的な心理的アプローチの方法を立案・実行できる素養を身につけている。

＜授業の方法＞

(1)授業の進め方　指定テキストに基づき、事前に課される課題（プレ課題）に取り組んだ上で出席することを前提とします。授業は講義を通じて理論的枠組みを解説した後、提示されたテーマについて受講生同士でディスカッションを行い、多様な視点から理解を深めます。毎回の終盤には、リフレクション（省察）として学習内容のまとめ（振り返り）を実施します。また、授業で学んだ内容を実践場面で活かす実践課題に取り組んでもらいます。最後に全14回の総括として、理論を実際のスポーツ現場に応用する力を問う最終レポート課題を提出してもらい

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素：有（ディスカッション、グループワーク、課題解決型学習）　自らの競技経験や指導経験を振り返り、体育・スポーツ現場における心理的な課題を抽出します。その上で、授業で学んだ理論を応用し、具体的な克服策や対処法を立案する課題解決型学習を実施します。個人ワークだけでなく、グループでのディスカッションを通じて他者の事例や多角的な視点を取り入れ、解決策をブラッシュアップするプロセスを設けることで、理論の実践的応用力を養います。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

【予習：1時間】　指定テキストの該当範囲を精読し、基礎用語や理論の概要を把握した上で、Google Classroom経由で示される事前課題（プレ課題）を期限までに提出します。自身の競技経験や指導場面に照らし合わせ、関連する疑問点や課題意識を整理して授業に臨むことが求められます。【復習：1時間】　授業内容を振り返り、学習した理論やディスカッションでの気づきを整理してリフレクションレポートを作成します。理論を実際のスポーツ現場の課題解決にどう応用できるかを考察し、知識の定着を図ります。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題 30%、授業参加態度 30%、振り返り課題 20%、最終レポート 20%

＜教科書＞

佐々木史之編著（2026年3月30日予定）　「選手と指導者のためのスポーツ心理学」　大学教育出版

＜参考書＞

楠本恭久編著（2015年1月20日）　「はじめて学ぶスポーツ心理学12講」　福村出版
石井源信編（2012年8月1日）　「現場で活きるスポーツ心理学」　杏林書院

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	スポーツ心理学について	スポーツ心理学の歴史と内容
2	運動スキルの習得	運動学習の内容、運動スキルの分類、フィードバックの役割等
3	動機づけ理論と実践	内発的動機づけ、外発的動機づけ、自己決定理論、目標設定等
4	情動のコントロールと調整	感情と情動の理解、情動のコントロール法、サポート方法等
5	競技パフォーマンスを支える知覚・認知スキル	運動制御を支える情報処理、予測スキルと熟練アスリートの認知構造等
6	チームダイナミクスと集団心理	集団凝集性、 チームコミュニケーション、 リーダーシップ等
7	パーソナリティとパフォーマンス	パーソナリティの特徴と競技成績、パフォーマンスと自信等
8	目標設定の応用と指導	目標設定理論、効果的な目標設定の方法等

9	効果的なコミュニケーションと関係構築	傾聴、共感、明確な伝達、信頼関係の構築等
10	リーダーシップとチームマネジメント	指導者としてのリーダーシップ、. 意思決定とチームマネジメント等
11	メンタルヘルスの理解とサポート	アスリートのメンタルヘルス、メンタルヘルスの不調と対応等
12	倫理的配慮とフェアプレーの精神	スポーツにおける倫理的課題、フェアプレーの重要性と育成等
13	スポーツにおける発達心理学	ジュニア期の心理的課題と支援、キャリアトランジション等
14	傷害と心理	リハビリテーション過程における心理支援とコーピング、競技復帰に向けた心理的準備性等
15		
16		

科目コード	35211				区　分	コア科目			
授業科目名	スポーツアナリティクスⅠ				担当者名	仙波　慎平／佐藤　伸之			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
近年，様々な競技でデータの活用が進んでおり，スポーツアナリストが活躍するようになった。スポーツアナリティクスと呼ばれるデータ分析は統計学を背景とした手法が用いられ，スポーツ統計とも呼ばれており，データサイエンスとも密接なかかわりを持つ。この実習では，スポーツにおけるデータの測定・分析を実践的に学ぶ。

＜授業の到達目標＞
高度情報化社会はスポーツ界にも押し寄せており、特に近年のトップスポーツでは「スポーツも情報戦の時代」と言われている。情報をうまくつかうことは、アスリートのパフォーマンス向上のみならずトップスポーツのマネジメントにおいて必要不可欠である。本授業では、スポーツ界のさまざまなフィールドにおいて、情報の収集、分析、提供を効果的に行い、意思決定者を強力に支援できるエキスパートになるための基礎を学び、社会・職業生活に応用可能な知見の修得を目指す。

＜授業の方法＞
本授業では、アスリートとしての「指導を受ける側」、指導者としての「指導する側」双方の競技力向上への取り組みに資する、情報技術や映像技術、情報分析についての技術を戦略的に活用する方法について、実際のトップレベルの競技場面での活用事例などを交えながら学習し、受講生自身が自らの活動に活かせる能力を育成することを目指す。そのため、授業において課されるグループワークや課題への取り組み、プレゼンテーションを重要視する。　毎授業PCを使用するため、PCは必須とする。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有グループワーク（3~5人グループに分かれ、課題発見・分析・考察・プレゼン）を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
前回の授業内容の確認テストの準備（1時間程度）、振り返りレポートおよび事前課題の提出（2時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業への取組態度40%。課題レポート点30%。実習課題の提出・評価点30%。

＜教科書＞
特に指定なし

＜参考書＞
特に指定なし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	講義概要の解説	授業概要、授業の進め方、成績評価等の説明
2	ゲームパフォーマンス分析とは？	ゲームパフォーマンス分析の概要を知る
3	ゲームパフォーマンス分析の実践	実践活動
4	量的分析とは	量的分析の方法
5	質的分析とは？	質的分析の方法
6	映像分析とは？	映像分析の方法
7	データ分析	データ分析の方法・実践
8	動作分析（1）	走動作に関する映像を撮影し，分析する。
9	動作分析（2）	跳躍動作に関する映像を撮影し，分析する。
10	動作分析（3）	投動作に関する映像を撮影し，分析する。
11	動作分析（4）	打動作に関する映像を撮影し，分析する。
12	動作分析（5）	シュート動作に関する映像を撮影し，分析する。
13	グループワーク	課題抽出から分析を行う。
14	プレゼン発表	プレゼン発表
15		
16		

科目コード	35212				区　分	コア科目			
授業科目名	スポーツアナリティクスⅡ				担当者名	仙波　慎平／佐藤　伸之			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
近年，様々な競技でデータの活用が進んでおり，スポーツアナリストが活躍するようになった。スポーツアナリティクスと呼ばれるデータ分析は統計学を背景とした手法が用いられ，スポーツ統計とも呼ばれており，データサイエンスとも密接なかかわりを持つ。この実習では，スポーツにおけるデータの測定・分析を実践的に学ぶ。

＜授業の到達目標＞
高度情報化社会はスポーツ界にも押し寄せており、特に近年のトップスポーツでは「スポーツも情報戦の時代」と言われている。情報をうまくつかうことは、アスリートのパフォーマンス向上のみならずトップスポーツのマネジメントにおいて必要不可欠である。本授業では、スポーツ界のさまざまなフィールドにおいて、情報の収集、分析、提供を効果的に行い、意思決定者を強力に支援できるエキスパートになるための基礎を学び、社会・職業生活に応用可能な知見の修得を目指す。　この授業においてはアナスト養成を目標とし、統計的な手法を用いる。

＜授業の方法＞
本授業では、アスリートとしての「指導を受ける側」、指導者としての「指導する側」双方の競技力向上への取り組みに資する、情報技術や映像技術、情報分析についての技術を戦略的に活用する方法について、実際のトップレベルの競技場面での活用事例などを交えながら学習し、受講生自身が自らの活動に活かせる能力を育成することを目指す。そのため、授業において課されるグループワークや課題への取り組み、プレゼンテーションを重要視する。　この授業はPC必須である。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有グループワーク（3~5人グループに分かれ、課題発見・分析・考察・プレゼン）を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
前回の授業内容の確認テストの準備（1時間程度）、振り返りレポートの提出（2時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業への取組態度40%。課題レポート点30%。実習課題の提出・評価点30%。

＜教科書＞
特に指定なし

＜参考書＞
特に指定なし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	講義概要の解説	授業概要、授業の進め方、成績評価等の説明
2	ゲームパフォーマンス分析とは？	ゲームパフォーマンス分析の概要を知る
3	ゲームパフォーマンス分析の実践	実践活動
4	量的分析とは	量的分析の方法
5	質的分析とは？	質的分析の方法
6	映像分析とは？	映像分析の方法
7	データ分析と統計的手法	データ分析の方法・実践
8	動作分析（1）	走動作に関する映像を撮影し，分析する。
9	動作分析（2）	跳躍動作に関する映像を撮影し，分析する。
10	動作分析（3）	投動作に関する映像を撮影し，分析する。
11	動作分析（4）	打動作に関する映像を撮影し，分析する。
12	動作分析（5）	シュート動作に関する映像を撮影し，分析する。
13	グループワーク	課題抽出から分析を行う。
14	プレゼン発表	プレゼン発表
15		
16		

科目コード	35213				区　分	コア科目		
授業科目名	スポーツバイオメカニクス実習				担当者名	佐藤　伸之		
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
スポーツバイオメカニクスの研究手法を用いれば、身体動作を数値化し、その動作を客観的に評価することができ、コーチングなどに活かすことが可能となる。本授業はスポーツバイオメカニクスの応用科目として、測定・分析方法を学び、高度な専門知識と技能を身につける。

＜授業の到達目標＞
スポーツバイオメカニクスの測定・分析方法を習得し、知識・技能を実践できる。

＜授業の方法＞
スポーツ科学センターを利用した演習形式で実施する。講義による説明と測定・分析を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
要素：有自己や他者のパフォーマンスを分析し、仲間と協働して発表に向けた取り組みを実施します。また、授業毎にFBを実施し、自己の技能状況を把握します。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
スポーツバイオメカニクスⅠ（基礎）を履修済みであることを条件とする。事前学習：授業までに図書・文献の調査（2時間）をすること。事後学習：授業時間内で終えることが出来なかった分析作業を課題として次回までに完了すること（2時間）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
測定・分析方法の習得状況（40%），レポート・プレゼン内容（60%）

＜教科書＞
なし

＜参考書＞
ゴードン・ロバートソンほか　身体運動のバイオメカニクス研究法　大修館書店

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス、スポーツバイオメカニクスの基礎の確認	授業の進め方、スポーツバイオメカニクスⅠの復習、スポーツバイオメカニクスⅠで学んだ内容の確認
2	測定①	運動の基礎的な測定手法について
3	分析①	運動の基礎的な分析手法ついて
4	データ解釈①	測定・分析で得られたデータの解釈、ディスカッションの準備
5	ディスカッション①	データの解釈についてグループ間でのディスカッション
6	測定②	運動の応用的な測定手法について
7	分析②	運動の応用的な分析手法について
8	データ解釈②	測定・分析によって得られたデータの詳細な解釈、ディスカッションの準備
9	ディスカッション②	データの解釈についてグループ間でのディスカッション
10	グループ研究①	グループを作り、研究テーマを決める。
11	グループ研究②	研究テーマに合った測定方法を用いて、データを記録する。
12	グループ研究③	記録したデータをパソコンで読み込み、分析する。
13	グループ研究④	結果を基に、プレゼン資料を作成する。
14	成果発表会	分析結果を発表する。
15		
16		

科目コード	35214				区　分	コア科目			
授業科目名	スポーツマネジメント演習［eスポーツ][週2]				担当者名	小堀　浩志／平岡　師玄哉			
配当年次	3年	配当学期	第3クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
近年、世界各国で話題になっている「eスポーツ」（electronic sports）は、国内においても注目されており，日本のコンテンツ市場においても今後の成長分野として期待されている。eスポーツ（esports）とは，「エレクトロニック・スポーツ」の略で、広義には、電子機器を用いて行う娯楽、競技、スポーツ全般を指す言葉であり、コンピューターゲーム、ビデオゲームを使った対戦をスポーツ競技として捉える際の名称である。我が国におけるeスポーツの歴史と今後の展望、またeスポーツそのものを理解し、実際にイベントの企

＜授業の到達目標＞
①eスポーツや取り巻く環境について理解する。②実際にeスポーツイベントを企画し運営する。③イベント演習を通して、マネタイズや課題解決について実践的に学び、理解する。④スポーツマネジメントの分析、説明ができる

＜授業の方法＞
この科目では、10月～11月にかけて、岡山県eスポーツ連合と赤磐市の協力のもと、６5歳以上の赤磐市民を対象に、実際にeスポーツイベントを実施する。履修条件として次の２つを満たしたものの中から、抽選で履修者を決定します。①イベント期間（10/23,10/30,11/6,11/13の全4回）全ての日程参加ができること②初回オリエンテーション時に提示される課題（イベント企画書）を9/30（水）16：00までに作成して提出すること。課題：あなた自身が運営する企画するとして、イベントの目的、内容、どこで、どのような

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素有（ディスカッション、グループワーク）グループに分かれて、各回のテーマについて意見をまとめ、企画、計画を作成または発表する

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業の事前調査及び事後調査を行うため、調査準備や、調査後のデータ集計や調査報告作成については、授業時間外での活動が必要になる場合が想定される。グループ活動への積極的な関与を求める。演習毎に授業時間外のレポート作成が必要となる（毎週最低でも準備に1時間の予習時間、調査のまとめに1時間の復習時間が必要）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業への積極的な取組：30%、課題、レポート：30%、イベントの運営・プレゼン発表：40%

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション・ガイダンス	授業の説明、イベントの開催・運営について
2	eスポーツとは何か	eスポーツの概要と取巻く環境・現状について
3	イベント企画	イベント企画書作成・運営リハーサル
4	eスポーツの体験・イベント企画	スポーツとeスポーツの違いについて
5	eスポーツの体験・イベント企画	企画書作成、許諾申請、運営マニュアルについて
6	eスポーツの体験・イベント企画	企画に向けてのグループワーク、役割分担、リハーサル
7	第1回イベント実施	イベント運営
8	第1回イベントの振返り	第1回イベントの報告、振返り
9	第2回イベント実施	イベントの運営
10	第2回イベントの振返り	第2回イベントの報告、振り返り
11	第3回イベント実施	イベント運営
12	第3回イベント振返り	第3回イベントの報告、振返り
13	第4回イベント実施	イベント運営
14	全体の振返り、成果発表	発表準備と成果の発表
15		

16		

科目コード	35215				区　分	コア科目			
授業科目名	スポーツマネジメント実践論［週2］				担当者名	小堀　浩志			
配当年次	学年指定なし	配当学期	第4クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
日本国内外で、スポーツはどのような意義や価値を持つのでしょうか。このような社会の急速な変化に伴い、する、みる、ささえる等のスポーツへの関わり方にも変化が生じている。そのため、スポーツの価値を改めて考えていくうえでは、文化としてのスポーツを発展させていく視点が求められている。そのため、本授業では、スポーツマネジメントの多様な実践領域において、現代スポーツが抱える課題、マネジメント手法を実践的に学んでいく

＜授業の到達目標＞
本授業では、スポーツマネジメントの目的、理論、実践領域を学び、以下の点を目標とする。　1.スポーツマネジメントの基礎的な理論を理解し、説明することができる。2.スポーツの現代的課題について例をあげ、自らの考えを述べることができる。3.スポーツマネジメント手法の基本的な知識を理解、分析することができる。

＜授業の方法＞
原則講義を中心にした授業ですが、授業毎のテーマでの各自の意見を数名で共有し、多様な意見との比較から、自分の意見を深く考察します。授業テーマに応じて、授業内で15分程度グループワークやディスカッションを行い、まとめた意見を授業全体で共有することを実施する授業があります。毎回、授業課題があり、提出を求めます。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：次回授業のテーマに関し、授業テーマが抱える課題を調査すること。復習：講義で配布された資料等を参照し、授業内容の要約すること。授業に関する不明点は、適宜、教員に質問を行ってください。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
①各回授業態度（プレゼンテーション、質疑応答、発表）３０％②各回課題の提出・内容（予習・復習課題）４0％③期末レポート（１回）30％④定期試験なし

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞
特になし、資料等を事前に告知

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション・ガイダンス	授業の説明、評価方法等について
2	スポーツ組織のマネジメント	スポーツ組織の特性、目的、課題
3	スポーツのマネジメント	多様なスポーツプロダクトのマネジメントを知る
4	スポーツ事業の運営、AS、PS、CS	スポーツのエリアサービス、プログラムサービス、クラブサービスについて
5	プロスポーツのマネジメント	プロスポーツチームやリーグの運営
6	スポーツイベントのマネジメント	オリンピック、世界大会、日本国内の大会、イベント
7	スポーツ組織のコンプライアンス	組織構築、内部統制、グッドガバナンス
8	障がい者スポーツのマネジメント	運動の実施状況、湿雪環境、予算
9	子どものスポーツマネジメント	スポーツ環境の課題、スポーツ少年団、運動能力・運動習慣調査、課題
10	商業（民間営利事業者）スポーツ施設のマネジメント	フィットネスクラブ、スポーツクラブのマネジメント
11	地域スポーツのマネジメント	総合型地域スポーツクラブの現状、育成、課題
12	健康スポーツのマネジメント	ヘルスプロモーション
13	健康経営とスポーツ	健康経営とは、具体的な事例を通して、課題とスポーツの役割を考える
14	授業のまとめ	全体をとおしてスポーツマネジメントを考察する
15		
16		

科目コード	35216				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	スポーツ科学入門［PH用］				担当者名	吉岡　利貢			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本講義では、スポーツ科学分野の様々な研究領域について、競技活動や日常生活における身近な例から学び、各分野について専門的に学ぶことの意義を理解し、その意欲を喚起することを目的とする。

＜授業の到達目標＞
スポーツ科学分野の様々な研究領域で扱う問題について理解すること、また、それらが競技活動や日常生活場面でのどのような事象と関連するかについて理解すること。

＜授業の方法＞
教科書およびプレゼンテーション資料を用いて実施する。課題の提示・提出はGoogle Classroomを活用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション）5、6人のグループに分かれ、授業テーマに対する意見をグループで共有する

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
＜準備学習＞各テーマに関して、教科書および参考となるWebサイトなどに目を通し、予備知識を得ておくこと。（所要時間：1時間）
＜事後学習＞取り組んだ事前課題と講義内容を踏まえ、確認テストおよびディスカッションに取り組むこと。（所要時間：1時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
成績は、確認テスト＆小レポート 60%、最終レポート 40% の配分で評価する。

＜教科書＞
大学スポーツ協会（2021年12月）　マンガで学ぶ・スポーツ知への招待　KEIアドバンス
伊東浩司・吉田孝久・青木和浩（2020年2月20日）　なるほど「最新・スポーツ科学入門」　化学同人

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	スポーツ科学について理解する	スポーツ科学とは何か、自身の身近な問題の解決にスポーツ科学がどう貢献するかについて理解する。
2	スポーツバイオメカニクス入門	スポーツバイオメカニクスとはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツバイオメカニクスがどう貢献するかについて理解する。
3	トレーニング科学入門（1）	トレーニング科学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にトレーニング科学がどう貢献するかについて理解する。
4	トレーニング科学入門（2）	自身が実践してきたトレーニングの内容を分析し、改善策を検討する。
5	スポーツアナリティクス入門	スポーツアナリティクスとはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツアナリティクスがどう貢献するかについて理解する。
6	スポーツ心理学入門	スポーツ心理学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ心理学がどう貢献するかについて理解する。
7	スポーツ生理学入門	スポーツ生理学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ生理学がどう貢献するかについて理解する。
8	コンディショニング科学入門	コンディショニング科学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にコンディショニング科学がどう貢献するかについて理解する。
9	スポーツ医学入門	スポーツ医学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ医学がどう貢献するかについて理解する。
10	スポーツ栄養学入門	スポーツ栄養学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ栄養学がどう貢献するかについて理解する。
11	スポーツ工学入門	スポーツ工学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ工学がどう貢献するかについて理解する。
12	スポーツ哲学入門	スポーツ哲学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ哲学がどう貢献するかについて理解する。
13	スポーツ経営学入門	スポーツ経営学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ経営学がどう貢献するかについて理解する。

14	スポーツ社会学入門	スポーツ社会学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ社会学がどう貢献するかについて理解する。
15	まとめ	ここまでの学びについてまとめ、今後の学習・研究にどう活かすかについて検討する。
16		

科目コード	35216				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	スポーツ科学入門［PP用］				担当者名	十河　直太／早田　剛／眞鍋　芳江／梶谷　亮輔／戸田　晃大／國友　亮佑／仙波　慎平／片桐　夏海／佐藤　伸之／堀川　峻／伊藤　三千雄／坂本　康輔			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本講義では、スポーツ科学分野の様々な研究領域について、競技活動や日常生活における身近な例から学び、各分野について専門的に学ぶことの意義を理解し、その意欲を喚起することを目的とする。

＜授業の到達目標＞
スポーツ科学分野の様々な研究領域で扱う問題について理解できる。また、それらが競技活動や日常生活場面でのどのような事象と関連するかについて説明できる。

＜授業の方法＞
資料を用いて対面で実施する。課題の提示・提出はGoogle Classroomを活用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素：あり各単元のテーマについてグループに分かれディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
＜準備学習＞各テーマに関して、教科書および参考となるWebサイトなどに目を通し、予備知識を得ておくこと。（所要時間：1時間）
＜事後学習＞取り組んだ事前課題と講義内容を踏まえ、確認テストおよびレポートに取り組むこと。（所要時間：1時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
成績は、確認テスト＆小レポート 60%、最終レポート 40% の配分で評価する。

＜教科書＞

＜参考書＞
大学スポーツ協会（2021年12月）　マンガで学ぶ・スポーツ知への招待　KEIアドバンス
伊東浩司・吉田孝久・青木和浩（2020年2月20日）　なるほど「最新・スポーツ科学入門」　化学同人

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	スポーツ科学について理解する	スポーツ科学とは何か、自身の身近な問題の解決にスポーツ科学がどう貢献するかについて理解する。
2	スポーツバイオメカニクス入門	スポーツバイオメカニクスとはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツバイオメカニクスがどう貢献するかについて理解する。
3	トレーニング科学入門（1）	トレーニング科学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にトレーニング科学がどう貢献するかについて理解する。
4	トレーニング科学入門（2）	自身が実践してきたトレーニングの内容を分析し、改善策を検討する。
5	スポーツアナリティクス入門	スポーツアナリティクスとはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツアナリティクスがどう貢献するかについて理解する。
6	スポーツ心理学入門	スポーツ心理学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ心理学がどう貢献するかについて理解する。
7	スポーツ生理学入門	スポーツ生理学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ生理学がどう貢献するかについて理解する。
8	コンディショニング科学入門	コンディショニング科学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にコンディショニング科学がどう貢献するかについて理解する。
9	スポーツ医学入門	スポーツ医学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ医学がどう貢献するかについて理解する。
10	スポーツ栄養学入門	スポーツ栄養学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ栄養学がどう貢献するかについて理解する。
11	スポーツ工学入門	スポーツ工学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ工学がどう貢献するかについて理解する。
12	スポーツ運動学入門	スポーツ運動学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ哲学が

		どう貢献するかについて理解する。
13	スポーツ経営学入門	スポーツ経営学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ経営学がどう貢献するかについて理解する。
14	まとめ	ここまでの学びについてまとめ、今後の学習・研究にどう活かすかについて検討する。
15		
16		

科目コード	35216				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	スポーツ科学入門［PS用］				担当者名	吉岡　利貢			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本講義では、スポーツ科学分野の様々な研究領域について、競技活動や日常生活における身近な例から学び、各分野について専門的に学ぶことの意義を理解し、その意欲を喚起することを目的とする。

＜授業の到達目標＞
スポーツ科学分野の様々な研究領域で扱う問題について理解すること、また、それらが競技活動や日常生活場面でのどのような事象と関連するかについて理解すること。

＜授業の方法＞
教科書およびプレゼンテーション資料を用いて実施する。課題の提示・提出はGoogle Classroomを活用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション）5、6人のグループに分かれ、授業テーマに対する意見をグループで共有する

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
＜準備学習＞各テーマに関して、教科書および参考となるWebサイトなどに目を通し、予備知識を得ておくこと。（所要時間：1時間）
＜事後学習＞取り組んだ事前課題と講義内容を踏まえ、確認テストおよびディスカッションに取り組むこと。（所要時間：1時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
成績は、確認テスト&小レポート 60%、最終レポート 40% の配分で評価する。

＜教科書＞
大学スポーツ協会（2021年12月）　マンガで学ぶ・スポーツ知への招待　KEIアドバンス
伊東浩司・吉田孝久・青木和浩（2020年2月20日）　なるほど「最新・スポーツ科学入門」　化学同人

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	スポーツ科学について理解する	スポーツ科学とは何か、自身の身近な問題の解決にスポーツ科学がどう貢献するかについて理解する。
2	スポーツバイオメカニクス入門	スポーツバイオメカニクスとはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツバイオメカニクスがどう貢献するかについて理解する。
3	トレーニング科学入門（1）	トレーニング科学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にトレーニング科学がどう貢献するかについて理解する。
4	トレーニング科学入門（2）	自身が実践してきたトレーニングの内容を分析し、改善策を検討する。
5	スポーツアナリティクス入門	スポーツアナリティクスとはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツアナリティクスがどう貢献するかについて理解する。
6	スポーツ心理学入門	スポーツ心理学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ心理学がどう貢献するかについて理解する。
7	スポーツ生理学入門	スポーツ生理学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ生理学がどう貢献するかについて理解する。
8	コンディショニング科学入門	コンディショニング科学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にコンディショニング科学がどう貢献するかについて理解する。
9	スポーツ医学入門	スポーツ医学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ医学がどう貢献するかについて理解する。
10	スポーツ栄養学入門	スポーツ栄養学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ栄養学がどう貢献するかについて理解する。
11	スポーツ工学入門	スポーツ工学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ工学がどう貢献するかについて理解する。
12	スポーツ哲学入門	スポーツ哲学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ哲学がどう貢献するかについて理解する。
13	スポーツ経営学入門	スポーツ経営学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ経営学がどう貢献するかについて理解する。

14	スポーツ社会学入門	スポーツ社会学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ社会学がどう貢献するかについて理解する。
15	まとめ	ここまでの学びについてまとめ、今後の学習・研究にどう活かすかについて検討する。
16		

科目コード	35218				区　分	コア科目			
授業科目名	スポーツ健康演習				担当者名	伊藤　三千雄			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

今般の医療制度改革においては、生活習慣病予防が生涯を通じた個人の健康づくりだけでなく、中長期的な医療費適正化対策の柱の一つとして位置づけられており,今後展開される本格的な生活習慣病対策においては、一次予防に留まらず二次予防も含めた健康づくりのための運動を指導する専門家の必要性が増している。本講義においては、スポーツ健康論で修得した内容を踏まえ、「個々人の身体状況に応じた安全で効果的な運動を実施するための運動プログラム作成と指導」、「生活習慣病にかかる可能性のある″ハイリスク者″への個別指導・健康支援」に関

＜授業の到達目標＞

1. 対象者の健康状態・体力特性・生活習慣リスクを評価できる。2. 生活習慣病予防を目的とした運動プログラムを作成できる。3. 安全かつ効果的な運動指導を実践できる。4. 健康運動教室を企画・運営し、指導実践ができる。5. 指導結果を評価し、課題を抽出して改善案を提示できる。

＜授業の方法＞

教科書を基に、実習を中心とした授業を展開する。特にチーム別に、テーマを設定し、グループワークを行い、健康運動教室を実施する。その後、参加者からのアンケートをまとめることにより、課題及び改善点をリフレクションしていく。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素有：5、6人のグループに分かれ、健康教室の内容についてグループワークを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習：教科書・配布資料の該当範囲を読み、運動プログラム作成に必要な知識を整理する。次回実施する健康運動教室に向けた運動プログラム案を作成する。発表・指導に向けてプレゼン資料を準備する（1時間程度）。事後学習：授業で実施した運動指導・健康教室の内容を振り返る。参加者アンケートや指導評価を整理する。改善点・課題をレポートとしてまとめる（1時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー３(体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実習態度・学習意欲 30%、運動プログラム指導 50%、課題レポート 20%

＜教科書＞

公益財団法人　健康・体力づくり事業財団　健康運動指導士養成講習会テキスト（上・下）　株式会社 南江堂

＜参考書＞

公益財団法人　健康・体力づくり事業財団　健康運動実践指導者養成用テキスト　株式会社 南江堂

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	身体活動量の定量法とその実際	身体活動量の測定法（加速度計・質問紙）
2	身体組成の測定法	身体組成測定（体脂肪率・筋量）
3	運動負荷試験実習（1）	正常心電図の理解、負荷心電図の評価
4	運動負荷試験実習（2）	呼気ガス分析・乳酸測定
5	運動負荷試験実習（3）	最大酸素摂取量の測定
6	高齢者の体力測定法	全身持久力の評価、筋力・バランス能力の評価
7	運動行動変容とプログラム設計	対象者に応じた運動プログラムの立案
8	運動療法（1）	生活習慣病（肥満・糖尿病・高血圧等）の運動療法の基礎
9	運動療法（2）	サルコペニア、フレイルの理解
10	地域健康教室 事前準備・模擬	指導案作成、役割分担、安全管理（リスク評価・緊急対応）、模擬指導
11	地域健康教室 実践（1）現場実践	地域住民（主に高齢者）への運動指導実践、体力測定および簡易評価
12	地域健康教室 実践（2）現場実践・改善	前回の振り返りを踏まえた改善指導、対象者フィードバックの収集
13	地域健康教室 実践（3）現場実践・改善	前回、前々回の振り返りを踏まえた改善指導、対象者フィードバックの収集
14	総合振り返り・学習成果の統合	地域実践の振り返り、課題と改善点の整理、グループ発表（プログラム評価）、今後の実践への応用
15		
16		

科目コード	35219				区　分	コア科目			
授業科目名	スポーツ産業論［週2］				担当者名	小堀　浩志			
配当年次	2年	配当学期	第1クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業では、スポーツ産業の成り立ちから現状について、その特性や概略をスポーツ産業全体から学ぶ。また、スポーツビジネスの現場で課題になっている事柄についてワークなどを通じて、自ら考えることで、スポーツビジネスに対する理解をより深める

＜授業の到達目標＞
１）スポーツ産業の特性を知る２）スポーツ産業の成り立ちをする３）スポーツ産業の現場で課題となっている事柄について分析し、自分なり意見を持ち説明することができる

＜授業の方法＞
教科書を中心とした一斉授業とワークを実施する

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
なし

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業テーマについて、資料やインターネット、新聞記事等で事前学習を行う毎回、1時間程度の予習時間、講義内容のまとめ・理解、課題の提出に1時間の復習時間が必要である。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業参加態度　３０％　授業課題評価３０％　レポート課題(授業時間内及び中間・最終)　４０％　　各回毎に授業課題または、レポートを1週間以内に提出し、その都度フィードバックを行う

＜教科書＞
原田宗彦（2021）　スポーツ産業論第7版　杏林書院

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション・進化するスポーツ	授業の説明、スポーツ産業の萌芽と発展、複合領域の発展
2	スポーツ施設産業	スポーツ施設産業概観、スタジアム・アリーナ改革
3	スポーツメディア産業	スポーツメディア産業の系譜と新たなメディア
4	スポーツ用品産業	我が国のスポーツ用品産業の歩み、外国メーカーの市場規模と推移
5	スポーツ参加者を知る：するスポーツ	スポーツ政策とスポーツ参加人口の拡大、するスポーツの現状と実態
6	スポーツファンを知る：みるスポーツ	「見るスポーツ」のビジネス規模
7	スポーツサービスと消費行動	サービス産業としてのスポーツサービス
8	フィットネスクラブのマネジメント	フィットネス市場の概況・今後の課題
9	スポーツイベントの社会・経済的インパクト	スポーツイベントに期待される効果
10	スポーツイベントとスポンサーシップ	スポーツにおけるスポーンサーシップの発展と現状、特徴とその効果
11	地域スポーツマネジメント	スポーツ政策と地域スポーツの現状と課題
12	スポーツツーリズムの発展	スポーツツーリズムの現状、定義と特徴
13	地域スポーツコミッションの役割	スポーツを活用した地域活性化
14	講義のまとめ	科目全体のまとめ
15		
16		

科目コード	35400				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	コーチング論				担当者名	仙波　慎平／梶谷　亮輔／三浦　孝仁			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業では、スポーツ・コーチングにおける基本理念について体系的に理解を深めることを目的とする。具体的には、指導哲学や指導目的などの「スポーツ・コーチングの原則」、選手とのコミュニケーションやモチベーション向上に関わる「行動の原則」、さらに生理学的知見に基づく「フィジカルトレーニングの原則」について学ぶ。また、スポーツ現場における倫理的配慮やハラスメント防止の重要性について理解を深めるとともに、具体的な事例（ケーススタディ）をもとに指導場面を多角的に考察する。これらの理論的理解と実践的検討を通して、コーチと

＜授業の到達目標＞
スポーツ・コーチングにおける基本理念（スポーツ・コーチングの原則、行動の原則、フィジカルトレーニングの原則）について理解し、その内容を適切に説明することができる。また、指導理念と実際の指導現場における課題や乖離について主体的に考察し、討議を通して改善策を検討・提案することができる。さらに、倫理的配慮やハラスメント防止の観点を踏まえ、体育教員・スポーツ指導者として適切な指導のあり方を実践的に考えることができる。

＜授業の方法＞
講義を中心に進めるが、実際の指導現場の映像等を用いるなど、より実践的なものとする。また、必要に応じてグループワーキングやプレゼンテーションも取り入れる。　また、情報や仲間の意見や考え方をDropbox及びClassroomの活用方法を含め、課題管理や授業内容におけるICT活用を利用し、コーチングに関する知識を理解し、コーチとしての資質を身につける。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有グループ（3～4人）に分かれて、テーマに対してディスカッションおよびプレゼンを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
次回の授業テーマについて、参考書および各種資料等を用い、自身の体験等も踏まえて事前学習を1時間行う。また、実際に自身が選手として、または指導者として参加しているスポーツ現場において、本授業で学んだことを振り返り、思考を巡らす（復習を一時間）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
期末試験 60%、レポート・小テスト 30%、 受講態度・学習意欲 10%

＜教科書＞

＜参考書＞
レイナー・マートン（2013）　スポーツ・コーチング学　西村書店
田尻 賢誉　智弁和歌山・高嶋仁のセオリー　ベースボール・マガジン社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダクション	授業概要、授業の進め方、受講上の諸注意
2	コーチングとティーチング	コーティングとティーチングの違い
3	現代に求められるコーチング	指導の方法、事例検証
4	戦術とは？（1）	個人戦術力
5	戦術とは？（2）	グループ・チーム戦術力について
6	実践知とは？	コツとカンに関する事例
7	チーム力とは	チームマネジメント、組織論
8	科学的なコーチングアプローチ	科学的なコーチングアプローチとは
9	コーチとは	コーチという存在について考える
10	プレーヤーズセンタードコーチング	コーチングの考え方やコーチングに必要や知識について
11	運動学習理論	運動学習について学ぶ
12	コーチングにおけるアセスメント	アセスメントの重要性について
13	育成行動・指導行動、コーチングスタイル	コーチングのダブルゴールとスタイルについて考える

14 15 16	まとめ	コーチングに対する考え方について、自身の考えをまとめる

科目コード	36100				区　分	コア科目		
授業科目名	トレーナー論				担当者名	伊藤　亮輔		
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
近年スポーツ人気の高まりや競技レベルの向上に伴い、スポーツを実践する人々に対して、より専門的なサポートが求められている。一方で、国内では「トレーナー」という職業の定義が曖昧な現状がある。本授業では、特に競技スポーツを対象とする「トレーナー」の職種とその仕事内容（職域、資格）について理解し、それぞれの領域で求められる役割について整理する。

＜授業の到達目標＞
国内における「トレーナー」の種類と仕事内容（職域、資格）、特にAT（アスレティックトレーナー）とS&C(ストレングス＆コンディショニング)コーチの違いを理解する。また、それぞれの仕事において必要となる基本知識を身につけることができる。

＜授業の方法＞
スポーツをメディカル・フィジカルの領域から支えるトレーナーという職業についてディスカッションし、トレーナーに必要な技能や知識を習得する。タブレットを活用し、でそれぞれのトレーナー（ATとS&C）がどのようにスポーツ現場で働いて、どのような違いがあるのかインターネットから調べまとめる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習　次回の講義内容に関してインターネットや文献で調べてくる(毎回、1時間程度)。復習　講義の中でディスカッションした内容に関して要点をレポートにまとめる(毎回、1時間程度)。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度（授業への取り組み、課題提出状況）30%、試験 （小テスト、期末試験）70%

＜教科書＞

＜参考書＞
公益財団法人日本スポーツ協会　2022年11月30日(第1刷)　『公認アスレティックトレーナー専 門科目テキスト 1巻 アスレティックトレーナーの役割』　(公財)日本スポーツ協会
NSCA ジャンパン 2018年1月30日　NSCA決定版 ストレングストレーニ ング&コンディショニング第4版　ブックハウスHD

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法の確認、講義の概要
2	「トレーナー」の種類と職域	国内のトレーナー制度、ATとS&Cの仕事と職域
3	トレーナーと倫理	トレーナーが関わる可能性がある医療関係法規と法的諸問題
4	ATの役割と業務①	メディカルチェック
5	ATの役割と業務②	救急処置・ケア
6	ATの役割と業務③	可動性と安定性ウォーミングアップ・リカバリーの基礎知識
7	コンディショニング①	可動性と安定性ウォーミングアップ・リカバリーの基礎知識
8	コンディショニング②	ウェイトコントロール（増量と減量）
9	S&Cの役割と業務①	筋力向上トレーニングの基礎理論①
10	S&Cの役割と業務②	筋力向上トレーニングの基礎理論②
11	S&Cの役割と業務③	ピリオダイゼーション、トレーニング原理・原則に則ったトレーニング計画の立案
12	S&Cの役割と業務④	パワー向上トレーニング、持久力向上の基礎理論
13	S&Cの役割と業務⑤	各種体力測定と評価
14	まとめ	授業の総復習
15		
16		

科目コード	36102				区　分	コア科目		
授業科目名	健康管理概論［抽選あり］				担当者名	河合　洋二郎		
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
生物学の基本的事項からはじまり、医学的な理解を深め、他の関連する授業の足がかりとなるよう講義する。また、自分自身の健康状態を把握し、よりいっそうの健康に関心を抱き、健康管理概論のベースを理解することを目的とする。医学は大きく分けて、病気の人と対峙し、病気の治療を目的としている臨床医学、生物学を基礎に、病気の病因・病態を解明することを目的としている基礎医学、「集団としてのヒト」を対象にした社会医学からなる。

＜授業の到達目標＞
臨床医学、基礎医学、社会医学の３つの分野について講義するとともに今日的なトピック的事項を勉強する。

＜授業の方法＞
教科書と共に必要に応じてプリントを配布し、それに基づいて解説する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
次回授業内容の準備（1時間程度）、振り返りレポートの提出（2時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
振り返りレポート10％、定期試験90％

＜教科書＞
入江由香子・中村栄太郎 編集（2006.7）　「健康運動指導のための健康管理概論」　杏林書院

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	序論	医事法規
2	からだの成り立ち（1）	細胞学、組織について
3	からだの成り立ち（2）	器官、系について
4	健康の概念	健康とは何か、体力とは何か、健康と体力の関連
5	現代社会と健康（1）	健康障害とはどのように発生するか、日本人の平均寿命、少子高齢化
6	現代社会と健康（2）	高齢社会の抱える問題、疾病構造の変化、生活習慣病
7	健康づくり施策概論、小テスト	世界のあゆみ、日本のあゆみ、健康運動指導士と健康運動実践指導者の役割、小テスト
8	健康状態をどのように評価するか	個人の健康度、集団の健康度
9	健康増進のための方法論（1）	健康と栄養、肥満とその予防
10	健康増進のための方法論（2）	健康と運動、休養
11	ライフステージからみた健康管理	成長期の運動、老年期の運動
12	メディカルチェック（1）	メディカルチェック（1）
13	メディカルチェック（2）	メディカルチェック（2）
14	障害者と運動	障害とは、障害の種類、リハビリテーション、レクリエーションとしての運動、障害者のスポーツ
15		
16		

科目コード	36200				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	公衆衛生学［週間オンデマンド］				担当者名	河端　隆志			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

医学と社会の接点にある学問領域である公衆衛生学では、個人レベルでの健康から地域・社会・国の集団レベルでの健康課題に対して、疫学研究の知見を蓄積し、それにもとづいて社会にその成果を実装し、実証する研究に展開することを目指す学問です。その健康課題は、健康や生活機会の格差、学校保健、母子保健、生活習慣病、健康づくり、感染症対策、健康な街づくり、食品衛生や生活衛生などのほか、医療制度、社会保障制度も含んでいる。近年は災害時の被災者の健康支援や健康保護も重要な課題とされています。さらに、こうした課題に対する実証研

＜授業の到達目標＞

学修の目標知識・技能の観点・公衆衛生の歴史、その概念、意義、社会的要請について理解する・疫学の基本を学び、データの解析や評価、解釈を正しく行えること・體育系学生として知っておくべき法律、制度等について学ぶ・健康の保持・増進の社会的包摂を目指した具体的な解決策を提案できる力を習得する思考力・判断力・表現力等の能力の観点・様々な健康課題に対する社会的包摂を目指した実践のために必要な解決のための制度及び対策を立案し､具体的な運動型健康支援を実践できる能力を体得する主体的な態度の観点・體育系領域の眼差しから公衆衛

＜授業の方法＞

講義は、毎回講義資料をパワーポイントにて提供します。また、その内容は後日クラスルームにて開示します。参考資料等を必要とする場合は適時配布いたします。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

本講義は教員と学生との双方向型講義を展開します。また、課題に関する少人数グループでの議論による回答を促すこともあります。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

あらかじめ、シラバスの内容に沿って予習を行うことと、クラスルームを活用しての復習を行うようにします。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

知識・技能公衆における疾病の予防と健康の保持・増進に関する問題を読み解く基礎的知識を修得し、専門的観点からその問題解決に向けた方策を立案し実践できる。思考力・判断力・表現力等の能力疾病の予防と健康の保持・増進に関する様々な社会的包摂を目指した実践のために、その問題を解決できる方策を考案し、異分野の専門家や技術者とのコミュニケーションを通して「考動力」を発揮し、社会に貢献することができる。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

オンデマンド講義です・講義出席５０％（講義への出席および課題提出とその内容）・最終レポート５０％（最終講義時に課題を出します）毎回の課題および最終レポートの提出期限を厳守してください

＜教科書＞

適時、講義の中で紹介します。

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	社会と健康　健康と公衆衛生　予防医学　健康増進	
2	環境と健康	
3	健康、疾病、行動に関わる保険統計	
4	疫学	
5	感染症と食中毒	
6	生活習慣と疾病　健康習慣と健康増進	
7	成人保健と健康増進　生活習慣病の対策	
8	ヘルスプロモーション　インターバル速歩トレーニングの効果	
9	からだのしくみ　適応能力(環境および運動）と健康	
10	からだのしくみ　子どもの健康と高齢者の健康	
11	社会保障と医療経済	
12	精神保健福祉・母子保健・学校保健・産業保健	

13	わが国の保健・医療・福祉の制度と法規 これからの健康教育・ヘルスプロモーションに関するレポート	
14		
15		
16		

科目コード	36202				区　分	コア科目			
授業科目名	生理学［週間オンデマンド］				担当者名	十河　直太			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
主として、人の生理機能の基礎的なしくみについて学習する。また，生理学の応用として、運動時の反応や、発育・発達期及び中高年期における生理機能の特徴について学習する。さらに、水中という特殊環境や球技における生理的応答について学習する。

＜授業の到達目標＞
1.人の生理機能の基礎的なしくみ及び運動が生理機能に及ぼす効果について、専門用語を理解し、体系化できる。2.単に知識を習得するだけで無く、日常生活や体育・スポーツ活動に活用し、実践することができる。

＜授業の方法＞
1.パワーポイントや動画を用いて講義内容を解説する方法で毎回の授業を進める。2.折に触れ、当該授業内容に関して発問するので、それに対して討議する。3.授業の理解度を確認するため、毎回の授業の中間と終了前に小テストを実施する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素：無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：各回の講義内容を確認し、課題を再認する。各回の講義内容の教科書における該当個所は、第1回目に配布するプリントに示しているので、それを参考にする。（1時間程度）復習：振り返りレポートを5回に1回の割合で作成する。（2時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
出席意欲10%、小テスト等40%、定期試験 50%

＜教科書＞

＜参考書＞
オストランド、ラダール、浅野訳(1995)　「運動生理学」　大修館書店
黒川隆志、山崎昌廣他(2000)　「健康スポーツ科学」　技報堂出版

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	1-15回目の授業概要、授業の進め方、成績評価等の説明
2	現代生活と生理学	現代生活における生理学の意義について解説
3	人のエネルギー供給機構	人のエネルギー供給機構に基づく、運動を発現させる理論的背景
4	酸素摂取の生理学（1）	運動中の酸素摂取動態、最大酸素摂取量
5	酸素摂取の生理学（2）	無酸素性作業閾値、無酸素性エネルギーの指標
6	呼吸器系のしくみと運動	呼吸器系のしくみと運動時の反応
7	循環器系のしくみと運動	循環器系のしくみと運動時の反応
8	筋系のしくみと運動	筋系のしくみ、力発揮から見た筋の働き
9	神経系のしくみと運動	神経系のしくみ、動作の神経調節機構、力の調節
10	消化・内分泌系のしくみと運動	消化・内分泌系のしくみと運動の効果
11	健康とは？、体力　とは？	健康、体力の定義とその要因
12	発育・発達と運動	発育・発達に伴う体力・生理機能の変化
13	老化と運動	加齢に伴う体力・生理機能の変化
14	水中環境の生理学	水中環境（浮力、抵抗、水圧、水温）がもたらす生理的変化
15		
16		

科目コード	36203				区　分	コア科目		
授業科目名	労働衛生学				担当者名	喜多村　真治		
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
労働衛生学は働いている人々を対象に健康を保持･増進する学問です。我々の生活は労働によって支えられており、人生の大部分は労働に従事する期間でもあります。一方、この労働によって、多くの職業性疾病や健康に対する悪影響が発生もしており、本講義では、労働者の健康に関わる因子とその予防対策について講義・考察します。

＜授業の到達目標＞
第一種衛生管理者に必要な「労働衛生」の知識を習得すること。具体的には、①労働衛生の三管理・五管理が説明できること。②有害物質の体内侵入経路を説明できること、③代表的な職業病を説明できること、④衛生管理者の労働安全衛生法上の位置づけ･役割が説明できること、⑤産業保健に関わる法令・制度を説明できること。

＜授業の方法＞
本授業では、働く人々を取り巻く環境諸要因とその健康影響、有害影響の理解と予防対策の基本的な考え方について学びます。労働衛生学の歴史と今後の展開、職業病、作業関連疾病、作業環境評価、健康影響評価の手法や、快適職場の形成を研究し、医学的観点から広い視野から労働衛生について考えます。講義をスマホなどICT機器を使用してSLIDOを使用し匿名で双方向性参加形式で行います。ディスカッション、ディベート、挙手、クリッカーを行います。適宜小テストを入れます。スマホなどネット接続できる機器をご用意ください。準備できない場

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：講義をスマホなどICT機器を使用してSLIDOを使用し匿名で双方向性参加形式で行います。ディスカッション、ディベート、挙手、クリッカーを行います。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
労働安全衛生に関する情報を教科書、新聞やインターネットなどで予習・復習すること（1時間30分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３(経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
定期テスト１００％

＜教科書＞
中央労働災害防止協会　労働衛生のしおり

＜参考書＞
医療情報科学研究所編　「職場の健康がみえる 産業保健の基礎と健康経営 第1版」　メディックメディア

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	労働衛生総論	労働衛生の現状などを踏まえ労働衛生の目標を学ぶ
2	産業保健に関わる法令・制度	産業保健に関わる法令・制度を学ぶ
3	健康経営	健康経営について学ぶ
4	安全衛生管理体制	安全衛生管理体制について学ぶ
5	職業性疾病	職業性疾病について学ぶ
6	作業環境管理	作業環境管理について学ぶ
7	作業環境管理に基づく就業上の措置	作業環境管理に基づく就業上の措置についてディスカッションを行う
8	作業管理	作業管理について学ぶ
9	作業管理に基づく就業上の措置	作業管理に基づく就業上の措置についてディスカッションを行う
10	健康管理	健康管理について学ぶ
11	健康管理に基づく就業上の措置	健康管理に基づく就業上の措置についてディスカッションを行う
12	過重労働・労働災害	過重労働・労働災害について学ぶ
13	メンタルヘルスケア	メンタルヘルスケアについて学ぶ
14	配慮が必要な労働者に対する職場支援	配慮が必要な労働者に対する職場支援について学ぶ
15	定期テスト	全ての講義の内容の確認・テストを行う
16		

科目コード	36204				区　分	コア科目		
授業科目名	解剖生理学				担当者名	百田　龍輔		
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
体育学科の学生として人体の構造と機能に関する知識は、人体に関係する全ての学習の基礎となるため非常に重要である。解剖学は構造を学ぶ分野であるが、人体構造のみに留まらずその機能とも関連付け、深く学習することが大切である。15回の限られた時間のなかで、人体構造と機能について、総論・骨格系・筋系・外皮系・心臓脈管系・リンパ・免疫系・消化器系・呼吸器系・泌尿生殖器系・内分泌系・神経系・特殊感覚器系を学ぶ。

＜授業の到達目標＞
人体に関する基礎的な知識の習得を到達目標とする。食べたものがどこでどのように処理されて、栄養分が吸収されるか？筋骨格の働き、神経による支配、内分泌・自律神経による身体の調節について、基本的な概念を習得し説明し、日常生活やスポーツにおいてその知識を実践できるようになることを目指す。

＜授業の方法＞
教科書を中心に講義を進めていく。講義中は教科書を声に出して読むという基本的な学習を徹底して行うので、必ず事前にスムーズに読めるように難解な漢字、語句は調べておくこと。理解したことを文章やイラストを通じて手を動かし表現すること、身体を動かして実践する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
医学的内容の科目なので、予習よりも復習に重きを置いて勉強する。教科書の図を人に説明できるようにする。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度（小テスト）３０％：定期試験７０％

＜教科書＞
伊藤正裕・中村陽市（監修）　これでわかる！人体解剖パーフェクト事典　ナツメ社

＜参考書＞
自習用に以下のアプリを推薦します。Human Anatomy Atlas 202? https://apps.apple.com/app/id1117998129 解剖学的構造と生理学 Anatomy & Physiology<a href="https://apps.apple.com/app/id920133658" target="_blank">https://a
菊地よしこ　百田龍輔（２０１７）　看護に必要な漢字で覚える解剖ドリル　照林社
松村 譲兒（2021年4月19日）　イラスト解剖学　中外医学社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	解剖学導入解剖学総論	授業内容の説明解剖学用語、細胞・組織
2	骨格系	全身の骨格　関節
3	筋系１	筋系、上肢の筋、体幹の筋体幹、下肢の筋１
4	筋系２	筋系、上肢の筋、体幹の筋体幹、下肢の筋２
5	外皮系	外皮、爪、毛
6	心臓脈管系	心臓、動脈系、静脈系、体循環、肺循環
7	リンパ・免疫系	リンパ循環、免疫
8	消化管の概観、肝臓、胆嚢、膵臓	消化管の概観、肝臓、胆嚢、膵臓
9	肝臓、胆嚢、膵臓、消化と吸収	肝臓、胆嚢、膵臓、消化と吸収
10	呼吸器系	呼吸器の構造、呼吸
11	泌尿・生殖器系	腎臓、膀胱、尿の生成、生殖器の構造と機能
12	内分泌系	内分泌系とホルモン
13	神経系	神経系の概観、脊髄、脊髄神経、脳神経、脳の構造と機能
14	特殊感覚器系	眼球と視覚情報、聴覚・平衡器官、嗅覚、味覚
15		
16		

科目コード	36300				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	病理学				担当者名	石原　和泰			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
解剖学、生理学で学んだ正常人体の構造、機能の理解のうえに病的状態における形態変化及び病態生理を講義する。講義前半は疾病により出現する種々の病理現象を総論として解説、後半は各臓器ごとに代表的な疾患を取り上げ、その形態変化、病態生理を解説する。

＜授業の到達目標＞
将来、人の健康保持、増進に関与していく可能性のある学生に対して、炎症、アレルギーなどの基本的な病理現象のメカニズムについて理解ができるとともに、各臓器の代表的な疾患に対するより専門的な病理学的変化につて説明ができることを目標とする。

＜授業の方法＞
概ねスライドを使って講義する。スライドのレジュメは各回授業の最初に配布する。※参考書は全員購入すること。授業理解度の確認として適宜小テストを行い、学生、教員間で理解度を共有し学習内容の確実な定着に繋げる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング　なし

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前に授業テーマに該当する部分を参考書を読んで予習しておくこと。配布されたレジュメを基にまとめノートを作製すること(復習１時間）。試験には自作のノートの持ち込みを可とする。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
（評価方法）定期試験 90点、出席点 10点の100点満点とする。出席点は1回の欠席ごとに2点の減点とする。試験時はノートの持ち込みは認めない。（出欠確認）出席の確認は講義冒頭の点呼により行う。点呼に間に合わなかった者は講義終了時に申し出ること。（欠席届の取り扱いについて）当該講義のテーマに即したレポートを提出すること。レポートの提出期限は欠席した月の翌月末までとする。（それ以降は受理しない）レポートの提出により出席点を与える。（公欠の取り扱いについて）学則に則る。（その他）講義資料の再配布は行わないので

＜教科書＞
桜井　修　監修　「新病理学（Qシリーズ）」　日本医事新報社

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	序論	病理学とは
2	病理学総論（1）	細胞・組織とその障害
3	病理学総論（2）	再生と修復、退行性病変
4	病理学総論（3）	循環障害
5	病理学総論（4）	炎症
6	病理学総論（5）	免疫とアレルギー
7	病理学総論（6）	代謝異常
8	病理学総論（7）	腫瘍
9	病理学各論（1）	循環器系の病理
10	病理学各論（2）	呼吸器系の病理
11	病理学各論（3）	内分泌系・造血器系の病理
12	病理学各論（4）	腎・尿路系の病理
13	病理学各論（5）	生殖器系の病理
14	病理学各論（6）	運動器系および脳・神経系の病理
15		
16		

科目コード	36302				区　分	基礎専門科目			
授業科目名	解剖・生理学実習Ⅰ				担当者名	平林　大輔／坂本　賢広			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
解剖学および生理学の特に柔道整復師業務に関連する分野を中心として構成し授業展開する。将来、医療の一端を担う柔道整復師は人体の正常な構造、位置、形を理解する事は重要である。また、健康なヒトのからだのしくみとはたらきを理解するため、安静時と運動時の生理学的評価を行い、教科書の平面的な記載と実際とをよく見比べ、解剖・生理学実習を行う。解剖・生理学実習を行うことにより、医療関係者としての心得を把握し、将来の生命倫理の基礎をつくる。

＜授業の到達目標＞
人体の正常な構造、位置、形を三次元的に把握し、実習を通して解剖学、生理学、運動学の講義で習った身体構造と機能を理解し、表現できるようになることを目標とする.

＜授業の方法＞
各授業では、テーマに沿って予習、実習、復習などを行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：翌週の指導内容のキーワードの下調べ（毎回、60分程度）復習：授業内容の確認・復習の実施（毎回、60分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
レポート 70%　学習意欲 30%

＜教科書＞

＜参考書＞
監訳　坂井　建雄／松村　譲兒　発行　2013年03月　プロメテウス解剖学アトラス　解剖学総論／運動器系　第2版　医学書院
公益社団法人　全国柔道整復学校協会　監修岸　清・石塚　寛　編　解剖学　改訂第2版　医歯薬出版株式会社
Scott K. Powers　Edward T. Howley　著日本語版監修　内藤久士　柳谷登志雄　小林裕幸　髙澤祐治　パワーズ運動生理学　株式会社　メディカル・サイエンス・インターナショナル

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	人体の構造の理解1	人体の構造と機能について
2	人体の構造の理解2	人体の構造と機能を解剖学の視点から復習する
3	人体の構造の理解3	人体の構造と機能を生理学の視点から復習する
4	各部位の把握（上肢）	上肢の骨・筋・神経の位置および機能について
5	各部位の把握（下肢）	下肢の骨・筋・神経の位置および機能について
6	各部位の把握（体幹）	体幹の骨・筋・神経の位置および機能について
7	各部位の把握（頭頚部）	頭頚部の骨・筋・神経の位置および機能について
8	心臓の構造と機能１	刺激伝導系の復習と安静時心拍数の測定について
9	心臓の構造と機能2	刺激伝導系の復習と運動時心拍数の測定について
10	エネルギー供給系について１	安静時の乳酸測定について
11	エネルギー供給系について２	運動時の乳酸測定について
12	酸素摂取量について１	酸素摂取量の測定方法について
13	酸素摂取量について２	呼気ガス分析機器と運動負荷試験について
14	総復習	まとめ
15		
16		

科目コード	36303				区　分	基礎専門科目			
授業科目名	解剖・生理学実習Ⅱ				担当者名	古山　喜一			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
解剖見学実習を中心として構成し、授業展開する。将来、柔道整復師として医療の一端を担うには人体の正常な構造、位置、形を理解する事は重要である。教科書の平面的な記載と実際とをよく見比べ、立体的、三次元的な理解を深める為に解剖見学実習を行う。解剖見学実習に向かい、心得、手順、禁止事項等を十分に把握し、篤志献体により提供された御遺体を解剖見学実習により、生と死についての洞察を得、将来の生命倫理の基礎をつくる。

＜授業の到達目標＞
人体の正常な構造、位置、形を三次元的に把握し、実習を通して解剖学、生理学、運動学の講義で習った身体構造と機能を理解し、説明きるようになることを目標とする.

＜授業の方法＞
各授業で、テーマに沿ってグループワーク実をい、Dropboxを用いレポートを提出する

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有り

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
プリントに記された実習内容に関する項目について、解剖学や生理学及び運動学で習った事を復習する（1.5時間程度）。授業内容（小テスト・講義・討論）をふりかえり、「何を学んだか、何を学べなかったのか」についてレポート（A4-1枚程度）を作成し、期日までにデータで担当教員にDropboxを用い送信する。（1.5時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、DP３　（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる）に関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
①課題内容70%　実習参加意欲30％

＜教科書＞

＜参考書＞
監訳　坂井　建雄／松村　譲兒　発行　2013年03月　プロメテウス解剖学アトラス　解剖学総論／運動器系　医学書院

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	事前説明	解剖・生理学実習を行うにあたり事前説明を実施する。
2	参加選抜試験	解剖・生理学実習に参加するにあたり選抜試験を実施する。
3	上肢の骨	上肢の骨を理解する。
4	上肢の筋	上肢の筋を理解する。
5	上肢の神経	上肢の神経を理解する。
6	下肢の筋	下肢の筋を理解する。
7	下肢の骨	下肢の骨を理解する。
8	下肢の神経	下肢の神経を理解する。
9	全身の脈管系	全身の脈管系を理解する。
10	胸部内蔵	胸部内蔵を理解する。
11	腹部内蔵	腹部内蔵を理解する。
12	解剖見学実習1	上・下肢の解剖見学実習
13	解剖見学実習2	体幹の解剖見学実習
14	解剖見学実習事後指導	実習に対する全体討議、個人発表　振り返り
15		
16		

科目コード	36514				区　分	コア科目			
授業科目名	スポーツ健康実習［健康運動実習PH4年生用][不開講]				担当者名	伊藤　三千雄			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

今般の医療制度改革においては、生活習慣病予防が生涯を通じた個人の健康づくりだけでなく、中長期的な医療費適正化対策の柱の一つとして位置づけられており,今後展開される本格的な生活習慣病対策においては、一次予防に留まらず二次予防も含めた健康づくりのための運動を指導する専門家の必要性が増している。本講義においては、スポーツ健康論で修得した内容を踏まえ、「個々人の身体状況に応じた安全で効果的な運動を実施するための運動プログラム作成と指導」、「生活習慣病にかかる可能性のある″ハイリスク者″への個別指導・健康支援」に関

＜授業の到達目標＞

1. 対象者の健康状態・体力特性・生活習慣リスクを評価できる。2. 生活習慣病予防を目的とした運動プログラムを作成できる。3. 安全かつ効果的な運動指導を実践できる。4. 健康運動教室を企画・運営し、指導実践ができる。5. 指導結果を評価し、課題を抽出して改善案を提示できる。

＜授業の方法＞

教科書を基に、実習を中心とした授業を展開する。特にチーム別に、テーマを設定し、グループワークを行い、健康運動教室を実施する。その後、参加者からのアンケートをまとめることにより、課題及び改善点をリフレクションしていく。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素有：5、6人のグループに分かれ、健康教室の内容についてグループワークを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習：教科書・配布資料の該当範囲を読み、運動プログラム作成に必要な知識を整理する。次回実施する健康運動教室に向けた運動プログラム案を作成する。発表・指導に向けてプレゼン資料を準備する（1時間程度）。事後学習：授業で実施した運動指導・健康教室の内容を振り返る。参加者アンケートや指導評価を整理する。改善点・課題をレポートとしてまとめる（1時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー３(柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実習態度・学習意欲 30%、運動プログラム指導 50%、課題レポート 20%

＜教科書＞

公益財団法人　健康・体力づくり事業財団　健康運動指導士養成講習会テキスト（上・下）　株式会社 南江堂

＜参考書＞

公益財団法人　健康・体力づくり事業財団　健康運動実践指導者養成用テキスト　株式会社 南江堂

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	身体活動量の定量法とその実際	身体活動量の測定法（加速度計・質問紙）
2	身体組成の測定法	身体組成測定（体脂肪率・筋量）
3	運動負荷試験実習（1）	正常心電図の理解、負荷心電図の評価
4	運動負荷試験実習（2）	呼気ガス分析・乳酸測定
5	運動負荷試験実習（3）	最大酸素摂取量の測定
6	高齢者の体力測定法	全身持久力の評価、筋力・バランス能力の評価
7	運動行動変容とプログラム設計	対象者に応じた運動プログラムの立案
8	運動療法（1）	生活習慣病（肥満・糖尿病・高血圧等）の運動療法の基礎
9	運動療法（2）	サルコペニア、フレイルの理解
10	地域健康教室 事前準備・模擬	指導案作成、役割分担、安全管理（リスク評価・緊急対応）、模擬指導
11	地域健康教室 実践（1）現場実践	地域住民（主に高齢者）への運動指導実践、体力測定および簡易評価
12	地域健康教室 実践（2）現場実践・改善	前回の振り返りを踏まえた改善指導、対象者フィードバックの収集
13	地域健康教室 実践（3）現場実践・改善	前回、前々回の振り返りを踏まえた改善指導、対象者フィードバックの収集
14	総合振り返り・学習成果の統合	地域実践の振り返り、課題と改善点の整理、グループ発表（プログラム評価）、今後の実践への応用
15		

16		

科目コード	36515				区　分	コア科目			
授業科目名	トレーニング指導実習［PP,PH用］				担当者名	國友　亮佑			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
習得した知識や技術を活かし、様々な対象へのトレーニング指導を実践する。プログラムデザインから実際の指導までをすべてひとりで実施する事で、より実践的な能力を身につけ、トレーニング指導者としての資質を養う。原則としてアスリートおよび一般の両方の指導を体験する事とする。（「健康運動実習」履修者は一部免除されます）

＜授業の到達目標＞
対象に応じたトレーニングプログラムを作成し、適切な指導ができるようになる。

＜授業の方法＞
実技および現場での実習を中心とする。2年次終了時点で、CSCS取得に必要な科目を全て履修している。また、CSCSの取得を希望する学生を優先的に20名を履修上限とする。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループワーク

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：プログラムデザイン、エクササイズテクニックについて学習する。(1時間)復習：指導した際の課題や改善方法について内容をまとめる（１時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
トレーニング指導実践50%、課題（指導計画、指導の振り返り）50%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	実習の流れ、注意事項説明
2	エクササイズテクニックと指導法の確認①	下半身エクササイズのテクニックと指導法の確認
3	エクササイズテクニックと指導法の確認②	上半身プッシュ系エクササイズのテクニックと指導法の確認
4	エクササイズテクニックと指導法の確認③	上半身プル系エクササイズのテクニックと指導法の確認
5	エクササイズテクニックと指導法の確認④	オリンピックリフティングのテクニックと指導法の確認①
6	エクササイズテクニックと指導法の確認⑤	オリンピックリフティングのテクニックと指導法の確認②
7	プログラムデザイン①	筋肥大プログラムの立案
8	プログラムデザイン②	最大筋力向上プログラムの立案
9	トレーニング指導の現場実習	実習先にてトレーニング指導を実践する
10	トレーニング指導の現場実習	実習先にてトレーニング指導を実践する
11	トレーニング指導の現場実習	実習先にてトレーニング指導を実践する
12	トレーニング指導の現場実習	実習先にてトレーニング指導を実践する
13	トレーニング指導の現場実習	実習先にてトレーニング指導を実践する
14	まとめ（指導内容報告会）	指導内容の振り返り
15		
16		

科目コード	36515				区　分	コア科目			
授業科目名	トレーニング指導実習［アスリート用］				担当者名	金谷　和幸			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業は、これまでに学んだトレーニング科学の知識と技術を基盤として、対象者に応じたトレーニング指導を実践する能力を育成することを目的とする。学生は、アスリートおよび一般対象者の双方に対して、トレーニングプログラムの立案から指導実践、振り返りまでを一貫して行い、現場で求められる指導力・観察力・コミュニケーション力を身につける。また、本授業は学科が推奨する資格取得と連動しており、競技指導者資格やトレーナー資格の取得に必要な知識・技能を授業内で扱うことで、将来の競技現場や指導現場で活躍するための基礎的能力を養う

＜授業の到達目標＞
対象者の体力特性や目的に応じたトレーニングプログラムを自ら作成し、安全かつ効果的に指導できる能力を身につけることを到達目標とする。エクササイズテクニックの理解と指導方法の習得に加え、現場実習を通じて課題発見力や改善提案力を高め、トレーニング指導者としての実践的資質を養う。また、学科が指定する資格取得に必要な基礎的知識・技能を習得し、資格取得に向けた準備を進めることも重要な目標とする。

＜授業の方法＞
授業は、実技・演習・現場実習を中心に構成する。エクササイズテクニックの確認や指導演習を通じて基礎的技能を高め、グループワークによる相互指導・相互評価を行うことで、実践的な学びを深める。また、現場実習では実際の対象者に対してトレーニング指導を行い、授業内で振り返りを行うことで、指導力の向上を図る。さらに、資格取得に必要な内容を授業内で扱い、取得に向けた支援を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループワーク

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習として、プログラムデザインやエクササイズテクニックに関する基礎的内容を事前に学習することを求める（1時間程度）。復習として、実施した指導内容の振り返りや課題の整理を行い、次回の指導に向けて改善点を明確にする（1時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
成績は、トレーニング指導実践（10%）、指導計画および振り返りレポートなどの課題（40%）、学科が指定する資格の取得状況（50%）を総合して評価する。指定された資格のいずれかを取得した場合は、S評価の対象とする。資格取得の確認は担当教員が行う。※資格取得にかかる費用（受講料・登録料等）はすべて学生の自己負担となります。授業料には含まれません。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業概要・資格制度の説明・到達目標の共有
2	資格選択および学習計画の立案	資格選択および学習計画の立案（個別面談を含む）
3	トレーニング指導の基礎確認	エクササイズテクニック・安全管理
4	指導プログラム作成演習	目的設定と評価指標の設定
5	資格学習①	資格取得に必要な指導者の役割・倫理・責任を理解し、指導者としての基本姿勢を学ぶ
6	資格学習②	基本動作の指導と観察力
7	資格学習③	年代別指導と発達段階の理解
8	資格学習④	戦術理解と練習構成の基礎
9	資格学習⑤	特別な対象への指導と多様性の理解
10	模擬試験または到達度確認	資格学習①～⑤の理解度確認
11	弱点補強および再学習	模擬試験の結果をもとに個別に再学習
12	指導プログラム作成演習②	応用・対象別設計およびトレーニング指導の実践
13	成果報告および振り返り	学習過程の整理
14	総括	資格取得状況の確認および最終評価
15		
16		

科目コード	36515				区　分	コア科目			
授業科目名	トレーニング指導実習［サイエンティスト・CSCS用］				担当者名	江波戸　智希／伊藤　亮輔			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
習得した知識や技術を活かし、様々な対象へのトレーニング指導を実践する。プログラムデザインから実際の指導までをすべてひとりで実施する事で、より実践的な能力を身につけ、トレーニング指導者としての資質を養う。また、競技指導者資格またはトレーナー関連資格取得を目指す。

＜授業の到達目標＞
対象に応じたトレーニングプログラムを作成し、適切な指導ができるようになる。

＜授業の方法＞
実技および現場での実習を中心とする。競技指導者資格またはトレーナー関連資格取得に向けた学びを自身で行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有無基本的には実技をメインにて行う。ディカッション、グループワークを行う

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：プログラムデザイン、エクササイズテクニックについて学習する。(1時間)復習：指導した際の課題や改善方法について内容をまとめる（１時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
トレーニング指導実践50%、課題（指導計画、指導の振り返り、資格取得）50%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	実習の流れ、注意事項説明
2	エクササイズテクニックと指導法の確認①	下半身エクササイズのテクニックと指導法の確認
3	エクササイズテクニックと指導法の確認②	上半身プッシュ系エクササイズのテクニックと指導法の確認
4	エクササイズテクニックと指導法の確認③	上半身プル系エクササイズのテクニックと指導法の確認
5	エクササイズテクニックと指導法の確認④	オリンピックリフティングのテクニックと指導法の確認①
6	エクササイズテクニックと指導法の確認⑤	オリンピックリフティングのテクニックと指導法の確認②
7	プログラムデザイン①	筋肥大プログラムの立案
8	プログラムデザイン②	最大筋力向上プログラムの立案
9	トレーニング指導の現場実習	実習先にてトレーニング指導を実践する
10	トレーニング指導の現場実習	実習先にてトレーニング指導を実践する
11	トレーニング指導の現場実習	実習先にてトレーニング指導を実践する
12	トレーニング指導の現場実習	実習先にてトレーニング指導を実践する
13	トレーニング指導の現場実習	実習先にてトレーニング指導を実践する
14	トレーニング指導の現場実習	実習先にてトレーニング指導を実践する
15		
16		

科目コード	36516				区　分	コア科目		
授業科目名	サービスラーニングⅠ				担当者名	戸田　晃大		
配当年次	1年	配当学期	集中	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
サービスラーニングとは、公共的な活動の場に参加しながら学習を深める取り組みのことです。本授業では、オープンキャンパスにスタッフとして3日以上参加し、学びを深めていきます。たくさんの人たちとかかわりながら現場において学べることがサービスラーニングの魅力です。

＜授業の到達目標＞
体育・スポーツ・健康に関わる職業やその専門性の基礎としての「市民性」を身につけている。＊ここで「市民性」とは、市民社会における公共的な課題にコミットし、他者と連携しながら、その問題を改善・解決することのできる力量のことを想定している。

＜授業の方法＞
オープンキャンパスに3日以上参加する。また、そのための事前準備、取り組みに対しての省察活動も行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素：有実際のサービスに参加し、学びを深めます。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
オープンキャンパスの事前説明、企画準備・練習に参加する。また、そのための調べ学習にも取り組む。参加後は活動に対する振り返りを行う。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
実習における取り組み：40%実習の各回に対する振り返りレポート：30%最終レポート：30%※ボランティアに3日以上参加していることが単位認定条件です。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	36517				区　分	コア科目			
授業科目名	サービスラーニングⅡ				担当者名	早田　剛／十河　直太			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
サービスラーニングとは、公共的な活動の場に参加しながら学習を深める取り組みのことです。本授業では、フィールドのいずれかひとつを選び、年間を通して10日（もしくは20時間）以上の実習に取り組みながら、学びを深めていきます。自分の関心に沿って、子ども・若者をはじめ、たくさんの人たちとかかわりながら現場において学べることがサービスラーニングの魅力です。

＜授業の到達目標＞
体育・スポーツ・健康に関わる職業やその専門性の基礎としての「市民性」を身につけること。＊ここで「市民性」とは、市民社会における公共的な課題にコミットし、他者と連携しながら、その問題を改善・解決することのできる力量のことを想定している。

＜授業の方法＞
グループで役割をアクティブラーニングを用いて、事前準備を行い、年間を通して10日（もしくは20時間）以上の実習に取り組んでいく。また、取り組んだ結果に対しての省察活動を個人またはグループで行い、発表を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）この活動自体がアクティブ・ラーニングになります。最後の言語化することまでが、アクティブ・ラーニングであると考えます。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業はフィールドを選択し、活動内容の把握およびさらに良くするための事前調査（1時間程度）を行います。活動後は、振り返りレポート（2時間程度）において、アクションプランまで作成することを条件とします。フィールドでの活動は、通年で10日間（もしくは20時間）以上とします。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
意欲態度：40%実施内容に対する省察レポート：60%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	サービスラーニングの意義と目的、本授業の進め方について。
2	自己理解と目標設定	なぜその現場（フィールド）を選んだのか。実習を通じた自己の成長目標の策定。
3	対人コミュニケーションとマナー	現場における多様なステークホルダー（子ども、地域住民、職員）との接し方。
4	リスクマネジメントと倫理	安全管理、個人情報保護、ボランティアとサービスラーニングの違い。
5	現場の観察と課題発見	実習先の概要把握と、現場が抱えているニーズや課題の特定。
6	リフレクション（省察）の方法	「経験」を「学び」に変えるための記録（リフレクション・ジャーナル）の書き方。
7	中間共有会	各自のフィールドでの活動状況を報告し、直面している困難や気づきを授業内で共有。
8	中間フィードバック	教員および他学生からの助言をもとに、後半の実習計画を修正・改善する。
9	現場で得たデータやエピソードを論理的に整理する手法の習得。	経験の概念化
10	経験の概念化	現場での具体的な出来事を、専門知識や社会課題と結びつけて考察する。
11	プレゼンテーション準備①	自分の学びを他者に伝えるための構成（ストーリーライン）の構築。
12	プレゼンテーション準備②	視覚資料（ポスターやスライド）の作成と発表リハーサル。
13	最終成果報告会	各自の実習成果を発表。異なるフィールドの事例から多様な価値観を学ぶ。
14	総括リフレクション	全行程を振り返り、本活動が自身のキャリアや今後の大学生活にどう活きるかを言語化する。
15		
16		

科目コード	36518				区　分	コア科目			
授業科目名	サービスラーニングⅢ				担当者名	早田　剛／十河　直太			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
サービスラーニングとは、公共的な活動の場に参加しながら学習を深める取り組みのことです。本授業では、フィールドのいずれかひとつを選び、年間を通して10日（もしくは20時間）以上の実習に取り組みながら、学びを深めていきます。自分の関心に沿って、子ども・若者をはじめ、たくさんの人たちとかかわりながら現場において学べることがサービスラーニングの魅力です。

＜授業の到達目標＞
体育・スポーツ・健康に関わる職業やその専門性の基礎としての「市民性」を身につけること。＊ここで「市民性」とは、市民社会における公共的な課題にコミットし、他者と連携しながら、その問題を改善・解決することのできる力量のことを想定している。

＜授業の方法＞
グループで役割をアクティブラーニングを用いて、事前準備を行い、年間を通して10日（もしくは20時間）以上の実習に取り組んでいく。また、取り組んだ結果に対しての省察活動を個人またはグループで行い、発表を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）この活動自体がアクティブ・ラーニングになります。最後の言語化することまでが、アクティブ・ラーニングであると考えます。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業はフィールドを選択し、活動内容の把握およびさらに良くするための事前調査（1時間程度）を行います。活動後は、振り返りレポート（2時間程度）において、アクションプランまで作成することを条件とします。フィールドでの活動は、通年で10日間（もしくは20時間）以上とします。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
意欲態度：40%実施内容に対する省察レポート：60%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	サービスラーニングの意義と目的、本授業の進め方について。
2	自己理解と目標設定	なぜその現場（フィールド）を選んだのか。実習を通じた自己の成長目標の策定。
3	対人コミュニケーションとマナー	現場における多様なステークホルダー（子ども、地域住民、職員）との接し方。
4	リスクマネジメントと倫理	安全管理、個人情報保護、ボランティアとサービスラーニングの違い。
5	現場の観察と課題発見	実習先の概要把握と、現場が抱えているニーズや課題の特定。
6	リフレクション（省察）の方法	「経験」を「学び」に変えるための記録（リフレクション・ジャーナル）の書き方。
7	中間共有会	各自のフィールドでの活動状況を報告し、直面している困難や気づきを授業内で共有。
8	中間フィードバック	教員および他学生からの助言をもとに、後半の実習計画を修正・改善する。
9	現場で得たデータやエピソードを論理的に整理する手法の習得。	経験の概念化
10	経験の概念化	現場での具体的な出来事を、専門知識や社会課題と結びつけて考察する。
11	プレゼンテーション準備①	自分の学びを他者に伝えるための構成（ストーリーライン）の構築。
12	プレゼンテーション準備②	視覚資料（ポスターやスライド）の作成と発表リハーサル。
13	最終成果報告会	各自の実習成果を発表。異なるフィールドの事例から多様な価値観を学ぶ。
14	総括リフレクション	全行程を振り返り、本活動が自身のキャリアや今後の大学生活にどう活きるかを言語化する。
15		
16		

科目コード	36519				区　分	コア科目			
授業科目名	サービスラーニングⅣ				担当者名	早田　剛／十河　直太			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
サービスラーニングとは、公共的な活動の場に参加しながら学習を深める取り組みのことです。本授業では、フィールドのいずれかひとつを選び、年間を通して10日（もしくは20時間）以上の実習に取り組みながら、学びを深めていきます。自分の関心に沿って、子ども・若者をはじめ、たくさんの人たちとかかわりながら現場において学べることがサービスラーニングの魅力です。

＜授業の到達目標＞
体育・スポーツ・健康に関わる職業やその専門性の基礎としての「市民性」を身につけること。＊ここで「市民性」とは、市民社会における公共的な課題にコミットし、他者と連携しながら、その問題を改善・解決することのできる力量のことを想定している。

＜授業の方法＞
授業はフィールドを選択し、活動内容の把握およびさらに良くするための事前調査（1時間程度）を行います。活動後は、振り返りレポート（2時間程度）において、アクションプランまで作成することを条件とします。フィールドでの活動は、通年で10日間（もしくは20時間）以上とします。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）この活動自体がアクティブ・ラーニングになります。最後の言語化することまでが、アクティブ・ラーニングであると考えます。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業はフィールドを選択し、活動を行い、中間まとめをし、活動を継続し、最後のふりかえりを行う、という形ですすめます。フィールドでの活動は、通年で10日間（もしくは20時間）以上とする。事前や事後の学習は、フィールドでの活動状況に応じてすすめることになります。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
意欲態度：40%実施内容に対する省察レポート：60%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	サービスラーニングの意義と目的、本授業の進め方について。
2	自己理解と目標設定	なぜその現場（フィールド）を選んだのか。実習を通じた自己の成長目標の策定。
3	対人コミュニケーションとマナー	現場における多様なステークホルダー（子ども、地域住民、職員）との接し方。
4	リスクマネジメントと倫理	安全管理、個人情報保護、ボランティアとサービスラーニングの違い。
5	現場の観察と課題発見	実習先の概要把握と、現場が抱えているニーズや課題の特定。
6	リフレクション（省察）の方法	「経験」を「学び」に変えるための記録（リフレクション・ジャーナル）の書き方。
7	中間共有会	各自のフィールドでの活動状況を報告し、直面している困難や気づきを授業内で共有。
8	中間フィードバック	教員および他学生からの助言をもとに、後半の実習計画を修正・改善する。
9	現場で得たデータやエピソードを論理的に整理する手法の習得。	経験の概念化
10	経験の概念化	現場での具体的な出来事を、専門知識や社会課題と結びつけて考察する。
11	プレゼンテーション準備①	自分の学びを他者に伝えるための構成（ストーリーライン）の構築。
12	プレゼンテーション準備②	視覚資料（ポスターやスライド）の作成と発表リハーサル。
13	最終成果報告会	各自の実習成果を発表。異なるフィールドの事例から多様な価値観を学ぶ。
14	総括リフレクション	全行程を振り返り、本活動が自身のキャリアや今後の大学生活にどう活きるかを言語化する。
15		
16		

科目コード	36520				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	アスリートキャリアI(クロスオーバースキル)				担当者名	宮本　彩／矢野　智彦／三浦　孝仁			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
アスリートはスポーツで高みを目指す中で、競技スキルを磨くだけでなく、コミュニケーション能力や協調性、自己管理能力など、社会でも求められる様々なスキルも同時に培う必要があります。本授業では、これまでの経験を振り返り、クロスオーバースキルとして特に役立つとされている10項目（コミュニケーション能力、協調性、自己管理力、冷静さ、勝利思考、成長思考、意欲、達成力、適応力、乗り越える力）について考えていきます。

＜授業の到達目標＞
本授業を通して、自分自身の強みを理解するとともに、そのことについて、人に伝えることができる。

＜授業の方法＞
ペアワークやグループワークによる自己探求課題レポート等を基にした自己表現及び発表

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素；有りペアワークやグループワーク、その成果についてのプレゼンテーションなど

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習；次週のテーマについて調べる（30分）復習；授業の振り返りを行い、事後課題レポートやプレゼンテーションの作成などに取り組む（60分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業内での発表を含めた受講態度 50%レポートを含む課題　50%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	競技スポーツ科学科が求めるアスリート像について	競技スポーツ科学科での学び方、取り組み方
2	自身が目指すアスリート像	受講者自身が目指しているアスリート像を具体的に言葉にし、小グループごとに発表する
3	理想とされるアスリート像とは	第1回目・第2回目の授業内容を振り返り、共通する能力は何かを考える。また、五訓の理解を深める。
4	五訓の実践例を考える	五訓の具体的な実践例を話し合う。また、クロスオーバースキルとは何かを学ぶ。
5	クロスオーバースキル“自己管理”	クロスオーバースキルのうち“自己管理”の重要性について話し合い、学科の特徴であるマルチサポートについて理解を深める。
6	クロスオーバースキル“成長思考・勝利思考”	クロスオーバースキルのうち、“成長思考・勝利思考”として、競技スポーツ科学科での学びを活かした戦い方を考える。
7	トップアスリートの講話に向けた事前学習①	講演者について調べ、レポートとしてまとめる。
8	トップアスリートからの講話①	講話の感想ならびに学んだ内容についてレポートでまとめる。
9	トップアスリートの講話を受けての事後学習①	考えたこと・学んだことを他の受講者と共有する。
10	トップアスリートの講話に向けた事前学習②	講演者について調べ、レポートとしてまとめる。
11	トップアスリートからの講話②	講話の感想ならびに学んだ内容についてレポートでまとめる。
12	トップアスリートの講話を受けての事後学習②	考えたこと・学んだことを他の受講者と共有する。
13	4年間での目標宣言①	4年間での自分自身の目標を受講者の前で発表する。
14	4年間での目標宣言②	4年間での自分自身の目標を受講者の前で発表する。
15		
16		

科目コード	36521				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	アスリートキャリアⅡ(スポーツコンプライアンス)				担当者名	宮本　彩／三浦　孝仁／矢野　智彦			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
近年、大学スポーツにおける暴力や薬物など様々な問題がメディアで大きく取り沙汰され、法令遵守のみならず、社会規範を遵守できる自律したアスリートの育成が求められている。そこで、本授業は、スポーツの未来を担う者として、スポーツにおける安全な環境とはいかなるもので、それを守っていくために必要な行動とは何かを学び、適切な対処の知識と行動を身につけることを目的とする。また、学科が目指す学生像「世界で活躍し認められるアスリートになる・創る」に向けて正々堂々と戦う（競技する）ことの意義と価値について考え、実践することをめ

＜授業の到達目標＞
本授業を通して、スポーツ界におけるコンプライアンスの重要性と法・倫理・規程の基礎知識を理解し、大学アスリートとして適切な行動をとることができる。また、ハラスメント、ドーピング、ガバナンス不全などの具体的リスクと背景・対策を説明することができる。

＜授業の方法＞
概ねグループワークによる自己探求、課題レポート等を基にした自己表現及び発表とする。加えて、スポーツに造詣の深いゲスト講師の講話から学びを深める。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素；有りグループワーク、その成果についてのプレゼンテーションなど

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習；次週のテーマについて調べる（30分）復習；授業の振り返りを行い、事後課題レポートやプレゼンテーションの作成などに取り組む（60分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業内での発表を含めた受講態度 50%、レポートを含む課題　50%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーションならびにスポーツコンプライアンスについてのグループワーク①	本授業の進め方について説明する。自分の競技あるいは大学生スポーツにおいてスポーツコンプライアンス関連でニュースになった事案を調べ、何が問題かをクラス毎の小グループで考える。
2	グループワーク①の報告・発表	各グループの前回の授業を基にした発表を聞き、同様の事案を起こさないために何を注意すべきか考える。
3	スポーツコンプライアンスについてのグループワーク②	クラス毎の小グループでスポーツコンプライアンスの問題が発生する背景と対応策を考える。
4	グループワーク②の報告・発表	各グループの発表を聞き、問題の解決の糸口を自ら考える。
5	グループワークの振り返り・コンプライアンスを理解することの意義とは	なぜスポーツコンプライアンスを学ぶ必要があるのか自らの言葉で説明し、学生アスリートとして求められる適切な行動について考える。就職活動を見据えて、競技スポーツ科学科での学びの意義（価値）について改め振り返る。
6	スポーツ基本法について	2025年に改正されたスポーツ基本法について学び、スポーツを取り巻く環境についてさらに理解を深める。
7	ゲスト講話①「正々堂々と戦う」	大学アスリートとして、スポーツコンプライアンスを遵守し、「正々堂々と戦う」ことの意義についてゲスト講師の方から経験や知識を学ぶ。
8	講話の振り返り	ゲスト講話を踏まえて、自らの行動を振り返り、今後どのようにあるべきかについて考え、発表する。
9	アンチ・ドーピングについて	改正されたスポーツ基本法でも重要視されているアンチドーピングについて、WADA（世界アンチ・ドーピング機構）規定ならびにうっかりドーピング（サプリメント・医薬品）を中心に学ぶ。

10	アスリートのメンタルヘルス	自分自身ならびにチームメイト、チームが心身ともに健全に取り組むために整えるべきことについて考える。
11	様々なデータを扱う際の倫理	体力・ゲーム等のデータを取ることが当たり前になってきたが、扱い方にも倫理やルールがある。3年生以降に本格化する卒業研究も見据えて研究倫理の基本を学ぶ。
12	ゲスト講話②「正しくデータを活用して勝つ」	サイエンティスト・アナリストとしてご活躍の講師を迎え、正しくデータを活用して勝つための極意を学ぶ。
13	スポーツコンプライアンスについてのグループワーク③	今後、スポーツに携わる者として求められることについて、これまでの授業内容を踏まえてクラス毎に小グループで考える。
14	まとめ	本授業の学びを総括し、スポーツコンプライアンスを学ぶ意義と価値について改めて考える。
15		
16		

科目コード	36522				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	アスリートキャリアⅢ(スポーツリスクマネジメント)				担当者名	宮本　彩／三浦　孝仁／矢野　智彦			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
スポーツにおいてケガはつきものといわれることがあるものの、教員・指導者はもちろん、学生・競技者自身もリスクを理解し、重大な事故を防止する意識を持つことが重要といえる。また、コンプライアンス遵守が求められる中、SNS等での軽率な行動が大きな事件へと発展するなど、多種多様なリスクへの対応が求められる。自分たちの身の回りにあるリスクを理解し、その対策と対応について考え、リスクマネジメントを身につけることは、大学卒業後の様々な進路に有用である。このことを理解し、スポーツにおける経験を強みへと変える。

＜授業の到達目標＞
本授業を通して、自分たちの身の回りにあるリスクを理解し、その対策と対応について考えることができる。また、リスクマネジメントを身につけ、実践することができる。リスクマネジメントの観点から、スポーツや部活動（体育会活動）の経験が卒業後の進路に有用であることを理解し、自分自身の強みについて他者に伝えることができる。

＜授業の方法＞
グループワークによる自己探求、課題レポート等を基にした自己表現及び発表

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素；有りグループワーク、その成果についてのプレゼンテーションなど

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習；次週のテーマについて調べる（30分）復習；授業の振り返りを行い、事後課題レポートやプレゼンテーションの作成などに取り組む（60分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業内での発表を含めた受講態度 50%、レポートを含む課題　50%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	本授業の内容についての説明を行う。今年度の目標に加え、卒業後の進路に向けてやろうと思っていること、不安に思っていることを言語化し、共有する。
2	グループワークによるコンセンサスの取り方について学ぶ	アイスブレイクゲームを通してグループワークによるコンセンサスの取り方を学び、その重要性を知る。
3	グループワークによる目標像の再検討する	グループワークを通して、学科の目指すべき学生像についての考えを深める。
4	リスクマネジメントの観点から五訓について考える①	各競技の日本代表選手行動規範を調べ、五訓との共通点をレポートする。
5	リスクマネジメントの観点から五訓について考える②	レポートを基にグループ討議を行い、発表する。
6	リスクマネジメントとは何かについて学ぶ	各クラブやスポーツ実践現場での実例を出し合い、その内容をもとにリスクマネジメントとは何かについて学ぶ。
7	AIの対話からリスクマネジメントの意義についての考えを深める	AIを活用し、経験的に学んできたリスクマネジメントの意義について、考えを深める。
8	リスクマネジメントを将来の強みにする	リスクマネジメントの経験や知識がそれぞれの進路でどう生かせるかについて考え、言語化する。
9	キャリア講話①	卒業後の進路を見据え、外部講師あるいは企業様をお招きして講話をいただく。
10	キャリア講話②	卒業後の進路を見据え、外部講師あるいは企業様をお招きして講話をいただく。
11	キャリア講話③	卒業後の進路を見据え、外部講師あるいは企業様をお招きして講話をいただく。
12	キャリア講話の振り返り・アクションプランづくり	キャリア講話を踏まえ、卒業後の進路を見据えて自己分析ならびにアクションプランを作成する。

13	キャリア講話の振り返り・アクションプランの発表	作成したアクションプランを発表する。
14	まとめ	本授業の取り組みを振り返り、これまでの学科での学びを強みに変える。
15		
16		

科目コード	36524				区　分	コア科目			
授業科目名	体力科学実験演習I(基礎)				担当者名	吉岡　利貢／田中　耕作			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業は、各種体力・形態の測定方法を実際に体験しながら学ぶ科目である。また、測定結果を分析・評価し、分かりやすくコーチ・選手に伝える方法、測定結果をトレーニングに活かす知識を得ることを目的とする。

＜授業の到達目標＞
1）各種体力・形態を測定することができる2）測定結果を分析・評価し、分かりやすくコーチ・選手に伝えることができる3）測定結果をトレーニングに活かすことができる

＜授業の方法＞
実習

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素：あり自身が測定したの体力データについてグループでディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
オンデマンド教材による予習をした上で授業に臨み、授業後には所定のレポートを提出すること

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、大学のディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業レポート70%、総合レポート30%

＜教科書＞

＜参考書＞
西薗 秀嗣（2004年4月）　スポーツ選手と指導者のための体力・運動能力測定法　大修館書店

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業の概要やルールについて
2	体力測定の歴史（1）ラボテスト	実験室における各種体力測定の歴史を学ぶ
3	体力測定の歴史（2）フィールドテスト	フィールドにおける各種体力測定の歴史を学ぶ
4	形態の計測法	マルチン式人体計測法、ボディラインスキャナによる計測法
5	形態の評価	計測結果の理解と効果的なフィードバックの方法
6	体脂肪率・筋厚の測定法	皮脂厚法、空気置換法、超音波法による測定
7	体脂肪率・筋厚の評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
8	最大挙上重量の測定法	1RMの測定法
9	最大挙上重量の評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
10	等速性最大筋力の測定法	股関節、膝関節および足関節の測定
11	等速性最大筋力の評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
12	ペダリングパワーの測定法	ハイパワー自転車エルゴメータによる下肢パワーの測定
13	ペダリングパワーの評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
14	各種競技動作の分析法	3次元動作解析システムを用いた各種競技動作の分析
15		
16		

科目コード	36525				区　分	コア科目			
授業科目名	体力科学実験演習Ⅱ(応用)				担当者名	吉岡　利貢／田中　耕作			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業は、各種体力・形態の測定方法を実際に体験しながら学ぶ科目である。また、測定結果を分析・評価し、分かりやすくコーチ・選手に伝える方法、測定結果をトレーニングに活かす方法を学ぶことを目的とする。

＜授業の到達目標＞
1）各種体力・形態を測定することができる2）測定結果を分析・評価し、分かりやすくコーチ・選手に伝えることができる3）測定結果をトレーニングに活かすことができる

＜授業の方法＞
演習

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素：あり自身が測定したの体力データについてグループでディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
オンデマンド教材による予習をした上で授業に臨み、授業には所定のレポートを提出すること

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、大学のディプロマポリシー2と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業レポート70%、総合レポート30%

＜教科書＞

＜参考書＞
西薗 秀嗣（2004年4月）　スポーツ選手と指導者のための体力・運動能力測定法　大修館書店

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業のルールと概要
2	最大酸素摂取量の測定法（1）	トレッドミルを用いた最大酸素摂取量の測定
3	最大酸素摂取量の測定法（2）	自転車エルゴメータを用いた最大酸素摂取量の測定
4	最大酸素摂取量の評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
5	ランニングエコノミーの測定法	最大下強度および超最大強度のランニングエコノミーの測定
6	ランニングエコノミーの評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
7	無酸素性作業閾値の測定法	呼気ガスおよび乳酸を用いた無酸素性作業閾値の測定
8	無酸素性作業閾値の評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
9	心拍数・心拍出量の測定法	心拍数およびインピーダンス法を用いた心拍出量の測定
10	心拍数・心拍出量の評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
11	跳躍能力の測定法	マットスイッチシステムを用いた各種跳躍能力の測定
12	跳躍能力の評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
13	疾走速度の測定法	レーザードップラー方式距離計測装置を用いた疾走速度の測定
14	今後の課題と構想	今後の課題を発見し、実現するための構想を練る
15		
16		

科目コード	36600				区　分	コア科目			
授業科目名	競技スポーツアナリティクス演習A（レース分析）				担当者名	秦　啓一郎			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業では、スポーツアナリティクスの基礎となるレース分析の測定方法論について概説し、選手やコーチへの適切なフィードバック資料の作成方法を、講義と演習を通じて体系的に学ぶ。主に陸上競技の走種目を題材として講義を進めるが、レース分析の方法論を他の競技スポーツにも応用し、実践的な演習を行う。

＜授業の到達目標＞
本授業では、以下の二つの到達目標の達成を目指す。一つ目に、レース分析に求められる測定方法を習得し、分析によって得られた各種変数の意味を理解したうえで、様々な競技スポーツの場面で活用できる力を身につけること。二つ目に、分析結果を基に、選手やコーチに対して適切なフィードバック資料を作成できる力を養うこと。

＜授業の方法＞
本授業では、レース分析の活用方法について、実際のトップレベルの競技場面での事例を交えながら講義を行う。講義では、実際のレース分析で用いられる専門機器やアプリ、ブラウザベースのレース分析ツールを使用し、測定および分析の演習を行う。グループワークを通じて、測定内容や方法についてディスカッションを行い、課題作成に取り組む。データ管理はクラウド上で行い、実践的なデータ活用スキルの習得を目指す。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有グループワーク（10名程度）に分かれて、各テーマについて、ディスカッション・成果物を作成する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
・授業で提示するテーマの内容について、事前に配布資料や指示された参考資料を読む（30分）。・測定および分析データを基にレポート課題や復習を行う（60分）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる）およびディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業への取組態度（20%）、課題の提出状況（30%）、および課題の評価点（50%）から総合的に評価する。

＜教科書＞
なし

＜参考書＞
なし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	単位取得に関する諸注意や授業の進め方について説明する。また、スポーツアナリティクス（レース分析）に関する知識を深める意義について解説し、今後の講義および演習への学習意欲を高めることを目的とする。
2	レース分析方法論Ⅰ	映像を用いたレース分析の基本的な方法論について概説する。主に距離、タイム、スピードといった基礎的な測定項目の算出方法について学ぶ。
3	レース分析方法論Ⅱ	映像を用いたレース分析の基本的な方法論について概説する。ピッチ、ストライド、スピード関係について学ぶ。
4	測定とデータ管理	レース分析のための映像を測定するとともにデータ管理方法について学ぶ。
5	レース分析Ⅰ	測定したビデオ映像を用いてレース分析を行う。主にタイムとスピード、接地時間と滞空時間を分析する。
6	レース分析Ⅱ	測定したビデオ映像を用いてレース分析を行う。主にピッチ・ストライド・スピード関係を分析する。
7	レース分析Ⅲ	測定したビデオ映像を用いて、連続写真を作成する。
8	レースの測定方法の実践Ⅰ	測定機器である「ビデオカメラ」、「光電管」を用いた測定を行う。
9	プロジェクト研究Ⅰ	グループごとに解析のテーマをディスカッションし発表する。
10	プロジェクト研究Ⅱ	グループごとのテーマにあったレースの測定を行う。
11	プロジェクト研究Ⅲ	グループごとのテーマにあったレース分析を行う。

12	プロジェクト研究Ⅳ	グループごとのテーマにあったレース分析のフィードバック資料を作成する。
13	プロジェクト研究Ⅴ	グループごとに分析および作成したフィードバック資料を発表する。
14	まとめ	本授業で学んだ主要なレース分析の方法論や分析変数について総括し、これまでの学習内容を整理・確認する。
15		
16		

科目コード	36601				区　分	コア科目			
授業科目名	競技スポーツアナリティクス演習B（ゲーム分析）				担当者名	仙波　慎平／金谷　和幸			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
近年，様々な競技でデータの活用が進んでおり，スポーツアナリストが活躍するようになった。スポーツアナリティクスと呼ばれるデータ分析は統計学を背景とした手法が用いられ，スポーツ統計とも呼ばれており，データサイエンスとも密接なかかわりを持つ。この実習では，スポーツにおけるデータの測定・分析を実践的に学ぶ。

＜授業の到達目標＞
高度情報化社会はスポーツ界にも押し寄せており、特に近年のトップスポーツでは「スポーツも情報戦の時代」と言われている。情報をうまくつかうことは、アスリートのパフォーマンス向上のみならずトップスポーツのマネジメントにおいて必要不可欠である。本授業では、スポーツ界のさまざまなフィールドにおいて、情報の収集、分析、提供を効果的に行い、意思決定者を強力に支援できるエキスパートになるための基礎を学び、社会・職業生活に応用可能な知見の修得を目指す。

＜授業の方法＞
本授業では、アスリートとしての「指導を受ける側」、指導者としての「指導する側」双方の競技力向上への取り組みに資する、情報技術や映像技術、情報分析についての技術を戦略的に活用する方法について、実際のトップレベルの競技場面での活用事例などを交えながら学習し、受講生自身が自らの活動に活かせる能力を育成することを目指す。そのため、授業において課されるグループワークや課題への取り組み、プレゼンテーションを重要視する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有グループワーク（3〜4人）に分かれて、各テーマについて、ディスカッション・成果物を作成する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業で提示するテーマの内容について、事前に配布資料や指示された参考資料を読む（事前学習1時間程度）。講義ノート・実験データを基にレポート課題や復習を行う（事後学習1時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業への取組態度40%。課題レポート点30%。実習課題の提出・評価点30%。

＜教科書＞
特に指定なし

＜参考書＞
特に指定なし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	講義概要の解説	授業概要、授業の進め方、成績評価等の説明
2	ゲーム分析とは？（1）	ゲーム分析の方法
3	量的分析とは？	量的分析について学ぶ
4	質的分析とは？	質的分析について学ぶ
5	情報技術（１）	データアーカイブ
6	情報技術（２）	ネットワークを用いた即時フィードバック
7	情報技術（３）	特殊環境でのネットワーク活用
8	分析の方法	映像を撮影し，分析する。
9	数値の解釈	得られたデータの解釈
10	プレゼンの方法	フィードバックの方法
11	データの収集	データの収集を行う
12	データの分析	データの分析を行う。
13	プレゼン発表（1）	得られたデータを発表する
14	プレゼン発表（2）およびまとめ	得られたデータを発表する
15		
16		

科目コード	36603				区　分	コア科目			
授業科目名	競技スポーツアナリティクス演習D（ゲームプラン）				担当者名	仙波　慎平／金谷　和幸			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

近年のスポーツ現場では、「スポーツ情報戦略」時代となっており、データを用いて、戦略・戦術を立ている。このような情報・データを用いて、チームまたは個人のパフォーマンスを向上、ひいては勝利に貢献する業種を「アナリスト」と呼び、その重要性はますます増している。この授業では、データを用いて、根拠のある資料を作成、発表し、短期・中期・長期的なプランを立案する授業となる。

＜授業の到達目標＞

この授業では、自身の専門種目および他競技の分析を行い、課題の抽出、考察、発表を行う。そのために分析の視点、その方法を学び、短期・中期・長期的なプランを作成できることが到達目標となる。

＜授業の方法＞

本授業では、アスリートとしての「指導を受ける側」、指導者としての「指導する側」双方の競技力向上への取り組みに資する、情報技術や映像技術、情報分析についての技術を戦略的に活用する方法について、実際のトップレベルの競技場面での活用事例などを交えながら学習し、受講生自身が自らの活動に活かせる能力を育成することを目指す。そのため、授業において課されるグループワークや課題への取り組み、プレゼンテーションを重要視する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニング有グループワーク（3〜4人）に分かれて、各テーマについて、ディスカッション・成果物を作成する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業で提示するテーマの内容について、事前に配布資料や指示された参考資料を読む（1時間程度）。講義ノート・実験データを基にレポート課題や復習を行う（2時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への取組態度30%。課題レポート点30%。最終課題40%。

＜教科書＞

特になし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンスおよびゲーム分析とは？	本授業の説明およびゲーム分析の必要性について
2	量的分析	量的分析とその手法
3	質的分析	質的分析とその手法
4	局面構造①	ゴール型競技における局面構造を理解し、その分析方法を学ぶ
5	局面構造②	ベースボール型の局面構造の理解し、その分析方法を学ぶ
6	局面構造③	対人競技の局面構造を理解し、その分析方法を学ぶ。
7	戦術と戦略①	戦術と戦略の違いとその特徴を学ぶ。
8	戦術と戦略②	戦術と戦略の違いとその特徴を学ぶ。
9	ゲームプランの作成①	長期的なゲームプランの作成
10	ゲームプランの作成②	中期的なゲームプランの作成
11	ゲームプランの作成③	短期的なゲームプランの作成
12	映像分析①	映像分析の方法
13	映像分析②	映像分析とその方法
14	最終課題とまとめ	最終課題とまとめ
15		
16		

科目コード	36604				区　分	コア科目			
授業科目名	競技スポーツ栄養学演習A(体調管理)				担当者名	保科　圭汰			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
スポーツ栄養学の知識を基にアスリートが良好なコンディションを維持するための戦略的な栄養補給の手法を習得する。食事調査、食事記録の手法を理解し、自身の食事を記録および分析するとともに疲労感や睡眠、排便状況等の変化に応じた栄養補給計画を立案実践するなど、体調管理に必要なスキルについて学ぶ。

＜授業の到達目標＞
体調管理に向けた自らの課題を抽出し、その課題を解決するための戦略的な栄養補給を実践できるようになる。スポーツ現場において用いられる食事記録やコンディション把握に関する指標を活用し、自身の食生活やコンディション（体重、睡眠、疲労度など）を正確に記録・管理ができるようになる 。また、献立の立案について学び、自身の競技に向けたコンディショニングのみならず、指導者としての知識・スキルを身につけることを目標とする。

＜授業の方法＞
演習として授業テーマに基づいたグループワーク等を行う。また、パソコンを用いて食事の分析やプレゼンテーションを実施する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素　有3、4人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめ、グループごとに発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：各テーマに関して、教科書および参考となるWebサイトなどに目を通し、予備知識を得ておく。（1時間程度）復習：授業内で配布した資料は必ず目を通し、理解を深めること。不明な点があれば授業時間に提示する参考図書・参考資料を用いて調べる。（1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
毎回の課題点（レポート課題，意見交換、小テスト）　60%、最終課題　40%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	スポーツ栄養の概念	スポーツ栄養学の概念と意義
2	食事調査、食事記録の方法①	食事調査の意義と方法
3	食事調査、食事記録の方法②	食事記録の意義と方法
4	コンディション記録の方法	コンディション記録の意義と方法
5	食事記録①	食事記録の実践
6	食事記録②	食事記録の実践
7	コンディション記録①	コンディション記録の実践
8	コンディション記録②	コンディション記録の実践
9	食事記録③	食事記録の実践
10	食事記録④	食事記録の実践
11	コンディション記録③	コンディション記録の実践
12	コンディション記録④	コンディション記録の実践
13	食事記録、コンディション記録のまとめ①	食事記録、コンディション記録の分析およびプレゼン
14	食事記録、コンディション記録のまとめ②	食事記録、コンディション記録の分析およびプレゼン
15		
16		

科目コード	36605				区　分	コア科目		
授業科目名	競技スポーツ栄養学演習B(競技力向上)				担当者名	保科　圭汰		
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
スポーツ栄養学の知識を基にアスリートがパフォーマンスを発揮するための戦略的な栄養補給の手法を習得する。食事調査、食事記録の手法を理解し、自身の食事を記録および分析するとともに身体組成の測定データや期分け等に応じた栄養補給計画を立案・実践するなど、競技力向上に必要なスキルについて学ぶ。

＜授業の到達目標＞
競技力向上に向けた課題を抽出し、その課題を解決するための戦略的な栄養補給を実践できるようになる。スポーツ現場において用いられる食事記録や競技力向上と関連する指標を活用し、自身の食生活を正確に管理ができるようになる 。また、献立の立案について学び、自身の競技力向上のみならず、指導者としての知識・スキルを身につけることを目標とする。

＜授業の方法＞
演習として授業テーマに基づいたグループワーク等を行う。また、パソコンを用いて食事の分析やプレゼンテーションを実施する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素　有3、4人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめ、グループごとに発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：各テーマに関して、教科書および参考となるWebサイトなどに目を通し、予備知識を得ておく。（1時間程度）復習：授業内で配布した資料は必ず目を通し、理解を深めること。不明な点があれば授業時間に提示する参考図書・参考資料を用いて調べる。（1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
毎回の課題点（レポート課題，意見交換、小テスト）　60%、最終課題　40%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	競技力向上に向けた目標および栄養補給計画の設定	自身の課題抽出と目標および計画を設定する
2	食事調査、食事記録の方法①	食事調査の意義と方法
3	食事調査、食事記録の方法②	食事記録の意義と方法
4	身体組成の測定方法	身体組成測定の意義と方法
5	食事記録①	食事記録の実践
6	食事記録②	食事記録の実践
7	期分けと栄養補給①	試合期における栄養補給計画の作成①
8	期分けと栄養補給②	試合期における栄養補給計画の作成②
9	食事記録③	食事記録の実践
10	食事記録④	食事記録の実践
11	身体作りと栄養補給①	体重管理に向けた栄養補給計画の作成①
12	身体作りと栄養補給②	体重管理に向けた栄養補給計画の作成②
13	食事記録、コンディション記録のまとめ①	食事記録、コンディション記録の分析およびプレゼン
14	食事記録、コンディション記録のまとめ②	食事記録、コンディション記録の分析およびプレゼン
15		
16		

科目コード	36606				区　分	コア科目			
授業科目名	競技スポーツ心理学演習A(競技能力心理検査)				担当者名	佐々木　史之			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本演習では、各種心理検査の実施と分析を通じて、自身の心理的特性を客観的に把握し、自己理解を深化させます。測定結果から抽出された個別の課題に対し、科学的根拠に基づいた具体的な改善策を立案し、実践的に取り組みます。「己を知り、自らを律する」という哲学のもと、グループ内での発表や相互フィードバックを積極的に行います。一連のプロセスを通じ、競技力向上に直結するセルフマネジメント能力の修得を目指します。

＜授業の到達目標＞

(1)競技力の評価に用いる主要な心理検査の目的と実施方法を正しく理解し、適切に実施・集計できる。(2)検査結果の数値を客観的に読み解き、自身の心理的特性（強み・弱み）を多角的な視点から分析・言語化できる。(3)分析から導き出された心理的課題に対し、科学的な知見に基づいた改善策を立案し、その内容をプレゼンテーションするとともに継続的に実践できる。

＜授業の方法＞

(1)授業の進め方　本演習は、講義・実習・プレゼンテーションを組み合わせたサイクルで進行します。まず各心理検査の理論的背景を講義で理解した上で、実際に検査を実施（測定）し、その結果から自身の強みや課題を抽出する自己分析を行います。特定された課題に対し、科学的根拠に基づいた克服策を立案し、クラス内でプレゼンテーションを実施します。その後、考案した対策を日常生活や競技現場で実践し、そのプロセスと変容を最終レポートとしてまとめます。(2)ICTの活用　心理検査の回答やデータ集計にはスプレッドシートおよびGoog

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素：有（課題解決型学習、プレゼンテーション、ペアワーク）　自身の心理検査データに基づき、競技力向上を阻む要因を特定し、科学的根拠に基づいた解決策を自ら立案・遂行する課題解決型学習（PBL）を軸とします。立案した対策については、ペアワーク等を通じて客観的な視点から検討を加え、その実践経過を全体でプレゼンテーションします。他者との対話や自己モニタリングを通じ、自らの心理状態を客観的に把握・コントロールする「メタ認知能力」を養います。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

【予習：30分】　次回実施する心理検査の測定項目や理論的背景について、インターネット等で事前に調べてもらいます。検査の目的を正しく理解するとともに、自身の現在の競技状況に照らし合わせ、「どのような結果が予想されるか」という仮説を立てた上で授業に臨んでください。【復習：30分】　授業内で実施した心理検査の結果を整理し、自己分析の内容を振り返ります。抽出された課題に対し、日常生活や練習場面で取り組める具体的な改善アクションプランを立案・記録し、次回の実践報告や最終レポートの作成に向けたデータの蓄積を行います。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業に取り組む姿勢・態度 40%、課題提出 30%、最終レポート 30%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	授業概要、自己理解について	授業概要と自己理解の大切さについて学ぶ
2	性格検査	YG性格検査、Big Five尺度を実施し、特徴を把握する
3	気分・情熱1	気分調査、情熱尺度を実施し、自己理解を深める
4	気分・情熱2	課題対策を実践し、レポートする
5	ポジティブ・ネガティブ感情1	ポジティブ・ネガティブ感情尺度を実施し、課題対策を発表する
6	ポジティブ・ネガティブ感情2	課題対策を実践し、レポートする
7	自己効力感・自尊感情1	自己効力感尺度を実施し、課題対策を発表する
8	自己効力感・自尊感情2	課題対策を実践し、レポートする
9	試合前・試合中の心理状態1	試合前・試合中の心理状態診断検査を実施し、課題対策を発表する
10	試合前・試合中の心理状態2	課題対策を実践し、レポートする
11	レジリエンス検査1	S-H式レジリエンス検査を実施し、課題対策を発表する
12	レジリエンス検査2	課題対策を実践し、レポートする
13	ストレス対処1	ストレス状況対処尺度を実施し、課題対策を発表する
14	ストレス対処2	課題対策を実践し、レポートする

15 16		

科目コード	36607				区　分	コア科目			
授業科目名	競技スポーツ心理学演習B（メンタルトレーニング）				担当者名	佐々木　史之			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本授業では、競技力の向上や本番での実力発揮を目的としたメンタルトレーニングの諸技法を、体験的・実践的に習得します。具体的には、目標設定、リラクセーション、サイキングアップ、イメージトレーニング、ルーティン構築などの主要スキルを取り上げ、それらが身体や心理面に与える影響を自己検証します。さらに、指導者や支援者の視点から、個々の選手やチームに合わせたプログラム立案の方法を学び、スポーツ現場で活用可能な実践力を養います。

＜授業の到達目標＞

(1)技法の原理理解と自己実践：　代表的なメンタルトレーニング技法（目標設定、リラクセーション、イメージ、ルーティン等）の理論的背景を理解し、自身の競技生活や日常生活において、状況に応じた適切な技法を自律的に選択・実践できる。(2)自己調整能力（セルフ・レギュレーション）の向上：　自身の心理的コンディション（緊張、集中、意欲など）を客観的にモニタリングし、本番で実力を発揮するために必要な心理的準備状態を自ら作り出すことができる。(3)基礎的な指導・支援スキルの修得：　メンタルスキルの導入手順や留意点を理解

＜授業の方法＞

(1)授業の進め方：体験とリフレクションのサイクル　本演習は、「理論の理解 → 実技の体験 → 現場への適用 → 振り返り（リフレクション）」のサイクルを基本とします。毎時間、特定のメンタルスキル（目標設定、リラクセーション、イメージ等）を取り上げ、教員による解説のあと、その場でワークシート作成や身体技法の実習を行います。授業後半期には、指導者としての視点を養うため、学生がインストラクター役となり、他者に技法を導入・解説する「マイクロ・ティーチング（模擬指導）」を実施します。自身の体験を言葉にし、他者の反

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素有（体験学習、ロールプレイング、ピア・フィードバック）　毎時、学んだ技法をその場で実践する体験型学習を行います。特に後半は、指導者役と選手役に分かれたロールプレイングを通じて、スキルの伝達方法や対人支援の難しさを実戦的に学びます。互いの指導を録画・観察し、客観的に評価し合うピア・フィードバックを取り入れ、改善点を可視化します。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

【予習：1時間】 次回扱う技法の定義をテキストで予習し、自分の競技経験の中でそのスキルが必要だと感じた場面を書き出してください。【復習：1時間】 授業で学んだ技法を、1週間毎日（短時間で可）継続して実践し、その効果や違和感を「トレーニング日誌」に記録してください。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

(1)授業への参画態度 30%、(2)継続的実践課題 40%、(3)指導演習・最終成果物 30% (1)単なる出席ではなく、ワークショップへの積極的な参加、ペアワークでの傾聴・フィードバックの質、実技（リラクセーション等）への真摯な取り組みを評価します。(2)授業で学んだ技法を日常生活や部活動で実践し、その経過を記録した「トレーニング日誌（メンタルログ）」の継続性と、自己分析の深さを評価します。(3)授業内での「模擬指導（マイクロ・ティーチング）」のパフォーマンス、または特定の選手を想定した「メンタルサポ

＜教科書＞

＜参考書＞

日本スポーツ心理学会（2016年11月7日）　スポーツメンタルトレーニング教本三訂版　大修館書店

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダクション	メンタルトレーニングについての理解、全体の流れ
2	自己分析と心理的特性	心理テスト（DIPCA等）を用いた現状把握と課題抽出
3	目標設定（Goal Setting）	具体的かつ達成可能な目標（SMARTの法則）の策定
4	認知行動療法	思考やイメージに焦点を当て、認知の歪みを修正する
5	リラクセーション	漸進的筋弛緩法、呼吸法、自律訓練法による「脱力」の体得
6	サイキングアップ	緊張が低い時の覚醒レベル調整法（気合入れ・音楽活用）
7	注意のコントロール	集中力を高めるワーク、マインドフルネスの基礎
8	イメージトレーニング	五感を用いた鮮明なイメージの生成トレーニング、理想のプレーやトラブル対処の

		シナリオ作成
9	暗示技法	自己暗示について、暗示呼吸、暗示放尿
10	セルフ・トーク	思考の癖の修正とポジティブシンキング
11	ルーティンの構築	試合前・プレー直前の定型動作（ルーティン）の設計
12	指導実践演習(1)	技法を他者に教えるための「説明スキル」の練習
13	指導実践演習(2)	模擬カウンセリング／コーチングのロールプレイング
14	プログラム立案	特定の競技や選手を想定した年間計画の作成
15		
16		

科目コード	36608				区　分	コア科目			
授業科目名	競技スポーツバイオメカニクス演習A（動作分析）				担当者名	秦　啓一郎			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
身体運動の成り立ちを理解することで理想とする身体運動を真に再現可能となる。スポーツにおける課題解決のため、スポーツ科学分野における先端的な測定機器を活用し、スポーツバイオメカニクスに関する実践的な演習を行う。なお、演習では精密機器を扱うため履修人数の制限を設ける。この場合、2年次開講のスポーツバイオメカニクスの単位取得者の学生を優先し、その中から抽選方式により受け入れることとする。

＜授業の到達目標＞
本授業では、以下の二つの到達目標の達成を目指す。一つ目に、身体動作の測定データから自身の運動を理解することができること。二つ目に、測定および分析した結果を理解したうえで、様々な競技スポーツの場面で活用することのできる能力を身につけること。

＜授業の方法＞
対面での講義および演習を行う。演習ではバイオメカニクス分野で用いられる専門機器を使用し、得られたデータを分析する。講義では、スポーツバイオメカニクス分野で利用される専門機器や分析ツールを使用し、測定および分析の演習を行う。グループワークを通じて、測定内容や方法についてディスカッションを行い、課題作成に取り組む。データ管理はクラウド上で行い、実践的なデータ活用スキルの習得を目指す。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有り各テーマでグループを作り、測定と分析を行ったデータを発表する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
1）次週の授業テーマに関して、各自で予習を行い、各自が得意とする運動とのバイオメカニクス的な関わりを考えること（30分）。2）授業内容と関連する他基礎科目（スポーツバイオメカニクス、コンピューターリテラシーなど）の復習を行うこと（30分）。3）授業内容で学んだ内容を各自が得意とする運動に応用し、実践すること（30分）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる）およびディプロマポリシ3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業への取組態度（10%）、実習課題の提出状況（40%）、および実習課題の評価点（50%）から総合的に評価する。

＜教科書＞
なし

＜参考書＞
深代千之ほか編著　スポーツ動作の科学 −バイオメカニクスで読み解く−　東京大学出版会

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	単位取得上の諸注意、授業展開の概要を説明する。また、スポーツバイオメカニクスに関する知識を深めることがスポーツ科学の学習と実践においてどのような意義を有しているかを説明し、今後の講義に対する動機づけを行う。
2	走りの連続写真とスティックピクチャⅠ	ランニング中の身体動作をビデオカメラを用いてハイスピード動画を撮影し、得られた映像から連続写真およびスティックピクチャを作成する。
3	走りの連続写真とスティックピクチャⅡ	前回の授業で作成した連続写真からスティックピクチャを作成する。他者または例として提示するトップアスリートの動作と比較し、動作の違いや改善点を示す。
4	跳躍成績と地面反力との関係Ⅰ	ジャンプマットを用いてカウンタームーブメントジャンプおよびスクワットジャンプの跳躍高を測定する。また、床反力計を用いて運動中の地面反力を測定する。
5	跳躍成績と地面反力との関係Ⅱ	前回の授業で取得した跳躍高および地面反力のデータを分析し、身体に加わる力から身体運動の成績を解釈する。
6	筋厚と等尺性力発揮との関係Ⅰ	超音波画像診断装置を用いて、筋厚を測定する。また、等尺性の膝伸展筋力を後にゴニオメーターを用いて測定する。
7	筋厚と等尺性力発揮の関係Ⅱ	前回の授業で取得した筋厚と膝伸展筋力との関係を検討し、力発揮に対する筋の大きさや構造的因子の重要性を考える。
8	三次元動作解析による身体運動の定量評	三次元動作解析システムを用いて様々な運動の身体動作の測定と分析を行う。

	価Ⅰ	
9	三次元動作解析による身体運動の定量評価Ⅱ	前回の授業で取得した動作解析のデータを活用し、特定の身体運動に重要な運動学または運動力学の変数を探索する。
10	三次元動作解析による身体運動の定量評価Ⅲ	前回の授業で取得した動作解析のデータを活用し、特定の運動における熟練者との比較を行う。
11	プロジェクト研究Ⅰ	これまでの授業で習得したバイオメカニクスの方法論を活用し、グループごとに個別の測定内容を考案する。測定における仮説検証を達成するための具体的な内容を設定する。
12	プロジェクト研究Ⅱ	各グループで設定した測定を実施し、測定と分析を行う。
13	プロジェクト研究Ⅲ	各グループで設定した測定を実施し、測定と分析を行う。また、得られた結果をまとめ、発表の準備を行う。
14	プロジェクト研究Ⅳ	各グループで得られた結果をまとめ、最終発表を行う。
15		
16		

科目コード	36609				区　分	コア科目			
授業科目名	競技スポーツバイオメカニクス演習B（スキル分析）				担当者名	秦　啓一郎			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
身体運動の成り立ちを理解することで理想とする身体運動を真に再現可能となる。また、様々な測定機器を活用できる技能を有することは、高度なデジタル技術社会で活躍できる広範な技能となる。運動を記述するためのスポーツ科学分野の先端的な測定機器を活用できる能力を養うため、スポーツバイオメカニクスに関する実践的な演習を行う。なお、演習では精密機器を扱うため履修人数の制限を設ける。この場合、2年次開講のスポーツバイオメカニクスまたは3年前期開講の競技スポーツバイオメカニクス演習A（動作分析）の単位取得者の学生を優先し

＜授業の到達目標＞
本授業では、以下の二つの到達目標の達成を目指す。一つ目に、さまざまな測定機器を活用し、特定の身体動作を定量的に測定することができる。二つ目に、測定および分析した結果を理解したうえで、様々な競技スポーツの場面で活用することのできる能力を身につけること。

＜授業の方法＞
対面での講義および演習を行う。演習ではバイオメカニクス分野で用いられる専門機器を使用し、得られたデータを分析する。講義では、スポーツバイオメカニクス分野で利用される専門機器や分析ツールを使用し、測定および分析の演習を行う。グループワークを通じて、測定内容や方法についてディスカッションを行い、課題作成に取り組む。データ管理はクラウド上で行い、実践的なデータ活用スキルの習得を目指す。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有り各テーマでグループを作り、測定と分析を行ったデータを発表する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
1）次週の授業テーマに関して、各自で予習を行い、各自が得意とする運動とのバイオメカニクス的な関わりを考えること（30分）。2）授業内容と関連する他基礎科目（スポーツバイオメカニクス、コンピューターリテラシーなど）の復習を行うこと（30分）。3）授業内容で学んだ内容を各自が得意とする運動に応用し、実践すること（30分）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる）およびディプロマポリシ3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業への取組態度（10%）、実習課題の提出状況（40%）、および実習課題の評価点（50%）から総合的に評価する。

＜教科書＞
なし

＜参考書＞
なし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	単位取得上の諸注意、授業展開の概要を説明する。また、スポーツバイオメカニクスに関する知識を深めることがスポーツ科学の学習と実践においてどのような意義を有しているかを説明し、今後の講義に対する動機づけを行う。
2	ハイスピードカメラ・光電管の測定方法	ハイスピードカメラおよび光電管の測定準備の方法を説明し、特定の身体運動を評価するための準備から測定までを学ぶ。
3	ジャンプマット・床反力計の測定方法	ジャンプマットおよび床反力計の測定準備の方法を説明し、特定の身体運動を評価するための準備から測定までを学ぶ。
4	モーションキャプチャシステムの測定方法Ⅰ	三次元動作解析のためのモーションキャプチャシステムの測定準備の方法を説明する。ここでは、マーカーレスモーションキャプチャシステムを利用し、特定の身体運動を評価するための準備から測定までを学ぶ。
5	モーションキャプチャシステムの測定方法Ⅱ	三次元動作解析のためのモーションキャプチャシステムの測定準備の方法を説明する。ここでは、マーカーベースモーションキャプチャシステムを利用し、特定の身体運動を評価するための反射マーカーの貼付方法を学ぶ。
6	モーションキャプチャシステムの測定方	三次元動作解析のためのモーションキャプチャシステムの測定準備の方法を説明す

	法Ⅲ	る。ここでは、マーカーベースモーションキャプチャシステムを利用し、特定の身体運動を評価するための準備から測定までを学ぶ。
7	モーションキャプチャシステムの測定方法Ⅳ	三次元動作解析のためのAIベースの動作解析アプリ（SPLYZA Motion）を用いて、特定の身体運動を評価するための準備から測定までを学ぶ。
8	超音波画像診断装置・せん断波エラストグラフィーの測定方法	超音波画像診断装置およびせん断波エラストグラフィーを用いて、骨格筋の形態的および力学的特性の定量評価方法学ぶ。
9	筋電図の測定方法	筋電図を用いて、特定の身体運動を評価するための準備から測定までを学ぶ。
10	弾道測定装置Rapsodo・スピードガンの測定方法	弾道測定装置Rapsodo・スピードガンを用いて、特定の身体運動を評価するための準備から測定までを学ぶ。
11	プロジェクト研究Ⅰ	これまでの授業で習得したバイオメカニクスの方法論を活用し、グループごとに個別の測定内容を考案する。測定における仮説検証を達成するための具体的な内容を設定する。
12	プロジェクト研究Ⅱ	各グループで設定した測定を実施し、測定と分析を行う。
13	プロジェクト研究Ⅲ	各グループで設定した測定を実施し、測定と分析を行う。また、得られた結果をまとめ、発表の準備を行う。
14	プロジェクト研究Ⅳ	各グループで得られた結果をまとめ、最終発表を行う。
15		
16		

科目コード	37100				区　分	コア科目			
授業科目名	障害者スポーツ論				担当者名	宮本　彩／三浦　孝仁			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
障がい者スポーツは、 障害という「ハンディ」を施設や用具・ルールの工夫、人の援助等で補うことにより、一見不可能に思えるスポーツが可能となり実践されている。本科目では障害者の親しんでいるスポーツ・レクリエーションの現状を理解し、身近な障害者へのスポーツ活動の支援に役立てることを目的とする。

＜授業の到達目標＞
１．障がい者、障がい者スポーツについて理解できる２．障害者のスポーツ活動等を通して、各種障がいに対し考え行動に移すことができる

＜授業の方法＞
１．講義（日本パラスポーツ協会の公認パラスポーツ指導員（初級・中級）カリキュラム内容）２．グループワーク（各種障がいへの対応手法）３．課外活動（障がい者スポーツ大会ボランティア、障がい者スポーツ体験）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有無；有りペアあるいはグループでの討議を通して、自らの考えを伝えるとともに他者の意見を聞き、考える機会を設ける。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：翌週のテーマ内容に準じた教科書の読み、課題に対する下調べ（毎回、1時間程度）復習：講義前に実施する振り返りシート（毎回、15分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業課題；50%、定期試験：50%※初級障害者スポーツ指導員を申請する者は、①本科目の全出席、②学校側が指定する（岡山県障害者スポーツ大会，吉備高原車いすふれあいロードレース大会）ボランティアに一回以上参加すること（事前ガイダンス受講及び事後レポート提出）が条件となる。

＜教科書＞
（財）日本パラスポーツ協会　改訂版　障がいのある人のスポーツ指導教本（初級・中級）　ぎょうせい

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	障害者スポーツの意義と理念（1）	障がい者スポーツの理念とヒトや社会に与える影響
2	障害者スポーツの意義と理念（2）	公認パラスポーツ指導員制度とスポーツインティグリティ
3	障がい者の生活と福祉施策（1）	障害者福祉施策・今後の動向と障害者スポーツの関連性
4	障がい者の生活と福祉施策（2）	障がい者を取り巻く環境
5	障害の理解とスポーツ（1）	身体の構造と機能,トレーニング概論
6	障害の理解とスポーツ（2）	障がいの分類と概要（身体障がい）
7	障害の理解とスポーツ（3）	障がいの分類と概要（知的障がい，精神障がい）
8	障害の理解とスポーツ（4）	身体障がい者の理解とスポーツ・レクリエーション
9	障害の理解とスポーツ（5）	知的・精神障がい者の理解とスポーツ・レクリエーション
10	安全管理	リスクマネジメントと応急手当
11	ボランティア論	ボランティア精神とは
12	全国障がい者スポーツ大会（1）	全国障害者スポーツ大会の概要、障がい区分
13	全国障がい者スポーツ大会（2）	全国障がい者スポーツ大会競技種目と指導法、ボランティアの役割
14	障害に応じたスポーツの工夫・実施	障害に応じたスポーツ実践
15		
16		

科目コード	37200				区　分	コア科目			
授業科目名	スポーツイベント論 [週2]				担当者名	平岡　師玄哉			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第２クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

・本授業は、スポーツイベントをスポーツマネジメントおよびスポーツマーケティングの中核的な実践領域として捉え、その仕組みや役割、運営の基本を学ぶ科目である・スポーツイベントの歴史や政策、産業構造などの基礎知識を理解するとともに、地域活性化や観光、メディアビジネスとの関係について整理する・講義と個人ワークを通して、スポーツイベントを「誰のために何を提供するのか」という視点から考え、最終的には条件に応じたイベント企画を構想できる力を身につける

＜授業の到達目標＞

１．スポーツイベントの基本的な仕組み（構造や流れ）や役割について説明できる２．スポーツイベントを構成する要素や社会的な価値を整理して説明できる３．与えられた条件のもとで、スポーツイベントの基本的な企画を構想できる

＜授業の方法＞

・本授業は、講義と個人ワークを組み合わせて進める形式で実施する・前半はスポーツイベントの仕組みや役割を中心に基礎知識を学び、後半はイベントの企画を段階的に行う・各回において具体的な事例や問いを提示し、学生は個人で課題について考察する・実際のスポーツイベントを題材とした分析や企画課題を通して、学んだ知識を活用する力を養う

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

・各回においてスポーツイベントに関する具体的な事例や課題を提示し、学生は個人で分析・考察を行う・既存のスポーツイベントを題材に、その目的や構造、課題について整理する活動を行う・後半では、条件に基づいたスポーツイベントの企画を段階的に作成し、学習内容を活用する機会を設ける

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回のテーマに関する課題や問いについて、自身の考えを整理しておく（30分）復習：授業で扱った内容や事例をもとに、自身の考えを見直し、スポーツイベントの理解を深める（30分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー３(経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・授業態度 30%、授業課題（ミニワーク・振り返り） 30%、テストおよび期末課題（イベント企画） 30%

＜教科書＞

特になし

＜参考書＞

一般社団法人日本イベント産業協会（2024年1月）　スポーツイベント検定公式テキストスポーツイベントの企画・運営に携わる人のための教科書　株式会社UDジャパン

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方、スポーツイベントの位置づけ
2	スポーツイベントとは	定義、構成要素、効果、スポーツイベントのマネジメント
3	スポーツイベントの歴史と政策	近代スポーツとイベントの発展、日本のスポーツ政策とイベント
4	イベントの基礎知識	イベント内容の構造、イベントの企画・計画とマネジメント
5	スポーツイベントのマーケティング	イベント産業、ターゲット設定、スポンサー、集客の考え方
6	地域活性化とスポーツイベント	地域経済への影響、地域資源との関係、都市戦略としてのスポーツ
7	スポーツイベントとツーリズム	観光との連動、スポーツツーリズムの考え方
8	スポーツイベントとテクノロジー	デジタル技術、データ活用、今後のスポーツイベントの可能性
9	スポーツイベントと都市経営	スポーツを活用したまちづくり、都市経営における役割
10	前半まとめ	前半内容の知識確認とイベントの基礎
11	スポーツイベント企画の基本構造	イベントの事例分析し、企画に必要な要素の整理
12	スポーツイベント企画とプロジェクトマネジメント	企画の目的・ターゲット・内容を設計し、イベントの全体像を構想
13	スポーツイベント企画とリスクマネジメント	想定されるリスクや運営上の課題を整理し、企画の改善と統合
14	全体まとめ	イベントの企画実践課題（与えられた条件に基づき、企画書を作成）
15		

16		

科目コード	37500				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	国際スポーツ論				担当者名	柳　東弦			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
国際スポーツ論では、国際社会におけるスポーツの意義や役割について深く理解し、スポーツを通じた国際平和や相互理解の促進、共生社会の実現に向けた課題を多面的に考察する。また、国や文化によるスポーツに対する考え方の違いについても検討し、未来志向的なスポーツのあり方を議論する。

＜授業の到達目標＞
国際スポーツ論を学ぶことにより、国際スポーツに関する総合的な内容（概念、歴史、社会的役割等）を理解し、スポーツが国際社会に及ぼす影響について探求することを目標とする。

＜授業の方法＞
本授業では講義形式を基本とし、必要に応じて資料や動画を提示しつつ国際スポーツ論について解説・講義を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
本授業では、講義に加えて、グループディスカッションや発表を通じて多様な観点から深く考える力を養うとともに、新たな課題を主体的に解決する学習態度の向上を図るアクティブラーニングの要素を備えている。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前に国際スポーツに関連する教科書や参考資料、新聞記事などを読み、国際スポーツに関する基本的な知識を整理する（1時間程度）。また本授業で取り上げた内容と課題を振り返り、それらについて自分の考えを整理・考察し、まとめる（1時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度40%、発表30%、期末レポート30%

＜教科書＞
齊藤一彦、岡田千あき、鈴木直文（2015年03月20日）　スポーツと国際協力：スポーツに秘められた豊かな可能性　大修館書店
小田佳子（2017年04月28日）　日韓「剣道」：KENDOとKUMDOの相克と未来　青弓社
小野雄太、梶将徳（2022年08月23日）　新時代のスポーツ教育学　小学館集英社プロダクション

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	国際スポーツとは	国際スポーツとは何かを学習し、スポーツと国際社会の関係を理解する。
2	オリンピックの歴史と文化	古代・近代・現代のオリンピックの歴史を学び、そこから今後のオリンピックのあり方を考察する。
3	日韓剣道の歴史（在朝鮮日本人の観点）	日本植民地下朝鮮における在朝鮮日本人による剣道の普及活動を学習し、その意味や役割について理解する。
4	日韓剣道の歴史（朝鮮人の観点）	日本植民地下朝鮮における朝鮮人による剣道の普及活動を学習し、その意味や役割について理解する。
5	国際観点からみた「自分史」	自分自身のこれまでの経験や出来事を振り返り、自分史としてまとめる。さらに、これまでの経験を踏まえ、これからどのように「国際的にキャリア形成」をしていくかについて考え、発表を行う。
6	世界をつなぐスポーツ：「する・みる・支える」	スポーツの「する・みる・支える」という三つの観点から学び、それらが国際社会の発展と交流に及ぼす影響を理解する。
7	国際スポーツ組織の役割	IOC（国際オリンピック委員会）の組織構造および役割を学習し、主なスポーツ振興事業の内容を理解する。
8	オリンピック・パラリンピックの教育	オリンピック・パラリンピックの意義や価値を学ぶとともに、共生社会への理解を深め、多面的な教育的価値について考察する。
9	パラスポーツの意義	パラスポーツの歴史と特徴を学習し、パラスポーツが持つ意義について考察する。
10	スポーツと国際平和	スポーツの力が国際平和の実現にどのような影響を与えているのかを理解し、その意義を考察する。
11	女性スポーツの現状と未来	これまでの女性スポーツの道のりを理解し、ジェンダー平等の観点から今後の展望を考察する。
12	生涯スポーツの役割	生涯スポーツの意義とともに、地域や社会におけるスポーツ活動の役割を理解し、各年代に応じた種目のあり方を考察する。

13	スポーツを通じたキャリア形成	スポーツを通して得られたものをどのように国際的なキャリア形成に結びつけられるのかについて考察する。
14	スポーツとSDGs(持続可能な開発目標)の関係	改めて国際スポーツの意義について再認識し、SDGsの目標達成に向けたスポーツのあり方について議論する。
15		
16		

科目コード	37501				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	スポーツ経営学				担当者名	平岡　師玄哉			
配当年次	1年	配当学期	第３・第４クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

・本授業では、スポーツを題材に「経営とは何か」を考える力を身につける・各回で提示される問いに対して個人で考え、スポーツクラブや地域スポーツの事例をもとに課題と解決策を検討する・基本的な経営理論を学ぶとともに、それらを実際のスポーツ現場にどのように活用するかを理解する

＜授業の到達目標＞

１．スポーツに関わる事例をもとに、経営的な課題を説明できる２．基本的な経営理論を用いて、課題に対する解決策を考えることができる３．授業で扱った内容について、自身の考えを整理し記述することができる

＜授業の方法＞

・本授業は、講義と個人ワークを組み合わせた課題解決型の授業として実施する・各回において、スポーツに関する具体的な事例や問いを提示し、学生は個人で課題について考察する　その後、経営理論の解説を通して自身の考えを見直し、理解を深める・前半および後半の区切りに振り返りテストを実施し、学習内容の定着と理解度の確認を行う

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

・各回で個人ワークを実施し、課題に対する考察を行う・学生の回答を共有し、多様な考え方に触れる機会を設ける

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回のテーマに関する課題について、自身の考えをまとめておく（30分）復習：授業で扱った理論や事例をもとに、自身の考えを見直し、課題に対する理解を深める（30分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー３(経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度 30%、授業課題・レポート 40%、振り返りテスト 30%

＜教科書＞

畑攻・小野里真弓　基本・スポーツマネジメント　大修館書店

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の概要説明・評価方法の説明
2	スポーツマネジメント(経営)がめざすもの	スポーツとマネジメント(経営)
3	スポーツマネジメントの方法	スポーツマネジメントの基本的使命
4	マネジメント(経営)組織の理念	マネジメント(経営)と理念の関係性
5	組織における人間観①	モチベーション理論①
6	組織における人間観②	モチベーション理論②
7	マネジメントと組織論	リーダーシップ
8	前半授業のまとめ	振り返り課題の実施
9	マネジメントとマーケティング論	マーケティングの基本的な仕組み
10	スポーツプロダクト	スポーツサービスとスポーツベネフィット
11	スポーツ事業と運動生活	運動の成立条件としてのスポーツ事業
12	スポーツ政策	スポーツ政策の基本スタンスとわが国の主なスポーツ政策
13	スポーツの普及・振興を目指して	大学スポーツについて
14	後半授業のまとめ	振り返り課題の実施
15		
16		

科目コード	37503				区　分	コア科目			
授業科目名	スポーツメディア論 [BC用][週2]				担当者名	平岡　師玄哉			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第４クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本講義では、スポーツとメディアの関係性を理解し、スポーツがメディアを通してどのように価値づけられ、社会に伝えられているのかを学ぶ。スポーツは競技そのものだけでなく、メディアによって意味や物語が付与されることで価値が形成される。本講義では、スポーツニュースや映像の分析、および実際の観戦や視聴を通して、その価値の捉え方を理解する。さらに、分析を踏まえ、特定の対象に対してスポーツの価値をどのように伝えるかを設計する演習を行う。これにより、スポーツビジネスにおけるメディアの役割を理解し、価値を適切に伝えるための基

＜授業の到達目標＞

１.スポーツとメディアの関係性を理解し、その役割を説明できる　２.スポーツに含まれる価値をメディアの視点から分析できる　３.ターゲットに応じてスポーツの価値をどのように伝えるかを設計できる

＜授業の方法＞

講義と演習を組み合わせて進める。前半ではスポーツとメディアの関係や価値の捉え方について講義形式で学び、スポーツニュースや映像を用いた分析を行う。後半では、実際の観戦や視聴を通して得た気づきをもとに、スポーツの価値をどのように伝えるかを設計する演習を行う。授業内でのワークを重視し、分析から設計へと段階的に理解を深める。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素有スポーツニュースや映像の分析ワーク 、フィールドワーク（観戦・視聴）に基づく分析、価値の伝達方法を考える設計演習を行う

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回のテーマに関する課題や問いについて、自身の考えを整理しておく（30分）復習：授業で扱った内容や事例をもとに、スポーツ報道の見て理解を深める（30分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー３(経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度 30%、授業ワーク・課題 40%、調査・発表レポート 30%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の概要、到達目標、評価についてスポーツ×メディアの全体像
2	スポーツとメディア	メディアとともに発展したスポーツ
3	スポーツのプロダクトとしての価値は何か	勝敗以外の価値（感動・物語・地域など）
4	メディアの役割	意味付け装置としてのメディアなぜ同じ試合でも違う伝わり方になるか
5	メディアとビジネス	放映権・スポンサーなぜルールが変わるのか
6	分析①：スポーツニュースを見る	何が切り取られているか
7	分析②：意図を読む	何を伝えたいのか誰に向けているのか
8	分析③：比較する	異なるメディアの違い
9	分析④：フレーム化	「価値・ターゲット・表現」で整理
10	フィールドワーク説明	見るポイント提示分析シート配布
11	フィールドワーク①	観戦・視聴
12	フィールドワーク②	分析整理
13	振り返り・設計演習	価値は何かどう伝えるか
14	まとめ	学びの整理メディアとスポーツの本質
15		
16		

科目コード	37504				区　分	コア科目			
授業科目名	レクリエーション論				担当者名	高見　博子			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本講座を通じて、楽しさや心地よさを活用して人々を支援するための基礎的な考え方を学ぶ。本講座は、（公財）日本レクリエーション協会公認レクリエーション・インストラクター資格取得のための必須科目である。

＜授業の到達目標＞
レクリエーション概論を理解して「楽しさを創る」ことで「人々の心を元気にする」ことができる理論や支援の理論・支援の方法を学び、現代社会において求められているレクリエーション像を多角的に捉えることのできる能力を身につけることを目標とする。その上で、（公財）日本レクリエーション協会公認レクリエーション・インストラクター取得を目的とする。

＜授業の方法＞
教科書に沿って講義するが、単元ごとにミニ・レポートを出して理解度をチェックする。また、随時アイスブレーキングの方法等を指導していく。資格取得には現場実習が必須であり、資格認定上の必修科目はキャンプ実習である。そのほか、事業参加としては「課程認定校交流会（11～12月）」や「岡山スポーツフェスティバル（3月）」がある。授業内で地域に関わる活動への案内が適宜あり、参加によって現場実習と認められる場合がある。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有アイスブレーキングの方法等、指導、実践していく。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業時間に配布された資料を読んでくる。また、授業時間に提示された参考図書・参考資料に目を通して授業の理解を深める（2時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
定期試験40%,ミニレポート30%,授業態度30%で評価する。

＜教科書＞
（公財）日本レクリエーション協会（2017）　「楽しさをとおした心の元気づくり」レクリエーション支援の理論と方法　（公財）日本レクリエーション協会

＜参考書＞
（財）日本レクリエーション協会　レジャー・カウンセリング　大修館書店
（財）日本レクリエーション協会　レクリエーション・マネジメント　大修館書店

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	レクリエーション概論	レクリエーションを学ぶにあたってレクリエーションの意味を理解する
2	レクリエーション概論	レクリエーション活動について理解するレクリエーション支援について理解する
3	レクリエーション概論	レクリエーション運動について理解するレクリエーション事業について理解する
4	楽しさと心の元気づくりの理論	楽しさを通した心の元気づくりを理解する
5	楽しさと心の元気づくりの理論	ライフステージと心の元気づくり
6	楽しさと心の元気づくりの理論	子ども、高齢者、障害のある人の元気づくり
7	楽しさと心の元気づくりの理論	地域の絆づくりとレクリエーション
8	レクリエーション支援の理解	コミュニケーションと信頼関係づくり
9	レクリエーション支援の理解	良好な集団づくりの理論
10	レクリエーション事業の理解	自主的・主体的に楽しむ力を育む理論
11	レクリエーション事業の理解	成功体験を支え合う対象者の関わり
12	レクリエーション支援の方法	信頼関係づくりの方法・ホスピタリティー
13	レクリエーションの支援の方法	気持ちをひとつにするコミュニケーション技術
14	レクリエーションの支援の方法	良好な集団づくりの方法とアイスブレーキング・レクリエーション活動を対象者に合わせる展開法・アレンジ法
15		
16		

科目コード	37506				区　分	コア科目			
授業科目名	スポーツマーケティング論［週2］				担当者名	小堀　浩志			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
スポーツマーケテイングは近年、オリンピックをはじめ様々なスポーツに導入され、人とスポーツをより活発化させる機能として、大きな役割を果たしている。本講義では、スポーツマーケティングの歴史と発展その特性を知り、またスポーツマーケティングの幅広い要素と機能を実例を通じて学ぶことで、その本質を理解することを目的とする。また講義の終盤では、国内のスポーツマーケティングの実例も紹介する。

＜授業の到達目標＞
スポーツマーケティングの特性を理解する。スポーツマーケティングの幅広い機能を理解し、プロスポーツを中心にスポーツマーケティングの最新事例を知る。　スポーツマーケティングについてチーム、リーグ、地域事例について説明でき、分析できる

＜授業の方法＞
講義形式を基本とし、授業内での課題提出、少人数でのグループワークを展開していく。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、テーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前にスポーツマーケティング関連の情報を確認する。授業資料を中心とした一斉授業と少人数のグループワークを中心に展開していく。毎週最低でも準備に1時間の予習時間、講義内容のまとめ・理解に1時間の復習時間が必要である。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業参加態度　３０％　授業課題評価３０％　レポート課題(授業時間内及び中間・最終)　４０％　　各回毎に授業課題または、レポートを1週間以内に提出し、その都度フィードバックを行う

＜教科書＞

＜参考書＞
原田宗彦・藤本淳也・松岡宏高（2020年9月1日）　スポーツマーケティング改訂版　株式会社大修館書店

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	講義概要、成績評価方法の説明
2	スポーツマーケティングとは何か？	スポーツとマーケテイングの概念
3	スポーツマーケティングの歴史と発展	スポーツマーケティングの誕生とその発展
4	スポーツプロダクトの特性	するスポーツとみるスポーツ、サービスマーケティング
5	スポーツ消費者の特性	スポーツ消費者の定義と意思決定プロセス
6	スポーツマーケティングのプランニング	リサーチ、STP、マーケティングミックス
7	プロモーション	広告、PR、イベント戦略
8	スポーツ・スポンサーシップ	スポンサーシップの概念、発展と現状、効果
9	ブランディング	ブランドエクイティとは何か、ライセンシング
10	CRM(カスタマー・リレーションシップ・マネジメント)	顧客との関係、データベースマーケティングの未来
11	価格戦略	スポーツと価格、需要と供給、価格設定
12	マーケティングリサーチ	リサーチの意味、方法、分析と活用方法
13	事例紹介①国内スポーツ	プロ野球、Jリーグ、Bリーグのマーケティング事例
14	講義のまとめ	講義全体を通じてのまとめ
15		
16		

科目コード	37510				区　分	コア科目			
授業科目名	スポーツ施設論［週2］				担当者名	平岡　師玄哉			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第２クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

フィットネス業界は、2019年（平成31年）には、売上高4,939億円（前年比3.2%増）、施設数6,188軒（前年比6.38%増）と総合型クラブが業界を牽引してきました。しかし、この10年の間に、24時間営業ジムやサーキットジム、ホットヨガスジオなどの小規模業態が登場し、他業種からの参入も活性化しています。また、2020年年始からのコロナ禍により、ホームフィットネスや健康関連アプリサービスも台頭してきました。この授業では「民間スポーツ施設」にフォーカスをあて、社会環境、業界動向、事業構造等の事例を通じて

＜授業の到達目標＞

１．体系的にフィットネスクラブマネジメントに関わる知識・技術を身につけている２．フィットネス業界の現状を理解し、自身でマネジメントに関する考えを述べることができる３．国家資格である「フィットネスクラブマネジメント《ベーシック》」を取得するに必要な知識・技能を習得している

＜授業の方法＞

・本授業は、講義と個人ワークを繰り返しながら学びを深める形式で実施する・各回においてフィットネス現場での具体的な事例や問いを提示し、学生は個人で課題について考察する

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

・実際のスポーツ現場で起こる事象をもとに課題を設定し、学生が個人で対応策を検討する・学生の考えを共有し、多様な視点に触れる機会を設ける

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回のテーマに関する課題について、自身の考えをまとめておく（30分）復習：授業で扱った内容や事例をもとに、自身の考えを見直し、課題に対する理解を深める（30分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー３（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 30%、　授業課題・レポート 40%、振り返りテスト30%

＜教科書＞

一般社団法人日本フィットネス産業協会（2024年4月）　フィットネスクラブマネジメント公式テキスト Vol.4 Basic（初級）

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方フィットネス産業の概要
2	フィットネス産業	フィットネス産業の現状、歴史、特徴健康施策の概要と動向
3	健康づくり	生活習慣病とその予防栄養・運動・休養高齢者の健康づくり
4	運動・トレーニングの基礎	運動生理学、トレーニングの基礎
5	店舗運営①	フロント業務、ジム運営業務
6	店舗運営②	スタジオ運営業務、プール運営業務
7	店舗運営③	イベントの企画・運営付帯事業クラブ内での緊急対応
8	前半授業まとめ	振り返り課題の実施
9	顧客マネジメント①	顧客対応と接客の心構え入会問い合わせ・見学者への対応顧客対応と課題解決
10	顧客マネジメント②	顧客対応と接客の心構え入会問い合わせ・見学者への対応顧客対応と課題解決
11	チームワークとコミニュケーション	組織と業務分担の考え方仕事の進め方コミュニケーションの重要性リーダの役割とフォロワーの役割
12	施設・設備管理の意義と重要性	総合クラブの施設内容管理の概念と基本
13	労働・安全衛生	労働者の保護職場の安全衛生の基本感染症対策
14	授業全体のまとめ	振り返り課題の実施
15		
16		

科目コード	38200				区　分	コア科目			
授業科目名	保健体育科指導法Ⅰ(基礎) [PP,FE,FC]				担当者名	久田　孝			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本科目は、教科「保健体育」を中心とした学校体育の諸活動を対象に、その教育方法上の原理を明らかにする学問であり、中学校・高等学校の普通免許状（保健体育）の取得要件として設定されている専門科目である。自分の経験を振り返り、自らの思考の枠組みをくずしながら、学習指導要領をもとに、最新の保健体育科教育の方向性について理解し、『21世紀の学校体育の在り方』を探究していく。

＜授業の到達目標＞
１．保健体育科の基礎的知識を習得し、学習指導要領に示された意義や目標･内容を理解することが出来る。２．学校体育における今日的課題を整理し、これからの学校体育の在り方について考察を深め、論理的に言語化することができる。　３．積極的に事前・事後学習・レポートに取り組むことができる。

＜授業の方法＞
１．講義及び対話的活動（教員による解説と問いかけ･質疑応答）　２．省察活動（まとめと振り返り）　３．協働的活動とディスカッション　４．資料の提示や課題の提示、提出等はGoogleclassroomで行う。また、確認テストは主にGoogleformを用いて実施する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有　協働的活動とディスカッション

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：次回の授業内容（学習指導要領の該当箇所）を熟読し、重要語句を記述しておく。（毎回、1時間程度）復習：課題及び振り返りレポート（毎回、1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３(体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
小テスト30%、期末試験60%、授業への取り組み10%で総合的に評価する。小テスト・定期試験では、保健体育科の基礎的知識や学習指導要領に示された意義や目標･内容についての理解度を評価する共に、授業中の意欲的態度、課題の遂行度を評価する。レポートは、授業内で扱われた理論を自分の中で再構築して適切に論述しているものを評価する。

＜教科書＞
文部科学省（平成29年7月）　「学校学習指導要領解説―保健体育編―」　東山書房

＜参考書＞
高橋健夫他（2010）　体育科教育学入門　大修館書店

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方
2	保健体育科教育学で何を学ぶのか	授業の構造と教師の役割
3	保健体育とはどのような教科なのか	体育の持つ特異性と危険性
4	学校制度と保健体育科	学習指導要領の歴史的変遷と社会的背景
5	今、保健体育科に求められているもの	保健体育科の今日的課題と方向性
6	保健体育科で育みたい資質・能力	学習指導要領における保健体育科の目標の検討
7	体育の学習内容とは	運動の特性と分類
8	体育における教材と学習内容をめぐる議論	運動という文化の構成要素
9	体育のカリキュラム	年間指導計画の事例検討
10	体育の目標と内容の関係	体育の学習内容の捉え方による相違点
11	体育の授業づくりと動機づけ	自己決定論、子どもの自発性と教師の指導性
12	体育の学習形態・評価	学習形態の類型・学習評価の現状と課題
13	保健体育科の内容構成	学習指導要領における分野・領域
14	まとめ	これからの保健体育授業を考える
15		

16		

科目コード	38200				区　分	コア科目			
授業科目名	保健体育科指導法Ⅰ(基礎) [PP,FE,FC]				担当者名	久田　孝			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本科目は、教科「保健体育」を中心とした学校体育の諸活動を対象に、その教育方法上の原理を明らかにする学問であり、中学校・高等学校の普通免許状（保健体育）の取得要件として設定されている専門科目である。自分の経験を振り返り、自らの思考の枠組みをくずしながら、学習指導要領をもとに、最新の保健体育科教育の方向性について理解し、『21世紀の学校体育の在り方』を探究していく。

＜授業の到達目標＞

１．保健体育科の基礎的知識を習得し、学習指導要領に示された意義や目標･内容を理解することが出来る。２．学校体育における今日的課題を整理し、これからの学校体育の在り方について考察を深め、論理的に言語化することができる。　３．積極的に事前・事後学習・レポートに取り組むことができる。

＜授業の方法＞

１．講義及び対話的活動（教員による解説と問いかけ･質疑応答）　２．省察活動（まとめと振り返り）　３．協働的活動とディスカッション　４．資料の提示や課題の提示、提出等はGoogleclassroomで行う。また、確認テストは主にGoogleformを用いて実施する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有　協働的活動とディスカッション

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回の授業内容（学習指導要領の該当箇所）を熟読し、重要語句を記述しておく。（毎回、1時間程度）復習：課題及び振り返りレポート（毎回、1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー３(体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テスト30%、期末試験60%、授業への取り組み10%で総合的に評価する。小テスト・定期試験では、保健体育科の基礎的知識や学習指導要領に示された意義や目標･内容についての理解度を評価する共に、授業中の意欲的態度、課題の遂行度を評価する。レポートは、授業内で扱われた理論を自分の中で再構築して適切に論述しているものを評価する。

＜教科書＞

文部科学省（平成29年7月）　「学校学習指導要領解説―保健体育編―」　東山書房

＜参考書＞

高橋健夫他（2010）　体育科教育学入門　大修館書店

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方
2	保健体育科教育学で何を学ぶのか	授業の構造と教師の役割
3	保健体育とはどのような教科なのか	体育の持つ特異性と危険性
4	学校制度と保健体育科	学習指導要領の歴史的変遷と社会的背景
5	今、保健体育科に求められているもの	保健体育科の今日的課題と方向性
6	保健体育科で育みたい資質・能力	学習指導要領における保健体育科の目標の検討
7	体育の学習内容とは	運動の特性と分類
8	体育における教材と学習内容をめぐる議論	運動という文化の構成要素
9	体育のカリキュラム	年間指導計画の事例検討
10	体育の目標と内容の関係	体育の学習内容の捉え方による相違点
11	体育の授業づくりと動機づけ	自己決定論、子どもの自発性と教師の指導性
12	体育の学習形態・評価	学習形態の類型・学習評価の現状と課題
13	保健体育科の内容構成	学習指導要領における分野・領域
14	まとめ	これからの保健体育授業を考える
15		

16		

科目コード	38200				区　分	コア科目			
授業科目名	保健体育科指導法Ⅰ(基礎) [PP,PS]				担当者名	久田　孝			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本科目は、教科「保健体育」を中心とした学校体育の諸活動を対象に、その教育方法上の原理を明らかにする学問であり、中学校・高等学校の普通免許状（保健体育）の取得要件として設定されている専門科目である。自分の経験を振り返り、自らの思考の枠組みをくずしながら、学習指導要領をもとに、最新の保健体育科教育の方向性について理解し、『21世紀の学校体育の在り方』を探究していく。

＜授業の到達目標＞

１．保健体育科の基礎的知識を習得し、学習指導要領に示された意義や目標･内容を理解することが出来る。２．学校体育における今日的課題を整理し、これからの学校体育の在り方について考察を深め、論理的に言語化することができる。　３．積極的に事前・事後学習・レポートに取り組むことができる。

＜授業の方法＞

１．講義及び対話的活動（教員による解説と問いかけ･質疑応答）　２．省察活動（まとめと振り返り）　３．協働的活動とディスカッション　４．資料の提示や課題の提示、提出等はGoogleclassroomで行う。また、確認テストは主にGoogleformを用いて実施する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有　協働的活動とディスカッション

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回の授業内容（学習指導要領の該当箇所）を熟読し、重要語句を記述しておく。（毎回、1時間程度）復習：課題及び振り返りレポート（毎回、1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー３(体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テスト30%、期末試験60%、授業への取り組み10%で総合的に評価する。小テスト・定期試験では、保健体育科の基礎的知識や学習指導要領に示された意義や目標･内容についての理解度を評価する共に、授業中の意欲的態度、課題の遂行度を評価する。レポートは、授業内で扱われた理論を自分の中で再構築して適切に論述しているものを評価する。

＜教科書＞

文部科学省（平成29年7月）　「学校学習指導要領解説―保健体育編―」　東山書房

＜参考書＞

高橋健夫他（2010）　体育科教育学入門　大修館書店

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方
2	保健体育科教育学で何を学ぶのか	授業の構造と教師の役割
3	保健体育とはどのような教科なのか	体育の持つ特異性と危険性
4	学校制度と保健体育科	学習指導要領の歴史的変遷と社会的背景
5	今、保健体育科に求められているもの	保健体育科の今日的課題と方向性
6	保健体育科で育みたい資質・能力	学習指導要領における保健体育科の目標の検討
7	体育の学習内容とは	運動の特性と分類
8	体育における教材と学習内容をめぐる議論	運動という文化の構成要素
9	体育のカリキュラム	年間指導計画の事例検討
10	体育の目標と内容の関係	体育の学習内容の捉え方による相違点
11	体育の授業づくりと動機づけ	自己決定論、子どもの自発性と教師の指導性
12	体育の学習形態・評価	学習形態の類型・学習評価の現状と課題
13	保健体育科の内容構成	学習指導要領における分野・領域
14	まとめ	これからの保健体育授業を考える
15		

16		

科目コード	38201				区　分	コア科目			
授業科目名	保健体育科指導法Ⅱ(応用)[PP]				担当者名	久田　孝			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本科目は，中学校・高等学校の普通免許状（保健体育）の取得要件として設定されている専門科目である。すでに履修している保健体育科指導法Ⅰの基本的な知見をもとに，保健体育科の授業の在り方について探究すると同時に，各領域の授業デザインの検討を通して保健体育科の教材開発・授業計画について学ぶものである。したがって，本科目の履修は「保健体育科指導法Ⅰ（基礎）」を習得している者に限る。

＜授業の到達目標＞

1．学習指導に関わる基礎理論・知識を習得し，教材を開発・作成することができる。2．保健体育科の授業における「授業設計」及び「学習指導案」を計画・立案することができる。3．教師として保健体育科の授業を行うということの自覚と責任と実践的指導力を身に付けることができる。4．協働学習に主体的に参加し，積極的にグループに貢献できる。

＜授業の方法＞

1．講義及び対話的活動（教員による解説と問いかけ･Google Classroomを用いた質疑応答） 2．協働的活動（個人・ペア・グループワーク） 3．模擬授業と授業観察（ICT機器を用いた資料提示や撮影を含む） 4．省察活動（まとめと振り返り）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有　協働的活動（個人・ペア・グループワーク）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：自分が担当する領域・種目に該当する学習指導要領の記載内容を熟読し，書籍や論文から必用な情報を集めてくる。（毎回，2時間程度）復習：課題及び振り返りレポート（毎回，1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は，「科学的根拠や思考を持って，体育スポーツ現場の諸問題に対応できる能力（DP5）」を育成すると共に，「体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ，課題解決に取り組み続けることができる生涯学習力（DP7）」を養うための教職の応用科目である。単に方法を習得するだけでなく，保健体育科教員としての自覚と責任のもと，常に自己研鑽しながら自分を高めていく学習習慣の形成と実践力の向上を目指す。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

理解度テスト 20%， レポート（含指導案） 40%， マイクロティーチング 40%で総合的に評価する。マイクロティーチングでは受講態度も評価対象とする。とりわけ協働的活動における積極性･貢献度を重視して評価する。指導案は，多様な情報収集と授業構成要素を踏まえた緻密な計画を評価する。レポートの内容については，提出後の授業でコメントし，フィードバックする。

＜教科書＞

文部科学省（平成29年7月）　中学校学習指導要領解説 保健体育編　東山書房

＜参考書＞

文部科学省（平成30年7月）　高等学校学習指導要領解説 保健体育編･体育編　東山書房
岡出美則他（2021）　体育科教育学入門　大修館書店

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方自身の体験から保健体育科の捉え方を問い直す
2	よい体育授業とは	よい体育授業の条件
3	体育授業における教材・教具とは	教材づくり・教具づくりの意義と方法
4	体育授業の学習指導	教師の4大行動（ICTの利活用を含む）
5	保健分野の教材研究	教材の選定と作成
6	保健分野の授業づくり	グループワークによる指導計画の作成（アクティブラーニングの視点を含む）
7	保健分野の授業実践	模擬授業と省察
8	体育分野の教材研究	教材の選定と作成
9	体育分野の授業づくり	グループワークによる指導計画の作成（アクティブラーニングの視点を含む）
10	体育分野の授業実践①	模擬授業と省察
11	体育分野の授業実践②	模擬授業と省察
12	指導計画とは	指導計画の意義と方法
13	指導案を読み解く	実践事例から授業設計を捉え，単元計画・単位時間計画を作成する
14	指導計画の作成	単位時間計画の作成と改善、理解度テスト
15		
16		

科目コード	38201				区　分	コア科目			
授業科目名	保健体育科指導法Ⅱ(応用)[PP]				担当者名	久田　孝			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本科目は，中学校・高等学校の普通免許状（保健体育）の取得要件として設定されている専門科目である。すでに履修している保健体育科指導法Ⅰの基本的な知見をもとに，保健体育科の授業の在り方について探究すると同時に，各領域の授業デザインの検討を通して保健体育科の教材開発・授業計画について学ぶものである。したがって，本科目の履修は「保健体育科指導法Ⅰ（基礎）」を習得している者に限る。

＜授業の到達目標＞

1．学習指導に関わる基礎理論・知識を習得し，教材を開発・作成することができる。2．保健体育科の授業における「授業設計」及び「学習指導案」を計画・立案することができる。3．教師として保健体育科の授業を行うということの自覚と責任と実践的指導力を身に付けることができる。4．協働学習に主体的に参加し，積極的にグループに貢献できる。

＜授業の方法＞

1．講義及び対話的活動（教員による解説と問いかけ･Google Classroomを用いた質疑応答） 2．協働的活動（個人・ペア・グループワーク） 3．模擬授業と授業観察（ICT機器を用いた資料提示や撮影を含む） 4．省察活動（まとめと振り返り）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有　協働的活動（個人・ペア・グループワーク）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：自分が担当する領域・種目に該当する学習指導要領の記載内容を熟読し，書籍や論文から必用な情報を集めてくる。（毎回，2時間程度）復習：課題及び振り返りレポート（毎回，1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は，「科学的根拠や思考を持って，体育スポーツ現場の諸問題に対応できる能力（DP5）」を育成すると共に，「体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ，課題解決に取り組み続けることができる生涯学習力（DP7）」を養うための教職の応用科目である。単に方法を習得するだけでなく，保健体育科教員としての自覚と責任のもと，常に自己研鑽しながら自分を高めていく学習習慣の形成と実践力の向上を目指す。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

理解度テスト 20%， レポート（含指導案） 40%， マイクロティーチング 40%で総合的に評価する。マイクロティーチングでは受講態度も評価対象とする。とりわけ協働的活動における積極性･貢献度を重視して評価する。指導案は，多様な情報収集と授業構成要素を踏まえた緻密な計画を評価する。レポートの内容については，提出後の授業でコメントし，フィードバックする。

＜教科書＞

文部科学省（平成29年7月）　中学校学習指導要領解説 保健体育編　東山書房

＜参考書＞

文部科学省（平成30年7月）　高等学校学習指導要領解説 保健体育編･体育編　東山書房
岡出美則他（2021）　体育科教育学入門　大修館書店

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方自身の体験から保健体育科の捉え方を問い直す
2	よい体育授業とは	よい体育授業の条件
3	体育授業における教材・教具とは	教材づくり・教具づくりの意義と方法
4	体育授業の学習指導	教師の4大行動（ICTの利活用を含む）
5	保健分野の教材研究	教材の選定と作成
6	保健分野の授業づくり	グループワークによる指導計画の作成（アクティブラーニングの視点を含む）
7	保健分野の授業実践	模擬授業と省察
8	体育分野の教材研究	教材の選定と作成
9	体育分野の授業づくり	グループワークによる指導計画の作成（アクティブラーニングの視点を含む）
10	体育分野の授業実践①	模擬授業と省察
11	体育分野の授業実践②	模擬授業と省察
12	指導計画とは	指導計画の意義と方法
13	指導案を読み解く	実践事例から授業設計を捉え，単元計画・単位時間計画を作成する
14	指導計画の作成	単位時間計画の作成と改善、理解度テスト
15		
16		

科目コード	38201				区　分	コア科目			
授業科目名	保健体育科指導法Ⅱ(応用)[PP]				担当者名	坂本　康輔／岩田　知郎／木村　大			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本科目は，中学校・高等学校の普通免許状（保健体育）の取得要件として設定されている専門科目である。すでに履修している保健体育科指導法Ⅰの基本的な知見をもとに，保健体育科の授業の在り方について探究すると同時に，各領域の授業デザインの検討を通して保健体育科の教材開発・授業計画について学ぶものである。したがって，本科目の履修は「保健体育科指導法Ⅰ（基礎）」を習得している者に限る。

＜授業の到達目標＞

1．学習指導に関わる基礎理論・知識を習得し，教材を開発・作成することができる。2．保健体育科の授業における「授業設計」及び「学習指導案」を計画・立案し、授業実践することができる。3．教師として保健体育科の授業を行うということの自覚と責任と実践的指導力を身に付けることができる。4．協働学習に主体的に参加し，積極的にグループに貢献できる。

＜授業の方法＞

1．講義及び対話的活動（教員による解説と問いかけ･Google form を用いた課題遂行）2．協働的活動（個人・ペア・グループワーク）3．模擬授業と授業観察（ICT機器を用いた資料提示や撮影を含む）4．省察活動（まとめと振り返り）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

要素：有指導案の作成及び各種目の特性についてグループワークやディスカッションを行います。また、模擬授業の際は映像を見ながらFBを行い、改善点を発見する方法を採用します。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：学習指導要領に示されている領域・種目に関する内容を熟読し，保健体育授業における指導案や授業方法、教材・教具などについて、書籍や論文から必用な情報を集める。（１時間程度）復習：課題及び振り返りレポート（毎回，1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 20%，受講態度10%，レポート（含指導案） 40%， 模擬授業 30%で総合的に評価する。受講態度は模擬授業における評価対象とするが、とりわけ日頃の協働的活動における積極性･貢献度を重視して評価する。指導案は，多様な情報収集と授業構成要素を踏まえた緻密な計画を評価する。課題の内容については，主にフィードバックを中心に行い、学習理解度を図る。

＜教科書＞

文部科学省（平成29年7月）　中学校学習指導要領解説 保健体育編　東山書房
文部科学省（平成30年7月）　高等学校学習指導要領解説 保健体育編･体育編　東山書房
衛藤 隆，友添 秀則　ほか（2022年3月20日）　現代高等保健体育　大修館書店

＜参考書＞

岡出美則他（2021）　体育科教育学入門　大修館書店
杉山重利・髙橋健夫・園山和夫（2009）　保健体育科教育法　大修館書店

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	①授業の概要と進め方について②良い体育授業とは何かを考える
2	学習指導要領を理解する①	学習指導要領が示している内容について理解を深める
3	学習指導要領を理解する②	学習指導要領の内容を調査し、意義を見つける
4	学習指導案の書き方について①	学習指導要領に基づいた指導案を作成する
5	学習指導案の書き方について②	単元計画の作成
6	運動領域の特性について①	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
7	運動領域の特性について②	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
8	運動領域の特性について③	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
9	運動領域の特性について④	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
10	運動領域の特性について⑤	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
11	運動領域の特性について⑥	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
12	模擬授業に向けた準備	授業実践における心構えと方法
13	模擬授業の実践①	マイクロティーチング
14	模擬授業の実践②	マイクロティーチング
15		
16		

科目コード	38201				区　分	コア科目			
授業科目名	保健体育科指導法Ⅱ(応用)[再履修者用+他学科]				担当者名	藤谷　かおる／岩田　知郎／木村　大			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本科目は，中学校・高等学校の普通免許状（保健体育）の取得要件として設定されている専門科目である。すでに履修している保健体育科指導法Ⅰの基本的な知見をもとに，保健体育科の授業の在り方について探究すると同時に，各領域の授業デザインの検討を通して保健体育科の教材開発・授業計画について学ぶものである。したがって，本科目の履修は「保健体育科指導法Ⅰ（基礎）」を習得している者に限る。

＜授業の到達目標＞

1．学習指導に関わる基礎理論・知識を習得し，教材を開発・作成することができる。2．保健体育科の授業における「授業設計」及び「学習指導案」を計画・立案し、授業実践することができる。3．教師として保健体育科の授業を行うということの自覚と責任と実践的指導力を身に付けることができる。4．協働学習に主体的に参加し，積極的にグループに貢献できる。

＜授業の方法＞

1．講義及び対話的活動（教員による解説と問いかけ･Google form を用いた課題遂行）2．協働的活動（個人・ペア・グループワーク）3．模擬授業と授業観察（ICT機器を用いた資料提示や撮影を含む）4．省察活動（まとめと振り返り）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

要素：有指導案の作成及び各種目の特性についてグループワークやディスカッションを行います。また、模擬授業の際は映像を見ながらFBを行い、改善点を発見する方法を採用します。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：学習指導要領に示されている領域・種目に関する内容を熟読し，保健体育授業における指導案や授業方法、教材・教具などについて、書籍や論文から必用な情報を集める。（１時間程度）復習：課題及び振り返りレポート（毎回，1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 20%，受講態度10%，レポート（含指導案） 40%， 模擬授業 30%で総合的に評価する。受講態度は模擬授業における評価対象とするが、とりわけ日頃の協働的活動における積極性･貢献度を重視して評価する。指導案は，多様な情報収集と授業構成要素を踏まえた緻密な計画を評価する。課題の内容については，主にフィードバックを中心に行い、学習理解度を図る。

＜教科書＞

文部科学省（平成29年7月）　中学校学習指導要領解説 保健体育編　東山書房
文部科学省（平成30年7月）　高等学校学習指導要領解説 保健体育編･体育編　東山書房
衛藤 隆，友添 秀則　ほか（2022年3月20日）　現代高等保健体育　大修館書店

＜参考書＞

岡出美則他（2021）　体育科教育学入門　大修館書店
杉山重利・髙橋健夫・園山和夫（2009）　保健体育科教育法　大修館書店

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	①授業の概要と進め方について②良い体育授業とは何かを考える
2	学習指導要領を理解する①	学習指導要領が示している内容について理解を深める
3	学習指導要領を理解する②	学習指導要領の内容を調査し、意義を見つける
4	学習指導案の書き方について①	学習指導要領に基づいた指導案を作成する
5	学習指導案の書き方について②	単元計画の作成
6	運動領域の特性について①	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
7	運動領域の特性について②	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
8	運動領域の特性について③	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
9	運動領域の特性について④	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
10	運動領域の特性について⑤	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
11	運動領域の特性について⑥	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
12	模擬授業に向けた準備	授業実践における心構えと方法
13	模擬授業の実践①	マイクロティーチング
14	模擬授業の実践②	マイクロティーチング

15 16		

科目コード	38202				区　分	コア科目		
授業科目名	学校保健［A］				担当者名	山本　玲菜		
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本講義では、まず学校保健の意義、行政等について学び、ヘルスプロモーション、児童・生徒の発育発達、疾病・異常及び感染症について必要な知識を習得する。次いで、精神の健康と、障害のある児童・生徒への健康上の支援について学び、健康観察、健康相談、健康診断等に関する知識の獲得をはかる。加えて、喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育についての理解を深め、学校環境衛生、食育、学校安全、応急手当、保健学習等について詳しく学ぶ。

＜授業の到達目標＞
本講義では、学校保健の役割とその実際を理解することを目指す。学校保健とは学校における児童・生徒の健康及び安全を推進する活動である。本講義では、児童・生徒の基本的な心身の機能や発育について認識すると同時に、彼らを取り巻く社会環境（運動の機会、食生活、友人や家族とのコミュニケーション、安全事情等）の今日的課題を察知し、今の子どもたちに必要な学校保健の方策について、各自が理解を深め、実践できる力を養う。

＜授業の方法＞
テキスト及び関連資料に基づく講義をパワーポイントを使用して行う。グループワークを行う場合もある。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有グループワークでは、「学校保健」に関する新聞記事を読み、その後5、6人のグループに分かれ、新聞記事のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。このようにグループワークを行うことで能動的に問題点について思考したり、意見を交わしたりすることにより認識を深めることを目的とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：教科書を熟読し次回の講義内容を把握しておくこと。（毎回、1時間程度）　復習：授業時間に配布された資料、講義のテーマとなった教科書の範囲を必ず読み、自分の理解度を確認すること。（毎回、1時間半程度）※そのためには、毎回の授業を真剣に聞いておく必要がある。この講義専用のファイルをつくり講義資料をまとめ、講義には筆記用具、教科書、ノート、ファイルを持参すること。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度 30%、小テスト 30%、定期試験 40%※この講義では2～13回目の講義まで全12回の小テストを実施する。14回目の講義では講義内容のまとめを行うとともに全テストの復習を行う。

＜教科書＞
教員養成系大学保健協議会（2024）　学校保健ハンドブック〈第8次改訂〉　ぎょうせい

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	学校保健とは	学校保健の意義、行政、教職員等の責任、ヘルスプロモーションの考え方
2	児童・生徒の発育発達	児童・生徒の発育発達の特徴、体力の現状と課題
3	児童・生徒の健康障害	児童・生徒における疾病・異常及び感染症の予防と対応
4	こころの健康と課題	児童・生徒の心の問題への対応、いじめの防止対策
5	障害のある児童・生徒への健康上の支援	特別支援教育、障害の考え方と障害のある児童・生徒への支援
6	児童・生徒の健康状態の把握	健康観察、健康相談、健康診断、保健調査の内容
7	現代の健康教育	性教育、喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育
8	学校環境衛生	学校環境衛生の考え方と管理方法
9	学校における食育	現代の子どもにおける食の役割と重要性
10	学校安全	事故・災害・犯罪被害の防止と発生時の対応
11	応急手当	応急手当と心肺蘇生法
12	保健教育	学習指導要領に基づく保健学習、及びその指導と評価
13	学校保健経営	学校保健の組織活動、学校保健計画及び学校安全計画の意義と策定
14	まとめ	講義内容のまとめ及び小テストの振り返り
15		
16		

科目コード	38202				区　分	コア科目		
授業科目名	学校保健［B］				担当者名	山本　玲菜		
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本講義では、まず学校保健の意義、行政等について学び、ヘルスプロモーション、児童・生徒の発育発達、疾病・異常及び感染症について必要な知識を習得する。次いで、精神の健康と、障害のある児童・生徒への健康上の支援について学び、健康観察、健康相談、健康診断等に関する知識の獲得をはかる。加えて、喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育についての理解を深め、学校環境衛生、食育、学校安全、応急手当、保健学習等について詳しく学ぶ。

＜授業の到達目標＞
本講義では、学校保健の役割とその実際を理解することを目指す。学校保健とは学校における児童・生徒の健康及び安全を推進する活動である。本講義では、児童・生徒の基本的な心身の機能や発育について認識すると同時に、彼らを取り巻く社会環境（運動の機会、食生活、友人や家族とのコミュニケーション、安全事情等）の今日的課題を察知し、今の子どもたちに必要な学校保健の方策について、各自が理解を深め、実践できる力を養う。

＜授業の方法＞
テキスト及び関連資料に基づく講義をパワーポイントを使用して行う。グループワークを行う場合もある。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有グループワークでは、「学校保健」に関する新聞記事を読み、その後5、6人のグループに分かれ、新聞記事のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。このようにグループワークを行うことで能動的に問題点について思考したり、意見を交わしたりすることにより認識を深めることを目的とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：教科書を熟読し次回の講義内容を把握しておくこと。（毎回、1時間程度）　復習：授業時間に配布された資料、講義のテーマとなった教科書の範囲を必ず読み、自分の理解度を確認すること。（毎回、1時間半程度）※そのためには、毎回の授業を真剣に聞いておく必要がある。この講義専用のファイルをつくり講義資料をまとめ、講義には筆記用具、教科書、ノート、ファイルを持参すること。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度 30%、小テスト 30%、定期試験 40%※この講義では2～13回目の講義まで全12回の小テストを実施する。14回目の講義では講義内容のまとめを行うとともに全テストの復習を行う。

＜教科書＞
教員養成系大学保健協議会（2024）　学校保健ハンドブック〈第8次改訂〉　ぎょうせい

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	学校保健とは	学校保健の意義、行政、教職員等の責任、ヘルスプロモーションの考え方
2	児童・生徒の発育発達	児童・生徒の発育発達の特徴、体力の現状と課題
3	児童・生徒の健康障害	児童・生徒における疾病・異常及び感染症の予防と対応
4	こころの健康と課題	児童・生徒の心の問題への対応、いじめの防止対策
5	障害のある児童・生徒への健康上の支援	特別支援教育、障害の考え方と障害のある児童・生徒への支援
6	児童・生徒の健康状態の把握	健康観察、健康相談、健康診断、保健調査の内容
7	現代の健康教育	性教育、喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育
8	学校環境衛生	学校環境衛生の考え方と管理方法
9	学校における食育	現代の子どもにおける食の役割と重要性
10	学校安全	事故・災害・犯罪被害の防止と発生時の対応
11	応急手当	応急手当と心肺蘇生法
12	保健教育	学習指導要領に基づく保健学習、及びその指導と評価
13	学校保健経営	学校保健の組織活動、学校保健計画及び学校安全計画の意義と策定
14	まとめ	講義内容のまとめ及び小テストの振り返り
15		
16		

科目コード	38300				区　分	コア科目			
授業科目名	保健体育科指導法Ⅲ(発展)[PP,他学科]				担当者名	久田　孝			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本科目は，中学校・高等学校の普通免許状（保健体育）の取得要件として設定されている専門科目である。すでに履修している保健体育科指導法Ⅰ及びⅡの知見をもとに，保健体育科の授業の在り方について探究すると同時に，各領域の授業デザインの検討を通して保健体育科の教材開発・授業計画について学ぶものである。したがって，本科目の履修は「保健体育科指導法Ⅰ（基礎）・保健体育科指導法Ⅱ（応用）」を習得している者に限る。

＜授業の到達目標＞
1．学習指導に関わる基礎理論・知識を習得し，教材を開発・作成することができる。2．保健体育科の授業における「授業設計」「単元計画」「学習指導案」を計画・立案することができる。3．教師として保健体育科の授業を行うということの自覚と責任と実践的指導力を身に付けることができる。4．協働学習に主体的に参加し，積極的にグループに貢献できる。

＜授業の方法＞
1．講義及び対話的活動（教員による解説と問いかけ･Google Classroomを用いた質疑応答） 2．協働的活動（個人・ペア・グループワーク） 3．模擬授業と授業観察（ICT機器を用いた資料提示や撮影を含む） 4．省察活動（まとめと振り返り）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：自分が担当する領域・種目に該当する学習指導要領の記載内容を熟読し，書籍や論文から必用な情報を集めてくる。（毎回，2時間程度）復習：課題及び振り返りレポート（毎回，1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
筆記テスト 20%，　レポート 20%，　指導案20%，模擬授業20%，教師として授業に臨む態度20%で総合的に評価する。マイクロティーチングでは受講態度も評価対象とする。とりわけ協働的活動における積極性･貢献度を重視して評価する。指導案は，多様な情報収集と授業構成要素を踏まえた緻密な計画を評価する。

＜教科書＞
文部科学省（平成29年7月）　中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編　東山書房
文部科学省（平成30年7月）　高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編･体育編　東山書房
大修館書店　現代高等保健体育　大修館書店

＜参考書＞
岡出美則他（2021）　体育科教育学入門　大修館書店

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方自身の体験から保健体育科の捉え方を問い直す。保健体育科指導法Ⅱのふりかえり、保健体育教師として必要な資質・能力について
2	保健体育授業の目標をどのように描くのか	①中学校、高等学校保健体育が目指す中心的テーマは何か②体育の学習目標の構造
3	保健体育の授業づくりの過程を考える	①保健体育の年間計画について②単元構想と教材づくり③単元展開の具体化
4	体育授業の学習指導、球技(ベースボール型、ネット型)①(ここからクラス全体を半分に分けて、球技：ベースボール型と球技ネット型をそれぞれ実施)	教師の４大行動、球技（ベースボール型）、球技（ネット型）構造的特性や授業方法の具体、模擬授業①
5	教材研究、球技(ベースボール型、ネット型)②	教材の選定と作成、球技（ベースボール型、ネット型）の模擬授業②
6	授業づくり、球技（ゴール型）・ダンス①	球技（ゴール型）・ダンスの構造的特性と授業方法
7	授業実践、球技（ゴール型）・ダンス②	球技（ゴール型）・ダンスの模擬授業
8	教材研究、球技(ベースボール型、ネット型)①(半分に分けたグループを交代)	球技（ベースボール型）・球技（ネット型）の構造的特性や授業方法
9	球技（ベースボール型）・球技（ネット）②	球技（ベースボール型）・球技（ネット型）の模擬授業

10	球技（ゴール型）・ダンス①	球技（ゴール型）・ダンスの構造的特性と授業方法
11	球技（ゴール型）・ダンス②	球技（ゴール型）・ダンスの模擬授業
12	リフレクション、筆記テスト(ここからクラス全体で授業に戻る)	リフレクションの理解、ここまでの授業のリフレクション、筆記テスト(教員採用試験の過去問から)
13	保健①	保健の概要や意義、授業方法について
14	保健②	保健の模擬授業
15	まとめ、筆記テストの再テスト	よい授業に向けて保健体育教師に求められるもの、筆記テストの再テスト
16		

科目コード	38300				区　分	コア科目			
授業科目名	保健体育科指導法Ⅲ(発展)[PP,他学科]				担当者名	久田　孝			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本科目は，中学校・高等学校の普通免許状（保健体育）の取得要件として設定されている専門科目である。すでに履修している保健体育科指導法Ⅰ及びⅡの知見をもとに，保健体育科の授業の在り方について探究すると同時に，各領域の授業デザインの検討を通して保健体育科の教材開発・授業計画について学ぶものである。したがって，本科目の履修は「保健体育科指導法Ⅰ（基礎）・保健体育科指導法Ⅱ（応用）」を習得している者に限る。

＜授業の到達目標＞
1．学習指導に関わる基礎理論・知識を習得し，教材を開発・作成することができる。2．保健体育科の授業における「授業設計」「単元計画」「学習指導案」を計画・立案することができる。3．教師として保健体育科の授業を行うということの自覚と責任と実践的指導力を身に付けることができる。4．協働学習に主体的に参加し，積極的にグループに貢献できる。

＜授業の方法＞
1．講義及び対話的活動（教員による解説と問いかけ･Google Classroomを用いた質疑応答） 2．協働的活動（個人・ペア・グループワーク） 3．模擬授業と授業観察（ICT機器を用いた資料提示や撮影を含む） 4．省察活動（まとめと振り返り）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：自分が担当する領域・種目に該当する学習指導要領の記載内容を熟読し，書籍や論文から必用な情報を集めてくる。（毎回，2時間程度）復習：課題及び振り返りレポート（毎回，1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
筆記テスト 20%，　レポート 20%，　指導案20%，模擬授業20%，教師として授業に臨む態度20%で総合的に評価する。マイクロティーチングでは受講態度も評価対象とする。とりわけ協働的活動における積極性･貢献度を重視して評価する。指導案は，多様な情報収集と授業構成要素を踏まえた緻密な計画を評価する。

＜教科書＞
文部科学省（平成29年7月）　中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編　東山書房
文部科学省（平成30年7月）　高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編･体育編　東山書房
大修館書店　現代高等保健体育　大修館書店

＜参考書＞
岡出美則他（2021）　体育科教育学入門　大修館書店

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方自身の体験から保健体育科の捉え方を問い直す。保健体育科指導法Ⅱのふりかえり、保健体育教師として必要な資質・能力について
2	保健体育授業の目標をどのように描くのか	①中学校、高等学校保健体育が目指す中心的テーマは何か②体育の学習目標の構造
3	保健体育の授業づくりの過程を考える	①保健体育の年間計画について②単元構想と教材づくり③単元展開の具体化
4	体育授業の学習指導、球技(ベースボール型、ネット型)①(ここからクラス全体を半分に分けて、球技：ベースボール型と球技ネット型をそれぞれ実施)	教師の４大行動、球技（ベースボール型）、球技（ネット型）構造的特性や授業方法の具体、模擬授業①
5	教材研究、球技(ベースボール型、ネット型)②	教材の選定と作成、球技（ベースボール型、ネット型）の模擬授業②
6	授業づくり、球技（ゴール型）・ダンス①	球技（ゴール型）・ダンスの構造的特性と授業方法
7	授業実践、球技（ゴール型）・ダンス②	球技（ゴール型）・ダンスの模擬授業
8	教材研究、球技(ベースボール型、ネット型)①(半分に分けたグループを交代)	球技（ベースボール型）・球技（ネット型）の構造的特性や授業方法
9	球技（ベースボール型）・球技（ネット）②	球技（ベースボール型）・球技（ネット型）の模擬授業

10	球技（ゴール型）・ダンス①	球技（ゴール型）・ダンスの構造的特性と授業方法
11	球技（ゴール型）・ダンス②	球技（ゴール型）・ダンスの模擬授業
12	リフレクション、筆記テスト(ここからクラス全体で授業に戻る)	リフレクションの理解、ここまでの授業のリフレクション、筆記テスト(教員採用試験の過去問から)
13	保健①	保健の概要や意義、授業方法について
14	保健②	保健の模擬授業
15	まとめ、筆記テストの再テスト	よい授業に向けて保健体育教師に求められるもの、筆記テストの再テスト
16		

科目コード	38300				区　分	コア科目			
授業科目名	保健体育科指導法Ⅲ(発展) [PP、他学科用]				担当者名	藤谷　かおる／岩田　知郎／木村　大			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本科目は、中学校・高等学校の普通免許状（保健体育）の取得要件として設定されている専門科目である。すでに履修している保健体育科教育法Ⅰ及びⅡの基本的かつ実践的な知見をもとに、保健体育科の授業の在り方について探求する。加えて、各領域の授業デザインの検討を通して、保健体育科の教材開発・授業計画について学ぶものである。したがって、本科目の授業は「保健体育科指導法Ⅰ（基礎）」且つ「保健体育科指導法Ⅱ（応用）」を習得している者に限る。

＜授業の到達目標＞

１．学習指導に関わる基礎理論・知識を習得し、教材を開発・作成することができる。２．保健体育科の授業における「授業設計」及び「学習指導案」を計画・立案し、授業実践をすることができる。３．教師として保健体育科の授業を行うということの自覚と責任と実践的指導力を身に付けることができる。４．協働学習に主体的に参加し、積極的にグループに貢献できる。

＜授業の方法＞

１．講義及び対話的活動（教員による解説と問いかけ・Google formを用いた課題遂行）２．協働的活動（個人・ペア・グループワーク）３．模擬授業と授業観察（ICT機器を用いた資料提示や撮影を含む）４．省察活動（まとめと振り返り）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

要素：有指導案作成や各種目の特性に対するグループワークを実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：学習指導要領に示されている領域・種目に関する内容を熟読し、保健体育授業における指導案や授業方法、教材・教具などについて、書籍や論文から必要な情報を集める（１時間程度）。復習：課題及び振り返りレポート（毎回１時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連づけられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題30%、レポート（含学習指導案）50%、模擬授業20%で総合的に評価する。学習指導案は、多様な情報収集と授業構成要素を踏まえ、実現可能な計画を評価する。課題の内容については、主にフィードバックを行い、学習理解度を図る。尚、出席状況は評価対象としない。

＜教科書＞

文部科学省（平成29年度7月）　中学校学習指導要領解説 保健体育編　東山書房
文部科学省（平成29年度7月）　高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編　東山書房
衛藤隆、友添秀則ほか（2022年3月20日）　現代高等保健体育

＜参考書＞

岡出美則ほか（2021）体育科教育法入門　体育科教育法入門、大修館書店
杉山重利・高橋健夫・園山和夫（2009）　保健体育科教育法　大修館書店

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	１．授業の概要と進め方２．保健体育科の授業の在り方について考え、分析する
2	学習指導案の作成方法について	担当授業の指導案を作成する
3	運動領域の特性について	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
4	保健領域の授業づくりについて	学習指導要領に示されている各保健領域に触れる
5	体育授業のマネジメントと授業評価について	授業運営の方法について考える
6	模擬授業実践①	学習指導要領に示された領域内容における模擬授業を実践する
7	模擬授業実践②	学習指導要領に示された領域内容における模擬授業を実践する
8	模擬授業実践③	学習指導要領に示された領域内容における模擬授業を実践する
9	授業実践の省察活動	自らの教師行動について理解し、改善する。
10	模擬授業実践④	学習指導要領に示された領域内容における模擬授業を実践する
11	模擬授業実践⑤	学習指導要領に示された領域内容における模擬授業を実践する
12	模擬授業実践⑥	学習指導要領に示された領域内容における模擬授業を実践する
13	模擬授業実践⑦	学習指導要領に示された領域内容における模擬授業を実践する

14 15 16	授業実践の省察活動	１．他者の教師行動について省察する２．よい授業に向けて保健体育教師に求められるもの

科目コード	38300				区　分	コア科目			
授業科目名	保健体育科指導法Ⅲ(発展)[PP、他学科用]				担当者名	坂本　康輔／岩田　知郎／木村　大			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本科目は，中学校・高等学校の普通免許状（保健体育）の取得要件として設定されている専門科目である。すでに履修している保健体育科指導法Ⅰ及びⅡの基本的かつ実践的な知見をもとに，保健体育科の授業の在り方について探究すると同時に，各領域の授業デザインの検討を通して保健体育科の教材開発・授業計画について学ぶものである。したがって，本科目の履修は「保健体育科指導法Ⅰ（基礎）」且つ「保健体育科指導法Ⅱ（応用）」を習得している者に限る。

＜授業の到達目標＞

1．学習指導に関わる基礎理論・知識を習得し，教材を開発・作成することができる。2．保健体育科の授業における「授業設計」及び「学習指導案」を計画・立案し、授業実践することができる。3．教師として保健体育科の授業を行うということの自覚と責任と実践的指導力を身に付けることができる。4．協働学習に主体的に参加し，積極的にグループに貢献できる。

＜授業の方法＞

1．講義及び対話的活動（教員による解説と問いかけ･Google form を用いた課題遂行）2．協働的活動（個人・ペア・グループワーク）3．模擬授業と授業観察（ICT機器を用いた資料提示や撮影を含む）4．省察活動（まとめと振り返り）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

要素：有指導案作成や各種目の特性に対するグループワークを実施します。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：学習指導要領に示されている領域・種目に関する内容を熟読し，保健体育授業における指導案や授業方法、教材・教具などについて、書籍や論文から必用な情報を集める。（１時間程度）復習：課題及び振り返りレポート（毎回，1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 20%，受講態度10%，レポート（含指導案） 40%， 模擬授業 30%で総合的に評価する。受講態度は模擬授業における評価対象とするが、とりわけ日頃の協働的活動における積極性･貢献度を重視して評価する。指導案は，多様な情報収集と授業構成要素を踏まえた緻密な計画を評価する。課題の内容については，主にフィードバックを中心に行い、学習理解度を図る。

＜教科書＞

文部科学省（平成29年7月）　中学校学習指導要領解説 保健体育編　東山書房
文部科学省（平成30年7月）　高等学校学習指導要領解説 保健体育編･体育編　東山書房
衛藤 隆，友添 秀則　ほか（2022年3月20日）　現代高等保健体育　大修館書店

＜参考書＞

岡出美則他（2021）　体育科教育学入門　大修館書店
杉山重利・髙橋健夫・園山和夫（2009）　保健体育科教育法　大修館書店

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	①授業の概要と進め方について②保健体育科の授業の在り方について考え、分析する。
2	学習指導案の作成方法について	担当授業の指導案を作成する
3	運動領域の特性について	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
4	保健領域の特性について	学習指導要領に示されている保健領域の特性に触れる
5	体育授業のマネジメントと授業評価について	授業運営の方法について考える
6	模擬授業実践①	学習指導要領に示された領域内容における模擬授業を実践する
7	模擬授業実践②	学習指導要領に示された領域内容における模擬授業を実践する
8	模擬授業実践③	学習指導要領に示された領域内容における模擬授業を実践する
9	授業実践の省察活動	自分の教師行動について理解し、改善する
10	模擬授業実践④	学習指導要領に示された領域内容における模擬授業を実践する
11	模擬授業実践⑤	学習指導要領に示された領域内容における模擬授業を実践する
12	模擬授業実践⑥	学習指導要領に示された領域内容における模擬授業を実践する

13	模擬授業実践⑦	学習指導要領に示された領域内容における模擬授業を実践する ・他者の教師行動について省察する・よい授業に向けて保健体育教師に求められるもの
14	授業実践の省察活動	
15		
16		

科目コード	38301				区　分	コア科目			
授業科目名	保健体育科指導法Ⅳ(実践) [PP+他学科]				担当者名	藤谷　かおる／岩田　知郎／木村　大			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
保健体育科教育指導法Ⅳでは、保健体育科指導法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの模擬授業や教育実習等の体験をもとに、「さらにどうすればよりよい体育授業を進めることができるか」を探求していく。特に、保健と体育の関係性を生かした具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成する。また、保健体育における実践研究の動向を知り、教育課題に対応した授業設計に取り組む。

＜授業の到達目標＞
（1）体育と保健の関係性を生かした具体的な「授業設計」及び「学習指導案」を計画・立案することができる。（2）保健体育における実践研究の動向を知り、教育課題に対応した授業設計に取り組むことができる。（3）保健体育科の教師として授業を行うことの自覚と責任、求められる実践的指導力を身に付けることができる。（4）協働的にグループ活動に貢献するとともに、自分の意見をもち、主体的に活動に参加することができる。

＜授業の方法＞
模擬授業やグループワークを行う。実践研究の動向に関する授業設計については、情報収集－整理－まとめを個人及びグループで行うとともに、まとめたことをプレゼンテーション方式で発表する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有(現代の教育課題について、小グループで討論したり、調査し、まとめたことをポスター発表したりなどの学習活動を行う。)

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習・復習：授業時間内に提示された課題を次時の授業までに解決し、不明な点などを明らかにしておく。授業時間に配布された資料および提示された参考図書・参考資料に目を通して授業の理解を深める。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
知識的領域：25%　授業で取り上げる内容の理解及びその理解に基づいて、自身の考えをまとめること。また、実践研究の動向に関する授業設計について、テーマを設定し、情報収集－整理－まとめをしていくこと。指導案や発表資料による。態度的領域：35%　積極的な学習参加（出席状況）や教師として授業に臨む態度、活動への主体的な参加姿勢による。技能的領域：40%　学習した知識を用いて対応していくスキルを中心に評価する。模擬授業や発表時。

＜教科書＞
文部科学省（平成29年7月）　中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　保健体育編　東山書房
文部科学省（平成30年7月）　高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　保健体育　体育編　東山書房
大修館書店（令和4年）　現代高等保健体育　大修館書店

＜参考書＞
岡出美則、友添秀則、岩田靖　編著　体育科教育学入門［三訂版］　大修館書店

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション / 保健体育授業が目指すものとは	保健体育科指導法Ⅲの振り返り、授業内容の説明、保健体育科授業を取り巻く現状とその課題
2	・技能習得の体系を理解する・中学と高校の技能の教え方について（教員体験談）	体系的な技能習得及び指導方法を理解する
3	体育と保健の関連性を生かした授業づくり	①単元目標に対応した具体的な指導内容の想定と教材構成②有機的な教材配列と学習のみちすじ③生徒の学習状況の確認と改善を図るための学習評価
4	グループ別ワーク①	教材研究・授業内容の具体の検討
5	グループ別ワーク②	発表資料の作成
6	プレゼンテーション	グループごとに発表を行う
7	AIを活用した指導案作成の検討	AIで正しく指導案を作成するために必要なことについて
8	学校と地域の連携の必要性と体育授業の関わり	自己の進路から学校とのかかわり方を見つける
9	これからの保健体育の在り方や保健体育	①保健体育における実践研究の動向を知り、教育課題に対応した実践の在り方につ

	教師の在り方について考える	いて考える（進路別でも良い）②教育課題からテーマを設定し、課題解決に向けた方法について話し合う
10	テーマ別グループ活動①	①課題解決に向け、話し合った方法をもとに授業設計及び企画設計する②立案した計画に基づき、実践（模擬授業）する
11	テーマ別グループ活動②	①課題解決に向け、話し合った方法をもとに授業設計及び企画設計する②立案した計画に基づき、実践（模擬授業）する
12	テーマ別グループ活動③	発表資料の作成
13	内容報告会①	グループごとに作成した資料に基づき、発表する
14	内容報告会②	①グループごとに作成した資料に基づき、発表する②授業のまとめ
15		
16		

科目コード	38301				区　分	コア科目			
授業科目名	保健体育科指導法Ⅳ(実践) [PP+他学科]				担当者名	坂本　康輔／岩田　知郎／木村　大			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
保健体育科教育指導法Ⅳでは、保健体育科指導法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの模擬授業や教育実習等の体験をもとに、「さらにどうすればよりよい体育授業を進めることができるか」を探求していく。特に、保健と体育の関係性を生かした具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成する。また、保健体育における実践研究の動向を知り、教育課題に対応した授業設計に取り組む。

＜授業の到達目標＞
（1）体育と保健の関係性を生かした具体的な「授業設計」及び「学習指導案」を計画・立案することができる。（2）保健体育における実践研究の動向を知り、教育課題に対応した授業設計に取り組むことができる。（3）保健体育科の教師として授業を行うことの自覚と責任、求められる実践的指導力を身に付けることができる。（4）協働的にグループ活動に貢献するとともに、自分の意見をもち、主体的に活動に参加することができる。

＜授業の方法＞
模擬授業やグループワークを行う。実践研究の動向に関する授業設計については、情報収集－整理－まとめを個人及びグループで行うとともに、まとめたことをプレゼンテーション方式で発表する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有(現代の教育課題について、小グループで討論したり、調査し、まとめたことをポスター発表したりなどの学習活動を行う。)

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習・復習：授業時間内に提示された課題を次時の授業までに解決し、不明な点などを明らかにしておく。授業時間に配布された資料および提示された参考図書・参考資料に目を通して授業の理解を深める。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
知識的領域：25%　授業で取り上げる内容の理解及びその理解に基づいて、自身の考えをまとめること。また、実践研究の動向に関する授業設計について、テーマを設定し、情報収集－整理－まとめをしていくこと。指導案や発表資料による。態度的領域：35%　積極的な学習参加（出席状況）や教師として授業に臨む態度、活動への主体的な参加姿勢による。技能的領域：40%　学習した知識を用いて対応していくスキルを中心に評価する。模擬授業や発表時。

＜教科書＞
文部科学省（平成29年7月）　中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　保健体育編　東山書房
文部科学省（平成30年7月）　高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　保健体育　体育編　東山書房
大修館書店（令和4年）　現代高等保健体育　大修館書店

＜参考書＞
岡出美則、友添秀則、岩田靖　編著　体育科教育学入門［三訂版］　大修館書店

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション / 保健体育授業が目指すものとは	保健体育科指導法Ⅲの振り返り、授業内容の説明、保健体育科授業を取り巻く現状とその課題
2	・技能習得の体系を理解する・中学と高校の技能の教え方について（教員体験談）	体系的な技能習得及び指導方法を理解する
3	体育と保健の関連性を生かした授業づくり	①単元目標に対応した具体的な指導内容の想定と教材構成②有機的な教材配列と学習のみちすじ③生徒の学習状況の確認と改善を図るための学習評価
4	グループ別ワーク①	教材研究・授業内容の具体の検討
5	グループ別ワーク②	発表資料の作成
6	プレゼンテーション	グループごとに発表を行う
7	AIを活用した指導案作成の検討	AIで正しく指導案を作成するために必要なことについて
8	学校と地域の連携の必要性と体育授業の関わり	自己の進路から学校とのかかわり方を見つける
9	これからの保健体育の在り方や保健体育	①保健体育における実践研究の動向を知り、教育課題に対応した実践の在り方につ

	教師の在り方について考える	いて考える（進路別でも良い）②教育課題からテーマを設定し、課題解決に向けた方法について話し合う
10	テーマ別グループ活動①	①課題解決に向け、話し合った方法をもとに授業設計及び企画設計する②立案した計画に基づき、実践（模擬授業）する
11	テーマ別グループ活動②	①課題解決に向け、話し合った方法をもとに授業設計及び企画設計する②立案した計画に基づき、実践（模擬授業）する
12	テーマ別グループ活動③	発表資料の作成
13	内容報告会①	グループごとに作成した資料に基づき、発表する
14	内容報告会②	①グループごとに作成した資料に基づき、発表する②授業のまとめ
15		
16		

科目コード	38401				区　分	コア科目		
授業科目名	武道指導論［剣道］				担当者名	堀川　峻		
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本授業の目的は、武道（柔道・剣道）の実践者・指導者としての専門性を高めることである。武道は、日本古来の伝統文化であり、武士の生業であった武術・武芸から、明治時代以降の近現代武道へと発展したものである。武道の専門家として、武道実践する心構え、武道の本質、歴史、あるべき姿、武道教育の役割について学び、学修成果として、それを実践できる、論じ合える、追求することができるようになることを目的とする。　※武道（柔道・剣道）の専門的知識のため、選択者は武道専攻学生のみとする。

＜授業の到達目標＞

1. 武道（柔道・剣道）の理念、歴史や特性、礼法の重要性を学び、武道とは何か、また現代における武道のあるべき姿をディスカッションすることが出来る。2. 武道の専門家として、自分の課題を発見し、意識して課題に取り組むことができる。3. 武道教育の役割についてその重要性を学び、武道理論を持った指導者として指導・実践できる力を身に付ける。

＜授業の方法＞

1. 前回の復習（小テスト、口頭諮問）2. 今回の内容説明（講義、ワークシート）3. 今回の内容についての意見交換及びディスカッション4. 事後課題に取り組む※柔道専門の選択者は柔道実技（形）、剣道専門の選択者は剣道実技（形）を数時間実施する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブラーニング有適宜、グループでの議論を通して、武道の指導に関する学びを深める。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に、本時の内容に関する全日本柔道連盟、全日本剣道連盟のHP、また、柔道及び剣道に関する書籍を読んでおくこと。（1時間程度）復習：事後課題の完成、グループワークの場合はレポートを作成する。（30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度 50%、レポート50%、

＜教科書＞

特になし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	武道とは何か、武道指導論で取り扱う内容について説明し、授業の進め方、ルール（遅刻、欠席、公欠等）について確認する。
2	武道の歴史①	武士の発生と武術について学ぶ。
3	武道の歴史②	中世期の武術・武芸について学ぶ。
4	武道の歴史③	近世期の武術・武芸について学ぶ。
5	武道の歴史④	明治期の武道について学ぶ。
6	武道の歴史⑤	大正・昭和期の武道について学ぶ。
7	武道の歴史⑥	戦後の武道について学ぶ。
8	武道の歴史⑦	武道の国際的な発展について学ぶ。
9	武道の宗教性	武道と密接に関わってきた日本の宗教について学ぶ。
10	武道の心法論	武道実践で培われた心法論について学ぶ。
11	武士道思想との関連①	武道と深くかかわる武士道の思想について学ぶ。
12	武士道思想との関連②	武道と深くかかわる武士道の思想について学ぶ。
13	武士道思想との関連③	武道と深くかかわる武士道の思想について学ぶ。
14	まとめ	本授業のまとめを行う。
15		
16		

科目コード	38404				区　分	コア科目			
授業科目名	体育授業のリスクマネージメント				担当者名	片桐　夏海／佐々木　史之／三浦　孝仁／十河　直太／仙波　慎平／保科　圭汰／田中　耕作／佐藤　伸之／坂本　康輔／國友　亮佑／伊藤　三千雄／梶谷　亮輔／堀川　峻／岩田　知郎／木村　大			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
スポーツの大衆化と高度化の進展に伴い、スポーツ活動が活発となり隆盛をみるにつれ、いわゆるスポーツ事故もまた 増加傾向を示し、さらに近年の国民の権利意識の高まりと共に事故責任の追及も厳しくなってきている。本講義におい てスポーツ活動のいわば副産物たるスポーツ事故の近年の傾向を把握し、事故の原因や事故対策について考察し、有効な事故防止策について理解する。また各競技種目の事故例をあげ、詳しく講述する。

＜授業の到達目標＞
学校体育・部活動や競技スポーツ、フィットネスジムなど様々なスポーツ現場で遭遇しうる事故等の危機管理に必要な基礎知識の習得が目標である。これまでスポーツにおけるリスクマネジメントは法学の分野で考察されることが多かったが、本授業ではそれに加え各競技や現場で起こる事例について扱うため、それぞれの分野での理解を求める。

＜授業の方法＞
授業は教科書を利用した対面の講義形式およびオンデマンドで実施し、課題はGoogle Classroomを用いて管理をする。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
復習　教科書を参考の上、毎時間課される授業課題について1時間程度実施することが望ましい。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業毎の小テスト・レポート 30%、期末試験 70%

＜教科書＞
環太平洋大学体育学部　編（2023/2/14 ）　体育授業のリスクマネジメント実践ハンドブック　大修館書店

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	リスクマネジメントの概要	体育授業におけるリスクマネジメントとはどのようなものか、概要について学ぶ
2	野外活動におけるリスクマネジメント	野外活動におけるリスクマネジメントについて理解を深める
3	スノースポーツ・マリンスポーツにおけるリスクマネジメント	スノースポーツ・マリンスポーツにおけるリスクマネジメントについて理解を深める
4	体つくり運動におけるリスクマネジメント	体つくり運動におけるリスクマネジメントについて理解を深める
5	器械運動におけるリスクマネジメント	器械運動におけるリスクマネジメントについて理解を深める
6	陸上競技におけるリスクマネジメント	陸上競技におけるリスクマネジメントについて理解を深める
7	水泳競技におけるリスクマネジメント	水泳競技におけるリスクマネジメントについて理解を深める
8	球技スポーツ「ゴール型」におけるリスクマネジメント	球技スポーツ「ゴール型」におけるリスクマネジメントについて理解を深める
9	球技スポーツ「ネット型」におけるリスクマネジメント	球技スポーツ「ネット型」におけるリスクマネジメントについて理解を深める
10	球技スポーツ「ベースボール型」におけるリスクマネジメント	球技スポーツ「ベースボール型」におけるリスクマネジメントについて理解を深める
11	柔道におけるリスクマネジメント	柔道におけるリスクマネジメントについて理解を深める
12	剣道におけるリスクマネジメント	剣道におけるリスクマネジメントについて理解を深める
13	ダンスにおけるリスクマネジメント	ダンスにおけるリスクマネジメントについて理解を深める
14	体育行事におけるリスクマネジメント	体育行事におけるリスクマネジメントについて理解を深める
15		
16		

科目コード	39106				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	日本語教育概論Ⅰ				担当者名	大平　真紀子			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択（日本語教師養成必修）

＜授業の概要＞
近年，日本語教育の現場と日本語学習者の多様化は著しく進んでおり，日本語教師には幅広い知識と，その知識をもとにそれぞれの現場に柔軟に対応する力が求められる。授業では，日本語教師の資質，国内と海外の日本語教育の現状，世界と日本の社会や文化など，日本語教育を取り巻く様々な情報を資料やデータに基づいて概説する。また，講義内容をもとに各自が調べ，発表することにより，理解を深める。なお，本科目は日本語教員養成のための科目である。その他の日本語教員養成科目と合わせて履修すること。

＜授業の到達目標＞
到達目標は以下の３点である。１．日本語教育を取り巻く様々な情報を整理し，全体像を把握する。２．日本語教師に求められる資質について考え，日本語教師になる心構えを作る。３．日本語教師になるために大学生活をどう過ごし，いつ何をすべきかについて考える。

＜授業の方法＞
基本的にハンドアウトを用いて講義形式で行うが，適宜グループ討議や学生によるプレゼンテーションなど，学生主体の活動を取り入れる。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
適宜グループやクラスでのディスカッション，発表を実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習として，各テーマについて事前にテキストを読むなどして知識を得ておく（約30分）。授業後は，授業内で出された課題について調べ，まとめる（約60分）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー５（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲20%，課題提出60%，試験20%プレゼンテーションのフィードバックは授業内で行う。期末課題についてはGoogle Classroomでフィードバックする。

＜教科書＞
ヒューマンアカデミー　日本語教育能力検定試験　完全攻略ガイド　第5版　翔泳社

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション日本語教育の概況	授業の概要と評価方法
2	日本国内の日本語教育事情（１）	日本の留学生施策
3	日本国内の日本語教育事情（２）	多様化する日本語学習者
4	日本国内の日本語教育事情（３）	学生による調査発表：日本語教師とは（１）
5	日本国内の日本語教育事情（４）	学生による調査発表：日本語教師とは（２）
6	海外の日本語教育事情（１）	アジアの日本語教育事情
7	海外の日本語教育事情（２）	ヨーロッパ，南北アメリカ，その他の地域の日本語教育事情
8	海外の日本語教育事情（３）	学生による調査発表：海外の日本語教育調査（１）
9	海外の日本語教育事情（４）	学生による調査発表：海外の日本語教育調査（２）
10	世界事情（１）	世界の社会と文化（１）
11	世界事情（２）	世界の社会と文化（２）
12	日本事情（１）	日本の社会と文化（１）
13	日本事情（２）	日本の社会と文化（２）
14	日本語試験のいろいろ（１）	日本語能力試験，BJT日本語ビジネステスト，J.TEST，日本留学試験，OPI
15		
16		

科目コード	39107				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	日本語教育概論Ⅱ				担当者名	大平　真紀子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択（日本語教師養成必修）

＜授業の概要＞
近年，日本語教育の現場と日本語学習者の多様化は著しく進んでおり，日本語教師には幅広い知識と，その知識をもとにそれぞれの現場に柔軟に対応する力が求められる。授業では，国内と海外の日本語教育の現状，世界と日本の社会や文化など，日本語教育を取り巻く様々な情報を資料やデータに基づいて概説する。また，講義内容をもとに各自が調べ，発表することにより，理解を深める。

＜授業の到達目標＞
到達目標は以下の３点である。１．日本語教育を取り巻く様々な情報を整理し，全体像を把握する。２．日本語教師に求められる資質について考え，日本語教師になる心構えを作る。３．日本語教師になるために大学生活をどう過ごし，いつ何をすべきかについて考える。

＜授業の方法＞
基本的にハンドアウトを用いて講義形式で行うが，適宜グループ討議や学生によるプレゼンテーションなど，学生主体の活動を取り入れる。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
適宜グループ発表やプレゼンテーションなどの活動を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習として，各テーマについて事前にテキストを読むなどして知識を得ておく（約30分）。授業後は，授業内で出された課題について調べ，まとめる（約60分）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー５（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
参加態度20%，課題提出50%，中間・期末課題または発表20%，まとめテスト10%　※まとめテストは13回目に実施する。フィードバックは授業内で行う。期末課題についてはGoogle Classroomでフィードバックする。

＜教科書＞
ヒューマンアカデミー　日本語教育能力検定試験　完全攻略ガイド　第5版　翔泳社

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション日本語教育の概況	授業の概要と評価方法授業の概要と評価方法／日本語学習者とは／日本語教師とは／国語教育や英語教育との違い
2	日本語教師の資質	日本語教育施策にみられる「日本語教師の資質」とは
3	日本語教師として働くには（1）	学生による調査発表：日本語教師の仕事とは
4	日本語教師として働くには（2）	学生による調査発表：日本語教師の募集状況
5	日本語教育能力検定試験	日本語教育能力検定試験の概要と内容の変遷
6	年少者に対する日本語教育日本の外国籍住民（1）	年少者に対する日本語教育の方法や問題点
7	年少者に対する日本語教育日本の外国籍住民（2）	バイリンガリズム
8	日本語教師の役割	学習者支援学習者オートノミーの育成
9	多文化共生社会（1）	地域社会と共生
10	多文化共生社会（2）	やさしい日本語
11	日本語教育史	戦前・戦中・戦後の日本語教育史
12	世界事情と日本事情	世界の社会と文化，日本の社会と文化
13	まとめテスト	まとめテスト
14	日本語教育関連事業日本語教師海外派遣プログラム	日本語教育関連機関青年海外協力隊，日系社会青年ボランティア，日本語パートナーズなどの各種プログラムの紹介，体験談
15		

16		

科目コード	39208				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	文章作成				担当者名	VRBOVSKY Matej			
配当年次	2年	配当学期	第１・第２クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本学科では、豊かな人間性を備えた、自己実現能力の育成、グローバルにもローカルにも貢献できる「グローバル人材」の養成を目指している。その目標を達成するためにはコミュニケーション能力の養成は不可欠である。 本授業では、現在の社会的・政治的・文化的・学術的知識を持ち、現代社会の諸問題の創造的解決にに向け、他者と協働・協力する能力の一つとして、日本語の文章によるコミュニケーション能力の育成を図る。本授業では、これまで学んできた日本語について復習し、文章作成の基礎から大学で必要とされる、レポート作成、論文作成の基礎

＜授業の到達目標＞
本授業の目標は以下、①一つは、大学生に必要とされる文章作成能力のうち、レポートの書き方を身につけ、卒業論文作成につなげることである。レポートは形式も重要であるが、客観的事実と主観的意見を書き分けなければならない。事実と意見を書き分け、意見にはその根拠となる事実を書けるようにする。②二つ目の目標は、社会に出てから必要とされる文書作成能力を身につけることである。これについても形式、内容を分かりやすく、的確に伝えるころができるようにする。

＜授業の方法＞
最初は、文章の書き方の基礎を勉強する。続いて、テーマに沿った文章を読み、そのテーマで使われる言葉を確認する。次に、同じテーマで文章を作成する。文章を書くにあたって、文体を整えること、書き言葉を使用すること、分かりやすい構成で書くことは非常に重要である。練習を繰り返すことによって、目的にあった、分かりやすい文章が書けるようにする。 毎回課題を提出させる（課題はClassroomにて提出）。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
本授業では、ピアレビュー、グループライティング、ディスカッション などのアクティブラーニングを取り入れ、学生が主体的に文章作成スキルを向上させる機会を提供する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：テキストの読解部分をあらかじめ読み、分からない単語を調べておく。（30分程度）復習：課題を書く。授業中書けなかった課題は、自宅で書き、必ず提出する。（30分程度）　　また、授業で習った新しい言葉についても復習し、覚えてほしい。（30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、学科のディプロマポリシー２（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー５（留学や国際交流などを通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として国際社会に貢献できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
平常点30%、授業課題30%（授業で解説）、期末課題 40%（翌週返却・解説）

＜教科書＞

＜参考書＞
藤尾喜代子・佐々木瑞枝・細井和代（2006/3/5）　大学で学ぶための日本語ライティング　短文からレポート作成まで　ジャパンタイムズ

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価の仕方の説明。よい文章とは何か？話し言葉と書き言葉はどう違うか？
2	簡潔に回答する	どうすれば簡潔に分かりやすく答えられるか？「比較」や「理由」の表現を用いて、質問に対して簡潔に答える力を養う。
3	情報を文章にする	わかりやすい説明とはどのようなものか？「位置」「定義」「列挙」などの表現を用いて、説明文を書く力を養う。
4	状況を説明し、意見を述べる	事実と意見はどのように区別すべきか？「状態・状況」などの表現を用いて、状況を説明し、それに基づいて意見を述べる力を養う。
5	段落を作る	よい段落とはどのような構造を持つか？文章を書くうえで必要な段落の構成や役割を理解する。
6	体験したことを報告する	出来事を分かりやすく伝えるには何が必要か？時間や出来事の順序を意識し、出来事をわかりやすく報告する文章を書く力を養う。
7	テーマにそった意見文を書く	説得力のある意見とはどのようなものか？「伝聞」の表現などを用いて、他者の意見

		と自分の主張を区別しながら論理的に述べる力を養う。
8	自分をアピールする文を書く	読み手に伝わる文章とはどのようなものか？読み手を意識し、自分の強みや考えを効果的に伝える力を養う。
9	レポートを書くための基礎知識	レポートは作文と何が違うのか？レポート作成の手順や基本的なルールを理解する。
10	順序立ててレポートを書く	論理的な文章とはどのような構造を持つか？レポートの構成（序論・本論・結論）を理解し、論理的な流れで文章を組み立てる力を養う。
11	引用してレポートを書く	なぜ引用が必要なのか？情報源を適切に示しながら引用を行う方法を理解する。
12	資料を利用してレポートを書く	資料をどのように文章で説明すればよいか？グラフや表などの資料を読み取り、その内容を文章で説明する力を養う。
13	レポート準備（1）	レポートの下書き
14	レポート準備（2）	期末課題のピアレビュー
15		
16		

科目コード	39210				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	総合日本語Ⅰ(基礎) [BC秋入学用]				担当者名	大平　真紀子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第３・第４クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本科目では、専門科目を学ぶための日本語能力をより確実に、正確なものとします。文章構築能力育成のための学習活動をするとともに、本科目では、特に、プレゼンテーション能力の育成を 目標に授業を進めます。そのために、学習者にはいくつかの課題を与え、実際にプレゼンテーションをしてもらい、それをもとに意見交換、議論を行います。プレゼンテーションでは、相手を意識した分かりやすい発表がポイントとなります。練習を繰り返し、また他の学習者のプレゼンテーションを見ることによって能力を伸ばします。

＜授業の到達目標＞

本科目の到達目標は、調査発表のための日本語運用力を養うことである。具体的には（1）指定された分野の日本語の語彙や表現を理解し、運用できるようになること、 （2）テーマ決定から調査、発表、レポート執筆までの流れを計画的に実行できるようになること、（3）相手を意識した分かりやすい発表が日本語でできるようになること、の３点である。

＜授業の方法＞

14回の授業を通じて３つのテーマを扱い、それぞれに関して、グラフや文章からの情報集めと調査発表を行う。グラフ の読み取りや読解を中心に据えた授業では、ワークシートを用いて講義形式で進め、調査発表の準備はグループ毎の活動とする。各テーマの途中で、グループ内で３～５分程度のミニ・プレゼンテーションと学生間でフィードバックを行い、各テーマの最終プレゼンテーションに備える。各テーマの最終プレゼンテーションでも学生間で相互評価を行う。 アイス・ブレーキングや読解の理解促進、及び調査発表のために２～４名のグループを作

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニング要素有。テーマについて、グループに分かれて調査、発表準備、発表を行う。その後は、グループ間でピアフィードバックを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前：語彙や読解の授業の前後には指定した箇所の新出表現の予習（約1時間）事後：振り返りと新出表現練習問題、文作成への取り組み（2時間）。　　その他、調査・発表準備・レポート作成は、基本的には授業外で行う（各テーマにつき合計5時間程度）。発表準備の際は、発表の原稿とパワーポイントの両方について、日本語母語話者（授業担当教員を含む）による日本語チェックを行うことを必須とする。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 40%、プレゼンテーション 30%、レポート 30%プレゼンテーションのフィードバックは授業内で行う。

＜教科書＞

安藤節子・佐々木薫・赤木浩文・田口典子・鈴木孝恵 編著　トピックによる日本語総合演習 テーマ探しから発表へ 上級　スリーエーネットワーク

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	授業の概要説明、調査準備	授業概要と評価方法に関する説明、グループでの調査準備
2	食文化（1）導入とグラフの読み取り	グループディスカッションによるアイスブレーキング、語彙や表現の導入
3	食文化（2）読解１	ピア・リーディングによる大意取り
4	食文化（3）読解２，発表準備	精読、グループ内でのミニ・プレゼンテーション
5	食文化（4）調査発表	グループごとのプレゼンテーション
6	食文化（5）フィードバック仕事（1）導入	前回のフィードバック語彙や表現の導入、グループディスカッション
7	仕事（2）読解１	ピア・リーディングによる大意取り
8	仕事（3）読解２、インタビュー調査の方法	精読、インタビュー調査で用いる表現の確認、発表時のまとめ方
9	仕事（4）調査発表	グループごとのプレゼンテーション
10	仕事（5）フィードバック生活習慣と宗教（1）導入	前回のフィードバック語彙や表現の導入、グループディスカッション
11	生活習慣と宗教（2）読解１	ピア・リーディングによる大意取り
12	生活習慣と宗教（3）読解２、調査準備	精読、グループでの調査準備
13	生活習慣と宗教（4）発表準備	グループ内でのミニ・プレゼンテーション

14	生活習慣と宗教（5）調査発表	プレゼンテーション
15		
16		

科目コード	39210				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	総合日本語Ⅰ(基礎) [BC留学生用]				担当者名	片上　摩紀			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第１・第２クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本科目では、専門科目を学ぶための日本語能力をより確実に、正確なものとします。文章構築能力育成のための学習活動をするとともに、本科目では、特に、プレゼンテーション能力の育成を 目標に授業を進めます。そのために、学習者にはいくつかの課題を与え、実際にプレゼンテーションをしてもらい、それをもとに意見交換、議論を行います。プレゼンテーションでは、相手を意識した分かりやすい発表がポイントとなります。練習を繰り返し、また他の学習者のプレゼンテーションを見ることによって能力を伸ばします。

＜授業の到達目標＞
本科目の到達目標は、調査発表のための日本語運用力を養うことである。具体的には（1）指定された分野の日本語の語彙や表現を理解し、運用できるようになること、 （2）テーマ決定から調査、発表、レポート執筆までの流れを計画的に実行できるようになること、（3）相手を意識した分かりやすい発表が日本語でできるようになること、の３点である。

＜授業の方法＞
14回の授業を通じて３つのテーマを扱い、それぞれに関して、グラフや文章からの情報集めと調査発表を行う。グラフ の読み取りや読解を中心に据えた授業では、ワークシートを用いて講義形式で進め、調査発表の準備はグループ毎の活動とする。各テーマの途中で、グループ内で３～５分程度のミニ・プレゼンテーションと学生間でフィードバックを行い、各テーマの最終プレゼンテーションに備える。各テーマの最終プレゼンテーションでも学生間で相互評価を行う。 アイス・ブレーキングや読解の理解促進、及び調査発表のために２～４名のグループを作

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング要素有。テーマについて、グループに分かれて調査、発表準備、発表を行う。その後は、グループ間でピアフィードバックを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前：語彙や読解の授業の前後には指定した箇所の新出表現の予習（約1時間）事後：振り返りと新出表現練習問題、文作成への取り組み（2時間）。　　その他、調査・発表準備・レポート作成は、基本的には授業外で行う（各テーマにつき合計5時間程度）。発表準備の際は、発表の原稿とパワーポイントの両方について、日本語母語話者（授業担当教員を含む）による日本語チェックを行うことを必須とする。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２(経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲 40%、プレゼンテーション 30%、レポート 30%プレゼンテーションのフィードバックは授業内で行う。

＜教科書＞
安藤節子・佐々木薫・赤木浩文・田口典子・鈴木孝恵 編著　トピックによる日本語総合演習 テーマ探しから発表へ 上級　スリーエーネットワーク

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	授業の概要説明、調査準備	授業概要と評価方法に関する説明、グループでの調査準備
2	食文化（1）導入とグラフの読み取り	グループディスカッションによるアイスブレーキング、語彙や表現の導入
3	食文化（2）読解１	ピア・リーディングによる大意取り
4	食文化（3）読解２，発表準備	精読、グループ内でのミニ・プレゼンテーション
5	食文化（4）調査発表	グループごとのプレゼンテーション
6	食文化（5）フィードバック仕事（1）導入	前回のフィードバック語彙や表現の導入、グループディスカッション
7	仕事（2）読解１	ピア・リーディングによる大意取り
8	仕事（3）読解２、インタビュー調査の方法	精読、インタビュー調査で用いる表現の確認、発表時のまとめ方
9	仕事（4）調査発表	グループごとのプレゼンテーション
10	仕事（5）フィードバック生活習慣と宗教（1）導入	前回のフィードバック語彙や表現の導入、グループディスカッション
11	生活習慣と宗教（2）読解１	ピア・リーディングによる大意取り

12	生活習慣と宗教（3）読解２、調査準備	精読、グループでの調査準備
13	生活習慣と宗教（4）発表準備	グループ内でのミニ・プレゼンテーション
14	生活習慣と宗教（5）調査発表	プレゼンテーション
15		
16		

科目コード	39211				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	総合日本語Ⅱ(応用)[BC秋入学生用]				担当者名	小宮　さおり			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業では、『新訂版 トピックによる日本語総合演習 テーマ探しから発表へ 上級』の第3章「生活習慣と宗教」、第4章「リサイクル」、第5章「ジェンダー」を取り上げる。各章において、グラフや読み物からテーマに関する知識を得たうえで、情報交換、比較、調査、報告の活動を行う。第3章ではアンケート調査、第4章では文献調査、第5章ではインタビュー調査を実践し、それぞれの章の中で成果をまとめる。授業全体としては、読む・聞く・話す・書くの4技能を統合的に用いながら、社会的テーマに関する情報を整理し、根拠に基づいて考えを述

＜授業の到達目標＞
本授業では、受講者が以下のことをできるようになることを目標とする。１．「生活習慣と宗教」「リサイクル」「ジェンダー」に関する文章、グラフ、資料の要点を理解し、整理することができる。２．日本と自国、あるいは複数の社会に見られる共通点・相違点を比較し、背景を説明することができる。３．アンケート調査、文献調査、インタビュー調査という3種類の情報収集方法を理解し、実際に用いることができる。４．収集した情報を整理・分析し、短い報告や口頭発表の形で分かりやすくまとめることができる。５．意見交換や質疑応答において、相手

＜授業の方法＞
授業では、本文読解、グラフ読解、語彙確認、情報交換、ペア・グループ活動、調査活動、口頭報告、簡単な文章作成を組み合わせて進める。各章は原則として4回構成とし、「理解する」「比較する」「調査を準備する」「結果を報告する」という流れで完結させる。第14回は3章の学習を振り返り、それぞれの調査方法の特徴と課題を整理する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループ内でのディスカッションやプレゼンテーション、クラス内でのプレゼンテーション、ピア・リーディング等を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
受講者は、毎回の授業に先立ち、指定された本文や資料を読んで内容を確認し、必要な語句や論点を整理して授業に臨むこと。授業後は、ノート整理、比較表の作成、調査結果のまとめ、報告原稿の見直し等を行うこと。目安として、各回につき事前学習90分、事後学習90分程度を要する。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー５（留学や国際交流などを通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として国際社会に貢献できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業参加・ディスカッションへの貢献 20%各回の課題（語彙文法小テスト、要約、比較表、文献メモ、調査計画等） 25%第3章アンケート調査報告 20%第4章文献調査成果物（短報告文） 15%第5章インタビュー調査報告 20%評価にあたっては、結果だけでなく、資料の理解、比較の観点、調査の準備、情報整理、報告の分かりやすさ、質疑応答への姿勢など、学習の過程も重視する。教材にも、情報交換発表、アンケート調査発表、インタビュー調査発表、文献調査と冊子作成に対応する評価シートが用意されており、これらの観点を参考にし

＜教科書＞
安藤節子・佐々木薫・赤木浩文・田口典子・鈴木孝恵 編著　トピックによる日本語総合演習 テーマ探しから発表へ 上級　スリーエーネットワーク

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス／授業全体の見通し	オリエンテーション：授業の目的、進め方、評価方法の説明。3テーマと3種類の調査方法の概要を確認する。
2	第3章 生活習慣と宗教① 理解	本文・グラフ読解、重要語彙の確認
3	第3章 生活習慣と宗教② 比較	日本と自国の比較、情報交換
4	第3章 生活習慣と宗教③ アンケート調査準備	アンケート調査の計画、質問項目の作成
5	第3章 生活習慣と宗教④ アンケート調査報告	アンケート結果の報告、ミニ発表、質疑応答
6	第4章 リサイクル① 理解	本文・グラフ読解、論点整理

7	第4章 リサイクル② 文献調査基礎	文献調査の方法、要約・引用・出典の示し方
8	第4章 リサイクル③ 文献比較・構成	複数資料の比較、情報整理、構成づくり
9	第4章 リサイクル④ 文献調査報告	文献調査の成果共有、冊子・短報告文の提出
10	第5章 ジェンダー① 理解	本文・グラフ読解、用語整理
11	第5章 ジェンダー② 比較・意見交換	事例比較、立場の違いの整理、意見交換
12	第5章 ジェンダー③ インタビュー調査準備	インタビュー調査の計画、質問項目の検討
13	第5章 ジェンダー④ インタビュー調査報告	インタビュー結果の報告、考察の共有
14	まとめ／3つの調査方法の整理	全体の振り返り：3つのテーマと3つの調査方法の比較、学習成果の整理
15		
16		

科目コード	39211				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	総合日本語Ⅱ(応用) [BC留学生用]				担当者名	小宮　さおり			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業では、『新訂版 トピックによる日本語総合演習 テーマ探しから発表へ 上級』の第3章「生活習慣と宗教」、第4章「リサイクル」、第5章「ジェンダー」を取り上げる。各章において、グラフや読み物からテーマに関する知識を得たうえで、情報交換、比較、調査、報告の活動を行う。第3章ではアンケート調査、第4章では文献調査、第5章ではインタビュー調査を実践し、それぞれの章の中で成果をまとめる。授業全体としては、読む・聞く・話す・書くの4技能を統合的に用いながら、社会的テーマに関する情報を整理し、根拠に基づいて考えを述

＜授業の到達目標＞
本授業では、受講者が以下のことをできるようになることを目標とする。１．「生活習慣と宗教」「リサイクル」「ジェンダー」に関する文章、グラフ、資料の要点を理解し、整理することができる。２．日本と自国、あるいは複数の社会に見られる共通点・相違点を比較し、背景を説明することができる。３．アンケート調査、文献調査、インタビュー調査という3種類の情報収集方法を理解し、実際に用いることができる。４．収集した情報を整理・分析し、短い報告や口頭発表の形で分かりやすくまとめることができる。５．意見交換や質疑応答において、相手

＜授業の方法＞
授業では、本文読解、グラフ読解、語彙確認、情報交換、ペア・グループ活動、調査活動、口頭報告、簡単な文章作成を組み合わせて進める。各章は原則として4回構成とし、「理解する」「比較する」「調査を準備する」「結果を報告する」という流れで完結させる。第14回は3章の学習を振り返り、それぞれの調査方法の特徴と課題を整理する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループ内でのディスカッションやプレゼンテーション、クラス内でのプレゼンテーション、ピア・リーディング等を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
受講者は、毎回の授業に先立ち、指定された本文や資料を読んで内容を確認し、必要な語句や論点を整理して授業に臨むこと。授業後は、ノート整理、比較表の作成、調査結果のまとめ、報告原稿の見直し等を行うこと。目安として、各回につき事前学習90分、事後学習90分程度を要する。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー５（留学や国際交流などを通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として国際社会に貢献できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業参加・ディスカッションへの貢献 20%各回の課題（語彙文法小テスト、要約、比較表、文献メモ、調査計画等） 25%第3章アンケート調査報告 20%第4章文献調査成果物（短報告文） 15%第5章インタビュー調査報告 20%評価にあたっては、結果だけでなく、資料の理解、比較の観点、調査の準備、情報整理、報告の分かりやすさ、質疑応答への姿勢など、学習の過程も重視する。教材にも、情報交換発表、アンケート調査発表、インタビュー調査発表、文献調査と冊子作成に対応する評価シートが用意されており、これらの観点を参考にし

＜教科書＞
安藤節子・佐々木薫・赤木浩文・田口典子・鈴木孝恵 編著　トピックによる日本語総合演習 テーマ探しから発表へ 上級　スリーエーネットワーク

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス／授業全体の見通し	オリエンテーション：授業の目的、進め方、評価方法の説明。3テーマと3種類の調査方法の概要を確認する。
2	第3章 生活習慣と宗教① 理解	本文・グラフ読解、重要語彙の確認
3	第3章 生活習慣と宗教② 比較	日本と自国の比較、情報交換
4	第3章 生活習慣と宗教③ アンケート調査準備	アンケート調査の計画、質問項目の作成
5	第3章 生活習慣と宗教④ アンケート調査報告	アンケート結果の報告、ミニ発表、質疑応答
6	第4章 リサイクル① 理解	本文・グラフ読解、論点整理

7	第4章 リサイクル② 文献調査基礎	文献調査の方法、要約・引用・出典の示し方
8	第4章 リサイクル③ 文献比較・構成	複数資料の比較、情報整理、構成づくり
9	第4章 リサイクル④ 文献調査報告	文献調査の成果共有、冊子・短報告文の提出
10	第5章 ジェンダー① 理解	本文・グラフ読解、用語整理
11	第5章 ジェンダー② 比較・意見交換	事例比較、立場の違いの整理、意見交換
12	第5章 ジェンダー③ インタビュー調査準備	インタビュー調査の計画、質問項目の検討
13	第5章 ジェンダー④ インタビュー調査報告	インタビュー結果の報告、考察の共有
14	まとめ／3つの調査方法の整理	全体の振り返り：3つのテーマと3つの調査方法の比較、学習成果の整理
15		
16		

科目コード	39214				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	日本ビジネス事情				担当者名	小宮　さおり			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第３・第４クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
外国人が日本で就職する際、日本語はもちろん、日本と自国のビジネスにおける違いを理解しなければなりません。本科目では、日本におけるビジネスケースを通して、日本のビジネス事情について知ることを目標とします。

＜授業の到達目標＞
本科目では次の3点を目標とする。１．ビジネスに関する日本語の語彙や表現を知る。２．日本のビジネス事情や特異性について知る。３．日本のビジネス事情についての意見を持ち、発信できる。

＜授業の方法＞
14回の授業で4つのビジネスケースを扱い、それぞれに関して、語彙・文法・表現・読解の学習を通じてそのテーマについて内容を深めます。また、理解のみならず、学習した内容を用いて他者に問いかけ、他者の問いかけ・意見を聞いてそれに適切に応えられるようにします。本科目ではアウトプットすることを重視し、最終的はそのテーマについて自分の意見が言えるようにすることが目標です。提出物はGoogle Classroomを用いて提出します。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニング有り。本授業では、テーマごとに3～４人でディスカッション、グループワーク、発表 などのアクティブラーニングを取り入れる。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：予め指示された文法項目や単語の確認をしておく。（30分程度）復習：練習した文型や会話を覚え、実践できるように練習する。（1時間程度）発展：意見を発表できるようにまとめる。（2時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２(経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
参加態度・学習意欲20%、課題50%、テスト（語彙・文法）30%小テスト，発表は授業内でフィードバックする。

＜教科書＞
高見智子　中級から伸ばす　ビジネスケースで学ぶ日本語　（株）ジャパンタイムズ

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業概要と評価方法に関する説明
2	ビジネスケース（１）ー１	前作業
3	ビジネスケース（１）ー２	読み物／ディスカッション
4	ビジネスケース（２）ー１	前作業
5	ビジネスケース（２）ー２	読み物
6	ビジネスケース（２）ー３	ディスカッション
7	ビジネスケース（３）ー１	前作業
8	ビジネスケース（３）ー２	読み物
9	ビジネスケース（３）ー３	ディスカッション
10	ビジネスケース（４）ー１	前作業
11	ビジネスケース（４）ー２	読み物
12	ビジネスケース（４）ー３	ディスカッション
13	ビジネスケース（４）発展	日本のビジネスケースの考察・発表
14	テスト	復習テスト
15		
16		

科目コード	39303				区　分	コア科目		
授業科目名	日本語演習Ⅰ［2026年度入学BC留学生用］				担当者名	小宮　さおり		
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業は、日本語能力試験N2合格に必要な「言語知識（文字・語彙・文法）」「読解」「聴解」の力を総合的に養成することを目的とする。教材『TRY！日本語能力試験 N2 文法から伸ばす日本語』を用い、日常的・社会的な場面の文章から、論説文、エッセー、会議、物語、コラム・社説へと段階的に学習を進める。授業では、単に文法項目を暗記するのではなく、文脈の中で意味と機能を理解し、N2形式の問題に対応できる読解力・聴解力を養う。特に、論旨の把握、筆者の意図の理解、自然に近い速度の会話やニュースの要点把握を重視する。授業

＜授業の到達目標＞
１．日本語能力試験N2レベルの重要語彙・文法項目を理解し、文脈に応じて判断できる。２．告知文、説明文、エッセー、論説文、紹介文、物語文、コラム・社説などを読み、内容、論理展開、筆者の主張や意図を把握できる。３．ニュース、説明、会話、案内などの聴解問題において、要点、理由、条件、結論を聞き取ることができる。４．N2形式の問題に対応できる読解・聴解の解法を身につけ、時間配分を意識して問題に取り組むことができる。５．本試験に向けて自分の弱点を把握し、授業外学習を通して継続的に補強できる。

＜授業の方法＞
授業では、本文の内容理解、重点文法の整理、読解・聴解演習、試験形式問題、振り返りを組み合わせて進める。毎回、前回の学習内容を確認する小テストを実施し、語彙・文法・内容理解の定着を図る。また、ペア活動やグループ活動を通して、要約、情報整理、比較、意見交換、会話練習などを行い、学習内容を運用できる力を養う。なお、本授業では、日々の予習・復習、小テスト、提出課題などの継続的な学習を重視する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
本授業では、語彙・文法クイズ、ディスカッション、ピアレビューなどのアクティブラーニングを取り入れ、試験対策に必要なスキルを強化する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業外では、毎回、本文の予習、語彙確認、練習問題、短作文または要約課題に取り組むこと。1回の授業につき、おおむね2～3時間程度の授業外学習を想定する。特に、知らない語彙の整理、重点文法の例文作成、読解本文の段落要約、聴解スクリプトの復習、模擬問題の解き直しを重視する。N2対策では、授業時間だけでなく、継続的な復習と形式慣れが重要であるため、毎回の課題を計画的に行うこと。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）およびディプロマポリシー５（留学や国際交流などを通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として国際社会に貢献できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業参加・授業内活動　20%小テスト　30%課題提出　30%前半まとめテスト　10%後半まとめテスト　10%

＜教科書＞
ABK（公益財団法人　アジア学生文化協会）　TRY！日本語能力試験N2　文法から伸ばす日本語　ASK
星野恵子・辻和子

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション／募集情報の読解	授業概要の確認、到達目標の共有、N2レベルの読解の特徴を理解する。告知文・募集要項を読み、条件・対象・注意事項を正確に把握する練習を行う。
2	改まったあいさつとスピーチ表現	転任やお礼のあいさつを題材に、改まった場面で用いられる表現を学ぶ。文章の流れを追いながら、感謝・回想・今後の展望を表す文法や表現を確認する。
3	仕事の説明とニュース聴解	仕事に関する説明文を読み、内容を整理する力を養う。あわせて、天気予報や台風情報などのニュースを聞き、重要情報を聞き取る練習を行う。
4	文困った状況の説明と共感表現	就職活動を題材に、困難な状況や気持ちを説明する表現を学ぶ。会話文を通して、相手への共感や励ましの表現も確認する。
5	苦労・決意・心情の表現	経験談を読み、苦労や葛藤、決意の表現を学ぶ。文脈の中で話し手の気持ちの変化を捉え、適切に理解する練習を行う。
6	論説文の読解①	生態系に関する文章を読み、説明文・論説文の読み方を学ぶ。対比、変化、因果関係に着目しながら、段落ごとの要点を整理する。
7	ビジネス場面の敬語／前半の復習	取引先とのやりとりを題材に、ビジネス場面での敬語表現を学ぶ。前半の学習内容

		を整理し、文法・読解・聴解の総復習を行う。
8	自然な会話表現の理解	身近な話題を扱った会話文を通して、話し言葉特有の自然な表現やニュアンスを学ぶ。話者の気持ちや評価を読み取る練習を行う。
9	エッセーの読解	満員電車を題材としたエッセーを読み、筆者の考え方や感じ方を理解する。事実と意見を区別しながら、文章の流れをつかむ練習を行う。
10	紹介文の読解と説明表現	紹介記事を読み、情報の整理のしかたや説明の構成を学ぶ。あわせて、会議や説明場面で用いられる表現の基礎を確認する。
11	会議での説明と意見表明	商品開発を題材に、会議で説明したり意見を述べたりする表現を学ぶ。条件提示、仮定、判断の表現を整理し、実践的に用いる練習を行う。
12	物語文の読解と心情理解	人生の転機を描いた物語を読み、出来事の流れと登場人物の心情変化を理解する。決意、迷い、感情の強さを表す表現を確認する。
13	論説文の読解②／主張理解	オリンピック開催に関するコラム・社説を読み、筆者の説明と主張を読み取る。論点、根拠、結論の関係を整理しながら読む練習を行う。
14	総まとめ・模擬問題演習	これまでの学習内容を総復習し、N2形式の模擬問題に取り組む。文法・読解・聴解の弱点を確認し、受験に向けた最終整理を行う。
15		
16		

科目コード	39304				区　分	コア科目		
授業科目名	日本語演習Ⅱ［2026年度入学BC留学生用］				担当者名	小宮　さおり		
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業は、日本語能力試験N2合格に必要な「言語知識（文字・語彙・文法）」「読解」「聴解」の力を総合的に養成することを目的とする。教材『TRY！日本語能力試験 N2 文法から伸ばす日本語』を用い、日常的・社会的な場面の文章から、論説文、エッセー、会議、物語、コラム・社説へと段階的に学習を進める。授業では、単に文法項目を暗記するのではなく、文脈の中で意味と機能を理解し、N2形式の問題に対応できる読解力・聴解力を養う。特に、論旨の把握、筆者の意図の理解、自然に近い速度の会話やニュースの要点把握を重視する。授業

＜授業の到達目標＞
１．日本語能力試験N2レベルの重要語彙・文法項目を理解し、文脈に応じて判断できる。２．告知文、説明文、エッセー、論説文、紹介文、物語文、コラム・社説などを読み、内容、論理展開、筆者の主張や意図を把握できる。３．ニュース、説明、会話、案内などの聴解問題において、要点、理由、条件、結論を聞き取ることができる。４．N2形式の問題に対応できる読解・聴解の解法を身につけ、時間配分を意識して問題に取り組むことができる。５．本試験に向けて自分の弱点を把握し、授業外学習を通して継続的に補強できる。

＜授業の方法＞
授業では、本文の内容理解、重点文法の整理、読解・聴解演習、試験形式問題、振り返りを組み合わせて進める。毎回、前回の学習内容を確認する小テストを実施し、語彙・文法・内容理解の定着を図る。また、ペア活動やグループ活動を通して、要約、情報整理、比較、意見交換、会話練習などを行い、学習内容を運用できる力を養う。なお、本授業では、日々の予習・復習、小テスト、提出課題などの継続的な学習を重視する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
本授業では、語彙・文法クイズ、ディスカッション、ピアレビューなどのアクティブラーニングを取り入れ、試験対策に必要なスキルを強化する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業外では、毎回、本文の予習、語彙確認、練習問題、短作文または要約課題に取り組むこと。1回の授業につき、おおむね2～3時間程度の授業外学習を想定する。特に、知らない語彙の整理、重点文法の例文作成、読解本文の段落要約、聴解スクリプトの復習、模擬問題の解き直しを重視する。N2対策では、授業時間だけでなく、継続的な復習と形式慣れが重要であるため、毎回の課題を計画的に行うこと。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）およびディプロマポリシー５（留学や国際交流などを通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として国際社会に貢献できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業参加・授業内活動　20%小テスト　30%課題提出　30%前半まとめテスト　10%最終模擬問題演習　10%

＜教科書＞
ABK（公益財団法人　アジア学生文化協会）　TRY！日本語能力試験N2　文法から伸ばす日本語　ASK
星野恵子・辻和子

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション／募集情報の読解	授業概要の確認、到達目標の共有、N2レベルの読解の特徴を理解する。告知文・募集要項を読み、条件・対象・注意事項を正確に把握する練習を行う。
2	改まったあいさつとスピーチ表現	転任やお礼のあいさつを題材に、改まった場面で用いられる表現を学ぶ。文章の流れを追いながら、感謝・回想・今後の展望を表す文法や表現を確認する。
3	仕事の説明とニュース聴解	仕事に関する説明文を読み、内容を整理する力を養う。あわせて、天気予報や台風情報などのニュースを聞き、重要情報を聞き取る練習を行う。
4	文困った状況の説明と共感表現	就職活動を題材に、困難な状況や気持ちを説明する表現を学ぶ。会話文を通して、相手への共感や励ましの表現も確認する。
5	苦労・決意・心情の表現	経験談を読み、苦労や葛藤、決意の表現を学ぶ。文脈の中で話し手の気持ちの変化を捉え、適切に理解する練習を行う。
6	論説文の読解①	生態系に関する文章を読み、説明文・論説文の読み方を学ぶ。対比、変化、因果関係に着目しながら、段落ごとの要点を整理する。
7	ビジネス場面の敬語／前半の復習	取引先とのやりとりを題材に、ビジネス場面での敬語表現を学ぶ。前半の学習内容

		を整理し、文法・読解・聴解の総復習を行う。
8	自然な会話表現の理解	身近な話題を扱った会話文を通して、話し言葉特有の自然な表現やニュアンスを学ぶ。話者の気持ちや評価を読み取る練習を行う。
9	エッセーの読解	満員電車を題材としたエッセーを読み、筆者の考え方や感じ方を理解する。事実と意見を区別しながら、文章の流れをつかむ練習を行う。
10	紹介文の読解と説明表現	紹介記事を読み、情報の整理のしかたや説明の構成を学ぶ。あわせて、会議や説明場面で用いられる表現の基礎を確認する。
11	会議での説明と意見表明	商品開発を題材に、会議で説明したり意見を述べたりする表現を学ぶ。条件提示、仮定、判断の表現を整理し、実践的に用いる練習を行う。
12	物語文の読解と心情理解	人生の転機を描いた物語を読み、出来事の流れと登場人物の心情変化を理解する。決意、迷い、感情の強さを表す表現を確認する。
13	論説文の読解②／主張理解	オリンピック開催に関するコラム・社説を読み、筆者の説明と主張を読み取る。論点、根拠、結論の関係を整理しながら読む練習を行う。
14	総まとめ・模擬問題演習	これまでの学習内容を総復習し、N2形式の模擬問題に取り組む。文法・読解・聴解の弱点を確認し、受験に向けた最終整理を行う。
15		
16		

科目コード	39306				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	日本語演習Ⅳ［不開講][2026年度入学BC留学生用]				担当者名	片上　摩紀			
配当年次	1年	配当学期	第４クォーター	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本授業は、N1レベルの日本語運用力を身につけることを目標としています。本授業では、言語知識分野を中心に扱います。授業外の学習を重視し、事前に指定の教材で文字・語彙・文法の自習をしてもらいます。この予習（知識理解）を前提とし、授業ではやり取りを通した演習を中心に進め、高い日本語運用力を身につけることを目指します。本授業では授業外に多くの練習問題を課題として出すほか、授業の中で個別の質問にできる限り答えることで、受講者の学習を支援します。

＜授業の到達目標＞

日本語能力試験N1レベルの日本語を理解し、運用することができる。

＜授業の方法＞

文字・語彙については、教材を通して自習したものを授業のはじめに小テストで確認する。授業は、演習形式で、やりとりを通して、言語知識の教授、定着を目指す。授業内外で、Google Classroomを通じ、Google Form、Google documentを活用し、知識の確認を行う。学習管理もGoogle Classroomで行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブラーニングの要素有り。ペアになり、その授業回で学んだ言語知識を活用したやりとりを行い、ペアごとに発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に、語彙教材を活用して、語彙の意味を調べ、覚えるなど自習学習（1時間程度）、また、その回に学習予定の文型項目・表現の知識理解（1時間程度）を求めます。事後に、学んだ言語知識を活用した事後課題（1時間程度）を求めます。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題提出20%、小テスト30%、復習テスト40%、授業参加度10%　課題に関するフィードバックは授業内で行う。授業外の質問にも適宜対応する。

＜教科書＞

ABK（公益財団法人　アジア学生文化協会）　TRY！日本語能力試験N1　文法から伸ばす日本語　ASK
星野恵子・辻和子　ドリル＆ドリル　日本語能力試験　N1文字・語彙　UNICOM

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業内容・評価方法の説明。課題・質問のやり取りの説明
2	文字・語彙６文法５．（２）	文字語彙小テスト・解説文法解説・練習
3	文字語彙７文法５．（３）	文字語彙小テスト・解説文法解説・練習
4	文字語彙８文法６．	文字語彙小テスト・解説文法解説・練習
5	語彙９文法７．（１）	文字語彙小テスト・解説文法解説・練習
6	語彙１０文法７．（２）	文字語彙小テスト・解説文法解説・練習
7	復習テスト	テスト実施
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	3C201				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	言語学				担当者名	田岡　希望			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択（日本語教師養成必修）

＜授業の概要＞
本授業では、まず、語形変化・語順・文構造などの観点から、複数の言語を比較することによって、日本語の特徴を理解していく。また、人間の言語理解・習得のメカニズムとプロセス、学習者の言語習得に影響する要因について学び、日本語学習者と接するための視点を養う。

＜授業の到達目標＞
到達目標は以下の３点である。１．言語を形態的・統語的に捉えることができるようになる。２．言語理解・習得のプロセスを理解することができるようになる。３．上記の知識を使って、学習者の言語使用からその背景と理由を分析できるようになる。

＜授業の方法＞
本授業は基本的に講義形式で行うが、適宜グループワークを取り入れる。課題管理については、Google Classroomを用いる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素有（グループワーク）：3、4人のグループに分かれ、テーマについてディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習：予習として、各テーマについて事前にテキストを読み、知識を得ておくこと（1時間程度）。事後学習：授業後は、授業で学習したことの振り返り、レジュメ整理、事後課題などに取り組むこと（1時間半程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４(地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業参加態度 20%、課題提出 20%、中間試験 30%、期末試験 30%フィードバックは授業内で行う（ただし、期末試験についてはGoogle Classroomにて行う）。

＜教科書＞
ヒューマンアカデミー（2021年2月19日）　日本語教育教科書　日本語教育能力検定試験　完全攻略ガイド　第５版　翔泳社

＜参考書＞
佐々木泰子　編（2007年4月23日）　ベーシック日本語教育　ひつじ書房

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション、「言語学」とは	授業の概要と評価方法の説明、「言語学」とはどんな学問か
2	一般言語学・対照言語学（１）	言語の多様性
3	一般言語学・対照言語学（２）	言語研究の諸分野
4	一般言語学・対照言語学（３）	言語の比較
5	言語理解の過程（１）	言語処理の種類（トップダウン処理、ボトムアップ処理）、談話
6	言語理解の過程（２）	二重貯蔵モデル、ワーキングメモリ、長期記憶
7	言語理解の過程（３）	心理言語学
8	中間試験	中間試験、フィードバック
9	言語習得・発達（１）	第一言語習得
10	言語習得・発達（２）	第二言語習得研究
11	言語習得・発達（３）	言語転移と誤用、習得順序と発達順序
12	言語習得・発達（４）	第二言語習得における個人差
13	言語習得・発達（５）	認知スタイルと学習ストラテジー
14	言語習得・発達（６）、期末試験	期末試験、フィードバック、バイリンガリズム
15		
16		

科目コード	3C202				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	日本語学Ⅰ				担当者名	大平　真紀子			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択（日本語教師養成必修）

＜授業の概要＞
この授業では日本語の音声,語彙体系,文字表記の基礎知識を学ぶ。日本語の特徴を理解することによって客観的に日本語を理解し,日本語学習者を指導するための視点を養う。なお，本科目は日本語教員養成のための科目である。その他の日本語教員養成科目と合わせて履修すること。

＜授業の到達目標＞
本科目の到達目標は以下の3点である。①日本語の音声・音韻体系を理解すること②日本語の形態・語彙体系，文字表記の知識を身につけること③上記の知識を使って，日本語を分析できること

＜授業の方法＞
基本的に講義形式で行うが，グループワークも取り入れる。課題はGoogle Classroomを用いて提出する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
適宜グループやクラスでのディスカッション，発表を実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：教科書の該当ページを読む（30分程度）復習：用語を復習し，定着を図る（30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー５（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業参加態度20%，小テスト20%，課題提出40%，試験20%発表やプレゼンテーションのフィードバックは授業内で行う。課題についてはGoogle Classroomでフィードバックする。

＜教科書＞
ヒューマンアカデミー　日本語教育教科書日本語能力検定試験完全攻略ガイド第５版　翔泳社

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の概要と評価方法の説明，音の作られ方
2	日本語の音韻・音声体系（1）	母音と子音，有声音と無声音
3	日本語の音韻・音声体系（2）	調音点，調音法
4	日本語の音韻・音声体系（3）	音声と音韻
5	日本語の音韻・音声体系（4）	五十音の発音
6	日本語の音韻・音声体系（5）	アクセント，イントネーション，プロミネンス
7	日本語の音韻・音声体系（6）	日本語学習者の誤用・発音上の問題点
8	日本語の音韻・音声体系（7）	日本語の音韻・音声体系のまとめ
9	言語の構造（1）	日本語の形態
10	言語の構造（2）	日本語の語彙体系
11	日本語の分析（1）	日本語学習者の音声分析
12	日本語の分析（2）	日本語の語彙分析
13	文字と表記	日本語の文字と表記
14	まとめテスト	日本語の音韻・形態・文字表記
15	日本語の	
16		

科目コード	3C203				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	日本語学Ⅱ				担当者名	大平　真紀子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択（日本語教師養成必修）

＜授業の概要＞
この授業では日本語の文法，意味体系，語用論的規範の知識を学ぶ。日本語の特徴を理解することによって，客観的に日本語を理解し，日本語学習者を指導するための視点を養う。日本語学Ⅰを習得した上で履修すること。

＜授業の到達目標＞
本科目の到達目標は以下の３点である。①日本語の文法体系を理解すること②日本語の意味体系を理解し，分析できること③日本語の語用論的規範を理解し，分析できること

＜授業の方法＞
基本的にハンドアウトを用いて講義形式で行うが，適宜グループ討議や学生によるプレゼンテーションなど，学生主体の活動を取り入れる。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
適宜グループやクラスでのディスカッション，発表を実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：教科書の該当ページを読む（30分程度）復習：用語を復習し，定着を図る（30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー５（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業参加態度20%，課題提出40%，発表・プレゼンテーション20%，試験20%発表やプレゼンテーションのフィードバックは授業内で行う。課題についてはGoogle Classroomでフィードバックする。

＜教科書＞
ヒューマンアカデミー　日本語教育能力検定試験　完全攻略ガイド　第5版　翔泳社

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の概要と評価方法の説明
2	文法体系（1）	品詞
3	文法体系（2）	文型，助詞
4	文法体系（3）	自動詞と他動詞、ヴォイス
5	文法体系（4）	テンス，アスペクト
6	文法体系（5）	モダリティー，待遇表現
7	文法体系（6）	複文の構造
8	意味体系（1）	類義語・対義語
9	意味体系（2）	多義語・意味変化・慣用句
10	意味体系（3）	比喩表現
11	語用論的規範（1）	意味論と語用論、発話行為と間接発話行為
12	語用論的規範（2）	協調の原理と会話の公理、ポライトネス理論
13	語用論的規範（3）	会話分析・談話分析、結束性・照応・推論
14	まとめと小テスト（3）	意味体系・語用論的規範のまとめ
15		
16		

科目コード	3C302				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	社会言語学				担当者名	VRBOVSKY Matej			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第１・第２クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択（日本語教師養成必修）

＜授業の概要＞
社会言語学とは，「社会」とのかかわりの中で「言語」現象をとらえようとする言語学の分野である。この科目では，実際に使われている日本語には社会がどのように現れているのか，日本語を使ってインターアクションするためにはどんな知識が必要かを考えながら日本語を観察する目を養う。さらに各国の言語政策を概観し，広い視野で言語教育及び言語使用と社会との関係を考える。

＜授業の到達目標＞
本科目の到達目標は下記の2点である。①無意識に使用していた日本語とその使用場面を社会言語学的な視点から振り返ることができること。②各国の言語政策を概観し，社会と言語の関係について考えることができること。

＜授業の方法＞
基本的にハンドアウトを用いて講義形式で行うが，適宜グループ討議や学生によるプレゼンテーションなど，学生主体の活動を取り入れる。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
適宜グループやクラスでのディスカッション，発表を実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習として,各テーマについて事前にテキストや配布資料に目を通し,関連事項について調べるなどして基礎的な知識を得ておく(約60分)。授業後は，授業内容の整理および課題への取り組みを通して理解を深めるとともに，必要に応じて関連資料を参照し，内容をまとめる（約120分）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー５（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
平常点30%、リフレクション20%、提出課題30%、最終試験20%フィードバックは授業内で行う。試験や課題についてはGoogle Classroomでフィードバックする。

＜教科書＞
ヒューマンアカデミー　(2021/2/19)　日本語教育教科書 日本語教育能力検定試験 完全攻略ガイド 第5版　翔泳社

＜参考書＞
田中春美・田中幸子（編著）(2015/9/20)　よくわかる社会言語学　ミネルヴァ書房
井上史雄・田邊和子（編）　社会言語学の枠組み　くろしお出版
岩田祐子・重光由加 ・村田泰美（著）(2022/3/10)　改訂版 社会言語学―基本からディスコース分析まで　ひつじ書房

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーションと社会言語学とは	授業の概要と評価方法
2	言語変種（1）	ジェンダー，若者ことば，幼児語，役割語
3	言語変種（2）	地域方言，新方言
4	言語接触	ピジンとクレオール，ダイグロシア
5	言語の多様性（1）	共通言語，コードスイッチング
6	言語の多様性（2）	待遇表現
7	やさしい日本語（1）	やさしい日本語とは
8	やさしい日本語（2）	グループ発表
9	言語/非言語コミュニケーション（1）	コミュニケーションの方法，コミュニケーション・ストラテジー
10	言語/非言語コミュニケーション（2）	非言語コミュニケーション，近接空間学，パラ言語
11	多文化・多言語主義（1）	CEFR，各国の言語政策
12	多文化・多言語主義（2）	複言語主義（1）
13	多文化・多言語主義（2）	複言語主義（2）
14	まとめテスト	まとめテスト
15		
16		

科目コード	3C303				区　分	コア科目			
授業科目名	日本語教授法Ⅰ				担当者名	片上　摩紀			
配当年次	3年	配当学期	第３・第４クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択（日本語教師養成必修）

＜授業の概要＞
本科目は、日本語教員養成科目の専門基礎科目をすべて修得した学生を対象としたものです。本授業では、学習者の日本語能力と求められる日本語教育プログラムの目的や目標を踏まえた日本語教育を考えるために，コースデザインの方法，学習項目に合わせた教授法や教材の選択など、授業を組み立てるために必要となる知識を身に付けます。また、知識を活用・実践できるようになることを目標としています。

＜授業の到達目標＞
到達目標は以下の４点である。１．様々な外国語教授法とその背後の言語学習観に触れ、その長短を知る。２．学習者に合ったコースデザインが考えられるようになる。３．教材分析の視点を身につけ、教材分析ができるようになる。４．日本語の授業の流れについて知る。

＜授業の方法＞
基本的に教科書を用いて講義形式で行うが，適宜個人作業やグループ討議、学生によるプレゼンテーションなど，学生主体の活動を取り入れる。必要に応じて、日本語のデジタル教材、オンライン教材を活用して、授業を進める。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング要素有。毎回3-4人のグループに分かれ、ディスカッションを行い、意見をまとめ、発表する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前の予習として，各テーマについて事前にテキストを読むなどして知識を得ておきます（約1時間）。授業後には，授業中に得た学びをどう教育に生かしたいかなどについて振り返りレポートを書き、提出します（約1時間）。また、授業内で出された課題について調べ，個人でまとめます（約1時間）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４(地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業参加態度10%、振り返りレポート20%、授業課題20%、中間課題・期末課題20%、期末テスト30%

＜教科書＞
ヒューマンアカデミー　日本語教育能力検定試験完全攻略ガイド第5版　翔泳社

＜参考書＞
久保田美子　他　スモールステップで学ぶ教授法　スリーエーネットワーク

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション・日本語教員の役割	授業の概要と評価方法。日本語教師の資質と能力を知る。
2	学習観の変遷と学習理論・言語観	行動主義、認知主義、社会的構成主義の学習観と学習理論を学ぶ。
3	外国語教授法（1）	文法訳読法／ナチュラルメソッド／直接法
4	外国語教授法（2）	ヒューマニスティックな教授法
5	外国語教授法（3）	コミュニケーションにつながる教授法外国語教授法とその理論的背景のまとめ
6	コースデザイン（1）	ニーズ分析とレディネス調査
7	コースデザイン（2）	シラバスデザインとカリキュラムデザイン
8	教材分析（1）	教材・教具、教材分析の観点
9	教材分析（2）	教材分析の実践
10	教材分析（3）	教材分析の発表と意見交換
11	授業実施のサイクル（1）	授業の計画と組み立て
12	授業実施のサイクル（2）	教案のモデル提示、授業の振り返り
13	授業実施のサイクル（3）	教師の成長とまとめ
14	テスト	復習テスト
15		
16		

科目コード	3C304				区　分	コア科目			
授業科目名	日本語教授法Ⅱ				担当者名	片上　摩紀			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第１・第２クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択（日本語教員養成資格必修）

＜授業の概要＞
2026年末の時点で日本語教員養成資格科目を全てとり終える学生（日本語教員資格を得る人）を対象としています。本授業では、日本語学習目的の指導法、対象者別の指導法、教材選択、授業の組み立てについて、実例を通して理解を深めます。また、学習者がアウトプットする日本語を分析し、実際にフィードバックするスキルを身に付けることにより、実践力を養います。

＜授業の到達目標＞
授業の到達目標は以下の3点です。１．目的別・対象別の指導が理解できる。２．目的別・対象別の指導が活用できるようになる３．学習者がなぜ間違ったか分析し、良いフィードバックができるようになる。

＜授業の方法＞
本授業は基本的に講義形式で行うが、適宜個人作業やグループワークを取り入れる。また、Google Classroomにおいて、課題管理を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有り。3-4人のグループに分かれて、グループごとに様々な指導方法の検討・実践を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前：予習として，各テーマについて事前にテキストを読む、分からない言葉を調べるなどして知識を得ておきます（約1時間）。事後：授業後には，授業中に得た学びをどう教育に生かしたいかなどについて振り返りレポートを書き、提出します（約1時間）。また、授業内で出された課題について調べ，個人でまとめます（約1時間）。事前：テキストを読み、分からない語彙を調べる。（1時間）事後：振り返り（1時間）　　その他、授業実践、発表準備等は授業外で取り組むことになります（2～3時間）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４(地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業参加態度10%，事後課題30%，中間課題 30%，期末課題 30%

＜教科書＞

＜参考書＞
ヒューマンアカデミー　日本語教育教科書日本語能力検定試験完全攻略ガイド第５版　株式会社翔泳社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の概要と評価方法の説明
2	文法の教え方	文法の授業の組み立て方について学ぶ
3	音声の教え方	音声の授業の組み立て方について学ぶ
4	文字・語彙の授業	日本語の文字・語彙の授業の組み立て方について方について学ぶ
5	聴解指導	聴解指導の方法について学ぶ
6	会話指導	会話の授業の組み立て方について学ぶ
7	読解指導	読解指導の方法について学ぶ
8	作文指導	作文授業の組み立て方について学ぶ
9	初級の教え方	初級クラスの学習目標・初級授業の教え方について学ぶ
10	中上級の教え方	中級・上級日本語学習者の学習目標、中上級の授業の教え方について学ぶ
11	日本文化・日本事情の教え方	日本語教育現場において、日本事情・日本文化をどのように教えたらいいか学ぶ
12	対象別の指導法	日本語教育の対象としてどんな学習者がいるか。留学生への指導法・外国人児童への指導法・生活者への指導法
13	中間言語分析（１）	中間言語とは？中間言語分析の方法について学び、実践する
14	中間言語分析（２）	学習者への誤用の訂正方法、フィードバック方法について学ぶ
15		
16		

科目コード	3C305				区　分	コア科目			
授業科目名	日本語評価法				担当者名	田岡　希望			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択（日本語教師養成必修）

＜授業の概要＞
本授業では、学習者を評価するための基礎について学びながら、テストの種類や評価方法について理解を深める。また、現存のテストの体験、テストの作成と評価の体験により、実践的な技能を身につけることができる。

＜授業の到達目標＞
到達目標は以下の３点である。1.日本語教育における評価の種類とそれぞれの目的や特徴を理解することができるようになる。2.日本語教育で応用されている評価方法を体験し、その仕組みを理解することができるようになる。３．テスト作成及び評価のためのスキルを身につけようとしている。

＜授業の方法＞
本授業は基本的に講義形式で行うが、適宜グループワークを取り入れる。課題管理については、Google Classroomを用いる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有（グループワーク）：3、4人のグループに分かれ、テスト分析・問題作成を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習：予習として、各テーマについて事前にテキストを読み、知識を得ておくこと（1時間程度）。事後学習：授業後は、授業で学習したことの振り返り、レジュメ整理、事後課題などに取り組むこと（1時間半程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４(地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業参加態度（小テストの結果を含む） 20%、課題提出 20%、中間試験 30%、期末試験 30%フィードバックは授業内で行う（ただし、必要な場合はGoogle Classroomにて行う）。

＜教科書＞
ヒューマンアカデミー（2021年2月19日）　日本語教育教科書　日本語教育能力検定試験　完全攻略ガイド　第５版　翔泳社

＜参考書＞
伊東祐郎（2022年2月22日）　日本語教育　よくわかる評価法　アルク
国際交流基金（2011年3月31日）　国際交流基金　日本語教授法シリーズ　第12巻「学習を評価する」　ひつじ書房

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション、「評価する」とは	授業の概要と評価方法の説明、日本語教育における「評価」
2	測る内容によるテストの分類	到達度テスト、熟達度テスト、集団的基準準拠テスト、目標基準準拠テスト
3	採点方法によるテストの分類	客観テストと主観テスト、テストの採点
4	よいテストの条件	妥当性、信頼性、有用性
5	言語知識を測るテスト（１）	文字・語彙テスト、文法テストの体験と概観
6	言語知識を測るテスト（２）	文字・語彙テスト、文法テストの作成
7	言語知識を測るテスト（３）	作成した文字・語彙テスト、文法テストの分析
8	中間試験	作成した文字・語彙テスト、文法テストのまとめ、中間試験、フィードバック
9	統合的な運用を測るテスト（１）	読む力／聞く力を測るテストの概観、問題作成体験
10	統合的な運用を測るテスト（２）	書く力／話す力を測るテストの概観、評価基準作成、評価体験
11	テストの設計	テストの全体像、細目表、著作権、日本語教育とICT
12	テスト結果の分析（１）	集計方法、テストの結果の記述と解釈、得点の分析
13	テスト結果の分析（２）	測定尺度、項目分析
14	期末試験、テストによらない評価	期末試験、フィードバック、ルーブリック、ポートフォリオ評価
15		
16		

科目コード	3F101				区　分	コア科目			
授業科目名	解剖学Ⅱ［PH2024年度以前入学生][再履修用]				担当者名	古山　喜一			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
スポーツ医科学、柔道整復学習得のためには解剖学の知識が必須である。解剖学では人体を構成する骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、感覚器系、神経系、脈管系の各器官の正常構造について系統的に学習する。また人体が、この10種類の器官系が立体的に配置することによって形成されていることを学習する。

＜授業の到達目標＞
１）内分泌系では 下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体、副腎などの形態が説明できるようになる。２）感覚器系では 視覚器、平衡聴覚器、嗅覚器、味覚器、皮膚の形態が説明できるようになる。３)神経系では 中枢神経（大脳、間脳、中脳、小脳、橋、延髄）と末梢神経（自律神経、脳神経、脊髄神経）の形態が説明できるようになる。４）骨格系では、骨の部分名称、筋の起始停止支配神経運動作用全てが説明できるようになる。

＜授業の方法＞
教科書に沿いパワーポイントを使用して講義する。（教科書の各項目については、講義の進行上部分的に入れ替えることがある。）適時プリントを配布して教科書を補完する。重要な学習項目については随時学生を指名し発表討論形式で説明させる。講義終了時にその日の授業内容全般を整理するために全員に試験形式で問題を解答させる。Google Suites, Kahoot, Flipgridなどのシステムを用いて反転授業、クイズ、課題の提出を行うので、各自インターネット接続可能な端末を用意すること。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループ学習により双方向で理解度を確認する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業計画に示す講義予定範囲を教科書で予習してくること。（1時間）講義で習った事項をその日のうちに、教科書、プリントで復習する。またすでに学習した知識と有機的に関連付けて整理しておくこと。各講義の終わりに行うクイズを期限内に提出すること。（1時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
DP２　柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲・小テスト30％・評価試験70％

＜教科書＞
岸 清・石塚 寛 編　解剖学　医歯薬出版
坂井建夫・橋本尚詞　ぜんぶわかる人体解剖図　成美堂出版

＜参考書＞
坂井建夫・大谷 修 著　プロメテウス解剖学アトラス（解剖学総論・運動器系）　医学書院
自習用に以下のアプリを推薦します。Human Anatomy Atlas 2021 https://apps.apple.com/app/id1117998129 解剖学的構造と生理学 Anatomy & Physiologyhttps://a

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	内分泌系１骨格系総論	下垂体筋の形態・作用・補助装置
2	内分泌系２骨格筋総論１	下垂体ホルモン・松果体筋の形態・作用
3	内分泌系３骨格筋総論２	甲状腺上体 副腎など筋の形態・作用・補助装置
4	中枢神経1	神経系概要
5	中枢神経2	大脳・中脳・橋・延髄の構造と形態1
6	中枢神経3	大脳・中脳・橋・延髄の構造と形態2　脊髄
7	末梢神経１	脳神経・脊髄神経１
8	末梢神経2	脊髄神経2
9	神経（上行路）	求心路
10	神経（下行路）	遠心路
11	感覚器1	視覚
12	感覚器2	聴覚器
13	感覚器	平衡器
14	総合復習	まとめ
15		
16		

科目コード	3F101				区　分	基礎専門科目			
授業科目名	解剖学Ⅱ［PH2025年度以降入学生］				担当者名	百田　龍輔			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
スポーツ医科学、柔道整復学習得のためには解剖学の知識が必須である。解剖学では人体を構成する骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、感覚器系、神経系、脈管系の各器官の正常構造について系統的に学習する。また人体が、この10種類の器官系が立体的に配置することによって形成されていることを学習する。

＜授業の到達目標＞
以下の器官系について構造と機能の基本事項が説明できる。１）消化器系２）呼吸器系３）泌尿器系４）生殖器系５）内分泌系

＜授業の方法＞
教科書、解剖図、参考書を使用して講義する。適宜画像を用いて講義を行う。教科書の各項目については、講義の進行上部分的に入れ替えることがある。重要な学習項目については随時学生を指名し発表討論形式で説明させる。講義終了時にその日の授業内容全般を整理するために全員に試験形式で問題を解答させる。Google Suites, Kahootなどのシステムを用いて反転授業、クイズ、課題の提出を行うので、各自インターネット接続可能な端末を用意すること。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業計画に示す教科書の講義予定範囲を必ず音読のうえ、予習してくること。（1時間）講義で習った事項をその日のうちに、教科書､クイズ課題で復習する｡クイズ課題提出は期限厳守すること｡またすでに学習した知識と有機的に関連付けて整理しておくこと。（1時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲30％・評価試験70％

＜教科書＞
岸 清・石塚 寛 編　解剖学　医師薬出版
坂井建夫・橋本尚詞　ぜんぶわかる人体解剖図　成美堂出版
医療情報科学研究所　からだがみえる　人体の構造と機能　メディックメディア

＜参考書＞
松村 譲兒　イラスト解剖学　中外医学社
VisibleBody　自習用に以下のアプリを推薦します。Human Anatomy Atlas 202? Complete 3D Human Body <ahref="https://apps.apple.com/app/id1117998129"target="_blank">https://apps.apple.com/app/id1117998129解剖学的構造と生理学Anatomy & Physiology<a href="https://apps.apple.com/app/id920133658"targe

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	消化器系　総論口腔から胃	口腔歯唾液腺食道胃
2	消化器系小腸・大腸	十二指腸空腸回腸盲腸結腸直腸肛門
3	消化器系肝臓胆嚢膵臓腹膜	肝臓の構造肝小葉胆嚢膵臓腹膜
4	呼吸器系上気道	鼻腔咽頭喉頭声帯
5	呼吸器系下気道縦隔	気管・気管支肺縦隔の区分
6	泌尿器系総論腎臓	腎臓ネフロン
7	泌尿器系尿管膀胱尿道	尿管の構造・狭窄部膀胱の構造尿道の構造・性差
8	男性生殖器	精巣と精巣上体精管精嚢前立腺陰茎陰嚢
9	女性生殖器	卵巣卵管子宮膣外陰部会陰卵巣と子宮粘膜の周期的変化胎盤
10	消化器・呼吸器・泌尿器・生殖器の復習	消化器・呼吸器・泌尿器・生殖器の復習の総合的なクイズ問題に挑戦します。
11	消化器・呼吸器・泌尿器・生殖器の復習	消化器・呼吸器・泌尿器・生殖器の復習の総合的なクイズ問題に挑戦します。
12	消化器・呼吸器・泌尿器・生殖器の復習	消化器・呼吸器・泌尿器・生殖器の復習の総合的なクイズ問題に挑戦します。
13	消化器・呼吸器・泌尿器・生殖器の復習	消化器・呼吸器・泌尿器・生殖器の復習の総合的なクイズ問題に挑戦します。
14	消化器・呼吸器・泌尿器・生殖器の復習	消化器・呼吸器・泌尿器・生殖器の復習の総合的なクイズ問題に挑戦します。
15		
16		

科目コード	3F102				区　分	コア科目			
授業科目名	生理学Ⅱ［PH2024年度以前入学生][再履修用]				担当者名	古山　喜一			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
生理学では人体の役割と機能について学ぶ。人体の正常な構造と機能を知っていることは、将来人体に関わる仕事に就く者にとって大切なことである。生理学IIでは、生命を維持する植物的機能について学ぶ。循環、呼吸、消化、内分泌など、無意識のうちに調節されている機能について理解する。

＜授業の到達目標＞
循環や呼吸など、生命維持に必要な機能がどのように調節されているか理解する。体内の恒常性を維持するために、体液の状態を一定に保ち、ホルモンや自律神経が協調してはたらいていることを理解する。また摂取した食物がどのように消化吸収され、利用可能なかたちになるか理解する。柔道整復師国家試験問題についてただ正しいものを選択できるようになるのではなく、「なぜ正しいか／どこが誤っているか、誤っているなら正しい答えはなにか」について理解して答えられるようになるのが目標である。

＜授業の方法＞
教科書に沿って講義を行うが、理解しやすいように順番は若干前後することがある。また、より理解を深めるためのプリントを配布する。教科書が改訂され、新版では省略されている項目が一部あるのだが、これらについても講義する。当日の講義の内容に関連する柔道整復師国家試験の生理学分野の過去問題についても解説する。講義の終わりに、その日の講義内容の確認の小テストを行う（プリント等を見てよい）。小テストの誤りが多い部分に関しては次回講義時に解説する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループ学習により双方向で理解度を確認する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習としては教科書の次回授業範囲を一通り読んでおくとよい（約15分）。復習は毎回行う小テストおよび国家試験問題の部分を中心に行うとよい（約30分）。人体の機能には、拮抗するもの（逆のはたらきをするもの）が多くあるため、小テストの設問と逆の機能についても考えるようにすると、1つの問題から多くのことを学ぶことができる。また、国家試験問題はまず正しい答えを求め、その後残りの選択肢が示すものはなにであるかについて考えるとよい。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
DP２　柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
確認小テスト 15%、定期試験 80%。授業態度　5%。小テストの答えは次回授業開始時に解説するほか、まとめの回で再度確認する。

＜教科書＞
社団法人全国柔道整復学校協会 監修根来英雄・貴邑冨久子 著　「生理学 改定第4版」　南江堂

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	8 血液（1）	血液、止血、血液型
2	8 血液（2）	白血球、免疫
3	10 循環（1）	心臓の機能、心電図、血管系
4	10 循環（2）	血圧、循環の調節
5	11 呼吸の生理	呼吸器の構造、肺気量、ガス運搬、呼吸の調節
6	6 内分泌（1）	内分泌腺、ホルモンの種類、視床下部・下垂体のホルモン
7	6 内分泌（2）	内分泌腺のホルモン
8	6 内分泌（3）、7 生殖（1）	内分泌腺のホルモン、性ホルモン、性分化
9	7 生殖（2）	生殖器の構成とはたらき、精子や卵の成熟とホルモン、性周期、妊娠と分娩
10	12 尿の生成と排泄（1）	腎臓の構造と機能、腎臓における再吸収と分泌
11	12 尿の生成と排泄（2）、9 骨の生理（1）	排尿、酸塩基平衡、骨の構造と形成
12	9 骨の生理（2）、14 消化と吸収（1）	カルシウム代謝、消化器系の構造
13	14 消化と吸収（2）	胃、小腸、肝臓、吸収
14	16 高齢者の生理学的特徴・変化まとめ	加齢と加齢による変化
15		
16		

科目コード	3F102				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	生理学Ⅱ［PH2025年度以降入学生］				担当者名	佐藤　良子			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
生理学では人体の役割と機能について学ぶ。人体の正常な構造と機能を知っていることは、将来人体に関わる仕事に就く者にとって大切なことである。生理学IIでは、生理学Ⅰに続き、生命を活用する動物的機能－運動や感覚と脳機能について学ぶ。また生命を維持する植物学的機能のうち血液に関して学ぶ。

＜授業の到達目標＞
生理学IIでは運動や感覚と脳機能との関係について学ぶ。日頃意識することなく行っている、見て、聞いて、考えて、行動することについてのメカニズムを理解する。また、血液の構成や多くのはたらきについて学ぶ。柔道整復師国家試験問題についてただ正しいものを選択できるようになるのではなく、「なぜ正しいか／どこが誤っているか、誤っているなら正しい答えはなにか」について理解して答えられるようになるのが目標である。

＜授業の方法＞
教科書に沿って講義を行うが、理解しやすいように順番は若干前後することがある。なお、授業テーマは生理学Iから継続した番号となっている。また、理解を深めるために、図を多く入れたプリントを配布する。教科書の記載では説明が省略されている項目があるが、生理学の理解のために必要な項目については補足講義する。当日の講義の内容に関連する柔道整復師国家試験の生理学分野の過去問題についての解説も入れる。講義の終わりに、その日の講義内容の確認の課題を解答し、提出する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習としては教科書の次回授業範囲を一通り読んでおくとよい（約15分）。復習は毎回行う課題および国家試験問題を中心に行うとよい（約30分）。人体の機能には、拮抗するもの（逆のはたらきをするもの）が多くあるため、小テストの設問と逆の機能についても考えるようにすると、1つの問題から多くのことを学ぶことができる。また、国家試験問題は正しい答えを求めるだけでなく、残りの選択肢が示すものはなにであるかについて考えるとよい。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２(柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
課題提出 15%、定期試験 80%、授業態度 5%。課題の解答は講義の次々回に行うほか、まとめの回で再度確認する。

＜教科書＞
公益社団法人全国柔道整復学校協会監修　彼末一之編集　生理学 改定第4版　南江堂

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	神経の生理(5)	自律神経系
2	運動の生理(4)，神経の生理(6)	脳幹の反射，間脳
3	神経の生理(7)	大脳の構造とはたらき
4	運動の生理(5)	大脳皮質運動野，大脳基底核
5	運動の生理(6)，神経の生理(8)	小脳の構造とはたらき，覚醒と睡眠，学習と記憶
6	感覚の生理(1)	感覚全般，皮膚感覚
7	感覚の生理(2)	痛覚，視覚(1)
8	感覚の生理(3)	視覚(2)，聴覚(1)
9	感覚の生理(4)	聴覚(2)，前庭感覚
10	感覚の生理(5)，血液(1)	味覚，嗅覚，血漿
11	血液(2)	赤血球，血小板，血液凝固
12	血液(3)	血液型，白血球
13	血液(4)	リンパ球，獲得免疫
14	まとめ	生理学IIの講義内容について確認する
15		
16		

科目コード	3F103				区　分	コア科目			
授業科目名	公衆衛生学Ⅱ				担当者名	畑島　紀昭			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
公衆衛生とは「地域社会の組織的な努力によって疾病を予防し、寿命の延長を図り、身体的ならびに精神的能力を増進 するための科学である」と定義される。健康に関わるいろいろな現象を疫学的に把握し、人間を取り巻く環境、社会的 要因（制度、組織など）などと人の健康増進、疾患予防などとの関係を理解し、医療にどの様に関連するのか考えられる力を習得する。

＜授業の到達目標＞
学校保健および産業保健における健康管理の考え方について理解し、その内容を説明することができる。また、成人の健康管理および生活習慣病について理解し、予防および対策について説明することができる。さらに、行政における健康管理および医療安全に関する仕組みについて理解し、その役割や制度を説明することができる。加えて、疫学的手法の基礎を理解し、得られたデータを基に疫学的な判断を行うことができる。

＜授業の方法＞
教科書を中心に講義し必要に応じてDropboxにて資料を配付する。授業中に確認小テストを実施し、予習、復習状況を確認する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
課題に応じてグループワークを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：次の範囲をシラバスから確認させ、どの様な内容であるかまとめ授業で発表する。（毎回、1時間程度）復習：小テストを次の授業で実施する。（毎回、2時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲 30%、小テスト 30%、評価試験 40%

＜教科書＞
全国柔道整復学校協会　「衛生学・公衆衛生学」　南光堂
医療情報科学研究所：編集　公衆衛生がみえる　株式会社 メディックメディア

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	学校保健	学校保健の意義、学校における保健教育の目的と実際について理解する。
2	産業保健１	働く人の健康問題、職業病の種類と特徴について学ぶ。
3	産業保健２	職場における健康管理、労働衛生対策について理解する。
4	成人・高齢者保健	成人・高齢者の健康問題の特徴、生活と保健・福祉対策について総合的に学ぶ。
5	確認テスト①	第1回～第4回の学習内容についての理解度を評価する。
6	精神保健	精神疾患の種類と特徴、精神保健活動の役割について理解する。
7	地域保健と国際保健１	地域保健活動の意義と特徴、地域における保健活動の展開を学ぶ。
8	地域保健と国際保健２	国際保健の考え方、国際協力、WHOの役割について理解する。
9	衛生行政と保健医療制度	衛生行政の仕組み、医療保険制度、国民医療費の動向について学ぶ。
10	確認テスト②	第6回～第9回の学習内容についての理解度を評価する。
11	医療の倫理と安全の確保	医療倫理の基本原則、医療安全、医療事故防止および医療訴訟について理解する。
12	疫学１	疫学の意義、基本的指標、研究手法の基礎について学ぶ。
13	疫学２	疫学調査の方法、結果の解釈と評価について理解する。
14	確認テスト③・まとめ	全体の学習内容の理解度を評価し、重要事項の総括を行う。
15		
16		

科目コード	3F104				区　分	コア科目			
授業科目名	臨床柔道整復学Ⅰ(骨折Ⅰ)				担当者名	簀戸　崇史			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
臨床で必要な骨折について発生機序、症状、整復法、固定法、合併症等について学ぶと共に保存療法の限界に関する知識を修得する。各骨折の発生メカニズムを詳細に理解する事が症状、整復法、固定法、合併症等を合理的に理解することになる。この講義では鎖骨骨折、肩甲骨骨折、上腕骨骨折、前腕骨骨折について学習する。

＜授業の到達目標＞
各骨折の発生機序、症状、整復法、固定法、合併症等について理解する各骨折における保存療法の限界について理解し他者に説明できるようになる。

＜授業の方法＞
教科書を中心に講義し必要に応じて視覚教材、パワーポイントなどをGoogle classroomにて資料を配付する。授業中に確認小テストを実施し、予習、復習状況を確認する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
課題症例に対するグループワークや発表課題設問に対するグループワーク

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：実施する講義に対する事前課題（柔道整復学総論の専門用語、解剖学（上肢の筋（起始停止、作用、支配神経）、講義内容の疾患の事前下調べ（毎回、１時間程度））、復習：講義開始終了時に実施内容の振り返りテスト（毎回、10分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）、ディプロマポリシー3（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
評価試験90%，学習意欲10%で評価する。

＜教科書＞
全国柔道整復学校協会　柔道整復学・理論編第7版　南江堂
全国柔道整復学校協会　柔道整復学・実技編第２版　南江堂

＜参考書＞
責任編集　伊黒浩二（2015年7月22日）　柔道整復理論サブノート　アルテミシア
監修 内田 淳正編集 中村 利孝 / 松野 丈夫 / 井樋 栄二 / 馬場 久敏（2011年03月）　標準整形外科学第11版　医学書院

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	鎖骨骨折（１）	鎖骨骨折（中央）における概要、発生機序、症状、合併症、整復法、固定法について
2	鎖骨骨折（２）	鎖骨骨折（近位および遠位）における概要、発生機序、症状、合併症、整復法、固定法について
3	肩甲骨骨折（１）	肩甲骨骨折（肩甲骨体部骨折、肩甲骨辺縁部骨折、肩甲骨関節窩骨折）における概要、分類、発生機序、症状、合併症、治療法について
4	肩甲骨骨折（２）	肩甲骨骨折（肩甲骨頚部骨折、肩峰骨折、烏口突起骨折）における概要、分類、発生機序、症状、合併症、治療法について
5	上腕骨近位端部骨折（１）	結節上骨折（上腕骨骨頭骨折、解剖頸骨折）における概要、発生機序、症状、合併症、治療法について
6	上腕骨近位端部骨折（２）	結節下骨折（外科頸骨折、大結節骨折、小結節骨折、結節部貫通骨折）、骨端線離開における概要、発生機序、症状、合併症、治療法について
7	上腕骨骨幹部骨折（１）	上腕骨骨幹部骨折における概要、発生機序、転位について
8	上腕骨骨幹部骨折（２）	上腕骨骨幹部骨折における症状、合併症、整復法、固定法について
9	上腕骨遠位端部骨折（１）	上腕骨顆上骨折における概要、発生機序、症状、合併症、治療法について
10	上腕骨遠位端部骨折（２）	上腕骨外顆骨折、上腕骨内側上顆骨折における概要、発生機序、症状、合併症、治療法について
11	前腕骨近位端部骨折（１）	橈骨近位端部骨折（橈骨頭骨折、橈骨頚部骨折）における概要、発生機序、症状、合併症、治療法について
12	前腕骨近位端部骨折（２）	尺骨近位端部骨折（肘頭骨折、尺骨鉤上突起骨折）における概要、発生機序、症状、合併症、治療法について
13	前腕骨骨幹部骨折（１）	橈骨骨幹部骨折、尺骨骨幹部骨折、橈・尺両骨骨幹部骨折における概要、発生機

14 15 16	前腕骨骨幹部骨折（２）	序、症状、合併症、治療法について 前腕骨脱臼骨折（モンテジア脱臼骨折、ガレアッツィ脱臼骨折）における概要、発生機序、症状、合併症、治療法について

科目コード	3F200				区　分	コア科目			
授業科目名	外科学Ⅰ				担当者名	合地　史明			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本講義は、外科学総論にあたる部分である。外科学の概念、損傷、炎症、感染症、腫瘍、ショック、輸血、輸液、消毒と滅菌、手術、麻酔、移植と免疫、出血と止血と柔道整復学との関連性について学習する。

＜授業の到達目標＞
健康の保持・増進、競技力向上を科学的に考える上で不可欠な医科学的な分野（特に外科的分野）についての知識を身に付ける。医師をはじめとするメディカル・コメディカルスタッフ、コーチ、トレーナーと共通の認識、共通の言語をもって話が出来ることを目標とする。

＜授業の方法＞
教科書にそって授業を進めて行く。視聴覚資料等を用いて適宜補完していく。毎回の講義後に講義の理解度をクラスルーム課題などを用いて確認する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前に教科書を読んでおく事（1時間）、また、授業の後は講義でとったノートを参照しながら再度教科書を読んで復習する事(1時間）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
定期試験期間中に筆記試験（80点満点）を行う。さらに授業時のレポートと出欠状況を総合して平常点（20点満点）を算出。これらの合計点（100点満点）で評価を行う。

＜教科書＞
全国柔道整復学校協会 監修　「外科学概論」　南江堂

＜参考書＞
北島政樹　監修　「標準外科学」　医学書院

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	外科学とは	外科学の歴史　外科医の立場　現在の外科医療
2	損傷（1）	損傷の分類　診断　治療　交通外傷　ドライバー外傷
3	損傷（2）	特殊な損傷　凍傷　びらんと潰瘍　瘻孔　裂傷　壊死・壊疽
4	損傷（3）	創と傷　熱傷　電撃傷　低温熱傷　化学熱傷
5	炎症と外科感染症	炎症（定義　分類　病態）外科感染症
6	腫瘍	腫瘍の概念　組織　成因　分類　診断　治療
7	ショック	ショックの病態と分類　緊急処置
8	輸血　輸液	輸血　一般輸液　高カロリー輸液
9	消毒と滅菌	消毒薬の特徴　皮膚の消毒機器・器材・環境の消毒　滅菌
10	手術	手術の分類　各種手術法　止血術　結紮・縫合術　穿刺術
11	麻酔・移植と免疫	麻酔の概要、歴史、種類（全身麻酔、局所麻酔）移植の用語　移植の現状　各種臓器移植
12	出血と止血	出血とは　出血の種類　止血の仕組み　外出血　内出血　止血法
13	心肺蘇生法	倒れた人の評価法　心肺蘇生法の実際　人工呼吸法　AED
14	まとめ	まとめ
15		
16		

科目コード	3F201				区　分	コア科目		
授業科目名	外科学Ⅱ				担当者名	片岡　正文		
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
外科学は極めて広範囲である。本講義では、各論的にそれぞれの項目を学習する。脳神経外科疾患、甲状腺・頸部疾患、胸壁・呼吸器疾患、心臓・脈管疾患、乳腺疾患、腹部外科疾患と柔道整復学の関連について理解する。

＜授業の到達目標＞
健康の保持・増進、競技力向上を科学的に考える上で不可欠な医科学的な分野（特に外科的分野）についての知識を身 に付ける。そして医師をはじめとするメディカル・コメディカルスタッフ、コーチ、トレーナーと共通の認識、共通の 言語をもって話しが出来ることを目標とする。

＜授業の方法＞
教科書にそって授業を進めて行く。視聴覚資料等を用いて適宜補完していく。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
なし

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前に教科書を読んでおく事、また、授業の後は講義でとったノートを参照しながら再度教科書を読んで復習する事を勧める。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
定期試験期間中に筆記試験（80点満点）を行なう。さらに授業時のレポートと受講態度を総合して平常点（20点満点）を算出。これらの合計点（100点満点）で評価を行なう。

＜教科書＞
全国柔道整復学校協会 監修　「外科学概論」　南江堂

＜参考書＞
北島 政樹 監修　「標準外科学」　医学書院

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	前期の復習（1）	損傷炎症と外科感染症 腫瘍
2	前期の復習（2）	ショック、輸血、輸液　消毒と滅菌、手術
3	前期の復習（3）	麻酔、移植と免疫、出血と止血、救急蘇生法
4	脳神経外科疾患（1）	脳・神経疾患の腫瘍徴候　　中枢性疾患に特有な病態　　画像検査　主な脳・神経疾患
5	脳神経外科疾患（2）	脳・神経疾患の腫瘍徴候　　中枢性疾患に特有な病態　　画像検査　主な脳・神経疾患
6	乳腺疾患・甲状腺・頸部疾患	診断　乳腺疾患　甲状腺疾患　頸部疾患
7	胸壁・呼吸器疾患（1）	胸郭・肺の検査　手術　胸腔ドレナージ　肺疾患　胸膜疾患 胸部損傷
8	胸壁・呼吸器疾患（2）	胸郭・肺の検査　手術　胸腔ドレナージ　肺疾患　胸膜疾患 胸部損傷
9	心臓・脈管疾患（1）	心臓疾患　脈管疾患
10	心臓・脈管疾患（2）	心臓疾患　脈管疾患
11	腹部外科疾患（1）	腹部外科疾患の主な症状　消化器疾患における主な検査 代表的腹部外科疾患
12	腹部外科疾患（2）	腹部外科疾患の主な症状　消化器疾患における主な検査 代表的腹部外科疾患
13	腹部外科疾患（3）	腹部外科疾患の主な症状　消化器疾患における主な検査
14	まとめ	まとめ
15		
16		

科目コード	3F202				区　分	コア科目		
授業科目名	内科学Ⅰ				担当者名	河合　洋二郎		
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
医療従事者（柔道整復師）として、基礎的な医療知識を教科書を中心に取り組む。

＜授業の到達目標＞
医療従事者として、総合的な医療知識を身につける。基本的な医療用語を確実に理解する。

＜授業の方法＞
教科書と共に必要に応じてプリントを配布し、それに基づいて講義する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
次回授業内容の準備（1時間程度）、振り返りレポートの提出（2時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
振り返りレポート10%、定期試験90%

＜教科書＞
「一般臨床医学」　医歯薬出版株式会社

＜参考書＞
河合作成プリント

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	診察の意義	問診（主訴、現病歴、既往歴）
2	視診（1）	不随意運動
3	視診（2）	歩行障害
4	視診（3）	胸郭、腹部、四肢
5	聴診	異常呼吸音
6	触診（1）	筋トーヌス
7	触診（2）・小テスト	筋委縮・小テスト
8	打診	鼓音
9	総論（1）	バイタルサイン
10	総論（2）	検査
11	総論（3）	主症状
12	総論（4）	主症状
13	各論　呼吸器	慢性閉塞性肺疾患など
14	各論　呼吸器	運動誘発性喘息など
15		
16		

科目コード	3F203				区　分	コア科目			
授業科目名	内科学Ⅱ				担当者名	河合　洋二郎			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
医療従事者（柔道整復師）として、基礎的な医療知識を教科書を中心に取り組む。

＜授業の到達目標＞
医療従事者として、総合的な医療知識を身に受ける。基本的な医療用語を確実に理解する。

＜授業の方法＞
教科書と共に必要に応じてプリントを配布し、それに基づいて講義する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
次回授業内容の準備（1時間程度）、振り返りレポートの提出（2時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
振り返りレポート10%、定期試験90%

＜教科書＞
医歯薬出版株式会社　「一般臨床医学」

＜参考書＞
河合作成プリント

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各論　生活習慣病	肥満・肥満症
2	各論　生活習慣病	高血圧
3	各論　生活習慣病	脂質異常症
4	各論　代謝疾患	耐糖能異常
5	各論　内分泌疾患	甲状腺機能低下症、甲状腺機能亢進
6	各論　循環器	先天性心疾患
7	各論　循環器	虚血性心疾患など
8	各論　血液疾患	白血病など
9	各論　血液疾患	貧血など
10	各論　膠原病	リウマチ
11	各論　腎・尿路疾患	ネフローゼ症候群、腎不全
12	各論　腎・尿路疾患	膀胱炎など
13	各論　神経疾患	パーキンソン病など
14	各論　神経疾患	アルツハイマー病、認知症
15		
16		

科目コード	3F204				区　分	コア科目			
授業科目名	臨床柔道整復学Ⅱ(骨折Ⅱ)				担当者名	簀戸　崇史			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
下肢はヒトの特徴である２本足で移動するという点で、社会生活上、重要な支持組織である。本科目は、骨盤、大腿部、膝部、下腿部、足部の下肢における骨折の発生機序、症状、治療法について機能解剖学、生理学、運動学的視点も含め学習する。

＜授業の到達目標＞
１．下肢の機能解剖について理解し、骨折の発生機序、症状を説明できる。２．骨折の状態から治療指針ならびに予後について判断、説明することができる。

＜授業の方法＞
１．講義（教員による指定疾患の解説）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
自分や家族がその症例に遭遇したと想定し、与えられた課題に対してグループ形式にて学習をし発表をおこなう。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：実施する講義内容に関する事前課題（柔道整復学総論の専門用語、解剖学（下肢の筋（起始停止、作用、支配神経）にて１時間程度、復習にて１時間程度

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
定期試験70%, 学習意欲30%（出席、小テスト）但し、定期試験において60%以上の評価点を取得した者に対し前記の成績評価を行う。事前学習、小テストに関するフィードバックは講義中または個別に行う。

＜教科書＞
柔道整復学校協会　柔道整復学・理論編　南江堂

＜参考書＞
小林直行　柔道整復師国家試験重要問題　柔道整復学　下肢・総論編　医歯薬出版株式会社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	骨盤骨単独骨折（１）	腸骨翼単独骨折、恥骨単独骨折、坐骨単独骨折、仙骨単独骨折、尾骨単独骨折における概要、発生機転、症状、治療法について
2	骨盤骨単独骨折（２）	腸骨稜裂離骨折、上前腸骨棘裂離骨折、下前腸骨棘裂離骨折における概要、発生機転、症状、治療法について
3	骨盤骨輪骨折	骨盤骨輪骨折における概要、発生機転、症状、治療法について
4	大腿骨近位端骨折（１）	大腿骨骨頭骨折、大腿骨頚部骨折における概要、発生機転、症状、治療法について
5	大腿骨近位端骨折（２）	大腿骨転子部骨折、大腿骨大転子単独骨折、大腿骨小転子単独骨折における特徴、発生機転、症状、治療法について
6	大腿骨骨幹部骨折	大腿骨骨幹部骨折（上1/3、中1/3、下1/3）における特徴、発生機転、症状、治療法について
7	大腿骨遠位端部骨折（１）	大腿骨顆上骨折、大腿骨遠位骨端線離解における概要、発生機転、症状、治療法について
8	大腿骨遠位端部骨折（２）	大腿骨顆部骨折、内側側副靭帯付着部剥離骨折における特徴、発生機転、症状、治療法について
9	膝蓋骨骨折	膝蓋骨骨折、分裂膝蓋骨における特徴、発生機転、症状、治療法について
10	下腿骨近位端骨折（１）	脛骨顆部骨折における特徴、発生機転、症状、治療法について
11	下腿骨近位端骨折（2）	脛骨顆間隆起骨折、脛骨粗面骨折、腓骨頭単独骨折における特徴、発生機転、症状、治療法について
12	下腿骨幹部骨折	脛骨単独骨折、脛腓両骨骨折、腓骨骨幹部単独骨折、下腿骨果上骨折、下腿疲労骨折における特徴、発生機転、症状、治療法について
13	下腿骨遠位端骨折	下腿骨果部骨折、足関節脱臼骨折における特徴、発生機転、症状、治療法について
14	足根骨骨折	距骨骨折、踵骨骨折、舟状骨骨折、立方骨骨折、楔状骨骨折、中足骨骨折、他の足趾骨骨折における特徴、発生機転、症状、治療法について
15		
16		

科目コード	3F205				区　分	コア科目			
授業科目名	臨床柔道整復学Ⅲ(脱臼)				担当者名	福井　悠紀子			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
下肢はヒトとしての特徴である２本足で移動するという点で、社会生活上、重要な支持組織である。本科目は、股関節、膝関節（膝蓋骨含む）、足関節、足部（足趾を含む）における脱臼の発生機序、症状、治療法について機能解剖学、生理学、運動学的視点より学修する。

＜授業の到達目標＞
１．下肢の機能解剖について理解し、脱臼の発生機序、症状を説明できる。２．脱臼の状態から治療指針について判断することができる。

＜授業の方法＞
１.講義（教員による指定疾患の解説、配布資料やスライドショーを用いた解説）２.Google classroomを使用した資料配布

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
課題症例に対するグループワークや発表課題設問に対するグループワーク

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：実施する講義に対する事前課題（柔道整復学総論の専門用語、解剖学（下肢の筋（起始停止、作用、支配神経）、講義内容の疾患の事前下調べ（毎回、１時間程度））、復習：講義開始終了時に実施内容の振り返りテスト（毎回、15分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）ディプロマポリシー3（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
評価試験90%，小テスト10%で評価する。

＜教科書＞
柔道整復学校協会　柔道整復学・理論編第7版　南江堂

＜参考書＞
標準整形外科学第11版　医学書院

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の心構え、授業内容の説明
2	総論の復習	診察、治療法
3	脱臼の復習	脱臼の定義、分類、症状、整復障害因子について
4	股関節脱臼（1）	股関節の機能解剖、股関節脱臼の概説
5	股関節脱臼（2）	股関節脱臼の種類、症状、応急手当について
6	股関節脱臼（3）	股関節後方脱臼の概要と症状、整復について
7	股関節脱臼（4）	股関節前方脱臼、中心性脱臼の概要と症状、整復について小テストを実施する。
8	膝関節脱臼（1）	膝関節の機能解剖、膝関節脱臼の概説
9	膝関節脱臼（2）	膝関節前方脱臼、膝関節後方脱臼の概説および症状、整復について
10	膝蓋骨脱臼	膝蓋骨脱臼の概要と症状、整復について
11	足関節脱臼（1）	足関節脱臼および脱臼骨折の概要、症状、整復法、治療指針について
12	足関節脱臼（2）	足根骨脱臼（ショパール関節、リスフラン関節脱臼含む）の概要、症状、治療指針について
13	足関節脱臼（3）	足趾脱臼の概要、症状、整復法および固定法について小テストを実施する。
14	総括	まとめ授業
15		
16		

科目コード	3F300				区　分	コア科目			
授業科目名	病理学Ⅱ				担当者名	高畠　清文			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	講義

＜授業の概要＞
正常人体構造をベースに疾病の原因、経過、本態など病的状態における細胞・組織・臓器などの変化を形態学的・病態生理学的に探求する学問である。肉眼的・顕微鏡的形態変化を基盤に疾病の本態、発症メカニズム、経過などについて理解し、内的・外的因子の影響などについて学習する。

＜授業の到達目標＞
１　腫瘍の本態、発生原因、分類。治療の概略を習得する。１　奇形を含む先天性異常の発生原因と種類が理解できる。１　内因・外因を含め病因を知り、その対処方法が理解できる。

＜授業の方法＞
パワーポイント、配布資料を中心に使用して、板書、質問等を取り入れ視覚聴覚的に講義をすすめる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
シラバスに沿って、講義当日の項目内容を教科書を一読し予習しておくこと。本科目を学習する上で、解剖学、組織学、生理学、生化学等の基礎学問の知識は不可欠であるので、これらの学問を整理しておく必要がある。講義の単元終了時に小テストを実施するので、復習を中心に学習する。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
定期試験 100％

＜教科書＞
社団法人全国柔道整復学協会 監修、関根一郎 著　「病理学概論　改訂第３版」　医歯薬出版株式会社

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	腫 瘍 Ⅰ	腫瘍とは
2	腫 瘍 Ⅱ	腫瘍細胞とは
3	腫 瘍 Ⅲ	腫瘍の生体への影響、癌の診断と治療
4	腫 瘍 Ⅳ	腫瘍の分類
5	腫 瘍 Ⅴ	主要な癌
6	先天性異常　Ⅰ	先天性異常総論、遺伝形式
7	先天性異常　Ⅱ	奇形の原因、奇形の種類
8	病 因 Ⅰ	内因１
9	病 因 Ⅱ	内因２
10	病 因 Ⅲ	物理的原因
11	病 因 Ⅳ	化学的原因
12	病 因 Ⅴ	生物学的原因
13	運動器の病理　Ⅰ	感染性の疾患、非感染性疾患
14	運動器の病理　Ⅱ	全身性の骨・軟部疾患
15		
16		

科目コード	3F301				区　分	コア科目		
授業科目名	整形外科学Ⅰ				担当者名	石原　和泰		
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本講義は、整形外科学総論にあたる部分である.すなわち、整形外科の意義と歴史、運動器の基礎知識、整形外科診察法、整形外科検査法、整形外科的治療法、骨・関節損傷総論、スポーツ整形外科総論、リハビリテーション総論と柔道整復学との関連性について学習する。

＜授業の到達目標＞
健康の保持･増進、競技力向上を科学的に考える上で不可欠な医科学的な分野（特に整形外科的分野）についての知識を身に付ける。そして医師をはじめとするメディカル・コメディカルスタッフ、コーチ、トレーナーと共通の認識、共通の言語をもって話しが出来ることを目標とする。

＜授業の方法＞
概ねスライドを使って講義を行う。授業理解度の確認としてミニッツペーパーを有効的に用い、学生、教員間で理解度を共有し学習内容の確実な定着に繋げる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング　なし

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
講義のレジュメは各回の講義の最初に配布する。講義中はきちんとノートを取り、復習に力点(2時間）をおくこと。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
（評価方法）定期試験 90点、出席点 10点の100点満点とする。出席点は1回の欠席ごとに2点の減点とする。試験時はノートの持ち込みは認めない。（出欠確認）出席の確認は講義冒頭の点呼により行う。点呼に間に合わなかった者は講義終了時に申し出ること。（欠席届の取り扱いについて）当該講義のテーマに即したレポートを提出すること。レポートの提出期限は欠席した月の翌月末までとする。（それ以降は受理しない）レポートの提出により出席点を与える。（公欠の取り扱いについて）学則に則る。（その他）講義資料の再配布は行わないので

＜教科書＞
全国柔道整復学校協会 監修　「整形外科学」　南江堂

＜参考書＞
松野　丈夫 監修　「標準整形外科学」第13版　医学書院

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	骨系統疾患、神経筋疾患（1）	骨の構造・病理、骨系統疾患、神経筋疾患（1）
2	骨系統疾患、神経筋疾患（2）	骨の構造・病理、骨系統疾患、神経筋疾患（2）
3	運動器に発生する感染症（1）	骨・関節・軟部組織感染症（1）
4	運動器に発生する感染症（2）	骨・関節・軟部組織感染症（2）
5	整形外科疾患（1）	上肢の整形外科疾患（1）
6	整形外科疾患（2）	上肢の整形外科疾患（2）
7	整形外科疾患（3）	骨盤・股関節・大腿骨の外傷（1）
8	整形外科疾患（4）	骨盤・股関節・大腿骨の外傷（2）
9	整形外科疾患（5）	小児の整形外科的外傷（1）
10	整形外科疾患（6）	小児の整形外科的外傷（2）
11	整形外科疾患（7）	小児の整形外科的外傷（3）
12	整形外科疾患（8）	小児の整形外科的外傷　外傷以外（1）
13	整形外科疾患（9）	小児の整形外科的外傷　外傷以外（2）
14	整形外科疾患（10）	小児の整形外科的外傷　外傷以外（3）
15		
16		

科目コード	3F302				区　分	コア科目		
授業科目名	整形外科学Ⅱ				担当者名	石原　和泰		
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本講義は、整形外科学各論にあたる部分である.すなわち、整形外科身体部位別各論と柔道整復学との関連性について学習する。

＜授業の到達目標＞
健康の保持・増進、競技力向上を科学的に考える上で不可欠な医科学的な分野（特に整形外科的分野）についての知識を身 に付ける。そして医師をはじめとするメディカル・コメディカルスタッフ、コーチ、トレーナーと共通の認識、共通の 言語をもって話しが出来ることを目標とする。

＜授業の方法＞
概ねスライドを使って講義を行う。授業理解度の確認としてミニッツペーパーを有効的に用い、学生、教員間で理解度を共有し学習内容の確実な定着に繋げる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング　なし

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
講義のレジュメは各回の講義の最初に配布する。講義中はきちんとノートを取り、復習に力点(2時間）をおくこと。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
（評価方法）定期試験 90点、出席点 10点の100点満点とする。出席点は1回の欠席ごとに2点の減点とする。試験時はノートの持ち込みは認めない。（出欠確認）出席の確認は講義冒頭の点呼により行う。点呼に間に合わなかった者は講義終了時に申し出ること。（欠席届の取り扱いについて）当該講義のテーマに即したレポートを提出すること。レポートの提出期限は欠席した月の翌月末までとする。（それ以降は受理しない）レポートの提出により出席点を与える。（公欠の取り扱いについて）学則に則る。（その他）講義資料の再配布は行わないので

＜教科書＞
全国柔道整復学校協会 監修　「整形外科学」　南江堂

＜参考書＞
松野　丈夫 監修　「標準整形外科学」第13版　医学書院

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	身体部位別各論（1）	頸部（1）
2	身体部位別各論（2）	頸部（2）
3	身体部位別各論（3）	胸部
4	身体部位別各論（4）	腰部（1）
5	身体部位別各論（5）	腰部（2）
6	身体部位別各論（6）	肩・肩甲帯
7	身体部位別各論（7）	上腕・肘関節
8	身体部位別各論（8）	前腕
9	身体部位別各論（9）	手関節
10	身体部位別各論（10）	手・手指
11	身体部位別各論（11）	骨盤・股関節
12	身体部位別各論（12）	大腿・膝関節
13	身体部位別各論（13）	下腿・足関節
14	身体部位別各論（14）	足・足趾
15		
16		

科目コード	3F303				区　分	コア科目			
授業科目名	リハビリテーション医学Ⅰ				担当者名	片岡　昌樹／古山　喜一			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本講義では、現場で実施されるリハビリテーションについて、評価・実践・再評価・修正実践のサイクルを基本に学習する。加えて、関連職種およびその役割、連携についてやリハビリテーション医学に関係した社会福祉について学ぶ。リハビリテーション医学分野における柔道整復師の役割についても概説する。

＜授業の到達目標＞
リハビリテーション医学分野における基礎的な知識、特に1）リハビリテーションの理念や概念、2）リハビリテーションで用いられる評価や診断、3）リハビリテーションに関わる障害と治療、4）リハビリテーション医学をとりまく関連職種、などについて理解できるようになることを目標とする。

＜授業の方法＞
視聴覚教材、配布資料等を適宜用い、教科書に沿って授業を進行する。課題の提示、提出等はGoogle Classroom等で行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループ学習において双方向で理解度を確認する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
学習時の疑問についてはその都度質問するようにすること。本講義において、機能解剖、運動学、疾患における測定評価、治療に関する理解が必要である。したがって、教科書や配布資料（事前に配布する）、ノートなどを活用して各回当該箇所の基本的事項、他の授業で学んだ関連部分の予習および復習を各60分以上行い、理解を深めること。事前課題および復習課題の提示、提出を求めることもある。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
DP３　柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
小テスト等の課題 60%、定期試験40%で成績評価する。但し、定期試験において60%以上の評価点を取得した者に対し前記の成績評価を行う。事前学習、小テストに関するフィードバックは講義中または個別に行う。

＜教科書＞
全国柔道整復学校協会（監修），栢森良二（編）（2019年4月10日）　リハビリテーション医学 改定第4版　南江堂

＜参考書＞
指定なし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	リハビリテーションの理念　（教科書第1章）	ア.語源 イ.成立過程（古山喜一）
2	リハビリテーション障害学（1）　（教科書第5章）	ア.障害の評価 イ.関節拘縮 ウ.関節の変形 エ.筋萎縮（古山喜一）
3	リハビリテーションの対象と障害者の実態　（教科書第2章）	ア.医学的リハビリテーションの対象 イ.リハビリテーション医学の対象 ウ.障害児（者）の実態 エ.身体障害児（者）の内訳（古山喜一）
4	障害者の階層とアプローチ（1）　（教科書第3章）	ア.ICDとICIDH イ.ICIDHとICF ウ.ICFの構成要素の定義 エ.WHODAS2.0（古山喜一）
5	リハビリテーション障害学（2）　（教科書第5章）	オ.神経麻痺 カ.痙縮 ①失語症の定義 ②失認症の定義 ③失行症の定義 ④脳外傷による高次機能障害（古山喜一）
6	障害者の階層とアプローチ（2）　（教科書第3章）	オ.障害へのアプローチ カ.病気と障害の相違（片岡昌樹）
7	リハビリテーション医学の関連職種　（教科書第6章）	A）医師 B)理学療法士 C)作業療法士 D)看護師 E)言語聴覚士 F)臨床心理士 G）医療ソーシャルワーカー（古山喜一）
8	リハビリテーション医学の評価と診断(1)（教科書第4章）	D）ADLの評価 E）心理的評価 F）認知症の評価（古山喜一）
9	リハビリテーション医学の評価と診断(2)（教科書第4章）	G）電気生理学的検査 H)画像診断 I）運動失調（片岡昌樹）
10	リハビリテーション治療学（1）　（教科書第5章）	ア.障害の受容 イ.廃用症候群 ウ.関節拘縮 エ.リンパ浮腫 オ.筋力強化 カ.中枢性麻痺と痙縮（片岡昌樹）
11	リハビリテーション治療技術（理学療法）（教科書第7章）	ア.対象 イ.理学療法の進め方 ウ.理学療法の実際（片岡昌樹）

12	リハビリテーション治療技術（作業療法）（教科書第7章）	ア. 対象 イ. 作業療法の進め方 ウ. 作業療法の実際（古山喜一）
13	リハビリテーション治療技術（補装具）（教科書第7章）	ア. 装具 イ. 義肢 ウ. 歩行補助具 エ. 車イス オ. 自助具（古山喜一）
14	リハビリテーション治療学 (2) （教科書第5章）	キ. 慢性疼痛 ク. バイオフィードバック ケ. 歩行練習 コ. 全身運動 サ. レクリエーション治療（片岡昌樹）
15		
16		

科目コード	3F304				区　分	コア科目			
授業科目名	リハビリテーション医学Ⅱ				担当者名	片岡　昌樹／大塚　愛二／古山　喜一			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本講義では、リハビリテーション医学分野で頻繁に遭遇する疾患に対する運動器および高齢化のリハビリテーションについて、病態・評価・リハビリテーションなどを学習する。加えて、リハビリテーションの治療技術やリハビリテーション医学に関係した社会福祉，障害者スポーツについて学ぶ。リハビリテーション医学分野における柔道整復師の役割について概説する。

＜授業の到達目標＞
リハビリテーション医学分野における基礎的な知識、特に、1）高齢者や運動器を中心とした疾患別リハビリテーションの流れの概説、2）リハビリテーション医学に関連した社会福祉，障害者スポーツについての理解ができるようになることを目標とする。

＜授業の方法＞
視聴覚教材、配布資料等を適宜用い、教科書に沿って授業を進行する。課題の提示、提出等はGoogle Classroom等で行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループ学習において双方向で理解度を確認する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
学習時の疑問についてはその都度質問するようにすること。本講義において、機能解剖、運動学、疾患における測定評価、治療に関する理解が必要である。したがって、教科書や配布資料（事前に配布する）、ノートなどを活用して各回当該箇所の基本的事項、他の授業で学んだ関連部分の予習および復習を各60分以上行い、理解を深めること。事前課題および復習課題の提示、提出を求めることもある。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、DP３　（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる）に関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
小テスト等の課題 60%、定期試験40%で成績評価する。但し、定期試験において60%以上の評価点を取得した者に対し前記の成績評価を行う。事前学習、小テストに関するフィードバックは講義中または個別に行う。

＜教科書＞
全国柔道整復学校協会（監修），栢森良二（編）（2019年4月10日）　リハビリテーション医学 改定第4版　南江堂

＜参考書＞
指定なし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	高齢者のリハビリテーション（1）（教科書第8章）	ガイダンス、A)平均寿命と健康寿命　B)フレイル　C)要介護状態の予防（古山喜一）
2	高齢者のリハビリテーション（2）（教科書第8章）	D)地域リハビリテーション　E)高齢者の自立支援　F)機能訓練指導員　G)機能訓練指導員の知識（古山喜一）
3	脳疾患のリハビリテーション（1）（教科書第8章）	脳の構造・機能とその障害（大塚愛二）
4	運動器のリハビリテーション（1）（教科書第9章）	頚頚腕症候群の成り立ち（1）腕神経叢の構造（片岡昌樹）
5	脳疾患のリハビリテーション（2）（教科書第8章）	脳の構造・機能とその障害（大塚愛二）
6	脳疾患のリハビリテーション（3）（教科書第8章）	脳卒中急性期のリハビリテーション、摂食と栄養の管理（大塚愛二）
7	脳疾患のリハビリテーション（4）（教科書第8章）	脳卒中回復期のリハビリテーション、パーキンソン病のリハビリテーション(大塚愛二)
8	運動器のリハビリテーション（2）（教科書第9章）	頚頚腕症候群の成り立ち（2）a.胸郭出口症候群　b.Barre-Lieou症候群　C.慢性疼痛　D.痛みの評価診断　E.治療アプローチ（片岡昌樹）
9	脳疾患のリハビリテーション（5）（教科書第8章）	循環器疾患と脳卒中（大塚愛二）
10	脳疾患のリハビリテーション（6）（教科書第8章）	脳卒中の合併症予防と再発防止（大塚愛二）
11	リハビリテーションと福祉　（教科書第10章）	A. 社会福祉　B.介護保険（古山喜一）

12	運動器のリハビリテーション（3）（教科書第9章）	A 骨折の治療と後療法　B 骨粗鬆症　C 捻挫へのアプローチ D 上肢損傷症候群　E 下肢損傷症候群（片岡昌樹）
13	運動器のリハビリテーション（4）（教科書第9章）	D 上肢損傷症候群　E 下肢損傷症候群（古山喜一）
14	障害者スポーツ（教科書第11章）	A. 障害者スポーツの概要　B.障害者スポーツの歴史　C.障害者スポーツの分類　D.障害者スポーツの種目　E.障害者スポーツにおける評価と効果（古山喜一）
15		
16		

科目コード	3F305				区　分	コア科目			
授業科目名	関係法規				担当者名	坂本　賢広			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
柔道整復師国家試験問題に十分に対応できるようになることを前提とし、「患者中心の医療」および「良質な医療を提供」がこれからの医療のスローガンであり、医療の質を問うだけでなく、医療従事者自身の技術や倫理観のレベルを問うものとなっていること等を学ぶ。

＜授業の到達目標＞
法の基礎および意義、体系について説明できる。柔道整復に関する主要な法令（柔道整復師法、施行令等）の目的と体系を説明できる。柔道整復師の法的義務、業務範囲、および守秘義務について正しく解説できる。医療従事者の資格法、医療法、その他の関係法規等について説明できる。

＜授業の方法＞
関係法規は、テキストに沿って解説をし、国家試験問題を解きながら理解を深めて行く。単元ごとに小テストを行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有り各グループで患者役、術者役、タイムキーパー、レポーター、アクティビティリーダーを決めて、柔道整復師に関する裁判例を基にグループ内で議論し主体的な学習と実践を行う。役割を順番に担当していただき、積極的に参加して自分の考えを言葉にして学びほぐしを行う。医療関係者になることを想定した心構えを持ちながら主体的な学習活動を展開する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
テキストに沿って解説をし、国家試験問題を解きながら理解を深めて行く。単元ごとに小テストを行う。予習：各項目に対して教科書を中心に予習を行う（100分程度）復習：各項目に対して小テストを実施して知識定着のため確認を行う（20分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２(柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
定期試験50%・レポート20%　小テスト10%　学習意欲20%

＜教科書＞
全国柔道整復学校協会（2024年4月1日）　関係法規 2024年版　医歯薬出版
全国柔道整復学校協会　社会保障制度と柔道整復師の職業倫理　医歯薬出版

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業進行上の注意事項説明
2	憲法と法制度	法の体系、憲法
3	柔道整復師関連事項	柔道整復師及び柔道整復に関する事項、患者の権利
4	柔道整復師法第１章 総論	柔道整復師法の目的、定義
5	第２章 免許・第３章 国家試験	柔道整復師免許、名簿、柔道整復師国家試験
6	第４章 業務・第５章 施術所	業務、施術所に関する事項
7	第６章 雑則・第７章 罰則	柔道整復師雑則、罰則（1）
8	第８章 指定登録機関、他	罰則（2）、指定登録機関、指定試験機関、附則
9	柔道整復師法のまとめ	まとめ、柔道整復師法小テスト
10	医療従事者の身分法（1）	医師法、歯科医師法
11	医療従事者の身分法（2）	保健師助産師看護師法、診療放射線技師法
12	医療従事者の資格法（3）、その他	臨床検査技師法、薬剤師法、他
13	医療法	医療法
14	社会福祉関係法規	医療法施行令、社会福祉関係法規、他
15		
16		

科目コード	3F307				区　分	コア科目			
授業科目名	臨床柔道整復学Ⅴ(軟部組織Ⅰ)				担当者名	簀戸　崇史			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

近年、柔道整復業務において軟部組織損傷を扱う頻度は高くなっており、業務において重要な位置付けとなっている。本科目では上肢の軟部組織損傷を大きく肩及び上腕部、肘及び前腕部、手関節及び手指部に分類し、それぞれの部位において機能解剖を学習した上で損傷のメカニズム、症状、合併症、治療法、保存療法の限界、後療法等について学修する。

＜授業の到達目標＞

１．上肢の軟部組織損傷の疾患概要について説明ができる。２．他の疾患との鑑別し、処置方法を判断することができる。

＜授業の方法＞

１．講義（教員による疾患に対する説明）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

グループ学習において双方向で理解度を確認する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：実施する講義内容に準じた事前課題（疾患に関係する解剖学（特に運動器系）、疾患の概要の下調べ（毎回、1時間程度））
復習：振り返り確認試験（毎回、15分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

DP３　柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テスト等の課題 30%、定期試験70%で成績評価する。但し、定期試験において60%以上の評価点を取得した者に対し前記の成績評価を行う。事前学習、小テストに関するフィードバックは講義中または個別に行う。

＜教科書＞

全国柔道整復学校協会 監修(2022年3月15日)　「柔道整復学・理論編（改訂第7版）」　南江堂
全国柔道整復学校協会 監修(2013年12月20日)　「柔道整復学・実技編（改訂第2版）」　南江堂

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション肩部及び上腕部の軟部組織損傷(1)	授業ガイダンス、腱板断裂
2	肩部及び上腕部の軟部組織損傷(2)	上腕二頭筋長頭腱損傷、ベネット損傷
3	肩部及び上腕部の軟部組織損傷(3)	SLAP損傷、インピンジメント症候群
4	肩部及び上腕部の軟部組織損傷(4)	野球肩、loose shouder
5	肩部及び上腕部の軟部組織損傷(5)	肩甲上神経絞扼、五十肩、石灰性腱炎、変形性肩関節症
6	肘部及び前腕部の軟部組織損傷(1)	肘側副靭帯損傷、野球肘、テニス肘
7	肘部及び前腕部の軟部組織損傷(2)	前腕コンパートメント、肘関節後外側不安定症
8	肘部及び前腕部の軟部組織損傷(3)	正中神経障害、橈骨神経障害
9	肘部及び前腕部の軟部組織損傷(4)	尺骨神経障害、パンナー病、変形性肘関節症
10	手関節及び手指部の軟部組織損傷(1)	TFCC損傷、、手根管症候群
11	手関節及び手指部の軟部組織損傷(2)	ギヨン管症候群、キーンベック病
12	手関節及び手指部の軟部組織損傷(3)	マーデルング変形、腱交叉症候群、ド・ケルバン病
13	手関節及び手指部の軟部組織損傷(4)	側腹靭帯損傷、ロッキングフィンガー、ばね指
14	手関節及び手指部の軟部組織損傷(5)	デュプイトラン拘縮、ヘバーデン結節、ボタン穴変形、スワンネック変形
15		
16		

科目コード	3F308				区　分	コア科目			
授業科目名	臨床柔道整復学Ⅵ(軟部組織Ⅱ)				担当者名	簀戸　崇史			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
柔道整復業務において軟部組織損傷を扱う頻度は近年益々高くなっており、業務において重要な位置づけとなっている。本講義では下肢の軟部組織損傷を大きく股関節部、大腿部、膝部、下腿部、足関節部、足部に分類し、それぞれの部位において機能解剖を学習した上で損傷のメカニズム、症状、合併症、治療法、保存療法の限界、後療法等について学習する。

＜授業の到達目標＞
各損傷のメカニズム、症状、合併症、治療法、保存療法の限界、後療法等について説明ができる。

＜授業の方法＞
１．教科書を中心とした講義

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループ学習において双方向で理解度を確認する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：受講する講義に関する事前課題（柔道整復学総論の専門用語、解剖学（下肢の筋（起始停止、作用、支配神経）、講義内容の疾患の事前下調べ（毎回、１時間程度））、復習：講義開始終了時に実施内容の振り返りテスト（毎回、15分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
DP３　柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
小テスト等の課題 40%、定期試験60%で成績評価する。但し、定期試験において60%以上の評価点を取得した者に対し前記の成績評価を行う。事前学習、小テストに関するフィードバックは講義中または個別に行う。

＜教科書＞
全国柔道整復学校協会監修　柔道整復学・理論編　南江堂
全国柔道整復学校協会監修　柔道整復学・実技編　南江堂

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	股関節の軟部組織損傷	筋・腱の損傷及びスポーツ障害
2	股関節の軟部組織損傷	成長期の障害及び加齢による障害
3	股関節の軟部組織損傷	その他の障害
4	大腿部の軟部組織損傷	筋・腱の損傷及びスポーツ障害
5	膝関節部の軟部組織障害	発育期の障害
6	膝関節部の軟部組織障害	靭帯損傷
7	膝関節部の軟部組織障害	半月板損傷
8	膝関節部の軟部組織障害	関節周囲の損傷
9	膝関節部の軟部組織障害	変形性膝関節症
10	膝関節部の軟部組織障害	その他の膝の損傷及び障害
11	下腿部の軟部組織損傷	筋・腱の損傷及び障害
12	足部の軟部組織損傷	靭帯損傷
13	足部の軟部組織損傷	足部の有痛性疾患
14	足部の軟部組織損傷	変形及び末梢神経障害
15		
16		

科目コード	3F309				区　分	コア科目		
授業科目名	臨床柔道整復学Ⅶ(臨床応用)				担当者名	平林　大輔		
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
近年、超高齢化社会に伴い臨床現場で多くの高齢者を対象とすることがある。高齢者の多くは様々な基礎疾患を持っている事が多いため、骨折や脱臼、軟部組織損傷などの骨筋系のみならず内科系疾患について理解する事は必須である。本科目では、診療現場における病態の把握、治療指針に対する知識の習熟が学習の中心となる。

＜授業の到達目標＞
１．医療機関の診療方法を理解し、他の医療従事者との情報共有をはかることができる。２．骨筋系疾患のみならず内科系疾患の疑いをかけ、病態を判断することができる。３．症状に適した対応手法を判断する事ができる。

＜授業の方法＞
１．講義（教員による病態把握手法、疾患概要について）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無し

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：実施する講義に対する事前課題（臨床系科目（検査方法、疾患概要）の下調べ（毎回、１時間程度））、復習：実施内容に関する確認試験（毎回、15分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
定期試験100％で評価する。

＜教科書＞
全国柔道整復学校協会　柔道整復学・理論編　南江堂
全国柔道整復学校協会　一般臨床医学　南江堂
全国柔道整復学校協会　整形外科学　南江堂

＜参考書＞
公益社団法人全国柔道整復学校協会　施術の適応と医用画像の理解　南江堂

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	病態観察（1）	問診、視診について
2	病態観察（2）	姿勢、異常運動、歩行について
3	病態観察（3）	打診、聴診の定義、実施方法について
4	病態観察（4）	打診、聴診の実施
5	病態観察（5）	触診、身体測定について
6	病態観察（6）	身体のランドマークの触診、身体計測の実施
7	病態観察（7）	感覚検査、反射検査の定義、症状、疾患について
8	病態観察（8）	感覚検査、反射検査の実施
9	生命徴候（1）	生命徴候（バイタルサイン）について
10	生命徴候（2）	生命徴候（バイタルサイン）の測定実施
11	臨床症状と代表的疾患（1）	発熱、出血傾向を伴う疾患について
12	臨床症状と代表的疾患（2）	意識障害、チアノーゼを伴う疾患について
13	臨床症状と代表的疾患（3）	浮腫、肥満、やせを伴う疾患について
14	臨床症状と代表的疾患（4）まとめ	関節症状を伴う疾患について病態観察、生命徴候、臨床症状と代表的疾患について
15		
16		

科目コード	3F310				区　分	コア科目			
授業科目名	臨床柔道整復学演習Ⅰ［3年生用］				担当者名	古山　喜一／坂本　賢広			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
柔道整復術は、評価、整復、固定、後療法に分けられ、さらに後療法は手技療法、運動療法、物理療法から構成されており、整復、固定、後療法が三位一体となり、その相乗効果が期待できる治療手技として、患者の指導管理を行いながら早期に社会復帰させることを目的に行われていることを理解する。また、柔道整復術は幅広い専門基礎分野に支えられていることより、患者の人権や柔道整復師の義務と倫理、医療の安全の確保、社会と医療、人体の概要および生命徴候、診察法、検査法、各種の疾患、リハビリテーション等の専門基礎分野全般について、総合的

＜授業の到達目標＞
基礎専門科目（解剖学、生理学、病理学、公衆衛生学、関係法規）を踏まえた上で、臨床科目の内科学、外科学、整形外科学、リハビリテーション医学の領域で得られた情報と柔道整復術との関連性を考え、総合的に各種疾患の病態、発生機序、処置法、合併症、管理について説明ができることを目標とする。また、関連する法規についても修得する。

＜授業の方法＞
配布した問題や資料を基に学習を進め個人及びグループ形式で学習を進める。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
特になし

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前に提示された疾患について、①病態、②発生機序、③処置法、④合併症、⑤管理の項目に分け予習し授業に臨むことが重要である（1.5時間程度）。授業後は講義内容をふりかえり、「学び直した学習内容」についてのまとめを期日までに紙媒体あるいはデータの場合はDropboxを用い担当教員に提出する（1.5時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
【対面授業】定期試験（100%）で評価する。

＜教科書＞
全国柔道整復学校協会監修　一般臨床医学　医歯薬出版
全国柔道整復学校協会監修　整形外科学　南江堂
全国柔道整復学校協会監修　外科学　南江堂

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	基礎専門分野（解剖学・生理学）より人体構造と役割を理解する。	運動器と器官系のの構造と役割について理解を進める。
2	基礎専門分野（外科学・病理学）より各種疾患を考察する	腫瘍・炎症・感染と疾患の関連性について学習する
3	基礎専門分野（整形外科学・柔道整復学）より各種疾患を考察する	骨・関節と疾患の関連性について学習する
4	基礎専門分野（リハビリテーション医学・運動学）より各種疾患を考察する	医学的評価と疾患、リハビリテーションの関連性について学習する
5	総合考察１	各徴候が示す臨床症状等について疾患の病態把握を中心に基礎医学分野の知識（解剖学・生理学・公衆衛生学）を土台に臨床医学的考察を深める。また、関連する法（関係法規）についても学習する。
6	基礎専門分野（内科学）より各種疾患を考察する	循環器系、呼吸器系、消化器系疾患について学習する
7	基礎専門分野（外科学・病理学）より各種疾患を考察する	ショック・輸血、輸液と疾患の関連性について学習する
8	基礎専門分野（整形外科学・柔道整復学）より各種疾患を考察する	骨腫瘍と症状の関連性について学習する

9	基礎専門分野（リハビリテーション医学・運動学）より各種疾患を考察する	脳卒中、脊髄損傷のリハビリテーションについて学習する
10	総合考察2	各徴候が示す臨床症状等について疾患の病態把握を中心に基礎医学分野の知識（解剖学・生理学・公衆衛生学）を土台に臨床医学的考察を深める。また、関連する法（関係法規）についても学習する。
11	基礎専門分野（内科学）より各種疾患を考察する	医療面接、視診、打診、聴診、触診、生命徴候、感覚検査、反射検査、代表的な臨床症状等について理解を深める。
12	基礎専門分野（外科学・病理学）より各種疾患を考察する	移植・出血と疾患の関連性について学習する
13	基礎専門分野（整形外科学・柔道整復学）より各種疾患を考察する	スポーツと疾患の関連性について学習する
14	基礎専門分野（リハビリテーション医学・運動学）より各種疾患を考察する	リハビリテーションと福祉の関連性について学習する
15		
16		

科目コード	3F310				区　分	コア科目			
授業科目名	臨床柔道整復学演習Ⅰ［4年生用］				担当者名	古山　喜一			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
柔道整復術は、評価、整復、固定、後療法に分けられ、さらに後療法は手技療法、運動療法、物理療法から構成されており、整復、固定、後療法が三位一体となり、その相乗効果が期待できる治療手技として、患者の指導管理を行いながら早期に社会復帰させることを目的に行われていることを理解する。また、柔道整復術は幅広い専門基礎分野に支えられていることより、患者の人権や柔道整復師の義務と倫理、医療の安全の確保、社会と医療、人体の概要および生命徴候、診察法、検査法、各種の疾患、リハビリテーション等の専門基礎分野全般について、総合的

＜授業の到達目標＞
基礎専門科目（解剖学、生理学、病理学、公衆衛生学、関係法規）を踏まえた上で、臨床科目の内科学、外科学、整形外科学、リハビリテーション医学の領域で得られた情報と柔道整復術との関連性を考え、総合r的に各種疾患の病態、発生機序、処置法、合併症、管理について説明ができることを目標とする。また、関連する法規についても修得する。

＜授業の方法＞
配布した問題や資料を基に学習を進め個人及びグループ形式で学習を進める。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
特になし

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前に提示された疾患について、①病態、②発生機序、③処置法、④合併症、⑤管理の項目に分け予習し授業に臨むことが重要である（1.5時間程度）。授業後は講義内容をふりかえり、「学び直した学習内容」についてのまとめを期日までに紙媒体あるいはデータの場合はDropboxを用い担当教員に提出する（1.5時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
【対面授業】定期試験（100%）で評価する。

＜教科書＞
全国柔道整復学校協会監修　一般臨床医学　医歯薬出版
全国柔道整復学校協会監修　整形外科学　南江堂
全国柔道整復学校協会監修　外科学　南江堂

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	基礎専門分野（解剖学・生理学）より人体構造と役割を理解する。	運動器と器官系のの構造と役割について理解を進める。
2	基礎専門分野（外科学・病理学）より各種疾患を考察する	腫瘍・炎症・感染と疾患の関連性について学習する
3	基礎専門分野（整形外科学・柔道整復学）より各種疾患を考察する	骨・関節と疾患の関連性について学習する
4	基礎専門分野（リハビリテーション医学・運動学）より各種疾患を考察する	医学的評価と疾患、リハビリテーションの関連性について学習する
5	総合考察１	各徴候が示す臨床症状等について疾患の病態把握を中心に基礎医学分野の知識（解剖学・生理学・公衆衛生学）を土台に臨床医学的考察を深める。また、関連する法（関係法規）についても学習する。
6	基礎専門分野（内科学）より各種疾患を考察する	循環器系、呼吸器系、消化器系疾患について学習する
7	基礎専門分野（外科学・病理学）より各種疾患を考察する	ショック・輸血、輸液と疾患の関連性について学習する
8	基礎専門分野（整形外科学・柔道整復学）より各種疾患を考察する	骨腫瘍と症状の関連性について学習する

9	基礎専門分野（リハビリテーション医学・運動学）より各種疾患を考察する	脳卒中、脊髄損傷のリハビリテーションについて学習する
10	総合考察2	各徴候が示す臨床症状等について疾患の病態把握を中心に基礎医学分野の知識（解剖学・生理学・公衆衛生学）を土台に臨床医学的考察を深める。また、関連する法（関係法規）についても学習する。
11	基礎専門分野（内科学）より各種疾患を考察する	医療面接、視診、打診、聴診、触診、生命徴候、感覚検査、反射検査、代表的な臨床症状等について理解を深める。
12	基礎専門分野（外科学・病理学）より各種疾患を考察する	移植・出血と疾患の関連性について学習する
13	基礎専門分野（整形外科学・柔道整復学）より各種疾患を考察する	スポーツと疾患の関連性について学習する
14	基礎専門分野（リハビリテーション医学・運動学）より各種疾患を考察する	リハビリテーションと福祉の関連性について学習する
15		
16		

科目コード	3F311				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	臨床柔道整復学演習Ⅱ				担当者名	畑島　紀昭			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	カリキュラムにより異なります

＜授業の概要＞
柔道整復師の治療法が基礎医学を根底とした臨床医学であることを理解する為に日常診療の中で多く遭遇する疾患に焦点を当て、繰り返し確認することで、学習の定着を図る。　本科目では内科学、外科学、整形外科学といった臨床医学を起点に疾患の病態が解剖学、生理学で学んだ人体の構造と役割や病理学で修得した分子生物学的アプローチのどの部分に基礎がなされているのかに遡り学習する。また、公衆衛生学などの繋がりについても学習し、基礎医学と臨床医学の繋がりを確実に理解する。

＜授業の到達目標＞
基礎専門科目の解剖学、生理学、病理学、運動学、公衆衛生学の領域で得られた情報と柔道整復術との関連性を考え、総合的に各種疾患の病態、発生機序、処置法、合併症、管理について説明ができることを目標とする。

＜授業の方法＞
基礎専門科目およびコア科目で学習した内容を総合的にまとめた配布資料および問題の実施、実施後におけるグループ学習で進める。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
特になし

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
総合的学習（学習した内容）のつながりをもとに、①病態、②発生機序、③処置法、④合併症、⑤管理の項目に分け予習し（3時間程度）、講義で実施した問題に対する復習する作業が重要である（3時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
評価試験（90%）、学習意欲（10%）で評価する。

＜教科書＞
全国柔道整復学校協会監修　解剖学　医歯薬出版
全国柔道整復学校協会監修　生理学　南江堂
全国柔道整復学校協会監修　病理学概論　医歯薬出版

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	基礎専門分野（解剖学）より各種疾患を考察する	末梢神経・神経叢と疾患の関連性について学習する
2	基礎専門分野（解剖学）より各種疾患を考察する	骨格筋全般と疾患の関連性について学習する
3	基礎専門分野（解剖学）より各種疾患を考察する	血管系と疾患の関連性について学習する
4	基礎専門分野（解剖学）より各種疾患を考察する	骨と疾患の関連性について学習する
5	総合考察１	解剖学を中心とした視点で各種疾患との関連性について考察する
6	基礎専門分野（生理学）より各種疾患を考察する	内分泌と疾患の関連性について学習する
7	基礎専門分野（生理学）より各種疾患を考察する	呼吸器と疾患の関連性について学習する
8	基礎専門分野（生理学）より各種疾患を考察する	自律神経と疾患の関連性について学習する
9	基礎専門分野（生理学）より各種疾患を考察する	免疫システムと疾患の関連性について学習する
10	総合考察２	生理学を中心とした視点で各種疾患との関連性について考察する
11	基礎専門分野（運動学）より各種疾患を考	運動の発生のメカニズムと疾患の関連性について学習する

	察する	
12	基礎専門分野（運動学）より各種疾患を考察する	運動学習と疾患の関連性について学習する
13	基礎専門分野（病理学）より各種疾患を考察する	細胞の変化と疾患の関連性について学習する
14	総合考察３	運動学、病理学を中心とした視点で各種疾患との関連性について考察する
15		
16		

科目コード	3F311				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	臨床柔道整復学演習Ⅱ				担当者名	畑島　紀昭			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	カリキュラムにより異なります

＜授業の概要＞
柔道整復師の治療法が基礎医学を根底とした臨床医学であることを理解する為に日常診療の中で多く遭遇する疾患に焦点を当て、繰り返し確認することで、学習の定着を図る。　本科目では内科学、外科学、整形外科学といった臨床医学を起点に疾患の病態が解剖学、生理学で学んだ人体の構造と役割や病理学で修得した分子生物学的アプローチのどの部分に基礎がなされているのかに遡り学習する。また、公衆衛生学などの繋がりについても学習し、基礎医学と臨床医学の繋がりを確実に理解する。

＜授業の到達目標＞
基礎専門科目の解剖学、生理学、病理学、運動学、公衆衛生学の領域で得られた情報と柔道整復術との関連性を考え、総合的に各種疾患の病態、発生機序、処置法、合併症、管理について説明ができることを目標とする。

＜授業の方法＞
基礎専門科目およびコア科目で学習した内容を総合的にまとめた配布資料および問題の実施、実施後におけるグループ学習で進める。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
課題に応じてグループワークを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
総合的学習（学習した内容）のつながりをもとに、①病態、②発生機序、③処置法、④合併症、⑤管理の項目に分け予習し（3時間程度）、講義で実施した問題に対する復習する作業が重要である（3時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４(柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
評価試験（90%）、学習意欲（10%）で評価する。

＜教科書＞
全国柔道整復学校協会監修　解剖学　医歯薬出版
全国柔道整復学校協会監修　生理学　南江堂
全国柔道整復学校協会監修　病理学概論　医歯薬出版

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	基礎専門分野（解剖学）より各種疾患を考察する	末梢神経・神経叢と疾患の関連性について学習する
2	基礎専門分野（解剖学）より各種疾患を考察する	骨格筋全般と疾患の関連性について学習する
3	基礎専門分野（解剖学）より各種疾患を考察する	血管系と疾患の関連性について学習する
4	基礎専門分野（解剖学）より各種疾患を考察する	骨と疾患の関連性について学習する
5	総合考察１	解剖学を中心とした視点で各種疾患との関連性について考察する
6	基礎専門分野（生理学）より各種疾患を考察する	内分泌と疾患の関連性について学習する
7	基礎専門分野（生理学）より各種疾患を考察する	呼吸器と疾患の関連性について学習する
8	基礎専門分野（生理学）より各種疾患を考察する	自律神経と疾患の関連性について学習する
9	基礎専門分野（生理学）より各種疾患を考察する	免疫システムと疾患の関連性について学習する
10	総合考察２	生理学を中心とした視点で各種疾患との関連性について考察する
11	基礎専門分野（運動学）より各種疾患を考	運動の発生のメカニズムと疾患の関連性について学習する

	察する	
12	基礎専門分野（運動学）より各種疾患を考察する	運動学習と疾患の関連性について学習する
13	基礎専門分野（病理学）より各種疾患を考察する	細胞の分子生物学的変化と疾患の関連性について学習する
14	総合考察３	運動学、病理学を中心とした視点で各種疾患との関連性について考察する
15		
16		

科目コード	3F312				区　分	コア科目			
授業科目名	臨床柔道整復学演習Ⅲ				担当者名	古山　喜一			
配当年次	4年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
柔道整復術は、評価、整復、固定、後療法に分けられ、さらに後療法は手技療法、運動療法、物理療法から構成されており、整復、固定、後療法が三位一体となり、その相乗効果が期待できる治療手技として、患者の指導管理を行いながら早期に社会復帰させることを目的に行われていることを理解する。また、柔道整復術は幅広い専門基礎分野に支えられていることより、患者の人権や柔道整復師の義務と倫理、医療の安全の確保、社会と医療、人体の概要および生命徴候、診察法、検査法、各種の疾患、リハビリテーション等の専門基礎分野全般について、総合的

＜授業の到達目標＞
基礎専門科目（解剖学、生理学、病理学、公衆衛生学、関係法規）を踏まえた上で、臨床科目の内科学、外科学、整形外科学、リハビリテーション医学の領域で得られた情報と柔道整復術との関連性を考え、総合的に各種疾患の病態、発生機序、処置法、合併症、管理について説明ができることを目標とする。また、関連する法規についても修得する。

＜授業の方法＞
配布した問題や資料を基に学習を進め個人及びグループ形式で学習を進める。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
特になし

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前に提示された疾患について、①病態、②発生機序、③処置法、④合併症、⑤管理の項目に分け予習し授業に臨むことが重要である（1.5時間程度）。授業後は講義内容をふりかえり、「学び直した学習内容」についてのまとめを期日までに紙媒体あるいはデータの場合はDropboxを用い担当教員に提出する（1.5時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
【対面授業】定期（評価）試験（100%）で評価する。 尚、シラバスで明示してある総合考察1又は2が終了した時点で、臨床柔道整復学演習Ⅲ試験①～③を実施し、その３回の試験において２回以上国家試験合格基準を上回ることで、国家試験の受験に際して必要な「卒業見込み証明書」を発行する。

＜教科書＞
全国柔道整復学校協会監修　一般臨床医学　医歯薬出版
全国柔道整復学校協会監修　整形外科学　南江堂
全国柔道整復学校協会監修　外科学　南江堂

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	基礎専門分野（解剖学・生理学）より人体構造と役割を理解する。	運動器と器官系のの構造と役割について理解を進める。
2	基礎専門分野（外科学・病理学・公衆衛生学）より各種疾患を考察する	腫瘍・炎症・感染と疾患の関連性について学習する
3	基礎専門分野（整形外科学・柔道整復学）より各種疾患を考察する	骨・関節と疾患の関連性について学習する
4	基礎専門分野（リハビリテーション医学・運動学）より各種疾患を考察する	医学的評価と疾患の関連性、リハビリテーションについて学習する。
5	総合考察１	各徴候が示す臨床症状等について疾患の病態把握を中心に基礎医学分野の知識（解剖学・生理学・公衆衛生学）を土台に臨床医学的考察を深める。また、関連する法（関係法規）についても学習する。
6	基礎専門分野（内科学）より各種疾患を考察する	循環器系疾患、呼吸器系疾患、消化器系疾患等について学習する
7	基礎専門分野（外科学・病理学）より各種疾患を考察する	ショック・輸血、輸液と疾患の関連性について学習する
8	基礎専門分野（整形外科学・柔道整復学）より各種疾患を考察する	骨腫瘍と症状の関連性について学習する
9	基礎専門分野（リハビリテーション医学・	脳卒中、脊髄損傷とリハビリテーションについて学習する

	運動学）より各種疾患を考察する	
10	総合考察2	各徴候が示す臨床症状等について疾患の病態把握を中心に基礎医学分野の知識(内科学・整形外科学・外科学・リハビリテーション医学)を土台に臨床医学的考察を深める。また、関連する法（関係法規）についても学習する。
11	基礎専門分野（内科学）より各種疾患を考察する	医療面接、視診、打診、聴診、触診、生命徴候、感覚検査、反射検査、代表的な臨床症状等について理解を深める。
12	基礎専門分野（外科学・病理学）より各種疾患を考察する	移植・出血と疾患の関連性について学習する
13	基礎専門分野（整形外科学・柔道整復学）より各種疾患を考察する	スポーツと疾患の関連性について学習する
14	総合考察３	各徴候が示す臨床症状等について、疾患の病態把握を中心に基礎医学分野、臨床医学分野から考察を深める。
15		
16		

科目コード	3F313				区　分	コア科目			
授業科目名	柔道整復治療学				担当者名	石原　和泰			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
整形外科医による医療安全に関する講義を中心に医療画像の見方などについても修得する。柔道整復師が扱う疾患は骨折、脱臼、捻挫、打撲、挫傷であり、急性あるいは亜急性外傷に限られている。柔道整復師が業務を行うにあたり、患者に対する医療安全の観点から、対象となる運動器疾患が業務範囲内にあるかどうかを適切に判断し、必要であれば医療機関との連携を図りながら柔道整復術を適切に実施できる能力の修得を目的とする。近年、画像診断機器の発達により、骨はもとより軟部組織の病的状態を可視化することが可能にな ってきている。解像度や分

＜授業の到達目標＞
健康の保持・増進、競技力向上を科学的に考える上で不可欠な医学的な分野（特に整形外科学的分野）についての知識を身に付ける。そして医師をはじめとするメディカル・コメディカルスタッフ、コーチ、トレーナーと共通の認識、共通の言語を持って話が出来ることを目標とする。

＜授業の方法＞
概ねスライドを使って講義を行う。授業理解度の確認としてミニッツペーパーを有効的に用い、学生、教員間で理解度を共有し学習内容の確実な定着に繋げる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング　なし

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
講義のレジュメは各回の講義の最初に配布する。講義中は確実な定着に繋げる。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
（評価方法）定期試験 90点、出席点 10点の100点満点とする。出席点は1回の欠席ごとに2点の減点とする。試験時はノートの持ち込みは認めない。（出欠確認）出席の確認は講義冒頭の点呼により行う。点呼に間に合わなかった者は講義終了時に申し出ること。（欠席届の取り扱いについて）当該講義のテーマに即したレポートを提出すること。レポートの提出期限は欠席した月の翌月末までとする。（それ以降は受理しない）レポートの提出により出席点を与える。（公欠の取り扱いについて）学則に則る。（その他）講義資料の再配布は行わないので

＜教科書＞
公益財団法人　全国柔道整復学校協会監修　施術の適応と医用画像の理解　南江堂

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	骨腫瘍	骨腫瘍の診断と病態
2	脊椎の外傷と脊髄損傷（1）	脊椎の外傷と脊髄損傷（骨粗鬆症を含む）（1）
3	脊椎の外傷と脊髄損傷（2）	脊椎の外傷と脊髄損傷（骨粗鬆症を含む）（2）
4	足関節の外傷	Laugehansen分類について
5	症例検討による演習（１）	症例検討による演習（１）
6	症例検討による演習（2）	症例検討による演習（2）
7	症例検討による演習（3）	症例検討による演習（3）
8	症例検討による演習（4）	症例検討による演習（4）
9	症例検討による演習（5）	症例検討による演習（5）
10	症例検討による演習（6）	症例検討による演習（6）
11	症例検討による演習（7）	症例検討による演習（7）
12	症例検討による演習（8）	症例検討による演習（8）
13	症例検討による演習（9）	症例検討による演習（9）
14	症例検討による演習（１0）	症例検討による演習（１0）
15		
16		

科目コード	3F314				区　分	コア科目			
授業科目名	臨床柔道整復学Ⅳ（社会保障制度と職業倫理）				担当者名	古山　喜一			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
日本の社会保障制度は、国民生活の安定を保障し、誰もが安心して暮らせる社会を実現するためのセーフティネットである。憲法第25条の「生存権」を根拠法として、主に5つの社会保険制度「年金保険」「医療保険」「雇用保険」「労災保険」「介護保険」と3つの仕組み「社会福祉」「公衆衛生」「公的扶助」で構成されている。わが国では、すべての国民が医療保険や年金に加入することが義務であり本邦の特徴ともいえる。これは、病気、ケガ、出産、失業、老齢、障害といった人生の様々なリスクに対して、社会全体で支え合う「共助」の精神に基づいて

＜授業の到達目標＞
我が国におけるセーフティネットである社会保障制度について学ぶと共に、国民医療費、柔道整復師療養費、受領委任払い制度の概要ならびに成り立ちについて学ぶ。また、患者に接する際の心構えや医療従事者としての倫理観について学び高い人格形成に努め、公共心を涵養する。

＜授業の方法＞
講義、ならびにグループ学習形式で進める。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有り

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
社会保障制度、社会保障給付費、国民医療費の内訳などについて事前・事後に予習復習しておくことが必要である。（予習、復習共に1.5時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目はDP３に該当し、　（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる）に関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
小テスト等の課題 60%、定期試験40%で成績評価する。但し、定期試験において60%以上の評価点を取得した者に対し前記の成績評価を行う。事前学習、小テストに関するフィードバックは講義中または個別に行う。

＜教科書＞
全国柔道整復学校協会　監修　社会保障制度と柔道整復師の職業倫理　医歯薬出版

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス・我が国の社会保障制度について1	社会保障制度について理解する
2	我が国の社会保障制度について2	社会保障制度について理解を深める
3	中年及び高齢者を取り巻く現状を知る	中高年の社会の人口学的概況と保健・医療・福祉制度の現状と課題を理解する
4	医療保険制度・国民医療費の動向	医療保険制度、国民医療費の動向について理解する
5	介護保険制度・介護保険の動向	介護保険制度、介護保険制度の動向を理解する
6	高齢者介護	高齢者に発生する認知症の病態、症状、治療法を理解する
7	医の倫理	ヒポクラテス・ジュネーブ宣言に代表される医の倫理を考える
8	柔道整復師業務における療養費（1）	療養費制度の概要、「受領委任払い」制度、「償還払い」制度を理解する
9	柔道整復師業務における療養費（2）	療養費算定の実際
10	職業倫理（1）	柔道整復師に必要な基本的倫理観と患者への対応を考える
11	職業倫理（2）	（グループディスカッション）事例研究
12	関係法規	柔道整復師法、医療法等の関係法規を理解する
13	総合討議1	これまでの授業を復習し再度確実な知識として修得する
14	総合討議2	これまでの授業を復習し再度確実な知識として修得する
15		
16		

科目コード	3F315				区　分	基礎専門科目			
授業科目名	解剖学Ⅲ				担当者名	百田　龍輔			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
スポーツ医科学、柔道整復学習得のためには解剖学の知識が必須である。解剖学では人体を構成する骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、感覚器系、神経系、脈管系の各器官の正常構造について系統的に学習する。また人体が、この10種類の器官系が立体的に配置することによって形成されていることを学習する。

＜授業の到達目標＞
1）下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体、副腎、膵島などの内分泌器官の位置、構造、分泌されるホルモンとその作用を説明できる。2）神経系の区分と特徴を説明できる。3）神経組織を構成する細胞とそれが作る構造物を説明できる。4）中枢神経系の区分と構造、脳室の構造、脳脊髄液の生成について説明できる。5）伝導路、反射について説明できる。6）末梢神経の構造とその分布について説明できる。 7）外皮の構造と機能について説明できる。 8）感覚器の構造と機能について説明できる。

＜授業の方法＞
教科書、解剖図、参考書を使用して講義する。適宜画像を用いて講義を行う。教科書の各項目については、講義の進行上部分的に入れ替えることがある。重要な学習項目については随時学生を指名し発表討論形式で説明させる。講義終了時にその日の授業内容全般を整理するために全員に試験形式で問題を解答させる。Google Suites, Kahootなどのシステムを用いて反転授業、クイズ、課題の提出を行うので、各自インターネット接続可能な端末を用意すること。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業計画に示す教科書の講義予定範囲を必ず音読のうえ、予習してくること。（1時間）講義で習った事項をその日のうちに、教科書､クイズ課題で復習する｡クイズ課題提出は期限厳守すること｡またすでに学習した知識と有機的に関連付けて整理しておくこと。（1時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業後のクイズ課題を毎回期限内に提出すること。学習意欲30％・評価試験70％

＜教科書＞
岸 清・石塚 寛 編　解剖学　医歯薬出版
坂井建夫・橋本尚詞　ぜんぶわかる人体解剖図　成美堂出版
医療情報科学研究所　からだがみえる　人体の構造と機能　メディックメディア

＜参考書＞
松村 譲兒　イラスト解剖学　中外医学社
自習用に以下のアプリを推薦します。Human Anatomy Atlas 202? Complete 3D Human Body <ahref="https://apps.apple.com/app/id1117998129"target="_blank">https://apps.apple.com/app/id1117998129解剖学的構造と生理学Anatomy & Physiology<a href="https://apps.apple.com/app/id920133658"targe

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	内分泌系　総論	内分泌系の働きホルモンの化学的性状と作用機序
2	内分泌系下垂体	下垂体の構造下垂体ホルモンの種類と作用
3	内分泌系松果体甲状腺と上皮小体	松果体、甲状腺と上皮小体の構造メラトニン甲状腺ホルモンカルシトニンパラソルモン
4	内分泌系副腎	内分泌系副腎の構造（皮質・髄質）副腎皮質ホルモンの種類と作用副腎髄質ホルモンの種類と作用
5	内分泌系膵臓精巣・卵巣ホルモン	膵島の細胞とそれらのホルモン精巣・卵巣のホルモンとその作用
6	神経系総論	神経系の区分神経組織神経細胞・支持細胞灰白質・白質脳室髄膜と脳脊髄液
7	脳	大脳の構造溝・回大脳皮質大脳核
8	大脳の構造溝・回大脳皮質大脳核	間脳中脳・橋・延髄小脳
9	間脳中脳・橋・延髄小脳	脊髄
10	頸髄胸髄腰髄仙髄尾髄前根と後根脊髄の内部構造	頸髄胸髄腰髄仙髄尾髄前根と後根脊髄の内部構造
11	末梢神経・脳神経	脳神経

12	末梢神経・脊髄神経	頚神経叢腕神経叢腰神経叢仙骨神経叢デルマトーム自律神経
13	感覚器外皮視覚器	外皮視覚器
14	聴覚器および平衡器味覚・嗅覚	聴覚器および平衡器味覚・嗅覚
15		
16		

科目コード	3F316				区　分	コア科目		
授業科目名	生理学Ⅲ				担当者名	佐藤　良子		
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
生理学では人体の役割と機能について学ぶ。人体の正常な構造と機能を知っていることは、将来人体に関わる仕事に就く者にとって大切なことである。生理学IIIでは、生命を維持する植物学的機能のうち、内分泌を中心に学ぶ。

＜授業の到達目標＞
ホルモンのはたらきやホルモンの影響を大きく受ける生殖や骨について理解する。恒常性の維持にホルモンや腎臓などが複雑に関与していることを理解する。柔道整復師国家試験問題についてただ正しいものを選択できるようになるのではなく、「なぜ正しいか／どこが誤っているか、誤っているなら正しい答えはなにか」について理解して答えられるようになるのが目標である。

＜授業の方法＞
教科書に沿って講義を行うが、理解しやすいように順番は若干前後することがある。また、理解を深めるために、図を多く入れたプリントを配布する。教科書の記載では説明が省略されている項目があるが、生理学の理解のために必要な項目については補足講義する。当日の講義の内容に関連する柔道整復師国家試験の生理学分野の過去問題についての解説も入れる。講義の終わりに、その日の講義内容の確認の課題を解答し、提出する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習としては教科書の次回授業範囲を一通り読んでおくとよい（約15分）。復習は毎回行う課題および国家試験問題を中心に行うとよい（約30分）。人体の機能には、拮抗するもの（逆のはたらきをするもの）が多くあるため、小テストの設問と逆の機能についても考えるようにすると、1つの問題から多くのことを学ぶことができる。また、国家試験問題は正しい答えを求めるだけでなく、残りの選択肢が示すものはなにであるかについて考えるとよい。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３(柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
課題提出 15%、定期試験 80%、授業態度 5%。課題の解答は講義の次々回に行うほか、まとめの回で再度確認する。

＜教科書＞
公益社団法人全国柔道整復学校協会監修　彼末一之編集　生理学 改定第4版南江堂　南江堂

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	内分泌(1)	ホルモンの分類
2	内分泌(2)	下垂体のホルモン
3	内分泌(3)	甲状腺のホルモン，副甲状腺ホルモン，副腎皮質ホルモン(1)
4	内分泌(4)	副腎皮質ホルモン(2)
5	内分泌(5)	副腎髄質ホルモン，膵臓のホルモン
6	内分泌(6)	血糖値の調節，性ホルモン
7	生殖(1)	性分化，男性生殖器と精子形成
8	生殖(2)	女性生殖器と卵子形成
9	生殖(3)，骨の生理(1)	妊娠，骨の構造
10	骨の生理(2)	カルシウム調節ホルモン，骨の異常
11	尿の生成と排泄(1)	腎臓の構造，尿の生成
12	尿の生成と排泄(2)	再吸収と分泌，クリアランス
13	尿の生成と排泄(3)	排尿，酸塩基平衡
14	まとめ	生理学IIIの講義内容について確認する
15		
16		

科目コード	3F317				区　分	基礎専門科目			
授業科目名	解剖学Ⅳ				担当者名	百田　龍輔			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

スポーツ医科学、柔道整復学習得のためには解剖学の知識が必須である。解剖学では人体を構成する骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、感覚器系、神経系、脈管系の各器官の正常構造について系統的に学習する。これまでに解剖学I～IIIで器官系別に学んだことを統合的に理解し、人体がこの10種類の器官系が立体的に配置、連動することによって形成されていることを学習する。

＜授業の到達目標＞

1）器官の位置関係を方向用語（上下、前後、内・外側、浅深、頭・尾側、背・腹側）で説明できる。2）骨・軟骨・関節・靭帯の構造と機能を説明できる。3）四肢の骨・関節を列挙し、主な骨の配置を図示できる。4）椎骨の構造と脊柱の構成を説明できる。5）四肢の主要筋群の運動と神経支配を説明できる。6）骨盤の構成と性差を説明できる。7）心臓の構造と分布する血管・神経を説明できる。8）体循環、肺循環と胎児循環を説明できる。9）大動脈の枝を図示し、分布域を概説できる。10）頭頸部と四肢の主な動脈を図示し、分布域を概説できる。

＜授業の方法＞

教科書、解剖図、参考書を使用して講義する。生理学とも関連して理解するので、生理学の教科書も忘れずに持ってくること。また、理解を深めるための演習問題、解剖画像を用いて講義を行う。重要な学習項目については随時学生を指名し発表討論形式で説明させる。講義終了時にその日の授業内容全般を整理するために全員に試験形式で問題を解答させる。Google Suites, Kahootなどのシステムを用いて反転授業、クイズ、課題の提出を行うので、各自インターネット接続可能な端末を用意すること。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業計画に示す教科書の講義予定範囲を必ず音読のうえ、予習してくること。（1時間）講義で習った事項をその日のうちに、教科書､クイズ課題で復習する｡クイズ課題提出は期限厳守すること｡またすでに学習した知識と有機的に関連付けて整理しておくこと。（1時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー２（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義毎のクイズ問題で正誤をフィードバックしますので、間違えたところは各自確認してください。学習意欲30%・評価試験70%

＜教科書＞

岸 清・石塚 寛 編　解剖学　医歯薬出版
坂井建夫・橋本尚詞　ぜんぶわかる人体解剖図　成美堂出版
医療情報科学研究所　からだがみえる　人体の構造と機能　メディックメディア

＜参考書＞

松村 譲兒　イラスト解剖学　中外医学社
VisibleBody　自習用に以下のアプリを推薦します。Human Anatomy Atlas 202? Complete 3D Human Body <ahref="https://apps.apple.com/app/id1117998129"target="_blank">https://apps.apple.com/app/id1117998129解剖学的構造と生理学Anatomy & Physiology<a href="https://apps.apple.com/app/id920133658"targe　VisibleBody

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	解剖学総論	解剖学用語組織器官系細胞の構造遺伝子
2	骨格系	全身の骨格・関節
3	筋系１	筋系、上肢の筋、体幹の筋体幹、下肢の筋１
4	筋系２	筋系、上肢の筋、体幹の筋体幹、下肢の筋２
5	循環器系	心臓血管動脈系静脈系
6	リンパ・免疫系	リンパ循環免疫
7	消化管の概観、肝臓、胆嚢、膵臓	消化管の概観、肝臓、胆嚢、膵臓
8	肝臓、胆嚢、膵臓、消化と吸収	肝臓、胆嚢、膵臓、消化と吸収
9	呼吸器系	呼吸器の構造、呼吸
10	泌尿・生殖器系	腎臓、膀胱、尿の生成、生殖器の構造と機能
11	内分泌系	内分泌系とホルモン
12	神経系	神経系の概観、脊髄、脊髄神経、脳神経、脳の構造と機能

13	外皮系	皮膚の組織、構造爪毛
14	特殊感覚器系	眼球と視覚情報、聴覚・平衡器官、嗅覚、味覚
15		
16		

科目コード	3F318				区　分	コア科目		
授業科目名	生理学Ⅳ				担当者名	佐藤　良子		
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

生理学では人体の役割と機能について学ぶ。人体の正常な構造と機能を知っていることは、将来人体に関わる仕事に就く者にとって大切なことである。生理学Ⅳでは、生命を維持する植物学的機能のうち、循環、呼吸といった無意識のうちに調節されている機能について学ぶ。摂取した食物がどのように消化吸収され、利用可能なかたちになるかを学ぶ。また体温調節について学び、さらには高齢者ではどのような生理学的機能の変化が起こるかについて学ぶ。

＜授業の到達目標＞

循環や呼吸、消化・吸収、体温調節など生命維持に必要な機能がどのように調節されているか理解する。健常成人での生理的な機能を理解した上で、加齢によりどのように変化していくのかを理解する。柔道整復師国家試験問題についてただ正しいものを選択できるようになるのではなく、「なぜ正しいか／どこが誤っているか、誤っているなら正しい答えはなにか」について理解して答えられるようになるのが目標である。

＜授業の方法＞

教科書に沿って講義を行うが、理解しやすいように順番は若干前後することがある。また、理解を深めるために、図を多く入れたプリントを配布する。教科書の記載では説明が省略されている項目があるが、生理学の理解のために必要な項目については補足講義する。当日の講義の内容に関連する柔道整復師国家試験の生理学分野の過去問題についての解説も入れる。講義の終わりに、その日の講義内容の確認の課題を解答し、提出する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習としては教科書の次回授業範囲を一通り読んでおくとよい（約15分）。復習は毎回行う課題および国家試験問題を中心に行うとよい（約30分）。人体の機能には、拮抗するもの（逆のはたらきをするもの）が多くあるため、小テストの設問と逆の機能についても考えるようにすると、1つの問題から多くのことを学ぶことができる。また、国家試験問題は正しい答えを求めるだけでなく、残りの選択肢が示すものはなにであるかについて考えるとよい。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー３(柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題提出 15%、定期試験 80%、授業態度 5%。課題の解答は講義の次々回に行うほか、まとめの回で再度確認する。

＜教科書＞

公益社団法人全国柔道整復学校協会監修　彼末一之編集　生理学 改定第4版　南江堂

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	循環(1)	心臓の構造とはたらき，心電図(1)
2	循環(2)	心電図(2)，心臓の活動周期、血管
3	循環(3)	血圧，循環の調節(1)
4	循環(4)	循環の調節(2)，局所循環
5	呼吸の生理(1)	呼吸器，肺気量
6	呼吸の生理(2)	ガス交換，呼吸の中枢と受容器,反射
7	消化と吸収(1)	消化器の構造と神経支配，消化と吸収－口腔
8	消化と吸収(2)	消化と吸収－胃，小腸，消化管ホルモン
9	消化と吸収(3)	肝臓とそのはたらき，吸収(1)
10	消化と吸収(4)，体温とその調節(1)	吸収(2)，体温，熱産生
11	体温とその調節(2),高齢者の生理学的特徴(1)	熱放散，体温調節，細胞老化
12	高齢者の生理学的特徴(2)	加齢による臓器機能の変化
13	高齢者の生理学的特徴(3)	高齢者に多い疾患，運動と加齢
14	まとめ	生理学Ⅳの講義内容について確認する
15		
16		

科目コード	3G100				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	現代経営論［週2］				担当者名	田口　雅弘／歌代　哲也			
配当年次	1年	配当学期	第２クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	履修必修

＜授業の概要＞
週前半の講義では、オムニバス形式で、『日本経済新聞』の読み方を、外部講師が解説。週後半の講義では、本学教員が週前半の講義を解説・補足する。２年生が対象。

＜授業の到達目標＞
『日本経済新聞』が理解できる基礎力がつき、現代社会で起こっている社会・経済問題のポイントが理解できるようになる。

＜授業の方法＞
オムニバス形式の講義

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
ディスカッションを取り入れる。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
最初の講義で指示する。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
最初の講義で指示する。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	3G104				区　分	コア科目			
授業科目名	中小企業論［週2］				担当者名	宇都宮　浩司			
配当年次	3年	配当学期	第２クオーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
日本経済の99.7%を占める中小企業の多面的な姿を学びます。歴史的変遷から中小企業支援策、深刻な事業承継問題、そして家業の資源を活かした「第二創業」による革新などをテーマに講義していきます。単なる知識にとどまらず、日本経済の強みの源泉と課題を浮き彫りにし、次世代の経営に求められる戦略的視点を養うことを目的とします。

＜授業の到達目標＞
①日本の中小企業が歩んだ歴史的変遷と、それに対応して策定されてきた中小企業政策の意図と仕組みを正しく説明できる。②現在の中小企業が直面する後継者不在の構造的課題を理解し、既存の経営資源を活かして新たな価値を創造する「第二創業」のプロセスを論理的に提示できる。③中小企業の強みと弱みを、財務・マーケティング・地域経済といった多面的な視点から分析し、持続可能な経営戦略を立案する基礎的な力を身につける。

＜授業の方法＞
講義形式ではあるが、双方向的な学びとなるように工夫していく予定。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの有無：有反転学習、プレゼンテーション

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習：日本経済新聞や授業で提示した経済情報誌等で関連する経済・経営ニュースを調べておくこと（約60分）事後学習：講義で学んだキーワードを専門書等で調べ、自分の理解度を深めておくこと（約60分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、現代経営学科のDP２「経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。」およびDP３「経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。」に関連している。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
①授業における課題提出：30%②授業内レポート×2回：30%③授業内確認テスト：40%上記の総合点で評価する。

＜教科書＞
使用しません。

＜参考書＞
適宜紹介します。

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	中小企業の定義、日本経済における役割と現状の概観
2	日本中小企業史①	戦前～戦後復興期：二重構造論と「下請け」構造の形成
3	日本中小企業史②	高度経済成長期～バブル崩壊：集積の形成と固有技術の発展
4	中小企業政策の変遷	「弱者救済」から「成長支援・環境整備」へのパラダイムシフト
5	中小企業基本法と支援体制	法的枠組みと、商工会議所・よろず支援拠点などの実務
6	中小企業の経営戦略	ニッチ市場での差別化戦略、ブランド化、CSV経営
7	地域経済と産業集積	東大阪や燕三条など、地域に根差した「産地」の強みと課題
8	中小企業の財務と資金調達	信用補完制度、プロパー融資、補助金・助成金の仕組み
9	事業承継問題①（現状）	大廃業時代の到来、親族内継承の減少と社会的損失
10	事業承継問題②（手法）	M&A、親族外承継、サーリファンドの台頭
11	第二創業の理論と実践	既存の経営資源（ヒト・モノ・カネ）を活かした新規事業開発
12	ベンチャー企業とスタートアップ	中小企業とスタートアップの違い、エコシステムの構築
13	デジタル化（DX）とグローバル化	生産性向上への挑戦と、海外展開による販路開拓
14	全体のまとめ	総復習と確認問題
15		
16		

科目コード	3G106				区　分	コア科目			
授業科目名	国際経営論［週2オンデマンド］				担当者名	宇都宮　浩司			
配当年次	3年	配当学期	第３クオーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
グローバル化が進んだ現在では､多くの企業が海外でなんらかの活動をおこなっている｡企業の活動が国内で完結する場合と異なり、ヒト・モノ・カネ・情報といった経営資源が国境を越える場合は、各国の文化や気候、物理的な距離、政治や経済といった様々な状況に大きく影響を受けるため、想定外の困難に直面することがある。このような困難な状況の中で、企業は海外に存在する活動拠点をどのように管理しているのか、また、海外市場で商品やサービスを提供するためにどのような戦略を立案しているのか。本講義ではこうした事象に対して国際経営の基礎

＜授業の到達目標＞
１　国際経営の理論や概念を説明できる。２　日本企業の国際展開や国際事業活動の特徴について説明できる。３　現代企業の国際事業活動に関する問題について自分の視点から考察できる。

＜授業の方法＞
オンデマンド

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有無：無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
１ 授業計画に記載されている授業内容、用語などについて、図書館等にある事典や書籍などを参照しつつ、必ず事前に調べて、講義に臨むこと（予習90分）。２ 空欄埋めシートなどを使って、講義で扱った内容を何度も復習すること（復習60分）。３ 講義に関する不明点等があれば、自分で調べたり、教員に尋ねたりすること（復習30分）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、現代経営学科のDP２「経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。」およびDP３「経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。」に関連している。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
①各回の授業における課題提出：40%②授業内確認テスト：30%③レポート課題：30%上記の総合点で評価する。

＜教科書＞
使用せず。

＜参考書＞
適宜紹介します。

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	国際経営論とは何か	国際経営論とはどのような学問かを理解し、その対象としての特徴について学ぶ。
2	海外直接投資の理論	伝統的な理論とその系譜について学ぶ。
3	多国籍企業による国際競争の時代（１）	第二次世界大戦以前の国際競争の歴史について学ぶ。
4	多国籍企業による国際競争の時代（２）	第二次世界大戦後の国際競争の歴史について学ぶ。
5	多国籍企業による国際競争の時代（３）	現代における国際競争の様相について歴史的文脈の中で学ぶ。
6	多国籍企業の組織デザイン	組織デザインの原則と多国籍企業の戦略について学ぶ。
7	トランスナショナル経営	グローバル統合とローカル適応それぞれの背景について理論的に学ぶ。
8	海外子会社の経営	海外子会社特有の経営課題と多様な役割について学ぶ。
9	国際マーケティング	国際マーケティングのプロセスについて学ぶ。
10	ものづくりの国際拠点展開	国際生産ネットワークについて学ぶ。
11	研究開発の国際化	海外開発拠点のマネジメントについて学ぶ。
12	国際的な人的資源管理	グローバル人材の時代における人的資源管理について学ぶ。
13	国際パートナーシップ	国際的パートナーシップ・モデルについて学ぶ。
14	本科目のまとめ	学習内容の総復習
15		
16		

科目コード	3G107				区　分	コア科目			
授業科目名	イノベーション論［週2］				担当者名	宇都宮　浩司			
配当年次	3年	配当学期	第１クオーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
多様性と変化の求められる現代において、新しい「もの」「考え方」「システム」などを創造すること、そして、新しい流れを的確につかみ、適応することが重要だと考えられている。そこで本講義では、刻々と変わる技術や価値観に適応できるよう、イノベーションとは何か、事例や理論を学び見えないものを具体化するプロセスについて学ぶ。

＜授業の到達目標＞
①イノベーション・マネジメントに関する基本概念を自分の言葉で説明できる。②イノベーション・マネジメントの理論・概念を用いて経営現象を分析できる。

＜授業の方法＞
１．配布資料を用いて、講義を行なう。２．授業中は質疑応答しながら授業を進めるため、対話型授業をめざす。３．授業終了前に小テストを実施し、基礎知識の定着度を確認しながら進めていく。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有ペアワーク、グループワークを用いて講義を進めていく。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
１ 授業計画に記載されている授業内容、用語などについて、図書館等にある事典や書籍などを参照しつつ、必ず事前に調べて、講義に臨むこと（予習90分）。２ 空欄埋めシートなどを使って、講義で扱った内容を何度も復習すること（復習60分）。３ 講義に関する不明点等があれば、自分で調べたり、教員に尋ねたりすること（復習30分）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、現代経営学科のDP２「経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。」およびDP３「経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。」に関連している。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
①授業における課題提出：30%②授業内レポート×2回：40%③授業内確認テスト：30%上記の総合点で評価する。

＜教科書＞
使用しない。

＜参考書＞
適宜紹介します。

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	イノベーション論とはどのような学問なのかを解説し、授業の進め方、成績方法等について説明する。
2	イノベーションと社会	イノベーションの定義づけ、歴史などについて学ぶ。
3	イノベーションの基礎理論	イノベーションの分類、社会との関係について学ぶ。
4	イノベーションの普及	イノベーションをいかにして広げるかについて学ぶ。
5	イノベーションを担う人材	職業の専門化と研究者の育成について学ぶ。
6	イノベーションと産業	各産業と雇用について学ぶ。
7	イノベーションと企業戦略【オンデマンド】	企業組織と戦略について学ぶ。
8	イノベーションと共同研究開発【オンデマンド】	共同研究開発の利点と問題点について学ぶ。
9	中間まとめ	前半部分のまとめと中間課題について
10	イノベーションとアントレプレナーシップ	起業家の役割、起業促進策と課題について学ぶ。
11	イノベーションと特許	特許制度の理解と特許戦略について学ぶ。
12	イノベーションと標準	標準の定義と標準化プロセスについて学ぶ。
13	イノベーション政策	産学連携と国家プロジェクトについて学ぶ。
14	イノベーションの重要性	本講義全体の総復習。
15		
16		

科目コード	3G108				区　分	コア科目			
授業科目名	ベンチャー企業論［週2オンデマンド］				担当者名	宇都宮　浩司			
配当年次	3年	配当学期	第４クオーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
現代の不確実な経済環境において、イノベーションの担い手であるベンチャー企業の重要性はますます高まっている。本講義では、単に「起業の手続き」を学ぶのではなく、「どのように機会を発見し、資源の制約を乗り越え、事業を急成長させるか」という、ベンチャー・マネジメントの本質を体系的に理解することを目的とする。本講義は、受講生がこれまでに学んできた経営戦略、経営組織論、イノベーション論などの知識をベースに、「ゼロから価値を生み出し、急成長を遂げる」というベンチャー企業特有のダイナミズムを学ぶ科目である。

＜授業の到達目標＞
①ベンチャー企業の成長プロセスと、各ステージにおける経営課題を説明できる。②ビジネスアイデアを具体的なビジネスモデルへと落とし込むフレームワークを身につける。③スタートアップ特有の資金調達（VC、エンジェル投資等）の仕組みを説明できる。④不確実性の高い環境における意思決定のあり方を身につける。

＜授業の方法＞
オンデマンド

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習：シラバスを読み講義内容を理解しておく。（60分程度）事後学習：配布資料、個々の講義ノートの整理をする。（60分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３(経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
①毎回のミニ課題・リフレクション（40%）：各回の講義後に提出する小レポートやクイズの回答（4% × 10回分などを想定）。②中間課題（20%）：第7回終了時点を目安に提示する、特定のベンチャー企業のケース分析レポート。③最終課題（40%）：自身で考案した「新規事業プラン（簡易版ビジネスプラン）」の提出、または指定のテーマに関する論述レポート。上記より総合的に評価する予定である。

＜教科書＞
使用せず。

＜参考書＞
適宜紹介する。

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダクション	ベンチャー企業論の全体像、現代社会における起業の意義、オンデマンド学習の進め方
2	アントレプレナーシップの本質	起業家精神とは何か。優れた起業家に共通するマインドセットと「エフェクチュエーション（予測不能な環境での行動論）」
3	機会の発見とビジネスアイデア	世の中の「不（不満・不便など）」からビジネスチャンスを見つけ出す方法論、デザイン思考の応用
4	ビジネスモデルの構築	誰に、何を、どのように提供してマネタイズするか。ビジネスモデル・キャンバス（BMC）の活用
5	リーン・スタートアップとMVP	失敗のコストを最小化する開発手法。最小限の製品（MVP）を用いた仮説検証サイクル
6	ベンチャー・マーケティング	資源のない初期ベンチャーが最初の顧客（イノベーター・アーリーアダプター）を獲得するための戦略
7	スタートアップの財務と資金調達①	デット（融資）とエクイティ（出資）の違い、エンジェル投資家とベンチャーキャピタル（VC）の役割
8	スタートアップの財務と資金調達②	資本政策の基礎、J-KISS等の投資契約、バリュエーション（企業価値評価）の考え方
9	事業計画書（ビジネスプラン）の作成	投資家やパートナーを巻き込むためのストーリー設計、ピッチ（プレゼン）の構成要素
10	ベンチャーの組織とチームビルディング	創業期のチーム組成、コアメンバーの集め方、急成長に伴う「組織の壁（30人の壁、

		100人の壁）」の乗り越え方
11	成長のマネジメント（スケールアップ）	PMF（プロダクト・マーケット・フィット）後の急加速戦略、大企業とのアライアンス（オープンイノベーション）
12	コーポレート・ガバナンスとリスク	ベンチャー特有のコンプライアンス、労務・法務リスク、知財戦略の重要性
13	イグジット戦略（Exit）	起業のゴールとしてのIPO（新規公開株）とM&A（企業の合併・買収）、シリアルアントレプレナーへの道
14	総社会起業家とこれからのキャリア	ソーシャル・ベンチャーの動向、これからの不確実な時代を生き抜くための「自分自身の起業家精神」
15		
16		

科目コード	3G109				区　分	コア科目			
授業科目名	経営情報論［週2］				担当者名	赤木　邦江			
配当年次	3年	配当学期	第4クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習（グループワーク・ペアワーク・1～3名でのスピーチ）	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
情報通信技術（ICT：Information and Communication Technology）の進展から、近年のDX（Dijital Transformation）というスローガンのもと、これまでとはかなり異なった特徴をもつ情報化実践が展開されている。最新のICTを駆使して成功した事例も失敗した事例もあり、それら現実の情報化実践を解明し、「はじめにICTありき」の発想のような視点ではなく、ICTと人間・組織・社会的特性の相互依存性を重視する社会技術システム、社会構成主義、社会物質性といった一連の

＜授業の到達目標＞
・日常生活にある身近な「高度で先進的なデジタル技術およびネットワーク技術＝DX環境」を認識・理解ができる。・ICTを駆使してもビジネス・パフォーマンスが向上しないのは、機能の問題ではなく、その企業の社員同士間のICTを　使わない対面や文字情報でのコミュニケーションや、組織の独特の文化や制度などが大きく影響していることを知る。

＜授業の方法＞
講義は対面授業およびグループディスカッション等によるアクティブ・ラーニングを実施する。ノートPC必携：GoogleClassroom、GoogleFormを活用したレジュメや課題の配布、資料の共有などICT活用に努める。(GoogleClassroomにアップしたレジュメを適宜、印刷またはダウンロードすること)出席確認は、毎授業時の中間確認：前半のポイント確認・GoogleForm入力、及び毎授業時の終了時：リフレクション（振り返り）シートの提出、ユニバーサルパスポート・スマホ(コード）出席登録。授業内ス

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニング有り：グループディスカッション、グループワーク、「（1～3名）3分間または5分間スピーチ」

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
・予習：予習課題を提示するので、自分で考え発表できるようにする（1時間程度必要）。　　※日頃から新聞、雑誌、インターネット等、様々なメディアに取り上げられているDX推進に関する情報を収集し、　　グループディスカッションの準備をしておく 。・復習：講義で学習したことの振り返り、レジュメ整理、事後課題など（1時間程度必要）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３(経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
「毎授業時の中間確認：前半のポイント確認・GoogleForm入力 13%」「毎授業時の終了時：リフレクション（振り返り）シート 26%」※提出をもって出席とする「授業への取り組み状況 13%」期末試験：配布レジュメ・資料、自筆ノート（コピー、写真コピーは不可）持ち込み可 48%※講義に関する質問は講義終了後、および教員のオフィスアワーで対応する。

＜教科書＞
指定しない。講義で使用する資料等は必要に応じて配布、または紹介する。

＜参考書＞
指定しない。講義で使用する資料等は必要に応じて配布、または紹介する。

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス：授業の進め方、成績評価についてDX推進に関する「3分間または5分間スピーチ」についてイントロダクション：経営情報論の基礎⑴	「情報社会」から「未来社会」へ、現在の転換（DX:デジタル・トランスフォーメイション）、事例紹介①
2	経営情報論の基礎⑵	経営資源としての「情報」特性、組織体と情報システム、経営情報論の意義、事例紹介②
3	経営情報論の基礎理論DX推進に関する「3分間スピーチ」及びグループディスカッシ	経営情報論と経営戦略、経営情報論と経営組織、多様なシステム思考、事例紹介③

	ョン	
4	経営情報システム観の変遷DX推進に関する「3分間スピーチ」及びグループディスカッション	情報化実践スローガンの変遷、DXによる能動的な環境適応、事例紹介④
5	情報通信技術の進展と組織⑴DX推進に関する「3分間スピーチ」及びグループディスカッション	コンピューティング能力の進展、偏在するICT、データベース、事例紹介⑤
6	情報通信技術の進展と組織⑵DX推進に関する「3分間スピーチ」及びグループディスカッション	ネットワーク・コンピューティング、先端的ICT、事例紹介⑥
7	経営情報システムの設計・開発DX推進に関する「3分間スピーチ」及びグループディスカッション	経営情報システムの開発方法論、情報システムの開発方法論の革新、現代の情報システム開発方法論、情報化戦略と組織・事業戦略との融合、事例紹介⑦
8	経営情報システムの管理DX推進に関する「3分間スピーチ」及びグループディスカッション	情報化推進の組織体制、情報化投資と評価、情報セキュリティ、情報化実践のガバナンス、事例紹介⑧
9	情報通信技術を活用したビジネス・イノベーションDX推進に関する「3分間スピーチ」及びグループディスカッション	現代のビジネス環境、イノベーションをめぐる議論、プロセス・イノベーション、事例紹介⑨DX推進に関する「3分間スピーチ」及びグループディスカッション
10	ネット・ビジネスの萌芽から進展	ネット・ビジネスの展開、サーフ・エコノミー、ネット・ビジネスの新展開、事例紹介⑩DX推進に関する「3分間スピーチ」及びグループディスカッション
11	情報通信技術と組織コミュニケーション	組織コミュニケーションの機能、組織コミュニケーションとICT、CMCの実践としてのテレワークDX推進に関する「3分間スピーチ」及びグループディスカッション
12	ビジネス・インテリジェンスとナレッジ・マネジメント	ビジネス・インテリジェンスとアナリティックス、ビッグ・データとデータ▸サイエンティスト、組織におけるナレッジの獲得・蓄積と管理DX推進に関する「3分間スピーチ」及びグループディスカッション
13	情報通信技術と社会、これからの経営情報論と情報化実践	社会的責任主体としての企業、情報通信技術の社会的インパクト、ビジネスにおける情報倫理の諸課題伝統的な経営情報システム論の限界、今後の情報システム構築方法論DX推進に関する「3分間スピーチ」及びグループディスカッション
14	期末「経営情報論」まとめテスト総括（全体の振り返り）	まとめテストの解答・解説これからの「経営情報論」受講の自己評価
15		
16		

科目コード	3G110				区　分	コア科目			
授業科目名	企業経営実践論Ⅰ				担当者名	上野　宏一郎			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本科目では、本学が重視する非認知能力と経営におけるベースとなる健全な考え方や価値観の育成を行う。IPUが掲げる五訓なども織り交ぜながら、各授業ごとにテーマを決めて、企業経営の実践について考え深堀していく。学生の多様性を重視しつつ、ディスカッションを交えながら実社会へ出て働くための考え方や心構えを学ぶことで、今後の学生の進路探索への意欲向上にもつなげていく。

＜授業の到達目標＞
①日頃使っている言葉の意味を深く理解することで企業経営としての社会的知識を身につけることができる②本学が目指す非認知能力の理解を深め、心の鍛錬の礎にすることができる　折れない、やめない人材育成　目標を達成する力　　他者と協働する力　情動を制御する力

＜授業の方法＞
①授業ごとにテーマを決めてそのテーマについて事前に考えてきてもらう。それをグループディスカッション&発表する②テーマについての講義③授業で学んだこととこれから実生活で実践することをレポートで提出してもらう④クラスルームの活用

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有授業ごとに決められたテーマについてグループディスカッション&発表する

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
①予習：各授業ごとのテーマについて考えて自分なりの意見を持ってきてもらう。その意見をグループディスカッションで発表してもらうための準備をしてもらう必要がある（1時間程度）※テーマはシラバスの内容と変わる可能性あり（その際には事前連絡します）②復習：授業で学んだことや実践してみようと思うことを毎回レポート提出を課すので、ディスカッションで学んだことや講義内容に関するノート作成が必要である（１～２時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
①授業出席率および参加態度　50%②各授業後の提出レポート　50%

＜教科書＞
なし

＜参考書＞
なし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の進め方のガイダンスやルール及び履修上の注意説明
2	何のために働くのか	働くことの意義目的を理解することで企業経営実践の心構えを学ぶ
3	挨拶の重要性	IPUの掲げる五訓のひとつ「礼節」にもある挨拶がなぜ企業経営で重要なのかを学ぶ
4	人の話を聴くときに重要なこと	傾聴能力が企業経営にとっていかに大切かを学ぶ
5	「目的」と「目標」のちがい	仕事における目標と目的の違いを明確し、企業経営の中での仕事の進め方を学ぶ
6	「楽しむ」と「楽をする」のちがい	IPUの掲げる五訓のひとつ「克己」にもある己に打ち勝つことはどういうことかを学ぶ
7	５Sの効果について	企業経営においての基礎である5S（整理、整頓、清掃、清潔、躾）がもたらす効果について学ぶ
8	「ルール」と「マナー」のちがい	企業経営及び実社会において存在するルールとマナーについて考える
9	「問題対処」と「問題解決」のちがい	目の前に起きた問題に対する取り組み方を学ぶ
10	信頼できる人とは	IPUの掲げる五訓のひとつ「信頼」信頼できる人とはどういう人かを考えることで企業経営での信頼関係の大切さを学ぶ
11	「後悔」と「反省」のちがい	後悔と反省の違いを理解して企業経営におけるPDCAサイクルを健全に回せる考え方を学ぶ
12	ありがとうの効果	IPUの掲げる五訓のひとつ「感謝」にもある感謝の心がいかに企業経営にとって大切かを学ぶ
13	「真剣」と「深刻」のちがい	IPUの掲げる五訓の一つ「前進」にもある困難や失敗を乗り越えるための考え方を学ぶ
14	プロフェッショナルとは	プロフェッショナルという言葉の意味を理解し、真のプロフェッショナルになってもらう意識を学ぶ

15 16		

科目コード	3G111				区　分	コア科目			
授業科目名	企業経営実践論Ⅱ				担当者名	齊藤　直人			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本授業の目的は、県内のトップ企業の経営者(ゲスト経営者)の方々から直接学ぶことで、今までの大学での学びと、実際の企業で必要な知識をつなげ、将来、社会人、企業人として、必要な知識を習得することです。外部環境の変化が厳しい中、企業は実際、どのような経営を行っているのか？経営者はどのように考え、経営を行っているか。将来、企業に就職して、仕事で活躍するには、どのようなスキルが求められるのか、など、経営者の話を直接、話を聞き、経営者へ質問をすることで、自分が社会に出た後に必要な力がどういうものかイメージしやすくなる

＜授業の到達目標＞

様々な業界から招聘するゲスト経営者から、受講生が直に学ぶことで、以下の３つを目標とする。1）「企業」とは何か、を理解し、説明できる２）ゲスト経営者の業界における現状（業界、業種、課題、将来性）を理解し、説明できる３）将来、社会人として企業に関わる人材となる意志を語り、論述できる

＜授業の方法＞

企業・組織の経営者を迎え、毎回テーマに応じた講義とディスカッション、グループワーク、課題発表等を実施します。卒業後の進路に役立つよう、受講生の声を拾い上げ、双方向のやり取りができる授業内容です。ゲスト経営者との自由な討議・質疑応答にも重点的に取り組むことで、受講生自身の実践体験が得られます。※後期の「ビジネス特別講義Ⅰ」を履修すると、経営・企業・組織を、より立体的に把握でき、学びの成果が高まるため、合わせての履修を勧めます。(「ビジネス特別講義Ⅰ」を履修しなくても、本科目は履修可能です)

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有(授業時間中に、ゲスト経営者・担当教員とのディスカッション、受講生同士でのグループワークと、企業経営実践の主旨に沿ったプレゼンテーション実習を行う)

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：質疑応答に向けた準備（30分程度）　　※質問したいことを準備する。復習：レポート課題と、ゲスト経営者からの学びを元に取り組む実践課題（30～１時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー３（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%、実践レポート課題 30%、貢献度 15%、期末レポート 25%※定期試験なし※基本的には、すべての授業に出席し、レポート提出、授業主旨に合った取り組みをしていること。※「実践」の名が付く講座である特性上、受講生が自分自身で気づき、行動することが実践につながると考えています。そのため、成績評価全体の考え方は、講義で学んだ内容を、自分の実践と照らし合わせて、レポートを書くか、プレゼンテーションをするか、学びを行動にどうつなげていくかに焦点を当てて評価を行います。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	企業経営実践論Ⅱの考え方、授業の進め方、登壇予定のゲスト経営者紹介　など
2	企業経営実践論Ⅱ　序論	企業とは？経営とは？実践とは？など
3	プレゼンテーション	プレゼンテーション＝発表？、経営とプレゼンテーションの関係、実習　など
4	リアル経営者からより深く学ぶために	私の学習課題は？　講義で聞く観点と質問の整理、関心のある企業像や経営像　など
5	ゲスト経営者による講義①とまとめ講義	※ゲスト経営者は、様々な切り口から全10名を各業界から選定・招聘予定。※ゲスト講義を中心に、教員のファシリテートによる対談、受講生からの質疑応答　などの展開を予定。
6	ゲスト経営者による講義②とまとめ講義	※ゲスト経営者は、様々な切り口から全10名を各業界から選定・招聘予定。※ゲスト講義を中心に、教員のファシリテートによる対談、受講生からの質疑応答　などの展開を予定。
7	ゲスト経営者による講義③とまとめ講義	※ゲスト経営者は、様々な切り口から全10名を各業界から選定・招聘予定。※ゲスト講義を中心に、教員のファシリテートによる対談、受講生からの質疑応答　などの展開を予定。
8	ゲスト経営者による講義④とまとめ講義	※ゲスト経営者は、様々な切り口から全10名を各業界から選定・招聘予定。※ゲスト講義を中心に、教員のファシリテートによる対談、受講生からの質疑応答　など

		の展開を予定。
9	ゲスト経営者による講義⑤とまとめ講義	※ゲスト経営者は、様々な切り口から全10名を各業界から選定・招聘予定。※ゲスト講義を中心に、教員のファシリテートによる対談、受講生からの質疑応答　などの展開を予定。
10	ゲスト経営者による講義⑥とまとめ講義	※ゲスト経営者は、様々な切り口から全10名を各業界から選定・招聘予定。※ゲスト講義を中心に、教員のファシリテートによる対談、受講生からの質疑応答　などの展開を予定。
11	ゲスト経営者による講義⑦とまとめ講義	※ゲスト経営者は、様々な切り口から全10名を各業界から選定・招聘予定。※ゲスト講義を中心に、教員のファシリテートによる対談、受講生からの質疑応答　などの展開を予定。
12	ゲスト経営者による講義⑧とまとめ講義	※ゲスト経営者は、様々な切り口から全10名を各業界から選定・招聘予定。※ゲスト講義を中心に、教員のファシリテートによる対談、受講生からの質疑応答　などの展開を予定。
13	ゲスト経営者による講義⑨とまとめ講義	※ゲスト経営者は、様々な切り口から全10名を各業界から選定・招聘予定。※ゲスト講義を中心に、教員のファシリテートによる対談、受講生からの質疑応答　などの展開を予定。
14	ゲスト経営者による講義⑩とまとめ講義	※ゲスト経営者は、様々な切り口から全10名を各業界から選定・招聘予定。※ゲスト講義を中心に、教員のファシリテートによる対談、受講生からの質疑応答　などの展開を予定。
15	全体まとめ	実習、全体討議、より良い進路を選択するために学びを生かす　など
16		

科目コード	3G112				区　分	コア科目			
授業科目名	ビジネス特別講義Ⅰ				担当者名	齊藤　直人／白木　渉			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

◆テーマ：【DISCOVERY】～自分・社会・企業・未来を発見する（知る、理解する、探究する、描く、計画する）～自分の将来は、どうなるのか？本当は何がしたいのか？「正解のようなもの」は生成AIで手軽に手に入るけれど、それは自分にとっての正解なのか・・・？　悩みは尽きないし、誰も「本当の正解」を与えてくれない時代に、私たちは生きています。でも大丈夫です。なぜなら、これをチャンスと捉え、自らの答えを見つける「探究心」を躍動させることで、挑戦と創造が可能な時代だからです。本科目では、企業の方と直接お会いし、大学

＜授業の到達目標＞

本科目は、企業との連携、課題解決に向けたコンサルティング体験、リサーチ成果をプレゼンする点が特徴です。これらの取り組みを通して、社会から求められる「人財」に成るために必要な力の理解と、その基礎的な力の習得を目標としています。以下に、本科目９つの力を示します。１．企画力２．コミュニケーション能力(傾聴・質問・要約) ３．マネジメント能力４．リサーチ力(調査・研究)　５．ディスカッション力６．交渉力７．プレゼンテーション能力８．課題発見能力９．課題解決能力

＜授業の方法＞

授業は、座学に加えて、探究学習と反転授業を行う授業となるため、特に成長意欲の高い人、学生時代に成果を出して卒業後の進路を、自信を持って進めていきたい人に履修を勧めます。※前期「企業経営実践論Ⅱ」を履修しておくと、経営・企業・組織を、より立体的に把握でき、学びの成果が高まるため、履修を勧めます。（「企業経営実践論Ⅱ」を履修していなくても、本科目が履修可能です）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有（企業へのヒアリング、リアルな課題への企画提案、チーム活動、プレゼンテーション）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

本科目群は、毎週の定例的な準備学習や、定期試験に向けた学習は、ありません。また、①「学外の方（企業）との連携」、②「チームでのレポート編集」、③「最終的な成果を授業内コンテスト／企業別プレゼンで審査」があります。企業の方に信頼していただけるように､授業内コンテストと企業別の発表で自信を持てるように､各自が必要だと思う学習をしてください｡※以下は目安です。事前学習（予習）：毎回の課題に向けた取り組み、チーム編成後の共同作業等、週最低１時間程度事後学習（復習）：週最低３０分程度

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー３（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート課題（毎回）３０%、　企業リサーチレポート課題３０%、　授業態度４０%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	シラバス解説、教員紹介、DISCOVERYとは、エントリーシート解説
2	ジブンDISCOVERYへ①	ビジネスの見分け方、自己分析、コンサルタント能力とは、課題プレゼンテーション、相互フィードバック、クイックレビューとは、企業リサーチに必要な質問項目と＋α、探究のコツ
3	ジブンDISCOVERYへ②	ビジネスの見分け方、自己分析、コンサルタント能力とは、課題プレゼンテーション、相互フィードバック、クイックレビューとは、企業リサーチに必要な質問項目と＋α、探究のコツ
4	企業リサーチ①	クイックレビューの共有、ディスカッション、グループワーク、ビジネスで成果を出す思考法とその具体的方法、企業で活躍する・起業で活躍するなど
5	企業リサーチ②	クイックレビューの共有、ディスカッション、グループワーク、ビジネスで成果を出す思考法とその具体的方法、企業で活躍する・起業で活躍するなど
6	信頼される大学生になる①	企業の方とお会いするためのマナーと制作物、リサーチレポートの改善など
7	信頼される大学生になる②	企業の方とお会いするためのマナーと制作物、リサーチレポートの改善など
8	連携企業の方との面会①	担当者の方とご挨拶・名刺交換、主旨説明、質問内容の事前告知、大学生からの正式依頼など
9	連携企業の方との面会②	担当者の方とご挨拶・名刺交換、主旨説明、質問内容の事前告知、大学生からの正式依頼など

10	プロジェクトチームの準備①	企業の方への自己紹介、チームビルディング、大学生によるリサーチ発表と課題ヒアリングなど
11	プロジェクトチームの準備②	企業の方への自己紹介、チームビルディング、大学生によるリサーチ発表と課題ヒアリングなど
12	プロジェクトチームでの課題設定	現場リサーチ、質疑、課題の分析、解決策、プレゼンの作成・準備など
13	課題解決型プレゼン	企業の方へのプレゼン、講評、フィードバック、ブラッシュアップワークなど
14	ジブンDISCOVERYから未来へ	まとめ講義、総評、表彰など
15		
16		

科目コード	3G113				区　分	コア科目			
授業科目名	ビジネス特別講義Ⅱ				担当者名	小堀　浩志			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期集中	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
岡山を中心に多角的に事業展開を行っている「両備グループ」の協力を得て「サステナビリティ」「ホスピタリティ」「地域活性」をキーワードに講義やフィールドワーク、グループワークを実施する。地域を支え、活気づけている両備グループの事業の裏側を学び、問題発見・問題解決の基本技法を習得し、将来の地域社会を牽引するリーダーを育成していく。

＜授業の到達目標＞
両備グループの企業リサーチを実施し、企業経営について学び、理解する。① 自ら社会の中に存在する課題を発見することができる。② 他人と協働しながら、課題を解決することができる。③ 企業や企業で働く人たちの考えを理解し、建設的なコミュニケーションをすることができる。④ 課題に対して、適切な改善提案ができ、他者に伝えることができる。

＜授業の方法＞
両備グループの企業リサーチを実施し、企業経営について学ぶ毎回10：00～17：00を基本とし、随時休憩をはさむ7月27日（月）IPU環太平洋大学第1キャンパス　講義　　7月28日（火）両備グループ企業訪問、フィールドワーク7月29日（水）両備グループ企業訪問、フィールドワーク7月30日（木）IPU環太平洋大学第1キャンパス　プレゼン発表、社員さんとの討議

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
①企業情報や業種、業界の外部環境・マーケット情報などをインターネット、その業種に関する新聞記事等で事前学習を行う。
②講義資料、参考書を基に予習・復習を行い、講義・演習に臨む。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業参加態度　２０%、 課題レポート　２０%､中間プレゼンテーション評価　３０%、 最終プレゼンテーション評価　３０%、

＜教科書＞

＜参考書＞
家田仁/小嶋光信（2021年8月10日）　『地域モビリティの再構築』　薫風社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション・ガイダンス	講義目的・内容の説明
2	オリエンテーション・ガイダンス	両備グループの企業紹介・リサーチ
3	問題を知る	公共交通に関する現状と問題課題について
4	プレゼン・企業訪問について	プレゼンの技法について学ぶ、企業訪問についての理解
5	現場を知る・フィールドワーク	フィールドワーク・リサーチの計画、実施
6	現場を知る・フィールドワーク	フィールドワーク・リサーチの計画、実施
7	現場を知る・フィールドワーク	フィールドワーク・リサーチの計画、実施
8	現場を知る・フィールドワーク	フィールドワーク・リサーチの計画、実施
9	現場を知る・フィールドワーク	企業を訪問し、視察・リサーチ・質疑の実施
10	現場を知る・フィールドワーク	企業を訪問し、視察・リサーチ・質疑の実施
11	現場を知る・フィールドワーク	企業を訪問し、視察・リサーチ・質疑の実施
12	現場を知る・フィールドワーク	企業を訪問し、視察・リサーチ・質疑の実施
13	グループワーク・プレゼン・社員座談会	プレゼン資料の作成、発表、社員との討議
14	グループワーク・プレゼン・社員座談会	プレゼン資料の作成、発表、社員との討議
15		
16		

科目コード	3G200				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	ミクロ経済学 [再履修者用][週2]				担当者名	古松　丈周			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業では、ミクロ経済学の基本的な考え方について、需要と供給を中心に検討してゆく。そのうえで、不完全競争市場、ゲーム理論、市場の失敗についても検討し、現実の経済問題を経済理論から理解することを目的とする。

＜授業の到達目標＞
（1）限界効用理論から需要曲線を導き出すことができる。（2）限界生産力理論から供給曲線を導き出すことができる。（3）不完全競争について説明することができる。（4）市場の失敗について説明することができる。

＜授業の方法＞
講義形式で進める。適宜、問題演習を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングあり：シンク・ペア・シェア、ディスカッションなど。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
・予習：次の講義のトピックについて調べておく（1時間程度必要）。・復習：レジュメを整理し、問題を解く（1時間程度必要）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
講義での課題（60%）と総復習課題（40%）

＜教科書＞
指定しない。

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス：経済学とは何か？授業の進め方、成績評価の方法	経済学とは何か、そして需要と供給について検討する。
2	限界効用理論	限界効用について、検討する
3	無差別曲線	無差別曲線について検討する
4	所得の変化と価格の変化と消費	所得の変化、価格の変化にともなう消費の変化について検討する
5	完全競争企業の生産行動	完全競争市場での企業の生産行動について検討する
6	損益分岐点と操業停止点、供給曲線	損益分岐点と操業停止点について検討する
7	市場均衡と安定性、長期均衡	市場均衡の安定性について検討する
8	独占企業の生産行動	独占企業の生産行動について、需要と供給から考える
9	ゲーム理論	ゲーム理論、ナッシュ均衡について検討する
10	余剰分析	余剰分析を用いて、市場の効率性について検討する
11	市場の失敗（1）：外部経済	市場の失敗について、特に外部経済について検討する
12	市場の失敗（2）：公共財	市場の失敗について、特に公共財について検討する
13	市場の失敗（3）：逆選択・モラルハザード	市場の失敗について、特に逆選択・モラルハザードについて検討する
14	総復習	総復習の課題を行います
15		
16		

科目コード	3G201				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	マクロ経済学［週2］				担当者名	歌代　哲也			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第３クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

本科目では、国内総生産、物価、利子率、失業率等の国(または地域)を単位とした経済指標・経済活動を中心に、日本及び世界経済におけるマクロ経済指標の現状を理解し、それぞれの指標がどのような意味を持ち、どのような関連性があるかについて学ぶ。マクロ経済学における政府の役割、財政・金融政策の役割・必要性を理解し、これらの政策の効果を実際の経済データ等を用いて学ぶ。日本及び世界経済が抱える経済問題について、マクロ経済学の考え方で思考できることを目的とする。

＜授業の到達目標＞

本科目の到達目標は、主として以下の3点である。1. GDP、消費、投資、物価、失業率など、マクロ経済学の基本概念を説明できる。2. 財政政策・金融政策の基本的な仕組みを理解し、日本経済や世界経済との関係を説明できる。3. マクロ経済学の基礎理論を用いて、現実の経済問題について自分の考えを整理・表現できる。

＜授業の方法＞

本講義は、テキストおよび配布資料を基に、各自が内容を読み進めながら理解を深めることを基本とする。講義資料は電子データ（PDF等）で配布するため、学生自身の情報端末（パソコンやタブレット）を用いて受講すること。なお、必要に応じて各種Webサイト等を活用し、関連する情報を調べながら理解を深めることが望ましい。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

無し

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回、テキストや配布資料を事前に読み、内容の理解に努めること（事前学習：45分程度）。授業後は、テキストを参照しながら重要な点をノートに整理すること。その際、単に書き写すのではなく、授業内容の中で理解できなかった点や疑問に思った点を、自分の言葉で整理して記述すること（事後学習：45分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー２（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習の過程（プロセス）60%、学修内容の理解40%

＜教科書＞

家森 信善（2026/1/21）　【ベーシック+】マクロ経済学の基礎(第3版)　中央経済社

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業の進め方、学修方法（テキストの読み方・ノート作成方法・提出方法）の説明。マクロ経済学の全体像と、本授業で扱う内容の位置づけ。
2	GDPとは何か	GDPの定義、最終財と中間財、付加価値の考え方。経済規模を測る指標としてのGDPの意味。
3	GDPの計測	名目GDPと実質GDPの違い、物価変動の影響、実質化の考え方。経済成長率の基本的な見方。
4	消費	消費の決定要因、消費関数の考え方、所得と消費の関係。限界消費性向・平均消費性向の意味。
5	投資	投資の概念と役割、投資の決定要因。投資の限界効率と利子率の関係。
6	政府支出	政府支出の役割、財政政策の基本的な考え方。景気と政府支出の関係。
7	総需要	総需要の構成（消費・投資・政府支出）、各要素の関係。総需要曲線の基本的な考え方。
8	45度線分析①	45度線分析の基本構造、均衡所得の決定。総需要と所得の一致の意味。
9	45度線分析②	乗数効果の仕組み、政府支出や投資の変化が所得に与える影響。
10	IS曲線①	財市場における均衡、投資と利子率の関係。総需要と利子率のつながり。
11	IS曲線②	IS曲線の導出と性質。財政政策がIS曲線に与える影響。
12	LM曲線	貨幣市場の仕組み、貨幣需要と貨幣供給。利子率の決定とLM曲線の考え方。
13	IS-LM分析	IS曲線とLM曲線の同時均衡。財政政策・金融政策が所得と利子率に与える影響。

14 15 16	総まとめ・試験	本授業の内容の整理と確認。主要概念（GDP、消費、投資、45度線、IS-LM）の総復習および期末試験。

科目コード	3G203				区　分	コア科目			
授業科目名	国際経済学［週2］				担当者名	歌代　哲也			
配当年次	2年	配当学期	第１クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本科目では、国際貿易や国際金融を通じて、各国の経済がどのように結びついているかを学ぶ。比較優位の理論をはじめとする国際経済学の基本的な考え方を理解するとともに、自由貿易と保護貿易、為替レート、外国直接投資などの仕組みについて学ぶ。さらに、日本経済の産業構造の変化やアジア諸国の発展過程を取り上げ、現実の経済の動きを理論と結びつけて理解する。加えて、貧困や格差といった現代の重要な問題についても扱い、国際経済の視点からその背景と課題を考察する。

＜授業の到達目標＞
本科目の到達目標は主として以下の3点である。① 比較優位の理論や貿易の仕組みなど、国際経済学の基礎的な理論を理解し、自身の言葉で説明できる。② 日本およびアジア諸国の経済発展や産業構造の変化について理解し、その背景を説明できる。③ 貧困や格差といった国際経済上の課題について、理論と現実を踏まえて考察し、自らの意見を持つことができる。

＜授業の方法＞
指定した教科書に基づき、パワーポイントおよび板書を用いた講義形式で授業を行う。理解を深めるため、適宜、質疑応答を取り入れながら進める。必要に応じて、簡単なディスカッションや意見交換を行うことがある。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無し

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業に臨むにあたり、教科書の該当部分を事前に読んでおくこと（事前学習：30分程度）。授業後は、講義内容をノート等で整理し、重要なポイントや用語を確認し、理解を深めること（事後学習：30分程度）。また、日常的にニュースや新聞等を通じて国際経済の動向に触れ、授業内容との関連を意識することが望ましい。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
成績は、期末試験（60%）、授業内課題・平常点（40%）により評価する。授業内課題では、講義内容に関する理解や考察を記述することを求める。

＜教科書＞
浦田 秀次郎, 小川 英治, 澤田 康幸（2022/8/26）　はじめて学ぶ国際経済〔新版〕（有斐閣アルマ）　有斐閣

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業の進め方、評価方法の説明。国際経済学とは何を扱う学問か、本授業の全体像と位置づけを確認する。
2	なぜ国際貿易が生じるのか	分業と専門化の考え方、貿易によって生じる利益の直感的理解。輸入代替工業化の考え方とその背景。
3	リカードの比較優位モデル	比較優位の理論、絶対優位との違い、機会費用の概念。貿易が成立する仕組みの理論的説明。
4	自由貿易と保護貿易	総余剰分析を用いた貿易の利益の検討。自由貿易と保護貿易のメリット・デメリットとその影響。
5	市場と価格の調整	市場メカニズムの働き、統制価格がもたらす影響、アービトラージ（裁定取引）による価格調整の仕組み。
6	世界貿易体制	GATTの成立とWTOへの展開、自由貿易体制の枠組み、FTAの拡大とその意義。
7	為替レートの仕組み	為替レートの基本、変動要因、為替と貿易・経済活動との関係。
8	FDI（直接投資）	外国直接投資の目的と役割、企業の海外進出の背景、国際分業との関係。
9	産業構造の変化（日本）	日本の産業構造の変化、垂直分業から水平分業への移行、その背景と影響。
10	アジア経済の発展	アジア諸国の発展モデル、フラグメンテーションとアグロメレーション（産業集積）の役割。
11	日本とアジアの比較	日本の停滞とアジア諸国の成長の要因、モジュール型経済の視点からの比較分析。
12	豊かさと貧困	なぜ国によって豊かさに差が生じるのか、経済発展と格差の基本的な考え方。
13	相対的貧困と絶対的貧困	貧困の定義と測定方法、相対的貧困と絶対的貧困の違い、その社会的意味。
14	クズネッツ曲線とまとめ	経済成長と格差の関係（クズネッツ曲線）の理解。本授業全体の整理と総括。

15 16		

科目コード	3G204				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	財政学				担当者名	石原　秀樹			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	2026年度（第3クォーター、第4クォーター）	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

皆さんは、「年金制度はいずれ破綻するから、自分たちが支払う掛金は払い損になる。」、「政府の借金は雪だるま式に増えていて、今に財政が破綻する」といった意見を耳にしたことがあるでしょう。　財政学は、「政府のお金の使い方や集め方について、「私たちのお財布」として考える学問」（『Why not!? 財政学』「はしがき」より）です。財政学を学ぶことによって、SNS 等で流布する国のお金に関する様々な意見について、反射的に賛否を表明したり、拡散したりするのではなく、そこで言われていることがどのような根拠に基づくもの

＜授業の到達目標＞

以下の２項目を到達目標とします。　・国と地方公共団体のおおまかな役割分担とそれぞれの働きを理解し、概要を説明できる。・社会保障、地域活性化、環境問題、多様な人々の包摂、国際金融などの現代的課題について、いかに稚拙なものであってもよいので、自分なりに考え抜いた解決方法を提案できる。

＜授業の方法＞

毎回の授業に、必ず教科書を持参すること。　教科書の目次通りに進行し、記載内容について解説する。　ある課題の解決策について、受講者から提案を募り、出された提案について、他の受講者の意見を求めて、議論を深めることも狙う。　授業において、課題を設定し、次回授業時に当該課題についてA４用紙１枚程度のレポート提出を求めることがある。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素あり。　教科書の記述に現れる課題について、受講者から提案を募り、出された提案について、他の受講者の意見を求めて、議論を深める。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習　教科書の次回の授業対象範囲を読んでおくこと（目安時間：約1時間）。事後学習　次回の授業において、受講者のうち数人を指名して、前回の授業について、振返りの報告を求めることがある。記憶の定着のためにも、毎回の授業を受講後、A4用紙半分程度の分量でよいので、指名された場合に報告の手がかりとなるよう、振返りメモを作成しておくことが望ましい（目安時間：約15分）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシーのうち、DP２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）、DP３（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）及びDP４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革に参画することができる。）と関連づけられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲20%、授業中の議論への貢献度20%、振返り報告状況20%，レポート提出40%

＜教科書＞

江成穣・倉知真太郎・佐藤一光・藤原遥（2025年10月15日初版第1刷発行）　Why not?! 財政学　株式会社有斐閣

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	序章　私たちの社会と財政第1章　財政と財政学	序章は、財政学の概要を紹介する。第1章は、財政民主主義、財政の資源配分機能、所得再分配機能、経済安定化機能などを扱う。
2	第2章　よい社会とは何か第3章　公共の財・サービスとは何か	第2章は、ニーズと財政の機能について扱う。第3章は、公共財と社会的共通資本について扱う。
3	第4章　貧困と格差を考える第5章　マクロ経済と財政	第4章は、所得の再分配を扱う。第5章は、財政の経済安定化機能、裁量的財政政策について扱う。
4	第6章　お金の使い道をどう決めるか第7章　国民のニーズを予算に反映する	第6章は、予算とは何かを解説する。第7章は、財政民主主義、行政の民主化について扱う。
5	第8章　お金の使い方の見取り図第9章　ケアを提供する	第8章は、現金給付と現物給付、中央政府・地方政府・社会保障政府の財源と役割分担を扱う。第9章は、医療と介護の問題を扱う。
6	第10章　人を育てる第11章　社会の基礎	第10章は、教育・保育財政を扱う。第11章は、公共事業を扱う。

	をつくる	
7	第12章　民間投資を誘導する第13章　生活を保障する	第12章は、補助金・租税・公的金融による民間投資の誘導を扱う。第13章は、年金・生活保護を扱う。
8	第14章　社会を持続可能にする第15章　お金の集め方の見取り図	第14章では、児童手当・産休手当・育休手当を扱う。第15章では、歳入論を扱う。
9	第16章　公平な税とはなにか第17章　社会保障を支える安定財源	第16章では、所得税、法人税を扱う。第17章では、消費税を扱う。
10	第18章　給付の権利を得るための負担第19章　使う分だけ負担してもらう	第18章は、社会保険料を扱う。第19章は、自己負担、公共料金を扱う。
11	第20章　将来世代の負担か第21章　最も身近な財政現象	第20章は、公債を扱う。第21章は、地方財政を扱う。
12	第22章　財政をめぐる４つの立場第23章　世界経済のなかの財政	第22章は、大きな政府か小さな政府か、財政再建か積極財政か、の４つの立場を扱う。第23章は、経済のグローバル化の現状、国際金融の発展を論じる。
13	第24章　地域に雇用と産業をつくる第25章　環境をよくするための税制第26章　環境被害からの救済と責任のあり方	第24章は、財政と地域経済の関係を扱う。第25章は、環境政策と財政の関係を扱う。第26章は、公害における公的救済制度とその費用負担、環境権と市民参加を扱う。
14	第27章　政治的な合意はどうつくられるのか第28章　多様な人々とどう連帯するのか終章　財政学を社会にどう活かすのか	第27章は、租税合意、財政ポピュリズムを扱う。第28章は、行政ニーズの多様化と複雑化を扱う。
15		
16		

科目コード	3G205				区　分	コア科目			
授業科目名	公共経済学				担当者名	田鹿　紘			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
講義では公共部門の経済行動についてミクロ経済学やマクロ経済学の理論を用いて考えていく。そして講義を通して公共部門の必要性や今日的経済課題について知識を深めていく。

＜授業の到達目標＞
①経済理論を用いて政府の経済活動の評価を行うことができる。②政府が市場経済に対して行う政策的な介入の効果についての知識を有している。

＜授業の方法＞
指定した教科書を用いて講義を展開する。サブノートやスライドも併用するが、教科書を丁寧に読み進めていくことを基本とする。必要に応じて、ミクロ経済学の理論の復習を行う。ミクロ経済学の知識は前提としない。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
知識を深めるためのグループワークもしくはペアワークの実施。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
（事前学習）教科書の該当するページをよく読み、理解できる箇所と理解できない箇所を明らかにしておく。必要があればミクロ経済学やマクロ経済学の授業資料を随時参照する。（90分）（事後学習）教科書や授業中のメモを読み返し、授業を振り返る。（60分）講義内容に関連する時事的な話題について新聞や記事を探し、よく読み、整理する。（30分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３(経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業内で実施する理解度確認テスト　70%（3回実施）グループワークの課題　30%（3回実施）

＜教科書＞
井堀利宏（2015）　基礎コース　公共経済学　第2版　新世社

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	市場と政府	市場の機能と政府の役割について学ぶ。
2	国民と投票	選挙と投票、望ましい投票制度、有権者の政治行動について経済学的に学ぶ。
3	政党と政策	政党の行動、政権交代、連立政権について経済学的に学ぶ。
4	規制	前半で参入規制、価格規制について学ぶ。後半で独占と公的規制について学ぶ。
5	グループワークと確認テスト	第1回から第4回の授業の理解度を確認するためのテストを行う。テストの後にグループワークを行う。
6	外部性	外部性、ピグー課税、コースの定理、外部性対策の経済的手段について学ぶ。
7	公共財	公共財の概念とただ乗りの問題について学ぶ。
8	公共支出	費用便益分析、最適な公共投資について学ぶ。
9	課税	最適課税の理論、消費税増税の経済学的な考え方について学ぶ。
10	グループワークと確認テスト	第6回から第9回の授業の理解度を確認するためのテストを行う。テストの後にグループワークを行う。
11	財政赤字と公債	財政赤字の経済学的な考え方について学ぶ。
12	年金	世代間の再分配政策について学ぶ。
13	再分配政策	個人間の再分配政策、地域間の再分配政策について学ぶ。
14	講義全体の振り返り、グループワーク、確認テスト	講義全体を振り返る。第11回から第13回の授業の理解度を確認するためのテストを行う。テストの後にグループワークを行う。
15		
16		

科目コード	3G206				区　分	コア科目			
授業科目名	経済政策論［週2］				担当者名	田口　雅弘			
配当年次	3年	配当学期	第４クウォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
経済の成長と安定を図り、資源の効率的利用を実現し、社会的厚生を最大化するために、どのような経済・政治・行政手法を使ってそれを達成するかを考える。経済システムの理解から始まり、経済成長のメカニズムを再確認し、金融政策、財政政策、エネルギー・食糧政策、雇用政策、福祉政策、環境政策などを具体的に学ぶ。

＜授業の到達目標＞
本講義では、経済政策の基本の理解からはじめ、経済制度、経済メカニズムの基礎を確認した上で経済政策の概要を理解することができるようになる。そしてそれらを今日の日本社会が抱える経済現象に焦点を当てることで、経済政策の目的と有効性、問題点を理解できるようになる。

＜授業の方法＞
指定のテキストを中心に経済政策の基本を学習するとともに、独自の資料をもとに経済政策を理解する上で必要な知識を追加的に提供する。同時に、『日本経済新聞』を素材に、経済政策のタイムリーなトピックの解説を行い、理解を深める。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
講義をベースとするが、講義で出てきた問題やキーワードを、ネットニュースなどで確認すること。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
新聞やニュース、経済関連の情報番組などに普段の生活の中で積極的に接しておくことが望ましい（毎日30分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
小テスト（100%）で評価する。授業に関する質問は授業の前後及び教員のオフィスアワーで対応する。

＜教科書＞

＜参考書＞
瀧澤弘和　他5名（2016/1/30）　経済政策論　慶応義塾大学出版会

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	経済政策とは何か	経済政策の概念、役割、手法などについて概論的に説明し、講義全体のイメージを作ってもらう。
2	経済システム	経済政策を学ぶ前提として、経済システムの諸類型、国家と市場の機能メカニズムを学ぶ。
3	成長戦略	経済成長の要因、成長のパターン、成長戦略・政策の成功例、失敗例などを分析する。
4	財政政策	国の財政政策、税制、国債の問題などを具体的に学ぶ。
5	金融政策	金融政策と日本銀行の役割を学ぶ。
6	対外経済政策	貿易、対外直接投資、経済協力、経済支援などの問題を学ぶ。
7	農業政策	国家の根幹に関わる農業、食糧政策を具体的に学ぶ。
8	労働市場政策、社会保障政策	労働市場の仕組み、社会保障の諸問題を学ぶ。
9	エネルギー政策	国家の根幹に関わるエネルギー政策を具体的に学ぶ。
10	米国の経済政策	トランプ政権の経済政策を分析する。
11	日本経済政策の諸問題１	第2次世界大戦後の日本の経済政策を学ぶ。
12	日本経済政策の諸問題２	バブル経済とバブル崩壊について学ぶ。
13	日本経済政策の諸問題３	現代日本の経済が直面する諸問題について考える。
14	まとめテスト	まとめテストを行う。
15		
16		

科目コード	3G210				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	応用ミクロ経済学［週2］				担当者名	古松　丈周			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業では、ミクロ経済学の基本的な考え方を踏まえて、問題演習を行ってゆく。

＜授業の到達目標＞
（1）限界効用理論から需要曲線を導き出すことができる。（2）限界生産力理論から供給曲線を導き出すことができる。（3）不完全競争について説明することができる。（4）市場の失敗について説明することができる。

＜授業の方法＞
講義形式で進める。問題演習を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングあり：シンク・ペア・シェア、ディスカッションなど。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
・予習：次の講義のトピックについて調べておく（1時間程度必要）。・復習：レジュメを整理し、問題を解く（1時間程度必要）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
講義での課題（60%）と総復習課題（40%）

＜教科書＞
指定しない。

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス：経済学とは何か？授業の進め方、成績評価の方法	経済学とは何か、そして需要と供給について検討する。
2	限界効用理論	限界効用について確認し、問題演習を行う
3	無差別曲線	無差別曲線について確認し、問題演習を行う
4	所得の変化と価格の変化と消費	所得の変化、価格の変化にともなう消費の変化について確認し、問題演習を行う
5	完全競争企業の生産行動	完全競争市場での企業の生産行動について確認し、問題演習を行う
6	損益分岐点と操業停止点、供給曲線	損益分岐点と操業停止点について確認し、問題演習を行う
7	市場均衡と安定性、長期均衡	市場均衡の安定性について確認し、問題演習を行う
8	独占企業の生産行動	独占企業の生産行動について、需要と供給から確認し、問題演習を行う
9	ゲーム理論	ゲーム理論、ナッシュ均衡について確認し、問題演習を行う
10	余剰分析	余剰分析を用いて、市場の効率性について確認し、問題演習を行う
11	市場の失敗（1）：外部経済	市場の失敗について、特に外部経済について確認し、問題演習を行う
12	市場の失敗（2）：公共財	市場の失敗について、特に公共財について確認し、問題演習を行う
13	市場の失敗（3）：逆選択・モラルハザード	市場の失敗について、特に逆選択・モラルハザードについて確認し、問題演習を行う
14	総復習	総復習の課題を行います
15		
16		

科目コード	3G211				区　分	コア科目			
授業科目名	応用マクロ経済学［週2］				担当者名	歌代　哲也			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第４クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本科目は、公務員試験や大学院入試においてマクロ経済学を受験科目とすることを想定し、問題演習を中心に授業を進める。演習を重視するため、「マクロ経済学」の授業を履修済みであること、また当該内容に習熟していることを前提とし、継続的に問題に取り組む意欲が求められる。

＜授業の到達目標＞
本科目の到達目標は、主として以下の２点である。・マクロ経済学の基礎的な概念および理論を再確認し、説明できる。・IS-LM分析など、主要分野における基本的な解法および計算方法を用いることができる。

＜授業の方法＞
本科目は、講義と問題演習を組み合わせた形式で進める。各回において、前半で基礎的な概念や解法の解説を行い、後半では演習問題に取り組むことで理解の定着を図る。演習では配布資料を用い、実際に手を動かして計算を行うことを重視する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有り。問題解決学習。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
本科目では問題演習を中心として授業を進める。授業に臨むにあたり、前回までの内容を簡単に復習しておくこと（事前学習：15分程度）。各回の授業においては、解法および計算手順を理解し、その場で身につけることが求められる。授業後は、配布された演習問題ややり残した問題を必ず解き直し、解法の定着を図ること（事後学習：45分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
成績は、期末試験（70%）、授業内演習・平常点（30%）により評価する。授業内演習では、配布された問題に取り組み、解法および計算過程の理解と定着を図る。

＜教科書＞
初回授業にて指示する。

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス／科目の趣旨	授業の進め方と評価方法を説明し、公務員試験および大学院入試におけるマクロ経済学の位置づけを確認する。
2	GDP①（概念と三面等価）	GDPの基本概念および三面等価の考え方を復習する。
3	GDP②（算出方法）	GDPの算出方法について問題演習を通じて理解する。
4	物価指数	ラスパイレス指数およびパーシェ指数の計算方法を学ぶ。
5	45度線分析	財市場の均衡と45度線分析の考え方を理解する。
6	インフレギャップ・デフレギャップ	需給ギャップの概念と算出方法を問題演習により確認する。
7	乗数	乗数の理論と計算方法を理解し、応用問題に取り組む。
8	IS-LM分析①	IS曲線およびLM曲線の導出と基本構造を理解する。
9	IS-LM分析②	財政政策および金融政策の効果をIS-LM分析により検討する。
10	IS-LM分析③	IS-LMモデルに関する応用問題を解く。
11	マネーサプライ	貨幣供給とマネーサプライの決定メカニズムを理解する。
12	マンデル＝フレミングモデル	開放経済におけるマクロ分析の基本を学ぶ。
13	フィリップス曲線	インフレと失業の関係を理解し、関連問題を解く。
14	期末試験	講義内容全体について理解度および計算能力を評価する
15		
16		

科目コード	3G212				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	行政学				担当者名	石原　秀樹			
配当年次	2年	配当学期	2026年度（第1クォーター・第2クォーター）	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

国の機能は、大きく分けて、立法・司法・行政という三つの機能に分類できます。その中でも、行政は多種多様な作用を持ち、私たちの日々の生活にとってもっとも身近な機能といえます。　行政を学ぶことは、国と現代社会の仕組みを知ることにつながり、その知識は、社会人が備えておくことが望まれる常識と言えるものであると同時に、経済、経営について学びを深めるための基盤ともなります。　公務員試験の出題傾向にも対応する授業内容とします。

＜授業の到達目標＞

以下の３項目を到達目標とします。・国と地方公共団体のおおまかな役割分担とそれぞれの働きを理解し、概要について説明できる。・国や地方公共団体において実際に仕事を担っている人々がそれぞれの立場で直面する課題について認識し、類型化して概要について説明できる。・国や地方高校団体のいろいろな組織が期待どおりに機能するためには、どのようなことが必要になるのかについて考え、改善策を提案できる。

＜授業の方法＞

毎回の授業に、必ず教科書を持参すること。　教科書の目次通りに進行し、記載内容について解説する。　ある行政課題の解決策について、受講者から提案を募り、出された提案について、他の受講者の意見を求めて、議論を深めることも狙う。　授業において、課題を設定し、次回授業時に当該課題についてA４用紙１枚程度のレポート提出を求めることがある。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素あり。　教科書の記述に現れる行政課題について、受講者から提案を募り、出された提案について、他の受講者の意見を求めて、議論を深める。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習　教科書の次回の授業対象範囲を読んでおく。（目安時間：約1時間）事後学習　次回の授業において、受講者のうち数人を指名して、前回の授業について、振返りの報告を求めることがある。記憶の定着のためにも、毎回の授業を受講後、A4用紙半分程度の分量でよいので、指名された場合に報告の手がかりとなるよう、振返りメモを書く。（目安時間：約15分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシーのうち、DP２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）、DP３（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）及びDP４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革に参画することができる。）と関連づけられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲20%、授業中の議論への貢献度20%、振返り報告状況20%，レポート提出40%

＜教科書＞

伊藤正次・出雲明子・手塚洋輔（2022年9月10日　新版第1刷）　はじめての行政学［新版］　株式会社有斐閣

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	第1章　行政とは何か	政府の必要性、政府の構成を扱う。
2	第2章　大きくなる政府の役割	近代国家の発展と政府の役割の増大、官僚制化と行政国家化、例外としてのアメリカを扱う。
3	第3章　行政学とはどのような学問か	政治行政分断論、組織管理論、政治行政融合論、現代組織論、戦後アメリカ行政学の展開を扱う。
4	第4章　新しい行政の見方	福祉国家・行政国家への批判と新自由主義の登場、行政改革と新公共管理論、ガバナンス論を扱う。
5	第5章　国と自治体を動かすしくみ	執政制度の比較、日本の議院内閣制と首相のリーダーシップ、政官関係を扱う。
6	第6章　政府の姿	中央府省の組織編制、行政を取り巻く組織、自治体の行政組織を扱う。
7	第7章　行政を担う人々	公務員制度、公務員の数と種類を扱う。
8	第8章　変化する日本の行政	行政組織の改革、公務員制度改革、規制改革、地方分権改革を扱う。
9	第9章　行政活動をデザインする	公共政策としての行政活動を扱う。

10	第10章　法律・条例をつくる	中央府省における法案作成過程、執行準備、自治体の条例策定を扱う。
11	第11章　予算をつくる	予算の政策的機能と制度、地方財政と自治体予算・計画を扱う。
12	第12章　行政と社会のインターフェース（前篇）	政策実現の手段と実施主体、第一線職員と対象集団を扱う。
13	第12章　行政と社会のインターフェース（後篇）	政策評価とフィードバック、政策の失敗と行政の責任を扱う。
14	まとめ	これまでの学びを振り返る。
15		
16		

科目コード	3G214				区　分	コア科目			
授業科目名	地方自治論				担当者名	大村　慎一			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
私たちの暮らしは地方自治体（都道府県・市町村等）の道路、上下水道、教育、福祉等多様な行政サービスで成り立っており、選挙や納税、まちづくり等を通じて我々自身も参画している。本科目では、地方行政に関心のある学生を想定し、地方自治の基本的な論点を理解するとともに、時事的な話題も盛り込みつつ、地方行政を支える主体としての住民目線を養うことを目的とする。授業内でワークショップも行い、身近な地域課題の解決など、グループで検討・発表する。

＜授業の到達目標＞
1. 地方自治論の基礎的な論点を理解する2. 地方自治論の基礎知識を記憶に定着させる3. 地方自治論の身近な論点について他者と意見交換ができる

＜授業の方法＞
地方行政に関するテーマごとのオリジナルプリントを題材として、地方自治の基本的な制度・運用について解説する。本講義は、国及び地方自治体で実務経験のある講師が担当するので、単に制度解説ではなく、地方・国の行政における政策形成や時事的な課題・トピックについても相当数の時間を取る予定である。教科書は指定しないが参考書の持ち込みは自由とする。講義の中で必要に応じて理解度の確認を行うなど、基本的な論点の習熟を図る。学生は、基礎的な論点や地域の身近な課題などについて、ペアワークやグループワークで理解を深めるとともに、検

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：基礎的な論点や地域の身近な課題などについて、ペアワークやグループワークで理解を深めるとともに、検索や発表等を通じて主体的に学ぶ。（各講義の中で、適宜組み込む予定）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：地方自治に関する新聞記事、地域の自治体のHP、広報誌等に関心を持ち、情報収集すること（約２時間）復習：授業で解説されたポイントを復習するとともに、気になった点を参考図書、HP等で調べ、理解を深める（約1時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度（出席・授業への取り組み等）30%、課題レポート・小テスト30%、試験40%により成績評価を行う。

＜教科書＞

＜参考書＞
大森彌・大杉覚（2021年12月3日）　「これからの地方自治の教科書」　第一法規
北山俊哉・稲継裕昭（2021年9月17日）　「テキストブック地方自治」　東洋経済新報社
松本英昭（2018年3月）　「要説・地方自治法」（第十次改訂版ー新地方自治制度の概要ー）　ぎょうせい

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業全体の構成と主な内容・進め方など
2	地方自治とは何か	地方自治制度・地方公務員の仕事総論
3	どのような地方自治体があるのか	地方自治体の意義・種類（都道府県、市町村、政令市、広域連合他）等
4	地方自治体には、どんな仕事があるのか	国の仕事と自治体の仕事、地方公務員の仕事
5	地方自治体の仕事は、誰が、どんな組織が行っているのか	行政組織、地方公務員の仕事の仕組み
6	議員は、どのように選ばれ、何をしているのか	地方議会
7	私たちの行政のルールはどのように創られるのか	条例と規則
8	地方自治の主人公である住民は何ができるのか	選挙、住民監査請求、住民訴訟等
9	地方自治を支える財政の仕組みはどうなっているのか	地方財政・財務の仕組み、国の財政と地方の財政、ふるさと納税等
10	これからの地方自治を考える①　地方分権改革	自治体の自主性・自立性を高めるための取組
11	これからの地方自治を考える②防災・危機管理	災害対策、感染症対策、消防行政等

12	これからの地方自治を考える③地域ＤＸ	自治体及び地域社会のデジタル化
13	これからの地方自治を考える④地域活性化	地域おこし協力隊、関係人口等
14	これからの地方自治を考える⑤人口減少下の自治体のあり方	広域連携、地域住民との協働等
15		
16		

科目コード	3G216				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	公共経営論［Q3対面＋オンデマンド］				担当者名	山本　満理子			
配当年次	1年	配当学期	第３クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	２単位

＜授業の概要＞
「行政を経営する」視点を学ぶ。限られた予算をどこに投資すれば街の未来が最大化するか、官民連携（PPP/PFI）やDX（ex.スマホ市役所）の手法を用いてシミュレーションする。学生を「未来の街を作るパートナー」として位置づけ、持続可能な地域運営モデルを構築する。

＜授業の到達目標＞
本講義では、現代経営学科のディプロマ・ポリシーに基づき、以下の能力を習得することを目標とする。１．専門知識・理解：公共経営の諸理論（NPM、EBPM、」PPP／PFI等）を体系的に理解し、行政経営における効率化と公平性の両立について専門的な知見を習得する。２．論理性・分析力：地方自治体における予算配分や具体的政策課題を題材に、データに基づいた現状分析を行い、論理的な解決策を導き出す能力を養う。３．地域貢献・実践力：具体的な政策提案を通じて、地域社会の持続可能な発展に主体的に寄与しようとする実践的な態度を形

＜授業の方法＞
対面回とオンデマンド回を連動させたハイブリッド形式で行う。＊対面回： ワークショップ、ディスカッション、政策シミュレーションを中心に実施。＊オンデマンド回： 基本知識の講義ビデオ視聴、事例研究、および個人ワーク（リサーチ）を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
【有】ワークシートを用いた予算配分シミュレーション、地方自治体の具体的課題に対するグループディスカッション、および最終回に向けた「政策提言書（市長への手紙）」の作成等を行う予定。デジタルの活用として、リアルタイム投票システム（スマホ活用）を用いた意思決定プロセスの疑似体験も実施予定。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
＊予習： 次回のテーマに関連するニュースや地方自治体の現状についてリサーチする（60分）。＊復習： 講義で扱った判例や理論を、自身の政策提言案にどう反映できるか考察し、ポートフォリオを更新する（60分）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２(経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
＊平常点（30%）： ワークショップへの貢献度、およびオンデマンド回の小レポート。＊中間課題（20%）： 特定の判例・事例に対する法的・経営的分析。＊最終課題（50%）： 行政をアップデートするための「政策提言書」。論理性、法的根拠、実現可能性の3点で評価する。

＜教科書＞

＜参考書＞
柗永佳甫・中林美恵子編著（2025/3/31）　改訂版　公共経営学入門　大阪大学出版会

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	公共経営（NPM）とは	ガイダンス。1億円ワークシート実施。「税金の投資対効果」を考える。
2	行政の組織とマネジメント	縦割り行政の功罪
3	民間活力の導入（PPP／PFI）	大学・企業・行政の連携。大学生として公共経営にどう携わることができるか。
4	政策評価とEBPM	データで語る政策
5	地方創生と地域経営	地域の強み（ex.岡山における大学の多さ）をどうキャッシュポイントに変えるか
6	デジタル行政（DX）	アプリのUX設計（使いやすい行政とは？）
7	ソーシャル・イノベーション	現代日本の社会課題解決モデルを探る
8	プロジェクト立案(1)	大学・企業のメリット設計を立案・プレゼン
9	プロジェクト立案(2)	大学・企業のメリット設計を立案・プレゼン
10	プロジェクト立案(3)	大学・企業のメリット設計を立案・プレゼン
11	プロジェクト立案(4)	大学・企業のメリット設計を立案・プレゼン
12	プロジェクト立案(5)	大学・企業のメリット設計を立案・プレゼン
13	プロジェクト立案(6)	大学・企業のメリット設計を立案・プレゼン
14	プロジェクト立案(7)	大学・企業のメリット設計を立案・プレゼン
15		
16		

科目コード	3G218				区　分	コア科目			
授業科目名	行政法Ⅰ［Q4対面＋オンデマンド］				担当者名	山本　満理子			
配当年次	2年	配当学期	第４クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
行政と市民のルールを学ぶ。「法がないからできない」ではなく「法をどう解釈し、新しい仕組み（条例）を作るか」というリーガル・デザインの視点を養う。例えば岡山市の行政実務を題材に、市民の権利を守り、公共の利益を最大化する手法を攻めと守りの両面から考案する。

＜授業の到達目標＞
＊行政法の基本原則を理解し、具体的な行政紛争に対して法的解決策を提示できる。＊条例制定のプロセスを理解し、地域課題解決のための「政策の成文化」ができる。

＜授業の方法＞
対面回とオンデマンド回を連動させたハイブリッド形式で行う。＊対面回： ワークショップ、ディスカッション、政策シミュレーションを中心に実施。＊オンデマンド回： 基本知識の講義ビデオ視聴、事例研究、および個人ワーク（リサーチ）を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
【有】ワークシートを用いた予算配分シミュレーション、地方自治体の具体的課題に対するグループディスカッション、および最終回に向けた「政策提言書（市長への手紙）」の作成等を行う予定。デジタルの活用として、リアルタイム投票システム（スマホ活用）を用いた意思決定プロセスの疑似体験も実施予定。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
＊予習： 次回のテーマに関連するニュースや地方自治体の現状についてリサーチする（60分）。＊復習： 講義で扱った判例や理論を、自身の政策提言案にどう反映できるか考察し、ポートフォリオを更新する（60分）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
＊平常点（30%）： ワークショップへの貢献度、およびオンデマンド回の小レポート。＊中間課題（20%）： 特定の判例・事例に対する法的・経営的分析。＊最終課題（50%）： 行政をアップデートするための「政策提言書」。論理性、法的根拠、実現可能性の3点で評価する。

＜教科書＞
池村正道 編（2025/02/05）　Next教科書シリーズ　行政法〈第5版〉 弘文堂

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス、行政法とは何か？	ワークシート（行政権編）
2	行政の組織と分権	市町村と都道府県の役割分担
3	法律による行政の原理	「法がないからできない」と言われないためには？
4	行政行為（認可・許可）	具体的な行政による活動における「行政処分」の性質
5	行政指導と行政契約	例えば、企業や大学との「協定（パートナーシップ）」の法的効力などについて考える
6	行政上の情報公開	透明性（ex.予算をどう公開し、信頼を得るのか？）
7	行政手続法	公正なプロセスの重要性
8	条例起案ワーク(1)	現代日本の社会課題についての特定の市町村における条例案を執筆
9	条例起案ワーク(2)	現代日本の社会課題についての特定の市町村における条例案を執筆
10	条例起案ワーク(3)	現代日本の社会課題についての特定の市町村における条例案を執筆
11	条例起案ワーク(4)	現代日本の社会課題についての特定の市町村における条例案を執筆
12	条例起案ワーク(5)	現代日本の社会課題についての特定の市町村における条例案を執筆
13	条例起案ワーク(6)	現代日本の社会課題についての特定の市町村における条例案を執筆
14	条例起案ワーク(7)	現代日本の社会課題についての特定の市町村における条例案を執筆
15		
16		

科目コード	3G219				区　分	コア科目			
授業科目名	行政法Ⅱ［Q1対面＋オンデマンド］				担当者名	山本　満理子			
配当年次	3年	配当学期	第１クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
行政と市民のルールを学ぶ。「法がないからできない」ではなく「法をどう解釈し、新しい仕組み（条例）を作るか」というリーガル・デザインの視点を養う。例えば岡山市の行政実務を題材に、市民の権利を守り、公共の利益を最大化する手法を攻めと守りの両面から考案する。

＜授業の到達目標＞
＊行政法の基本原則を理解し、具体的な行政紛争に対して法的解決策を提示できる。＊条例制定のプロセスを理解し、地域課題解決のための「政策の成文化」ができる。

＜授業の方法＞
対面回とオンデマンド回を連動させたハイブリッド形式で行う。＊対面回： ワークショップ、ディスカッション、政策シミュレーションを中心に実施。＊オンデマンド回： 基本知識の講義ビデオ視聴、事例研究、および個人ワーク（リサーチ）を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
【有】ワークシートを用いた予算配分シミュレーション、地方自治体の具体的課題に対するグループディスカッション、および最終回に向けた「政策提言書（市長への手紙）」の作成等を行う予定。デジタルの活用として、リアルタイム投票システム（スマホ活用）を用いた意思決定プロセスの疑似体験も実施予定。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
＊予習： 次回のテーマに関連するニュースや地方自治体の現状についてリサーチする（60分）。＊復習： 講義で扱った判例や理論を、自身の政策提言案にどう反映できるか考察し、ポートフォリオを更新する（60分）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
＊平常点（30%）： ワークショップへの貢献度、およびオンデマンド回の小レポート。＊中間課題（20%）： 特定の判例・事例に対する法的・経営的分析。＊最終課題（50%）： 行政をアップデートするための「政策提言書」。論理性、法的根拠、実現可能性の3点で評価する。

＜教科書＞
池村正道 編（2025/02/05）　Next教科書シリーズ　行政法〈第5版〉 弘文堂

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス、行政救済法の全体像	ワークシート実施。「行政が動かないとき、どう戦うか？」
2	行政不服申立て	申請が却下された事例の研究
3	行政訴訟の全体像	訴訟要件と原告適格
4	取消訴訟の仕組み	裁量権の逸脱・濫用
5	国家賠償法	行政の過失
6	損失補償	公共の利益と私権の制限
7	行政上の強制執行	命令に従わない相手にどう対処するか
8	実務と判例(1)	過去の訴訟事例を読み解く
9	実務と判例(2)	過去の訴訟事例を読み解く
10	実務と判例(3)	過去の訴訟事例を読み解く
11	実務と判例(4)	過去の訴訟事例を読み解く
12	実務と判例(5)	過去の訴訟事例を読み解く
13	実務と判例(6)	過去の訴訟事例を読み解く
14	実務と判例(7)	過去の訴訟事例を読み解く
15		
16		

科目コード	3G220				区　分	コア科目			
授業科目名	労働経済学［週2］				担当者名	赤木　邦江			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第4クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習（グループワーク・ペアワーク）	卒業要件	選択・2単位

＜授業の概要＞
「労働経済学」は、労働市場で生じる様々な現象について、そのメカニズムを経済学的に明らかにしようとするものである。経済学的にというと難しい数学の知識が必要と思うかもしれないが、本講義では、図解を多用し、直感理解重視とし、目標や結果を先に伝えておいて、解説の流れとともに基本的・標準的な関数等の理解を促すので、数学が苦手な学生であっても問題ない。また労働供給や労働需要がどのように決まるのか、労働者個人の賃金水準はどのように決まるのかといったミクロ的側面から、失業が発生する要因は何であるのかといったマクロ的側面ま

＜授業の到達目標＞
・そもそも経済学がどのような視点や思考で物事を分析しているか、理解する。・現実の労働市場は、大勢の人々や組織によって構成され複雑に動いているが、疑問に思ったり、不明な事柄も単純化することに　より問題・課題解決ができることを分析データを通じて理解できるようになる。

＜授業の方法＞
講義は対面授業およびグループディスカッション等によるアクティブ・ラーニングを実施する。ノートPC必携：GoogleClassroom、GoogleFormを活用したレジュメや課題の配布、資料の共有などICT活用に努める。(GoogleClassroomにアップしたレジュメを適宜、印刷またはダウンロードすること)出席確認は、毎授業時の中間確認：前半のポイント確認・GoogleForm入力、及び毎授業時の終了時：リフレクション（振り返り）シートの提出、ユニバーサルパスポート・スマホ(コード）出席登録。授業内ス

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有り：グループディスカッション、ペアワーク、グループワーク、発表など

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：講義の終わりに課題を提示するので、自分で考え発表できるようにする（1時間程度必要）。復習：講義で学習したことの振り返り、レジュメの整理、事後課題など（１時間程度必要）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３(経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
「毎授業時の中間確認：前半のポイント確認・GoogleForm入力 13%」「毎授業時の終了時：リフレクション（振り返り）シート 26%」※提出をもって出席とする「授業への取り組み状況 13%」期末試験：配布レジュメ・資料、自筆ノート（コピー、写真コピーは不可）持ち込み可 48%※講義に関する質問は講義終了後、および教員のオフィスアワーで対応する。配布レジュメ等持ち込み可)

＜教科書＞
指定しない。講義で使用する資料等は必要に応じて配布、または紹介する。

＜参考書＞
指定しない。講義で使用する資料等は必要に応じて配布、または紹介する。

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダクション：労働経済学とは	講義の概要：労働市場とは、進め方、成績評価について、どうして大学へ行くのか：大学進学の理由を経済学的な視点で捉える
2	労働供給⑴	働くか、働かないか：労働供給行動、労働力の変化、ライフサイクルと留保賃金率
3	職探し理論	仕事探しは大変：求人情報は重要、職探しの理論①非逐次型モデル ②逐次型モデル
4	労働供給⑵	どれくらい働くか：労働時間の選択、効用の最大化問題、所得の変化と労働時間、労働供給曲線
5	労働需要⑴（短期）	何人雇えばよいか：新たな雇用、短期の企業経営、独占企業の労働需要
6	労働需要⑵（長期）	機械か人か：長期の企業経営、労働需要の賃金弾力性、雇用調整
7	労働市場のメカニズム	労働者と企業の出会い：労働市場の供給と需要、労働市場の効率性、買い手独占
8	補償賃金仮説	なぜ賃金が違うか①：賃金格差の実態、仕事の内容や性質と補償賃金、仕事に対する需要と供給
9	差別の経済学	なぜ賃金が違うか②：男女間賃金格差の実態、合理的差別、日本における女性活用

10	賃金プロファイル（カーブ）	賃金はどう支払われるのか：年齢や勤続年数、賃金プロファイルと生産性プロファイル
11	人材（財）開発	いかにスキルを身につけるか：賃金プロファイルと教育訓練、正規・非正規労働者の境界
12	失業	失業はなぜ起こるか：失業率の定義とその推移、性別・年齢と失業率、均衡自然失業率
13	労働市場と働き方の未来	これからどうなる労働市場：労働供給の変化、労働市場の変化（日本の最新ニュースから分析・考察）
14	期末：「労働経済学」まとめテスト総括：全体の振り返り	まとめテストの解答・解説全体の振り返り、これからの「労働経済学」受講自己評価
15		
16		

科目コード	3G224				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	経済数学入門Ⅱ				担当者名	田鹿　紘			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
経済学系の科目の多くは数学の知識を前提としている。数学をできるだけ使わずに講義が展開される場合もあるが、厳密な議論や詳細な議論が難しくなるため、数学を学ぶ必要性は高い。計算はしなくても数学的な思考は欠かせない科目も多い。さらに、公務員試験では算数や中学数学の知識が必要な科目や経済学の計算問題が出題される。そのため、公務員試験を受験する学生にとっては数学の知識を欠かすことはできない。本講義は経済学で用いられる数学について解説を行い、問題により演習を行っていく。

＜授業の到達目標＞
①経済学で用いられる微分、指数、対数の問題を解くことができる。②経済学の計算問題を解くことができる。③公務員試験における経済学の参考書を一人で読み進められるようになる。

＜授業の方法＞
指定した教科書を用いて講義を展開する。式展開は板書していく。教科書をなぞるだけではなく、数式が持つ意味や数学にまつわる余談も交えて講義する。練習問題を解き、解説を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
問題演習におけるグループワークもしくはペアワーク等の実施

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
（事前学習）教科書の該当するページをよく読み、理解できる箇所と理解できない箇所を明らかにしておくこと。必要があれば高校数学の教科書を随時参照すること。（90分）（事後学習）講義中にやった練習問題をノートを見ながら解く。ノートを見ずに解けるようになるまで何度もチャレンジする。週に複数回解きなおすこと。（60分）他の経済学系の科目の授業資料に目を通し、講義で学んだことがどのように役に立つか確認する。（30分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２(経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業内で実施する理解度確認テスト　70%（3回実施）グループワークの課題　30%（3回実施）

＜教科書＞
多鹿智哉（2023）　読んで理解する経済数学　新世社

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	基礎の計算	数学特有の記号、四則演算、式変形、方程式、不等式について再確認をする。
2	関数	合成関数、逆関数、一次関数について学ぶ。
3	二次関数	二次関数と独占企業の利潤最大化について学ぶ。
4	第1回から第3回の授業の振り返りと理解度確認テスト	第3回までの振り返りを行い、理解度を確認するためのテストを行う。
5	指数・対数	指数・対数が経済学ではどのように用いられているか学ぶ。複利計算や成長率の計算を学ぶ。
6	数列・極限（1）	数列、極限の基本的事項について学ぶ。
7	数列・極限（2）	経済学における応用例を学ぶ。
8	確率	データ分析、統計学の基礎となる確率について学ぶ。
9	第5回から第8回の授業の振り返りと理解度確認テスト	第5回から第8回の授業の振り返りと理解度確認テスト
10	一変数関数の微分（1）	微分とは何かについて学ぶ。
11	一変数関数の微分（2）	関数の最大化・最小化について学ぶ。
12	多変数の微分（1）	偏微分について学ぶ。
13	多変数の微分（2）	多変数関数の最大値の計算方法について学ぶ。
14	講義全体の振り返りと、第11回から第13回の内容の理解度確認テスト	第13回までの振り返りを行い、理解度を確認するためのテストを行う。
15		
16		

科目コード	3G303				区　分	コア科目			
授業科目名	原価計算				担当者名	大池　淳一／北村　和久			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本科目では日商簿記検定２級を受講者全員が受験し合格することを目指す。問題演習を通じて原価計算の計算構造や基礎となる理論について学ぶ。具体的には、原価とは何か、原価はどのように計算するのか、原価計算の方法にはどのようなものがあるか、また、計算して得られた原価情報をどのように利用するのかといった課題について理解を深める。

＜授業の到達目標＞

① 日商簿記検定２級を受講者全員受験し合格する。② 原価計算の専門用語、計算技術を習得する。③ 原価計算によって得られた情報を、どのように経営の改善に結びつけるか理解できること。

＜授業の方法＞

①日商簿記検定２級を受講者全員受験し合格することを目指すため、３級取得者あるいは同程度の知識を有する者に限る。②「簿記入門」「簿記演習」を履修し、「財務会計」及び「管理会計」を併せて履修すること。③授業の方法は、授業ではテキストに従い主に問題演習を行う。④電卓演習・集計作業などの計算を行う場合もあるので、各自電卓（関数電卓、スマートフォン不可）を持参すること。⑤第１回に参加することは必須で、授業方針を納得の上履修すること（他の授業への参加・公欠などのやむを得ない事情がある場合には、事前に担当教員へ連絡する

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素有5,6人による協働学習

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

① 専門用語の理解と技術定着をはかるため、予習・復習を重視する。② 授業で行った問題を必ず次回までに再度解いておくこと。③ 本科目に関して、週に予習（テキストを読み・例題を解く）３時間、復習（問題演習）３時間を費やす必要がある。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー３（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

① 受講態度・学習意欲・授業への参加度 30%② 小テスト 70%フィードバック：締め切り後に解答を発表し，解説する。

＜教科書＞

滝沢ななみ(2026/2/21)　スッキリわかる 日商簿記2級 工業簿記 2026年度版［ネット試験・統一試験 完全対応］ TAC出版

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価方法、授業方針、原価計算とは
2	総合原価計算①	組別総合原価計算①
3	総合原価計算②	組別総合原価計算②
4	総合原価計算③	工程別総合原価計算①
5	総合原価計算④	組別総合原価計算②
6	総合原価計算⑤	仕損と減損
7	工業簿記における財務諸表①	製造原価報告書
8	工業簿記における財務諸表②	損益計算書、貸借対照表
9	本社工場会計	本社・工場での会計処理
10	標準原価計算①	直接材料費差異、直接労務費差異
11	標準原価計算②	製造間接費差異
12	直接原価計算①	全部原価計算との比較、固定費調整
13	直接原価計算②	ＣＶＰ分析全部原価計算との比較、固定費調整
14	総まとめ	確認テスト
15		
16		

科目コード	3G305				区　分	コア科目			
授業科目名	財務会計				担当者名	大池　淳一／北村　和久			
配当年次	2年	配当学期	第１、２クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本科目では財務会計を学び、日商簿記検定２級を受講者全員が受験し合格することを目指す科目である。そのため「簿記入門」「簿記演習」を履修しているか、商業高校等で日商簿記検定３級程度の知識・技術を有している必要がある。また「原価計算」「管理会計」を同時に履修している必要がある。財務諸表の作成ルールを理解するとともに、どのような情報を提供しているのかを適切に理解しておくことで、様々なビジネスシーンにおいて活用することができる。その財務諸表を作成するために必要な基礎的な知識・技術を習得する。

＜授業の到達目標＞

①日商簿記検定２級を受講者全員が受験し合格することを目標とする。②財務諸表の作成ルールを理解する。③財務諸表の作成方 法を理解する。④財務諸表により得られた情報を、どのように活用するか理解できること。

＜授業の方法＞

①日商簿記２級を受講者全員が受験し合格すること目標とするため、履修する条件として３級取得者あるいは同程度の知識を有する者に限る。また「簿記入門」「簿記演習」を履修しており、「原価計算」「管理会計」「資格検定対策Ⅲ（簿記系）」を併せて履修すること。②授業の方法は、授業ではテキストに従い主に問題演習を行う。③電卓演習・集計作業などの計算を行う場合もあるので、各自 電卓（関数電卓、スマートフォン不可）を持参すること。④第１回に参加することは必須で、授業方針を納得の上履修すること（他の授業への参加・公欠などのやむ

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素有5,6人による協働学習

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

① 専門用語の理解と技術定着をはかるため、予習・復習を重視する。② 授業で行った問題を必ず次回までに再度解いておくこと。③ 本科目に関して、週に予習（テキストを読み・例題を解く）３時間、復習（問題演習）３時間を費やす必要がある。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー３（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

① 受講態度・学習意欲・授業への参加度 30%② 小テスト 70%フィードバック：締め切り後に解答を発表し，解説する。

＜教科書＞

瀧澤ななみ　2026年度版 スッキリわかる 日商簿記2級 商業簿記　TAC出版

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価方法、授業方針、財務会計とは
2	仕訳①	株式の発行、剰余金の配当と処分合併と無形固定資産法人税等と消費税商品売買等
3	仕訳②	手形と電子記録債権（債務）、その他の債権譲渡銀行勘定調整表固定資産
4	仕訳③	リース取引研究開発費とソフトウェア有価証券引当金
5	仕訳④	外貨換算会計税効果会計収益認識の基準
6	決算、本支店会計①	精算表と財務諸表帳簿の締め切り
7	決算、本支店会計②	本支店会計
8	連結会計①	連結財務諸表とは支配獲得日の連結支配獲得日後の連結
9	連結会計②	内部取引の処理未実現利益の消去
10	連結会計③	総合問題
11	製造業会計	製造業会計の基本
12	総合演習①	第１問対策
13	総合演習②	第１問対策
14	総合演習③	第２問、第３問対策
15		
16		

科目コード	3G309				区　分	コア科目			
授業科目名	金融論［週2］				担当者名	歌代　哲也			
配当年次	3年	配当学期	第２クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本科目では、金融の基礎理論および制度について体系的に学び、金融システムの仕組みとその役割を理解することを目的とする。あわせて、これらの知識を踏まえ、身近な金融行動も取り上げ、金融に関する理解を実生活と結びつけて考察できる力を養う。

＜授業の到達目標＞
本科目の到達目標は、主として以下の3点である。金融に関する基礎的な理論および制度を理解し、金融システムや金融政策の仕組みを説明できる。金融に関する諸問題を、現実の経済社会や自らの生活と関連づけて考察できる。金利や利回りなど、金融に関する基礎的な計算を行うことができる。

＜授業の方法＞
本科目は、教科書に基づき、パワーポイントおよび板書を用いた講義形式で行う。理解を深めるため、適宜、質疑応答を取り入れ、受講者の発言を求めるとともに、事例に関しては簡単なディスカッションを行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無し

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業に臨むにあたり、教科書の該当部分を事前に読んでおくこと（事前学習：30分程度）。授業後は、講義内容をノート等で整理し、重要なポイントを確認して理解を深めること（事後学習：30分程度）。また、日常的にニュースや新聞等を通じて金融や経済の動向に触れるとともに、身近な金融サービスや制度にも関心を持つことが望ましい。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
成績は、期末試験（60%）、授業内課題・平常点（40%）により評価する。授業内課題では、講義内容に関する理解や考察に加え、基礎的な計算問題への対応を求める。

＜教科書＞
家森 信善（025/1/27）　金融論〈第4版〉（ベーシック+）　中央経済社

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス／金融論を学ぶ意義	授業の進め方を説明するとともに、金融論の位置づけと学ぶ意義について概観する。
2	奨学金制度と教育資金	奨学金制度の仕組みを確認し、教育資金の調達と返済について考える。
3	金融とマクロ経済の関係／日本の金融貯蓄構造	マクロ経済との関係を整理し、日本における家計・企業・政府の資金の流れを理解する。
4	パーソナルファイナンスと三大支出	家計における主要な支出項目を整理し、生活設計と金融の関係を考察する。
5	貨幣の役割	貨幣の機能と役割を理解し、経済における貨幣の意義を考える。
6	クレジットカードと決済システム	クレジットカードの仕組みと決済システムの概要を理解する。
7	物価と変動要因	物価の概念とその変動要因について整理し、経済との関係を理解する。
8	金利①（単利・複利）	単利と複利の仕組みを理解し、基礎的な計算方法を学ぶ。
9	金利②（実質金利・資本の限界効率）	実質金利の考え方および投資判断に関わる基礎概念を理解する。
10	金融政策	金融政策の目的と手段を整理し、マクロ経済との関係を理解する。
11	中央銀行の機能	中央銀行の役割と機能を確認し、金融政策の実施主体としての位置づけを理解する。
12	金融機関の役割	銀行および銀行以外の金融機関の機能を整理し、金融仲介の仕組みを理解する。
13	投資の基本と資産形成	投資の基礎を理解し、資産形成の考え方および制度（NISA等）の概要を確認する。
14	金融システムの安定化と金融規制	金融システムの安定性を確保する仕組みと金融規制の役割について理解する。
15		
16		

科目コード	3G312				区　分	コア科目			
授業科目名	環境経済学				担当者名	田鹿　紘			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本講義では環境問題を学びながら、経済学的に問題解決の方法を検討していく。環境汚染の経済的損失、景観の経済効果について考え、地域経済にどのような影響をもたらすのかについて解説を行う。

＜授業の到達目標＞
①環境問題を分析するための経済理論の知識を有している。②経済学的な視点から環境問題に対する自分の考えを述べることができる。

＜授業の方法＞
指定した教科書を用いて講義を展開する。サブノートやスライドも併用するが、教科書を丁寧に読み進めていくことを基本とする。必要に応じて、ミクロ経済学の理論の復習を行う。ミクロ経済学の知識は前提としない。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：知識を深めるためのグループワークもしくはペアワークの実施。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
（事前学習）教科書の該当するページをよく読み、理解できる箇所と理解できない箇所を明らかにしておく。必要があればミクロ経済学の授業資料を随時参照する。（90分）（事後学習）教科書や授業中のメモを読み返し、授業を振り返る。（60分）講義内容に関連する時事的な話題について新聞や記事を探し、よく読み、整理する。（30分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２(経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業内で実施する理解度確認テスト　70%（3回実施）グループワークの課題　30%（3回実施）

＜教科書＞
八木信一・関耕平（2019）　地域から考える環境と経済　ーアクティブな環境経済学入門ー　有斐閣

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	地域と環境	環境と経済の関係について学ぶ。
2	環境問題とは何か？　環境経済学とは？	価格がつかない価値物の捉え方について学ぶ。
3	公害	わが国がどのように公害と向き合い乗り越えてきたかを学ぶ。
4	廃棄物と循環型社会	廃棄物問題の捉え方と循環型社会をどのように作るのかについて学ぶ。
5	グループワークと確認テスト	第1回から第4回の授業の理解度を確認するためのテストを行う。テストの後にグループワークを行う。
6	農村と環境	農の多面的機能について学び、農村の持続可能性を実現するための方法について考える。
7	コモンズ	資源の捉え方、コモンズの悲劇について学ぶ。
8	エネルギー	エネルギーとエネルギー自治について学ぶ。
9	まちづくりとアメニティ	景観まちづくりについて学ぶ。
10	グループワークと確認テスト	第6回から第9回の授業の理解度を確認するためのテストを行う。テストの後にグループワークを行う。
11	地球環境と地域経済	環境を念頭に置いた地域の持続的な経済発展について考えていく。
12	インフラ	インフラのこれまでとこれからについて学ぶ。
13	環境ガバナンス	ガバナンスが求められている背景について学ぶ。
14	講義全体の振り返り、グループワーク、確認テスト	講義全体を振り返る。第11回から第13回の授業の理解度を確認するためのテストを行う。テストの後にグループワークを行う。
15		
16		

科目コード	3G313				区　分	コア科目			
授業科目名	簿記論Ⅰ［Q1対面＋オンデマンド］				担当者名	大池　淳一／北村　和久			
配当年次	1年	配当学期	第1クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本科目は2025年度入学生より新設され、１年次後期から「会計コース」を志望する学生のみが選択する科目である。履修登録の段階で「会計コース」の志望を迷っている学生は選択しておくべきである。講義の内容は税理士試験「簿記論」の合格を目指すものである。そのため「簿記入門」「簿記演習」を履修しているか、商業高校等で日商簿記検定３級程度の知識・技術を有している必要がある。講義では税理士試験「簿記論」の個別問題に対応できる基礎力を養います。100分授業のうち、対面で理論と解法を学び、オンデマンドで徹底的な復習演習を行い

＜授業の到達目標＞

①税理士試験レベルの個別論点（現金預金、有価証券、固定資産等）の正確な仕訳ができる。②各資産・負債の評価基準を理解し、決算整理ができる。

＜授業の方法＞

①次年度８月に税理士試験「簿記論」を受験し合格することを目標とするため、履修する条件として「簿記入門」「簿記演習」を同時に履修しているも、もしくは日商簿記検定３級取得者あるいは同程度の知識を有する者に限る。②授業の方法は、授業ではテキストに従い主に問題演習を行う。③電卓演習・集計作業などの計算を行う場合もあるので、各自電卓（関数電卓、スマートフォン不可）を持参すること。④第１回に参加することは必須で、授業方針を納得の上履修すること（他の授業への参加・公欠などのやむを得ない事情がある場合には、事前に担当教員

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素有3,4人による協働学習

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

① 専門用語の理解と技術定着をはかるため、予習・復習を重視する。② 授業で行った問題を必ず次回までに再度解いておくこと。③ 本科目に関して、週に予習（テキストを読み・例題を解く）毎日2時間、復習（問題演習）毎日2時間を費やす必要がある。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー３（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

① 受講態度・学習意欲・授業への参加度 30%，② 小テスト 70%フィードバック：締め切り後に解答を発表し，解説する。

＜教科書＞

TAC株式会社（税理士講座）　税理士 簿記論 個別問題の解き方 第8版　TAC出版

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス・簿記の基本	授業方針の説明、簿記の基本原理と仕訳・転記の再確認
2	基礎演習（オンデマンド）	取引の仕訳と総勘定元帳への転記・集計演習
3	現金預金と債権債務	銀行勘定調整表の作成、不渡手形、貸倒引当金の個別問題
4	債権債務演習（オンデマンド）	手形の裏書・割引、貸倒引当金の繰入・戻入計算
5	有価証券の評価	売買目的、満期保有目的、子会社・関連会社株式の評価
6	有価証券演習（オンデマンド）	有価証券の利息計算、時価評価、減損処理の演習
7	棚卸資産の処理	売上原価の算定（五分法等）、棚卸減耗損と商品評価損
8	棚卸資産演習（オンデマンド）	先入先出法、移動平均法による期末商品の評価演習
9	有形固定資産①	減価償却（定額・定率・生産高）、資産の売却・買換え
10	固定資産演習（オンデマンド）	建設仮勘定、資本的支出と収益的支出の区分演習
11	有形固定資産②とリース	リース取引（所有権移転・外）、資産除去債務の基礎
12	リース演習（オンデマンド）	リース料支払時の処理、減価償却費の計算演習
13	負債・純資産	引当金の計上基準、剰余金の配当と処分
14	総括演習（オンデマンド）	第1クォーターの学習範囲に関する確認テストと個別問題の総仕上げ
15		
16		

科目コード	3G314				区　分	コア科目			
授業科目名	簿記論Ⅱ［Q2対面＋オンデマンド］				担当者名	大池　淳一／北村　和久			
配当年次	1年	配当学期	第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本科目は2025年度入学生より新設され、１年次後期から「会計コース」を志望する学生のみが選択する科目である。履修登録の段階で「会計コース」の志望を迷っている学生は選択しておくべき科目である。講義の内容は税理士試験「簿記論」の合格を目指すものである。そのため「簿記入門」「簿記演習」「簿記論Ⅰ」を履修しているか、商業高校等で日商簿記検定３級程度の知識・技術を有している必要がある。講義では税理士試験「簿記論」の個別問題に対応できる基礎力を養います。100分授業のうち、対面で理論と解法を学び、オンデマンドで徹底的

＜授業の到達目標＞

①税理士試験レベルの個別論点（現金預金、有価証券、固定資産等）の正確な仕訳ができる。②各資産・負債の評価基準を理解し、決算整理ができる。

＜授業の方法＞

①次年度８月に税理士試験「簿記論」を受験し合格することを目標とするため、履修する条件として「簿記入門」「簿記演習」「簿記論Ⅰ」を同時に履修しているも、もしくは日商簿記検定３級取得者あるいは同程度の知識を有する者に限る。②授業の方法は、授業ではテキストに従い主に問題演習を行う。③電卓演習・集計作業などの計算を行う場合もあるので、各自電卓(関数電卓、スマートフォン不可）を持参すること。④第１回に参加することは必須で、授業方針を納得の上履修すること（他の授業への参加・公欠などのやむを得ない事情がある場合には、事

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素有3,4人による協働学習

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

① 専門用語の理解と技術定着をはかるため、予習・復習を重視する。② 授業で行った問題を必ず次回までに再度解いておくこと。③ 本科目に関して、週に予習（テキストを読み・例題を解く）毎日2時間、復習（問題演習）毎日2時間を費やす必要がある。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー３（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

① 受講態度・学習意欲・授業への参加度 30%，② 小テスト 70%フィードバック：締め切り後に解答を発表し，解説する。

＜教科書＞

TAC株式会社（税理士講座）　税理士 簿記論 総合問題の解き方 第8版　TAC出版

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	総合問題の解法原理	総合問題の構造、資料の優先順位、効率的な下書き作成法
2	基礎総合演習（オンデマンド）	決算整理前残高試算表からB/S・P/Lへの集計手順
3	商品売買の総合問題	推定問題を含む売上原価算定、複雑な債権債務の集計
4	商品・債権演習（オンデマンド）	特殊商品売買、クレジット売掛金等を含む総合問題演習
5	固定資産と繰延資産	固定資産の月割計算、ソフトウェア、繰延資産の償却
6	資産管理演習（オンデマンド）	除却・廃棄、火災損失等を含む資産項目の総合演習
7	外貨建取引と有価証券	外貨建債権債務、為替予約、有価証券の時価評価
8	外貨・証券演習（オンデマンド）	振当処理、外貨建有価証券の換算と評価演習
9	新しい収益認識基準	収益認識に関する会計基準の5ステップと総合問題への適用
10	収益認識演習（オンデマンド）	契約負債、返品権付き販売、ポイント引当金等の演習
11	税金と純資産の集計	法人税・消費税の未払計上、自己株式、新株予約権の処理
12	税務・純資産演習（オンデマンド）	租税公課の計上、株主資本等変動計算書の作成演習
13	実践総合演習	制限時間（60分）を設けた中規模総合問題の実施
14	第2クォーター総括（オンデマンド）	第2クォーターの確認テストと集計ミスを防ぐチェック技法の解説
15		
16		

科目コード	3G315				区　分	コア科目			
授業科目名	財務諸表論Ⅰ［1年生用：Q4対面＋オンデマンド］				担当者名	大池　淳一／北村　和久			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第４クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本科目では、企業会計の要である「財務諸表論」の計算能力を養います。税理士試験等の高度な会計資格を見据え、財務諸表の作成プロセスと各項目の計算手法を体系的に学びます。具体的には、貸借対照表、損益計算書の作成、資産・負債・純資産の各評価基準について演習を通じて習得します。

＜授業の到達目標＞
①財務諸表作成の基礎となる会計原則を理解し、適切な仕訳ができる。②資産（流動・固定）、負債、純資産の各項目における計算・評価技法を習得する。③税効果会計や連結会計の基礎を含む、応用的な計算問題に対応できる力をつける。

＜授業の方法＞
①主にテキストを用いた講義と、問題演習（個別計算および総合問題）を組み合わせて行います。②毎回電卓を使用するため、各自持参すること。③必要に応じて、解説動画や補足資料を配信し、理解の定着を図ります。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有5,6人による協働学習

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
①各回のテーマについてテキストの該当箇所を事前に通読しておくこと（予習：2時間）。②授業で扱った計算問題は、数値を変えても正解できるよう繰り返し解き直すこと（復習：3時間）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
①受講態度・学習意欲・授業への参加度 30%②小テスト・演習課題 70%フィードバック：提出された課題や小テストについては、次回授業時またはLMS上で解答・解説を行います。

＜教科書＞
TAC出版開発グループ 編　税理士 財務諸表論 計算問題の解き方 第8版　TAC出版

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス・財務諸表の基礎	授業の進め方、財務諸表の構成、簿記と財務諸表論の接続
2	現金預金・債権の計算	現金預金の調整、貸倒引当金の計上と表示
3	棚卸資産の評価	商品売買、評価損と棚卸減耗損の処理
4	有価証券の計算	売買目的・満期保有・子会社株式等の分類と評価
5	有形固定資産①	取得価額の決定、減価償却費（定額・定率）の計算
6	有形固定資産②	圧縮記帳、固定資産の売却・除却・買い替え
7	リース会計	所有権移転・外リースの判定と計算
8	無形固定資産・繰延資産	ソフトウェア、のれん、研究開発費の処理
9	負債・引当金の計算	退職給付引当金、賞与引当金、資産除去債務の基礎
10	純資産の会計	資本金、資本準備金、利益剰余金の振替処理
11	税効果会計	一時差異の把握と繰延税金資産・負債の計算
12	収益認識の基準	契約資産、契約負債、収益認識に関する会計基準の適用
13	総合問題演習①	決算整理事項の整理と試算表の作成
14	総合問題演習②	貸借対照表・損益計算書の作成と確認テスト
15		
16		

科目コード	3G315				区　分	コア科目			
授業科目名	財務諸表論Ⅰ［2年生～］				担当者名	大池　淳一／北村　和久			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第１クォーター、第２クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本科目では、企業会計の要である「財務諸表論」の計算能力を養います。税理士試験等の高度な会計資格を見据え、財務諸表の作成プロセスと各項目の計算手法を体系的に学びます。具体的には、貸借対照表、損益計算書の作成、資産・負債・純資産の各評価基準について演習を通じて習得します。

＜授業の到達目標＞
①財務諸表作成の基礎となる会計原則を理解し、適切な仕訳ができる。②資産（流動・固定）、負債、純資産の各項目における計算・評価技法を習得する。③税効果会計や連結会計の基礎を含む、応用的な計算問題に対応できる力をつける。

＜授業の方法＞
①財務諸表作成の基礎となる会計原則を理解し、適切な仕訳ができる。②資産（流動・固定）、負債、純資産の各項目における計算・評価技法を習得する。③税効果会計や連結会計の基礎を含む、応用的な計算問題に対応できる力をつける。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
①各回のテーマについてテキストの該当箇所を事前に通読しておくこと（予習：2時間）。②授業で扱った計算問題は、数値を変えても正解できるよう繰り返し解き直すこと（復習：3時間）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
①受講態度・学習意欲・授業への参加度 30%②小テスト・演習課題 70%フィードバック：提出された課題や小テストについては、次回授業時またはLMS上で解答・解説を行います。

＜教科書＞
TAC出版開発グループ 編　税理士 財務諸表論 計算問題の解き方 第8版　TAC株式会社(税理士講座)

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス・財務諸表の基礎	授業の進め方、財務諸表の構成、簿記と財務諸表論の接続
2	現金預金・債権の計算	現金預金の調整、貸倒引当金の計上と表示
3	現金預金・債権の計算	現金預金の調整、貸倒引当金の計上と表示
4	有価証券の計算	売買目的・満期保有・子会社株式等の分類と評価
5	有形固定資産①	取得価額の決定、減価償却費（定額・定率）の計算
6	有形固定資産②	圧縮記帳、固定資産の売却・除却・買い替え
7	リース会計	所有権移転・外リースの判定と計算
8	無形固定資産・繰延資産	ソフトウェア、のれん、研究開発費の処理
9	負債・引当金の計算	退職給付引当金、賞与引当金、資産除去債務の基礎
10	純資産の会計	資本金、資本準備金、利益剰余金の振替処理
11	税効果会計	一時差異の把握と繰延税金資産・負債の計算
12	収益認識の基準	契約資産、契約負債、収益認識に関する会計基準の適用
13	総合問題演習①	決算整理事項の整理と試算表の作成
14	総合問題演習②	貸借対照表・損益計算書の作成と確認テスト
15		
16		

科目コード	3G318				区　分	コア科目			
授業科目名	会計演習Ⅱ				担当者名	大池　淳一／北村　和久			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本科目は１年次の「会計演習Ⅰ」に引き続き、「会計」に関する知識や技術を活用し、「ジレンマ克服型商品開発実習」により、実社会における諸課題の解決に取り組む。学生は，ディスカッション・ディベート・プレゼンテーション・フィールドワーク・プロジェクト等の体験的学習を通じて，企業や地域等と連携した問題解決に取り組む。複数の利害関係者との調整において「会計」の知識を活用して問題解決に取り組み、「板挟み」や「想定外」などAIには代替することができない人間ならではの強み身に付ける。

＜授業の到達目標＞

①「会計」に関する知識や技術を活用することができる。②実社会における諸課題の解決に主体的に取り組むことができる。③課題解決にあたり思考力や判断力を活用し、他者に表現することができる。④AIには代替することができない「板挟み」や「想定外」に対応する力を身に付け、複数の利害関係者との間で納得解を導きだすことができる。

＜授業の方法＞

「会計」に関する知識や技術を活用した実社会における諸課題の解決に取り組むためには、後期の開講までに日商簿記検定３級程度の会計に関する知識が必要である。また学内では他の学生との協働、学外では様々な利害関係者との協働により問題解決に取り組む。随時プレゼンテーションにより他のプロジェクトの進行状況を共有する機会を設ける。授業時にはPCの活用が必須である。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素有3,4人によるプロジェクトチームを編成

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

グループでの調査実施を行うため、調査準備や、調査後のデータ集計や調査報告作成については、授業時間外での活動が必要になる場合が想定される。グループ活動への積極的な関与を求める。演習毎に授業時間外のレポート作成が必要となる（毎週最低でも準備に1時間の予習時間、調査のまとめに1時間の復習時間が必要）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー３（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への積極的な取り組み：30%、レポート：20%、プレゼン50%プレゼンテーションに対するコメントをフィードバックし、問題解決に向けての完成度を高めていく。

＜教科書＞

初回授業で指示

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業計画、課題の設定
2	ジレンマ克服型商品開発実習の概要	ジレンマ克服型商品開発実習とは
3	課題設定	課題の把握
4	課題設定	仮説の設定
5	演習	問題解決演習①
6	演習	問題解決演習②
7	演習	問題解決演習③
8	中間報告	プレゼンテーションによる中間報告
9	演習	問題解決演習④
10	演習	問題解決演習⑤
11	演習	問題解決演習⑥
12	演習	問題解決演習⑦
13	演習	プレゼンテーション作成①
14	最終報告	プレゼンテーションによる最終報告
15		
16		

科目コード	3G326				区　分	コア科目			
授業科目名	簿記論Ⅲ［Q3対面＋オンデマンド］				担当者名	大池　淳一／北村　和久			
配当年次	1年	配当学期	第3クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本科目は2025年度入学生より新設され、１年次後期から「会計コース」を志望する学生のみが選択する科目である。履修登録の段階で「会計コース」の志望を迷っている学生は選択しておくべきである。講義の内容は税理士試験「簿記論」の合格を目指すものである。そのため「簿記入門」「簿記演習」「簿記論Ⅰ」「簿記論Ⅱ」を履修しているか、商業高校等で日商簿記検定３級程度の知識・技術を有している必要がある。講義では税理士試験「簿記論」の個別問題に対応できる基礎力を養います。100分授業のうち、対面で理論と解法を学び、オンデマンド

＜授業の到達目標＞

①税理士試験レベルの個別論点（現金預金、有価証券、固定資産等）の正確な仕訳ができる。②各資産・負債の評価基準を理解し、決算整理ができる。

＜授業の方法＞

①次年度８月に税理士試験「簿記論」を受験し合格することを目標とするため、履修する条件として「簿記入門」「簿記演習」「簿記論Ⅰ」「簿記論Ⅱ」を同時に履修しているも、もしくは日商簿記検定３級取得者あるいは同程度の知識を有する者に限る。②授業の方法は、授業ではテキストに従い主に問題演習を行う。③電卓演習・集計作業などの計算を行う場合もあるので、各自電卓（関数電卓、スマートフォン不可）を持参すること。④第１回に参加することは必須で、授業方針を納得の上履修すること（他の授業への参加・公欠などのやむを得ない事情がある

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素有3,4人による協働学習

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

① 専門用語の理解と技術定着をはかるため、予習・復習を重視する。② 授業で行った問題を必ず次回までに再度解いておくこと。③ 本科目に関して、週に予習（テキストを読み・例題を解く）毎日2時間、復習（問題演習）毎日2時間を費やす必要がある。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー３（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

① 受講態度・学習意欲・授業への参加度 30%，② 小テスト 70%フィードバック：締め切り後に解答を発表し，解説する。

＜教科書＞

TAC株式会社（税理士講座）　税理士 簿記論 総合問題の解き方 第8版　TAC出版

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	応用論点の解法分析	応用総合問題の難易度判定、捨て問の選別と得点戦略
2	高度資料整理（オンデマンド）	複雑な未決算事項や決算整理事項の同時並行処理
3	本支店会計と企業結合	本支店間の未実現利益消去、合併・事業譲渡の処理
4	組織再編演習（オンデマンド）	内部利益の除去、合併比率に基づく仕訳の演習
5	キャッシュ・フロー計算書	間接法による作成、営業・投資・財務活動の区分
6	C/F演習（オンデマンド）	各種資産・負債の増減分析によるC/F集計演習
7	連結会計の基本	支配獲得日の処理、のれん、非支配株主持分の計算
8	連結修正演習（オンデマンド）	連結第2期以降の開始仕訳、資本連結の反復演習
9	連結会計の応用	内部取引の相殺、未実現利益の消去、持分法
10	成果連結演習（オンデマンド）	アップストリーム、ダウンストリームを含む連結演習
11	税効果会計	一時差異の把握、繰延税金資産・負債の計上と集計
12	税効果演習（オンデマンド）	総合問題における税効果会計の適用とB/S・P/L反映
13	本試験形式演習	制限時間（90分）を設けた応用総合問題の実践
14	全体の総括（オンデマンド）	簿記論全範囲の総点検、本試験に向けた学習アドバイス
15		
16		

科目コード	3G400				区　分	コア科目			
授業科目名	流通論［週2］				担当者名	宇都宮　浩司			
配当年次	1年	配当学期	第４クオーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本講では「流通」機能の中心的役割を担う卸売業および小売業の動向と経営の在り方や流通全体の構造や取引制度等を中心に学習する。DX、グローバル化が進展する環境変化の中で、生産と消費を繋ぐ身近な流通産業がどのように変化・対応していくのか、ケーススタディ（事例研究）を交えながら具体的に理解し、その理論的背景を考察していく。

＜授業の到達目標＞
①流通に関する基礎的な理論を説明できる。②小売業の主要な業態について説明できる。③卸売業の位置づけと役割について説明できる。④流通全体の構造、取引慣行、取引制度について説明できる。

＜授業の方法＞
１．授業中は質疑応答しながら授業を進めるため、対話型授業をめざす。２．授業終了前に小テストを実施し、基礎知識の定着度を確認しながら進めていく。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの有無：有ディスカッション、グループワーク

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
１ 授業計画に記載されている授業内容、用語などについて、図書館等にある事典や書籍などを参照しつつ、必ず事前に調べて、講義に臨むこと（予習90分）。２ 空欄埋めシートなどを使って、講義で扱った内容を何度も復習すること（復習60分）。３ 講義に関する不明点等があれば、自分で調べたり、教員に尋ねたりすること（復習30分）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、現代経営学科のDP２「経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。」およびDP３「経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。」に関連している。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
①授業における課題提出：30％②授業内レポート×2回：30％③授業内確認テスト：40％上記の総合点で評価する。

＜教科書＞
使用せず。

＜参考書＞
適宜指示します。

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	流通論を学ぶ意義	流通論はどのような学問かを理解し、その対象と特徴について学ぶ。
2	百貨店と総合スーパー	百貨店の誕生と総合スーパー誕生を歴史的文脈の中で考察する。
3	食品スーパーとコンビニエンス・ストア	関西スーパーとセブンイレブンの事例から小売形態の多様化について学ぶ。
4	ディスカウント・ストアとSPAの仕組み	ダイソーの仕組みとユニクロの仕組みについて学ぶ。
5	商店街とショッピングセンター	商店街とショッピングセンターの事例を通じて商業集積について学ぶ。
6	授業内レポート①	第１回から第５回の内容について理解度を確認する。
7	小売業態について考える	業態革新と業態技術について学ぶ。
8	小売を支えるロジスティクス	物流の役割と主要機能について学ぶ。
9	インターネット技術と新しい小売業態	アマゾンの事例を通じてインターネット技術による新しい業態の登場と商取引について学ぶ。
10	小売を支える卸	卸の役割と機能について学ぶ。
11	流通構造とその変容	流通構造の変化と分析について学ぶ。
12	日本型取引慣行	日本型の取引構造・取引制度の変容について学ぶ。
13	商業とまちづくり＋授業内レポート②	商業とまちづくりについて学び、授業内にレポート課題を行う。
14	本科目のまとめ	学習内容の総復習
15		
16		

科目コード	3G401				区　分	コア科目			
授業科目名	民法Ⅰ				担当者名	岡邑　祐樹			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
私法の代表である民法の総則について、基本的な事項を扱う。民法は法律科目全般について最初に学ぶことの多い法律であり、法的な考え方の基本となる。公務員試験などで民法の試験科目にも対応できるための民法の基礎的な知識・理解が身につけられる授業である。

＜授業の到達目標＞
①民法総則・物権の基本的な原則について理解する。②法律問題について民法債権法の何の条文が問題になるかを理解する。③法律を当てはめて妥当な結論について導き出すことが出来る思考力を養う。

＜授業の方法＞
対面における講義形式で行うが、適宜、学生に質問をし意見を聞くなどして双方向の授業を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有。法律問題についての意見（結論と理由）を聞くことがある。意見を考えて発表し、場合によっては討論を行うことによって基礎的な知識だけでなく、法的解決のための思考力を養う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習としては教科書の該当部分を読んでくる。(60分)復習としては該当のレジュメと教科書を読み返す。（60分）小テストを2回行う。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
定期試験50%、小テスト40%、授業態度（授業の積極性やオンデマンド授業での課題提出など）10%によって授業の到達目標を測定する。

＜教科書＞
長瀬二三男・永沼淳子（2020年8月30日）　Next教科書シリーズ　民法入門　弘文堂

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	導入－民法とは何か	テキスト1－8ページ
2	行為能力と法人	テキスト8－18ページ
3	権利の客体と法律行為	テキスト18－23ページ
4	契約と意思表示	テキスト24－30ページ
5	代理	テキスト31－38ページ
6	無効及び取消と条件・期限・期間	テキスト38－45ページ
7	時効　＋(第1回から第6回までの内容の小テスト)	テキスト45－55ページ
8	物権・物権的請求権	テキスト57－63ページ
9	占有権・所有権・用益物権	テキスト63－74ページ
10	不動産所有権・動産所有権の移転と即時取得	テキスト74－81ページ
11	担保物権（抵当権以外）　＋（第7回から第10回までの内容の小テスト）	テキスト81－89ページ
12	担保物権（抵当権①）	テキスト90－97ページ
13	担保物権（抵当権②）	テキスト97－102ページ
14	非典型担保	テキスト102－108ページ
15		
16		

科目コード	3G402				区　分	コア科目			
授業科目名	民法Ⅱ				担当者名	岡邑　祐樹			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
私法の代表である民法の債権法について、基本的な事項を扱う。民法は法律科目全般について最初に学ぶことの多い法律であり、法的な考え方の基本となる。公務員試験などで民法の試験科目にも対応できるための民法の基礎的な知識・理解が身につけられる授業である。

＜授業の到達目標＞
①民法債権法の基本的な原則について理解する。②法律問題について民法債権法の何の条文が問題になるかを理解する。③法律を当てはめて妥当な結論について導き出すことが出来る思考力を養う。

＜授業の方法＞
対面における講義形式で行うが、適宜、学生に質問をし意見を聞くなどして双方向の授業を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有。法律問題についての意見（結論と理由）を聞くことがある。意見を考えて発表し、場合によっては討論を行うことによって基礎的な知識だけでなく、法的解決のための思考力を養う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習としては教科書の該当部分を読んでくる。(60分)復習としては該当のレジュメと教科書を読み返す。（60分）小テストを2回行う。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
定期試験50%、小テスト40%、授業態度（授業の積極性やオンデマンド授業での課題提出など）10%によって授業の到達目標を測定する。

＜教科書＞
長瀬二三男・永沼淳子（2020年8月30日）　Next教科書シリーズ　民法入門　弘文堂

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	債権法総論導入・債権の効力導入	テキスト109－118ページ
2	債権の効力続き・責任財産の保全	テキスト118－133ページ
3	多数当事者の債権および債務	テキスト133－144ページ
4	債権譲渡・債務引受	テキスト144－150ページ
5	債権の消滅・有価証券	テキスト150－164ページ
6	契約総則＋(第1回から第5回までの内容の小テスト)	テキスト165－178ページ
7	贈与・売買・交換・消費貸借	テキスト178－193ページ
8	使用貸借・賃貸借①	テキスト193－207ページ
9	賃貸借②	テキスト207－218ページ
10	雇用・請負・委任・寄託・組合・終身定期金・和解	テキスト218－234ページ
11	事務管理・不当利得＋（第6回から第10回までの内容の小テスト）	テキスト234－241ページ
12	不法行為①	テキスト241－246ページ
13	不法行為②	テキスト246－251ページ
14	不法行為③	テキスト251－257ページ
15		
16		

科目コード	3G403				区　分	コア科目			
授業科目名	消費者行動論［Q1対面＋オンデマンド］				担当者名	宇都宮　浩司			
配当年次	2年	配当学期	第１クオーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本講義では、消費者の基本的な行動原理やモデルについて学習する。企業がマーケティング戦略の意志決定を行う際に、消費者行動の分析は欠かせない。企業のマーケティング戦略と消費者行動論にどのような関連があるのかについて講義し、私たちの普段の消費者としての購買行動や消費行動の原理を科学的に解説していく。

＜授業の到達目標＞
①消費者行動論の基本モデルや概念を自分のことばで正確に説明できる。②自らの普段の消費者行動原理を分析できる。③企業が消費者の行動を、どのような手法で分析しようとしているのか説明できる。

＜授業の方法＞
本講義は対面による講義・演習形式とオンデマンドによって実施します。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有対面授業時に４～５人のグループに分かれ協働学習を行います。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習復習の時間は、一回当たりの平均時間であり、扱う内容に伴って講義ごとに予習・復習の重点項目は変更する。１ 授業計画に記載されている授業内容、用語などについて、図書館等にある事典や書籍などを参照しつつ、必ず事前に調べて、講義に臨むこと（予習90分）。２ 空欄埋めシートなどを使って、講義で扱った内容を何度も復習すること（復習60分）。３ 講義に関する不明点等があれば、自分で調べたり、教員に尋ねたりすること（復習30分）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、現代経営学科のDP２「経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。」およびDP３「経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。」に関連している。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
①授業における課題提出：30%②授業内レポート×2回：30%③授業内確認テスト：40%上記の総合点で評価する。

＜教科書＞
使用しません。

＜参考書＞
適宜紹介します。

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	消費者行動論とは何か	消費者行動論はどのような学問かを理解し、その対象と特徴について学ぶ。【対面・４月８日】
2	消費者の知覚（１）	製品やそれに関連する情報を知覚する４つのプロセスについて学ぶ。【オンデマンド】
3	消費者の知覚（２）	製品やそれに関連する情報を知覚する４つのプロセスについて経験的に学ぶ。【対面・４月１５日（水）】
4	消費者の学習	学習のうち「レスポンデント条件付け」「オペラント条件付け」「観察学習」について学ぶ。【オンデマンド】
5	消費者の記憶	短期記憶が長期記憶になるメカニズムについて学ぶ。【オンデマンド】
6	消費者の感覚（１）	消費者の購買行動に与える感覚について学ぶ。【オンデマンド】
7	消費者の感覚（２）	消費者の購買行動に与える感覚について経験的に学ぶ。【対面・５月６日（水）】
8	消費者の動機づけと関与（１）	態度に影響を与える関与について学ぶ。【オンデマンド】
9	消費者の動機づけと関与（２）	態度に影響を与える関与について経験的に学ぶ。【対面・５月１３日（水）】
10	消費者の態度（１）	態度に影響を与える関与を理解し、態度や態度モデルについて学ぶ。【オンデマンド】
11	消費者の態度（２）	態度に影響を与える関与を理解し、態度や態度モデルについて経験的に学ぶ。【対面・５月２０日（水）】
12	消費者の購買行動（１）	消費者がどのように消費について意思決定しているかを学ぶ。【オンデマンド】
13	消費者の購買行動（２）	消費者がどのように消費について意思決定しているかを経験的に学ぶ。【対面・５月２３日（土）・補講日】
14	本科目のまとめ	学習内容の総復習【対面・５月２７日（水）】
15		

16		

科目コード	3G404				区　分	コア科目			
授業科目名	マーケティング特論				担当者名	扇野　睦巳			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本講義では、「マーケティング総論」で学んだマーケティングの基礎概念（STP、4P、顧客理解など）を土台に、より実践的な視点からマーケティング課題の発見、分析、企画立案、提案までを行う。単なる知識理解にとどまらず、実在する商品・サービス、地域資源、店舗、企業事例などを題材に、市場調査、競合分析、ターゲット設定、価値提案、販売促進施策の設計を行い、マーケティングを「使える知識」として身につけることを目的とする。また、本講義は3年次の「ブランド戦略論」への接続科目として位置づけ、ブランド戦略論で扱う理念設計、ブ

＜授業の到達目標＞
1．マーケティング総論で学んだ基礎概念（STP、4P、4C、顧客価値など）を実際の事例分析に活用できる。2．商品・サービスや地域資源に関するマーケティング上の課題を発見し、根拠をもって整理できる。3．ターゲット設定、競合との差別化、販促施策の立案を通して、実践的なマーケティング提案を作成できる。4．調査・分析・企画・発表のプロセスを通じて、主体性、協働性、表現力を高める。5．3年次のブランド戦略論で必要となる「価値を言語化する力」「社会に伝わる企画に落とし込む力」の基礎を身につける。

＜授業の方法＞
本講義は、講義・個人ワーク・グループワーク・フィールドワーク・発表を組み合わせて進行する。前半では、マーケティング総論で学んだ基礎理論を実践的に再整理し、実際の事例に当てはめながら理解を深める。後半では、地域商品、サービス、店舗、大学関連プロジェクト等を題材に、調査・分析・企画・提案を行う実践型授業を展開する。学生は、現場観察や簡易インタビュー、SNS分析等を通じてニーズや課題を見出し、チームで企画をまとめ、中間発表・最終発表を行う。なお、本講義では「売るための工夫」だけでなく、「なぜその価値が必要とされ

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有事例分析・課題発見型学習身近な商品・サービス、地域資源、店舗等を対象に、マーケティング上の強み・弱み・課題を分析する。フィールドワーク・調査活動店舗観察、顧客視点での購買体験の振り返り、SNSや売場の調査、簡易インタビュー等を行い、現場から学ぶ。グループワーク・協働学習チームでターゲット設定、差別化、企画立案、販促案作成を行い、協働的に課題解決に取り組む。プレゼンテーション・ピアレビュー中間発表および最終発表を実施し、教員・学生同士でフィードバックを行いながら企画を改善する。リフレクション各フェーズで学

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習（約1時間）各回のテーマに応じて、指定資料の確認、身近な商品・サービスの観察、競合事例の収集、SNSや売場の調査、チーム課題の準備などを行う。復習（約1時間）授業で扱った理論や事例を整理し、ワークシートや発表資料を見直す。また、授業中に得たフィードバックをもとに企画内容の修正・改善を行う。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本授業は、本学のディプロマ・ポリシーに掲げる以下の能力の修得に寄与する。DP①：知識・技能の修得マーケティングの基礎理論を実践的に活用し、商品・サービスや地域資源の分析と企画立案に必要な知識・技能を身につける。DP②：思考力・判断力・表現力市場や顧客の視点から課題を発見し、分析結果をもとに施策を立案・提案することで、論理的思考力、判断力、表現力を養う。DP③：主体性・多様性・協働性グループでの実践活動を通じて、自ら役割を果たし、多様な意見を取り入れながら協働する力を育成する。DP④：社会的責任・実践力地域

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業課題・ワークシート……20%授業への貢献度……20%中間発表……20%最終提案（企画書・プレゼンテーション）……30%リフレクションシート・授業参加態度……10%【評価方法の特徴】最終成果だけでなく、挑戦・失敗・改善のプロセスを重視する。 個人評価とチーム評価を組み合わせ、多面的に評価する。 ピア評価（学生同士の相互評価）を導入し、主体的な学びを促す。【フィードバック方法】各回のワークや発表に対して授業内で講評を行う。中間発表では改善点を具体的に示し、最終提案に反映できるよう指導する。必要に応じてワー

＜教科書＞
後日指定

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーションと総論の復習	授業の目的・評価方法の説明マーケティング総論で学んだSTP、4P、顧客理解の再確認本講義の位置づけと、ブランド戦略論への接続を理解する
2	顧客理解の実践	顧客ニーズ、インサイト、購買行動の整理身近な商品・サービスを題材に「誰が、なぜ買うのか」を分析する

3	市場調査と競合分析	市場を見る視点、競合比較、ベンチマークの方法簡易調査の進め方を学び、調査対象を設定する
4	フィールドワーク①	店舗観察、SNS分析、売場調査等を行い、顧客視点と競合視点から気づきを整理する
5	フィールドワーク②・課題整理	調査結果を共有し、課題や機会を抽出する「どこに改善の余地があるか」を言語化する
6	ターゲット設定と価値提案	STPを実務的に活用し、誰に何を届けるかを明確化する差別化の視点から価値提案を考える
7	マーケティング・ミックスの設計	4P・4Cを活用し、商品、価格、流通、販促を一貫性のある形で設計する
8	企画案の作成①	調査・分析結果をもとに、商品・サービス改善案または新規企画案を作成する
9	中間発表	各チームが企画案を発表し、教員および受講生からフィードバックを受ける
10	改善とブラッシュアップ	中間発表を踏まえ、企画内容の改善を行うターゲットとの整合性、実現可能性、差別化を再検討する
11	販促・発信の設計	SNS、POP、コピー、導線、告知方法など、伝わる仕組みを設計するブランド戦略論につながる「伝え方」の基礎を学ぶ
12	企画案の完成	最終提案書・発表資料の作成企画の背景、ターゲット、価値、施策、期待効果を整理する
13	最終発表①	実践的なマーケティング提案をプレゼンテーションする
14	最終発表②・まとめ	発表講評、振り返りマーケティング総論から学んだことがどのように実践に結びついたかを整理し、ブランド戦略論へどうつながるかを確認する
15		
16		

科目コード	3G405				区　分	コア科目			
授業科目名	マーケティングリサーチ［週2オンデマンド］				担当者名	宇都宮　浩司			
配当年次	2年	配当学期	第４クオーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
市場のニーズに適合する新商品を開発したり、発売された商品が顧客に認知されているかを調べる際、市場調査が行われる。市場調査には大きく2つの方法(定量調査と質的調査)がある。これら２つの方法をバランスよく組み合わせることで、現実を反映した調査が可能になる。アンケートおよびインタビュー調査の手法を理解することを実践的に学習する。

＜授業の到達目標＞
「社会調査士」の資格を取得するための必須科目（B科目）である。受講生は、以下の到達目標を達成できることを目指す。（1）マーケティングリサーチの基礎知識を身につける。（2）調査の目的を明確に設定し、適切なリサーチデザインを企画できる。（3）定量調査と質的調査の違いやそれぞれの活用方法を理解し、実際にアンケートやインタビューを設計・実施することで、データ収集の手法を適切に使ことができる。（4）収集したデータを整理し、適切な分析手法を用いて解釈するスキルを習得する。（5）調査結果を論理的にまとめ、説得力のある報

＜授業の方法＞
オンデマンド

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
なし

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習として次回授業で扱う基本事項の整理と事前課題を課す(想定学習時間:約60分)。理解を深めるための復習課題を毎回課す(想定学習時間：約60分）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
毎回の課題提出 50%、最終課題 50%を目安に評価する。

＜教科書＞
使用しない。

＜参考書＞
篠原清夫他（2024）　『社会調査の基礎』　弘文堂
大谷信介他（2023）　『最新・社会調査へのアプローチー論理と方法ー』　ミネルヴァ書房

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス：社会調査とマーケティングリサーチ	社会調査とマーケティングリサーチの違い、定量調査と質的調査の概要、市場調査の役割について、身近な事例をもとに学ぶ。今後の講義の進め方と評価方 法についても説明する。
2	調査の目的・歴史・倫理	マーケティングリサーチの目的およびその歴史的な変遷について学ぶ。市場調査がどのように発展してきたのかを理解し、調査がもたらす影響について考察する。また、リサーチにおける倫理的な問題についても取り上げ、過去に発生した問題事例をもとに、注意すべき点を議論する。受講生同士で意見を交換し、調査を行う上での倫理的配慮について理解を深める。
3	調査方法	マーケティングリサーチにおける定量調査と質的調査の基本的な手法を学び、それぞれの適用場面を理解する。アンケート調査やインタビュー調査の具体的な進め方を学びながら、異なる調査方法の特性を比較する。
4	調査企画	マーケティングリサーチにおける定量調査と質的調査の基本的な手法を学び、それぞれの適用場面を理解する。アンケート調査やインタビュー調査の具体的な進め方を学びながら、異なる調査方法の特性を比較する。
5	調査テーマの決定	適切な調査テーマを選定するための基準を学ぶ。KJ法・ブレーンストーミング・特性要因図などを用いながら、実際に各グループで調査テーマを決定し、それがマーケティング上どのような意義を持つのかを検討する。
6	全数調査と標本調査	全数調査と標本調査の違いや、それぞれのメリット・デメリットについて学ぶ。実際のビジネスシーンを想定し、どのような場面で全数調査が有効であるか、標本調査をどのように設計するかを考察する。

7	サンプリング	サンプリングの基本概念を学び、無作為抽出や層化抽出などの代表的なサンプリング手法について理解を深める。実際の調査デザインの中で、どのようにサンプルを選定するかを考える。
8	調査票の作り方	適切な調査票を作成するためのポイントを学ぶ。質問の構成やバイアスを避ける方法について学びながら、実際の調査票を作成する。
9	調査データの整理：エディティング、コーディング、データクリーニング	調査データの前処理について学ぶ。欠損値の処理やデータの整理方法を理解し、実際にサンプルデータを用いてデータクリーニングを実施する。
10	調査票調査の分析	定量データの分析方法を学ぶ。平均値や分散、クロス集計などの基本的な統計手法を活用し、データの特徴を把握する方法を理解する。実際のデータを用いた分析を行い、結果を考察する。
11	質的調査：観察・参与観察	質的調査の手法の一つである観察調査について学ぶ。参与観察と非参与観察の違いを理解し、どのような場面でそれぞれが有効であるかを考察する。
12	質的調査：インタビュー調査	インタビュー調査の設計と実施方法について学ぶ。インタビューの種類（構造化、半構造化、非構造化）を比較し、それぞれの特徴を理解する。
13	質的調査の分析	質的データの分析方法（コーディング、テーマ分析など）について学ぶ。過去の事例を用いながら、データをどのように整理し、意味を見出していくかを考察する。
14	調査報告書のまとめ方	データの解釈をどのように文章化し、説得力のあるレポートに仕上げるかを考察する。
15		
16		

科目コード	3G406				区　分	コア科目			
授業科目名	会社法				担当者名	松井　春樹			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
会社法はケースが命です。法律は具体的な問題を解決するためにあり、会社の規律に特化した会社法はとりわけその性質が強いです。本講義は、現役の企業法務弁護士である講師が具体的なケースを取り上げながら、社会人として必要になる基本的な会社法の知識の習得とその運用を学ぶことを目的とします。基本的な会社法の内容に加えて、近時のニデックの会計不正の問題を始め法務部や企業法務弁護士が現実に直面している応用的な課題についても一緒に考える予定です。

＜授業の到達目標＞
会社に関わるニュースが流れてきた時に、会社法の基本論点が想起されるレベルを目指します。

＜授業の方法＞
授業は、演習と授業を組み合わせた形式で行います。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
講師の用意した具体的なケースを授業時間内に検討してもらった上で、そのケースを素材に参加者の発言も求めながら、話を進めていく予定です。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
集中講義ですので、予習復習は不要です。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
定期試験（70%）、授業態度（30%）により成績評価を行います。

＜教科書＞
柳明昌編著（2023年3月）　『プレステップ会社法[第2版]』　弘文堂

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス・法とはなにか・会社とはなにか	授業の進め方を確認するとともに、企業形態や会社の種類を学びます
2	株式とはなにか	株式とはなにか、社員と会社員の異同について学びます
3	会社における機関	会社にはどのような機関があるのか学びます
4	株主総会	株主総会にどのような役割があるのかについて学びます
5	コーポレートカバナンス	企業をどのように統治・監視するのか、情報開示のあり方や会社の機関のあり方について学びます
6	代表取締役の行為	会社の利益か取引の安全の選択について学びます
7	取締役の義務と責任	取締役にはどのような経営責任があるのかについて学びます
8	監査とはなにか	経営のチェックは誰が行うのかについて学びます
9	新株と社債の発行	事業に必要な資金はどのように調達されるのかについて学びます
10	株式の譲渡	株主にはどのようにしてなるのか、やめるのかについて学びます
11	キャッシュアウト	株主をやめさせられる場合について学びます
12	組織再編	会社を売ったり買われたりする場合について学びます
13	法務・弁護士の仕事	法律がどのように社会で使われ、仕事になるのかについて具体的なケースを交えて考えます
14	試験及び解説	試験及び解説を行った後、全体総括
15		
16		

科目コード	3G407				区　分	コア科目			
授業科目名	企業取引法				担当者名	鹿室　辰義／髙垣　耕平			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本科目は、企業経営及び企業取引にまつわる様々な法分野について、実務上問題となりやすい法律の内容を学びます。具体的には、契約法、商法、会社法など基礎的な法律を踏まえ、労働法、知的財産法、国際取引法などの発展的な法分野についてその大枠を把握しつつ、企業取引において発生しやすいトラブルの解決規範となる法律の内容を学びます。これにより、企業運営及び企業取引トラブルの解決に必要な法的知識と法的分析力を身に着けていきます。

＜授業の到達目標＞
企業が直面し得る課題について、どのような法的ルールがあるのか、また、そのような企業の課題に対して法的観点からも検討できる素養を身につける。

＜授業の方法＞
授業は、原則として講義形式で行います。また、小テスト２回を出題します。学習管理は、小テストの実施や授業内での質疑応答の機会を設けることによって行います。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション等）基本的には講義形式としますが、適宜生徒から意見の発言を求める形でディスカッション等を行う場合があります。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
毎回の講義テーマを確認し、該当箇所について企業経営との関連性や法律の概要を事前に調べておくこと（60分）。授業後は、速やかに講義内容の復習を行いノートにまとめること（90分）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
定期試験　60%、授業内小テスト　20%、学習態度　20%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	概論	企業取引に関する法律の概要など。
2	契約法	契約の成立要件、解除、定型約款に関する規制など。
3	契約法	典型的な契約類型の解説など。
4	商法	商号、商事売買、運送営業、倉庫営業など。
5	会社法	設立、株式に関する規定など。
6	会社法・小テスト	株主総会、取締役会、役員の責任に関する規定など。第１回～第６回の授業内容に関する小テスト。
7	労働法	労働基準法、労働契約法の概要など。
8	消費者法	消費者契約法、電子商取引、特定商取引法の概要など。
9	広告法	景表法その他の広告規制関連法規の概要など。
10	独占禁止法・下請法	私的独占、カルテル、不公正な取引方法など。
11	知的財産法	特許法、著作権法、商標法の概要など。
12	国際取引法	国際売買、国際運送、国際契約、国際紛争解決手続きなど。
13	M&A・小テスト	M&Aの類型に関する解説など。第７回～第１３回の授業内容に関する小テスト。
14	期末試験（と解説）	第１～第１３回までの授業内容に関するテストの実施
15		
16		

科目コード	3G409				区　分	コア科目			
授業科目名	情報分析論［週2］				担当者名	古松　丈周			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
情報分析とは、社会の様々なデータから帰納的に現象を明らかにしようとするものである。そのためには仮説をたて、それを検証するというステップが重要となる。本科目では、統計的手法を用いながら、仮説検証の学習に取り組む。その過程で、平均、分散、相関、回帰分析といった考え方を理解することを目的とする。

＜授業の到達目標＞
「社会調査士」の資格を取得するための必須科目（C科目）である。受講生は、以下の到達目標を達成できることを目指す。（1）統計データを読み解き、グラフや指標を用いて分析し、質的情報の収集・解釈も合わせて行うことで、社会の諸問題を多角的に捉える力を身につける。（2）単純集計や度数分布表、代表値やばらつき指標などの基礎を踏まえつつ、格差指標、クロス集計、相関・回帰分析、時系列の変化分析を体系的に身につける。（3）観察法やインタビューといった手法を取り入れ、数値化しにくい情報を考慮する視点を育む。（4）多様なデータ

＜授業の方法＞
授業内の演習でMicrosoft Excelを適宜利用するため、パソコンを毎回持参すること。講義では講義の記録や自らが理解したことをメモする以外にも、クラス内での議論やインタビューメモのため必ず筆記用具を持参すること。授業ではペアワーク・ディスカッション・相互インタビュー・プレゼンテーションを重視する。特に発言・対話・議論に積極的に参加することが期待される。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングはほぼ毎回の授業で行う。具体的には、ペアワーク・ディスカッション・企画立案実践・プレゼンテーション・相互レビューである。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
次回授業で扱う基本事項を予習課題として各回の最後に提示する（想定学習時間：約60分）。理解を深めるための復習課題を毎回課す（想定学習時間：約60分）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度 40%、毎回の課題提出 40%、最終課題 20%を目安に評価する。

＜教科書＞

＜参考書＞
篠原清夫他（2024）　『社会調査の基礎』　弘文堂
大谷信介他（2023）　『最新・社会調査へのアプローチ　ー論理と方法ー』　ミネルヴァ書房

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス：データ分析とは	初回はデータ分析全般についての導入を行う。社会や日常生活に溢れるデータがどのように活用されているか、具体的な事例（マーケティングやSNS解析など）を挙げながら、データ分析の重要性を理解する。講義の進め方と評価方法を説明する。
2	質的変数と量的変数	質的変数（例：性別、血液型、職業）と量的変数（例：年齢、身長、テストの点数）の違いについて事例を通じて学ぶ。アンケート調査や身近な数値データを題材に、どのようなデータがどちらに分類されるのかを具体的に考える。また、名義尺度・順序尺度・間隔尺度・比例尺度といった、より詳しいデータのスケールの概念にも触れ、今後の統計手法を学ぶ基礎を固める。
3	統計とはー統計資料の整理・既存統計資料の読み方	統計の基本的な考え方を導入し、公的機関や企業が公表している既存の統計資料(国勢調査や各種白書など)の読み解き方を学ぶ。実際に公的統計資料を取り上げ、どのように整理・要約されているかを確認しながら、信頼できるデータの探し方やデータの妥当性を判断するポイントも解説する。
4	単純集計：表とグラフ	アンケート調査や収集したデータを簡単に要約する方法を学ぶ。棒グラフや円グラフなどの基本的なグラフ化の手法を中心に、どのようにデータを可視化すればわかりやすいかを考えます。表とグラフの作成方法の実習を行う。
5	度数分布表とヒストグラム	連続変数のデータを整理する方法として、度数分布表とヒストグラムの作り方を学ぶ。データの階級区分の決め方や、度数分布を見て分布の形状を読み取る方法を解説する。身近なデータを用いてヒストグラムを作成し、そこから得られる示唆をディスカッションする。

6	代表値とさまざまな平均	平均値・中央値・最頻値などの代表値を計算し、どんな場面でそれぞれが有用か具体例をもとに考える。幾何平均や加重平均といった特殊な平均も紹介し、ビジネスや研究でどのように使われるかにも触れる。実際に身の回りのデータを用いて、いくつかの平均値を計算して比較する。
7	ばらつきの特性値	データのばらつきを示す分散や標準偏差、四分位範囲などの概念を学ぶ。同じ平均値でも、ばらつきの程度が異なればデータの性質も違ってくることを理解する。仮想的なテストの得点データから、標準偏差が大きい場合と小さい場合の違いを比較し、「得点が一部に偏っているか」「全体的にまんべんなく分布しているか」を読み取る演習を行う。
8	ローレンツ曲線とジニ係数	所得の不平等を測る指標としてローレンツ曲線とジニ係数を学ぶ。ローレンツ曲線がどのように社会の分配状況を可視化するかを解説し、ジニ係数を使うことで格差の度合いを数値化できる点を示す。日本と他国のジニ係数を比較したり、実際に人口や世帯収入のデータを使ってローレンツ曲線を描いたりすることで、格差指標の意味を体験的に理解する。
9	クロス集計	2つ以上の変数を組み合わせて分析する「クロス集計」について学ぶ。アンケート調査でよく用いられる手法であり、「性別×購買意欲」など、複数の切り口でデータを見ることで新たな傾向や特徴を発見する。実際のマーケティングデータの一部を取り上げ、男女別・年代別などで購買傾向をクロス集計し、考察する演習を実施する。
10	相関係数、相関関係と因果関係、疑似相関	相関関係とは何かを学び、相関係数の計算方法と読み方を解説する。特に「相関関係があるからといって因果関係があるとは限らない」点を強調し、疑似相関の危険性にも触れる。受講生が日常で見つけてきたデータの相関を計算し、「本当に因果関係があるかどうか」を議論するワークを行う。
11	母集団と標本、統計的検定	データ分析における母集団と標本の概念を整理し、仮説検定やP値、信頼区間などの基本的な統計的検定の枠組みを紹介する。統計的に有意という考え方が、研究やビジネスでどのように利用されるかを具体例で示す。
12	回帰分析	1つの目的変数に対して影響を及ぼす複数の要因（説明変数）をモデル化する手法として回帰分析を学ぶ。単回帰分析と重回帰分析の違いを説明し、決定係数を用いてモデルの説明力を評価する方法も解説する。例えば不動産の価格を予測するモデルを題材に、立地や広さ、築年数などのデータを使って回帰分析を実践し、どの変数が価格に影響しているかを考える。
13	時系列データ（構成比・寄与度・寄与率）	時系列データの基本的な扱い方や、構成比・寄与度・寄与率といった指標について学ぶ。時系列データでは、時間の経過に伴う傾向や季節変動などを読み解くことが重要である。具体的な事例として、企業の売上データや人口推移、消費動向を数年分取り扱い、寄与度分析によってどの要素が全体の変化を大きく左右しているかを考える演習を行う。
14	質的データの読み方：観察法とインタビュー	質的データ分析の第一歩として、観察法を取り上げる。インタビューやアンケートなどの前に、実際の現場を観察することで得られるデータの特徴を理解する。さらに、質的研究で重要なデータ収集手段の1つであるインタビューについて、半構造化インタビューやフォーカスグループインタビューなどの方法を学ぶ。
15		
16		

科目コード	3G410				区　分	コア科目			
授業科目名	ブランド戦略論				担当者名	扇野　睦巳			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本講義では、「ブランドとは何か」から始まり、ブランドが企業戦略に果たす役割、ブランド価値の構築と維持、ブランドマネジメントの実務的な手法について学びます。マーケティングの基礎を踏まえ、より実践的・戦略的な視点でブランドを捉える力を養います。受講生の習熟度等によって内容を変更することがあります。

＜授業の到達目標＞

① 理念駆動型思考「なぜやるのか」を言語化できる② 実践知の獲得行動→失敗→改善のサイクルを回せる③ 社会価値創出力他者に価値を提供できる商品・サービスを作れる④ 非認知能力の向上主体性・やり抜く力・協働力・レジリエンス⑤ ウェルビーイングの実感「やりきった」「貢献できた」という内的充足

＜授業の方法＞

●講義＋グループワーク＋フィールドワーク＋アクティブラーニングを併用し、知識と実践力の両方を身につけます●毎回の授業では身近なブランドの事例を取り上げ、学生の意見を引き出しながら進行します●事前準備として資料やブランド情報のリサーチを指示することがあります●事後課題（簡単なレポート・ワークシート）を不定期で実施します●プレゼンテーションを実施します●ゲストスピーカーをお招きします

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

① プロジェクト型学習（PBL）学生はチームを編成し、ブランドの理念設計から商品・サービスの企画、試作、プロモーション、販売までを一貫して行う。実社会での価値創出を目的とした課題解決型学習を行う。② グループワーク・協働学習各回においてディスカッションや共同作業を実施し、意見交換や役割分担を通じて協働的に課題に取り組む。これにより主体性や対人関係能力を育成する。③ フィールドワーク・調査活動市場観察、顧客インタビュー、SNS分析などを行い、実社会から課題やニーズを発見する活動を取り入れる。④ プレゼンテー

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

【予習（約1時間）】各回のテーマに応じて、以下のいずれか、または複数を実施する。●指定された資料・動画等を閲覧し、授業内容の概要を把握する●自身の消費体験や身近なブランドについて観察・記録する●フィールドワーク（店舗・SNS・街中観察等）を行い、気づきを整理する●チーム課題（アイデア出し、ペルソナ設定、コンセプト案作成等）を事前に準備する【復習（約1時間）】授業での活動を踏まえ、以下を実施する。●グループワークやフィードバック内容を整理し、改善点を明確にする●商品・サービス企画のブラッシュアップ（アイデア

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本授業は、本学のディプロマ・ポリシーに掲げる以下の能力の修得に寄与する科目である。【DP①：知識・技能の修得】ブランド戦略に関する基礎理論（顧客理解、価値創造、マーケティング思考等）を学び、商品・サービス開発の実践に適用することで、専門的知識と技能の修得を図る。【DP②：思考力・判断力・表現力】市場調査や顧客分析を通じて課題を発見し、チームで議論しながら解決策を導くプロセスを通じて、論理的思考力および意思決定力を養う。また、プレゼンテーションやプロモーション活動により、自らの考えを分かりやすく伝える表現力

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

【評価配分】プロジェクト成果（商品・サービスの完成度・社会的価値）……40%プロセス評価（取り組み姿勢・試行錯誤・改善行動）……30%チームへの貢献度（協働性・役割遂行）……20%リフレクション（振り返りレポート）……10%【評価方法の特徴】最終成果だけでなく、挑戦・失敗・改善のプロセスを重視する。個人評価とチーム評価を組み合わせ、多面的に評価する。ピア評価（学生同士の相互評価）を導入し、主体的な学びを促す。

＜教科書＞

田中 洋（2019/09/03）　ブランド・マネージャー資格試験公式テキスト　中央経済社

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	キックオフ	ブランドとは何か？
2	理念設計	「誰のために何を変えたいか」を言語化します。
3	市場調査　※対面授業無し	フィールドワーク（観察・インタビュー）を実施します。
4	オンデマンド　※対面授業無し	後日指示します。
5	STPマーケティング	ターゲットを明確にし差別化します。
6	ブランド・アイデンティティ	1行でブランドを定義します。
7	中間ピッチ	フィードバックを受け、プランを改善します。

8	試作①	プロトタイプを制作します。
9	試作②・検証	テストマーケティングを実施します。
10	チームビルディング再設計	衝突・葛藤の言語化
11	やり抜く力	最後の改善・意思決定を行います。
12	販売戦略	SNS・POP・導線設計を行います。
13	実販売・最終発表	売る・伝える・評価されることを体験します。
14	実販売・最終発表	「自分は何が変わったか」を深掘りします。
15		
16		

科目コード	3G411				区　分	コア科目			
授業科目名	税法				担当者名	本村　大輔			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
昨今、ICTの急速な発達により我々の生活は大きく変わってきています。このような中、我が国の税制もまた経済の多様化とグローバル化により、めまぐるしく変化しています。この変化は、毎年の税制改正として現れ、我々納税義務者をとりまく環境は絶えず変化し、複雑化しています。ただ、税法の基礎理論や納税者の権利は、いかに経済社会が複雑化しようとも変化することはありません。そこで、本講義では、我が国が抱える税法問題を考え、税法の基礎理論および基礎知識を学習していきます。

＜授業の到達目標＞
複雑にみえる税法は、我々にとって身近な法分野といえます。身近であればこそ、税法に関する基礎知識は備えておくことが大切です。そこで、税法一般および所得税法ならびに消費税法に関する具体的問題を考えながら、税法の基礎理論の修得を目指します。つまり、我が国が抱える税法の問題を理解した上で、問題の解決にどのようにアプローチできるのかを考えます。そこで、講義においては、各人が税法に関する問題を理解し、判断できるだけの基本的知識および考え方の修得を目指します。

＜授業の方法＞
授業は、原則としてオンライン講義形式で行います。講義内容は、税に関する基礎知識の整理、税法をめぐる具体的問題について学習していきます。また、授業内で税法問題に関して質問することがあり、回答はリアクション・ペーパーに記載していただきます。（ウ）本科目は、授業内で税法の問題に関して質問を行い、それに対して回答をする形式で行う。ここでは、税法問題を主観的に捉えることにより、自分であればどのような解釈が可能であるのかを考える。また、必要に応じて先の解釈について、他の学生からコメントを求めることにより、ディスカッシ

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：ディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
毎回の講義テーマを確認し、該当箇所の教科書を通読し、わからない法律用語については事前に調べておくこと（30分）。授業後は、速やかに講義内容の復習および教科書の該当箇所を精読しノートにまとめること（90分）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
レポート課題（60%）、出席時の受講態度（15%）、リアクションペーパーの提出（25%）により成績評価を行う。フィードバックは、リアクションペーパーの講評を口頭にて行う。なお、授業内で質問の多い箇所については、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。

＜教科書＞
石村耕治編　現代税法入門塾　第13版　清文社

＜参考書＞
北野弘久著・黒川功補訂（2022年12月）　税法学原論 第9版　勁草書房

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス・発展する現代社会と税法学の接点	我が国の税財政の課題を確認し、我が国が抱える税法問題を考える。
2	ビジネスモデルの発展と我が国の税制−シェアリングビジネスを題材として−	IT技術の発達に伴うビジネスモデル発展に対して、我が国の税制と課税取扱いの問題を考察する。
3	税法学の特質−税法学と隣接法学との関係および法認識論と法実践論の異同−	税法と隣接する近接する法領域すなわち行政法や民法ひいては財政学との関係を考察することにより、税法学の多角的検討の必要性を学ぶ。
4	租税体系の基礎	我が国の租税体系を概観し、考察する。
5	租税に関する基礎知識	「所得」とはなにか、「租税」の法的定義について考察する。
6	税法の基礎理論とはなにか	租税法律主義の原則と租税負担公平の原則との異同について考察する。
7	租税法律主義の法理とその基本的機能	租税法律主義における法理的要請について確認、検討を加えていく。
8	租税法律主義の原則と「租税」概念−事例研究−	租税法規不遡及の原則にかかる裁判例の法的問題を検討する。
9	所得税法の基礎①	我が国における所得概念、所得分類と所得税の計算の基本的な仕組みを学ぶ。
10	所得税法上の所得分類①	事業所得、給与所得、譲渡所得について考察する。
11	所得税法上の所得分類②	不動産所得、利子所得、配当所得、退職所得、一時所得、雑所得について考察する。
12	消費税法の基礎①	消費税の仕組みについて学ぶ。
13	消費税法の基礎②	仕入税額控除の意義や問題点について学ぶ。

14 15 16	レポート課題の出題、理解度の確認およびまとめ	これまでの学習内容のまとめおよび総括を行う。

科目コード	3G412				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	社会調査法［FE、BC用][週間オンデマンド]				担当者名	濱嶋　幸司			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	選択	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本科目では「社会調査」とはどういうものか、実生活においてどのように役立てることができるのか、基本的な考え方を説明し、あわせて事例も紹介していく。確かな手続きをもとに「調べる」ことの大事さと公表される結果（データ）が何を意味しているのかを理解を深める。情報発信者となった際には「社会調査」の方法を適切に使えること、また、情報受信者となった際に「社会調査」の方法がどのように使われているかを読み取ることができること、この2つのスキルを習得することをねらいとする。

＜授業の到達目標＞
①社会調査の本質と目的を理解し、科学的な調査手続き（量的・質的調査、標本抽出等）について適切に説明できる。②既存の社会調査事例を収集・分析し、公表されたデータが何を示しているのか、その社会的意味を正確に読み解くことができる。③調査倫理を遵守した上で、自ら調査計画を立案し、収集したデータを適切に分析・報告するスキルを発揮できる。

＜授業の方法＞
オンデマンド形式とする。クラスルームに掲載される説明に目を通し、課題をおこなうこと。クラスルーム内の機能を通じて対話をおこなう。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有　各回毎のテーマについて参加者同士で話し合い、意見をまとめる設計を用意する

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習： 各回の講義テーマ（量的調査、調査倫理、標本抽出等）に関連する参考資料やWebサイトを確認し、専門用語の意味や基本的な考え方を整理して講義に臨む（100分程度）。事後学習： 配布資料を基に講義内容を復習し、提示された社会調査事例の分析やミニ課題を作成する。また、Classroom内の対話機能を用いて他者の意見を参照し、自身の理解を深化させる（100分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー3（初等・中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。科学的な調査手法を用いて教育や社会の課題を客観的に把握する能力を養います。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度 14%、振り返り課題 26%、中間レポート 30%、最終確認テスト 30% ※各回の課題へのフィードバックは、Classroom上でのコメント返却や解説資料の配信を通じて行います。

＜教科書＞
なし（資料は講師が用意する）

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション・ガイダンス	社会調査とは
2	実証となにか	科学的手続きの説明
3	社会調査の種類	量的調査・質的調査・一次分析・二次分析などの説明
4	調査倫理	ヒトを対象にした調査の在り方、倫理に関する資料を提示する
5	研究・調査対象	母集団、標本抽出、特定層の説明
6	調査事例を学ぶ①	国勢調査、行政調査を主に説明
7	調査事例を学ぶ②	視聴率、マーケティング、一般アンケートを主に説明
8	調査事例を学ぶ③	インタビュー、言説分析の説明
9	調査事例を学ぶ④	フィールドワーク、オートエスノグラフィーの説明
10	（中間レポート）社会調査を見つけて提出・報告	各自が気になった社会調査を持ち寄り、提出して、全体で共有する回
11	調査実施の流れ①	調査計画（量的・質的）を考える
12	調査実施の流れ②	調査実施（量的・質的）に至る
13	調査実施の流れ③	データ分析（量的・質的）と結果をわかりやすく公表（とくに図表には凝る）
14	社会調査の意味	本科目の振り返りと学修成果の確認・最終確認テストについて。
15		
16		

科目コード	3G502				区　分	コア科目			
授業科目名	フィールドワークA				担当者名	鈴木　真理子			
配当年次	1年	配当学期	後期集中講義	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

・鈴木担当の「地域に在住する外国人のニーズ調査」の場合本講義は、地域に在住する外国人のニーズを把握し、大学としてどのような支援や取り組みが可能かを検討することを目的としたフィールドワーク型授業である。IPUの「Global Hub」を拠点とし、留学生や地域外国人へのインタビューやアンケート調査を実施する。授業内外での調査活動を通して、言語、生活、教育、地域参加などの課題を明らかにする。さらに、得られた結果を分析し、大学として実現可能な支援策をチームで提案する。限られた時間の中で調査から提案までを行うことで

＜授業の到達目標＞

・鈴木担当の「地域に在住する外国人のニーズ調査」の場合1. 地域における外国人の多様なニーズや課題を理解し、説明できる2. インタビューやアンケートなどの調査手法を用いて情報を収集・分析できる3. 調査結果をもとに、実現可能な解決策を企画・提案できる4. 多様な背景を持つ人々と協働し、課題解決に取り組む姿勢を身につける

＜授業の方法＞

1）鈴木担当の「地域に在住する外国人のニーズ調査」集中講義形式で実施し、講義・調査設計・フィールドワーク・分析・発表を一体的に行う。Global Hubを活用し、留学生や地域住民との交流・協働を通して学ぶ。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

あり（フィールドワーク、インタビュー調査、グループワーク、プレゼンテーション等）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

調査対象に関する事前調査、質問項目の作成、調査結果の整理・分析、発表資料作成などを行う（集中期間中および期間外に合計10時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・鈴木担当の「地域に在住する外国人のニーズ調査」の場合チーム評価（調査・提案の質）：40%個人評価（参加・貢献）：30%レポート（分析・考察）：30%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	以下のスケジュールは、鈴木担当の「地域に在住する外国人のニーズ調査」の場合とする。オリエンテーション／地域外国人の現状理解	授業の目的・進め方・評価方法を理解する。日本および地域における外国人住民の現状と課題について学ぶ。また、フィールドワークにおける倫理（個人情報・配慮等）について確認する。
2	調査設計（インタビュー・アンケート）	調査の目的を明確にし、チームごとに仮説を設定する。インタビューおよびアンケートの基本を学び、質問項目を作成する。
3	調査準備・実施計画	作成した質問項目をもとにロールプレイを行い、調査の精度を高める。調査対象（留学生・地域外国人等）や方法を決定し、授業外での調査計画を立てる。
4	フィールドワーク（調査実施）※授業外活動含む	授業外でインタビューやアンケート調査を実施する。授業内では進捗共有を行い、課題や気づきを整理する。
5	分析・課題の構造化	収集したデータを整理・分析し、ニーズや課題を可視化する。表面的な問題だけでなく、その背景にある要因を考察する。
6	提案作成（大学でできること）	分析結果をもとに、大学として実現可能な支援策やプログラムを検討する。Global Hubの活用も視野に入れ、具体的な提案としてまとめる。
7	最終発表・振り返り	各チームが調査結果と提案内容をプレゼンテーションする。授業全体を振り返り、学びや課題を言語化する。
8		
9		
10		
11		
12		

13		
14		
15		
16		

科目コード	3G503				区　分	コア科目			
授業科目名	海外研修A [BC用]				担当者名	溝越　隆興			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択科目

＜授業の概要＞

本授業は、IPU New Zealand（IPUNZ）をはじめとする海外留学・海外研修への参加を予定または検討している現代経営学科の学生を対象とし、海外渡航前の準備学習、渡航中の課題遂行、帰国後の振り返りを通して、国際的な視野と実践的な行動力を養うことを目的とする。授業では、異文化理解、コミュニケーション、自己管理、目標設定、学修計画、危機管理、現地での学びの記録方法などを学ぶとともに、留学・研修で得た経験を言語化・可視化し、今後の学修やキャリア形成につなげる方法を身につける。なお、海外研修・留学先および

＜授業の到達目標＞

①海外留学・海外研修の目的を明確にし、自らの学びの目標を設定できる。②異文化環境において必要となる基本的な知識・態度・行動を理解し、実践に生かすことができる。③留学・研修中の経験を記録・分析し、学びとして整理することができる。④帰国後に、自身の経験を振り返り、学修・進路・キャリア形成へ接続して説明できる。⑤海外経験を経営的視点（課題発見、比較分析、行動計画、発信力）から捉え、自らの成長につなげることができる。

＜授業の方法＞

講義、個人ワーク、グループワーク、ディスカッション、発表、リフレクションシート、留学・研修計画書の作成、帰国後報告を組み合わせて実施する。　授業前半では、海外留学・海外研修に向けた事前学習を行い、渡航中は各自が設定した課題や記録活動を行う。帰国後は、その成果を整理・共有し、経験を今後の学びやキャリア形成へ結び付ける。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有【方法】・グループディスカッション・ペアワーク・プレゼンテーション・リフレクション（振り返り）・課題解決型学習・体験報告と相互フィードバック学生は、自身の留学・研修計画を立案し、渡航中の経験を記録・分析し、帰国後に発表・共有することで、主体的・対話的に学ぶ。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回あたり予習・復習あわせて4時間程度を目安とする。【予習】・次回テーマに関する資料確認・渡航先の基本情報（文化、社会、教育、ビジネス、生活環境等）の調査・課題シート、目標設定シート、発表準備【復習】・授業内容の整理・リフレクションシートの作成・留学・研修中の記録（学習ログ、行動記録、気づきの整理）・帰国後レポートや報告発表の準備特に渡航中は、現地での体験を単なる経験で終わらせず、毎週継続的に記録・整理することを求める。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本授業は、現代経営学科における卒業認定・学位授与の方針のうち、特に以下の能力の育成に関連する。・多様な価値観を理解し、他者と協働する力・課題を発見し、主体的に解決へ取り組む力・社会や組織において必要となるコミュニケーション能力・国際的視野と実践的行動力・学びを自己の成長や将来設計に結び付ける力　海外での学修・生活体験を、経営学的視点やキャリア形成の視点から振り返ることにより、学科の学修成果の達成に資する。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

【成績評価方法】　①授業参加・平常点（ディスカッション、ワーク、提出状況等）.....20%　②事前課題（目標設定シート、留学・研修計画書等）.....20%　③渡航中課題（学習ログ、活動記録、現地課題等）.....25%　④事後課題（振り返りレポート）.....20%　⑤最終発表（帰国報告プレゼンテーション）.....15%【フィードバック方法】　各課題については、授業内コメント、個別講評、提出物へのコメント返却等によりフィードバックを行う。　特に、目標設定、渡航中の記録、帰国後の振り返りについては、次の学びにつながるよう助言を行う

＜教科書＞

なし　なし　なし
なし　なし　なし
なし　なし　なし

＜参考書＞

授業時に適宜指示　海外留学・異文化理解・国際コミュニケーションに関する資料　適宜配布・提示
授業時に適宜指示　留学先地域の社会・文化・経済に関する資料　適宜配布・提示
授業時に適宜指示　キャリア形成・自己分析・プレゼンテーションに関する資料　適宜配布・提示

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーションと授業の目的理解	授業の全体像、評価方法、留学・研修と本科目の関係を理解する。あわせて、自身が海外で何を学びたいかを整理し、学習の出発点を確認する。
2	なぜ海外で学ぶのか―目的設定と自己分析	自分の関心、強み、課題、将来像を整理し、海外留学・海外研修に参加する目的を明確にする。個人目標の設定を行う。
3	異文化理解の基礎	文化の違い、価値観の多様性、コミュニケーションスタイルの違いについて学び、

		異文化環境で必要となる姿勢や考え方を理解する。
4	海外で求められるコミュニケーション力	言語力だけでなく、非言語コミュニケーション、傾聴、質問、確認、発信の重要性を学び、現地での交流に必要な基礎力を身につける。
5	留学・研修計画の作成	渡航先、期間、学習内容、生活面、現地での行動目標を整理し、個別の留学・研修計画書を作成する。短期・長期それぞれに応じた学び方を考える。
6	安全管理と自己管理	海外生活における健康管理、時間管理、金銭管理、危機管理、トラブル対応の基本を学び、安心して学ぶための準備を行う。
7	渡航中の学び方―記録・観察・課題設定	留学・研修中にどのように学びを深めるかを考える。学習ログ、行動記録、現地観察、比較分析、課題設定の方法を学ぶ。
8	海外留学・海外研修（現地実践）	各自の渡航先において、事前に設定した目標に基づき学修・研修を実施する。現地での学習、交流、観察、課題遂行、記録作成を行う。※2週間～12か月の範囲で、各自のプログラムに応じて実施する。
9	海外経験の整理①―体験の棚卸し	帰国後、現地での経験を振り返り、「何を見たか」「何を感じたか」「何を学んだか」を整理する。経験を単なる思い出ではなく学びとして言語化する。
10	海外経験の整理②―比較と分析	日本と渡航先の違いを、教育、文化、働き方、サービス、コミュニケーション、生活様式などの観点から比較し、考察を深める。
11	海外経験と経営的視点	現地での経験を、経営学的観点(顧客対応、組織文化、サービス、マーケティング、マネジメント、課題発見等）から捉え直し、現代経営学科での学びと接続する。
12	海外経験をキャリアにつなげる	海外で得た経験・能力・気づきを自己PRや将来の進路選択にどう結び付けるかを考える。履歴書・面接・進路設計への活用を意識する。
13	帰国報告プレゼンテーション準備	留学・研修の成果を他者に伝えるための構成を考え、報告発表の準備を行う。経験の共有を通じて、他者にとっても学びとなる発信方法を検討する。
14	帰国報告プレゼンテーションと総括	各自が海外留学・海外研修の成果を発表し、相互に学びを共有する。授業全体を振り返り、今後の学修・進路・キャリア形成に向けた行動計画をまとめる。
15		
16		

科目コード	3G514				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	スポーツマネジメント論［週2］				担当者名	平岡　師玄哉			
配当年次	1年	配当学期	第４クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

・本授業では、スポーツを題材に「経営とは何か」を考える力を身につける・各回で提示される問いに対して個人で考え、スポーツクラブや地域スポーツの事例をもとに課題と解決策を検討する・基本的な経営理論を学ぶとともに、それらを実際のスポーツ現場にどのように活用するかを理解する

＜授業の到達目標＞

１．スポーツに関わる事例をもとに、経営的な課題を説明できる２．基本的な経営理論を用いて、課題に対する解決策を考えることができる３．授業で扱った内容について、自身の考えを整理し記述することができる

＜授業の方法＞

・本授業は、講義と個人ワークを組み合わせた課題解決型の授業として実施する・各回において、スポーツに関する具体的な事例や問いを提示し、学生は個人で課題について考察する　その後、経営理論の解説を通して自身の考えを見直し、理解を深める・前半および後半の区切りに振り返りテストを実施し、学習内容の定着と理解度の確認を行う

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

・各回で個人ワークを実施し、課題に対する考察を行う・学生の回答を共有し、多様な考え方に触れる機会を設ける

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回のテーマに関する課題について、自身の考えをまとめておく（30分）復習：授業で扱った理論や事例をもとに、自身の考えを見直し、課題に対する理解を深める（30分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー２（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度 30%、授業課題・レポート 40%、振り返りテスト 30%

＜教科書＞

畑攻・小野里真弓　基本・スポーツマネジメント　大修館書店

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の概要説明・評価方法の説明
2	スポーツマネジメント(経営)がめざすもの	スポーツとマネジメント(経営)
3	スポーツマネジメントの方法	スポーツマネジメントの基本的使命
4	マネジメント(経営)組織の理念	マネジメント(経営)と理念の関係性
5	組織における人間観①	モチベーション理論①
6	組織における人間観②	モチベーション理論②
7	マネジメントと組織論	リーダーシップ
8	前半授業のまとめ	振り返り課題の実施
9	マネジメントとマーケティング論	マーケティングの基本的な仕組み
10	スポーツプロダクト	スポーツサービスとスポーツベネフィット
11	スポーツ事業と運動生活	運動の成立条件としてのスポーツ事業
12	スポーツ政策	スポーツ政策の基本スタンスとわが国の主なスポーツ政策
13	スポーツの普及・振興を目指して	大学スポーツについて
14	後半授業のまとめ	振り返り課題の実施
15		
16		

科目コード	3G517				区　分	コア科目			
授業科目名	キャリアマネジメント入門Ⅰ				担当者名	横内　浩平			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
将来のキャリア（職業人生）を考えていくには、さまざまな社会の出来事について理解しておく必要がある。本科目では、将来公務員をを目指す学生が政治や経済の知識を身に付け、将来の就職試験に備えることを目的として開講する。

＜授業の到達目標＞
１．公務員試験における「頻出分野」の政治・経済分野について基礎的な理解ができるようになる。２．採用試験に向けての準備を怠らない習慣を身に付けている。

＜授業の方法＞
１．講義（配布プリント、パワーポイントを使用し授業を進める）※授業の一部についてはインターネット上のサイトを活用して解説します。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有り　授業時の課題の一部についてはグループ内で相談し考えをまとめる

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：翌週の授業内容に関する下調べ（30分程度）復習：次回講義までに授業の内容について復習をしておくこと（90分以上）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
定期試験の結果 50%、確認テスト 35%、授業態度　15%

＜教科書＞
得になし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	履修ガイダンス	講義の進め方について説明する。
2	政治(1)	民主政治の基本原理
3	政治(2)	日本国憲法の基本的性格
4	政治(3)	基本的人権の保障(1)
5	政治(4)	基本的人権の保障(2)
6	政治(5)	基本的人権の保障(3)
7	政治(6)	各国の政治制度(1)
8	政治(7)	各国の政治制度(2)
9	政治(8)	国会(1)
10	政治(9)	国会(2)
11	政治(10)	内閣
12	政治(11)	裁判所(1)
13	政治(12)	裁判所(2)
14	政治(13)	地方自治
15		
16		

科目コード	3G518				区　分	コア科目			
授業科目名	キャリアマネジメント入門Ⅱ				担当者名	横内　浩平			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
将来のキャリア（職業人生）を考えていくには、さまざまな社会の出来事について理解しておく必要がある。本科目では、将来公務員をを目指す学生が政治や経済の知識を身に付け、将来の就職試験に備えることを目的として開講する 。この授業は前期にある、現代経営実践演習基礎Ⅰを履修していることを前提として授業を行う。

＜授業の到達目標＞
１．公務員試験における「頻出分野」の政治・経済分野について基礎的な理解ができるようになる。２．採用試験に向けての準備を怠らない習慣を身に付けている。

＜授業の方法＞
１．講義（配布プリント、パワーポイントを使用し授業を進める）※授業の一部についてはインターネット上のサイトを活用して解説します。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有り　授業時の課題の一部についてはグループ内で相談し考えをまとめる

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：翌週の授業内容に関する下調べ（30分程度）復習：次回講義までに授業の内容について復習をしておくこと（90分以上）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
定期試験の結果 50%、確認テスト 35%、授業態度　15%

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	履修ガイダンス	講義の進め方について説明する。
2	政治(1)	政党と圧力団体
3	政治(2)	選挙制度(1)
4	政治(3)	選挙制度(2)
5	政治(4)	世論と行政機能の肥大化
6	政治(5)	国際政治と日本(1)
7	政治(6)	国際政治と日本(2)
8	政治(7)	開発途上国問題
9	政治(8)	政治分野まとめ
10	経済(1)	経済史
11	経済(2)	経済循環と企業の種類(1)
12	経済(3)	経済循環と企業の種類(2)
13	経済(4)	景気変動
14	経済(5)	金融政策
15		
16		

科目コード	3G520				区　分	コア科目			
授業科目名	海外社会実習Ⅰ				担当者名	溝越　隆興			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択科目

＜授業の概要＞

本授業は、IPU New Zealand（IPUNZ）、IPU岡山、IPU東京の3拠点を活用して半年ごとに実施する2週間のショートプログラムに参加する学生を対象とした集中講義である。多文化環境の中での学修・交流・実践活動を通じて、国際的視野、社会理解、協働力、課題発見力を養うことを目的とする。　授業では、実習前に目的設定や基礎理解を行い、実習期間中には各プログラムに応じた学修・活動・交流・観察を行う。実習後には、その経験を振り返り、学びを整理・言語化し、今後の学修やキャリア形成につなげる。　2026年度

＜授業の到達目標＞

①多文化・多様性のある環境において、他者と協働しながら主体的に行動できる。 ②実習先での経験を通して、社会・文化・教育・地域・組織に関する理解を深めることができる。 ③現地での活動や交流を通じて、自ら課題を見出し、観察・記録・分析ができる。 ④実習で得た経験を振り返り、自身の学びや成長を言語化できる。 ⑤実習成果を今後の学修、進路、キャリア形成に結び付けて説明できる。

＜授業の方法＞

本授業は集中講義形式で実施し、事前学習、実習、事後学習を一体的に行う。　事前学習では、実習の目的理解、参加準備、目標設定、交流・活動に必要な基礎知識を学ぶ。　実習期間中は、講義、ワークショップ、交流活動、フィールドワーク、グループ活動、観察・記録等を行う。　事後学習では、活動記録の整理、振り返り、報告発表、成果の共有を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有【方法】・グループワーク・フィールドワーク・体験学習・ディスカッション・プレゼンテーション・リフレクション（振り返り）・協働型課題活動　学生は、実習の中で多様な他者と関わりながら、主体的に観察・交流・発信を行い、体験を学びとして深める。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前・事後を含め、全体で45時間程度の学修を目安とする。【事前学習】　・実習先やプログラム内容に関する事前調査　・参加目的および個人目標の設定　・課題シート、活動計画、自己紹介等の準備【実習期間中】　・日々の活動記録、学習ログ、振り返りシートの作成　・交流や観察を通じた気づきの整理【事後学習】　・実習内容の振り返り　・レポート作成　・成果発表の準備　実習期間中は、毎日の活動を記録し、経験を言語化・可視化することを重視する。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本授業は、現代経営学科における卒業認定・学位授与の方針のうち、特に以下の能力の育成に関連する。　・多様な価値観を理解し、他者と協働する力　・課題を発見し、主体的に行動する力　・社会の実情を理解し、現実に即して考える力　・コミュニケーション能力および発信力　・国際的視野と実践的行動力　実習を通じて、教室内の学びを社会的・国際的な文脈へ接続し、実践的な学修成果の獲得を目指す。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

【成績評価方法】　①事前課題（参加目的、目標設定、準備状況等）.....20%　②実習参加状況（活動への主体的参加、協働姿勢、記録等）.....40%　③実習記録・振り返り課題.....20%　④最終レポートまたは成果発表.....20% 【フィードバック方法】　提出課題、活動記録、発表等に対して、授業内コメント、個別講評、提出物へのコメント返却等を通じてフィードバックを行う。　特に、実習中および事後の振り返りについては、経験を学びへとつなげる観点から助言を行う。

＜教科書＞

なし　なし　なし
なし　なし　なし
なし　なし　なし

＜参考書＞

授業時に適宜指示　異文化理解・国際交流・社会実践に関する資料　適宜配布・提示
授業時に適宜指示　実習先地域・社会・文化に関する資料　適宜配布・提示
授業時に適宜指示　振り返り・キャリア形成・プレゼンテーションに関する資料　適宜配布・提示

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーションと実習の目的理解	授業の趣旨、実習の位置づけ、評価方法、全体スケジュールを確認し、海外社会実習の目的と意義を理解する。
2	自己分析と参加目的の明確化	自分の関心、課題、期待を整理し、実習を通じて何を学びたいかを明確にする。個人目標の設定を行う。
3	多文化理解と協働の基礎	多様な文化的背景を持つ他者と関わる際に必要な姿勢や考え方を学び、協働に向けた基礎を身につける。

4	実習に向けた事前準備	実習内容の確認、活動計画の作成、記録方法、参加上の留意点を整理し、実習に向けた準備を行う。
5	実習① 現地理解と環境適応	実習先の環境や活動内容を理解し、現地での生活・交流・活動に適応するための基礎的実践を行う。
6	実習② 交流とコミュニケーション	参加者同士および関係者との交流を通じて、対話・協働・相互理解を深める。
7	実習③ 観察と気づきの記録	活動や交流の中で得られた気づきを記録し、社会・文化・教育・地域の特徴について観察を深める。
8	実習④ グループ活動と協働実践	グループワークや共同活動を通じて、他者と協力しながら課題に取り組む実践を行う。
9	実習⑤ 社会・文化・組織の理解	実習を通して見えてきた社会的・文化的・組織的特徴を整理し、体験を理解へとつなげる。
10	実習⑥ 自己課題の発見	活動を振り返り、自分にとっての課題や成長のポイントを明確化する。
11	実習⑦ 成果の整理	実習全体を振り返り、得られた学び・経験・気づきを整理し、成果としてまとめる準備を行う。
12	事後学習① 実習経験の振り返り	実習終了後、自身の経験を振り返り、印象的だった出来事や学びを言語化する。
13	事後学習② 学びの共有と発表準備	実習成果を他者に伝えるために内容を整理し、レポートまたは発表資料の作成を行う。
14	成果発表と総括	実習で得た成果や気づきを発表し、相互に学びを共有する。あわせて、今後の学修・進路・キャリア形成への活用を考える。
15		
16		

科目コード	40100				区　分	コア科目			
授業科目名	ダンスⅠ(基礎) [PH・PP・PS女子用]				担当者名	小澤　尚子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業は、中学校教諭一種免許状(保健体育)ならびに高等学校教諭一種免許状(保健体育)の必修科目である。この授業の目的は、学習指導要領に基づいたダンスの授業の展開方法について理解し、ダンスの基本的な技能を身に付けることである。具体的な内容は中学校・高等学校学習指導要領のダンス領域を構成する創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスとし、ダンス分野に関連がある体つくり運動の領域についても取り入れていく。

＜授業の到達目標＞
ダンスの基本的な知識と技能を身につけ、実践することができるようになる。仲間の表現や動きを認め合い協調性をもって課題に取り組むことができるようになる。単元計画を理解し、安全管理も含めた適切な授業運営に関する知識を獲得する。

＜授業の方法＞
創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスの学習内容から主なものについて実技を通して体験し、指導のポイントをとらえていく。技能試験は個人の技能評価のためのリズムダンスと創作ダンスを組み合わせた試験課題を実施する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング　有創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスの学習内容から主なものについて実技を通して体験する

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習として、次回取り扱う内容について自分で調べて指定の方法で成果を提出すること。復習として、毎時提出のレポートに授業で学んだステップの種類や教育要領でのダンスの取り扱いをまとめ、提出すること。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
「知識・技能」，「思考・判断・表現」，「主体的に学習 に取り組む態度」の3観点を総合的に評価します。技能 40%、毎時のレポート 30%、課題 30%

＜教科書＞
特に指定なし

＜参考書＞
文部科学省(2018)　小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 体育編　東京書籍
文部科学省（2017）　中学校学習指導要領解説　保健体育編　東山書房
文部科学省（2018）　高等学校学習指導要領解説　保健体育編・体育編　東山書房

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業概要・評価方法・講義ルール等の説明、ウォームアップ
2	体つくり運動	ウォームアップ、体ほぐしの運動
3	フォークダンス(1)外国編	ハーモニカ、エース・オブ・ダイヤモンド、オクラホマミキサー他
4	フォークダンス(2)日本編	ソーラン節、阿波踊り他
5	現代的なリズムのダンス(1)	上半身の動き（アイソレーション、ウェーブ等）とアームモーションの習得
6	現代的なリズムのダンス(2)	基本的なステップの習得と指導法（アップとダウンのリズム等）
7	現代的なリズムのダンス(3)	変化のある動きを組み合わせたステップの習得
8	現代的なリズムのダンス(4)	現代的なリズムのダンスの創作方法と指導法
9	創作ダンス(1)	もの（小道具）を手がかりにした表現の導入(布、紙等を用いて)
10	創作ダンス(2)	言葉のイメージを手がかりにした表現の導入（オノマトペダンス）
11	創作ダンス(3)	日常動作を手がかりにした表現の導入（美術館編、スポーツ編）
12	授業計画(1)	ダンス授業の指導法について、教材・教具・教師行動から考察する。
13	授業計画(2)	ダンス授業における配慮事項について考察し、ダンス授業の単元計画と指導案を作成する。
14	まとめ	単元計画や指導法について考察したものをまとめ、発表する。
15		

16		

科目コード	40100				区　分	コア科目			
授業科目名	ダンスⅠ(基礎)[PP・PS男子用]				担当者名	小澤　尚子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業は、中学校教諭一種免許状(保健体育)ならびに高等学校教諭一種免許状(保健体育)の必修科目である。この授業の目的は、学習指導要領に基づいたダンスの授業の展開方法について理解し、ダンスの基本的な技能を身に付けることである。具体的な内容は中学校・高等学校学習指導要領のダンス領域を構成する創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスとし、ダンス分野に関連がある体つくり運動の領域についても取り入れていく。

＜授業の到達目標＞
ダンスの基本的な知識と技能を身につけ、実践することができるようになる。仲間の表現や動きを認め合い協調性をもって課題に取り組むことができるようになる。単元計画を理解し、安全管理も含めた適切な授業運営に関する知識を獲得する。

＜授業の方法＞
創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスの学習内容から主なものについて実技を通して体験し、指導のポイントをとらえていく。技能試験は個人の技能評価のためのリズムダンスと創作ダンスを組み合わせた試験課題を実施する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング　有創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスの学習内容から主なものについて実技を通して体験する

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習として、次回取り扱う内容について自分で調べて指定の方法で成果を提出すること。復習として、毎時提出のレポートに授業で学んだステップの種類や教育要領でのダンスの取り扱いをまとめ、提出すること。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
「知識・技能」，「思考・判断・表現」，「主体的に学習 に取り組む態度」の3観点を総合的に評価します。技能 40%、毎時のレポート 30%、課題 30%

＜教科書＞
特に指定なし

＜参考書＞
文部科学省(2018)　小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 体育編　東京書籍
文部科学省（2017）　中学校学習指導要領解説　保健体育編　東山書房
文部科学省（2018）　高等学校学習指導要領解説　保健体育編・体育編　東山書房

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業概要・評価方法・講義ルール等の説明、ウォームアップ
2	体つくり運動	ウォームアップ、体ほぐしの運動
3	フォークダンス(1)外国編	ハーモニカ、エース・オブ・ダイヤモンド、オクラホマミキサー他
4	フォークダンス(2)日本編	ソーラン節、阿波踊り他
5	現代的なリズムのダンス(1)	上半身の動き（アイソレーション、ウェーブ等）とアームモーションの習得
6	現代的なリズムのダンス(2)	基本的なステップの習得と指導法（アップとダウンのリズム等）
7	現代的なリズムのダンス(3)	変化のある動きを組み合わせたステップの習得
8	現代的なリズムのダンス(4)	現代的なリズムのダンスの創作方法と指導法
9	創作ダンス(1)	もの（小道具）を手がかりにした表現の導入(布、紙等を用いて)
10	創作ダンス(2)	言葉のイメージを手がかりにした表現の導入（オノマトペダンス）
11	創作ダンス(3)	日常動作を手がかりにした表現の導入（美術館編、スポーツ編）
12	授業計画(1)	ダンス授業の指導法について、教材・教具・教師行動から考察する。
13	授業計画(2)	ダンス授業における配慮事項について考察し、ダンス授業の単元計画と指導案を作成する。
14	まとめ	単元計画や指導法について考察したものをまとめ、発表する。
15		

16		

科目コード	40100				区　分	コア科目			
授業科目名	ダンスⅠ(基礎)[PP・PS男子用]				担当者名	小澤　尚子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業は、中学校教諭一種免許状(保健体育)ならびに高等学校教諭一種免許状(保健体育)の必修科目である。この授業の目的は、学習指導要領に基づいたダンスの授業の展開方法について理解し、ダンスの基本的な技能を身に付けることである。具体的な内容は中学校・高等学校学習指導要領のダンス領域を構成する創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスとし、ダンス分野に関連がある体つくり運動の領域についても取り入れていく。

＜授業の到達目標＞
ダンスの基本的な知識と技能を身につけ、実践することができるようになる。仲間の表現や動きを認め合い協調性をもって課題に取り組むことができるようになる。単元計画を理解し、安全管理も含めた適切な授業運営に関する知識を獲得する。

＜授業の方法＞
創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスの学習内容から主なものについて実技を通して体験し、指導のポイントをとらえていく。技能試験は個人の技能評価のためのリズムダンスと創作ダンスを組み合わせた試験課題を実施する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング　有創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスの学習内容から主なものについて実技を通して体験する

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習として、次回取り扱う内容について自分で調べて指定の方法で成果を提出すること。復習として、毎時提出のレポートに授業で学んだステップの種類や教育要領でのダンスの取り扱いをまとめ、提出すること。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
「知識・技能」，「思考・判断・表現」，「主体的に学習 に取り組む態度」の3観点を総合的に評価します。技能 40%、毎時のレポート 30%、課題 30%

＜教科書＞
特に指定なし

＜参考書＞
文部科学省(2018)　小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 体育編　東京書籍
文部科学省（2017）　中学校学習指導要領解説　保健体育編　東山書房
文部科学省（2018）　高等学校学習指導要領解説　保健体育編・体育編　東山書房

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業概要・評価方法・講義ルール等の説明、ウォームアップ
2	体つくり運動	ウォームアップ、体ほぐしの運動
3	フォークダンス(1)外国編	ハーモニカ、エース・オブ・ダイヤモンド、オクラホマミキサー他
4	フォークダンス(2)日本編	ソーラン節、阿波踊り他
5	現代的なリズムのダンス(1)	上半身の動き（アイソレーション、ウェーブ等）とアームモーションの習得
6	現代的なリズムのダンス(2)	基本的なステップの習得と指導法（アップとダウンのリズム等）
7	現代的なリズムのダンス(3)	変化のある動きを組み合わせたステップの習得
8	現代的なリズムのダンス(4)	現代的なリズムのダンスの創作方法と指導法
9	創作ダンス(1)	もの（小道具）を手がかりにした表現の導入(布、紙等を用いて)
10	創作ダンス(2)	言葉のイメージを手がかりにした表現の導入（オノマトペダンス）
11	創作ダンス(3)	日常動作を手がかりにした表現の導入（美術館編、スポーツ編）
12	授業計画(1)	ダンス授業の指導法について、教材・教具・教師行動から考察する。
13	授業計画(2)	ダンス授業における配慮事項について考察し、ダンス授業の単元計画と指導案を作成する。
14	まとめ	単元計画や指導法について考察したものをまとめ、発表する。
15		

16		

科目コード	40100				区　分	コア科目			
授業科目名	ダンスⅠ(基礎) [PP・PS用]				担当者名	小澤　尚子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業は、中学校教諭一種免許状(保健体育)ならびに高等学校教諭一種免許状(保健体育)の必修科目である。この授業の目的は、学習指導要領に基づいたダンスの授業の展開方法について理解し、ダンスの基本的な技能を身に付けることである。具体的な内容は中学校・高等学校学習指導要領のダンス領域を構成する創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスとし、ダンス分野に関連がある体つくり運動の領域についても取り入れていく。

＜授業の到達目標＞
ダンスの基本的な知識と技能を身につけ、実践することができるようになる。仲間の表現や動きを認め合い協調性をもって課題に取り組むことができるようになる。単元計画を理解し、安全管理も含めた適切な授業運営に関する知識を獲得する。

＜授業の方法＞
創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスの学習内容から主なものについて実技を通して体験し、指導のポイントをとらえていく。技能試験は個人の技能評価のためのリズムダンスと創作ダンスを組み合わせた試験課題を実施する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング　有創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスの学習内容から主なものについて実技を通して体験する

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習として、次回取り扱う内容について自分で調べて指定の方法で成果を提出すること。復習として、毎時提出のレポートに授業で学んだステップの種類や教育要領でのダンスの取り扱いをまとめ、提出すること。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
「知識・技能」，「思考・判断・表現」，「主体的に学習 に取り組む態度」の3観点を総合的に評価します。技能 40%、毎時のレポート 30%、課題 30%

＜教科書＞
特に指定なし

＜参考書＞
文部科学省(2018)　小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 体育編　東京書籍
文部科学省（2017）　中学校学習指導要領解説　保健体育編　東山書房
文部科学省（2018）　高等学校学習指導要領解説　保健体育編・体育編　東山書房

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業概要・評価方法・講義ルール等の説明、ウォームアップ
2	体つくり運動	ウォームアップ、体ほぐしの運動
3	フォークダンス(1)外国編	ハーモニカ、エース・オブ・ダイヤモンド、オクラホマミキサー他
4	フォークダンス(2)日本編	ソーラン節、阿波踊り他
5	現代的なリズムのダンス(1)	上半身の動き（アイソレーション、ウェーブ等）とアームモーションの習得
6	現代的なリズムのダンス(2)	基本的なステップの習得と指導法（アップとダウンのリズム等）
7	現代的なリズムのダンス(3)	変化のある動きを組み合わせたステップの習得
8	現代的なリズムのダンス(4)	現代的なリズムのダンスの創作方法と指導法
9	創作ダンス(1)	もの（小道具）を手がかりにした表現の導入(布、紙等を用いて)
10	創作ダンス(2)	言葉のイメージを手がかりにした表現の導入（オノマトペダンス）
11	創作ダンス(3)	日常動作を手がかりにした表現の導入（美術館編、スポーツ編）
12	授業計画(1)	ダンス授業の指導法について、教材・教具・教師行動から考察する。
13	授業計画(2)	ダンス授業における配慮事項について考察し、ダンス授業の単元計画と指導案を作成する。
14	まとめ	単元計画や指導法について考察したものをまとめ、発表する。
15		

16		

科目コード	40100				区　分	コア科目			
授業科目名	ダンスⅠ(基礎)[他学科用]				担当者名	小澤　尚子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業は、中学校教諭一種免許状(保健体育)ならびに高等学校教諭一種免許状(保健体育)の必修科目である。この授業の目的は、学習指導要領に基づいたダンスの授業の展開方法について理解し、ダンスの基本的な技能を身に付けることである。具体的な内容は中学校・高等学校学習指導要領のダンス領域を構成する創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスとし、ダンス分野に関連がある体つくり運動の領域についても取り入れていく。

＜授業の到達目標＞
ダンスの基本的な知識と技能を身につけ、実践することができるようになる。仲間の表現や動きを認め合い協調性をもって課題に取り組むことができるようになる。単元計画を理解し、安全管理も含めた適切な授業運営に関する知識を獲得する。

＜授業の方法＞
創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスの学習内容から主なものについて実技を通して体験し、指導のポイントをとらえていく。技能試験は個人の技能評価のためのリズムダンスと創作ダンスを組み合わせた試験課題を実施する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング　有創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスの学習内容から主なものについて実技を通して体験する

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習として、次回取り扱う内容について自分で調べて指定の方法で成果を提出すること。復習として、毎時提出のレポートに授業で学んだステップの種類や教育要領でのダンスの取り扱いをまとめ、提出すること。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
「知識・技能」，「思考・判断・表現」，「主体的に学習 に取り組む態度」の3観点を総合的に評価します。技能 40%、毎時のレポート 30%、課題 30%

＜教科書＞
特に指定なし

＜参考書＞
文部科学省(2018)　小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 体育編　東京書籍
文部科学省（2017）　中学校学習指導要領解説　保健体育編　東山書房
文部科学省（2018）　高等学校学習指導要領解説　保健体育編・体育編　東山書房

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業概要・評価方法・講義ルール等の説明、ウォームアップ
2	体つくり運動	ウォームアップ、体ほぐしの運動
3	フォークダンス(1)外国編	ハーモニカ、エース・オブ・ダイヤモンド、オクラホマミキサー他
4	フォークダンス(2)日本編	ソーラン節、阿波踊り他
5	現代的なリズムのダンス(1)	上半身の動き（アイソレーション、ウェーブ等）とアームモーションの習得
6	現代的なリズムのダンス(2)	基本的なステップの習得と指導法（アップとダウンのリズム等）
7	現代的なリズムのダンス(3)	変化のある動きを組み合わせたステップの習得
8	現代的なリズムのダンス(4)	現代的なリズムのダンスの創作方法と指導法
9	創作ダンス(1)	もの（小道具）を手がかりにした表現の導入(布、紙等を用いて)
10	創作ダンス(2)	言葉のイメージを手がかりにした表現の導入（オノマトペダンス）
11	創作ダンス(3)	日常動作を手がかりにした表現の導入（美術館編、スポーツ編）
12	授業計画(1)	ダンス授業の指導法について、教材・教具・教師行動から考察する。
13	授業計画(2)	ダンス授業における配慮事項について考察し、ダンス授業の単元計画と指導案を作成する。
14	まとめ	単元計画や指導法について考察したものをまとめ、発表する。
15		

16		

科目コード	40101				区　分	コア科目			
授業科目名	バスケットボールⅠ(基礎)				担当者名	國友　亮佑			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
バスケットボールは世界各国で親しまれている競技人口の多いスポーツである。また、中・高等学校の体育の授業においてもバスケットボールはゴール型の選択種目として採用されている競技である。本授業では、バスケットボールの競技特性及び競技ルール理解し、その基礎技術（シュート・ドリブル、パスなど）を身につけ、個人と集団のファンダメンタルや集団戦術を習得し、身につけた力でゲームを楽しむことを目的にしている。また仲間ともに楽しむ力を身につけ、生涯にわたりバスケットボール競技を楽しむ力を養うことを狙いとする。なお、安全かつ効

＜授業の到達目標＞
1 バスケットボール競技を安全に配慮しながら、仲間と共に目的ある活動をすることがで出来る。2　バスケットボールにおける競技特性や基本的な競技ルールを十分に理解することが出来る。 3　個人技術や集団戦術の修得に向けての練習法についても理解し、仲間と協力・工夫しながら実践することができる。　（スキルについては、教員採用試験出題レベルが出来るようになる）

＜授業の方法＞
実技形式が基本となり、グループ活動を中心に展開する。必要に応じて資料を配布し解説を行い、各技能習得に関するデモンストレーションを実施する。また、情報や仲間の意見や考え方等をDropboxを利用し、理解・共有できるようにする。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループワーク

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習：バスケットボールのルール、用具、技能に関して動画や書籍を通じて予備知識を学習しておくこと。（所要時間：1時間間程度）事後学習：授業で実施した技能のについて、重要なポイントや発見したことをまとめておくこと。（所要時間：1時間間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度 30%、実技テスト60%、知識レポート10%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	基本技術の習得（1）	ボールハンドリング技術
3	基礎技術の習得（2）	ドリブル技術の練習
4	基本技術の習得（3）	パス技術、キャッチング技術
5	基本技術の習得（4）	シュート技術の練習①（レイアップシュート）
6	基本技術の習得（5）	シュート技術の練習②（ゴール下、セットシュート）
7	基本技術の習得（6）	シュート技術の練習③（ジャンプシュート）
8	基本技術の習得（7）	リバウンド、スクリーンアウト
9	基本技術の習得（8）	ディフェンススキル、フットワーク
10	応用技術の習得（1）	２メンレイアップシュート、ミートシューティング
11	応用技術の習得（2）	３メンレイアップシュート、アウトナンバー
12	実践技術の習得（1）	ルールの理解、コートの理解、3対3
13	実践技術の習得（2）	リーグ戦（5対5）
14	まとめ	実技試験
15		
16		

科目コード	40101				区　分	コア科目			
授業科目名	バスケットボールⅠ(基礎)				担当者名	國友　亮佑			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
バスケットボールは世界各国で親しまれている競技人口の多いスポーツである。また、中・高等学校の体育の授業においてもバスケットボールはゴール型の選択種目として採用されている競技である。本授業では、バスケットボールの競技特性及び競技ルール理解し、その基礎技術（シュート・ドリブル、パスなど）を身につけ、個人と集団のファンダメンタルや集団戦術を習得し、身につけた力でゲームを楽しむことを目的にしている。また仲間ともに楽しむ力を身につけ、生涯にわたりバスケットボール競技を楽しむ力を養うことを狙いとする。なお、安全かつ効

＜授業の到達目標＞
1 バスケットボール競技を安全に配慮しながら、仲間と共に目的ある活動をすることがで出来る。2　バスケットボールにおける競技特性や基本的な競技ルールを十分に理解することが出来る。 3　個人技術や集団戦術の修得に向けての練習法についても理解し、仲間と協力・工夫しながら実践することができる。　（スキルについては、教員採用試験出題レベルが出来るようになる）

＜授業の方法＞
実技形式が基本となり、グループ活動を中心に展開する。必要に応じて資料を配布し解説を行い、各技能習得に関するデモンストレーションを実施する。また、情報や仲間の意見や考え方等をDropboxを利用し、理解・共有できるようにする。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループワーク

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習：バスケットボールのルール、用具、技能に関して動画や書籍を通じて予備知識を学習しておくこと。（所要時間：1時間間程度）事後学習：授業で実施した技能のについて、重要なポイントや発見したことをまとめておくこと。（所要時間：1時間間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度 30%、実技テスト60%、知識レポート10%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	基本技術の習得（1）	ボールハンドリング技術
3	基礎技術の習得（2）	ドリブル技術の練習
4	基本技術の習得（3）	パス技術、キャッチング技術
5	基本技術の習得（4）	シュート技術の練習①（レイアップシュート）
6	基本技術の習得（5）	シュート技術の練習②（ゴール下、セットシュート）
7	基本技術の習得（6）	シュート技術の練習③（ジャンプシュート）
8	基本技術の習得（7）	リバウンド、スクリーンアウト
9	基本技術の習得（8）	ディフェンススキル、フットワーク
10	応用技術の習得（1）	２メンレイアップシュート、ミートシューティング
11	応用技術の習得（2）	３メンレイアップシュート、アウトナンバー
12	実践技術の習得（1）	ルールの理解、コートの理解、3対3
13	実践技術の習得（2）	リーグ戦（5対5）
14	まとめ	実技試験
15		
16		

科目コード	40101				区　分	コア科目			
授業科目名	バスケットボールⅠ(基礎)				担当者名	國友　亮佑			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
バスケットボールは世界各国で親しまれている競技人口の多いスポーツである。また、中・高等学校の体育の授業においてもバスケットボールはゴール型の選択種目として採用されている競技である。本授業では、バスケットボールの競技特性及び競技ルール理解し、その基礎技術（シュート・ドリブル、パスなど）を身につけ、個人と集団のファンダメンタルや集団戦術を習得し、身につけた力でゲームを楽しむことを目的にしている。また仲間ともに楽しむ力を身につけ、生涯にわたりバスケットボール競技を楽しむ力を養うことを狙いとする。なお、安全かつ効

＜授業の到達目標＞
1 バスケットボール競技を安全に配慮しながら、仲間と共に目的ある活動をすることがで出来る。2　バスケットボールにおける競技特性や基本的な競技ルールを十分に理解することが出来る。 3　個人技術や集団戦術の修得に向けての練習法についても理解し、仲間と協力・工夫しながら実践することができる。　（スキルについては、教員採用試験出題レベルが出来るようになる）

＜授業の方法＞
実技形式が基本となり、グループ活動を中心に展開する。必要に応じて資料を配布し解説を行い、各技能習得に関するデモンストレーションを実施する。また、情報や仲間の意見や考え方等をDropboxを利用し、理解・共有できるようにする。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループワーク

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習：バスケットボールのルール、用具、技能に関して動画や書籍を通じて予備知識を学習しておくこと。（所要時間：1時間間程度）事後学習：授業で実施した技能のについて、重要なポイントや発見したことをまとめておくこと。（所要時間：1時間間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度 30%、実技テスト60%、知識レポート10%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	基本技術の習得（1）	ボールハンドリング技術
3	基礎技術の習得（2）	ドリブル技術の練習
4	基本技術の習得（3）	パス技術、キャッチング技術
5	基本技術の習得（4）	シュート技術の練習①（レイアップシュート）
6	基本技術の習得（5）	シュート技術の練習②（ゴール下、セットシュート）
7	基本技術の習得（6）	シュート技術の練習③（ジャンプシュート）
8	基本技術の習得（7）	リバウンド、スクリーンアウト
9	基本技術の習得（8）	ディフェンススキル、フットワーク
10	応用技術の習得（1）	２メンレイアップシュート、ミートシューティング
11	応用技術の習得（2）	３メンレイアップシュート、アウトナンバー
12	実践技術の習得（1）	ルールの理解、コートの理解、3対3
13	実践技術の習得（2）	リーグ戦（5対5）
14	まとめ	実技試験
15		
16		

科目コード	40101				区　分	コア科目			
授業科目名	バスケットボールⅠ(基礎)				担当者名	西垂水　美桜			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
バスケットボールは世界各国で親しまれている競技人口の多いスポーツである。また、中・高等学校の体育の授業においてもバスケットボールはゴール型の選択種目として採用されている競技である。本授業では、バスケットボールの競技特性及び競技ルール理解し、その基礎技術（シュート・ドリブル、パスなど）を身につけ、個人と集団のファンダメンタルや集団戦術を習得し、身につけた力でゲームを楽しむことを目的にしている。また仲間ともに楽しむ力を身につけ、生涯にわたりバスケットボール競技を楽しむ力を養うことを狙いとする。

＜授業の到達目標＞
1 バスケットボール競技を安全に配慮しながら、仲間と共に目的ある活動をすることがで出来る。2　バスケットボールにおける競技特性や基本的な競技ルールを十分に理解することが出来る。 3　個人技術や集団戦術の修得に向けての練習法についても理解し、仲間と協力・工夫しながら実践することができる。　（スキルについては、教員採用試験出題レベルが出来るようになる）

＜授業の方法＞
実技形式が基本となり、グループ活動を中心に展開する。必要に応じて資料を配布し解説を行い、各技能習得に関するデモンストレーションを実施する。また、情報や仲間の意見や考え方等をDropboxを利用し、理解・共有できるようにする。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループワーク

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
バスケットボールの技能・ルール・用具に関して把握すること。また次時の内容について、１時間以上専門書やビデオ等を視聴し、イメージを作っておくこと。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度 40%、実技テスト40%、知識レポート20%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	基本技術の習得（1）	ボールハンドリング技術
3	基礎技術の習得（2）	ドリブル技術の練習
4	基本技術の習得（3）	パス技術、キャッチング技術
5	基本技術の習得（4）	シュート技術の練習①（レイアップシュート）
6	基本技術の習得（5）	シュート技術の練習②（ゴール下、セットシュート）
7	基本技術の習得（6）	シュート技術の練習③（ジャンプシュート）
8	基本技術の習得（7）	リバウンド、スクリーンアウト
9	基本技術の習得（8）	ディフェンススキル、フットワーク
10	応用技術の習得（1）	２メンレイアップシュート、ミートシューティング
11	応用技術の習得（2）	３メンレイアップシュート、アウトナンバー
12	実践技術の習得（1）	ルールの理解、コートの理解、3対3
13	実践技術の習得（2）	リーグ戦①（5対5）
14	まとめ	実技試験
15		
16		

科目コード	40101				区　分	コア科目			
授業科目名	バスケットボールⅠ(基礎)				担当者名	西垂水　美桜			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
バスケットボールは世界各国で親しまれている競技人口の多いスポーツである。また、中・高等学校の体育の授業においてもバスケットボールはゴール型の選択種目として採用されている競技である。本授業では、バスケットボールの競技特性及び競技ルール理解し、その基礎技術（シュート・ドリブル、パスなど）を身につけ、個人と集団のファンダメンタルや集団戦術を習得し、身につけた力でゲームを楽しむことを目的にしている。また仲間ともに楽しむ力を身につけ、生涯にわたりバスケットボール競技を楽しむ力を養うことを狙いとする。

＜授業の到達目標＞
1 バスケットボール競技を安全に配慮しながら、仲間と共に目的ある活動をすることがで出来る。2　バスケットボールにおける競技特性や基本的な競技ルールを十分に理解することが出来る。 3　個人技術や集団戦術の修得に向けての練習法についても理解し、仲間と協力・工夫しながら実践することができる。　（スキルについては、教員採用試験出題レベルが出来るようになる）

＜授業の方法＞
実技形式が基本となり、グループ活動を中心に展開する。必要に応じて資料を配布し解説を行い、各技能習得に関するデモンストレーションを実施する。また、情報や仲間の意見や考え方等をDropboxを利用し、理解・共有できるようにする。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループワーク

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
バスケットボールの技能・ルール・用具に関して把握すること。また次時の内容について、１時間以上専門書やビデオ等を視聴し、イメージを作っておくこと。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度 40%、実技テスト40%、知識レポート20%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	基本技術の習得（1）	ボールハンドリング技術
3	基礎技術の習得（2）	ドリブル技術の練習
4	基本技術の習得（3）	パス技術、キャッチング技術
5	基本技術の習得（4）	シュート技術の練習①（レイアップシュート）
6	基本技術の習得（5）	シュート技術の練習②（ゴール下、セットシュート）
7	基本技術の習得（6）	シュート技術の練習③（ジャンプシュート）
8	基本技術の習得（7）	リバウンド、スクリーンアウト
9	基本技術の習得（8）	ディフェンススキル、フットワーク
10	応用技術の習得（1）	２メンレイアップシュート、ミートシューティング
11	応用技術の習得（2）	３メンレイアップシュート、アウトナンバー
12	実践技術の習得（1）	ルールの理解、コートの理解、3対3
13	実践技術の習得（2）	リーグ戦①（5対5）
14	まとめ	実技試験
15		
16		

科目コード	40102				区　分	コア科目			
授業科目名	バレーボールⅠ(基礎) [PP・PS・他学科・PH用]				担当者名	十河　直太			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
バレーボールは、簡単なパスゲームからコンビネーションプレーまで、多彩なバリエーションを展開することができる。また、バレーボールでは構造的特性上、プレイヤー相互の協力と信頼が不可欠である。本授業では、基本的な技能、ルール、フォーメーショ ン等についての理解を深めると共に、基本的な技能を高め、ゲームにおける相互の連係プレイを成功させることにより、仲間とともに、バレーボールの持つ楽しさや喜びが味えるようにする。

＜授業の到達目標＞
パスの基本、トスの基本、スパイクの基本を習得させ、3回使ってのゲーム形式が展開出来ることを目標とする。直上オーバーハンドパス、直上アンダーハンドパスを30秒間落とさず行うことができる。

＜授業の方法＞
実技を中心に展開していくが、必要に応じて資料を活用し、ルールや理論を理解させ、授業を進めていく。コート設営については安全に配慮した上で、始業前までに自発的に行うこと。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素：有グループに分かれ、単元で学んだプレーについてディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各単元の内容について書籍や映像等を用いて事前に理解を深めておくこと（30分程度）。実技テストに備えて、ボールを使用して基礎的な技術の習得をしておくこと。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
出席意欲と授業態度 60%、 実技テスト 40%

＜教科書＞
特に指定なし

＜参考書＞
特に指定なし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	授業内容の説明と導入	バレーボールの特性の理解
2	バレーボールの歴史について	今日までのバレーボールの生い立ちと現状の理解
3	バレーボールの特性に応じたウォーミングアップ	方法の理解と実践
4	基本的な技能について（1）	スパイクおよびブロック
5	基本的技能について（2）	レシーブ、セット、サーブ
6	基本的技能の複合練習（1）	移動パスやグループ練習
7	基本的技能の複合練習（2）	三段攻撃
8	基本的技能のまとめ（1）	複合練習と実技テスト
9	基本的技能のまとめ（2）	複合練習と実技テスト
10	ルールと審判法	ルールについての理解と審判方法の具体
11	試合形式（1）	リーグ戦
12	試合形式（2）	リーグ戦
13	試合形式（3）	リーグ戦
14	まとめ	総合的レポート
15		
16		

科目コード	40102				区　分	コア科目			
授業科目名	バレーボールⅠ(基礎) [PP・PS・他学科・PH用]				担当者名	十河　直太			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
バレーボールは、簡単なパスゲームからコンビネーションプレーまで、多彩なバリエーションを展開することができる。また、バレーボールでは構造的特性上、プレイヤー相互の協力と信頼が不可欠である。本授業では、基本的な技能、ルール、フォーメーショ ン等についての理解を深めると共に、基本的な技能を高め、ゲームにおける相互の連係プレイを成功させることにより、仲間とともに、バレーボールの持つ楽しさや喜びが味えるようにする。

＜授業の到達目標＞
パスの基本、トスの基本、スパイクの基本を習得させ、3回使ってのゲーム形式が展開出来ることを目標とする。直上オーバーハンドパス、直上アンダーハンドパスを30秒間落とさず行うことができる。

＜授業の方法＞
実技を中心に展開していくが、必要に応じて資料を活用し、ルールや理論を理解させ、授業を進めていく。コート設営については安全に配慮した上で、始業前までに自発的に行うこと。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素：有グループに分かれ、単元で学んだプレーについてディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各単元の内容について書籍や映像等を用いて事前に理解を深めておくこと（30分程度）。実技テストに備えて、ボールを使用して基礎的な技術の習得をしておくこと。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
出席意欲と授業態度 60%、 実技テスト 40%

＜教科書＞
特に指定なし

＜参考書＞
特に指定なし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	授業内容の説明と導入	バレーボールの特性の理解
2	バレーボールの歴史について	今日までのバレーボールの生い立ちと現状の理解
3	バレーボールの特性に応じたウォーミングアップ	方法の理解と実践
4	基本的な技能について（1）	スパイクおよびブロック
5	基本的技能について（2）	レシーブ、セット、サーブ
6	基本的技能の複合練習（1）	移動パスやグループ練習
7	基本的技能の複合練習（2）	三段攻撃
8	基本的技能のまとめ（1）	複合練習と実技テスト
9	基本的技能のまとめ（2）	複合練習と実技テスト
10	ルールと審判法	ルールについての理解と審判方法の具体
11	試合形式（1）	リーグ戦
12	試合形式（2）	リーグ戦
13	試合形式（3）	リーグ戦
14	まとめ	総合的レポート
15		
16		

科目コード	40102				区　分	コア科目			
授業科目名	バレーボールⅠ(基礎) [他学科＋PP3年以上用]				担当者名	十河　直太			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
バレーボールは、簡単なパスゲームからコンビネーションプレーまで、多彩なバリエーションを展開することができる。また、バレーボールでは構造的特性上、プレイヤー相互の協力と信頼が不可欠である。本授業では、基本的な技能、ルール、フォーメーショ ン等についての理解を深めると共に、基本的な技能を高め、ゲームにおける相互の連係プレイを成功させることにより、仲間とともに、バレーボールの持つ楽しさや喜びが味えるようにする。

＜授業の到達目標＞
パスの基本、トスの基本、スパイクの基本を習得させ、3回使ってのゲーム形式が展開出来ることを目標とする。直上オーバーハンドパス、直上アンダーハンドパスを30秒間落とさず行うことができる。

＜授業の方法＞
実技を中心に展開していくが、必要に応じて資料を活用し、ルールや理論を理解させ、授業を進めていく。コート設営については安全に配慮した上で、始業前までに自発的に行うこと。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素：有グループに分かれ、単元で学んだプレーについてディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各単元の内容について書籍や映像等を用いて事前に理解を深めておくこと（30分程度）。実技テストに備えて、ボールを使用して基礎的な技術の習得をしておくこと。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
出席意欲と授業態度 60%、 実技テスト 40%

＜教科書＞
特に指定なし

＜参考書＞
特に指定なし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	授業内容の説明と導入	バレーボールの特性の理解
2	バレーボールの歴史について	今日までのバレーボールの生い立ちと現状の理解
3	バレーボールの特性に応じたウォーミングアップ	方法の理解と実践
4	基本的な技能について（1）	スパイクおよびブロック
5	基本的技能について（2）	レシーブ、セット、サーブ
6	基本的技能の複合練習（1）	移動パスやグループ練習
7	基本的技能の複合練習（2）	三段攻撃
8	基本的技能のまとめ（1）	複合練習と実技テスト
9	基本的技能のまとめ（2）	複合練習と実技テスト
10	ルールと審判法	ルールについての理解と審判方法の具体
11	試合形式（1）	リーグ戦
12	試合形式（2）	リーグ戦
13	試合形式（3）	リーグ戦
14	まとめ	総合的レポート
15		
16		

科目コード	40104				区　分	コア科目			
授業科目名	ハンドボールⅠ(基礎)				担当者名	仙波　慎平			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
ハンドボールは、ヨーロッパで発展した、スピーディーでダイナミックなプレーが人気のボールゲームである。走・跳・投という基本的な運動要素がバランスよく含まれており、発達段階にある子供に対しても有用な教材として学習指導要領にも取り上げられている。本講義では、ハンドボールの基礎、専門的運動技能と実技指導能力を学習する。(１クラスの定員５０名とし、超過した場合は抽選とする。)本授業は実技科目であるため、受講者の安全確保を最優先とし、以下の点に留意して実施する。1. 安全配慮に関する事項・授業開始前にウォーミングアップ

＜授業の到達目標＞
ハンドボールのルールと競技特性を理解し、ゲームを楽しむことができること、 ボールゲームとしてのハンドボールの成り立ちに着目した上で、ゲームに必要な基礎的技術、戦術を身につける。

＜授業の方法＞
実技を通して、ハンドボールを学習し、随時その理論的背景を説明する。また、資料、映像等を必要に応じて活用し講義授業をすすめていく。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有グループワーク（7～10人グループにわかれ、運営等を行う）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業時に紹介するハンドボール指導に関する書籍・DVDを参照し、予習・復習(1コマにつき1時間)にあてる。また、授業ノートを作り、その日に行ったこと、 ポイント、感想などを記入していく。なお、授業ノートは定期的に集め、内容をチェックする。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度 50%、技術・戦術遂行能力・運動学習能力 30%、実技テスト20%

＜教科書＞

＜参考書＞
笹倉清則（2003） 「Tactics of Handba in The Word」 財団法人日本ハンドボール協会
酒巻清治（2012） 「基本が身につく ハンドボール 練習メニュー200」 池田書店

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンスおよびルール説明	授業の説明、ルール説明、ハンドボールの映像観察
2	個人技術の習得	パス・キャッチ技術の習得
3	個人技術の習得（2）	シュートの種類、基本動作の習得
4	原始的ゲーム	基本的ルールの説明、少人数での速攻ゲーム
5	対人的技術・戦術（1）	１対１状況における攻撃と防御の基礎スキル、少人数ゲーム（1）
6	対人的技術・戦術（2）	１対１状況における攻撃と防御の応用スキル、少人数ゲーム（2）
7	グループ戦術（1）	２対２状況における攻撃と防御の基礎スキル、ゲーム（1）
8	グループ戦術（2）	２対２状況における攻撃と防御の応用スキル、ゲーム（2）
9	ゲーム（1）	ゲーム実施およびその運営
10	ゲーム（2）	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営（1）
11	ゲーム（3）	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営（2）
12	ゲーム（4）	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営（3）
13	ゲーム（5）	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営（4）
14	ゲーム（6）	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営（5）
15		
16		

科目コード	40104				区　分	コア科目			
授業科目名	ハンドボールⅠ(基礎)				担当者名	仙波　慎平			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
ハンドボールは、ヨーロッパで発展した、スピーディーでダイナミックなプレーが人気のボールゲームである。走・跳・投という基本的な運動要素がバランスよく含まれており、発達段階にある子供に対しても有用な教材として学習指導要領にも取り上げられている。本講義では、ハンドボールの基礎、専門的運動技能と実技指導能力を学習する。(１クラスの定員５０名とし、超過した場合は抽選とする。)本授業は実技科目であるため、受講者の安全確保を最優先とし、以下の点に留意して実施する。1. 安全配慮に関する事項・授業開始前にウォーミングアップ

＜授業の到達目標＞
ハンドボールのルールと競技特性を理解し、ゲームを楽しむことができること、 ボールゲームとしてのハンドボールの成り立ちに着目した上で、ゲームに必要な基礎的技術、戦術を身につける。

＜授業の方法＞
実技を通して、ハンドボールを学習し、随時その理論的背景を説明する。また、資料、映像等を必要に応じて活用し講義授業をすすめていく。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有グループワーク（7～10人グループにわかれ、運営等を行う）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業時に紹介するハンドボール指導に関する書籍・DVDを参照し、予習・復習(1コマにつき1時間)にあてる。また、授業ノートを作り、その日に行ったこと、 ポイント、感想などを記入していく。なお、授業ノートは定期的に集め、内容をチェックする。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度 50%、技術・戦術遂行能力・運動学習能力 30%、実技テスト20%

＜教科書＞

＜参考書＞
笹倉清則（2003） 「Tactics of Handba in The Word」 財団法人日本ハンドボール協会
酒巻清治（2012） 「基本が身につく ハンドボール 練習メニュー200」 池田書店

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンスおよびルール説明	授業の説明、ルール説明、ハンドボールの映像観察
2	個人技術の習得	パス・キャッチ技術の習得
3	個人技術の習得（2）	シュートの種類、基本動作の習得
4	原始的ゲーム	基本的ルールの説明、少人数での速攻ゲーム
5	対人的技術・戦術（1）	１対１状況における攻撃と防御の基礎スキル、少人数ゲーム（1）
6	対人的技術・戦術（2）	１対１状況における攻撃と防御の応用スキル、少人数ゲーム（2）
7	グループ戦術（1）	２対２状況における攻撃と防御の基礎スキル、ゲーム（1）
8	グループ戦術（2）	２対２状況における攻撃と防御の応用スキル、ゲーム（2）
9	ゲーム（1）	ゲーム実施およびその運営
10	ゲーム（2）	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営（1）
11	ゲーム（3）	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営（2）
12	ゲーム（4）	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営（3）
13	ゲーム（5）	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営（4）
14	ゲーム（6）	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営（5）
15		
16		

科目コード	40105				区　分	コア科目			
授業科目名	陸上Ⅰ(基礎)[PP女子用、他学科＋PP2年生以上]				担当者名	梶谷　亮輔／品田　直宏			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技・講義	卒業要件	選択必修

＜授業の概要＞
陸上競技は、「走・跳・投・歩」といった基本的な運動から構成され、体力・技術・精神の各側面を総合的に養うことができる競技である。また、その多面性ゆえに、競技力向上には計画的かつ継続的な取り組みが求められる。本授業では、特に教員採用試験で求められる基礎的な陸上競技種目に焦点を当て、五種競技を中心に実技を展開する。各種目の技術習得に加え、トレーニングの原理・原則や指導法について理解を深める。さらに、授業や部活動において不可欠となる安全管理の視点を重視し、事故防止のための環境整備、リスクマネジメント、適切なウォー

＜授業の到達目標＞
陸上競技における専門的なトレーニング方法および各種目の技術に関する基礎的知識を習得するとともに､安全管理の重要性とその具体的手法を理解する。さらに、走・跳・投の各種目（100m、ハードル走、走幅跳、走高跳、砲丸投）について、基本技術を習得し、適切な動作による模範を示すことができる。

＜授業の方法＞
本授業は対面による実技形式で実施し、教科書は使用しない。主に各種目の基本技術の習得および実践的な指導力の向上を目的とした活動を行う。また、全15回中5回はオンデマンド形式とし、Google Classroom を活用して実施する。オンデマンド授業では、各種目の歴史、ルール、指導上の留意点、安全管理およびトレーニング理論に関する知識の習得を目的とし、レポート課題や小テストを通して理解の定着を図る。履修者数は、実技における安全性および指導効果を考慮し、70名を上限とする。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有本授業では、実技を中心とした双方向型の学習を通してアクティブ・ラーニングを取り入れる。具体的には、学生同士によるペア・グループでの相互指導（ピア・ラーニング）や、動作観察およびフィードバックを行うことで、技術理解と指導力の向上を図る。また、オンデマンド授業においては、提示された課題に対するレポート作成や小テストを通して主体的な学習を促すとともに、対面授業での実践と結び付けることで理解の深化を図る。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
本授業では、各回あたり予習・復習として合計60分程度の学習を行うことを想定する。予習としては、各種目のルールや技術ポイント、指導上の留意点および安全管理に関する基礎知識を事前に確認しておくこと。復習としては、対面授業で実施した技術や指導内容について振り返りを行い、自身の課題や改善点を整理するとともに、関連資料の確認や課題（レポート・小テスト）への取り組みを行うこと。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
成績評価は以下の割合で総合的に評価する。・実技試験：40%（1種目10%）・レポート課題：30%（オンデマンド授業5回*6%=30%）・受講態度・学習意欲：30%実技試験では、各種目における基準記録に対する到達状況を評価する。レポート課題では、各種目の技術理解、指導上の留意点、安全管理に関する理解度を評価する。受講態度・学習意欲については、授業への積極的な参加状況、協働的な学びへの関与、準備・振り返りの取り組み状況等を総合的に評価する。フィードバックについては、実技においては授業内での口頭指導や個別助言を

＜教科書＞

＜参考書＞
関岡康雄　陸上競技入門　ベースボールマガジン社
日本陸上競技連盟　陸上競技ルールブック　ベースボールマガジン社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス、陸上競技の概要、ウォーミングアップの行い方と「歩く」・「走る」の実践	受講上の注意、陸上競技のウォーミングアップ、軸を意識した姿勢作り、ウォーキング&ジョギング
2	短距離走①	短距離走の走り方、ウォーミングップを実践し、100m走の記録測定
3	走高跳①	走高跳のウォーミングアップ実践、曲線助走の方法、踏切
4	走高跳②	踏切～背面跳、記録の測定

5	ハードル走①	ハードルドリル、ハードルクリアランス、アプローチ
6	ハードル走②	インターバル間の走り、記録の測定
7	走幅跳	走幅跳跳のウォーミングアップ実践、助走の合わせ方、助走～踏切
8	砲丸投	砲丸投げのウォーミングアップ実践、立ち投げ
9	ハードル走（オンデマンド）	オンデマンド教材を用い、ハードル走の歴史と指導上の留意点を理解する。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
10	走高跳（オンデマンド）	オンデマンド教材を用い、走高跳の歴史と指導上の留意点を理解する。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
11	走幅跳（オンデマンド）	オンデマンド教材を用い、走高跳の歴史と指導上の留意点を理解する。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
12	砲丸投（オンデマンド）	オンデマンド教材を用い、砲丸投の歴史と指導上の留意点を理解する。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
13	短距離走②	短距離走の走り方、動き作りを実践し、100m走の記録測定（2回目）
14	まとめ（記録挑戦会）	これまでの種目における総合理解をし、各種目における記録へ挑戦する。
15		
16		

科目コード	40105				区　分	コア科目			
授業科目名	陸上Ⅰ(基礎)[PP男子用]				担当者名	梶谷　亮輔／品田　直宏			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技・講義	卒業要件	選択必修

＜授業の概要＞
陸上競技は、「走・跳・投・歩」といった基本的な運動から構成され、体力・技術・精神の各側面を総合的に養うことができる競技である。また、その多面性ゆえに、競技力向上には計画的かつ継続的な取り組みが求められる。本授業では、特に教員採用試験で求められる基礎的な陸上競技種目に焦点を当て、五種競技を中心に実技を展開する。各種目の技術習得に加え、トレーニングの原理・原則や指導法について理解を深める。さらに、授業や部活動において不可欠となる安全管理の視点を重視し、事故防止のための環境整備、リスクマネジメント、適切なウォー

＜授業の到達目標＞
陸上競技における専門的なトレーニング方法および各種目の技術に関する基礎的知識を習得するとともに､安全管理の重要性とその具体的手法を理解する。さらに、走・跳・投の各種目（100m、ハードル走、走幅跳、走高跳、砲丸投）について、基本技術を習得し、適切な動作による模範を示すことができる。

＜授業の方法＞
本授業は対面による実技形式で実施し、教科書は使用しない。主に各種目の基本技術の習得および実践的な指導力の向上を目的とした活動を行う。また、全15回中5回はオンデマンド形式とし、Google Classroom を活用して実施する。オンデマンド授業では、各種目の歴史、ルール、指導上の留意点、安全管理およびトレーニング理論に関する知識の習得を目的とし、レポート課題や小テストを通して理解の定着を図る。履修者数は、実技における安全性および指導効果を考慮し、70名を上限とする。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有本授業では、実技を中心とした双方向型の学習を通してアクティブ・ラーニングを取り入れる。具体的には、学生同士によるペア・グループでの相互指導（ピア・ラーニング）や、動作観察およびフィードバックを行うことで、技術理解と指導力の向上を図る。また、オンデマンド授業においては、提示された課題に対するレポート作成や小テストを通して主体的な学習を促すとともに、対面授業での実践と結び付けることで理解の深化を図る。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
本授業では、各回あたり予習・復習として合計60分程度の学習を行うことを想定する。予習としては、各種目のルールや技術ポイント、指導上の留意点および安全管理に関する基礎知識を事前に確認しておくこと。復習としては、対面授業で実施した技術や指導内容について振り返りを行い、自身の課題や改善点を整理するとともに、関連資料の確認や課題（レポート・小テスト）への取り組みを行うこと。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
成績評価は以下の割合で総合的に評価する。・実技試験：40%（1種目10%）・レポート課題：30%（オンデマンド授業5回*6%=30%）・受講態度・学習意欲：30%実技試験では、各種目における基準記録に対する到達状況を評価する。レポート課題では、各種目の技術理解、指導上の留意点、安全管理に関する理解度を評価する。受講態度・学習意欲については、授業への積極的な参加状況、協働的な学びへの関与、準備・振り返りの取り組み状況等を総合的に評価する。フィードバックについては、実技においては授業内での口頭指導や個別助言を

＜教科書＞

＜参考書＞
関岡康雄　陸上競技入門　ベースボールマガジン社
日本陸上競技連盟　陸上競技ルールブック　ベースボールマガジン社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス、陸上競技の概要、ウォーミングアップの行い方と「歩く」・「走る」の実践	受講上の注意、陸上競技のウォーミングアップ、軸を意識した姿勢作り、ウォーキング&ジョギング
2	短距離走①	短距離走の走り方、ウォーミングップを実践し、100m走の記録測定
3	走高跳①	走高跳のウォーミングアップ実践、曲線助走の方法、踏切
4	走高跳②	踏切～背面跳、記録の測定
5	ハードル走①	ハードルドリル、ハードルクリアランス、アプローチ
6	ハードル走②	インターバル間の走り、記録の測定

7	走幅跳	走幅跳跳のウォーミングアップ実践、助走の合わせ方、助走～踏切
8	砲丸投	砲丸投げのウォーミングアップ実践、立ち投げ
9	ハードル走（オンデマンド）	オンデマンド教材を用い、ハードル走の歴史と指導上の留意点を理解する。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
10	走高跳（オンデマンド）	オンデマンド教材を用い、走高跳の歴史と指導上の留意点を理解する。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
11	走幅跳（オンデマンド）	オンデマンド教材を用い、走高跳の歴史と指導上の留意点を理解する。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
12	砲丸投（オンデマンド）	オンデマンド教材を用い、砲丸投の歴史と指導上の留意点を理解する。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
13	短距離走②	短距離走の走り方、動き作りを実践し、100m走の記録測定（2回目）
14	まとめ（記録挑戦会）	これまでの種目における総合理解をし、各種目における記録へ挑戦する。
15		
16		

科目コード	40105				区　分	コア科目			
授業科目名	陸上Ⅰ(基礎)[PP男子用]				担当者名	梶谷　亮輔／品田　直宏			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技・講義	卒業要件	選択必修

＜授業の概要＞
陸上競技は、「走・跳・投・歩」といった基本的な運動から構成され、体力・技術・精神の各側面を総合的に養うことができる競技である。また、その多面性ゆえに、競技力向上には計画的かつ継続的な取り組みが求められる。本授業では、特に教員採用試験で求められる基礎的な陸上競技種目に焦点を当て、五種競技を中心に実技を展開する。各種目の技術習得に加え、トレーニングの原理・原則や指導法について理解を深める。さらに、授業や部活動において不可欠となる安全管理の視点を重視し、事故防止のための環境整備、リスクマネジメント、適切なウォー

＜授業の到達目標＞
陸上競技における専門的なトレーニング方法および各種目の技術に関する基礎的知識を習得するとともに､安全管理の重要性とその具体的手法を理解する。さらに、走・跳・投の各種目（100m、ハードル走、走幅跳、走高跳、砲丸投）について、基本技術を習得し、適切な動作による模範を示すことができる。

＜授業の方法＞
本授業は対面による実技形式で実施し、教科書は使用しない。主に各種目の基本技術の習得および実践的な指導力の向上を目的とした活動を行う。また、全15回中5回はオンデマンド形式とし、Google Classroom を活用して実施する。オンデマンド授業では、各種目の歴史、ルール、指導上の留意点、安全管理およびトレーニング理論に関する知識の習得を目的とし、レポート課題や小テストを通して理解の定着を図る。履修者数は、実技における安全性および指導効果を考慮し、70名を上限とする。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有本授業では、実技を中心とした双方向型の学習を通してアクティブ・ラーニングを取り入れる。具体的には、学生同士によるペア・グループでの相互指導（ピア・ラーニング）や、動作観察およびフィードバックを行うことで、技術理解と指導力の向上を図る。また、オンデマンド授業においては、提示された課題に対するレポート作成や小テストを通して主体的な学習を促すとともに、対面授業での実践と結び付けることで理解の深化を図る。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
本授業では、各回あたり予習・復習として合計60分程度の学習を行うことを想定する。予習としては、各種目のルールや技術ポイント、指導上の留意点および安全管理に関する基礎知識を事前に確認しておくこと。復習としては、対面授業で実施した技術や指導内容について振り返りを行い、自身の課題や改善点を整理するとともに、関連資料の確認や課題（レポート・小テスト）への取り組みを行うこと。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
成績評価は以下の割合で総合的に評価する。・実技試験：40%（1種目10%）・レポート課題：30%（オンデマンド授業5回*6%=30%）・受講態度・学習意欲：30%実技試験では、各種目における基準記録に対する到達状況を評価する。レポート課題では、各種目の技術理解、指導上の留意点、安全管理に関する理解度を評価する。受講態度・学習意欲については、授業への積極的な参加状況、協働的な学びへの関与、準備・振り返りの取り組み状況等を総合的に評価する。フィードバックについては、実技においては授業内での口頭指導や個別助言を

＜教科書＞

＜参考書＞
関岡康雄　陸上競技入門　ベースボールマガジン社
日本陸上競技連盟　陸上競技ルールブック　ベースボールマガジン社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス、陸上競技の概要、ウォーミングアップの行い方と「歩く」・「走る」の実践	受講上の注意、陸上競技のウォーミングアップ、軸を意識した姿勢作り、ウォーキング&ジョギング
2	短距離走①	短距離走の走り方、ウォーミングップを実践し、100m走の記録測定
3	走高跳①	走高跳のウォーミングアップ実践、曲線助走の方法、踏切
4	走高跳②	踏切～背面跳、記録の測定
5	ハードル走①	ハードルドリル、ハードルクリアランス、アプローチ
6	ハードル走②	インターバル間の走り、記録の測定

7	走幅跳	走幅跳跳のウォーミングアップ実践、助走の合わせ方、助走～踏切
8	砲丸投	砲丸投げのウォーミングアップ実践、立ち投げ
9	ハードル走（オンデマンド）	オンデマンド教材を用い、ハードル走の歴史と指導上の留意点を理解する。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
10	走高跳（オンデマンド）	オンデマンド教材を用い、走高跳の歴史と指導上の留意点を理解する。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
11	走幅跳（オンデマンド）	オンデマンド教材を用い、走高跳の歴史と指導上の留意点を理解する。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
12	砲丸投（オンデマンド）	オンデマンド教材を用い、砲丸投の歴史と指導上の留意点を理解する。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
13	短距離走②	短距離走の走り方、動き作りを実践し、100m走の記録測定（2回目）
14	まとめ（記録挑戦会）	これまでの種目における総合理解をし、各種目における記録へ挑戦する。
15		
16		

科目コード	40105				区　分	コア科目			
授業科目名	陸上Ⅰ(基礎)[PS用]				担当者名	秦　啓一郎／品田　直宏			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技・講義	卒業要件	選択必修

＜授業の概要＞
陸上競技は、「走・跳・投・歩」といった基本的な運動から構成され、体力・技術・精神の各側面を総合的に養うことができる競技である。また、その多面性ゆえに、競技力向上には計画的かつ継続的な取り組みが求められる。本授業では、特に教員採用試験で求められる基礎的な陸上競技種目に焦点を当て、五種競技を中心に実技を展開する。各種目の技術習得に加え、トレーニングの原理・原則や指導法について理解を深める。さらに、授業や部活動において不可欠となる安全管理の視点を重視し、事故防止のための環境整備、リスクマネジメント、適切なウォー

＜授業の到達目標＞
陸上競技における専門的なトレーニング方法および各種目の技術に関する基礎的知識を習得するとともに､安全管理の重要性とその具体的手法を理解する。さらに、走・跳・投の各種目（100m、ハードル走、走幅跳、走高跳、砲丸投）について、基本技術を習得し、適切な動作による模範を示すことができる。

＜授業の方法＞
本授業は対面による実技形式で実施し、教科書は使用しない。主に各種目の基本技術の習得および実践的な指導力の向上を目的とした活動を行う。また、全15回中5回はオンデマンド形式とし、Google Classroom を活用して実施する。オンデマンド授業では、各種目の歴史、ルール、指導上の留意点、安全管理およびトレーニング理論に関する知識の習得を目的とし、レポート課題や小テストを通して理解の定着を図る。履修者数は、実技における安全性および指導効果を考慮し、70名を上限とする。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有本授業では、実技を中心とした双方向型の学習を通してアクティブ・ラーニングを取り入れる。具体的には、学生同士によるペア・グループでの相互指導（ピア・ラーニング）や、動作観察およびフィードバックを行うことで、技術理解と指導力の向上を図る。また、オンデマンド授業においては、提示された課題に対するレポート作成や小テストを通して主体的な学習を促すとともに、対面授業での実践と結び付けることで理解の深化を図る。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
本授業では、各回あたり予習・復習として合計60分程度の学習を行うことを想定する。予習としては、各種目のルールや技術ポイント、指導上の留意点および安全管理に関する基礎知識を事前に確認しておくこと。復習としては、対面授業で実施した技術や指導内容について振り返りを行い、自身の課題や改善点を整理するとともに、関連資料の確認や課題（レポート・小テスト）への取り組みを行うこと。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
成績評価は以下の割合で総合的に評価する。・実技試験：40%（1種目10%）・レポート課題：30%（オンデマンド授業5回*6%=30%）・受講態度・学習意欲：30%実技試験では、各種目における基準記録に対する到達状況を評価する。レポート課題では、各種目の技術理解、指導上の留意点、安全管理に関する理解度を評価する。受講態度・学習意欲については、授業への積極的な参加状況、協働的な学びへの関与、準備・振り返りの取り組み状況等を総合的に評価する。フィードバックについては、実技においては授業内での口頭指導や個別助言を

＜教科書＞

＜参考書＞
関岡康雄　陸上競技入門　ベースボールマガジン社
日本陸上競技連盟　陸上競技ルールブック　ベースボールマガジン社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス、陸上競技の概要、ウォーミングアップの行い方と「歩く」・「走る」の実践	受講上の注意、陸上競技のウォーミングアップ、軸を意識した姿勢作り、ウォーキング&ジョギング
2	短距離走①	短距離走の走り方、ウォーミングップを実践し、100m走の記録測定
3	走高跳①	走高跳のウォーミングアップ実践、曲線助走の方法、踏切
4	走高跳②	踏切～背面跳、記録の測定
5	ハードル走①	ハードルドリル、ハードルクリアランス、アプローチ
6	ハードル走②	インターバル間の走り、記録の測定

7	走幅跳	走幅跳跳のウォーミングアップ実践、助走の合わせ方、助走～踏切
8	砲丸投	砲丸投げのウォーミングアップ実践、立ち投げ
9	ハードル走（オンデマンド）	オンデマンド教材を用い、ハードル走の歴史と指導上の留意点を理解する。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
10	走高跳（オンデマンド）	オンデマンド教材を用い、走高跳の歴史と指導上の留意点を理解する。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
11	走幅跳（オンデマンド）	オンデマンド教材を用い、走高跳の歴史と指導上の留意点を理解する。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
12	砲丸投（オンデマンド）	オンデマンド教材を用い、砲丸投の歴史と指導上の留意点を理解する。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
13	短距離走②	短距離走の走り方、動き作りを実践し、100m走の記録測定（2回目）
14	まとめ（記録挑戦会）	これまでの種目における総合理解をし、各種目における記録へ挑戦する。
15		
16		

科目コード	40105				区　分	コア科目			
授業科目名	陸上Ⅰ(基礎)[他学科＋PP2年生以上]				担当者名	梶谷　亮輔／品田　直宏			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技・講義	卒業要件	選択必修

＜授業の概要＞
陸上競技は、「走・跳・投・歩」といった基本的な運動から構成され、体力・技術・精神の各側面を総合的に養うことができる競技である。また、その多面性ゆえに、競技力向上には計画的かつ継続的な取り組みが求められる。本授業では、特に教員採用試験で求められる基礎的な陸上競技種目に焦点を当て、五種競技を中心に実技を展開する。各種目の技術習得に加え、トレーニングの原理・原則や指導法について理解を深める。さらに、授業や部活動において不可欠となる安全管理の視点を重視し、事故防止のための環境整備、リスクマネジメント、適切なウォー

＜授業の到達目標＞
陸上競技における専門的なトレーニング方法および各種目の技術に関する基礎的知識を習得するとともに､安全管理の重要性とその具体的手法を理解する。さらに、走・跳・投の各種目（100m、ハードル走、走幅跳、走高跳、砲丸投）について、基本技術を習得し、適切な動作による模範を示すことができる。

＜授業の方法＞
本授業は対面による実技形式で実施し、教科書は使用しない。主に各種目の基本技術の習得および実践的な指導力の向上を目的とした活動を行う。また、全15回中5回はオンデマンド形式とし、Google Classroom を活用して実施する。オンデマンド授業では、各種目の歴史、ルール、指導上の留意点、安全管理およびトレーニング理論に関する知識の習得を目的とし、レポート課題や小テストを通して理解の定着を図る。履修者数は、実技における安全性および指導効果を考慮し、70名を上限とする。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有本授業では、実技を中心とした双方向型の学習を通してアクティブ・ラーニングを取り入れる。具体的には、学生同士によるペア・グループでの相互指導（ピア・ラーニング）や、動作観察およびフィードバックを行うことで、技術理解と指導力の向上を図る。また、オンデマンド授業においては、提示された課題に対するレポート作成や小テストを通して主体的な学習を促すとともに、対面授業での実践と結び付けることで理解の深化を図る。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
本授業では、各回あたり予習・復習として合計60分程度の学習を行うことを想定する。予習としては、各種目のルールや技術ポイント、指導上の留意点および安全管理に関する基礎知識を事前に確認しておくこと。復習としては、対面授業で実施した技術や指導内容について振り返りを行い、自身の課題や改善点を整理するとともに、関連資料の確認や課題（レポート・小テスト）への取り組みを行うこと。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
成績評価は以下の割合で総合的に評価する。・実技試験：40%（1種目10%）・レポート課題：30%（オンデマンド授業5回*6%=30%）・受講態度・学習意欲：30%実技試験では、各種目における基準記録に対する到達状況を評価する。レポート課題では、各種目の技術理解、指導上の留意点、安全管理に関する理解度を評価する。受講態度・学習意欲については、授業への積極的な参加状況、協働的な学びへの関与、準備・振り返りの取り組み状況等を総合的に評価する。フィードバックについては、実技においては授業内での口頭指導や個別助言を

＜教科書＞

＜参考書＞
関岡康雄　陸上競技入門　ベースボールマガジン社
日本陸上競技連盟　陸上競技ルールブック　ベースボールマガジン社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス、陸上競技の概要、ウォーミングアップの行い方と「歩く」・「走る」の実践	受講上の注意、陸上競技のウォーミングアップ、軸を意識した姿勢作り、ウォーキング&ジョギング
2	短距離走①	短距離走の走り方、ウォーミングップを実践し、100m走の記録測定
3	走高跳①	走高跳のウォーミングアップ実践、曲線助走の方法、踏切
4	走高跳②	踏切～背面跳、記録の測定
5	ハードル走①	ハードルドリル、ハードルクリアランス、アプローチ
6	ハードル走②	インターバル間の走り、記録の測定

7	走幅跳	走幅跳跳のウォーミングアップ実践、助走の合わせ方、助走～踏切
8	砲丸投	砲丸投げのウォーミングアップ実践、立ち投げ
9	ハードル走（オンデマンド）	オンデマンド教材を用い、ハードル走の歴史と指導上の留意点を理解する。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
10	走高跳（オンデマンド）	オンデマンド教材を用い、走高跳の歴史と指導上の留意点を理解する。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
11	走幅跳（オンデマンド）	オンデマンド教材を用い、走高跳の歴史と指導上の留意点を理解する。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
12	砲丸投（オンデマンド）	オンデマンド教材を用い、砲丸投の歴史と指導上の留意点を理解する。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
13	短距離走②	短距離走の走り方、動き作りを実践し、100m走の記録測定（2回目）
14	まとめ（記録挑戦会）	これまでの種目における総合理解をし、各種目における記録へ挑戦する。
15		
16		

科目コード	40107				区　分	コア科目			
授業科目名	柔道Ⅰ(基礎)[PH用]				担当者名	矢野　智彦／片桐　夏海			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
日本が発祥の地である柔道は、オリンピックの正式種目に採用されて以来、世界の柔道として発展・拡大してきた。柔道の技術は投げ技、固め技から構成されている。これらの技術を習得・向上させるためには、柔道の基本動作、基礎技術をしっかりと身に付けることが大切である。本授業においては柔道の基本的動作と基礎技術を身につけると同時に、柔道指導における安全性や管理方法についても理解を深めることを目的とする。これらを通じて、『教育と体育の融合』を具現化するべく、「柔道」を実践することで他者との協調性や仲間と活動する際のコミュニ

＜授業の到達目標＞
礼儀正しい態度で関心を持って学ぶことができる礼法などの伝統的な行動の仕方を身に付けている柔道の歴史や特性、礼法の重要性を理解しているいくつかの基本となる技を身に付けている

＜授業の方法＞
実技を中心に展開していくが、必要に応じてビデオや資料等の教材を活用し授業を進めていく。なお、1クラス当たりの履修上限は原則40名とする。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
100分授業への変更に伴い、発表機会を拡充したアクティブラーニングを展開する。ペアワーク： 技の動きを相互に分析・指摘し、技術の精度を高める。グループディスカッション： 実践を振り返り、改善点を言語化する。ケーススタディ： 課題に対する解決策を論理的に導き出す。成果発表： 導き出した解決策を実技や口頭で発表し、クラス全体で共有・評価を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：参考書を用いて事前に柔道の技の仕組みを理解する。（1時間程度）復習：柔道大会等を積極的に観戦しレポートを作成する。（30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度（学習意欲含む）　70%、実技試験　30%

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	1.基礎知識	柔道の歴史、柔道衣の名称、柔道衣の着方と帯の色
2	2～3.基本動作	礼法（立礼・座礼）、柔道の姿勢（自然体・自護体）、組み方崩し（八方崩し）、歩き方、体さばき、後ろ受け身・横受け身・前回り受け身、方ひざをついての前回り受け身→立ち姿勢からの前回り受け身、前受け身、技の分類
3	4.大腰、送り足払い	大腰、移動しながらの大腰、送り足払い、足払いの一人練習、送り足払いの約束練習
4	5.大腰（横移動）、払い腰	体さばきの一人練習、大腰（横移動）の約束練習、払い腰、払い腰の約束練習
5	6.体落し、けさ固め	体落し、横移動の体落し、後退しながらの体落し、約束乱取り、けさ固め、崩れけさ固め、肩固め、けさ固め・肩固めの入り方、約束抑え込み
6	7.上四方固め、横四方固め、たて四方固め	上四方固め、崩れ上四方固め、横四方固め、崩れ横四方固め、たて四方固め、崩れたて四方固め、約束抑え込み
7	8～9.固め技（攻撃の仕方）	四つんばいの相手の攻め方、腹ばいの相手の攻め方、四つんばいの相手の返し方の研究発表、約束抑え込み、乱取り（自由練習）
8	10.小内刈り、支え釣り込み足、ひざ車	小内刈り、相手の動きに合わせた小内刈り、支え釣り込み足、相手を崩しての支え釣り込み足、ひざ車、相手を崩してのひざ車
9	11.固め技の復習	今まで練習した固め技すべてを復習
10	12.投げ技の復習	今まで練習した投げ技すべてを復習

11	13.乱取り	固め技・投げ技の乱取り（自由練習）
12	14.まとめ	乱取りの反省と技の研究、総括
13		
14		
15		
16		

科目コード	40107				区　分	コア科目			
授業科目名	柔道Ⅰ(基礎) [PP・PS女子用]				担当者名	片桐　夏海			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
日本が発祥の地である柔道は、オリンピックの正式種目に採用されて以来、世界の柔道として発展・拡大してきた。柔道の技術は投げ技、固め技から構成されている。これらの技術を習得・向上させるためには、柔道の基本動作、基礎技術をしっかりと身に付けることが大切である。本授業においては柔道の基本的動作と基礎技術を身につけると同時に、柔道指導における安全性や管理方法についても理解を深めることを目的とする。

＜授業の到達目標＞
1）礼儀正しい態度で関心を持って学ぶことができ、礼法などの伝統的な行動の仕方を身に付けている。2）柔道の歴史や特性、礼法の重要性を理解し、いくつかの基本となる技を身に付けている。

＜授業の方法＞
実技を中心に展開していくが、必要に応じてビデオや資料等の教材を活用し授業を進めていく。なお、1クラス当たりの履修上限は原則40名とする。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
「柔道Ⅰ」では、受講者が柔道の基本動作や基礎技術を実際に体験しながら学ぶ体験学習を通じて、能動的に学修に関わる構成となっている。また、安全管理や指導法についても実践的に学ぶことで、知識の理解にとどまらず、問題発見や判断力の育成も図られており、アクティブラーニングの要素が含まれている。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：参考書を用いて事前に柔道の技の仕組みを理解する。（1時間程度）復習：柔道大会等を積極的に観戦しレポートを作成する。（30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度（学習意欲含む）　70%、実技試験　30%

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	1. 基礎知識	柔道の歴史、柔道衣の名称、柔道衣の着方と帯の色
2	2〜3. 基本動作	礼法（立礼・座礼）、柔道の姿勢（自然体・自護体）、組み方崩し（八方崩し）、歩き方、体さばき、後ろ受け身・横受け身・前回り受け身、方ひざをついての前回り受け身→立ち姿勢からの前回り受け身、前受け身、技の分類
3	4. 大腰、送り足払い	大腰、移動しながらの大腰、送り足払い、足払いの一人練習、送り足払いの約束練習
4	5. 大腰（横移動）、払い腰	体さばきの一人練習、大腰（横移動）の約束練習、払い腰、払い腰の約束練習
5	6. 体落し、けさ固め	体落し、横移動の体落し、後退しながらの体落し、約束乱取り、けさ固め、崩れけさ固め、肩固め、けさ固め・肩固めの入り方、約束抑え込み
6	7. 上四方固め、横四方固め、たて四方固め	上四方固め、崩れ上四方固め、横四方固め、崩れ横四方固め、たて四方固め、崩れたて四方固め、約束抑え込み
7	8〜9. 固め技（攻撃の仕方）	四つんばいの相手の攻め方、腹ばいの相手の攻め方、四つんばいの相手の返し方の研究発表、約束抑え込み、乱取り（自由練習）
8	10. 小内刈り、支え釣り込み足、ひざ車	小内刈り、相手の動きに合わせた小内刈り、支え釣り込み足、相手を崩しての支え釣り込み足、ひざ車、相手を崩してのひざ車
9	11. 固め技の復習	今まで練習した固め技すべてを復習
10	12. 投げ技の復習	今まで練習した投げ技すべてを復習
11	13. 安全なルールに基づいた乱取り	固め技・投げ技の乱取り（自由練習）

12	14. まとめ	乱取りの反省と技の研究、総括
13		
14		
15		
16		

科目コード	40107				区　分	コア科目			
授業科目名	柔道Ⅰ(基礎) [PP・PS男子用]				担当者名	矢野　智彦			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
日本が発祥の地である柔道は、オリンピックの正式種目に採用されて以来、世界の柔道として発展・拡大してきた。柔道の技術は投げ技、固め技から構成されている。これらの技術を習得・向上させるためには、柔道の基本動作、基礎技術をしっかりと身に付けることが大切である。本授業においては柔道の基本的動作と基礎技術を身につけると同時に、柔道指導における安全性や管理方法についても理解を深めることを目的とする。これらを通じて、『教育と体育の融合』を具現化するべく、「柔道」を実践することで他者との協調性や仲間と活動する際のコミュニ

＜授業の到達目標＞
礼儀正しい態度で関心を持って学ぶことができる礼法などの伝統的な行動の仕方を身に付けている柔道の歴史や特性、礼法の重要性を理解しているいくつかの基本となる技を身に付けている

＜授業の方法＞
実技を中心に展開していくが、必要に応じてビデオや資料等の教材を活用し授業を進めていく。なお、1クラス当たりの履修上限は原則40名とする。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
100分授業への変更に伴い、発表機会を拡充したアクティブラーニングを展開する。ペアワーク： 技の動きを相互に分析・指摘し、技術の精度を高める。グループディスカッション： 実践を振り返り、改善点を言語化する。ケーススタディ： 課題に対する解決策を論理的に導き出す。成果発表： 導き出した解決策を実技や口頭で発表し、クラス全体で共有・評価を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：参考書を用いて事前に柔道の技の仕組みを理解する。（1時間程度）復習：柔道大会等を積極的に観戦しレポートを作成する。（30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度（学習意欲含む）　70%、実技試験　30%

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	1. 基礎知識	柔道の歴史、柔道衣の名称、柔道衣の着方と帯の色
2	2〜3. 基本動作	礼法（立礼・座礼）、柔道の姿勢（自然体・自護体）、組み方崩し（八方崩し）、歩き方、体さばき、後ろ受け身・横受け身・前回り受け身、方ひざをついての前回り受け身→立ち姿勢からの前回り受け身、前受け身、技の分類
3	4. 大腰、送り足払い	大腰、移動しながらの大腰、送り足払い、足払いの一人練習、送り足払いの約束練習
4	5. 大腰（横移動）、払い腰	体さばきの一人練習、大腰（横移動）の約束練習、払い腰、払い腰の約束練習
5	6. 体落し、けさ固め	体落し、横移動の体落し、後退しながらの体落し、約束乱取り、けさ固め、崩れけさ固め、肩固め、けさ固め・肩固めの入り方、約束抑え込み
6	7. 上四方固め、横四方固め、たて四方固め	上四方固め、崩れ上四方固め、横四方固め、崩れ横四方固め、たて四方固め、崩れたて四方固め、約束抑え込み
7	8〜9. 固め技（攻撃の仕方）	四つんばいの相手の攻め方、腹ばいの相手の攻め方、四つんばいの相手の返し方の研究発表、約束抑え込み、乱取り（自由練習）
8	10. 小内刈り、支え釣り込み足、ひざ車	小内刈り、相手の動きに合わせた小内刈り、支え釣り込み足、相手を崩しての支え釣り込み足、ひざ車、相手を崩してのひざ車
9	11. 固め技の復習	今まで練習した固め技すべてを復習
10	12. 投げ技の復習	今まで練習した投げ技すべてを復習

11	13.乱取り	固め技・投げ技の乱取り（自由練習）
12	14.まとめ	乱取りの反省と技の研究、総括
13		
14		
15		
16		

科目コード	40107				区　分	コア科目			
授業科目名	柔道Ⅰ(基礎) [PP・PS男子用]				担当者名	矢野　智彦			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
日本が発祥の地である柔道は、オリンピックの正式種目に採用されて以来、世界の柔道として発展・拡大してきた。柔道の技術は投げ技、固め技から構成されている。これらの技術を習得・向上させるためには、柔道の基本動作、基礎技術をしっかりと身に付けることが大切である。本授業においては柔道の基本的動作と基礎技術を身につけると同時に、柔道指導における安全性や管理方法についても理解を深めることを目的とする。これらを通じて、『教育と体育の融合』を具現化するべく、「柔道」を実践することで他者との協調性や仲間と活動する際のコミュニ

＜授業の到達目標＞
礼儀正しい態度で関心を持って学ぶことができる礼法などの伝統的な行動の仕方を身に付けている柔道の歴史や特性、礼法の重要性を理解しているいくつかの基本となる技を身に付けている

＜授業の方法＞
実技を中心に展開していくが、必要に応じてビデオや資料等の教材を活用し授業を進めていく。なお、1クラス当たりの履修上限は原則40名とする。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
100分授業への変更に伴い、発表機会を拡充したアクティブラーニングを展開する。ペアワーク： 技の動きを相互に分析・指摘し、技術の精度を高める。グループディスカッション： 実践を振り返り、改善点を言語化する。ケーススタディ： 課題に対する解決策を論理的に導き出す。成果発表： 導き出した解決策を実技や口頭で発表し、クラス全体で共有・評価を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：参考書を用いて事前に柔道の技の仕組みを理解する。（1時間程度）復習：柔道大会等を積極的に観戦しレポートを作成する。（30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度（学習意欲含む）　70%、実技試験　30%

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	1. 基礎知識	柔道の歴史、柔道衣の名称、柔道衣の着方と帯の色
2	2〜3. 基本動作	礼法（立礼・座礼）、柔道の姿勢（自然体・自護体）、組み方崩し（八方崩し）、歩き方、体さばき、後ろ受け身・横受け身・前回り受け身、方ひざをついての前回り受け身→立ち姿勢からの前回り受け身、前受け身、技の分類
3	4. 大腰、送り足払い	大腰、移動しながらの大腰、送り足払い、足払いの一人練習、送り足払いの約束練習
4	5. 大腰（横移動）、払い腰	体さばきの一人練習、大腰（横移動）の約束練習、払い腰、払い腰の約束練習
5	6. 体落し、けさ固め	体落し、横移動の体落し、後退しながらの体落し、約束乱取り、けさ固め、崩れけさ固め、肩固め、けさ固め・肩固めの入り方、約束抑え込み
6	7. 上四方固め、横四方固め、たて四方固め	上四方固め、崩れ上四方固め、横四方固め、崩れ横四方固め、たて四方固め、崩れたて四方固め、約束抑え込み
7	8〜9. 固め技（攻撃の仕方）	四つんばいの相手の攻め方、腹ばいの相手の攻め方、四つんばいの相手の返し方の研究発表、約束抑え込み、乱取り（自由練習）
8	10. 小内刈り、支え釣り込み足、ひざ車	小内刈り、相手の動きに合わせた小内刈り、支え釣り込み足、相手を崩しての支え釣り込み足、ひざ車、相手を崩してのひざ車
9	11. 固め技の復習	今まで練習した固め技すべてを復習
10	12. 投げ技の復習	今まで練習した投げ技すべてを復習

11	13.乱取り	固め技・投げ技の乱取り（自由練習）
12	14.まとめ	乱取りの反省と技の研究、総括
13		
14		
15		
16		

科目コード	40107				区　分	コア科目			
授業科目名	柔道Ⅰ(基礎) [PP・PS男子用]				担当者名	矢野　智彦			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
日本が発祥の地である柔道は、オリンピックの正式種目に採用されて以来、世界の柔道として発展・拡大してきた。柔道の技術は投げ技、固め技から構成されている。これらの技術を習得・向上させるためには、柔道の基本動作、基礎技術をしっかりと身に付けることが大切である。本授業においては柔道の基本的動作と基礎技術を身につけると同時に、柔道指導における安全性や管理方法についても理解を深めることを目的とする。これらを通じて、『教育と体育の融合』を具現化するべく、「柔道」を実践することで他者との協調性や仲間と活動する際のコミュニ

＜授業の到達目標＞
礼儀正しい態度で関心を持って学ぶことができる礼法などの伝統的な行動の仕方を身に付けている柔道の歴史や特性、礼法の重要性を理解しているいくつかの基本となる技を身に付けている

＜授業の方法＞
実技を中心に展開していくが、必要に応じてビデオや資料等の教材を活用し授業を進めていく。なお、1クラス当たりの履修上限は原則40名とする。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
100分授業への変更に伴い、発表機会を拡充したアクティブラーニングを展開する。ペアワーク： 技の動きを相互に分析・指摘し、技術の精度を高める。グループディスカッション： 実践を振り返り、改善点を言語化する。ケーススタディ： 課題に対する解決策を論理的に導き出す。成果発表： 導き出した解決策を実技や口頭で発表し、クラス全体で共有・評価を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：参考書を用いて事前に柔道の技の仕組みを理解する。（1時間程度）復習：柔道大会等を積極的に観戦しレポートを作成する。（30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度（学習意欲含む）　70%、実技試験　30%

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	1. 基礎知識	柔道の歴史、柔道衣の名称、柔道衣の着方と帯の色
2	2〜3. 基本動作	礼法（立礼・座礼）、柔道の姿勢（自然体・自護体）、組み方崩し（八方崩し）、歩き方、体さばき、後ろ受け身・横受け身・前回り受け身、方ひざをついての前回り受け身→立ち姿勢からの前回り受け身、前受け身、技の分類
3	4. 大腰、送り足払い	大腰、移動しながらの大腰、送り足払い、足払いの一人練習、送り足払いの約束練習
4	5. 大腰（横移動）、払い腰	体さばきの一人練習、大腰（横移動）の約束練習、払い腰、払い腰の約束練習
5	6. 体落し、けさ固め	体落し、横移動の体落し、後退しながらの体落し、約束乱取り、けさ固め、崩れけさ固め、肩固め、けさ固め・肩固めの入り方、約束抑え込み
6	7. 上四方固め、横四方固め、たて四方固め	上四方固め、崩れ上四方固め、横四方固め、崩れ横四方固め、たて四方固め、崩れたて四方固め、約束抑え込み
7	8〜9. 固め技（攻撃の仕方）	四つんばいの相手の攻め方、腹ばいの相手の攻め方、四つんばいの相手の返し方の研究発表、約束抑え込み、乱取り（自由練習）
8	10. 小内刈り、支え釣り込み足、ひざ車	小内刈り、相手の動きに合わせた小内刈り、支え釣り込み足、相手を崩しての支え釣り込み足、ひざ車、相手を崩してのひざ車
9	11. 固め技の復習	今まで練習した固め技すべてを復習
10	12. 投げ技の復習	今まで練習した投げ技すべてを復習

11	13.乱取り	固め技・投げ技の乱取り（自由練習）
12	14.まとめ	乱取りの反省と技の研究、総括
13		
14		
15		
16		

科目コード	40107				区　分	コア科目			
授業科目名	柔道Ⅰ(基礎)[次世代女子・PP女子・PS女子用]				担当者名	片桐　夏海			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
日本が発祥の地である柔道は、オリンピックの正式種目に採用されて以来、世界の柔道として発展・拡大してきた。柔道の技術は投げ技、固め技から構成されている。これらの技術を習得・向上させるためには、柔道の基本動作、基礎技術をしっかりと身に付けることが大切である。本授業においては柔道の基本的動作と基礎技術を身につけると同時に、柔道指導における安全性や管理方法についても理解を深めることを目的とする。

＜授業の到達目標＞
1）礼儀正しい態度で関心を持って学ぶことができ、礼法などの伝統的な行動の仕方を身に付けている。2）柔道の歴史や特性、礼法の重要性を理解し、いくつかの基本となる技を身に付けている。

＜授業の方法＞
実技を中心に展開していくが、必要に応じてビデオや資料等の教材を活用し授業を進めていく。なお、1クラス当たりの履修上限は原則40名とする。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
「柔道Ⅰ」では、受講者が柔道の基本動作や基礎技術を実際に体験しながら学ぶ体験学習を通じて、能動的に学修に関わる構成となっている。また、安全管理や指導法についても実践的に学ぶことで、知識の理解にとどまらず、問題発見や判断力の育成も図られており、アクティブラーニングの要素が含まれている。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：参考書を用いて事前に柔道の技の仕組みを理解する。（1時間程度）復習：柔道大会等を積極的に観戦しレポートを作成する。（30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度（学習意欲含む）　70%、実技試験　30%

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	1. 基礎知識	柔道の歴史、柔道衣の名称、柔道衣の着方と帯の色
2	2〜3. 基本動作	礼法（立礼・座礼）、柔道の姿勢（自然体・自護体）、組み方崩し（八方崩し）、歩き方、体さばき、後ろ受け身・横受け身・前回り受け身、方ひざをついての前回り受け身→立ち姿勢からの前回り受け身、前受け身、技の分類
3	4. 大腰、送り足払い	大腰、移動しながらの大腰、送り足払い、足払いの一人練習、送り足払いの約束練習
4	5. 大腰（横移動）、払い腰	体さばきの一人練習、大腰（横移動）の約束練習、払い腰、払い腰の約束練習
5	6. 体落し、けさ固め	体落し、横移動の体落し、後退しながらの体落し、約束乱取り、けさ固め、崩れけさ固め、肩固め、けさ固め・肩固めの入り方、約束抑え込み
6	7. 上四方固め、横四方固め、たて四方固め	上四方固め、崩れ上四方固め、横四方固め、崩れ横四方固め、たて四方固め、崩れたて四方固め、約束抑え込み
7	8〜9. 固め技（攻撃の仕方）	四つんばいの相手の攻め方、腹ばいの相手の攻め方、四つんばいの相手の返し方の研究発表、約束抑え込み、乱取り（自由練習）
8	10. 小内刈り、支え釣り込み足、ひざ車	小内刈り、相手の動きに合わせた小内刈り、支え釣り込み足、相手を崩しての支え釣り込み足、ひざ車、相手を崩してのひざ車
9	11. 固め技の復習	今まで練習した固め技すべてを復習
10	12. 投げ技の復習	今まで練習した投げ技すべてを復習
11	13. 安全なルールに基づいた実践練習	固め技・投げ技の乱取り（自由練習）

12	14. まとめ	乱取りの反省と技の研究、総括
13		
14		
15		
16		

科目コード	40107				区　分	コア科目			
授業科目名	柔道Ⅰ(基礎)[次世代男子用]				担当者名	矢野　智彦			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
日本が発祥の地である柔道は、オリンピックの正式種目に採用されて以来、世界の柔道として発展・拡大してきた。柔道の技術は投げ技、固め技から構成されている。これらの技術を習得・向上させるためには、柔道の基本動作、基礎技術をしっかりと身に付けることが大切である。本授業においては柔道の基本的動作と基礎技術を身につけると同時に、柔道指導における安全性や管理方法についても理解を深めることを目的とする。これらを通じて、『教育と体育の融合』を具現化するべく、「柔道」を実践することで他者との協調性や仲間と活動する際のコミュニ

＜授業の到達目標＞
礼儀正しい態度で関心を持って学ぶことができる礼法などの伝統的な行動の仕方を身に付けている柔道の歴史や特性、礼法の重要性を理解しているいくつかの基本となる技を身に付けている

＜授業の方法＞
実技を中心に展開していくが、必要に応じてビデオや資料等の教材を活用し授業を進めていく。なお、1クラス当たりの履修上限は原則40名とする。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
100分授業への変更に伴い、発表機会を拡充したアクティブラーニングを展開する。ペアワーク： 技の動きを相互に分析・指摘し、技術の精度を高める。グループディスカッション： 実践を振り返り、改善点を言語化する。ケーススタディ： 課題に対する解決策を論理的に導き出す。成果発表： 導き出した解決策を実技や口頭で発表し、クラス全体で共有・評価を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：参考書を用いて事前に柔道の技の仕組みを理解する。（1時間程度）復習：柔道大会等を積極的に観戦しレポートを作成する。（30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度（学習意欲含む）　70%、実技試験　30%

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	1.基礎知識	柔道の歴史、柔道衣の名称、柔道衣の着方と帯の色
2	2～3.基本動作	礼法（立礼・座礼）、柔道の姿勢（自然体・自護体）、組み方崩し（八方崩し）、歩き方、体さばき、後ろ受け身・横受け身・前回り受け身、方ひざをついての前回り受け身→立ち姿勢からの前回り受け身、前受け身、技の分類
3	4.大腰、送り足払い	大腰、移動しながらの大腰、送り足払い、足払いの一人練習、送り足払いの約束練習
4	5.大腰（横移動）、払い腰	体さばきの一人練習、大腰（横移動）の約束練習、払い腰、払い腰の約束練習
5	6.体落し、けさ固め	体落し、横移動の体落し、後退しながらの体落し、約束乱取り、けさ固め、崩れけさ固め、肩固め、けさ固め・肩固めの入り方、約束抑え込み
6	7.上四方固め、横四方固め、たて四方固め	上四方固め、崩れ上四方固め、横四方固め、崩れ横四方固め、たて四方固め、崩れたて四方固め、約束抑え込み
7	8～9.固め技（攻撃の仕方）	四つんばいの相手の攻め方、腹ばいの相手の攻め方、四つんばいの相手の返し方の研究発表、約束抑え込み、乱取り（自由練習）
8	10.小内刈り、支え釣り込み足、ひざ車	小内刈り、相手の動きに合わせた小内刈り、支え釣り込み足、相手を崩しての支え釣り込み足、ひざ車、相手を崩してのひざ車
9	11.固め技の復習	今まで練習した固め技すべてを復習
10	12.投げ技の復習	今まで練習した投げ技すべてを復習

11	13.乱取り	固め技・投げ技の乱取り（自由練習）
12	14.まとめ	乱取りの反省と技の研究、総括
13		
14		
15		
16		

科目コード	40108				区　分	コア科目			
授業科目名	剣道Ⅰ(基礎)				担当者名	堀川　峻			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択必修

＜授業の概要＞
日本の伝統文化である剣道は、「剣の理法の修練による人間形成」を目的としており、その理念は今や日本のみならず、世界中で愛好者を増やし続けている。本授業では、剣道の基礎的な技能や礼法を身につけると共に、日本独自の身体文化としての伝統性について実践を通して理解を深めること、剣道を指導する際の留意点や安全性について理解することを目的とする。本授業においては、（１）服装・用具の確認（２）授業前の体調確認・準備運動（３）指導内容の遵守（４）安全な間合い・動作の確保等を徹底することで安全に配慮し、事故や怪我の発生時には

＜授業の到達目標＞
平成24年度完全実施の中学校学習指導要領では、武道（剣道、柔道、相撲）が必修化され、中学校保健体育科教員になった際に武道専門家でなくとも武道の授業を担当しなければならない。この授業を通して剣道の基礎・ 基本・応用技能・剣道理念を身につけ、教育現場において剣道授業を実施できるようになることを目標とする。

＜授業の方法＞
講義・実技・ディスカッション剣道実技を中心に行っていくが、剣道の理念や歴史等を学習する時間も設けるClassroomを使用する

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション）グループに分かれ授業内においての指導方法をディスカッションする

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習(授業前)として、中学校・高等学校学習指導要領（保健体育編）武道の部分、剣道指導要領を熟読すること(1時間程度)。また、事後学習(授業後)としては、授業で学んだ動作を振り返り、自身の課題や改善点を整理すること。さらに次回の授業に向けた目標を設定してくること(1時間程度)。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度 50%、実技試験 50%

＜教科書＞

＜参考書＞
全日本剣道連盟　全日本剣道連盟編「剣道指導要領」

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	本授業の内容説明	本授業の留意点や受講における心構えについて学習する。
2	剣道着袴採寸と剣道理念についての学び	剣道着・袴の採寸と剣道理念・歴史の学習を行う。
3	剣道着・袴の着用方法、竹刀について	剣道着・袴の着装方法、竹刀の規格・手入れ方法と安全管理について
4	剣道の礼法と足捌き、構えについて	姿勢（自然体）、礼の仕方（立礼・座礼）、正座の仕方（座り方ついて）を歴史の背景も理解しながら実践する。足捌き、剣道の構えについて学習する。正しい構え方をした上で適正な足の置き場の確認と送り足動作の実践を行う。
5	基本動作について(素振りと立ち合いにおける礼法)	竹刀の持ち方を学び、刃筋正しく竹刀を振る方法の実践を行う。主に正面素振り・左右面素振り・早素振りなどを行う。立ち合いにおける礼法を学習する。
6	剣道防具の着用方法と片付け	防具の使用方法について説明し、正しく防具を着用し片付けられるようにする。防具の置き方や面・小手・胴・垂・面タオルの着用方法の学習と相手に打突をする方法の実践を行う。
7	基本動作について（竹刀への打突）	2人1組や3人1組を作り、相手が竹刀で受けている所への打突を行い、手の内の使い方など打突動作を学習する。
8	基本稽古（仕掛け技）	防具を着用した相手に対して打突を行う基本稽古の仕掛け技を学習する。
9	基本稽古（切り返し）	剣道において基本的な稽古方法の「切り返し」の実践。
10	基本稽古（応じ技）	相手の打突に対応する応じ技の実践。
11	基本稽古（引き技）	鍔迫り合いの説明と鍔迫り合いからの引き技の実践。
12	基本稽古まとめと互角稽古	これまでの学習内容の振り返りとこれまで学習した技を用いた相手との実践稽古を行う。

13	実技確認試験	礼法、素振り、基本技（仕掛け技・応じ技・引き技）の確認実技テストを行う。
14	授業のまとめと試合（団体戦における戦い方の学習）	授業のまとめ学習と5人制における団体試合（人数に応じて3人～7人制）の実践。
15		
16		

科目コード	40108				区　分	コア科目			
授業科目名	剣道Ⅰ(基礎)[2年生以上男子用]				担当者名	堀川　峻			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択必修

＜授業の概要＞
日本の伝統文化である剣道は、「剣の理法の修練による人間形成」を目的としており、その理念は今や日本のみならず、世界中で愛好者を増やし続けている。本授業では、剣道の基礎的な技能や礼法を身につけると共に、日本独自の身体文化としての伝統性について実践を通して理解を深めること､剣道を指導する際の留意点や安全性について理解することを目的とする｡本授業においては､(１)服装・用具の確認（２）授業前の体調確認・準備運動（３）指導内容の遵守（４）安全な間合い・動作の確保等を徹底することで安全に配慮し、事故や怪我の発生時には

＜授業の到達目標＞
平成24年度完全実施の中学校学習指導要領では、武道（剣道、柔道、相撲）が必修化され、中学校保健体育科教員になった際に武道専門家でなくとも武道の授業を担当しなければならない。この授業を通して剣道の基礎・ 基本・応用技能・剣道理念を身につけ、教育現場において剣道授業を実施できるようになることを目標とする。

＜授業の方法＞
講義・実技・ディスカッション剣道実技を中心に行っていくが、剣道の理念や歴史等を学習する時間も設けるClassroomを使用する

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション）グループに分かれ授業内においての指導方法をディスカッションする

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習(授業前)として、中学校・高等学校学習指導要領（保健体育編）武道の部分、剣道指導要領を熟読すること(1時間程度)。また、事後学習(授業後)としては、授業で学んだ動作を振り返り、自身の課題や改善点を整理すること。さらに次回の授業に向けた目標を設定してくること(1時間程度)。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度 50%、実技試験 50%

＜教科書＞

＜参考書＞
全日本剣道連盟　全日本剣道連盟編「剣道指導要領」

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	本授業の内容説明	本授業の留意点や受講における心構えについて学習する。
2	剣道着袴採寸と剣道理念についての学び	剣道着・袴の採寸と剣道理念・歴史の学習を行う。
3	剣道着・袴の着用方法、竹刀について	剣道着・袴の着装方法、竹刀の規格・手入れ方法と安全管理について
4	剣道の礼法と足捌き、構えについて	姿勢（自然体）、礼の仕方（立礼・座礼）、正座の仕方（座り方ついて）を歴史の背景も理解しながら実践する。足捌き、剣道の構えについて学習する。正しい構え方をした上で適正な足の置き場の確認と送り足動作の実践を行う。
5	基本動作について(素振りと立ち合いにおける礼法)	竹刀の持ち方を学び、刃筋正しく竹刀を振る方法の実践を行う。主に正面素振り・左右面素振り・早素振りなどを行う。立ち合いにおける礼法を学習する。
6	剣道防具の着用方法と片付け	防具の使用方法について説明し、正しく防具を着用し片付けられるようにする。防具の置き方や面・小手・胴・垂・面タオルの着用方法の学習と相手に打突をする方法の実践を行う。
7	基本動作について（竹刀への打突）	2人1組や3人1組を作り、相手が竹刀で受けている所への打突を行い、手の内の使い方など打突動作を学習する。
8	基本稽古（仕掛け技）	防具を着用した相手に対して打突を行う基本稽古の仕掛け技を学習する。
9	基本稽古（切り返し）	剣道において基本的な稽古方法の「切り返し」の実践。
10	基本稽古（応じ技）	相手の打突に対応する応じ技の実践。
11	基本稽古（引き技）	鍔迫り合いの説明と鍔迫り合いからの引き技の実践。
12	基本稽古まとめと互角稽古	これまでの学習内容の振り返りとこれまで学習した技を用いた相手との実践稽古を

		行う。
13	実技確認試験	礼法、素振り、基本技（仕掛け技・応じ技・引き技）の確認実技テストを行う。
14	授業のまとめと試合(団体戦における戦い方の学習)	授業のまとめ学習と5人制における団体試合（人数に応じて3人～7人制）の実践。
15		
16		

科目コード	40108				区　分	コア科目			
授業科目名	剣道Ⅰ(基礎)[PP1年生男子用]				担当者名	堀川　峻			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択必修

＜授業の概要＞
日本の伝統文化である剣道は、「剣の理法の修練による人間形成」を目的としており、その理念は今や日本のみならず、世界中で愛好者を増やし続けている。本授業では、剣道の基礎的な技能や礼法を身につけると共に、日本独自の身体文化としての伝統性について実践を通して理解を深めること、剣道を指導する際の留意点や安全性について理解することを目的とする。本授業においては、(１)服装・用具の確認（２）授業前の体調確認・準備運動（３）指導内容の遵守（４）安全な間合い・動作の確保等を徹底することで安全に配慮し、事故や怪我の発生時には

＜授業の到達目標＞
平成24年度完全実施の中学校学習指導要領では、武道（剣道、柔道、相撲）が必修化され、中学校保健体育科教員になった際に武道専門家でなくとも武道の授業を担当しなければならない。この授業を通して剣道の基礎・ 基本・応用技能・剣道理念を身につけ、教育現場において剣道授業を実施できるようになる。

＜授業の方法＞
講義・実技・ディスカッション剣道実技を中心に行っていくが、剣道の理念や歴史等を学習する時間も設けるClassroomを使用する

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション）グループに分かれ授業内においての指導方法をディスカッションする

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習(授業前)として、中学校・高等学校学習指導要領（保健体育編）武道の部分、剣道指導要領を熟読すること(1時間程度)。また、事後学習(授業後)としては、授業で学んだ動作を振り返り、自身の課題や改善点を整理すること。さらに次回の授業に向けた目標を設定してくること(1時間程度)。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度 50%、実技試験 50%

＜教科書＞

＜参考書＞
全日本剣道連盟　全日本剣道連盟編「剣道指導要領」

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	本授業の内容説明	本授業の留意点や受講における心構えについて学習する。
2	剣道着袴採寸と剣道理念についての学び	剣道着・袴の採寸と剣道理念・歴史の学習を行う。
3	剣道着・袴の着用方法、竹刀について	剣道着・袴の着装方法、竹刀の規格・手入れ方法と安全管理について
4	剣道の礼法と足捌き、構えについて	姿勢（自然体）、礼の仕方（立礼・座礼）、正座の仕方（座り方ついて）を歴史の背景も理解しながら実践する。足捌き、剣道の構えについて学習する。正しい構え方をした上で適正な足の置き場の確認と送り足動作の実践を行う。
5	基本動作について(素振りと立ち合いにおける礼法)	竹刀の持ち方を学び、刃筋正しく竹刀を振る方法の実践を行う。主に正面素振り・左右面素振り・早素振りなどを行う。立ち合いにおける礼法を学習する。
6	剣道防具の着用方法と片付け	防具の使用方法について説明し、正しく防具を着用し片付けられるようにする。防具の置き方や面・小手・胴・垂・面タオルの着用方法の学習と相手に打突をする方法の実践を行う。
7	基本動作について（竹刀への打突）	2人1組や3人1組を作り、相手が竹刀で受けている所への打突を行い、手の内の使い方など打突動作を学習する。
8	基本稽古（仕掛け技）	防具を着用した相手に対して打突を行う基本稽古の仕掛け技を学習する。
9	基本稽古（切り返し）	剣道において基本的な稽古方法の「切り返し」の実践。
10	基本稽古（応じ技）	相手の打突に対応する応じ技の実践。
11	基本稽古（引き技）	鍔迫り合いの説明と鍔迫り合いからの引き技の実践。
12	基本稽古まとめと互角稽古	これまでの学習内容の振り返りとこれまで学習した技を用いた相手との実践稽古を

		行う。
13	実技確認試験	礼法、素振り、基本技（仕掛け技・応じ技・引き技）の確認実技テストを行う。
14	授業のまとめと試合(団体戦における戦い方の学習)	授業のまとめ学習と5人制における団体試合（人数に応じて3人～7人制）の実践。
15		
16		

科目コード	40112				区　分	コア科目			
授業科目名	水泳Ⅰ(基礎) [PH用]				担当者名	古山　喜一			
配当年次	1年	配当学期	集中	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
水泳・水中運動は陸上運動とは違い、水という特殊な環境下において行われる運動である。また、水は衝撃を吸収するクッション効果を持つ反面､水中運動時には粘性抵抗として働き､水中運動を陸上運動に比べて効率の悪いものにするという側面を持つ｡そこで、本実習においては、水中での身体の変化、水の特性、および、水泳の基礎的な理論を十分に理解する。※本授業は外部施設（安全スイミングスクール）で実施する。【体調管理と入水制限】・健康診断の受診： 当該年度の大学健康診断を必ず受診していること。心疾患や耳鼻科疾患、てんかん等の既往

＜授業の到達目標＞
水泳は生涯にわたって行えるスポーツという側面を持つ。本実習では、水中でリラックスできる呼吸法を学習の中核として捉え、4泳法（クロール、平泳ぎ、バタフライ、背泳） を含んだ水中での運動能力を高めることを目標にする。また、水泳・水中運動の指導方法を理解し、授業の指導案を作成できるようになることも目指す。

＜授業の方法＞
個人の記録を毎回記入し、距離や時間を媒介として、身体と水との関係について認識を深めていく。理論学習では必要に応じて教室での座学やオンデマンド学習を取り入れる。また実習費（施設使用料）として15,000～25,000円程度の予定である。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
水中運動に関する理論学習を予習として1.5時間程度。復習として、その日に行った実技内容に注意点や感想などを追記したまとめレポートを作成する1.5時間程度。また、授業内で習得が難しかった泳法については積極的に自主練習を行うことを推奨する。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
出席・態度（20%）、実技テスト（40%）、毎回の課題（20%）、最終課題（20%）で評価する。

＜教科書＞

＜参考書＞
日本水泳連盟　編「新水泳指導教本」　大修館書店

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション、水泳理論	授業の概要および水泳理論について座学で学ぶ
2	泳力チェック	授業開始時の泳力についてテストする。
3	クルール①	クロールの基礎的指導を体験する。
4	クロール②	クロールの基礎的指導を体験する。
5	クロール③	クロールの基礎的指導を体験する。
6	平泳ぎ①	平泳ぎの基礎的指導を体験する。
7	平泳ぎ②	平泳ぎの基礎的指導を体験する。
8	平泳ぎ③	平泳ぎの基礎的指導を体験する。
9	フィンスイミング	フィンスイミングの基礎について学習する。
10	泳力テスト	クロールおよび平泳ぎの泳力の改善度をテストする。
11	水中運動・アクアビクス①	水中ウォーキングやアクアビクスを通して水中運動の意義・効果を学習する。
12	水中運動・アクアビクス②	水中ウォーキングやアクアビクスを通して水中運動の意義・効果を学習する。
13	水中運動・アクアビクス③	水中ウォーキングやアクアビクスを通して水中運動の意義・効果を学習する。
14	水中運動・アクアビクス④　まとめ	水中ウォーキングやアクアビクスの模擬授業を行う。本講義で学んだことのまとめを行う。
15		
16		

科目コード	40112				区　分	コア科目			
授業科目名	水泳Ⅰ(基礎)[PP用]				担当者名	久田　孝／小﨑　遼介			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

水泳・水中運動は陸上運動とは違い、水という特殊な環境下において行われる運動である。また、水 は衝撃を吸収するクッション効果を持つ反面、水中運動時には粘性抵抗として働き、水中運動を陸上運動に比べて効率の悪いものにするという側面を持つ。そこで、本実習においては、水中での身体の変化、水の特性、および、水泳の基礎的な理論を十分に理解する。※1：本授業は外部施設（安全スイミングスクール）で実施するため、大学からスクールバスで移動する。※2：施設の都合上、履修人数は45名を上限とする。

＜授業の到達目標＞

水泳は生涯にわたって行えるスポーツという側面を持つ。本実習では、水中でリラックスできる呼吸法を学習の中核として捉え、4泳法（クロール、平泳ぎ、バタフライ、背泳） を含んだ水中での運動能力を高めることを目標にする。また、基礎的な指導方法を理解し、水泳・水中運動授業の指導案を作成できるようになることも目指す。

＜授業の方法＞

個人の記録を毎回記入し、距離や時間を媒介として、身体と水との関係について認識を深めていく。理論学習では必要に応じてオンデマンド授業を取り入れる。また実習費として12,000円程度の予定である。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

水中運動に関する理論学習を予習として1時間程度。復習として、その日に行った実技内容に注意点や感想などを追記したまとめレポートを作成する。また、授業内で習得が難しかった泳法については積極的に自主練習を行うことを推奨する。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

体力の改善度：20%（実技への出席数で評価）、泳技術の改善度：40%（泳力テストで評価）、水泳理論の理解度：20%（毎回の課題で評価）、水泳指導の理解度：20%（最終レポートで評価）

＜教科書＞

＜参考書＞

日本水泳連盟　編「新水泳指導教本」　大修館書店

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	水泳授業について概要を学ぶ（泳力の確認も含む）
2	安全管理・安全指導	安全と安心の水泳授業について
3	水泳理論①	水泳の基礎（重力・浮力・抵抗力・推進力について）
4	水泳理論②	水泳の応用から発展
5	クロール①	泳法の理解と指導法
6	クロール②	泳法の理解から基礎的指導法をマスターする
7	背泳①	泳法の理解と指導法
8	背泳②	泳法の理解から基礎的指導法をマスターする
9	平泳ぎ①	泳法の理解と指導法
10	平泳ぎ②	泳法の理解から基礎的指導法をマスターする
11	バタフライ①	泳法の理解と指導法
12	バタフライ②	泳法の理解から基礎的指導法をマスターする
13	水中運動	生涯スポーツにおける水泳を体得
14	まとめ	指導における試験　バディー同士にて指導の確認
15		
16		

科目コード	40112				区　分	コア科目		
授業科目名	水泳Ⅰ(基礎)[他学科用]				担当者名	久田　孝／中安　翼／小﨑　遼介		
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

水泳・水中運動は陸上運動とは違い、水という特殊な環境下において行われる運動である。また、水 は衝撃を吸収するクッション効果を持つ反面、水中運動時には粘性抵抗として働き、水中運動を陸上運動に比べて効率の悪いものにするという側面を持つ。そこで、本実習においては、水中での身体の変化、水の特性、および、水泳の基礎的な理論を十分に理解する。※1：本授業は外部施設（安全スイミングスクール）で実施するため、大学からスクールバスで移動する。※2：施設の都合上、履修人数は45名を上限とする。

＜授業の到達目標＞

水泳は生涯にわたって行えるスポーツという側面を持つ。本実習では、水中でリラックスできる呼吸法を学習の中核として捉え、4泳法（クロール、平泳ぎ、バタフライ、背泳） を含んだ水中での運動能力を高めることを目標にする。また、基礎的な指導方法を理解し、水泳・水中運動授業の指導案を作成できるようになることも目指す。

＜授業の方法＞

個人の記録を毎回記入し、距離や時間を媒介として、身体と水との関係について認識を深めていく。理論学習では必要に応じてオンデマンド授業を取り入れる。また実習費として12,000円程度の予定である。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

水中運動に関する理論学習を予習として1時間程度。復習として、その日に行った実技内容に注意点や感想などを追記したまとめレポートを作成する。また、授業内で習得が難しかった泳法については積極的に自主練習を行うことを推奨する。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

体力の改善度：20%（実技への出席数で評価）、泳技術の改善度：40%（泳力テストで評価）、水泳理論の理解度：20%（毎回の課題で評価）、水泳指導の理解度：20%（最終レポートで評価）

＜教科書＞

＜参考書＞

日本水泳連盟　編「新水泳指導教本」　大修館書店

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	水泳授業について概要を学ぶ（泳力の確認も含む）
2	安全管理・安全指導	安全と安心の水泳授業について
3	水泳理論①	水泳の基礎（重力・浮力・抵抗力・推進力について）
4	水泳理論②	水泳の応用から発展
5	クロール①	泳法の理解と指導法
6	クロール②	泳法の理解から基礎的指導法をマスターする
7	背泳①	泳法の理解と指導法
8	背泳②	泳法の理解から基礎的指導法をマスターする
9	平泳ぎ①	泳法の理解と指導法
10	平泳ぎ②	泳法の理解から基礎的指導法をマスターする
11	バタフライ①	泳法の理解と指導法
12	バタフライ②	泳法の理解から基礎的指導法をマスターする
13	水中運動	生涯スポーツにおける水泳を体得
14	まとめ	指導における試験　バディー同士にて指導の確認
15		
16		

科目コード	40117				区　分	コア科目			
授業科目名	体つくり運動 [2年用以上]A				担当者名	伊藤　三千雄／藤谷　かおる			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
体つくり運動の実施方法について、実技を通して理解し、実際に授業を作成させることで、実践的な力を養う。また、体つくり運動が実施された経緯とねらいなどを知識として理解する。

＜授業の到達目標＞
１．体つくり運動の学習指導要領上の位置づけについて、ねらいを含めて理解できるようになる。２．体つくり運動の授業を計画、実践することができるようになる。３．適切な教師行動をとることができるようになる。

＜授業の方法＞
１．体つくり運動の実践例を体験する。２．体つくり運動の学習指導要領上の位置づけとねらいを予習する。３．体つくり運動の学習指導要領上の位置づけを講義、グループワーク、発表を通して理解する。４．３の内容について確認テストを行う。５．体つくり運動の模擬授業を発案する。６．体つくり運動の模擬授業を実践する。７．1回目の模擬授業を振り返り、2回目の模擬授業を再案する。８．体つくり運動の模擬授業2回目を実践する。※毎回の授業開始時に健康状態の確認、準備運動、施設・用具の安全点検を行う。実技実施時は段階的指導を行い、個

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有：7、8人のグループに分かれ、模擬授業の実施に向けて、グループワークやディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
復習：講義の内容を振り返る。模擬授業についてレポートにまとめる。（30分）予習：次回の内容を文献やインターネット等で調べ、レポートにまとめる。模擬授業の構想を練る。（30分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３(体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業に臨む実践的態度 30%、中間試験 10%、模擬授業の完成度（指導案の完成度を含む） 50%、最終レポート 10%

＜教科書＞

＜参考書＞
文部科学省　学校体育実技指導資料第7集「体つくり運動」　（改訂版）
文部科学省　新学習指導要領に基づく中学校・高等学校向け「体つくり運動」リーフレット
文部科学省　小学校体育（運動領域）まるわかりハンドブック

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の全体の流れと評価方法について説明する
2	体つくり運動とは	体つくり運動の目的、実施時間、実施内容について
3	体つくり運動とは	体つくり運動の実践例-1
4	体つくり運動とは	体つくり運動の実践例-2
5	小テスト、模擬授業の発案	体つくり運動の学習指導要領上の位置づけやねらいに関する小テストの実施模擬授業のための指導案作成
6	模擬授業（1）−①	グループごとに計画した内容を他の学生に指導、発表する
7	模擬授業（1）−②	グループごとに計画した内容を他の学生に指導、発表する
8	模擬授業（1）−③	グループごとに計画した内容を他の学生に指導、発表する
9	模擬授業の再案（1）	1回目の模擬授業の反省を活かし、2回目の模擬授業を再案する
10	模擬授業の再案（2）	1回目の模擬授業の反省を活かし、2回目の模擬授業を再案する
11	模擬授業（2）−①	グループごとに計画した内容を他の学生に指導、発表する
12	模擬授業（2）−②	グループごとに計画した内容を他の学生に指導、発表する
13	模擬授業（2）−③	グループごとに計画した内容を他の学生に指導、発表する
14	まとめ	これまでのまとめ、レポート課題の提示
15		
16		

科目コード	40117				区　分	コア科目			
授業科目名	体つくり運動 [2年用以上]B				担当者名	伊藤　三千雄／藤谷　かおる			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
体つくり運動の実施方法について、実技を通して理解し、実際に授業を作成させることで、実践的な力を養う。また、体つくり運動が実施された経緯とねらいなどを知識として理解する。

＜授業の到達目標＞
１．体つくり運動の学習指導要領上の位置づけについて、ねらいを含めて理解できるようになる。２．体つくり運動の授業を計画、実践することができるようになる。３．適切な教師行動をとることができるようになる。

＜授業の方法＞
１．体つくり運動の実践例を体験する。２．体つくり運動の学習指導要領上の位置づけとねらいを予習する。３．体つくり運動の学習指導要領上の位置づけを講義、グループワーク、発表を通して理解する。４．３の内容について確認テストを行う。５．体つくり運動の模擬授業を発案する。６．体つくり運動の模擬授業を実践する。７．1回目の模擬授業を振り返り、2回目の模擬授業を再案する。８．体つくり運動の模擬授業2回目を実践する。※毎回の授業開始時に健康状態の確認、準備運動、施設・用具の安全点検を行う。実技実施時は段階的指導を行い、個

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有：7、8人のグループに分かれ、模擬授業の実施に向けて、グループワークやディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
復習：講義の内容を振り返る。模擬授業についてレポートにまとめる。（30分）予習：次回の内容を文献やインターネット等で調べ、レポートにまとめる。模擬授業の構想を練る。（30分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３(体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業に臨む実践的態度 30%、中間試験 10%、模擬授業の完成度（指導案の完成度を含む） 50%、最終レポート 10%

＜教科書＞

＜参考書＞
文部科学省　学校体育実技指導資料第7集「体つくり運動」　（改訂版）
文部科学省　新学習指導要領に基づく中学校・高等学校向け「体つくり運動」リーフレット
文部科学省　小学校体育（運動領域）まるわかりハンドブック

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の全体の流れと評価方法について説明する
2	体つくり運動とは	体つくり運動の目的、実施時間、実施内容について
3	体つくり運動とは	体つくり運動の実践例-1
4	体つくり運動とは	体つくり運動の実践例-2
5	小テスト、模擬授業の発案	体つくり運動の学習指導要領上の位置づけやねらいに関する小テストの実施模擬授業のための指導案作成
6	模擬授業（1）−①	グループごとに計画した内容を他の学生に指導、発表する
7	模擬授業（1）−②	グループごとに計画した内容を他の学生に指導、発表する
8	模擬授業（1）−③	グループごとに計画した内容を他の学生に指導、発表する
9	模擬授業の再案（1）	1回目の模擬授業の反省を活かし、2回目の模擬授業を再案する
10	模擬授業の再案（2）	1回目の模擬授業の反省を活かし、2回目の模擬授業を再案する
11	模擬授業（2）−①	グループごとに計画した内容を他の学生に指導、発表する
12	模擬授業（2）−②	グループごとに計画した内容を他の学生に指導、発表する
13	模擬授業（2）−③	グループごとに計画した内容を他の学生に指導、発表する
14	まとめ	これまでのまとめ、レポート課題の提示
15		
16		

科目コード	40117				区　分	コア科目			
授業科目名	体つくり運動 [2年用以上]C				担当者名	伊藤　三千雄／藤谷　かおる			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
体つくり運動の実施方法について、実技を通して理解し、実際に授業を作成させることで、実践的な力を養う。また、体つくり運動が実施された経緯とねらいなどを知識として理解する。

＜授業の到達目標＞
１．体つくり運動の学習指導要領上の位置づけについて、ねらいを含めて理解できるようになる。２．体つくり運動の授業を計画、実践することができるようになる。３．適切な教師行動をとることができるようになる。

＜授業の方法＞
１．体つくり運動の実践例を体験する。２．体つくり運動の学習指導要領上の位置づけとねらいを予習する。３．体つくり運動の学習指導要領上の位置づけを講義、グループワーク、発表を通して理解する。４．３の内容について確認テストを行う。５．体つくり運動の模擬授業を発案する。６．体つくり運動の模擬授業を実践する。７．1回目の模擬授業を振り返り、2回目の模擬授業を再案する。８．体つくり運動の模擬授業2回目を実践する。※毎回の授業開始時に健康状態の確認、準備運動、施設・用具の安全点検を行う。実技実施時は段階的指導を行い、個

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有：7、8人のグループに分かれ、模擬授業の実施に向けて、グループワークやディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
復習：講義の内容を振り返る。模擬授業についてレポートにまとめる。（30分）予習：次回の内容を文献やインターネット等で調べ、レポートにまとめる。模擬授業の構想を練る。（30分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３(体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業に臨む実践的態度 30%、中間試験 10%、模擬授業の完成度（指導案の完成度を含む） 50%、最終レポート 10%

＜教科書＞

＜参考書＞
文部科学省　学校体育実技指導資料第7集「体つくり運動」　（改訂版）
文部科学省　新学習指導要領に基づく中学校・高等学校向け「体つくり運動」リーフレット
文部科学省　小学校体育（運動領域）まるわかりハンドブック

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の全体の流れと評価方法について説明する
2	体つくり運動とは	体つくり運動の目的、実施時間、実施内容について
3	体つくり運動とは	体つくり運動の実践例-1
4	体つくり運動とは	体つくり運動の実践例-2
5	小テスト、模擬授業の発案	体つくり運動の学習指導要領上の位置づけやねらいに関する小テストの実施模擬授業のための指導案作成
6	模擬授業（1）−①	グループごとに計画した内容を他の学生に指導、発表する
7	模擬授業（1）−②	グループごとに計画した内容を他の学生に指導、発表する
8	模擬授業（1）−③	グループごとに計画した内容を他の学生に指導、発表する
9	模擬授業の再案（1）	1回目の模擬授業の反省を活かし、2回目の模擬授業を再案する
10	模擬授業の再案（2）	1回目の模擬授業の反省を活かし、2回目の模擬授業を再案する
11	模擬授業（2）−①	グループごとに計画した内容を他の学生に指導、発表する
12	模擬授業（2）−②	グループごとに計画した内容を他の学生に指導、発表する
13	模擬授業（2）−③	グループごとに計画した内容を他の学生に指導、発表する
14	まとめ	これまでのまとめ、レポート課題の提示
15		
16		

科目コード	40119				区　分	コア科目			
授業科目名	ラグビー				担当者名	小村　淳／本間　正悟			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
ラグビーとは、２つのチームが競技規則及びスポーツ精神に則り、ボールを持って走り、パス、キックを使いグラウディングして、できる限り得点を多くあげたチームがその試合の勝者となる。試合を行う為の基本スキルを実技として行う。

＜授業の到達目標＞
基本スキルのランニング、ハンドリング、キック、コンタクト、ユニット（スクラム/ラインアウト/キックオフ）から指導し、ルールに基づきボールゲーム形式でラグビーを理解させることができる。

＜授業の方法＞
実技学習では、グループに分かれてスキルごとにフォーカスポイントを伝え実施する。ルールやゲーム理解については講義や映像での説明を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
なし

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
ルールやラグビーの原理原則を資料とし、配付し事前学習を行う。実技などを撮影し映像でのレビューを実施する。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３(体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度（積極性・協調性・相互促進性など）30%、基本スキルの評価40%、応用スキル30%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	授業内容説明	ラグビー競技の説明、授業計画説明、注意事項説明
2	個人技能（1）	ランニングスキル、ハンドリングスキル
3	個人技能（2）	ランニング、ハンドリング応用スキル
4	ボールゲーム	ルールの説明と実施
5	個人技能（3）	キックと個人技能（1）（2）のレビュー
6	個人技能（4）	キック応用、コンタクトスキル
7	キッキングゲーム	ルール説明と実施
8	ゲーム	ボール＆キッキング
9	集団技能（1）	スクラムの説明と実施
10	集団技能（2）	ラインアウトの説明と実施
11	集団技能（3）	キックオフ、ドロップアウトの説明と実施
12	集団技能（4）	スクラム、ラインアウト、キックオフ応用
13	ゲーム（1）	ルール説明と実施
14	まとめ、ラグビー競技の理解と映像での試合観戦	
15		
16		

科目コード	40120				区　分	コア科目			
授業科目名	サッカー［PP・PS女子用］				担当者名	坂手　雅斗			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択必修

＜授業の概要＞
サッカーは世界で最も親しまれているスポーツのひとつであり、ルールも非常に単純で、ボールとゴールさえあればできるスポーツである。しかし、主に足でボールを扱うことから経験者と未経験者との技術の差が大きく表れるスポーツでもある。この授業では、ボールを扱う技術を高める練習法を学び、技術を高め、ゲームを楽しめるようにする。そして、サッカーというスポーツに対する理解を深める。

＜授業の到達目標＞
サッカーの技術を習得する練習・指導法を学び、自らも技術を上達させる。特にリフティングが30回できるようにする。また、戦術面の練習も行い、サッカーへの理解を深める。そして、ゲームの中でルールも学び、サッカーのゲームを楽しめるようにする。

＜授業の方法＞
幅広くコミュニケーションが取れるように、授業ごとにグループを編成し、授業の最後にはゲームを行う。本授業はサッカーの実技を中心とするため、安全管理に十分配慮して実施する。授業開始時には体調確認およびウォーミングアップを行い、受講者の体力・技能に応じた内容で進める。加えて、グラウンドや用具の安全確認を適宜実施し、事故防止に努める。万が一、事故や傷害が発生した場合には、教員の指示のもと適切な応急処置を行い、状況に応じて医療機関への搬送および関係部署への報告を行う。履修上限40名

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習は、サッカーを見る機会を増やすこと。後期授業期間にあるサッカーの試合を3試合は観戦し、レポートを提出する。（2時間）
復習は、授業で行った練習の確認と、リフティングの練習をする。（1時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度 50%、実技テスト 50%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の進め方・アンケート
2	基礎技術のトレーニング(1)	ボールフィーリング、ボールタッチ
3	基礎技術のトレーニング(2)	ドリブル
4	基礎技術のトレーニング(3)	各種キック
5	基礎技術のトレーニング(4)	パス、トラップ
6	応用技術のトレーニング(1)	ターン、ボールキープ
7	応用技術のトレーニング(2)	フェイント
8	ボールポゼッション(1)	少人数でのボールポゼッション
9	ボールポゼッション(2)	多人数でのボールポゼッション
10	個人戦術	1対1
11	グループ戦術(1)	2対1、2対2
12	グループ戦術(2)	3対2、3対3
13	グループ戦術(3)	4対4
14	リーグ戦	リーグ戦の進め方
15	トーナメント戦	
16		

科目コード	40120				区　分	コア科目			
授業科目名	サッカー［PP・PS女子用］				担当者名	坂手　雅斗			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択必修

＜授業の概要＞
サッカーは世界で最も親しまれているスポーツのひとつであり、ルールも非常に単純で、ボールとゴールさえあればできるスポーツである。しかし、主に足でボールを扱うことから経験者と未経験者との技術の差が大きく表れるスポーツでもある。この授業では、ボールを扱う技術を高める練習法を学び、技術を高め、ゲームを楽しめるようにする。そして、サッカーというスポーツに対する理解を深める。

＜授業の到達目標＞
サッカーの技術を習得する練習・指導法を学び、自らも技術を上達させる。特にリフティングが30回できるようにする。また、戦術面の練習も行い、サッカーへの理解を深める。そして、ゲームの中でルールも学び、サッカーのゲームを楽しめるようにする。

＜授業の方法＞
幅広くコミュニケーションが取れるように、授業ごとにグループを編成し、授業の最後にはゲームを行う。本授業はサッカーの実技を中心とするため、安全管理に十分配慮して実施する。授業開始時には体調確認およびウォーミングアップを行い、受講者の体力・技能に応じた内容で進める。加えて、グラウンドや用具の安全確認を適宜実施し、事故防止に努める。万が一、事故や傷害が発生した場合には、教員の指示のもと適切な応急処置を行い、状況に応じて医療機関への搬送および関係部署への報告を行う。履修上限40名

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習は、サッカーを見る機会を増やすこと。後期授業期間にあるサッカーの試合を3試合は観戦し、レポートを提出する。（2時間）
復習は、授業で行った練習の確認と、リフティングの練習をする。（1時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度 50%、実技テスト 50%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の進め方・アンケート
2	基礎技術のトレーニング(1)	ボールフィーリング、ボールタッチ
3	基礎技術のトレーニング(2)	ドリブル
4	基礎技術のトレーニング(3)	各種キック
5	基礎技術のトレーニング(4)	パス、トラップ
6	応用技術のトレーニング(1)	ターン、ボールキープ
7	応用技術のトレーニング(2)	フェイント
8	ボールポゼッション(1)	少人数でのボールポゼッション
9	ボールポゼッション(2)	多人数でのボールポゼッション
10	個人戦術	1対1
11	グループ戦術(1)	2対1、2対2
12	グループ戦術(2)	3対2、3対3
13	グループ戦術(3)	4対4
14	リーグ戦	リーグ戦の進め方
15	トーナメント戦	
16		

科目コード	40120				区　分	コア科目			
授業科目名	サッカー［PP・PS男子用］				担当者名	金谷　和幸			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択必修

＜授業の概要＞
サッカーは世界で最も親しまれているスポーツのひとつであり、ボールとゴールさえあれば誰でも楽しめるシンプルさが魅力である。しかし、足でボールを扱う競技特性から、経験者と未経験者のあいだで技術差が生じやすい。本授業では、ドリブルやパスなどの基礎的なボール扱いの技術を段階的に身につけ、誰もがゲームを楽しめるようになることを目指す。また、様々なゲームの手法を通して動き方や基本的な戦術を理解し、サッカーというスポーツへの理解を深めていく。

＜授業の到達目標＞
本授業では、サッカーの基礎的な技術を身につけるとともに、サッカーを通じて仲間と楽しく関わり合える指導ができる力を養う。小人数のゲームや基本的な戦術理解を通して、技術の巧拙にかかわらず誰もが楽しめる場づくりを学び、サッカーをコミュニケーションの手段として活用できる指導方法を身につけることを目標とする。

＜授業の方法＞
幅広くコミュニケーションが取れるように、授業ごとにグループを編成し、授業の最後にはゲームを行う。受講者の体調や怪我の有無に応じて無理のない範囲で活動を行う。また、熱中症予防として適宜給水休憩を設ける。怪我が発生した場合は応急処置を行い、必要に応じて連絡・報告をする。履修上限60名

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習は、サッカーを見る機会を増やすこと。（2時間）復習は、授業で行った指導方法の確認。（1時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度・参加状況（50%）、指導計画書の作成（30%）、指導実践（20%）

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の進め方・評価方法
2	基礎技術のトレーニング(1)	ボールフィーリング、ボールタッチ、ドリブル
3	基礎技術のトレーニング(2)	各種キック、パス、トラップ
4	GKのトレーニング	ゴールキーパーについて学ぶ
5	応用技術のトレーニング	ターン、ボールキープ、フェイント
6	ボールポゼッション(1)	少人数でのボールポゼッション
7	ボールポゼッション(2)	多人数でのボールポゼッション
8	個人戦術とグループ戦術	1対1、2対1、2対2
9	グループ戦術	3対2、3対3、4対4
10	コーチング、指示	グループ戦術の中で味方を指示してコミュニケーション取りながら、様々な場面に対応してみる。
11	指導実践およびリーグ戦①	各チームでのウォーミングアップ等での指導実践①リーグ戦の進め方、チームとしての戦い方。
12	指導実践およびリーグ戦②	各チームでのウォーミングアップ等での指導実践②リーグ戦の進め方、チームとしての戦い方。
13	指導実践およびトーナメント戦①	各チームでのウォーミングアップ等での指導実践③トーナメント戦の進め方、チームとしての戦い方。
14	指導実践よびトーナメント戦②	各チームでのウォーミングアップ等での指導実践④トーナメント戦の進め方、チームとしての戦い方。
15		
16		

科目コード	40120				区　分	コア科目			
授業科目名	サッカー［PP・PS男子用］				担当者名	金谷　和幸			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択必修

＜授業の概要＞
サッカーは世界で最も親しまれているスポーツのひとつであり、ボールとゴールさえあれば誰でも楽しめるシンプルさが魅力である。しかし、足でボールを扱う競技特性から、経験者と未経験者のあいだで技術差が生じやすい。本授業では、ドリブルやパスなどの基礎的なボール扱いの技術を段階的に身につけ、誰もがゲームを楽しめるようになることを目指す。また、様々なゲームの手法を通して動き方や基本的な戦術を理解し、サッカーというスポーツへの理解を深めていく。

＜授業の到達目標＞
本授業では、サッカーの基礎的な技術を身につけるとともに、サッカーを通じて仲間と楽しく関わり合える指導ができる力を養う。小人数のゲームや基本的な戦術理解を通して、技術の巧拙にかかわらず誰もが楽しめる場づくりを学び、サッカーをコミュニケーションの手段として活用できる指導方法を身につけることを目標とする。

＜授業の方法＞
幅広くコミュニケーションが取れるように、授業ごとにグループを編成し、授業の最後にはゲームを行う。受講者の体調や怪我の有無に応じて無理のない範囲で活動を行う。また、熱中症予防として適宜給水休憩を設ける。怪我が発生した場合は応急処置を行い、必要に応じて連絡・報告をする。履修上限60名

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習は、サッカーを見る機会を増やすこと。（2時間）復習は、授業で行った指導方法の確認。（1時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度・参加状況（50%）、指導計画書の作成（30%）、指導実践（20%）

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の進め方・評価方法
2	基礎技術のトレーニング(1)	ボールフィーリング、ボールタッチ、ドリブル
3	基礎技術のトレーニング(2)	各種キック、パス、トラップ
4	GKのトレーニング	ゴールキーパーについて学ぶ
5	応用技術のトレーニング	ターン、ボールキープ、フェイント
6	ボールポゼッション(1)	少人数でのボールポゼッション
7	ボールポゼッション(2)	多人数でのボールポゼッション
8	個人戦術とグループ戦術	1対1、2対1、2対2
9	グループ戦術	3対2、3対3、4対4
10	コーチング、指示	グループ戦術の中で味方を指示してコミュニケーション取りながら、様々な場面に対応してみる。
11	指導実践およびリーグ戦①	各チームでのウォーミングアップ等での指導実践①リーグ戦の進め方、チームとしての戦い方。
12	指導実践およびリーグ戦②	各チームでのウォーミングアップ等での指導実践②リーグ戦の進め方、チームとしての戦い方。
13	指導実践およびトーナメント戦①	各チームでのウォーミングアップ等での指導実践③トーナメント戦の進め方、チームとしての戦い方。
14	指導実践よびトーナメント戦②	各チームでのウォーミングアップ等での指導実践④トーナメント戦の進め方、チームとしての戦い方。
15		
16		

科目コード	40121				区　分	コア科目			
授業科目名	ソフトボール［PP・PS女子+他学科女子用］				担当者名	山本　清人			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
ソフトボールの用具や競技施設、ルール、運動の特性、競技の特性を理解し、ソフトボールの基本的な技術（例えば、ボールの持ち方、投げ方、バットの握り方、グ ラブの操作方法など）を学ぶ。また、守備の基本（投球、守備）から攻撃の基本（打撃、走塁）などの個人技術の習得 を目指し、その後、ゲーム形式でソフトボールを実施する。本授業は履修人数制限を設けています。※履修者が制限を超えた場合は受講日を調整する場合があります。

＜授業の到達目標＞
(1) 状況に応じたバット操作と走塁での攻撃，安定したボ ール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができる。(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに，自己やチームの考えたことを他者に伝えることができる。 (3) 球技に主体的に取り組むとともに，フェアなプレイを大切にしようとすること，合意形成に貢献しようとすること，一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとすること，互いに助け合い高め合おうとするこ

＜授業の方法＞
実技を中心にグランドで実践指導を行う。バッティング・守備及びピッチチングなどの理論が必要なときは随時説明をする。１．グループワーク（予習内容に関する確認）２．実技（教員による解説と新たな技術習得のため問題提示）　　タブレット・スマホ等を利用し、動画を撮影し技術習得に活かす。３．ディスカッション（問題提示に対する回答）４．省察活動（まとめ）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループごとに課題達成に向けて、達成目標を設定し、そのための方策を計画し実践した上で、再点検をして、再度実践するという課題を設定させる。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
(1)予習　翌週の指導内容の資料を読み内容を把握してくる。(1時間) (2)復習　振り返りレポートを次回の授業までに作成し、メールで提出する。(1時間)

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
出席意欲40%、予習10%、、課題レポートの内容20%、実技テスト30%

＜教科書＞
なし　なし　なし
なし　なし　なし
なし　なし　なし

＜参考書＞
財団法人日本ソフトボール協会　「ソフトボール指導者教本」　日本体育社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	指導者のあり方（ガイダンス）	指導者としての心得、指導の実際、環境整備、安全管理
2	ソフトボールの歴史	ソフトボールの誕生・発展、ソフトボール情勢
3	ソフトボールの技術と指導法（1）	投球の基礎技術　投球モーションのフォームと特徴
4	ソフトボールの技術と指導法（2）	守備の基礎技術　送球・捕球、守備位置と守備範囲
5	ソフトボールの技術と指導法（3）	守備の基礎技術　ポジション別の技術
6	ソフトボールの技術と指導法（4）	打撃の基礎技術
7	ソフトボールの技術と指導法（5）	バントの基礎技術
8	ソフトボールの技術と指導法（6）	走塁の基礎技術
9	集団技術の理解（1）	ポジション別守備練習と連係プレー
10	集団技術の理解（2）	試合形式シートバッティング
11	総合的ゲーム展開（1）	紅白戦で実戦練習（1）
12	総合的ゲーム展開（2）	紅白戦で実戦練習（2）

13	総合的ゲーム展開（3）	紅白戦で実戦練習（3）
14	打撃系及び守備系実技到達度確認	試合形式でバッティングテスト　試合形式でポジション別守備テスト
15		
16		

科目コード	40121				区　分	コア科目			
授業科目名	ソフトボール［PP・PS男子+他学科男子］				担当者名	佐藤　伸之			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
ソフトボールにおける「投・打・走」の基本的な技術を習得し、ルールや安全面での留意事項等の知識を学習することによって、ソフトボールの指導方法を身につける。また、指導者として必要なソフトボールの技術指導、審判、運営が出来るようにすることを目指しゲーム形式でソフトボールを実施する。

＜授業の到達目標＞
1）主体的かつ積極的に授業に参加し、仲間と協力してプレイするとともに、フェアなプレイを心掛け、健康・安全を確保することができるようになる。 2）チームや自身の課題を発見し，チームや自身の考えたことを他者に伝えることができるようになる。 3）ソフトボールのルールやマナーを身につけている。 4）ソフトボールの基本技能（捕る、投げる、打つ、走る）を遂行できるようになる。

＜授業の方法＞
1）実技（グラウンド）を通して、ソフトボールを学習し技能習得のために、随時その理論的背景を説明する。 2）チーム間でのグループワークの時間を設け、問題提起（授業ごとの課題）を通したディスカッションを実施する。 3）タブレット・スマホ等 を利用し、動画を撮影し技術習得に活かす。（レポート課題）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
要素：有ICTを活用し、自己の技能状況を分析し、仲間と協働して技能習得に向けた取り組みを実施します（課題レポート②として成果を提出）。また、授業毎にFBを実施し、自己の技能状況を把握します。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
1）予習：参考書等を用いて事前にソフトボールの技能に関する仕組みを理解する。課題レポート②についての取り組みも予習とする。（2時間程度）2）復習：毎回の授業後に配布された振り返りシートに授業の内容等を記入する （1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
出席意欲40%、課題レポートの内容30%、実技テスト30%

＜教科書＞
なし

＜参考書＞
公益財団法人日本ソフトボール協会　中学校部活動におけるソフトボール指導の手引き
NPO法人日本ティーボール協会編　ティーボール入門

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス、ベースボール型スポーツについて	授業の進め方について、環境整備、安全管理、ベースボール型スポーツについて
2	ソフトボールの技術（1）	守備の基本（スローイング・キャッチング）、ティーボール
3	ソフトボールの技術（2）	打撃の基本（バッティング・ランニング）、ティーボール
4	試合の進め方、ソフトボールの指導法の工夫（1）	試合の進め方（ルール、審判法、安全管理、ポジション）について、ティーボールゲームの工夫
5	ソフトボールの指導法と工夫（2）	ティーボールゲームの工夫と実践①
6	ソフトボールの指導法の工夫（3）	ティーボールゲームの工夫と実践②
7	ソフトボールの実践（1）	ソフトボールの実践（アウト：三振、フライ、ゴロ）、紅白戦で実践練習
8	ソフトボールの実践（2）	ソフトボールの実践（アウト：ホースプレー、タッチプレー）、紅白戦で実践練習
9	ソフトボールの実践（3）	ソフトボールの実践（ダブルプレー：ゴロ、フライ）、紅白戦で実践練習
10	ソフトボールの実践（4）	ソフトボールの実践（タッチアッププレー）、紅白戦で実践練習
11	ソフトボールの実践（5）、実技テスト①	ソフトボールの実践（攻撃戦術：バント）、紅白戦で実践練習、実技テスト①
12	ソフトボールの実践（6）、実技テスト②	ソフトボールの実践（攻撃戦術：ヒットエンドラン）、紅白戦で実践練習、実技テスト②

13	ソフトボールの実践（7）、実技テスト③	ソフトボールの実践（攻撃戦術：ポジショニング）、紅白戦で実践練習、実技テスト③
14	ソフトボールの実践（8）	ソフトボールの実践（まとめ）、紅白戦で実践練習、課題レポート作成
15		
16		

科目コード	40121				区　分	コア科目			
授業科目名	ソフトボール［PP・PS男子+他学科男子］				担当者名	佐藤　伸之			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
ソフトボールにおける「投・打・走」の基本的な技術を習得し、ルールや安全面での留意事項等の知識を学習することによって、ソフトボールの指導方法を身につける。また、指導者として必要なソフトボールの技術指導、審判、運営が出来るようにすることを目指しゲーム形式でソフトボールを実施する。

＜授業の到達目標＞
1）主体的かつ積極的に授業に参加し、仲間と協力してプレイするとともに、フェアなプレイを心掛け、健康・安全を確保することができるようになる。 2）チームや自身の課題を発見し，チームや自身の考えたことを他者に伝えることができるようになる。 3）ソフトボールのルールやマナーを身につけている。 4）ソフトボールの基本技能（捕る、投げる、打つ、走る）を遂行できるようになる。

＜授業の方法＞
1）実技（グラウンド）を通して、ソフトボールを学習し技能習得のために、随時その理論的背景を説明する。 2）チーム間でのグループワークの時間を設け、問題提起（授業ごとの課題）を通したディスカッションを実施する。 3）タブレット・スマホ等 を利用し、動画を撮影し技術習得に活かす。（レポート課題）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
要素：有ICTを活用し、自己の技能状況を分析し、仲間と協働して技能習得に向けた取り組みを実施します（課題レポート②として成果を提出）。また、授業毎にFBを実施し、自己の技能状況を把握します。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
1）予習：参考書等を用いて事前にソフトボールの技能に関する仕組みを理解する。課題レポート②についての取り組みも予習とする。（2時間程度）2）復習：毎回の授業後に配布された振り返りシートに授業の内容等を記入する （1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
出席意欲40%、課題レポートの内容30%、実技テスト30%

＜教科書＞
なし

＜参考書＞
公益財団法人日本ソフトボール協会　中学校部活動におけるソフトボール指導の手引き
NPO法人日本ティーボール協会編　ティーボール入門

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス、ベースボール型スポーツについて	授業の進め方について、環境整備、安全管理、ベースボール型スポーツについて
2	ソフトボールの技術（1）	守備の基本（スローイング・キャッチング）、ティーボール
3	ソフトボールの技術（2）	打撃の基本（バッティング・ランニング）、ティーボール
4	試合の進め方、ソフトボールの指導法の工夫（1）	試合の進め方（ルール、審判法、安全管理、ポジション）について、ティーボールゲームの工夫
5	ソフトボールの指導法と工夫（2）	ティーボールゲームの工夫と実践①
6	ソフトボールの指導法の工夫（3）	ティーボールゲームの工夫と実践②
7	ソフトボールの実践（1）	ソフトボールの実践（アウト：三振、フライ、ゴロ）、紅白戦で実践練習
8	ソフトボールの実践（2）	ソフトボールの実践（アウト：ホースプレー、タッチプレー）、紅白戦で実践練習
9	ソフトボールの実践（3）	ソフトボールの実践（ダブルプレー：ゴロ、フライ）、紅白戦で実践練習
10	ソフトボールの実践（4）	ソフトボールの実践（タッチアッププレー）、紅白戦で実践練習
11	ソフトボールの実践（5）、実技テスト①	ソフトボールの実践（攻撃戦術：バント）、紅白戦で実践練習、実技テスト①
12	ソフトボールの実践（6）、実技テスト②	ソフトボールの実践（攻撃戦術：ヒットエンドラン）、紅白戦で実践練習、実技テスト②

13	ソフトボールの実践（7）、実技テスト③	ソフトボールの実践（攻撃戦術：ポジショニング）、紅白戦で実践練習、実技テスト③
14	ソフトボールの実践（8）	ソフトボールの実践（まとめ）、紅白戦で実践練習、課題レポート作成
15		
16		

科目コード	40121				区　分	コア科目			
授業科目名	ソフトボール［PP・PS男子用］				担当者名	佐藤　伸之			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
ソフトボールにおける「投・打・走」の基本的な技術を習得し、ルールや安全面での留意事項等の知識を学習することによって、ソフトボールの指導方法を身につける。また、指導者として必要なソフトボールの技術指導、審判、運営が出来るようにすることを目指しゲーム形式でソフトボールを実施する。

＜授業の到達目標＞
1）主体的かつ積極的に授業に参加し、仲間と協力してプレイするとともに、フェアなプレイを心掛け、健康・安全を確保することができるようになる。 2）チームや自身の課題を発見し，チームや自身の考えたことを他者に伝えることができるようになる。 3）ソフトボールのルールやマナーを身につけている。 4）ソフトボールの基本技能（捕る、投げる、打つ、走る）を遂行できるようになる。

＜授業の方法＞
1）実技（グラウンド）を通して、ソフトボールを学習し技能習得のために、随時その理論的背景を説明する。 2）チーム間でのグループワークの時間を設け、問題提起（授業ごとの課題）を通したディスカッションを実施する。 3）タブレット・スマホ等 を利用し、動画を撮影し技術習得に活かす。（レポート課題）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
要素：有ICTを活用し、自己の技能状況を分析し、仲間と協働して技能習得に向けた取り組みを実施します（課題レポート②として成果を提出）。また、授業毎にFBを実施し、自己の技能状況を把握します。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
1）予習：参考書等を用いて事前にソフトボールの技能に関する仕組みを理解する。課題レポート②についての取り組みも予習とする。（2時間程度）2）復習：毎回の授業後に配布された振り返りシートに授業の内容等を記入する （1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
出席意欲40%、課題レポートの内容30%、実技テスト30%

＜教科書＞
なし

＜参考書＞
公益財団法人日本ソフトボール協会　中学校部活動におけるソフトボール指導の手引き
NPO法人日本ティーボール協会編　ティーボール入門

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス、ベースボール型スポーツについて	授業の進め方について、環境整備、安全管理、ベースボール型スポーツについて
2	ソフトボールの技術（1）	守備の基本（スローイング・キャッチング）、ティーボール
3	ソフトボールの技術（2）	打撃の基本（バッティング・ランニング）、ティーボール
4	試合の進め方、ソフトボールの指導法の工夫（1）	試合の進め方（ルール、審判法、安全管理、ポジション）について、ティーボールゲームの工夫
5	ソフトボールの指導法と工夫（2）	ティーボールゲームの工夫と実践①
6	ソフトボールの指導法の工夫（3）	ティーボールゲームの工夫と実践②
7	ソフトボールの実践（1）	ソフトボールの実践（アウト：三振、フライ、ゴロ）、紅白戦で実践練習
8	ソフトボールの実践（2）	ソフトボールの実践（アウト：ホースプレー、タッチプレー）、紅白戦で実践練習
9	ソフトボールの実践（3）	ソフトボールの実践（ダブルプレー：ゴロ、フライ）、紅白戦で実践練習
10	ソフトボールの実践（4）	ソフトボールの実践（タッチアッププレー）、紅白戦で実践練習
11	ソフトボールの実践（5）、実技テスト①	ソフトボールの実践（攻撃戦術：バント）、紅白戦で実践練習、実技テスト①
12	ソフトボールの実践（6）、実技テスト②	ソフトボールの実践（攻撃戦術：ヒットエンドラン）、紅白戦で実践練習、実技テスト②

13	ソフトボールの実践（7）、実技テスト③	ソフトボールの実践（攻撃戦術：ポジショニング）、紅白戦で実践練習、実技テスト③
14	ソフトボールの実践（8）	ソフトボールの実践（まとめ）、紅白戦で実践練習、課題レポート作成
15		
16		

科目コード	40121				区　分	コア科目			
授業科目名	ソフトボール［PP・PS男子用］				担当者名	佐藤　伸之			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
ソフトボールにおける「投・打・走」の基本的な技術を習得し、ルールや安全面での留意事項等の知識を学習することによって、ソフトボールの指導方法を身につける。また、指導者として必要なソフトボールの技術指導、審判、運営が出来るようにすることを目指しゲーム形式でソフトボールを実施する。

＜授業の到達目標＞
1）主体的かつ積極的に授業に参加し、仲間と協力してプレイするとともに、フェアなプレイを心掛け、健康・安全を確保することができるようになる。 2）チームや自身の課題を発見し，チームや自身の考えたことを他者に伝えることができるようになる。 3）ソフトボールのルールやマナーを身につけている。 4）ソフトボールの基本技能（捕る、投げる、打つ、走る）を遂行できるようになる。

＜授業の方法＞
1）実技（グラウンド）を通して、ソフトボールを学習し技能習得のために、随時その理論的背景を説明する。 2）チーム間でのグループワークの時間を設け、問題提起（授業ごとの課題）を通したディスカッションを実施する。 3）タブレット・スマホ等 を利用し、動画を撮影し技術習得に活かす。（レポート課題）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
要素：有ICTを活用し、自己の技能状況を分析し、仲間と協働して技能習得に向けた取り組みを実施します（課題レポート②として成果を提出）。また、授業毎にFBを実施し、自己の技能状況を把握します。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
1）予習：参考書等を用いて事前にソフトボールの技能に関する仕組みを理解する。課題レポート②についての取り組みも予習とする。（2時間程度）2）復習：毎回の授業後に配布された振り返りシートに授業の内容等を記入する （1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
出席意欲40%、課題レポートの内容30%、実技テスト30%

＜教科書＞
なし

＜参考書＞
公益財団法人日本ソフトボール協会　中学校部活動におけるソフトボール指導の手引き
NPO法人日本ティーボール協会編　ティーボール入門

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス、ベースボール型スポーツについて	授業の進め方について、環境整備、安全管理、ベースボール型スポーツについて
2	ソフトボールの技術（1）	守備の基本（スローイング・キャッチング）、ティーボール
3	ソフトボールの技術（2）	打撃の基本（バッティング・ランニング）、ティーボール
4	試合の進め方、ソフトボールの指導法の工夫（1）	試合の進め方（ルール、審判法、安全管理、ポジション）について、ティーボールゲームの工夫
5	ソフトボールの指導法と工夫（2）	ティーボールゲームの工夫と実践①
6	ソフトボールの指導法の工夫（3）	ティーボールゲームの工夫と実践②
7	ソフトボールの実践（1）	ソフトボールの実践（アウト：三振、フライ、ゴロ）、紅白戦で実践練習
8	ソフトボールの実践（2）	ソフトボールの実践（アウト：ホースプレー、タッチプレー）、紅白戦で実践練習
9	ソフトボールの実践（3）	ソフトボールの実践（ダブルプレー：ゴロ、フライ）、紅白戦で実践練習
10	ソフトボールの実践（4）	ソフトボールの実践（タッチアッププレー）、紅白戦で実践練習
11	ソフトボールの実践（5）、実技テスト①	ソフトボールの実践（攻撃戦術：バント）、紅白戦で実践練習、実技テスト①
12	ソフトボールの実践（6）、実技テスト②	ソフトボールの実践（攻撃戦術：ヒットエンドラン）、紅白戦で実践練習、実技テスト②

13	ソフトボールの実践（7）、実技テスト③	ソフトボールの実践（攻撃戦術：ポジショニング）、紅白戦で実践練習、実技テスト③
14	ソフトボールの実践（8）	ソフトボールの実践（まとめ）、紅白戦で実践練習、課題レポート作成
15		
16		

科目コード	40121				区　分	コア科目			
授業科目名	ソフトボール PP女子+他学科女子用				担当者名	山本　清人			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
ソフトボールの用具や競技施設、ルール、運動の特性、競技の特性を理解し、ソフトボールの基本的な技術（例えば、ボールの持ち方、投げ方、バットの握り方、グ ラブの操作方法など）を学ぶ。また、守備の基本（投球、守備）から攻撃の基本（打撃、走塁）などの個人技術の習得 を目指し、その後、ゲーム形式でソフトボールを実施する。本授業は履修人数制限を設けています。※履修者が制限を超えた場合は受講日を調整する場合があります。

＜授業の到達目標＞
(1) 状況に応じたバット操作と走塁での攻撃，安定したボ ール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができる。(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに，自己やチームの考えたことを他者に伝えることができる。 (3) 球技に主体的に取り組むとともに，フェアなプレイを大切にしようとすること，合意形成に貢献しようとすること，一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとすること，互いに助け合い高め合おうとするこ

＜授業の方法＞
実技を中心にグランドで実践指導を行う。バッティング・守備及びピッチチングなどの理論が必要なときは随時説明をする。１．グループワーク（予習内容に関する確認）２．実技（教員による解説と新たな技術習得のため問題提示）　タブレット・スマホ等を利用し、動画を撮影し技術習得に活かす。３．ディスカッション（問題提示に対する回答）４．省察活動（まとめ）　事故が起こった際は、応急処置を実施し、体育学科及び学生指導課と連携して対処する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループごとに課題達成に向けて、達成目標を設定し、そのための方策を計画し実践した上で、再点検をして、再度実践するという課題を設定させる。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
(1)予習　翌週の指導内容の資料を読み内容を把握してくる。(1時間)(2)復習　振り返りレポートを次回の授業までに作成し、メールで提出する。(1時間)

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
出席意欲40%、予習10%、、課題レポートの内容20%、実技テスト30%

＜教科書＞
なし　なし　なし
なし　なし　なし
なし　なし　なし

＜参考書＞
財団法人日本ソフトボール協会　「ソフトボール指導者教本」　日本体育社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	指導者のあり方（ガイダンス）	指導者としての心得、指導の実際、環境整備、安全管理
2	ソフトボールの歴史	ソフトボールの誕生・発展、ソフトボール情勢
3	ソフトボールの技術と指導法（1）	投球の基礎技術　投球モーションのフォームと特徴
4	ソフトボールの技術と指導法（2）	守備の基礎技術　送球・捕球、守備位置と守備範囲
5	ソフトボールの技術と指導法（3）	守備の基礎技術　ポジション別の技術
6	ソフトボールの技術と指導法（4）	打撃の基礎技術
7	ソフトボールの技術と指導法（5）	バントの基礎技術
8	ソフトボールの技術と指導法（6）	走塁の基礎技術
9	集団技術の理解（1）	ポジション別守備練習と連係プレー
10	集団技術の理解（2）	試合形式シートバッティング
11	総合的ゲーム展開（1）	紅白戦で実戦練習（1）
12	総合的ゲーム展開（2）	紅白戦で実戦練習（2）

13	総合的ゲーム展開（3）	紅白戦で実戦練習（3）
14	打撃系及び守備系実技到達度確認	試合形式でバッティングテスト　試合形式でポジション別守備テスト
15		
16		

科目コード	40123				区　分	コア科目			
授業科目名	器械運動Ⅰ(基礎)				担当者名	坂本　康輔			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択必修

＜授業の概要＞
マット運動、鉄棒運動、とび箱運動の主に学習指導要領(保健体育)に掲載されている基本技から発展技の技能を習得するとともに、それらの段階的な指導方法を理解する。

＜授業の到達目標＞
１．器械運動に関する基礎的な動きから発展的な動きを習得し、見本として実施することができるようになる。２．動きについての技術的な内容や段階的な学習方法を理解し、他者に説明できるようになる。

＜授業の方法＞
指導を受けると同時に、ICTを用いながら各自で教えあい、それぞれの技能を伸ばしていく授業方法を展開する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
要素：有ICTを活用し、自己や他者の技能状況を分析し、仲間と協働して技能習得に向けた取り組みを実施。また、授業毎にFBを実施し、自己の技能状況を把握する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
復習：振り返りシートにその日に教わったポイントや気づきなどを整理して記入すること。また、これまでに受けてきた授業で取り上げた技で出来ていない技については、日ごろから繰り返し練習する（約20分）。予習：翌週で学習する技について技術情報を調べる（約20分）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
この科目は、体育学科のディプロマポリシー7「体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組み続けることができる生涯学習力を身に付けている。」に関連するコア科目である。学習指導要領に例示されている器械運動領域の技能を学習する過程で、運動に関する知見をもとに、自らの課題を見つけ、技能の習熟度を高めていくことをねらいとしている。
出席・態度：30%　レポート/提出物：20%　実技：50%

＜教科書＞

＜参考書＞
三木四郎（2005）　新しい体育授業の運動学　明和出版
三木四郎、加藤澤男、本村清人 編著（2006）　中・高校器械運動の授業つくり　大修館書店

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業ガイダンス、器械運動の歴史・特性、器具の出し方について
2	マット運動	回転系接転技群技能の習得
3	跳び箱運動	切り返し系技群技能の習得
4	器械運動の指導方法の検討	指導者の立場を想定した学習方法の考案
5	鉄棒運動	前転系技能の習得
6	鉄棒運動	後転系技能の習得
7	マット運動	接転系技群技能の習得
8	マット運動	ほん転系技群技能の習得①
9	マット運動	ほん転系技群技能の習得②
10	総合練習①	実技テストの説明/演技構成の検討
11	総合練習②	演技構成の練習/技能チェックシートの作成
12	総合練習③	演技構成の練習/技能チェックシートの提出
13	技能テスト①	演技構成の実施
14	実技テスト②	演技構成の実施
15		
16		

科目コード	40123				区　分	コア科目		
授業科目名	器械運動Ⅰ(基礎)				担当者名	坂本　康輔		
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択必修

＜授業の概要＞
マット運動、鉄棒運動、とび箱運動の主に学習指導要領(保健体育)に掲載されている基本技から発展技の技能を習得するとともに、それらの段階的な指導方法を理解する。

＜授業の到達目標＞
１．器械運動に関する基礎的な動きから発展的な動きを習得し、見本として実施することができるようになる。２．動きについての技術的な内容や段階的な学習方法を理解し、他者に説明できるようになる。

＜授業の方法＞
指導を受けると同時に、ICTを用いながら各自で教えあい、それぞれの技能を伸ばしていく授業方法を展開する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
要素：有ICTを活用し、自己や他者の技能状況を分析し、仲間と協働して技能習得に向けた取り組みを実施。また、授業毎にFBを実施し、自己の技能状況を把握する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
復習：振り返りシートにその日に教わったポイントや気づきなどを整理して記入すること。また、これまでに受けてきた授業で取り上げた技で出来ていない技については、日ごろから繰り返し練習する（約20分）。予習：翌週で学習する技について技術情報を調べる（約20分）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
この科目は、体育学科のディプロマポリシー7「体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組み続けることができる生涯学習力を身に付けている。」に関連するコア科目である。学習指導要領に例示されている器械運動領域の技能を学習する過程で、運動に関する知見をもとに、自らの課題を見つけ、技能の習熟度を高めていくことをねらいとしている。
出席・態度：30%　レポート/提出物：20%　実技：50%

＜教科書＞

＜参考書＞
三木四郎（2005）　新しい体育授業の運動学　明和出版
三木四郎、加藤澤男、本村清人 編著（2006）　中・高校器械運動の授業つくり　大修館書店

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業ガイダンス、器械運動の歴史・特性、器具の出し方について
2	マット運動	回転系接転技群技能の習得
3	跳び箱運動	切り返し系技群技能の習得
4	器械運動の指導方法の検討	指導者の立場を想定した学習方法の考案
5	鉄棒運動	前転系技能の習得
6	鉄棒運動	後転系技能の習得
7	マット運動	接転系技群技能の習得
8	マット運動	ほん転系技群技能の習得①
9	マット運動	ほん転系技群技能の習得②
10	総合練習①	実技テストの説明/演技構成の検討
11	総合練習②	演技構成の練習/技能チェックシートの作成
12	総合練習③	演技構成の練習/技能チェックシートの提出
13	技能テスト①	演技構成の実施
14	実技テスト②	演技構成の実施
15		
16		

科目コード	40123				区　分	コア科目			
授業科目名	器械運動Ⅰ(基礎)				担当者名	髙橋　徹			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択必修

＜授業の概要＞
マット運動、鉄棒運動、とび箱運動の主に学習指導要領(保健体育)に掲載されている基本技から発展技の技能を習得するとともに、それらの段階的な指導方法を理解する。

＜授業の到達目標＞
１．器械運動に関する基礎的な動きから発展的な動きを習得し、見本として実施することができるようになる。２．動きについての技術的な内容や段階的な学習方法を理解し、他者に説明できるようになる。

＜授業の方法＞
指導を受けると同時に、ICTを用いながら各自で教えあい、それぞれの技能を伸ばしていく授業方法を展開する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
要素：有ICTを活用し、自己や他者の技能状況を分析し、仲間と協働して技能習得に向けた取り組みを実施。また、授業毎にFBを実施し、自己の技能状況を把握する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
復習：振り返りシートにその日に教わったポイントや気づきなどを整理して記入すること。また、これまでに受けてきた授業で取り上げた技で出来ていない技については、日ごろから繰り返し練習する（約20分）。予習：翌週で学習する技について技術情報を調べる（約20分）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
この科目は、体育学科のディプロマポリシー7「体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組み続けることができる生涯学習力を身に付けている。」に関連するコア科目である。学習指導要領に例示されている器械運動領域の技能を学習する過程で、運動に関する知見をもとに、自らの課題を見つけ、技能の習熟度を高めていくことをねらいとしている。
出席・態度：30%　レポート/提出物：20%　実技：50%

＜教科書＞

＜参考書＞
三木四郎（2005）　新しい体育授業の運動学　明和出版
三木四郎、加藤澤男、本村清人 編著（2006）　中・高校器械運動の授業つくり　大修館書店

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業ガイダンス、器械運動の歴史・特性、器具の出し方について
2	マット運動	回転系接転技群技能の習得
3	跳び箱運動	切り返し系技群技能の習得
4	器械運動の指導方法の検討	指導者の立場を想定した学習方法の考案
5	鉄棒運動	前転系技能の習得
6	鉄棒運動	後転系技能の習得
7	マット運動	接転系技群技能の習得
8	マット運動	ほん転系技群技能の習得①
9	マット運動	ほん転系技群技能の習得②
10	総合練習①	実技テストの説明/演技構成の検討
11	総合練習②	演技構成の練習/技能チェックシートの作成
12	総合練習③	演技構成の練習/技能チェックシートの提出
13	技能テスト①	演技構成の実施
14	実技テスト②	演技構成の実施
15		
16		

科目コード	40123				区　分	コア科目			
授業科目名	器械運動Ⅰ(基礎)				担当者名	髙橋　徹			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択必修

＜授業の概要＞
マット運動、鉄棒運動、とび箱運動の主に学習指導要領(保健体育)に掲載されている基本技から発展技の技能を習得するとともに、それらの段階的な指導方法を理解する。

＜授業の到達目標＞
１．器械運動に関する基礎的な動きから発展的な動きを習得し、見本として実施することができるようになる。２．動きについての技術的な内容や段階的な学習方法を理解し、他者に説明できるようになる。

＜授業の方法＞
指導を受けると同時に、ICTを用いながら各自で教えあい、それぞれの技能を伸ばしていく授業方法を展開する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
要素：有ICTを活用し、自己や他者の技能状況を分析し、仲間と協働して技能習得に向けた取り組みを実施。また、授業毎にFBを実施し、自己の技能状況を把握する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
復習：振り返りシートにその日に教わったポイントや気づきなどを整理して記入すること。また、これまでに受けてきた授業で取り上げた技で出来ていない技については、日ごろから繰り返し練習する（約20分）。予習：翌週で学習する技について技術情報を調べる（約20分）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
この科目は、体育学科のディプロマポリシー7「体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組み続けることができる生涯学習力を身に付けている。」に関連するコア科目である。学習指導要領に例示されている器械運動領域の技能を学習する過程で、運動に関する知見をもとに、自らの課題を見つけ、技能の習熟度を高めていくことをねらいとしている。
出席・態度：30%　レポート/提出物：20%　実技：50%

＜教科書＞

＜参考書＞
三木四郎（2005）　新しい体育授業の運動学　明和出版
三木四郎、加藤澤男、本村清人 編著（2006）　中・高校器械運動の授業つくり　大修館書店

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業ガイダンス、器械運動の歴史・特性、器具の出し方について
2	マット運動	回転系接転技群技能の習得
3	跳び箱運動	切り返し系技群技能の習得
4	器械運動の指導方法の検討	指導者の立場を想定した学習方法の考案
5	鉄棒運動	前転系技能の習得
6	鉄棒運動	後転系技能の習得
7	マット運動	接転系技群技能の習得
8	マット運動	ほん転系技群技能の習得①
9	マット運動	ほん転系技群技能の習得②
10	総合練習①	実技テストの説明/演技構成の検討
11	総合練習②	演技構成の練習/技能チェックシートの作成
12	総合練習③	演技構成の練習/技能チェックシートの提出
13	技能テスト①	演技構成の実施
14	実技テスト②	演技構成の実施
15		
16		

科目コード	40123				区　分	コア科目		
授業科目名	器械運動Ⅰ(基礎)				担当者名	坂本　康輔		
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択必修

＜授業の概要＞
マット運動、鉄棒運動、とび箱運動の主に学習指導要領(保健体育)に掲載されている基本技から発展技の技能を習得するとともに、それらの段階的な指導方法を理解する。

＜授業の到達目標＞
１．器械運動に関する基礎的な動きから発展的な動きを習得し、見本として実施することができるようになる。２．動きについての技術的な内容や段階的な学習方法を理解し、他者に説明できるようになる。

＜授業の方法＞
指導を受けると同時に、ICTを用いながら各自で教えあい、それぞれの技能を伸ばしていく授業方法を展開する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
要素：有ICTを活用し、自己や他者の技能状況を分析し、仲間と協働して技能習得に向けた取り組みを実施。また、授業毎にFBを実施し、自己の技能状況を把握する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
復習：振り返りシートにその日に教わったポイントや気づきなどを整理して記入すること。また、これまでに受けてきた授業で取り上げた技で出来ていない技については、日ごろから繰り返し練習する（約20分）。予習：翌週で学習する技について技術情報を調べる（約20分）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
この科目は、体育学科のディプロマポリシー7「体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組み続けることができる生涯学習力を身に付けている。」に関連するコア科目である。学習指導要領に例示されている器械運動領域の技能を学習する過程で、運動に関する知見をもとに、自らの課題を見つけ、技能の習熟度を高めていくことをねらいとしている。
出席・態度：30%　レポート/提出物：20%　実技：50%

＜教科書＞

＜参考書＞
三木四郎（2005）　新しい体育授業の運動学　明和出版
三木四郎、加藤澤男、本村清人 編著（2006）　中・高校器械運動の授業つくり　大修館書店

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業ガイダンス、器械運動の歴史・特性、器具の出し方について
2	マット運動	回転系接転技群技能の習得
3	跳び箱運動	切り返し系技群技能の習得
4	器械運動の指導方法の検討	指導者の立場を想定した学習方法の考案
5	鉄棒運動	前転系技能の習得
6	鉄棒運動	後転系技能の習得
7	マット運動	接転系技群技能の習得
8	マット運動	ほん転系技群技能の習得①
9	マット運動	ほん転系技群技能の習得②
10	総合練習①	実技テストの説明/演技構成の検討
11	総合練習②	演技構成の練習/技能チェックシートの作成
12	総合練習③	演技構成の練習/技能チェックシートの提出
13	技能テスト①	演技構成の実施
14	実技テスト②	演技構成の実施
15		
16		

科目コード	40123				区　分	コア科目		
授業科目名	器械運動Ⅰ(基礎)				担当者名	坂本　康輔		
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択必修

＜授業の概要＞
マット運動、鉄棒運動、とび箱運動の主に学習指導要領(保健体育)に掲載されている基本技から発展技の技能を習得するとともに、それらの段階的な指導方法を理解する。

＜授業の到達目標＞
１．器械運動に関する基礎的な動きから発展的な動きを習得し、見本として実施することができるようになる。２．動きについての技術的な内容や段階的な学習方法を理解し、他者に説明できるようになる。

＜授業の方法＞
指導を受けると同時に、ICTを用いながら各自で教えあい、それぞれの技能を伸ばしていく授業方法を展開する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
要素：有ICTを活用し、自己や他者の技能状況を分析し、仲間と協働して技能習得に向けた取り組みを実施。また、授業毎にFBを実施し、自己の技能状況を把握する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
復習：振り返りシートにその日に教わったポイントや気づきなどを整理して記入すること。また、これまでに受けてきた授業で取り上げた技で出来ていない技については、日ごろから繰り返し練習する（約20分）。予習：翌週で学習する技について技術情報を調べる（約20分）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
この科目は、体育学科のディプロマポリシー7「体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組み続けることができる生涯学習力を身に付けている。」に関連するコア科目である。学習指導要領に例示されている器械運動領域の技能を学習する過程で、運動に関する知見をもとに、自らの課題を見つけ、技能の習熟度を高めていくことをねらいとしている。
出席・態度：30%　レポート/提出物：20%　実技：50%

＜教科書＞

＜参考書＞
三木四郎（2005）　新しい体育授業の運動学　明和出版
三木四郎、加藤澤男、本村清人 編著（2006）　中・高校器械運動の授業つくり　大修館書店

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業ガイダンス、器械運動の歴史・特性、器具の出し方について
2	マット運動	回転系接転技群技能の習得
3	跳び箱運動	切り返し系技群技能の習得
4	器械運動の指導方法の検討	指導者の立場を想定した学習方法の考案
5	鉄棒運動	前転系技能の習得
6	鉄棒運動	後転系技能の習得
7	マット運動	接転系技群技能の習得
8	マット運動	ほん転系技群技能の習得①
9	マット運動	ほん転系技群技能の習得②
10	総合練習①	実技テストの説明/演技構成の検討
11	総合練習②	演技構成の練習/技能チェックシートの作成
12	総合練習③	演技構成の練習/技能チェックシートの提出
13	技能テスト①	演技構成の実施
14	実技テスト②	演技構成の実施
15		
16		

科目コード	40124				区　分	コア科目			
授業科目名	器械運動Ⅱ(応用)				担当者名	坂本　康輔			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
マット運動、鉄棒運動、とび箱運動の主に学習指導要領（保健体育）に掲載されている基本技から発展技について技能の段階的な指導方法を学び、状況に応じた指導方法を習得し、実践する。

＜授業の到達目標＞
① 学習者の動きを見て、運動学習上の課題を見抜くことできるようになる。② ①を踏まえて、学習者に適切な指導・助言ができるようになる。③ 自らが技能の見本を実施することができるようになる。④ 実践を通じて器械運動の指導を行うことができる。

＜授業の方法＞
器械運動の指導方法や指導内容を考えると同時に、ICTを用いながら技能習得段階者と教えあい、実際に指導することを主とする。そして、それぞれの技能を伸ばしたり、指導方法を考えたりするとともに技能習得に向けた課題解決するための学習方法を実践を通して考える。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
要素：有器械運動Ⅰ（基礎）を履修している学生へ実践的指導や自らの技能達成に向けた練習を通じて、自ら指導方法を考え、実践する方法を取り入れている。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
復習：振り返りシートにその日に教えたことや考えたことをまとめ、提出する。（約10分）予習：参考書の授業テーマに関する資料を読み、指導方法を検討する（反転授業）。（約20分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
この科目は、体育学科のディプロマポリシー7「体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組み続けることができる生涯学習力を身に付けている。」に関連するコア科目である。模擬授業：20%　受講態度：30%　提出物：30%（指導案含む）　指導力（スキル）テスト：20%

＜教科書＞

＜参考書＞
三木四郎、加藤澤男、本村清人　編著（2006）　中・高校器械運動の授業つくり　大修館書店
三木四郎（2005年）　新しい体育授業の運動学　明和出版

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業概要の説明、器械運動の特性について
2	器械運動の実践指導①	マット運動の指導方法の検討と実践指導
3	器械運動の実践指導②	跳び箱運動の指導方法の検討と実践指導
4	器械運動における指導方法の検討	指導方法の考案及び検討
5	器械運動の実践指導③	鉄棒運動の指導方法の検討と実践指導
6	器械運動の実践指導④	鉄棒運動の指導方法の検討と実践指導
7	器械運動の実践指導⑤	マット運動の指導方法の検討と実践指導
8	器械運動の実践指導⑥	マット運動の指導方法の検討と実践指導
9	器械運動技能評価の検討	評価方法の検討及び実技テストの採点について
10	器械運動の実践指導	担当グループのサポート及び指導
11	器械運動の実践指導と採点①	担当グループのサポート及び指導と跳び箱運動及び鉄棒運動の評価
12	器械運動の実践指導と採点②	担当グループのサポート及び指導とマット運動の評価
13	器械運動の実践指導と採点③	担当グループのサポート及び指導とマット運動及び鉄棒運動、跳び箱運動の評価
14	実践指導と指導力確認テスト	器械運動指導及び自己が選択した技能の指導実施
15		
16		

科目コード	40125				区　分	コア科目			
授業科目名	バドミントン				担当者名	小川　雄太			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択必修

＜授業の概要＞
本授業は兵庫県教職員バドミントン大会における優勝等の成績を残した競技歴30年以上の担当者による指導により、バドミントン競技を実技形式で学ぶ。バドミントン競技は公園でのレクリエーションとしても親しまれ、ラケットとシャトルさえあれば、どこでも楽しむことができるスポーツである。本授業においては、基本的なストロークを習得し、ゲーム練習を行い、バドミントン競技を楽しめるようになることを目指す。具体的には基本的なストロークとして、ハイクリア、ドロップ、ドライブ、スマッシュ、ロビング、ネット、プッシュ等を習得する。その

＜授業の到達目標＞
基本ストローク（サーブ、ハイクリア、ドロップ、ドライブ、スマッシュ、ロビング、ネット、プッシュ等）の技術を習得する。

＜授業の方法＞
実技を中心に展開していくが、必要に応じて資料を活用し、ルールや理論を理解させ、授業を進めていく。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループに分かれて学習内容についてディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
バドミントンの試合の動画等を視聴し、バドミントンについての理解を深める。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３(体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度等（60%）、実技テスト（40%）によって評価する。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーションラケットワーク、シャトルの特性	バドミントンの歴史、基本的なルール、マナー等について理解する。また、ラケットワーク及びシャトルの特性を実践的に理解する。
2	基本的なストローク１	基本的なストローク１として、サーブ、ハイクリア、ドロップを習得する。
3	基本的なストローク２	基本的なストローク２として、ドライブ、スマッシュ、ロビング、ネット、プッシュを習得する。
4	フットワーク	フットワークの方法を理解する
5	複合的な練習リスクマネジメント	基本的なスクロール及びフットワークを踏まえた複合的な練習に取り組み、リスクマネジメントを取り扱う
6	シングルスのルール	シングルスのルールと審判の方法を理解する。
7	シングルスのゲーム練習１	シングルスのゲーム練習を行う。
8	シングルスのゲーム練習２	シングルスのゲーム練習を行う。
9	ダブルスのルール	ダブルスのルールと審判の方法を理解する。
10	ダブルスのゲーム練習１	ダブルスのゲーム練習を行う。
11	ダブルスのゲーム練習２	ダブルスのゲーム練習を行う。
12	団体戦１	団体戦形式でのゲーム練習を行う。
13	団体戦２	団体戦形式でのゲーム練習を行う。
14	まとめ	総合的レポート
15		
16		

科目コード	40125				区　分	コア科目			
授業科目名	バドミントン				担当者名	小川　雄太			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択必修

＜授業の概要＞
本授業は兵庫県教職員バドミントン大会における優勝等の成績を残した競技歴30年以上の担当者による指導により、バドミントン競技を実技形式で学ぶ。バドミントン競技は公園でのレクリエーションとしても親しまれ、ラケットとシャトルさえあれば、どこでも楽しむことができるスポーツである。本授業においては、基本的なストロークを習得し、ゲーム練習を行い、バドミントン競技を楽しめるようになることを目指す。具体的には基本的なストロークとして、ハイクリア、ドロップ、ドライブ、スマッシュ、ロビング、ネット、プッシュ等を習得する。その

＜授業の到達目標＞
基本ストローク（サーブ、ハイクリア、ドロップ、ドライブ、スマッシュ、ロビング、ネット、プッシュ等）の技術を習得する。

＜授業の方法＞
実技を中心に展開していくが、必要に応じて資料を活用し、ルールや理論を理解させ、授業を進めていく。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループに分かれて学習内容についてディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
バドミントンの試合の動画等を視聴し、バドミントンについての理解を深める。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３(体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度等（60%）、実技テスト（40%）によって評価する。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーションラケットワーク、シャトルの特性	バドミントンの歴史、基本的なルール、マナー等について理解する。また、ラケットワーク及びシャトルの特性を実践的に理解する。
2	基本的なストローク１	基本的なストローク１として、サーブ、ハイクリア、ドロップを習得する。
3	基本的なストローク２	基本的なストローク２として、ドライブ、スマッシュ、ロビング、ネット、プッシュを習得する。
4	フットワーク	フットワークの方法を理解する
5	複合的な練習リスクマネジメント	基本的なスクロール及びフットワークを踏まえた複合的な練習に取り組み、リスクマネジメントを取り扱う
6	シングルスのルール	シングルスのルールと審判の方法を理解する。
7	シングルスのゲーム練習１	シングルスのゲーム練習を行う。
8	シングルスのゲーム練習２	シングルスのゲーム練習を行う。
9	ダブルスのルール	ダブルスのルールと審判の方法を理解する。
10	ダブルスのゲーム練習１	ダブルスのゲーム練習を行う。
11	ダブルスのゲーム練習２	ダブルスのゲーム練習を行う。
12	団体戦１	団体戦形式でのゲーム練習を行う。
13	団体戦２	団体戦形式でのゲーム練習を行う。
14	まとめ	総合的レポート
15		
16		

科目コード	40125				区　分	コア科目			
授業科目名	バドミントン				担当者名	小川　雄太			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択必修

＜授業の概要＞
本授業は兵庫県教職員バドミントン大会における優勝等の成績を残した競技歴30年以上の担当者による指導により、バドミントン競技を実技形式で学ぶ。バドミントン競技は公園でのレクリエーションとしても親しまれ、ラケットとシャトルさえあれば、どこでも楽しむことができるスポーツである。本授業においては、基本的なストロークを習得し、ゲーム練習を行い、バドミントン競技を楽しめるようになることを目指す。具体的には基本的なストロークとして、ハイクリア、ドロップ、ドライブ、スマッシュ、ロビング、ネット、プッシュ等を習得する。その

＜授業の到達目標＞
基本ストローク（サーブ、ハイクリア、ドロップ、ドライブ、スマッシュ、ロビング、ネット、プッシュ等）の技術を習得する。

＜授業の方法＞
実技を中心に展開していくが、必要に応じて資料を活用し、ルールや理論を理解させ、授業を進めていく。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループに分かれて学習内容についてディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
バドミントンの試合の動画等を視聴し、バドミントンについての理解を深める。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３(体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度等（60%）、実技テスト（40%）によって評価する。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーションラケットワーク、シャトルの特性	バドミントンの歴史、基本的なルール、マナー等について理解する。また、ラケットワーク及びシャトルの特性を実践的に理解する。
2	基本的なストローク１	基本的なストローク１として、サーブ、ハイクリア、ドロップを習得する。
3	基本的なストローク２	基本的なストローク２として、ドライブ、スマッシュ、ロビング、ネット、プッシュを習得する。
4	フットワーク	フットワークの方法を理解する
5	複合的な練習リスクマネジメント	基本的なスクロール及びフットワークを踏まえた複合的な練習に取り組み、リスクマネジメントを取り扱う
6	シングルスのルール	シングルスのルールと審判の方法を理解する。
7	シングルスのゲーム練習１	シングルスのゲーム練習を行う。
8	シングルスのゲーム練習２	シングルスのゲーム練習を行う。
9	ダブルスのルール	ダブルスのルールと審判の方法を理解する。
10	ダブルスのゲーム練習１	ダブルスのゲーム練習を行う。
11	ダブルスのゲーム練習２	ダブルスのゲーム練習を行う。
12	団体戦１	団体戦形式でのゲーム練習を行う。
13	団体戦２	団体戦形式でのゲーム練習を行う。
14	まとめ	総合的レポート
15		
16		

科目コード	40200				区　分	コア科目			
授業科目名	ダンスⅡ(応用)				担当者名	小澤　尚子			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業は、チアダンス、クラシック・バレエ、ヒップ・ホップ、ジャズ・ダンス、モダン・ダンス、即興（インプロヴィゼーション）、など様々なムーブメントやエクササイズに興味をもち、身体の多様な表現の可能性を探求する授業である。さらに、総合型地域スポーツクラブやイベント等で行われるダンス指導現場で、実践演習も行う。2年次配当の「ダンスⅠ」のステップ履修科目であり、特に、中高体育教員を目指すが学生に対して、教育実習でもダンスの指導ができるよう実際の指導現場で実習する機会を提供する。

＜授業の到達目標＞
ダンスⅠ（基礎）で学んだ上で、ダンスの授業を計画し、実践できる資質と能力をのばすことが目標である。また、現場実習を通して、受講者とのコミュニケーションを図りながらダンスの指導力を身につけることが到達目標である。

＜授業の方法＞
授業の前半は、基本的なダンスのストレッチとエクササイズを学び、また、チアダンスの基本的なモーションを学ぶ。実技試験では、音楽に合わせて創作し、ダンスの発表と鑑賞を実施する。また、現場実習①～⑦では、実際にダンスイベント・ダンスレッスンの現場に行き、実習を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素：有身体表現活動を通して、学習者同士が関わりながら学びを深める。具体的には、グループでの創作活動や即興表現、相互鑑賞とフィードバックを取り入れ、試行錯誤を重ねながら表現を発展させる。また、他者との協働による動きの生成や構成を通して、多様な視点や価値観に触れ、表現の幅を広げる。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：授業内容に関連する参考図書、参考資料等に目を通し、課題意識を持って授業に参加すること（1～2時間）復習：授業で配布した資料をファイリングする。授業で行ったダンスのウォームアップと振付等をフィードバックし、次回の授業までに覚えておく（1～2時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能の習得を通じて、今後の学習の基礎を涵養するための応用科目である。自らが立案した新たな課題に主体的、創造的に取り組み、その課題を解決できる能力を身に付けていく。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
出席状況を含めた授業態度（積極性、協調性など） 40%、技能（上達度含む）と毎時間提出する授業記録 30%、実技試験 30%。ただし欠席が3分の1以上の場合は不可とする。

＜教科書＞
必要に応じて資料を配布する。

＜参考書＞
文部科学省（２０１７）　中学校学習指導要領解説　保健体育編
文部科学省（２０１８）　高等学校学習指導要領解説　保健体育編・体育編

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	授業内容の説明、導入	授業計画、授業展開、授業でのルール等の説明。
2	コミュニケーションと表現	体ほぐし運動、身体表現を通したコミュニケーションワーク。
3	現代的なリズムのダンス（1）	体ほぐし運動、ジャズ・ダンス、ヒップ・ホップ、チアダンスの基礎体験。
4	現代的なリズムのダンス（2）	体ほぐし運動、ジャズ・ダンス、ヒップ・ホップ、チアダンスの基礎体験。
5	ダンスの創作	グループ・または個人でダンスを創作する。
6	ダンスの創作	グループ・または個人でダンスを創作する。
7	ダンスの発表・鑑賞	グループ・または個人で創作したダンスを発表・評価。
8	現場実習①	ダンスイベント・レッスンの現場で実際に実習を行う。
9	現場実習②	ダンスイベント・レッスンの現場で実際に実習を行う。
10	現場実習③	ダンスイベント・レッスンの現場で実際に実習を行う。
11	現場実習④	ダンスイベント・レッスンの現場で実際に実習を行う。
12	現場実習⑤	ダンスイベント・レッスンの現場で実際に実習を行う。
13	現場実習⑥	ダンスイベント・レッスンの現場で実際に実習を行う。
14	授業のまとめ	本授業のまとめを行う。
15		
16		

科目コード	40202				区　分	コア科目			
授業科目名	バレーボールⅡ(応用)				担当者名	坂本　博秋			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
バレーボールは集団のスポーツであり、集団による協力が重要である。球技種目履修の意義は、球技種目における個人技術の向上、技術、戦術の理解や、体力トレーニングの方法を学ぶだけでなく、この集団による協力の重要性を、ゲームを通して肌で感じることにある。また単に技術向上をねらいとするだけではなく、将来指導者、教員を目指すことを想定し、指導法についても講義する。なお、ボレーボールⅡ（応用）は、バレーボールⅠ（基礎）を修得していることが履修の条件となる。

＜授業の到達目標＞
スパイク技術、レシーブ技術、ブロック技術、サーブ技術を向上させると同時にそれらを指導できる力を身につけることを目標とするとともに日本バレーボール協会公認コーチ１の受験資格取得を目指す。

＜授業の方法＞
日本バレーボール協会公認コーチ資格取得カリキュラムに沿って展開していく。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有グループ・ディスカッションや指導実習など

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
書籍や映像等を用いてバレーボールについての理解を深める。（事前事後を含め３時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度 40%、 実技テスト及びレポート 60%

＜教科書＞
日本バレーボール協会（2017年2月10日版）　コーチングバレーボール（基礎編）　大修館書店

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	内容説明と導入	指導者資格について
2	指導者の在り方	指導者とは
3	バレーボールの歴史	バレーボールの生い立ちと現状の理解
4	競技規則と審判法（6/9）	競技規則の理解と審判トレーニング
5	ビーチバレーボールの指導法と競技規則（１）	技術理解と戦術について
6	ビーチバレーボールの指導法と競技規則（２）	練習方法と練習計画
7	グループディスカッション	コーチングについて
8	指導実習（基礎Ⅰ）と救急法（１）	基礎技術の指導（パス、アタック、ブロック）と救急法実習
9	指導実習（基礎Ⅰ）と救急法（２）	基礎技術の指導（サーブ、レセプション）と救急法実習
10	練習計画の立案	練習方法の理解と配分について
11	ウォーミングアップとクーリングダウン	方法の理解と実践
12	初心者導入法（2/4/6/9）	導入方法の理解と練習方法及び指導実習
13	フォーメーション（基礎）	フォーメーションの理解と実践
14	実技試験とレポート	総合実技テスト及びレポート
15		
16		

科目コード	40204				区　分	コア科目			
授業科目名	ハンドボールⅡ(応用)				担当者名	前田　誠一			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

地域スポーツクラブ・スポーツ少年団・小・中・高等学校運動部活等でコーチングスタッフとして、基礎的な知識・技能に基づき、安全で効果的な活動を提供できる指導者を養成する講座である。受講対象者：ハンドボールⅠ及び、チームスポーツ指導理論Ⅰを取得、もしくは、履修者。安全配慮：授業開始前に履修者の体調・怪我の有無を確認。重度の怪我、軽度の怪我であっても、授業に参加できない場合には、レポート評価で対応する。事故対応:授業中の怪我等による事故が発生した場合には、学生救護を最優先とし、授業はレポート評価で対応する。

＜授業の到達目標＞

ハンドボールのルールと競技特性を理解し、指導者として、チーム運営に必要な基礎知識を身につけ、実践できる。また、ハンドボール競技の成り立ちに着目した上で、基礎的技術、戦術を身につけ、選手育成指導ができる。

＜授業の方法＞

(1)実践指導(2)ディスカッション、ディベート(3)グループワーク(4)プレゼンテーション(5)実習

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

能動的学習教養・知識・経験を養成し、トレーニング指導を実践する

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時に紹介するハンドボール指導法に関する書籍・DVDを参照し、予習・復習(1コマにつき1時間)にあてる。また、授業ノートを作り、その日に行ったこと、 ポイント、感想などを記入していく。なお、授業ノートは定期的に集め、内容をチェックする。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 30%、技術・戦術遂行能力・指導学習能力 20%、レポート 20%　期末試験　30%

＜教科書＞

＜参考書＞

酒巻清治(2012/9/3)　基本が身につく　ハンドボール　練習メニュー　池田書店
日本ハンドボール協会(2019/7/7)　2019　NTS　センタートレーニング　テキスト2020　NTS　センタートレーニング　テキスト2021　NTS　センタートレーニング　テキスト2022　NTS　センタートレーニング　テキスト2023　NTS　センタートレーニング　テキスト2024　NTS　センタートレーニング　テキスト2025　NTS　センタートレーニング　テキスト　株式会社　ブライト

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業内容説明・スポーツインテグリティについて
2	競技の概要と戦術の展開	ハンドボールの特性に応じたコーチングの基礎理論を考える
3	チームの構造と必要となる競技力	競技力向上に応じたコーチングの基礎理論を考える
4	コーチの役割とコーチング能力の発達	基礎指導理論の考察(フィロゾフィー)
5	発育発達を踏まえた一貫指導	ヨーロッパと日本の一貫指導について
6	フィジカルアビリティーとコンディショニング	グループディスカッション、ディベート
7	ゲームの分析方法	グループワーク、プレゼンテーション
8	競技規則の理解と試合における判定	種目の特性に応じたコーチングの基礎理論
9	ゲーム能力を高めるトレーニング	コーチング演習、プレゼンテーションⅠ
10	個人のスキルを高めるトレーニング	コーチング演習、プレゼンテーションⅡ
11	ゴールキーパートレーニング	キーパートレーニング基礎指導法について
12	フィジカルトレーニング	コーチング演習(課題抽出とその修正)
13	目標設定とトレーニング計画の作成	コーチング実習(ピリオダイゼーションの作成)
14	コーチングの実践	コーチング実習(課題抽出とその修正)コーチングの実践の振り返りとその評価
15		
16		

科目コード	40205				区　分	コア科目			
授業科目名	陸上Ⅱ(応用)				担当者名	品田　直宏			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技・講義	卒業要件	選択必修

＜授業の概要＞
陸上競技は、どのスポーツ種目においても基本となる走・跳・投・歩の運動から構成される。内容的には体力的・技術的・精神的な多くの要素を含んでおり、競技や練習を行う上で多面性を要求され、計画的・継続的に行う必要がある種目である。本授業では、陸上Ｉで行った内容を指導実践するものとし、陸上競技の指導者養成することを目的とした授業を展開する。

＜授業の到達目標＞
本授業では、「陸上競技Ｉ（基礎）」で学習した内容の指導実践を行ない、各種目に応じたウォーミングアップの立案と実践、各種目の技術的指導ができるようになることを目標としている。陸上競技のコーチングにとって必要な高度な専門知識を身につけた上で、トレーニング方法やトレーニングプログラムデザインを提案できるようになること。

＜授業の方法＞
対面授業による実技（陸上競技場･スポーツ科学センター）のため教科書は使用しないが、雨天時にはGoogle Classroomを用いたオンデマンド型授業とし、各種目の歴史やルール･指導上の留意点に関する理解を深めると共に、レポート課題を行う。履修上限人数は40人とする。陸上Ｉの受講学生を対象とした指導実践を行なう。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有本授業では、実技を中心とした双方向型の学習を通してアクティブ・ラーニングを取り入れる。具体的には、学生同士によるペア・グループでの相互指導（ピア・ラーニング）や、動作観察およびフィードバックを行うことで、技術理解と指導力の向上を図る。また、オンデマンド授業においては、提示された課題に対するレポート作成や小テストを通して主体的な学習を促すとともに、対面授業での実践と結び付けることで理解の深化を図る。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
本授業では、各回あたり予習・復習として合計60分程度の学習を行うことを想定する。予習としては、各種目のルールや技術ポイント、指導上の留意点および安全管理に関する基礎知識を事前に確認しておくこと。復習としては、対面授業で実施した技術や指導内容について振り返りを行い、自身の課題や改善点を整理するとともに、関連資料の確認や課題（レポート・小テスト）への取り組みを行うこと。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連づけられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
成績評価は以下の割合で総合的に評価する。･実技指導:40％(4種目*10%=40%)・レポート課題:40%(オンデマンド授業4回*10%=40%)・受講態度・学習意欲：20％実技指導では、各種目における指導内容を評価する。レポート課題では、各種目の技術理解、指導上の留意点、安全管理に関する理解度を評価する。受講態度・学習意欲については、授業への積極的な参加状況、協働的な学びへの関与、準備・振り返りの取り組み状況等を総合的に評価する。フィードバックについては、実技においては授業内での口頭指導や個別助言を通し

＜教科書＞

＜参考書＞
関岡康雄　陸上競技入門　ベースボールマガジン社
日本陸上競技連盟　陸上競技ルールブック　ベースボールマガジン社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス、陸上競技の概要、ウォーミングアップの行い方と「歩く」・「走る」の実践	受講上の注意、陸上競技のウォーミングアップ、軸を意識した姿勢作り、ウォーキング&ジョギング。心拍数を利用したウォーミングアップ、トレーニングの考え方について理解する。
2	短距離走①	短距離走の走り方、ウォーミングップを実践し、100m走の記録測定の補助を行う。
3	走高跳①	走高跳のウォーミングアップ実践、曲線助走の方法、踏切の方法を理解し、指導補助を行う。
4	走高跳②	踏切～背面跳の方法を理解し、指導補助を行う。また、記録測定の審判を行う。
5	ハードル走①	ハードルドリル、ハードルクリアランス、アプローチの方法を理解し、指導補助を行う。
6	ハードル走②	インターバル間の走りを理解し、指導補助を行う。記録測定の審判を行う。
7	走幅跳	走幅跳跳のウォーミングアップ実践、助走の合わせ方、助走～踏切の方法を理解

		し、指導補助を行う。
8	砲丸投	砲丸投げのウォーミングアップ実践、立ち投げの方法を理解し、指導補助を行う。
9	リレー種目の理解	リレー種目の指導方法について理解を深めるとともに、バトンワークを実践する。
10	バネを高めるトレーニング・指導方法の理解	バネを高めるトレーニング方法について理解を深めるとともに、ボックスを用いたプライオメトリックトレーニングやバウンディングトレーニングについて、実践を行う。
11	跳躍種目におけるパフォーマンス構造の理解（オンデマンド）	オンデマンド教材を用い、跳躍種目のパフォーマンスに英巨王を与える体力要素およびそれらを高めるための体力トレーニングについて理解を深める。理解度の確認として、小レポートを行う。
12	三段跳のパフォーマンス構造の近い(オンデマンド)	オンデマンド教材を用い、跳躍種目における三段跳について理解を深める。理解度の確認として、小レポートを行う。
13	陸上競技における性差の理解	オンデマンド教材を用い、性差を考慮したコーチング方法について理解を深める。理解度の確認として、小レポートを行う。
14	ジュニア期に求められるトレーニングの理解	オンデマンド教材を用い、ジュニア期に必要なトレーニング・方法について理解を深める。理解度の確認として、小レポートを行う。
15		
16		

科目コード	40206				区　分	コア科目			
授業科目名	柔道Ⅱ(応用) [PH用]				担当者名	矢野　智彦／片桐　夏海			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
「柔道Ⅰ」においては、柔道の基本的動作と基礎技術を身につけると同時に、柔道指導における安全性や管理方法についても理解を深めることを目的として授業が行われたが、「柔道Ⅱ（応用）」においては、「柔道Ⅰ（基礎）」において体得した柔道の基本動作、基礎技術をさらに習熟させると同時に、掛かり稽古・試合等を通して応用技術を習得する。また、実技能力を向上させるのみならず、柔道指導における安全・管理および審判法を学び、教育現場で指導できるように履修者の資質を高めることを目的とする。

＜授業の到達目標＞
礼儀正しい公正な態度で、簡易な試合を楽しむことができる。簡易な試合で使うことができる基本となる技を身に付けている。簡易な試合でのルールや審判法を理解し昇段を目指している。

＜授業の方法＞
実技を中心に展開していくが、必要に応じて投の形やビデオ・資料等の教材を活用し授業を進めていく。なお、1クラス当たりの履修上限は原則40名とする。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
100分授業への変更に伴い、発表機会を拡充したアクティブラーニングを展開する。ペアワーク： 技の動きを相互に分析・指摘し、技術の精度を高める。グループディスカッション： 実践を振り返り、改善点を言語化する。ケーススタディ： 課題に対する解決策を論理的に導き出す。成果発表： 導き出した解決策を実技や口頭で発表し、クラス全体で共有・評価を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：参考書を用いて事前に柔道の技の仕組みを理解する。（1時間程度）復習：柔道大会等を積極的に観戦しレポートを作成する。（30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度　（学習意欲含む）70%、実技試験　30%

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	1. 一本背負い投げ	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り（自由練習）
2	2. 双手背負い投げ	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り（自由練習）
3	3. 釣り込み腰	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り（自由練習）
4	4. 体落し	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り（自由練習）
5	5. 送り足払い	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り（自由練習）
6	6. 大内刈り	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り（自由練習）
7	7. 払い腰	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り（自由練習）
8	8. 小外刈り	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り（自由練習）
9	9. 内股	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り（自由練習）
10	10～12. 固め技の基本動作	固め技の基本姿勢、体さばき、攻撃方法の研究、四つんばいの相手の攻撃方法、あお向けの相手の攻撃方法、絞め技、活法、上体の決め方、足の抜き方
11	13. 試合	技の攻防
12	14. まとめ	試合の反省と技の研究、総括
13		
14		
15		
16		

科目コード	40206				区　分	コア科目			
授業科目名	柔道Ⅱ(応用) [PP・PS女子用]				担当者名	片桐　夏海			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
「柔道Ⅰ」においては、柔道の基本的動作と基礎技術を身につけると同時に、柔道指導における安全性や管理方法についても理解を深めることを目的として授業が行われた。「柔道Ⅱ（応用）」においては、「柔道Ⅰ（基礎）」において体得した柔道の基本動作、基礎技術をさらに習熟させると同時に、相手と攻防を展開する簡易な試合形式の実践練習等を通して応用技術を習得する。また、実技能力を向上させるのみならず、柔道指導における安全・管理および審判法を学び、教育現場で指導できるように履修者の資質を高めることを目的とする。

＜授業の到達目標＞
1）礼儀正しい公正な態度で、簡易な試合を楽しむことができる。2）簡易な試合で使うことができる基本となる技を身に付けている。3）簡易な試合でのルールや審判法を理解し昇段を目指している。

＜授業の方法＞
実技を中心に展開していくが、必要に応じて投の形やビデオ・資料等の教材を活用し授業を進めていく。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
「柔道Ⅱ（応用）」では、基本技術の習熟に加え、簡易な試合形式を取り入れた実践練習を通じて、受講者が主体的に技術を応用する機会が設けられている。また、安全管理や審判法を学ぶ中で、指導者として必要な判断力や実践的スキルを身につけることができる。これらの学習活動は、協働的な学びや体験的学習を含み、アクティブラーニングの特徴を備えている。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：参考書を用いて事前に柔道の技の仕組みを理解する。（1時間程度）復習：柔道大会等を積極的に観戦しレポートを作成する。（30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度　（学習意欲含む）70%、実技試験　30%

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	1.一本背負い投げ	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り（自由練習）
2	2.双手背負い投げ	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り（自由練習）
3	3.釣り込み腰	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り（自由練習）
4	4.体落し	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り（自由練習）
5	5.送り足払い	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り（自由練習）
6	6.大内刈り	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り（自由練習）
7	7.払い腰	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り（自由練習）
8	8.小外刈り	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り（自由練習）
9	9.内股	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り（自由練習）
10	10～12.固め技の基本動作	固め技の基本姿勢、体さばき、攻撃方法の研究、四つんばいの相手の攻撃方法、あお向けの相手の攻撃方法、絞め技、活法、上体の決め方、足の抜き方
11	11～13.実践練習	技の攻防
12	14.まとめ	試合の反省と技の研究、総括
13		
14		
15		
16		

科目コード	40206				区　分	コア科目		
授業科目名	柔道Ⅱ(応用) [PP・PS男子用]				担当者名	矢野　智彦		
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
「柔道Ⅰ」においては、柔道の基本的動作と基礎技術を身につけると同時に、柔道指導における安全性や管理方法についても理解を深めることを目的として授業が行われたが、「柔道Ⅱ（応用）」においては、「柔道Ⅰ（基礎）」において体得した柔道の基本動作、基礎技術をさらに習熟させると同時に、掛かり稽古・試合等を通して応用技術を習得する。また、実技能力を向上させるのみならず、柔道指導における安全・管理および審判法を学び、教育現場で指導できるように履修者の資質を高めることを目的とする。

＜授業の到達目標＞
礼儀正しい公正な態度で、簡易な試合を楽しむことができる。簡易な試合で使うことができる基本となる技を身に付けている。簡易な試合でのルールや審判法を理解し昇段を目指している。

＜授業の方法＞
実技を中心に展開していくが、必要に応じて投の形やビデオ・資料等の教材を活用し授業を進めていく。なお、1クラス当たりの履修上限は原則40名とする。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
100分授業への変更に伴い、発表機会を拡充したアクティブラーニングを展開する。ペアワーク： 技の動きを相互に分析・指摘し、技術の精度を高める。グループディスカッション： 実践を振り返り、改善点を言語化する。ケーススタディ： 課題に対する解決策を論理的に導き出す。成果発表： 導き出した解決策を実技や口頭で発表し、クラス全体で共有・評価を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：参考書を用いて事前に柔道の技の仕組みを理解する。（1時間程度）復習：柔道大会等を積極的に観戦しレポートを作成する。（30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度　（学習意欲含む）70%、実技試験　30%

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	1. 一本背負い投げ	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り（自由練習）
2	2. 双手背負い投げ	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り（自由練習）
3	3. 釣り込み腰	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り（自由練習）
4	4. 体落し	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り（自由練習）
5	5. 送り足払い	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り（自由練習）
6	6. 大内刈り	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り（自由練習）
7	7. 払い腰	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り（自由練習）
8	8. 小外刈り	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り（自由練習）
9	9. 内股	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り（自由練習）
10	10～12. 固め技の基本動作	固め技の基本姿勢、体さばき、攻撃方法の研究、四つんばいの相手の攻撃方法、あお向けの相手の攻撃方法、絞め技、活法、上体の決め方、足の抜き方
11	13. 試合	技の攻防
12	14. まとめ	試合の反省と技の研究、総括
13		
14		
15		
16		

科目コード	40206				区　分	コア科目		
授業科目名	柔道Ⅱ(応用) [PP・PS男子用]				担当者名	矢野　智彦		
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
「柔道Ⅰ」においては、柔道の基本的動作と基礎技術を身につけると同時に、柔道指導における安全性や管理方法についても理解を深めることを目的として授業が行われたが、「柔道Ⅱ（応用）」においては、「柔道Ⅰ（基礎）」において体得した柔道の基本動作、基礎技術をさらに習熟させると同時に、掛かり稽古・試合等を通して応用技術を習得する。また、実技能力を向上させるのみならず、柔道指導における安全・管理および審判法を学び、教育現場で指導できるように履修者の資質を高めることを目的とする。

＜授業の到達目標＞
礼儀正しい公正な態度で、簡易な試合を楽しむことができる。簡易な試合で使うことができる基本となる技を身に付けている。簡易な試合でのルールや審判法を理解し昇段を目指している。

＜授業の方法＞
実技を中心に展開していくが、必要に応じて投の形やビデオ・資料等の教材を活用し授業を進めていく。なお、1クラス当たりの履修上限は原則40名とする。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
100分授業への変更に伴い、発表機会を拡充したアクティブラーニングを展開する。ペアワーク： 技の動きを相互に分析・指摘し、技術の精度を高める。グループディスカッション： 実践を振り返り、改善点を言語化する。ケーススタディ： 課題に対する解決策を論理的に導き出す。成果発表： 導き出した解決策を実技や口頭で発表し、クラス全体で共有・評価を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：参考書を用いて事前に柔道の技の仕組みを理解する。（1時間程度）復習：柔道大会等を積極的に観戦しレポートを作成する。（30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度　（学習意欲含む）70%、実技試験　30%

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	1. 一本背負い投げ	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り（自由練習）
2	2. 双手背負い投げ	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り（自由練習）
3	3. 釣り込み腰	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り（自由練習）
4	4. 体落し	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り（自由練習）
5	5. 送り足払い	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り（自由練習）
6	6. 大内刈り	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り（自由練習）
7	7. 払い腰	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り（自由練習）
8	8. 小外刈り	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り（自由練習）
9	9. 内股	投げ込み、打ち込み、相手を崩しての投げ、乱取り（自由練習）
10	10～12. 固め技の基本動作	固め技の基本姿勢、体さばき、攻撃方法の研究、四つんばいの相手の攻撃方法、あお向けの相手の攻撃方法、絞め技、活法、上体の決め方、足の抜き方
11	13. 試合	技の攻防
12	14. まとめ	試合の反省と技の研究、総括
13		
14		
15		
16		

科目コード	40207				区　分	コア科目		
授業科目名	剣道Ⅱ(応用)				担当者名	堀川　峻		
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
剣道Ⅱ（応用）」では、「剣道Ⅰ（基礎）」で学習した基礎・基本動作を習熟させ、互格稽古や試合などを通して応用技術を学習する。また、技術の向上だけではなく、剣道指導上の留意点や指導方法を学習し、教育現場で指導できるように、専門的な知識と実践力を身につけることを目的とする。また、剣道の段位を取得していない学生（剣道初心者等）は1級及び初段審査に合格を目標として行う。※履修条件...剣道Ⅰ（基礎）の単位修得済みの学生に限る。本授業においては、（１）服装・用具の確認（２）授業前の体調確認・準備運動（３）指導内容の遵守（

＜授業の到達目標＞
中学校・高等学校等の教育現場での剣道授業、課外活動指導は当然のことながら、社会体育の中でも剣道を志す方々を指導できるような剣道専門指導者としての知識、技量、人間性を身に付けることを目標とする。また、剣道の段位を取得していない者は、1級及び初段を取得することを目標とする。

＜授業の方法＞
講義・実技・ディスカッションClassroomを使用

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション）、試合実践の際にチームの５～７名でディスカッションを実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習として、剣道の基本理念、安全に関する留意点に関して予習を行うこと(1時間程度)。また、事後学習（授業後）としては、授業で学んだ動作を振り返り、自身の課題や改善点を整理すること。さらに次回の授業に向けた目標を設定してくること(1時間程度)。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度 50%、実技試験 50%

＜教科書＞

＜参考書＞
全日本剣道連盟　剣道試合・審判規則/同細則

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	剣道Ⅰの復習（剣道の心構えについて）	剣道の在り方・剣道指導の在り方、剣道審査について
2	剣道Ⅰの復習(剣道具や作法、素振りについて)	剣道着・袴と剣道防具の知識を深め、正しく美しく着用する方法の学習、素振りの確認
3	剣道Ⅰの復習（仕掛け技基本動作の確認）	仕掛け技（面打ち・小手打ち・胴打ち）および切り返しの確認
4	木刀による剣道基本技稽古法（１～３）	木刀による剣道基本技稽古法を実践し、細かな動きを学習する。
5	木刀による剣道基本技稽古法（４～６）	木刀による剣道基本技稽古法を実践し、細かな動きを学習する。
6	木刀による剣道基本技稽古法（７～９）	木刀による剣道基本技稽古法を実践し、細かな動きを学習する。
7	木刀による剣道基本技稽古法の復習（１～９）	実際の審査形式において確認を行う。
8	応用動作（仕掛け技について）	仕掛け技（二段技・攻めを意識した仕掛け技）の実践
9	応用動作（応じ技について）	応じ技（面や小手に対しての応じ技）の実践
10	応用動作（実践稽古・立ち合い）	互角稽古と審査形式の立ち合いを行う。
11	審査内容の復習	審査の流れを確認し、剣道基本技稽古法や切り返し、立ち合いの復習を行う。
12	審査内容の確認	審査当日の最終確認を行う。
13	応用動作（実践稽古・試合）	互角稽古と試合を行い、実戦に役立つ戦法を考察しディスカッションを行う。
14	授業のまとめおよび実技確認テスト	授業のまとめと実技確認テストの実施。
15		
16		

科目コード	40303				区　分	コア科目			
授業科目名	整復学実技Ⅶ(総合)				担当者名	古山　喜一／簀戸　崇史			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	実技	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本科目は、これまで整復学実技Ⅰ～Ⅵで断片的に学習した運動器疾患に対する初期処置法を有機的に結び付けるものであり、実際の臨床現場を想定し、診察、理学検査、鑑別診断、整復、固定、後療法、指導管理等までの連続した医療面接、医療技術動作がスムーズに遂行できる総合的な能力の習得を目的とする。また、臨床現場におけるリスク管理についても学習する。

＜授業の到達目標＞
臨床現場で多く関わることがある代表的な運動器疾患（骨折、脱臼、軟部組織損傷）に対する疾患概念が説明でき、診察、理学検査、鑑別診断、整復、固定、後療法、指導管理等においても、実際の手順に沿って詳細な説明と共に実施ができるようになることを目標とする。

＜授業の方法＞
グループに分かれて実習形態で学習する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有り

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各運動器疾患（骨折、脱臼、軟部組織損傷）における理論、実技（整復法、固定法等）については予め復習し(2時間程度）、授業に臨むものとする。講義終了後はまとめノートを作成し知識の定着を図る（2時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
【対面授業】口頭試験、実技試験100％

＜教科書＞
全国柔道整復学校協会　柔道整復学・理論編　南江堂
全国柔道整復学校協会　柔道整復学・実技編　南江堂

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	本講義の実施方法、実施内容の説明を実施する。
2	口頭試問Ⅰ	上肢骨折(鎖骨骨折，上腕骨外科頸骨折，上腕骨骨幹部骨折，コーレス骨折，第５中手骨頚部骨折，肋骨骨折）の範囲から口頭試問を実施する。
3	口頭試問Ⅰ	上肢骨折(鎖骨骨折，上腕骨外科頸骨折，上腕骨骨幹部骨折，コーレス骨折，第５中手骨頚部骨折，肋骨骨折）の範囲から口頭試問を実施する。
4	実技試験の内容をオンデマンドにて学習する。	実技審査で実施する内容を動画で示し、各自口頭で述べながら、整復、固定が出来るようにする。
5	実技試験①（骨折）	上肢骨折（鎖骨骨折，上腕骨外科頸骨折，上腕骨骨幹部骨折，コーレス骨折）の範囲から上肢骨折に関する実技試験を実施する。
6	実技試験①（骨折）	上肢骨折（鎖骨骨折，上腕骨外科頸骨折，上腕骨骨幹部骨折，コーレス骨折）の範囲から上肢骨折に関する実技試験を実施する。
7	口頭試問Ⅱ	上肢脱臼（肩鎖関節上方脱臼，肩関節前方脱臼，肘関節後方脱臼，肘内障，示指PIP関節背側脱臼）の範囲から口頭試問を実施する。
8	口頭試問Ⅱ	上肢脱臼（肩鎖関節上方脱臼，肩関節前方脱臼，肘関節後方脱臼，肘内障，示指PIP関節背側脱臼）の範囲から口頭試問を実施する。
9	実技試験②	実技試験②（肩鎖関節上方脱臼，肩関節前方脱臼，肘関節後方脱臼，肘内障）の中から実技試験を実施する。
10	実技試験②	実技試験②（肩鎖関節上方脱臼，肩関節前方脱臼，肘関節後方脱臼，肘内障）の中から実技試験を実施する。
11	口頭試問Ⅲ	上肢、下肢軟部組織損傷(肩腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱炎，大腿部打撲・肉離れ，膝側副靱帯損傷,膝十字靱帯損傷,膝半月板損傷、下腿三頭筋肉離れ・アキレス腱断

		裂，足関節外側靭帯損傷，下腿骨幹部骨折）の範囲から口頭試問を実施する。
12	口頭試問Ⅲ	上肢、下肢軟部組織損傷（肩腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱炎，大腿部打撲・肉離れ，膝側副靭帯損傷，膝十字靭帯損傷，膝半月板損傷、下腿三頭筋肉離れ・アキレス腱断裂，足関節外側靭帯損傷，下腿骨幹部骨折）の範囲から口頭試問を実施する。
13	実技試験③	上肢、下肢軟部組織損傷（肩腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱炎，大腿部打撲・肉離れ，膝側副靭帯損傷，膝十字靭帯損傷，膝半月板損傷、下腿三頭筋肉離れ・アキレス腱断裂，足関節外側靭帯損傷，下腿骨幹部骨折）の範囲から実技試験を実施する。
14	実技試験③	上肢、下肢軟部組織損傷（肩腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱炎，大腿部打撲・肉離れ，膝側副靭帯損傷，膝十字靭帯損傷，膝半月板損傷、下腿三頭筋肉離れ・アキレス腱断裂，足関節外側靭帯損傷，下腿骨幹部骨折）の範囲から実技試験を実施する。
15		
16		

科目コード	40303				区　分	コア科目			
授業科目名	整復学実技Ⅶ(総合)				担当者名	古山　喜一／簀戸　崇史			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	実技	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本科目は、これまで整復学実技Ⅰ～Ⅵで断片的に学習した運動器疾患に対する初期処置法を有機的に結び付けるものであり、実際の臨床現場を想定し、診察、理学検査、鑑別診断、整復、固定、後療法、指導管理等までの連続した医療面接、医療技術動作がスムーズに遂行できる総合的な能力の習得を目的とする。また、臨床現場におけるリスク管理についても学習する。

＜授業の到達目標＞
臨床現場で多く関わることがある代表的な運動器疾患（骨折、脱臼、軟部組織損傷）に対する疾患概念が説明でき、診察、理学検査、鑑別診断、整復、固定、後療法、指導管理等においても、実際の手順に沿って詳細な説明と共に実施ができるようになることを目標とする。

＜授業の方法＞
グループに分かれて実習形態で学習する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有り

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各運動器疾患（骨折、脱臼、軟部組織損傷）における理論、実技（整復法、固定法等）については予め復習し(2時間程度）、授業に臨むものとする。講義終了後はまとめノートを作成し知識の定着を図る（2時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
【対面授業】口頭試験、実技試験100％

＜教科書＞
全国柔道整復学校協会　柔道整復学・理論編　南江堂
全国柔道整復学校協会　柔道整復学・実技編　南江堂

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	本講義の実施方法、実施内容の説明を実施する。
2	口頭試問Ⅰ	上肢骨折(鎖骨骨折，上腕骨外科頸骨折，上腕骨骨幹部骨折，コーレス骨折，第５中手骨頚部骨折，肋骨骨折）の範囲から口頭試問を実施する。
3	口頭試問Ⅰ	上肢骨折(鎖骨骨折，上腕骨外科頸骨折，上腕骨骨幹部骨折，コーレス骨折，第５中手骨頚部骨折，肋骨骨折）の範囲から口頭試問を実施する。
4	実技試験の内容をオンデマンドにて学習する。	実技審査で実施する内容を動画で示し、各自口頭で述べながら、整復、固定が出来るようにする。
5	実技試験①（骨折）	上肢骨折（鎖骨骨折，上腕骨外科頸骨折，上腕骨骨幹部骨折，コーレス骨折）の範囲から上肢骨折に関する実技試験を実施する。
6	実技試験①（骨折）	上肢骨折（鎖骨骨折，上腕骨外科頸骨折，上腕骨骨幹部骨折，コーレス骨折）の範囲から上肢骨折に関する実技試験を実施する。
7	口頭試問Ⅱ	上肢脱臼（肩鎖関節上方脱臼，肩関節前方脱臼，肘関節後方脱臼，肘内障，示指PIP関節背側脱臼）の範囲から口頭試問を実施する。
8	口頭試問Ⅱ	上肢脱臼（肩鎖関節上方脱臼，肩関節前方脱臼，肘関節後方脱臼，肘内障，示指PIP関節背側脱臼）の範囲から口頭試問を実施する。
9	実技試験②	実技試験②（肩鎖関節上方脱臼，肩関節前方脱臼，肘関節後方脱臼，肘内障）の中から実技試験を実施する。
10	実技試験②	実技試験②（肩鎖関節上方脱臼，肩関節前方脱臼，肘関節後方脱臼，肘内障）の中から実技試験を実施する。
11	口頭試問Ⅲ	上肢、下肢軟部組織損傷(肩腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱炎，大腿部打撲・肉離れ，膝側副靱帯損傷,膝十字靱帯損傷,膝半月板損傷、下腿三頭筋肉離れ・アキレス腱断

		裂，足関節外側靭帯損傷，下腿骨幹部骨折）の範囲から口頭試問を実施する。
12	口頭試問Ⅲ	上肢、下肢軟部組織損傷（肩腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱炎，大腿部打撲・肉離れ，膝側副靭帯損傷，膝十字靭帯損傷，膝半月板損傷、下腿三頭筋肉離れ・アキレス腱断裂，足関節外側靭帯損傷，下腿骨幹部骨折）の範囲から口頭試問を実施する。
13	実技試験③	上肢、下肢軟部組織損傷（肩腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱炎，大腿部打撲・肉離れ，膝側副靭帯損傷，膝十字靭帯損傷，膝半月板損傷、下腿三頭筋肉離れ・アキレス腱断裂，足関節外側靭帯損傷，下腿骨幹部骨折）の範囲から実技試験を実施する。
14	実技試験③	上肢、下肢軟部組織損傷（肩腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱炎，大腿部打撲・肉離れ，膝側副靭帯損傷，膝十字靭帯損傷，膝半月板損傷、下腿三頭筋肉離れ・アキレス腱断裂，足関節外側靭帯損傷，下腿骨幹部骨折）の範囲から実技試験を実施する。
15		
16		

科目コード	40305				区　分	コア科目		
授業科目名	剣道Ⅲ(発展)				担当者名	堀川　峻		
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
「剣道Ⅲ（発展）」では、剣道Ⅰ（基礎）、剣道Ⅱ（応用）で学習した基本動作、応用動作を反復練習することによって、技のスピードや手の内の効用を向上させ、互格稽古や試合などで、打突の好機を捉えその技を発揮できるようにする。その技術・技能を用いて、学校現場で、剣道専門家としてまた剣道有段者として、専門家でない教員より専門性が高い剣道授業が展開できるようになることが本授業の目的である。また、技術・技能の向上だけではなく、剣道指導上の留意点及び試合規則や審判法を学習し、教育現場で指導できるように、高い専門的な知識と実

＜授業の到達目標＞
中学校・高等学校等の教育現場で、剣道専門性の高い剣道授業、課外活動指導が実践できる知識、技術、技能を養い、授業実践できるようになることが目標である。さらに社会体育の中でも剣道を志す老若男女の方々を指導できる剣道専門指導者としての知識、技量、人間性を身に付けることを目標とする。また、剣道の段位を取得していない者は、段位取得を目標とする。

＜授業の方法＞
・剣道実技や日本剣道形・審判法・剣道理論学習を中心に実施する。・日本剣道形の示範動画は、事前にClassRoomに投稿されるので、事前課題として視聴し、疑問点を明らかにして授業に臨むこと。また、剣道理論についてもClassRoomを活用していく。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニング有日本剣道形や剣道理論の学習には、アクティブラーニングを取り入れ、示範動画を視聴したり、各自の練習風景を撮影したりして、各自の問題点や課題点を発見し、他者に伝えたり、お互いに評価し合うことで改善点を修正していく。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習(授業前)として、剣道Ⅰ（基礎）、剣道Ⅱ（応用）で学んだ知識や技能の復習を行うこと。また全日本剣道連盟「剣道試合・審判規則」「剣道試合・審判規則」を熟読すること(1時間程度)。また、事後学習(授業後)としては、授業で学んだ動作を振り返り、自身の課題や改善点を整理すること。さらに次回の授業に向けた目標を設定してくること(1時間程度)。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度40%、実技試験40%、剣道理論試験20%（授業内）

＜教科書＞

＜参考書＞
全日本剣道連盟平成25年（2013）　剣道授業の展開　全日本剣道連盟
全日本剣道連盟2020（初版8刷）　剣道指導要領　全日本剣道連盟

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	剣道を学ぶ者の心構えについて	剣道の在り方・剣道指導の在り方
2	剣道の礼法、着装、防具の知識	剣道の礼法、伝統的な考え方を知る。剣道着・袴、防具の知識を深め、正しく美しく着装する方法の学習
3	基本動作の確認基本動作の指導の仕方	仕掛け技（面打ち・胴打ち・小手打ち）及び切り返しの実践と指導法
4	応用動作（仕掛け技について）	仕掛け技（二段の技・払い技・引き技・出ばな技）の実践と指導の仕方「攻め」を意識して、打突の好機を捉えて打つ実践と指導の仕方
5	応用動作（応じ技について）	応じ技（抜き技・擦り上げ技、返し技、打ち落とし技）の実践と指導の仕方先、後の先、先々の先の理解
6	稽古・試合実践①	稽古や試合を通して、実践的な技能を身につける。
7	稽古・試合実践②	稽古や試合を通して、実践的な技能を身につける。
8	試合審判法①	試合の審判の仕方を身につけると共に、それを指導できるようにする。
9	試合審判法②	試合の審判の仕方を身につけると共に、それを指導できるようにする。
10	剣道指導実践（学校現場想定）①	学校現場での剣道指導を想定し、指導案を作成の上で実践する。
11	剣道指導実践（学校現場想定）②	学校現場での剣道指導を想定し、指導案を作成の上で実践する。
12	日本剣道形①	日本剣道形の理合いを理解しながら実践し、細かな動きを確認し、指導の仕方を学ぶ。
13	日本剣道形②	日本剣道形の理合いを理解しながら実践し、細かな動きを確認し、指導の仕方を学ぶ。
14	日本剣道形のまとめと実技試験、剣道理	日本剣道形のまとめと、実際の段位審査で行われる審査形式による実技テスト、剣

15	論試験	道学科確認テストを行う。
16		

科目コード	40401				区　分	コア科目		
授業科目名	インクルーシブスポーツ［PS用］				担当者名	宮本　彩		
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
インクルーシブスポーツとは、共生的な社会の実現に向けて障がいの有無や程度にかかわらず多様な人々が共に実施できるスポーツを指す。本授業では、インクルーシブスポーツとは何か、共生社会とどのように関わっていくのかということを実践を通して修得する。本授業を通じて学生が、誰もが同じ社会の中で共に生きるためにどのように工夫・協力し合えばよいかを考え、行動に移す力を身につけ、新たなスポーツやゲームを考案することによって指導と実践に必要な基本的知識について理解することを目的とする。担当教員の実務経験を活かし、実践的な授業

＜授業の到達目標＞
多様な人々が共に実施できるインクルーシブスポーツの意義や必要性について理解し、誰もがスポーツを楽しむための工夫・協力の方策や指導ができることを目標とする。

＜授業の方法＞
グループ活動を中心とし、誰もが共にスポーツをするために、どのような工夫・協力し合えばよいかを考え、最善の方法を見つけ出し、実践していく。なお、安全に実技を実施するため、少人数のグループに分かれて実践を行う。授業の前後で体調チェックを行い、体調に不安がある学生は見学等の措置を図る。また、ケガの予防のため十分にウォーミングアップを行った上で実施する。万が一、傷病者が発生した際には速やかに保健室ならびに学生センターへ連絡し、適切な対応を図る。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有無；有りグループ活動を基に様々なインクルーシブスポーツ（アダプテッドスポーツ）を実践し、体験した感想や意義を共有する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：次週の授業内容について調べる（30分）。復習：授業内容の振り返りならびに事後課題のレポート作成などを行う（30分）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度 50%、レポート課題 50%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	講義の内容を説明する。インクルーシブスポーツあるいはアダプテッドスポーツの概念について学ぶ。
2	障がい者スポーツの意義とパラリンピックの理念	障がい者スポーツの意義について受講者自身の考えを共有しながら、パラリンピックの理念の重要性を学ぶ。
3	パラリンピックの歴史、目的及び意義	グループワークを基にパラリンピックの歴史や目的及び意義を学び、時代ごとの社会背景なども踏まえてその位置づけについて議論する。
4	車椅子競技の探求	パラリンピックで実施されている車椅子競技のルールや参加条件等を調べ、その特徴を学ぶ。
5	車椅子競技の体験	車椅子競技の体験を通じて、共にスポーツを楽しむ上での工夫や注意点について考える。
6	アダプテッドスポーツの概念	アダプテッドスポーツの概念について学ぶ。また、意義や重要性、社会的背景等についてグループワークを通して探求する。
7	アダプテッドスポーツの体験	アダプテッドスポーツの１つであるアンプティサッカーを体験し、共にスポーツを楽しむ上での工夫や注意点について考える。
8	インクルーシブスポーツの概念	インクルーシブスポーツの概念について学ぶ。また、意義や重要性、社会的背景等についてグループワークを通して探求する。
9	インクルーシブスポーツの体験	アダプテッドスポーツの１つであるウォーキングサッカーを体験し、共にスポーツを楽しむ上での工夫や注意点について考える。
10	専門競技ごとの障がい者スポーツの調査	受講者自身が行っている専門競技ごとの障がい者スポーツの有無や取り組み等について調べる。
11	専門競技ごとの障がい者スポーツの調査	前回の授業内で調べた内容を他の受講者に発表する。

	結果の報告	
12	インクルーシブスポーツのプログラム企画	受講生は数名ごとのグループに分かれ、インクルーシブスポーツの概念を基にしたプログラムを企画する。
13	学生によるインクルーシブスポーツの実践	各グループが企画したインクルーシブスポーツのプログラムを実践する。
14	まとめ	今までの実践を踏まえたグループで自由討論を行い、レポートを提出する。
15		
16		

科目コード	40402				区　分	コア科目		
授業科目名	スタジオエクササイズ				担当者名	伊藤　三千雄		
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

コロナ禍において、運動様式はさらに多様化し、フィットネスプログラムの多くもオンラインやアプリを活用したものが登場した。ステイホームが習慣となってしまった高齢者においては、身体活動の減少から、機能低下や生活習慣病など不安視されるようになってきた。これらを背景にフィットネス活動の重要性が再認識され、特性や効果、安全性を踏まえて運動が提供できることが必要になってきている。本授業では、フィットネスプログラムを理解するとともに、運動の提供者、評価者の両者の視点から運動処方を学ぶ。

＜授業の到達目標＞

１．フィットネスクラブのプログラムの種類・特徴を理解している２．トレーニングの原理・原則に沿って、安全かつ効果的なプログラムを提供することができる３．プログラムの評価の観点を理解し、評価をもとにフィードバックすることができる最終ゴールとして、簡単なストレッチや体操を用いたレッスンができるようになることを目標とする。

＜授業の方法＞

座学を織り交ぜながら運動処方の基礎を学び、実技を中心に行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素有：5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：解剖学や生理学、トレーニングの基礎理論をもとに課題準備（30分）。復習：授業でもらったフィードバックをもとに、運動処方について練習を行う（30分）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー３(体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習態度 30%、レポート 30%、実技試験 40%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業概要・評価方法の説明、スタジオエクササイズ(エアロビクス・筋コンディショニング等）の基礎体験
2	運動処方の実際（1）	エアロビックダンスの基本ステップ（ロー・ハイインパクト）の習得と心拍数管理
3	運動処方の実際（2）	自重・軽負荷を用いた筋力トレーニング（体幹・下肢）の実践と負荷設定
4	運動処方の実際（3）	ストレッチングおよびコンディショニングエクササイズの実践と目的別処方
5	運動処方の統合	有酸素運動・筋トレ・ストレッチを組み合わせた基本プログラムの実践
6	運動プログラム作成（1）	ウォーミングアップ・主運動・クールダウンの構成と時間配分の理解
7	運動プログラム作成（2）	グループでの簡易プログラム作成と一部指導（ウォーミングアップ）
8	運動プログラム作成（3）	主運動パート（有酸素・筋トレ）の指導実践とフィードバック
9	運動プログラム作成（4）	一連のプログラム通し指導（短時間）と改善点の整理
10	運動プログラムの評価（1）	心拍数・自覚的運動強度（RPE）を用いた運動強度評価の実践
11	運動プログラムの評価（2）	対象者特性（初心者・高齢者等）に応じたプログラム修正
12	総合演習（模擬指導）	グループごとにプログラムを作成し、全体指導（リハーサル）を実施
13	実技テスト（1）	集団に対するスタジオエクササイズ指導（ウォームアップ～主運動）
14	実技テスト（2）・まとめ	集団指導の実践（主運動～クールダウン）および全体の振り返り
15		
16		

科目コード	40403				区　分	コア科目		
授業科目名	防災キャンプ				担当者名	伊藤　三千雄		
配当年次	1年	配当学期	前期集中	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業では、災害時を意識した野外活動を実施する。災害大国日本に住む我々は、被災時にどのような対応をすればよいのか、また被害の甚大化を防ぐには日頃どのように防災を意識しておくべきなのか、科学的見地から合理的な対処方法を学ぶ。また、体育・スポーツ人はその身体性や集団的特徴から、被災時には自らや身近な人はもちろんのこと、社会的により弱き者を助けることが求められる。体育学科生として備えておきべき資質と知識を実践的に身につける実習である。大学での事前事後学習および1泊2日程度の宿泊型実習を予定している。詳細は授業の

＜授業の到達目標＞
現代では、被災のファーストインパクトを回避・低減し、なおかつ被災後72時間を他者の支援を受けずとも生きながらえ、また他者を補助する余裕を持つに足る知識と技能を身に付けることが求められる。以上を踏まえた上で、近代的な社会インフラ（電気・ガス・水道など）が整ってない環境下で、衣食住を高い水準で成り立たせること。それに必要な手段や方法を理解し実践でき、他者に説明できるようになることが到達目標である。

＜授業の方法＞
座学と実習を組み合わせた形式をとる。座学では主に防災に関わる知識を学び、実習では実際に実演可能なスキルをグループ活動の中で学ぶ。実習は安全管理およびリスクマネジメントを行いながら段階的に実施する。授業前：①健康状態の確認を行い、体調不良者は活動内容を制限する。活動場所・気象状況・危険箇所の事前確認を行う。火気・刃物・野外調理器具の安全指導を事前に実施する。授業中：①教員の指示のもとで行動し、単独行動を禁止する。②活動前に準備運動・体調確認を行う。③水分補給・休憩を適宜実施し、熱中症・低体温症を予防する。④

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有：事前事後学習および実習ともにグループでの活動を基本とし、各課題についてグループワークを行い課題解決を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習：①災害の基礎知識（災害の種類・被災後72時間の行動）を資料・動画等で学習する。②野外活動の基礎技術（火起こし・野外炊事・ロープワーク・テント設営）について事前に調べる。③個人の防災備蓄・非常持出袋の内容を確認し、準備物を整理する。（合計 約4時間）事後学習：実習内容を振り返り、個人および家庭の防災計画を作成する。実習で学んだ技能・課題・改善点をレポートにまとめる。自身の地域の避難場所・防災体制を調査する。（合計 約4時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３(体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習態度およびグループへの貢献度 60%、最終課題 40%

＜教科書＞

＜参考書＞
星野敏男ほか（2011）　野外教育入門　小学館
能條歩（2020）　人と自然をつなぐ教育―自然体験教育学入門　増補改訂版　NPO法人北海道自然体験活動サポートセンター

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション／防災キャンプ実習の概要	授業の概要、評価について説明／実習の日程、内容、方法、注意点等についての説明
2	災害とはなにか，防災活動の基礎	災害そのものについて知るとともに、防災活動の必要性や意義を学ぶ。
3	社会の防災システムと個人の努力義務	自助、共助、公助の基本的方針を学ぶ。社会制度化された防災システムを確認するとともに、個人が備えておくべき義務を知る。
4	リスクマネジメントと危険予知トレーニング	災害そのもののリスクはもちろんのこと、被災後のリスクの肥大化についても学び、対策を学ぶ。
5	集団生活と健康管理	避難所での生活をはじめ、災害時対応に多い協働作業の中で、集団的な健康リスクと対策を学ぶ。
6	アイスブレイク	見ず知らずの人間同士が協力関係を素早く築くために適したアクティビティを実践的に学ぶ。
7	イニシアティブゲーム	集団の凝集性を高め、実効性・機能性の高い状態を作り出すためのアクティビティを実践的に学ぶ。
8	火起こしと火の維持管理	野外における生活水準を大きく左右する重要な要素である火の起こし方や活用方

		法、そして安全対策を学ぶ。
9	野外炊飯・調理	非日常的な調理環境の中でも、安全においしく調理を行う方法やグループでの役割分担について学ぶ。
10	野外工作	生活を豊かにする物が無いなら身近なものでブリコラージュで創り出す必要がある。安全に機能的な物を造り出す方法を学ぶ。
11	野外救急法	災害時など野外での傷病は、通常の都市生活時とは異なる対処が求められる。その具体的方法と考え方を学ぶ。
12	ロープワーク・搬送法	固定・牽引など様々な場面で必要とされるロープワークの活用・応用を実践的に学ぶ。
13	生活環境の整備	被災時にある程度長期的な生活を展望するには、持続可能な生活環境の整備が必要である。1週間～2週間を超える長期の野外生活を念頭に考え方と方法を学ぶ。
14	実習全体のまとめと振り返り	実習の各局面での「あの時・あの場所」の出来事を「いま・ここ」の視点からまとめる。
15		
16		

科目コード	51001				区　分	コア科目			
授業科目名	教育実習Ⅰ(幼稚園)				担当者名	虫明　淑子／楢﨑　日佳／塚本　千晴			
配当年次	3年	配当学期	集中	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
・幼稚園教諭免許取得にかかわる幼稚園教諭必修の実習として、認可幼稚園・こども園において観察・参加・部分実習を行う。・幼稚園での実習を通して、幼児への理解を深めるとともに、幼稚園の機能及び幼稚園教諭の職務について実践的に学ぶ。

＜授業の到達目標＞
・幼稚園の役割や機能を具体的に理解する。・観察や幼児との関わりを通して幼児への理解を深める。・既習の教科の内容を踏まえ、幼児の保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。・保育の計画、観察、記録及び自己評価等について学び、具体的に理解する。・幼稚園教諭の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

＜授業の方法＞
実習

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有。実習生同士または担当教員を含めて反省会をし、保育について振り返りをする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
教育実習事前指導及び他教科において学んだ内容を整理し、既習の知識や技能を確かめたり実践したりできる準備をしておくこと。また、社会人としてのマナーを身に付けておくこと。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
実習評価 90%、事前オリエンテーション・事後学習、日誌10%

＜教科書＞
環太平洋大学（2026）　教育実習の手引き（幼稚園）

＜参考書＞
文部科学省（2018）　幼稚園教育要領解説　フレーベル館
内閣府文部科学省厚生労働省（2018）　幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説　フレーベル館

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	教育実習（1）	実習園における事前オリエンテーション
2	教育実習（2）	実習園において指導のもとに観察・参加実習（1）
3	教育実習（3）	実習園において指導のもとに観察・参加実習（2）
4	教育実習（4）	実習園において指導のもとに観察・参加実習（3）
5	教育実習（5）	実習園において指導のもとに観察・参加実習（4）
6	教育実習（6）	実習園において指導のもとに観察・参加実習（5）
7	教育実習（7）	実習園において指導のもとに参加実習（1）
8	教育実習（8）	実習園において指導のもとに参加実習（2）
9	教育実習（9）	実習園において指導のもとに参加実習（3）
10	教育実習（10）	実習園において指導のもとに参加実習（4）
11	教育実習（11）	実習園において指導のもとに部分実習（1）
12	教育実習（12）	実習園において指導のもとに部分実習（2）
13	保育実習（13）	実習園において指導のもとに半日実習
14	教育実習（14）	実習園における実習反省会
15		
16		

科目コード	51002				区　分	コア科目			
授業科目名	教育実習Ⅱ(幼稚園)				担当者名	虫明　淑子／楢﨑　日佳／塚本　千晴			
配当年次	3年	配当学期	集中	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
・幼稚園教諭免許取得にかかわる幼稚園教諭必修の実習として、認可幼稚園・こども園において観察・参加・部分実習を行う。・幼稚園での実習を通して、幼児への理解を深めるとともに、幼稚園の機能及び幼稚園教諭の職務について実践的に学ぶ。

＜授業の到達目標＞
・幼稚園の役割や機能を具体的に理解する。・観察や幼児との関わりを通して幼児への理解を深める。・既習の教科の内容を踏まえ、幼児の保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。・保育の計画、観察、記録及び自己評価等について学び、具体的に理解する。・幼稚園教諭の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

＜授業の方法＞
実習

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有。実習生同士または担当教員を含めて反省会をし、保育について振り返りをする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
教育実習事前指導及び他教科において学んだ内容を整理し、既習の知識や技能を確かめたり実践したりできる準備をしておくこと。また、社会人としてのマナーを身に付けておくこと。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
実習評価 90%、事前オリエンテーション・事後学習、日誌10%

＜教科書＞
環太平洋大学（2026）　教育実習の手引き（幼稚園）

＜参考書＞
文部科学省（2018）　幼稚園教育要領解説　フレーベル館
内閣府文部科学省厚生労働省（2018）　幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説　フレーベル館

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	教育実習（1）	実習園において指導のもとに参加実習（1）
2	教育実習（2）	実習園において指導のもとに参加実習（2）
3	教育実習（3）	実習園において指導のもとに参加実習（3）
4	教育実習（4）	実習園において指導のもとに参加実習（4）
5	教育実習（5）	実習園において指導のもとに参加実習（5）
6	教育実習（6）	実習園において指導のもとに参加実習（6）
7	教育実習（7）	実習園において指導のもとに参加実習（7）
8	教育実習（8）	実習園において指導のもとに参加実習（8）
9	教育実習（9）	実習園において指導のもとに部分実習（1）
10	教育実習（10）	実習園において指導のもとに部分実習（2）
11	教育実習（11）	実習園において指導のもとに部分実習（3）
12	教育実習（12）	実習園において指導のもとに半日実習
13	教育実習（13）	実習園において指導のもとに全日実習
14	教育実習（14）	実習園における実習反省会
15		
16		

科目コード	51003				区　分	コア科目		
授業科目名	教育実習Ⅰ(小学校)《通年》				担当者名	羽田　あずさ		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
・実習校において観察・参加・部分実習を行う。・小学校での実習を通して、児童への理解を深めるとともに、学校の機能および教員の職務について実践的に学ぶ。

＜授業の到達目標＞
・大学で学習したことをもとに、小学校現場における教師の職務について実践的に学ぶことができる。・観察や児童との関わりを通して、児童への理解を深めることができる。・授業の計画・観察・記録および自己評価等についての実践的な学びを通して、基本的な指導技術を習得することができる。・教員の業務内容や職業倫理について具体的に学び、教師としての自覚をもつことができる。・社会における学校の役割や機能を具体的に学び、教育研究課題の発見することができる。

＜授業の方法＞
実習

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
小学校現場における実習

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前：・教育実習事前指導および教科において学んだ内容を整理し、既習の学習や技能を確認したり実践したりできる準備する（２時間程度）・社会人として指導者としてのマナーや常識を身に付けておくこと（２時間程度）事後：振り返りレポート（２時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）　と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
この科目は教育経営学科のディプロマシー４（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる）およびディプロマシー５（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる）と関連付けられている。教育課程で身につけた知識・技能等を実際の学校現場での授業にいかに活用できるか、どのように結び付けていくことができるかが求められている。さらに豊かな人間性・幅広い教養に根差した「教育に対する使命感や倫理観、協調できる社会的スキル」を育成する科目

＜教科書＞
特に指定しない

＜参考書＞
特に指定しない

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	教育実習	実習校において指導のもとに実習
2	教育実習	実習校において指導のもとに実習
3	教育実習	実習校において指導のもとに実習
4	教育実習	実習校において指導のもとに実習
5	教育実習	実習校において指導のもとに実習
6	教育実習	実習校において指導のもとに実習
7	教育実習	実習校において指導のもとに実習
8	教育実習	実習校において指導のもとに実習
9	教育実習	実習校において指導のもとに実習
10	教育実習	実習校において指導のもとに実習
11	教育実習	実習校において指導のもとに実習
12	教育実習	実習校において指導のもとに実習
13	教育実習	実習校において指導のもとに実習
14	教育実習	実習校における実習の振り返り
15		
16		

科目コード	51004				区　分	コア科目		
授業科目名	教育実習Ⅰ(中学校･高等学校)[英語]				担当者名	竹下　厚志／伊藤　仁美		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
・実習校において観察・参加・部分実習を行う。・学校での実習を通して、生徒への理解を深めるとともに、学校の機能および教員の職務について実践的に学ぶ。

＜授業の到達目標＞
・大学で学習したことをもとに、学校現場における英語科の指導内容や指導方法について実践的な技能を身に付けている。・観察や生徒との関わりを通して、生徒への理解を深めることができるようになる。・授業の計画・観察・記録および自己評価等について、実践的な学びを通してその手法を身に付けている。・教員の業務内容や職業倫理について、具体的な知識と規範意識を身に付けている。・社会における学校の役割や機能を、具体的に説明できるようになる。

＜授業の方法＞
実習

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
あり。実際の授業（コミュニカティブ アプローチに基づく授業実践）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
＜予習＞次回の指導内容に合わせ、既習の英語科指導法や教材研究の成果を再確認し、模擬授業やプレゼンテーションができるよう具体的な指導案や資料の作成･練習を行う。また、実習校の校風や生徒の実態を想定し、指導者としてふさわしい挨拶や身だしなみ、マナーのシミュレーションを行う。＜復習＞事前指導や教科の授業で学んだ理論と実践を振り返り、自身の課題をポートフォリオやリフレクションシートに整理する。指摘を受けた指導技術やマナーの改善点について、次回の実践に活かせるよう具体的な改善策をまとめ、技能の定着を図る。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は教育経営学科のディプロマシー４（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる）およびディプロマシー５（中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる）と関連付けられている。教育課程で身につけた知識・技能等を実際の学校現場での授業にいかに活用できるか、どのように結び付けていくことができるかが求められている。さらに豊かな人間性・幅広い教養に根差した「教育に対する使命感や倫理観、協調できる社会的スキル」を育成する科目である

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
事前のオリエテーション・振り返り１０％、実習評価９０％

＜教科書＞
特に指定しない

＜参考書＞
特に指定しない

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	教育実習	教育実習における事前オリエンテーション
2	教育実習	実習校において指導の下に実習
3	教育実習	実習校において指導の下に実習
4	教育実習	実習校において指導の下に実習
5	教育実習	実習校において指導の下に実習
6	教育実習	実習校において指導の下に実習
7	教育実習	実習校において指導の下に実習
8	教育実習	実習校において指導の下に実習
9	教育実習	実習校において指導の下に実習
10	教育実習	実習校において指導の下に実習
11	教育実習	実習校において指導の下に実習
12	教育実習	実習校において指導の下に実習
13	教育実習	実習校において指導の下に実習
14	教育実習	実習校における実習の振り返り
15		
16		

科目コード	51004				区　分	コア科目		
授業科目名	教育実習Ⅰ(中学校･高等学校)[保健体育]				担当者名	坂本　康輔		
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
・実習校にて観察・参加・部分実習を行う。・学校での実習を通して、生徒への理解を深めるとともに、学校の機能及び教員の職務について実践的に学ぶ。

＜授業の到達目標＞
・学校の役割や機能を具体的に理解することができる・観察や生徒との関わりを通して生徒への理解を深めることができる・既習の教科の内容を踏まえ、生徒への指導及び保護者への支援について総合的に学ぶことができる・体育授業の計画、観察、記録及び自己評価等について学び、具体的に理解することができる・教員の業務内容や職業倫理について具体的に理解することができる

＜授業の方法＞
実習

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有(小グループによる討議の時間を設定し、教育現場で体験したことを通して考えたことを振り返ったり、実体験から得た学びの成果を他者に伝えたりする活動を取り入れる。)

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
教育実習事前指導及び教科の指導法等において学んだ内容を整理し､既習の知識や技能を確かめたり実践したりするよう模擬授業や資料の振り返りを行うこと（1時間）教育現場に赴くために必要な社会人としてのマナーを身に付けるために身だしなみを整えること（1時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
事前オリエンテーション、自己省察10%、実習評価90%

＜教科書＞
特に指定しない

＜参考書＞
特に指定しない

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	教育実習	実習校における事前オリエンテーション
2	教育実習	実習校において指導のもとに実習
3	教育実習	実習校において指導のもとに実習
4	教育実習	実習校において指導のもとに実習
5	教育実習	実習校において指導のもとに実習
6	教育実習	実習校において指導のもとに実習
7	教育実習	実習校において指導のもとに実習
8	教育実習	実習校において指導のもとに実習
9	教育実習	実習校において指導のもとに実習
10	教育実習	実習校において指導のもとに実習
11	教育実習	実習校において指導のもとに実習
12	教育実習	実習校において指導のもとに実習
13	教育実習	実習校において指導のもとに実習
14	教育実習	実習校における実習反省会
15		
16		

科目コード	51005				区　分	コア科目			
授業科目名	教育実習Ⅱ(中学校) [英語]				担当者名	竹下　厚志／伊藤　仁美			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
・実習校において観察・参加・部分実習を行う。・学校での実習を通して、生徒への理解を深めるとともに、学校の機能および教員の職務について実践的に学ぶ。

＜授業の到達目標＞
・大学で学習したことをもとに、学校現場における英語科の指導内容や指導方法について実践的な技能を身に付けている。・観察や生徒との関わりを通して、生徒への理解を深めることができるようになる。・授業の計画・観察・記録および自己評価等について、実践的な学びを通してその手法を身に付けている。・教員の業務内容や職業倫理について、具体的な知識と規範意識を身に付けている。・社会における学校の役割や機能を、具体的に説明できるようになる。

＜授業の方法＞
実習

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
あり。コミュニカティブ アプローチに基づく授業実践

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
＜予習＞次回の指導内容に合わせ、既習の英語科指導法や教材研究の成果を再確認し、模擬授業やプレゼンテーションができるよう具体的な指導案や資料の作成・練習を行う。また、実習校の校風や生徒の実態を想定し、指導者としてふさわしい挨拶や身だしなみ、マナーのシミュレーションを行う。＜復習＞事前指導や教科の授業で学んだ理論と実践を振り返り、自身の課題をポートフォリオやリフレクションシートに整理する。指摘を受けた指導技術やマナーの改善点について、次回の実践に活かせるよう具体的な改善策をまとめ、技能の定着を図る。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は教育経営学科のディプロマシー４（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる）およびディプロマシー５（中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる）と関連付けられている。教育課程で身につけた知識・技能等を実際の学校現場での授業にいかに活用できるか、どのように結び付けていくことができるかが求められている。さらに豊かな人間性・幅広い教養に根差した「教育に対する使命感や倫理観、協調できる社会的スキル」を育成する科目である

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
事前のオリエテーション・振り返り１０％、実習評価９０％

＜教科書＞
特に指定しない

＜参考書＞
特に指定しない

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	教育実習	実習校において指導の下に実習
2	教育実習	実習校において指導の下に実習
3	教育実習	実習校において指導の下に実習
4	教育実習	実習校において指導の下に実習
5	教育実習	実習校において指導の下に実習
6	教育実習	実習校において指導の下に実習
7	教育実習	実習校において指導の下に実習
8	教育実習	実習校において指導の下に実習
9	教育実習	実習校において指導の下に実習
10	教育実習	実習校において指導の下に実習
11	教育実習	実習校において指導の下に実習
12	教育実習	実習校において指導の下に実習
13	教育実習	実習校において指導の下に実習
14	教育実習	実習校における実習の振り返り
15		
16		

科目コード	51005				区　分	コア科目		
授業科目名	教育実習Ⅱ(中学校)[保健体育]				担当者名	坂本　康輔		
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
・実習校にて観察・参加・部分実習を行う。・学校での実習を通して、生徒への理解を深めるとともに、学校の機能及び教員の職務について実践的に学ぶ。

＜授業の到達目標＞
・学校の役割や機能を具体的に理解することができる・観察や生徒との関わりを通して生徒への理解を深めることができる・既習の教科の内容を踏まえ、生徒への指導及び保護者への支援について総合的に学ぶことができる・体育授業の計画、観察、記録及び自己評価等について学び、具体的に理解することができる・教員の業務内容や職業倫理について具体的に理解することができる

＜授業の方法＞
実習

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング要素有：グループワーク・ディスカッション

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
教育実習事前指導及び教科の指導法等において学んだ内容を整理し､既習の知識や技能を確かめたり実践したりするよう模擬授業や資料の振り返りを行うこと（1時間）教育現場に赴くために必要な社会人としてのマナーを身に付けるために身だしなみを整えること（1時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
事前オリエンテーション、反省会10%、実習評価90%

＜教科書＞
特に指定しない

＜参考書＞
特に指定しない

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	教育実習	実習校における事前オリエンテーション
2	教育実習	実習校において指導のもとに実習
3	教育実習	実習校において指導のもとに実習
4	教育実習	実習校において指導のもとに実習
5	教育実習	実習校において指導のもとに実習
6	教育実習	実習校において指導のもとに実習
7	教育実習	実習校において指導のもとに実習
8	教育実習	実習校において指導のもとに実習
9	教育実習	実習校において指導のもとに実習
10	教育実習	実習校において指導のもとに実習
11	教育実習	実習校において指導のもとに実習
12	教育実習	実習校において指導のもとに実習
13	教育実習	実習校において指導のもとに実習
14	教育実習	実習校における実習反省会
15		
16		

科目コード	51006				区　分	コア科目		
授業科目名	教育実習Ⅱ(小学校)《通年》				担当者名	羽田　あずさ		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
・実習校において観察・参加・部分実習を行う。・小学校での実習を通して、児童への理解を深めるとともに、学校の機能および教員の職務について実践的に学ぶ。

＜授業の到達目標＞
・大学で学習したことをもとに、小学校現場における教師の職務について実践的に学ぶことができる。・観察や児童との関わりを通して、児童への理解を深めることができる。・授業の計画・観察・記録および自己評価等についての実践的な学びを通して、基本的な指導技術を習得することができる。・教員の業務内容や職業倫理について具体的に学び、教師としての自覚をもつことができる。・社会における学校の役割や機能を具体的に学び、教育研究課題の発見することができる。

＜授業の方法＞
実習

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
小学校現場における実習

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前：・教育実習事前指導および教科において学んだ内容を整理し、既習の学習や技能を確認したり実践したりできる準備する。（２時間程度）・社会人として、指導者としてのマナーや常識を身に付ける。（２時間程度）事後：振り返りレポート（２時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）　と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
この科目は教育経営学科のディプロマシー４（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる）およびディプロマシー５（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる）と関連付けられている。教育課程で身につけた知識・技能等を実際の学校現場での授業にいかに活用できるか、どのように結び付けていくことができるかが求められている。さらに豊かな人間性・幅広い教養に根差した「教育に対する使命感や倫理観、協調できる社会的スキル」を育成する科目

＜教科書＞
特に指定しない

＜参考書＞
特に指定しない

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	教育実習	実習校において指導のもとに実習
2	教育実習	実習校において指導のもとに実習
3	教育実習	実習校において指導のもとに実習
4	教育実習	実習校において指導のもとに実習
5	教育実習	実習校において指導のもとに実習
6	教育実習	実習校において指導のもとに実習
7	教育実習	実習校において指導のもとに実習
8	教育実習	実習校において指導のもとに実習
9	教育実習	実習校において指導のもとに実習
10	教育実習	実習校において指導のもとに実習
11	教育実習	実習校において指導のもとに実習
12	教育実習	実習校において指導のもとに実習
13	教育実習	実習校において指導のもとに実習
14	教育実習	実習校における実習の振り返り
15		
16		

科目コード	51007				区　分	コア科目			
授業科目名	介護等体験実習 《通年》				担当者名	林　栄昭／高橋　章二／大野呂　浩志			
配当年次	2年	配当学期	集中	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
介護等体験は小学校及び中学校の教諭の普通免許状を取得しようとする人に義務付けられている。個人の尊厳と社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性の観点から、社会福祉施設や特別支援学校において、障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの方との交流等を体験する。（教育経営学科ディプロマ・ポリシーのDP１，DP４に関連）

＜授業の到達目標＞
社会福祉施設や特別支援学校において合計７日間の実習を行い、介護、介助、交流等にかかわる様々な活動を体験することができるようになる。また、そのための事前指導において、介護等体験の意義や目的、方法などについて理解し、社会福祉施設の利用者や特別支援学校で学ぶ子どもに触れることで、教員としての視野を広げ、幅広い人権意識を身に付ける。

＜授業の方法＞
オリエンテーションでの「ガイダンス」、社会福祉施設と特別支援学校それぞれでの事前指導に参加し、各自が施設や学校にて体験をしたのち、報告書などの提出をする。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
配当された社会福祉施設、特別支援学校の現場における介護、介助、交流等の体験実習を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
・介護等体験の実習先の施設や学校について、その特色や内容、通勤経路等をHPや参考書等で調べ、予備知識を得ておく1～1.5時間程度の予習を行う。・介護等体験実習に臨むに当たって、その意義や内容、留意事項等について「介護等体験の手引き」を熟読し、持参物等を準備する1～1.5時間程度の予習を行う。・介護等体験実習の実施日には、毎日実習後に体験内容や反省について、体験日誌に記入して振り返る1時間程度の復習を行う。・実習終了後には、各実習先への礼状の作成・郵送、報告書の作成、体験日誌の整理・確認を行う1.5～2時間

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４(地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
実習態度20%、実習での取組状況40%、日誌作成・報告40%

＜教科書＞
「介護等体験の手引き」（事前指導時に配布）

＜参考書＞
現代教師養成研究会(2020年２月１日)　教師を目指す人の介護等体験ハンドブック　五訂版　大修館書店
全国特別支援学校長会、全国特別支援教育推進連盟（2025年12月20日）　介護等体験ガイドブック　新フィリア　改訂版　株式会社ジアース教育新社
増田雅暢他（2018年5月31日）　第5版　よくわかる社会福祉施設ー教員免許志願者のためのガイドブック　社会福祉法人全国社会福祉協議会

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	事前指導（1）	介護等体験の概要、意義、手続きについて
2	事前指導（2）	社会福祉施設での実習について
3	事前指導（3）	特別支援学校での実習について
4	実習	社会福祉施設、特別支援学校での実習
5	実習	社会福祉施設、特別支援学校での実習
6	実習	社会福祉施設、特別支援学校での実習
7	実習	社会福祉施設、特別支援学校での実習
8	実習	社会福祉施設、特別支援学校での実習
9	実習	社会福祉施設、特別支援学校での実習
10	実習	社会福祉施設、特別支援学校での実習
11	実習	社会福祉施設、特別支援学校での実習
12	実習	社会福祉施設、特別支援学校での実習
13	実習	社会福祉施設、特別支援学校での実習
14	実習	社会福祉施設、特別支援学校での実習
15		
16		

科目コード	51008				区　分	コア科目			
授業科目名	教育実習事前・事後指導(幼稚園)				担当者名	虫明　淑子／楢﨑　日佳／塚本　千晴			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
幼稚園教育実習における事前準備と事後振り返りを行う。事前授業では、幼稚園教育の基本、幼児の発達の特性、教育実習を行う際の心構え等について学ぶ。これまでの幼稚園教育専門科目で学んだ内容と、実習園での実習内容とを結合させて教育実習の成果をあげ、教職への認識を確かなものとする。実習生としての心構えやマナーなどの基本を実践的に学ぶ。実習後には実習を振り返り、次の実習へとつなげる。

＜授業の到達目標＞
１．保育の観察、記録、実習計画、実践、評価の方法や内容について具体的に理解する。２．実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

＜授業の方法＞
講義、演習、グループワーク、個別指導

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有。グループごとに演習を行い振り返りをする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：実習の手引きを熟読して授業に臨むこと（60分）復習：配付資料をファイルし、授業後に内容を確認、復習をし、授業課題をすること（60分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲・チーム貢献度30%、課題50%、試験20%※授業は全出席すること※提出物は期限を厳守すること※社会人としてふさわしい態度で臨むこと

＜教科書＞
環太平洋大学（2026）　教育実習の手引き（幼稚園）

＜参考書＞
文部科学省（2018）　幼稚園教育要領解説　フレーベル館
内閣府文部科学省厚生労働省（2018）　幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説　フレーベル館

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	実習の意義と実習ルール	実習の意義と目標、実習ルールの確認児童生徒性暴力等の防止に関する法制度の理解
2	実習の意義と目標	実習の意義と目標の確認
3	実習の段階と実習の心構え	実習の段階と流れ、実習生としての心構え
4	幼稚園の理解	幼稚園教育要領の確認、教師の資質と幼児理解
5	指導案の作成（１）	発達段階及び幼児の姿を考慮した「ねらいと内容」、「活動内容」
6	指導案の作成（２）	ねらいを達成するための「教師の援助と配慮」
7	保育教材の作成（１）	自己紹介教材の作成と発表
8	保育教材の作成（２）	お楽しみ会やお別れ会の準備と発表
9	模擬保育（１）	模擬保育と振り返り（１）
10	模擬保育（２）	模擬保育と振り返り（２）
11	実習書類の作成、実習前オリエンテーション	実習園送付書類の作成、実習前オリエンテーションの意義と方法
12	実習記録の書き方	記録の取り方と日誌の書き方、エピソード記録と考察
13	実習までの準備	実習の自己課題、実習の準備、守秘義務と情報の管理
14	実習のまとめ	自己課題及び実習成果のまとめ、礼状の作成
15		
16		

科目コード	51009				区　分	コア科目			
授業科目名	教育実習事前・事後指導(小学校)《通年》				担当者名	羽田　あずさ／安井　正郎／奥山　優／木野　正一郎／三堀　仁／千葉　照久／本藤　展康／藤井　健太郎／内田　仁志／中安　翼／小川　智勢子／練苧　千之／鈩　悠介／西田　修斗／岸本　勝義／村上　尚徳			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
教育実習の意義と目的について理解を深め、教育実習生としての心構えを養う。教育実習に向けて、教科学習の授業力向上を図る。教育実習の成果と課題を自己評価し、教職を志す者としての資質を向上させる。

＜授業の到達目標＞
教育実習生としての心構えをもち、教育実習の意義と目的について理解を深めることができる。教職を志す者としての資質を向上させるために、教育実習に向けて、教科学習の授業力向上を図るとともに、教育実習の成果と課題を自己評価することができる。

＜授業の方法＞
講義、指導案作成、模擬授業の準備、実施とその検討、実習録をもとにした振り返りを行う。特に授業の中では、学生による模擬授業を行う中で、授業展開や教具、発問について受講者同士で議論し合いながら授業に関する実践知を獲得できるようにする。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
模擬授業とその検討

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
・模擬授業を行う教科・単元に関する資料を収集し、熟読する（１時間）・学習指導案を作成する（３時間）・模擬授業までに、担当教諭に事前指導を受ける（２時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
①出席・態度（３０％）：【出席：３点】【注意：２点】【遅刻：１点】【欠席：０点】※公欠（実習等）は【３点】※欠席課題で出席になる場合は提出をもって【3点】②模擬授業（３０％）：それぞれの回で、以下の観点で評価します。【S:3点】【A:2点】【B:1点】【C:0点】　（１）授業者について　　S・・・期日を守って、指導を受け、指導案の作成と授業準備を意欲的に行った。模擬授業（進め方・児童対応・言動など）は優れていた。　　A・・・期日を守って、指導を受け、指導案の作成と授業準備を行った。模擬授業（進め方

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	教育実習の手続き・心構え児童生徒性暴力等の防止に関する法制度の理解
2	模擬授業説明	模擬授業説明・授業日程決め
3	授業づくりの基礎基本	指導案の作成、授業づくり
4	実習の心構え	教職員等による児童生徒性暴力等の防止
5	模擬授業①	グループに分かれ、模擬授業と事後協議
6	模擬授業②	グループに分かれ、模擬授業と事後協議
7	模擬授業③	グループに分かれ、模擬授業と事後協議
8	模擬授業④	グループに分かれ、模擬授業と事後協議
9	模擬授業⑤	グループに分かれ、模擬授業と事後協議
10	模擬授業⑥	グループに分かれ、模擬授業と事後協議
11	模擬授業⑦	グループに分かれ、模擬授業と事後協議
12	模擬授業⑧	グループに分かれ、模擬授業と事後協議
13	模擬授業⑨	グループに分かれ、模擬授業と事後協議
14	模擬授業⑩	グループに分かれ、模擬授業と事後協議
15	事後指導（最終）	教育実習の振り返り
16		

科目コード	51010				区　分	コア科目		
授業科目名	教育実習事前・事後指導(英語)《通年》				担当者名	竹下　厚志／伊藤　仁美		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

教育実習は、教職の現場を自ら体験することによって教師像を確立するという重要な意味を持っている。事前指導では、実習生に求められる任務を遂行する力や授業を行う技術の習得がねらいとする。事後指導では、受講生の実習経験を題材としてディスカッションを中心とした授業を行う。各受講生が教育実習期間中に経験した様々な事例を教材とし、教職に対する理解を深める機会とする。

＜授業の到達目標＞

(1) 事前指導において、教育実習に必要な心構えおよび指導案作成の技術を身に付けている。(2) 事後指導での実習報告やディスカッションを通し、自身の経験に基づいた目標とする教師像を具体的に提示できるようになる。

＜授業の方法＞

(1)　講義（教員による解説と問いの提示）　(2)　グループワーク（学習内容に関する教え合い）(3)　ディスカッション（模擬授業を対象とした問いに対する回答）(4)　省察活動（まとめと発表）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

あり。模擬授業および各模擬授業に関するグループ内でのディスカッション

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

合計４時間＜予習＞模擬授業の準備、指導案の作成（２時間程度）＜復習＞振り返りレポートの作成（２時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー５（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加姿勢・貢献 20％、指導案作成・模擬授業 50%、教育実習・実習報告 30%　（一定の水準に達していない学生は、教育実習を認めない場合がある。）

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	教育実習に臨んで	教育実習の目的、心構え、児童生徒性暴力等の防止に関する理解を深める
2	授業観察	DVD教材を利用した授業観察、授業分析
3	授業準備	教科書分析・指導案作成準備
4	指導案の作成（１）	指導案作成の手順
5	指導案の作成（２）	指導技術の工夫
6	模擬授業（１）	模擬授業を実施
7	模擬授業（２）	模擬授業を実施
8	模擬授業（３）	模擬授業を実施
9	模擬授業（４）	模擬授業を実施
10	事前指導のまとめ	事前指導で学んだ内容の確認
11	教育実習の報告（１）	実習報告とディスカッション
12	教育実習の報告（２）	実習報告とディスカッション
13	教育実習の報告（３）	実習報告とディスカッション
14	事後指導のまとめ	実習全体の振り返り
15		
16		

科目コード	51011				区　分	コア科目			
授業科目名	教育実習事前・事後指導(保健体育)				担当者名	伊藤　三千雄／堀川　峻／梶谷　亮輔／木村　大／仙波　慎平／早田　剛／片桐　夏海／十河　直太／坂本　康輔／藤谷　かおる／小川　雄太／佐藤　伸之／岩田　知郎			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

教育実習の意義と目的について理解を深め、教育実習生としての心構えを養うとともに、教育実習先で体育実技、保健の授業が円滑に出来るようになる授業実践力を身に付けることを目的とする。毎時間、各グループごとに学生が模擬授業を実施し、学習指導案、授業方法、内容等について、学生同士の相互評価や担当者からの助言をもらう。さらに実習後には、教育実習の成果を自己評価し、教職に就く者として不足している力を自覚し、大学授業で補うようにし、教職を目指す者として、資質の向上を図る。また本授業では、教育職員等による児童生徒性暴力等

＜授業の到達目標＞

1．教育実習の目的・内容・実習生としての役割を説明できる。2．保健体育科の学習指導案を作成できる。3．模擬授業（実技・保健）を実施し、適切な指導行動をとることができる。4．教材・教具およびICTを活用した授業を計画・実施できる。5．模擬授業および教育実習の成果と課題を振り返り、改善点を言語化できる。6．教育職員に求められる法令遵守および児童生徒性暴力等の防止について理解し、適切な行動をとることができる。

＜授業の方法＞

まず、教育実習の心構え、実習日誌の書き方、学習指導案の作成方法等を講義形式で学んだ後、各グループ（実習校地域別）に分かれての授業になる。各グループで、学校現場で使用されている保健体育科の教科書に沿って学生が自ら模擬授業（実技・保健）を実施し、それを担当教員が指導、グループ内学生でのディスカッション、評価を重ね、実習でよりよい授業が出来ることを目指す。実技においても保健授業においても、教材・教具・授業ノート・授業プリントの工夫が大切である。したがって、模擬授業時の映像資料提示等のICT利活用も積極的に取り入

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素有：8～10人のグループに分かれ、教育実習に向けた模擬授業を行い、内容についてグループワークを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に自分の行く教育実習校でどの教科書が使用されているか、実技ではどの種目を、保健ではどの単元を担当するかを実習校に聞いて調べておき、それに沿った学習指導案を作成し、模擬授業の練習を重ねておく。模擬授業後、何が出来て何が出来なかったかをしっかり振り返り、次の模擬授業に活かしていく。特に保健授業では、専門知識が必要になるため実習で自分の担当する単元については事前にしっかり勉強しておくこと。予習：2時間、復習：1時間

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー４(体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

教育実習事前指導授業の授業態度 20%、模擬授業指導案の提出 20%、模擬授業評価 30%、教育実習事後活動の評価 30%、等を総合的に評価するが、教育実習校評価も加味する。教育実習I、IIの繋がりについてもふれる。

＜教科書＞

＜参考書＞

吉田武男監修（2023年4月24日）　教育実習（MINERVAはじめて学ぶ教職）　ミネルヴァ書房

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	教育実習の意義と心構え（1）	教育実習の意義、教育職員として求められる責任と倫理、児童生徒性暴力等の防止に関する法制度の理解、指定動画の視聴および誓約書手続き
2	教育実習の意義と心構え（2）	教育実習を成功させる準備と心得、模擬授業
3	教育実習の意義と心構え（3）	道徳・特別活動・総合学習時間の指導、模擬授業
4	教育実習の方法と技術（1）	学校経営と学級経営、方針とねらい、教職員の職務と役割、模擬授業
5	教育実習の方法と技術（2）	教師と生徒との人間関係、問題を持つ生徒の個別指導、模擬授業
6	保健体育教科の指導	学習指導のあり方、学習指導計画の意義・ねらいと立案、模擬授業
7	研究授業（模擬授業）の方法（1）	中学校・高等学校に分け、また、県別に分け、模擬授業を行う
8	研究授業（模擬授業）の方法（2）	学習指導案のねらい・内容と書き方、模擬授業
9	研究授業（模擬授業）の方法（3）	教材研究のすすめ方、教科書・補助教材の扱い方、板書の工夫、模擬授業
10	研究授業（模擬授業）の方法（4）	教師の言葉遣い・話し方・聞き方、机間指導・個別指導、模擬授業

11	研究授業（模擬授業）の方法（5）	個別学習・グループ学習の進め方、模擬授業
12	研究授業（模擬授業）の方法（6）	学習評価とその活用法、模擬授業
13	研究授業（模擬授業）の方法（7）	研究授業の実際～過去の実習生の事例～、模擬授業
14	教育実習報告会	教育実習の反省会および報告会教育実習記録をもとに報告書作成
15		
16		

科目コード	51015				区　分	コア科目			
授業科目名	日本語教育実習Ⅰ				担当者名	大平　真紀子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択（日本語教師養成必修）

＜授業の概要＞
教壇実習を実施しながら，日本語教師に必要な資質・能力を高める。外国人相手に授業をすることによって，日本語教育や学生への理解を深めるとともに，日本語教師の職務について実践的に学ぶ。日本語教育実習Ⅰと日本語教育実習Ⅱは連続して履修すること。

＜授業の到達目標＞
教材研究や指導計画の作成，授業時の指導技術や態度，授業後の振り返り等の一連の授業づくりに熱意と創意工夫を持って取り組むことができるようになる。

＜授業の方法＞
実際に日本語を学んでいる外国人に対して教壇実習を行う。授業計画や教案，教材の準備はもちろん，実際の授業の中での学生対応についても学ぶ。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループまたは個人で授業準備をし，教壇実習を行う。その後グループまたは個人でフィードバックを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前準備（2～3時間）：教材研究や教案づくりなど教壇実習の準備。事後（30分程度）：教壇実習の振り返り。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー５（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
実習の評価 80%，実習記録 20%実習記録は実習終了後に確認してGoogle Classroomを通じて返却する。

＜教科書＞
ヒューマンアカデミー　日本語教育能力検定試験　完全攻略ガイド　第5版　翔泳社

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	教育実習（1）	実習と振り返り（1）
2	教育実習（2）	実習と振り返り（2）
3	教育実習（3）	実習と振り返り（3）
4	教育実習（4）	実習と振り返り（4）
5	教育実習（5）	実習と振り返り（5）
6	教育実習（6）	実習と振り返り（6）
7	教育実習（7）	実習と振り返り（7）
8	教育実習（8）	実習と振り返り（8）
9	教育実習（9）	実習と振り返り（9）
10	教育実習（１０）	実習と振り返り（１０）
11	教育実習（１１）	実習と振り返り（１１）
12	教育実習（１２）	実習と振り返り（１２）
13	教育実習（１３）	実習と振り返り（１３）
14	教育実習（１４）	実習と振り返り（１４）
15		
16		

科目コード	51016				区　分	コア科目			
授業科目名	日本語教育実習Ⅱ				担当者名	大平　真紀子			
配当年次	4年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択（日本語教師養成必修）

＜授業の概要＞
教壇実習を実施しながら，日本語教師に必要な資質・能力を高める。外国人相手に授業をすることによって，日本語教育や学生への理解を深めるとともに，日本語教師の職務について実践的に学ぶ。

＜授業の到達目標＞
教材研究や指導計画の作成，授業時の指導技術や態度，授業後の振り返り等の一連の授業づくりに熱意と創意工夫を持って取り組むことができるようになる。

＜授業の方法＞
実際に日本語を学んでいる外国人に対して教壇実習を行う。授業計画や教案，教材の準備はもちろん，実際の授業の中での学生対応についても学ぶ。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループまたは個人で授業準備をし，教壇実習を行う。その後グループまたは個人でフィードバックを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前準備（2～3時間）：教材研究や教案づくりなど教壇実習の準備。事後（30分程度）：教壇実習の振り返り。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー５（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
実習の評価 80%，実習記録 20%実習記録は実習終了後に確認してGoogle Classroomを通じて返却する。

＜教科書＞
ヒューマンアカデミー　日本語教育能力検定試験　完全攻略ガイド　第5版　翔泳社

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	教育実習（1）	実習と振り返り（1）
2	教育実習（2）	実習と振り返り（2）
3	教育実習（3）	実習と振り返り（3）
4	教育実習（4）	実習と振り返り（4）
5	教育実習（5）	実習と振り返り（5）
6	教育実習（6）	実習と振り返り（6）
7	教育実習（7）	実習と振り返り（7）
8	教育実習（8）	実習と振り返り（8）
9	教育実習（9）	実習と振り返り（9）
10	教育実習（１０）	実習と振り返り（１０）
11	教育実習（１１）	実習と振り返り（１１）
12	教育実習（１２）	実習と振り返り（１２）
13	教育実習（１３）	実習と振り返り（１３）
14	教育実習（１４）	実習と振り返り（１４）
15		
16		

科目コード	51017				区　分	コア科目			
授業科目名	日本語教育演習Ⅰ				担当者名	大平　真紀子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択（日本語教師養成必修）

＜授業の概要＞
本授業では，日本語教育実習に必要な事前・事後指導を行う。事前指導では，教材研究，教案の作成，授業見学，模擬授業などを通して実習の準備を行う。事後指導では，実習の報告，振り返りを通して課題の発見や解決方法を探る。日本語教育演習Ⅰと日本語教育演習Ⅱは連続して履修すること。

＜授業の到達目標＞
本科目の目的は以下のとおりである。１．日本語教員の業務に対する理解を深める。２．教材研究や授業見学を通じて実習の準備を行う。３．実習の報告と振り返りを通して課題を発見し，解決方法を探る。

＜授業の方法＞
講義及び教育実習のための演習を行う。授業見学は，学内の日本語教員の担当授業での見学を行う。　個人やグループで教案作成，模擬授業の準備・実施を行う中で，受講者同士で議論しあいながら授業に関する実践知を獲得できるようにする。課題や資料配布はGoogleClassroomで行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
個人やグループでディスカッションをしながら教案作成，模擬授業の準備や実施を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前の活動として，模擬授業を行う項目に関して，文法的知識，練習方法，教材などを作成し，教案を作っておく。リハーサルを行い，スムーズに模擬授業できるよう準備しておく。2～3時間。事後に振り返りを行う。30分程度。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー５（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業参加態度 10%，提出物 30%，模擬授業の評価 40%，報告書 20%提出物は模擬授業の際にフィードバックを行う。報告書はGoogleClassroomで添削・返却する。

＜教科書＞
ヒューマンアカデミー　日本語教育能力検定試験　完全攻略ガイド　第5版　翔泳社

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	教育実習の意義と目的
2	教案作成（1）	教案の作成方法
3	教案作成（2）	教案の作成（1）
4	教案作成（3）	相互評価
5	教案作成（4）	教案の作成（2）
6	授業見学（1）	初級前半クラス（1）
7	授業見学（2）	初級前半クラス（2）
8	授業見学（3）	初級後半クラス（1）
9	授業見学（4）	初級後半クラス（2）
10	日本語の授業の方法	授業の進め方
11	模擬授業（1）	初級前半クラス（1）
12	模擬授業（2）	初級前半クラス（2）
13	模擬授業（3）	初級後半クラス（1）
14	模擬授業（4）	初級後半クラス（2）
15		
16		

科目コード	51018				区　分	コア科目			
授業科目名	日本語教育演習Ⅱ				担当者名	大平　真紀子			
配当年次	4年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択（日本語教師養成必修）

＜授業の概要＞
本授業では，日本語教育実習に必要な事前・事後指導を行う。事前指導では，教材研究，教案の作成，授業見学，模擬授業などを通して実習の準備を行う。事後指導では，実習の報告，振り返りを通して課題の発見や解決方法を探る。日本語教育演習Ⅰと日本語教育演習Ⅱは連続して履修すること。

＜授業の到達目標＞
本科目の目的は以下のとおりである。１．日本語教員の業務に対する理解を深める。２．教材研究や授業見学を通じて実習の準備を行う。３．実習の報告と振り返りを通して課題を発見し，解決方法を探る。

＜授業の方法＞
講義及び教育実習のための演習を行う。授業見学は，学内の日本語教員の担当授業での見学を行う。　個人やグループで教案作成，模擬授業の準備・実施を行う中で，受講者同士で議論しあいながら授業に関する実践知を獲得できるようにする。課題や資料配布はGoogleClassroomで行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループや全体での模擬授業の発表・フィードバック・意見交換を実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前の活動として，模擬授業を行う項目に関して，文法的知識，練習方法，教材などを作成し，教案を作っておく。リハーサルを行い，スムーズに模擬授業できるよう準備しておく。2～3時間。事後に振り返りを行う。30分程度。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー５（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業参加態度 10%，提出物 30%，模擬授業の評価 40%，報告書 20%提出物は模擬授業の際にフィードバックを行う。報告書はGoogleClassroomで添削・返却する。

＜教科書＞
ヒューマンアカデミー　日本語教育能力検定試験　完全攻略ガイド　第5版　翔泳社

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	教育実習の意義と目的
2	教案作成（1）	教案の作成方法
3	教案作成（2）	教案の作成（1）
4	教案作成（3）	相互評価
5	教案作成（4）	教案の作成（2）
6	授業見学（1）	初級前半クラス（1）
7	授業見学（2）	初級前半クラス（2）
8	授業見学（3）	初級後半クラス（1）
9	授業見学（4）	初級後半クラス（2）
10	日本語の授業の方法	授業の進め方
11	模擬授業（1）	初級前半クラス（1）
12	模擬授業（2）	初級前半クラス（2）
13	模擬授業（3）	初級後半クラス（1）
14	模擬授業（4）	初級後半クラス（2）
15		
16		

科目コード	51019				区　分	コア科目			
授業科目名	特別支援教育実習事前・事後指導				担当者名	林　栄昭／大野呂　浩志／高橋　章二			
配当年次	3年	配当学期	前期・後期	単位数	1.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

特別支援学校（知的障害・肢体不自由・病弱）（以下、「特別支援学校」という。）における教育実習を行う意義や目的についての理解を深め、教育実習生としての心構えを養う。事前指導では、教育実習先での任務や授業を行うために必要な教職専門知識・技能などを学ぶとともに、授業実践力を身に付けることを目的とする。実習後には、教育実習の成果と課題を自己評価し、教職を志す者としての資質の向上を図る。（教育経営学科ディプロマ・ポリシーのDP3、DP4に関連）

＜授業の到達目標＞

・特別支援学校における教育実習の意義と目的について理解を深めることができる。・特別支援学校で学ぶ児童生徒の実態を理解できるとともに、それを踏まえた学習指導案の作成や授業の実施、評価ができる。・教育実習における取組を自己評価し、教職を志す者として必要な資質や解決すべき課題について理解することができる。

＜授業の方法＞

（１）特別支援学校における教育の実際に関する講義（２）特別支援学校における実践的な授業（設計、実施、評価、改善）に関する演習（模擬授業）（３）特別支援学校の教育実践に必要な課題、解決に関する講義及び演習

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

・ 講義／課題解決型授業／グループワーク／プレゼンテーション／ディスカッション

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・特別支援学校教育実習の内容や方法、留意事項等について「教育実習の手引き（特別支援学校）」に記載する関連事項や内容もとに1時間程度予習する。・模擬授業実施に当たっての指導案の作成・修正・確認、教材・教具の準備等を行うために1～1.5時間程度予習する。・教育実習後の成果報告のために、プレゼンテーション資料を2時間程度で作成する準備学習をする。・毎回の授業後には、授業の振り返り課題を課すため、各回の授業内容や模擬授業の反省・まとめについて1時間程度復習する。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー２(初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 20%、模擬授業（指導案作成、貢献度） 50%、実習後報告 30%

＜教科書＞

「教育実習の手引き（特別支援学校）」等の資料を適宜配布する。

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	授業オリエンテーション	授業の概要及び日程、特別支援教育に携わる教師として必要な視点及び実習先の情報整理と実施計画について理解する。
2	特別支援学校の組織と仕事	特別支援学校の組織の概要と仕事の内容、行事、授業観察ついて理解する。
3	学級経営、授業づくりの基本	発達年齢と生活年齢の双方を意識した学級経営と、個々の実態及びその集団の特性に応じた教科等の授業づくりの基本について理解する。
4	模擬授業の設計①	特別支援学校の学習指導案の書き方に沿って、個人で模擬授業の指導案を作成する。
5	模擬授業の設計②	特別支援学校の学習指導案の書き方に沿って、グループで模擬授業の指導案について検討、作成する。
6	模擬授業の実施①	グループで作成した模擬授業の指導案に基づき、模擬授業を実施し、省察や知見の共有を行う。
7	模擬授業の実施②	グループで作成した模擬授業の指導案に基づき、模擬授業を実施し、省察や知見の共有を行う。
8	模擬授業の改善①	実施した模擬授業の評価、反省をもとに、個人及びグループで指導案を修正し、再度模擬授業を実施して、省察や知見の共有と深化を図る。
9	模擬授業の改善②	実施した模擬授業の評価、反省をもとに、個人及びグループで指導案を修正し、再度模擬授業を実施して、省察や知見の共有と深化を図る。
10	事前指導のまとめ	「課題の個別化・活動の集団化」の観点から、模擬授業の総括をし、質の高い授業に関する検討を行う。
11	教育実習の報告①	各自が実施した教育実習の概要とその取り組み方について報告（発表）するととも

		に、それらをもとに、教育実習で得られた学び（成果）と今後に学修すべき課題に関するディスカッションを行う。
12	教育実習の報告②	各自が実施した教育実習の概要とその取り組み方について報告（発表）するとともに、それらをもとに、教育実習で得られた学び（成果）と今後に学修すべき課題に関するディスカッションを行う。
13	教育実習の報告③	各自が実施した教育実習の概要とその取り組み方について報告（発表）するとともに、それらをもとに、教育実習で得られた学び（成果）と今後に学修すべき課題に関するディスカッションを行う。
14	教育実習後のまとめ	教育実習の省察から得られた知見を整理し、今後の学修に生かす成果と課題、課題解決に向けた取組ついてまとめる。
15		
16		

科目コード	51020				区　分	コア科目		
授業科目名	特別支援教育実習				担当者名	大野呂　浩志		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
特別支援学校（知・肢・病）に在籍する個々の児童、生徒の実態を的確に把握し、実態に即した学習指導案を立案するとともに、実地授業及びその振り返りを通して、より良い授業のあり方を学ぶ。さらに、教育現場で求められる実践的指導力を身に付けるため、指導教員や他の実習生とともに、教育全般に取り組み、その省察をする。

＜授業の到達目標＞
特別支援学校における・児童生徒の実態を理解することができる。・児童生徒の実態を踏まえた学習、指導案の作成、および実践する力を身に付けることができる。・課題解決力やマネジメント力、コーディネート力を身に付けることができる。

＜授業の方法＞
各実習校において実習を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
講義／実習

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
教育実習事前指導及び教科において学んだ内容を整理し，既習の知識や技能を確かめたり実践したりできる準備をしておくこと（教育実習までに6時間程度）。ま た，社会人としてのマナーを身に付けておくこと（学内，学外での活動を通じて10時間以上）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２(初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習指導力 40%、生徒指導力 30%、マネジメント力・コーディネート力 30%を総合して評価する。

＜教科書＞
特に指定しない　特に指定しない　特に指定しない

＜参考書＞
特に指定しない　特に指定しない　特に指定しない

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	教育実習	実習校における事前オリエンテーション
2	教育実習	実習校において指導のもとに実習
3	教育実習	実習校において指導のもとに実習
4	教育実習	実習校において指導のもとに実習
5	教育実習	実習校において指導のもとに実習
6	教育実習	実習校において指導のもとに実習
7	教育実習	実習校において指導のもとに実習
8	教育実習	実習校において指導のもとに実習
9	教育実習	実習校において指導のもとに実習
10	教育実習	実習校において指導のもとに実習
11	教育実習	実習校において指導のもとに実習
12	教育実習	実習校において指導のもとに実習
13	教育実習	実習校において指導のもとに実習
14	教育実習	実習校において指導のもとに実習と振り返り
15		
16		

科目コード	51021				区　分	コア科目		
授業科目名	表現教育アウトリーチ教育実習				担当者名	羽田　あずさ／小川　智勢子／四宮　貴久／渡邊亮／塚本　千晴		
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
表現教育アウトリーチ教育実習は、小学校教育現場を訪問し、学校現場で起こっている現実を「みて学び」，実際に児童に指導しながら実践的に「やって学び」、表現教育を通して、実践的に学ぶ教育実習である。

＜授業の到達目標＞
表現教育を通して、児童とともにレジリエンス（困難にあっても乗り越え回復する精神力）の向上を図ることができる。現場の先生方の仕事の実際を実践的に学ぶことができる。

＜授業の方法＞
実習に行く前の事前学習、リハーサルを経て、小学校で３日間の教育実習を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループワーク、模擬指導、チームによる表現指導

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前：ダンスの曲の確認、振り付けの確認等　2時間事前：模擬指導準備　2時間事後：振り返りレポート　１時間

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
DP１；他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。DP４；地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。DP５；教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
事前練習・リハーサルへの出席　20%表現の実践指導　50%観察録の記述　20%最終レポート　10%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	表現教育アウトリーチ教育実習の目的、内容、日程について
2	身体表現、音楽表現	身体の動きと音楽を通して表現方法を学び、表現活動およびアウトリーチ実習の指導方法を学ぶ
3	教授法と実践	指導の評価を元に指導内容の復習をする。また学生間で指導の効果、指導におけるコミュニケーション方法について協議をする
4	模擬指導①	模擬指導の準備を行う
5	模擬指導②	模擬指導、振り返り、改善
6	実践指導	小学校での実践指導
7	実践指導	小学校での実践指導
8	実践指導	小学校での実践指導
9	実践指導	小学校での実践指導
10	実践指導	小学校での実践指導
11	実践指導	小学校での実践指導
12	実践指導	小学校での実践指導
13	リハーサル	成果発表の準備を小学生とともに行う
14	成果発表	小学生と合同で成果発表を行う
15		
16		

科目コード	51022				区　分	コア科目			
授業科目名	フィールドワーク入門［FE］				担当者名	濱嶋　幸司			
配当年次	2年	配当学期	通年・集中	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択（教育社会学コース生必修）

＜授業の概要＞
フィールドワークの基礎理論と方法を学び、観察やインタビューなどの調査手法を実践的に習得する。身近な地域を対象とした調査を通じて、課題発見力と分析・表現力を養う。

＜授業の到達目標＞
①フィールドワークの意義と基本概念を理解できる②観察・インタビューなど基礎的な調査手法を実践できる③調査計画を立て、記録・整理・分析の初歩がおこなえる④調査結果を分かりやすくまとめ、他者に伝えることができる

＜授業の方法＞
本授業は集中講義形式で実施し、所定の時期にフィールドワークの基礎から実践までを学ぶ。前半では講義により、フィールドワークの意義や倫理、観察・インタビュー・記録方法などの基本的手法について理解を深める。中盤では、受講者が身近な地域を対象とした調査計画を立案する。その後、実際に現地に赴いて調査をおこない、データの収集を体験する。後半では、収集した情報の整理・分析をおこない、結果をまとめて発表する。調査から発表までの一連のプロセスを通して、主体的かつ協働的に学ぶ姿勢の習得を目指す。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有　事前指導ではテーマについて調べる　実習では自ら進んで課題に取り組む　事後指導では実習成果を参加者同士で共有するため、聞き手は報告者にフィードバックをおこなう

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習： 授業計画に沿ってフィールドワークの基礎理論や調査倫理を確認し、調査対象地域の概要について事前に資料収集を行う。また、実習に向けて具体的な調査計画書（質問項目等）を作成する（1時間程度）。事後学習： 実習で収集したデータ（メモ、音声記録、写真等）の整理・分析を行い、調査結果をレポートにまとめるとともに、発表用のスライド資料を作成する（2時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
意欲態度 40%、実習での取組および姿勢 15%、実習前後の学内での取組 15%、提案報告 30%。

＜教科書＞
特に指定なし

＜参考書＞
佐藤郁哉（2006）　『フィールドワーク―書を持って街へ出よう』　新曜社（ワードマップ叢書）
岸政彦（2015）　『断片的なものの社会学』　朝日出版社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス・オリエンテーション	科目のねらい・到達目標の確認
2	フィールドワークの基礎と倫理	フィールドワークの意義や特徴を理解するとともに、調査における倫理(インフォームド・コンセント、プライバシー保護など)について学ぶ。あわせて、基本的な調査手法（観察・インタビュー）の概要を確認する。
3	調査手法の理解（観察・記録）	参与観察および非参与観察の方法を学び、フィールドノートの取り方や写真・音声記録の活用方法について理解する。簡単な演習を通して記録技術を身につける。
4	調査手法の理解（インタビュー）と計画設計	インタビューの種類や質問設計の方法を学ぶ。あわせて、グループごとに調査テーマを設定し、対象・方法・スケジュールを含む調査計画を立案する。
5	フィールドワーク実習	実際に現地調査を実施する。観察やインタビューを通じてデータを収集し、現場での気づきや課題を記録する。
6	データ整理・分析と発表準備	収集したデータを整理・分析し、調査結果をまとめる。発表資料を作成し、報告内容の構成や伝え方を検討する。
7	発表とまとめ	報告をおこない、聞き手からのフィードバックをもらい、成果と課題を確認する
8		
9		
10		
11		

12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	52002				区　分	コア科目		
授業科目名	保育実習Ⅱ(保育所)				担当者名	橘高　真紀子／塚本　千晴		
配当年次	3年	配当学期	集中	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
・保育士資格取得にかかわる保育士課程必修の実習として、認可保育所において観察・参加・部分実習を行う。・保育所での実習を通して、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能及び保育士の職務について実践的に学ぶ。

＜授業の到達目標＞
・保育所の役割や機能を具体的に理解できる。・観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深め、実践に活用できるスキルを身につけることができる。・既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学び、実践において適切に展開することができる。・保育の計画、観察、記録及び自己評価等について学び、具体的に理解し、実践において適切に展開することができる。・保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学び、実践することができる。

＜授業の方法＞
実習園での実習・観察実習・参加実習・責任実習（部分指導、半日指導）・担当保育者との振り返り

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有。実習生同士または担当教員を含めて反省会をし、保育について振り返りをする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
・岡山県保育士養成協議会「保育所実習の手引き」、配布資料、教材資料等を熟読する。（30分）・保育実習ⅠAの自己課題をもとに、保育実習Ⅱへの課題を明確にする。（30分）・保育実習に必要な保育技術（遊びの指導、絵本の読み聞かせ、弾き歌い等）の反復練習に努める。（30分）・保育指導計画案の作成と、それに基づく模擬保育実践を行い、実習へのイメージをもつ（30分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
実習評価 90%、事前オリエンテーション・事後学習、日誌10%

＜教科書＞
岡山県保育士養成協議会　保育所実習の手引き

＜参考書＞
厚生労働省（2018）　保育所保育指針　フレーベル館
内閣府文部科学省厚生労働省（2018）　幼保連携型認定認定こども園教育・保育要領　フレーベル館

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	保育実習（1）	実習園における事前オリエンテーション
2	保育実習（2）	実習園において指導のもとに観察実習（1）
3	保育実習（3）	実習園において指導のもとに観察実習（2）
4	保育実習（4）	実習園において指導のもとに参加実習（1）
5	保育実習（5）	実習園において指導のもとに参加実習（2）
6	保育実習（6）	実習園において指導のもとに部分実習（1）
7	保育実習（7）	実習園において指導のもとに部分実習（2）
8	保育実習（8）	実習園において指導のもとに部分実習（3）
9	保育実習（9）	実習園において指導のもとに観察・参加実習（1）
10	保育実習（10）	実習園において指導のもとに半日実習（1）
11	保育実習（11）	実習園において指導のもとに観察・参加実習（2）
12	保育実習（12）	実習園において指導のもとに半日実習（2）
13	保育実習（13）	実習園において指導のもとに全日実習
14	保育実習（14）	実習園における実習反省会
15		
16		

科目コード	52003				区　分	コア科目		
授業科目名	保育実習Ⅲ(施設)				担当者名	楢﨑　日佳／松本　好生／塚本　千晴		
配当年次	3年	配当学期	後期集中	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
児童福祉施設・障害者利用施設等において観察・参加・部分実習を行う。児童福祉施設・障害者施設での実習を通して、利用者への理解を深めるとともに、施設の機能及び保育士の職務について実践的に学ぶ。※保育実習Ⅲ(施設)は児童養護施設、障害者支援施設等への就職を行う者の受講に限る。

＜授業の到達目標＞
・児童福祉施設・障害者施設の役割や機能を具体的に理解できる。・観察や利用者とのかかわりを通して利用者の理解を深めることができる。・既習の教科の内容を踏まえ、利用者の保育及び保護者への支援について総合的な学習を行うことができる。・支援の計画・観察・記録及び自己評価等について学び、具体的に理解することができる。・保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶことができる。

＜授業の方法＞
実習

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有。実習生同士または担当教員を含めて反省会をし、保育について振り返りをする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：保育実習事前指導及び他教科において学んだ内容を整理し、既習の知識や技能を高めたり実践したりできる準備をしておく（1時間）復習：実習中の当日にあったことを振り返って考察し、日誌にまとめる（1時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
実習評価 90%、事前オリエンテーション・事後学習、日誌10%

＜教科書＞
岡山県保育士養成協議会（2021）　保育実習の手引き

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	保育実習（１）	実習施設における事前オリエンテーション
2	保育実習（２）	観察実習（利用者の様子の把握）
3	保育実習（３）	観察実習（職員の様子の把握）
4	保育実習（４）	参加実習（業務に参加することによる利用者の実際の様子の把握）
5	保育実習（５）	参加実習（業務に参加することによる職員の実際の様子の把握）
6	保育実習（６）	参加実習（業務に参加することによる利用者と職員の相互関係の把握）
7	保育実習（７）	部分実習（朝の食事介助等指導）
8	保育実習（８）	部分実習（午前のレクリエーション指導）
9	保育実習（９）	部分実習（昼の食事介助等指導）
10	保育実習（１０）	部分実習（午後のレクリエーション指導）
11	保育実習（１１）	部分実習（夜の食事介助等指導）
12	保育実習（１２）	半日指導（午前）
13	保育実習（１３）	半日指導（午後）
14	保育実習（１４）	実習施設における実習反省会
15		
16		

科目コード	52005				区　分	コア科目			
授業科目名	保育実習指導ＩＡ(保育所)				担当者名	楢﨑　日佳／塚本　千晴			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
保育実習ＩAの事前学習と事後学習のためのものである。実習のねらいと目的、課題を理解し、実習に臨むために必要な知識と力を身につける。また、実習生としての心構えやマナーなどの基本を実践的に学ぶ。実習後には各自が実習を振り返り、次の実習へとつなげる。

＜授業の到達目標＞
１．保育の観察、記録、実習計画、実践、評価の方法や内容について具体的に理解する。２．実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

＜授業の方法＞
講義、演習、グループワーク、個別指導

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有。グループごとに演習を行い振り返りをする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：実習の手引きを熟読して授業に臨むこと（60分）復習：配付資料をファイルし、授業後に内容を確認、整理し、課題をすること（60分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲・チーム貢献度30%、課題50%、試験20%※授業は全出席すること※提出物は期限を厳守すること※社会人としてふさわしい態度で臨むこと

＜教科書＞
岡山県保育実習委員会（2023）　保育実習の手引き

＜参考書＞
厚生労働省（2018）　保育所保育指針解説　フレーベル館
内閣府文部科学省厚生労働省（2018）　幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説　フレーベル館

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	実習の意義と概要、授業ルール	授業の概要と目標、授業の進め方、授業ルールの確認児童生徒性暴力等の防止に関する法制度の理解
2	実習の意義と目標	保育実習の意義と目標実習園希望調査
3	実習の流れと実習生としての心構え	実習の流れと実習のステップ実習生としての心構え
4	保育の理解	保育の理解と保育の目標子どもとの関わり方、保育士等の社会的責任
5	指導案の作成（1）	子どもの姿とねらい、環境構成、活動の流れ
6	指導案の作成（2）	保育士の援助・配慮、作成上の留意事項
7	保育教材の作成（1）	シルエットクイズの作成と発表
8	保育教材の作成（2）	ペープサートの作成と発表
9	模擬保育（1）	模擬保育と振り返り（1）
10	模擬保育（2）	模擬保育と振り返り（2）
11	実習前オリエンテーション	実習書類の作成実習前オリエンテーションの意義と方法
12	実習日誌の書き方	実習中のメモの取り方と日誌の書き方エピソード記録と考察の書き方の演習
13	実習までの準備	実習の自己課題の設定と実習準備守秘義務と情報の管理
14	実習のまとめ	自己課題及び実習成果のまとめ礼状の作成
15		
16		

科目コード	52006				区　分	コア科目			
授業科目名	保育実習指導ＩＢ(施設)				担当者名	楢﨑　日佳／松本　好生／塚本　千晴			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
児童福祉施設実習に臨む心構えを学ぶとともに、施設実習における自己課題を見出す。また、施設実習中の子どもとの生活を通し、子ども理解を深め、児童養護実践力の向上に努める。

＜授業の到達目標＞
・児童福祉施設における記録方法について学ぶ。・施設入所児童への理解を深め、実際の支援について考える。・施設実習での活動を通して、保育者としての自己課題を見出す。

＜授業の方法＞
講義、グループワーク、個別指導等を適宜組み合わせて進める。また、必要に応じて上級生（保育実習ＩB既習者）等をゲストに迎えて心構えに関する演習を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有。グループごとに演習を行い振り返りをする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前に手引きをよく読んでおくこと(1時間以上)。配布された資料をファイルし、授業後に内容を整理すること(1時間以上)。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度50%､実習に向けた実習ノート作成等の課題50%※授業は全出席すること※提出物は期限を厳守すること※社会人としてふさわしい態度で臨むこと

＜教科書＞
岡山県保育士養成協議会　保育実習の手引き　保育士養成協議会
厚生労働省　保育所保育指針（平成29年告示）　フレーベル館
内閣府文部科学省厚生労働省　幼保連携型認定こども園教育・保育教育要領　フレーベル館

＜参考書＞
適宜指示します

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業担当教員紹介と実習参加条件及び受講ルールについて児童生徒性暴力等の防止に関する法制度の理解
2	実習の意義と目的	実習の意義・目標、スケジュールについて
3	施設の種類と内容(1)	施設概要の学習(養護系施設)について
4	施設の種類と内容(2)	施設概要の学習(障害児施設)について
5	施設の種類と内容(3)	施設概要の学習(障害者支援施設)について
6	実習記録(1)	実習日誌の意義について
7	実習記録(2)	実習記録のポイントと方法について
8	実習記録(3)	実習記録のポイントと方法について
9	実習書類作成	自己紹介状、誓約書、出勤簿等の作成について
10	実習施設の学習	実習施設のプロフィール調査について
11	実習課題の設定	実習課題の理解と作成について
12	事前訪問指導	実習課題の理解と作成及び事前オリエンテーションの諸注意について
13	実習の心構え	プライバシーの保護と守秘義務、人権尊重と実習態度について
14	実習事後指導とまとめ	お礼状の作成・発送、体験報告、反省課題と報告書の作成について
15		
16		

科目コード	52007				区　分	コア科目			
授業科目名	保育実習Ⅰ A(保育所)				担当者名	楢﨑　日佳／塚本　千晴			
配当年次	2年	配当学期	集中	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
・保育士資格取得にかかわる保育士課程必修の実習として、認可保育所において観察・参加・部分実習を行う。・保育所での実習を通して、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能及び保育士の職務について実践的に学ぶ。

＜授業の到達目標＞
・保育所の役割や機能を具体的に理解する。・観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。・既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。・保育の計画、観察、記録及び自己評価等について学び、具体的に理解する。・保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

＜授業の方法＞
実習園での実習・観察実習・参加実習・責任実習（部分指導、半日指導）・担当保育者との振り返り

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有。実習生同士または担当教員を含めて反省会をし、保育について振り返りをする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
・岡山県保育士養成協議会「保育所実習の手引き」、配布資料、教材資料等を熟読する。・保育実習ⅠAの自己課題をもとに、保育実習Ⅱへの課題を明確にする。・保育実習に必要な保育技術（遊びの指導、絵本の読み聞かせ、弾き歌い等）の反復練習に努める。・保育指導計画案の作成と、それに基づく模擬保育実践を行い、実習へのイメージをもつ

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
実習評価 80%、事前オリエンテーション・反省会 20%

＜教科書＞
岡山県保育士養成協議会　保育所実習の手引き

＜参考書＞
厚生労働省（2018）　保育所保育指針　フレーベル館
内閣府文部科学省厚生労働省（2018）　幼保連携型認定認定こども園教育・保育要領　フレーベル館

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	保育実習（1）	実習園における事前オリエンテーション
2	保育実習（2）	実習園において指導のもとに観察実習（1）
3	保育実習（3）	実習園において指導のもとに観察実習（2）
4	保育実習（4）	実習園において指導のもとに参加実習（1）
5	保育実習（5）	実習園において指導のもとに参加実習（2）
6	保育実習（6）	実習園において指導のもとに参加実習（3）
7	保育実習（7）	実習園において指導のもとに参加実習（4）
8	保育実習（8）	実習園において指導のもとに参加実習（5）
9	保育実習（9）	実習園において指導のもとに参加実習（6）
10	保育実習（10）	実習園において指導のもとに部分実習（1）
11	保育実習（11）	実習園において指導のもとに部分実習（2）
12	保育実習（12）	実習園において指導のもとに部分実習（3）
13	保育実習（13）	実習園において指導のもとに半日実習
14	保育実習（14）	実習園における反省会
15		
16		

科目コード	52008				区　分	コア科目			
授業科目名	保育実習ＩＢ(施設)				担当者名	楢嵜　日佳／松本　好生／塚本　千晴			
配当年次	2年	配当学期	集中	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
・保育士資格取得にかかわる保育士課程必修の実習として、保育所以外の児童福祉施設等における利用時・者への支援について、体験を通して学ぶ。

＜授業の到達目標＞
・施設における利用児・者の生活の理解と支援について理解する。・施設の役割と機能について理解する。・保育士の職務内容や役割、職業倫理について理解する。

＜授業の方法＞
保育所以外の児童福祉施設等においての実習・観察実習と担当保育者との振り返り

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有。実習生同士または担当教員を含めて反省会をし、保育について振り返りをする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：保育実習事前指導及び他教科において学んだ内容を整理し、既習の知識や技能を高めたり実践したりできる準備をしておく（1時間）復習：実習中の当日にあったことを振り返って考察し、日誌にまとめる（1時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
実習評価 80%、事前オリエンテーション・反省会 20%

＜教科書＞
岡山県保育士養成協議会　保育実習の手引き

＜参考書＞
特に指定しない

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	保育実習（1）	実習施設における事前オリエンテーション
2	保育実習（2）	実習施設において指導のもとに観察実習（1）
3	保育実習（3）	実習施設において指導のもとに観察実習（2）
4	保育実習（4）	実習施設において指導のもとに参加実習（1）
5	保育実習（5）	実習施設において指導のもとに参加実習（2）
6	保育実習（6）	実習施設において指導のもとに参加実習（3）
7	保育実習（7）	実習施設において指導のもとに参加実習（4）
8	保育実習（8）	実習施設において指導のもとに参加実習（5）
9	保育実習（9）	実習施設において指導のもとに部分実習（１）
10	保育実習（10）	実習施設において指導のもとに部分実習（2）
11	保育実習（11）	実習施設において指導のもとに部分実習（3）
12	保育実習（12）	実習施設において指導のもとに部分実習（4）
13	保育実習（13）	実習施設において指導のもとに部分実習（5）
14	保育実習（14）	実習施設における反省会
15		
16		

科目コード	52009				区　分	コア科目		
授業科目名	保育実習指導Ⅱ(保育所)				担当者名	橘髙　真紀子／塚本　千晴		
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
保育実習Ⅱの事前学習と事後学習のためのものである。実習のねらいと目的、課題を理解し、実習に臨むために必要な知識と力を身につける。また、実習生としての心構えやマナーなどの基本を実践的に学ぶ。実習後には各自が実習を振り返り、実習の総まとめをする。

＜授業の到達目標＞
１．保育の観察、記録、実習計画、実践、評価の方法や内容について具体的に理解し、実習において適切に活用できる力を身に着ける。２．実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にし、今後の学びや実践へとつなげることができる。

＜授業の方法＞
講義、演習、グループワーク、個別指導

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：模擬保育等の実施

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：実習の手引きを熟読して授業に臨むこと、模擬保育等の準備を行っておくこと（60分）復習：配付資料をファイルし、授業後に内容を確認、整理し、課題をすること（60分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲・チーム貢献度30%、課題50%、試験20%※授業は全出席すること※提出物は期限を厳守すること※社会人としてふさわしい態度で臨むこと

＜教科書＞
岡山県保育実習委員会　保育実習の手引き

＜参考書＞
厚生労働省　保育所保育指針解説　フレーベル館
内閣府　認定こども園教育・保育要領解説　フレーベル館

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	実習の意義と概要、授業ルール	授業の概要と目標、授業の進め方授業ルールの確認児童生徒性暴力等の防止に関する法制度の理解
2	実習の意義と目標実習の流れと実習生としての心構え	実習の流れと実習のステップ実習生としての心構え保育の基本と保育の目標保育所保育指針の確認
3	保育の理解	保育の基本と保育の目標保育所保育指針の確認
4	指導案の作成（1）	子どもの発達段階や興味関心を考慮したねらいと活動
5	指導案の作成（2）	ねらいを達成するための保育士の援助と配慮
6	保育教材の作成（1）	パネルシアターの作成と発表
7	保育教材の作成（2）	スケッチブックシアターの作成と発表
8	模擬保育（1）	模擬保育と振り返り（1）
9	模擬保育（2）	模擬保育と振り返り（2）
10	模擬保育（3）	模擬保育と振り返り（3）
11	実習書類の作成実習前オリエンテーション	実習書類の作成実習前オリエンテーションの意義と依頼、訪問のマナー
12	実習記録の書き方	わかりやすいエピソード記録と考察の書き方
13	実習までの準備	実習の自己課題の設定と実習準備守秘義務と情報の管理
14	実習のまとめ	自己課題及び実習成果のまとめ礼状の作成
15		
16		

科目コード	52010				区　分	コア科目			
授業科目名	保育実習指導Ⅲ(施設)				担当者名	楢﨑　日佳／松本　好生／塚本　千晴			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
事前指導では、各教科の理論・技能を再統合し応用できるための総合化の視点、それに基づく実習課題の明確化、及び施設利用者の生活に立ち入って施設保育の実際を内側から学ぼうとする者の持つべき倫理意識を学ぶ。※保育実習指導Ⅲ(施設)は児童養護施設、障害者支援施設への就職を行う者の受講に限る。

＜授業の到達目標＞
・児童福祉施設における保育士の役割について理解する。・施設入所者への理解を深め、実際の支援について考えることができる。・施設実習での活動を通して、保育者としての自己課題を見出す。・実習に向けての社会福祉施設の目的と内容についての基本を理解し、実習を円滑に進めていくための知識や心構えを得る。・自らの課題を明確にし、実践を通して施設保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。

＜授業の方法＞
講義、グループワーク、個別指導等を適宜組み合わせて進める。また、必要に応じて上級生（保育実習Ⅲ既習者）等をゲストに迎えて将来像を見つけ出すなどの演習を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有。グループごとに演習を行い振り返りをする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前に手引きをよく読んでおくこと（60分以上）。配布された資料をファイルし、授業後に内容を整理すること（60分以上）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度50%、実習に向けた実習ノート作成等の課題50%※授業は全出席すること※提出物は期限を厳守すること※社会人としてふさわしい態度で臨むこと

＜教科書＞
岡山県保育士養成協議会(2021)　保育実習の手引き

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	実習の基本的理解	保育実習の意義、目的、実習の概要　児童生徒性暴力等の防止に関する法制度の理解
2	保育実習の内容と課題の明確化（1）	施設の種類とその特徴
3	保育実習の内容と課題の明確化（2）	施設での生活とその援助のあり方
4	保育実習の内容と課題の明確化（3）	施設における保育士の役割
5	保育実習の内容と課題の明確化（4）	実習課題のもち方
6	実習の計画と記録（1）	施設の指導案について
7	実習の計画と記録（2）	実習日誌の記録の仕方
8	実習に際しての留意事項（1）	子どもの人権と最善の利益の考慮
9	実習に際しての留意事項（2）	プライバシーの保護と守秘義務
10	実習に際しての留意事項（3）	実習の心構え
11	事前指導の総括	事前指導のまとめ
12	事後指導（1）	実習の総括と自己評価
13	事後指導（2）	課題の明確化
14	まとめ	保育実習全体の振り返り
15		
16		

科目コード	53000				区　分	コア科目			
授業科目名	海外研修［PH用］				担当者名	古山　喜一			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択科目

＜授業の概要＞

本授業は、ブリュッセル自由大学（ベルギー）、IPU New Zealand（IPUNZ）をはじめとする海外留学・海外研修への参加を予定または検討している健康科学科の学生を対象とし、海外渡航前の準備学習、渡航中の課題遂行、帰国後の振り返りを通して、国際的な視野と実践的な行動力を養うことを目的とする。授業では、異文化理解、コミュニケーション、自己管理、目標設定、学修計画、危機管理、現地での学びの記録方法などを学ぶとともに、留学・研修で得た経験を言語化・可視化し、今後の学修やキャリア形成につなげる方法を身につけ

＜授業の到達目標＞

①海外留学・海外研修の目的を明確にし、自らの学びの目標を設定できる。②異文化環境において必要となる基本的な知識・態度・行動を理解し、実践に生かすことができる。③留学・研修中の経験を記録・分析し、学びとして整理することができる。④帰国後に、自身の経験を振り返り、学修・進路・キャリア形成へ接続して説明できる。⑤海外経験を健康科学科的視点（課題発見、比較分析、行動計画、発信力）から捉え、自らの成長につなげることができる。

＜授業の方法＞

講義、個人ワーク、グループワーク、ディスカッション、発表、リフレクションシート、留学・研修計画書の作成、帰国後報告を組み合わせて実施する。　授業前半では、海外留学・海外研修に向けた事前学習を行い、渡航中は各自が設定した課題や記録活動を行う。帰国後は、その成果を整理・共有し、経験を今後の学びやキャリア形成へ結び付ける。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有【方法】・グループディスカッション・ペアワーク・プレゼンテーション・リフレクション（振り返り）・課題解決型学習・体験報告と相互フィードバック学生は、自身の留学・研修計画を立案し、渡航中の経験を記録・分析し、帰国後に発表・共有することで、主体的・対話的に学ぶ。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回あたり予習・復習あわせて4時間程度を目安とする。【予習】・次回テーマに関する資料確認・渡航先の基本情報（文化、社会、教育、ビジネス、生活環境等）の調査・課題シート、目標設定シート、発表準備【復習】・授業内容の整理・リフレクションシートの作成・留学・研修中の記録（学習ログ、行動記録、気づきの整理）・帰国後レポートや報告発表の準備特に渡航中は、現地での体験を単なる経験で終わらせず、毎週継続的に記録・整理することを求める。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本授業は、健康科学科における卒業認定・学位授与の方針のうち、特に以下の能力の育成に関連する。・多様な価値観を理解し、他者と協働する力・課題を発見し、主体的に解決へ取り組む力・社会や組織において必要となるコミュニケーション能力・国際的視野と実践的行動力・学びを自己の成長や将来設計に結び付ける力　海外での学修・生活体験を、経営学的視点やキャリア形成の視点から振り返ることにより、学科の学修成果の達成に資する。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

【成績評価方法】　①授業参加・平常点（ディスカッション、ワーク、提出状況等）.....20%　②事前課題（目標設定シート、留学・研修計画書等）.....20%　③渡航中課題（学習ログ、活動記録、現地課題等）.....25%　④事後課題（振り返りレポート）.....20%　⑤最終発表（帰国報告プレゼンテーション）.....15%【フィードバック方法】　各課題については、授業内コメント、個別講評、提出物へのコメント返却等によりフィードバックを行う。　特に、目標設定、渡航中の記録、帰国後の振り返りについては、次の学びにつながるよう助言を行う

＜教科書＞

なし　なし　なし
なし　なし　なし
なし　なし　なし

＜参考書＞

授業時に適宜指示　海外留学・異文化理解・国際コミュニケーションに関する資料　適宜配布・提示
授業時に適宜指示　留学先地域の社会・文化・経済に関する資料　適宜配布・提示
授業時に適宜指示　キャリア形成・自己分析・プレゼンテーションに関する資料　適宜配布・提示

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーションと授業の目的理解	授業の全体像、評価方法、留学・研修と本科目の関係を理解する。あわせて、自身が海外で何を学びたいかを整理し、学習の出発点を確認する。
2	なぜ海外で学ぶのか―目的設定と自己分析	自分の関心、強み、課題、将来像を整理し、海外留学・海外研修に参加する目的を明確にする。個人目標の設定を行う。
3	異文化理解の基礎	文化の違い、価値観の多様性、コミュニケーションスタイルの違いについて学び、

		異文化環境で必要となる姿勢や考え方を理解する。
4	海外で求められるコミュニケーション力	言語力だけでなく、非言語コミュニケーション、傾聴、質問、確認、発信の重要性を学び、現地での交流に必要な基礎力を身につける。
5	留学・研修計画の作成	渡航先、期間、学習内容、生活面、現地での行動目標を整理し、個別の留学・研修計画書を作成する。短期・長期それぞれに応じた学び方を考える。
6	安全管理と自己管理	海外生活における健康管理、時間管理、金銭管理、危機管理、トラブル対応の基本を学び、安心して学ぶための準備を行う。
7	渡航中の学び方―記録・観察・課題設定	留学・研修中にどのように学びを深めるかを考える。学習ログ、行動記録、現地観察、比較分析、課題設定の方法を学ぶ。
8	海外留学・海外研修（現地実践）	各自の渡航先において、事前に設定した目標に基づき学修・研修を実施する。現地での学習、交流、観察、課題遂行、記録作成を行う。※2週間～12か月の範囲で、各自のプログラムに応じて実施する。
9	海外経験の整理①―体験の棚卸し	帰国後、現地での経験を振り返り、「何を見たか」「何を感じたか」「何を学んだか」を整理する。経験を単なる思い出ではなく学びとして言語化する。
10	海外経験の整理②―比較と分析	日本と渡航先の違いを、教育、文化、働き方、サービス、コミュニケーション、生活様式などの観点から比較し、考察を深める。
11	海外経験と経営的視点	現地での経験を、経営学的観点(顧客対応、組織文化、サービス、マーケティング、マネジメント、課題発見等）から捉え直し、現代経営学科での学びと接続する。
12	海外経験をキャリアにつなげる	海外で得た経験・能力・気づきを自己PRや将来の進路選択にどう結び付けるかを考える。履歴書・面接・進路設計への活用を意識する。
13	帰国報告プレゼンテーション準備	留学・研修の成果を他者に伝えるための構成を考え、報告発表の準備を行う。経験の共有を通じて、他者にとっても学びとなる発信方法を検討する。
14	帰国報告プレゼンテーションと総括	各自が海外留学・海外研修の成果を発表し、相互に学びを共有する。授業全体を振り返り、今後の学修・進路・キャリア形成に向けた行動計画をまとめる。
15		
16		

科目コード	53005				区　分	コア科目			
授業科目名	スポーツイベント運営実習				担当者名	小堀　浩志／平岡　師玄哉			
配当年次	3年	配当学期	通期集中	単位数	1.00単位	授業方法	演習・実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業では、スポーツイベントの企画・運営に関する実務能力を養成することを目的とする。実際のスポーツイベントを対象に、企画立案、運営準備、当日の運営、振り返りまでを一貫して経験する。理論と実践を融合させ、スポーツビジネスにおける現場対応力・マネジメント力の向上を目指し、スポーツイベントについて理解する

＜授業の到達目標＞
①　スポーツイベントの企画プロセスを理解し、実践できる ②　チームで役割分担し、主体的に行動できる ③　運営上の課題を発見し、改善策を提案できる ④　スポーツイベントの社会的・経済的価値を説明できる

＜授業の方法＞
第1回講義　5月23日(土)2限　授業全体の説明、事前準備第2回講義　7月11日(土)2限　イベントの紹介、事前準備第3回講義　2027年1月16日（土）2限　プレゼン・報告会3回の講義に出席するすることが履修条件①　グループワーク ②　フィールドワーク（イベント参加・運営） ③　プレゼンテーション ④　振り返り（リフレクション）　スポーツイベント、大会、ビジネス展示会などの実習に加えて、事前・事後の学内講義(座学および演習：ロールプレイング)を行う。実習終了後には、成果報告レポートの提出が必要である。特

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素有：演習（ロールプレイング、グループワーク）、プレゼンテーションなど

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：実習先のイベント・行事について包括的に調べ、理解を深めておく（１時間程度）。復習：実習での経験や成果を振り返り、今後の学生生活にどのように役立てるのかを考える（１時間提度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
企画書・準備状況：30％ 、実習での役割遂行：30％ 、最終発表・レポート：40％

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	第1回講義　オリエンテーション・ガイダンス	授業の概要説明、諸注意、履修条件、イベントの紹介
2	イベント参加・運営実習	スポーツイベント、展示会、大会への参加・運営実習
3	イベント参加・運営実習	スポーツイベント、展示会、大会への参加・運営実習
4	イベント参加・運営実習	スポーツイベント、展示会、大会への参加・運営実習
5	第2回講義　イベント調査・準備　7月11日	参加イベントの決定、調査、準備
6	イベント参加・運営実習	スポーツイベント、展示会、大会への参加・運営実習
7	イベント参加・運営実習	スポーツイベント、展示会、大会への参加・運営実習
8	イベント参加・運営実習	スポーツイベント、展示会、大会への参加・運営実習
9	イベント参加・運営実習	スポーツイベント、展示会、大会への参加・運営実習
10	イベント参加・運営実習	スポーツイベント、展示会、大会への参加・運営実習
11	イベント参加・運営実習	スポーツイベント、展示会、大会への参加・運営実習
12	イベント参加・運営実習	スポーツイベント、展示会、大会への参加・運営実習
13	イベント参加・運営実習	スポーツイベント、展示会、大会への参加・運営実習
14	第3回講義　プレゼンテーション・報告会	参加イベントの報告、全体発表・質疑応答
15		
16		

科目コード	53008				区　分	コア科目			
授業科目名	国際交流実習Ⅰ(基礎)				担当者名	伊藤　仁美／Jason　Witthaus			
配当年次	1年	配当学期	第1・第2クォーター	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本授業は、IPU NZ留学希望者を対象とした必修科目である。前半（第1～8回）では、留学の成功を左右する「自律的学習習慣」と「即興的発信力」の土台を築く。毎回の帯活動（Small Talk）で英語を話す抵抗感をなくし、場面別ロールプレイを通じて実戦的な瞬発力を養う。また、留学経験者との座談会を経て、自らの「留学計画書」を作成し、明確な目的意識を醸成する。後半（第9～14回）は、現地での交流の武器となる「日本文化」の発信力を強化する。事実や自分の考えを整理し、聞き手の反応を確かめながらまとまりのある内容を発

＜授業の到達目標＞

(1) リサーチ課題や留学計画書の作成を通じ、自国および留学先への理解を深め、国際人としての自覚と、具体的かつ実行可能な留学の行動指針を策定している。【目標・計画】 (2)自律的な英語学習の習慣を確立し、日々の学習ログ等を用いて自らの学びを客観的に管理・継続できている。【学習習慣】 (3) 間違いを恐れず、未知の状況や相手に対しても自ら進んで英語でコミュニケーションを図ろうとする積極的な姿勢を身につけている。【態度】(4) 留学生活で想定される諸場面（交通、医療、買い物等）の定型表現を習得し、トラブルや

＜授業の方法＞

(1) 帯活：Small Talk（15分）(2) 復習：学習ログの確認・日記の内容に関する自由英会話（15分）(3) 導入：Survival Input（10分）(4) 中心活動：場面別ロールプレイなど（30分）(5)ワーク：計画書・リサーチ（20分）(6) 終末：リフレクションシートと日記へのコメント記入（10分）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有学生は、このコース全体を通じて能動的な学習者として関わります。英語でのコミュニケーション能力を高めるために、スチューデント・チョイスが促進され、アクセスされます。学生は自分の考えを反映し、ペアやグループで問題を解決できるようになります。学生は情報を統合し、自分の学習を強化できるようになります。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

合計２時間程度＜予習＞(1) キーワード・リサーチ：次回のテーマや場面設定に基づき、関連する英単語（名詞中心）を3～5個リサーチする。即興性を重視するため、文章作成や丸暗記は行わず、単語のみをメモして授業に臨む。(2) 沈黙回避のためのフレーズ確認：言葉に詰まった際の「つなぎ言葉（Fillers）」や聞き直しの表現を数種類選び、声に出して馴染ませておく。＜復習＞(1) アウトプット・トレーニング：授業のトピックや記事について、何も見ずに1分間話す練習を行う（録音推奨）。「5秒以上の沈黙」を避け、言い換えや

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー５（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への取り組み・学習意欲（帯活動・学習習慣）20%留学計画書（リサーチ課題）20%中間試験（1分間スピーチの流暢さ、場面別ロールプレイでの問題解決力など） 30%期末試験（日本文化のプレゼンテーション発表） 30%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の進め方、留学へのマインドセット、英語力診断テスト
2	学習習慣の確立と目的の整理	学習ログを始める。留学の目的を整理する。
3	場面別ロールプレイ（1）	交通機関・買い物での即興ロールプレイ。語彙不足を補うパラフレーズ（言い換え）に挑戦する。
4	場面別ロールプレイ（2）	病院・電話・寮でのトラブル対応。フィラー（つなぎ言葉）を意識的に使う。
5	留学経験者との座談会	3・4回での「言葉が出ない」経験を踏まえ、実戦的なコツや生活実態を吸収する。
6	留学計画書の完成と共有	座談会での気づきを反映させた留学計画書（具体的行動指針）を完成させる。ペアでの発表と相互フィードバックを行う。
7	中間試験（1）	即興1分間スピーチ：日常的なトピックに対し、5秒以上の沈黙なしで話し続ける。
8	中間試験（2）	場面別ロールプレイ：提示されたトラブルを英語のみで解決する。
9	プレゼンテーションに向けて：計画	プレゼンテーションの構成・論理展開（序論・本論・結論）、アイディアマッピン

		グ、考えや情報の整理
10	プレゼンテーションに向けて：初稿	伝える内容に重点を置きながら、必要に応じて適切な語彙・表現を学んでいく。内容面についてのピア・フィードバックを行う。
11	プレゼンテーションに向けて：推敲	よりよい説明の仕方や表現など、言語面についてのピア・フィードバックを行う。
12	プレゼンテーションに向けて：発表準備	スライドの準備・発表練習を行う。
13	期末試験（1）	日本を紹介するプレゼンテーション発表とフィードバック　1
14	期末試験（2）	日本を紹介するプレゼンテーション発表とフィードバック　2
15		
16		

科目コード	53008				区　分	コア科目		
授業科目名	国際交流実習Ⅰ(基礎)《通年》[留学生用]				担当者名	溝越　隆興／片上　摩紀		
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本授業は､国際交流科目として開講され､留学生が日本人をはじめその他さまざまな国の人との交流活動の企画･運営に参加します。授業の全体目標は、国際交流の基礎知識について学び、実際に企画・運営に参加することにより、国際人としての自覚を涵養すること、コミュニケーション力、とりわけ日本語で伝え合う力の育成です。

＜授業の到達目標＞

(1) 日本文化や社会、国際交流とは何かについての理解を深める(2) 活動中に経験する様々な場面で、間違いを恐れずにコミュニケーションをとることができる(3) 国際交流活動の企画・運営ができるようになる(4)国際交流活動を通した成長を言語化できるようになる (5)自国と日本の文化の違いを踏まえながら、自国の文化を日本語で適切に説明できる 。

＜授業の方法＞

実習中心で実施します。教材・資料提示、学習管理は全てGoogle Classroomを通して行います。また、実習の一部として、学外とオンライン会議システムを用いて交流することもあります。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブラーニング要素有り。グループに分かれて、企画内容のディスカッションを行い、準備、発表につなげます。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習各回の活動内容や目的を確認し、日本文化や自国文化に関する話題、交流活動で使う日本語表現（自己紹介、案内、質問、説明等）を準備する。また、企画活動に向けてアイデアを考え、必要に応じて資料や準備物を整える。事後学習活動を振り返り、自分ができたこと・難しかったこと・新たに気づいた文化の違い等を整理し、レポートや課題としてまとめる。各回あたり事前1時間程度、事後2時間程度を目安とする。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー４(地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加態度 30%、準備物10%、課題 30%、レポート 30%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価方法の説明「国際交流」とは何か、「国際人」とは何か
2	国際交流基礎	日本と自分の国の文化・マナーの違い、異文化交流の経験などについて振り返る
3	国際交流活動①	交流事例を知る、国際交流への心構え、交流①の概要
4	国際交流活動①	国際交流活動への参加・体験
5	国際交流活動①	振り返り
6	国際交流活動②	国際交流イベントの説明、企画準備
7	国際交流活動②	国際交流活動への参加・体験
8	国際交流活動②	国際交流活動への参加・体験
9	国際交流活動②	振り返り
10	国際交流活動③	イベントの概要説明、企画立案
11	国際交流活動③	企画準備
12	国際交流活動③	国際交流活動実施
13	国際交流活動③	国際交流活動実施
14	国際交流活動③	振り返り
15		
16		

科目コード	53013				区　分	コア科目			
授業科目名	学校支援ボランティア［小学校ボランティア］				担当者名	練苧　千之			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第１クオーター、第２クオーター	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
学校支援ボランティアとは、学校の教育活動について地域の教育力を生かすため、保護者や地域の人々等がボランティアとして学校をサポートする取り組みであり、近年は学校支援ボランティアとして学生も学校に入り、学習支援等を行っている。ここでは、小・中学校等で行われている学校支援ボランティアの様子を紹介したり、地域の小・中学校に学校 支援ボランティアとして入り活動を行ったりすることで、学校支援ボランティアの実際について学び、教員としての仕事の一端について知る。

＜授業の到達目標＞
・学校支援ボランティアに必要な知識や技能、態度などを身に付け、将来教師として子どもたちにかかわるための指導力を培うことができるようになる。

＜授業の方法＞
この授業は、2年～４年が受講可能で前期および後期の年２回開講し、いずれかを履修することができる。学校支援ボランティアについての講義と、期間中に５回以上延べ15時間以上の学校支援ボランティアに赴く。ボランティア活動は、通常の授業時間ではなく、学校と都合のよい時間帯を相談の上実施する。したがって、午前または午後、続けて2単位時間分の授業がないことが条件となる。活動内容や学びについては、実施の都度Classroomにて記録を提出し、学校支援ボランティア実施後、成果と課題をまとめて第14回にてプレゼン発表する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素有第13回・14回の授業において、子どもとのかかわり方や教師の支援について、自己のボランティアでの経験や学びをもとに話し合い、プレゼン発表する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
ボランティアの募集説明会に参加すること、所定の時間ボランティアに行くことが単位取得の必須条件である。予習:事前に学校と十分打ち合わせをした上でボランティアに臨むこと。また、その日のボランティアを通して何を学ぶのかということを明確にしておくこと。(１時間程度)復習:学校にボランティアに行った日は､活動内容と時間数及びその日の成果や課題となったことを振り返り、クラスルームに提出すること。(２時間程度)

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４(地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。　　)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
提出する活動記録によるボランティア活動への取り組みの様子 60%、ボランティアを通しての学びの深まりのレポート 20%、取り組みや学んだことの発表内容 20%

＜教科書＞
特に指定なし

＜参考書＞
特に指定なし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	学校支援ボランティアとは	学校支援ボランティアの目的、活動内容等
2	学校支援ボランティアの申込	岡山市等の学校支援ボランティアの募集説明会、申し込み手続き等
3	学校支援ボランティアの実際	学校支援ボランティアの具体例、先輩の体験発表等
4	学校支援ボランティアの実習(1)	近隣の小・中学校等でのボランティア活動
5	学校支援ボランティアの実習(2)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
6	学校支援ボランティアの実習(3)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
7	学校支援ボランティアの実習(4)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
8	学校支援ボランティアの実習(5)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
9	学校支援ボランティアの実習(6)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
10	学校支援ボランティアの実習(7)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
11	学校支援ボランティアの実習(8)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
12	学校支援ボランティアの実習(9)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験

13	学校支援ボランティアのまとめ(1)	学校支援ボランティアの実習について学んだことについて話し合い、各自レポートにまとめる。
14	学校支援ボランティアのまとめ(2)	レポートの内容を発表し、成果と課題を共有する。
15		
16		

科目コード	53013				区　分	コア科目			
授業科目名	学校支援ボランティア［小学校ボランティア］				担当者名	練苧　千之			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第３クオーター、第４クオーター	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
学校支援ボランティアとは、学校の教育活動について地域の教育力を生かすため、保護者や地域の人々等がボランティアとして学校をサポートする取り組みであり、近年は学校支援ボランティアとして学生も学校に入り、学習支援等を行っている。ここでは、小・中学校等で行われている学校支援ボランティアの様子を紹介したり、地域の小・中学校に学校 支援ボランティアとして入り活動を行ったりすることで、学校支援ボランティアの実際について学び、教員としての仕事の一端について知る。

＜授業の到達目標＞
・学校支援ボランティアに必要な知識や技能、態度などを身につけ、将来教師として子どもにかかわるための指導力を培うことができるようになる。

＜授業の方法＞
この授業は、2年～３年が受講可能で前期および後期の年２回開講し、いずれかを履修することができる。学校支援ボランティアについての講義と、期間中に５回以上延べ15時間以上の学校支援ボランティアに赴く。ボランティア活動は、通常の授業時間ではなく、学校と都合のよい時間帯を相談の上実施する。したがって、午前または午後、続けて2単位時間分の授業がないことが条件となる。活動内容や学びについては、実施の都度Classroomにて記録を提出し、学校支援ボランティア実施後、成果と課題をまとめて第14回にてプレゼン発表する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素有第13回・14回の授業において、自己のボランティアでの経験や学びをもとに子どもとのかかわり方や教師の支援について話し合い、プレゼン発表する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
ボランティアの募集説明会に参加すること、所定の時間ボランティアに行くことが単位取得の必須条件である。予習:事前に学校と十分打ち合わせをした上でボランティアに臨むこと。また、その日のボランティアを通して何を学ぶのかということを明確にしておくこと。(１時間程度)復習:学校にボランティアに行った日は､活動内容と時間数及びその日の成果や課題となったことを振り返り、クラスルームに提出すること。(２時間程度)

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４(地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。　　)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
提出する活動記録によるボランティア活動への取り組みの様子 60%、ボランティアを通しての学びの深まりのレポート 20%、取り組みや学んだことの発表内容 20%

＜教科書＞
特に指定なし

＜参考書＞
特に指定なし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	学校支援ボランティアとは	学校支援ボランティアの目的、活動内容等
2	学校支援ボランティアの申し込み	岡山市等の学校支援ボランティアの募集説明会、申し込み手続き等
3	学校支援ボランティアの実際	学校支援ボランティアの具体例、先輩の体験発表等
4	学校支援ボランティアの実習(1)	近隣の小・中学校等でのボランティア活動
5	学校支援ボランティアの実習(2)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
6	学校支援ボランティアの実習(3)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
7	学校支援ボランティアの実習(4)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
8	学校支援ボランティアの実習(5)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
9	学校支援ボランティアの実習(6)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
10	学校支援ボランティアの実習(7)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
11	学校支援ボランティアの実習(8)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
12	学校支援ボランティアの実習(9)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験

13	学校支援ボランティアのまとめ(1)	学校支援ボランティアの実習について学んだことを各自レポートにまとめる。
14	学校支援ボランティアのまとめ(2)	レポートの内容をプレゼン発表し、成果と課題を共有する。
15		
16		

科目コード	53014				区　分	コア科目			
授業科目名	インターンシップ［FC］				担当者名	濱嶋　幸司			
配当年次	3年	配当学期	通年・集中	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
就業体験（インターンシップ）を通して、「仕事観・人生観を育成する」、「残りの学生生活ですべきことを明確にする」ことを目的とする。

＜授業の到達目標＞
１．社会人として働くための心構えやマナーを身に付ける。２．就職活動に必要な書類を知り、作成できる。３．卒業後のキャリアビジョンについて説明ができる。

＜授業の方法＞
・学内でインターンシップについて学習する・インターンシップに参加する企業を決める・企業の方と顔合わせをおこなう・インターンシップの目標を決める・インターンシップに参加する・学内でインターンシップについて振り返る・成果をまとめ、報告する

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有　事前指導ではテーマについて参加者同士で話し合い、意見をまとめグループごとに発表を行う　実習では自ら進んで課題に取り組む　事後指導では実習成果を参加者同士で共有するため、聞き手は報告者にフィードバックを行う

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習： インターンシップを希望する企業や施設について、公式ウェブサイトやパンフレット等の資料を用いて事業内容や社会的役割を調査し、実習における具体的な行動目標の立案および提出書類（履歴書等）の作成準備を行う（2時間程度）。事後学習： 実習での就業体験や作成した日誌の内容を振り返り、実習先の組織体制や業務内容についての分析をまとめ、成果報告会用の資料作成および提出用レポートの執筆を行う（3時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。）およびディプロマポリシー２（保育士・幼稚園教諭養成の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
課題への取組 ：① 20%、② 60%、③ 20%①事前学習：科目担当者が指示するガイダンスへの参加②企業インターンシップ等への参加③事後学習：成果報告・提出レポート

＜教科書＞
特に指定なし

＜参考書＞
特に指定なし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	インターンシップの目的と心構え
2	事前学習１	インターンシップ実習科目の目的とシステム
3	事前学習２	本学におけるインターンシップ申し込みシステム
4	事前学習３	企業研究 1
5	事前学習４	企業研究 2
6	事前学習５	企業研究３
7	事前学習６	インターンシップ書類作成 1
8	事前学習７	インターンシップ書類作成 2
9	インターンシップ1日目	就業先でのオリエンテーション
10	インターンシップ2日目	担当業務への従事、日誌の作成 1
11	インターンシップ3日目	担当業務への従事・日誌の作成 2
12	インターンシップ4日目	担当業務への従事・日誌の作成 3
13	インターンシップ5日目	担当業務への従事・日誌の作成 4
14	インターンシップ振り返りと事後指導	インターンシップ報告書のチェックと評価
15		
16		

科目コード	53014				区　分	コア科目		
授業科目名	インターンシップ［PS用］				担当者名	宮本　彩		
配当年次	3年	配当学期	通年集中	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業はインターンシップ（職業体験）に向けた準備ならびに参加を通して、自身のキャリアについてより深く考えるとともに、社会人として必要なビジネスマナーとコンプライアンスの一端を習得するものである。また、社会におけるスポーツの役割や自分自身がスポーツをしてきた経験の価値について、改めて考え、自分なりの意見を発信できるようになることをめざす。

＜授業の到達目標＞
①インターンシップを行う目的を理解し、積極的かつ主体的に取り組む姿勢を確立している。②インターンシップの学びを自身のキャリアデザインに結び付けている。③社会人として必要なビジネスマナーとコンプライアンスを身に身につけている。④自己理解を深め、強みを知り、自己を活かす道につなげることができている。⑤インターンシップ先の企業研究を行うことで、主体的にインターンシップの具体的な目標を設定することができている。

＜授業の方法＞
概ね以下の内容を実施するが、インターンシップ先とのスケジュールに合わせて、適宜、順序を変えながら行う。・学内でインターンシップについて学習する。・学内で基本となるビジネスマナーを学習し、インターンシップ先で実践する。・各自、インターンシップに参加する企業・公共施設等を決め、インターンシップの目標を決める。・1日以上のインターンシップに参加する。・学内でインターンシップについて振り返り、成果報告を行う。学内指導においてはGoogle Classroomを利用して資料配布や課題管理を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有事前指導では、テーマにそって参加者同士で話し合い、意見をまとめる。実習では積極的に課題に取り組む。事後指導・報告では実習成果を報告し、報告を聞いた聞き手は自身に得られた学びを伝える。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習： インターンシップを希望する企業や施設について、公式ウェブサイトやパンフレット等の資料を用いて事業内容や社会的役割を調査し、実習における具体的な行動目標を立案する（3時間程度）。事後学習： 実習での就業体験を振り返り、実習先の組織体制や業務内容についての分析をまとめ、成果報告会用の資料作成および提出用レポートの執筆を行う（3時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本授業は競技スポーツ科学科のディプロマポリシーの「３スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技術を活用できる。」「4　スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。」ならびに「5 スポーツを通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。」と関連づいている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
ガイダンスでの受講態度および各課題の達成度（10%）事前レポート（10%）実習先での課題取り組姿勢および実習態度（40%）実習レポートならびに成果報告の発表（20%）アクションプラン（20%）

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	インターンシップとは	授業の取り組み方についての説明を行う
2	社会で求められる力とは	社会人として求められる力とは何か、また、自分自身のキャリアについての考えをグループワークを通して深める
3	自己分析を行う	自己分析を行い、インターンシップ先に提出する履歴書を作成する。
4	基本のビジネスマナー① ～コミュニケーション～	コミュニケーションの基本姿勢、第一印象の重要性、敬語の基本と様々な場面を想定した言葉遣いについて、学内にて実践しながら学習・習得する。
5	基本のビジネスマナー②　～メール・ビジネス文書の作成～	インターンシップ先とのやり取りを想定したメールならびにビジネス文書の作成を行う。
6	インターンシップ先の選定、連絡・調整	自分自身が希望する業種・業界のインターンシップ先を選定し、オファーする。受け入れ先との日程調整等を含めた連絡を行う。
7	インターンシップの目標設定	インターンシップ先での実習内容を踏まえ、自らの目標を設定し、実習前レポートにまとめる。
8	実習①	インターンシップ先での実習（挨拶、自己紹介、実習内容の把握など）
9	実習②	インターンシップ先での実習（職業体験内容に則した実践）
10	実習③	インターンシップ先での実習（職業体験内容に則した実践）
11	実習④	インターンシップ先での実習（片づけ、挨拶など）
12	インターンシップの振り返り①～実習レ	実習の内容の振り返りとインターンシップ前に設定した目標の検証・分析を行い、

	ポート作成～	実習レポートとしてまとめる。
13	インターンシップの振り返り②～実習報告～	実習での学びについてプレゼンテーションを行う。また、他の受講者の体験を聞き、学びを深める。
14	インターンシップの学びを活かす	今後の目標ならびに卒業後に向けたアクションプランを作成する。
15		
16		

科目コード	53015				区　分	コア科目			
授業科目名	キャンプ実習［PP1年生用］				担当者名	堀川　峻			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期集中	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択必修

＜授業の概要＞
本授業では、統制不可能な自然環境の中で集団的・自律的生活を体験し、自己を見つめるとともに、他者との協同の重要性について学ぶ。そして、体育学科生として備えておくべき資質と知識、キャンプスキルを実践的に身につける。本授業では、グループでの活動を基本とし、自然体験活動、アクティビティ体験を通し、集団でのコミュニケーションや自己および他者の理解、リーダー（フォロアー）シップ等の協調性、社会性など非認知能力の涵養を図る。

＜授業の到達目標＞
ⅰ．自然環境におけるキャンプの意義・目的を理解することができるⅱ．アクティビティ体験を通し、協調性、社会性などを身につけることができるⅲ．体育学科生としての規律や意識を身につけることができる

＜授業の方法＞
講義と実技、宿泊を伴う実習として展開する。講義においては、レクリエーション活動や野外炊事等キャンプに必要な内容を学習する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有グループでのワークや課題解決

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習：キャンプの方法論や安全への配慮について事前学習を行う（2時間）。　事後学習：活動の振り返りやまとめレポートを作成し、内容を整理する（2時間）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度 40%、最終課題60%

＜教科書＞
特に指定なし

＜参考書＞
日本野外教育研究会　キャンプテキスト　杏林書院

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	キャンプを理解するために	キャンプの意義と目的・歴史・環境教育
2	キャンプを理解するために	キャンプとマナー，キャンプの計画と組織，キャンプの指導者の役割
3	キャンプを理解するために	キャンプの安全管理，キャンプでの調査と評価
4	対象に応じたキャンプ	オートキャンプ
5	対象に応じたキャンプ	組織キャンプ
6	対象に応じたキャンプ	学校キャンプ
7	キャンプの生活技術	天候変化の予測方法，キャンプ用具とその使い方
8	キャンプの生活技術	テント，ロープワーク
9	キャンプの生活技術	キャンプにおける安全対策と応急処置の方法
10	キャンプのプログラム	レクリエーションゲーム
11	キャンプのプログラム	自然に親しむゲーム，環境プログラム
12	キャンプのプログラム	天候に応じたプログラム，体験プログラム
13	野外炊事の理論と実際	野外炊事のねらい
14	野外炊事の理論と実際	野外炊事の方法・準備・留意点
15		
16		

科目コード	53015				区　分	コア科目			
授業科目名	キャンプ実習［PS用］				担当者名	佐々木　史之／田中　耕作			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期集中	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択必修

＜授業の概要＞

本授業は、自然の中でのグループ活動を通じ、野外活動の基礎知識と実践的なキャンプスキルを習得する体験型科目です。実習では、野外炊事や自然体験活動の本質である「共生」と「安全管理」について深く学びます。グループ単位での共同生活では、知恵を出し合うプロセスを重視し、円滑な人間関係を構築するためのコミュニケーション能力や、状況に応じたリーダーシップおよびフォロワーシップを実践的に養います。さらに、不便な環境での試行錯誤を通じて、粘り強さや協調性、他者への共感といった非認知能力を涵養します。これらの一連のプロセス

＜授業の到達目標＞

本実習では以下の3つを到達目標とします。(1) 自然に対して親しみを持ち、様々な野外活動を通してキャンプに対しての理解を深め、安全管理が実践できる。　(2) アクティビティや共同生活を通じて、自己の役割を認識し、協調性、社会性などを身につける　(3) 仲間と共に成長する意識を持ち、競技スポーツ科学科学生としての規律や態度を身につける

＜授業の方法＞

(1)授業の進め方：理論・実践・内省のプロセス　本授業は、「事前学習」、野外フィールドでの「キャンプ実習」、「事後学習」を組み合わせて展開します。事前学習では、野外活動の内容や安全管理、装備の知識を学びます。実習では、習得した知識を野外炊事などをグループ単位で実践します。実習後は、活動中の自己および他者の行動を振り返るリフレクション（内省）を行い、体験を言語化することで非認知能力の定着を図ります。(2)ICTの活用：情報の共有と記録　授業ではGoogle Docsやスプレッドシートを用いた共同編集を行い、

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素：有（課題解決型学習、グループ・ディスカッション、実技・演習、リフレクション）　本授業は、学生が主体となって活動を構成する課題解決型学習（PBL）を取り入れます。課題に対しグループ・ディスカッションを行い、解決策を導き出す実践的演習を実施します。また、活動の節目ごとに実施するリフレクション（内省）や、実習後の成果報告レポートを通じて、体験を客観的な学びに変換するプロセスを重視します。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

【予習：2時間】　配布する「安全管理マニュアル」を熟読し、野外活動における潜在的なリスクとその回避策について整理してください。また、共同生活やグループ活動を理解し、実習を円滑に実施するための方法を考え、授業に臨んでください。【復習：1時間】　実習中の自身の行動やグループ内での役割遂行について、記録したログや写真を用いて振り返りを行います。特に、直面した困難に対してどのようなコミュニケーションを取り、解決を図ったかを言語化して、事後レポートにまとめてください。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習態度およびグループへの貢献 60%、レポート課題 40%

＜教科書＞

特に指定なし

＜参考書＞

能條 歩(2014/12/25)　人と自然をつなぐ教育―自然体験教育学入門　NPO法人北海道自然体験活動サポートセンター
自然体験活動研究会(2011/6/20)　野外教育の理論と実践　杏林書院

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション／キャンプ実習の概要	授業の概要、評価について説明／実習の日程、内容、方法、注意点等についての説明する
2	キャンプの基礎知識	キャンプに必要なロープワークや火起こしの仕方等について学ぶ
3	自然体験活動の安全管理	自然体験活動における安全管理について考え、危険を回避するための方法を学ぶ
4	アイスブレイク	見ず知らずの人間同士が協力関係を素早く築くために適したアクティビティを実践的に学ぶ
5	イニシアティブゲーム	集団の凝集性を高め、実効性・機能性の高い状態を作り出すためのアクティビティを実践的に学ぶ
6	オリエンテーリング(1)	オリエンテーリングの内容を理解し、戦略を立て活動する方法を学ぶ
7	オリエンテーリング(2)	課題をクリアしながらオリエンテーリングを実施し、グループ内の団結力を高める

8	キャンプファイヤー	仲間と共に火を囲み、キャンプファイヤー実施の理解を深める
9	振り返り(1)	実習1日目の振り返りを行ない、学習の理解を深める
10	野外炊事(1)	非日常的な調理環境の中でも、安全においしく調理を行う方法やグループでの役割分担について学ぶ
11	野外炊事(2)	火や刃物に注意し、野外での調理を実践する
12	ロープワーク	固定・牽引など様々な場面で必要とされるロープワークの活用・応用を実践的に学ぶ
13	チームビルディング	仲間との団結力を高めるアクティビティを実施する
14	振り返り(2)	実習2日目の活動、実習全体を振り返り、まとめる
15		
16		

科目コード	53016				区　分	コア科目			
授業科目名	健康運動実習［PH用］				担当者名	宮本　彩／古山　喜一			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
今般の医療制度改革においては、生活習慣病予防が生涯を通じた個人の健康づくりだけでなく、中長期的な医療費適正化対策の柱の一つとして位置づけられており、今後展開される本格的な生活習慣病対策においては、一次予防に留まらず二次予防も含めた健康づくりのための運動を指導する専門家の必要性が増している。本実習においては,学内教育で習得した知識や技術を実際の現場で対象者を見ながら統合させ、実践力・応用力・創造力を身につけ、対象者に対する個別運動プ ログラムや運動の指導案を積極的に作成し、健康課題へのアプローチ方法について

＜授業の到達目標＞
健康運動を指導するための専門的な知識・技術を実際の現場で学習し、さまざまなケースに対応できる実践指導能力を習得する。また、参加者（対象者）に対する運動指導を通じて、個別ケースへの対応法について学び、健康運動指導（介護予防を含む）の理解に役立てる。

＜授業の方法＞
健康運動教室の企画、運動プログラムの考案、指導を実践を通じて学ぶ。公共施設や高齢者施設などでの現場実践を通して、様々な年代や体力レベルの対象者との関わり方や指導方法を理解する。グループ（1グループ8名程度）活動のなかで、仲間と協力して取り組むことを学ぶ。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有無；有りグループワークを中心に授業を展開し、その成果として地域住民に対する健康運動指導を実践する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
円滑なグループ活動が実施できるよう、グループ内で事前の下調べ（予習）や話し合いの結果のまとめ（復習）を行い、課せられる課題の遂行にあたる。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度・学習意欲 30%、運動指導の実践 40%、最終レポート 30%

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞
特に指定なし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	実習の進め方、グループ分け、スケジュールを説明する。
2	健康運動の趣旨・目的および健康評価	年齢に伴う体力変化を学び、健康運動の目的について考える。運動参加に関する医学的状況の把握や運動参加の禁忌、条件付参加について考える。
3	安全管理	救急法の資格の必要性、救急時対応、安全確保の手順について考える。
4	健康運動教室のテーマ選定	グループごとに実施する健康運動教室のテーマを科学的エビデンスを基に選定する。
5	教室の概要作成	教室のテーマを基にどのような目的で運動を実施するのかについて考える。
6	教室のチラシ作成	教室のテーマや概要に則したチラシを作成する。
7	運動プログラムの作成（1）	教室のテーマに合わせた運動プログラムを考える。
8	運動プログラムの作成（2）	基本の運動プログラムに加えて、体力レベルの差に対応方法を考える。
9	教室のタイムスケジュール作成	考案した運動プログラムを組み合わせ90分間の健康運動教室のタイムスケジュールを考える。
10	指導シナリオの作成	運動プログラムの進め方や運動の仕方などの説明に向けたシナリオを作成する。
11	予行演習	科目指導教員ならびに受講学生を対象に、健康運動教室の予行演習を行う。
12	予行演習を踏まえた修正・最終案の作成	予行演習での指摘を踏まえて運動プログラムやシナリオ、教室のタイムスケジュールを修正し、最終案を作成する。
13	運動プログラムの実践	運動指導の実践（現場実習）
14	振り返り（レポート作成）	本授業を通して学んだことについてレポートを作成する。
15		

16		

科目コード	53016				区　分	コア科目			
授業科目名	健康運動実習［健康運動指導士用］				担当者名	伊藤　三千雄			
配当年次	3年	配当学期	集中	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
今般の医療制度改革においては、生活習慣病予防が生涯を通じた個人の健康づくりだけでなく、中長期的な医療費適正化対策の柱の一つとして位置づけられており、今後展開される本格的な生活習慣病対策においては、一次予防に留まらず二次予防も含めた健康づくりのための運動を指導する専門家の必要性が増している。本実習においては,学内教育で習得した知識や技術を実際の現場で対象者を見ながら統合させ、実践力・応用力・創造力を身につけ、対象者に対する個別運動プ ログラムや運動の指導案を積極的に作成し、健康課題へのアプローチ方法について

＜授業の到達目標＞
健康運動を指導するための専門的な知識・技術を実際の現場で学習し、さまざまなケースに対応できる実践指導能力を習得する。また対象者に対する実際の運動指導現場にふれることで、個別ケースへの対応法について学び、健康運動指導（介護予防を含む）の理解に役立てる。また，実務能力を身に付けることにより、健康運動指導士としての活動現場における役割等を体験し、理解することを目標としている.

＜授業の方法＞
教科書を基に，様々な環境における現場実習を行う。特にクライアント（お客様）とコミュニケーションをとっていくことにより、現在のニーズや最新のトレーニング方法について学習する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有：3、4人のグループに分かれ、事前学習でのグループワークや健康増進施設での実習を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習：①教科書および配布資料を用いて、当日の実習内容（対象者特性、運動指導方法、安全管理等）を確認する。②実習施設の特徴や提供プログラムを事前に調べ、指導場面を想定した準備を行う。③当日の個人目標を設定し、実習に臨む。（1日あたり約1時間）事後学習：①実習で経験した内容を振り返り、課題・改善点・学びを整理する。②実習記録・レポートを作成し、次回実習に向けた目標を再設定する。③実習で得た知識・技能を教科書内容と照合し理解を深化させる。（1日あたり約1時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３(柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度・学習意欲 20%、実践運動指導 30%、個別対応理解 30%、最終課題 20%

＜教科書＞
公益財団法人　健康・体力づくり事業財団　健康運動指導士養成講習会テキスト（上・下）　株式会社 南江堂

＜参考書＞
特に指定なし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	利用者サポート	一般利用者への接遇・顧客管理・個人情報保護・個別対応
2	施設管理（1）	救急法の資格の必要性・救急時対応・施設連絡網の確認・安全確保手順
3	施設管理（2）	避難経路の確認と誘導・救急対応の範囲、救急器具、消火器、消火装置の確認
4	施設管理（3）	機器の基本的な使用法・調整法・メンテナンス・衛生管理
5	健康評価と体力測定（1）	運動参加に関する医学的状況の把握・運動参加の禁忌、条件付参加
6	健康評価と体力測定（2）	説明と同意　安静時血圧・心拍数等の把握技術　形態測定技術・リスク・評価
7	運動プログラム提供（1）	実際の運動機器を使った有酸素トレーニングの効果と説明、注意点
8	運動プログラム提供（2）	実際の運動機器を使った筋力トレーニングの効果と説明、注意点
9	運動プログラム提供（3）	運動時の循環器、代謝、整形外科系への配慮（高齢、腰痛、肥満等）
10	運動プログラム提供（4）	適切な負荷の提供・記録の重要性・運動開始前の評価
11	運動プログラム提供（5）	プログラムの進め方・運動処方の説明・具体的方法・プログラミング
12	総合応用（1）	運動指導実践１（受付業務、顧客管理業務）
13	総合応用（2）	運動指導実践２（個人レッスン）
14	総合応用（3）	運動指導実践３（グループレッスン）
15		
16		

科目コード	53025				区　分	コア科目			
授業科目名	アスレティックトレーナー実習Ⅰ［PH用］				担当者名	河野　儀久／坂本　賢広			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
スポーツ現場や講話などを通してアスレティックトレーナーに必要とされる役割についての意義と考え方を学び､具体的な評価から問題点抽出，予防・リハビリテーション介入までのプロセスを理解し，アスレティックトレーナーの業務内容を学ぶことをねらいとする。アスレティックトレーナー実習Ⅰでは見学実習を中心に必要な知識や技術を身につける。

＜授業の到達目標＞
検査・測定と評価についての方法であるHOPSやアスレティックリハビリテーション、外傷における応急処置、コンディショニングとしてストレッチングやテーピングなどアスレティックトレーナーの役割全般を主として見学を通して理解ができるようになることを目標とする。

＜授業の方法＞
実習はトレーニングセンターなどスポーツ現場で行う。必要に応じて資料を配布する。資料提示や課題の提示。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無し

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各回の該当箇所の予習として、検査・測定と評価，予防とコンディショニング，アスレティックリハビリテーション等のテキストについて各60分以上学習しておく。各回、実施した内容をまとめたレポートを復習課題として課す。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
実技試験50%、定期試験50%で評価する。

＜教科書＞
公益社団法人全国柔道整復学校協会（2019年3月）　競技者の外傷予防　医歯薬出版株式会社

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	アスレティックトレーニングルーム見学実習①	問診の方法を見学して理解する。
2	アスレティックトレーニングルーム見学実習②	視診の方法を見学して理解する。
3	アスレティックトレーニングルーム見学実習③	触診の方法を見学して理解する。
4	アスレティックトレーニングルーム見学実習④	関節可動域方法を見学して理解する。
5	アスレティックトレーニングルーム見学実習⑤	徒手筋力検査方法を見学して理解する。
6	アスレティックトレーニングルーム見学実習⑥	アライメント検査方法を見学して理解する。
7	アスレティックトレーニングルーム見学実習⑦	スペシャルテストを見学して理解する。
8	アスレティックトレーニングルーム見学実習⑧	関節弛緩性検査を見学して理解する。
9	アスレティックトレーニングルーム見学実習⑨	上肢のスポーツ外傷・障害の選手におけるアスレティックリハビリテーションを見学して理解する。
10	アスレティックトレーニングルーム見学実習⑩	下肢のスポーツ外傷・障害の選手におけるアスレティックリハビリテーションを見学して理解する。
11	アスレティックトレーニングルーム見学実習⑪	体幹のスポーツ外傷・障害の選手におけるアスレティックリハビリテーションを見学して理解する。

12	アスレティックトレーニングルーム見学実習⑫	応急処置方法を見学して理解する。
13	アスレティックトレーニングルーム見学実習⑬	テーピング法を見学して理解する。
14	アスレティックトレーニングルーム見学実習⑭	ストレッチングを見学して理解する。
15		
16		

科目コード	53025				区　分	コア科目			
授業科目名	アスレティックトレーナー実習Ⅰ［PP・PS用］				担当者名	江波戸　智希			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
スポーツ現場や講話などを通してアスレティックトレーナーに必要とされる役割についての意義と考え方を学び､具体的な評価から問題点抽出，予防・リコンディショニング介入までのプロセスを理解し，アスレティックトレーナーの業務内容を学ぶことをねらいとする。アスレティックトレーナー実習Ⅰでは見学実習を中心に必要な知識や技術を身につける。

＜授業の到達目標＞
検査・測定と評価についての方法であるHOPSやリコンディショニング、外傷における応急処置、コンディショニングとしてストレッチングやテーピングなどアスレティックトレーナーの役割全般を主として見学を通して理解ができるようになることを目標とする。

＜授業の方法＞
実習はトレーニングセンターなどスポーツ現場で行う。必要に応じて資料を配布する。資料提示や課題の提示、提出等はGoogleClassroomで行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素有実習前後に質疑応答やディスカッションなどを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各回の該当箇所の予習として、検査・測定と評価，予防とコンディショニング，アスレティックリハビリテーション等のテキストについて各60分以上学習しておく。各回、実施した内容をまとめたレポートを復習課題として課す。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲　（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題）50%，レポート最終課題　（最終課題）50%

＜教科書＞

＜参考書＞
公益社団法人全国柔道整復学校協会　競技者の外傷予防　医歯薬出版株式会社
公益財団法人日本スポーツ協会　2022年11月30日（第1刷）　『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト　第1巻 アスレティックトレーナーの役割』　（公財）日本スポーツ協会

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	アスレティックトレーニングルーム見学実習①	評価とリコンディショニングの見学①
2	アスレティックトレーニングルーム見学実習②	評価とリコンディショニングの見学②
3	アスレティックトレーニングルーム見学実習③	評価とリコンディショニングの見学③
4	アスレティックトレーニングルーム見学実習④	評価とリコンディショニングの見学④
5	トレーニングルーム見学実習①	評価とコンディションニングの見学①
6	トレーニングルーム見学実習②	評価とコンディションニングの見学②
7	トレーニングルーム見学実習③	評価とコンディションニングの見学③
8	トレーニングルーム見学実習④	評価とコンディションニングの見学④
9	スポーツ現場の見学実習①	役割、業務、関わり、評価とコンディションニング、リコンディショニング、救急対応の見学①
10	スポーツ現場の見学実習②	役割、業務、関わり、評価とコンディションニング、リコンディショニング、救急対応の見学②
11	スポーツ現場の見学実習③	役割、業務、関わり、評価とコンディションニング、リコンディショニング、救急対応の見学③
12	スポーツ現場の見学実習④	役割、業務、関わり、評価とコンディションニング、リコンディショニング、救急

		対応の見学④
13	様々なトレーナー現場の見学①	年齢や性別、競技などプレイヤーに応じた対応①
14	様々なトレーナー現場の見学②	年齢や性別、競技などプレイヤーに応じた対応②
15		
16		

科目コード	53026				区　分	コア科目			
授業科目名	アスレティックトレーナー実習Ⅱ				担当者名	河野　儀久／坂本　賢広			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
アスレティックトレーナーが外傷・障害の予防とリコンディショニング、そして救急対応を進める上で必要となる検査測定とリコンディショニング、救急対応方法について、その目的と意義を理解して具体的に実践できるまでの能力を習得することを目的とする。

＜授業の到達目標＞
各部位ごとの各種検査測定方法と救急対応とリコンディショニングとして、スポーツ動作分析と修正ができるようになることを目標とする。

＜授業の方法＞
実習 。コンディショニングルーム，実技実習室内で講義・実習を進めていく。適宜レポート提出，復習テストなどを行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
救急処置、アライメント評価などの実技・実習

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業前にテキストを読み、機能解剖学の復習を60分以上行い授業を受講すること。また、授業後は復習およびレポート作成について60分以上行い、レポートを提出すること。現場で救急処置のスキルが求められるため、各自、日本赤十字協会救急法救急員の取得すること。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲 30%（出席評価、レポート）、検査測定実技達成度 70%で評価する。

＜教科書＞

＜参考書＞
公益財団法人日本スポーツ協会　2022年11月30日（第1刷）　『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト　第6巻 検査・測定と評価』　（公財）日本スポーツ協会
公益財団法人日本スポーツ協会　2022年11月30日（第1刷）　『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト　第5巻 救急対応』　（公財）日本スポーツ協会
公益財団法人日本スポーツ協会　2022年11月30日（第1刷）　『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト　第4巻 リコンディショニング』　（公財）日本スポーツ協会

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ATに必要な評価	ATによる評価の目的、意義および役割
2	頭頚部の評価、救急対応、リコンディショニング	脳震盪、頚部捻挫
3	胸部の評価、救急対応、リコンディショニング	胸郭の機能不全
4	腰部の評価、救急対応、リコンディショニング	筋筋膜腰痛、腰椎間板ヘルニア、腰椎分離症
5	肩の評価、救急対応、リコンディショニング	投球障害、肩関節脱臼
6	肘・前腕の評価、救急対応、リコンディショニング	テニス肘、投球障害
7	手関節・手の評価、救急対応、リコンディショニング	手関節外傷・障害、手指靭帯損傷
8	骨盤帯・股関節の評価、救急対応、リコンディショニング	グロインペイン
9	大腿部の評価、救急対応、リコンディショニング	大腿部打撲、ハムストリングス肉ばなれ
10	膝関節の評価、救急対応、リコンディシ	膝障害、膝靭帯損傷

	ョニング	
11	下腿部の評価、救急対応、リコンディショニング	脛骨過労性骨膜炎、アキレス腱炎・断裂、下腿肉ばなれ
12	足関節・足部の評価、救急対応、リコンディショニング	足関節捻挫、足部障害
13	スポーツ動作の分析と修整	各種スポーツ動作
14	まとめ	部位ごとの評価、救急対応、リコンディショニングにおける総合論議
15		
16		

科目コード	53026				区　分	コア科目			
授業科目名	アスレティックトレーナー実習Ⅱ				担当者名	江波戸　智希			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
アスレティックトレーナーが外傷・障害の予防とリコンディショニング、そして救急対応を進める上で必要となる検査測定とリコンディショニング、救急対応方法について、その目的と意義を理解して具体的に実践できるまでの能力を習得することを目的とする。

＜授業の到達目標＞
各部位ごとの各種検査測定方法と救急対応とリコンディショニングとして、スポーツ動作分析と修正ができるようになることを目標とする。

＜授業の方法＞
実習 。コンディショニングルーム，実技実習室内で講義・実習を進めていく。適宜レポート提出，復習テストなどを行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素有。基本、2～3人組となり、実技を通して学習を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業前にテキストを読み、機能解剖学の復習を60分以上行い授業を受講すること。また、授業後は復習およびレポート作成について120分以上行い、レポートを提出すること。現場で救急処置のスキルが求められるため、各自、日本赤十字協会救急法救急員の取得すること。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲 30%（出席評価、レポート）、検査測定実技達成度 70%で評価する。

＜教科書＞

＜参考書＞
公益財団法人日本スポーツ協会　2022年11月30日（第1刷）　『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト　第6巻 検査・測定と評価』　（公財）日本スポーツ協会
公益財団法人日本スポーツ協会　2022年11月30日（第1刷）　『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト　第5巻 救急対応』　（公財）日本スポーツ協会
公益財団法人日本スポーツ協会　2022年11月30日（第1刷）　『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト　第4巻 リコンディショニング』　（公財）日本スポーツ協会

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ATに必要な評価	ATによる評価の目的、意義および役割
2	頭頚部の評価、救急対応、リコンディショニング	脳震盪、頚部捻挫
3	胸部の評価、救急対応、リコンディショニング	胸郭の機能不全
4	腰部の評価、救急対応、リコンディショニング	筋筋膜腰痛、腰椎間板ヘルニア、腰椎分離症
5	肩の評価、救急対応、リコンディショニング	投球障害、肩関節脱臼
6	肘・前腕の評価、救急対応、リコンディショニング	テニス肘、投球障害
7	手関節・手の評価、救急対応、リコンディショニング	手関節外傷・障害、手指靭帯損傷
8	骨盤帯・股関節の評価、救急対応、リコンディショニング	グロインペイン
9	大腿部の評価、救急対応、リコンディショニング	大腿部打撲、ハムストリングス肉ばなれ
10	膝関節の評価、救急対応、リコンディシ	膝障害、膝靭帯損傷

	ョニング	
11	下腿部の評価、救急対応、リコンディショニング	脛骨過労性骨膜炎、アキレス腱炎・断裂、下腿肉ばなれ
12	足関節・足部の評価、救急対応、リコンディショニング	足関節捻挫、足部障害
13	スポーツ動作の分析と修整	各種スポーツ動作
14	まとめ	部位ごとの評価、救急対応、リコンディショニングにおける総合論議
15		
16		

科目コード	53027				区　分	コア科目			
授業科目名	アスレティックトレーナー実習Ⅲ				担当者名	江波戸　智希／河野　儀久			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
アスレティックトレーナーに必要とされるコンディショニングとリコンディショニング手法と、安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防を実習を通して学習、実践する。競技特性を理解し、競技に応じた対応について理解する。

＜授業の到達目標＞
各種疾患およびコンディションに対して、適切な評価に基づくコンディションニング、リコンディショニング、健康管理と予防法、応急処置の技術を習得し、実際に選手に対して適応可能となることができることを目標とする。

＜授業の方法＞
トレーニングセンターなど実際のスポーツ現場における実習形式で行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素有3～4人組となり、実際の選手の評価を行い、リコンディショニングを行う。その後、選手の状態をグループ間で発表し、ディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業前にコンディショニングとリコンディショニング手法と、安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防等について60分、テキストを読んで準備する。また、授業後は復習およびレポート作成について120分以上行い、レポートを提出すること。現場で救急処置のスキルが求められるため、日本赤十字協会救急法救急員を修了すること。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲（授業への取り組み，毎回の復習レポート）30%、実技試験70%で評価する。

＜教科書＞

＜参考書＞
公益財団法人日本スポーツ協会　2022年11月30日（第1刷）　『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト　第5巻 救急対応』
『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト　第6巻 検査・測定と評価』　（公財）日本スポーツ協会
公益財団法人日本スポーツ協会　公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト『第3巻 コンディショニング』　（公財）日本スポーツ協会
公益財団法人日本スポーツ協会　公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト『第4巻 リコンディショニング』　（公財）日本スポーツ協会

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	リコンディショニング実習概論1	リコンディショニングの計画1
2	リコンディショニング実習概論2	リコンディショニングの計画2
3	リコンディショニング実習1	対象の部位に応じた評価、エクササイズ、道具、動作1
4	リコンディショニング実習2	対象の部位に応じた評価、エクササイズ、道具、動作2
5	リコンディショニング実習3	対象の部位に応じた評価、エクササイズ、道具、動作3
6	リコンディショニング実習4	対象の部位に応じた評価、エクササイズ、道具、動作4
7	リコンディショニング実習5	対象の部位に応じた評価、エクササイズ、道具、動作5
8	リコンディショニング実習6	対象の部位に応じた評価、エクササイズ、道具、動作6
9	リコンディショニング実習7	対象の部位に応じた評価、エクササイズ、道具、動作7
10	リコンディショニング実習8	対象の部位に応じた評価、エクササイズ、道具、動作8
11	リコンディショニング実習9	対象の部位に応じた評価、エクササイズ、道具、動作9
12	リコンディショニング実習10	対象の部位に応じた評価、エクササイズ、道具、動作10
13	リコンディショニング実習11	対象の部位に応じた評価、エクササイズ、道具、動作11
14	リコンディショニング実習12	対象の部位に応じた評価、エクササイズ、道具、動作12
15		
16		

科目コード	53028				区　分	コア科目			
授業科目名	アスレティックトレーナー実習Ⅳ				担当者名	江波戸　智希／河野　儀久			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
アスレティックトレーナーに必要とされるコンディショニングとリコンディショニング手法と、安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防を実習を通して学習、実践する。競技特性を理解し、競技に応じた対応について理解する。

＜授業の到達目標＞
各種疾患およびコンディションに対して、適切な評価に基づくコンディションニング、リコンディショニング、健康管理と予防法、応急処置の技術を習得し、実際に選手に対して適応可能となることができることを目標とする。

＜授業の方法＞
トレーニングセンターなど実際のスポーツ現場における実習形式で行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素有3～4人組となり、実際の選手の評価を行い、リコンディショニングを行う。その後、選手の状態をグループ間で発表し、ディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業前にコンディショニングとリコンディショニング手法と､安全･健康管理およびスポーツ外傷･障害の予防等について60分以上、テキストを読んで準備する。また、授業後は復習およびレポート作成について120分以上行い、レポートを提出すること。現場で救急処置のスキルが求められるため、日本赤十字協会救急法救急員を修了すること。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲（授業への取り組み，毎回の復習レポート）30%、実技試験70%

＜教科書＞

＜参考書＞
公益財団法人日本スポーツ協会　2022年11月30日（第1刷）　『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト　第5巻 救急対応』
『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト　第6巻 検査・測定と評価』　（公財）日本スポーツ協会
公益財団法人日本スポーツ協会　公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト『第4巻 リコンディショニング』　（公財）日本スポーツ協会
公益財団法人日本スポーツ協会　公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト『第3巻 コンディショニング』　（公財）日本スポーツ協会

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防概論	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防の計画とリコンディショニング
2	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防とリコンディショニング1	安全管理とコンディション評価、リコンディショニングと対象者のその後の予防に向けた取り組み1
3	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防とリコンディショニング2	安全管理とコンディション評価、リコンディショニングと対象者のその後の予防に向けた取り組み2
4	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防とリコンディショニング3	安全管理とコンディション評価、リコンディショニングと対象者のその後の予防に向けた取り組み3
5	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防とリコンディショニング4	安全管理とコンディション評価、リコンディショニングと対象者のその後の予防に向けた取り組み4
6	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防とリコンディショニング5	安全管理とコンディション評価、リコンディショニングと対象者のその後の予防に向けた取り組み5
7	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防とリコンディショニング6	安全管理とコンディション評価、リコンディショニングと対象者のその後の予防に向けた取り組み6
8	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防とリコンディショニング7	安全管理とコンディション評価、リコンディショニングと対象者のその後の予防に向けた取り組み7
9	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防とリコンディショニング8	安全管理とコンディション評価、リコンディショニングと対象者のその後の予防に向けた取り組み8
10	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障	安全管理とコンディション評価、リコンディショニングと対象者のその後の予防に

	害の予防とリコンディショニング9	向けた取り組み9
11	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防とリコンディショニング10	安全管理とコンディション評価、リコンディショニングと対象者のその後の予防に向けた取り組み10
12	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防とリコンディショニング11	安全管理とコンディション評価、リコンディショニングと対象者のその後の予防に向けた取り組み11
13	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防とリコンディショニング12	安全管理とコンディション評価、リコンディショニングと対象者のその後の予防に向けた取り組み12
14	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防とリコンディショニング13	安全管理とコンディション評価、リコンディショニングと対象者のその後の予防に向けた取り組み13
15		
16		

科目コード	53043				区　分	コア科目			
授業科目名	特別講義Ⅱ				担当者名	宇都宮　浩司			
配当年次	3年	配当学期	第３・第４クオーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本科目は、インターンシップ（就業体験）に臨む学生のための履修必須の事前･事後指導科目である。組織（企業、団体、官公庁等の行政職等）で働くうえで、獲得すべき職場文化や業務に求められる知識について理解するための企業研究や業界研究の仕方、エントリーシートの書き方、面談・面接の練習等、インターンシップ就業先の決定までの基本的な学習から始める。就業終了後には、振り返りや書類作成、成果報告の資料、プレゼン作成等の仕上げをすることを目的とする。併せて、事前･事後共に演習（ロールプレイング）を通じ、社会人に求められるビジ

＜授業の到達目標＞
「実際の職場や組織で働く」ために必要とされる知識と実践のための言動を身につける。「働く」こと、「仕事をする」こと、さらには大学を卒業して「社会人」に移行することの動機付け、意識付け、さらには希望する職業に従事するために、自身にとって求められるスキル･マナーなどを明確に認識できるようになる。

＜授業の方法＞
インターンシップ実習備え、事前・事後の学内講義(座学および演習：ロールプレイング)を行う。事前では、ビジネスマナー(挨拶、言葉遣い、電話応対、メールマナー等）、エントリーシートの書き方、面談･面接のロールプレイングなどを実施する。就業先決定後には、誓約書、覚書、体験日報、実施報告書などの書き方を学び、提出に備える。実習終了後には、成果報告レポート等の提出、成果報告会でのプレゼンテーションに向けて、資料、プレゼンスライドの作成等を実施する。個別での進行具合が異なり、実施内容も異なるため、随時、課題・出席・提

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有り：演習（ロールプレイング、グループワーク）、プレゼンテーションなど

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
インターンシップの履修希望者は、本科目の履修は必須であるため、履修許可に際しては、インターンシップ同様に、前年度出席率８0%以上、GPA２．０以上を基本条件とする。また、グローバル（留学）生の場合は原則として、上記2点に加えて、日本語能力検定試験Ｎ2相当が望ましい。予習：実習先の企業等について包括的に調べ、理解を深めておく（１時間程度）。復習：実習での経験や成果を振り返り、今後の学生生活にどのように役立てるのかを考える（１時間提度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
DP３とDP４と関連している。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
「期限までの提出物･内容評価 30%」「授業への取り組み･態度 30%」「レポート課題･報告書及び報告（プレゼンテーション） 40%」

＜教科書＞
使用しない。

＜参考書＞
適宜紹介する。

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス「インターンシップ」とは	授業・実施の進め方、諸注意、各種手続き、履修条件について
2	インターンシップ事前準備①参加申込書（エントリーシート）、誓約書、肖像権使用許諾書等必要書類組織(企業、団体、官公庁等の行政職等）の研究・検討	インターンシップの存在理由と意義
3	インターンシップ事前準備②	学生と社会人の違い、「働く」とはどういうことか？組織（企業、団体、官公庁等の行政職等）の研究・検討
4	インターンシップに必要なマナー①	ビジネスマナーの理解と実践面談・面接のマナー、ビジネスマナー(ロールプレイング)
5	インターンシップに必要なマナー②	エントリーシート、履歴書などの書類の書き方、機密保持について
6	インターンシップ事前準備①	個別面談、インターンシップ先面談、プログラム設計（内容・目標・課題等）
7	インターンシップ実習事前準備②	個別面談、インターンシップ先面談、プログラム設計（内容・目標・課題等）
8	インターンシップ事前準備③	個別面談、インターンシップ先面談、プログラム設計（内容・目標・課題等）
9	インターンシップ実習体験の振り返り（プログラムの達成確認）①	プログラムの達成確認提出書類の作成

10	インターンシップ実習体験の振り返り（プログラムの達成確認）②	プログラムの達成確認提出書類の作成
11	インターンシップ実習体験・情報共有①	履修クラス内報告
12	インターンシップ実習体験・情報共有②	履修クラス内報告
13	インターンシップ体験・成果報告①	就業体験・成果報告とフィードバック
14	インターンシップ体験・成果報告②	就業体験・成果報告とフィードバック
15		
16		

科目コード	53044				区　分	コア科目		
授業科目名	特別演習Ⅰ　《通年》[留学生・大学院入試向け]				担当者名	田口　雅弘		
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
卒業論文を執筆する学生の執筆指導を行う。加えて、経営学系大学院受験を考える学生の受験指導も行う。

＜授業の到達目標＞
卒業論文を完成させる。また、目標とする大学院を選択し、試験に向けての準備を行う。

＜授業の方法＞
卒業論文の作成の全般的指導、個別指導、大学院全般のガイダンスと個別指導。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
論文執筆指導、面接指導、研究計画書作成指導、入学願書執筆指導、個別指導。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
卒業論文のテーマについて、自分自身でしっかり考え、ある程度リサーチしておくこと。大学院受験生は、受験する大学院によって指定教科書、受験科目が違うので、受験する大学院が決まったら指定参考書により自主学習をすること。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業で出される課題の提出、研究計画書の作成などを総合的に評価。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	最初の授業で、履修者にアンケートを行い、それに合わせて授業内容を作成。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	53046				区　分	コア科目			
授業科目名	フィールドワーク				担当者名	鈴木　真理子／大池　淳一			
配当年次	1年	配当学期	後期集中講義	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

・鈴木担当の「地域に在住する外国人のニーズ調査」の場合本講義は、地域に在住する外国人のニーズを把握し、大学としてどのような支援や取り組みが可能かを検討することを目的としたフィールドワーク型授業である。IPUの「Global Hub」を拠点とし、留学生や地域外国人へのインタビューやアンケート調査を実施する。授業内外での調査活動を通して、言語、生活、教育、地域参加などの課題を明らかにする。さらに、得られた結果を分析し、大学として実現可能な支援策をチームで提案する。限られた時間の中で調査から提案までを行うことで

＜授業の到達目標＞

・鈴木担当の「地域に在住する外国人のニーズ調査」の場合1. 地域における外国人の多様なニーズや課題を理解し、説明できる2. インタビューやアンケートなどの調査手法を用いて情報を収集・分析できる3. 調査結果をもとに、実現可能な解決策を企画・提案できる4. 多様な背景を持つ人々と協働し、課題解決に取り組む姿勢を身につける

＜授業の方法＞

1）鈴木担当の「地域に在住する外国人のニーズ調査」集中講義形式で実施し、講義・調査設計・フィールドワーク・分析・発表を一体的に行う。Global Hubを活用し、留学生や地域住民との交流・協働を通して学ぶ。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

あり（フィールドワーク、インタビュー調査、グループワーク、プレゼンテーション等）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

調査対象に関する事前調査、質問項目の作成、調査結果の整理・分析、発表資料作成などを行う（集中期間中および期間外に合計10時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・鈴木担当の「地域に在住する外国人のニーズ調査」の場合チーム評価（調査・提案の質）：40％個人評価（参加・貢献）：30％レポート（分析・考察）：30％

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	以下のスケジュールは、鈴木担当の「地域に在住する外国人のニーズ調査」の場合とする。オリエンテーション／地域外国人の現状理解	授業の目的・進め方・評価方法を理解する。日本および地域における外国人住民の現状と課題について学ぶ。また、フィールドワークにおける倫理（個人情報・配慮等）について確認する。
2	調査設計（インタビュー・アンケート）	調査の目的を明確にし、チームごとに仮説を設定する。インタビューおよびアンケートの基本を学び、質問項目を作成する。
3	調査準備・実施計画	作成した質問項目をもとにロールプレイを行い、調査の精度を高める。調査対象（留学生・地域外国人等）や方法を決定し、授業外での調査計画を立てる。
4	フィールドワーク（調査実施）※授業外活動含む	授業外でインタビューやアンケート調査を実施する。授業内では進捗共有を行い、課題や気づきを整理する。
5	分析・課題の構造化	収集したデータを整理・分析し、ニーズや課題を可視化する。表面的な問題だけでなく、その背景にある要因を考察する。
6	提案作成（大学でできること）	分析結果をもとに、大学として実現可能な支援策やプログラムを検討する。Global Hubの活用も視野に入れ、具体的な提案としてまとめる。
7	最終発表・振り返り	各チームが調査結果と提案内容をプレゼンテーションする。授業全体を振り返り、学びや課題を言語化する。
8		
9		
10		
11		
12		

13		
14		
15		
16		

科目コード	53047				区　分	コア科目			
授業科目名	インターンシップⅠ［FE］				担当者名	濱嶋　幸司			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年・集中	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択（教育社会学コース生必修）

＜授業の概要＞
就業体験（インターンシップ）を通して、「仕事観・人生観を育成する」、「残りの学生生活ですべきことを明確にする」ことを目的とする。

＜授業の到達目標＞
１．社会人として働くための心構えやマナーを身に付ける。２．就職活動に必要な書類を知り、作成できる。３．卒業後のキャリアビジョンについて説明ができる。

＜授業の方法＞
・学内でインターンシップについて学習する・インターンシップに参加する企業・公共施設等を決める・担当の方と顔合わせをおこなう・インターンシップの目標を決める・インターンシップに参加する・学内でインターンシップについて振り返る・成果をまとめ、報告する

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有　事前指導でテーマにそって参加者同士で話し合い、意見をまとめ発表をおこなう　実習では積極的に課題に取り組む　事後指導・報告では実習成果を報告し、報告を聞いた聞き手は自身に得られた学びを伝える

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習： インターンシップを希望する企業や施設について、公式ウェブサイトやパンフレット等の資料を用いて事業内容や社会的役割を調査し、実習における具体的な行動目標を立案する（2時間程度）。事後学習： 実習での就業体験を振り返り、実習先の組織体制や業務内容についての分析をまとめ、成果報告会用の資料作成および提出用レポートの執筆を行う（3時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。） と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
①20%、②60%、③20%①科目担当者の指示するガイダンスに出席②現場でのインターンシップ等への参加③事後学習：成果報告・提出レポート

＜教科書＞
特に指定なし

＜参考書＞
特に指定なし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	インターンシップの目的と心構え
2	事前学習①	インターンシップ実習科目の目的とシステム
3	事前学習②	インターンシップ先の確定と事前挨拶
4	実習①	実習参加①
5	実習②	実習参加②
6	実習③	実習参加③
7	事後学習①	実習成果振り返り・成果報告会
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	53048				区　分	コア科目			
授業科目名	インターンシップⅡ［FE］				担当者名	濱嶋　幸司			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年・集中	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択（教育社会学コース生必修）

＜授業の概要＞
「インターンシップⅠ」に続き、就業体験（インターンシップ）を通して、「仕事観・人生観を育成する」、「残りの学生生活ですべきことを明確にする」ことを目的とする。※本科目は「インターンシップⅠ」受講学生のみとする。

＜授業の到達目標＞
１．社会人として働くための心構えやマナーをより強固に身に付ける。２．就職活動に必要な書類をスムーズに作成できる。３．卒業後のキャリアビジョンについて誰もがわかるように説明できる。

＜授業の方法＞
・学内でインターンシップについて学習する・インターンシップに参加する企業・公共施設等を決める・担当の方と顔合わせをおこなう・インターンシップの目標を決める・インターンシップに参加する・学内でインターンシップについて振り返る・成果をまとめ、報告する

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有　事前指導でテーマにそって参加者同士で話し合い、意見をまとめ発表をおこなう　実習では積極的に課題に取り組む　事後指導・報告では実習成果を報告し、報告を聞いた聞き手は自身に得られた学びを伝える

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習： 実習を希望する企業や施設について、公式ウェブサイトや資料等を用いて詳細な情報収集・調査を行い、実習における具体的な到達目標を設定する（2時間程度）。事後学習： 実習内容の振り返りをおこない、実習企業の組織体制や業務内容についての分析をまとめ、成果報告書（レポート）を作成する（3時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。） と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
①20%、②60%、③20%①科目担当者の指示するガイダンスに出席②現場でのインターンシップ等への参加③事後学習：成果報告・提出レポート

＜教科書＞
特に指定なし

＜参考書＞
特に指定なし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	「インターンシップⅠ」を受けた後、復習と再度のインターンシップの目的と心構え
2	事前学習①	「インターンシップⅠ」を受けた後の活動
3	事前学習②	「インターンシップⅠ」を受けた後の活動
4	実習①	実習参加①
5	実習②	実習参加②
6	実習③	実習参加③
7	事後学習①	実習成果振り返り・成果報告会
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	53065				区　分	コア科目			
授業科目名	幼児英語指導法Ⅰ				担当者名	塚本　千晴／羽田　あずさ			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業では、乳幼児の発達に応じた外国語（英語）習得について理論と実践を関連付けて学び、幼少期に外国語に触れる意義を踏まえ、発達段階に適した教材や教授法を実践と議論を通して理解し、適切に指導できる力を養う。

＜授業の到達目標＞
検定用テキストを活用しながら、幼保英検の合格を目指します。また、グループで協働学習を行い、乳幼児の発達に応じた外国語（英語）習得について理解し、適切な教材と言語活動が幼児に提供できるようにします。

＜授業の方法＞
グループごとに、乳幼児に楽しく英語を学ばせるアクティビティやスキットを実演する。ピア・アセスメント（相互評価）を実施し、良いところや改善すべき点をクラス全体で話し合い、次回の実演へ繋げていく。各学生は、ポートフォリオで記録を蓄積し、幼稚園、保育園での実習に向けて活用していく。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループ活動や模擬授業、留学生との交流、発表・実演を通して、主体的・協働的な学びを促す。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各授業に向けて、英語の歌や絵本、クラフト活動に関する資料や表現を事前に確認し、必要に応じて授業準備や英語表現の練習を行う。（※1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４(地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習態度（30%）、グループ活動への貢献度（40%）、課題提出（30%）

＜教科書＞
一般社団法人　幼児教育・保育英語検定協会（2019）　幼保英語検定３、２、準１級テキストいずれか　ブックフォレ

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	英語の子どもの歌	音楽や動きを使った英語の教え方；グループで音楽の授業を準備・実演する
3	英語の絵本（1）	英語の絵本を授業で活用する方法；グループで英語絵本の授業を準備・実演する
4	英語の絵本（2）	英語絵本の授業を準備・実演する
5	英検対策	英検対策の練習
6	異文化理解とコミュニケーション（1）	留学生との交流を通して、英語によるコミュニケーション力と異文化理解を深める。
7	異文化理解とコミュニケーション（2）	留学生との交流を通して、英語によるコミュニケーション力と異文化理解を深める。
8	英語での工作・クラフト（1）	工作・クラフトを使った英語の教え方；グループで英語による工作の授業を準備する
9	英語での工作・クラフト（2）	グループで英語による工作の授業を準備・実演する
10	特別講和	特別講話を通して、子どもへの英語指導や授業の工夫、実践例について学ぶ。
11	模擬授業準備（1）	模擬授業に向けた学生選択の英語授業の準備を完成させる
12	模擬授業準備（2）	模擬授業に向けた学生選択の英語授業の準備を完成させる
13	模擬授業発表日	英語による模擬授業の最終発表
14	学期の振り返り	授業全体の学びを振り返る
15		
16		

科目コード	53066				区　分	コア科目		
授業科目名	幼児英語指導法Ⅱ				担当者名	塚本　千晴／羽田　あずさ		
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本授業では、乳幼児の発達に応じた外国語（英語）習得に着目し、理論的側面と実践的側面を融合させて学んでいきます。幼い子どもにとって、母国語の発達途上の段階で、もう1つの言語を習得することは容易ではありません。しかし、「臨界期仮説」（ある一定の時期を過ぎるとネイティブのような言語能力を身につけるのは困難になるという仮説）があるように、幼い時に新しい言語に触れることは、その後の言語習得に大きく作用します。では、どのように指導していくかが問題です。乳幼児の発達過程に応じた教材、教授法について、実践を重ねながら議論

＜授業の到達目標＞

検定用テキストを活用しながら、幼保英検3級以上の合格を目指します。また、グループで協働学習を行い、乳幼児の発達に応じた外国語（英語）習得について理解し、適切な教材と言語活動が乳幼児に提供できるようにします。

＜授業の方法＞

グループごとに、乳幼児に楽しく英語を学ばせるアクティビティやスキットを実演する。ピア・アセスメント（相互評価）を実施し、良いところや改善すべき点をクラス全体で話し合い、次回の実演へ繋げていく。各学生は、ポートフォリオで記録を蓄積し、幼稚園、保育園での実習に向けて活用していく。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有：グループで協働学習を行う

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

指定の幼保英検テキストを購入し、指定した範囲のダイアログや単語を覚えたりする課題がある。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー４(地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

11月に実施される幼保英検を必ず受検すること（合否によって単位取得が決められるものではない）学習態度３０％　グループへの貢献度３０％　課題提出２０％　幼保英検受検２０％

＜教科書＞

一般社団法人　幼児教育・保育英語検定協会（2019）　幼保英語検定３、２、準１級テキストいずれか　ブックフォレ

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	幼保英検準備（1）	問題演習や対策
3	幼保英検準備（2）	問題演習や対策
4	年齢に応じた外国語活動とは（1）	年齢に応じた語学習得について、注意すべき点を議論する。語学習得における臨界期仮説について学び、幼児期に外国語に触れる長短を理解する。
5	年齢に応じた外国語活動とは（2）	グループで準備をする
6	年齢に応じた外国語活動とは（3）	グループで実演発表をする
7	聴覚（音）を刺激する英語活動とは（1）	リスニングスキルを伸ばすための活動について、注意すべき点を議論する
8	聴覚（音）を刺激する英語活動とは（2）	グループで準備する
9	聴覚（音）を刺激する英語活動とは（3）	グループで実演発表をする
10	視覚（絵）を刺激する英語活動とは（1）	文字認識を促す活動について、注意すべき点を議論する
11	視覚（絵）を刺激する英語活動とは（2）	グループで準備する
12	視覚（絵）を刺激する英語活動とは（3）	グループで実演発表をする
13	保育園（あるいは幼稚園）見学	教育現場での実践を見学し、幼児英語指導法Ⅲへつなげていく
14	振り返り	自分たちの取り組みと実際の教育現場の実践を比較し、改善すべきところはどこか考える
15		
16		

科目コード	53067				区　分	コア科目		
授業科目名	幼児英語指導法Ⅲ［不開講］				担当者名	羽田　あずさ／塚本　千晴		
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業では、乳幼児の発達に応じた外国語（英語）習得に着目し、理論的側面と実践的側面を融合させて学んでいきます。幼い子どもにとって、母国語の発達途上の段階で、もう1つの言語を習得させていくことは簡単ではありません。しかし、「臨界期仮説」（ある一定の時期を過ぎるとネイティブのような言語能力を身につけるのは困難になるという仮説）があるように、幼い時に新しい言語に触れることは、その後の言語習得に大きく作用します。幼児英語指導法ⅠⅡで学習した教材や教授法を応用し、こども園での実践を通して「グローバル時代に対応できる

＜授業の到達目標＞
幼児英語指導法のまとめとして、英語指導の実践力を高め教育者としてのグローバルな視点を獲得することを目標とします。また、こども園での実践を通して、乳幼児の発達に応じた言語活動を提供できるようにします。

＜授業の方法＞
領域ごとに模擬保育を計画し、乳幼児が楽しく英語に触れることができる模擬保育を計画・実践する。各国の保育では、探求学習を実施する。ピア・アセスメント（相互評価）を実施し、良いところや改善すべき点をクラス全体で話し合い、次回の実演へ繋げていく。各学生は、ポートフォリオで記録を蓄積し、将来的な保育現場での実践に向けて活用していく。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有（ピアフィードバック・ジグソー法など）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前：指定の幼保英検テキストを購入し、指定した範囲のダイアログや単語を覚える。（１時間）事前：模擬保育に向けて、指導案の作成や準備物の作成、探求学習の課題。（２時間）事後：振り返りレポート（１時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
DP１；他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。DP２；保育士・幼稚園教諭養成の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。DP３；教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
模擬保育３０％　グループへの貢献度３０％　課題提出２０％　最終課題２０％

＜教科書＞
一般社団法人　幼児教育・保育英語検定協会（2019）　幼保英語検定３、２、準１級テキストいずれか　ブックフォレ

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	英語で読み聞かせ（1）	年齢に応じた教材選択や、指導法について学習し、模擬保育を計画する
3	英語で読み聞かせ（2）	模擬保育と振り返りを行う
4	英語でパネルシアター（1）	保育現場で実践されているパネルシアターについて学習し、読み聞かせで選んだ絵本を元にパネルシアターを作成する
5	英語でパネルシアター（2）	保育現場で実践されているパネルシアターについて学習し、読み聞かせで選んだ絵本を元にパネルシアターを作成する
6	英語でパネルシアター（3）	保育現場で実践されているパネルシアターについて学習し、読み聞かせで選んだ絵本を元にパネルシアターを作成する
7	英語でパネルシアター（4）	模擬保育と振り返りを行う
8	こども園での保育実践（1）	こども園での保育実践に向けた準備を行う
9	こども園での保育実践（2）	こども園にて保育を行う
10	英語でアクティビティ（1）	これまでの学習の最終成果発表として実施するこども園での保育内容について検討する
11	英語でアクティビティ（2）	グループに分かれ、海外の保育や教育制度について調査する
12	英語でアクティビティ（3）	海外の保育や教育制度について調査する
13	こども園での保育実践（3）	こども園での保育実践に向けた準備を行う
14	こども園での保育実践（4）	こども園での保育実践に向けた準備を行う
15		
16		

科目コード	53068				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	幼児体育指導法Ⅰ				担当者名	小﨑　遼介			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
「幼児期運動指針」を理解し、幼児期に獲得させるべき基本的な動作、発達させるべき運動機能を学び、幼児期に必要とされる身体活動を量と質の両面から考慮された指導ができる知識を身に付ける。特に、幼児期における運動遊びの重要性と指導力を身につけることを目指す。特に、文献や先行研究調査し発表を持って、学習する機会を設ける。また、幼児の運動指導の必要性やその意義について、先進的な取り組みをもとに検討を行う。

＜授業の到達目標＞
①本授業を通して幼児が楽しむことのできる運動遊びを考えることができる。②子どもの運動発達の特徴及び『幼児期運動指針』の内容について理解し、他者に説明できる。③幼児期の身体活動の重要性を理解することができる。

＜授業の方法＞
講義及び演習並びに実技により授業を展開する。事前学習・授業内学習での文献の調査・発表を行う。またその発表をもとにディスカッション、グループワークを実施する。パソコン・タブレットを用いて文献の発表を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
ディベートを用いる

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
参考図書・参考資料に目を通し、授業で提示される各テーマに沿って、幼児期の運動発達・スキルの獲得に関する基本的理解を深め（30分程度）、毎時提示される課題に対し、レポート作成に取り組む（90分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
日常の授業における授業内課題（70%）。事前学習課題(30%)。

＜教科書＞
文部科学省　幼児期運動指針　文部科学省

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	授業概要・幼児・体育・指導	授業概要の解説と幼児体育指導についての解説
2	幼児体育に関する理論1	幼児期の発達的特徴に応じた運動指導の在り方について
3	幼児体育に関する理論2	幼児の体力・運動能力、運動能力の発達段階について
4	運動能力の測定①	運動能力測定の手法について（走・跳・投）
5	運動能力の測定②	運動能力測定の手法について（柔軟性・巧緻性など）
6	運動能力の評価	運動能力測定結果の評価と活用
7	幼児体育に関する理論3	幼児の運動に関する現状と課題、遊びとしての運動の重要性
8	幼児体育の意義1	幼児体育のあり方についての調査
9	幼児体育の意義2	幼児体育のあり方についてのディベート1
10	幼児体育の意義3	幼児体育のあり方についてのディベート2
11	幼児教育現場での体育・運動・スポーツ	身体活動量を意識した運動遊び
12	東岡山IPUこども園での運動遊び	用具を用いない多様な運動遊び
13	ニュージーランド保育と運動	用具を用いた運動遊び
14	まとめおよび全体の振り返り	授業内容全体の振り返りと幼児体育2への接続
15		
16		

科目コード	53069				区　分	コア科目		
授業科目名	幼児体育指導法Ⅱ				担当者名	小﨑　遼介		
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
幼児期に求められる運動のあり方を学び､発達段階に適した運動指導の考え方や指導者の役割を理解する｡様々な年代の子どもたちに対して、どのような遊びや動きを通してスポーツあるいは競技の基礎を習得させていくのか、また、積極的に運動に取り組む習慣を身に付けさせる方法について考案し、プログラムの立て方や運動指導方法について学習する。本講義では「体力測定」の取り組みから、子どもとスポーツ、心身の健康について考え、幼児期にとってのスポーツが子どもに「よい影響」となるように指導者として必要な知識、倫理観、指導技術を獲得する

＜授業の到達目標＞
①年中児から小学校低学年に適した体力向上につながる取り組みを理解できる。 ②心身の発育発達について十分に理解し、子どもとスポーツ実践に関して指導者としてふさわしい倫理観を獲得する。

＜授業の方法＞
講義と座学の演習方式で進める。受講者はGoogleクラスルームに参加し、そこから課題や連絡を受取る。毎時のレポートはGoogleフォームから投稿する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
実技指導を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
毎時の学習テーマに関する事前課題（60分）に取り組むこと。授業後は指示に応じてレポートを作成し、所定の方法で提出すること（60分）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
レポート課題　50%、指導実施計画　30%、指導技術　20%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業内容と評価方法の説明。子どもと健康に関する学習状況の振返り。
2	ウェルビーイングのための幼児体育(1)	幼児期における運動の効果と適切な実施方法について理解する。
3	ウェルビーイングのための幼児体育(2)	東岡山IPUこども園での測定にイメージを持たせる。
4	ウェルビーイングのための幼児体育(3)	東岡山IPUこども園での測定を行う。
5	遊びの観察	東岡山IPUこども園での遊びを観察する。
6	観察の振り返り	観察でみられた場面の振り返りを通して、必要な遊び、運動能力について考える。
7	遊びの考案：子どもの発達を踏まえる	子どもの発達段階を踏まえて、提供したい遊びについて検討する。
8	遊びの模擬：子どもの発達を踏まえる	考えた遊びで、模擬保育を行い実際の指導時の工夫について理解する。
9	遊びの準備	指導案作成、準備物作成を通して計画的な遊びの実践力を身につける。
10	遊びの実践：コーナー遊びの提供①	考えた遊びを東岡山IPUこども園で提供する。
11	遊びの実践：コーナー遊びの提供②	考えた遊びを東岡山IPUこども園で提供する。子どもの反応や変化の記録をとる。
12	遊びの実践：振り返り	2回の実践を通して振り返りを行う。
13	遊びの実践：コーナー遊びの提供③	振り返り・改善した遊びを再度提供する
14	まとめ	指導計画に対して教材・教具や指導方法が適切だったかを振り返り、今後の展望についても考え、レポートにまとめる。
15		
16		

科目コード	53070				区　分	コア科目			
授業科目名	幼児体育指導法Ⅲ［不開講］				担当者名	小﨑　遼介			
配当年次	4年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
幼児期に求められる運動のあり方を学び､発達段階に適した運動指導の考え方や指導者の役割を理解する｡様々な年代の子どもたちに対して、どのような遊びや動きを通してスポーツあるいは競技の基礎を習得させていくのか、また、積極的に運動に取り組む習慣を身に付けさせる方法について考案し、プログラムの立て方や運動指導方法について学習する。本講義では「体力測定」の取り組みから、子どもとスポーツ、心身の健康について考え、幼児期にとってのスポーツが子どもに「よい影響」となるように指導者として必要な知識、倫理観、指導技術を獲得する

＜授業の到達目標＞
①年中児から小学校低学年に適した体力向上につながる取り組みを理解できる。 ②心身の発育発達について十分に理解し、子どもとスポーツ実践に関して指導者としてふさわしい倫理観を獲得する。

＜授業の方法＞
講義と座学の演習方式で進める。受講者はGoogleクラスルームに参加し、そこから課題や連絡を受取る。毎時のレポートはGoogleフォームから投稿する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
東岡山IPUこども園での観察、遊びの提案を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
毎時の学習テーマに関する事前課題（60分）に取り組むこと。授業後は指示に応じてレポートを作成し、所定の方法で提出すること（60分）。指導案の作成、準備物の作成を行う。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
レポート課題　50%、指導実施計画　30%、指導技術　20%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業内容と評価方法の説明。子どもと健康に関する学習状況の振返り。
2	ウェルビーイングのための幼児体育(1)	幼児期における運動の効果と適切な実施方法について理解する。
3	ウェルビーイングのための幼児体育(2)	海外の教育要領や指針から幼児期における運動の効果と適切な実施方法について学習する。
4	ウェルビーイングのための幼児体育(3)	第3回目で学習した内容から、幼児体育あるいは幼児期におけるスポーツ活動における適切な実施方法について考察する。
5	幼児期のスポーツ実践におけるコーチング(1)	指導者のリーダーシップについて学習する。
6	幼児期のスポーツ実践におけるコーチング(2)	年間指導実施計画を作成する。
7	幼児期のスポーツ実践におけるコーチング(3)	年間指導実施計画をもとに月案を作成する。
8	幼児体育と体力(1)	スポーツの種類と競技特性について理解し、幼児期の運動における実践方法について考察する。
9	幼児体育と体力(2)	スポーツの種類と競技特性について理解し、体力要素との関連を考察する。
10	幼児体育と体力(3)	各競技で求められる主要な体力要素について理解し、指導計画を作成する。
11	幼児期のスポーツ実践における教材・教具研究(1)	各競技で求められる競技特性および主要な体力要素に合わせた教材・教具を作成する。
12	幼児期のスポーツ実践における教材・教具研究(2)	各競技で求められる競技特性および主要な体力要素に合わせた教材・教具を作成する。
13	幼児期のスポーツ実践における教材・教具研究(3)	作成した教材・教具を使って模擬授業を行う。
14	幼児期のスポーツ実践における教材・教具研究(4)	作成した教材・教具を使って模擬授業を行う。

15 16		

科目コード	53071				区　分	コア科目			
授業科目名	保育マネージメント演習Ⅰ				担当者名	小﨑　遼介			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
保育現場がどのように運営されているかを、観察および振り返りを中心として学び、実践力と運営力の基礎を学ぶことを目的とする。毎回、テーマに沿って東岡山IPUこども園の保育観察を実施する。観察後は事後課題としてレポートの提出を求める。保育の観察および振り返りの充実により、保育者としての資質の向上を図る。どのように保育が展開され、子どもの育ちにつながるのかを理解するための、観察手法を身につける。

＜授業の到達目標＞
目標①保育の観察するスキルを身につける。②観察を通して保育運営に関する知識を身につける。①に関しては、観察の態度、視点、考察力を求める。態度に関しては観察に徹底することを重要視するため、私語は慎む、保育参加をしない、子どもとの関わりを不用意に実施しないことを必要とする。視点に関しては、毎回の講義で観察のテーマを提示する。テーマに沿った視点で保育内容や子どもの姿、保育者の準備、運営、保育の展開の観察を必要とする。考察力に関しては、事実と考察を切り離して考えることができているか、考察は飛躍せず内容が十分なもの

＜授業の方法＞
東岡山IPUこども園連携科目、グループ演習、保育観察、フィードバック

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
東岡山IPUこども園での実施を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
準備学習観察のポイントに関する事前学習を行うこと。(事前学習課題あり、60分)また観察後は事後学習として振り返りを実施する。(事後課題あり、60分)

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この授業は、DP２保育士・幼稚園教諭養成の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。と関連しております。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
成績・評価に関する項目保育観察レポート60点、最終レポート40点。

＜教科書＞

＜参考書＞
柴山真琴　子どもエスノグラフィー入門～技法の基礎から活用まで子どもにかかわる実践に携わるすべての人に　新曜社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション・東岡山IPUこども園の概要	東岡山IPUこども園の設置の背景、保育理念、こども園での取り組み、施設設備、在園児、教職員数など概要の説明。
2	保育観察手法について	保育の観察における心構え、態度、視点、手法に関する講義を実施する。
3	東岡山IPUこども園全体の観察	施設設備、子どもの様子、保育者の様子など全体的な観察を行う。
4	子どもの遊びの観察	子どもの遊びに着目し、時間、内容、会話、保育者との関わりの観察を行う。
5	施設備品の観察	保育環境を含めた、備品・消耗品
6	観察手法に関する振り返り第7回から第13回までの観察テーマの検討	観察手法に関して振り返りを行い、課題、現状の把握を行う。特によく観察できている例を紹介し、観察に関する知識・スキルの向上を図る。第7回から第13回は年齢ごとに観察を行うため、一貫した観察を行うためのテーマ設定をする。
7	0歳児の保育理念に沿った保育	保育理念に基づいた保育について、0歳児クラスの活動に着目し観察を行う。
8	1歳児の保育理念に沿った保育	保育理念に基づいた保育について、1歳児クラスの活動に着目し観察を行う。
9	2歳児の保育理念に沿った保育	保育理念に基づいた保育について、2歳児クラスの活動に着目し観察を行う。
10	3歳未満の保育理念に沿った保育に関する学びの共有	保育理念に基づいた保育について、3歳未満の観察をもとに観察場面をもとに考察を行う。
11	3歳児の保育理念に沿った保育	保育理念に基づいた保育について、3歳児クラスの活動に着目し観察を行う。
12	4歳児の保育理念に沿った保育	保育理念に基づいた保育について、4歳児クラスの活動に着目し観察を行う。
13	5歳児の保育理念に沿った保育	保育理念に基づいた保育について、5歳児クラスの活動に着目し観察を行う。
14	3歳以上の保育理念に沿った保育に関する学びの共有	3歳以上の保育理念に沿った保育に関する学びの共有
15		

16		

科目コード	53072				区　分	コア科目			
授業科目名	保育マネージメント演習Ⅱ				担当者名	小﨑　遼介			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
保育マネジメント1に続き、保育現場がどのように運営されているかを、観察および振り返りを中心として学び、実践力と運営力を学ぶことを目的とする。毎回、テーマに沿って東岡山IPUこども園の保育観察を実施する。観察後は事後課題としてレポートの提出を求める。保育の観察および振り返りの充実により、保育者としての資質の向上を図る。どのように保育が展開され、子どもの育ちにつながるのかを理解するための、観察手法を身につける。特に保育マネジメントⅡでは、保育内容・保育の質に焦点を当てて、観察を行う。

＜授業の到達目標＞
①保育の観察するスキルを身につける。②観察を通して保育運営に関する知識を身につける。①に関しては、観察の態度、視点、考察力を求める。態度に関しては観察に徹底することを重要視するため、私語は慎む、保育の参加しない、子どもとの関わりを不用意に実施しないことを必要とする。視点に関しては、毎回の講義で観察のテーマを提示する。テーマに沿った視点で保育内容や子どもの姿、保育者の準備、運営、保育の展開の観察を必要とする。考察力に関しては、事実と考察を切り離して考えることができているか、また考察は飛躍せず内容が十分なもの

＜授業の方法＞
保育観察を基本とする。場合によっては、現場保育者へのヒアリング、研修会への参加を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
東岡山IPUこども園にて、観察活動を伴って観察する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
観察のポイントに関する事前学習を行うこと。また観察後は事後学習として振り返りを実施する。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４(地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
事前学習課題20点、観察課題10点、振り返り課題60点、学びの共有レポート課題10点

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション・東岡山IPUこども園の概要	東岡山IPUこども園の設置の背景、保育理念、こども園での取り組み、施設設備、在園児、教職員数など概要の説明。
2	年間計画、月案、週案、日案○	指導計画に基づいた保育内容に着目し、保育の観察を行う。
3	年間計画、月案、週案、日案○ ■	第3回とは異なるクラスでの指導計画に基づいた保育内容に着目し、保育の観察を行う。
4	組織運営○ ■	こども園という組織形態について学ぶ。組織の目標設定と進捗管理
5	主任の業務○ ■	主任の業務内容の把握、保育者への助言について。
6	保育者の倫理観○ ■	保育者の倫理意識の向上不適切保育防止に対する取り組み
7	ICT機器の導入	ICT機器の導入に関する費用、設置基準、実際に活用している保育者の声を聞く。
8	学びの共有◎第9回から第14回までの観察のクラス・テーマ決め	第1,2,3,4,5,6,7回の学びのまとめグループワーク形式での共有、発表第9回から第14回までの観察のクラスを決める
9	健康領域の観察○△ ■	領域健康に焦点を当て、観察を行う。
10	人間関係領域の観察○△ ■	領域人間関係に焦点を当て、観察を行う。
11	環境領域の観察○△ ■	領域環境に焦点を当て、観察を行う。
12	言葉領域の観察○△ ■	領域言葉に焦点を当て、観察を行う。
13	表現領域の観察○△ ■	領域表現に焦点を当て、観察を行う。
14	保育内容5つの領域の相互関連と保育者の関わりに関しての振り返り◎	保育内容の5つの領域に関する、関連・保育内容の運営を検討する。
15		
16		

科目コード	53073				区　分	コア科目			
授業科目名	保育マネージメント演習Ⅲ				担当者名	小﨑　遼介			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
保育現場がどのように運営されているかを､観察および振り返りを中心として学び､実践力と運営力の基礎を学ぶことを目的とする。毎回、テーマに沿って東岡山IPUこども園の保育観察を実施する。観察後は事後課題としてレポートの提出を求める。保育の観察および振り返りの充実により、保育者としての資質の向上を図る。どのように保育が展開され、子どもの育ちにつながるのかを理解するための、観察手法を身につける。

＜授業の到達目標＞
目標①保育の観察するスキルを身につける。②観察を通して保育運営に関する知識を身につける。①に関しては､観察の態度､視点､考察力を求める。態度に関しては観察に徹底することを重要視するため、私語は慎む、保育参加をしない、子どもとの関わりを不用意に実施しないことを必要とする。視点に関しては、毎回の講義で観察のテーマを提示する。テーマに沿った視点で保育内容や子どもの姿、保育者の準備、運営、保育の展開の観察を必要とする。考察力に関しては、事実と考察を切り離して考えることができているか、考察は飛躍せず内容が十分なもの

＜授業の方法＞
東岡山IPUこども園連携科目、グループ演習、保育観察、フィードバック

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
東岡山IPUこども園での実施を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
準備学習観察のポイントに関する事前学習を行うこと。(事前学習課題あり、約60分)また観察後は事後学習として振り返りを実施する。(事後課題あり、約60分)

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この授業は、DP２保育士・幼稚園教諭養成の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。と関連しております。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
成績・評価に関する項目保育観察の振り返り60点、最終レポート30点

＜教科書＞

＜参考書＞
柴山真琴　子どもエスノグラフィー入門～技法の基礎から活用まで子どもにかかわる実践に携わるすべての人に　新曜社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション・東岡山IPUこども園の概要	東岡山IPUこども園の設置の背景、保育理念、こども園での取り組み、施設設備、在園児、教職員数など概要の説明。
2	保育観察手法について	保育の観察における心構え、態度、視点、手法に関する講義を実施する。
3	東岡山IPUこども園全体の観察	施設設備、子どもの様子、保育者の様子など全体的な観察を行う。
4	子どもの遊びの観察	子どもの遊びに着目し、時間、内容、会話、保育者との関わりの観察を行う。
5	施設備品の観察	保育環境を含めた、備品・消耗品
6	観察手法に関する振り返り第7回から第13回までの観察テーマの検討	観察手法に関して振り返りを行い、課題、現状の把握を行う。特によく観察できている例を紹介し、観察に関する知識・スキルの向上を図る。第7回から第13回は年齢ごとに観察を行うため、一貫した観察を行うためのテーマ設定をする。
7	0歳児の保育理念に沿った保育	保育理念に基づいた保育について、0歳児クラスの活動に着目し観察を行う。
8	1歳児の保育理念に沿った保育	保育理念に基づいた保育について、1歳児クラスの活動に着目し観察を行う。
9	2歳児の保育理念に沿った保育	保育理念に基づいた保育について、2歳児クラスの活動に着目し観察を行う。
10	3歳未満の保育理念に沿った保育に関する学びの共有	保育理念に基づいた保育について、3歳未満の観察をもとに観察場面をもとに考察を行う。
11	3歳児の保育理念に沿った保育	保育理念に基づいた保育について、3歳児クラスの活動に着目し観察を行う。
12	4歳児の保育理念に沿った保育	保育理念に基づいた保育について、4歳児クラスの活動に着目し観察を行う。
13	5歳児の保育理念に沿った保育	保育理念に基づいた保育について、5歳児クラスの活動に着目し観察を行う。
14	3歳以上の保育理念に沿った保育に関する学びの共有	3歳以上の保育理念に沿った保育に関する学びの共有
15		

16		

科目コード	53074				区　分	コア科目		
授業科目名	保育マネージメント演習Ⅳ［不開講］				担当者名	小﨑　遼介		
配当年次	4年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
保育現場がどのように運営されているかを、子どもとの関わり、保育者からのフィードバック、保育観察を通して身につけることを目的とする。保育観察を中心としながら各回テーマを持って学習を行う。

＜授業の到達目標＞
保育観察の手法を身につけるとともに､子どもの理解､保育技術の向上を目的とした保育者としての資質能力を高めることができる。他者との交流によりフェードバックを行い、交流し高め合えることができる。

＜授業の方法＞
東岡山IPUこども園にて保育観察を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
東岡山IPUこども園にて、観察活動を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
東岡山IPUこども園での観察後の振り返り、まとめ、次回への観察ポイントの整理(60分）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、DP２保育士・幼稚園教諭養成の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。と関連しております。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
保育観察のレポート30点、保育まとめレポート40点、最終レポート30点

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション・東岡山IPUこども園の概要	東岡山IPUこども園の設置の背景、保育理念、こども園での取り組み、施設設備、在園児、教職員数など概要の説明。
2	保育観察1	子どもの興味・関心を観察・見守りをする。
3	保育観察2	領域健康における保育観察
4	保育観察3	領域人間関係における保育観察
5	保育観察4	領域環境における保育観察
6	保育観察5	領域言葉における保育観察
7	保育観察6	領域表現における保育観察
8	保育観察7	コーナー保育の魅力、異議、必要性、課題について検討する
9	保育観察8	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿における保育観察
10	保育観察9	自然との関わり・生命尊重での保育観察
11	保育観察10	量・図形、文字等への関心・感覚での保育観察
12	保育観察11	幼小節族の観点における保育観察
13	保育観察12	言葉による伝え合いでの遊び
14	保育観察13	こども園全体を通しての運営
15		
16		

科目コード	53076				区　分	コア科目			
授業科目名	教職実践演習［小学校］				担当者名	中安　翼／内田　仁志／鈩　悠介／奥山　優／安井　正郎／坂根　清貴／藤原　佳代子／浅野　良一／練苧　千之／木野　正一郎／三堀　仁／小川　智勢子／千葉　照久／高橋　章二／大野呂　浩志／林　栄昭／岸本　勝義／本藤　展康／前田　一誠／大久保　諒			
配当年次	4年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本科目は、教職課程等での講義及び介護体験・教育実習等で身につけた力を総合し、教師に求められる使命感や教育的愛情・人権感覚などの人間性を一層培うために、教職に就く学生の最終授業である。 授業概要としては、教員に求められる共通的な資質能力及び実践的指導力の向上を図る。そのために現在までに学んだ教育理論や実習体験等を整理し、履修カルテを最大限に活用することで自分自身の弱点を補完することを目標とした授業であるので、全ての授業に参加することが最低の目標でもある。

＜授業の到達目標＞
児童に深い愛情を持ち適切な人間関係を築くことができるコミュニケーション能力や発達段階に応じた各教科及び領域の指導力、生徒指導力などを最終学年において確かなものとすることができるようになる。

＜授業の方法＞
講義、ロールプレイ、小グループでの討論、PCを活用した演習Googleクラスルームによる課題管理

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有・５，６人のグループに分かれて、毎回のテーマに沿ってディスカッションを行い、まとめてグループごとに発表する。・講義内容に沿って、役割演技やグループワークなどの演習を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
理解度を深めるため、各回のテーマに基づき1年から4年前期までに使用した教科書、レジュメ、実習ノート、履修カルテ等を活用して、自己の課題を確認し考えをまとめておく（1.5時間程度）。授業後は、講義や演習での学びを整理し、教師としての使命感や実践的指導力の向上に関する振り返りレポートを作成し、自己の成長を記録する（1時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。） と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲 ・受講態度 40%、講義内での課題等 20%、最終レポート 40%

＜教科書＞
特に指定しない。　特に指定しない。

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ガイダンス教職実践ボランティア
2	人権・同和教育のねらいと指導の充実	人権教育を核とした学級経営
3	特別支援教育の実際	障害のある児童生徒が在籍する学級経営
4	ふるさと教育のめざすもの	自分が取り組みたいふるさと教育
5	地域連携の実際	地域連携の現状地域と連携した生活科の授業づくり
6	こんなときどうする	授業づくり・学級経営保護者・地域との連携職場の人間関係職場のマネジメント
7	学級経営の実際①	特別活動を核とした学級経営
8	学級経営の実際②	学級開きに向けて
9	ようこそ先輩	先輩の体験談
10	学校保健、学校安全の実際①	学校保健、学校安全への心構え
11	学校保健、学校安全の実際②	けが、食物アレルギー等への対応
12	コンプライアンス	教育委員会の講話事例によるグループ協議
13	社会人としての基本マナー	あいさつ、言葉遣い保護者への対応
14	教職実践演習のまとめ最終レポート	学修のまとめ最終レポートの作成
15	赴任前後の事務手続き	着任前の準備事務手続きのスケジュールと内容
16		

科目コード	53076				区　分	コア科目			
授業科目名	教職実践演習［中高英語］				担当者名	伊藤　仁美／竹下　厚志			
配当年次	4年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

本授業は、4年間の学びと教育実習の経験を統合し、実践的指導力の確立を目指す。具体的には、教育に関わるテーマでのディスカッションに加え、学習指導要領の理念やSLA（第二言語習得）理論を「自らの実践を支えるもの」と捉え、教育実習での課題の省察や、テスティング理論に準拠した定期テストの作成を行う。また、毎回のミニ講義後には、専門用語等の知識・技能の定着を確認する小テストを実施する。

＜授業の到達目標＞

(1) 英語教育に関する諸課題について、英語を用いたディスカッションを通じ、自身の考えを論理的に発信できるようになる。(2) SLAやテスティングなどに関する重要な専門用語の知識・技能を正確に身につけている。(3) 教育実習での課題（Teacher Talk、タスク設計など）に対し、原因を特定し、第二言語習得（SLA）の理論等を用いて具体的な改善策を提示できるようになる。(4) 実践を省察するサイクルを体得し、教職就任後も自律的に授業改善を継続する「省察的実践家」としての資質を身につけている。(5) テス

＜授業の方法＞

⑴講義（教員による解説と問いの提示）　⑵グループワーク（教材開発およびテスト作成）　⑶ディスカッション（実践省察）⑷プレゼンテーション（教材・テスト・省察）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

あり。テスト作成、プレゼンテーション、ディスカッション

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の指導内容の事前学習（１時間程度）復習：英語トレーニング（毎日2時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー５（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成果物と発表50%、小テスト30%、授業への積極的な参加姿勢・貢献20%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	教職実践演習の目的、授業の進め方、英語教師の成長
2	教育と英語（１）	教育にかかわる英語ディスカッション１
3	教育と英語（２）	教育にかかわる英語ディスカッション２
4	教育と英語（３）	教育にかかわる英語ディスカッション３
5	まとめ	これまでの成果発表
6	実践省察（１）	実習経験の共有、分析と解決策の提案、SLA理論解説１
7	実践省察（２）	実習経験の共有、分析と解決策の提案、SLA理論解説２
8	実践省察（３）	実習経験の共有、分析と解決策の提案、SLA理論解説３
9	実践省察（４）	実習経験の共有、分析と解決策の提案、SLA理論解説４
10	テスト作成（１）	定期テスト作成発表準備１
11	テスト作成（２）	定期テスト作成発表準備２
12	テスト作成発表（１）	作成した定期テスト内容の発表１
13	テスト作成発表（２）	作成した定期テスト内容の発表２
14	まとめ	4年間の学びと本授業の総括、履修カルテの記入
15		
16		

科目コード	53076				区　分	コア科目		
授業科目名	教職実践演習［中高保体］				担当者名	早田　剛／木村　大／岩田　知郎／坂本　康輔		
配当年次	4年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本授業では，まず教職課程において学生各自が身につけてきた力量について履修カルテを元に検討することを通して，教員になる上で，自己にとって何が課題であるのかを認識させることから始める。そして，その課題意識に応じた模擬授業の実践と振り返りを通して，不足している知識や技術，技能等を補い，教員としての力量形成を図る。その際，事実に基づいた振り返りとなるよう，データの収集や分析にICTを導入する。最後に，成果報告会において，教員として必要な資質能力の定着状況について確認する。

＜授業の到達目標＞

教育に対する使命感や情熱を持ち，さまざまな子どもに対しての理解力，学級経営力，生徒指導力，学習指導力等，教育現場で必要な教育実践力を身につけることができる。また，その力で教育現場でのさまざまな課題に対し，主体的に取り組み，解決しようとする態度を身につけることができる。

＜授業の方法＞

講義（アクティブラーニングの観点から履修カルテと模擬授業で解決する課題を結びつける）、模擬授業（ICT機器を用いた撮影やデータ分析を含む）、ディスカッション（Google Classroomを用いた課題管理とレポート提出を含む）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブラーニング有：ICTを用いた共同作業やディスカッションを行う

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

体つくり運動，器械運動、陸上競技等，各授業テーマ，題材に沿って事前に調べておく課題，準備しておく資料がある。各授業テーマ毎に授業案を作成しておくこと。予習：2時間，復習：1時間

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

教師として授業に臨む姿勢30%,各授業でのミニレポート 40%，分析レポート 15%，演習への参加と討論への参加状況 15%※社会人として容認し難い対応した場合は、減点の対象となります。

＜教科書＞

＜参考書＞

文部科学省（2017）　中学校学習指導要領解説 保健体育編　東山書房
文部科学省（2018）　高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編　東山書房

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	教職実践演習受講の心構え、履修カルテの記入方法
2	教育現場で必要となるICT演習①	Googleドキュメントの活用
3	教育現場で必要となるICT演習②	スプレッドシートの活用
4	教育現場で必要となるICT演習③	Googleクラスルームの運営
5	教育現場で必要となるICT演習④	JamBoardの活用
6	教育現場で必要となるICT演習⑤	これまでの振り返り
7	学級経営について	１年目からでもできる良い学級経営のためのポイントとは
8	学校における体育行事	体育的行事はどう進め方ていけば良いか
9	保健体育授業のテクニック①	活動量を確保するための授業マネジメント
10	保健体育授業のテクニック②	活動の妨げにならないワークシートの作り方、使い方とは
11	保健体育授業のテクニック③	多様な他者とともに楽しむスポーツ指導を目指して
12	保健体育授業のテクニック④	体育授業中に予想外なことが起きたらどう対処するのか
13	保健体育教師の資質・能力	保健体育教師のキャリア形成
14	授業全体のふりかえり	今後の教育の方向、求められる教員の資質、役割、使命感
15		
16		

科目コード	53076				区　分	コア科目			
授業科目名	教職実践演習［幼保］				担当者名	楢﨑　日佳			
配当年次	4年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
学んできた教育・保育の理論や技術、教育実習や保育実習で得た学びを個別の「履修カルテ」を通して振り返り、自己課題と学習内容を明確にする。また、幼稚園・保育所・認定こども園・施設の保育者に共通して求められる資質能力及び保育活動における指導力を確かなものにするため、指導計画作成、保育実践、振り返り等を取り入れる。保育実践と振り返りを組み合わせることでより実践力を高めていく。

＜授業の到達目標＞
１．保育者として備えるべき姿勢や心構え、役割などの基本的な事項を理解し、説明することができる。２．保育者として持つべき基本的な指導力を知り、実際に指導計画を立て、実践できる。３．保育者としての自分の力量を知り、伸ばすための方法を知り、使うことができる。

＜授業の方法＞
・講話を通して、課題の提示や説明・課題についてのグループワーク・課題についての演習

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有。グループごとに演習を行い振り返り、発表をする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
・予習：学習予定表に沿って、次回の内容に関する関連資料や課題を読み、授業の準備をする。・復習：各回の講義内容について、個人またはグループで講義ごとのワークシートの追加記入や復習をする。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲20％、課題50％、試験30％

＜教科書＞

＜参考書＞
文部科学省（2018）　幼稚園教育要領解説　フレーベル館
厚生労働省（2018）　保育所保育指針解説　フレーベル館
内閣府文部科学省厚生労働省（2018）　幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説　フレーベル館

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	「保育・教職実践演習」とは	授業の概要と目標、授業の流れ履修カルテの記入と分析、自己課題の設定児童生徒性暴力等に関する理解
2	専門職としての自覚	専門性に基づく関わりの必要性教育・保育・福祉の専門家として求められる資質・能力
3	子どもの理解と人権（1）	全国保育士会『人権擁護のためのセルフチェックリスト』を活用した関わりの振り返りと人権意識の再確認
4	子どもの理解と人権（2）	個性や特性を尊重した関わりと保護者や関係機関との連携
5	保護者支援（1）	子育て支援の必要性と役割子どもにも大人にも共通する関わりの基本
6	保護者支援（2）	保護者対応の基本と演習
7	指導案の作成（1）	指導案の作成とPDCAサイクルの活用期案、月案、週案、日案の作成（1）
8	指導案の作成（2）	期案、月案、週案、日案の作成（2）
9	事例研究（1）	エピソード記録と育ちの分析（1）
10	事例研究（2）	エピソード記録と育ちの分析（2）
11	ドキュメンテーション記録（1）	「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を活用した育ちを可視化するドキュメンテーション記録の作成（1）
12	ドキュメンテーション記録（2）	「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を活用した育ちを可視化するドキュメンテーション記録の作成（2）
13	保育職としてのキャリア形成	専門職として学び続ける必要性と自己課題保育のやりがいとキャリア形成
14	学びの分析とまとめ	４年間の学びの分析とまとめ
15		
16		

科目コード	53077				区　分	コア科目			
授業科目名	フィールドラーニングⅠ				担当者名	濱嶋　幸司			
配当年次	3年	配当学期	通年・集中	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択（教育社会学コース生必修）

＜授業の概要＞
実際に学内外へのフィールドワークを行い、フィールドワーク先の現状、良さ、課題などを自らデータを収集し、自分たちが何ができるかを主体的に学ぶことを目的とする。自分たちの調査の成果発表は、課題を解決する具体的な提案という形式でフィールド関係者に伝え、取組に対する評価をうける。

＜授業の到達目標＞
①フィールドの課題を自らの力で見つけ出すことができる。②フィールドの課題を個人またはグループで掘り起こし、調査することができる。③フィールドから学んだ成果をまとめ、他者に伝えることができる。④フィールドの課題を解決する提案を具体的なものとして示すことができる。

＜授業の方法＞
個人もしくはグループ活動を中心として事前準備→実習→成果・振り返り→課題と改善策の提案をおこなう。授業の序盤はフィールドワークの技法、フィールドから得られる学び何かについて、マナーや心得を学ぶ。中盤ではフィールドに出て、情報や知見をデータとして収集する。フィールドの成果を中間報告として学内で発表する。最終回で自分たちが見つけた課題とその改善策をフィールド関係者に向けて報告し、質疑応答・評価を受ける。積極性をもって現場に向き合い、現場の人とコミュニケーションを図り、自分たちがどのような貢献ができるのか、教室

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有　事前指導ではテーマについて参加者同士で話し合い、意見をまとめグループごとに発表を行う　実習では自ら進んで課題に取り組む　事後指導では実習成果を参加者同士で共有するため、聞き手は報告者にフィードバックを行う

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習： 各回の実習テーマに合わせ、実習先（フィールド）の特性や現状について文献やウェブサイト等を用いて調査し、具体的な調査計画や質問項目を作成して実習に臨む（3時間程度）。事後学習： フィールドで収集したデータや聞き取り内容の整理・分析を行い、実習での気づきや課題に対する改善案をまとめ、成果報告書やプレゼンテーション資料を作成する（3時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
意欲態度 40%、実習での取組および姿勢 15%、実習前後の学内での取組 15%、提案報告 30%。

＜教科書＞
特に指定なし

＜参考書＞
特に指定なし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	事前：オリエンテーション	科目のねらい・到達目標の確認
2	事前：フィールドワークの作法	フィールド参加の心得、参与観察、調査方法の説明
3	事前：フィールドを決める	課題の掘り起こし
4	事前：フィールドへの準備	入念な実習準備
5	実習①	フィールドに入る（参与観察）
6	実習①	フィールドの特性・良さを知る
7	実習①	聞き取りや資料を通じて課題をみつける
8	中間：実習の成果①	実習①振り返り・成果の確認
9	中間：実習の成果②	提案準備
10	中間：実習の成果③	提案学内報告→練り直し
11	実習②	フィールドに入る（参与観察）
12	実習②	成果と課題を伝える
13	事後：成果の共有	実習②の成果を学内で報告
14	事後：ふりかえり	実習②振り返りと次に向けての行動確認
15		
16		

科目コード	53078				区　分	コア科目			
授業科目名	フィールドラーニングⅡ				担当者名	濱嶋　幸司			
配当年次	4年	配当学期	通年・集中	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択（教育社会学コース生必修）

＜授業の概要＞
「フィールドラーニングⅠ」に続き、実際に学内外へのフィールドワークを行い、フィールドワーク先の現状、良さ、課題などを自らデータを収集し、自分たちが何ができるかを主体的な学びを深めることを目的とする。自分たちの調査の成果発表は、課題を解決する具体的な提案という形式でフィールド関係者に伝え、取組に対する評価をうける。※本科目は「フィールドラーニングⅠ」履修者のみとする。

＜授業の到達目標＞
①フィールドの課題を自らの力で見つけ出し深めることができる。②フィールドの課題を個人またはグループで掘り起こし、詳細に調査することができる。③フィールドから学んだ成果をまとめ、よりわかりやすく他者に伝えることができる。④フィールドの課題を解決する提案を具体的かつ実践可能なものとして示すことができる。

＜授業の方法＞
「フィールドラーニングⅠ」に続き、個人もしくはグループ活動を中心として実習→成果・振り返り→課題と改善策の提案をおこなう。すでにフィールド経験をもっているので、どんどんフィールドに出て、情報や知見をデータとして収集する。フィールドの成果を中間報告として学内で発表する。最終回で自分たちが見つけた課題とその改善策をフィールド関係者に向けて報告し、質疑応答・評価を受ける。積極性をもって現場に向き合い、現場の人とコミュニケーションを図り、自分たちがどのような貢献ができるのか、教室だけでは得がたい学びを得る。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有　事前指導ではテーマについて参加者同士で話し合い、意見をまとめグループごとに発表を行う　実習では自ら進んで課題に取り組む　事後指導では実習成果を参加者同士で共有するため、聞き手は報告者にフィードバックを行う

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習：「フィールドラーニングⅠ」での知見を基に、調査対象地域の現状と再設定した課題について追加の資料収集を行い、実習に向けたより高度で詳細な調査項目や実行計画を立案する（2時間程度）。事後学習：フィールドで収集したデータの高度な分析・考察を行い、課題解決に向けた具体的かつ実践可能な提案書（成果報告書）を作成する。また、フィールド関係者への報告に向けたプレゼンテーション資料を完成させる（3時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
意欲態度 40%、実習での取組および姿勢 15%、実習前後の学内での取組 15%、提案報告 30%。

＜教科書＞
特に指定なし

＜参考書＞
特に指定なし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	「フィールドラーニングⅠ」の振り返り	科目のねらい・到達目標の確認
2	復習：フィールドワークの作法	フィールド参加の心得、参与観察、調査方法の説明を再確認
3	フィールドの課題	課題の再度掘り起こし
4	フィールドでの注目点	再度の実習準備
5	実習③	フィールドに入る（参与観察）
6	実習③	フィールドの特性・良さを知る
7	実習③	聞き取りや資料を通じて課題をみつける
8	中間：実習の成果①	実習③振り返り・成果の確認
9	中間：実習の成果②	提案準備
10	中間：実習の成果③	提案学内報告→練り直し
11	実習④	フィールドに入る（参与観察）
12	実習④	成果と課題を伝える
13	事後：成果の共有	実習④の成果を学内で報告
14	事後：ふりかえり	実習④振り返りと最終報告実施

15 16		

科目コード	53079				区　分	コア科目			
授業科目名	インターンシップ(企業) [BC]				担当者名	赤木　邦江／溝越　隆興			
配当年次	2年	配当学期	集中	単位数	2.00単位	授業方法	実習（インターンシップ：就業体験）	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本科目では、汎用的能力活用型では短期（5日間以上）、専門的活用型では長期（2週間以上・実質10日以上）のインターンシップ（就業体験）をもとに、学生が組織で働くうえで、獲得すべき職場文化や業務に求められる知識について理解することを目的とする。併せて、学生の学びたいこと・学ばせたいことをプログラム設計して、産官学連携の協力のもとコーオプ教育を推進しているので、積極的に、より具体的に就業先で実習できるプログラム（内容、目標、課題等）を定める必要がある。　※汎用的能力活用型（短期・5日間以上）２単位　専門的活用型

＜授業の到達目標＞

「実際の職場や組織で働く」を通して、「働く」こと、「仕事をする」こと、さらには大学を卒業して「社会人」になることなどに対する理解を深めることを目的とする。興味・関心のある業界・職業・職務等を理解・体験することにより、学生から社会人に移行する際のマッチングの重要性（情報の対称性）を知り、自身の期待との大きなギャップ（リアリティ・ショック）がないように有益な就業体験にする。

＜授業の方法＞

「インターンシップ」を履修する場合、特別演習Ⅱ（インターンシップ事前・事後指導）の履修が必須である。エントリーシートの記載、ビジネスマナー（言葉遣い、電話応対マナー、メールマナー等）、模擬面接の学習をした上で、組織とのインターンシップ就業の受け入れマッチングを実施(面談、対面面接、オンライン面接など）。就業先が決定したら、その企業及び業界研究をし、就業に臨む。就業においては、遅刻・欠席をせず、原則皆勤によりまじめに取り組まなければならない。就業終了後には、成果報告レポートの提出と成果報告会でのプレゼンテー

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニング有り：演習（ロールプレイング、グループワーク）、プレゼンテーションなど

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

履修許可に際しては、前年度出席率８0%以上、GPA２.0以上を基本条件とする。グローバル（留学）生の場合は原則として、上記2点に加えて、日本語能力検定試験N2相当が望ましい。インターンシップ（就業体験）の日程期間（夏期休暇期間・第３クォーター）は、すべて参加することを原則とする。特にその期間のアルバイトは原則禁止（課題や振り返りレポート作成あり）。そのほかの条件については、特別演習Ⅱ（インターンシップ事前・事後指導）にて説明を行う。予習：実習先の企業等について包括的に調べ、理解を深めておく（１時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー４(地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

インターンシップ先からの評価 50%、就業先決定における必要書類の作成と提出 20%、レポート課題・実施報告書提出及び成果報告（プレゼンテーション） 30%※講義に関する質問は講義終了後、および教員のオフィスアワーで対応する。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	インターンシップとは	インターンシップの目的とその重要性エントリーシートの作成･提出
2	インターンシップ実習	各実習先での就業体験
3	インターンシップ実習	各実習先での就業体験
4	インターンシップ実習	各実習先での就業体験
5	インターンシップ実習	各実習先での就業体験
6	インターンシップ実習	各実習先での就業体験
7	インターンシップ実習	各実習先での就業体験
8	インターンシップ実習	各実習先での就業体験
9	インターンシップ実習	各実習先での就業体験
10	インターンシップ実習	各実習先での就業体験

11	インターンシップ実習	各実習先での就業体験
12	インターンシップ実習	各実習先での就業体験
13	インターンシップ実習	各実習先での就業体験
14	インターンシップ終了・書類作成、成果報告	インターンシップ実施報告書、体験報告書、成果報告資料作成等
15		
16		

科目コード	53080				区　分	コア科目			
授業科目名	インターンシップ（公務員）［BC］				担当者名	岡田　健志／赤木　邦江			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習（ロールプレイング等）、実習（インターンシップ：就業体験）	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本科目では、汎用的能力活用型では短期（5日間以上）、専門的活用型では長期（2週間以上・実質10日以上）のインターンシップ（就業体験）をもとに、学生が組織（企業、団体、官公庁等の行政職等）で働くうえで、獲得すべき職場文化や業務に求められる知識について理解することを目的とする。併せて、学生の学びたいこと・学ばせたいことをプログラム設計して、産官学連携の協力のもとコーオプ教育を推進しているので、積極的に、より具体的に就業先で実習できるプログラム（内容、目標、課題等）を定める必要がある。事前学習では演習（ロールプ

＜授業の到達目標＞

「実際の職場や組織で働く」を通して、「働く」こと、「仕事をする」こと、さらには大学を卒業して「社会人」になることなどに対する理解を深めることを目的とする。興味・関心のある業界・職業・職務等を理解・体験することにより、学生から社会人に移行する際のマッチングの重要性（情報の対称性）を知り、自身の期待との大きなギャップ（リアリティ・ショック）がないように有益な就業体験にする。以上の過程を経て、以下のスキルおよびリテラシーが身につくことを目標とする。・それぞれの部署やポジションによっての業務範囲や内容を理解できる

＜授業の方法＞

組織（企業、団体、官公庁等の行政職等）でのインターンシップ実習に加えて、事前・事後の学内講義(座学および演習：ロールプレイング)を行う。いずれも重要だが、特にインターンシップ実習は、遅刻・欠席をせず、まじめに取り組まなければならない。また、実習終了後には、成果報告レポートの提出が必要である。特段の理由がある場合を除き、座学・演習、実習、レポートのすべてを完了しなければ単位は認められない。受講者数によっては、成果報告会でのプレゼンテーションを追加する場合がある。短期インターンシップでは、実習の受入先と覚書と

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニング有り：演習（ロールプレイング、グループワーク）、プレゼンテーションなど

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

受講許可に際しては、前年度出席率85%以上、GPA2.0以上を基本条件とする。また、留学生の場合は原則として、上記2点に加えて、日本語能力検定試験N2相当が望ましい。インターンシップ（就業体験・夏期休暇期間）の期間中は、すべての日程に参加することを原則とする（特にその期間のアルバイトは原則禁止）。このほかの条件については、ガイダンスを実施して説明を行う。また事前・事後の学内講義は、集中講義（前期：隔週8コマ、後期：10月2コマ×2回）として実施する。予習：実習先の企業等について包括的に調べ、理解を深めてお

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

インターンシップ先からの評価 40%、授業への取り組み態度 30%、レポート課題・報告書及び報告（プレゼンテーション） 30%

＜教科書＞

＜参考書＞

指定しない。授業で使用する資料等は必要に応じて配布、または紹介する。

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス「インターンシップ」とは インターンシップ事前準備（1）　参加申	授業・実施の進め方、諸注意、各種手続き、履修条件について
2	込書（エントリーシート）、誓約書、肖像権使用許諾書等必要書類組織（企業、団	インターンシップの存在理由と意義

	体、官公庁等の行政職等）の研究・検討	
3	インターンシップ事前準備（２）	学生と社会人の違い、「働く」とはどういうことか？　組織（企業、団体、官公庁等の行政職等）の研究・検討
4	インターンシップ事前準備（３）	就職活動とインターンシップの関係
5	インターンシップに必要なマナー（１）	ビジネスマナーの理解と実践　面談・面接のマナー、ビジネスマナー(ロールプレイング)
6	インターンシップに必要なマナー（２）	エントリーシート、履歴書などの書類の書き方、機密保持について
7	決定就業体験先の組織(企業、団体、官公庁等の行政職等）研究	組織研究の基本的な考え方、就業体験先についての調査・分析
8	インターンシップ実習前準備	個別面談、インターンシップ先面談、プログラム設計（内容・目標・課題等）
9	インターンシップ実習（１）	各実習先での就業体験
10	インターンシップ実習（２）	各実習先での就業体験
11	インターンシップ実習（３）	各実習先での就業体験
12	インターンシップ実習（４）	各実習先での就業体験
13	インターンシップ実習（５）	各実習先での就業体験
14	報告会	各実習先での就業体験の個別報告会を実施する
15		
16		

科目コード	53081				区　分	コア科目			
授業科目名	インターンシップ（スポーツビジネス）［BC］				担当者名	赤木　邦江／溝越　隆興			
配当年次	2年	配当学期	集中	単位数	2.00単位	授業方法	実習（インターンシップ：就業体験）	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本科目では、汎用的能力活用型では短期（5日間以上）、専門的活用型では長期（2週間以上・実質10日以上）のインターンシップ（就業体験）をもとに、学生が組織で働くうえで、獲得すべき職場文化や業務に求められる知識について理解することを目的とする。併せて、学生の学びたいこと・学ばせたいことをプログラム設計して、産官学連携の協力のもとコーオプ教育を推進しているので、積極的に、より具体的に就業先で実習できるプログラム（内容、目標、課題等）を定める必要がある。　※汎用的能力活用型（短期・5日間以上）２単位　専門的活用型

＜授業の到達目標＞

「実際の職場や組織で働く」を通して、「働く」こと、「仕事をする」こと、さらには大学を卒業して「社会人」になることなどに対する理解を深めることを目的とする。興味・関心のある業界・職業・職務等を理解・体験することにより、学生から社会人に移行する際のマッチングの重要性（情報の対称性）を知り、自身の期待との大きなギャップ（リアリティ・ショック）がないように有益な就業体験にする。

＜授業の方法＞

「インターンシップ」を履修する場合、特別演習Ⅱ（インターンシップ事前・事後指導）の履修が必須である。エントリーシートの記載、ビジネスマナー（言葉遣い、電話応対マナー、メールマナー等）、模擬面接の学習をした上で、組織とのインターンシップ就業の受け入れマッチングを実施(面談、対面面接、オンライン面接など）。就業先が決定したら、その企業及び業界研究をし、就業に臨む。就業においては、遅刻・欠席をせず、原則皆勤によりまじめに取り組まなければならない。就業終了後には、成果報告レポートの提出と成果報告会でのプレゼンテー

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニング有り：演習（ロールプレイング、グループワーク）、プレゼンテーションなど

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

履修許可に際しては、前年度出席率８0%以上、GPA２.0以上を基本条件とする。グルーバル（留学）生の場合は原則として、上記2点に加えて、日本語能力検定試験N2相当が望ましい。インターンシップ（就業体験）の日程期間（夏期休暇期間・第３クォーター）は、すべて参加することを原則とする。特にその期間のアルバイトは原則禁止（課題や振り返りレポート作成あり）。そのほかの条件については、特別演習Ⅱ（インターンシップ事前・事後指導）にて説明を行う。予習：実習先の企業等について包括的に調べ、理解を深めておく（１時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー４(地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

インターンシップ先からの評価 50%、就業先決定における必要書類の作成と提出 20%、レポート課題・実施報告書提出及び成果報告（プレゼンテーション） 30%※講義に関する質問は講義終了後、および教員のオフィスアワーで対応する。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	インターンシップとは	インターンシップの目的とその重要性エントリーシートの作成･提出
2	インターンシップ実習	各実習先での就業体験
3	インターンシップ実習	各実習先での就業体験
4	インターンシップ実習	各実習先での就業体験
5	インターンシップ実習	各実習先での就業体験
6	インターンシップ実習	各実習先での就業体験
7	インターンシップ実習	各実習先での就業体験
8	インターンシップ実習	各実習先での就業体験
9	インターンシップ実習	各実習先での就業体験
10	インターンシップ実習	各実習先での就業体験

11	インターンシップ実習	各実習先での就業体験
12	インターンシップ実習	各実習先での就業体験
13	インターンシップ実習	各実習先での就業体験
14	インターンシップ終了・書類作成、成果報告	インターンシップ実施報告書、体験報告書、成果報告資料作成等
15		
16		

科目コード	53084				区　分	コア科目			
授業科目名	経済学特講Ⅰ				担当者名	宇都宮　浩司			
配当年次	1年	配当学期	第３・第４クオーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本科目は、インターンシップ（就業体験）に臨む学生のための履修必須の事前･事後指導科目である。組織（企業、団体、官公庁等の行政職等）で働くうえで、獲得すべき職場文化や業務に求められる知識について理解するための企業研究や業界研究の仕方、エントリーシートの書き方、面談・面接の練習等、インターンシップ就業先の決定までの基本的な学習から始める。就業終了後には、振り返りや書類作成、成果報告の資料、プレゼン作成等の仕上げをすることを目的とする。併せて、事前･事後共に演習（ロールプレイング）を通じ、社会人に求められるビジ

＜授業の到達目標＞
「実際の職場や組織で働く」ために必要とされる知識と実践のための言動を身につける。「働く」こと、「仕事をする」こと、さらには大学を卒業して「社会人」に移行することの動機付け、意識付け、さらには希望する職業に従事するために、自身にとって求められるスキル･マナーなどを明確に認識できるようになる。

＜授業の方法＞
インターンシップ実習備え、事前・事後の学内講義(座学および演習：ロールプレイング)を行う。事前では、ビジネスマナー(挨拶、言葉遣い、電話応対、メールマナー等）、エントリーシートの書き方、面談･面接のロールプレイングなどを実施する。就業先決定後には、誓約書、覚書、体験日報、実施報告書などの書き方を学び、提出に備える。実習終了後には、成果報告レポート等の提出、成果報告会でのプレゼンテーションに向けて、資料、プレゼンスライドの作成等を実施する。個別での進行具合が異なり、実施内容も異なるため、随時、課題・出席・提

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有り：演習（ロールプレイング、グループワーク）、プレゼンテーションなど

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
インターンシップの履修希望者は、本科目の履修は必須であるため、履修許可に際しては、インターンシップ同様に、前年度出席率８0%以上、GPA２．０以上を基本条件とする。また、グローバル（留学）生の場合は原則として、上記2点に加えて、日本語能力検定試験Ｎ2相当が望ましい。予習：実習先の企業等について包括的に調べ、理解を深めておく（１時間程度）。復習：実習での経験や成果を振り返り、今後の学生生活にどのように役立てるのかを考える（１時間提度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
DP３とDP４に関連している。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
「期限までの提出物･内容評価 30%」「授業への取り組み･態度 30%」「レポート課題･報告書及び報告（プレゼンテーション） 40%」

＜教科書＞
使用しない。

＜参考書＞
適宜紹介する。

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス「インターンシップ」とは	授業・実施の進め方、諸注意、各種手続き、履修条件について
2	インターンシップ事前準備①　参加申込書（エントリーシート）、誓約書、肖像権使用許諾書等必要書類組織(企業、団体、官公庁等の行政職等）の研究・検討	インターンシップの存在理由と意義
3	インターンシップ事前準備②	学生と社会人の違い、「働く」とはどういうことか？　組織（企業、団体、官公庁等の行政職等）の研究・検討
4	インターンシップに必要なマナー①	ビジネスマナーの理解と実践　面談・面接のマナー、ビジネスマナー(ロールプレイング)
5	インターンシップに必要なマナー②	エントリーシート、履歴書などの書類の書き方、機密保持について
6	インターンシップ実習前準備①	個別面談、インターンシップ先面談、プログラム設計（内容・目標・課題等）
7	インターンシップ実習前準備②	個別面談、インターンシップ先面談、プログラム設計（内容・目標・課題等）
8	インターンシップ実習前準備③	個別面談、インターンシップ先面談、プログラム設計（内容・目標・課題等）
9	インターンシップ実習体験の振り返り（プログラムの達成確認）①	プログラムの達成確認提出書類の作成

10	インターンシップ実習体験の振り返り（プログラムの達成確認）②	プログラムの達成確認提出書類の作成
11	インターンシップ実習体験・情報共有①	履修クラス内報告
12	インターンシップ実習体験・情報共有②	履修クラス内報告
13	インターンシップ体験・成果報告①	就業体験・成果報告とフィードバック
14	インターンシップ体験・成果報告②	就業体験・成果報告とフィードバック
15		
16		

科目コード	53085				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	経済学特講Ⅱ				担当者名	石原　秀樹			
配当年次	2年	配当学期	2026年度（第3クォーター・第4クオーター）	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

「教養」を身に付けるというのはどういうことか、学生諸君が講義を通して自らに問いかけ続けるよう、思索の端緒となるテーマを投げかけます。　与えられた知識をひたすら記憶・習得しようとする受動的な学びではなく、自ら疑問を持ち、自らその答えを探究しようとする主体的な学びの姿勢を身に付ける機会とします。　教科書は、古典として名高い本です。わずか一冊とはいえ、古典を実際に全文読み通すことは、学生各自にとって将来にわたって自分の心を支え続ける確かな自信につながります。

＜授業の到達目標＞

以下の２項目を到達目標とします。　・古典を手がかりとして、いろいろな角度から、主体的な学びがどういうものか、体感できる。　・自己が知らないこと、にわかに評価・判断できない事柄について謙虚に向き合い、思慮深く考え、学んでみようとする姿勢を身に付けることができる。

＜授業の方法＞

毎回の授業に必ず教科書を持参すること。対面による講義グループワーク事前学習の成果のプレゼンテーションゲストスピーカーの講演を受けた質疑応答

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素有・事前学習において、前回の講義に示されたテーマに沿って検討対象を選定し、調査を行い、その結果をメモにまとめる。・少人数のグループに分かれ、各自の報告書の内容を討議して、グループとしてのレポートにまとめ、発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習　初回授業の受講までに教科書を通読しておくこと。（目安時間：約10時間）。　意味が分からない箇所があっても立ち止まらず、とりあえず最後まで目を通すこと。　初回から第6回までの授業については、事前に、教科書の各回指定部分を改めて読み直しておくこと。（目安時間：約30分）　第7回から第9回までの授業については、前回の授業で示すテーマについて、各自調べた結果を簡単なメモにまとめておくこと。（目安時間: 約1時間）　そのメモに基づきグループディスカッションを行い、グループごとにレポートをまとめて発表を行う

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシーのうち、DP５（異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）に関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・授業参加（20％）・事前学習の充実度（30%）・グループワークへの貢献度（30％）・成果発表（プレゼンテーション）（20%）　・フィードバック方法：授業内での口頭フィードバック、ピアレビュー、教員講評、調査報告書へのコメントなど

＜教科書＞

J.S.ミル著・竹内一誠訳（2023年12月25日　第16刷）　大学教育について　岩波書店

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	一　大学教育の任務ー一般教養教育の重要性（12ページから19ページまで）二　文学教育（20ページから58ページまで）	予習で読んでも意味が分かりづらかったところについて質問を受け付け、解説する。　かつて大学教育に期待されていたことについて、考えてみる。
2	三　科学教育（59ページから92ページまで）	予習で読んでも意味が分かりづらかったところについて質問を受け付け、解説する。　文系・理系の垣根を取り払ったミルの大学教育観から学ぶべきことを考える。
3	四　道徳科学教育（92ページから103ページまで）	予習で読んでも意味が分かりづらかったところについて質問を受け付け、解説する。　大学で提供される科目に、国、時代に共通するもの、異なるものがあることについて、考えてみる。
4	五　道徳教育と宗教教育（103ページから	予習で読んでも意味が分かりづらかったところについて質問を受け付け、解説す

	117ページまで）	る。　大学で提供される科目に、国、時代に共通するもの、異なるものがあることについて、考えてみる。
5	六　美学・芸術教育（117ページから130ページまで）	予習で読んでも意味が分かりづらかったところについて質問を受け付け、解説する。　大学で提供される科目に、国、時代に共通するもの、異なるものがあることについて、考えてみる。
6	結び（131ページから134ページまで）	第1回から第5回までに学んだことを振り返る
7	大学の周囲の土地と歴史を見回してみる	大学の周囲数キロメートル範囲の土地にはどんな特徴があり、またどのような歴史があるのか、事前に学生各自が調べたことをメモに書いて持ち寄り、講義時間中に数人のグループごとに議論して簡単なレポートにまとめ、グループ代表者が発表し、他のグループと議論する。
8	岡山の歴史について考えてみる	大学が所在する岡山県の歴史について、事前に学生各自が調べたことをメモに書いて持ち寄り、講義時間中に数人のグループごとに議論して、簡単なレポートにまとめ、グループ代表者が発表し、他のグループと議論する。
9	日本文化の特徴について考えてみる	日本文化の特徴について、事前に学生各自が調べたことをメモに書いて持ち寄り、講義時間中に数人のグループごとに議論して、簡単なレポートにまとめ、グループ代表者が発表し、他のグループと議論する。
10	皇室の歴史を概観する	古代から現代までの皇室の歴史について紹介する。
11	歴史史料について考える	ゲストスピーカーを招き、歴史を知る上で、史料にはどのような意義があり、また、史料はどのようなことに注意して取り扱う必要があるのか、議論する。
12	国際情勢について考えてみる	ゲストスピーカーを招き、外国語を学ぶ意義及び国際情勢について議論する。
13	学びの振り返り	第1回から第12回までに学んだことを振り返り、大学において培うべき教養について、学生各自が考えをレポートにまとめる時間とする。
14	発表・質疑応答	学生各自が前回まとめたレポートを発表し、他の学生からの質疑に応答する。
15		
16		

科目コード	53092				区　分	コア科目			
授業科目名	NZ保育学				担当者名	上田　敏丈			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業では、「ニュージーランド保育」を全体テーマとして設定し、ニュージーランド保育の独自性と日本との共通性、応用可能性に関する研究を行う。全体テーマに関わる各自のテーマを決めて、最終的にパワーポイントのプレゼン発表をする。

＜授業の到達目標＞
ニュージーランド保育におけるカリキュラム（テ・ファーリキ）、環境構成、記録（ラーニングストリー）の手法を学び、日本保育への応用可能性を説明できる。

＜授業の方法＞
ニュージーランド保育、特に保育カリキュラム「テ・ファーリキ」の原理・柱を全体ディスカッションにより総合的に学ぶ。また、各自がニュージーランド保育に関する個別テーマも探求し、その進捗状況を発表する活動も行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
複数名のグループに分かれて、テーマに応じたディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習はニュージーランド保育に関する文献の該当箇所を事前に読み（英文を含む）、全体ディスカッションための問いを毎回考える（２時間程度）。復習は授業での議論の振り返り（１時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３(教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
全体テーマの取り組み（発表・演習）の状況（50%）、個別プレゼン発表（50%）　なお、グループ内の相互評価を採りいれ、発表やレポートの評価、改善点も学生グループで探求する。

＜教科書＞
大橋節子・中原朋生・内田伸子・上田敏丈編著・神代典子訳　『ニュージーランド乳幼児カリキュラム　テ・ファーリキ　子どもが輝く保育・教育のひみつを探る』　建帛社

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション：日本の保育の特徴	授業概要と日本の保育の特徴
2	世界で注目される保育	日本の保育の特徴を踏まえ、海外の保育の動向について学ぶ
3	ニュージーランド保育の原理	４つの原理と５つの柱
4	原理と要素の関係について考えるグループワーク	原理と要素の内容を読み解く
5	日本及びＮＺの就学前施設	主体的な遊びを中心とした就学前施設
6	記録の意義をＮＺから学ぶ	保育における記録の意義、ＮＺのラーニングストーリーについて
7	ラーニングストーリーを作成するグループワーク	ラーニングストーリーの作成
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	53094				区　分	コア科目			
授業科目名	NZ保育実習				担当者名	宮原　舞／虫明　淑子			
配当年次	1年	配当学期	集中講義	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
ニュージーランドの保育・幼児教育施設における実践場面の見学を通して、ニュージーランド乳幼児教育カリキュラム「テ・ファーリキ」への理解を深めるとともに、国際的な教育観および子ども主体の保育観について学ぶ。事前学習では、日本とニュージーランドの幼児教育・保育の特徴を整理し、観察の視点を確認したうえで現地実習に臨む。現地では、子どもの姿、保育者の関わり、環境構成、記録や評価の方法などを観察し、多面的に保育実践を捉える。また、振り返りのディスカッションを通して、保育実践におけるPDCAサイクルの視点を踏まえながら

＜授業の到達目標＞
ニュージーランドの保育実践を観察し、日本の保育との共通点・相違点を比較しながら考察できる。子ども主体の保育観および国際的な教育観について理解を深め、現地での実習経験を踏まえて、自らの保育観や課題意識を整理し説明できる。観察・記録・振り返りを通して、保育実践におけるPDCAサイクルやアセスメントの視点を理解し、今後の学びに生かすことができる。

＜授業の方法＞
事前オリエンテーション、講義、演習、現地での保育観察、実践活動、振り返り学習を通して進める。事前学習では「テ・ファーリキ」の復習、日本の幼児教育との比較、観察の視点の確認、現地で実施する保育プログラムの準備と練習を行う。現地では、保育施設において子どもの姿、保育者の関わり、環境構成、記録・評価の方法などを実践的に学ぶ。事後学習では、観察記録や体験の共有、ディスカッション、レポート作成等を通して学びを整理し、省察を深める。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習として、ニュージーランド保育や「テ・ファーリキ」に関する資料を読み、日本の幼児教育・保育との違いを整理しておくこと。また、現地で実施する保育プログラムについて検討し、必要な教材や英語表現の準備を進めること。復習として、学習内容や現地での観察内容を記録・整理し、気づきや課題を振り返ること。特に現地実習期間中は、毎日の観察記録や省察メモを作成し、事後レポートにつなげること。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）、ディプロマポリシー５（異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
事前学習における取組状況・提出課題　20%現地実習における参加態度・観察記録　40%事後レポート・振り返り発表　40%

＜教科書＞
大橋節子 中原朋生 内田伸子 上田敏丈 監訳・編著　ニュージーランド乳幼児教育カリキュラム　テ・ファーリキ（完全翻訳・解説）―子どもが輝く保育・教育のひみつを探る―　建帛社
内閣府 文部科学省 厚生労働省　幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月）　フレーベル館

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の目的・概要・日程・留意事項を理解し、実習全体の見通しをもつ。
2	ニュージーランド保育の基礎理解	ニュージーランドの乳幼児教育制度および保育の特徴について学び、日本の保育との違いを整理する。
3	テ・ファーリキの理解	ニュージーランド乳幼児教育カリキュラム「テ・ファーリキ」の理念・構成・内容を理解する。
4	観察の視点と記録の方法	保育観察の方法、子どもの姿の捉え方、記録の取り方、アセスメントにつながる視点を学ぶ。
5	事前演習①	保育観察の実践練習を通して、観察・記録の方法を確認する。
6	事前演習②	現地で実施する保育プログラムの内容を検討し、教材や進め方を準備する。
7	事前演習③	現地でのコミュニケーションや活動実践に必要な表現を確認し、実践練習を行う。
8	現地実習①	保育施設の環境構成、生活の流れ、子どもの活動の姿を観察し、その特徴を把握する。
9	現地実習②	子どもの主体的な活動、保育者の援助や関わりを観察し、保育観を考察する。
10	現地実習③	「テ・ファーリキ」の理念が保育実践の中でどのように具体化されているかを観察する。

11	現地実習④	準備した保育プログラムを実践し、子どもの反応や活動の展開を振り返る。
12	現地実習⑤	観察記録や評価の考え方に着目し、アセスメントの方法論について学ぶ。
13	事後学習①	現地での学びや気づきを整理し、日本の保育との比較を通して理解を深める。
14	事後学習②	実習全体を振り返り、学びをまとめるとともに、今後の学修課題を明確にする。
15		
16		

科目コード	53096				区　分	コア科目		
授業科目名	総合表現概論				担当者名	四宮　貴久／渡邊　亮／小澤　尚子		
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
プロデュース、脚本、演出等の専門家による講義を通じて、表現に関わる多様な知識を広げるとともに、見識を深める。あわせて、自らのアイデアを他者に的確に伝えるための基礎的な文章構成力を養い、企画立案および実践への導入を図る。

＜授業の到達目標＞
1．各専門家からの講義を理解している。2．表現活動に関する多様な視点を踏まえ、自らの考えを整理し、見識を深めることができる。3．自らのアイデアを他者に的確に伝えるための基礎的な文章構成力を身につけている。4．基礎的な企画を立案し、その内容を他者に説明・共有することができる。

＜授業の方法＞
講義（専門）家による知識提供）ディスカッション（意見交換・見識の深化）グループワーク（表現活動の体験）ライティング演習（文章構成力の育成）企画立案演習（アイデアの具体化）発表と講評（フィードバックによる改善

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
ディスカッション、グループワーク、発表

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：ゲスト講師についての下調べ 1時間　復習：課題 2時間、授業のまとめ1時間

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２(初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度（意欲・関心度）50%、課題準備等30%、発表20%

＜教科書＞
特にテキストは使用せず、必要に応じて資料を配布します。

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業概要・評価方法・講義ルール等の説明
2	プロデュース①	プロデュースの概念を知る
3	脚本①	脚本の書き方の基礎に触れる。
4	オンデマンド	既存の作品を分析する。
5	俳優という仕事とグローバリゼーション	俳優としての表現と、国際的な視野を広げる。
6	脚本②	脚本①で得たものを応用し、脚本の書き方およびアイデアを言語化することに取り組む。
7	プロデュース②	プロデュース①で得た基礎概念を応用し、プロデュース③での発表に向けて準備を始める。
8	空間デザイン	舞台美術を軸として空間表現について学ぶ。
9	エンターテイメント	ダンスを軸としたエンターテイメントについて知る。
10	音楽と感情	音楽の効果と感情表現について考える。
11	演劇による社会実装	社会課題と結びついた演劇のあり方について考える。
12	学校における演劇の実践	学校教育における演劇の活用について知る。
13	プロデュース③	プロデュース①②を経て、発表を行う。
14	振り返り	本授業での振り返りを行う。また、獲得した知識からどんな発想が育まれたかについて考える。
15		
16		

科目コード	53098				区　分	コア科目			
授業科目名	演技基礎				担当者名	四宮　貴久／渡邊　亮／小澤　尚子			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
演技を中心とした表現技術を幅広く学び、演技に関する基礎的な知識と技術を習得するとともに、豊かな表現力とコミュニケーション力を養う授業である。加えて個人的な技術向上のみではなく、グループレッスンを通して、協働性、多様性、主体性などを養い、社会でもしっかりと自己表現できる人間性も養うことも目的とする。

＜授業の到達目標＞
・演技における基礎的・基本的な知識・技能を獲得し、表現できるようにする。・課題を解決するために必要な協働性・多様性を身につけ、主体的に行動できるようになる

＜授業の方法＞
個人で行う演習から、グループで行う演習も実施する。必要であれば講義を行い、解説を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループレッスンにおける話し合いや演技披露など

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：小テスト対策　3時間、　復習：振り返りレポート作成等　2時間

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本授業は、DP１「他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる」に関連しています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度（授業内での発言、演習への取り組み等）３０%、小テスト（発声・滑舌などの基礎テスト、寸劇発表など）30%、最終課題（レポート、実技試験等）40%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	演技について考える。グループディスカッション。良い演技とは、悪い演技とは。
2	演技基礎	発声（発音）について
3	演技基礎	発声（呼吸法、早口言葉）、イントネーション
4	演技基礎	感情表現（表情、身体表現）
5	メソッド演技①	緊張と緩和、リラクゼーション
6	メソッド演技②	五感の記憶、センセーション
7	ゲスト演習①	ゲスト講師による特別演技指導
8	アナウンス・ナレーション演習	駅構内アナウンス原稿、商品紹介原稿を読む
9	メソッド演技③	他者との関わりと反応、レペテーション
10	ゲスト演習②	ゲスト講師による特別演技指導
11	台本読解	台本読み合わせ、台本を使った演技
12	台本演習	キャスティングとグループ演習
13	台本演習	各グループ、寸劇の披露（発表）
14	総括と試験準備	演技についての振り返り、実技試験に向けて
15		
16		

科目コード	54000				区　分	コア科目		
授業科目名	資格検定対策Ⅰ(語学系)[BC留学生用]				担当者名	小宮　さおり		
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業は、日本語能力試験N2合格に必要な「言語知識（文字・語彙・文法）」「読解」「聴解」の力を総合的に養成することを目的とする。教材『TRY! 日本語能力試験 N2 文法から伸ばす日本語』を用い、日常的・社会的な場面の文章から、論説文、エッセー、会議、物語、コラム・社説へと段階的に学習を進める。授業では、単に文法項目を暗記するのではなく、文脈の中で意味と機能を理解し、N2形式の問題に対応できる読解力・聴解力を養う。特に、論旨の把握、筆者の意図の理解、自然に近い速度の会話やニュースの要点把握を重視する。授業

＜授業の到達目標＞
１．日本語能力試験N2レベルの重要語彙・文法項目を理解し、文脈に応じて判断できる。２．告知文、説明文、エッセー、論説文、紹介文、物語文、コラム・社説などを読み、内容、論理展開、筆者の主張や意図を把握できる。３．ニュース、説明、会話、案内などの聴解問題において、要点、理由、条件、結論を聞き取ることができる。４．N2形式の問題に対応できる読解・聴解の解法を身につけ、時間配分を意識して問題に取り組むことができる。５．本試験に向けて自分の弱点を把握し、授業外学習を通して継続的に補強できる。

＜授業の方法＞
授業では、本文の内容理解、重点文法の整理、読解・聴解演習、試験形式問題、振り返りを組み合わせて進める。毎回、前回の学習内容を確認する小テストを実施し、語彙・文法・内容理解の定着を図る。また、ペア活動やグループ活動を通して、要約、情報整理、比較、意見交換、会話練習などを行い、学習内容を運用できる力を養う。なお、本授業では、日々の予習・復習、小テスト、提出課題などの継続的な学習を重視する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
本授業では、語彙・文法クイズ、ディスカッション、ピアレビューなどのアクティブラーニングを取り入れ、試験対策に必要なスキルを強化する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業外では、毎回、本文の予習、語彙確認、練習問題、短作文または要約課題に取り組むこと。1回の授業につき、おおむね2～3時間程度の授業外学習を想定する。特に、知らない語彙の整理、重点文法の例文作成、読解本文の段落要約、聴解スクリプトの復習、模擬問題の解き直しを重視する。N2対策では、授業時間だけでなく、継続的な復習と形式慣れが重要であるため、毎回の課題を計画的に行うこと。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）およびディプロマポリシー５（留学や国際交流などを通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として国際社会に貢献できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業参加・授業内活動　20%小テスト　30%課題提出　30%前半まとめテスト　10%最終模擬問題演習　10%

＜教科書＞
ABK（公益財団法人　アジア学生文化協会）　TRY! 日本語能力試験N2　文法から伸ばす日本語　ASK
星野恵子・辻和子

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション／募集情報の読解	授業概要の確認、到達目標の共有、N2レベルの読解の特徴を理解する。告知文・募集要項を読み、条件・対象・注意事項を正確に把握する練習を行う。
2	改まったあいさつとスピーチ表現	転任やお礼のあいさつを題材に、改まった場面で用いられる表現を学ぶ。文章の流れを追いながら、感謝・回想・今後の展望を表す文法や表現を確認する。
3	仕事の説明とニュース聴解	仕事に関する説明文を読み、内容を整理する力を養う。あわせて、天気予報や台風情報などのニュースを聞き、重要情報を聞き取る練習を行う。
4	文困った状況の説明と共感表現	就職活動を題材に、困難な状況や気持ちを説明する表現を学ぶ。会話文を通して、相手への共感や励ましの表現も確認する。
5	苦労・決意・心情の表現	経験談を読み、苦労や葛藤、決意の表現を学ぶ。文脈の中で話し手の気持ちの変化を捉え、適切に理解する練習を行う。
6	論説文の読解①	生態系に関する文章を読み、説明文・論説文の読み方を学ぶ。対比、変化、因果関係に着目しながら、段落ごとの要点を整理する。
7	ビジネス場面の敬語／前半の復習	取引先とのやりとりを題材に、ビジネス場面での敬語表現を学ぶ。前半の学習内容

		を整理し、文法・読解・聴解の総復習を行う。
8	自然な会話表現の理解	身近な話題を扱った会話文を通して、話し言葉特有の自然な表現やニュアンスを学ぶ。話者の気持ちや評価を読み取る練習を行う。
9	エッセーの読解	満員電車を題材としたエッセーを読み、筆者の考え方や感じ方を理解する。事実と意見を区別しながら、文章の流れをつかむ練習を行う。
10	紹介文の読解と説明表現	紹介記事を読み、情報の整理のしかたや説明の構成を学ぶ。あわせて、会議や説明場面で用いられる表現の基礎を確認する。
11	会議での説明と意見表明	商品開発を題材に、会議で説明したり意見を述べたりする表現を学ぶ。条件提示、仮定、判断の表現を整理し、実践的に用いる練習を行う。
12	物語文の読解と心情理解	人生の転機を描いた物語を読み、出来事の流れと登場人物の心情変化を理解する。決意、迷い、感情の強さを表す表現を確認する。
13	論説文の読解②／主張理解	オリンピック開催に関するコラム・社説を読み、筆者の説明と主張を読み取る。論点、根拠、結論の関係を整理しながら読む練習を行う。
14	総まとめ・模擬問題演習	これまでの学習内容を総復習し、N2形式の模擬問題に取り組む。文法・読解・聴解の弱点を確認し、受験に向けた最終整理を行う。
15		
16		

科目コード	54003				区　分	コア科目			
授業科目名	資格検定対策Ⅳ(ビジネス系) [週2]				担当者名	平岡　師玄哉			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第３クオーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

・本授業は国家資格である「フィットネスクラブ・マネジメント技能検定３級《ベーシック》」を受験する学生を対象とした授業です。・これまでに「スポーツ施設論」を履修したことがある学生のための検定対策の授業となっています。・スポーツ施設論で扱った「業界・運営・顧客・安全」などの知識を土台に、過去問題と演習を繰り返し対策を図っていきます。

＜授業の到達目標＞

１．スポーツ施設論で学んだ内容を、試験で使える形に整理できている２．フィットネスクラブ運営の基本を、実務と結びつけて説明できる３．フィットネスクラブ・マネジメント技能検定3級に合格できる

＜授業の方法＞

過去問題演習を中心に進める（毎回反復）授業の構成は、前半に演習問題を実施し、後半でその解説と単元ごとのポイントを整理する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

過去問の個人演習および、間違えた問題の原因分析

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：前回扱った過去問題を解き直し、間違えた問題を中心に確認しておく（30分）復習：授業で扱った問題を再度解き、解答の根拠を説明できるようにする（30分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー４(地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度 30%、試験結果 70%試験については、フィットネスクラブマネジメント《ベーシック》の試験結果を反映させます。①実技、筆記試験ともに合格 70点②筆記試験のみ合格 60点③実技試験のみ合格 50点④試験受験者 40点⑤受験なし 0点

＜教科書＞

一般社団法人日本フィットネス産業協会（2024年4月）　フィットネスクラブマネジメント公式テキストVol.４　Basic（初級）

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の進め方、試験の特徴、効果的な学習方法の理解
2	フィットネス産業	フィットネス産業の特徴・トレンドに関する過去問演習と解説、施設論内容の整理
3	健康施策の概要と動向	健康施策・生活習慣病予防に関する過去問演習と解説、重要ポイントの確認
4	運動・トレーニングの基礎	運動生理学・トレーニング基礎に関する過去問演習と解説
5	店舗運営①	フロント業務・ジム運営に関する過去問演習と解説
6	店舗運営②	イベント運営・緊急対応に関する過去問演習と解説
7	顧客マネジメント①	接客・課題解決に関する過去問演習と解説、頻出問題の整理
8	顧客マネジメント②	接客・課題解決に関する過去問演習と解説、頻出問題の整理
9	チームワークとコミニュケーション	役割分担・コミュニケーションに関する過去問演習と解説、頻出論点の確認
10	施設・設備管理の意義と重要性	施設管理・安全管理に関する過去問演習と解説
11	労働・安全衛生	労働環境・感染症対策に関する過去問演習と解説、時間制限付き演習
12	CBT試験対策	ネット試験の仕組み、操作方法、時間配分の理解
13	模擬試験①	本番形式による過去問演習（時間制限あり）
14	模擬試験②	本番形式による過去問演習（時間制限あり）
15		
16		

科目コード	54005				区　分	コア科目			
授業科目名	資格検定対策Ⅴ（ICTスキル系）［週2オンデマンド］				担当者名	栗谷　真亮			
配当年次	1年	配当学期	集中（冬期に実施）	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
現代の社会では様々な業種・職種において、効率的な業務運用、成果報告の手段としてのコンピュータ利用は今や必須のスキルである。本科目ではコンピュータリテラシーⅠおよびⅡで修得した知識を活かし、コンピュータ操作の習熟度を高めるとともに、Word、Excel等のアプリケーションを効果的に使いこなす技法を身につけることを目的に、Microsoft社が提供・実施するOfficeアプリケーションの資格検定試験MOS（Microsoft Office Specialist）の資格取得を目指す。

＜授業の到達目標＞
資格試験対策勉強を通じて、PC操作の習熟を目指すとともに、ビジネスアプリケーションの重要性と業務効率性との関係について学ぶ。また、MOS試験の概要を理解するとともに、試験に合格するための力を身につける。

＜授業の方法＞
MOS試験のうち、Word、Excelを受験対象科目として講義を行う。授業期間は後期の集中後期期間とする。それぞれの試験の出題範囲の各テーマごとに問題演習で理解度をチェックする。また、教科書に付帯の模擬練習問題を各自で実施して理解度を高める。合格するための勉強方法についても適宜解説する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
なし

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
・事前学習：授業予定の教科書範囲について、自分で問題を解く（1時間程度）。・事後学習：授業で学んだ範囲を復習し、模擬練習問題を繰り返し行う（1時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
問題演習の提出 60%、模擬試験問題の達成状況 40%で評価する。

＜教科書＞
富士通ラーニングメディア　よくわかるマスター MOS Word 365対策テキスト&問題集　FOM出版
富士通ラーニングメディア　よくわかるマスター MOS Excel 365対策テキスト&問題集　FOM出版

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス、Word演習（1）	MOSの解説、試験概要、文書の管理
2	Word演習（2）	文字、段落、セクションの挿入と書式設定
3	Word演習（3）	表やリストの管理
4	Word演習（4）	参考使用の作成と管理
5	Word演習（5）	グラフィック要素の挿入と書式設定
6	Word演習（6）	文書の共同作業の管理
7	Word演習（7）	模擬試験
8	Excel演習（1）	ワークシートやブックの管理
9	Excel演習（2）	セルやセル範囲のデータの管理①
10	Excel演習（3）	Excel演習（3）
11	Excel演習（4）	テーブルとテーブルのデータの管理
12	Excel演習（5）	数式や関数を使用した演算の実行
13	Excel演習（6）	グラフの管理
14	Excel演習（7）	模擬試験
15		
16		

科目コード	54008				区　分	コア科目		
授業科目名	現代経営実践演習基礎Ⅲ				担当者名	横内　浩平		
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
将来のキャリア（職業人生）を考えていくには、さまざまな社会の出来事について理解しておく必要がある。本科目では、将来公務員をを目指す学生が政治や経済の知識を身に付け、将来の就職試験に備えることを目的として開講する。この授業は１年次の配当科目である現代経営実践演習基礎ⅠとⅡを履修していることを前提として授業を行う。

＜授業の到達目標＞
１．公務員試験における「頻出分野」の政治・経済分野について基礎的な理解ができるようになる。２．採用試験に向けての準備を怠らない習慣を身に付けている。

＜授業の方法＞
１．講義　（配布プリント、パワーポイントを使用し授業を進める）※授業の一部についてはインターネット上のサイトを活用して解説します。１．問題演習　（配布プリントを使用し問題演習を進める）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有り　授業時の課題の一部についてはグループ内で相談し考えをまとめる

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：翌週の授業内容に関する下調べ（30分程度）復習：次回講義までに授業の内容について復習をしておくこと（90分以上）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
定期試験の結果 50%、確認テスト 35%、授業態度　15%

＜教科書＞
得になし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	履修ガイダンス	講義の進め方について説明する。
2	経済(1)	財政政策(1)
3	経済(2)	財政政策(2)
4	経済(3)	国民所得と経済成長
5	経済(4)	戦後日本の経済史(1)
6	経済(5)	戦後日本の経済史(2)
7	経済(6)	為替レートと貿易摩擦(1)
8	経済(7)	為替レートと貿易摩擦(2)
9	経済(8)	戦後の国際通貨と貿易体制(1)
10	経済(9)	戦後の国際通貨と貿易体制(2)
11	経済(10)	経済分野まとめ
12	問題演習(1)	経済分野問題演習(1)
13	問題演習(2)	経済分野問題演習(2)
14	問題演習(3)	政治分野問題演習(1)
15		
16		

科目コード	55000				区　分	コア科目			
授業科目名	卒業研究［BC］				担当者名	山本　満理子			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を基盤として、指導教員のもとで卒業研究に取り組み、その成果として論文を完成させる。研究計画の立案から執筆、発表に至るまでの一連の過程を通して、自ら課題を設定し、調査・分析・考察を行い、成果としてまとめる力を養う。なお、本科目は卒業研究を実施する学生を対象とし、必要に応じて共同での研究（共著）を認める。

＜授業の到達目標＞
・自ら設定した研究テーマについて、社会的な課題や問題の本質を明確にし、先行研究を適切に踏まえたうえで、自らの視点や新たな知見を加え、論文としてまとめることができる。・研究の過程および成果について、適切な方法論や理論的枠組みに基づいて論理的に整理し、発表や質疑応答を通して他者に説明することができる。

＜授業の方法＞
本授業は通年科目として実施し、指導教員による個別指導を中心に進める。ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を踏まえ、研究テーマに基づき、論文の作成に向けた指導を段階的に行う。【第1クオーター】研究の本格化・これまでのゼミ活動を踏まえ、研究テーマと問題意識を整理し、論文の方向を具体的に定める。【第2クオーター】論題提出・執筆準備・論文の構成や分析の進め方を整理し、本格的な執筆に向けた準備を進める。また、研究テーマに基づき論題を設定し、所定の期日までに提出する。【第3クオーター】中間報告・内容の見直し・研究の進捗を中間

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：個別指導を中心としつつ、研究の発表や質疑応答を通して主体的に学修に取り組む。中間報告・最終方向では、自身の研究内容についてプレゼンテーションを行う必要がある。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
卒業研究は各自が主体となって進めるものであり、研究テーマの設定から調査・検討、執筆に至るまで、自ら考え、判断しながら取り組むことが前提となる。授業時間外での執筆・修正が中心となるため、日常的に研究および論文作成を進めておくこと。授業では進捗確認や指導を行うため、毎回、原稿やメモ（先行研究の整理、章構成案、疑問点など）を用意し、内容や課題を整理したうえで臨むこと。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
卒業論文の内容（問題設定の妥当性、研究方法の適切性、論理展開および結論の妥当性、先行研究の理解）ならびに最終審査会における発表・審査の評価に加え、研究の進捗状況や執筆への取り組み（主体性・計画性・継続性）、中間報告および最終報告における発表内容（論理性、分かりやすさ、研究内容の伝達）を総合的に評価する。

＜教科書＞
各自のテーマに沿った個別指導による

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各自のテーマ・執筆内容に沿って個別に指導する	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

16		

科目コード	55000				区　分	コア科目			
授業科目名	卒業研究［BC］				担当者名	宇都宮　浩司			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を基盤として、指導教員のもとで卒業研究に取り組み、その成果として論文を完成させる。研究計画の立案から執筆、発表に至るまでの一連の過程を通して、自ら課題を設定し、調査・分析・考察を行い、成果としてまとめる力を養う。なお、本科目は卒業研究を実施する学生を対象とし、必要に応じて共同での研究（共著）を認める。

＜授業の到達目標＞
・自ら設定した研究テーマについて、社会的な課題や問題の本質を明確にし、先行研究を適切に踏まえたうえで、自らの視点や新たな知見を加え、論文としてまとめることができる。・研究の過程および成果について、適切な方法論や理論的枠組みに基づいて論理的に整理し、発表や質疑応答を通して他者に説明することができる。

＜授業の方法＞
本授業は通年科目として実施し、指導教員による個別指導を中心に進める。ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を踏まえ、研究テーマに基づき、論文の作成に向けた指導を段階的に行う。【第1クオーター】研究の本格化・これまでのゼミ活動を踏まえ、研究テーマと問題意識を整理し、論文の方向を具体的に定める。【第2クオーター】論題提出・執筆準備・論文の構成や分析の進め方を整理し、本格的な執筆に向けた準備を進める。また、研究テーマに基づき論題を設定し、所定の期日までに提出する。【第3クオーター】中間報告・内容の見直し・研究の進捗を中間

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：個別指導を中心としつつ、研究の発表や質疑応答を通して主体的に学修に取り組む。中間報告・最終方向では、自身の研究内容についてプレゼンテーションを行う必要がある。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
卒業研究は各自が主体となって進めるものであり、研究テーマの設定から調査・検討、執筆に至るまで、自ら考え、判断しながら取り組むことが前提となる。授業時間外での執筆・修正が中心となるため、日常的に研究および論文作成を進めておくこと。授業では進捗確認や指導を行うため、毎回、原稿やメモ（先行研究の整理、章構成案、疑問点など）を用意し、内容や課題を整理したうえで臨むこと。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
卒業論文の内容（問題設定の妥当性、研究方法の適切性、論理展開および結論の妥当性、先行研究の理解）ならびに最終審査会における発表・審査の評価に加え、研究の進捗状況や執筆への取り組み（主体性・計画性・継続性）、中間報告および最終報告における発表内容（論理性、分かりやすさ、研究内容の伝達）を総合的に評価する。

＜教科書＞
各自のテーマに沿った個別指導による

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各自のテーマ・執筆内容に沿って個別に指導する	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

16		

科目コード	55000				区　分	コア科目			
授業科目名	卒業研究［BC］				担当者名	歌代　哲也			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を基盤として、指導教員のもとで卒業研究に取り組み、その成果として論文を完成させる。研究計画の立案から執筆、発表に至るまでの一連の過程を通して、自ら課題を設定し、調査・分析・考察を行い、成果としてまとめる力を養う。なお、本科目は卒業研究を実施する学生を対象とし、必要に応じて共同での研究（共著）を認める。

＜授業の到達目標＞
・自ら設定した研究テーマについて、社会的な課題や問題の本質を明確にし、先行研究を適切に踏まえたうえで、自らの視点や新たな知見を加え、論文としてまとめることができる。・研究の過程および成果について、適切な方法論や理論的枠組みに基づいて論理的に整理し、発表や質疑応答を通して他者に説明することができる。

＜授業の方法＞
本授業は通年科目として実施し、指導教員による個別指導を中心に進める。ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を踏まえ、研究テーマに基づき、論文の作成に向けた指導を段階的に行う。【第1クオーター】研究の本格化・これまでのゼミ活動を踏まえ、研究テーマと問題意識を整理し、論文の方向を具体的に定める。【第2クオーター】論題提出・執筆準備・論文の構成や分析の進め方を整理し、本格的な執筆に向けた準備を進める。また、研究テーマに基づき論題を設定し、所定の期日までに提出する。【第3クオーター】中間報告・内容の見直し・研究の進捗を中間

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：個別指導を中心としつつ、研究の発表や質疑応答を通して主体的に学修に取り組む。中間報告・最終方向では、自身の研究内容についてプレゼンテーションを行う必要がある。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
卒業研究は各自が主体となって進めるものであり、研究テーマの設定から調査・検討、執筆に至るまで、自ら考え、判断しながら取り組むことができる。また、研究内容を整理し、論文としてまとめ、その成果を論理的に説明することができる。授業に臨むにあたり、研究の進捗状況を整理し、原稿やメモ（先行研究の整理、章構成案、疑問点など）を準備すること（事前学習：60分程度）。授業後は、指導内容を踏まえて原稿の修正や追加調査を行い、論文の完成度を高めること（事後学習：60分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
卒業論文の内容（問題設定の妥当性、研究方法の適切性、論理展開および結論の妥当性、先行研究の理解）を60%、最終審査会における発表・審査の評価を20%、研究の進捗状況や執筆への取り組み（主体性・計画性・継続性）を10%、中間報告および最終報告における発表内容（論理性、分かりやすさ、研究内容の伝達）を10%として、総合的に評価する。

＜教科書＞
各自のテーマに沿った個別指導による

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各自のテーマ・執筆内容に沿って個別に指導する	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

16		

科目コード	55000				区　分	コア科目			
授業科目名	卒業研究［BC］				担当者名	佐藤　典子			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を基盤として、指導教員のもとで卒業研究に取り組み、その成果として論文を完成させる。研究計画の立案から執筆、発表に至るまでの一連の過程を通して、自ら課題を設定し、調査・分析・考察を行い、成果としてまとめる力を養う。なお、本科目は卒業研究を実施する学生を対象とし、必要に応じて共同での研究（共著）を認める。

＜授業の到達目標＞
・自ら設定した研究テーマについて、社会的な課題や問題の本質を明確にし、先行研究を適切に踏まえたうえで、自らの視点や新たな知見を加え、論文としてまとめることができる。・研究の過程および成果について、適切な方法論や理論的枠組みに基づいて論理的に整理し、発表や質疑応答を通して他者に説明することができる。

＜授業の方法＞
本授業は通年科目として実施し、指導教員による個別指導を中心に進める。ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を踏まえ、研究テーマに基づき、論文の作成に向けた指導を段階的に行う。【第1クオーター】研究の本格化・これまでのゼミ活動を踏まえ、研究テーマと問題意識を整理し、論文の方向を具体的に定める。【第2クオーター】論題提出・執筆準備・論文の構成や分析の進め方を整理し、本格的な執筆に向けた準備を進める。また、研究テーマに基づき論題を設定し、所定の期日までに提出する。【第3クオーター】中間報告・内容の見直し・研究の進捗を中間

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：個別指導を中心としつつ、研究の発表や質疑応答を通して主体的に学修に取り組む。中間報告・最終方向では、自身の研究内容についてプレゼンテーションを行う必要がある。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
卒業研究は各自が主体となって進めるものであり、研究テーマの設定から調査・検討、執筆に至るまで、自ら考え、判断しながら取り組むことが前提となる。授業時間外での執筆・修正が中心となるため、日常的に研究および論文作成を進めておくこと。授業では進捗確認や指導を行うため、毎回、原稿やメモ（先行研究の整理、章構成案、疑問点など）を用意し、内容や課題を整理したうえで臨むこと。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
卒業論文の内容（問題設定の妥当性、研究方法の適切性、論理展開および結論の妥当性、先行研究の理解）ならびに最終審査会における発表・審査の評価に加え、研究の進捗状況や執筆への取り組み（主体性・計画性・継続性）、中間報告および最終報告における発表内容（論理性、分かりやすさ、研究内容の伝達）を総合的に評価する。

＜教科書＞
各自のテーマに沿った個別指導による

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各自のテーマ・執筆内容に沿って個別に指導する	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

16		

科目コード	55000				区　分	コア科目			
授業科目名	卒業研究［BC］				担当者名	三垣　雅美			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を基盤として、指導教員のもとで卒業研究に取り組み、その成果として論文を完成させる。研究計画の立案から執筆、発表に至るまでの一連の過程を通して、自ら課題を設定し、調査・分析・考察を行い、成果としてまとめる力を養う。なお、本科目は卒業研究を実施する学生を対象とし、必要に応じて共同での研究（共著）を認める。

＜授業の到達目標＞
・自ら設定した研究テーマについて、社会的な課題や問題の本質を明確にし、先行研究を適切に踏まえたうえで、自らの視点や新たな知見を加え、論文としてまとめることができる。・研究の過程および成果について、適切な方法論や理論的枠組みに基づいて論理的に整理し、発表や質疑応答を通して他者に説明することができる。

＜授業の方法＞
本授業は通年科目として実施し、指導教員による個別指導を中心に進める。ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を踏まえ、研究テーマに基づき、論文の作成に向けた指導を段階的に行う。【第1クオーター】研究の本格化・これまでのゼミ活動を踏まえ、研究テーマと問題意識を整理し、論文の方向を具体的に定める。【第2クオーター】論題提出・執筆準備・論文の構成や分析の進め方を整理し、本格的な執筆に向けた準備を進める。また、研究テーマに基づき論題を設定し、所定の期日までに提出する。【第3クオーター】中間報告・内容の見直し・研究の進捗を中間

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：個別指導を中心としつつ、研究の発表や質疑応答を通して主体的に学修に取り組む。中間報告・最終方向では、自身の研究内容についてプレゼンテーションを行う必要がある。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
卒業研究は各自が主体となって進めるものであり、研究テーマの設定から調査・検討、執筆に至るまで、自ら考え、判断しながら取り組むことが前提となる。授業時間外での執筆・修正が中心となるため、日常的に研究および論文作成を進めておくこと。授業では進捗確認や指導を行うため、毎回、原稿やメモ（先行研究の整理、章構成案、疑問点など）を用意し、内容や課題を整理したうえで臨むこと。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
卒業論文の内容（問題設定の妥当性、研究方法の適切性、論理展開および結論の妥当性、先行研究の理解）ならびに最終審査会における発表・審査の評価に加え、研究の進捗状況や執筆への取り組み（主体性・計画性・継続性）、中間報告および最終報告における発表内容（論理性、分かりやすさ、研究内容の伝達）を総合的に評価する。

＜教科書＞
各自のテーマに沿った個別指導による

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各自のテーマ・執筆内容に沿って個別に指導する	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

16		

科目コード	55000				区　分	コア科目			
授業科目名	卒業研究［BC］				担当者名	小川　正人			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を基盤として、指導教員のもとで卒業研究に取り組み、その成果として論文を完成させる。研究計画の立案から執筆、発表に至るまでの一連の過程を通して、自ら課題を設定し、調査・分析・考察を行い、成果としてまとめる力を養う。なお、本科目は卒業研究を実施する学生を対象とし、必要に応じて共同での研究（共著）を認める。

＜授業の到達目標＞
・自ら設定した研究テーマについて、社会的な課題や問題の本質を明確にし、先行研究を適切に踏まえたうえで、自らの視点や新たな知見を加え、論文としてまとめることができる。・研究の過程および成果について、適切な方法論や理論的枠組みに基づいて論理的に整理し、発表や質疑応答を通して他者に説明することができる。

＜授業の方法＞
本授業は通年科目として実施し、指導教員による個別指導を中心に進める。ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を踏まえ、研究テーマに基づき、論文の作成に向けた指導を段階的に行う。【第1クオーター】研究の本格化・これまでのゼミ活動を踏まえ、研究テーマと問題意識を整理し、論文の方向を具体的に定める。【第2クオーター】論題提出・執筆準備・論文の構成や分析の進め方を整理し、本格的な執筆に向けた準備を進める。また、研究テーマに基づき論題を設定し、所定の期日までに提出する。【第3クオーター】中間報告・内容の見直し・研究の進捗を中間

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：個別指導を中心としつつ、研究の発表や質疑応答を通して主体的に学修に取り組む。中間報告・最終方向では、自身の研究内容についてプレゼンテーションを行う必要がある。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
卒業研究は各自が主体となって進めるものであり、研究テーマの設定から調査・検討、執筆に至るまで、自ら考え、判断しながら取り組むことが前提となる。授業時間外での執筆・修正が中心となるため、日常的に研究および論文作成を進めておくこと。授業では進捗確認や指導を行うため、毎回、原稿やメモ（先行研究の整理、章構成案、疑問点など）を用意し、内容や課題を整理したうえで臨むこと。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
卒業論文の内容（問題設定の妥当性、研究方法の適切性、論理展開および結論の妥当性、先行研究の理解）ならびに最終審査会における発表・審査の評価に加え、研究の進捗状況や執筆への取り組み（主体性・計画性・継続性）、中間報告および最終報告における発表内容（論理性、分かりやすさ、研究内容の伝達）を総合的に評価する。

＜教科書＞
各自のテーマに沿った個別指導による

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各自のテーマ・執筆内容に沿って個別に指導する	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

16		

科目コード	55000				区　分	コア科目			
授業科目名	卒業研究［BC］				担当者名	小堀　浩志			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を基盤として、指導教員のもとで卒業研究に取り組み、その成果として論文を完成させる。研究計画の立案から執筆、発表に至るまでの一連の過程を通して、自ら課題を設定し、調査・分析・考察を行い、成果としてまとめる力を養う。なお、本科目は卒業研究を実施する学生を対象とし、必要に応じて共同での研究（共著）を認める。

＜授業の到達目標＞
・自ら設定した研究テーマについて、社会的な課題や問題の本質を明確にし、先行研究を適切に踏まえたうえで、自らの視点や新たな知見を加え、論文としてまとめることができる。・研究の過程および成果について、適切な方法論や理論的枠組みに基づいて論理的に整理し、発表や質疑応答を通して他者に説明することができる。

＜授業の方法＞
本授業は通年科目として実施し、指導教員による個別指導を中心に進める。ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を踏まえ、研究テーマに基づき、論文の作成に向けた指導を段階的に行う。【第1クオーター】研究の本格化・これまでのゼミ活動を踏まえ、研究テーマと問題意識を整理し、論文の方向を具体的に定める。【第2クオーター】論題提出・執筆準備・論文の構成や分析の進め方を整理し、本格的な執筆に向けた準備を進める。また、研究テーマに基づき論題を設定し、所定の期日までに提出する。【第3クオーター】中間報告・内容の見直し・研究の進捗を中間

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：個別指導を中心としつつ、研究の発表や質疑応答を通して主体的に学修に取り組む。中間報告・最終方向では、自身の研究内容についてプレゼンテーションを行う必要がある。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
卒業研究は各自が主体となって進めるものであり、研究テーマの設定から調査・検討、執筆に至るまで、自ら考え、判断しながら取り組むことが前提となる。授業時間外での執筆・修正が中心となるため、日常的に研究および論文作成を進めておくこと。授業では進捗確認や指導を行うため、毎回、原稿やメモ（先行研究の整理、章構成案、疑問点など）を用意し、内容や課題を整理したうえで臨むこと。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
卒業論文の内容（問題設定の妥当性、研究方法の適切性、論理展開および結論の妥当性、先行研究の理解）ならびに最終審査会における発表・審査の評価に加え、研究の進捗状況や執筆への取り組み（主体性・計画性・継続性）、中間報告および最終報告における発表内容（論理性、分かりやすさ、研究内容の伝達）を総合的に評価する。

＜教科書＞
各自のテーマに沿った個別指導による

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各自のテーマ・執筆内容に沿って個別に指導する	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

16		

科目コード	55000				区　分	コア科目			
授業科目名	卒業研究［BC］				担当者名	扇野　睦巳			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を基盤として、指導教員のもとで卒業研究に取り組み、その成果として論文を完成させる。研究計画の立案から執筆、発表に至るまでの一連の過程を通して、自ら課題を設定し、調査・分析・考察を行い、成果としてまとめる力を養う。なお、本科目は卒業研究を実施する学生を対象とし、必要に応じて共同での研究（共著）を認める。

＜授業の到達目標＞
・自ら設定した研究テーマについて、社会的な課題や問題の本質を明確にし、先行研究を適切に踏まえたうえで、自らの視点や新たな知見を加え、論文としてまとめることができる。・研究の過程および成果について、適切な方法論や理論的枠組みに基づいて論理的に整理し、発表や質疑応答を通して他者に説明することができる。

＜授業の方法＞
本授業は通年科目として実施し、指導教員による個別指導を中心に進める。ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を踏まえ、研究テーマに基づき、論文の作成に向けた指導を段階的に行う。【第1クオーター】研究の本格化・これまでのゼミ活動を踏まえ、研究テーマと問題意識を整理し、論文の方向を具体的に定める。【第2クオーター】論題提出・執筆準備・論文の構成や分析の進め方を整理し、本格的な執筆に向けた準備を進める。また、研究テーマに基づき論題を設定し、所定の期日までに提出する。【第3クオーター】中間報告・内容の見直し・研究の進捗を中間

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：個別指導を中心としつつ、研究の発表や質疑応答を通して主体的に学修に取り組む。中間報告・最終方向では、自身の研究内容についてプレゼンテーションを行う必要がある。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
卒業研究は各自が主体となって進めるものであり、研究テーマの設定から調査・検討、執筆に至るまで、自ら考え、判断しながら取り組むことが前提となる。授業時間外での執筆・修正が中心となるため、日常的に研究および論文作成を進めておくこと。授業では進捗確認や指導を行うため、毎回、原稿やメモ（先行研究の整理、章構成案、疑問点など）を用意し、内容や課題を整理したうえで臨むこと。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
卒業論文の内容（問題設定の妥当性、研究方法の適切性、論理展開および結論の妥当性、先行研究の理解）ならびに最終審査会における発表・審査の評価に加え、研究の進捗状況や執筆への取り組み（主体性・計画性・継続性）、中間報告および最終報告における発表内容（論理性、分かりやすさ、研究内容の伝達）を総合的に評価する。

＜教科書＞
各自のテーマに沿った個別指導による

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各自のテーマ・執筆内容に沿って個別に指導する	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

16		

科目コード	55000				区　分	コア科目			
授業科目名	卒業研究［BC］				担当者名	田口　雅弘			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を基盤として、指導教員のもとで卒業研究に取り組み、その成果として論文を完成させる。研究計画の立案から執筆、発表に至るまでの一連の過程を通して、自ら課題を設定し、調査・分析・考察を行い、成果としてまとめる力を養う。なお、本科目は卒業研究を実施する学生を対象とし、必要に応じて共同での研究（共著）を認める。

＜授業の到達目標＞
・自ら設定した研究テーマについて、社会的な課題や問題の本質を明確にし、先行研究を適切に踏まえたうえで、自らの視点や新たな知見を加え、論文としてまとめることができる。・研究の過程および成果について、適切な方法論や理論的枠組みに基づいて論理的に整理し、発表や質疑応答を通して他者に説明することができる。

＜授業の方法＞
本授業は通年科目として実施し、指導教員による個別指導を中心に進める。ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を踏まえ、研究テーマに基づき、論文の作成に向けた指導を段階的に行う。【第1クオーター】研究の本格化・これまでのゼミ活動を踏まえ、研究テーマと問題意識を整理し、論文の方向を具体的に定める。【第2クオーター】論題提出・執筆準備・論文の構成や分析の進め方を整理し、本格的な執筆に向けた準備を進める。また、研究テーマに基づき論題を設定し、所定の期日までに提出する。【第3クオーター】中間報告・内容の見直し・研究の進捗を中間

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：個別指導を中心としつつ、研究の発表や質疑応答を通して主体的に学修に取り組む。中間報告・最終方向では、自身の研究内容についてプレゼンテーションを行う必要がある。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
卒業研究は各自が主体となって進めるものであり、研究テーマの設定から調査・検討、執筆に至るまで、自ら考え、判断しながら取り組むことが前提となる。授業時間外での執筆・修正が中心となるため、日常的に研究および論文作成を進めておくこと。授業では進捗確認や指導を行うため、毎回、原稿やメモ（先行研究の整理、章構成案、疑問点など）を用意し、内容や課題を整理したうえで臨むこと。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
卒業論文の内容（問題設定の妥当性、研究方法の適切性、論理展開および結論の妥当性、先行研究の理解）ならびに最終審査会における発表・審査の評価に加え、研究の進捗状況や執筆への取り組み（主体性・計画性・継続性）、中間報告および最終報告における発表内容（論理性、分かりやすさ、研究内容の伝達）を総合的に評価する。

＜教科書＞
各自のテーマに沿った個別指導による

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各自のテーマ・執筆内容に沿って個別に指導する	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

16		

科目コード	55000				区　分	コア科目			
授業科目名	卒業研究［BC］				担当者名	赤木　邦江			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を基盤として、指導教員のもとで卒業研究に取り組み、その成果として論文を完成させる。研究計画の立案から執筆、発表に至るまでの一連の過程を通して、自ら課題を設定し、調査・分析・考察を行い、成果としてまとめる力を養う。なお、本科目は卒業研究を実施する学生を対象とし、必要に応じて共同での研究（共著）を認める。

＜授業の到達目標＞
・自ら設定した研究テーマについて、社会的な課題や問題の本質を明確にし、先行研究を適切に踏まえたうえで、自らの視点や新たな知見を加え、論文としてまとめることができる。・研究の過程および成果について、適切な方法論や理論的枠組みに基づいて論理的に整理し、発表や質疑応答を通して他者に説明することができる。

＜授業の方法＞
本授業は通年科目として実施し、指導教員による個別指導を中心に進める。ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を踏まえ、研究テーマに基づき、論文の作成に向けた指導を段階的に行う。【第1クオーター】研究の本格化・これまでのゼミ活動を踏まえ、研究テーマと問題意識を整理し、論文の方向を具体的に定める。【第2クオーター】論題提出・執筆準備・論文の構成や分析の進め方を整理し、本格的な執筆に向けた準備を進める。また、研究テーマに基づき論題を設定し、所定の期日までに提出する。【第3クオーター】中間報告・内容の見直し・研究の進捗を中間

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：個別指導を中心としつつ、研究の発表や質疑応答を通して主体的に学修に取り組む。中間報告・最終方向では、自身の研究内容についてプレゼンテーションを行う必要がある。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
卒業研究は各自が主体となって進めるものであり、研究テーマの設定から調査・検討、執筆に至るまで、自ら考え、判断しながら取り組むことが前提となる。授業時間外での執筆・修正が中心となるため、日常的に研究および論文作成を進めておくこと。授業では進捗確認や指導を行うため、毎回、原稿やメモ（先行研究の整理、章構成案、疑問点など）を用意し、内容や課題を整理したうえで臨むこと。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
卒業論文の内容（問題設定の妥当性、研究方法の適切性、論理展開および結論の妥当性、先行研究の理解）ならびに最終審査会における発表・審査の評価に加え、研究の進捗状況や執筆への取り組み（主体性・計画性・継続性）、中間報告および最終報告における発表内容（論理性、分かりやすさ、研究内容の伝達）を総合的に評価する。

＜教科書＞
各自のテーマに沿った個別指導による

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各自のテーマ・執筆内容に沿って個別に指導する	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

16		

科目コード	55000				区　分	コア科目			
授業科目名	卒業研究［BC］				担当者名	鈴木　真理子			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を基盤として、指導教員のもとで卒業研究に取り組み、その成果として論文を完成させる。研究計画の立案から執筆、発表に至るまでの一連の過程を通して、自ら課題を設定し、調査・分析・考察を行い、成果としてまとめる力を養う。なお、本科目は卒業研究を実施する学生を対象とし、必要に応じて共同での研究（共著）を認める。

＜授業の到達目標＞
・自ら設定した研究テーマについて、社会的な課題や問題の本質を明確にし、先行研究を適切に踏まえたうえで、自らの視点や新たな知見を加え、論文としてまとめることができる。・研究の過程および成果について、適切な方法論や理論的枠組みに基づいて論理的に整理し、発表や質疑応答を通して他者に説明することができる。

＜授業の方法＞
本授業は通年科目として実施し、指導教員による個別指導を中心に進める。ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を踏まえ、研究テーマに基づき、論文の作成に向けた指導を段階的に行う。【第1クオーター】研究の本格化・これまでのゼミ活動を踏まえ、研究テーマと問題意識を整理し、論文の方向を具体的に定める。【第2クオーター】論題提出・執筆準備・論文の構成や分析の進め方を整理し、本格的な執筆に向けた準備を進める。また、研究テーマに基づき論題を設定し、所定の期日までに提出する。【第3クオーター】中間報告・内容の見直し・研究の進捗を中間

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：個別指導を中心としつつ、研究の発表や質疑応答を通して主体的に学修に取り組む。中間報告・最終方向では、自身の研究内容についてプレゼンテーションを行う必要がある。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
卒業研究は各自が主体となって進めるものであり、研究テーマの設定から調査・検討、執筆に至るまで、自ら考え、判断しながら取り組むことが前提となる。授業時間外での執筆・修正が中心となるため、日常的に研究および論文作成を進めておくこと。授業では進捗確認や指導を行うため、毎回、原稿やメモ（先行研究の整理、章構成案、疑問点など）を用意し、内容や課題を整理したうえで臨むこと。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
卒業論文の内容（問題設定の妥当性、研究方法の適切性、論理展開および結論の妥当性、先行研究の理解）ならびに最終審査会における発表・審査の評価に加え、研究の進捗状況や執筆への取り組み（主体性・計画性・継続性）、中間報告および最終報告における発表内容（論理性、分かりやすさ、研究内容の伝達）を総合的に評価する。

＜教科書＞
各自のテーマに沿った個別指導による

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各自のテーマ・執筆内容に沿って個別に指導する	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

16		

科目コード	55000				区　分	コア科目			
授業科目名	卒業研究［BC］				担当者名	大池　淳一			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を基盤として、指導教員のもとで卒業研究に取り組み、その成果として論文を完成させる。研究計画の立案から執筆、発表に至るまでの一連の過程を通して、自ら課題を設定し、調査・分析・考察を行い、成果としてまとめる力を養う。なお、本科目は卒業研究を実施する学生を対象とし、必要に応じて共同での研究（共著）を認める。

＜授業の到達目標＞
・自ら設定した研究テーマについて、社会的な課題や問題の本質を明確にし、先行研究を適切に踏まえたうえで、自らの視点や新たな知見を加え、論文としてまとめることができる。・研究の過程および成果について、適切な方法論や理論的枠組みに基づいて論理的に整理し、発表や質疑応答を通して他者に説明することができる。

＜授業の方法＞
本授業は通年科目として実施し、指導教員による個別指導を中心に進める。ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を踏まえ、研究テーマに基づき、論文の作成に向けた指導を段階的に行う。【第1クオーター】研究の本格化・これまでのゼミ活動を踏まえ、研究テーマと問題意識を整理し、論文の方向を具体的に定める。【第2クオーター】論題提出・執筆準備・論文の構成や分析の進め方を整理し、本格的な執筆に向けた準備を進める。また、研究テーマに基づき論題を設定し、所定の期日までに提出する。【第3クオーター】中間報告・内容の見直し・研究の進捗を中間

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：個別指導を中心としつつ、研究の発表や質疑応答を通して主体的に学修に取り組む。中間報告・最終方向では、自身の研究内容についてプレゼンテーションを行う必要がある。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
卒業研究は各自が主体となって進めるものであり、研究テーマの設定から調査・検討、執筆に至るまで、自ら考え、判断しながら取り組むことが前提となる。授業時間外での執筆・修正が中心となるため、日常的に研究および論文作成を進めておくこと。授業では進捗確認や指導を行うため、毎回、原稿やメモ（先行研究の整理、章構成案、疑問点など）を用意し、内容や課題を整理したうえで臨むこと。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
卒業論文の内容（問題設定の妥当性、研究方法の適切性、論理展開および結論の妥当性、先行研究の理解）ならびに最終審査会における発表・審査の評価に加え、研究の進捗状況や執筆への取り組み（主体性・計画性・継続性）、中間報告および最終報告における発表内容（論理性、分かりやすさ、研究内容の伝達）を総合的に評価する。

＜教科書＞
各自のテーマに沿った個別指導による

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各自のテーマ・執筆内容に沿って個別に指導する	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

16		

科目コード	55000				区　分	コア科目			
授業科目名	卒業研究［BC］				担当者名	SACKO　Salif			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を基盤として、指導教員のもとで卒業研究に取り組み、その成果として論文を完成させる。研究計画の立案から執筆、発表に至るまでの一連の過程を通して、自ら課題を設定し、調査・分析・考察を行い、成果としてまとめる力を養う。なお、本科目は卒業研究を実施する学生を対象とし、必要に応じて共同での研究（共著）を認める。

＜授業の到達目標＞
・自ら設定した研究テーマについて、社会的な課題や問題の本質を明確にし、先行研究を適切に踏まえたうえで、自らの視点や新たな知見を加え、論文としてまとめることができる。・研究の過程および成果について、適切な方法論や理論的枠組みに基づいて論理的に整理し、発表や質疑応答を通して他者に説明することができる。

＜授業の方法＞
本授業は通年科目として実施し、指導教員による個別指導を中心に進める。ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を踏まえ、研究テーマに基づき、論文の作成に向けた指導を段階的に行う。【第1クオーター】研究の本格化・これまでのゼミ活動を踏まえ、研究テーマと問題意識を整理し、論文の方向を具体的に定める。【第2クオーター】論題提出・執筆準備・論文の構成や分析の進め方を整理し、本格的な執筆に向けた準備を進める。また、研究テーマに基づき論題を設定し、所定の期日までに提出する。【第3クオーター】中間報告・内容の見直し・研究の進捗を中間

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：個別指導を中心としつつ、研究の発表や質疑応答を通して主体的に学修に取り組む。中間報告・最終方向では、自身の研究内容についてプレゼンテーションを行う必要がある。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
卒業研究は各自が主体となって進めるものであり、研究テーマの設定から調査・検討、執筆に至るまで、自ら考え、判断しながら取り組むことが前提となる。授業時間外での執筆・修正が中心となるため、日常的に研究および論文作成を進めておくこと。授業では進捗確認や指導を行うため、毎回、原稿やメモ（先行研究の整理、章構成案、疑問点など）を用意し、内容や課題を整理したうえで臨むこと。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
卒業論文の内容（問題設定の妥当性、研究方法の適切性、論理展開および結論の妥当性、先行研究の理解）ならびに最終審査会における発表・審査の評価に加え、研究の進捗状況や執筆への取り組み（主体性・計画性・継続性）、中間報告および最終報告における発表内容（論理性、分かりやすさ、研究内容の伝達）を総合的に評価する。

＜教科書＞
各自のテーマに沿った個別指導による

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各自のテーマ・執筆内容に沿って個別に指導する	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

16		

科目コード	55000				区　分	コア科目			
授業科目名	卒業研究［FE］				担当者名	内田　仁志			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	説明・演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
講義・演習・レポート

＜授業の到達目標＞
卒業論文の完成を通し文章作成能力、文献検索の方法、プレゼンテーションの仕方を学ぶことができる

＜授業の方法＞
全体説明（論文の書き方、参考図書、文献の検索等）各自論文執筆卒業論文中間発表卒業論文最終発表最終レポート提出

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有1. ピア・インストラクション（Peer Instruction）学生同士で教え合うことで理解を深める。2. ディスカッション・ベースの学習生徒同士の意見交換を通じて深い理解を促す。3. 問題解決学習（Problem-Based Learning, PBL）実社会の問題を題材にして解決策を考える。等を学習する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
研究テーマの設定（これは教員採用試験後、速やかに取り掛かります。また個別に対応します）①論文検索の仕方②参考文献の検索、収集③論文の文章構造の理解④教職に就いたときの作文指導（論文指導から学んだこと）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）　と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
論文の部①論文の体裁　論文の形式を満たしているか②研究テーマは適切か③論証方法は適切か④論文は教職に就いたときの実効性を伴うか学習態度の部①授業参加態度②論文の締め切り等決まりに対する態度③参考文献の多さ

＜教科書＞
図書館で論文に関するコーナーが特設されているので参考にすること

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション論文について	○　卒業論文・ゼミ論文の形式について　・卒業論文、ゼミ論文の分量等違いについて　・両論文の最終発表の相違点
2	論文テーマの決定１	○　論文テーマの決定　・先行研究の検索　・課題の確認
3	論文テーマの決定２	○　論文テーマの決定　・テーなの決定　・サブタイトルの確認
4	論文の文章構造の理解１	○　論文の文章構造１　・ワークシート利用
5	論文の文章構造の理解２	○　論文の文章構造２　・論文の文章構造の理解　・序論の書き方
6	序章の書き方	○　序章の書き方１　・序章の論文における役割　・序章の文章構成の説明
7	序章の完成	完成内容○　序章の書き方２　・序章の論文における役割　・序章の文章構成の説明　・序章完成
8	論文のテーマについて	○　論文のテーマについて　・テーマに迫る問題の把握　・テーマの問題に迫る段落の構成、記述
9	問題を解決する章の構成	○　問題解決の方法　・問題の解決方法を説明する文章構造の書き方　・章の執筆
10	問題を解決する章の構成２	○　問題解決の方法　・問題の解決方法を説明する文章構造の書き方　・章の執筆
11	検証の章執筆完成	○　検証の章執筆１　・検証のデータ執筆　・データからの考察執筆
12	検証執筆	○　論文中間発表
13	論文中間発表	○　論文中間発表
14	論文最終発表	○　論文最終発表
15		
16		

科目コード	55000				区　分	コア科目		
授業科目名	卒業研究［秋入学生用］				担当者名	宇都宮　浩司		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を基盤として、指導教員のもとで卒業研究に取り組み、その成果として論文を完成させる。研究計画の立案から執筆、発表に至るまでの一連の過程を通して、自ら課題を設定し、調査・分析・考察を行い、成果としてまとめる力を養う。なお、本科目は卒業研究を実施する学生を対象とし、必要に応じて共同での研究（共著）を認める。

＜授業の到達目標＞
・自ら設定した研究テーマについて、社会的な課題や問題の本質を明確にし、先行研究を適切に踏まえたうえで、自らの視点や新たな知見を加え、論文としてまとめることができる。・研究の過程および成果について、適切な方法論や理論的枠組みに基づいて論理的に整理し、発表や質疑応答を通して他者に説明することができる。

＜授業の方法＞
本授業は通年科目として実施し、指導教員による個別指導を中心に進める。ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を踏まえ、研究テーマに基づき、論文の作成に向けた指導を段階的に行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：個別指導を中心としつつ、研究の発表や質疑応答を通して主体的に学修に取り組む。中間報告・最終方向では、自身の研究内容についてプレゼンテーションを行う必要がある。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
卒業研究は各自が主体となって進めるものであり、研究テーマの設定から調査・検討、執筆に至るまで、自ら考え、判断しながら取り組むことができる。また、研究内容を整理し、論文としてまとめ、その成果を論理的に説明することができる。授業に臨むにあたり、研究の進捗状況を整理し、原稿やメモ（先行研究の整理、章構成案、疑問点など）を準備すること（事前学習：60分程度）。授業後は、指導内容を踏まえて原稿の修正や追加調査を行い、論文の完成度を高めること（事後学習：60分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
卒業論文の内容（問題設定の妥当性、研究方法の適切性、論理展開および結論の妥当性、先行研究の理解）を60%、最終審査会における発表・審査の評価を20%、研究の進捗状況や執筆への取り組み（主体性・計画性・継続性）を10%、中間報告および最終報告における発表内容（論理性、分かりやすさ、研究内容の伝達）を10%として、総合的に評価する。

＜教科書＞
各自のテーマに沿った個別指導による

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各自のテーマ・執筆内容に沿って個別に指導する	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	55000				区　分	コア科目			
授業科目名	卒業研究［秋入学生用］				担当者名	佐藤　典子			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を基盤として、指導教員のもとで卒業研究に取り組み、その成果として論文を完成させる。研究計画の立案から執筆、発表に至るまでの一連の過程を通して、自ら課題を設定し、調査・分析・考察を行い、成果としてまとめる力を養う。なお、本科目は卒業研究を実施する学生を対象とし、必要に応じて共同での研究（共著）を認める。

＜授業の到達目標＞
・自ら設定した研究テーマについて、社会的な課題や問題の本質を明確にし、先行研究を適切に踏まえたうえで、自らの視点や新たな知見を加え、論文としてまとめることができる。・研究の過程および成果について、適切な方法論や理論的枠組みに基づいて論理的に整理し、発表や質疑応答を通して他者に説明することができる。

＜授業の方法＞
本授業は通年科目として実施し、指導教員による個別指導を中心に進める。ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を踏まえ、研究テーマに基づき、論文の作成に向けた指導を段階的に行う。【第1クオーター】研究の本格化・これまでのゼミ活動を踏まえ、研究テーマと問題意識を整理し、論文の方向を具体的に定める。【第2クオーター】論題提出・執筆準備・論文の構成や分析の進め方を整理し、本格的な執筆に向けた準備を進める。また、研究テーマに基づき論題を設定し、所定の期日までに提出する。【第3クオーター】中間報告・内容の見直し・研究の進捗を中間

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：個別指導を中心としつつ、研究の発表や質疑応答を通して主体的に学修に取り組む。中間報告・最終方向では、自身の研究内容についてプレゼンテーションを行う必要がある。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
卒業研究は各自が主体となって進めるものであり、研究テーマの設定から調査・検討、執筆に至るまで、自ら考え、判断しながら取り組むことができる。また、研究内容を整理し、論文としてまとめ、その成果を論理的に説明することができる。授業に臨むにあたり、研究の進捗状況を整理し、原稿やメモ（先行研究の整理、章構成案、疑問点など）を準備すること（事前学習：60分程度）。授業後は、指導内容を踏まえて原稿の修正や追加調査を行い、論文の完成度を高めること（事後学習：60分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
卒業論文の内容（問題設定の妥当性、研究方法の適切性、論理展開および結論の妥当性、先行研究の理解）を60%、最終審査会における発表・審査の評価を20%、研究の進捗状況や執筆への取り組み（主体性・計画性・継続性）を10%、中間報告および最終報告における発表内容（論理性、分かりやすさ、研究内容の伝達）を10%として、総合的に評価する。

＜教科書＞
各自のテーマに沿った個別指導による

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各自のテーマ・執筆内容に沿って個別に指導する	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

16		

科目コード	55000				区　分	コア科目			
授業科目名	卒業研究［秋入学生用］				担当者名	小川　正人			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を基盤として、指導教員のもとで卒業研究に取り組み、その成果として論文を完成させる。研究計画の立案から執筆、発表に至るまでの一連の過程を通して、自ら課題を設定し、調査・分析・考察を行い、成果としてまとめる力を養う。なお、本科目は卒業研究を実施する学生を対象とし、必要に応じて共同での研究（共著）を認める。

＜授業の到達目標＞
・自ら設定した研究テーマについて、社会的な課題や問題の本質を明確にし、先行研究を適切に踏まえたうえで、自らの視点や新たな知見を加え、論文としてまとめることができる。・研究の過程および成果について、適切な方法論や理論的枠組みに基づいて論理的に整理し、発表や質疑応答を通して他者に説明することができる。

＜授業の方法＞
本授業は通年科目として実施し、指導教員による個別指導を中心に進める。ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を踏まえ、研究テーマに基づき、論文の作成に向けた指導を段階的に行う。【第1クオーター】研究の本格化・これまでのゼミ活動を踏まえ、研究テーマと問題意識を整理し、論文の方向を具体的に定める。【第2クオーター】論題提出・執筆準備・論文の構成や分析の進め方を整理し、本格的な執筆に向けた準備を進める。また、研究テーマに基づき論題を設定し、所定の期日までに提出する。【第3クオーター】中間報告・内容の見直し・研究の進捗を中間

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：個別指導を中心としつつ、研究の発表や質疑応答を通して主体的に学修に取り組む。中間報告・最終方向では、自身の研究内容についてプレゼンテーションを行う必要がある。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
卒業研究は各自が主体となって進めるものであり、研究テーマの設定から調査・検討、執筆に至るまで、自ら考え、判断しながら取り組むことができる。また、研究内容を整理し、論文としてまとめ、その成果を論理的に説明することができる。授業に臨むにあたり、研究の進捗状況を整理し、原稿やメモ（先行研究の整理、章構成案、疑問点など）を準備すること（事前学習：60分程度）。授業後は、指導内容を踏まえて原稿の修正や追加調査を行い、論文の完成度を高めること（事後学習：60分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
卒業論文の内容（問題設定の妥当性、研究方法の適切性、論理展開および結論の妥当性、先行研究の理解）を60%、最終審査会における発表・審査の評価を20%、研究の進捗状況や執筆への取り組み（主体性・計画性・継続性）を10%、中間報告および最終報告における発表内容（論理性、分かりやすさ、研究内容の伝達）を10%として、総合的に評価する。

＜教科書＞
各自のテーマに沿った個別指導による

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各自のテーマ・執筆内容に沿って個別に指導する	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

16		

科目コード	55000				区　分	コア科目			
授業科目名	卒業研究［秋入学生用］				担当者名	小堀　浩志			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を基盤として、指導教員のもとで卒業研究に取り組み、その成果として論文を完成させる。研究計画の立案から執筆、発表に至るまでの一連の過程を通して、自ら課題を設定し、調査・分析・考察を行い、成果としてまとめる力を養う。なお、本科目は卒業研究を実施する学生を対象とし、必要に応じて共同での研究（共著）を認める。

＜授業の到達目標＞
・自ら設定した研究テーマについて、社会的な課題や問題の本質を明確にし、先行研究を適切に踏まえたうえで、自らの視点や新たな知見を加え、論文としてまとめることができる。・研究の過程および成果について、適切な方法論や理論的枠組みに基づいて論理的に整理し、発表や質疑応答を通して他者に説明することができる。

＜授業の方法＞
本授業は通年科目として実施し、指導教員による個別指導を中心に進める。ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を踏まえ、研究テーマに基づき、論文の作成に向けた指導を段階的に行う。【第1クオーター】研究の本格化・これまでのゼミ活動を踏まえ、研究テーマと問題意識を整理し、論文の方向を具体的に定める。【第2クオーター】論題提出・執筆準備・論文の構成や分析の進め方を整理し、本格的な執筆に向けた準備を進める。また、研究テーマに基づき論題を設定し、所定の期日までに提出する。【第3クオーター】中間報告・内容の見直し・研究の進捗を中間

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：個別指導を中心としつつ、研究の発表や質疑応答を通して主体的に学修に取り組む。中間報告・最終方向では、自身の研究内容についてプレゼンテーションを行う必要がある。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
卒業研究は各自が主体となって進めるものであり、研究テーマの設定から調査・検討、執筆に至るまで、自ら考え、判断しながら取り組むことができる。また、研究内容を整理し、論文としてまとめ、その成果を論理的に説明することができる。授業に臨むにあたり、研究の進捗状況を整理し、原稿やメモ（先行研究の整理、章構成案、疑問点など）を準備すること（事前学習：60分程度）。授業後は、指導内容を踏まえて原稿の修正や追加調査を行い、論文の完成度を高めること（事後学習：60分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
卒業論文の内容（問題設定の妥当性、研究方法の適切性、論理展開および結論の妥当性、先行研究の理解）を60%、最終審査会における発表・審査の評価を20%、研究の進捗状況や執筆への取り組み（主体性・計画性・継続性）を10%、中間報告および最終報告における発表内容（論理性、分かりやすさ、研究内容の伝達）を10%として、総合的に評価する。

＜教科書＞
各自のテーマに沿った個別指導による

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各自のテーマ・執筆内容に沿って個別に指導する	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

16		

科目コード	55000				区　分	コア科目			
授業科目名	卒業研究［秋入学生用］				担当者名	田口　雅弘			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を基盤として、指導教員のもとで卒業研究に取り組み、その成果として論文を完成させる。研究計画の立案から執筆、発表に至るまでの一連の過程を通して、自ら課題を設定し、調査・分析・考察を行い、成果としてまとめる力を養う。なお、本科目は卒業研究を実施する学生を対象とし、必要に応じて共同での研究（共著）を認める。

＜授業の到達目標＞
・自ら設定した研究テーマについて、社会的な課題や問題の本質を明確にし、先行研究を適切に踏まえたうえで、自らの視点や新たな知見を加え、論文としてまとめることができる。・研究の過程および成果について、適切な方法論や理論的枠組みに基づいて論理的に整理し、発表や質疑応答を通して他者に説明することができる。

＜授業の方法＞
本授業は通年科目として実施し、指導教員による個別指導を中心に進める。ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を踏まえ、研究テーマに基づき、論文の作成に向けた指導を段階的に行う。【第1クオーター】研究の本格化・これまでのゼミ活動を踏まえ、研究テーマと問題意識を整理し、論文の方向を具体的に定める。【第2クオーター】論題提出・執筆準備・論文の構成や分析の進め方を整理し、本格的な執筆に向けた準備を進める。また、研究テーマに基づき論題を設定し、所定の期日までに提出する。【第3クオーター】中間報告・内容の見直し・研究の進捗を中間

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：個別指導を中心としつつ、研究の発表や質疑応答を通して主体的に学修に取り組む。中間報告・最終方向では、自身の研究内容についてプレゼンテーションを行う必要がある。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
卒業研究は各自が主体となって進めるものであり、研究テーマの設定から調査・検討、執筆に至るまで、自ら考え、判断しながら取り組むことができる。また、研究内容を整理し、論文としてまとめ、その成果を論理的に説明することができる。授業に臨むにあたり、研究の進捗状況を整理し、原稿やメモ（先行研究の整理、章構成案、疑問点など）を準備すること（事前学習：60分程度）。授業後は、指導内容を踏まえて原稿の修正や追加調査を行い、論文の完成度を高めること（事後学習：60分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
卒業論文の内容（問題設定の妥当性、研究方法の適切性、論理展開および結論の妥当性、先行研究の理解）を60%、最終審査会における発表・審査の評価を20%、研究の進捗状況や執筆への取り組み（主体性・計画性・継続性）を10%、中間報告および最終報告における発表内容（論理性、分かりやすさ、研究内容の伝達）を10%として、総合的に評価する。

＜教科書＞
各自のテーマに沿った個別指導による

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各自のテーマ・執筆内容に沿って個別に指導する	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

16		

科目コード	55000				区　分	コア科目			
授業科目名	卒業研究［秋入学生用］				担当者名	鈴木　真理子			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を基盤として、指導教員のもとで卒業研究に取り組み、その成果として論文を完成させる。研究計画の立案から執筆、発表に至るまでの一連の過程を通して、自ら課題を設定し、調査・分析・考察を行い、成果としてまとめる力を養う。なお、本科目は卒業研究を実施する学生を対象とし、必要に応じて共同での研究（共著）を認める。

＜授業の到達目標＞
・自ら設定した研究テーマについて、社会的な課題や問題の本質を明確にし、先行研究を適切に踏まえたうえで、自らの視点や新たな知見を加え、論文としてまとめることができる。・研究の過程および成果について、適切な方法論や理論的枠組みに基づいて論理的に整理し、発表や質疑応答を通して他者に説明することができる。

＜授業の方法＞
本授業は通年科目として実施し、指導教員による個別指導を中心に進める。ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を踏まえ、研究テーマに基づき、論文の作成に向けた指導を段階的に行う。【第1クオーター】研究の本格化・これまでのゼミ活動を踏まえ、研究テーマと問題意識を整理し、論文の方向を具体的に定める。【第2クオーター】論題提出・執筆準備・論文の構成や分析の進め方を整理し、本格的な執筆に向けた準備を進める。また、研究テーマに基づき論題を設定し、所定の期日までに提出する。【第3クオーター】中間報告・内容の見直し・研究の進捗を中間

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：個別指導を中心としつつ、研究の発表や質疑応答を通して主体的に学修に取り組む。中間報告・最終方向では、自身の研究内容についてプレゼンテーションを行う必要がある。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
卒業研究は各自が主体となって進めるものであり、研究テーマの設定から調査・検討、執筆に至るまで、自ら考え、判断しながら取り組むことができる。また、研究内容を整理し、論文としてまとめ、その成果を論理的に説明することができる。授業に臨むにあたり、研究の進捗状況を整理し、原稿やメモ（先行研究の整理、章構成案、疑問点など）を準備すること（事前学習：60分程度）。授業後は、指導内容を踏まえて原稿の修正や追加調査を行い、論文の完成度を高めること（事後学習：60分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
卒業論文の内容（問題設定の妥当性、研究方法の適切性、論理展開および結論の妥当性、先行研究の理解）を60%、最終審査会における発表・審査の評価を20%、研究の進捗状況や執筆への取り組み（主体性・計画性・継続性）を10%、中間報告および最終報告における発表内容（論理性、分かりやすさ、研究内容の伝達）を10%として、総合的に評価する。

＜教科書＞
各自のテーマに沿った個別指導による

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各自のテーマ・執筆内容に沿って個別に指導する	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

16		

科目コード	55000				区　分	コア科目			
授業科目名	卒業研究［秋入学生用］				担当者名	SACKO　Salif			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を基盤として、指導教員のもとで卒業研究に取り組み、その成果として論文を完成させる。研究計画の立案から執筆、発表に至るまでの一連の過程を通して、自ら課題を設定し、調査・分析・考察を行い、成果としてまとめる力を養う。なお、本科目は卒業研究を実施する学生を対象とし、必要に応じて共同での研究（共著）を認める。

＜授業の到達目標＞
・自ら設定した研究テーマについて、社会的な課題や問題の本質を明確にし、先行研究を適切に踏まえたうえで、自らの視点や新たな知見を加え、論文としてまとめることができる。・研究の過程および成果について、適切な方法論や理論的枠組みに基づいて論理的に整理し、発表や質疑応答を通して他者に説明することができる。

＜授業の方法＞
本授業は通年科目として実施し、指導教員による個別指導を中心に進める。ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を踏まえ、研究テーマに基づき、論文の作成に向けた指導を段階的に行う。【第1クオーター】研究の本格化・これまでのゼミ活動を踏まえ、研究テーマと問題意識を整理し、論文の方向を具体的に定める。【第2クオーター】論題提出・執筆準備・論文の構成や分析の進め方を整理し、本格的な執筆に向けた準備を進める。また、研究テーマに基づき論題を設定し、所定の期日までに提出する。【第3クオーター】中間報告・内容の見直し・研究の進捗を中間

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：個別指導を中心としつつ、研究の発表や質疑応答を通して主体的に学修に取り組む。中間報告・最終方向では、自身の研究内容についてプレゼンテーションを行う必要がある。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
卒業研究は各自が主体となって進めるものであり、研究テーマの設定から調査・検討、執筆に至るまで、自ら考え、判断しながら取り組むことができる。また、研究内容を整理し、論文としてまとめ、その成果を論理的に説明することができる。授業に臨むにあたり、研究の進捗状況を整理し、原稿やメモ（先行研究の整理、章構成案、疑問点など）を準備すること（事前学習：60分程度）。授業後は、指導内容を踏まえて原稿の修正や追加調査を行い、論文の完成度を高めること（事後学習：60分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、ディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
卒業論文の内容（問題設定の妥当性、研究方法の適切性、論理展開および結論の妥当性、先行研究の理解）を60%、最終審査会における発表・審査の評価を20%、研究の進捗状況や執筆への取り組み（主体性・計画性・継続性）を10%、中間報告および最終報告における発表内容（論理性、分かりやすさ、研究内容の伝達）を10%として、総合的に評価する。

＜教科書＞
各自のテーマに沿った個別指導による

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各自のテーマ・執筆内容に沿って個別に指導する	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

16		

科目コード	55009				区　分	コア科目		
授業科目名	課題研究Ⅰ　《通年》[週間オンデマンド]				担当者名	河野　儀久		
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
医療人として社会に出るためには、これまでに学習してきた各専門基礎科目、専門科目を総合的に関連付け、体系的に健康科学関連の理解を深める必要がある．根拠に基づいた医療（EBM）を見極めるために、先行研究を読み取る力・人に説明できる力を養うことを目的とする．課題研究Ⅰでは、グループにおける興味のあるテーマを定め、1つの論文について抄読発表を行なう．そして、同テーマに関連する複数の論文から既知と未知の領域を明確にし、卒業研究を行なうための準備を行なう．

＜授業の到達目標＞
研究論文の構成を理解すること、論文検索ができるようになり，その内容を精査できるようになることを目標としている．更に理解した内容を人に分かりやすくプレゼンテーションができるようになることを目標としている．

＜授業の方法＞
グループにて興味関心のある分野に関連する情報を収集し、分かりやすいプレゼンテーションを検討する．毎回進捗を確認していきながら、論文作成の基本を学ぶ。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有り（グループディスカッション）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業で教わったことを復習し、設定したテーマについて、興味関心を高め、ニュースや論文を参照できるように準備する．各授業で指摘された課題を実施する（約1時間）．

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲(レポート、事前課題等)　30%、発表内容 70%

＜教科書＞

＜参考書＞
鍵和田 京子（2001年11月）　よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方　東京図書

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス（1）	ガイダンス、テーマの設定
2	研究論文の構成	論文の構成，統計について学ぶ
3	研究論文の読み方	研究論文の読み方について学ぶ
4	文献検索	論文検索方法，採択方法について学ぶ
5	課題研究−テーマに関する検討−	課題研究テーマについて，グループディスカッションを行なう．
6	抄読発表（1）	グループ別抄読発表を行ない，質疑応答を行なう．
7	抄読発表（2）	グループ別抄読発表を聞き，質問を行なう．
8	抄読発表（3）	グループ別抄読発表を聞き，質問を行なう．
9	ガイダンス（2）	課題研究論文作成に関するガイダンス
10	研究テーマの再検討	テーマについて再検討をグループディスカッションを行なう．
11	参考文献検索	参考文献の検索方法を学ぶ
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方を学ぶ
13	課題研究を発表する（1）	背景・目的の書き方
14	課題研究を発表する（2）	方法，結果の書き方
15		
16		

科目コード	55009				区　分	コア科目		
授業科目名	課題研究Ⅰ　《通年》[週間オンデマンド]				担当者名	簀戸　崇史		
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
医療人として社会に出るためには、これまでに学習してきた各専門基礎科目、専門科目を総合的に関連付け、体系的に健康科学関連の理解を深める必要がある．根拠に基づいた医療（EBM）を見極めるために、先行研究を読み取る力・人に説明できる力を養うことを目的とする．課題研究Ⅰでは、グループにおける興味のあるテーマを定め、1つの論文について抄読発表を行なう．そして、同テーマに関連する複数の論文から既知と未知の領域を明確にし、卒業研究を行なうための準備を行なう．

＜授業の到達目標＞
研究論文の構成を理解すること、論文検索ができるようになり，その内容を精査できるようになることを目標としている．更に理解した内容を人に分かりやすくプレゼンテーションができるようになることを目標としている．

＜授業の方法＞
グループにて興味関心のある分野に関連する情報を収集し、分かりやすいプレゼンテーションを検討する．毎回進捗を確認していきながら、論文作成の基本を学ぶ。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有り（グループディスカッション）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業で教わったことを復習し、設定したテーマについて、興味関心を高め、ニュースや論文を参照できるように準備する．各授業で指摘された課題を実施する（約1時間）．

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲(レポート、事前課題等)　30%、発表内容 70%

＜教科書＞

＜参考書＞
鍵和田 京子（2001年11月）　よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方　東京図書

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス（1）	ガイダンス、テーマの設定
2	研究論文の構成	論文の構成，統計について学ぶ
3	研究論文の読み方	研究論文の読み方について学ぶ
4	文献検索	論文検索方法，採択方法について学ぶ
5	課題研究−テーマに関する検討−	課題研究テーマについて，グループディスカッションを行なう．
6	抄読発表（1）	グループ別抄読発表を行ない，質疑応答を行なう．
7	抄読発表（2）	グループ別抄読発表を聞き，質問を行なう．
8	抄読発表（3）	グループ別抄読発表を聞き，質問を行なう．
9	ガイダンス（2）	課題研究論文作成に関するガイダンス
10	研究テーマの再検討	テーマについて再検討をグループディスカッションを行なう．
11	参考文献検索	参考文献の検索方法を学ぶ
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方を学ぶ
13	課題研究を発表する（1）	背景・目的・方法・結果の書き方
14	課題研究を発表する（2）	考察，まとめ，参考文献の書き方
15		
16		

科目コード	55010				区　分	コア科目		
授業科目名	課題研究Ⅱ　《通年》[週間オンデマンド]				担当者名	河野　儀久		
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
医療人として社会に出るためには、これまでに学習してきた各専門基礎科目、専門科目を総合的に関連付け、体系的に健康科学関連の理解を深める必要がある．根拠に基づいた医療（EBM）を見極めるために、先行研究を読み取る力・人に説明できる力を養うことを目的とする．課題研究Ⅱでは、グループにおける興味のあるテーマを定め、1つの論文について抄読発表を行なう．そして、同テーマに関連する複数の論文から既知と未知の領域を明確にし、卒業研究を行なうための準備を行なう．

＜授業の到達目標＞
研究論文の構成を理解すること、論文検索ができるようになり，その内容を精査できるようになることを目標としている．更に理解した内容を人に分かりやすくプレゼンテーションができるようになることを目標としている．

＜授業の方法＞
グループにて興味関心のある分野に関連する情報を収集し、分かりやすいプレゼンテーションを検討する．毎回進捗を確認していきながら、論文作成の基本を学ぶ。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループ学習で双方向に理解度を確認する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業で教わったことを復習し、設定したテーマについて、興味関心を高め、ニュースや論文を参照できるように準備する．各授業で指摘された課題を実施する（約1時間）．

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー４（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲(レポート、事前課題等)　30%、発表内容 70%

＜教科書＞

＜参考書＞
鍵和田 京子（2001年11月）　よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方　東京図書

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス（1）	ガイダンス、テーマの設定
2	研究論文の構成	論文の構成，統計について学ぶ
3	研究論文の読み方	研究論文の読み方について学ぶ
4	文献検索	論文検索方法，採択方法について学ぶ
5	課題研究−テーマに関する検討−	課題研究テーマについて，グループディスカッションを行なう．
6	抄読発表（1）	グループ別抄読発表を行ない，質疑応答を行なう．
7	抄読発表（2）	グループ別抄読発表を聞き，質問を行なう．
8	抄読発表（3）	グループ別抄読発表を聞き，質問を行なう．
9	ガイダンス（2）	課題研究論文作成に関するガイダンス
10	研究テーマの再検討	テーマについて再検討をグループディスカッションを行なう．
11	参考文献検索	参考文献の検索方法を学ぶ
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方を学ぶ
13	課題研究を発表する（1）	背景・目的の書き方
14	課題研究を発表する（2）	方法，結果の書き方
15	課題研究を発表する（3）	考察，まとめ，参考文献の書き方
16		

科目コード	61003				区　分	コア科目			
授業科目名	スポーツ健康論				担当者名	眞鍋　芳江			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

今般の医療制度改革においては、生活習慣病予防が生涯を通じた個人の健康づくりだけでなく、中長期的な医療費適正化対策の柱の一つとして位置づけられており、今後展開される本格的な生活習慣病対策においては、一次予防に留まらず二次予防も含めた健康づくりのための運動を指導する専門家の必要性が増している。本講義においては、運動プログラムの基本的な考え方を理解し、対象特性に合わせた包括的な運動プログラムの作成方法、運動行動変容の理論と実際について学ぶ。

＜授業の到達目標＞

運動プログラムの基本的な考え方を理解し、対象特性に合わせた包括的な運動プログラムの作成できるようになること、そして成果をもたらすためには行動の継続が重要であることを理解し、行動変容を生じさせることを目的とした行動変容理論・モデルおよび技法についての知識を習得することを目標としている。

＜授業の方法＞

教科書を基に、パワーポイントによる講義形式で授業を行う。毎回の確認問題およびフィードバックにより理解を深めることとする。資料の配布はクラスルームを介して連絡を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素の有無　有２、３人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各テーマに関して、事前に教科書を熟読し、参考図書・参考資料を参照しながら、授業の理解を深める。（1時間程度）復習：確認問題の結果について振返りを行い、理解を深める。不明な点があれば授業時間に提示する教科書・参考図書・参考資料を用いて調べる。（2時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度・学習意欲・確認問題 30%、 定期試験 70%

＜教科書＞

公益財団法人　健康・体力づくり事業財団（2024年）　健康運動指導士養成講習会テキスト（上・下）　健康・体力づくり事業財団

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	検診結果について①	スポーツと健康の関係についての概略と検診結果の読み方
2	検診結果について②	検診結果による効果測定
3	運動のためのメディカルチェック	運動のための内科的メディカルチェックの重要性
4	安静時心電図	安静時心電図の基本の理解
5	負荷心電図	運動負荷中における心電図の実際
6	運動負荷試験	運動負荷試験の実際
7	内科疾患のリハビリテーションと運動療法	呼吸器疾患、循環器疾患にに対する運動プログラム
8	身体活動量の定量法とその実際	身体活動量の測定法と評価方法
9	運動処方①	生活習慣病に対する運動療法プログラム（包括的プログラム）
10	運動処方②	生活習慣病に対する運動療法プログラム（過体重・肥満症と高血糖・糖尿病）
11	運動処方③	生活習慣病に対する運動療法プログラム(高血圧と脂質異常症、ロコモティブシンドローム)
12	運動処方④	服薬者に対する運動療法プログラム
13	運動行動変容の理論と実際①	行動変容の理論
14	運動行動変容の理論と実際②	行動変容理論の実践的適用
15		
16		

科目コード	61005				区　分	コア科目			
授業科目名	運動障害と予防および救急処置［資格取得希望者］				担当者名	河合　洋二郎			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
運動は、健康維持や増進に非常に貢献するが、その一方でそれ自身危険を伴う行為でもある。運動を景気に障害の発生する場合がある。障害の発生機序を理解し、その予防を合わせて勉強する。

＜授業の到達目標＞
本講義は後の科目（スポーツ健康論など）の役に立つ講義を目指す。

＜授業の方法＞
教科書と共に必要に応じてプリントを配布し、それに基づいて解説する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
次回授業内容の準備（1時間程度）、振り返りレポートの提出（2時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
振り返りレポート10%、定期試験90%

＜教科書＞
「健康運動指導士養成講習会テキスト」　財団法人健康・体力づくり財団

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	序論	総論。障害とは、適応との違いとは
2	外科的障害（1）	上肢（上肢帯、上腕、肘、前腕、手）の障害
3	外科的障害（2）	下肢（下肢帯、大腿、膝、下腿、足）の障害
4	外科的障害（3）	脊髄の障害
5	外科的障害の予防	外科的外傷の予防法
6	外科的障害の治療（1）	外科的救急処置について（全身管理と局所管理）
7	外科的障害の治療（2）、小テスト	実習：外科救急処置の実習（状態把握、冷却）、小テスト
8	外科的障害の治療（3）	実習：外科的救急処置の実習（固定法、テーピング）
9	内科的障害（1）	内科的急性障害（突然死、熱中症）などの疫学、成因、病因、病態生理
10	内科的障害（2）	内科的慢性障害（貧血、オーバートレーニング症候群など）の疫学、成因、病因、病態生理
11	内科的障害の予防	内科的障害の予防法
12	内科的障害の治療（1）	救急蘇生法について、状態把握、胸痛の分類
13	内科的障害の治療（2）	実習：熱中症、過換気症候群の救急処置
14	内科的障害の治療（3）、特殊環境下における運動障害と予防	実習：救急蘇生法、AED、CRP、高山病、潜水病、寒冷地での低体温について
15		
16		

科目コード	61007				区　分	コア科目			
授業科目名	トレーニング演習Ⅰ(基礎)[A]				担当者名	國友　亮佑／伊藤　亮輔／三浦　孝仁			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
競技力向上のためには筋力の向上は不可欠であり、また生涯にわたり健康的な生活を送るためにも筋力を高めることは重要な要素となる。筋力を高めるレジスタンストレーニングを中心に、各種トレーニング法について学習する。　競技スポーツ科学科用の科目になります。

＜授業の到達目標＞
各種トレーニングの目的を理解し、正しいフォームでレジスタンストレーニングを実施できるようになる。

＜授業の方法＞
グループワークを中心に実技を実施する。グループ内で相互にエクササイズのフォームをチェックし、動作に対するフィードバックを行っていく。その際に、スマートフォンを使用して実技の撮影も行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループワーク

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：指定の教科書に記載されているエクササイズのチェックポイントを確認しておく。(1時間)復習：授業中に撮影したトレーニング映像を視聴しながら、自分のエクササイズフォームの課題を確認し、次回授業までに動作練習を行う。（1時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度（授業への取り組み、課題の提出状況、グループワークへの貢献度）30%、実技試験 70%

＜教科書＞
IPU環太平洋大学トップガン・トレーナーチーム2019　筋トレガイドブック　丸善

＜参考書＞
NSCAジャパン　NSCA決定版ストレングストレーニング＆コンディショニング第４版　Book House HD
NSCAジャパン　NSCAレジスタンストレーニングのためのエクササイズテクニックマニュアル第3版　NSCAジャパン

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法の確認、講義の概要
2	自体重のエクササイズ	自体重トレーニング
3	ウエイトトレーニングにおける安全管理	ベンチプレス、バックスクワットの補助の実践
4	トレーニング動作の分析	ベンチプレス、バックスクワット、デッドリフト動作のセルフチェック
5	下半身のエクササイズ①	デッドリフトのエクササイズテクニックについて
6	下半身のエクササイズ②	スクワットのエクササイズテクニックについて
7	下半身のエクササイズ③	片脚種目のエクササイズテクニックについて
8	上半身のエクササイズ①	ベンチプレスのエクササイズテクニックについて
9	上半身のエクササイズ②	ベントオーバーローのエクササイズテクニックについて
10	上半身のエクササイズ③	ショルダープレスのエクササイズテクニックについて
11	上半身のエクササイズ④	プルアップ（チンニング）のエクササイズテクニックについて
12	全身のエクササイズ①	ハイプルのエクササイズテクニックについて
13	全身のエクササイズ②	ハングクリーンのエクササイズテクニックについて
14	実技試験	ベンチプレス、バックスクワットの動作試験
15		
16		

科目コード	61007				区　分	コア科目			
授業科目名	トレーニング演習Ⅰ(基礎)[B]				担当者名	國友　亮佑／伊藤　亮輔／三浦　孝仁			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
競技力向上のためには筋力の向上は不可欠であり、また生涯にわたり健康的な生活を送るためにも筋力を高めることは重要な要素となる。筋力を高めるレジスタンストレーニングを中心に、各種トレーニング法について学習する。　競技スポーツ科学科用の科目になります。

＜授業の到達目標＞
各種トレーニングの目的を理解し、正しいフォームでレジスタンストレーニングを実施できるようになる。

＜授業の方法＞
グループワークを中心に実技を実施する。グループ内で相互にエクササイズのフォームをチェックし、動作に対するフィードバックを行っていく。その際に、スマートフォンを使用して実技の撮影も行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループワーク

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：指定の教科書に記載されているエクササイズのチェックポイントを確認しておく。(1時間)復習：授業中に撮影したトレーニング映像を視聴しながら、自分のエクササイズフォームの課題を確認し、次回授業までに動作練習を行う。（1時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度（授業への取り組み、課題の提出状況、グループワークへの貢献度）30%、実技試験 70%

＜教科書＞
IPU環太平洋大学トップガン・トレーナーチーム2019　筋トレガイドブック　丸善

＜参考書＞
NSCAジャパン　NSCA決定版ストレングストレーニング＆コンディショニング第４版　Book House HD
NSCAジャパン　NSCAレジスタンストレーニングのためのエクササイズテクニックマニュアル第3版　NSCAジャパン

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法の確認、講義の概要
2	自体重のエクササイズ	自体重トレーニング
3	ウエイトトレーニングにおける安全管理	ベンチプレス、バックスクワットの補助の実践
4	トレーニング動作の分析	ベンチプレス、バックスクワット、デッドリフト動作のセルフチェック
5	下半身のエクササイズ①	デッドリフトのエクササイズテクニックについて
6	下半身のエクササイズ②	スクワットのエクササイズテクニックについて
7	下半身のエクササイズ③	片脚種目のエクササイズテクニックについて
8	上半身のエクササイズ①	ベンチプレスのエクササイズテクニックについて
9	上半身のエクササイズ②	ベントオーバーローのエクササイズテクニックについて
10	上半身のエクササイズ③	ショルダープレスのエクササイズテクニックについて
11	上半身のエクササイズ④	プルアップ（チンニング）のエクササイズテクニックについて
12	全身のエクササイズ①	ハイプルのエクササイズテクニックについて
13	全身のエクササイズ②	ハングクリーンのエクササイズテクニックについて
14	実技試験	ベンチプレス、バックスクワットの動作試験
15		
16		

科目コード	61007				区　分	コア科目		
授業科目名	トレーニング演習Ⅰ(基礎)[PH用]				担当者名	河野　儀久		
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
競技力向上のためには筋力の向上は不可欠であり、また生涯にわたり健康的な生活を送るためにも筋力を高めることは重要な要素となる。筋力を高めるレジスタンストレーニングを中心に、各種トレーニング法について学習する。　競技スポーツ科学科用の科目になります。

＜授業の到達目標＞
各種トレーニングの目的を理解し、正しいフォームでレジスタンストレーニングを実施できるようになる。

＜授業の方法＞
グループワークを中心に実技を実施する。グループ内で相互にエクササイズのフォームをチェックし、動作に対するフィードバックを行っていく。その際に、スマートフォンを使用して実技の撮影も行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループワーク

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：指定の教科書に記載されているエクササイズのチェックポイントを確認しておく。(1時間)復習：授業中に撮影したトレーニング映像を視聴しながら、自分のエクササイズフォームの課題を確認し、次回授業までに動作練習を行う。（1時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度（授業への取り組み、課題の提出状況、グループワークへの貢献度）30%、実技試験 70%

＜教科書＞
IPU環太平洋大学トップガン・トレーナーチーム2019　筋トレガイドブック　丸善

＜参考書＞
NSCAジャパン　NSCA決定版ストレングストレーニング＆コンディショニング第４版　Book House HD
NSCAジャパン　NSCAレジスタンストレーニングのためのエクササイズテクニックマニュアル第3版　NSCAジャパン

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法の確認、講義の概要
2	上半身のエクササイズ①	胸部のエクササイズテクニックについて
3	上半身のエクササイズ②	肩部のエクササイズテクニックについて
4	上半身のエクササイズ③	上背部のエクササイズテクニックについて
5	上半身のエクササイズ①	下背部のエクササイズテクニック
6	下半身のエクササイズ①	デッドリフトのエクササイズテクニックについて
7	下半身のエクササイズ②	スクワットのエクササイズテクニックについて
8	下半身のエクササイズ③	片脚種目のエクササイズテクニックについて
9	中間実技試験	ベンチプレス、スクワットの動作評価
10	パワーエクササイズ①	ハングクリーンのエクササイズテクニックについて
11	パワーエクササイズ②	ハングクリーンのエクササイズテクニックについて②
12	トレーニング方法①	筋肥大トレーニングの方法
13	トレーニングの方法②	筋力向上トレーニングの方法
14	トレーニングの方法④	パワー向上トレーニングの方法
15		
16		

科目コード	61007				区　分	コア科目		
授業科目名	トレーニング演習Ⅰ(基礎)[PP2621組用]				担当者名	國友　亮佑／三浦　孝仁		
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
競技力向上のためには筋力の向上は不可欠であり、また生涯にわたり健康的な生活を送るためにも筋力を高めることは重要な要素となる。筋力を高めるレジスタンストレーニングを中心に、各種トレーニング法について学習する。　競技スポーツ科学科用の科目になります。

＜授業の到達目標＞
各種トレーニングの目的を理解し、正しいフォームでレジスタンストレーニングを実施できるようになる。

＜授業の方法＞
グループワークを中心に実技を実施する。グループ内で相互にエクササイズのフォームをチェックし、動作に対するフィードバックを行っていく。その際に、スマートフォンを使用して実技の撮影も行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループワーク

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：指定の教科書に記載されているエクササイズのチェックポイントを確認しておく。(1時間)復習：授業中に撮影したトレーニング映像を視聴しながら、自分のエクササイズフォームの課題を確認し、次回授業までに動作練習を行う。（1時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度（授業への取り組み、課題の提出状況、グループワークへの貢献度）30%、実技試験 70%

＜教科書＞
IPU環太平洋大学トップガン・トレーナーチーム2019　筋トレガイドブック　丸善

＜参考書＞
NSCAジャパン　NSCA決定版ストレングストレーニング＆コンディショニング第４版　Book House HD
NSCAジャパン　NSCAレジスタンストレーニングのためのエクササイズテクニックマニュアル第3版　NSCAジャパン

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法の確認、講義の概要
2	自体重のエクササイズ	自体重トレーニング
3	ウエイトトレーニングにおける安全管理	ベンチプレス、バックスクワットの補助の実践
4	トレーニング動作の分析	ベンチプレス、バックスクワット、デッドリフト動作のセルフチェック
5	下半身のエクササイズ①	デッドリフトのエクササイズテクニックについて
6	下半身のエクササイズ②	スクワットのエクササイズテクニックについて
7	下半身のエクササイズ③	片脚種目のエクササイズテクニックについて
8	上半身のエクササイズ①	ベンチプレスのエクササイズテクニックについて
9	上半身のエクササイズ②	ベントオーバーローのエクササイズテクニックについて
10	上半身のエクササイズ③	ショルダープレスのエクササイズテクニックについて
11	上半身のエクササイズ④	プルアップ（チンニング）のエクササイズテクニックについて
12	全身のエクササイズ①	ハイプルのエクササイズテクニックについて
13	全身のエクササイズ②	ハングクリーンのエクササイズテクニックについて
14	実技試験	ベンチプレス、バックスクワットの動作試験
15		
16		

科目コード	61007				区　分	コア科目		
授業科目名	トレーニング演習Ⅰ(基礎)[PP2622組用]				担当者名	國友　亮佑／三浦　孝仁		
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
競技力向上のためには筋力の向上は不可欠であり、また生涯にわたり健康的な生活を送るためにも筋力を高めることは重要な要素となる。筋力を高めるレジスタンストレーニングを中心に、各種トレーニング法について学習する。　競技スポーツ科学科用の科目になります。

＜授業の到達目標＞
各種トレーニングの目的を理解し、正しいフォームでレジスタンストレーニングを実施できるようになる。

＜授業の方法＞
グループワークを中心に実技を実施する。グループ内で相互にエクササイズのフォームをチェックし、動作に対するフィードバックを行っていく。その際に、スマートフォンを使用して実技の撮影も行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループワーク

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：指定の教科書に記載されているエクササイズのチェックポイントを確認しておく。(1時間)復習：授業中に撮影したトレーニング映像を視聴しながら、自分のエクササイズフォームの課題を確認し、次回授業までに動作練習を行う。（1時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度（授業への取り組み、課題の提出状況、グループワークへの貢献度）30%、実技試験 70%

＜教科書＞
IPU環太平洋大学トップガン・トレーナーチーム2019　筋トレガイドブック　丸善

＜参考書＞
NSCAジャパン　NSCA決定版ストレングストレーニング＆コンディショニング第４版　Book House HD
NSCAジャパン　NSCAレジスタンストレーニングのためのエクササイズテクニックマニュアル第3版　NSCAジャパン

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法の確認、講義の概要
2	自体重のエクササイズ	自体重トレーニング
3	ウエイトトレーニングにおける安全管理	ベンチプレス、バックスクワットの補助の実践
4	トレーニング動作の分析	ベンチプレス、バックスクワット、デッドリフト動作のセルフチェック
5	下半身のエクササイズ①	デッドリフトのエクササイズテクニックについて
6	下半身のエクササイズ②	スクワットのエクササイズテクニックについて
7	下半身のエクササイズ③	片脚種目のエクササイズテクニックについて
8	上半身のエクササイズ①	ベンチプレスのエクササイズテクニックについて
9	上半身のエクササイズ②	ベントオーバーローのエクササイズテクニックについて
10	上半身のエクササイズ③	ショルダープレスのエクササイズテクニックについて
11	上半身のエクササイズ④	プルアップ（チンニング）のエクササイズテクニックについて
12	全身のエクササイズ①	ハイプルのエクササイズテクニックについて
13	全身のエクササイズ②	ハングクリーンのエクササイズテクニックについて
14	実技試験	ベンチプレス、バックスクワットの動作試験
15		
16		

科目コード	61008				区　分	コア科目		
授業科目名	トレーニング演習Ⅱ(応用)[PS用]				担当者名	江波戸　智希		
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
コンディショニングについて理解を行いつつ、競技力向上のためには、高めた筋力をパワーやスピードに転換していく事が求められ、レジスタンストレーニング以外の様々なトレーニングを実践する事で総合的に体力要素の向上をさせていく必要がある。また、筋パワーを高める事は、機能的能力を改善し高齢者の転倒予防など生活の質を向上させる事にも寄与する。そこで、本授業では、体力諸要素である可動域、バランス、筋力、パワー、スピード・アジリティ、持久力等の各種トレーニングの立案・指導するために必要な知識と技能を習得することを目的とする

＜授業の到達目標＞
競技特性を分析を行い、各種トレーニングの目的を理解し、適切なフォーム（テクニック）や設定（プログラム）でトレーニングを実施できる基礎を習得する。

＜授業の方法＞
演習。オンデマンド課題と併用して行い、パワーポイントや動画での説明と実技を中心に実施する。また、指導実践の際はグループワーク・ディスカッションを行う。グーグルフォームにて省察レポートを提出させる。この科目は競技スポーツ科学科学生のみ履修できる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有基本的には実技をメインにて行う。5、6人のグループに分かれ、ディスカッション、グループワークを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習　解剖学や生理学、トレーニング論等の基礎理論を確認しておく。（毎回、1時間程度）復習　授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。(毎回、1時間程度)

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
課題(期末試験)５０％、受講態度(授業の取り組み・グループへの貢献)５０％

＜教科書＞

＜参考書＞
NSCA　ジャンパン　2018年1月30日　NSCA決定版　ストレングストレーニング＆コンディショニング第４版　ブックハウスHD
日本トレーニング指導者協会　2014年3月5日　トレーニング指導者テキスト　実践編　改訂版　大修館書店
公益財団法人日本スポーツ協会　2022年11月30日（第1刷）　『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト　3巻 コンディショニング』　（公財）日本スポーツ協会

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	授業のねらい　コンディショニング(トレーニング）の総論と正しい動作の理解	授業のねらいと進め方　体力、トレーニングとは　トレーニングの原理・原則
2	可動域・柔軟性トレーニング	抑制・伸長テクニック　器具によるリリース　各ストレッチ等
3	コア・バランストレーニング	腹圧・IAPの獲得・向上　スタビリティトレーニング　神経筋・固有受容器トレーニング
4	筋力・パワートレーニング①　基本動作	基本動作獲得　スクワットジャンプ　メディシンボール投げ等
5	筋力・パワートレーニング②とコーディネーション	プライオメトリクス　コーディネーショントレーニング
6	スプリントスピードトレーニング	トリプルエクステンションの獲得　ウォールドリル　ハードルドリル等
7	アジリティトレーニング①　(加速動作)	サイドステップ・クロスオーバー動作・加速動作の獲得　Ｔドリル等
8	アジリティトレーニング②　(減速・停止動作)	パワーポジション・ステップ・減速・停止動作の獲得　アプローチから減速等　90度、180度切り返し等
9	代謝系・持久力トレーニング①	マルチステージテスト
10	代謝系・持久力トレーニング②	持久力トレーニング(LT　OBLA　VO2max強度)　サーキットトレーニング
11	ウォーミングアップとクーリングダウン	ウォーミングアップとクーリングダウンの方法と実際
12	各種トレーニング振り返り①	各種トレーニング振り返りと実践
13	各種トレーニング振り返り②	各種トレーニング振り返りと実践
14	期末試験　まとめ	期末試験　まとめ

15 16		

科目コード	61008				区　分	コア科目		
授業科目名	トレーニング演習Ⅱ(応用)[トレーナー用]				担当者名	江波戸　智希		
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
コンディショニングについて理解を行いつつ、競技力向上のためには、高めた筋力をパワーやスピードに転換していく事が求められ、レジスタンストレーニング以外の様々なトレーニングを実践する事で総合的に体力要素の向上をさせていく必要がある。また、筋パワーを高める事は、機能的能力を改善し高齢者の転倒予防など生活の質を向上させる事にも寄与する。そこで、本授業では、体力諸要素である可動域、バランス、筋力、パワー、スピード・アジリティ、持久力等の各種トレーニングの立案・指導するために必要な知識と技能を習得することを目的とする

＜授業の到達目標＞
競技特性を分析を行い、各種トレーニングの目的を理解し、適切なフォーム（テクニック）や設定（プログラム）でトレーニングを実施でき、正しい指導方法を習得することができる。

＜授業の方法＞
演習。パワーポイントや動画での説明と実技を中心に実施する。また、指導実践の際はグループワーク・ディスカッションを行う。グーグルフォームにて省察レポートを提出させる。この科目は実技を伴う演習のため履修上限を定める。履修上限人数：1コマ　36名このトレーニング演習Ⅱ（応用）は資格必須科目であるため、優先的に履修できる条件を設定し（優先条件）、こちらで履修の可否とクラス分け(時間割)を行います。優先条件は以下になります。　優先①：JSPO-ATとJPSU-スポーツトレーナーとJATI-ATIの取得予定（資格必須

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有基本的には実技をメインにて行う。5、6人のグループに分かれ、ディスカッション、グループワークを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習　解剖学や生理学、トレーニング論等の基礎理論を確認しておく。（毎回、1時間程度）復習　授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。(毎回、1時間程度)

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
課題(指導実践・振り返りレポート含む)５０%、受講態度(授業の取り組み・グループへの貢献)５０%

＜教科書＞

＜参考書＞
NSCA　ジャンパン　2018年1月30日　NSCA決定版　ストレングストレーニング＆コンディショニング第４版　ブックハウスHD
日本トレーニング指導者協会　2014年3月5日　トレーニング指導者テキスト　実践編　改訂版　大修館書店
公益財団法人日本スポーツ協会　2022年11月30日（第1刷）　『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト　3巻 コンディショニング』　（公財）日本スポーツ協会

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	授業のねらい　コンディショニング(トレーニング）の総論と正しい動作の理解	授業のねらいと進め方　体力、トレーニングとは　トレーニングの原理・原則
2	可動域・柔軟性トレーニング	抑制・伸長テクニック　器具によるリリース　各ストレッチ等
3	コア・バランストレーニング	腹圧・IAPの獲得・向上　スタビリティトレーニング　神経筋・固有受容器トレーニング
4	筋力・パワートレーニング①　基本動作	基本動作獲得　スクワットジャンプ　メディシンボール投げ等
5	筋力・パワートレーニング②とコーディネーション	プライオメトリクス　コーディネーショントレーニング
6	スプリントスピードトレーニング	トリプルエクステンションの獲得　ウォールドリル　ハードルドリル等
7	アジリティトレーニング①　(加速動作)	サイドステップ・クロスオーバー動作・加速動作の獲得　Tドリル等
8	アジリティトレーニング②　(減速・停止動作)	パワーポジション・ステップ・減速・停止動作の獲得　アプローチから減速等　90度、180度切り返し等
9	代謝系・持久力トレーニング①	マルチステージテスト
10	代謝系・持久力トレーニング②	持久力トレーニング(LT　OBLA　VO2max強度)　サーキットトレーニング
11	ウォーミングアップとクーリングダウン	ウォーミングアップとクーリングダウンの方法と実際
12	グループワーク　競技特性分析、立案と	グループに分かれて　トレーニングを立案する　また、負荷のモニタリング方法を

	トレーニング負荷のモニタリング	知る
13	グループワーク　指導実践①	指導実施者と指導対象者に分かれて指導実践
14	グループワーク　指導実践②	指導実施者と指導対象者に分かれて指導実践　まとめ
15		
16		

科目コード	61010				区　分	コア科目		
授業科目名	スポーツ・レクリエーション演習				担当者名	宮本　彩		
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
スポーツを手段として活用し、心の元気づくりを行うとともに、スポーツ・レクリエーション活動による健康増進効果を図る専門の人材を養成するプログラムの一環を担う。スポーツ・レクリエーション活動の理論と方法を実践を通して理解し、身につけることを目的としている。

＜授業の到達目標＞
レクリエーションという言葉の主旨を理解し、他者にスポーツ・レクリエーション活動の楽しさと効果を伝え、継続へと繋げることができる。

＜授業の方法＞
スライドと配布資料をもとに講義を展開するとともに、指導実践に向けた演習を行う。前時の講義内容の振り返りを、毎時において振り返りレポートを通じて行う。その他、グループワークを通じて本時の授業の理解を深める。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素：有グループに分かれ、単元で学んだ内容についてディスカッションを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習として、与えられた課題に対し、参考書やインターネットを利用して情報収集に努め、レポート作成に取り組む（90分）。復習として、前時に記録したノートや配布された資料をもとに授業の振り返りをする（30分）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
日常の授業における実践的な態度および振り返りレポートを含む課題提出 70%最終講義を終えた上でのまとめレポート 30%

＜教科書＞
(公財)日本レクリエーション協会　スポーツ・レクリエーション指導者養成テキスト「スポレク活動で健康寿命を延伸」　2019年

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方，および授業におけるルールの確認
2	スポーツ・レクリエーション概論	スポーツ・レクリエーションとは，スポーツ・レクリエーション指導者の使命
3	スポーツ・レクリエーション生理学	日本人の生涯と高齢期の身体的特色，高齢期に訪れる危機、危機を回復する運動効果
4	スポーツ・レクリエーション心理学	高齢者の心理的特徴と運動やスポーツ・レクリエーションの心理的効果
5	スポーツ未実施者参加促進法	スポーツ未実施者参加促進法の進め方と体験会で活用できるスポレクワーク
6	スポーツ・レクリエーションの継続のための場づくり	活動の場づくりの必要性とはじめの一歩
7	スポーツ行政の仕組みと連携方法	何故、行政と連携なのか
8	動機付けの支援技術Ⅰ	信頼関係づくりの方法・ホスタビリティ，良好な集団作りの方法・アイスブレーキング，スポレクの効果を理解し意欲を高める言葉かけ
9	動機付けの支援技術Ⅱ	スポーツ未実施者を引き込む手法と楽しめる指導，対象者の相互作用を促進するコミュニケーション技術，継続意欲を高めるスポレク活動の展開
10	活動理解	コミュニケーションを深める展開方法とプログラム化する方法
11	安全管理の基礎	救急対応と救急体制の作り方
12	総合演習Ⅰ	スポーツ未実施者参加促進法演習とスポーツ・レクリエーション指導実習その１
13	総合演習Ⅱ	スポーツ未実施者参加促進法演習とスポーツ・レクリエーション指導実習その２
14	総合演習Ⅲ	スポーツ未実施者参加促進法演習とスポーツ・レクリエーション指導実習その３
15		
16		

科目コード	61011				区　分	コア科目		
授業科目名	トレーニング演習Ⅲ(発展)				担当者名	伊藤　亮輔		
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
トップパフォーマンスの発揮のためには、トレーニング演習Ⅰ(基礎)、トレーニング演習Ⅱ(応用)で学んだ基本的・競技特異的なトレーニング方法に加えて、内的・外的な制約に対して、個人にあわせたコンディショニングが必要になる。そこで本授業では、アスリートを取り巻くさまざまな内的・外的要因について最新の知見を学び、トップコンディションを維持・向上するために、自立して対処する実践力を習得することを目的とする。

＜授業の到達目標＞
アスリートを取り巻く様々な制約(身体的課題、技術的課題、傷害、環境要因など)について理解し、その制約を自分の力で解決することができる。

＜授業の方法＞
演習。オンデマンド課題と併用して行う。本授業は講義と実技を組み合わせて行う。各テーマの導入部分はパワーポイント等を用いて説明し、実際のモデルケースを提示してグループディスカッションを行い、解決策を作成、実践する。必要に応じてテーマに精通したゲスト講師を呼ぶ。Google フォームにて省察レポートを提出させる。この科目は競技スポーツ科学科学生のみ履修できる。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有5、6人のグループに分かれ、実際に競技現場で起きる問題点について意見をまとめ、グループごとに発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習　各テーマに沿った基礎理論を確認しておく(毎回、1時間程度)。復習　各テーマの問題、新たに得た解決策などをノート にまとめておき、振り返りレポートを作成する(毎回、1時間程度)。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３(体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
課題(期末試験)50%、受講態度(学習意欲、グループへの貢献)50%

＜教科書＞

＜参考書＞
NSCA ジャンパン 2018年1月30日　NSCA決定版 ストレングストレーニ ング&コンディショニング第4版　ブックハウスHD
公益財団法人日本スポーツ協会　2022年11月30日(第1刷)　『公認アスレティックトレーナー専 門科目テキスト 3巻 コンディショニ ング』　(公財)日本スポーツ協会
公益財団法人日本スポーツ協会　2022年11月30日(第1刷)　『公認アスレティックトレーナー専 門科目テキスト 4巻 リコンディショニ ング』　(公財)日本スポーツ協会

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	授業のねらい　アスリートが対処すべき内的・外的要因	授業のねらいと進め方　トレーニング演習Ⅰ、Ⅱの振り返りと内的・外的要因の整理
2	内的要因①フィジカル(理論)	状況に応じたトレーニングの選択を理解
3	内的要因①フィジカル(実践)	状況に応じたトレーニングの実践
4	内的要因②スキル(理論)	スポーツ動作の理解
5	内的要因②スキル(実践)	スポーツ動作の実践
6	内的要因③メンタル(理論)	アスリートに生じるメンタルの問題を理解
7	内的要因④メディカル(理論)	リコンディショニングの理解
8	内的要因④メディカル(実践)	リコンディショニングプログラムの実践
9	内的要因の振り返り	アスリートが対処すべき内的制約についてまとめる
10	外的要因①環境要因の対策(理論)	暑熱環境、睡眠、時差などの環境要因について理解
11	外的要因②トレーニング計画(理論)	シーズンに合わせたトレーニングプログラムを理解
12	外的要因の振り返り	アスリートが対処すべき外的制約についてまとめる
13	ICTおよび各種テクノロジーを活用したコンディショニング事例(理論)	スポーツ界で活用されるテクノロジーを理解
14	まとめ	授業の総復讐
15		

16		

科目コード	61013				区　分	コア科目		
授業科目名	トレーニング科学Ⅰ(基礎)				担当者名	吉岡　利貢		
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本講義では、トレーニングの基礎的概念をベースに、各種体力（筋力、パワー、持久力など）を効果的に高めるためのトレー ニング計画を立てる能力を養う。また、トレーニングの成否を判断するための体力の評価法についても学習する。

＜授業の到達目標＞
各々の課題に応じたトレーニングを計画し、トレーニングの成否を評価する能力を養うことを目標とする。

＜授業の方法＞
パワーポイントを用いたオンデマンド講義を視聴した上で、対面授業において確認テストとグループディスカッションを行う

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション）5、6人のグループに分かれ、授業テーマに対する意見をグループで共有する

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：書き込み式教材の必要箇所を埋めた上で、参考資料を熟読すること。復習：授業に対するコメントを翌日の17時までに回答した上で、次回の授業で行う確認テストの準備を行うこと。（所要時間：2時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
1）毎回の評価：5点×15回（確認テスト・意見交換＋レポート提出）2）期末レポート評価：25点期末レポートは、毎回の授業で課すレポートをまとめたものに総合考察を付けて提出してもらいます。毎回のレポート評価は提出点のみとし、期末レポートで内容まで評価します。

＜教科書＞

＜参考書＞
宮下充正　トレーニングの科学的基礎　ブックハウスHD

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概要
2	トレーニングの基礎的概念①	トレーニングの原理・原則、量・強度・質のとらえ方
3	トレーニングの基礎的概念②	トレーニングの分類、負荷特性
4	力強さを高めるためのトレーニング	最大筋力、筋肥大、レジスタンストレーニング
5	力強さを持続するためのトレーニング	筋持久力、サーキット・トレーニング
6	ねばり強さを高めるためのトレーニング	最大酸素摂取量、ＬＴ、インターバル・トレーニング
7	トレーニングの順序・組み合わせ	コンカレント・トレーニング、クロス・トレーニング
8	トレーニングと環境	寒冷、暑熱、高地
9	トレーニングと栄養補給	スポーツライフマネジメント、三大栄養素
10	コンディショニングの理論と方法	疲労と体力の関係性、オーバートレーニング症候群
11	トレーニング効果の評価方法（1）ラボテスト	最大酸素摂取量、最大筋力、各種跳躍能力の測定と評価
12	トレーニング効果の評価方法（2）フィールドテスト	筋力、パワーおよび跳躍能力の測定と評価
13	トレーニング計画の作成（1）陸上競技	課題設定と達成のための計画づくり
14	トレーニング計画の作成（2）球技	課題設定と達成のための計画づくり
15	トレーニング計画の作成（3）武道	課題設定と達成のための計画づくり
16		

科目コード	61014				区　分	コア科目		
授業科目名	トレーニング科学Ⅱ(応用)				担当者名	田中　耕作		
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本講義では、トレーニングの基礎的概念をベースに、各種体力（筋力、パワー、持久力など）を効果的に高めるためのトレー ニング計画を立てる能力を養う。また、トレーニングの成否を判断するための体力の評価法についても学習する。

＜授業の到達目標＞
各々の課題に応じたトレーニングを計画し、トレーニングの成否を評価することができる。

＜授業の方法＞
講義と受講者による発表・討論を行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有（プレゼンテーション・ディスカッション）5、6人のグループに分かれてプレゼンテーションを行い、その内容についてディスカッションする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習として、参考図書（トレーニングの科学的基礎）および配布資料を熟読し、専門用語や理論の理解を深める（2時間程度）。事後学習として、授業内容を整理し、トレーニング理論と実践の関連をまとめた課題やレポートを作成する（1〜2時間程度）。必要に応じてデータの整理・分析も行う。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度（提出物を含む）60%、発表40%

＜教科書＞

＜参考書＞
宮下充正　トレーニングの科学的基礎　ブックハウスHD

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概要
2	トレーニングの基礎的概念①	トレーニングの原理・原則、量・強度・質のとらえ方
3	トレーニングの基礎的概念②	トレーニングの分類、負荷特性
4	トレーニングに関する最近の研究①	日本語論文の探し方と読み方
5	トレーニングに関する最近の研究②	英語論文の探し方と読み方
6	トレーニングに関する発表および討論①	発表、質疑応答、レポート作成
7	トレーニングに関する発表および討論②	発表、質疑応答、レポート作成
8	トレーニングに関する発表および討論③	発表、質疑応答、レポート作成
9	トレーニングに関する発表および討論④	発表、質疑応答、レポート作成
10	トレーニングに関する発表および討論⑤	発表、質疑応答、レポート作成
11	トレーニングに関する発表および討論⑥	発表、質疑応答、レポート作成
12	トレーニングに関する発表および討論⑦	発表、質疑応答、レポート作成
13	トレーニングに関する発表および討論⑧	発表、質疑応答、レポート作成
14	トレーニングに関する発表および討論⑨	発表、質疑応答、レポート作成
15		
16		

科目コード	61015				区　分	コア科目			
授業科目名	体育方法学・実習［PP2631組用］				担当者名	久田　孝			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	講義・演習・実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本授業、体育方法学は運動や体育を「知る」という観点から指導法・教授法を扱う分野であり、指導原理・学習理論・評価方法などを体系的実践的に学び、本授業で学んだ指導理論を、集団行動の実践にて検証する。集団行動では統一された動作を行う集団にて行うことにより、規律性・協調性・責任感を養い、身体操作能力および対人関係能力の向上を目的とする。基本動作（姿勢・方向転換・行進）から始め、段階的に隊形変化や集団演技へと発展させる。さらに、グループ単位での創作活動を取り入れることで、主体性やリーダーシップ、課題解決能力の育成を

＜授業の到達目標＞

・集団内での規律と統率力を理解する・正確な身体操作と動作の一致を身につける・リーダーシップとフォロワーシップを養う・集団での表現力・達成感を体験する

＜授業の方法＞

基礎技能の習得（教師主導）1．教員の号令・模範動作に従い、基本姿勢・方向転換・行進などの基礎技術を反復練習する。正確性と統一性を重視し、段階的に技能を習得する。2．反復練習とフィードバックペアや小グループで互いの動きを確認し、改善点を指摘し合う。教員からの個別指導や全体講評により、動作の精度を高める。3．段階的課題学習基本動作の習得後、隊形変化や複合動作など、より高度な課題に取り組む。難易度を段階的に上げることで、無理なく技能向上を図る。4．グループワーク（協働学習）学生をグループに分け、集団演技の構成や

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素有本授業では、学生の主体的・対話的で深い学びを促進するため、アクティブラーニングの手法を積極的に導入する。具体的には以下の方法で実施する。1．協働学習（グループワーク）学生を少人数グループに編成し、集団行動の課題に共同で取り組む。隊形や動作の工夫、演技構成の検討を通して、意見交換や合意形成を行い、協調性とコミュニケーション能力を養う。2．ピアラーニング（相互学習）学生同士で動作を観察・評価し合い、改善点をフィードバックする活動を取り入れる。これにより、自他の動きを客観的に分析す

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

本授業では、円滑かつ安全に実技を行うため、以下の事前準備を求める。1．服装・用具の準備運動に適した服装（体育着・ジャージ等）を着用すること室内用運動靴を持参すること（滑りにくく、動きやすいもの）必要に応じてタオル・飲料水を準備すること2．健康状態の管理授業前に体調を確認し、無理のない状態で参加すること持病や怪我がある場合は事前に申告すること十分な睡眠と食事をとり、運動に適した体調を整えること3．基礎知識の予習配布資料やオンライン教材を用いて、基本姿勢や号令の種類について事前に確認する集団行動の目的（規律・

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度50%　課題レポート20%　試験30%を総合的に判断する。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス（オリエンテーション）	授業概要説明集団行動の意義・歴史評価方法の説明
2	基本姿勢・号令の理解	気をつけ・休め号令の種類と反応練習
3	方向転換・整列	回れ右・右向け右など横隊・縦隊の基本
4	歩行動作①	行進の基本（腕振り・歩幅）リズムの統一
5	歩行動作②	隊列移動スピード変化への対応
6	動作の正確性向上	タイミングの一致ミスの修正練習
7	隊形変化①	基本的なフォーメーション変更
8	隊形変化②	複雑な移動・交差動作
9	グループ編成	小グループでの構成づくり役割分担（リーダー決定）
10	創作活動①	オリジナル隊形・動作の考案
11	創作活動②	動きの洗練・同期練習
12	発表準備	通し練習修正・改善
13	最終発表	グループごとの演技発表
14	まとめ・振り返り	講評レポート提出
15		

16		

科目コード	61015				区　分	コア科目			
授業科目名	体育方法学・実習［PP2632組用］				担当者名	久田　孝			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	講義・演習・実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本授業、体育方法学は運動や体育を「知る」という観点から指導法・教授法を扱う分野であり、指導原理・学習理論・評価方法などを体系的実践的に学び、本授業で学んだ指導理論を、集団行動の実践にて検証する。集団行動では統一された動作を行う集団にて行うことにより、規律性・協調性・責任感を養い、身体操作能力および対人関係能力の向上を目的とする。基本動作（姿勢・方向転換・行進）から始め、段階的に隊形変化や集団演技へと発展させる。さらに、グループ単位での創作活動を取り入れることで、主体性やリーダーシップ、課題解決能力の育成を

＜授業の到達目標＞

・集団内での規律と統率力を理解する・正確な身体操作と動作の一致を身につける・リーダーシップとフォロワーシップを養う・集団での表現力・達成感を体験する

＜授業の方法＞

基礎技能の習得（教師主導）1．教員の号令・模範動作に従い、基本姿勢・方向転換・行進などの基礎技術を反復練習する。正確性と統一性を重視し、段階的に技能を習得する。2．反復練習とフィードバックペアや小グループで互いの動きを確認し、改善点を指摘し合う。教員からの個別指導や全体講評により、動作の精度を高める。3．段階的課題学習基本動作の習得後、隊形変化や複合動作など、より高度な課題に取り組む。難易度を段階的に上げることで、無理なく技能向上を図る。4．グループワーク（協働学習）学生をグループに分け、集団演技の構成や

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素有本授業では、学生の主体的・対話的で深い学びを促進するため、アクティブラーニングの手法を積極的に導入する。具体的には以下の方法で実施する。1．協働学習（グループワーク）学生を少人数グループに編成し、集団行動の課題に共同で取り組む。隊形や動作の工夫、演技構成の検討を通して、意見交換や合意形成を行い、協調性とコミュニケーション能力を養う。2．ピアラーニング（相互学習）学生同士で動作を観察・評価し合い、改善点をフィードバックする活動を取り入れる。これにより、自他の動きを客観的に分析す

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

本授業では、円滑かつ安全に実技を行うため、以下の事前準備を求める。1．服装・用具の準備運動に適した服装（体育着・ジャージ等）を着用すること室内用運動靴を持参すること（滑りにくく、動きやすいもの）必要に応じてタオル・飲料水を準備すること2．健康状態の管理授業前に体調を確認し、無理のない状態で参加すること持病や怪我がある場合は事前に申告すること十分な睡眠と食事をとり、運動に適した体調を整えること3．基礎知識の予習配布資料やオンライン教材を用いて、基本姿勢や号令の種類について事前に確認する集団行動の目的（規律・

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度50%　課題レポート20%　試験30%を総合的に判断する。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス（オリエンテーション）	授業概要説明集団行動の意義・歴史評価方法の説明
2	基本姿勢・号令の理解	気をつけ・休め号令の種類と反応練習
3	方向転換・整列	回れ右・右向け右など横隊・縦隊の基本
4	歩行動作①	行進の基本（腕振り・歩幅）リズムの統一
5	歩行動作②	隊列移動スピード変化への対応
6	動作の正確性向上	タイミングの一致ミスの修正練習
7	隊形変化①	基本的なフォーメーション変更
8	隊形変化②	複雑な移動・交差動作
9	グループ編成	小グループでの構成づくり役割分担（リーダー決定）
10	創作活動①	オリジナル隊形・動作の考案
11	創作活動②	動きの洗練・同期練習
12	発表準備	通し練習修正・改善
13	最終発表	グループごとの演技発表
14	まとめ・振り返り	講評レポート提出
15		

16		

科目コード	61015				区　分	コア科目			
授業科目名	体育方法学・実習［PP2633組用］				担当者名	久田　孝			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	講義・演習・実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本授業、体育方法学は運動や体育を「知る」という観点から指導法・教授法を扱う分野であり、指導原理・学習理論・評価方法などを体系的実践的に学び、本授業で学んだ指導理論を、集団行動の実践にて検証する。集団行動では統一された動作を行う集団にて行うことにより、規律性・協調性・責任感を養い、身体操作能力および対人関係能力の向上を目的とする。基本動作（姿勢・方向転換・行進）から始め、段階的に隊形変化や集団演技へと発展させる。さらに、グループ単位での創作活動を取り入れることで、主体性やリーダーシップ、課題解決能力の育成を

＜授業の到達目標＞

・集団内での規律と統率力を理解する・正確な身体操作と動作の一致を身につける・リーダーシップとフォロワーシップを養う・集団での表現力・達成感を体験する

＜授業の方法＞

基礎技能の習得（教師主導）1．教員の号令・模範動作に従い、基本姿勢・方向転換・行進などの基礎技術を反復練習する。正確性と統一性を重視し、段階的に技能を習得する。2．反復練習とフィードバックペアや小グループで互いの動きを確認し、改善点を指摘し合う。教員からの個別指導や全体講評により、動作の精度を高める。3．段階的課題学習基本動作の習得後、隊形変化や複合動作など、より高度な課題に取り組む。難易度を段階的に上げることで、無理なく技能向上を図る。4．グループワーク（協働学習）学生をグループに分け、集団演技の構成や

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素有本授業では、学生の主体的・対話的で深い学びを促進するため、アクティブラーニングの手法を積極的に導入する。具体的には以下の方法で実施する。1．協働学習（グループワーク）学生を少人数グループに編成し、集団行動の課題に共同で取り組む。隊形や動作の工夫、演技構成の検討を通して、意見交換や合意形成を行い、協調性とコミュニケーション能力を養う。2．ピアラーニング（相互学習）学生同士で動作を観察・評価し合い、改善点をフィードバックする活動を取り入れる。これにより、自他の動きを客観的に分析す

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

本授業では、円滑かつ安全に実技を行うため、以下の事前準備を求める。1．服装・用具の準備運動に適した服装（体育着・ジャージ等）を着用すること室内用運動靴を持参すること（滑りにくく、動きやすいもの）必要に応じてタオル・飲料水を準備すること2．健康状態の管理授業前に体調を確認し、無理のない状態で参加すること持病や怪我がある場合は事前に申告すること十分な睡眠と食事をとり、運動に適した体調を整えること3．基礎知識の予習配布資料やオンライン教材を用いて、基本姿勢や号令の種類について事前に確認する集団行動の目的（規律・

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度50%　課題レポート20%　試験30%を総合的に判断する。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス（オリエンテーション）	授業概要説明集団行動の意義・歴史評価方法の説明
2	基本姿勢・号令の理解	気をつけ・休め号令の種類と反応練習
3	方向転換・整列	回れ右・右向け右など横隊・縦隊の基本
4	歩行動作①	行進の基本（腕振り・歩幅）リズムの統一
5	歩行動作②	隊列移動スピード変化への対応
6	動作の正確性向上	タイミングの一致ミスの修正練習
7	隊形変化①	基本的なフォーメーション変更
8	隊形変化②	複雑な移動・交差動作
9	グループ編成	小グループでの構成づくり役割分担（リーダー決定）
10	創作活動①	オリジナル隊形・動作の考案
11	創作活動②	動きの洗練・同期練習
12	発表準備	通し練習修正・改善
13	最終発表	グループごとの演技発表
14	まとめ・振り返り	講評レポート提出
15		

16		

科目コード	61015				区　分	コア科目			
授業科目名	体育方法学・実習［PS2年生用］				担当者名	久田　孝			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	講義・演習・実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本授業、体育方法学は運動や体育を「知る」という観点から指導法・教授法を扱う分野であり、指導原理・学習理論・評価方法などを体系的実践的に学び、本授業で学んだ指導理論を、集団行動の実践にて検証する。集団行動では統一された動作を行う集団にて行うことにより、規律性・協調性・責任感を養い、身体操作能力および対人関係能力の向上を目的とする。基本動作（姿勢・方向転換・行進）から始め、段階的に隊形変化や集団演技へと発展させる。さらに、グループ単位での創作活動を取り入れることで、主体性やリーダーシップ、課題解決能力の育成を

＜授業の到達目標＞

・集団内での規律と統率力を理解する・正確な身体操作と動作の一致を身につける・リーダーシップとフォロワーシップを養う・集団での表現力・達成感を体験する

＜授業の方法＞

基礎技能の習得（教師主導）1．教員の号令・模範動作に従い、基本姿勢・方向転換・行進などの基礎技術を反復練習する。正確性と統一性を重視し、段階的に技能を習得する。2．反復練習とフィードバックペアや小グループで互いの動きを確認し、改善点を指摘し合う。教員からの個別指導や全体講評により、動作の精度を高める。3．段階的課題学習基本動作の習得後、隊形変化や複合動作など、より高度な課題に取り組む。難易度を段階的に上げることで、無理なく技能向上を図る。4．グループワーク（協働学習）学生をグループに分け、集団演技の構成や

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素有本授業では、学生の主体的・対話的で深い学びを促進するため、アクティブラーニングの手法を積極的に導入する。具体的には以下の方法で実施する。1．協働学習（グループワーク）学生を少人数グループに編成し、集団行動の課題に共同で取り組む。隊形や動作の工夫、演技構成の検討を通して、意見交換や合意形成を行い、協調性とコミュニケーション能力を養う。2．ピアラーニング（相互学習）学生同士で動作を観察・評価し合い、改善点をフィードバックする活動を取り入れる。これにより、自他の動きを客観的に分析す

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

本授業では、円滑かつ安全に実技を行うため、以下の事前準備を求める。1．服装・用具の準備運動に適した服装（体育着・ジャージ等）を着用すること室内用運動靴を持参すること（滑りにくく、動きやすいもの）必要に応じてタオル・飲料水を準備すること2．健康状態の管理授業前に体調を確認し、無理のない状態で参加すること持病や怪我がある場合は事前に申告すること十分な睡眠と食事をとり、運動に適した体調を整えること3．基礎知識の予習配布資料やオンライン教材を用いて、基本姿勢や号令の種類について事前に確認する集団行動の目的（規律・

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度50%　課題レポート20%　試験30%を総合的に判断する。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス（オリエンテーション）	授業概要説明集団行動の意義・歴史評価方法の説明
2	基本姿勢・号令の理解	気をつけ・休め号令の種類と反応練習
3	方向転換・整列	回れ右・右向け右など横隊・縦隊の基本
4	歩行動作①	行進の基本（腕振り・歩幅）リズムの統一
5	歩行動作②	隊列移動スピード変化への対応
6	動作の正確性向上	タイミングの一致ミスの修正練習
7	隊形変化①	基本的なフォーメーション変更
8	隊形変化②	複雑な移動・交差動作
9	グループ編成	小グループでの構成づくり役割分担（リーダー決定）
10	創作活動①	オリジナル隊形・動作の考案
11	創作活動②	動きの洗練・同期練習
12	発表準備	通し練習修正・改善
13	最終発表	グループごとの演技発表
14	まとめ・振り返り	講評レポート提出
15		

16		

科目コード	62001				区　分	カリキュラムによって異なる			
授業科目名	アスレティックトレーナーの役割				担当者名	河野　儀久			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー（JSPO-AT）の役割・業務と専門性や、業務を遂行するうえで必要となる多様な素養の位置づけを理解し、持続的に学び関係職種との連携を推進するための知識と態度の習得をねらいとする。

＜授業の到達目標＞
日本におけるアスレティックトレーナーの歴史とその役割、具体的な業務・制度・法律、さらにはアスレティックトレーナーを目指す上で必要な知識や技術、資質、倫理と責任について理解することをねらいとする。科学的根拠に基づいた情報収集と活用方法、そしてクライアントの特徴を理解し、連携体制の構築に活用できる。

＜授業の方法＞
講義。予習を重視する。予習用の資料を配布し、教科書を基に予習をおこなった上で授業・実習等を進めていく。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有り（グループディスカッション）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習として、３０分以上かけて次の授業内容の範囲まで教科書を毎回、読んでくること。また、テキスト内容の自分が分からないところ（＝授業において自分がしっかり聞いておかないといけないところ）を把握する」、そのことによって、授業での記憶定着の効率を上げる。授業を受けたその日のうちの３０分以上復習すること。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー５（体育・スポーツを通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲 60%（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題），最終課題・発表 （最終課題，発表）40%

＜教科書＞
財団法人日本体育協会（2007.3.31）　「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト①」　日本体育協会
公益財団法人日本スポーツ協会　2022年11月30日（第1刷）　『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト　第1巻 アスレティックトレーナーの役割』　日本スポーツ協会

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業概要、授業の進め方、成績評価等の説明
2	アスレティックトレーナーとは JSPO-AT	日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度におけるJSPO-ATの位置づけとスポーツ指導者の種類
3	アスレティックトレーナーとは−コンピテンシーと業務−	必要性や役割（コンピテンシー・業務）
4	アスレティックトレーナーの役割−活動と倫理−	倫理と責任、法的問題、リスクマネジメント
5	アスレティックトレーナーの役割−運営管理−	活動環境、新たな領域
6	アスレティックトレーナーの役割−健康管理−	健康管理と取り組み
7	アスレティックトレーナーの役割−感染症概論とメンタルヘルス−	感染症と精神疾患に関する知識
8	スポーツ医・科学チーム・スタッフの役割と連携	ドクター、コーチ、デンティスト、栄養士、ファーマシストの役割と連携
9	エビデンスに基づいた運営EBP	EBPとは　学術活動とエビデンス
10	組織運営と管理−データ管理−	アスレティックトレーナーが扱うデータの管理方法
11	アスレティックトレーナーと研究・生涯教育	研究を行う意義と生涯教育

12	関係者とのコミュニケーション	プレイヤーや指導者・スタッフなど関係者とのコミュニケーション
13	対象者とのコミュニケーション	子供、高齢者、女性、障がい者とのコミュニケーション
14	まとめ(1)	総合学習
15		アスレティックトレーナーの役割に関する総合討議
16		

科目コード	62008				区　分	コア科目			
授業科目名	健康管理とスポーツ医学［資格希望者用］				担当者名	河合　洋二郎			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
アスリートにみられる内臓器官などの疾患では、疾患の病態、症状、対応策、処置、予防措置について理解させること。感染症に対する対応策では、スポーツ現場および海外遠征時に注意すべき感染症の種別、病態、症状、対応策、処置、予防策について理解させること。

＜授業の到達目標＞
アスリートにみられる病的現象では、病的現象（オーバートレーニング症候群、突然死、過換気症候群など）の病態、症状、原因などを理解させるとともに、それらに対する対抗策、処置、予防措置について学ぶことをねらいとする。この他、スポーツ選手にみられる摂食障害、減量障害、飲酒、喫煙などの問題点について学ぶことをねらいとする。特殊環境のスポーツ医学では、高所、低圧、高圧、暑熱環境などでの運動時における生体反応、順応、そしてそれらの環境下での障害について学ぶことをねらいとする。年齢・性別による特徴では、女性、高齢者、発育

＜授業の方法＞
教科書を基に、必要に応じて資料を配布して講義を進めていく。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
次回授業内容の準備（1時間程度）、振り返りレポートの提出（2時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３(体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
振り返りレポート10%、定期試験90%

＜教科書＞
「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト④　健康管理とスポーツ医学」　日本体育協会

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	アスリートにみられる内臓器官などの疾患（1）	循環器系疾患(スポーツ心臓、不整脈、虚血性心疾患、Marfan症候群など呼吸器系疾患（慢性肺疾患、運動誘発性喘息など）
2	アスリートにみられる内臓器官などの疾患（2）	消化器系疾患（運動時の腹痛、消化管出血、下痢、急性肝炎など）血液疾患（貧血など）皮膚疾患（胼胝腫、摩擦水疱、白癬など）
3	アスリートにみられる内臓器官などの疾患（3）	腎・泌尿器疾患（運動性蛋白尿、ヘモグロビン尿、ミオグロビン尿など）代謝性疾患（糖質代謝異常、脂質代謝異常、糖尿病、肥満など）
4	感染症に対する対応策（1）	呼吸器感染症(上気道感染症、インフルエンザ、伝染性単核球症、重症急性、呼吸器症候群など）血液感染症（A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎、HIV免疫不全ウイルスなど）
5	感染症に対する対応策（2）	皮膚感染症（細菌感染症、真菌感染症、ウイルス感染症など）ウイルス性結膜炎（咽頭結膜炎など）
6	感染症に対する対応策（3）	海外遠征時に注意すべき感染症（SARS、マラリア、旅行者下痢症、デング熱など）各競技別ルールにみられる感染症対策
7	アスリートにみられる病的現象など(1)、小テスト	オーバートレーニング症候群・突然死・過換気症候群、小テスト
8	アスリートにみられる病的現象など（2）	摂食障害・減量障害・飲酒・喫煙の問題点
9	特殊環境のスポーツ医学：年齢・性別による特徴（1）	（生体の反応と順応、各環境でみられる障害とその処置、予防方法など）時差（時差に対する反応と順応、時差に対する対策）
10	特殊環境のスポーツ医学：年齢・性別による特徴（2）	海外遠征時の諸問題（健康管理、環境管理、その他）
11	特殊環境のスポーツ医学：年齢・性別に	女性のスポーツ医学、高齢者のスポーツ医学、成長期のスポーツ医学

	よる特徴（3）	
12	内科的メディカルチェック（1）	メディカルチェックの意義と必要性・対象別メディカルチェックの内容。メディカルチェックにおける検査項目
13	内科的メディカルチェック（2）	運動負荷試験の目的と方法・運動負荷試験の実際。運動負荷試験結果の判定基準。
14	ドーピングコントロール	アンチドーピングの目的、ドーピングの定義、禁止される物質の種類。注意すべき市販薬、事前申告を必要とする薬物、ドーピング・コントロール・ステーション同伴時の留意事項。
15		
16		

科目コード	62008				区　分	コア科目			
授業科目名	健康管理とスポーツ医学［週間オンデマンド］				担当者名	河合　洋二郎			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
アスリートにみられる内臓器官などの疾患では、疾患の病態、症状、対応策、処置、予防措置について理解させること。感染症に対する対応策では、スポーツ現場および海外遠征時に注意すべき感染症の種別、病態、症状、対応策、処置、予防策について理解させること。

＜授業の到達目標＞
アスリートにみられる病的現象では、病的現象（オーバートレーニング症候群、突然死、過換気症候群など）の病態、症状、原因などを理解させるとともに、それらに対する対抗策、処置、予防措置について学ぶことをねらいとする。この他、スポーツ選手にみられる摂食障害、減量障害、飲酒、喫煙などの問題点について学ぶことをねらいとする。特殊環境のスポーツ医学では、高所、低圧、高圧、暑熱環境などでの運動時における生体反応、順応、そしてそれらの環境下での障害について学ぶことをねらいとする。年齢・性別による特徴では、女性、高齢者、発育

＜授業の方法＞
教科書を基に、必要に応じて資料を配布して講義を進めていく。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
次回授業内容の準備（1時間程度）、振り返りレポートの提出（2時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３(体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
振り返りレポート10%、定期試験90%

＜教科書＞
「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト④　健康管理とスポーツ医学」　日本体育協会

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	アスリートにみられる内臓器官などの疾患（1）	循環器系疾患(スポーツ心臓、不整脈、虚血性心疾患、Marfan症候群など呼吸器系疾患（慢性肺疾患、運動誘発性喘息など）
2	アスリートにみられる内臓器官などの疾患（2）	消化器系疾患（運動時の腹痛、消化管出血、下痢、急性肝炎など）血液疾患（貧血など）皮膚疾患（胼胝腫、摩擦水疱、白癬など）
3	アスリートにみられる内臓器官などの疾患（3）	腎・泌尿器疾患（運動性蛋白尿、ヘモグロビン尿、ミオグロビン尿など）代謝性疾患（糖質代謝異常、脂質代謝異常、糖尿病、肥満など）
4	感染症に対する対応策（1）	呼吸器感染症(上気道感染症、インフルエンザ、伝染性単核球症、重症急性、呼吸器症候群など）血液感染症（A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎、HIV免疫不全ウイルスなど）
5	感染症に対する対応策（2）	皮膚感染症（細菌感染症、真菌感染症、ウイルス感染症など）ウイルス性結膜炎（咽頭結膜炎など）
6	感染症に対する対応策（3）	海外遠征時に注意すべき感染症（SARS、マラリア、旅行者下痢症、デング熱など）各競技別ルールにみられる感染症対策
7	アスリートにみられる病的現象など(1)、小テスト	オーバートレーニング症候群・突然死・過換気症候群、小テスト
8	アスリートにみられる病的現象など（2）	摂食障害・減量障害・飲酒・喫煙の問題点
9	特殊環境のスポーツ医学：年齢・性別による特徴（1）	（生体の反応と順応、各環境でみられる障害とその処置、予防方法など）時差（時差に対する反応と順応、時差に対する対策）
10	特殊環境のスポーツ医学：年齢・性別による特徴（2）	海外遠征時の諸問題（健康管理、環境管理、その他）
11	特殊環境のスポーツ医学：年齢・性別に	女性のスポーツ医学、高齢者のスポーツ医学、成長期のスポーツ医学

	よる特徴（3）	
12	内科的メディカルチェック（1）	メディカルチェックの意義と必要性・対象別メディカルチェックの内容。メディカルチェックにおける検査項目
13	内科的メディカルチェック（2）	運動負荷試験の目的と方法・運動負荷試験の実際。運動負荷試験結果の判定基準。
14	ドーピングコントロール	アンチドーピングの目的、ドーピングの定義、禁止される物質の種類。注意すべき市販薬、事前申告を必要とする薬物、ドーピング・コントロール・ステーション同伴時の留意事項。
15		
16		

科目コード	62009				区　分	コア科目			
授業科目名	検査･測定と評価				担当者名	坂本　賢広			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
体力や身体機能の評価を進める上で必要となる検査測定手技について、その目的と意義を理解し、具体的に 実技できるまでの能力を習得することをねらいとする。尚、本授業は一部オンデマンド教材等使用し行うため、PCまたはタブレットを準備の上、履修すること。

＜授業の到達目標＞
体力や身体機能の評価についてその意義と考え方を学び、具体的な評価による問題点の抽出までのプロセスを理解し、実践できる能力が身につくようになることを目標とする。

＜授業の方法＞
予習を重視する。予習用の資料を配布し、教科書を基に予習をおこなった上で授業・実習等を進めていく。各テーマに対してグループワーク・ディスカッションを行う。オンデマンド資料提示や課題の提示、提出等はGoogle Classroomで行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング要素有り各グループでプレイヤー役、トレーナー役、タイムキーパー、レポーター、アクティビティリーダーを決めてもらい、ある課題に対してHOPSのHOP（問診・視診・触診）を中心に実技対応を行いグループ内で議論し主体的な学習と実践を行う。役割を順番に担当していただき、積極的に参加して自分の考えを言葉にして学びほぐしを行う。スポーツ現場でのトレーナー活動を想定した心構えを持ちながら主体的な学習活動を展開する。測定および検査法など実際に体験し、課題に対する改善を図りながら主体的および客観的な評

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業中に配布された資料、また参考書を通じて予習すること（60分程度）。また、テキスト内容の自分が分からない箇所（＝授業において自分がしっかり聞いて、確認しておかなければならない箇所）を把握する。この予習により、授業での記憶定着の効率を上げる。授業を受けたその日のうちの30分以上復習すること。適宜、事前課題および復習課題の提示、提出を求めることもある。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 40%，実技・技術確認60%

＜教科書＞

＜参考書＞
公益財団法人日本スポーツ協会（2025年4月30日第3刷発行）　公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト［2022年カリキュラム対応］第6巻　検査・測定と評価　（公財）日本スポーツ協会
（財）健康・体力づくり事業財団（2008）　健康運動指導士養成講習会テキスト〈下〉　（財）健康・体力づくり事業財団

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション及び総論	授業概要、授業の進め方、成績評価等の説明
2	スポーツ現場やトレーナーにおける検査・測定と評価の概論（1）	評価の目的、意義および役割、機能評価のプロセス
3	スポーツ現場やトレーナーにおける検査・測定と評価の概論（２）	機能評価に基づくアスレティックリハビリテーションおよびコンディ ショニングの目標設定、プログラム立案
4	検査・測定の手法（1）	姿勢・身体アライメント、筋萎縮の観察、計測の目的と意義、計測方法
5	検査・測定の手法（２）	関節弛緩性検査の目的と意義およびその検査測定
6	検査・測定の手法（３）	関節可動域測定の目的と意義および測定方法
7	検査・測定の手法（４）	筋タイトネスの検査測定方法
8	検査・測定の手法（５）	徒手的筋力検査の目的と意義およびその検査方法
9	検査・測定の手法（６）	機器を用いた筋力、筋パワーおよび筋持久力の検査測定の目的と意義 およびその検査測定方法
10	検査・測定の手法（７）	全身持久力の検査測定の目的と意義およびその具体的手法と測定指標
11	検査・測定の手法（８）	敏捷性および協調性の検査測定の目的と意義およびその具体的手法
12	検査・測定の手法（９）	身体組成の検査測定の目的と意義およびその具体的手法
13	検査・測定の手法（１０）	一般的な体力測定（新体力テスト）の検査項目とその目的と概要
14	まとめ	検査・測定方法に関する総合討議
15		

16		

科目コード	62011				区　分	コア科目		
授業科目名	予防とコンディショニングⅡ				担当者名	河野　儀久		
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
公益財団法人日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーの観点から、スポーツ現場においてよく発生すると思われるスポーツ外傷・障害を中心に、その評価方法や応急処置、アスレティックリハビリテーション、コンディションニングの理論と方法を学ぶ。この科目は応用科目のため履修制限を定める。日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーを目指す学生のみが履修できる。日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー必修科目を履修し、アスレティックトレーナー現場実習ⅢⅣを履修中または履修済みであることが条件となる。

＜授業の到達目標＞
比較的高い頻度で発生する外傷・障害について、スポーツ現場における評価方法や応急処置、安全に早期の競技復帰に向けたアスレティックリハビリテーション・コンディションニングが立案・指導できることを目標とする。

＜授業の方法＞
教科書に沿って講義や実技練習レポート課題、小テスト等を行い、必要に応じて資料を配布する。学生がさまざまな傷害、競技特性に応じたコンディションニングについて発表し、その内容を基に学生同志のディスカッションを積極的に行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
運動療法

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前に教科書を熟読し授業の理解を深め、授業当日のプレゼンテーション資料を作成する（2時間）。事後学習として、自身のプレゼンテーション発表の反省と、参加者からの意見をまとめる（１時間）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲 30%（出席評価、授業への積極的な参加）、課題レポート　（適宜出される課題，最終レポート）70%

＜教科書＞
（公財）日本体育協会, 2007　「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑥・予防とコンディショニング」、 日本スポーツ協会

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダクション	授業の概要説明、注意事項
2	股関節の損傷	グロインペイン等の評価・応急処置・リハビリテーションから復帰まで
3	大腿部の損傷	肉離れ等の評価・応急処置・リハビリテーションから復帰まで
4	膝関節の損傷	靭帯損傷等の評価・応急処置・リハビリテーションから復帰まで
5	足関節の損傷	捻挫等の評価・応急処置・リハビリテーションから復帰まで
6	下腿部と足部の損傷	シンスプリント等の評価・応急処置・リハビリテーションから復帰まで
7	肩関節の損傷	脱臼等の評価・応急処置・リハビリテーションから復帰まで
8	上肢の損傷	投球障害肩等の評価・応急処置・リハビリテーションから復帰まで
9	体幹の損傷	腰痛等の評価・応急処置・リハビリテーションから復帰まで
10	冬季競技の特性	スキーやスケート等における傷害とコンディショニング
11	記録系競技の特性	陸上や競泳等における傷害とコンディショニング
12	採点競技・格技系競技の特性	サッカーやラグビー等における傷害とコンディショニング
13	採点競技・格技系競技の特性	器械体操や柔道等における傷害とコンディショニング
14	総括テスト	これまでの振り返り、総括テスト
15		
16		

科目コード	62016				区　分	コア科目			
授業科目名	救急処置［AT資格希望者用］				担当者名	濱浪　一則			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義および実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
救急処置法の中でも、特にスポーツ現場において発生する様々な医学的な問題に焦点を当てて、その対処法を学ぶ。具体的には、外傷の処置としてのアイシングや固定法、創の種類やそれらの対処法、救命処置として心肺蘇生法とAEDの使用方法などについて実習する。また、スポーツ現場で見られる内科的疾患の救急処置などについても講義を通して学ぶ。

＜授業の到達目標＞
スポーツ現場において発生する様々な医学的問題に対して適切に評価、判断、処置を行い医療者に引き継ぐことが出来るようになる。

＜授業の方法＞
講義および実技

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有グループでの実習を通して救急対応を学ぶ

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前に教科書、配布資料などを用いて予習する。配布資料の空欄を埋め授業に備える。授業で学んだ内容を復習し、事後課題を次回授業前に提出する。講義で学んだことを理解し、期末テストに備える。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
事後課題15%、定期試験85%事後課題について、提出期限が過ぎたものや内容が不十分なものには減点します。公欠課題は欠席授業回の事後課題と授業配布資料の空欄を埋めて提出すること。提出のない場合は欠席とする。

＜教科書＞
公益財団法人日本スポーツ協会（2022年11月30日）　公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト　第5巻　救急対応

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス、スポーツ現場での救急処置の特徴、救急対応の考え方	授業全体の説明およびスポーツ現場における救急処置の考え方について救急対応とは、　ファーストレスポンター
2	スポーツ現場における救急体制構築の留意点と計画	緊急時対応計画（EAP）
3	スポーツ現場での外傷・障害の評価とその手順	初期評価　体位管理と保温　搬送法
4	外傷時の救急対応	創傷・出血、打撲・捻挫・肉ばなれ
5	外傷時の救急対応	骨折・脱臼、脳震盪
6	外傷時の救急対応	頭部、頚部、脊椎における重傷外傷
7	外傷時の救急対応	特殊な外傷
8	内科的疾患の救急対応	心停止、BLS、実習
9	内科的疾患の救急対応	心停止、BLS、実習
10	内科的疾患の救急対応	熱中症
11	内科的疾患の救急対応	その他（スポーツでよく見られる内科的疾患）
12	各競技の救急体制の実際	陸上、ラグビー、サッカー、アメリカンフットボール、バスケットボール、水泳
13	各競技の救急体制の実際	野球・ソフトボール、バレーボール、バドミントン、テニス、ゴルフ、ライフセービング、障害者スポーツ
14	各競技の救急体制の実際	体操、柔道、スキー、スケート、アイスホッケー、ウエイトトレーニング
15	各競技の救急体制の実際	障害者スポーツ、チーム活動、トレーナーステーション
16		

科目コード	62016				区　分	コア科目			
授業科目名	救急処置［CSCS,衛生管理者：資格希望者用］				担当者名	石井　英一			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
BLS（ベーシックライフサポート）を中心とした救急処置の知識や技術を学ぶ。救急処置では特にCPR（心肺蘇生法）の習得とAEDの使用が重要であり、その技術の習得を目指す。資格希望者にはBLS（CPR＋AED）資格が取得可能。

＜授業の到達目標＞
（１）CPRおよびAEDに関する知識と技術の習得（２）BLS（CPR＋ARD）資格取得を目指す【対象者のみ】

＜授業の方法＞
BLS（ベーシックライフサポート）を中心とした救急処置の知識や技術を学ぶ。救急処置では特にCPR（心肺蘇生）の習得とAEDの使用が重要であり、その技術の習得を目指す。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有：グループでの実技指導を行う

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
実施した内容を必ず復習する

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２(体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度30%、学科/実技試験70%

＜教科書＞
日本ライフセービング協会　心肺蘇生法教本　大修館書店

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業内容の説明
2	ケガの手当て①	止血と固定
3	ケガの手当て②	三角巾の使用方法
4	ケガの手当て③	三角巾の使用方法
5	搬送法	徒手での搬送ともものを使用しての搬送
6	BLSの基礎知識①	心肺蘇生法の意義
7	BLSの基礎知識②	心肺蘇生法の理論
8	BLSの基礎知識③	心肺蘇生の実際
9	BLS（CPR＋AED）の実技①	CPR①
10	BLS（CPR＋AED）の実技②	CPR②
11	BLS（CPR＋AED）の実技③	AED
12	小児・乳児への心肺蘇生	小児・乳児への一次救命処置、実施上の留意点
13	気道異物除去	異物除去の方法と対応手順
14	BLS（CPR＋AED）の実技テスト	救急処置の学科テスト
15		
16		

科目コード	62016				区　分	コア科目			
授業科目名	救急処置［PS2521組用］				担当者名	伊藤　亮輔			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
救急処置法の中でも、特にスポーツ現場において発生する様々な医学的問題に焦点を当てる。スポーツ外傷の評価、処置、搬送法をはじめ、創傷・出血への対応、アイシングや固定法などの処置について学ぶ。また、救命処置として心肺蘇生法とAEDの使用方法などについて実習する。

＜授業の到達目標＞
スポーツ現場において発生する様々な医学的問題について理解し、適切に評価、判断、処置を行い医療者に引き継ぐことができる。

＜授業の方法＞
講義および実技

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有グループでの実習を通して救急対応を学ぶ

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習　次回の講義内容を予習する(毎回、1時間程度)復讐　実施した評価、判断、対処法を必ず復習する(毎回、1時間程度)

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
期末試験（効果測定、筆記試験）40%、受講態度（学習意欲、グループへの貢献、課題提出）60%

＜教科書＞

＜参考書＞
公益財団法人日本スポーツ協会（2022年11月30日）　公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト　第8巻　救急処置

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業全体の説明　スポーツ現場における救急対応の考え方について
2	応急手当について	応急手当とその重要性、応急手当と法的責任
3	応急手当に関する基礎知識	基礎解剖知識（心血管系）、感染症、AEDについて
4	救急処置の実技①-心肺蘇生法-	心肺蘇生法についての講義と実技を行う
5	救急処置の実技②-AED-	AEDの使用と心配蘇生の継続についての講義と実技
6	救急処置の実技③-その他の応急手当-	気道異物の除去、保温、体位管理、アナフィラキシー、搬送法、固定法についての講義と実技
7	効果測定①	これまで学んだ心肺蘇生法、AED、気道異物除去に関する救命処置の実技について効果測定を行う
8	スポーツ現場での救急対応	スポーツ現場で起きる救急事態の安全管理と救急対応について
9	外傷・障害の基礎知識と救急対応について	外傷・障害の基礎解剖知識、RICE処置・テーピングなどの救急対応について
10	内科的疾患に対する救急対応	熱中症、脱水症、喘息、貧血などの体調管理について
11	各競技における救急体制	それぞれの競技で必要な救急体制について整理、緊急時対応計画(EAP)の作成
12	応急手当講習	応急手当の流れについて再復習
13	効果測定②	これまで学んだ心肺蘇生法、AED、気道異物除去に関する救命処置の実技について効果測定を行う
14	期末テスト	講義の復習と筆記試験
15		
16		

科目コード	62016				区　分	コア科目			
授業科目名	救急処置［PS2522組用］				担当者名	伊藤　亮輔			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
救急処置法の中でも、特にスポーツ現場において発生する様々な医学的問題に焦点を当てる。スポーツ外傷の評価、処置、搬送法をはじめ、創傷・出血への対応、アイシングや固定法などの処置について学ぶ。また、救命処置として心肺蘇生法とAEDの使用方法などについて実習する。

＜授業の到達目標＞
スポーツ現場において発生する様々な医学的問題について理解し、適切に評価、判断、処置を行い医療者に引き継ぐことができる。

＜授業の方法＞
講義および実技

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有グループでの実習を通して救急対応を学ぶ

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習　次回の講義内容を予習する(毎回、1時間程度)復讐　実施した評価、判断、対処法を必ず復習する(毎回、1時間程度)

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
期末試験（効果測定、筆記試験）40%、受講態度（学習意欲、グループへの貢献、課題提出）60%

＜教科書＞

＜参考書＞
公益財団法人日本スポーツ協会（2022年11月30日）　公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト　第8巻　救急処置

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業全体の説明　スポーツ現場における救急対応の考え方について
2	応急手当について	応急手当とその重要性、応急手当と法的責任
3	応急手当に関する基礎知識	基礎解剖知識（心血管系）、感染症、AEDについて
4	救急処置の実技①-心肺蘇生法-	心肺蘇生法についての講義と実技を行う
5	救急処置の実技②-AED-	AEDの使用と心配蘇生の継続についての講義と実技
6	救急処置の実技③-その他の応急手当-	気道異物の除去、保温、体位管理、アナフィラキシー、搬送法、固定法についての講義と実技
7	効果測定①	これまで学んだ心肺蘇生法、AED、気道異物除去に関する救命処置の実技について効果測定を行う
8	スポーツ現場での救急対応	スポーツ現場で起きる救急事態の安全管理と救急対応について
9	外傷・障害の基礎知識と救急対応について	外傷・障害の基礎解剖知識、RICE処置・テーピングなどの救急対応について
10	内科的疾患に対する救急対応	熱中症、脱水症、喘息、貧血などの体調管理について
11	各競技における救急体制	それぞれの競技で必要な救急体制について整理、緊急時対応計画(EAP)の作成
12	応急手当講習	応急手当の流れについて再復習
13	効果測定②	これまで学んだ心肺蘇生法、AED、気道異物除去に関する救命処置の実技について効果測定を行う
14	期末テスト	講義の復習と筆記試験
15		
16		

科目コード	62024				区　分	カリキュラムによって異なる			
授業科目名	リコンディショニングⅠ				担当者名	河野　儀久			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
リコンディショニングの目的や内容の概要を理解し各種組織の修復および機能の回復過程をもとに代表的な手法について理解し、安全で効果的な方法を選択し、計画と実践ができる。また、対象者の特徴分析に必要な検査・測定、観察手法の選択と実施方法を理解し、実践できることをねらいとする。合わせて、分析結果をもとに、対象者の特徴に応じたリコンディショニングプログラムの計画ができるようになることをねらいとする。

＜授業の到達目標＞
本講義では、リコンディショニングの概念と定義、そして実践にあたって必要となる基礎的な知識 の習得を目的とする。

＜授業の方法＞
講義。教科書に沿って講義を行い、必要に応じて補足資料を配布する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有り（グループディスカッション）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
テキスト内容の自分が分からないところ(＝授業において自分がしっかり聞いておかないといけないところ)を把握する毎回予習(30分程度)。そのことによって、授業での記憶定着の効率を上げる。授業を受けたその日のうちの復習（30分程度）、定期テスト前の勉強 を兼ねた復習である。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３(柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
小テスト10%、課題プロジェクト20%、定期試験70を総合的に判断する。

＜教科書＞
日本スポーツ協会（2007.9.10）　「アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑦・アスレティック・リハビリテーション」　日本スポーツ協会
公益財団法人日本スポーツ協会　2022年11月30日（第1刷）　『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト　第4巻 リコンディショニング』　（公財）日本スポーツ協会

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダクション	リコンディショニングの概念と定義の理解
2	リコンディショニングの代表的な手法	エクササイズ、テーピング、物理的手法、徒手的アプローチ
3	リコンディショニングの評価とプログラミング①	コンディションニング不良に対する評価とリコンディショニング
4	リコンディショニングの評価とプログラミング②	プログラミングの実際　多職種連携
5	リコンディショニングに必要な組織修復、治療過程の知識	骨・軟骨、靭帯、筋、腱、半月板、神経
6	機能的、身体的な状態に応じたリコンディショニング①	筋力
7	機能的、身体的な状態に応じたリコンディショニング②	関節可動性・柔軟性
8	機能的、身体的な状態に応じたリコンディショニング③	バランス機能
9	機能的、身体的な状態に応じたリコンディショニング④	全身持久力
10	機能的、身体的な状態に応じたリコンディショニング⑤	姿勢、アライメント
11	機能的、身体的な状態に応じたリコンディショニング⑥	体重管理
12	機能的、身体的な状態に応じたリコンディショニング⑦	スポーツ動作

13	科学的根拠に基づいたスポーツ外傷・障害予防プログラムの実際①	膝前十字靭帯損傷、足関節捻挫
14	科学的根拠に基づいたスポーツ外傷・障害予防プログラムの実際②	肉ばなれ、投球障害
15		
16		

科目コード	62025				区　分	コア科目		
授業科目名	リコンディショニングⅡ				担当者名	江波戸　智希		
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
対象者の状態（身体状態、機能的問題、動作における問題等）を把握し、適切なリコンディショニングプログラムを計画し、実践できる。また、部位別の代表的な機能障害・不全をもたらす症状を想定し、状態に応じたリコンディショニングプログラムを計画し、実践できるようになることをねらいとする。この科目は応用科目のため履修制限を定める。日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーを目指す学生のみが履修できる。日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー必修科目を履修し、アスレティックトレーナー現場実習を履修中または履修済みで

＜授業の到達目標＞
本講義では、「リコンディショニングⅠ」からの内容を深め、部位ごとの状態に応じたリコンディショニングプログラムの作成と実際に実践できる知識と技術の習得を目的とする。

＜授業の方法＞
講義。教科書に沿って講義を行い、必要に応じて補足資料を配布する。また必要に応じて実技指導も行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有2～4人のグループに分かれ、実技、ディスカッション、グループワークを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
テキスト内容の自分が分からないところ(＝授業において自分がしっかり聞いておかないといけないところ)を把握する毎回予習(30分程度）。そのことによって、授業での記憶定着の効率を上げる。授業を受けたその日のうちの復習（30分程度）、定期テスト前の勉強 を兼ねた復習である。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３(柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲 30%（出席評価、授業への積極的な参加）、課題レポート （適宜出される課題，最終レポート）70%

＜教科書＞
日本体育協会 (2009.9.30)　「日本体育協会アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑦・アスレティックリハビリテー ション」日本体育協会
公益財団法人日本スポーツ協会　2022年11月30日（第1刷）　『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト　第4巻 リコンディショニング』　（公財）日本スポーツ協会

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーションとリコンディショニングに必要な組織修復、治療過程の知識総論	授業概要、授業の進め方、成績評価等の説明、リコンディショニングに必要な組織修復、治療過程の知識
2	頭頚部のリコンディショニング	脳震盪、頚部捻挫
3	胸部のリコンディショニング	胸郭の機能不全
4	腰部のリコンディショニング	筋筋膜腰痛、腰椎間板ヘルニア、腰椎分離症
5	肩のリコンディショニング	投球障害、肩関節脱臼
6	肘・前腕のリコンディショニング	テニス肘、投球障害
7	手関節・手のリコンディショニング	手関節外傷・障害、手指靭帯損傷
8	骨盤帯・股関節のリコンディショニング	グロインペイン
9	大腿部のリコンディショニング	大腿部打撲、ハムストリングス肉ばなれ
10	膝関節のリコンディショニング	膝障害、膝靭帯損傷
11	下腿部のリコンディショニング	脛骨過労性骨膜炎、アキレス腱炎・断裂、下腿肉ばなれ
12	足関節・足部のリコンディショニング	足関節捻挫、足部障害
13	パラスポーツのプレーヤーへの対応	各障がい者への対応
14	まとめ	部位ごとのリコンディショニングにおける総合論議
15		
16		

科目コード	62026				区　分	コア科目		
授業科目名	リコンディショニングⅢ				担当者名	河野　儀久		
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
アスレティックリハビリテーションは、①筋力回復および筋力増強、②関節可動域回復、③神経筋協調性、⑤全身持久 力回復、⑥身体組成の管理、⑦再発予防および外傷予防を主な目的としている。この科目は応用科目のため履修制限を定める。日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーを目指す学生のみが履修できる。日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー必修科目を履修し、アスレティックトレーナー現場実習ⅢⅣを履修中または履修済みであることが条件となる。

＜授業の到達目標＞
本講義では、「アスレティックリハビ リテーション基礎」からの内容を深め、特に上肢および体幹を中心とした外傷ごとのリスク管理に基づいたアスレティッ クリハビリテーションプログラム作成と実際に実践できる知識と技術の習得を目的とする。

＜授業の方法＞
教科書に沿って講義を行い、必要に応じて補足資料を配布する。また必要に応じて実技指導も行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
運動療法

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
テキスト内容の自分が分からないところ（＝授業において自分がしっかり聞いておかないといけないところ）を把握す る、そのことによって、授業での記憶定着の効率を上げる。授業を受けたその日のうちの復習を毎回60分程度、定期テスト前の勉強を兼ねた復習120分程度。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３(柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲 30%（出席評価、授業への積極的な参加）、課題レポート　（適宜出される課題，最終レポート）70%

＜教科書＞
日本体育協会(2009.9.30)　「日本体育協会アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑦・アスレティックリハビリテー ション」日本体育協会

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	スポーツ外傷・傷害総論	スポーツ現場における下肢・競技（種目別）外傷と障害の特徴について理解
2	足・足関節のリハビリテーション　足指	足関節の機能解剖、怪我のメカニズム、医学的情報の理解
3	足・足関節のリハビリテーション　足関節	症例検討、具体的なプログラムの作成、リハビリ演習
4	下腿部のリハビリテーション−前部−	膝関節の機能解剖、怪我のメカニズム、医学的情報の理解
5	下腿部のリハビリテーション−後部−	症例検討、具体的なプログラムの作成、リハビリ演習
6	膝関節のリハビリテーション−捻挫−	大腿部の機能解剖、怪我のメカニズム、医学的情報の理解
7	膝関節のリハビリテーション−ACL−	評価に必要な検査および測定方法の理解、患部のリスク管理
8	膝関節のリハビリテーション−MCL−	症例検討、具体的なプログラムの作成、リハビリ演習
9	大腿部のリハビリテーション−前部−	肢関節の機能解剖、怪我のメカニズム、医学的情報の理解
10	大腿部のリハビリテーション−後部−	症例検討、具体的なプログラムの作成、リハビリ演習
11	股関節のリハビリテーション−前部−	競技(種目)特性に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミング(−球技−)
12	股関節のリハビリテーション−後部−	競技(種目)特性に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミング(−格闘技−)
13	競技（種目）特性に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミング（−球技−）	競技種目特性、競技種目の動作特性、体力特性、外傷発生機転
14	まとめ	スポーツ復帰のための機能的、体力的到達目標
15		
16		

科目コード	62027				区　分	カリキュラムによって異なる			
授業科目名	スポーツ外傷・障害の予防Ⅰ				担当者名	江波戸　智希			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因を理解し、科学的根拠に基づいた予防対応の計画および実践に必要な知識、態度や技能を習得することをねらいとする。ここでは、発症要因や予防法の考え方、スポーツ動作（歩行動作、走動作、ストップ・方向転換動作、跳躍動作、投動作、あたり動作など）に関するそれぞれのバイオメカニクスおよび動作に影響をあたえる機能的と体力的要因、さらに外傷・障害の発生機転となるスポーツ動作の特徴とメカニズムについて学習する。

＜授業の到達目標＞
安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防の目的や意義およびJSPO-ATとして果たすべき役割について説明できる。安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因を理解し、科学的根拠に基づいた予防対応を計画し実践できることを目標とする。

＜授業の方法＞
講義。予習を重視する。予習用の資料を配布し、教科書を基に予習をおこなった上で授業・実習等を進めていく。各テーマに対してグループワーク・ディスカッションを行う。オンデマンド資料提示や課題の提示、提出等はGoogle Classroomで行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有3～4人のグループに分かれ、動画撮影、分析を行い、発表を行う。また、ディスカッション、グループワークを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習として、次の授業内容の範囲まで90分ほど時間をかけて教科書を読み、予習課題に取り組んでくること。また、テキスト内容の自分が分からない箇所（＝授業において自分がしっかり聞いて、確認しておかなければならない箇所）を把握する。この予習により、授業での記憶定着の効率を上げる。授業を受けたその日のうちの30分以上復習すること。　適宜、事前課題および復習課題の提示、提出を求めることもある。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲 60%（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題），最終課題・発表 （最終課題，発表）40%

＜教科書＞
公益財団法人日本スポーツ協会（2007年9月30日） 「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑤・検査・測定と評価」 （公財）日本スポーツ協会
公益財団法人日本スポーツ協会　2022年11月30日（第1刷） 『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト　第2巻 安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防』 （公財）日本スポーツ協会

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業概要、授業の進め方、成績評価等の説明
2	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防の概念	意義、組織と役割、ICTやＩＯＴの活用
3	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防における役割	組織、対象、環境、競技特性
4	スポーツ外傷・障害の予防	考え方、疫学調査、発生要因、プログラムの立案と介入
5	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因・対応概論	競技・種目特性
6	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因・対応①	予防・再発予防としての動作の見方～走動作～
7	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因・対応②	予防・再発予防としての動作の見方～跳動作～
8	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因・対応③	予防・再発予防としての動作の見方～方向転換動作～
9	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因・対応④	予防・再発予防としての動作の見方～投球動作～

10	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因・対応⑤	予防・再発予防としての動作の見方～打撃動作～
11	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因・対応⑥	予防・再発予防としての動作の見方～泳動作～
12	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因・対応⑦	予防・再発予防としての動作の見方～あたり動作～
13	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因・対応⑧	予防・再発予防としての動作の見方～滑走動作～
14	ICT及び各種テクノロジーを活用したコンディショニング事例	コンディショニング評価とAIを用いた画像解析
15		
16		

科目コード	62027				区　分	カリキュラムによって異なる			
授業科目名	スポーツ外傷・障害の予防Ⅰ［週間オンデマンド］				担当者名	江波戸　智希			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因を理解し、科学的根拠に基づいた予防対応の計画および実践に必要な知識、態度や技能を習得することをねらいとする。ここでは、発症要因や予防法の考え方、スポーツ動作（歩行動作、走動作、ストップ・方向転換動作、跳躍動作、投動作、あたり動作など）に関するそれぞれのバイオメカニクスおよび動作に影響をあたえる機能的と体力的要因、さらに外傷・障害の発生機転となるスポーツ動作の特徴とメカニズムについて学習する。

＜授業の到達目標＞
安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防の目的や意義およびJSPO-ATとして果たすべき役割について説明できる。安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因を理解し、科学的根拠に基づいた予防対応を計画し実践できることを目標とする。

＜授業の方法＞
講義。予習を重視する。予習用の資料を配布し、教科書を基に予習をおこなった上で授業・実習等を進めていく。オンデマンド資料提示や課題の提示、提出等はGoogle Classroomで行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有3～4人のグループに分かれ、動画撮影、分析を行い、発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習として、次の授業内容の範囲まで90分ほど時間をかけて教科書を読み、予習課題に取り組んでくること。また、テキスト内容の自分が分からない箇所（＝授業において自分がしっかり聞いて、確認しておかなければならない箇所）を把握する。この予習により、授業での記憶定着の効率を上げる。授業を受けたその日のうちの90分以上復習すること。　適宜、事前課題および復習課題の提示、提出を求めることもある。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲 60%（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題），最終課題・発表 （最終課題，発表）40%

＜教科書＞

＜参考書＞
公益財団法人日本スポーツ協会（2007年9月30日） 「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑤・検査・測定と評価」 （公財）日本スポーツ協会
公益財団法人日本スポーツ協会　2022年11月30日（第1刷） 『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト　第2巻 安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防』 （公財）日本スポーツ協会

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業概要、授業の進め方、成績評価等の説明
2	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防の概念	意義、組織と役割、ICTやＩＯＴの活用
3	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防における役割	組織、対象、環境、競技特性
4	スポーツ外傷・障害の予防	考え方、疫学調査、発生要因、プログラムの立案と介入
5	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因・対応概論	競技・種目特性
6	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因・対応①	予防・再発予防としての動作の見方～走動作～
7	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因・対応②	予防・再発予防としての動作の見方～跳動作～
8	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因・対応③	予防・再発予防としての動作の見方～方向転換動作～
9	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障	予防・再発予防としての動作の見方～投球動作～

	害へ影響を及ぼしうる各種要因・対応④	
10	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因・対応⑤	予防・再発予防としての動作の見方～打撃動作～
11	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因・対応⑥	予防・再発予防としての動作の見方～泳動作～
12	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因・対応⑦	予防・再発予防としての動作の見方～あたり動作～
13	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因・対応⑧	予防・再発予防としての動作の見方～滑走動作～
14	ICT及び各種テクノロジーを活用したコンディショニング事例	コンディショニング評価とAIを用いた画像解析
15		
16		

科目コード	62028				区　分	カリキュラムにより異なる			
授業科目名	スポーツ外傷・障害の予防Ⅱ				担当者名	河野　儀久			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
スポーツ外傷・障害の予防の概念や発生要因について理解し、科学的根拠に基づいたスポーツ外傷・障害の予防を計画・実践するための態度や技能（装具・防具、ストレッチング、テーピング）を習得することをねらいとする。また対象者の基本データを収集する目的や意義、医・科学スタッフとの連携、更には各種データの活用法（メディカル・フィジカルチェック）について理解し、これらに必要な知識、態度や技能を習得することをねらいとする。

＜授業の到達目標＞
安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防に関連する対象者の基本データを収集する目的や意義、医・科学スタッフとの連携、更には各種データの活用法について理解し、安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防を検討する際の根拠となる各種評価を組織的に計画し実践できる。

＜授業の方法＞
講義。教科書、資料（適宜配布）に沿って講義や実技、確認テストを実施する。授業内容をもとに実技実習やディスカッションやを積極的に行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループワーク

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習として，当該箇所のテキスト内容を中心とした学習を60分以上行う。授業後は実技の確認を含めた30分以上の復習を行う。適宜予習，復習に関する課題を課す場合もある。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３(柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度(授業・実技の取り組み、グループへの貢献度)５０％、レポート課題　５０％

＜教科書＞
日本体育協会（2007.9.30）　「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑥・予防とコンディショニング」　日本体育協会
公益財団法人日本スポーツ協会　2022年11月30日（第1刷）　『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト　第2巻 安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防』　（公財）日本スポーツ協会

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業概要の説明、コンディショニングとは
2	各種要因が安全・健康に及ぼす影響	環境、用具、生活、心理
3	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防における役割	把握するべき主な情報と対象者に関する理解
4	スポーツ外傷・障害の予防	プログラムの実際　復帰の考え方
5	スポーツ外傷・障害の予防的手段①	装具・防具
6	スポーツ外傷・障害の予防的手段②	ストレッチング　上肢
7	スポーツ外傷・障害の予防的手段③	ストレッチング　下肢
8	スポーツ外傷・障害の予防的手段④	テーピング　上肢
9	スポーツ外傷・障害の予防的手段⑤	テーピング　下肢
10	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防のための各種評価と情報の活用①	メディカルチェック
11	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防のための各種評価と情報の活用②	フィジカルチェック
12	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因・対応①	用具・防具、ウェア、シューズ
13	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因・対応②	施設・設備、サーフェス
14	まとめ(1)	総合学習
15		
16		

科目コード	62030				区　分	コア科目			
授業科目名	スポーツ医学Ⅰ				担当者名	濱浪　一則			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
アスレティックトレーナーが活動を行う上で必要なスポーツ外傷・障害の基礎知識について理解する。そのために、上肢・下肢・体幹の主となるスポーツ外傷の病態、評価方法および重篤な外傷・年齢・性差によるスポーツ外傷の特徴の習得することをねらいとする。

＜授業の到達目標＞
日本スポーツ協会アスレティックトレーナー試験に合格できるよう知識を修得すること。

＜授業の方法＞
教科書を基に、必要に応じて資料を配布して講義を進めていく。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前に教科書、配布資料などを用いて予習する。配布資料の空欄を埋め授業に備える。授業で学んだ内容を復習し、事後課題を次回授業前に提出する。講義で学んだことを理解し、期末テストに備える。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３(体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
事後課題15%、定期試験 85%　事後課題について、提出期限が過ぎたものや内容が不十分なものには、減点します。公欠課題は、欠席授業回の事後課題と授業配布資料の空欄をうめたものを提出すること。提出のない場合は欠席扱いとする。

＜教科書＞
日本スポーツ協会（2024年3月25日）　アスレティックトレーナー専門基礎科目テキスト３　スポーツ医学概論　光文堂

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	総論	アスリートをサポートするスタッフのためのスポーツ医学概論
2	総論	整形外科的診断プロセス
3	総論	救急医学的診断プロセス
4	スポーツ外傷・障害と疾病メカニズムからみた病態特性	内科的病態
5	スポーツ外傷・障害と疾病メカニズムからみた病態特性	不活動に伴う生体反応と病態
6	代表的なスポーツ外傷 ・障害	頭部
7	代表的なスポーツ外傷 ・障害	胸腹部
8	代表的なスポーツ外傷 ・障害	腰部
9	代表的なスポーツ外傷 ・障害	肩関節・上腕
10	代表的なスポーツ外傷 ・障害	前腕・手・手指
11	代表的なスポーツ外傷 ・障害	前腕・手・手指
12	代表的なスポーツ外傷 ・障害	上肢の絞扼神経障害
13	代表的なスポーツ外傷 ・障害	大腿部
14	代表的なスポーツ外傷 ・障害	膝関節
15		
16		

科目コード	62031				区　分	コア科目		
授業科目名	スポーツ医学Ⅱ				担当者名	濱浪　一則		
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
アスレティックトレーナーが活動を行う上で必要なスポーツ外傷・障害の基礎知識について理解する。そのために、上肢・下肢・体幹の主となるスポーツ外傷の病態､評価方法及び重篤な外傷･年齢･性差によるスポーツ外傷の特徴の習得することをねらいとする。

＜授業の到達目標＞
日本スポーツ協会アスレティックトレーナー試験に合格できるよう知識を習得すること。

＜授業の方法＞
教科書を基に、必要に応じて資料を配布して講義を進めていく。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前に教科書、配布資料などを用いて予習する。配布資料の空欄を埋め授業に備える。授業で学んだ内容を復習し、事後課題を次回授業前に提出する。講義で学んだことを理解し、期末テストに備える。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３(体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
事後課題15%、定式試験85%事後課題について、提出期限が過ぎたものや内容が不十分なものには、減点します。公欠課題は、欠席授業回の事前課題と授業配布資料の空欄をうめて提出すること。提出のない場合は欠席扱いとする。

＜教科書＞
日本スポーツ協会（2024年3月25日）　アスレティックトレーナー専門基礎科目テキスト３　スポーツ医学概論
光文堂

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	代表的なスポーツ外傷 ・障害	下腿部
2	代表的なスポーツ外傷 ・障害	足関節・足部（１）
3	代表的なスポーツ外傷 ・障害	足関節・足部（２）　顔面
4	代表的なスポーツ外傷 ・障害	眼・鼻・耳
5	代表的なスポーツ外傷 ・障害	歯と口腔
6	代表的なアスリートにみられる内科的疾患	アスリートにみられる内臓器官などの疾患（１）
7	代表的なアスリートにみられる内科的疾患	アスリートにみられる内臓器官などの疾患（２）
8	代表的なアスリートにみられる内科的疾患	アスリートにみられる内臓器官などの疾患（３）　感染症に対する対応策（１）
9	代表的なアスリートにみられる内科的疾患	感染症に対する対応策（２）
10	代表的なアスリートにみられる内科的疾患	アスリートにみられる病的現象など
11	代表的なアスリートにみられる内科的疾患　スポーツ外傷・障害と疾病の理解や治療に影響を与える要因	特殊環境のスポーツ医学　医学的診断に影響を与える女性の特性
12	スポーツ外傷・障害と疾病の理解や治療に影響を与える要因	医学的診断に影響を与える成長期の特性
13	スポーツ外傷・障害と疾病の理解や治療に影響を与える要因医療資格者との連携	医学的診断に影響を与える障がい者の特性　prehospital car
14	医療資格者との連携	hospital care
15		
16		

科目コード	62032				区　分	コア科目		
授業科目名	人体の解剖と機能				担当者名	濱浪　一則		
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
ヒトの運動器が人体とどのように関わっているのか,その機能解剖や生体力学の知識は運動器に拘わらずすべてのリハビリテーションを行うにあたっての基礎であり必須であると思われる．リコンディショニング・コンディショニング・検査測定と評価の参考になると思われる運動器の機能・構造と生体力学について解説する．

＜授業の到達目標＞
機能解剖や運動学に関する専門的な知識を有し､スポーツ傷害を受けた競技者の競技復帰までのリコンディショニングとコンディショニングにあたることのできる技能を持つ指導者の養成を目指している指導者の基礎となる運動器の機能と構造の知識養成を図ることを目的としている。

＜授業の方法＞
講義。予習を重視する。予習用の資料を配布し、教科書を基に予習をおこなった上で授業・実習等を進めていく。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前に教科書、配布資料などを用いて予習する。配布資料の空欄を埋め授業に備える。授業で学んだ内容を復習し、事後課題を次回授業前に提出する。講義で学んだことを理解し、期末テストに備える。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３(体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
事後課題15%、定期試験85%事後課題について、提出期限が過ぎたものや内容が不十分なものには減点します。欠席課題は欠席授業回の課題と授業配布資料の空欄を埋めて提出すること。提出のない場合は欠席とする。

＜教科書＞
河野一郎,片寄正樹　(2024.3.26)　アスレティックトレーナー専門基礎科目テキスト　1 運動器の機能と構造　文光堂

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス　スポーツ動作と運動器の機能と構造　頭頚部・体幹の機能と構造	スポーツ動作と運動器の機能と構造　　頭頚部・体幹の関与が大きいスポーツ動作 頭頚部
2	頭頚部・体幹の機能と構造	頭頚部　体幹
3	頭頚部・体幹の機能と構造	体幹
4	上肢の機能と構造	上肢の関与が大きいスポーツ動作
5	上肢の機能と構造	肩甲帯・肩関節・上腕部
6	上肢の機能と構造	肘関節・前腕部
7	上肢の機能と構造	肘関節・前腕部
8	上肢の機能と構造	手関節・手指
9	下肢の機能と構造	下肢の関与が大きいスポーツ動作
10	下肢の機能と構造	骨盤帯・股関節・大腿部
11	下肢の機能と構造	膝関節
12	下肢の機能と構造	膝関節　下腿部・足関節・足部
13	下肢の機能と構造	下腿部・足関節・足部
14	下肢の機能と構造　まとめ	下腿部・足関節・足部
15		
16		

科目コード	63001				区　分	コア科目			
授業科目名	フィットネスプログラム論				担当者名	伊藤　三千雄／國友　亮佑			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
トレーニング指導者の役割を理解し、対象者が運動を通じて健康状態を維持、有意義な生活を送ることができるように「手助け」を行う方法を学ぶ。小学生から高齢者まで幅広い年齢層で必要となるトレーニング知識を学び、 トレーニングプログラムが立案できるようにする。

＜授業の到達目標＞
トレーニング指導者の役割を理解する。 各体力要素と様々な年代の身体の特徴を理解し、適切なトレーニングプログラムを立案できるようにする。 また各種疾患を理解し、その疾患にあわせたトレーニングプログラムを立案できるようにする。

＜授業の方法＞
パワーポイント・スライドでの説明を中心に行い、必要に応じて資料を配布する。授業内容によってはグループワーク（ディスカッション）を実施する。グーグルフォームにて小テスト、省察レポートを提出する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニングの要素有：5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：次回授業のキーワードを予習　(1時間程度)　復習：授業初めの小テストに向けて振り返り学習を行う　(1時間程度)

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３(体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲 20%、グループワークへの貢献度 20%、期末試験 20%、課題提出 20%、最終レポート 20%

＜教科書＞

＜参考書＞
財団法人日本体育施設協会　公認スポーツプログラマー専門科目テキスト
日本トレーニング指導者協会　2014年3月30日　トレーニング指導者テキスト　実践編　改訂版　大修館書店
NSCA　JAPAN　2018年12月19日　NSCAパーソナルトレーナーのための基礎知識第2版　NSCAジャパン

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス　運動と健康	オリエンテーション
2	スポーツ指導者・プログラマーの役割	健康・体力における運動の重要性、トレーニング指導者の役割
3	フィットネスエクササイズ理論①	ジュニア期におけるプログラムデザインの留意点、柔軟性・可動域向上トレーニング
4	フィットネスエクササイズ理論②	中学生におけるプログラムデザインの留意点、持久力向上トレーニング
5	フィットネスエクササイズ理論③	高校・大学生におけるプログラムデザインの留意点、筋力・パワー向上トレーニング
6	フィットネスエクササイズ理論④	成人期（社会人）におけるプログラムデザインの留意点、マシントレーニング
7	フィットネスエクササイズ理論⑤	女性におけるプログラムデザインの留意点、ヘルスエクササイズ
8	面談とスクリーニング	初回面談とスクリーニング
9	運動処方（プログラムデザイン）と健康管理	運動処方(プログラムデザイン)の方法と注意点
10	フィットネスプログラムの理論と実際①	中高年・高齢者のトレーニング
11	フィットネスプログラムの理論と実際②	生活習慣病やメタボ改善のためのトレーニング
12	フィットネスプログラムの理論と実際③	特別な対象者のためのトレーニング
13	体力評価の選択と管理	各体力の測定方法、測定データの活用とフィードバックの実際
14	まとめ	期末試験と解説
15		
16		

科目コード	63003				区　分	コア科目			
授業科目名	スポーツ相談の実際				担当者名	佐々木　史之			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本授業では、スポーツ心理相談の基礎理論と競技者が直面する諸課題を概観します。講義での知識習得に加え、ロールプレイを通じて「傾聴」や「共感」といった対人援助の基本姿勢を実践的に学びます。単なる技法の習得に留まらず、相談者一人ひとりの心に寄り添う「誠実な対話のあり方」を探求します。そして、理論と実践の往還を通じ、スポーツ現場で活きる心理支援の基礎的な素養を身に付けることを目指します。

＜授業の到達目標＞

本授業の到達目標は以下の通りです。(1)スポーツ心理相談の基礎理論を正しく理解し、その重要性を専門用語を用いて説明できる。(2)スポーツ競技者が抱える多様な心理的課題や典型的な相談事例について、背景にある心理機序を多角的に考察できる。(3)傾聴や共感といった対人援助の基本技法を、ロールプレイを通じて適切に実践できる。(4)状況に応じた適切な関わり方を選択し、心理支援の基礎的な素養を身につけている。

＜授業の方法＞

(1)授業の進め方　本授業は、理論を学ぶ「講義」と、対人援助スキルを磨く「実習（ロールプレイ）」を組み合わせて行います。前半は、カウンセリングの基礎技法やストレスマネジメントの理論を講義形式で修得します。後半の「相談の実際」では、スポーツ現場を想定した事例をもとに、グループワークやペアワークによるロールプレイを実施し、実践的な相談スキルを養います。また、自身の関わりを客観的に分析し、全体で共有するためのプレゼンテーションの機会を設けます。毎回の授業終盤には、リフレクション（省察）として振り返り課題に取り組

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、グループワーク、ペアワーク、プレゼンテーション）　各回、講義内容に関連したテーマについて5～6人のグループでディスカッションを行います。また、カウンセリングのロールプレイ等のペアワークを実施し、実践を通じて得た気づきや課題をグループ内で共有・統合します。これらのプロセスを経て、グループごとの見解をまとめて発表（プレゼンテーション）することで、他者の視点を取り入れながらスポーツ心理相談への理解を多角的に深めていきます。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

【予習：1時間】　前回の復習とともに次回のテーマを確認し、参考書等を活用し、専門知識の定着を図ります。また、実習に向けてロールプレイの場面設定を自ら考案し、基本的な対応のリハーサルを行うなど、自身の課題意識を整理して授業に臨むことが求められます。【復習：1時間】　授業内での気づきや課題を振り返り、Google Classroomを通じてリフレクションレポートを作成・提出します。学んだ技法を実際の場面に照らし合わせ、支援者としての素養を磨きます。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度 40%、授業課題 40%、最終レポート 20%

＜教科書＞

特になし

＜参考書＞

河合隼雄　「カウンセリングの実際問題」　誠心書房
中込四郎　「アスリートの心理臨床−スポーツカウンセリング−」　道和書院
内田直　「スポーツカウンセリング入門」　講談社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方、スポーツ相談例
2	カウンセリングについて	カウンセリングの基本
3	ストレスについて	ストレスの考え方と評価法
4	ストレスマネジメント	ストレスマネジメントとカウンセリング
5	自己分析を用いた心理相談（1）	性格傾向を把握して
6	自己分析を用いた心理相談（2）	パフォーマンス分析を用いて
7	自己分析を用いた心理相談（3）	心理的スキル分析を用いて
8	スポーツ相談の実際（1）	目標設定技法を用いての心理相談
9	スポーツ相談の実際（2）	行動変容技法を用いての心理相談
10	スポーツ相談の実際（3）	リラクセーション技法を用いての心理相談
11	スポーツ相談の実際（4）	イメージ技法を用いての心理相談

12	スポーツ相談の実際（5）	情動のコントロール技法を用いての心理相談
13	スポーツ相談の実際（6）	暗示技法を用いての心理相談
14	スポーツ相談の実際（7）	ポジティブシンキングを用いての心理相談
15		
16		

科目コード	63004				区　分	コア科目		
授業科目名	レクリエーション実習				担当者名	高見　博子		
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
スポーツを手段として活用し、心の元気づくりを行うとともに、スポーツ・レクリエーション活動による健康増進効果を図る専門の人材を養成するプログラムの一環を担う。

＜授業の到達目標＞
レクリエーションという言葉の主旨を理解するとともに、スポーツ未実施者をスポーツ・レクリエーション活動に誘い、スポーツ・レクリエーション活動の楽しさと効果を伝え、継続へと繋げるための理論と実践方法を身につける。

＜授業の方法＞
スライドと配布資料をもとに講義を展開するとともに、指導実践に向けた演習を行う。前時の講義内容の振り返りを、毎時において振り返りレポートを通じて行う。その他、グループワークを通じて本時の授業の理解を深める。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有スライドと配布資料をもとに講義を展開するとともに、指導実践に向けた演習を行う。その他、グループワークを通じて本時の授業の理解を深める。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
前時に記録したノートや配布された資料をもとに授業の振り返りをする（30分程度）。また、与えられた課題に対し、参考書やインターネットを利用して情報収集に努め、レポート作成に取り組む（1時間30分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
日常の授業における実践的な態度および振り返りレポートを含む課題提出（70%）。また、最終講義を終えた上でのまとめレポート(30%)を実施し、以上を総合的に評価する。

＜教科書＞
(公財)日本レクリエーション協会　スポーツ・レクリエーション指導者養成テキスト「スポレク活動で健康寿命を延伸」　2019年

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方，および授業におけるルールの確認
2	スポーツ・レクリエーション概論	スポーツ・レクリエーションとは，スポーツ・レクリエーション指導者の使命
3	スポーツ・レクリエーション生理学	日本人の生涯と高齢期の身体的特色，高齢期に訪れる危機、危機を回復する運動効果
4	スポーツ・レクリエーション心理学	高齢者の心理的特徴と運動やスポーツ・レクリエーションの心理的効果
5	スポーツ未実施者参加促進法	スポーツ未実施者参加促進法の進め方と体験会で活用できるスポレクワーク
6	スポーツ・レクリエーションの継続のための場づくり	活動の場づくりの必要性とはじめの一歩
7	スポーツ行政の仕組みと連携方法	何故、行政と連携なのか
8	動機付けの支援技術Ⅰ	信頼関係づくりの方法・ホスタビリティ，良好な集団作りの方法・アイスブレーキング，スポレクの効果を理解し意欲を高める言葉かけ
9	動機付けの支援技術Ⅱ	スポーツ未実施者を引き込む手法と楽しめる指導，対象者の相互作用を促進するコミュニケーション技術，継続意欲を高めるスポレク活動の展開
10	活動理解	コミュニケーションを深める展開方法とプログラム化する方法
11	安全管理の基礎	救急対応と救急体制の作り方
12	総合演習Ⅰ	スポーツ未実施者参加促進法演習とスポーツ・レクリエーション指導実習その１
13	総合演習Ⅱ	スポーツ未実施者参加促進法演習とスポーツ・レクリエーション指導実習その２
14	総合演習Ⅲ	スポーツ未実施者参加促進法演習とスポーツ・レクリエーション指導実習その３
15		
16		

科目コード	63005				区　分	コア科目		
授業科目名	レクリエーション演習				担当者名	高見　博子		
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
スポーツを手段として活用し、心の元気づくりを行うとともに、スポーツ・レクリエーション活動による健康増進効果を図る専門の人材を養成するプログラムの一環を担う。

＜授業の到達目標＞
レクリエーションという言葉の主旨を理解するとともに、スポーツ未実施者をスポーツ・レクリエーション活動に誘い、スポーツ・レクリエーション活動の楽しさと効果を伝え、継続へと繋げるための理論と実践方法を身につける。

＜授業の方法＞
スライドと配布資料をもとに講義を展開するとともに、指導実践に向けた演習を行う。前時の講義内容の振り返りを、毎時において振り返りレポートを通じて行う。その他、グループワークを通じて本時の授業の理解を深める。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブ・ラーニング有スライドと配布資料をもとに講義を展開するとともに、指導実践に向けた演習を行う。その他、グループワークを通じて本時の授業の理解を深める。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
前時に記録したノートや配布された資料をもとに授業の振り返りをする（30分程度）。また、与えられた課題に対し、参考書やインターネットを利用して情報収集に努め、レポート作成に取り組む（1時間30分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
日常の授業における実践的な態度および振り返りレポートを含む課題提出（70%）。また、最終講義を終えた上でのまとめレポート(30%)を実施し、以上を総合的に評価する。

＜教科書＞
(公財)日本レクリエーション協会　スポーツ・レクリエーション指導者養成テキスト「スポレク活動で健康寿命を延伸」　2019年

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方，および授業におけるルールの確認
2	スポーツ・レクリエーション概論	スポーツ・レクリエーションとは，スポーツ・レクリエーション指導者の使命
3	スポーツ・レクリエーション生理学	日本人の生涯と高齢期の身体的特色，高齢期に訪れる危機、危機を回復する運動効果
4	スポーツ・レクリエーション心理学	高齢者の心理的特徴と運動やスポーツ・レクリエーションの心理的効果
5	スポーツ未実施者参加促進法	スポーツ未実施者参加促進法の進め方と体験会で活用できるスポレクワーク
6	スポーツ・レクリエーションの継続のための場づくり	活動の場づくりの必要性とはじめの一歩
7	スポーツ行政の仕組みと連携方法	何故、行政と連携なのか
8	動機付けの支援技術Ⅰ	信頼関係づくりの方法・ホスタビリティ，良好な集団作りの方法・アイスブレーキング，スポレクの効果を理解し意欲を高める言葉かけ
9	動機付けの支援技術Ⅱ	スポーツ未実施者を引き込む手法と楽しめる指導，対象者の相互作用を促進するコミュニケーション技術，継続意欲を高めるスポレク活動の展開
10	活動理解	コミュニケーションを深める展開方法とプログラム化する方法
11	安全管理の基礎	救急対応と救急体制の作り方
12	総合演習Ⅰ	スポーツ未実施者参加促進法演習とスポーツ・レクリエーション指導実習その１
13	総合演習Ⅱ	スポーツ未実施者参加促進法演習とスポーツ・レクリエーション指導実習その２
14	総合演習Ⅲ	スポーツ未実施者参加促進法演習とスポーツ・レクリエーション指導実習その３
15		
16		

科目コード	65019				区　分	コア科目		
授業科目名	公務員と法				担当者名	平野　正樹		
配当年次	3年	配当学期	後期集中	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	2単位

＜授業の概要＞
本科目では、市場機構の不完全性である市場の失敗、中でも公共部門の役割についての経済学的かつ制度論的な内容を理解することを目的とする。これを基に現代の経済的かつ財政的課題についてのケース・スタディーを通じて、公的主体の意義を学ぶ。そして、本科目を受講した学生が国内外の経済・財政問題に対して、コメントできるようになることを目途に授業を展開する。

＜授業の到達目標＞
授業を通じて、経済における「公的部門」と「民間部門」の相違とそれぞれの主体である「公」「民」の行動目的についての理解を図る。また、市場経済を中心とした経済社会で生じる諸問題(市場の失敗)について、その原因を分析するとともに国家財政や地方財政が抱える制度論的課題にも言及する。なお、シラバスの内容は前期開講の「公務員と法」と同様であるが、配布資料などを変えるとともに、講義内容の高度化で対応したい。

＜授業の方法＞
主として黒板を活用

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
履修条件として、ミクロ経済学とマクロ経済学は単位修得済みであること。予習・復習を行うとともに、日頃から新聞などで経済や財政に関する事柄に目を通しておくこと。具体的には、事前配付物での予習90分、復習50分が目安。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
課題(小テスト)80%と授業態度等20%で成績評価をする。なお、課題(小テスト)については模範解答を提示・説明する。

＜教科書＞
なし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	市場経済とパーフォーマンス　経済の仕組みと公的部門	経済の仕組み　市場経済と公共部門の役割　経済学と経営学との相違など
2	公共経済学と財政学	市場の失敗、市場における外部性と公共財の存在
3	財政学と財政の三機能(Ⅰ)	財政学とは何か　財政学の誕生と発展
4	財政学と財政の三機能(Ⅱ)	資源配分機能　所得再分配機能　経済安定化機能
5	国と地方の財政の姿	国家財政・地方財政の歳入・歳出予算　予算の編成過程など
6	公共サービスと財政のかかわり(Ⅰ)	公共財の性質　公共財供給の効率性
7	公共サービスと財政のかかわり(Ⅱ)	多数決と公共サービス　　公共財の最適供給と公平な負担
8	租税の基礎理論	租税原則と租税体系　効率と公平のトレード・オフ
9	所得課税	所得税と住民税の仕組み
10	消費課税	消費税の仕組み　従価税と従量税
11	資産課税	固定資産税と相続税の仕組み
12	国債と地方債	国債と地方債の種類　公債の負担
13	裁量的な財政政策とマクロ経済	乗数効果　　財政政策の有効性
14	地方交付税と地域間所得再分配	地方交付税と国庫支出金の仕組み
15		
16		

科目コード	65020				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	実践英文法（基礎）				担当者名	井上　聡			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業の目的は、大学入試の基礎となる英文法への理解を深め，英語学習の方略を固めることです。事前課題（英検2級、英検準1級、TOEICの問題演習）をもとに、グループで教え合いを行い、講師の解説を傾聴し、理解度確認テストで「わかる」「わからない」を区別します。この授業はブレンド型（対面とオンラインの組み合わせ）によるアクティブ・ラーニング型の授業となります。PCまたはタブレットを持参の上、臨んでください。スマホの使用は、原則認めません。

＜授業の到達目標＞
１．事前課題（調べ学習）に粘り強く取り組むことができる。２．活発な意見交流を通してグループワークに貢献できる。３．理解度確認テストで高いスコアを残すことができる。

＜授業の方法＞
事前課題の教え合い（40分）解説の傾聴（30分）意見交換（20分）※授業はすべてGoogle Classroom上で行われます。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループワークによる教えあい

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：整序問題（90分程度）※英検・TOEICの文法演習復習：理解度確認テスト（30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー５（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
事前課題 30%，グループワーク 20%，理解度確認テスト 40%，意見交換 10%

＜教科書＞
授業中に配本予定

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	第１章　品詞解析①、オリエンテーション	授業の進め方、教材の使い方、品詞解析①
2	第２章　品詞解析②	教え合い、解説、振り返り
3	第３章　品詞解析③	教え合い、解説、振り返り
4	第４章　品詞解析④	教え合い、解説、振り返り
5	第５章　品詞解析⑤	教え合い、解説、振り返り
6	第６章　品詞解析⑥	教え合い、解説、振り返り
7	第７章　品詞解析⑦	教え合い、解説、振り返り
8	第８章　品詞解析⑧	教え合い、解説、振り返り
9	第９章　品詞解析⑨	教え合い、解説、振り返り
10	第１０章　品詞解析⑩	教え合い、解説、振り返り
11	第１１章　品詞解析⑪	教え合い、解説、振り返り
12	第１２章　品詞解析⑫	教え合い、解説、振り返り
13	第１３章　品詞解析⑬	教え合い、解説、振り返り
14	第１４章　品詞解析⑭	教え合い、解説、振り返り
15		
16		

科目コード	65021				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	実践英文法（応用）				担当者名	井上　聡			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業は、実践英文法（基礎）の発展編となります。協働学習を通して、英検準1級やTOEIC750点レベルの文法問題や読解問題に挑戦し、他者への説明力を養います。成績評価は、事前課題、協働学習への態度、理解度確認テスト、意見交換の質を軸に行います。この授業はブレンド型で行われますので、必ずPCを持参して臨んでください。

＜授業の到達目標＞
１．事前課題に粘り強く取り組み、詳細なノートを作成・提出できる。２．協同学習で教え合いを行い、設問の説明力を磨くことができる。３．理解度確認テストを受験し、高い理解度を残すことができる。４．意見交換の場で、自身の学びを適切に言語化できる。

＜授業の方法＞
教え合い（50分程度）解説の傾聴（30分程度）意見交換（10分）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
グループワークでの教えあい

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：事前課題の解答を作成・提出（120分程度）復習：理解度確認テスト＋意見交換（60分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー５（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
事前課題 40%、理解度確認テスト 40%、意見交換 20%

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞
特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	第１章　品詞解析＋オリエンテーション	グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト
2	第２章　動詞の語法①	グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト
3	第３章　動詞の語法②	グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト
4	第４章　動詞の語法③	グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト
5	第５章　動詞の語法④	グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト
6	第６章　動詞の語法⑤	グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト
7	第７章　前置詞・接続詞①	グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト
8	第８章　前置詞・接続詞②	グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト
9	第９章　関係詞①	グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト
10	第１０章　関係詞②	グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト
11	第１１章　名詞・代名詞	グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト
12	形容詞・副詞	グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト
13	第１３章　総合演習①	グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト
14	第１４章　総合演習②	グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト
15		
16		

科目コード	65022				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	リーディング・スキル（基礎）［英語教員希望者限定週間オンデマンド］				担当者名	井上　聡			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業はオンデマンド型で実施し、英検２級レベルで、英文の速読・精読力と語彙力・構文解析力を強化します。Google Classroomを通して配信された事前課題に取り組み、課題の提出・採点・返却後に理解度確認テストを受験し、その結果に基づいて、「何を学ぶことができたか」「どのように学んだのか」について意見交換を行います。事前課題の質、理解度確認テストのスコア、意見交換の質の３点に基づいて成績評価を行います。※この科目は原則、英語教職課程の履修者しか受講できません。他の理由で履修を希望する場合は、メンターや

＜授業の到達目標＞
１．授業動画を活用し、事前課題（英検２級の長文読解）に粘り強く取り組むことができる。２．理解度確認テストを受験し、その結果を適切に振り返ることができる。３．事前課題と理解度確認テストを通して得た学びを「意見交換」の場で言語化できる。　※授業はすべてGoogle Classroom上で行います。

＜授業の方法＞
１．事前課題（長文の読解、授業動画の視聴、ノート作成、提出）※授業日の前日　２．理解度確認テスト（Google Form）※授業日のみ　３．意見交換（Google Classroom）※授業日のみ

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
事前課題の優秀作品やテスト優秀者の氏名については随時、Classroomのストリームで公開します。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：事前課題の提出（90分程度）復習：理解度確認テストの受験（1時間程度）と意見交換（10分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー５（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
事前課題の質 30%、理解度確認テスト 30%、Review Test 20％、意見交換 20%

＜教科書＞
特に指定なし

＜参考書＞
特に指定なし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	Generations Helping Each Other	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
2	Metal Foam	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
3	A New Type of Chocolate	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
4	A New Way to Use a Computer	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
5	Review 1	Review Test_01実力テスト_01
6	The Price of a Song	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
7	A Model Tourist Town	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
8	The Mysterious Mummies	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
9	Female Pioneers	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
10	Review 2	Review Test_02実力テスト_02
11	Counting Every Children	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
12	Smart Stickers	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
13	Bibliotherapy	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
14	Bringing Back Ancient Plants	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
15		
16		

科目コード	65023				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	リーディング・スキル（応用）［英語教員希望者限定週間オンデマンド］				担当者名	井上　聡			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本授業はオンデマンド型で実施し、英検準１級レベルの英文の速読・精読力に加え、同レベルの語彙・構文解析力を強化します。事前課題（読解・語彙・文法のノートテイキング）に取り組み、理解度確認テストを受験し、その結果に基づいて、「何を学ぶことができたか」「どのように学んだのか」について意見交換を行います。事前課題の質、理解度確認テストのスコア、意見交換の質の３点に基づいて成績評価を行います。※この科目は原則、英語教職課程の履修者しか受講できません。他の理由で履修を希望する場合は、メンターやゼミ担当教員の了承を事前

＜授業の到達目標＞

１．デジタル解説動画を活用し、事前課題（長文読解）に粘り強く取り組むことができる。２．理解度確認テストを受験し、その結果を適切に振り返ることができる。３．事前課題と理解度確認テストを通して得られた学びを「意見交換」の場で言語化できる。　※授業中のデータ共有はすべてGoogle Classroomで行います。

＜授業の方法＞

１．事前課題（長文の読解、授業動画の視聴、ノート作成、提出）※授業前日まで　２．理解度確認テスト（Google Form）※授業日のみ３．意見交換（Google Classroom）※授業日のみ

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

事前課題の優秀作品やテスト優秀者の氏名については随時、Classroomのストリームで公開します。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前課題の提出（90分程度）復習：理解度確認テストの受験（30分程度）＋意見交換

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー２（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー５（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題の質 30%、理解度確認テスト 30%、Review Test 20%、意見交換 20%

＜教科書＞

特に指定なし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	″Drink Responsibly″ Messages	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
2	Dog Colors	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
3	Lightning Strikes and Ships	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
4	Minimalism: Is Less Really More?	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
5	Review 1	Review Test_01実力テスト_01
6	The Thaba-Tseka Development Project	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
7	The Uncertainties of Celiac Disease	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
8	REDD+	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
9	Summer Jobs	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
10	Review 2	Review Test_02実力テスト_02
11	Stranded Whales	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
12	Airplanes and Germs	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
13	Young People and Sports	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
14	Medical Voluntourism	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
15		
16		

科目コード	65039				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	ライティング・スキル［英語教員希望者限定週間オンデマンド］				担当者名	井上　聡			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業（オンデマンド型授業）では、英検２級、および、準１級レベルの英語ライティング能力の習得を目的として、論理構成力と英語表現力を同時に磨きます。授業第５週目までは主として、英文に変換しやすいような日本語の論理思考力の強化に励みます。続いて６週目からはeラーニング教材を使用して、毎週１本ずつ課題作文の提出・添削を繰り返します。自律的にこなすことが難しい領域だからこそ、単位化されたこの授業でスキルを身に着けてほしいと願っています。ただし、ライティング課題を作成する際、自動翻訳への依存や他者の作品の引用が発覚

＜授業の到達目標＞
１．毎回期限までに課題を提出できる。２．ライティングの精度（構成、文法、内容等）を高めることができる。３．「意見交換」の場で自身の学び言語化できる。　※授業はすべてGoogle Classroom上で行われます。

＜授業の方法＞
１．事前課題（第6週からeラーニング教材を使用）※授業前日まで　２．添削・返却　　※授業日３．修正・振り返り　※授業日

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
ライティング課題の優秀作品やテスト優秀者の氏名については随時、Classroomのストリームで公開します。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：事前課題の提出（90分程度）復習：意見交換での発信（10分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー５（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
事前課題の質 40%, 理解度確認テスト 40%, 意見交換 20%

＜教科書＞
特に指定なし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の進め方
2	よく出る英語構文（1）	事前課題, 採点・返却, 理解度確認テスト, 意見交換
3	よく出る英語構文（2）	事前課題, 採点・返却, 理解度確認テスト, 意見交換
4	よく出る英語構文（3）	事前課題, 採点・返却, 理解度確認テスト, 意見交換
5	よく出る英語構文（4）	事前課題, 採点・返却, 理解度確認テスト, 意見交換
6	よく出る英語構文（5）	事前課題, 採点・返却, 理解度確認テスト, 意見交換
7	論理構成の立て方（1）	事前課題, 採点・返却, 理解度確認テスト, 意見交換
8	論理構成の立て方（2）	事前課題, 採点・返却, 意見交換
9	英検2級の論理構成	事前課題, 採点・返却, 意見交換
10	英検準1級の論理構成（1）	事前課題, 採点・返却, 意見交換
11	英検準1級の論理構成（2）	事前課題, 採点・返却, 意見交換
12	英検2級演習（1）	事前課題, 採点・返却, 意見交換
13	英検2級演習（2）	事前課題, 採点・返却, 意見交換
14	英検準1級演習（1）	事前課題, 採点・返却, 意見交換
15	英検準1級演習（2）	事前課題, 採点・返却, 意見交換
16		

科目コード	65040				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	スピーキング・スキル				担当者名	伊藤　仁美			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本授業は、ニュース記事や動画等を活用し、基礎的な英語発信能力から、論理的なプレゼンテーション能力までを段階的に習得することを目的とする。授業の前半では、1つのトピックに対し3回連続のサイクルでアプローチし、1回目は「音読・重要文の暗唱・部分リテリング」、2回目は記事全体の要約と論理構成の強化、3回目は関連リサーチに基づく独自の提案プレゼンテーションを行う。これにより、知識としての英語を、実際の対話で運用できる「自動化されたスキル」へと高めることをねらいとする。 授業の後半では、社会的な課題に対する継続的な

＜授業の到達目標＞

(1) 身近な話題について、事前の準備なしに英語を話し始め、5秒以上の不自然な沈黙を作ることなく1分間継続してコミュニケーションを図ることができる。(2) ニュース記事や動画等から得た情報を正確に把握し、暗唱した重要フレーズやキーワード、および視覚資料を活用しながら、自分の言葉で論理的に要約して伝えることができる。(3) 現代社会における特定の課題に対し、自らのリサーチに基づいた意見や解決策を加え、聞き手が理解しやすい構成で、説得力のある発表を行うことができる。

＜授業の方法＞

(1) 帯活：Small Talk（15分）(2) 導入：新しいインプット（ニュースの視聴、記事の精読など）の理解（10分） ＋チャンキング（10分）(3) 練習１：パラグラフごとの音読、重要文の暗唱、部分リテリング(30分)(4) 練習２：メモ・キーワードのみを見て、学習した内容ををを1分程度で要約（20分）(5) 展開：リサーチもしくはディスカッション（内容に関連する事実を調べたり、自分ならどうするかを短く話し合う）（10分）(6) 終末：リフレクションシートの記入（5分）※ただし、1つのトピックを扱

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有　※英語を使って、事実・自分の考え・気持ちを伝え合うことが常態化した授業である

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

合計２時間程度＜予習＞次回のトピックに関する語彙の発音・意味調べと、動画の視聴・記事の内容把握＜復習＞ 授業で練習した重要フレーズの音読・暗唱を繰り返し、内容を自分の言葉でリテリングする練習を行うこと。再度Small Talkや対話を行う際、より流暢に、かつ深みのある内容で即興発話ができる状態まで定着させること。また、最終プレゼンに向けた関連リサーチを継続すること。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー２（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー５（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加度・課題への取り組み 30%、中間試験（リテリング＋自分ごと）30%、期末試験（プレゼンテーション） 40%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の進め方、、Small Talk、音読
2	Topic 1: (1) 再現	身近な話題に関するニュース記事の内容理解、パラグラフごとの音読、重要文の暗唱、部分リテリング
3	Topic 1: (2) 要約	記事全体の要約、論理展開とつなぎ言葉
4	Topic 1: (3) 自分ごと	事実や自分の考え、気持ちなどの整理
5	Topic 2: (1) 再現	社会的な話題に関する記事の内容理解、パラグラフごとの音読、重要文の暗唱、部分リテリング
6	Topic 2: (2) 要約	記事全体の要約、論理展開とつなぎ言葉
7	Topic 2: (3) 自分ごと	事実や自分の考え、気持ちなどの整理
8	中間試験 (1)	第2回～第7回の内容に基づくパフォーマンス・テスト（リテリング＋自分ごと）
9	中間試験 (2)	第2回～第7回の内容に基づくパフォーマンス・テスト（リテリング＋自分ごと）
10	プレゼンの論理構成	継続して調査してきたリサーチの簡易メモを整理し、プレゼンの論理構成を固める。
11	プレゼンの初稿と相互フィードバック	宿題で作成した原稿を共有する。内容面（論理性）と言語面（語彙・表現）からペア・

		グループでフィードバックを行う。
12	スライドの作成とプレゼン練習	推敲した原稿と宿題で作成したスライドを用い、実際に発表してみる。デリバリー（視線・声・表情など）を確認し、暗唱を目指して反復練習する。
13	期末試験（1）	プレゼン発表とフィードバック
14	期末試験（2）	プレゼン発表とフィードバック、 全体の総括・振り返り
15		
16		

科目コード	65041				区　分	専門基礎科目			
授業科目名	リーディング・スキル(実践) [英語教員希望者限定週間オンデマンド]				担当者名	井上　聡			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本授業はオンデマンド型で実施し、英検１級レベルの英文の速読・精読力と語彙・構文解析力を強化します。事前課題（長文読解に関するノートテイキング）に取り組み、理解度確認テストを受験し、その結果に基づいて、「何を学ぶことができたか」「どのように学んだのか」について意見交換を行います。事前課題の質、理解度確認テストのスコア、意見交換の質、学びの整理の３点に基づいて成績評価を行います。※この科目は原則、英語教職課程の履修者しか受講できません。他の理由で履修を希望する場合は、メンターやゼミ担当教員の了承を事前に得てお

＜授業の到達目標＞

１．デジタル解説動画を活用し、事前課題（英検１級の長文読解）に粘り強く取り組むことができる。２．理解度確認テストを受験し、その結果を適切に振り返ることができる。３．事前課題と理解度確認テストを通して得られた学びを「意見交換」の場で言語化できる。　※授業はすべてGoogle Classroom上で行われます。

＜授業の方法＞

１．事前課題（長文の読解、授業動画の視聴、ノート作成、提出）※授業前日まで　２．理解度確認テスト（Google Form）※授業日のみ３．意見交換（Google Classroom）※授業日のみ

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

事前課題の優秀作品やテスト優秀者の氏名については随時、Classroomのストリームで公開します。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前課題の提出（90分程度）復習：理解度確認テストの準備（30分程度）＋意見交換（10分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー２（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー５（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題の質 30%、理解度確認テスト 30%、Review Test 20%、意見交換 20%

＜教科書＞

特に指定なし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	″Drink Responsibly″ Messages	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
2	Dog Colors	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
3	Lightning Strikes and Ships	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
4	Minimalism: Is Less Really More?	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
5	Review 1	Review Test_01実力テスト_01
6	The Thaba-Tseka Development Project	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
7	The Uncertainties of Celiac Disease	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
8	REDD+	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
9	Summer Jobs	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
10	Review 2	Review Test_02実力テスト_02
11	Stranded Whales	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
12	Airplanes and Germs	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
13	Young People and Sports	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
14	Medical Voluntourism	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
15	Review 3	Review Test_03実力テスト_03
16		

科目コード	65047				区　分	コア科目			
授業科目名	キャリアマネジメントⅠ［企業］				担当者名	戸田　晃大／佐藤　典子			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
早期化している就活に相対すべく、企業就職希望で意欲の高い学生向けに自己理解・企業理解を促進する

＜授業の到達目標＞
「視野・視座を上げる」「チャレンジ精神を培う」を目標とし、就活時にはプライム上場企業や著名400社へのエントリーができる状態にする

＜授業の方法＞
教員、キャリアセンター職員、就職支援会社を中心としてインプットの座学と、グループワークや個人ワーク、ロールプレイなどのアウトプットを組み合わせる

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニング有。授業の方法を参照のこと

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前実施する自己の振り返りや座学、ワーク、課外授業を経てのレポート作成など30分～1時間程度

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため最先端かつ高度な知識・技能を活用できる）と関連づけられている

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講意欲･態度40%、課題レポートなどの提出物60%

＜教科書＞
随時印刷物を配布するか、オンラインで資料を共有する

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	就活のリアルを知る―理想と現実のギャップを今の時点で知る
2	自己理解①経験の棚卸し	自分の内的キャリアを探る―自分の過去の経験を棚卸しして、行動と思考を振り返る
3	自己理解②強みの発見	無自覚な自己の「強み」を言語化する―他己分析を通し、自分の強みを客観的に探る
4	自己理解③再現性の発見	再現性の発見をする―第3回で出した強みを能力に言い換える
5	自己理解④価値観の言語化	自分が力を発揮する条件を言語化する―モチベーショングラフ分析/価値観ランキング/環境条件の言語化をする
6	仕事理解①業界の構造理解	業界・ビジネスモデルの基本を知る―大手と中小の違い/ベンチャーとは/外資系を選択肢に入れるか/ブラック企業とは
7	仕事理解②職種理解	仕事の中身を知る―仕事の1日の流れを設計する
8	仕事理解③企業を深く知る	浅い企業研究からの脱却―1社を深堀りし、強み・競合・戦略を探る
9	仕事理解④社会人から学ぶ職業観	リアルな職業観を得る―卒業生をインタビューして、働くイメージを膨らませる
10	接続①強みX仕事	自分の強みが活きる業界・職種を見つける―企業で求められる力と自分の強みをマッチングする
11	接続②ストーリー化	企業に伝わる自己PRを作成する―これまでの深い自己理解を相手に伝わる構造に翻訳する
12	選考対策①エントリーシート対策	実際の選考で通過する文章を作成する
13	選考対策②面接対策	通過する面接を体感する―評価基準を知って面接を受けるトレーニング
14	総合アウトプット	自分の軸を確定させ、外でも再現できる状態にする―自分についてのプレゼンテーション、目標業界や企業を設定し、今後の行動計画を立てる
15		
16		

科目コード	65047				区　分	コア科目			
授業科目名	キャリアマネジメントⅠ［公務員］				担当者名	横内　浩平			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

公務員を目指す学生がキャリア（職業人生）を考えていくには、さまざまな採用試験について十分理解しておく必要がある。本科目では、警察官・消防士・刑務官などの公安系公務員を目指す学生がそれぞれの職種について学び、公務員としての心構えを身につけることをねらいとする。また実際に出題される試験問題を解説し、実践力を身につけることを目的として開講する。

＜授業の到達目標＞

１．公務員という仕事を知り、また採用試験における「頻出分野」の理解ができるようになる。２．３年次から開講される「公務員対策講座」を受講するための数学的基礎力を身に付けている。３．採用試験に向けての準備を怠らない習慣を身に付けている。

＜授業の方法＞

１．講義（配布プリント、パワーポイントを使用し授業を進める）２．グループワーク（授業中に出される複数の解き方がある問題に関する教え合い）３．授業で解く問題が得意な学生に対して、難易度の高い問題を準備しclassroomなどを活用して解説する。※一部の問題についてはインターネット上のサイトを活用して解説します。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有り　問題の一部についてはグループ内で相談し答えを見つける

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の授業内容に関する公式等の下調べ（30分程度）復習：次回講義までに授業中に解き方を示した問題を解けるようにしておく（90分以上）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー３（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験の結果 50%、確認テスト 35%、授業態度　15%

＜教科書＞

特に指定なし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	履修ガイダンス	講義の進め方について説明する。
2	公務員という仕事の理解・計算演習（1）	公務員試験全般について学ぶ。分数の計算
3	計算演習（2）	文字式
4	計算演習（3）・職種研究（1）	連立方程式、職種研究 警察官編
5	数的処理分野（1）	速さⅠ（旅人算・通過算）
6	数的処理分野（2）・職種研究（2）	速さⅡ（流水算・時計算）・職種研究 刑務官編
7	数的処理分野（3）	割合Ⅰ（相当算・売買算）
8	数的処理分野（4）・職種研究（3）	割合Ⅱ（濃度算・仕事算）・職種研究 自衛隊編
9	数的処理分野（5）	方程式・不等式Ⅰ（和差算・過不足算）
10	数的処理分野（6）・職種研究（4）	方程式・不等式Ⅱ（分配算・年齢算・平均算）・職種研究 海上保安官編
11	数的処理分野（7）	整数（約数・倍数・記数法）
12	数的処理分野（8）・職種研究（5）	確率Ⅰ（順列・組合せ）・職種研究 事務職系
13	数的処理分野（9）	確率Ⅱ（場合の数・確率）
14	数的処理分野（10）・職種研究（6）	規則性（数列・規則性の発見・計算パズル）　職種研究 その他の職種
15		
16		

科目コード	65047				区　分	コア科目			
授業科目名	キャリアマネジメントⅠ［中高保体教員］				担当者名	岩田　知郎／小川　雄太			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
中学校・高等学校の教員採用試験を受験するために、体育の基本となる内容（スポーツのルール等）を習得する。（大学3年・4年で保健体育の教員採用試験を受験する予定の者のみを対象とする）

＜授業の到達目標＞
・教員の適性を確認し、他者と協働しながら学ぶ態度を身に付けることができる。・様々なスポーツ種目の特性やルール等が理解できる。・プレゼンテーション能力を身に付けることができる。

＜授業の方法＞
①与えられた課題（各種目のルール等）をグループごとで協力し合い調べ、プレゼンテーションをする。②教壇に立つことを意識し、わかりやすいプレゼンができるようにする。③グループで調べまとめることにより学生同士の相互の学びあいを大切にしていく。④毎回、前時のミニテストとミニレポートを実施し、学びを深める。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
前時のミニテストをすることにより、理解度を深めることが出来る。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
復習：前時の内容のミニテストがあるため、毎回復習をしてくる必要がある（約60分）。予習：次回の授業テーマに関する内容を，参考書などを利用して予習しておく（約60分）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
プレゼンテーション・グループ活動 20%、レポート得点 30%、毎回のミニテスト 20%、最終テスト 30%

＜教科書＞

＜参考書＞
2025年9月1日　27年度　中高保健体育の完全攻略　時事通信社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	授業ガイダンス	授業内容を理解するグループの確認・分担確認
2	オリンピック先輩からのアドバイス	教員採用試験について（先輩からのアドバイス）オリンピックについて学ぶ
3	器械運動	器械運動について理解する前時のミニテスト実施
4	水泳	水泳について理解する前時のミニテスト実施
5	体つくり運動球技：ベースボール型	体つくり運動、球技について理解する前時のミニテスト実施
6	陸上競技	陸上競技について理解する前時のミニテスト実施
7	陸上競技	陸上競技について理解する前時のミニテスト実施
8	球技：ゴール型	球技について理解する前時のミニテスト実施
9	球技：ゴール型	球技について理解する前時のミニテスト実施
10	球技：ネット型	球技について理解する前時のミニテスト実施
11	球技：ネット型	球技について理解する前時のミニテスト実施
12	武道	武道について理解する前時のミニテスト実施
13	ダンス	ダンスについて理解する前時のミニテスト実施
14	まとめ確認テスト	これまでの授業のまとめ，確認テストを実施する
15		
16		

科目コード	65047				区　分	コア科目			
授業科目名	キャリアマネジメントⅠ［中高保体教員］				担当者名	岩田　知郎／小川　雄太			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
中学校・高等学校の教員採用試験を受験するために，体育の基本となる内容（スポーツのルール等）を習得する。（大学3年・4年で保健体育の教員採用試験を受験する予定の者のみを対象とする）この授業の内容は，後期月曜1限（キャリアマネジメントⅠ）の内容と同一です。履修希望者のうち，学籍番号の後半の学生はこの授業を履修します。

＜授業の到達目標＞
・教員の適性を確認し，他者と協働しながら学ぶ態度を身に付けることができる。・様々なスポーツ種目の特性やルール等が理解できる。・プレゼンテーション能力を身に付けることができる。

＜授業の方法＞
①与えられた課題（各種目のルール等）をグループごとで協力し合い，調べてプレゼンテーションをする。②教壇に立つことを意識し，わかりやすいプレゼンができるようにする。③グループで調べ，まとめることにより，学生同士の相互の学びあいを大切にしていく。④毎回，前時のミニテストとミニレポートを実施し，学びを深める。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
前時のミニテストをすることにより，理解度を深めることが出来る。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
復習：前時の内容のミニテストがあるため，毎回復習をしてくる必要がある（約60分）。予習：次回の授業テーマに関する内容を，参考書などを利用して予習しておく（約60分）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は，学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため，最先端カツ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
プレゼンテーション・グループ活動20%，レポート得点30%，毎回のミニテスト20%，最終テスト30%

＜教科書＞

＜参考書＞
2026年9月1日　28年度　中高保健体育の完全攻略　時事通信社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	授業ガイダンス	授業内容を理解するグループの確認・分担確認
2	オリンピック先輩からのアドバイス	教員採用試験について（先輩からのアドバイス）オリンピックについて学ぶ
3	器械運動	器械運動について理解する前回のミニテスト実施
4	水泳	水泳について理解する前時のミニテスト実施
5	体つくり運動球技：ベースボール型	体つくり運動・球技について理解する前時のミニテスト実施
6	陸上競技	陸上競技について理解する前時のミニテスト実施
7	陸上競技	陸上競技について理解する前時のミニテスト実施
8	球技：ゴール型	球技について理解する前時のミニテスト実施
9	球技：ゴール型	球技について理解する前時のミニテスト実施
10	球技：ネット型	球技について理解する前時のミニテスト実施
11	球技：ネット型	球技について理解する前時のミニテスト実施
12	武道	武道について理解する前時のミニテスト実施
13	ダンス	ダンスについて理解する前時のミニテスト実施
14	まとめ確認テスト	これまでの授業のまとめ，確認テストを実施する
15		
16		

科目コード	65048				区　分	コア科目		
授業科目名	キャリアマネジメントⅡ［公務員A］				担当者名	森　利治		
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
公務員試験合格を目指す学生の場合、採用試験の中で大きなウェイトを占める教養試験を突破しなければいけません。本科目では公安職・行政職などの各種公務員を目指す学生が、試験に合格するためだけの科目として学習するだけではなく、そこに出てくる有名な哲学者の考えを今の自分自身に落とし込み、これから目標に向かっていく中で自分を見つめ直す機会とすることを目的として開講します。

＜授業の到達目標＞
採用試験における頻出分野の理解ができるようになる。３年次後期から開講される「公務員試験対策講座」と連動して知識のインプットと確認テストによるアウトプットをバランスよく行い得点が取れるようになる。

＜授業の方法＞
レジュメを中心に進めていくが、講義内容について本試験出題問題を解答し、グループ単位になって各選択肢の誤りを話し合い正答を導き出して発表していくことで全員が内容の理解を深めていく。また、単元別にミニテストにおいて、GoogleClassRoomを活用して解説動画を視聴する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有り　問題の一部についてはグループ内で相談し答えを見つける。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：事前配布レジュメの中から人物とそれに関連する出来事の骨格をまとめる。（１時間程度）復習：予習した内容に講義で習った内容が肉付けできるようになるために宿題レジュメを完成させ次回の確認テストに備える。（１時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
期末テスト70%、単元別テスト15%、授業に臨む態度等15%

＜教科書＞

＜参考書＞
東京アカデミー　オープンセサミシリーズ　公務員　国家公務員地方初級　日本史・世界史・地理・思想　七賢出版

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	履修ガイダンス	講義内容の趣旨・目的の説明をプレ講義
2	思想（1）	西洋思想Ⅰ（1）（自然哲学から古代ギリシャ哲学）
3	思想（2）	西洋思想Ⅰ（2）（キリスト教思想と中世哲学）
4	思想（3）	西洋哲学Ⅱ（1）（経験論思想と合理論思想の比較）
5	思想（4）	西洋思想Ⅲ（1）（経験論思想の流れ～功利主義・プラグマティズム）
6	思想（5）	西洋思想Ⅲ（2）（合理論思想の流れ～社会主義と実存主義）
7	思想（6）	西洋思想Ⅲ（2）（ドイツ観念論と構造主義）
8	思想（7）	東洋思想Ⅰ（1）（バラモン教と仏教の成立とアジア地域への広がり）
9	思想（8）	東洋思想Ⅰ（2）　（聖徳太子から平安時代までの仏教について）
10	思想（9）	東洋思想Ⅱ（1）（古代中国の諸子百家について）
11	思想（１０）	東洋思想Ⅱ（2）（中国・日本の朱子学・陽明学と日本独自の古学・国学について）
12	思想（１１）	東洋思想Ⅱ（3）　（明治以降の日本の哲学について）
13	社会（1）	社会学の基礎（1）（現代社会の特質について）
14	社会（2）	社会学の基礎（2）（社会集団の種類について）
15		
16		

科目コード	65048				区　分	コア科目		
授業科目名	キャリアマネジメントⅡ［公務員B］				担当者名	森　利治		
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
公務員試験合格を目指す学生の場合、採用試験の中で大きなウェイトを占める教養試験を突破しなければいけません。本科目では公安職・行政職などの各種公務員を目指す学生が、試験に合格するためだけの科目として学習するだけではなく、そこに出てくる有名な哲学者の考えを今の自分自身に落とし込み、これから目標に向かっていく中で自分を見つめ直す機会とすることを目的として開講します。

＜授業の到達目標＞
採用試験における頻出分野の理解ができるようになる。３年次後期から開講される「公務員試験対策講座」と連動して知識のインプットと確認テストによるアウトプットをバランスよく行い得点が取れるようになる。

＜授業の方法＞
レジュメを中心に進めていくが、講義内容について本試験出題問題を解答し、グループ単位になって各選択肢の誤りを話し合い正答を導き出して発表していくことで全員が内容の理解を深めていく。また、単元別にミニテストにおいて、GoogleClassRoomを活用して解説動画を視聴する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有り　問題の一部についてはグループ内で相談し答えを見つける。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：事前配布レジュメの中から人物とそれに関連する出来事の骨格をまとめる。（１時間程度）復習：予習した内容に講義で習った内容が肉付けできるようになるために宿題レジュメを完成させ次回の確認テストに備える。（１時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
期末テスト70%、単元別テスト15%、授業に臨む態度等15%

＜教科書＞

＜参考書＞
東京アカデミー　オープンセサミシリーズ　公務員　国家公務員地方初級　日本史・世界史・地理・思想　七賢出版

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	履修ガイダンス	講義内容の趣旨・目的の説明をプレ講義
2	思想（1）	西洋思想Ⅰ（1）（自然哲学から古代ギリシャ哲学）
3	思想（2）	西洋思想Ⅰ（2）（キリスト教思想と中世哲学）
4	思想（3）	西洋哲学Ⅱ（1）（経験論思想と合理論思想の比較）
5	思想（4）	西洋思想Ⅲ（1）（経験論思想の流れ～功利主義・プラグマティズム）
6	思想（5）	西洋思想Ⅲ（2）（合理論思想の流れ～社会主義と実存主義）
7	思想（6）	西洋思想Ⅲ（2）（ドイツ観念論と構造主義）
8	思想（7）	東洋思想Ⅰ（1）（バラモン教と仏教の成立とアジア地域への広がり）
9	思想（8）	東洋思想Ⅰ（2）　（聖徳太子から平安時代までの仏教について）
10	思想（9）	東洋思想Ⅱ（1）（古代中国の諸子百家について）
11	思想（１０）	東洋思想Ⅱ（2）（中国・日本の朱子学・陽明学と日本独自の古学・国学について）
12	思想（１１）	東洋思想Ⅱ（3）　（明治以降の日本の哲学について）
13	社会（1）	社会学の基礎（1）（現代社会の特質について）
14	社会（2）	社会学の基礎（2）（社会集団の種類について）
15		
16		

科目コード	65048				区　分	コア科目			
授業科目名	キャリアマネジメントⅡ［中高保体教員］				担当者名	岩田　知郎／小川　雄太			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
教職に就くために必要な保健体育関係の知識や技能を獲得する。講義形式や実技を通して学びを深める。主に、スポーツ関係の技能やルールの学びを重視する。（大学3年・4年で保健体育の教員採用試験を受験する予定の者のみを対象とする）

＜授業の到達目標＞
①体育教員として必要な知識・技能・態度等を身に付けることができる。②生徒に指導する力を，プレゼンや資料つくりを通して身につけることができる。③体育教員としの専門性を育成することができる。

＜授業の方法＞
学習指導要領の領域の内容を、グループに分かれ学生同士で教え合いをする。講義→実技という流れの授業を展開する。実技の時間は事故の起きないよう安全に十分配慮し，メディカルセンター（保健室）とも連携しながら行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
アクティブラーニングの要素有(交替でプレゼンテーションを創ることや，授業を見せ合う活動を通して，主体的に知識を深めていく。)

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
前時の内容の確認するために、毎時間ミニテストを実施する（復習約60分・予習約60分）。最終日には確認テストを実施し到達度を図る。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
毎時間のミニテスト 30%、授業でのプレゼン等 40%、中間テスト・確認テスト 30%

＜教科書＞

＜参考書＞
2025年9月1日発行　27中高保健体育の完全攻略　時事通信社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業内容のオリエンテーション。グループ作り。
2	球技（バレーボール）	運動内容等を理解し、学習指導要領の内容や種目の特性を理解し、それに関連した実技を実施する。
3	体つくり運動	運動内容等を理解し、学習指導要領の内容や種目の特性を理解し、それに関連した実技を実施する。
4	水泳	運動内容等を理解し、学習指導要領の内容や種目の特性を理解し、それに関連した実技を実施する。
5	応急手当	内容等を理解し、それに関連した実技を実施する。
6	球技（ソフトボール）	運動内容等を理解し、学習指導要領の内容や種目の特性を理解し、それに関連した実技を実施する。
7	中間テストと解説	ここまでの学習を振り返り、これまでの学びの確認をする。
8	球技（卓球・バドミントン）	運動内容等を理解し、学習指導要領の内容や種目の特性を理解し、それに関連した実技を実施する。
9	球技（サッカー）	運動内容等を理解し、学習指導要領の内容や種目の特性を理解し、それに関連した実技を実施する。
10	球技（ハンドボール）	運動内容等を理解し、学習指導要領の内容や種目の特性を理解し、それに関連した実技を実施する。
11	球技（バスケットボール）	運動内容等を理解し、学習指導要領の内容や種目の特性を理解し、それに関連した実技を実施する。
12	武道（柔道・剣道）	運動内容等を理解し、学習指導要領の内容や種目の特性を理解し、それに関連した実技を実施する。
13	ダンス	運動内容等を理解し、学習指導要領の内容や種目の特性を理解し、それに関連した実技を実施する。
14	確認テストと解説	これまでの学習を振り返り、学習指導要領の内容等が理解できたかを確認する。

15 16		

科目コード	65049				区　分	コア科目		
授業科目名	キャリアマネジメントⅢ［公務員A］				担当者名	森　利治		
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
公務員試験合格を目指す学生の場合、採用試験の中で大きなウェイトを占める教養試験を突破しなければいけません。本科目では公安職・行政職などの各種公務員を目指す学生が、試験に合格するためだけの科目として学習するだけではなく、そこに出てくる歴史的出来事の秘話などを交えながら就職してから周りとのコミュニケーションを取る中で必要な教養知識を身につけることを目的に開講します。

＜授業の到達目標＞
採用試験における頻出分野の理解ができるようになる。３年次後期から開講される「公務員試験対策講座」と連動して知識のインプットと確認テストによるアウトプットをバランスよく行い得点が取れるようになる。

＜授業の方法＞
レジュメを中心に進めていくが、講義内容について本試験出題問題を解答し、グループ単位になって各選択肢の誤りを話し合い正答を導き出して発表していくことで全員が内容の理解を深めていく。また、単元別にミニテストを実施し、GoogleClassRoomを活用して解説動画を視聴する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有り　問題の一部についてはグループ内で相談し答えを見つける。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：事前配布レジュメの中から人物とそれに関連する出来事の骨格をまとめる（１時間程度）。復習：予習した内容に講義で習った内容が肉付けできるようになるために宿題レジュメを完成させ次回の確認テストに備える（１時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
期末テスト70%、単元別15%、授業に取り組む姿勢・提出物15%

＜教科書＞

＜参考書＞
東京アカデミー　オープンセサミシリーズ　公務員　国家公務員・地方初級　　日本史・世界史・地理・倫理　七賢出版

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	履修ガイダンス	講義内容の趣旨・目的の説明とプレ講義
2	日本史（1）	古代史（1）（大和政権から律令時代）
3	日本史（2）	古代史（2）（律令制度崩壊から再建にかけての変遷）
4	日本史（3）	中世史（1）（摂関政治から院政・平氏政権への移行）
5	日本史（4）	中世史（2）（平氏滅亡から執権政治）
6	日本史（5）	中世史（3）（元の襲来から南北朝時代）
7	日本史（6）	中世史（4）（南北朝合一から戦国時代）
8	日本史（7）	近世史（1）（織豊政権から江戸幕府の基礎確立）
9	日本史（8）	近世史（2）（元禄時代から新井白石の政治と文化史）
10	日本史（9）	近世史（3）（三大改革から家斉の大御所政治と化政文化）
11	日本史（１０）	近代史（1）（開国から明治新政府による近代国家建設）
12	日本史（１１）	近代史（2）（明治時代中期から条約改正交渉と産業革命）
13	日本史（１２）	近代史（3）（大正デモクラシーから金融恐慌）
14	日本史（１３）	近代史（4）（世界恐慌からポツダム宣言受諾まで）
15		
16		

科目コード	65049				区　分	コア科目		
授業科目名	キャリアマネジメントⅢ［公務員B］				担当者名	森　利治		
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
公務員試験合格を目指す学生の場合、採用試験の中で大きなウェイトを占める教養試験を突破しなければいけません。本科目では公安職・行政職などの各種公務員を目指す学生が、試験に合格するためだけの科目として学習するだけではなく、そこに出てくる歴史的出来事の秘話などを交えながら就職してから周りとのコミュニケーションを取る中で必要な教養知識を身につけることを目的に開講します。

＜授業の到達目標＞
採用試験における頻出分野の理解ができるようになる。３年次後期から開講される「公務員試験対策講座」と連動して知識のインプットと確認テストによるアウトプットをバランスよく行い得点が取れるようになる。

＜授業の方法＞
レジュメを中心に進めていくが、講義内容について本試験出題問題を解答し、グループ単位になって各選択肢の誤りを話し合い正答を導き出して発表していくことで全員が内容の理解を深めていく。また、単元別にミニテストを実施し、GoogleClassRoomを活用して解説動画を視聴する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
有り　問題の一部についてはグループ内で相談し答えを見つける。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：事前配布レジュメの中から人物とそれに関連する出来事の骨格をまとめる（１時間程度）。復習：予習した内容に講義で習った内容が肉付けできるようになるために宿題レジュメを完成させ次回の確認テストに備える（１時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
期末テスト70%、単元別15%、授業に取り組む姿勢・提出物15%

＜教科書＞

＜参考書＞
東京アカデミー　オープンセサミシリーズ　公務員　国家公務員・地方初級　　日本史・世界史・地理・倫理　七賢出版

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	履修ガイダンス	講義内容の趣旨・目的の説明とプレ講義
2	日本史（1）	古代史（1）（大和政権から律令時代）
3	日本史（2）	古代史（2）（律令制度崩壊から再建にかけての変遷）
4	日本史（3）	中世史（1）（摂関政治から院政・平氏政権への移行）
5	日本史（4）	中世史（2）（平氏滅亡から執権政治）
6	日本史（5）	中世史（3）（元の襲来から南北朝時代）
7	日本史（6）	中世史（4）（南北朝合一から戦国時代）
8	日本史（7）	近世史（1）（織豊政権から江戸幕府の基礎確立）
9	日本史（8）	近世史（2）（元禄時代から新井白石の政治と文化史）
10	日本史（9）	近世史（3）（三大改革から家斉の大御所政治と化政文化）
11	日本史（１０）	近代史（1）（開国から明治新政府による近代国家建設）
12	日本史（１１）	近代史（2）（明治時代中期から条約改正交渉と産業革命）
13	日本史（１２）	近代史（3）（大正デモクラシーから金融恐慌）
14	日本史（１３）	近代史（4）（世界恐慌からポツダム宣言受諾まで）
15		
16		

科目コード	65049				区　分	コア科目			
授業科目名	キャリアマネジメントⅢ［中高保体教員］				担当者名	岩田　知郎／延原　まどか／目木　美奈子／木村　大			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

中高保健体育科教員を目指す学生がキャリア（職業人生）を考えていくには、さまざまな教育課題について十分理解しておく必要がある。この授業では、来年度、中高保健体育科教員の採用試験で課される「個人面接」「集団面接」「集団討論」等の準備を通して、自己の経験を見つめ、可能性を追求し、自分自身のキャリアを積み重ねていく土台を作ることを目指す。　（大学4年で保健体育の教員採用試験を受験する予定の者のみを対象とする）

＜授業の到達目標＞

①保健体育科教員に必要な知識・技能・態度等を育成し、自信をもって採用試験に臨むことができるようになる。②面接官に答えることや、学生同士で討論することを通して、適切な表現力やコミュニケーションができるようになる。

＜授業の方法＞

１．様々な教育課題について考える２．互いに交代しながら、個人面接・集団面接・集団討論を行う３．活動の中身を評価し合い、自己のキャリア形成の土台とする４．Googleクラスルームで課題を管理する

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有り　示された課題の分析や集団での討論など、毎回学生同士の議論が行われる場面がある

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の授業内容に関するキーワードの下調べ（60分程度）。復習：今日の学びをレポートにして提出する（90分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習準備 20%、授業への意欲的な態度 50%、振り返りレポート 30%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	履修ガイダンス	講義の進め方について説明する。
2	保健体育科教員に求められる資質とは	保健体育科教員に求められる資質について考察し，自分の長所とは何かについて考える。振り返りのレポートを提出する。
3	部活動をめぐる諸問題について	部活動をめぐる諸問題について考察し，これまでの自分の経験を踏まえて，これからの部活動を考える。振り返りのレポートを提出する。
4	教育実習について	自分の教育実習での経験について考察し，そこからの学びについて考える。振り返りのレポートを提出する。
5	運動の苦手な生徒について	運動の苦手な生徒について考察し，その支援するべきポイントやステップについて考える。振り返りのレポートを提出する。
6	子どもの発育・発達についての今日的課題	子どもの発育・発達についての今日的課題について考察し，保健体育科の教員としてのあるべき姿について考える。振り返りのレポートを提出する。
7	生徒の運動習慣を確立させるためには	生徒の運動習慣について考察し，指導すべきポイントを集団討論という形で考える。振り返りのレポートを提出する。
8	中学校・高等学校における，今後の部活動のあるべき姿について	部活動のあるべき姿について考察し，教師の行うべきことを集団討論という形で考える。振り返りのレポートを提出する。
9	スポーツの場面におけるいじめ・差別事象について	スポーツの場面におけるいじめ等について考察し，教師としてとるべき適切な対処について考える。振り返りのレポートを提出する。
10	スポーツの場面における生徒同士のトラブルについて	スポーツの場面における生徒同士のトラブルについて考察し，教師としてとるべき適切な対処について考える。振り返りのレポートを提出する。
11	スポーツの場面における事故について	スポーツの場面における事故について考察し，教師としてとるべき適切な対処について考える。振り返りのレポートを提出する。
12	学校における体育的行事の充実と安全について	体育的行事の充実と安全について考察し，教師としてとるべき適切な対処について考える。振り返りのレポートを提出する。
13	教員の不祥事をめぐる問題について	教員の不祥事をめぐる問題について考察し，教師としてとるべき適切な対処について考える。振り返りのレポートを提出する。

14 15 16	授業のまとめ	授業で取り上げたそれぞれのテーマについて，振り返り，確認する。

科目コード	65050				区　分	コア科目		
授業科目名	キャリアマネジメントⅣ［公務員］				担当者名	森　利治		
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

公務員を目指す学生がキャリア（職業人生）を考えていくには、さまざまな出題科目について十分理解しておく必要がある。この講義では、今年度の公務員試験に必要な知識のうち、次の内容を身に付けることを目的とする。１．直前期に必要な「問題演習」２．二次試験対策のうち主に「集団討論」「集団面接」

＜授業の到達目標＞

１．公務員への理解を深め、公務員として働くことの意義を認識することができるようになる。２．採用試験における「頻出分野」の理解ができるようになる。3.今年度の公務員試験に必要な知識を養成し､採用に向けての準備を怠らない習慣を身に付けている。

＜授業の方法＞

１．講義（配布プリントを使用し授業、問題演習を進める）２．振り返り（授業の内容に関するまとめ）※授業の一部についてはインターネット上のサイトを活用して解説します。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有り　集団討論や集団面接の練習はグループを作って行う

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の授業内容に関するキーワードの下調べ（30分程度）復習：次回講義までに、該当する問題を解けるようにしておく（90分以上）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験の結果 50% 、確認テスト35%、受業態度 15%

＜教科書＞

特に指定なし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	履修ガイダンス	講義の進め方について説明する。
2	問題演習（1）	政治
3	問題演習（2）	経済
4	問題演習（3）	日本史
5	問題演習（4）	世界史
6	問題演習（5）	地理
7	問題演習（6）	生物・地学
8	二次試験対策(1)	集団討論・集団面接等(1)
9	二次試験対策(2)	集団討論・集団面接等(2)
10	二次試験対策(3)	集団討論・集団面接等(3)
11	二次試験対策(4)	集団討論・集団面接等(4)
12	二次試験対策(5)	集団討論・集団面接等(5)
13	二次試験対策(6)	集団討論・集団面接等(6)
14	二次試験対策(7)	集団討論・集団面接等(7)
15		
16		

科目コード	65050				区　分	コア科目			
授業科目名	キャリアマネジメントⅣ［中高保体教員］				担当者名	岩田　知郎／延原　まどか／目木　美奈子／木村　大			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

中高保健体育科教員を目指す学生がキャリア（職業人生）を考えていくには，さまざまな教育的課題について十分理解しておく必要がある。この授業では，今後中高保健体育科教員の採用試験で課されるであろう「個人面接」「集団面接」「集団討論」等の準備を通して，自己の経験を見つめ，可能性を追求し，自分自身のキャリアを積み重ねていく土台を作ることを目指す。（大学4年で保健体育の教員採用試験を受験する予定の者のみを対象とする）

＜授業の到達目標＞

① 保健体育科教員に必要な知識・技能・態度を育成し、自信をもって採用試験に臨むことができるようになる。② 面接官に答えることや，学生同士で討論することを通して，適切なコミュニケーションができるようになる。

＜授業の方法＞

１．様々な教育課題について考える２．互いに交替しながら，個人面接・集団面接・集団討論を行う３．活動の中身を評価し合い，自己のキャリア形成の土台とする４．Googleクラスルームで課題を管理する

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有り　示された課題の分析や集団での討論など、毎回学生同士の議論が行われる場面がある。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の授業内容に関するキーワードの下調べ（60分程度）。復習：今日の学びをレポートにして提出する（90分程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は，学科のディプロマポリシー３（体育・スポーツにおける課題解決のため，最先端かつ高度な知識・技能を活用できる）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習準備 20%、授業への意欲的な態度 50%、振り返りレポート 30%

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	履修ガイダンス	講義の進め方につて説明する。履修者の受験自治体・予定について調査する。
2	保健体育科教員に求められる資質とは	保健体育科教員に求められる資質について考察し、自分の長所とは何かについて考える。振り返りのレポートを提出する。
3	部活動をめぐる諸問題について	部活動をめぐる諸問題について考察し、これまでの自分の経験を踏まえて、これからの部活動を考える。振り返りのレポートを提出する。
4	オンデマンド授業自己PRについて	自己ＰＲについて考察し、自分の長所を相手に伝わるように表現することができるようにする。
5	運動の苦手な生徒について	運動の苦手な生徒について考察し、その支援するべきポイントやステップについて考える。振り返りのレポートを提出する。
6	子どもの発達・発育についての今日的課題	子どもの発達・発育についての今日的課題について考察し、保健体育科教員としてのあるべき姿について考える。振り返りのレポートを提出する。
7	生徒の運動習慣を確立させるためには	生徒の運動習慣について考察し、指導するべきポイントを集団討論という形で考える。振り返りのレポートを提出する。
8	中学校・高等学校における、今後の部活動のあるべき姿について	部活動のあるべき姿について考察し、集団討論という形で議論し、教師として取るべき適切な対処について考える。振り返りのレポートを提出する。
9	スポーツの場面におけるいじめ・差別事象について	スポーツの場面におけるいじめ等について考察し、集団討論という形で議論し、教師として取るべき適切な対処について考える。振り返りのレポートを提出する。
10	スポーツの場面における生徒同士のトラブルについて	スポーツの場面における生徒同士のトラブルについて考察し、教師として取るべき適切な対処について考える。振り返りのレポートを提出する。
11	スポーツの場面における事故について	スポーツの場面における事故について考察し、教師として取るべき適切な対処について考える。振り返りのレポートを提出する。
12	学校における体育的行事の充実について	体育的行事の充実と安全について考察し、教師として取るべき適切な対処について考える。振り返りのレポートを提出する。
13	教員の不祥事をめぐる問題について	教員の不祥事をめぐる問題について考察し、教師として取るべき適切な対処について考える。振り返りのレポートを提出する。

14 15 16	授業のまとめ	授業で取り上げたそれぞれのテーマについて振り返り、確認する。

科目コード	65051				区　分	コア科目		
授業科目名	公務員と法Ⅱ				担当者名	平野　正樹		
配当年次	3年	配当学期	後期集中	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	2単位

＜授業の概要＞
本科目では、市場機構の不完全性である市場の失敗、中でも公共部門の役割についての経済学的かつ制度論的な内容を理解することを目的とする。これを基に現代の経済的かつ財政的課題についてのケース・スタディーを通じて、公的主体の意義を学ぶ。そして、本科目を受講した学生が国内外の経済・財政問題に対して、コメントできるようになることを目途に授業を展開する。

＜授業の到達目標＞
授業を通じて、経済における「公的部門」と「民間部門」の相違とそれぞれの主体である「公」「民」の行動目的についての理解を図る。また、市場経済を中心とした経済社会で生じる諸問題(市場の失敗)について、その原因を分析するとともに国家財政や地方財政が抱える制度論的課題にも言及する。なお、シラバスの内容は前期開講の「公務員と法」と同様であるが、配布資料などを変えるとともに、講義内容の高度化で対応したい。

＜授業の方法＞
主として黒板を活用

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞
無

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
履修条件として、ミクロ経済学とマクロ経済学は単位修得済みであること。予習・復習を行うとともに、日頃から新聞などで経済や財政に関する事柄に目を通しておくこと。具体的には、事前配付物での予習90分、復習50分が目安。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、学科のディプロマポリシー２（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
課題(小テスト)80%と授業態度等20%で成績評価をする。なお、課題(小テスト)については模範解答を提示・説明する。

＜教科書＞
なし

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	市場経済とパーフォーマンス　経済の仕組みと公的部門	経済の仕組み　市場経済と公共部門の役割　経済学と経営学との相違など
2	公共経済学と財政学	市場の失敗、市場における外部性と公共財の存在
3	財政学と財政の三機能(Ⅰ)	財政学とは何か　財政学の誕生と発展
4	財政学と財政の三機能(Ⅱ)	資源配分機能　所得再分配機能　経済安定化機能
5	国と地方の財政の姿	国家財政・地方財政の歳入・歳出予算　予算の編成過程など
6	公共サービスと財政のかかわり(Ⅰ)	公共財の性質　公共財供給の効率性
7	公共サービスと財政のかかわり(Ⅱ)	多数決と公共サービス　　公共財の最適供給と公平な負担
8	租税の基礎理論	租税原則と租税体系　効率と公平のトレード・オフ
9	所得課税	所得税と住民税の仕組み
10	消費課税	消費税の仕組み　従価税と従量税
11	資産課税	固定資産税と相続税の仕組み
12	国債と地方債	国債と地方債の種類　公債の負担
13	裁量的な財政政策とマクロ経済	乗数効果　　財政政策の有効性
14	総括	身近な経済・財政問題についての考察
15		
16		